

8.0

IBM MQ 管理リファレンス



注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[2071 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® MQ バージョン 8 リリース 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様が IBM に情報を送信する場合、お客様は IBM に対し、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で情報を使用または配布する非独占的な権利を付与します。

© Copyright International Business Machines Corporation 2007 年, 2023.

目次

管理に関する参照情報.....	7
構文図.....	7
路線図の読み方.....	7
IBM MQ の制御コマンド.....	8
制御コマンドの使用.....	9
制御コマンド.....	10
コマンド・セットの比較.....	168
鍵と証明書の管理.....	175
IBM MQ for IBM i CL コマンド.....	195
キュー・マネージャー情報の追加 (ADDMQMINF).....	198
キュー・マネージャー・ジャーナルの追加 (ADDMQMJRN).....	200
MQ の接続 (CCTMQM).....	202
メッセージ・キュー・マネージャーの変更 (CHGMQM).....	202
MQ 認証情報オブジェクトの変更 (CHGMQMAUTI).....	224
MQ チャンネルの変更 (CHGMQMCHL).....	231
キュー・マネージャー・ジャーナルの変更 (CHGMQMJRN).....	256
MQ リスナーの変更 (CHGMQMLSR).....	258
MQ 名前リストの変更 (CHGMQMNL).....	260
MQ プロセスの変更 (CHGMQMPCRC).....	262
MQ キューの変更 (CHGMQMQ).....	265
MQ サブスクリプションの変更 (CHGMQMSUB).....	283
MQ サービスの変更 (CHGMQMSVC).....	288
MQ トピックの変更 (CHGMQMTOP).....	292
MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの消去 (CLRMQMBRK).....	297
Clear MQ Queue (CLRMQMQ).....	298
Clear MQ Topic String (CLRMQMTOP).....	299
MQ 認証情報オブジェクトのコピー (CPYMQMAUTI).....	300
MQ チャンネルのコピー (CPYMQMCHL).....	307
MQ リスナーのコピー (CPYMQMLSR).....	333
MQ 名前リストのコピー (CPYMQMNL).....	335
MQ プロセスのコピー (CPYMQMPCRC).....	337
MQ キューのコピー (CPYMQMQ).....	340
MQ サブスクリプションのコピー (CPYMQMSUB).....	358
MQ サービスのコピー (CPYMQMSVC).....	365
MQ トピックのコピー (CPYMQMTOP).....	368
Create Message Queue Manager (CRTMQM).....	374
MQ 認証情報オブジェクトの作成 (CRTMQMAUTI).....	379
MQ チャンネルの作成 (CRTMQMCHL).....	386
MQ リスナーの作成 (CRTMQMLSR).....	412
MQ 名前リストの作成 (CRTMQMNL).....	414
MQ プロセスの作成 (CRTMQMPCRC).....	416
MQ キューの作成 (CRTMQMQ).....	419
MQ サブスクリプションの作成 (CRTMQMSUB).....	437
MQ サービスの作成 (CRTMQMSVC).....	443
MQ トピックの作成 (CRTMQMTOP).....	447
MQ データ・タイプの変換 (CVTMQMMDTA).....	453
Delete Message Queue Manager (DLTMQM).....	455
Delete MQ AuthInfo object (DLTMQMAUTI).....	455
MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの削除 (DLTMQMBRK).....	456
MQ チャンネルの削除 (DLTMQMCHL).....	457
Delete MQ Listener (DLTMQMLSR).....	458
Delete MQ Namelist (DLTMQMNL).....	459

Delete MQ Process (DLTMQMPCRC).....	459
MQ キューの削除 (DLTMQMQ).....	460
Delete MQ Subscription (DLTMQMSUB).....	461
Delete MQ Service (DLTMQMSVC).....	462
Delete MQ Topic (DLTMQMTOP).....	463
MQ 構成のダンプ (DMPMQMCFG).....	464
Disconnect MQ (DSCMQM).....	469
メッセージ・キュー・マネージャーの表示 (DSPMQM).....	469
MQ オブジェクト権限の表示 (DSPMQMAUT).....	470
Display MQ AuthInfo object (DSPMQMAUTI).....	472
Display MQ Pub/Sub Broker (DSPMQMBRK).....	473
MQ チャンネルの表示 (DSPMQMCHL).....	473
MQ コマンド・サーバーの表示 (DSPMQMCSVR).....	475
Display MQ Listener (DSPMQMLSR).....	476
Display MQ Namelist (DSPMQMNL).....	477
MQ オブジェクト名の表示 (DSPMQMOBJN).....	478
Display MQ Process (DSPMQMPCRC).....	480
Display MQ Queue (DSPMQMQ).....	481
MQ 経路情報の表示 (DSPMQMRTE).....	482
キュー・マネージャー状況の表示 (DSPMQMSTS).....	489
Display MQ Service (DSPMQMSVC).....	490
MQM セキュリティー・ポリシーの表示 (DSPMQMSPL).....	491
Display MQ Subscription (DSPMQMSUB).....	492
Display MQ Topic (DSPMQMTOP).....	493
Display MQ Version (DSPMQMVER).....	494
メッセージ・キュー・マネージャーの終了 (ENDMQM).....	494
MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの終了 (ENDMQMBRK).....	498
MQ チャンネルの終了 (ENDMQMCHL).....	498
End Queue Manager Connection (ENDMQMCONN).....	500
MQ コマンド・サーバーの終了 (ENDMQMCSVR).....	501
MQ リスナーの終了 (ENDMQMLSR).....	502
End MQ Service (ENDMQMSVC).....	503
MQ オブジェクト権限の認可 (GRTMQMAUT).....	504
MQ チャンネルの ping (PNGMQMCHL).....	509
MQ オブジェクト・イメージの記録 (RCDMQMIMG).....	510
MQ オブジェクトの再作成 (RCRMQMOBJ).....	513
IBM MQ 権限のリフレッシュ (RFRMQMAUT).....	515
MQ クラスターのリフレッシュ (RFRMQMCL).....	516
メッセージ・キュー・マネージャーのリフレッシュ (RFRMQM).....	517
QUEUE MANAGER 情報の除去 (RMVMQMINF).....	519
キュー・マネージャー・ジャーナルの除去 (RMVMQMJRN).....	519
クラスター・キュー・マネージャーの再開 (RSMMQMCLQM).....	520
MQ チャンネルのリセット (RSTMQMCHL).....	521
クラスターのリセット (RSTMQMCL).....	522
MQ チャンネルの解決 (RSVMQMCHL).....	524
RUNMQSC (RUNMQSC).....	525
MQ オブジェクト権限の取り消し (RVKMQMAUT).....	526
MQM セキュリティー・ポリシーの設定 (SETMQMSPL).....	531
クラスター・キュー・マネージャーの中断 (SPDMQMCLQM).....	534
メッセージ・キュー・マネージャーの開始 (STRMQM).....	535
MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの開始 (STRMQMBRK).....	538
Start MQ Channel (STRMQMCHL).....	538
Start MQ Channel Initiator (STRMQMCHLI).....	539
Start MQ Command Server (STRMQMCSVR).....	540
IBM MQ DLQ ハンドラーの開始 (STRMQMDLQ).....	541
MQ リスナーの開始 (STRMQMLSR).....	542
IBM MQ コマンドの開始 (STRMQMMQSC).....	544
Start MQ Service (STRMQMSVC).....	546

MQ トリガー・モニターの開始 (STRMQMTRM).....	547
MQ のトレース (TRCMQM).....	548
MQ キュー・マネージャーの処理 (WRKMQM).....	553
MQ 権限の処理 (WRKMQMAUT).....	555
MQ 権限データの処理 (WRKMQMAUTD).....	557
認証情報オブジェクトの処理 (WRKMQMAUTI).....	559
MQ チャネルの処理 (WRKMQMCHL).....	562
MQ チャネル状況の処理 (WRKMQMCHST).....	572
MQ クラスターの処理 (WRKMQMCL).....	579
MQ クラスター・キューの処理 (WRKMQMCLQ).....	588
MQ 接続の処理 (WRKMQMCONN).....	592
キュー・マネージャー・ジャーナルの処理 (WRKMQMJRN).....	596
MQ リスナーの処理 (WRKMQMLSR).....	597
MQ メッセージの処理 (WRKMQMMSG).....	600
MQ 名前リストの処理 (WRKMQMNL).....	602
MQ プロセスの処理 (WRKMQMPCRC).....	604
MQ キューの処理 (WRKMQM).....	608
キュー状況の処理 (WRKMQMST).....	620
MQM セキュリティー・ポリシーの処理 (WRKMQMSP).....	623
MQ サブスクリプションの処理 (WRKMQMSSUB).....	624
MQ サービス・オブジェクトの処理 (WRKMQMSSVC).....	629
MQ トピックの処理 (WRKMQMSTOP).....	633
MQ トランザクションの処理 (WRKMQMSTRN).....	637
MQSC リファレンス.....	638
総称値および特別な意味を持つ文字.....	639
コマンド・スクリプトの作成.....	639
z/OS でのコマンドの使用.....	641
MQSC コマンド.....	641
プログラマブル・コマンド・フォーマット・リファレンス.....	1346
プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義.....	1346
コマンドおよび応答の構造.....	1867
PCF の例.....	1894
z/OS 用の IBM MQ ユーティリティの使用.....	1905
IBM MQ ユーティリティの概要.....	1905
構文図.....	1908
IBM MQ ユーティリティ・プログラム (CSQUTIL).....	1908
ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003).....	1943
ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004).....	1952
ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP).....	1953
キュー共有グループ・ユーティリティ (CSQ5PQSG).....	1963
活動ログ事前フォーマット・ユーティリティ (CSQJUFMT).....	1967
送達不能キュー・ハンドラー・ユーティリティ (CSQUDLQH).....	1968
BSDS 変換ユーティリティ (CSQJUCNV).....	1978
メッセージ・セキュリティ・ポリシー・ユーティリティ (CSQ0UTIL).....	1980
IBM MQ 管理インターフェース.....	1984
MQAI 呼び出し.....	1984
MQAI セレクター.....	2068
コード例.....	2069
特記事項.....	2071
プログラミング・インターフェース情報.....	2072
商標.....	2072

管理に関する参照情報

IBM MQ を操作および管理する際には、このセクションの参照情報へのリンクを使用してください。

- 7 ページの『構文図』
- 8 ページの『IBM MQ の制御コマンド』
-  195 ページの『IBM MQ for IBM i CL コマンド』
- 638 ページの『MQSC リファレンス』
- 1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマット・リファレンス』
-  1905 ページの『z/OS 用の IBM MQ ユーティリティーの使用』
- 1984 ページの『IBM MQ 管理インターフェース』

関連情報

キュー名

 IBM MQ for IBM i システムおよびデフォルト・オブジェクト

構文図

コマンドおよびそのオプションの構文は、路線図と呼ばれる構文図の形式で示されます。

路線図は、視力に障害のないユーザーに適した表示形式です。7 ページの『路線図の読み方』を参照してください。これは、あるコマンドにどのオプションを指定できるか、どのように入力するかを示し、異なるオプションどうしの関係と、場合によってはオプションがとれるさまざまな値も示します。

路線図の読み方

各路線図は、右向きの二重矢印で始まり、右向きと左向きの一对の矢印で終わります。単一の右矢印で始まる線は継続線です。路線図は、矢印の方向に従って、左から右へ、上から下へと読みます。

路線図で使用するその他の規則は、以下のとおりです。

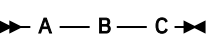
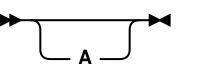
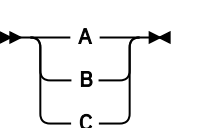
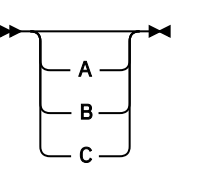
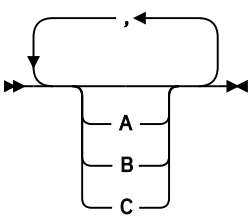
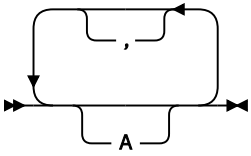
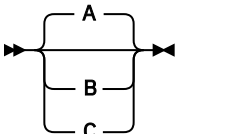
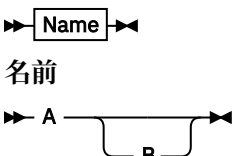
表 1. 路線図の読み方	
規則	意味
	値 A、B、および C を指定する必要があります。必須の値は、路線図の主線上に示されます。
	値 A を指定することができます。オプションの値は、路線図の主線の下に示されます。
	値 A、B、および C は選択肢であり、その 1 つを指定する必要があります。
	値 A、B、および C は選択肢であり、その 1 つを指定することができます。

表 1. 路線図の読み方 (続き)	
規則	意味
	1 つ以上の値 A、B、および C を指定できます。複数の値を指定する場合、または同じ値を繰り返し指定する場合に必要な区切り記号 (この例ではコンマ (,)) は、矢印の上に表示されます。
	値 A を複数回指定できます。この例の区切り記号はオプションです。
	値 A、B、および C は選択肢であり、その 1 つを指定することができます。示される値のどれも指定しない場合は、デフォルトの A (主線の上に表示されている値) が使用されます。
 名前	路線フラグメント Name は、主路線図とは別に示されます。
 句読点および大文字の値	示されているとおりに指定します。

IBM MQ の制御コマンド

IBM MQ 制御コマンドの使用方法を知ることができます。

制御コマンドを発行する場合は、ユーザー ID が mqm グループのメンバーである必要があります。詳しくは、[UNIX、Linux®、および Windows システム上の IBM MQ を管理する権限を参照してください](#)。

CHCKLOCL(REQUIRED) で接続認証を使用するように構成されたキュー・マネージャーで作動する制御コマンドを使用するときに、接続の失敗が見られる場合、以下のいずれかを実行します。

- 制御コマンドで使用できる場合は、ユーザー ID とパスワードを指定します。
- 制御コマンドの MQSC に相当するものが存在する場合は、それらを使用します。
- 接続できない制御コマンドを実行する必要があるときに、-ns オプションを使用してキュー・マネージャーを開始します。

キュー・マネージャーで作動する制御コマンドを使用する場合は、操作対象のキュー・マネージャーと関連付けられたインストール済み環境からコマンドを実行する必要があります。

さらに、次の環境特有の情報に注意してください。

- Windows では、すべての制御コマンドはコマンド行から発行できます。コマンド名およびフラグは大文字小文字の区別をしません。コマンド名およびフラグを大文字、小文字または大文字と小文字の組み合わせで入力することができます。しかし、制御コマンドの引数 (キュー名など) は大文字小文字の区別をします。

構文記述では、ハイフン (-) はフラグ標識として使用されます。ハイフンの代わりに斜線 (/) を使用できます。

- UNIX および Linux システムでは、すべての IBM MQ 制御コマンドをシェルから発行できます。すべてのコマンドは、大/小文字が区別されます。
- 制御コマンドのサブセットは、IBM MQ エクスプローラーを使用して発行できます。

制御コマンドのリストについては、[10 ページの『制御コマンド』](#)を参照してください。

さまざまな管理コマンド・セットの比較については、[168 ページの『コマンド・セットの比較』](#)を参照してください。

鍵および証明書を管理するコマンドについて詳しくは、[175 ページの『鍵と証明書の管理』](#)を参照してください。

関連概念

[638 ページの『MQSC リファレンス』](#)

MQSC コマンドを使用すると、キュー・マネージャー自体、キュー、チャネル、キュー、プロセス定義、チャネル、クライアント接続チャネル、リスナー、サービス、名前リスト、クラスター、および認証情報オブジェクトなどのキュー・マネージャー・オブジェクトを管理できます。

[1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマット・リファレンス』](#)

プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) では、ネットワーク内のプログラムと PCF 対応のキュー・マネージャーとの間で交換できるコマンド・メッセージと応答メッセージが定義されています。PCF を使用すると、キュー・マネージャーの管理やその他のネットワーク管理が単純化されます。

関連資料

[195 ページの『IBM MQ for IBM i CL コマンド』](#)

コマンド・タイプ別にグループ化した IBM MQ for IBM i CL コマンドのリスト

制御コマンドの使用

このトピックにある表は、制御コマンドの 3 つのカテゴリであるキュー・マネージャー・コマンド、チャネル・コマンド、およびユーティリティ・コマンドについて示しています。

[9 ページの表 2](#) に示すように、制御コマンドは 3 つのカテゴリに分類できます。

表 2. 制御コマンドのカテゴリ	
カテゴリ	説明
キュー・マネージャー・コマンド	キュー・マネージャーの制御コマンドには、キュー・マネージャーおよびコマンド・サーバーを作成、開始、終了、および削除するためのコマンドが含まれます。
チャネル・コマンド	チャネル・コマンドには、チャネルやチャネル・イニシエーターを開始したり、停止したりするコマンドが含まれます。
ユーティリティ・コマンド	ユーティリティ・コマンド以下のものと関連したコマンドが含まれます。 • MQSC コマンドの実行 • 変換出口 • 権限管理 • キュー・マネージャー・リソースのメディア・イメージの記録およびリカバー • トランザクションの表示および解決 • トリガー・モニター • IBM MQ オブジェクトのファイル名の表示

詳細については、[8 ページの『IBM MQ の制御コマンド』](#)を参照してください。

Windows システムでの制御コマンドの使用

IBM MQ for Windows では、制御コマンドをコマンド・プロンプトに入力します。

Windows 環境では、制御コマンドおよびそれらのフラグには大/小文字の区別がありませんが、それらのコマンドに対する引数(キュー名やキュー・マネージャー名など)には大/小文字の区別があります。

例えば、次のコマンドを入力するとします。

```
crtmqm /u SYSTEM.DEAD.LETTER.QUEUE jupiter.queue.manager
```

- 入力するコマンド名は、大文字、小文字、あるいは大文字と小文字が混在していても構いません。例えば、`crtmqm`、`CRTMQM`、または `CRTmqm` のいずれでも構いません。
- 入力するフラグは、`-u`、`-U`、`/u`、または `/U` のいずれでも構いません。
- `SYSTEM.DEAD.LETTER.QUEUE` と `jupiter.queue.manager` は表示どおりに入力する必要があります。

詳しくは、[IBM MQ 制御コマンド](#)を参照してください。

UNIX および Linux システムでの制御コマンドの使用

IBM MQ for UNIX および Linux システムでは、制御コマンドをシェル・ウィンドウに入力します。

UNIX 環境では、制御コマンドは、コマンド名、フラグ、引数を含め大/小文字が区別されます。例えば、次のコマンドを入力するとします。

```
crtmqm -u SYSTEM.DEAD.LETTER.QUEUE jupiter.queue.manager
```

- コマンド名は `CRTMQM` ではなく、`crtmqm` でなければなりません。
- フラグは `-U` ではなく `-u` でなければなりません。
- 送達不能キューの名前は `SYSTEM.DEAD.LETTER.QUEUE` になります。
- 引数は、`jupiter.queue.manager` と指定され、`JUPITER.queue.manager` とは区別されます。

コマンドは、例に倣って正確に入力してください。

`crtmqm` コマンドの詳細については、[25 ページの『crtmqm』](#)を参照してください。

制御コマンドの詳細については、[8 ページの『IBM MQ の制御コマンド』](#)を参照してください。

制御コマンド

このトピック集では、それぞれの IBM MQ 制御コマンドについての参照情報を提供します。

これらのコマンドの実行について詳しくは、[8 ページの『IBM MQ の制御コマンド』](#)を参照してください。

addmqinf

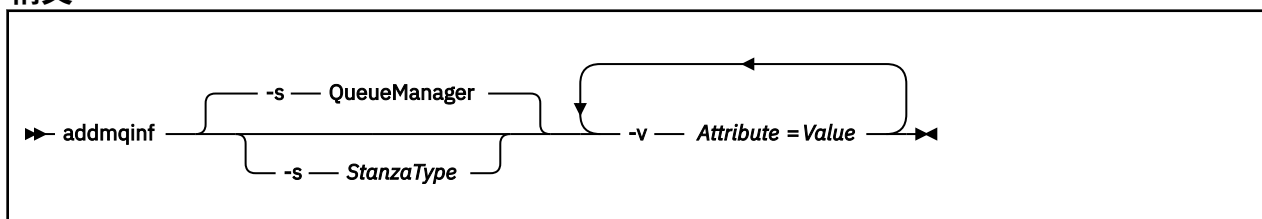
IBM MQ 構成情報を追加します (Windows および UNIX プラットフォームのみ)。

目的

addmqinf コマンドは、IBM MQ 構成データに情報を追加する場合に使用します。

例えば、**dspmqinf** および **addmqinf** を使用して、構成データを、キュー・マネージャーが作成されたシステムから、同じ複数インスタンス・キュー・マネージャーも開始される他のシステムにコピーします。

構文



必要なパラメーター

-v **Attribute = Value**

コマンドに指定されたスタンザに配置するスタンザの属性の名前および値。

11 ページの表 3 に、QueueManager スタンザの属性値をリストします。現在サポートされているスタンザは、キュー・マネージャー・スタンザのみです。

表 3. QueueManager スタンザの属性		
属性	値	必須またはオプション
Name	キュー・マネージャーの名前。 システム上の他のキュー・マネージャー・スタンザとは別の名前を指定する必要があります。	必須
Prefix	デフォルトでこのキュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーの保管先となるディレクトリー・パス。 Prefix を使用して、キュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーの位置を変更できます。 Directory の値が、このパスに自動的に付加されます。	必須
Directory	キュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーの名前。 この名前がキュー・マネージャーの名前と異なる場合は、(12 ページの『例』に示すように) その名前を指定しなければなりません。 dspmqlinf によって戻された値からディレクトリー名をコピーします。 キュー・マネージャー名をディレクトリー名に変換するときのルールについては、 IBM MQ のファイル名についての理解 で説明されています。	必須
DataPath	キュー・マネージャーのデータ・ファイルが置かれるディレクトリー・パス。 Directory の値は、このパスに自動的に付加されません。変換したキュー・マネージャー名を DataPath の一部として提供する必要があります。 UNIX で DataPath 属性を省略すると、キュー・マネージャーのデータ・ディレクトリー・パスは Prefix / Directory として定義されます。	UNIX: オプション Windows: 必須

オプション・パラメーター

-s **StanzaType**

タイプ **StanzaType** のスタンザが IBM MQ 構成に追加されます。

StanzaType のデフォルト値は **QueueManager** です。

StanzaType でサポートされる値は **QueueManager** のみです。

戻りコード

戻りコード	説明
0	正常な操作です。
1	キュー・マネージャーの位置が無効です (Prefix または DataPath のいずれか)
39	コマンド行パラメーターが正しくありません。
45	スタanzasはすでに存在しています。
46	必須構成属性がありません。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
100	ログの位置が無効です。

例

```
addmqinf -v DataPath=/MQHA/qmgrs/QM!NAME +  
-v Prefix=/var/mqm +  
-v Directory=QM!NAME +  
-v Name=QM.NAME
```

mqs.ini に次のスタanzasを作成します。

```
QueueManager:  
Name=QM.NAME  
Prefix=/var/mqm  
Directory=QM!NAME  
DataPath=/MQHA/qmgrs/QM!NAME
```

使用上の注意

dspmqlnf を addmqinf と共に使用して、別のサーバー上に複数インスタンス・キュー・マネージャーのインスタンスを作成します。

このコマンドを使用するには、IBM MQ 管理者および mqm グループのメンバーである必要があります。

関連コマンド

コマンド	説明
64 ページの『dspmqlnf』	IBM MQ 構成情報の表示
103 ページの『rmvmqlnf』	IBM MQ 構成情報の除去

amqmdain

amqmdain は、一部の Windows 固有の管理用タスクを構成または制御するために使用されます。

目的

amqmdain コマンドは、IBM MQ for Windows にのみ適用されます。

amqmdain を使用して、いくつかの Windows 固有の管理用タスクを実行します。

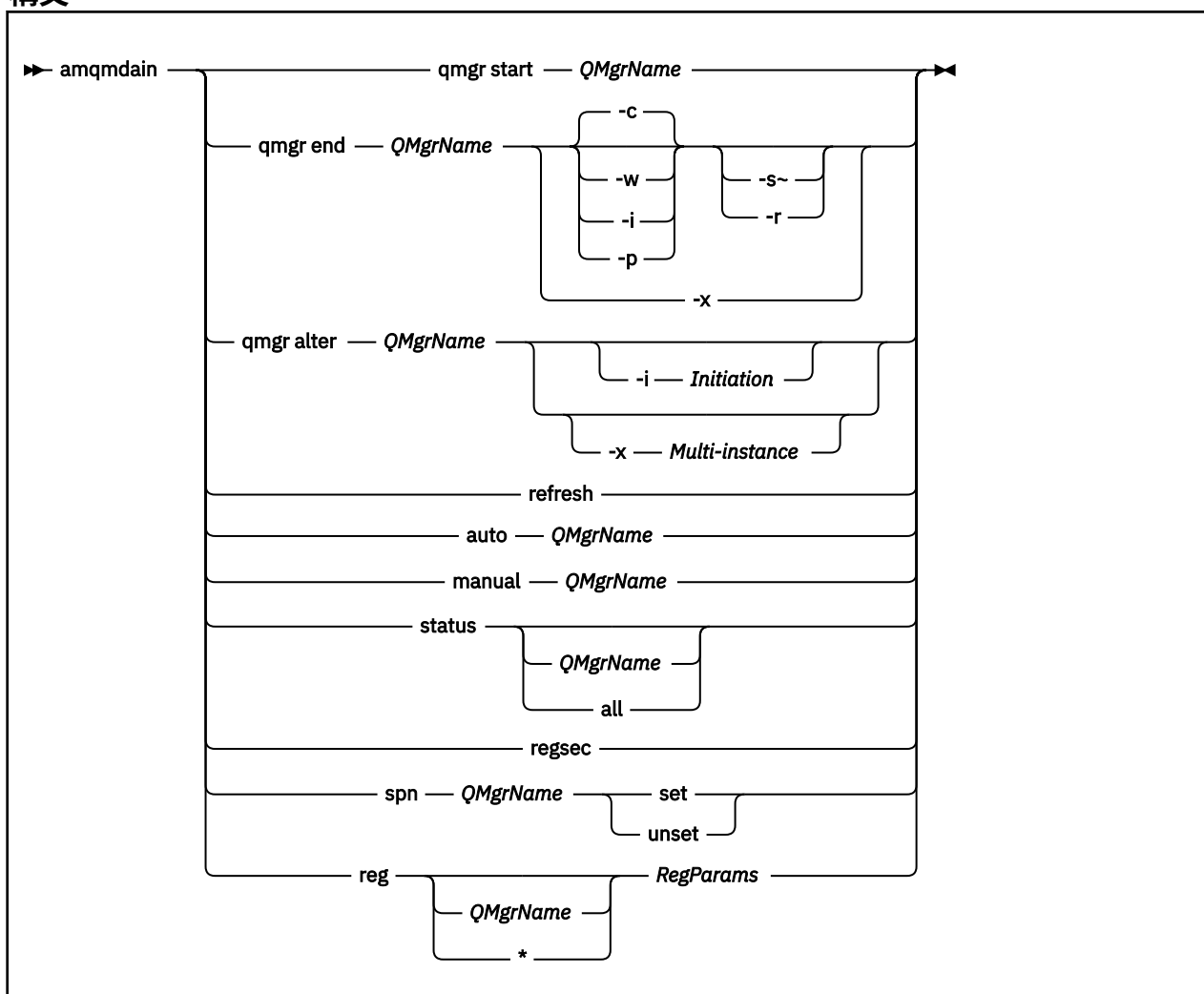
amqmdain を使ってキュー・マネージャーを開始することは、**-ss** オプションを指定して **strmqm** コマンドを使用することと同等です。**amqmdain** は、キュー・マネージャーを別のユーザー・アカウントで非対話式セッションで実行するようにします。ただし、全キュー・マネージャー開始フィードバックがコマンド行に戻されるようにするには、**amqmdain** ではなく **strmqm -ss** コマンドを使用してください。

amqmdain コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられたインストール済み環境から使用する必要があります。**dspmq -o installation** コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

IBM MQ サービスおよびリスナー・オブジェクトの管理と定義には、MQSC コマンド、PCF コマンド、または MQ Explorer を使用します。

amqmdain コマンドは、.ini ファイルまたはレジストリーのうちいずれか該当するものを変更するように更新されました。

構文



キーワードおよびパラメーター

オプションであると記述されていない限り、パラメーターはすべて必須です。

すべての場合に、**QMgrName** は、コマンドが適用されるキュー・マネージャーの名前です。

qmgr start QMgrName

キュー・マネージャーを開始します。

このパラメーターは、*start QMgrName* の形式でも記述できます。

キュー・マネージャーをサービスとして開始する場合で、ログオフ後も引き続きキュー・マネージャーを実行する必要がある場合は、`amqmdain start qmgr` の代わりに `strmqm -ss qmgr` を使用します。

qmgr end QMgrName

キュー・マネージャーを終了します。

このパラメーターは、*end QMgrName* の形式でも記述できます。

プラットフォーム間で整合性を保つためには、`amqmdain end qmgr` の代わりに `endmqm qmgr` を使用してください。

オプションの詳しい説明については、[87 ページの『endmqm』](#)を参照してください。

-c

制御 (または静止) 状態でのシャットダウン。

-w

待機シャットダウン

-i

即時シャットダウン。

-p

プリエンプティブ・シャットダウン。

-r

クライアントを再接続します。

-s

スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスに切り替えます。

-x

アクティブ・インスタンスを終了せずに、キュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスを終了します。

qmgr alter QMgrName

キュー・マネージャーを変更します。

-i Initiation

開始タイプを指定します。指定可能な値は以下のとおりです。

表 4. Initiation コマンドのパラメーター。	
値	説明
auto	キュー・マネージャーを (マシンの始動時、より正確には IBM MQ の始動時に) 自動始動するように設定します。構文規則は以下のとおりです。 <code>amqmdain qmgr alter QmgrName -i auto</code>
interactive	キュー・マネージャーを、手動で開始され、ログオン (対話式) ユーザーの下で実行されるように設定します。構文規則は以下のとおりです。 <code>amqmdain qmgr alter QmgrName -i interactive</code>

表 4. Initiation コマンドのパラメーター。(続き)	
値	説明
service	キュー・マネージャーを、手動で開始され、サービスとして実行されるように設定します。構文規則は以下のとおりです。 amqmdain qmgr alter QmgrName -i service

-x Multi-instance

IBM MQ サービスによる **自動** キュー・マネージャー始動で複数インスタンスを許可するかどうかを指定します。**crtmqm** コマンドの **-sax** オプションに相当します。また、**amqmdain start qmgr** コマンドがスタンバイ・インスタンスを許可するかどうかも指定します。指定可能な値は以下のとおりです。

表 5. Multi-instance コマンドのパラメーター。	
値	説明
set	自動キュー・マネージャー始動が複数インスタンスを許可するように設定します。 strmqm -x を発行します。対話式に開始されるキュー・マネージャーまたは手動のサービス始動として開始されるキュー・マネージャーの場合、 set オプションは無視されます。コマンドの構文は次のとおりです。 amqmdain qmgr alter QmgrName -x set
unset	自動キュー・マネージャー始動を単一インスタンスに設定します。 strmqm を発行します。対話式に開始されるキュー・マネージャーまたは手動のサービス始動として開始されるキュー・マネージャーの場合、 unset オプションは無視されます。コマンドの構文は次のとおりです。 amqmdain qmgr alter QmgrName -x unset

refresh

キュー・マネージャーの状況を最新表示または検査します。このコマンドの実行後は、画面に戻るものは何也没有ありません。

auto QMgrName

キュー・マネージャーを自動始動として設定します。

manual QMgrName

キュー・マネージャーを手動始動として設定します。

status QMgrName | all

これらのパラメーターはオプションです。

表 6. status コマンドのパラメーター。	
ヘッダー	ヘッダー
パラメーターが指定されていない場合	IBM MQ サービスの状況を表示します。

表 6. <i>status</i> コマンドのパラメーター。(続き)	
ヘッダー	ヘッダー
<i>QMgrName</i> が指定されている場合	指定されたキュー・マネージャーの状況を表示します。
パラメーター <i>all</i> が指定されている場合	IBM MQ サービスおよびすべてのキュー・マネージャーの状況を表示します。

regsec

インストール情報を含むレジストリー・キーに割り当てられたセキュリティー許可が正しいことを確認してください。

spn *QMgrName* set | unset

キュー・マネージャーのサービス・プリンシパル名を設定または設定解除できます。

reg *QMgrName* | * *RegParams*

パラメーター *QMgrName* および * はオプションです。

表 7. <i>reg</i> コマンドのパラメーター。	
値	説明
<i>RegParams</i> のみが指定された場合	デフォルトのキュー・マネージャーに関連するキュー・マネージャー構成情報を変更します。
<i>QMgrName</i> および <i>RegParams</i> が指定された場合:	<i>QMgrName</i> で指定されたキュー・マネージャーに関連するキュー・マネージャー構成情報を変更します。
* および <i>RegParams</i> が指定された場合:	IBM MQ 構成情報を変更します。

パラメーター *RegParams* は、スタンザに変更を加えるように指定し、加える変更内容を指定します。*RegParams* の形式は以下のいずれかになります。

- -c add -s *stanza* -v attribute= *value*
- -c remove -s *stanza* -v [attribute|*]
- -c display -s *stanza* -v [attribute|*]

キュー・マネージャー構成情報を指定する場合の *stanza* の有効値は以下のとおりです。

```
XAResourceManager\name
ApiExitLocal\name
Channels
ExitPath
InstanceData
Log
QueueManagerStartup
TCP
LU62
SPX
NetBios
Connection
QMErrorLog
Broker

ExitPropertiesLocal
SSL
```

IBM MQ 構成情報を指定する場合の *stanza* の有効値は以下のとおりです。

```
ApiExitCommon\name
ApiExitTemplate\name
ACPI
AllQueueManagers
Channels
```

```
DefaultQueueManager
LogDefaults
ExitProperties
```

以下に、使用時の考慮事項を示します。

- **amqmdain** は、*name*、*attribute*、または *value* に指定された値を検証しません。
- **add** を指定するとき、属性が存在していれば、その属性が変更されます。
- スタンザが存在しない場合は、**amqmdain** がそれを作成します。
- **remove** を指定する場合、値 ***** を使用すればすべての属性を除去することができます。
- **display** を指定する場合、値 ***** を使用すれば、定義されているすべての属性を表示することができます。この値は、定義されている属性を表示するだけであり、有効な属性の完全なリストを表示する訳ではありません。
- **remove** を使用してスタンザ内の属性のみを除去すると、スタンザ自体が除去されます。
- レジストリーに何らかの変更を加えると、すべての IBM MQ レジストリー項目が再度保護されます。

例

次ページにあるのは、XAResourceManager をキュー・マネージャー TEST に追加する例です。実行されるコマンドは次のとおりです。

```
amqmdain reg TEST -c add -s XAResourceManager\Sample -v SwitchFile=sf1
amqmdain reg TEST -c add -s XAResourceManager\Sample -v ThreadOfControl=THREAD
amqmdain reg TEST -c add -s XAResourceManager\Sample -v XAOpenString=openit
amqmdain reg TEST -c add -s XAResourceManager\Sample -v XACloseString=closeit
```

コマンドで設定された値を表示するには、下記のものを使用します。

```
amqmdain reg TEST -c display -s XAResourceManager\Sample -v *
```

次のように表示されます。

```
0784726, 5639-B43 (C) Copyright IBM Corp. 1994, 2023. ALL RIGHTS RESERVED.
Displaying registry value for Queue Manager 'TEST'
Attribute = Name, Value = Sample
Attribute = SwitchFile, Value = sf1
Attribute = ThreadOfControl, Value = THREAD
Attribute = XAOpenString, Value = openit
Attribute = XACloseString, Value = closeit
```

キュー・マネージャー TEST から XAResourceManager を除去するには、下記のものを使用します。

```
amqmdain reg TEST -c remove -s XAResourceManager\Sample -v *
```

戻りコード

戻りコード 説明

0	コマンドは正常に終了しました。
-2	構文エラー。
-3	MFC の初期化に失敗しました。
-6	機能のサポートが終了しています。
-7	構成に障害があります。
-9	予期しないレジストリー・エラー。

戻りコード 説明

- 16 サービスのプリンシパル名の構成に失敗しました。
- 29 複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
- 62 キュー・マネージャーは別のインストール済み環境に関連付けられています。
- 71 予期しないエラーです。
- 119 許可は拒否されました (Windows のみ)。

注:

1. `qmgr start QMgrName` コマンドを発行すると、**strmqm** で戻される可能性のあるすべての戻りコードがこのコマンドでも戻される可能性があります。これらの戻りコードについては、[155 ページの『strmqm』](#)を参照してください。
2. `qmgr end QMgrName` コマンドを発行すると、**endmqm** で戻される可能性のあるすべての戻りコードがこのコマンドでも戻される可能性があります。これらの戻りコードについては、[87 ページの『endmqm』](#)を参照してください。

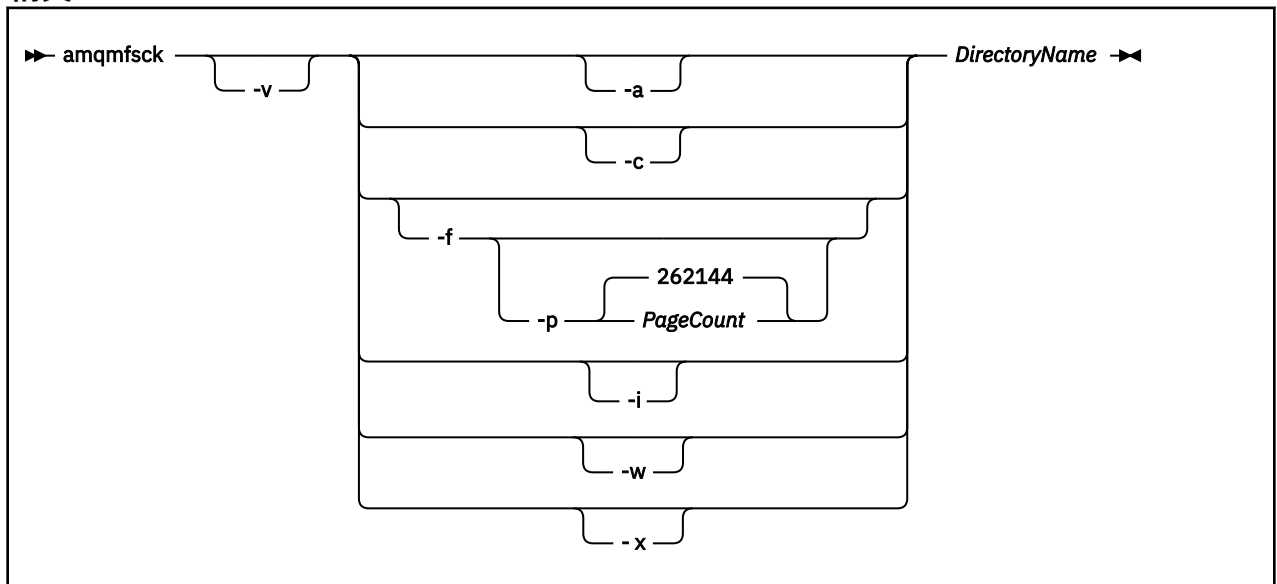
amqmfscck (ファイル・システム検査)

amqmfscck は、UNIX および IBM i システム上の共有ファイル・システムが、複数インスタンス・キュー・マネージャーのキュー・マネージャー・データを保管するための要件を満たすかどうかを検査します。

目的

amqmfscck コマンドは UNIX および IBM i システムにのみ適用されます。Windows 上のネットワーク・ドライブを検査する必要はありません。**amqmfscck** は、ファイル・システムがファイルへの同時書き込みとロックの待機および解放を正しく処理するかどうかをテストします。

構文



必要なパラメーター

DirectoryName

検査するディレクトリーの名前。

オプション・パラメーター

-a

データ保全テストの 2 番目のフェーズを実行します。

2 台のマシン上でこれを同時に実行します。-f オプションを使用して、テスト・ファイルを事前にフォーマットしておく必要があります。

-c

ディレクトリー内のファイルへの書き込みを同時にテストします。

-f

データ保全テストの最初のフェーズを実行します。

データ保全テストの準備として、ディレクトリー内のファイルをフォーマット設定します。

-i

データ保全テストの 3 番目のフェーズを実行します。

障害の後でファイルの保全性を検査し、テストが正常に機能したかどうかを確認めます。

-p

データ保全テストで使用するテスト・ファイルのサイズを、ページ単位で指定します。

サイズは 16 ページの直近の倍数に切り上げられます。ファイルは *PageCount* ページでフォーマット設定され、1 ページは 4 KB です。

最適なファイル・サイズは、ファイル・システムの速度、および実行するテストの性質によって異なります。このパラメーターを省略すると、テスト・ファイルは 262144 ページ (すなわち 1 GB) になります。

非常に遅いファイル・システム上でもフォーマット設定がおよそ 60 秒以内に完了するよう、サイズが自動的に削減されます。

-v

詳細出力。

-w

ロックの待機および解除をテストします。

-x

ディレクトリーのテスト中に **amqmfsc** によって作成されたファイルをすべて削除します。

このオプションは、テストが完了したか、保全性テストで使用するページ数を変更する必要がある場合のみ実行してください。

使用法

このコマンドを実行するには、IBM MQ 管理者でなければなりません。また、検査対象のディレクトリーへの読み取り/書き込み権限を持っている必要があります。

 IBM i の場合、QSH を使用してプログラムを実行します。CL コマンドはありません。

テストが正常に完了すると、コマンドは終了コードのゼロを戻します。

共有ファイル・システムの動作の検証のタスクでは、**amqmfsc** を使用して、ファイル・システムが複数インスタンス・キュー・マネージャーに適しているかどうかを検査する方法について説明しています。

結果の解釈

検査が失敗すると、ファイル・システムは IBM MQ キュー・マネージャーで使用できません。テストが失敗したら、冗長モードを選択して、エラーを解釈できるようにしてください。verbose オプションからの出力は、コマンドが失敗した理由や、ファイル・システムを再構成することによって問題を解決できるかどうかを理解するのに役立ちます。

場合によっては、失敗はアクセス制御の問題である可能性があり、ディレクトリーの所有権または許可を変更することによって修正できます。また、ファイル・システムを再構成して別の方法で動作するように

すれば、失敗を修正できることもあります。例えば、ファイル・システムの中には、変更が必要かどうかを検討すべきパフォーマンス・オプションを持つものがあります。また、ファイル・システムのプロトコルによる並行性のサポートに堅牢性が不足している場合もあります。その際は、別のファイル・システムを使用しなければなりません。例えば、NFSv3ではなくNFSv4を使用する必要があります。

検査が成功すると、コマンドは `The tests on the directory completed successfully` と報告します。使用中の環境が [Testing and support statement for IBM MQ multi-instance queue managers](#) でサポート対象として記載されていない場合、この結果は、必ずしもユーザーが IBM MQ マルチインスタンス・キュー・マネージャーを正しく実行できることを意味しません。

さまざまな種類のテストを計画および実行し、予測可能なすべての状況を扱う必要があります。障害の中には再現性の低いものもあるため、テストを複数回実行すると、それらの障害を発見する可能性が高くなります。

関連情報

[共有ファイル・システムの動作の検証](#)

crtmqcvx

データ・タイプ構造からデータ変換コードを作成します。

目的

`crtmqcvx` コマンドを使用して、データ・タイプ構造のデータ変換を実行するコード断片を作成する。このコマンドは、C 構造体を変換するために出口で利用できる C 関数を生成します。

このコマンドは、変換される構造体を含んでいる入力ファイルを読み取り、それらの構造を変換するコード断片を格納した出力ファイルを書き込みます。

このコマンドの使用方法については、[変換出口コードを作成するためのユーティリティー](#)を参照してください。

構文

```
➡ crtmqcvx — SourceFile — TargetFile ➡
```

必要なパラメーター

SourceFile

変換する C 構造体を含んでいる入力ファイル。

TargetFile

構造体を変換するために生成されたコード断片を格納した出力ファイル。

戻りコード

戻りコード	説明
0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

次の例は、ソース C 構造体に対してデータ変換コマンドを使用した結果を示しています。次のコマンドが出されました。

```
crtmqcvx source.tmp target.c
```

入力ファイル `source.tmp` は、以下のようになります。

```
/* This is a test C structure which can be converted by the */
/* crtmqcvx utility                                         */

struct my_structure
{
    int    code;
    MQLONG value;
};
```

コマンドによって生成される出力ファイル `target.c` は、以下のようになります。

```
MQLONG Convertmy_structure(
    PMQDXP  pExitParms,
    PMQBYTE *in_cursor,
    PMQBYTE *out_cursor,
    PMQBYTE in_lastbyte,
    PMQBYTE out_lastbyte,
    MQHCONN hConn,
    MQLONG  opts,
    MQLONG  MsgEncoding,
    MQLONG  ReqEncoding,
    MQLONG  MsgCCSID,
    MQLONG  ReqCCSID,
    MQLONG  CompCode,
    MQLONG  Reason)
{
    MQLONG ReturnCode = MQRC_NONE;

    ConvertLong(1); /* code */

    AlignLong();
    ConvertLong(1); /* value */

Fail:
    return(ReturnCode);
}
```

アプリケーションでこれらのコード断片を使用すれば、データ構造体を変換できます。ただし、これを行うと、フラグメントはヘッダー・ファイル `amqsvmha.h` で提供されるマクロを使用します。

crtmqenv

UNIX、Linux、および Windows の場合に IBM MQ をインストールするための環境変数のリストを作成します。

目的

crtmqenv コマンドを使用して、IBM MQ のインストールに適した値を持つ環境変数のリストを作成できます。環境変数のリストはコマンド行に表示され、システム上に存在する変数にはすべて、IBM MQ の値が追加されます。このコマンドは、自動的に環境変数を設定しませんが、ユーザー自身が (例えば、独自のスクリプト内で) 変数を設定するための適切なストリングを提供します。

シェル環境において、環境変数を自動的に設定したい場合は、**crtmqenv** コマンドの代わりに **setmqenv** コマンドを使用できます。

環境を作成する対象となるインストールを指定するには、キュー・マネージャー名、インストール名、またはインストール・パスを指定します。**crtmqenv** コマンドにパラメーター **-s** を指定して発行することで、このコマンドが発行されたインストール用の環境を作成することもできます。

このコマンドは、以下の環境変数と、ご使用のシステムに適した変数の値をリストします。

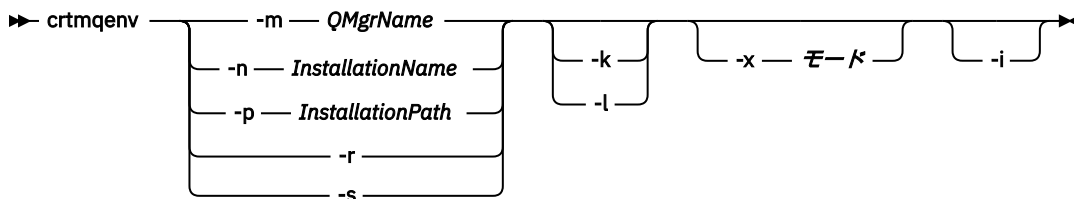
- CLASSPATH
- INCLUDE
- LIB
- MANPATH
- MQ_DATA_PATH
- MQ_ENV_MODE
- MQ_FILE_PATH
- MQ_JAVA_INSTALL_PATH
- MQ_JAVA_DATA_PATH
- MQ_JAVA_LIB_PATH
- MQ_JAVA_JVM_FLAG
- MQ_JRE_PATH
- PATH

UNIX および Linux システムの場合、**-l** または **-k** フラグが指定されていると、**LIBPATH** 環境変数が AIX® 上で設定され、**LD_LIBRARY_PATH** 環境変数が HP-UX、Linux、および Solaris 上で設定されます。

使用上の注意

crtmqenv コマンドは、環境を設定する対象のインストールへ新規の参照を追加する前に、環境変数からすべての IBM MQ インストールのすべてのディレクトリーを削除します。そのため、IBM MQ を参照する追加の環境変数を設定する場合は、**crtmqenv** コマンドを発行した後でそれらの変数を設定します。例えば、**MQ_INSTALLATION_PATH/java/lib** を **LD_LIBRARY_PATH** に追加する場合は、**crtmqenv** の実行後に追加する必要があります。

構文



必須パラメーター

-m QMgrName

キュー・マネージャー *QMgrName* に関連付けられているインストール用に環境を作成します。

-n InstallationName

InstallationName という名前のインストールの環境を作成します。

-p InstallationPath

パス *InstallationPath* にあるインストールの環境を作成します。

-r

すべてのインストールを環境から削除します。

-s

コマンドを発行したインストールの環境を作成します。

オプション・パラメーター

-k

UNIX および Linux のみです。

`LD_LIBRARY_PATH` または `LIBPATH` 環境変数を環境に含め、IBM MQ ライブラリーへのパスを現在の `LD_LIBRARY_PATH` または `LIBPATH` 変数の先頭に追加します。

-l

UNIX および Linux のみです。

`LD_LIBRARY_PATH` または `LIBPATH` 環境変数を環境に含め、IBM MQ ライブラリーへのパスを現在の `LD_LIBRARY_PATH` または `LIBPATH` 変数の最後に追加します。

-x Mode

`Mode` の値は、32 または 64 になります。

32 ビットまたは 64 ビットの環境を作成します。このパラメーターを指定しない場合、環境は、キュー・マネージャーの環境、またはコマンドで指定したインストールの環境と一致します。

32 ビットのインストールで 64 ビット環境を表示しようとする、失敗します。

-i

環境に追加されたものだけをリストします。

このパラメーターを指定した場合、以前のインストール用に設定されている環境変数は環境変数パス内に残るため、手動で削除する必要があります。

戻りコード

戻りコード	説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

以下の例では、IBM MQ のコピーが UNIX システムまたは Linux システム上の `/opt/mqm` にインストールされていることを前提としています。

1. 次のコマンドは、`/opt/mqm` にインストールされているインストールの環境変数のリストを作成します。

```
/opt/mqm/bin/crtmqenv -s
```

2. 次のコマンドは、`/opt/mqm2` にインストールされているインストールの環境変数のリストを作成し、`LD_LIBRARY_PATH` 変数の現在の値の最後に、このインストールへのパスを含めます。

```
/opt/mqm/bin/crtmqenv -p /opt/mqm2 -l
```

3. 次のコマンドは、キュー・マネージャー `QM1` の環境変数のリストを 32 ビット環境で作成します。

```
/opt/mqm/bin/crtmqenv -m QM1 -x 32
```

次の例では、IBM MQ のコピーが Windows システムの `C:\Program Files\IBM\WebSphere® MQ` にインストールされていることを前提としています。

1. 次のコマンドは、`installation1` という名前のインストールの環境変数のリストを作成します。

```
"C:\Program Files\IBM\WebSphere MQ\crtmqenv" -n installation1
```

関連資料

141 ページの『setmqenv』

setmqenv コマンドを使用して、UNIX、Linux、および Windows の場合上に IBM MQ 環境をセットアップします。

関連情報

[プライマリー・インストールの選択](#)

[複数のインストール](#)

crtmqinst

UNIX および Linux システム上の mqinst.ini にインストール項目を作成します。

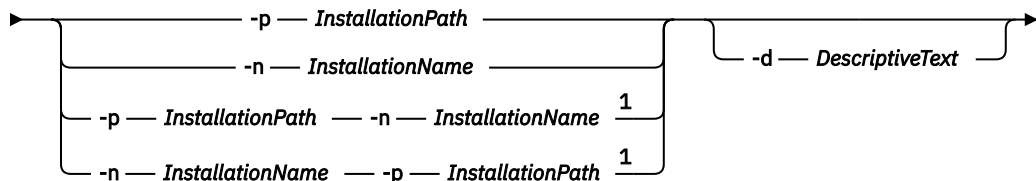
目的

ファイル mqinst.ini には、システム上のすべての IBM MQ インストールに関する情報が含まれています。mqinst.ini について詳しくは、[インストール構成ファイル、mqinst.ini](#) を参照してください。

IBM MQ の初回インストールには自動的に Installation1 という名前が付けられます。これは、IBM MQ がシステムにインストールされるまで、**crtmqinst** コマンドを使用できないためです。2 回目以降のインストールには、インストール前に **crtmqinst** コマンドを使用して、インストール名を設定できます。インストール後にインストール名を変更することはできません。インストール名について詳しくは、[インストール名の選択](#) を参照してください。

構文

➡ crtmqinst ➡



注:

¹ インストールの名前 (InstallationName) とインストール・パス (InstallationPath) を一緒に指定する場合、それらは同一のインストールを示す必要があります。

Parameters

-d

インストールについて記述するテキスト。

このテキストは最大 64 文字 (1 バイト文字) または 32 文字 (2 バイト文字) です。デフォルト値は、すべてブランクです。テキストにスペースが含まれている場合、テキストを引用符で囲む必要があります。

-n InstallationName

インストールの名前。

この名前は最大 16 文字の 1 バイト文字で、a から z、A から Z、および 0 から 9 の範囲の英数字の組み合わせでなければなりません。大文字と小文字のどちらを使用するかにかかわらず、インストール名は固有のものでなければなりません。例えば、INSTALLATIONNAME という名前と InstallationName という名前は固有ではありません。

インストール名を指定しない場合は、一連の Installation1、Installation2... の中で次に使用可能な名前になります。使用されます。

-p InstallationPath

インストール・パス。インストール・パスを指定しない場合、UNIX および Linux システムでは /opt/mqm が、AIX では /usr/mqm が使用されます。

戻りコード

戻りコード	説明
0	項目がエラーなしで作成されました。
10	インストール・レベルが無効です。
36	与えられた引数が無効です。
37	記述テキストが間違っていました。
45	項目はすでに存在しています。
59	無効なインストール済み環境が指定されました。
71	予期しないエラーです。
89	.ini ファイルのエラーです。
96	.ini ファイルをロックできませんでした。
98	.ini ファイルにアクセスする権限が不十分です。
131	リソース問題です。

例

1. このコマンドは、myInstallation という名前、インストール・パス /opt/myInstallation、および "My IBM MQ installation" という記述を使用する項目を作成します。

```
crtmqinst -n MyInstallation -p /opt/myInstallation -d "My IBM MQ installation"
```

記述テキストにスペースが含まれているため、引用符が必要です。

注: UNIX システムでは、mqinst.ini 構成ファイルへの書き込みにフルアクセス権が必要であるため、root ユーザーが **crtmqinst** コマンドを実行する必要があります。

crtmqm

キュー・マネージャーを作成します。

目的

crtmqm コマンドは、キュー・マネージャーを作成し、デフォルトおよびシステム・オブジェクトを定義するために使用します。 **crtmqm** コマンドによって作成されるオブジェクトは、システムおよびデフォルト・オブジェクトにリストされています。 キュー・マネージャーが作成されている場合は、**strmqm** コマンドを使用して開始します。

キュー・マネージャーは、**crtmqm** コマンドを発行したインストール済み環境に自動的に関連付けられます。 関連付けられたインストール済み環境を変更するには、**setmqm** コマンドを使用します。 Windows インストーラーでは、mqm グループへのインストールを実行するユーザーが自動的に追加されないことに注意してください。 詳しくは、[UNIX、Linux および Windows システム上の IBM MQ を管理する権限](#)を参照してください。

構文

オプション・パラメーター

Windows **-a[r] access_group**

アクセス・グループ・パラメーターを使用すると、Windows セキュリティー・グループを指定できます。このグループのメンバーは、すべてのキュー・マネージャー・データ・ファイルへの全アクセス権限を付与されます。このグループは、使用する構文に応じて、ローカル・グループかグローバル・グループのいずれかになります。

グループ名の有効な構文は次のとおりです。

LocalGroup

Domain name ¥ GlobalGroup name

GlobalGroup name@Domain name

-a [r] オプションを指定して **crtmqm** コマンドを実行するには、まず追加のアクセス・グループを定義しておく必要があります。

-a の代わりに **-ar** を使用してグループを指定した場合、ローカル **mqm** グループにはキュー・マネージャー・データ・ファイルへのアクセス権限が付与されません。キュー・マネージャー・データ・ファイルをホストするファイル・システムが、ローカルに定義されたグループのアクセス制御項目をサポートしていない場合は、このオプションを使用してください。

このグループは通常はグローバル・セキュリティ・グループです。グローバル・セキュリティ・グループは、複数インスタンス・キュー・マネージャーに、キュー・マネージャーの共有データ・フォルダーと共有ログ・フォルダーに対するアクセス権を付与するために使用されます。このような追加のセキュリティ・アクセス・グループを使用すれば、キュー・マネージャーのデータ・ファイルとログ・ファイルが含まれているフォルダーや共有フォルダーに対する読み取り/書き込み権限を設定できます。

キュー・マネージャーのデータとログが含まれているフォルダーに対する権限を設定するために、**mqm** という名前のローカル・グループを使用することもできますが、追加のセキュリティ・アクセス・グループは、その代替手段になります。ローカル・グループ **mqm** の場合とは異なり、追加のセキュリティ・アクセス・グループは、ローカル・グループでもグローバル・グループでもかまいません。複数インスタンス・キュー・マネージャーが使用するデータ・ファイルとログ・ファイルが含まれている共有フォルダーに対する権限を設定する場合は、グローバル・グループを使用する必要があります。

Windows オペレーティング・システムは、キュー・マネージャーのデータ・ファイルとログ・ファイルに対する読み取り/書き込み権限を検査します。検査の対象になるのは、キュー・マネージャーのプロセスを実行しているユーザー ID の権限です。検査対象になるユーザー ID は、キュー・マネージャーをサービスとして開始したか、それとも対話式に開始したかによって異なります。キュー・マネージャーをサービスとして開始した場合、Windows システムによって検査されるユーザー ID は、「IBM MQ の準備」ウィザードで構成したユーザー ID です。キュー・マネージャーを対話式に開始した場合、Windows システムによって検査されるユーザー ID は、**strmqm** コマンドを実行したユーザー ID です。

キュー・マネージャーを開始するユーザー ID は、ローカル **mqm** グループのメンバーでなければなりません。そのユーザー ID が追加のセキュリティ・アクセス・グループのメンバーになっていれば、キュー・マネージャーで、そのグループに基づいて権限が与えられているファイルを読み書きすることが可能になります。

制約事項: 追加のセキュリティ・アクセス・グループを指定できるのは、Windows オペレーティング・システムだけです。他のオペレーティング・システムで追加のセキュリティ・アクセス・グループを指定すると、**crtmqm** コマンドでエラーが返されます。

-c テキスト

このキュー・マネージャーの記述テキスト。最大 64 文字まで使用できます。デフォルトはすべてブランクです。

特殊文字を組み込む場合は、記述を単一引用符で囲みます。システムで 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合には、文字の最大数は少なくなります。

-d DefaultTransmission キュー

伝送キューが宛先について明示的に定義されなかったときにリモート・メッセージが置かれるローカル伝送キューの名前。デフォルトはありません。

-g ApplicationGroup

メンバーが次のアクションの実行を許可されるグループの名前。

- MQI アプリケーションの実行
- すべての IPCC リソースの更新
- 一部のキュー・マネージャー・ディレクトリーの内容の変更

このオプションは、IBM MQ for AIX、Solaris、HP-UX および Linux に適用されます。

デフォルト値は **-g all** (無制限のアクセスを許可) です。

-g ApplicationGroup 値は、qm.ini という名前のキュー・マネージャー構成ファイルに記録されます。

mqm ユーザー ID およびコマンドを実行するユーザーは、指定したアプリケーション・グループに所属していることが必要です。制限モードでの操作については、[制限モード](#)を参照してください。

-h MaximumHandle 制限

アプリケーションで同時にオープンできるハンドルの最大数。

1 から 999999999 の範囲の値を指定します。デフォルト値は 256 です。

次のパラメーター記述のセットはロギングに関連しています。これについては、[ログをリカバリーに使用する](#)で説明されています。

注：ロギング調整は、コミットしたら変更できないものがあるので、その点に注意しながら選択してください。

-lc

循環ロギングを使用します。これは、デフォルトのロギングの方法です。

-ld LogPath

ログ・ファイルを格納するために使用するディレクトリー。ログを格納するデフォルト・ディレクトリーのパスは、IBM MQ のインストール時に定義します。

ログ・ファイル・ディレクトリーが含まれているボリュームがファイル・セキュリティに対応している場合は、そのログ・ファイル・ディレクトリーに対するアクセス権限が必要になります。つまり、キュー・マネージャーを実行するユーザー ID に、そのディレクトリーとサブディレクトリーに対する読み取り/書き込み権限を与えることができます。IBM MQ をインストールする際、ユーザー ID およびデフォルト・ログ・ディレクトリーの mqm グループに権限を付与します。ログ・ファイルを別のディレクトリーに書き込むために **LogPath** パラメーターを設定する場合は、そのディレクトリーに対する読み取り/書き込み権限をそのユーザー ID に与える必要があります。ユーザー ID と権限は、UNIX および Linux システムの場合と Windows システムの場合とで異なります。

UNIX および Linux

ディレクトリーおよびそのサブディレクトリーの所有者は、mqm グループに含まれているユーザー mqm でなければなりません。

キュー・マネージャーの複数のインスタンスでログ・ファイルを共有する場合は、それぞれのインスタンスで同じセキュリティ ID (sid) を使用する必要があります。キュー・マネージャーの各インスタンスを実行するそれぞれのサーバーで、ユーザー mqm に同じ sid を設定しておかなければなりません。同じことが mqm グループについてもいえます。

Windows

そのディレクトリーにアクセスするのがキュー・マネージャーの 1 つのインスタンスだけの場合は、そのディレクトリーに対する読み取り/書き込み権限を以下のグループとユーザーに与える必要があります。

- ローカル・グループ mqm
- ローカル・グループ Administrators

- SYSTEM ユーザー ID

キュー・マネージャーの複数の異なるインスタンスに共有ログ・ディレクトリーに対するアクセス権限を付与するには、そのキュー・マネージャーがグローバル・ユーザーを使用してそのログ・ディレクトリーにアクセスする必要があります。そのグローバル・ユーザーが含まれているグローバル・グループに、そのログ・ディレクトリーに対する読み取り/書き込みアクセス権限を付与してください。そのグローバル・グループは、-a パラメーターで指定される追加のセキュリティ・アクセス・グループです。

IBM MQ for Windows システムでは、デフォルトのディレクトリーは C:

¥ProgramData¥IBM¥MQ¥log です (C がデータ・ドライブであることを想定しています)。そのポリシーがファイル・セキュリティに対応する場合、SYSTEM ID、Administrators、および mqm グループにはディレクトリーに対する読み取り/書き込み権限が付与される必要があります。

IBM MQ for UNIX および Linux システムでは、デフォルト・ディレクトリーは /var/mqm/log です。ユーザー ID mqm およびグループ mqm はログ・ファイルについてすべての許可を持っている必要があります。

これらのファイルの位置を変更する場合は、それらの権限を取得する必要があります。この権限が自動的に設定される場合、ログ・ファイルはそのデフォルトの場所に置かれます。

-lf LogFile 「ページ」

ログ・データは、ログ・ファイルと呼ばれる一連のファイルに保持されます。ログ・ファイル・サイズは、4 KB ページ単位で指定します。

IBM MQ for UNIX および Linux システムでは、ログ・ファイルのデフォルトのページ数は 4096 です。これは、16 MB のログ・ファイル・サイズと同じです。ログ・ファイルの最小ページ数は 64 であり、最大ページ数は 65535 です。

IBM MQ for Windows システムでは、ログ・ファイルのデフォルトのページ数は 4096 です。これは、16 MB のログ・ファイル・サイズと同じです。ログ・ファイルの最小ページ数は 32 であり、最大ページ数は 65535 です。

注: そのキュー・マネージャーの作成時に指定したキュー・マネージャーのログ・ファイルのサイズを変更することはできません。

-ll LinearLogging

リニア・ロギングを使用します。

-lp LogPrimary ファイル

キュー・マネージャーの作成時に割り振られるログ・ファイル。

Windows システムでは、1 次ログ・ファイルの最小数は 2 で、最大数は 254 です。UNIX および Linux システムでは、1 次ログ・ファイルの最小数は 2 で、最大数は 510 です。デフォルトは 3 です。

Windows システムでは、1 次ログ・ファイルと 2 次ログ・ファイルの総数は 255 を超えてはならず、3 以上でなければなりません。UNIX および Linux システムでは、1 次ログ・ファイルと 2 次ログ・ファイルの合計数は 511 を超えてはならず、3 以上でなければなりません。

オペレーティング・システムの制限により、最大ログ・サイズがさらに減少することもあります。

この値は、キュー・マネージャーの作成時または開始時に調べられます。キュー・マネージャーが作成された後に、この値を変更することができます。ただし、この変更された値は、キュー・マネージャーが再始動されるまで有効にならないので、効果はただちに現れません。

1 次ログ・ファイルについて詳しくは、[ログの概要](#)を参照してください。

1 次ログ・ファイルのサイズを計算するには、[ログのサイズの計算](#)を参照してください。

-ls LogSecondary ファイル

1 次ファイルが足りなくなったときに割り振られるログ・ファイル。

Windows システムでは、2 次ログ・ファイルの最小数は 1 で、最大数は 253 です。UNIX および Linux システムでは、2 次ログ・ファイルの最小数は 2 で、最大数は 509 です。デフォルトは 2 です。

Windows システムでは、1 次ログ・ファイルと 2 次ログ・ファイルの総数は 255 を超えてはならず、3 以上でなければなりません。UNIX および Linux システムでは、1 次ログ・ファイルと 2 次ログ・ファイルの合計数は 511 を超えてはならず、3 以上でなければなりません。

オペレーティング・システムの制限により、最大ログ・サイズがさらに減少することもあります。

この値は、キュー・マネージャーの始動時に検査されます。この値は変更することができます。ただし、変更された値は、キュー・マネージャーが再始動されるまでは有効にはなりません。有効になった場合でも効果がただちに現れるとは限りません。

2 次ログ・ファイルの使用については、[ログの概要](#)を参照してください。

2 次ログ・ファイルのサイズを計算するには、[ログのサイズの計算](#)を参照してください。

-md DataPath

キュー・マネージャーのデータ・ファイルを保持するために使用されるディレクトリー。

IBM MQ for Windows システムでは、デフォルトは C: \ProgramData\IBM\mq\mqm\grs です (C: がデータ・ドライブであることを想定しています)。そのボリュームがファイル・セキュリティに対応する場合、SYSTEM ID、Administrators、および mqm グループにはディレクトリーに対する読み取り/書き込み権限が付与される必要があります。

IBM MQ for UNIX および Linux システムでは、デフォルトは /var/mqm/mqm\grs です。ユーザー ID mqm およびグループ mqm はログ・ファイルについてすべての許可を持っている必要があります。

複数インスタンス・キュー・マネージャーの構成に役立つように、DataPath パラメーターが提供されています。例えば、UNIX および Linux システムで /var/mqm ディレクトリーがローカル・ファイル・システムに置かれている場合、複数のキュー・マネージャーがアクセス可能なファイル共有システムを指すには、DataPath パラメーターと LogPath パラメーターを使用します。

注: DataPath パラメーターを使用して作成されたキュー・マネージャーは、バージョン 7.0.1 より前のバージョンの IBM MQ で実行されますが、DataPath パラメーターを削除するようにキュー・マネージャーを再構成する必要があります。キュー・マネージャーのバージョンバージョン 7.0.1 よりも前の構成にリストアして DataPath パラメーターを使わずに実行する方法は 2 とおりあります。キュー・マネージャーの構成を編集する自信があるのであれば、Prefix キュー・マネージャー構成パラメーターを使用してキュー・マネージャーを手動で構成できます。あるいは、以下の手順を実行してキュー・マネージャーを編集することもできます。

1. キュー・マネージャーを停止させます。
2. キュー・マネージャー・データおよびログ・ディレクトリーを保存します。
3. キュー・マネージャーを削除してください。
4. IBM MQ を v7.0.1 より前のフィックス・レベルにバックアウトします。
5. 同じ名前でキュー・マネージャーを作成します。
6. 新規のキュー・マネージャー・データおよびログ・ディレクトリーを、保存したもので置き換えます。

-oa group | user

 UNIX および Linux システムでは、グループ許可を使用するかユーザー許可を使用するかを指定できます。このパラメーターを設定しない場合は、グループ許可が使用されます。許可モデルを後から変更するには、qm.ini ファイルの Service スタンザにある **SecurityPolicy** パラメーターを設定します ([Service スタンザの形式](#)を参照)。

詳細については、[オブジェクト権限マネージャー \(OAM\)](#) を参照してください。

-p PortNumber

指定したポートの管理対象 TCP リスナーを作成します。

指定したポートを使用する TCP リスナー・オブジェクトを作成するには、1 から 65535 までの範囲の有効なポート値を指定してください。新しいリスナーは SYSTEM.LISTENER.TCP.1 という名前になります。このリスナーはキュー・マネージャーの制御下に置かれ、キュー・マネージャーとともに開始され、停止します。

-q

このキュー・マネージャーをデフォルトのキュー・マネージャーにします。新しいキュー・マネージャーが、既存のデフォルトのキュー・マネージャーと置き換わります。

誤ってこのフラグを使用した場合、既存のキュー・マネージャーがデフォルトのキュー・マネージャーとして使用されるように戻すには、既存のキュー・マネージャーをデフォルト・キュー・マネージャーにする方法の説明に従ってデフォルトのキュー・マネージャーを変更してください。

-sa

自動キュー・マネージャー始動。Windows システムにのみ該当します。

キュー・マネージャーは、IBM MQ サービスの始動時に自動的に始動するように構成されます。

MQ Explorer からキュー・マネージャーを作成した場合は、これがデフォルト・オプションです。

バージョン 7 よりも前のリリースの IBM MQ で作成されたキュー・マネージャーの場合は、既存の始動タイプが保持されます。

-sax

複数インスタンスを許可する自動キュー・マネージャー始動。Windows システムにのみ該当します。

キュー・マネージャーは、IBM MQ サービスの始動時に自動的に始動するように構成されます。

キュー・マネージャーのインスタンスがまだ実行されていなければ、キュー・マネージャーが開始され、そのインスタンスがアクティブになり、スタンバイ・インスタンスがどの場所でも許可されます。スタンバイを許可するキュー・マネージャー・インスタンスが別のサーバーで既にアクティブになっている場合、新しいインスタンスがスタンバイ・インスタンスになります。

1 台のサーバーで実行可能なキュー・マネージャーのインスタンスは 1 つだけです。

バージョン 7.0.1 より前のバージョンの IBM MQ で作成されたキュー・マネージャーは、既存の始動タイプを保持します。

-si

対話式 (手動) キュー・マネージャー始動。

キュー・マネージャーは、**strmqm** コマンドを使用して手動で要求するときのみ始動するように構成されます。キュー・マネージャーは、ユーザーがログオンしているときにその (対話式) ユーザーの下で実行されます。対話式始動で構成されたキュー・マネージャーは、キュー・マネージャーを開始したユーザーがログオフすると終了します。

-ss

サービス (手動) キュー・マネージャー始動。

キュー・マネージャーは、**strmqm** コマンドを使用して手動で要求されたときにのみ始動するように構成されます。その後、IBM MQ サービスの開始時に、キュー・マネージャーはサービスの子プロセスとして実行されます。サービス始動で構成されたキュー・マネージャーは、対話式ユーザーがログオフした後も継続して実行されます。

コマンド行からキュー・マネージャーを作成した場合は、これがデフォルト・オプションです。

-t IntervalValue

このキュー・マネージャーが制御するすべてのキューについて、トリガー時間間隔 (ミリ秒単位)。この値は、キュー・マネージャーがトリガー生成メッセージを受け取った後の、トリガーが中断する時間を指定します。つまり、あるメッセージがキューに到着してトリガー・メッセージが開始キューに入られると、指定された時間間隔内に同じキューにメッセージが到着しても、別のトリガー・メッセージは生成されません。

このトリガー時間間隔を使用すれば、アプリケーションは、同じキューの別のトリガー条件を取り扱うよう警告されるまでに、トリガー条件を取り扱うための十分な時間の余裕が与えられます。生じるすべてのトリガー・イベントをユーザー側で見たいという場合もあります。その場合には、このフィールドに小さな値かまたはゼロを設定してください。

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。デフォルトは、999999999 ミリ秒 (11 日より長い期間) です。効果的にデフォルトが使用されるようにすると、トリガー操作は最初のトリガー・メッセージの後、使用不可になります。しかし、アプリケーションは、キューを変更するコマンドを使用して、

トリガー属性をリセットしてキューを保守することによって、トリガー操作を再び使用可能にすることができます。

-u DeadLetter キュー

送達不能 (未配布メッセージ) キューとして使用されるローカル・キューの名前。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。

デフォルトでは、送達不能キューは指定されません。

-x MaximumUncommitted メッセージ

同期点においてコミットされないメッセージの最大数。コミットされないメッセージは、以下の合計になります。

- キューから取り出すことができるメッセージの数
- キューに書き込むことができるメッセージの数
- この作業単位内で生成されたトリガー・メッセージの数

この制限は、同期点以外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには適用されません。

1 から 999999999 の範囲の値を指定します。デフォルト値は 10000 個のコミットされていないメッセージである。

-z

エラー・メッセージを抑制します。

このフラグは、不要なエラー・メッセージを抑制するために IBM MQ 内で使用します。コマンド行を使用する際は、このフラグを使用しないでください。このフラグを使用すると、情報が失われる可能性があります。

戻りコード

戻りコード	説明
0	キュー・マネージャーが作成されました。
8	キュー・マネージャーは存在しています。
39	無効なパラメーターが指定されました。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
69	ストレージが使用不可です。
70	キュー・スペースが使用不可です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
74	IBM MQ サービスが始動していません。
100	ログの位置が無効です。
111	キュー・マネージャーが作成されました。ただし、プロダクト構成ファイル内のデフォルト・キュー・マネージャー定義の処理中に問題がありました。デフォルト・キュー・マネージャーの指定が誤りである可能性があります。
115	ログ・サイズが無効です。
119	許可は拒否されました (Windows のみ)。

例

- 次のコマンドでは、`Paint.queue.manager` というデフォルト・キュー・マネージャーが作成されます。これには、`Paint shop` という説明が与えられており、システムおよびデフォルト・オブジェクトを作成します。これは、リニア・ロギングが使用されることも指定します。

```
crtmqm -c "Paint shop" -ll -q Paint.queue.manager
```

- 次のコマンドでは、`Paint.queue.manager` というデフォルト・キュー・マネージャーが作成され、システムおよびデフォルト・オブジェクトが作成され、2つの1次ログ・ファイルと3つの2次ログ・ファイルを要求します。

```
crtmqm -c "Paint shop" -ll -lp 2 -ls 3 -q Paint.queue.manager
```

- 次のコマンドでは、`travel` というキュー・マネージャーが作成され、システムおよびデフォルト・オブジェクトが作成されます。トリガー時間間隔は5000ミリ秒(5秒)に設定され、送達不能キューとして `SYSTEM.DEAD.LETTER.QUEUE` が指定されます。

```
crtmqm -t 5000 -u SYSTEM.DEAD.LETTER.QUEUE travel
```

- 次のコマンドでは、UNIX および Linux システム上に `QM1` というキュー・マネージャーが作成され、そのログおよびキュー・マネージャー・データのフォルダーが共通の親ディレクトリーに作成されます。親ディレクトリーは、複数インスタンス・キュー・マネージャーを作成するために、高可用性ネットワーク・ストレージで共有します。このコマンドを実行する前に、ユーザーとグループ `mqm` が所有する他のパラメーター `/MQHA`、`/MQHA/logs`、`/MQHA/qmgrs` を `rwrxwrxr-x` というアクセス権で作成します。

```
crtmqm -ld /MQHA/logs -md /MQHA/qmgrs QM1
```

関連コマンド

コマンド	説明
155 ページの『strmqm』	キュー・マネージャーの始動
87 ページの『endmqm』	キュー・マネージャーの終了
34 ページの『dlmqm』	キュー・マネージャーの削除
145 ページの『setmqm』	関連するインストール済み環境の設定

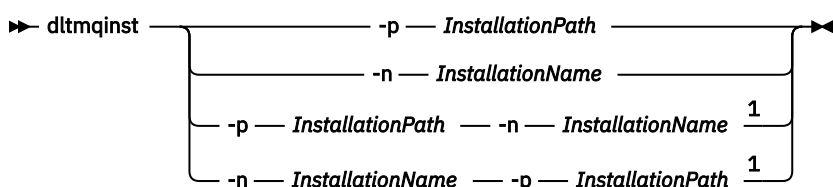
dlmqinst

UNIX および Linux システム上の `mqinst.ini` からインストール項目を削除します。

目的

ファイル `mqinst.ini` には、システム上のすべての IBM MQ インストールに関する情報が含まれています。`mqinst.ini` について詳しくは、[インストール構成ファイル](#)、`mqinst.ini` を参照してください。

構文



注:

¹ インストールの名前 (InstallationName) とインストール・パス (InstallationPath) を一緒に指定する場合、それらは同一のインストールを示す必要があります。

Parameters

-n InstallationName

インストールの名前。

-p InstallationPath

インストール・パスは、IBM MQ がインストールされている場所にあります。

戻りコード

戻りコード	説明
0	項目はエラーなしで削除されました。
5	項目は引き続きアクティブです。
36	与えられた引数が無効です。
44	項目がありません。
59	無効なインストール済み環境が指定されました。
71	予期しないエラーです。
89	ini ファイルのエラーです。
96	ini ファイルをロックできませんでした。
98	ini ファイルにアクセスするのに十分な権限がありません。
131	リソース問題です。

例

1. 次のコマンドでは、myInstallation というインストール名と /opt/myInstallation というインストール・パスを持つ項目を削除します。

```
dlmqinst -n MyInstallation -p /opt/myInstallation
```

注: **dlmqinst** コマンドは、その実行元とは別のインストール済み環境に対してのみ使用できます。IBM MQ インストール済み環境が 1 つしかない場合、このコマンドは機能しません。

注: Solaris 10 MQ クライアント・インストール済み環境では、root ユーザーのみに mqinst.ini ファイルを編集する権限があります。

dlmqm

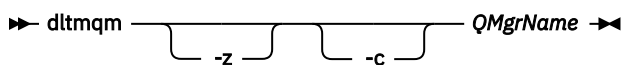
キュー・マネージャーを削除します。

目的

dlmqm コマンドは、指定されたキュー・マネージャーと、それに関連付けられたすべてのオブジェクトを削除するために使用します。キュー・マネージャーを削除するためには、その前に **endmqm** コマンドでキュー・マネージャーを終了しておく必要があります。

dlmqm コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられたインストール済み環境から使用する必要があります。 **dspmqr -o installation** コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

構文

**QMqrName**

オプション・パラメーター

-Z

HPE Non Stop V8.1

戻りコード

管理に関する参照情報 35

戻りコード 説明

71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
74	IBM MQ サービスが始動していません。
100	ログの位置が無効です。
112	キュー・マネージャーは削除されました。ただし、プロダクト構成ファイル内のデフォルト・キュー・マネージャー定義の処理中に問題がありました。デフォルト・キュー・マネージャーの指定が誤りである可能性があります。
119	許可は拒否されました (Windows のみ)。

例

1. 次のコマンドは、キュー・マネージャー `saturn.queue.manager` を削除します。

```
dltmqm saturn.queue.manager
```

2. 次のコマンドは、キュー・マネージャー `travel` を削除し、コマンドによって引き起こされるメッセージを抑制します。

```
dltmqm -z travel
```

使用上の注意

IBM MQ for Windows では、キュー・マネージャーのファイルがオープンしている間にキュー・マネージャーを削除すると、エラーになります。このエラーが発生した場合は、ファイルをクローズし、コマンドを再発行します。

クラスター・キュー・マネージャーを削除しても、クラスターからはキュー・マネージャーは除去されません。削除しようとしているキュー・マネージャーがクラスターの一部かどうかを確認するには、コマンド **DIS CLUSQMGR(*)** を発行します。次に、そのキュー・マネージャーが出力にリストされるかどうかを調べます。そのキュー・マネージャーがクラスター・キュー・マネージャーとしてリストされている場合、そのキュー・マネージャーは、削除する前にクラスターから除去する必要があります。関連するリンク先の説明を参照してください。

クラスター・キュー・マネージャーを先にクラスターから除去せずに削除した場合、クラスターは、少なくとも 30 日の間、削除されたキュー・マネージャーを引き続きクラスターのメンバーと見なします。これをクラスターから除去するには、フルリポジトリ・キュー・マネージャー上でコマンド **RESET CLUSTER** を使用します。同一の名前でキュー・マネージャーを再作成してクラスターからキュー・マネージャーを削除しようとしても、クラスター・キュー・マネージャーはクラスターから削除されません。これは、新しく作成されたキュー・マネージャーは、同じ名前を持っても、同じキュー・マネージャー ID (QMID) を持っていないためです。したがって、クラスターで別のキュー・マネージャーとして扱われます。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>crtmqm</code>	キュー・マネージャーの作成
<code>strmqm</code>	キュー・マネージャーの始動
<code>endmqm</code>	キュー・マネージャーの終了

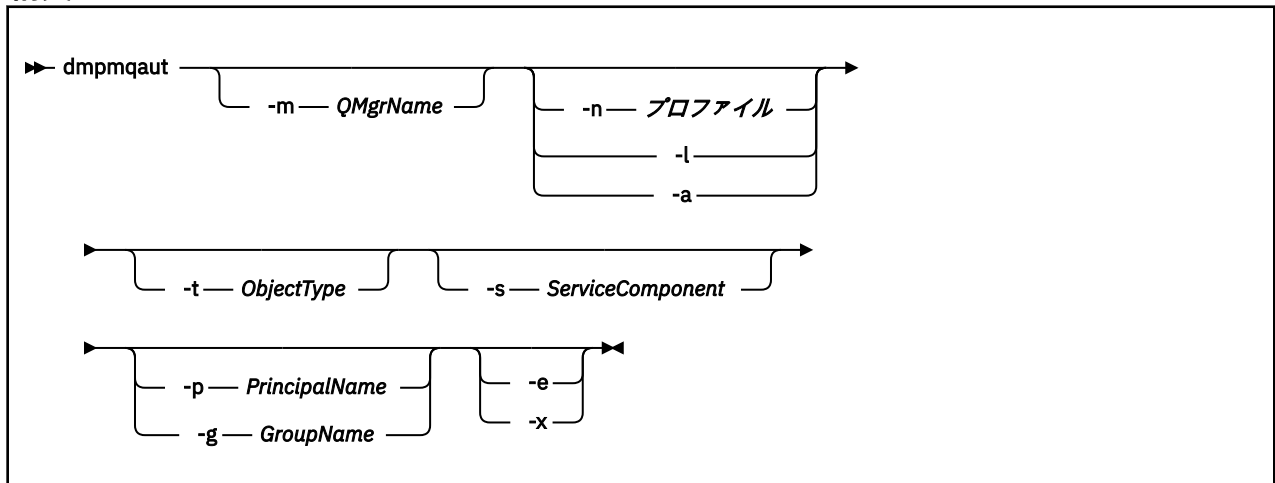
dmpmqaut

ある範囲の IBM MQ オブジェクト・タイプおよびプロファイルについて、現在の許可のリストをダンプします。

目的

dmpmqaut コマンドは、指定したオブジェクトに対する現在の許可をダンプするために使用します。

構文



オプション・パラメーター

-m QMgrName

指定されたキュー・マネージャーの権限レコードだけをダンプします。このパラメーターを省略すると、デフォルト・キュー・マネージャーの権限レコードだけがダンプされます。

-n Profile

許可をダンプするプロファイルの名前。UNIX、Linux、および Windows の場合 システム で説明されているように、ワイルドカード文字を使って名前の範囲を指定することにより、プロファイル名を汎用にすることができます。

-l

プロファイルの名前とタイプのみをダンプします。このオプションは、定義されているすべてのプロファイルの名前とタイプの簡潔な リストを生成するために使用します。

-a

権限の設定コマンドを生成します。

-t ObjectType

許可をダンプするオブジェクトのタイプ。指定可能な値は以下のとおりです。

-t フラグで指定できる値の説明をまとめた表。

値	説明
authinfo	Secure Sockets Layer (SSL) チャネル・セキュリティーで使用するための認証情報オブジェクト
channel または chl	チャネル
clntconn または clcn	クライアント接続チャネル
listener または lstr	リスナー
namelist または nl	名前リスト
process または prcs	プロセス
queue または q	オブジェクト名パラメーターに一致する、最低 1 個のキュー
qmgr	キュー・マネージャー
rqmname または rqmn	リモート・キュー・マネージャー名
service または srvc	サービス
topic または top	トピック

-s *ServiceComponent*

インストール可能な許可サービスがサポートされている場合に、許可をダンプする許可サービスの名前を指定します。このパラメーターはオプションです。これを省略すると、サービスの最初のインストール可能なコンポーネントに対して許可照会が行われます。

-p *PrincipalName*

このパラメーターは IBM MQ for Windows にのみ適用されます。UNIX システムは、グループ権限レコードのみ保持します。

指定したオブジェクトに対する許可をダンプするユーザーの名前。次の形式で指定されたドメイン・ネームを、プリンシパルの名前に任意に含めることができます。

```
userid@domain
```

プリンシパルの名前にドメイン・ネームを含める方法については、[プリンシパルおよびグループ](#)を参照してください。

-g *GroupName*

許可をダンプするユーザー・グループの名前。指定できるのは 1 つの名前のみであり、それは既存のユーザー・グループの名前である必要があります。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain  
domain\GroupName
```

-e

-n *Profile* に指定されているオブジェクトに対してエンティティーが保持する累積の権限を計算するときに使用されるすべてのプロファイルを表示します。変数 *Profile* には、ワイルドカード文字を使用できません。

以下のパラメーターも指定する必要があります。

- -m *QMgrName*
- -n *Profile*
- -t *ObjectType*

-p *PrincipalName* または -g *GroupName* のいずれかです。

-x

-n *Profile* で指定したのと同じ名前のプロファイルをすべて表示します。このオプションは QMGR オブジェクトには適用されないため、dmpmqaut -m QM -t QMGR ... -x という形式のダンプ要求は無効です。

例

以下の例では、dmpmqaut を使用して汎用プロファイルの権限レコードをダンプする方法を示します。

1. 次の例では、プリンシパル user1 に対するキュー a.b.c と一致するプロファイルのすべての権限レコードがダンプされます。

```
dmpmqaut -m qm1 -n a.b.c -t q -p user1
```

結果のダンプは、次のようになります。

```
profile:      a.b.*
object type:  queue
entity:       user1
type:         principal
authority:    get, browse, put, inq
```

注: UNIX ユーザーは -p オプションを使用できません。その代わりに、-g *groupname* を使用する必要があります。

2. 次の例では、キュー a.b.c と一致するプロファイルのすべての権限レコードがダンプされます。

```
dmpmqaut -m qmgr1 -n a.b.c -t q
```

結果のダンプは、次のようになります。

```
profile:      a.b.c
object type:  queue
entity:       Administrator
type:         principal
authority:    all
- - - - -
profile:      a.b.*
object type:  queue
entity:       user1
type:         principal
authority:    get, browse, put, inq
- - - - -
profile:      a.**
object type:  queue
entity:       group1
type:         group
authority:    get
```

3. この例では、プロファイル a.b.* のすべての権限レコードをダンプします。タイプ・キュー。

```
dmpmqaut -m qmgr1 -n a.b.* -t q
```

結果のダンプは、次のようになります。

```
profile:      a.b.*
object type:  queue
entity:       user1
type:         principal
authority:    get, browse, put, inq
```

4. 次の例では、キュー・マネージャー qmX に対する権限レコードすべてがダンプされます。

```
dmpmqaut -m qmX
```

結果のダンプは、次のようになります。

```
profile:      q1
object type:  queue
entity:       Administrator
type:         principal
authority:    all
- - - - -
profile:      q*
object type:  queue
entity:       user1
type:         principal
authority:    get, browse
- - - - -
profile:      name.*
object type:  namelist
entity:       user2
type:         principal
authority:    get
- - - - -
profile:      pr1
object type:  process
entity:       group1
type:         group
authority:    get
```

5. 次の例では、キュー・マネージャー qmX に対するプロファイル名とオブジェクト・タイプがすべてダンプされます。

```
dmpmqaut -m qmX -l
```

結果のダンプは、次のようになります。

```
profile: q1, type: queue
profile: q*, type: queue
profile: name.*, type: namelist
profile: pr1, type: process
```

注:

1. IBM MQ for Windows の場合に限り、表示されるすべてのプリンシパルに次のようなドメイン情報が付帯します。

```
profile:      a.b.*
object type:  queue
entity:       user1@domain1
type:         principal
authority:    get, browse, put, inq
```

2. オブジェクトの各クラスには、各グループまたはプリンシパルの権限レコードがあります。これらのレコードのプロファイル名は @CLASS で、該当クラスのすべてのオブジェクトに共通の crt (作成) 権限を追跡します。該当クラスのいずれかのオブジェクトの crt 権限が変更されると、このレコードが更新されます。以下に例を示します。

```
profile:      @class
object type:  queue
entity:       test
entity type:  principal
authority:    crt
```

これは、グループのメンバーがクラス queue に対する crt 権限を持っていることを示します。test

3. IBM MQ for Windows の場合に限り、「"Administrators (管理者)"」グループのメンバーにはデフォルトで全権限が付与されます。ただし、この権限は、OAM により自動的に与えられ、権限レコードによって定義されません。dmpmqaut コマンドは、権限レコードによって定義された権限のみを表示します。したがって、権限レコードが明示的に定義されていない限り、"Administrators" グループに対して dmpmqaut コマンドを実行しても、そのグループの権限レコードは表示されません。

dmpmqcfg

dmpmqcfg コマンドを使用して、IBM MQ キュー・マネージャーの構成をダンプします。

目的

dmpmqcfg コマンドを使用すると、IBM MQ キュー・マネージャーの構成をダンプできます。デフォルト・オブジェクトが編集されている場合、構成を復元するためにダンプされた構成が使用される場合は、-a オプションを使用する必要があります。

dmpmqcfg ユーティリティにより、MQSUBTYPE_ADMIN タイプのサブスクリプション (つまり、MQSC コマンド **DEFINE SUB** または PCF での同等のコマンドを使用して作成されたサブスクリプション) のみがダンプされます。dmpmqcfg からの出力は runmqsc コマンドで、これにより管理サブスクリプションを再作成できます。タイプ MQSUBTYPE_API の MQSUB MQI 呼び出しを使用してアプリケーションによって作成されるサブスクリプションは、永続的なものであってもキュー・マネージャー構成の一部ではないため、dmpmqcfg によってダンプされません。MQTT チャネルは、テレメトリー (MQXR) サービスが実行中である場合に -t all および -t mqttchl タイプについてのみ返されます。テレメトリー・サービスの開始方法については、[IBM MQ Telemetry の管理](#)を参照してください。

注: dmpmqcfg コマンドでは、IBM MQ Advanced Message Security ポリシーのバックアップは作成されません。IBM MQ Advanced Message Security ポリシーをエクスポートする場合は、必ず -export フラグを指定して dsqmqspl を実行してください。このコマンドでは、IBM MQ Advanced Message Security のポリシーがテキスト・ファイルにエクスポートされ、復元に使用することができます。詳しくは、[76 ページの『dsqmqspl』](#)を参照してください。



重要:   dmpmqcfg によって使用される照会は、デフォルトでは QSGDISP(QMGR) 定義のみを照会します。環境変数 AMQ_DMPMQCFG_QSGDISP_DEFAULT を使用して、追加の定義を照会することができます。これらの値は、以下のいずれかの値に設定できます。

LIVE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトのみを含みます。

ALL

QSGDISP(QMGR) および QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトを含みます。キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合、QSGDISP(GROUP) および QSGDISP(SHARED) も含まれます。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトのみを含みます。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトのみを含みます。ターゲット・キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである必要があります。

QMGR

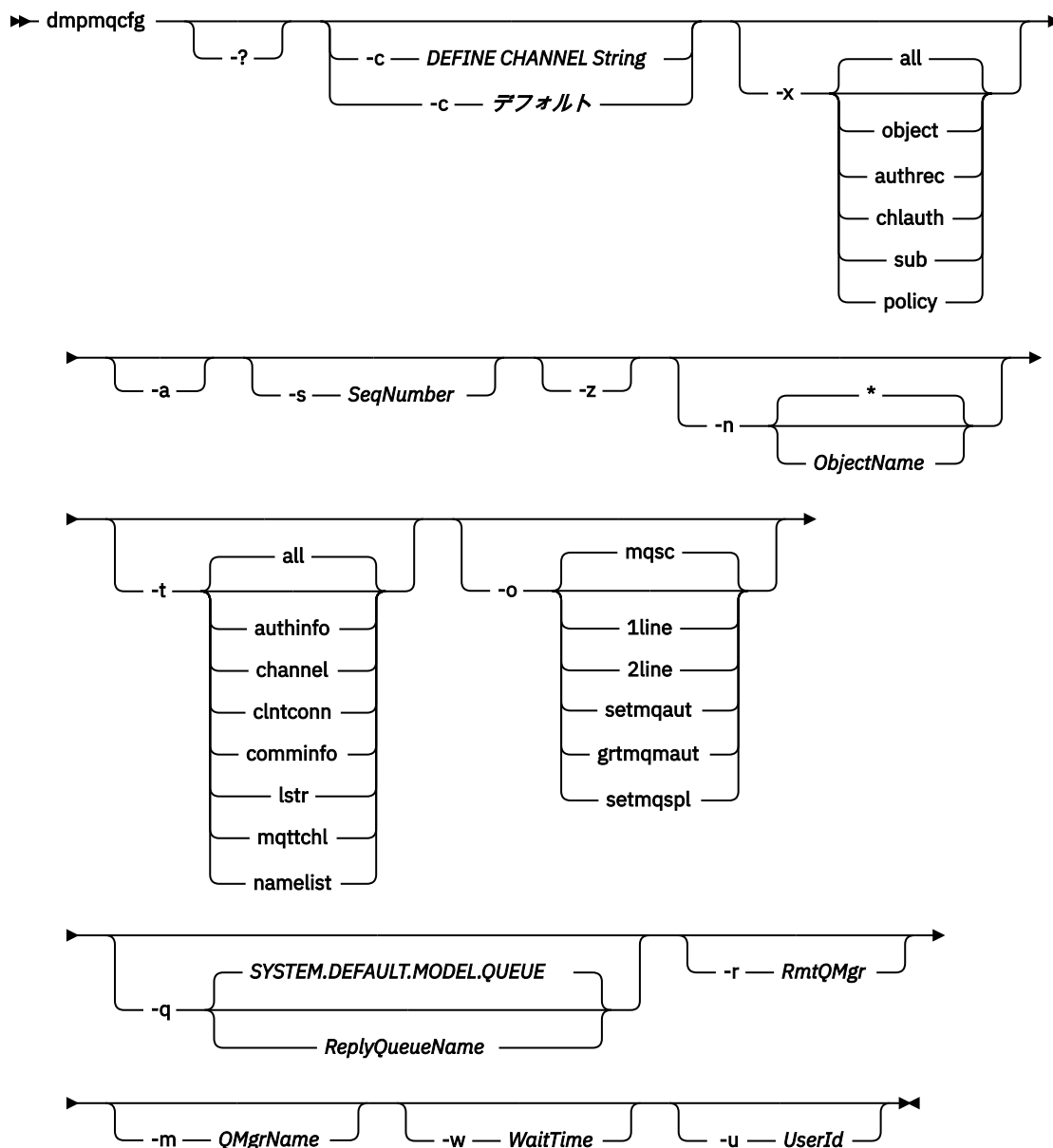
QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトのみを含みます。これは、この環境変数を使用している場合、dmpmqcfg の既存の動作と一致させるためのデフォルトの動作です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトのみを含みます。

SHARED

QSGDISP(SHARED) で定義されたオブジェクトのみを含みます。



オプション・パラメーター

-?

`dmpmqcfg` の使用メッセージを照会します。

-c

強制的にクライアント・モード接続にします。 `-c` パラメーターがオプション `default` で修飾されている場合は、デフォルトのクライアント接続プロセスが使用されます。 `-c` が省略されている場合、デフォルトでは、まずサーバー・バインディングによるキュー・マネージャーへの接続が試行され、これが失敗すると、クライアント・バインディングによる接続が試行されます。

オプションが `MQSC DEFINE CHANNEL CHLTYPE(CLNTCONN)` スtringで修飾されている場合、このStringが構文解析されます。成功すると、キュー・マネージャーへの一時的な接続を作成するためにこのStringが使用されます。

-x [all / object / authrec / chlauth / sub / policy]

定義の手順をフィルターに掛け、オブジェクト定義、権限レコード、チャネル認証レコード、永続サプスクリプションまたはポリシーを表示します。デフォルト値 `all` では、すべてのタイプが戻されます。

エクスポート・タイプとしてポリシーを指定すると、キュー・マネージャーのセキュリティー・ポリシーが、ダンプされる構成情報で報告されます。

-a

すべての属性を表示したオブジェクト定義を返します。デフォルトでは、そのオブジェクト・タイプのデフォルトとは異なる属性のみが返されます。

-s SeqNumber

送信側チャンネル・タイプ、サーバー・チャンネル・タイプ、およびクラスター送信側チャンネル・タイプのチャンネル・シーケンス番号を、指定された数値に再設定します。値 SeqNumber は、1 から 999999999 の範囲でなければなりません。

-z

サイレント・モードをアクティブにします。このモードでは、より高いコマンド・レベルのキュー・マネージャーから属性を照会した場合などに表示される警告が抑制されます。

-n [* /ObjectName]

オブジェクト名またはプロファイル名により、生成される定義をフィルターに掛けます。このオブジェクト名およびプロファイル名には、単一のアスタリスクを含めることができます。* オプションは、入力されたフィルター・ストリングの末尾にのみ置くことができます。

@class 権限レコードは、指定されたオブジェクトまたはプロファイル・フィルターに関係なく、**dmpmqcfg** 出力に含まれます。

-t

エクスポートするオブジェクトのタイプを 1 つ選択します。指定可能な値は以下のとおりです。

値	説明
all	すべてのオブジェクト・タイプ
authinfo	認証情報オブジェクト
channel または chl	チャンネル
comminfo	通信情報オブジェクト
lstr または listener	リスナー
mqttchl	MQTT チャンネル
namelist または nl	名前リスト
process または prcs	プロセス
queue または q	キュー
qmgr	キュー・マネージャー
srvc または service	サービス
topic または top	トピック

-o [mqsc / 1line / 2line / setmqaut / grtmqaut / setmqspl]

指定可能な値は以下のとおりです。

値	説明
mqsc	runmqsc への直接入力として使用できる複数行の MQSC
1line	行差分作成のために単一行にすべての属性を含める MQSC
2line	MQSC および 2 行の出力。最初の行は MQSC コマンド・ストリングであり、2 行目はコメント化されたバージョンと不変値です。

値	説明
setmqaut	UNIX および Windows のキュー・マネージャー用の setmqaut ステートメント。-x authrec が指定されている場合にのみ有効
grtmqmaut	Linux のみ: オブジェクトへのアクセス権限を付与するための iSeries 構文を生成します。
setmqspl	キュー・マネージャーのセキュリティー・ポリシーが、setmqspl コマンド行の形式で報告されます。この形式を使用して、ポリシー構成をキュー・マネージャーに復元するスクリプトを生成することができます。 この形式で作成された setmqspl コマンド行には、定義のバックアップ元となるキュー・マネージャーを指定するパラメーター (-m) が含まれます。これによって、同じキュー・マネージャーに対して定義をやり直す必要があることが示されます。 1 つのキュー・マネージャーのポリシー定義をバックアップし、そのポリシー定義を別のキュー・マネージャーに復元する必要がある場合は、キュー・マネージャー名が明示的に指定されないデフォルトの MQSC 形式を使用することを検討します。

-q

構成情報を入手するときに使用される応答先キューの名前。

-r

キュー・モードを使用している場合のリモート・キュー・マネージャーまたは伝送キューの名前。このパラメーターが省略されている場合、直接接続されているキュー・マネージャー (-m) の構成がダンプされます。

-m

接続するキュー・マネージャーの名前。省略すると、デフォルトのキュー・マネージャー名が使用されます。

V 8.0.0.8 -w WaitTime

dmpmqcfig がそのコマンドへの応答を待つ時間 (秒)。

タイムアウト後に受け取る応答は破棄されますが、MQSC コマンドは実行されます。

タイムアウトの検査は、コマンドの応答ごとに 1 回実行されます。

1 から 999999 の範囲で時間を指定してください。デフォルト値は 60 秒です。

タイムアウト障害は以下の方法で示されます。

- 呼び出し側のシェルまたは環境へのゼロ以外の戻りコード。
- stdout または stderr へのエラー・メッセージ。

-u UserId

キュー・マネージャーの構成をダンプする権限を持つユーザーの ID。

Authorizations

デフォルトの応答キューを使用している場合に一時的な動的キューを作成するためには、ユーザーに、コマンド入力キュー (SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE) にアクセスするための MQZAO_OUTPUT (+put) 権限、およびデフォルトのモデル・キュー (SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE) にアクセスするための MQZAO_DISPLAY (+dsp) 権限が必要です。

ユーザーにはまた、キュー・マネージャーに対する MQZAO_CONNECT (+connect) 権限および MQZAO_INQUIRE (+inq) 権限と、要求されるすべてのオブジェクトに対する MQZAO_DISPLAY (+dsp) 権限も必要です。

OBJTYPE (RQMNAME) に関する詳細を表示する **dmpmqcfig** コマンドを制限または制限するために、オブジェクト・タイプ (RQMNAME) に対する権限は必要ありません。

戻りコード

障害が発生すると、**dmpmqcfg** はエラー・コードを戻します。そうでない場合、このコマンドはフッターを出力します。その例を以下に示します。

```
*****
* Script ended on 2016-01-05   at 05.10.09
* Number of Inquiry commands issued: 14
* Number of Inquiry commands completed: 14
* Number of Inquiry responses processed: 273
* QueueManager count: 1
* Queue count: 55
* NameList count: 3
* Process count: 1
* Channel count: 10
* AuthInfo count: 4
* Listener count: 1
* Service count: 1
* CommInfo count: 1
* Topic count: 5
* Subscription count: 1
* ChlAuthRec count: 3
* Policy count: 1
* AuthRec count: 186
* Number of objects/records: 273
*****
```

例

これらの例が機能するためには、システムがリモート MQSC 操作用に 設定されている必要があります。詳しくは、[リモート管理のためのキュー・マネージャーを作成する](#)および[リモート管理のためにチャンネルおよび伝送キューを作成する](#)を参照してください。

```
dmpmqcfg -m MYQMGR -c "DEFINE CHANNEL(SYSTEM.ADMIN.SVRCONN) CHLTYPE(CLNTCONN)
CONNAME('myhost.mycorp.com(1414)')"
```

MQSC 形式のリモート・キュー・マネージャー *MYQMGR* からの構成情報をすべてダンプし、クライアント・チャンネル *SYSTEM.ADMIN.SVRCONN* を使用してキュー・マネージャーへのアドホック・クライアント接続を作成します。

注: 同じ名前のサーバー接続チャンネルが存在する必要があります。

```
dmpmqcfg -m LOCALQM -x MYQMGR
```

MQSC 形式のリモート・キュー・マネージャー *MYQMGR* からのすべての構成情報をダンプし、最初にローカル・キュー・マネージャー *LOCALQM* に接続して、このローカル・キュー・マネージャーを介して照会メッセージを送信します。

注: ローカル・キュー・マネージャーに、両方向で定義されたチャンネル・ペアを持つ *MYQMGR* という名前の伝送キューがあることを確認する必要があります。キュー・マネージャー間で応答を送受信できる必要があります。

関連情報

[キュー・マネージャー構成の復元](#)

dmpmqlog

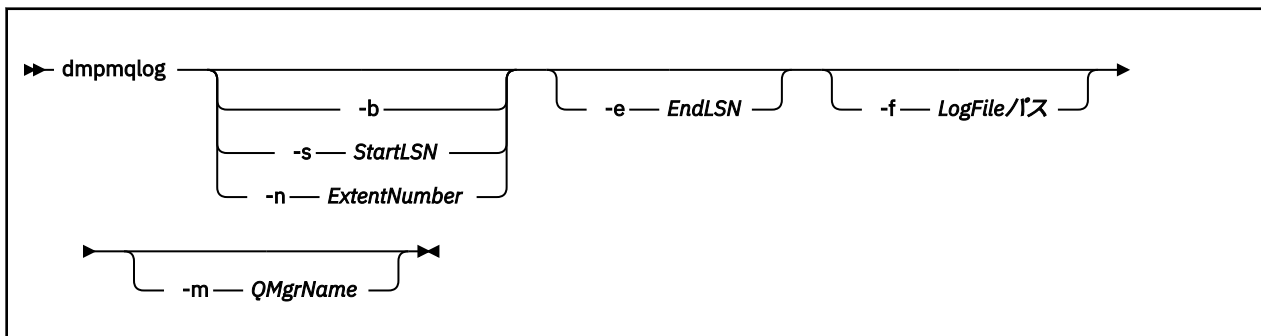
IBM MQ システム・ログの一部を表示および形式化します。

目的

dmpmqlog コマンドは、IBM MQ システム・ログの形式化されたバージョンを標準出力にダンプするために使用されます。

ダンプがとられるログは、このコマンドを出すのに使用されるオペレーティング・システムと同じタイプで作成されなければなりません。

構文



オプション・パラメーター

ダンプの開始点

次のパラメーターのいずれかを使用して、ダンプを開始するログの順序番号 (LSN) を指定します。これを省略した場合、デフォルトでは、アクティブなログにある最初のレコードの LSN からダンプが開始します。

-b

基本 LSN からダンプを開始します。基本 LSN は、アクティブなログの開始を含むログ・エクステンツの開始を識別します。

-s StartLSN

指定の LSN からダンプを開始します。LSN は、形式 nnnn:nnnn:nnnn:nnnn で指定されます。

循環ログを使用している場合、LSN 値は、ログの基本 LSN 値以上でなければなりません。

-n ExtentNumber

ダンプを指定したエクステンツ番号から開始します。エクステンツ数値は、0 から 9999999 までの範囲でなければなりません。

このパラメーターは、リニア・ログを使用しているキュー・マネージャーにのみ有効です。

-e EndLSN

ダンプを指定の LSN で終了します。LSN は、形式 nnnn:nnnn:nnnn:nnnn で指定されます。

-f LogFilePath

ログ・ファイルの (相対ではなく) 絶対ディレクトリー・パス名。指定されたディレクトリーには、ログ・ヘッダー・ファイル (amqhlctl.lfh) と、active というサブディレクトリーが含まれている必要があります。アクティブなサブディレクトリーにはログ・ファイルが入っている必要があります。デフォルトでは、IBM MQ 構成情報に指定したディレクトリーにログ・ファイルがあると想定しています。このオプションを使用すると、-m オプションを使用してディレクトリー・パスにオブジェクト・カタログ・ファイルがあるキュー・マネージャー名を指定した場合に限り、キュー ID と関連するキュー名がダンプ内に表示されます。

長いファイル名をサポートするシステムでは、このファイルの名前は qmqmobjcat と呼ばれます。キュー ID をキュー名にマップするには、ログ・ファイルの作成時に使用したファイルでなければなりません。例えば、qm1 という名前のキュー・マネージャーの場合、オブジェクト・カタログ・ファイルはディレクトリー ..\qmgrs\qm1\qmanager\にあります。マッピングを実行するには、例えば tmpq という一時キュー・マネージャーを作成し、そのオブジェクト・カタログを特定のログ・ファイルと関連するファイルと置き換え、次に dmpmqlog を開始して、絶対ディレクトリー・パス名を持つ -m tmpq および -f をログ・ファイルに指定する必要があります。

-m QMgrName

キュー・マネージャーの名前。このパラメーターを省略すると、デフォルトのキュー・マネージャーの名前が使用されます。

注: キュー・マネージャーの実行中にログをダンプしないでください。また、dmpmqlog の実行中にキュー・マネージャーを始動しないでください。

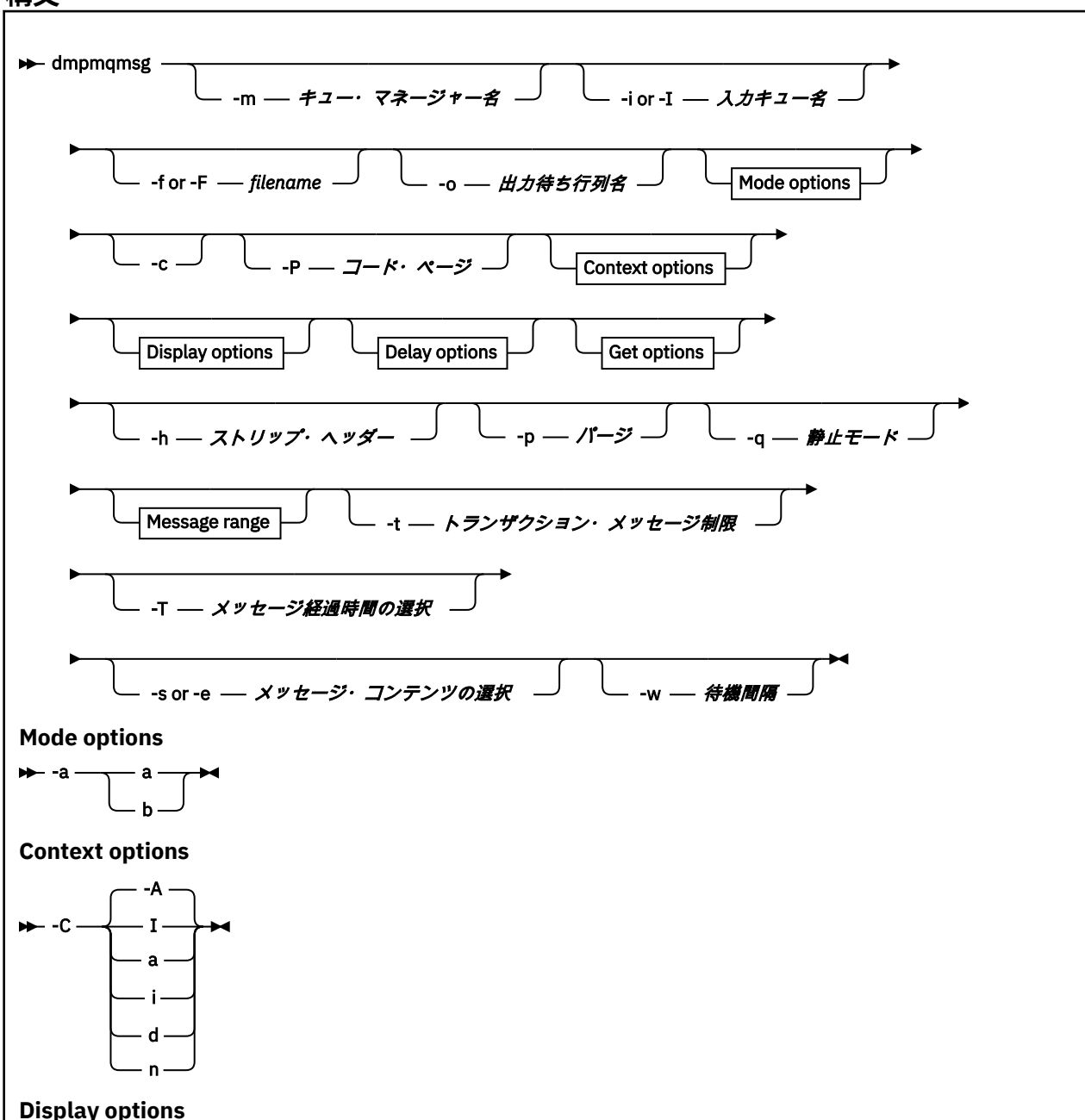
dmpmqmsg

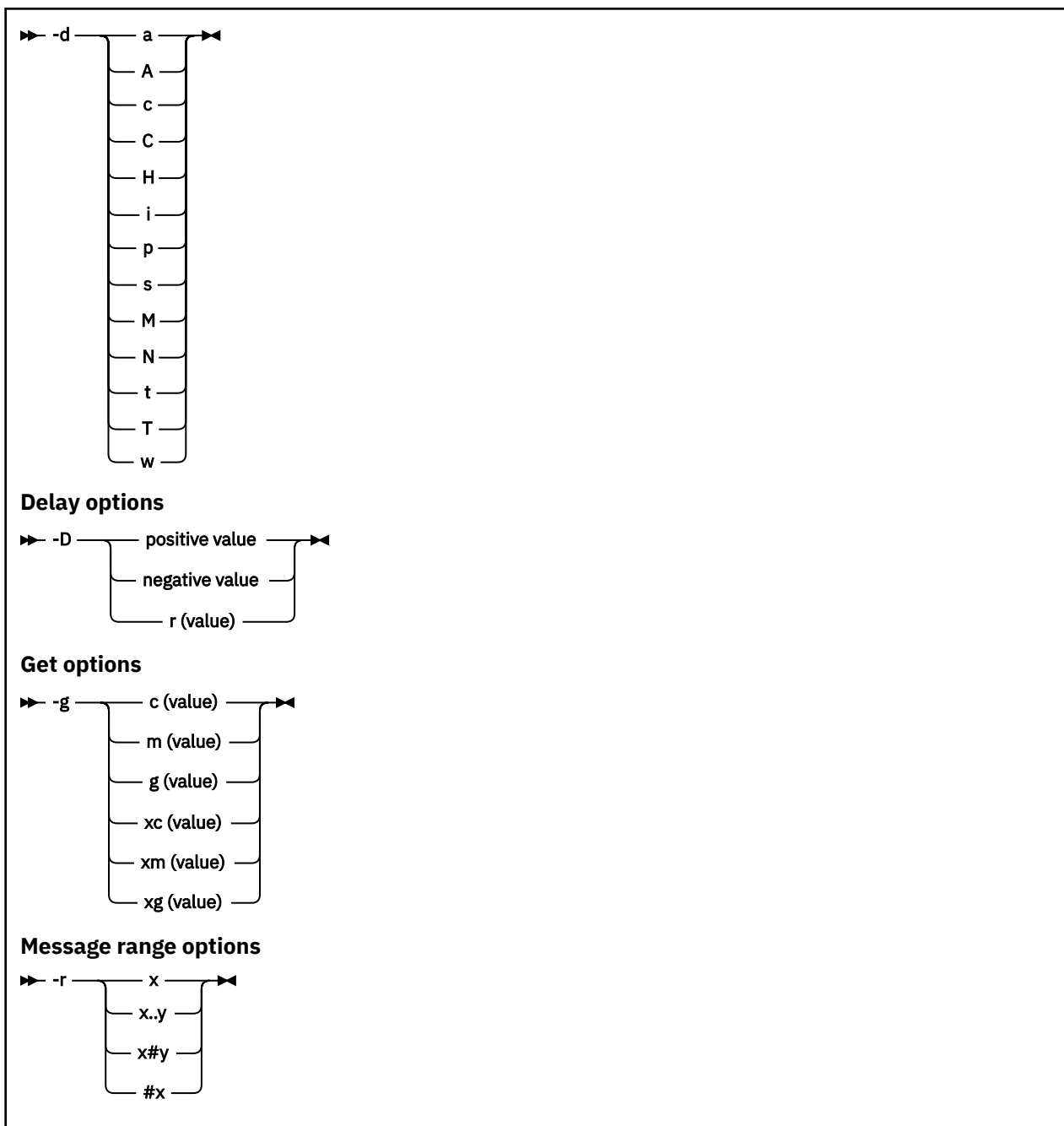
以前の IBM MQ キュー・ロード/アンロード・ユーティリティ。

目的

dmpmqmsg ユーティリティを使用して、キューの内容やメッセージをファイルにコピーしたり移動したりします。

構文





オプション・パラメーター

-m QueueManagerName

キューが存在しているキュー・マネージャーの名前。

-i or -I Input queue name

入力キューの名前。

注: `-i`を使用するとキューを参照します。一方 `-I`を使用するとキューからメッセージを取得します。

-f or -F Filename

ソース・ファイルまたはターゲット・ファイルいずれかの名前を指定します。

注: ターゲット・ファイルに `-F`を使用すると、既にファイルが存在するなら、そのファイルに強制的に出力されます。プログラムは、ファイルを上書きするかどうかを確認しません。

-o Output queue name

出力キューの名前を指定します。

-a

以下の値のいずれかをキーワードに追加することによって、ファイルを追加モードとバイナリー・モードのどちらで開くかを制御します。

a

追加モード

b

バイナリー・モード

-c

クライアント・モードで接続します。

このフラグを選択しない場合、ユーティリティーはデフォルトのローカル・モードで実行されます。

このオプションは、z/OS®では使用できません。

-P

キューから取得したメッセージを変換するかどうかを制御します。

次のコマンドを使用すると、

```
-P <CCSID> [ : X 'Encoding' ]
```

例えば、-P850:111 などです。

-C

以下の値のいずれかをキーワードに追加することによって、コンテキスト・オプションを制御します。

A

すべてのコンテキストを設定する。これはデフォルト値です。

I

一致コンテキストを設定する。

a

すべてのコンテキストを渡す。

p

一致コンテキストを渡す。

ソース・メッセージがキューで参照される場合、*pass* オプションの使用は適用されません。

d

デフォルト・コンテキスト。

n

コンテキストなし

-d

以下の値を 1 つ以上キーワードに追加することによって、表示オプションを制御します。例えば、-dsCM などです。

a

読みやすくするため、ファイルでの 16 進数出力に ASCII 列を追加する。

A

可能な限り、ASCII のデータ行を書き込む。

 EBCDIC プラットフォームでは、データは代わりに EBCDIC で書き込まれます。

c

ApplicationOriginData および *ApplicationIdentityData* を文字として出力する。

C

キューの要約に *Correlation Identifier* を表示する。

H

ファイル・ヘッダーを書き込まない。

このオプションを指定して作成されたファイルは、プログラムがファイル形式を認識しないため、プログラムによってロードされません。ただし、ファイルをロード可能にするため、必要に応じてエディターを使用し、適切なヘッダーを手動で追加することができます。

i

出力にメッセージ索引を組み込む。

p

印刷可能文字の出力形式。

この形式はコード・ページ・セーフではありません。この形式で書き込まれたファイルをロードした場合、新しいコード・ページで実行しても、同じメッセージが生成されることが保証されません。

s

入力で検出されたメッセージの簡単な要約を書き込む。

M

キューの要約に *Message Identifier* を表示する。

N

メッセージ・ペイロードのみを書き出し、メッセージ記述子の内容は書き出さない。

t

テキスト行の出力形式。

この形式はコード・ページ・セーフではありません。この形式で書き込まれたファイルをロードした場合、新しいコード・ページで実行しても、同じメッセージが生成されることが保証されません。

T

メッセージがキューに存在している時間を表示する。

w <Length>

出力のデータ幅を設定する。

-D

以下の値のいずれかをキーワードに追加することによって、メッセージを出力宛先に書き込むまでの遅延 (ミリ秒単位で表す) を追加します。例えば、

<正の値>

メッセージを書き込む前の固定遅延を追加する。例えば、**-D500** は各メッセージを 0.5 秒おきに書き込みます。

<負の値>

メッセージを書き込む前に、指定した値までのランダム遅延を追加する。例えば、**-D-10000** は、メッセージを書き込む前に最大 10 秒までのランダム遅延を追加します。

r <値>

元の書き込み速度に対する割合でメッセージを適用する。以下に例を示します。

r

元の速度でメッセージを適用する。

r50

元の速度の半分の速度でメッセージを適用する。

r200

元の速度の 2 倍の速度でメッセージを適用する。

-g

以下の値のいずれかをキーワードに追加することによって、メッセージ ID、関連 ID、またはグループ ID でフィルターに掛けます。

c<値>

文字の関連 ID で取得する。

- m<値>**
文字のメッセージ ID で取得する。
- g<値>**
文字のグループ ID で取得する。
- xc<値>**
16 進数の相関 ID で取得する。
- xm<値>**
16 進数のメッセージ ID で取得する。
- xg<値>**
16 進数のグループ ID で取得する。
- h**
ヘッダーを除去します。
メッセージが書き込まれる前に、送達不能キュー・ヘッダー (MQDLH) または伝送キュー・ヘッダー (MQXQH) をメッセージから除去します。
- o**
出力キュー名。
- p**
メッセージがターゲット宛先にコピーされると、ソース・キューからメッセージが消去されます。
- q**
抑止モードを設定します。設定すると、プログラムはアクティビティの通常の要約を出力しません。
- r**
注: `dmpmqmsg` コマンドで **-r** オプションを 0 に設定して実行すると、このコマンドにより、宛先がファイルとキューのどちらであっても、すべてのメッセージがその宛先にコピーされます。
以下の値のいずれかをキーワードに追加することによって、適用可能なメッセージ範囲を設定します。
- x**
メッセージ x のみ。例えば、**-r10**。r が 0 の場合、すべてのメッセージが宛先にコピーされます。
- x..y**
メッセージ x からメッセージ y へ。例えば、**-r 10..20** などです。**-r0..9** の場合、1 から 9 までのメッセージが宛先にコピーされます。
- x#y**
メッセージ x で始まる y メッセージを出力します。例えば、**-r 100#10** などです。**-r0#4** の場合、1 から 4 個までのメッセージが宛先にコピーされます。
- #x**
最初の x 個のメッセージを出力します。例えば、**-r #100**。**-r \#0** は、すべてのメッセージを宛先にコピーします。
- t**
トランザクション・メッセージの制限を設定します。オプションの **-n** フラグが設定されていない場合、単一トランザクションですべてのメッセージが処理されます。
- n**
メッセージ操作は n 個のメッセージのグループに分割されます。例えば、**-t 1000** を指定すると、1000 個のメッセージを単一トランザクションで処理します。
- T**
メッセージの経過時間に基づいたメッセージ選択を可能にします。
メッセージの経過時間を使用した選択について詳しくは、[52 ページの『メッセージ存続期間の使用』](#)を参照してください。
- s または -e**
メッセージの内容に基づいたメッセージ選択を可能にします。

ASCII プラットフォーム (Windows および UNIX および Linux) では、`-s` オプションを使用して、ネイティブにエンコードされたストリングを検索します。EBCDIC プラットフォーム (z/OS) では、`-e` オプションを使用して、ネイティブにエンコードされたストリングを検索します。

メッセージの内容を使用した選択について詳しくは、[52 ページの『メッセージの内容の使用』](#)を参照してください。

-w

メッセージをコンシュームするための待機間隔 (秒単位)。これを指定した場合、プログラムは到着するメッセージを、指定された期間待機してから終了します。

このユーティリティーの使用例については、[dmpmqmsg ユーティリティーの使用例](#)を参照してください。

メッセージ選択

以下の情報では、メッセージの存続期間とメッセージの内容を使用してメッセージ選択が行われる方法について説明します。

メッセージ存続期間の使用

`-T` フラグを使用すると、特定の時間間隔よりも古いメッセージだけを処理することを選択できます。

この時間間隔は、日数、時間数、および分数で指定できます。一般的な形式は `[days:]hours:]minutes` です。

このパラメーターでは、`-T [OlderThanTime][,YoungerThanTime]` として、1 つまたは 2 つの時間を指定できます。

以下に例を示します。

- 存続期間が 5 分を超えるメッセージを表示。

```
dmpmqmsg -m QM1 -i Q1 -fstdout -T5
```

- 存続期間が 5 分未満のメッセージを表示。

```
dmpmqmsg -m QM1 -i Q1 -fstdout -T,5
```

- 存続期間が 1 日を超え、2 日未満のメッセージを表示。

```
dmpmqmsg -m QM1 -i Q1 -fstdout -T1440,2880
```

- 次のコマンドは、存続期間が 1 時間を超えるメッセージを Q1 から Q2 にコピーします。

```
dmpmqmsg -m QM1 -i Q1 -o Q2 -T1:0
```

- 次のコマンドは、存続期間が 1 週間を超えるメッセージを Q1 から Q2 に移動します。

```
dmpmqmsg -m QM1 -I Q1 -o Q2 -T7:0:0
```

メッセージの内容の使用

各検索ストリングは、最大 3 個まで指定できます。複数ストリングが使用される場合は、以下のように処理されます。

肯定検索ストリング

複数の肯定ストリングが使用される場合、すべてのストリングが存在する場合に検索が一致します。

例:

```
dmpmqmsg -iMATCH -s LIVERPOOL -s CHELSEA
```


このコマンドは、両方のストリングを含むメッセージのみを返します。

否定検索ストリング

複数の否定ストリングが使用される場合、すべてのストリングが存在しない場合に検索が一致します。
例:

```
dmpmqmsg -IMATCH -S HOME -S DRAW
```

このコマンドは、どちらのストリングも含まないメッセージのみを返します。

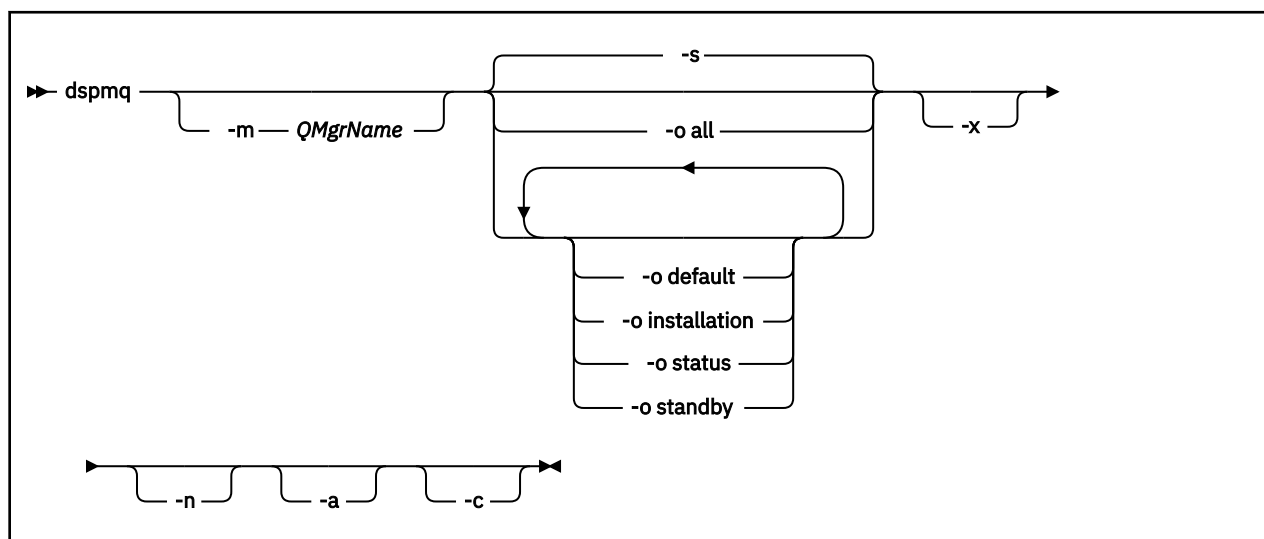
dspmq

キュー・マネージャーについての情報を表示します。

目的

システム上に存在するキュー・マネージャーの名前および詳細を表示するには、dspmq コマンドを使用します。

構文



必要なパラメーター

なし

オプション・パラメーター

-a

アクティブ・キュー・マネージャーについての情報のみを表示します。

キュー・マネージャーがアクティブであるといえるのは、キュー・マネージャーが **dspmq** コマンドの実行元のインストール環境に関連付けられていて、以下の条件が1つ以上満たされている場合です。

- キュー・マネージャーは実行中です。
- キュー・マネージャーのリスナーが実行中です。
- キュー・マネージャーにプロセスが接続しています。

-m QMgrName

詳細を表示するキュー・マネージャー。名前を指定しない場合、すべてのキュー・マネージャー名が表示されます。

-n

出力ストリングの変換を抑止します。

-s

キュー・マネージャーの運用状況が表示されます。このパラメーターは、デフォルトの状況設定です。パラメーター `-o status` は、`-s` と同等です。

-o all

キュー・マネージャーの運用状況が表示され、そのいずれかがデフォルト・キュー・マネージャーであるかどうかが表示されます。

Windows および UNIX および Linux では、キュー・マネージャーが関連付けられているインストール済み環境のインストール名 (INSTNAME)、インストール・パス (INSTPATH)、およびインストール・バージョン (INSTVER) も表示されます。

-o default

どのキュー・マネージャーがデフォルトのキュー・マネージャーであるかどうかを表示します。

-o installation

Windows、UNIX および Linux のみ。

キュー・マネージャーが関連付けられているインストール済み環境のインストール名 (INSTNAME)、インストール・パス (INSTPATH)、およびインストール・バージョン (INSTVER) が表示されます。

-o status

キュー・マネージャーの運用状況が表示されます。

-o standby

キュー・マネージャーがスタンバイ・インスタンスの開始を現在許可しているかどうかを表示します。可能な値については、[54 ページの表 8](#) を参照してください。

表 8. スタンバイの値	
値	説明
許可	キュー・マネージャーは実行されていて、スタンバイ・インスタンスを許可しています。
許可されない	キュー・マネージャーは実行されていて、スタンバイ・インスタンスを許可していません。
適用外	キュー・マネージャーは実行されていません。キュー・マネージャーを開始することができ、正常に開始した場合、このインスタンスがアクティブになります。

-x

キュー・マネージャー・インスタンスに関する情報が表示されます。可能な値については、[54 ページの表 9](#) を参照してください。

表 9. インスタンス値	
値	説明
アクティブ	インスタンスはアクティブ・インスタンスです。
スタンバイ	インスタンスはスタンバイ・インスタンスです。

-c

キュー・マネージャーの IPCC、QMGR、および PERSISTENT サブプールに現在接続されているプロセスのリストを表示します。

例えば、このリストには通常以下のものが含まれます。

- キュー・マネージャー・プロセス
- アプリケーション (シャットダウンが禁止されているものも含む)
- リスナー

キュー・マネージャーの状態

キュー・マネージャーの異なる状態のリストを次に示します。

表 10. キュー・マネージャーの状態
キュー・マネージャーの状態
始動中
実行中
スタンバイとして実行中
別の場所で実行中
静止中
即時に終了中
優先的に終了中
正常に終了
即時に終了
予期せず終了
予防的に終了
状況使用不可

戻りコード

表 11. 戻りコードの ID と説明

戻りコード	説明
0	コマンドは正常に終了しました。
5	キュー・マネージャーは実行中です。
36	与えられた引数が無効です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。

例

1. 次のコマンドは、このサーバー上のキュー・マネージャーを表示します。

```
dspmq -o all
```

2. 次のコマンドは、このサーバー上の即時終了したキュー・マネージャーに関するスタンバイ情報を表示します。

```
dspmq -o standby
```

3. 次のコマンドは、このサーバー上のキュー・マネージャーに関するスタンバイ情報およびインスタンス情報を表示します。

```
dspmqr -o standby -x
```

dspmqaout

dspmqaout は、特定の IBM MQ オブジェクトの権限を表示します。

目的

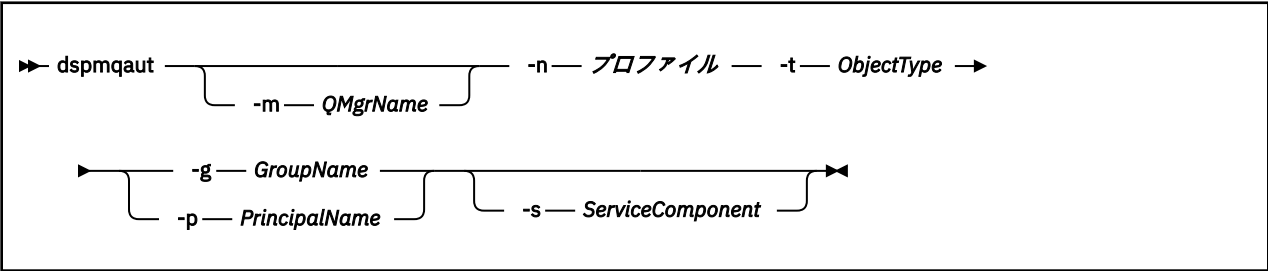
dspmqaout コマンドは、指定したオブジェクトに対する現在の許可を表示するために使用します。

ユーザー ID が複数のグループのメンバーである場合、このコマンドは、すべてのグループの許可を組み合わせる表示します。

グループまたはプリンシパルは、1 つしか指定できません。

許可サービス・コンポーネントについて詳しくは、[インストール可能サービス](#)、[サービス・コンポーネント](#)、および[許可サービス・インターフェース](#)を参照してください。

構文



必要なパラメーター

-n Profile

許可を表示するプロファイルの名前。許可は指定されたプロファイル名と名前が一致するすべての IBM MQ オブジェクトに適用されます。

キュー・マネージャーの許可を表示していなければ、このパラメーターは必須です。許可を表示する場合は、このパラメーターを指定することはできず、代わりに -m パラメーターを使用してキュー・マネージャー名を指定します。

-t ObjectType

照会が行われる対象となるオブジェクトのタイプ。指定可能な値は以下のとおりです。

表 12. 照会の対象となるオブジェクト・タイプ。	
オブジェクト・タイプ	説明
authinfo	Secure Sockets Layer (SSL) チャンネル・セキュリティで使用するための認証情報オブジェクト
channel または chl	チャンネル
clntconn または clcn	クライアント接続チャンネル
listener または lstr	リスナー

表 12. 照会の対象となるオブジェクト・タイプ。(続き)

オブジェクト・タイプ	説明
namelist または nl	名前リスト
process または prcs	プロセス
queue または q	オブジェクト名パラメーターに一致する、最低 1 個のキュー
qmgr	キュー・マネージャー
rqmname または rqmn	リモート・キュー・マネージャー名
service または srvc	サービス
topic または top	トピック

オプション・パラメーター

-m *QMgrName*

照会の対象となるキュー・マネージャーの名前。デフォルト・キュー・マネージャーの許可を表示している場合、このパラメーターは任意です。

-g *GroupName*

照会の対象となるユーザー・グループの名前。指定できるのは 1 つの名前のみであり、それは既存のユーザー・グループの名前である必要があります。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain
domain\GroupName
```

-p *PrincipalName*

指定のオブジェクトに対する許可を表示するユーザーの名前。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、プリンシパルの名前にオプションで含めることができます。

```
userid@domain
```

プリンシパルの名前にドメイン・ネームを含める方法については、[プリンシパルおよびグループ](#)を参照してください。

-s *ServiceComponent*

インストール可能な許可サービスがサポートされている場合、許可が適用される許可サービスの名前を指定します。このパラメーターはオプションです。これを省略すると、サービスの最初のインストール可能なコンポーネントに対して許可照会が行われます。

戻されるパラメーター

許可リストを戻します。その中には、許可パラメーターが何も含まれていないこともあれば、1 つまたはそれ複数の許可値が含まれていることもあります。戻される各許可値は、指定のグループまたはプリンシパルの中のユーザー ID が、その値で定義された操作を実行する権限を持っていることを意味します。

58 ページの表 13 は、種々のオブジェクト・タイプに与えることができる 権限を示したものです。

表 13. 種々のオブジェクト・タイプについての権限の指定											
Authority	キュー	プロセス	キュー・マネージャー	リモート・キュー・マネージャー名	名前リスト	トピック	権限情報	Clntcon	チャネル	リスナー	サービス
all	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
alladm	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
allmqi	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	No	No	No	No
なし	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
altusr	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No
ブラウズ (browse)	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No
chg	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
clr	Yes	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No
connect	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No
crt	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
ctrl	No	No	No	No	No	Yes	No	No	Yes	Yes	Yes
ctrlx	No	No	No	No	No	No	No	No	Yes	No	No
dlt	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
dsp	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
get	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No
pub	No	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No
put	Yes	No	No	Yes	No	Yes	No	No	No	No	No
inq	Yes	Yes	Yes	No	Yes	No	Yes	No	No	No	No
passall	Yes	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No
passid	Yes	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No
resume	No	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No
set	Yes	Yes	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No
setall	Yes	No	Yes	No	No	Yes	No	No	No	No	No
setid	Yes	No	Yes	No	No	Yes	No	No	No	No	No
sub	No	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No
システム	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No

次のリストは、各値に関連した許可の定義を示したものです。

表 14. 各値に関連付けられた許可。	
値	説明
all	オブジェクトに関係のあるすべての操作を使用する。all 権限は、alladm、allmqi、および system の権限のうち、そのオブジェクト・タイプに該当する権限を合わせたものに相当します。

表 14. 各値に関連付けられた許可。(続き)

値	説明
alladm	オブジェクトに関係のあるすべての管理操作を実行します。
allmqi	オブジェクトに関係のあるすべての MQI 呼び出しを使用します。
altusr	MQI 呼び出しで代替ユーザー ID を指定します。
ブラウズ (browse)	BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを出して、キューからメッセージを取り出す。
chg	指定したオブジェクトの属性を、該当するコマンド・セットを使用して変更します。
clr	キュー (PCF コマンド「キュー消去」のみ) またはトピックをクリアする。
ctrl	指定のチャンネル、リスナー、またはサービスを開始および停止する。さらに、指定のチャンネルを ping する。
ctrlx	指定のチャンネルをリセットまたは解決します。
connect	MQCONN 呼び出しを発行して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。
crt	指定のタイプのオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して作成します。
dlt	指定のオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して削除します。
dsp	適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を表示します。
get	MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出します。
inq	MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューについて照会します。
passall	すべてのコンテキストを受け渡し
passid	アイデンティティ・コンテキストを渡します。
pub	MQPUT 呼び出しを使用して、トピックにメッセージをパブリッシュする。
put	MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込みます。
resume	MQSUB 呼び出しを使用して、サブスクリプションを再開する。
set	MQSET 呼び出しを発行して、MQI からキューに属性を設定する。
setall	すべてのコンテキストを設定
setid	アイデンティティ・コンテキストを設定する。

表 14. 各値に関連付けられた許可。(続き)	
値	説明
sub	MQSUB 呼び出しを使用して、トピックへのサブスクリプションを作成、変更、または再開する。
システム	内部システム操作にキュー・マネージャーを使用します。

管理操作の許可は、サポートされている場合には、次のコマンド・セットに適用されます。

- 制御コマンド
- MQSC コマンド
- PCF コマンド

戻りコード

戻りコード	説明
0	正常な操作です。
26	キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして実行中です。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
133	オブジェクト名が不明です。
145	予期しないオブジェクト名です。
146	オブジェクト名が指定されていません。
147	オブジェクト・タイプが指定されていません。
148	オブジェクト・タイプが無効です。
149	エンティティ名が指定されていません。

例

- 次の例は、ユーザー・グループ `staff` に関連したキュー・マネージャー `saturn.queue.manager` に関する許可を表示するためのコマンドを示しています。

```
dspmqaout -m saturn.queue.manager -t qmgr -g staff
```

このコマンドの結果を次に示します。

```
Entity staff has the following authorizations for object:
  get
  browse
```



```
put
inq
set
connect
altusr
passid
passall
setid
```

- 次の例は、user1 がキュー a.b.c に対して持つ権限を表示します。

```
dspmqaut -m qmgr1 -n a.b.c -t q -p user1
```

このコマンドの結果を次に示します。

```
Entity user1 has the following authorizations for object:
  get
  put
```

dspmqcsv

コマンド・サーバーの状況が表示されます。

目的

dspmqcsv コマンドは、指定したキュー・マネージャーのコマンド・サーバーの状況を表示するために使用します。

状況は次のいずれかになります。

- 始動中
- 実行中
- SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE で実行中 (読み取り不可)
- 終了
- 停止

dspmqcsv コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境から使用する必要があります。dspmq -o installation コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

構文

```
➡ dspmqcsv — QMgrName —>
```

必要なパラメーター

なし

オプション・パラメーター

QMgrName

コマンド・サーバーの状況を要求する対象となるローカル・キュー・マネージャーの名前。

戻りコード

戻りコード	説明
0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

次のコマンドは、`venus.q.mgr`に関連するコマンド・サーバーの状況を表示します。

```
dspmqrsv venus.q.mgr
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>strmqcsv</code>	コマンド・サーバーを始動します。
<code>endmqcsv</code>	コマンド・サーバーを終了します。

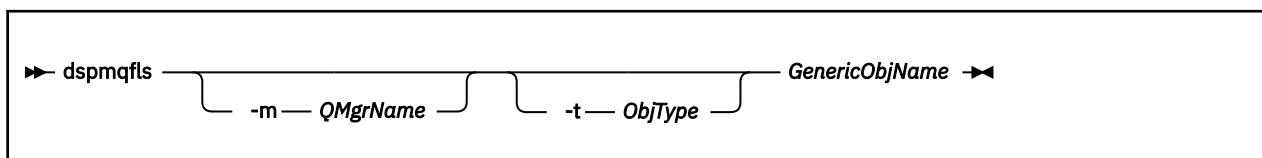
dspmqrfls

IBM MQ オブジェクトに対応するファイル名を表示します。

目的

`dspmqrfls` コマンドは、指定した基準に一致するすべての IBM MQ オブジェクトの実ファイル・システム名を表示するために使用します。このコマンドを使用すれば、特定のオブジェクトに関連したファイルを識別することができます。このコマンドは、特定のオブジェクトのバックアップをとるのに役立ちます。名前変換については、[Understanding IBM MQ のファイル名についての理解](#)を参照してください。

構文



必要なパラメーター

GenericObjName

オブジェクトの名前。名前は、フラグなしの文字列で、必須パラメーターです。名前を省略すると、エラーが戻ってきます。

このパラメーターは、文字列の最後にワイルドカード文字 `*` を指定できます。

オプション・パラメーター

-m QMgrName

ファイルを調べるキュー・マネージャーの名前。この名前を省略すると、コマンドは、デフォルトのキュー・マネージャーに対して操作を実行します。

-t ObjType

オブジェクト・タイプ。有効なオブジェクト・タイプを以下に示します。省略名を最初に示し、その後完全な名前を示しています。

表 15. 有効なオブジェクト・タイプ	
オブジェクト・タイプ	説明
* または all	すべてのオブジェクト・タイプ。このパラメーターはデフォルトです。
authinfo	Secure Sockets Layer (SSL) チャネル・セキュリティで使用するための認証情報オブジェクト
channel または chl	チャネル
clntconn または clcn	クライアント接続チャネル
catalog または ctlg	オブジェクト・カタログ
namelist または nl	名前リスト
listener または lstr	リスナー
process または prcs	プロセス
queue または q	オブジェクト名パラメーターに一致する、最低 1 個のキュー
qalias または qa	別名キュー
qlocal または ql	ローカル・キュー
qmodel または qm	モデル・キュー
qremote または qr	リモート・キュー
qmgr	キュー・マネージャー・オブジェクト
service または srvc	サービス

注:

1. dspmqfls コマンドは、キュー自身の **名前ではなく**、キューが格納されているディレクトリーの名前を表示するコマンドです。
2. IBM MQ for UNIX システムでは、シェルがアスタリスク (*) などの特殊文字の意味を解釈しないようにする必要があります。これを行う方法は、使用しているシェルによって異なります。単一引用符、二重引用符、または円記号を使用するといった方法が考えられます。

戻りコード

戻りコード 説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは完了しましたが、すべて予期したとおりではありません。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

1. 次のコマンドは、デフォルト・キュー・マネージャーに定義されている、SYSTEM.ADMIN で始まる名前を持つオブジェクトすべての詳細を表示します。

```
dspmqfls SYSTEM.ADMIN*
```

2. 次のコマンドは、キュー・マネージャー RADIUS に定義された、PROC で始まる名前を持つプロセスすべてに対するファイルの詳細を表示します。

```
dspmqfls -m RADIUS -t prcs PROC*
```

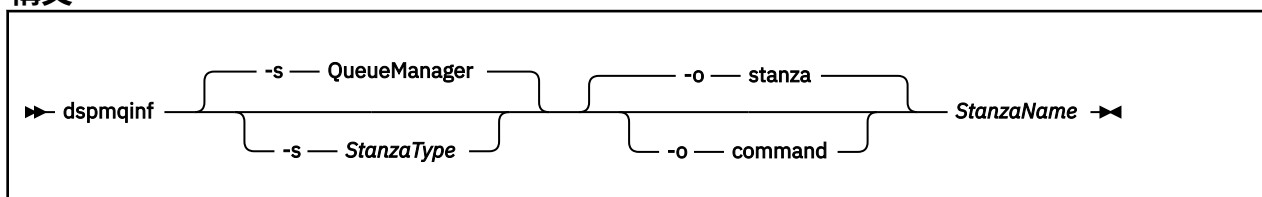
dspmqinf

IBM MQ 構成情報を表示します (Windows および UNIX プラットフォーム のみ)。

目的

dspmqinf コマンドは、IBM MQ 構成情報を表示する場合に使用します。

構文



必要なパラメーター

StanzaName

スタンザの名前。すなわち、同じタイプの複数のスタンザを区別するキー属性の値。

オプション・パラメーター

-s StanzaType

表示するスタンザのタイプ。省略すると、QueueManager スタンザが表示されます。

StanzaType でサポートされる値は QueueManager のみです。

-o stanza

構成情報を、.ini ファイルの表示と同様の スタンザ形式で表示します。この形式はデフォルトの出力形式です。

読みやすい書式でスタンザ情報を表示する場合に、この書式を使用します。

-o command

構成情報を **addmqinf** コマンドとして表示します。

キュー・マネージャーと関連付けられたインストール情報については、このパラメーターを使用しても表示されません。**addmqinf** コマンドには、インストール情報は必要ありません。

コマンド・シェルに貼り付ける場合に、この書式を使用します。

戻りコード

戻りコード	説明
0	正常な操作です。
39	コマンド行パラメーターが正しくありません。
44	スタンザがありません。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。

例

```
dspmqlinf QM.NAME
```

このコマンドは、デフォルトで QM.NAME という QueueManager スタンザを検索し、その情報をスタンザの書式で表示します。

```
QueueManager:
  Name=QM.NAME
  Prefix=/var/mqm
  Directory=QM!NAME
  DataPath=/MQHA/qmgrs/QM!NAME
  InstallationName=Installation1
```

次のコマンドは同じ結果になります。

```
dspmqlinf -s QueueManager -o stanza QM.NAME
```

次の例は、出力を **addmqinf** 書式で表示します。

```
dspmqlinf -o command QM.NAME
```

出力は 1 行になります。

```
addmqinf -s QueueManager -v Name=QM.NAME -v Prefix=/var/mqm -v Directory=QM!NAME
-v DataPath=/MQHA/qmgrs/QM!NAME
```

使用上の注意

dspmqlinf を addmqinf と共に使用して、別のサーバー上に複数インスタンス・キュー・マネージャーのインスタンスを作成します。

このコマンドを使用するには、IBM MQ 管理者および mqm グループのメンバーである必要があります。

関連コマンド

コマンド	説明
10 ページの『addmqinf』	キュー・マネージャー構成情報の追加
103 ページの『rmvmqlinf』	キュー・マネージャー構成情報の除去

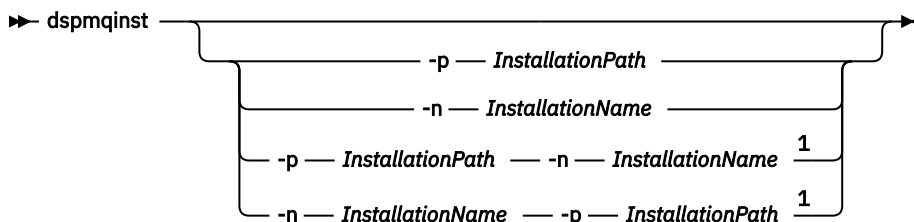
dspmqinst

UNIX、Linux、および Windows の場合 上の mqinst.ini からインストール項目を表示します。

目的

ファイル mqinst.ini には、システム上のすべての IBM MQ インストールに関する情報が含まれています。mqinst.ini について詳しくは、[インストール構成ファイル、mqinst.ini](#) を参照してください。

構文



注:

¹ インストールの名前 (InstallationName) とインストール・パス (InstallationPath) を一緒に指定する場合、それらは同一のインストールを示す必要があります。

必要なパラメーター

なし

オプション・パラメーター

-n InstallationName

インストールの名前。

-p InstallationPath

インストール・パス。

?

使用法情報を表示します。

戻りコード

戻りコード	説明

0	項目がエラーなしで表示されました。
36	与えられた引数が無効です。
44	項目がありません。
59	無効なインストール済み環境が指定されました。
71	予期しないエラーです。
89	.ini ファイルのエラーです。
96	.ini ファイルをロックできませんでした。
131	リソース問題です。

例

1. システム上のすべての IBM MQ インストールの詳細を表示します。

```
dspmqinst
```

2. *Installation3* という名前のインストールの項目を照会します。

```
dspmqinst -n Installation3
```

3. */opt/mqm* というインストール・パスを持つ項目を照会します。

```
dspmqinst -p /opt/mqm
```

4. *Installation3* という名前のインストールの項目を照会します。 予期されるインストール・パスは */opt/mqm* です。

```
dspmqinst -n Installation3 -p /opt/mqm
```

dspmqrte

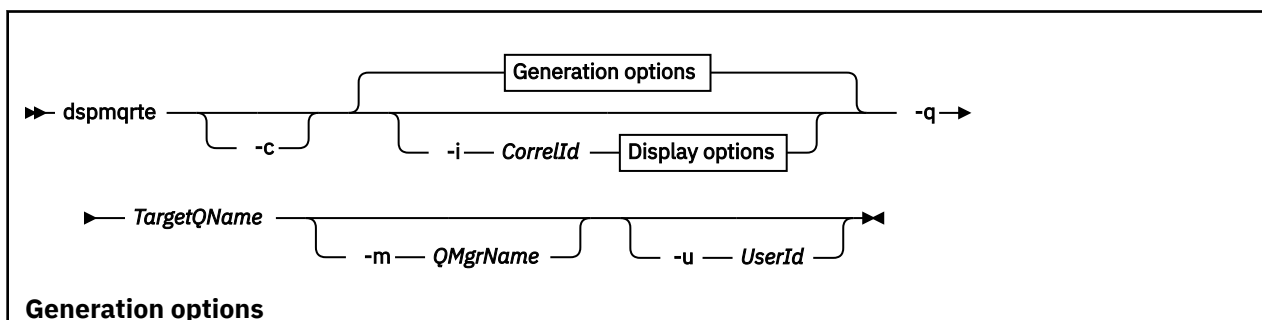
キュー・マネージャー・ネットワークでのメッセージの経路を決定します。

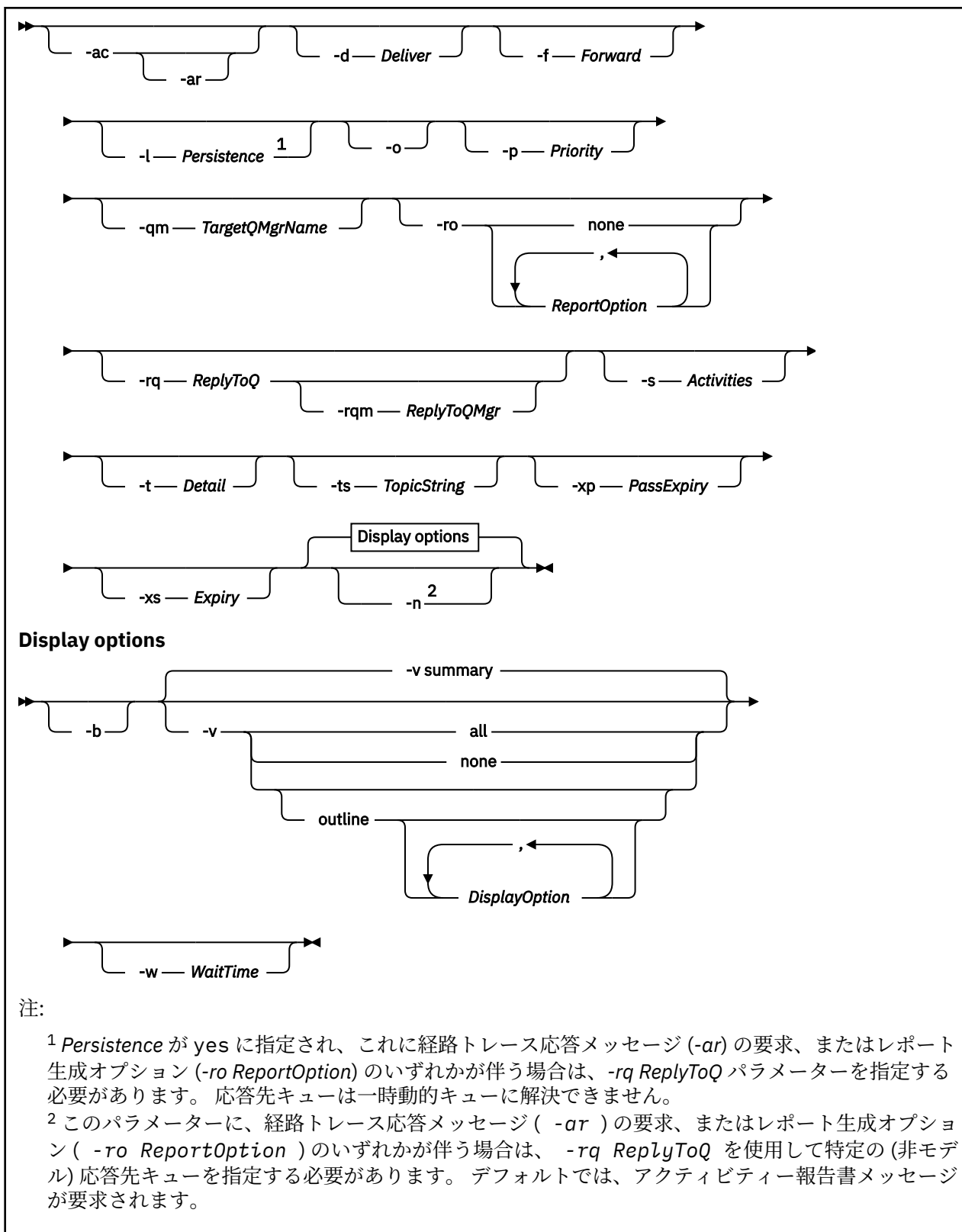
目的

IBM MQ 経路表示アプリケーション (dspmqrte) は、z/OS 以外のすべてのプラットフォームで実行できます。IBM MQ 経路表示アプリケーションは、dspmqrte コマンドを発行するときに *-c* パラメーターを指定することにより、IBM MQ for z/OS キュー・マネージャーに対するクライアントとして実行できます。

IBM MQ 経路表示アプリケーションは、経路トレース・メッセージを生成してキュー・マネージャー・ネットワークに送信します。経路トレース・メッセージがキュー・マネージャー・ネットワーク内を移動するうちに、アクティビティー情報が記録されます。経路トレース・メッセージがそのターゲット・キューに到達すると、アクティビティー情報は IBM MQ 経路表示アプリケーションによって収集され、表示されます。IBM MQ 経路表示アプリケーションの使用の詳細と例については、[IBM MQ 経路表示アプリケーション](#)を参照してください。

構文





必要なパラメーター

-q TargetQName

経路トレース・メッセージをキュー・マネージャー・ネットワークに送信するために IBM MQ 経路表示アプリケーションが使用されている場合は、`TargetQName` でターゲット・キューの名前を指定します。

IBM MQ 経路表示アプリケーションを使用して、前に収集済みのアクティビティ情報を表示する場合は、アクティビティ情報の格納先キューの名前を *TargetQName* に指定します。

オプション・パラメーター

-c

IBM MQ 経路表示アプリケーションがクライアント・アプリケーションとして接続することを指定します。クライアント・マシンのセットアップ方法について詳しくは、[IBM MQ クライアントのインストール](#)を参照してください。

このパラメーターは、クライアント・コンポーネントがインストールされている場合のみ使用できます。

-i *CorrelId*

このパラメーターを使用するのは、IBM MQ 経路表示アプリケーションを使用して、以前に累積したアクティビティ情報のみを表示する場合です。-q *TargetQName* によって指定されるキューには、多くのアクティビティ報告書と経路トレース応答メッセージが存在する可能性があります。*CorrelId* は、経路トレース・メッセージに関連したアクティビティ報告書または経路トレース応答メッセージを識別するために使用します。元の経路トレース・メッセージのメッセージ ID を *CorrelId* に指定します。

CorrelId の形式は、48 文字の 16 進数ストリングです。

-m *QMgrName*

IBM MQ 経路表示アプリケーションの接続先となるキュー・マネージャーの名前。名前は 48 文字以内で指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

Generation options

IBM MQ 経路表示アプリケーションを使用して経路トレース・メッセージをキュー・マネージャー・ネットワークに送信する場合は、次のパラメーターを使用します。

-ac

アクティビティ情報が経路トレース・メッセージ内に累積されるように指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、アクティビティ情報は経路トレース・メッセージ内に累積されません。

-ar

次の事情において、累積されたすべてのアクティビティ情報を含んだ経路トレース応答メッセージを生成するよう要求します。

- 経路トレース・メッセージが IBM WebSphere MQ 7.0 キュー・マネージャーによって廃棄された。
- 経路トレース・メッセージが IBM WebSphere MQ 7.0 キュー・マネージャーによってローカル・キュー (ターゲット・キューまたは送達不能キュー) に入れられた。
- 経路トレース・メッセージで行われたアクティビティの数が、-s *Activities* に指定されている値を超えた。

経路トレース応答メッセージについて詳しくは、[経路トレース応答メッセージ参照](#)を参照してください。

このパラメーターを指定しない場合は、経路トレース応答メッセージは要求されません。

-d *Deliver*

経路トレース・メッセージを到着時にターゲット・キューに配信するかどうかを指定します。*Deliver* の可能な値は、次のとおりです。

表 16. <i>Delivery</i> パラメーターの値。	
値	説明
yes	キュー・マネージャーが経路トレース・メッセージングをサポートしていない場合でも、経路トレース・メッセージは、到着するとターゲット・キューに書き込まれます。
no	経路トレース・メッセージは、到着時にターゲット・キューに書き込まれません。

このパラメーターを指定しない場合、経路トレース・メッセージはターゲット・キューに入れられません。

-f Forward

経路トレース・メッセージを転送できる先のキュー・マネージャーのタイプを指定します。キュー・マネージャーは、メッセージをリモート・キュー・マネージャーに転送するかどうかを決定する場合にアルゴリズムを使用します。このアルゴリズムについて詳しくは、[クラスター・ワークロード管理アルゴリズム](#)を参照してください。Forward の可能な値は、次のとおりです。

表 17. <i>Forward</i> パラメーターの値。	
値	説明
all	経路トレース・メッセージは任意のキュー・マネージャーに転送されます。 警告: バージョン 6.0 より前の IBM MQ キュー・マネージャーに転送された場合、経路トレース・メッセージは認識されず、 <i>-d Deliver</i> パラメーターの値にかかわらず、ローカル・キューに配信できます。
supported	経路トレース・メッセージは、TraceRoute PCF グループからの <i>Deliver</i> パラメーターを認識するキュー・マネージャーにのみ転送されます。

このパラメーターを指定しない場合は、経路トレース・メッセージが、*Deliver* パラメーターを認識するキュー・マネージャーにのみ転送されます。

-l Persistence

生成された経路トレース・メッセージの持続性を指定します。Persistence の可能な値は、次のとおりです。

表 18. <i>Persistence</i> パラメーターの値。	
値	説明
yes	生成される経路トレース・メッセージは持続します (MQPER_PERSISTENT)。
no	生成する経路トレース・メッセージは持続しません (MQPER_NOT_PERSISTENT)。
q	生成される経路トレース・メッセージは、 <i>-q TargetQName</i> によって指定されるキューからの持続値を継承します (MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF)。

返された経路トレース応答メッセージまたはレポート・メッセージは、元の経路トレース・メッセージと同じ持続値を共有します。

Persistence を **yes** と指定する場合は、*-rq ReplyToQ* パラメーターを指定する必要があります。応答先キューは一時動的キューに解決できません。

このパラメーターを指定しない場合は、生成された経路トレース・メッセージが持続しません。

-o

ターゲット・キューが特定の宛先にバインドされないように指定します。通常このパラメーターは、経路トレース・メッセージをクラスター全体に書き込むときに使用されます。ターゲット・キューは、MQOO_BIND_NOT_FIXED オプションによって開きます。

このパラメーターを指定しない場合は、ターゲット・キューが特定の宛先にバインドされます。

-p Priority

経路トレース・メッセージの優先順位を指定します。*Priority* の値は、0 以上かまたは MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF です。MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF は、優先順位の値を *-q TargetQName* によって指定されるキューから取得するよう指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、優先順位の値が *-q TargetQName* によって指定されるキューから取得されます。

-qm TargetQMgrName

ターゲット・キュー名を限定します。その場合は、通常のキュー・マネージャーの名前の解決が適用されます。ターゲット・キューは *-q TargetQName* で指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、IBM MQ 経路表示アプリケーションの接続先となるキュー・マネージャーが応答先キュー・マネージャーとして使用されます。

-ro none | ReportOption

表 19. ReportOption パラメーターの値。	
値	説明
none	レポート・オプションを設定しないように指定します。

表 19. *ReportOption* パラメーターの値。(続き)

値	説明
ReportOption	経路トレース・メッセージのレポート・オプションを指定します。コンマを分離文字として使用すると、複数のレポート・オプションを指定できます。<i>ReportOption</i> の可能な値は、次のとおりです。 アクティビティー レポート・オプション MQRO_ACTIVITY を設定します。 coa レポート・オプション MQRO_COA_WITH_FULL_DATA を設定します。 cod レポート・オプション MQRO_COD_WITH_FULL_DATA を設定します。 exception レポート・オプション MQRO_EXCEPTION_WITH_FULL_DATA を設定します。 expiration レポート・オプション MQRO_EXPIRATION_WITH_FULL_DATA を設定します。 discard レポート・オプション MQRO_DISCARD_MSG を設定します。

-ro *ReportOption* または -ro none が指定されていない場合は、MQRO_ACTIVITY および MQRO_DISCARD_MSG レポート・オプションが指定されます。

-rq ReplyToQ

経路トレース・メッセージへのすべての応答の送信先となる応答先キューの名前を指定します。経路トレース・メッセージが持続的であるか、または -n パラメーターを指定した場合は、一時動的キュー以外の応答先キューを指定する必要があります。

このパラメーターを指定しない場合は、システムのデフォルト・モデル・キュー SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE が応答先キューとして使用されます。このモデル・キューを使用すると、IBM MQ 経路表示アプリケーションで使用する一時動的キューが作成されます。

-rqm ReplyToQMgr

応答先キューが存在するキュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、IBM MQ 経路表示アプリケーションの接続先となるキュー・マネージャーが応答先キュー・マネージャーとして使用されます。

-s Activities

経路トレース・メッセージが廃棄される前に、このメッセージの代わりに実行できる記録済みのアクティビティーの最大数を指定します。このパラメーターは、経路トレース・メッセージが無限ループに入ってしまった場合、メッセージが無制限に転送されることを防止できます。*Activities* の値は、1 以上かまたは MQROUTE_UNLIMITED_ACTIVITIES です。MQROUTE_UNLIMITED_ACTIVITIES は、経路トレース・メッセージの代わりにアクティビティーを無制限に実行できるように指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、経路トレース・メッセージの代わりにアクティビティーを無制限に実行できます。

-t Detail

記録されるアクティビティーを指定します。 *Detail* の可能な値は、次のとおりです。

表 20. <i>Detail</i> パラメーターの値。	
値	説明
low	ユーザー定義アプリケーションによって実行されるアクティビティーのみが記録されます。
medium	low で指定されているアクティビティーが記録されます。さらに、MCA によって実行されたアクティビティーも記録されます。
high	low および medium で指定されているアクティビティーが記録されます。この詳細レベルでは、詳細なアクティビティー情報が MCA によって公開されることはありません。このオプションが使用可能なのは、詳細なアクティビティー情報を公開するユーザー定義アプリケーションに限定されます。例えば、ユーザー定義アプリケーションが、特定のメッセージ特性を考慮することによってメッセージの経路を決定する場合は、この詳細レベルで経路指定ロジックを組み込むことができます。

このパラメーターを指定しない場合は、中間レベルのアクティビティーが記録されます。

-ts TopicString

IBM MQ 経路表示アプリケーションが経路トレース・メッセージをパブリッシュする宛先となるトピック・ストリングを指定して、このアプリケーションをトピック・モードに設定します。このモードでは、そのアプリケーションは、パブリッシュ要求の結果として得られるすべてのメッセージをトレースします。

-xp PassExpiry

レポート・オプション MQRO_DISCARD_MSG および経路トレース・メッセージからの残りの有効期限時間を経路トレース応答メッセージに渡すかどうかを指定します。 *PassExpiry* の可能な値は、次のとおりです。

表 21. <i>PassExpiry</i> パラメーターの値。	
値	説明
yes	レポート・オプション MQRO_PASS_DISCARD_AND_EXPIRY が経路トレース・メッセージのメッセージ記述子で指定されます。 経路トレース応答メッセージまたはアクティビティー報告書は、経路トレース・メッセージ、MQRO_DISCARD_MSG レポート・オプション (指定した場合)、および残りの有効期限時間が渡される場合に生成されます。 このパラメーターがデフォルト値です。

表 21. PassExpiry パラメーターの値。(続き)	
値	説明
no	レポート・オプション MQRO_PASS_DISCARD_AND_EXPIRY は指定されません。 経路トレース応答メッセージは、経路トレース・メッセージ、廃棄オプション、および経路トレース・メッセージからの残りの有効期限時間が渡されない場合に生成されます。

このパラメーターを指定しない場合は、MQRO_PASS_DISCARD_AND_EXPIRY レポート・オプションが経路トレース・メッセージで指定されません。

-xs Expiry

トレース・メッセージの有効期限を秒単位で指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、有効期限時間が 60 秒に指定されます。

-n

経路トレース・メッセージに返されるアクティビティ情報を表示しないように指定します。

このパラメーターに、経路トレース応答メッセージ (**-ar**) の要求、またはレポート生成オプション (**-ro ReportOption**) のいずれかが伴う場合は、**-rq ReplyToQ** を使用して特定の (非モデル) 応答先キューを指定する必要があります。デフォルトでは、アクティビティ報告書メッセージが要求されます。

経路トレース・メッセージが指定のターゲット・キューに書き込まれると、経路トレース・メッセージのメッセージ ID を含む 48 文字の 16 進数ストリングが返されます。このメッセージ ID は、IBM MQ 経路表示アプリケーションが後で経路トレース・メッセージのアクティビティ情報を表示するために使用できます。これは、**-i CorrelId** パラメーターを使用して行うことができます。

このパラメーターを指定しない場合は、経路トレース・メッセージとして返されるアクティビティ情報が、**-v** パラメーターによって指定される形式で表示されます。

Display options

IBM MQ 経路表示アプリケーションを使用して、収集されたアクティビティ情報を表示する場合は、次のパラメーターを使用します。

-b

IBM MQ 経路表示アプリケーションが、メッセージに関連したアクティビティ報告書または経路トレース応答メッセージのみを表示するように指定します。このパラメーターを指定すると、後でもう一度アクティビティ情報を表示できます。

このパラメーターを指定しない場合は、IBM MQ 経路表示アプリケーションが、メッセージに関連するアクティビティ報告書または経路トレース応答メッセージを取得し、削除します。

-v summary | all | none | outline DisplayOption

表 22. DisplayOption パラメーターの値。	
値	説明
summary	経路指定された経路トレース・メッセージが表示されるキュー。
all	使用可能なすべての情報が表示されます。
none	情報は表示されません。

表 22. *DisplayOption* パラメーターの値。(続き)

値	説明
outline <i>DisplayOption</i>	経路トレース・メッセージの表示オプションを指定します。コンマを分離文字として使用すると、複数の表示オプションを指定できます。 値が提供されない場合には、以下の情報が表示されます。 • アプリケーション名。 • 各オペレーションのタイプ。 • 操作固有のパラメーター (存在する場合)。 <i>DisplayOption</i> の可能な値は、次のとおりです。 アクティビティー <i>Activity</i> PCF グループのすべての非 PCF グループ・パラメーターが表示されます。 識別子 パラメーター識別子 <i>MQBACF_MSG_ID</i> または <i>MQBACF_CORREL_ID</i> による値が表示されます。これにより、<i>msgdelta</i> を指定変更します。 メッセージ <i>Message</i> PCF グループのすべての非 PCF グループ・パラメーターが表示されます。この値を指定する場合は、<i>msgdelta</i> を指定できません。 msgdelta 最後のオペレーション以後に変更されている <i>Message</i> PCF グループのすべての非 PCF グループ・パラメーターが表示されます。この値を指定する場合は、<i>message</i> を指定できません。 operation <i>Operation</i> PCF グループのすべての非 PCF グループ・パラメーターが表示されます。 traceroute <i>TraceRoute</i> PCF グループのすべての非 PCF グループ・パラメーターが表示されます。

このパラメーターを指定しない場合は、メッセージ経路の要約が表示されます。

-w *WaitTime*

IBM MQ 経路表示アプリケーションが、指定された応答先キューに戻るまでに、アクティビティー報告書または経路トレース応答メッセージを待つときの時間を秒単位で指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、待ち時間が、経路トレース・メッセージの有効期限時間に 60 秒を加えて指定されます。

-u *UserId*

メッセージがキュー・マネージャー・ネットワークを通過した経路を特定する権限を持つユーザーの ID。

戻りコード

戻りコード 説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	与えられた引数が無効です。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

1. 次のコマンドにより、**TARGET.Q** として指定されるターゲット・キューのキュー・マネージャー・ネットワークに経路トレース・メッセージを書き込みます。経路上のキュー・マネージャーでアクティビティー記録が有効になっていれば、アクティビティー報告書が生成されます。アクティビティー・レポートは、キュー・マネージャー属性 **ACTIVREC** に応じて、応答先キュー **ACT.REPORT.REPLY.Q** に配信されるか、システム・キューに配信されます。経路トレース・メッセージは、ターゲット・キューに到着したときに廃棄されます。

```
dspmqrte -q TARGET.Q -rq ACT.REPORT.REPLY.Q
```

1 つ以上のアクティビティー報告書が応答先キュー **ACT.REPORT.REPLY.Q** に配信されると、IBM MQ 経路表示アプリケーションは、アクティビティー情報を要求して表示します。

2. 次のコマンドにより、**TARGET.Q** として指定されるターゲット・キューのキュー・マネージャー・ネットワークに経路トレース・メッセージを書き込みます。アクティビティー情報は経路トレース・メッセージ内に累積されますが、アクティビティー報告書は生成されません。ターゲット・キューに到着すると、経路トレース・メッセージは廃棄されます。ターゲット・キュー・マネージャー属性 **ROUTEREC** の値に応じて、経路トレース応答メッセージが生成され、応答先キュー **TRR.REPLY.TO.Q** またはシステム・キューのいずれかに配信される可能性があります。

```
dspmqrte -ac -ar -ro discard -rq TRR.REPLY.TO.Q -q TARGET.Q
```

経路トレース応答メッセージが生成され、応答先キュー **TRR.REPLY.TO.Q** に配信されると、IBM MQ 経路表示アプリケーションは、経路トレース・メッセージに累積されていたアクティビティー情報を要求して表示します。

IBM MQ 経路表示アプリケーションのその他の使用例とその出力については、[IBM MQ 経路表示アプリケーションの例](#)を参照してください。

dspmqspl

dspmqspl コマンドを使用すると、すべてのポリシーのリスト、および指定したポリシーの詳細を表示できます。

構文

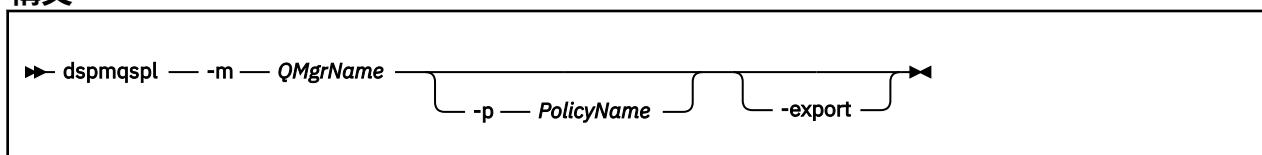


表 23. *dspmqspl* コマンド・フラグ

コマンド・フラグ	説明
-m	キュー・マネージャー名 (必須)。
-p	ポリシー名。

表 23. *dspmqspl* コマンド・フラグ (続き)

コマンド・フラグ	説明
-export	このフラグを追加すると、別のキュー・マネージャーに簡単に適用できる出力が生成されます。

関連資料

[1303 ページの『SET POLICY』](#)

MQSC コマンド SET POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを設定します。

[1130 ページの『DISPLAY POLICY』](#)

MQSC コマンド DISPLAY POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを表示します。

[149 ページの『setmqspl』](#)

setmqspl コマンドを使用して、新規セキュリティー・ポリシーの定義、既存のセキュリティー・ポリシーの置換、または既存のポリシーの削除を行います。

dspmqtrc

IBM MQ トレースをフォーマット設定して表示します。

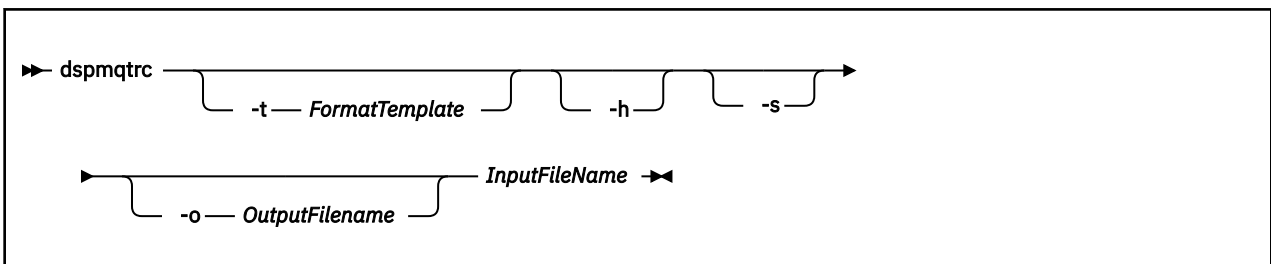
目的

dspmqtrc コマンドは、UNIX および HP Integrity NonStop Server システムでのみサポートされます。

dspmqtrc コマンドは、IBM MQ の定様式トレース出力を表示する場合に使用します。

ランタイム SSL トレース・ファイルの名前は AMQ.SSL.TRC および AMQ.SSL.TRC.1 です。SSL トレース・ファイルはフォーマット設定できません。SSL トレース・ファイルはバイナリー・ファイルであり、FTP を経由して IBM サポートに転送する場合は、バイナリー転送モードで送る必要があります。

構文



必要なパラメーター

InputFileName

不定形式トレースが格納されているファイルの名前。例:

```
/var/mqm/trace/AMQ12345.01.TRC
```

入力ファイルを 1 つ指定すると、dspmqtrc はそれを指定された出力ファイルにフォーマットします。複数の入力ファイルを指定すると、指定した出力ファイルは無視され、定様式ファイルはトレース・ファイルの PID に基づいて AMQ yyyy. zz.FMT という名前になります。

オプション・パラメーター

-t *FormatTemplate*

トレースの表示方法の詳細を含んでいるテンプレート・ファイルの名前。このパラメーターが指定されない場合、次のように、デフォルトのテンプレート・ファイル場所が使用されます。

AIX システムの場合、デフォルト値は次のとおりです。

```
MQ_INSTALLATION_PATH/lib/amqtrc2.fmt
```

AIX システム以外のすべての HP Integrity NonStop Server、および UNIX システムの場合、デフォルト値は次のとおりです。

```
MQ_INSTALLATION_PATH/lib/amqtrc.fmt
```

MQ_INSTALLATION_PATH は、IBM MQ がインストールされている上位ディレクトリーを表します。

-h

レポートからヘッダー情報を省略します。

-s

トレース・ヘッダーを抽出して stdout に書き込みます。

-o *output_filename*

定様式データを書き込むファイルの名前。

関連コマンド

コマンド	説明
endmqtrc	トレースの終了
160 ページの『strmqtrc』	トレースの開始

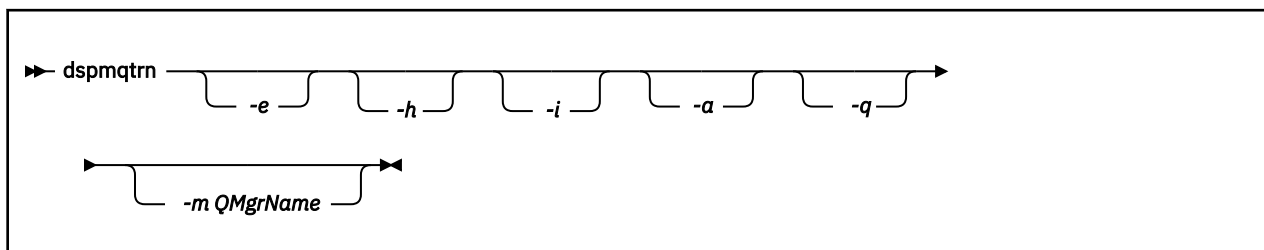
dspmqtrn

未確定およびヒューリスティックに完了したトランザクションを表示します。

目的

`dspmqtrn` コマンドは、トランザクションの詳細を表示するために使用します。このコマンドには、IBM MQ によって調整されるトランザクションと、外部のトランザクション・マネージャーによって調整されるトランザクションが含まれます。

構文



オプション・パラメーター

-e

外部的に調整した未確定トランザクションの詳細情報を要求します。これは、IBM MQ がコミットの準備を要求されたが、まだトランザクションの結果を通知されていないトランザクションです。

-h

外部的に調整されたトランザクションのうち、`rsvmqtrn` コマンドによって解決されていて、かつまだ外部トランザクション調整プログラムが `xa-forget` コマンドによって応答していないものの詳細を要求します。このトランザクション状態は、X/Open ではヒューリスティックに完了したと呼んでいます。

注: `-e`、`-h`、または `-i` を指定しない場合、内部および外部的に調整された未確定トランザクションの両方について詳細が表示されますが、外部的に調整され、ヒューリスティックに完了したトランザクションの詳細は表示されません。

-i

内部的に調整した未確定トランザクションの詳細情報を要求します。これは、各リソース・マネージャーがコミットの準備を要求されたが、IBM MQ がまだトランザクションの結果をリソース・マネージャーに通知していないトランザクションです。

関連しているリソース・マネージャーのそれぞれにおいて、トランザクションの状態についての情報が表示されます。この情報は、特定のリソース・マネージャーの障害の影響を判断するのに役立ちます。

注: `-e` または `-i` を指定しない場合、内部および外部的に調整された未確定トランザクションの両方について詳細が表示されます。

-a

キュー・マネージャーに認識されているすべてのトランザクションのリストを要求します。返されるデータには、キュー・マネージャーに認識されているすべてのトランザクションのトランザクション詳細が含まれます。現在、トランザクションが IBM MQ アプリケーション接続に関連付けられている場合、その IBM MQ アプリケーション接続に関連する情報も返されます。このコマンドによって返されるデータは、通常、`runmqsc 1099` ページの『`DISPLAY CONN`』コマンドの出力と関連している可能性があり、出力フィールドはそのコマンドと同じ意味を持ちます。

フィールドのすべてが、すべてのトランザクションに適しているとは限りません。フィールドが意味を持たない場合、ブランクとして表示されます。例: 循環ロギング・キュー・マネージャーに対してコマンドが発行された場合の `UOWLOG` 値。

-q

このパラメーターを単独で指定すると、`-a -q` を指定することと同じ結果になります。

`-a` パラメーターによるすべてのデータ、およびトランザクション内で更新される 100 個までの固有のオブジェクトのリストを表示します。同じトランザクションで 100 個を超えるオブジェクトが更新される場合、最初の 100 個の別個のオブジェクトがトランザクションごとにリストされます。

-m QMgrName

トランザクションを表示するキュー・マネージャーの名前。この名前を省略すると、デフォルト・キュー・マネージャーのトランザクションが表示されます。

戻りコード

戻りコード 説明

0	正常な操作です。
26	キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして実行中です。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました

戻りコード	説明
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
102	トランザクションが見つかりません。

関連コマンド

コマンド	説明
rsvmqtrn	トランザクションの解決

dspmqver (バージョン情報の表示)

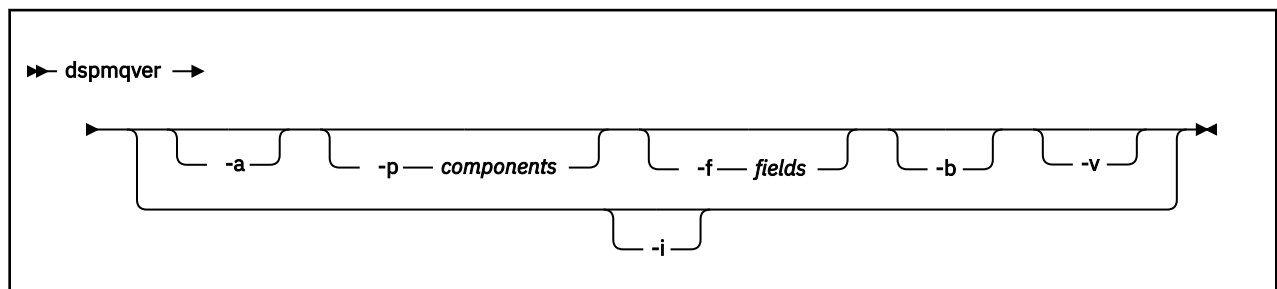
IBM MQ のバージョン情報およびビルド情報を表示します。

目的

dspmqver コマンドを使用して、IBM MQ のバージョン情報およびビルド情報を表示します。

デフォルトでは、**dspmqver** コマンドは、呼び出されたインストールの詳細を表示します。他のインストールが存在する場合はノートが表示されます。**-i** パラメーターを使ってその詳細を表示します。

構文



オプション・パラメーター

-a

すべてのフィールドおよびコンポーネントの表示情報。

32 ビット・サポートが 64 ビット・システムから欠落している場合、**dspmqver -a** コマンドは、32 ビット・バージョンの GSKit がインストールされていないことを示すメッセージを発行することがあります。詳しくは、このトピックの『"コマンドの失敗"』セクションを参照してください。

-p Components

component に指定されたコンポーネントの情報を表示します。コンポーネントは、単独でも複数でも指定できます。シングル・コンポーネントの値、またはすべての必須コンポーネントの値の合計のいずれかを入力します。使用可能なコンポーネントと関連する値は、以下のとおりです。

値	説明
1	IBM MQ サーバーまたはクライアント。

値	説明
2	IBM MQ classes for Java™.
4	IBM MQ classes for Java Message Service.
8	WebScale Distribution Hub
16 81 ページの『1』	IBM MQ custom channel for Windows Communication Foundation
32	IBM Message Service Client for .NET (XMS .NET) - このコンポーネントは Windows でのみ使用可能です。
64	GSKit。HP Integrity NonStop Server の場合には、SSL 32 ビット・サポートが 64 ビット・システムから欠落している場合、 dspmqver -p 64 コマンドは、32 ビット・バージョンの GSKit がインストールされていないことを示すメッセージを発行することがあります。詳しくは、このトピックの『"コマンドの失敗" セクションを参照してください。
128	IBM MQ Advanced Message Security
V 8.0.0.4 256	IBM MQ AMQP サービス
512	IBM MQTelemetry サービス

注:

1. IBM MQ for Windows だけでサポートされます。Microsoft.NET 3 以降がインストールされていない場合、次のエラー・メッセージが表示されます。

Title: WMQWCFCustomChannelLevel.exe - Application Error

The application failed to initialize properly (0x0000135).

デフォルト値は 1 です。

-f Fields

field に指定されたフィールドの情報を表示します。シングル・フィールドまたは複数フィールドのいずれかを指定します。シングル・フィールドの値、またはすべての必須フィールドの値の合計のいずれかを入力します。使用可能なフィールドと関連する値は以下のとおりです。

値	説明
1	名前
2	V.R.M.F の形式でバージョンを指定します。 ここで、V = バージョン、R = リリース、M = モディフィケーション、 および F = フィックスパックです
4	レベル
8	ビルド・タイプ
16	プラットフォーム
32	アドレッシング・モード
64	オペレーティング・システム
128	インストール・パス
256 ¹	インストールの説明

値	説明
512 ¹	インストール環境の名前
1024 ¹	最大コマンド・レベル
2048 ¹	プライマリー・インストール
4096	データ・パス
8192	ライセンス・タイプ

注：

1. HP Integrity NonStop Server には適用されません。

dspmqrver コマンドが実行されると、選択された各フィールドの情報が個別の行に表示されます。

デフォルト値は 8191 です。これにより、すべてのフィールドの情報が表示されます。

-b

レポートからヘッダー情報を省略します。

-v

詳細出力を表示します。

-i

すべてのインストールに関する表示情報。このオプションは、他のオプションと使用することはできません。dspmqrver コマンドの実行元となるインストールが最初に表示されます。これ以外のインストールについては、「名前」、「バージョン」、「インストール名」、「インストールの説明」、「インストール・パス」、および「1 次インストール」のフィールドのみが表示されます。HP Integrity NonStop Server には適用されません。

戻りコード

戻りコード 説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

以下のコマンドは、**-p** および **-f** のデフォルト設定を使用して、IBM MQ のバージョンおよびビルド情報を表示します。

```
dspmqrver
```

次のコマンドは、すべてのフィールドとコンポーネントに関する情報を表示します。これは、`dspmqrver -p 63 -f 4095` を指定するのと同様です。

```
dspmqrver -a
```

次のコマンドは、IBM MQ classes for Java のバージョン情報およびビルド情報を表示します。

```
dspmqrver -p 2
```

次のコマンドは、Java Platform Standard Edition、IBM MQ、Java Message Service Client、および IBM MQ classes for Java Message Service の共通サービスを表示します。

```
dspmqver -p 4
```

次のコマンドを実行すると、WebScale Distribution Hub のビルド・レベルが表示されます。

```
dspmqver -p 8 -f 4
```

次のコマンドは、Windows Communication Foundation 用の IBM MQ カスタム・チャネルの名前およびビルド・タイプを表示します。

```
dspmqver -p 16 -f 9
```

次のコマンドは、IBM MQ のインストールの情報を表示します。

```
dspmqver -i
```

コマンドの失敗

64 ビット・システムから 32 ビット・サポートが欠落しているときの障害

IBM MQ バージョン 8.0、9.0、および 9.1 では、IBM Global Security Kit for IBM MQ (GSKit) の 32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンと一緒にバンドルされます。dspmqver -a または dspmqver -p 64 を実行すると、このコマンドは両方のバージョンの GSKit を検査します。64 ビット・システムから 32 ビット・サポートが欠落している場合、GSKit の 32 ビット・バージョンがインストールされていないことを示すメッセージが表示されることがあります。デフォルトで 32 ビット・アプリケーションをサポートしなくなった可能性がある 64 ビット Linux ディストリビューション、およびこれらのプラットフォーム用の 32 ビット・ライブラリーを手動でロードする方法については、[UNIX および Linux システムでのハードウェア要件とソフトウェア要件を参照してください](#)。

IBM MQ classes for Java を表示するときの障害

IBM MQ classes for Java のバージョン情報またはビルド情報を表示しようとして、環境が正しく構成されていない場合、**dspmqver** コマンドが失敗することがあります。例えば、次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
[root@blade883 ~]# dspmqver -p2
AMQ8351: IBM MQ Java environment has not been configured correctly.
```

この問題を解決するには、JRE を組み込むようにパスが構成されていることと、正しい環境変数が設定されている (例えば、setjmsenv または setjmsenv64 を使用) ことを確認します。以下に例を示します。

```
export PATH=$PATH:/opt/mqm/java/jre/bin
cd /opt/mqm/java/bin/
./setjmsenv64

[root@blade883 bin]# dspmqver -p2
Name:      WebSphere MQ classes for Java
Version:    8.0.0.0
Level:      k000-L110908
Build Type: Production
```

UNIX **setjmsenv** コマンドおよび **setjmsenv64** コマンドは UNIX プラットフォームにのみ適用される点に注意してください。

Windows Windows では、エラー AMQ8351 を解決するには、**setmqenv** コマンドを発行する必要があります。

endmqcsv

キュー・マネージャーのコマンド・サーバーを停止します。

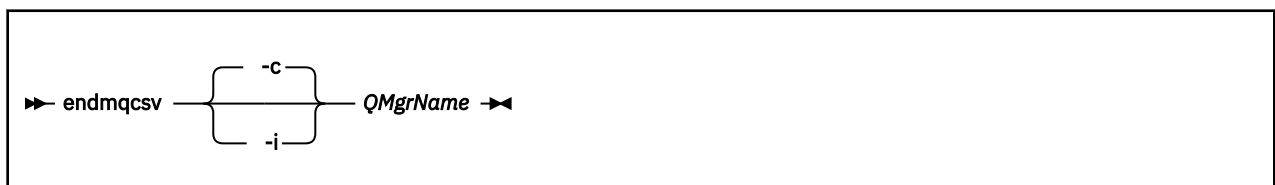
目的

endmqcsv コマンドは、指定したキュー・マネージャーのコマンド・サーバーを停止するために使用します。

endmqcsv コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境から使用する必要があります。 `dspmqr -o installation` コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

キュー・マネージャー属性 SCMDSERV に QMGR が指定されている場合、**endmqcsv** を使用してコマンド・サーバーの状態を変更しても、次の再開始時にキュー・マネージャーが SCMDSERV 属性に対して行う処理には影響ありません。

構文



必要なパラメーター

QMGrName

コマンド・サーバーを終了するキュー・マネージャーの名前。

オプション・パラメーター

-c

制御された方法でコマンド・サーバーを停止します。コマンド・サーバーは、すでに開始されているコマンド・メッセージの処理を完了することができます。新しいメッセージが、コマンド・キューから読み取られることはありません。

このパラメーターがデフォルトです。

-i

即時にコマンド・サーバーを停止します。現在処理されているコマンド・メッセージに関連したアクションは、完了しない可能性があります。

戻りコード

戻りコード	説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

1. 次のコマンドは、キュー・マネージャー `saturn.queue.manager` のコマンド・サーバーを停止します。

```
endmqcsv -c saturn.queue.manager
```

コマンド・サーバーは、停止する前に、すでに開始しているコマンドの処理を完了することができます。新しく受け取ったコマンドは、コマンド・サーバーが再始動されるまで、処理されずにコマンド・キューに残ります。

2. 次のコマンドは、キュー・マネージャー `pluto` のコマンド・サーバーを即時に停止します。

```
endmqcsv -i pluto
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>strmqcsv</code>	コマンド・サーバーを始動します。
<code>dspmqcsv</code>	コマンド・サーバーの状況を表示します。

endmqlsr

キュー・マネージャーのリスナー・プロセスをすべて終了します。

目的

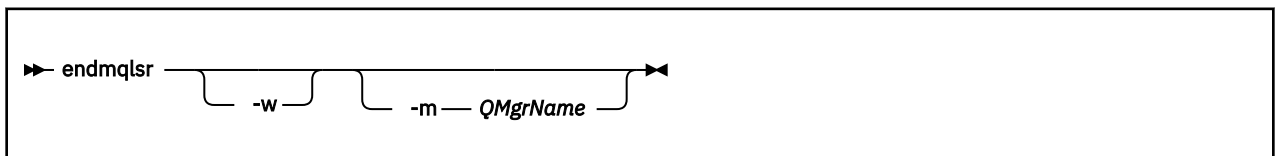
endmqlsr コマンドは、指定したキュー・マネージャーのリスナー・プロセスをすべて終了します。

endmqlsr コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境から使用する必要があります。 `dspmq -o installation` コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

endmqlsr コマンドを発行する前にキュー・マネージャーを停止する必要はありません。 プール・プロセス内ではなく **runmqlsr** リスナー・プロセス内でインバウンド・チャンネルを持つように構成されているリスナーがある場合、そのリスナーの終了要求は、チャンネルがアクティブである場合に失敗する可能性があります。 この場合、終了に成功したリスナーの数と、まだ稼働しているリスナーの数を示すメッセージが書き込まれます。

リスナー属性 **CONTROL** が **QMGR** と指定されている場合は、**endmqlsr** を使用してリスナーの状態を変更しても、次の再始動時における **CONTROL** 属性でのキュー・マネージャーの動作に影響はありません。

構文



オプション・パラメーター

-m QMGrName

キュー・マネージャーの名前。このパラメーターを省略すると、コマンドは、デフォルトのキュー・マネージャーに対して操作を実行します。

-w

制御を戻す前に待機します。

制御が戻されるのは、指定のキュー・マネージャーのリスナーすべてが停止した後だけです。

戻りコード

戻りコード 説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

endmqdnm

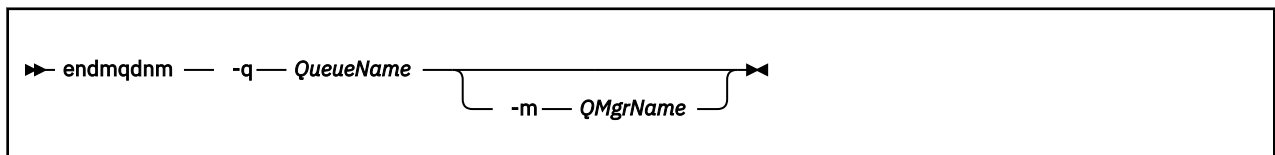
キューの .NET モニターを 停止します (Windows のみ)。

目的

注: endmqdnm コマンドは、IBM MQ for Windows にのみ適用されます。

endmqdnm 制御コマンドを使用して .NET モニターを停止します。

構文



必要なパラメーター

-q QueueName

.NET モニターでモニター中のアプリケーション・キューの名前。

オプション・パラメーター

-m QMgrName

アプリケーション・キューをホストするキュー・マネージャーの名前。

省略すると、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

戻りコード

戻りコード 説明

0	正常な操作です。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
133	オブジェクト名の不明エラーです。

endmqm

キュー・マネージャーを停止します。または、スタンバイ・キュー・マネージャーに切り替えます。

目的

endmqm コマンドは、指定したキュー・マネージャーを終了(停止)するために使用します。このコマンドは、次の3つのモードのいずれかでキュー・マネージャーを停止します。

- 制御または静止状態でのシャットダウン
- 即時シャットダウン
- プリエンプティブ・シャットダウン

endmqm コマンドは、単一インスタンスのキュー・マネージャーを停止する場合と同じ方法で、複数インスタンス・キュー・マネージャーのすべてのインスタンスを停止します。endmqm は、アクティブ・インスタンス、または複数インスタンス・キュー・マネージャーの1つのスタンバイ・インスタンスのいずれかで発行できます。キュー・マネージャーを終了するには、アクティブ・インスタンスで endmqm を発行する必要があります。

endmqm コマンドを複数インスタンス・キュー・マネージャーのアクティブ・インスタンスで発行する場合、現在のアクティブ・インスタンスがシャットダウンを完了したときに、スタンバイ・インスタンスが新しいアクティブ・インスタンスになるように切り替えることができます。

endmqm コマンドを複数インスタンス・キュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスで発行する場合、-x オプションを追加することでスタンバイ・インスタンスを終了でき、アクティブ・インスタンスは実行させたままにできます。スタンバイ・インスタンスで -x オプションなしで endmqm を発行すると、キュー・マネージャーがエラーを報告します。

endmqm コマンドを発行すると、サーバー接続チャンネルを介して接続されているすべてのクライアント・アプリケーションに影響します。影響の内容は使用したパラメーターにより異なりますが、可能な3つのモードのいずれかで STOP CHANNEL コマンドを発行した場合と同様になります。サーバー接続チャンネルでの STOP CHANNEL モードの影響については、MQI チャンネルの[停止](#)を参照してください。endmqm オptional パラメーターの記述では、どの STOP CHANNEL モードが同等になるかが説明されています。

endmqm コマンドを発行してキュー・マネージャーを停止した場合、再接続可能クライアントは再接続を試行しません。この動作を無効にするには、-r または -s のいずれかのオプションを指定して、クライアントが再接続の試行を開始できるようにします。

注: キュー・マネージャーまたはチャンネルが予想外に終了した場合、再接続可能クライアントは再接続の試行を開始します。

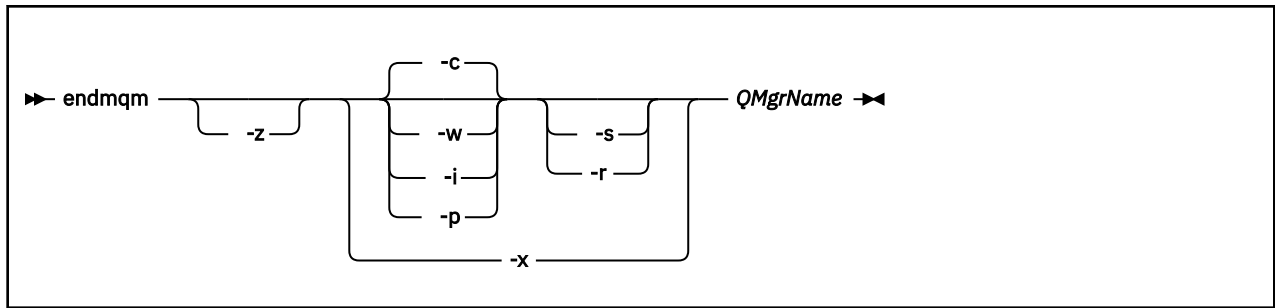
注: クライアントはこのキュー・マネージャーに再接続しないことがあります。クライアントが使用した MQCONNx 再接続オプション、およびクライアント接続テーブルでのキュー・マネージャー・グループの定義によっては、クライアントが別のキュー・マネージャーに再接続することがあります。クライアントが同じキュー・マネージャーに強制的に再接続するように、クライアントを構成することができます。

endmqm コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられたインストール済み環境から使用する必要があります。dspmqs -o installation コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

キュー・マネージャーの属性および関連したオブジェクトは、endmqm コマンドによる影響を受けません。startmqm (キュー・マネージャーの始動) コマンドを使用すれば、キュー・マネージャーを再始動できます。

キュー・マネージャーを削除するためには、それを停止し、その後 dltmqm (キュー・マネージャーの削除) コマンドを使用します。

構文



必要なパラメーター

QMGrName

停止させるメッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

オプション・パラメーター

-c

制御 (または静止) 状態でのシャットダウン。このパラメーターがデフォルトです。

キュー・マネージャーは、すべてのアプリケーションが切断された後でのみ停止します。現在処理されている MQI 呼び出しはすべて完了します。アプリケーションの切断とキュー・マネージャーの実際の停止の間の短い時間フレームで 53 ページの『dspmq』コマンドが発行される可能性が低い場合、制御されたシャットダウンが要求されていても、53 ページの『dspmq』コマンドは状況を Ending immediately として一時的に報告することがあります。

制御は即時にユーザーに戻り、キュー・マネージャーが停止した時点は通知されません。

サーバー接続チャンネルを介して接続されているクライアント・アプリケーションに対する影響は、QUIESCE モードで発行された STOP CHANNEL コマンドの場合と同等です。

-i

即時シャットダウン。キュー・マネージャーは、現在処理されている MQI 呼び出しをすべて完了してから停止します。このコマンドの発行後に出された MQI 要求はすべて失敗します。完了しなかった作業単位は、キュー・マネージャーが次に始動されるときに、ロールバックされます。

制御は、キュー・マネージャーが終了した後で戻ります。

サーバー接続チャンネルを介して接続されているクライアント・アプリケーションに対する影響は、FORCE モードで発行された STOP CHANNEL コマンドの場合と同等です。

-p

プリエンプティブ・シャットダウン。

この種のシャットダウンは、例外的な状況でのみ使用してください。例えば、キュー・マネージャーが通常の endmqm コマンドで停止しない場合などです。

キュー・マネージャーは、アプリケーションが切断されるのを待たずに、あるいは MQI 呼び出しが完了するのを待たずに停止することがあります。このことが IBM MQ アプリケーションに予期しない結果をもたらす可能性があります。シャットダウン・モードは「immediate shutdown (即時シャットダウン)」に設定されています。数秒経過してもキュー・マネージャーが停止しない場合、シャットダウン・モードは段階的に拡大され、残りのすべてのキュー・マネージャー・プロセスが停止されます。

サーバー接続チャンネルを介して接続されているクライアント・アプリケーションに対する影響は、TERMINATE モードで発行された STOP CHANNEL コマンドの場合と同等です。

-r

再接続可能クライアントの再接続の試行を開始します。このパラメーターには、クライアントがキュー・マネージャー・グループ内の他のキュー・マネージャーへの接続を再確立する効果があります。

-S

シャットダウン後にスタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスに切り替えます。このコマンドは、アクティブ・インスタンスを終了する前に、実行中のスタンバイ・インスタンスがあるかどうかを検査します。終了前にスタンバイ・インスタンスが開始するまでは待機しません。

キュー・マネージャーへの接続は、アクティブ・インスタンスのシャットダウンによって失敗します。再接続可能クライアントが、再接続の試行を開始します。

クライアントの再接続オプションは、同じキュー・マネージャーの別のインスタンスにのみ再接続するか、キュー・マネージャー・グループ内の他のキュー・マネージャーに再接続するように構成できます。

-W

待機シャットダウン

このタイプのシャットダウンは、キュー・マネージャーが停止した後でのみ制御がユーザーに戻るということを除けば、制御されたシャットダウンと同じです。シャットダウンの進行中に、`Waiting for queue manager qmName to end` というメッセージを受け取ります。アプリケーションの切断とキュー・マネージャーの実際の停止の間の短い時間フレームで 53 ページの『[dspmq](#)』コマンドが発行される可能性が低い場合、制御されたシャットダウンが要求されていても、53 ページの『[dspmq](#)』コマンドは状況を `Ending immediately` として一時的に報告することがあります。

サーバー接続チャンネルを介して接続されているクライアント・アプリケーションに対する影響は、QUIESCE モードで発行された STOP CHANNEL コマンドの場合と同等です。

-X

キュー・マネージャーのアクティブ・インスタンスを終了せずに、キュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスを終了します。

-Z

コマンドでのエラー・メッセージを抑制します。

戻りコード

戻りコード 説明

0	キュー・マネージャーは終了しました。
3	キュー・マネージャーは作成中です。
16	キュー・マネージャーがありません。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
62	キュー・マネージャーは別のインストール済み環境に関連付けられています。
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
77	IBM MQ キュー・マネージャーを切り替えられません。
79	IBM MQ キュー・マネージャー <i>QmgrName</i> のアクティブ・インスタンスが終了していません。
90	IBM MQ キュー・マネージャー <i>QmgrName</i> のスタンバイ・インスタンスが終了していません。
119	許可は拒否されました

例

以下の例は、指定されたキュー・マネージャーを終了(停止)させるコマンドを示しています。

1. このコマンドは、`mercury.queue.manager` という名前のキュー・マネージャーを制御された方法で終了します。現在接続されているすべてのアプリケーションは、切断することが可能です。

```
endmqm mercury.queue.manager
```

2. 次のコマンドは、`saturn.queue.manager` という名前のキュー・マネージャーを即時に終了させます。現行の MQI 呼び出しはすべて完了しますが、新しい呼び出しは完了できません。

```
endmqm -i saturn.queue.manager
```

複数インスタンス・キュー・マネージャーのローカル・インスタンスに **endmqm** を発行した結果を、[90 ページの表 24](#) に示します。コマンドの結果は、`-s` または `-x` の切り替えの使用状況、およびキュー・マネージャーのローカル・インスタンスと リモート・インスタンスの実行状況によって異なります。

表 24. endmqm のアクション。					
endmqm オプション	ローカル・マシン	リモート・マシン	RC	メッセージ	結果
	アクティブ	なし	0	-	キュー・マネージャーは終了しました。
		スタンバイ			スタンバイ・インスタンスを含む、キュー・マネージャーが終了しました。
	スタンバイ	アクティブ	90	AMQ8368	IBM MQ キュー・マネージャー <i>QmgrName</i> のスタンバイ・インスタンスが終了していません。
-s	アクティブ	なし	77	AMQ7276	IBM MQ キュー・マネージャーを切り替えられません。
		スタンバイ	0	-	スタンバイ・インスタンスへの切り替えを可能にして、キュー・マネージャー <i>QMNAME</i> が終了しました。
	スタンバイ	アクティブ	90	AMQ8368	IBM MQ キュー・マネージャー <i>QmgrName</i> のスタンバイ・インスタンスが終了していません。
-x	アクティブ	なし	79	AMQ8367	IBM MQ キュー・マネージャー <i>QmgrName</i> のアクティブ・インスタンスが終了していません。
		スタンバイ			
	スタンバイ	アクティブ	0	-	キュー・マネージャー <i>QMNAME</i> のスタンバイ・インスタンスが終了しました。

関連コマンド

コマンド

[25 ページの『crtmqm』](#)

[87 ページの『endmqm』](#)

[34 ページの『dltmqmq』](#)

説明

キュー・マネージャーの作成

キュー・マネージャーの終了

キュー・マネージャーの削除

endmqsvc (IBM MQ サービスの終了)

Windows で IBM MQ サービスを終了します。

目的

Windows で IBM MQ サービスを終了させるコマンドです。このコマンドは、Windows 上でのみ実行してください。

サービスが実行中である場合、そのサービスを終了するにはこのコマンドを実行します。

新しい環境 (新しいセキュリティ定義など) を選定する場合は、IBM MQ プロセス用のサービスを再開してください。

構文

endmqsvc

Parameters

endmqsvc コマンドにはパラメーターはありません。

サービスが含まれるインストール済み環境のパスを設定する必要があります。そのインストール済み環境をプライマリーにするか、**setmqenv** コマンドを実行するか、あるいは **endmqsvc** バイナリー・ファイルを含むディレクトリーからコマンドを実行してください。

関連資料

155 ページの『[strmqsvc](#)』

Windows で IBM MQ サービスを開始します。

endmqtrc

トレース中のエンティティの一部またはすべてのトレースを終了します。

目的

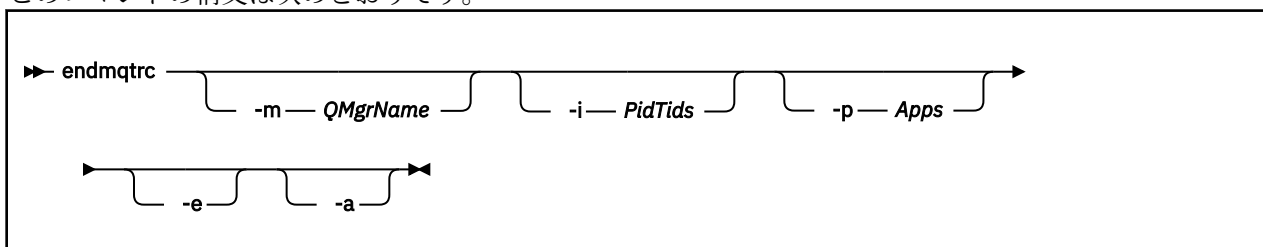
endmqtrc コマンドは、指定したエンティティまたはすべてのエンティティに関するトレースを終了する場合に使用します。endmqtrc コマンドを実行するときに、パラメーターでトレースを指定すると、そのトレースだけが終了します。パラメーターを指定せずに endmqtrc を使用すると、全プロセスの早期トレースが終了します。



重要: endmqtrc コマンドが終了してからすべてのトレース操作が実際に完了するまでにわずかな遅延が生じることがあります。IBM MQ の各プロセスがそれぞれのトレース・ファイルにアクセスするためです。各プロセスは異なる時間にアクティブになるため、それぞれのトレース・ファイルは相互に無関係に閉じられます。

構文

このコマンドの構文は次のとおりです。



オプション・パラメーター

-m QMgrName

トレースを終了するキュー・マネージャーの名前。このパラメーターは、サーバー製品にのみ適用されます。

指定する QMgrName は、strmqtrc コマンドで指定した QMgrName と完全に一致していなければなりません。strmqtrc コマンドでワイルドカードを使用した場合、endmqtrc コマンドでも同じワイルドカード指定を使用する必要があります。これには、ワイルドカード文字がコマンド環境によって処理されないようにするためのそれらのエスケープも含まれます。

このコマンドには、-m フラグおよび関連するキュー・マネージャー名を最大 1 つしか指定できません。

-i PidTids

トレースを終了するプロセス ID (PID) とスレッド ID (TID)。-i フラグと -e フラグを同時に使用することはできません。-i フラグと -e フラグを同時に使用すると、エラー・メッセージが出されます。このパラメーターは、IBM サービス担当員の指示の下でのみ使用してください。

-p Apps

トレースを終了する名前付きプロセス。Apps はコンマ区切りリストです。リスト内のそれぞれの名前は、"Program Name" FDC ヘッダーに表示されているプログラム名どおりに正確に指定してください。ワイルドカードとしてアスタリスク (*) または疑問符 (?) を使用できます。-p フラグと -e フラグを同時に使用することはできません。-p フラグと -e フラグを同時に使用すると、エラー・メッセージが出されます。

-e

全プロセスの早期のトレースを終了します。

パラメーターを指定せずに endmqtrc を使用した場合は、endmqtrc -e と同じ動作になります。-e フラグを、-m フラグ、-i フラグ、または -p フラグと同時に指定することはできません。

-a

すべてのトレースを終了します。

このフラグは、**必ず** 単独で指定してください。

戻りコード

戻りコード 説明

AMQ5611 このメッセージは、コマンドに無効な引数を指定した場合に出されます。

58 複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました

例

このコマンドは、QM1 というキュー・マネージャーに関するデータのトレースを終了させます。

```
endmqtrc -m QM1
```

次の例は、endmqtrc コマンドがどのようにパラメーターで記述されているトレースだけを終了するのかわを示す、一連の流れです。

1. 次のコマンドによって、キュー・マネージャー QM1 およびプロセス amqxxx.exe に対するトレースが使用可能にされます。

```
strmqtrc -m QM1 -p amqxxx.exe
```

2. 次のコマンドによって、キュー・マネージャー QM2 に対するトレースが使用可能にされます。

```
strmqtrc -m QM2
```


3. 次のコマンドによって、キュー・マネージャー QM2 に対するトレースだけが終了します。キュー・マネージャー QM1 およびプロセス amqxxx.exe に対するトレースは続行されます。

```
endmqtrc -m QM2
```

HPE NonStop V8.1 これらのコマンドは、すべての CPU におけるキュー・マネージャー・プロセスすべてのトレースを停止します。

```
run -cpu=0 endmqtrc -a
...
run -cpu=15 endmqtrc -a
```

関連コマンド

コマンド	説明
dspmqtrc	定様式トレース出力の表示
160 ページの『strmqtrc』	トレースの開始

mqcertck (TLS セットアップの保証)

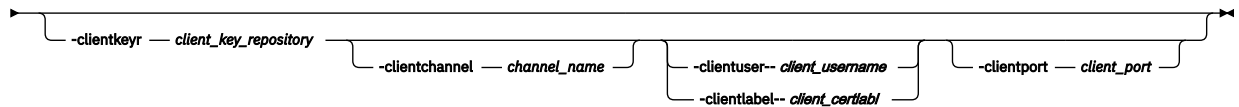
mqcertck コマンドを使用して、キュー・マネージャーの TLS に関する問題の可能性を診断します。

目的

このコマンドは、TLS を使用する接続が社内のキュー・マネージャーになぜ正常に接続できないのかを判別するための最初の検査として使用することが可能で、複数の証明書に対して機能します。

構文

➡ **mqcertck** — *QmgrName* ➡



必要なパラメーター

QmgrName

TLS エラーまたは TLS エラーの検査対象のキュー・マネージャーの名前。

オプション・パラメーター

-clientkeyr *client_key_repository*

-clientuser、**-clientlabel**、**-clientchannel**、**-clientport** のいずれかのパラメーターを指定する場合は必須。

対象キュー・マネージャーに接続するクライアント・アプリケーションが使用するクライアント鍵リポジトリの場所。

重要: .kdb 拡張子なしで名前を指定する必要があります。

-clientuser *client_username*

-clientlabel パラメーターを指定した場合は使用できません。

対象キュー・マネージャーに接続するクライアント・アプリケーションを実行しているユーザー。指定した場合は **-clientkeyr** が必要です。

-clientlabel *client_certlabl*

-clientuser パラメーターを指定した場合は使用できません。

IBM MQ MQI client CERTLABL メソッドのうちのいずれかを使用して対象キュー・マネージャーに接続するクライアントに与えられた証明書ラベル。指定した場合は **-clientkeyr** が必要です。

-clientchannel *channel_name*

TLS エラーまたは TLS エラーの検査対象として指定したキュー・マネージャーでのチャンネルの名前。指定した場合は **-clientkeyr** が必要です。

-clientport *port_number*

クライアントのテスト時に使用する特定のポートを指定します。

値は次のものでなければなりません。

- 1 から 65535 までの範囲の整数値。
- ポート番号。このクライアント検査で **mqcertck** が使用できる空きポートでなければなりません。
- キュー・マネージャーなど、**mqcertck** が実行されるマシン上のプロセスが使用しているポート以外。

値を指定しない場合は、ポート 5857 が使用されます。指定した場合は **-clientkeyr** が必要です。

例

例 1

IBM MQ キュー・マネージャーに TLS 接続を構成した後、チャンネルの開始を試みる前に、**mqcertck** を使用して、誤りがないかどうかを検証できます。

この例で返された情報は、キュー・マネージャー **qmgr** の証明書が見つからなかったことを示しています。

```
[mqm@mq-host ~]$ mqcertck qmgr
5724-H72 (C) Copyright IBM Corp. 1994, 2023.
+-----+
| IBM MQ TLS Configuration Test tool
+-----+

ERROR:
No Certificate could be found for the Queue Manager qmgr

EXPLANATION:
Queue managers will use a certificate with the label set in the Queue Manager's
CERTLABL attribute. There is no certificate with the label ibmwebspheremqmgr
in the key repository being used by the queue manager The Key repository being
used is located at /var/mqm/qmgrs/qmgr/ssl/key.kdb.

ACTION:
A valid certificate with the label ibmwebspheremqmgr needs to be added to the
key repository.

+-----+

This application has ended. See above for any problems found.

If there are problems then resolve these and run this tool again.

+-----+
```

例 2

クライアント・アプリケーションのためにキー・リポジトリと証明書を作成し、証明書を交換した後、**mqcertck** を使用することによって、クライアント・アプリケーションがキュー・マネージャーに接続できるかどうかを検証できます。

これを行うには、IBM MQ キュー・マネージャーが実行されているマシン上で **mqcertck** を実行し、クライアント鍵リポジトリにアクセスできる必要があります。

この検証は、さまざまな方法で実行できます (例えば、ファイル・システム・マウントなど)。マシンをセットアップしたら、次のコマンドを実行してください。

```
mqcertck QmgrName -clientkeyr Location_of_Client_Key_Repository
                  -clientlabel Client_certificate_label
```

以下に例を示します。

```
mqcertck qmgr -clientkeyr /var/mqm/qmgrs/qmgr/ssl/key
              -clientlabel ibmwebspheremqmgr
```

構成の問題が検出されていないか、出力を確認します。

クライアントを匿名接続にする計画の場合は、上記コマンドを **-clientlabel** パラメーターなしで実行できます。

mqconfig

システム構成が IBM MQ を実行するための要件を満たしていることを確認します (UNIX および Linux プラットフォームの場合のみ)。

目的

mqconfig コマンドは、システム構成が IBM MQ キュー・マネージャー環境で必要とされる構成以上であることを検証するために実行されます。構成値は最小値であり、大規模なインストール済み環境では、このコマンドで検査されるよりも大きな値を必要とする可能性があります。

IBM MQ 用にシステムを構成する方法について詳しくは、[IBM MQ のためのオペレーティング・システムの構成と調整 \(UNIX および Linux システムおよび IBM i\)](#)を参照してください。

構文

```
➤ mqconfig -v バージョン
```

オプション・パラメーター

-v Version

システム要件は、IBM MQ のバージョンが異なれば違います。現行システムの構成を検証するために必要な、IBM MQ のバージョンを指定してください。

-v が指定されない場合のデフォルト値は、現行バージョンです。

例

以下の出力は、Linux システムでこのコマンドが生成する内容の例です。

```
# mqconfig -v 8.0
mqconfig: V3.7 analyzing Red Hat Enterprise Linux Server release 6.5
(Santiago) settings for IBM MQ V8.0

System V Semaphores
semmsl (sem:1) 500 semaphores IBM>=32 PASS
semmsn (sem:2) 35 of 256000 semaphores (0%) IBM>=4096 PASS
semopm (sem:3) 250 operations IBM>=32 PASS
semnmi (sem:4) 3 of 1024 sets (0%) IBM>=128 PASS

System V Shared Memory
shmax 68719476736 bytes IBM>=268435456 PASS
shmmni 1549 of 4096 sets (37%) IBM>=4096 PASS
shmall 7464 of 2097152 pages (0%) IBM>=2097152 PASS

System Settings
file-max 4416 of 524288 files (1%) IBM>=524288 PASS

Current User Limits (root)
nofile (-Hn) 10240 files IBM>=10240 PASS
nofile (-Sn) 10240 files IBM>=10240 PASS
```

nproc	(-Hu)	11 of 30501 processes	(0%)	IBM>=4096	PASS
nproc	(-Su)	11 of 4096 processes	(1%)	IBM>=4096	PASS

注:Current User Limits セクションにリストされている値は、**mqconfig** を実行したユーザーのリソース限度です。通常はキュー・マネージャーを mqm ユーザーとして開始する場合、mqm に切り替えて、そこから **mqconfig** を実行する必要があります。

mqm グループの他のメンバーも (そしておそらくルートも) キュー・マネージャーを開始する場合は、それらのメンバーのすべてで **mqconfig** を実行して、各メンバーの限度が IBM MQ に適していることを確認する必要があります。

MQExplorer (MQ Explorer の起動)

MQ Explorer を開始します (Windows および Linux x86-64 プラットフォームのみ)。

目的

Linux のシステム・メニューまたは Windows のスタート・メニューを使用して MQ Explorer を起動するには、起動するインストール済み環境を左クリックする必要があります。

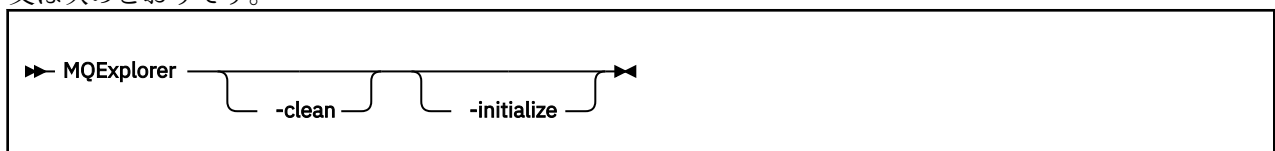
Windows の場合は、スタート・メニューを開き、起動するインストール済み環境に対応する **IBM MQ** フォルダーの下で MQ Explorer インストール・エントリーを選択します。リストされる MQ Explorer の各インスタンスは、そのインストールに選択した名前で見つかります。

Linux では、MQ Explorer のシステム・メニュー項目が「**開発**」カテゴリに追加されます。システム・メニュー内でのその表示位置は、ご使用の Linux ディストリビューション (SUSE または Red Hat) およびデスクトップ環境 (GNOME または KDE) に応じて異なります。

- SUSE の場合
 - 左クリック **コンピューター > その他のアプリケーション ...** を実行し、「**開発**」カテゴリで、起動する MQ Explorer のインストール済み環境を見つけます。
- Red Hat の場合
 - 起動する MQ Explorer のインストール項目は、「**アプリケーション**」 > 「**プログラミング**」で見つけることができます。

構文

MQExplorer コマンドは、MQ_INSTALLATION_PATH/bin 内に保管されています。 **MQExplorer.exe** (MQExplorer コマンド) は、標準の Eclipse ランタイム・オプションをサポートします。このコマンドの構文は次のとおりです。



オプション・パラメーター

-clean

これは Eclipse に渡されます。このパラメーターにより Eclipse は、Eclipse ランタイムによって使用されるキャッシュ・データすべてを削除します。

-initialize

これは Eclipse に渡されます。このパラメーターにより Eclipse は、Eclipse ランタイムによって使用される構成情報を廃棄します。

グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) は開始されません。

mqrc (MQ 戻りコード)

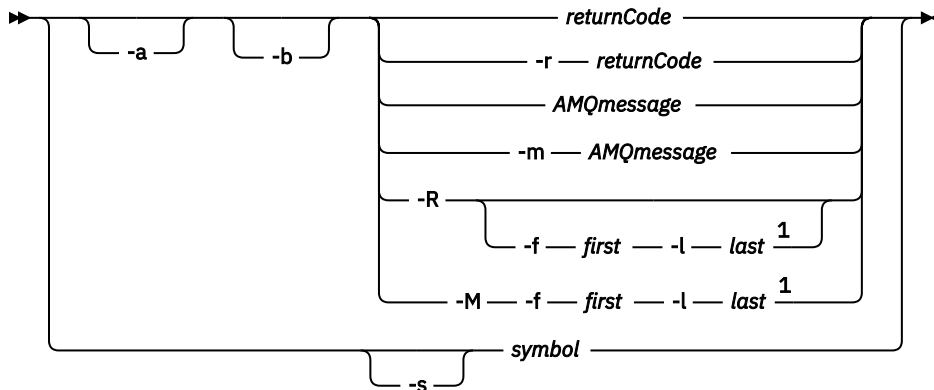
戻りコードに関する情報を表示します。

目的

mqrc コマンドを使用して、シンボル、戻りコード、および AMQ メッセージに関する情報を表示します。戻りコードまたは AMQ メッセージの範囲、および特定の戻りコードまたは AMQ メッセージを指定できます。

数値引数は、1 から 9 の数字で始まる場合は 10 進数と解釈され、接頭部が 0x の場合は 16 進数と解釈されます。

構文



注:

¹ 範囲内のメッセージに問題がある場合は、メッセージ・テキストの前に標識が表示されます。？は、メッセージに一致する戻りコードがない場合に表示されます。！は、メッセージ重大度が戻りコードの重大度と異なる場合に表示されます。

Parameters

returnCode

表示される戻りコード

AMQmessage

表示される AMQ メッセージ

symbol

表示されるシンボル

-a

すべての重大度を試してメッセージ・テキストを探します

-b

詳細情報なしでメッセージを表示します

-f first

範囲内の最初の数値

-l last

範囲内の最後の数値

-m AMQmessage

リストされる AMQ メッセージ

-M

範囲内の AMQ メッセージを表示します

-r returnCode

表示される戻りコード

-R

すべての戻りコードを表示します。 **-f** パラメーターおよび **-l** パラメーターとともに使用する場合、**-R** は範囲内の戻りコードを表示します。

-s symbol

表示されるシンボル

例

1. このコマンドは AMQ メッセージ 5005 を表示します。

```
mqrc AMQ5005
```

2. このコマンドは範囲 2505 から 2530 内にある戻りコードを表示します。

```
mqrc -R -f 2505 -l 2530
```

rcdmqimg

メディア・リカバリー用に、オブジェクトまたはオブジェクト・グループのイメージをログに書き込みます。

目的

rcdmqimg コマンドは、1つのオブジェクトまたはオブジェクトのグループのイメージを、メディア・リカバリー用にログに書き込む場合に使用します。このコマンドは、リニア・ロギングを使用する場合にのみ使用できます。リニア・ロギングについて詳しくは、[ログのタイプ](#)を参照してください。これに関連したコマンド **rcrmqobj** は、そのイメージからオブジェクトを再作成するために使用します。

rcdmqimg は、手動で実行するか、作成した自動化タスクから実行する必要があります。このコマンドは、IBM MQ の個々の顧客の使用法に従い、その使用法で決定されたとおりに実行する必要があるため、自動で実行されることはありません。

rcdmqimg を実行すると、ログ順序番号 (LSN) が 1 つ進み、以前のログ・ファイルがアーカイブまたは削除用に解放されます。

rcdmqimg を実行するタイミングと頻度を決定する際は、以下の要因を考慮します。

ディスク容量

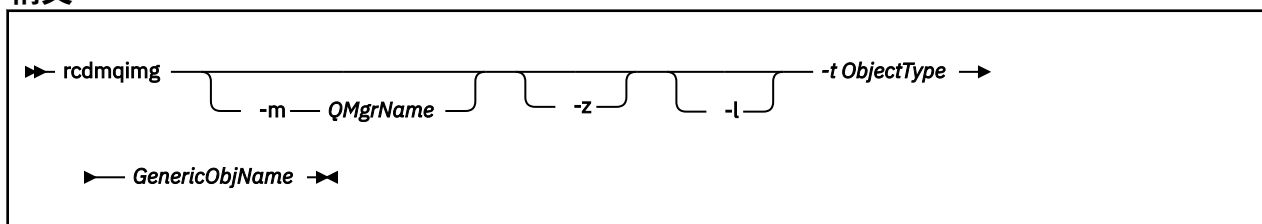
ディスク・スペースが制限されている場合は、**rcdmqimg** を定期的に行うことで、ログ・ファイルをアーカイブまたは削除用に解放します。

通常のシステム・パフォーマンスへの影響

システム上のキューが深い場合、**rcdmqimg** アクティビティに長い時間がかかることがあります。このとき、データがキュー・ファイルからログにコピーされているため、システムのその他の使用の速度が低下し、ディスクの使用率が増加します。そのため、**rcdmqimg** を実行する理想的なタイミングは、キューが空でシステムの使用負荷が高くないときです。

このコマンドは、アクティブなキュー・マネージャーに対して使用します。その後のキュー・マネージャーでの活動は、ログで記録されます。これは、イメージが最新のものではなくなったとしても、ログ・レコードによってオブジェクトに対する変更が明らかになるようにするためです。

構文



必要なパラメーター

GenericObjName

記録するオブジェクトの名前。このパラメーターには、後ろにアスタリスクが付いている場合があります。このアスタリスクは、アスタリスクの前の文字列と一致する名前を持つオブジェクトが記録されることを示すものです。

キュー・マネージャーのオブジェクトまたはチャンネル同期ファイルを記録している場合を除き、このパラメーターが必要です。チャンネル同期ファイルに指定するオブジェクト名は、すべて無視されます。

-t ObjectType

イメージを記録するオブジェクトのタイプ。有効なオブジェクト・タイプは次のとおりです。

表 25. 有効なオブジェクト・タイプ	
オブジェクト・タイプ	説明
all と *	すべてのオブジェクト・タイプ。objtype では ALL を使用し、GenericObjName では * を使用します
authinfo	Secure Sockets Layer (SSL) チャンネル・セキュリティで使用するための認証情報オブジェクト
channel または chl	チャンネル
clntconn または clcn	クライアント接続チャンネル
catalog または ctlg	オブジェクト・カタログ
listener または lstr	リスナー
namelist または nl	名前リスト
process または prcs	Processes
queue または q	すべてのタイプのキュー
qalias または qa	別名キュー
qlocal または ql	ローカル・キュー
qmodel または qm	モデル・キュー
qremote または qr	リモート・キュー
qmgr	キュー・マネージャー・オブジェクト
service または srvc	サービス
syncfile	チャンネル同期ファイル。
topic または top	トピック

注：IBM MQ for UNIX システムを使用している場合、シェルがアスタリスク (*) などの特殊文字の意味を解釈しないようにする必要があります。これを行う方法は使用しているシェルによって異なります。単一引用符 (')、二重引用符 (")、またはバックスラッシュ (\)を使用するといった方法が考えられます。

オプション・パラメーター

-m QMgrName

イメージを記録するキュー・マネージャーの名前。このパラメーターを省略すると、コマンドは、デフォルトのキュー・マネージャーに対して操作を実行します。

-z

エラー・メッセージを抑制します。

-l

キュー・マネージャーを再始動してメディアのリカバリーを実行するために必要な、最も古いログ・ファイルの名前を含むメッセージを書き込みます。メッセージはエラー・ログおよび標準エラー宛先に書き込まれます。(-z および -l の両方のパラメーターを指定した場合、メッセージはエラー・ログに送られますが、標準エラー宛先には送られません。)

rcdmqimg コマンドのシーケンスを発行するとき、-l パラメーターをシーケンス内の最後のコマンドにだけ含めて、ログ・ファイル情報が一回だけ収集されるようにします。

戻りコード

戻りコード	説明

0	正常な操作です。
26	キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして実行中です。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
68	メディア・リカバリーはサポートされていません。
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
119	ユーザーは許可を与えられていません。
128	処理されたオブジェクトはありません。
131	リソース問題です。
132	オブジェクトが損傷しました。
135	一時オブジェクトを記録できません。

ログ・エクステンツが削除されるタイミング

ログ・エクステンツが削除されるのは、キュー・マネージャーが削除できると判断したときだけです。メディア・イメージの記録直後にログ・エクステンツは削除されないことに注意してください。

例えば、開始メディア・エクステンツが 04 の場合、キュー・マネージャーはエクステンツ番号が順方向に進むまでそのエクステンツを削除しません。キュー・マネージャーはエクステンツ 01 から 04 までを削除する場合もあれば削除しない場合もあります。

ロガー・イベント・メッセージと IBM MQ キュー・マネージャー・エラー・ログは、キュー・マネージャー再始動とメディア・リカバリーに必要なログ・エクステンツを表示します。

例

次のコマンドは、キュー・マネージャー・オブジェクト `saturn.queue.manager` のイメージをログに記録します。

```
rcdmqimg -t qmgr -m saturn.queue.manager
```

関連コマンド

コマンド	説明
rcrmqobj	キュー・マネージャー・オブジェクトを再作成します。

rcrmqobj

オブジェクトまたはオブジェクト・グループを、ログに格納されているそれらのイメージから再作成します。

目的

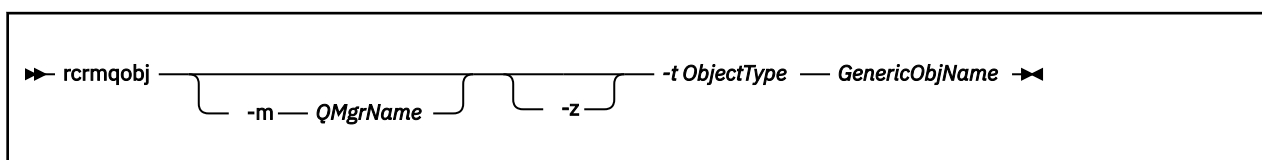
rcrmqobj コマンドは、オブジェクトまたはオブジェクト・グループをそれらのイメージから再作成するときに使用します。

注：このコマンドは、実行中のキュー・マネージャーで使用します。

- *ObjectType* 引数に `clchltab` または `syncfile` を指定した場合、このコマンドはキュー・マネージャー内部状態からオブジェクト・ファイルを再作成します。
- その他の *ObjectType* 引数の場合、このコマンドを使用できるのは、リニア・ロギングを使用するようにキュー・マネージャーが構成されているときだけです。これに関連したコマンド `rcdmqimg` は、オブジェクトのイメージをログに記録するために使用します。オブジェクトはログ内のイメージから再作成されます。

イメージが作成された後のキュー・マネージャーの活動はすべてログに記録されます。オブジェクトを再作成するためには、ログを再生して、オブジェクト・イメージが取り込まれた後に起きたイベントを再作成します。

構文



必要なパラメーター

GenericObjName

再作成するオブジェクトの名前。このパラメーターには、後ろにアスタリスクが付いている場合があります。このアスタリスクは、アスタリスクの前の文字列と一致する名前を持つオブジェクトが再作成されることを示すものです。

オブジェクト・タイプがチャンネル同期ファイルで **ない限り**、このパラメーターが必要です。このオブジェクト・タイプに指定されたオブジェクト名は無視されます。

-t *ObjectType*

再作成するオブジェクトのタイプ。有効なオブジェクト・タイプは次のとおりです。

表 26. 有効なオブジェクト・タイプ	
オブジェクト・タイプ	説明
* または all	すべてのオブジェクト・タイプ
authinfo	Secure Sockets Layer (SSL) チャンネル・セキュリティで使用するための認証情報オブジェクト
channel または chl	チャンネル
clntconn または clcn	クライアント接続チャンネル
clchltab	クライアント・チャンネル・テーブル
listener または lstr	リスナー
namelist または nl	名前リスト
process または prcs	Processes
queue または q	すべてのタイプのキュー
qalias または qa	別名キュー
qlocal または ql	ローカル・キュー
qmodel または qm	モデル・キュー
qremote または qr	リモート・キュー
service または srvc	サービス
syncfile	チャンネル同期ファイル。 このオプションは、循環ログが構成されている場合に使用できますが、syncfile の再作成に使用されるチャンネル・スクラッチパッド・ファイルが損傷を受けていたり欠落したりしていると、syncfile は失敗します。これは、システムがエラー・メッセージ AMQ7353 (krcE_SYNCFILE_UPDATE_FAILED) を報告した場合に行う必要が生じることがあります。
topic または top	トピック

注：IBM MQ for UNIX システムを使用している場合、シェルがアスタリスク (*) などの特殊文字の意味を解釈しないようにする必要があります。これを行う方法は使用しているシェルによって異なります。単一引用符 (')、二重引用符 (")、またはバックスラッシュ (\)を使用するといった方法が考えられます。

オプション・パラメーター

-m *QMgrName*

オブジェクトを再作成するキュー・マネージャーの名前。これを省略すると、コマンドは、デフォルトのキュー・マネージャーに対して操作を実行します。

-z

エラー・メッセージを抑制します。

戻りコード

戻りコード 説明

0	正常な操作です。
26	キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして実行中です。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
66	メディア・イメージが利用不能です。
68	メディア・リカバリーはサポートされていません。
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
119	ユーザーは許可を与えられていません。
128	処理されたオブジェクトはありません。
135	一時オブジェクトをリカバリーできません。
136	オブジェクトは使用中です。

例

1. 次のコマンドは、デフォルトのキュー・マネージャーのローカル・キューをすべて再作成します。

```
rcrmqobj -t ql *
```

2. 次のコマンドは、キュー・マネージャー store に関連したリモート・キューをすべて再作成します。

```
rcrmqobj -m store -t qr *
```

関連コマンド

コマンド	説明
rcdmqimg	オブジェクトのログへの記録

rmvmqinf

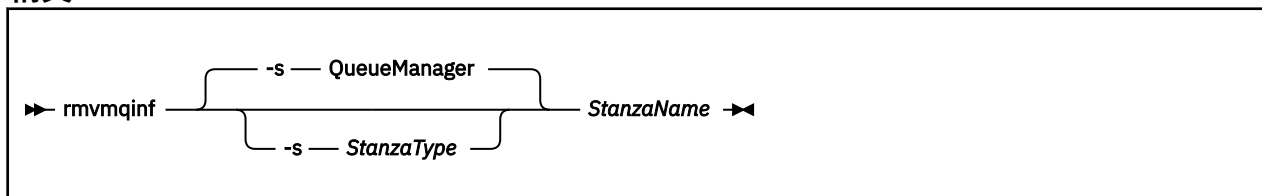
IBM MQ 構成情報を削除します (Windows および UNIX プラットフォーム のみ)。

目的

rmvmqinf コマンドは、IBM MQ の構成情報を削除するために使用します。

rmvmqinf コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられたインストール済み環境から使用する必要があります。 **dspmq -o installation** コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

構文



必要なパラメーター

StanzaName

スタンザの名前。すなわち、同じタイプの複数のスタンザを区別するキー属性の値。

オプション・パラメーター

-s StanzaType

除去するスタンザのタイプ。省略すると、QueueManager スタンザが除去されます。

StanzaType でサポートされる値は QueueManager のみです。

戻りコード

戻りコード	説明

0	正常な操作です。
5	キュー・マネージャーは実行中です。
26	キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして実行中です。
39	コマンド行パラメーターが正しくありません。
44	スタンザがありません。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。

例

```
rmvmqinf QM.NAME
```

使用上の注意

rmvmqinf を使用して、複数インスタンス・キュー・マネージャーのインスタンスを除去します。

このコマンドを使用するには、IBM MQ 管理者および mqm グループのメンバーである必要があります。

関連コマンド

コマンド	説明
10 ページの『addmqinf』	キュー・マネージャー構成情報の追加
64 ページの『dspmqinf』	キュー・マネージャー構成情報の表示

-c

指定されたトランザクションをコミットします。このフラグは、外部的に調整されたトランザクション (つまり、外部作業単位) のみに有効です。

-f

指定された、ヒューリスティックに完了したトランザクションの記録を消去します。このフラグは、解決されているものの、トランザクション・コーディネーターによって認知されていない、外部的に調整されたトランザクション (つまり、外部作業単位) のみに有効です。

注: ヒューリスティックに完了したトランザクションについて外部トランザクション・コーディネーターが永続的に応答できない場合にのみ使用してください。例えば、トランザクション・コーディネーターが削除された場合などです。

-r RMID

未確定トランザクションへのリソース・マネージャーの参加は無視することができます。このフラグは、内部的に調整されたトランザクション、およびリソース・マネージャー構成項目がキュー・マネージャー構成情報から削除されていたリソース・マネージャーのみに有効です。

注: キュー・マネージャーはリソース・マネージャーを呼び出しません。代わりに、トランザクションへのリソース・マネージャーの参加を完了したものとしてマークします。

Transaction

コミットまたはバックアウトされるトランザクションのトランザクション番号。 **dspmqtrn** コマンドを使用して、関連するトランザクション番号を検索します。このパラメーターは、**-b**、**-c**、**-f**、および **-r RMID** の各パラメーターを使用する場合に必須です。また、使用する場合は最後のパラメーターにする必要があります。

戻りコード

戻りコード 説明

0	正常な操作です。
26	キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして実行中です。
32	トランザクションが解決できませんでした。
34	リソース・マネージャーが認識されていません。
34	リソース・マネージャーは永続的に利用できないわけではありません。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
85	トランザクションが認識されていません。

関連コマンド

コマンド	説明
dspmqtrn	準備済みトランザクションのリストを表示します。

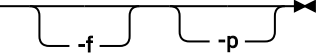
runmqccred (mqccred 出口のためのパスワードの難読化)

mqccred セキュリティー出口で使用する .ini ファイル内のパスワードを難読化します。

目的

runmqccred コマンドを使用して **mqccred** 出口の .ini ファイルを処理すると、すべてのプレーン・テキストのパスワードを難読化形式に変更できます。 出口を正常に実行するためには、.ini を出口で使用する前に、このコマンドを実行する必要があります。

構文

➡ runmqccred 

オプション・パラメーター

-f

編集する特定のファイル (デフォルトのファイル以外) を指定します。

デフォルトでは、プログラムはチャンネル出口と同じ方法で .ini ファイルを見つけます。

-p

デフォルトでは、編集後のファイルに他のユーザーがアクセスできるようなファイル・モードになっていると、プログラムはエラーを出して失敗します。

-p フラグを使用すると、このエラーが出た場合でも処理を続行できます。

例えば、(同じ .ini ファイルを複数のアカウントで共有するために) NFS などのプロトコルを使用して UNIX ファイル・システムを Windows マシンにマウントし、そこから .ini ファイルを使用するような場合に、このフラグが必要になることがあります。

NFS は Windows NTFS アクセス制御リストをサポートしないので、アクセス権チェックをバイパスしない限り、出口は失敗します。

使用上の注意

runmqccred プログラムはチャンネル出口と同じ方法で ini ファイルを見つけます。また、プログラムは、変更するファイル、および成功/失敗の状況を示すコンソール・メッセージを書き出します。

チャンネル出口は **Password** 属性でも **OPW** 属性でも機能しますが、ユーザーがパスワードを保護することを想定しています。

重要: **runmqccred** プログラムは IBM MQ 8.0 からのみ実行できます。これより前のバージョンを実行しているシステムでクライアントを使用する場合には、プログラムをバージョン 8.0 システムで実行してから、出力された .ini ファイルを手動でそこに転送する必要があります。

デフォルトでは、出口は、ファイルにプレーン・テキストのパスワードが含まれていない場合にのみ機能します。これは **NOCHECKS SCYDATA** オプションを使用して指定変更できます。

また、**runmqccred** プログラムは、他のユーザーからのアクセスを不要に許可するアクセス権が .ini ファイルに設定されていないか確認します。デフォルトでは、他のユーザーがアクセスできるファイル・モードになっていると、プログラムはエラーを出して失敗します。**-p** フラグを使用すると、このエラーが出た場合でも処理を続行できます。

runmqccred プログラムは以下のフォルダーにインストールされます。

Windows プラットフォーム

<installation directory>\Tools\c\Samples\mqccred\

UNIX プラットフォーム

<installation directory>/usr/mqm/samp/mqccred/

ファイルのアクセス権によるセキュリティ保護が十分でない場合、**runmqccred** は次のメッセージを生成します。

```
Configuration file 'C:\Users\User1\.mqsc\mqccred.ini' is not secure.  
Other users may be able to read it. No changes have been made to the file.  
Use the -p option for runmqccred to bypass this error.
```

この問題は **-p** フラグを使用して回避できますが、この問題を解決せずに実動環境に移行すると、出口の実行は失敗します。**runmqccred** の実行が正常に終了すると、難読化されたパスワードの数が通知されます。

```
File 'C:\Users\User1\.mqsc\mqccred.in' processed successfully.  
Plaintext passwords found: 3
```

runmqchi

チャンネルの開始を自動化するためのチャンネル・イニシエーターのプロセスを実行します。

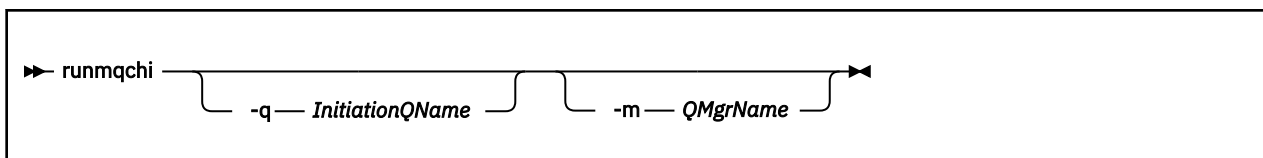
目的

runmqchi コマンドは、チャンネル・イニシエーターのプロセスを実行するために使用します。

runmqchi コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境から使用する必要があります。**dspmqr -o installation** コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

チャンネル・イニシエーターは、キュー・マネージャーの一部としてデフォルトで始動します。

構文



オプション・パラメーター

-q InitiationQName

このチャンネル・イニシエーターによって処理される開始キューの名前。省略した場合、SYSTEM.CHANNEL.INITQ が使用されます。

-m QMgrName

開始キューが存在しているキュー・マネージャーの名前。この名前を省略すると、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

戻りコード

戻りコード	説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

戻りコードの 10 か 20 が戻されるようなエラーが発生した場合、チャンネルが関連付けられているキュー・マネージャーのエラー・ログを使ってエラー・メッセージを調べてください。さらに、システム・エラー・ログを使ってチャンネルがキュー・マネージャーに関連付けられる前に生じた問題についての記録を調べてください。エラー・ログについて詳しくは、[エラー・ログ・ディレクトリー](#)を参照してください。

runmqchl

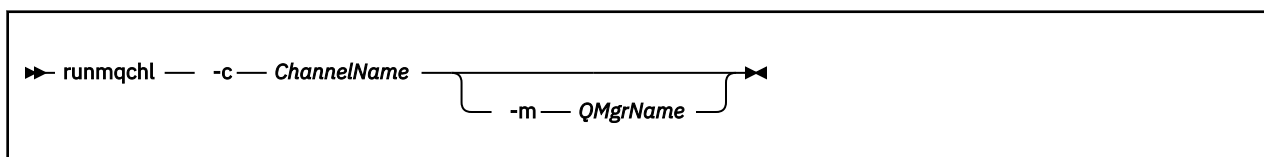
送信側チャンネルまたは要求側チャンネルを開始します。

目的

runmqchl コマンドは、送信側 (SDR) チャンネルまたは 要求側 (RQSTR) チャンネルを実行する場合に使用します。

チャンネルは同期を取って実行されます。チャンネルを停止するには、MQSC コマンド STOP CHANNEL を発行します。

構文



必要なパラメーター

-c ChannelName

実行するチャンネルの名前。

オプション・パラメーター

-m QMgrName

このチャンネルが関連付けられているキュー・マネージャーの名前。この名前を省略すると、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

戻りコード

戻りコード	説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

戻りコードの 10 または 20 が出た場合、関連したキュー・マネージャーのエラー・ログを使って、エラー・メッセージを調べてください。さらに、システム・エラー・ログを使ってチャンネルがキュー・マネージャーに関連付けられる前に生じた問題についての記録を調べてください。

runmqdlq

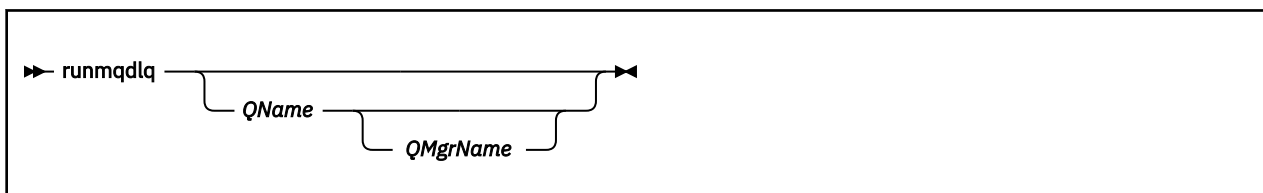
送達不能キュー・ハンドラーを開始して、送達不能キューのメッセージをモニターおよび処理します。

目的

runmqdlq コマンドは、送達不能キュー (DLQ) ハンドラーを開始するために使用します。このハンドラーは、送達不能キューのメッセージのモニターと処理を行います。

このコマンドはサーバーで使用されます。クライアント・モードを使用する場合は、クライアント・モードで **amqsdlq** をコンパイルしてください。詳しくは、[サンプル DLQ ハンドラー amqsdlq](#) を参照してください。

構文



説明

メッセージの選択、およびそのメッセージに関して実行される処理の定義の両方を行える一組のルールを指定することによって、送達不能キュー・ハンドラーを使用して、選択したメッセージに関するさまざまな処理を実行できます。

runmqdlq コマンドは、その入力を stdin から受け取ります。コマンドが処理されると、結果と要約がレポートに書き込まれ、stdout に送られます。

stdin をキーボードから受け取ることによって、runmqdlq ルールを対話形式で入力できます。

入力をファイルから転送することによって、指定したキューにルール・テーブルを適用できます。ルール・テーブルには、ルールが少なくとも 1 つはなければなりません。

ファイル (規則表) からの stdin を転送せずに DLQ ハンドラーを使用すると、DLQ ハンドラーは入力をキーボードから読み取ります。IBM MQ for AIX、Solaris、HP-UX、および Linux では、DLQ ハンドラーは end_of_file (Ctrl+D) 文字を受け取るまで、指定されたキューの処理を開始しません。IBM MQ for Windows では、次のキー・シーケンス (Ctrl+Z、Enter、Ctrl+Z、Enter) を押すまで、指定されたキューの処理を開始しません。

ルール・テーブルの詳細とその構成方法については、[DLQ ハンドラーの規則テーブル](#)を参照してください。

オプション・パラメーター

注釈行と行結合に関する MQSC コマンドのルールは、DLQ ハンドラーの入力パラメーターにも適用されます。

QName

処理されるキューの名前。

名前を省略した場合、ローカル・キュー・マネージャーに定義した送達不能キューが使用されます。1 つ以上のブランク (') を入力した場合は、ローカル・キュー・マネージャーの送達不能キューが明示的に割り当てられます。

QMgrName

処理するキューを所有するキュー・マネージャーの名前。

この名前を省略すると、インストールのためのデフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。1 つ以上のブランク (') を入力した場合は、このインストール済み環境でのデフォルト・キュー・マネージャーが明示的に割り当てられます。

runmqdnm

.NET モニター を使用して、キュー上のメッセージの処理を開始します (Windows のみ)。

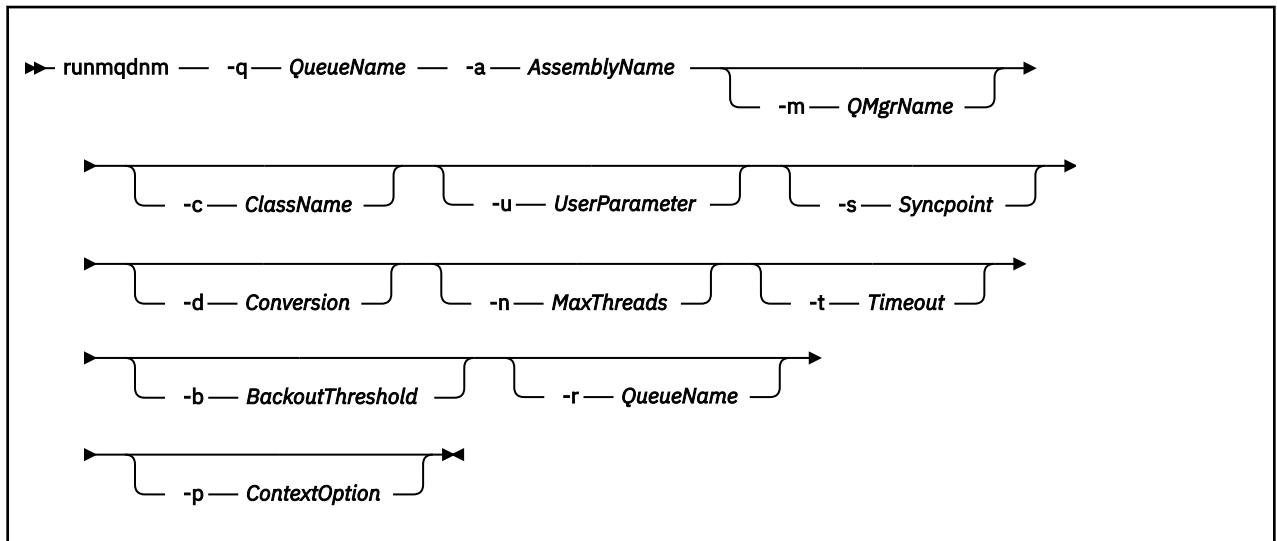
目的

注: runmqdnm コマンドは、IBM MQ for Windows にのみ適用されます。

runmqdnm は、コマンド行から、またはトリガーされたアプリケーションとして実行できます。

runmqdnm 制御コマンドを使用して、.NET モニターによるアプリケーション・キュー上のメッセージの処理を開始します。

構文



必要なパラメーター

-q QueueName

モニターするアプリケーション・キューの名前。

-a AssemblyName

.NET アセンブリの名前。

オプション・パラメーター

-m QMgrName

アプリケーション・キューをホストするキュー・マネージャーの名前。

省略すると、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

-c ClassName

IMQObjectTrigger インターフェースを実装する .NET クラスの名前。このクラスは、指定されたアセンブリに常駐する必要があります。

省略すると、指定されたアセンブリが検索され、IMQObjectTrigger インターフェースを実装するクラスが識別されます。

- ・クラスが1つ検出されると、ClassName はそのクラスの名前を取ります。
- ・クラスが検出されないか、複数のクラスが検出された場合は、.NET モニターが開始されず、メッセージがコンソールに書き出されます。

-u UserData

ユーザー定義のデータ。このデータは、.NET モニターが呼び出したときに Execute メソッドに渡されます。ユーザー・データに含めることができるのは ASCII 文字だけです。二重引用符、NULL、復帰文字を含めることはできません。

省略すると、実行メソッドに NULL が渡されます。

-s Syncpoint

メッセージがアプリケーション・キューから取得されるときに、同期点制御が必要かどうかを指定します。指定可能な値は以下のとおりです。

表 27. Syncpoint パラメーターの値。	
値	説明
YES	メッセージは、同期点制御 (MQGMO_SYNCPOINT) に従って取得されます。
NO	メッセージは、同期点制御 (MQGMO_NO_SYNCPOINT) に従って取得されません。
PERSISTENT	持続メッセージは、同期点制御 (MQGMO_SYNCPOINT_IF_PERSISTENT) に従って取得されます。

省略すると、Syncpoint の値は、使用しているトランザクション・モデルによって決まります。

- ・分散トランザクション調整 (DTC) を使用している場合は、Syncpoint が YES に指定されます。
- ・分散トランザクション調整 (DTC) を使用していない場合は、Syncpoint が PERSISTENT に指定されます。

-d Conversion

メッセージがアプリケーション・キューから取得されるときに、データ変換が必要かどうかを指定します。指定可能な値は以下のとおりです。

表 28. Conversion パラメーターの値。	
値	説明
YES	データ変換が必要 (MQGMO_CONVERT)。
NO	データ変換が不要 (指定された取得メッセージ・オプションなし)。

省略すると、Conversion は NO に指定されます。

-n MaxThreads

アクティブ・ワーカー・スレッドの最大数。

省略すると、MaxThreads が 20 に指定されます。

-t Timeout

アプリケーション・キューに後続のメッセージが到着するのを .NET モニター が待機する時間 (秒数)。-1 を指定すると、.NET モニターは無期限に待機します。

省略すると、コマンド行から実行されたときに、.NET モニターは無期限に待機します。

省略すると、起動されたアプリケーションとして実行されるときに、.NET モニターは 10 秒間待機します。

-b BackoutThreshold

アプリケーション・キューから取得されるメッセージのバックアウトしきい値を指定します。指定可能な値は以下のとおりです。

表 29. <i>BackoutThreshold</i> パラメーターの値。	
値	説明
-1	バックアウトしきい値は、アプリケーション・キュー属性 BOTHRESH から取られます。
0	バックアウトしきい値は設定されていません。
1 以上	バックアウトしきい値を明示的に設定します。

省略すると、*BackoutThreshold* が -1 に指定されます。

-r QueueName

バックアウト数がバックアウトしきい値を超えたとき、メッセージが置かれるキュー。

省略すると、*QueueName* の値は、アプリケーション・キューからの **BOQNAME** 属性の値によって決まります。

- **BOQNAME** が非ブランクの場合、*QueueName* は **BOQNAME** の値を取ります。
- **BOQNAME** がブランクの場合、*QueueName* はキュー・マネージャーの送達不能キューとして指定されます。送達不能キューがキュー・マネージャーに割り当てられていない場合は、バックアウト処理が使用不可になります。

-p ContextOption

バックアウトされているメッセージからのコンテキスト情報を、バックアウトされたメッセージに渡すかどうかを指定します。指定可能な値は以下のとおりです。

表 30. <i>ContextOption</i> パラメーターの値。	
値	説明
NONE	コンテキスト情報は渡されません。
IDENTITY	アイデンティティ・コンテキスト情報のみが渡されます。
ALL	すべてのコンテキスト情報が渡されます。

省略すると、*ContextOption* が **ALL** に指定されます。

戻りコード

戻りコード 説明

0	正常な操作です。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
133	オブジェクト名の不明エラーです。

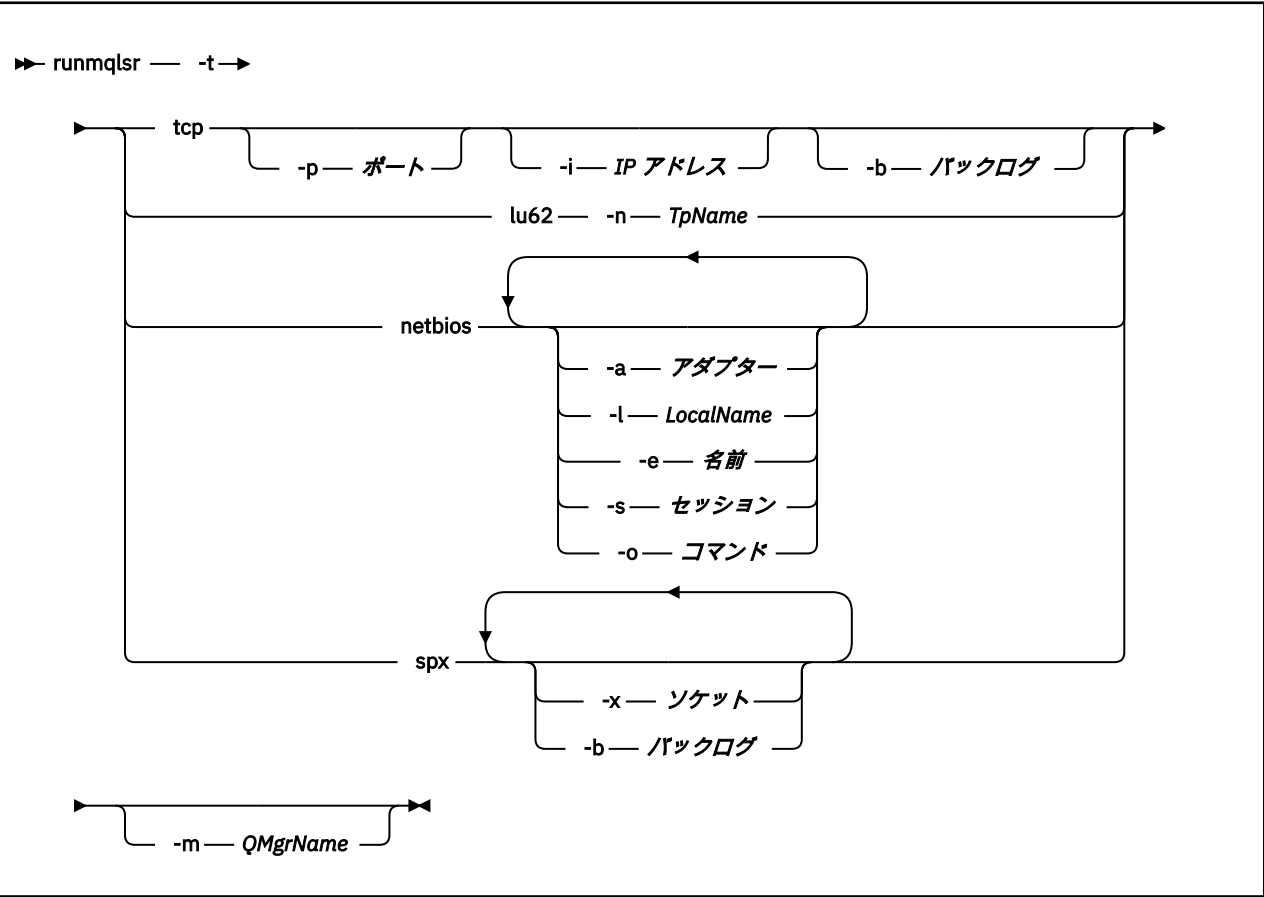
runmqlsr

リスナー・プロセスを実行して、さまざまな通信プロトコルでリモート要求を listen します。

目的

runmqlsr コマンドは、リスナー・プロセスを開始する場合に使用します。
このコマンドは同期的に実行され、リスナー・プロセスが終了するまで待機してから呼び出し元に戻ります。

構文



必要なパラメーター

-t
使用する伝送プロトコル。

表 31. 伝送プロトコル値	
ヘッダー	ヘッダー
tcp	伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP)
lu62	SNA LU 6.2 (Windows のみ)
netbios	NetBIOS (Windows のみ)
spx	SPX (Windows のみ)

オプション・パラメーター

-p Port

TCP/IP のポート番号。このフラグは TCP に対してのみ有効です。ポート番号を省略した場合、キュー・マネージャー構成情報から、またはプログラムの中のデフォルトから値が取られます。デフォルト値は 1414 です。65535 を超えることはできません。

-i IPAddr

次のいずれかの形式で指定された、リスナーの IP アドレス。

- IPv4 ドット 10 進数
- IPv6 16 進表記
- 英数字形式

このフラグは TCP/IP に対してのみ有効です。

IPv4 と IPv6 の両方に対応するシステムでは、2 つの異なるリスナーを実行することによってトラフィックを分割できます。一方ではすべての IPv4 アドレスを `listen` し、もう一方ではすべての IPv6 アドレスを `listen` します。このパラメーターを省略すると、リスナーは構成済みのすべての IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスを `listen` します。

-n TpName

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。このフラグは、LU 6.2 伝送プロトコルの場合にのみ有効です。名前を省略した場合、キュー・マネージャー構成情報から名前が取得されます。

-a Adapter

NetBIOS が `listen` するアダプター番号。デフォルトでは、リスナーはアダプター 0 を使用します。

-l LocalName

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。デフォルトは、キュー・マネージャー構成情報に指定されています。

-e Names

リスナーが使用できる名前の数。デフォルト値は、キュー・マネージャー構成情報に指定されています。

-s Sessions

リスナーが使用できるセッションの数。デフォルト値は、キュー・マネージャー構成情報に指定されています。

-o Commands

リスナーが使用できるコマンドの数。デフォルト値は、キュー・マネージャー構成情報に指定されています。

-x Socket

SPX が `listen` する SPX ソケット。デフォルト値は、16 進数の 5E86 です。

-m QMgrName

キュー・マネージャーの名前。デフォルトでは、コマンドはデフォルトのキュー・マネージャーに対して操作を実行します。

-b Backlog

リスナーがサポートする並行接続要求の数。デフォルト値のリストおよび補足情報については、[TCP](#)、[LU62](#)、[NETBIOS](#)、[SPX](#) を参照してください。

戻りコード

戻りコード	説明

0	コマンドは正常に終了しました。
4	endmq1sr コマンドで終了された後にコマンドが完了しました。

戻りコード 説明

10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。AMQMSRVN プロセスは始動しませんでした。

例

次のコマンドでは、デフォルト・キュー・マネージャー 上で NetBIOS プロトコルを使用するリスナーを実行します。リスナーは最大で 5 つの名前、5 つのコマンド、および 5 つのセッションを使用することができます。これらのリソースは、キュー・マネージャー構成情報に設定された制限範囲内でなければなりません。

```
runmqqlsr -t netbios -e 5 -s 5 -o 5
```

runmqgras

runmqgras コマンドを使用して、IBM MQ のトラブルシューティング情報 (MustGather データ) を 1 つのアーカイブにまとめて収集します。例えば、IBM サポートに送信します。

目的

runmqgras コマンドは、マシンから単一のアーカイブにトラブルシューティング情報を収集するために使用します。このコマンドを使用すると、アプリケーションまたは IBM MQ のエラーに関する情報を収集できます。この情報は、例えば、問題を報告するときに IBM に送信したりできます。

デフォルトで、**runmqgras** は次のような情報を収集します。

- IBM MQ FDC ファイル。
- エラー・ログ (マシン全体の IBM MQ エラー・ログに加えて、すべてのキュー・マネージャーからの)
- 製品のバージョン、状況情報、および他のさまざまなオペレーティング・システム・コマンドの出力。

runmqgras コマンドは、例えばキュー上のメッセージに含まれるユーザー情報は収集しないことに注意してください。

一般的な問題診断の開始点として、追加のセクションを要求せずに実行することが可能です。ただし、コマンド行で追加の *sections* を要求することもできます。

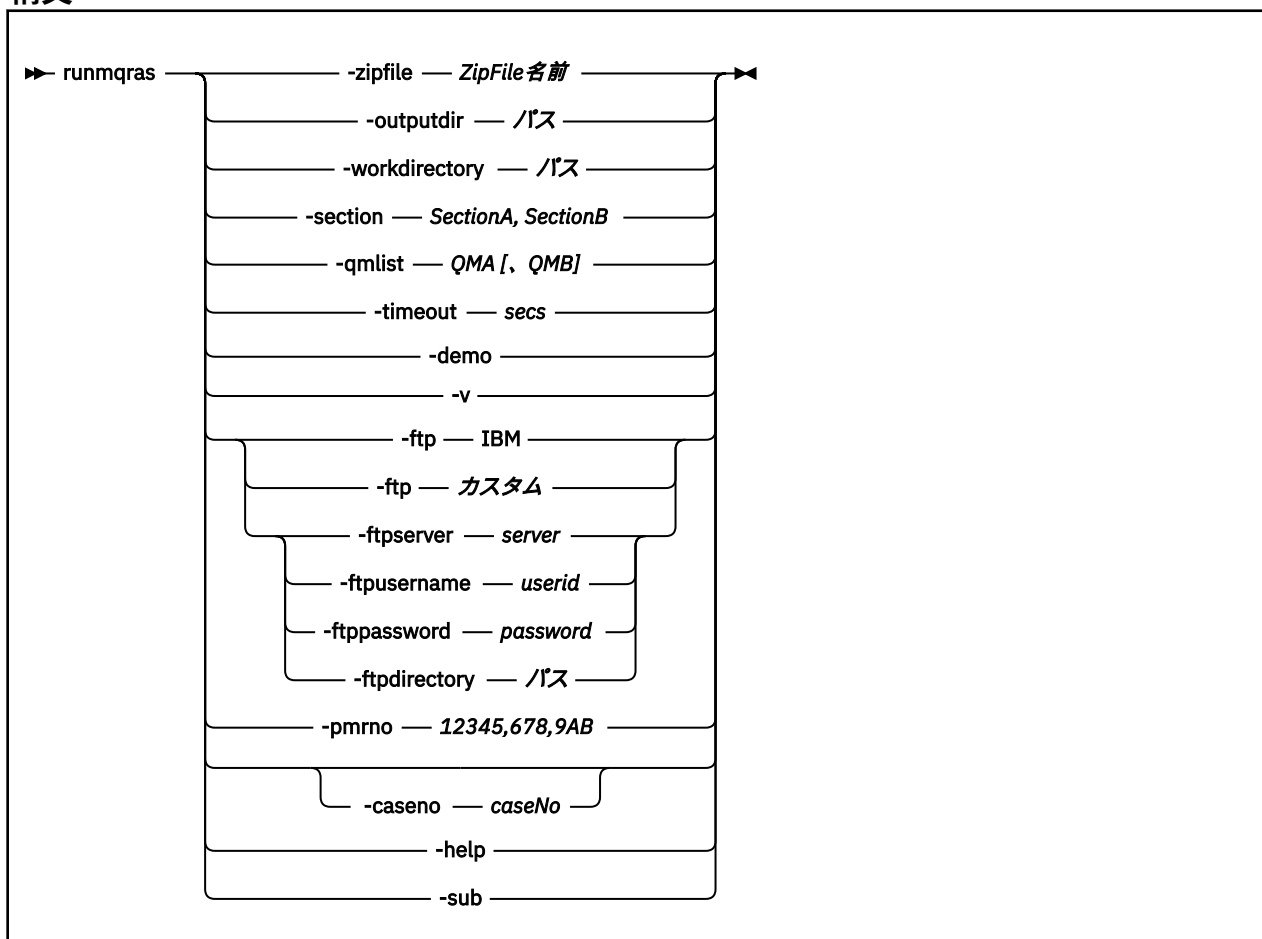
このような追加の *sections* は、診断対象の問題の種類に応じて、より詳細な情報を収集します。IBM サポート担当員がデフォルト以外のセクションを必要とする場合は、担当員からその旨、通知されます。

runmqgras コマンドは、任意のユーザー ID で実行できますが、そのユーザー ID が手動で収集することのできる情報だけがコマンドによって収集されます。一般的に、IBM MQ の問題をデバッグするときには、このコマンドによってキュー・マネージャー・ファイルとコマンド出力を収集できるよう、mqm ユーザー ID でコマンドを実行してください。

    IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 9 以降、**runmqgras** コマンドはデフォルトで環境変数情報を取得します。この情報は、Linux、Solaris、AIX に適用されます。

  IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 9 以降、**runmqgras** コマンドはデフォルトでキュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーのリストを取得します。これは分散プラットフォームに適用されます。

構文



キーワードおよびパラメーター

オプションであると記述されていない限り、パラメーターはすべて必須です。

すべての場合に、QMgrName は、コマンドが適用されるキュー・マネージャーの名前です。

-zipfile ZipFileName

結果として生成されるアーカイブのファイル名を指定します。

デフォルトでは、出力アーカイブの名前は `runmqgras.zip` です。

-outputdir path

結果として生成される出力ファイルが置かれるディレクトリー。

デフォルトでは、出力ディレクトリーは作業ディレクトリーと同じです。

-workdirectory path

ツールの処理中に実行されるコマンドからの出力を保管するために使用されるディレクトリー。これを指定する場合、そのディレクトリーがまだ存在しないか、または空である必要があります (前者の場合にはそれが作成されます)。

パスを指定しない場合、UNIX システムでは `/tmp` の下のディレクトリーが使用され、Windows では `%temp%` の下のディレクトリーが使用されます (その名前は `runmqgras` で始まり、日時が接尾部として付加されます)。

-section SectionA, SectionB

より具体的な情報を収集する対象を示すセクション (オプション)。セクション間の区切り文字として、スペースを入れずにコンマを使用する必要があります。以下に例を示します。

```
runmqgras -qmlist ESBSTGAPPQMVH2 -section defs,trace,cluster -caseno TEST123
```

デフォルトでは、ドキュメンテーションの一般的なセクションを収集しますが、特定の問題タイプに関するより具体的な情報を収集することもできます。例えば *trace* というセクション名を指定すると、トレース・ディレクトリーのすべての内容を収集できます。

デフォルトのコレクションを収集しないようにするには、セクション名として *nodefault* を指定します。

どのセクションを使用すべきかについては、通常、IBM サポートから指定されます。使用可能なセクションの例は、次のとおりです。

all

可能な限りすべての情報を収集します。その中には、すべてのトレース・ファイルと、さまざまなタイプの問題に関する診断情報が含まれます。このオプションは特定の状況でのみ使用してください。このオプションは一般用途向けではありません。

default

IBM MQ ログ、FDC ファイル、基本構成、および状況。

注: セクション名 **nodefault** を使用する場合を除き、常に収集されます。現在の環境 (Linux 上の *env.stdout*、UNIX および IBM i、および Windows 上の *set.stdout* に保存されている) および現在のユーザー制限 (Linux および UNIX 上の *mqconfig.stdout* に保存されている) に関する一部の情報は、**runmqras** コマンドによって変更される可能性があります。必要に応じて、ご使用の環境で **env**、**set**、または **mqconfig** コマンドを手動で実行して、実際の値を確認します。

nodefault

デフォルトの収集が行われなくなりますが、明示的に要求した他のセクションは収集されます。

トレース

すべてのトレース・ファイルの情報と、デフォルトの情報を収集します。

注: トレースを有効にしません。

defs

キュー・マネージャー定義と状況情報を収集します。

クラスター

クラスター構成とキュー情報を収集します。

dap

トランザクションと持続性についての情報を収集します。

kernel

キュー・マネージャーのカーネル情報を収集します。

logger

リカバリー・ロギング情報を収集します。

トピック

トピック・ツリー情報を収集します。

QMGR

すべてのキュー・マネージャー・ファイル (キュー、ログ、および構成ファイル) を収集します。

V 8.0.0.9 leak

IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 9 以降、IBM MQ プロセス・リソースの使用状況の情報を収集します。

  このセクションは、Linux、HP-UX、Solaris、および AIX に適用されます。

V 8.0.0.8 mft

IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 8 以降、**fteRas** コマンドにより取得したデータを取り込みます。

注: **-section mft** は、デフォルト調整キュー・マネージャー・トポロジーの情報のみを収集します。

詳しくは、IBM MQ **runmqras** コマンドを使用したデータ収集に関する IBM 技術情報の [セクション名と説明](#)を参照してください。

-qmlist QMA[,QMB]

runmqras コマンドの実行対象となるキュー・マネージャーの名前リスト。

このパラメーターは、クライアント製品には適用されません。直接出力の要求元となるキュー・マネージャーが存在しないためです。

コンマ区切りリストを指定することで、各キュー・マネージャーに対する反復実行を、リスト上の特定のキュー・マネージャーに限定することができます。デフォルトでは、すべてのキュー・マネージャーに対してコマンドが反復実行されます。

-timeout secs

個々のコマンドに適用されるデフォルトのタイムアウト。この時間が経つと、コマンドは完了の待機を停止します。

デフォルトでは、タイムアウトとして 10 秒が使用されます。値ゼロは、無制限に待機することを意味します。

-demo

デモンストレーション・モードで実行します。この場合、コマンドは処理されず、ファイルは収集されません。

デモンストレーション・モードで実行することにより、どんなコマンドが処理されることになっていたか、どんなファイルが収集されることになっていたかを正確に確認できます。出力 **.zip** ファイルに含まれる **console.log** ファイルは、コマンドが通常の方法で実行された場合に何が処理/収集されることになっていたかを正確に示します。

-v

出力 **.zip** ファイルに含められる **console.log** ファイルに記録する情報の量を拡張します。

-ftp ibm/custom

収集されるアーカイブを、基本的な FTP を介してリモート宛先に送信できるようにします。

処理の終わりに、基本的な FTP を介して結果のアーカイブを送信できます。IBM に直接送信することもできますし、お客様の選んだサイトに送信することもできます。**ibm** オプションを選択した場合、IBM ECuRep サーバーにアーカイブを送信するために匿名 FTP が使用されます。このプロセスは、FTP を使って手動でファイルを提出する場合と同じです。

なお、**ibm** オプションを選択する場合には、**pmrno** オプションも指定する必要があり、他のすべての FTP* オプションは無視されます。

-ftpserver server

FTP カスタム・オプションを使用する場合の接続先となる FTP サーバー名。

-ftpusername userid

FTP カスタム・オプションを使用する場合に FTP サーバーにログインするためのユーザー ID。

-ftppassword password

FTP カスタム・オプションを使用する場合に FTP サーバーにログインするためのパスワード。

-ftpdirectory path

結果として生成される **.zip** ファイルの格納場所となる FTP サーバー上のディレクトリー (FTP カスタム・オプションを使用する場合にこれが使用されます)。

-pmrno 12345,678,9AB

ドキュメンテーションに関連付けられる有効な IBM PMR 番号 (問題記録番号)。

このオプションを使用して、出力の接頭部として PMR 番号を付けてください。これにより、IBM に情報を送ると、その問題記録が情報に自動的に関連付けられます。

V 8.0.0.10 -caseno caseNo

有効な Salesforce ケース番号。

このオプションを使用して、出力の接頭部として PMR 番号を付けてください。これにより、IBM に情報を送ると、その問題記録が情報に自動的に関連付けられます。

注：**-caseno** は **-pmrno** と同等です。両方ともオプション・パラメーターですが、両方を一緒に指定することはできません。

-help

簡単なヘルプを表示します。

-sub

xml で置換されるキーワードを示します。

例

以下のコマンドは、マシン上の IBM MQ インストール済み環境およびすべてのキュー・マネージャーからデフォルト・ドキュメンテーションを収集します。

```
runmqgras
```

以下のコマンドは、マシン上の IBM MQ インストール済み環境からデフォルト・ドキュメンテーションを収集し、それを PMR 番号 11111,222,333 に関連付け、基本的な FTP 機能を使用して IBM に直接送信します。

```
runmqgras -ftp ibm -pmrno 11111,222,333
```

以下のコマンドは、マシンからのデフォルト・ドキュメンテーションに加えて、すべてのトレース・ファイル、キュー・マネージャー定義、およびマシン上の全キュー・マネージャーの状況を収集します。

```
runmqgras -section trace,defs
```

戻りコード

ゼロ以外の戻りコードは、失敗を示します。

runmqsc

キュー・マネージャーで IBM MQ コマンドを実行します。

目的

runmqsc コマンドは、キュー・マネージャーに対して MQSC コマンドを出すために使用します。MQSC コマンドを使用することによって、管理タスクを実行できます。例えば、ローカル・キュー・オブジェクトの定義、変更、または削除を実行できます。MQSC コマンドおよびその構文については、[MQSC コマンド](#)で説明しています。

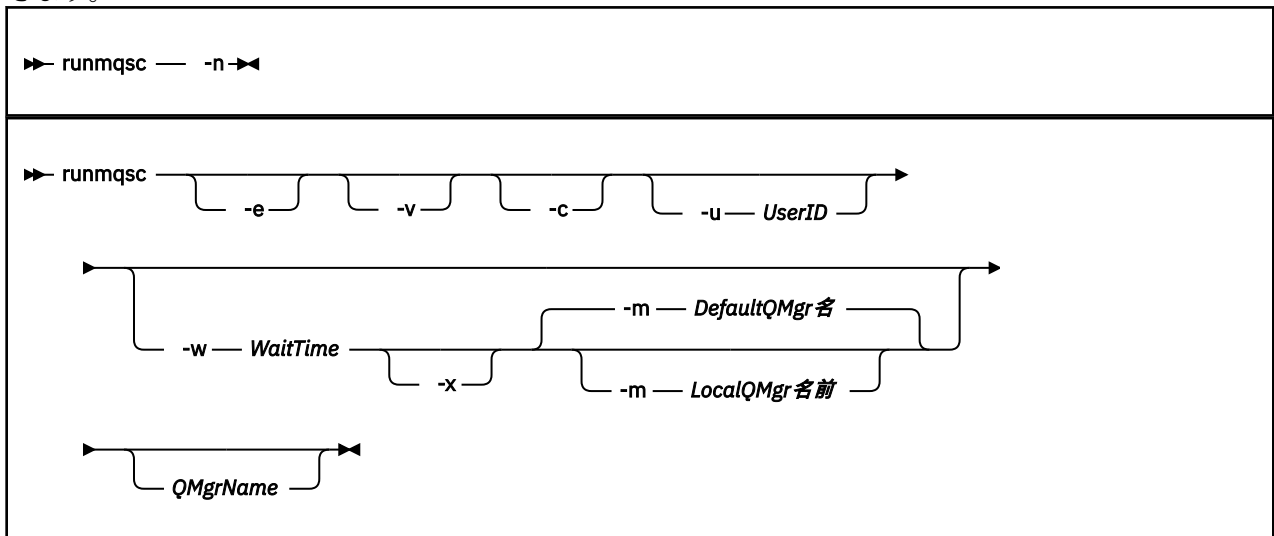
runmqsc コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境から使用する必要があります。**dspmq -o installation** コマンドを使用して、どのインストールがキュー・マネージャーと関連しているかを調べることができます。

runmqsc コマンドを停止するには、**end** コマンドを使用します。あるいは、**exit** コマンドまたは **quit** コマンドを使用することもできます。

IBM MQ 8.0 以降、MQPROMPT 環境変数を使用して任意のプロンプトを設定できます。これにより、MQSC 環境に入ったことが簡単にわかり、現在の環境の詳細も確認できます。詳しくは、[MQSC コマンドによるローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

構文

-n パラメーターを単独で使用することも、複数のその他のパラメーターを組み合わせることもできます。



説明

次の 3 つの方法で、**runmqsc** コマンドを開始することができます。

コマンドの検証

MQSC コマンドを検証するだけで、実行はしません。各コマンドが正常に実行されるか失敗するかを示す出力レポートが生成されます。このモードは、ローカル・キュー・マネージャーでのみ使用できます。

コマンドの直接実行

MQSC コマンドをローカル・キュー・マネージャーに直接送ります。

コマンドの間接実行

MQSC コマンドは、リモート・キュー・マネージャーで実行されます。これらのコマンドは、リモート・キュー・マネージャーのコマンド・キューに書き込まれ、キューに書き込まれた順序で実行されます。コマンドからのレポートは、ローカル・キュー・マネージャーに戻されます。

runmqsc コマンドは、stdin から入力を取り入れます。コマンドが処理されると、結果と要約がレポートに書き込まれ、そのレポートは stdout に送られます。

stdin がキーボードである場合は、MQSC コマンドを対話形式で入力できます。

ファイルからの入力を転送することにより、ファイルに入っている使用頻度の高い一連のコマンドを実行できます。出力レポートをファイルに転送することもできます。

オプション・パラメーター

-c

クライアント接続を使用してキュー・マネージャーに接続するように **runmqsc** コマンドを変更します。キュー・マネージャーに接続するため使用するクライアント・チャンネル定義を配置するときには、環境変数 **MQSERVER**、**MQCHLLIB**、および **MQCHLTAB** を、この優先順位で使用します。

このオプションでは、クライアントをインストールする必要があります。これがインストールされていないと、クライアント・ライブラリーが欠落していることを報告するエラー・メッセージが発行されます。

-e

MQSC のソース・テキストがレポートにコピーできないようにします。このパラメーターは、対話形式でコマンドを入力する場合に便利です。

-m LocalQMgrName

リモート・キュー・マネージャーへのコマンドの実行依頼に使用する ローカル・キュー・マネージャー。このパラメーターを省略すると、リモート・キュー・マネージャーへのコマンドの実行依頼には、デフォルトのローカル・キュー・マネージャーが使用されます。 **-w** パラメーターも指定する必要があります。

-n

キュー・マネージャーに接続しないように **runmqsc** コマンドを変更します。このパラメーターを指定した場合、その他のすべてのコマンド・パラメーターを省略する必要があります。そうしないと、エラー・メッセージが発行されます。

このオプションでは、クライアント・ライブラリーをインストールする必要があります。インストールされていない場合、エラー・メッセージが発行されます。

このモードで入力した MQSC コマンドは、ローカル・チャンネル定義ファイルの管理に限定されます。このファイルは、環境変数 **MQCHLLIB** および **MQCHLTAB** を使用して配置されます。これらが定義されていない場合はデフォルト値が使用されます。

注: ローカル・チャンネル定義ファイルに新しい項目を追加した場合、または既存の項目を変更した場合でも、これらの変更はキュー・マネージャー内部に反映されません。キュー・マネージャーはローカル・チャンネル定義ファイルの内容を読み取りません。キュー・マネージャーから見れば、CCDT ファイルは書き込み専用ファイルです。キュー・マネージャーは CCDT ファイルの内容を読み取りません。

認識されるのは、次の MQSC コマンドのみです。

ALTER, DEFINE, DELETE, DISPLAY AUTHINFO (タイプ CRLLDAP と OCSF のみ)

ALTER, DEFINE, DELETE, DISPLAY CHANNEL (タイプ CLNTCONN のみ)

AUTHINFO 管理コマンドの場合、既存の AUTHINFO 定義の名前は、名前 CRLLDAP *n* または OCSF *n* (タイプによる) を使用してマップおよびアドレス指定されます。ここで、*n* は、チャンネル定義ファイルに表示される番号順です。新しい AUTHINFO 定義は、クライアント・チャンネル・テーブルに順番に追加されます。例えば、次のコマンドが発行されたとします。

```
DEFINE AUTHINFO(XYZ) AUTHTYPE(CRLLDAP) CONNAME('xyz')
DEFINE AUTHINFO(ABC) AUTHTYPE(CRLLDAP) CONNAME('abc')
```

これは、'xyz' LDAP サーバーに CRL があるかどうかを最初に検査し、その CRL サーバーが使用不可である場合、次に 'abc' サーバーを検査します。

DISPLAY AUTHINFO(*) CONNAME コマンドを発行すると、次のように表示されます。

```
AMQ8566: Display authentication information details.
AUTHINFO(CRLLDAP1)
AUTHTYPE(CRLLDAP)          CONNAME(xyz)
AMQ8566: Display authentication information details.
AUTHINFO(CRLLDAP2)
AUTHTYPE(CRLLDAP)          CONNAME(abc)
```

注: クライアント・モードでは、クライアント・チャンネル・テーブルの末尾に新しい項目を挿入する操作のみがサポートされます。CRL LDAP サーバーの優先順位を変更する場合、既存のオブジェクトをリストから除去し、そのオブジェクトを正しい順序で末尾に再挿入する必要があります。

-u UserID

-u パラメーターを使用してユーザー ID を指定する場合、対応するパスワードを求めるプロンプトが出されます。

CHKLOCL(REQUIRED) または CHKLOCL(REQDADM) を指定して CONNAUTH AUTHINFO レコードを構成した場合、**-u** パラメーターを使用する必要があります。このパラメーターを使用しないと **runmqsc** でキュー・マネージャーを管理することはできません。

-v

アクションを実行しないで、指定のコマンドを確認します。このモードを使用できるのは、ローカル側のみです。パラメーター **-w** および **-x** は、**-v** と同時に指定した場合は、無視されます。

重要: **-v** フラグを設定した場合は、コマンドの構文のみが検査されます。このフラグを設定すると、コマンドに示されたオブジェクトが実際に存在するかどうかは検査されません。

例えば、キュー **Q1** がキュー・マネージャーに存在しない場合、次のコマンドは構文的に正しく、構文エラーは生成されません: `runmqsc -v Qmgr display ql(Q1)`。

一方、**-v** フラグを省略した場合は、エラー・メッセージ **AMQ8147** を受け取ります。

-w WaitTime

MQSC コマンドを他のキュー・マネージャーで実行します。このためには、必要なチャンネルと伝送キューがセットアップされている必要があります。詳しくは、[リモート管理のためにチャンネルおよび伝送キューを作成する](#)を参照してください。

-v パラメーターを指定した場合、このパラメーターは無視されます。

WaitTime

runmqsc が応答を待つ秒単位での時間。この時間が経過した後に受け取る応答は破棄されますが、**MQSC** コマンドはまだ実行します。1 から 999999 の範囲で時間を指定してください。

各コマンドは、Escape PCF として、ターゲット・キュー・マネージャーの コマンド・キュー (SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE) へ送られます。

応答キューは SYSTEM.MQSC.REPLY.QUEUE に入れられ、結果はレポートに追加されます。これは、ローカル・キューまたはモデル・キューとして定義できます。

-x

ターゲット・キュー・マネージャーが z/OS の下で実行しています。このパラメーターは、間接モードでしか適用されません。 **-w** パラメーターも指定する必要があります。間接モードでは、**MQSC** コマンドは IBM MQ for z/OS のコマンド・キューに適した形式で書き込まれます。

QMgrName

MQSC コマンドを実行するターゲット・キュー・マネージャーの名前。指定しない場合、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

戻りコード

戻りコード 説明

00	MQSC コマンド・ファイルは正常に処理されました
10	MQSC コマンド・ファイルは処理されましたが、エラーが発生しました。レポートの中にコマンドの失敗の理由が記述されています。
20	エラー。MQSC コマンド・ファイルが実行されません。

例

1. 次のコマンドをコマンド・プロンプトに入力します。

```
runmqsc
```

これで、コマンド・プロンプトに **MQSC** コマンドを直接入力できるようになります。キュー・マネージャー名は指定されていないので、**MQSC** コマンドは、デフォルト・キュー・マネージャーで処理されます。

2. ユーザーの環境に応じて、次のコマンドのいずれかを使用し、MQSC コマンドのチェックのみが行われることを指定します。

```
runmqsc -v BANK < "/u/users/commfile.in"
runmqsc -v BANK < "c:\users\commfile.in"
```

キュー・マネージャー名は **BANK** です。このコマンドは、ファイル **commfile.in** 内の MQSC コマンドを検証し、現行ウィンドウに出力を表示します。

3. 次のコマンドは、デフォルト・キュー・マネージャーに対して MQSC コマンド・ファイル **mqscfile.in** を実行します。

```
runmqsc < "/var/mqm/mqsc/mqscfile.in" > "/var/mqm/mqsc/mqscfile.out"
runmqsc < "C:\Program Files\IBM\WebSphere MQ\mqsc\mqscfile.in" >
"C:\Program Files\IBM\WebSphere MQ\mqsc\mqscfile.out"
```

この例では、出力先はファイル **mqscfile.out** です。

4. このコマンドは、コマンドの実行依頼に QMLOCAL を使用して、QMREMOTE キュー・マネージャーにコマンドを実行依頼します。

```
runmqsc -w 30 -m QMLOCAL QMREMOTE
```

関連情報

[MQSC コマンドによるローカル管理タスクの実行](#)

runmqmtmc

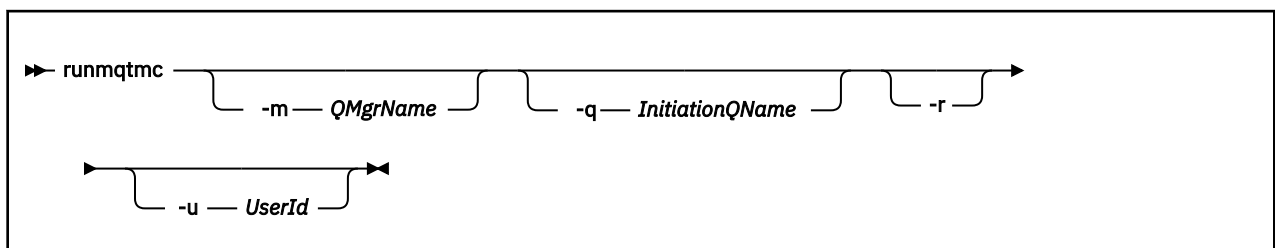
クライアントでトリガー・モニターを開始します。

目的

runmqmtmc コマンドは、クライアントのトリガー・モニターを開始するために使用します。トリガー・モニターの使用について詳しくは、[トリガー・モニター](#)を参照してください。

トリガー・モニターは、開始されると、指定した開始キューを継続してモニターします。トリガー・モニターは、キュー・マネージャーが終了するまで停止しません。[87 ページの『endmqm』](#)を参照してください。クライアントのトリガー・モニターの実行中は、送達不能キューはオープンしたままになります。

構文



オプション・パラメーター

-m *QMgrName*

クライアントのトリガー・モニターが操作を行う対象となるキュー・マネージャーの名前。デフォルトでは、デフォルト・キュー・マネージャーの名前となります。

-q *InitiationQName*

処理される開始キューの名前。デフォルトでは、SYSTEM.DEFAULT.INITIATION.QUEUE になります。

-r

クライアントのトリガー・モニターが自動的に再接続することを指定します。

-u *UserId*

起動対象メッセージの取得権限を持つユーザーの ID。

このオプションを使用しても、独自の認証オプションを持つ可能性のある起動対象プログラムの権限には影響しないことに注意してください。

注: `runmqtrmc` コマンドは標準クライアント接続を行うため、[mqccred](#) セキュリティー出口を使用して、ユーザー ID とパスワードを送信し、パスワードを暗号化することができます。

戻りコード

戻りコード	説明

0	使用されません。クライアントのトリガー・モニターは、連続的に実行されるよう設計されているので、終了しません。この値は予約されています。
10	クライアントのトリガー・モニターが、エラーによる割り込みを受けました。
20	エラー。クライアントのトリガー・モニターは実行されませんでした。

例

このコマンドの使用例については、[トリガー・サンプル・プログラム](#)を参照してください。

runmqtrm

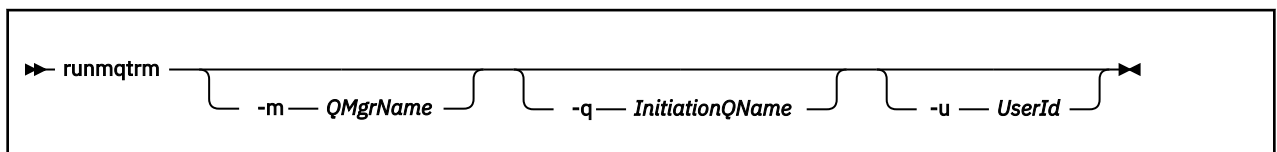
サーバーでトリガー・モニターを起動します。

目的

`runmqtrm` コマンドは、トリガー・モニターを開始するために使用します。トリガー・モニターの使用について詳しくは、[トリガー・モニター](#)を参照してください。

トリガー・モニターは、開始されると、指定した開始キューを継続してモニターします。トリガー・モニターは、キュー・マネージャーが終了するまで停止しません。[87 ページの『endmqm』](#)を参照してください。トリガー・モニターの実行中は、送達不能キューはオープンしたままになります。

構文



オプション・パラメーター

-m *QMgrName*

トリガー・モニターが操作を行う対象となるキュー・マネージャーの名前。デフォルトでは、デフォルト・キュー・マネージャーの名前となります。

-q InitiationQName

処理される開始キューの名前を指定します。デフォルトでは、SYSTEM.DEFAULT.INITIATION.QUEUE となります。

-u UserId

開始キューの読み取り権限と起動対象メッセージの取得権限を持つユーザーの ID。

このオプションを使用しても、独自の認証オプションを持つ可能性のある起動対象プログラムの権限には影響しないことに注意してください。

戻りコード

戻りコード	説明
0	使用されません。トリガー・モニターは、連続で実行するよう設計されているので、終了しません。したがって、0 の値は戻されません。この値は予約されています。
10	トリガー・モニターが、エラーによって割り込まれました。
20	エラー。トリガー・モニターは実行されませんでした。

runswchl

UNIX、Linux、および Windows の場合での runswchl (クラスター・チャンネルの切り替え)。

目的

このコマンドは、クラスター送信側チャンネルに関連するクラスター伝送キューを切り替えたり照会したりします。

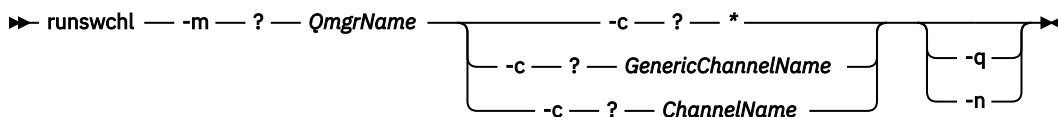
使用上の注意

このコマンドを実行するには、管理者としてログオンする必要があります。

このコマンドは、停止状態または非アクティブ状態のクラスター送信側チャンネルのうち、-c パラメーターに一致し、切り替えが必要であり、かつ切り替えが可能であるものすべてを切り替えます。このコマンドは、切り替えられたチャンネル、切り替えが必要ないチャンネル、および停止状態でも非アクティブ状態でもないため切り替えができないチャンネルについてレポートを出力します。

このコマンドで -q パラメーターを設定した場合、切り替えは実行されず、切り替えの対象となるチャンネルのリストが出力されます。

構文



必要なパラメーター

-m QmgrName

コマンド実行の対象となるキュー・マネージャー。そのキュー・マネージャーは、始動済みでなければなりません。

-c *

すべてのクラスター送信側チャンネル

-c GenericChannelName

一致するすべてのクラスター送信側チャンネル

-c ChannelName

単一のクラスター送信側チャンネル。

オプション・パラメーター

-q

1 つ以上のチャンネルの状態が表示されます。このパラメーターを省略した場合、コマンドにより、停止状態または非アクティブ状態のチャンネルのうち、切り替えの必要なものすべてが切り替えられます。

-n

伝送キューを切り替える際に、古いキューから新しい伝送キューにメッセージを転送しません。

注: -n オプションに関しては十分に注意してください。古い伝送キュー上にあるメッセージは、その伝送キューを別のクラスター送信側チャンネルに関連付けるのでない限り、転送されません。

戻りコード

0

コマンドは正常に完了しました

10

コマンドは完了しましたが、警告が発行されました。

20

コマンドが完了しましたが、エラーがありました。

例

クラスター送信側チャンネル T0.QM2 の構成状態を表示するには、次のようにします。

```
RUNSWCHL -m QM1 -c T0.QM2 -q
```

クラスター送信側チャンネル T0.QM3 の伝送キュー上にあるメッセージを移動せずにこのキューを切り替えるには、次のようにします。

```
RUNSWCHL -m QM1 -c T0.QM3 -n
```

クラスター送信側チャンネル T0.QM3 の伝送キューを切り替え、このキュー上のメッセージを移動するには、次のようにします。

```
RUNSWCHL -m QM1 -c T0.QM3
```

QM1 上にあるすべてのクラスター送信側チャンネルの構成状態を表示するには、次のようにします。

```
RUNSWCHL -m QM1 -c * -q
```

総称名 T0.* に一致するすべてのクラスター送信側チャンネルの構成状態を表示するには、次のようにします。

```
RUNSWCHL -m QM1 -c T0.* -q
```

関連情報

[クラスター化: クラスター伝送キューの切り替え](#)

setmqaut

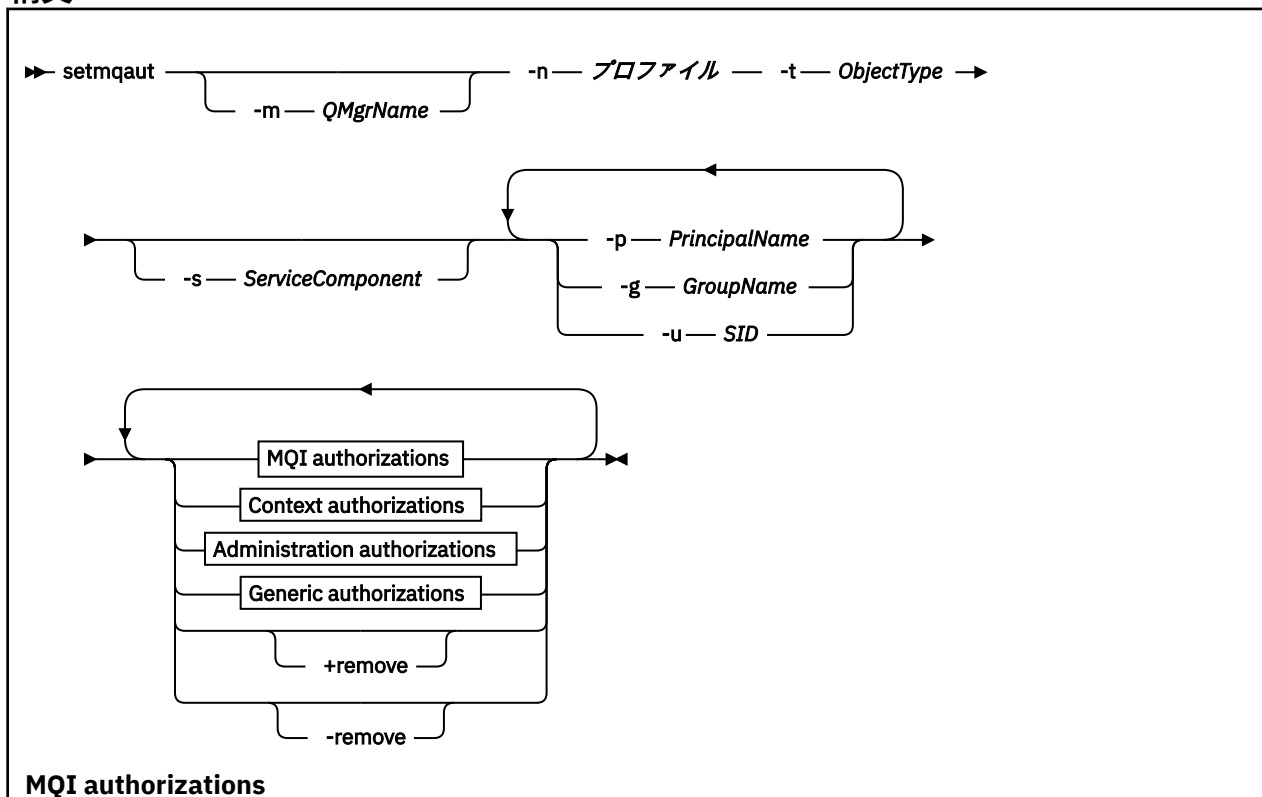
プロファイル、オブジェクト、またはオブジェクトのクラスに対する許可を変更します。許可は、任意数のプリンシパルまたはグループに対して付与または取り消しを行うことができます。

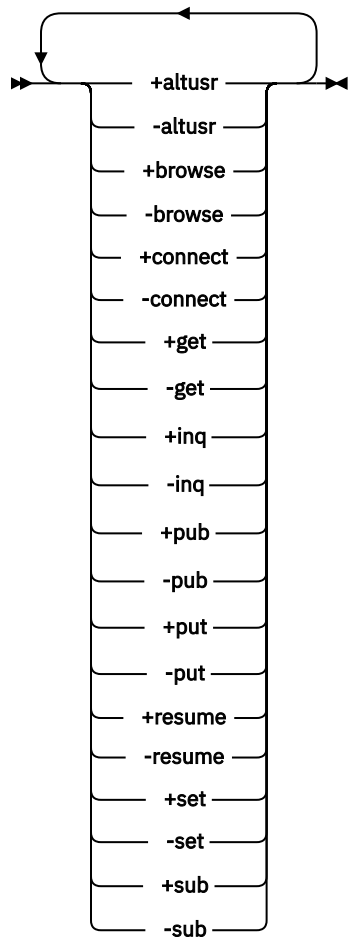
許可サービス・コンポーネントについて詳しくは、[インストール可能サービス](#)、[サービス・コンポーネント](#)、および[許可サービス・インターフェース](#)を参照してください。

許可のしくみの詳細については、[許可が機能する仕組み](#)を参照してください。

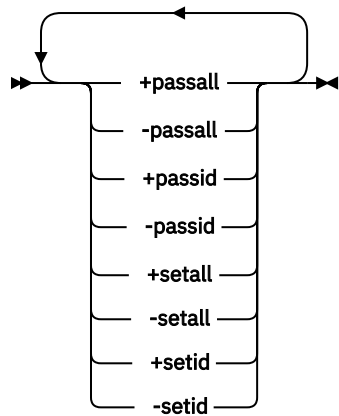
Linux **UNIX** IBM MQ 8.0 から、UNIX および Linux システム上のオブジェクト権限マネージャー (OAM) は、ユーザーに基づく許可とグループに基づく許可を使用できるようになりました。ユーザーに基づく許可の詳細については、[Unix および Linux でのユーザーに基づく許可](#)を参照してください。

構文

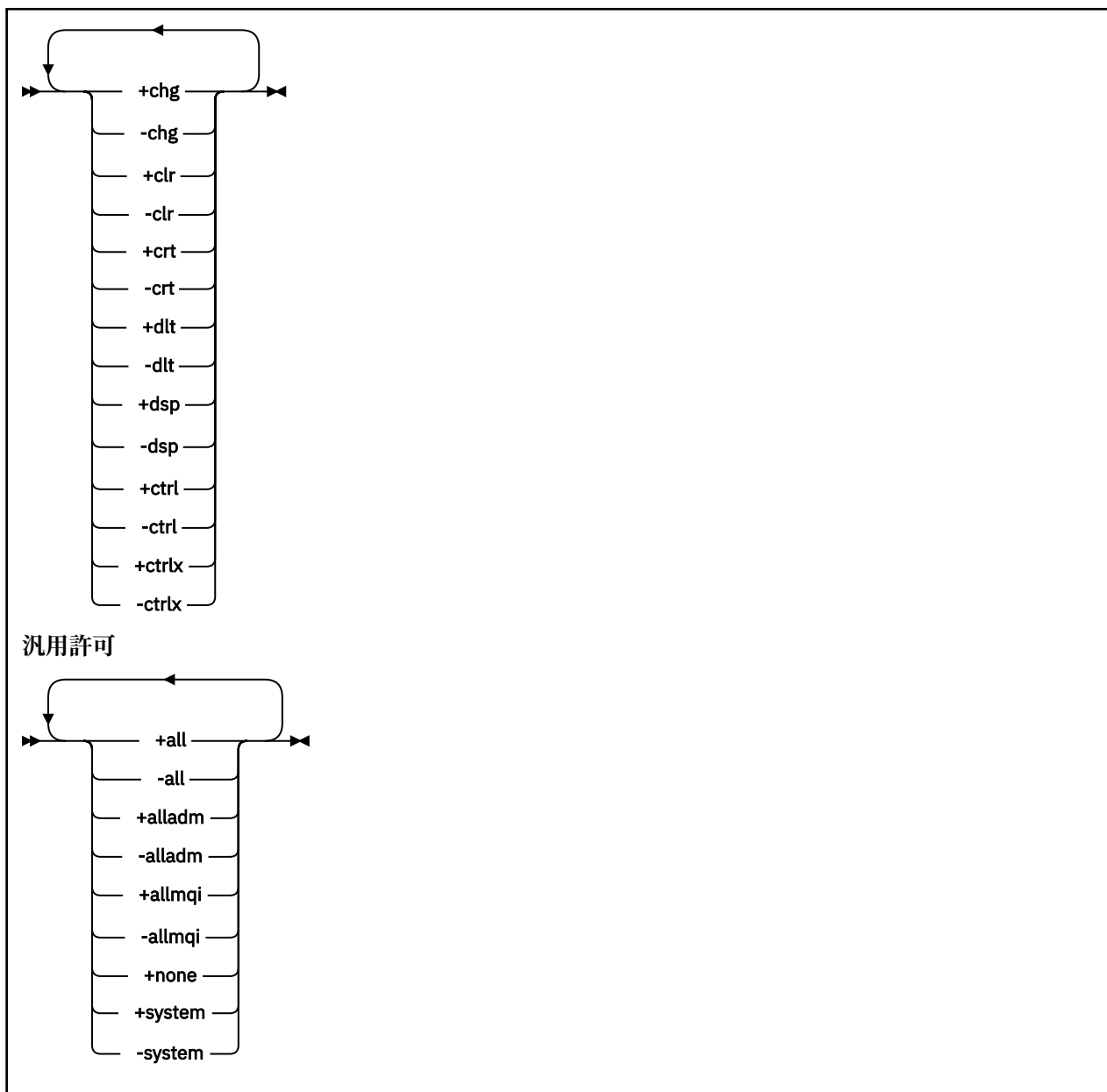




Context authorizations



Administration authorizations



説明

setmqaut は、許可の付与 (つまり、操作の実行許可をプリンシパルまたはユーザー・グループに与えること) および許可の取り消し (つまり、操作の実行許可を取り除くこと) の両方を行う場合に使用できます。以下のように、いくつかのパラメーターを指定できます。

- キュー・マネージャー名
- プリンシパルおよびユーザー・グループ
- オブジェクト・タイプ
- プロファイル名
- サービス・コンポーネント

与えることができる許可は、次のように分類されます。

- MQI 呼び出しの発行許可
- MQI コンテキストの許可

- 管理タスク用コマンドの発行許可
- 汎用許可

変更するそれぞれの許可は、コマンドの一部として許可リストに指定します。そのリスト内の各項目は、正符号(+)または負符号(-)の接頭部が付いたストリングです。例えば、+put を許可リストに入れると、キューに対する MQPUT 呼び出しの権限を付与することになります。一方、-put を許可リストに入れると、MQPUT 呼び出しの発行権限を取り消すことになります。

UNIX、Linux、および Windows の場合では、**SecurityPolicy** 属性を使用してキュー・マネージャー許可を制御できます。

- ▶ Windows Windows システムでは、**SecurityPolicy** 属性が適用されるのは、指定されたサービスがデフォルトの許可サービス、つまり OAM である場合のみです。**SecurityPolicy** 属性は、各キュー・マネージャーのセキュリティ・ポリシーを指定するために使用できます。
- ▶ Linux
▶ UNIX UNIX および Linux システムの場合、バージョン 8.0 以降では、キュー・マネージャーがユーザー・ベースの許可を使用するかグループ・ベースの許可を使用するかを **SecurityPolicy** 属性の値で指定します。この属性を含めない場合は、デフォルト (グループ・ベースの許可を使用) が使用されます。

SecurityPolicy 属性について詳しくは、[インストール可能サービス、許可サービス・スタンザの構成 \(Windows\)](#)、ならびに[許可サービス・スタンザの構成 \(UNIX および Linux\)](#)を参照してください。

SecurityPolicy 属性の user および group 設定の影響について詳しくは、[UNIX および Linux システムでの OAM ユーザー・ベースの許可](#)を参照してください。

単一の **setmqaut** コマンドで、プリンシパル、ユーザー・グループ、および許可をいくつでも指定できます。ただし、少なくとも 1 つのプリンシパルまたはユーザー・グループを指定しなければなりません。

あるプリンシパルが、複数のユーザー・グループのメンバーである場合は、そのプリンシパルには実質上、それらユーザー・グループすべての権限を組み合わせたものがあります。

▶ Windows また、Windows システムでは、そのようなプリンシパルは、**setmqaut** コマンドを使用することによって明示的に付与された権限のすべても付与されます。

▶ Linux
▶ UNIX UNIX および Linux では、**SecurityPolicy** 属性を user に設定した場合、プリンシパルが、**setmqaut** コマンドで明示的に付与されたすべての権限を持つことになります。一方、**SecurityPolicy** 属性を group または default に設定した場合、または **SecurityPolicy** 属性を設定しない場合は、プリンシパルではなくユーザー・グループがすべての権限を内部的に持つことになります。グループに権限を付与すると、バージョン 8.0 より前のバージョンと同じ動作になります。

- **setmqaut** コマンドを使用してある権限をプリンシパルに付与した場合、その権限はそのプリンシパルの 1 次ユーザー・グループに付与されます。つまり、その権限は、実際上そのユーザー・グループのすべてのメンバーに付与されたことになります。
- **setmqaut** コマンドを使用してプリンシパルからある権限を取り消した場合、その権限はそのプリンシパルの 1 次ユーザー・グループから取り消されます。つまり、その権限は、実際上そのユーザー・グループのすべてのメンバーから取り消されたことになります。

リポジトリによって自動的に生成されたクラスター送信側チャネルの権限を変更するには、[チャンネル定義コマンド](#)を参照してください。

必要なパラメーター

-t *ObjectType*

許可を変更するオブジェクトのタイプ。

次の値を指定できます。

表 32. *ObjectType* 値。

値	説明
authinfo	認証情報オブジェクト
channel または chl	チャンネル
clntconn または clcn	クライアント接続チャンネル
comminfo	通信情報オブジェクト
listener または lstr	リスナー
namelist または nl	名前リスト
process または prcs	プロセス
queue または q	キュー
qmgr	キュー・マネージャー
rqmname または rqmn	リモート・キュー・マネージャー名
service または srvc	サービス
topic または top	トピック

-n Profile

許可を変更するプロファイルの名前。許可は指定されたプロファイル名と名前が一致するすべての IBM MQ オブジェクトに適用されます。UNIX、Linux、および Windows の場合 システム で説明されているように、ワイルドカード文字を使って名前の範囲を指定することにより、プロファイル名を汎用にすることができます。

キュー・マネージャーの許可を変更するのではない限り、このパラメーターは必須です。許可を変更する場合、このパラメーターを指定することはできません。キュー・マネージャーの許可を変更するには、キュー・マネージャー名を使用します。例を次に示します。

```
setmqaut -m QMGR -t qmgr -p user1 +connect
```

ここで、QMGR はキュー・マネージャーの名前、user1 は許可を追加または削除するプリンシパルです。

オブジェクトの各クラスには、各グループまたはプリンシパルの権限レコードがあります。これらのレコードのプロファイル名は @CLASS で、該当クラスのすべてのオブジェクトに共通の crt (作成) 権限を追跡します。該当クラスのいずれかのオブジェクトの crt 権限が変更されると、このレコードが更新されます。以下に例を示します。

```
profile: @class
object type: queue
entity: test
entity type: principal
authority: crt
```

これは、グループのメンバーがクラス queue に対する crt 権限を持っていることを示します。test

オプション・パラメーター**-m QMgrName**

許可を変更するオブジェクトのキュー・マネージャーの名前。名前は 48 文字以内で指定します。

デフォルト・キュー・マネージャーの許可を変更している場合、このパラメーターは任意です。

-p PrincipalName

許可を変更するプリンシパルの名前。

Windows IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、プリンシパルの名前にオプションで含めることができます。

```
userid@domain
```

プリンシパルの名前にドメイン・ネームを含める方法について詳しくは、[プリンシパルおよびグループ](#)を参照してください。

最低 1 つのプリンシパルまたはグループが必要です。

-g GroupName

許可を変更するユーザー・グループの名前。複数のグループ名を指定できますが、それぞれの名前の前に -g フラグを付ける必要があります。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain  
domain\GroupName
```

IBM MQ オブジェクト権限マネージャーは、キュー・マネージャーの [Security](#) スタンザで **GroupModel** 属性を *GlobalGroups* に設定した場合にのみ、ドメイン・レベルでユーザーおよびグループを検証します。

-u SID

権限を除去するための SID。複数の SID を指定できますが、それぞれの名前の前に -u フラグを付ける必要があります。

このオプションは +remove か -remove のいずれかと一緒に使用する必要があります。

このパラメーターは、IBM MQ for Windows でのみ有効です。

-s ServiceComponent

許可が適用される許可サービスの名前 (システムがインストール可能な許可サービスをサポートしている場合)。このパラメーターは任意です。これを省略した場合、サービスの最初のインストール可能コンポーネントに対して許可の更新が行われます。

+remove または -remove

指定したプロファイルと一致する IBM MQ オブジェクトから、すべての権限を除去します。

Authorizations

付与または取り消される許可。そのリスト内の各項目には接頭部として、正符号 (+) または負符号 (-) が付きます。正符号は、権限が付与されることを示しています。負符号は、権限が取り消されることを示しています。

例えば、MQPUT 呼び出しを発行する権限を付与するには、リストに +put を指定します。MQPUT 呼び出しを発行する権限を取り消すには、-put を指定します。

[133 ページの表 33](#) は、種々のオブジェクト・タイプに与えることができる権限を示したものです。

表 33. 種々のオブジェクト・タイプについての権限の指定												
Authority	Queue	Process	Queue manager	Remote queue manager name	Name list	Topic	Auth info	Clntconn	Channel	Listener	Service	Comm info
all ¹	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
alladm ²	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes

表 33. 種々のオブジェクト・タイプについての権限の指定 (続き)

Authority	Queue	Process	Queue manager	Remote queue manager name	Name list	Topic	Auth info	Client	Channel	Listener	Service	Comment
allmqi ³	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	No	No	No	No	No
none	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
altusr	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No
browse	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No
chg	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
clr	Yes	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No
connect	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No
crt	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
ctrl ⁴	No	No	Yes	No	No	Yes	No	No	Yes	Yes	Yes	No
ctrlx	No	No	No	No	No	No	No	No	Yes	No	No	No
dlt	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
dsp	Yes	Yes	Yes	No	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
get	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No
pub	No	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No
put	Yes	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No
inq	Yes	Yes	Yes	No	Yes	No	Yes	No	No	No	No	No
passall	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No
passid	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No	No
resume	No	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No
set	Yes	Yes	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No
setall ⁵	Yes	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No
setid ⁵	Yes	No	Yes	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No
sub	No	No	No	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No
system	No	No	Yes	No	No	No	No	No	No	No	No	No

注:

1. 権限 **all** は、オブジェクト・タイプに適合する **alladm**、**allmqi**、および **system** 権限の和集合に相当します。
2. 権限 **alladm** は、オブジェクト・タイプに適合する個々の権限 **chg**、**clr**、**dlt**、**dsp**、**ctrl**、および **ctrlx** の和集合に相当します。 **crt** 権限は、サブセット **alladm** には含まれていません。
3. **allmqi** 権限は、オブジェクト・タイプに適した個々の権限 **altusr**、**browse**、**connect**、**get**、**inq**、**pub**、**put**、**resume**、**set**、および **sub** を合併したものに相当します。
4. **setmqaut** コマンドで **alladm** を指定した場合は、**qmgr** オブジェクトに対する権限 **ctrl** が含まれます。
5. **setid** 権限または **setall** 権限を使用するには、該当するキュー・オブジェクトとキュー・マネージャー・オブジェクトの両方に関する許可を付与する必要があります。 **setid** および **setall** は、**allmqi** に含まれています。

特定の権限に関する説明

ユーザーに IBM MQ 特権オプションへのアクセスを許可する権限 (例えば、キュー・マネージャーに対する **set** 権限、または **system** 権限) を付与しないでください。ただし、必要な権限が特に文書化されており、IBM MQ コマンドまたは IBM MQ API 呼び出しを実行する必要がある場合を除きます。

例えば、**setmqaut** コマンドを実行するためには、システム権限がユーザーに必要です。

chg

キュー・マネージャーに対して何らかの許可変更を行うには、**chg** 権限がユーザーに必要です。許可変更には、以下が含まれます。

- プロファイル、オブジェクト、またはオブジェクトのクラスに対する許可の変更
- チャネル認証レコードの作成および変更など

ユーザーには、PCF または MQSC コマンドを使用して IBM MQ オブジェクトの属性を変更または設定するための **chg** 権限も必要です。

ctrl

CHLAUTH ルールの中では、接続ユーザーに特権を付与しないように要求することが可能です。

ユーザーに特権があるかどうかをチャネルで確認するには、そのチャネルのプロセスを実行する実ユーザー ID に、**qmgr** オブジェクトに対する **+ctrl** 権限がなければなりません。

例えば、**amqrmppa** プロセスのスレッドとして **SVRCONN** チャネルを実行し、そのプロセスの実ユーザー ID が **mqadmin** (キュー・マネージャーを開始したユーザー ID) である場合は、**mqadmin** が **qmgr** オブジェクトに対する **+ctrl** 権限を持っていないければなりません。

crt

キュー・マネージャーに対する **+crt** 権限をエンティティに付与した場合、そのエンティティは各オブジェクト・クラスについても **+crt** 権限を獲得します。

ただし、キュー・マネージャー・オブジェクトに対する **+crt** 権限を削除した場合、キュー・マネージャー・オブジェクト・クラスに対する権限のみが削除され、他のオブジェクト・クラスについての **crt** 権限は削除されません。

キュー・マネージャー・オブジェクトに対する **crt** 権限に機能的用途はありません。後方互換性の目的でのみ使用可能になっています。

dlt

キュー・マネージャー・オブジェクトに対する **dlt** 権限は、機能的な使い方ができません。後方互換性の目的でのみ使用できます。

set

MQSET API 呼び出しを使用してキューの属性を変更または設定するには、キューに対する **set** 権限がユーザーに必要です。

管理目的で、またはキュー・マネージャーに接続するアプリケーションのために、キュー・マネージャーに対する **set** 権限は必要ありません。

ただし、特権接続オプションを設定するには、キュー・マネージャーに対する **set** 権限がユーザーに必要です。

プロセス・オブジェクトに対する **set** 権限に機能的用途はありません。後方互換性の目的でのみ使用可能になっています。

重要: 特権接続オプションはキュー・マネージャー内部のオプションであるため、IBM MQ アプリケーションによって使用される IBM MQ API 呼び出しでは使用できません。

システム

setmqaut コマンドは、キュー・マネージャーへの特権 IBM MQ 接続を行います。

特権 IBM MQ 接続を行う IBM MQ コマンドを実行するユーザーは、キュー・マネージャーに対する **system** 権限が必要です。

戻りコード

戻りコード	説明
0	正常な操作です。
26	キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして実行中です。
36	与えられた引数が無効です。
40	キュー・マネージャーが利用不能です。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
133	オブジェクト名が不明です。
145	予期しないオブジェクト名です。
146	オブジェクト名が指定されていません。
147	オブジェクト・タイプが指定されていません。
148	オブジェクト・タイプが無効です。
149	エンティティ名が指定されていません。
150	許可が指定されていません。
151	許可の指定が無効です。

例

1. 次の例では、許可を与える対象となるオブジェクトが、キュー・マネージャー `saturn.queue.manager` のキュー `orange.queue` であることを指定するコマンドを示しています。

```
setmqaut -m saturn.queue.manager -n orange.queue -t queue
-g tango +inq +alladm
```

許可は、**tango** というユーザー・グループに与えられ、関連した許可リストは、このユーザー・グループが次の処理を行えることを指定します。

- MQINQ 呼び出しを発行する
 - 該当するオブジェクトに対してすべての管理操作を実行する
2. 次の例では、許可リストは **foxy** というユーザー・グループについて以下のことを指定しています。
- 指定のキューに対する MQI 呼び出しの発行は不可。
 - 指定のキューに対してすべての管理操作を実行する。

```
setmqaut -m saturn.queue.manager -n orange.queue -t queue
-g foxy -allmqi +alladm
```

3. この例では、名前が **a.b** で始まるすべてのキューに対する全アクセス権限を **user1** に付与します。キュー・マネージャー **qmgr1** 上。プロファイルは、プロファイルと名前が一致するすべてのオブジェクトに適用されます。

```
setmqaut -m qmgr1 -n a.b.* -t q -p user1 +all
```

4. この例では、指定のプロファイルを削除します。

```
setmqaut -m qmgr1 -n a.b.* -t q -p user1 -remove
```

5. この例では、権限のないプロファイルを作成します。

```
setmqaut -m qmgr1 -n a.b.* -t q -p user1 +none
```

関連資料

[1286 ページの『SET AUTHREC』](#)

プロファイル名と関連付けられた権限レコードを設定するには、MQSC コマンド SET AUTHREC を使用します。

MQI 呼び出しについての許可

表 34. MQI 呼び出しについての許可	
値	説明
altusr	キュー・マネージャーに関する別のユーザーの権限を使用する。接続ハンドルに関連付けられたユーザー ID と表明ユーザー ID が異なるチャンネル操作にも必要です。(例えば、受信側 MCA エンド上の割り当てられた専用プロファイル、またはリモート・システムからの RESET CHL SEQNUM() 要求を処理する場合。) バージョン 7.0.1.4 より前の IBM MQ を使用している場合は、受信側チャンネルで MCAUSER に指定されたユーザー ID を含むグループに対して +altusr を設定する必要があります。このアクションにより、対応する送信側チャンネルのシーケンス番号をリセットした場合にエラー・メッセージ AMQ2035 が表示されなくなります。

表 34. MQI 呼び出しについての許可 (続き)	
値	説明
ブラウズ (browse)	BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを使用して、キューからメッセージを取り出す。
connect	MQCONN 呼び出しを使用して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。
get	MQGET 呼び出しを使用してメッセージをキューから取り出す。
inq	MQINQ 呼び出しを使用して、特定のキューの照会を行う。
pub	MQPUT 呼び出しを使用して、トピックにメッセージをパブリッシュする。
put	MQPUT 呼び出しを使用して、特定のキューにメッセージを書き込む。
resume	MQSUB 呼び出しを使用して、サブスクリプションを再開する。
set	MQSET 呼び出しを使用して、MQI からキューに属性を設定する。
sub	MQSUB 呼び出しを使用して、トピックへのサブスクリプションを作成、変更、または再開する。

注：複数のオプションを適用するようにキューをオープンする場合は、各オプションについての許可を持っている必要があります。

コンテキストについての許可

表 35. コンテキストについての許可	
値	説明
passall	すべてのコンテキストを指定のキューに渡す。すべてのコンテキスト・フィールドが元の要求からコピーされます。
passid	アイデンティティ・コンテキストを指定のキューに渡す。アイデンティティ・コンテキストは、要求のアイデンティティ・コンテキストと同じです。
setall	すべてのコンテキストを指定のキューに設定する。これは特別なシステム・ユーティリティによって使用されます。
setid	アイデンティティ・コンテキストを指定のキューに設定する。これは特別なシステム・ユーティリティによって使用されます。 メッセージ・コンテキスト・オプションのいずれかを変更するためには、呼び出しを発行するための適切な許可が必要です。例えば、MQOO_SET_IDENTITY_CONTEXT または MQPMO_SET_IDENTITY_CONTEXT を使用するには、+setid アクセス権が必要です。

注: setid 権限または setall 権限を使用するには、対象のキュー・オブジェクトとキュー・マネージャー・オブジェクトの両方に関する許可を与える必要があります。

コマンドについての許可

表 36. コマンドについての許可	
値	説明
chg	指定のオブジェクトの属性を変更する。
clr	指定のキューまたはトピックをクリアする。
crt	指定のタイプのオブジェクトを作成する。
dlt	指定のオブジェクトを削除する。 dlt 権限は、キュー・マネージャー・オブジェクトには影響がないことに注意してください。
dsp	指定のオブジェクトの属性を表示する。
ctrl	リスナーやサービスの場合、指定のチャンネル、リスナー、またはサービスを開始および停止する。 チャンネルの場合、指定のチャンネルを開始、停止、および ping する。 トピックの場合、サブスクリプションを定義、変更、または削除する。
ctrlx	指定のチャンネルをリセットまたは解決する。

一般操作についての許可

表 37. 一般操作についての許可	
値	説明
all	オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。all 権限は、alladm、allmqi、および system の権限のうち、そのオブジェクト・タイプに該当する権限を合わせたものに相当します。
alladm	オブジェクトに適用可能なすべての管理操作を使用する。
allmqi	オブジェクトに適用可能なすべての MQI 呼び出しを使用する。
なし	権限なし。権限のないプロファイルを作成する場合に、この許可を使用します。「none」と表示されていたオブジェクトまたはグループに権限を付与すると、この許可は、適用されたばかりの権限に変更されます。ただし、既存の別の権限を持つオブジェクトまたはグループに「none」許可を付与しても、権限は変更されません。
システム	内部システム操作にキュー・マネージャーを使用します。

setmqcrl

CRL (証明書取り消しリスト) LDAP 定義を Active Directory で管理します (Windows のみ)。

目的

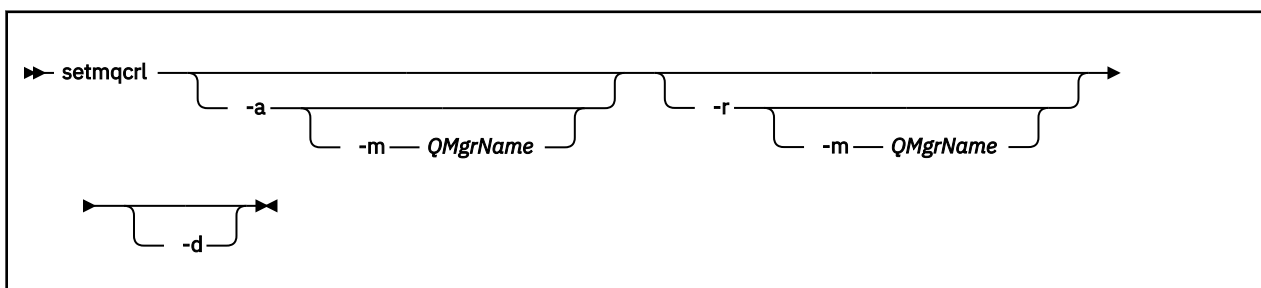
注: setmqcrl コマンドは、IBM MQ for Windows にのみ適用されます。

setmqcrl コマンドを使用して、CRL (証明書取り消しリスト) LDAP 定義を Active Directory で公開するためのサポートを構成および管理します。

ドメイン・アドミニストレータはこのコマンドまたは setmqscp を使うことにより、まず IBM MQ で使用するために Active Directory を準備して、IBM MQ のユーザーとアドミニストレータに対して IBM MQ Active Directory オブジェクトにアクセスして更新するための関連権限を付与する必要があります。また、setmqcrl コマンドを使用して、Active Directory 上で使用可能な現在構成されているすべての CRL サーバー定義、つまりキュー・マネージャーの CRL 名前リストで参照されている定義を表示することもできます。

サポートされている CRL サーバーのタイプは、LDAP サーバーのみです。

構文



オプション・パラメーター

-a (追加)、-r (削除)、または -d (表示) のいずれかを指定する必要があります。

-a

IBM MQ MQI client connections Active Directory コンテナを追加します (まだ存在しない場合)。ドメインの System コンテナにサブコンテナを作成するための適切な特権を持つユーザーでなければこのパラメーターは使えません。IBM MQ フォルダーは、CN=IBM-MQClientConnections と呼ばれます。setmqscp コマンドを使用する以外の方法でこのフォルダーを削除しないでください。

-d

IBM MQ CRL サーバー定義を表示します。

-r

IBM MQ CRL サーバー定義を除去します。

-m [* | qmgr]

指定されたパラメーター (-a または -r) を変更して、指定されたキュー・マネージャーだけが影響を受けるようにします。このオプションを -a パラメーターと共に組み込んでおく必要があります。

* | キュー・マネージャー

* は、すべてのキュー・マネージャーが影響を受けるように指定します。これにより、特定の IBM MQ CRL サーバー定義ファイルを 1 つのキュー・マネージャーだけから移行することが可能になります。

例

以下のコマンドは、IBM-MQClientConnections フォルダーを作成して、必要な許可をフォルダーの IBM MQ アドミニストレーター、および続けて作成された子オブジェクトに割り振るものです。(この点で、これは `setmqscp -a` と機能的に同じです。)

```
setmqcrl -a
```

以下のコマンドは、他の **CRL 定義を Active Directory から削除してから**、既存の CRL サーバー定義をローカル・キュー・マネージャーである `Paint.queue.manager` から Active Directory へと移行するものです。

```
setmqcrl -a -m Paint.queue.manager
```

setmqenv

setmqenv コマンドを使用して、UNIX、Linux、および Windows の場合上に IBM MQ 環境をセットアップします。

目的

setmqenv コマンドを使用して、IBM MQ のインストールで使用する環境を自動的にセットアップできます。また、**crtmqenv** コマンドを使用すると、環境変数と値のリストを作成して、ご使用のシステム用に各環境変数を手動で設定することもできます。詳しくは、[21 ページの『crtmqenv』](#)を参照してください。

注: 環境に対する変更は、永続的ではありません。ログアウトして、再度ログインすると、変更は失われます。

環境をセットアップする対象となるインストールを指定するには、キュー・マネージャー名、インストール名、またはインストール・パスを指定します。**setmqenv** コマンドにパラメーター **-s** を指定して発行することで、このコマンドが発行されたインストール用の環境をセットアップすることもできます。

setmqenv コマンドは、ご使用のシステムに合わせて次の環境変数を設定します。

- CLASSPATH
- INCLUDE
- LIB
- MANPATH
- MQ_DATA_PATH
- MQ_ENV_MODE
- MQ_FILE_PATH
- MQ_JAVA_INSTALL_PATH
- MQ_JAVA_DATA_PATH
- MQ_JAVA_LIB_PATH
- MQ_JAVA_JVM_FLAG
- MQ_JRE_PATH
- PATH

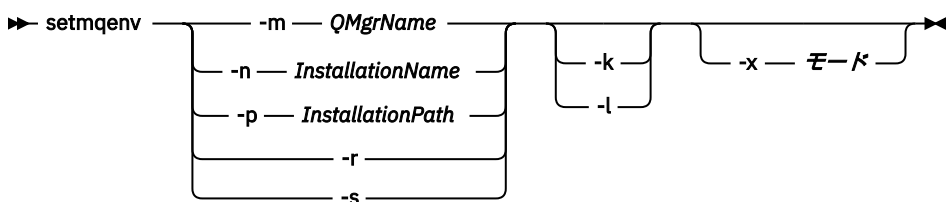
UNIX および Linux システムの場合、**-l** または **-k** フラグが指定されていると、**LIBPATH** 環境変数が AIX 上で設定され、**LD_LIBRARY_PATH** 環境変数が HP-UX、Linux、および Solaris 上で設定されます。

使用上の注意

- IBM MQ V 7.0.1 をインストールした場合は、**setmqenv** コマンドを使用しないでください。IBM MQ V 7.0.1 のコンポーネントの一部 (エクスプローラーなど) は、ライブラリー・パスの環境変数を参照します。そのため、**setmqenv** コマンドを使用して IBM MQ V 7.0.1 インストール・パスを指すように環境変数を変更した場合、それらのコンポーネントは機能しません。

- **setmqenv** コマンドは、環境をセットアップする対象のインストール済み環境に新しい参照を追加する前に、すべての IBM MQ インストール済み環境のすべてのディレクトリーを環境変数から削除します。したがって、IBM MQ を参照する追加の環境変数を設定する場合は、**setmqenv** コマンドを発行した後でそれらの変数を設定します。例えば、`MQ_INSTALLATION_PATH/java/lib` を `LD_LIBRARY_PATH` に追加する場合は、**setmqenv** コマンドの実行後に追加する必要があります。
- 一部のシェルでは、コマンド行パラメーターは **setmqenv** で使用することはできず、発行された **setmqenv** コマンドは `setmqenv -s` コマンドであると見なされます。コマンドは、`setmqenv -s` コマンドが発行されたかのようにこのコマンドが実行されたことを示す情報メッセージを生成します。そのため、これらのシェルでは、必ず環境を設定する対象となるインストール済み環境からこのコマンドを発行する必要があります。これらのシェルでは、`LD_LIBRARY_PATH` 変数を手動で設定する必要があります。**crtmqenv** コマンドに **-l** または **-k** パラメーターを指定して使用し、`LD_LIBRARY_PATH` 変数および値をリストします。次に、この値を使用して、`LD_LIBRARY_PATH` を設定します。

構文



オプション・パラメーター

-m *QMgrName*

キュー・マネージャー *QMgrName* に関連付けられているインストール用に環境を設定します。

-n *InstallationName*

InstallationName という名前のインストールの環境を設定します。

-p *InstallationPath*

パス *InstallationPath* にあるインストールの環境を設定します。

-r

すべてのインストールを環境から削除します。

-s

setmqenv コマンドを発行したインストールの環境を設定します。

-k

UNIX および Linux のみです。

`LD_LIBRARY_PATH` または `LIBPATH` 環境変数を環境に含め、IBM MQ ライブラリーへのパスを現在の `LD_LIBRARY_PATH` または `LIBPATH` 変数の先頭に追加します。

-l

UNIX および Linux のみです。

`LD_LIBRARY_PATH` 環境変数または `LIBPATH` 環境変数を環境に含め、IBM MQ ライブラリーへのパスを現在の `LD_LIBRARY_PATH` 変数または `LIBPATH` 変数の末尾に追加します。

-x *Mode*

Mode の値は、32 または 64 になります。

32 ビットまたは 64 ビットの環境を作成します。このパラメーターを指定しない場合、環境は、キュー・マネージャーの環境、またはコマンドで指定したインストールの環境と一致します。

32 ビットのインストールで 64 ビット環境を表示しようとすると、失敗します。

戻りコード

戻りコード	説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

以下の例では、UNIX システムまたは Linux システム上の /opt/mqm ディレクトリーに IBM MQ のコピーがインストールされていることを前提としています。

注: 各コマンドの先頭にピリオド文字 (.) を使用すると、**setmqenv** スクリプトは現行シェル内で実行されます。そのため、**setmqenv** スクリプトによる環境の変更は、現行シェルに対して適用されます。ピリオド文字 (.) を付けないと、別のシェル内の環境変数が変更され、コマンドの発行元シェルには変更が適用されません。

- 次のコマンドは、/opt/mqm ディレクトリーにインストールされているインストールの環境をセットアップします。

```
. /opt/mqm/bin/setmqenv -s
```

- 次のコマンドは、/opt/mqm2 ディレクトリーにインストールされているインストール用に環境をセットアップし、LD_LIBRARY_PATH 変数の現在の値の最後に、このインストールへのパスを含めます。

```
. /opt/mqm/bin/setmqenv -p /opt/mqm2 -l
```

- 次のコマンドは、キュー・マネージャー QM1 の環境を 32 ビット環境でセットアップします。

```
. /opt/mqm/bin/setmqenv -m QM1 -x 32
```

次の例では、IBM MQ のコピーが Windows システムの C: ¥ Program Files¥IBM¥WebSphere MQ にインストールされていることを前提としています。

次のコマンドは、Installation1 という名前のインストールの環境をセットアップします。

```
"C: ¥ Program Files¥IBM¥WebSphere MQ¥bin¥setmqenv.cmd" -n Installation1
```

関連資料

[21 ページの『crtmqenv』](#)

UNIX、Linux、および Windows の場合に IBM MQ をインストールするための環境変数のリストを作成します。

関連情報

[プライマリー・インストールの選択](#)

[複数のインストール](#)

setmqinst

UNIX、Linux、および Windows の場合上の IBM MQ インストール済み環境を設定します。

目的

setmqinst コマンドを使用すると、インストール済み環境のインストール記述を変更したり、インストール済み環境を 1 次インストールとして設定または設定解除したりできます。プライマリー・インストール

を変更するには、新規プライマリー・インストールを設定する前に、現在のプライマリー・インストールを設定解除する必要があります。このコマンドは、mqinst.ini ファイルに入っている情報を更新します。

プライマリー・インストールを設定解除した後は、絶対パスを指定するか、あるいは PATH (またはこれに相当する変数) に適切なインストール・ディレクトリーが指定されていない限り、**setmqinst** コマンドを使用できません。システムの標準位置のデフォルト・パスは削除されています。

UNIX プラットフォームの場合は、現行ディレクトリーがパスに含まれていると想定しないでください。/opt/mqm/bin にいる状態で、例えば /opt/mqm/bin/dspmqrver を実行するためには、「/opt/mqm/bin/dspmqrver」または「./dspmqrver」と入力する必要があります。

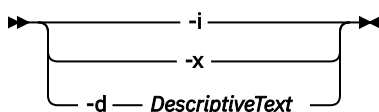
ファイル mqinst.ini には、システム上のすべての IBM MQ インストールに関する情報が含まれています。mqinst.ini について詳しくは、[インストール構成ファイル、mqinst.ini](#) を参照してください。

UNIX システムまたは Linux システムでは、root としてこのコマンドを実行する必要があります。Windows システムでは、管理者グループのメンバーとしてこのコマンドを実行する必要があります。このコマンドは、変更しようとするインストール済み環境から実行する必要はありません。

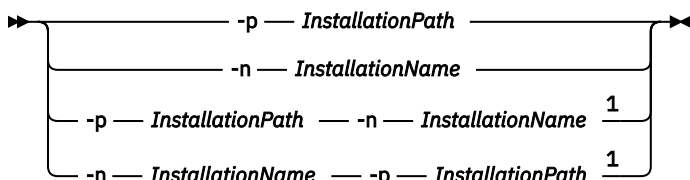
構文

➡ setmqinst — **Action** — **Installation** ➡

アクション



Installation



注:

1 インストールの名前 (InstallationName) とインストール・パス (InstallationPath) を一緒に指定する場合、それらは同一のインストールを示す必要があります。

Parameters

-d *DescriptiveText*

インストールについて記述するテキスト。

このテキストは最大 64 文字 (1 バイト文字) または 32 文字 (2 バイト文字) です。デフォルト値は、すべてブランクです。テキストにスペースが含まれている場合、テキストを二重引用符で囲む必要があります。

-i

このインストールをプライマリー・インストールとして設定します。

-x

プライマリー・インストールとしてのこのインストールを設定解除します。

-n *InstallationName*

変更するインストールの名前。

-p *InstallationPath*

変更するインストールのパス。パスにスペースが含まれている場合、パスを二重引用符で囲む必要があります。

戻りコード

戻りコード	説明
0	項目はエラーなしに設定されました。
36	与えられた引数が無効です。
37	記述テキストが間違っていました。
44	項目がありません。
59	無効なインストール済み環境が指定されました。
71	予期しないエラーです。
89	ini ファイルのエラーです。
96	ini ファイルをロックできませんでした。
98	ini ファイルにアクセスするのに十分な権限がありません。
131	リソース問題です。

例

1. このコマンドは、myInstallation という名前のインストール済み環境を 1 次インストールとして設定します。

```
setmqinst -i -n myInstallation
```

2. このコマンドは、/opt/myInstallation というインストール・パスを持つインストール済み環境を 1 次インストールから設定します。

```
setmqinst -i -p /opt/myInstallation
```

3. 次のコマンドでは、プライマリー・インストールとして、myInstallation という名前のインストールを設定解除します。

```
setmqinst -x -n myInstallation
```

4. 次のコマンドでは、プライマリー・インストールとして、/opt/myInstallation というインストール・パスを持つインストールを設定解除します。

```
setmqinst -x -p /opt/myInstallation
```

5. 次のコマンドでは、myInstallation という名前のインストールに記述テキストを設定します。

```
setmqinst -d "My installation" -n myInstallation
```

記述テキストは、スペースが含まれているので、引用符で囲まれています。

関連情報

[プライマリー・インストールの選択](#)

[プライマリー・インストールの変更](#)

setmqm

キュー・マネージャーに関連付けるインストール済み環境を設定します。

目的

setmqm コマンドを使用して、キュー・マネージャーの関連 IBM MQ インストール済み環境を設定します。これ以降、キュー・マネージャーは、関連付けられたインストール済み環境のコマンドだけを使用して管理されます。例えば、キュー・マネージャーを **strmqm** によって始動する場合、**setmqm** コマンドによって指定されたインストールの **strmqm** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドの使用についての詳細 (その使用に適した状況に関する情報など) については、[キュー・マネージャーとインストールの関連付け](#)を参照してください。

このコマンドは、UNIX、Linux、および Windows にのみ適用されます。

使用上の注意

- キュー・マネージャーを関連付けるインストール済み環境から **setmqm** コマンドを使用する必要があります。
- **setmqm** コマンドで指定するインストール済み環境の名前は、**setmqm** コマンドの発行元インストール済み環境と一致している必要があります。
- **setmqm** コマンドを実行する前に、キュー・マネージャーを停止する必要があります。キュー・マネージャーが実行中の場合、コマンドは失敗します。
- **setmqm** コマンドを使用して、関連付けるキュー・マネージャーのインストール済み環境を設定すると、**strmqm** コマンドを使用してそのキュー・マネージャーを始動するときに、キュー・マネージャーのデータがマイグレーションされます。
- いったんインストール済み環境でキュー・マネージャーを開始すると、**setmqm** を使用して、関連付けられたインストール済み環境を以前のバージョンの IBM MQ に設定することはできません。これは、以前のバージョンの IBM MQ にマイグレーションして戻すことができないためです。
- **dspmq** コマンドを使用すると、キュー・マネージャーが関連付けられているインストール済み環境を調べることができます。詳しくは、53 ページの『[dspmq](#)』を参照してください。

構文

➡ **setmqm** — **-m** — *QMGrName* — **-n** — *InstallationName* →

必須パラメーター

-m *QMGrName*

関連付けるインストール済み環境を設定する対象のキュー・マネージャーの名前。

-n *InstallationName*

キュー・マネージャーを関連付けるインストール済み環境の名前。 インストール名では、大文字と小文字は区別されません。

戻りコード

戻りコード	説明
0	キュー・マネージャーが、エラーなしでインストールに対して設定されました。
5	キュー・マネージャーは実行中です。
36	与えられた引数が無効です。
59	無効なインストール済み環境が指定されました。
60	-n パラメーターで指定されたインストール済み環境からコマンドが実行されませんでした。
61	インストール名がこのキュー・マネージャーについて無効です。
69	リソース問題です。

戻りコード 説明

71	予期しないエラーです。
72	キュー・マネージャー名のエラーです。
119	ユーザーは許可を与えられていません。

例

1. このコマンドは、キュー・マネージャー QMGR1 に、myInstallation というインストール名をもつインストール済み環境を関連付けます。

```
MQ_INSTALLATION_PATH/bin/setmqm -m QMGR1 -n myInstallation
```

setmqprd

IBM MQ プロダクション・ライセンスを登録します。

ライセンスは通常、インストール・プロセスの過程で登録されます。

注：ご使用のシステムでこのコマンドを実行するには、適切な特権が必要です。このコマンドを実行するには、UNIX では root でアクセスする必要があり、UAC (ユーザー・アカウント制御) 機能が有効になっている Windows では管理者権限が必要です。

構文

```
►► setmqprd — LicenseFile ◀◀
```

必要なパラメーター

LicenseFile

プロダクション・ライセンス証明書ファイルの完全修飾名を指定します。

フル・ライセンス・ファイルは amqpcert.lic です。

- UNIX and Linux では、そのファイルは、インストール・メディアの */MediaRoot/licenses* ディレクトリーに入っています。
- Windows では、インストール・メディア上の *\MediaRoot\licenses* ディレクトリーにあります。それは、bin インストール・パス上の IBM MQ ディレクトリーにインストールされます。
- IBM i では、次のコマンドを実行します。

```
CALL PGM(QMQM/SETMQPRD) PARM('/QOPT/OPT01/amqpcert.lic')
```

試用ライセンスの変換

試用ライセンスのインストールは実動ライセンスのインストールと同じですが、唯一異なるのは、試用ライセンスのインストール済み環境ではキュー・マネージャーの開始時に「"カウントダウン"」メッセージが表示される点です。IBM MQ の中でサーバーにインストールされていない部分 (IBM MQ MQI client など) は、試用ライセンスの有効期限が切れた後でも機能し続けます。これらを実動ライセンスに登録するために **setmqprd** を実行する必要はありません。

試用ライセンスの有効期限が切れても、IBM MQ のアンインストールは可能です。また、完全実動ライセンスを使用して IBM MQ を再インストールすることもできます。

試用ライセンスをインストールしインストール済み環境を使用した後、実動ライセンスを登録するために **setmqprd** を実行します。

関連情報

[UNIX、Linux、および Windows の場合での試用ライセンスの変換](#)

setmqscp

クライアント接続チャンネル定義を Active Directory で公開します (Windows のみ)。

目的

注: setmqscp コマンドは、IBM MQ for Windows にのみ適用されます。

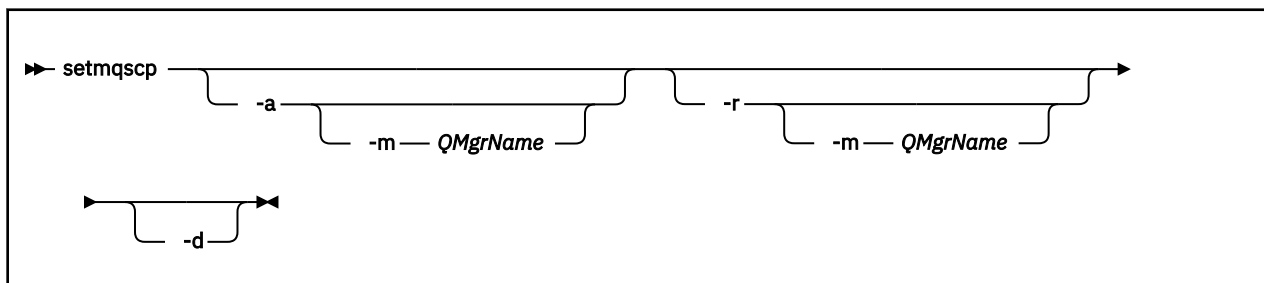
setmqscp コマンドを使用して、クライアント接続チャンネル定義を Active Directory で公開するためのサポートを構成および管理します。

このコマンドはまず、以下の目的でドメイン・アドミニストレーターによって使用されます。

- Active Directory を IBM MQ で使用するために準備します。
- IBM MQ のユーザーとアドミニストレーターに対して、IBM MQ Active Directory オブジェクトにアクセスしてそのオブジェクトを更新するための関連権限を付与します。

さらに、setmqscp コマンドを使用して、Active Directory 上で使用可能な、現在構成されているクライアント接続チャンネル定義をすべて表示することもできます。

構文



オプション・パラメーター

-a (追加)、-r (除去)、または -d (表示) の中から 1 つを指定する必要があります。

-a

IBM MQ MQI client 接続 Active Directory コンテナが存在していない場合、コンテナを追加します。ドメインの *System* コンテナにサブコンテナを作成するための適切な特権を持つユーザーでなければこのパラメーターは使えません。IBM MQ フォルダーは、CN=IBM-MQClientConnections と呼ばれます。setmqscp -r コマンドを使用する以外の方法でこのフォルダーを削除しないでください。

-d

サービス接続点を表示します。

-r

サービス接続点を除去します。-m を省略した場合、IBM-MQClientConnections フォルダーにクライアント接続定義が存在しない場合は、フォルダーそのものが Active Directory から除去されます。

-m [* | qmgr]

指定されたパラメーター (-a または -r) を変更して、指定されたキュー・マネージャーだけが影響を受けるようにします。

* | キュー・マネージャー

* は、すべてのキュー・マネージャーが影響を受けるように指定します。これにより、必要であれば特定のクライアント接続テーブル・ファイルを単独のキュー・マネージャーから移行することが可能になります。

例

以下のコマンドは、IBM-MQClientConnections フォルダーを作成して、必要な許可をフォルダーの IBM MQ アドミニストレーター、および続けて作成された子オブジェクトに割り振るものです。

```
setmqscp -a
```

以下のコマンドは、既存のクライアント接続定義を、ローカル・キュー・マネージャーである Paint.queue.manager から Active Directory に移行するものです。

```
setmqscp -a -m Paint.queue.manager
```

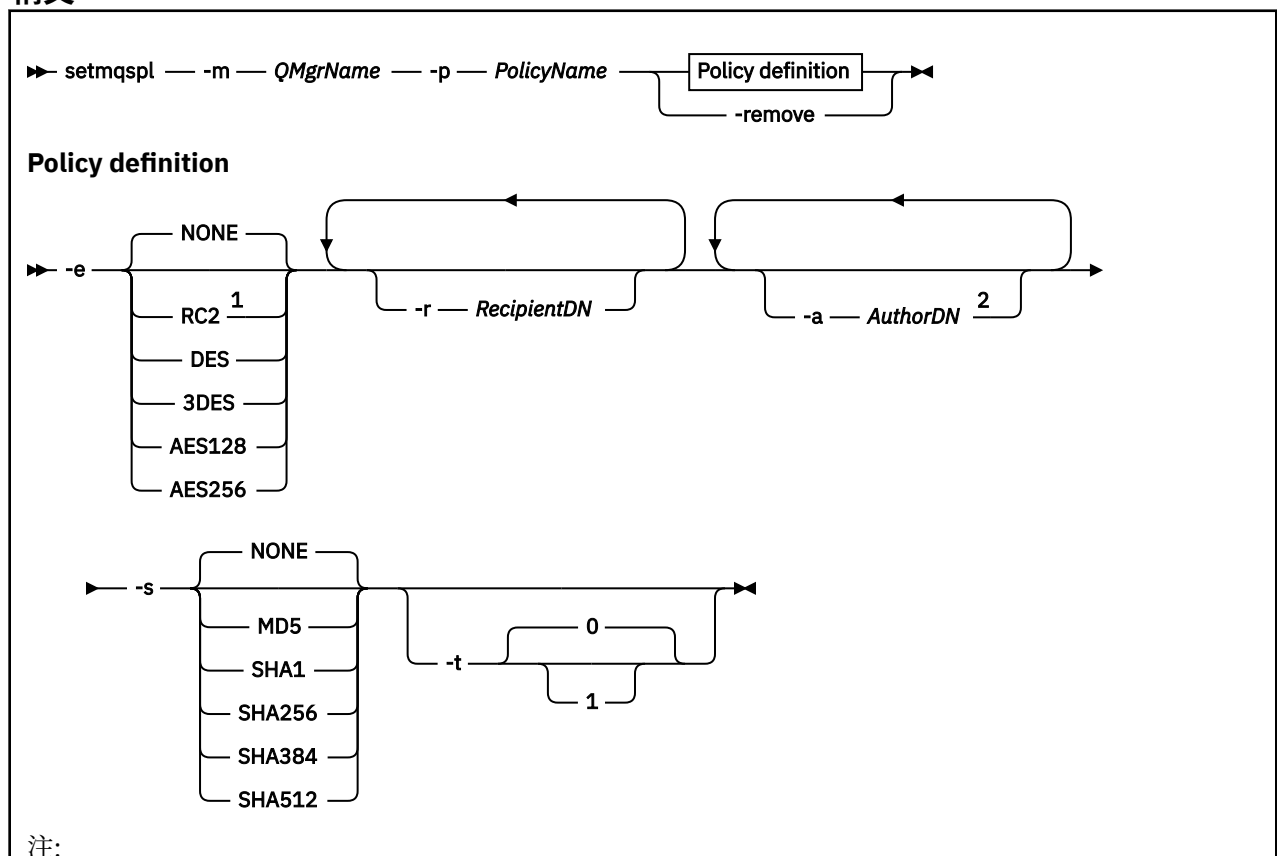
以下のコマンドは、ローカル・サーバー上のすべてのクライアント接続定義を Active Directory に移行するものです。

```
setmqscp -a -m *
```

setmqspl

setmqspl コマンドを使用して、新規セキュリティ・ポリシーの定義、既存のセキュリティ・ポリシーの置換、または既存のポリシーの削除を行います。

構文



¹ 暗号化アルゴリズムを選択する場合には、受信側 DN を指定する必要もあります。

² 作成者 DN を指定する場合には、署名アルゴリズムを選択する必要もあります。

表 38. `setmqsp1` コマンド・フラグ

コマンド・フラグ	説明
-m	キュー・マネージャー名。 このフラグは、セキュリティー・ポリシーに対するすべてのアクションで必須です。
-p	ポリシー名。 ポリシーを適用するキューの名前をポリシー名として設定します。
-s	デジタル署名のアルゴリズム。 IBM MQ Advanced Message Security は、MD5、SHA1、SHA256、SHA384、および SHA512 の値をサポートしています。これらの値は、すべて大文字でなければなりません。デフォルト値は NONE です。 重要： • SHA384 および SHA512 暗号ハッシュ関数の場合、署名に使用される鍵は 768 ビットより長くなければなりません。 • 暗号化アルゴリズムの名前は、大文字でなければなりません。 • 暗号化アルゴリズムが NONE ではない場合には、署名アルゴリズムを NONE にすることはできません。
-e	デジタル暗号化アルゴリズム。 IBM MQ Advanced Message Security は、暗号化アルゴリズム RC2、DES、3DES、AES128、AES256 をサポートします。デフォルト値は NONE です。 重要： • 暗号化アルゴリズムの名前は、大文字で指定する必要があります •  z/OS では、機密性ポリシーに対して暗号化アルゴリズム RC2 はサポートされていません。

表 38. setmqspl コマンド・フラグ (続き)

コマンド・フラグ	説明
-r	メッセージ受信者の識別名 (DN) (指定された場合、DN に関係する証明書が、所定のメッセージの暗号化に使用されます)。受信者を指定できるのは、暗号化アルゴリズムが NONE 以外の場合のみです。1 つのメッセージについて複数の受信者を組み込むことができます。各 DN は、個別の -r フラグで指定する必要があります。 重要: • DN 属性名は大文字でなければなりません。 • 名前の分離文字としてコンマを使用する必要があります。 • コマンド・インタープリター・エラーを避けるために、DN をマーク引用符で囲みます。 以下に例を示します。 <pre>-r "CN=alice, O=ibm, C=US"</pre>
-a	メッセージの取得中に検証される署名 DN。DN が指定されている、ユーザーによって署名されたメッセージのみが取得中に受け入れられます。署名 DN を指定できるのは、署名アルゴリズムが NONE 以外の場合のみです。複数の作成者を組み込むことができます。各作成者には、別個の -a フラグが必要です。 重要: DN 属性名は、大文字でなければなりません。
-t	容認フラグ。キューからメッセージを取得しようとしたときにセキュリティ・ポリシーが設定されていないメッセージが含まれていた場合に、キューに関連付けられたポリシーを無視できるかどうかを示します。有効な値は、以下のとおりです。 • 0 (デフォルト) 容認フラグはオフ。 • 1 容認フラグはオン。 容認はオプションで、段階的に実装する場合に役立ちます。つまり、キューにポリシーが適用されたものの、ポリシーを設定されていないメッセージが既にそれらのキューに含まれていた場合や、セキュリティ・ポリシーが設定されていないメッセージをリモート・システムから今後受信することがある場合です。
-remove	ポリシーを削除します。 これを指定する場合は、-p フラグのみが有効になります。

関連資料

1303 ページの『SET POLICY』

MQSC コマンド SET POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを設定します。

1130 ページの『DISPLAY POLICY』

MQSC コマンド DISPLAY POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを表示します。

76 ページの『dspmqspl』

dspmqspl コマンドを使用すると、すべてのポリシーのリスト、および指定したポリシーの詳細を表示できます。

V8.0.0.4 setmqxcred (XA 資格情報の追加)

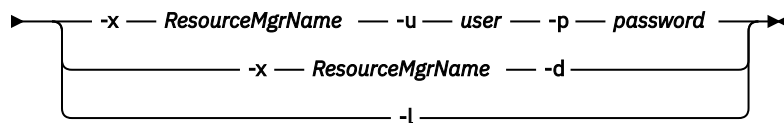
setmqxcred コマンドを使用して、IBM MQ XA 資格情報ストアの資格情報を追加または変更します。

目的

このコマンドは IBM MQ XA 資格情報ストアに新しい資格情報を追加し、既存の資格情報を変更または削除します。

構文

➡ **setmqxcred** — **-m** — ? — *QmgrName* ➡



必要なパラメーター

-m *QmgrName*

認証の詳細を保管する対象となるキュー・マネージャー。

オプション・パラメーター

-x *ResourceMgrName*

qm.ini ファイルで定義されたリソース・マネージャー名を指定します。

-u *user*

データベースへの接続に使用するユーザー名を指定します。

-p *password*

ユーザーのパスワードを指定します。

-d

指定されたリソース・マネージャーの資格情報を削除します。

-l

キュー・マネージャー・ストア内の資格情報をリストします。

例

リソース mqdb2 用のキュー・マネージャー QM1 の資格情報を追加するには:

```
# setmqxcred -m QM1 -x mydb2 -u user1 -p Password1
Successfully added credentials for XA Resource Manager mydb2
```

リソース mqdb2 用のキュー・マネージャー QM1 の資格情報を削除するには:

```
# setmqxacred -m QM1 -x mydb2 -d
Successfully removed credentials for XA Resource Manager mydb2
```

資格情報ストアに保管された資格情報についての詳細をリストするには:

```
# setmqxacred -m QM1 -l
ResourceName(mydb2) UserName(user1)
ResourceName(myora) UserName(user2)
```

strmqcfg

MQ Explorer を開始します (Windows および Linux x86-64 プラットフォームのみ)。

目的

IBM MQ for Windows についてのみ、runas を使用してこのコマンドを実行する場合は、アクセスできるものとして実行しているディレクトリーのパスを設定する環境変数 *APPDATA* を定義しておく必要があります。以下に例を示します。

```
set APPDATA=C:\Users\user_name\AppData\Roaming
```

次のコマンドを使用して、*APPDATA* が設定されているパスを確認できます。

```
set APPDATA
```

Linux では、MQ Explorer エクスプローラーを正常に開始するためには、ホーム・ディレクトリーが存在すること、そのホーム・ディレクトリーにファイルを書き込みできることが必要です。

注: Windows および Linux システムで MQ Explorer を始動する推奨される方法は、システム・メニューまたは MQ Explorer 実行可能ファイルを使用することです。

構文

このコマンドの構文は次のとおりです。

```
► strmqcfg [-c] [-i] [-x] ►
```

オプション・パラメーター

-c

-clean は Eclipse に渡されます。このパラメーターにより Eclipse は、Eclipse ランタイムによって使用されるキャッシュ・データすべてを削除します。

-i

-clean -initialize は Eclipse に渡されます。このパラメーターを指定すると、Eclipse は、Eclipse ランタイムによって使用されるキャッシュ・データおよび構成情報をそれぞれ削除および廃棄します。

MQ Explorer は一時的に開始され、ユーザー・インターフェースを表示せずに終了します。

-x

デバッグ・メッセージをコンソールに出力します。

strmqcsv

キュー・マネージャーのコマンド・サーバーを始動します。

目的

strmqcsv コマンドは、指定したキュー・マネージャーのコマンド・サーバーを始動するために使用します。これにより、IBM MQ はコマンド・キューに送られるコマンドを処理できます。

strmqcsv コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられているインストール環境から使用する必要があります。dspmqr -o installation コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

キュー・マネージャー属性 SCMDSERV に QMGR が指定されている場合、**strmqcsv** を使用してコマンド・サーバーの状態を変更しても、次の再開始時にキュー・マネージャーが SCMDSERV 属性に対して行う処理には影響ありません。

構文



必要なパラメーター

なし

オプション・パラメーター

-a

以下の PCF コマンドによって権限情報が変更または表示されるのを阻止します。

- 権限レコードの照会 (MQCMD_INQUIRE_AUTH_RECS)
- エンティティ権限の照会 (MQCMD_INQUIRE_ENTITY_AUTH)
- 権限レコードの設定 (MQCMD_SET_AUTH_REC)
- 権限レコードの削除 (MQCMD_DELETE_AUTH_REC)

QMgrName

コマンド・サーバーが開始されるキュー・マネージャーの名前。省略すると、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

戻りコード

戻りコード	説明

0	コマンドは正常に終了しました。
10	コマンドは終了しましたが、予期しない結果が出ました。
20	処理中にエラーが発生しました。

例

次のコマンドは、キュー・マネージャー **earth** のコマンド・サーバー を始動します。

```
strmqcsv earth
```

関連コマンド

コマンド	説明
endmqcsv	コマンド・サーバーを終了します。
dspmqcsv	コマンド・サーバーの状況を表示します。

strmqsvc

Windows で IBM MQ サービスを開始します。

目的

このコマンドは、Windows で IBM MQ サービスを開始します。このコマンドは、Windows 上でのみ実行してください。

サービスが自動的に開始されない場合、あるいはサービスが終了している場合にサービスを開始するには、このコマンドを実行します。

新しい環境 (新しいセキュリティ定義など) を選定する場合は、IBM MQ プロセス用のサービスを再開してください。

構文

strmqsvc

Parameters

strmqsvc コマンドにはパラメーターはありません。

サービスが含まれるインストール済み環境のパスを設定する必要があります。そのインストール済み環境をプライマリーにして **setmqenv** コマンドを実行するか、あるいは **strmqsvc** バイナリー・ファイルを含むディレクトリーからコマンドを実行してください。

関連資料

90 ページの『[endmqsvc \(IBM MQ サービスの終了\)](#)』

Windows で IBM MQ サービスを終了します。

strmqm

キュー・マネージャーを始動します。または スタンバイ操作に向けて準備します。

目的

strmqm コマンドは、キュー・マネージャーを始動するために使用します。

strmqm コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられたインストール済み環境から使用する必要があります。dspmq -o installation コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。

キュー・マネージャーにインストール済み環境が関連付けられておらず、システムに IBM WebSphere MQ 7.0.1 のインストール済み環境がない場合は、**strmqm** コマンドにより、**strmqm** コマンドを発行したインストール済み環境がキュー・マネージャーに関連付けられます。

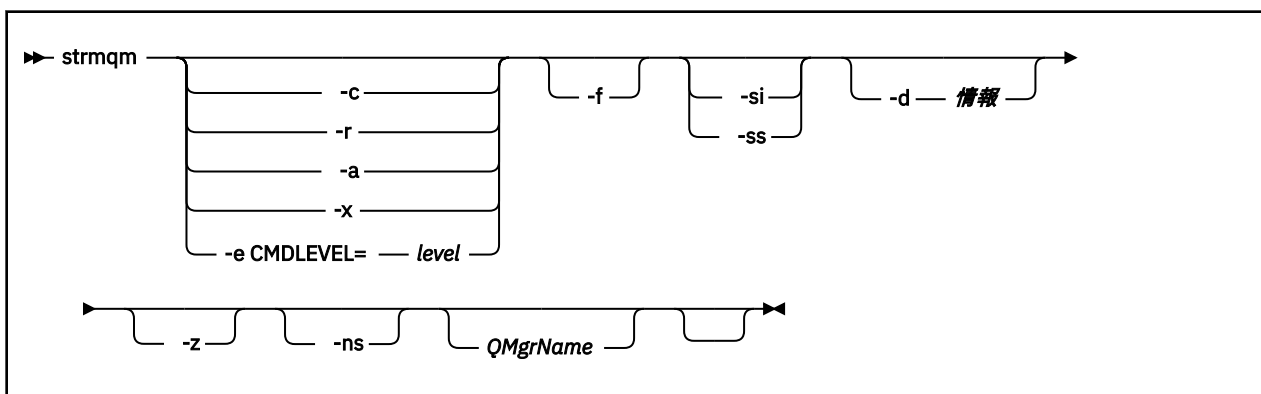
キュー・マネージャーの開始に数秒より長い時間がかかる場合、IBM MQ は、開始の進行状況の詳細を示す断続的な情報メッセージを表示します。

使用上の注意

▶ V8.0.0.8

IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 8 以降、**strmqm** コマンドは、キュー・マネージャーを完全に始動する前の早い段階で、qm.ini ファイルの CHANNELS および SSL スタンザの構文を検査します。qm.ini ファイルにエラーが含まれている場合、この検査によって容易に問題の内容を把握したりそれを迅速に修正したりできるようになります。エラーが検出された場合、**strmqm** は AMQ9224 エラー・メッセージを出力し、qm.ini ファイル内のエラー位置を詳細に記載します。また、キュー・マネージャーを始動せずに即座に終了します。

構文



オプション・パラメーター

-a

指定のバックアップ・キュー・マネージャーをアクティブにします。バックアップ・キュー・マネージャーは始動しません。

バックアップ・キュー・マネージャーは、アクティブにすると、制御コマンド **strmqm QMgrName** を使用して開始することができます。バックアップ・キュー・マネージャーのアクティブ化要求により、偶発的な開始が回避されます。

バックアップ・キュー・マネージャーをアクティブ化した後は、更新できなくなります。

バックアップ・キュー・マネージャーの使用の詳細については、[IBM MQ キュー・マネージャー・データのバックアップと復元](#)を参照してください。

-c

キュー・マネージャーを始動し、デフォルトおよびシステム・オブジェクトを再定義してから、キュー・マネージャーを停止します。キュー・マネージャーに属する既存のシステムおよびデフォルト・オブジェクトは、このフラグを指定すると置き換えられ、非デフォルトのシステム・オブジェクト値はリセットされます (例えば、MCAUSER の値はブランクに設定されます)。

crtmqm コマンドを使用して、キュー・マネージャーのデフォルト・オブジェクト およびシステム・オブジェクトを作成します。

注：IBM MQ Managed File Transfer 調整キュー・マネージャーとして使用されているキュー・マネージャーで **strmqm -c** を実行する場合は、調整キュー・マネージャー・オブジェクトを定義する MQSC ス

クリプトを再実行する必要があります。このスクリプトは、IBM MQ Managed File Transfer 構成ディレクトリーにある `queue_manager_name.mqsc` というファイル内にあります。

-d Information

情報メッセージを表示するかどうかを指定します。 *Information* の可能な値は、次のとおりです。

値	説明
all	すべての情報メッセージが表示されます。この値がデフォルト値です。
minimal	最小数の情報メッセージが表示されます。
なし	情報メッセージは表示されません。このパラメーターは、 <code>-z</code> と同じです。

`-z` パラメーターは、このパラメーターより優先されます。

-e CMDLEVEL= Level

このキュー・マネージャーのコマンド・レベルを有効にしてから、キュー・マネージャーを停止します。

キュー・マネージャーは、指定したコマンド・レベルにより提供される全機能を使用できるようになります。新しいコマンド・レベルをサポートするインストール済み環境でのみ、このキュー・マネージャーを開始できます。

このオプションは、キュー・マネージャーにより使用される現在のコマンド・レベルが、インストール済み環境によりサポートされる最高のコマンド・レベルより低い場合にのみ有効です。キュー・マネージャーの現在のコマンド・レベルより高く、インストール済み環境でサポートされる最高のコマンド・レベル以下であるコマンド・レベルを指定してください。

有効にする機能に関連付けられている *Level* の値として、正確にコマンド・レベルを使用してください。

このフラグを `-a`、`-c`、`-r`、または `-x` とともに指定することはできません。

-f

キュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーが欠落または破損しているためにキュー・マネージャーが始動していないことが分かっている場合に、このオプションを使用します。

strmqm -f qmname コマンドは、キュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーを再作成してファイルの許可を再設定しようとします。成功した場合は、キュー・マネージャー構成情報が欠落していなければ、キュー・マネージャーは始動します。構成情報が欠落しているためにキュー・マネージャーが始動できない場合は、構成情報を再作成して、キュー・マネージャーを再始動します。

7.0.1 より前のリリースの IBM MQ では、**strmqm** に `-f` オプションを指定しなくても、自動的にデータ・ディレクトリーの欠落を修復してから始動しようとしていました。この動作は変更されました。

IBM WebSphere MQ 7.0.1 以降では、`-f` オプションを指定しない **strmqm** のデフォルトの動作は、欠落または破損したデータ・ディレクトリーを自動的にリカバリーすることではなく、AMQ6235 または AMQ7001 などのエラーを報告することであり、キュー・マネージャーを開始しません。

`-f` オプションは、これまでは **strmqm** によって自動的に実行されていたリカバリー・アクションの実行と見なすことができます。

strmqm の動作が変更された理由は、IBM WebSphere MQ 7.0.1 のネットワーク・ファイル・ストレージに対するサポートにより、キュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーの欠落や破損が、データ・ディレクトリーが破損したりリカバリー不能な程度まで使用不可になったりしたことなく、主に修正可能な構成エラーが原因で生じるようになったことによります。

構成を修正することによってキュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーを復元できる場合は、**strmqm -f** を使用してデータ・ディレクトリーを再作成しないでください。

strmqm での問題に対して可能な解決法としては、キュー・マネージャーがネットワーク・ファイル・ストレージ・ロケーションにアクセスできるようにするか、キュー・マネージャーをホスティングするサーバー上のユーザー ID と mqm グループのグループ ID およびユーザー ID と、キュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーをホスティングするサーバー上のユーザー ID と mqm グループのグループ ID およびユーザー ID を一致させる方法があります。

IBM WebSphere MQ 7.0.1 からは、キュー・マネージャーにメディア・リカバリーを実行する場合に、**-f** オプションを使用してキュー・マネージャーのデータ・ディレクトリーを再作成する必要があります。

-ns

キュー・マネージャーの始動時に以下のプロセスが自動的に開始されることがなくなります。

- チャネル・イニシエーター
- コマンド・サーバー
- リスナー
- サービス

このパラメーターはまた、現行値に関係なく、**CONNAUTH** 属性がブランクであるかのようにしてキュー・マネージャーを実行します。リスナーが存在しないため、クライアント・アプリケーションは接続できません。アプリケーションと制御コマンドは、それらを実行するローカル OS ユーザーに基づいて許可されます。キュー・マネージャーがその許可レコードに LDAP ユーザー/グループを使用していたことがある場合は、次のようになります。

1. キュー・マネージャーが **-ns** モードで実行されているときには、これらのレコードは無視されます。
2. このモードで作成または修正された許可レコードには、LDAP リポジトリからではなく、オペレーティング・システムから派生したユーザー名が含まれるため、このモードでは許可レコードを変更したり、オブジェクトを新規作成したりしないでください。

コマンド・サーバーが稼働していないため、管理変更は **runmqsc** を使用して行う必要があります。

通常の許可サービス処理を再度使用可能にするには、つまり有効な **CONNAUTH** 値を通常の設定に戻すには、キュー・マネージャーを終了して、**-ns** パラメーターを指定せずに開始する必要があります。

-r

バックアップ・キュー・マネージャーを更新します。バックアップ・キュー・マネージャーは始動しません。

IBM MQ は、キュー・マネージャーのログを読み取ってオブジェクト・ファイルへの更新をやり直すことにより、バックアップ・キュー・マネージャーのオブジェクトを更新します。

バックアップ・キュー・マネージャーの使用の詳細については、[IBM MQ キュー・マネージャー・データのバックアップと復元](#)を参照してください。

-si

対話式 (手動) キュー・マネージャー始動タイプ。このオプションは、IBM MQ for Windows でのみ使用可能です。

キュー・マネージャーはログオン (対話式) ユーザーの下で実行されます。対話式始動で構成されたキュー・マネージャーは、キュー・マネージャーを開始したユーザーがログオフすると終了します。

このパラメーターを設定すると、以前に **crtmqm** コマンド、**amqmdain** コマンド、または IBM MQ エクスプローラーで設定した始動タイプはすべて指定変更されます。

-si または **-ss** のいずれの始動タイプも指定されなかった場合は、**crtmqm** コマンドで指定されたキュー・マネージャー始動タイプが使用されます。

-ss

サービス (手動) キュー・マネージャー始動タイプ。このオプションは、IBM MQ for Windows でのみ使用可能です。

キュー・マネージャーはサービスとして実行されます。サービス始動で構成されたキュー・マネージャーは、対話式ユーザーがログオフした後も継続して実行されます。

このパラメーターを設定すると、以前に **crtmqm** コマンド、**amqmdain** コマンド、または IBM MQ エクスプローラーで設定した始動タイプはすべて指定変更されます。

-x

ローカル・サーバーで複数インスタンス・キュー・マネージャーのインスタンスを開始して、可用性を高くすることができるようにします。キュー・マネージャーのインスタンスが他のどの場所でもま

だ実行されていなければ、キュー・マネージャーが開始され、そのインスタンスがアクティブになります。アクティブ・インスタンスは、ローカル・サーバー上のキュー・マネージャーへのローカルおよびリモート接続を受け入れられるようになります。

複数インスタンス・キュー・マネージャー・インスタンスが別のサーバーですでにアクティブになっている場合、新しいインスタンスがスタンバイになり、アクティブなキュー・マネージャー・インスタンスから引き継ぐことができる状態になります。スタンバイである間は、ローカルまたはリモート接続を受け入れることはできません。

同じサーバーでキュー・マネージャーの2つ目のインスタンスを開始することはできません。

デフォルトの動作である、-x オプション・パラメーターの省略では、単一インスタンス・キュー・マネージャーとしてインスタンスが開始され、スタンバイ・インスタンスの開始は許可されません。

-z

エラー・メッセージを抑制します。

このフラグは、不要な情報メッセージを抑制するために IBM MQ 内で使用します。このフラグを使用すると情報が失われる可能性があるので、コマンド行からコマンドを入力する場合には、このフラグを使用しないでください。

このパラメーターは、-d パラメーターより優先されます。

QMGrName

ローカル・キュー・マネージャーの名前を指定します。省略すると、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

戻りコード

戻りコード 説明

0	キュー・マネージャーが始動しました。
3	キュー・マネージャーは作成中です。
5	キュー・マネージャーは実行中です。
16	キュー・マネージャーがありません。
23	ログが利用不能です。
24	キュー・マネージャーの以前のインスタンスを使用していたプロセスは、まだ切断されていません。
30	キュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスが開始されました。アクティブ・インスタンスは他の場所で実行中です。
31	キュー・マネージャーにはすでにアクティブ・インスタンスがあります。キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスを許可します。
39	無効なパラメーターが指定されました。
43	キュー・マネージャーにはすでにアクティブ・インスタンスがあります。キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスを許可しません。
47	キュー・マネージャーにはすでに最大数のスタンバイ・インスタンスがあります。
49	キュー・マネージャーが停止中です。
58	複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました
62	キュー・マネージャーは別のインストール済み環境に関連付けられています。
69	ストレージが利用不能です。
71	予期しないエラーです。

戻りコード 説明

72	キュー・マネージャー名のエラーです。
74	IBM MQ サービスが始動していません。
91	コマンド・レベルが許容値の範囲外です。
92	キュー・マネージャーのコマンド・レベルが、指定した値以上です。
100	ログの位置が無効です。
119	このユーザーは、キュー・マネージャーを始動することを許可されていません。

例

次のコマンドは、キュー・マネージャー `account` を開始します。

```
strmqm account
```

関連コマンド

コマンド	説明
25 ページの『crtmqm』	キュー・マネージャーの作成
34 ページの『dlmqm』	キュー・マネージャーを削除します。
80 ページの『dspmqver (バージョン情報の表示)』	MQ バージョン情報の表示
87 ページの『endmqm』	キュー・マネージャーを終了します。

strmqtrc

指定された詳細レベルでのトレースを可能にするか、有効なトレースのレベルを報告します。

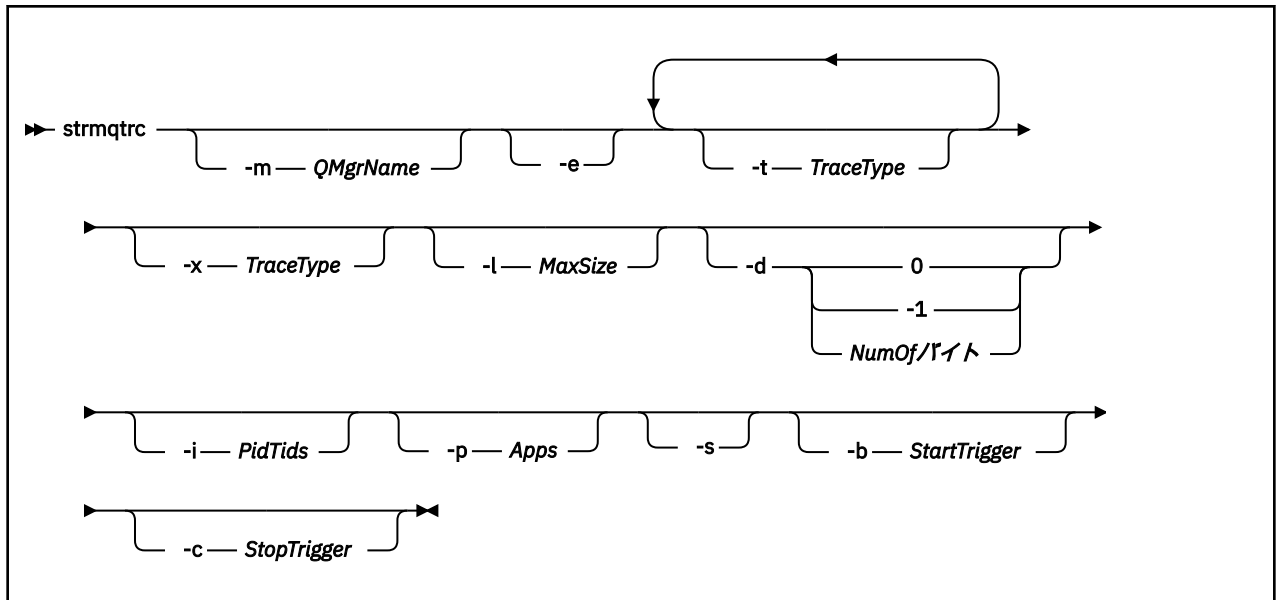
目的

strmqtrc コマンドは、トレースを有効にする場合に使用します。

strmqtrc コマンドは、作業対象のキュー・マネージャーに関連付けられたインストール済み環境から使用する必要があります。 `dspmq -o installation` コマンドを使用して、どのインストール済み環境にキュー・マネージャーが関連付けられているかを調べることができます。これは、クライアント製品 (例えば HP Integrity NonStop Server) には適用されません。直接出力の要求元となるキュー・マネージャーが存在しないためです。

構文

このコマンドの構文は次のとおりです。



説明

strmqtrc コマンドでトレースが有効になります。このコマンドには、任意のトレースのレベルを指定するオプション・パラメーターがあります。

- 1つ以上のキュー・マネージャー
- トレースの詳細のレベル
- 1つ以上の IBM MQ プロセス。プロセスは IBM MQ 製品の一部か、IBM MQ API を使用するカスタマー・アプリケーションのいずれかになります。
- カスタマー・アプリケーション内の特定のスレッド (IBM MQ スレッド番号、またはオペレーティング・システム・スレッド番号のいずれかによる)
- イベント。内部 IBM MQ 機能からの入力か出口、または First Failure Data Capture (FDC) のオカレンスのいずれか。

コマンドの個々の呼び出しで複数のパラメーターを組み合わせた場合、IBM MQ はそれぞれの間に論理 AND があると解釈します。トレースが既に有効になっているかどうかに関係なく、strmqtrc コマンドを複数回開始することができます。トレースが既に有効である場合、有効なトレース・オプションは、このコマンドの最後の呼び出しで指定したオプションに変更されます。間に enmqtrc コマンドを呼び出すことなくコマンドを複数回呼び出す場合、IBM MQ はそれらの間に論理 OR があると解釈します。一度に有効にできる同時 strmqtrc コマンドの最大数は 16 です。

HP Integrity NonStop Server 上の IBM MQ クライアントの場合は、トレース・コマンドを特定のプロセッサに送信する必要があります。例えば、クライアントがプロセッサ 2 で実行されていて、シェルがプロセッサ 1 上にある場合は、**strmqtrc <options>** を指定してトレースを開始しても、クライアントはトレースされません。この場合は、`run -cpu=2 strmqtrc` と指定することが必要となります。

オプション・パラメーター

-m QMgrName

トレースするキュー・マネージャーの名前。このパラメーターは、サーバー製品にのみ適用されます。

ワイルドカードとして、アスタリスク (*) (ゼロ文字以上の文字を表す) と疑問符 (?) (任意の 1 文字を表す) を使用できます。アスタリスク (*) と疑問符 (?) 文字が特殊な意味を持つ UNIX シェルなどのコマンド環境では、コマンド環境がワイルドカード文字に対する操作を行わないようにするため、ワイルドカード文字をエスケープするか引用符で囲む必要があります。

-e

すべてのプロセスの早期トレースを要求して、キュー・マネージャーの作成や始動をトレースできるようにします。このフラグを入れると、すべてのキュー・マネージャーの任意のコンポーネントに属するどのプロセスでも早期処理がトレースされます。デフォルトでは、早期トレースは実行されません。

次のコマンドを使用して、クライアントをトレースします。

```
strmqtrc -e
```

-e フラグを、-m フラグ、-i フラグ、-p フラグ、-c フラグ、または -b フラグと同時に使用することはできません。-e フラグを、-m フラグ、-i フラグ、-p フラグ、-c フラグ、または -b フラグと同時に使用すると、エラー・メッセージが発行されます。

-t TraceType

トレースするポイント、および記録するトレース明細の量のことです。デフォルトでは、すべてのトレース・ポイントが使用可能になり、デフォルトの詳細なトレースが生成されます。

その他に、以下のリストにある オプションを少なくとも 1 つ指定することもできます。指定する *tracetype* 値 (-t all を含む) ごとに、-t parms または -t detail を指定して、適切なレベルのトレース詳細を取得します。どの特定のトレース・タイプにも -t parms または -t detail のいずれも指定していない場合は、そのトレース・タイプに対しデフォルトの詳細なトレースだけが生成されます。



重要: -t api オプションを使用すると、MQI 呼び出しのトレースが表示され、そこにすべての入出力データ・ブロックが 16 進数形式でダンプされます。

IBM MQ 内部プログラムも MQI 呼び出しを行うので、それらのプログラムのトレース・ファイルも表示されることに注意してください。通常、プログラム名は amq または runmq で始まります。

amqrmppa プログラムは多数のスレッドをホストし、そのうちのいくつかはネットワークを介してクライアント・アプリケーションから MQI 呼び出しを受信するということに注意してください。これらのスレッドの -t api トレースには MQI 呼び出しが含まれていますが、

amqrmppa プログラムでトレースされたそれらの MQI 呼び出しに対する入力引数は、クライアントによって当初実行された MQI 呼び出しの詳細すべてとは一致しない可能性があります。

したがって、クライアント・アプリケーションによって行われる MQI 呼び出しへの入力引数を確実に知る必要がある場合は、クライアント・マシンで直接 -t api トレースを使用する必要があります。

複数のトレース・タイプを指定する場合は、それぞれのトレース・タイプに必ず 1 つずつ -t フラグを付ける必要があります。-t フラグは、それぞれ有効なトレース・タイプが関連付けられていれば、いくつでも組み込むことができます。

複数の -t フラグに同じトレース・タイプを指定しても、エラーにはなりません。

表 39. <i>TraceType</i> パラメーター値	
値	説明
all	システム内のすべてのトレース・ポイントについてデータを出力します (デフォルト)。すべてのパラメーターは、デフォルトの詳細レベルでトレースを起動します。
api	MQI および主なキュー・マネージャーのコンポーネントに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
commentary	IBM MQ コンポーネント内の注釈に関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

表 39. TraceType パラメーター値 (続き)	
値	説明
comms	通信ネットワークを介して流れるデータに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
csdata	共通サービス内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
csflows	共通サービス内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
detail	処理フローのトレース・ポイントについて、詳細レベルでトレースを起動します。
Explorer	IBM MQ エクスプローラーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
java	IBM MQ classes for Java API を使用するアプリケーションに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
lqmdata	ローカル・キュー・マネージャー内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
lqmflows	ローカル・キュー・マネージャー内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
mqxr	テレメトリー (MQXR) サービスに関する出力データ
otherdata	その他のコンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
otherflows	その他のコンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
parms	処理フローのトレース・ポイントについて、デフォルトの詳細レベルでトレースを起動します。
remotedata	通信コンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
remoteflows	通信コンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
servicedata	サービス・コンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
serviceflows	サービス・コンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

表 39. <i>TraceType</i> パラメーター値 (続き)	
値	説明
spldata	セキュリティー・ポリシー (AMS) 操作を使用するバッファーおよび制御ブロックに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
splflows	セキュリティー・ポリシー (AMS) 操作を使用する機能の入力と出口のデータに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
soap	IBM MQ Transport for SOAP に関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。
ssl	GSKit を使用して Secure Sockets Layer (SSL) チャネル・セキュリティーを使用可能にすることに関連した出力データ。
versiondata	実行中の IBM MQ のバージョンに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

-x *TraceType*

トレースしないポイントのことです。デフォルトでは、**すべての**トレース・ポイントが使用可能になり、デフォルトの詳細なトレースが生成されます。指定可能なトレース・ポイントは、**-t** フラグにリストされているものです。

-x フラグを *tracetype* 値と共に使用して、記録対象外のエンタリー・ポイントを除外することができます。これは生成されるトレースの量を減らすために役立ちます。

複数のトレース・タイプを指定する場合は、それぞれのトレース・タイプに必ず **-x** フラグを 1 つずつ付ける必要があります。**-x** フラグは、それぞれ有効なトレース・タイプが関連付けられていれば、いくつでも組み込むことができます。

-l *MaxSize*

トレース・ファイルの最大サイズ (*AMQppppp.qq.TRC*) (メガバイト (MB) 単位)。 *ppppp* は、トレース対象の特定の IBM MQ プロセスのオペレーティング・システム・プロセス ID を表し、 *qq* は、その名前のファイルが既に存在する場合はシーケンス番号です。例えば、*MaxSize* を 1 に指定した場合、トレースのサイズは 1 MB に制限されます。

トレース・ファイルが指定された最大値に達すると、トレース・ファイルは *AMQppppp.qq.TRS* に名前変更され、新しい *AMQppppp.qq.TRC* ファイルが開始されます。*AMQppppp.qq.TRS* ファイルの直前のコピーが存在する場合、そのファイルは削除されます。

MaxSize に設定できる最大値は、2048 MB です。

-d 0

ユーザー・データをトレースしません。

-d -1 or all

すべてのユーザー・データをトレースします。

-d *NumOfBytes*

- 通信トレースの場合は、伝送セグメント・ヘッダー (TSH) を含む指定されたバイト数のデータをトレースします。
- MQPUT 呼び出しまたは MQGET 呼び出しの場合は、メッセージ・バッファーに保持される指定されたバイト数のメッセージ・データをトレースします。
- 1 から 15 の範囲内の値は、許可されていません。

-i PidTids

トレース生成が制限されるプロセス ID (PID) およびスレッド ID (TID)。 **-i** パラメーターと **-e** パラメーターを同時に使用することはできません。 **-i** パラメーターと **-e** パラメーターを同時に使用すると、エラー・メッセージが出されます。

このパラメーターの正確なフォーマットは PID[.TID] です。 以下に例を示します。

コーディング **-i 12345** は、PID 12345 のすべてのスレッドをトレースするのに対して
コーディング **-i 12345.67** は、PID 12345 のスレッド 67 のみをトレースします。

クライアントが管理された IBM MQ 問題診断を使用するように NMQ_MQ_LIB が managed に設定されている場合、このパラメーターは .NET クライアントについてはサポートされません。

-p Apps

トレース生成が制限された名前付きプロセス。 *Apps* はコンマ区切りリストです。 リスト内のそれぞれの名前は、"Program Name" FDC ヘッダーに表示されているプログラム名どおりに正確に指定してください。 ワイルドカードとしてアスタリスク (*) または疑問符 (?) を使用できます。 **-p** フラグと **-e** フラグを同時に使用することはできません。 **-p** フラグと **-e** フラグを同時に使用すると、エラー・メッセージが出されます。

クライアントが管理された IBM MQ 問題診断を使用するように NMQ_MQ_LIB が managed に設定されている場合、このパラメーターは .NET クライアントについてはサポートされません。

-s

現在有効なトレース・オプションを報告します。 このパラメーターは単独で使用する必要があります。他のパラメーターとは併用できません。

トレース・コマンドを保管するのに使用可能なスロットの数に制限があります。 すべてのスロットが使用中になった場合、既存のスロットを置き換えない限り、追加のトレース・コマンドは受け入れられません。 スロット番号は固定されていません。 それで、スロット番号 0 のコマンドを、例えば **endmqtrc** コマンドで除去した場合、他のすべてのスロットは繰り上がり、例えばスロット 1 はスロット 0 になります。 フィールドにアスタリスク (*) がある場合、値が定義されていないことを意味し、アスタリスク・ワイルドカードと同等の意味を持つことになります。

以下は、このコマンドからの出力例です。

Listing Trace Control Array

Used slots = 2 of 15

```
EarlyTrace    [OFF]
TimedTrace    [OFF]
TraceUserData [0]
MaxSize       [0]
Trace Type    [1]
```

Slot position 1

```
Untriggered
Queue Manager [avocet]
Application   [*]
PID.TID       [*]
TraceOptions  [1f4ffff]
TraceInterval [0]
Trace Start Time [0]
Trace Stop Time [0]
Start Trigger [KN346050K]
Start Trigger [KN346080]
```

Slot position 2

```
Untriggered
Queue Manager [*]
Application   [*]
PID.TID       [*]
TraceOptions  [1fcffff]
TraceInterval [0]
Trace Start Time [0]
Trace Stop Time [0]
```

```
Start Trigger [KN346050K]
Start Trigger [KN346080]
```

クライアントが管理された IBM MQ 問題診断を使用するように NMQ_MQ_LIB が managed に設定されている場合、このパラメーターは .NET クライアントについてはサポートされません。

-b Start_Trigger

トレースをオンにする FDC プローブ ID。 *Start_Trigger* は FDC プローブ ID のコンマ区切りのリストです。プローブ ID を指定するときには、アスタリスク (*) や疑問符 (?) のワイルドカードを使用できます。 -b フラグと -e フラグを同時に使用することはできません。 -b フラグと -e フラグを同時に使用すると、エラー・メッセージが出されます。このパラメーターは、IBM サービス担当員の指示の下でのみ使用してください。

Start_Trigger	機能
FDC=FDC プローブ ID のコンマ区切りのリスト。	指定した FDC プローブ ID の FDC が生成されると、トレースがオンになります。

クライアントが管理された IBM MQ 問題診断を使用するように NMQ_MQ_LIB が managed に設定されている場合、このパラメーターは .NET クライアントについてはサポートされません。

-c Stop_Trigger

トレースをオフにする FDC プローブ ID、またはトレースをオフにするまでの間隔 (秒)。 *Stop_Trigger* は FDC プローブ ID のコンマ区切りのリストです。プローブ ID を指定するときには、アスタリスク (*) や疑問符 (?) のワイルドカードを使用できます。このパラメーターは、IBM サービス担当員の指示の下でのみ使用してください。

Stop_Trigger	機能
FDC=FDC プローブ ID のコンマ区切りのリスト。	指定した FDC プローブ ID の FDC が生成されると、トレースがオフになります。
interval=n ここで n は 1 から 32,000,000 の範囲の符号なし整数です。	トレースを開始してから n 秒後にオフになります。既にトレースが有効になっている場合、このコマンドのインスタンスが発行されてから n 秒後にトレースがオフになります。

クライアントが管理された IBM MQ 問題診断を使用するように NMQ_MQ_LIB が managed に設定されている場合、このパラメーターは .NET クライアントについてはサポートされません。

戻りコード

戻りコード 説明

- AMQ7024 無効な引数がコマンドに指定されました。
- AMQ7077 要求された操作を実行する許可がありません。
- AMQ8304 9 つの同時トレース (最大値) がすでに実行中です。
- 58 複数のインストール済み環境が矛盾して使用されていることが検出されました

さまざまな詳細レベルでトレースを有効にする例

次のコマンドは、IBM MQ for UNIX システムの QM1 というキュー・マネージャーについて共通サービスおよびローカル・キュー・マネージャーからの処理フローのトレースを有効にするものです。トレース・データはデフォルトの詳細レベルで生成されます。

```
strmqtrc -m QM1 -t csflows -t lqmflows -t parms
```

次のコマンドは、QM1 というキュー・マネージャーの SSL アクティビティのトレースを無効にします。他のトレース・データは parms の詳細レベルで生成されます。

```
stirmqtrc -m QM1 -x ssl -t parms
```

次のコマンドは、すべてのコンポーネントの処理フローの詳細トレースを使用可能にするものです。

```
stirmqtrc -t all -t detail
```

FDC のためにトレースを有効にする例

次のコマンドは、キュー・マネージャー QM1 を使用するいずれかのプロセスに FDC KN346050 または FDC KN346080 が発生したときにトレースを有効にします。

```
stirmqtrc -m QM1 -b FDC=KN346050,KN346080
```

次のコマンドは、FDC KN346050 が発生するとトレースを有効にし、FDC KN346080 が発生するとトレースを停止します。いずれの場合でも、キュー・マネージャー QM1 を使用しているプロセスで FDC が発生する必要があります。

```
stirmqtrc -m QM1 -b FDC=KN346050 -c FDC=KN346080
```

stirmqtrc の個別呼び出しおよび複数呼び出しでの -p フラグと -m フラグの使用例

次の例では、-p および -m フラグを使用して、以下を表示します。

- コマンドの個々の呼び出しのパラメーターを組み合わせた場合、IBM MQ がそれらの間に論理 AND があると解釈する方法。
 - 割り込み enmqtrc コマンドなしでコマンドを複数回呼び出した場合、IBM MQ がそれらの間に論理 OR があると解釈する方法。
1. このコマンドは、amqxxx.exe というプロセスの実行結果として発生するすべてのスレッドのトレースを有効にします。

```
stirmqtrc -p amqxxx.exe
```

2. ステップ 1 に示されているように、**stirmqtrc** コマンドを実行した後、**endmqtrc** コマンドに介入することなく以下のいずれかのコマンドを入力できます。
 - ステップ 1 のコマンドの後に、割り込み endmqtrc コマンドなしに以下のコマンドを開始した場合、amqxxx.exe というプロセスの実行結果として発生し、かつ キュー・マネージャー QM2 を使用しているすべてのスレッドにトレースが制限されます。

```
stirmqtrc -p amqxxx.exe -m QM2
```

- ステップ 1 のコマンドの後に、割り込み endmqtrc コマンドなしに以下のコマンドを開始した場合、amqxxx.exe を実行することによって得られる、または キュー・マネージャー QM2 を使用しているすべてのプロセスおよびスレッドにトレースが制限されます。

```
stirmqtrc -m QM2
```

HPE NonStop V8.1 このコマンドを使用すると、CPU 3 上のキュー・マネージャー QM1 で実行しているかそれに接続されている、すべてのキュー・マネージャー・プロセスとアプリケーションをトレースできます。

```
run -cpu=3 strmqtrc -m QM1
```

すべての CPU 上のキュー・マネージャー・プロセスすべてをトレースする場合には、システムで使用できるすべての CPU に関して **strmqtrc** を実行できます。

IBM MQ に付属の LDAP クライアント・ライブラリー・コードの動的トレースを有効にする例

V8.0.0.14

IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 14 以降では、キュー・マネージャーを停止または開始することなく、LDAP クライアントのトレースをオンまたはオフに切り替えることができます。

次のコマンドを使用して、トレースをオンに切り替えることができます。

```
strmqtrc -m QMNAME -t servicedata
```

この動作を有効にするには、環境変数 **AMQ_LDAP_TRACE** を非 NULL の値に設定することも必要です。詳しくは、[LDAP クライアント・ライブラリー・コードの動的トレースの有効化](#)を参照してください。

関連コマンド

コマンド	説明
dspmqtrc	定様式トレース出力の表示
endmqtrc	トレースの終了

コマンド・セットの比較

このセクションの表では、各種管理用コマンド・セットで使用可能な機能を比較し、IBM MQ エクスプローラー内から各機能を実行できるかどうかについて説明しています。

注：以下の表は IBM MQ for z/OS または IBM MQ for IBM i には適用されません。 **z/OS** z/OS および IBM i で PCF コマンドを使用する方法について詳しくは、[プログラマブル・コマンド・フォーマットの概要](#)を参照してください。 **IBM i** z/OS および IBM i で MQSC コマンドを使用する方法について詳しくは、[スクリプト \(MQSC\) コマンド](#)を参照してください。

キュー・マネージャー・コマンド

キュー・マネージャーのコマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 40. キュー・マネージャー・コマンド				
説明	PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Change Queue Manager	Change Queue Manager	ALTER QMGR	同等なし	Yes
キュー・マネージャーの作成	同等なし	同等なし	crtmqm	Yes
キュー・マネージャーの削除	同等なし	同等なし	dltmqm	Yes

表 40. キュー・マネージャー・コマンド (続き)

説明	PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Inquire Queue Manager	Inquire Queue Manager	DISPLAY QMGR	同等なし	Yes
Inquire Queue Manager Status	Inquire Queue Manager Status	DISPLAY QMSTATUS	dspmq	Yes
Ping Queue Manager	Ping Queue Manager	PING QMGR	同等なし	No
キュー・マネージャーのリフレッシュ	キュー・マネージャーのリフレッシュ	REFRESH QMGR	同等なし	Yes
Reset Queue Manager	Reset Queue Manager	RESET QMGR	同等なし	No
キュー・マネージャーの始動	同等なし	同等なし	strmqm	Yes
キュー・マネージャーの停止	同等なし	同等なし	endmqm	Yes

コマンド・サーバー・コマンド

コマンド・サーバーのコマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 41. コマンド・サーバーの管理用のコマンド

説明	PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
コマンド・サーバーの表示	Inquire Queue Manager Status	DISPLAY QMSTATUS	dspmqcsv	Yes
コマンド・サーバーの開始	Change Queue Manager	ALTER QMGR	strmqcsv	Yes
コマンド・サーバーの停止	同等なし	同等なし	endmqcsv	Yes

権限コマンド

権限コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 42. 権限管理用コマンド

PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Delete Authority Record	DELETE AUTHREC	setmqaut	Yes
Inquire Authority Record	DISPLAY AUTHREC	dmpmqaut	Yes
Inquire Entity Authority	DISPLAY ENTAUTH	dspmqaut	Yes
Refresh Security	REFRESH SECURITY	同等なし	Yes

表 42. 権限管理用コマンド (続き)			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Set Authority Record	SET AUTHREC	setmqaut	Yes

クラスター・コマンド

クラスター・コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 43. クラスター・コマンド			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Inquire Cluster Queue Manager	DISPLAY CLUSQMGR	同等なし	Yes
Refresh Cluster	REFRESH CLUSTER	同等なし	Yes
Reset Cluster	Reset Cluster	同等なし	No
Resume Queue Manager Cluster	RESUME QMGR	同等なし	Yes
Suspend Queue Manager Cluster	SUSPEND QMGR	同等なし	Yes

認証情報コマンド

認証情報コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 44. 認証情報コマンド			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Change Authentication Information Object	ALTER AUTHINFO	同等なし	Yes
Copy Authentication Information Object	DEFINE AUTHINFO(x) LIKE(y)	同等なし	Yes
Create Authentication Information Object	DEFINE AUTHINFO	同等なし	Yes
Delete Authentication Information Object	DELETE AUTHINFO	同等なし	Yes
Inquire Authentication Information Object	DISPLAY AUTHINFO	同等なし	Yes

チャネル・コマンド

チャネル・コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および MQ Explorer の同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 45. チャネル・コマンド			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	MQ Explorer に同等の機能があるか
Change Channel	ALTER CHANNEL	同等なし	Yes
Copy Channel	DEFINE CHANNEL(x) LIKE(y)	同等なし	Yes
Create Channel	DEFINE CHANNEL	同等なし	Yes
Delete Channel	DELETE CHANNEL	同等なし	Yes
Inquire Channel	DISPLAY CHANNEL	同等なし	Yes
Inquire Channel Names	DISPLAY CHANNEL	同等なし	Yes
Inquire Channel Status	DISPLAY CHSTATUS	同等なし	Yes
Ping Channel	PING CHANNEL	同等なし	Yes
Purge Channel	PURGE CHANNEL	同等なし	Yes
Reset Channel	RESET CHANNEL	同等なし	Yes
Resolve Channel	RESOLVE CHANNEL	同等なし	Yes
Start Channel	START CHANNEL	runmqchl	Yes
Start Channel Initiator	START CHINIT	runmqchi	No
Stop Channel	STOP CHANNEL	同等なし	Yes

リスナー・コマンド

リスナー・コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 46. リスナー・コマンド			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Change Listener	ALTER LISTENER	同等なし	Yes
Copy Listener	DEFINE LISTENER(x) LIKE(y)	同等なし	Yes
Create Listener	DEFINE LISTENER	同等なし	Yes
Delete Listener	DELETE LISTENER	同等なし	Yes
Inquire Listener	DISPLAY LISTENER	同等なし	Yes
Inquire Listener Status	DISPLAY LSSTATUS	同等なし	Yes
Start Channel Listener	リスナーの開始 171 ページの『1』	runmqlsr	Yes
Stop Listener	STOP LISTENER	endmqlsr 171 ページの『2』	Yes
注： - リスナー・オブジェクトにのみ使用されます。 - すべてのアクティブ・リスナーを停止します。			

名前リスト・コマンド

名前リスト・コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 47. 名前リスト・コマンド			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Change Namelist	ALTER NAMELIST	同等なし	Yes
Copy Namelist	DEFINE NAMELIST(x) LIKE(y)	同等なし	Yes
Create Namelist	DEFINE NAMELIST	同等なし	Yes
Delete Namelist	DELETE NAMELIST	同等なし	Yes
Inquire Namelist	DISPLAY NAMELIST	同等なし	Yes
Inquire Namelist Names	DISPLAY NAMELIST	同等なし	Yes

プロセス・コマンド

プロセス・コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 48. プロセス・コマンド			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Change Process	ALTER PROCESS	同等なし	Yes
Copy Process	DEFINE PROCESS(x) LIKE(y)	同等なし	Yes
Create Process	DEFINE PROCESS	同等なし	Yes
Delete Process	DELETE PROCESS	同等なし	Yes
Inquire Process	DISPLAY PROCESS	同等なし	Yes
Inquire Process Names	DISPLAY PROCESS	同等なし	Yes

キュー・コマンド

キュー・コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 49. キュー・コマンド			
PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Change Queue	ALTER QLOCAL ALTER QALIAS ALTER QMODEL ALTER QREMOTE	同等なし	Yes
Clear Queue	CLEAR QLOCAL	同等なし	Yes

表 49. キュー・コマンド (続き)

PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Copy Queue	DEFINE QLOCAL(x) LIKE(y) DEFINE QALIAS(x) LIKE(y) DEFINE QMODEL(x) LIKE(y) DEFINE QREMOTE(x) LIKE(y)	同等なし	Yes
Create Queue	DEFINE QLOCAL DEFINE QALIAS DEFINE QMODEL DEFINE QREMOTE	同等なし	Yes
Delete Queue	DELETE QLOCAL DELETE QALIAS DELETE QMODEL DELETE QREMOTE	同等なし	Yes
Inquire Queue	DISPLAY QUEUE	同等なし	Yes
Inquire Queue Names	DISPLAY QUEUE	同等なし	Yes
Inquire Queue Status	DISPLAY QSTATUS	同等なし	Yes
Reset Queue Statistics	同等なし	同等なし	No

サービス・コマンド

サービス・コマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 50. サービス・コマンド

PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
Change Service	ALTER SERVICE	同等なし	Yes
Copy Service	DEFINE SERVICE(x) LIKE(y)	同等なし	Yes
Create Service	DEFINE SERVICE	同等なし	Yes
Delete Service	DELETE SERVICE	同等なし	Yes
Inquire Service	DISPLAY SERVICE	同等なし	Yes
Inquire Service Status	DISPLAY SVSTATUS	同等なし	Yes
Start Service	START SERVICE	同等なし	Yes
Stop Service	STOP SERVICE	同等なし	Yes

その他のコマンド

その他のコマンドの表。コマンドの説明、その PCF コマンド、MQSC コマンド、同等の制御コマンド、および IBM MQ エクスプローラーの同等の機能 (ある場合) を示しています。

表 51. その他のコマンド				
説明	PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
変換出口の作成	同等なし	同等なし	crtmqcvx	No
オブジェクトが使用するファイルの表示	同等なし	同等なし	dspmqfls	No
定様式トレースの表示	同等なし	同等なし	dspmqtrc 175 ページの『1』	No
バージョン情報の表示	同等なし	同等なし	dspmqver	No
トランザクションの表示	同等なし	同等なし	dspmqtrn	No
ログのダンプ	同等なし	同等なし	dmpmqlog	No
MQ 構成のダンプ	同等なし	同等なし	dmpmqcfg	No
トレースの終了	同等なし	同等なし	endmqtrc	Yes
Escape	Escape	同等なし	同等なし	No
メディア・イメージの記録	同等なし	同等なし	rcdmqimg	No
メディア・オブジェクトの再作成	同等なし	同等なし	rcrmqobj	No
トランザクションの解決	同等なし	同等なし	rsvmqtrn	No
クライアントのトリガー・モニターの実行	同等なし	同等なし	runmqtmc	No
送達不能キュー・ハンドラーの実行	同等なし	同等なし	runmqdlq	No
MQSC コマンドの実行	同等なし	同等なし	runmqsc	No
トリガー・モニターの実行	同等なし	同等なし	runmqtrm	No
サービス接続ポイントの設定	同等なし	同等なし	setmqscp 175 ページの『2』	No
IBM MQ トレースの開始	同等なし	同等なし	stimqtrc	Yes
IBM MQ サービス制御	同等なし	同等なし	amqmdain 175 ページの『2』	No

表 51. その他のコマンド (続き)				
説明	PCF コマンド	MQSC コマンド	制御コマンド	IBM MQ エクスプローラーで同等のコマンドがあるか
注: 1. IBM MQ for Windows ではサポートされません。 2. IBM MQ for Windows だけでサポートされます。				

鍵と証明書の管理

runmqckm コマンド (Windows システムおよび UNIX システム) を使用して、鍵、証明書、および認証要求を管理します。

runmqckm コマンド

runmqckm コマンドは、Windows システムおよび UNIX システムで使用可能です。

runmqckm コマンドは、[セキュリティ](#)に記載されている iKeyman の機能と同様の機能を提供します。

以下のことを行うには、runmqckm コマンドを使用します。

- IBM MQ が必要とする CMS キー・データベース・ファイルのタイプの作成
- 証明書要求の作成
- 個人証明書のインポート
- CA 証明書のインポート
- 自己署名証明書の管理

runmqckm および runmqakm コマンドの使用準備

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

runmqckm コマンド行インターフェースを実行するには、[setmqenv](#) コマンドを実行して、システム環境変数が正しく構成されていることを確認します。

runmqckm コマンドおよび runmqakm コマンド

このセクションでは、runmqckm コマンドおよび runmqakm コマンドを、コマンドのオブジェクトに応じて説明します。

この 2 つのコマンド間の主な違いの概要を以下に示します。

- **runmqakm**
 - 楕円曲線公開鍵を使用する証明書および証明書要求の作成をサポートします。これに対し、**runmqckm** コマンドはサポートしません。
 - **-strong** パラメーターを使用することによって、鍵リポジトリ・ファイルに関して **runmqckm** コマンドより強い暗号化をサポートします。
 - **runmqckm** コマンドとは異なり、FIPS 140-2 準拠と認定されていて、**-fips** パラメーターを使用することによって、FIPS 準拠で動作するように構成できます。
- **runmqckm** は JKS および JCEKS 鍵リポジトリ・ファイル形式をサポートしますが、**runmqakm** コマンドはサポートしません。

各コマンドは、少なくとも1つのオブジェクトを指定します。PKCS #11 デバイス操作のコマンドは、追加のオブジェクトを指定できます。鍵データベース、証明書、証明書要求オブジェクトのコマンドでは、アクションも指定します。オブジェクトは、次のいずれかになります。

-keydb

アクションは鍵データベースに適用されます。

-cert

アクションは証明書に適用されます。

-certreq

アクションは証明書要求に適用されます。

-help

ヘルプを表示します。

-バージョン

バージョン情報を表示します。

以下のサブトピックでは、鍵データベース、証明書、証明書要求オブジェクトに対して行えるアクションについて説明します。これらのコマンドのオプションの説明については、[184 ページの『runmqckm オプションおよび runmqakm オプション』](#)を参照してください。

CMS キー・データベース専用のコマンド

runmqckm コマンドおよび **runmqakm** コマンドを使用して、CMS 鍵データベースの鍵および証明書を管理できます。

-keydb -changepw

CMS キー・データベースのパスワードを変更します。

```
-keydb -changepw -db filename -pw password -new_pw new_password  
  
-stash
```

-keydb -create

CMS キー・データベースを作成します。

```
-keydb -create -db filename -pw password  
-type cms -expire days -stash
```

-keydb -stashpw

CMS キー・データベースのパスワードをファイルに stash します。

```
-keydb -stashpw -db filename -pw password
```

-cert -getdefault

注：デフォルトの証明書は、IBM MQ 8.0 ではサポートされていません。[デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)の説明に従って、証明書ラベル構成を使用する必要があります。

デフォルトの個人証明書を入手します。

```
-cert -getdefault -db filename -pw password
```

-cert -modify

証明書を変更します。

注：現在、変更できるフィールドは、「Certificate Trust (証明書トラスト)」フィールドのみです。

```
-cert -modify -db filename -pw password -label label  
-trust enable | disable
```

-cert -setdefault

注：デフォルトの証明書は、IBM MQ 8.0 ではサポートされていません。 [デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)の説明に従って、証明書ラベル構成を使用する必要があります。

デフォルトの個人証明書を設定します。

```
-cert -setdefault -db filename  
-pw password -label label
```

CMS キー・データベースまたは PKCS #12 キー・データベース用のコマンド

runmqckm コマンドおよび runmqakm コマンドを使用して、CMS キー・データベースまたは PKCS #12 キー・データベースのキーおよび証明書を管理できます。

注：IBM MQ は、SHA-3 アルゴリズムと SHA-5 アルゴリズムをサポートしません。デジタル署名アルゴリズム名 SHA384WithRSA および SHA512WithRSA は SHA-2 ファミリーのメンバーであるため、これらのアルゴリズムは使用可能です。

デジタル署名アルゴリズム名 SHA3WithRSA および SHA5WithRSA は、それぞれ SHA384WithRSA および SHA512WithRSA の簡略形であるため、これらは推奨されません。

-keydb -changepw

キー・データベースのパスワードを変更します。

```
-keydb -changepw -db filename -pw password  
-new_pw new_password -expire days
```

-keydb -convert

キー・データベースをある形式から別の形式に次のように変換します。

```
-keydb -convert -db filename -pw password  
-old_format cms | pkcs12 -new_format cms
```

-keydb -create

キー・データベースを作成します。

```
-keydb -create -db filename -pw password  
-type cms | pkcs12
```

-keydb -delete

キー・データベースを削除します。

```
-keydb -delete -db filename -pw password
```

-keydb -list

現在サポートされているキー・データベースのタイプをリストします。

```
-keydb -list
```

-cert -add

証明書をファイルからキー・データベースに追加します。

```
-cert -add -db filename -pw password -label label  
-file filename -format ascii | binary
```

-cert -create

自己署名証明書を作成します。

```
-cert -create -db filename -pw password -label label
```

```
-dn distinguished_name
-size 1024 | 512 -x509version 3 | 1 | 2
-expire days
-sig_alg MD2_WITH_RSA | MD2WithRSA |
          MD5_WITH_RSA | MD5WithRSA |
          SHA1WithDSA | SHA1WithRSA |
          SHA256_WITH_RSA | SHA256WithRSA |
          SHA2WithRSA | SHA384_WITH_RSA |
          SHA384WithRSA | SHA512_WITH_RSA |
          SHA512WithRSA | SHA_WITH_DSA |
          SHA_WITH_RSA | SHAWithDSA | SHAWithRSA
```

-cert -delete

証明書を削除します。

```
-cert -delete -db filename -pw password -label label
```

-cert -details

特定の証明書の詳細情報をリストします。

```
-cert -details -db filename -pw password -label label
```

-cert -export

個人証明書とその関連する専用キーをキー・データベースから PKCS #12 ファイルまたは別のキー・データベースにエクスポートします。

```
-cert -export -db filename -pw password -label label
-type cms | pkcs12
-target filename -target_pw password -target_type
cms | pkcs12
```

-cert -extract

証明書をキー・データベースから取り出します。

```
-cert -extract -db filename -pw password -label label
-target filename
-format ascii | binary
```

-cert -import

個人証明書をキー・データベースからインポートします。

```
-cert -import -file filename -pw password -type
pkcs12 -target filename
-target_pw password -target_type cms -label
label
```

-label オプションは必須で、ソース・キー・データベースからインポートする証明書のラベルを指定します。

-new_label オプションはオプションで、ソース・データベース内のラベルとは異なるラベルを、インポートした証明書にターゲット・キー・データベース内で付けられるようにします。

-cert -list

キー・データベース内のすべての証明書をリストします。

```
-cert -list all | personal | CA
-db filename -pw password
```

-cert -receive

ファイルから証明書を受け取ります。

```
-cert -receive -file filename -db filename -pw password
```

```
-format ascii | binary -default_cert yes | no
```

-cert -sign

証明書に署名します。

```
-cert -sign -db filename -file filename -pw password  
-label label -target filename  
-format ascii | binary -expire days  
-sig_alg MD2_WITH_RSA | MD2WithRSA | MD5_WITH_RSA |  
MD5WithRSA | SHA1WithDSA | SHA1WithRSA |  
SHA256_WITH_RSA | SHA256WithRSA |  
SHA2WithRSA | SHA384_WITH_RSA |  
SHA384WithRSA | SHA512_WITH_RSA |  
SHA512WithRSA | SHA_WITH_DSA |  
SHA_WITH_RSA | SHAWithDSA |  
SHAWithRSA
```

-certreq -create

証明書要求を作成します。

```
-certreq -create -db filename -pw password  
-label label -dn distinguished_name  
-size 1024 | 512 -file filename  
-sig_alg MD2_WITH_RSA | MD2WithRSA |  
MD5_WITH_RSA | MD5WithRSA |  
SHA1WithDSA | SHA1WithRSA |  
SHA256_WITH_RSA | SHA256WithRSA |  
SHA2WithRSA | SHA384_WITH_RSA |  
SHA384WithRSA | SHA512_WITH_RSA |  
SHA512WithRSA | SHA_WITH_DSA |  
SHA_WITH_RSA | SHAWithDSA |  
SHAWithRSA
```

-certreq -delete

証明書要求を削除します。

```
-certreq -delete -db filename -pw password -label label
```

-certreq -details

特定の証明書要求の詳細情報をリストします。

```
-certreq -details -db filename -pw password -label label
```

証明書要求に関する詳細情報をリストし、完全証明書要求を表示します。

```
-certreq -details -showOID -db filename  
-pw password -label label
```

-certreq -extract

証明書要求を証明書要求データベースから取り出してファイルに入れます。

```
-certreq -extract -db filename -pw password  
-label label -target filename
```

-certreq -list

証明書要求データベース内のすべての証明書要求をリストします。

```
-certreq -list -db filename -pw password
```

-certreq -recreate

証明書要求を再作成します。

```
-certreq -recreate -db filename -pw password  
-label label -target filename
```

暗号デバイス操作のコマンド

runmqckm コマンドおよび runmqakm コマンドを使用して、暗号デバイス操作のキーおよび証明書を管理できます。

注: IBM MQ は、SHA-3 アルゴリズムと SHA-5 アルゴリズムをサポートしません。デジタル署名アルゴリズム名 SHA384WithRSA および SHA512WithRSA は SHA-2 ファミリーのメンバーであるため、これらのアルゴリズムは使用可能です。

デジタル署名アルゴリズム名 SHA3WithRSA および SHA5WithRSA は、それぞれ SHA384WithRSA および SHA512WithRSA の簡略形であるため、これらは推奨されません。

-keydb -changepw

暗号デバイスのパスワードを変更します。

```
-keydb -changepw -crypto module_name -tokenlabel token_label  
-pw password -new_pw new_password
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-keydb -list

現在サポートされているキー・データベースのタイプをリストします。

```
-keydb -list
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-cert -add

証明書をファイルから暗号デバイスに追加します。

```
-cert -add -crypto module_name -tokenlabel token_label  
-pw password -label label -file filename -format  
ascii | binary
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-cert -create

暗号デバイス上で自己署名証明書を作成します。

```
-cert -create -crypto module_name -tokenlabel token_label  
-pw password -label label -dn distinguished_name  
-size 1024 | 512
```



```
-x509version 3 | 1 | 2
-default_cert no | yes -expire days
-sig_alg MD2_WITH_RSA | MD2WithRSA |
          MD5_WITH_RSA | MD5WithRSA |
          SHA1WithDSA | SHA1WithRSA |
          SHA256_WITH_RSA | SHA256WithRSA |
          SHA2WithRSA | SHA384_WITH_RSA |
          SHA384WithRSA | SHA512_WITH_RSA |
          SHA512WithRSA | SHA_WITH_DSA |
          SHA_WITH_RSA | SHAWithDSA |
          SHAWithRSA
```

注: 識別名に複数の OU (組織単位) 属性を含む証明書をインポートすることはできません。

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-cert -delete

暗号デバイス上で証明書を削除します。

```
-cert -delete -crypto module_name -tokenlabel token_label
-pw password -label label
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-cert -details

暗号デバイス上で特定の証明書の詳細情報をリストします。

```
-cert -details -crypto module_name -tokenlabel token_label
-pw password -label label
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

暗号デバイス上で特定の証明書の詳細情報をリストし、完全証明書を表示します。

```
-cert -details -showOID -crypto module_name -tokenlabel token_label
-pw password -label label
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-cert -extract

証明書をキー・データベースから取り出します。

```
-cert -extract -crypto module_name -tokenlabel token_label  
-pw password -label label -target filename  
-format ascii | binary
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-cert -import

2 次キー・データベース・サポートを使用して証明書を暗号デバイスにインポートします。

```
-cert -import -db filename -pw password -label label  
-type cms  
-crypto module_name -tokenlabel token_label -pw password  
-secondaryDB filename -secondaryDBpw password
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

```
-cert -import -db filename -pw password -label label  
-type cms  
-crypto module_name -tokenlabel token_label -pw password  
-secondaryDB filename -secondaryDBpw password -fips
```

2 次キー・データベース・サポートを使用して PKCS #12 証明書を暗号デバイスにインポートします。

```
-cert -import -file filename -pw password -type pkcs12  
-crypto module_name -tokenlabel token_label -pw password  
-secondaryDB filename -secondaryDBpw password
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

```
-cert -import -file filename -pw password -type pkcs12  
-crypto module_name -tokenlabel token_label -pw password  
-secondaryDB filename -secondaryDBpw password -fips
```

注：識別名に複数の OU (組織単位) 属性を含む証明書をインポートすることはできません。

-cert -list

暗号デバイス上ですべての証明書をリストします。

```
-cert -list all | personal | CA  
-crypto module_name -tokenlabel token_label -pw password
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット

ト・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-cert -receive

2 次キー・データベース・サポートを使用して証明書をファイルから暗号デバイスに受け取ります。

```
-cert -receive -file filename -crypto module_name  
-tokenlabel token_label  
-pw password -default_cert yes | no  
-secondaryDB filename -secondaryDBpw password  
-format ascii | binary
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

runmqakm コマンドを使用する場合:

-certreq -create

暗号デバイス上で証明書要求を作成します。

```
-certreq -create -crypto module_name -tokenlabel token_label  
  
-pw password -label label -dn distinguished_name  
-size 1024 | 512 -file filename  
-sig_alg MD2_WITH_RSA | MD2WithRSA | MD5_WITH_RSA |  
MD5WithRSA | SHA1WithDSA | SHA1WithRSA |  
SHA256_WITH_RSA | SHA256WithRSA  
SHA2WithRSA | SHA384_WITH_RSA |  
SHA384WithRSA | SHA512_WITH_RSA |  
SHA512WithRSA | SHA_WITH_DSA |  
SHA_WITH_RSA | SHAWithDSA |  
SHAWithRSA
```

注: 識別名に複数の OU (組織単位) 属性を含む証明書をインポートすることはできません。

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-certreq -delete

暗号デバイスから証明書要求を削除します。

```
-certreq -delete -crypto module_name -tokenlabel token_label  
  
-pw password -label label
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-certreq -details

暗号デバイス上で特定の証明書要求の詳細情報をリストします。

```
-certreq -details -crypto module_name -tokenlabel token_label
```

```
-pw password -label label
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

暗号デバイス上で証明書要求に関する詳細情報をリストし、完全証明書要求を表示します。

```
-certreq -details -showOID -crypto module_name -tokenlabel token_label  
-pw password -label label
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-certreq -extract

暗号デバイス上で証明書要求を証明書要求データベースから取り出してファイルに入れます。

```
-certreq -extract -crypto module_name -tokenlabel token_label  
-pw password -label label -target filename
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

-certreq -list

暗号デバイス上で証明書要求データベース内のすべての証明書要求をリストします。

```
-certreq -list -crypto module_name -tokenlabel token_label  
-pw password
```

PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 64 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは、64 ビット・プロセスにロードされます。したがって、暗号ハードウェアの管理用に 64 ビットの PKCS #11 ライブラリーがインストールされています。Windows および Linux x86 32 ビット・プラットフォームは唯一の例外であり、これらのプラットフォームの iKeyman プログラムおよび iKeycmd プログラムは 32 ビットです。

runmqckm オプションおよび runmqakm オプション

コマンド行で指定できる **runmqckm** オプションおよび **runmqakm** オプションの表です。

注: IBM MQ は、SHA-3 アルゴリズムと SHA-5 アルゴリズムをサポートしません。デジタル署名アルゴリズム名 SHA384WithRSA および SHA512WithRSA は SHA-2 ファミリーのメンバーであるため、これらのアルゴリズムは使用可能です。

デジタル署名アルゴリズム名 SHA3WithRSA および SHA5WithRSA は、それぞれ SHA384WithRSA および SHA512WithRSA の簡略形であるため、これらは推奨されません。

各オプションの意味は、コマンドに指定されたオブジェクトおよびアクションによって異なります。

表 52. **runmqckm** および **runmqakm** と共に使用できるオプション

オプション	説明
-create	鍵データベースを作成するためのオプション。
-crypto	PKCS #11 暗号デバイスを管理するためのモジュールの名前。 プロパティ・ファイルにモジュール名を指定した場合、-crypto の後の値はオプションです。 PKCS #11 暗号ハードウェアに保管した証明書またはキーを使用する場合には、iKeycmd および iKeyman が 32 ビット・プログラムであることに注意してください。PKCS #11 サポートに必要な外部モジュールは 32 ビット・プロセスにロードされるため、暗号ハードウェアの管理用に 32 ビット PKCS #11 ライブラリーをインストールしておき、このライブラリーを iKeycmd または iKeyman に指定する必要があります。iKeyman プログラムは HP Itanium プラットフォームでは 64 ビットであるため、HP Itanium プラットフォームだけは除きます。
-db	キー・データベースの完全修飾パス名。
-default_cert	デフォルトの証明書として証明書を設定します。値は、yes または no のいずれかです。デフォルトは no です。
-dn	X.500 識別名。値は、二重引用符で囲まれたストリングです (例: "CN=John Smith,O=IBM,OU=Test,C=GB")。必須属性は、CN、O、および C です。
-encryption	証明書エクスポート・コマンドで使用される暗号化の強度。値は、strong または weak のいずれかです。デフォルトは strong です。
-expire	証明書またはデータベース・パスワードの日単位の有効期限。証明書パスワードのデフォルトは 365 日です。 データベース・パスワードにはデフォルトの期限はありません。データベース・パスワードの有効期限は -expire オプションを使用して明示的に設定します。
-file	証明書または証明書要求のファイル名。
-fips	コマンドが FIPS モードで実行されるように指定します。FIPS モードの場合、ICC コンポーネントは、FIPS 140-2 で検証されたアルゴリズムを使用します。ICC コンポーネントが FIPS モードで初期化されない場合、 runmqakm コマンドは失敗します。
-format	証明書の形式。値は、ascii (Base64_encoded ASCII の場合) または binary (バイナリー DER データの場合) にすることができます。デフォルトは ascii です。
-label	証明書または証明書要求に付加されるラベル。証明書が、IBM MQ クライアント・アプリケーションまたはキュー・マネージャーを識別するために使用される個人証明書である場合、ラベルは IBM MQ 証明書ラベル (CERTLABL) 設定に対応している必要があります。詳しくは、 デジタル証明書ラベルの要件に関する説明 を参照してください。
-new_format	鍵データベースの新しい形式。
-new_label	このオプションは、証明書のインポート・コマンドで使用され、ソース・キー・データベースで持っていたラベルとは異なるラベルで証明書がインポートされるようにします。証明書が、IBM MQ クライアント・アプリケーションまたはキュー・マネージャーを識別するために使用される個人証明書である場合、ラベルは IBM MQ 証明書ラベル (CERTLABL) 設定に対応している必要があります。詳しくは、 デジタル証明書ラベルの要件に関する説明 を参照してください。
-new_pw	新しいデータベース・パスワード。

表 52. **runmqckm** および **runmqakm** と共に使用できるオプション (続き)

オプション	説明
-old_format	鍵データベースの古い形式。
-pw	キー・データベースまたは PKCS #12 ファイル用のパスワード。
-secondaryDB	PKCS #11 デバイス操作の 2 次キー・データベースの名前。
-secondaryDBpw	PKCS #11 デバイス操作の 2 次キー・データベースのパスワード。
-showOID	完全証明書または証明書要求を表示します。
-sig_alg	認証要求、自己署名証明書、または証明書の署名の作成中に使用されるハッシュ・アルゴリズム。このハッシュ・アルゴリズムは、新しく作成された証明書または認証要求に関連した署名の作成に使用されます。 runmqckm の場合、指定可能な値は MD2_WITH_RSA、MD2WithRSA、MD5_WITH_RSA、MD5WithRSA、SHA1WithDSA、SHA1WithRSA、SHA256_WITH_RSA、SHA256WithRSA、SHA2WithRSA、SHA384_WITH_RSA、SHA384WithRSA、SHA512_WITH_RSA、SHA512WithRSA、SHA_WITH_DSA、SHA_WITH_RSA、SHAWithDSA、または SHAWithRSA です。デフォルト値は SHA1WithRSA です。 runmqakm の場合、指定可能な値は md5、MD5_WITH_RSA、MD5WithRSA、SHA_WITH_DSA、SHA_WITH_RSA、sha1、SHA1WithDSA、SHA1WithECDSA、SHA1WithRSA、sha224、SHA224_WITH_RSA、SHA224WithDSA、SHA224WithECDSA、SHA224WithRSA、sha256、SHA256_WITH_RSA、SHA256WithDSA、SHA256WithECDSA、SHA256WithRSA、SHA2WithRSA、sha384、SHA384_WITH_RSA、SHA384WithECDSA、SHA384WithRSA、sha512、SHA512_WITH_RSA、SHA512WithECDSA、SHA512WithRSA、SHAWithDSA、SHAWithRSA、EC_ecdsa_with_SHA1、EC_ecdsa_with_SHA224、EC_ecdsa_with_SHA256、EC_ecdsa_with_SHA384、または EC_ecdsa_with_SHA512 です。デフォルト値は SHA1WithRSA です。
-size	キー・サイズ。 runmqckm の場合、値は 512、1024、または 2048 にすることができます。デフォルト値は 1024 ビットです。 runmqakm の場合、値は署名アルゴリズムに応じて次のように異なります。 • RSA 署名アルゴリズム (-sig_alg が指定されない場合に使用されるデフォルトのアルゴリズム) の場合、指定可能な値は 512、1024、2048、または 4096 です。-fips パラメーターが使用可能になっている場合、512 ビットの RSA 鍵サイズは許可されません。デフォルトの RSA 鍵サイズは 1024 ビットです。 • 楕円曲線アルゴリズムの場合、指定可能な値は 256、384、または 512 です。デフォルトの楕円曲線鍵サイズは、署名アルゴリズムによって異なります。SHA256 の場合は 256、SHA384 の場合は 384、SHA512 の場合は 512 です。
-stash	鍵データベース・パスワードをファイルに隠しておきます。 注: -stash は -keydb -create コマンドで有効で、パスワードを含む stash ファイルを作成するように runmqckm/runmqakm に指示します。 コマンド \$ runmqakm -help を発行すると、ハイレベル・ヘルプ・パラメーターのみがリストされます。

表 52. **runmqckm** および **runmqakm** と共に使用できるオプション (続き)

オプション	説明
-stashed	鍵データベースのパスワードが stash ファイル内にあることを示します。 注: -stashed オプションは、-keydb -create コマンド以外の呼び出しで有効です。このオプションを指定しない場合は、-pw を使用してパスワードを指定する必要があります。 さらに、どの種類のアクションを実行するかをコマンドに指示した場合にのみ、-stashed を示す詳細なヘルプが表示されます。
-target	宛先ファイルまたはデータベース。
-target_pw	-target がキー・データベースを指定する場合のキー・データベースのパスワード。
-target_type	-target オペランドによって指定されるデータベースのタイプ。許される値については、 -type オプションを参照してください。
-tokenLabel	PKCS #11 暗号デバイスのラベル。
-trust	CA 証明書の信頼状況。値は、enable または disable のいずれかです。デフォルトは enable です。
-type	データベースのタイプ。値には以下のいずれかの値を指定できます。 • CMS キー・データベースの場合は cms • PKCS #12 ファイルの場合は pkcs12
-x509version	作成する X.509 証明書のバージョン。値は 1、2、または 3 にすることができます。デフォルトは 3 です。
  -rfc3339	このパラメーターは、runmqakm -cert -details コマンドでの日付を次のような RFC 3339 形式で出力するときに使用します。 <pre>Not Before : 2015-08-26T08:53:37Z Not After : 2016-08-26T08:53:37Z</pre> -rfc3339 パラメーターは、次のようにコマンドの追加パラメーターの後に置く必要があります。 <pre>runmqakm -cert -details -db exampleDB -stashed -label certificateLabel -rfc3339</pre>

注: IBM Global Secure Toolkit (GSKit) で提供される、「runmqckm」ユーティリティの対称鍵暗号化 **-seckey** オプションに関連するプロパティは無視され、IBM MQ ではサポートされません。

runmqakm のエラー・コード

runmqakm によって送出される数値エラー・コードとその意味を示す表。

エラー・コード	エラー・メッセージ
0	成功
1	不明なエラーが発生しました
2	ASN.1 エンコード/デコード・エラーが発生しました。

エラー・コード	エラー・メッセージ
3	ASN.1 エンコーダー/デコーダーの初期化中にエラーが発生しました。
4	インデックスが範囲外であるか、オプション・フィールドが存在しないことが原因で、ASN.1 エンコード/デコード・エラーが発生しました。
5	データベース・エラーが発生しました。
6	データベース・ファイルを開こうとしてエラーが発生しました。ファイルが存在していること、およびそのアクセス権を確認してください。
7	データベース・ファイルを再度開こうとしてエラーが発生しました。
8	データベースの作成に失敗しました。
9	そのデータベースは既に存在します。
10	データベース・ファイルの削除中にエラーが発生しました。
11	データベースを開くことができませんでした。
12	データベース・ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。
13	データベース・ファイルにデータを書き込み中にエラーが発生しました。
14	データベース妥当性検査エラーが発生しました。
15	無効なデータベース・バージョンが検出されました。
16	無効なデータベース・パスワードが検出されました。
17	無効なデータベース・ファイル・タイプが検出されました。
18	指定されたデータベースが破損しています。
19	無効なパスワードが指定されたか、鍵データベースに改ざんまたは破損があります。
20	データベースのキー項目の保全会エラーが発生しました。
21	データベースに、重複する証明書が既に存在しています。
22	データベースに、重複するキーが既に存在しています (レコード ID)。
23	鍵データベースに、同じラベルの証明書が既に存在しています。
24	データベースに、重複するキーが既に存在しています (署名)。
25	データベースに、重複するキーが既に存在しています (未署名証明書)。
26	データベースに、重複するキーが既に存在しています (発行者および通し番号)。

エラー・コード	エラー・メッセージ
27	データベースに、重複するキーが既に存在しています (サブジェクト公開鍵情報)。
28	データベースに、重複するキーが既に存在しています (未署名 CRL)。
29	このラベルは、データベースで使用されています。
30	パスワードの暗号化エラーが発生しました。
31	LDAP 関連のエラーが発生しました。(このプログラムは LDAP をサポートしていません)
32	暗号エラーが発生しました。
33	暗号化/暗号化解除エラーが発生しました。
34	無効な暗号アルゴリズムが検出されました。
34	データ署名中にエラーが発生しました。
36	データの検証中にエラーが発生しました。
37	データのダイジェストを計算中にエラーが発生しました。
38	無効な暗号パラメーターが検出されました。
39	サポートされない暗号アルゴリズムが検出されました。
40	サポートされている係数サイズよりも大きな入力サイズが指定されました。
41	サポートされない係数サイズを検出しました。
42	データベース妥当性検査エラーが発生しました。
43	キー項目妥当性検査が失敗しました。
44	重複する拡張フィールドが存在します。
45	鍵のバージョンが間違っています。
46	必要な拡張フィールドが存在していません。
47	今日が有効期間に含まれていないか、発行者の有効期間内に含まれていません。
48	今日が有効期間に含まれていないか、発行者の有効期間内に含まれていません。
49	秘密鍵使用拡張の妥当性検査中にエラーが発生しました。
50	鍵の発行者が見つかりませんでした。
51	必要な証明書拡張がありません。
52	無効な基本制約拡張が検出されました。
53	鍵署名の妥当性検査が失敗しました。
54	鍵のルート・キーがトラステッドではありません。
55	この鍵は取り消されました。

エラー・コード	エラー・メッセージ
56	権限キー ID 拡張の妥当性検査中にエラーが発生しました。
57	秘密鍵使用拡張の妥当性検査中にエラーが発生しました。
58	サブジェクト代替名拡張の妥当性検査中にエラーが発生しました。
59	発行者代替名拡張の妥当性検査中にエラーが発生しました。
60	鍵使用拡張の妥当性検査中にエラーが発生しました。
61	不明なクリティカル拡張が検出されました。
62	鍵ペア項目の妥当性検査中にエラーが発生しました。
63	CRL の妥当性検査中にエラーが発生しました。
64	mutex エラーが発生しました。
65	無効なパラメーターが見つかりました。
66	ヌル・パラメーターまたはメモリー割り振りエラーが検出されました。
67	数またはサイズが大きすぎるか、小さすぎます。
68	旧パスワードが無効です。
69	新規パスワードが無効です。
70	パスワードの有効期限が切れています。
71	スレッド関連のエラーが発生しました。
72	スレッドの作成中にエラーが発生しました。
73	スレッドが終了を待機中にエラーが発生しました。
74	入出力エラーが発生しました。
75	CMS のロード中にエラーが発生しました。
76	暗号化ハードウェア関連のエラーが発生しました。
77	ライブラリーの初期化ルーチンが正常に呼び出されませんでした。
78	内部データベース・ハンドル・テーブルが壊れています。
79	メモリーの割り振りエラーが発生しました。
80	認識されないオプションが検出されました。
81	時刻情報取得中にエラーが発生しました。
82	mutex 作成エラーが発生しました。
83	メッセージ・カタログを開こうとしてエラーが発生しました。

エラー・コード	エラー・メッセージ
84	エラー・メッセージ・カタログを開こうとしてエラーが発生しました。
85	ヌル・ファイル名を検出しました。
86	ファイルを開こうとしてエラーが発生しました。ファイルが存在していること、およびそのアクセス権を確認してください。
87	ファイルを読み取り用に開こうとしてエラーが発生しました。
88	ファイルを書き込み用に開こうとしてエラーが発生しました。
89	そのようなファイルは存在しません。
90	ファイルのアクセス権の設定が原因で、そのファイルを開けません。
91	ファイルにデータを書き込もうとしてエラーが発生しました。
92	ファイルの削除中にエラーが発生しました。
93	無効な Base64 エンコード・データが検出されました。
94	無効な Base64 メッセージ・タイプが検出されました。
95	Base64 エンコード規則を使用したデータのエンコード中にエラーが発生しました。
96	Base64 エンコード・データのデコード中にエラーが発生しました。
97	識別名タグを取得中にエラーが発生しました。
98	必要な共通名フィールドが空になっています。
99	必要な国または地域名フィールドが空になっています。
100	無効なデータベース・ハンドルが検出されました。
101	鍵データベースが存在しません。
102	要求鍵ペア・データベースが存在しません。
103	パスワード・ファイルが存在しません。
104	新規パスワードが旧パスワードと同じです。
105	鍵データベースに鍵が見つかりませんでした。
106	要求鍵が見つかりませんでした。
107	トラステッド CA が見つかりませんでした。
108	証明書の要求鍵が見つかりませんでした。
109	鍵データベースに秘密鍵がありません。
110	鍵データベースにデフォルト鍵がありません。
111	鍵レコードに秘密鍵がありません。

エラー・コード	エラー・メッセージ
112	鍵レコードに証明書がありません。
113	CRL 項目がありません。
114	無効な鍵データベース・ファイル名が検出されました。
115	認識されない秘密鍵タイプが検出されました。
116	無効な識別名の入力 that 検出されました。
117	指定された鍵ラベルを持つ鍵項目が見つかりませんでした。
118	鍵ラベル・リストが破損しています。
119	入力データが有効な PKCS12 データではありません。
120	パスワードが無効です。あるいは、PKCS12 データが破損しているか、より新しいバージョンの PKCS12 で作成されています。
121	認識されない鍵エクスポート・タイプが検出されました。
122	サポートされていないパスワード・ベースの暗号化アルゴリズムが検出されました。
123	鍵リング・ファイルを CMS 鍵データベースに変換中にエラーが発生しました。
124	CMS 鍵データベースを鍵リング・ファイルに変換中にエラーが発生しました。
125	認証要求のための証明書を作成中にエラーが発生しました。
126	完全な発行者チェーンを作成できません。
127	無効な WEBDB データが検出されました。
128	鍵リング・ファイルに書き込むデータがありません。
129	入力した日数が、許可された有効期間を超えています。
130	パスワードが短すぎます。少なくとも {0} 文字必要です。
131	パスワードには、少なくとも 1 つの数字を含める必要があります。
132	パスワードのすべての文字が、英字または数字になっています。
133	認識されない、またはサポートされない署名アルゴリズムが指定されました。
134	無効なデータベース・タイプが検出されました。
135	指定された 2 次鍵データベースは、別の PKCS#11 デバイスで使用中です。
136	2 次鍵データベースが指定されていません。

エラー・コード	エラー・メッセージ
137	PKCS#11 デバイス上にラベルが存在しません。
138	この PKCS#11 デバイスにアクセスするにはパスワードが必要です。
139	この PKCS#11 デバイスにアクセスするのに、パスワードは不要です。
140	暗号ライブラリーをロードできません。
141	この操作に対して PKCS#11 はサポートされていません。
142	PKCS#11 デバイスでの操作が失敗しました。
143	LDAP ユーザーは有効なユーザーではありません。 (このプログラムは LDAP をサポートしていません)
144	LDAP ユーザーは有効なユーザーではありません。 (このプログラムは LDAP をサポートしていません)
145	LDAP 照会が失敗しました。(このプログラムは LDAP をサポートしていません)
146	無効な証明書チェーンが検出されました。
147	ルート証明書がトラステッドではありません。
148	取り消された証明書が検出されました。
149	暗号オブジェクト関数が失敗しました。
150	使用可能な証明書失効リスト・データ・ソースがありません。
151	使用可能な暗号トークンがありません。
152	FIPS モードは使用できません。
153	FIPS モードの設定値との競合があります。
154	入力されたパスワードは、必要な最小強度を満たしていません。
200	プログラムの初期化中に障害が発生しました。
201	runmqakm プログラムに渡された引数のトークン化に失敗しました。
202	コマンドで識別されたオブジェクトは、認識されたオブジェクトではありません。
203	渡されたアクションは既知の -keydb アクションではありません。
204	渡されたアクションが、既知の -cert アクションではありません。
205	渡されたアクションが、既知の -certreq アクションではありません。
206	要求されたコマンドに欠落しているタグがあります。
207	-version タグによって渡された値が、認識済みの値ではありません。

エラー・コード	エラー・メッセージ
208	-size タグによって渡された値が、認識済みの値ではありません。
209	-dn タグによって渡された値が、正しい形式ではありません。
210	-format タグによって渡された値が、認識済みの値ではありません。
211	ファイルのオープンに関連するエラーが発生しました。
212	PKCS12 は、この段階ではサポートされていません。
213	パスワードを変更しようとしている暗号トークンは、パスワードで保護されていません。
214	PKCS12 は、この段階ではサポートされていません。
215	入力されたパスワードは、必要な最小強度を満たしていません。
216	FIPS モードは使用できません。
217	有効期限日付として入力した日数が、許容範囲を超えています。
218	パスワードの強度が、最小要件を満たしていません。
219	要求された鍵データベースにデフォルト証明書が見つかりませんでした。
220	無効なトラステッド状況が検出されました。
221	サポートされない署名アルゴリズムを検出しました。この段階では、MD5 および SHA1 のみがサポートされています。
222	その特定の操作に対して、PKCS11 はサポートされていません。
223	渡されたアクションが、既知の -random アクションではありません。
224	ゼロより小さい長さは許可されていません。
225	-strong タグを使用する場合のパスワードの最小長は、14 文字です。
226	-strong タグを使用する場合のパスワードの最大長は、300 文字です。
227	FIPS モードでは、MD5 アルゴリズムはサポートされません。
228	-cert -list コマンドに対する site タグはサポートされません。この属性は、後方互換性および今後の機能拡張のために追加されています。
229	-ca タグに関連付けられている値が認識されません。この値は、「true」または「false」のいずれかである必要があります。
230	-type タグによって渡された値が無効です。

エラー・コード	エラー・メッセージ
231	-expire タグによって渡された値が、許容範囲を下回っています。
232	使用または要求された暗号化アルゴリズムはサポートされていません。
233	ターゲットが既に存在しています。

IBM MQ for IBM i CL コマンド

コマンド・タイプ別にグループ化した IBM MQ for IBM i CL コマンドのリスト

- 認証情報コマンド

- [CHGMQMAUTI](#)、IBM MQ 認証情報の変更
- [CPYMQMAUTI](#)、IBM MQ 認証情報のコピー
- [CRTMQMAUTI](#)、IBM MQ 認証情報の作成
- [DLTMQMAUTI](#)、IBM MQ 認証情報の削除
- [DSPMQMAUTI](#)、IBM MQ 認証情報の表示
- [WRKMQMAUTI](#)、IBM MQ 認証情報の処理

- 権限コマンド

- [DSPMQMAUT](#)、IBM MQ オブジェクト権限の表示
- [GRTMQMAUT](#)、IBM MQ オブジェクト権限の認可
- [RFRMQMAUT](#)、IBM MQ オブジェクト権限のリフレッシュ
- [RVKMQMAUT](#)、IBM MQ オブジェクト権限の取り消し
- [WRKMQMAUT](#)、IBM MQ 権限の処理
- [WRKMQMAUTD](#)、IBM MQ 権限データの処理

- ブローカー・コマンド

以下のコマンドではどの機能も実行されません。これは、以前のリリースの IBM MQ との互換性を保つためにのみ提供されています。

- [CLRMQMBrk](#)、IBM MQ ブローカーのクリア
- [DLTMQMBrk](#)、IBM MQ ブローカーの削除
- [DSPQMBrk](#)、IBM MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの表示
- [DSPQMBrk](#)、IBM MQ ブローカーの表示
- [ENDQMBrk](#)、IBM MQ ブローカーの終了
- [STRQMBrk](#)、IBM MQ ブローカーの開始

- チャネル・コマンド

- [CHGMQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの変更
- [CPYQMCHL](#)、IBM MQ チャネルのコピー
- [CRTQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの作成
- [DLTMQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの削除
- [DSPQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの表示
- [ENDQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの終了
- [PNGQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの ping
- [RSTMQMCHL](#)、IBM MQ チャネルのリセット
- [RSVMQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの解決

- [STRMQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの開始
- [STRMQMCHLI](#)、IBM MQ チャネル・イニシエーターの開始
- [WRKMQMCHL](#)、IBM MQ チャネルの処理
- [WRKMQMCHST](#)、IBM MQ チャネル状況の処理
- クラスター・コマンド
 - [RFRMQMCL](#)、IBM MQ クラスターのリフレッシュ
 - [RSMMQMCLQM](#)、IBM MQ クラスター・キュー・マネージャーの再開
 - [RSTMQMCL](#)、IBM MQ クラスターのリセット
 - [SPDMQMCLQM](#)、IBM MQ クラスター・キュー・マネージャーの中断
 - [WRKMQMCL](#)、IBM MQ クラスターの処理
 - [WRKMQMCLQ](#)、IBM MQ クラスター・キューの処理
- コマンド・サーバー・コマンド
 - [DSPMQMCSVR](#)、IBM MQ コマンド・サーバーの表示
 - [ENDMQMCSVR](#)、IBM MQ コマンド・サーバーの終了
 - [STRMQMCSVR](#)、IBM MQ コマンド・サーバーの開始
- 接続コマンド
 - [ENDMQMCONN](#)、IBM MQ 接続の終了
 - [WRKMQMCONN](#)、IBM MQ 接続の処理
- データ変換エグジット・コマンド
 - [CVTMQMDDTA](#)、IBM MQ データ・タイプの変換
- リスナー・コマンド
 - [CHGMQMMLSR](#)、IBM MQ リスナー・オブジェクトの変更
 - [CPYQMMLSR](#)、IBM MQ リスナー・オブジェクトのコピー
 - [CRTQMMLSR](#)、IBM MQ リスナー・オブジェクトの作成
 - [DLTMQMMLSR](#)、IBM MQ リスナー・オブジェクトの削除
 - [DSPQMMLSR](#)、IBM MQ リスナー・オブジェクトの表示
 - [ENDQMMLSR](#)、IBM MQ リスナーの終了
 - [STRQMMLSR](#)、IBM MQ リスナーの開始
 - [WRKMQMMLSR](#)、IBM MQ リスナーの処理
- メディア回復コマンド
 - [RCDQMIMG](#)、IBM MQ オブジェクト・イメージの記録
 - [RCRMQMOMBJ](#)、IBM MQ オブジェクトの再作成
 - [WRKMQMTRN](#)、IBM MQ トランザクションの処理
- 名前コマンド
 - [DSPQMOMBJN](#)、IBM MQ オブジェクト名の表示
- 名前リスト・コマンド
 - [CHGMQMNL](#)、IBM MQ 名前リストの変更
 - [CPYQMNL](#)、IBM MQ 名前リストのコピー
 - [CRTQMNL](#)、IBM MQ 名前リストの作成
 - [DLTMQMNL](#)、IBM MQ 名前リストの削除
 - [DSPQMNL](#)、IBM MQ 名前リストの表示
 - [WRKMQMNL](#)、IBM MQ 名前リストの処理

- プロセス・コマンド
 - [CHGMQMPPRC、IBM MQ プロセスの変更](#)
 - [CPYMQMPPRC、IBM MQ プロセスのコピー](#)
 - [CRTMQMPPRC、IBM MQ プロセスの作成](#)
 - [DLTMQMPPRC、IBM MQ プロセスの削除](#)
 - [DSPMQMPPRC、IBM MQ プロセスの表示](#)
 - [WRKMQMPPRC、IBM MQ プロセスの処理](#)
- キュー・コマンド
 - [CHGMQMQ、IBM MQ キューの変更](#)
 - [CLRMQMQ、IBM MQ キューの消去](#)
 - [CPYMQMQ、IBM MQ キューのコピー](#)
 - [CRTMQMQ、IBM MQ キューの作成](#)
 - [DLTMQMQ、IBM MQ キューの削除](#)
 - [DSPMQMQ、IBM MQ キューの表示](#)
 - [WRKMQMMSG、IBM MQ メッセージの処理](#)
 - [WRKMQMQ、IBM MQ キューの処理](#)
 - [WRKMQMSTS、IBM MQ キュー状況の処理](#)
- キュー・マネージャー・コマンド
 - [CCTMQM、メッセージ・キュー・マネージャーへの接続](#)
 - [CHGMQM、メッセージ・キュー・マネージャーの変更](#)
 - [CRTMQM、メッセージ・キュー・マネージャーの作成](#)
 - [DLTMQM、メッセージ・キュー・マネージャーの削除](#)
 - [DSCMQM、メッセージ・キュー・マネージャーからの切断](#)
 - [DSPMQM、メッセージ・キュー・マネージャーの表示](#)
 - [DSPMQMSTS、メッセージ・キュー・マネージャーの状況表示](#)
 - [ENDMQM、メッセージ・キュー・マネージャーの終了](#)
 - **V8.0.0.4** [RFRMQM、メッセージ・キュー・マネージャーのリフレッシュ](#)
 - [STRMQM、メッセージ・キュー・マネージャーの開始](#)
 - [STRMQMTRM、IBM MQ トリガー・モニターの開始](#)
 - [WRKMQM、メッセージ・キュー・マネージャーの処理](#)
- サービス・コマンド
 - [CHGMQMSVC、IBM MQ サービスの変更](#)
 - [CPYMQMSVC、IBM MQ サービスのコピー](#)
 - [CRTMQMSVC、IBM MQ サービスの作成](#)
 - [DLTMQMSVC、IBM MQ サービスの削除](#)
 - [DSPMQMSVC、IBM MQ サービスの表示](#)
 - [ENDMQMSVC、IBM MQ サービスの終了](#)
 - [STRMQMSVC、IBM MQ サービスの開始](#)
 - [WRKMQMSVC、IBM MQ サービスの処理](#)
- サブスクリプション・コマンド
 - [CHGMQMSUB、IBM MQ サブスクリプションの変更](#)
 - [CPYMQMSUB、IBM MQ サブスクリプションのコピー](#)

- [CRTMQMSUB、IBM MQ サブスクリプションの作成](#)
- [DLTMQMSUB、IBM MQ サブスクリプションの削除](#)
- [DSPMQMSUB、IBM MQ サブスクリプションの表示](#)
- [WRKMQMSUB、IBM MQ サブスクリプションの処理](#)
- トピック・コマンド
 - [CHGMQMTOP、IBM MQ トピックの変更](#)
 - [CLRMQMTOP、IBM MQ トピックの消去](#)
 - [CPYMQMTOP、IBM MQ トピックのコピー](#)
 - [CRTMQMTOP、IBM MQ トピックの作成](#)
 - [DLTMQMTOP、IBM MQ トピックの削除](#)
 - [DSPMQMTOP、IBM MQ トピックの表示](#)
 - [WRKMQMTOP、IBM MQ トピックの処理](#)
- トレース・コマンド
 - [TRCMQM、IBM MQ ジョブのトレース](#)
- IBM MQSC コマンド
 - [RUNMQSC、IBM MQSC コマンドの実行](#)
 - [STRMQMMQSC、IBM MQSC コマンドの開始](#)
- IBM MQ 送達不能キュー・ハンドラー・コマンド
 - [STRMQMDLQ、IBM MQ 送達不能キュー・ハンドラーの開始](#)
- IBM MQ 経路情報
 - [DSPMQMRTE、IBM MQ 経路情報の表示](#)
- IBM MQ 構成のダンプ
 - [MQ 構成のダンプ \(DMPMQMCFG\)](#)
- IBM MQ バージョン詳細
 - [DSPMQMVER、IBM MQ バージョンの表示](#)

キュー・マネージャー情報の追加 (ADDMQMINF)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

メッセージ・キュー・マネージャー情報の追加 (ADDMQMINF) コマンドは、キュー・マネージャーの構成情報を追加します。このコマンドは、例えば、共有キュー・マネージャー・データへの参照を追加することにより、2 次キュー・マネージャー・インスタンスを作成する場合などに使用できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1
PREFIX	キュー・マネージャー接頭部	文字値	必須、定位置 2
MQMDIR	キュー・マネージャー・ディレクトリー	文字値	必須、定位置 3

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMLIB</u>	QUEUE MANAGER ライブラリー	名前	必須、定位置 4
<u>datapath</u>	キュー・マネージャーのデータ・パス	文字値	オプション、定位置 5

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

情報を追加するメッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

キュー・マネージャー接頭部 (PREFIX)

キュー・マネージャー・ファイル・システムの接頭部 (例えば、「/QIBM/UserData/mqm」など) を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

queue-manager-directory-prefix

キュー・マネージャー・ファイル・システムの接頭部です。

キュー・マネージャー・ディレクトリー (MQMDIR)

キュー・マネージャー・ファイル・システムのディレクトリー名を指定します。ほとんどの場合、これはキュー・マネージャー名と同じ名前になります。ただし、ディレクトリー名で許可されていない文字に対応するため、あるいは既存のディレクトリー名との競合を避けるために、ディレクトリー名が変更されている場合を除きます。

指定できる値は以下のとおりです。

queue-manager-directory-name

キュー・マネージャー・ファイル・システムの接頭部です。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

キュー・マネージャー・ライブラリー (MQMLIB)

キュー・マネージャーが使用するライブラリーを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

ライブラリー名

キュー・マネージャーが使用するライブラリーを指定します。

キュー・マネージャー・データ・パス (DATAPATH)

キュー・マネージャー・データの完全修飾ディレクトリー・パスを指定します。このパラメーターはオプションです。指定する場合は、キュー・マネージャー・データ・ファイルの接頭部およびディレクトリー名をオーバーライドします。通常、このパラメーターは、NFSv4 のようなネットワーク・ファイル・システムに格納されたキュー・データを参照するために使用できます。

指定できる値は以下のとおりです。

queue-manager-data-path

キュー・マネージャーが使用するデータ・パスを指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

キュー・マネージャー・ジャーナルの追加 (ADDQMJRNL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

キュー・マネージャー・ジャーナルの追加 (ADDQMJRNL) コマンドは、キュー・マネージャーにジャーナルを追加します。このコマンドは、例えば、バックアップまたは複数インスタンス・キュー・マネージャーのために、リモート・ジャーナルの複製を構成する場合などに使用できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 1
<u>JRN</u>	QUEUE MANAGER ジャーナル	文字値、*DFT	オプション、定位置 2
<u>RMTJRNRDB</u>	リモート・リレーショナル DB	文字値	オプション、定位置 3
<u>RMTJRNSTS</u>	リモート・ジャーナルの状況	*ACTIVE、*INACTIVE	オプション、定位置 4
<u>RMTJRNDLV</u>	リモート・ジャーナルの配信	*SYNC、*ASYNCR	オプション、定位置 5
<u>RMTJRNTIMO</u>	リモート・ジャーナルの同期 タイムアウト	1-3600、*DFT	オプション、定位置 6

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

ジャーナルに関連付けられたメッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

キュー・マネージャー・ジャーナル (JRN)

作成するジャーナルの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

ジャーナル名はシステムによって選択されます。このシステムのキュー・マネージャーにローカル・ジャーナルが既に存在している場合は、そのローカル・ジャーナル名が使用されます。存在していない場合は、固有の名前が AMQxJRN の形式で生成されます。ここで、x は A から Z の範囲の文字です。

journal-name

ジャーナルの名前を指定します。名前は 10 文字以内で指定します。ジャーナル・レシーバーの名前は、このジャーナル名を 4 番目の文字 (ジャーナル名が 4 文字より短い場合は、最後の文字) で切り捨て、ゼロを付加することによって生成されます。ローカル・キュー・マネージャー・ライブラリーに既にローカル・ジャーナルが含まれている場合、その名前は指定する名前と一致していなければなりません。キュー・マネージャー・ライブラリーが含むことができるローカル・ジャーナルは、1 つだけ

です。DLTMQM は、接頭部が「AMQ」である場合を除いて、キュー・マネージャー・ライブラリーからジャーナルの成果物を除去しません。

リモート・リレーショナル・データベース (RMTJRNRDB)

ターゲット・システムのリモート・ロケーション名が入っているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定します。WRKRDBDIRE コマンドを使用すると、ターゲット・システムの既存の項目を検出したり、新しいリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を構成したりできます。

relational-database-directory-entry

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定します。名前は 18 文字以内で指定します。

リモート・ジャーナルの状況 (RMTJRNSTS)

リモート・ジャーナルがキュー・マネージャーのローカル・ジャーナルからのジャーナル項目を受信する準備ができているかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*ACTIVE

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャー・ジャーナルからのジャーナル項目を受信する準備ができています。ジャーナル項目の複製は、完全メディア・リカバリーとキュー・マネージャーの再始動を実行する必要がある最も古いローカル・ジャーナル・レシーバーから開始されます。これらのリカバリー・ポイントが存在しない場合、複製は現在接続されているローカル・ジャーナル・レシーバーから開始されます。

*INACTIVE

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャー・ジャーナルからのジャーナル項目を受信する準備ができていません。

リモート・ジャーナルの配信 (RMTJRNDLV)

リモート・ジャーナルがアクティブであるときに、ジャーナル項目の複製を同期的に行うか非同期的に行うかを指定します。RMTJRNSTS(*INACTIVE) が指定されている場合は、このパラメーターが無視されることに注意してください。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYNC

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャーのジャーナルで同期的に複製されます。

*ASYNC

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャー・ジャーナルで非同期的に複製されます。

リモート・ジャーナルの同期 タイムアウト (RMTJRNTIMO)

リモート・ジャーナリングによる同期複製を使用する場合に、リモート・システムからの応答を待機する最大時間を秒数で指定します。このタイムアウト時間内にリモート・システムから応答を受信しない場合、リモート・ジャーナル環境は自動的に使用不能になります。RMTJRNDLV(*ASYNC) または RMTJRNSTS(*INACTIVE) が指定されている場合は、このパラメーターが無視されることに注意してください。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

システムはリモート・システムからの応答を待機する時間としてデフォルト値の 60 秒を使用します。

1-3600

リモート・システムからの応答を待機する最大秒数を指定します。このオプションは、IBM i V6R1M0 およびそれ以降のオペレーティング・システムでのみ使用可能であることに注意してください。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ の接続 (CCTMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Connect Message Queue Manager (CCTMQM) コマンドは、何の機能も実行しませんが、以前のリリースの IBM MQ および MQSeries® との互換性のためだけに提供されています。

Parameters

なし

例

なし

エラー・メッセージ

不明

メッセージ・キュー・マネージャーの変更 (CHGMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

「メッセージ・キュー・マネージャーの変更」(CHGMQM) コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーの、指定された属性を変更します。

Parameters

表 53. キュー・マネージャーの属性			
キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 1
<u>FORCE</u>	強制	*NO 、 *YES	オプション、定位置 2
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 3
<u>TRGIVT</u>	トリガー間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 4
<u>UDLMSGQ</u>	未配布メッセージ・キュー	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 5
<u>DFTTMQ</u>	デフォルト伝送キュー	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 6
<u>MAXHDL</u>	最大ハンドル限界	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 7

表 53. キュー・マネージャーの属性 (続き)

キーワード	説明	選択	注
<u>MAXUMSG</u>	最大未コミット・メッセージ	1-999999999、 *SAME	オプション、定位置 8
<u>AUTEVT</u>	権限イベント可能	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 9
<u>INHEVT</u>	禁止イベント可能	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 10
<u>LCLERREVT</u>	ローカル・エラー・イベント可能	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 11
<u>RMTERREVT</u>	リモート・エラー・イベント可能	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 12
<u>PFREVT</u>	パフォーマンス・イベント可能	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 13
<u>STRSTPEVT</u>	開始および停止イベント可能	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 14
<u>CHAD</u>	自動チャネル定義	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 15
<u>CHADEV</u>	自動チャネル定義イベントが有効	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 16
<u>CHADEXIT</u>	自動チャネル定義出口プログラム	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 17
	修飾子 1: 自動チャネル定義出口プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
<u>MAXMSGL</u>	最大メッセージ長	32768-104857600、 *SAME	オプション、定位置 18
<u>CCSID</u>	コード化文字セット	整数、 *SAME	オプション、定位置 19
<u>CLWLDATA</u>	クラスター・ワークロード出口データ	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 20
<u>CLWLEXIT</u>	クラスター・ワークロード出口	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 21
	修飾子 1: クラスター・ワークロード出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
<u>CLWLLEN</u>	クラスター・ワークロード出口長	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 22
<u>REPOS</u>	リポジトリ名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 23
<u>REPOSNL</u>	リポジトリ名前リスト	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 24
<u>SSLCRLNL</u>	SSL CRL NAMELIST	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 25
<u>SSLKEYR</u>	SSL キー・リポジトリ	文字値、*NONE、 *SAME 、*SYSTEM	オプション、定位置 26

表 53. キュー・マネージャーの属性 (続き)

キーワード	説明	選択	注
SSLKEYRPWD	SSL リポジトリ・パスワード	文字値、*NONE、* SAME	オプション、定位置 27
SSLRSTCNT	SSL 鍵リセット・カウント	0-999999999、* SAME 、*NONE	オプション、定位置 28
IPADDRV	IP プロトコル	* SAME 、*IPv4、*IPv6	オプション、定位置 29
CLWLMRUC	クラスター・ワークロード・チャンネル	0-999999999、* SAME	オプション、定位置 30
CLWLUSEQ	クラスター・ワークロード・キューの使用	* SAME 、*LOCAL、*ANY	オプション、定位置 31
LOGGEREVT	LOG RECOVERY イベント可能	* SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 32
CHLEVT	チャンネル・イベント可能	* SAME 、*YES、*NO、*EXCEPTION	オプション、定位置 33
SSLEVT	SSL イベント可能	* SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 34
SCHINIT	チャンネル・イニシエーター制御	* SAME 、*QMGR、*MANUAL	オプション、定位置 35
SCMDSERV	コマンド・サーバー制御	* SAME 、*QMGR、*MANUAL	オプション、定位置 36
MONQ	キュー・モニター	* SAME 、*NONE、*OFF、*LOW、*MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 37
MONCHL	チャンネル・モニター	* SAME 、*NONE、*OFF、*LOW、*MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 38
MONACLS	クラスター送信側モニター	* SAME 、*QMGR、*NONE、*LOW、*MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 39
STATMQI	キュー・マネージャー統計	* SAME 、*OFF、*ON	オプション、定位置 40
STATQ	キュー統計	* SAME 、*NONE、*OFF、*ON	オプション、定位置 41
STATCHL	チャンネル統計	* SAME 、*NONE、*OFF、*LOW、*MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 42
STATACLS	クラスター送信側統計	* SAME 、*QMGR、*NONE、*LOW、*MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 43
STATINT	統計インターバル	1-604800、* SAME	オプション、定位置 44
ACCTMQI	MQI アカウンティング	* SAME 、*OFF、*ON	オプション、定位置 45
ACCTQ	キュー・アカウンティング	* SAME 、*NONE、*OFF、*ON	オプション、定位置 46
ACCTINT	ACCOUNTING インターバル	1-604800、* SAME	オプション、定位置 47
ACCTCONO	アカウンティング指定変更	* SAME 、*ENABLED、*DISABLED	オプション、定位置 48

表 53. キュー・マネージャーの属性 (続き)

キーワード	説明	選択	注
ROUTEREC	トレース経路記録	*SAME 、*MSG、 *QUEUE、*DISABLED	オプション、定位置 49
ACTIVREC	アクティビティ記録	*SAME 、*MSG、 *QUEUE、*DISABLED	オプション、定位置 50
MAXPROPLEN	最大プロパティ・データ長	0-104857600、 *SAME 、 *ANY	オプション、定位置 51
MARKINT	メッセージ・マーク参照 間隔	0-999999999、 *SAME 、 *ANY	オプション、定位置 52
PSRTYCNT	PubSub 最大メッセージ 再試行数	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 53
PSNPMMSG	PubSub NPM メッセージ	*SAME 、*DISCARD、 *KEEP	オプション、定位置 54
PSNPMRES	PubSub NPM メッセージ 応答	*SAME 、*NORMAL、 *SAFE、*DISCARD、 *KEEP	オプション、定位置 55
PSSYNCPT	PubSub 同期点	*SAME 、*YES、*IFPER	オプション、定位置 56
PSMODE	Pubsub エンジン制御	*SAME 、*ENABLED、 *DISABLED、 *COMPATIBLE	オプション、定位置 57
TREELIFE	トピック・ツリー存続時間	0-604000、 *SAME	オプション、定位置 58
CFGEVT	構成イベント可能	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 59
CMDEVT	コマンド・イベント可能	*SAME 、*YES、*NO、 *NODSP	オプション、定位置 60
ACTVTRC	アクティビティのトレース	文字値、*ON、 *SAME 、 *OFF	オプション、定位置 61
ACTVCONO	アクティビティのトレースの オーバーライド	文字値、*DISABLED、 *SAME 、*ENABLED	オプション、定位置 62
CHLAUTH	チャンネル認証	文字値、*DISABLED、 *SAME 、*ENABLED	オプション、定位置 63
CUSTOM	カスタム属性	文字値、*NONE、 *SAME 、128 文字	オプション、定位置 64
DFTCLXQ	デフォルト・クラスター 伝送キュー・タイプ	*SAME 、*SCTQ、 *CHANNEL	オプション、定位置 65
CERTLABL	証明書ラベル	*SAME 、*DFT	オプション、定位置 66
REVDNS	ホスト名の逆引き	*SAME 、*DISABLED、 *ENABLED	オプション、定位置 67
CONNAUTH	接続認証オブジェクト	*SAME 、*NONE、48 文 字ストリング	オプション、定位置 68

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

強制 (FORCE)

次の 2 つの条件が両方とも満たされた場合にコマンドを強制的に完了する必要があるかどうかを指定します。

- DFTTMQ が指定されている。
- アプリケーションのリモート・キューがオープンされていて、この変更によってこの解決が影響を受ける。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

オープンされているリモート・キューが影響される場合にはコマンドは失敗する。

***YES**

コマンドを強制的に完了する。

テキスト '記述' (TEXT)

キュー・マネージャーの定義の概略を記述するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

トリガー間隔 (TRGITV)

TRGTYPE(*FIRST) が指定されたキューで使用されるトリガー時間間隔をミリ秒単位で指定します。

TRGTYPE(*FIRST) を指定した場合、これまで空のキューにメッセージが入るとトリガー・メッセージが生成されます。指定した間隔以内でキューにさらにメッセージが入ってもトリガー・メッセージが生成されることはありません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

interval-value

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

未配布メッセージ・キュー (UDLMSGQ)

未配布メッセージに使用されるローカル・キューの名前を指定します。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

未配布メッセージ・キューはありません。この属性はブランク・ストリングに設定されます。

undelivered-message-queue-name

未配布メッセージ・キューとして使用されるローカル・キューの名前を指定します。

デフォルト伝送キュー (DFTTMQ)

デフォルト伝送キューとして使用されるローカル伝送キューの名前を指定します。リモート・キュー・マネージャーに送信されるメッセージは、その宛先として伝送キューが定義されていない場合デフォルトの伝送キューに書き込まれます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

デフォルトの伝送キューはありません。この属性はブランク・ストリングに設定されます。

default-transmission-queue-name

デフォルト伝送キューとして使用されるローカル伝送キューの名前を指定します。

最大ハンドル限度 (MAXHDL)

任意の1つのジョブが同時にオープンできるハンドルの最大数です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

maximum-handle-limit

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

最大非コミット・メッセージ数 (MAXUMSG)

非コミット・メッセージの最大数を指定します。具体的には、以下の数を示します。

- 検索可能なメッセージの数
- 書き込み可能なメッセージ数、および
- 任意の1つの同期点での作業単位内で生成したトリガー・メッセージおよびレポート・メッセージ。

この限界は、同期点の外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには当てはまりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

maximum-uncommitted-messages

1 から 999999999 の範囲内で値を指定する。

許可イベントが有効 (AUTEVT)

許可 (許可されていない) イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

許可イベントを生成しません。

***YES**

許可イベントが生成されます。

禁止イベントが有効 (INHEVT)

禁止イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

禁止イベントは生成されません。

***YES**

禁止イベントが生成されます。

ローカル・エラー・イベントが有効 (LCLERREVT)

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

ローカル・エラー・イベントは生成されません。

***YES**

ローカル・エラー・イベントが生成されます。

リモート・エラー・イベントが有効 (RMTERREVT)

リモート・エラー・イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

リモート・エラー・イベントは生成されません。

***YES**

リモート・エラー・イベントが生成されます。

パフォーマンス・イベントが有効 (PFREVT)

パフォーマンス・イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

パフォーマンス・イベントは生成されません。

***YES**

パフォーマンス・イベントが生成されます。

開始および停止イベントが有効 (STRSTPEVT)

開始および停止イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

開始および停止イベントは生成されません。

***YES**

開始イベントと終了イベントを生成します。

自動チャネル定義 (CHAD)

受信側およびサーバー接続チャネルを自動的に定義するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

受信側チャネルおよびサーバー接続チャネルは自動的に定義されません。

***YES**

受信およびサーバー接続チャネルが自動的に定義されます。

自動チャネル定義イベントが有効 (CHADEV)

自動チャネル定義イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

自動チャネル定義イベントは生成されません。

***YES**

自動チャネル定義イベントが生成されます。

自動チャネル定義出口プログラム (CHADEXIT)

自動チャネル定義出口として呼び出すプログラムのエントリー・ポイントを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

自動チャネル定義出口は起動しません。

channel-definition-exit-name

チャネル定義出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。出口プログラム名を指定し、値 *LIBL および *CURLIB を指定できない場合には、このパラメーターを指定する必要があります。

最大メッセージ長 (MAXMSGL)

このキュー・マネージャーのキューに指定できるメッセージの最大メッセージ長 (バイト単位で) を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

最大メッセージ長

32 KB から 100 MB の範囲内で値 (バイト) を指定します。

コード化文字セット (CCSID)

キュー・マネージャーのコード化文字セット ID。

CCSID は、API によって定義されたすべての文字ストリング・フィールドで 使用される ID です。これは、メッセージがキューに書き出されるときにメッセージ記述子の CCSID が値 MQCCSI_Q_MGR に 設定されていない場合、この ID は、メッセージ・テキスト形式で伝達されるアプリケーション・データには適用されません。

このキーワードを使用して CCSID を変更する場合、その変更が適用されるときに実行中のアプリケーションは引き続き元の CCSID を使用します。実行中のすべてのアプリケーションを停止して再始動してから継続する必要があります。これには、コマンド・サーバーおよびチャネル・プログラムが含まれます。これを行う場合変更した後でキュー・マネージャーを停止して再始動することをお勧めします。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

number

1 から 65535 の範囲内で値を指定します。この値は、システムで認識されているコード化文字セット ID (CCSID) を表している必要があります。

クラスター・ワークロード出口データ (CLWLDATA)

クラスター・ワークロード出口データ (最大長 32 文字) を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クラスター・ワークロード出口データは指定されません。

cluster-workload-exit-data

クラスター・ワークロード出口が呼び出されるとこのデータがその出口に渡されます。

クラスター・ワークロード出口 (CLWLEXIT)

クラスター・ワークロード出口として呼び出されるプログラムのエントリー・ポイントを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クラスター・ワークロード出口は起動しません。

cluster-workload-exit

クラスター・ワークロード出口を指定する場合、完全修飾名を指定する必要があります。この場合、*LIB および *CURLIB として定義されるライブラリーは指定できません。

クラスター・ワークロード出口データ長 (CLWLLEN)

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージ・データの最大バイト数。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-exit-data-length

0 以上 999999999 以下の範囲の値をバイト数で指定します。

リポジトリ名 (REPOS)

このキュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・サービスを提供するクラスターの名前。

パラメーター REPOSNL が非ブランクである場合、このパラメーターをブランクにする必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クラスターは指定されません。

clustername

最大長は 48 文字で、IBM MQ オブジェクトの命名規則に従います。

リポジトリ名前リスト (REPOSNL)

このキュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・サービスを提供するクラスター名前リストの名前。

パラメーター REPOS が非ブランクである場合、このパラメーターをブランクにする必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クラスター名前リストは指定されません。

名前リスト

名前リストの名前。

SSL CRL 名前リスト (SSLCRLNL)

証明書状況を確認するためにこのキュー・マネージャーが使用する認証情報オブジェクトの名前リストの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

認証情報オブジェクトの名前リストは指定されません。

名前リスト

名前リストの名前。

SSL 鍵リポジトリ (SSLKEYR)

このキュー・マネージャーの鍵リポジトリのロケーション。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

*** システム**

キュー・マネージャーは、*SYSTEM 鍵リポジトリを使用します。SSLKEYR リポジトリをこの値に設定すると、キュー・マネージャーはデジタル証明書マネージャーにアプリケーションとして登録されます。*SYSTEM ストアにあるどのクライアントまたはサーバー証明書でもデジタル証明書マネージ

ャーを通じてキュー・マネージャーに割り当てることができます。この値を指定した場合、鍵リポジトリ・パスワード (SSLKEYRPWD) を設定する必要はありません。

***NONE 値**

鍵リポジトリは指定されません。

filename

鍵リポジトリのロケーション。この値を指定する場合、鍵リポジトリに正しいラベルが付けられたデジタル証明書が含まれていることを確認し、さらにチャンネルが鍵リポジトリにアクセスできるように鍵リポジトリ・パスワード (SSLKEYRPWD) を設定する必要があります。詳細については、IBM MQ セキュリティの資料を参照してください。

SSL リポジトリ・パスワード (SSLKEYRPWD)

このキュー・マネージャーの鍵リポジトリのパスワード。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

鍵リポジトリ・パスワードは指定されません。

パスワード

リポジトリのパスワード。

SSL 鍵リセット・カウント (SSLRSTCNT)

チャンネル上で暗号化のために使用した秘密鍵を、通信を開始する SSL チャンネル MCA がいつリセットするかを指定します。この値は、秘密鍵を再折衝するまでにチャンネルで送受信される暗号化されていない合計バイト数を表します。このバイト数には、メッセージ・チャンネル・エージェントによって送信される制御情報も含まれます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

秘密鍵の再折衝を使用不可にします。

key-reset-byte-count

0 以上 999999999 以下の範囲の値をバイト数で指定します。値 0 は、秘密鍵の再折衝が使用不可であることを示します。

IP プロトコル (IPADDRV)

チャンネル接続に使用する IP プロトコル。

この属性は、IPv4 と IPv6 の両方に対して使用可能になっているシステムにのみ関係します。この属性は、CONNAME が IPv4 と IPv6 の両方のアドレスに解決されるホスト名として定義されており、かつ次のいずれかが満たされる場合、TRPTYPE が TCP として定義されているチャンネルに影響を与えます。

- LOCLADDR が指定されていない。
- LOCLADDR も IPv4 および IPv6 の両方のアドレスに解決される。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***IPv4**

IPv4 スタックが使用されます。

***IPv6**

IPv6 スタックが使用されます。

クラスター・ワークロード・チャンネル (CLWLMRUC)

クラスター・ワークロード選択アルゴリズムによって使用されるとみなされる、最新使用クラスター・チャンネルの最大数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

maximum-cluster-workload-channels

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

クラスター・ワークロード・キューの使用 (CLWLUSEQ)

ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の振る舞いを指定します。PUT がクラスター・チャンネルから発信される場合にはこの属性は適用されません。この値は、CLWLUSEQ 値が *QMGR であるキューに使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***LOCAL (ローカル)**

ローカル・キューは、MQPUT のただ 1 つの宛先です。

***ANY**

キュー・マネージャーは、ワークロード分散の目的でこうしたローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして扱います。

ログ・リカバリー・イベントが有効 (LOGGEREVT)

ログ・リカバリー・イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

ログ・リカバリー・イベントは生成されません。

***YES**

ログ・リカバリー・イベントが生成されます。

チャンネル・イベントが有効 (CHLEVT)

チャンネル・イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

チャンネル・イベントは生成されません。

***EXCEPTION**

例外チャンネル・イベントが生成されます。

以下のチャンネル・イベントのみが生成されます。

- MQRC_CHANNEL_ACTIVATED
- MQRC_CHANNEL_CONV_ERROR
- MQRC_CHANNEL_NOT_ACTIVATED
- MQRC_CHANNEL_STOPPED

チャンネル・イベントは、以下の理由修飾子を付けて発行されます。

- MQRQ_CHANNEL_STOPPED_ERROR
- MQRQ_CHANNEL_STOPPED_RETRY
- MQRQ_CHANNEL_STOPPED_DISABLED
- MQRQ_CHANNEL_STOPPED_BY_USER

***YES**

すべてのチャンネル・イベントが生成されます。

*EXCEPTION によって生成されたチャンネル・イベントに加えて、以下のチャンネル・イベントも生成されます。

- MQRQ_CHANNEL_STARTED
- MQRQ_CHANNEL_STOPPED

次の理由修飾子が付けられます。

- MQRQ_CHANNEL_STOPPED_OK

SSL イベントが有効 (SSLEVT)

SSL イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

SSL イベントは生成されません。

***YES**

SSL イベントが生成される。

次のイベントが生成されます。

- MQRQ_CHANNEL_SSL_ERROR

チャンネル・イニシエーター制御 (SCHINIT)

チャンネル・イニシエーター制御を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

キュー・マネージャーを使用してチャンネル・イニシエーターを開始および停止します。

***MANUAL**

キュー・マネージャーを使用してチャンネル・イニシエーターを自動的に開始しません。

コマンド・サーバー制御 (SCMDSERV)

コマンド・サーバー制御を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

キュー・マネージャーを使用してコマンド・サーバーを開始および停止します。

***MANUAL**

キュー・マネージャーを使用してコマンド・サーバーを自動的に開始しません。

キュー・モニター (MONQ)

キューに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

キューのオンライン・モニター・データは、MONQ キュー属性の設定値に関係なく使用不可にされます。

***OFF**

モニター・データの収集は、MONQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューの場合にはオフになります。

***LOW**

モニター・データの収集は、MONQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューのデータ収集の率が低い場合にオンになります。

***MEDIUM**

モニター・データの収集は、MONQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューのデータ収集の率が適度である場合にオンになります。

***HIGH**

モニター・データの収集は、MONQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューのデータ収集の率が高い場合にオンになります。

チャネル・モニター (MONCHL)

チャネルに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

チャネルのオンライン・モニター・データは、MONCHL チャネル属性の設定値に関係なく使用不可にされます。

***OFF**

モニター・データの収集は、MONCHL キュー属性に 'QMGR' が指定されているチャネルの場合にはオフになります。

***LOW**

モニター・データの収集は、MONCHL チャネル属性に *QMGR が指定されているチャネルのデータ収集の率が低い場合にオンになります。

***MEDIUM**

モニター・データの収集は、MONCHL チャネル属性に *QMGR が指定されているチャネルのデータ収集の率が適度である場合にオンになります。

***HIGH**

モニター・データの収集は、MONCHL チャネル属性に *QMGR が指定されているチャネルのデータ収集の率が高い場合にオンになります。

クラスター送信側モニター (MONACLS)

自動定義されたクラスター送信側チャネルに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

自動定義されたクラスター送信側チャネルのオンライン・モニター・データを使用不可にします。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、QMGR オブジェクト内の MONCHL 属性の設定値から継承されます。

***LOW**

モニター・データの収集は、自動定義されたクラスター送信側チャネルのデータ収集の率が低い場合にオンになります。

***MEDIUM**

モニター・データの収集は、自動定義されたクラスター送信側チャネルのデータ収集の率が適度である場合にオンになります。

***HIGH**

モニター・データの収集は、自動定義されたクラスター送信側チャネルのデータ収集の率が高い場合にオンになります。

キュー・マネージャー統計 (STATMQI)

キュー・マネージャーに関する統計モニター情報の収集を制御します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***OFF**

MQI 統計のデータ収集を使用不可にします。

***ON**

MQI 統計のデータ収集を使用可能にします。

キュー統計 (STATQ)

キューに関する統計データの収集を制御します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

キュー統計のデータ収集は、STATQ キュー属性の設定値に関係なくすべてのキューで使用不可にします。

***OFF**

統計データの収集は、STATQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューの場合にはオフになります。

***ON**

統計データの収集は、STATQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューの場合にはオンになります。

チャネル統計 (STATCHL)

チャネルの統計データの収集を制御します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

チャネル統計のデータ収集は、STATCHL チャネル属性の設定値に関係なくすべてのチャネルで使用不可にします。

***OFF**

統計データの収集は、STATCHL チャンネル属性に *QMGR が指定されているチャンネルの場合にはオフになります。

***LOW**

統計データの収集は、STATCHL チャンネル属性に *QMGR が指定されているチャンネルのデータ収集の率が低い場合にオンになります。

***MEDIUM**

統計データの収集は、STATCHL チャンネル属性に *QMGR が指定されているチャンネルのデータ収集の率が適度である場合にオンになります。

***HIGH**

統計データの収集は、STATCHL チャンネル属性に *QMGR が指定されているチャンネルのデータ収集の率が高い場合にオンになります。

クラスター送信側統計 (STATACLS)

自動定義されたクラスター送信側チャンネルに関する統計データの収集を制御します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

自動定義されたクラスター送信側チャンネルの統計データ収集を使用不可にします。

***LOW**

自動定義されたクラスター送信側チャンネルの統計データ収集は、データ収集の率が低い場合に使用可能になります。

***MEDIUM**

自動定義されたクラスター送信側チャンネルの統計データ収集は、データ収集の率が適度である場合に使用可能になります。

***HIGH**

自動定義されたクラスター送信側チャンネルの統計データ収集は、データ収集の率が高い場合に使用可能になります。

統計間隔 (STATINT)

統計モニター・データをモニター・キューに書き込む頻度 (秒単位で)。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

statistics-interval

1 から 604800 の範囲内で値を指定します。

MQI アカウンティング (ACCTMQI)

MQI データに関するアカウンティング情報の収集を制御します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***OFF**

API アカウンティング・データの収集をオフに切り替えます。

***ON**

API アカウンティング・データの収集をオンに切り替えます。

キュー・アカウンティング (ACCTQ)

キューに関するアカウンティング情報の収集を制御します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

キューのアカウンティング・データの収集は使用不可になり、キュー属性 ACCTQ を使用して指定変更できません。

***OFF**

アカウンティング・データの収集は、ACCTQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューの場合にはオフになります。

***ON**

アカウンティング・データの収集は、ACCTQ キュー属性に *QMGR が指定されているキューの場合にはオンになります。

アカウンティング間隔 (ACCTINT)

中間のアカウンティング・レコードが書き込まれる秒単位の間隔。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

accounting-interval

1 から 604800 の範囲内で値を指定します。

アカウンティング指定変更 (ACCTCONO)

アプリケーションが QMGR 属性の ACCTMQI および ACCTQ 値の設定を指定変更できるかどうかを指定します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ENABLED**

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの MQCNO 構造体の Options フィールドを使用して ACCTMQI および ACCTQ QMGR 属性の設定値を指定変更できます。

***DISABLED**

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの MQCNO 構造体の Options フィールドを使用して ACCTMQI および ACCTQ QMGR 属性の設定値を指定変更できません。

経路トレース記録 (ROUTEREC)

経路トレース情報の記録を制御します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***MSG**

メッセージによって指定された宛先に応答します。

***キュー**

固定名キューに応答します。

***DISABLED**

経路トレース・メッセージに追加できません。

アクティビティ記録 (ACTIVREC)

活動レポートの生成を制御します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*MSG

メッセージによって指定された宛先にレポートします。

*キュー

固定名キューにレポートします。

*DISABLED

アクティビティ・レポートは生成されません。

最大プロパティ・データ長 (MAXPROPLEN)

プロパティ・データの最大長を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*ANY

プロパティ・データの長さには制限がありません。

max-property-data-length

0 から 104857600 (10 MB) までの範囲内で値 (バイト) を指定します。

メッセージのマーク-ブラウズ間隔 (MARKINT)

メッセージ取得オプション MQGMO_MARK_BROWSE_CO_OP を指定した MQGET の呼び出しによってマーク-ブラウズされたメッセージが、マーク-ブラウズされたままになると予想される概算の時間間隔 (ミリ秒)。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*ANY

メッセージは無期限にマーク-ブラウズされたままになります。

時間間隔

最大 999999999 までの時間間隔 (ミリ秒)。デフォルト値は 5000 です。



重要: 値をデフォルトの 5000 より小さくしないでください。

Pub-Sub 最大メッセージ再試行カウント (PSRTYCNT)

失敗したコマンド・メッセージを (同期点で) 処理する際の再試行の数

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

再試行回数

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

Pub-Sub NPM メッセージ (PSNPMMMSG)

未配信の入力メッセージを廃棄 (または保持) するかどうか。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***DISCARD**

非持続入力メッセージは、処理できない場合は廃棄されることがあります。

***KEEP**

非持続入力メッセージは、処理できない場合でも廃棄されません。この状態では、キューに入れられた Pub-Sub デーモンはメッセージの処理の再試行を続行します。メッセージが正常に処理されるまで、以降の入力メッセージは処理されません。

Pub-Sub NPM メッセージ応答 (PSNPMRES)

未配信の応答メッセージの動作を制御します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NORMAL**

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。送達不能キューに入れられない場合は廃棄されます。

***SAFE**

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。応答を送達不能キューに入れられない場合は、メッセージはロールバックされ、再試行されます。メッセージが送達されるまで、以降のメッセージは処理されません。

***DISCARD**

非持続応答は応答キューに入れられず、廃棄されます。

***KEEP**

送達できなかった非持続応答はロールバックされ、送達が再試行されます。メッセージが送達されるまで、以降のメッセージは処理されません。

Pub-Sub 同期点 (PSSYNCP)

同期点において持続メッセージのみ (またはすべてのメッセージ) を処理するかどうか。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***IFPER**

キュー Pub-Sub デーモンにより同期点外の非持続メッセージが受信されます。デーモンが同期点外のパブリケーションを受け取る場合、デーモンはパブリケーションを、同期点外の認識されたサブスクライバーに転送します。

***YES**

キュー Pub-Sub デーモンにより、同期点下にあるすべてのメッセージが受信されます。

Pub-Sub エンジン制御 (PSMODE)

Pub-Sub エンジン制御。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ENABLED**

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェース、

キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキュー、またはその両方を使用してパブリッシュ/サブスクライブを行うことができます。

***DISABLED**

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュ/サブスクライブを行うことができません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは処理されません。

***COMPATIBLE**

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは処理されません。これは、このキュー・マネージャーを使用する Websphere Message Broker V6 以前のバージョンとの互換性を得るために使用します。

トピック・ツリーの存続時間 (TREELIFE)

非管理トピックの存続期間を秒単位で指定します。非管理トピックとは、管理ノードとして存在していないトピック・ストリングに対してアプリケーションがパブリッシュまたはサブスクライブするときに作成されるものです。この非管理ノードにアクティブなサブスクリプションがなくなった場合、このパラメーターによって、そのノードを削除するまでキュー・マネージャーが待機する時間が決まります。キュー・マネージャーがリサイクルされた後は、永続サブスクリプションによって使用中の非管理トピックのみが残ります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

tree-life-time

0 から 604000 までの範囲の値 (秒数) を指定します。値 0 は、非管理トピックがキュー・マネージャーによって削除されないことを意味します。

構成イベントが有効 (CFG EVT)

構成イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

構成イベントを生成しません。

***YES**

構成イベントが生成されます。この値を設定した後、すべてのオブジェクトに対して MQSC REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEVT) コマンドを発行して、キュー・マネージャーの構成を最新のものにします。

コマンド・イベントが有効 (CMDEVT)

コマンド・イベントを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

コマンド・イベントは生成されません。

***YES**

コマンド・イベントはすべての正常実行されたコマンドについて生成されます。

***NODSP**

コマンド・イベントは、DISPLAY コマンドを除く、すべての正常実行されたコマンドについて生成されます。

ACTVTRC

この属性は、MQI アプリケーション・アクティビティー・トレース情報を収集するかどうかを指定します。[アクティビティー・トレース情報の収集を制御する ACTVTRC の設定](#)を参照してください。

***SAME**

属性は変更されません。

***OFF**

IBM MQ MQI アプリケーション・アクティビティー・トレース情報の収集は使用可能ではありません。

***ON**

IBM MQ MQI アプリケーション・アクティビティー・トレース情報の収集は使用可能です。

キュー・マネージャーの属性 ACTVCONO を ENABLED に設定すると、MQCNO 構造のオプション・フィールドを使用してこのパラメーターの値を指定変更できます。

ACTVCONO

この属性は、アプリケーションが ACTVTRC キュー・マネージャー・パラメーターの設定を指定変更できるかどうかを指定します。

***SAME**

属性は変更されません。 This is the default value

***DISABLED**

アプリケーションは ACTVTRC キュー・マネージャー・パラメーターの設定を指定変更できません。

***ENABLED**

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの MQCNO 構造体のオプション・フィールドを使用して、ACTVTRC キュー・マネージャー・パラメーターの設定を指定変更できます。

このパラメーターへの変更点は、変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続で有効になります。

CHLAUTH

この属性は、チャンネル認証レコードで定義された規則を使用するかどうかを指定します。CHLAUTH 規則は、この属性の値に関係なく、これまでどおりに設定および表示することができます。

このパラメーターの変更点は、インバウンド・チャンネルが次回、始動を試みるときに有効になります。

このパラメーターの変更は、現在開始されているチャンネルには影響しません。

***SAME**

属性は変更されません。 This is the default value

***DISABLED**

チャンネル認証レコードは検査されません。

***ENABLED**

チャンネル認証レコードは検査されます。

カスタム属性 (CUSTOM)

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。現在は、CUSTOM に対する有意義な値がないため、空のままにしてください。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

128 文字のカスタム属性ストリング

1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

デフォルトのクラスター伝送キュー・タイプ (DFTCLXQ)

DEFCLXQ 属性は、クラスター受信側チャネルとの間でメッセージの取得やメッセージの送信を行うために、クラスター送信側チャネルがデフォルトで選択する伝送キューを制御します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***SCTQ**

すべてのクラスター送信側チャネルが、SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE からメッセージを送信します。伝送キューに入れられたメッセージの `correlID` は、メッセージの宛先のクラスター送信側チャネルを示します。

SCTQ は、キュー・マネージャーが定義されるときに設定されます。この動作は、バージョン 7.5 より前のバージョンの IBM WebSphere MQ では暗黙的です。以前のバージョンに、キュー・マネージャーの属性 `DefClusterXmitQueueType` はありませんでした。

*** チャネル**

各クラスター送信側チャネルは、異なる伝送キューからメッセージを送信します。各伝送キューは、モデル・キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE から、永続動的キューとして作成されます。

CERTLABL

この属性は、このキュー・マネージャーで使用する証明書ラベルを指定します。このラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書が選択されているかを識別します。

IBM i: のデフォルトのキュー・マネージャーの値およびマイグレーションされたキュー・マネージャーの値は、以下のとおりです。

- SSLKEYR(*SYSTEM) を指定した場合、値はブランクです。

非ブランクのキュー・マネージャー CERTLABL を SSLKEYR(*SYSTEM) とともに使用することは禁止されていることに注意してください。使用しようとする、MQRCCF_Q_MGR_ATTR_CONFLICT エラーが表示されます。

- それ以外の場合、*ibmwebspheremqxxxx* (ここで xxxx は小文字に変換されたキュー・マネージャーの名前です)。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***DFT**

キュー・マネージャーの **CERTLABL** をブランク値のままにすると、システムは、デフォルト値が指定されたものと解釈します。

REVDNS

この属性は、チャネルの接続元である IP アドレスに関して、ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) からホスト名を逆引きするかどうかを制御します。この属性は、TCP のトランスポート・タイプ (TRPTYPE) を使用するチャネルでのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*ENABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名の情報が必要な場合に、それが逆引きされます。ホスト名が含まれる CHLAUTH ルールに照らしてマッチングを行ったり、エラー・メッセージにホスト名を含めたりするには、この設定が必要です。接続 ID を提供するメッセージでは、IP アドレスが示されます。

これは、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

*DISABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名は逆引きされません。これを設定すると、ホスト名を使用する CHLAUTH ルールはマッチングされません。

CONNAUTH

この属性は、ユーザー ID とパスワードを認証する場所を提供するために使用する認証情報オブジェクトの名前を指定します。**CONNAUTH** が *NONE の場合、キュー・マネージャーはユーザー ID とパスワードの検査を実行しません。

この構成への変更、またはその構成が参照するオブジェクトへの変更は、**REFRESH SECURITY TYPE (CONNAUTH)** コマンドが発行されるときに有効になります。

CONNAUTH に *NONE を設定した状態で、**CHCKCLNT** フィールドに REQDADM オプションが設定されたチャネルに接続しようとする、その接続は失敗します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*NONE 値

キュー・マネージャーはユーザー ID とパスワードの検査を実行しません。

48 文字の接続認証ストリング

ユーザー ID とパスワードを認証する場所を提供するために使用する認証情報オブジェクトの具体的な名前。

MQ 認証情報オブジェクトの変更 (CHGMQMAUTI)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 認証情報オブジェクトの変更 (CHGMQMAUTI) コマンドは、既存の MQ 認証情報オブジェクトの指定された属性を変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>AINAME</u>	認証情報名	文字値	必須、キー、定位置 1

キーワード	説明	選択	注
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、位置 2
AUTHTYPE	認証情報タイプ	*CRLLDAP, *OCSP, *IDPWOS, *IDPWLDAP	オプション、位置 3
CONNAME	接続名	文字値、 *SAME	オプション、位置 4
TEXT	テキスト '記述'	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、位置 5
USERNAME	ユーザー名	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、位置 6
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、位置 7
OCSPURL	OCSP 応答側 URL	文字値、 *SAME	オプション、位置 8
CHCKCLNT	認証検査が必要です。	*ASQMGR, *REQUIRED, *REQADM	オプション、位置 9
CHCKLOCL	認証検査が必要です。	*NONE、*OPTIONAL、*REQUIRED、*REQADM	オプション、位置 10
FAILDELAY	障害の遅延	整数値	オプション、位置 11
BASEDNU	ベース・ユーザー DN	文字値、 *SAME	オプション、位置 12
ADOPTCTX	コンテキスト採用	整数値	オプション、位置 13
CLASSUSER	LDAP オブジェクト・クラス	文字値、 *SAME	オプション、位置 14
USERFIELD	LDAP ユーザー・レコード	文字値、 *SAME	オプション、位置 15
SHORTUSER	ユーザー・レコード	文字値、 *SAME	オプション、位置 16
SECCOMM	LDAP 通信	文字値、 *SAME	オプション、位置 17
AUTHORMD	許可方式	文字値、 *OS *SEARCHGRP *SEARCHUSR	オプション、位置 18
BASEDNG	グループのベース DN	文字値、 *SAME	オプション、位置 19
CLASSGRP	グループのオブジェクト・クラス	文字値、 *SAME	オプション、位置 20
FINDGRP	グループ・メンバーシップを検索する属性	文字値、 *SAME	オプション、位置 21
GRPFIELD	グループの単純名	文字値、 *SAME	オプション、位置 22
NESTGRP	グループ・ネスティング	*NO *YES	オプション、位置 23
▶ V8.0.0.3 ▶ V8.0.0.3 AUTHENMD	認証方式	*OS 変更不可	オプション、位置 24

認証情報名 (Ainame)

変更する認証情報オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

authentication-information-name

認証情報オブジェクトの名前を指定します。最大ストリング長は 48 文字です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

コンテキストの採用 (ADOPTCTX)

提供された資格情報をこのアプリケーションのコンテキストとして使用するかどうか。これは、この資格情報が許可検査に使用され、管理画面に表示され、メッセージに出現することを意味します。

YES

パスワードにより妥当性検査が正常に行われた、MQCSP 構造内に示されたユーザー ID は、このアプリケーションに使用するコンテキストとして採用されます。したがって、このユーザー ID は、IBM MQ リソースの使用許可として確認される資格情報となります。

指定されたユーザー ID が LDAP ユーザー ID であり、オペレーティング・システムのユーザー ID を使用して許可検査が行われる場合は、LDAP のユーザー・エントリーに関連付けられている SHORTUSR が実行される許可検査の資格情報として採用されます。

NO

認証は MQCSP 構造内のユーザー ID とパスワードに対して実行されますが、資格情報が将来の使用のために採用されることはありません。許可は、アプリケーションが実行されているユーザー ID を使用して実行されます。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWOS および *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

認証方式 (AUTHENMD)

▶ V8.0.0.3

このアプリケーションで使用される認証方式。

*OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

***OS** は認証方式を設定する目的でのみ使用できます。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWOS の場合にのみ有効です。

許可方式 (AUTHORMD)

▶ V8.0.0.2

アプリケーションで使用される許可方式。

*OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

これは IBM MQ が以前処理していた方法であり、デフォルト値になります。

*SEARCHGRP

LDAP リポジトリのグループ項目に、そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性が含まれます。メンバーシップは、FINDGRP で定義されている属性によって示されます。この値は通常 *member* または *uniqueMember* です。

*SEARCHUSR

LDAP リポジトリのユーザー項目に、指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性が含まれます。照会対象の属性は、FINDGRP 値 (通常、*memberOf*) によって定義されます。

多くの LDAP サーバーはグループ・メンバーシップの判別にグループ・オブジェクトの属性を使用するため、この値を *SEARCHGRP* に設定する必要があります。

Microsoft Active Directory は通常、グループ・メンバーシップをユーザー属性として保管します。IBM Tivoli Directory Server は両方のメソッドをサポートします。

一般に、ユーザー属性によってメンバーシップを取得する方が、ユーザーをメンバーとしてリストするグループを検索するよりも高速です。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。

認証情報タイプ (AUTHTYPE)

認証情報オブジェクトのタイプです。デフォルト値はありません

指定できる値は以下のとおりです。

*CRLLDAP

認証情報オブジェクトのタイプは CRLLDAP です。

*OCSP

認証情報オブジェクトのタイプは OCSPURL です。

*IDPWOS

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、オペレーティング・システムを使用して実行されます。

*IDPWLDAP

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。

グループのベース DN (BASEDNG)

▶ V 8.0.0.2

グループ名を検出できるようにするために、このパラメーターを基本 DN とともに設定して、LDAP サーバー内でグループを検索する必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。

ベース・ユーザー DN (BASEDNU)

短いユーザー名属性 ([SHORTUSR](#) を参照) を検出できるようにするために、このパラメーターに基本 DN を設定して、LDAP サーバー内で検索できるようにする必要があります。この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。

クライアント検査 (CHCKCLNT)

ローカルでバインドされたすべての接続で接続認証検査が必要とされるか、MQCSP 構造でユーザー ID とパスワードが提供される場合にのみ検査されるか。

これらの属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWOS* または **IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

*ASQMGR

接続が許可されるには、キュー・マネージャーで定義されている接続認証要件を満たしている必要があります。CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供され、CHCKCLNT の値が **REQUIRED* である場合、有効なユーザー ID およびパスワードが指定されない限り、接続は失敗します。CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供されない、または CHCKCLNT の値が **REQUIRED* ではない場合、ユーザー ID およびパスワードは必要ありません。

*REQUIRED

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

*REQDADM

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定する必要がありますが、非特権ユーザーは *OPTIONAL 設定と同じように扱われます。

ローカル検査 (CHCKLOCL)

ローカルでバインドされたすべての接続で接続認証検査が必要とされるか、MQCSP 構造でユーザー ID とパスワードが提供される場合にのみ検査されるか。

これらの属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWOS または *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

*NONE

検査をオフにします。

*OPTIONAL

アプリケーションからユーザー ID とパスワードが提供された場合、それらが有効なペアであることを確認します。ただし、それらの提供は必須ではありません。このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

*REQUIRED

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

*REQDADM

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定する必要がありますが、非特権ユーザーは *OPTIONAL 設定と同じように扱われます。

クラス・グループ (CLASSGRP)

V 8.0.0.2

LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

この値がブランクの場合には、**groupOfNames** が使用されます。

他に通常使用される値には、*groupOfUniqueNames* や *group* があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

クラス・ユーザー (CLASSUSR)

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

ブランクの場合、値は通常必要とされる値である *inetOrgPerson* にデフォルト設定されます。

Microsoft Active Directory では、必要とされる値は多くの場合 *user* です。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

接続名 (CONNAME)

オプションのポート番号を持つ、LDAP サーバーが稼働しているホストの DNS 名または IP アドレス。デフォルトのポート番号は 389 です。DNS 名または IP アドレスにデフォルトはありません。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です (必須である場合)。

IDPWLDAP 認証情報オブジェクトとともに使用する場合は、接続名のコンマ区切りのリストにすることができます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

接続名は、元の認証情報オブジェクトから未変更のままです。

接続名

オプションのポート番号を持つ、ホストの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを指定します。最大ストリング長は 264 文字です。

障害の遅延 (FAILDELAY)

接続認証にユーザー ID とパスワードが提供されたものの、そのユーザー ID またはパスワードが誤っていたために認証が失敗する場合、失敗がアプリケーションに戻される前に、ここで指定した秒数の遅延が生じます。

これは、失敗を受信した後に、アプリケーションが単純に再試行を繰り返してビジー・ループになるのを回避するのに役立ちます。

値は 0 から 60 秒の範囲でなければなりません。デフォルト値は 1 です。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWOS および *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループ・メンバーシップ属性 (FINDGRP)

V 8.0.0.2 グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前。

AUTHORMD = SEARCHGRP の場合、この属性は、通常、*member* または *uniqueMember* に設定されます。

AUTHORMD = SEARCHUSR の場合、この属性は、通常、*memberOf* に設定されます。

ブランクのままにした場合、キュー・マネージャーは **AUTHORMD** の設定に応じて、*member* または *memberOf* を使用します。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループの単純名 (GRPFIELD)

V 8.0.0.2

値がブランクの場合、*setmqaut* のようなコマンドはグループの修飾名を使用する必要があります。値は完全な識別名、または単一の属性のいずれかにできます。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループ・ネスティング (NESTGRP)

V 8.0.0.2

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

最初に見つかったグループのみが、許可の対象となります。

*YES

ユーザーが属するグループすべてを列挙するために、グループ・リストは再帰的に検索されます。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

OCSP 応答側 URL (OCSPURL)

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。これは、OCSP 応答側のホスト名とポート番号を含む HTTP URL でなければなりません。OCSP 応答側がポート 80 を使用する場合 (これは HTTP のデフォルトです)、ポート番号は省略できます。

このフィールドは OCSP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

OCSP 応答側 URL は未変更です。

OCSP-Responder-URL

OCSP 応答側 URL です。最大文字列長は 256 文字です。

セキュア・コマンド (SECCOMM)

LDAP サーバーへの接続が SSL/TLS を使用して安全に行われる必要があるかどうか

YES

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用して安全に行われます。

使用される証明書は、キュー・マネージャーのデフォルトの証明書で、キュー・マネージャー・オブジェクトで CERTLABL と指定されているか、それがブランクである場合は、[デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)に記載されているものです。

証明書は、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに置かれます。暗号仕様は、IBM MQ サーバーと LDAP サーバーの両方でサポートされるものとなるようネゴシエーションされます。

キュー・マネージャーが SSLFIPS(YES) または SUITEB 暗号仕様を使用するよう構成されている場合、これは LDAP サーバーへの接続において同様に考慮されます。

ANON

LDAP サーバーへの接続は、SECCOMM(YES) と同様に SSL/TLS を使用して安全に行われますが、違いが 1 つあります。

証明書は LDAP サーバーに送信されません。接続は匿名で行われます。この設定を使用するには、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに、デフォルトとしてマークされた証明書が含まれていないことを確認してください。

NO

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用しません。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

短いユーザー名 (SHORTUSR)

IBM MQ での短いユーザー名として使用される、ユーザー・レコード内のフィールド。

このフィールドには、12 文字以下の値を入れる必要があります。この短いユーザー名は、以下の目的で使用されます。

- LDAP 認証が有効であるが、LDAP 権限が有効ではない場合、これは許可検査のオペレーティング・システムのユーザー ID として使用されます。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要があります。
- LDAP 認証と権限の両方が有効で、メッセージ内のユーザー ID を使用しなければならない場合、これは LDAP ユーザー名を再発見するためのメッセージに付随するユーザー ID として使用されます。

例えば、別のキュー・マネージャーにおいて、またはレポート・メッセージの書き込み時などです。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要はありませんが、固有のストリングでなければなりません。この目的として使用できる属性の良い例としては、従業員シリアル番号があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP であり、必須である場合にのみ有効です。

テキスト '記述' (TEXT)

認証情報オブジェクトの短いテキスト説明です。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

テキスト・ストリングは未変更です。

*NONE 値

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

ストリングは最大 64 文字までの長さで、アポストロフィで囲みます。

ユーザー名 (USERNAME)

ディレクトリーにバインドされているユーザーの識別名。デフォルト・ユーザー名は空白です。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

ユーザー名は未変更です。

*NONE 値

ユーザー名は空白です。

LDAP-user-name

LDAP ユーザーの識別名を指定します。最大ストリング長は 1024 文字です。

ユーザー・フィールド (USRFIELD)

認証用のアプリケーションで提供されるユーザー ID に LDAP ユーザー・レコード内のフィールドの修飾子が含まれていない、つまり '=' 記号が含まれていない場合、この属性は提供されるユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールドを識別します。

このフィールドは、空白にすることができます。その場合、非修飾ユーザー ID では、[SHORTUSR](#) パラメーターを使用して指定されたユーザー ID を解釈します。

このフィールド内容は '=' 記号とアプリケーション提供の値に連結され、完全なユーザー ID として LDAP ユーザー・レコードに置かれます。例えば、アプリケーション提供のユーザーが fred でフィールド値が cn の場合、LDAP リポジトリの cn=fred が検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

LDAP ユーザーのパスワード。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

パスワードは未変更です。

*NONE 値

パスワードは空白です。

LDAP-password

LDAP ユーザー・パスワード。最大ストリング長は 32 文字です。

MQ チャンネルの変更 (CHGMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャンネルの変更 (CHGMQMCHL) コマンドは、既存の MQ チャンネル定義の指定された属性を変更します。

注:

- 変更は、チャンネルが次に開始されるときに有効になります。

- ・ クラスター・チャンネルの場合は、可能であれば両方のチャンネルに属性を指定して同じ設定になるようにします。これらの設定が一致していない場合、クラスター受信側チャンネルで指定した設定の方が使用されます。これについては、[クラスター・チャンネル](#)で説明しています。
- ・ XMITQ 名または CONNAME を変更する場合には、チャンネルの両端のシーケンス番号をリセットする必要があります。(SEQNUM パラメーターについては、[1261 ページの『RESET CHANNEL』](#)を参照してください。)

Parameters

キーワード	説明	選択	注
CHLNAME	チャンネル名	文字値	必須、キー、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
CHLTYPE	チャンネル・タイプ	*RCVR、*SDR、*SVR、*RQSTR、*SVRCN、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、*CLTCN	オプション、キー、定位置 3
TRPTYPE	トランスポート・タイプ	*LU62、*TCP、 *SAME	オプション、定位置 4
TEXT	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 5
TGTMQMNAME	ターゲット・キュー・マネージャー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 6
CONNAME	接続名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 7
TPNAME	トランザクション・プログラム名	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 8
MODENAME	モード名	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 9
TMQNAME	伝送キュー	文字値、 *SAME	オプション、定位置 10
MCANAME	MSG チャンネル・エージェント	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 11
	修飾子 1: メッセージ・チャンネル・エージェント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
MCAUSRID	MSG チャンネル AGENT ユーザー ID	文字値、*NONE、*PUBLIC、 *SAME	オプション、定位置 12
MCATYPE	メッセージ・チャンネル・エージェントのタイプ	*PROCESS、*THREAD、 *SAME	オプション、定位置 13
BATCHINT	バッチ間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 14
BATCHSIZE	バッチ・サイズ	1-9999、 *SAME	オプション、定位置 15
DSCITV	切断間隔	0-999999、 *SAME	オプション、定位置 16
SHORTTMR	短期再試行間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 17
SHORTRTY	短期再試行カウント	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 18
LONGTMR	長期再試行間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 19
LONGRTY	長期再試行カウント	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 20

キーワード	説明	選択	注
SCYEXIT	セキュリティー出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 21
	修飾子 1: セキュリティー出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CSCYEXIT	セキュリティー出口	文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 22
SCYUSRDATA	セキュリティー出口ユーザー・データ	文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 23
SNDEXIT	送信出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 24
	修飾子 1: 送信出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CSNDEXIT	送信出口	単一値: *同じ 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 文字値	オプション、定位置 25
SNDUSRDATA	送信出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回まで): 文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 26
RCVEXIT	受信出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 27
	修飾子 1: 受信出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CRCVEXIT	受信出口	単一値: *同じ 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 文字値	オプション、定位置 28
RCVUSRDATA	受信出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回まで): 文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 29
MSGEXIT	メッセージ出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 30
	修飾子 1: メッセージ出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
MSGUSRDATA	メッセージ出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回まで): 文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 31

キーワード	説明	選択	注
<u>MSGRTYEXIT</u>	MSG 再試行出口	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 32
	修飾子 1: メッセージ再試行出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
<u>MSGRTYDATA</u>	MSG 再試行出口データ	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 33
<u>MSGRTYNBR</u>	MSG 再試行回数	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 34
<u>MSGRTYITV</u>	メッセージ再試行間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 35
<u>CVTMSG</u>	メッセージの変換	*YES、*NO、 *SAME	オプション、定位置 36
<u>PUTAUT</u>	書き込む権限	*DFT、*CTX、 *SAME	オプション、定位置 37
<u>SEQNUMWRAP</u>	シーケンス番号折り返し	100-999999999、 *SAME	オプション、定位置 38
<u>MAXMSGLEN</u>	最大メッセージ長	0-104857600、 *SAME	オプション、定位置 39
<u>HRTBTINTVL</u>	ハートビート間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 40
<u>NPMSPEED</u>	非持続メッセージ速度	*FAST、*NORMAL、 *SAME	オプション、定位置 41
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 42
<u>CLUSNL</u>	クラスター名リスト	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 43
<u>NETPRTY</u>	ネットワーク接続優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 44

キーワード	説明	選択	注
SSLCIPH	SSL CipherSpec	文字 値、'*NULL_MD5'、'*NULL_SHA'、 '*RC4_MD5_EXPORT'、' *RC4_MD5_US'、'*RC4_ SHA_US'、'*RC2_MD5_E XPORT'、 '*DES_SHA_EXPORT'、'* TRIPLE_DES_SHA_US'、 '*AES_SHA_US'、'*TLS_R SA_WITH_NULL_MD5'、 '*TLS_RSA_WITH_NULL _SHA'、'*TLS_RSA_EXPO RT_WITH_RC4_40_MD5 '、'*TLS_RSA_WITH_RC 4_128_MD5'、 '*TLS_RSA_WITH_RC4_ 128_SHA'、'*TLS_RSA_E XPORT_WITH_RC2_40_ MD5'、'*TLS_RSA_WITH _DES_CBC_SHA'、 '*TLS_RSA_WITH_3DES _EDE_CBC_SHA'、'*TLS RSA_WITH_AES_128_C BC_SHA'、 '*TLS_RSA_WITH_AES_ 256_CBC_SHA'、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 45 CipherSpec TLS_RSA_WITH_3DES_ EDE_CBC_SHA は推奨さ れません。
SSLCAUTH	SSL クライアント認証	*REQUIRED、 *OPTIONAL、 *SAME	オプション、定位置 46
SSLPEER	SSL ピア名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 47
LOCLADDR	ローカル通信アドレス	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 48
BATCHHB	バッチ・ハートビート間 隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 49
USERID	タスク・ユーザー ID	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 50
PASSWORD	パスワード	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 51
KAINT	キープアライブ・インタ ーバル	0-99999、 *SAME 、 *AUTO	オプション、定位置 52
COMPHDR	ヘッダー圧縮	値 (繰り返しは最大 2 回 まで): *NONE、*SYSTEM、 *SAME	オプション、定位置 53
COMPMSG	メッセージ圧縮	単一値: *ANY その他の値 (最大 4 個までの繰り返 し): *NONE、*RLE、 *ZLIBHIGH、*ZLIBFAST、 *SAME	オプション、定位置 54
MONCHL	チャンネル・モニター	*QMGR、*OFF、*LOW、 *MEDIUM、*HIGH、 *SAME	オプション、定位置 55

キーワード	説明	選択	注
STATCHL	チャンネル統計	*QMGR、*OFF、*LOW、 *MEDIUM、*HIGH、 *SAME	オプション、定位置 56
CLWLRANK	CLUSTER WORKLOAD ランク	0-9、 *SAME	オプション、定位置 57
CLWLPRTY	CLUSTER WORKLOAD 優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 58
CLWLWGHT	CLUSTER CHANNEL ウェイト	1-99、 *SAME	オプション、定位置 59
SHARECNV	共有会話	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 60
PROPCTL	プロパティ制御	*COMPAT、*NONE、 *ALL、 *SAME	オプション、定位置 61
MAXINST	最大インスタンス数	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 62
MAXINSTC	クライアントの最大インスタンス	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 63
CLNTWGHT	CLIENT CHANNEL ウェイト	0-99、 *SAME	オプション、定位置 64
AFFINITY	接続アフィニティー	*PREFERRED、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 65
BATCHLIM	バッチ・データ制限	0-999999、 *SAME	オプション、定位置 66
DFTRECON	デフォルトのクライアント再接続	*NO、*YES、*QMGR、 *DISABLED、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 67

チャンネル名 (CHLNAME)

チャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャンネル名を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE)

変更するチャンネルのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SDR**

送信側チャンネル

***SVR**

サーバー・チャンネル

***RCVR**

受信側チャンネル

***RQSTR**

要求側チャンネル

***SVRCN**

サーバー接続チャンネル

***CLUSSDR**

クラスター送信側チャンネル

***CLUSRCVR**

クラスター受信側チャンネル

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル

トランスポート・タイプ (TRPTYPE)

伝送プロトコルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***LU62**

SNA LU 6.2。

***TCP**

伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP)。

テキスト '記述' (TEXT)

チャンネル定義を簡単に説明するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

ターゲット・キュー・マネージャー (TGTMQMNAME)

ターゲット・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クライアント接続チャンネル (CHLTYPE) *CLTCN のターゲット・キュー・マネージャーの名前は指定されません。

message-queue-manager-name

クライアント接続チャンネル (CHLTYPE) *CLTCN のターゲット・メッセージ・キュー・マネージャーの名前。

その他のチャンネル・タイプの場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

接続名 (CONNAME)

接続するマシンの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*NONE 値

接続名はブランクです。

接続名

伝送プロトコルで必要とされる接続名を次のように指定します。

- *LU62 では、CSI オブジェクトの名前を指定します。
- *TCP では、リモート・マシン (またはクラスター受信側チャンネルのローカル・マシン) のホスト名またはネットワーク・アドレスのどちらかを指定します。この後に、括弧で囲んだポート番号をオプションで指定できます。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows プラットフォームでは、クラスター受信側チャンネルの TCP/IP 接続名パラメーターはオプションです。接続名をブランクにすると、IBM MQ はデフォルト・ポートを想定し、システムの現行 IP アドレスを使用して接続名を自動的に生成します。デフォルト・ポート番号をオーバーライドしても、システムの現行 IP アドレスを引き続き使用できます。各接続名について、IP 名をブランクにして、次のように括弧で囲んだポート番号を指定してください。

(1415)

生成される CONNAME は常にドット 10 進 (IPv4) 形式または 16 進 (IPv6) 形式であり、英数字の DNS ホスト名の形式ではありません。

ポートを指定しない場合には、デフォルト・ポート 1414 が想定されます。

クラスター受信側チャンネルの場合、接続名はローカル・キュー・マネージャーに関連し、その他のチャンネルの場合、接続名はターゲット・キュー・マネージャーに関連します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *SDR、*RQSTR、*CLTCN、および *CLUSSDR のチャンネルの場合に必須です。*SVR および *CLUSRCVR チャンネルの場合はオプションであり、*RCVR または *SVRCN チャンネルの場合は無効になります。

トランザクション・プログラム名 (TPNAME)

このパラメーターは、TRPTYPE が LU 6.2 として定義されているチャンネルの場合のみ有効です。

このパラメーターは、CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合を除いて、SNA トランザクション・プログラム名に設定しなければなりません。CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合は、ブランクに設定する必要があります。代わりに、CPI-C 通信サイド・オブジェクトから名前が取り出されます。

CHLTYPE が *RCVR として定義されているチャンネルの場合には、このパラメーターは無効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

この属性の値は変更されません。

*NONE 値

トランザクション・プログラム名は指定されません。

***BLANK**

トランザクション・プログラム名は CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。このサイド・オブジェクト名は、CONNAME パラメーターに指定しなければなりません。

transaction-program-name

SNA トランザクション・プログラム名を指定します。

モード名 (MODENAME)

このパラメーターは、TRPTYPE が LU 6.2 として定義されているチャンネルの場合のみ有効です。TRPTYPE が LU 6.2 として定義されていない場合には、データは無視され、エラー・メッセージは出されません。

指定する場合、CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合を除いて、値を SNA モード名に設定しなければなりません。CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合は、値をブランクに設定する必要があります。これで、名前は、CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。

CHLTYPE が *RCVR または *SVRCONN として定義されているチャンネルの場合には、このパラメーターは無効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

モード名は指定されません。

***BLANK**

名前は CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。これは、CONNAME パラメーターに指定されなければなりません。

SNA-mode-name

SNA モード名を指定します。

伝送キュー (TMQNAME)

伝送キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

伝送キュー名

伝送キューの名前を指定します。CHLTYPE が *SDR または *SVR として定義されている場合、伝送キュー名は必須です。

その他のチャンネル・タイプの場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

メッセージ・チャンネル・エージェント (MCANAME)

このパラメーターは予約済みです。使用しないでください。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

MCA プログラム名はブランクです。

CHLTYPE が *RCVR、*SVRCN、または *CLTCN として定義されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID (MCAUSRID)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、ここで指定するメッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID を使用して、MQ リソースにアクセスする許可を与えます。受信側チャンネルまたは要求側チャンネルの宛先キューにメッセージを書き込む許可も含まれます (PUTAUT が *DFT の場合)。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ・チャンネル・エージェントはそのデフォルト・ユーザー ID を使用します。

***PUBLIC**

共通権限を使用します。

mca-user-identifier

使用されるユーザー ID を指定します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *CLTCN の場合、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (MCATYPE)

メッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムをスレッドとして実行するか、プロセスとして実行するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PROCESS (処理)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは、独立のプロセスとして動作します。

***THREAD (* スレッド)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは独立したスレッドとして実行されます。

このパラメーターは、CHLTYPE が *SDR、*SVR、*RQSTR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR として定義されているチャンネルにのみ指定できます。

バッチ間隔 (BATCHINT)

チャンネルがバッチ・オープンを保持する最小時間 (ミリ秒) です。

次のどれでも最初に発生したらバッチは終了します: BATCHSZ メッセージが送信される、BATCHLIM バイトに到達する、または伝送キューが空で BATCHINT を超える。

デフォルト値は 0 であり、これは、伝送キューが空になった (または BATCHSZ 限度に達した) 時点でバッチが終了することを意味します。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、CHLTYPE が *SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR として定義されているチャンネルの場合に有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

batch-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

バッチ・サイズ (BATCHSIZE)

チェックポイントを通過する前にチャンネルを通じて送信できるメッセージの最大数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

バッチ・サイズ

1 から 9999 の範囲の値を指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

切断間隔 (DSCITV)

切断間隔を指定します。これは、チャンネルをクローズする前に、そのチャンネルが伝送キューへのメッセージの書き込みを待機する最大秒数を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

disconnect-interval

0 から 999999 の範囲の値を指定します。

*RCVR、*RQSTR、または *CLTCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

短期再試行間隔 (SHORTTMR)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の短期再試行待機間隔を指定します。これは、リモート・マシンへの接続の確立を次に試みるまでの間隔を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

short-retry-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

短期再試行カウント (SHORTRTY)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の短期再試行カウントを指定します。LONGRTY および LONGTMR (通常は長い方) が使用される前に、SHORTTMR で指定された間隔で、リモート・マシンへの接続の確立が試みられる最大回数を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

short-retry-count

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が許可されないことを意味します。

長期再試行間隔 (LONGTMR)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の長期再試行待機間隔を指定します。これは、SHORTRTY で指定したカウントがゼロになった後、リモート・マシンとの接続を確立するために試行を繰り返すときの間隔を、秒単位で定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

long-retry-interval

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

注: 実装上の理由により、使用できる最大再試行間隔は 999999 です。これより大きい値を指定しても、999999 として処理されます。

長期再試行カウント (LONGRTY)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の長期再試行カウントを指定します。SHORTRTY によって指定されたカウントが使い果たされた後に、LONGTMR によって指定された間隔で、リモート・マシンへの接続のために行われるそれ以降の試行の最大回数を定義します。定義された試行回数の後、接続が設立されない場合には、エラー・メッセージがログに記録されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

長期再試行カウント

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が許可されないことを意味します。

セキュリティ出口 (SCYEXIT)

セキュリティ出口として呼び出されるプログラムの名前を指定します。非ブランク名が定義された場合には、出口は以下の時点で呼び出されます。

- チャンネルが確立された直後。

いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口には、セキュリティ・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。

- セキュリティ・メッセージ・フローへの応答を受信した時。

リモート・マシン上のリモート・プロセッサからセキュリティ・メッセージ・フローを受け取った場合、そのフローは出口に渡されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

セキュリティ出口プログラムは呼び出されません。

セキュリティ出口名

セキュリティ出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

セキュリティ出口 (CSCYEXIT)

クライアント・セキュリティ出口として呼び出されるプログラムの名前を指定します。非ブランク名が定義された場合には、出口は以下の時点で呼び出されます。

- チャンネルが確立された直後。

いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口には、セキュリティ・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。

- セキュリティ・メッセージ・フローへの応答を受信した時。

リモート・マシン上のリモート・プロセッサからセキュリティ・メッセージ・フローを受け取った場合、そのフローは出口に渡されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クライアント・セキュリティ出口プログラムは呼び出されません。

セキュリティ出口名

クライアント・セキュリティ出口プログラムの名前を指定します。

セキュリティ出口ユーザー・データ (SCYUSRDATA)

セキュリティ出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

セキュリティ出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

セキュリティ出口ユーザー・データ

セキュリティ出口のユーザー・データを指定します。

送信出口 (SNDEXIT)

送信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、出口が即時に起動され、その後データがネットワークに送り出されます。送信前に出口に送信バッファ全体が渡されます。バッファの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

送信出口プログラムは呼び出されません。

送信出口名

送信出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

送信出口 (CSNDEXIT)

クライアント送信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、出口が即時に起動され、その後データがネットワークに送り出されます。送信前に出口に送信バッファ全体が渡されます。バッファの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クライアント送信出口プログラムは呼び出されません。

送信出口名

クライアント送信出口プログラムの名前を指定します。

送信出口ユーザー・データ (SNDUSRDATA)

送信出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

送信出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

送信出口ユーザー・データ

送信出口プログラムのユーザー・データを指定します。

受信出口 (RCVEXIT)

クライアント受信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、ネットワークから受信したデータが処理される前に出口が起動されます。ネットワークに送り出されます。出口に送信バッファ全体が渡されます。バッファの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クライアント受信出口プログラムは呼び出されません。

受信出口名

クライアント受信出口プログラムの名前を指定します。

受信出口 (RCVEXIT)

受信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、ネットワークから受信したデータが処理される前に出口が起動されます。ネットワークに送り出されます。出口に送信バッファ全体が渡されます。バッファの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

受信出口プログラムは呼び出されません。

受信出口名

受信出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

受信出口ユーザー・データ (RCVUSRDATA)

受信出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

受信出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

受信出口ユーザー・データ

受信出口プログラムの最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

メッセージ出口 (MSGEXIT)

メッセージ出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、メッセージが伝送キューから取り出された後、出口が即時に起動されます。出口にアプリケーション・メッセージおよびメッセージ記述子全体が渡され、変更されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ出口プログラムは呼び出されません。

メッセージ出口名

メッセージ出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ出口ユーザー・データ (MSGUSRDATA)

メッセージ出口プログラムに渡されるユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

メッセージ出口ユーザー・データ

メッセージ出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行出口 (MSGRTYEXIT)

メッセージ再試行出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ再試行出口プログラムは呼び出されません。

メッセージ再試行出口名

メッセージ再試行出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行出口データ (MSGRTYDATA)

メッセージ再試行出口プログラムに渡されるユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ再試行出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

message-retry-exit-user-data

メッセージ再試行出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行回数 (MSGRTYNBR)

メッセージを配布できないと判断するまでチャンネルが再試行する回数を指定します。

チャンネルは、MSGRTYEXIT が *NONE として定義されている場合に、このパラメーターをメッセージ再試行出口の代替として使用します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

message-retry-number

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が実行されないことを示します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行間隔 (MSGRTYITV)

チャンネルが MQPUT 操作を再試行できるようになるまでに経過する必要がある最小間隔 (時間) を指定します。この時間の単位はミリ秒です。

チャンネルは、MSGRTYEXIT が *NONE として定義されている場合に、このパラメーターをメッセージ再試行出口の代替として使用します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

message-retry-number

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、できるだけ早く再試行が実行されることを示します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ変換 (CVTMSG)

メッセージを送信する前に、メッセージ内のアプリケーション・データを変換する必要があるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***YES**

メッセージ中のアプリケーション・データは送信前に変換されます。

***NO**

メッセージ中のアプリケーション・データは、送信前に変換されません。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または*SVRCNのチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

書き込み権限 (PUTAUT)

宛先キューにメッセージを書き込む権限を確立するために、メッセージに関連付けられたコンテキスト情報のユーザー ID を使用するかどうかを指定します。これは、受信側および要求側 (*CLUSRCVR、*RCVR、および *RQSTR) のチャンネルにのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*DFT

メッセージを宛先キューに書き込む前に権限検査は行われません。

*CTX

メッセージを書き込む権限を確立するために、メッセージ・コンテキスト情報のユーザー ID が使用されます。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

シーケンス番号の折り返し (SEQNUMWRAP)

最大メッセージ・シーケンス番号を指定します。最大値に到達すると、シーケンス番号は折り返して再度 1 から始まります。

注: 最大メッセージ・シーケンス番号は折衝可能ではありません。ローカル・チャンネルとリモート・チャンネルは、同じ番号で折り返す必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

sequence-number-wrap-value

100 から 999999999 の範囲の値を指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

最大メッセージ長 (MAXMSGLEN)

チャンネル上で送信可能な最大メッセージ長を指定します。この値は、リモート・チャンネルの値と比較され、実際の最大長は、2つの値のうちの小さいほうの値になります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

最大メッセージ長

0 から 104857600 の範囲の値を指定します。値 0 は、最大長が無制限であることを示します。

ハートビート間隔 (HRTBTINTVL)

伝送キューにメッセージがないときに、送信 MCA から渡されるハートビート・フロー間の時間 (秒数) を指定します。ハートビート交換は、受信 MCA にチャンネルを静止する機会を提供します。これは、送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側 (*SDR、*SVR、*CLUSDR、および *CLUSRCVR) チャンネルにのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

heart-beat-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、ハートビート交換が行われないことを意味します。

非永続メッセージ速度 (NPMSPEED)

チャンネルが高速非持続メッセージをサポートするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***FAST**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートします。

***NORMAL**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートしません。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

クラスター名 (CLUSTER)

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

このパラメーターは、*CLUSSDR チャンネルおよび *CLUSRCVR チャンネルの場合にのみ有効です。CLUSNL パラメーターが非ブランクの場合には、このパラメーターはブランクでなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

クラスター名は指定されません。

cluster-name

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

クラスター名リスト (CLUSNL)

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前です。

このパラメーターは、*CLUSSDR チャンネルおよび *CLUSRCVR チャンネルの場合にのみ有効です。CLUSTER パラメーターが非ブランクの場合には、このパラメーターはブランクでなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

クラスター名前リストは指定されません。

cluster-name-list

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前です。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

ネットワーク接続優先順位 (NETPRTY)

ネットワーク接続の優先順位。分散キューイングでは、使用可能な複数のパスがある場合、優先度が最も高いパスが選択されます。値は 0 から 9 の範囲内でなければなりません。0 が最低優先順位です。

このパラメーターは、*CLUSRCVR チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

network-connection-priority

0 から 9 の範囲の値を指定します。0 が最低優先順位です。

SSL 暗号仕様 (SSLCIPH)

SSLCIPH は、SSL チャンネル折衝で使用される暗号仕様を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

cipherspec

暗号仕様の名前です。

注：IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 2 以降、SSLv3 プロトコルおよびいくつかの IBM MQ CipherSpecs の使用が推奨されなくなりました。詳しくは、[非推奨 CipherSpecs](#) を参照してください。

SSL クライアント認証 (SSLCAUTH)

SSLCAUTH は、チャンネルがクライアント認証を SSL を介して実行するかどうかを指定します。パラメーターは、SSLCIPH が指定されたチャンネルにのみ使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***REQUIRED**

クライアント認証は必須です。

*** オプション**

クライアント認証はオプションです。

*SDR、*CLTCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

SSL ピア名 (SSLPEER)

SSLPEER は、SSL チャンネル折衝で使用される X500 ピア名を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

x500peername

使用する X500 ピア名です。

注：SSL または TLS サブジェクト識別名との突き合わせによってチャンネルへの接続を制限する別の方法は、チャンネル認証レコードを使用することです。チャンネル認証レコードを使用すると、SSL または TLS のサブジェクト識別名のさまざまなパターンを同じチャンネルに適用することができます。チャンネルで SSLPEER が設定されており、かつチャンネル認証レコードが同じチャンネルに適用されている場合、接続するには、インバウンド証明書が両方のパターンと一致する必要があります。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#) を参照してください。

ローカル通信アドレス (LOCLADDR)

チャンネルのローカル通信アドレスを指定します。

このパラメーターは、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

接続はブランクです。

local-address

トランスポート・タイプ TCP/IP にのみ有効です。アウトバウンド TCP/IP 通信に使用するオプションの IP アドレスと、オプションのポートまたはポート範囲を指定してください。形式は次のとおりです。

```
LOCLADDR([ip-addr] [(low-port[,high-port])], [ip-addr] [(low-port[,high-port])]))
```

バッチ・ハートビート間隔 (BATCHEHB)

バッチ・ハートビートがこのチャンネルで発生するかどうかを決定するために使用される時間 (ミリ秒) です。バッチ・ハートビートを使用すると、チャンネルは、リモート・チャンネル・インスタンスが未確定になる前に、まだアクティブであるかどうかを判別できます。バッチ・ハートビートは、チャンネル MCA が指定の時間内にリモート・チャンネルと通信しなかった場合に発生します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

batch-heartbeat-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、バッチ・ハートビートを使用しないことを示します。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

タスク・ユーザー ID (USERID)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、これを使用します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLTCN、または *CLUSSDR であるチャンネルにのみ、このパラメーターは有効です。

属性の最大長は 12 文字ですが、最初の 10 文字のみが使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

ユーザー ID は指定されません。

ユーザー ID

タスク・ユーザー ID を指定します。

パスワード (PASSWORD)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、これを使用します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLTCN、または *CLUSSDR であるチャンネルにのみ、このパラメーターは有効です。

属性の最大長は 12 文字ですが、最初の 10 文字のみが使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

パスワードは指定されません。

パスワード

パスワードを指定します。

キープアライブ間隔 (KAINT)

このチャンネルのキープアライブの時間間隔を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***AUTO**

キープアライブ間隔は、折衝されたハートビート値に基づいて次のように計算されます。

- 折衝された HBINT が 0 より大きい場合、キープアライブ間隔はその値プラス 60 秒に設定されます。
- 折衝された HBINT が 0 の場合、使用される値は TCP プロファイル構成データ・セットの `KEEPAALIVEOPTIONS` ステートメントで指定された値です。

keep-alive-interval

0 から 99999 の範囲の値を指定します。

ヘッダー圧縮 (COMPHDR)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。

チャンネル・タイプが、送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続 (*SDR、*SVR、*CLUSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN) の場合、指定された値は、使用中のチャンネルのリモート・エンドがサポートする圧縮技法を最優先とする順になっています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

*** システム**

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

メッセージ圧縮 (COMPMSG)

チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。

チャンネル・タイプが、送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続 (*SDR、*SVR、*CLUSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN) の場合、指定された値は、使用中のチャンネルのリモート・エンドがサポートする圧縮技法を最優先とする順になっています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

***RLE**

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

***ZLIBFAST**

zlib 圧縮手法を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。高速圧縮時間を推奨します。

***ZLIBHIGH**

zlib 圧縮手法を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。ハイレベル圧縮を推奨します。

***ANY**

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。このオプションは、受信側、要求側、およびサーバー接続 (*RCVR、*RQSTR、および *SVRCN) のチャンネル・タイプにのみ有効です。

チャンネル・モニター (MONCHL)

オンライン・モニター・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 MONCHL が *NONE に設定されていると、オンライン・モニター・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONCHL の設定から継承されます。

***OFF**

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集がオフに切り替わります。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *CLTCN の場合、このパラメーターを指定することはできません。

チャンネル統計 (STATCHL)

統計データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 STATCHL が *NONE に設定されていると、統計データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

統計データの収集は、キュー・マネージャー属性 STATCHL の設定に基づいて行われます。

***OFF**

このチャンネルの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

統計データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

クラスター・ワークロード・ランク (CLWLRANK)

チャンネルのクラスター・ワークロード・ランクを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-rank

チャンネルのクラスター・ワークロード・ランクで、範囲は 0 から 9 までです。

クラスター・ワークロード優先順位 (CLWLPRTY)

チャンネルのクラスター・ワークロード優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-priority

チャンネルのクラスター・ワークロード優先順位で、範囲は 0 から 9 までです。

クラスター・チャンネル・ウェイト (CLWLWGHT)

チャンネルのクラスター・ワークロード・ウェイトを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-weight

チャンネルのクラスター・ワークロード・ウェイトで、範囲は 1 から 99 までです。

共有会話 (SHARECNV)

特定の TCP/IP クライアント・チャンネル・インスタンス (ソケット) で共有できる会話の最大数を指定します。

このパラメーターは、CHLTYPE が *CLTCN または *SVRCN として定義されているチャンネルの場合に有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

0

TCP/IP ソケットで会話を共有しないように指定します。チャンネル・インスタンスは、以下の点に関して、IBM WebSphere MQ 7.0 より前のモードで稼働します。

- 管理者の停止と静止
- ハートビート中
- 先読み

1

TCP/IP ソケットで会話を共有しないように指定します。MQGET 呼び出しであるかどうかにかかわらず、クライアントのハートビートおよび先読みが可能であり、チャンネル静止がさらに制御しやすくなります。

shared-conversations

2 から 999999999 の範囲の、共有会話の数。

このパラメーターは、クライアント接続およびサーバー接続のチャンネルの場合にのみ有効です。

注: クライアント接続の SHARECNV 値がサーバー接続の SHARECNV 値と一致しない場合、2つの値の小さいほうを使用されます。

プロパティー制御 (PROPCTL)

メッセージが V6 またはそれより前のキュー・マネージャー (プロパティー記述子の概念を理解しない キュー・マネージャー) に送信されるときに、メッセージのプロパティーに対して行われる処置を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*COMPAT

メッセージに接頭部が「mcd.」のプロパティーが含まれている場合、「jms.」、「usr.」または「mqext.」メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子 (または拡張) 内のメッセージ・プロパティーを除くすべてのオプション・メッセージ・プロパティーが、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

*NONE 値

メッセージのすべてのプロパティー (メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティーを除く) は、メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージから除去されます。

*ALL

メッセージのすべてのプロパティーは、メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送られるときに、そのメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張) に含まれているプロパティーを除くすべてのプロパティーが、メッセージ・データの 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

最大インスタンス (MAXINST)

このサーバー接続チャンネル・オブジェクトを介してキュー・マネージャーに同時に接続できるクライアントの最大数を指定します。

この属性はサーバー接続チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

maximum-instances

チャンネルの同時インスタンスの最大数で、範囲は 0 から 99999999 までです。

値 0 では、すべてのクライアント・アクセスができなくなります。現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回るまでこの値を削減すると、実行中のチャンネルは影響を受けませんが、十分な数の既存のインスタンスが実行を停止するまでは新規のインスタンスを開始できなくなります。

クライアントあたりの最大インスタンス (MAXINSTC)

単一のクライアントから開始可能な、個々のサーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数を指定します。

このコンテキストでは、同じリモート・ネットワーク・アドレスを起点とする複数のクライアント接続は 1 つのクライアントと見なされます。

この属性はサーバー接続チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

maximum-instances-per-client

単一のクライアントから開始可能な、チャンネルの同時インスタンスの最大数で、範囲は 0 から 99999999 までです。

値 0 では、すべてのクライアント・アクセスができなくなります。個々のクライアントから現在実行されているサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回るまでこの値を削減すると、実行中のチャンネルは影響を受けませんが、十分な数の既存のインスタンスが実行を停止するまでは新規のインスタンスを開始できなくなります。

クライアント・チャンネル・ウェイト (CLNTWGHT)

適切な定義を複数使用できる場合、加重に基づいてクライアント・チャンネル定義をランダムに選択できるように、クライアント・チャンネルの加重属性が使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

client-channel-weight

クライアント・チャンネル・ウェイト。0 から 99 までの範囲となります。

接続アフィニティー (AFFINITY)

チャンネル・アフィニティー属性を使用すると、同じキュー・マネージャー名を使用して複数回接続するクライアント・アプリケーションが、接続ごとに同じクライアント・チャンネル定義を使用するかどうかを選択できます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PREFERRED**

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を読み取るプロセス内の最初の接続は、加重に基づいて適用可能な定義のリストを作成します。これは先頭が適用可能な CLNTWGHT(0) 定義で、アルファベット順です。プロセス内の各接続は、リスト内の最初の定義を使用して接続を試行します。接続が失敗した場合は、次の定義が使用されます。失敗した非 CLNTWGHT(0) 定義は、リストの最後に移動されます。CLNTWGHT(0) 定義は、リストの先頭に残り、各接続の最初に選択されます。

***NONE 値**

CCDT を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。プロセス内のすべての接続は、加重に基づいて適用可能な定義を選択します。適用可能な CLNTWGHT(0) の定義を最初にアルファベット順に選択していきます。

バッチ・データ制限 (BATCHLIM)

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能なデータ量 (キロバイト) の限度を指定します。限度に達した際のメッセージがチャンネルを通して送信された後に、同期点が取られます。この属性の値がゼロの場合、それはこのチャンネルに対するバッチに適用されるデータ限度がないことを意味します。

バッチは、次の条件のいずれかが満たされた場合に終了します。

- BATCHSZ メッセージが送信された。
- BATCHLIM バイトが送信された。
- 伝送キューが空で、BATCHINT が経過した。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 5000 です。

このパラメーターは、すべてのプラットフォームでサポートされています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

batch-data-limit

0 から 999999 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または*CLUSRCVR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) にだけ指定できます。

デフォルトのクライアント再接続 (DFTRECON)

クライアント接続がクライアント・アプリケーションへの接続から切断した場合に、自動的に再接続するかどうかを指定します。

*SAME

この属性の値は変更されません。

*NO

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続されません。

*YES

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続します。

*QMGR

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは、同じキュー・マネージャーに対してのみ自動的に再接続します。QMGR オプションは MQCNO_RECONNECT_Q_MGR と同じ効果があります。

*DISABLED

MQCONNX MQI 呼び出しを使用してクライアント・プログラムによって要求された場合でも、再接続は無効になります。

このパラメーターは、クライアント接続チャンネル (CHLTYPE) *CLTCN で指定されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

キュー・マネージャー・ジャーナルの変更 (CHGMQMJRN)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

キュー・マネージャー・ジャーナルの変更コマンド (CHGMQMJRN) は、キュー・マネージャー・ジャーナルを変更します。このコマンドは、例えば、バックアップまたは複数インスタンス・キュー・マネージャーのために使用するリモート・ジャーナルの複製のタイプを変更するために使用することができます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 1
<u>JRN</u>	QUEUE MANAGER ジャーナル	文字値、*DFT	オプション、定位置 2
<u>RMTJRNRDB</u>	リモート・リレーショナル DB	文字値	オプション、定位置 3

キーワード	説明	選択	注
<u>RMTJRNSTS</u>	リモート・ジャーナルの状況	*ACTIVE 、*INACTIVE	オプション、定位置 4
<u>RMTJRNDLV</u>	リモート・ジャーナルの配信	*SYNC 、*ASYN	オプション、定位置 5
<u>RMTJRNTIMO</u>	リモート・ジャーナルの同期 タイムアウト	1-3600、 *DFT	オプション、定位置 6

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

ジャーナルに関連付けられたメッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

キュー・マネージャー・ジャーナル (JRN)

作成するジャーナルの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

ジャーナル名はシステムによって選択されます。このシステムのキュー・マネージャーにローカル・ジャーナルが既に存在している場合は、そのローカル・ジャーナル名が使用されます。存在していない場合は、固有の名前が AMQxJRN の形式で生成されます。ここで、x は A から Z の範囲の文字です。

journal-name

ジャーナルの名前を指定します。名前は 10 文字以内で指定します。ジャーナル・レシーバーの名前は、このジャーナル名を 4 番目の文字 (ジャーナル名が 4 文字より短い場合は、最後の文字) で切り捨て、ゼロを付加することによって生成されます。ローカル・キュー・マネージャー・ライブラリーに既にローカル・ジャーナルが含まれている場合、その名前は指定する名前と一致していなければなりません。キュー・マネージャー・ライブラリーが含むことができるローカル・ジャーナルは、1 つだけです。DLTMQM は、接頭部が「AMQ」である場合を除いて、キュー・マネージャー・ライブラリーからジャーナルの成果物を除去しません。

リモート・リレーショナル・データベース (RMTJRNRDB)

ターゲット・システムのリモート・ロケーション名が入っているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定します。WRKRDBDIRE コマンドを使用すると、ターゲット・システムの既存の項目を検出したり、新しいリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を構成したりできます。

relational-database-directory-entry

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定します。名前は 18 文字以内で指定します。

リモート・ジャーナルの状況 (RMTJRNSTS)

リモート・ジャーナルがキュー・マネージャーのローカル・ジャーナルからのジャーナル項目を受信する準備ができているかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*ACTIVE

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャー・ジャーナルからのジャーナル項目を受信する準備ができています。ジャーナル項目の複製は、完全メディア・リカバリーとキュー・マネージャーの再始動を実行する必要がある最も古いローカル・ジャーナル・レシーバーから開始されます。これらのリカバリー・ポイントが存在しない場合、複製は現在接続されているローカル・ジャーナル・レシーバーから開始されます。

*INACTIVE

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャー・ジャーナルからのジャーナル項目を受信する準備ができていません。

リモート・ジャーナルの配信 (RMTJRNDLV)

リモート・ジャーナルがアクティブであるときに、ジャーナル項目の複製を同期的に行うか非同期的に行うかを指定します。RMTJRNSTS(*INACTIVE) が指定されている場合は、このパラメーターが無視されることに注意してください。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYNC

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャーのジャーナルで同期的に複製されます。

*ASYNC

リモート・ジャーナルは、ローカル・キュー・マネージャー・ジャーナルで非同期的に複製されます。

リモート・ジャーナルの同期 タイムアウト (RMTJRNTIMO)

リモート・ジャーナリングによる同期複製を使用する場合に、リモート・システムからの応答を待機する最大時間を秒数で指定します。このタイムアウト時間内にリモート・システムから応答を受信しない場合、リモート・ジャーナル環境は自動的に使用不能になります。RMTJRNDLV(*ASYN) または RMTJRNSTS(*INACTIVE) が指定されている場合は、このパラメーターが無視されることに注意してください。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

システムはリモート・システムからの応答を待機する時間としてデフォルト値の 60 秒を使用します。

1-3600

リモート・システムからの応答を待機する最大秒数を指定します。このオプションは、IBM i V6R1M0 およびそれ以降のオペレーティング・システムでのみ使用可能であることに注意してください。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ リスナーの変更 (CHGMQMLSR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ リスナーの変更 (CHGMQMLSR) コマンドは、既存の MQ リスナー定義の指定された属性を変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>LSRNAME</u>	リスナー名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、*SAME	オプション、定位置 3

キーワード	説明	選択	注
<u>CONTROL</u>	リスナー制御	*SAME 、*MANUAL、 *QMGR、*STARTONLY	オプション、定位置 4
<u>PORT</u>	ポート番号	0-65535、 *SAME	オプション、定位置 5
<u>IPADDR</u>	IP アドレス	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 6
<u>BACKLOG</u>	リスナー・バックログ	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 7

リスナー名 (LSRNAME)

変更するリスナー定義の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

listener-name

リスナー定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

テキスト '記述' (TEXT)

リスナー定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

リスナー制御 (CONTROL)

キュー・マネージャーが開始されたときに、リスナーを自動的に開始するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*MANUAL

リスナーは自動的に開始されることも、停止されることもありません。

*QMGR

キュー・マネージャーが開始するとリスナーも開始され、キュー・マネージャーが停止するとリスナーも停止されます。

***STARTONLY**

キュー・マネージャーが開始されるとリスナーも開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもリスナーが自動的に停止されることはありません。

ポート番号 (PORT)

リスナーが使用するポート番号です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

ポート番号

使用するポート番号です。

IP アドレス (IPADDR)

リスナーが使用する IP アドレスです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

ip-addr

使用する IP アドレスです。

リスナー・バックログ (BACKLOG)

リスナーがサポートする同時接続要求の数です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

backlog

サポートされる同時接続要求の数です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 名前リストの変更 (CHGMQMNL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 名前リストの変更 (CHGMQMNL) コマンドは、選択したローカル・キュー・マネージャーで指定されている名前リストにある名前のリストを変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>NAMELIST</u>	名前リスト	文字値	必須、キー、定位置 1

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 3
<u>NAMES</u>	名前のリスト	値 (繰り返しは 256 回まで): 文字値、*BLANKS、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 4

名前リスト (NAMELIST)

変更する名前リストの名前です。

名前リスト

名前リストの名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

テキスト '記述' (TEXT)

名前リストを簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

***SAME**

属性は変更されません。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

名前のリスト (NAMES)

名前のリスト。これは、作成する名前のリストです。どのタイプの名前でも指定できますが、MQ オブジェクトの命名規則に準拠していなければなりません。

***SAME**

属性は変更されません。

名前リスト

作成するリスト。空のリストも有効です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ プロセスの変更 (CHGMQMPRC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ プロセスの変更 (CHGMQMPRC) コマンドは、既存の MQ プロセス定義の指定した属性を変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>PRCNAME</u>	プロセス名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 3
<u>APPTYPE</u>	アプリケーション・タイプ	整数、 *SAME 、*CICS®、*MVS、*IMS、*OS2、*DOS、*UNIX、*QMGR、*OS400、*WINDOWS、*CICS_VSE、*WINDOWS_NT、*VMS、*NSK、*VOS、*IMS_BRIDGE、*XCF、*CICS_BRIDGE、*NOTES_AGENT、*BROKER、*JAVA、*DQM	オプション、定位置 4
<u>APPID</u>	アプリケーション ID	文字値、 *SAME	オプション、定位置 5
<u>USRDATA</u>	ユーザー・データ	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 6
<u>ENVDATA</u>	環境データ	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 7

プロセス名 (PRCNAME)

変更するプロセス定義の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

process-name

プロセス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

テキスト '記述' (TEXT)

プロセス定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

アプリケーション・タイプ (APPTYPE)

開始するアプリケーションのタイプ。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***CICS**

CICS/400® アプリケーションを表します。

***MVS**

MVS アプリケーションを表します。

***IMS**

IMS アプリケーションを表します。

***OS2**

OS/2 アプリケーションを表します。

***DOS**

DOS アプリケーションを表します。

***UNIX**

UNIX アプリケーションを表します。

***QMGR**

キュー・マネージャーを表します。

***OS400**

IBM i アプリケーションを表します。

***WINDOWS**

Windows アプリケーションを表します。

***CICS_VSE**

CICS/VSE アプリケーションを表します。

***WINDOWS_NT**

Windows NT アプリケーションを表します。

***VMS**

VMS アプリケーションを表します。

***NSK**

Tandem/NSK アプリケーションを表します。

***VOS**

VOS アプリケーションを表します。

***IMS_BRIDGE**

IMS ブリッジ・アプリケーションを表します。

***XCF**

XCF アプリケーションを表します。

***CICS_BRIDGE**

CICS bridge アプリケーションを表します。

***NOTES_AGENT**

Lotus Notes® アプリケーションを表します。

***BROKER**

ブローカー・アプリケーションを表します。

***JAVA**

Java アプリケーションを表します。

***DQM**

DQM アプリケーションを表します。

user-value

65536 から 999999999 の範囲のユーザー定義アプリケーション・タイプです。

アプリケーション ID (APPID)

アプリケーション ID。これは、コマンドを処理中のプラットフォームで開始されるアプリケーションの名前です。これは通常、プログラム名およびライブラリー名です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

application-id

最大長は 256 文字です。

ユーザー・データ (USRDATA)

APPID で定義されている、開始するアプリケーションに属しているユーザー情報を含む文字ストリングです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

ユーザー・データはブランクです。

user-data

128 文字までのユーザー・データを指定します。

環境データ (ENVDATA)

APPID で定義されている、開始するアプリケーションに属している環境情報を含む文字ストリングです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

環境データはブランクです。

environment-data

最大長は 128 文字である。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ キューの変更 (CHGMQM MQ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ キューの変更 (CHGMQM MQ) コマンドは、既存の MQ キューの指定された属性を変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
QNAME	キュー名	文字値	必須、キー、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 2
QTYPE	キュー・タイプ	文字値	オプション、定位置 3
FORCE	強制	*NO、*YES	オプション、定位置 4
TEXT	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、*SAME	オプション、定位置 5
PUTENBL	PUT 可能	*SAME、*NO、*YES	オプション、定位置 6
DFTPTY	デフォルトのメッセージ優先順位	0-9、*SAME	オプション、定位置 7
DFTMSGPST	デフォルトのメッセージ持続性	*SAME、*NO、*YES	オプション、定位置 8
PRCNAME	プロセス名	文字値、*NONE、*SAME	オプション、定位置 9
TRGENBL	トリガー発行可能	*SAME、*NO、*YES	オプション、定位置 10
GETENBL	GET 可能	*SAME、*NO、*YES	オプション、定位置 11
SHARE	共用可能	*SAME、*NO、*YES	オプション、定位置 12
DFTSHARE	デフォルト共用オプション	*SAME、*NO、*YES	オプション、定位置 13
MSGDLYSEQ	メッセージ・デリバリー・シーケンス	*SAME、*PTY、*FIFO	オプション、定位置 14
HDNBKTCNT	バックアウト・カウンットのハード化	*SAME、*NO、*YES	オプション、定位置 15
TRGTYPE	トリガー・タイプ	*SAME、*FIRST、*ALL、*DEPTH、*NONE	オプション、定位置 16
TRGDEPTH	トリガー項目数	1-999999999、*SAME	オプション、定位置 17
TRGMSGPTY	トリガー・メッセージ優先順位	0-9、*SAME	オプション、定位置 18
TRGDATA	トリガー・データ	文字値、*NONE、*SAME	オプション、定位置 19
RTNITV	保存間隔	0-999999999、*SAME	オプション、定位置 20
MAXDEPTH	キューの最大長	0-999999999、*SAME	オプション、定位置 21

キーワード	説明	選択	注
MAXMSGLEN	最大メッセージ長	0-104857600、 *SAME	オプション、定位置 22
BKTTHLD	バックアウトしきい値	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 23
BKTQNAME	バックアウト・リキュー名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 24
INITQNAME	開始キュー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 25
USAGE	使用法	*SAME 、*NORMAL、*TMQ	オプション、定位置 26
DFNTYPE	定義タイプ	*SAME 、*TEMPDYN、*PERMDYN	オプション、定位置 27
TGTQNAME	ターゲット・オブジェクト	文字値、 *SAME	オプション、定位置 28
RMTQNAME	リモート・キュー	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 29
RMTMQMNAME	リモート・メッセージ・キュー・マネージャー	文字値、 *SAME	オプション、定位置 30
TMQNAME	伝送キュー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 31
HIGHTHLD	キュー項目数の高しきい値	0-100、 *SAME	オプション、定位置 32
LOWTHLD	キュー項目数の低しきい値	0-100、 *SAME	オプション、定位置 33
FULLEVT	キュー・フル・イベント可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 34
HIGHEVT	キュー高イベント可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 35
LOWEVT	キュー低イベント可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 36
SRVITV	サービス・インターバル	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 37
SRVEVT	サービス・インターバル・イベント	*SAME 、*HIGH、*OK、*NONE	オプション、定位置 38
DISTLIST	配布リスト・サポート	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 39
CLUSTER	クラスター名	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 40
CLUSNL	クラスター名リスト	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 41
DEFBIND	デフォルトのバインディング	*SAME 、*OPEN、*NOTFIXED、*GROUP	オプション、定位置 42
CLWLRANK	CLUSTER WORKLOAD ランク	0-9、 *SAME	オプション、定位置 43
CLWLPRTY	CLUSTER WORKLOAD 優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 44
CLWLUSEQ	クラスター・ワークロード・キューの使用	*SAME 、*QMGR、*LOCAL、*ANY	オプション、定位置 45
MONQ	キュー・モニター	*SAME 、*QMGR、*OFF、*LOW、*MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 46
STATQ	キュー統計	*SAME 、*QMGR、*OFF、*ON	オプション、定位置 47

キーワード	説明	選択	注
ACCTQ	キュー・アカウンティン グ	*SAME 、*QMGR、*OFF、 *ON	オプション、定位置 48
NPMCLASS	非持続メッセージ・クラ ス	*SAME 、*NORMAL、 *HIGH	オプション、定位置 49
MSGREADAHD	メッセージの先読み	*SAME 、*DISABLED、 *NO、*YES	オプション、定位置 50
DFTPUTRESP	デフォルトの Put 応答	*SAME 、*SYNC、*ASYN	オプション、定位置 51
PROPCTL	プロパティ制御	*SAME 、*COMPAT、 *NONE、*ALL、*FORCE、 *V6COMPAT	オプション、定位置 52
TARGTYPE	ターゲット・タイプ	*SAME 、*QUEUE、 *TOPIC	オプション、定位置 53
CUSTOM	カスタム属性	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 54
282 ページの 『CLCHNAME』	クラスター送信側チャネ ル名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 55

キュー名 (QNAME)

変更するキューの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

キューの名前を入力します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・タイプ (QTYPE)

変更されるキューのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALS

別名キュー。

*LCL

ローカル・キュー。

*RMT

リモート・キュー。

*MDL

モデル・キュー。

強制 (FORCE)

コマンドの完了がキューのオープンに影響するような条件の場合に、コマンドを強制的に完了する必要があるかどうかを指定します。条件は、変更されているキューのタイプによって異なります。

別名キュー

TGTQNAME キーワードがキュー名とともに指定され、アプリケーションの別名キューはオープンされています。

ローカル・キュー

次の条件のいずれかが、ローカル・キューに影響を受けることを示します。

- SHARE(*NO)が指定され、複数のアプリケーションのローカル・キューが入力用にオープンされています。
- USAGE 属性が変更され、1つ以上のアプリケーションのローカル・キューがオープンされているか、キュー上に1つ以上のメッセージがあります。(キュー上にメッセージがある間は USAGE 属性を変更しないようにしてください。キュー上にメッセージがあると、伝送キューに書き込まれたときにそのメッセージの形式が変更されます。)

リモート・キュー

次の条件のいずれかが、リモート・キューに影響を受けることを示します。

- TMQNAME キーワードが伝送キュー名(または*NONE)とともに指定され、リモート・キューがオープンされているアプリケーションはこの変更の影響を受けます。
- RMTQNAME、RMTMQMNAME または TMQNAME のいずれかのキーワードがキュー または キュー・マネージャー名とともに指定され、キュー・マネージャーの別名としてのこの定義を通じて解決する1つ以上のアプリケーションのキューがオープンされています。

注: この定義が応答先キュー定義としてのみ使用されている場合、FORCE(*YES) の値は必要ありません。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

関係のある条件が真の場合には、コマンドは正しく実行されません。

*YES

関係のある条件が真の場合には、コマンドは強制的に正常に完了されます。

テキスト '記述' (TEXT)

キュー定義を簡単に説明するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

Put 可能 (PUTENBL)

メッセージをキューに書き込むことができるかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

メッセージをキューに追加することはできません。

***YES**

メッセージを許可アプリケーションによってキューに追加できます。

デフォルトのメッセージ優先順位 (DFTPTY)

キューに書き込まれるメッセージのデフォルト優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。9 が最高位の優先順位です。

デフォルトのメッセージ持続性 (DFTMSGPST)

キュー上のメッセージ持続性のデフォルトを指定します。メッセージ持続性によって、メッセージがキュー・マネージャーの再開後も保持されるかどうかが決まります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

デフォルトでは、メッセージはキュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

***YES**

デフォルトでは、メッセージはキュー・マネージャーの再始動の際に保存されます。

プロセス名 (PRCNAME)

トリガー・イベント発生時に開始する必要があるアプリケーションを識別する MQ プロセスのローカル名を指定します。

このプロセスは、キューの作成時に使用可能になっている必要はありませんが、トリガー・イベントを起こさせるには使用可能になっている必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

プロセス名はブランクです。

process-name

MQ プロセスの名前を指定します。

トリガー可能 (TRGENBL)

トリガー・メッセージを開始キューに書き込むかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

トリガーは使用可能ではありません。トリガー・メッセージは開始キューに書き込まれません。

***YES**

トリガーは使用可能です。トリガー・メッセージは開始キューに書き込まれます。

Get 可能 (GETENBL)

アプリケーションが、このキューからメッセージを取得できるようにするのかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

アプリケーションはキューからメッセージを検索できません。

***YES**

適切な許可アプリケーションが、キューからメッセージを検索できます。

共有可能 (SHARE)

アプリケーションの複数インスタンスが、このキューを入力用に同時に オープンできるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

単一のアプリケーション・インスタンスのみがキューを入力用に オープンできます。

***YES**

複数のアプリケーション・インスタンスが、キューを入力用にオープン できます。

デフォルト共有オプション (DFTSHARE)

このキューを入力用にオープンしているアプリケーションに対するデフ ォルト共有オプションを指定しま す。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

デフォルトでは、オープン要求は入力用のキューの排他使用です。

***YES**

デフォルトでは、オープン要求は入力用のキューの共用使用です。

メッセージ・デリバリー・シーケンス (MSGDLYSEQ)

メッセージ・デリバリー・シーケンスを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PTY**

メッセージは、優先順位の中でファースト・イン・ファースト・アウト (FIFO) 順に送達されます。

***FIFO**

メッセージは、優先順位と無関係にファースト・イン・ファースト・アウト(FIFO)の順で配信されます。

バックアウト・カウン트의ハード化 (HDNBKTCNT)

バックアウトされたメッセージのカウン트를メッセージ・キュー・マネージャーの再始動を越えて保管（ハード化）するかどうかを指定します。

注: IBM MQ for IBM i では、この属性の設定とは無関係に、カウン트가常にハード化されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

バックアウト・カウン트는ハード化されません。

***YES**

バックアウト・カウン트는ハード化されます。

トリガー・タイプ (TRGTYPE)

トリガー・イベントを開始する条件を指定します。条件が満たされると、トリガー・メッセージが開始キューに送信されます。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***FIRST**

キュー上のメッセージの数が 0 から 1 になった時。

***ALL**

メッセージがキューに到着するたび。

***DEPTH**

キュー上のメッセージ数が TRGDEPTH 属性の値と等しくなった時。

***NONE 値**

トリガー・メッセージは書き込まれません。

トリガー項目数 (TRGDEPTH)

TRIGTYPE(*DEPTH)の場合に、開始キューへのトリガー・メッセージを開始するメッセージの数を指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

depth-value

1 から 999999999 の範囲の値を指定します。

トリガー・メッセージ優先順位 (TRGMSGPTY)

メッセージがトリガー・イベントを生成するために必要な、メッセージの最小優先順位を指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。9 が最高位の優先順位です。

トリガー・データ (TRGDATA)

キュー・マネージャーがトリガー・メッセージに組み込む最高 64 文字までのユーザー・データを指定します。このデータは、開始キューを処理するモニター・アプリケーション、およびそのモニターによって開始されたアプリケーションに対して使用可能になります。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

トリガー・データは指定されません。

trigger-data

最高 64 文字までの文字を、アポストロフィで囲んで指定します。伝送キューの場合には、このパラメーターを使用して、開始するチャンネルの名前を指定することができます。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

保存間隔 (RTNITV)

保存間隔を指定します。この間隔は、キューの作成日時に基づいた、そのキューが必要とすると見なされる時間数です。

この情報は、ハウスキーピング・アプリケーションまたは操作員に対するもので、キューがもはや必要でなくなる時点を判別するために使用することができます。

注: メッセージ・キュー・マネージャーは、キューを削除することも、保存間隔が満了していないキューが削除されるのを防止することもしません。必要な処置を取ることはユーザーの責任です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

interval-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

キューの最大長 (MAXDEPTH)

このキューで許可されるメッセージの最大数を指定します。ただし、キューは他の要素によって、満杯として取り扱われることがあります。例えば、メッセージ用に使用可能な記憶域がない場合には、満杯であるように見えます。

注: この値が CHGMQM コマンドを使用することによって後ほど削減された場合、キューにあるメッセージは、新しい最大値を超過しても変更されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

depth-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

最大メッセージ長 (MAXMSGLEN)

キュー上のメッセージの最大長を指定します。

注: この値が CHGMQMQ コマンドを使用することによって後ほど削減された場合、キューにあるメッセージは新しい最大長を超過しても変更されません。

アプリケーションは、この属性の値を使用して、キューからメッセージを検索するために必要なバッファのサイズを判別することができます。したがって、この値を変更するのは、これがアプリケーションの誤った操作の原因とならないことが判明している場合だけです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

length-value

0 から 100 MB の範囲の値をバイト数で指定します。デフォルトは 4 MB です。

バックアウトしきい値 (BKTTHLD)

バックアウトしきい値を指定します。

WebSphere Application Server 内部で実行しているアプリケーション、および IBM MQ Application Server Facilities を使用するアプリケーションは、この属性を使用して、メッセージをバックアウトする必要があるかどうかを判別します。その他のすべてのアプリケーションでは、キュー・マネージャーは、この属性を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいてアクションを取ることはありません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

threshold-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

バックアウト・リキュー名 (BKTQNAME)

バックアウト・キュー名を指定します。

WebSphere Application Server 内部で実行しているアプリケーション、および IBM MQ Application Server Facilities を使用するアプリケーションは、この属性を使用して、バックアウトされているメッセージの宛先を判別します。その他のすべてのアプリケーションでは、キュー・マネージャーは、この属性を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいてアクションを取ることはありません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

バックアウト・キューは指定されません。

backout-queue-name

バックアウト・キュー名を指定します。

開始キュー (INITQNAME)

開始キューの名前を指定します。

注: 開始キューは、メッセージ・キュー・マネージャーの同じインスタンス上になければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

開始キューは指定されません。

initiation-queue-name

開始キュー名を指定します。

使用法 (USAGE)

キューが通常使用のためのものか、あるいはリモート・メッセージ・キュー・マネージャーへのメッセージの送信用のものであるかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NORMAL**

通常使用です。(キューは伝送キューではありません)

***TMQ**

このキューは、リモート・メッセージ・キュー・マネージャーを宛先とするメッセージを保持するために使用される伝送キューです。伝送キュー名が明示的に指定されていない状況でこのキューを使用しようとする場合には、そのキュー名がリモート・メッセージ・キュー・マネージャーの名前と同じでなければなりません。詳細については、「IBM MQ 相互通信」の資料を参照してください。

定義タイプ (DFNTYPE)

オブジェクト記述子に指定されたこのモデル・キューの名前でアプリケーションが MQOPEN API 呼び出しを出した時に作成される動的キュー定義のタイプを指定します。

注: このパラメーターは、モデル・キュー定義にのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***TEMPDYN**

一時動的キューが作成されます。この値は、*YES の DEFMSGPST 値と一緒に指定しないようにしてください。

***PERMDYN**

永続動的キューが作成されます。

ターゲット・オブジェクト (TGTQNAME)

このキューが別名となっているオブジェクトの名前を指定します。

オブジェクトは、ローカルまたはリモートのキュー、トピック、またはメッセージ・キュー・マネージャーとすることができます。

注: ターゲット・オブジェクトは、この時点で存在している必要はありませんが、プロセスで別名キューのオープンが試行される時点では存在していなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

target-object-name

ターゲット・オブジェクトの名前を指定します。

リモート・キュー (RMTQNAME)

リモート・キューの名前を指定します。これは、RMTMQMNAME によって指定されたキュー・マネージャーに定義されたものと同じリモート・キューのローカル名です。

この定義がキュー・マネージャーの別名定義に使用される場合には、オープンが行なわれる時に RMTQNAME はブランクになっていなければなりません。

応答先キュー別名でこの定義が使用される場合には、この名前は、応答先キューとなるキューの名前です。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

リモート・キュー名は指定されません (すなわち、名前はブランクです)。これは、定義がキュー・マネージャーの別名定義である場合に使用することができます。

remote-queue-name

リモート・キュー・マネージャーでのキューの名前を指定します。

注: この名前に指定された文字が、通常キュー名として使用できる文字だけであるかどうかは検査されません。

リモート・メッセージ・キュー・マネージャー (RMTMQMNAME)

キュー RMTQNAME が定義されるリモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。

リモート・キューのローカル定義がアプリケーションでオープンされる場合は、RMTMQMNAME として接続キュー・マネージャーの名前を指定してはなりません。TMQNAME がブランクの場合は、この名前のローカル・キューが存在していなければなりません。このキューが伝送キューとして使用されます。

この定義をキュー・マネージャーの別名に使用した場合、RMTMQMNAME がキュー・マネージャーの名前であり、これを接続キュー・マネージャーの名前にすることができます。それ以外の場合、TMQNAME がブランクであるときには、キューのオープン時に、USAGE(*TMQ) が指定された、この名前のローカル・キューが存在している必要があります。このキューが伝送キューとして使用されます。

応答先キュー別名でこの定義が使用される場合には、この名前は、応答先キュー・マネージャーとなるキュー・マネージャーの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

リモート・キュー・マネージャー名

リモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。

注: この名前には、必ずキュー・マネージャー名に通常許可されている文字だけが含まれるようにしてください。

伝送キュー (TMQNAME)

リモート・キューかキュー・マネージャーの別名のいずれかの定義の場合に、リモート・キューへ向けられるメッセージに使用される伝送キューのローカル名を指定します。

TMQNAME がブランクの場合には、RMTMQMNAME と同じ名前のキューが伝送キューとして使用されます。

この定義がキュー・マネージャーの別名として使用されていて、接続キュー・マネージャーの名前が RMTMQMNAME である場合には、この属性は無視されます。

また、この定義が応答先キュー別名定義として使用されている場合にも、これは無視されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

このリモート・キューに特定の伝送キュー名は定義されません。この属性の値は、すべてブランクに設定されます。

伝送キュー名

伝送キュー名を指定します。

キュー項目数の高しきい値 (HIGHTHLD)

「キュー項目数高」イベントを生成するためにキュー項目数を比較する対象のしきい値を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

threshold-value

0 から 100 の範囲の値を指定します。この値は、キューの最大長 (MAXDEPTH パラメーター) パーセンテージとして使用されます。

キュー項目数の低しきい値 (LOWTHLD)

「キュー項目数低」イベントを生成するためにキュー項目数を比較する対象のしきい値を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

threshold-value

0 から 100 の範囲の値を指定します。この値は、キューの最大長 (MAXDEPTH パラメーター) パーセンテージとして使用されます。

キュー・フル・イベント可能 (FULLEVT)

「キュー・フル」イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

「キュー・フル」イベントは生成されません。

***YES**

キュー・フル・イベントが生成されます。

キュー高イベント可能 (HIGHEVT)

「キュー項目数高」イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

「キュー項目数高」イベントは生成されません。

***YES**

「キュー項目数高」イベントが生成されます。

キュー低イベント可能 (LOWEVT)

「キュー項目数低」イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

「キュー項目数低」イベントは生成されません。

***YES**

「キュー項目数低」イベントが生成されます。

サービス間隔 (SRVITV)

サービス間隔を指定します。この間隔は、「サービス間隔高」イベントおよび「サービス間隔 OK」イベントを生成するための比較に使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

interval-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。この値は、ミリ秒単位です。

サービス間隔イベント (SRVEVT)

「サービス・インターバル高」イベントまたは「サービス・インターバル OK」イベントが生成されるかどうかを指定します。

「サービス・インターバル高」イベントは、少なくとも SRVITV パラメーターで示された時間内には、キューからメッセージは検索されていないことが検査で示された場合に生成されます。

「サービス・インターバル OK」イベントは、検査で、SRVITV パラメーターによって指示された時間内にキューからメッセージが検索されたことが示された場合に生成されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***HIGH**

「サービス・インターバル高」イベントが生成されます。

***OK**

「サービス・インターバル OK」イベントが生成されます。

***NONE 値**

サービス・インターバル・イベントは生成されません。

配布リスト・サポート (DISTLIST)

キューが配布リストをサポートするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

キューは配布リストをサポートしません。

***YES**

キューは配布リストをサポートします。

クラスター名 (CLUSTER)

キューが属するクラスターの名前です。

このパラメーターの変更は、既に開いているキューの インスタンスには影響しません。

動的キュー、伝送キュー、SYSTEM.CHANNEL.XX、SYSTEM.CLUSTER.XX または SYSTEM.COMMAND.XX キューには、このパラメーターは設定できません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-name

CLUSTER または CLUSNL の結果値のいずれか一方のみを非ブランクにする ことができますが、両方に値を指定することはできません。

クラスター名リスト (CLUSNL)

そのキューが属しているクラスターのリストを指定する、名前リストの名前です。 このパラメーターの変更は、既に開いているキューの インスタンスには影響しません。

動的キュー、伝送キュー、SYSTEM.CHANNEL.XX、SYSTEM.CLUSTER.XX または SYSTEM.COMMAND.XX キューには、このパラメーターは設定できません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

namelist-name

CLUSTER または CLUSNL の結果値のいずれか一方のみを非ブランクにする ことができますが、両方に値を指定することはできません。

デフォルト・バインディング (DEFBIND)

MQOPEN 呼び出しでアプリケーションが MQOO_BIND_AS_Q_DEF を指定し、 キューがクラスター・キューである時に、使用するバインドを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***OPEN**

キューのオープン時に、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。

***NOTFIXED**

キュー・ハンドルは、クラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされません。これによりキュー・マネージャーは、MQPUT を使用してメッセージが書き込まれたときに特定のキュー・インスタンスを選択することができ、その後必要に応じてその選択を変更することができます。

MQPUT1 呼び出しは、常に NOTFIXED が指定されているかのように機能します。

*** グループ**

キューがオープンされる際、メッセージ・グループにメッセージがある限り、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。メッセージ・グループのすべてのメッセージは、同じ宛先インスタンスに割り振られます。

クラスター・ワークロード・ランク (CLWLRANK)

キューのクラスター・ワークロード・ランクを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-rank

0 から 9 の範囲の値を指定します。

クラスター・ワークロード優先順位 (CLWLPRTY)

キューのクラスター・ワークロード優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-priority

0 から 9 の範囲の値を指定します。

クラスター・ワークロード・キューの使用 (CLWLUSEQ)

ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の振る舞いを指定します。PUT がクラスター・チャンネルから発信される場合にはこの属性は適用されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

キュー・マネージャー CLWLUSEQ 属性からの値が継承されます。

***LOCAL (ローカル)**

ローカル・キューは、MQPUT のただ 1 つの宛先です。

***ANY**

キュー・マネージャーは、ワークロード分散の目的でこうしたローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして扱います。

キュー・モニター (MONQ)

オンライン・モニター・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 MONQ が *NONE に設定されると、オンライン・モニター・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONQ の設定から継承されます。

***OFF**

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

キュー統計 (STATQ)

統計データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 STATQ が*NONE に設定されると、オンライン・モニター・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

統計データ収集は、キュー・マネージャー属性 STATQ の設定に基づきます。

***OFF**

このキューの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***ON**

このキューの統計データ収集はオンに切り替えられます。

キュー・アカウンティング (ACCTQ)

アカウント・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 ACCTQ が*NONE に設定されると、アカウント・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

アカウント・データ収集は、キュー・マネージャー属性 ACCTQ の設定に基づきます。

***OFF**

このキューのアカウント・データ収集はオフに切り替えられます。

***ON**

このキューのアカウント・データ収集はオンに切り替えられます。

非持続メッセージ・クラス (NPMCLASS)

このキューに書き込まれる非持続メッセージの信頼性のレベルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NORMAL**

このキューに書き込まれる非持続メッセージが失われるのは、障害またはキュー・マネージャー・シャットダウンの後だけです。このキューに書き込まれる非持続メッセージは、キュー・マネージャーの再始動時に廃棄されます。

***HIGH**

このキューに書き込まれる非持続メッセージは、キュー・マネージャーの再始動時には廃棄されません。しかし、障害が発生すると、このキューに書き込まれる非持続メッセージは失われる可能性があります。

メッセージの先読み (MSGREADAHD)

非持続メッセージがアプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***DISABLED**

先読みは、このキューでは使用不可になっています。先読みがクライアント・アプリケーションによって要求されているかどうかに関係なく、アプリケーションが要求するよりも前にメッセージがクライアントに送られることはありません。

***NO**

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られません。クライアントが異常終了した場合に失われる非持続メッセージは、最大で1つだけです。

***YES**

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られます。クライアントが異常終了する場合、またはクライアント・アプリケーションが送られたメッセージすべてをコンシュームしない場合は、非持続メッセージが失われることがあります。

デフォルトの Put 応答 (DFTPUTRESP)

デフォルトの PUT 応答タイプ(DFTPUTRESP)属性は、アプリケーションが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF オプションを指定するときに、MQPUT および MQPUT1 呼び出しに必要な応答のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***SYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。これは IBM MQ に用意されたデフォルト値ですが、ご使用のインストール環境では変更されている可能性があります。

***ASYNCR**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、常に、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO の一部のフィールドはキュー・マネージャーによってアプリケーションに戻されませんが、トランザクションに書き込まれたメッセージや非持続メッセージのパフォーマンスに向上が見られる場合があります。

プロパティ制御 (PROPCTL)

MQGMO_PROPERTIES_AS_Q_DEF オプションが指定された場合に、MQGET 呼び出しを使用してキューから取り出すメッセージのプロパティに何が生じるかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***COMPAT**

メッセージに mcd.、jms.、usr.、または mqext. という接頭部を持つプロパティがある場合、メッセージのプロパティはすべて MQRFH2 ヘッダー内のアプリケーションに配信されます。それ以外の場合、メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるものを除くメッセージのプロパティはすべて廃棄され、アプリケーションにアクセスできなくなります。

***NONE 値**

メッセージ記述子 (または拡張) に含まれているものを除き、メッセージのすべてのプロパティは廃棄され、アプリケーションからアクセス可能ではなくなります。

***ALL**

メッセージのすべてのプロパティ (メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるものを除く) は、メッセージ・データ内の1つ以上の MQRFH2 ヘッダーに含まれます。

***FORCE**

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

***V6COMPAT**

*V6COMPAT を設定する場合は、MQPUT により解決されるキュー定義および MQGET により解決されるキュー定義、両方のいずれかのキュー定義に設定する必要があります。これは、介在するその他すべての伝送キューにも設定する必要があります。これにより MQRFH2 ヘッダーが、変更されずに送信側アプリケーションから受信側アプリケーションに渡されます。これは、キュー名解決チェーン内で検出される他の **PROPCTL** の設定をオーバーライドします。プロパティがクラスター・キューに設定されると、その設定が他のキュー・マネージャー上にローカルでキャッシュされることはありません。

*V6COMPAT はクラスター・キューに解決される別名キューに設定する必要があります。書き込みアプリケーションが接続されているキュー・マネージャーと同じキュー・マネージャーに別名キューを定義します。

ターゲット・タイプ (TARGTYPE)

別名が解決されて生じるオブジェクトのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***キュー**

キュー・オブジェクト。

***TOPIC**

トピック・オブジェクト。

カスタム属性 (CUSTOM)

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。現在は、*CUSTOM* に対する有意味な値がないため、空のままにしてください。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

custom

1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

CLCHNAME

このパラメーターは、伝送キューでのみサポートされます。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

属性は削除されます。

クラスター送信側チャンネル名

ClusterChannelName は、このキューを伝送キューとして使用するクラスター送信側チャンネルの総称名です。この属性は、このクラスター伝送キューからクラスター受信側チャンネルにメッセージを送信するクラスター送信側チャンネルを指定します。

アスタリスク "*" を **ClusterChannelName** に指定することにより、伝送キューをクラスター送信側チャネルのセットに関連付けることができます。アスタリスクはチャンネル名ストリングの先頭、末尾、またはそれ以外の場所に任意の数だけ使用できます。**ClusterChannelName** の長さは 20 文字までに制限されています (MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH)。

MQ サブスクリプションの変更 (CHGMQMSUB)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ サブスクリプションの変更 (CHGMQMSUB) コマンドは、既存の MQ サブスクリプションの指定された属性を変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
SUBID	サブスクリプション ID	文字値、 *SAME	オプション、キー、定位置 2
SUBNAME	サブスクリプション名	文字値、 *SAME	オプション、キー、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
TOPICSTR	トピック・ストリング	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 4
TOPICOBJ	トピック・オブジェクト	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 5
DEST	Destination	文字値、 *SAME	オプション、定位置 6
DESTMQM	宛先キュー・マネージャー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 7
DESTRRLID	宛先相関 ID	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 8
PUBACCT	パブリッシュ・アカウント・トークン	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 9
PUBAPPID	パブリッシュ APPL ID	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 10
SUBUSER	サブスクリプション・ユーザー ID	文字値、 *SAME	オプション、定位置 11
USERDATA	サブスクリプション・ユーザー・データ	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 12
SELECTOR	セレクター・ストリング	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 13
PSPROP	PubSub プロパティ	*SAME 、*NONE、*COMPAT、*RFH2、*MSGPROP	オプション、定位置 14
DESTCLASS	宛先クラス	*SAME 、*MANAGED、*PROVIDED	オプション、定位置 15
VARUSER	変数ユーザー	*SAME 、*ANY、*FIXED	オプション、定位置 16
REQONLY	要求パブリケーション	*SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 17
PUBPTY	パブリッシュ優先度	0-9、 *SAME 、*AS PUB、*ASQDEF	オプション、定位置 18

キーワード	説明	選択	注
<u>WSHEMA</u>	ワイルドカード・スキーマ	*SAME 、*CHAR、*TOPIC	オプション、定位置 19
<u>EXPIRY</u>	有効期限時刻	0-9999999999、 *SAME 、*UNLIMITED	オプション、定位置 20

サブスクリプション ID (SUBID)

変更するサブスクリプションのサブスクリプション ID です。

指定できる値は以下のとおりです。

subscription-identifier

24 バイトのサブスクリプション ID を表す 48 文字 16 進数ストリングを指定します。

サブスクリプション名 (SUBNAME)

変更するサブスクリプションの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

subscription-name

最大で 256 バイトのサブスクリプション名を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

トピック・ストリング (TOPICSTR)

このサブスクリプションに関連付けられたトピック・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-string

最大で 256 バイトのトピック・ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超えるトピック・ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

トピック・オブジェクト (TOPICOBJ)

このサブスクリプションに関連付けられたトピック・オブジェクトを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

topic-object

トピック・オブジェクトの名前を指定します。

宛先 (DEST)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キューを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

destination-queue

宛先キューの名前を指定します。

宛先キュー・マネージャー (DESTMQM)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャーを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

宛先キュー・マネージャーは指定されません。

destination-queue

宛先キュー・マネージャーの名前を指定します。

宛先関連 ID (DESTRRLID)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの関連 ID を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージは、MQCI_NONE の関連 ID で宛先に置かれます。

関連 ID

24 バイトの関連 ID を表す 48 文字 16 進数ストリングを指定します。

パブリッシュ・アカウンティング・トークン (PUBACCT)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのアカウンティング・トークンを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージは、MQACT_NONE のアカウンティング・トークンで宛先に置かれます。

publish-accounting-token

32 バイトのパブリッシュ・アカウンティング・トークンを表す 64 文字 16 進数ストリングを指定します。

パブリッシュ・アプリケーション ID (PUBAPPID)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのパブリッシュ・アプリケーション ID を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

パブリッシュ・アプリケーション ID は指定されません。

publish-application-identifier

パブリッシュ・アプリケーション ID を指定します。

サブスクリプション・ユーザー ID (SUBUSER)

このサブスクリプションを所有するユーザー・プロファイルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

user-profile

ユーザー・プロファイルを指定します。

サブスクリプション・ユーザー・データ (USERDATA)

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

ユーザー・データは指定されません。

user-data

最大で 256 バイトのユーザー・データを指定します。

注: 256 バイトを超えるユーザー・データは、MQSC を使用して指定できます。

セクター・ストリング (SELECTOR)

指定されたトピックでパブリッシュされるメッセージに適用して、それらがこのサブスクリプションに適合かどうかを選択するための、SQL 92 セクター・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

選択ストリングは指定されません。

selection-string

最大で 256 バイトの選択ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超える選択ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

PubSub プロパティ (PSPROP)

パブリッシュ/サブスクライブに関連したメッセージ・プロパティが、このサブスクリプションに送られるメッセージに追加される方法を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、このメッセージに追加されません。

***COMPAT**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、IBM MQ V6.0 のパブリッシュ/サブスクライブとの互換性を維持するために、メッセージに追加されます。

***RFH2**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、RFH バージョン 2 のヘッダーとしてメッセージに追加されます。

***MSGPROP**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、メッセージ・プロパティとして追加されます。

宛先クラス (DESTCLASS)

これが管理対象サブスクリプションかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***MANAGED**

宛先は管理対象。

***PROVIDED**

宛先はキュー。

可変ユーザー (VARUSER)

サブスクリプションの作成者以外のユーザー・プロファイルが、(トピックおよび宛先権限検査に従って) そのサブスクリプションに接続可能かどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ANY**

すべてのユーザー・プロファイルがサブスクリプションに接続できます。

***FIXED**

サブスクリプションを作成したユーザー・プロファイルのみが、そのサブスクリプションに接続できます。

要求パブリケーション (REQONLY)

サブスクライバーが MQSUBRQ API を介して更新のためにポーリングするかどうかや、すべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに送信されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***YES**

パブリケーションは、MQSUBRQ API に対する応答としてのみ、このサブスクリプションに送信されます。

***NO**

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。

パブリッシュの優先順位 (PUBPTY)

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***AS PUB**

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位は、パブリッシュされたメッセージに指定された優先順位から得られます。

***AS QDEF**

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位は、宛先として定義されるキューのデフォルトの優先順位から得られます。

priority-value

0 から 9 の範囲の優先順位を指定します。

ワイルドカード・スキーマ (WSHEMA)

トピック・ストリング内のワイルドカード文字の解釈に使用されるスキーマを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***TOPIC**

ワイルドカード文字はトピック階層の部分を表します。

***CHAR**

ワイルドカード文字はストリングの一部を表します。

有効期限時刻 (EXPIRY)

サブスクリプションの有効期限時刻を指定します。サブスクリプションは、有効期限時刻を経過すると、キュー・マネージャーによって廃棄される対象となり、以降パブリッシュを受信しません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***UNLIMITED**

サブスクリプションは満了しません。

expiry-time

有効期限時刻を 0.1 秒単位で、0 から 999999999 の範囲で指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ サービスの変更 (CHGMQMSVC)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ サービスの変更 (CHGMQMSVC) コマンドは、既存の MQ サービス定義に指定された属性を変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
SVCNAME	サービス名	文字値	必須、キー、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
TEXT	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 3
STRCMD	プログラムを開始	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 4
	修飾子 1: 開始プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
STRARG	開始プログラム実引数	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 5
ENDCMD	終了プログラム	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 6
	修飾子 1: 終了プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
ENDARG	終了プログラム実引数	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 7
STDOUT	標準出力	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 8
STDERR	標準エラー	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 9
TYPE	サービス・タイプ	*SAME 、*CMD、*SVR	オプション、定位置 10
CONTROL	サービス制御	*SAME 、*MANUAL、*QMGR、*STARTONLY	オプション、定位置 11

サービス名 (SVCNAME)

変更されるサービス定義の名前。

指定できる値は以下のとおりです。

サービス名

サービス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

テキスト '記述' (TEXT)

サービス定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

開始プログラム (STRCMD)

実行するプログラムの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

start-command

実行可能な開始コマンドの名前。

開始プログラム実引数 (STRARG)

開始時にプログラムに渡される引数。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

開始コマンドに引数は渡されません。

start-command-arguments

開始コマンドに渡される引数。

終了プログラム (ENDCMD)

サービスの停止が要求されると実行する実行可能プログラムの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

終了コマンドは実行されません。

end-command

実行可能な終了コマンドの名前。

終了プログラム実引数 (ENDARG)

サービスが停止を要求されるときに、終了プログラムに渡される引数。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

引数は終了コマンドに渡されません。

end-command-arguments

終了コマンドに渡される引数。

標準出力 (STDOUT)

サービス・プログラムの標準出力が転送されるファイルへのパス。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

標準出力は廃棄されます。

stdout-path

標準出力パス。

標準エラー (STDERR)

サービス・プログラムの標準エラーが転送されるファイルのパス。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

標準エラーは廃棄されます。

stderr-path

標準エラー・パス。

サービス・タイプ (TYPE)

サービスを実行するモード。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***CMD**

開始時にコマンドは実行されますが、状況は収集されることも表示されることもありません。

***SVR**

開始された実行可能プログラムの状況がモニターおよび表示されます。

サービス制御 (CONTROL)

キュー・マネージャー開始時にサービスを自動的に開始するかどうか。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***MANUAL**

サービスは自動的に開始または停止されます。

***QMGR**

キュー・マネージャーの開始、停止に応じて、サービスも開始、停止されます。

***STARTONLY**

キュー・マネージャーが開始されるとサービスも開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスが停止を要求されることはありません。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ トピックの変更 (CHGMQMTOP)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ トピックの変更 (CHGMQMTOP) コマンドは、既存の MQ トピック・オブジェクトに指定された属性を変更します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
TOPNAME	トピック名	文字値	必須、キー、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
TEXT	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 3
TOPICSTR	トピック・ストリング	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 4
DURSUB	永続サブスクリプション	*SAME 、*ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 5
MGDDURMDL	永続的モデル・キュー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 6
MGDNDURMDL	非永続的モデル・キュー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 7
PUBENBL	パブリッシュ	*SAME 、*ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 8
SUBENBL	サブスクライブ	*SAME 、*ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 9
DFTPTY	デフォルトのメッセージ優先順位	0-9、 *SAME 、*ASPARENT	オプション、定位置 10
DFTMSGPST	デフォルトのメッセージ持続性	*SAME 、*ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 11
DFTPUTRESP	デフォルトの Put 応答	*SAME 、*ASPARENT、*SYNC、*ASYN	オプション、定位置 12
WILDCARD	ワイルドカードの動作	*SAME 、*PASSTHRU、*BLOCK	オプション、定位置 13
PMSGDLV	持続メッセージ送達	*SAME 、*ASPARENT、*ALL、*ALLDUR、*ALLAVAIL	オプション、定位置 14
NPMSGDLV	非持続メッセージ送達	*SAME 、*ASPARENT、*ALL、*ALLDUR、*ALLAVAIL	オプション、定位置 15

キーワード	説明	選択	注
<u>CUSTOM</u>	カスタム属性	文字値、*BLANK、*SAME	オプション、定位置 16

トピック名 (TOPNAME)

変更するトピック・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-name

トピック・オブジェクトの名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

テキスト '記述' (TEXT)

トピック・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

トピック・ストリング (TOPICSTR)

このトピック・オブジェクト定義によって表されるトピック・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

topic-string

最大で 256 バイトのトピック・ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超えるトピック・ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

永続サブスクリプション (DURSUB)

アプリケーションがこのトピックに対して永続サブスクリプションを行うことが許可されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

***ASPARENT**

このトピックに対して永続サブスクリプションを作成できるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

永続サブスクリプションはこのノードで作成可能です。

***NO**

永続サブスクリプションはこのノードで作成不可です。

永続的モデル・キュー (MGDDURMDL)

キュー・マネージャーに対してパブリケーションの宛先の管理を要求する、永続サブスクリプションに使用するモデル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

durable-model-queue

モデル・キューの名前を指定します。

非永続的モデル・キュー (MGDNDURMDL)

キュー・マネージャーに対してパブリケーションの宛先の管理を要求する、非永続サブスクリプションに使用するモデル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

non-durable-model-queue

モデル・キューの名前を指定します。

パブリッシュ (PUBENBL)

トピックに対してメッセージをパブリッシュできるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

このトピックに対してメッセージをパブリッシュできるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

トピックに対してメッセージをパブリッシュできます。

***NO**

メッセージはトピックに対してパブリッシュ不可。

サブスクライブ (SUBENBL)

アプリケーションがこのトピックに対するサブスクライブを許可されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

このトピックに対するサブスクリプションを作成できます。

***NO**

アプリケーションは、このトピックにサブスクライブできません。

デフォルトのメッセージ優先順位 (DFTPTY)

トピックに対してパブリッシュされたメッセージのデフォルトの優先度を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

デフォルトの優先順位は、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。

デフォルトのメッセージ持続性 (DFTMSGPST)

アプリケーションで MQPER_PERSISTENCE_AS_TOPIC_DEF オプションが指定されている場合に使用するメッセージ持続性を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

デフォルトの持続性は、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

***NO**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

デフォルトの Put 応答 (DFTPUTRESP)

アプリケーションが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF オプションを指定するときに、MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しに必要な応答のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

デフォルトの応答タイプは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***SYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。

***ASYNCR**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、常に、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドの一部は、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されません。トランザクションに入れられるメッセージまたは非持続メッセージで、パフォーマンスが改善されることがあります。

ワイルドカードの性質 (WILDCARD)

このトピックに関連したワイルドカード・サブスクリプションの動作を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PASSTHRU**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーションと、より特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションとを受け取ることになります。

***BLOCK**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーション、またはより特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションを受け取りません。

持続メッセージの配信 (PMSGDLV)

このトピックにパブリッシュされた持続メッセージの配信手段を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

***ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLDUR**

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの持続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLAVAIL**

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

非持続メッセージ送達 (NPMSGDLV)

このトピックにパブリッシュされた非持続メッセージの配信手段を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

***ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

*ALLDUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの永続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

*ALLAVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

カスタム属性 (CUSTOM)

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。現在は、CUSTOM に対する有意義な値がないため、空のままにしてください。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

custom

1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの消去 (CLRMQMBRK)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ ブローカーの消去 (CLRMQMBRK) コマンドは、何の機能も実行せず、IBM MQ の前のリリースとの互換性のためにのみ提供されています。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、位置 1
<u>BRKParent</u>	親リンクの切断	*NO、*YES	オプション、位置 2
<u>CHILDQM</u>	子メッセージ・キュー・マネージャー	文字値	オプション、位置 3

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

親リンクの切断 (BRKParent)

ブローカーの終了方法を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*YES

親ブローカーとの間のリンクが切断されることを指定します。このパラメーターを指定した場合、CHILDMQM には値を指定しません。

*NO

子ブローカーとの間のリンクが切断されることを指定します。子ブローカーをホストするキュー・マネージャーの名前を指定するには、CHILDMQM パラメーターを使用します。

子メッセージ・キュー・マネージャー (CHILDMQM)

リンクが切断される子ブローカーをホストするキュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Clear MQ Queue (CLRMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Clear MQ Queue (CLRMQM) コマンドは、すべてのメッセージをローカル・キューから削除します。

キューに未コミット・メッセージが含まれていた場合、あるいはアプリケーションのキューがオープンされていた場合には、コマンドは正しく実行されません。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

キュー名 (QNAME)

消去するキューの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

キューの名前を入力します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Clear MQ Topic String (CLRMQMTOP)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Clear MQ Topic String (CLRMQMTOP) コマンドは、指定されたトピック・ストリングを消去します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>TOPICSTR</u>	トピック・ストリング	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>CLRTYPE</u>	タイプの消去	*RETAINED	オプション、定位置 3

トピック・ストリング (TOPICSTR)

消去するトピック・ストリング。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-string

最大で 256 バイトのトピック・ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超えるトピック・ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

消去タイプ (CLRTYPE)

実行するトピック・ストリング消去のタイプです。

値は次のものでなければなりません。

*RETAINED

指定したトピック・ストリングから保存パブリケーションを削除する。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 認証情報オブジェクトのコピー (CPYMQMAUTI)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 認証情報オブジェクトのコピー (CPYMQMAUTI) コマンドは、同じタイプの認証情報オブジェクトを作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のオブジェクトと同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
FROMAI	コピー元認証情報名	文字値	必須、キー、定位置 1
TOAI	コピー先認証情報名	文字値	必須、キー、定位置 2
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 3
AUTHTYPE	認証情報タイプ	*CRLLDAP, *OCSP, *IDPWOS, *IDPWLDAP	オプション、定位置 4
CONNAME	接続名	文字値、*SAME	オプション、定位置 5
REPLACE	置換	*NO、*YES	オプション、定位置 6
TEXT	テキスト '記述'	文字値、*SAME、*NONE	オプション、定位置 7
USERNAME	ユーザー名	文字値、*SAME、*NONE	オプション、定位置 8
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値、*SAME、*NONE	オプション、定位置 9
OCSPURL	OCSP 応答側 URL	文字値、*SAME	オプション、定位置 10
CHCKCLNT	認証検査が必要です。	*ASQMGR, *REQUIRED, *REQADM	オプション、定位置 11
CHCKLOCL	認証検査が必要です。	*NONE、*OPTIONAL、*REQUIRED、*REQADM	オプション、定位置 12
FAILDELAY	障害の遅延	整数値	オプション、定位置 13
BASEDNU	ベース・ユーザー DN	文字値、*SAME	オプション、定位置 14
ADOPTCTX	コンテキスト採用	整数値	オプション、定位置 15
CLASSUSR	LDAP オブジェクト・クラス	文字値、*SAME	オプション、定位置 16
SHORTUSR	短いユーザー名	文字値、*SAME	オプション、定位置 17
USRFIELD	ユーザー・フィールド	文字値、*SAME	オプション、定位置 18

キーワード	説明	選択	注
SECCOMM	LDAP 通信	文字値、 *SAME	オプション、定位置 19
AUTHORMD	許可方式	文字値、 *OS *SEARCHGRP *SEARCHUSR	オプション、定位置 20
BASEDNG	グループのベース DN	文字値、 *SAME	オプション、定位置 21
CLASSGRP	グループのオブジェクト・クラス	文字値、 *SAME	オプション、定位置 22
FINDGRP	グループ・メンバーシップを検索する属性	文字値、 *SAME	オプション、定位置 23
GRPFIELD	グループの単純名	文字値、 *SAME	オプション、定位置 24
NESTGRP	グループ・ネスティング	*NO *YES	オプション、定位置 25
V 8.0.0.3 V 8.0.0.3 AUTHENMD	認証方式	*OS 変更不可	オプション、定位置 26

コピー元認証情報名 (FROMAI)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存の認証情報オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

authentication-information-name

認証情報オブジェクトの名前を指定します。最大ストリング長は 48 文字です。

コピー先認証情報名 (TOAI)

作成する新しい認証情報オブジェクトの名前です。

この名前の認証情報オブジェクトが既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

authentication-information-name

認証情報オブジェクトの名前を指定します。最大ストリング長は 48 文字です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

コンテキストの採用 (ADOPTCTX)

提供された資格情報をこのアプリケーションのコンテキストとして使用するかどうか。これは、この資格情報が許可検査に使用され、管理画面に表示され、メッセージに出現することを意味します。

YES

パスワードにより妥当性検査が正常に行われた、MQCSP 構造内に示されたユーザー ID は、このアプリケーションに使用するコンテキストとして採用されます。したがって、このユーザー ID は、IBM MQ リソースの使用許可として確認される資格情報となります。

指定されたユーザー ID が LDAP ユーザー ID であり、オペレーティング・システムのユーザー ID を使用して許可検査が行われる場合は、LDAP のユーザー・エントリーに関連付けられている SHORTUSR が実行される許可検査の資格情報として採用されます。

NO

認証は MQCSP 構造内のユーザー ID とパスワードに対して実行されますが、資格情報が将来の使用のために採用されることはありません。許可は、アプリケーションが実行されているユーザー ID を使用して実行されます。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWOS および *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

認証方式 (AUTHENMD)

▶ V 8.0.0.3

このアプリケーションで使用される認証方式。

*OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

***OS** は認証方式を設定する目的でのみ使用できます。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWOS の場合にのみ有効です。

許可方式 (AUTHORMD)

▶ V 8.0.0.2

アプリケーションで使用される許可方式。

*OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

これは IBM MQ が以前処理していた方法であり、デフォルト値になります。

*SEARCHGRP

LDAP リポジトリのグループ項目に、そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性が含まれます。メンバーシップは、FINDGRP で定義されている属性によって示されます。この値は通常 *member* または *uniqueMember* です。

*SEARCHUSR

LDAP リポジトリのユーザー項目に、指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性が含まれます。照会対象の属性は、FINDGRP 値 (通常、*memberOf*) によって定義されます。

多くの LDAP サーバーはグループ・メンバーシップの判別にグループ・オブジェクトの属性を使用するため、この値を *SEARCHGRP* に設定する必要があります。

Microsoft Active Directory は通常、グループ・メンバーシップをユーザー属性として保管します。IBM Tivoli Directory Server は両方のメソッドをサポートします。

一般に、ユーザー属性によってメンバーシップを取得する方が、ユーザーをメンバーとしてリストするグループを検索するよりも高速です。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

認証情報タイプ (AUTHTYPE)

認証情報オブジェクトのタイプです。デフォルト値はありません

指定できる値は以下のとおりです。

*CRLLDAP

認証情報オブジェクトのタイプは CRLLDAP です。

*OCSP

認証情報オブジェクトのタイプは OCSPURL です。

***IDPWOS**

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、オペレーティング・システムを使用して実行されます。

***IDPWLDAP**

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。

グループのベース DN (BASEDNG)

V 8.0.0.2

グループ名を検出できるようにするために、このパラメーターを基本 DN とともに設定して、LDAP サーバー内でグループを検索する必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

ベース・ユーザー DN (BASEDNU)

短いユーザー名属性 (**SHORTUSR** を参照) を検出できるようにするために、このパラメーターに基本 DN を設定して、LDAP サーバー内で検索できるようにする必要があります。この属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

クライアント検査 (CHCKCLNT)

ローカルでバインドされたすべての接続で接続認証検査が必要とされるか、MQCSP 構造でユーザー ID とパスワードが提供される場合にのみ検査されるか。

これらの属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWOS** または ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

***ASQMGR**

接続が許可されるには、キュー・マネージャーで定義されている接続認証要件を満たしている必要があります。CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供され、CHCKCLNT の値が ***REQUIRED** である場合、有効なユーザー ID およびパスワードが指定されない限り、接続は失敗します。CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供されない、または CHCKCLNT の値が ***REQUIRED** ではない場合、ユーザー ID およびパスワードは必要ありません。

***REQUIRED**

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

***REQDADM**

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定する必要がありますが、非特権ユーザーは ***OPTIONAL** 設定と同じように扱われます。

ローカル検査 (CHCKLOCL)

ローカルでバインドされたすべての接続で接続認証検査が必要とされるか、MQCSP 構造でユーザー ID とパスワードが提供される場合にのみ検査されるか。

これらの属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWOS** または ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

***NONE**

検査をオフにします。

***OPTIONAL**

アプリケーションからユーザー ID とパスワードが提供された場合、それらが有効なペアであることを確認します。ただし、それらの提供は必須ではありません。このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

***REQUIRED**

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

*REQDADM

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定する必要がありますが、非特権ユーザーは *OPTIONAL 設定と同じように扱われます。

クラス・グループ (CLASSGRP)

V 8.0.0.2 LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

この値がブランクの場合には、**groupOfNames** が使用されます。

他に通常使用される値には、*groupOfUniqueNames* や *group* があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

クラス・ユーザー (CLASSUSR)

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

ブランクの場合、値は通常必要とされる値である *inetOrgPerson* にデフォルト設定されます。

Microsoft Active Directory では、必要とされる値は多くの場合 *user* です。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

接続名 (CONNAME)

オプションのポート番号を持つ、LDAP サーバーが稼働しているホストの DNS 名または IP アドレス。デフォルトのポート番号は 389 です。DNS 名または IP アドレスにデフォルトはありません。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です (必須である場合)。

IDPWLDAP 認証情報オブジェクトとともに使用する場合は、接続名のコンマ区切りのリストにすることができます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

接続名は、元の認証情報オブジェクトから未変更のままです。

接続名

オプションのポート番号を持つ、ホストの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを指定します。最大ストリング長は 264 文字です。

障害の遅延 (FAILDELAY)

接続認証にユーザー ID とパスワードが提供されたものの、そのユーザー ID またはパスワードが誤っていたために認証が失敗する場合、失敗がアプリケーションに戻される前に、ここで指定した秒数の遅延が生じます。

これは、失敗を受信した後に、アプリケーションが単純に再試行を繰り返してビジー・ループになるのを回避するのに役立ちます。

値は 0 から 60 秒の範囲でなければなりません。デフォルト値は 1 です。

この属性は、AUTHTYPE が *IDPWOS および *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループ・メンバーシップ属性 (FINDGRP)

V 8.0.0.2 グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前。

AUTHORMD = SEARCHGRP の場合、この属性は、通常、*member* または *uniqueMember* に設定されます。

AUTHORMD = SEARCHUSR の場合、この属性は、通常、*memberOf* に設定されます。

ブランクのままにした場合、キュー・マネージャーは **AUTHORMD** の設定に応じて、*member* または *memberOf* を使用します。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループの単純名 (GRPFIELD)

▶ V 8.0.0.2

値がブランクの場合、[setmqaut](#) のようなコマンドはグループの修飾名を使用する必要があります。値は完全な識別名、または単一の属性のいずれかにできます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループ・ネスティング (NESTGRP)

▶ V 8.0.0.2

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

最初に見つかったグループのみが、許可の対象となります。

*YES

ユーザーが属するグループすべてを列挙するために、グループ・リストは再帰的に検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

置換 (REPLACE)

新しい認証情報オブジェクトが、同じ名前の既存の認証情報オブジェクトを置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

この定義は、同じ名前の既存の認証情報オブジェクトを置き換えません。指定された認証情報オブジェクトが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

*YES

既存の認証情報オブジェクトを置き換えます。指定された認証情報オブジェクトが存在しない場合は、新しいオブジェクトが作成されます。

セキュア・コマンド (SECCOMM)

LDAP サーバーへの接続が SSL/TLS を使用して安全に行われる必要があるかどうか

YES

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用して安全に行われます。

使用される証明書は、キュー・マネージャーのデフォルトの証明書で、キュー・マネージャー・オブジェクトで CERTLABL と指定されているか、それがブランクである場合は、[デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)に記載されているものです。

証明書は、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに置かれます。暗号仕様は、IBM MQ サーバーと LDAP サーバーの両方でサポートされるものとなるようネゴシエーションされます。

キュー・マネージャーが SSLFIPS(YES) または SUITEB 暗号仕様を使用するよう構成されている場合、これは LDAP サーバーへの接続において同様に考慮されます。

ANON

LDAP サーバーへの接続は、SECCOMM(YES) と同様に SSL/TLS を使用して安全に行われますが、違いが 1 つあります。

証明書は LDAP サーバーに送信されません。接続は匿名で行われます。この設定を使用するには、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに、デフォルトとしてマークされた証明書が含まれていないことを確認してください。

NO

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用しません。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

短いユーザー名 (SHORTUSR)

IBM MQ での短いユーザー名として使用される、ユーザー・レコード内のフィールド。

このフィールドには、12 文字以下の値を入れる必要があります。この短いユーザー名は、以下の目的で使用されます。

- LDAP 認証が有効であるが、LDAP 権限が有効ではない場合、これは許可検査のオペレーティング・システムのユーザー ID として使用されます。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要があります。
- LDAP 認証と権限の両方が有効で、メッセージ内のユーザー ID を使用しなければならない場合、これは LDAP ユーザー名を再発見するためのメッセージに付随するユーザー ID として使用されます。

例えば、別のキュー・マネージャーにおいて、またはレポート・メッセージの書き込み時などです。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要はありませんが、固有のストリングでなければなりません。この目的として使用できる属性の良い例としては、従業員シリアル番号があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP であり、必須である場合にのみ有効です。

テキスト '記述' (TEXT)

認証情報オブジェクトの短いテキスト説明です。

注：フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

テキスト・ストリングは未変更です。

*NONE 値

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

ストリングは最大 64 文字までの長さで、アポストロフィで囲みます。

ユーザー・フィールド (USRFIELD)

認証用のアプリケーションで提供されるユーザー ID に LDAP ユーザー・レコード内のフィールドの修飾子が含まれていない、つまり '=' 記号が含まれていない場合、この属性は提供されるユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールドを識別します。

このフィールドは、ブランクにすることができます。その場合、非修飾ユーザー ID では、**SHORTUSR** パラメーターを使用して指定されたユーザー ID を解釈します。

このフィールド内容は '=' 記号とアプリケーション提供の値に連結され、完全なユーザー ID として LDAP ユーザー・レコードに置かれます。例えば、アプリケーション提供のユーザーが fred でフィールド値が cn の場合、LDAP リポジトリの cn=fred が検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

ユーザー名 (USERNAME)

ディレクトリーにバインドされているユーザーの識別名。デフォルト・ユーザー名はブランクです。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

ユーザー名は未変更です。

***NONE 値**

ユーザー名はブランクです。

LDAP-user-name

LDAP ユーザーの識別名を指定します。最大ストリング長は 1024 文字です。

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

LDAP ユーザーのパスワード。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

パスワードは未変更です。

***NONE 値**

パスワードはブランクです。

LDAP-password

LDAP ユーザー・パスワード。最大ストリング長は 32 文字です。

OCSP 応答側 URL (OCSPURL)

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。これは、OCSP 応答側のホスト名とポート番号を含む HTTP URL でなければなりません。OCSP 応答側がポート 80 を使用する場合 (これは HTTP のデフォルトです)、ポート番号は省略できます。

このフィールドは OCSP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

OCSP 応答側 URL は未変更です。

OCSP-Responder-URL

OCSP 応答側 URL です。最大ストリング長は 256 文字です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャネルのコピー (CPYMQMCHL)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャネルのコピー (CPYMQMCHL) コマンドは、同じタイプの新規 MQ チャネル定義を作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のチャネル定義と同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
FROMCHL	コピー元チャンネル	文字値	必須、キー、定位置 1
TOCHL	コピー先チャンネル	文字値	必須、キー、定位置 2
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
CHLTYPE	チャンネル・タイプ	*RCVR、*SDR、*SVR、*RQSTR、*SVRCN、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、*CLTCN	オプション、キー、定位置 4
REPLACE	置換	*NO 、*YES	オプション、定位置 5
TRPTYPE	トランスポート・タイプ	*LU62、*TCP、 *SAME	オプション、定位置 6
TEXT	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 7
TGTMQMNAME	ターゲット・キュー・マネージャー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 8
CONNAME	接続名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 9
TPNAME	トランザクション・プログラム名	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 10
MODENAME	モード名	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 11
TMQNAME	伝送キュー	文字値、 *SAME	オプション、定位置 12
MCANAME	MSG チャンネル・エージェント	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 13
	修飾子 1: メッセージ・チャンネル・エージェント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
MCAUSRID	MSG チャンネル AGENT ユーザー ID	文字値、*NONE、*PUBLIC、 *SAME	オプション、定位置 14
MCATYPE	メッセージ・チャンネル・エージェントのタイプ	*PROCESS、*THREAD、 *SAME	オプション、定位置 15
BATCHINT	バッチ間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 16
BATCHSIZE	バッチ・サイズ	1-9999、 *SAME	オプション、定位置 17
DSCITV	切断間隔	0-999999、 *SAME	オプション、定位置 18
SHORTTMR	短期再試行間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 19
SHORTRTY	短期再試行カウント	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 20
LONGTMR	長期再試行間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 21
LONGRTY	長期再試行カウント	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 22

キーワード	説明	選択	注
SCYEXIT	セキュリティー出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 23
	修飾子 1: セキュリティー出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CSCYEXIT	セキュリティー出口	文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 24
SCYUSRDATA	セキュリティー出口ユーザー・データ	文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 25
SNDEXIT	送信出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 26
	修飾子 1: 送信出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CSNDEXIT	送信出口	単一値: *同じ 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 文字値	オプション、定位置 27
SNDUSRDATA	送信出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回まで): 文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 28
RCVEXIT	受信出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 29
	修飾子 1: 受信出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CRCVEXIT	受信出口	単一値: *同じ 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 文字値	オプション、定位置 30
RCVUSRDATA	受信出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回まで): 文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 31
MSGEXIT	メッセージ出口	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 32
	修飾子 1: メッセージ出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
MSGUSRDATA	メッセージ出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回まで): 文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 33

キーワード	説明	選択	注
<u>MSGRTYEXIT</u>	MSG 再試行出口	単一値: *SAME 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 34
	修飾子 1: メッセージ再試行出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
<u>MSGRTYDATA</u>	MSG 再試行出口データ	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 35
<u>MSGRTYNBR</u>	MSG 再試行回数	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 36
<u>MSGRTYITV</u>	メッセージ再試行間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 37
<u>CVTMSG</u>	メッセージの変換	*YES、*NO、 *SAME	オプション、定位置 38
<u>PUTAUT</u>	書き込む権限	*DFT、*CTX、 *SAME	オプション、定位置 39
<u>SEQNUMWRAP</u>	シーケンス番号折り返し	100-999999999、 *SAME	オプション、定位置 40
<u>MAXMSGLEN</u>	最大メッセージ長	0-104857600、 *SAME	オプション、定位置 41
<u>HRTBTINTVL</u>	ハートビート間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 42
<u>NPMSPEED</u>	非持続メッセージ速度	*FAST、*NORMAL、 *SAME	オプション、定位置 43
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 44
<u>CLUSNL</u>	クラスター名リスト	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 45
<u>NETPRTY</u>	ネットワーク接続優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 46

キーワード	説明	選択	注
SSLCIPH	SSL CipherSpec	文字 値、'*NULL_MD5'、'*NULL_SHA'、 '*RC4_MD5_EXPORT'、' '*RC4_MD5_US'、'*RC4_ SHA_US'、'*RC2_MD5_E XPORT'、 '*DES_SHA_EXPORT'、'* TRIPLE_DES_SHA_US'、 '*AES_SHA_US'、'*TLS_R SA_WITH_NULL_MD5'、 '*TLS_RSA_WITH_NULL _SHA'、'*TLS_RSA_EXPO RT_WITH_RC4_40_MD5 '、'*TLS_RSA_WITH_RC 4_128_MD5'、 '*TLS_RSA_WITH_RC4_ 128_SHA'、'*TLS_RSA_E XPORT_WITH_RC2_40_ MD5'、'*TLS_RSA_WITH _DES_CBC_SHA'、 '*TLS_RSA_WITH_3DES _EDE_CBC_SHA'、'*TLS_ RSA_WITH_AES_128_C BC_SHA'、 '*TLS_RSA_WITH_AES_ 256_CBC_SHA'、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 47 CipherSpec TLS_RSA_WITH_3DES_ EDE_CBC_SHA は推奨さ れません。
SSLCAUTH	SSL クライアント認証	*REQUIRED、 *OPTIONAL、 *SAME	オプション、定位置 48
SSLPEER	SSL ピア名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 49
LOCLADDR	ローカル通信アドレス	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 50
BATCHHB	バッチ・ハートビート間 隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 51
USERID	タスク・ユーザー ID	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 52
PASSWORD	パスワード	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 53
KAINT	キープアライブ・インタ ーバル	0-99999、 *SAME 、 *AUTO	オプション、定位置 54
COMPHDR	ヘッダー圧縮	値 (繰り返しは最大 2 回 まで): *NONE、*SYSTEM、 *SAME	オプション、定位置 55
COMPMSG	メッセージ圧縮	単一値: *ANY その他の値 (最大 4 個までの繰り返 し): *NONE、*RLE、 *ZLIBHIGH、*ZLIBFAST、 *SAME	オプション、定位置 56
MONCHL	チャンネル・モニター	*QMGR、*OFF、*LOW、 *MEDIUM、*HIGH、 *SAME	オプション、定位置 57

キーワード	説明	選択	注
STATCHL	チャンネル統計	*QMGR、*OFF、*LOW、 *MEDIUM、*HIGH、 *SAME	オプション、定位置 58
CLWLRANK	CLUSTER WORKLOAD ランク	0-9、 *SAME	オプション、定位置 59
CLWLPRTY	CLUSTER WORKLOAD 優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 60
CLWLWGHT	CLUSTER CHANNEL ウェイト	1-99、 *SAME	オプション、定位置 61
SHARECNV	共有会話	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 62
PROPCTL	プロパティ制御	*COMPAT、*NONE、 *ALL、 *SAME	オプション、定位置 63
MAXINST	最大インスタンス数	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 64
MAXINSTC	クライアントの最大インスタンス	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 65
CLNTWGHT	CLIENT CHANNEL ウェイト	0-99、 *SAME	オプション、定位置 66
AFFINITY	接続アフィニティー	*PREFERRED、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 67
BATCHLIM	バッチ・データ制限	0-999999、 *SAME	オプション、定位置 68
DFTRECON	デフォルトのクライアント再接続	*NO、*YES、*QMGR、 *DISABLED、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 69

コピー元チャンネル (FROMCHL)

このコマンドに指定されていない属性の値が入っている既存のチャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-channel-name

ソース MQ チャンネルの名前を指定します。

コピー先チャンネル (TOCHL)

新規のチャンネル定義の名前を指定します。この名前には、最大 20 文字を含めることができます。チャンネル名は固有でなければなりません。この名前のチャンネル定義が既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

to-channel-name

作成する MQ チャンネルの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE)

コピーされるチャンネルのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SDR**

送信側チャンネル

***SVR**

サーバー・チャンネル

***RCVR**

受信側チャンネル

***RQSTR**

要求側チャンネル

***SVRCN**

サーバー接続チャンネル

***CLUSSDR**

クラスター送信側チャンネル

***CLUSRCVR**

クラスター受信側チャンネル

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル

置換 (REPLACE)

新規のチャンネル定義が、同じ名前の既存のチャンネル定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

既存のチャンネル定義を置き換えません。指定されたチャンネル定義が既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のチャンネル定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

トランスポート・タイプ (TRPTYPE)

伝送プロトコルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***LU62**

SNA LU 6.2。

***TCP**

伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP)。

テキスト '記述' (TEXT)

チャンネル定義を簡単に説明するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

ターゲット・キュー・マネージャー (TGTMQMNAME)

ターゲット・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クライアント接続チャネル (CHLTYPE) *CLTCN のターゲット・キュー・マネージャーの名前は指定されません。

message-queue-manager-name

クライアント接続チャネル (CHLTYPE) *CLTCN のターゲット・メッセージ・キュー・マネージャーの名前。

その他のチャネル・タイプの場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

接続名 (CONNAME)

接続するマシンの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

接続名はブランクです。

接続名

伝送プロトコルで必要とされる接続名を次のように指定します。

- *LU62 では、CSI オブジェクトの名前を指定します。
- *TCP では、リモート・マシン (またはクラスター受信側チャネルのローカル・マシン) のホスト名またはネットワーク・アドレスのどちらかを指定します。この後に、括弧で囲んだポート番号をオプションで指定できます。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows プラットフォームでは、クラスター受信側チャネルの TCP/IP 接続名パラメーターはオプションです。接続名をブランクにすると、IBM MQ はデフォルト・ポートを想定し、システムの現行 IP アドレスを使用して接続名を自動的に生成します。デフォルト・ポート番号をオーバーライドしても、システムの現行 IP アドレスを引き続き使用できます。各接続名について、IP 名をブランクにして、次のように括弧で囲んだポート番号を指定してください。

(1415)

生成される CONNAME は常にドット 10 進 (IPv4) 形式または 16 進 (IPv6) 形式であり、英数字の DNS ホスト名の形式ではありません。

ポートを指定しない場合には、デフォルト・ポート 1414 が想定されます。

クラスター受信側チャンネルの場合、接続名はローカル・キュー・マネージャーに関連し、その他のチャンネルの場合、接続名はターゲット・キュー・マネージャーに関連します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *SDR、*RQSTR、*CLTCN、および *CLUSSDR のチャンネルの場合に必須です。*SVR および *CLUSRCVR チャンネルの場合はオプションであり、*RCVR または *SVRCN チャンネルの場合は無効になります。

トランザクション・プログラム名 (TPNAME)

このパラメーターは、TRPTYPE が LU 6.2 として定義されているチャンネルの場合のみ有効です。

このパラメーターは、CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合を除いて、SNA トランザクション・プログラム名に設定しなければなりません。CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合は、ブランクに設定する必要があります。代わりに、CPI-C 通信サイド・オブジェクトから名前が取り出されます。

CHLTYPE が *RCVR として定義されているチャンネルの場合には、このパラメーターは無効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

この属性の値は変更されません。

*NONE 値

トランザクション・プログラム名は指定されません。

*BLANK

トランザクション・プログラム名は CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。このサイド・オブジェクト名は、CONNAME パラメーターに指定しなければなりません。

transaction-program-name

SNA トランザクション・プログラム名を指定します。

モード名 (MODENAME)

このパラメーターは、TRPTYPE が LU 6.2 として定義されているチャンネルの場合のみ有効です。TRPTYPE が LU 6.2 として定義されていない場合には、データは無視され、エラー・メッセージは出されません。

指定する場合、CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合を除いて、値を SNA モード名に設定しなければなりません。CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合は、値をブランクに設定する必要があります。これで、名前は、CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。

CHLTYPE が *RCVR または *SVRCONN として定義されているチャンネルの場合には、このパラメーターは無効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

この属性の値は変更されません。

*NONE 値

モード名は指定されません。

*BLANK

名前は CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。これは、CONNAME パラメーターに指定されなければなりません。

SNA-mode-name

SNA モード名を指定します。

伝送キュー (TMQNAME)

伝送キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

伝送キュー名

伝送キューの名前を指定します。CHLTYPE が *SDR または *SVR として定義されている場合、伝送キュー名は必須です。

その他のチャンネル・タイプの場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

メッセージ・チャンネル・エージェント (MCANAME)

このパラメーターは予約済みです。使用しないでください。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

MCA プログラム名はブランクです。

CHLTYPE が *RCVR、*SVRCN、または *CLTCN として定義されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID (MCAUSRID)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、ここで指定するメッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID を使用して、MQ リソースにアクセスする許可を与えます。受信側チャンネルまたは要求側チャンネルの宛先キューにメッセージを書き込む許可も含みます (PUTAUT が *DFT の場合)。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ・チャンネル・エージェントはそのデフォルト・ユーザー ID を使用します。

***PUBLIC**

共通権限を使用します。

mca-user-identifier

使用されるユーザー ID を指定します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *CLTCN の場合、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (MCATYPE)

メッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムをスレッドとして実行するか、プロセスとして実行するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PROCESS (処理)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは、独立のプロセスとして動作します。

***THREAD (*スレッド)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは独立したスレッドとして実行されます。

このパラメーターは、CHLTYPE が *SDR、*SVR、*RQSTR、*CLUSDR、または *CLUSRCVR として定義されているチャンネルにのみ指定できます。

バッチ間隔 (BATCHINT)

チャンネルがバッチ・オープンを保持する最小時間 (ミリ秒) です。

次のどれでも最初に発生したらバッチは終了します: BATCHSZ メッセージが送信される、BATCHLIM バイトに到達する、または伝送キューが空で BATCHINT を超える。

デフォルト値は 0 であり、これは、伝送キューが空になった (または BATCHSZ 限度に達した) 時点でバッチが終了することを意味します。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、CHLTYPE が *SDR、*SVR、*CLUSDR、または *CLUSRCVR として定義されているチャンネルの場合に有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

batch-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

バッチ・サイズ (BATCHSIZE)

チェックポイントを通過する前にチャンネルを通じて送信できるメッセージの最大数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

batch-size

1 から 9999 の範囲の値を指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

切断間隔 (DSCITV)

切断間隔を指定します。これは、チャンネルをクローズする前に、そのチャンネルが伝送キューへのメッセージの書き込みを待機する最大秒数を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

disconnect-interval

0 から 999999 の範囲の値を指定します。

*RCVR、*RQSTR、または *CLTCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

短期再試行間隔 (SHORTTMR)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSDR、または *CLUSRCVR) の短期再試行待機間隔を指定します。これは、リモート・マシンへの接続の確立を次に試みるまでの間隔を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

short-retry-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

短期再試行カウント (SHORTRTY)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の短期再試行カウントを指定します。LONGRTY および LONGTMR (通常は長い方) が使用される前に、SHORTTMR で指定された間隔で、リモート・マシンへの接続の確立が試みられる最大回数を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

short-retry-count

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が許可されないことを意味します。

長期再試行間隔 (LONGTMR)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の長期再試行待機間隔を指定します。これは、SHORTRTY で指定したカウントがゼロになった後、リモート・マシンとの接続を確立するために試行を繰り返すときの間隔を、秒単位で定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

long-retry-interval

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

注: 実装上の理由により、使用できる最大再試行間隔は 999999 です。これより大きい値を指定しても、999999 として処理されます。

長期再試行カウント (LONGRTY)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の長期再試行カウントを指定します。SHORTRTY によって指定されたカウントが使い果たされた後に、LONGTMR によって指定された間隔で、リモート・マシンへの接続のために行われるそれ以降の試行の最大回数を定義します。定義された試行回数の後、接続が設立されない場合には、エラー・メッセージがログに記録されます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

長期再試行カウント

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が許可されないことを意味します。

セキュリティ出口 (SCYEXIT)

セキュリティ出口として呼び出されるプログラムの名前を指定します。非ブランク名が定義された場合には、出口は以下の時点で呼び出されます。

- チャンネルが確立された直後。

いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口には、セキュリティ・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。

- セキュリティ・メッセージ・フローへの応答を受信した時。

リモート・マシン上のリモート・プロセッサからセキュリティ・メッセージ・フローを受け取った場合、そのフローは出口に渡されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

セキュリティー出口プログラムは呼び出されません。

セキュリティー出口名

セキュリティー出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

セキュリティー出口 (CSCYEXIT)

クライアント・セキュリティー出口として呼び出されるプログラムの名前を指定します。非ブランク名が定義された場合には、出口は以下の時点で呼び出されます。

- ・チャンネルが確立された直後。

いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口には、セキュリティー・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。

- ・セキュリティー・メッセージ・フローへの応答を受信した時。

リモート・マシン上のリモート・プロセッサからセキュリティー・メッセージ・フローを受け取った場合、そのフローは出口に渡されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クライアント・セキュリティー出口プログラムは呼び出されません。

セキュリティー出口名

クライアント・セキュリティー出口プログラムの名前を指定します。

セキュリティー出口ユーザー・データ (SCYUSRDATA)

セキュリティー出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

セキュリティー出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

セキュリティー出口ユーザー・データ

セキュリティー出口のユーザー・データを指定します。

送信出口 (SNDEXIT)

送信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、出口が即時に起動され、その後データがネットワークに送り出されます。送信前に出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

送信出口プログラムは呼び出されません。

送信出口名

送信出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

送信出口 (CSNDEXIT)

クライアント送信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、出口が即時に起動され、その後データがネットワークに送り出されます。送信前に出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*NONE 値

クライアント送信出口プログラムは呼び出されません。

送信出口名

クライアント送信出口プログラムの名前を指定します。

送信出口ユーザー・データ (SNDUSRDATA)

送信出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*NONE 値

送信出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

送信出口ユーザー・データ

送信出口プログラムのユーザー・データを指定します。

受信出口 (RCVEXIT)

受信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、ネットワークから受信したデータが処理される前に出口が起動されます。ネットワークに送り出されます。出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*NONE 値

受信出口プログラムは呼び出されません。

受信出口名

受信出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

受信出口 (RCVEXIT)

クライアント受信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、ネットワークから受信したデータが処理される前に出口が起動されます。ネットワークに送り出されます。出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

クライアント受信出口プログラムは呼び出されません。

受信出口名

クライアント受信出口プログラムの名前を指定します。

受信出口ユーザー・データ (RCVUSRDATA)

受信出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

受信出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

受信出口ユーザー・データ

受信出口プログラムの最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

メッセージ出口 (MSGEXIT)

メッセージ出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、メッセージが伝送キューから取り出された後、出口が即時に起動されます。出口にアプリケーション・メッセージおよびメッセージ記述子全体が渡され、変更されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ出口プログラムは呼び出されません。

メッセージ出口名

メッセージ出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ出口ユーザー・データ (MSGUSRDATA)

メッセージ出口プログラムに渡されるユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

メッセージ出口ユーザー・データ

メッセージ出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行出口 (MSGRTYEXIT)

メッセージ再試行出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ再試行出口プログラムは呼び出されません。

メッセージ再試行出口名

メッセージ再試行出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行出口データ (MSGRTYDATA)

メッセージ再試行出口プログラムに渡されるユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ再試行出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

message-retry-exit-user-data

メッセージ再試行出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行回数 (MSGRTYNBR)

メッセージを配布できないと判断するまでチャンネルが再試行する回数を指定します。

チャンネルは、MSGRTYEXIT が *NONE として定義されている場合に、このパラメーターをメッセージ再試行出口の代替として使用します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

message-retry-number

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が実行されないことを示します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行間隔 (MSGRTYITV)

チャンネルが MQPUT 操作を再試行できようになるまでに経過する必要がある最小間隔 (時間) を指定します。この時間の単位はミリ秒です。

チャンネルは、MSGRTYEXIT が *NONE として定義されている場合に、このパラメーターをメッセージ再試行出口の代替として使用します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

message-retry-number

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、できるだけ早く再試行が実行されることを示します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメータを指定することはできません。

メッセージ変換 (CVTMSG)

メッセージを送信する前に、メッセージ内のアプリケーション・データを変換する必要があるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***YES**

メッセージ中のアプリケーション・データは送信前に変換されます。

***NO**

メッセージ中のアプリケーション・データは、送信前に変換されません。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメータを指定することはできません。

書き込み権限 (PUTAUT)

宛先キューにメッセージを書き込む権限を確立するために、メッセージに関連付けられたコンテキスト情報のユーザー ID を使用するかどうかを指定します。これは、受信側および要求側 (*CLUSRCVR、*RCVR、および *RQSTR) のチャンネルにのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***DFT**

メッセージを宛先キューに書き込む前に権限検査は行われません。

***CTX**

メッセージを書き込む権限を確立するために、メッセージ・コンテキスト情報のユーザー ID が使用されます。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメータを指定することはできません。

シーケンス番号の折り返し (SEQNUMWRAP)

最大メッセージ・シーケンス番号を指定します。最大値に到達すると、シーケンス番号は折り返して再度 1 から始まります。

注: 最大メッセージ・シーケンス番号は折衝可能ではありません。ローカル・チャンネルとリモート・チャンネルは、同じ番号で折り返す必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

sequence-number-wrap-value

100 から 999999999 の範囲の値を指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

最大メッセージ長 (MAXMSGLEN)

チャンネル上で送信可能な最大メッセージ長を指定します。この値は、リモート・チャンネルの値と比較され、実際の最大長は、2つの値のうちの小さいほうの値になります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

最大メッセージ長

0 から 104857600 の範囲の値を指定します。値 0 は、最大長が無制限であることを示します。

ハートビート間隔 (HRTBTINTVL)

伝送キューにメッセージがないときに、送信 MCA から渡されるハートビート・フロー間の時間 (秒数) を指定します。ハートビート交換は、受信 MCA にチャンネルを静止する機会を提供します。これは、送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側 (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、および *CLUSRCVR) チャンネルにのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

heart-beat-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、ハートビート交換が行われないことを意味します。

非永続メッセージ速度 (NPMSPEED)

チャンネルが高速非持続メッセージをサポートするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***FAST**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートします。

***NORMAL**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートしません。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

クラスター名 (CLUSTER)

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

このパラメーターは、*CLUSSDR チャンネルおよび *CLUSRCVR チャンネルの場合にのみ有効です。CLUSNL パラメーターが非ブランクの場合には、このパラメーターはブランクでなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

クラスター名は指定されません。

cluster-name

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

クラスター名リスト (CLUSNL)

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前です。

このパラメーターは、*CLUSDDR チャンネルおよび *CLUSRCVR チャンネルの場合にのみ有効です。CLUSTER パラメーターが非ブランクの場合には、このパラメーターはブランクでなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

クラスター名前リストは指定されません。

cluster-name-list

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前です。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

ネットワーク接続優先順位 (NETPRTY)

ネットワーク接続の優先順位。分散キューイングでは、使用可能な複数のパスがある場合、優先度が最も高いパスが選択されます。値は 0 から 9 の範囲内でなければなりません。0 が最低優先順位です。

このパラメーターは、*CLUSRCVR チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

network-connection-priority

0 から 9 の範囲の値を指定します。0 が最低優先順位です。

SSL 暗号仕様 (SSLCIPH)

SSLCIPH は、SSL チャンネル折衝で使用される暗号仕様を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

cipherspec

暗号仕様の名前です。

注: IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 2 以降、SSLv3 プロトコルおよびいくつかの IBM MQ CipherSpecs の使用が推奨されなくなりました。詳しくは、[非推奨 CipherSpecs](#) を参照してください。

SSL クライアント認証 (SSLCAUTH)

SSLCAUTH は、チャンネルがクライアント認証を SSL を介して実行するかどうかを指定します。パラメーターは、SSLCIPH が指定されたチャンネルにのみ使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***REQUIRED**

クライアント認証は必須です。

***オプション**

クライアント認証はオプションです。

*SDR、*CLTCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

SSL ピア名 (SSLPEER)

SSLPEER は、SSL チャンネル折衝で使用される X500 ピア名を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

この属性の値は変更されません。

x500peername

使用する X500 ピア名です。

注：SSL または TLS サブジェクト識別名との突き合わせによってチャンネルへの接続を制限する別の方法は、チャンネル認証レコードを使用することです。チャンネル認証レコードを使用すると、SSL または TLS のサブジェクト識別名のさまざまなパターンを同じチャンネルに適用することができます。チャンネルで SSLPEER が設定されており、かつチャンネル認証レコードが同じチャンネルに適用されている場合、接続するには、インバウンド証明書が両方のパターンと一致する必要があります。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照してください。

ローカル通信アドレス (LOCLADDR)

チャンネルのローカル通信アドレスを指定します。

このパラメーターは、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*NONE 値

接続はブランクです。

local-address

トランスポート・タイプ TCP/IP にのみ有効です。アウトバウンド TCP/IP 通信に使用するオプションの IP アドレスと、オプションのポートまたはポート範囲を指定してください。形式は次のとおりです。

```
LOCLADDR([ip-addr][ (low-port[,high-port]) ][, [ip-addr][ (low-port[,high-port]) ]])
```

バッチ・ハートビート間隔 (BATCHHB)

バッチ・ハートビートがこのチャンネルで発生するかどうかを決定するために使用される時間 (ミリ秒) です。バッチ・ハートビートを使用すると、チャンネルは、リモート・チャンネル・インスタンスが未確定になる前に、まだアクティブであるかどうかを判別できます。バッチ・ハートビートは、チャンネル MCA が指定の時間内にリモート・チャンネルと通信しなかった場合に発生します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

batch-heartbeat-interval

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。値 0 は、バッチ・ハートビートを使用しないことを示します。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

タスク・ユーザー ID (USERID)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、これを使用します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLTCN、または *CLUSDR であるチャンネルにのみ、このパラメーターは有効です。

属性の最大長は 12 文字ですが、最初の 10 文字のみが使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

ユーザー ID は指定されません。

ユーザー ID

タスク・ユーザー ID を指定します。

パスワード (PASSWORD)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、これを使用します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLTCN、または *CLUSDR であるチャンネルにのみ、このパラメーターは有効です。

属性の最大長は 12 文字ですが、最初の 10 文字のみが使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

パスワードは指定されません。

パスワード

パスワードを指定します。

キープアライブ間隔 (KAINT)

このチャンネルのキープアライブの時間間隔を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***AUTO**

キープアライブ間隔は、折衝されたハートビート値に基づいて次のように計算されます。

- 折衝された HBINT が 0 より大きい場合、キープアライブ間隔はその値プラス 60 秒に設定されます。
- 折衝された HBINT が 0 の場合、使用される値は TCP プロファイル構成データ・セットの KEEPALIVEOPTIONS ステートメントで指定された値です。

keep-alive-interval

0 から 99999 の範囲の値を指定します。

ヘッダー圧縮 (COMPHDR)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。

チャンネル・タイプが、送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続 (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN) の場合、指定された値は、使用中のチャンネルのリモート・エンドがサポートする圧縮技法を最優先とする順になっています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

***システム**

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

メッセージ圧縮 (COMPMSG)

チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。

チャンネル・タイプが、送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続 (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN) の場合、指定された値は、使用中のチャンネルのリモート・エンドがサポートする圧縮技法を最優先とする順になっています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

***RLE**

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

***ZLIBFAST**

zlib 圧縮手法を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。高速圧縮時間を推奨します。

***ZLIBHIGH**

zlib 圧縮手法を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。ハイレベル圧縮を推奨します。

***ANY**

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。このオプションは、受信側、要求側、およびサーバー接続 (*RCVR、*RQSTR、および *SVRCN) のチャンネル・タイプにのみ有効です。

チャンネル・モニター (MONCHL)

オンライン・モニター・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 MONCHL が *NONE に設定されていると、オンライン・モニター・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONCHL の設定から継承されます。

***OFF**

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集がオフに切り替わります。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *CLTCN の場合、このパラメーターを指定することはできません。

チャンネル統計 (STATCHL)

統計データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 STATCHL が *NONE に設定されていると、統計データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

統計データの収集は、キュー・マネージャー属性 STATCHL の設定に基づいて行われます。

***OFF**

このチャンネルの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

統計データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

クラスター・ワークロード・ランク (CLWLRANK)

チャンネルのクラスター・ワークロード・ランクを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-rank

チャンネルのクラスター・ワークロード・ランクで、範囲は 0 から 9 までです。

クラスター・ワークロード優先順位 (CLWLPRTY)

チャンネルのクラスター・ワークロード優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-priority

チャンネルのクラスター・ワークロード優先順位で、範囲は 0 から 9 までです。

クラスター・チャンネル・ウェイト (CLWLWGHT)

チャンネルのクラスター・ワークロード・ウェイトを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-weight

チャンネルのクラスター・ワークロード・ウェイトで、範囲は 1 から 99 までです。

共有会話 (SHARECNV)

特定の TCP/IP クライアント・チャンネル・インスタンス (ソケット) で共有できる会話の最大数を指定します。

このパラメーターは、CHLTYPE が *CLTCN または *SVRCN として定義されているチャンネルの場合に有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

0

TCP/IP ソケットで会話を共有しないように指定します。チャンネル・インスタンスは、以下の点に関して、IBM WebSphere MQ 7.0 より前のモードで稼働します。

- 管理者の停止と静止
- ハートビート中
- 先読み

1

TCP/IP ソケットで会話を共有しないように指定します。MQGET 呼び出しであるかどうかにかかわらず、クライアントのハートビートおよび先読みが可能であり、チャンネル静止がさらに制御しやすくなります。

shared-conversations

2 から 999999999 の範囲の、共有会話の数。

このパラメーターは、クライアント接続およびサーバー接続のチャンネルの場合にのみ有効です。

注: クライアント接続の SHARECNV 値がサーバー接続の SHARECNV 値と一致しない場合、2 つの値の小さいほうを使用されます。

プロパティー制御 (PROPCTL)

メッセージが V6 またはそれより前のキュー・マネージャー (プロパティー記述子の概念を理解しない キュー・マネージャー) に送信されるときに、メッセージのプロパティーに対して行われる処置を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*COMPAT

メッセージに接頭部が「mcd.」のプロパティーが含まれている場合、「jms.」、「usr.」または「mqext.」メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子 (または拡張) 内のメッセージ・プロパティーを除くすべてのオプション・メッセージ・プロパティーが、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

*NONE 値

メッセージのすべてのプロパティー (メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティーを除く) は、メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージから除去されます。

*ALL

メッセージのすべてのプロパティーは、メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送られるときに、そのメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張) に含まれているプロパティーを除くすべてのプロパティーが、メッセージ・データの 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

最大インスタンス (MAXINST)

このサーバー接続チャンネル・オブジェクトを介してキュー・マネージャーに同時に接続できるクライアントの最大数を指定します。

この属性はサーバー接続チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

maximum-instances

チャンネルの同時インスタンスの最大数で、範囲は 0 から 99999999 までです。

値 0 では、すべてのクライアント・アクセスができなくなります。現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回るまでこの値を削減すると、実行中のチャンネルは影響を受けませんが、十分な数の既存のインスタンスが実行を停止するまでは新規のインスタンスを開始できなくなります。

クライアントあたりの最大インスタンス (MAXINSTC)

単一のクライアントから開始可能な、個々のサーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数を指定します。

このコンテキストでは、同じリモート・ネットワーク・アドレスを起点とする複数のクライアント接続は 1 つのクライアントと見なされます。

この属性はサーバー接続チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

maximum-instances-per-client

単一のクライアントから開始可能な、チャンネルの同時インスタンスの最大数で、範囲は 0 から 99999999 までです。

値 0 では、すべてのクライアント・アクセスができなくなります。個々のクライアントから現在実行されているサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回るまでこの値を削減すると、実行中のチャンネルは影響を受けませんが、十分な数の既存のインスタンスが実行を停止するまでは新規のインスタンスを開始できなくなります。

クライアント・チャンネル・ウェイト (CLNTWGHT)

適切な定義を複数使用できる場合、加重に基づいてクライアント・チャンネル定義をランダムに選択できるように、クライアント・チャンネルの加重属性が使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

client-channel-weight

クライアント・チャンネル・ウェイト。0 から 99 までの範囲となります。

接続アフィニティー (AFFINITY)

チャンネル・アフィニティー属性を使用すると、同じキュー・マネージャー名を使用して複数回接続するクライアント・アプリケーションが、接続ごとに同じクライアント・チャンネル定義を使用するかどうかを選択できます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PREFERRED**

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を読み取るプロセス内の最初の接続は、加重に基づいて適用可能な定義のリストを作成します。これは先頭が適用可能な CLNTWGHT(0) 定義で、アルファベット順です。プロセス内の各接続は、リスト内の最初の定義を使用して接続を試行します。接続が失敗した場合は、次の定義が使用されます。失敗した非 CLNTWGHT(0) 定義は、リストの最後に移動されます。CLNTWGHT(0) 定義は、リストの先頭に残り、各接続の最初に選択されます。

***NONE 値**

CCDT を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。プロセス内のすべての接続は、加重に基づいて適用可能な定義を選択します。適用可能な CLNTWGHT(0) の定義を最初にアルファベット順に選択していきます。

バッチ・データ制限 (BATCHLIM)

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能なデータ量(キロバイト)の限度を指定します。限度に達した際のメッセージがチャンネルを通して送信された後に、同期点が取られます。この属性の値がゼロの場合、それはこのチャンネルに対するバッチに適用されるデータ限度がないことを意味します。

バッチは、次の条件のいずれかが満たされた場合に終了します。

- BATCHSZ メッセージが送信された。
- BATCHLIM バイトが送信された。
- 伝送キューが空で、BATCHINT が経過した。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 5000 です。

このパラメーターは、すべてのプラットフォームでサポートされています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

batch-data-limit

0 から 999999 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) にだけ指定できます。

デフォルトのクライアント再接続 (DFTRECON)

クライアント接続がクライアント・アプリケーションへの接続から切断した場合に、自動的に再接続するかどうかを指定します。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NO**

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続されません。

***YES**

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続します。

***QMGR**

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは、同じキュー・マネージャーに対してのみ自動的に再接続します。QMGR オプションは MQCNO_RECONNECT_Q_MGR と同じ効果があります。

***DISABLED**

MQCONNX MQI 呼び出しを使用してクライアント・プログラムによって要求された場合でも、再接続は無効になります。

このパラメーターは、クライアント接続チャンネル (CHLTYPE) *CLTCN で指定されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ リスナーのコピー (CPYMQMLSR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ リスナーのコピー (CPYMQMLSR) コマンドは、同じタイプの MQ リスナー定義を作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のリスナー定義と同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
FROMLSR	元リスナー	文字値	必須、キー、定位置 1
TOLSR	コピー先リスナー	文字値	必須、キー、定位置 2
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
REPLACE	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 4
TEXT	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 5
CONTROL	リスナー制御	*SAME 、 *MANUAL 、 *QMGR 、 *STARTONLY	オプション、定位置 6
PORT	ポート番号	0-65535、 *SAME	オプション、定位置 7
IPADDR	IP アドレス	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 8
BACKLOG	リスナー・バックログ	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 9

コピー元リスナー (FROMLSR)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存のリスナー定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-listener-name

ソース MQ リスナーの名前を指定します。

コピー先リスナー (TOLSR)

作成する新しいリスナー定義の名前を指定します。この名前には最大 48 文字まで入れることができます。

この名前のリスナー定義が既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

to-listener-name

作成する新しいリスナーの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

置換 (REPLACE)

新しいリスナー定義が、同じ名前の既存のリスナー定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

この定義は、同じ名前の既存のリスナー定義を置き換えません。指定されたリスナー定義が既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のリスナー定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

リスナー定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

リスナー制御 (CONTROL)

キュー・マネージャーが開始されたときに、リスナーを自動的に開始するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***MANUAL**

リスナーは自動的に開始されることも、停止されることもありません。

***QMGR**

キュー・マネージャーが開始するとリスナーも開始され、キュー・マネージャーが停止するとリスナーも停止されます。

***STARTONLY**

キュー・マネージャーが開始されるとリスナーも開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもリスナーが自動的に停止されることはありません。

ポート番号 (PORT)

リスナーが使用するポート番号です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

ポート番号

使用するポート番号です。

IP アドレス (IPADDR)

リスナーが使用する IP アドレスです。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

ip-addr

使用する IP アドレスです。

リスナー・バックログ (BACKLOG)

リスナーがサポートする同時接続要求の数です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

backlog

サポートされる同時接続要求の数です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 名前リストのコピー (CPYMQMNL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 名前リストのコピー (CPYMQMNL) コマンドは、MQ 名前リストをコピーします。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>FROMNL</u>	コピー元名前リスト	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>TONL</u>	コピー先名前リスト	文字値	必須、キー、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 3
<u>REPLACE</u>	置換	*NO、*YES	オプション、定位置 4
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、*SAME	オプション、定位置 5
<u>NAMES</u>	名前のリスト	値 (繰り返しは 256 回まで): 文字値、*BLANKS、*SAME、*NONE	オプション、定位置 6

コピー元名前リスト (FROMNL)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存の名前リストの名前を指定します。

from-namelist

ソース名前リストの名前を指定します。

コピー先名前リスト (TONL)

作成する新しい名前リストの名前です。この名前には最大 48 文字まで入れることができます。

この名前の名前リストが既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

to-namelist

作成する MQ 名前リストの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

置換 (REPLACE)

新しい名前リストによって同じ名前の既存の名前リストを置き換えるかどうかを指定します。

***NO**

既存の名前リストを置き換えません。指定された名前リストが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存の名前リストを置き換えます。同じ名前の名前リストがない場合は、新規の名前リストが作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

名前リストを簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

***SAME**

属性は変更されません。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

名前リスト (NAMES)

名前リスト。これは、作成する名前のリストです。どのタイプの名前でも指定できますが、MQ オブジェクトの命名規則に準拠していなければなりません。

***SAME**

属性は変更されません。

名前リスト

作成するリスト。空のリストも有効です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ プロセスのコピー (CPYMQMPRC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ プロセスのコピー (CPYMQMPRC) コマンドは、同じタイプの MQ プロセス定義を作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のプロセス定義と同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>FROMPRC</u>	コピー元プロセス	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>TOPRC</u>	コピー先プロセス	文字値	必須、キー、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
<u>REPLACE</u>	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 4
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 5
<u>APPTYPE</u>	アプリケーション・タイプ	整数、 *SAME 、 *CICS 、 *MVS 、 *IMS 、 *OS2 、 *DOS 、 *UNIX 、 *QMGR 、 *OS400 、 *WINDOWS 、 *CICS_VSE 、 *WINDOWS_NT 、 *VMS 、 *NSK 、 *VOS 、 *IMS_BRIDGE 、 *XCF 、 *CICS_BRIDGE 、 *NOTES_AGENT 、 *BROKER 、 *JAVA 、 *DQM	オプション、定位置 6
<u>APPID</u>	アプリケーション ID	文字値、 *SAME	オプション、定位置 7
<u>USRDATA</u>	ユーザー・データ	文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 8
<u>ENVDATA</u>	環境データ	文字値、 *SAME 、 *NONE	オプション、定位置 9

コピー元プロセス (FROMPRC)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存のプロセス定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-process-name

ソース MQ プロセスの名前を指定します。

コピー先プロセス (TOPRC)

作成する新しいプロセス定義の名前です。この名前には最大 48 文字まで入れることができます。

この名前のプロセス定義が既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

to-process-name

作成する MQ プロセスの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

置換 (REPLACE)

新しいプロセス定義が、同じ名前の既存のプロセス定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

この定義は、同じ名前の既存のプロセス定義を置き換えません。指定されたプロセス定義が既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のプロセス定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

プロセス定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

アプリケーション・タイプ (APPTYPE)

開始するアプリケーションのタイプ。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***CICS**

CICS/400 アプリケーションを表します。

***MVS**

MVS アプリケーションを表します。

***IMS**

IMS アプリケーションを表します。

***OS2**

OS/2 アプリケーションを表します。

***DOS**

DOS アプリケーションを表します。

***UNIX**

UNIX アプリケーションを表します。

***QMGR**

キュー・マネージャーを表します。

***OS400**

IBM i アプリケーションを表します。

***WINDOWS**

Windows アプリケーションを表します。

***CICS_VSE**

CICS/VSE アプリケーションを表します。

***WINDOWS_NT**

Windows NT アプリケーションを表します。

***VMS**

VMS アプリケーションを表します。

***NSK**

Tandem/NSK アプリケーションを表します。

***VOS**

VOS アプリケーションを表します。

***IMS_BRIDGE**

IMSブリッジ・アプリケーションを表します。

***XCF**

XCF アプリケーションを表します。

***CICS_BRIDGE**

CICS bridge アプリケーションを表します。

***NOTES_AGENT**

Lotus Notes アプリケーションを表します。

***BROKER**

ブローカー・アプリケーションを表します。

***JAVA**

Java アプリケーションを表します。

***DQM**

DQM アプリケーションを表します。

user-value

65536 から 999999999 の範囲のユーザー定義アプリケーション・タイプです。

アプリケーション ID (APPID)

アプリケーション ID。これは、コマンドを処理中のプラットフォームで開始されるアプリケーションの名前です。これは通常、プログラム名およびライブラリー名です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

application-id

最大長は 256 文字です。

ユーザー・データ (USRDATA)

APPID で定義されている、開始するアプリケーションに属しているユーザー情報を含む文字ストリングです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

ユーザー・データはブランクです。

user-data

128 文字までのユーザー・データを指定します。

環境データ (ENVDATA)

APPID で定義されている、開始するアプリケーションに属している環境情報を含む文字ストリングです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

環境データはブランクです。

environment-data

最大長は 128 文字である。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ キューのコピー (CPYMQMQ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ キューのコピー (**CPYMQMQ**) コマンドは、同じタイプのキュー定義を作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のキュー定義と同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>FROMQ</u>	コピー元キュー名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>TOQ</u>	コピー先キュー名	文字値	必須、キー、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
<u>QTYPE</u>	キュー・タイプ	文字値	オプション、定位置 4
<u>REPLACE</u>	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 5
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 6
<u>PUTENBL</u>	PUT 可能	*SAME 、 *NO 、 *YES	オプション、定位置 7
<u>DFTPTY</u>	デフォルトのメッセージ優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 8

キーワード	説明	選択	注
DFTMSGPST	デフォルトのメッセージ持続性	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 9
PRCNAME	プロセス名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 10
TRGENBL	トリガー発行可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 11
GETENBL	GET 可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 12
SHARE	共用可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 13
DFTSHARE	デフォルト共用オプション	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 14
MSGDLYSEQ	メッセージ・デリバリー・シーケンス	*SAME 、*PTY、*FIFO	オプション、定位置 15
HDNBKTCNT	バックアウト・カウントのハード化	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 16
TRGTYPE	トリガー・タイプ	*SAME 、*FIRST、*ALL、*DEPTH、*NONE	オプション、定位置 17
TRGDEPTH	トリガー項目数	1-999999999、 *SAME	オプション、定位置 18
TRGMSGPTY	トリガー・メッセージ優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 19
TRGDATA	トリガー・データ	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 20
RTNITV	保存間隔	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 21
MAXDEPTH	キューの最大長	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 22
MAXMSGLEN	最大メッセージ長	0-104857600、 *SAME	オプション、定位置 23
BKTTHLD	バックアウトしきい値	0-999999999、 *SAME	オプション、定位置 24
BKTQNAME	バックアウト・リキュー名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 25
INITQNAME	開始キュー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 26
USAGE	使用法	*SAME 、*NORMAL、*TMQ	オプション、定位置 27
DFNTYPE	定義タイプ	*SAME 、*TEMPDYN、*PERMDYN	オプション、定位置 28
TGTQNAME	ターゲット・オブジェクト	文字値、 *SAME	オプション、定位置 29
RMTQNAME	リモート・キュー	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 30
RMTMQMNAME	リモート・メッセージ・キュー・マネージャー	文字値、 *SAME	オプション、定位置 31
TMQNAME	伝送キュー	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 32
HIGHTHLD	キュー項目数の高しきい値	0-100、 *SAME	オプション、定位置 33
LOWTHLD	キュー項目数の低しきい値	0-100、 *SAME	オプション、定位置 34

キーワード	説明	選択	注
FULLEVT	キュー・フル・イベント可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 35
HIGHEVT	キュー高イベント可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 36
LOWEVT	キュー低イベント可能	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 37
SRVITV	サービス・インターバル	0-9999999999、 *SAME	オプション、定位置 38
SRVEVT	サービス・インターバル・イベント	*SAME 、*HIGH、*OK、*NONE	オプション、定位置 39
DISTLIST	配布リスト・サポート	*SAME 、*NO、*YES	オプション、定位置 40
CLUSTER	クラスター名	文字値、 *SAME 、*NONE	オプション、定位置 41
CLUSNL	クラスター名リスト	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 42
DEFBIND	デフォルトのバインディング	*SAME 、*OPEN、*NOTFIXED、*GROUP	オプション、定位置 43
CLWLRANK	CLUSTER WORKLOAD ランク	0-9、 *SAME	オプション、定位置 44
CLWLPRTY	CLUSTER WORKLOAD 優先順位	0-9、 *SAME	オプション、定位置 45
CLWLUSEQ	クラスター・ワークロード・キューの使用	*SAME 、*QMGR、*LOCAL、*ANY	オプション、定位置 46
MONQ	キュー・モニター	*SAME 、*QMGR、*OFF、*LOW、*MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 47
STATQ	キュー統計	*SAME 、*QMGR、*OFF、*ON	オプション、定位置 48
ACCTQ	キュー・アカウンティング	*SAME 、*QMGR、*OFF、*ON	オプション、定位置 49
NPMCLASS	非持続メッセージ・クラス	*SAME 、*NORMAL、*HIGH	オプション、定位置 50
MSGREADAHD	メッセージの先読み	*SAME 、*DISABLED、*NO、*YES	オプション、定位置 51
DFTPUTRESP	デフォルトの Put 応答	*SAME 、*SYNC、*ASYN	オプション、定位置 52
PROPCTL	プロパティ制御	*SAME 、*COMPAT、*NONE、*ALL、*FORCE、*V6COMPAT	オプション、定位置 53
TARGTYPE	ターゲット・タイプ	*SAME 、*QUEUE、*TOPIC	オプション、定位置 54
CUSTOM	カスタム属性	文字値、*BLANK、 *SAME	オプション、定位置 55
CLCHNAME	クラスター送信側チャンネル名	文字値、*NONE、 *SAME	オプション、定位置 56

コピー元キュー名 (FROMQ)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存のキュー定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-queue-name

ソース・キューの名前を指定します。

コピー先キュー名 (TOQ)

新しいキュー定義の名前を指定します。この名前には最大 48 文字まで入れることができます。キュー名とタイプの組み合わせは固有でなければなりません。名前とタイプが新しいキューと同じであるキュー定義が既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

注: フィールド長は 48 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

to-queue-name

作成されるキューの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・タイプ (QTYPE)

コピーされるキューのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALS**

別名キュー。

***LCL**

ローカル・キュー。

***RMT**

リモート・キュー。

***MDL**

モデル・キュー。

置換 (REPLACE)

新規キューが、同じ名前およびタイプの既存のキュー定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

既存のキュー定義を置き換えません。指定されたキューが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

FROMQ の属性および、指定した属性を持つ既存のキュー定義を置き換えます。

アプリケーションにキューのオープンがある場合、または USAGE 属性が変更された場合、コマンドは失敗します。

注: キューがローカル・キューであり、同じ名前のキューが既に存在する場合、そのキューに既に存在するメッセージはすべて保持されます。

テキスト '記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

Put 可能 (PUTENBL)

メッセージをキューに書き込むことができるかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

メッセージをキューに追加することはできません。

***YES**

メッセージを許可アプリケーションによってキューに追加できます。

デフォルトのメッセージ優先順位 (DFTPTY)

キューに書き込まれるメッセージのデフォルト優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。9 が最高位の優先順位です。

デフォルトのメッセージ持続性 (DFTMSGPST)

キュー上のメッセージ持続性のデフォルトを指定します。メッセージ持続性によって、メッセージがキュー・マネージャーの再開後も保持されるかどうかが決まります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

デフォルトでは、メッセージはキュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

***YES**

デフォルトでは、メッセージはキュー・マネージャーの再始動の際に保存されます。

プロセス名 (PRCNAME)

トリガー・イベント発生時に開始する必要があるアプリケーションを識別する MQ プロセスのローカル名を指定します。

このプロセスは、キューの作成時に使用可能になっている必要はありませんが、トリガー・イベントを起こさせるには使用可能になっている必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

プロセス名はブランクです。

process-name

MQ プロセスの名前を指定します。

トリガー可能 (TRGENBL)

トリガー・メッセージを開始キューに書き込むかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

トリガーは使用可能ではありません。トリガー・メッセージは開始キューに書き込まれません。

***YES**

トリガーは使用可能です。トリガー・メッセージは開始キューに書き込まれます。

Get 可能 (GETENBL)

アプリケーションが、このキューからメッセージを取得できるようにするのかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

アプリケーションはキューからメッセージを検索できません。

***YES**

適切な許可アプリケーションが、キューからメッセージを検索できます。

共有可能 (SHARE)

アプリケーションの複数インスタンスが、このキューを入力用に同時にオープンできるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

単一のアプリケーション・インスタンスのみがキューを入力用にオープンできます。

***YES**

複数のアプリケーション・インスタンスが、キューを入力用にオープンできます。

デフォルト共有オプション (DFTSHARE)

このキューを入力用にオープンしているアプリケーションに対するデフォルト共有オプションを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

デフォルトでは、オープン要求は入力用のキューの排他使用です。

***YES**

デフォルトでは、オープン要求は入力用のキューの共用使用です。

メッセージ・デリバリー・シーケンス (MSGDLYSEQ)

メッセージ・デリバリー・シーケンスを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PTY**

メッセージは、優先順位の中でファースト・イン・ファースト・アウト(FIFO)順に送達されます。

***FIFO**

メッセージは、優先順位と無関係にファースト・イン・ファースト・アウト(FIFO)の順で配信されます。

バックアウト・カウントのハード化 (HDNBKTCNT)

バックアウトされたメッセージのカウントをメッセージ・キュー・マネージャーの再始動を越えて保管（ハード化）するかどうかを指定します。

注: IBM MQ for IBM i では、この属性の設定とは無関係に、カウントが常にハード化されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

バックアウト・カウントはハード化されません。

***YES**

バックアウト・カウントはハード化されます。

トリガー・タイプ (TRGTYPE)

トリガー・イベントを開始する条件を指定します。条件が満たされると、トリガー・メッセージが開始キューに送信されます。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***FIRST**

キュー上のメッセージの数が 0 から 1 になった時。

***ALL**

メッセージがキューに到着するたび。

***DEPTH**

キュー上のメッセージ数が TRGDEPTH 属性の値と等しくなった時。

***NONE 値**

トリガー・メッセージは書き込まれません。

トリガー項目数 (TRGDEPTH)

TRIGTYPE(*DEPTH)の場合に、開始キューへのトリガー・メッセージを開始するメッセージの数を指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

depth-value

1 から 999999999 の範囲の値を指定します。

トリガー・メッセージ優先順位 (TRGMSGPTY)

メッセージがトリガー・イベントを作成し、カウントされることを可能にするために必要なメッセージの優先順位を指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。9 が最高位の優先順位です。

トリガー・データ (TRGDATA)

キュー・マネージャーがトリガー・メッセージに組み込む最高 64 文字までのユーザー・データを指定します。このデータは、開始キューを処理するモニター・アプリケーション、およびそのモニターによって開始されたアプリケーションに対して使用可能になります。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

トリガー・データは指定されません。

trigger-data

最高 64 文字までの文字を、アポストロフィで囲んで指定します。伝送キューの場合には、このパラメーターを使用して、開始するチャンネルの名前を指定することができます。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

保存間隔 (RTNITV)

保存間隔を指定します。この間隔は、キューの作成日時に基づいた、そのキューが必要とすると見なされる時間数です。

この情報は、ハウスキーピング・アプリケーションまたは操作員に対するもので、キューがもはや必要でなくなる時点を判別するために使用することができます。

注: メッセージ・キュー・マネージャーは、キューを削除することも、保存間隔が満了していないキューが削除されるのを防止することもしません。必要な処置を取ることはユーザーの責任です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

interval-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

キューの最大長 (MAXDEPTH)

このキューで許可されるメッセージの最大数を指定します。ただし、キューは他の要素によって、満杯として取り扱われることがあります。例えば、メッセージ用に使用可能な記憶域がない場合には、満杯であるように見えます。

注: この値が CHGMQMQ コマンドを使用することによって後ほど削減された場合、キューにあるメッセージは、新しい最大値を超過しても変更されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

depth-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

最大メッセージ長 (MAXMSGLEN)

キュー上のメッセージの最大長を指定します。

注: この値が CHGMQMQ コマンドを使用することによって後ほど削減された場合、キューにあるメッセージは新しい最大長を超過しても変更されません。

アプリケーションは、この属性の値を使用して、キューからメッセージを検索するために必要なバッファのサイズを判別することができます。したがって、この値を変更するのは、これがアプリケーションの誤った操作の原因とならないことが判明している場合だけです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

length-value

0 から 100 MB の範囲の値をバイト数で指定します。デフォルトは 4 MB です。

バックアウトしきい値 (BKTTHLD)

バックアウトしきい値を指定します。

WebSphere Application Server 内部で実行しているアプリケーション、および IBM MQ Application Server Facilities を使用するアプリケーションは、この属性を使用して、メッセージをバックアウトする必要があるかどうかを判別します。その他のすべてのアプリケーションでは、キュー・マネージャーは、この属性を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいてアクションを取ることはありません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

threshold-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

バックアウト・リキュー名 (BKTQNAME)

バックアウト・キュー名を指定します。

WebSphere Application Server 内部で実行しているアプリケーション、および IBM MQ Application Server Facilities を使用するアプリケーションは、この属性を使用して、バックアウトされているメッセージの宛先を判別します。その他のすべてのアプリケーションでは、キュー・マネージャーは、この属性を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいてアクションを取ることはありません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

バックアウト・キューは指定されません。

backout-queue-name

バックアウト・キュー名を指定します。

開始キュー (INITQNAME)

開始キューの名前を指定します。

注: 開始キューは、メッセージ・キュー・マネージャーの同じインスタンス上になければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

開始キューは指定されません。

initiation-queue-name

開始キュー名を指定します。

使用法 (USAGE)

キューが通常使用のためのものか、あるいはリモート・メッセージ・キュー・マネージャーへのメッセージの送信用のものであるかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NORMAL**

通常使用です。(キューは伝送キューではありません)

***TMQ**

このキューは、リモート・メッセージ・キュー・マネージャーを宛先とするメッセージを保持するために使用される伝送キューです。伝送キュー名が明示的に指定されていない状況でこのキューを使用しようとする場合には、そのキュー名がリモート・メッセージ・キュー・マネージャーの名前と同じでなければなりません。詳細については、「IBM MQ 相互通信」の資料を参照してください。

定義タイプ (DFNTYPE)

オブジェクト記述子に指定されたこのモデル・キューの名前でアプリケーションが MQOPEN API 呼び出しを出した時に作成される動的キュー定義のタイプを指定します。

注: このパラメーターは、モデル・キュー定義にのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***TEMPDYN**

一時動的キューが作成されます。この値は、*YES の DEFMSGPST 値と一緒に指定しないようにしてください。

***PERMDYN**

永続動的キューが作成されます。

ターゲット・オブジェクト (TGTQNAME)

このキューが別名となっているオブジェクトの名前を指定します。

オブジェクトは、ローカルまたはリモートのキュー、トピック、またはメッセージ・キュー・マネージャーとすることができます。

注: ターゲット・オブジェクトは、この時点で存在している必要はありませんが、プロセスで別名キューのオープンが試行される時点では存在していなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

target-object-name

ターゲット・オブジェクトの名前を指定します。

リモート・キュー (RMTQNAME)

リモート・キューの名前を指定します。これは、RMTMQMNAME によって指定されたキュー・マネージャーに定義されたものと同じリモート・キューのローカル名です。

この定義がキュー・マネージャーの別名定義に使用される場合には、オープンが行なわれる時に RMTQNAME はブランクになっていなければなりません。

応答先キュー別名でこの定義が使用される場合には、この名前は、応答先キューとなるキューの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

リモート・キュー名は指定されません (すなわち、名前はブランクです)。これは、定義がキュー・マネージャーの別名定義である場合に使用することができます。

remote-queue-name

リモート・キュー・マネージャーでのキューの名前を指定します。

注: この名前に指定された文字が、通常キュー名として使用できる文字だけであるかどうかは検査されません。

リモート・メッセージ・キュー・マネージャー (RMTMQMNAME)

キュー RMTQNAME が定義されるリモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。

リモート・キューのローカル定義がアプリケーションでオープンされる場合は、RMTMQMNAME として接続キュー・マネージャーの名前を指定してはなりません。TMQNAME がブランクの場合は、この名前のローカル・キューが存在していなければなりません。このキューが伝送キューとして使用されます。

この定義をキュー・マネージャーの別名に使用した場合、RMTMQMNAME がキュー・マネージャーの名前であり、これを接続キュー・マネージャーの名前にすることができます。それ以外の場合、TMQNAME がブランクであるときには、キューのオープン時に、USAGE(*TMQ) が指定された、この名前のローカル・キューが存在している必要があります。このキューが伝送キューとして使用されます。

応答先キュー別名でこの定義が使用される場合には、この名前は、応答先キュー・マネージャーとなるキュー・マネージャーの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

リモート・キュー・マネージャー名

リモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。

注: この名前には、必ずキュー・マネージャー名に通常許可されている文字だけが含まれるようにしてください。

伝送キュー (TMQNAME)

リモート・キューかキュー・マネージャーの別名のいずれかの定義の場合に、リモート・キューへ向けられるメッセージに使用される伝送キューのローカル名を指定します。

TMQNAME がブランクの場合には、RMTMQMNAME と同じ名前のキューが伝送キューとして使用されます。

この定義がキュー・マネージャーの別名として使用されていて、接続キュー・マネージャーの名前が RMTMQMNAME である場合には、この属性は無視されます。

また、この定義が応答先キュー別名定義として使用されている場合にも、これは無視されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

このリモート・キューに特定の伝送キュー名は定義されません。この属性の値は、すべてブランクに設定されます。

伝送キュー名

伝送キュー名を指定します。

キュー項目数の高しきい値 (HIGHTHLD)

「キュー項目数高」イベントを生成するためにキュー項目数を比較する対象のしきい値を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

threshold-value

0 から 100 の範囲の値を指定します。この値は、キューの最大長 (MAXDEPTH パラメーター) パーセンテージとして使用されます。

キュー項目数の低しきい値 (LOWTHLD)

「キュー項目数低」イベントを生成するためにキュー項目数を比較する対象のしきい値を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

threshold-value

0 から 100 の範囲の値を指定します。この値は、キューの最大長 (MAXDEPTH パラメーター) パーセンテージとして使用されます。

キュー・フル・イベント可能 (FULLEVT)

「キュー・フル」イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

「キュー・フル」 イベントは生成されません。

***YES**

キュー・フル・イベントが生成されます。

キュー高イベント可能 (HIGHEVT)

「キュー項目数高」 イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

「キュー項目数高」 イベントは生成されません。

***YES**

「キュー項目数高」 イベントが生成されます。

キュー低イベント可能 (LOWEVT)

「キュー項目数低」 イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

「キュー項目数低」 イベントは生成されません。

***YES**

「キュー項目数低」 イベントが生成されます。

サービス間隔 (SRVITV)

サービス間隔を指定します。この間隔は、「サービス間隔高」 イベントおよび「サービス間隔 OK」 イベントを生成するための比較に使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

interval-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。この値は、ミリ秒単位です。

サービス間隔イベント (SRVEVT)

「サービス・インターバル高」 イベントまたは「サービス・インターバル OK」 イベントが生成されるかどうかを指定します。

「サービス・インターバル高」 イベントは、少なくとも SRVITV パラメーターで示された時間内には、キューからメッセージは検索されていないことが検査で示された場合に生成されます。

「サービス・インターバル OK」 イベントは、検査で、SRVITV パラメーターによって指示された時間内にキューからメッセージが検索されたことが示された場合に生成されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***HIGH**

「サービス・インターバル高」 イベントが生成されます。

***OK**

「サービス・インターバル OK」 イベントが生成されます。

***NONE 値**

サービス・インターバル・イベントは生成されません。

配布リスト・サポート (DISTLIST)

キューが配布リストをサポートするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NO**

キューは配布リストをサポートしません。

***YES**

キューは配布リストをサポートします。

クラスター名 (CLUSTER)

キューが属するクラスターの名前です。

このパラメーターの変更は、既に開いているキューの インスタンスには影響しません。

動的キュー、伝送キュー、SYSTEM.CHANNEL.XX、SYSTEM.CLUSTER.XX または SYSTEM.COMMAND.XX キューには、このパラメーターは設定できません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-name

CLUSTER または CLUSNL の結果値のいずれか一方のみを非ブランクにする ことができますが、両方に値を指定することはできません。

クラスター名リスト (CLUSNL)

そのキューが属しているクラスターのリストを指定する、名前リストの名前です。このパラメーターの変更は、既に開いているキューの インスタンスには影響しません。

動的キュー、伝送キュー、SYSTEM.CHANNEL.XX、SYSTEM.CLUSTER.XX または SYSTEM.COMMAND.XX キューには、このパラメーターは設定できません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

namelist-name

CLUSTER または CLUSNL の結果値のいずれか一方のみを非ブランクにする ことができますが、両方に値を指定することはできません。

デフォルト・バインディング (DEFBIND)

MQOPEN 呼び出しでアプリケーションが MQOO_BIND_AS_Q_DEF を指定し、キューがクラスター・キューである時に、使用するバインドを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***OPEN**

キューのオープン時に、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。

***NOTFIXED**

キュー・ハンドルは、クラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされません。これによりキュー・マネージャーは、MQPUT を使用してメッセージが書き込まれたときに特定のキュー・インスタンスを選択することができ、その後必要に応じてその選択を変更することができます。

MQPUT1 呼び出しは、常に NOTFIXED が指定されているかのように機能します。

***グループ**

キューがオープンされる際、メッセージ・グループにメッセージがある限り、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。メッセージ・グループのすべてのメッセージは、同じ宛先インスタンスに割り振られます。

クラスター・ワークロード・ランク (CLWLRANK)

キューのクラスター・ワークロード・ランクを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-rank

0 から 9 の範囲の値を指定します。

クラスター・ワークロード優先順位 (CLWLPRTY)

キューのクラスター・ワークロード優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

cluster-workload-priority

0 から 9 の範囲の値を指定します。

クラスター・ワークロード・キューの使用 (CLWLUSEQ)

ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の振る舞いを指定します。PUT がクラスター・チャンネルから発信される場合にはこの属性は適用されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***QMGR**

キュー・マネージャー CLWLUSEQ 属性からの値が継承されます。

***LOCAL (ローカル)**

ローカル・キューは、MQPUT のただ 1 つの宛先です。

***ANY**

キュー・マネージャーは、ワークロード分散の目的でこうしたローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして扱います。

キュー・モニター (MONQ)

オンライン・モニター・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 MONQ が*NONE に設定されると、オンライン・モニター・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*QMGR

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONQ の設定から継承されます。

*OFF

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフに切り替えられます。

*LOW

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

*MEDIUM

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

*HIGH

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

キュー統計 (STATQ)

統計データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 STATQ が*NONE に設定されると、オンライン・モニター・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*QMGR

統計データ収集は、キュー・マネージャー属性 STATQ の設定に基づきます。

*OFF

このキューの統計データ収集はオフに切り替えられます。

*ON

このキューの統計データ収集はオンに切り替えられます。

キュー・アカウントリング (ACCTQ)

アカウント・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 ACCTQ が*NONE に設定されると、アカウント・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*QMGR

アカウント・データ収集は、キュー・マネージャー属性 ACCTQ の設定に基づきます。

*OFF

このキューのアカウント・データ収集はオフに切り替えられます。

*ON

このキューのアカウント・データ収集はオンに切り替えられます。

非持続メッセージ・クラス (NPMCLASS)

このキューに書き込まれる非持続メッセージの信頼性のレベルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NORMAL**

このキューに書き込まれる非持続メッセージが失われるのは、障害またはキュー・マネージャー・シャットダウンの後だけです。このキューに書き込まれる非持続メッセージは、キュー・マネージャーの再始動時に廃棄されます。

***HIGH**

このキューに書き込まれる非持続メッセージは、キュー・マネージャーの再始動時には廃棄されません。しかし、障害が発生すると、このキューに書き込まれる非持続メッセージは失われる可能性があります。

メッセージの先読み (MSGREADAHD)

非持続メッセージがアプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***DISABLED**

先読みは、このキューでは使用不可になっています。先読みがクライアント・アプリケーションによって要求されているかどうかに関係なく、アプリケーションが要求するよりも前にメッセージがクライアントに送られることはありません。

***NO**

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られません。クライアントが異常終了した場合に失われる非持続メッセージは、最大で1つだけです。

***YES**

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られます。クライアントが異常終了する場合、またはクライアント・アプリケーションが送られたメッセージすべてをコンシュームしない場合は、非持続メッセージが失われることがあります。

デフォルトの Put 応答 (DFTPUTRESP)

デフォルトの PUT 応答タイプ(DFTPUTRESP)属性は、アプリケーションが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF オプションを指定するときに、MQPUT および MQPUT1 呼び出しに必要な応答のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***SYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。これは IBM MQ に用意されたデフォルト値ですが、ご使用のインストール環境では変更されている可能性があります。

***ASYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、常に、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO の一部のフィールドはキュー・マネージャーによってアプリケーションに戻されませんが、トランザクションに書き込まれたメッセージや非持続メッセージのパフォーマンスに向上が見られる場合があります。

プロパティ制御 (PROPCTL)

MQGMO_PROPERTIES_AS_Q_DEF オプションが指定された場合に、MQGET 呼び出しを使用してキューから取り出すメッセージのプロパティに何が生じるかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*COMPAT

メッセージに mcd.、jms.、usr.、または mqext. という接頭部を持つプロパティがある場合、メッセージのプロパティはすべて MQRFH2 ヘッダー内のアプリケーションに配信されます。それ以外の場合、メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるものを除くメッセージのプロパティはすべて廃棄され、アプリケーションにアクセスできなくなります。

*NONE 値

メッセージ記述子 (または拡張) に含まれているものを除き、メッセージのすべてのプロパティは廃棄され、アプリケーションから アクセス可能ではなくなります。

*ALL

メッセージのすべてのプロパティ (メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるものを除く) は、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに含まれます。

*FORCE

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

*V6COMPAT

*V6COMPAT を設定する場合は、MQPUT により解決されるキュー定義および MQGET により解決されるキュー定義、両方のいずれかのキュー定義に設定する必要があります。これは、介在するその他すべての伝送キューにも設定する必要があります。これにより MQRFH2 ヘッダーが、変更されずに送信側アプリケーションから受信側アプリケーションに渡されます。これは、キュー名解決チェーン内で検出される他の **PROPCTL** の設定をオーバーライドします。プロパティがクラスター・キューに設定されると、その設定が他のキュー・マネージャー上にローカルでキャッシュされることはありません。
*V6COMPAT はクラスター・キューに解決される別名キューに設定する必要があります。書き込みアプリケーションが接続されているキュー・マネージャーと同じキュー・マネージャーに別名キューを定義します。

ターゲット・タイプ (TARGTYPE)

別名が解決されて生じるオブジェクトのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*キュー

キュー・オブジェクト。

*TOPIC

トピック・オブジェクト。

カスタム属性 (CUSTOM)

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。現在は、*CUSTOM* に対する有意義な値がないため、空のままにしてください。

指定できる値は以下のとおりです。

*SAME

属性は変更されません。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

custom

1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

CLCHNAME

このパラメーターは、伝送キューでのみサポートされます。

*SAME

属性は変更されません。

*NONE 値

属性は削除されます。

クラスター送信側チャンネル名

ClusterChannelName は、このキューを伝送キューとして使用するクラスター送信側チャンネルの総称名です。この属性は、このクラスター伝送キューからクラスター受信側チャンネルにメッセージを送信するクラスター送信側チャンネルを指定します。

アスタリスク "*" を **ClusterChannelName** に指定することにより、伝送キューをクラスター送信側チャンネルのセットに関連付けることができます。アスタリスクはチャンネル名ストリングの先頭、末尾、またはそれ以外の場所に任意の数だけ使用できます。**ClusterChannelName** の長さは 20 文字までに制限されています (MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH)。

MQ サブスクリプションのコピー (CPYMQMSUB)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ サブスクリプションのコピー (CPYMQMSUB) コマンドは、同じタイプの MQ サブスクリプションを作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のサブスクリプションと同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>FROMSUBID</u>	元サブスクリプション ID	文字値、 *SAME	オプション、キー、定位置 3
<u>FROMSUB</u>	元サブスクリプション	文字値、 *SAME	オプション、キー、定位置 2
<u>TOSUB</u>	対象サブスクリプション	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 4
<u>REPLACE</u>	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 5
<u>TOPICSTR</u>	トピック・ストリング	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 6
<u>TOPICOBJ</u>	トピック・オブジェクト	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 7
<u>DEST</u>	Destination	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 8
<u>DESTMQM</u>	宛先キュー・マネージャー	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 9

キーワード	説明	選択	注
DESTRRLID	宛先相関 ID	文字値、*NONE、* SAME	オプション、定位置 10
PUBACCT	パブリッシュ・アカウント・トークン	文字値、*NONE、* SAME	オプション、定位置 11
PUBAPPID	パブリッシュ APPL ID	文字値、*NONE、* SAME	オプション、定位置 12
SUBUSER	サブスクリプション・ユーザー ID	文字値、*CURRENT、* SAME	オプション、定位置 13
USERDATA	サブスクリプション・ユーザー・データ	文字値、*NONE、* SAME	オプション、定位置 14
SELECTOR	セレクター・ストリング	文字値、*NONE、* SAME	オプション、定位置 15
PSPROP	PubSub プロパティ	* SAME 、*NONE、*COMPAT、*RFH2、*MSGPROP	オプション、定位置 16
DESTCLASS	宛先クラス	* SAME 、*MANAGED、*PROVIDED	オプション、定位置 17
SUBSCOPE	サブスクリプション有効範囲	* SAME 、*ALL、*QMGR	オプション、定位置 18
VARUSER	変数ユーザー	* SAME 、*ANY、*FIXED	オプション、定位置 19
REQONLY	要求パブリケーション	* SAME 、*YES、*NO	オプション、定位置 20
PUBPTY	パブリッシュ優先度	0-9、* SAME 、*AS PUB、*ASQDEF	オプション、定位置 21
WSHEMA	ワイルドカード・スキーマ	* SAME 、*CHAR、*TOPIC	オプション、定位置 22
EXPIRY	有効期限時刻	0-9999999999、* SAME 、*UNLIMITED	オプション、定位置 23

コピー元サブスクリプション ID (FROMSUBID)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存のサブスクリプションのサブスクリプション ID を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-subscription-identifier

24 バイトのサブスクリプション ID を表す 48 文字 16 進数ストリングを指定します。

コピー元サブスクリプション (FROMSUB)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存のサブスクリプションの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-subscription-name

最大で 256 バイトのサブスクリプション名を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

コピー先サブスクリプション (TOSUB)

作成する新しいサブスクリプションの名前です。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

この名前のサブスクリプションが既に存在している場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。
指定できる値は以下のとおりです。

to-subscription-name

最大で 256 バイトの、作成する MQ サブスクリプションの名前を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

置換 (REPLACE)

新しいサブスクリプションが、同じ名前の既存のサブスクリプションを置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

このサブスクリプションは、同じ名前またはサブスクリプション ID の既存のサブスクリプションを置き換えません。サブスクリプションが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のサブスクリプションを置き換えます。同じ名前のサブスクリプションも、同じサブスクリプション ID のサブスクリプションもない場合には、新規のサブスクリプションが作成されます。

トピック・ストリング (TOPICSTR)

このサブスクリプションに関連付けられたトピック・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-string

最大で 256 バイトのトピック・ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超えるトピック・ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

トピック・オブジェクト (TOPICOBJ)

このサブスクリプションに関連付けられたトピック・オブジェクトを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

topic-object

トピック・オブジェクトの名前を指定します。

宛先 (DEST)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キューを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

destination-queue

宛先キューの名前を指定します。

宛先キュー・マネージャー (DESTMQM)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャーを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

宛先キュー・マネージャーは指定されません。

destination-queue

宛先キュー・マネージャーの名前を指定します。

宛先相関 ID (DESTRRLID)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの相関 ID を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージは、MQCI_NONE の相関 ID で宛先に置かれます。

相関 ID

24 バイトの相関 ID を表す 48 文字 16 進数ストリングを指定します。

パブリッシュ・アカウンティング・トークン (PUBACCT)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのアカウンティング・トークンを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

メッセージは、MQACT_NONE のアカウンティング・トークンで宛先に置かれます。

publish-accounting-token

32 バイトのパブリッシュ・アカウンティング・トークンを表す 64 文字 16 進数ストリングを指定します。

パブリッシュ・アプリケーション ID (PUBAPPID)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのパブリッシュ・アプリケーション ID を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

パブリッシュ・アプリケーション ID は指定されません。

publish-application-identifier

パブリッシュ・アプリケーション ID を指定します。

サブスクリプション・ユーザー ID (SUBUSER)

このサブスクリプションを所有するユーザー・プロファイルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***CURRENT**

現在のユーザー・プロファイルが新しいサブスクリプションの所有者です。

user-profile

ユーザー・プロファイルを指定します。

サブスクリプション・ユーザー・データ (USERDATA)

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

ユーザー・データは指定されません。

user-data

最大で 256 バイトのユーザー・データを指定します。

注: 256 バイトを超えるユーザー・データは、MQSC を使用して指定できます。

セクター・ストリング (SELECTOR)

指定されたトピックでパブリッシュされるメッセージに適用して、それらがこのサブスクリプションに適合かどうかを選択するための、SQL 92 セクター・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

選択ストリングは指定されません。

selection-string

最大で 256 バイトの選択ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超える選択ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

PubSub プロパティ (PSPROP)

パブリッシュ/サブスクライブに関連したメッセージ・プロパティが、このサブスクリプションに送られるメッセージに追加される方法を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、このメッセージに追加されません。

***COMPAT**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、IBM MQ V6.0 のパブリッシュ/サブスクライブとの互換性を維持するために、メッセージに追加されます。

***RFH2**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、RFH バージョン 2 のヘッダーとしてメッセージに追加されます。

***MSGPROP**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、メッセージ・プロパティとして追加されます。

宛先クラス (DESTCLASS)

これが管理対象サブスクリプションかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***MANAGED**

宛先は管理対象。

***PROVIDED**

宛先はキュー。

サブスクリプション有効範囲 (SUBSCOPE)

このサブスクリプションを他のブローカーに(プロキシ・サブスクリプションとして)転送して、サブスクライバーがそれら他のブローカーでパブリッシュされたメッセージを受け取るようにするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ALL**

サブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブの集合または階層で直接接続された、すべてのキュー・マネージャーに転送されます。

***QMGR**

サブスクリプションは、このキュー・マネージャー内のトピックでパブリッシュされたメッセージだけを転送します。

可変ユーザー (VARUSER)

サブスクリプションの作成者以外のユーザー・プロファイルが、(トピックおよび宛先権限検査に従って)そのサブスクリプションに接続可能かどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ANY**

すべてのユーザー・プロファイルがサブスクリプションに接続できます。

***FIXED**

サブスクリプションを作成したユーザー・プロファイルのみが、そのサブスクリプションに接続できます。

要求パブリケーション (REQONLY)

サブスクライバーが MQSUBRQ API を介して更新のためにポーリングするかどうかや、すべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに送信されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***YES**

パブリケーションは、MQSUBRQ API に対する応答としてのみ、このサブスクリプションに送信されます。

***NO**

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。

パブリッシュの優先順位 (PUBPTY)

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***AS PUB**

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位は、パブリッシュされたメッセージに指定された優先順位から得られます。

***AS QDEF**

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位は、宛先として定義されるキューのデフォルトの優先順位から得られます。

priority-value

0 から 9 の範囲の優先順位を指定します。

ワイルドカード・スキーマ (WSCHEMA)

トピック・ストリング内のワイルドカード文字の解釈に使用されるスキーマを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***TOPIC**

ワイルドカード文字はトピック階層の部分を表します。

***CHAR**

ワイルドカード文字はストリングの一部を表します。

有効期限時刻 (EXPIRY)

サブスクリプションの有効期限時刻を指定します。サブスクリプションは、有効期限時刻を経過すると、キュー・マネージャーによって廃棄される対象となり、以降パブリッシュを受信しません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***UNLIMITED**

サブスクリプションは満了しません。

expiry-time

有効期限時刻を 0.1 秒単位で、0 から 999999999 の範囲で指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ サービスのコピー (CPYMQMSVC)

実行可能な場所:	スレッド・セーフ:
すべての環境 (*ALL)	Yes

MQ サービスのコピー (CPYMQMSVC) コマンドは、同じタイプの MQ サービス定義を作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のサービス定義と同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
FROMSVC	元サービス	文字値	必須、キー、定位置 1
TOSVC	対象サービス	文字値	必須、キー、定位置 2
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
REPLACE	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 4
TEXT	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 5
STRCMD	プログラムを開始	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 6
	修飾子 1: 開始プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
STRARG	開始プログラム実引数	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 7
ENDCMD	終了プログラム	単一値: *SAME 、 *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 8
	修飾子 1: 終了プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
ENDARG	終了プログラム実引数	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 9
STDOUT	標準出力	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 10
STDERR	標準エラー	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 11
TYPE	サービス・タイプ	*SAME 、 *CMD 、 *SVR	オプション、定位置 12
CONTROL	サービス制御	*SAME 、 *MANUAL 、 *QMGR 、 *STARTONLY	オプション、定位置 13

コピー元サービス (FROMSVC)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存のサービス定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-service-name

ソース・サービスの名前を指定します。

コピー先サービス (TOSVC)

作成する新しいサービス定義の名前です。この名前には最大 48 文字まで入れることができます。

この名前のサービス定義が既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

to-service-name

作成するサービスの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

置換 (REPLACE)

新しいサービス定義が、同じ名前の既存のサービス定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

この定義は、同じ名前の既存のサービス定義を置き換えません。指定されたサービス定義が既に存在している場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のサービス定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

サービス定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

開始プログラム (STRCMD)

実行するプログラムの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

start-command

実行可能な開始コマンドの名前。

開始プログラム実引数 (STRARG)

開始時にプログラムに渡される引数。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

開始コマンドに引数は渡されません。

start-command-arguments

開始コマンドに渡される引数。

終了プログラム (ENDCMD)

サービスの停止が要求されると実行する実行可能プログラムの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

終了コマンドは実行されません。

end-command

実行可能な終了コマンドの名前。

終了プログラム実引数 (ENDARG)

サービスが停止を要求されるときに、終了プログラムに渡される引数。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

引数は終了コマンドに渡されません。

end-command-arguments

終了コマンドに渡される引数。

標準出力 (STDOUT)

サービス・プログラムの標準出力が転送されるファイルへのパス。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

標準出力は廃棄されます。

stdout-path

標準出力パス。

標準エラー (STDERR)

サービス・プログラムの標準エラーが転送されるファイルのパス。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

標準エラーは廃棄されます。

stderr-path

標準エラー・パス。

サービス・タイプ (TYPE)

サービスを実行するモード。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***CMD**

開始時にコマンドは実行されますが、状況は収集されることも表示されることもありません。

***SVR**

開始された実行可能プログラムの状況がモニターおよび表示されます。

サービス制御 (CONTROL)

キュー・マネージャー開始時にサービスを自動的に開始するかどうか。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***MANUAL**

サービスは自動的に開始または停止されます。

***QMGR**

キュー・マネージャーの開始、停止に応じて、サービスも開始、停止されます。

***STARTONLY**

キュー・マネージャーが開始されるとサービスも開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスが停止を要求されることはありません。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ トピックのコピー (CPYMQMTOP)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ トピックのコピー (CPYMQMTOP) コマンドは、同じタイプの MQ トピック・オブジェクトを作成します。コマンドに指定されていない属性については、既存のトピック・オブジェクトと同じ属性値を使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
FROMTOP	コピー元トピック	文字値	必須、キー、定位置 1
TOTOP	対象トピック	文字値	必須、キー、定位置 2
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
REPLACE	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 4
TEXT	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 5
TOPICSTR	トピック・ストリング	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 6
DURSUB	永続サブスクリプション	*SAME 、 *ASPARENT 、 *YES 、 *NO	オプション、定位置 7
MGDDURMDL	永続的モデル・キュー	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 8
MGDNDURMDL	非永続的モデル・キュー	文字値、 *NONE 、 *SAME	オプション、定位置 9
PUBENBL	パブリッシュ	*SAME 、 *ASPARENT 、 *YES 、 *NO	オプション、定位置 10
SUBENBL	サブスクライブ	*SAME 、 *ASPARENT 、 *YES 、 *NO	オプション、定位置 11
DFTPTY	デフォルトのメッセージ優先順位	0-9、 *SAME 、 *ASPARENT	オプション、定位置 12
DFTMSGPST	デフォルトのメッセージ持続性	*SAME 、 *ASPARENT 、 *YES 、 *NO	オプション、定位置 13
DFTPUTRESP	デフォルトの Put 応答	*SAME 、 *ASPARENT 、 *SYNC 、 *ASYN	オプション、定位置 14
WILDCARD	ワイルドカードの動作	*SAME 、 *PASSTHRU 、 *BLOCK	オプション、定位置 15
PMSGDLV	持続メッセージ送達	*SAME 、 *ASPARENT 、 *ALL 、 *ALLDUR 、 *ALLAVAIL	オプション、定位置 16
NPMSGDLV	非持続メッセージ送達	*SAME 、 *ASPARENT 、 *ALL 、 *ALLDUR 、 *ALLAVAIL	オプション、定位置 17
CUSTOM	カスタム属性	文字値、 *BLANK 、 *SAME	オプション、定位置 18

コピー元トピック (FROMTOP)

このコマンドに指定されていない属性の値を提供する、既存のトピック・オブジェクトの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-topic-name

ソース MQ トピックの名前を指定します。

コピー先トピック (TOTOP)

作成する新しいトピック・オブジェクトの名前です。この名前には最大 48 文字まで入れることができます。

この名前のトピック・オブジェクトが既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。
指定できる値は以下のとおりです。

to-topic-name

作成する MQ トピックの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

置換 (REPLACE)

新しいトピック・オブジェクトが、同じ名前の既存のトピック・オブジェクトを置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

このオブジェクトは、同じ名前の既存のトピック・オブジェクトを置き換えません。指定されたトピック・オブジェクトが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のトピック・オブジェクトを置き換えます。同じ名前をもつオブジェクトがない場合には、新規のオブジェクトが作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

トピック・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

トピック・ストリング (TOPICSTR)

このトピック・オブジェクト定義によって表されるトピック・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-string

最大で 256 バイトのトピック・ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超えるトピック・ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

永続サブスクリプション (DURSUB)

アプリケーションがこのトピックに対して永続サブスクリプションを行うことが許可されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASAPARENT**

このトピックに対して永続サブスクリプションを作成できるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

永続サブスクリプションはこのノードで作成可能です。

***NO**

永続サブスクリプションはこのノードで作成不可です。

永続的モデル・キュー (MGDDURMDL)

キュー・マネージャーに対してパブリケーションの宛先の管理を要求する、永続サブスクリプションに使用するモデル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

durable-model-queue

モデル・キューの名前を指定します。

非永続的モデル・キュー (MGDNDURMDL)

キュー・マネージャーに対してパブリケーションの宛先の管理を要求する、非永続サブスクリプションに使用するモデル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

non-durable-model-queue

モデル・キューの名前を指定します。

パブリッシュ (PUBENBL)

トピックに対してメッセージをパブリッシュできるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASAPARENT**

このトピックに対してメッセージをパブリッシュできるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

トピックに対してメッセージをパブリッシュできます。

***NO**

メッセージはトピックに対してパブリッシュ不可。

サブスクライブ (SUBENBL)

アプリケーションがこのトピックに対するサブスクライブを許可されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASAPARENT**

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

このトピックに対するサブスクリプションを作成できます。

***NO**

アプリケーションは、このトピックにサブスクライブできません。

デフォルトのメッセージ優先順位 (DFTPTY)

トピックに対してパブリッシュされたメッセージのデフォルトの優先度を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASAPARENT**

デフォルトの優先順位は、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。

デフォルトのメッセージ持続性 (DFTMSGPST)

アプリケーションで MQPER_PERSISTENCE_AS_TOPIC_DEF オプションが指定されている場合に使用するメッセージ持続性を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASAPARENT**

デフォルトの持続性は、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

***NO**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

デフォルトの Put 応答 (DFTPUTRESP)

アプリケーションが MQPMQ_RESPONSE_AS_Q_DEF オプションを指定するときに、MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しに必要な応答のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASAPARENT**

デフォルトの応答タイプは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***SYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。

***ASYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、常に、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドの一部は、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されません。トランザクションに入れられるメッセージまたは非持続メッセージで、パフォーマンスが改善されることがあります。

ワイルドカードの性質 (WILDCARD)

このトピックに関連したワイルドカード・サブスクリプションの動作を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***PASSTHRU**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーションと、より特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションとを受け取ることになります。

***BLOCK**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーション、またはより特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションを受け取りません。

持続メッセージの配信 (PMSGDLV)

このトピックにパブリッシュされた持続メッセージの配信手段を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

***ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLDUR**

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの持続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLAVAIL**

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

非持続メッセージ送達 (NMSGDLV)

このトピックにパブリッシュされた非持続メッセージの配信手段を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***ASPCARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

***ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLDUR**

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの永続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLAVAIL**

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

カスタム属性 (CUSTOM)

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。現在は、CUSTOM に対する有意味な値がないため、空のままにしてください。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

custom

1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Create Message Queue Manager (CRTMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

メッセージ・キュー・マネージャーの作成 (CRTMQM) コマンドは、メッセージ・キュー・マネージャーの開始 (STRMQM) コマンドで開始できるローカル・キュー・マネージャーを作成します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1
TEXT	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK	オプション、定位置 2
TRGITV	トリガー間隔	0-999999999、 999999999	オプション、定位置 3
UDLMSGQ	未配布メッセージ・キュー	文字値、 *NONE	オプション、定位置 4
DFTTMQ	デフォルト伝送キュー	文字値、 *NONE	オプション、定位置 5
MAXHDL	最大ハンドル限界	0-999999999、 256	オプション、定位置 6
MAXUMSG	最大未コミット・メッセージ	1-999999999、 10000	オプション、定位置 7
DFTQMGR	デフォルト・キュー・マネージャー	*YES 、 *NO	オプション、定位置 8
MQMLIB	QUEUE MANAGER ライブラリー	<i>Name</i> 、 *AUTO	オプション、定位置 9
MQMDIRP	データ・ディレクトリー接頭部	文字値、 *DFT	オプション、定位置 10
ASP	ASP 番号	1-32、 *SYSTEM 、 *ASPDEV	オプション、定位置 11
ASPDEV	ASP 装置	文字値、 *ASP	オプション、定位置 12
THRESHOLD	ジャーナル・レシーバーしきい値	100000-10000000000、 *DFT 、 *MIN 、 *MAX	オプション、定位置 13
JRNBUSIZ	ジャーナル・バッファ・サイズ	32000-15761440、 *DFT	オプション、定位置 14

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

テキスト '記述' (TEXT)

キュー・マネージャーの定義の概略を記述するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***BLANK**

テキストを指定しない。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

トリガー間隔 (TRGITV)

TRGTYPE(*FIRST) が指定されたキューで使用されるトリガー時間間隔 (ミリ秒で表す) を指定します。

キューにメッセージが到着するとトリガー・メッセージが開始キューに書き込まれる場合は、指定されたインターバル内に同一キューに到着するすべてのメッセージによって別のトリガー・メッセージは開始キューに書き込まれません。

指定できる値は以下のとおりです。

999999999

トリガー時間間隔は 999999999 ミリ秒です。

interval-value

0 から 999999999 までの範囲の値をミリ秒で指定します。

未配布メッセージ・キュー (UDLMSGQ)

未配布メッセージに使用されるローカル・キューの名前を指定します。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

未配布メッセージ・キューはありません。この属性はブランク・ストリングに設定されます。

undelivered-message-queue-name

未配布メッセージ・キューとして使用されるローカル・キューの名前を指定します。

デフォルト伝送キュー (DFTTMQ)

デフォルト伝送キューとして使用されるローカル伝送キューの名前を指定します。リモート・キュー・マネージャーに送信されるメッセージは、その宛先として伝送キューが定義されていない場合デフォルトの伝送キューに書き込まれます。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

デフォルトの伝送キューはありません。この属性はブランク・ストリングに設定されます。

default-transmission-queue-name

デフォルト伝送キューとして使用されるローカル伝送キューの名前を指定します。

最大ハンドル限度 (MAXHDL)

任意の 1 つのジョブが同時にオープンできるハンドルの最大数です。

指定できる値は以下のとおりです。

256

オープン・ハンドル数のデフォルトは 256 です。

maximum-handle-limit

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

最大非コミット・メッセージ数 (MAXUMSG)

非コミット・メッセージの最大数を指定します。具体的には、以下の数を示します。

- 検索可能なメッセージの数
- キューに書き出しできるメッセージの数
- この作業単位内で生成されたトリガー・メッセージの数

これらは、1 つの同期点でのものです。この限界は、同期点の外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには当てはまりません。

指定できる値は以下のとおりです。

10000

デフォルト値は 10000 個のコミットされていないメッセージである。

maximum-uncommitted-messages

1 から 999999999 の範囲内で値を指定する。

デフォルト・キュー・マネージャー (DFTQMGR)

作成されるキュー・マネージャーが、デフォルト・キュー・マネージャーかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

キュー・マネージャーはデフォルト・キュー・マネージャーになりません。

***YES**

キュー・マネージャーはデフォルト・キュー・マネージャーになります。

キュー・マネージャー・ライブラリー (MQMLIB)

キュー・マネージャーが使用するライブラリーを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***AUTO**

キュー・マネージャーが使用するライブラリーは自動的に選択されます。

ライブラリー名

キュー・マネージャーが使用するライブラリーを指定します。

データ・ディレクトリー接頭部 (MQMDIRP)

キュー・マネージャーが使用するデータ・ディレクトリー接頭部を指定します。キュー・マネージャーは、データ・ファイル (主に、キューに格納されるメッセージ・データ) を保管するためのディレクトリーをここに作成します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのデータ・ディレクトリー接頭部は '/QIBM/UserData/mqm' です。

ディレクトリー接頭部

キュー・マネージャーによって使用されるデータ・ディレクトリー接頭部を指定します。このディレクトリー接頭部が指す場所は、ローカル・ディスク・プールのファイル・システム、またはネットワーク・ファイル・システム (NFS) のどちらでも可能です。

データ・ディレクトリー接頭部を適切に設定することにより、独立した補助ストレージ・プールにキュー・マネージャー・ディレクトリーを配置できます。例えば MQMDIRP('/MYASPDEV/QIBM/UserData/mqm/qmgrs') と指定すると、MYASPDEV 装置にキュー・マネージャー・データが保管されます。

ASP および ASPDEV パラメーターを設定することにより、独立した補助ストレージ・プールにキュー・マネージャー・ライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーを配置できます。

独立した補助ストレージ・プールをシステム間で切り替えて、キュー・マネージャーの可用性を高くすることができます。高可用性を実現するためのキュー・マネージャーの構成については、IBM MQ 資料を参照してください。

ASP 番号 (ASP)

システムがキュー・マネージャーのライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーのための記憶域の割り振りに使用する補助ストレージ・プールを指定します。

このパラメーターで示される補助ストレージ・プールは、統合ファイル・システム (IFS) に格納されるキュー・マネージャー・データ・ファイル用には使用されないことに注意してください。キュー・マネージャーのデータ・ファイルを特定の補助ストレージ・プールに割り振るには、MQMDIRP パラメーターを参照してください。

指定できる値は以下のとおりです。

*** システム**

システム補助ストレージ・プール (ASP 1) が、キュー・マネージャーのライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーのための記憶域を提供します。

***ASPDEV**

キュー・マネージャーのライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーのための記憶域は、ASPDEV パラメーターで指定された 1 次または 2 次 ASP から割り振られます。

補助記憶域プール番号

キュー・マネージャーのライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーのための記憶域を提供するシステムまたは基本ユーザー ASP の番号を指定する値 (1 から 32 の範囲内の値) を指定します。

独立した補助ストレージ・プールをシステム間で切り替えて、キュー・マネージャーの可用性を高くすることができます。高可用性を実現するためのキュー・マネージャーの構成については、IBM MQ 資料を参照してください。

ASP 装置 (ASPDEV)

キュー・マネージャーのライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバー用に記憶域が割り振られる補助ストレージ・プール (ASP) の装置名を指定します。

このパラメーターで示される補助ストレージ・プールの装置名は、統合ファイル・システム (IFS) に格納されるキュー・マネージャー・データ・ファイル用には使用されないことに注意してください。キュー・マネージャーのデータ・ファイルを特定の補助ストレージ・プールに割り振るには、MQMDIRP パラメーターを参照してください。

指定できる値は以下のとおりです。

***ASP**

キュー・マネージャーのライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーのための記憶域は、ASP パラメーターで指定されたシステムまたは基本ユーザー ASP から割り振られます。

装置名

1 次または 2 次 ASP 装置の名前を指定します。キュー・マネージャーのライブラリー、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーのための記憶域は、1 次または 2 次 ASP から割り振られます。(ASP 装置をオンに変更することで) 1 次または 2 次 ASP が既にアクティブ化され、使用可能な状態でなければなりません。

独立した補助ストレージ・プールをシステム間で切り替えて、キュー・マネージャーの可用性を高くすることができます。高可用性を実現するためのキュー・マネージャーの構成については、IBM MQ 資料を参照してください。

ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)

キュー・マネージャーのジャーナル・レシーバーのしきい値をキロバイトで指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトしきい値の 100000 KB を使用します。

threshold-value

記憶域のキロバイト (KB) を示す値を 100000 から 1000000000 の範囲内で指定します。各 1000 KB は 1024000 バイトの記憶スペースを指定します。ジャーナル・レシーバー用のスペースのサイズがこの値で指定されたサイズを超えると、識別されたメッセージ・キュー (該当する場合) にメッセージが送られ、ジャーナリングが続行されます。

ジャーナル・バッファー・サイズ (JRNBUSIZ)

ジャーナル・バッファー・サイズをバイト数で指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・ジャーナル・バッファー・サイズの 32000 バイトを使用します。

ジャーナル・バッファー・サイズ

32000 以上 15761440 以下の範囲の値をバイト数で指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 認証情報オブジェクトの作成 (CRTMQMAUTI)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 認証情報オブジェクトの作成 (CRTMQMAUTI) コマンドは、新しい認証情報オブジェクトを作成し、システム・デフォルトとは異なる属性を指定します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>AINAME</u>	認証情報名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	必須、キー、定位置 2
<u>AUTHTYPE</u>	認証情報タイプ	*CRLLDAP, *OCSP, *IDPWOS, *IDPWLDAP	必須、キー、定位置 3
<u>CONNAME</u>	接続名	文字値、*SYSDFTAI	オプション、定位置 4
<u>REPLACE</u>	置換	*NO、*YES	オプション、定位置 5
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、*SYSDFTAI、*NONE	オプション、定位置 6
<u>USERNAME</u>	ユーザー名	文字値、*SYSDFTAI、*NONE	オプション、定位置 7
<u>PASSWORD</u>	ユーザー・パスワード	文字値、*SYSDFTAI、*NONE	オプション、定位置 8
<u>OCSPURL</u>	OCSP 応答側 URL	文字値、*SAME	オプション、定位置 9
<u>CHCKCLNT</u>	認証検査が必要です。	*ASQMGR, *REQUIRED, *REQADM	オプション、定位置 10
<u>CHCKLOCL</u>	認証検査が必要です。	*NONE、*OPTIONAL、*REQUIRED、*REQADM	オプション、定位置 11
<u>FAILDELAY</u>	障害の遅延	整数値	オプション、定位置 12

キーワード	説明	選択	注
BASEDNU	ベース・ユーザー DN	文字値、 *SAME	オプション、定位置 13
ADOPTCTX	コンテキスト採用	整数値	オプション、定位置 14
CLASSUSR	LDAP オブジェクト・クラス	文字値、 *SAME	オプション、定位置 15
SHORTUSR	短いユーザー名	文字値、 *SAME	オプション、定位置 16
USRFIELD	ユーザー・フィールド	文字値、 *SAME	オプション、定位置 17
SECCOMM	LDAP 通信	文字値、 *SAME	オプション、定位置 18
AUTHORMD	許可方式	文字値、 *OS *SEARCHGRP *SEARCHUSR	オプション、定位置 19
BASEDNG	グループのベース DN	文字値、 *SAME	オプション、定位置 20
CLASSGRP	グループのオブジェクト・クラス	文字値、 *SAME	オプション、定位置 21
FINDGRP	グループ・メンバーシップを検索する属性	文字値、 *SAME	オプション、定位置 22
GRPFIELD	グループの単純名	文字値、 *SAME	オプション、定位置 23
NESTGRP	グループ・ネスティング	*NO *YES	オプション、定位置 24
  AUTHENMD	認証方式	*OS 変更不可	オプション、定位置 25

認証情報名 (Ainame)

作成する新しい認証情報オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

authentication-information-name

認証情報オブジェクトの名前を指定します。最大ストリング長は 48 文字です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

コンテキストの採用 (ADOPTCTX)

提供された資格情報をこのアプリケーションのコンテキストとして使用するかどうか。これは、この資格情報が許可検査に使用され、管理画面に表示され、メッセージに出現することを意味します。

YES

パスワードにより妥当性検査が正常に行われた、MQCSP 構造内に示されたユーザー ID は、このアプリケーションに使用するコンテキストとして採用されます。したがって、このユーザー ID は、IBM MQ リソースの使用許可として確認される資格情報となります。

指定されたユーザー ID が LDAP ユーザー ID であり、オペレーティング・システムのユーザー ID を使用して許可検査が行われる場合は、LDAP のユーザー・エントリーに関連付けられている SHORTUSR が実行される許可検査の資格情報として採用されます。

NO

認証は MQCSP 構造内のユーザー ID とパスワードに対して実行されますが、資格情報が将来の使用のために採用されることはありません。許可は、アプリケーションが実行されているユーザー ID を使用して実行されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWOS および *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

認証方式 (AUTHENMD)

▶ V 8.0.0.3

このアプリケーションで使用される認証方式。

*OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

***OS** は認証方式を設定する目的でのみ使用できます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWOS の場合にのみ有効です。

許可方式 (AUTHORMD)

▶ V 8.0.0.2

アプリケーションで使用される許可方式。

*OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

これは IBM MQ が以前処理していた方法であり、デフォルト値になります。

*SEARCHGRP

LDAP リポジトリのグループ項目に、そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性が含まれます。メンバーシップは、FINDGRP で定義されている属性によって示されます。この値は通常 *member* または *uniqueMember* です。

*SEARCHUSR

LDAP リポジトリのユーザー項目に、指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性が含まれます。照会対象の属性は、FINDGRP 値 (通常、*memberOf*) によって定義されます。

多くの LDAP サーバーはグループ・メンバーシップの判別にグループ・オブジェクトの属性を使用するため、この値を *SEARCHGRP* に設定する必要があります。

Microsoft Active Directory は通常、グループ・メンバーシップをユーザー属性として保管します。IBM Tivoli Directory Server は両方のメソッドをサポートします。

一般に、ユーザー属性によってメンバーシップを取得する方が、ユーザーをメンバーとしてリストするグループを検索するよりも高速です。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

認証情報タイプ (AUTHTYPE)

認証情報オブジェクトのタイプです。デフォルト値はありません

指定できる値は以下のとおりです。

*CRLLDAP

認証情報オブジェクトのタイプは CRLLDAP です。

*OCSP

認証情報オブジェクトのタイプは OCSPURL です。

***IDPWOS**

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、オペレーティング・システムを使用して実行されます。

***IDPWLDAP**

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。

グループのベース DN (BASEDNG)

V 8.0.0.2

グループ名を検出できるようにするために、このパラメーターを基本 DN とともに設定して、LDAP サーバー内でグループを検索する必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

ベース・ユーザー DN (BASEDNU)

短いユーザー名属性 (**SHORTUSR** を参照) を検出できるようにするために、このパラメーターに基本 DN を設定して、LDAP サーバー内で検索できるようにする必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

クライアント検査 (CHCKCLNT)

ローカルでバインドされたすべての接続で接続認証検査が必要とされるか、MQCSP 構造でユーザー ID とパスワードが提供される場合にのみ検査されるか。

これらの属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWOS** または ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

***ASQMGR**

接続が許可されるには、キュー・マネージャーで定義されている接続認証要件を満たしている必要があります。CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供され、CHCKCLNT の値が ***REQUIRED** である場合、有効なユーザー ID およびパスワードが指定されない限り、接続は失敗します。CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供されない、または CHCKCLNT の値が ***REQUIRED** ではない場合、ユーザー ID およびパスワードは必要ありません。

***REQUIRED**

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

***REQDADM**

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定する必要がありますが、非特権ユーザーは ***OPTIONAL** 設定と同じように扱われます。

ローカル検査 (CHCKLOCL)

ローカルでバインドされたすべての接続で接続認証検査が必要とされるか、MQCSP 構造でユーザー ID とパスワードが提供される場合にのみ検査されるか。

これらの属性は、**AUTHTYPE** が ***IDPWOS** または ***IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

***NONE**

検査をオフにします。

***OPTIONAL**

アプリケーションからユーザー ID とパスワードが提供された場合、それらが有効なペアであることを確認します。ただし、それらの提供は必須ではありません。このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

***REQUIRED**

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

*REQDADM

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定する必要がありますが、非特権ユーザーは *OPTIONAL 設定と同じように扱われます。

クラス・グループ (CLASSGRP)

V 8.0.0.2 LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

この値がブランクの場合には、**groupOfNames** が使用されます。

他に通常使用される値には、*groupOfUniqueNames* や *group* があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

クラス・ユーザー (CLASSUSR)

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

ブランクの場合、値は通常必要とされる値である *inetOrgPerson* にデフォルト設定されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

接続名 (CONNAME)

オプションのポート番号を持つ、LDAP サーバーが稼働しているホストの DNS 名または IP アドレス。デフォルトのポート番号は 389 です。DNS 名または IP アドレスにデフォルトはありません。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です (必須である場合)。

IDPWLDAP 認証情報オブジェクトとともに使用する場合は、接続名のコンマ区切りのリストにすることができます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTAI

接続名は、SYSTEM.DEFAULT.AUTHINFO.CRLLDAP 内のシステム・デフォルト値に設定されます。

接続名

オプションのポート番号を持つ、ホストの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを指定します。最大ストリング長は 264 文字です。

障害の遅延 (FAILDELAY)

接続認証にユーザー ID とパスワードが提供されたものの、そのユーザー ID またはパスワードが誤っていたために認証が失敗する場合、失敗がアプリケーションに戻される前に、ここで指定した秒数の遅延が生じます。

これは、失敗を受信した後に、アプリケーションが単純に再試行を繰り返してビジー・ループになるのを回避するのに役立ちます。

値は 0 から 60 秒の範囲でなければなりません。デフォルト値は 1 です。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWOS および *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループ・メンバーシップ属性 (FINDGRP)

V 8.0.0.2 グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前。

AUTHORMD = SEARCHGRP の場合、この属性は、通常、*member* または *uniqueMember* に設定されます。

AUTHORMD = SEARCHUSR の場合、この属性は、通常、*memberOf* に設定されます。

ブランクのままにした場合、キュー・マネージャーは **AUTHORMD** の設定に応じて、*member* または *memberOf* を使用します。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループの単純名 (GRPFIELD)

▶ V 8.0.0.2

値がブランクの場合、setmqaut のようなコマンドはグループの修飾名を使用する必要があります。値は完全な識別名、または単一の属性のいずれかにできます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

グループ・ネスティング (NESTGRP)

▶ V 8.0.0.2

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

最初に見つかったグループのみが、許可の対象となります。

*YES

ユーザーが属するグループすべてを列挙するために、グループ・リストは再帰的に検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

OCSP 応答側 URL (OCSPURL)

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。これは、OCSP 応答側のホスト名とポート番号を含む HTTP URL でなければなりません。OCSP 応答側がポート 80 を使用する場合 (これは HTTP のデフォルトです)、ポート番号は省略できます。

このフィールドは OCSP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTAI

OCSP 応答側 URL は、SYSTEM.DEFAULT.AUTHINFO.OCSP のシステム・デフォルト値に設定されます。

OCSP-Responder-URL

OCSP 応答側 URL です。最大ストリング長は 256 文字です。

置換 (REPLACE)

同じ名前の認証情報オブジェクトが既に存在している場合に、その定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

この定義は、同じ名前の既存の認証情報オブジェクトを置き換えません。指定された認証情報オブジェクトが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

*YES

既存の認証情報オブジェクトを置き換えます。指定された認証情報オブジェクトが存在しない場合は、新しいオブジェクトが作成されます。

セキュア・コマンド (SECCOMM)

LDAP サーバーへの接続が SSL/TLS を使用して安全に行われる必要があるかどうか

YES

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用して安全に行われます。

使用される証明書は、キュー・マネージャーのデフォルトの証明書で、キュー・マネージャー・オブジェクトで CERTLABL と指定されているか、それがブランクである場合は、デジタル証明書ラベルの要件に関する説明に記載されているものです。

証明書は、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに置かれます。暗号仕様は、IBM MQ サーバーと LDAP サーバーの両方でサポートされるものとなるようネゴシエーションされます。

キュー・マネージャーが SSLFIPS(YES) または SUITEB 暗号仕様を使用するよう構成されている場合、これは LDAP サーバーへの接続において同様に考慮されます。

ANON

LDAP サーバーへの接続は、SECCOMM(YES) と同様に SSL/TLS を使用して安全に行われますが、違いが 1 つあります。

証明書は LDAP サーバーに送信されません。接続は匿名で行われます。この設定を使用するには、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに、デフォルトとしてマークされた証明書が含まれていないことを確認してください。

NO

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用しません。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

短いユーザー名 (SHORTUSR)

IBM MQ での短いユーザー名として使用される、ユーザー・レコード内のフィールド。

このフィールドには、12 文字以下の値を入れる必要があります。この短いユーザー名は、以下の目的で使用されます。

- LDAP 認証が有効であるが、LDAP 権限が有効ではない場合、これは許可検査のオペレーティング・システムのユーザー ID として使用されます。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要があります。
- LDAP 認証と権限の両方が有効で、メッセージ内のユーザー ID を使用しなければならない場合、これは LDAP ユーザー名を再発見するためのメッセージに付随するユーザー ID として使用されます。

例えば、別のキュー・マネージャーにおいて、またはレポート・メッセージの書き込み時などです。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要はありませんが、固有のストリングでなければなりません。この目的として使用できる属性の良い例としては、従業員シリアル番号があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP であり、必須である場合にのみ有効です。

テキスト '記述' (TEXT)

認証情報オブジェクトの短いテキスト説明です。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTAI

テキスト・ストリングは、SYSTEM.DEFAULT.AUTHINFO.CRLLDAP 内のシステム・デフォルト値に設定されます。

*NONE 値

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

ストリングは最大 64 文字までの長さで、アポストロフィで囲みます。

ユーザー・フィールド (USRFIELD)

認証用のアプリケーションで提供されるユーザー ID に LDAP ユーザー・レコード内のフィールドの修飾子が含まれていない、つまり '=' 記号が含まれていない場合、この属性は提供されるユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールドを識別します。

このフィールドは、ブランクにすることができます。その場合、非修飾ユーザー ID では、SHORTUSR パラメーターを使用して指定されたユーザー ID を解釈します。

このフィールド内容は '=' 記号とアプリケーション提供の値に連結され、完全なユーザー ID として LDAP ユーザー・レコードに置かれます。例えば、アプリケーション提供のユーザーが fred でフィールド値が cn の場合、LDAP リポジトリの cn=fred が検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

ユーザー名 (USERNAME)

ディレクトリーにバインドされているユーザーの識別名。デフォルト・ユーザー名はブランクです。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTAI**

ユーザー名は、SYSTEM.DEFAULT.AUTHINFO.CRLLDAP 内のシステム・デフォルト値に設定されます。

***NONE 値**

ユーザー名はブランクです。

LDAP-user-name

LDAP ユーザーの識別名を指定します。最大ストリング長は 1024 文字です。

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

LDAP ユーザーのパスワード。

このフィールドは *CRLLDAP または *IDPWLDAP 認証情報オブジェクトにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTAI**

パスワードは、SYSTEM.DEFAULT.AUTHINFO.CRLLDAP 内のシステム・デフォルト値に設定されます。

***NONE 値**

パスワードはブランクです。

LDAP-password

LDAP ユーザー・パスワード。最大ストリング長は 32 文字です。

MQ チャネルの作成 (CRTMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャネルの作成 (CRTMQMCHL) コマンドは、新規の MQ チャネル定義を作成し、デフォルト値とは異なった属性を指定します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャネル名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>CHLTYPE</u>	チャネル・タイプ	*RCVR、*SDR、*SVR、 *RQSTR、*SVRCN、 *CLUSSDR、*CLUSRCVR、 *CLTCN	必須、キー、定位置 2

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 3
<u>REPLACE</u>	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 4
<u>TRPTYPE</u>	トランスポート・タイプ	*LU62 、 *TCP 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 5
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 6
<u>TGTMQMNAME</u>	ターゲット・キュー・マネージャー	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 7
<u>CONNAME</u>	接続名	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 8
<u>TPNAME</u>	トランザクション・プログラム名	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 9
<u>MODENAME</u>	モード名	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 10
<u>TMQNAME</u>	伝送キュー	文字値、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 11
<u>MCANAME</u>	MSG チャンネル・エージェント	単一値: *SYSDFTCHL 、 *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 12
	修飾子 1: メッセージ・チャンネル・エージェント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
<u>MCAUSRID</u>	MSG チャンネル AGENT ユーザー ID	文字値、 *NONE 、 *PUBLIC 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 13
<u>MCATYPE</u>	メッセージ・チャンネル・エージェントのタイプ	*PROCESS 、 *THREAD 、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 14
<u>BATCHINT</u>	バッチ間隔	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 15
<u>BATCHSIZE</u>	バッチ・サイズ	1-9999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 16
<u>DSCITV</u>	切断間隔	0-999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 17
<u>SHORTTMR</u>	短期再試行間隔	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 18
<u>SHORTRTY</u>	短期再試行カウント	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 19
<u>LONGTMR</u>	長期再試行間隔	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 20
<u>LONGRTY</u>	長期再試行カウント	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 21

キーワード	説明	選択	注
SCYEXIT	セキュリティー出口	単一値: *SYSDFTCHL 、 *NONE その他の値: 修飾 オブジェクト名	オプション、定位置 22
	修飾子 1: セキュリティー出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CSCYEXIT	セキュリティー出口	文字値、 *SYSDFTCHL 、 *NONE	オプション、定位置 23
SCYUSRDATA	セキュリティー出口ユーザー・データ	文字値、 *SYSDFTCHL 、 *NONE	オプション、定位置 24
SNDEXIT	送信出口	単一値: *SYSDFTCHL 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 25
	修飾子 1: 送信出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CSNDEXIT	送信出口	単一値: *SYSDFTCHL 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 文字値	オプション、定位置 26
SNDUSRDATA	送信出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回ま で): 文字値、 *SYSDFTCHL 、 *NONE	オプション、定位置 27
RCVEXIT	受信出口	単一値: *SYSDFTCHL 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 28
	修飾子 1: 受信出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
CRCVEXIT	受信出口	単一値: *SYSDFTCHL 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 文字値	オプション、定位置 29
RCVUSRDATA	受信出口ユーザー・データ	値 (繰り返しは 10 回ま で): 文字値、 *SYSDFTCHL 、 *NONE	オプション、定位置 30
MSGEXIT	メッセージ出口	単一値: *SYSDFTCHL 、 *NONE その他の値 (最大 10 個までの繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 31
	修飾子 1: メッセージ出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	

キーワード	説明	選択	注
MSGUSRDATA	メッセージ出口ユーザー・データ	値 (繰返しは 10 回まで): 文字値、 *SYSDFTCHL 、*NONE	オプション、定位置 32
MSGRTYEXIT	MSG 再試行出口	単一値: *SYSDFTCHL 、*NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 33
	修飾子 1: メッセージ再試行出口	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *CURLIB	
MSGRTYDATA	MSG 再試行出口データ	文字値、 *SYSDFTCHL 、*NONE	オプション、定位置 34
MSGRTYNBR	MSG 再試行回数	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 35
MSGRTYITV	メッセージ再試行間隔	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 36
CVTMSG	メッセージの変換	*YES、*NO、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 37
PUTAUT	書き込む権限	*DFT、*CTX、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 38
SEQNUMWRAP	シーケンス番号折り返し	100-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 39
MAXMSGLEN	最大メッセージ長	0-104857600、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 40
HRTBTINTVL	ハートビート間隔	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 41
NPMSPEED	非持続メッセージ速度	*FAST、*NORMAL、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 42
CLUSTER	クラスター名	文字値、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 43
CLUSNL	クラスター名リスト	文字値、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 44
NETPRTY	ネットワーク接続優先順位	0-9、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 45

キーワード	説明	選択	注
SSLCIPH	SSL CipherSpec	文字 値、'*NULL_MD5'、'*NULL_SHA'、'*RC4_MD5_EXPORT'、'*RC4_MD5_US'、'*RC4_SHA_US'、'*RC2_MD5_EXPORT'、'*DES_SHA_EXPORT'、'*TRIPLE_DES_SHA_US'、'*AES_SHA_US'、'*TLS_RSA_WITH_NULL_MD5'、'*TLS_RSA_WITH_NULL_SHA'、'*TLS_RSA_EXPORT_WITH_RC4_40_MD5'、'*TLS_RSA_WITH_RC4_128_MD5'、'*TLS_RSA_WITH_RC4_128_SHA'、'*TLS_RSA_EXPORT_WITH_RC2_40_MD5'、'*TLS_RSA_WITH_DES_CBC_SHA'、'*TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA'、'*TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA'、'*TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA'、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 46 CipherSpec TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA は推奨されません。
SSLCAUTH	SSL クライアント認証	*REQUIRED、 *OPTIONAL、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 47
SSLPEER	SSL ピア名	文字値、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 48
LOCLADDR	ローカル通信アドレス	文字値、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 49
BATCHHB	バッチ・ハートビート間隔	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 50
USERID	タスク・ユーザー ID	文字値、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 51
PASSWORD	パスワード	文字値、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 52
KAINT	キープアライブ・インターバル	整数、*AUTO、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 53
COMPHDR	ヘッダー圧縮	値 (繰り返しは 2 回まで): *NONE、*SYSTEM、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 54
COMPMSG	メッセージ圧縮	単一値: *ANY その他の値 (最大 4 個までの繰り返し): *NONE、*RLE、*ZLIBHIGH、*ZLIBFAST、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 55

キーワード	説明	選択	注
MONCHL	チャンネル・モニター	*QMGR、*OFF、*LOW、 *MEDIUM、*HIGH、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 56
STATCHL	チャンネル統計	*QMGR、*OFF、*LOW、 *MEDIUM、*HIGH、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 57
CLWLRANK	CLUSTER WORKLOAD ランク	0-9、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 58
CLWLPRTY	CLUSTER WORKLOAD 優先順位	0-9、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 59
CLWLWGHT	CLUSTER CHANNEL ウェイト	1-99、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 60
SHARECNV	共有会話	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 61
PROPCTL	プロパティ制御	*COMPAT、*NONE、 *ALL、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 62
MAXINST	最大インスタンス数	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 63
MAXINSTC	クライアントの最大インスタンス	0-999999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 64
CLNTWGHT	CLIENT CHANNEL ウェイト	0-99、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 65
AFFINITY	接続アフィニティー	*PREFERRED、*NONE、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 66
BATCHLIM	バッチ・データ制限	0-999999、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 67
DFTRECON	デフォルトのクライアント再接続	*NO、*YES、*QMGR、 *DISABLED、 *SYSDFTCHL	オプション、定位置 68

チャンネル名 (CHLNAME)

新規のチャンネル定義の名前を指定します。この名前には、最大 20 文字を含めることができます。チャンネル名は固有でなければなりません。この名前のチャンネル定義が既に存在する場合には、REPLACE(*YES) を指定する必要があります。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE)

定義するチャンネルのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SDR

送信側チャンネル

*SVR

サーバー・チャンネル

*RCVR

受信側チャンネル

***RQSTR**

要求側チャネル

***SVRCN**

サーバー接続チャネル

***CLUSSDR**

クラスター送信側チャネル

***CLUSRCVR**

クラスター受信側チャネル

***CLTCN**

クライアント接続チャネル

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

置換 (REPLACE)

新規のチャネル定義が同じ名前の既存のチャネル定義を置き換える必要があるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

既存のチャネル定義を置き換えません。指定されたチャネル定義が既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のチャネル定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

トランスポート・タイプ (TRPTYPE)

伝送プロトコルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャネルから取り出されます。

***LU62**

SNA LU 6.2。

***TCP**

伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP)。

テキスト '記述' (TEXT)

チャネル定義を簡単に説明するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャネルから取り出されます。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

ターゲット・キュー・マネージャー (TGTMQMNAME)

ターゲット・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*NONE 値

クライアント接続チャンネル (CHLTYPE) *CLTCN のターゲット・キュー・マネージャーの名前は指定されません。

message-queue-manager-name

クライアント接続チャンネル (CHLTYPE) *CLTCN のターゲット・メッセージ・キュー・マネージャーの名前。

その他のチャンネル・タイプの場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

接続名 (CONNAME)

接続するマシンの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*NONE 値

接続名はブランクです。

接続名

伝送プロトコルで必要とされる接続名を次のように指定します。

- *LU62 では、CSI オブジェクトの名前を指定します。
- *TCP では、リモート・マシン (またはクラスター受信側チャンネルのローカル・マシン) のホスト名またはネットワーク・アドレスのどちらかを指定します。この後に、括弧で囲んだポート番号をオプションで指定できます。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows プラットフォームでは、クラスター受信側チャンネルの TCP/IP 接続名パラメーターはオプションです。接続名をブランクにすると、IBM MQ はデフォルト・ポートを想定し、システムの現行 IP アドレスを使用して接続名を自動的に生成します。デフォルト・ポート番号をオーバーライドしても、システムの現行 IP アドレスを引き続き使用できます。各接続名について、IP 名をブランクにして、次のように括弧で囲んだポート番号を指定してください。

(1415)

生成される CONNAME は常にドット 10 進 (IPv4) 形式または 16 進 (IPv6) 形式であり、英数字の DNS ホスト名の形式ではありません。

ポートを指定しない場合には、デフォルト・ポート 1414 が想定されます。

クラスター受信側チャンネルの場合、接続名はローカル・キュー・マネージャーに関連し、その他のチャンネルの場合、接続名はターゲット・キュー・マネージャーに関連します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *SDR、*RQSTR、*CLTCN、および *CLUSSDR のチャンネルの場合に必須です。*SVR および *CLUSRCVR チャンネルの場合はオプションであり、*RCVR または *SVRCN チャンネルの場合は無効になります。

トランザクション・プログラム名 (TPNAME)

このパラメーターは、TRPTYPE が LU 6.2 として定義されているチャンネルの場合のみ有効です。

このパラメーターは、CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合を除いて、SNA トランザクション・プログラム名に設定しなければなりません。CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合は、ブランクに設定する必要があります。代わりに、CPI-C 通信サイド・オブジェクトから名前が取り出されます。

CHLTYPE が *RCVR として定義されているチャンネルの場合には、このパラメーターは無効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

この属性の値は変更されません。

***NONE 値**

トランザクション・プログラム名は指定されません。

***BLANK**

トランザクション・プログラム名は CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。このサイド・オブジェクト名は、CONNAME パラメーターに指定しなければなりません。

トランザクション・プログラム名

SNA トランザクション・プログラム名を指定します。

モード名 (MODENAME)

このパラメーターは、TRPTYPE が LU 6.2 として定義されているチャンネルの場合のみ有効です。TRPTYPE が LU 6.2 として定義されていない場合には、データは無視され、エラー・メッセージは出されません。

指定する場合、CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合を除いて、値を SNA モード名に設定しなければなりません。CONNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合は、値をブランクに設定する必要があります。これで、名前は、CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。

CHLTYPE が *RCVR または *SVRCONN として定義されているチャンネルの場合には、このパラメーターは無効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***BLANK**

名前は CPI-C 通信サイド・オブジェクトから取り出されます。これは、CONNAME パラメーターに指定されなければなりません。

***NONE 値**

モード名は指定されません。

SNA-mode-name

SNA モード名を指定します。

伝送キュー (TMQNAME)

伝送キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

伝送キュー名

伝送キューの名前を指定します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *SDR または *SVR の場合には、伝送キュー名は必須です。その他のチャンネル・タイプの場合には、このパラメーターを指定してはなりません。

メッセージ・チャンネル・エージェント (MCANAME)

このパラメーターは予約済みです。使用しないでください。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

MCA プログラム名はブランクです。

*RCVR、*SVRCN または *CLTCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID (MCAUSRID)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、ここで指定するメッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID を使用して、MQ リソースにアクセスする許可を与えます。受信側チャンネルまたは要求側チャンネルの宛先キューにメッセージを書き込む許可も含みます (PUTAUT が *DFT の場合)。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

値は、作成しているチャンネル・タイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

メッセージ・チャンネル・エージェントはそのデフォルト・ユーザー ID を使用します。

***PUBLIC**

共通権限を使用します。

mca-user-identifier

使用されるユーザー ID を指定します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *CLTCN の場合、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (MCATYPE)

メッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムが、スレッドまたはプロセスとして実行されるべきかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***PROCESS (処理)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは、独立のプロセスとして動作します。

***THREAD (* スレッド)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは独立したスレッドとして実行されます。

このパラメーターは、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLUSSDR または *CLUSRCVR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) にだけ指定できます。

バッチ間隔 (BATCHINT)

チャンネルがバッチ・オープンを保持する最小時間 (ミリ秒) です。

次のどれでも最初に発生したらバッチは終了します: BATCHSZ メッセージが送信される、BATCHLIM バイトに到達する、または伝送キューが空で BATCHINT を超える。

デフォルト値は 0 であり、これは、伝送キューが空になった (または BATCHSZ 限度に達した) 時点でバッチが終了することを意味します。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、CHLTYPE が *SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR として定義されているチャンネルの場合に有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

batch-interval

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、伝送キューが空になるとすぐにバッチが終了することを示します。

バッチ・サイズ (BATCHSIZE)

チェックポイントを通過する前にチャンネルを通じて送信する必要があるメッセージの最大数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

バッチ・サイズ

1 から 9999 の範囲内で値を指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

切断間隔 (DSCITV)

切断間隔を指定します。これは、チャンネルをクローズする前に、そのチャンネルが伝送キューへのメッセージの書き込みを待機する最大秒数を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

disconnect-interval

0 以上 9999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、無期限の待機を示します。

*RCVR、*RQSTR、または *CLTCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

短期再試行間隔 (SHORTTMR)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の短期再試行待機間隔を指定します。これは、リモート・マシンへの接続の確立を次に試みるまでの間隔を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

short-retry-interval

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

注: 実装上の理由により、使用できる最大再試行間隔は 9999999 です。これより大きい値を指定しても、9999999 として処理されます。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

短期再試行カウント (SHORTRTY)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の短期再試行カウントを指定します。LONGRTY および LONGTMR (通常は長い方) が使用される前に、SHORTTMR で指定された間隔で、リモート・マシンへの接続の確立が試みられる最大回数を定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

short-retry-count

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が許可されないことを意味します。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

長期再試行間隔 (LONGTMR)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の長期再試行待機間隔を指定します。これは、SHORTRTY で指定したカウントがゼロになった後、リモート・マシンとの接続を確立するために試行を繰り返すときの間隔を、秒単位で定義します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

long-retry-interval

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

注: 実装上の理由により、使用できる最大再試行間隔は 999999 です。これより大きい値を指定しても、999999 として処理されます。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

長期再試行カウント (LONGRTY)

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター・チャンネル (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、または *CLUSRCVR) の長期再試行カウントを指定します。SHORTRTY によって指定されたカウントが使い果たされた後に、LONGTMR によって指定された間隔で、リモート・マシンへの接続のために行われるそれ以降の試行の最大回数を定義します。定義された試行回数の後、接続が設立されない場合には、エラー・メッセージがログに記録されます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

長期再試行カウント

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が許可されないことを意味します。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

セキュリティー出口 (SCYEXIT)

セキュリティー出口として呼び出されるプログラムの名前を指定します。非ブランク名が定義された場合には、出口は以下の時点で呼び出されます。

- チャンネルが確立された直後。

いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口には、セキュリティー・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。

- ・セキュリティー・メッセージ・フローへの応答を受信した時。

リモート・マシン上のリモート・プロセッサからセキュリティー・メッセージ・フローを受け取った場合、そのフローは出口に渡されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

セキュリティー出口プログラムは呼び出されません。

セキュリティー出口名

セキュリティー出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

セキュリティー出口 (CSCYEXIT)

クライアント・セキュリティー出口として呼び出されるプログラムの名前を指定します。非ブランク名が定義された場合には、出口は以下の時点で呼び出されます。

- ・チャンネルが確立された直後。

いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口には、セキュリティー・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。

- ・セキュリティー・メッセージ・フローへの応答を受信した時。

リモート・マシン上のリモート・プロセッサからセキュリティー・メッセージ・フローを受け取った場合、そのフローは出口に渡されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、SYSTEM.DEF.CLNTCONN チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

クライアント・セキュリティー出口プログラムは呼び出されません。

セキュリティー出口名

クライアント・セキュリティー出口プログラムの名前を指定します。

セキュリティー出口ユーザー・データ (SCYUSRDATA)

チャンネル・セキュリティー出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

セキュリティー出口のユーザー・データは指定されません。

セキュリティー出口ユーザー・データ

セキュリティー出口プログラムのユーザー・データを指定します。

送信出口 (SNDEXIT)

送信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、出口が即時に起動され、その後データがネットワークに送り出されます。送信前に出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

送信出口は呼び出されません。

送信出口名

送信出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

送信出口 (CSNDEXIT)

クライアント送信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、出口が即時に起動され、その後データがネットワークに送り出されます。送信前に出口に送信バッファ全体が渡されます。バッファの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、SYSTEM.DEF.CLNTCONN チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

クライアント送信出口は呼び出されません。

送信出口名

クライアント送信出口プログラムの名前を指定します。

送信出口ユーザー・データ (SNDUSRDATA)

送信出口プログラムに渡される最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

送信出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

送信出口ユーザー・データ

送信出口プログラムの最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

受信出口 (RCVEXIT)

受信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、ネットワークから受信したデータが処理される前に出口が起動されます。ネットワークに送り出されます。出口に送信バッファ全体が渡されます。バッファの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

受信出口プログラムは呼び出されません。

受信出口名

受信出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

受信出口 (CRCVEXIT)

クライアント受信出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、ネットワークから受信したデータが処理される前に出口が起動されます。ネットワークに送り出されます。出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、SYSTEM.DEF.CLNTCONN チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

クライアント受信出口プログラムは呼び出されません。

受信出口名

クライアント受信出口プログラムの名前を指定します。

受信出口ユーザー・データ (RCVUSRDATA)

受信出口に渡されるユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

受信出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

受信出口ユーザー・データ

受信出口プログラムの最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

メッセージ出口 (MSGEXIT)

メッセージ出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。非ブランクの名前を定義した場合、メッセージが伝送キューから取り出された後、出口が即時に起動されます。出口にアプリケーション・メッセージおよびメッセージ記述子全体が渡され、変更されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

メッセージ出口プログラムは呼び出されません。

メッセージ出口名

メッセージ出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ出口ユーザー・データ (MSGUSRDATA)

メッセージ出口プログラムに渡されるユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

メッセージ出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

メッセージ出口ユーザー・データ

メッセージ出口プログラムの最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行出口 (MSGRTYEXIT)

メッセージ再試行出口として呼び出されるプログラムの入り口点を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*NONE 値

メッセージ再試行出口プログラムは呼び出されません。

メッセージ再試行出口名

メッセージ再試行出口プログラムの名前を指定します。

library-name

出口プログラムが含まれているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、出口プログラム名が指定された場合は必須です。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行出口データ (MSGRTYDATA)

メッセージ再試行出口プログラムに渡されるユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*NONE 値

メッセージ再試行出口プログラムのユーザー・データは指定されません。

message-retry-exit-user-data

メッセージ再試行出口プログラムの最大 32 文字のユーザー・データを指定します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行回数 (MSGRTYNBR)

メッセージを配布できないと判断するまでチャンネルが再試行する回数を指定します。この属性は、メッセージ再試行出口名がブランクの場合にのみ、MCA のアクションを制御し、MSGRTYNBR の値がその出口の使用のために出口に渡されますが、実行される再試行の回数はこの属性ではなく、その出口によって制御されます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

message-retry-number

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、再試行が実行されないことを意味します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ再試行間隔 (MSGRTYITV)

チャンネルが MQPUT 操作を再試行できるようになるまでに経過する必要がある最小間隔 (時間) を指定します。この時間の単位はミリ秒です。

この属性は、メッセージ再試行出口名がブランクの場合にだけ MCA のアクションを制御し、MSGRTYITV の値がその出口の使用のために出口に渡されますが、再試行間隔はこの属性ではなくその出口によって制御されます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

message-retry-number

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、できるだけ早く再試行が実行されることを意味します。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

メッセージ変換 (CVTMSG)

メッセージを送信する前に、メッセージ内のアプリケーション・データを変換する必要があるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、作成しているチャンネル・タイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*YES

メッセージ中のアプリケーション・データは送信前に変換されます。

*NO

メッセージ中のアプリケーション・データは、送信前に変換されません。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

書き込み権限 (PUTAUT)

メッセージを宛先キューに入れる権限を設定するために、メッセージに関連する コンテキスト情報内のユーザー ID を使用するかどうかを指定します。これは、受信側および要求側 (*CLUSRCVR、*RCVR、および *RQSTR) のチャンネルにのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*DFT

メッセージを宛先キューに書き込む前に権限検査は行われません。

*CTX

メッセージを書き込む権限を確立するために、メッセージ・コンテキスト情報のユーザー ID が使用されます。

*SDR、*SVR、*CLTCN、*SVRCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

シーケンス番号の折り返し (SEQNUMWRAP)

最大メッセージ・シーケンス番号を指定します。最大値に到達すると、シーケンス番号は折り返して再度 1 から始まります。

注: 最大メッセージ・シーケンス番号は折衝可能ではありません。ローカル・チャンネルとリモート・チャンネルは、同じ番号で折り返す必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

sequence-number-wrap-value

100 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

最大メッセージ長 (MAXMSGLEN)

チャンネル上で送信可能な最大メッセージ長を指定します。この値は、リモート・チャンネルの値と比較され、実際の最大長は、2つの値のうちの小さいほうの値になります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

最大メッセージ長

0 以上 104857600 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、最大長が無制限であることを意味します。

ハートビート間隔 (HRTBTINTVL)

伝送キューにメッセージがないときに、送信 MCA から渡されるハートビート・フロー間の時間 (秒数) を指定します。ハートビート交換は、受信 MCA にチャンネルを静止する機会を提供します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

heart-beat-interval

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、ハートビート交換が行われないことを意味します。

注: 実装上の理由により、使用できる最大ハートビート間隔は 999999 です。これを超える値を指定しても 999999 として処理されます。

非永続メッセージ速度 (NPMSPEED)

チャンネルが高速非持続メッセージをサポートするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は変更されません。

***FAST**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートします。

***NORMAL**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートしません。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

クラスター名 (CLUSTER)

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

このパラメーターは、*CLUSDR チャンネルおよび *CLUSRCVR チャンネルの場合にのみ有効です。CLUSNL パラメーターが非ブランクの場合には、このパラメーターはブランクでなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

クラスター名は指定されません。

cluster-name

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

クラスター名リスト (CLUSNL)

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前です。

このパラメーターは、*CLUSDR チャンネルおよび *CLUSRCVR チャンネルの場合にのみ有効です。CLUSTER パラメーターが非ブランクの場合には、このパラメーターはブランクでなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

クラスター名前リストは指定されません。

cluster-name-list

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前です。最大長は、MQ オブジェクトの命名規則に準拠した 48 文字です。

ネットワーク接続優先順位 (NETPRTY)

ネットワーク接続の優先順位。分散キューイングでは、使用可能な複数のパスがある場合、優先度が最も高いパスが選択されます。値は 0 から 9 の範囲内であればなりません。0 が最低優先順位です。

このパラメーターは、*CLUSRCVR チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

network-connection-priority

0 から 9 までの範囲の値を指定します。0 は最低優先順位です。

SSL 暗号仕様 (SSLCIPH)

SSLCIPH は、SSL チャンネル折衝で使用される暗号仕様を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

cipherspec

暗号仕様の名前です。

注：IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 2 以降、SSLv3 プロトコルおよびいくつかの IBM MQ CipherSpecs の使用が推奨されなくなりました。詳しくは、[非推奨 CipherSpecs](#) を参照してください。

SSL クライアント認証 (SSLCAUTH)

SSLCAUTH は、チャンネルがクライアント認証を SSL 経由で実行するかどうかを指定します。パラメーターは、SSLCIPH が指定されたチャンネルにのみ使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***REQUIRED**

クライアント認証は必須です。

*** オプション**

クライアント認証はオプションです。

*SDR、*CLTCN、または *CLUSSDR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

SSL ピア名 (SSLPEER)

SSLPEER は、SSL チャンネル折衝で使用される X500 ピア名を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

x500peername

使用する X500 ピア名です。

注：SSL または TLS サブジェクト識別名との突き合わせによってチャンネルへの接続を制限する別の方法は、チャンネル認証レコードを使用することです。チャンネル認証レコードを使用すると、SSL または TLS のサブジェクト識別名のさまざまなパターンを同じチャンネルに適用することができます。チャンネルで SSLPEER が設定されており、かつチャンネル認証レコードが同じチャンネルに適用されている場合、接続するには、インバウンド証明書が両方のパターンと一致する必要があります。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照してください。

ローカル通信アドレス (LOCLADDR)

チャンネルのローカル通信アドレスを指定します。

このパラメーターは、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***NONE 値**

接続はブランクです。

local-address

トランスポート・タイプ TCP/IP にのみ有効です。アウトバウンド TCP/IP 通信に使用するオプションの IP アドレスと、オプションのポートまたはポート範囲を指定してください。形式は次のとおりです。

```
LOCLADDR([ip-addr] [(low-port[,high-port])][, [ip-addr] [(low-port[,high-port])]])
```

バッチ・ハートビート間隔 (BATCHEB)

バッチ・ハートビートがこのチャンネルで発生するかどうかを決定するために使用される時間 (ミリ秒) です。バッチ・ハートビートにより、送信タイプ・チャンネルは、リモート・チャンネル・インスタンスが未確定になるまでアクティブのままであるかどうかを判別することができます。バッチ・ハートビートは、送信タイプ・チャンネルが指定の時間内にリモート・チャンネルと通信しなかった場合に発生します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

batch-heartbeat-interval

0 以上 999999999 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、バッチ・ハートビートを使用しないことを示します。

注: 実装上の理由により、使用できる最大バッチ・ハートビート間隔は 999999 です。これを超える値を指定しても 999999 として処理されます。

*RCVR、*RQSTR、*CLTCN、または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

タスク・ユーザー ID (USERID)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、これを使用します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLTCN、または *CLUSSDR であるチャンネルにのみ、このパラメーターは有効です。

属性の最大長は 12 文字ですが、最初の 10 文字のみが使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

ユーザー ID は指定されません。

ユーザー ID

タスク・ユーザー ID を指定します。

パスワード (PASSWORD)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、これを使用します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が、*SDR、*SVR、*RQSTR、*CLTCN、または *CLUSSDR であるチャンネルにのみ、このパラメーターは有効です。

属性の最大長は 12 文字ですが、最初の 10 文字のみが使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

パスワードは指定されません。

パスワード

パスワードを指定します。

キープアライブ間隔 (KAINT)

このチャンネルのキープアライブの時間間隔を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、作成しているチャンネル・タイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***AUTO**

キープアライブ間隔は、折衝されたハートビート値に基づいて次のように計算されます。

- 折衝された HBINT が 0 より大きい場合、キープアライブ間隔はその値プラス 60 秒に設定されます。

- ・折衝された HBINT が 0 の場合、使用される値は TCP プロファイル構成データ・セットの KEEPALIVEOPTIONS ステートメントで指定された値です。

keep-alive-interval

0 以上 99999 以下の範囲の値を指定します。

ヘッダー圧縮 (COMPHDR)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。

チャンネル・タイプが、送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続 (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN) の場合、指定された値は、使用中のチャンネルのリモート・エンドがサポートする圧縮技法を最優先とする順になっています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

***システム**

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

メッセージ圧縮 (COMPMSG)

チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。

チャンネル・タイプが、送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続 (*SDR、*SVR、*CLUSSDR、*CLUSRCVR、および *CLTCN) の場合、指定された値は、使用中のチャンネルのリモート・エンドがサポートする圧縮技法を最優先とする順になっています。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***NONE 値**

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

***RLE**

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

***ZLIBFAST**

zlib 圧縮手法を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。高速圧縮時間を推奨します。

***ZLIBHIGH**

zlib 圧縮手法を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。ハイレベル圧縮を推奨します。

***ANY**

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。チャンネル・タイプ「受信側」、「要求側」、および「サーバー接続」にのみ有効です。

チャンネル・モニター (MONCHL)

オンライン・モニター・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 MONCHL が *NONE に設定されていると、オンライン・モニター・データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONCHL の設定から継承されます。

***NONE 値**

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集がオフに切り替わります。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が *CLTCN の場合、このパラメーターを指定することはできません。

チャンネル統計 (STATCHL)

統計データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 STATCHL が *NONE に設定されていると、統計データは収集されません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***QMGR**

統計データの収集は、キュー・マネージャー属性 STATCHL の設定に基づいて行われます。

***NONE 値**

このチャンネルの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

統計データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

*CLTCN または *SVRCN のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) では、このパラメーターを指定することはできません。

クラスター・ワークロード・ランク (CLWLRANK)

チャンネルのクラスター・ワークロード・ランクを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

cluster-workload-rank

チャンネルのクラスター・ワークロード・ランクで、範囲は 0 から 9 までです。

クラスター・ワークロード優先順位 (CLWLPRTY)

チャンネルのクラスター・ワークロード優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

cluster-workload-rank

チャンネルのクラスター・ワークロード優先順位で、範囲は 0 から 9 までです。

クラスター・チャンネル・ウェイト (CLWLWGHT)

チャンネルのクラスター・ワークロード・ウェイトを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

cluster-workload-rank

チャンネルのクラスター・ワークロード・ウェイトで、範囲は 1 から 99 までです。

共有会話 (SHARECNV)

特定の TCP/IP クライアント・チャンネル・インスタンス (ソケット) で共有できる会話の最大数を指定します。

このパラメーターは、CHLTYPE が *CLTCN または *SVRCN として定義されているチャンネルの場合に有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

0

TCP/IP ソケットで会話を共有しないように指定します。チャンネル・インスタンスは、以下の点に関して、IBM WebSphere MQ 7.0 より前のモードで稼働します。

- 管理者の停止と静止
- ハートビート中
- 先読み

1

TCP/IP ソケットで会話を共有しないように指定します。MQGET 呼び出しであるかどうかにかかわらず、クライアントのハートビートおよび先読みが可能であり、チャンネル静止がさらに制御しやすくなります。

shared-conversations

2 から 999999999 の範囲の、共有会話の数。

注: クライアント接続の SHARECNV 値がサーバー接続の SHARECNV 値と一致しない場合、2 つの値の小さいほうを使用されます。

プロパティー制御 (PROPCTL)

メッセージが V6 またはそれより前のキュー・マネージャー (プロパティー記述子の概念を理解しない キュー・マネージャー) に送信されるときに、メッセージのプロパティーに対して行われる処置を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTCHL**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

***COMPAT**

メッセージに接頭部が「mcd.」のプロパティーが含まれている場合、「jms.」、「usr.」または「mqext.」メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子 (または拡張) 内のメッセージ・プロパティーを除くすべてのオプション・メッセージ・プロパティーが、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

***NONE 値**

メッセージのすべてのプロパティ（メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティを除く）は、メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージから除去されます。

***ALL**

メッセージのすべてのプロパティは、メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送られるときに、そのメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子（または拡張）に含まれているプロパティを除くすべてのプロパティが、メッセージ・データの 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

最大インスタンス (MAXINST)

このサーバー接続チャンネル・オブジェクトを介してキュー・マネージャーに同時に接続できるクライアントの最大数を指定します。

この属性はサーバー接続チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFT**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

maximum-instances

チャンネルの同時インスタンスの最大数で、範囲は 0 から 999999999 までです。

値 0 では、すべてのクライアント・アクセスができなくなります。現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回るまでこの値を削減すると、実行中のチャンネルは影響を受けませんが、十分な数の既存のインスタンスが実行を停止するまでは新規のインスタンスを開始できなくなります。

クライアントあたりの最大インスタンス (MAXINSTC)

単一のクライアントから開始可能な、個々のサーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数を指定します。

このコンテキストでは、同じリモート・ネットワーク・アドレスを起点とする複数のクライアント接続は 1 つのクライアントと見なされます。

この属性はサーバー接続チャンネルにのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFT**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

maximum-instances-per-client

単一のクライアントから開始可能な、チャンネルの同時インスタンスの最大数で、範囲は 0 から 999999999 までです。

値 0 では、すべてのクライアント・アクセスができなくなります。個々のクライアントから現在実行されているサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回るまでこの値を削減すると、実行中のチャンネルは影響を受けませんが、十分な数の既存のインスタンスが実行を停止するまでは新規のインスタンスを開始できなくなります。

クライアント・チャンネル・ウェイト (CLNTWGHT)

適切な定義を複数使用できる場合、加重に基づいてクライアント・チャンネル定義をランダムに選択できるように、クライアント・チャンネルの加重属性が使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFT**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

client-channel-weight

クライアント・チャンネル・ウェイト。0 から 99 までの範囲となります。

接続アフィニティー (AFFINITY)

チャンネル・アフィニティー属性を使用すると、同じキュー・マネージャー名を使用して複数回接続するクライアント・アプリケーションが、接続ごとに同じクライアント・チャンネル定義を使用するかどうかを選択できます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFT

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*PREFERRED

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を読み取るプロセス内の最初の接続は、加重に基づいて適用可能な定義のリストを作成します。これは先頭が適用可能な CLNTWGHT(0) 定義で、アルファベット順です。プロセス内の各接続は、リスト内の最初の定義を使用して接続を試行します。接続が失敗した場合は、次の定義が使用されます。失敗した非 CLNTWGHT(0) 定義は、リストの最後に移動されます。CLNTWGHT(0) 定義は、リストの先頭に残り、各接続の最初に選択されます。

*NONE 値

CCDT を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。プロセス内のすべての接続は、加重に基づいて適用可能な定義を選択します。適用可能な CLNTWGHT(0) の定義を最初にアルファベット順に選択していきます。

バッチ・データ制限 (BATCHLIM)

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能なデータ量(キロバイト)の限度を指定します。限度に達した際のメッセージがチャンネルを通して送信された後に、同期点が取られます。この属性の値がゼロの場合、それはこのチャンネルに対するバッチに適用されるデータ限度がないことを意味します。

バッチは、次の条件のいずれかが満たされた場合に終了します。

- BATCHSZ メッセージが送信された。
- BATCHLIM バイトが送信された。
- 伝送キューが空で、BATCHINT が経過した。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 5000 です。

このパラメーターは、すべてのプラットフォームでサポートされています。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

batch-data-limit

0 以上 999999 以下の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*SDR、*SVR、*CLUSDR、または *CLUSRCVR のチャンネル・タイプ (CHLTYPE) にだけ指定できます。

保留リセット順序番号 (RESETSEQ)

保留リセット順序番号。

これは、未処理要求からのシーケンス番号で、ユーザーの RESET CHANNEL コマンド要求が未処理であることを示します。

指定可能な値は以下のとおりです。

保留リセット順序番号

値がゼロなら、未解決の RESET CHANNEL がないことを示します。値の範囲は 1 から 999999999 です。

デフォルトのクライアント再接続 (DFTRECON)

クライアント接続がクライアント・アプリケーションへの接続から切断した場合に、自動的に再接続するかどうかを指定します。

*SYSDFTCHL

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・チャンネルから取り出されます。

*NO

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続されません。

*YES

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続します。

*QMGR

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは、同じキュー・マネージャーに対してのみ自動的に再接続します。QMGR オプションは MQCNO_RECONNECT_Q_MGR と同じ効果があります。

*DISABLED

MQCONNX MQI 呼び出しを使用してクライアント・プログラムによって要求された場合でも、再接続は無効になります。

このパラメーターは、クライアント接続チャンネル (CHLTYPE) *CLTCN で指定されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ リスナーの作成 (CRTMQMLSR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ リスナーの作成 (CRTMQMLSR) コマンドは、デフォルトとは異なる属性を指定して、新規 MQ リスナー定義を作成します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>LSRNAME</u>	リスナー名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>REPLACE</u>	置換	*NO、*YES	オプション、定位置 3
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、*SYSDFTLSR	オプション、定位置 4
<u>CONTROL</u>	リスナー制御	*SYSDFTLSR、*MANUAL、*QMGR、*STARTONLY	オプション、定位置 5
<u>PORT</u>	ポート番号	0-65535、*SYSDFTLSR	オプション、定位置 6

キーワード	説明	選択	注
<u>IPADDR</u>	IP アドレス	文字値、*BLANK、 *SYSDFTLSR	オプション、定位置 7
<u>BACKLOG</u>	リスナー・バックログ	0-999999999、 *SYSDFTLSR	オプション、定位置 8

リスナー名 (LSRNAME)

作成する新規 MQ リスナー定義の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

listener-name

リスナー定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

置換 (REPLACE)

同じ名前のリスナー定義が既に存在している場合は、これはその定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

この定義は、同じ名前の既存のリスナー定義を置き換えません。指定されたリスナー定義が既に存在する場合、コマンドは失敗します。

*YES

既存のリスナー定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

リスナー定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTLSR

この属性の値は、システム・デフォルト・リスナーから取り出されます。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

新規記述情報を指定します。

リスナー制御 (CONTROL)

キュー・マネージャーが開始されたときに、リスナーを自動的に開始するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTLSR**

この属性の値は、システム・デフォルト・リスナーから取り出されます。

***MANUAL**

リスナーは自動的に開始されることも、停止されることもありません。

***QMGR**

キュー・マネージャーが開始するとリスナーも開始され、キュー・マネージャーが停止するとリスナーも停止されます。

***STARTONLY**

キュー・マネージャーが開始するとリスナーも開始されますが、キュー・マネージャーの停止時にリスナーの停止は要求されません。

ポート番号 (PORT)

リスナーが使用するポート番号です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTLSR**

この属性の値は、システム・デフォルト・リスナーから取り出されます。

ポート番号

使用するポート番号です。

IP アドレス (IPADDR)

リスナーが使用する IP アドレスです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTLSR**

この属性の値は、システム・デフォルト・リスナーから取り出されます。

ip-addr

使用する IP アドレスです。

リスナー・バックログ (BACKLOG)

リスナーがサポートする同時接続要求の数です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTLSR**

この属性の値は、システム・デフォルト・リスナーから取り出されます。

backlog

サポートされる同時接続要求の数です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 名前リストの作成 (CRTMQMNL)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 名前リストの作成 (CRTMQMNL) コマンドは、新しい MQ 名前リストを作成します。名前リストは、他の MQ オブジェクトのリストが含まれる MQ オブジェクトです。通常、名前リストは、トリガー・モニターなどのアプリケーションにより、キューのグループを特定する際に使用されます。名前リストはアプリケーションとは独立して保守されるので、名前リストを使用するどのアプリケーションも停止することなく更新できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>NAMELIST</u>	名前リスト	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>REPLACE</u>	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 3
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTNL	オプション、定位置 4
<u>NAMES</u>	名前のリスト	値 (繰り返しは 256 回まで): 文字値、 *BLANKS 、 *SYSDFTNL 、 *NONE	オプション、定位置 5

名前リスト (Namelist)

作成される名前リストの名前。

名前リスト

名前リストの名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

置換 (REPLACE)

新しい名前リストによって同じ名前の既存の名前リストを置き換えるかどうかを指定します。

***NO**

既存の名前リストを置き換えません。指定された名前リストが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存の名前リストを置き換えます。同じ名前の名前リストがない場合は、新規の名前リストが作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

名前リストを簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

***SYSDFTNL**

属性の値は、システム・デフォルト名前リストから取り出されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

名前のリスト (NAMES)

名前のリスト。これは、作成する名前のリストです。どのタイプの名前でも指定できますが、MQ オブジェクトの命名規則に準拠していなければなりません。

*SYSDFTNL

属性の値は、システム・デフォルト名前リストから取り出されます。

名前リスト

作成するリスト。空のリストも有効です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ プロセスの作成 (CRTMQMPRC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ プロセスの作成 (CRTMQMPRC) コマンドは、デフォルトとは異なる属性を指定して、新規 MQ プロセス定義を作成します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>PRCNAME</u>	プロセス名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>REPLACE</u>	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 3
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTPRC	オプション、定位置 4
<u>APPTYPE</u>	アプリケーション・タイプ	整数、 *SAME 、 *CICS 、 *MVS 、 *IMS 、 *OS2 、 *DOS 、 *UNIX 、 *QMGR 、 *OS400 、 *WINDOWS 、 *CICS_VSE 、 *WINDOWS_NT 、 *VMS 、 *NSK 、 *VOS 、 *IMS_BRIDGE 、 *XCF 、 *CICS_BRIDGE 、 *NOTES_AGENT 、 *BROKER 、 *JAVA 、 *DQM	オプション、定位置 5
<u>APPID</u>	アプリケーション ID	文字値、 *SYSDFTPRC	オプション、定位置 6
<u>USRDATA</u>	ユーザー・データ	文字値、 *SYSDFTPRC 、 *NONE	オプション、定位置 7

キーワード	説明	選択	注
<u>ENVDATA</u>	環境データ	文字値、 *SYSDFTPRC 、 *NONE	オプション、定位置 8

プロセス名 (PRCNAME)

作成する新規 MQ プロセス定義の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

process-name

新規 MQ プロセス定義の名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

置換 (REPLACE)

同じ名前のプロセス定義が既に存在している場合は、その定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

この定義は、同じ名前の既存のプロセス定義を置き換えません。指定されたプロセス定義が既に存在する場合、コマンドは失敗します。

*YES

既存のプロセス定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

プロセス定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTPRC

この属性の値は、システム・デフォルト・プロセスから取り出されます。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

新規記述情報を指定します。

アプリケーション・タイプ (APPTYPE)

開始するアプリケーションのタイプ。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTPRC

この属性の値は、システム・デフォルト・プロセスから取り出されます。

***CICS**

CICS/400 アプリケーションを表します。

***MVS**

MVS アプリケーションを表します。

***IMS**

IMS アプリケーションを表します。

***OS2**

OS/2 アプリケーションを表します。

***DOS**

DOS アプリケーションを表します。

***UNIX**

UNIX アプリケーションを表します。

***QMGR**

キュー・マネージャーを表します。

***OS400**

IBM i アプリケーションを表します。

***WINDOWS**

Windows アプリケーションを表します。

***CICS_VSE**

CICS/VSE アプリケーションを表します。

***WINDOWS_NT**

Windows NT アプリケーションを表します。

***VMS**

VMS アプリケーションを表します。

***NSK**

Tandem/NSK アプリケーションを表します。

***VOS**

VOS アプリケーションを表します。

***IMS_BRIDGE**

IMS ブリッジ・アプリケーションを表します。

***XCF**

XCF アプリケーションを表します。

***CICS_BRIDGE**

CICS bridge アプリケーションを表します。

***NOTES_AGENT**

Lotus Notes アプリケーションを表します。

***BROKER**

ブローカー・アプリケーションを表します。

***JAVA**

Java アプリケーションを表します。

***DQM**

DQM アプリケーションを表します。

user-value

65536 から 999999999 の範囲のユーザー定義アプリケーション・タイプです。

この範囲内の値はテストされず、その他の値はすべて受け入れられます。

アプリケーション ID (APPID)

アプリケーション ID。これは、コマンドを処理中のプラットフォームで開始されるアプリケーションの名前です。これは通常、プログラム名およびライブラリー名です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTPRC**

この属性の値は、システム・デフォルト・プロセスから取り出されます。

application-id

最大長は 256 文字です。

ユーザー・データ (USRDATA)

APPID で定義されている、開始するアプリケーションに属しているユーザー情報を含む文字ストリングです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTPRC**

この属性の値は、システム・デフォルト・プロセスから取り出されます。

***NONE 値**

ユーザー・データはブランクです。

user-data

128 文字までのユーザー・データを指定します。

環境データ (ENVDATA)

APPID で定義されている、開始するアプリケーションに属している環境情報を含む文字ストリングです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTPRC**

この属性の値は、システム・デフォルト・プロセスから取り出されます。

***NONE 値**

環境データはブランクです。

environment-data

最大長は 128 文字である。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ キューの作成 (CRTMQMQ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ キューの作成 (CRTMQMQ) コマンドは、指定された属性を持つキュー定義を作成します。指定されていないすべての属性は、作成されるキューのタイプのデフォルト値に設定されます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>QTYPE</u>	キュー・タイプ	*ALS、*LCL、*MDL、*RMT	必須、キー、定位置 2

キーワード	説明	選択	注
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 3
REPLACE	置換	*NO、*YES	オプション、定位置 4
TEXT	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、*SYSDFTQ	オプション、定位置 5
PUTENBL	PUT 可能	*SYSDFTQ、*NO、*YES	オプション、定位置 6
DFTPTY	デフォルトのメッセージ優先順位	0-9、*SYSDFTQ	オプション、定位置 7
DFTMSGPST	デフォルトのメッセージ持続性	*SYSDFTQ、*NO、*YES	オプション、定位置 8
PRCNAME	プロセス名	文字値、*NONE、*SYSDFTQ	オプション、定位置 9
TRGENBL	トリガー発行可能	*SYSDFTQ、*NO、*YES	オプション、定位置 10
GETENBL	GET 可能	*SYSDFTQ、*NO、*YES	オプション、定位置 11
SHARE	共用可能	*SYSDFTQ、*NO、*YES	オプション、定位置 12
DFTSHARE	デフォルト共用オプション	*SYSDFTQ、*NO、*YES	オプション、定位置 13
MSGDLYSEQ	メッセージ・デリバリー・シーケンス	*SYSDFTQ、*PTY、*FIFO	オプション、定位置 14
HDNBKTCNT	バックアウト・カウンットのハード化	*SYSDFTQ、*NO、*YES	オプション、定位置 15
TRGTYPE	トリガー・タイプ	*SYSDFTQ、*FIRST、*ALL、*DEPTH、*NONE	オプション、定位置 16
TRGDEPTH	トリガー項目数	1-999999999、*SYSDFTQ	オプション、定位置 17
TRGMSGPTY	トリガー・メッセージ優先順位	0-9、*SYSDFTQ	オプション、定位置 18
TRGDATA	トリガー・データ	文字値、*NONE、*SYSDFTQ	オプション、定位置 19
RTNITV	保存間隔	0-999999999、*SYSDFTQ	オプション、定位置 20
MAXDEPTH	キューの最大長	0-999999999、*SYSDFTQ	オプション、定位置 21
MAXMSGLEN	最大メッセージ長	0-104857600、*SYSDFTQ	オプション、定位置 22
BKTTHLD	バックアウトしきい値	0-999999999、*SYSDFTQ	オプション、定位置 23
BKTQNAME	バックアウト・リキュー名	文字値、*NONE、*SYSDFTQ	オプション、定位置 24
INITQNAME	開始キュー	文字値、*NONE、*SYSDFTQ	オプション、定位置 25

キーワード	説明	選択	注
USAGE	使用法	*SYSDFTQ 、*NORMAL、 *TMQ	オプション、定位置 26
DFNTYPE	定義タイプ	*SYSDFTQ 、*TEMPDYN、 *PERMDYN	オプション、定位置 27
TGTQNAME	ターゲット・オブジェクト	文字値、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 28
RMTQNAME	リモート・キュー	文字値、 *SYSDFTQ 、 *NONE	オプション、定位置 29
RMTMQMNAME	リモート・メッセージ・ キュー・マネージャー	文字値、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 30
TMQNAME	伝送キュー	文字値、*NONE、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 31
HIGHTHLD	キュー項目数の高しきい 値	0-100、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 32
LOWTHLD	キュー項目数の低しきい 値	0-100、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 33
FULLEVT	キュー・フル・イベント 可能	*SYSDFTQ 、*NO、*YES	オプション、定位置 34
HIGHEVT	キュー高イベント可能	*SYSDFTQ 、*NO、*YES	オプション、定位置 35
LOWEVT	キュー低イベント可能	*SYSDFTQ 、*NO、*YES	オプション、定位置 36
SRVITV	サービス・インターバル	0-999999999、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 37
SRVEVT	サービス・インターバ ル・イベント	*SYSDFTQ 、*HIGH、 *OK、*NONE	オプション、定位置 38
DISTLIST	配布リスト・サポート	*SYSDFTQ 、*NO、*YES	オプション、定位置 39
CLUSTER	クラスター名	文字値、 *SYSDFTQ 、 *NONE	オプション、定位置 40
CLUSNL	クラスター名リスト	文字値、*NONE、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 41
DEFBIND	デフォルトのバインディ ング	*SYSDFTQ 、*OPEN、 *NOTFIXED、*GROUP	オプション、定位置 42
CLWLRANK	CLUSTER WORKLOAD ラ ンク	0-9、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 43
CLWLPRTY	CLUSTER WORKLOAD 優 先順位	0-9、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 44
CLWLUSEQ	クラスター・ワークロー ド・キューの使用	*SYSDFTQ 、*QMGR、 *LOCAL、*ANY	オプション、定位置 45
MONQ	キュー・モニター	*SYSDFTQ 、*QMGR、 *OFF、*LOW、 *MEDIUM、*HIGH	オプション、定位置 46
STATQ	キュー統計	*SYSDFTQ 、*QMGR、 *OFF、*ON	オプション、定位置 47

キーワード	説明	選択	注
<u>ACCTQ</u>	キュー・アカウンティン グ	*SYSDFTQ 、*QMGR、 *OFF、*ON	オプション、定位置 48
<u>NPMCLASS</u>	非持続メッセージ・クラ ス	*SYSDFTQ 、*NORMAL、 *HIGH	オプション、定位置 49
<u>MSGREADAHD</u>	メッセージの先読み	*SYSDFTQ 、*DISABLED、 *NO、*YES	オプション、定位置 50
<u>DFTPUTRESP</u>	デフォルトの Put 応答	*SYSDFTQ、 *SYNC 、 *ASYN	オプション、定位置 51
<u>PROPCTL</u>	プロパティ制御	*SYSDFTQ 、*COMPAT、 *NONE、*ALL、*FORCE、 *V6COMPAT	オプション、定位置 52
<u>TARGETYPE</u>	ターゲット・タイプ	*SYSDFTQ 、*QUEUE、 *TOPIC	オプション、定位置 53
<u>CUSTOM</u>	カスタム属性	文字値、*BLANK、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 54
<u>CLCHNAME</u>	クラスター送信側チャネ ル名	文字値、*NONE、 *SYSDFTQ	オプション、定位置 55

キュー名 (QNAME)

キュー定義の名前を指定します。キュー名は固有でなければなりません。この名前のキュー定義が既に存在している場合には、REPLACE(*YES)を指定する必要があります。

名前は 48 文字以内で指定します。

注：フィールド長は 48 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

新規キューの名前を指定します。

キュー・タイプ (QTYPE)

作成されるキューのタイプを指定します。

キューが既に存在している場合には、REPLACE(*YES)を指定する 必要があり、また、QTYPE によって指定される値は既存のキューのタイプである必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALS

別名キュー。

*LCL

ローカル・キュー。

*RMT

リモート・キュー。

*MDL

モデル・キュー。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

置換 (REPLACE)

新規キューが、同じ名前およびタイプの既存のキュー定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

既存のキューを置き換えません。指定されたキューが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

FROMQ の属性および、指定した属性を持つ既存のキュー定義を置き換えます。

アプリケーションにキュー・オープンがある場合、または USAGE 属性が変更された場合、コマンドは失敗します。

注: キューがローカル・キューであり、同じ名前のキューが既に存在する場合、そのキューに既に存在するメッセージはすべて保持されます。

テキスト '記述' (TEXT)

キュー定義を簡単に説明するテキストを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

64 文字以下の文字を、アポストロフィで囲んで指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

Put 可能 (PUTENBL)

メッセージをキューに書き込むことができるかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

メッセージをキューに追加することはできません。

***YES**

メッセージを許可アプリケーションによってキューに追加できます。

デフォルトのメッセージ優先順位 (DFTPTY)

キューに書き込まれるメッセージのデフォルト優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。

デフォルトのメッセージ持続性 (DFTMSGPST)

キュー上のメッセージ持続性のデフォルトを指定します。メッセージ持続性によって、メッセージがキュー・マネージャーの再開後も保持されるかどうかが決まります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

デフォルトでは、メッセージはキュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

***YES**

デフォルトでは、メッセージはキュー・マネージャーの再始動の際に保存されます。

プロセス名 (PRCNAME)

トリガー・イベント発生時に開始する必要があるアプリケーションを識別する MQ プロセスのローカル名を指定します。

このプロセスは、キューの作成時に使用可能になっている必要はありませんが、トリガー・イベントを起こさせるには使用可能になっている必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NONE 値**

プロセスは指定されません。

process-name

プロセスの名前を指定します。

トリガー可能 (TRGENBL)

トリガー・メッセージを開始キューに書き込むかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

トリガー・メッセージを開始キューに書き込みません。

***YES**

トリガー発行がアクティブになり、トリガー・メッセージが開始キューに書き込まれます。

Get 可能 (GETENBL)

アプリケーションが、このキューからメッセージを取得できるようにするのかどうかを指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

アプリケーションはキューからメッセージを検索できません。

***YES**

適切な許可アプリケーションが、キューからメッセージを検索できます。

共有可能 (SHARE)

アプリケーションの複数インスタンスがこのキューを入力用にオープンできるかどうかを指定します。
指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューからのものです。

***NO**

単一のアプリケーション・インスタンスのみがキューを入力用にオープンできます。

***YES**

複数のアプリケーション・インスタンスが、キューを入力用にオープンできます。

デフォルト共有オプション (DFTSHARE)

このキューを入力用にオープンしているアプリケーションに対するデフォルト共有オプションを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

オープン要求は入力用のキューの排他使用のためのものです。

***YES**

オープン要求は入力用のキューの共用使用のためのものです。

メッセージ・デリバリー・シーケンス (MSGDLYSEQ)

メッセージ・デリバリー・シーケンスを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***PTY**

メッセージは、優先順位の中でファースト・イン・ファースト・アウト (FIFO) 順に送達されます。

***FIFO**

メッセージは、優先順位と無関係にファースト・イン・ファースト・アウト (FIFO) の順で配信されます。

バックアウト・カウントのハード化 (HDNBKTCNT)

バックアウトされたメッセージのカウントをメッセージ・キュー・マネージャーの再始動の間で保管 (ハード化) する必要があるかどうかを指定します。

注: IBM MQ for IBM i では、この属性の設定とは無関係に、カウントが常にハード化されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

バックアウト・カウントはハード化されません。

***YES**

バックアウト・カウントはハード化されます。

トリガー・タイプ (TRGTYPE)

トリガー・イベントを開始する条件を指定します。条件が満たされると、トリガー・メッセージが開始キューに送信されます。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***FIRST**

キュー上のメッセージ数が 0 から 1 になった時。

***ALL**

メッセージがキューに到着するたび。

***DEPTH**

キュー上のメッセージ数が TRGDEPTH 属性の値と等しくなった時。

***NONE 値**

トリガー・メッセージは書き込まれません。

トリガー項目数 (TRGDEPTH)

TRGTYPE(*DEPTH)の場合に、開始キューへのトリガー・メッセージを開始するメッセージの数を指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

depth-value

1 から 999999999 の範囲の値を指定します。

トリガー・メッセージ優先順位 (TRGMSGPTY)

メッセージがトリガー・イベントを作成し、カウントされることを可能にするために必要なメッセージの優先順位を指定します。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。

トリガー・データ (TRGDATA)

キュー・マネージャーがトリガー・メッセージに組み込む最高 64 文字までのユーザー・データを指定します。このデータは、開始キューを処理するモニター・アプリケーションおよびモニターによって開始されたアプリケーションに対して使用可能になります。

注: アプリケーション・プログラムは MQSET の呼び出しを発行して、この属性値を変更することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

*NONE 値

トリガー・データは指定されません。

trigger-data

最高 64 文字までの文字を、アポストロフィで囲んで指定します。伝送キューの場合には、このパラメーターを使用して、開始するチャンネルの名前を指定することができます。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

保存間隔 (RTNITV)

保存間隔を指定します。この間隔は、キューの作成日時に基づいた、そのキューが必要とすると見なされる時間数です。

この情報は、ハウスキeping・アプリケーションまたは操作員に対するもので、キューがもはや必要でなくなる時点を判別するために使用することができます。

注: メッセージ・キュー・マネージャーは、キューを削除することも、保存間隔が満了していないキューが削除されるのを防止することもしません。必要な処置を取ることはユーザーの責任です。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

interval-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

キューの最大長 (MAXDEPTH)

このキューで許可されるメッセージの最大数を指定します。ただし、キューは他の要素によって、満杯として取り扱われることがあります。例えば、メッセージ用に使用可能な記憶域がない場合には、満杯であるように見えます。

注: この値が CHGMQMQ コマンドを使用することによって後ほど削減された場合、キューにあるメッセージは、新しい最大値を超過しても変更されません。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

depth-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

最大メッセージ長 (MAXMSGLEN)

キュー上のメッセージの最大長を指定します。

注: この値が CHGMQMQ コマンドを使用することによって後ほど削減された場合、キューにあるメッセージは新しい最大長を超過しても変更されません。

アプリケーションは、この属性の値を使用して、キューからメッセージを検索するために必要なバッファのサイズを判別することができます。したがって、この値を変更するのは、これがアプリケーションの誤った操作の原因とならないことが判明している場合だけです。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたキュー・タイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

length-value

0 から 104 857 600 の範囲の値を指定します。

バックアウトしきい値 (BKTTHLD)

バックアウトしきい値を指定します。

WebSphere Application Server 内部で実行しているアプリケーション、および IBM MQ Application Server Facilities を使用するアプリケーションは、この属性を使用して、メッセージをバックアウトする必要があるかどうかを判別します。その他のすべてのアプリケーションでは、キュー・マネージャーは、この属性を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいてアクションを取ることはありません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたキュー・タイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

threshold-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。

バックアウト・リキュー名 (BKTQNAME)

バックアウト・キュー名を指定します。

WebSphere Application Server 内部で実行しているアプリケーション、および IBM MQ Application Server Facilities を使用するアプリケーションは、この属性を使用して、バックアウトされているメッセージの宛先を判別します。その他のすべてのアプリケーションでは、キュー・マネージャーは、この属性を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいてアクションを取ることはありません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたキュー・タイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NONE 値**

バックアウト・キューは指定されません。

backout-queue-name

バックアウト・キュー名を指定します。

開始キュー (INITQNAME)

開始キューの名前を指定します。

注: 開始キューは、メッセージ・キュー・マネージャーの同じインスタンス上になければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたキュー・タイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NONE 値**

開始キューは指定されません。

initiation-queue-name

開始キュー名を指定します。

使用法 (USAGE)

キューが通常使用のためのものか、あるいはリモート・メッセージ・キュー・マネージャーへのメッセージの送信用のものであるかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたキュー・タイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NORMAL**

通常使用です。(キューは伝送キューではありません)

***TMQ**

このキューは、リモート・メッセージ・キュー・マネージャーを宛先とするメッセージを保持するために使用される伝送キューです。伝送キュー名が明示的に指定されていない状況でこのキューを使用しようとする場合には、そのキュー名がリモート・メッセージ・キュー・マネージャーの名前と同じでなければなりません。詳細については、「IBM MQ 相互通信」の資料を参照してください。

定義タイプ (DFNTYPE)

オブジェクト記述子に指定されたこのモデル・キューの名前でアプリケーションが MQOPEN API 呼び出しを出した時に作成される動的キュー定義のタイプを指定します。

注: このパラメーターは、モデル・キュー定義にのみ適用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***TEMPDYN**

一時動的キューを作成します。*YES の DEFMSGPST 値と一緒に指定しないでください。

***PERMDYN**

永続動的キューを作成します。

ターゲット・オブジェクト (TGTQNAME)

このキューが別名となっているターゲット・オブジェクトの名前を指定します。

オブジェクトは、ローカルまたはリモートのキュー、トピック、またはメッセージ・キュー・マネージャーとすることができます。

このフィールドをブランクのままにしないでください。ブランクのままにしておくと、後で TGTNAME の追加によって変更しなければならない別名キューを作成してしまう可能性があります。

メッセージ・キュー・マネージャー名が指定されると、それによって、別名キューに通知されるメッセージを処理するメッセージ・キュー・マネージャーが識別されます。ローカル・メッセージ・キュー・マネージャーか伝送キューのいずれかの名前を指定することができます。

注: ターゲット・オブジェクトは、この時点で存在している必要はありませんが、プロセスで別名キューのオープンが試行される時点では存在していなければなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

ターゲット・オブジェクトの名前は SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE から取り出されます。

target-object-name

ターゲット・オブジェクトの名前を指定します。

リモート・キュー (RMTQNAME)

リモート・キューの名前を指定します。これは、RMTMQMNAME によって指定されたキュー・マネージャーに定義されたものと同じリモート・キューのローカル名です。

この定義がキュー・マネージャーの別名定義に使用される場合には、オープンが行なわれる時に RMTQNAME はブランクになっていなければなりません。

応答先キュー別名でこの定義が使用される場合には、この名前は、応答先キューとなるキューの名前です。指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

リモート・キューの名前は SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE から取り出されます。

***NONE 値**

リモート・キュー名は指定されません (すなわち、名前はブランクです)。これは、定義がキュー・マネージャーの別名定義である場合に使用することができます。

remote-queue-name

リモート・キュー・マネージャーでのキューの名前を指定します。

注: この名前に指定された文字が、通常キュー名として使用できる文字だけであるかどうかは検査されません。

リモート・メッセージ・キュー・マネージャー (RMTMQMNAME)

キュー RMTQNAME が定義されるリモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。

リモート・キューのローカル定義がアプリケーションでオープンされる場合は、RMTMQMNAME として接続キュー・マネージャーの名前を指定してはなりません。TMQNAME がブランクの場合は、この名前のローカル・キューが存在していなければなりません。このキューが伝送キューとして使用されます。

この定義をキュー・マネージャーの別名に使用した場合、RMTMQMNAME がキュー・マネージャーの名前であり、これを接続キュー・マネージャーの名前にすることができます。それ以外の場合、TMQNAME がブランクであるときには、キューのオープン時に、USAGE(*TMQ) が指定された、この名前のローカル・キューが存在している必要があります。このキューが伝送キューとして使用されます。

応答先キュー別名でこの定義が使用される場合には、この名前は、応答先キュー・マネージャーとなるキュー・マネージャーの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE から、リモート・キュー・マネージャーの名前が取り出されます。

リモート・キュー・マネージャー名

リモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。

注: この名前には、必ずキュー・マネージャー名に通常許可されている文字だけが含まれるようにしてください。

伝送キュー (TMQNAME)

リモート・キューかキュー・マネージャーの別名のいずれかの定義の場合に、リモート・キューへ向けられるメッセージに使用される伝送キューのローカル名を指定します。

TMQNAME がブランクの場合には、RMTMQMNAME と同じ名前のキューが伝送キューとして使用されます。

この定義がキュー・マネージャーの別名として使用されていて、接続キュー・マネージャーの名前が RMTMQMNAME である場合には、この属性は無視されます。

また、この定義が応答先キュー別名定義として使用されている場合にも、これは無視されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

伝送キュー名は、SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE から取り出されます。

***NONE 値**

このリモート・キューに特定の伝送キュー名は定義されません。この属性の値は、すべてブランクに設定されます。

伝送キュー名

伝送キュー名を指定します。

キュー項目数の高しきい値 (HIGHTHLD)

「キュー項目数高」イベントを生成するためにキュー項目数を比較する対象のしきい値を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

threshold-value

0 から 100 の範囲の値を指定します。この値は、キューの最大長 (MAXDEPTH パラメーター) パーセンテージとして使用されます。

キュー項目数の低しきい値 (LOWTHLD)

「キュー項目数低」イベントを生成するためにキュー項目数を比較する対象のしきい値を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

threshold-value

0 から 100 の範囲の値を指定します。この値は、キューの最大長 (MAXDEPTH パラメーター) パーセンテージとして使用されます。

キュー・フル・イベント可能 (FULLEVT)

「キュー・フル」イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

*NO

「キュー・フル」イベントは生成されません。

*YES

「キュー・フル」イベントが生成されます。

キュー高イベント可能 (HIGHEVT)

「キュー項目数高」イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

*NO

「キュー項目数高」イベントは生成されません。

*YES

「キュー項目数高」イベントが生成されます。

キュー低イベント可能 (LOWEVT)

「キュー項目数低」イベントが生成されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

「キュー項目数低」イベントは生成されません。

***YES**

「キュー項目数低」イベントが生成されます。

サービス間隔 (SRVITV)

サービス間隔を指定します。この間隔は、「サービス間隔高」イベントおよび「サービス間隔 OK」イベントを生成するための比較に使用されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

interval-value

0 から 999999999 の範囲の値を指定します。この値は、ミリ秒単位です。

サービス間隔イベント (SRVEVT)

「サービス・インターバル高」イベントまたは「サービス・インターバル OK」イベントが生成されるかどうかを指定します。

「サービス・インターバル高」イベントは、少なくとも SRVITV パラメーターで示された時間内には、キューからメッセージは検索されていないことが検査で示された場合に生成されます。

「サービス・インターバル OK」イベントは、検査で、SRVITV パラメーターによって指示された時間内にキューからメッセージが検索されたことが示された場合に生成されます。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***HIGH**

「サービス・インターバル高」イベントが生成されます。

***OK**

サービス間隔 OK イベントが生成されます。

***NONE 値**

サービス・インターバル・イベントは生成されません。

配布リスト・サポート (DISTLIST)

キューが配布リストをサポートするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NO**

配布リストはサポートされません。

***YES**

配布リストがサポートされます。

クラスター名 (CLUSTER)

キューが属するクラスターの名前です。

このパラメーターの変更は、既に関いているキューのインスタンスには影響しません。

動的キュー、伝送キュー、SYSTEM.CHANNEL.XX、SYSTEM.CLUSTER.XX または SYSTEM.COMMAND.XX キューには、このパラメーターは設定できません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

cluster-name

CLUSTER または CLUSNL の結果値のいずれか一方のみを非ブランクにすることができ、両方に値を指定することはできません。

クラスター名リスト (CLUSNL)

そのキューが属しているクラスターのリストを指定する、名前リストの名前です。このパラメーターの変更は、既に開いているキューのインスタンスには影響しません。

動的キュー、伝送キュー、SYSTEM.CHANNEL.XX、SYSTEM.CLUSTER.XX または SYSTEM.COMMAND.XX キューには、このパラメーターは設定できません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

namelist-name

そのキューが属しているクラスターのリストを指定する、NAMELIST の名前です。

デフォルト・バインディング (DEFBIND)

MQOPEN 呼び出しでアプリケーションが MQOO_BIND_AS_Q_DEF を指定し、キューがクラスター・キューである時に、使用するバインドを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***OPEN**

キューのオープン時に、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。

***NOTFIXED**

キュー・ハンドルは、クラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされません。これによりキュー・マネージャーは、MQPUT を使用してメッセージが書き込まれたときに特定のキュー・インスタンスを選択することができ、その後必要に応じてその選択を変更することができます。

MQPUT1 呼び出しは、常に NOTFIXED が指定されているかのように機能します。

***グループ**

キューがオープンされる際、メッセージ・グループにメッセージがある限り、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。メッセージ・グループのすべてのメッセージは、同じ宛先インスタンスに割り振られます。

クラスター・ワークロード・ランク (CLWLRANK)

キューのクラスター・ワークロード・ランクを指定します。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

cluster-workload-rank

0 から 9 の範囲の値を指定します。

クラスター・ワークロード優先順位 (CLWLPRTY)

キューのクラスター・ワークロード優先順位を指定します。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

cluster-workload-priority

0 から 9 の範囲の値を指定します。

クラスター・ワークロード・キューの使用 (CLWLUSEQ)

ターゲット・キューにローカル・インスタンスと少なくとも 1 つのリモート・クラスター・インスタンスの両方がある場合の MQPUT の振る舞いを指定します。PUT がクラスター・チャンネルから発信される場合にはこの属性は適用されません。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***QMGR**

キュー・マネージャー CLWLUSEQ 属性からの値が継承されます。

***LOCAL (ローカル)**

ローカル・キューは、MQPUT のただ 1 つの宛先です。

***ANY**

キュー・マネージャーは、ワークロード分散の目的でこうしたローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして扱います。

キュー・モニター (MONQ)

オンライン・モニター・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 MONQ が *NONE に設定されると、オンライン・モニター・データは収集されません。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONQ の設定から継承されます。

***OFF**

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

キュー統計 (STATQ)

統計データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 STATQ が *NONE に設定されると、オンライン・モニター・データは収集されません。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***QMGR**

統計データ収集は、キュー・マネージャー属性 STATQ の設定に基づきます。

***OFF**

このキューの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***ON**

このキューの統計データ収集はオンに切り替えられます。

キュー・アカウントिंग (ACCTQ)

アカウント・データの収集を制御します。

キュー・マネージャー属性 ACCTQ が*NONE に設定されると、アカウント・データは収集されません。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

*QMGR

アカウント・データ収集は、キュー・マネージャー属性 ACCTQ の設定に基づきます。

*OFF

このキューのアカウント・データ収集はオフに切り替えられます。

*ON

このキューのアカウント・データ収集はオンに切り替えられます。

非持続メッセージ・クラス (NPMCLASS)

このキューに書き込まれる非持続メッセージの信頼性のレベルを指定します。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

*NORMAL

このキューに書き込まれる非持続メッセージが失われるのは、障害またはキュー・マネージャー・シャットダウンの後だけです。このキューに書き込まれる非持続メッセージは、キュー・マネージャーの再始動時に廃棄されます。

*HIGH

このキューに書き込まれる非持続メッセージは、キュー・マネージャーの再始動時には廃棄されません。しかし、障害が発生すると、このキューに書き込まれる非持続メッセージは失われる可能性があります。

メッセージの先読み (MSGREADAHD)

非持続メッセージがアプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTQ

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

*DISABLED

先読みは、このキューでは使用不可になっています。先読みがクライアント・アプリケーションによって要求されているかどうかに関係なく、アプリケーションが要求するよりも前にメッセージがクライアントに送られることはありません。

*NO

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られません。クライアントが異常終了した場合に失われる非持続メッセージは、最大で1つだけです。

*YES

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られます。クライアントが異常終了する場合、またはクライアント・アプリケーションが送られたメッセージすべてをコンシュームしない場合は、非持続メッセージが失われることがあります。

デフォルトの Put 応答 (DFTPUTRESP)

デフォルトの PUT 応答タイプ(DFTPUTRESP)属性は、アプリケーションが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF オプションを指定するときに、MQPUT および MQPUT1 呼び出しに必要な応答のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***SYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。これは IBM MQ に用意されたデフォルト値ですが、ご使用のインストール環境では変更されている可能性があります。

***ASYNQ**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、常に、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO の一部のフィールドはキュー・マネージャーによってアプリケーションに戻されませんが、トランザクションに書き込まれたメッセージや非持続メッセージのパフォーマンスに向上が見られる場合があります。

プロパティー制御 (PROPCTL)

MQGMO_PROPERTIES_AS_Q_DEF オプションが指定された場合に、MQGET 呼び出しを使用してキューから取り出すメッセージのプロパティーに何が生じるかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***COMPAT**

メッセージに mcd.、jms.、usr.、または mqext. という接頭部を持つプロパティーがある場合、メッセージのプロパティーはすべて MQRFH2 ヘッダー内のアプリケーションに配信されます。それ以外の場合、メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるものを除くメッセージのプロパティーはすべて廃棄され、アプリケーションにアクセスできなくなります。

***NONE 値**

メッセージ記述子 (または拡張) に含まれているものを除き、メッセージのすべてのプロパティーは廃棄され、アプリケーションからアクセス可能ではなくなります。

***ALL**

メッセージのすべてのプロパティー (メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるものを除く) は、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに含まれます。

***FORCE**

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティーが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

***V6COMPAT**

*V6COMPAT を設定する場合は、MQPUT により解決されるキュー定義および MQGET により解決されるキュー定義、両方のいずれかのキュー定義に設定する必要があります。これは、介在するその他すべての伝送キューにも設定する必要があります。これにより MQRFH2 ヘッダーが、変更されずに送信側アプリケーションから受信側アプリケーションに渡されます。これは、キュー名解決チェーン内で検出される他の **PROPCTL** の設定をオーバーライドします。プロパティーがクラスター・キューに設定されると、その設定が他のキュー・マネージャー上にローカルでキャッシュされることはありません。
*V6COMPAT はクラスター・キューに解決される別名キューに設定する必要があります。書き込みアプリケーションが接続されているキュー・マネージャーと同じキュー・マネージャーに別名キューを定義します。

ターゲット・タイプ (TARGTYPE)

別名が解決されて生じるオブジェクトのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**

この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***キュー**
キュー・オブジェクト。

***TOPIC**
トピック・オブジェクト。

カスタム属性 (CUSTOM)

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。現在は、*CUSTOM* に対する有意義な値がないため、空のままにしてください。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTQ**
この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***BLANK**
テキストはブランク・ストリングに設定されます。

custom
1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

CLCHNAME

このパラメーターは、伝送キューでのみサポートされます。

***SYSDFTQ**
この属性の値は、指定されたタイプのシステム・デフォルト・キューから取り出されます。

***NONE 値**
属性は削除されます。

custom
1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

アスタリスク "*" を **ClusterChannelName** に指定することにより、伝送キューをクラスター送信側チャネルのセットに関連付けることができます。アスタリスクはチャネル名ストリングの先頭、末尾、またはそれ以外の場所に任意の数だけ使用できます。 **ClusterChannelName** の長さは 20 文字までに制限されています (MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH)。

MQ サブスクリプションの作成 (CRTMQMSUB)

実行可能な場所
すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ
Yes

MQ サブスクリプションの作成 (CRTMQMSUB) コマンドは、デフォルトとは異なる属性を指定して、新規 MQ サブスクリプション定義を作成します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SUBNAME</u>	サブスクリプション名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2

キーワード	説明	選択	注
REPLACE	置換	*NO 、 *YES	オプション、キー、定位置 3
TOPICSTR	トピック・ストリング	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 4
TOPICOBJ	トピック・オブジェクト	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 5
DEST	Destination	文字値、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 6
DESTMQM	宛先キュー・マネージャー	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 7
DESTRRLID	宛先相関 ID	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 8
PUBACCT	パブリッシュ・アカウント・トークン	文字値、 *CURRENT 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 9
PUBAPPID	パブリッシュ APPL ID	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 10
SUBUSER	サブスクリプション・ユーザー ID	文字値、 *CURRENT 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 11
USERDATA	サブスクリプション・ユーザー・データ	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 12
SELECTOR	セレクター・ストリング	文字値、 *NONE 、 *SYSDFTSUB	オプション、定位置 13
PSPROP	PubSub プロパティ	*SYSDFTSUB 、 *NONE 、 *COMPAT 、 *RFH2 、 *MSGPROP	オプション、定位置 14
DESTCLASS	宛先クラス	*SYSDFTSUB 、 *MANAGED 、 *PROVIDED	オプション、定位置 15
SUBSCOPE	サブスクリプション有効範囲	*SYSDFTSUB 、 *ALL 、 *QMGR	オプション、定位置 16
VARUSER	変数ユーザー	*SYSDFTSUB 、 *ANY 、 *FIXED	オプション、定位置 17
REQONLY	要求パブリケーション	*SYSDFTSUB 、 *YES 、 *NO	オプション、定位置 18
PUBPTY	パブリッシュ優先度	0-9、 *SYSDFTSUB 、 *ASQDEF	オプション、定位置 19
WSHEMA	ワイルドカード・スキーマ	*SYSDFTSUB 、 *TOPIC 、 *CHAR	オプション、定位置 20
EXPIRY	有効期限時刻	0-9999999999、 *SYSDFTSUB 、 *UNLIMITED	オプション、定位置 21

サブスクリプション名 (SUBNAME)

作成する新規 MQ サブスクリプションの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

subscription-name

最大で 256 バイトのサブスクリプション名を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

置換 (REPLACE)

同じ名前のサブスクリプションが既に存在している場合は、その定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

このサブスクリプションは、同じ名前またはサブスクリプション ID の既存のサブスクリプションを置き換えません。サブスクリプションが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のサブスクリプションを置き換えます。同じ名前のサブスクリプションも、同じサブスクリプション ID のサブスクリプションもない場合には、新規のサブスクリプションが作成されます。

トピック・ストリング (TOPICSTR)

このサブスクリプションに関連付けられたトピック・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

topic-string

最大で 256 バイトのトピック・ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超えるトピック・ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

トピック・オブジェクト (TOPICOBJ)

このサブスクリプションに関連付けられたトピック・オブジェクトを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

topic-object

トピック・オブジェクトの名前を指定します。

宛先 (DEST)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キューを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

destination-queue

宛先キューの名前を指定します。

宛先キュー・マネージャー (DESTMQM)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャーを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

宛先キュー・マネージャー

宛先キュー・マネージャーの名前を指定します。

宛先関連 ID (DESTRRLID)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの関連 ID を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

宛先関連 ID

24 バイトの関連 ID を表す 48 文字 16 進数ストリングを指定します。

パブリッシュ・アカウントिंग・トークン (PUBACCT)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのアカウントिंग・トークンを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***NONE 値**

メッセージは、MQACT_NONE のアカウントING・トークンで宛先に置かれます。

publish-accounting-token

32 バイトのパブリッシュ・アカウントING・トークンを表す 64 文字 16 進数ストリングを指定します。

パブリッシュ・アプリケーション ID (PUBAPPID)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのパブリッシュ・アプリケーション ID を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***NONE 値**

パブリッシュ・アプリケーション ID は指定されません。

publish-application-identifier

パブリッシュ・アプリケーション ID を指定します。

サブスクリプション・ユーザー ID (SUBUSER)

このサブスクリプションを所有するユーザー・プロファイルを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

***CURRENT**

現在のユーザー・プロファイルが新しいサブスクリプションの所有者です。

user-profile

ユーザー・プロファイルを指定します。

サブスクリプション・ユーザー・データ (USERDATA)

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***NONE 値**

ユーザー・データは指定されません。

user-data

最大で 256 バイトのユーザー・データを指定します。

注: 256 バイトを超えるユーザー・データは、MQSC を使用して指定できます。

セクター・ストリング (SELECTOR)

指定されたトピックでパブリッシュされるメッセージに適用して、それらがこのサブスクリプションに適合かどうかを選択するための、SQL 92 セクター・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***NONE 値**

選択ストリングは指定されません。

selection-string

最大で 256 バイトの選択ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超える選択ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

PubSub プロパティ (PSPROP)

パブリッシュ/サブスクライブに関連したメッセージ・プロパティが、このサブスクリプションに送られるメッセージに追加される方法を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***NONE 値**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、このメッセージに追加されません。

***COMPAT**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、V6 のパブリッシュ/サブスクライブとの互換性を維持するために、メッセージに追加されます。

***RFH2**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、RFH バージョン 2 のヘッダーとしてメッセージに追加されます。

***MSGPROP**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、メッセージ・プロパティとして追加されます。

宛先クラス (DESTCLASS)

これが管理対象サブスクリプションかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***MANAGED**

宛先は管理対象。

***PROVIDED**

宛先はキュー。

サブスクリプション有効範囲 (SUBSCOPE)

このサブスクリプションを他のブローカーに(プロキシ・サブスクリプションとして)転送して、サブスクライバーがそれら他のブローカーでパブリッシュされたメッセージを受け取るようにするかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***ALL**

サブスクリプションは、パブリッシュ/サブスクライブの集合または階層で直接接続された、すべてのキュー・マネージャーに転送されます。

***QMGR**

サブスクリプションは、このキュー・マネージャー内のトピックでパブリッシュされたメッセージだけを転送します。

可変ユーザー (VARUSER)

サブスクリプションの作成者以外のユーザー・プロファイルが、(トピックおよび宛先権限検査に従って)そのサブスクリプションに接続可能かどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***ANY**

すべてのユーザー・プロファイルがサブスクリプションに接続できます。

***FIXED**

サブスクリプションを作成したユーザー・プロファイルのみが、そのサブスクリプションに接続できます。

要求パブリケーション (REQONLY)

サブスクライバーが MQSUBRQ API を介して更新のためにポーリングするかどうかや、すべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに送信されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***YES**

パブリケーションは、MQSUBRQ API に対する応答としてのみ、このサブスクリプションに送信されます。

***NO**

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。

パブリッシュの優先順位 (PUBPTY)

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***AS PUB**

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位は、パブリッシュされたメッセージに指定された優先順位から得られます。

***ASQDEF**

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先順位は、宛先として定義されるキューのデフォルトの優先順位から得られます。

priority-value

0 から 9 の範囲の優先順位を指定します。

ワイルドカード・スキーマ (WSHEMA)

トピック・ストリング内のワイルドカード文字の解釈に使用されるスキーマを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***TOPIC**

ワイルドカード文字はトピック階層の部分を表します。

***CHAR**

ワイルドカード文字はストリングの一部を表します。

有効期限時刻 (EXPIRY)

サブスクリプションの有効期限時刻を指定します。サブスクリプションは、有効期限時刻を経過すると、キュー・マネージャーによって廃棄される対象となり、以降パブリッシュを受信しません。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSUB**

この属性の値は、システム・デフォルト・サブスクリプションから取り出されます。

***UNLIMITED**

サブスクリプションは満了しません。

expiry-time

有効期限時刻を 0.1 秒単位で、0 から 999999999 の範囲で指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ サービスの作成 (CRTMQMSVC)

実行可能な場所:	スレッド・セーフ:
すべての環境 (*ALL)	Yes

MQ サービスの作成 (CRTMQMSVC) コマンドは、デフォルトとは異なる属性を指定して、新しい MQ サービス定義を作成します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
SVCNAME	サービス名	文字値	必須、キー、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
REPLACE	置換	*NO 、 *YES	オプション、定位置 3
TEXT	テキスト '記述'	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTSVC	オプション、定位置 4
STRCMD	プログラムを開始	単一値: *SYSDFTSVC 、 *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 5
	修飾子 1: 開始プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
STRARG	開始プログラム実引数	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTSVC	オプション、定位置 6
ENDCMD	終了プログラム	単一値: *SYSDFTSVC 、 *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 7
	修飾子 1: 終了プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
ENDARG	終了プログラム実引数	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTSVC	オプション、定位置 8
STDOUT	標準出力	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTSVC	オプション、定位置 9
STDERR	標準エラー	文字値、 *BLANK 、 *SYSDFTSVC	オプション、定位置 10
TYPE	サービス・タイプ	*SYSDFTSVC 、 *CMD 、 *SVR	オプション、定位置 11
CONTROL	サービス制御	*SYSDFTSVC 、 *MANUAL 、 *QMGR 、 *STARTONLY	オプション、定位置 12

サービス名 (SVCNAME)

新規 MQ サービス定義の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

サービス名

サービス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

置換 (REPLACE)

同じ名前のサービス定義が既に存在している場合、その定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

この定義は、同じ名前の既存のサービス定義を置き換えません。指定されたサービス定義が既に存在している場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のサービス定義を置き換えます。同じ名前の定義がない場合は、新規の定義が作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

サービス定義を簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

新規記述情報を指定します。

開始プログラム (STRCMD)

実行するプログラムの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

start-command

実行可能な開始コマンドの名前。

開始プログラム実引数 (STRARG)

開始時にプログラムに渡される引数。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

***BLANK**

開始コマンドに引数は渡されません。

start-command-arguments

開始コマンドに渡される引数。

終了プログラム (ENDCMD)

サービスの停止が要求されると実行する実行可能プログラムの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

***BLANK**

終了コマンドは実行されません。

end-command

実行可能な終了コマンドの名前。

終了プログラム実引数 (ENDARG)

サービスが停止を要求されるときに、終了プログラムに渡される引数。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

***BLANK**

引数は終了コマンドに渡されません。

end-command-arguments

終了コマンドに渡される引数。

標準出力 (STDOUT)

サービス・プログラムの標準出力が転送されるファイルへのパス。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

***BLANK**

標準出力は廃棄されます。

stdout-path

標準出力パス。

標準エラー (STDERR)

サービス・プログラムの標準エラーが転送されるファイルのパス。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

***BLANK**

標準エラーは廃棄されます。

stderr-path

標準エラー・パス。

サービス・タイプ (TYPE)

サービスを実行するモード。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTSVC**

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

***CMD**

開始時にコマンドは実行されますが、状況は収集されることも表示されることもありません。

*SVR

開始された実行可能プログラムの状況がモニターおよび表示されます。

サービス制御 (CONTROL)

キュー・マネージャー開始時にサービスを自動的に開始するかどうか。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTSVC

この属性の値は、システム・デフォルト・サービスから取り出されます。

*MANUAL

サービスは自動的に開始されることも停止されることもありません。

*QMGR

キュー・マネージャーが開始するとサービスが開始し、キュー・マネージャーが停止するとサービスが停止します。

*STARTONLY

キュー・マネージャーの開始時にサービスは開始されますが、キュー・マネージャーが停止する際にサービスの停止は要求されません。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ トピックの作成 (CRTMQMTOP)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ トピックの作成 (CRTMQMTOP) コマンドは、デフォルトとは異なる属性を指定して、新規 MQ トピック・オブジェクトを作成します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>TOPNAME</u>	トピック名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>REPLACE</u>	置換	*NO、*YES	オプション、定位置 3
<u>TEXT</u>	テキスト '記述'	文字値、*BLANK、*SYSDFTTOP	オプション、定位置 4
<u>TOPICSTR</u>	トピック・ストリング	文字値、*BLANK、*SYSDFTTOP	オプション、定位置 5
<u>DURSUB</u>	永続サブスクリプション	*SYSDFTTOP、*ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 6
<u>MGDDURMDL</u>	永続的モデル・キュー	文字値、*NONE、*SYSDFTTOP	オプション、定位置 7

キーワード	説明	選択	注
MGDNDURMDL	非永続的モデル・キュー	文字値、*NONE、 *SYSDFTTOP	オプション、定位置 8
PUBENBL	パブリッシュ	*SYSDFTTOP 、 *ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 9
SUBENBL	サブスクライブ	*SYSDFTTOP 、 *ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 10
DFTPTY	デフォルトのメッセージ 優先順位	0-9、 *SYSDFTTOP 、 *ASPARENT	オプション、定位置 11
DFTMSGPST	デフォルトのメッセージ 持続性	*SYSDFTTOP 、 *ASPARENT、*YES、*NO	オプション、定位置 12
DFTPUTRESP	デフォルトの Put 応答	*SYSDFTTOP 、 *ASPARENT、*SYNC、 *ASYN	オプション、定位置 13
WILDCARD	ワイルドカードの動作	*SYSDFTTOP 、 *PASSTHRU、*BLOCK	オプション、定位置 14
PMSGDLV	持続メッセージ送達	*SYSDFTTOP 、 *ASPARENT、*ALL、 *ALLDUR、*ALLAVAIL	オプション、定位置 15
NMSGDLV	非持続メッセージ送達	*SYSDFTTOP 、 *ASPARENT、*ALL、 *ALLDUR、*ALLAVAIL	オプション、定位置 16
CUSTOM	カスタム属性	文字値、*BLANK、 *SYSDFTTOP	オプション、定位置 17

トピック名 (TOPNAME)

作成する新規 MQ トピック・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-name

新規 MQ トピック・オブジェクトの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

置換 (REPLACE)

同じ名前のトピック・オブジェクトが既に存在している場合、その定義を置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

このオブジェクトは、同じ名前の既存のトピック・オブジェクトを置き換えません。指定されたトピック・オブジェクトが既に存在する場合、コマンドは失敗します。

***YES**

既存のトピック・オブジェクトを置き換えます。同じ名前をもつオブジェクトがない場合には、新規のオブジェクトが作成されます。

テキスト '記述' (TEXT)

トピック・オブジェクトを簡単に説明するテキストを指定します。

注: フィールド長は 64 バイトであり、システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***BLANK**

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

description

新規記述情報を指定します。

トピック・ストリング (TOPICSTR)

このトピック・オブジェクト定義によって表されるトピック・ストリングを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-string

最大で 256 バイトのトピック・ストリングを指定します。

注: 256 バイトを超えるトピック・ストリングは、MQSC を使用して指定できます。

永続サブスクリプション (DURSUB)

アプリケーションがこのトピックに対して永続サブスクリプションを行うことが許可されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

このトピックに対して永続サブスクリプションを作成できるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

永続サブスクリプションはこのノードで作成可能です。

***NO**

永続サブスクリプションはこのノードで作成不可です。

永続的モデル・キュー (MGDDURMDL)

キュー・マネージャーに対してパブリケーションの宛先の管理を要求する、永続サブスクリプションに使用するモデル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

durable-model-queue

モデル・キューの名前を指定します。

非永続的モデル・キュー (MGDNDURMDL)

キュー・マネージャーに対してパブリケーションの宛先の管理を要求する、非永続サブスクリプションに使用するモデル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

non-durable-model-queue

モデル・キューの名前を指定します。

パブリッシュ (PUBENBL)

トピックに対してメッセージをパブリッシュできるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

このトピックに対してメッセージをパブリッシュできるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

トピックに対してメッセージをパブリッシュできます。

***NO**

メッセージはトピックに対してパブリッシュ不可。

サブスクライブ (SUBENBL)

アプリケーションがこのトピックに対するサブスクライブを許可されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

このトピックに対するサブスクリプションを作成できます。

***NO**

アプリケーションは、このトピックにサブスクライブできません。

デフォルトのメッセージ優先順位 (DFTPTY)

トピックに対してパブリッシュされたメッセージのデフォルトの優先度を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

デフォルトの優先順位は、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

priority-value

0 から 9 の範囲の値を指定します。

デフォルトのメッセージ持続性 (DFTMSGPST)

アプリケーションで MQPER_PERSISTENCE_AS_TOPIC_DEF オプションが指定されている場合に使用するメッセージ持続性を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

デフォルトの持続性は、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***YES**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

***NO**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

デフォルトの Put 応答 (DFTPUTRESP)

アプリケーションが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF オプションを指定するときに、MQPUT 呼び出しおよび MQPUT1 呼び出しに必要な応答のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

デフォルトの応答タイプは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***SYNC**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。

***ASYNCR**

この値を指定すると、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、常に、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定されていたかのように発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドの一部は、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されません。トランザクションに入れられるメッセージまたは非持続メッセージで、パフォーマンスが改善されることがあります。

ワイルドカードの性質 (WILDCARD)

このトピックに関連したワイルドカード・サブスクリプションの動作を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***PASSTHRU**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーションと、より特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションとを受け取ることになります。

***BLOCK**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーション、またはより特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションを受け取りません。

持続メッセージの配信 (PMSGDLV)

このトピックにパブリッシュされた持続メッセージの配信手段を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

***ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLDUR**

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの持続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLAVAIL**

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

非持続メッセージ送達 (NPMSGDLV)

このトピックにパブリッシュされた非持続メッセージの配信手段を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SYSDFTTOP**

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

***ASPARENT**

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

***ALL**

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLDUR**

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非持続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

***ALLAVAIL**

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

カスタム属性 (CUSTOM)

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。現在は、*CUSTOM* に対する有意義な値がないため、空のままにしてください。

指定できる値は以下のとおりです。

*SYSDFTTOP

この属性の値は、システム・デフォルト・トピックから取り出されます。

*BLANK

テキストはブランク・ストリングに設定されます。

custom

1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性 (属性名と値のペア) を指定します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式で、大文字で指定する必要があります。単一引用符は、必ずもう 1 つの単一引用符でエスケープする必要があります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ データ・タイプの変換 (CVTMQMDTA)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ データ・タイプの変換 (CVTMQMDTA) コマンドは、データ・タイプ構造体でデータ変換を実行するコードのフラグメントを作成し、データ変換出口プログラムで使用できるようにします。

データ変換出口の使用法について詳しくは、「IBM MQ アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。

C プログラミング言語のサポートのみが提供されます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
FROMFILE	入力ファイル	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: 入力ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *LIBL 、*CURLIB	
FROMMBR	入力を含むメンバー	名前	必須、定位置 2
TOFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	必須、定位置 3
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *LIBL 、*CURLIB	
TOMBR	出力を受け取るメンバー	名前、 *FROMMBR	オプション、定位置 4
RPLTOMBR	メンバーへの置換	*YES 、*NO	オプション、定位置 5

入力ファイル (FROMFILE)

変換するデータを含むファイルの修飾名を LIBRARY/FILE の形式で指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***LIBL**

ライブラリー・リストでファイル名を検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。

from-library-name

使用されるライブラリーの名前を指定します。

from-file-name

変換するデータを含むファイルの名前を指定します。

入力を含むメンバー (FROMMBR)

変換するデータを含むメンバーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

from-member-name

変換するデータを含むメンバーの名前を指定します。

出力を受け取るファイル (TOFILE)

変換されたデータを含むファイルの修飾名を LIBRARY/FILE の形式で指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***LIBL**

ライブラリー・リストでファイル名を検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。

to-library-name

使用されるライブラリーの名前を指定します。

to-file-name

変換されたデータを含むファイルの名前を指定します。

出力を受け取るメンバー (TOMBR)

変換されたデータを含むメンバーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***FROMMBR**

from-member 名を使用します。

to-member-name

変換されたデータを含むメンバーの名前を指定します。

メンバーへの置換 (RPLTOMBR)

変換されたデータが既存のメンバーを置き換えるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***YES**

変換されたデータが既存のメンバーを置き換えます。

***NO**

変換されたデータが既存のメンバーを置き換えません。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete Message Queue Manager (DLTMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete Message Queue Manager (DLTMQM) コマンドは、指定されたローカル・キュー・マネージャーを削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete MQ AuthInfo object (DLTMQMAUTI)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete MQ AuthInfo Object (DLTMQMAUTI) コマンドは、既存の MQ 認証情報オブジェクトを削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>AINAME</u>	認証情報名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

認証情報名 (AINAME)

削除する認証情報オブジェクトの名前です。

アプリケーションによってオープンされている場合、このコマンドは失敗します。

指定できる値は以下のとおりです。

authentication-information-name

認証情報オブジェクトの名前を指定します。最大ストリング長は 48 文字です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの削除 (DLTMQMBRK)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ ブローカー削除コマンド (DLTMQMBRK) は、ブローカーを削除するために使用します。このコマンドを実行するには、ブローカーが停止していること、およびキュー・マネージャーが実行していることが必要です。ブローカーが既に開始されている場合は、このコマンドを出す前に ENDMQMBRK を出す必要があります。同じ階層にある複数のブローカーを削除するには、各ブローカーを 1 つずつ (ENDMQMBRK コマンドを使用して) 停止し、削除する必要があります。最初に階層内の削除対象の全ブローカーを停止してから、それらのブローカーの削除を試みる方法は取らないでください。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャンネルの削除 (DLTMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャンネルの削除 (DLTMQMCHL) コマンドは、指定されたチャンネル定義を削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャンネル名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>CHLTYPE</u>	チャンネル・タイプ	*RCVR、*SDR、*SVR、 *RQSTR、*SVRCN、 *CLUSSDR、*CLUSRCVR、 *NONCLT 、*CLTCN	オプション、定位置 3

チャンネル名 (CHLNAME)

チャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャンネル名を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

チャンネル・タイプ

削除するチャンネルのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NONCLT**

クライアント接続チャンネルではない、チャンネル名に一致する任意のチャンネル・タイプです。

***SDR**

送信側チャンネル

***SVR**

サーバー・チャンネル

***RCVR**

受信側チャンネル

***RQSTR**

要求側チャンネル

***SVRCN**

サーバー接続チャンネル

***CLUSSDR**

クラスター送信側チャンネル

***CLUSRCVR**

クラスター受信側チャンネル

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete MQ Listener (DLTMQMLSR)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete MQ Listener Object (DSPMQMLSR) コマンドは、既存の MQ リスナー・オブジェクトを削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>LSRNAME</u>	リスナー名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

リスナー名 (LSRNAME)

削除するリスナー・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

listener-name

リスナー定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete MQ Namelist (DLTMQMNL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete MQ Namelist (DLTMQMNL) コマンドは、選択されたローカル・キュー・マネージャー上の 指定の名前リストを削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>NAMELIST</u>	名前リスト	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

名前リスト (NAMELIST)

削除する名前リストの名前です。

名前リスト

名前リストの名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete MQ Process (DLTMQMPRC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete MQ Process (DLTMQMPCRC) コマンドは、既存の MQ プロセス定義を削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>PRCNAME</u>	プロセス名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

プロセス名 (PRCNAME)

削除するプロセス定義の名前です。このプロセスをオープンしているアプリケーションがある場合、コマンドは失敗します。

指定できる値は以下のとおりです。

process-name

プロセス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ キューの削除 (DLTMQMQ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ キューの削除 (DLTMQMQ) コマンドは、MQ キューを削除します。

キューがローカル・キューである場合には、キューが空でないとコマンドを正常に実行できません。CLRMQMQ を使用して、ローカル・キューからすべてのメッセージを消去できます。

アプリケーションが次の場合には、コマンドは正しく実行されません。

- このキューがオープンしている
- このキューを解決するキューがオープンしている
- キュー・マネージャーの別名として、この定義により解決する キューがオープンしている

ただし、定義を応答先キューの別名として使用しているアプリケーションは、このコマンドが正しく実行されない原因にはなりません。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

キュー名 (QNAME)

キューの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

キューの名前を入力します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete MQ Subscription (DLTMQMSUB)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete MQ Subscription (DLTMQMSUB) コマンドは、既存の MQ サブスクリプションを削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SUBID</u>	サブスクリプション ID	文字値、 *NONE	オプション、定位置 1
<u>SUBNAME</u>	サブスクリプション名	文字値、 *NONE	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3

サブスクリプション ID (SUBID)

削除するサブスクリプションのサブスクリプション ID です。

指定できる値は以下のとおりです。

subscription-name

最大で 256 バイトのサブスクリプション名を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

サブスクリプション名 (SUBNAME)

削除するサブスクリプションの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

subscription-name

最大で 256 バイトのサブスクリプション名を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete MQ Service (DLTMQMSVC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete MQ Service Object (DLTMQMSVC) コマンドは、既存の MQ サービス・オブジェクトを削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SVCNAME</u>	サービス名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

サービス名 (SVCNAME)

削除するサービス・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

サービス名

サービス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Delete MQ Topic (DLTMQMTOP)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Delete MQ Topic (DLTMQMTOP) コマンドは、既存の MQ トピック・オブジェクトを削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>TOPNAME</u>	トピック名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

トピック名 (TOPNAME)

削除するトピック・オブジェクトの名前です。アプリケーションがこのトピックをオープンしている場合、このコマンドは失敗します。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-name

トピック・オブジェクトの名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 構成のダンプ (DMPMQMCFG)

実行可能な場所:	スレッド・セーフ:
すべての環境 (*ALL)	Yes

MQ 構成のダンプ (DMPMQMCFG) コマンドは、キュー・マネージャーの構成オブジェクトおよび権限をダンプするために使用されます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
OBJ	オブジェクト名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL 、*AUTHINFO、*CHL、*CLTCN、*COMMINFO、*LSR、*NMLIST、*PRC、*Q、*MQM、*SVC、*SUB、*TOPIC	オプション、定位置 3
EXPTYPE	エクスポート・タイプ	*ALL 、*OBJECT、*AUTHREC、*CHLAUTH	オプション、定位置 4
EXPATTR	エクスポートの属性	*NONDEF 、*ALL	オプション、定位置 5
WARN	警告	*NO 、*YES	オプション、定位置 6
OUTPUT	出力	*MQSC 、*ONELINE、*SETMQAUT、*GRMQMAUT	オプション、定位置 7
CLIENT	クライアント 接続	*NO 、*YES、*CHL	オプション、定位置 8
CLIENTCHL	MQSC チャンネル定義	文字値、 *NONE	オプション、定位置 9
MSGSEQNUM	メッセージ順序番号	1 から 999999999、 *NORESET	オプション、定位置 10
RPLYQ	応答キュー	文字値、' SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUE '	オプション、定位置 11
RMTMQMNAME	リモート・メッセージ・キュー・マネージャー	文字値、 *NONE	オプション、定位置 12
TOFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 13
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	Name	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *LIBL	
TOMBR	出力を受け取るメンバー	Name	オプション、定位置 14

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

オブジェクト情報を表示する対象となる IBM MQ キュー・マネージャーの名前を指定します。
指定できる値は以下のとおりです。

DFT*キュー・マネージャー名**

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

オブジェクト名 (OBJ)

ダンプ対象オブジェクトの名前を指定します。これは、48 文字の MQ オブジェクト名または総称オブジェクト名です。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

指定したタイプ (OBJTYPE) のすべてのオブジェクトがダンプされます。

generic-object-name

オブジェクトの総称名を指定します。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトを選択できます。

必要な名前を引用符で囲んで指定することで、入力した内容を正確に選択することができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

object-name

対応する名前とタイプを表示するオブジェクトの名前です。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

ダンプ対象オブジェクトのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ オブジェクト。

***AUTHINFO**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ 認証情報オブジェクト。

***CHL**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ チャンネル・オブジェクト。

***CLTCN**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ クライアント接続オブジェクト。

***COMMINFO**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ 通信情報オブジェクト。

***LSR**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ リスナー・オブジェクト。

***NMLIST**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ 名前リスト・オブジェクト。

***PRC**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ プロセス・オブジェクト。

***Q**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ キュー・オブジェクト。

***MQM**

キュー・マネージャー・オブジェクト。

***SVC**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ サービス・オブジェクト。

***TOPIC**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ トピック・オブジェクト。

エクスポート・タイプ (EXPTYPE)

エクスポートのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべての MQ オブジェクト情報、権限情報、およびサブスクリプション構成情報がダンプされます。

***OBJECT (* オブジェクト)**

MQ オブジェクト情報のみがダンプされます。

***AUTHREC**

MQ 権限情報のみがダンプされます。

***CHLAUTH**

MQ チャネル権限レコードのみがダンプされます。

***SUB**

MQ 永続サブスクリプション情報のみがダンプされます。

エクスポート属性 (EXPATTR)

エクスポートする属性を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NONDEF**

デフォルト以外の属性値のみがダンプされます。

***ALL**

すべての属性値がダンプされます。

警告 (WARN)

ダンプ中に警告を生成するかどうかを指定します。例えば、意図していたものより新しいキュー・マネージャーにコマンドが発行された場合や、損傷したオブジェクトが検出された場合です。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

ダンプ中に警告メッセージは出されません。

***YES**

ダンプ中に警告メッセージがあれば出されます。

出力 (OUTPUT)

ダンプの出力形式を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***MQSC**

出力形式は MQSC コマンドの形式になり、RUNMQSC コマンドまたは STRMQMMQSC コマンドへの入力として使用できます。

***ONELINE**

出力形式は、単一行レコードにフォーマット設定された MQSC コマンドの形式になり、行比較ツールでの使用に適しています。

***SETMQAUT**

出力形式は setmqaut コマンドの形式になり、Windows または UNIX プラットフォームでの使用に適しています。

***GRMQMAUT**

出力形式は GRMQMAUT コマンドの形式になり、IBM i プラットフォームで制御言語プログラムを生成するという用途に適しています。

クライアント接続 (CLIENT)

キュー・マネージャーへの接続にクライアント接続を使用するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

コマンドは、まずサーバー・バインディング接続を試行し、この接続に失敗した場合にクライアント接続を試行します。

*YES

コマンドは、デフォルトのクライアント接続プロセスを使用してクライアント接続経由での接続を試行します。MQSERVER 環境変数を設定すると、クライアント接続チャンネル・テーブルの使用がオーバーライドされます。

*CHL

コマンドは、CLIENTCHL パラメーターで指定された MQSC スtring によって定義される一時チャンネル定義を使用してキュー・マネージャーに接続を試行します。

MQSC チャンネル定義 (CLIENTCHL)

キュー・マネージャーに接続する際に使用する一時クライアント・チャンネル定義を MQSC 構文を使って指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

キュー・マネージャーに接続する際に一時クライアント・チャンネル定義を使用しません。

mqsc-define-channel-string

コマンドは、このパラメーターで指定された MQSC コマンドを使用して一時クライアント・チャンネル定義の構成を試行します。MQSC コマンドでは、クライアント接続チャンネルに必要なすべての属性を定義する必要があります。例えば次のようにします。

```
"DEFINE CHANNEL(MY.CHL) CHLTYPE(CLNTCONN) CONNAME(MYHOST.MYCORP.COM(1414))"
```

メッセージ順序番号 (MSGSEQNUM)

チャンネル・オブジェクトをダンプするときに、送信側チャンネル・タイプ、サーバー・チャンネル・タイプ、およびクラスター送信側チャンネル・タイプに対する Reset Channel コマンドを生成するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NORESET

ダンプ出力に Reset Channel コマンドを含めません。

1 - 999999999

Reset Channel コマンドのメッセージ・シーケンス番号をダンプに含めるように指定します。

応答キュー (RPLYQ)

構成情報の照会時に PCF 応答を受け取るために使用するキューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE

デフォルトのモデル・キューである動的キューが生成されて応答を受け取ります。

reply-to-queue-name

キューへの応答の名前を指定します。

リモート・メッセージ・キュー・マネージャー (RMTMQMNAME)

オブジェクト情報を表示する対象となるリモート MQ キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

構成情報は、MQMNAME パラメーターで指定されたキュー・マネージャーから収集されます。

リモート・キュー・マネージャー名

リモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。PCF 照会コマンドは、MQMNAME で指定されたキュー・マネージャーを介して RMTMQMNAME で指定されたキュー・マネージャーに発行されます。これはキュー・モードと呼ばれます。 \

出力を受け取るファイル (TOFILE)

ダンプされた構成データを格納するために使用されるファイルの修飾名を LIBRARY/FILE の形式で指定します。FILE は 240 のレコード長で作成されているはずです。それ以外の場合は、構成情報が切り捨てられる可能性があります。

指定できる値は以下のとおりです。

*LIBL

ライブラリー・リストでファイル名を検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。

to-library-name

使用されるライブラリーの名前を指定します。

to-file-name

構成データを格納するファイルの名前を指定します。

出力を受け取るメンバー (TOMBR)

ダンプされた構成データを格納するメンバーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

to-member-name

構成データを格納するメンバーの名前を指定します。

例

これらの例が機能するためには、システムがリモート MQSC 操作用に設定されている必要があります。詳しくは、[リモート管理のためのキュー・マネージャーを作成する](#)および[リモート管理のためにチャンネルおよび伝送キューを作成する](#)を参照してください。

```
DMPMQMCFG MQMNAME('MYQMGR') CLIENT(*YES) CLIENTCHL(''DEFINE CHANNEL(SYSTEM.ADMIN.SVRCONN)
CHLTYPE(CLNTCONN) CONNAME('myhost.mycoirp.com(1414)')'')
```

MQSC 形式のリモート・キュー・マネージャー *MYQMGR* からの構成情報をすべてダンプし、クライアント・チャンネル *SYSTEM.ADMIN.SVRCONN* を使用してキュー・マネージャーへのアドホック・クライアント接続を作成します。

注: 同じ名前のサーバー接続チャンネルが存在する必要があります。

```
DMPMQMCFG MQMNAME('LOCALQM') RMTMQMNAME('MYQMGR')
```

MQSC 形式のリモート・キュー・マネージャー *MYQMGR* からのすべての構成情報をダンプし、最初にローカル・キュー・マネージャー *LOCALQM* に接続して、このローカル・キュー・マネージャーを介して照会メッセージを送信します。

注: ローカル・キュー・マネージャーに、両方向で定義されたチャンネル・ペアを持つ *MYQMGR* という名前の伝送キューがあることを確認する必要があります。キュー・マネージャー間で応答を送受信できる必要があります。

エラー・メッセージ

不明

Disconnect MQ (DSCMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Disconnect Message Queue Manager (DSCMQM) コマンドは、何の機能も実行しませんが、以前のリリースの IBM MQ および MQSeries との互換性のためだけに提供されています。

Parameters

なし

例

なし

エラー・メッセージ

不明

メッセージ・キュー・マネージャーの表示 (DSPMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

「メッセージ・キュー・マネージャーの表示」(DSPMQM) コマンドは、指定された ローカル・キュー・マネージャーの属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスパール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力とともに印刷されます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ オブジェクト権限の表示 (DSPMQMAUT)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 権限の表示 (DSPMQMAUT) コマンドは、指定したオブジェクトについて、オブジェクトに対する現在の許可を表示します。ユーザー ID が複数のグループのメンバーである場合、このコマンドはすべてのグループの組み合わせされた許可を表示します。

- 48 文字の MQ オブジェクト名
- MQ オブジェクト・タイプ
- オブジェクト、コンテキスト、および MQI 呼び出しの権限

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OBJ</u>	オブジェクト名	文字値	必須、定位置 1
<u>OBJTYPE</u>	オブジェクト・タイプ	*Q、*ALSQ、*LCLQ、 *MDLQ、*RMTQ、 *AUTHINFO、*MQM、 *NMLIST、*PRC、*LSR、 *SVC、*CHL、*CLTCN、 *TOPIC、 *RMTMQMNAME	必須、定位置 2
<u>USER</u>	ユーザー名	名前、 *PUBLIC	オプション、定位置 3
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、*PRINT	オプション、定位置 4
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 5
<u>SRVCOMP</u>	サービス・コンポーネント名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 6

オブジェクト名 (OBJ)

許可を表示する MQ オブジェクトの名前を指定します。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

許可を表示するオブジェクトのタイプを指定します。

***Q**

すべてのキューのオブジェクト・タイプ

***ALSQ**

別名キュー。

***LCLQ**

ローカル・キュー。

***MDLQ**

モデル・キュー

***RMTQ**

リモート・キュー。

***AUTHINFO**

認証情報オブジェクト

***MQM**

メッセージ・キュー・マネージャー

***NMLIST**

名前リストオブジェクト

***PRC**

プロセス定義。

***CHL**

チャンネル・オブジェクト。

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル・オブジェクト

***LSR**

リスナー・オブジェクト。

***SVC**

サービス・オブジェクト。

***TOPIC**

トピック・オブジェクト。

***RMTMQMNAME**

リモート・キュー・マネージャー名。

ユーザー名 (USER)

指定のオブジェクトに対する権限が表示されるユーザーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***PUBLIC**

システムのすべてのユーザー。

user-profile-name

ユーザーの名前を指定します。

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

サービス・コンポーネント名 (SRVCOMP)

インストールされた許可サービスの名前を指定します。この名前で、表示する権限を検索します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

インストールされたすべての許可コンポーネントにおいて、指定したオブジェクト名、オブジェクト・タイプ、およびユーザーが検索されます。

Authorization-service-component-name

キュー・マネージャーの qm.ini ファイルに指定されている、必要な許可サービスのコンポーネント名。

Display MQ AuthInfo object (DSPMQMAUTI)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ AuthInfo Object (DSPMQMAUTI) コマンドは、既存の MQ 認証情報オブジェクトの属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>AINAME</u>	認証情報名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2
<u>OUTPUT</u>	出力	文字値、*、*PRINT	オプション、定位置 3

認証情報名 (AINAME)

表示する認証情報オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

authentication-information-name

認証情報オブジェクトの名前を指定します。最大ストリング長は 48 文字です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Pub/Sub Broker (DSPMQMBRK)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ ブローカーの表示 (DSPMQMBRK) コマンドは、何の機能も実行せず、IBM MQ の前のリリースとの互換性のためにのみ提供されています。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

その値は、以下のものです。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。 最大ストリング長は 48 文字です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャネルの表示 (DSPMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャンネルの表示 (DSPMQMCHL) コマンドは、既存の MQ チャンネル定義の属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャンネル名	文字値	必須、定位置 1
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3
<u>CHLTYPE</u>	チャンネル・タイプ	*RCVR 、 *SDR 、 *SVR 、 *RQSTR 、 *SVRCN 、 *CLUSSDR 、 *CLUSRCVR 、 *NONCLT 、 *CLTCN	オプション、定位置 4

チャンネル名 (CHLNAME)

チャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャンネル名を指定します。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。 システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE)

表示するチャンネルのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NONCLT**

クライアント接続チャンネルではない、チャンネル名に一致する任意のチャンネル・タイプです。

***SDR**

送信側チャンネル

***SVR**

サーバー・チャンネル

***RCVR**

受信側チャンネル

***RQSTR**

要求側チャンネル

***SVRCN**

サーバー接続チャンネル

***CLUSSDR**

クラスター送信側チャンネル

***CLUSRCVR**

クラスター受信側チャンネル

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ コマンド・サーバーの表示 (DSPMQMCSVR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ コマンド・サーバーの表示 (DSPMQMCSVR) コマンドは、MQ コマンド・サーバーの状況を表示します。
コマンド・サーバーの状況は、以下のいずれかになります。

有効

メッセージの処理に使用可能

無効

メッセージの処理に使用不可

始動中

STRMQMCSVR コマンドが進行中

停止中

ENDMQMCSVR コマンドが進行中

停止

ENDMQMCSVR コマンドが完了

実行中

メッセージを処理中

待機

メッセージを待機中

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Listener (DSPMQMLSR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Listener Object (DSPMQMLSR) コマンドは、既存の MQ リスナー・オブジェクトの属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>LSRNAME</u>	リスナー名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 3

リスナー名 (LSRNAME)

表示するリスナー・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

listener-name

リスナー定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Namelist (DSPMQMNL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Namelist (DSPMQMNL) コマンドは、MQ 名前リストを表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>NAMELIST</u>	名前リスト	文字値	必須、定位置 1
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、*PRINT	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3

名前リスト (NAMELIST)

表示する名前リストの名前です。

名前リスト

名前リストの名前を指定します。 スtringの最大長は 48 バイトです。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ オブジェクト名の表示 (DSPMQMOBJN)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ オブジェクト名の表示 (DSPMQMOBJN) コマンドは、指定した MQ オブジェクトの名前、タイプ、および完全修飾ファイル名を表示するために使用します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OBJ</u>	オブジェクト名	文字値、*ALL	必須、定位置 1
<u>OBJTYPE</u>	オブジェクト・タイプ	*ALLMQM 、*Q、*ALSQ、*LCLQ、*MDLQ、*RMTQ、*AUTHINFO、*CTLG、*CHL、*CLTCN、*SVC、*MQM、*NMLIST、*PRC、*LSR、*TOPIC	オプション、定位置 2
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、*PRINT	オプション、定位置 3
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 4

オブジェクト名 (OBJ)

対応する名前、タイプ、およびファイル名を表示するオブジェクトの名前を指定します。これは、48 文字の MQ オブジェクト名または総称オブジェクト名です。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

指定したタイプ (OBJTYPE) のすべてのオブジェクトが表示されます。

generic-object-name

オブジェクトの総称名を指定します。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトを選択できます。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

object-name

対応する名前とタイプを表示するオブジェクトの名前です。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクトのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALLMQM**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ オブジェクト。

***Q**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ キュー。

***ALSQ**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ 別名キュー。

***LCLQ**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ ローカル・キュー。

***MDLQ**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ モデル・キュー。

***RMTQ**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ リモート・キュー。

***AUTHINFO**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ 認証情報オブジェクト。

***CHL**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ チャネル・オブジェクト。

***CLTCN**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ MQI クライアント接続チャネル・オブジェクト。

***SVC**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ サービス・オブジェクト。

***LSR**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ リスナー・オブジェクト。

***CTLG**

OBJ で指定された名前を持つ MQ キュー・マネージャー・カタログ・オブジェクト。これはキュー・マネージャー・オブジェクトと同じ名前です。

***MQM**

OBJ で指定された名前を持つメッセージ・キュー・マネージャー・オブジェクト。

***NMLIST**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ 名前リスト。

***PRC**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ プロセス定義。

***LOBJ**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ リスナー・オブジェクト。

***TOPIC**

OBJ で指定された名前を持つすべての MQ トピック・オブジェクト。

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

オブジェクト情報を表示する MQ キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーです。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Process (DSPMQMPRC)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Process (DSPMQMPRC) コマンドは、既存の MQ プロセス定義の属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>PRCNAME</u>	プロセス名	文字値	必須、定位置 1
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3

プロセス名 (PRCNAME)

表示するプロセス定義の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

process-name

プロセス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Queue (DSPMQMQ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Queue (DSPMQMQ) コマンドは、既存の MQ キュー定義の属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値	必須、定位置 1
<u>OUTPUT</u>	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 3

キュー名 (QNAME)

キューの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

キューの名前を入力します。

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 経路情報の表示 (DSPMQMRTE)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

DSPMQMRTE コマンドは、ユーザー指定のパラメーターに基づいてトレース経路メッセージを生成し、それを指定のキューに書き込みます。メッセージがその最終宛先までたどる経路に関する 1 つ以上のレポートが、応答と共に生成されることがあります。これらは指定の応答キューから得られ、その内部に入っている情報を受け取ると情報はジョブのスプール出力に書き込まれます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	ターゲット・オブジェクト	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>CRRLID</u>	相関 ID	文字値、 *NONE	オプション、定位置 3
<u>MSGPST</u>	メッセージの持続性	*YES 、 *NO 、 *QUEUE	オプション、定位置 4

キーワード	説明	選択	注
MSGPRTY	メッセージ優先度	0-9、 *QUEUE	オプション、定位置 5
OPTION	レポート・オプション	単一値: *DFT 、 *NONE その他の値 (繰り返しは最大 6 回まで): *ACTIVITY 、 *COA 、 *COD 、 *DISCARD 、 *EXCEPTION 、 *EXPIRATION	オプション、定位置 6
RPLYQ	応答キュー	文字値、 *DFT	オプション、定位置 7
RPLYMQM	応答キュー・マネージャー	文字値、 *DFT	オプション、定位置 8
EXPIRY	メッセージ有効期限	0-9999999999、 *DFT	オプション、定位置 9
EXPRPT	有効期限を過ぎました	*YES 、 *NO	オプション、定位置 10
RTEINF	経路の累算	*YES 、 *NO	オプション、定位置 11
RPLYMSG	応答メッセージ	*YES 、 *NO	オプション、定位置 12
DLVRMSG	送信メッセージ	*YES 、 *NO	オプション、定位置 13
FWDMSG	転送メッセージ	*SUPPORT 、 *ALL	オプション、定位置 14
MAXACTS	最大アクティビティ	1-9999999999、 *NOMAX	オプション、定位置 15
DETAIL	経路詳細	*LOW 、 *MEDIUM 、 *HIGH	オプション、定位置 16
BROWSE	参照のみ	*YES 、 *NO	オプション、定位置 17
DSPMSG	表示メッセージ	*YES 、 *NO	オプション、定位置 18
TGTMQM	ターゲット・キュー・マネージャー	文字値、 *DFT	オプション、定位置 19
DSPINF	表示情報	単一値: *ALL 、 *SUMMARY 、 *NONE その他の値 (繰り返しは最大 6 回まで): *ACTGRP 、 *ID 、 *MSGGRP 、 *MSGDELTA 、 *OPGRP 、 *TRGRP	オプション、定位置 20
WAIT	待ち時間	0-9999999999、 *DFT	オプション、定位置 21
BIND	バインド・オプション	*OPEN 、 *NOTFIXED	オプション、定位置 22

ターゲット・オブジェクト (QNAME)

トレース経路メッセージのターゲット・キューの名前、または (以前収集した情報を表示している場合) 情報を格納しているキューの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

相関 ID (CRRLID)

以前収集した情報の検索時に使用する相関 ID を指定します。24 バイト相関 ID の形式は、48 文字 16 進数文字列です。トレース経路メッセージを生成しているのではなく、以前収集した情報を検索している場合には、相関 ID を指定する必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***NONE 値**

相関 ID は提供されません。

相関 ID

24 バイトの相関 ID を表示する 48 文字 16 進数文字列。

メッセージの持続性 (MSGPST)

トレース経路メッセージの持続性を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

メッセージは MQPER_NOT_PERSISTENT を指定して書き込まれます。

***YES**

メッセージは MQPER_PERSISTENT を指定して書き込まれます。

***キュー**

メッセージは MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF を指定して書き込まれます。

メッセージ優先順位 (MSGPRTY)

トレース経路メッセージの優先順位を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***キュー**

メッセージは MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF を指定して書き込まれます。

message-priority

0 から 9 の範囲のメッセージ優先順位です。

レポート・オプション (OPTION)

トレース経路メッセージのレポート・オプションを指定します。非トレース経路対応のキュー・マネージャーで生成されたレポートが配信されずにネットワークに残留する可能性があるため、ほとんどのレポート・オプションがデフォルトでは使用不可となります。全データが戻されるように要求することによって、問題の結果として、メッセージに含まれるトレース経路情報を返すことができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

MQRO_ACTIVITY と MQRO_DISCARD_MSG をオンにします。

***NONE 値**

レポート・オプションは設定されません。

***ACTIVITY**

MQRO_ACTIVITY をオンにします。

***COA**

MQRO_COA_WITH_FULL_DATA をオンにします。

***COD**

MQRO_COD_WITH_FULL_DATA をオンにします。

***DISCARD**

MQRO_DISCARD_MSG をオンにします。

***EXCEPTION**

MQRO_EXCEPTION_WITH_FULL_DATA をオンにします。

***EXPIRATION**

MQRO_EXPIRATION_WITH_FULL_DATA をオンにします。

応答キュー (RPLYQ)

応答とすべてのレポート・メッセージを送信する応答キューの名前を指定します。RPLYMQM パラメーターも指定する場合を除いて、ローカル・キュー・マネージャーに既存の名前を指定する必要があります。トレース経路メッセージが持続する場合は、応答キューは一時キューであってはなりません。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE が使用され、応答キューはデフォルトで一時動的キューになります。

reply-queue

使用する応答キューの名前。

応答キュー・マネージャー (RPLYMQM)

応答が送信されるキュー・マネージャーを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

応答はローカル・キュー・マネージャーに送信されます。

reply-queue-manager

キュー・マネージャーに対する応答の名前です。

メッセージ有効期限 (EXPIRY)

トレース経路メッセージの有効期限時刻 (秒数) を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト有効期限時刻の 60 秒が使用されます。

expiry-time

0 から 999999999 の範囲のメッセージ有効期限時刻。

有効期限の受け渡し (EXPRPT)

トレース経路メッセージの有効期限をレポートまたは応答メッセージに渡すかどうかを指定します。これは、実質的に、MQRO_PASS_DISCARD_AND_EXPIRY をオンおよびオフにします。これにより、必要に応じてレポートを無期限に保持することも可能です。

指定できる値は以下のとおりです。

***YES**

有効期限がレポートまたは応答メッセージに渡されます。

***NO**

有効期限がレポートまたは応答メッセージに渡されません。

経路の累積 (RTEINF)

経路情報がキュー・マネージャー・ネットワーク経由でフローするにつれて、トレース経路メッセージ内に経路情報が累積されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

トレース経路メッセージ内に情報は累積されません。

*YES

トレース経路メッセージ内に情報が累積されます。

応答メッセージ (RPLYMSG)

トレース経路メッセージがその最終宛先に到着すると、すべての累積された情報を収めた応答メッセージがキューに対する応答に返されることを要求します (最終宛先キューをホストするキュー・マネージャーがこれを許可する場合)。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

応答メッセージは戻されません。

*YES

キューに対する応答に応答メッセージが戻されます。

メッセージの配信 (DLVRMSG)

トレース経路メッセージが宛先キューに正常に到着した場合に、そのメッセージを取得アプリケーションに配信するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

トレース経路メッセージは、ターゲット・キューに正常に到着した際に取得アプリケーションに配信されません。

*YES

トレース経路メッセージは、ターゲット・キューに正常に到着した際に取得アプリケーションに配信されます。このオプションを指定すると、キュー・マネージャーがトレース経路をサポートしているかどうかに関係なく、メッセージがそのキュー・マネージャーに到着することを効率的に許可することができます。

メッセージの転送 (FWDMSG)

トレース経路メッセージを経路の次のキュー・マネージャーに転送するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*SUPPORT

トレース経路メッセージは、配信オプションを出すことができるキュー・マネージャーに対してのみ転送されます。

*ALL

トレース経路メッセージは、指定にかかわらず経路の次のキュー・マネージャーに転送されます。このオプションを使用すると、配信オプションに従って処理できない場合であっても、トレース経路メッセージの受け入れを非トレース経路対応のキュー・マネージャーに強制できます。

最大アクティビティ (MAXACTS)

廃棄される前にトレース経路メッセージ上で実行できるアクティビティの最大数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NOMAX**

アクティビティーの最大数は、指定されません。

maximum-activities

1 から 999999999 の範囲のアクティビティーの最大数です。

経路詳細 (DETAIL)

要求される経路に関する詳細の程度を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***LOW**

この詳細レベルでは、キュー・マネージャー・アクティビティーに関する情報は要求されません。メッセージ上でどのようなユーザー・アクティビティーが行われているかを示す高水準ビューが得られます。

***MEDIUM**

低レベルの詳細情報が、キュー・マネージャーにおけるメッセージの移動に関する情報と共に要求されます。これには、MCA の作業が含まれます。

***HIGH**

低レベルおよび中レベルの詳細が、メッセージがたどる経路に関するより詳細な情報と共に要求されます。例えば、クラスター化においては、経路が選択された理由についての詳細が含まれることがあります。

参照のみ (BROWSE)

返されるメッセージが参照のみであるかどうかを指定します。これは、以降の表示操作のために、情報がキューに残されることを意味します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

返されるメッセージは参照のみではありません。

***YES**

返されるメッセージは参照のみです。

メッセージ表示 (DSPMSG)

トレース経路メッセージの生成時に、返される情報を表示するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***YES**

返される情報が表示されます。

***NO**

返される情報は表示されません。これにより、トレース経路メッセージがターゲット・キューに書き込まれるとすぐに DSPMQMRTE を終了できます。終了時に、48 文字の 16 進数ストリングが出力されます。これは、生成されたトレース経路メッセージ上のメッセージ ID であり、以降の DSPMQMRTE 呼び出しに提供される CRRLID として使用できます。

ターゲット・キュー・マネージャー (TGTMQM)

トレース経路メッセージのターゲット・キュー・マネージャーを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

ターゲット・キュー・マネージャーは指定されません。宛先キューがローカル・キューであるか、キューのローカル定義が存在するかのいずれかです。

target-queue-manager

トレース経路メッセージのターゲット・キュー・マネージャー。

情報の表示 (DSPINF)

収集した情報のうち、表示する情報の程度を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

使用可能なすべての情報が表示されます。

***SUMMARY**

メッセージが経路として通過するキューのみを表示します。

***NONE 値**

使用可能な情報を表示しません。

***ACTGRP**

アクティビティー・グループ内のすべての非グループ・パラメーターを表示します。

*** ID**

パラメーター ID が MQBACF_MSG_ID または MQBACF_CORREL_ID である値を常に表示します。これは、通常、メッセージ・グループの特定の値が表示されないようにする *MSGDELTA をオーバーライドします。

***MSGGRP**

メッセージ・グループ内のすべての非グループ・パラメーターを表示します。

***MSGDELTA**

*MSGGRP と同様ですが、最後のオペレーションが行われた後で変更されたメッセージ・グループ内の情報のみを表示する点が異なります。

***OPGRP**

オペレーション・グループ内のすべての非グループ・パラメーターを表示します。

***TRGRP**

TraceRoute グループ内のすべてのパラメーターを表示します。

待機時間 (WAIT)

応答キューに配信できる経路で生成されたすべての応答メッセージまたはすべてのレポート (指定されたオプションに応じる) が終了したと見なされるまでに、DSPMQMRTE が待機する時間 (秒数) を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

DSPMQMRTE は、トレース経路メッセージの有効期限時刻より 60 秒長く待機します。

wait-time

DSPMQMRTE が待機する必要がある時間。

バインド・オプション (BIND)

ターゲット・キューが特定の宛先に結合されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***OPEN**

ターゲット・キューは特定の宛先に結合されます。キューは、オプション MQOO_BIND_ON_OPEN によってオープンします。

***NOTFIXED**

ターゲット・キューは特定の宛先に結合されません。通常、このパラメーターは、トレース経路メッセージをクラスター経由で書き込む必要があるときに使用します。キューは、オプション MQOO_BIND_NOT_FIXED によってオープンします。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

キュー・マネージャー状況の表示 (DSPMQMSTS)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

メッセージ・キュー・マネージャー状況の表示 (DSPMQMSTS) コマンドは、指定されたローカル・キュー・マネージャーの状況属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、キー、定位置 1
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 2
489 ページの <u>『STARTDA』</u>	開始日		オプション、定位置 3
489 ページの <u>『STARTTI』</u>	開始時刻		オプション、定位置 4

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。 名前は 48 文字以内で指定します。 システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

STARTDA

キュー・マネージャーが開始した日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

STARTTI

キュー・マネージャーが開始した時刻 (hh.mm.ss の形式)。

例

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Service (DSPMQMSVC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Service Object (DSPMQMSVC) コマンドは、既存の MQ サービス・オブジェクトの属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SVCNAME</u>	サービス名	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、キー、定位置 2
<u>OUTPUT</u>	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 3

サービス名 (SVCNAME)

表示するサービス・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

サービス名

サービス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力と一緒に印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力とともに印刷されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQM セキュリティー・ポリシーの表示 (DSPMQMSPL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQM セキュリティー・ポリシーの表示 (DSPMQMSPL) コマンドは、メッセージの書き込み、参照、キューからの破壊的削除の実行時にメッセージをどのように保護するかを制御するために IBM MQ Advanced Message Security で使用するセキュリティ・ポリシーを設定します。

ポリシー名は、メッセージのデジタル署名と暗号化による保護を、ポリシー名と一致するキューに関連付けます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
OUTPUT	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 1
POLICY	ポリシー名	文字値	オプション、定位置 2
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

ポリシー名 (POLICY)

セキュリティ・ポリシーの名前を指定します。ポリシー名は、そのポリシーが適用されるキューの名前と一致します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

Display MQ Subscription (DSPMQMSUB)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Subscription (DSPMQMSUB) コマンドは、既存の MQ サブスクリプションの属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SUBID</u>	サブスクリプション ID	文字値、*NONE	オプション、定位置 1
<u>SUBNAME</u>	サブスクリプション名	文字値、*NONE	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 3
<u>OUTPUT</u>	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 4

サブスクリプション ID (SUBID)

表示するサブスクリプションのサブスクリプション ID です。

指定できる値は以下のとおりです。

subscription-name

最大で 256 バイトのサブスクリプション名を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

サブスクリプション名 (SUBNAME)

表示するサブスクリプションの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

subscription-name

最大で 256 バイトのサブスクリプション名を指定します。

注: 256 バイトを超えるサブスクリプション名は、MQSC を使用して指定できます。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Topic (DSPMQMTOP)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Topic (DSPMQMTOP) コマンドは、既存の MQ トピック・オブジェクトの属性を表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>TOPNAME</u>	トピック名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 3

トピック名 (TOPNAME)

表示するトピック・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

topic-name

トピック・オブジェクトの名前を指定します。 スtringの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力とともに印刷するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された 出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Display MQ Version (DSPMQMVER)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Display MQ Version (DSPMQMVER) コマンドは、現行 MQ バージョンを表示します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、*PRINT	オプション、定位置 1

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された 出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力とともに印刷されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

メッセージ・キュー・マネージャーの終了 (ENDMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

メッセージ・キュー・マネージャーの終了 (ENDMQM) コマンドは、指定したローカル・メッセージ・キュー・マネージャーまたはすべてのキュー・マネージャーを終了します。メッセージ・キュー・マネージャーの属性は影響を受けることがなく、メッセージ・キュー・マネージャーの開始 (STRMQM) コマンドを使用して再始動できます。

このコマンドを使用して、特定のキュー・マネージャーまたはすべてのキュー・マネージャーに接続されているすべてのアプリケーション・プログラムを完全に静止できます。

CHGCMDDFT (コマンド・デフォルトの変更) コマンドを使用して ENDMQM コマンドのデフォルト・パラメーターを変更しないでください。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 1
<u>OPTION</u>	オプション	*CNTRLD 、 *IMMED 、 *WAIT 、 *PREEMPT	オプション、定位置 2
<u>INSTANCE</u>	インスタンスの終了	*ALL 、 *STANDBY	オプション、定位置 3
<u>ALWSWITCH</u>	切り替えの許可	*NO 、 *YES	オプション、定位置 4
<u>RECONN</u>	再接続	*NO 、 *YES	オプション、定位置 5
<u>ENDCCTJOB</u>	接続されているジョブの終了	*NO 、 *YES	オプション、定位置 6
<u>RCDMQMIMG</u>	MQ オブジェクト・イメージの記録	*NO 、 *YES	オプション、定位置 7
<u>TIMEOUT</u>	タイムアウト間隔 (秒)	0-3600、 30	オプション、定位置 8

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

***ALL**

すべてのキュー・マネージャーが終了されます。

オプション (OPTION)

キュー・マネージャーに接続されているプロセスの完了を許可するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***CNTRLD**

現在処理中のプログラムは完了することができます。MQCONN 呼び出し (あるいは暗黙接続を実行する MQOPEN または MQPUT1) は失敗します。ENDCCTJOB(*YES) を指定すると、キュー・マネージャーの制御シャットダウンが 10 回試行されます。キュー・マネージャーが正常にシャットダウンした場合、続いて、そのキュー・マネージャーにまだ接続しているプロセスが即時終了されます。

***IMMED**

キュー・マネージャーを即時に終了します。現行 MQI 呼び出しはすべて完了しますが、MQI 呼び出しに対するそれ以降の要求は失敗します。未完了の作業単位は、キュー・マネージャーが次に開始されるときにロールバックされます。ENDCCTJOB(*YES) が指定された場合、キュー・マネージャーの制御シャットダウンが行われた後、TIMEOUT 秒の間隔が経過してから、必要に応じてキュー・マネージャーの即時シャットダウンが行われます。それに続いて、そのキュー・マネージャーに接続されていたプロセスが即時に終了します。

***WAIT**

*CNTRL D オプションと同じ方法でキュー・マネージャーを終了します。ただし、制御はキュー・マネージャーが停止した後にのみ戻されます。このオプションは MQMNAME(*ALL) と一緒に指定することはできません。ENDCCTJOB(*YES) が指定された場合には、すべてのプロセスが切断されるまで待機する、キュー・マネージャーの単一の制御シャットダウンが発行されます。これが完了した後、ENDCCTJOB パラメーターで記述されているアクションが行われます。

***PREEMPT**

この種のシャットダウンは、例外的な状況でのみ使用してください。キュー・マネージャーは、アプリケーションの切断も、MQI 呼び出しの完了も待機することなく停止します。このことが IBM MQ アプリケーションに予期しない結果をもたらす可能性があります。キュー・マネージャー内の停止に失敗したすべてのプロセスは、コマンドが発行されてから 30 秒後に終了されます。このオプションは ENDCCTJOB(*YES) と一緒に指定することはできません。

終了するインスタンス (INSTANCE)

キュー・マネージャーのすべてのインスタンスを終了するか、スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスのみを終了するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

キュー・マネージャーのすべてのインスタンスが終了します。このオプションは、非スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスに対してのみ要求できます。

他の場所でスタンバイ・インスタンスが実行されている場合、ENDMQM コマンドに ALWSWITCH パラメーターを指定することによってスタンバイ・インスタンス自体の終了を制御します。

***STANDBY**

スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスのみが終了し、アクティブなキュー・マネージャーのインスタンスは実行を続けます。このオプションは、スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスに対してのみ要求できます。

切り替え許可 (ALWSWITCH)

アクティブなキュー・マネージャー・インスタンスが終了した場合にキュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスへの切り替えを許可するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスへの切り替えは許可されません。このコマンドが正常に完了すると、実行中のスタンバイ・インスタンスも終了します。P:. このキュー・マネージャーに接続されている再接続可能なクライアント・アプリケーションは、切断するよう指示されます。

***YES**

スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスが実行中ではなく、このコマンドが失敗して、アクティブなキュー・マネージャー・インスタンスが引き続きアクティブである場合、スタンバイ・キュー・マネージャー・インスタンスへの切り替えが試行されます。

このキュー・マネージャー・インスタンスに接続されている再接続可能なクライアント・アプリケーションは、再接続処理を開始して接続を保つよう指示されます。

再接続 (RECONN)

このキュー・マネージャーに現在接続されているクライアント・アプリケーションがキュー・マネージャー・インスタンスへの再接続を試行するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

このキュー・マネージャーに接続されている再接続可能なクライアント・アプリケーションは、切断するよう指示されます。

*YES

このキュー・マネージャーに接続されている再接続可能なクライアント・アプリケーションは再接続処理を開始して、接続を保つよう指示されます。

接続されているジョブの終了 (ENDCCTJOB)

キュー・マネージャーに接続されているすべてのプロセスを、強制的に終了するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

キュー・マネージャーは終了されますが、それ以外のアクションは取られません。

*YES

各キュー・マネージャーを終了するために、次のステップが取られます。

- ・キュー・マネージャーが実行中で、RCDMQMIMG(*YES) が指定されている場合、キュー・マネージャーに定義されたすべてのオブジェクトのメディア・イメージが記録されます。
- ・キュー・マネージャーは適切な方法 (*CNTRL、*WAIT または *IMMED) で終了されます。
- ・アプリケーションがキュー・マネージャーから切断されているかどうかに関係なく、そのキュー・マネージャーが使用するすべての共有メモリーおよびセマフォが削除されます。このオプションが指定されたときに共有メモリー・リソースから切断されていなかったアプリケーションは、次回に既存の接続ハンドルで MQI 呼び出しが行われたときに、戻りコード MQRC_CONNECTION_BROKEN (2009) を受け取ります。

MQ オブジェクト・イメージの記録 (RCDMQMIMG)

キュー・マネージャーのメディア・イメージを記録するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*YES

キュー・マネージャーが実行中であれば、すべてのキュー・マネージャー・オブジェクトのメディア・イメージが記録されます。

*NO

キュー・マネージャー・オブジェクトのメディア・イメージは、静止の一環として記録されません。

タイムアウト間隔 (秒) (TIMEOUT)

*IMMED が指定されたときの、キュー・マネージャーの制御シャットダウンと即時シャットダウンの間の時間間隔 (秒) を指定します。*CNTRL が指定されている場合、キュー・マネージャーのシャットダウンの試行の間隔の秒数も決定します。

指定できる値は以下のとおりです。

30

デフォルト値は 30 秒です。

timeout-interval

0 から 3600 までの範囲の値 (秒数) を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの終了 (ENDMQMBRK)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ ブローカー終了 (ENDMQMBRK) コマンドは、ブローカーを停止するために使用されます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1
<u>OPTION</u>	オプション	*CNTRL D、*IMMED	オプション、定位置 2

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

オプション (OPTION)

ブローカーの終了方法を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***CNTRL**D

ブローカーが、既に開始したメッセージについて処理を完了できるようにします。

***IMMED**

ブローカーを即時に終了します。ブローカーは、それ以上取得処理も書き込み処理も実行することなく、未処理の作業単位をバックアウトします。したがって、非持続入力メッセージは、ブローカーの構成パラメーターに基づいて、サブスクライバーのサブセットだけにパブリッシュされることがや、失われることがあります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャネルの終了 (ENDMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャンネルの終了 (ENDMQMCHL) コマンドは、MQ チャンネルをクローズします。それ以降、そのチャンネルは自動再始動で使用できなくなります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャンネル名	文字値	必須、定位置 1
<u>OPTION</u>	オプション	*CNTRLD 、 *IMMED 、 *ABNORMAL	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3
<u>STATUS</u>	チャンネル状況	*STOPPED 、 *INACTIVE	オプション、定位置 4
<u>CONNAME</u>	接続名	文字値、 *NONE	オプション、定位置 5
<u>RQMNAME</u>	リモート・キュー・マネージャー	文字値、 *NONE	オプション、定位置 6

チャンネル名 (CHLNAME)

チャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャンネル名を指定します。

オプション (OPTION)

メッセージの現行バッチの処理を制御された方法で完了できるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*CNTRLD

メッセージの現行バッチの処理を完了することができます。新規のバッチを開始することはできません。

*IMMED

メッセージの現行バッチの処理を即時に終了します。これは「未確定」状態の結果になることがあります。

*ABNORMAL

メッセージの現行バッチの処理を即時に終了し、チャンネル・スレッドまたはジョブを終了します。これは「未確定」状態の結果になることがあります。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

チャンネル状況 (STATUS)

コマンドの正常な完了後にチャンネルが必要とする状況を指定します。
指定できる値は以下のとおりです。

*STOPPED

チャンネル状況は STOPPED に設定されます。

*INACTIVE

チャンネル状況は INACTIVE に設定されます。

接続名 (CONNAME)

終了するチャンネル・インスタンスの接続名を指定します。

リモート・キュー・マネージャー (RQMNAME)

終了するチャンネル・インスタンスのリモート・キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

End Queue Manager Connection (ENDMQMCONN)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

End MQ Connections (ENDMQMCONN) コマンドによって、キュー・マネージャーへの接続を終了できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CONN</u>	接続 ID	文字値	必須、キー、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

接続 ID (CONN)

終了する接続 ID です。

接続 ID は 16 文字からなる 16 進ストリングです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ コマンド・サーバーの終了 (ENDMQMCSVR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ コマンド・サーバーの終了 (ENDMQMCSVR) コマンドは、指定されたローカル・キュー・マネージャーの MQ コマンド・サーバーを停止します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1
<u>OPTION</u>	オプション	*CNTRLD 、 *IMMED	オプション、定位置 2

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

オプション (OPTION)

現在処理されているコマンド・メッセージの完了が許可されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***CNTRLD**

コマンド・サーバーが、既に開始したコマンド・メッセージについて処理を完了できるようにします。新しいメッセージが、キューから読み取られることはありません。

***IMMED**

即時にコマンド・サーバーを終了します。現在処理されているコマンド・メッセージに関連したアクションは、完了しない可能性があります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ リスナーの終了 (ENDMQMLSR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ リスナーの終了 (ENDMQMLSR) コマンドは、MQ TCP/IP リスナーを終了します。

このコマンドは、TCP/IP 伝送プロトコルでのみ有効です。

リスナー・オブジェクトまたは特定のポートを指定できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 1
<u>PORT</u>	ポート番号	1-65535、*ALL	オプション、定位置 2
<u>OPTION</u>	オプション	*CNTRL D、*WAIT、 *FORCE	オプション、定位置 3
<u>LSRNAME</u>	リスナー名	文字値、 *NONE	オプション、定位置 4

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

ポート番号 (PORT)

リスナーが使用するポート番号です。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAME**

属性は変更されません。

ポート番号

使用するポート番号です。

オプション (OPTION)

リスナーを終了させるプロセスが開始された後で実行するアクションを指定します。

***CNTRL**D

指定されたキュー・マネージャーのリスナーをすべて終了するプロセスが開始され、リスナーが実際に終了する前に制御が返されます。

***WAIT**

指定されたキュー・マネージャーのリスナーを *CNTRL D オプションと同じ方法で終了します。ただし、すべてのリスナーの終了後にのみ制御が返されます。

リスナー名 (LSRNAME)

終了する MQ リスナー・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

リスナー・オブジェクトは指定されません。

listener-name

リスナー定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

End MQ Service (ENDMQMSVC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

End MQ Service (ENDMQMSVC) コマンドは、MQ サービスを終了します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SVCNAME</u>	サービス名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

サービス名 (SVCNAME)

終了する MQ サービス・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

サービス・オブジェクトは指定されません。

サービス名

サービス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ オブジェクト権限の認可 (GRTMQMAUT)

実行可能な場所:	スレッド・セーフ:
すべての環境 (*ALL)	Yes

「MQ 権限の認可」(GRTMQMAUT) コマンドは、コマンドで指定された MQ オブジェクトに対する特定の権限を、別のユーザーまたはユーザーのグループに認可するために使用します。

権限が付与される対象は、以下のとおりです。

- 指定したユーザー。
- 権限が明確に付与されていないユーザー (*PUBLIC)。
- オブジェクトに対する権限を持っていないユーザーのグループ。

GRTMQMAUT コマンドは、QMQMADM グループのどれでも使用できます。これは、1 次または補足のグループ・プロファイルとして QMQMADM を指定するユーザー・プロファイルを持つユーザーです。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OBJ</u>	オブジェクト名	文字値	必須、定位置 1
<u>OBJTYPE</u>	オブジェクト・タイプ	*ALL、*Q、*ALSQ、 *LCLQ、*MDLQ、*RMTQ、 *AUTHINFO、*MQM、 *NMLIST、*PRC、*LSR、 *SVC、*CHL、*CLTCN、 *TOPIC、 *RMTMQMNAME	必須、定位置 2
<u>USER</u>	ユーザー名	単一値: *PUBLIC、その他の値 (繰り返しは最大 50 回): <i>Name</i>	必須、定位置 3
<u>AUT</u>	Authority	値 (繰り返しは最大 22 回): *ALTUSR、 *BROWSE、*CONNECT、 *GET、*INQ、*PUT、 *SET、*PUB、*SUB、 *RESUME、*PASSALL、 *PASSID、*SETALL、 *SETID、*ADMCHG、 *ADMCLR、*ADMCR、 *ADMDLT、*ADMDSP、 *ALL、*ALLADM、 *ALLMQI、*NONE、 *CTRL、*CTRLX、 *SYSTEM	必須、定位置 4

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 5
<u>SRVCOMP</u>	サービス・コンポーネント名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 6

オブジェクト名 (OBJ)

特定の権限が認可される対象のオブジェクトの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

コマンドの発行時に OBJTYPE パラメーターの値によって指定されたタイプのすべてのオブジェクト。

*ALL は、総称プロファイルを表すことはできません。

object-name

特定の権限を 1 つ以上のユーザーに付与する対象の MQ オブジェクトの名前。

総称プロファイル

選択するオブジェクトの総称プロファイルを指定する。総称プロファイルは、ストリングの任意の場所に 1 つ以上の 総称文字を含んでいる文字ストリングです。このプロファイルを使用して、使用時に考えられるオブジェクトのオブジェクト名と 突き合わせます。総称文字は、(?)、(*) および (**) です。

? は、オブジェクト名の単一の文字と突き合わせます。

* は、修飾子に含まれる任意のストリングと一致します。この場合、修飾子はピリオド (.) の間のストリングです。例えば ABC* は ABCDEF と一致しますが、ABCDEF.XYZ と一致しません。

** は、1 つ以上の修飾子との突き合わせを行います。例えば、ABC.**.XYZ は ABC.DEF.XYZ および ABC.DEF.GHI.XYZ と一致します。** は総称プロファイルで 1 回のみ使用できます。

必要な名前を引用符で囲んで指定することで、入力した内容を正確に選択することができます。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

特定の権限が認可される対象のオブジェクトのタイプを指定します。

***ALL**

すべての MQ オブジェクト・タイプ

***Q**

すべてのキューのオブジェクト・タイプ

***ALSQ**

別名キュー。

***LCLQ**

ローカル・キュー。

***MDLQ**

モデル・キュー

***RMTQ**

リモート・キュー。

***AUTHINFO**

認証情報オブジェクト

***MQM**

メッセージ・キュー・マネージャー

***NMLIST**

名前リストオブジェクト

***PRC**

プロセス定義。

***CHL**

チャンネル・オブジェクト。

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル・オブジェクト

***LSR**

リスナー・オブジェクト。

***SVC**

サービス・オブジェクト。

***TOPIC**

トピック・オブジェクト。

***RMTMQMNAME**

リモート・キュー・マネージャー名。

ユーザー名 (USER)

指定したオブジェクトに対する権限が付与されるユーザーの名前 (または複数の) を指定します。ユーザー名を指定した場合、権限は指定されたユーザーに明確に付与されます。このコマンドによって与えられる権限は、「MQ 権限の取り消し」(RVKMQMAUT) コマンドによって明確に取り消すことができます。

***PUBLIC**

システムのすべてのユーザー。

user-profile-name

オブジェクトに対する特定の権限を認可される 1 つ以上のユーザーの名前を指定する。グループ名を指定することもできます。最大 50 ユーザー・プロファイル名を指定できます。

権限 (AUT)

指定したユーザーに付与される権限を指定します。AUT の値は、順不同の特定および一般の権限のリストとして指定できます。この場合、一般権限は、以下のようにすることができます。

***NONE**、これは、指定したオブジェクトに対して権限を持たないユーザーのプロファイルを作成するか、またはプロファイルがすでに存在する場合には、権限を変更しない状態のままにします。

***ALL**、これは指定したユーザーに全権限を与えます。

ALLADM**、これは、ADMCHG**、***ADMCLR**、***ADMCR**T、***ADMDLT**、***ADMDS**P、***CTRL** および ***CTRL**X のすべてを与えます。

ALLMQI**、ALTUSR**、***BROWSE**、***CONNECT**、***GET**、***INQ**、***PUT**、***SET**、***PUB**、***SUB**、および ***RESUME** のすべてを与えます。

さまざまなオブジェクト・タイプについての許可

***ALL**

すべての許可。すべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMCHG**

オブジェクトを変更する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMCLR**

キューを消去する。キューのみに適用されます。

***ADMCR**T

オブジェクトを作成する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMDLT**

オブジェクトを削除する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMDS**

オブジェクトの属性を表示する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ALLADM**

オブジェクトの管理操作を実行する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ALLMQI**

オブジェクトに適用できるすべての MQI 呼び出しを使用する。すべてのオブジェクトに適用されます。

***ALTUSR**

MQOPEN および MQPUT1 呼び出しに対して、他のユーザーの権限を使用できる。キュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***BROWSE**

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***CONNECT**

MQCONN 呼び出しを発行することによってアプリケーションをキュー・マネージャーに接続する。キュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***CTRL**

チャンネル、リスナーおよびサービスの開始とシャットダウンを制御する。

***CTRLX**

シーケンス番号をリセットし、未確定チャンネルを解決する。

***GET**

MGET 呼び出しを使用してメッセージをキューから取り出す。キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***INQ**

MQINQ 呼び出しを使用してオブジェクトについて照会する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***PASSALL**

すべてのコンテキストをキューに渡す。キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***PASSID**

アイデンティティ・コンテキストをキューに渡す。キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***PUT**

MQPUT 呼び出しを使用してメッセージをキューに書き込む。キュー・オブジェクトおよびリモート・キュー・マネージャー名にのみ適用されます。

***SET**

MQSET 呼び出しを使用してオブジェクトの属性を設定する。キュー、キュー・マネージャー、およびプロセス・オブジェクトのみに適用されます。

***SETALL**

すべてのコンテキストをキューに設定する。キューおよびキュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***SETID**

アイデンティティ・コンテキストをオブジェクトに設定する。キューおよびキュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***システム**

システム操作のためにアプリケーションをキュー・マネージャーに接続する。キュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

MQI 呼び出しについての許可

***ALTUSR**

MQOPEN および MQPUT1 呼び出しに対して、他のユーザーの権限を使用できる。

***BROWSE**

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

***CONNECT**

MQCONN 呼び出しを発行して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。

***GET**

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

***INQ**

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューの照会を行う。

***PUT**

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込む。

***SET**

MQSET 呼び出しを発行して、MQI からキューに属性を設定する。

***PUB**

トピックをオープンし、MQPUT 呼び出しを使用してメッセージをパブリッシュする。

***SUB**

MQSUB 呼び出しを使用してトピックに対するサブスクリプションを作成、変更、または再開する。

***RESUME**

MQSUB 呼び出しを使用して、サブスクリプションを再開する。

複数のオプションを適用するようにキューをオープンする場合は、各オプションについての許可を持っている必要があります。

コンテキストについての許可

***PASSALL**

すべてのコンテキストを指定のキューに渡す。すべてのコンテキスト・フィールドが元の要求からコピーされます。

***PASSID**

アイデンティティ・コンテキストを指定のキューに渡す。アイデンティティ・コンテキストは、要求のアイデンティティ・コンテキストと同じです。

***SETALL**

すべてのコンテキストを指定のキューに設定する。これは特別なシステム・ユーティリティによって使用されます。

***SETID**

アイデンティティ・コンテキストを指定のキューに設定する。これは特別なシステム・ユーティリティによって使用されます。

MQSC および PCF コマンドについての許可

***ADMCHG**

指定のオブジェクトの属性を変更する。

***ADMCLR**

指定のキューをクリアする (PCF の「キューのクリア」コマンドのみ)。

***ADMCRT**

指定のタイプのオブジェクトを作成する。

***ADMDLT**

指定のオブジェクトを削除する。

***ADMDSP**

指定のオブジェクトの属性を表示する。

***CTRL**

チャンネル、リスナーおよびサービスの開始とシャットダウンを制御する。

***CTRLX**

シーケンス番号をリセットし、未確定チャンネルを解決する。

一般操作についての許可

***ALL**

オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。

all 権限は、alladm、allmqi、および system の権限のうち、そのオブジェクト・タイプに該当する権限を合わせたものに相当します。

***ALLADM**

オブジェクトに適用可能なすべての管理操作を実行する。

***ALLMQI**

オブジェクトに適用可能なすべての MQI 呼び出しを使用する。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

サービス・コンポーネント名 (SRVCOMP)

許可が適用されるインストール済み許可サービスの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

最初にインストールされた許可コンポーネントを使用する。

Authorization-service-component-name

キュー・マネージャーの qm.ini ファイルに指定されている、必要な許可サービスのコンポーネント名。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャネルの ping (PNGMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャネルの ping (PNGMQMCHL) コマンドは、リモート・メッセージ・キュー・マネージャーに特別メッセージとしてデータを送信し、そのデータが返されることを検査することにより、チャネルをテストします。このコマンドが成功するのは、非アクティブ・チャネルの送信側からだけで、使用されるデータはローカル・メッセージ・キュー・マネージャーによって生成されます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャネル名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>DATAcnt</u>	データ・カウント	16-32768、 64	オプション、定位置 3

キーワード	説明	選択	注
<u>CNT</u>	Count	1-16、 1	オプション、定位置 4

チャネル名 (CHLNAME)

チャネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャネル名を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

データ・カウント (DATAcnt)

データの長さをバイト単位で指定します。実際のバイト数は、使用しているオペレーティング・システムや通信プロトコルによっては、要求された量よりも少なくなることがあります。

指定できる値は以下のとおりです。

64

デフォルト値は 64 バイトです。

data-count 16 から 32768 の範囲の値を指定します。

カウント (CNT)

チャネルに ping する回数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

1

チャネルは 1 回 ping されます。

ping-count 1 から 16 の範囲の値を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ オブジェクト・イメージの記録 (RCMQMIMG)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ オブジェクト・イメージの記録 (RCDMQMIMG) コマンドは、選択した MQ オブジェクトのセットにマーカを提供するために使用されます。そうすると、MQM オブジェクトの再作成 (RCRMQMOBJ) コマンドを使用して、その後記録されるジャーナル・データからこのオブジェクトのセットをリカバリーできます。

このコマンドは、現在日付より前に切り離されたジャーナル・レシーバーを、切断可能にすることを目定義としています。このコマンドが正常に完了すると、これらのジャーナルが存在していなくても、この MQM オブジェクトのセットに対する MQ オブジェクトの再作成 (RCRMQMOBJ) コマンドが成功するようになります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
OBJ	オブジェクト名	文字値、*ALL	必須、定位置 1
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL、*Q、*ALSQ、*LCLQ、*MDLQ、*RMTQ、*AUTHINFO、*CTLG、*MQM、*NMLIST、*PRC、*CHL、*CLTCN、*LSR、*SVC、*SYNCFILE、*TOPIC	必須、定位置 2
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 3
DSPJRNDTA	ジャーナル・レシーバー・データの表示	*YES、*NO	オプション、定位置 4

オブジェクト名 (OBJ)

記録するオブジェクトの名前を指定します。これは、48 文字の MQ オブジェクト名または総称オブジェクト名です。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALL

指定したタイプ (OBJTYPE) のすべての MQ オブジェクトが記録されます。

generic-object-name

記録するオブジェクトの総称名を指定します。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これで、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトを選択できます。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

object-name

記録する MQ オブジェクトの名前です。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

再作成するオブジェクトのタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALL

すべての MQ オブジェクト・タイプを指定します。

***Q**

OBJ で指定された名前を持つ MQ キュー・オブジェクトを指定します。

***ALSQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ 別名キュー・オブジェクトを指定します。

***LCLQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ ローカル・キュー・オブジェクトを指定します。

***MDLQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ モデル・キュー・オブジェクトを指定します。

***RMTQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ リモート・キュー・オブジェクトを指定します。

***AUTHINFO**

OBJ で指定された名前を持つ MQ 認証情報オブジェクトを指定します。

***CTLG**

MQ キュー・マネージャー・カタログ・オブジェクトを指定します。これはキュー・マネージャー・オブジェクトと同じ名前です。

***MQM**

メッセージ・キュー・マネージャー・オブジェクトを指定します。

***CHL**

OBJ で指定された名前を持つ MQ チャンネル・オブジェクトを指定します。

***CLTCN**

OBJ で指定された名前を持つ MQ MQI クライアント接続チャンネル・オブジェクトを指定します。

***NMLIST**

OBJ で指定された名前を持つ MQ 名前リスト・オブジェクトを指定します。

***PRC**

OBJ で指定された名前を持つ MQ プロセス・オブジェクトを指定します。

***LSR**

OBJ で指定された名前を持つ MQ リスナー・オブジェクトを指定します。

***SVC**

OBJ で指定された名前を持つ MQ サービス・オブジェクトを指定します。

***SYNCFILE**

MQ チャンネル同期ファイルを指定します。

***TOPIC**

OBJ で指定された名前を持つ MQ トピック・オブジェクトを指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

ジャーナル・レシーバー・データの表示 (DSPJRNDTA)

コマンドが IBM MQ で必要とされているジャーナル・レシーバーをユーザーに通知し終えたときに、追加のメッセージをジョブ・ログに書き込むかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

ジョブ・ログにメッセージを書き込みません。

*YES

コマンドの完了時にメッセージがジョブ・ログに送信されます。メッセージには、IBM MQ が必要とするジャーナル・レシーバーに関する詳細が含まれます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ オブジェクトの再作成 (RCRMQMOBJ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ オブジェクトの再作成 (RCRMQMOBJ) コマンドは、損傷を受けた MQ オブジェクトにリカバリー・メカニズムを提供するために使用されます。このコマンドは、MQ ジャーナルに記録された情報からオブジェクトを完全に再作成します。損傷したオブジェクトが存在しない場合、アクションは実行されません。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OBJ</u>	オブジェクト名	文字値、*ALL	必須、定位置 1
<u>OBJTYPE</u>	オブジェクト・タイプ	*ALL、*Q、*ALSQ、*LCLQ、*MDLQ、*RMTQ、*AUTHINFO、*CTLG、*MQM、*NMLIST、*PRC、*CHL、*CLTCN、*LSR、*SVC、*SYNCFILE、*CLCHLTAB、*TOPIC	必須、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 3

オブジェクト名 (OBJ)

損傷を受けたときに再作成する必要があるオブジェクトの名前を指定します。これは、48 文字の MQ オブジェクト名または総称オブジェクト名です。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALL

指定したタイプ (OBJTYPE) のすべての損傷を受けた MQ オブジェクトが再作成されます。

generic-object-name

再作成するオブジェクトの総称名を指定します。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これで、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトを選択できます。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

object-name

損傷を受けた場合に再作成する MQ オブジェクトの名前です。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

再作成するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべての MQ オブジェクト・タイプを指定します。

***Q**

OBJ で指定された名前を持つ MQ キュー・オブジェクトを指定します。

***ALSQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ 別名キュー・オブジェクトを指定します。

***LCLQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ ローカル・キュー・オブジェクトを指定します。

***MDLQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ モデル・キューを指定します。

***RMTQ**

OBJ で指定された名前を持つ MQ リモート・キュー・オブジェクトを指定します。

***AUTHINFO**

OBJ で指定された名前を持つ MQ 認証情報オブジェクトを指定します。

***CTLG**

メッセージ・キュー・マネージャー・カタログ・オブジェクトを指定します。このカタログ・オブジェクトは、メッセージ・キュー・マネージャー・オブジェクトと同じ名前です。このオブジェクトは、MQ オブジェクトの名前を保持しています。メッセージ・キュー・マネージャーを開始または停止したり、MQ キューやプロセス定義を作成または削除したりするには、このオブジェクトに対する権限が必要です。

***MQM**

メッセージ・キュー・マネージャーを指定します。このオブジェクトは、メッセージ・キュー・マネージャーの属性を保持しています。

***CHL**

OBJ で指定された名前を持つ MQ チャネル・オブジェクトを指定します。

***CLTCN**

OBJ で指定された名前を持つ MQ MQI クライアント接続チャネル・オブジェクトを指定します。

***NMLIST**

OBJ で指定された名前を持つ MQ 名前リスト・オブジェクトを指定します。

***PRC**

OBJ で指定された名前を持つ MQ プロセス・オブジェクトを指定します。

***LSR**

OBJ で指定された名前を持つ MQ リスナー・オブジェクトを指定します。

***SVC**

OBJ で指定された名前を持つ MQ サービス・オブジェクトを指定します。

***SYNCFIL**

MQ チャネル同期ファイルを指定します。

***SYNCFIL**

MQ MQI クライアント・チャネル・テーブル・ファイルを指定します。

***TOPIC**

OBJ で指定された名前を持つ MQ トピック・オブジェクトを指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

IBM MQ 権限のリフレッシュ (RFRMQMAUT)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ セキュリティー・キャッシュのリフレッシュ (RFRMQMAUT) コマンドは、IBM MQ オブジェクト権限マネージャーのセキュリティ・キャッシュをリフレッシュします。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 1
<u>TYPE</u>	リフレッシュ・タイプ	*AUTHSERV、*SSL	オプション、定位置 2

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

セキュリティのリフレッシュを実行するキュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用することを指定します。

リフレッシュ・タイプ (TYPE)

実行されるセキュリティ・リフレッシュのタイプです。指定できる値は以下のとおりです。

*AUTHSERV

許可サービス・コンポーネントが内部に保留している許可のリストをリフレッシュします。

* SSL

コマンドが正常に完了したときに更新を有効にすることを許可する SSL キー・リポジトリのキャッシュ・ビューをリフレッシュします。また、証明書取り消しリストと鍵リポジトリに使用される LDAP サーバーのロケーションもリフレッシュします。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ クラスターのリフレッシュ (RFRMQMCL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ クラスターのリフレッシュ (RFRMQMCL) コマンドは、ローカルに保持するクラスター情報 (不明な点がある自動定義チャンネルなど) をリフレッシュして、その情報を強制的に再作成します。このコマンドを使用すると、クラスター上で「コールド・スタート」を実行することができます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2
<u>REPOS</u>	リポジトリのリフレッシュ	*NO、*YES	オプション、定位置 3

クラスター名 (CLUSTER)

リフレッシュするクラスターの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー・マネージャーは、所属先のすべてのクラスター内でリフレッシュされます。

リポジトリのリフレッシュも *YES に設定されている場合、キュー・マネージャーは、ローカル・クラスター送信チャンネル定義の情報を使用して、リポジトリ・キュー・マネージャーの検索を再開します。

名前

クラスターの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

リポジトリのリフレッシュ (REPOS)

リポジトリ・キュー・マネージャーについての情報が、リフレッシュされるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***NO**

リポジトリ情報をリフレッシュしない。

***YES**

リポジトリ情報をリフレッシュする。この値は、キュー・マネージャー自体がリポジトリ・マネージャーである場合は指定できません。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

V8.0.0.4 メッセージ・キュー・マネージャーのリフレッシュ (RFRMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

メッセージ・キュー・マネージャーのリフレッシュ (RFRMQM) は、キュー・マネージャーに対して特殊な操作を実行します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	必須、定位置 1
<u>TYPE</u>	リフレッシュ・タイプ	*CONFIGEV 、 *PROXYSUB	必須、定位置 2
<u>OBJECT</u>	オブジェクト・タイプ	*ALL 、指定したオブジェクト	オプション、定位置 3
<u>NAME</u>	オブジェクト名	*ALL 、 <i>generic-object-name</i> 、 <i>object-name</i>	オプション、定位置 4
<u>INCLINT</u>	Include Interval	*NONE 、 <i>include-interval</i>	オプション、定位置 5

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

リフレッシュ・タイプ (TYPE)

実行されるキュー・マネージャー・リフレッシュの種類。

指定できる値は以下のとおりです。

***CONFIGEV**

キュー・マネージャーが、OBJECT、NAME、および INCLINT パラメーターで指定された選択基準と一致するすべてのオブジェクトに構成イベント・メッセージを生成するように要求します。

***PROXYSUB**

キュー・マネージャーが、階層内またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内の接続先のキュー・マネージャーで保持されているプロキシ・サブスクリプションとそれらのキュー・マネージャーのために保持されているプロキシ・サブスクリプションの再同期を実行することを要求します。

オブジェクト・タイプ (OBJECT)

指定したタイプのオブジェクトだけをリフレッシュに含めるように要求します。

このパラメーターは TYPE(*CONFIGEV) でのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

指定されたすべてのオブジェクト。

特定のオブジェクト

次の中から選択します。

- * キュー
- *QLOCAL
- *QMODEL
- *QALIAS
- *QREMOTE
- * チャネル
- *NAMELIST
- * ポリシー
- *PROCESS (処理)
- *QMGR
- *AUTHINFO
- *AUTHREC

オブジェクト名 (NAME)

指定された名前と一致する名前のオブジェクトだけをリフレッシュに含めるように要求します。

このパラメーターは TYPE(*CONFIGEV) でのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのオブジェクト名が含まれます。

generic-object-name

含めるオブジェクトの総称名を指定します。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、その文字ストリングで始まる名前のすべてのキューが選択されます。

object-name

含めるオブジェクト名を指定します。

インクルード間隔 (INCLINT)

現在時刻の直前の期間を定義する値 (分単位) を指定し、その期間内に作成または変更されたオブジェクトだけをリフレッシュに含めるように要求します。

このパラメーターは TYPE(*CONFIGEV) でのみ有効です。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

時間制限は使用されません。

include-interval

インクルード間隔を分単位で指定します (0 から 999999 まで)。

QUEUE MANAGER 情報の除去 (RMVMQMINF)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

メッセージ・キュー・マネージャー情報の除去 (RMVMQMINF) コマンドは、キュー・マネージャーの構成情報を除去します。このコマンドは、例えば、共有キュー・マネージャー・データへの参照を除去して、2 次キュー・マネージャー・インスタンスを除去するために使用できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	オプション、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

情報を除去するメッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

キュー・マネージャー・ジャーナルの除去 (RMVMQMJRN)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

キュー・マネージャー・ジャーナルの除去コマンド (RMVMQMJRN) はキュー・マネージャー・ジャーナルを除去します。このコマンドは、例えば、スタンバイ・インスタンス・キュー・マネージャーまたは複数インスタンス・キュー・マネージャーのために以前使用されたリモート・ジャーナルを除去するために使用できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 1

キーワード	説明	選択	注
<u>JRN</u>	QUEUE MANAGER ジャーナル	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>RMTJRNRDB</u>	リモート・リレーショナル DB	文字値	オプション、定位置 3

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

ジャーナルに関連付けられたメッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

キュー・マネージャー・ジャーナル (JRN)

作成するジャーナルの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

ジャーナル名はシステムによって選択されます。このシステムのキュー・マネージャーにローカル・ジャーナルが既に存在している場合は、そのローカル・ジャーナル名が使用されます。存在していない場合は、固有の名前が AMQxJRN の形式で生成されます。ここで、x は A から Z の範囲の文字です。

journal-name

ジャーナルの名前を指定します。名前は 10 文字以内で指定します。ジャーナル・レシーバーの名前は、このジャーナル名を 4 番目の文字 (ジャーナル名が 4 文字より短い場合は、最後の文字) で切り捨て、ゼロを付加することによって生成されます。ローカル・キュー・マネージャー・ライブラリーに既にローカル・ジャーナルが含まれている場合、その名前は指定する名前と一致していなければなりません。キュー・マネージャー・ライブラリーが含むことができるローカル・ジャーナルは、1 つだけです。DLTMQM は、接頭部が「AMQ」である場合を除いて、キュー・マネージャー・ライブラリーからジャーナルの成果物を除去しません。

リモート・リレーショナル・データベース (RMTJRNRDB)

ターゲット・システムのリモート・ロケーション名が入っているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定します。WRKRDBDIRE コマンドを使用すると、ターゲット・システムの既存の項目を検出したり、新しいリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を構成したりできます。

relational-database-directory-entry

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定します。名前は 18 文字以内で指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

クラスター・キュー・マネージャーの再開 (RSMMQMCLQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

処理を行うためにローカル・キュー・マネージャーが再び使用できるようになり、これにメッセージを送信できることをクラスター内の他のキュー・マネージャーに通知するには、RSMMQMCLQM コマンドを使用します。これは、SPDMQMCLQM コマンドの逆のアクションです。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値	オプション、定位置 1
<u>CLUSNL</u>	クラスター名リスト	文字値	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3

クラスター名 (CLUSTER)

処理を行うためにキュー・マネージャーが使用可能なクラスターの名前を指定します。

cluster-name

クラスターの名前を指定します。

クラスター名リスト (CLUSNL)

処理を行うためにキュー・マネージャーが使用可能なクラスターのリストを指定する名前リストを指定します。

名前リスト

名前リストの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャンネルのリセット (RSTMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャンネルのリセット (RSTMQMCHL) コマンドは、MQ チャンネルのメッセージ順序番号を、そのチャンネルの次の開始時に使用するために、指定した順序番号にリセットします。

このコマンドは、送信側 (*SDR)、サーバー (*SVR)、およびクラスター送信側 (*CLUSDR) チャンネルにのみ使用することをお勧めします。

このコマンドが受信側 (*RCVR)、要求側 (*RQSTR)、またはクラスター受信側 (*CLUSRCVR) チャンネルに使用されている場合には、チャンネルのもう一方の端の値は、リセットされません。その場合、値を個別にリセットする必要があります。

このコマンドは、サーバー接続 (*SVRCN) チャンネルでは動作しません。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャンネル名	文字値	必須、定位置 1
<u>MSGSEQNUM</u>	メッセージ順序番号	1-999999999、 1	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3

チャンネル名 (CHLNAME)

チャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャンネル名を指定します。

メッセージ順序番号 (MSGSEQNUM)

新しいメッセージ・シーケンス番号を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

1

新しいメッセージ順序番号は 1 です。

message-sequence-number

1 から 999999999 の範囲の新しいメッセージ順序番号を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

クラスターのリセット (RSTMQMCL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

クラスターのリセット (RSTMQMCL) コマンドを使用して、クラスターからキュー・マネージャーを強制的に削除します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値	必須、定位置 1
<u>QMNAME</u>	削除対象のキュー・マネージャー名	文字値、*QMID	必須、定位置 2
<u>ACTION</u>	アクション	*FRCRMV	オプション、定位置 3
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 4
<u>QUEUES</u>	キューの削除	*NO、*YES	オプション、定位置 5
<u>QMID</u>	削除対象のキュー・マネージャー ID	文字値	オプション、定位置 6

クラスター名 (CLUSTER)

キュー・マネージャーを強制削除するクラスターの名前を指定します。

cluster-name

クラスターの名前を指定します。

削除対象のキュー・マネージャー名 (QMNAME)

強制削除の対象となるキュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*QMID

これにより、強制削除の対象となるキュー・マネージャーの ID を指定できます。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

アクション (ACTION)

指定されたキュー・マネージャー上で実行するアクションを指定します。

*FRCRMV

キュー・マネージャーを強制的にクラスターから除去することを要求する。キュー・マネージャーの削除後、確実に適正なクリーンアップが行われるようにするために、これが必要な場合があります。このアクションを要求できるのは、リポジトリ・キュー・マネージャーだけです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キューの削除 (QUEUES)

クラスター・キューがクラスターから削除するかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

クラスターから削除中のキュー・マネージャーに属しているキューを削除しません。

*YES

クラスターから除去されているキュー・マネージャーに所属するキューを除去します。

削除対象のキュー・マネージャー ID (QMID)

強制削除の対象となるキュー・マネージャーの ID を指定します。

queue-manager-identifier

キュー・マネージャーの ID を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャネルの解決 (RSVMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャネルの解決 (RSVMQMCHL) コマンドは、未確定メッセージをコミットまたはバックアウトするようにチャネルに要求します。

このコマンドは、確認期間にリンクの他方のエンドに障害が発生し、何かの理由から接続を再確立できない場合に使用されます。

この場合、送信側はメッセージを受信したかどうかについて未確定の状態のままとなります。未解決の作業単位は、バックアウトまたはコミットのいずれかで解決する必要があります。

*BCK は伝送キューに対してメッセージを復元し、*CMT はこれらを廃棄します。

このコマンドは、送信側 (*SDR) およびサーバー (*SVR) チャネルに対してのみ使用してください。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャネル名	文字値	必須、定位置 1
<u>OPTION</u>	解決オプション	*CMT, *BCK	必須、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 3

チャネル名 (CHLNAME)

チャネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャンネル名を指定します。

解決オプション (OPTION)

メッセージをバックアウトするか、コミットするかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*CMT

メッセージはコミットされる。すなわち、メッセージは伝送キューから削除されます。

*BCK

メッセージをバックアウトします。つまり、伝送キューに復元します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

RUNMQSC (RUNMQSC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ Commands (RUNMQSC) コマンドは、指定されたキュー・マネージャーに対して MQSC コマンドを対話式に実行できるようにします。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ オブジェクト権限の取り消し (RVKMQMAUT)

実行可能な場所:	スレッド・セーフ:
すべての環境 (*ALL)	Yes

「MQ 権限の取り消し」(RVKMQMAUT) コマンドは、コマンドで指定されたユーザーの、指定された オブジェクトに対する特定の権限またはすべての権限をリセットまたは剥奪します。

RVKMQMAUT コマンドは、QMQMADM グループのただれでも使用できます。これは、1 次または補足のグループ・プロファイルとして QMQMADM を指定するユーザー・プロファイルを持つユーザーです。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OBJ</u>	オブジェクト名	文字値	必須、定位置 1
<u>OBJTYPE</u>	オブジェクト・タイプ	*ALL、*Q、*ALSQ、 *LCLQ、*MDLQ、*RMTQ、 *AUTHINFO、*MQM、 *NMLIST、*PRC、*LSR、 *SVC、*CHL、*CLTCN、 *TOPIC、 *RMTMQMNAME	必須、定位置 2
<u>USER</u>	ユーザー名	単一値: *PUBLIC、その他の 値 (繰り返しは最大 50 回): <i>Name</i>	必須、定位置 3
<u>AUT</u>	Authority	値 (繰り返しは最大 22 回まで): *ALTUSR、 *BROWSE、*CONNECT、 *GET、*INQ、*PUT、 *SET、*PUB、*SUB、 *RESUME、*PASSALL、 *PASSID、*SETALL、 *SETID、*ADMCHG、 *ADMCLR、*ADMCRRT、 *ADMDLT、*ADMDSP、 *ALL、*ALLADM、 *ALLMQI、*REMOVE、 *CTRL、*CTRLX、 *SYSTEM	必須、定位置 4
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マ ネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 5
<u>SRVCOMP</u>	サービス・コンポーネン ト名	文字値、*DFT	オプション、定位置 6

オブジェクト名 (OBJ)

特定の権限が取り消される対象のオブジェクトの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

コマンドの発行時に OBJTYPE パラメーターの値によって指定されたタイプのすべてのオブジェクト。

*ALL は、総称プロファイルを表すことはできません。

object-name

特定の権限を 1 つ以上のユーザーに付与する対象の MQ オブジェクトの名前。

総称プロファイル

選択するオブジェクトの総称プロファイルを指定する。総称プロファイルは、ストリングの任意の場所に 1 つ以上の 総称文字を含んでいる文字ストリングです。このプロファイルを使用して、使用時に考えられるオブジェクトのオブジェクト名と 突き合わせます。総称文字は、(?)、(*) および (**) です。

? は、オブジェクト名の単一の文字と突き合わせます。

* は、修飾子内に含まれた 任意のストリングと突き合わせます。この場合、修飾子は、ピリオド (.) の間のストリングです。例えば、ABC* は ABCDEF と一致しますが、ABCDEF.XYZ とは一致しません。

** は、1 つ以上の修飾子との突き合わせを行います。例えば、ABC.**.XYZ は ABC.DEF.XYZ および ABC.DEF.GHI.XYZ と一致します。 ** は総称プロファイルで 1 回だけ使用できます。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

特定の権限が取り消される対象のオブジェクトのタイプを指定します。

***ALL**

すべての MQ オブジェクト・タイプ

***Q**

すべてのキューのオブジェクト・タイプ

***ALSQ**

別名キュー。

***LCLQ**

ローカル・キュー。

***MDLQ**

モデル・キュー

***RMTQ**

リモート・キュー。

***AUTHINFO**

認証情報オブジェクト

***MQM**

メッセージ・キュー・マネージャー

***NMLIST**

名前リストオブジェクト

***PRC**

プロセス定義。

***CHL**

チャンネル・オブジェクト。

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル・オブジェクト

***LSR**

リスナー・オブジェクト。

***SVC**

サービス・オブジェクト。

***TOPIC**

トピック・オブジェクト。

***RMTMQMNAME**

リモート・キュー・マネージャー名。

ユーザー名 (USER)

除去される、指定したオブジェクトに対する特定の権限を持つ 1 つ以上のユーザーのユーザー名を指定します。「MQ 権限の認可」(GRMQMAUT) コマンドに指定されている USER(*PUBLIC) によってユーザーに権限が与えられた場合、同じ権限は、このパラメーターに指定されている *PUBLIC によって取り消されます。GRMQMAUT コマンドに名前が識別されることによって特定の権限が与えられたユーザーは、同じ権限を除去するためにはこのパラメーターに名前が指定される必要があります。

指定できる値は以下のとおりです。

***PUBLIC**

オブジェクトについて特定の権限を持っておらず、許可リストに記載されておらず、また権限を持たないユーザー・グループを持つユーザーから指定した権限を奪う。特定の権限を持つユーザーは、引き続きそのオブジェクトに対する権限を保持します。

user-profile-name

指定した権限が取り消される 1 つまたは複数のユーザーのユーザー名を指定する。AUT パラメーターにリストされている権限は、それぞれ識別されたユーザーから明確に取り去られます。このパラメーターを使用して、特定のユーザーから共通の権限を除去できません。明確にユーザーに与えられた権限だけは、限定して取り消すことができます。最大 50 ユーザー・プロフィール名を指定できます。

権限 (AUT)

リセットされるまたは USER パラメーターに指定されたユーザーから取り去られる権限を指定します。AUT の値は、順不同の特定および一般権限のリストとして指定できます。この場合、一般権限は、以下のようになります。

*REMOVE、これはプロファイルを削除します。これは、*ALL とは同じではなく、その理由は、*ALL は、権限のないプロファイルが存在したままにします。*REMOVE は、オブジェクトが総称プロファイルである場合、またはオブジェクト・タイプが *MQM であるときにユーザー QMQM とともにある場合を除いて、ユーザー QMQMADM では指定できません。

*ALL、これは指定したユーザーに全権限を与えます。

*ALLADM、これは、*ADMCHG、*ADMCLR、*ADMCRIT、*ADMDLT、*ADMDSR、*CTRL および *CTRLX のすべてを与えます。

*ALLMQI、*ALTUSR、*BROWSE、*CONNECT、*GET、*INQ、*PUT、*SET、*PUB、*SUB、および *RESUME のすべてを与えます。

さまざまなオブジェクト・タイプについての許可

***ALL**

すべての許可。すべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMCHG**

オブジェクトを変更する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMCLR**

キューを消去する。キューのみに適用されます。

***ADMCRIT**

オブジェクトを作成する。リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMDLT**

オブジェクトを削除する。 リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ADMDSPL**

オブジェクトの属性を表示する。 リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ALLADM**

オブジェクトの管理操作を実行する。 リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***ALLMQI**

オブジェクトに適用できるすべての MQI 呼び出しを使用する。 すべてのオブジェクトに適用されます。

***ALTUSR**

MQOPEN および MQPUT1 呼び出しに対して、他のユーザーの権限を使用できる。 キュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***BROWSE**

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。 キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***CONNECT**

MQCONN 呼び出しを発行することによってアプリケーションをキュー・マネージャーに接続する。 キュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***CTRL**

チャネル、リスナーおよびサービスの開始とシャットダウンを制御する。

***CTRLX**

シーケンス番号をリセットし、未確定チャネルを解決する。

***GET**

MQGET 呼び出しを使用してメッセージをキューから取り出す。 キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***INQ**

MQINQ 呼び出しを使用してオブジェクトについて照会する。 リモート・キュー・マネージャー名を除くすべてのオブジェクトに適用されます。

***PASSALL**

すべてのコンテキストをキューに渡す。 キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***PASSID**

アイデンティティ・コンテキストをキューに渡す。 キュー・オブジェクトのみに適用されます。

***PUT**

MQPUT 呼び出しを使用してメッセージをキューに書き込む。 キュー・オブジェクトおよびリモート・キュー・マネージャー名にのみ適用されます。

***SET**

MQSET 呼び出しを使用してオブジェクトの属性を設定する。 キュー、キュー・マネージャー、およびプロセス・オブジェクトのみに適用されます。

***SETALL**

すべてのコンテキストをキューに設定する。 キューおよびキュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***SETID**

アイデンティティ・コンテキストをオブジェクトに設定する。 キューおよびキュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

***システム**

システム操作のためにアプリケーションをキュー・マネージャーに接続する。 キュー・マネージャー・オブジェクトのみに適用されます。

MQI 呼び出しについての許可

***ALTUSR**

MQOPEN および MQPUT1 呼び出しに対して、他のユーザーの権限を使用できる。

***BROWSE**

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

***CONNECT**

MQCONN 呼び出しを発行して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。

***GET**

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

***INQ**

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューの照会を行う。

***PUT**

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込む。

***SET**

MQSET 呼び出しを発行して、MQI からキューに属性を設定する。

***PUB**

トピックをオープンし、MQPUT 呼び出しを使用してメッセージをパブリッシュする。

***SUB**

MQSUB 呼び出しを使用してトピックに対するサブスクリプションを作成、変更、または再開する。

***RESUME**

MQSUB 呼び出しを使用して、サブスクリプションを再開する。

複数のオプションを適用するようにキューをオープンする場合は、各オプションについての許可を持っている必要があります。

コンテキストについての許可

***PASSALL**

すべてのコンテキストを指定のキューに渡す。すべてのコンテキスト・フィールドが元の要求からコピーされます。

***PASSID**

アイデンティティ・コンテキストを指定のキューに渡す。アイデンティティ・コンテキストは、要求のアイデンティティ・コンテキストと同じです。

***SETALL**

すべてのコンテキストを指定のキューに設定する。これは特別なシステム・ユーティリティによって使用されます。

***SETID**

アイデンティティ・コンテキストを指定のキューに設定する。これは特別なシステム・ユーティリティによって使用されます。

MQSC および PCF コマンドについての許可

***ADMCHG**

指定のオブジェクトの属性を変更する。

***ADMCLR**

指定のキューをクリアする (PCF の「キューのクリア」コマンドのみ)。

***ADMCRT**

指定のタイプのオブジェクトを作成する。

***ADMDLT**

指定のオブジェクトを削除する。

***ADMDSP**

指定のオブジェクトの属性を表示する。

***CTRL**

チャンネル、リスナーおよびサービスの開始とシャットダウンを制御する。

***CTRLX**

シーケンス番号をリセットし、未確定チャネルを解決する。

一般操作についての許可

***ALL**

オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。

all 権限は、alladm、allmqi、および system の権限のうち、そのオブジェクト・タイプに該当する権限を合わせたものに相当します。

***ALLADM**

オブジェクトに適用可能なすべての管理操作を実行する。

***ALLMQI**

オブジェクトに適用可能なすべての MQI 呼び出しを使用する。

***REMOVE**

指定したオブジェクトに対する権限プロファイルを削除する。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

サービス・コンポーネント名 (SRVCOMP)

許可が適用されるインストール済み許可サービスの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

最初にインストールされた許可コンポーネントを使用する。

Authorization-service-component-name

キュー・マネージャーの qm.ini ファイルに指定されている、必要な許可サービスのコンポーネント名。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQM セキュリティー・ポリシーの設定 (SETMQMSPL)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQM セキュリティー・ポリシーの設定 (SETMQMSPL) コマンドは、メッセージの書き込み、参照、キューからの破壊的削除の実行時にメッセージを保護する方法を制御するために IBM MQ Advanced Message Security で使用するセキュリティ・ポリシーを設定します。

ポリシー名は、メッセージのデジタル署名と暗号化による保護を、ポリシー名と一致するキューに関連付けます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
POLICY	ポリシー名	文字値	必須、キー、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	必須、キー、定位置 2
SIGNAL	信号アルゴリズム	*NONE、*MD5、*SHA1、*SHA256、*SHA384、*SHA512	オプション、定位置 3
ENCALG	暗号化アルゴリズム	*NONE、*RC2、*DES、*TRIPLEDES、*AES128、*AES256	オプション、定位置 4
SIGNER	許可された署名者	*NONE、文字値	オプション、定位置 5
RECIP	対象の受信者	*NONE、文字値	オプション、定位置 6
TOLERATE	無保護の許容	*NO、*YES	オプション、定位置 7
REMOVE	ポリシーの除去	*NO、*YES	オプション、定位置 8

ポリシー名 (POLICY)

ポリシーの名前 (必須)。

ポリシー名は、保護するキューの名前と一致しなければなりません。

作成する新しい認証情報オブジェクトの名前です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

信号アルゴリズム (SIGNALG)

以下のいずれかの値からデジタル署名アルゴリズムを指定します。

*NONE 値

メッセージは署名されません。

*MD5

メッセージは MD5 メッセージ・ダイジェスト・アルゴリズムを使用して署名されます。

*SHA1

メッセージは SHA-1 セキュア・ハッシュ・アルゴリズムを使用して署名されます。

*SHA256

メッセージは SHA-256 セキュア・ハッシュ・アルゴリズムを使用して署名されます。

*SHA384

メッセージは SHA-384 セキュア・ハッシュ・アルゴリズムを使用して署名されます。

*SHA512

メッセージは SHA-512 セキュア・ハッシュ・アルゴリズムを使用して署名されます。

暗号化アルゴリズム (ENCALG)

メッセージを保護する際に使用する暗号化アルゴリズムを以下のいずれかの値から指定します。

*NONE 値

メッセージは暗号化されません。

*RC2

メッセージは RC2 Rivest Cipher アルゴリズムを使用して暗号化されます。

*DES

メッセージは DES Data Encryption Standard アルゴリズムを使用して暗号化されます。

*TRIPLEDES

メッセージは Triple DES Data Encryption Standard アルゴリズムを使用して暗号化されます。

*AES128

メッセージは AES 128 ビット・キー Advanced Encryption Standard アルゴリズムを使用して暗号化されます。

*AES256

メッセージは AES 256 ビット・キー Advanced Encryption Standard アルゴリズムを使用して暗号化されます。

許可された署名者 (SIGNER)

メッセージを参照したり、キューから破壊的に削除したりするときに検査する、許可されたメッセージ署名者を表す X500 識別名のリストを指定します。許可された署名者のリストを指定すると、メッセージの取得時に、受信側の鍵ストアでメッセージの署名者を検証できる場合であっても、このリストに指定した証明書を使用して署名されたメッセージのみが受け入れられます。

このパラメーターは、署名アルゴリズム ([SIGNALG](#)) も指定されている場合にのみ有効です。

識別名は大/小文字が区別されるため、デジタル証明書のとおりに入力することが重要であることに注意してください。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE

署名者の証明書の検証以外で署名付きメッセージを処理する場合、メッセージの取得時にポリシーはメッセージ署名者の ID を制限しません。

<x500-distinguished-name>

証明書の検証以外で署名付きメッセージを処理する場合、メッセージは、識別名のいずれかと一致する証明書を使用して署名されている必要があります。

対象の受信者 (RECIP)

暗号化されたメッセージをキューに書き込むときに使用する、対象の受信者を表す X500 識別名のリストを指定します。ポリシーに暗号化アルゴリズム (ENCALG) を指定する場合は、1 件以上の受信者の識別名を指定する必要があります。

このパラメーターは、暗号化アルゴリズム ([ENCALG](#)) も指定されている場合にのみ有効です。

識別名は大/小文字が区別されるため、デジタル証明書のとおりに入力することが重要であることに注意してください。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE

メッセージは暗号化されません。

<x500-distinguished-name>

メッセージを書き込むときに、メッセージ・データは対象の受信者の識別名を使用して暗号化されます。リストにある受信者のみがメッセージを取得し、暗号化を解除することができます。

無保護の許容 (TOLERATE)

保護されていないメッセージであっても、参照および破壊的削除を許容するかどうかを指定します。このパラメーターを使用すると、ポリシーの適用前に作成されていたメッセージの処理が可能になるため、アプリケーションにセキュリティ・ポリシーを段階的に適用できます。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

現行のポリシーに適合しないメッセージはアプリケーションに戻されません。

*YES

保護されていないメッセージをアプリケーションが取得するのを許可します。

ポリシーの除去 (REMOVE)

ポリシーを作成するか、それとも削除するかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*NO

ポリシーは作成されます。既存のポリシーがある場合は変更されます。

*YES

ポリシーは削除されます。このパラメーター値と一緒に使用できる他のパラメーターは、ポリシー名 (POLICY) とキュー・マネージャー名 (MQMNAME) のみです。

クラスター・キュー・マネージャーの中断 (SPDMQMCLQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

処理を行うためにローカル・キュー・マネージャーを使用することができず、これにメッセージを送信できないことをクラスター内の他のキュー・マネージャーに通知するには、SPDMQMCLQM コマンドを使用します。そのアクションは、RSMMQMCLQM コマンドの逆になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値	オプション、定位置 1
<u>CLUSNL</u>	クラスター名リスト	文字値	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 3
<u>MODE</u>	モード (Mode)	*QUIESCE、*FORCE	オプション、定位置 4

クラスター名 (CLUSTER)

処理するためにキュー・マネージャーを使用できなくなったクラスターの名前を指定します。

cluster-name

クラスターの名前を指定します。

クラスター名リスト (CLUSNL)

処理するためにキュー・マネージャーを使用できなくなったクラスターのリストを指定する名前リストの名前を指定します。

名前リスト

名前リストの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

モード (MODE)

可用性の中断が有効になる方法を指定します。

*QUIESCE

ローカル・キュー・マネージャーにこれ以上メッセージを送信しないように、クラスター内の他のキュー・マネージャーが指示を受けます。

*FORCE

クラスター内の他のキュー・マネージャーに対するすべてのインバウンド・チャネルおよびアウトバウンド・チャネルが強制的に停止されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

メッセージ・キュー・マネージャーの開始 (STRMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

メッセージ・キュー・マネージャーの開始 (STRMQM) コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーを開始します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 1
<u>RDEFSYS</u>	システム・オブジェクトの再定義	*YES 、 *NO	オプション、定位置 2
<u>FIXDIRS</u>	ディレクトリーの修正	*YES 、 *NO	オプション、定位置 3
<u>STRSTSCTL</u>	開始状況の詳細	*ALL 、 *MIN	オプション、定位置 4
<u>STRSVC</u>	サービス開始	*YES 、 *NO	オプション、定位置 5
<u>REPLAY</u>	再生のみを実行	*YES 、 *NO	オプション、定位置 6
<u>ACTIVATE</u>	バックアップの活動化	*YES 、 *NO	オプション、定位置 7

キーワード	説明	選択	注
<u>STANDBY</u>	スタンバイ QMGR の許可	*YES、*NO	オプションナル, 定位置 8

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

システム・オブジェクトの再定義 (RDEFSYS)

デフォルトおよびシステム・オブジェクトが再定義されるかどうかを指定します。

*NO

システム・オブジェクトを再定義しません。

*YES

キュー・マネージャーを始動し、デフォルトおよびシステム・オブジェクトを再定義してから、キュー・マネージャーを停止します。このフラグを指定した場合、キュー・マネージャーに属する既存のシステムおよびデフォルト・オブジェクトは、すべて置き換えられます。

ディレクトリーの修正 (FIXDIRS)

欠落した、または損傷を受けたキュー・マネージャー・ディレクトリーが再作成されるかどうかを指定します。

*NO

欠落したキュー・マネージャー・ディレクトリーを再作成しません。開始時に損傷または欠落しているディレクトリーが検出された場合、その開始の試みはエラーを報告し、STRMQM コマンドが即時に終了します。

*YES

キュー・マネージャーを開始して、必要に応じて損傷または欠落したディレクトリーを再作成します。このオプションは、キュー・マネージャーのメディア・リカバリーを実行する際に使用してください。

開始状況の詳細 (STRSTDTL)

キュー・マネージャーの開始中に出力される状況メッセージの詳細を指定します。

*ALL

すべての開始状況メッセージを表示します。この詳細レベルには、トランザクション・リカバリーおよびログ再生の詳細を示すメッセージの定期的な表示も含まれます。この詳細レベルは、キュー・マネージャーの異常終了後に、キュー・マネージャーを開始した際の進行状況の追跡に役立ちます。

*MIN

最小レベルの状況メッセージを表示します。

サービス開始 (STRSVC)

キュー・マネージャーの開始時に、以下に示す追加の QMGR コンポーネントが開始されるかどうかを指定します。

- チャネル・イニシエーター
- コマンド・サーバー

- CONTROL が QMGR または STARTONLY に設定されたリスナー
- CONTROL が QMGR または STARTONLY に設定されたサービス

***YES**

キュー・マネージャーの開始時に、チャンネル・イニシエーター、コマンド・サーバー、リスナー、およびサービスも開始します。

***NO**

キュー・マネージャーの開始時に、チャンネル・イニシエーター、コマンド・サーバー、リスナー、およびサービスを開始しません。

再生のみを実行 (REPLAY)

再生のみを実行するためにキュー・マネージャーが開始されているかどうかを指定します。これにより、リモート・マシン上のキュー・マネージャーのバックアップ・コピーが、対応するアクティブなマシンで作成されたログを再生できるようになるほか、アクティブなマシンで障害が発生した際に、そのバックアップ・キュー・マネージャーを活動化することができるようになります。

***NO**

キュー・マネージャーは、再生のみを実行するために開始されていません。

***YES**

キュー・マネージャーは、再生のみを実行するために開始されています。再生が完了すると STRMQM コマンドは終了します。

バックアップの活動化 (ACTIVATE)

キュー・マネージャーをアクティブとしてマークするかどうかを指定します。REPLAY オプションを指定して開始されたキュー・マネージャーはバックアップ・キュー・マネージャーとしてマークが付けられるので、これを活動化する前に開始することはできません。

***NO**

キュー・マネージャーはアクティブとしてマークが付けられていません。

***YES**

キュー・マネージャーはアクティブとしてマークが付けられています。キュー・マネージャーが活動化されると、STRMQM コマンドを REPLAY および ACTIVATE オプションを指定せずに使用して、そのキュー・マネージャーを通常のキュー・マネージャーとして開始できます。

スタンバイ・キュー・マネージャーの許可 (STANDBY)

アクティブなキュー・マネージャー・インスタンスが別のシステムで既に実行中の場合、スタンバイ・インスタンスとしてキュー・マネージャーを開始できるかどうかを指定します。また、フェイルオーバーに備えて、キュー・マネージャーのこのインスタンスが、他のシステム上の同じキュー・マネージャーのスタンバイ・インスタンスを許可するかどうかも指定します。

***NO**

キュー・マネージャーは通常の方法で開始されます。

***YES**

キュー・マネージャーはスタンバイ・インスタンスとして開始することを許可され、同じキュー・マネージャーの他のスタンバイ・インスタンスが開始することを許可します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーの開始 (STRMQMBRK)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ ブローカー開始 (STRMQMBRK) コマンドは、指定されたキュー・マネージャーのブローカーを開始します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値	必須、定位置 1
<u>PARENTMQM</u>	親メッセージ・キュー・マネージャー	文字値	オプション、定位置 2

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

親メッセージ・キュー・マネージャー (PARENTMQM)

親ブローカー機能を提供するキュー・マネージャーの名前を指定します。ネットワークにブローカーを追加するには、新しいブローカーをホストするキュー・マネージャーと、その親をホストするキュー・マネージャーの間に、両方向のチャンネルが存在している必要があります。

再始動時には、このパラメーターはオプションです。指定する場合、以前に指定したものと同一パラメーターを指定する必要があります。それがルート・ノード・ブローカーの場合、指定したキュー・マネージャーがその親になります。トリガーを使用してブローカーを開始する場合は、親ブローカーの名前を指定できません。

親が指定された後は、CLRMQMBRK コマンドと併用して例外的に親子関係を変更することしかできません。ルート・ノードを変更して既存のブローカーの子にすることによって、2つの階層を結合できます。このため、現在は1つになっている2つの階層に渡ってサブスクリプションが伝搬されることになります。その後は、パブリケーションが両方の階層をフローし始めます。予測可能な結果を得るために、この時点ですべてのパブリッシュ・アプリケーションを静止するようにしてください。

変更したブローカーが階層エラーを検出すると（つまり、新しい親が子孫でもあることを検出すると）、そのブローカーは直ちにシャットダウンされます。その場合は、管理者が、変更したブローカーと新しい（偽の）親の両方で CLRMQMBRK を使用して直前の状況を復元する必要があります。メッセージをこの階層の上位に伝搬すると、階層エラーが検出されます。これが完了するのは、関連するブローカーとリンクが使用可能である場合だけです。

Start MQ Channel (STRMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Start MQ Channel (STRMQMCHL) コマンドは、MQ チャンネルを開始します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャンネル名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

チャンネル名 (CHLNAME)

チャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

channel-name

チャンネル名を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Start MQ Channel Initiator (STRMQMCHLI)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Start MQ Channel Initiator (STRMQMCHLI) コマンドは、MQ チャンネル・イニシエーターを開始します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

キュー名 (QNAME)

チャンネル開始プロセスの開始キューの名前を指定します。つまり、伝送キューの定義に指定する開始キューです。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

開始キューの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Start MQ Command Server (STRMQMCSVR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Start MQ Command Server (STRMQMCSVR) コマンドは、指定されたキュー・マネージャーの MQ コマンド・サーバーを開始します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

IBM MQ DLQ ハンドラーの開始 (STRMQMDLQ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ 送達不能キュー・ハンドラーの開始 (STRMQMDLQ) コマンドを使用して、選択したメッセージに対して各種アクションを実行します。このコマンドは、メッセージを選択し、そのメッセージに対してアクションを実行できる、ルール・セットを指定します。

STRMQMDLQ コマンドは、その入力データを SRCFILE および SRCMBR で指定されたルール・テーブルから取得します。コマンドが処理されると、その結果と要約がプリンター・スプール・ファイルに書き込まれます。

注:

ルール・テーブルで定義される WAIT キーワードは、送達不能キュー・ハンドラーがメッセージの処理直後に終了するか、新しいメッセージの到着を待機するかを決定します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
UDLMSGQ	未配布メッセージ・キュー	文字値、*DFT、*NONE	必須、定位置 1
SRCMBR	入力を含むメンバー	名前、*FIRST	必須、定位置 2
SRCFILE	入力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 3
	修飾子 1: 入力ファイル	名前、 QTXSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *LIBL 、*CURLIB	
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT、*NONE	オプション、定位置 4

未配布メッセージ・キュー (UDLMSGQ)

処理するローカル未配布メッセージ・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

使用されるローカル未配布メッセージ・キューが、インストールのデフォルト・キュー・マネージャーから取得されます。このオプションが指定されると、ルール・テーブルに記述された **INPUTQ** キーワードが、キュー・マネージャーのデフォルトの未配布メッセージ・キューによってオーバーライドされます。

undelivered-message-queue-name

使用するローカル未配布メッセージ・キューの名前を指定します。このオプションが指定されると、ルール・テーブルに記述された **INPUTQ** キーワードが、同じく記述された未配布メッセージ・キューによってオーバーライドされます。

*NONE 値

ルール・テーブルの **INPUTQ** キーワードで指定されたキューが使用され、ルール・テーブルの **INPUTQ** キーワードがブランクの場合はシステム・デフォルトの送達不能キューが使用されます。

入力を含むメンバー (SRCMBR)

処理するユーザー作成ルール・テーブルを含む、ソース・メンバーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが使用されます。

source-member-name

ソース・メンバーの名前を指定します。

入力ファイル (SRCFILE)

処理するユーザー作成ルール・テーブルを含んでいるソース・ファイルおよびライブラリーの名前を、LIBRARY/FILE の形式で指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***LIBL**

ライブラリー・リストでファイル名を検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用します。

source-library-name

使用しているライブラリーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

QTXTSRC

QTXTSRC を使用します。

source-file-name

ソース・ファイルの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。 名前は 48 文字以内で指定します。 システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

***NONE 値**

ルール・テーブルの INPUTQM キーワードで指定されたキュー・マネージャーが使用され、ルール・テーブルの INPUTQM キーワードがブランクの場合はシステム・デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ リスナーの開始 (STRMQMLSR)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ リスナーの開始 (STRMQMLSR) コマンドは、MQ TCP/IP リスナーを開始します。

このコマンドは、TCP/IP 伝送プロトコルでのみ有効です。

リスナー・オブジェクトまたは特定のリスナー属性のいずれかを指定できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>PORT</u>	ポート番号	1-65535、 *DFT	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>IPADDR</u>	IP アドレス	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3
<u>BACKLOG</u>	リスナー・バックログ	0-999999999、 *DFT	オプション、定位置 4
<u>LSRNAME</u>	リスナー名	文字値、 *NONE	オプション、定位置 5

ポート番号 (PORT)

リスナーが使用するポート番号です。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

ポート番号 1414 が使用されます。

ポート番号

使用するポート番号です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

IP アドレス (IPADDR)

リスナーが使用する IP アドレスです。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

リスナーは、TCP/IP スタックに使用可能なすべての IP アドレスで listen します。

ip-addr

使用する IP アドレスです。

リスナー・バックログ (BACKLOG)

リスナーがサポートする同時接続要求の数です。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

サポートされる同時接続要求の数は 255 です。

backlog

サポートされる同時接続要求の数です。

リスナー名 (LSRNAME)

開始する MQ リスナー・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

リスナー・オブジェクトは指定されません。

listener-name

開始するリスナー・オブジェクトの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

IBM MQ コマンドの開始 (STRMQMMQSC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ コマンドの開始 (STRMQMMQSC) コマンドは、IBM MQ コマンド (MQSC) セットを開始し、プリンター・スプーラー・ファイルにレポートを書き込みます。



重要: QTEMP ライブラリーの使用は制限されているため、QTEMP ライブラリーを STRMQMMQSC の入力ライブラリーとして使用しないでください。このコマンドの入力ファイルとして別のライブラリーを使用する必要があります。

各レポートは以下の要素から構成されています。

- MQSC をレポートのソースとして識別するヘッダー。
- 入力 MQSC コマンドの番号付きリスト。
- エラーのあるコマンドに関する構文エラー・メッセージ。
- 正しい各コマンドの実行結果を示すメッセージ。
- MQSC の一般実行エラーに関するその他のメッセージ (必要な場合)。
- 終わりに要約レポート。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
SRCMBR	入力を含むメンバー	名前、*FIRST	必須、定位置 1
SRCFILE	入力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 2
	修飾子 1: 入力ファイル	名前、 QM*QSC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、 *LIBL 、*CURLIB	
OPTION	オプション	*RUN 、*VERIFY、*MVS	オプション、定位置 3
WAIT	待機時間	1-999999	オプション、定位置 4
LCLMQMNAME	ローカル MSG QUEUE MANAGER	文字値	オプション、定位置 5

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 6

入力を含むメンバー (SRCMBR)

MQSC を含む、処理するソース・メンバーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

source-member-name

ソース・メンバーの名前を指定します。

*FIRST

ファイルの最初のメンバーが使用されます。

入力ファイル (SRCFILE)

処理する MQSC を含むファイルの修飾名を LIBRARY/FILE の形式で指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*LIBL

ライブラリー・リストでファイル名を検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーが使用されます。

source-library-name

使用されるライブラリーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

QMISC

QMISC が使用されます。

source-file-name

ソース・ファイルの名前を指定します。

オプション (OPTION)

MQSC コマンドの処理方法を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*RUN

この値を指定し、WAIT パラメーターの値を指定しなかった場合、MQSC コマンドはローカル・キュー・マネージャーによって直接処理されます。この値を指定し、WAIT パラメーターにも値を指定した場合、MQSC コマンドはリモート・キュー・マネージャーによって間接処理されます。

*VERIFY

MQSC コマンドが検査され、レポートが書き込まれますが、コマンドは実行されません。

*MVS

MQSC コマンドは、MVS™/ESA の元で実行しているリモート・キュー・マネージャーによって間接処理されます。このオプションを指定した場合は、WAIT パラメーターの値も指定する必要があります。

待機時間 (WAIT)

STRMQMMQSC コマンドが間接 MQSC コマンドに対する応答を待つ秒数を指定します。このパラメーターに値を指定することは、MQSC コマンドがリモート・キュー・マネージャーによって間接モードで実行されることを示します。OPTION パラメーターを *RUN または *MVS と指定した場合にのみ、このパラメーターへの値の指定が有効となります。

間接モードでは、MQSC コマンドはリモート・キュー・マネージャーのコマンド・キューに入れます。コマンドからのレポートは、その後 MQMNAME に指定されたローカル・キュー・マネージャーに戻されます。この時間の経過後に受け取った応答は破棄されますが、MQSC コマンドは実行を続けます。

指定できる値は以下のとおりです。

1 - 999999

待機時間を秒単位で指定します。

ローカル・メッセージ・キュー・マネージャー (LCLMQMNAME)

間接モード操作が実行されるローカル・キュー・マネージャーの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

Start MQ Service (STRMQMSVC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

Start MQ Service (STRMQMSVC) コマンドは、MQ サービスを開始します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SVCNAME</u>	サービス名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

サービス名 (SVCNAME)

開始される MQ サービス・オブジェクトの名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

*NONE 値

サービス・オブジェクトは指定されません。

サービス名

サービス定義の名前を指定します。ストリングの最大長は 48 バイトです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ トリガー・モニターの開始 (STRMQMTRM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ トリガー・モニターの開始 (STRMQMTRM) コマンドは、指定したキュー・マネージャーの MQ トリガー・モニターを開始します。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>INITQNAME</u>	開始キュー	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2

開始キュー INITQNAME

開始キューの名前を指定します。

initiation-queue-name

開始キューの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ のトレース (TRCMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

「MQ のトレース」(TRCMQM) コマンドは、すべての MQ ジョブのトレースを制御します。トレースをオン/オフに設定する TRCMQM によって、IBM MQ で発行されたメッセージとともに、メッセージ・キュー・インターフェース (MQI) 機能、機能フロー、および IBM MQ for IBM i コンポーネントをトレースできます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
TRCEARLY	早期トレース	*NO 、*YES	オプション、定位置 1
SET	トレース・オプション設定	*ON 、*OFF、*STS、*END	オプション、定位置 2
OUTPUT	出力	*MQM 、*MQMFMT、*PEX、*ALL	オプション、定位置 3
TRCLEVEL	トレース・レベル	*DFT 、*DETAIL、*PARMS	オプション、定位置 4
TRCTYPE	トレース・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (繰り返しは最大 14 回まで): *API、*CMTRY、*COMMS、*CSDATA、*CSFLOW、*LQMDATA、*LQMFLOW、*OTHDATA、*OTHFLOW、*RMTDATA、*RMTFLOW、*SVCDATA、*SVCFLOW、*VSNDATA	オプション、定位置 5
EXCLUDE	タイプの除外	単一値: *NONE その他の値 (繰り返しは最大 14 回まで): *API、*CMTRY、*COMMS、*CSDATA、*CSFLOW、*LQMDATA、*LQMFLOW、*OTHDATA、*OTHFLOW、*RMTDATA、*RMTFLOW、*SVCDATA、*SVCFLOW、*VSNDATA	オプション、定位置 6
INTERVAL	トレース・インターバル	1-32000000、 *NONE	オプション、定位置 7
MAXSTG	最大使用ストレージ	1-16、 *DFT	オプション、定位置 8
DATASIZE	トレース・データ・サイズ	1-99999999、 *DFT 、*ALL、*NONE	オプション、定位置 9
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 10

キーワード	説明	選択	注
ジョブ	ジョブ情報	値 (繰り返しは最大 8 回まで): エlement・リスト	オプション, 定位置 11
	Element 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名、名前	
	修飾子 2: ユーザー	文字値、 X"	
	修飾子 3: 番号	文字値、 X"	
	Element 2: スレッド ID	文字値、 *NONE 、 *INITIAL	
STRCTL	トレース開始制御	値 (繰り返しは最大 8 回まで): 文字値、 *NONE	オプション、定位置 12
ENDCTL	トレース終了制御	値 (繰り返しは最大 8 回まで): 文字値、 *NONE	オプション、定位置 13

早期トレース (TRCEARLY)

早期トレースを選択するかどうかを指定します。

早期トレースは、すべてのキュー・マネージャーのすべてのジョブに適用されます。キュー・マネージャーが現在アクティブでないか、存在しない場合、早期トレースは起動時または作成時に有効になります。

*NO

早期トレースを使用可能にしません。

*YES

早期トレースを使用可能にします。

トレース・オプション設定 (SET)

トレース・レコードの収集を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*ON

トレース・レコードの収集を開始します。

TRCEARLY(*NO) の場合、トレース・レコードの収集は、キュー・マネージャーが使用可能になるまでは開始されません。

*OFF

トレース・レコードの収集を停止します。トレース・レコードは、トレース収集ディレクトリーのファイルに書き込まれます。

*STS

アクティブなトレース収集の状況はスプール・ファイルに書き込まれます。TRCMQM に指定された他のパラメーターは無視されます。

*END

すべてのキュー・マネージャーのトレース・レコードの収集を停止します。

出力 (OUTPUT)

このコマンドが適用されるトレース出力のタイプを識別します。

指定できる値は以下のとおりです。

***MQM**

このコマンドは、TRCDIR パラメーターで指定されたディレクトリーにあるバイナリー IBM MQ トレース出力の収集に適用されます。

***MQMFMT**

このコマンドは、TRCDIR パラメーターで指定されたディレクトリーにあるフォーマット済み IBM MQ トレース出力の収集に適用されます。

***PEX**

このコマンドは、Performance Explorer (PEX) トレース出力の収集に適用されます。

***ALL**

このオプションは、IBM MQ 不定形式トレースおよび PEX トレースの両方の出力の収集に適用されます。

トレース・レベル (TRCLEVEL)

処理フローのトレース・ポイントのトレース・レベルをアクティブ化します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

処理フローのトレース・ポイントについて、デフォルト・レベルでトレースをアクティブ化します。

***DETAIL**

処理フローのトレース・ポイントについて、高詳細レベルでトレースをアクティブ化します。

***PARMS**

処理フローのトレース・ポイントについて、デフォルト詳細レベルでトレースをアクティブ化します。

トレース・タイプ (TRCTYPE)

トレース・ファイルに保管するトレース・データのタイプを指定します。このパラメーターを省略した場合、すべてのトレース・ポイントが使用可能になります。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

次のキーワードで指定されたすべてのトレース・データがトレース・ファイルに保管されます。

trace-type-list

次のキーワードから複数のオプションを指定できますが、各オプションは1回しか指定できません。

***API**

MQI および主なキュー・マネージャーのコンポーネントに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***CMTRY**

MQ コンポーネント内のコメントに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***COMMS**

通信ネットワークを介して流れるデータに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***CSDATA**

共通サービス内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***CSFLOW**

共通サービス内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***LQMDATA**

ローカル・キュー・マネージャー内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***LQMFLOW**

ローカル・キュー・マネージャー内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***OTHTDATA**

その他のコンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***OTHTFLOW**

その他のコンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***RMTDATA**

通信コンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***RMTFLOW**

通信コンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***SVCDATA**

サービス・コンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***SVCFLOW**

サービス・コンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***VSNDATA**

実行中の IBM MQ のバージョンに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

タイプの除外 (EXCLUDE)

トレース・ファイルから省略するトレース・データのタイプを指定します。このパラメーターを省略した場合、TRCTYPE に指定されたすべてのトレース・ポイントが使用可能になります。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

次のキーワードで指定されたすべてのトレース・データがトレース・ファイルに保管されます。

trace-type-list

次のキーワードから複数のオプションを指定できますが、各オプションは 1 回しか指定できません。

***API**

MQI および主なキュー・マネージャーのコンポーネントに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***CMTRY**

MQ コンポーネント内のコメントに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***COMMS**

通信ネットワークを介して流れるデータに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***CSDATA**

共通サービス内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***CSFLOW**

共通サービス内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***LQMDATA**

ローカル・キュー・マネージャー内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***LQMFLOW**

ローカル・キュー・マネージャー内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***OTHTDATA**

その他のコンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***OTHTFLOW**

その他のコンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***RMTDATA**

通信コンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***RMTFLOW**

通信コンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***SVCDATA**

サービス・コンポーネント内の内部データ・バッファーに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***SVCFLOW**

サービス・コンポーネント内の処理フローに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

***VSNDATA**

実行中の IBM MQ のバージョンに関連するトレース・ポイントについてデータを出力します。

トレース・インターバル (INTERVAL)

トレースを収集するインターバルを秒単位で指定します。このパラメーターを省略すると、TRCMQM コマンドを使用して手動で停止するか、ENDCTL に指定されたプローブ ID 付きの FDC が見つかるまで、トレースの収集は継続されます。

指定できる値は以下のとおりです。

collection-interval

1 から 32000000 の範囲の値 (秒) を指定します。

INTERVAL と ENDCTL の両方に値を指定することはできません。

最大使用ストレージ MAXSTG)

収集されたトレース・レコードに使用するストレージの最大サイズを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトの最大値は 1 MB (1024 キロバイト) です。

maximum-megabytes

1 から 16 の範囲の値を指定します。

トレース・データ・サイズ (DATASIZE)

トレースに含まれるユーザー・データのバイト数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのトレース値が使用されます。

***ALL**

すべてのユーザー・データがトレースされます。

***NONE 値**

このオプションは、機密ユーザー・データのトレースをオフにします。

data-size-in-bytes

1 から 99999999 の範囲の値を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

このパラメーターは、TRCEARLY が *NO に設定された場合のみ有効です。

TRCEARLY を *YES に設定すると、すべてのキュー・マネージャーがトレースされます。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーをトレースします。

キュー・マネージャー名

トレースするキュー・マネージャーの名前を指定します。

ジョブ情報 (JOB)

トレースするジョブを指定します。

このパラメーターの値は次のいずれかです。

generic-jobname

10 文字の総称ジョブ名。このジョブ名と一致するすべてのジョブが、トレースを収集できるようになります。例えば、「AMQ*」と指定すると、接頭部が AMQ であるすべてのジョブのトレースが収集されます。

Job-name/User/Number

完全修飾ジョブ名。修飾ジョブ名で指定されたジョブだけが、トレースされます。

Job-name/User/Number/thread-identifier

完全修飾ジョブ名と関連付けられたスレッド ID。修飾ジョブ名で指定されたジョブのスレッドだけが、トレースされます。スレッド ID は、IBM MQ によって割り振られた内部 ID であることに注意してください。この ID は、IBMi のスレッド ID とは関係がありません。

トレース開始制御 (STRCTL)

指定されたプローブ ID のいずれかを持つ FDC が生成されたときに、トレースを開始することを指定します。

AANNNNNN

プローブ ID は、8 文字ストリング形式です (AANNNNNN)。ここで、A は英字を表し、N は数字を表します。

プローブ ID は 8 個まで指定できます。

トレース終了制御 (ENDCTL)

指定されたプローブ ID のいずれかを持つ FDC が生成されたときに、トレースを終了することを指定します。

AANNNNNN

プローブ ID は、8 文字ストリング形式です (AANNNNNN)。ここで、A は英字を表し、N は数字を表します。

プローブ ID は 8 個まで指定できます。

ENDCTL と INTERVAL の両方に値を指定することはできません。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ キュー・マネージャーの処理 (WRKMQM)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

キュー・マネージャーの処理 (WRKMQM) コマンドにより、1 つ以上のキュー・マネージャー定義を処理して、以下の操作を実行できます。

- キュー・マネージャーの変更
- キュー・マネージャーの作成
- キュー・マネージャーを削除します。
- キュー・マネージャーの開始
- キュー・マネージャーの表示
- キュー・マネージャーを終了します。
- キュー・マネージャーのチャンネルの処理
- キュー・マネージャーの名前リストの処理
- キュー・マネージャーのキューの処理
- キュー・マネージャーのプロセスの処理

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

選択するメッセージ・キュー・マネージャーの 1 つ以上の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALL

すべてのキュー・マネージャーが選択されます。

generic-queue-manager-name

選択するキュー・マネージャーの総称名を指定します。総称名とは、文字ストリングとそれに続くアスタリスク (*) のことで (例えば、ABC* など)、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのキュー・マネージャーが選択されます。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

注: 必要な名前は引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を実際に、入力した内容に一致させることができます。すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 権限の処理 (WRKMQMAUT)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 権限の処理 (WRKMQMAUT) は、指定されたパラメーターに一致する、すべての権限プロファイル名とそのタイプのリストを表示します。これにより、MQM 権限プロファイル・レコードのための権限レコードを削除、処理、および作成できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OBJ</u>	オブジェクト/プロファイルの名前	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>OBJTYPE</u>	オブジェクト・タイプ	*Q、*PRC、*MQM、 *NMLIST、*AUTHINFO、 *LSR、*SVC、*CHL、 *CLTCN、 *ALL 、*TOPIC、 *RMTMQMNAME	オプション、定位置 2
<u>OUTPUT</u>	出力	* 、*PRINT	オプション、定位置 3
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 4
<u>SRVCOMP</u>	サービス・コンポーネント名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 5

オブジェクト名 (OBJ)

選択するオブジェクトのオブジェクト名または権限プロファイル名を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

指定したオブジェクト・タイプに一致するすべての権限レコードがリストされます。***ALL** は、総称プロファイルを表すことはできません。

object-name

MQ オブジェクトの名前を指定します。このオブジェクト名に一致するオブジェクト名または総称プロファイル名のすべての権限レコードが選択されます。

総称プロファイル

MQ オブジェクトの総称プロファイルを指定します。総称プロファイルに正確に一致する権限レコードのみが選択されます。総称プロファイルは、ストリングの任意の場所に 1 つ以上の 総称文字を含んでいる文字ストリングです。総称文字は、(?)、(*) および (**) です。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

選択する権限プロファイルのオブジェクト・タイプを指定します。

***ALL**

すべての MQ オブジェクト・タイプ

***Q**

すべてのキューのオブジェクト・タイプ

***AUTHINFO**

認証情報オブジェクト

***MQM**

メッセージ・キュー・マネージャー

***NMLIST**

名前リストオブジェクト

***PRC**

プロセス定義。

***CHL**

チャンネル・オブジェクト。

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル・オブジェクト

***LSR**

リスナー・オブジェクト。

***SVC**

サービス・オブジェクト。

***TOPIC**

トピック・オブジェクト。

***RMTMQMNAME**

リモート・キュー・マネージャー名。

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。 バッチ・ジョブによって要求された 出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

選択した権限プロファイル・レコードに登録された、ユーザーとその権限の詳細なリストを、ジョブのスプール出力とともに印刷します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

サービス・コンポーネント名 (SRVCOMP)

表示する権限を検索する、インストールされた許可サービスの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

インストールされたすべての許可コンポーネントにおいて、指定した権限プロファイル名とオブジェクト・タイプが検索されます。

Authorization-service-component-name

キュー・マネージャーの QM.INI ファイルで指定された、許可サービスのコンポーネント名。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 権限データの処理 (WRKMQMAUTD)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 権限レコードの処理 (WRKMQMAUTD) は、特定の権限プロファイル名およびタイプに登録されているすべてのユーザーのリストを表示します。これにより、権限レコードを認可、取り消し、削除、および作成できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OBJ</u>	オブジェクト/プロファイルの名前	文字値	必須、定位置 1
<u>OBJTYPE</u>	オブジェクト・タイプ	*Q、*PRC、*MQM、 *NMLIST、*AUTHINFO、 *CHL、*CLTCN、*SVC、 *LSR、*TOPIC	必須、定位置 2
<u>USER</u>	ユーザー名	名前、*PUBLIC、 *ALL	オプション、定位置 3
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 4
<u>SRVCOMP</u>	サービス・コンポーネント名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 5

オブジェクト名 (OBJ)

選択するオブジェクトのオブジェクト名または権限プロファイル名を指定します。

object-name

MQ オブジェクトの名前を指定します。このオブジェクト名に一致するオブジェクト名または総称プロファイル名のすべての権限レコードが選択されます。

総称プロファイル

MQ オブジェクトの総称プロファイルを指定します。総称プロファイルに正確に一致する権限レコードのみが選択されます。総称プロファイルは、ストリングの任意の場所に 1 つ以上の 総称文字を含んでいる文字ストリングです。総称文字は、(?)、(*) および (**) です。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

選択する権限プロファイルのオブジェクト・タイプを指定します。

*Q

すべてのキューのオブジェクト・タイプ

***AUTHINFO**

認証情報オブジェクト

***MQM**

メッセージ・キュー・マネージャー

***NMLIST**

名前リストオブジェクト

***PRC**

プロセス定義。

***CHL**

チャンネル・オブジェクト。

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル・オブジェクト

***LSR**

リスナー・オブジェクト。

***SVC**

サービス・オブジェクト。

***TOPIC**

トピック・オブジェクト。

ユーザー名 (USER)

指定のオブジェクトに対する権限が表示されるユーザーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべての関連ユーザーをリストします。

***PUBLIC**

システムのすべてのユーザーを示すユーザー名。

user-profile-name

ユーザーの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

サービス・コンポーネント名 (SRVCOMP)

表示する権限を検索する、インストールされた許可サービスの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

インストールされたすべての許可コンポーネントにおいて、指定した権限プロファイル名とオブジェクト・タイプが検索されます。

Authorization-service-component-name

キュー・マネージャーの QM.INI ファイルで指定された、許可サービスのコンポーネント名。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

認証情報オブジェクトの処理 (WRKMQMAUTI)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 認証情報オブジェクトの処理 (WRKMQMAUTI) コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで定義された複数の認証情報オブジェクトを処理できます。

これにより、MQ 認証情報オブジェクトの変更、コピー、作成、削除、表示、およびその権限の表示と変更が可能になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>AINAME</u>	認証情報名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプション、定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDAT、*ALTTIME、*AUTHTYPE、*CONNAME、*TEXT、*USERNAME、*OCSPURL	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

認証情報名 (AINAME)

認証情報オブジェクトの 1 つ以上の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

ALL** または **

すべての認証情報オブジェクトが選択されます。

generic-authinfo-name

認証情報オブジェクトの総称名です。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべての認証情報オブジェクトを選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の太文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

authentication-information-name

1 つの認証情報オブジェクトの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

既存のメッセージ・キュー・マネージャーの名前です。最大ストリング長は 48 文字です。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定の認証情報属性を持つ認証情報オブジェクトのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***AUTHTYPE**

認証情報オブジェクトのタイプです。

フィルター値は次のいずれかです。

***CRLLDAP**

認証情報オブジェクトのタイプは CRLLDAP です。

***OCSP**

認証情報オブジェクトのタイプは OCSP です。

***IDPWOS**

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、オペレーティング・システムを使用して実行されます。

***IDPWLDAP**

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。

***CONNAME**

LDAP サーバーを実行しているホストのアドレス。

フィルター値はアドレス名です。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値は、キューのテキスト記述です。

***USERNAME**

ユーザーの識別名。

フィルター値は識別名です。

***OCSPURL**

OCSP 応答側 URL です。

フィルター値は URL 名です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャンネルの処理 (WRKMQMCHL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

IBM MQ チャンネルの処理 (WRKMQMCHL) コマンドにより、1 つ以上のチャンネル定義を処理できます。これによって、チャンネルの作成、開始、終了、変更、コピー、削除、ping、表示、およびリセットを行い、未確定の作業単位を解決できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャンネル名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>CHLTYPE</u>	チャンネル・タイプ	*RCVR、*SDR、*SVR、 *RQSTR、*SVRCN、 *CLUSSDR、*CLUSRCVR、 *CLTCN、 *ALL	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3
<u>STATUS</u>	チャンネル状況	*ALL 、*INACTIVE、 *STOPPED、*BINDING、 *RETRYING、 *RUNNING、 *SWITCHING	オプション、定位置 4

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプションナル, 定位置 5
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*AFFINITY、*ALTDAT、 *ALTTIME、*BATCCHB、 *BATCCHINT、 *BATCCHLIM、 *BATCCHSIZE、 *CLNTWGHT、*CLUSNL、 *CLUSTER、*CLWLPRTY、 *CLWLRANK、 *CLWLWGHT、 *COMPHDR、 *COMPMSG、 *CONNAME、*CVTMSG、 *DSCITV、 *HRTBTINTVL、*KAINT、 *LOCLADDR、 *LONGRTY、*LONGTMR、 *MAXINST、*MAXINSTC、 *MAXMSGLEN、 *MCANAME、*MCATYPE、 *MCAUSRID、 *MODENAME、 *MONCHL、*MSGEXIT、 *MSGRTYDATA、 *MSGRTYEXIT、 *MSGRTYITV、 *MSGRTYNBR、 *MSGUSRDATA、 *NETPRTY、 *NPMSPEED、 *PROPCTL、*PUTAUT、 *RCVEXIT、 *RCVUSRDATA、 *SCYEXIT、 *SCYUSRDATA、 *SEQNUMWRAP、 *SHARECNV、 *SHORTRTY、 *SHORTTMR、 *SNDXIT、 *SNDUSRDATA、 *SSLCAUTH、*SSLCIPH、 *SSLPEER、*STATCHL、 *TEXT、*TGTMQMNAME、 *TMQNAME、*TPNAME、 *TRPTYPE、*USERID	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、 *GE、*LE、*LK、*NL、 *CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

チャンネル名 (CHLNAME)

選択する IBM MQ チャンネル定義の 1 つ以上の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのチャンネル定義が選択されます。

generic-channel-name

選択するチャンネル定義の総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのチャンネル定義を選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の太文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

channel-name

チャンネル定義の名前を指定します。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE)

表示されるチャンネル定義のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのチャンネル・タイプが選択されます。

***SDR**

送信側チャンネル

***SVR**

サーバー・チャンネル

***RCVR**

受信側チャンネル

***RQSTR**

要求側チャンネル

***SVRCN**

サーバー接続チャンネル

***CLUSSDR**

クラスター送信側チャンネル

***CLUSRCVR**

クラスター受信側チャンネル

***CLTCN**

クライアント接続チャンネル

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

チャネル状況 (STATUS)

選択する IBM MQ チャネル定義の状況タイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべての状況のチャネルが選択されます。

***BINDING**

バインド中状況のチャネルのみが選択されます。

***INACTIVE**

非アクティブ状況のチャネルのみが選択されます。

***RETRYING**

再試行中状況のチャネルのみが選択されます。

*** 実行中**

実行中状況のチャネルのみが選択されます。

***STOPPED**

停止済み状況のチャネルのみが選択されます。

***SWITCHING**

切り替え中の状況にあるチャネルのみが選択されます。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のチャネル属性を持つチャネルのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***AFFINITY**

接続アフィニティー。

フィルター値は次のいずれかです。

***PREFERRED**

優先される接続アフィニティー。

***NONE 値**

接続アフィニティーはありません。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***BATCHHB**

バッチ・ハートビート・インターバル(ミリ秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***BATCHINT**

バッチ・インターバル(ミリ秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***BATCHLIM**

バッチ・データ制限(キロバイト)。

1つのチャンネルを介して送信できるデータ量の制限。

***BATCHSIZE**

バッチ・サイズ。

フィルター値は整数のバッチ・サイズです。

***CLNTWGHT**

クライアント・チャンネル・ウェイト。

フィルター値は整数のクライアント・チャンネル・ウェイトです。

***CLUSNL**

クラスター名前リスト。

フィルター値はクラスター名のリストです。

***CLUSTER**

チャンネルが属するクラスター。

フィルター値はクラスターの名前です。

***CLWLRANK**

クラスター・ワークロード・ランク。

フィルター値は整数のランクです。

***CLWLPRTY**

クラスター・ワークロード優先順位。

フィルター値は整数の優先順位です。

***CLWLWGHT**

クラスター・ワークロード・ウェイト。

フィルター値は整数のウェイトです。

***COMPHDR**

ヘッダー圧縮。

フィルター値は次のいずれかです。

***NONE 値**

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

*** システム**

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

***COMPMMSG**

メッセージ圧縮。

フィルター値は次のいずれかです。

***NONE 値**

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

***RLE**

RLE を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

***ZLIBHIGH**

ZLIB 圧縮を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。 ハイレベル圧縮を推奨します。

***ZLIBFAST**

ZLIB 圧縮を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。 高速圧縮時間を推奨します。

***ANY**

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。

***CONNAME**

リモート接続名。

フィルター値は接続名ストリングです。

***CVTMSG**

送信前にメッセージを変換するかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***YES**

メッセージ中のアプリケーション・データは送信前に変換されます。

***NO**

メッセージ中のアプリケーション・データは、送信前に変換されません。

***DSCITV**

切断インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***HRTBTINTVL**

ハートビート・インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***KAINT**

キープアライブ・インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***LOCLADDR**

ローカル接続名。

フィルター値は接続名ストリングです。

***LONGRTY**

長期再試行カウント。

フィルター値は整数のカウントです。

***LONGTMR**

長期再試行インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***MAXINST**

個別のサーバー接続チャンネルの最大インスタンス数。

フィルター値は、整数のインスタンス数です。

***MAXINSTC**

1つのクライアントからの、個別のサーバー接続チャンネルの最大インスタンス数。

フィルター値は、整数のインスタンス数です。

***MAXMSGLEN**

最大メッセージ長。

フィルター値は整数の長さです。

***MCANAME**

メッセージ・チャンネル・エージェント名。

フィルター値はエージェント名です。

***MCATYPE**

メッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムをスレッドとして実行するか、またはプロセスとして実行するかを指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***PROCESS (処理)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは、独立のプロセスとして動作します。

***THREAD (* スレッド)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは独立したスレッドとして実行されます。

***MCAUSRID**

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

フィルター値はユーザー ID ストリングです。

***MODENAME**

SNA モード名。

フィルター値は、モード名ストリングです。

***MONCHL**

チャンネル・モニター。

フィルター値は次のいずれかです。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONCHL の設定から継承されます。

***OFF**

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集がオフに切り替わります。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

***MSGEXIT**

メッセージ出口名。

フィルター値は出口名です。

***MSGRTYDATA**

メッセージ再試行出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***MSGRTYEXIT**

メッセージ再試行出口名。

フィルター値は出口名です。

***MSGRTYITV**

メッセージ再試行インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***MSGRTYNBR**

メッセージ再試行回数。

フィルター値は整数の再試行回数です。

***MSGUSRDATA**

メッセージ出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***NETPRTY**

0 から 9 の範囲のネットワーク接続優先順位。

フィルター値は整数の優先順位値です。

***NPMSPEED**

チャンネルが高速非持続メッセージをサポートするかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***FAST**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートします。

***NORMAL**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートしません。

***PROPCTL**

メッセージ・プロパティ制御。

フィルター値は次のいずれかです。

***COMPAT**

互換モード。

***NONE 値**

リモート・キュー・マネージャーにプロパティは送られません。

***ALL**

すべてのプロパティがリモート・キュー・マネージャーに送られます。

***PUTAUT**

コンテキスト情報内のユーザー ID を使用するかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***DFT**

メッセージを宛先キューに書き込む前に権限検査は行われません。

***CTX**

メッセージを書き込む権限を確立するために、メッセージ・コンテキスト情報のユーザー ID が使用されます。

***RCVEXIT**

受信出口名。

フィルター値は出口名です。

***RCVUSRDATA**

受信出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***SCYEXIT**

セキュリティー出口名。

フィルター値は出口名です。

***SCYUSRDATA**

セキュリティー出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***SEQNUMWRAP**

最大メッセージ順序番号。

フィルター値は整数の順序番号です。

***SHARECNV**

TCP/IP ソケットで共有される会話の数。

フィルター値は、整数の共有される会話数です。

***SHORTRTY**

短期再試行カウント。

フィルター値は整数のカウントです。

***SHORTTMR**

短期再試行インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***SNDEXIT**

送信出口名。

フィルター値は出口名です。

***SNDUSRDATA**

送信出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***SSLCAUTH**

このチャンネルが SSL 経由でクライアント認証を実行するかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***REQUIRED**

クライアント認証は必須です。

*** オプション**

クライアント認証はオプションです。

***SSLCIPH**

SSL チャンネル折衝で使用する CIPHERSPEC。

フィルター値は CIPHERSPEC の名前です。

***SSLPEER**

SSL チャンネル折衝で使用される X500 ピア名。

フィルター値はピア名です。

***STATCHL**

チャンネル統計。

フィルター値は次のいずれかです。

***QMGR**

統計データの収集は、キュー・マネージャー属性 STATCHL の設定から継承されます。

***OFF**

このチャンネルの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

統計データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値はチャンネルのテキスト記述です。

***TGTMQMNAME**

ターゲット・キュー・マネージャー名。

フィルター値は、チャンネルのターゲット・キュー・マネージャーです。

***TMQNAME**

伝送キュー名。

フィルター値は、キューの名前です。

***TPNAME**

SNA トランザクション・プログラム名。

フィルター値は、プログラム名ストリングです。

***TRPTYPE**

トランスポート・タイプ。

フィルター値は次のいずれかです。

***TCP**

伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP)。

***LU62**

SNA LU 6.2。

*** ユーザー ID**

タスク・ユーザー ID。

フィルター値はユーザー ID ストリングです。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ チャンネル状況の処理 (WRKMQMCHST)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ チャンネル状況の処理 (WRKMQMCHST) コマンドによって、1 つ以上のチャンネル定義の状況进行处理することができます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CHLNAME</u>	チャンネル名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>CONNAME</u>	接続名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 2
<u>TMQNAME</u>	伝送キュー名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 3
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 4
<u>CHLSTS</u>	チャンネル状況	*ALL 、 *SAVED 、 *CURRENT	オプション、定位置 5

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エlement・リスト	オプション, 定位置 6
	Element 1: フィルター・キーワード	*CHLSTS、*CHLTYPE、*COMPHDR、*COMPMSG、*CONNAME、*INDOUBT、*INDMSGGS、*INDSEQNO、*LSTSEQNO、*MONCHL、*RMTMQMNAME、*RMTVERSION、*SHARECNV、*STATUS、*SUBSTATE、*TMQNAME、*XQMSGSA、*LSTMSGDATE、*LSTMSGTIME、*MSGGS	
	Element 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	Element 3: フィルター値	文字値	

チャンネル名 (CHLNAME)

チャンネル定義の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのチャンネル定義が選択されます。

generic-channel-name

選択するチャンネル定義の総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのチャンネル定義を選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

channel-name

チャンネル定義の名前を指定します。

接続名 (CONNAME)

接続するマシンの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのチャンネルが選択されます。

generic-connection-name

必要なチャンネルの総称接続名を指定します。

接続名

必要なチャネルの接続名を指定します。

伝送キュー名 (TMQNAME)

伝送キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべての伝送キューが選択されます。

generic-transmission-queue-name

伝送キューの総称名を指定します。

伝送キュー名

伝送キューの名前を指定します。伝送キュー名は、チャネル定義タイプ (CHLTYPE) が *SDR または *SVR の場合に必須です。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。システム上にデフォルト・キュー・マネージャーが定義されていない場合には、このコマンドは失敗します。

message-queue-manager-name

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

チャネル状況 (CHLSTS)

表示するチャネル状況のタイプを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***SAVED**

保存されたチャネル状況のみが表示されます。持続メッセージがチャネルを超えて伝送される、または非持続メッセージが NORMAL の NPMSPEED で伝送されるまで、状況は保存されません。それぞれのバッチの終わりで状況が保存されるため、少なくとも 1 つのバッチが伝送されるまでは、チャネルは保存済みの状況を持ちません。

***CURRENT**

現在のチャネル状況のみが表示されます。これには、開始されたチャネルまたはクライアントが接続しているチャネル、および完了していないチャネルまたは正常に切断されたチャネルが当てはまります。現行の状況データは、メッセージが送信または受信されるときに更新されます。

***ALL**

現在のチャネル状況、および保存されたチャネル状況の両方が表示されます。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のチャネル状況属性を持つチャネルのみの状況を選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***CHLSTS**

チャンネル状況のタイプ。

フィルター値は次のいずれかです。

***CURRENT**

アクティブ・チャンネルの現在の状況。

***SAVED**

アクティブまたは非アクティブなチャンネルの保存済み状況。

***CHLTYPE**

チャンネルのタイプ。

フィルター値は次のいずれかです。

- *SDR**
送信側チャネル。
- *SVR**
サーバー・チャネル。
- *RCVR**
受信側チャネル。
- *RQSTR**
要求側チャネル。
- *CLUSSDR**
クラスター送信側チャネル。
- *CLUSRCVR**
Cluster-receiver channel.
- *SVRCN**
サーバー接続チャネル。
- *COMPHDR**
チャネルでヘッダー・データの圧縮が行われるかどうか。
フィルター値は次のいずれかです。
- *NONE 値**
ヘッダー・データ圧縮は実行されません。
- *システム**
ヘッダー・データ圧縮が実行されます。
- *COMPMMSG**
チャネルでメッセージ・データの圧縮が行われるかどうか。
フィルター値は次のいずれかです。
- *NONE 値**
メッセージ・データ圧縮は実行されません。
- *RLE**
RLE を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。
- *ZLIBHIGH**
ZLIB 圧縮を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。 ハイレベル圧縮を推奨します。
- *ZLIBFAST**
ZLIB 圧縮を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。 高速圧縮時間を推奨します。
- *CONNAME**
チャネルの接続名。
フィルター値は接続名ストリングです。
- *INDOUBT**
ネットワークに未確定のメッセージがあるかどうか。
フィルター値は*NO または*YES のいずれかです。
- *INDMSGGS**
未確定メッセージの数。
フィルター値は、整数のメッセージ数です。
- *INDSEQNO**
未確定になっているメッセージの順序番号です。
フィルター値は整数の順序番号です。
- *LSTMSGTIME**
チャネルで最後のメッセージが送信された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***LSTMSGDATE**

チャンネルで最後のメッセージが送信された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***LSTSEQNO**

最後のメッセージ順序番号。

フィルター値は整数の順序番号です。

***MONCHL**

チャンネルのモニター・データ収集の現在のレベル。

フィルター値は次のいずれかです。

***NONE 値**

収集されたモニター・データはありません。

***LOW**

低い比率でモニター・データが収集されます。

***MEDIUM**

中程度の比率でモニター・データが収集されます。

***HIGH**

高い比率でモニター・データが収集されます。

***MSGS**

チャンネルで送信されたメッセージ数。

フィルター値は、整数のメッセージ数です。

***RMTMQMNAME**

リモート・メッセージ・キュー・マネージャー。

フィルター値はメッセージ・キュー・マネージャー名です。

***RMTVERSION**

リモート・パートナー・バージョン。

フィルター値は、整数のリモート・パートナー・バージョンの形式です。

***SHARECNV**

TCP/IP ソケットで共有される会話の数。

フィルター値は、整数の共有される会話数です。

*** 状況**

チャンネルの状況。

フィルター値は次のいずれかです。

***BINDING**

チャンネルはセッションの確立中です。

***INACTIVE**

チャンネルが処理を正常に終了しているか、またはチャンネルが開始されていません。

***INITIALIZING**

チャンネル・イニシエーターは、チャンネルの開始を試行中です。

***PAUSED**

チャンネルはメッセージ再試行インターバルを待機中です。

***REQUESTING**

チャンネルの開始が要求されました。

***RETRYING**

接続を確立しようとした直前の試行が失敗しました。チャンネルは、指定インターバル後に接続を再試行します。

*** 実行中**

チャンネルは、データを転送中か、データを転送しようとしています。

***STARTING**

チャンネルは、ターゲット MCA との折衝を開始する準備が整っています。

***STOPPED**

チャンネルは停止されました。

***STOPPING**

チャンネルの停止が要求されました。

***SWITCHING**

チャンネルは伝送キューの切り替え中です。

***SUBSTATE**

チャンネルの副状態。

フィルター値は次のいずれかです。

***ENDBATCH**

バッチ処理の終了。

***SEND**

データの送信中。

***RECEIVE**

データの受信時。

***SERIALIZE**

パートナー・チャンネルとシリアルライズ中。

***RESYNCH**

パートナー・チャンネルと再同期中。

***HEARTBEAT**

ハートビート処理中。

***SCYEXIT**

セキュリティ出口の処理中。

***RCVEXIT**

受信出口の処理中。

***SENDEXIT**

送信出口の処理中。

***MSGEXIT**

メッセージ出口の処理中。

***MREXIT**

メッセージ再試行出口の処理中。

***CHADEXIT**

チャンネル自動定義出口の処理中。

***NETCONNECT**

リモート・マシンに接続中。

***SSLHANDSHK**

SSL 接続の確立中。

***NAMESERVER**

ネーム・サーバーからの情報を要求中。

***MQPUT**

MQPUT 処理中。

***MQGET**

MQGET 処理中。

***MQICALL**

MQI 呼び出しの処理中。

***COMPRESS**

データの圧縮中または解凍中。

***TMQNAME**

チャネルの伝送キュー。

フィルター値はキュー名です。

***XQMSGSA**

MQGET のために使用できる伝送キューにあるメッセージの数。このフィールドはクラスター送信側チャネルで有効です。

フィルター値は、整数のメッセージ数です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ クラスターの処理 (WRKMQMCL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ クラスターの処理 (WRKMQMCL) コマンドによって、ローカル・キュー・マネージャーで定義されている複数のクラスター・キュー・マネージャー定義を処理できます。

Parameters

表 54. WRKMQMCL のパラメーター			
キーワード	説明	選択	注
<u>CLUSQMGR</u>	クラスター・キュー MGR 名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

表 54. **WRKMQMCL** のパラメーター (続き)

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプションナル, 定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDAT、*ALTTIME、 *BATCCHB、 *BATCCHINT、 *BATCCHLIM、 *BATCCHSIZE、 *CHLNAME、 *CLUSDATE、 *CLUSQMGR、 *CLUSTER、*CLUSTIME、 *CLWLPRTY、 *CLWLRANK、 *CLWLWGHT、 *COMPHDR、 *COMPMSG、 *CONNAME、*CVTMSG、 *DFNTYPE、*DSCITV、 *HRTBTINTVL、*KAINT、 *LOCLADDR、 *LONGRTY、*LONGTMR、 *MAXMSGLEN、 *MCANAME、*MCATYPE、 *MCAUSRID、*MONCHL、 *MSGEXIT、 *MSGRTYDATA、 *MSGRTYEXIT、 *MSGRTYITV、 *MSGRTYNBR、 *MSGUSRDATA、 *NETPRTY、 *NPMSPEED、*PUTAUT、 *QMID、*QMTYPE、 *RCVEXIT、 *RCVUSRDATA、 *SCYEXIT、 *SCYUSRDATA、 *SEQNUMWRAP、 *SHORTRTY、 *SHORTTMR、 *SNDEXIT、 *SNDUSRDATA、 *SSLCAUTH、*SSLCIPH、 *SSLPEER、*STATCHL、 *STATUS、*SUSPEND、 *TEXT、*TRPTYPE、 *USERID	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、 *GE、*LE、*LK、*NL、 *CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

クラスター・キュー・マネージャー名 (CLUSQMGR)

クラスター・キュー・マネージャー定義の1つ以上の名前を指定します。

*ALL

すべてのクラスター・キュー・マネージャー定義が選択されます。

generic-cluster-queue-manager-name

MQ クラスター・キュー・マネージャー定義の総称名を指定します。総称名とは、文字ストリングとそれに続くアスタリスク (*) のことで (例えば、ABC* など)、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのクラスター・キュー・マネージャー定義が選択されます。必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

cluster-queue-manager-name

MQ クラスター・キュー・マネージャー定義の名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定の属性を持つクラスター・キュー・マネージャーのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の3つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

*GT

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

*LT

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

*EQ

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

*NE

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

*GE

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

*LE

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***BATCHE**

バッチ・ハートビート・インターバル(ミリ秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***BATCHINT**

バッチ・インターバル(ミリ秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***BATCHELIM**

バッチ・データ制限(キロバイト)。

1つのチャンネルを介して送信できるデータ量の制限。

***BATCHSIZE**

バッチ・サイズ。

フィルター値は整数のバッチ・サイズです。

***チャンネル**

クラスター・キュー・マネージャーのチャンネル名。

フィルター値はチャンネル名です。

***CLUSDATE**

定義がローカル・キュー・マネージャーに有効になった日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***CLUSQMGR**

クラスター・キュー・マネージャー名。

フィルター値はクラスター・キュー・マネージャー名です。

***CLUSTER**

クラスター・キュー・マネージャーが属するクラスター。

フィルター値はクラスターの名前です。

***CLUSTIME**

定義がローカル・キュー・マネージャーに有効になった時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***CLWLRANK**

クラスター・ワークロード・ランク。

フィルター値は整数のランクです。

***CLWLPRTY**

クラスター・ワークロード優先順位。

フィルター値は整数の優先順位です。

***CLWLWGHT**

クラスター・ワークロード・ウェイト。

フィルター値は整数のウェイトです。

***COMPHDR**

ヘッダー圧縮。

フィルター値は次のいずれかです。

***NONE 値**

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

*** システム**

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

***COMPMMSG**

メッセージ圧縮。

フィルター値は次のいずれかです。

***NONE 値**

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

***RLE**

RLE を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

***ZLIBHIGH**

ZLIB 圧縮を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。 ハイレベル圧縮を推奨します。

***ZLIBFAST**

ZLIB 圧縮を使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。 高速圧縮時間を推奨します。

***ANY**

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。

***CONNAME**

リモート接続名。

フィルター値は接続名ストリングです。

***CVTMSG**

送信前にメッセージを変換する必要があるかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***YES**

メッセージ中のアプリケーション・データは送信前に変換されます。

***NO**

メッセージ中のアプリケーション・データは、送信前に変換されません。

***DFNTYPE**

クラスター・チャンネルの定義方法。

フィルター値は次のいずれかです。

***CLUSSDR**

クラスター送信側チャンネルとして明示的に定義する。

***CLUSSDRA**

クラスター送信側チャンネルとして、明示的にのみ定義する。

***CLUSSDRB**

自動定義および明示的定義により、クラスター送信側チャンネルとして定義。

***CLUSRCVR**

明示的定義のクラスター受信側チャンネルとして。

***DSCITV**

切断インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***HRTBTINTVL**

ハートビート・インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***KAINT**

キープアライブ・インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***LOCLADDR**

ローカル接続名。

フィルター値は接続名ストリングです。

***LONGRTY**

長期再試行カウント。

フィルター値は整数のカウントです。

***LONGTMR**

長期再試行インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***MAXMSGLEN**

最大メッセージ長。

フィルター値は整数の長さです。

***MCANAME**

メッセージ・チャンネル・エージェント名。

フィルター値はエージェント名です。

***MCATYPE**

メッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムをスレッドとして実行するか、またはプロセスとして実行するかを指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***PROCESS (処理)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは、独立のプロセスとして動作します。

***THREAD (* スレッド)**

メッセージ・チャンネル・エージェントは独立したスレッドとして実行されます。

***MCAUSRID**

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

フィルター値はユーザー ID ストリングです。

***MONCHL**

チャンネル・モニター。

フィルター値は次のいずれかです。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONCHL の設定から継承されます。

***OFF**

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集がオフに切り替わります。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

***MSGEXIT**

メッセージ出口名。

フィルター値は出口名です。

***MSGRTYDATA**

メッセージ再試行出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***MSGRTYEXIT**

メッセージ再試行出口名。

フィルター値は出口名です。

***MSGRTYITV**

メッセージ再試行インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***MSGRTYNBR**

メッセージ再試行回数。

フィルター値は整数の再試行回数です。

***MSGUSRDATA**

メッセージ出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***NETPRTY**

0 から 9 の範囲のネットワーク接続優先順位。

フィルター値は整数の優先順位値です。

***NPMSPEED**

チャンネルが高速非持続メッセージをサポートするかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***FAST**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートします。

***NORMAL**

チャンネルは高速非持続メッセージをサポートしません。

***PUTAUT**

コンテキスト情報内のユーザー ID を使用する必要があるかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***DFT**

メッセージを宛先キューに書き込む前に権限検査は行われません。

***CTX**

メッセージを書き込む権限を確立するために、メッセージ・コンテキスト情報のユーザー ID が使用されます。

***QMID**

内部生成された、クラスター・キュー・マネージャーの固有名。

フィルター値は固有名です。

***QMTYPE**

クラスター内でのクラスター・キュー・マネージャーの機能。

フィルター値は次のいずれかです。

***REPOS**

全リポジトリ・サービスを提供します。

***NORMAL**

全リポジトリ・サービスを提供しません。

***RCVEXIT**

受信出口名。

フィルター値は出口名です。

***RCVUSRDATA**

受信出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***SCYEXIT**

セキュリティー出口名。

フィルター値は出口名です。

***SCYUSRDATA**

セキュリティー出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***SEQNUMWRAP**

最大メッセージ順序番号。

フィルター値は整数の順序番号です。

***SHORTRTY**

短期再試行カウント。

フィルター値は整数のカウントです。

***SHORTTMR**

短期再試行インターバル (秒)。

フィルター値は整数のインターバル時間です。

***SNDEXIT**

送信出口名。

フィルター値は出口名です。

***SNDUSRDATA**

送信出口ユーザー・データ。

フィルター値はユーザー・データ・ストリングです。

***SSLCAUTH**

このチャンネルが SSL 経由でクライアント認証を実行するかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***REQUIRED**

クライアント認証は必須です。

*** オプション**

クライアント認証はオプションです。

***SSLCIPH**

SSL チャンネル折衝で使用する CIPHERSPEC。

フィルター値は CIPHERSPEC の名前です。

***SSLPEER**

SSL チャンネル折衝で使用される X500 ピア名。

フィルター値はピア名です。

***STATCHL**

チャンネル統計。

フィルター値は次のいずれかです。

***QMGR**

統計データの収集は、キュー・マネージャー属性 STATCHL の設定から継承されます。

***OFF**

このチャンネルの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

統計データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

*** 状況**

このクラスター・キュー・マネージャーのチャンネルの現行状況。

フィルター値は次のいずれかです。

***STARTING**

チャンネルはアクティブになるのを待っています。

***BINDING**

チャンネルはチャンネル折衝を実行中です。

***INACTIVE**

チャンネルはアクティブではありません。

***INITIALIZING**

チャンネル・イニシエーターは、チャンネルの開始を試行中です。

*** 実行中**

チャンネルは、メッセージの転送中か、または伝送キューにメッセージが着信するのを待っています。

***STOPPING**

チャンネルは停止しているか、またはクローズ要求が受け取られました。

***RETRYING**

接続を確立しようとした直前の試行が失敗しました。MCA は、指定時間の経過後再び接続を試みます。

***PAUSED**

チャンネルが、MQPUT 操作を再試行する前にメッセージ再試行間隔が完了するのを待機している。

***STOPPED**

チャンネルを手動で停止したか、または再試行限度に達しました。

***REQUESTING**

ローカル要求側チャンネルが、リモート MCA にサービスを要求しています。

***SUSPEND**

このクラスター・キュー・マネージャーがクラスターにより中断されるかどうか。

フィルター値は*NO または*YES のいずれかです。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値はチャンネルのテキスト記述です。

***TMQNAME**

伝送キュー名。

フィルター値は、キューの名前です。

*** ユーザー ID**

タスク・ユーザー ID。

フィルター値はユーザー ID ストリングです。

***XMITQ**

クラスター伝送キューの名前。

フィルター値は、伝送キュー名ストリングです。

MQ クラスター・キューの処理 (WRKMQMCLQ)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ クラスター・キューの処理 (WRKMQMCLQ) コマンドによって、ローカル・キュー・マネージャーで定義されたクラスター・キューを処理できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値、*ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、*DFT	オプション、定位置 2
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値、*ALL	オプション、定位置 3

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプションル, 定位置 4
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDAT、*ALTTIME、*CLUSDATE、*CLUSQMGR、*CLUSQTYPE、*CLUSTER、*CLUSTIME、*DEFBIND、*DFTMSGPST、*DFTPTY、*PUTENBL、*QMID、*TEXT	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

キュー名 (QNAME)

クラスター・キュー定義の 1 つ以上の名前を指定します。

*ALL

すべてのクラスター・キュー定義が選択されます。

generic-queue-name

MQ クラスター・キュー定義の総称名を指定します。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。例えば、ABC* の場合、文字ストリングで始まる名前を持つすべてのクラスター・キュー定義が選択されます。必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

キュー名

MQ クラスター・キュー定義の名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

クラスター名 (CLUSTER)

クラスターの名前を指定します。

*ALL

すべてのクラスター定義が選択されます。

generic-cluster-name

MQ クラスター定義の総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのクラスター定義を選択します。必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

cluster-name

MQ クラスター定義の名前を指定します。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のクラスター・キュー属性を持つクラスター・キューのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDATE**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***CLUSDATE**

定義がローカル・キュー・マネージャーに有効になった日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***CLUSQMGR**

キューをホスティングするキュー・マネージャーの名前。

フィルター値は、キュー・マネージャーの名前です。

***CLUSQTYPE**

クラスター・キュー・タイプ。

フィルター値は次のいずれかです。

***LCL**

クラスター・キューはローカル・キューを示します。

***ALS**

クラスター・キューは別名キューを示します。

***RMT**

クラスター・キューはリモート・キューを示します。

***MQMALS**

クラスター・キューはキュー・マネージャー別名を示します。

***CLUSTER**

キューが入っているクラスターの名前。

フィルター値はクラスターの名前です。

***CLUSTIME**

定義がローカル・キュー・マネージャーに有効になった時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***DEFBIND**

デフォルト・メッセージ結合。

フィルター値は次のいずれかです。

***OPEN**

キューのオープン時に、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。

***NOTFIXED**

キュー・ハンドルは、クラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされません。

***グループ**

キューがオープンされる際、メッセージ・グループにメッセージがある限り、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。メッセージ・グループのすべてのメッセージは、同じ宛先インスタンスに割り振られます。

***DFTMSGPST**

このキューに書き込まれるメッセージのデフォルト持続性。

フィルター値は次のいずれかです。

***NO**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

***YES**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

***DFTPTY**

キューに書き込まれるメッセージのデフォルト優先順位。

フィルター値は整数の優先順位値です。

***PUTENBL**

アプリケーションがキューへのメッセージの書き込みを許可されているかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***NO**

メッセージをキューに追加することはできません。

***YES**

メッセージを許可アプリケーションによってキューに追加できます。

***QMID**

キューをホスティングするキュー・マネージャーの内部生成固有名です。

フィルター値は、キュー・マネージャーの名前です。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値は、キューのテキスト記述です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 接続の処理 (WRKMQMCONN)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 接続処理 (WRKMQMCONN) コマンドによって、キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションの接続情報を処理できます。

このコマンドにより、接続ハンドルを表示し、キュー・マネージャーへの接続を終了できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>CONN</u>	接続 ID	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプションル, 定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*APPLDESC、*APPLTAG、*APPLTYPE、*CHLNAME、*CONNAME、*PID、*TID、*UOWLOGDA、*UOWLOGTI、*UOWSTDA、*UOWSTTI、*URTYPE、*USERID	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

接続 ID (CONN)

処理する接続 ID。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべての接続 ID が選択されます。

connection-id

特定の接続 ID の名前を指定します。接続 ID は 16 文字からなる 16 進ストリングです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定の接続属性を持つキュー・マネージャー接続のみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***APPLDESC**

キュー・マネージャーに接続されたアプリケーションの説明です。

フィルター値はアプリケーション記述ストリングです。

***APPLTAG**

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションのタグです。

フィルター値はアプリケーション・タグ・ストリングです。

***APPLTYPE**

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションのタイプです。

フィルター値は次のいずれかです。

***CICS**

CICS/400 アプリケーション。

***MVS**

MVS アプリケーション。

***IMS**

IMS アプリケーション。

***OS2**

OS/2 アプリケーション。

***DOS**

DOS アプリケーション。

***UNIX**

UNIX アプリケーション。

***QMGR**

キュー・マネージャー・アプリケーション。

***OS400**

IBM i アプリケーション。

*** WINDOWS**

Windows アプリケーション。

***CICS_VSE**

CICS/VSE アプリケーション。

***WINDOWS_NT**

Windows NT アプリケーション。

***VMS**

VMS アプリケーション。

***NSK**

Tandem/NSK アプリケーション。

***VOS**

VOS アプリケーション。

***IMS_BRIDGE**

IMS ブリッジ・アプリケーション。

***XCF**

XCF アプリケーション。

***CICS_BRIDGE**

CICS bridge アプリケーション。

***NOTES_AGENT**

Lotus Notes アプリケーション。

***BROKER**

ブローカー・アプリケーション。

***JAVA**

Java アプリケーション。

***DQM**

DQM アプリケーション。

***CHINIT**

チャンネル・イニシエーター。

***SYSTEM_EXT**

システム拡張アプリケーション。

user-value

ユーザー定義のアプリケーション。

フィルター値は、整数アプリケーション・タイプです。

***CHLNAME**

接続を使用するチャンネルの名前

フィルター値はチャンネル名です。

***CONNAME**

接続を所有するチャンネルに関連付けられた接続名です。

フィルター値は接続名です。

***PID**

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションのプロセス ID です。

フィルター値はプロセス ID 整数です。

***TID**

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションのスレッド ID です。

フィルター値はスレッド ID 整数です。

***UOWLOGDA**

接続と関連したトランザクションが最初にログに書き込まれた日付です。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***UOWLOGTI**

接続と関連したトランザクションが最初にログに書き込まれた時刻です。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***UOWSTDA**

接続と関連したトランザクションが開始された日付です。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***UOWSTTI**

接続と関連したトランザクションが開始された時刻です。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***URTYPE**

キュー・マネージャーから見たリカバリー単位 ID のタイプです。

フィルター値は次のいずれかです。

***QMGR**

キュー・マネージャー・トランザクション。

***XA**

外部整合トランザクション。これには、IBM i 開始コミットメント制御 (STRCMTCTL) を使用して確立した作業単位が含まれます。

*** ユーザー ID**

接続に関連付けられたユーザー ID。

フィルター値はユーザー ID 名です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

キュー・マネージャー・ジャーナルの処理 (WRKMQMJRN)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

キュー・マネージャー・ジャーナルの処理コマンド (WRKMQMJRN) では、特定のキュー・マネージャーに関連付けられているすべてのジャーナルのリストが表示されます。このコマンドは、例えば、複数インスタンス・キュー・マネージャーのためにリモート・ジャーナルを構成するために使用できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 1

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

ジャーナルを処理するためのメッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。名前は 48 文字以内で指定します。システムが 2 バイト文字セット (DBCS) を使用している場合、最大文字数が少なくなります。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ リスナーの処理 (WRKMQMLSR)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ リスナー・オブジェクトの処理 (WRKMQMLSR) コマンドによって、ローカル・キュー・マネージャーで定義されているリスナー・オブジェクトを処理できます。

これにより、リスナー・オブジェクトの変更、コピー、作成、削除、開始、停止、および表示が可能になり、また MQ リスナー・オブジェクトの権限の表示と変更が可能になります。

このコマンドではまた、現行システムで実行中のすべてのリスナーの現在の状況を表示することもできます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>OPTION</u>	オプション	*STATUS 、 *OBJECT	オプション、定位置 1
<u>LSRNAME</u>	リスナー名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプションル, 定位置 4
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDAT、*ALTTIME、*BACKLOG、*CONTROL、*IPADDR、*PORT、*TEXT	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

オプション (OPTION)

このオプションでは、リスナー状況またはリスナー・オブジェクト定義のどちらに関する情報を表示するかを選択できます。

指定できる値は以下のとおりです。

* 状況

リスナー状況情報が表示されます。

パラメーター LSRNAME および WHERE は無視されます。MQMNAME が指定されると、指定されたキュー・マネージャー上で実行されるリスナーの状況のみが表示されます。

OBJECT (オブジェクト)

リスナー・オブジェクト情報が表示されます。

リスナー名 (LSRNAME)

リスナー・オブジェクトの 1 つ以上の名前です。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALL または *

すべてのリスナー・オブジェクトが選択されます。

generic-listener-name

リスナー・オブジェクトの総称名です。総称名とは、例えば、ABC* のようにアスタリスク (*) が後に続く文字ストリングのことで、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのリスナー・オブジェクトが選択されます。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

listener-name

1 つのリスナー・オブジェクトの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のリスナー属性を持つリスナー・オブジェクトのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の3つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***BACKLOG**

サポートされる同時接続要求の数です。

フィルター値は整数のバックログ値です。

***制御**

リスナーの開始と停止をキュー・マネージャーと一緒に行うかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***MANUAL**

リスナーは自動的に開始されることも、停止されることもありません。

***QMGR**

キュー・マネージャーが開始するとリスナーも開始され、キュー・マネージャーが停止するとリスナーも停止されます。

***STARTONLY**

キュー・マネージャーが開始するとリスナーも開始されますが、キュー・マネージャーの停止時にリスナーの停止は要求されません。

***IPADDR**

リスナーが使用するローカル IP アドレス。

フィルター値は IP アドレスです。

***PORT (ポート)**

リスナーが使用するポート番号です。

フィルター値は整数のポート値です。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値はリスナーのテキスト記述です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ メッセージの処理 (WRKMQMSG)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ メッセージの処理 (WRKMQMSG) コマンドは、指定されたローカル・キュー上のメッセージをリストし、ユーザーがそれらのメッセージを処理できるようにします。メッセージのリストから、メッセージの内容およびその関連したメッセージ記述子 (MQMD) を表示できます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値	必須、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>FIRST</u>	最初のメッセージ	1-30000、 1	オプション、定位置 3
<u>MAXMSG</u>	メッセージの最大数	1-30000、 48	オプション、定位置 4
<u>MAXMSGLEN</u>	最大メッセージ・サイズ	128-999999、 1024	オプション、定位置 5

キュー名 (QNAME)

ローカル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

ローカル・キューの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

最初のメッセージ (FIRST)

表示する最初のメッセージの番号を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

1

表示する最初のメッセージの番号は 1 です。

message-number

1 から 30 000 までの範囲内の、表示する最初のメッセージの番号を指定します。

メッセージの最大数 (MAXMSG)

表示するメッセージの最大数を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

48

最大の 48 メッセージを表示します。

count-value

1 から 30 000 までの範囲内の、表示するメッセージの最大数の値を指定します。

最大メッセージ・サイズ (MAXMSGLEN)

表示するメッセージ・データの最大サイズを指定します。

指定された値より大きいメッセージのサイズにはプラス(+)文字の接尾 部が付けられ、メッセージ・データは切り捨てられることが示されます。

指定できる値は以下のとおりです。

1024

メッセージ・データのサイズは 1024 バイトです。

length-value

128 から 999999 の範囲の値を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ 名前リストの処理 (WRKMQMNL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ 名前リストの処理 (WRKMQMNL) コマンドによって、ローカル・キュー・マネージャーで定義されている複数の名前リスト定義を処理できます。これにより、MQ 名前リスト・オブジェクトのコピー、変更、表示、削除、およびその権限の表示と編集が可能になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>NAMELIST</u>	名前リスト	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプション、定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDAT、*ALTTIME、*NAMECNT、*NAMES、*TEXT	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

名前リスト (NAMELIST)

1 つ以上の名前リストの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*ALL

すべての名前リスト定義が選択されます。

generic-namelist-name

MQ 名前リストの総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべての名前のリストを選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

namelist-name

MQ 名前リストの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーが使用されます。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定の名前リスト属性を持つ名前リストのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の3つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***NAMECNT**

名前リスト内の名前数。

フィルター値は整数の名数です。

***NAMES**

名前リスト内の名前。

フィルター値はストリング名です。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値は、キューのテキスト記述です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ プロセスの処理 (WRKMQMPRC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ プロセスの処理 (WRKMQMPRC) コマンドによって、ローカル・キュー・マネージャーで定義されている複数のプロセス定義を処理できます。これにより、MQ プロセス・オブジェクトのコピー、変更、表示、削除、およびその権限の表示と編集が可能になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>PRCNAME</u>	プロセス名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプション、定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDATA、*ALTTIME、*APPID、*APPTYPE、*ENVDATA、*TEXT、*USRDATA	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

プロセス名 (PRCNAME)

プロセス定義の 1 つ以上の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのプロセス定義が選択されます。

generic-process-name

MQ プロセス定義の総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのプロセス定義を選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

process-name

MQ プロセス定義の名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のプロセス属性を持つプロセスのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***APPID**

開始するアプリケーションの名前。

フィルター値は、アプリケーションの名前です。

***APPTYPE**

開始するアプリケーションのタイプです。

フィルター値は次のいずれかです。

***CICS**

CICS/400 アプリケーション。

***MVS**

MVS アプリケーション。

***IMS**

IMS アプリケーション。

***OS2**

OS/2 アプリケーション。

***DOS**

DOS アプリケーション。

***UNIX**

UNIX アプリケーション。

***QMGR**

キュー・マネージャー・アプリケーション。

***OS400**

IBM i アプリケーション。

*** WINDOWS**

Windows アプリケーション。

***CICS_VSE**

CICS/VSE アプリケーション。

***WINDOWS_NT**

Windows NT アプリケーション。

***VMS**

VMS アプリケーション。

***NSK**

Tandem/NSK アプリケーション。

***VOS**

VOS アプリケーション。

***IMS_BRIDGE**

IMSブリッジ・アプリケーション。

***XCF**

XCF アプリケーション。

***CICS_BRIDGE**

CICS bridge アプリケーション。

***NOTES_AGENT**

Lotus Notes アプリケーション。

***BROKER**

ブローカー・アプリケーション。

***JAVA**

Java アプリケーション。

***DQM**

DQM アプリケーション。

user-value

ユーザー定義のアプリケーション。

フィルター値は、整数アプリケーション・タイプです。

***ENVDATA**

アプリケーションに関連する環境データ。

フィルター値は環境データです。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値は、キューのテキスト記述です。

***USRDATA**

アプリケーションに関連するユーザー・データ。

フィルター値は、ユーザー・データです。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ キューの処理 (WRKMQM)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ キューの処理 (WRKMQM) コマンドによって、ローカル・キュー・マネージャーで定義された複数のキューを処理する機能が提供されます。このコマンドを使用することにより、MQ キュー・オブジェクトのコピー、変更、表示、削除、およびその権限の表示と編集が可能になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>QTYPE</u>	キュー・タイプ	*ALL 、*ALS、*LCL、*MDL、*RMT	オプション、定位置 2
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 3
<u>CLUSTER</u>	クラスター名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 4
<u>CLUSNL</u>	クラスター NAMELIST 名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 5

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプションル, 定位置 6
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ACCTQ、*ALTDATE、 *ALTTIME、*BKTTHLD、 *BKTQNAME、 *CLUSDATE、*CLUSNL、 *CLUSQMGR、 *CLUSQTYPE、 *CLUSTER、*CLUSTIME、 *CLWLPRTY、 *CLWLRANK、 *CLWLUSEQ、*CRDATE、 *CRTIME、*CURDEPTH、 *DEFBIND、 *DFTPRES、 *DFNTYPE、 *DFTMSGPST、*DFTPTY、 *DFTSHARE、*DISTLIST、 *FULLEVT、*GETDATE、 *GETENBL、*GETTIME、 *HDNBKTCNT、 *HIGHEVT、*HIGHTHLD、 *INITQNAME、 *IPPROCS、*JOBS、 *LOWEVT、*LOWTHLD、 *MAXDEPTH、 *MAXMSGLEN、 *MEDIAREC、*MONQ、 *MSGAGE、 *MSGDLYSEQ、 *MSGREADAHD、 *NPMCLASS、 *OPPROCS、*PRCNAME、 *PROPCTL、*PUTDATE、 *PUTENBL、*PUTTIME、 *QMID、*QTYPE、 *RMTMQMNAME、 *RMTQNAME、*RTNITV、 *SHARE、*SRVEVT、 *SRVITV、*STATQ、 *TARGTYPE、*TEXT、 *TGTQNAME、 *TMQNAME、*TRGDATA、 *TRGDEPTH、 *TRGENBL、 *TRGMSGPTY、 *TRGTYPE、*UNCOM、 *USAGE	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、 *GE、*LE、*LK、*NL、 *CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

キュー名 (QNAME)

1 つまたは複数の選択するキューの名前です。QTYPE キーワードを指定すると、このパラメーターで選択したキューをさらに特定のタイプで制限できます。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのキューが選択されます。

generic-queue-name

選択するキューの総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのキューを選択します。

必要な名前は、引用符で囲んで指定します。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

キュー名

キューの名前を入力します。

キュー・タイプ (QTYPE)

このパラメーターを指定して、キューが特定のタイプに対して表示されるように限定することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのキュー・タイプ。

***ALS**

別名キュー。

***LCL**

ローカル・キュー。

***MDL**

モデル・キュー。

***RMT**

リモート・キュー。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

クラスター名 (CLUSTER)

このパラメーターを指定して、特定クラスターのメンバーになるように表示されるキューを限定することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのクラスターです。

generic-cluster-name

クラスターの総称名です。

cluster-name

クラスターの名前です。

クラスター名前リスト名 (CLUSNL)

このパラメーターを指定して、特定クラスターのメンバーになるように表示されるキューを、NAMELIST内に限定することができます。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのクラスター NAMELIST です。

generic-cluster-namelist-name

クラスター NAMELIST の総称名です。

cluster-namelist-name

クラスター NAMELIST の名前です。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のキュー属性をもつキューだけを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の3つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ACCTQ**

キュー・アカウンティング。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***QMGR**

アカウント・データ収集は、キュー・マネージャー属性 ACCTQ の設定に基づきます。

***OFF**

このキューのアカウント・データ収集はオフに切り替えられます。

***ON**

このキューのアカウント・データ収集はオンに切り替えられます。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***BKTTHLD**

バックアウトしきい値。

フィルター値は、整数のしきい値です。

***BKTQNAME**

バックアウト・リキュー名。

フィルター値は、キューの名前です。

***CLUSDATE**

定義がローカル・キュー・マネージャーに有効になった日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***CLUSNL**

キューが入っているクラスターを定義する NAMELIST。

フィルター値は、NAMELIST の名前です。

***CLUSQMGR**

キューをホスティングするキュー・マネージャーの名前。

フィルター値は、キュー・マネージャーの名前です。

***CLUSQTYPE**

クラスター・キュー・タイプ。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***LCL**

クラスター・キューはローカル・キューを示します。

***ALS**

クラスター・キューは別名キューを示します。

***RMT**

クラスター・キューはリモート・キューを示します。

***MQMALS**

クラスター・キューはキュー・マネージャー別名を示します。

***CLUSTER**

キューが入っているクラスターの名前。

フィルター値はクラスターの名前です。

***CLUSTIME**

定義がローカル・キュー・マネージャーに有効になった時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***CLWLPRTY**

クラスター・ワークロード優先順位。

フィルター値は整数の優先順位です。

***CLWLRANK**

クラスター・ワークロード・ランク。

フィルター値は整数のランクです。

***CLWLUSEQ**

クラスター・ワークロード・キューの使用。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***QMGR**

キュー・マネージャー CLWLUSEQ 属性からの値が継承されます。

***LOCAL (ローカル)**

ローカル・キューは MQPUT 操作の唯一の宛先です。

***ANY**

キュー・マネージャーは、ワークロード分散の目的でこうしたローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして扱います。

***CRDATE**

キューが作成された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***CRTIME**

キューが作成された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***CURDEPTH**

キューの現在の項目数。

フィルター値は、整数の項目数の値です。

***DEFBIND**

デフォルト・メッセージ結合。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***OPEN**

キューのオープン時に、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。

***NOTFIXED**

キュー・ハンドルは、クラスター・キューのインスタンスにバインドされません。

***グループ**

キューがオープンされる際、メッセージ・グループにメッセージがある限り、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。メッセージ・グループのすべてのメッセージは、同じ宛先インスタンスに割り振られます。

***DFTPUTRESP**

デフォルトの PUT 応答。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***SYNC**

PUT 操作は、同期を取りながら発行されます。

***ASYN**

PUT 操作は、非同期で発行されます。

***DFNTYPE**

キュー定義タイプ。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***PREDEF**

事前定義キュー。

***PERMDYN**

永続動的キュー。

***TEMPDYN**

一時動的キュー。

***DFTMSGPST**

このキューに書き込まれるメッセージのデフォルト持続性。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

***YES**

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

***DFTPTY**

キューに書き込まれるメッセージのデフォルト優先順位。

フィルター値は整数の優先順位値です。

***DFTSHARE**

キューのデフォルト共用オプションが入力のためにオープンされます。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

オープン要求は、キューからの排他入力用です。

***YES**

オープン要求は、キューからの共用入力用です。

***DISTLIST**

配布リストがパートナー・キュー・マネージャーによってサポートされるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

配布リストは、パートナー・キュー・マネージャーによってサポートされません。

***YES**

配布リストは、パートナー・キュー・マネージャーによってサポートされます。

***FULLEVT**

キュー項目数満杯イベントが生成されるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

キュー項目数満杯イベントは生成されません。

***YES**

キュー項目数満杯イベントが生成されます。

***GETDATE**

キュー・マネージャーの開始以来、最後のメッセージがキューから取得された日付です。このフィールドは、「キュー・モニター」が *OFF に設定されていないときのみ表示されます。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***GETENBL**

アプリケーションがキューからのメッセージの取得を許可されているかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

アプリケーションはキューからメッセージを検索できません。

***YES**

許可アプリケーションはキューからメッセージを検索できます。

***GETTIME**

キュー・マネージャーの開始以来、最後のメッセージがキューから取得された時刻です。このフィールドは、「キュー・モニター」が *OFF に設定されていないときのみ表示されます。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***HDNBKTCNT**

バックアウト・カウントがハード化されるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

バックアウト・カウントはハード化されません。

***YES**

バックアウト・カウントはハード化されます。

***HIGHEVT**

「キュー項目数高」イベントが生成されるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

「キュー項目数高」イベントは生成されません。

***YES**

「キュー項目数高」イベントが生成されます。

***HIGHTHLD**

「キュー項目数高」イベントの生成しきい値。

フィルター値は、整数のしきい値です。

***INITQNAME**

開始キュー。

フィルター値は、キューの名前です。

***IPPROCS**

キューが入力用にオープンされていることを示すハンドル数。

フィルター値は、整数のハンドル数です。

***JOBS**

キューをオープンしている現行のジョブ数です。

フィルター値は、整数のジョブ数です。

***LOWEVT**

「キュー項目数低」イベントが生成されるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

「キュー項目数低」イベントは生成されません。

***YES**

「キュー項目数低」イベントが生成されます。

***LOWTHLD**

「キュー項目数低」イベントの生成しきい値。

フィルター値は、整数のしきい値です。

***MAXDEPTH**

最大キュー項目数。

フィルター値は、整数のメッセージ数です。

***MAXMSGLEN**

最大メッセージ長。

フィルター値は、整数のメッセージ長です。

***MEDIAREC**

最後のメディア・リカバリー・イメージを含むジャーナル・レシーバーです。このフィールドはローカル・キューにのみ表示されます。

フィルター値は、ジャーナル・レシーバー・ストリングです。

***MONQ**

オンライン・モニター・データ

フィルター値は次のいずれかの値です。

***QMGR**

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャー属性 MONQ の設定から継承されます。

***OFF**

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフに切り替えられます。

***LOW**

モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

***MEDIUM**

モニター・データ収集は、普通のデータ収集率でオンとなります。

***HIGH**

モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

***MSGAGE**

キュー上で最も古いメッセージの経過時間 (秒) です。このフィールドは、「キュー・モニター」が *OFF に設定されていないときのみ表示されます。

フィルター値は、整数のメッセージ経過時間です。

***MSGDLYSEQ**

メッセージ・デリバリー・シーケンス。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***PTY**

メッセージは、優先順位内でファースト・イン・ファースト・アウト (FIFO)順に配信されます。

***FIFO**

メッセージは、優先順位と無関係にファースト・イン・ファースト・アウト (FIFO)の順で配信されます。

***NPMCLASS**

非持続メッセージ・クラスです。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NORMAL**

非持続メッセージ・クラスが標準です。

***HIGH**

非持続メッセージ・クラスが高位です。

***MSGREADAHD**

メッセージの先読み。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***DISABLED**

先読みは、使用不可です。

***NO**

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるよりも前にクライアントに送られません。

***YES**

非持続メッセージは、アプリケーションによって要求されるより前にクライアントに送られます。

***OPPROCS**

キューが出力用にオープンされていることを示すハンドル数。

フィルター値は、整数のハンドル数です。

***PRCNAME**

プロセス名。

フィルター値は、プロセスの名前です。

***PROPCTL**

メッセージ・プロパティー制御。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***COMPAT**

互換モード。

***NONE 値**

アプリケーションにプロパティーは戻されません。

***ALL**

すべてのプロパティーがアプリケーションに戻されます。

***FORCE**

プロパティーは、1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーでアプリケーションに戻されます。

***V6COMPAT**

MQRFH2 ヘッダーは、送信時にフォーマット設定されて返されます。ヘッダーのコード・ページおよびエンコードが変更される場合があります。メッセージがパブリケーションである場合は、その内容に psc フォルダーが挿入されることがあります。

***PUTDATE**

キュー・マネージャーの開始以来、最後のメッセージがキューに書き込まれた日付です。このフィールドは、「キュー・モニター」が *OFF に設定されていない時のみ表示されます。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***PUTENBL**

アプリケーションがキューへのメッセージの書き込みを許可されているかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

メッセージをキューに追加することはできません。

***YES**

メッセージを許可アプリケーションによってキューに追加できます。

***PUTTIME**

キュー・マネージャーの開始以来、最後のメッセージがキューに書き込まれた時刻です。このフィールドは、「キュー・モニター」が*OFFに設定されていないときのみ表示されます。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***QMID**

キューをホスティングするキュー・マネージャーの内部生成固有名です。

フィルター値は、キュー・マネージャーの名前です。

***QTYPE**

キュー・タイプ。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***LCL**

ローカル・キュー。

***ALS**

別名キュー。

***RMT**

リモート・キュー。

***MDL**

モデル・キュー

***RMTMQMNAME**

リモート・キュー・マネージャー名。

フィルター値は、キュー・マネージャーの名前です。

***RMTQNAME**

リモート・キュー・マネージャーに認識されているローカル・キューの名前。

フィルター値は、キューの名前です。

***RTNITV**

保存インターバル。

フィルター値は、整数のインターバル値です。

***SHARE**

キューを共用できるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

単一のアプリケーション・インスタンスのみがキューを入力用にオープンできます。

***YES**

複数のアプリケーション・インスタンスが、キューを入力用にオープン できます。

***SRVEVT**

サービス・インターバル・イベントが生成されるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***HIGH**

「サービス・インターバル高」 イベントが生成されます。

***OK**

サービス間隔 OK イベントが生成されます。

***NONE 値**

サービス・インターバル・イベントは生成されません。

***SRVITV**

サービス・インターバル・イベントの生成しきい値。

フィルター値は、整数のしきい値です。

***STATQ**

統計データ。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***QMGR**

統計データ収集は、キュー・マネージャー属性 STATQ の設定に基づきます。

***OFF**

このキューの統計データ収集はオフに切り替えられます。

***ON**

このキューの統計データ収集はオンに切り替えられます。

***TARGTYPE**

ターゲット・タイプ。

フィルター値は次のいずれかの値です。

*** キュー**

キュー・オブジェクト。

***TOPIC**

トピック・オブジェクト。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値は、キューのテキスト記述です。

***TGTQNAME**

このキューが別名である宛先キュー。

フィルター値は、キューの名前です。

***TMQNAME**

伝送キュー名。

フィルター値は、キューの名前です。

***TRGDATA**

トリガー・データです。

フィルター値は、トリガー・メッセージのテキストです。

***TRGDEPTH**

トリガー項目数。

フィルター値は、整数のメッセージ数です。

***TRGENBL**

トリガーが使用可能であるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

トリガーは使用可能ではありません。

***YES**

トリガーは使用可能です。

***TRGMSGPTY**

トリガーのしきい値メッセージ優先順位。

フィルター値は整数の優先順位値です。

***TRGTYPE**

トリガー・タイプ。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***FIRST**

キュー上のメッセージの数が 0 から 1 になった時。

***ALL**

メッセージがキューに到着するたび。

***DEPTH**

キュー上のメッセージ数が TRGDEPTH 属性の値と等しくなった時。

***NONE 値**

トリガー・メッセージは書き込まれません。

***UNCOM**

キューで保留になっているコミットされていない変更の数。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NO**

保留中のコミットされていない変更内容はありません。

***YES**

保留中のコミットされていない変更内容があります。

***USAGE**

キューが送信キューであるかどうか。

フィルター値は次のいずれかの値です。

***NORMAL**

キューは送信キューではありません。

***TMQ**

キューは送信キューです。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

キュー状況の処理 (WRKMQMQSTS)**実行可能な場所**

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

キュー状況の処理 (WRKMQMQSTS) コマンドは、現在オープンしている IBM MQ キューを持つジョブをリストします。このコマンドによりは、キューをオープンしているオプションを判別でき、またオープンしているキューを持つチャネルおよび接続を調べることができます。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 1
<u>QNAME</u>	キュー名	文字値	オプション、定位置 2
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプション、定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*APPLDESC、*APPLTAG、*BROWSE、*CHLNAME、*CONNAME、*INPUT、*INQUIRE、*JOB、*OUTPUT、*SET、*URTYPE	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

キュー名 (QNAME)

ローカル・キューの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

キュー名

ローカル・キューの名前を指定します。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、オープン・のキューをもつ特定の属性のジョブだけを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***APPLDESC**

オープンしたキューを持つアプリケーションについての記述。

フィルター値はアプリケーション記述ストリングです。

***APPLTAG**

オープンしたキューをもつアプリケーションの名前です。

フィルター値はアプリケーション・タグ・ストリングです。

***BROWSE**

ジョブがブラウズのためにオープンされているキューをもっているかどうか。

フィルター値は*NO または*YES のいずれかです。

***CHLNAME**

オープンしたキューをもつチャンネルの名前です。

フィルター値はチャンネル名です。

***CONNAME**

オープンしたキューをもつチャンネルの接続名です。

フィルター値は接続名です。

***入力**

ジョブが入力のためにオープンされているキューをもっているかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***NO**

ジョブが入力のためにオープンされているキューをもっていません。

***SHARED**

ジョブは共用入力のためにオープンされているキューをもっています。

***EXCL**

ジョブは排他的入力のためにオープンされているキューをもっています。

***INQUIRE**

ジョブが照会のためにオープンされているキューをもっているかどうか。

フィルター値は*NO または*YES のいずれかです。

***JOB**

オープンしたキューをもつジョブの名前です。

フィルター値はジョブ名です。

***OUTPUT**

ジョブが出力のためにオープンされているキューをもっているかどうか。

フィルター値は*NO または*YES のいずれかです。

***SET**

ジョブが設定のためにオープンされているキューをもっているかどうか。

フィルター値は*NO または*YES のいずれかです。

***URTYPE**

リカバリー作業単位 ID のタイプです。

フィルター値は次のいずれかです。

***QMGR**

キュー・マネージャーのリカバリー作業単位 ID です。

***XA**

リカバリー XA 作業単位 ID です。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQM セキュリティー・ポリシーの処理 (WRKMQMSPL)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQM セキュリティー・ポリシーの処理 (WRKMQMSPL) コマンドは、キュー・マネージャーのすべてのセキュリティ・ポリシーをリストします。

セキュリティ・ポリシーは、メッセージの書き込み、参照、キューからの破壊的削除の実行時にメッセージをどのように保護するかを制御するために IBM MQ Advanced Message Security によって使用されます。

さらに、**DSPMQM** は、セキュリティ・ポリシーがキュー・マネージャーに対して有効になっているかどうかを表示します。表示されるためには、キュー・マネージャーの起動時に、IBM MQ Advanced Message Security ライセンスがインストールされている必要があることに気を付けてください。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
OUTPUT	出力	* 、 *PRINT	オプション、定位置 1
MQMNAME	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求ワークステーションに表示されるか、またはジョブのスプール出力と一緒に印刷されるかどうかを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

対話式ジョブによって要求された出力は、ディスプレイに表示される。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力と一緒に印刷されます。

***PRINT**

選択した権限プロファイル・レコードに登録された、ユーザーとその権限の詳細なリストを、ジョブのスプール出力とともに印刷します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前を指定します。

MQ サブスクリプションの処理 (WRKMQMSUB)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ サブスクリプションの処理 (WRKMQMSUB) コマンドによって、ローカル・キュー・マネージャーで定義された複数のサブスクリプションを処理できます。これにより、IBM MQ サブスクリプションのコピー、変更、表示、および削除が可能になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
SUBNAME	サブスクリプション名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エlement・リスト	オプション、定位置 3
	Element 1: フィルター・キーワード	*DEST、*DESTCLASS、*DESTRRLID、*DESTMQM、*EXPIRY、*PSPROP、*PUBACCT、*PUBAPPID、*PUBPTY、*REQONLY、*SELECTOR、*SELTYPE、*SUBSCOPE、*SUBID、*TOPICOBJ、*TOPICSTR、*USERDATA、*VARUSER、*WSHEMA	
	Element 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	Element 3: フィルター値	文字値	

サブスクリプション名 (SUBNAME)

サブスクリプションの 1 つ以上の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのサブスクリプションが選択されます。

generic-subscription-name

MQ サブスクリプションの総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのサブスクリプションを選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の太文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

subscription-name

MQ サブスクリプションの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のサブスクリプション属性を持つサブスクリプションのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の3つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***DEST**

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー。
フィルター値は、キューの名前です。

***DESTCLASS**

これが管理対象サブスクリプションかどうかを指定します。
フィルター値は次のいずれかです。

***MANAGED**

宛先は管理対象。

***PROVIDED**

宛先はキュー。

***DESTCRLID**

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの相関 ID。
フィルター値は、24 バイトの相関 ID を表す 48 文字 16 進数ストリングです。

***DESTMQM**

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャー。
フィルター値は、キュー・マネージャーの名前です。

*** 期限切れ**

サブスクリプションの有効期限時刻。
フィルター値は整数の有効期限時刻です。

***PSPROP**

パブリッシュ/サブスクライブに関連したメッセージ・プロパティが、このサブスクリプションに送られるメッセージに追加される方法。
フィルター値は次のいずれかです。

***NONE 値**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、このメッセージに追加されません。

***COMPAT**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、V6 のパブリッシュ/サブスクライブとの互換性を維持するために、メッセージに追加されます。

***RFH2**

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは、RFH バージョン 2 のヘッダーとしてメッセージに追加されます。

***PUBACCT**

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのアカウントリング・トークンです。
フィルター値は、32 バイトのパブリッシュ・アカウントリング・トークンを表す 64 文字 16 進数ストリングです。

***PUBAPPID**

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージのパブリッシュ・アプリケーション ID。
フィルター値は、パブリッシュ・アプリケーション ID です。

***PUBPTY**

このサブスクリプションに送信されたメッセージの優先度。
フィルター値は整数の優先順位です。

***REQONLY**

サブスクライバーが MQSUBRQ API を介して更新のためにポーリングするかどうかや、すべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに送信されるかどうかを指定します。
フィルター値は次のいずれかです。

***YES**

パブリケーションは、MQSUBRQ API に対する応答としてのみ、このサブスクリプションに送信されます。

***NO**

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。

***セレクター**

このサブスクリプションに適格であるかどうかを選択するために、指定のトピックでパブリッシュされたメッセージに適用される SQL 92 セレクター・ストリング。

フィルター値は、セレクター・ストリングです。

***SELTYPE**

指定された SQL 92 セレクター・ストリングのタイプ。

フィルター値は次のいずれかです。

***NONE 値**

セレクターは指定されていません。

***STANDARD**

メッセージのプロパティのみを参照し、標準セレクター構文を使用するセレクター・ストリングが指定されています。

***EXTENDED**

通常、メッセージの内容を参照することによって、拡張セレクター構文を使用するセレクター・ストリングが指定されています。このタイプのセレクター・ストリングはキュー・マネージャーによって内部的に処理できません。拡張メッセージ・セレクターの使用は、IBM Integration Bus などの他のプログラムによってのみ処理できます。

***SUBSCOPE**

サブスクリプションを他のキュー・マネージャーに転送することによって、サブスクライバーがそれらのキュー・マネージャーでパブリッシュされたメッセージも受信できるようにするかどうかを指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***ALL**

パブリッシュ/サブスクライブの集合または階層で直接接続されているすべてのキュー・マネージャーにサブスクリプションを転送します。

***QMGR**

サブスクリプションは、このキュー・マネージャー内でトピックにパブリッシュされたメッセージのみを転送します。

注：個々のサブスクライバーは **SUBSCOPE** の制限のみできます。このパラメーターがトピック・レベルで **ALL** に設定された場合、個々のサブスクライバーはこのサブスクリプションについて **QMGR** に制限できます。一方、このパラメーターがトピック・レベルで **QMGR** に設定された場合、個々のサブスクライバーを **ALL** に設定しても効果はありません。

***SUBID**

サブスクリプションに関連付けられたサブスクリプション ID。

フィルター値は、24 バイトのサブスクリプション ID を表す 48 文字 16 進数ストリングです。

***TOPICOBJ**

サブスクリプションに関連付けられたトピック・オブジェクトです。

フィルター値は、トピック・オブジェクトの名前です。

***TOPICSTR**

サブスクリプションに関連付けられたトピック・ストリングです。

フィルター値は、トピック・ストリングです。

***USERDATA**

サブスクリプションに関連するユーザー・データ。

フィルター値は、ユーザー・データです。

***VARUSER**

サブスクリプションの作成者以外のユーザー・プロファイルが、それに接続可能かどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***ANY**

すべてのユーザー・プロファイルがサブスクリプションに接続できます。

***FIXED**

サブスクリプションを作成したユーザー・プロファイルのみが、そのサブスクリプションに接続できます。

***WSHEMA**

トピック・ストリング内のワイルドカード文字の解釈に使用されるスキーマ。

フィルター値は次のいずれかです。

***TOPIC**

ワイルドカード文字はトピック階層の部分を表します。

***CHAR**

ワイルドカード文字はストリングの一部を表します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ サービス・オブジェクトの処理 (WRKMQMSVC)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ サービス・オブジェクトの処理 (WRKMQMSVC) コマンドにより、ローカル・キュー・マネージャーに定義されている複数のサービス・オブジェクトを処理できます。

これにより、MQ サービス・オブジェクトの開始、停止、変更、コピー、作成、削除、およびその権限の表示と変更が可能になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>SVCNAME</u>	サービス名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

キーワード	説明	選択	注
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプションル, 定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDAT、*ALTTIME、*CONTROL、*ENDARG、*ENDCMD、*STDERR、*STDOUT、*STRARG、*STRCMD、*TEXT、*TYPE	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

サービス名 (SVCNAME)

サービス・オブジェクトの 1 つ以上の名前。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL または ***

すべてのサービス・オブジェクトが選択されます。

generic-service-name

サービス・オブジェクトの総称名。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのサービス・オブジェクトを選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

サービス名

単一サービス・オブジェクトの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

キュー・マネージャー名

メッセージ・キュー・マネージャーの名前です。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のサービス属性を持つサービス・オブジェクトのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の 3 つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDAT**

定義または情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

定義または情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***制御**

サービスがキュー・マネージャーにより開始および停止されるかどうか。

フィルター値は次のいずれかです。

***MANUAL**

サービスは自動的に開始または停止されません。

***QMGR**

キュー・マネージャーの開始、停止に応じて、サービスも開始、停止されます。

***STARTONLY**

サービスは、キュー・マネージャーの開始時に開始されますが、キュー・マネージャーの停止時には停止を要求されません。

***ENDARG**

サービスが停止を要求されるときに、終了プログラムに渡される引数。

フィルター値は、引数ストリングです。

***ENDCMD**

サービスの停止が要求されると実行する実行可能プログラムの名前。

フィルター値は、プログラム名ストリングです。

***STDERR**

標準エラー・パス。

フィルター値は、パス名です。

***STDOUT**

標準出力パス。

フィルター値は、パス名です。

***STRARG**

開始時にプログラムに渡される引数。

フィルター値は、引数ストリングです。

***STRCMD**

実行するプログラムの名前。

フィルター値は、プログラム名ストリングです。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値は、サービスのテキスト記述です。

***タイプ**

サービスを実行するモード。

フィルター値は次のいずれかです。

***CMD**

開始時にコマンドは実行されますが、状況は収集されることも表示されることもありません。

***SVR**

開始された実行可能プログラムの状況がモニターされて表示されます。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ トピックの処理 (WRKMQMTOP)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ トピックの処理 (WRKMQMTOP) コマンドにより、ローカル・キュー・マネージャーに定義されている複数のトピック・オブジェクトを処理できます。これにより、MQ トピック・オブジェクトのコピー、変更、表示、削除、その権限の表示と編集、記録、およびリカバリーが可能になります。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>TOPNAME</u>	トピック名	文字値、 *ALL	オプション、定位置 1
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2
<u>WHERE</u>	フィルター・コマンド	単一値: *NONE その他の値: エレメント・リスト	オプション、定位置 3
	エレメント 1: フィルター・キーワード	*ALTDAT、*ALTTIME、*DFTMSGPST、*DFTPTY、*DFTPUTRESP、*DURSUB、*MGDDURMDL、*MGDNDURMDL、*NPMSGDLV、*PMSGDLV、*PUBENBL、*SUBENBL、*TEXT、*TOPNAME、*TOPICSTR、*WILDCARD	
	エレメント 2: フィルター演算子	*GT、*LT、*EQ、*NE、*GE、*LE、*LK、*NL、*CT、*EX、*CTG、*EXG	
	エレメント 3: フィルター値	文字値	

トピック名 (TOPNAME)

トピック・オブジェクトの 1 つ以上の名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***ALL**

すべてのトピック・オブジェクトが選択されます。

generic-topic-name

MQ トピック・オブジェクトの総称名を指定します。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* など、その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのトピック・オブジェクトを選択します。

必要な名前を引用符で囲んで指定することをお勧めします。この形式を使用すれば、選択内容を確実に、入力した内容に一致させることができます。

すべての名前を要求しない限り、総称名の大文字および小文字バージョンのすべてを単一パネルで選択することはできません。

topic-name

MQ トピック・オブジェクトの名前を指定します。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

***DFT**

デフォルトのキュー・マネージャーを使用する。

キュー・マネージャー名

キュー・マネージャーの名前。

フィルター・コマンド (WHERE)

このパラメーターは、特定のトピック属性を持つトピックのみを選択して表示するために使用できます。

パラメーターには、キーワード、演算子、および値の3つの引数を使用します。

値が名前である場合は、総称ストリングが使用可能です。

演算子には、次のいずれかの値を使用できます。

***GT**

より大きい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LT**

より小さい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***EQ**

等しい。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***NE**

等しくない。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***GE**

以上。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LE**

以下。

整数および非総称ストリング値に適用できます。

***LK**

類似している。

総称ストリング値に適用できます。

***NL**

類似していない。

総称ストリング値に適用できます。

***CT**

含む。

非総称リスト値に適用できます。

***EX**

除く。

非総称リスト値に適用できます。

***CTG**

総称を含む。

総称リスト値に適用できます。

***EXG**

総称を除外。

総称リスト値に適用できます。

キーワードには、以下のいずれかの値を使用できます。

***ALTDAT**

オブジェクトまたは情報が最後に変更された日付。

フィルター値は、YYYY-MM-DD 形式の日付です。

***ALTTIME**

オブジェクトまたは情報が最後に変更された時刻。

フィルター値は、hh:mm:ss 形式の時刻です。

***DFTMSGPST**

このトピックに関連付けられたメッセージのデフォルトの持続性。

フィルター値は次のいずれかです。

***ASPARENT**

メッセージのデフォルトの持続性は、親トピックから継承されます。

***NO**

このトピックに関連付けられたメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

***YES**

このトピックに関連付けられたメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

***DFTPUTRESP**

デフォルトの PUT 応答。

フィルター値は次のいずれかです。

***ASPARENT**

デフォルトの応答タイプは、このトピックに関連したトピック・ツリーにある最初の親管理ノードの設定に基づきます。

***SYNC**

MQPMO_SYNC_RESPONSE が代わりに指定されているかのように、
MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューへの PUT 操作が発行されます。

***ASYN**

MQPMO_ASYNC_RESPONSE が代わりに指定されているかのように、
MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューへの PUT 操作が常に発行されます。

***DFTPTY**

このトピックに関連付けられたメッセージのデフォルトの優先順位です。

フィルター値は整数の優先順位値です。

***DURSUB**

トピックで永続サブスクリプションを許可するかどうかを指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***ASPARENT**

このトピックの動作は、親トピックと同じです。

***NO**

このトピックは、永続サブスクリプションを許可しません。

***YES**

このトピックは、永続サブスクリプションを許可します。

***MGDDURMDL**

管理される永続サブスクリプションのモデル・キューの名前です。

フィルター値は、キューの名前です。

***MGDNDURMDL**

管理される非永続サブスクリプションのモデル・キューの名前です。

フィルター値は、キューの名前です。

***NPMMSGDLV**

このトピックにパブリッシュされた非持続メッセージの配信手段を指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***ALL**

すべての非持続メッセージは、このトピックに対してパブリッシュされます。

***ALLDUR**

すべての永続的な非持続メッセージは、このトピックに対してパブリッシュされます。

***ALLAVAIL**

すべての使用可能な非持続メッセージは、このトピックに対してパブリッシュされます。

***ASPARENT**

このトピックの動作は、親トピックと同じです。

***PMSGDLV**

このトピックにパブリッシュされた持続メッセージの配信手段を指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***ALL**

すべての持続メッセージは、このトピックに対してパブリッシュされます。

***ALLDUR**

すべての永続的な持続メッセージは、このトピックに対してパブリッシュされます。

***ALLAVAIL**

すべての使用可能な持続メッセージは、このトピックに対してパブリッシュされます。

***ASPARENT**

このトピックの動作は、親トピックと同じです。

***PUBENBL**

トピックでパブリケーションを許可するかどうかを指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***ASPARENT**

このトピックの動作は、親トピックと同じです。

***NO**

このトピックでは、パブリケーションは使用できません。

***YES**

このトピックでは、パブリケーションは使用できます。

***SUBENBL**

トピックでサブスクリプションを許可するかどうかを指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***ASPARENT**

このトピックの動作は、親トピックと同じです。

***NO**

このトピックは、サブスクリプションを許可しません。

***YES**

このトピックは、サブスクリプションを許可します。

***TEXT**

記述コメント。

フィルター値はトピックのテキスト記述です。

***TOPNAME**

トピックの名前。

フィルター値は、トピックの名前です。

***TOPICSTR**

トピック・ノードの識別に使用されるトピック・ストリングです。

フィルター値は、文字ストリングです。

***WILDCARD**

このトピックに関連したワイルドカード・サブスクリプションの動作を指定します。

フィルター値は次のいずれかです。

***PASSTHRU**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーションと、より特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションとを受け取るようになります。

***BLOCK**

ワイルドカードを使用して指定したトピックへのサブスクリプションが、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングに比べて特定性が低い場合、このトピックに対して行われたパブリケーション、またはより特定性の高いトピック・ストリングに対するパブリケーションを受け取りません。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQ トランザクションの処理 (WRKMQMTRN)

実行可能な場所

すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ

Yes

MQ トランザクションの処理 (WRKMQMTRN) コマンドは、内部的または外部的に整合された未確定トランザクションの詳細をリストします。

Parameters

キーワード	説明	選択	注
<u>TYPE</u>	トランザクション・タイプ	*ALL 、*EXT、*INT、*MQI、*XA、*OS400	オプション、定位置 1

キーワード	説明	選択	注
<u>MQMNAME</u>	メッセージ・キュー・マネージャー名	文字値、 *DFT	オプション、定位置 2

トランザクション・タイプ (TYPE)

トランザクションのタイプを指定します。

*ALL

すべての未確定トランザクションの詳細を要求します。

*EXT

外部的に調整した未確定トランザクションの詳細情報を要求します。これは、IBM MQ がコミットの準備を要求されたが、まだトランザクションの結果を通知されていないトランザクションです。

*INT

内部的に調整した未確定トランザクションの詳細情報を要求します。これは、各リソース・マネージャーがコミットの準備を要求されたが、IBM MQ がまだトランザクションの結果をリソース・マネージャーに通知していないトランザクションです。

メッセージ・キュー・マネージャー名 (MQMNAME)

メッセージ・キュー・マネージャーの名前を指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

*DFT

デフォルト・キュー・マネージャーを使用します。

message-queue-manager-name

キュー・マネージャーの名前を指定します。

例

なし

エラー・メッセージ

不明

MQSC リファレンス

MQSC コマンドを使用すると、キュー・マネージャー自体、キュー、チャネル、キュー、プロセス定義、チャネル、クライアント接続チャネル、リスナー、サービス、名前リスト、クラスター、および認証情報オブジェクトなどのキュー・マネージャー・オブジェクトを管理できます。

IBM MQ を管理するための MQSC コマンドの使用の概要については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#) を参照してください。

MQSC コマンドは、特定の意味を表すために特定の特殊文字を使用します。これらの特殊文字とその使用法については、[639 ページの『総称値および特別な意味を持つ文字』](#) を参照してください。

MQSC コマンドを使用してスクリプトをビルドする方法を調べるには、[639 ページの『コマンド・スクリプトの作成』](#) を参照してください。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#) を参照してください。

MQSC コマンドの完全なリストについては、[641 ページの『MQSC コマンド』](#) を参照してください。

関連概念

[8 ページの『IBM MQ の制御コマンド』](#)

IBM MQ 制御コマンドの使用方法を知ることができます。

1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマット・リファレンス』
プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) では、ネットワーク内のプログラムと PCF 対応のキュー・マネージャーとの間で交換できるコマンド・メッセージと応答メッセージが定義されています。PCF を使用すると、キュー・マネージャーの管理やその他のネットワーク管理が単純化されます。

関連資料

195 ページの『IBM MQ for IBM i CL コマンド』

コマンド・タイプ別にグループ化した IBM MQ for IBM i CL コマンドのリスト

総称値および特別な意味を持つ文字

以下の情報では、総称値、および MQSC コマンドを作成する場合に特別な意味を持つ文字について説明します。

パラメーターに総称値を指定できる場合、常に終わりにはアスタリスクが入力されます (例: ABC*)。総称値は「で始まるすべての値」を意味するので、ABC* は「ABC で始まるすべての値」を意味します。

値の中で引用符を必要とする文字を使用する場合は、'abc*' のように、引用符の内側にアスタリスクを入れる必要があります。アスタリスクは、値の最後または値の唯一の文字にする必要があります。

疑問符 (?) およびコロン (:) は総称値には指定できません。

文字	説明
	ブランクは区切り記号として使われます。複数のブランクは、アポストロフィ (') で囲まれたストリングを除き、単一のブランクに相当します。これらのストリング属性内の末尾ブランクは、MQCHARV タイプに基づくものとして、重大として扱われます。
,	コンマは区切り記号として使われます。コンマは、複数個でも 1 個と同等です。ただし、アポストロフィ (') で囲まれたストリングの内部にある場合を除きます。
'	アポストロフィは、ストリングの始まりまたは終わりを表します。IBM MQ では、引用符で囲まれた文字はすべて入力したままになります。ストリングの長さを計算する場合、そのストリングを囲んでいるアポストロフィは長さに含まれません。
"	ストリングの内部に単一引用符があると、IBM MQ はストリングの長さを計算するときにそれを 1 個の文字として扱い、ストリングの終わりとは見なしません。
=	z/OS での等号 は、コンマまたはブランクで終了するパラメーター値の始まりを表します。
(	左括弧は、パラメーター値または値リストの始まりを表します。
)	右括弧は、パラメーター値または値リストの終わりを表します。
:	コロンは範囲を表し、両端を含むことを意味します。例えば、(1:5) は (1,2,3,4,5) を意味します。この表記は、 TRACE コマンドでのみ用います。
*	アスタリスクは全部を意味します。例えば、 DISPLAY TRACE (*) は、すべてのトレースの表示を意味し、 DISPLAY QUEUE (PAY*) は、名前の最初の部分が PAY であるすべてのキューの表示を意味します。

フィールド内で (例えば、記述の一部で) これらの特殊文字を使用するときは、ストリングの全体を単一引用符で囲む必要があります。

コマンド・スクリプトの作成

この情報は、コマンド・スクリプトを作成する方法を調べるために使用します。

以下を使用する場合に、MQSC コマンドからスクリプトを作成する必要があることがあります。

- z/OS で、CSQINP1、CSQINP2、および CSQINPX 初期化データ・セットまたは CSQUTIL パッチ・ユーティリティーを使用する場合
- IBM i で STRMQM コマンドを使用する場合
- UNIX、Linux、および Windows の場合 システムで runmqsc コマンドを使用する場合

作業するときには、以下の規則に従います。

- 各コマンドは新しい行から開始しなければなりません。
- プラットフォームごとに、行の長さやレコード・フォーマットに関するプラットフォーム固有の規則がある場合があります。スクリプトを異なるプラットフォームに簡単に移植できるようにするには、各行の有効な長さを 72 文字に制限する必要があります。
 - z/OS の場合、スクリプトはレコード長が 80 の固定形式データ・セットに保持されます。意味のある情報を含められるのは 1 桁目から 72 桁目までのみです。73 桁目から 80 桁目は無視されます。
 - AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows では、各行を 2048 文字以内の任意の長さにすることができます。
 - その他の UNIX システムでは、各行を 80 文字以内の任意の長さにすることができます。
- 行をキーボードの制御文字で終了することはできません (例えば、タブ記号など)。
- 行の最後の非空白文字は、それぞれ次のような意味があります。
 - 負符号 (-)。これは、コマンドが次の行の行頭から続くことを示します。
 - 正符号 (+)。これは、コマンドが次の行の最初の非空白文字から続くことを示します。+ を使用してコマンドを続ける場合は、次のパラメーターの前に少なくとも 1 つの空白を忘れずに残してください (z/OS ではその必要はありません)。

これらはどちらも、パラメーター、データ値、または引用符で囲んだストリングに含めることができます。例:

```
'Fr+  
ed'
```

および

```
'Fr-  
ed'
```

(2 番目の例の 2 行目の「e」は行の最初の位置にあります。) これらはどちらも次の値と同等です。

```
'Fred'
```

Escape PCF (プログラム式コマンド形式) コマンド内に含まれる MQSC コマンドは、この方法で続けることができません。コマンド全体を 1 つの Escape コマンド内に含める必要があります。(PCF コマンドについては、[プログラマブル・コマンド・フォーマットの概要](#)を参照してください。)

- 行末に使用された + と - の値は、コマンドを単一のストリングに再アセンブルするときに廃棄されます。
- AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris Solaris、および Windows では、直前の行の末尾に正符号 (+) を入力している場合でも、セミコロン文字 (;) を使用してコマンドを終了できます。z/OS では、CSQUTIL バッチ・ユーティリティ・プログラムから発行されたコマンドに対して、同様にセミコロンを使用することもできます。
- 行頭にアスタリスク (*) が付いた行は無視されます。この方法はファイルにコメントを挿入するときに使用できます。
空白行も無視されます。
行が継続文字 (- または +) で終わっている場合、コマンドはコメント行または空白行ではない次の行に続きます。
- MQSC コマンドを対話式に実行している場合、END コマンドを入力することにより対話式セッションが終了します。これは以下のプラットフォームに適用されます。
 - UNIX、Linux、および Windows の場合 システムで runmqsc を入力して対話式セッションを開始した場合。
 - IBM i システムで、WRKMQM パネルから対話式セッションを開始した場合。

- Windows で、ポンド記号 (£) や論理否定 (¬) などの特定の特殊文字がコマンド・スクリプト内で使用されている場合 (オブジェクト記述の一部としてなど)、DISPLAY QLOCAL などのコマンドからの出力では、これらの文字は別の文字で表示されます。

z/OS z/OS でのコマンドの使用

MQSC コマンドは、コマンドに応じて、さまざまなソースから発行できます。

コマンドは次のソースから発行できます。

- z/OS コンソールまたは同等のコンソール
- 初期設定入力データ・セット CSQINP1、CSQINP2、CSQINPT、および CSQINPX
- CSQUTIL バッチ・ユーティリティー
- 適切な権限が付与されたアプリケーション (コマンドをメッセージとして SYSTEM.COMMAND.INPUT キューに送信する)

z/OS 詳細については、[コマンドの発行](#)を参照してください。

ただし、これらすべてのソースからすべてのコマンドを発行できるわけではありません。コマンドは、その発行元に従って、次のように分類できます。

- 1**
CSQINP1
- 2**
CSQINP2
- C**
z/OS コンソール
- R**
コマンド・サーバーおよびコマンド・キュー (CSQUTIL、CSQINPT、CSQINPX、またはアプリケーションによる)

これ以降のコマンドの説明では、これらの発行元は、各コマンドの説明の表にある「z/OS」列にそれぞれ 1、2、C、および R の文字を使用して示されます。

MQSC コマンド

このトピックは、MQSC コマンドの参照として使用します。

このセクションでは、オペレーターと管理者が実行できるすべての MQSC コマンドを、アルファベット順に説明します。

[644 ページの『ALTER AUTHINFO』](#)

[655 ページの『ALTER BUFFPOOL』](#)

[658 ページの『ALTER CFSTRUCT』](#)

[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)

[717 ページの『ALTER CHANNEL \(MQTT\)』](#)

[721 ページの『ALTER COMMINFO』](#)

[725 ページの『ALTER LISTENER』](#)

[728 ページの『ALTER NAMELIST』](#)

[731 ページの『ALTER PROCESS』](#)

[735 ページの『ALTER PSID』](#)

[737 ページの『ALTER QMGR』](#)

[770 ページの『ALTER キュー』](#)

z/OS [799 ページの『ALTER SECURITY』](#)

[801 ページの『ALTER SERVICE』](#)

[803 ページの『ALTER SMDS』](#)

[805 ページの『ALTER STGCLASS』](#)

[807 ページの『ALTER SUB』](#)
[811 ページの『ALTER TOPIC』](#)
[820 ページの『ALTER TRACE』](#)
[822 ページの『ARCHIVE LOG』](#)
[824 ページの『BACKUP CFSTRUCT』](#)
[825 ページの『CLEAR QLOCAL』](#)
[827 ページの『CLEAR TOPICSTR』](#)
[829 ページの『DEFINE AUTHINFO』](#)
[842 ページの『DEFINE BUFFPOOL』](#)
[844 ページの『DEFINE CFSTRUCT』](#)
[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)
[907 ページの『DEFINE CHANNEL \(MQTT\)』](#)
[911 ページの『DEFINE COMMINFO』](#)
[915 ページの『DEFINE LISTENER』](#)
[918 ページの『DEFINE LOG』](#)
[920 ページの『DEFINE MAXSMGS』](#)
[921 ページの『DEFINE NAMELIST』](#)
[924 ページの『DEFINE PROCESS』](#)
[929 ページの『DEFINE PSID』](#)
[931 ページの『DEFINE キュー』](#)
[964 ページの『DEFINE SERVICE』](#)
[967 ページの『DEFINE STGCLASS』](#)
[971 ページの『DEFINE SUB』](#)
[977 ページの『DEFINE TOPIC』](#)
[987 ページの『DELETE AUTHINFO』](#)
[990 ページの『DELETE BUFFPOOL』](#)
[991 ページの『DELETE CFSTRUCT』](#)
[992 ページの『DELETE CHANNEL』](#)
[994 ページの『DELETE CHANNEL \(MQTT\)』](#)
[994 ページの『DELETE COMMINFO』](#)
[995 ページの『DELETE LISTENER』](#)
[995 ページの『DELETE NAMELIST』](#)
[998 ページの『DELETE PROCESS』](#)
[999 ページの『DELETE PSID』](#)
[1000 ページの『DELETE キュー』](#)
[1005 ページの『DELETE SERVICE』](#)
[1006 ページの『DELETE SUB』](#)
[1007 ページの『DELETE STGCLASS』](#)
[1009 ページの『DELETE TOPIC』](#)
[1011 ページの『DISPLAY ARCHIVE』](#)
[1012 ページの『DISPLAY AUTHINFO』](#)
[1023 ページの『DISPLAY CFSTATUS』](#)
[1030 ページの『DISPLAY CFSTRUCT』](#)
[1034 ページの『DISPLAY CHANNEL』](#)
[1049 ページの『DISPLAY CHANNEL \(MQTT\)』](#)
[1052 ページの『DISPLAY CHINIT』](#)
[1053 ページの『DISPLAY CHLAUTH』](#)
[1060 ページの『DISPLAY CHSTATUS』](#)
[1083 ページの『DISPLAY CHSTATUS \(MQTT\)』](#)
[1087 ページの『DISPLAY CLUSQMGR』](#)
[1096 ページの『DISPLAY CMDSERV』](#)

[1096 ページの『DISPLAY COMMINFO』](#)
[1099 ページの『DISPLAY CONN』](#)
[1115 ページの『DISPLAY GROUP』](#)
[1116 ページの『DISPLAY LISTENER』](#)
[1119 ページの『DISPLAY LOG』](#)
[1121 ページの『DISPLAY LSSTATUS』](#)
[1124 ページの『DISPLAY MAXSMSGS』](#)
[1125 ページの『DISPLAY NAMELIST』](#)
[1130 ページの『DISPLAY PROCESS』](#)
[1134 ページの『DISPLAY PUBSUB』](#)
[1139 ページの『DISPLAY QMGR』](#)
[1151 ページの『DISPLAY QMSTATUS』](#)
[1154 ページの『DISPLAY QSTATUS』](#)
[1166 ページの『DISPLAY QUEUE』](#)
[1181 ページの『DISPLAY SBSTATUS』](#)
 [1186 ページの『DISPLAY SECURITY』](#)
[1187 ページの『DISPLAY SERVICE』](#)
[1190 ページの『DISPLAY SMDS』](#)
[1192 ページの『DISPLAY SMDSCONN』](#)
[1196 ページの『DISPLAY STGCLASS』](#)
[1200 ページの『DISPLAY SUB』](#)
[1208 ページの『DISPLAY SVSTATUS』](#)
[1210 ページの『z/OS での DISPLAY SYSTEM \(システム情報の表示\)』](#)
[1216 ページの『DISPLAY THREAD』](#)
[1219 ページの『DISPLAY TOPIC』](#)
[1227 ページの『DISPLAY TPSTATUS』](#)
[1234 ページの『DISPLAY TRACE』](#)
[1237 ページの『DISPLAY USAGE』](#)
[1239 ページの『MOVE QLOCAL』](#)
[1242 ページの『PING CHANNEL』](#)
[1244 ページの『PING QMGR』](#)
[1247 ページの『RECOVER CFSTRUCT』](#)
[1249 ページの『REFRESH CLUSTER』](#)
[1252 ページの『REFRESH QMGR』](#)
[1256 ページの『REFRESH SECURITY』](#)
[1261 ページの『RESET CFSTRUCT』](#)
[1261 ページの『RESET CHANNEL』](#)
[1264 ページの『RESET CLUSTER』](#)
[1266 ページの『RESET QMGR』](#)
[1268 ページの『RESET QSTATS』](#)
[1270 ページの『RESET SMDS』](#)
[1272 ページの『RESET TPIPE』](#)
[1274 ページの『RESOLVE CHANNEL』](#)
[1276 ページの『RESOLVE INDOUBT』](#)
[1278 ページの『RESUME QMGR』](#)
[1280 ページの『RVERIFY SECURITY』](#)
[1281 ページの『SET ARCHIVE』](#)
[1291 ページの『SET CHLAUTH』](#)
[1300 ページの『SET LOG』](#)
[1306 ページの『SET SYSTEM』](#)
[1309 ページの『START CHANNEL』](#)

[1312 ページの『START CHANNEL \(MQTT\)』](#)
[1313 ページの『START CHINIT』](#)
[1314 ページの『START CMDSERV』](#)
[1315 ページの『START LISTENER』](#)
[1317 ページの『START QMGR』](#)
[1319 ページの『START SERVICE』](#)
[1319 ページの『START SMDSCONN』](#)
[1320 ページの『START TRACE』](#)
[1325 ページの『STOP CHANNEL』](#)
[1330 ページの『STOP CHANNEL \(MQTT\)』](#)
[1331 ページの『STOP CHINIT』](#)
[1332 ページの『STOP CMDSERV』](#)
[1333 ページの『STOP CONN』](#)
[1334 ページの『STOP LISTENER』](#)
[1336 ページの『STOP QMGR』](#)
[1338 ページの『STOP SERVICE』](#)
[1339 ページの『STOP SMDSCONN』](#)
[1340 ページの『STOP TRACE』](#)
[1343 ページの『SUSPEND QMGR』](#)

関連情報

[クラスター化: REFRESH CLUSTER の使用に関するベスト・プラクティス](#)

ALTER AUTHINFO

認証情報オブジェクトを変更するには、MQSC コマンド ALTER AUTHINFO を使用します。これらのオブジェクトには、OCSP、または LDAP サーバーの証明書失効リスト (CRL) を使用して証明書失効検査を実行するために必要な定義が入っています。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

ALTER AUTHINFO コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

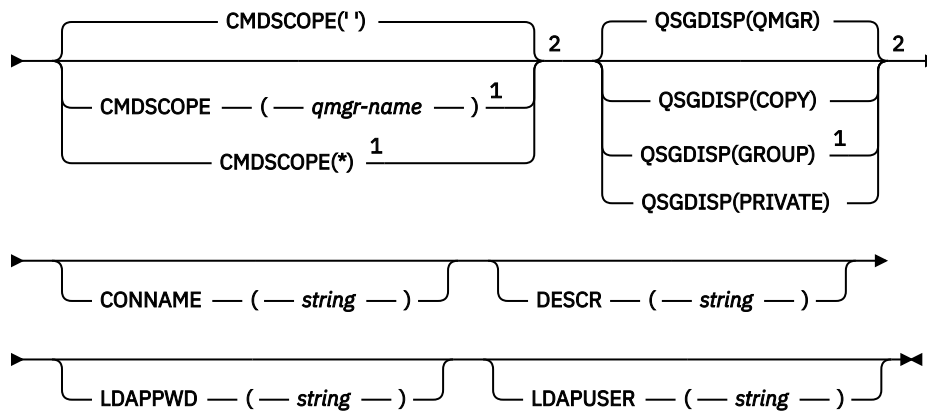
- [TYPE\(CRLLDAP\) の構文図](#)
- [TYPE\(OCSP\) の構文図](#)
- [TYPE\(IDPWOS\) の構文図](#)
- [TYPE\(IDPWLDAP\) の構文図](#)
- [647 ページの『ALTER AUTHINFO のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT AUTHINFO

TYPE(CRLLDAP) の構文図

ALTER AUTHINFO

► ALTER AUTHINFO — (— *name* —) — AUTHTYPE(CRLLDAP) —►



注:

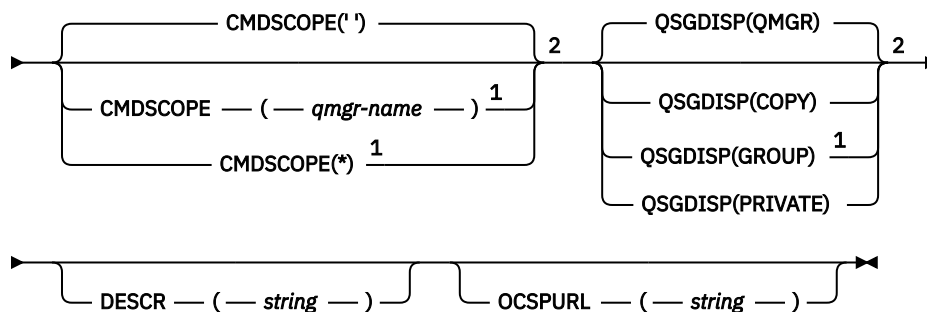
¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

² z/OS でのみ有効です。

TYPE(OCSP) の構文図

ALTER AUTHINFO

► ALTER AUTHINFO — (— *name* —) — AUTHTYPE(OCSP) —►



注:

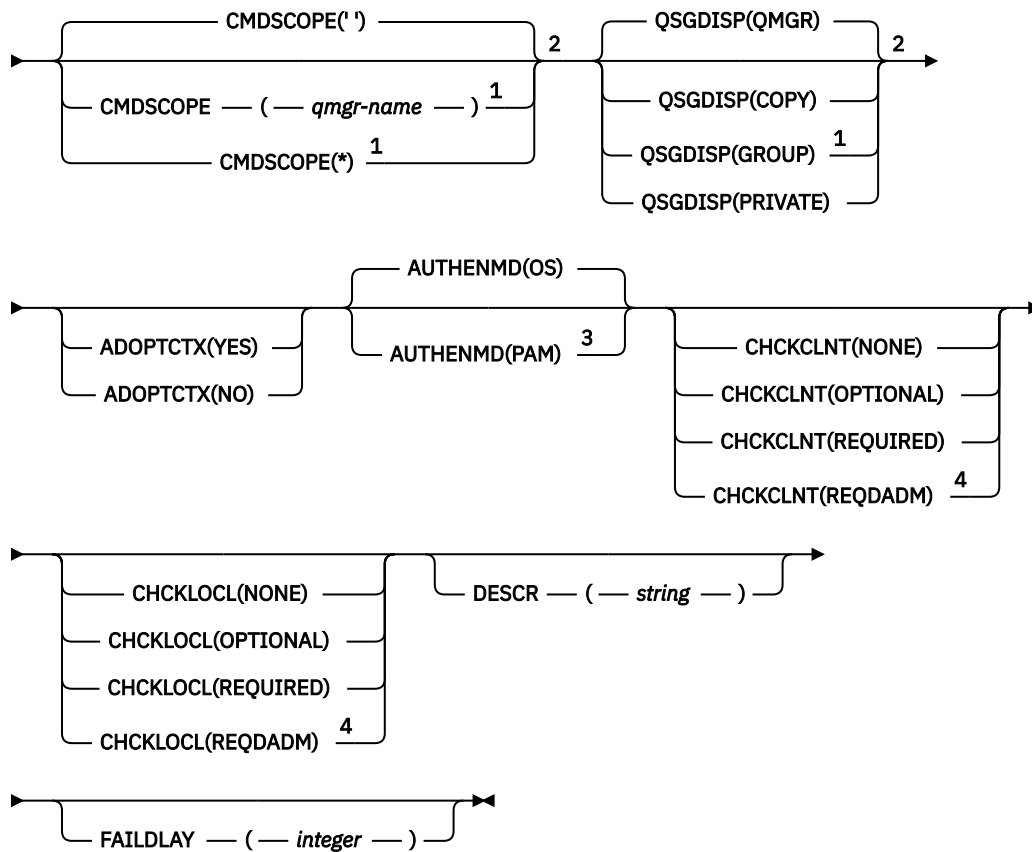
¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

² z/OS でのみ有効です。

TYPE(IDPWOS) の構文図

ALTER AUTHINFO

➡ ALTER AUTHINFO — (— *name* —) — AUTHTYPE(IDPWOS) —>



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

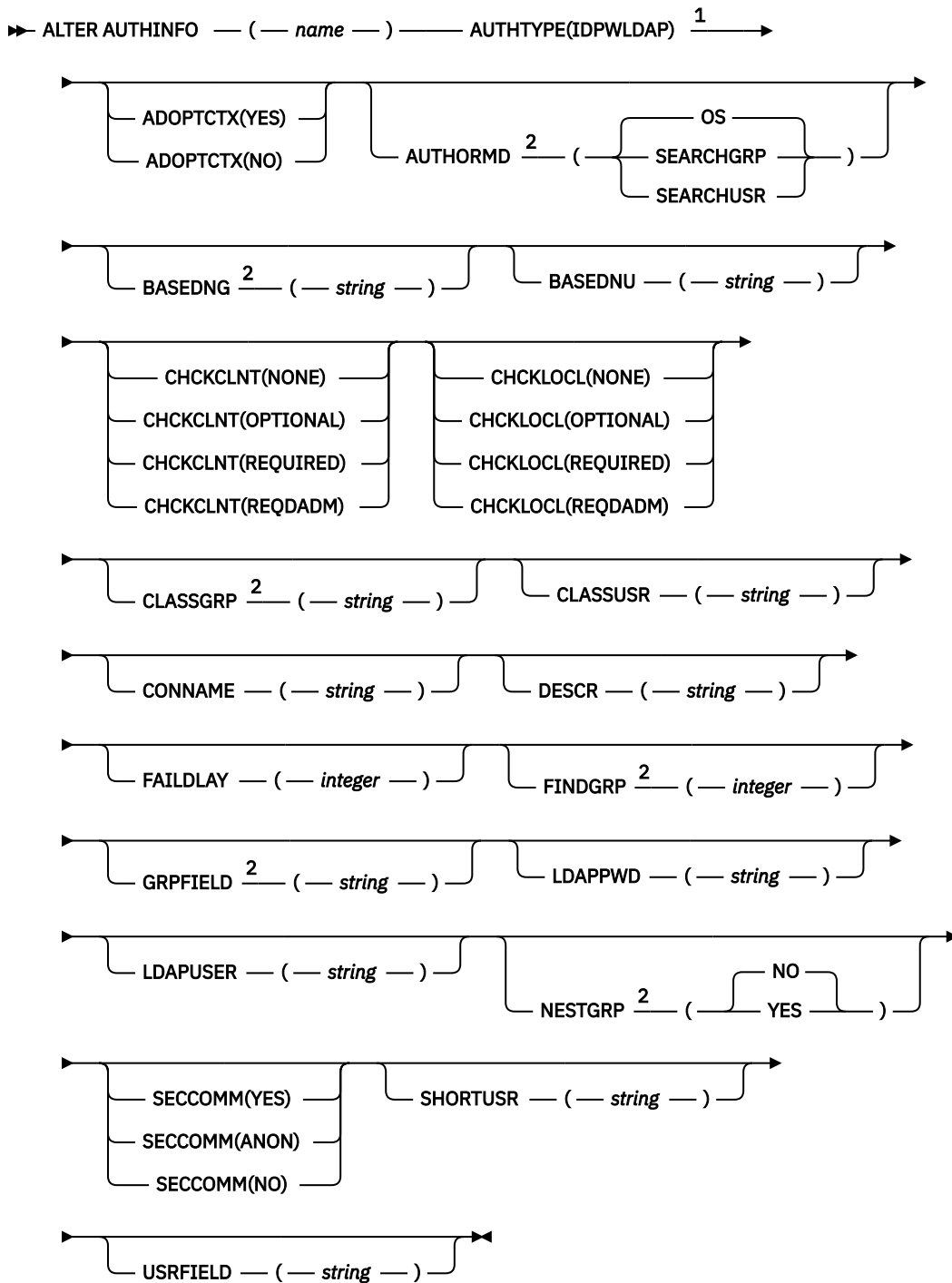
² z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効であり、UNIX プラットフォーム でのみ PAM 値を設定できます。

⁴ z/OS では無効です。

TYPE(IDPWLDAP) の構文図

ALTER AUTHINFO



注:

¹ z/OS では無効です。

² Windows では無効です。

ALTER AUTHINFO のパラメーターの説明

name

認証情報オブジェクトの名前。このパラメーターは必須です。

名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどの認証情報オブジェクト名とも同じであってはなりません (REPLACE または ALTER が指定されている場合を除く)。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

ADOPTCTX

提供された資格情報をこのアプリケーションのコンテキストとして使用するかどうか。これは、この資格情報が許可検査に使用され、管理画面に表示され、メッセージに出現することを意味します。

YES

パスワードにより妥当性検査が正常に行われた、MQCSP 構造内に示されたユーザー ID は、このアプリケーションに使用するコンテキストとして採用されます。したがって、このユーザー ID は、IBM MQ リソースの使用許可として確認される資格情報となります。

指定されたユーザー ID が LDAP ユーザー ID であり、オペレーティング・システムのユーザー ID を使用して許可検査が行われる場合は、LDAP のユーザー・エントリーに関連付けられている [SHORTUSR](#) が実行される許可検査の資格情報として採用されます。

NO

認証は MQCSP 構造内のユーザー ID とパスワードに対して実行されますが、資格情報が将来の使用のために採用されることはありません。許可は、アプリケーションが実行されているユーザー ID を使用して実行されます。

この属性は、AUTHTYPE が IDPWOS および IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

V8.0.0.3 AUTHENMD

認証方式。ユーザー・パスワードの認証にオペレーティング・システムを使用するか交換可能認証方式 (PAM) を使用するか。

OS

従来の UNIX プラットフォーム パスワード検証方式を使用します。

PAM

PAM を使用してユーザー・パスワードを認証します。

PAM 値は UNIX および Linux プラットフォームでのみ設定できます。

この属性の変更は、[REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) コマンドを実行した後でなければ有効になりません。

この属性は、AUTHTYPE が IDPWOS の場合にのみ有効です。

V8.0.0.2 AUTHORMD

許可方式。

OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

これは IBM MQ が以前処理していた方法であり、デフォルト値になります。

SEARCHGRP

LDAP リポジトリのグループ項目に、そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性が含まれます。メンバーシップは、[FINDGRP](#) で定義されている属性によって示されます。この値は通常 *member* または *uniqueMember* です。

SEARCHUSR

LDAP リポジトリのユーザー項目に、指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性が含まれます。照会対象の属性は、[FINDGRP](#) 値 (通常、*memberOf*) によって定義されます。

多くの LDAP サーバーはグループ・メンバーシップの判別にグループ・オブジェクトの属性を使用するため、この値を *SEARCHGRP* に設定する必要があります。

Microsoft Active Directory は通常、グループ・メンバーシップをユーザー属性として保管します。IBM Tivoli Directory Server は両方のメソッドをサポートします。

一般に、ユーザー属性によってメンバーシップを取得する方が、ユーザーをメンバーとしてリストするグループを検索するよりも高速です。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

AUTHTYPE

認証情報のタイプ。

CRLLDAP

証明書失効リストの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。

IDPWLDAP

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。

IDPWOS

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、オペレーティング・システムを使用して実行されます。

OCSP

証明書の失効検査は OCSP を使用して実行されます。

AUTHTYPE(OCSP) の認証情報オブジェクトは IBM i または z/OS キュー・マネージャーでの使用には適用されません。しかし、クライアントでの使用のためにクライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) にコピーされるように、これらのプラットフォーム上で指定することはできます。

このパラメーターは必須です。

認証情報オブジェクトは、異なる **AUTHTYPE** の **LIKE** オブジェクトとして定義できません。一度作成した認証情報オブジェクトの **AUTHTYPE** を変更することはできません。

V 8.0.0.2 BASEDNG

グループのベース DN

グループ名を検出できるようにするために、このパラメーターを基本 DN とともに設定して、LDAP サーバー内でグループを検索する必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

BASEDNU(base DN)

短いユーザー名属性 (**SHORTUSR** を参照) を検出できるようにするために、このパラメーターに基本 DN を設定して、LDAP サーバー内で検索できるようにする必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

CHKCLNT

この属性によって、クライアント・アプリケーションの認証要件が設定されます。この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWOS** または **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

NONE

ユーザー ID およびパスワード検査は行われません。クライアント・アプリケーションによってユーザー ID またはパスワードが指定されている場合、資格情報は無視されます。

OPTIONAL

クライアント・アプリケーションでは、ユーザー ID とパスワードの提供は必要ありません。

MQCSP 構造でユーザー ID およびパスワードを提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対してユーザー ID およびパスワードが認証されます。

ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

REQUIRED

すべてのクライアント・アプリケーションはユーザー ID とパスワードを **MQCSP** 構造で提供する必要があります。このユーザー ID とパスワードは、提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。

ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

REQDADM

特権ユーザー ID を使用するすべてのクライアント・アプリケーションは、MQCSP 構造でユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。特権なしのユーザー ID を使用するローカルにバインドされたアプリケーションは、ユーザー ID とパスワードを提供する必要がなく、OPTIONAL 設定と同じように扱われます。

提供されたユーザー ID とパスワードは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

注：認証タイプが LDAP の場合、CHCKCLNT 属性の REQDADM 値は無効です。これは、LDAP ユーザー・アカウントを使用する際には特権ユーザー ID の概念がないためです。LDAP ユーザー・アカウントとグループにはアクセス権が明示的に割り当てられている必要があります。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

 (この設定は z/OS システムでは使用できません。)

重要：

1. この属性は、クライアント接続と一致する CHLAUTH ルールの **CHCKCLNT** 属性によってオーバーライドされることがあります。そのため、キュー・マネージャーの **CONNAUTH AUTHINFO CHCKCLNT** 属性によって、CHLAUTH ルールと一致しないクライアント接続のデフォルトのクライアント検査動作、または一致する CHLAUTH ルールに **CHCKCLNTASQMGR** がある場合を設定します。
2. NONE を選択し、クライアント接続が **CHCKCLNT REQUIRED** (または z/OS 以外のプラットフォームの場合は **REQDADM**) が指定された CHLAUTH レコードに一致する場合、接続は失敗します。z/OS 以外のプラットフォームでは、メッセージ AMQ9793 を受信します。z/OS では、メッセージ CSQX793E を受信します。
3. このパラメーターは、**TYPE** (USERMAP)、**TYPE** (ADDRESSMAP)、および **TYPE** (SSLPEERMAP) が指定され、かつ **USERSRC** が **NOACCESS** に設定されていない場合のみ、有効になります。
4. このパラメーターは、サーバー接続チャネルであるインバウンド接続にのみ適用されます。

CHCKLOCL

この属性によって、ローカルにバインドされたアプリケーションの認証要件が設定されます。この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWOS** または **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

NONE

ユーザー ID およびパスワード検査は行われません。ローカルでバインドされたアプリケーションによってユーザー ID またはパスワードが指定されている場合、資格情報は無視されます。

OPTIONAL

ローカルでバインドされたアプリケーションでは、ユーザー ID およびパスワードの提供は必要ありません。

MQCSP 構造でユーザー ID およびパスワードを提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対してユーザー ID およびパスワードが認証されます。

ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

REQUIRED

すべてのローカルでバインドされたアプリケーションはユーザー ID とパスワードを MQCSP 構造で提供する必要があります。このユーザー ID とパスワードは、提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

▶ **z/OS** MQCONN クラスの BATCH プロファイルに対する UPDATE 権限をユーザー ID が持っている場合は、**CHCKLOCL(REQUIRED)** を **CHCKLOCL(OPTIONAL)** であるかのように扱うことができます。つまり、パスワードを指定する必要はありませんが、指定する場合は正しいパスワードでなければなりません。

ローカルにバインドされたアプリケーションでの **CHCKLOCL** の使用を参照してください。

REQDADM

特権ユーザー ID を使用するローカルにバインドされたアプリケーションはすべて、**MQCSP** 構造でユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。特権なしのユーザー ID を使用するローカルにバインドされたアプリケーションは、ユーザー ID とパスワードを提供する必要がなく、**OPTIONAL** 設定と同じように扱われます。

提供されたユーザー ID とパスワードは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

▶ **z/OS** (この設定は z/OS システムでは使用できません。)

V 8.0.0.2 CLASSGRP

LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

この値がブランクの場合には、**groupOfNames** が使用されます。

他に通常使用される値には、**groupOfUniqueNames** や **group** があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

CLASSUSR(LDAP class user)

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

ブランクの場合、値は通常必要とされる値である **inetOrgPerson** にデフォルト設定されます。

Microsoft Active Directory では、必要とされる値は多くの場合 **user** です。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

▶ **z/OS** CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、**QSGDISP** が **GROUP** に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。* は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CONNNAME(connection name)

LDAP サーバーが稼働しているホストのホスト名、IPv4 ドット 10 進アドレス、または IPv6 16 進表記。オプションでポート番号を指定します。

接続名を IPv6 アドレスとして指定する場合、IPv6 スタックを使用するシステムのみがこのアドレスを解決できます。AUTHINFO オブジェクトがキュー・マネージャーの CRL 名前リストの一部である場合は、キュー・マネージャーによって生成されたクライアント・チャンネル・テーブルを使用するすべてのクライアントが接続名を解決できるようにしてください。

z/OS で、CONNAME が IPv6 ネットワーク・アドレスに 解決される場合は、LDAP サーバーへの接続用に IPv6 を サポートするレベルの z/OS が必要です。

CONNAME の構文はチャンネルの構文と同じです。例:

```
conname(' hostname ( nnn )')
```

nnn はポート番号です。

このフィールドの最大長は、IBM i、UNIX システム、および Windows で 264 文字、z/OS で 48 文字です。

この属性は、この属性が必須であるときに **AUTHTYPE** が **CRLLDAP** および **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

AUTHTYPE が **IDPWLDAP** である場合は、接続名のコンマ区切りのリスト にすることができます。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY AUTHINFO コマンドを発行すると、認証情報オブジェクトに関する記述情報が提供されます (1012 ページの『DISPLAY AUTHINFO』を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

FAILDLAY(delay time)

接続認証にユーザー ID とパスワードが提供されたものの、そのユーザー ID またはパスワードが誤っていたために認証が失敗する場合、失敗がアプリケーションに戻される前に、ここで指定した秒数の遅延が生じます。

これは、失敗を受信した後に、アプリケーションが単純に再試行を繰り返してビジー・ループになるのを回避するのに役立ちます。

値は 0 から 60 秒の範囲でなければなりません。デフォルト値は 1 です。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWOS** および **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

▶ V 8.0.0.2 FINDGRP

グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前。

AUTHORMD = **SEARCHGRP** の場合、**FINDGRP** 属性は通常 *member* または *uniqueMember* に設定されます。

AUTHORMD = **SEARCHUSR** の場合、**FINDGRP** 属性は、通常、*memberOf* に設定されます。

ブランクのままにした場合は、次のようになります。

- **AUTHORMD** = **SEARCHGRP** の場合、**FINDGRP** 属性はデフォルトで *memberOf* になります
- **AUTHORMD** = **SEARCHUSR** の場合、**FINDGRP** 属性はデフォルトで *member* になります

▶ V 8.0.0.2 GRPFIELD

グループの単純名を表す LDAP 属性。

値がブランクの場合、**setmqaut** のようなコマンドはグループの修飾名を使用する必要があります。値は完全な識別名、または単一の属性のいずれかにできます。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

LDAPPWD(*LDAP password*)

LDAP サーバーにアクセスしているユーザーの識別名に関連付けられるパスワード。最大サイズは 32 文字です。

z/OS では、LDAP サーバーへのアクセスに使用される LDAPPWD は、AUTHINFO オブジェクトに定義されているものとは異なる場合があります。QMGR パラメーター SSLCRLNL によって参照される名前リストに複数の AUTHINFO オブジェクトがある場合、最初の AUTHINFO オブジェクトの LDAPPWD がすべての LDAP サーバーへのアクセスに使用されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が **CRLLDAP** および **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

LDAPUSER(*LDAP user*)

LDAP サーバーにアクセスしているユーザーの識別名。(識別名について詳しくは、[SSLPEER](#) パラメーターを参照してください。)

ユーザー名の最大サイズは、IBM i、UNIX システム、および Windows で 1024 文字、z/OS で 256 文字です。

z/OS では、LDAP サーバーへのアクセスに使用する LDAPUSER は、AUTHINFO オブジェクトに定義されているものとは異なる場合があります。QMGR パラメーター SSLCRLNL によって参照される名前リストに複数の AUTHINFO オブジェクトがある場合、最初の AUTHINFO オブジェクトの LDAPUSER がすべての LDAP サーバーへのアクセスに使用されます。

IBM i、UNIX システム、および Windows では、行の許容最大長は BUFSIZ に定義されています (BUFSIZ は stdio.h 内にあります)。

この属性は、**AUTHTYPE** が **CRLLDAP** および **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

V 8.0.0.2 NESTGRP

グループ・ネスティング

NO

最初に見つかったグループのみが、許可の対象となります。

YES

ユーザーが属するグループすべてを列挙するために、グループ・リストは再帰的に検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

OCSPURL(*Responder URL*)

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。この値は、OCSP 応答側のホスト名とポート番号を含む HTTP URL でなければなりません。OCSP 応答側が HTTP のデフォルトであるポート 80 を使用する場合には、ポート番号を省略できます。HTTP URL は RFC 1738 で定義されています。

このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。先頭は、小文字のストリング http:// にする必要があります。URL の残りの部分では、OCSP サーバー実装環境によっては、大文字小文字が区別されることがあります。大/小文字の区別を保持するには、単一引用符を使用して OCSPURL パラメーター値を指定します。例えば、以下のようになります。

```
OCSPURL ('http://ocsp.example.ibm.com')
```

AUTHTYPE(CRLLDAP) が指定された場合、OCSPURL は必須です。AUTHTYPE(CRLLDAP) が指定されない場合、OCSPURL は無効です。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	ALTER
COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE AUTHINFO(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの ALTER は有効になります。
PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたものです。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。
QMGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

SECCOMM

LDAP サーバーへの接続が SSL/TLS を使用して安全に行われる必要があるかどうか

YES

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用して安全に行われます。

使用される証明書は、キュー・マネージャーのデフォルトの証明書で、キュー・マネージャー・オブジェクトで CERTLABL と指定されているか、それがブランクである場合は、[デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)に記載されているものです。

証明書は、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに置かれます。暗号仕様は、IBM MQ サーバーと LDAP サーバーの両方でサポートされるものとなるようネゴシエーションされます。

キュー・マネージャーが SSLFIPS(YES) または SUITEB 暗号仕様を使用するよう構成されている場合、これは LDAP サーバーへの接続において同様に考慮されます。

ANON

LDAP サーバーへの接続は、SECCOMM(YES) と同様に SSL/TLS を使用して安全に行われますが、違いが 1 つあります。

証明書は LDAP サーバーに送信されません。接続は匿名で行われます。この設定を使用するには、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに、デフォルトとしてマークされた証明書が含まれていないことを確認してください。

NO

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用しません。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

SHORTUSR(*user name*)

IBM MQ での短いユーザー名として使用される、ユーザー・レコード内のフィールド。

このフィールドには、12 文字以下の値を入れる必要があります。この短いユーザー名は、以下の目的で使用されます。

- LDAP 認証が有効であるが、LDAP 権限が有効ではない場合、これは許可検査のオペレーティング・システムのユーザー ID として使用されます。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要があります。
- LDAP 認証と権限の両方が有効で、メッセージ内のユーザー ID を使用しなければならない場合、これは LDAP ユーザー名を再発見するためのメッセージに付随するユーザー ID として使用されます。

例えば、別のキュー・マネージャーにおいて、またはレポート・メッセージの書き込み時などです。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要はありませんが、固有のストリングでなければなりません。この目的として使用できる属性の良い例としては、従業員シリアル番号があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** であり、必須である場合にのみ有効です。

USRFIELD(*user field*)

認証用のアプリケーションで提供されるユーザー ID に LDAP ユーザー・レコード内のフィールドの修飾子が含まれていない、つまり '=' 記号が含まれていない場合、この属性は提供されるユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールドを識別します。

このフィールドは、ブランクにすることができます。その場合、非修飾ユーザー ID では、**SHORTUSR** パラメーターを使用して指定されたユーザー ID を解釈します。

このフィールド内容は '=' 記号とアプリケーション提供の値に連結され、完全なユーザー ID として LDAP ユーザー・レコードに置かれます。例えば、アプリケーション提供のユーザーが **fred** でフィールド値が **cn** の場合、LDAP リポジトリの **cn=fred** が検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

ALTER BUFFPOOL

MQSC コマンド **ALTER BUFFPOOL** は、定義済みバッファ・プールの設定を動的に変更するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

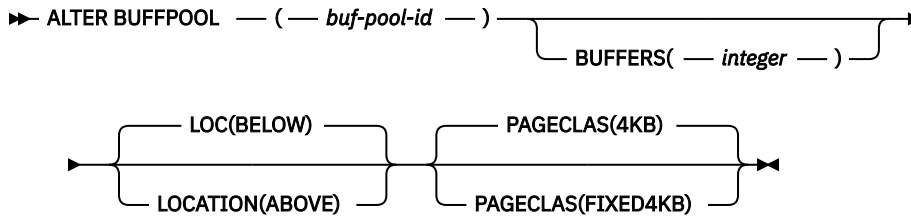
ALTER BUFFPOOL コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- 656 ページの『[ALTER BUFFPOOL の使用上の注意](#)』
- 656 ページの『[ALTER BUFFPOOL のパラメーターの説明](#)』

同義語: ALT BP

ALTER BUFFPOOL



ALTER BUFFPOOL の使用上の注意

1. バッファは、値が現在の割り振り (DISPLAY USAGE コマンドによって表示可能) より大きい小さいかに従って追加または削除されます。
2. PAGECLAS 属性によって指定したタイプのストレージが不足していて、要求された数を追加できない場合は、可能な数だけ追加されます。
3. コマンドは非同期で処理されます。コマンドが完了すると、メッセージ CSQP023I がコンソールに送信されます。
4. ALTER BUFFPOOL は、CSQINPT から発行できません。
5. ALTER BUFFPOOL コマンドを使用してバッファ・プールを変更した場合、特にバッファ・プールの量を大幅に減らした場合は、バッファ・プール・サイズの変更によるストレージのフラグメント化を解消するために、可能な限り早くキュー・マネージャーを再始動してください。

キュー・マネージャーをリサイクルしないと、IBM MQ MSTR アドレス・スペース内の領域ストレージのフラグメント化が原因で、エラー・コード、ABEND878-10 - Virtual private region depleted を受け取る可能性があります。

ALTER BUFFPOOL のパラメーターの説明

(buf-pool-id)

バッファ・プール ID。

このパラメーターは 0 から 15 の範囲の整数です。OPMODE が OPMODE=(NEWFUNC, 800) に設定されている場合、このパラメーターは 0 から 99 の範囲の整数です。

BUFFERS(integer)

このパラメーターはオプションで、このバッファ・プールで使用する 4096 バイト・バッファの数です。

LOCATION パラメーターの値が BELOW である場合、バッファの最小値は 100 で、最大値は 500,000 です。LOCATION パラメーターの値が ABOVE のとき、有効値は 100 から 999999999 (9 が 9 個) までの範囲となる。LOCATION ABOVE によってバッファ・プール内のバッファで使用するストレージは、4MB の倍数で取得されます。そのため、1024 の倍数である BUFFERS 値を指定すると、ストレージが最も効率的に使用されます。

各バッファ・プール内に定義可能なバッファ数については、[バッファおよびバッファ・プール](#)を参照してください。

バッファ・プールを定義する際は、2 GB 境界より上または下で、十分な量の使用可能ストレージが確保されるよう取り計らってください。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

注: 大きなバッファ・プールを作成すると、バッファ・プールのサイズとマシン構成によっては何分もかかる場合があります。場合によっては、メッセージ CSQP061I が出力されることがあります。

LOCATION(LOC)(BELOW または ABOVE)

LOCATION (または LOC) パラメーターは、指定したバッファ・プールによって使用されるメモリの位置を指定します。

LOCATION と LOC は同義語です。使用できるのはどちらか一方だけで、両方は使用できません。

このメモリ位置は、2 GB 境界より上 (64 ビット) または下 (31 ビット) で、それぞれ ABOVE と BELOW で指定されます。このパラメーターの有効値は、BELOW または ABOVE で、BELOW がデフォルトです。

ABOVE は、OPMODE(NEWFUNC, 800) が有効である場合にのみ指定できます。BELOW は、OPMODE(NEWFUNC, 800) が使用されているかどうかに関わらず指定可能で、LOCATION パラメーターを指定しない場合と同じ結果になります。

バッファ・プールを変更する際、バッファの数を増やすか LOCATION 値を変更する場合には、十分な量の使用可能ストレージが確保されるように取り計らってください。バッファ・プールのロケーションの切り替えは、CPU および入出力を集中的に使用するタスクとなる可能性があります。このタスクは、キュー・マネージャーがあまり使用されていない場合に実行する必要があります。

詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

PAGECLAS(4KB または *FIXED4KB*)

バッファ・プールのバッファをバッキングする (補助ストレージに保管する) ために使用する仮想ストレージ・ページのタイプを記述するオプション・パラメーターです。

この属性は、ALTER BUFFPOOL コマンドを使用した結果として後から追加されたバッファを含め、バッファ・プール内のすべてのバッファに適用されます。デフォルト値は 4KB で、プール内のバッファをバッキングするためにページング可能な 4KB ページが使用されます。

バッファ・プールの LOCATION 属性を BELOW に設定した場合は、4KB だけが有効な値です。バッファ・プールの LOCATION 属性が ABOVE に設定されている場合は、FIXED4KB を指定することもできます。これは、バッファ・プールのバッファをバッキングするために、固定された 4KB ページを使用することを意味します。このページは、永続的に実ストレージに固定され、補助ストレージにページアウトされません。

FIXED4KB を指定できるのは、OPMODE(NEWFUNC, 800) が有効な場合のみです。それに対して、4KB は、OPMODE(NEWFUNC, 800) の設定とは無関係に指定できます。

バッファ・プールの PAGECLAS 属性は、いつでも変更できます。ただし、変更が実施されるのは、バッファ・プールのロケーションが 2 GB 境界より上から 2 GB 境界より下に切り替わるとき (または、その逆が起きるとき) のみです。それ以外の場合は、値がキュー・マネージャーのログに格納され、キュー・マネージャーの次の再始動時に適用されます。

PAGECLAS の現行値を確認するには、DISPLAY USAGE PSID(*) コマンドを発行します。これを行うと、PAGECLAS の現行値がキュー・マネージャーのログにある値と異なっている場合に、[CSQP062I](#) メッセージが出力されます。

以下に例を示します。

- バッファ・プール 7 に、現在、LOCATION(ABOVE) と PAGECLAS(4KB) が指定されているとします。この場合に ALTER BUFFPOOL(7) PAGECLAS(FIXED4KB) を指定すると、LOCATION が変更されなかったため、バッファ・プールは引き続きページング可能な 4KB ページにバッキングされます。
- バッファ・プール 8 に、現在、LOCATION(BELOW) と PAGECLAS(4KB) が指定されているとします。この場合に ALTER BUFFPOOL(8) LOCATION(ABOVE) PAGECLAS(FIXED4KB) を指定すると、バッファ・プールは 2 GB 境界より上に移動し、そのバッファは固定された 4KB ページ (利用可能な場合) にバッキングされます。

PAGECLAS(FIXED4KB) を指定すると、バッファ・プール全体が、ページが固定された 4KB ページにバッキングされることになるため、LPAR に使用可能な実ストレージが十分であることを確認してください。不足していると、キュー・マネージャーが始動できなかったり、他のアドレス・スペースが影響を受けたりすることがあります。詳細については、[アドレス・スペース・ストレージ](#)>を参照してください。

PAGECLAS 属性の FIXED4KB 値をいつ使用するかについては、IBM MQ Support Pac [MP16: IBM MQ for z/OS -Capacity planning & tuning](#) を参照してください。

z/OS ALTER CFSTRUCT

MQSC コマンド ALTER CFSTRUCT は、CF アプリケーション構造体のバックアップとリカバリーのパラメーター、および指定された任意のアプリケーション構造体のオフロード環境パラメーターを変更するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

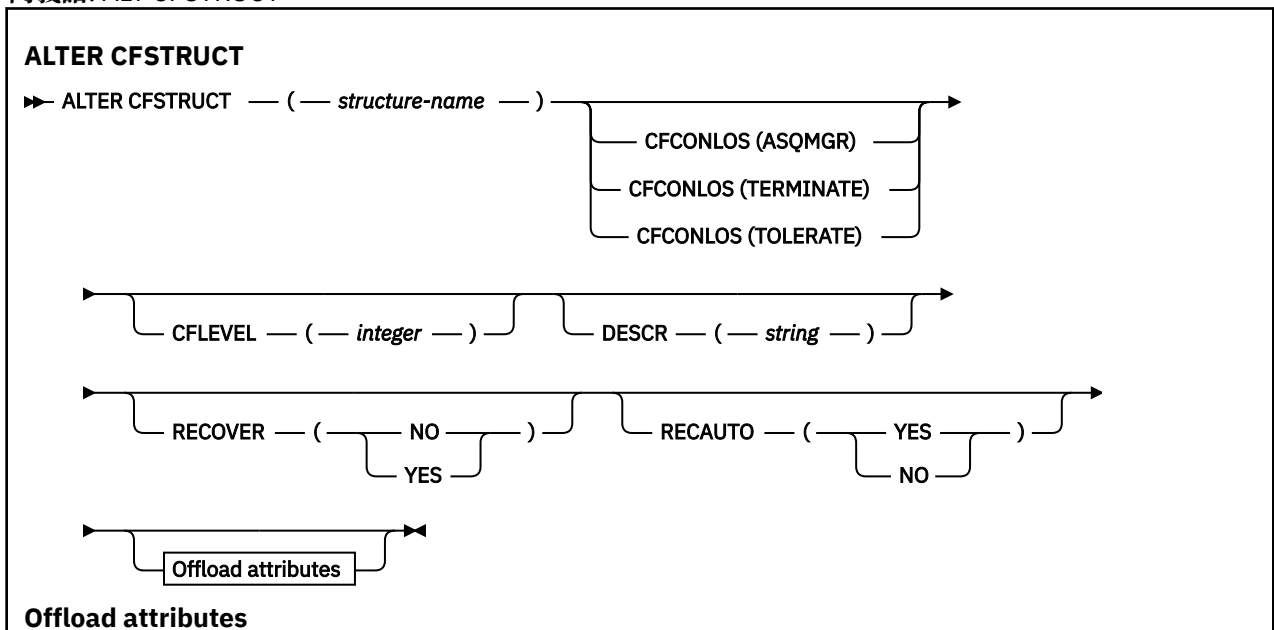
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

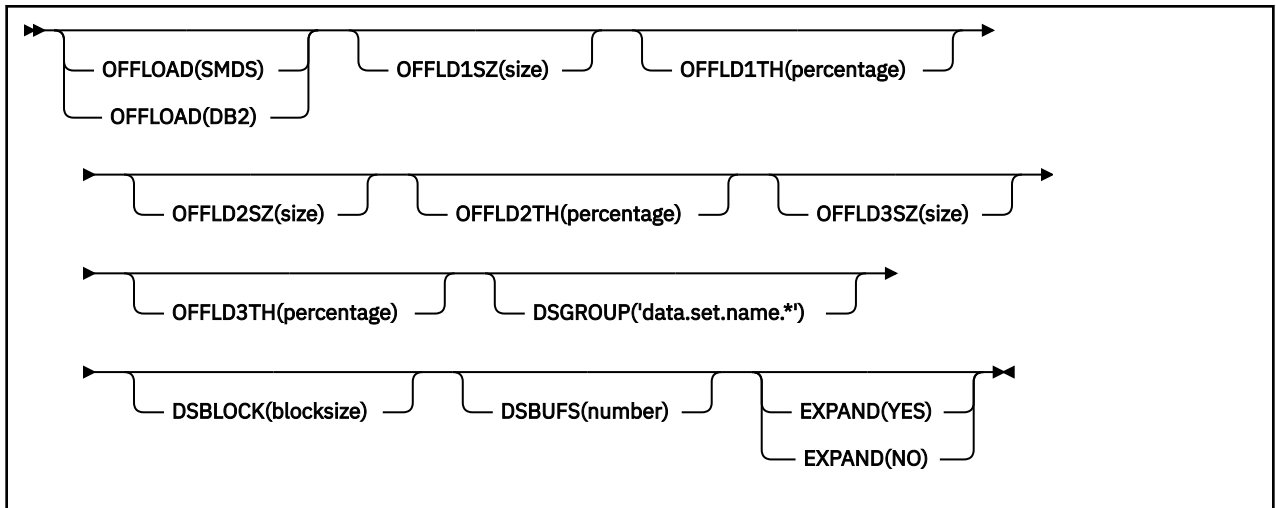
ALTER CFSTRUCT コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [659 ページの『使用上の注意』](#)
- [659 ページの『ALTER CFSTRUCT のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT CFSTRUCT





使用上の注意

- このコマンドは、CF 管理構造体 (CSQ_ADMIN) を指定できません。
- このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

ALTER CFSTRUCT のパラメーターの説明

(structure-name)

キュー・マネージャー CF レベル機能を備えたカップリング・ファシリティ・アプリケーション構造体の名前、および定義するバックアップ・パラメーターとリカバリー・パラメーター。このパラメーターは必須です。

名前には次の条件があります。

- 12 文字より長くすることはできません。
- 大文字で始める必要があります (A-Z)。
- A から Z と 0 から 9 の文字のみを含めることができます。

指定した名前には、キュー・マネージャーが接続されるキュー共有グループの名前が接頭部として付きます。キュー共有グループの名前は必ず 4 文字で、必要に応じて記号 @ が埋め込まれます。例えば、NY03 という名前のキュー共有グループを使用し、PRODUCT7 という名前を指定する場合、生成されるカップリング・ファシリティ構造体名は NY03PRODUCT7 です。キュー共有グループの管理構造体 (この場合は NY03CSQ_ADMIN) はメッセージの保管に使用できません。

CFCONLOS

このパラメーターは、キュー・マネージャーが CF 構造体に対する接続を失ったときに実行されるアクションを指定します。値は次のいずれかです。

ASQMGR

実行されるアクションは、CFCONLOS キュー・マネージャー属性の設定に基づきます。

TERMINATE

構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。CFLEVEL を 5 に上げると、これがデフォルト値になります。

TOLERATE

構造体への接続が失われても、キュー・マネージャーはそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

CFLEVEL(integer)

この CF アプリケーション構造体の機能レベルを指定します。値は次のいずれかになります。

1

コマンド・レベル 520 のキュー・マネージャーによって「自動作成」できる CF 構造体。

2

コマンド・レベル 530 以上のキュー・マネージャーによってのみ作成または削除できる、コマンド・レベル 520 の CF 構造体。

3

コマンド・レベル 530 の CF 構造体。この CFLEVEL は、共有キュー上で持続メッセージを使用する場合 (RECOVER(YES) が設定されている場合) や、メッセージのグループ化 (ローカル・キューが INDXTYPE(GROUPID) で定義されている場合)、またはその両方が当てはまる場合に必須です。

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 530 以上である場合にのみ、CFLEVEL の値を 3 に上げることができます。それにより、構造体を参照するキューへの潜在的なコマンド・レベル 520 接続がなくなります。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (メッセージやコミットされていないアクティビティがない) かつクローズしている場合にのみ、CFLEVEL の値を 3 から下げることができます。

4

この CFLEVEL はすべての CFLEVEL(3) 機能をサポートします。CFLEVEL(4) を使用することにより、このレベルの CF 構造体で定義されたキューに 63 KB より長いメッセージを保持できます。

コマンド・レベルが 600 以上のキュー・マネージャーのみが、CFLEVEL(4) の CF 構造体に接続できます。

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 600 以上である場合にのみ、CFLEVEL の値を 4 に上げることができます。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (メッセージやコミットされていないアクティビティがない) かつクローズしている場合にのみ、CFLEVEL の値を 4 から下げることができます。

5

この CFLEVEL は CFLEVEL(4) のすべての機能をサポートします。さらに、CFLEVEL(5) では次の新機能が使用可能になります。既存の CFSTRUCT を CFLEVEL(5) に変更する場合は、次に示す他の属性を確認する必要があります。

- このレベルの CF 構造体で定義されたキューでは、OFFLOAD 属性の制御下で、メッセージ・データを共有メッセージ・データ・セット (SMDS) または Db2® にオフロードできます。オフロードしきい値パラメーターおよびオフロード・サイズ・パラメーター (OFFLD1TH および OFFLD1SZ など) は、そのサイズおよび現在の CF 構造体の使用状況に基づいて、特定のメッセージをオフロードするかどうかを判別します。SMDS オフロードを使用する場合、DSGROUP、DSBUFS、DSEXPAND、および DSBLOCK の各属性が考慮されます。
- CFLEVEL(5) の構造体を使用すると、キュー・マネージャーは CF 構造体への接続を失ってもそれを許容できます。CFCONLOS 属性は接続が失われたことが検出された場合のキュー・マネージャーの動作を決定し、RECAUTO 属性はそれに続く構造体の自動リカバリー動作を制御します。
- IBM MQ メッセージ・プロパティを含むメッセージは、CFLEVEL(5) 構造体内の共有キューに、異なる形式で保管されます。この形式により、内部処理が最適化されます。追加のアプリケーション移行機能も使用できます。これらの機能は、キューの PROPCTL 属性により使用可能になります。

コマンド・レベル 710 以上のキュー・マネージャーだけが CFLEVEL(5) の CF 構造体に接続できます。

注:

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 710 以上であり、OPMODE で IBM WebSphere MQ 7.1.0 の新機能が使用可能に設定されている場合にのみ、CFLEVEL の値を 5 に上げることができます。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (つまり、キューと CF 構造体にメッセージやコミットされていないアクティビティーがない)、かつクローズしている場合にのみ、CFLEVEL の値を 5 から下げることができます。

DESCR(string)

オペレーターが DISPLAY CFSTRUCT コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報を提供するプレーン・テキストのコメントです。

ストリングには表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

OFFLOAD

オフロードされたメッセージ・データを、共有メッセージ・データ・セットのグループと Db2 のどちらに保管するかを指定します。

SMDS

カップリング・ファシリティからのメッセージを共有メッセージ・データ・セット (SMDS) にオフロードします。

Db2

カップリング・ファシリティからのメッセージを Db2 にオフロードします。CFLEVEL を 5 に上げると、この値がデフォルト解釈になります。

Db2 を使用してメッセージをオフロードすると、パフォーマンスに大きく影響します。容量を増やす手段としてオフロード規則を使用する場合は、SMDS オプションを指定するようにしてください。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。CFLEVEL(4) では、メッセージは常に Db2 にオフロードされ、カップリング・ファシリティの最大エントリー・サイズより大きいメッセージにのみ適用されます。

注:

オフロードの手法を (Db2 から SMDS へ、またはその逆へ) 変更すると、新規メッセージはすべて新しい手法で書き込まれますが、その後も以前の手法で保管されている既存の大容量メッセージを取り出すことができます。関係する Db2 メッセージ・テーブルや共有メッセージ・データ・セットは、キュー・マネージャーが古い形式で保管されているメッセージが無くなったことを検出するまで、継続して使用されます。

SMDS が指定されている場合は、DSGROUP パラメーターも必須です。これは、同じコマンドに、または同じ構造体に対する直前の DEFINE コマンドまたは ALTER コマンドに指定できます。

OFFLD1TH(percentage) OFFLD1SZ(size)

OFFLD2TH(percentage) OFFLD2SZ(size)

OFFLD3TH(percentage) OFFLD3SZ(size)

カップリング・ファシリティの最大エントリー・サイズより小さいメッセージを、アプリケーション構造体に保管するのではなく、外部ストレージ (共有メッセージ・データ・セットまたは Db2 テーブル) にオフロードする場合の規則を指定します。これらの規則を使用して、構造体の有効な容量を増やすことができます。オフロードされたメッセージにも、メッセージ制御情報を含むカップリング・ファシリティ内のエントリーと、オフロードされたメッセージ・データを参照する記述子は必要ですが、必要とされる構造体スペースの量がメッセージ全体を保管するために必要とされる量より少なくて済みます。

メッセージ・データが非常に小さい (140 バイトほどより小さい) 場合は、データ・エレメントを追加しなくても、メッセージ制御情報と同じカップリング・ファシリティ・エントリーに収まることもあります。この場合、保存できるスペースがないため、オフロード規則はすべて無視され、メッセージ・データはオフロードされません。

カップリング・ファシリティの最大エントリー・サイズ (制御情報を含めて 63.75 KB) を超えるメッセージは、カップリング・ファシリティのエントリーに保管できないため、常にオフロードされま

す。制御情報に利用可能なスペースが十分取れるようにするために、メッセージ本文が 63 KB を超えるメッセージもオフロードされます。サイズの小さいメッセージのオフロードを要求する追加規則を、次のキーワードの対を使って指定できます。各規則が示すように、(エレメントまたは項目の) 構造体の使用量が指定された比率しきい値を超えた場合に、メッセージ全体 (メッセージ・データ、ヘッダー、および記述子を含む) を保管するために必要なカップリング・ファシリティ・エントリーの合計サイズが指定されたサイズ値を超えると、メッセージ・データがオフロードされます。ヘッダーと記述子には通常、約 400 バイト必要です。

percentage

使用量の比率しきい値は、0 (規則を常に適用する) から 100 (構造体が満杯である場合にのみこの規則を適用する) の範囲の整数です。

size

整数の後に K を付けて **0K** から **64K** の範囲のキロバイト数でメッセージ・サイズ値を指定します。63.75 KB を超えるメッセージは常にオフロードされるため、値 **64K** を指定することで、規則を使用しないことを簡単に示すことができます。

一般には、より少ない数字を指定するほど、オフロードされるメッセージの量も増えます。

いずれかのオフロード規則に合致すると、メッセージはオフロードされます。一般に前の規則よりも後の規則のほうの使用量のレベルが高くメッセージ・サイズが小さい設定にするというきまりがありますが、規則間の一貫性や冗長は検査されません。

構造体の ALTER 処理がアクティブである場合、使用中のエレメントまたは項目の数が報告された合計数を一時的に超え、100 を超えるパーセントが示されることがあります。これは、新しいエレメントや項目は ALTER 処理中に使用可能になりますが、合計は ALTER の完了時にのみ更新されるためです。そのような場合、しきい値に 100 を指定する規則が一時的に有効になることがあります。規則が使用されないようにするには、サイズとして 64K を指定する必要があります。

新しい構造体を CFLEVEL(5) で定義する場合、または既存の構造体を CFLEVEL(5) にアップグレードする場合に、想定されるオフロード規則のデフォルト値は、OFFLOAD メソッドのオプションによって異なります。OFFLOAD(SMDS) の場合、デフォルト規則は、構造体が満杯になった場合にオフロードの量を増やすことを指定します。これにより、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えつつ、有効な構造体の容量が増えます。OFFLOAD(Db2) の場合、デフォルト規則のしきい値は SMDS のものと同じですが、サイズ値は 64K に設定され、CFLEVEL(4) の場合と同様に、規則が決して適用されず、メッセージは構造体に保管するには大きすぎる場合にのみオフロードされるようになります。

OFFLOAD(SMDS) の場合のデフォルトは次のとおりです。

- OFFLD1TH(70) OFFLD1SZ(32K)
- OFFLD2TH(80) OFFLD2SZ(4K)
- OFFLD3TH(90) OFFLD3SZ(0K)

OFFLOAD(Db2) の場合のデフォルトは次のとおりです。

- OFFLD1TH(70) OFFLD1SZ(64K)
- OFFLD2TH(80) OFFLD2SZ(64K)
- OFFLD3TH(90) OFFLD3SZ(64K)

現在のオフロード規則がすべて古いメソッドのデフォルト値に一致する場合に、OFFLOAD メソッド・オプションが Db2 から SMDS に、またはその逆に変更されると、オフロード規則は新しいメソッドのデフォルト値に切り替えられます。ただし、いずれかの規則が変更されている場合は、メソッドを切り替えても現行値が保持されます。

これらのパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。CFLEVEL(4) では、メッセージは常に Db2 にオフロードされ、カップリング・ファシリティの最大エントリー・サイズより大きいメッセージにのみ適用されます。

DSGROUP

OFFLOAD(SMDS) の場合、この構造体に関連付けられている共有メッセージ・データ・セットのグループに使用される総称データ・セット名を (キュー・マネージャーごとに 1 つ) 指定します。このとき、

キュー・マネージャー名が挿入される場所を表すアスタリスクを 1 つだけ追加して、特定のデータ・セット名を表すようにします。

'data.set.name.*'

アスタリスクを最大 4 文字のキュー・マネージャー名で置き換える場合、値は有効なデータ・セット名でなければなりません。キュー・マネージャー名は、データ・セット名の修飾子全体またはその一部を構成することができます。

パラメーター値全体を引用符で囲む必要があります。

構造体に対していずれかのデータ・セットがアクティブにされた後には、このパラメーターは変更できません。

SMDS が指定されている場合は、DSGROUP パラメーターの指定も必須です。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

DSBLOCK

OFFLOAD(SMDS) の場合、論理ブロック・サイズ、つまり共有メッセージ・データ・セットのスペースを個別のキューに割り振る際に使用する単位を指定します。

8K
16K
32K
64K
128K
256K
512K
1M

各メッセージは、現在のブロック内の次のページから書き込まれ、必要に応じてさらにブロックが割り振られます。サイズを大きくすると、スペース管理に必要な作業と大容量メッセージの入出力が削減されますが、小さいキューのためのバッファー・スペース所要量とディスク・スペース所要量が増大します。

構造体に対していずれかのデータ・セットがアクティブにされた後には、このパラメーターは変更できません。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

DSBUFS

OFFLOAD(SMDS) の場合、共有メッセージ・データ・セットへのアクセス用に各キュー・マネージャー内で割り振るバッファーの数を、1 から 9999 までの範囲の数値で指定します。各バッファーのサイズは、論理ブロック・サイズと同じです。SMDS バッファーは、z/OS 64 ビット・ストレージ (2 GB 境界より上) にあるメモリー・オブジェクトに割り振られます。

number

このパラメーターは、ALTER SMDS の DSBUFS パラメーターを使用して、キュー・マネージャーごとに個別にオーバーライドすることができます。

このパラメーターが変更されると、既に構造体に接続しているキュー・マネージャー (および個別の DSBUFS オーバーライド値を持たないキュー・マネージャー) は、この構造体に使用するデータ・セット・バッファーの数を新しい値に合わせて動的に増減させます。指定されたターゲット値に達しない場合、影響を受けるキュー・マネージャーは、(ALTER SMDS コマンドの場合と同様に) それ自身の SMDS 定義に関連付けられている DSBUFS パラメーターを実際の新しいバッファー数に合わせて調整します。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

これらのバッファーは仮想ストレージを使用しています。z/OS システム・プログラマーと協力して、バッファーの数を増やす前に、使用可能な補助ストレージが十分であることを確認する必要があります。

DSEXPAND

OFFLOAD(SMDS) の場合、このパラメーターは、共有メッセージ・データ・セットが満杯に近くなり、データ・セットに追加のブロックが必要になった場合に、キュー・マネージャーが共有メッセージ・データ・セットを拡張するかどうかを制御します。

YES

拡張がサポートされます。

拡張が必要になるたびに、データ・セットが定義されたときに指定された 2 次割り振りの分だけデータ・セットが拡張されます。2 次割り振りが指定されていない場合、または 0 に指定されている場合は、既存のサイズの約 10 % の容量が 2 次割り振りに使用されます。

NO

データ・セットの自動拡張は行われません。

このパラメーターは、ALTER SMDS の DSEXPAND パラメーターを使用して、キュー・マネージャーごとに個別にオーバーライドすることができます。

拡張を試行して失敗すると、影響を受けるキュー・マネージャーの DSEXPAND オーバーライドは自動的に NO に変更され、それ以後は拡張を試行できなくなります。ただし、ALTER SMDS コマンドを使用して YES に戻し、その後も拡張が試行されるようにすることができます。

このパラメーターが変更されると、既に構造体に接続しているキュー・マネージャー (および個別の DSEXPAND オーバーライド値を持たないキュー・マネージャー) は、すぐに新しいパラメーター値の使用を開始します。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

RECOVER

CF リカバリーがアプリケーション構造体でサポートされるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

NO

CF アプリケーション構造体のリカバリーをサポートしません。(同義語は **N** です。)

YES

CF アプリケーション構造体のリカバリーをサポートします。(同義語は **Y** です。)

構造体の CFLEVEL が 3 以上の場合にのみ、RECOVER(YES) を設定できます。持続メッセージを使用する場合は、RECOVER(YES) を設定します。

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 530 以上である場合にのみ、RECOVER(NO) を RECOVER(YES) に変更できます。それにより、CFSTRUCT を参照するキューへの潜在的なコマンド・レベル 520 接続がなくなります。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (メッセージやコミットされていないアクティビティがない) かつクローズしている場合にのみ、RECOVER(YES) を RECOVER(NO) に変更できます。

RECAUTO

キュー・マネージャーが構造体に障害が発生したことを検出したとき、またはキュー・マネージャーが構造体に対する接続を失ったときに、その構造体が割り振られているカップリング・ファシリティへの接続を持つシステムが SysPlex 内にない場合に実行される自動リカバリー・アクションを指定します。指定可能な値は次のとおりです。

YES

構造体と、それに関連する (同様にリカバリーを必要とする) 共有メッセージ・データ・セットは、自動的にリカバリーされます。(同義語は **Y** です。)

NO

構造体は自動的にリカバリーされません。(同義語は **N** です。) CFLEVEL を 5 に上げると、これがデフォルト値になります。

このパラメーターは、RECOVER(NO) で定義された構造体には効果がありません。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

ALTER CHANNEL

チャンネルのパラメーターを変更するには、MQSC コマンド ALTER CHANNEL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

ALTER CHANNEL コマンドでパラメーターが指定されない場合、パラメーターの既存の値が変更されずに残ります。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

同義語: ALT CHL

- [665 ページの『使用上の注意』](#)
- [665 ページの『ALTER CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

使用上の注意

- 変更は、チャンネルが次に開始されるときに有効になります。
- クラスター・チャンネル (表の CLUSSDR 列と CLUSRCVR 列) では、可能であれば両方のチャンネルに属性を設定し、設定を確実に同じにします。これらの設定が一致していない場合、CLUSRCVR チャンネルで指定した設定の方が使用されます。これについては、[クラスター・チャンネル](#)で説明しています。
- XMITQ 名または CONNAME を変更する場合には、チャンネルの両端のシーケンス番号をリセットする必要があります。(SEQNUM パラメーターについては、[1261 ページの『RESET CHANNEL』](#)を参照してください。)
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の ALTER CHANNEL ステップ](#)を参照してください。

ALTER CHANNEL のパラメーターの説明

以下の表に、各タイプのチャンネルに関連するパラメーターを示します。表の下に、各パラメーターの説明を示します。説明で必須であると記述されていない限り、パラメーターの指定はオプションです。

表 55. DEFINE および ALTER CHANNEL パラメーター									
パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNTC ONN	SVRCO NN	CLUSSD R	CLUSR CVR	
AFFINITY					✓				
  AMQPKA									✓
BATCHHB	✓	✓					✓	✓	
BATCHINT	✓	✓					✓	✓	
BATCHLIM	✓	✓					✓	✓	
BATCHSZ	✓	✓	✓	✓			✓	✓	

表 55. DEFINE および ALTER CHANNEL パラメーター (続き)

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNTC ONN	SVRCO NN	CLUSSD R	CLUSR CVR	V 8.0.0.4 AMQP
CERTLABL	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓
channel-name	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
CHLTYPE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
CLNTWGHT					✓				
CLUSNL							✓	✓	
CLUSTER							✓	✓	
CLWLPRTY							✓	✓	
CLWLRANK							✓	✓	
CLWLWGHT							✓	✓	
 z/OS  z/OS CMDSCOPE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
COMPHDR	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
COMPMSG	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
CONNAME	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
CONVERT	✓	✓					✓	✓	
DEFCDISP	✓	✓	✓	✓		✓			
DEFRECON					✓				
DESCR	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DISCINT	✓	✓				✓	✓	✓	
HBINT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
KAINT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
LIKE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
LOCLADDR	✓	✓		✓	✓		✓	✓	✓
LONGRTY	✓	✓					✓	✓	
LONGTMR	✓	✓					✓	✓	
MAXINST						✓			✓
MAXINSTC						✓			
MAXMSGL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

表 55. DEFINE および ALTER CHANNEL パラメーター (続き)

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNTC ONN	SVRCO NN	CLUSSD R	CLUSR CVR	V 8.0.0.4 AMQP
MCANAME	✓	✓		✓			✓	✓	
MCATYPE	✓	✓		✓			✓	✓	
MCAUSER			✓	✓		✓		✓	✓
MODENAME	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
MONCHL	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	
MRDATA			✓	✓				✓	
MREXIT			✓	✓				✓	
MRRTY			✓	✓				✓	
MRTMR			✓	✓				✓	
MSGDATA	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MSGEXIT	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
NETPRTY								✓	
NPMSPEED	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
PASSWORD	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
V 8.0.0.4 V 8.0.0.4 PORT									✓
PROPCTL	✓	✓					✓	✓	
PUTAUT			✓	✓		✓		✓	
QMNAME					✓				
z/OS z/OS QSGDISP	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
RCVDATA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
RCVEXIT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
REPLACE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SCYDATA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SCYEXIT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SENDDATA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SENDEXIT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

表 55. DEFINE および ALTER CHANNEL パラメーター (続き)									
パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNTC ONN	SVRCO NN	CLUSSD R	CLUSR CVR	V 8.0.0.4 AMQP
SEQWRAP	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
SHARECNV					✓	✓			
SHORTRTY	✓	✓					✓	✓	
SHORTTMR	✓	✓					✓	✓	
SSLCAUTH		✓	✓	✓		✓		✓	
SSLCIPH ¹	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
SSLPEER	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
STATCHL	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
TPNAME	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	
➤ V 8.0.0.4 ➤ V 8.0.0.4 TPROOT									✓
TRPTYPE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
➤ V 8.0.0.4 ➤ V 8.0.0.4 USECLTID									✓
USEDLQ	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
USERID	✓	✓		✓	✓		✓		
XMITQ	✓	✓							

AFFINITY

チャンネル・アフィニティー属性を使用すると、同じキュー・マネージャー名を使用して複数回接続するクライアント・アプリケーションが、接続ごとに同じクライアント・チャンネル定義を使用するかどうかを選択できます。この属性は、複数の適用可能なチャンネル定義がある場合に使用するためのものです。

PREFERRED

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を読み取るプロセス内の最初の接続は、加重に基づいて適用可能な定義のリストを作成します。これは先頭が適用可能な CLNTWGHT(0) 定義で、アルファベット順です。プロセス内の各接続は、リスト内の最初の定義を使用して接続を試行します。接続が失敗した場合は、次の定義が使用されます。接続に失敗した CLNTWGHT(0) 以外の定義は、リストの末尾に移動されます。CLNTWGHT(0) 定義は、リストの先頭に残り、各接続の最初に選択されます。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。同じホスト名を持つ各クライアント・プロセスは、同じリストを作成します。

NONE

CCDT を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。プロセス内のすべての接続は、加重に基づいて適用可能な定義を選択します。適用可能な CLNTWGHT(0) の定義を最初にアルファベット順に選択していきます。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。

例えば、CCDT に次の定義があるとします。

```
CHLNAME(A) QMNAME(QM1) CLNTWGHT(3)
CHLNAME(B) QMNAME(QM1) CLNTWGHT(4)
CHLNAME(C) QMNAME(QM1) CLNTWGHT(4)
```

プロセスの最初の接続により、加重に基づいて順序付けられた独自のリストが作成されます。そのため、例えば、CHLNAME(B)、CHLNAME(A)、CHLNAME(C) のような順序付きリストが作成されます。

AFFINITY(PREFERRED) の場合、プロセス中、接続のたびに、CHLNAME(B) を使用して接続が試行されます。接続に失敗した場合、定義はリストの最後に移動されて、CHLNAME(A)、CHLNAME(C)、CHLNAME(B) の順になります。すると、プロセス中、接続のたびに、CHLNAME(A) を使用して接続が試行されます。

AFFINITY(NONE) の場合、プロセス中、接続のたびに、加重に基づいてランダムに選択された 3 つの定義のいずれかを使用して接続が試行されます。

ゼロ以外のチャンネル加重、および AFFINITY(NONE) で共有会話が使用可能にされている場合、同一のキュー・マネージャー名を使用したプロセス内の複数の接続は、既存のチャンネル・インスタンスを共有するのではなく、適用可能な別の定義を使用して接続することができます。

V 8.0.0.4 distributed AMQPKA(integer)

AMQP チャンネルのキープアライブ時間 (秒単位)。AMQP クライアントがキープアライブ間隔内にフレームをまったく送信しなかった場合、接続は `amqp:resource-limit-exceeded` AMQP エラー状態で閉じられます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が AMQP のチャンネルにのみ有効です。

BATCHHB(integer)

バッチ・ハートビートを使用するかどうかを指定します。値はハートビートの長さ (ミリ秒単位) です。

バッチ・ハートビートを使用すると、メッセージをバッチでコミットする直前に、送信側チャンネルは受信側チャンネルがまだアクティブであるかを確認して、受信側チャンネルがアクティブでない場合は、バッチを通常の場合のように未確定にするのではなく、バックアウトすることができます。バッチをバックアウトすることによって、メッセージは処理可能な状態にとどまるので、例えば、メッセージを別のチャンネルにリダイレクトできます。

バッチ・ハートビート間隔内に、送信側チャンネルに受信側チャンネルからの通信があった場合、受信側チャンネルはアクティブであると見なされます。その他の場合、検査のために「ハートビート」が受信側チャンネルに送信されます。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。ゼロの値は、バッチ・ハートビートが使用されないことを示します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

BATCHINT(integer)

チャンネルがバッチをオープンしたままにする、ミリ秒単位の最小時間。

バッチは、次の条件のいずれかが満たされた場合に終了します。

- BATCHSZ メッセージが送信された。
- BATCHLIM バイトが送信された。
- 伝送キューが空で、BATCHINT が経過した。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。0 は、伝送キューが空 (または BATCHSZ 限度に到達している) になった時点でバッチが終了することを意味します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

BATCHLIM(integer)

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能なデータ量(キロバイト)の限度を指定します。限度に達した際のメッセージがチャンネルを通して送信された後に、同期点が取られます。この属性の値がゼロの場合、それはこのチャンネルに対するバッチに適用されるデータ限度がないことを意味します。

バッチは、次の条件のいずれかが満たされた場合に終了します。

- BATCHSZ メッセージが送信された。
- BATCHLIM バイトが送信された。
- 伝送キューが空で、BATCHINT が経過した。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 5000 です。

このパラメーターは、すべてのプラットフォームでサポートされています。

BATCHSZ(integer)

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能な最大メッセージ数を指定します。

実際に用いられる最大バッチ・サイズは、次の値のうちの最小のものです。

- 送信側チャンネルの BATCHSZ。
- 受信側チャンネルの BATCHSZ。
-  z/OS では、送信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数よりも 3 少ない数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。
- 分散プラットフォームでは、送信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。
-  z/OS では、受信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数よりも 3 少ない数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。
- 分散プラットフォームでは、受信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。

コミットされていないメッセージの最大数は、ALTER QMGR コマンドの MAXUMSGS パラメーターによって指定されます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RCVR、RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

値は 1 から 9999 の範囲でなければなりません。

CERTLABL

使用するこのチャンネルの証明書ラベル。

ラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書をリモート・ピアに送信するかを指定します。この属性をブランクにした場合、証明書はキュー・マネージャーの **CERTLABL** パラメーターによって決定されます。

インバウンド・チャンネル (受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、非修飾サーバー・チャンネル、およびサーバー接続チャンネルを含む) は、リモート・ピアの IBM MQ のバージョンが証明書ラベルの構成を完全にサポートしており、チャンネルが TLS CipherSpec を使用している場合にのみ、構成済みの証明書を送信する点に注意してください。

詳しくは、[楕円曲線と RSA CipherSpec の相互運用性](#)を参照してください。

それ以外の場合、送信される証明書は、キュー・マネージャーの **CERTLABL** パラメーターで決定されます。特に以下においては、チャンネル固有のラベル設定にかかわらず、キュー・マネージャーの **CERTLABL** パラメーターによって構成された証明書のみを受信します。

- 現行のすべての Java クライアントおよび JMS クライアント。
- IBM MQ より前のバージョン 8.0 のバージョン。

チャンネルの CERTLABL に変更を加えた場合、REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドを実行する必要はありません。ただし、キュー・マネージャーの CERTLABL に変更を加えた場合、REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドを実行する必要があります。

注: クラスター送信側チャンネルに対してこの属性を照会 (または設定) するのは誤りです。これを行うとすると、エラー MQRCCF_WRONG_CHANNEL_TYPE を受け取ります。ただし、この属性はクラスター送信側チャンネル・オブジェクト (MQCD 構造体も含む) に存在し、必要に応じてチャンネル自動定義 (CHAD) 出口がその属性をプログラムで設定する場合があります。

(channel-name)

新しいチャンネル定義の名前。

このパラメーターは、すべてのタイプのチャンネルで必須です。CLUSSDR チャンネルでは、他のチャンネル・タイプとは異なる形式をとることができます。クラスター送信側チャンネルの命名規則に、キュー・マネージャーの名前を含める場合、+QMNAME+ 構造体を使用してクラスター送信側チャンネルを定義することができます。一致するクラスター受信側チャンネルへの接続後、IBM MQ は、クラスター送信側チャンネル定義内で、+QMNAME+ の代わりに、正しいリポジトリ・キュー・マネージャー名に置き換ええます。この機能は、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows にのみ適用されます。詳しくは、[クラスターのコンポーネント](#)を参照してください。

この名前は、このキュー・マネージャー上で定義されている既存のチャンネルの名前と同じであってはなりません (ただし、REPLACE または ALTER が指定されている場合を除きます)。

 z/OS では、クライアント接続チャンネル名が他のものと重複してもかまいません。

ストリングの最大長は 20 文字で、有効な文字しか含めることができません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。このパラメーターは必須です。 z/OS 以外のプラットフォームでは、(channel-name) パラメーターの直後に指定する必要があります。

SDR

送信側チャンネル

SVR

サーバー・チャンネル

RCVR

受信側チャンネル

RQSTR

要求側チャンネル

CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

SVRCONN

サーバー接続チャンネル

CLUSSDR

クラスター送信側チャンネル

CLUSRCVR

クラスター受信側チャンネル

注: REPLACE オプションを使用した場合、チャンネル・タイプの変更はできません。

CLNTWGHT

適切な定義を複数使用できる場合、加重に基づいてクライアント・チャンネル定義をランダムに選択できるように、クライアント・チャンネルの加重属性が使用されます。0 から 99 の範囲の値を指定します。

特殊値 0 は、ランダムなロード・バランシングが実行されずに、適用可能な定義がアルファベット順に選択されることを示します。ランダムなロード・バランシングを使用可能にするには、値を 1 から 99 の範囲で指定する必要があります。1 は最低加重、99 は最高加重です。

クライアントがキュー・マネージャー名「*<name>」を使用して MQCONN を発行し、CCDT 内で複数の適切な定義が使用可能な場合、使用する定義の選択は、アルファベット順で最初に選択される適用可能な CLNTWGHT(0) 定義による加重に基づいて、ランダムに行われます。配分は保証されません。

例えば、CCDT に次の 2 つの定義があるとします。

```
CHLNAME(TO.QM1) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address1) CLNTWGHT(2)
CHLNAME(TO.QM2) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address2) CLNTWGHT(4)
```

キュー・マネージャー名が「*GRP1」であるクライアント MQCONN は、チャンネル定義の加重に基づいて、2 つの定義のいずれかを選択します。(ランダムな整数が、1 から 6 の間で生成されます。この整数が 1 から 2 の範囲である場合、address1 が使用され、それ以外の場合は address2 が使用されます)。この接続が失敗すると、クライアントはもう 1 つの定義を使用します。

CCDT には、ゼロとゼロ以外の両方の加重を持つ適用可能な定義が含まれる可能性があります。このような場合、ゼロの加重を持つ定義が最初に、アルファベット順に選択されます。これらの接続が失敗した場合、ゼロ以外の加重を持つ定義が、加重に基づいて選択されます。

例えば、CCDT に次の 4 つの定義があるとします。

```
CHLNAME(TO.QM1) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address1) CLNTWGHT(1)
CHLNAME(TO.QM2) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address2) CLNTWGHT(2)
CHLNAME(TO.QM3) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address3) CLNTWGHT(0)
CHLNAME(TO.QM4) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address4) CLNTWGHT(0)
```

「*GRP1」というキュー・マネージャー名を持つクライアント MQCONN が、最初に定義「TO.QM3」を選択します。この接続が失敗すると、クライアントは次に定義「TO.QM4」を選択します。この接続も失敗した場合、クライアントは次に残る 2 つの定義のいずれかを、加重に基づいて選択します。

サポートされるすべてのトランスポート・プロトコルに対して、CLNTWGHT サポートが追加されます。

CLUSNL(nlname)

そのチャンネルが所属するクラスターのリストを指定した名前リスト名。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSSDR および CLUSRCVR チャンネルでのみ有効です。CLUSTER または CLUSNL の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。もう一方はブランクにする必要があります。

CLUSTER(clustername)

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は 48 文字で、IBM MQ オブジェクトの命名規則に従います。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSSDR または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。CLUSTER または CLUSNL の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。もう一方はブランクにする必要があります。

CLWLPRTY(integer)

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルの優先順位を指定します。値の範囲はゼロ (最低の優先度) から 9 (最高の優先度) でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSSDR または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

この属性について詳しくは、[CLWLPRTY キュー属性](#)を参照してください。

CLWLRANK(integer)

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルのランクを指定します。値の範囲はゼロ (最低ランク) から 9 (最高ランク) でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSSDR または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

この属性について詳しくは、[CLWLRANK チャンネル属性](#)を参照してください。

CLWLWGHT(integer)

クラスター・ワークロード分散によって、チャンネルに送信されるメッセージの比率を制御できるようにするため、チャンネルに適用する加重を指定します。値は、1 から 99 の範囲で指定し、1 を最低ランクに、99 を最高ランクにする必要があります。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSSDR または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

この属性について詳しくは、[CLWLWGHT チャンネル属性](#)を参照してください。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

、

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。★は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

COMPHDR

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続の各チャンネルでは、指定された値が設定の順序に並び、チャンネルのリモート・エンドでサポートされる最初の圧縮手法が使用されます。

チャンネルの双方でサポートされる圧縮技法が送信側チャンネルのメッセージ出口に渡されます。そこでは、使用される圧縮技法をメッセージごとに変更できます。圧縮により、送信および受信出口に渡されたデータが変更されます。

NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

COMPMSG

チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続の各チャンネルでは、指定された値が設定の順序に並び、チャンネルのリモート・エンドでサポートされる最初の圧縮手法が使用されます。

チャンネルの双方でサポートされる圧縮技法が送信側チャンネルのメッセージ出口に渡されます。そこでは、使用される圧縮技法をメッセージごとに変更できます。圧縮により、送信および受信出口に渡されたデータが変更されます。

NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

 **zEDC Express** 機能が使用可能に設定された z/OS システムでは、圧縮を zEDC Express にオフロードすることができます。

ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

ANY

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。この値は、受信側、要求側、およびサーバー接続チャンネルでのみ有効です。

CONNNAME(*string*)

接続名。

クラスター受信側チャンネル (指定されているとき) の場合は、CONNNAME はローカル・キュー・マネージャーに関連し、その他のチャンネルの場合は、CONNNAME は宛先キュー・マネージャーに関連します。

 z/OS では、ストリングの最大長は 48 文字です。

分散プラットフォームでは、ストリングの最大長は 264 文字です。

この 48 文字の長さ制限を回避するには、以下の方法のいずれかが考えられます。

- 短いホスト名を使用するように (例えば、「myserver.location.company.com」の代わりに「myserver」というホスト名) DNS サーバーをセットアップする。
- IP アドレスを使用する。

CONNNAME は、記述した TRPTYPE のマシンの名前をコンマで区切ったリストとして指定してください。通常、必要なマシン名は 1 つだけです。複数のマシン名を指定して、同じプロパティーで複数の接続を構成することができます。接続は、通常は正常に確立されるまで、接続リストに指定された順序で試行されます。CLNTWGHT 属性が指定されている場合は、クライアントに対して順序が変更されます。どの接続も成功しなかった場合、チャンネルの属性によって決められたとおりに、チャンネルは再接続を試みます。クライアント・チャンネルでは、キュー・マネージャー・グループの代わりに、接続リストを使用して複数接続を構成することができます。メッセージ・チャンネルでは、複数インスタンス・キュー・マネージャーの代替アドレスへの接続を構成するために、接続リストが使用されます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、RQSTR、CLNTCONN、および CLUSSDR のチャンネルでは必須です。SVR チャンネルおよび TRPTYPE(TCP) の CLUSRCVR チャンネルではオプションです。RCVR チャンネルまたは SVRCONN チャンネルでは無効です。

複数の接続名をリストに指定する方法は、初めて IBM WebSphere MQ バージョン 7.0.1 でサポートされました。それによって、CONNNAME パラメーターの構文が変更になっています。以前のクライアントおよびキュー・マネージャーは、リスト内の最初の接続名を使用して接続し、リスト内の残りの接続名は読み取りません。以前のクライアントやキュー・マネージャーが新しい構文を解析できるようにするために、リスト内の最初の接続名にポート番号を指定してください。IBM WebSphere MQ バージョン 7.0.1 より前のレベルで稼働しているクライアントまたはキュー・マネージャーからチャンネルに接続する際に、ポート番号を指定することにより問題を回避できます。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows プラットフォームでは、クラスター受信側チャンネルの TCP/IP 接続名パラメーターはオプションです。接続名をブランクにすると、IBM MQ はデフォルト・ポートを想定し、システムの現行 IP アドレスを使用して接続名を自動的に生成します。デフォルト・ポート番号をオーバーライドしても、システムの現行 IP アドレスを引き続き使用できます。各接続名について、IP 名をブランクにして、次のように括弧で囲んだポート番号を指定してください。

(1415)

生成される CONNAME は常にドット 10 進 (IPv4) 形式または 16 進 (IPv6) 形式であり、英数字の DNS ホスト名の形式ではありません。

注: 接続名に特殊文字 (括弧など) を使用する場合は、ストリングを単一引用符で囲まなければなりません。

指定する値は、次のように、使用するトランスポート・タイプ (TRPTYPE) によって異なります。

LU 6.2

-  z/OS では、次の 2 とおりの形式を使用して値を指定します。

論理装置 (LU) 名

キュー・マネージャーの論理装置名。論理装置名、TP 名、およびオプション・モード名で構成されます。論理装置名は、次の 3 つの形式のいずれかで指定できます。

形式	例
luname	IGY12355
luname/TPname	IGY12345/APING
luname/TPname/modename	IGY12345/APINGD/#INTER

最初の形式を使用する場合は、TPNAME パラメーターと MODENAME パラメーターに対して、それぞれ TP 名とモード名を指定する必要があります。それ以外の形式を使用する場合、これらのパラメーターは必ずブランクにしてください。

注：クライアント接続チャンネルでは、最初の形式しか使用できません。

シンボル名

キュー・マネージャーの論理装置名を表すシンボリック宛先名。この名前はサイド情報データ・セットに定義されています。TPNAME パラメーターと MODENAME パラメーターは、必ずブランクにしてください。

注：クラスター受信側チャンネルにおけるサイド情報は、クラスター内の他のキュー・マネージャーに関するものです。あるいは、この場合には、チャンネル自動定義出口による名前解決処理の結果、ローカル・キュー・マネージャーの適切な論理装置情報になるような名前にすることができます。

指定する LU 名または暗黙の LU 名は、VTAM 汎用リソース・グループの名前にすることができます。

- IBM i、Windows、UNIX および Linux システムでは、CONNAME は CPI-C 通信サイド・オブジェクトの名前であるか、TPNAME がブランクでない場合にはパートナー論理装置の完全修飾名です。

 z/OS ご使用のプラットフォームの LU 6.2 接続の構成パラメーターについて詳しくは、[LU 6.2 接続用構成パラメーター](#)を参照してください。

NetBIOS

固有の NetBIOS 名 (16 文字に制限)。

SPX

4 バイトのネットワーク・アドレス、6 バイトのノード・アドレス、2 バイトのソケット番号。これらの値は、16 進数で指定し、ネットワーク・アドレスとノード・アドレスはピリオドで区切って入力する必要があります。ソケット番号は、次の例のように括弧で囲んでください。

```
CONNAME('0a0b0c0d.804abcde23a1(5e86)')
```

TCP

ホスト名、またはリモート・マシン (またはクラスター受信側チャンネルのローカル・マシン) のネットワーク・アドレス。このアドレスの後に、オプションのポート番号が括弧で囲まれて続く場合もあります。

CONNAME がホスト名の場合、そのホスト名は IP アドレスに解決されます。

通信に使用される IP スタックは、CONNAME に指定された値および LOCLADDR に指定された値によって異なります。この値の解決方法については、[LOCLADDR](#) を参照してください。

 z/OS では、z/OS 動的 DNS グループまたはネットワーク・ディスパッチャー入力ポートの IP_name を、接続名に含めることができます。チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSSDR のチャンネルには、IP_name または入力ポートを含めないでください。

すべてのプラットフォームで、TCP/IP を使用しているチャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSRCVR であるチャンネルを定義する場合に、キュー・マネージャーのネットワーク・アドレスを指定する必

要はありません。IBM MQ は、デフォルト・ポートを想定し、システムの現行 IPv4 アドレスを使用して、ユーザーに代わって CONNAME を生成します。システムに IPv4 アドレスがない場合は、システムの現行 IPv6 アドレスが使用されます。

注: IPv6 専用キュー・マネージャー と IPv4 専用キュー・マネージャーの間のクラスタリングを使用する場合は、IPv6 ネットワークのアドレスを CLUSRCVR チャネルの CONNAME として指定しないでください。IPv4 通信にのみ対応したキュー・マネージャーは、IPv6 の 16 進数形式で CONNAME を指定するクラスター送信側チャネル定義を開始できません。代わりに、異種 IP 環境でホスト名を使用することを検討してください。

CONVERT

受信側のメッセージ・チャネル・エージェントがアプリケーション・メッセージ・データを変換できない場合、送信側のメッセージ・チャネル・エージェントが、その変換を行うべきかどうかを指定します。

NO

送信側による変換なし。

YES

送信側による変換。

 z/OS では、N および Y は、NO および YES の同義語として受け入れられます。

このパラメーターは、チャネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャネルにのみ有効です。

DEFCDISP

チャネルのデフォルト・チャネル属性指定を指定します。

PRIVATE

このチャネルは、PRIVATE チャネルとして属性指定されることが意図されています。

FIXSHARED

このチャネルは、FIXSHARED チャネルとして属性指定されることが意図されています。

SHARED

このチャネルは、SHARED チャネルとして属性指定されることが意図されています。

このパラメーターは、チャネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN、CLUSDR、または CLUSRCVR であるチャネルには適用されません。

DEFRECON

クライアント接続がクライアント・アプリケーションへの接続から切断した場合に、自動的に再接続するかどうかを指定します。

NO

MQCONN によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続されません。

YES

MQCONN によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続します。

QMGR

MQCONN によってオーバーライドされない限り、クライアントは、同じキュー・マネージャーに対してのみ自動的に再接続します。QMGR オプションは MQCNO_RECONNECT_Q_MGR と同じ効果があります。

DISABLED

MQCONN MQI 呼び出しを使用してクライアント・プログラムによって要求された場合でも、再接続は無効になります。

表 56. アプリケーションおよびチャネル定義に設定された値によって異なる自動再接続				
DEFRECON	アプリケーションで設定される再接続オプション			
	MQCNO_RECONNECT	MQCNO_RECONNECT_Q_MGR	MQCNO_RECONNECT_AS_DEF	MQCNO_RECONNECT_DISABLED

表 56. アプリケーションおよびチャネル定義に設定された値によって異なる自動再接続 (続き)				
DEFRECON	アプリケーションで設定される再接続オプション			
NO	YES	QMGR	NO	NO
YES	YES	QMGR	YES	NO
QMGR	YES	QMGR	QMGR	NO
DISABLED	NO	NO	NO	NO

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY CHANNEL コマンドを実行したときに表示される、このチャネルについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

DISCONT(integer)

バッチが終了した後、チャネルが終了する前に、チャネルが、伝送キューにメッセージが着信するのを待機する最短時間 (秒単位)。値 0 を指定すると、メッセージ・チャネル・エージェントは無期限に待機します。

この値は、ゼロから 999 999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN、SDR、SVR、CLUSSDR、CLUSRCVR のチャネルにのみ有効です。

TCP プロトコルを使用する SVRCONN チャネルの場合、このパラメーターは SVRCONN インスタンスがパートナー・クライアントと通信しないでアクティブのままの最小時間を秒単位で示します。値を 0 にすると、この切断処理は無効になります。SVRCONN 非アクティブ間隔は、クライアントからの IBM MQ API 呼び出し間隔にのみ適用されるため、待機呼び出しを実行する拡張 MQGET でクライアントが切断されることはありません。この属性は、TCP 以外のプロトコルを使用する SVRCONN チャネルでは無視されます。

HBINT(integer)

この属性によって、伝送キューにメッセージがなくなったときに送信 MCA からハートビート・フローが渡される間の時間の近似値を指定することができます。

ハートビート・フローは、メッセージの到着または切断インターバルの満了を待機している受信 MCA を非ブロック化します。受信 MCA が非ブロック化された場合には、そこで切断インターバルが満了するのを待たずにチャネルを切断することができます。ハートビート・フローは、また、大きなメッセージのために割り振られているすべてのストレージ・バッファを解放し、チャネルの受信終了時にオープンされたままになっていたすべてのキューをクローズします。

値は秒単位であり、範囲は 0 から 999999 でなければなりません。値 0 は、ハートビート・フローが送信されないことを意味します。デフォルト値は 300 です。最大限活用するには、この値が切断インターバル値より低いものでなければなりません。

サーバー接続チャネルおよびクライアント接続チャネルでは、ハートビートはサーバー・サイドおよびクライアント・サイドの両方から個々に流れることがあります。ハートビート間隔の時間内にチャネルを通してデータが転送されないと、クライアント接続 MQI エージェントはハートビート・フローを送信し、それに対してサーバー接続 MQI エージェントは別のハートビート・フローで応答します。これは、チャネルの状態に関係なく発生します。例えば、API の呼び出し中にチャネルが非アクティブであっても、クライアント・ユーザーからの入力待ち中にチャネルが非アクティブであっても関係なく発生します。サーバー接続 MQI エージェントも、同様にチャネルの状態に関係なく、クライアントへのハートビートを開始することができます。サーバー接続 MQI エージェントとクライアント接続 MQI エージェントが同時に互いにハートビートを送信しないようにするために、サーバーのハートビー

トは、ハートビート間隔より 5 秒長い時間内にチャンネルを通してデータが転送されなかった場合に流れます。

IBM WebSphere MQ 7.0 より前のチャンネル・モードで動作するサーバー接続およびクライアント接続の各チャンネルでは、サーバー MCA が、WAIT オプションを指定して、クライアント・アプリケーションに代わって発行した MQGET コマンドを待機しているときにのみハートビート・フローが送信されます。

詳しくは、[ハートビート間隔 \(HBINT\)](#) を参照してください。

KAINT(*integer*)

値は、チャンネルのキープアライブ・タイミングのために、通信スタックに渡されます。

この属性を有効にするには、TCP/IP キープアライブをキュー・マネージャー、および TCP/IP の両方において使用可能にする必要があります。

z/OS z/OS において、キュー・マネージャーで TCP/IP キープアライブを有効にするには、ALTER QMGR TCPKEEP(YES) コマンドを発行します。TCPKEEP キュー・マネージャー・パラメーターが NO の場合は、値は無視され、KeepAlive 機能は使用されません。

分散プラットフォームで TCP/IP キープアライブを有効にするには、KEEPALIVE=YES パラメーターを、分散キューイング構成ファイル qm.ini の TCP スタンザに指定するか、MQ Explorer エクスプローラーを使用して指定します。

TCP/IP 自体の中でもキープアライブをオンに切り替える必要があります。キープアライブの構成について詳しくは、TCP/IP の資料を参照してください。AIX では、**no** コマンドを使用します。HP-UX では、**ndd** コマンドを使用します。Windows ではレジストリーを編集します。

z/OS z/OS では、TCP/IP PROFILE データ・セットを更新して、TCPCONFIG セクションで INTERVAL パラメーターを追加または変更します。

z/OS このパラメーターはすべてのプラットフォームで使用可能ですが、設定は z/OS にのみ実装されています。

分散プラットフォームでは、このパラメーターにアクセスおよび変更できますが、保管と転送のみです。パラメーターが機能的に実装されるわけではありません。この機能は、例えば Solaris 上のクラスター受信側チャンネル定義で設定された値が、クラスターの中にあるかクラスターに参加する z/OS のキュー・マネージャーに流れる (またそれによって実装される) 場合のようなクラスター構成環境で役立ちます。

分散プラットフォームでは、KAINT パラメーターによって提供される機能が必要な場合、[HBINT](#) で説明されているように、ハートビート・インターバル (HBINT) パラメーターを使用します。

(*integer*)

使用されるキープアライブ間隔。1 から 99 999 の値で、単位は秒です。

0

使用される値は、TCP プロファイル構成データ・セット内の INTERVAL ステートメントによって指定された値です。

AUTO

キープアライブ間隔は、次のように、折衝されたハートビート値に基づいて計算される。

- 折衝された HBINT がゼロより大きい場合、キープアライブ間隔はその値に 60 秒を加えた値に設定されます。
- 折衝された HBINT が 0 である場合、使用される値は、TCP プロファイル構成データ・セット内の INTERVAL ステートメントによって指定された値です。

このパラメーターは、すべてのチャンネル・タイプで有効です。このパラメーターは、TRPTYPE が TCP または SPX 以外のチャンネルの場合には無視されます。

LIKE(*channel-name*)

チャンネルの名前。チャンネルのパラメーターが、この定義のモデルとして使われます。

このフィールドに値が入力されず、このコマンドに関連したパラメーター・フィールドの指定が完全でない場合は、チャンネルのタイプに応じて次のデフォルト・チャンネルのいずれかから値が取られます。

SYSTEM.DEF.SENDER

送信側チャンネル

SYSTEM.DEF.SERVER

サーバー・チャンネル

SYSTEM.DEF.RECEIVER

受信側チャンネル

SYSTEM.DEF.REQUESTER

要求側チャンネル

SYSTEM.DEF.SVRCONN

サーバー接続チャンネル

SYSTEM.DEF.CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

SYSTEM.DEF.CLUSSDR

クラスター送信側チャンネル

SYSTEM.DEF.CLUSRCVR

クラスター受信側チャンネル

このパラメーターは、次のオブジェクトを送信側チャンネルに定義することに相当します (他のチャンネル・タイプについても同様です)。

LIKE (SYSTEM.DEF.SENDER)

これらのデフォルト・チャンネル定義は、インストール時に、必須のデフォルト値に変更できます。

 **z/OS** z/OS では、キュー・マネージャーがページ・セット 0 を検索し、ユーザーが指定する名前と QMGR または COPY の属性指定を持つオブジェクトを探します。LIKE オブジェクトの属性指定は、定義するオブジェクトおよびチャンネル・タイプにはコピーされません。

注:

1. QSGDISP (GROUP) オブジェクトは検索されません。
2. QSGDISP(COPY) が指定されている場合、# LIKE は無視されます。ただし、定義されているグループ・オブジェクトは LIKE オブジェクトとして使用されます。

LOCLADDR (*string*)

LOCLADDR は、チャンネルのローカル通信アドレスです。AMQP チャンネル以外のチャンネルの場合、このパラメーターは、アウトバウンド通信においてチャンネルが特定の IP アドレス、ポート、またはポート範囲を使用するように設定する場合に使用します。LOCLADDR は、異なる TCP/IP スタックでチャンネルが再始動されるリカバリー・シナリオで役立ちます。また、デュアル・スタック・システムでチャンネルが IPv4 スタックまたは IPv6 スタックを使用するように強制する場合にも、LOCLADDR は便利です。LOCLADDR は、シングル・スタック・システムでチャンネルがデュアル・モード・スタックを使用するように強制する場合にも使用できます。

注: AMQP チャンネルは、他の IBM MQ チャンネルと同じ形式の LOCLADDR をサポートしません。AMQ でサポートされている形式については、次のパラメーター AMQP: LOCLADDR を参照してください。

AMQP チャンネル以外のチャンネルの場合、LOCLADDR パラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が TCP のチャンネルにのみ有効です。TRPTYPE が TCP でない場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

値は、アウトバウンド TCP/IP 通信に使用されるオプションの IP アドレスおよびオプションのポートまたはポート範囲です。この情報の形式は、次のとおりです。

```
LOCLADDR([ip-addr][(low-port[,high-port])][,[ip-addr][(low-port[,high-port])]])
```

複数のアドレスを含めた LOCLADDR の最大長は、MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LOCLADDR を省略すると、ローカル・アドレスが自動的に割り振られます。

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を使用する C クライアントに LOCLADDR を設定できることに注意してください。

どのパラメーターも指定は任意です。アドレスの ip-addr 部分を省略しておくと、IP ファイアウォール用に固定ポート番号を設定できて便利です。ポート番号を省略すると、固有のローカル・ポート番号を指定しなくても、特定のネットワーク・アダプターを選択できます。TCP/IP スタックで固有のポート番号が生成されます。

複数のローカル・アドレスを追加する場合は、それぞれについて [, [ip-addr][(low-port[,high-port])]] を指定します。複数のローカル・アドレスは、ローカル・ネットワーク・アダプターの特定のサブセットを指定する場合に使用します。複数インスタンス・キュー・マネージャー構成に含まれる別々のサーバー上にある特定のローカル・ネットワーク・アドレスを表記する場合にも、[, [ip-addr][(low-port[,high-port])]] を使用できます。

ip-addr

ip-addr は、次の 3 つの形式のいずれかで指定できます。

IPv4 ドット 10 進数

192.0.2.1 など

IPv6 16 進表記

2001:DB8:0:0:0:0:0:0 など

英数字のホスト名書式

WWW.EXAMPLE.COM など

low-port and high-port

low-port および high-port は、括弧で囲まれたポート番号です。

次の表では、LOCLADDR パラメーターを使用する方法を示しています。

表 57. LOCLADDR パラメーターを使用する方法の例	
LOCLADDR	意味
9.20.4.98	チャンネルは、ローカル側でこのアドレスにバインドします。
9.20.4.98, 9.20.4.99	チャンネルはいずれかの IP アドレスにバインドします。このアドレスは、1 つのサーバーの 2 つのネットワーク・アダプターであるかもしれず、複数インスタンス構成された 2 つの別個のサーバーの各ネットワーク・アダプターであるかもしれません。
9.20.4.98(1000)	チャンネルは、このアドレスおよびポート 1000 にローカルにバインドします。
9.20.4.98(1000,2000)	チャンネルは、このアドレスにバインドし、1000 から 2000 の範囲のポートをローカル側で使用します。
(1000)	チャンネルは、ローカル側でポート 1000 にバインドします。
(1000,2000)	チャンネルは、ローカル側で 1000 から 2000 の範囲のポートにバインドします。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLNTCONN、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

CLUSSDR チャンネルでは、アウトバウンド・チャンネルがバインドする IP アドレスおよびポートは、ワールドの組み合わせです。つまり、LOCLADDR パラメーターに定義された IP アドレスと、クラスタ

ー・キャッシュから得られるポート範囲とを連結したものです。キャッシュにポート範囲が存在しない場合、LOCLADDR パラメーターに定義されているポート範囲が使用されます。

z/OS このポート範囲は z/OS システム には適用されません。

このパラメーターは CONNAME の形式に類似していますが、混同しないでください。LOCLADDR パラメーターはローカル通信の特性を指定しますが、CONNAME パラメーターはリモート・キュー・マネージャーに到達する方法を指定します。

チャンネルが開始されると、CONNAME および LOCLADDR に指定された値によって、通信に使用される IP スタックが決まります。表 3 および [ローカル・アドレス \(LOCLADDR\)](#) を参照してください。

ローカル・アドレス用の TCP/IP スタックがインストールまたは構成 されていない場合は、チャンネルが開始されず、例外メッセージが生成されます。

z/OS 例えば、z/OS システムでは、このメッセージは、「CSQO015E: Command issued but no reply received」となります。このメッセージは、connect() 要求によってデフォルトの IP スタックでは認識されないインターフェース・アドレスが指定されたことを示しています。connect() 要求を代替スタックに送信するには、代替スタックのインターフェースまたは DNS ホスト名として、チャンネル定義に **LOCLADDR** パラメーターを指定します。同じ仕様は、デフォルトのスタックを使用しないリスナーでも機能します。**LOCLADDR** に対してコーディングする値を見つけるには、代替として使用する IP スタックで **NETSTAT HOME** コマンドを実行します。

表 58. 通信で使用される IP スタックの決定方法			
サポートされるプロトコル	CONNAME	LOCLADDR	チャンネルのアクション
IPv4 のみ	IPv4 アドレス ¹		チャンネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス ²		チャンネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名 ³		チャンネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv4 アドレス	IPv4 アドレス	チャンネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 アドレス	チャンネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 アドレス	チャンネルは IPv4 スタックにバインドする
	任意のアドレス ⁴	IPv6 アドレス	チャンネルは LOCLADDR の解決に失敗します。
	IPv4 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャンネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャンネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 および 6 ホスト名	チャンネルは IPv4 スタックにバインドする

表 58. 通信で使用される IP スタックの決定方法 (続き)

サポートされるプロトコル	CONNAME	LOCLADDR	チャネルのアクション
IPv4 および IPv6	IPv4 アドレス		チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス		チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名		チャネルは IPADDRV によって決定されるスタックにバインドします。
	IPv4 アドレス	IPv4 アドレス	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 アドレス	チャネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 アドレス	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv4 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックをバインドします。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックをバインドします。
	IPv4 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPADDRV によって決定されるスタックにバインドします。

表 58. 通信で使用する IP スタックの決定方法 (続き)

サポートされるプロトコル	CONNAME	LOCLADDR	チャネルのアクション
IPv6 のみ	IPv4 アドレス		チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス		チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名		チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	任意のアドレス	IPv4 アドレス	チャネルは LOCLADDR の解決に失敗します。
	IPv4 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv6 スタックにバインドする

注:

1. IPv4 アドレス。IPv4 ネットワーク・アドレスまたは特定の小数点付き表記 IPv4 アドレスのみに解決される IPv4 ホスト名 (例えば、1.2.3.4)。この注記は、この表に登場する「IPv4 アドレス」のすべての個所に適用されます。
2. IPv6 アドレス。IPv6 ネットワーク・アドレスまたは特定の 16 進表記 IPv6 アドレスのみに解決される IPv6 ホスト名 (例えば、4321:54bc)。この注記は、この表に登場する「IPv6 アドレス」のすべての個所に適用されます。
3. IPv4 および 6 ホスト名。IPv4 と IPv6 の両方のネットワーク・アドレスに解決されるホスト名です。この注記は、この表で示される「IPv4 および 6 のホスト名」のすべての個所に適用されます。
4. 任意のアドレス。IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または IPv4 および IPv6 のホスト名です。この注記は、この表に登場する「任意のアドレス」のすべての個所に適用されます。
5. IPv4 CONNAME を IPv4 にマップされた IPv6 アドレスにマップします。IPv4 マップされた IPv6 アドレス指定をサポートしない IPv6 スタック実装は、CONNAME の解決に失敗します。マップされたアドレスを使用するには、プロトコル変換プログラムが必要な場合があります。マップされたアドレスの使用は推奨されません。

AMQP: LOCLADDR (*ip-addr*)

注: その他の IBM MQ チャネルで使用する LOCLADDR の形式については、前のパラメーター LOCLADDR を参照してください。

AMQP チャネルの場合、LOCLADDR は、チャネルのローカル通信アドレスです。このパラメーターは、特定の IP アドレスの使用をクライアントに強制する必要がある場合に使用します。LOCLADDR は、チャネルで IPv4 または IPv6 アドレスを使用したり (選択可能な場合)、複数のネットワーク・アダプター

があるシステムにおいて特定のネットワーク・アダプターを使用したりすることを強制する場合に役立ちます。

LOCLADDR の最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LOCLADDR を省略すると、ローカル・アドレスが自動的に割り振られます。

ip-addr

ip-addr は、単一のネットワーク・アドレスであり、次の 3 つの形式のいずれかで指定します。

IPv4 ドット 10 進数

192.0.2.1 など

IPv6 16 進表記

2001:DB8:0:0:0:0:0:0 など

英数字のホスト名書式

WWW.EXAMPLE.COM など

IP アドレスを入力すると、アドレス・フォーマットのみが妥当性検査されます。IP アドレス自体は妥当性検査されません。

LONGRTY(*integer*)

このパラメーターは、送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター送信側チャンネルがリモート・キュー・マネージャーに接続しようとしているものの SHORTRTY に指定された回数が既に尽きているとき、LONGTMR の間隔でさらに最大何回そのリモート・キュー・マネージャーへの接続を試みかを指定します。

この回数を試みても接続に成功しない場合は、オペレーターあてにエラーがログに記録され、チャンネルが停止します。このチャンネルはその後、コマンドを使用して再始動する必要があります (チャンネル・イニシエーターによる自動的な始動はありません)。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

LONGTMR(*integer*)

長い再試行の場合、このパラメーターは、リモート・キュー・マネージャーへの接続の再試行まで最大何秒間待つかを指定します。

この時間はおおよそその値です。0 は、できるだけ早く次の接続を試みることを意味します。

チャンネルがアクティブになるのを待機する必要がある場合、再試行間隔が延長されることがあります。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

注: 実装上の理由により、使用できる最大再試行間隔は、999,999 です。この最大値より大きい値を指定しても、999,999 として処理されます。同様に、使用できる最小再試行間隔は 2 です。この最小値より小さい値は 2 として扱われます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MAXINST(*integer*)

 開始可能な個別のサーバー接続チャンネルまたは AMQP チャンネルの同時インスタンスの最大数。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

値が 0 の場合、このチャンネルでのクライアント・アクセスがすべて阻止されます。

このパラメーターの値が、現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数より少ない数まで引き下げられる場合でも、実行中のインスタンスは影響を受けません。しかし、十分な数の既存のインスタンスが実行を終了して、現在実行中のインスタンスの数がこのパラメーターの値を下回らないと、新規インスタンスは開始できません。

V8.0.0.4 AMQP クライアントが AMQP チャンネルへの接続を試みて接続クライアント数が MAXINST に達した場合、チャンネルはクローズ・フレームで接続を閉じます。クローズ・フレームには `amqp:resource-limit-exceeded` というメッセージが含まれます。既に接続されている ID にクライアントが接続した (つまり、クライアントがクライアント・テークオーバーを実行する) 場合、接続をテークオーバーすることをクライアントが許可されていれば、接続クライアント数が MAXINST に達したかどうかにかかわらず、テークオーバーは成功します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN または AMQP のチャンネルにのみ有効です。

MAXINSTC(integer)

1 つのクライアントから開始可能な個別の同時サーバー接続チャンネルの最大数。このコンテキストでは、同じリモート・ネットワーク・アドレスから発信された接続は、同じクライアントから着信したものと見なされます。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

値が 0 の場合、このチャンネルでのクライアント・アクセスがすべて阻止されます。

このパラメーターの値が、個別のクライアントから現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数より少ない数まで引き下げられる場合でも、実行中のインスタンスは影響を受けません。ただし、これらクライアントの新しいインスタンスは、十分な数のインスタンスの実行が終了して、実行中のインスタンスの数がこのパラメーターの値を下回るまでは開始できません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN のチャンネルにのみ有効です。

MAXMSGL(integer)

チャンネル上で送信可能な最大メッセージ長を指定します。このパラメーターがパートナーの値と比較され、2 つの値のうち小さいほうが実際の最大長として使用されます。MQCB 関数が実行されており、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN の場合、この値は無効になります。

値 0 は、キュー・マネージャーの最大メッセージ長を意味します。

分散プラットフォームでは、ゼロからキュー・マネージャーの最大メッセージ長までの範囲の値を指定します。

z/OS z/OS では、0 から 104857600 バイト (100 MB) までの範囲の値を指定します。

詳細は、ALTER QMGR コマンドの MAXMSGL パラメーターを参照してください。

MCANAME(string)

メッセージ・チャンネル・エージェント名。

このパラメーターは予約済みです。指定する場合、設定できるのはブランク (最大長は 20 文字) のみです。

MCATYPE

アウトバウンド・メッセージ・チャンネル上のメッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムを、スレッドとプロセスのどちらで実行するか指定します。

PROCESS

メッセージ・チャンネル・エージェントは、独立のプロセスとして動作します。

THREAD

メッセージ・チャンネル・エージェントは独立したスレッドとして実行されます。

スレッド・リスナーが多数の着信要求を処理しなければならないような状況では、リソースに過大な負担がかかることがあります。その場合、複数のリスナー・プロセスを使用して、着信要求がリスナー上に指定されたポート番号を経由して特定のリスナーに送られるようにします。

分散プラットフォームでは、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

z/OS z/OS では、このパラメーターは、チャンネル・タイプが CLUSRCVR のチャンネルについてのみサポートされます。CLUSRCVR 定義で指定された場合、MCATYPE がリモート・マシンによって使用されて対応する CLUSSDR 定義が判別されます。

MCAUSER(*string*)

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

注: チャンネルの実行に使用するユーザー ID を提供するための代替手段としては、チャンネル認証の記録を使用するという方法があります。チャンネル認証レコードを使用すると、複数の異なる接続で、それぞれ異なる資格情報を使用して、同一のチャンネルを使用することができます。チャンネルで MCAUSER が設定されており、かつチャンネル認証レコードが同じチャンネルに適用されている場合、チャンネル認証レコードが優先されます。チャンネル定義での MCAUSER は、チャンネル認証レコードが USERSRC(CHANNEL) を使用する場合にのみ使用されます。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照してください。

このパラメーターは、[PUTAUT](#) と相互作用します。詳しくは PUTAUT パラメーターの定義を参照してください。

非ブランクの場合、メッセージ・チャンネル・エージェントが IBM MQ リソースへのアクセス許可に使用するユーザー ID です。このアクセス許可には、(PUTAUT が DEF に設定されている場合に) 受信側チャンネルまたは要求側チャンネル用の宛先キューにメッセージを置くための許可も含まれます。

ブランクの場合、メッセージ・チャンネル・エージェントはデフォルトのユーザー ID を使用します。

デフォルトのユーザー ID は、受信側チャンネルを開始したユーザー ID から取られます。指定できる値は以下のとおりです。

- ▶ **z/OS** z/OS の場合、z/OS 開始プロシージャ・テーブルによって、チャンネル・イニシエーター開始タスクに割り当てられたユーザー ID。
- ▶ **z/OS** (z/OS 以外) の場合、inetd.conf 項目からのユーザー ID、またはリスナーを開始したユーザー。
- ▶ **z/OS** z/OS 以外の SNA では、SNA サーバー項目からのユーザー ID、またはこのユーザー ID がいない場合は着信接続要求からのユーザー ID、またはリスナーを開始したユーザー。
- NetBIOS または SPX の場合、リスナーを始動したユーザー ID。

ストリングの最大長は、Windows では 64 文字、その他のプラットフォームでは 12 文字です。Windows では、オプションで、user@domain という形式のドメイン・ネームを使用してユーザー ID を修飾できます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLNTCONN、CLUSDR のチャンネルでは無効です。

MODENAME(*string*)

LU 6.2 モード名 (最大長は 8 文字)。

このパラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が LU 6.2 のチャンネルにのみ有効です。TRPTYPE が LU 6.2 でない場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

このパラメーターを指定する場合は、CONNNAME にサイド・オブジェクト名が含まれている場合を除き、SNA モード名に設定する必要があります。サイド・オブジェクト名が含まれている場合は、ブランクに設定する必要があります。その場合、実際の名前は、CPI-C 通信サイド・オブジェクトまたは APPC サイド情報データ・セットから取られます。

▶ **z/OS** ご使用のプラットフォームの LU 6.2 接続の構成パラメーターについて詳しくは、[LU 6.2 接続用構成パラメーター](#)を参照してください。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、または SVRCONN のチャンネルでは無効です。

MONCHL

チャンネルに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

QMGR

キュー・マネージャー・パラメーター MONCHL の設定に従って、モニター・データを収集します。

OFF

このチャンネルのモニター・データ収集はオフです。

LOW

キュー・マネージャーの MONCHL パラメーターの値が NONE ではない場合は、低速でのデータ収集による、このチャンネルに対するオンライン・モニター・データ収集がオンになります。

MEDIUM

キュー・マネージャーの MONCHL パラメーターの値が NONE ではない場合は、普通の速さでのデータ収集による、このチャンネルに対するオンライン・モニター・データ収集がオンになります。

HIGH

キュー・マネージャーの MONCHL パラメーターの値が NONE ではない場合は、高速でのデータ収集による、このチャンネルに対するオンライン・モニター・データ収集がオンになります。

クラスター・チャンネルの場合、このパラメーターの値はリポジトリに複製されないため、クラスター送信側チャンネルの自動定義では使用されません。

自動定義のクラスター送信側チャンネルの場合、このパラメーターの値はキュー・マネージャーの MONACLS 属性から取得されます。値を変更するには、コマンド ALTER QMGR MONACLS(HIGH) を使用してから、自動定義された送信側チャンネルを再始動します。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。

MRDATA(*string*)

チャンネル・メッセージ再試行出口ユーザー・データ。最大長は 32 文字です。

このパラメーターは、チャンネル・メッセージ再試行出口が呼び出された場合、その出口に引き渡されます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MREXIT(*string*)

チャンネル・メッセージ再試行出口名。

この名前の形式および最大長は MSGEXIT と同じですが、指定できるメッセージ再試行出口は 1 つのみです。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MRRTY(*integer*)

チャンネルがメッセージを配布できないと判断するまでに、チャンネルが再試行する回数。

このパラメーターは、メッセージ再試行出口名がブランクの場合にのみ MCA の処置を制御します。出口名がブランクではないときは、MRRTY の値は、使用のため出口に引き渡されます。しかし、実行される再試行の回数 (再試行される場合) は、このパラメーターによってではなく、出口によって制御されます。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。0 の値は、まったく再試行されないことを意味します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MRTMR(*integer*)

チャンネルが再び MQPUT 操作をできるようになるまでに経過する必要がある最短の時間間隔。この時間間隔は、ミリ秒単位です。

このパラメーターは、メッセージ再試行出口名がブランクの場合にのみ MCA の処置を制御します。出口名がブランクではないときは、MRTMR の値は、使用のため出口に引き渡されます。しかし、再試行間隔はこのパラメーターによってではなく、出口によって制御されます。

値は 0 から 999 999 999 の範囲でなければなりません。値 0 は、再試行が可能になるとただちに再試行されることを意味します (ただし、MRRTY の値が 0 より大きい場合)。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MSGDATA(*string*)

チャンネル・メッセージ出口のユーザー・データ。最大長は 32 文字です。

これは、チャンネル・メッセージ出口が呼び出された場合、その出口に引き渡されるデータです。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラムを指定できます。フィールドの全長は、最大 999 文字まででなければなりません。

IBM i では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 10 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初のメッセージ出口に渡され、2 番目のストリングは 2 番目メッセージ出口に渡されます (それ以降、同様の処理が続きます)。

 z/OS では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 8 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初のメッセージ出口に渡され、2 番目のストリングは 2 番目メッセージ出口に渡されます (それ以降、同様の処理が続きます)。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルにメッセージ出口データのストリングを 1 つしか指定できません。

注: サーバー接続チャンネルとクライアント接続チャンネルでは、このパラメーターは受け入れられますが無視されます。

MSGEXIT(*string*)

チャンネル・メッセージ出口名。

この名前が非ブランクの場合、出口は以下の時点で呼び出されます。

- メッセージが伝送キュー (送信側またはサーバー) から検索された直後、またはメッセージが宛先キュー (受信側または要求側) に書き込まれる直前。

出口には、アプリケーション・メッセージおよび変更用伝送キュー・ヘッダーの全体が提供されます。

- チャンネルの初期設定時および終了時

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラム名を指定できます。ただし、指定する文字の合計数は 999 を超えてはなりません。

IBM i では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 10 個の出口プログラムの名前を指定できます。

 z/OS では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 8 個までの出口プログラム名を指定できます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルにメッセージ出口名を 1 つのみ指定できます。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN または SVRCONN のチャンネルの場合、このパラメーターは受け入れられますが、このようなチャンネルではメッセージ出口が呼び出されないため無視されます。

名前の形式と最大長は、環境に応じて異なります。

- UNIX および Linux システムでは、次の形式です。

```
libraryname(functionname)
```

ストリングの最大長は 128 文字です。

- Windows では、次の形式です。

```
dllname(functionname)
```

この *dllname* は、接尾部 (".DLL") を付けずに指定します。ストリングの最大長は 128 文字です。

- IBM iでは、次の形式です。

```
progrname libname
```

ここで、*program name* は最初の 10 文字分、*libname* は次の 10 文字分を使用します (両方とも必要に応じて右側を空白で埋めます)。ストリングの最大長は 20 文字です。

-  z/OS では、これはロード・モジュール名で、最大長は 8 文字です (クライアント接続チャネルの出口名には 128 文字まで指定できます。ただし、合計最大長はコンマを含めて 999 文字です)。

NETPRTY(*integer*)

ネットワーク接続の優先順位。分散キューイングでは、使用可能な複数のパスがある場合、優先度が最も高いパスが選択されます。値の範囲はゼロ (最低の優先度) から 9 でなければなりません。

このパラメーターは、CLUSRCVR チャネルにのみ有効です。

NPMSPEED

このチャネルの非持続性メッセージのサービス・クラスは、次のとおりです。

FAST

非持続性メッセージの高速送達。チャネルが脱落すると、メッセージも脱落する場合があります。メッセージは、MQGMO_SYNCPOINT_IF_PERSISTENT を使用して取得され、バッチ作業単位に組み込まれません。

NORMAL

非持続性メッセージの標準送達。

送信側と受信側でこのパラメーターに同意しない場合、またはどちらかがサポートしない場合、NORMAL が使用されます。

このパラメーターは、CHLTYPE が SDR、SVR、RCVR、RQSTR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャネルにのみ有効です。

PASSWORD(*string*)

メッセージ・チャネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、このパスワードを使用します。最大長は 12 文字です。

分散プラットフォームでは、このパラメーターは、チャネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLNTCONN、または CLUSSDR のチャネルにのみ有効です。

 z/OS では、このパラメーターは、チャネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN のチャネルでのみサポートされます。

パラメーターの最大長は 12 文字ですが、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

V 8.0.0.4 PORT (*integer*)

AMQP チャネルの接続に使用されるポート番号。AMQP 1.0 接続のデフォルト・ポートは 5672 です。ポート 5672 を既に使用している場合は、異なるポートを指定できます。

PROPTL

プロパティ制御属性。

メッセージが V6 またはそれより前のキュー・マネージャー (プロパティ記述子の概念を理解しないキュー・マネージャー) に送信されるときに、メッセージのプロパティに対して行われる処置を指定します。

このパラメーターは、送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側の各チャネルに適用可能です。

このパラメーターはオプションです。

指定できる値は、次のとおりです。

COMPAT

COMPAT により、JMS 関連のプロパティーがメッセージ・データの MQRFH2 ヘッダーにあることを予期するアプリケーションが、変更されないまま動作を続行できます。

メッセージ・プロパティー	結果
メッセージに mcd. 、 jms. 、 usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティーが含まれている	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティーを除くすべてのオプションのメッセージ・プロパティー (Support の値が MQPD_SUPPORT_OPTIONAL である プロパティー) が、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。
メッセージに mcd. 、 jms. 、 usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティーが含まれていない	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティーを除くすべてのメッセージ・プロパティーが、メッセージから除去されます。
メッセージに、プロパティー記述子の Support フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティーが含まれている	メッセージは理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY でリジェクトされ、そのレポート・オプションに従って処理されます。
プロパティー記述子の Support フィールドは MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されているが、プロパティー記述子の他のフィールドはデフォルト以外の値に設定されているプロパティーがメッセージに 1 つ以上含まれている	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、デフォルト以外の値に設定されているプロパティーが、メッセージから除去されます。
メッセージ・プロパティーが含まれる MQRFH2 フォルダーに <code>content='properties'</code> 属性を割り当てる必要がある	サポートされない構文がある MQRFH2 ヘッダーが V6 以前のキュー・マネージャーに送信されないようにするため、プロパティーが除去されます。

NONE

メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティーを除くすべてのメッセージ・プロパティーが、メッセージから除去されます。

メッセージに、プロパティー記述子の **Support** フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティーが含まれている場合、メッセージは、理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY でリジェクトされ、そのレポート・オプションに従って処理されます。

ALL

メッセージのすべてのプロパティーは、リモート・キュー・マネージャーへの送信時にメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるプロパティー以外のプロパティーは、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

PUTAUT

(メッセージ・チャンネルの) 宛先キューにメッセージを書き込む権限を設定したり、(MQI チャンネルの) MQI 呼び出しを実行するのにどのユーザー ID を使用するかを指定します。

DEF

デフォルトのユーザー ID が使用されます。

▶ **z/OS** z/OS では、DEF は、ネットワークから受信したユーザー ID と MCAUSER から得たユーザー ID の両方を意味する場合があります。

CTX

メッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドからのユーザー ID が使用されます。

▶ **z/OS** z/OS では、CTX は、ネットワークから受信したユーザー ID または MCAUSER から得たユーザー ID、あるいはその両方を意味する場合があります。

z/OS ONLYMCA

MCAUSER から得られたユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は z/OS でのみサポートされます。

z/OS ALTMCA

メッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドからのユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は z/OS でのみサポートされます。

z/OS z/OS では、検査されるユーザー ID と検査されるユーザー ID の数は、MQADMIN RACF® クラス hlq.RESLEVEL プロファイルの設定により異なります。hlq.RESLEVEL に対してチャンネル・イニシエーターのユーザー ID が持つアクセスのレベルに応じて、0、1、または 2 個のユーザー ID が検査されます。検査されるユーザー ID の数については、[RESLEVEL およびチャンネル・イニシエーター接続](#)を参照してください。どのユーザー ID が検査されるかについては、[チャンネル・イニシエーターで使用されるユーザー ID](#)を参照してください。

分散プラットフォームでは、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

z/OS z/OS では、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、CLUSRCVR、または SVRCONN のチャンネルにのみ有効です。CTX および ALTMCA は SVRCONN チャンネルには無効です。

QMNAME(string)

キュー・マネージャー名。

チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN のチャンネルでは、このパラメーターは、クライアント環境で実行されており、クライアント・チャンネル定義テーブルを使用しているアプリケーションからの接続要求の対象となるキュー・マネージャーの名前です。チャンネルが定義されているキュー・マネージャーの名前をこのパラメーターに指定しなくても、クライアントは別のキュー・マネージャーに接続することができます。

その他のタイプのチャンネルでは、このパラメーターは無効です。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	ALTER
COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE CHANNEL(channel-name) CHLTYPE(type) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの ALTER は有効になります。

QSGDISP	ALTER
PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたものです。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。
QMGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

RCVDATA(*string*)

チャンネル受信出口ユーザー・データ (最大長は 32 文字)。

このパラメーターはチャンネル受信出口が呼び出されたとき、その出口に渡されます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラムを指定できます。フィールドの全長は、最大 999 文字まででなければなりません。

IBM i では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 10 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の受信出口に渡され、次のストリングは、次の受信出口に渡され、以下の順に渡されます。

 z/OS では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 8 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の受信出口に渡され、次のストリングは、次の受信出口に渡され、以下の順に渡されます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに受信出口データのストリングを 1 つしか指定できません。

RCVEXIT(*string*)

チャンネル受信出口名。

この名前が非ブランクの場合、出口は以下の時点で呼び出されます。

- 受信されたネットワーク・データが処理される直前。

出口には、受信された伝送バッファー全体が与えられます。バッファーの内容は、必要に応じて変更できます。

- チャンネルの初期設定時および終了時

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラム名を指定できます。ただし、指定する文字の合計数は 999 を超えてはなりません。

IBM i では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 10 個の出口プログラムの名前を指定できます。

 z/OS では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 8 個までの出口プログラム名を指定できます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに受信出口名を 1 つのみ指定できます。

名前の形式と最大長は、MSGEXIT と同じです。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義  (z/OS の場合は、属性指定が同じもの) をこれに置換するかどうか。このパラメーターはオプションです。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

同名の定義が既に存在すれば、この定義で置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。REPLACE ではチャンネル状況は変更されません。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

SCYDATA(*string*)

チャンネル・セキュリティー出口ユーザー・データ (最大長は 32 文字)。

このパラメーターはチャンネル・セキュリティー出口が呼び出されたとき、その出口に渡されます。

SCYEXIT(*string*)

チャンネル・セキュリティー出口名。

この名前が非ブランクの場合、出口は以下の時点で呼び出されます。

- チャンネルが確立された直後。
いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口は、セキュリティー・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。
- セキュリティー・メッセージ・フローに対する応答を受け取ったとき。
リモート・キュー・マネージャーのリモート・プロセッサから得られたセキュリティー・メッセージ・フローが出口に与えられます。
- チャンネルの初期設定時および終了時

この名前の形式および最大長は MSGEXIT と同じですが、指定できる名前は 1 つのみです。

SENDATA(*string*)

チャンネル送信出口ユーザー・データ。最大長は 32 文字です。

このパラメーターはチャンネル送信出口が呼び出されたとき、その出口に渡されます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラムを指定できます。フィールドの全長は、最大 999 文字まででなければなりません。

IBM i では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 10 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の送信出口に渡され、次のストリングは、次の送信出口に渡され、以下この順に渡されます。

 z/OS では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 8 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の送信出口に渡され、次のストリングは、次の送信出口に渡され、以下この順に渡されます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに送信出口データのストリングを 1 つしか指定できません。

SENDEXIT(*string*)

チャンネル送信出口名。

この名前が非ブランクの場合、出口は以下の時点で呼び出されます。

- データがネットワークに送り出される直前。
伝送バッファーが伝送される前に、出口に伝送バッファー全体が提供されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更できます。
- チャンネルの初期設定時および終了時

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラム名を指定できます。ただし、指定する文字の合計数は 999 を超えてはなりません。

IBM i では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 10 個の出口プログラムの名前を指定できます。

 z/OS では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 8 個までの出口プログラム名を指定できます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに送信出口名を 1 つのみ指定できます。

名前の形式と最大長は、MSGEXIT と同じです。

SEQWRAP(integer)

この値に達すると、シーケンス番号は折り返され、再び 1 から始まります。

この値は折衝不能であり、ローカルおよびリモートの両方のチャンネル定義で一致しなければなりません。

値は 100 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RCVR、RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

SHARECNV(integer)

各 TCP/IP チャンネル・インスタンスを共用できる会話の最大数を指定します。SHARECNV 値は、以下のようになります。

1

TCP/IP チャンネル・インスタンスで会話を共有しないということを指定します。MQGET 呼び出し内であるかどうかにかかわらず、クライアント・ハートビートが使用可能です。先読みおよびクライアント非同期コンシュームも使用可能であり、チャンネル静止の制御がさらに容易になります。

0

TCP/IP チャンネル・インスタンスで会話を共有しないということを指定します。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN または SVRCONN のチャンネルにのみ有効です。クライアント接続 SHARECNV 値がサーバー接続 SHARECNV 値に一致しない場合、2 つの値の小さいほうで使用されます。このパラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が TCP 以外のチャンネルでは無視されます。

1 つのソケット上の会話はすべて、同一のスレッドによって受信されます。

SHARECNV の限度を大きくすると、キュー・マネージャー・スレッドの使用が削減されるという利点があります。ただし、ソケットを共用する多数の会話がすべてビジー状態である場合、受信スレッドを使用しようとして会話同士が互いに競合し、遅延が発生する可能性があります。こうした状況では、より小さい SHARECNV 値を指定する方がより良い結果が得られます。

共有される会話の数は、MAXINST や MAXINSTC の合計には影響しません。

注: この変更を有効にするためには、クライアントを再始動する必要があります。

SHORTRTY(integer)

送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、またはクラスター送信側チャンネルがリモート・キュー・マネージャーに接続しようとするとき、接続を試みる最大回数。この接続の試みは、SHORTTMR に指定する間隔で行われます。この最大回数に達すると、後で (通常はもっと長い) LONGRTY と LONGTMR の値が使用されます。

チャンネルが最初の試みで接続に失敗するか (チャンネル・イニシエーターで自動始動したチャンネルでも、コマンドで明示的に始動させられたチャンネルでも構いません)、一度接続に成功した後その接続で障害が起きると、接続が再度試みられます。しかし、失敗の原因によって、さらなる試行が成功する見込みがないと思われる場合は、再試行されません。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

SHORTTMR(integer)

短い再試行のとき、このパラメーターは、リモート・キュー・マネージャーへの接続を再度試みるまで、最大何秒間待つかを指定します。

この時間はおおよそその値です。0 は、できるだけ早く次の接続を試みることを意味します。

チャンネルがアクティブになるのを待機する必要がある場合、再試行間隔が延長されることがあります。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

注：実装上の理由により、使用できる最大再試行間隔は、999999 です。これより大きい値を指定しても、最大は 999999 として処理されます。同様に、使用できる最小再試行間隔は 2 です。この最小値より小さい値は 2 として扱われます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

SSLCAUTH

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。チャンネルの開始側は SSL クライアントとして動作するので、このパラメーターは SSL サーバーとして動作する、開始フローの受信側のチャンネルに適用されます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、SVRCONN、CLUSRCVR、SVR、または RQSTR のチャンネルでのみ有効です。

パラメーターは、SSLCIPH が指定されたチャンネルにのみ使用されます。SSLCIPH がブランクの場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

REQUIRED

IBM MQ は、SSL クライアントから証明書を必要とし、それを検証します。

オプション

対等 SSL クライアント・システムが、まだ証明書を送信する可能性があります。送信する場合、この証明書の内容は、標準で検証されます。

SSLCIPH (string)

SSLCIPH は、チャンネルで使用される CipherSpec を指定します。最大長は 32 文字です。このパラメーターは、トランスポート・タイプ TRPTYPE (TCP) を使用するすべてのチャンネル・タイプで有効です。SSLCIPH パラメーターがブランクの場合、チャンネルでの SSL の使用は試行されません。

このパラメーターの値は、SECPROT の値の設定にも使用されます。。これは、[DISPLAY CHSTATUS](#) コマンドの出力フィールドです。

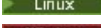
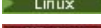
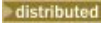
注：SSLCIPH をテレメトリー・チャンネルで使用する場合は、"SSL 暗号スイート"を意味します。["ALTER CHANNEL \(MQTT\)" で SSLCIPH の説明](#)を参照してください。

使用している CipherSpec の名前を指定します。IBM MQ SSL サポートで利用できる CipherSpec が、以下の表に示されています。特定の名称の CipherSpec が使用されている場合、チャンネルの両端の **SSLCIPH** 値は、同じ名称の CipherSpec を指定する必要があります。

注：    IBM MQ for z/OS の場合、  IBM i; 表に記載されているかどうかに関係なく、CipherSpec の 2 桁の 16 進コードを指定することもできます。IBM i では、AC3 のインストールは SSL を使用するための前提条件です。

プラットフォーム・サポート 697 ページの『1』	CipherSpec 名	使用されるプロトコル	データ整合性	暗号化アルゴリズム	暗号化ビット数	FIPS 697 ページの『2』	Suite B
 z/OS  UNIX  Linux  Windows	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	TLS 1.0	SHA-1	AES	128	Yes	No
 z/OS  UNIX  Linux  Windows	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA 697 ページの『3』	TLS 1.0	SHA-1	AES	256	Yes	No
すべて	ECDHE_ECDSA_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No

プラットフォーム・サポート 697 ページの『1』	CipherSpec 名	使用されるプロトコル	データ整合性	暗号化アルゴリズム	暗号化ビット数	FIPS 697 ページの『2』	Suite B
すべて	ECDHE_ECDSA_AES_256_CBC_SHA384 697 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-384	AES	256	Yes	No
 distributed	ECDHE_ECDSA_AES_128_GCM_SHA256 697 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	128 ビット
 distributed	ECDHE_ECDSA_AES_256_GCM_SHA384 697 ページの『3』 697 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	256	Yes	192 ビット
すべて	ECDHE_RSA_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_256_CBC_SHA384 697 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-384	AES	256	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_128_GCM_SHA256 697 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_256_GCM_SHA384 697 ページの『3』 697 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA384	Yes	No
 IBM i 697 ページの『5』	ECDHE_ECDSA_RC4_128_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_ECDSA_3DES_EDE_CBC_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	3DES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_RSA_3DES_EDE_CBC_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	3DES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_RSA_RC4_128_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	RSA	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_RSA_NULL_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	RSA	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_ECDSA_NULL_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	ECDSA	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_ECDSA_AES_256_GCM_SHA384 697 ページの『3』 697 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA384	Yes	No

プラットフォーム・サポート 697 ページの『1』	CipherSpec 名	使用されるプロトコル	データ整合性	暗号化アルゴリズム	暗号化ビット数	FIPS 697 ページの『2』	Suite B
   	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
   	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256 697 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-256	AES	256	Yes	No
	TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 697 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	No
	TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 697 ページの『3』 697 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	256	Yes	No

注:

1. 具体的なプラットフォームが記載されていない場合は、CipherSpec はすべてのプラットフォームで使用可能です。
2. FIPS 認定プラットフォーム上の FIPS 認定 CipherSpec であるかどうかを示しています。FIPS の説明については、[連邦情報処理標準 \(FIPS\)](#) を参照してください。
3. MQ Explorer が使用する JRE に対して適切な無制限のポリシー・ファイルが適用されていない場合には、この CipherSpec を使用して、WebSphere MQ エクスプローラーからキュー・マネージャーへの安全な接続を確立することはできません。
4. NIST の勧告に従って GCM CipherSpec は制限を採用しました。これにより、同じセッション鍵を使って 2^{32} 個の TLS レコードが送られた後、メッセージ AMQ9288 を伴って接続が終了します。
このエラーを回避するには、GCM Cipher を使用しないようにするか、秘密鍵リセットを有効にするか、あるいは環境変数 GSK_ENFORCE_GCM_RESTRICTION=GSK_FALSE を設定して IBM MQ キュー・マネージャーを開始します。
重要: FIPS モードを使用するかどうかに関わらず、GCM の制限は有効です。
5. IBM i でサポート対象としてリストされている CipherSpecs は、IBM i のバージョン 7.2 および 7.3 に適用されます。

個人用証明書を要求するときに、公開鍵と秘密鍵のペアの鍵サイズを指定します。SSL ハンドシェーク時に使用される鍵のサイズは、証明書に保管されているサイズと、CipherSpec によって異なります。

-  z/OS、Windows、UNIX and Linux システムでは、CipherSpec 名に _EXPORT が含まれている場合、ハンドシェークの最大鍵サイズは 512 ビットです。SSL ハンドシェーク時に交換される証明書のどちらかに、512 ビットより大きい鍵サイズがある場合、ハンドシェーク時に使用するために、一時的な 512 ビット鍵が生成されます。
- Windows、UNIX and Linux システムでは、CipherSpec 名に _EXPORT1024 が含まれている場合、ハンドシェークの鍵サイズは 1024 ビットです。
- それ以外の場合、ハンドシェークの鍵サイズは、証明書に保管されているサイズです。

SSLPEER(string)

チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントから送られてくる証明書の識別名との比較に使用するフィルターを指定します。(識別名は SSL 証明書の ID です。) 相手から受け取る証明書内の識別名が SSLPEER フィルターと一致しない場合、チャンネルは開始しません。

注: SSL または TLS サブジェクト識別名との突き合わせによってチャンネルへの接続を制限する別の方法は、チャンネル認証レコードを使用することです。チャンネル認証レコードを使用すると、SSL または TLS のサブジェクト識別名のさまざまなパターンを同じチャンネルに適用することができます。チャンネルで SSLPEER が設定されており、かつチャンネル認証レコードが同じチャンネルに適用されている場合、接続するには、インバウンド証明書が両方のパターンと一致する必要があります。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照してください。

このパラメーターはオプションです。指定しないと、ピアの識別名はチャンネルの始動時に検査されません。(証明書からの識別名は、メモリーに保持されている SSLPEER 定義に引き続き書き込まれ、セキュリティ出口に渡されます。) SSLCIPH がブランクの場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

このパラメーターは、すべてのチャンネル・タイプで有効です。

SSLPEER 値は、識別名を指定するために使用する標準形式で指定します。以下に例を示します。

```
SSLPEER('SERIALNUMBER=4C:D0:49:D5:02:5F:38,CN="H1_C_FR1",O=IBM,C=GB')
```

区切り文字として、コンマの代わりにセミコロンを使用できます。

サポートされる属性タイプを以下に示します。

表 59. SSLPEER でサポートされる属性タイプ.

SSLPEER 属性でサポートされる属性について説明した 2 列の表

要約属性	説明
SERIALNUMBER	証明書のシリアル番号
MAIL	メール・アドレス
E	E メール・アドレス (MAIL の方が好ましいため非推奨)
UID または USERID	ユーザー ID
CN	共通名
T	役職
OU	部門名
DC	ドメイン・コンポーネント
O	組織名
STREET	通り/住所の 1 行目
L	地域名
ST (または SP もしくは S)	都道府県名
「PC」	郵便番号
C	国名
UNSTRUCTUREDNAME	ホスト名
UNSTRUCTUREDADDRESS	IP アドレス
DNQ	識別名修飾子

IBM MQ は、属性タイプに英大文字だけを受け入れます。

SSLPEER スtringで、サポートされない属性タイプのいずれかが指定されると、属性の定義時または実行時 (稼働しているプラットフォームに依存) にエラーが出力され、Stringは、流れてきた証明書の識別名に一致しなかったと見なされます。

流れてきた証明書の識別名に複数の OU (organizational unit) 属性が含まれ、SSLPEER にこれらの属性の比較が指定されている場合、これらの属性を階層の降順に定義する必要があります。例えば、フロー証明書の識別名に OU、OU=Large Unit、OU=Medium Unit、OU=Small Unitが入っている場合、次の SSLPEER 値を指定すると処理されます。

```
('OU=Large Unit,OU=Medium Unit')
('OU=*,OU=Medium Unit,OU=Small Unit')
('OU=*,OU=Medium Unit')
```

しかし、次の SSLPEER 値を指定すると失敗します。

```
('OU=Medium Unit,OU=Small Unit')
('OU=Large Unit,OU=Small Unit')
('OU=Medium Unit')
('OU=Small Unit, Medium Unit, Large Unit')
```

例にも示されているとおり、階層の一番低い属性は省略可能です。例えば、('OU=Large Unit,OU=Medium Unit') は ('OU=Large Unit,OU=Medium Unit,OU=*') と同等です。

2つの DN がその DC 値を除きすべての点で等しい場合、OU の場合と同じルールが適用されます。ただし、DC 値では左端の DC が最も低い (最も具体的な) レベルとなり、それに応じて比較の順序も変わります。

属性値は、アスタリスク (*) だけで構成したり、語幹に先行または後続のアスタリスクを付けることによって、そのすべて、あるいは一部を汎用表現にできます。アスタリスクによって、SSLPEER はどのような識別名の値とも、またはその属性の語幹で始まるどのような値とも一致させることができます。

証明書の識別名において属性値の先頭または末尾にアスタリスクを指定する場合、SSLPEER で完全一致を検査するには '¥*' と指定します。例えば、証明書の識別名の属性が CN='Test*' である場合、次のコマンドを使用できます。

```
SSLPEER('CN=Test\*')
```

パラメーターの最大長は、Windows、IBM i、UNIX および Linux プラットフォームでは 1024 バイトです。

 z/OS では、パラメーターの最大長は 256 バイトです。

[チャンネル認証レコード](#)によって、SSLPEER の使用時に柔軟性が大幅に向上し、すべてのプラットフォームで 1024 バイトがサポートされます。

STATCHL

チャンネルの統計データの収集を制御します。

QMGR

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値は、チャンネルによって継承されます。

OFF

このチャンネルでの統計データ収集がオフになります。

LOW

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値が NONE でない場合は、このチャンネルに対して低速での統計データ収集がオンになります。

MEDIUM

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値が NONE でない場合は、このチャンネルに対して普通の速度での統計データ収集がオンになります。

HIGH

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値が NONE でない場合は、このチャンネルに対して高速での統計データ収集がオンになります。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

クラスター・チャンネルの場合、このパラメーターの値はリポジトリで複製されず、クラスター送信側チャンネルの自動定義で使用されます。自動定義のクラスター送信側チャンネルの場合、このパラメーターの値はキュー・マネージャーの STATACLS 属性から取得されます。次いでこの値は、チャンネルの自動定義出口で指定変更されます。

TPNAME(string)

LU 6.2 トランザクション・プログラム名 (最大長は 64 文字)。

このパラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が LU 6.2 のチャンネルにのみ有効です。

このパラメーターを SNA トランザクション・プログラム名に設定する必要があります。ただし、CONNNAME にサイド・オブジェクト名が指定されている場合には、ブランクに設定する必要があります。その代わりに、実際の名前は CPI-C コミュニケーション・サイド・オブジェクト、つまり APPC サイド情報データ・セットから取得されます。

 ご使用のプラットフォームの LU 6.2 接続の構成パラメーターについて詳しくは、[LU 6.2 接続用構成パラメーター](#)を参照してください。

Windows SNA サーバー 、および z/OS のサイド・オブジェクトでは、TPNAME が大文字にラップされます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR のチャンネルでは無効です。

TPROOT

AMQP チャンネルのトピック・ルート。TPROOT のデフォルト値は SYSTEM.BASE.TOPIC です。この値を設定した場合、AMQP クライアントがパブリッシュまたはサブスクライブに使用するトピック・ストリングに接頭部が付かず、クライアントは他の MQ パブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションとの間でメッセージを交換できます。トピック接頭部のもとで AMQP クライアントがパブリッシュおよびサブスクライブするようにするには、まず、トピック・ストリングを目的の接頭部に設定した MQ トピック・オブジェクトを作成し、次に TPROOT を作成済み MQ トピック・オブジェクトの名前に設定します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が AMQP のチャンネルにのみ有効です。

TRPTYPE

使用するトランスポート・タイプ。

AIX、IBM i、HP-UX、Linux、Solaris、Windows 、および z/OS では、値を入力しない場合、SYSTEM.DEF. channel-type 定義で指定されている値が使用されるため、このパラメーターはオプションです。しかし、チャンネルの開始が相手側からであった場合、正しいトランスポート・タイプが指定されたかどうかの検査はありません。

 z/OS では、SYSTEM.DEF channel-type 定義が存在しません。デフォルトは LU62 です。

このパラメーターは、他のすべてのプラットフォームで必須です。

LU62

SNA LU 6.2

NETBIOS

NetBIOS (Windows および DOS でのみサポート)。

 NetBIOS をサポートするプラットフォーム上のサーバーに接続するクライアント接続チャンネルを定義する場合、この属性は z/OS にも適用されます。

SPX

シーケンス・パケット交換 (Windows および DOS でのみサポート)。

 **z/OS** SPX をサポートするプラットフォーム上のサーバーに接続するクライアント接続チャンネルを定義する場合、この属性は z/OS にも適用されます。

TCP

伝送制御プロトコル - TCP/IP プロトコル・スイートの一部

V 8.0.0.4 USECLTID

AMQP チャンネルの許可検査に MCAUSER 属性値ではなくクライアント ID を使用することを指定します。

USEDLQ

チャンネルでメッセージが配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。

NO

チャンネルによって送信できないメッセージは、失敗したものととして扱われます。NPMSPEED の設定に従って、チャンネルがメッセージを破棄するか、チャンネルが終了します。

YES

DEADQ キュー・マネージャーの属性が送達不能キューの名前を指定している場合は、それが使用されます。指定されていない場合、動作は NO の場合のようになります。YES はデフォルト値です。

USERID(string)

タスク・ユーザー ID。最大長は 12 文字です。

このパラメーターは、メッセージ・チャンネル・エージェントが、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの保護 LU 6.2 セッションの開始を試みる際に使用します。

分散プラットフォームでは、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLNTCONN、または CLUSSDR のチャンネルにのみ有効です。

 **z/OS** z/OS では、CLNTCONN チャンネルについてのみサポートされます。

パラメーターの最大長は 12 文字ですが、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

受信側でパスワードが暗号形式で保持され、LU 6.2 ソフトウェアが別の暗号方式を使用している場合、チャンネルを開始しようとすると、セキュリティの詳細が無効なために失敗します。無効なセキュリティの詳細は、受信側の SNA 構成を次のいずれかに変更することによって回避できます。

- パスワード置換をオフにする。
- セキュリティー・ユーザー ID およびパスワードを定義する。

XMITQ(string)

伝送キュー名。

メッセージが検索されるキューの名前。 [IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

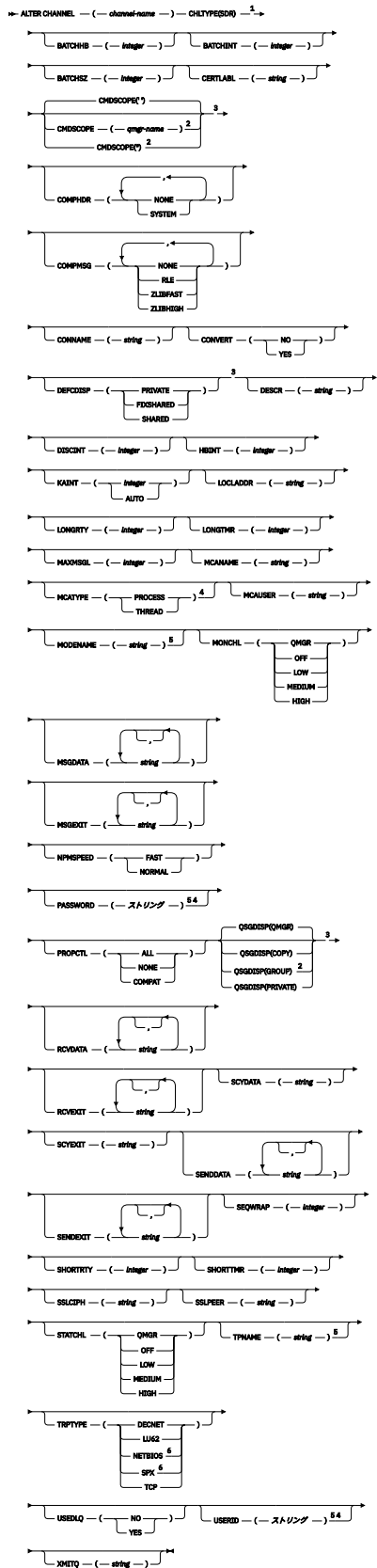
このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR または SVR のチャンネルにのみ有効です。これらのチャンネル・タイプでは、必須のパラメーターです。

チャンネル・タイプごとに個別の構文図があります。

送信側チャンネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時の送信側チャンネル用の構文図。

ALTER CHANNEL



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ Windows でのみ有効です。

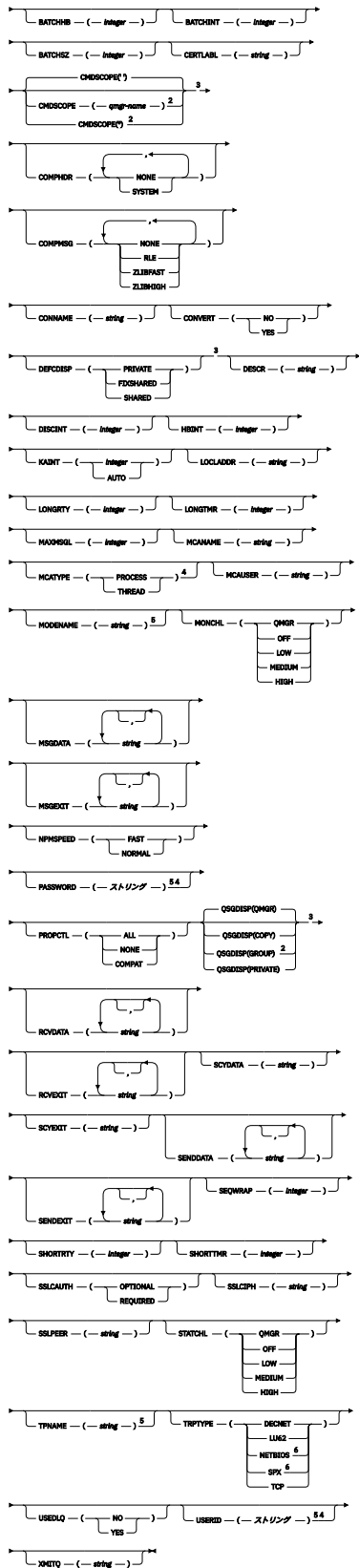
パラメーターについては、[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)に説明があります。

サーバー・チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時のサーバー・チャネル用の構文図。

ALTER CHANNEL

ALTER CHANNEL — (— channel-name —) — CHLTYPES(V) ¹ →



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

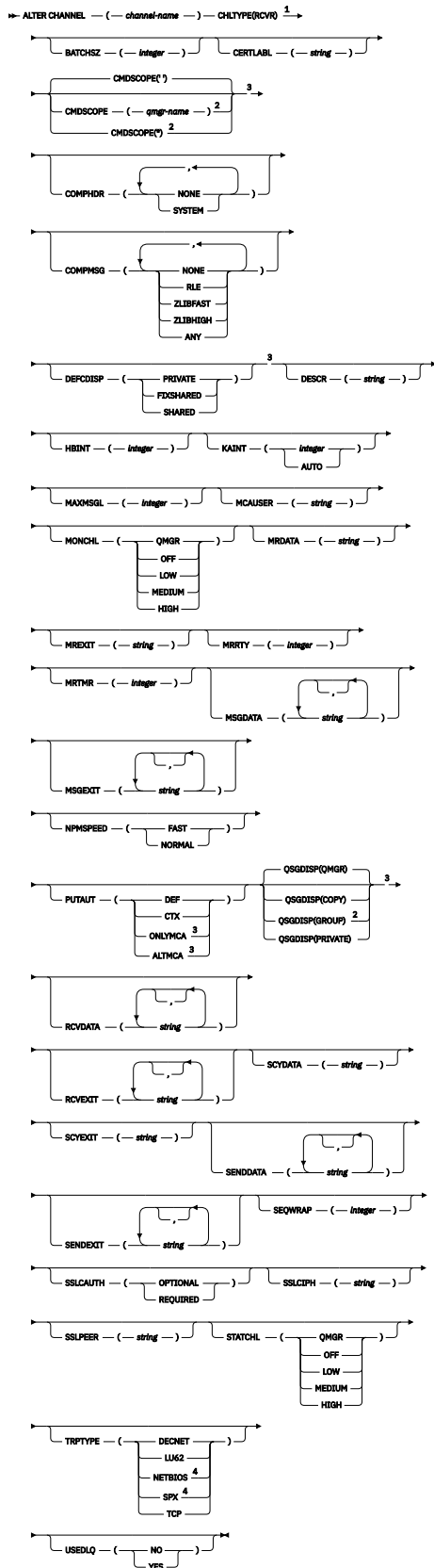
- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)に説明があります。

受信側チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時の受信側チャネル用の構文図。

ALTER CHANNEL



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

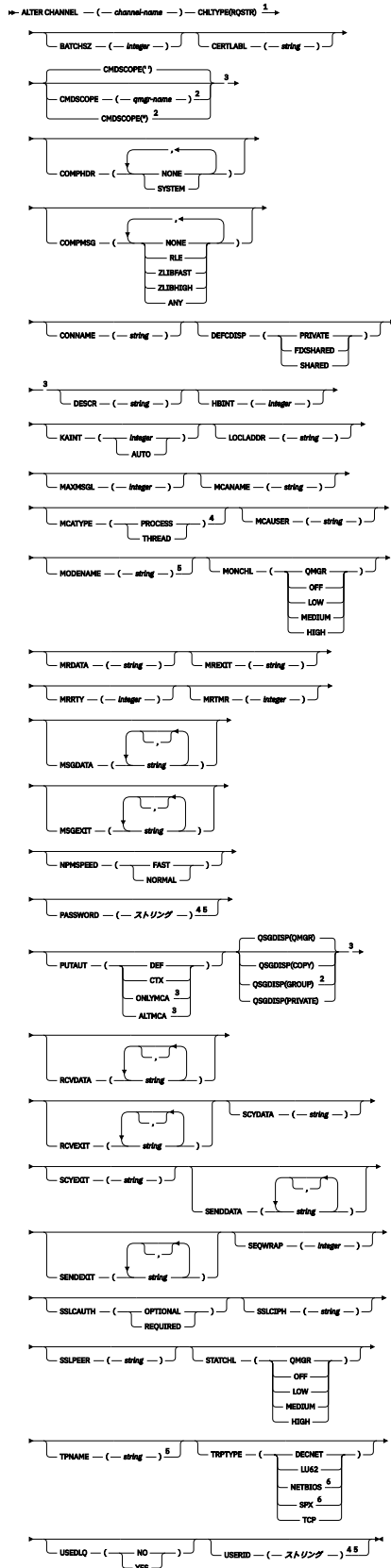
- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)に説明があります。

要求側チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時の要求側チャネル用の構文図。

ALTER CHANNEL



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ Windows でのみ有効です。

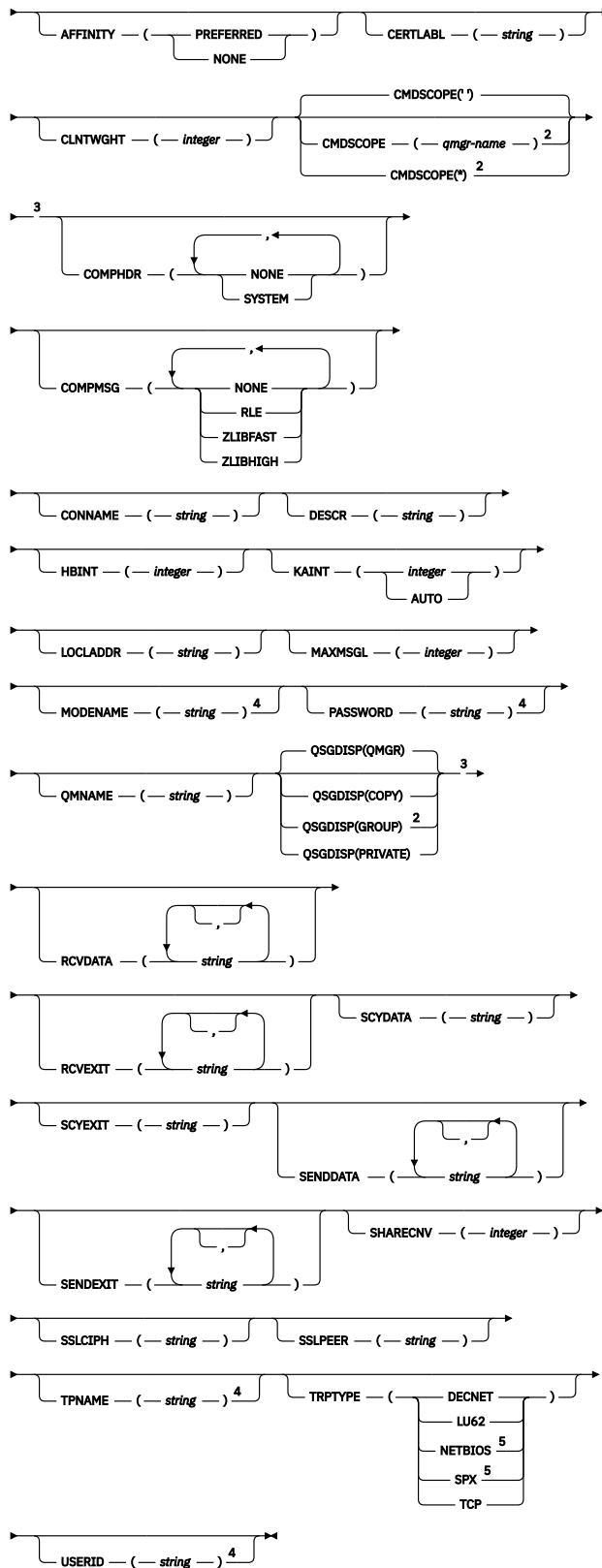
パラメーターについては、[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)に説明があります。

クライアント接続チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時のクライアント接続チャネル用の構文図。

ALTER CHANNEL

➡ ALTER CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE(CLNTCONN) ¹ ➡



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁵ DOS および Windows で実行するクライアントでのみ有効です。

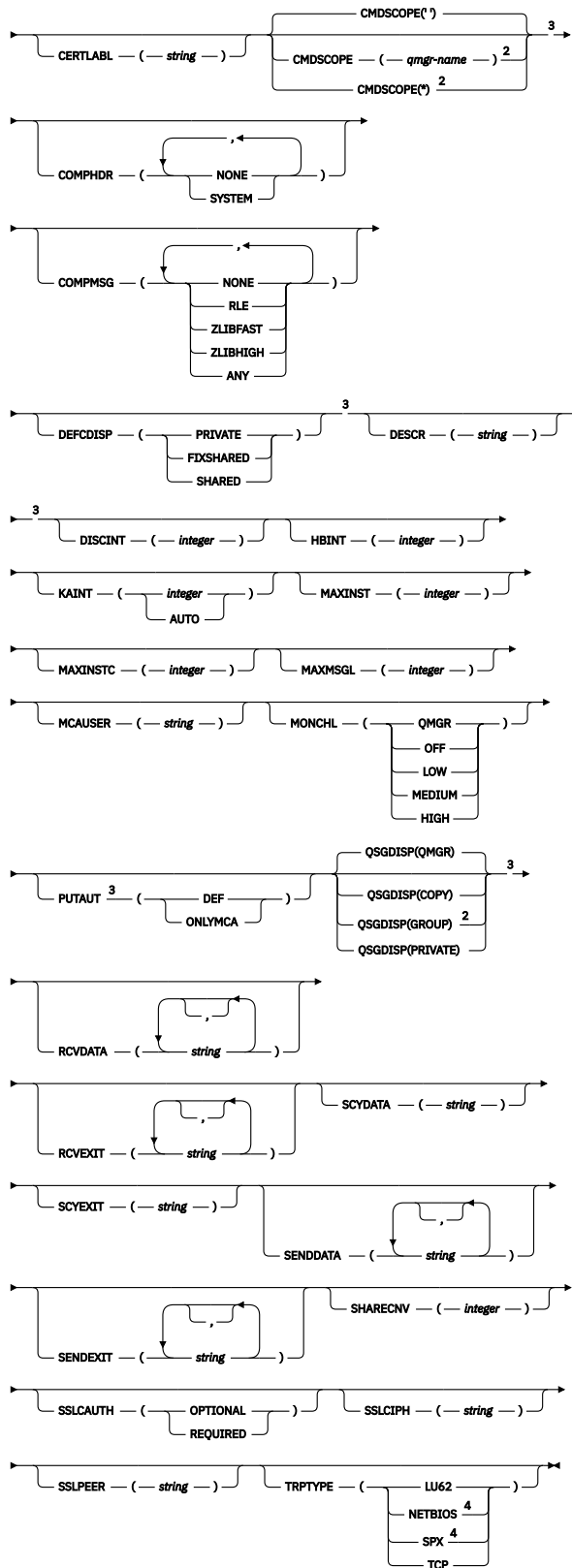
パラメーターについては、[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)に説明があります。

サーバー接続チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時のサーバー接続チャネル用の構文図。

ALTER CHANNEL

➤ ALTER CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE(SVRCONN) ¹ ➔



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

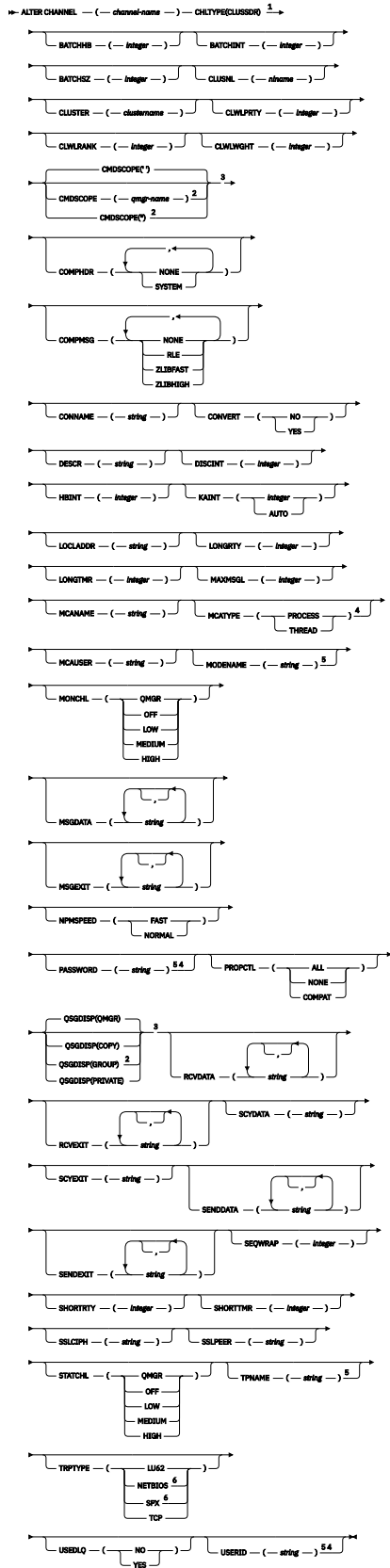
- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OSでのみ有効です。
- ³ z/OSでのみ有効です。
- ⁴ Windowsで実行するクライアントでのみ有効です。

パラメーターについては、[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)に説明があります。

クラスター送信側チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時のクラスター送信側チャネル用の構文図。

ALTER CHANNEL



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、[665 ページの『ALTER CHANNEL』](#)に説明があります。

クラスター受信側チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時のクラスター受信側チャネル用の構文図。

➔ ALTER CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE(CLUSRCVR) ¹ ➔



716 IBM MQ 管理リファレンス

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
³ z/OS でのみ有効です。
⁴ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
⁵ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、665 ページの『ALTER CHANNEL』に説明があります。

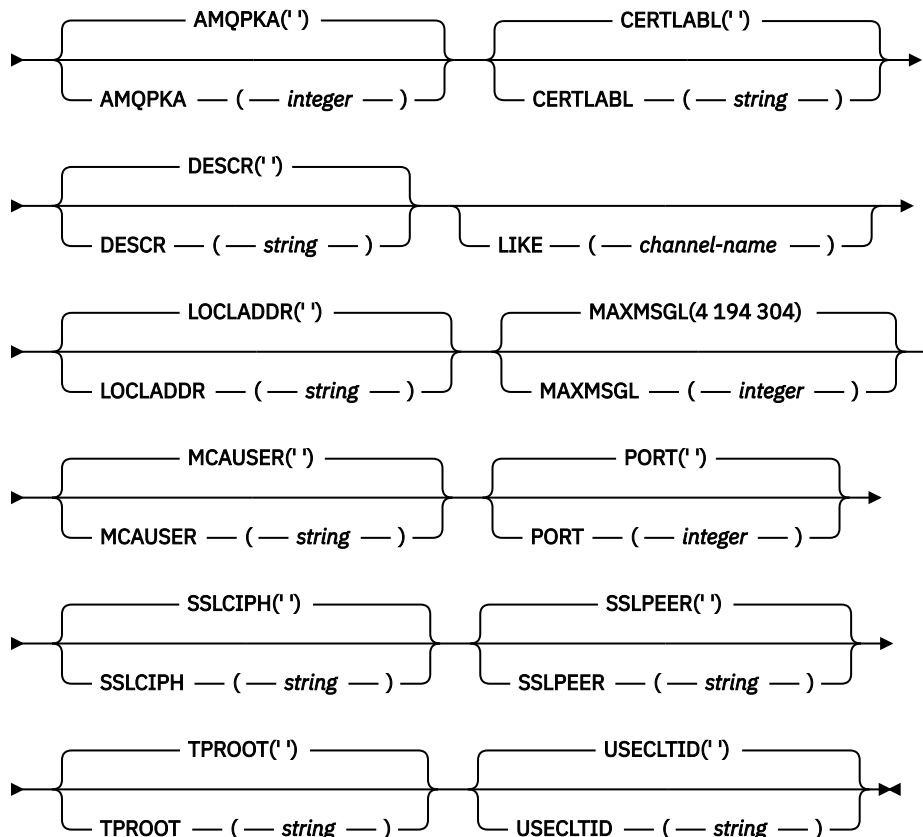
distributed AMQP チャネル

ALTER CHANNEL コマンド使用時の AMQP チャネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『路線図の読み方』を参照してください。

DEFINE CHANNEL

►► ALTER CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE(AMQP) ►



パラメーターについては、665 ページの『ALTER CHANNEL』に説明があります。

ALTER CHANNEL (MQTT)

ALTER CHANNEL コマンド使用時のテレメトリー・チャネル用の構文図。

MQSC コマンドの使用

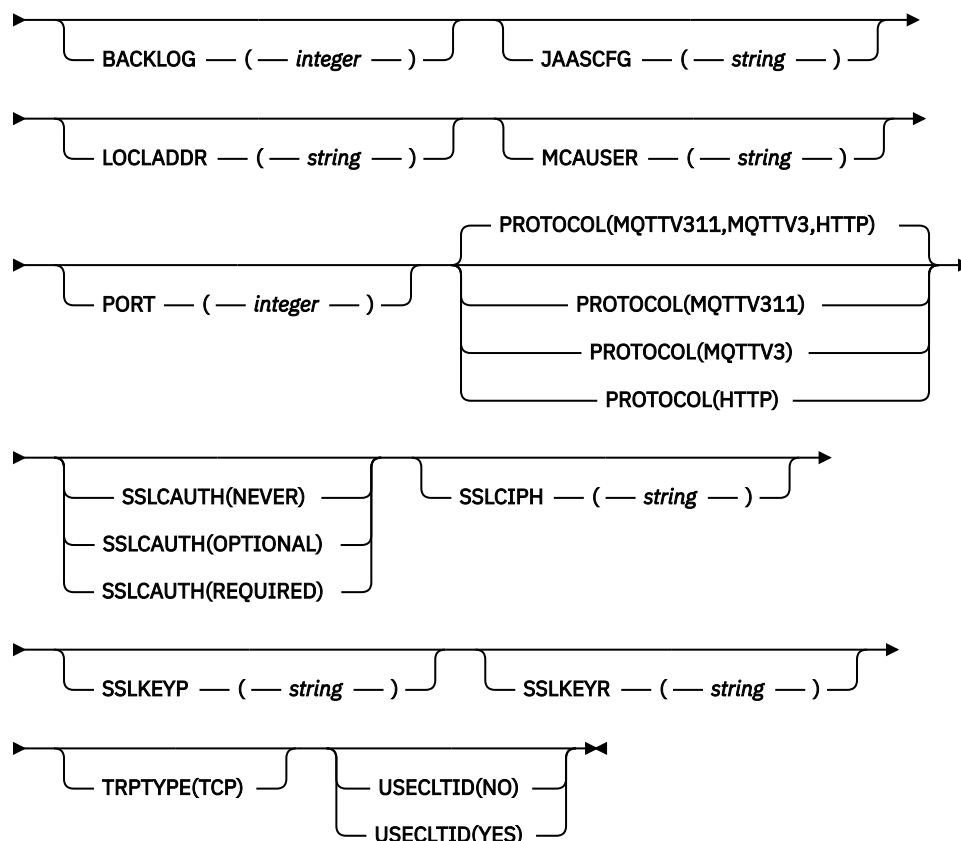
MQSC コマンドの使用方法については、MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行を参照してください。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

注：テレメトリー・サーバー用にサポートされている UNIX プラットフォームは AIX のみです。

ALTER CHANNEL (MQTT)

► ALTER CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE — (— MQTT —) —►



使用上の注意

このコマンドの発行時には、テレメトリー (MQXR) サービスが実行中でなければなりません。テレメトリー (MQXR) サービスを開始する方法については、[テレメトリー対応キュー・マネージャーの構成 \(Linux\)](#) または [Windows 上のテレメトリー用キュー・マネージャーの構成](#) を参照してください。

ALTER CHANNEL (MQTT) のパラメーターの説明

(*channel-name*)

チャンネル定義の名前。

BACKLOG (*integer*)

ある一時点にテレメトリー・チャンネルがサポートできる未解決の接続要求の数。バックログ制限に達すると、さらに接続しようとするクライアントは現在のバックログが処理されるまで接続を拒否されます。

この値の範囲は 0 から 999999999 です。

デフォルト値は 4096 です。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。MQTT (テレメトリー) チャンネル。

JAASCFG (*string*)

JAAS 構成ファイル内のスタンザの名前。

JAAS を使用した MQTT クライアント Java アプリケーションの認証を参照してください。

LOCLADDR (*ip-addr*)

LOCLADDR は、チャンネルのローカル通信アドレスです。このパラメーターは、特定の IP アドレスの使用をクライアントに強制する必要がある場合に使用します。LOCLADDR は、チャンネルで IPv4 または IPv6 アドレスを使用したり (選択可能な場合)、複数のネットワーク・アダプターがあるシステムにおいて特定のネットワーク・アダプターを使用したりすることを強制する場合に役立ちます。

LOCLADDR の最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LOCLADDR を省略すると、ローカル・アドレスが自動的に割り振られます。

ip-addr

ip-addr は、単一のネットワーク・アドレスであり、次の 3 つの形式のいずれかで指定します。

IPv4 ドット 10 進数

192.0.2.1 など

IPv6 16 進表記

2001:DB8:0:0:0:0:0:0 など

英数字のホスト名書式

WWW.EXAMPLE.COM など

IP アドレスを入力すると、アドレス・フォーマットのみが妥当性検査されます。IP アドレス自体は妥当性検査されません。

MCAUSER (*string*)

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

ストリングの最大長は 12 文字です。Windows では、オプションで、形式 user@domain のドメイン・ネームを使用してユーザー ID を修飾できます。

このパラメーターが非ブランクで、**USECLNTID** が NO に設定されている場合、このユーザー ID は、IBM MQ リソースへのアクセスを許可するためにテレメトリー・サービスによって使用されます。

このパラメーターがブランクであり、**USECLNTID** が NO に設定されている場合、MQTT CONNECT パケットで送られてきたユーザー名が使用されます。[MQTT クライアントの ID および許可](#)を参照してください。

PORT (*integer*)

テレメトリー (MQXR) サービスがクライアント接続を受け付けるポート番号。テレメトリー・チャンネルのデフォルト・ポート番号は 1883 で、SSL を使用して保護されているテレメトリー・チャンネルのデフォルト・ポート番号は 8883 です。ポートの値として 0 を指定すると、MQTT が使用可能なポート番号を動的に割り振ります。

PROTOCOL

以下の通信プロトコルがチャンネルでサポートされています。

V8.0.0.3 MQTTV311

チャンネルは、MQTT バージョン **3.1.1** Oasis 規格で定義されたプロトコルを使用するクライアントからの接続を受け入れます。このプロトコルによる機能は、既存の MQTTV3 プロトコルによる機能とほとんど同じです。

MQTTV3

チャンネルは、mqtt.org が定めた [MQTT V3.1 プロトコル仕様](#) を使用するクライアントからの接続を受け入れます。

HTTP

チャンネルは、ページの HTTP 要求、または IBM MQ Telemetry への WebSockets 接続を受け入れます。

それぞれ異なるプロトコルを使用する複数のクライアントからの接続を受け入れるには、受け入れ可能な値をコンマ区切りリストで指定します。例えば、MQTTV3,HTTP を指定した場合、チャンネルは MQTTV3 かまたは HTTP を使用するクライアントからの接続を受け入れます。クライアント・プロトコルを指定しない場合、チャンネルは、サポートされるプロトコルのいずれかを使用するクライアントからの接続を受け入れます。

V8.0.0.3 IBM MQ バージョン 8.0.0、フィックスパック 3 以降を使用していて、旧バージョンの IBM MQ で最後に変更された MQTT チャンネルが構成に含まれている場合は、プロトコル設定を明示的に変更して、チャンネルが MQTTV311 オプションを使用するようにする必要があります。チャンネルにクライアント・プロトコルが何も指定されていない場合も同様です。チャンネルで使用する具体的なプロトコルはチャンネルの構成時に保管されるため、以前のバージョンの製品は MQTTV311 オプションを認識しないからです。この状態のチャンネルが MQTTV311 オプションを使用するようにするには、オプションを明示的に追加して、変更を保存します。これで、チャンネル定義でオプションが認識されるようになります。その後再び設定を変更して、クライアント・プロトコルをまったく指定しなくても、MQTV311 オプションはサポートされるプロトコルの保管リストにそのまま含まれています。

SSLCAUTH

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。チャンネルの開始側は SSL クライアントとして動作するので、このパラメーターは SSL サーバーとして動作する、開始フローの受信側のチャンネルに適用されます。

NEVER

IBM MQ は、SSL クライアントからの証明書を要求しません。

REQUIRED

IBM MQ は、SSL クライアントから証明書を必要とし、それを検証します。

OPTIONAL

IBM MQ は、証明書を提供するかどうかを SSL クライアントに決定させます。クライアントが証明書を送信する場合、この証明書の内容は、標準で検証されます。

SSLCIPH (*string*)

SSLCIPH をテレメトリー・チャンネルで使用する場合は、"SSL 暗号スイート"を意味します。SSL 暗号スイートは、テレメトリー (MQXR) サービスを実行する JVM でサポートされるものです。SSLCIPH パラメーターがブランクの場合、チャンネルでの SSL の使用は試行されません。

SHA-2 暗号スイートを使用する場合は、[MQTT チャンネルで SHA-2 暗号スイートを使用する場合のシステム要件](#)を参照してください。

SSLKEYP (*string*)

Secure Sockets Layer (SSL) キー・リポジトリのパスフレーズ。

SSLKEYR (*string*)

デジタル証明書とそれに関連した秘密鍵のストア (格納場所) である Secure Sockets Layer (SSL) の鍵リポジトリ・ファイルの絶対パス名。鍵ファイルを指定しなかった場合、SSL は使用されません。

ストリングの最大長は 256 文字です。UNIX および Linux では、名前の形式は *pathname/keyfile* であり、Windows *pathname\keyfile* では *keyfile* が接尾部 *.jks* なしで指定され、Java 鍵ストア・ファイルを識別します。

TRPTYPE (*string*)

使用する伝送プロトコル。

TCP

TCP/IP。

USECLTID

新しい接続の MQTT クライアント ID を、この接続の IBM MQ ユーザー ID として使用するかどうかを決定します。このプロパティを指定すると、クライアントが指定するユーザー名は無視されます。

このパラメーターを YES に設定する場合、**MCAUSER** はブランクでなければなりません。

USECLNTID が NO に設定されていて、**MCAUSER** がブランクである場合、MQTT CONNECT パケットで送られてきたユーザー名が使用されます。[MQTT クライアントの ID および許可](#)を参照してください。

関連資料

907 ページの『[DEFINE CHANNEL \(MQTT\)](#)』

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合のテレメトリー・チャンネルの構文図。

関連情報

[SSL を使用した MQTT クライアント認証のためのテレメトリー・チャンネルの構成](#)

[SSL を使用したチャンネル認証のためのテレメトリー・チャンネル構成](#)

[CipherSpec および CipherSuite](#)

[MQTT チャンネルで SHA-2 暗号スイートを使用する場合のシステム要件](#)

ALTER COMMINFO

MQSC コマンド ALTER COMMINFO では、通信情報オブジェクトのパラメーターを変更します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓

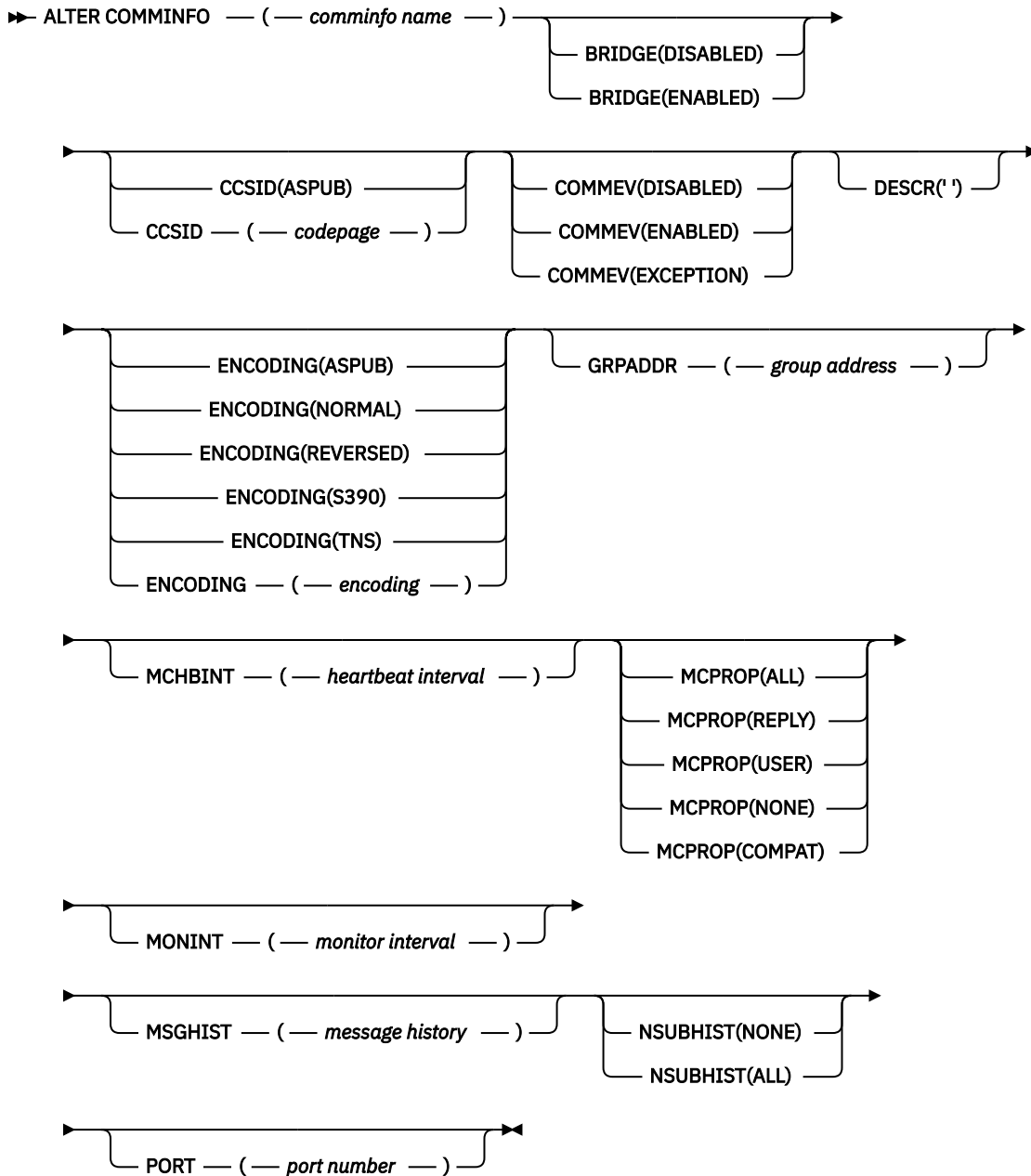
ALTER COMMINFO コマンドでパラメーターを指定しなければ、それらのパラメーターは変更されず、既存の値がそのまま残ります。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [722 ページの『ALTER COMMINFO のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT COMMINFO

ALTER COMMINFO



注:

ALTER COMMINFO のパラメーターの説明

(*comminfo name*)

通信情報オブジェクトの名前。このパラメーターは必須です。

このキュー・マネージャーで現在定義されている他の通信情報オブジェクト名と同じ名前を指定することはできません。 [IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

BRIDGE

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡すかどうかを制御します。ブリッジングは、**MCAST(ONLY)**のマークが付いているトピックには適用されません。その種のトピックでは、マルチキャスト・トラ

フィックだけが可能なので、キューのパブリッシュ/サブスクライブ・ドメインへのブリッジは適用されません。

無効化

マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションが、マルチキャストを使用するアプリケーションにブリッジされません。

ENABLED

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡します。

CCSID(integer)

メッセージ送信のコード化文字セット ID。1 から 65535 の範囲内で値を指定します。

CCSID では、対象のプラットフォーム用に定義されている値を指定する必要があります。また、キュー・マネージャーのプラットフォームに該当する文字セットを使用しなければなりません。このパラメーターを使用して CCSID を変更すると、その変更の適用の時点で実行中になっているアプリケーションは、引き続き元の CCSID を使用します。したがって、稼働を続ける前に、すべての実行中のアプリケーションをいったん停止して再始動する必要があります。実行中のアプリケーションには、コマンド・サーバーとチャネル・プログラムも含まれます。このパラメーターの変更後に、すべての実行中のアプリケーションを停止して再始動し、さらにキュー・マネージャーを停止して再始動してください。

CCSID を ASPUB に設定することもできます。この場合は、パブリッシュされるメッセージで指定されている値に基づいて、コード化文字セットが選択されます。

COMMEV

この COMMINFO オブジェクトで作成されたマルチキャスト・ハンドルのイベント・メッセージを生成するかどうかを制御します。イベントが生成されるのは、**MONINT** パラメーターでイベントが有効になっている場合に限られます。

無効化

マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションが、マルチキャストを使用するアプリケーションにブリッジされません。

ENABLED

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡します。

EXCEPTION

メッセージ信頼性が信頼性しきい値を下回ると、イベント・メッセージが書き込まれます。信頼性しきい値は、デフォルトで 90 に設定されます。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY COMMINFO コマンドを実行すると、通信情報オブジェクトに関するこの記述情報が表示されます ([1096 ページ](#)の『DISPLAY COMMINFO』を参照してください)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

ENCODING

メッセージ送信のエンコード。

AS PUB

メッセージのエンコードは、パブリッシュされるメッセージで指定されている値から取り込まれます。

NORMAL

REVERSED

S390

TNS

encoding

GRPADDR

グループの IP アドレスまたは DNS 名。

グループ・アドレスを管理するのは、管理者の責任です。すべてのマルチキャスト・クライアントで、あらゆるトピックについて同じグループ・アドレスを使用することも可能です。その場合も、クライアントで未解決になっているサブスクリプションに合致するメッセージだけが送信されます。同じグループ・アドレスを使用すると、各クライアントがネットワーク内のあらゆるマルチキャスト・パケットを調べて処理しなければならないので、効率が落ちる場合もあります。トピックごとに、あるいはトピック・セットごとに、別々の IP グループ・アドレスを割り振るほうが効率は良くなりますが、その割り振りには、注意深い管理が必要です。ネットワークで MQ 以外の他のマルチキャスト・アプリケーションが使用されている場合は、特にそういえます。

MCHBINT

ハートビート間隔はミリ秒単位で測定されます。このパラメーターで、送信側がデータがこれ以上ないことを受信側に通知する頻度を指定します。

MCPROP

このマルチキャスト・プロパティの値では、メッセージと一緒に流れる MQMD プロパティとユーザー・プロパティの数を制御します。

すべて

すべてのユーザー・プロパティとすべての MQMD フィールドを送信します。

REPLY

ユーザー・プロパティと、メッセージへの応答に関連する MQMD フィールドだけを送信します。以下のプロパティが該当します。

- MessageType
- MessageId
- CorrelId
- ReplyToQ
- ReplyToQmgr

ユーザー

ユーザー・プロパティのみが送信されます。

NONE

ユーザー・プロパティも MQMD フィールドも送信されません。

COMPAT

この値を指定すると、RMM 互換モードでメッセージが送信され、現在の XMS アプリケーションやブローカーの RMM アプリケーションとの相互協調処理が一部可能になります。

MONINT(integer)

モニター情報を更新する頻度 (秒単位)。イベント・メッセージが有効になっている場合は、このパラメーターによって、この COMMINFO オブジェクトで作成されたマルチキャスト・ハンドルの状況に関するイベント・メッセージの生成頻度も制御できます。

0 の値は、モニターしないことを意味します。

MSGHIST

この最大メッセージ・ヒストリーの値は、システムが NACK (否定応答) の場合の再送信を処理するために保持しておくメッセージ・ヒストリーの量です。

値を 0 にすると、信頼性が最低レベルになります。

NSUBHIST

この新規サブスクライバー・ヒストリーの値では、パブリケーション・ストリームに加わるサブスクライバーが現時点で入手できる限りの量のデータを受け取るのか、それともサブスクリプションの時点以降に実行されたパブリケーションだけを受け取るのかを制御します。

NONE

値を NONE にすると、送信側は、サブスクリプションの時点以降に実行されたパブリケーションだけを送信します。

ALL

値を ALL にすると、送信側は、入手できる限りのトピック・ヒストリーを再送信します。場合によっては、この再送信は、保存パブリケーションと同じような動作になることがあります。

注: ALL の値を使用すると、すべてのトピック・ヒストリーが再送信されるので、大量のトピック・ヒストリーがある場合は、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

PORT(integer)

送信のポート番号。

ALTER LISTENER

MQSC コマンド ALTER LISTENER は、既存の IBM MQ リスナー定義のパラメーターを変更するために使用します。リスナーが既に稼働している場合は、その定義に加える変更点は、リスナーが次回始動した後のみ有効になります。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

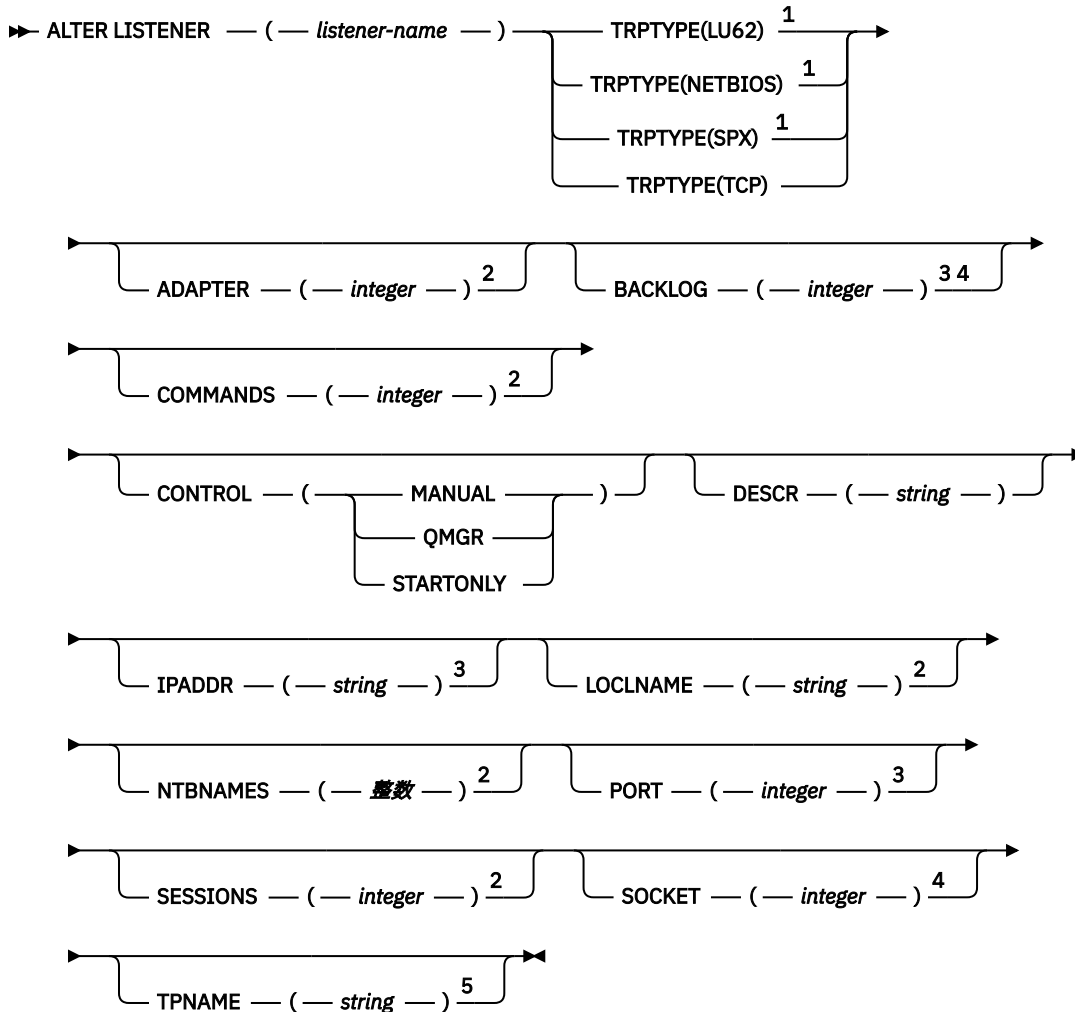
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

ALTER LISTENER コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

- [構文図](#)
- [726 ページの『ALTER LISTENER のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT LSTR

ALTER LISTENER



注:

- ¹ Windows でのみ有効です。
- ² TRPTYPE が NETBIOS 場合、Windows でのみ有効です。
- ³ TRPTYPE が TCP の場合有効です。
- ⁴ TRPTYPE が SPX 場合、Windows で有効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 場合、Windows でのみ有効です。

ALTER LISTENER のパラメーターの説明

(*listener-name*)

IBM MQ リスナー定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。これは必須です。

名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのリスナー定義とも同じであってはなりません (REPLACE が指定されている場合を除く)。

ADAPTER(*integer*)

NetBIOS が listen するアダプター番号。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

BACKLOG(*integer*)

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

COMMANDS(*integer*)

リスナーが使用できるコマンドの数。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

CONTROL(*string*)

リスナーの開始および停止の方法を指定します。

MANUAL

リスナーを自動的に開始または停止しません。START LISTENER コマンドと STOP LISTENER コマンドを使用して制御します。

QMGR

定義するリスナーは、キュー・マネージャーの開始および停止と同時に、開始および停止します。

STARTONLY

リスナーは、キュー・マネージャーの開始と同時に開始するようになっていますが、キュー・マネージャーの停止と同時に停止するようには要求されていません。

DESCR(*string*)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY LISTENER コマンドを発行すると、リスナーに関する記述情報が提供されます (1116 ページの『DISPLAY LISTENER』を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) がない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

IPADDR(*string*)

リスナーの IP アドレス。IPv4 ドット 10 進表記、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名のいずれかの形式で指定します。このパラメーターに値を指定しない場合、リスナーは構成済みのすべての IPv4 および IPv6 スタックを listen します。

LIKE(*listener-name*)

リスナーの名前。この定義をモデル化するために使用するパラメーターと共に指定します。

このパラメーターは、DEFINE LISTENER コマンドのみに適用されます。

このフィールドが入力されておらず、コマンドに関連するパラメーター・フィールドを入力していない場合には、値はこのキュー・マネージャーでのリスナーのデフォルト定義から取得されます。これは、次のように指定するのと同じです。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.LISTENER)
```

デフォルトのリスナーが指定されますが、これは必要なデフォルト値のインストールにより変更できます。IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照してください。

LOCLNAME(*string*)

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

NTBNAMES(*integer*)

リスナーが使用できる名前数。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

PORT(*integer*)

TCP/IP のポート番号。これは、TRPTYPE が TCP である場合にのみ有効です。65535 を超えることはできません。

SESSIONS(*integer*)

リスナーが使用できるセッションの数。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

SOCKET(*integer*)

listen する SPX ソケットです。これは、TRPTYPE が SPX である場合にのみ有効です。

TPNAME(string)

LU 6.2 トランザクション・プログラム名 (最大長 64 文字)。このパラメーターは、TRPTYPE が LU62 の場合に Windows でのみ有効です。

TRPTYPE(string)

使用する伝送プロトコル。

LU62

SNA LU 6.2。これは、Windows でのみ有効です。

NETBIOS

NetBIOS。これは、Windows でのみ有効です。

SPX

Sequenced Packet Exchange。これは、Windows でのみ有効です。

TCP

TCP/IP。

ALTER NAMELIST

名前のリストを変更するには、MQSC コマンド ALTER NAMELIST を使用します。このリストは、通常、クラスター名またはキュー名のリストです。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

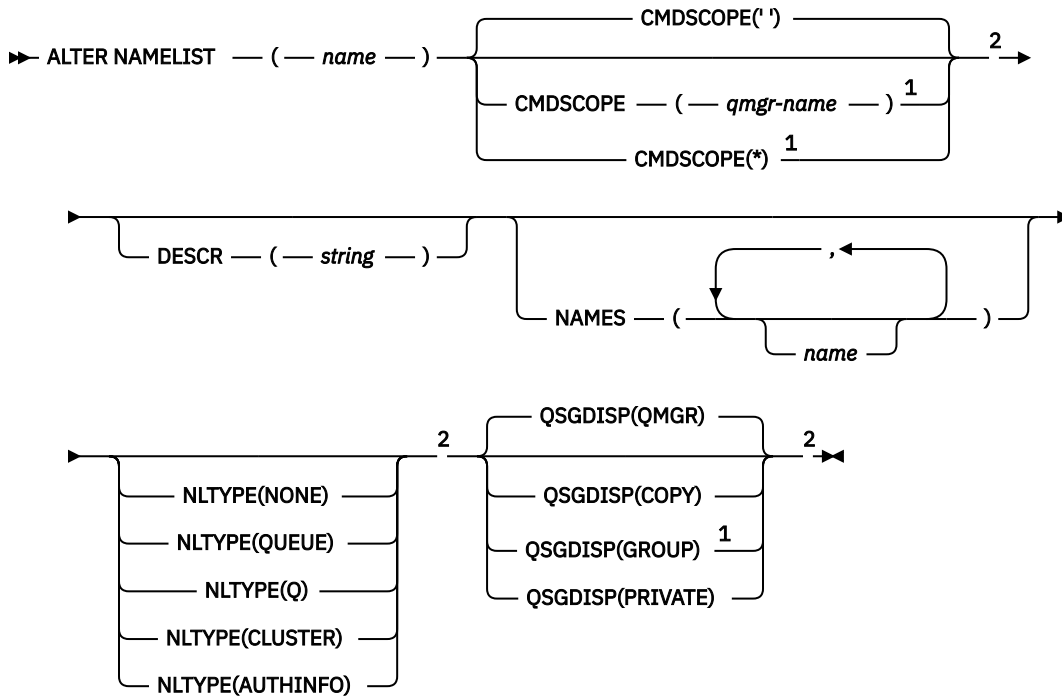
ALTER NAMELIST コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [729 ページの『使用上の注意』](#)
- [729 ページの『ALTER NAMELIST のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT NL

ALTER NAMELIST



注:

- 1 キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- 2 z/OS でのみ有効です。

使用上の注意

- UNIX システムでは、このコマンドは、AIX、HP-UX、Linux、および Solaris でのみ有効です。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の ALTER NAMELIST ステップ](#)を参照してください。

ALTER NAMELIST のパラメーターの説明

(name)

リストの名前。

名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどの名前リストとも同じであってはなりません (REPLACE または ALTER が指定されている場合を除く)。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。★を指定すると、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY NAMELIST コマンドを発行すると、名前リストに関する記述情報が提供されます (1125 ページの『DISPLAY NAMELIST』を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) がない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

NAMES(name, ...)

名前のリスト。

名前の種類は自由ですが、IBM MQ オブジェクトの命名規則に準拠していなければなりません。長さは最大 48 文字まで有効です。

空のリストが有効です。NAMES () を指定してください。リスト内の名前の最大数は 256 です。

NLTYPE

名前リスト内の名前のタイプを指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

NONE

名前には、特定のタイプが指定されていません。

QUEUE または Q

キュー名のリストを保持する名前リスト。

CLUSTER

クラスター化に関連付けられている名前リスト (クラスター名のリストを含む)。

AUTHINFO

この名前リストは SSL に関連付けられ、認証情報オブジェクト名のリストを含みます。

クラスター化に使用される名前リストには、NLTYPE(CLUSTER) または NLTYPE(NONE) が指定されている必要があります。

SSL に使用される名前リストには、NLTYPE(AUTHINFO) が指定されている必要があります。

z/OS

QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	ALTER
COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

QSGDISP	ALTER
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE NAMELIST(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの ALTER は有効になります。
PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたものです。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。
QMGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

ALTER PROCESS

MQSC コマンド ALTER PROCESS は、既存の IBM MQ プロセス定義のパラメーターを変更するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

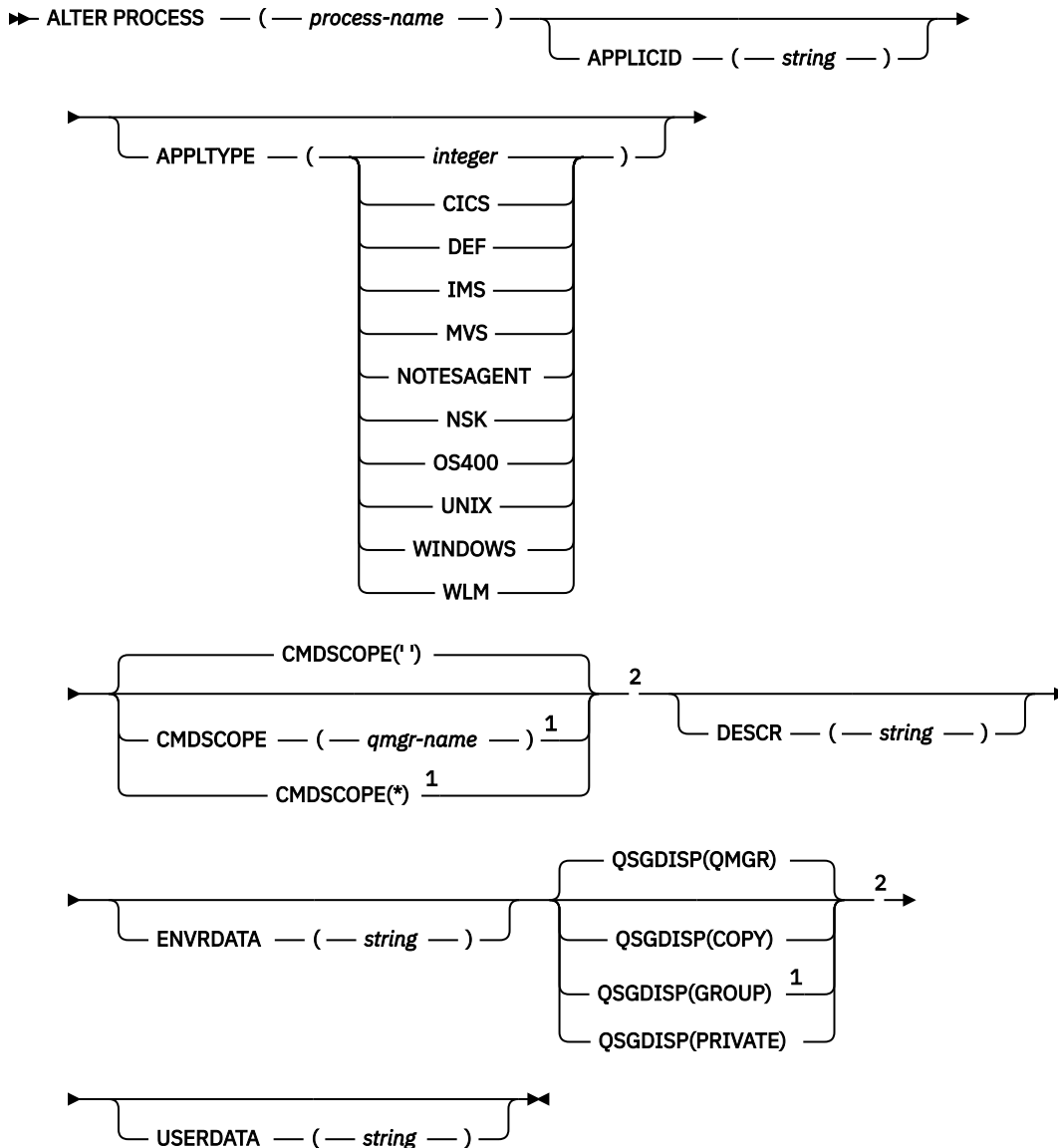
ALTER PROCESS コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [732 ページの『ALTER PROCESS のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT PRO

ALTER PROCESS



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

ALTER PROCESS のパラメーターの説明

(process-name)

IBM MQ プロセス定義の名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。process-name は必須です。

指定する名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのプロセス定義とも同じであってはなりません (ただし、REPLACE が指定されている場合を除きます)。

APPLICID(string)

開始するアプリケーションの名前。この名前は通常、実行可能オブジェクトの完全修飾ファイル名にします。ファイル名の修飾は、特に、複数の IBM MQ インストールがある場合に、正しいバージョンのアプリケーションを実行するために重要です。最大長は 256 文字です。

CICS アプリケーションのアプリケーション名は CICS トランザクション ID で、IMS アプリケーションのアプリケーション名は IMS トランザクション ID です。

z/OS z/OS で分散キューイングを使用している場合は、アプリケーション名を「CSQX start」にする必要があります。

APPLTYPE(string)

開始するアプリケーションのタイプ 有効なアプリケーション・タイプは次のとおりです。

integer

0 から 65 535 の範囲のシステム定義アプリケーション・タイプ、または 65 536 から 999 999 999 の範囲のユーザー定義アプリケーション・タイプ。

システム定義の範囲内にある特定の値を使用する場合、数値の代わりに次のリストにあるパラメーターを指定することができます。

CICS

CICS トランザクションを表します。

z/OS

IMS

IMS トランザクションを表します。

z/OS

MVS

z/OS アプリケーション (バッチまたは TSO) を表します。

NOTESAGENT

Lotus Notes エージェントを表します。

NSK

HP Integrity NonStop Server アプリケーションを表します。

OS400

IBM i アプリケーションを表します。

UNIX

UNIX アプリケーションを表します。

WINDOWS

Windows アプリケーションを表します。

z/OS

WLM

z/OS ワークロード・マネージャー・アプリケーションを表します。

DEF

DEF を指定すると、コマンドを解釈するプラットフォームのデフォルト・アプリケーション・タイプがプロセス定義に保管されます。このデフォルトは、インストールにより変更できません。プラットフォームがクライアントをサポートする場合、デフォルトはサーバーのデフォルト・アプリケーション・タイプとして解釈されます。

コマンドが実行されるプラットフォームでサポートされている (ユーザー定義タイプ以外の) アプリケーション・タイプのみを使用してください。

- **z/OS** z/OS では、CICS、IMS、MVS、UNIX、WINDOWS、WLM、および DEF がサポートされています。
- IBM i の場合、OS400、CICS、および DEF がサポートされます
- UNIX システムでは、UNIX、WINDOWS、CICS、および DEF がサポートされています。
- Windows では、WINDOWS、UNIX、CICS、および DEF がサポートされています。

z/OS

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

・

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境では、コマンド入力に使用しているキュー・マネージャー名とは異なるキュー・マネージャー名を指定できます。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY PROCESS コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) の文字を使用してください。他の文字を使用すると、情報が他のキュー・マネージャーに送信されたときに、正しく変換されない可能性があります。

ENVRDATA(string)

開始するアプリケーションに関する環境情報が含まれている文字ストリング。最大長は 128 文字である。

ENVRDATA の意味は、トリガー・モニター・アプリケーションによって決定されます。IBM MQ によって提供されるトリガー・モニターは、開始するアプリケーションに渡されるパラメーター・リストに ENVRDATA を追加します。パラメーター・リストは、MQTMC2 構造体の後に 1 つのブランク、さらに ENVRDATA が続く形式で構成され、末尾のブランクは削除されます。

注:

1. z/OS では、IBM MQ によって提供されるトリガー・モニター・アプリケーションは ENVRDATA を使用しません。
2. z/OS では、APPLTYPE が WLM である場合には、作業情報ヘッダー (MQWIH) の ServiceName フィールドおよび ServiceStep フィールドのデフォルト値を ENVRDATA に指定できます。これは、次の形式である必要があります。

```
SERVICENAME=servname,SERVICESTEP=stepname
```

ここで、

SERVICENAME=

ENVRDATA の最初の 12 文字。

servname

32 文字のサービス名。間にブランクや他のデータが埋め込まれていたり、末尾にブランクがあったりしてもかまいません。そのまま MQWIH にコピーされます。

SERVICESTEP=

ENVRDATA の次の 13 文字。

stepname

1 から 8 文字のサービス・ステップ名。そのまま MQWIH にコピーされ、8 文字に足りない分はブランクが埋め込まれます。

形式が正しくないと、MQWIH のフィールドはブランクに設定されます。

3. UNIX システムでは、ENVRDATA をアンパーサンド記号に設定して、開始したアプリケーションがバックグラウンドで実行されるようにすることができます。

▶ z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	ALTER
COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットでは、このコマンドによって変更されるのはオブジェクトのローカル・コピーだけです。コマンドが成功した場合、以下のコマンドが生成されます。 <pre>DEFINE PROCESS(process-name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> コマンドは、キュー共用グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されて、ページ・セット 0 上でローカル・コピーのリフレッシュが試行されます。QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの ALTER は有効になります。
PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたものです。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。
QMGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

USERDATA(string)

APPLICID に定義されている、開始するアプリケーションに関係するユーザー情報が含まれている文字ストリング。最大長は 128 文字である。

USERDATA の意味は、トリガー・モニター・アプリケーションによって決定されます。IBM MQ によって提供されるトリガー・モニターは単に、USERDATA をパラメーター・リストの一部として、開始するアプリケーションに渡します。そのパラメーター・リストは、MQTMC2 構造体 (USERDATA の格納先となる)、それに続く 1 つのブランク、およびそれに続く ENVRDATA (末尾ブランクを削除したもの) で構成されます。

IBM MQ メッセージ・チャネル・エージェントでは、このフィールドの形式は最大 20 文字のチャネル名です。どの APPLICID がメッセージ・チャネル・エージェントに提供されるかについては、[トリガー操作のためのオブジェクトの管理](#)を参照してください。

Microsoft Windows では、プロセス定義が **runmqtrm** に渡される場合、文字ストリングに二重引用符を含めてはなりません。

▶ z/OS ALTER PSID

MQSC コマンド ALTER PSID は、ページ・セットの拡張メソッドを変更するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

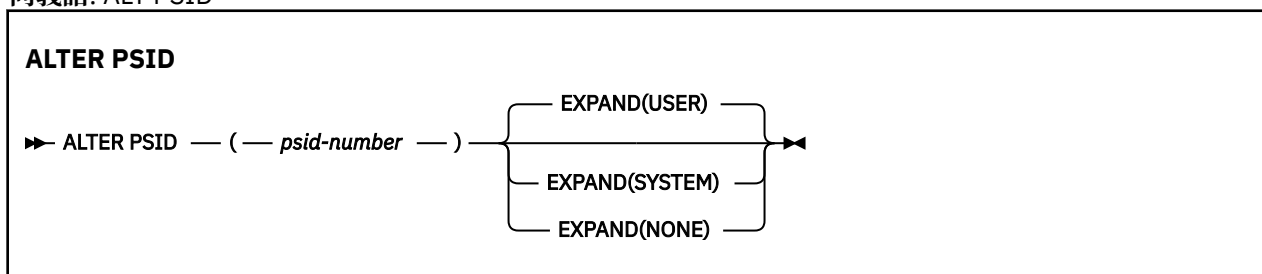
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

ALTER PSID コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [736 ページの『ALTER PSID のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT PSID



ALTER PSID のパラメーターの説明

(psid-number)

ページ・セット ID。これは必須です。

EXPAND

ページ・セットがほぼいっぱいになり、その中に別のページが必要になったときに、キュー・マネージャーがページ・セットを拡張する方法を制御します。

USER

ページ・セット定義時に指定された 2 次エクステント・サイズを使用します。2 次エクステント・サイズが指定されていない場合、または 0 に指定されている場合、動的ページ・セット拡張は実行されません。

再始動時に、以前に使用されていたページ・セットが、それより小さいデータ・セットで置き換えられている場合は、以前に使用されていたデータ・セットのサイズに達するまで拡張されます。このサイズに到達する必要があるエクステントは 1 つだけです。

SYSTEM

ページ・セットの現行サイズの約 10 パーセントの 2 次エクステント・サイズが使用されます。DASD の特性に応じて、このサイズは切り上げられる場合があります。

ページ・セットを定義したときに指定した 2 次エクステント・サイズは無視され、値がゼロか、または指定されていない場合には動的拡張が発生する可能性があります。

NONE

以後のページ・セットの拡張は行われません。

使用上の注意

ページ・セットの拡張を妨げている内部 IBM MQ 標識 (例えば、データ・セットが ADDVOLUMES に ALTER された場合) をリセットするために、ALTER PSID を使用することができます。

その場合、EXPAND キーワードと値を指定する必要がありますが、既に構成されている値を変更する必要はありません。例えば、DISPLAY USAGE でページ・セット 3 が EXPAND (SYSTEM) で構成されていること

が示されている場合、コマンド ALTER PSID (3) EXPAND (SYSTEM) を発行して、IBM MQ がページ・セット拡張を再試行できるようにします。

ALTER QMGR

ローカル・キュー・マネージャーのキュー・マネージャー・パラメーターを変更するには、MQSC コマンド **ALTER QMGR** を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

ALTER QMGR コマンドでパラメーターが指定されない場合、それらのパラメーターの既存の値が変更されずに残ります。

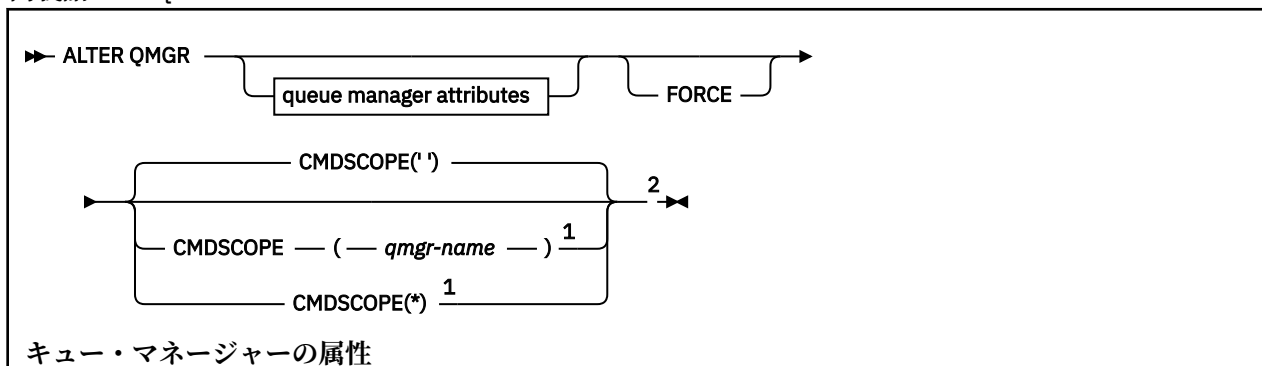
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

この章は、3 つのセクションに分けられています。

- [737 ページの『ALTER QMGR』](#)
- [739 ページの『ALTER QMGR のパラメーターの説明』](#)
- [739 ページの『キュー・マネージャーのパラメーター』](#)

ALTER QMGR

同義語: ALT QMGR





注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効です。

⁴ UNIX、Linux、および Windows の場合 でのみ有効です。

⁵ IBM i では無効です。

ALTER QMGR のパラメーターの説明

指定されたパラメーターが、現行値と置き換わります。指定しない属性は変更されません。

注：

1. どのパラメーターも指定しないと、コマンド自体は正常に完了しますが、キュー・マネージャー・オプションは変更されません。
2. このコマンドで行った変更は、キュー・マネージャーを停止し、再始動しても有効です。

FORCE

このパラメーターを指定すると、次の 2 つの条件が共に満たされた場合に、コマンドを強制的に完了させます。

- DEFXMITQ パラメーターが指定されている。
- アプリケーションがリモート・キューをオープンしていて、この変更がそのリモート・キューに関する解決に影響する。

これらの状況で FORCE を指定していないと、コマンドは失敗します。

キュー・マネージャーのパラメーター

以下のパラメーターは、**ALTER QMGR** コマンドのキュー・マネージャー・パラメーターです。

ACCTCONO

アプリケーションが ACCTQ および ACCTMQI キュー・マネージャー・パラメーターの設定を指定変更できるかどうかを指定します。

DISABLED

アプリケーションは ACCTQ および ACCTMQI パラメーターの設定をオーバーライドできません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの MQCNO 構造体のオプション・フィールドを使用して、ACCTQ および ACCTMQI パラメーターの設定をオーバーライドできます。

このパラメーターへの変更点は、変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続で有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACCTINT(integer)

中間アカウンティング・レコードを書き込むときの時間間隔 (秒単位)。

1 から 604800 の範囲内で値を指定します。

このパラメーターへの変更点は、変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続で有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACCTMQI

MQI データのアカウンティング情報を収集するかどうかを指定します。

OFF

MQI アカウンティング・データ収集は無効です。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ON

MQI アカウンティング・データ収集は有効です。

キュー・マネージャーの属性 ACCTCONO を ENABLED に設定すると、MQCNO 構造のオプション・フィールドを使用してこのパラメーターの値を指定変更できます。

このパラメーターへの変更点は、変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続で有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACCTQ

すべてのキューでアカウンティング・データを収集するかどうかを指定します。

z/OS z/OS では、収集されるデータはクラス 3 のアカウンティング・データ (スレッド・レベルとキュー・レベルのアカウンティング) です。

OFF

アカウンティング・データ収集は、ACCTQ パラメーターの値として QMGR を指定するすべてのキューで無効になります。

ON

ACCTQ パラメーターの値として QMGR が指定されたすべてのキューで、アカウンティング・データ収集が有効に設定されます。

z/OS z/OS システムでは、START TRACE コマンドで、クラス 3 アカウンティングをオンに切り替える必要があります。

NONE

すべてのキューのアカウンティング・データ収集は、キューの ACCTQ パラメーターの値に関係なく、無効になります。

このパラメーターへの変更点は、パラメーターの変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続に対してのみ有効になります。

z/OS ACTCHL(integer)

任意の時点でアクティブなチャンネルの最大数。ただし、この値が現在アクティブなチャンネルの数より少ない場合は無効です。

1 から 9999 までで、MAXCHL の値を超えない値を指定します。MAXCHL は、使用可能なチャンネルの最大数を定義します。

この値を変更する場合は、値の競合が生じないように MAXCHL、LU62CHL、および TCPCHL の値も検討する必要があります。

どのチャンネルの状態がアクティブと見なされるかについては、[チャンネルの状態](#)を参照してください。

ACTCHL の値をチャンネル・イニシエーターが初期化されたときの値よりも少なくすると、チャンネルは停止するまで実行を継続します。実行中のチャンネルの数が ACTCHL の値より少なくなったときには、追加のチャンネルを開始できます。ACTCHL の値をチャンネル・イニシエーターが初期化されたときの値よりも多くしても、すぐに変更の影響は生じません。次回チャンネル・イニシエーターが再始動したときに、その大きい ACTCHL の値が有効になります。

共有会話は、このパラメーターの合計には影響を与えません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ACTIVREC

メッセージで要求された場合に、アクティビティ報告書が生成されるかどうかを指定します。

DISABLED

アクティビティ報告書は生成されません。

MSG

アクティビティ報告書が生成され、報告書の生成原因となったメッセージの送信元によって指定された応答キューに送信されます。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

QUEUE

アクティビティ報告書が生成され、SYSTEM.ADMIN.ACTIVITY.QUEUE に送信されます。

[アクティビティー・レコーディング](#)を参照してください。

ACTVCONO

アプリケーションが ACTVTRC キュー・マネージャー・パラメーターの設定を指定変更できるかどうかを指定します。

DISABLED

アプリケーションは ACTVTRC キュー・マネージャー・パラメーターの設定を指定変更できません。
これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの MQCNO 構造体のオプション・フィールドを使用して、ACTVTRC キュー・マネージャー・パラメーターの設定を指定変更できます。

このパラメーターへの変更点は、変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続で有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACTVTRC

MQI アプリケーション・アクティビティー・トレース情報を収集するかどうかを指定します。 [アクティビティー・トレース情報の収集を制御する ACTVTRC の設定](#)を参照してください。

OFF

IBM MQ MQI アプリケーション・アクティビティー・トレース情報の収集は使用可能ではありません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ON

IBM MQ MQI アプリケーション・アクティビティー・トレース情報の収集は使用可能です。

キュー・マネージャーの属性 ACTVCONO を ENABLED に設定すると、MQCNO 構造のオプション・フィールドを使用してこのパラメーターの値を指定変更できます。

このパラメーターへの変更点は、変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続で有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ADOPTCHK

MCA を採用するかどうかを判断するために検査するエレメントを指定します。新しいインバウンド・チャンネルが既にアクティブな MCA と同じ名前を検出されたときに、検査が行われます。

ALL

キュー・マネージャーの名前とネットワーク・アドレスを検査します。この検査を行うと、チャンネルが誤ってまたは意図的にシャットダウンされるのを防止できます。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

NETADDR

ネットワーク・アドレスを検査します。

NONE

検査は行われません。

QMNAME

キュー・マネージャーの名前を検査します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターの変更点は、チャンネルが次回に MCA の採用を試みるときに有効になります。

ADOPTMCA

ADOPTCHK パラメーターに一致する新規インバウンド・チャンネル要求が検出された場合に、MCA の孤立インスタンスを即時に再開するかどうかを指定します。

ALL

すべてのチャンネル・タイプを採用します。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

NO

孤立チャンネルを採用する必要はありません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターの変更点は、チャンネルが次回に MCA の採用を試みるときに有効になります。

AUTHOREV

許可 (許可されていない) イベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

許可イベントを生成しません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

許可イベントが生成されます。

▶ **z/OS** この値は、z/OS ではサポートされていません。

▶ **z/OS** BRIDGEEV

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

IMS ブリッジ・イベントを生成しません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

すべての IMS ブリッジ・イベントが生成されます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CCSID(integer)

キュー・マネージャーのコード化文字セット ID。CCSID は、API によって定義されたすべての文字ストリング・フィールドで使用される ID です。メッセージ記述子の CCSID が値 MQCCSI_Q_MGR に設定されている場合、この値はメッセージ本文のアプリケーション・データに適用されます。メッセージがキューに書き出されるときに、値が設定されます。

1 から 65535 の範囲内で値を指定します。CCSID には、使用しているプラットフォーム用に定義された値を指定します。また、そのプラットフォームに適した文字セットを使用してください。

このパラメーターを使用して CCSID を変更する場合、その変更が適用されるときに実行中のアプリケーションは引き続き元の CCSID を使用します。そのため、コマンド・サーバーおよびチャンネル・プログラムも含めて続行する前に、実行中のすべてのアプリケーションを停止および再始動しなければなりません。実行中のすべてのアプリケーションを停止して再始動するには、パラメーター値の変更後にキュー・マネージャーを停止および再始動します。

▶ **z/OS** このパラメーターは、z/OS では無効です。z/OS 上で同等タスクを実行するには、CSQ6SYSP を使用してシステム・パラメーターを設定します。

各プラットフォームでサポートされる CCSID について詳しくは、[コード・ページ変換](#)を参照してください。

CERTLABL

使用するこのキュー・マネージャーの証明書ラベル。このラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書が選択されているかを識別します。

デフォルトのマイグレーション済みキュー・マネージャーの値は、以下のとおりです。

- ▶ **z/OS** z/OS: の場合: *ibmWebSphereMQXXXX* (ここで XXXX はキュー・マネージャーの名前です)。

詳しくは、[z/OS システム](#)を参照してください。

- IBM i: の場合

- SSLKEYR(*SYSTEM) を指定した場合、値はブランクです。

非ブランクのキュー・マネージャー CERTLABL を SSLKEYR(*SYSTEM) とともに使用することは禁止されていることに注意してください。使用しようとする、MQRCCF_Q_MGR_ATTR_CONFLICT エラーが表示されます。

- それ以外の場合、*ibmwebspheremqxxxx* (ここで xxxx は小文字に変換されたキュー・マネージャーの名前です)。
- UNIX および Linux および Windows の場合、*ibmwebspheremqxxxx* (ここで xxxx は小文字に変換されたキュー・マネージャーの名前です)。

前述の値を指定する必要があります。ただし、キュー・マネージャーで CERTLABL をブランク値のままにすると、デフォルト値が指定されたとシステムは解釈します。

重要: キュー・マネージャーの CERTLABL に変更を加えた場合、REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドを実行する必要があります。ただし、チャネルの CERTLABL に変更を加えた場合、REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドを実行する必要はありません。

CERTQSG

キュー共有グループ (QSG) 証明書ラベル。

キュー・マネージャーが QSG のメンバーである場合、このパラメーターは CERTLABL より優先されます。

このパラメーターのデフォルト値は、*ibmWebSphereMQXXXX* です (ここで XXXX は QSG の名前です)。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

詳しくは、[z/OS システム](#)を参照してください。

CERTVPOL

リモート・パートナー・システムから受け取ったデジタル証明書を妥当性検査するために、どの SSL/TLS 証明書妥当性検査ポリシーを使用するかを指定します。この属性を使用することにより、証明書チェーン妥当性検査においてセキュリティに関する業界の標準規格にどの程度厳密に準拠するかを制御することができます。

ANY

セキュア・ソケット・ライブラリーでサポートされる証明書妥当性検査ポリシーのいずれかにおいて、その証明書チェーンが有効であると見なされる場合に、それらのポリシーのそれぞれを適用し、証明書チェーンを受け入れます。この設定は、最新の証明書標準に準拠しない旧式のデジタル証明書との後方互換性を最大にするために使用できます。

RFC5280

RFC 5280 準拠の証明書妥当性検査ポリシーのみを適用します。この設定は、ANY 設定よりも厳密に妥当性検査しますが、一部の旧式のデジタル証明書を拒否します。

証明書妥当性検査ポリシーの詳細については、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

このパラメーターは、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。パラメーターの変更は、**REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** コマンドが発行されて初めて有効になります。

CFCONLOS

管理構造体への接続、または CFCONLOS が ASQMGR に設定されている CF 構造体への接続を、キュー・マネージャーが失ったときに実行されるアクションを指定します。

TERMINATE

CF 構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。

TOLERATE

キュー・マネージャーは CF 構造体への接続が失われてもそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

TOLERATE を選択する場合は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 710 以上であり、かつ OPMODE が NEWFUNC に設定されている必要があります。

CHAD

受信側チャンネルとサーバー接続チャンネルが自動的に定義されるかどうかを指定します。

DISABLED

自動定義が使用されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

自動定義が使用されます。

クラスター送信側チャンネルは、このパラメーターの設定値とは関係なく、常に自動的に定義できます。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

CHADEV

チャンネル自動定義のイベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

自動定義イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

自動定義イベントが生成されます。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

CHADEXIT(string)

自動定義出口名。

この名前がブランク以外の値なら、出口は、未定義の受信側チャンネル、サーバー接続チャンネル、またはクラスター送信側チャンネルについてのインバウンド要求が受信された場合に呼び出されます。出口は、クラスター受信側チャンネルを開始した場合にも呼び出されます。

名前の形式と最大長は、環境に応じて異なります。

- Windows では、`dllname(functionname)` の形式で、`dllname` は接尾部 `.DLL` なしで指定されます。最大長は 128 文字である。
- IBM i では、次の形式です。

```
progrname libname
```

ここで、`program name` は最初の 10 文字分、`libname` は次の 10 文字分を使用します (両方とも必要に応じて右側をブランクで埋めます)。ストリングの最大長は 20 文字です。

- UNIX、および Linux では、`libraryname(functionname)` の形式です。最大長は 128 文字である。
- **z/OS** z/OS では、これはロード・モジュール名で、最大長は 8 文字です。

z/OS z/OS では、このパラメーターはクラスター送信側チャンネルおよびクラスター受信側チャンネルにのみ適用されます。

z/OS CHIADAPS(integer)

IBM MQ 呼び出しを処理するために使用するチャンネル・イニシエーター・アダプターのサブタスク数です。

0 から 9999 の範囲の値を指定します。

推奨設定値:

- テスト・システム: 8
- 実動システム: 30

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターへの変更点は、チャンネル・イニシエーターが再始動するときに有効になります。

CHIADAPS、CHIDISPS、および MAXCHL の関係について詳しくは、[タスク 18: チャンネル・イニシエーター・パラメーターの調整](#)を参照してください。

z/OS CHIDISPS(integer)

チャンネル・イニシエーターで使用するディスパッチャーの数。

1 から 9999 の範囲内で値を指定します。

推奨設定値:

- テスト・システム: 5
- 実動システム: 20

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターへの変更点は、チャンネル・イニシエーターが再始動するときに有効になります。

z/OS CHIADAPS、CHIDISPS、および MAXCHL の関係について詳しくは、[タスク 18: チャンネル・イニシエーター・パラメーターの調整](#)を参照してください。

z/OS CHISERV

このパラメーターは、IBM 専用として予約済みです。汎用ではありません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CHLAUTH

チャンネル認証レコードで定義された規則を使用するかどうかを指定します。CHLAUTH 規則は、この属性の値に関係なく、これまでどおりに設定および表示することができます。

このパラメーターの変更点は、インバウンド・チャンネルが次回、始動を試みるときに有効になります。

このパラメーターの変更は、現在開始されているチャンネルには影響しません。

DISABLED

チャンネル認証レコードは検査されません。

ENABLED

チャンネル認証レコードは検査されます。

CHLEV

チャンネル・イベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

チャンネル・イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

すべてのチャンネル・イベントが生成されます。

EXCEPTION

すべての例外チャンネル・イベントが生成されます。

CLWLDATA(string)

クラスター・ワークロード出口データ。ストリングの最大長は 32 文字です。

このストリングは、クラスター・ワークロード出口が呼び出されたとき、その出口に引き渡されます。

CLWLEXIT(string)

クラスター・ワークロード出口名。

この名前をブランク以外の値にすると、メッセージがクラスター・キューに書き込まれたとき、この出口が呼び出されます。名前の形式と最大長は、環境に応じて異なります。

- UNIX および Linux システムでは、`libraryname(functionname)` の形式です。最大長は 128 文字である。

- Windows では、*dllname(functionname)* の形式です。*dllname* は接尾部 *.DLL* なしで指定されます。最大長は 128 文字である。
-  z/OS では、これはロード・モジュール名です。最大長は 8 文字です。
- IBM i では、次の形式です。

```
progrname libname
```

ここで、*program name* は最初の 10 文字分、*libname* は次の 10 文字分を使用します (両方とも必要に応じて右側を空白で埋めます)。最大長は 20 文字です。

このパラメーターは、IBM i、z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。

CLWLEN(integer)

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージ・データの最大バイト数。

次の範囲の値を指定します。

-  IBM MQ for z/OS システムの場合、0 から 100 MB
- 分散プラットフォームの場合は 0 から 999,999,999 まで

このパラメーターは、IBM i、z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。

CLWLMRUC(integer)

直前に使用されたアウトバウンド・クラスター・チャンネルの最大数。

1 から 999,999,999 の範囲内で値を指定します。

[CLWLMRUC キュー・マネージャー属性を参照してください。](#)

CLWLUSEQ

この属性は、キュー属性 CLWLUSEQ が QMGR に設定されているキューに適用されます。宛先キューにローカル・インスタンスと最低 1 つのリモート・クラスター・インスタンスがある場合に、MQPUT 操作の動作を指定します。MQPUT がクラスター・チャンネルから出された場合は適用されません。

次のどちらかを指定します。

LOCAL

ローカル・キューは MQPUT 操作の唯一の宛先です。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ANY

キュー・マネージャーは、ワークロードを分散するために、ローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして処理します。

[CLWLUSEQ キュー・マネージャー属性を参照してください。](#)

CMDEV

コマンド・イベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

コマンド・イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

コマンド・イベントはすべての正常実行されたコマンドについて生成されます。

NODISPLAY

コマンド・イベントは、DISPLAY コマンドを除く、すべての正常実行されたコマンドについて生成されます。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

!

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

別のキュー・マネージャーを指定することもできます。別のキュー・マネージャーを指定できるのは、キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能な場合です。この場合、別のキュー・マネージャーを、コマンドが入力されるキュー・マネージャーに指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。この値を入力すると、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力した場合と同様の結果が得られます。

CONFIGEV

構成イベントを生成するかどうかを指定します。

ENABLED

構成イベントが生成されます。この値を設定した後は、すべてのオブジェクトに対して REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) コマンドを発行して、キュー・マネージャー構成を最新の状態にしてください。

DISABLED

構成イベントを生成しません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

CONNAUTH

ユーザー ID とパスワードの認証の場所を提供するために使用される認証情報オブジェクトの名前。

CONNAUTH がブランクの場合、キュー・マネージャーによるユーザー ID とパスワードの検査は実行されません。ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

タイプが IDPWOS または IDPWLDAP の認証情報オブジェクトのみ指定できます。その他のタイプの場合、OAM (UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォームの場合)  またはセキュリティ・コンポーネント (z/OS プラットフォームの場合) が構成を読み取る際に、エラー・メッセージが表示されます。この構成への変更、またはその構成が参照するオブジェクトへの変更は、**REFRESH SECURITY TYPE(CONNAUTH)** コマンドが発行されるときに有効になります。

CONNAUTH をブランクのままにして、CHCKCLNT フィールドに REQDADM  (z/OS 以外のプラットフォームの場合) または REQUIRED が設定されているチャンネルに接続しようとする、接続は失敗します。

CUSTOM(string)

新機能用カスタム属性。

この属性は、名前付き属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性の値 (属性名と値のペアとして指定) を含むことができます。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープします。

Custom には値が定義されていません。

DEADQ(string)

送達不能キュー (または未配布メッセージ・キュー) のローカル名。正しい宛先に送達できないメッセージは、ここに書き込まれます。

ここに指定するキューは、ローカル・キューでなければなりません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

DEFCLXQ

DEFCLXQ 属性は、クラスター受信側チャンネルとの間でメッセージの取得やメッセージの送信を行うために、クラスター送信側チャンネルがデフォルトで選択する伝送キューを制御します。

SCTQ

すべてのクラスター送信側チャネルが、`SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE` からメッセージを送信します。伝送キューに入れられたメッセージの `correlID` は、メッセージの宛先のクラスター送信側チャネルを示します。

SCTQ は、キュー・マネージャーが定義されるときに設定されます。この動作は、バージョン 7.5 より前のバージョンの IBM WebSphere MQ では暗黙的です。以前のバージョンに、キュー・マネージャーの属性 DEFCLXQ は存在しませんでした。

CHANNEL

各クラスター送信側チャネルは、異なる伝送キューからメッセージを送信します。各伝送キューは、モデル・キュー `SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE` から、永続動的キューとして作成されます。

キュー・マネージャー属性 DEFCLXQ を CHANNEL に設定すると、デフォルト構成は変更され、クラスター送信側チャネルが個々のクラスター伝送キューと関連付けられるようになります。伝送キューは、モデル・キュー `SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE` から作成される永続的に動的なキューです。各伝送キューは 1 つのクラスター送信側チャネルに関連付けられます。1 つのクラスター送信側チャネルが 1 つのクラスター伝送キューにサービスを提供するため、伝送キューにも 1 つのクラスター内の 1 つのキュー・マネージャーへのメッセージだけが入ります。クラスター内の各キュー・マネージャーが使用するクラスター・キューが 1 つだけになるように構成することもできます。この場合、キュー・マネージャーから各クラスター・キューへのメッセージ・トラフィックは、それぞれ他のキューへのメッセージとは別に転送されます。

DEFXMITQ(string)

デフォルトの伝送キューのローカル名。リモート・キュー・マネージャー宛てのメッセージは、ここに書き込まれます。デフォルト伝送キューは、他の適切な伝送キューが定義されていない場合に使用されます。

クラスター伝送キューをキュー・マネージャーのデフォルト伝送キューとして使用しないでください。

ここに指定するキューは、ローカル伝送キューでなければなりません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

DESCR(string)

平文コメント。キュー・マネージャーについての記述情報です。

表示可能文字だけを含みます。ストリングの最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

記述情報の文字がこのキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) に含まれる場合は、文字が正しく変換されます。変換されるのは、記述情報が別のキュー・マネージャーに送信されるときです。このキュー・マネージャー用の CCSID に含まれていない場合は、正しく変換されない可能性があります。

z/OS DNSGROUP(string)

このパラメーターは、今後使用されません。[WLM/DNS のサポートが終了しています](#)を参照してください。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS DNSWLM

このパラメーターは、今後使用されません。[WLM/DNS のサポートが終了しています](#)を参照してください。

NO

この値は受け入れられる唯一の値です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS EXPRYINT

有効期限切れメッセージを廃棄するためにキューをスキャンする頻度を指定します。

OFF

キューはスキャンされません。内部有効期限処理は実行されません。

integer

キューがスキャンされる、おおよその間隔 (秒単位)。キュー・マネージャーは、有効期限の間隔に達するたびに、廃棄すべき有効期限切れメッセージをスキャンするキューの候補を探します。

キュー・マネージャーは、それぞれのキューの期限切れメッセージに関する情報を保持しているので、キューが期限切れメッセージのスキャン対象として適格であるかどうかの情報も持ちます。したがって、キューの選択のみはいつでもスキャンされます。

値は 1 から 99999999 の範囲でなければなりません。使用される最小スキャン間隔は 5 秒で、それより小さい値を指定しても 5 秒になります。

この属性をサポートするキュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーに対して、同じ EXPRYINT 値を設定する必要があります。共有キューのスキャンは、キュー共有グループ内の 1 つのキュー・マネージャーによってのみ行われます。このキュー・マネージャーは、再始動する最初のキュー・マネージャーか、または EXPRYINT が設定された最初のキュー・マネージャーのどちらかです。

現在の間隔の有効期限が切れると、EXPRYINT の変更が有効になります。新しい間隔が現在の間隔の残りの部分 (まだ有効期限が切れていない部分) より小さい場合にも、変更が有効になります。この場合、スキャンがスケジュールに入れられ、新しい間隔は直ちに有効になります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS GROUPUR

このパラメーターは、CICS および XA クライアント・アプリケーションが、GROUP リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できるかどうかを制御します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。プロパティは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効にできます。

ENABLED

CICS および XA クライアント・アプリケーションは、接続時にキュー共有グループ名を指定することにより、リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できます。

DISABLED

CICS および XA クライアント・アプリケーションは、キュー・マネージャー名を使用して接続する必要があります。

z/OS IGQ

グループ内キューイングを使用するかどうかを指定します。

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

ENABLED

キュー共有グループ内のキュー・マネージャー間でメッセージ転送を行う際に、共用伝送キュー SYSTEM. QSG. TRANSMIT. QUEUE を使用します。

DISABLED

キュー共有グループ内のキュー・マネージャー間でメッセージ転送を行う際に、非共用伝送キューおよびチャネルを使用します。キュー共有グループに含まれていないキュー・マネージャーも、この同じメカニズムを使用します。

グループ内キューイングが有効になっているが、グループ内キューイング・エージェントが停止している場合は、ALTER QMGR IGQ (ENABLED) を発行して再始動してください。

z/OS IGQAUT

IGQ エージェント (IGQA) が使用する権限検査のタイプ、およびそれに伴ってユーザー ID を指定します。このパラメーターは、宛先キューにメッセージを書き込むための権限を設定します。

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

DEF

宛先キューにメッセージを書き込む権限を設定するために、デフォルトのユーザー ID を使用するように指示します。

1 回のユーザー ID 検査の場合、デフォルト・ユーザー ID はキュー共用グループ内のキュー・マネージャーのユーザー ID です。SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE にメッセージを書き込むキュー・マネージャーのユーザー ID が、デフォルト・ユーザー ID となります。このユーザー ID は QSGSEND ユーザー ID として参照されます。

2 回のユーザー ID 検査の場合、デフォルトの 2 番目のユーザー ID は IGQ ユーザー ID です。

CTX

宛先キューにメッセージを書き込む権限を確立するために、*UserIdentifier* フィールドのユーザー ID が使用されることを示します。ユーザー ID は、SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE 上のメッセージのメッセージ記述子内の *UserIdentifier* フィールドです。

1 回のユーザー ID 検査の場合、QSGSEND ユーザー ID が使用されます。

2 回のユーザー ID 検査の場合、QSGSEND ユーザー ID、IGQ ユーザー ID、および代替ユーザー ID が使用されます。代替ユーザー ID は、SYSTEM.QSG.TRANSMIT.QUEUE 上のメッセージのメッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドから取得されます。代替ユーザー ID は ALT として参照されます。

ONLYIGQ

宛先キューにメッセージを書き込む権限を設定するために、IGQ ユーザー ID のみを使用するように指示します。

すべての ID 検査で、IGQ ユーザー ID が使用されます。

ALTIGQ

宛先キューにメッセージを書き込む権限を確立するために、IGQ ユーザー ID および ALT ユーザー ID を使用するように指示します。

1 回のユーザー ID 検査の場合、IGQ ユーザー ID が使用されます。

2 回のユーザー ID 検査の場合、IGQ ユーザー ID および ALT ユーザー ID が使用されます。

z/OS IGQUSER

宛先キューにメッセージを書き込む権限を設定するために IGQ エージェント (IGQA) が使用するユーザー ID を指名します。このユーザー ID は IGQ ユーザー ID として参照されます。

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合に、z/OS のみ有効です。指定可能な値は以下のとおりです。

Blanks

キュー共用グループ内の受信側キュー・マネージャーのユーザー ID を使用するように指示します。

Specific user ID

受信側キュー・マネージャーの IGQUSER パラメーターで指定されているユーザー ID を使用するように指示します。

注:

1. 受信側キュー・マネージャーは、アクセス可能なすべてのキューに対する権限を持っているので、このユーザー ID タイプのセキュリティ検査が行われない場合があります。
2. ブランクには特別な意味があるため、IGQUSER を使用して、ブランクである実際のユーザー ID を指定することはできません。

INHIBTEV

禁止イベントを生成するかどうかを指定します。Inhibit Get および Inhibit Put のイベントが生成されます。

ENABLED

禁止イベントが生成されます。

DISABLED

禁止イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

IPADDRV

チャンネル接続で使用する IP プロトコルを指定します。

IPv4

IPv4 IP アドレスが使用されます。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

IPv6

IPv6 IP アドレスが使用されます。

このパラメーターは、IPv4 および IPv6 が実行されているシステムでのみ使用されます。次の 2 つの条件のどちらかに当てはまる場合、TRPTYPE が TCP として定義されたチャンネルのみに適用されます。

- チャンネルの CONNAME パラメーターに、IPv4 と IPv6 アドレスの両方に解決するホスト名が入っており、LOCLADDR パラメーターが指定されていない。
- チャンネルの CONNAME と LOCLADDR パラメーターの値が、IPv4 と IPv6 アドレスの両方に解決するホスト名になっている。

LOCALEV

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうかを指定します。

ENABLED

ローカル・エラー・イベントが生成されます。

DISABLED

ローカル・エラー・イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

LOGGEREV

回復ログ・イベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

ロガー・イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

ロガー・イベントを生成します。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。

▶ z/OS LSTRTMR(integer)

APPC または TCP/IP で障害が発生した後に IBM MQ がリスナーの再始動を試行する秒単位の時間間隔です。リスナーは、TCP/IP で再始動されると、最初に始動したときに使用したのと同じポートと IP アドレスを使用します。

5 以上 9999 以下の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するリスナーで有効になります。現在開始済みのリスナーは、このパラメーターへの変更の影響を受けません。

▶ z/OS LUGROUP(string)

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーが使用する汎用 LU 名。このパラメーターの最大長は 8 文字です。

この名前をブランクにすると、リスナーを使用できません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するリスナーで有効になります。現在開始済みのリスナーは、このパラメーターへの変更の影響を受けません。

z/OS **LUNAME(string)**

アウトバウンド LU 6.2 伝送で使用する LU の名前。このパラメーターは、インバウンド伝送でリスナーによって使用される LU の名前と同じものに設定します。このパラメーターの最大長は 8 文字です。

この名前をブランクにすると、APPC/MVS のデフォルト LU 名が使用されます。名前は変数なので、LU 6.2 を使用する場合は LUNAME を常に設定する必要があります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターへの変更点は、チャンネル・イニシエーターが再始動するときに有効になります。

z/OS **LU62ARM(string)**

SYS1.PARMLIB の APPCPM メンバーの接尾部。この接尾部は、このチャンネル・イニシエーターの LUADD を指名します。自動リスタート・マネージャー (ARM) がチャンネル・イニシエーターを再始動すると、z/OS コマンド SET APPC= *xx* が発行されます。

このパラメーターに値を指定しない場合、SET APPC= *xx* コマンドは発行されません。

このパラメーターの最大長は 2 文字です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターへの変更点は、チャンネル・イニシエーターが再始動するときに有効になります。

z/OS **LU62CHL(integer)**

LU 6.2 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数、または接続できるクライアントの最大数。

0 から 9999 までで、MAXCHL の値を超えない値を指定します。MAXCHL は、使用可能なチャンネルの最大数を定義します。0 を指定すると、LU 6.2 伝送プロトコルは使用されません。

この値を変更する場合は、MAXCHL、LU62CHL、および ACTCHL の値も検討してください。値の競合が生じないようにし、必要に応じて MAXCHL および ACTCHL の値を引き上げます。

このパラメーターの値を小さくすると、新しい制限値を超える現行チャンネルはすべて、停止するまで稼働し続けます。

チャンネル・イニシエーターの開始時に LU62CHL の値がゼロ以外の場合は、値を動的に変更できます。チャンネル・イニシエーターの開始時に LU62CHL の値がゼロの場合、その後の ALTER コマンドは効力がありません。このような場合は、チャンネル・イニシエーターの開始前か、**START CHINIT** コマンド発行前の CSQINP2 の中で、ALTER コマンドを実行する必要があります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MARKINT(integer)

メッセージ取得オプション MQGMO_MARK_BROWSE_CO_OP を使用して MQGET の呼び出しによって参照されるものとしてマークされたメッセージが、参照マークされたまま残ることが期待される時間間隔 (ミリ秒)。

メッセージが約 MARKINT ミリ秒を超えてマークされたままの状態が続くと、キュー・マネージャーで自動的にメッセージがマーク解除される場合があります。マーク解除される可能性があるメッセージは、連動するハンドル・セット用に参照されるものとしてマークされているメッセージです。

このパラメーターは、メッセージ取得オプション MQGMO_MARK_BROWSE_HANDLE を使用して MQGET の呼び出しにより参照されるものとしてマークされたメッセージの状態に影響するものではありません。

最大 999,999,999 までの値を指定します。デフォルト値は 5000 です。



重要: 値をデフォルトの 5000 より小さくしないでください。

特殊値 NOLIMIT は、キュー・マネージャーが、このプロセスによりメッセージのマーク解除を自動的に行わないことを示します。

MAXCHL(integer)

現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数 (クライアントが接続されているサーバー接続チャンネルを含む)。

値は 1 から 9999 の範囲で指定します。この値を変更する場合は、値の競合が生じないように TCPCHL、LU62CHL、および ACTCHL の値も検討してください。必要に応じて、アクティブなチャンネルの数を ACTCHL 値で増やします。ACTCHL、LU62CHL、および TCPCHL の値は、チャンネルの最大数を超えてはなりません。

推奨設定値:

- テスト・システム: 200
- 実動システム: 1000

どのチャンネルの状態が現行のものとみなされるかの説明については、[チャンネルの状態](#)を参照してください。

このパラメーターの値を小さくすると、新しい制限値を超える現行チャンネルはすべて、停止するまで稼働し続けます。

MAXCHL の値をチャンネル・イニシエーターが初期化されたときの値よりも少なくすると、チャンネルは停止するまで実行を継続します。実行中のチャンネルの数が MAXCHL の値より少なくなったときには、追加のチャンネルを開始できます。MAXCHL の値をチャンネル・イニシエーターが初期化されたときの値よりも多くしても、すぐに変更の影響は生じません。次回チャンネル・イニシエーターが再始動したときに、その大きい MAXCHL の値が有効になります。

共有会話は、このパラメーターの合計には影響を与えません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CHIADAPS、CHIDISPS、および MAXCHL の関係について詳しくは、「[タスク 18: チャンネル・イニシエーター・パラメーターの調整](#)」を参照してください。

MAXHANDS(integer)

1 つの接続で同時に保持できるオープン・ハンドルの最大数。

この値は、0 から 999,999,999 の範囲の値です。

MAXMSGL(integer)

このキュー・マネージャーでキューに許可された最大メッセージ長。

値は 32 KB から 100 MB の範囲です。

チャンネルの MAXMSGL パラメーターの値を決定するときには、すべてのメッセージ・プロパティの長さも必ず考慮してください。

キュー・マネージャーの最大メッセージ長を短くする場合は、SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE 定義の最大メッセージ長も短くする必要があります。そのキュー・マネージャーに定義されているその他すべてのキューの最大メッセージ長も短くする必要があります。この変更により、キュー・マネージャーの限界が、それに関連付けられたすべてのキューの限界を下回らないようにすることができます。この長さの変更をしないまま、アプリケーションがキューの MAXMSGL の値のみを照会すると、アプリケーションが正しく機能しないことがあります。

メッセージにデジタル署名と鍵を追加することで、[IBM MQ Advanced Message Security](#) ではメッセージの長さが増すことに注意してください。

MAXPROPL(integer)

メッセージとの関連付けが可能なプロパティ・データの最大長 (バイト単位)。

この値は、0 から 100 MB (104 857 600 バイト) までの範囲です。

特殊値 NOLIMIT は、上限値による制限を除いて、プロパティのサイズに制限がないことを示します。

MAXUMSGS(integer)

1 つの同期点内における、コミットされていないメッセージの最大数。

MAXUMSGS は 1 つの同期点の中で取得できるメッセージの数とそこに入れられるメッセージの数の制限です。この制限は、同期点の外で書き込まれる、あるいは同期点の外で取得されるメッセージには適用されません。

この数には、同じリカバリー単位内に生成されるトリガー・メッセージおよびレポート・メッセージがすべて含まれます。

既存のアプリケーションおよびキュー・マネージャー・プロセスが同期点のメッセージを大量に書き込みおよび取得している場合、MAXUMSGS の値を小さくすると問題が起きる可能性があります。

 影響を受ける可能性のあるキュー・マネージャー・プロセスの例は、z/OS 上でのクラスター化です。

1 から 999,999,999 の範囲内で値を指定します。デフォルト値は 10000 です。

MAXUMSGS は、IBM MQ Telemetry に対して何の影響もありません。IBM MQ Telemetry は、複数のクライアントから送られたメッセージをサブスクライブ、アンサブスクライブ、送信、および受信する要求を、トランザクション内のバッチ処理に一括することを試行します。

MONACLS

自動定義クラスター送信側チャンネルのオンライン・モニター・データの収集を制御します。

QMGR

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャーの MONCHL パラメーターの設定から継承されます。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

OFF

チャンネルのモニターをオフに切り替えます。

LOW

MONCHL が NONE でない場合、システム・パフォーマンスへの影響を最小限に抑えた低速でのデータ収集を行うようにして、モニターがオンになります。収集されるデータは最新のものではない可能性があります。

MEDIUM

MONCHL が NONE でない場合、システム・パフォーマンスへの影響を限定的にした普通の手速でのデータ収集を行うようにして、モニターがオンになります。

HIGH

MONCHL が NONE でない場合、システム・パフォーマンスに影響を与える可能性がある高速でのデータ収集を行うようにして、モニターがオンになります。収集されるデータは、取得可能なデータの中で最新のものです。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。パラメーターを変更する前に開始されたチャンネルでは、チャンネルの開始時に有効であった値が引き続き適用されます。

MONCHL

チャンネルに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。MONCHL (QMGR) で定義されるチャンネルは、QMGR MONCHL 属性を変更することによって影響を受けます。

OFF

MONCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの場合は、オンライン・モニター・データの収集がオフになります。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

NONE

チャンネルの MONCHL パラメーターの設定にかかわらず、チャンネルのオンライン・モニター・データの収集はオフになります。

LOW

MONCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの場合は、低い比率でのデータ収集によるオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

MEDIUM

MONCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの場合は、普通の比率でのデータ収集によるオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

HIGH

MONCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの場合は、高い比率でのデータ収集によるオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。パラメーターを変更する前に開始されたチャンネルでは、チャンネルの開始時に有効であった値が引き続き適用されます。

MONQ

キューに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

OFF

MONQ パラメーターの QMGR の値を指定するキューの場合は、オンライン・モニター・データの収集がオフになります。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

NONE

MONQ パラメーターの設定に関係なく、キューのオンライン・モニター・データの収集がオフになります。

LOW

MONQ パラメーターの QMGR の値を指定するキューの場合は、オンライン・モニター・データの収集がオンになります。

MEDIUM

MONQ パラメーターの QMGR の値を指定するキューの場合は、オンライン・モニター・データの収集がオンになります。

HIGH

MONQ パラメーターの QMGR の値を指定するキューの場合は、オンライン・モニター・データの収集がオンになります。

MONCHL パラメーターと異なり、LOW、MEDIUM、HIGH のどの値を指定しても違いがありません。これらの値はすべて、データ収集をオンにしますが、収集の比率には影響しません。

このパラメーターへの変更内容は、パラメーターの変更後にオープンされるキューに対してのみ有効になります。

▶ z/OS OPORTMAX(integer)

発信チャンネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最大値。指定された範囲のポート番号がすべて使用されている場合、発信チャンネルは使用可能な任意のポート番号にバインドします。

0 から 65535 の範囲の値を指定します。値 0 は、すべての発信チャンネルが使用可能な任意のポート番号にバインドすることを意味します。

ポート番号の範囲を定義する OPORTMIN に対応する値を指定します。OPORTMAX に指定する値が OPORTMIN に指定する値以上になるようにします。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するチャンネルで有効になります。このパラメーターの変更は、現在開始されているチャンネルには影響しません。

▶ z/OS OPORTMIN(integer)

発信チャンネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最小値。指定された範囲のポート番号がすべて使用されている場合、発信チャンネルは使用可能な任意のポート番号にバインドします。

0 から 65535 の範囲の値を指定します。

ポート番号の範囲を定義する OPORTMAX に対応する値を指定します。OPORTMIN に指定する値が OPORTMAX に指定する値以下になるようにします。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するチャンネルで有効になります。このパラメーターの変更は、現在開始されているチャンネルには影響しません。

PARENT(parentname)

ローカル・キュー・マネージャーが階層内の子として接続される、親キュー・マネージャーの名前。

ブランク値は、キュー・マネージャーに親キュー・マネージャーがないことを示します。

親キュー・マネージャーが既に存在する場合、それは切断されます。

IBM MQ の階層接続では、キュー・マネージャーの属性 PSMODE を ENABLED に設定する必要があります。

PSMODE が DISABLED に設定されている場合、PARENT の値はブランク値に設定できます。

キュー・マネージャーが階層内で別のキュー・マネージャーに子として接続できるようにするには、事前に両方向のチャンネルが存在している必要があります。親のキュー・マネージャーと子のキュー・マネージャーの間にチャンネルが存在していなければなりません。

親が既に定義されている場合、ALTER QMGR PARENT コマンドはもとの親から切断し、新しい親のキュー・マネージャーに接続フローを送信します。

コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。このコマンドが完了したことを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の ALTER QMGR のステップ](#)を参照してください。

PERFMEV

パフォーマンス関連のイベントを生成するかどうかを指定します。

ENABLED

パフォーマンス関連イベントを生成します。

DISABLED

パフォーマンス関連イベントを生成しません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

 IBM MQ for z/OS では、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーが、同一の設定になっている必要があります。

PSCLUS

このキュー・マネージャーがメンバーになっている任意のクラスターで、そのキュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーに参加するかどうかを制御します。ENABLED から DISABLED に変更すると、どのクラスターにもクラスター・トピック・オブジェクトは含まれなくなります。

PSCLUS について詳しくは、[クラスター化されたパブリッシュ/サブスクライブの禁止](#)を参照してください。

注：PSCLUS パラメーターの状況を変更するには、CHIN アドレス・スペースが実行されている必要があります。

ENABLED

このキュー・マネージャーは、クラスター化されたトピック・オブジェクトを定義し、他のキュー・マネージャー上のサブスクライバーにパブリッシュし、他のキュー・マネージャーからパブリケーションを受け取るサブスクリプションを登録することができます。このオプションをサポートするバージョンの IBM MQ が稼働しているクラスター内のキュー・マネージャーはすべて、パブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーが期待どおりに機能するためには、PSCLUS(ENABLED) と指定する必要があります。ENABLED は、キュー・マネージャーが作成されときのデフォルト値です。

DISABLED

このキュー・マネージャーは、クラスター化されたトピック・オブジェクトを定義できず、クラスター内の他のキュー・マネージャーでの定義も無視します。

パブリケーションは、クラスター内の他の場所にあるサブスクライバーには転送されません。また、サブスクリプションはローカル・キュー・マネージャー以外には登録されません。

クラスターでパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティが発生しないようにするには、すべてのキュー・マネージャーで **PSCLUS(DISABLED)** を指定する必要があります。少なくとも、完全リポジトリがパブリッシュ/サブスクライブの参加の有効化または無効化と整合している必要があります。

PSMODE

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが実行されているかどうかを制御します。アプリケーションがアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行えるかどうかを制御します。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューをモニターするかどうかをも制御します。

PSMODE 属性を変更すると、PSMODE 状況が変更されることがあります。 **DISPLAY PUBSUB** を使用するか、IBM i **DSPMQM** で、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースの現在の状態を決定します。

COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。

キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされる、キューに書き込まれたパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージがあっても、それらは処理されません。

この設定は、このキュー・マネージャーを使用する WebSphere Message Broker (現在の IBM Integration Bus) V6 以前のバージョンとの互換性を得るために使用します。

DISABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。したがって、アプリケーション・プログラミング・インターフェースによるパブリッシュまたはサブスクライブはできません。キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされる、キューに書き込まれたパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージがあっても、それらは処理されません。

キュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたは階層内にある場合、そのキュー・マネージャーはパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージを同じクラスターまたは階層内の他のキュー・マネージャーから受信する可能性があります。そのようなメッセージの例としては、パブリケーション・メッセージやプロキシ・サブスクリプションがあります。PSMODE が **DISABLED** に設定されている場合、これらのメッセージは処理されません。このため、メッセージの蓄積がほとんどない間に限り、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたは階層内のキュー・マネージャーを使用不可にしてください。

ENABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェース、およびキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューを使用して、パブリッシュ/サブスクライブを行うことができます。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

注: キュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたは階層内にあり、PSMODE を **ENABLED** に変更する場合には、コマンド **REFRESH QMGR TYPE (PROXY)** の実行が必要になることがあります。このコマンドを実行することにより、PSMODE の設定が **ENABLED** に戻されたときに、非永続サブスクリプションはクラスター内または階層内で認識されます。このコマンドは、次のような事情の場合に実行してください。PSMODE が一度 **ENABLED** から **DISABLED** に設定された後、**ENABLED** に戻され、1 つ以上の非永続サブスクリプションがこの 3 つの状態の間中ずっと存在している場合です。

PSNPMSG

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、非持続入力メッセージを処理できない場合、入力メッセージを送達不能キューに書き込もうとすることがあります。そのようにするかどうかは、入力メッセージのレポート・オプションによって決まります。入力メッセージを送達不能キューに書き込もうとして、失敗する可能性もあります。この場合、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによって、入力メッセージが廃棄される場合があります。入力メッセージに MQRO_DISCARD_MSG が指定されている場合、入力メッセージは廃棄されます。

MQRO_DISCARD_MSG が設定されていない場合、PSNPMSG を KEEP に設定することによって、入力メッセージが廃棄されないようにすることができます。デフォルトでは、入力メッセージは廃棄されます。

注：PSSYNCPT に値 IFPER を指定する場合、PSNPMSG に値 KEEP を指定しないでください。

DISCARD

非持続入力メッセージは、処理できない場合は廃棄されます。

KEEP

非持続入力メッセージは、処理できない場合でも廃棄されません。このような状態では、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、適切な間隔で再びこのメッセージの処理を試行します。後続メッセージの処理は行いません。

PSNPRES

PSNPRES 属性は、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが配信不能応答メッセージを送達不能キューに書き込むか、それとも廃棄するかを制御します。キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが応答メッセージを応答先キューに送信できない場合は、この選択が必要になります。

新規のキュー・マネージャーでは、初期値は NORMAL です。PSSYNCPT に値 IFPER を指定する場合、PSNPRES に値 KEEP または SAFE を指定しないでください。

IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システム上で移行されたキュー・マネージャーの場合、この値は DLQNonPersistentResponse および DiscardNonPersistentResponse に応じて異なります。

NORMAL

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられる。送達不能キューに入れられない場合は廃棄されます。

SAFE

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられる。応答を送信できず、送達不能キューに入れることができない場合、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、現行の操作をバックアウトします。これは適切な間隔で再試行され、後続メッセージの処理は行いません。

DISCARD

応答キューに入れられない非持続応答は、廃棄されます。

KEEP

非持続応答は送達不能キューに入れられず、廃棄はされない。代わりに、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、現行の操作をバックアウトし、適切な間隔で再試行します。後続メッセージの処理は行いません。

PSRTYCNT

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが同期点下でコマンド・メッセージを処理できない場合、その作業単位は取り消されます。コマンドがメッセージの処理を再度何回か試行してから、それに代わって、パブリッシュ/サブスクライブ・ブローカーがレポート・オプションに従ってコマンド・メッセージを処理します。このことが生じる理由は様々です。例えば、パブリッシュ・メッセージをサブスクライバーに送信できず、パブリケーションを送達不能キューに書き込めない場合です。

新しいキュー・マネージャーでは、このパラメーターの初期値は 5 です。

範囲は 0 から 999,999,999 です。

PSSYNCP

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが同期点でコマンド・メッセージの処理 (パブリケーション・メッセージのパブリッシュまたは削除) を行うかどうかを制御します。

YES

すべてのメッセージが同期点で処理されます。

IFPER

持続メッセージのみが同期点に含まれます。

キュー・マネージャーの初期値は IFPER です。

➤ z/OS RCVTIME(integer)

非アクティブ状態に戻る前に、パートナーからハートビートを含むデータを受信するために、TCP/IP チャンネルが待機する時間のおおよその長さ。

このパラメーターは、メッセージ・チャンネル、および **SHARECNV** がゼロより大きい MQI サーバー接続チャンネルおよびクライアント接続チャンネルにのみ適用されます。チャンネル受信タイムアウトは、メッセージ・チャンネルの場合と同じ方法で、折衝されたハートビート間隔に基づいて設定されます。この数値は以下のように設定します。

- この数値が、チャンネルの待機時間を算出するためにネゴシエーション対象の **HBINT** 値に適用する乗数であることを指定するには、**RCVTTYPE** を MULTIPLY に設定します。RCVTIME の値は、0 または 2 から 99 までの範囲の数字に指定します。0 に指定すると、チャンネルはパートナーからデータを受信するのを無期限に待ち続けます。
- RCVTIME** が、チャンネルの待機時間を算出するためにネゴシエーション対象の **HBINT** 値に追加する秒数であることを指定するには、**RCVTTYPE** を ADD に設定します。RCVTIME の値は 1 から 999999 の範囲で指定します。
- チャンネルの待機時間を示す秒単位の値として **RCVTIME** を指定するには、**RCVTTYPE** を EQUAL に設定します。RCVTIME の値は 0 から 999,999 の範囲で指定します。0 に指定すると、チャンネルはパートナーからデータを受信するのを無期限に待ち続けます。

注: 共有会話を使用する MQI チャンネルの場合、**ReceiveTimeout**、**ReceiveTimeMin**、または **ReceiveTimeoutType** によって使用されるハートビート間隔は、折衝されたハートビート間隔より 5 秒大きくなります。

SHARECNV がゼロのチャンネルの場合、**RCVTMIN** は適用されません。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するチャンネルで有効になります。このパラメーターの変更は、現在開始されているチャンネルには影響しません。

詳しくは、[チャンネルの相手側がまだ使用可能であるかどうかの検査](#)を参照してください。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

➤ z/OS RCVTMIN(integer)

非アクティブ状態に戻る前に、パートナーからハートビートを含むデータを受信するために、TCP/IP チャンネルが待機する最小時間。

このパラメーターは、メッセージ・チャンネル、および **SHARECNV** がゼロより大きい MQI サーバー接続チャンネルおよびクライアント接続チャンネルにのみ適用されます。チャンネル受信タイムアウトは、メッセージ・チャンネルの場合と同じ方法で、折衝されたハートビート間隔に基づいて設定されます。

注: 共有会話を使用する MQI チャンネルの場合、**ReceiveTimeout**、**ReceiveTimeMin**、または **ReceiveTimeoutType** によって使用されるハートビート間隔は、折衝されたハートビート間隔より 5 秒大きくなります。

SHARECNV がゼロのチャンネルの場合、**RCVTMIN** は適用されません。

TCP/IP チャンネル待機時間は、**HBINT** のネゴシエーション値を基準にした相対値で構成できます。

RCVTTYPE が MULTIPLY または ADD である場合、結果の値は **RCVTMIN** で設定された値より小さくなる可能性があります。この場合、TCP/IP チャンネル待機時間は **RCVTMIN** に設定されます。**RCVTTYPE** が EQUAL の場合、**RCVTMIN** は適用されません。

0 から 999999 の範囲の値を秒単位で指定します。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するチャンネルで有効になります。このパラメーターの変更は、現在開始されているチャンネルには影響しません。

詳しくは、[チャンネルの相手側が まだ使用可能であるかどうかの検査](#)を参照してください。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

RCVTTYPE

RCVTIME の値に適用する修飾子。

MULTIPLY

チャンネルの待機時間を決定するために、ネゴシエーションされた HBINT 値に適用する乗数として RCVTIME を指定します。

ADD

チャンネル待ち時間を決定するために、ネゴシエーションされた HBINT 値に追加する秒単位の値として RCVTIME を指定します。

EQUAL

チャンネル待ち時間を表す秒単位の値として RCVTIME を指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するチャンネルで有効になります。このパラメーターの変更は、現在開始されているチャンネルには影響しません。

詳しくは、[チャンネルの相手側が まだ使用可能であるかどうかの検査](#)を参照してください。

REMOTEV

リモート・エラー・イベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

リモート・エラー・イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

リモート・エラー・イベントが生成されます。

 WebSphere Application Server で提供されている IBM MQ for z/OS の縮小機能形式を使用している場合は、DISABLED のみが有効です。

REPOS(clustername)

このキュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・サービスを提供するクラスターの名前。最大長は 48 文字で、IBM MQ オブジェクトの命名規則に従います。

REPOS または **REPOSNL** パラメーターの、両方ではなく、いずれかを指定できます。**REPOS** と **REPOSNL** の両方がブランクの場合もあれば、**REPOS** がブランクの場合もあり、**REPOSNL** によって指定された名前リストが空の場合もあります。このようなとき、このキュー・マネージャーはフル・リポジトリを保持しません。これは、クラスターに定義されている他のリポジトリ・サービスのクライアントである可能性があります。

クラスター送信側チャンネルを使用して、このキュー・マネージャーを、クラスター内 (**REPOS** が指定されている場合) または名前リストで指定されている各クラスター内 (**REPOSNL** が指定されている場合) の少なくとも 1 つの他のフル・リポジトリ・キュー・マネージャーに接続します。フル・リポジトリ・キュー・マネージャーでクラスター送信側チャンネルを使用する方法については、[クラスターのコンポーネントの情報](#)を参照してください。

このパラメーターは、IBM i、 z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合で有効です。

コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。このコマンドが完全に完了したことを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認](#)の **ALTER QMGR** のステップを参照してください。

REPOSNL(*nlname*)

このキュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・プログラム・サービスを提供するクラスター名前リストの名前。最大長は 48 文字で、IBM MQ 名前リスト・オブジェクトの命名規則に準拠しています。

REPOS または **REPOSNL** の指定については、**REPOS** の説明を参照してください。

このパラメーターは、IBM i、 z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合で有効です。

REVDNS

チャンネルの接続元である IP アドレスに関して、ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) からホスト名を逆引きするかどうかを制御します。この属性は、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) の TCP を使用するチャンネルにのみ有効です。

ENABLED

インバウンド・チャンネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名の情報が必要な場合に、それが逆引きされます。ホスト名が含まれる CHLAUTH ルールに照らしてマッチングを行ったり、エラー・メッセージにホスト名を含めたりするには、この設定が必要です。接続 ID を提供するメッセージでは、IP アドレスが示されます。

これは、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

DISABLED

インバウンド・チャンネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名は逆引きされません。これを設定すると、ホスト名を使用する CHLAUTH ルールはマッチングされません。

ROUTEREC

メッセージで要求された場合に、トレース経路情報を記録するかどうかを指定します。このパラメーターが **DISABLED** に設定されない場合は、生成される応答が、SYSTEM.ADMIN.TRACE.ROUTE.QUEUE に送信されるか、メッセージ自体によって指定される宛先に送信されるかを制御します。ROUTEREC が **DISABLED** でない場合、最終宛先にまだ到達していないメッセージには情報が追加されていることがあります。

DISABLED

トレース経路情報は記録されません。

MSG

トレース経路情報が記録され、トレース経路の記録動作を生じさせるメッセージの発信元によって指定された宛先に送信されます。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

QUEUE

トレース経路情報が記録され、SYSTEM.ADMIN.TRACE.ROUTE.QUEUE に送信されます。

SCHINIT

キュー・マネージャーが開始するときに、チャンネル・イニシエーターが自動的に開始するかどうかを指定します。

QMGR

チャンネル・イニシエーターは、キュー・マネージャーが開始するときに自動的に開始します。

MANUAL

チャンネル・イニシエーターは自動的に開始しません。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。

SCMDSERV

キュー・マネージャーが開始するときに、コマンド・サーバーが自動的に開始するかどうかを指定します。

QMGR

コマンド・サーバーは、キュー・マネージャーが開始するときに自動的に開始します。

MANUAL

コマンド・サーバーは自動的に開始しません。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

SCYCASE

セキュリティ・プロファイルが大文字か大/小文字混合かを指定します。

UPPER

セキュリティ・プロファイルは大文字のみです。ただし、MXTOPIC および GMXTOPIC はトピックのセキュリティのために使用され、大/小文字混合のプロファイルを含められます。

MIXED

セキュリティ・プロファイルは大/小文字混合です。MQCMD5 および MQCONN はコマンドおよび接続セキュリティのために使用されますが、大文字のプロファイルのみを含めることができます。

SCYCASE への変更は、次のコマンドを実行すると有効になります。

```
REFRESH SECURITY(*) TYPE(CLASSES)
```

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

SQQMNAME

SQQMNAME 属性は、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーが同じグループ内の共有キューを直接開くかどうかを指定します。処理キュー・マネージャーは、共有キューに対して MQOPEN を呼び出し、キューに対して *ObjectQmgrName* パラメーターを設定します。共有キューが処理キュー・マネージャーと同じキュー共有グループにある場合、処理キュー・マネージャーはキューを直接開くことができます。SQQMNAME 属性を設定して、キューを直接開くか、*ObjectQmgrName* キュー・マネージャーによって開くかを制御します。ターゲット・キューが処理キュー・マネージャーと同じキュー共有グループ内の共有キューである場合、この属性は、コピー属性指定で QALIAS を開くときにも使用されます。このような状態では、キュー共有グループ内の各キュー・マネージャーの QALIAS コピー・オブジェクトが同じターゲット・キューを持っていることは重要です。

USE

ObjectQmgrName が使用され、適切な伝送キューがオープンされます。

IGNORE

処理キュー・マネージャーが共有キューを直接オープンします。パラメーターの値をこれに設定することにより、キュー・マネージャー・ネットワーク上のトラフィックが軽減されます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

SSLCRLNL (*nlname*)

拡張 TLS/SSL 証明書検査を行えるように証明書の失効場所を提供するために使用される、認証情報オブジェクトの名前リストの名前。

SSLCRLNL がブランクの場合には、使用される SSL 証明書の 1 つが AuthorityInfoAccess または CrlDistributionPoint X.509 証明書拡張を含まない限り、証明書の取り消し検査は呼び出されません。

SSLCRLNL に対する変更、以前に指定した名前リスト内の名前に対する変更、または以前に参照された認証情報オブジェクトに対する変更は、次のいずれかの時点で有効になります。

- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは、新しいチャネル・プロセスが開始されたとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのチャネル・イニシエーターのスレッドとして稼働するチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動したとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのリスナーのスレッドとして稼働するチャネルの場合は、リスナーが再始動したとき。
-  z/OS では、チャネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドが発行されたとき。

- IBM i キュー・マネージャーでは、このパラメーターは無視されます。ただし、AMQCLCHL.TAB ファイルに書き込む認証情報オブジェクトを決定するためには使用されます。

タイプが LDAPCRL または OCSP の認証情報オブジェクトのみ、SSLCRLNL によって参照される名前リストに記載できます。その他のタイプは、リストが処理される際にエラー・メッセージを出し、それ以降は無視されます。

SSLCRYP (*string*)

システム上に存在する暗号ハードウェアの構成に必要なパラメーター・ストリングを設定します。

サポートされるすべての暗号ハードウェアは、PKCS #11 インターフェースをサポートします。以下の形式のストリングを指定します。

```
GSK_PKCS11= <the PKCS #11 driver path and file name>
; <the PKCS #11 token label> ;
<the PKCS #11 token password> ; <symmetric cipher setting>
;
```

PKCS #11 ドライバー・パスは、PKCS #11 カードに対するサポートを提供する共有ライブラリーの絶対パスです。PKCS #11 ドライバー・ファイル名は共有ライブラリーの名前です。PKCS #11 ドライバーのパスとファイル名に必要な値の例は、/usr/lib/pkcs11/PKCS11_API.so です。

GSKit を介して対称暗号操作にアクセスするには、対称暗号設定パラメーターを指定します。このパラメーターの値は次のいずれかです。

SYMMETRIC_CIPHER_OFF

対称暗号操作を使用しません。

SYMMETRIC_CIPHER_ON

対称暗号操作を使用します。

対称暗号設定パラメーターが指定されていない場合は、SYMMETRIC_CIPHER_OFF を指定した場合と同じ効果があります。

ストリングの最大長は 256 文字です。

リストされていない形式のストリングを指定すると、エラーが発生します。

SSLCRYP 値を変更する場合、指定された暗号ハードウェア・パラメーターは、新しい SSL 接続環境で使用されるパラメーターになります。以下の場合に、新しい情報が有効になります。

- 新しいチャネル・プロセスが開始されるとき。
- チャネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動されるとき。
- リスナーのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、リスナーが再始動されるとき。
- REFRESH SECURITY TYPE (SSL) コマンドが発行されたとき。

SSLEV

SSL イベントを生成するかどうかを指定します。

DISABLED

SSL イベントは生成されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ENABLED

すべての SSL イベントが生成されます。

SSLFIPS

このパラメーターは、 z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

SSLFIPS は、IBM MQ で暗号化を実行する場合に、暗号ハードウェアを使用せずに FIPS 認定済みアルゴリズムのみを使用するかどうかを指定します。暗号ハードウェアが構成されている場合、ハードウェア製品で提供される暗号モジュールが使用されます。それらは、一定レベルまで FIPS の認定を受け

ている場合もあれば、そうではない場合もあります。モジュールが FIPS 証明されているかどうかは、使用しているハードウェア製品によって異なります。FIPS について詳しくは、[連邦情報処理標準 \(FIPS\)](#) を参照してください。

NO

SSLFIPS を NO に設定すると、FIPS 認定済みまたは FIPS 非認定の CipherSpec のいずれかを使用できます。

キュー・マネージャーが暗号ハードウェアを使用せずに実行されている場合は、[CipherSpec の指定](#) にリストされている CipherSpec を参照してください。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

YES

このキュー・マネージャーとの間のすべての SSL 接続で許可される CipherSpecs で、FIPS 証明されたアルゴリズムだけが使用されるように指定します。

該当する FIPS 140-2 認定済み CipherSpec のリストについては、[CipherSpec の指定](#) を参照してください。

SSLFIPS に対する変更は、次のいずれかの時点で有効になります。

- UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは、新しいチャネル・プロセスが開始されたとき。
- UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのチャネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのリスナーのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、リスナーが再始動されたとき。
- プロセス・プール・プロセスのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開され、SSL チャネルを最初に実行したとき。プロセス・プーリング・プロセスが既に SSL チャネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド REFRESH SECURITY TYPE(SSL)を実行します。プロセス・プール・プロセスは UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは **amqrmppa** です。
-  **z/OS** z/OS では、チャネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドが発行されたとき  **z/OS** (z/OS 以外)。

SSLKEYR (string)

Secure Sockets Layer 鍵リポジトリの名前。ストリングの最大長は 256 文字です。名前の形式は環境によって異なります。

 **z/OS** z/OS では、この名前は鍵リングの名前になります。

IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 では、この名前は語幹形式になります。つまり、絶対パスと拡張子なしのファイル名を含むものになります。

-  **IBM i** IBM i では、この名前は *pathname/keyfile* という形式になります (*keyfile* には、接尾部 .kdb なしで GSKit 鍵データベース・ファイルを指定します)。

★SYSTEM を指定すると、IBM MQ はシステム証明書ストアをキュー・マネージャーの鍵リポジトリとして使用します。キュー・マネージャーは Digital Certificate Manager (DCM) でサーバー・アプリケーションとして登録されます。このキュー・マネージャーをサーバー・アプリケーションとして登録したので、このキュー・マネージャーに対し、システム・ストアで任意のサーバー証明書またはクライアント証明書を割り当てることができます。

SSLKEYR パラメーターの値を ★SYSTEM 以外の値に変更すると、IBM MQ は、DCM のアプリケーションとして登録されているキュー・マネージャーを登録解除します。

-  **Linux**  **UNIX** UNIX と Linux では、この名前は *pathname/keyfile* という形式になります (*keyfile* には、接尾部 .kdb なしで GSKit CMS 鍵データベース・ファイルを指定します)。

- **Windows** Windows では、この名前は `pathname\keyfile` という形式になります (`keyfile` には、接尾部 `.kdb` なしで GSKit CMS 鍵データベース・ファイルを指定します)。

IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合では、このパラメーターの構文が検証されて、有効なディレクトリーの絶対パスが確実に含まれるようにされます。

SSLKEYR がブランクの場合、SSL を使用したチャネルの開始は失敗します。SSLKEYR が鍵リングや鍵データベース・ファイルに対応しない値に設定されている場合、SSL を使用したチャネルの開始も失敗します。

SSLKEYR に対する変更は、次のときに有効になります。

- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは、新しいチャネル・プロセスが開始されたとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのチャネル・イニシエーターのスレッドとして稼働するチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動したとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのリスナーのスレッドとして稼働するチャネルの場合は、リスナーが再始動したとき。
- プロセス・プール・プロセス `amqrmppa` のスレッドとして実行されるチャネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開され、SSL チャネルを最初に実行したとき。プロセス・プーリング・プロセスが既に SSL チャネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド `REFRESH SECURITY TYPE(SSL)` を実行します。
- **z/OS** z/OS では、チャネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- `REFRESH SECURITY TYPE(SSL)` コマンドが発行されたとき。

SSLKEYC (integer)

秘密鍵を再ネゴシエーションする前に SSL 会話内で送受信されるバイト数。バイト数には、制御情報が含まれています。

SSLKEYC は、キュー・マネージャーから通信が開始される SSL チャネルでのみ使用されます。例えば、送信側チャネルは送信側および受信側チャネルのペアで通信を開始します。

0 より大きい値が指定されると、チャネル・ハートビートに続いてメッセージ・データが送受信される前に、秘密鍵の再折衝も実行されます。再ネゴシエーションが成功するごとに、次の秘密鍵の再ネゴシエーションまでのバイト数がリセットされます。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。値が 0 の場合は、秘密鍵の再ネゴシエーションが行われることはありません。SSL/TLS 秘密鍵のリセット・カウントを 1 バイトから 32767 バイト (32 KB) の範囲で指定する場合、SSL/TLS チャネルは 32 KB の秘密鍵リセット・カウントを使用します。リセット・カウントを大きくすることにより、SSL/TLS 秘密鍵リセット値が小さい場合に発生する過剰な鍵リセットによるコストを回避できます。



重要: 4096 (4 KB) より小さいゼロ以外の値を指定すると、チャネルが始動に失敗したり、SSLKEYDA、SSLKEYTI、および SSLKEYS の値が矛盾する恐れがあります。

z/OS SSLTASKS (integer)

SSL 呼び出しを処理するために使用するサーバー・サブタスクの数。SSL チャネルを使用するには、これらのうち少なくとも 2 つのタスクが実行されている必要があります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

この値の範囲は 0 から 9999 です。ストレージ割り振りの問題を避けるために、SSLTASKS パラメーターは、50 以下の値に設定してください。

このパラメーターに対する変更が有効になるのは、チャネル・イニシエーターが再始動したときです。

STATACLS

自動定義されたクラスター送信側チャネルの統計データを収集するかどうかを指定します。

QMGR

統計データの収集は、キュー・マネージャーの `STATACL` パラメーターの設定から継承されます。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

OFF

チャンネルの統計データの収集をオフに切り替えます。

LOW

STATCHL が NONE でない場合、システム・パフォーマンスへの影響を最小限に抑えた低い比率のデータ収集で統計データ収集がオンになります。

MEDIUM

STATCHL が NONE でない場合、普通の比率のデータ収集で統計データ収集がオンになります。

HIGH

STATCHL が NONE でない場合、高い比率のデータ収集で統計データ収集がオンになります。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。パラメーターを変更する前に開始されたチャンネルでは、チャンネルの開始時に有効であった値が引き続き適用されます。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

STATCHL

チャンネルの統計データを収集するかどうかを指定します。

NONE

チャンネルの STATCHL パラメーター設定にかかわらず、チャンネルの統計データ収集はオフになります。

OFF

STATCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの統計データ収集はオフになります。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

LOW

STATCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの場合は、低い比率でのデータ収集による統計データの収集がオンになります。

MEDIUM

STATCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの場合は、普通の比率でのデータ収集による統計データの収集がオンになります。

HIGH

STATCHL パラメーターの QMGR の値を指定するチャンネルの場合は、高い比率でのデータ収集による統計データの収集がオンになります。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。パラメーターを変更する前に開始されたチャンネルでは、チャンネルの開始時に有効であった値が引き続き適用されます。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

STATINT(integer)

モニター・キューに統計モニター・データを書き込むときの、秒単位での時間間隔。

1 から 604800 の範囲内で値を指定します。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

このパラメーターを変更すると、モニター・データおよび統計データの収集に対して即時適用されます。

STATMQI

キュー・マネージャーの統計モニター・データを収集するかどうかを指定します。

OFF

MQI 統計のデータ収集を使用不可にします。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ON

MQI 統計のデータ収集を使用可能にします。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

このパラメーターを変更すると、モニター・データおよび統計データの収集に対して即時適用されます。

STATQ

キューの統計データを収集するかどうかを指定します。

NONE

キューの STATQ パラメーターの設定にかかわらず、チャンネルに関する統計データ収集がオフになります。

OFF

STATQ パラメーターの QMGR または OFF の値を指定するキューの統計データ収集はオフになります。OFF がデフォルト値です。

ON

STATQ パラメーターの QMGR または ON の値を指定するキューの統計データ収集はオンになります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

統計メッセージは、統計収集が使用可能になった後でオープンされたキューについてのみ生成されます。STATQ の新しい値を有効にするためにキュー・マネージャーを再始動する必要はありません。

STRSTPEV

開始および停止イベントを生成するかどうかを指定します。

ENABLED

開始イベントと終了イベントを生成します。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

DISABLED

開始および停止イベントは生成されません。

SUITEB

Suite B 準拠の暗号方式を使用するかどうかと、必要な強度を指定します。

NONE

Suite B は使用されません。NONE がデフォルトです。

128_BIT

Suite B 128 ビット・レベルのセキュリティが使用されます。

192_BIT

Suite B 192 ビット・レベルのセキュリティが使用されます。

128_BIT,192_BIT

Suite B 128 ビット・レベルと 192 ビット・レベルのセキュリティが使用されます。

TCPCHL(integer)

TCP/IP 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルの最大数、または接続可能なクライアントの最大数。

使用するソケットの最大数は、TCPCHL と CHDISPS の値の合計数です。z/OS UNIX システム・サービスの MAXFILEPROC パラメーター (SYS1.PARMLIB の BPXPRM *xx* メンバーで指定) 各タスクに許可されるソケットの数、および各ディスパッチャーに許可されるチャンネルの数を制御します。この場合、TCP/IP を使用するチャンネルの数は、CHDISPS の値を乗算した MAXFILEPROC の値に制限されます。

0 から 9999 の範囲の値を指定します。値は MAXCHL の値を超えてはなりません。MAXCHL は、使用可能なチャンネルの最大数を定義します。TCP/IP は、9999 のチャンネルまでサポートしない場合があります。

す。この場合、指定できる値は、TCP/IP がサポート可能なチャネル数に制限されます。ゼロを指定すると、TCP/IP 伝送プロトコルは使用されません。

この値を変更する場合は、値の競合が生じないように MAXCHL、LU62CHL、および ACTCHL の値も検討します。必要に応じて MAXCHL および ACTCHL の値を引き上げてください。

このパラメーターの値を小さくすると、新しい制限値を超える現行チャネルはすべて、停止するまで稼働し続けます。

共有会話は、このパラメーターの合計には影響を与えません。

チャネル・イニシエーターの開始時に **TCPCHL** の値がゼロ以外の場合は、値を動的に変更できます。チャネル・イニシエーターの開始時に **TCPCHL** の値がゼロの場合、その後の ALTER コマンドは効力がありません。このような場合は、チャネル・イニシエーターの開始前か、**START CHINIT** コマンド発行前の CSQINP2 の中で、ALTER コマンドを実行する必要があります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS TCPKEEP

接続の相手側が使用可能であることを检查するために、KEEPALIVE 機能を使用するかどうかを指定します。使用不可の場合は、チャネルが閉じられます。

NO

TCP KEEPALIVE 機能は使用されません。

これがキュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

YES

TCP プロファイルの構成データ・セットで指定されたとおりに、TCP KEEPALIVE 機能を使用されます。間隔は KAINTE チャンネル属性で指定されます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターに対する変更点は、後で始動するチャネルで有効になります。このパラメーターの変更は、現在開始されているチャネルには影響しません。

「最新の」キュー・マネージャーでは TCPKEEP パラメーターを使用する必要はなくなりました。代わりに、以下を組み合わせ使用します。

- 「最新」のクライアント・チャネルの使用 (SHARECNV <> 0)。
- メッセージ・チャネルの受信タイムアウト RCVTIME

詳しくは、技術情報『Setting the TCP/IP KeepAlive interval to be used by IBM MQ』 (<https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21216834>) を参照してください。

z/OS TCPNAME(string)

TCPSTACK の値に応じて、使用される唯一の、あるいは推奨される TCP/IP スタックの名前。この名前は、SYS1.PARMLIB の BPXPRM *xx* メンバーの SUBFILESYSTYPE NAME パラメーターで指定されている、TCP/IP 用の z/OS UNIX システム・サービス・スタックの名前です。TCPNAME は、CINET マルチ・スタック環境でのみ適用されます。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は TCPIP です。

INET 単一スタック環境では、チャネル・イニシエーターは使用可能な TCP/IP スタックだけを使用します。

このパラメーターの最大長は 8 文字です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターへの変更点は、チャネル・イニシエーターが再始動するときに有効になります。

z/OS TCPSTACK

チャネル・イニシエーターが、TCPNAME で指定される TCP/IP スタックのみを使用できるのか、またはオプションで任意に選択された TCP/IP アドレスにバインドするのかを指定します。このパラメーターは、CINET マルチ・スタック環境でのみ適用されます。

SINGLE

チャンネル・イニシエーターは、TCPNAME で指定された TCP/IP アドレス・スペースのみを使用できます。

MULTIPLE

チャンネル・イニシエーターは、使用可能な TCP/IP アドレス・スペースをすべて使用できます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターへの変更点は、チャンネル・イニシエーターが再始動するときに有効になります。

z/OS TRAXSTR

チャンネル・イニシエーター・トレースが自動的に開始されるかどうかを指定します。

YES

チャンネル・イニシエーター・トレースは自動的に開始します。

NO

チャンネル・イニシエーター・トレースは自動的に開始されません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターへの変更点は、チャンネル・イニシエーターが再始動するときに有効になります。チャンネル・イニシエーターを再始動せずにチャンネル・イニシエーター・トレースを開始または停止する場合は、チャンネル・イニシエーターが開始した後で、START TRACE コマンドか STOP TRACE コマンドを使用します。

z/OS TRAXTBL(integer)

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのサイズ (メガバイト)。

2 以上 2048 以下の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

注:

1. このパラメーターへの変更は即時に有効になり、既存のトレース・テーブルの内容は失われます。
2. **CHINIT** トレースは、qmidCHIN.CSQXTRDS という名前のデータ・スペースに保管されます。大容量の z/OS のデータ・スペースを使用するときは、関連する z/OS ページング・アクティビティをサポートするのに十分な補助ストレージがシステム上で使用可能であることを確認してください。SYS1.DUMP データ・セットのサイズを増加させる必要が生じる場合もあります。

TREELIFE(integer)

非管理トピックの存続期間 (秒単位)。

非管理トピックは、管理ノードとして存在していないトピック・ストリングにアプリケーションがパブリッシュ (またはサブスクライブ) するときに作成されるトピックです。このパラメーターは、この非管理ノードにアクティブなサブスクリプションが存在しなくなった場合に、キュー・マネージャーがそのノードを削除するまでに待機する時間を指定します。キュー・マネージャーがリサイクルされた後は、永続サブスクリプションによって使用中の非管理トピックのみが残ります。

0 以上 604000 以下の範囲の値を指定します。値 0 は、非管理トピックがキュー・マネージャーによって削除されないことを意味します。

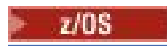
TRIGINT(integer)

ミリ秒単位で表した時間間隔。

TRIGINT パラメーターは、トリガー・タイプ (TRIGTYPE) が FIRST にセットされている場合のみ意味を持ちます (詳細は、957 ページの『DEFINE QLOCAL』を参照)。この場合、通常、空であったキューに適切なメッセージが着信した場合のみ、トリガー・メッセージが生成されます。しかし、特定の状況のもとでは、キューが空でなくても、FIRST トリガー操作のもとで追加のトリガー・メッセージが生成されることがあります。これらの追加のトリガー・メッセージが、TRIGINT ミリ秒より短い間隔で生成されることはありません。トリガー・タイプ FIRST の特殊な事例を参照してください。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。

関連情報

 [z/OS での SSL または TLS の取り扱い](#)

ALTER キュー

キューのパラメーターを変更するには、MQSC **ALTER** コマンドを使用します。キューは、ローカル・キュー (ALTER QLOCAL)、別名キュー (ALTER QALIAS)、モデル・キュー (ALTER QMODEL)、リモート・キュー、キュー・マネージャー別名、または応答先キュー別名 (ALTER QREMOTE) である場合があります。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

このセクションでは、次のコマンドを取り上げます。

- [792 ページの『ALTER QALIAS』](#)
- [794 ページの『ALTER QLOCAL』](#)
- [796 ページの『ALTER QMODEL』](#)
- [798 ページの『ALTER QREMOTE』](#)

これらのコマンドは、以下のプラットフォームでサポートされています。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

ALTER キュー・コマンドに指定されていないパラメーターは、変更しないパラメーターの既存の値と同じになります。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

ALTER キューの使用上の注意

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の ALTER キュー・ステップ](#)を参照してください。

ALTER QUEUE のパラメーターの説明

キューのタイプごとに、関係するパラメーターを [770 ページの表 60](#) の表に示します。表に続けて、各パラメーターについて説明します。

表 60. DEFINE パラメーターと ALTER QUEUE パラメーター。				
キューのパラメーターとキューのタイプのクロス集計。パラメーターがキューのタイプに適用される場合、このセルにチェック・マークが付けられます。				
パラメーター	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー
ACCTQ	✓	✓		
BOQNAME	✓	✓		
BOTHRESH	✓	✓		
 z/OS	✓	✓		
 z/OS				
CFSTRUCT				

表 60. DEFINE パラメーターと ALTER QUEUE パラメーター.

キューのパラメーターとキューのタイプのクロス集計。パラメーターがキューのタイプに適用される場合、このセルにチェック・マークが付けられます。

(続き)

パラメーター	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー
CLCHNAME	✓			
CLUSNL	✓		✓	✓
CLUSTER	✓		✓	✓
CLWLPRTY	✓		✓	✓
CLWLRANK	✓		✓	✓
CLWLUSEQ	✓			
▶ z/OS ▶ z/OS CMDSCOPE	✓	✓	✓	✓
CUSTOM	✓	✓	✓	✓
DEFBIND	✓		✓	✓
DEFPRESP	✓	✓	✓	✓
DEFPRTY	✓	✓	✓	✓
DEFPSIST	✓	✓	✓	✓
DEFREADA	✓	✓	✓	
DEFSOPT	✓	✓		
DEFTYPE	✓	✓		
DESCR	✓	✓	✓	✓
DISTL	✓	✓		
FORCE	✓		✓	✓
GET	✓	✓	✓	
HARDENBO または NOHARDENBO	✓	✓		
INDXTYPE	✓	✓		
INITQ	✓	✓		
LIKE	✓	✓	✓	✓
MAXDEPTH	✓	✓		
MAXMSGL	✓	✓		

表 60. DEFINE パラメーターと ALTER QUEUE パラメーター。

キューのパラメーターとキューのタイプのクロス集計。パラメーターがキューのタイプに適用される場合、このセルにチェック・マークが付けられます。

(続き)

パラメーター	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー
MONQ	✓	✓		
MSGDLVSQ	✓	✓		
NPMCLASS	✓	✓		
PROCESS	✓	✓		
PROPCTL	✓	✓	✓	
PUT	✓	✓	✓	✓
queue-name	✓	✓	✓	✓
QDEPTHHI	✓	✓		
QDEPTHLO	✓	✓		
QDPHIEV	✓	✓		
QDPLOEV	✓	✓		
QDPMAXEV	✓	✓		
 z/OS  z/OS QSGDISP	✓	✓	✓	✓
QSVCIEV	✓	✓		
QSVCIINT	✓	✓		
RETINTVL	✓	✓		
RNAME				✓
RQMNAME				✓
SCOPE	✓		✓	✓
SHARE または NOSHARE	✓	✓		
STATQ	✓	✓		
 z/OS  z/OS STGCLASS	✓	✓		
TARGET			✓	
TARGQ			✓	

表 60. DEFINE パラメーターと ALTER QUEUE パラメーター.

キューのパラメーターとキューのタイプのクロス集計。パラメーターがキューのタイプに適用される場合、このセルにチェック・マークが付けられます。

(続き)

パラメーター	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー
<u>TARGETTYPE</u>			✓	
<u>TRIGDATA</u>	✓	✓		
<u>TRIGDPTH</u>	✓	✓		
<u>TRIGGER または NOTRIGGER</u>	✓	✓		
<u>TRIGMPRI</u>	✓	✓		
<u>TRIGTYPE</u>	✓	✓		
<u>USAGE</u>	✓	✓		
<u>XMITQ</u>				✓

queue-name

キューのローカル名。ただし、リモート・キューのローカル定義に使用されているリモート・キューは除きます。

IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照してください。

ACCTQ

キューのアカウントティング・データ収集を使用可能にするかどうかを指定します。z/OS では、収集されるデータはクラス 3 のアカウントティング・データ (スレッド・レベルとキュー・レベルのアカウントティング) です。このキューでアカウントティング・データを収集するには、この接続のアカウントティング・データも使用可能にする必要があります。**ACCTQ** キュー・マネージャー属性、または **MQCONN** 呼び出しの **MQCNO** 構造体のオプション・フィールドのいずれかを設定して、アカウントティング・データ収集をオンにします。

QMGR

アカウントティング・データの収集は、キュー・マネージャー定義の **ACCTQ** パラメーターの設定に基づいて行われます。

ON

アカウントティング・データ収集は、**ACCTQ** キュー・マネージャーのパラメーター値が **NONE** でない限り、キューで使用可能になります。z/OS システムでは、**START TRACE** コマンドを使用して、クラス 3 アカウントティングをオンに切り替える必要があります。

OFF

このキューではアカウントティング・データ収集は使用不可になります。

BOQNAME (queue-name)

過度バックアウト・リキュー名。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、ローカル・キューまたはモデル・キューのバックアウト・キュー名属性を設定または変更するときに使用します。キュー・マネージャーは、その値を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいて何も行いません。IBM MQ classes for JMS は、最大回数バックアウトされたメッセージをこのキューに転送します。最大回数は **BOTHRESH** 属性で指定されます。

BOTHRESH (integer)

バックアウトしきい値。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、ローカル・キューまたはモデル・キューのバックアウトしきい値属性の値を設定または変更するときに使用します。キュー・マネージャーは、その値を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいて何も行いません。IBM MQ classes for JMS use the attribute to determine how many times back a message out. この値を超えると、メッセージは **BOQNAME** 属性で指定されたキューに転送されます。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。

CFSTRUCT (structure-name)

共有キューを使用する際にメッセージを保管するカップリング・ファシリティ構造の名前を指定します。

このパラメーターは、z/OS 上のローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

名前には次の条件があります。

- 12 文字より長くすることはできません。
- 先頭の文字は大文字 (A から Z) でなければなりません。
- 使用できる文字は A から Z と 0 から 9 だけです。

指定した名前には、キュー・マネージャーが接続されるキュー共有グループの名前が接頭部として付きます。キュー共有グループの名前は必ず 4 文字で、必要に応じて記号 @ が埋め込まれます。例えば、NY03 という名前のキュー共有グループを使用し、PRODUCT7 という名前を指定する場合、生成されるカップリング・ファシリティ構造体名は NY03PRODUCT7 です。キュー共有グループの管理構造体 (この場合は NY03CSQ_ADMIN) はメッセージの保管に使用できません。

ALTER QLOCAL、ALTER QMODEL、**REPLACE** を指定した DEFINE QLOCAL、および **REPLACE** を指定した DEFINE QMODEL の場合は、以下の規則が適用されます。

- **QSGDISP**(SHARED) が指定されているローカル・キューでは、**CFSTRUCT** を変更できません。

CFSTRUCT か **QSGDISP** のいずれかの値を変更する場合は、キューを削除してから再定義してください。キュー上のメッセージを保持するには、キューを削除する前にメッセージをオフロードする必要があります。キューを再定義した後にメッセージを再ロードするか、メッセージを別のキューに移動してください。

- **DEFTYPE**(SHAREDYN) が指定されているモデル・キューでは、**CFSTRUCT** をブランクにすることはできません。
- SHARED 以外の **QSGDISP** が指定されているローカル・キューや、SHAREDYN 以外の **DEFTYPE** が指定されているモデル・キューでは、自由に **CFSTRUCT** の値を指定することができます。

NOREPLACE を使用する DEFINE QLOCAL および **NOREPLACE** を使用する DEFINE QMODEL の場合、カップリング・ファシリティ構造は以下のようになります。

- **QSGDISP**(SHARED) が指定されているローカル・キューや、**DEFTYPE**(SHAREDYN) が指定されているモデル・キューでは、**CFSTRUCT** をブランクにできません。
- SHARED 以外の **QSGDISP** を持つローカル・キュー、または SHAREDYN 以外の **DEFTYPE** を持つモデル・キューでは、**CFSTRUCT** の値は問題になりません。

注: キューを使用するためには、カップリング・ファシリティ資源管理 (CFRM) ポリシー・データ・セットで構造が定義されていなければなりません。

CLCHNAME (channel name)

このパラメーターは、伝送キューでのみサポートされます。

CLCHNAME は、このキューを伝送キューとして使用するクラスター送信側チャネルの総称名です。この属性は、このクラスター伝送キューからクラスター受信側チャネルへメッセージを送信するクラスター送信側チャネルを指定します。

また、伝送キュー属性である CLCHNAME 属性をクラスター送信側チャンネルに手動で設定することもできます。クラスター送信側チャンネルによって接続されたキュー・マネージャーを宛先とするメッセージは、クラスター送信側チャンネルを識別する伝送キューに保管されます。これらのメッセージがデフォルトのクラスター伝送キューに保管されることはありません。CLCHNAME 属性をブランクに設定すると、チャンネルの再始動時に、チャンネルはデフォルトのクラスター伝送キューに切り替わります。デフォルト・キューは、キュー・マネージャーの DEFCLXQ 属性の値に応じて、SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.ChannelName または SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE のいずれかになります。

CLCHNAME にアスタリスク "*" を指定すると、伝送キューをクラスター送信側チャンネルのセットに関連付けることができます。アスタリスクはチャンネル名ストリングの先頭、末尾、またはそれ以外の場所に任意の数だけ使用できます。CLCHNAME の長さは 48 文字まで (MQ_OBJECT_NAME_LENGTH) に制限されています。チャンネル名の長さは 20 文字まで (MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH) に制限されています。アスタリスクを指定する場合は、SHARE 属性も設定する必要があります。これにより、複数のチャンネルから同時に伝送キューにアクセスできます。

z/OS CLCHNAME に "*" を指定した場合、チャンネル・プロファイル名を取得するには、チャンネル・プロファイル名を引用符で囲んで指定する必要があります。総称チャンネル名を引用符で囲んで指定しなかった場合は、メッセージ CSQ9030E を受け取ります。

デフォルトのキュー・マネージャー構成では、すべてのクラスター送信側チャンネルが、単一の伝送キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE からメッセージを送信します。デフォルト構成を変更するには、キュー・マネージャー属性 DEFCLXQ を変更します。属性のデフォルト値は SCTQ です。この値は CHANNEL に変更できます。DEFCLXQ 属性を CHANNEL に設定すると、各クラスター送信側チャンネルは、デフォルトで特定のクラスター伝送キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.ChannelName を使用します。

z/OS z/OS では、このパラメーターを設定する場合、キューは以下の要件を満たしている必要があります。

- 共有可能でなければならない (キュー属性 SHARE を指定)。
- 相関 ID に索引付けされていなければならない (INDXTYPE(CORRELID) を指定)。
- 動的キューや共有キューであってはならない。

CLUSNL (namelist name)

そのキューが属しているクラスターのリストを指定する、NAMELIST の名前です。

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キューでのみサポートされます。

このパラメーターの変更は、既に関いているキューのインスタンスには影響しません。

CLUSNL または **CLUSTER** の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。両方に 1 つの値を指定することはできません。

ローカル・キューでは、このパラメーターを伝送キュー SYSTEM.CHANNEL. *xx*、SYSTEM.CLUSTER. *xx* キュー、または SYSTEM.COMMAND. *xx* キュー **z/OS** に対して設定することはできません。z/OS のみ、SYSTEM.QSG. *xx* キューに対して設定することができます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows **z/OS**、z/OS でのみ有効です。

CLUSTER (cluster name)

キューが属するクラスターの名前です。

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キューでのみサポートされます。

最大長は 48 文字で、IBM MQ オブジェクトの命名規則に従います。このパラメーターの変更は、既に関いているキューのインスタンスには影響しません。

CLUSNL または **CLUSTER** の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。両方に 1 つの値を指定することはできません。

ローカル・キューでは、このパラメーターを伝送キュー **SYSTEM.CHANNEL. xxx**、**SYSTEM.CLUSTER. xxx** キュー、または **SYSTEM.COMMAND. xxx** キュー  に対して設定することはできません。z/OS のみ、**SYSTEM.QSG. xxx** キューに対して設定することができます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows 、z/OS のみ有効です。

CLWLPRTY (integer)

クラスター・ワークロード分散のために、キューの優先順位を指定します。このパラメーターはローカル、リモート、および別名キューにのみ有効です。値の範囲はゼロ (最低の優先度) から 9 (最高の優先度) でなければなりません。この属性について詳しくは、[CLWLPRTY キュー属性](#)を参照してください。

CLWLRANK (integer)

クラスター・ワークロード分散のために、キューのランクを指定します。このパラメーターはローカル、リモート、および別名キューにのみ有効です。値の範囲はゼロ (最低ランク) から 9 (最高ランク) でなければなりません。この属性について詳しくは、[CLWLRANK キュー属性](#)を参照してください。

CLWLUSEQ

宛先キューにローカル・インスタンスと最低 1 つのリモート・クラスター・インスタンスがある場合に、MQPUT 操作の動作を指定します。MQPUT がクラスター・チャネルから出された場合、このパラメーターの効果はありません。このパラメーターは、ローカル・キューにのみ有効です。

QMGR

振る舞いは、キュー・マネージャー定義の **CLWLUSEQ** パラメーターで指定されるとおりです。

ANY

キュー・マネージャーは、ワークロードを分散するために、ローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして処理します。

LOCAL

ローカル・キューは MQPUT 操作の唯一の宛先です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行場所を指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、**QSGDISP** が **GROUP** または **SHARED** に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

QmgrName

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

コマンドが入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定できます。別の名前を指定できるのは、キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能な場合に限られます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。* は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CUSTOM (string)

新機能用カスタム属性。

 この属性には属性の値を含めます。属性の値として、属性名と値の各ペアを 1 つ以上のスペースで分離します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

CAEXPRY (integer)

解決パスのこのオブジェクトを使用したオブジェクト・ハンドルで書き込まれたメッセージが、有効期限切れによる処理対象になるまでの最大時間 (10 分の 1 秒単位)。

メッセージ有効期限処理について詳しくは、[有効期限を強制的に短くする](#)を参照してください。

整数

1 から 999 999 999 までの範囲の値でなければなりません。

NOLIMIT

このオブジェクトを使用して書き込まれたメッセージの有効期限時間には制限がありません。これはデフォルト値です。

CAEXPRY に無効値を指定しても、コマンドの失敗にはなりません。代わりに、デフォルト値が使用されます。

CAEXPRY の変更前からキュー内に存在しているメッセージは、その変更の影響を受けません (つまり、有効期限時刻は元のままです)。**CAEXPRY** の変更後にキューに入れられた新しいメッセージのみに、新しい有効期限時刻が適用されます。

最大長は定数 MQ_CUSTOM_LENGTH によって定義され、現在はすべてのプラットフォームで 128 に設定されています。

DEFBIND

アプリケーションが MQOPEN 呼び出しに MQOO_BIND_AS_Q_DEF を指定し、キューがクラスター・キューである場合に使用するバインディングを指定します。

OPEN

キューのオープン時に、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。

NOTFIXED

キュー・ハンドルは、クラスター・キューのインスタンスにバインドされません。キュー・マネージャーは、MQPUT を使用してメッセージが書き込まれたときに特定のキュー・インスタンスを選択します。この選択内容は、必要に応じて、後で変更されます。

GROUP

アプリケーションが、メッセージのグループが同じ宛先インスタンスに割り当てられるように要求できるようにします。

同じ名前の複数のキューをキュー・マネージャー・クラスターに公示できます。アプリケーションは、すべてのメッセージを単一インスタンスに送信できます (MQOO_BIND_ON_OPEN)。また、ワークロード管理アルゴリズムを使用して、メッセージごとに最適な宛先を選択できます (MQOO_BIND_NOT_FIXED)。これにより、アプリケーションは、メッセージの "グループ" をすべて同じ宛先インスタンスに割り振るように要求できます。ワークロード・balancing は、メッセージ・グループの中から宛先を再選択します。その場合、キューの MQCLOSE および MQOPEN は必要ありません。

MQPUT1 呼び出しは、NOTFIXED を指定した場合と同様に、常に振る舞います。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows 、z/OS でのみ有効です。

DEFPRESP

MQPMO オプションの中で書き込み応答タイプが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF に設定されているときにアプリケーションで使用する振る舞いを指定します。

SYNC

MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定された場合のように発行される。

ASYN

MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定された場合のように発行されます。[MQPMO オプション \(MQLONG\)](#) を参照してください。

DEFPRTY (integer)

キューに書き込まれるメッセージの、デフォルトの優先順位。値は 0 から 9 の範囲でなければなりません。最低の優先順位が 0 で、最大はキュー・マネージャー・パラメーター **MAXPRTY** です。 **MAXPRTY** のデフォルト値は 9 です。

DEFPSIST

アプリケーションで MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF オプションが指定されている場合に使用するメッセージ持続性を指定します。

NO

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

YES

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

 z/OS では、N および Y は、NO および YES の同義語として受け入れられます。

DEFREADA

クライアントに配信される非持続メッセージのデフォルトの先読み動作を指定します。先読みを有効にすると、非持続メッセージを消費するクライアント・アプリケーションのパフォーマンスを向上できます。

NO

クライアント・アプリケーションが先読みを要求するように構成されていない限り、非持続メッセージは先読みされません。

YES

非持続メッセージは、アプリケーションからの要求がある前に、クライアントに送信されます。クライアントが異常終了した場合、またはクライアントが送信されたすべてのメッセージを削除しない場合、非持続メッセージは失われる可能性があります。

DISABLED

このキューに対して、非持続メッセージの先読みは有効になりません。クライアント・アプリケーションによって先読みが要求されているかどうかに関わりなく、メッセージはクライアントに前もって送信されません。

DEFSOPT

アプリケーションがこのキューを入力用にオープンするときの、デフォルトの共有オプション。

EXCL

オープン要求は、キューの排他的入力に対して行われる。

SHARED

オープン要求は、キューの共有入力に対して行われる。

DEFTYPE

キュー定義タイプ。

このパラメーターは、モデル・キューでのみサポートされます。

PERMDYN

アプリケーションが、オブジェクト記述子 (MQOD) にこのモデル・キューの名前を指定して MQOPEN MQI 呼び出しを行うと、永続動的キューが作成されます。

 z/OS では、動的キューの属性指定は QMGR です。

 **SHAREDYN**

このオプションは、z/OS でのみ使用可能です。

アプリケーションが、オブジェクト記述子 (MQOD) にこのモデル・キューの名前を指定して MQOPEN API 呼び出しを行うと、永続動的キューが作成されます。

動的キューの属性指定は SHARED です。

TEMPDYN

アプリケーションが、オブジェクト記述子 (MQOD) にこのモデル・キューの名前を指定して MQOPEN API 呼び出しを行うと、一時動的キューが作成されます。

 z/OS では、動的キューの属性指定は QMGR です。

DEFPSIST パラメーターが YES のモデル・キュー定義には、この値を指定してはなりません。

このオプションを指定した場合は、**INDXTYPE**(MSGTOKEN) に値を指定しないでください。

DESCR (*string*)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY QUEUE コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) に含まれる文字を使用してください。それ以外の文字を使用し、情報が別のキュー・マネージャーに送信された場合には、正しく変換されないことがあります。

DISTL

パートナー・キュー・マネージャーが配布リストをサポートするかどうかを設定します。

YES

配布リストは、パートナー・キュー・マネージャーによってサポートされます。

NO

配布リストは、パートナー・キュー・マネージャーによってサポートされません。

注: このパラメーターは MCA で設定されるので、通常は変更しないでください。ただし、宛先キュー・マネージャーの配布先リスト機能が確認されている場合は、伝送キューの定義時にこのパラメーターを設定できます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

FORCE

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キュー上で ALTER コマンドのみに適用されます。

このパラメーターを指定すると、次のような状況でコマンドを強制的に終了します。

別名キューでは、次の条件が共に真である場合が該当します。

- **TARGQ** パラメーターが指定されている。
- この別名キューをオープンしているアプリケーションがある。

ローカル・キューでは、次の条件が共に真である場合が該当します。

- **NOSHARE** パラメーターが指定されている。
- 複数のアプリケーションがそのキューを入力用にオープンしている。

次の条件が共に真である場合も、**FORCE** が必要です。

- **USAGE** パラメーターが変更された。
- そのキュー上に 1 つ以上のメッセージがあるか、1 つ以上のアプリケーションがそのキューをオープンしている。

キュー上にメッセージがあるときは、**USAGE** パラメーターを変更しないでください。メッセージを伝送キューに書き込むと、メッセージの形式が変わります。

リモート・キューでは、次の条件が共に真である場合が該当します。

- **XMITQ** パラメーターが変更された。
- このキューをリモート・キューとしてオープンしているアプリケーションが、1 つ以上ある。

次の条件が共に真である場合も、**FORCE** が必要です。

- **RNAME**、**RQMNAME**、または **XMITQ** のいずれかのパラメーターが変更された。
- この定義を通じてキュー・マネージャーの別名を解決するアプリケーションの中に、キューをオープンしているものが1つ以上ある。

注：この定義が応答先キューの別名としてのみ使用される場合は、**FORCE** は不要です。

上記のような状況で **FORCE** が指定されていないと、コマンドは失敗します。

GET

アプリケーションが、このキューからのメッセージの取得を許可されるかどうかを指定します。

ENABLED

適切に許可されたアプリケーションが、キューからメッセージを取り出すことができます。

DISABLED

アプリケーションはキューからメッセージを検索できません。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

HARDENBO & NOHARDENBO

メッセージがバックアウトされた回数のカウントのハード化を行うかどうかを指定します。カウントがハード化されると、MQGET 操作によってメッセージが返される前に、メッセージ記述子の **BackoutCount** フィールドの値がログに書き込まれます。値をログに書き込むことにより、キュー・マネージャーの再始動の際に確実に正確な値にできます。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

バックアウト・カウントがハード化されている場合、このキューの持続メッセージの MQGET 操作のパフォーマンスは影響を受けます。

HARDENBO

このキューのメッセージのメッセージ・バックアウト・カウントは、カウントを正確にするためにハード化されます。

NOHARDENBO

このキューのメッセージのメッセージ・バックアウト・カウントはハード化されず、キュー・マネージャーの再始動後も正確でない可能性があります。

注： **z/OS** このパラメーターは、IBM MQ for z/OS にのみ影響します。

z/OS INDXTYPE

キューの MQGET 操作を円滑に行うためにキュー・マネージャーによって保持される索引のタイプ。共用キューの場合は、索引のタイプにより、使用可能な MQGET 操作のタイプが決まります。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

以下の表に示すような適切な索引タイプが維持されている場合のみ、選択基準を使用してメッセージを取得することができます。

検索選択基準	必要な索引タイプ	
	共用キュー	その他のキュー
なし (順次検索)	任意	任意
メッセージ ID	MSGID または NONE	任意
相関 ID	CORRELID	任意
メッセージ ID と相関 ID	MSGID または CORRELID	任意
グループ ID	GROUPLID	任意
グループ化	GROUPLID	GROUPLID

検索選択基準	必要な索引タイプ	
メッセージ・トークン	Not allowed	MSGTOKEN

INDXTYPE パラメーターの値には、以下の値が指定されます。

NONE

索引を維持しません。通常、メッセージが順次検索される場合に、NONE を使用するか、または MQGET 呼び出しの選択基準としてメッセージ ID と関連 ID の両方を使用します。

MSGID

メッセージ ID の索引は保持されます。MSGID は、通常、MQGET 呼び出しの選択基準としてメッセージ ID を使用し、関連 ID を NULL に設定してメッセージを検索する場合に使用します。

CORRELID

関連 ID の索引は保持されます。CORRELID は、通常、MQGET 呼び出しの選択基準として関連 ID を使用し、メッセージ ID を NULL に設定してメッセージを検索する場合に使用します。

GROUPID

グループ ID の索引は保持されます。GROUPID は、メッセージ・グループ選択基準を使用してメッセージを検索する場合に使用します。

注：

1. キューが伝送キューの場合、**INDXTYPE** を GROUPID に設定することはできません。
2. キューは、CFLEVEL(3) の CF 構造体を使用して、**INDXTYPE**(GROUPID) の共有キューを指定する必要があります。

MSGTOKEN

メッセージ・トークンの索引は保持されます。このキューが WLM 管理対象キューであり、このキューを z/OS の Workload Manager 機能と連携させて使用している場合は、MSGTOKEN を使用します。

注：次のような場合には、**INDXTYPE** を MSGTOKEN に設定できません。

- キューが定義タイプ SHAREDYN のモデル・キューである
- キューが一時動的キューである
- キューが伝送キューである
- **QSGDISP**(SHARED) を指定する

共有されておらず、グループ化またはメッセージ・トークンを使用しないキューでは、検索選択タイプは索引タイプによって制限されません。ただし、索引はキューでの **GET** 操作を迅速化するために使用されるため、最も一般的な検索選択に対応したタイプを選択してください。

既存のローカル・キューを変更または置換する場合、**INDXTYPE** パラメーターは以下の表に示された場合にのみ変更できます。

キュー・タイプ		非共有			SHARED	
キューの状態		コミットされていないアクティビティー	コミットされていないアクティビティーはなく、メッセージが存在する	コミットされていないアクティビティーはなく、空である	オープンしているか、またはメッセージが存在する	オープンしておらず、空である
元の INDXTYPE :	終了:	変更の可否				
NONE	MSGID	No	Yes	Yes	No	Yes
NONE	CORRELID	No	Yes	Yes	No	Yes
NONE	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-

キュー・タイプ		非共有			SHARED	
NONE	GROUPID	No	No	Yes	No	Yes
MSGID	NONE	No	Yes	Yes	No	Yes
MSGID	CORRELID	No	Yes	Yes	No	Yes
MSGID	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-
MSGID	GROUPID	No	No	Yes	No	Yes
CORRELID	NONE	No	Yes	Yes	No	Yes
CORRELID	MSGID	No	Yes	Yes	No	Yes
CORRELID	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-
CORRELID	GROUPID	No	No	Yes	No	Yes
MSGTOKEN	NONE	No	Yes	Yes	-	-
MSGTOKEN	MSGID	No	Yes	Yes	-	-
MSGTOKEN	CORRELID	No	Yes	Yes	-	-
MSGTOKEN	GROUPID	No	No	Yes	-	-
GROUPID	NONE	No	No	Yes	No	Yes
GROUPID	MSGID	No	No	Yes	No	Yes
GROUPID	CORRELID	No	No	Yes	No	Yes
GROUPID	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-

このパラメーターは、z/OS でのみサポートされます。上記以外のプラットフォームでは、すべてのキューが自動的に索引付けされます。

INITQ (*string*)

このキュー・マネージャーにおける、開始キューのローカル名。この開始キューには、このキューに関係するトリガー・メッセージが書き込まれます。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

LIKE (*qtype-name*)

キューの名前。このキューのパラメーターが、この定義のモデルとして使用されます。

このフィールドに値が入力されていない場合、未定義のパラメーター・フィールドの値は以下のいずれかの定義から取得されます。選択項目はキュー・タイプによって異なります。

キュー・タイプ	定義
別名キュー	SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE
ローカル・キュー	SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE
モデル・キュー	SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE
リモート・キュー	SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE

例えば、このパラメーターを指定しないということは、別名キューに以下の LIKE の値を定義することと同じになります。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE)
```

すべてのキューに対して別のデフォルト定義が必要な場合は、**LIKE** パラメーターを使用する代わりに、デフォルトのキュー定義を変更してください。

z/OS z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前とキュー・タイプを持ち、QMGR、COPY、または SHARED の属性指定を持つオブジェクトを検索します。**LIKE** オブジェクトの属性指定は、定義しているオブジェクトにはコピーされません。

注:

1. **QSGDISP** (GROUP) オブジェクトは検索されません。
2. **QSGDISP**(COPY) が指定された場合、**LIKE** は無視されます。

MAXDEPTH (integer)

キューに書き込めるメッセージの最大数。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows **z/OS**、および z/OS では、ゼロから 999999999 までの範囲の値を指定します。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows **z/OS**、z/OS でのみ有効です。

IBM MQ 以外のプラットフォームでは、0 から 640000 の範囲の値を指定します。

他の要因によって、キューが引き続きフルと見なされることがあります。例えば、使用できるハード・ディスク・スペースがない場合などです。

この値を小さくした場合、既にキュー上にあるメッセージで、この新しい最大数を超えるメッセージがあってもそれはそのまま保持されます。

MAXMSGL (integer)

このキューにおけるメッセージの最大長 (バイト)。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、ゼロからキュー・マネージャーの最大メッセージ長までの範囲の値を指定します。ALTER QMGR コマンドの **MAXMSGL** パラメーター ([ALTER QMGR MAXMSGL](#)) を参照してください。

z/OS z/OS では、0 から 100 MB (104,857,600 バイト) の範囲の値を指定します。

メッセージ長には、ユーザー・データの長さ、ヘッダーの長さが含まれます。伝送キューに入れられるメッセージには、伝送ヘッダーが追加されます。メッセージ・ヘッダー全体として、追加の 4000 バイトを考慮してください。

この値を小さくしたために、既にキュー上にあるメッセージの長さが新しい最大数を超過しても、そのメッセージには影響がありません。

アプリケーションはこのパラメーターを使用して、キューからメッセージを取得するためのバッファのサイズを決定できます。したがって、この値を減らすことができるのは、アプリケーションが誤動作しないとわかっている場合のみです。

メッセージにデジタル署名と鍵を追加することで、[IBM MQ Advanced Message Security](#) ではメッセージの長さが増すことに注意してください。

MONQ

キューに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

QMGR

キュー・マネージャー・パラメーター **MONQ** の設定に従って、モニター・データを収集します。

OFF

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフになります。

LOW

MONQ パラメーターの値が **NONE** でない場合、このキューに対してオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

MEDIUM

MONQ パラメーターの値が **NONE** でない場合、このキューに対してオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

HIGH

MONQ パラメーターの値が **NONE** でない場合、このキューに対してオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

LOW、MEDIUM、および HIGH のどの値を指定しても違いがないことに注意してください。これらの値はすべて、データ収集をオンにしますが、収集の比率には影響しません。

このパラメーターを **ALTER キュー・コマンド** で使用した場合、変更はキューが次にオープンされたときに有効になります。

MSGDLVSQ

メッセージ・デリバリー・シーケンス。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

PRIORITY

MQGET API 呼び出しによるメッセージの配布は、優先順位内の先入れ先出し (FIFO) 順序で行われます。

FIFO

MQGET API 呼び出しによるメッセージの配布は、FIFO 順で行われます。このキューのメッセージについては、優先順位が無視されます。

メッセージ・デリバリー・シーケンス・パラメーターは、キューにメッセージがあるときに、**PRIORITY** から **FIFO** に変更できます。既にキューにあるメッセージの順序は変更されません。変更後にキューに追加されたメッセージには、そのキューのデフォルトの優先順位が適用されます。したがって、既存のメッセージより先に処理されるものもあります。

メッセージ・デリバリー・シーケンスを **FIFO** から **PRIORITY** に変更した場合は、キューの設定が **FIFO** であったときにキューに書き込まれたメッセージにはデフォルトの優先順位が適用されます。

注:  **INDXTYPE(GROUPID)** が **MSGDLVSQ(PRIORITY)** と共に指定されている場合、グループが検索される優先順位は、各グループ内の最初のメッセージの優先順位に基づきます。優先順位 0 と 1 は、キュー・マネージャーによって、論理順序でのメッセージの検索を最適化するために使用されます。各グループ内の最初のメッセージには、これらの優先順位を使用しないでください。使用すると、メッセージは優先順位 2 であるかのように保管されます。

NPMCLASS

キューに書き込まれる非持続メッセージに割り当てる信頼性のレベル。

NORMAL

非持続メッセージは、障害が発生したり、キュー・マネージャーがシャットダウンしたりすると失われます。これらのメッセージは、キュー・マネージャーの再起動で廃棄されます。

HIGH

キュー・マネージャーは、キュー・マネージャーの再始動または切り替えの間、このキューで非持続メッセージを保持しようとします。

 このパラメーターは、z/OS では設定できません。

PROCESS(string)

IBM MQ プロセスのローカル名。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、トリガー・イベントが起こったときキュー・マネージャーによって開始されるアプリケーションを示す、プロセス・インスタンスの名前です。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

プロセス定義は、ローカル・キューが定義されている場合は確認されませんが、トリガー・イベントを発生させるには使用可能でなければなりません。

キューが伝送キューである場合、プロセス定義には開始されるチャンネルの名前が含まれています。このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、Windows、 z/OS の伝送キューではオプションです。指定しない場合、チャンネル名は、**TRIGDATA** パラメーターに指定された値から取られます。

PROPCTL

プロパティ制御属性。この属性はオプションです。ローカル・キュー、別名キュー、およびモデル・キューに適用されます。

注：アプリケーションが別名キューをオープンする場合は、別名キューとターゲット・キューの両方にこの値を設定する必要があります。

PROPCTL オプションは以下のとおりです。これらのオプションは、MQMD や MQMD 拡張のメッセージ・プロパティには影響しません。

ALL

ALL を設定すると、アプリケーションはすべてのメッセージ・プロパティを、MQRFH2 ヘッダー内で、またはメッセージ・ハンドルのプロパティとして読み取ることができます。

ALL オプションを選択すると、変更できないアプリケーションが、MQRFH2 ヘッダー内のすべてのメッセージ・プロパティにアクセスできるようになります。変更可能なアプリケーションは、メッセージ・ハンドルのプロパティとして、すべてのメッセージ・プロパティにアクセスできます。

場合によっては、受信したメッセージ内の MQRFH2 ヘッダーのデータ・フォーマットが、送信時のメッセージ・フォーマットとは異なることがあります。

COMPAT

COMPAT を設定すると、JMS 関連プロパティがメッセージ・データの MQRFH2 ヘッダーにあることを予期する 未変更のアプリケーションが、従来どおり動作を続けます。変更可能なアプリケーションは、メッセージ・ハンドルのプロパティとして、すべてのメッセージ・プロパティにアクセスできます。

メッセージに mcd.、jms.、usr.、または mqext. という接頭部を持つプロパティがある場合、すべてのメッセージ・プロパティはアプリケーションに送達されます。メッセージ・ハンドルが指定されていない場合、プロパティは MQRFH2 ヘッダーに返されます。メッセージ・ハンドルが指定されている場合は、すべてのプロパティがメッセージ・ハンドルに返されます。

メッセージにいずれかの接頭部があるプロパティが含まれておらず、アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されていない場合、メッセージ・プロパティはアプリケーションに返されません。メッセージ・ハンドルが指定されている場合は、すべてのプロパティがメッセージ・ハンドルに返されます。

場合によっては、受信したメッセージ内の MQRFH2 ヘッダーのデータ・フォーマットが、送信時のメッセージ・フォーマットとは異なることがあります。

FORCE

すべてのアプリケーションが MQRFH2 ヘッダーからメッセージ・プロパティを読み取ることを強制にします。

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

MQGET 呼び出し上の MQGMO 構造体の `MsgHandle` フィールド中で指定された有効なメッセージ・ハンドルは無視されます。メッセージのプロパティにメッセージ・ハンドルを使用してアクセスすることはできません。

場合によっては、受信したメッセージ内の MQRFH2 ヘッダーのデータ・フォーマットが、送信時のメッセージ・フォーマットとは異なることがあります。

NONE

メッセージ・ハンドルが指定されている場合は、すべてのプロパティがメッセージ・ハンドルに返されます。

すべてのメッセージ・プロパティは、アプリケーションに送信される前にメッセージ本文から削除されます。

PUT

メッセージをキューに書き込むことができるかどうかを指定します。

ENABLED

キューにメッセージを追加できます (追加できるのは所定の許可を持つアプリケーション)。

DISABLED

メッセージをキューに追加することはできません。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

QDEPTHHI (integer)

キュー・サイズ上限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。  z/OS 上の共有キューがこのイベントに及ぼす影響については、[共有キューおよびキュー・サイズ・イベント \(IBM MQ for z/OS\)](#) を参照してください。

このイベントは、アプリケーションがキューにメッセージを書き込んだ結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ上限しきい値以上になったことを示しています。 **QDPHIEV** パラメーターを参照してください。

値は、キューの最大長 (**MAXDEPTH** パラメーター) のパーセンテージで表されます。0 以上、100 以下で、**QDEPTHLO** 以上でなければなりません。

QDEPTHLO (integer)

キュー・サイズ下限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。  z/OS 上の共有キューがこのイベントに及ぼす影響については、[共有キューおよびキュー・サイズ・イベント \(IBM MQ for z/OS\)](#) を参照してください。

このイベントは、アプリケーションがメッセージをキューから取り出した結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ下限しきい値以下になったことを示しています。 **QDPLOEV** パラメーターを参照してください。

値は、キューの最大長 (**MAXDEPTH** パラメーター) のパーセンテージで表され、ゼロから 100 の範囲内で、**QDEPTHHI** 以下でなければなりません。

QDPHIEV

キュー・サイズ上限イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

キュー・サイズ上限イベントは、アプリケーションがキューにメッセージを書き込んだ結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ上限しきい値以上になったことを示しています。 **QDEPTHHI** パラメーターを参照してください。

注: このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります  z/OS 上の共有キューはイベントに影響します。 [キュー・サイズ上限](#) についての説明を参照してください。

ENABLED

キュー・サイズ上限イベントが生成されます。

DISABLED

キュー項目数高イベントが生成されない

QDPLOEV

キュー・サイズ下限イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

キュー・サイズ下限イベントは、アプリケーションがメッセージをキューから取り出した結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ下限しきい値以下になったことを示しています。 **QDEPTHLO** パラメーターを参照してください。

注：このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります 、z/OS 上の共有キューはイベントに影響します。このイベントについて詳しくは、[キュー・サイズ下限](#)を参照してください。

ENABLED

キュー・サイズ下限イベントが生成されます。

DISABLED

キュー・サイズ下限イベントは生成されません。

QDPMAXEV

キュー満杯イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

キュー・フル・イベントは、キューがいっぱいであるために、キューへの書き込みが拒否されたことを示しています。キュー・サイズは最大値に達しています。

注：このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります 、z/OS 上の共有キューはイベントに影響します。このイベントについて詳しくは、[キュー満杯](#)を参照してください。

ENABLED

キュー・フル・イベントが生成される。

DISABLED

キュー・フル・イベントは生成されない。

 QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

グループ内のオブジェクトの処理を指定します。

ALTER のアクションは、 QSGDISP の値に応じて異なります。	
QSGDISP	ALTER
COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンド (オブジェクトのローカル・コピーを除く) を実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるすべてのオブジェクトや、パラメーター QSGDISP(SHARED) を指定したコマンドを使用して定義されたすべてのオブジェクトは、このコマンドの影響を受けません。コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE QUEUE(QNAME) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの ALTER は有効になります。

ALTER のアクションは、 QSGDISP の値に応じて異なります。 (続き)	
QSGDISP	ALTER
PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、 QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたものです。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。
QMGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。
SHARED	この値はローカル・キューにのみ適用されます。オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(SHARED) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるすべてのオブジェクトや、パラメーター QSGDISP(GROUP) が指定されたコマンドを使用して定義されたすべてのオブジェクトは、このコマンドの影響を受けません。キューがクラスター化されると、コマンドが生成されてキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、このクラスター化された共有キューについての通知が行われます。

QSVCI EV

サービス間隔上限イベントまたはサービス間隔 OK イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューおよびモデル・キューでのみサポートされ、共有キューで指定された場合は無効です。

少なくとも **QSVCI NT** パラメーターに指定された時間、そのキューからまったくメッセージが取得されなかったことが検査で明らかになると、「サービス間隔上限」イベントが発生します。

QSVCI NT パラメーターに指定された時間内にそのキューからメッセージが取得されたことが検査で明らかになると、「サービス間隔 OK」イベントが発生します。

注: このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります。詳しくは、[キュー・サービス間隔上限およびキュー・サービス間隔 OK の「サービス間隔上限」イベントおよび「サービス間隔 OK」イベントに関する説明を参照してください。](#)

HIGH

サービス間隔高イベントが生成されます。

OK

サービス間隔 OK イベントが生成されます。

NONE

サービス間隔イベントは生成されません。

QSVCI NT (integer)

サービス間隔上限およびサービス間隔 OK イベントを生成する際に、比較に使用されるサービス間隔。

このパラメーターは、ローカル・キューおよびモデル・キューでのみサポートされ、共有キューで指定された場合は無効です。

QSVCI EV パラメーターを参照してください。

値はミリ秒単位で、0 から 999999999 の範囲内でなければなりません。

RETINTVL (integer)

キューが定義されたときからの時間数。その時間が経過すれば、そのキューは不要となります。値は 0 から 999,999,999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

CRDATE と CRTIME は、**DISPLAY QUEUE** コマンドで表示できます。

オペレーターとハウスキーピング・アプリケーションは、この情報に基づいて、不要になったキューを削除できます。

注: キュー・マネージャーは、この値に基づいてキューを削除することも、キューの保存間隔が満了になっていない場合にキューが削除されないようにすることもしません。必要なアクションは、ユーザーの責任で行ってください。

RNAME (string)

リモート・キューの名前。このパラメーターは、**RQMNAME** で指定したキュー・マネージャー上で定義された、キューのローカル名です。

このパラメーターは、リモート・キューでのみサポートされます。

- この定義をリモート・キューのローカル定義に使用する場合、オープン時に **RNAME** がブランクであってはなりません。
- この定義をキュー・マネージャーの別名定義に使用する場合、オープンが発生したときに **RNAME** がブランクになっている必要があります。

キュー・マネージャー・クラスターでは、この定義はこのクラスターを作成したキュー・マネージャーのみに適用されます。別名をクラスター全体に公示するには、**CLUSTER** 属性をリモート・キュー定義に追加します。

- この定義が応答先キュー別名に使用される場合、この名前は、応答先キューとなるキューの名前です。

通常、キュー名に許可されている文字には制限がありますが、その検査は行われません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

RQMNAME (string)

キュー **RNAME** が定義されたリモート・キュー・マネージャーの名前。

このパラメーターは、リモート・キューでのみサポートされます。

- アプリケーションがリモート・キューのローカル定義をオープンする場合、**RQMNAME** がブランクであったり、ローカル・キュー・マネージャーの名前であったりしてはなりません。**XMITQ** がブランクの場合、この名前を持つローカル・キューがオープン時に存在しなければなりません。それが伝送キューとして使用されます。
- この定義をキュー・マネージャーの別名として使用する場合、**RQMNAME** は、その別名を与えられるキュー・マネージャーの名前です。これは、ローカル・キュー・マネージャーの名前であっても構いません。それ以外のときで、**XMITQ** がブランクなら、オープン時にこの名前を持つローカル・キューが存在しなければなりません。それが伝送キューとして使用されます。
- **RQMNAME** が応答先キュー別名に使用される場合、**RQMNAME** は、応答先キュー・マネージャーとなるキュー・マネージャーの名前です。

通常、IBM MQ オブジェクト名に許可されている文字には制限がありますが、その検査は行われません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

SCOPE

キュー定義の有効範囲を指定します。

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キューでのみサポートされます。

QMGR

キュー定義の有効範囲は、キュー・マネージャー内です。キューを所有するキュー・マネージャー以外では、キュー定義は適用しません。別のキュー・マネージャーが所有する出力のキューを、次の2つの方法のいずれかで開くことができます。

1. 所有キュー・マネージャーの名前を指定します。
2. 他方のキュー・マネージャーにあるキューのローカル定義を開きます。

CELL

キュー定義の有効範囲は、セルになります。セルの有効範囲とは、キューがそのセル内のすべてのキュー・マネージャーに認識されていることを意味します。セルの有効範囲が指定されたキューは、キューの名前を指定するだけで、出力用に開くことができます。キューを所有するキュー・マネージャーの名前を指定する必要はありません。

同じ名前を持つキューが既にセル・ディレクトリーにある場合、コマンドは失敗します。 **REPLACE** オプションを指定しても、影響はありません。

値は、セル・ディレクトリーをサポートする名前サービスが構成されている場合にのみ有効です。

制約事項: DCE ネーム・サービスは現在ではサポートされていません。

このパラメーターは、UNIX および Linux システム、および Windows でのみ有効です。

SHARE および NOSHARE

複数のアプリケーションがこのキューからメッセージを検索できるかどうかを指定します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

SHARE

複数のアプリケーション・インスタンスがこのキューからメッセージを読み取ることができます。

NOSHARE

1つのアプリケーション・インスタンスのみがこのキューからメッセージを読み取ることができます。

STATQ

統計データ収集を有効にするかどうかを指定します。

QMGR

統計データの収集は、キュー・マネージャーの **STATQ** パラメーターの設定に基づいて行われます。

ON

キュー・マネージャーの **STATQ** パラメーターの値が **NONE** でない場合、キューの統計データ収集は使用可能に設定されます。

OFF

キューの統計データ収集は使用不可になります。

このパラメーターを **ALTER** キュー・コマンドで使用した場合、変更は、パラメーターの変更後に作成された、キュー・マネージャーへの接続に対してのみ有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX および Linux システム、および Windows でのみ有効です。

STGCLASS (string)

ストレージ・クラスの名前。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターはインストール時に定義した名前です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です 。 [ストレージ・クラス](#)を参照してください。

名前の1番目の文字は英大文字 A から Z、2番目の文字以降は英大文字の A から Z か数字の 0 から 9 でなければなりません。

注: このパラメーターは、キューが空で、クローズされている場合にのみ変更できます。

TARGET (string)

別名として使用するキューまたはトピック・オブジェクトの名前。 [IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。オブジェクトには、**TARGETTYPE** で定義されたキューまたはトピックが可能です。最大長は 48 文字です。

このパラメーターは、別名キューでのみサポートされます。

このオブジェクトは、アプリケーション・プロセスが別名キューをオープンするときのみ定義する必要があります。

このパラメーターは、パラメーター **TARGQ** の同義語です。**TARGQ** は互換性のために保持されています。**TARGET** を指定する場合、同時に **TARGQ** を指定することはできません。

TARGETYPE (*string*)

別名の解決先のオブジェクトのタイプ。

QUEUE

別名はキューに解決されます。

TOPIC

別名はトピックに解決されます。

TRIGDATA (*string*)

トリガー・メッセージに挿入されるデータ。ストリングの最大長は 64 バイトです。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、Windows、、および z/OS の伝送キューでは、このパラメーターを使用して、開始するチャンネルの名前を指定できます。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGDPTH (*integer*)

TRIGTYPE が **DEPTH** のとき、トリガー・メッセージを書き込むために必要なキュー上のメッセージ数。値は 1 から 999,999,999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGGER & NOTRIGGER

トリガー・メッセージを開始キュー (**INITQ** パラメーターで指定) に書き込み、アプリケーション (**PROCESS** パラメーターで指定) をトリガーするかどうかを指定します。

TRIGGER

トリガー操作をアクティブにすると、トリガー・メッセージが開始キューに書き込まれます。

NOTRIGGER

トリガー操作をアクティブにしないと、トリガー・メッセージは開始キューに書き込まれません。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGMPRI (*integer*)

このキューでのトリガーとなるメッセージ優先順位番号。値は、ゼロから **MAXPRTY** キュー・マネージャー・パラメーターまでの範囲内であればなりません (詳しくは、[1139 ページの『DISPLAY QMGR』](#)を参照)。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGTYPE

トリガー・メッセージを開始キューに書き込むかどうか、またどの条件で書き込むかを指定します。開始キューは **INITQ** パラメーターで指定します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

FIRST

このキューの **TRIGMPRI** パラメーターに指定されている以上の優先順位を持つ最初のメッセージがこのキューに着信したとき。

EVERY

このキューの **TRIGMPRI** パラメーターに指定されている以上の優先順位を持つメッセージがこのキューに着信するたび。

DEPTH

TRIGMPRI に指定されている以上の優先順位を持つメッセージの数が **TRIGDPTH** パラメーターに指定された値と等しくなったとき。

NONE

トリガー・メッセージは書き込まれません。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

USAGE

キューの用途。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

NORMAL

キューは送信キューではありません。

XMITQ

このキューは伝送キューで、リモート・キュー・マネージャー宛てのメッセージを保留するために使用されます。アプリケーションがリモート・キューにメッセージを書き込むと、そのメッセージは適切な伝送キューに保管されます。メッセージはそこで、リモート・キュー・マネージャーに伝送されるのを待ちます。

このオプションを指定した場合は、**CLUSTER** および **CLUSNL** に値を指定しないでください。

▶ **z/OS** さらに、z/OS では、**INDXTYPE** (MSGTOKEN) を指定しないでください。または **INDXTYPE** (GROUPID)。

XMITQ (string)

メッセージをそのリモート・キューに転送するのに使用する伝送キューの名前。**XMITQ** は、リモート・キューまたはキュー・マネージャー別名定義のいずれかとともに使用されます。

このパラメーターは、リモート・キューでのみサポートされます。

XMITQ がブランクの場合、**RQMNAME** と同じ名前のキューが伝送キューとして使用されます。

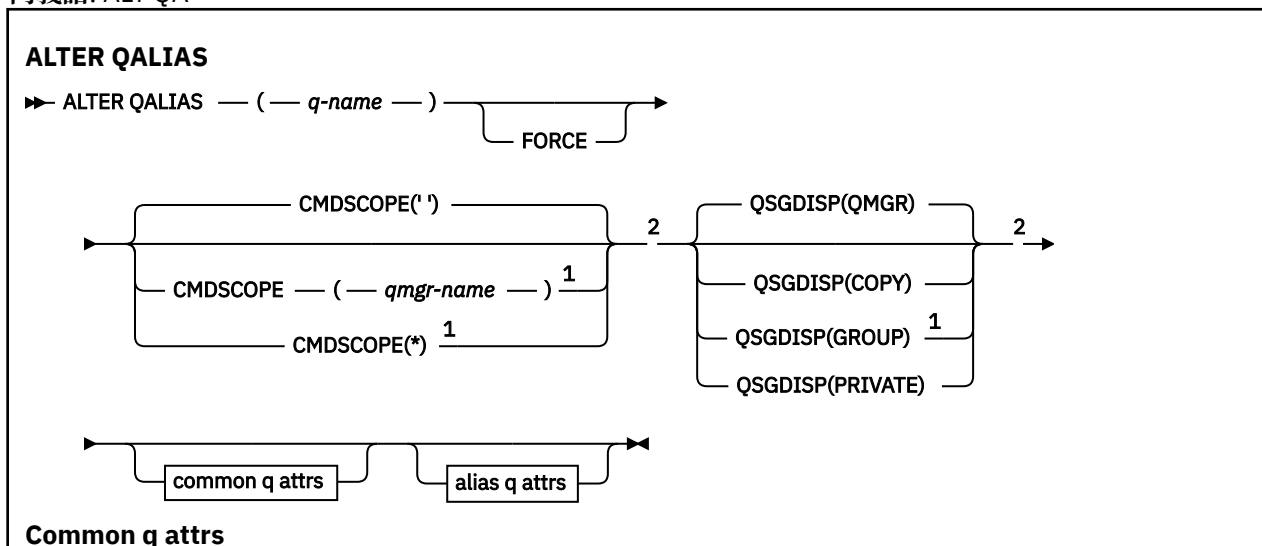
この定義がキュー・マネージャー別名定義で、**RQMNAME** がローカル・キュー・マネージャーの名前である場合、このパラメーターは無視されます。

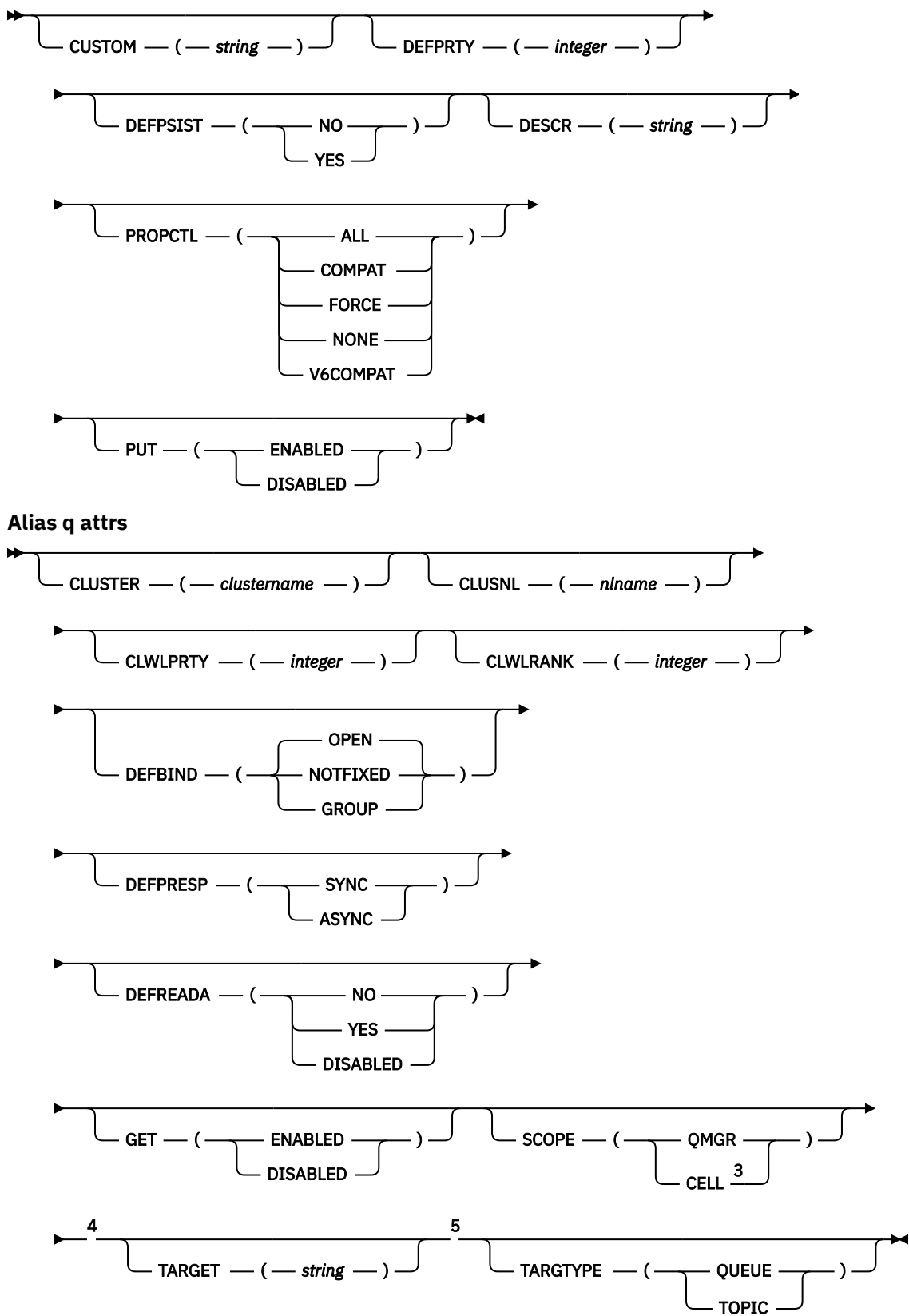
また、この定義が応答先キュー別名定義として使用されている場合にも、これは無視されます。

ALTER QALIAS

別名キューのパラメーターを変更するには、MQSC コマンド **ALTER QALIAS** を使用します。

同義語: ALT QA





注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OSでのみ有効です。
- ² z/OSでのみ有効です。
- ³ Windows、UNIX、および Linux システムでのみ有効です。

⁴ z/OS では無効です。

⁵ TARGQ パラメーターは、以前のリリースとの互換性のために提供されています。これは TARGET の同義語であり、この両方のパラメーターを指定することはできません。

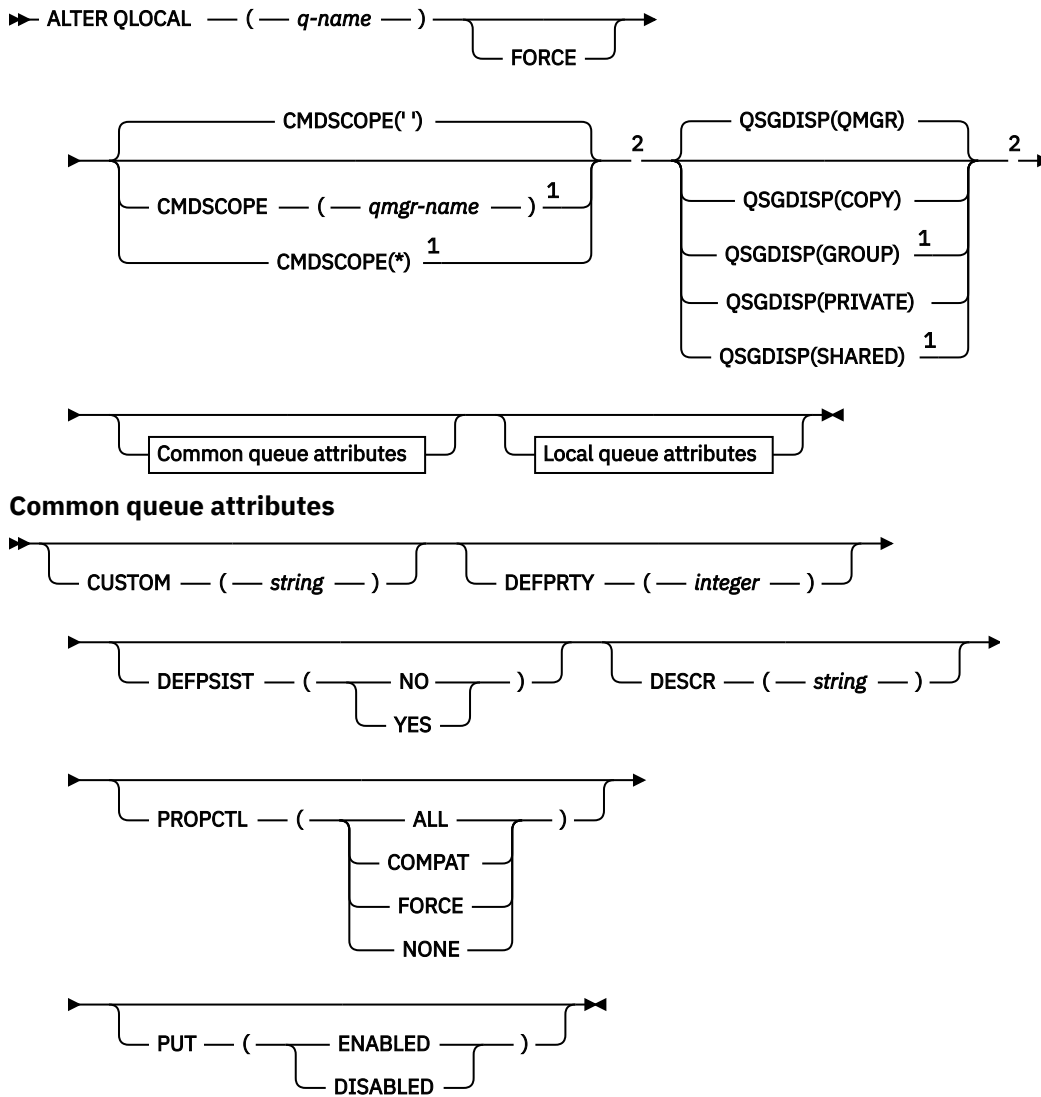
パラメーターについては、770 ページの『ALTER キュー』に説明があります。

ALTER QLOCAL

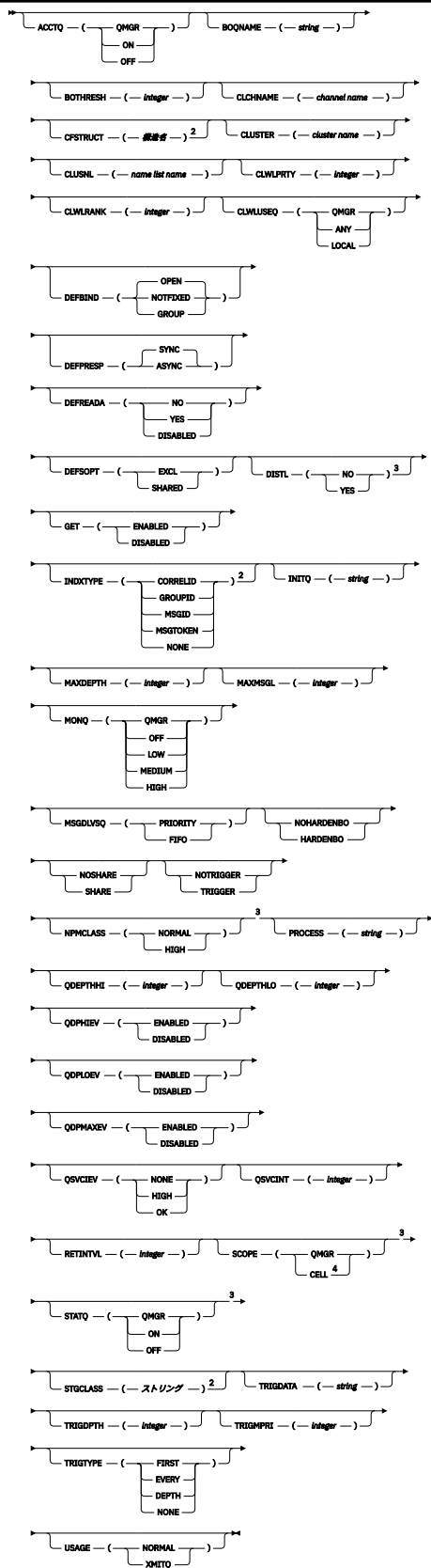
ローカル・キューのパラメーターを変更するには、MQSC コマンド **ALTER QLOCAL** を使用します。

同義語: ALT QL

ALTER QLOCAL



Local queue attributes



注:

1 キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

2 z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効です。

⁴ UNIX、Linux、および Windows の場合 システム で有効です。

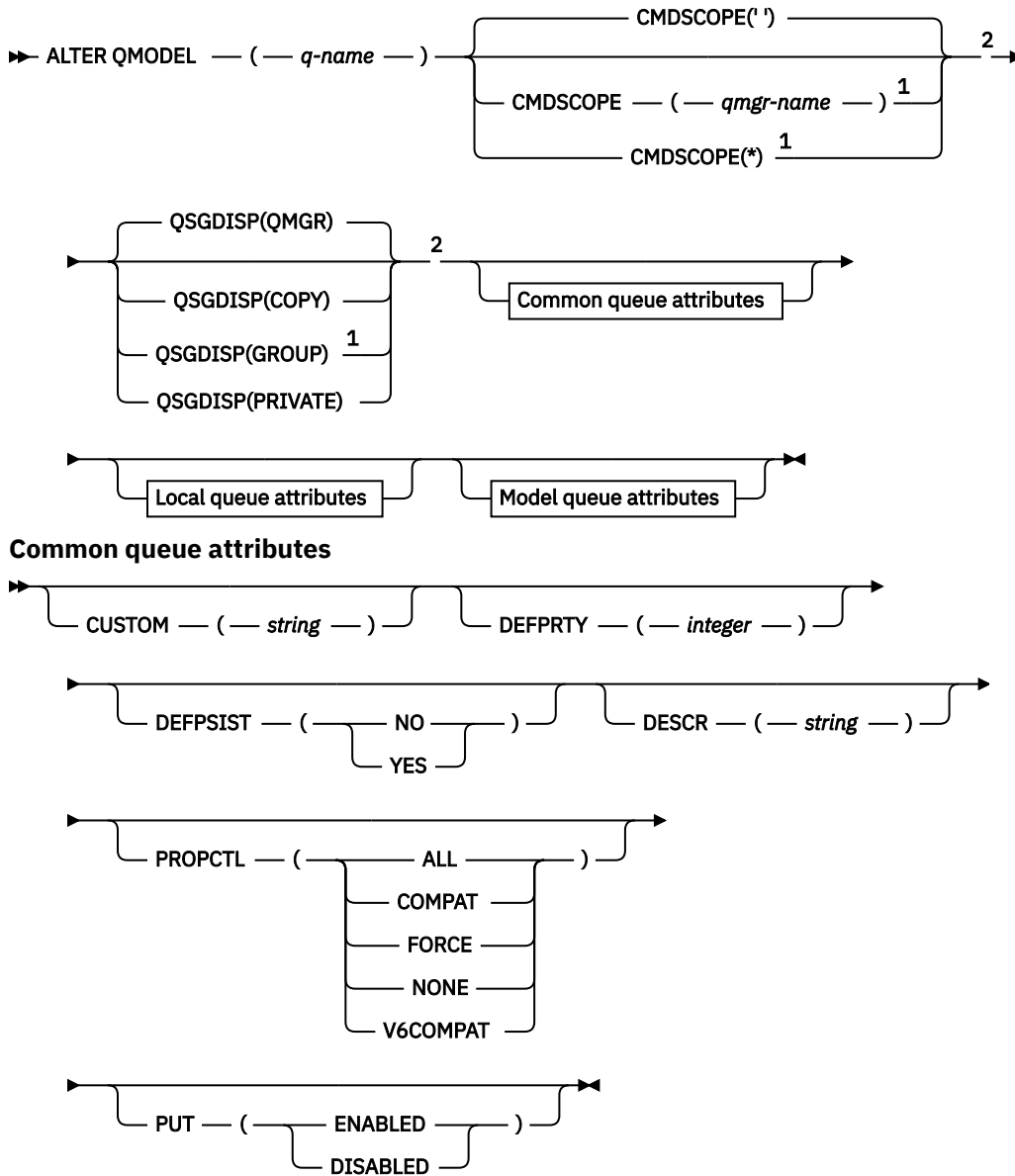
パラメーターについては、[770 ページの『ALTER キュー』](#)に説明があります。

ALTER QMODEL

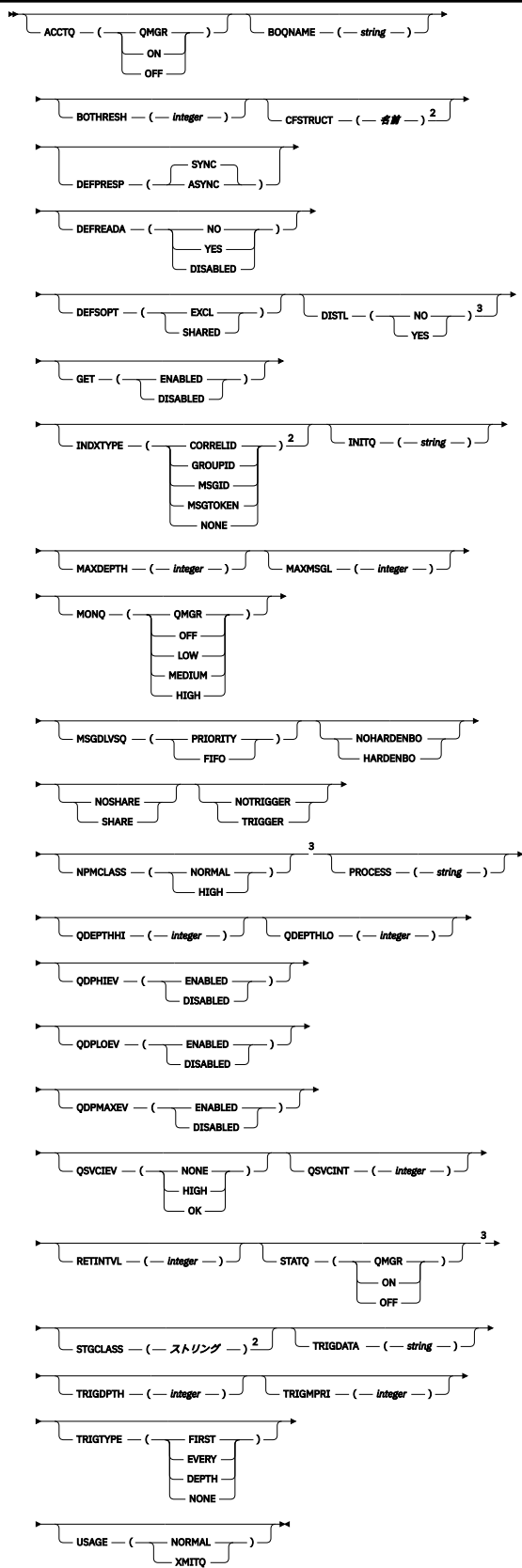
モデル・キューのパラメーターを変更するには、MQSC コマンド ALTER QMODEL を使用します。

同義語: ALT QM

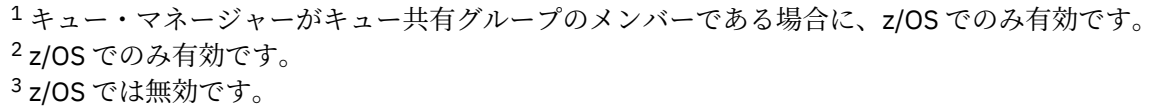
ALTER QMODEL

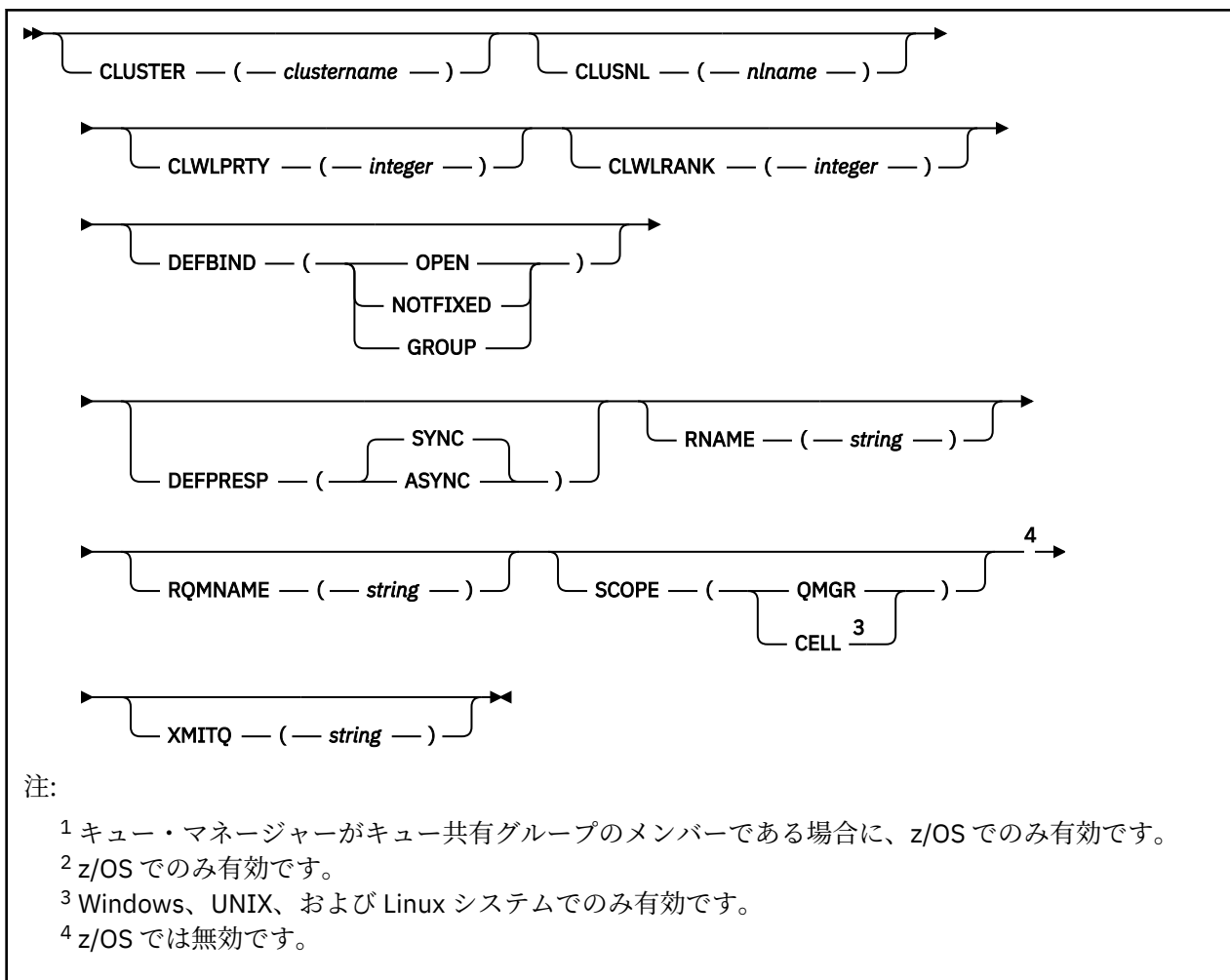


Local queue attributes



Model queue attributes





パラメーターについては、[770 ページの『ALTER キュー』](#)に説明があります。

z/OS ALTER SECURITY

MQSC コマンド ALTER SECURITY は、システム全体のセキュリティー・オプションを定義するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

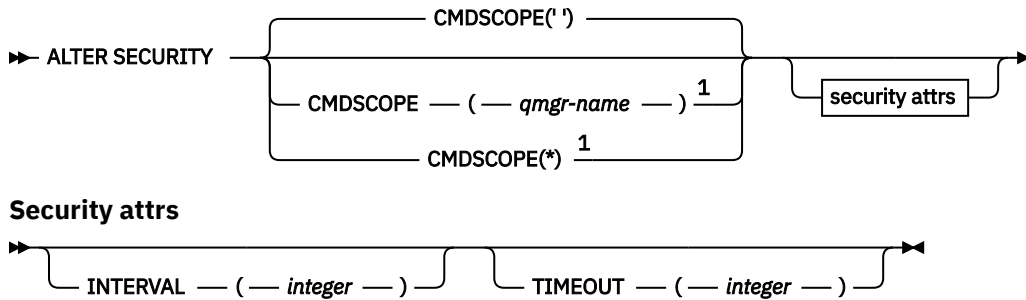
ALTER SECURITY コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [800 ページの『ALTER SECURITY のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT SEC

ALTER SECURITY



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

ALTER SECURITY のパラメーターの説明

指定するパラメーターによって、現在のパラメーター値が指定変更されます。指定しない属性は変更されません。

注: どのパラメーターも指定しないと、コマンド自体は正常に完了しますが、どのセキュリティー・オプションも変更されません。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。* は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

INTERVAL(integer)

TIMEOUT の有効期限が切れているかどうかを判別するために、ユーザー ID とその関連リソースについて検査する時間間隔。値は分単位で、0 から 10080 (1 週間) の範囲です。INTERVAL が 0 に指定されている場合、ユーザーはタイムアウトになりません。

TIMEOUT(integer)

未使用のユーザー ID およびその関連リソースに関するセキュリティー情報が IBM MQ によって保存される時間。指定する値の単位は分で、範囲は 0 から 10080 (1 週間) です。TIMEOUT が 0 に指定されていて、INTERVAL が 0 でない場合は、そのような情報はすべて INTERVAL で指定された分数ごとにキュー・マネージャーによって廃棄されます。

未使用のユーザー ID とその関連リソースが IBM MQ によって保持される期間は、INTERVAL の値によって決まります。ユーザー ID は、TIMEOUT と TIMEOUT に INTERVAL を足した値との時間でタイムアウトになります。

TIMEOUT パラメーターおよび INTERVAL パラメーターが変更されると、以前のタイマー要求が取り消され、新しい TIMEOUT 値を使用して新しいタイマー要求が直ちにスケジュールに入れられます。タイマー要求が実行されると、INTERVAL に新しい値が設定されます。

関連情報

[ユーザー ID のタイムアウト](#)

ALTER SERVICE

MQSC コマンド ALTER SERVICE は、既存の IBM MQ サービス定義のパラメーターを変更するために使用します。

MQSC コマンドの使用

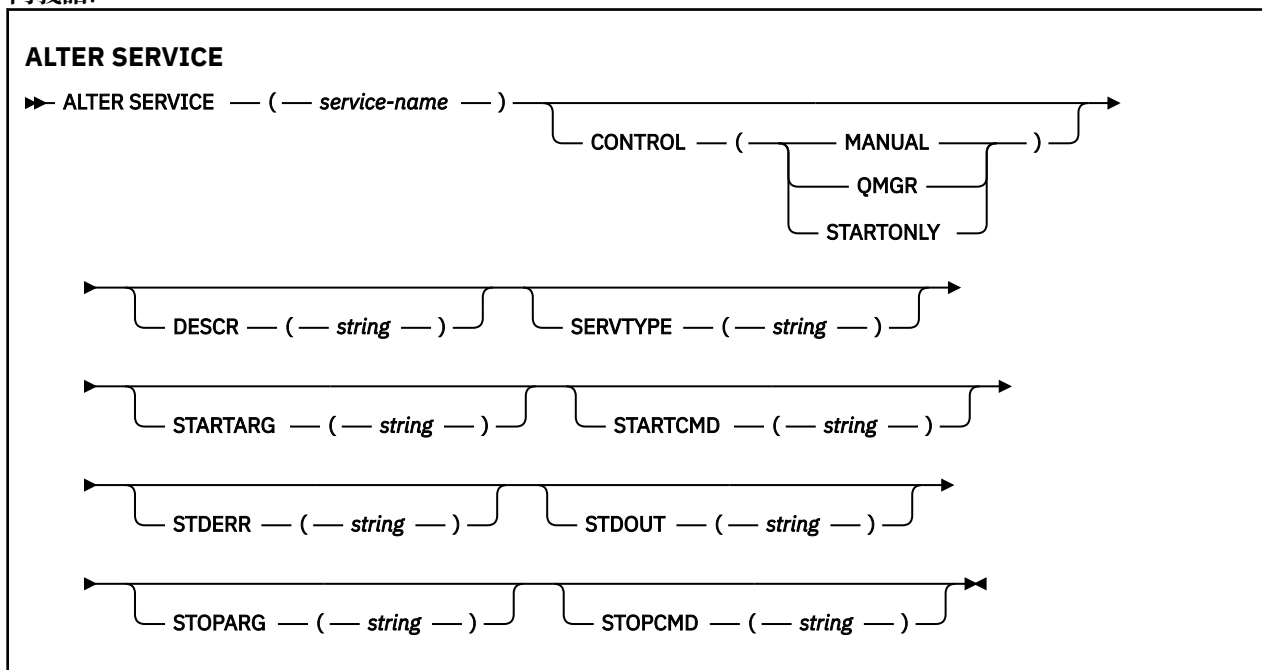
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

ALTER SERVICE コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

- [構文図](#)
- [801 ページの『ALTER SERVICE のパラメーターの説明』](#)

同義語:



ALTER SERVICE のパラメーターの説明

パラメーターの説明は ALTER SERVICE コマンドおよび DEFINE SERVICE コマンドに適用されますが、以下の例外があります。

- **LIKE** パラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。
- **NOREPLACE** および **REPLACE** パラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。

(*service-name*)

IBM MQ サービス定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。

指定する名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのサービス定義とも同じであってはなりません (ただし、REPLACE が指定されている場合を除きます)。

CONTROL(string)

サービスの開始方法と停止方法を指定します。

MANUAL

サービスを自動的に開始または停止しません。START SERVICE コマンドと STOP SERVICE コマンドを使用して制御します。

QMGR

定義するサービスは、キュー・マネージャーの開始および停止に合わせて開始および停止されます。

STARTONLY

サービスはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY SERVICE コマンドを発行すると、サービスに関する記述情報が提供されます (1187 ページの『DISPLAY SERVICE』を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

LIKE(service-name)

この定義をモデル化するためにパラメーターが使用されるサービスの名前。

このパラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。

このフィールドが入力されておらず、コマンドに関連するパラメーター・フィールドを入力していない場合には、値はこのキュー・マネージャーでのサービスのデフォルト定義から取得されます。このパラメーターを入力しない場合、次のように指定したことに相当します。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.SERVICE)
```

デフォルトのサービスが指定されますが、これは必要なデフォルト値のインストールにより変更できます。IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照してください。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義をこの定義に置き換えるかどうか。

このパラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。

REPLACE

同じ名前の既存の定義を、この定義で必ず置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

SERVTYPE

サービスを実行するときのモードを指定します。

COMMAND

コマンド・サービス・オブジェクト。コマンド・サービス・オブジェクトでは、複数のインスタンスを同時に実行することができます。コマンド・サービス・オブジェクトの状況をモニターすることはできません。

SERVER

サーバー・サービス・オブジェクト。同時に実行できるサーバー・サービス・オブジェクトのインスタンスは、1 つだけです。DISPLAY SVSTATUS コマンドを使用して、サーバー・サービス・オブジェクトの状況をモニターできます。

STARTARG(*string*)

キュー・マネージャー開始時にユーザー・プログラムに渡される引数を指定します。

STARTCMD(*string*)

実行するプログラムの名前を指定します。実行可能プログラムの完全修飾パス名を指定する必要があります。

STDERR(*string*)

サービス・プログラムの標準エラー出力 (stderr) のリダイレクト先のファイルのパスを指定します。サービス・プログラムの開始時にこのファイルが存在しない場合は、作成されます。この値を空白にすると、サービス・プログラムによって stderr に書き込まれるデータはすべて廃棄されます。

STDOUT(*string*)

サービス・プログラムの標準出力 (stdout) のリダイレクト先のファイルのパスを指定します。サービス・プログラムの開始時にこのファイルが存在しない場合は、作成されます。この値を空白にすると、サービス・プログラムによって stdout に書き込まれるデータはすべて廃棄されます。

STOPARG(*string*)

サービスを停止するように指示があったときに、停止プログラムに渡す引数を指定します。

STOPCMD(*string*)

サービスの停止を要求されたときに実行する実行可能プログラムの名前を指定します。実行可能プログラムの完全修飾パス名を指定する必要があります。

STARTCMD、STARTARG、STOPCMD、STOPARG、STDOUT、または STDERR のストリングのいずれかで置き換え可能な挿入を使用できます。詳しくは、[サービス定義での置き換え可能な挿入](#)を参照してください。

関連情報

[サービスの取り扱い](#)

ALTER SMDS

MQSC コマンド ALTER SMDS は、特定のアプリケーション構造体に関連付けられた 1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットに関係する、既存の IBM MQ 定義のパラメーターを変更するために使用します。CFSTRUCT 定義にオプション OFFLOAD(SMDS) が使用されている場合にのみサポートされます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

ALTER SMDS コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [804 ページの『ALTER SMDS のパラメーターの説明』](#)

同義語:

▶ ALTER SMDS — (— *qmgr-name* —) — CFSTRUCT — (— *構造名* —) →

DSBUFS — (— *number* —) — DSEXPAND — (— *number* —)

DEFAULT

このパラメーターが変更されると、既に構造体に接続しており、影響を受けるすべてのキュー・マネージャーが、すぐに新しいパラメーター値の使用を開始します。

z/OS ALTER STGCLASS

MQSC コマンド ALTER STGCLASS は、ストレージ・クラスの変更するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

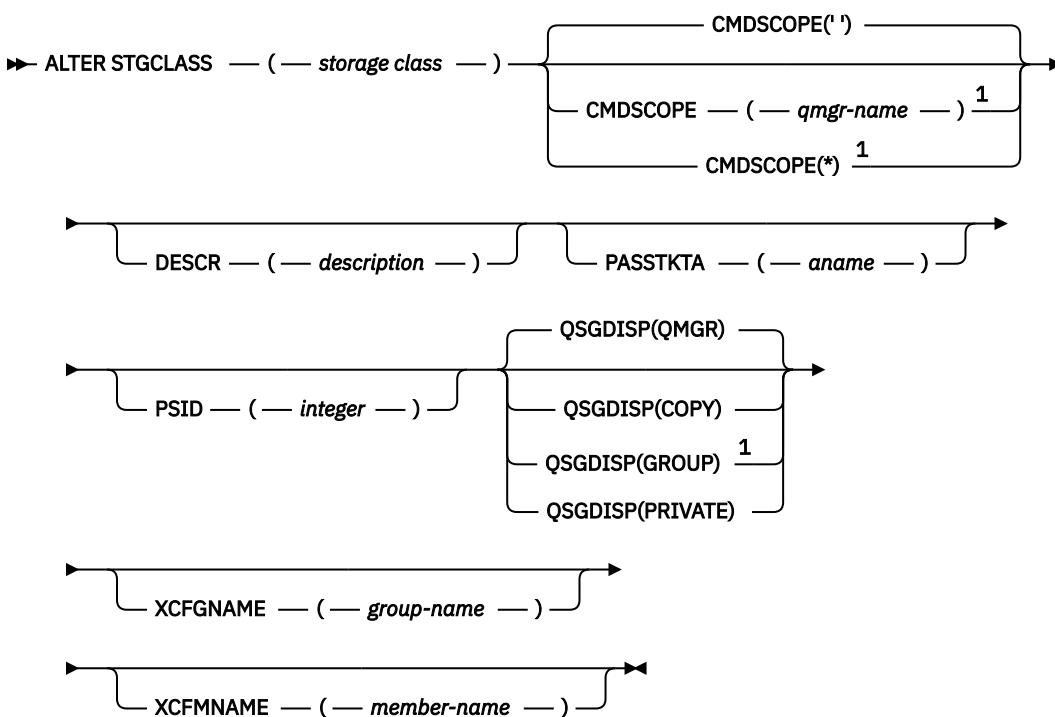
ALTER STGCLASS コマンドに指定されないパラメーターでは、それらのパラメーターの既存の値がそのまま変更されずに使用されます。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [805 ページの『ALTER STGCLASS のパラメーターの説明』](#)

同義語: ALT STC

ALTER STGCLASS



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

ALTER STGCLASS のパラメーターの説明

(*storage-class*)

ストレージ・クラスの名前。

この名前は 1 から 8 文字です。先頭文字は A から Z までの範囲です。その後は、A から Z まで、または 0 から 9 までの文字です。

注: 例外として、一部のすべて数字のストレージ・クラス名が使用できますが、これは IBM サービス担当員による使用のために予約されています。

このキュー・マネージャーに現在定義されている他のストレージ・クラスと同じストレージ・クラスを指定してはなりません。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。* は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DESCR(description)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY STGCLASS コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用されていると、情報を別のキュー・マネージャーに送信した場合に、それらの文字が誤って変換されることがあります。

PASSTKTA(application name)

MQIIH ヘッダーに指定されているパスチケットの認証時に、RACF に渡されるアプリケーション名。

PSID(integer)

このストレージ・クラスが関連付けられるページ・セット ID。

注: ページ・セットが定義されているかどうかは検査されません。このストレージ・クラスが指定されたキューにメッセージの書き込みを試行した場合にのみ、エラーになります (MQRC_PAGESET_ERROR)。

ストリングは、00 から 99 の範囲の 2 つの数字で構成されます。929 ページの『DEFINE PSID』を参照してください。

QSGDISP

グループ内のオブジェクトの属性指定を指定します。

QSGDISP	ALTER
COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

QSGDISP	ALTER
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE STGCLASS(storage-class) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの ALTER は有効になります。
PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたものです。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。
QMGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

XCFGNAME(group name)

IMS ブリッジを使用している場合、この名前は IMS システムが属する XCF グループの名前です。(この名前は、IMS パラメーター・リストに指定されたグループ名です。)

この名前は 1 から 8 文字です。先頭文字は A から Z までの範囲です。その後は、A から Z まで、または 0 から 9 までの文字です。

XCFMNAME(member name)

IMS ブリッジを使用している場合、この名前は XCFGNAME に指定された XCF グループ内の IMS システムの XCF メンバー名です。(この名前は、IMS パラメーター・リストに指定されたメンバー名です。)

この名前は 1 から 16 文字です。先頭文字は A から Z までの範囲です。その後は、A から Z まで、または 0 から 9 までの文字です。

ALTER SUB

MQSC コマンド ALTER SUB では、既存のサブスクリプションの特性を変更します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

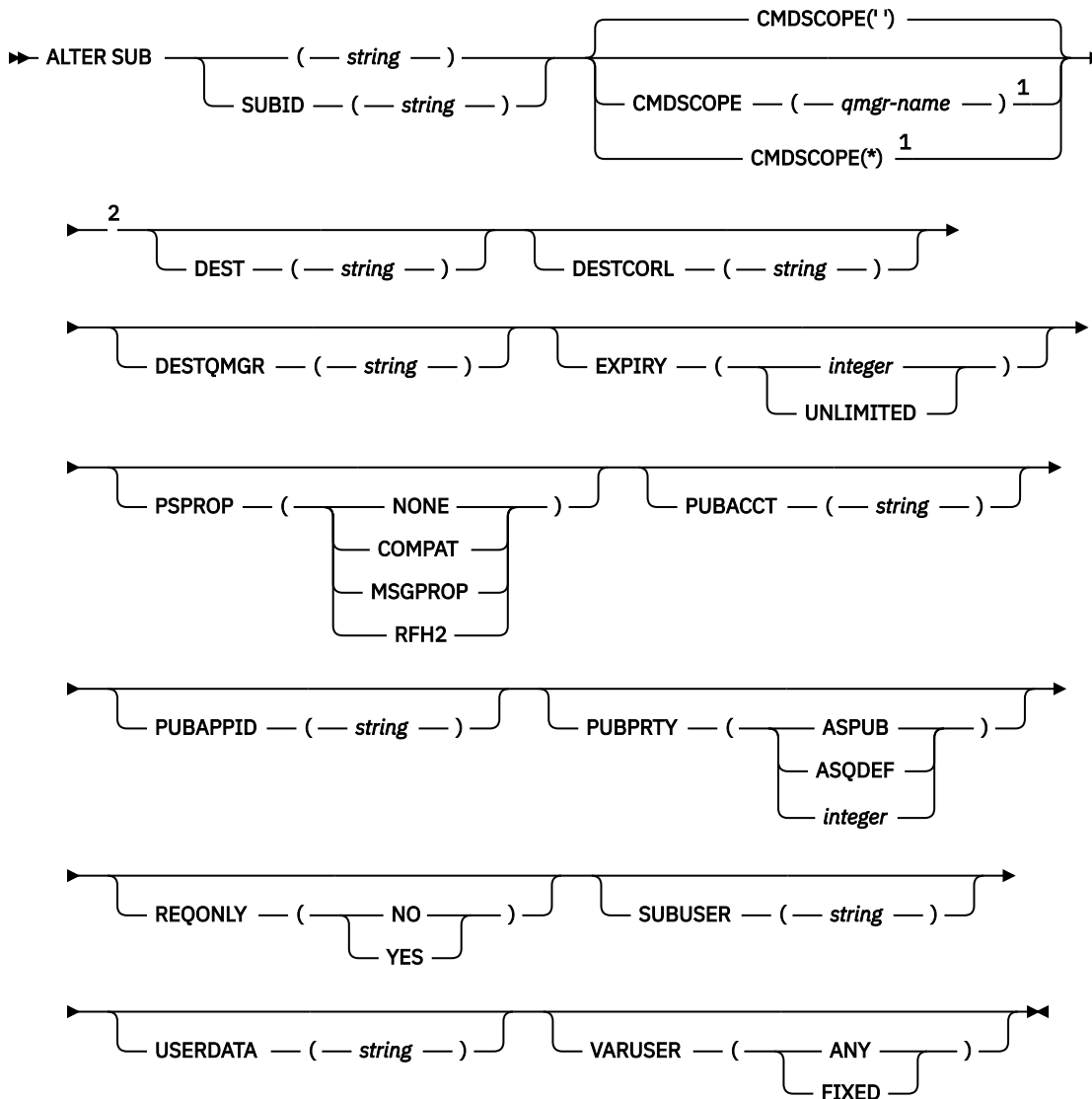
ALTER SUB コマンドでパラメーターを指定しなければ、それらのパラメーターは変更されず、既存の値がそのまま残ります。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [808 ページの『ALTER SUB の使用上の注意』](#)

同義語: ALT SUB

ALTER SUB



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

ALTER SUB の使用上の注意

1. コマンドの有効な形式は、以下のとおりです。

```

ALT SUB(xyz)
ALT SUB SUBID(123)
ALT SUB(xyz) SUBID(123)

```

2. DEFINE コマンドでは許可されていますが、DEFINE SUB (REPLACE) を使用して以下のフィールドを変更することはできません。

- TOPICOBJ

DESTQMGR(string)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャー。リモート・キュー・マネージャー (例えば、XMITQ) に対するチャンネルと、送信側チャンネルを定義する必要があります。定義しない場合、メッセージは宛先に到達しません。

EXPIRY

サブスクリプション・オブジェクトの作成日時から期限切れまでの時間。

(integer)

作成日時から期限切れまでの時間 (10 分の 1 秒単位)。

UNLIMITED

有効期限時刻はありません。これは製品が提供するデフォルト・オプションです。

PSPROP

このサブスクリプションに送信されるメッセージにパブリッシュ/サブスクライブ関連メッセージ・プロパティを追加する方法。

NONE

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティをメッセージに追加しません。

COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティを MQRFH バージョン 1 のヘッダー内に追加します (メッセージが PCF 形式でパブリッシュされる場合は例外です)。

MSGPROP

パブリッシュ・サブスクライブ・プロパティはメッセージ・プロパティとして追加されます。

RFH2

パブリッシュ・サブスクライブ・プロパティは、MQRFH バージョン 2 ヘッダー内に追加されます。

PUBACCT(string)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージへの伝搬の際に、MQMD の *AccountingToken* フィールドにサブスクライバーから渡されるアカウント・トークン。

PUBAPPID(string)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージへの伝搬の際に、MQMD の *AppIdentityData* フィールドにサブスクライバーから渡される ID データ。

PUBPRTY

このサブスクリプションに送信されたメッセージの優先度。

ASPUB

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、パブリッシュされるメッセージで指定されている優先度から取り込まれます。

ASQDEF

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、宛先として定義されているキューのデフォルト優先度から取り込まれます。

(整数)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージの明示的な優先度を整数値として指定します。

REQONLY

サブスクライバーが MQSUBRQ API 呼び出しを使用して更新をポーリングするか、またはすべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに送達されるかを示します。

NO

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。これはデフォルト値です。

YES

パブリケーションは MQSUBRQ API 呼び出しへの応答としてのみ、このサブスクリプションに配信される。

このパラメーターは、サブスクライブ・オプション MQSO_PUBLICATIONS_ON_REQUEST と等価です。

SUBLEVEL(*integer*)

サブスクリプション階層内でこのサブスクリプションを作成するレベル。範囲は 0 から 9 までです。

SUBUSER(*string*)

このサブスクリプションに関連する宛先キューにパブリケーションを書き込むことができるかどうかを確認するために実行するセキュリティ検査で使用するユーザー ID を指定します。この ID は、サブスクリプションの作成者に関連付けられているユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可されている場合は、サブスクリプションを直近に引き継いだユーザー ID です。このパラメーターの長さは 12 文字以下でなければなりません。

USERDATA(*string*)

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。ストリングは、MQSUB API 呼び出しでアプリケーションによって取得できる可変長の値で、このサブスクリプションヘメッセージ・プロパティとして送信されるメッセージ内で渡されます。

V 8.0.0.7 IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 7 より、IBM MQ classes for JMS アプリケーションは、メソッド `javax.jms.Message.getStringProperty(java.lang.String)` で `JmsConstants` インターフェースの定数 `JMS_IBM_SUBSCRIPTION_USER_DATA` を使用して、メッセージからサブスクリプション・ユーザー・データを取得できるようになりました。詳しくは、[Retrieval of user subscription data](#) を参照してください。

VARUSER

サブスクリプション作成者以外のユーザーがそのサブスクリプションへ接続し、その所有権を引き継ぐことができるかどうかを指定します。

ANY

どのユーザーでも、サブスクリプションに接続してその所有権を引き継ぐことができます。

固定

別の **USERID** による引き継ぎは許可されていません。

ALTER TOPIC

ALTER TOPIC を使用して、既存の IBM MQ トピック・オブジェクトのパラメーターを変更します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

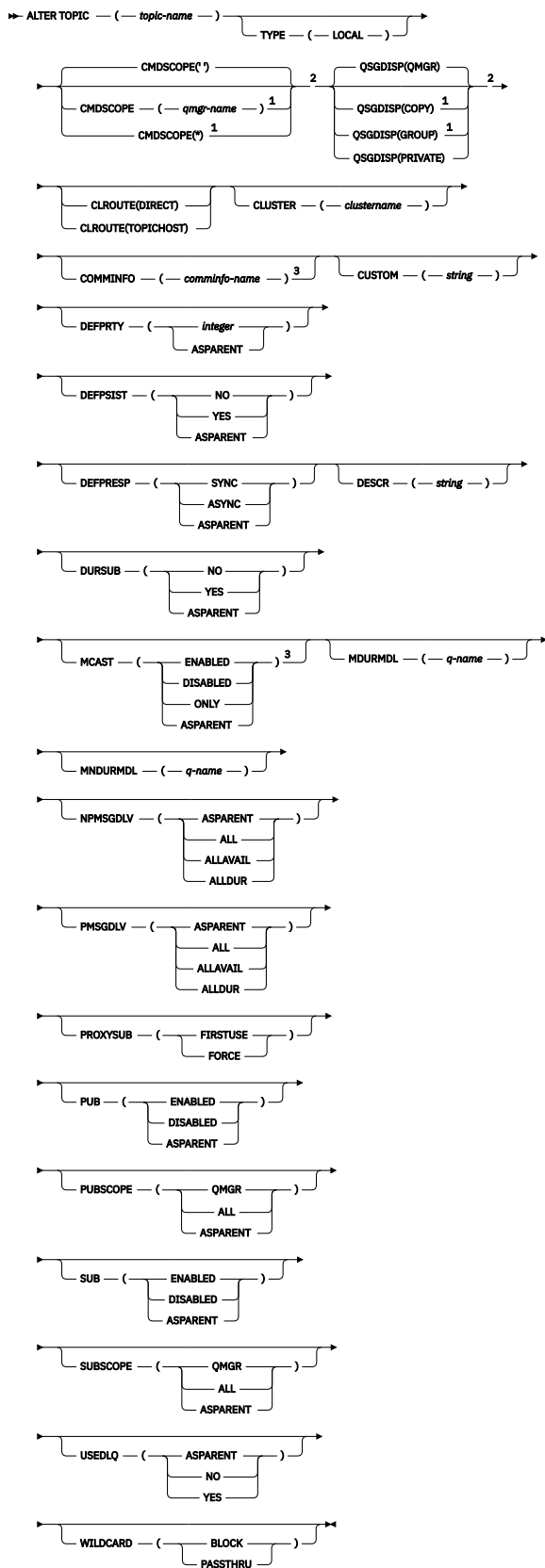
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

ALTER TOPIC コマンドで指定されていないパラメーターは、それらのパラメーターの既存の値が変更されずに残ります。

- [構文図](#)
- 813 ページの『ALTER TOPIC の使用上の注意』
- 813 ページの『ALTER TOPIC のパラメーターの説明』

同義語: ALT TOPIC

ALTER TOPIC



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効です。

ALTER TOPIC の使用上の注意

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の ALTER TOPIC ステップ](#)を参照してください。

ALTER TOPIC のパラメーターの説明

(topic-name)

IBM MQ トピック定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。最大長は 48 文字です。

この名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのトピック定義とも同じであってはなりません (REPLACE が指定されている場合を除く)。

CLROUTE

CLUSTER パラメーターで定義されたクラスター内のトピックに使用するルーティングの動作。

DIRECT

直接経路指定されたクラスター・トピックをキュー・マネージャーで構成すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがクラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーを認識するようになります。各キュー・マネージャーは、パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を実行するときに、クラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーに直接接続できます。

TOPICHOST

トピック・ホスト経路指定を使用すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーは、経路指定されたトピック定義をホストするクラスター・キュー・マネージャー (つまり、トピック・オブジェクトを定義したキュー・マネージャー) を認識するようになります。パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を行うとき、クラスター内のキュー・マネージャーは、それらのトピック・ホスト・キュー・マネージャーにのみ接続し、相互に直接接続されることはありません。トピック・ホスト・キュー・マネージャーは、パブリケーションがパブリッシュされるキュー・マネージャーから、一致するサブスクリプションがあるキュー・マネージャーへのパブリケーションの経路指定を担当します。

トピック・オブジェクトがクラスター化された後 (**CLUSTER** プロパティを設定することによって)、**CLROUTE** プロパティの値を変更することはできません。値を変更するには、その前にオブジェクトのクラスター化を解除 (**CLUSTER** を ' ' に設定) する必要があります。トピックのクラスター化を解除すると、トピック定義はローカル・トピックに変換されます。これによって、パブリケーションがリモート・キュー・マネージャーのサブスクリプションに送信されない期間ができます。この変更を行う場合は、この点を考慮する必要があります。別のキュー・マネージャーのクラスター・トピックと同じ名前でも非クラスター・トピックを定義する効果を参照してください。クラスター化されている状態で **CLROUTE** プロパティの値を変更しようとする、システムは **MQRCCF_CLROUTE_NOT_ALTERABLE** 例外を生成します。

[パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのルーティング: Notes®](#) および [パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの設計](#) も参照してください。

CLUSTER

このトピックが属するクラスターの名前。このキュー・マネージャーがメンバーになっているクラスターにこのパラメーターを設定すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがこのトピックを認識します。このクラスター内の任意のキュー・マネージャーに書き込まれたこのトピックまたはその下位のトピック・ストリングのパブリケーションは、クラスター内のその他のキュー・マネージャーのサブスクリプションに伝搬されます。詳しくは、[分散パブリッシュ/サブスクライブのネットワーク](#)を参照してください。

..

トピック・ツリー内のこのトピックより上のトピック・オブジェクトで、このパラメーターがクラスター名に設定されているものがない場合、このトピックはクラスターに属しません。このトピック

クのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。トピック・ツリー内の上位トピック・ノードでクラスター名が設定されている場合は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションもクラスター全体に伝搬されます。

string

トピックは、このクラスターに所属します。トピック・ツリー内のこのトピック・オブジェクトより上位のトピック・オブジェクトと異なるクラスターにこれを設定することは推奨されません。クラスター内の他のキュー・マネージャーでは、同じ名前のローカル定義がキュー・マネージャーに存在しない場合は、このオブジェクトの定義が使用されます。

特別な事情がある (例えば、マイグレーションをサポートする) 場合を除き、すべてのサブスクリプションおよびパブリケーションがクラスター全体に伝搬されることを回避するため、システム・トピック `SYSTEM.BASE.TOPIC` および `SYSTEM.DEFAULT.TOPIC` については、このパラメーターをブランクにしておきます。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

`CMDSCOPE` はブランクにする必要があります。ただし、`QSGDISP` が `GROUP` に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。* は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

COMMINFO(comminfo-name)

このトピック・オブジェクトに関連付けられているコミュニケーション情報オブジェクトの名前。

CUSTOM (string)

新機能用カスタム属性。

V8.0.0.4 この属性には属性の値を含めます。属性の値として、属性名と値の各ペアを 1 つ以上のスペースで分離します。属性名と値のペアは、`NAME (VALUE)` の形式になります。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

CAPEXPY (integer)

このオブジェクトからプロパティを継承するトピックにパブリッシュされたメッセージが有効期限処理の対象となるまでシステムに存続する最大時間 (10 分の 1 秒単位で表現)。

メッセージ有効期限処理について詳しくは、[有効期限を強制的に短くする](#)を参照してください。

整数

1 から 999 999 999 までの範囲の値でなければなりません。

NOLIMIT

このトピックに書き込まれたメッセージの有効期限時刻には制限がありません。

ASPARENT

最大メッセージ有効期限時刻は、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。これはデフォルト値です。

`CAPEXPY` に無効値を指定しても、コマンドの失敗にはなりません。代わりに、デフォルト値が使用されます。

DEFPRTY(integer)

トピックにパブリッシュされるメッセージのデフォルトの優先順位。

(integer)

値の範囲はゼロ (最低の優先度) から MAXPRTY キュー・マネージャー・パラメーターまででなければなりません (MAXPRTY は 9 です)。

ASPARENT

デフォルトの優先順位は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

DEFPSIST

アプリケーションで MQPER_PERSISTENCE_AS_TOPIC_DEF オプションが指定されている場合に使用するメッセージ持続性を指定します。

ASPARENT

デフォルトの持続性は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

NO

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動中に失われます。

YES

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

z/OS では、N および Y は、NO および YES の同義語として受け入れられます。

DEFPRESP

アプリケーションで MQPMO_RESPONSE_AS_DEF オプションが指定されている場合に使用する書き込み応答を指定します。

ASPARENT

デフォルトの書き込み応答は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて行われます。

同期

MQPMO_SYNC_RESPONSE が代わりに指定されているかのように、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューへの PUT 操作が発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。

ASYNCR

MQPMO_ASYNC_RESPONSE が代わりに指定されているかのように、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューへの PUT 操作が常に発行されます。MQMD および MQPMO 内のフィールドの一部は、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されません。しかし、トランザクションに入れられたメッセージ、および非持続メッセージについては、パフォーマンスの改善が見られる場合があります。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY TOPIC コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

DURSUB

アプリケーションがこのトピックに対して永続サブスクリプションを行うことが許可されるかどうかを指定します。

ASPARENT

このトピックで永続サブスクリプションを行えるかどうかは、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

NO

永続サブスクリプションはこのノードで作成不可です。

YES

永続サブスクリプションはこのノードで作成可能です。

MCAST

トピック・ツリーでマルチキャストを許容するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ASPCARENT

トピックのマルチキャスト属性は、親から継承されます。

無効化

このノードでは、マルチキャスト・トラフィックは許可されません。

ENABLED

このノードでは、マルチキャスト・トラフィックは許可されます。

ONLY

マルチキャスト可能なクライアントからのサブスクリプションのみが許可されます。

MDURMDL(*string*)

パブリケーションの宛先をキュー・マネージャーが管理することを要求する永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#) を参照)。最大長は 48 文字です。

MDURMDL をブランクにすると、他の属性に ASPARENT 値を指定した場合と同じように動作します。使用するモデル・キューの名前は、MDURMDL 用の値が設定されている、トピック・ツリーの直近の親管理トピック・オブジェクトに基づきます。

MDURMDL を使用してクラスター・トピックのモデル・キューを指定する場合は、このトピックを使用する永続サブスクリプションを作成できるクラスター内のすべてのキュー・マネージャーでキューが定義されていることを確認する必要があります。

このモデルから作成される動的キューには、SYSTEM.MANAGED.DURABLE という接頭部が付きます

MNDURMDL(*string*)

パブリケーションの宛先をキュー・マネージャーが管理することを要求する非永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#) を参照)。最大長は 48 文字です。

MNDURMDL をブランクにすると、他の属性に ASPARENT 値を指定した場合と同じように動作します。使用するモデル・キューの名前は、MNDURMDL 用の値が設定されている、トピック・ツリーの直近の親管理トピック・オブジェクトに基づきます。

MNDURMDL を使用してクラスター・トピックのモデル・キューを指定する場合は、このトピックを使用する非永続サブスクリプションを作成できるクラスター内のすべてのキュー・マネージャーでキューが定義されていることを確認する必要があります。

このモデルから作成される動的キューには、SYSTEM.MANAGED.NDURABLE という接頭部が付きます。

NPMSGDLV

このトピックにパブリッシュされる非持続メッセージの配信手段。

ASPCARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

ALLAVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ALLDUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非永続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、どのサブスクライバーもメッセージを受信せず、MQPUT 呼び出しは失敗します。

PMSGDLV

このトピックに対してパブリッシュされる持続メッセージの送達機構:

ASPERENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

ALLAVAIL

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ALLDUR

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの永続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、どのサブスクライバーもメッセージを受信せず、MQPUT 呼び出しは失敗します。

PROXYSUB

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたは階層内にある場合、このトピックまたはこのトピックの下位のトピック・ストリングのプロキシ・サブスクリプションを近隣のキュー・マネージャーにいつ送信するかを制御します。詳しくは、[パブリッシュ/サブスクライブ・ネットワークでのサブスクリプションのパフォーマンス](#)を参照してください。

FIRSTUSE

ローカル・サブスクリプションが作成されるか、階層内の直接接続されたキュー・マネージャーにさらに伝搬されるプロキシ・サブスクリプションが受信されると、このトピック・オブジェクトまたはその下位にある固有トピック・ストリングごとに、プロキシ・サブスクリプションがすべての近隣キュー・マネージャーに非同期で送信されます。

FORCE

トピック・ツリー内のこのポイントおよびその下位にあるすべてのトピック・ストリングにマッチングするワイルドカード・プロキシ・サブスクリプションが、ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、近隣のキュー・マネージャーに送信されます。

注: プロキシ・サブスクリプションは、この値が **DEFINE** または **ALTER** で設定されている場合に送信されます。この値がクラスター・トピックで設定されている場合、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがクラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーにワイルドカード・プロキシ・サブスクリプションを送出します。

PUB

メッセージをこのトピックに対してパブリッシュできるかどうかを制御します。

ASPERENT

トピックにメッセージをパブリッシュできるかどうかは、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

ENABLED

適切な許可を付与されたアプリケーションを使ってメッセージをトピックにパブリッシュできます。

無効化

メッセージはトピックに対してパブリッシュ不可。

[PUB パラメーターの特別な処理](#)も参照してください。

PUBSCOPE

このキュー・マネージャーが、パブリケーションを他のキュー・マネージャーに伝搬するかどうかを判別します。他のキュー・マネージャーは、このキュー・マネージャーに階層内で、またはクラスター内で接続できます。

注：この動作は、書き込みメッセージ・オプションで MQPMO_SCOPE_QMGR を使用して、パブリケーションごとに制限できます。

ASPCARENT

このキュー・マネージャーがパブリケーションをキュー・マネージャーに対して、階層の一部として伝搬するか、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部として伝搬するかは、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて決まります。

QMGR

このトピックのパブリケーションは、接続されたキュー・マネージャーに伝搬されません。

ALL

このトピックのパブリケーションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

グループ内のオブジェクトの処理を指定します。

QSGDISP	ALTER
COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト(そのオブジェクトのローカル・コピーは除く)はいずれも、このコマンドの影響を受けません。コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE TOPIC(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの ALTER は有効になります。
PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたものです。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。
QMGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

SUB

アプリケーションにこのトピックへのサブスクライブを許可するかどうかを制御します。

ASPCARENT

トピックにアプリケーションがサブスクライブできるかどうかは、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

ENABLED

適切な許可を付与されたアプリケーションを使ってトピックにサブスクリプションできます。

無効化

アプリケーションはトピックにサブスクライブできません。

SUBSCOPE

このキュー・マネージャーがこのキュー・マネージャー内のパブリケーションにサブスクライブするか、接続されたキュー・マネージャーのネットワーク内のパブリケーションにサブスクライブするかを決定します。すべてのキュー・マネージャーに対してサブスクライブする場合、キュー・マネージャーは階層の一部またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部であるキュー・マネージャーにサブスクリプションを伝搬します。

注：この振る舞いは、サブスクリプション記述子の **MQPMO_SCOPE_QMGR**、または **DEFINE SUB** の **SUBSCOPE (QMGR)** を使用して、サブスクリプションごとに制限できます。サブスクリプション作成時に **MQSO_SCOPE_QMGR** サブスクリプション・オプションを指定することにより、個々のサブスクライバーは **SUBSCOPE** 設定の **ALL** をオーバーライドできます。

ASPARENT

このキュー・マネージャーが、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定と同じ方法でパブリケーションにサブスクライブするかどうか。

QMGR

このキュー・マネージャーでパブリッシュされるパブリケーションのみがサブスクライバーに到達します。

ALL

このキュー・マネージャー上または別のキュー・マネージャー上でパブリッシュされたパブリケーションが、サブスクライバーに到達します。このトピックに対するサブスクリプションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

TOPICSTR(string)

このトピック・オブジェクト定義により表されるトピック・ストリング。このパラメーターは必須で、空ストリングを含むことはできません。

このトピック・ストリングは、トピック・オブジェクト定義によって既に表されている他のどのトピック・ストリングとも同じではありません。

ストリングの最大長は 10,240 文字です。

TYPE (topic-type)

このパラメーターを使用する場合、 z/OS を除くすべてのプラットフォームで、*topic-name* パラメーターの直後に指定する必要があります。

ローカル

ローカル・トピック・オブジェクト。

USEDLQ

パブリケーション・メッセージを正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを決定します。

ASPARENT

トピック・ツリー内で最も近い管理トピック・オブジェクトの設定を使用して、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。

NO

正しいサブスクライバー・キューに配信できないパブリケーション・メッセージは、メッセージの書き込み失敗として処理されます。トピックに対するアプリケーションの MQPUT の失敗は、NPMMSGDLV および PMSGDLV の設定に基づきます。

YES

DEADQ キュー・マネージャー属性によって送達不能キューの名前が指定されている場合は、その名前が使用されます。キュー・マネージャーによって送達不能キューの名前が指定されていない場合は、NO が指定されたときの動作になります。

WILDCARD

このトピックに対するワイルドカード・サブスクリプションの動作。

PASSTHRU

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングよりも具体的でないワイルドカード・トピックに対するサブスクリプションは、そのトピックまたはそのトピックよりも具体的なトピック・ストリングに対するパブリケーションを受信できるようになります。

BLOCK

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングよりも具体的でないワイルドカード・トピックに対するサブスクリプションは、このトピックまたはこのトピックよりも具体的なトピック・ストリングに対するパブリケーションを受信できなくなります。

サブスクリプションが定義されている場合に、この属性の値が使用されます。この属性を変更しても、既存のサブスクリプションによってカバーされているトピック・セットは、変更による影響を受けません。このシナリオは、トピック・オブジェクトが作成または削除されてトポロジが変更された場合にも当てはまります。WILDCARD 属性の変更後に作成されたサブスクリプションに一致するトピックのセットは、変更後のトポロジを使用して作成されます。既存のサブスクリプションについて、一致するトピック・セットを強制的に再評価する場合は、キュー・マネージャーを再開する必要があります。

ALTER TRACE

特定のアクティブなキュー・マネージャー・トレースでトレースされるトレース・イベントを変更するには、MQSC コマンド ALTER TRACE を使用します。ALTER TRACE は、指定されたトレースを停止し、変更されたパラメーターを指定して再始動します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

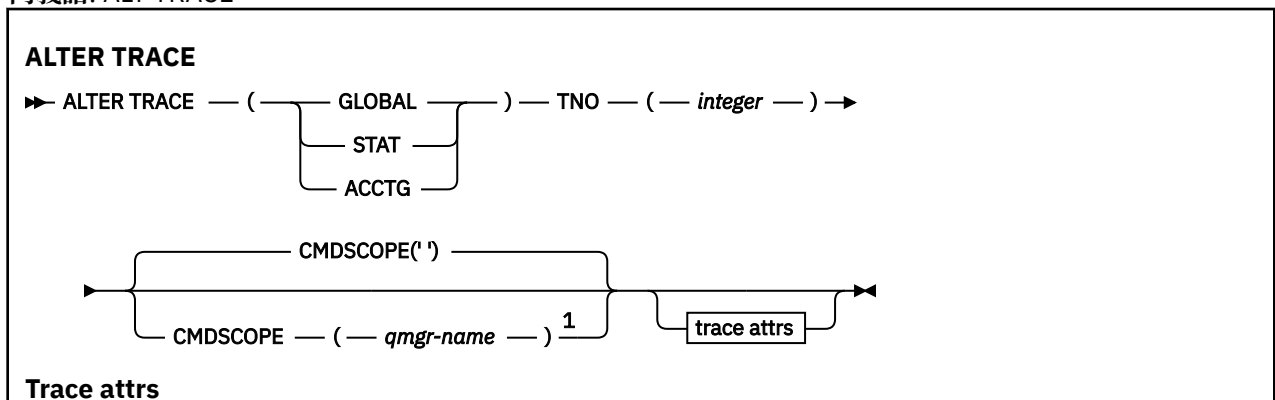
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

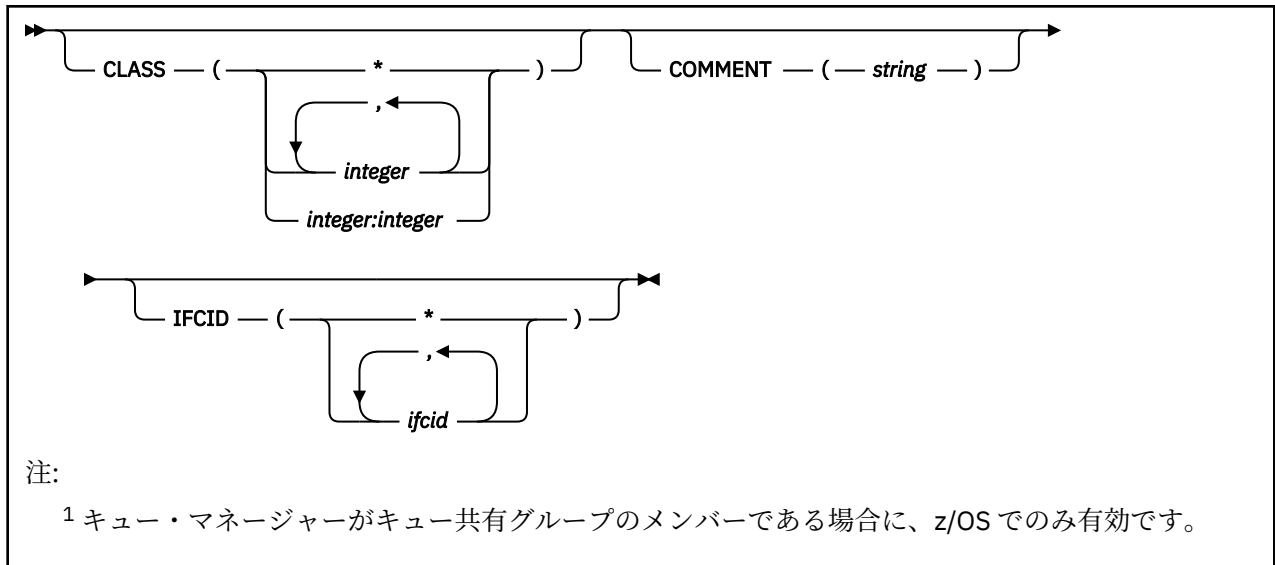
ALTER TRACE コマンドで指定されていないパラメーターを使用した場合、これらのパラメーターの既存の値は未変更のままになります。

 z/OS 列のシンボルの説明については、[641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [821 ページの『使用上の注意』](#)
- [821 ページの『ALTER TRACE のパラメーターの説明』](#)
- [821 ページの『トレース・パラメーター』](#)

同義語: ALT TRACE





使用上の注意

チャンネル・イニシエーター・トレースは変更できません。

ALTER TRACE のパラメーターの説明

以下のいずれかのトレース・タイプを指定します。

GLOBAL

キュー・マネージャー全体からのサービス・データ (同義語は G)

STAT

統計データ (同義語は S です)。

ACCTG

アカウンティング・データ (同義語は A)

および:

TNO(integer)

変更されるトレースの数 (1 から 32)。トレース番号は 1 つしか指定できません。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

トレース・パラメーター

CLASS(integer)

新規トレース・クラス。指定できるクラスのリストについては、1320 ページの『START TRACE』を参照してください。クラスの範囲を指定する場合は、*m:n* という形式で記述します (例えば、CLASS(01:03) のようになります)。CLASS(*) は、すべてのクラスを活動化します。

COMMENT(string)

トレース出力レコードに複製されるコメント (常駐のトレース・テーブルを除く)。

string は任意の文字ストリングです。ブランク、コンマ、特殊文字のいずれかを含むときは、単一引用符 (') で囲まなければなりません。

IFCID(ifcid)

IBM 専用。

z/OS ARCHIVE LOG

MQSC コマンド ARCHIVE LOG は、バックアップ手順の一部として使用します。このコマンドは現在のアクティブ・ログのコピー (重複ロギングを使用している場合は、両方のログのコピー) を取ります。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

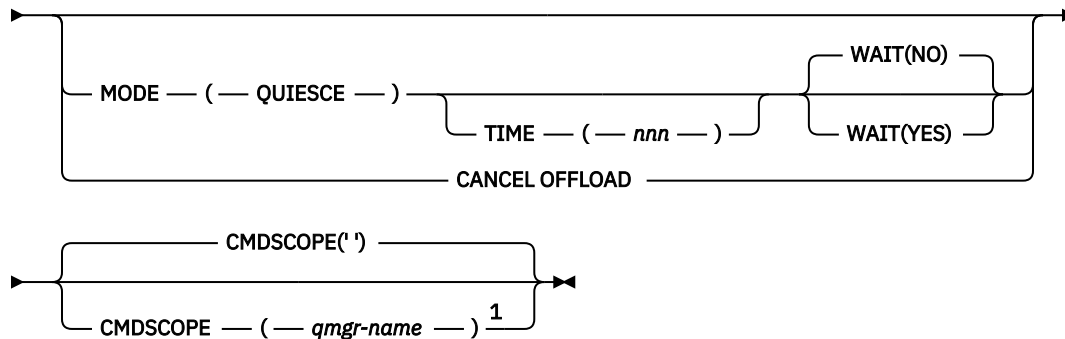
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [822 ページの『ARCHIVE LOG の使用上の注意』](#)
- [823 ページの『ARCHIVE LOG のパラメーターの説明』](#)

同義語: ARC LOG

ARCHIVE LOG

►► ARCHIVE LOG ►►



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

ARCHIVE LOG の使用上の注意

詳述すると、ARCHIVE LOG は以下の処理を行います。

1. 現在のアクティブ・ログのデータ・セットを切り捨てます。
2. 次のアクティブ・ログのデータ・セットに切り替えて、ロギングを続行します。
3. このデータ・セットをオフロードするタスクを開始します。
4. まだアーカイブされていない以前のアクティブ・ログのデータ・セットをアーカイブします。

MODE(QUIESCE) パラメーターを使用している場合、ARCHIVE LOG コマンドはオフロード・プロセスの前に現在のアクティブ・ログに対するすべてのユーザー更新アクティビティを静止(中断)します。システム全体の整合点に達すると(つまり、現在アクティブなすべての更新ユーザーがコミット点に達すると)、現在のアクティブ・ログのデータ・セットは直ちに切り捨てられ、オフロード・プロセスが開始します。その結果としての整合点は、オフロードされる前に現在のアクティブ・ログに取り込まれます。

通常、制御は直ちにユーザーに戻され、静止は非同期に実行されます。ただし、WAIT(YES) パラメーターを使用する場合、静止は同期的に実行され、制御は終了するまでユーザーに戻されません。

- 以前に実行した ARCHIVE LOG コマンドの実行中は、ARCHIVE LOG コマンドを実行することができません。
- 現在のアクティブ・ログ・データ・セットが使用可能な最後のアクティブ・ログ・データ・セットである場合、ARCHIVE LOG コマンドを発行すると使用可能なアクティブ・ログ・データ・セットのスペースすべてをこのコマンドが使用して、オフロードが完了するまで IBM MQ はすべての処理を停止してしまうため、その状況では ARCHIVE LOG コマンドを発行できません。
- STOP QMGR MODE(QUIESCE) が進行中のとき、MODE(QUIESCE) オプションを指定しないで ARCHIVE LOG コマンドを実行することができます。ただし、STOP QMGR MODE (FORCE) が進行中のときは実行することはできません。
- ARCHIVE LOG コマンドがアクティブかどうかを確認するために、DISPLAY LOG コマンドを発行できます。ARCHIVE LOG コマンドがアクティブである場合は、DISPLAY コマンドによりメッセージ CSQV400I が返されます。
- アーカイブが使用されていない(つまり、CSQ6LOGP システム・パラメーター・マクロで OFFLOAD が NO に設定されている) 場合や、アーカイブで SET LOG コマンドを動的に使用している場合であっても、ARCHIVE LOG コマンドを発行できます。この場合、現在のアクティブ・ログ・データ・セットは切り捨てられ、次のアクティブ・ログ・データ・セットを使用してロギングは続行しますが、アーカイブ・データ・セットへのオフロードは行われません。

ARCHIVE LOG のパラメーターの説明

どのパラメーターも指定は任意です。パラメーターが何も指定されていない場合には、現在のアクティブ・ログ・データ・セットは切り替えられ、直ちにオフロードされます。

CANCEL OFFLOAD

現在進行中のすべてのオフロードを取り消して、オフロード・プロセスを再開します。プロセスは最も古いアクティブ・ログ・データ・セットを使用して開始され、オフロードが必要なすべてのアクティブ・データ・セットを順次処理します。

オフロード・タスクが処理を行っていないようである場合、または以前に試行して失敗したオフロードを再開する場合にのみ、このコマンドを使用します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

MODE(QUIESCE)

キュー・マネージャー上のすべての新規更新アクティビティを停止し、すべての既存のユーザーがコミット後に整合点に達するようにします。この状態に達したとき、またはアクティブ・ユーザー数が0である場合は、現行のアクティブ・ログがアーカイブされます。

キュー・マネージャーが、このような状態に達するのを待機する時間は、CSQ6ARVP システム・パラメーター・マクロの QUIESCE で指定される値に制限されています。QUIESCE の値は、このコマンドの TIME パラメーターで指定変更できます。その時間内にアクティビティが静止しなかった場合、コマンドは失敗し、オフロードは実行されず、ロギングは現在のアクティブ・ログ・データ・セットを使用して続行します。

TIME(nnn)

CSQ6ARVP システム・パラメーター・マクロの QUIESCE 値によって指定された静止時間の指定を変更します。

nnn は 001 から 999 の範囲の値 (秒数) です。

TIME パラメーターを指定する場合は、MODE(QUIESCE) も指定する必要があります。

TIME パラメーターを指定する場合は、静止時間に適した値を指定する必要があります。指定する時間が短すぎたり長すぎたりすると、次のいずれかの問題が生じることがあります。

- 静止が完了しない
- IBM MQ ロック競合が生じる
- 静止が途中でタイムアウトになる

WAIT

IBM MQ が静止プロセスの完了を待ってから ARCHIVE LOG コマンドの発行者に戻るかどうかを指定します。

WAIT パラメーターを指定するには、MODE(QUIESCE) も指定する必要があります。

NO

静止プロセスが開始したときに、制御が発行者に戻されるように指定します。(同義語は **N** です。) この指定により、静止プロセスは発行者とは非同期になり、ARCHIVE LOG コマンドからユーザーに制御が戻されたときに、続けて MQSC コマンドを発行できます。これがデフォルトです。

YES

静止プロセスが完了したときに、制御が発行者に戻されるように指定します。(同義語は **Y** です。) この指定により、静止プロセスの実行に関して発行者側と同期を取れるため、ARCHIVE LOG コマンドが完了するまでそれ以降の MQSC コマンドは処理されません。

BACKUP CFSTRUCT

MQSC コマンド BACKUP CFSTRUCT は、CF アプリケーション構造体のバックアップを開始するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

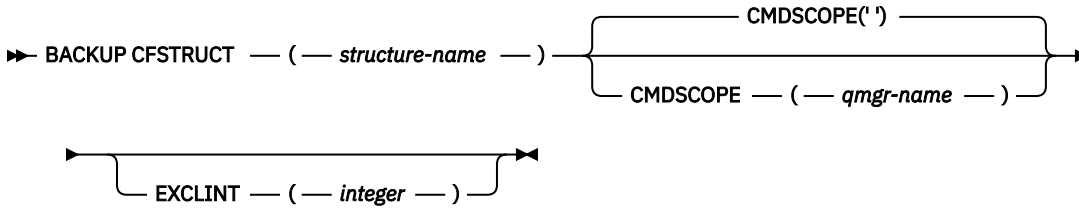
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

- [構文図](#)
- [825 ページの『BACKUP CFSTRUCT の使用上の注意』](#)
- [825 ページの『BACKUP CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

BACKUP CFSTRUCT



BACKUP CFSTRUCT の使用上の注意

1. このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
2. 共有キューの持続メッセージのみがバックアップされます。非持続メッセージはバックアップされず、リカバリーできません。
3. キュー共有グループ内の異なるキュー・マネージャーにある別個のアプリケーション構造体に対して、個別のバックアップを並行して実行できます。同じキュー・マネージャーにある別個のアプリケーション構造体に対して、個別のバックアップを並行して実行することもできます。
4. 指定された CF 構造体が、CFLEVEL 3 未満または RECOVER が NO の設定で定義されている場合、このコマンドは失敗します。
5. 指定されたアプリケーション構造体が現時点でキュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーによってバックアップの処理中である場合、このコマンドは失敗します。

BACKUP CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明

structure-name

バックアップ対象のカップリング・ファシリティー (CF) アプリケーション構造体の名前。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべてのリカバリー可能な CF 構造体が指定されます。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのリカバリー可能な構造体名と一致します。値 (CSQ*) は、指定された語幹 (CSQ) に 0 個以上の文字が続くすべてのリカバリー可能な CF 構造体と一致します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

EXCLINT(integer)

除外時間として使用される秒数を定義する値を指定します。バックアップでは、この除外時間におけるバックアップ・アクティビティーは除外されます。除外時間は、バックアップの開始直前に開始されます。例えば、EXCLINT(30) を指定すると、バックアップには、バックアップ開始前のこのアプリケーション構造の最後の 30 秒分のアクティビティーは含まれません。

値は 30 から 600 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 30 です。

CLEAR QLOCAL

ローカル・キューからメッセージを消去するには、MQSC コマンド CLEAR QLOCAL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

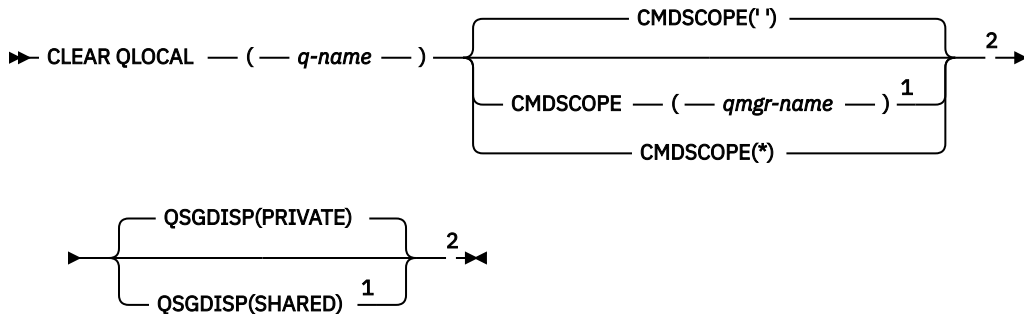
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [826 ページの『CLEAR QLOCAL のパラメーターの説明』](#)

同義語: CLEAR QL

CLEAR QLOCAL



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。

CLEAR QLOCAL のパラメーターの説明

どのローカル・キューを消去するかを指定する必要があります。

次のいずれかに該当する場合、コマンドは失敗します。

- そのキューには、同期点でキューに書き込まれたコミットされていないメッセージが含まれる。
- そのキューは、アプリケーションによって現在オープンされている (どのオープン・オプションかは問いません)。

このキュー、または最終的にこのキューに解決されるキューをオープンしているアプリケーションがある場合、コマンドは失敗します。このキューが伝送キューで、その伝送キューを参照するリモート・キュー (または、最終的にそのようなリモート・キューで解決されるキュー) がオープンしている場合もコマンドは失敗します。

(*q-name*)

消去するローカル・キューの名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が SHARED に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS QSGDISP

キュー定義を共有するかどうかを指定します。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

PRIVATE

q-name で指定されたプライベート・キューのみを消去します。パラメーター QSGDISP(COPY) または QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されたキューは、プライベート・キューになります。これはデフォルト値です。

SHARED

q-name で指定された共有キューのみを消去します。パラメーター QSGDISP(SHARED) を持つコマンドを使用して定義されたキューは、共有キューになります。

CLEAR TOPICSTR

指定されたトピック・ストリングに関して保管されている保存メッセージを消去するには、MQSC コマンド CLEAR TOPICSTR を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

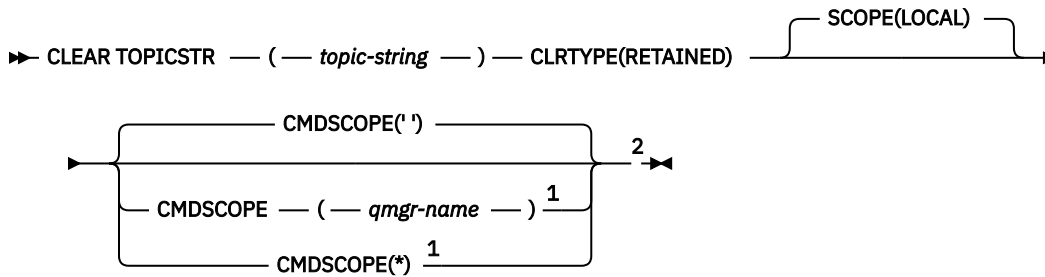
z/OS

z/OS 列のシンボルの説明については、[641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [CLEAR TOPICSTR の使用上の注意](#)
- [CLEAR TOPICSTR のパラメーターの説明](#)

同義語: なし

CLEAR TOPICSTR



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。

CLEAR TOPICSTR の使用上の注意

1. 指定されたトピック・ストリングに保存されたメッセージがない場合、コマンドは正常に完了します。トピック・ストリングに保存されたメッセージがあるかどうかは、DISPLAY TPSTATUS コマンドを使用して判別できます。RETAINED フィールドに、保存されたメッセージがあるかどうかを示されます。
2. このコマンドのトピック・ストリング入力パラメーターは、操作対象のトピックに一致する必要があります。トピック・ストリング内の文字ストリングは、コマンド発行場所から使用できる文字にしておくことをお勧めします。MQSC を使用してコマンドを発行した場合、PCF メッセージをサブミットするアプリケーション (例えば IBM MQ エクスプローラー) を使用する場合に比べて、使用可能な文字が少なくなります。
3. CLEAR TOPICSTR を使用して保存パブリケーションをパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターから除去しなければならない場合があります。以下に例を示します。
 - ・ 誤って保存パブリケーションを構成した後、それをすべてのクラスター・キュー・マネージャーから除去することが必要な場合、クラスターのすべてのメンバーに対してこのコマンドを発行します。
 - ・ 直接経路指定されたパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターで、パブリッシュ・アプリケーションを新しいキュー・マネージャーに移動して、影響を受けるトピック・ストリングのサブスクリプションを以前のキュー・マネージャーが保持しなくなった場合、以前のキュー・マネージャーが古い保存パブリケーションをクラスターの他のメンバーに再送信しないようにする必要があります。そうするには、アプリケーションが新しいキュー・マネージャーにパブリッシュされるまで待ってから、以前のキュー・マネージャーでこのコマンドを発行して、そこに保持されている保存パブリケーションを除去します。

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターでの保存パブリケーションに関する設計上の考慮事項も参照してください。

CLEAR TOPICSTR のパラメーターの説明

保存されたパブリケーションをどのトピック・ストリングから除去するかを指定する必要があります。

(*topic-string*)

消去するトピック・ストリング。このストリングでは、以下の表で示すように、ワイルドカードを使用して、消去するいくつかのトピックを表すことができます。

特殊文字	動作
#	ワイルドカード、複数のトピック・レベル
+	ワイルドカード、単一のトピック・レベル

注: 「+」 および 「#」 は、トピック・レベル内で、他の文字 (それらの文字自体を含む) と混用された場合には、ワイルドカードとしては扱われません。以下のストリングでは、「#」 および 「+」 文字は普通の文字として扱われます。

```
level0/level1/#+/level3/level#
```

ワイルドカードの効果を例示するために、以下に例を挙げます。

以下のトピックを消去すると、

```
/a/b/#/z
```

以下のトピックが消去されます。

```
/a/b/z  
/a/b/c/z  
/a/b/c/y/z
```

CLRTYPE

これは必須パラメーターです。

値は次のものでなければなりません。

RETAINED

指定したトピック・ストリングから保存パブリケーションを削除する。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

共有キュー・オブジェクト定義のキュー共有グループ属性指定属性 QSGDISP が SHARED に設定されている場合、CMDSCOPE をブランク、またはローカル・キュー・マネージャーの名前に設定する必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

SCOPE

保存メッセージの削除の有効範囲。

値は次のいずれかです。

ローカル

ローカル・キュー・マネージャーでのみ、指定したトピック・ストリングから保存メッセージが削除される。これはデフォルト値です。

DEFINE AUTHINFO

MQSC コマンド DEFINE AUTHINFO は、認証情報オブジェクトを定義するために使用します。これらのオブジェクトには、OCSP、または LDAP サーバーの証明書失効リスト (CRL) を使用して証明書失効検査を実

行するために必要な定義、およびユーザー ID 検査とパスワード検査を使用可能にするために必要な定義が入っています。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [834 ページの『DEFINE AUTHINFO の使用上の注意』](#)
- [834 ページの『DEFINE AUTHINFO のパラメーターの説明』](#)
- [TYPE\(CRLLDAP\) の構文図](#)
- [TYPE\(OCSP\) の構文図](#)
- [TYPE\(IDPWOS\) の構文図](#)
- [TYPE\(IDPWLDAP\) の構文図](#)

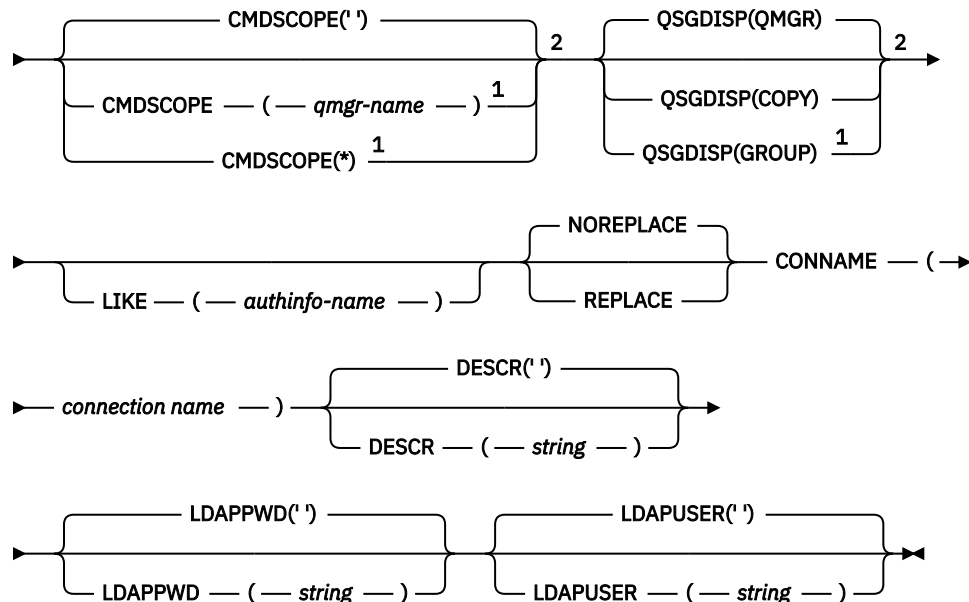
同義語: DEF AUTHINFO

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『[路線図の読み方](#)』を参照してください。

TYPE(CRLLDAP) の構文図

DEFINE AUTHINFO

➡ DEFINE AUTHINFO — (— *name* —) — AUTHTYPE(CRLLDAP) ➡



注:

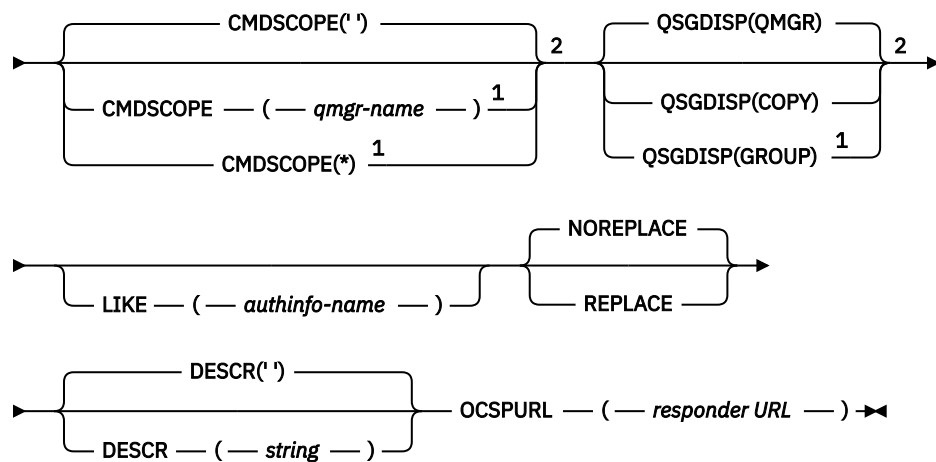
¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

² z/OS でのみ有効です。

TYPE(OCSP) の構文図

DEFINE AUTHINFO

►► DEFINE AUTHINFO — (— *name* —) — AUTHTYPE(OCSP) —►



注:

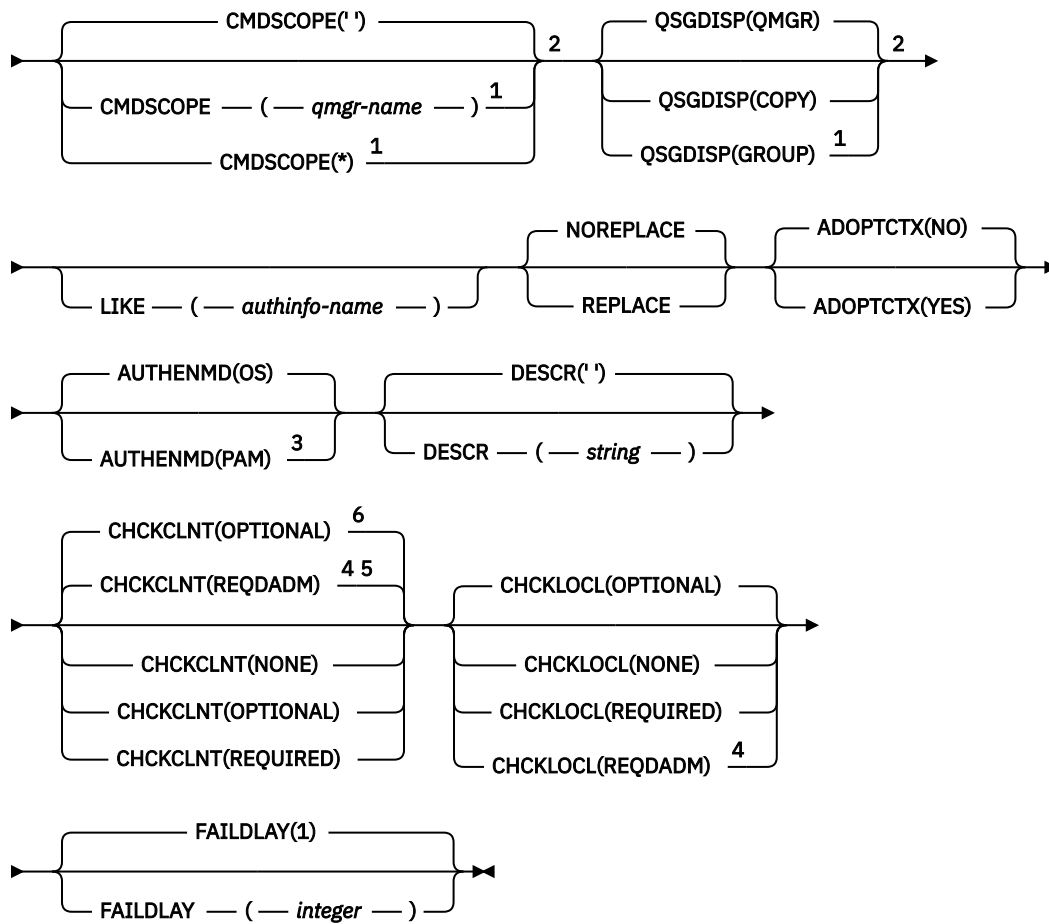
¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

² z/OS でのみ有効です。

TYPE(IDPWOS) の構文図

DEFINE AUTHINFO

►► DEFINE AUTHINFO — (— *name* —) — AUTHTYPE(IDPWOS) —►



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

² z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効であり、UNIX プラットフォーム でのみ PAM 値を設定できます。

⁴ IBM MQ for z/OS では無効です。

⁵ z/OS 以外のプラットフォームのデフォルト。

⁶ z/OS のデフォルト。

DEFINE AUTHINFO

LIKE — (— *authinfo-name* —)

AUTHORMD ² (— OS —
— SEARCHGRP —
— SEARCHUSR —)

BASEDNG ² (— *string* —)

BASEDNU — (— *string* —)

CLASSGRP ² (— *string* —)

CLASSUSR — (— *string* —)

CONNAME — (— *string* —)

CHCKCLNT(REQDADM)

CHCKCLNT(NONE)

CHCKCLNT(OPTIONAL)

CHCKCLNT(REQUIRED)

CHCKLOCL(OPTIONAL)

CHCKLOCL(NONE)

CHCKLOCL(REQUIRED)

CHCKLOCL(REQDADM)

DESCR — (— *string* —)

DESCR(' ')

FAILDAY — (— *integer* —)

FAILDAY(1)

FINDGRP ² (— *string* —)

GRPFIELD ² (— *string* —)

LDAPPWD — (— *string* —)

LDAPPWD(' ')

LDAPUSER — (— *string* —)

LDAPUSER(' ')

NESTGRP ² (— NO —
— YES —)

SECCOMM(NO)

SECCOMM(YES)

SECCOMM(ANON)

SHORTUSR — (— *string* —)

USRFIELD — (— *string* —)

USRFIELD(' ')

管理に関する参照情報 833

¹ IBM MQ for z/OS では無効です。

² Windows では無効です。

DEFINE AUTHINFO の使用上の注意

IBM i では、認証情報オブジェクト AUTHTYPE(CRLLDAP) および AUTHTYPE(OCSP) は、AMQCLCHL.TAB を使用してタイプ CLNTCONN のチャンネルに対してのみ使用されます。証明書はデジタル証明書マネージャーによって認証局別に定義され、LDAP サーバーに照らして検証されます。



重要: DEFINE AUTHINFO コマンドの実行後にキュー・マネージャーを再始動する必要があります。キュー・マネージャーを再始動しないと、[setmqaut](#) コマンドは正しい結果を返しません。

DEFINE AUTHINFO のパラメーターの説明

name

認証情報オブジェクトの名前。このパラメーターは必須です。

名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどの認証情報オブジェクト名とも同じであってはなりません (REPLACE または ALTER が指定されている場合を除く)。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

ADOPTCTX

提供された資格情報をこのアプリケーションのコンテキストとして使用するかどうか。これは、この資格情報が許可検査に使用され、管理画面に表示され、メッセージに出現することを意味します。

YES

パスワードにより妥当性検査が正常に行われた、MQCSP 構造内に示されたユーザー ID は、このアプリケーションに使用するコンテキストとして採用されます。したがって、このユーザー ID は、IBM MQ リソースの使用許可として確認される資格情報となります。

指定されたユーザー ID が LDAP ユーザー ID であり、オペレーティング・システムのユーザー ID を使用して許可検査が行われる場合は、LDAP のユーザー・エントリーに関連付けられている [SHORTUSR](#) が実行される許可検査の資格情報として採用されます。

NO

認証は MQCSP 構造内のユーザー ID とパスワードに対して実行されますが、資格情報が将来の使用のために採用されることはありません。許可は、アプリケーションが実行されているユーザー ID を使用して実行されます。

この属性は、AUTHTYPE が IDPWOS および IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

V 8.0.0.3 AUTHENMD

認証方式。ユーザー・パスワードの認証にオペレーティング・システムを使用するか交換可能認証方式 (PAM) を使用するか。

OS

従来の UNIX プラットフォーム パスワード検証方式を使用します。

PAM

PAM を使用してユーザー・パスワードを認証します。

PAM 値は UNIX および Linux プラットフォームでのみ設定できます。

この属性の変更は、[REFRESH SECURITY TYPE\(CONNAUTH\)](#) コマンドを実行した後でなければ有効になりません。

この属性は、AUTHTYPE が IDPWOS の場合にのみ有効です。

V 8.0.0.2 AUTHORMD

許可方式。

OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

これは IBM MQ が以前処理していた方法であり、デフォルト値になります。

SEARCHGRP

LDAP リポジトリのグループ項目に、そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性が含まれます。メンバーシップは、**FINDGRP** で定義されている属性によって示されます。この値は通常 *member* または *uniqueMember* です。

SEARCHUSR

LDAP リポジトリのユーザー項目に、指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性が含まれます。照会対象の属性は、**FINDGRP** 値 (通常、*memberOf*) によって定義されます。

多くの LDAP サーバーはグループ・メンバーシップの判別にグループ・オブジェクトの属性を使用するため、この値を **SEARCHGRP** に設定する必要があります。

Microsoft Active Directory は通常、グループ・メンバーシップをユーザー属性として保管します。IBM Tivoli Directory Server は両方のメソッドをサポートします。

一般に、ユーザー属性によってメンバーシップを取得する方が、ユーザーをメンバーとしてリストするグループを検索するよりも高速です。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

AUTHTYPE

認証情報のタイプ。

CRLLDAP

証明書失効リストの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。

IDPWLDAP

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、LDAP サーバーを使用して実行されます。



重要: このオプションは IBM MQ for z/OS では使用できません

IDPWOS

接続認証のユーザー ID およびパスワードの検査は、オペレーティング・システムを使用して実行されます。

OCSP

証明書の失効検査は OCSP を使用して実行されます。

AUTHTYPE(OCSP) の認証情報オブジェクトは IBM i または z/OS キュー・マネージャーでの使用には適用されません。しかし、クライアントでの使用のためにクライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) にコピーされるように、これらのプラットフォーム上で指定することはできます。

このパラメーターは必須です。

認証情報オブジェクトは、異なる **AUTHTYPE** の **LIKE** オブジェクトとして定義できません。一度作成した認証情報オブジェクトの **AUTHTYPE** を変更することはできません。

V 8.0.0.2 **BASEDNG**

グループのベース DN

グループ名を検出できるようにするために、このパラメーターを基本 DN とともに設定して、LDAP サーバー内でグループを検索する必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

BASEDNU(base DN)

短いユーザー名属性 (**SHORTUSR** を参照) を検出できるようにするために、このパラメーターに基本 DN を設定して、LDAP サーバー内で検索できるようにする必要があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

CHCKCLNT

この属性によって、クライアント・アプリケーションの認証要件が設定されます。この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWOS** または **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

NONE

ユーザー ID およびパスワード検査は行われません。クライアント・アプリケーションによってユーザー ID またはパスワードが指定されている場合、資格情報は無視されます。

OPTIONAL

クライアント・アプリケーションでは、ユーザー ID とパスワードの提供は必要ありません。

MQCSP 構造でユーザー ID およびパスワードを提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対してユーザー ID およびパスワードが認証されます。

ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

REQUIRED

すべてのクライアント・アプリケーションはユーザー ID とパスワードを **MQCSP** 構造で提供する必要があります。このユーザー ID とパスワードは、提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。

ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

REQDADM

特権ユーザー ID を使用するすべてのクライアント・アプリケーションは、**MQCSP** 構造でユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。特権なしのユーザー ID を使用するローカルにバインドされたアプリケーションは、ユーザー ID とパスワードを提供する必要がなく、**OPTIONAL** 設定と同じように扱われます。

提供されたユーザー ID とパスワードは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

注：認証タイプが **LDAP** の場合、**CHCKCLNT** 属性の **REQDADM** 値は無効です。これは、**LDAP** ユーザー・アカウントを使用する際には特権ユーザー ID の概念がないためです。**LDAP** ユーザー・アカウントとグループにはアクセス権が明示的に割り当てられている必要があります。

特権ユーザーは、**IBM MQ** の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

 **z/OS** (この設定は **z/OS** システムでは使用できません。)

重要：

1. この属性は、クライアント接続と一致する **CHLAUTH** ルールの **CHCKCLNT** 属性によってオーバーライドされることがあります。そのため、キュー・マネージャーの **CONNAUTH AUTHINFO CHCKCLNT** 属性によって、**CHLAUTH** ルールと一致しないクライアント接続のデフォルトのクライアント検査動作、または一致する **CHLAUTH** ルールに **CHCKCLNTASQMGR** がある場合を設定します。
2. **NONE** を選択し、クライアント接続が **CHCKCLNT REQUIRED** (または **z/OS** 以外のプラットフォームの場合は **REQDADM**) が指定された **CHLAUTH** レコードに一致する場合、接続は失敗します。**z/OS** 以外のプラットフォームでは、メッセージ **AMQ9793** を受信します。**z/OS** では、メッセージ **CSQX793E** を受信します。
3. このパラメーターは、**TYPE (USERMAP)**、**TYPE (ADDRESSMAP)**、および **TYPE (SSLPEERMAP)** が指定され、かつ **USERSRC** が **NOACCESS** に設定されていない場合のみ、有効になります。
4. このパラメーターは、サーバー接続チャネルであるインバウンド接続にのみ適用されます。

CHCKLOCL

この属性によって、ローカルにバインドされたアプリケーションの認証要件が設定されます。この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWOS* または *IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

NONE

ユーザー ID およびパスワード検査は行われません。ローカルでバインドされたアプリケーションによってユーザー ID またはパスワードが指定されている場合、資格情報は無視されます。

OPTIONAL

ローカルでバインドされたアプリケーションでは、ユーザー ID およびパスワードの提供は必要ありません。

MQCSP 構造でユーザー ID およびパスワードを提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対してユーザー ID およびパスワードが認証されます。

ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

REQUIRED

すべてのローカルでバインドされたアプリケーションはユーザー ID とパスワードを **MQCSP** 構造で提供する必要があります。このユーザー ID とパスワードは、提供するアプリケーションでは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

 **MQCONN** クラスの **BATCH** プロファイルに対する **UPDATE** 権限をユーザー ID が持っている場合は、**CHCKLOCL(REQUIRED)** を **CHCKLOCL(OPTIONAL)** であるかのように扱うことができます。つまり、パスワードを指定する必要はありませんが、指定する場合は正しいパスワードでなければなりません。

ローカルにバインドされたアプリケーションでの **CHCKLOCL** の使用を参照してください。

REQDADM

特権ユーザー ID を使用するローカルでバインドされたアプリケーションはすべて、**MQCSP** 構造でユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。特権なしのユーザー ID を使用するローカルにバインドされたアプリケーションは、ユーザー ID とパスワードを提供する必要がなく、**OPTIONAL** 設定と同じように扱われます。

提供されたユーザー ID とパスワードは、キュー・マネージャーによって、**AUTHTYPE** で示されているパスワード・ストアに対して認証されます。ユーザー ID とパスワードが有効である場合のみ、接続を続行できます。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

 (この設定は z/OS システムでは使用できません。)

CLASSGRP

LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

この値がブランクの場合には、**groupOfNames** が使用されます。

他に通常使用される値には、**groupOfUniqueNames** や **group** があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP* の場合にのみ有効で、 Windows プラットフォームには適用されません。

CLASSUSR(LDAP class name)

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

ブランクの場合、値は通常必要とされる値である **inetOrgPerson** にデフォルト設定されます。

Microsoft Active Directory では、必要とされる値は多くの場合 **user** です。

この属性は、**AUTHTYPE** が **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、**QSGDISP** が **GROUP** に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。* は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CONNNAME(connection name)

LDAP サーバーが稼働しているホストのホスト名、IPv4 ドット 10 進アドレス、または IPv6 16 進表記。オプションでポート番号を指定します。

接続名を IPv6 アドレスとして指定する場合、IPv6 スタックを使用するシステムのみがこのアドレスを解決できます。AUTHINFO オブジェクトがキュー・マネージャーの CRL 名前リストの一部である場合は、キュー・マネージャーによって生成されたクライアント・チャネル・テーブルを使用するすべてのクライアントが接続名を解決できるようにしてください。

z/OS で、CONNNAME が IPv6 ネットワーク・アドレスに解決される場合は、LDAP サーバーへの接続用に IPv6 をサポートするレベルの z/OS が必要です。

CONNNAME の構文はチャネルの構文と同じです。例:

```
connname(' hostname ( nnn )')
```

nnn はポート番号です。

このフィールドの最大長は、IBM i、UNIX システム、および Windows で 264 文字、z/OS で 48 文字です。

この属性は、この属性が必須であるときに **AUTHTYPE** が **CRLLDAP** および **IDPWLDAP** の場合にのみ有効です。

AUTHTYPE が **IDPWLDAP** である場合は、接続名のコンマ区切りのリストにすることができます。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが **DISPLAY AUTHINFO** コマンドを発行すると、認証情報オブジェクトに関する記述情報が提供されます (1012 ページの『**DISPLAY AUTHINFO**』を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

FAILDLAY(delay time)

接続認証にユーザー ID とパスワードが提供されたものの、そのユーザー ID またはパスワードが誤っていたために認証が失敗する場合、失敗がアプリケーションに戻される前に、ここで指定した秒数の遅延が生じます。

これは、失敗を受信した後に、アプリケーションが単純に再試行を繰り返してビジー・ループになるのを回避するのに役立ちます。

値は 0 から 60 秒の範囲でなければなりません。デフォルト値は 1 です。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWOS* および *IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。

V 8.0.0.2 FINDGRP

グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前。

AUTHORMD = *SEARCHGRP* の場合、**FINDGRP** 属性は、通常、*member* または *uniqueMember* に設定されます。

AUTHORMD = *SEARCHUSR* の場合、**FINDGRP** 属性は、通常、*memberOf* に設定されます。

FINDGRP 属性をブランクのままにした場合は、次のようになります。

- **AUTHORMD** = *SEARCHGRP* の場合、**FINDGRP** 属性はデフォルトで *memberOf* になります。
- **AUTHORMD** = *SEARCHUSR* の場合、**FINDGRP** 属性はデフォルトで *member* になります。

V 8.0.0.2 GRPFIELD

グループの単純名を表す LDAP 属性。

値がブランクの場合、**setmqaut** のようなコマンドはグループの修飾名を使用する必要があります。値は完全な識別名、または単一の属性のいずれかにできます。

この属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWLDAP* の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

LDAPPWD(LDAP password)

LDAP サーバーにアクセスしているユーザーの識別名に関連付けられるパスワード。最大サイズは 32 文字です。

この属性は、**AUTHTYPE** が *CRLLDAP* および *IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。

z/OS では、LDAP サーバーへのアクセスに使用される **LDAPPWD** は、**AUTHINFO** オブジェクトに定義されているものとは異なる場合があります。QMGR パラメーター **SSLCRLNL** によって参照される名前リストに複数の **AUTHINFO** オブジェクトがある場合、最初の **AUTHINFO** オブジェクトの **LDAPPWD** がすべての LDAP サーバーへのアクセスに使用されます。

LDAPUSER(LDAP user)

LDAP サーバーにアクセスしているユーザーの識別名。(識別名について詳しくは、**SSLPEER** パラメーターを参照してください。)

この属性は、**AUTHTYPE** が *CRLLDAP* および *IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。

ユーザー名の最大サイズは、IBM i、UNIX システム、および Windows で 1024 文字、z/OS で 256 文字です。

z/OS では、LDAP サーバーへのアクセスに使用する **LDAPUSER** は、**AUTHINFO** オブジェクトに定義されているものとは異なる場合があります。QMGR パラメーター **SSLCRLNL** によって参照される名前リストに複数の **AUTHINFO** オブジェクトがある場合、最初の **AUTHINFO** オブジェクトの **LDAPUSER** がすべての LDAP サーバーへのアクセスに使用されます。

IBM i、UNIX システム、および Windows では、行の許容最大長は **BUFSIZ** に定義されています (**BUFSIZ** は **stdio.h** 内にあります)。

LIKE(authinfo-name)

認証情報オブジェクトの名前。この定義をモデル化するために使用するパラメーターと共に指定します。

z/OS z/OS の場合、キュー・マネージャーは指定した名前と、QMGR または COPY の属性指定を持つオブジェクトを検索します。LIKE オブジェクトの属性指定は、定義しているオブジェクトにはコピーされません。

注：

1. QSGDISP (GROUP) オブジェクトは検索されません。
2. QSGDISP(COPY) が指定された場合、LIKE は無視されます。ただし、定義されているグループ・オブジェクトは LIKE オブジェクトとして使用されます。

V 8.0.0.2 NESTGRP

グループ・ネスティング

NO

最初に見つかったグループのみが、許可の対象となります。

YES

ユーザーが属するグループすべてを列挙するために、グループ・リストは再帰的に検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が IDPWLDAP の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

OCSPURL(Responder URL)

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。この値は、OCSP 応答側のホスト名とポート番号を含む HTTP URL でなければなりません。OCSP 応答側が HTTP のデフォルトであるポート 80 を使用する場合には、ポート番号を省略できます。HTTP URL は RFC 1738 で定義されています。

このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。先頭は、小文字のストリング http:// にする必要があります。URL の残りの部分では、OCSP サーバー実装環境によっては、大文字小文字が区別されることがあります。大/小文字の区別を保持するには、単一引用符を使用して OCSPURL パラメーター値を指定します。例えば、以下のようになります。

```
OCSPURL ('http://ocsp.example.ibm.com')
```

AUTHTYPE(CRLLDAP) が指定された場合、OCSPURL は必須です。AUTHTYPE(CRLLDAP) が指定されない場合、OCSPURL は無効です。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	DEFINE
COPY	「LIKE」 オブジェクトと同じ名前の QSGDISP(GROUP) オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されているオブジェクト。
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。GROUP は、キュー・マネージャーがキュー共有グループに属している場合にのみ許可されます。定義が正常に終了すると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット・ゼロ上でローカル・コピーを作成またはリフレッシュします。 <pre>DEFINE AUTHINFO(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの DEFINE は、QSGDISP(COPY) を含む生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。
PRIVATE	許可されません。
QMGR	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義 (z/OS の場合は、属性指定が同じもの) をこれに置換するかどうか。このパラメーターはオプションです。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

同じ名前の既存の定義を、この定義で必ず置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

NOREPLACE

同じ名前のどの既存の定義も、この定義で置き換えません。

SECCOMM

LDAP サーバーへの接続が SSL/TLS を使用して安全に行われる必要があるかどうか

YES

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用して安全に行われます。

使用される証明書は、キュー・マネージャーのデフォルトの証明書で、キュー・マネージャー・オブジェクトで CERTLABL と指定されているか、それがブランクである場合は、[デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)に記載されているものです。

証明書は、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに置かれます。暗号仕様は、IBM MQ サーバーと LDAP サーバーの両方でサポートされるものとなるようネゴシエーションされます。

キュー・マネージャーが SSLFIPS(YES) または SUITEB 暗号仕様を使用するよう構成されている場合、これは LDAP サーバーへの接続において同様に考慮されます。

ANON

LDAP サーバーへの接続は、SECCOMM(YES) と同様に SSL/TLS を使用して安全に行われますが、違いが 1 つあります。

証明書は LDAP サーバーに送信されません。接続は匿名で行われます。この設定を使用するには、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに、デフォルトとしてマークされた証明書が含まれていないことを確認してください。

NO

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用しません。

この属性は、**AUTHTYPE** が IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

SHORTUSR(LDAP field name)

IBM MQ での短いユーザー名として使用される、ユーザー・レコード内のフィールド。

このフィールドには、12 文字以下の値を入れる必要があります。この短いユーザー名は、以下の目的で使用されます。

- LDAP 認証が有効であるが、LDAP 権限が有効ではない場合、これは許可検査のオペレーティング・システムのユーザー ID として使用されます。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要があります。
- LDAP 認証と権限の両方が有効で、メッセージ内のユーザー ID を使用しなければならない場合、これは LDAP ユーザー名を再発見するためのメッセージに付随するユーザー ID として使用されます。

例えば、別のキュー・マネージャーにおいて、またはレポート・メッセージの書き込み時などです。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要はありませんが、固有のストリングでなければなりません。この目的として使用できる属性の良い例としては、従業員シリアル番号があります。

この属性は、**AUTHTYPE** が IDPWLDAP であり、必須である場合にのみ有効です。

USRFIELD(LDAP field name)

認証用のアプリケーションで提供されるユーザー ID に LDAP ユーザー・レコード内のフィールドの修飾子が含まれていない、つまり '=' 記号が含まれていない場合、この属性は提供されるユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールドを識別します。

このフィールドは、ブランクにすることができます。その場合、非修飾ユーザー ID では、[SHORTUSR](#) パラメーターを使用して指定されたユーザー ID を解釈します。

このフィールド内容は '=' 記号とアプリケーション提供の値に連結され、完全なユーザー ID として LDAP ユーザー・レコードに置かれます。例えば、アプリケーション提供のユーザーが fred でフィールド値が cn の場合、LDAP リポジトリの cn=fred が検索されます。

この属性は、**AUTHTYPE** が IDPWLDAP の場合にのみ有効です。

z/OS DEFINE BUFFPOOL

主ストレージ内にメッセージを保持するために使用されるバッファ・プールを定義するには、MQSC コマンド DEFINE BUFFPOOL を使用します。

MQSC コマンドの使用

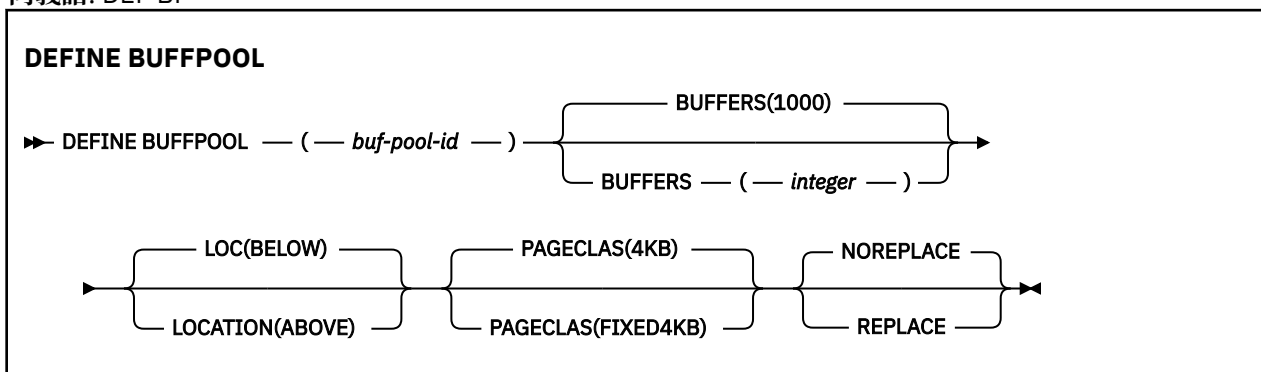
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			1

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [842 ページの『使用上の注意』](#)
- [842 ページの『DEFINE BUFFPOOL のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF BP



使用上の注意

1. キュー・マネージャーが開始したタスク・プロシージャで、CSQINP1 DD 連結によって識別されるデータ・セット内の DEFINE BUFFPOOL コマンドを指定します。
2. DISPLAY USAGE TYPE(PAGESET) コマンドを使用して、バッファ・プール情報を表示できます ([1237 ページの『DISPLAY USAGE』](#)を参照)。
3. ALTER BUFPOOL コマンドを使用して、定義済みのバッファ・プールの設定値を動的に変更できます ([655 ページの『ALTER BUFFPOOL』](#)を参照)。

DEFINE BUFFPOOL のパラメーターの説明

同じバッファ・プールに複数の DEFINE BUFFPOOL コマンドを発行すると、最後のコマンドのみが処理されます。

(buf-pool-id)

バッファ・プール ID。

このパラメーターは 0 から 15 の範囲の整数です。OPMODE が OPMODE=(NEWFUNC, 800) に設定されている場合、このパラメーターは 0 から 99 の範囲の整数です。

BUFFERS(integer)

このパラメーターは必須で、このバッファー・プールで使用する 4096 バイト・バッファーの数です。

LOCATION パラメーターの値が BELOW である場合、バッファーの最小値は 100 で、最大値は 500,000 です。LOCATION パラメーターの値が ABOVE のとき、有効値は 100 から 999999999 (9 が 9 個) までの範囲となる。LOCATION ABOVE によってバッファー・プール内のバッファーで使用されるストレージは、4MB の倍数で取得されます。そのため、1024 の倍数である BUFFERS 値を指定すると、ストレージが最も効率的に使用されます。

各バッファー・プール内に定義可能なバッファー数については、[バッファーおよびバッファー・プール](#)を参照してください。

バッファー・プールを定義する際は、2 GB 境界より上または下で、十分な量の使用可能ストレージが確保されるよう取り計らってください。詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

LOCATION(LOC)(BELOW または ABOVE)

LOCATION (または LOC) パラメーターは、指定したバッファー・プールによって使用されるメモリの位置を指定します。

LOCATION と LOC は同義語です。使用できるのはどちらか一方だけで、両方は使用できません。

このメモリ位置は、2 GB 境界より上 (64 ビット) または下 (31 ビット) で、それぞれ ABOVE と BELOW で指定されます。このパラメーターの有効値は、BELOW または ABOVE で、BELOW がデフォルトです。

ABOVE は、OPMODE(NEWFUNC, 800) が有効である場合にのみ指定できます。BELOW は、OPMODE(NEWFUNC, 800) が使用されているかどうかに関わらず指定可能で、LOCATION パラメーターを指定しない場合と同じ結果になります。

バッファー・プールを変更する際、バッファーの数を増やすか LOCATION 値を変更する場合には、十分な量の使用可能ストレージが確保されるように取り計らってください。バッファー・プールのロケーションの切り替えは、CPU および入出力を集中的に使用するタスクとなる可能性があります。このタスクは、キュー・マネージャーがあまり使用されていない場合に実行する必要があります。

詳しくは、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

PAGECLAS(4KB または FIXED4KB)

バッファー・プールのバッファーをバッキングする (補助ストレージに保管する) ために使用する仮想ストレージ・ページのタイプを記述するオプション・パラメーターです。

この属性は、ALTER BUFFPOOL コマンドを使用した結果として後から追加されたバッファーを含め、バッファー・プール内のすべてのバッファーに適用されます。デフォルト値は 4KB で、プール内のバッファーをバッキングするためにページング可能な 4KB ページが使用されます。

バッファー・プールの LOCATION 属性を BELOW に設定した場合は、4KB だけが有効な値です。バッファー・プールの LOCATION 属性が ABOVE に設定されている場合は、FIXED4KB を指定することもできます。これは、バッファー・プールのバッファーをバッキングするために、固定された 4KB ページを使用することを意味します。このページは、永続的に実ストレージに固定され、補助ストレージにページアウトされません。

FIXED4KB を指定できるのは、OPMODE(NEWFUNC, 800) が有効な場合のみです。それに対して、4KB は、OPMODE(NEWFUNC, 800) の設定とは無関係に指定できます。

バッファー・プールの PAGECLAS 属性は、いつでも変更できます。ただし、変更が実施されるのは、バッファー・プールのロケーションが 2 GB 境界より上から 2 GB 境界より下に切り替わる時 (または、その逆が起きるとき) のみです。それ以外の場合は、値がキュー・マネージャーのログに格納され、キュー・マネージャーの次の再始動時に適用されます。

PAGECLAS(FIXED4KB) を指定すると、バッファー・プール全体が、ページが固定された 4KB ページにバッキングされることになるため、LPAR に使用可能な実ストレージが十分であることを確認してくだ

さい。不足していると、キュー・マネージャーが始動できなかったり、他のアドレス・スペースが影響を受けたりすることがあります。詳細については、[アドレス・スペース・ストレージ](#)を参照してください。

PAGECLAS 属性の FIXED4KB 値をいつ使用するかについては、IBM MQ Support Pac [MP16: IBM MQ for z/OS -Capacity planning & tuning](#) を参照してください。

REPLACE/NOREPLACE

キュー・マネージャーのログに既に含まれている定義を、バッファ・プールのこの定義によってオーバーライドするかどうかを示すオプション属性です。

REPLACE

バッファ・プールのこの定義により、キュー・マネージャーのログに格納されている定義 (存在する場合) をオーバーライドします。この定義がキュー・マネージャーのログにある定義と異なる場合は、この差異が廃棄され、メッセージ [CSQP064I](#) が発行されます。

NOREPLACE

これがデフォルト値で、IBM MQ の前のリリースと同じ動作になります。バッファ・プールの定義がキュー・マネージャーのログにある場合、その定義が使用され、この定義は無視されます。



重要: キュー・マネージャーは、現在のバッファ・プール設定をチェックポイント・ログ・レコードに記録します。これらのバッファ・プール設定は、キュー・マネージャーが後で再始動する時に自動的に復元されます。この復元は、CSQINP1 データ・セットの処理が行われた後に実行されます。このため、最後にバッファ・プールを定義した後に **ALTER BUFFPOOL** を使用した場合は、**REPLACE** 属性を指定していないと、CSQINP1 内に **DEFINE BUFFPOOL** コマンドがあっても、再始動時には無視されます。

OPMODE=(NEWFUNC,800) から OPMODE=(COMPAT,800) への切り替え

OPMODE=(NEWFUNC,800) から OPMODE=(COMPAT,800) に切り替えると、以下の状態が生じます。

1. ID が 15 より大きいバッファ・プールはどれも、中断状態とマークされます。これは、これらのバッファ・プールは、OPMODE=(NEWFUNC,800) が再度指定されるまで、使用も削除も変更もできないことを意味します。バッファ・プールに関する情報は、OPMODE=(NEWFUNC,800) が再度指定されるまで、チェックポイント・ログ・レコードに保持されます。

中断されたバッファ・プールを使用するどのページ・セットも、中断されます。中断されたページ・セットに関する情報も、チェックポイント・レコードに保持されます。

中断されているページ・セット内のオブジェクト定義およびメッセージはどれも使用できません。中断されたページ・セットを使用するキューまたはトピックを使用しようとすると、MQRC_PAGESET_ERROR メッセージが出されます。

ユーティリティ・プログラム CSQUTIL の FORMAT 関数で TYPE(REPLACE) を指定することにより、中断状態にあるページ・セットを別のバッファ・プールに関連付けることができます。その後、**DEFINE PSID** コマンドを発行して、ページ・セットを別のバッファ・プールで再び使い始めることができます。

注: 中断されたページ・セットに関連していたすべての回復単位 (未確定の単位を除く) は、ページ・セットが最後に使用されたときのキュー・マネージャーによってバックアウトされます。未確定のリカバリー単位は、ページ・セットがキュー・マネージャーによって再び使用されるようになると、解決できません。

2. ID が 15 以下で LOCATION 属性が ABOVE に設定されているバッファ・プールはどれも、LOCATION 属性が BELOW に切り替わり、PAGECLAS 属性が 4KB に設定されます。

DEFINE CFSTRUCT

MQSC コマンド DEFINE CFSTRUCT は、カップリング・ファシリティ・アプリケーション構造体のキュー・マネージャー CF レベル機能、メッセージ・オフロード環境、およびバックアップとリカバリーのパラメーターを定義するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

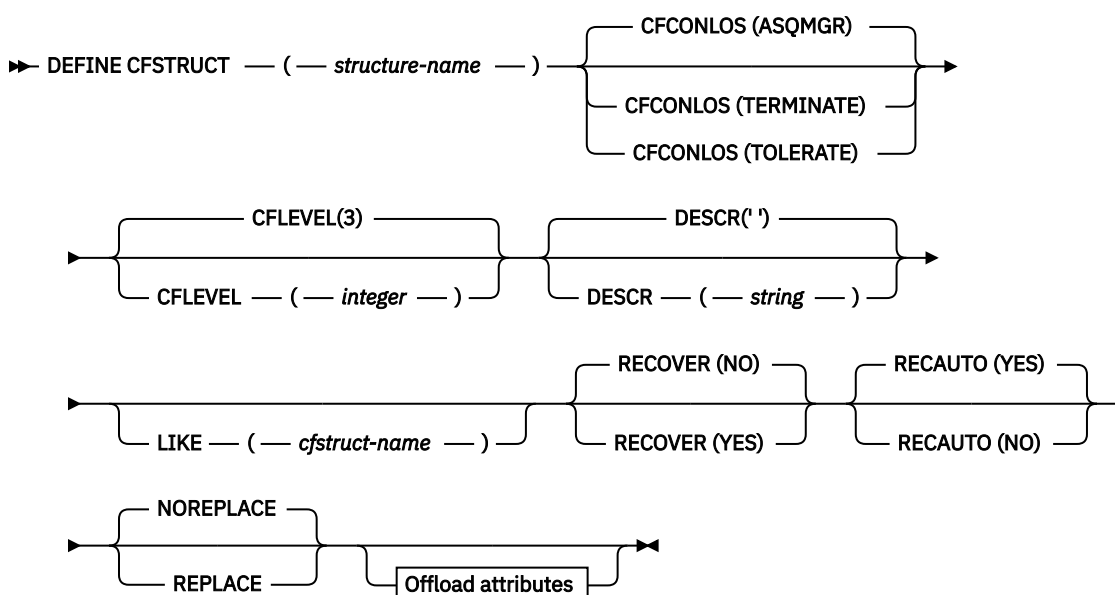
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

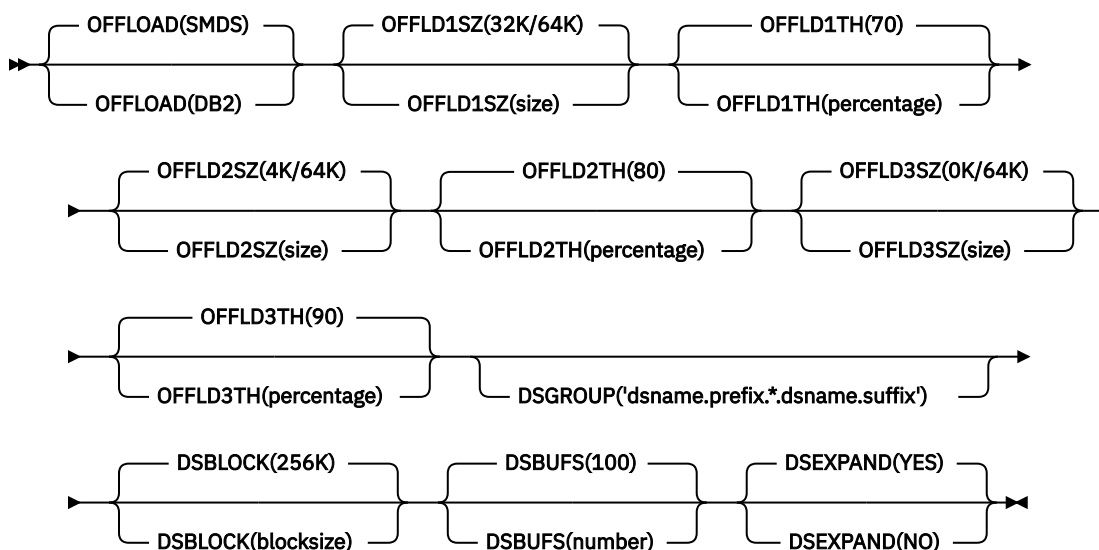
- [構文図](#)
- [846 ページの『DEFINE CFSTRUCT の使用上の注意』](#)
- [846 ページの『DEFINE CFSTRUCT のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF CFSTRUCT

DEFINE CFSTRUCT



Offload attributes



DEFINE CFSTRUCT の使用上の注意

1. このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
2. このコマンドは、CF 管理構造体 (CSQ_ADMIN) を指定できません。
3. 新しく定義された CF 構造体をキューが使用するためには、Coupling Facility Resource Management (CFRM) ポリシー・データ・セットで構造体が定義されていなければなりません。
4. バックアップおよびリカバリーが可能なのは、RECOVER(YES) が定義された CF 構造体だけです。

DEFINE CFSTRUCT のパラメーターの説明

(structure-name)

キュー・マネージャー CF レベル機能を備えたカップリング・ファシリティ・アプリケーション構造体の名前、および定義するバックアップ・パラメーターとリカバリー・パラメーター。このパラメーターは必須です。

名前には次の条件があります。

- 12 文字より長くすることはできません。
- 大文字で始める必要があります (A-Z)。
- A から Z と 0 から 9 の文字のみを含めることができます。

指定した名前には、キュー・マネージャーが接続されるキュー共有グループの名前が接頭部として付きます。キュー共有グループの名前は必ず 4 文字で、必要に応じて記号 @ が埋め込まれます。例えば、NY03 という名前のキュー共有グループを使用し、PRODUCT7 という名前を指定する場合、生成されるカップリング・ファシリティ構造体名は NY03PRODUCT7 です。キュー共有グループの管理構造体 (この場合は NY03CSQ_ADMIN) はメッセージの保管に使用できません。

CFCONLOS

このパラメーターは、キュー・マネージャーが CF 構造体に対する接続を失ったときに実行されるアクションを指定します。値は次のいずれかです。

ASQMGR

実行されるアクションは、CFCONLOS キュー・マネージャー属性の設定に基づきます。

TERMINATE

構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。

TOLERATE

構造体への接続が失われても、キュー・マネージャーはそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

CFLEVEL(integer)

この CF アプリケーション構造体の機能レベルを指定します。値は次のいずれかになります。

1

コマンド・レベル 520 のキュー・マネージャーによって「自動作成」できる CF 構造体。

2

コマンド・レベル 530 以上のキュー・マネージャーによってのみ作成または削除できる、コマンド・レベル 520 の CF 構造体。

3

コマンド・レベル 530 の CF 構造体。この CFLEVEL は、共有キュー上で持続メッセージを使用する場合 (RECOVER(YES) が設定されている場合) や、メッセージのグループ化 (ローカル・キューが INDXTYPE(GROUPID) で定義されている場合)、またはその両方が当てはまる場合に必須です。

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 530 以上である場合にのみ、CFLEVEL の値を 3 に上げることができます。それにより、構造体を参照するキューへの潜在的なコマンド・レベル 520 接続がなくなります。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (メッセージやコミットされていないアクティビティーがない) かつクローズしている場合にのみ、CFLEVEL の値を 3 から下げることができます。

4

この CFLEVEL はすべての CFLEVEL(3) 機能をサポートします。CFLEVEL(4) を使用することにより、このレベルの CF 構造体で定義されたキューに 63 KB より長いメッセージを保持できます。

コマンド・レベル 600 以上のキュー・マネージャーだけが CFLEVEL(4) の CF 構造体に接続できます。

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 600 以上である場合にのみ、CFLEVEL の値を 4 に上げることができます。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (メッセージやコミットされていないアクティビティーがない) かつクローズしている場合にのみ、CFLEVEL の値を 4 から下げることができます。

5

この CFLEVEL は CFLEVEL(4) のすべての機能をサポートします。さらに、CFLEVEL(5) では次の新機能が使用可能になります。既存の CFSTRUCT を CFLEVEL(5) に変更する場合は、次に示す他の属性を確認する必要があります。

- このレベルの CF 構造体で定義されたキューでは、OFFLOAD 属性の制御下で、メッセージ・データを共有メッセージ・データ・セット (SMDS) または Db2 にオフロードできます。オフロードしきい値パラメーターおよびオフロード・サイズ・パラメーター (OFFLD1TH および OFFLD1SZ など) は、そのサイズおよび現在の CF 構造体の使用状況に基づいて、特定のメッセージをオフロードするかどうかを判別します。SMDS オフロードを使用する場合、DSGROUP、DSBUFS、DSEXPAND、および DSBLOCK の各属性が考慮されます。
- CFLEVEL(5) の構造体を使用すると、キュー・マネージャーは CF 構造体への接続を失ってもそれを許容できます。CFCONLOS 属性は接続が失われたことが検出された場合のキュー・マネージャーの動作を決定し、RECAUTO 属性はそれに続く構造体の自動リカバリー動作を制御します。
- IBM MQ メッセージ・プロパティを含むメッセージは、CFLEVEL(5) 構造体内の共有キューに、異なる形式で保管されます。この形式により、内部処理が最適化されます。追加のアプリケーション移行機能も使用できます。これらの機能は、キューの PROPCTL 属性により使用可能になります。

コマンド・レベル 710 以上のキュー・マネージャーだけが CFLEVEL(5) の CF 構造体に接続できます。

注:

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 710 以上で、IBM WebSphere MQ 7.1.0 の新しい機能を OPMODE で有効にした場合にのみ、CFLEVEL の値を 5 に上げることができます。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (つまり、キューと CF 構造体にメッセージやコミットされていないアクティビティーがない)、かつクローズしている場合にのみ、CFLEVEL の値を 5 から下げることができます。

DESCR(string)

オペレーターが DISPLAY CFSTRUCT コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報を提供するプレーン・テキストのコメントです。

ストリングには表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

LIKE(cfstruct-name)

CFSTRUCT オブジェクトの名前。この定義をモデル化するために使用する属性と共に指定します。

すべての属性の初期値はオブジェクトからコピーされます。ただし、各構造体は独自の固有値を必要とするため、DSGROUP 属性はコピーされません。

OFFLOAD

オフロードされたメッセージ・データを、共有メッセージ・データ・セットのグループと Db2 のどちらに保管するかを指定します。

SMDS

カップリング・ファシリティからのメッセージを共有メッセージ・データ・セット (SMDS) にオフロードします。新しい構造体を CFLEVEL(5) で定義すると、この値がデフォルト解釈になります。

Db2

カップリング・ファシリティからのメッセージを Db2 にオフロードします。REPLACE オプションを指定した DEFINE を使用して、既存の構造体を CFLEVEL(5) に上げると、この値がデフォルト解釈になります。

Db2 を使用してメッセージをオフロードすると、パフォーマンスに大きく影響します。容量を増やす手段としてオフロード規則を使用する場合は、SMDS オプションを指定するかまたはデフォルト解釈されるようにしてください。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。CFLEVEL(4) では、メッセージは常に Db2 にオフロードされ、カップリング・ファシリティの最大エン트리・サイズより大きいメッセージにのみ適用されます。

注:

オフロードの手法を (Db2 から SMDS へ、またはその逆へ) 変更すると、新規メッセージはすべて新しい手法で書き込まれますが、その後も以前の手法で保管されている既存の大容量メッセージを取り出すことができます。関係する Db2 メッセージ・テーブルや共有メッセージ・データ・セットは、キュー・マネージャーが古い形式で保管されているメッセージが無くなったことを検出するまで、継続して使用されます。

SMDS が指定されているまたはデフォルト解釈されている場合は、DSGROUP パラメーターも必須です。これは、同じコマンドに、または同じ構造体に対する直前の DEFINE コマンドまたは ALTER コマンドに指定できます。

OFFLD1TH(percentage) OFFLD1SZ(size)**OFFLD2TH(percentage) OFFLD2SZ(size)****OFFLD3TH(percentage) OFFLD3SZ(size)**

カップリング・ファシリティの最大エン트리・サイズより小さいメッセージを、アプリケーション構造体に保管するのではなく、外部ストレージ (共有メッセージ・データ・セットまたは Db2 テーブル) にオフロードする場合の規則を指定します。これらの規則を使用して、構造体の有効な容量を増やすことができます。オフロードされたメッセージにも、メッセージ制御情報を含むカップリング・ファシリティ内のエン트리と、オフロードされたメッセージ・データを参照する記述子は必要ですが、必要とされる構造体スペースの量がメッセージ全体を保管するために必要とされる量より少なくて済みます。

メッセージ・データが非常に小さい (100 バイト程度) 場合は、データ・エレメントを追加しなくても、メッセージ制御情報と同じカップリング・ファシリティ・エン트리に収まる場合があります。この場合、保存できるスペースがないため、オフロード規則はすべて無視され、メッセージ・データはオフロードされません。実際数は、デフォルト・ヘッダーより多くのヘッダーが使用されているかどうか、またはメッセージ・プロパティが保管されているかどうかに応じて異なります。

カップリング・ファシリティの最大エン트리・サイズ (制御情報を含めて 63.75 KB) を超えるメッセージは、カップリング・ファシリティのエン트리に保管できないため、常にオフロードされます。制御情報に利用可能なスペースが十分取れるようにするために、メッセージ本文が 63 KB を超えるメッセージもオフロードされます。サイズの小さいメッセージのオフロードを要求する追加規則を、次のキーワードの対を使って指定できます。各規則が示すように、(エレメントまたは項目の) 構造

体の使用量が指定された比率しきい値を超えた場合に、メッセージ全体(メッセージ・データ、ヘッダー、および記述子を含む)を保管するために必要なカップリング・ファシリティ・エントリーの合計サイズが指定されたサイズ値を超えると、メッセージ・データがオフロードされます。ヘッダーと記述子の最小セットには約 400 バイトが必要ですが、他のヘッダーやプロパティが追加された場合は、さらに多くのバイト数が必要になる可能性があります。この数値は、使用される MQMD のバージョンが 1 より大きい場合にも大きくなります。

percentage

使用量の比率しきい値は、0 (規則を常に適用する) から 100 (構造体が満杯である場合にのみこの規則を適用する) の範囲の整数です。例えば、OFFLD1TH(75) OFFLD1SZ(32K) の場合、構造体の使用量が 75% を超えたときに、32 キロバイトより大きいサイズのメッセージがオフロードされることを意味します。

size

整数の後に K を付けて **0K** から **64K** の範囲のキロバイト数でメッセージ・サイズ値を指定します。63.75 KB を超えるメッセージは常にオフロードされるため、値 **64K** を指定することで、規則を使用しないことを簡単に示すことができます。

一般には、より少ない数字を指定するほど、オフロードされるメッセージの量も増えます。

いずれかのオフロード規則に合致すると、メッセージはオフロードされます。一般に前の規則よりも後の規則のほうの使用量のレベルが高くメッセージ・サイズが小さい設定にするというきまりがありますが、規則間の一貫性や冗長は検査されません。

構造体の ALTER 処理がアクティブである場合、使用中のエレメントまたは項目の数が報告された合計数を一時的に超え、100 を超えるパーセントが示されることがあります。これは、新しいエレメントや項目は ALTER 処理中に使用可能になりますが、合計は ALTER の完了時にのみ更新されるためです。そのような場合、しきい値に 100 を指定する規則が一時的に有効になることがあります。規則が使用されないようにするには、サイズとして **64K** を指定する必要があります。

新しい構造体を CFLEVEL(5) で定義する場合、または既存の構造体を CFLEVEL(5) にアップグレードする場合に、想定されるオフロード規則のデフォルト値は、OFFLOAD メソッドのオプションによって異なります。OFFLOAD(SMDS) の場合、デフォルト規則は、構造体が満杯になった場合にオフロードの量を増やすことを指定します。これにより、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えつつ、有効な構造体の容量が増えます。OFFLOAD(Db2) の場合、デフォルト規則のしきい値は SMDS のものと同じですが、サイズ値は 64K に設定され、CFLEVEL(4) の場合と同様に、規則が決して適用されず、メッセージは構造体に保管するには大きすぎる場合にのみオフロードされるようになります。

OFFLOAD(SMDS) の場合のデフォルトは次のとおりです。

- OFFLD1TH(70) OFFLD1SZ(32K)
- OFFLD2TH(80) OFFLD2SZ(4K)
- OFFLD3TH(90) OFFLD3SZ(0K)

OFFLOAD(Db2) の場合のデフォルトは次のとおりです。

- OFFLD1TH(70) OFFLD1SZ(64K)
- OFFLD2TH(80) OFFLD2SZ(64K)
- OFFLD3TH(90) OFFLD3SZ(64K)

現在のオフロード規則がすべて古いメソッドのデフォルト値に一致する場合に、OFFLOAD メソッド・オプションが Db2 から SMDS に、またはその逆に変更されると、オフロード規則は新しいメソッドのデフォルト値に切り替えられます。ただし、いずれかの規則が変更されている場合は、メソッドを切り替えても現行値が保持されます。

これらのパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。CFLEVEL(4) では、メッセージは常に Db2 にオフロードされ、カップリング・ファシリティの最大エントリー・サイズより大きいメッセージにのみ適用されます。

DSGROUP

OFFLOAD(SMDS) の場合、この構造体に関連付けられている共有メッセージ・データ・セットのグループに使用される総称データ・セット名を (キュー・マネージャーごとに 1 つ) 指定します。このとき、キュー・マネージャー名が挿入される場所を表すアスタリスクを 1 つだけ追加して、特定のデータ・セット名を表すようにします。

dsname.prefix.*.dsname.suffix

アスタリスクを最大 4 文字のキュー・マネージャー名で置き換える場合、値は有効なデータ・セット名でなければなりません。

パラメーター値全体を引用符で囲む必要があります。

構造体に対していずれかのデータ・セットがアクティブにされた後には、このパラメーターは変更できません。

SMDS が指定されているまたはデフォルト解釈されている場合は、DSGROUP パラメーターの指定も必須です。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

DSBLOCK

OFFLOAD(SMDS) の場合、論理ブロック・サイズ、つまり共有メッセージ・データ・セットのスペースを個別のキューに割り振る際に使用する単位を指定します。

8K

16K

32K

64K

128K

256K

512K

1M

各メッセージは、現在のブロック内の次のページから書き込まれ、必要に応じてさらにブロックが割り振られます。サイズを大きくすると、スペース管理に必要な作業と大容量メッセージの入出力が削減されますが、小さいキューのためのバッファー・スペース所要量とディスク・スペース所要量が増大します。

構造体に対していずれかのデータ・セットがアクティブにされた後には、このパラメーターは変更できません。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

DSBUFS

OFFLOAD(SMDS) の場合、共有メッセージ・データ・セットへのアクセス用に各キュー・マネージャー内で割り振るバッファーの数を、1 から 9999 までの範囲の数値で指定します。各バッファーのサイズは、論理ブロック・サイズと同じです。SMDS バッファーは、z/OS 64 ビット・ストレージ (2 GB 境界より上) にあるメモリー・オブジェクトに割り振られます。

number

このパラメーターは、ALTER SMDS の DSBUFS パラメーターを使用して、キュー・マネージャーごとに個別にオーバーライドすることができます。

このパラメーターが変更されると、既に構造体に接続しているキュー・マネージャー (および個別の DSBUFS オーバーライド値を持たないキュー・マネージャー) は、この構造体用を使用するデータ・セット・バッファーの数を新しい値に合わせて動的に増減させます。指定されたターゲット値に達しない場合、影響を受けるキュー・マネージャーは、(ALTER SMDS コマンドの場合と同様に) それ自身の SMDS 定義に関連付けられている DSBUFS パラメーターを実際の新しいバッファー数に合わせて調整します。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

DSEXPAND

OFFLOAD(SMDS) の場合、このパラメーターは、共有メッセージ・データ・セットが満杯に近くなり、データ・セットに追加のブロックが必要になった場合に、キュー・マネージャーが共有メッセージ・データ・セットを拡張するかどうかを制御します。

YES

拡張がサポートされます。

拡張が必要になるたびに、データ・セットが定義されたときに指定された 2 次割り振りの分だけデータ・セットが拡張されます。2 次割り振りが指定されていない場合、または 0 に指定されている場合は、既存のサイズの約 10 % の容量が 2 次割り振りに使用されます。

NO

データ・セットの自動拡張は行われません。

このパラメーターは、ALTER SMDS の DSEXPAND パラメーターを使用して、キュー・マネージャーごとに個別にオーバーライドすることができます。

拡張を試行して失敗すると、影響を受けるキュー・マネージャーの DSEXPAND オーバーライドは自動的に NO に変更され、それ以後は拡張を試行できなくなります。ただし、ALTER SMDS コマンドを使用して YES に戻し、その後も拡張が試行されるようにすることができます。

このパラメーターが変更されると、既に構造体に接続しているキュー・マネージャー (および個別の DSEXPAND オーバーライド値を持たないキュー・マネージャー) は、すぐに新しいパラメーター値の使用を開始します。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

RECOVER

CF リカバリーがアプリケーション構造体でサポートされるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

NO

CF アプリケーション構造体のリカバリーをサポートしません。(同義語は **N** です。)

YES

CF アプリケーション構造体のリカバリーをサポートします。(同義語は **Y** です。)

構造体の CFLEVEL が 3 以上の場合にのみ、RECOVER(YES) を設定できます。持続メッセージを使用する場合は、RECOVER(YES) を設定します。

キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 530 以上である場合にのみ、RECOVER(NO) を RECOVER(YES) に変更できます。それにより、CFSTRUCT を参照するキューへの潜在的なコマンド・レベル 520 接続がなくなります。

CF 構造体を参照するすべてのキューが空であり (メッセージやコミットされていないアクティビティがない) かつクローズしている場合にのみ、RECOVER(YES) を RECOVER(NO) に変更できます。

RECAUTO

キュー・マネージャーが構造体に障害が発生したことを検出したとき、またはキュー・マネージャーが構造体に対する接続を失ったときに、その構造体が割り振られているカップリング・ファシリティへの接続を持つシステムが SysPlex 内にはない場合に実行される自動リカバリー・アクションを指定します。指定可能な値は次のとおりです。

YES

構造体と、それに関連する (同様にリカバリーを必要とする) 共有メッセージ・データ・セットは、自動的にリカバリーされます (同義語は **Y** です)。

NO

構造体は自動的にリカバリーされません。(同義語は **N** です。)

このパラメーターは、RECOVER(NO) で定義された構造体には効果がありません。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義をこの定義で置き換えるかどうかを定義します。このパラメーターはオプションです。

REPLACE

同じ名前を持つ既存の定義をすべてこの定義で置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。REPLACE オプションを使用する場合、この CF 構造体を使用するキューはすべて空で、クローズされていなければなりません。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

DEFINE CHANNEL

新しいチャンネルを定義してそのパラメーターを設定するには、MQSC コマンド **DEFINE CHANNEL** を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

同義語: DEF CHL

- [852 ページの『使用上の注意』](#)
- [852 ページの『DEFINE CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

使用上の注意

- CLUSSDR チャンネルの場合、REPLACE オプションは手動で作成したチャンネルにのみ指定できます。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。このコマンドが完全に完了したことを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認](#)の [DEFINE CHANNEL](#) のステップを参照してください。

DEFINE CHANNEL のパラメーターの説明

以下の表に、各タイプのチャンネルに関連するパラメーターを示します。表の下に、各パラメーターの説明を示します。説明で必須であると記述されていない限り、パラメーターの指定はオプションです。

SDR

[891 ページの『送信側チャンネル』](#)

SVR

[893 ページの『サーバー・チャンネル』](#)

RCVR

[895 ページの『受信側チャンネル』](#)

RQSTR

[897 ページの『要求側チャンネル』](#)

CLNTCONN

[899 ページの『クライアント接続チャンネル』](#)

SVRCONN

[901 ページの『サーバー接続チャンネル』](#)

CLUSSDR

[903 ページの『クラスター送信側チャンネル』](#)

CLUSRCVR

[905 ページの『クラスター受信側チャンネル』](#)

表 61. DEFINE および ALTER CHANNEL パラメーター

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNTC ONN	SVRCO NN	CLUSSD R	CLUSR CVR	▶ V8.0.0.4 AMQP
<u>AFFINITY</u>					✓				
▶ V8.0.0.4 ▶ V8.0.0.4 <u>AMQPKA</u>									✓
<u>BACKLOG</u>									
<u>BATCHHB</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>BATCHINT</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>BATCHLIM</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>BATCHSZ</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>CERTLABL</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓
<u>channel-name</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>CHLTYPE</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>CLNTWGHT</u>					✓				
<u>CLUSNL</u>							✓	✓	
<u>CLUSTER</u>							✓	✓	
<u>CLWLPRTY</u>							✓	✓	
<u>CLWLRANK</u>							✓	✓	
<u>CLWLWGHT</u>							✓	✓	
▶ z/OS ▶ z/OS <u>CMDSCOPE</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>COMPHDR</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>COMPMSG</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>CONNAME</u>	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
<u>CONVERT</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>DEFCDISP</u>	✓	✓	✓	✓		✓			
<u>DEFRECON</u>					✓				
<u>DESCR</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

表 61. DEFINE および ALTER CHANNEL パラメーター (続き)

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNTC ONN	SVRCO NN	CLUSSD R	CLUSR CVR	V 8.0.0.4 AMQP
DISCINT	✓	✓				✓	✓	✓	
HBINT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
JAASCFG									
KAINT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
LIKE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
LOCLADDR	✓	✓		✓	✓		✓	✓	✓
LONGRTY	✓	✓					✓	✓	
LONGTMR	✓	✓					✓	✓	
MAXINST						✓			✓
MAXINSTC						✓			
MAXMSGL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MCANAME	✓	✓		✓			✓	✓	
MCATYPE	✓	✓		✓			✓	✓	
MCAUSER			✓	✓		✓		✓	✓
MODENAME	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
MONCHL	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	
MRDATA			✓	✓				✓	
MREXIT			✓	✓				✓	
MRRTY			✓	✓				✓	
MRTMR			✓	✓				✓	
MSGDATA	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MSGEXIT	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
NETPRTY								✓	
NPMSPEED	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
PASSWORD	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
V 8.0.0.4 V 8.0.0.4 PORT									✓
PROPCTL	✓	✓					✓	✓	
PUTAUT			✓	✓		✓		✓	

表 61. DEFINE および ALTER CHANNEL パラメーター (続き)									
パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNTC ONN	SVRCO NN	CLUSSD R	CLUSR CVR	V 8.0.0.4 AMQP
<u>QMNAME</u>					✓				
➤ z/OS ➤ z/OS <u>QSGDISP</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>RCVDATA</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>RCVEXIT</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>REPLACE</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SCYDATA</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SCYEXIT</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SENDDATA</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SENDEXIT</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SEQWRAP</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>SHARECNV</u>					✓	✓			
<u>SHORTRTY</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>SHORTTMR</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>SSLCAUTH</u>		✓	✓	✓		✓		✓	
<u>SSLCIPH</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>SSLKEYP</u>									
<u>SSLPEER</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>STATCHL</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>TPNAME</u>	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	
➤ V 8.0.0.4 ➤ V 8.0.0.4 <u>TPROOT</u>									✓
<u>TRPTYPE</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
➤ V 8.0.0.4 ➤ V 8.0.0.4 <u>USECLTID</u>									✓
<u>USEDLQ</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>USERID</u>	✓	✓		✓	✓		✓		
<u>XMITQ</u>	✓	✓							

AFFINITY

チャンネル・アフィニティー属性は、クライアント・アプリケーションが同じキュー・マネージャー名を使用して何度も接続する場合に使用します。この属性を使用することにより、クライアントが毎回の接続で同じチャンネル定義を使用するかどうかを選択することができます。この属性は、複数の適用可能なチャンネル定義がある場合に使用するためのものです。

PREFERRED

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。このリストは重み付けに基づいており、該当する CLNTWGHT (0) 定義が最初にアルファベット順に表示されます。プロセス内の各接続は、リスト内の最初の定義を使用して接続を試行します。接続が失敗した場合は、次の定義が使用されます。失敗した非 CLNTWGHT (0) 定義は、リストの末尾に移動されます。CLNTWGHT (0) 定義はリストの先頭に残り、接続ごとに最初に選択されます。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。同じホスト名を持つ各クライアント・プロセスは、同じリストを作成します。

NONE

CCDT を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。プロセス内のすべての接続は、最初にアルファベット順で選択された適用可能な CLNTWGHT (0) 定義を持つ加重に基づいて、適用可能な定義を選択します。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。

例えば、CCDT に次の定義があるとします。

```
CHLNAME(A) QMNAME (QM1) CLNTWGHT(3)
CHLNAME(B) QMNAME (QM1) CLNTWGHT(4)
CHLNAME(C) QMNAME (QM1) CLNTWGHT(4)
```

プロセスの最初の接続により、加重に基づいて順序付けられた独自のリストが作成されます。したがって、例えば、番号付きリスト CHLNAME(B)、CHLNAME(A)、CHLNAME(C)を作成することができます。

AFFINITY(PREFERRED) の場合、プロセス中、接続のたびに、CHLNAME(B) を使用して接続が試行されます。接続に失敗すると、定義はリストの末尾に移動され、リストは CHLNAME(A)、CHLNAME(C)、CHLNAME(B)になります。すると、プロセス中、接続のたびに、CHLNAME(A) を使用して接続が試行されます。

AFFINITY(NONE) の場合、プロセス中、接続のたびに、加重に基づいてランダムに選択された 3 つの定義のいずれかを使用して接続が試行されます。

会話の共有がゼロ以外のチャンネル加重および AFFINITY(NONE) を指定して有効にされている場合、複数の接続が既存のチャンネル・インスタンスを共有する必要はありません。それらの接続は、既存のチャンネル・インスタンスを共有しなくても、別々のアプリケーション定義を使用して同じキュー・マネージャー名に接続できます。

AMQPKA(integer)

AMQP チャンネルのキープアライブ時間 (秒単位)。AMQP クライアントがキープアライブ間隔内にフレームをまったく送信しなかった場合、接続は `amqp:resource-limit-exceeded` AMQP エラー状態で閉じられます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が AMQP のチャンネルにのみ有効です。

BATCHHB(integer)

バッチ・ハートビートを使用するかどうかを指定します。値はハートビートの長さ (ミリ秒単位) です。

バッチ・ハートビートを使用すると、メッセージをバッチでコミットする直前に、送信側チャンネルは受信側チャンネルがまだアクティブであるかを確認します。受信側チャンネルがアクティブでない場合は、バッチを通常の場合のように未確定にするのではなく、バックアウトすることができます。バッチをバックアウトすることによって、メッセージは処理可能な状態にとどまるので、例えば、メッセージを別のチャンネルにリダイレクトできます。

バッチ・ハートビート間隔内に、送信側チャンネルに受信側チャンネルからの通信を受信した場合、受信側チャンネルはアクティブであると見なされます。その他の場合、検査のために「ハートビート」が受信側チャンネルに送信されます。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。ゼロの値は、バッチ・ハートビートが使用されないことを示します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) を持つチャンネルに対して有効です。SDR、SVR、CLUSSDR、および CLUSRCVR のみ。

BATCHINT (*integer*)

チャンネルがバッチをオープンしたままにする、ミリ秒単位の最小時間。

バッチは、次の条件のいずれかが満たされた場合に終了します。

- BATCHSZ メッセージが送信された。
- BATCHLIM キロバイトが送信された。
- 伝送キューが空で、BATCHINT が経過した。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。ゼロは、伝送キューが空になる (または BATCHSZ 制限に達する) とすぐにバッチが終了することを意味します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) を持つチャンネルに対して有効です。SDR、SVR、CLUSSDR、および CLUSRCVR のみ。

BATCHLIM (*integer*)

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能なデータ量 (キロバイト) の限度を指定します。限度に達した際のメッセージがチャンネルを通して送信された後に、同期点が取られます。この属性の値がゼロの場合、それはこのチャンネルに対するバッチに適用されるデータ限度がないことを意味します。

バッチは、次の条件のいずれかが満たされた場合に終了します。

- BATCHSZ メッセージが送信された。
- BATCHLIM キロバイトが送信された。
- 伝送キューが空で、BATCHINT が経過した。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) を持つチャンネルに対して有効です。SDR、SVR、CLUSSDR、および CLUSRCVR のみ。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 5000 です。

このパラメーターは、すべてのプラットフォームでサポートされています。

BATCHSZ (*integer*)

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能な最大メッセージ数を指定します。

実際に用いられる最大バッチ・サイズは、次の値のうちの最小のものです。

- 送信側チャンネルの BATCHSZ。
- 受信側チャンネルの BATCHSZ。
-  z/OS では、送信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数よりも 3 少ない数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。
- 分散プラットフォームでは、送信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。
-  z/OS では、受信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数よりも 3 少ない数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。
- 分散プラットフォームでは、受信側キュー・マネージャーで許可される、コミットされていないメッセージの最大数 (または、この値がゼロ以下の場合は 1)。

NPMSPEED (FAST) チャンネルを介して送信される非持続メッセージはキューに即時に (バッチの完了を待たずに) 配信されますが、それらのメッセージはそのチャンネルのバッチ・サイズに加算されるので、BATCHSZ メッセージが流れると確認フローが発生します。

NPMSPEED が FAST に設定されていて、非持続メッセージのみ移動するときに、バッチ・フローがパフォーマンスに影響している場合には、BATCHSZ を最大許容値の 9999 に設定し、BATCHLIM をゼロに設定することを考慮してください。

さらに、BATCHINT を 999999999 などの大きな値に設定すると、伝送キュー上で待機している新しいメッセージがなくても、各バッチが「オープン」状態になる時間が長くなります。

上記のように設定すると確認フローの頻度は最小になりますが、このように設定してチャンネルを介して持続メッセージを移動する場合に、これらの持続メッセージのみの配信の際に大幅な遅延が発生することに注意してください。

コミットされていないメッセージの最大数は、ALTER QMGR コマンドの MAXUMSGS パラメーターによって指定されます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RCVR、RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

値は 1 から 9999 の範囲でなければなりません。

CERTLABL

使用するこのチャンネルの証明書ラベル。

ラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書をリモート・ピアに送信するかを指定します。この属性をブランクにした場合、証明書はキュー・マネージャーの **CERTLABL** パラメーターによって決定されます。

インバウンド・チャンネル (受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、非修飾サーバー・チャンネル、およびサーバー接続チャンネルを含む) は、リモート・ピアの IBM MQ のバージョンが証明書ラベルの構成を完全にサポートしており、チャンネルが TLS CipherSpec を使用している場合にのみ、構成済みの証明書を送信する点に注意してください。

詳しくは、[楕円曲線と RSA CipherSpec の相互運用性](#)を参照してください。

それ以外の場合、送信される証明書は、キュー・マネージャーの **CERTLABL** パラメーターで決定されます。特に以下においては、チャンネル固有のラベル設定にかかわらず、キュー・マネージャーの **CERTLABL** パラメーターによって構成された証明書のみを受信します。

- 現行のすべての Java クライアントおよび JMS クライアント。
- IBM MQ より前のバージョン 8.0 のバージョン。

チャンネルの CERTLABL に変更を加えた場合、REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドを実行する必要はありません。ただし、キュー・マネージャーの CERTLABL に変更を加えた場合、REFRESH SECURITY TYPE(SSL) コマンドを実行する必要があります。

注: クラスター送信側チャンネルに対してこの属性を照会 (または設定) するのは誤りです。これを行おうとすると、エラー MQRCCF_WRONG_CHANNEL_TYPE を受け取ります。ただし、この属性はクラスター送信側チャンネル・オブジェクト (MQCD 構造体も含む) に存在し、必要に応じてチャンネル自動定義 (CHAD) 出口がその属性をプログラムで設定する場合があります。

(channel-name)

新しいチャンネル定義の名前。

このパラメーターは、すべてのタイプのチャンネルで必須です。CLUSDR チャンネルでは、他のチャンネル・タイプとは異なる形式をとることができます。CLUSDR チャンネルの命名規則にキュー・マネージャーの名前が含まれている場合は、+ QMNAME + 構造を使用して CLUSDR チャンネルを定義できます。一致する CLUSRCVR チャンネルに接続した後、IBM MQ は、CLUSDR チャンネル定義の + QMNAME + を正しいリポジトリ・キュー・マネージャー名に置き換えます。この機能は AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合にのみ適用されます。[クラスターのコンポーネント](#)を参照してください。

この名前は、このキュー・マネージャー上で定義されている既存のチャンネルの名前と同じであってはなりません。ただし、REPLACE または ALTER が指定されている場合を除きます。z/OS では、CLNTCONN チャンネル名が他のものと重複してもかまいません。

ストリングの最大長は 20 文字で、有効な文字しか含めることができません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。このパラメーターは必須です。  z/OS 以外のプラットフォームでは、(channel-name) パラメーターの直後に指定する必要があります。

SDR

送信側チャンネル

SVR

サーバー・チャンネル

RCVR

受信側チャンネル

RQSTR

要求側チャンネル

CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

SVRCONN

サーバー接続チャンネル

CLUSSDR

CLUSSDR チャンネル。

CLUSRCVR

Cluster-receiver channel.

AMQP

AMQP チャンネル

注：REPLACE オプションを使用した場合、チャンネル・タイプの変更はできません。

CLNTWGHT

クライアント・チャンネル加重属性は、複数の適切な定義が使用可能である場合に、加重に基づいてクライアント・チャンネル定義をランダムに選択するために設定します。0 から 99 の範囲の値を指定します。

特殊値 0 は、ランダムなロード・バランシングが実行されずに、適用可能な定義がアルファベット順に選択されることを示します。ランダムなロード・バランシングを使用可能にするには、値を 1 から 99 の範囲で指定する必要があります。1 は最低加重、99 は最高加重です。

クライアント・アプリケーションがキュー・マネージャー名 * name を指定して MQCONN を発行すると、クライアント・チャンネル定義をランダムに選択できます。定義は、加重に基づいてランダムに選択されます。該当する CLNTWGHT (0) 定義があれば、アルファベット順で最初に選択されます。クライアント接続定義の選択におけるランダム性は保証されていません。

例えば、CCDT に次の 2 つの定義があるとします。

```
CHLNAME(TO.QM1) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address1) CLNTWGHT(2)
CHLNAME(TO.QM2) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address2) CLNTWGHT(4)
```

キュー・マネージャー名が *GRP1 であるクライアント MQCONN は、チャンネル定義の加重に基づいて、2 つの定義のいずれかを選択します (ランダムな整数が、1 から 6 の間で生成されます。この整数が 1 から 2 の範囲である場合、address1 が使用され、それ以外の場合は address2 が使用されます)。この接続が失敗すると、クライアントはもう 1 つの定義を使用します。

CCDT には、ゼロとゼロ以外の両方の加重を持つ適用可能な定義が含まれる可能性があります。このような場合、ゼロの加重を持つ定義が最初に、アルファベット順に選択されます。これらの接続が失敗した場合、ゼロ以外の加重を持つ定義が、加重に基づいて選択されます。

例えば、CCDT に次の 4 つの定義があるとします。

```
CHLNAME(TO.QM1) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address1) CLNTWGHT(1)
CHLNAME(TO.QM2) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address2) CLNTWGHT(2)
CHLNAME(TO.QM3) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address3) CLNTWGHT(0)
CHLNAME(TO.QM4) CHLTYPE(CLNTCONN) QMNAME(GRP1) CONNAME(address4) CLNTWGHT(0)
```

*GRP1 というキュー・マネージャー名を持つクライアント MQCONN が、最初に定義 TO.QM3 を選択します。この接続が失敗すると、クライアントは次に定義 TO.QM4 を選択します。この接続も失敗した場合、クライアントは次に残る 2 つの定義のいずれかを、加重に基づいて選択します。

CLNTWGHT は、すべてのトランスポート・プロトコルでサポートされています。

CLUSNL (*nlname*)

そのチャンネルが所属するクラスターのリストを指定した名前リスト名。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) のチャンネルにのみ有効です。CLUSDR および CLUSRCVR チャンネル。CLUSTER または CLUSNL の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。もう一方はブランクにする必要があります。

CLUSTER (*clustername*)

チャンネルが所属するクラスターの名前。最大長は 48 文字で、IBM MQ オブジェクトの命名規則に従います。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) のチャンネルにのみ有効です。CLUSDR および CLUSRCVR チャンネル。CLUSTER または CLUSNL の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。もう一方はブランクにする必要があります。

CLWLPRTY (*integer*)

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルの優先順位を指定します。値の範囲はゼロ (最低の優先度) から 9 (最高の優先度) でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) のチャンネルにのみ有効です。CLUSDR および CLUSRCVR チャンネル。

この属性の詳細については、[CLWLPRTY チャンネル属性](#)を参照してください。

CLWLRANK (*integer*)

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルのランクを指定します。値は 0 から 9 の範囲でなければなりません (0 が最低ランク、9 が最高ランク)。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) のチャンネルにのみ有効です。CLUSDR および CLUSRCVR チャンネル。

この属性について詳しくは、[CLWLRANK チャンネル属性](#)を参照してください。

CLWLWGHT (*integer*)

チャンネル経由で送信されるメッセージの比率をワークロード管理によって制御するために、チャンネルに適用する加重値を指定します。値の範囲は 1 (最低ランク) から 99 (最高ランク) でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) のチャンネルにのみ有効です。CLUSDR および CLUSRCVR チャンネル。

この属性について詳しくは、[CLWLWGHT チャンネル属性](#)を参照してください。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクのままにしておくか、または QSGDISP が GROUP に設定されている場合はローカル・キュー・マネージャー名に設定してください。

、

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

QmgrName

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

コマンドが入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定できます。この場合、共有キュー環境を使用し、コマンド・サーバーが使用可能である必要があります。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。★は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

COMPHDR

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。

SDR、SVR、CLUSSDR、CLUSRCVR、および CLNTCONN チャンネルの場合、値は優先順に指定する必要があります。チャンネルのリモート・エンドでサポートされる、リスト内の最初の圧縮手法が使用されます。

チャンネルの双方でサポートされる圧縮技法が送信側チャンネルのメッセージ出口に渡されます。メッセージ出口では圧縮技法をメッセージごとに変更できます。圧縮により、送信および受信出口に渡されたデータが変更されます。

NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

COMPMSG

チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。

SDR、SVR、CLUSSDR、CLUSRCVR、および CLNTCONN チャンネルの場合、値は優先順に指定する必要があります。チャンネルのリモート・エンドでサポートされる、リスト内の最初の圧縮手法が使用されます。

チャンネルの双方でサポートされる圧縮技法が送信側チャンネルのメッセージ出口に渡されます。メッセージ出口では圧縮技法をメッセージごとに変更できます。圧縮により、送信および受信出口に渡されたデータが変更されます。

NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

 **zEDC Express** 機能が使用可能に設定された z/OS システムでは、圧縮を zEDC Express にオフロードすることができます。

ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

ANY

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。この値は、RCVR、RQSTR、および SVRCONN チャンネルでのみ有効です。

CONNAME (string <, string >)

接続名。

CLUSRCVR チャンネルの場合、CONNAME はローカル・キュー・マネージャーに関連し、その他のチャンネルの場合、接続名はターゲット・キュー・マネージャーに関連します。

z/OS z/OS では、CLUSRCVR チャンネルの場合に CONNAME が必須です。それに加えて、CONNAME を指定する場合と、自動的に生成された名前を使用する場合のどちらでも、生成される CONNAME はローカル・キュー・マネージャーの有効な接続名でなければなりません。そうでないと、フル・リポジトリーはローカル・キュー・マネージャーへの接続を行うことができません。

z/OS z/OS では、ストリングの最大長は 48 文字です。

分散プラットフォームでは、ストリングの最大長は 264 文字です。

この 48 文字の長さ制限を回避するには、以下の方法のいずれかが考えられます。

- 短いホスト名を使用できることを確認して、例えば、ホスト名 `myserver` を `myserver.location.company.com` の代わりに使用できるように、DNS サーバーをセットアップします。
- IP アドレスを使用する。

CONNAME は、記述した TRPTYPE のマシンの名前をコンマで区切ったリストとして指定してください。通常、必要なマシン名は 1 つだけです。複数のマシン名を指定して、同じプロパティーで複数の接続を構成することができます。接続は、通常は正常に確立されるまで、接続リストに指定された順序で試行されます。CLNTWGHT 属性が指定されている場合は、クライアントに対して順序が変更されます。どの接続も成功しなかった場合、チャンネルの属性によって決められたとおりに、チャンネルは再接続を試みます。クライアント・チャンネルでは、キュー・マネージャー・グループの代わりに、接続リストを使用して複数接続を構成することができます。メッセージ・チャンネルでは、複数インスタンス・キュー・マネージャーの代替アドレスへの接続を構成するために、接続リストが使用されます。

CONNAME は、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、RQSTR、CLNTCONN、および CLUSSDR のチャンネルでは必須です。SVR チャンネルおよび TRPTYPE (TCP) の CLUSRCVR チャンネルではオプションです。RCVR チャンネルまたは SVRCONN チャンネルでは無効です。

複数の接続名をリストに指定する方法は、初めて IBM WebSphere MQ バージョン 7.0.1 でサポートされました。それによって、CONNAME パラメーターの構文が変更になっています。以前のクライアントおよびキュー・マネージャーは、リスト内の最初の接続名を使用して接続し、リスト内の残りの接続名は読み取りません。以前のクライアントやキュー・マネージャーが新しい構文を解析できるようにするために、リスト内の最初の接続名にポート番号を指定してください。IBM WebSphere MQ バージョン 7.0.1 より前のレベルで稼働しているクライアントまたはキュー・マネージャーからチャンネルに接続する際に、ポート番号を指定することにより問題を回避できます。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows プラットフォームでは、クラスター受信側チャンネルの TCP/IP 接続名パラメーターはオプションです。接続名をブランクにすると、IBM MQ はデフォルト・ポートを想定し、システムの現行 IP アドレスを使用して接続名を自動的に生成します。デフォルト・ポート番号をオーバーライドしても、システムの現行 IP アドレスを引き続き使用できます。各接続名について、IP 名をブランクにして、次のように括弧で囲んだポート番号を指定してください。

(1415)

生成される CONNAME は常にドット 10 進 (IPv4) 形式または 16 進 (IPv6) 形式であり、英数字の DNS ホスト名の形式ではありません。

ヒント: 接続名に特殊文字 (括弧など) を使用する場合は、ストリングを単一引用符で囲まなければなりません。

指定する値は、次のように、使用するトランスポート・タイプ (TRPTYPE) によって異なります。

LU62

- **z/OS** z/OS では、次の 2 とおりの形式を使用して値を指定します。

論理装置 (LU) 名

キュー・マネージャーの論理装置名。論理装置名、TP 名、およびオプション・モード名で構成されます。論理装置名は、次の 3 つの形式のいずれかで指定できます。

形式	例
luname	IGY12355
luname/TPname	IGY12345/APING
luname/TPname/modename	IGY12345/APINGD/#INTER

最初の形式を使用する場合は、TPNAME パラメーターと MODENAME パラメーターに対して、それぞれ TP 名とモード名を指定する必要があります。それ以外の形式を使用する場合は、これらのパラメーターは必ずブランクにしてください。

注: CLNTCONN チャンネルでは、最初の形式しか使用できません。

シンボル名

キュー・マネージャーの論理装置名を表すシンボリック宛先名。この名前はサイド情報データ・セットに定義されています。TPNAME パラメーターと MODENAME パラメーターはブランクでなければなりません。

注: CLUSRCVR チャンネルにおけるサイド情報は、クラスター内の他のキュー・マネージャーに関するものです。代わりにその情報を名前にすることができます。これによって、チャンネル自動定義出口はその名前を該当するローカル・キュー・マネージャーの論理装置名に変換できます。

指定する LU 名または暗黙の LU 名は、VTAM 汎用リソース・グループの名前にすることができます。

- AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合では、CONNAME は CPI-C 通信サイド・オブジェクトの名前です。あるいは、TPNAME がブランクでない場合、CONNAME はパートナー論理装置の完全修飾名です。  [LU 6.2 接続の構成パラメーター](#) を参照してください。

NetBIOS

固有の NetBIOS 名 (16 文字に制限)。

SPX

4 バイトのネットワーク・アドレス、6 バイトのノード・アドレス、2 バイトのソケット番号。これらの値は、16 進数で指定し、ネットワーク・アドレスとノード・アドレスはピリオドで区切って入力する必要があります。ソケット番号は、次の例のように括弧で囲んでください。

```
CONNAME('0a0b0c0d.804abcde23a1(5e86)')
```

TCP

ホスト名、またはリモート・マシン (または CLUSRCVR チャンネルのローカル・マシン) のネットワーク・アドレス。このアドレスの後に、オプションのポート番号が括弧で囲まれて続く場合もあります。

CONNAME がホスト名の場合、そのホスト名は IP アドレスに解決されます。

通信に使用される IP スタックは、CONNAME に指定された値および LOCLADDR に指定された値によって異なります。この値の解決方法については、[LOCLADDR](#) を参照してください。

 **z/OS** z/OS では、z/OS 動的 DNS グループまたはネットワーク・ディスパッチャー入力ポートの IP_name を、接続名に含めることができます。チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLUSSDR のチャンネルには、IP_name または入力ポートを含めないでください。

AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows 、および z/OS では、キュー・マネージャーのネットワーク・アドレスを常に指定する必要はありません。TCP/IP を使用しているチャ

ネルのチャンネル・タイプ (CHLTYPE) に CLUSRCVR を指定して定義すると、IBM MQ は CONNAME を生成します。CONNNAME にはデフォルトのポートが想定され、システムの現在の IPv4 アドレスが使用されます。システムに IPv4 アドレスがない場合は、システムの現行 IPv6 アドレスが使用されます。

注: IPv6 専用キュー・マネージャーと IPv4 専用キュー・マネージャーの間でクラスタリングを使用する場合、CLUSRCVR チャンネルの CONNAME として IPv6 ネットワーク・アドレスを指定しないでください。IPv4 通信にのみ対応したキュー・マネージャーは、IPv6 の 16 進数形式で CONNAME を指定する CLUSSDR チャンネル定義を開始できません。代わりに、異種 IP 環境でホスト名を使用することを検討してください。

CONVERT

受信側のメッセージ・チャンネル・エージェントがアプリケーション・メッセージ・データを変換できない場合、送信側のメッセージ・チャンネル・エージェントが、その変換を行うべきかどうかを指定します。

NO

送信側による変換なし。

YES

送信側による変換。

 z/OS では、N および Y は、NO および YES の同義語として受け入れられます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

DEFCDISP

チャンネルのデフォルト・チャンネル属性指定を指定します。

PRIVATE

このチャンネルは、専用チャンネルとして属性指定されることが意図されています。

FIXSHARED

このチャンネルは、特定のキュー・マネージャーと関連付けられた共有チャンネルとして属性指定されることが意図されています。

SHARED

このチャンネルは、共有チャンネルとして属性指定されることが意図されています。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN、CLUSSDR、または CLUSRCVR であるチャンネルには適用されません。

DEFRECON

クライアント接続がクライアント・アプリケーションへの接続から切断した場合に、自動的に再接続するかどうかを指定します。

NO

MQCONN によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続されません。

YES

MQCONN によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続します。

QMGR

MQCONN によってオーバーライドされない限り、クライアントは、同じキュー・マネージャーに対してのみ自動的に再接続します。QMGR オプションは MQCNO_RECONNECT_Q_MGR と同じ効果があります。

DISABLED

MQCONN MQI 呼び出しを使用してクライアント・プログラムによって要求された場合でも、再接続は無効になります。

表 62. アプリケーションおよびチャネル定義に設定された値によって異なる自動再接続				
DEFRECON	アプリケーションで設定される再接続オプション			
	MQCNO_RECONNECT	MQCNO_RECONNECT_Q_MGR	MQCNO_RECONNECT_AS_DEF	MQCNO_RECONNECT_DISABLED
NO	YES	QMGR	NO	NO
YES	YES	QMGR	YES	NO
QMGR	YES	QMGR	QMGR	NO
DISABLED	NO	NO	NO	NO

DESCR (string)

平文コメント。オペレーターが **DISPLAY CHANNEL** コマンドを発行すると、チャネルに関する記述情報が提供されます。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: 情報が別のキュー・マネージャーに送信された場合には、正しく変換されないことがあります。ローカル・キュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) に含まれる文字を使用してください。

DISCINT (integer)

チャネルが伝送キューにメッセージが着信するのを待機する最小時間 (秒単位)。バッチが終了すると、待機時間が開始します。待機時間の終了後にメッセージが何も残っていないと、チャネルは終了します。値 0 を指定すると、メッセージ・チャネル・エージェントは無期限に待機します。

値は 0 から 999 999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN、SDR、SVR、CLUSSDR、CLUSRCVR のチャネルにのみ有効です。

TCP プロトコルを使用する SVRCONN チャネルの場合、DISCINT の解釈は異なります。この場合は、パートナー・クライアントからの通信が何もないときに、SVRCONN インスタンスがアクティブ状態を保つ最小時間 (秒単位) です。値を 0 にすると、この切断処理は無効になります。SVRCONN 非アクティブ間隔は、クライアントからの IBM MQ API 呼び出しの合間にのみ適用されるため、待機呼び出しを伴う長期の MQGET でクライアントが切断されることはありません。この属性は、TCP 以外のプロトコルを使用する SVRCONN チャネルでは無視されます。

HBINT (integer)

HBINT は、メッセージ・チャネル・エージェント (MCA) によって送信されるハートビート・フローの間隔時間の概算値を指定します。このフローは、伝送キューにメッセージがないときに送信されます。

ハートビート・フローは、メッセージの到着または切断インターバルの満了を待機している受信 MCA を非ブロック化します。受信 MCA が非ブロック化された場合には、そこで切断インターバルが満了するのを待たずにチャネルを切断することができます。ハートビート・フローは、また、大きなメッセージのために割り振られているすべてのストレージ・バッファを解放します。また、チャネル受信終了時に開いたままになっているキューがあれば、そのキューを閉じます。

値は秒単位であり、範囲は 0 から 999999 でなければなりません。値 0 は、ハートビート・フローが送信されないことを意味します。デフォルト値は 300 です。最大限活用するには、この値が切断インターバル値より低いものでなければなりません。

SVRCONN チャネルおよび CLNTCONN チャネルでは、ハートビートはサーバー・サイドおよびクライアント・サイドの両方から個々に流れることがあります。ハートビート間隔の間にチャネルを通してデータが転送されないと、CLNTCONN MQI エージェントはハートビート・フローを送信します。SVRCONN MQI エージェントは、それに対してハートビート・フローを送り返して応答します。これらのフローは、チャネルの状態に関係なく送信されます。例えば、API 呼び出しの作成中にチャネルが活動状態でなくても、クライアントのユーザー入力を待機中に活動状態でなくても、関係なく送信されます。

SVRCONN MQI エージェントも、同様にチャンネルの状態に関係なく、クライアントへのハートビートを開始することができます。SVRCONN MQI エージェントと CLNTCONN MQI エージェントは、互いに同時にハートビートを送信することがないように調整されています。サーバーのハートビートは、ハートビート間隔より 5 秒長い時間待ってもチャンネルを通してデータが転送されなかった場合に流れます。

IBM WebSphere MQ 7.0 より前のチャンネル・モードで動作するサーバー接続チャンネルおよびクライアント接続チャンネルの場合、サーバー MCA が WAIT オプションを指定した MQGET コマンドを待機していて、クライアント・アプリケーションの代わりにこのコマンドを発行した場合にのみ、ハートビート・フローが送信されます。

詳しくは、[ハートビート間隔 \(HBINT\)](#) を参照してください。

KAINT (*integer*)

値は、チャンネルのキープアライブ・タイミングのために、通信スタックに渡されます。

この属性を有効にするには、TCP/IP キープアライブをキュー・マネージャー、および TCP/IP の両方において使用可能にする必要があります。

z/OS z/OS では、ALTER QMGR TCPKEEP (YES) コマンドを発行することによって、キュー・マネージャーの TCP/IP キープアライブを有効にします。ただし、キュー・マネージャーの TCPKEEP パラメーターが NO であると、この値は無視され、キープアライブ機能は使用されません。

分散プラットフォームでは、TCP スタンザに KEEPALIVE=YES パラメーターが指定されていれば、TCP/IP キープアライブが有効になります。TCP スタンザの変更は、分散キューイング構成ファイル qm.ini または IBM MQ Explorer で行えます。

TCP/IP 自体の中でもキープアライブをオンに切り替える必要があります。キープアライブの構成について詳しくは、TCP/IP の資料を参照してください。AIX では、**no** コマンドを使用します。HP-UX では、**ndd** コマンドを使用します。Windows ではレジストリーを編集します。

z/OS z/OS では、TCP/IP PROFILE データ・セットを更新して、TCPCONFIG セクションで INTERVAL パラメーターを追加または変更します。

z/OS このパラメーターはすべてのプラットフォームで使用可能ですが、設定は z/OS にのみ実装されています。

分散プラットフォームでは、このパラメーターにアクセスおよび変更できますが、保管と転送のみです。パラメーターが機能的に実装されるわけではありません。この機能は、例えば Solaris 上のクラスター受信側チャンネル定義で設定された値が、クラスターの中にあるかクラスターに参加する z/OS のキュー・マネージャーに流れる (またそれによって実装される) 場合のようなクラスター構成環境で役立ちます。

分散プラットフォームでは、KAINT パラメーターによって提供される機能が必要な場合は、ハートビート間隔 (HBINT) を使用します。パラメーター ([HBINT](#) を参照)。

(*integer*)

使用されるキープアライブ間隔。1 から 99999 の範囲の値で、単位は秒です。

0

使用される値は、TCP プロファイル構成データ・セット内の INTERVAL ステートメントによって指定された値です。

AUTO

キープアライブ間隔は、次のように、折衝されたハートビート値に基づいて計算される。

- 折衝された HBINT がゼロより大きい場合、キープアライブ間隔はその値に 60 秒を加えた値に設定されます。
- 折衝された HBINT が 0 である場合、使用されるキープアライブ値は、TCP/IP PROFILE 構成データ・セット内の INTERVAL ステートメントによって指定された値です。

KAINT に AUTO が設定されており、かつサーバー接続チャンネルである場合、キープアライブ間隔の代わりに TCP INTERVAL の値が使用されます。

この場合、DISPLAY CHSTATUS で KAINTE はゼロと表示されます。AUTO ではなく整数がコーディングされている場合はゼロ以外になります。

このパラメーターは、すべてのチャンネル・タイプで有効です。このパラメーターは、TRPTYPE が TCP または SPX 以外のチャンネルの場合には無視されます。

LIKE (*channel-name*)

チャンネルの名前。チャンネルのパラメーターが、この定義のモデルとして使われます。

LIKE を設定せず、コマンドに関連したパラメーター・フィールドも設定しない場合、このオプションの値にはいずれかのデフォルト・チャンネルの値が設定されます。デフォルト値はチャンネル・タイプによって異なります。

SYSTEM.DEF.SENDER

送信側チャンネル

SYSTEM.DEF.SERVER

サーバー・チャンネル

SYSTEM.DEF.RECEIVER

受信側チャンネル

SYSTEM.DEF.REQUESTER

要求側チャンネル

SYSTEM.DEF.SVRCONN

サーバー接続チャンネル

SYSTEM.DEF.CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

SYSTEM.DEF.CLUSSDR

CLUSSDR チャンネル

SYSTEM.DEF.CLUSRCVR

クラスター受信側チャンネル

SYSTEM.DEF.AMQP

AMQP チャンネル

このパラメーターを指定するのは、次のオブジェクトを送信側チャンネルに定義するのと同じことです。

```
LIKE(SYSTEM.DEF.SENDER)
```

SDR チャンネル、他のチャンネル・タイプでも同様。

これらのデフォルト・チャンネル定義は、インストール時に、必須のデフォルト値に変更できます。

 z/OS では、キュー・マネージャーがページ・セット 0 を検索し、ユーザーが指定する名前と QMGR または COPY の属性指定を持つオブジェクトを探します。LIKE オブジェクトの処理は、定義するオブジェクトおよびチャンネル・タイプにはコピーされません。

注：

1. QSGDISP(GROUP) オブジェクトは検索されません。
2. QSGDISP(COPY) が指定されている場合、LIKE は無視されます。ただし、定義されているグループ・オブジェクトは LIKE オブジェクトとして使用されます。

LOCLADDR (*string*)

LOCLADDR は、チャンネルのローカル通信アドレスです。AMQP チャンネル以外のチャンネルの場合、このパラメーターは、アウトバウンド通信においてチャンネルが特定の IP アドレス、ポート、またはポート範囲を使用するように設定する場合に使用します。LOCLADDR は、異なる TCP/IP スタックでチャンネルが再始動されるリカバリー・シナリオで役立ちます。また、デュアル・スタック・システムでチャンネルが IPv4 スタックまたは IPv6 スタックを使用するように強制する場合にも、LOCLADDR は便利です。LOCLADDR は、シングル・スタック・システムでチャンネルがデュアル・モード・スタックを使用するように強制する場合にも使用できます。

注: AMQP チャンネルは、他の IBM MQ チャンネルと同じ形式の LOCLADDR をサポートしません。AMQ でサポートされている形式については、次のパラメーター AMQP: LOCLADDR を参照してください。

AMQP チャンネル以外のチャンネルの場合、LOCLADDR パラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が TCP のチャンネルにのみ有効です。TRPTYPE が TCP でない場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

値は、アウトバウンド TCP/IP 通信に使用されるオプションの IP アドレスおよびオプションのポートまたはポート範囲です。この情報の形式は、次のとおりです。

```
LOCLADDR([ip-addr] [(low-port[,high-port])][, [ip-addr] [(low-port[,high-port])]])
```

複数のアドレスを含めた LOCLADDR の最大長は、MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LOCLADDR を省略すると、ローカル・アドレスが自動的に割り振られます。

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を使用する C クライアントに LOCLADDR を設定できることに注意してください。

どのパラメーターも指定は任意です。アドレスの ip-addr 部分を省略しておく、IP ファイアウォール用に固定ポート番号を設定できて便利です。ポート番号を省略すると、固有のローカル・ポート番号を指定しなくても、特定のネットワーク・アダプターを選択できます。TCP/IP スタックで固有のポート番号が生成されます。

複数のローカル・アドレスを追加する場合は、それぞれについて [, [ip-addr] [(low-port[,high-port])]] を指定します。複数のローカル・アドレスは、ローカル・ネットワーク・アダプターの特定のサブセットを指定する場合に使用します。複数インスタンス・キュー・マネージャー構成に含まれる別々のサーバー上にある特定のローカル・ネットワーク・アドレスを表記する場合にも、[, [ip-addr] [(low-port[,high-port])]] を使用できます。

ip-addr

ip-addr は、次の 3 つの形式のいずれかで指定できます。

IPv4 ドット 10 進数

192.0.2.1 など

IPv6 16 進表記

2001:DB8:0:0:0:0:0:0 など

英数字のホスト名書式

WWW.EXAMPLE.COM など

low-port and high-port

low-port および high-port は、括弧で囲まれたポート番号です。

次の表では、LOCLADDR パラメーターを使用する方法を示しています。

表 63. LOCLADDR パラメーターを使用する方法の例	
LOCLADDR	意味
9.20.4.98	チャンネルは、ローカル側でこのアドレスにバインドします。
9.20.4.98, 9.20.4.99	チャンネルはいずれかの IP アドレスにバインドします。このアドレスは、1 つのサーバーの 2 つのネットワーク・アダプターであるかもしれず、複数インスタンス構成された 2 つの別個のサーバーの各ネットワーク・アダプターであるかもしれません。
9.20.4.98(1000)	チャンネルは、このアドレスおよびポート 1000 にローカルにバインドします。
9.20.4.98(1000,2000)	チャンネルは、このアドレスにバインドし、1000 から 2000 の範囲のポートをローカル側で使用します。
(1000)	チャンネルは、ローカル側でポート 1000 にバインドします。

表 63. LOCLADDR パラメーターを使用する方法の例 (続き)

LOCLADDR	意味
(1000,2000)	チャンネルは、ローカル側で 1000 から 2000 の範囲のポートにバインドします。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLNTCONN、CLUSDDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

CLUSDDR チャンネルでは、アウトバウンド・チャンネルがバインドする IP アドレスおよびポートは、フィールドの組み合わせです。つまり、LOCLADDR パラメーターに定義された IP アドレスと、クラスター・キャッシュから得られるポート範囲とを連結したものです。キャッシュにポート範囲が存在しない場合、LOCLADDR パラメーターに定義されているポート範囲が使用されます。

z/OS このポート範囲は z/OS システムには適用されません。

このパラメーターは CONNAME の形式に類似していますが、混同しないでください。LOCLADDR パラメーターはローカル通信の特性を指定しますが、CONNAME パラメーターはリモート・キュー・マネージャーに到達する方法を指定します。

チャンネルが開始されると、CONNAME および LOCLADDR に指定された値によって、通信に使用される IP スタックが決まります。表 3 および [ローカル・アドレス \(LOCLADDR\)](#) を参照してください。

ローカル・アドレス用の TCP/IP スタックがインストールまたは構成されていない場合は、チャンネルが開始されず、例外メッセージが生成されます。

z/OS 例えば、z/OS システムでは、このメッセージは、「CSQO015E: Command issued but no reply received」となります。このメッセージは、connect() 要求によってデフォルトの IP スタックでは認識されないインターフェース・アドレスが指定されたことを示しています。connect() 要求を代替スタックに送信するには、代替スタックのインターフェースまたは DNS ホスト名として、チャンネル定義に **LOCLADDR** パラメーターを指定します。同じ仕様は、デフォルトのスタックを使用しないリスナーでも機能します。**LOCLADDR** に対してコーディングする値を見つけるには、代替として使用する IP スタックで **NETSTAT HOME** コマンドを実行します。

表 64. 通信で使用される IP スタックの決定方法			
サポートされるプロトコル	CONNAME	LOCLADDR	チャネルのアクション
IPv4 のみ	IPv4 アドレス ¹		チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス ²		チャネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名 ³		チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv4 アドレス	IPv4 アドレス	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 アドレス	チャネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 アドレス	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	任意のアドレス ⁴	IPv6 アドレス	チャネルは LOCLADDR の解決に失敗します。
	IPv4 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv4 スタックにバインドする

表 64. 通信で使用される IP スタックの決定方法 (続き)

サポートされるプロトコル	CONNAME	LOCLADDR	チャネルのアクション
IPv4 および IPv6	IPv4 アドレス		チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス		チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名		チャネルは IPADDRV によって決定されるスタックにバインドします。
	IPv4 アドレス	IPv4 アドレス	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 アドレス	チャネルは CONNAME の解決に失敗します。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 アドレス	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv4 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックをバインドします。
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックをバインドします。
	IPv4 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv4 スタックにバインドする
	IPv6 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPADDRV によって決定されるスタックにバインドします。

表 64. 通信で使用する IP スタックの決定方法 (続き)

サポートされるプロトコル	CONNAME	LOCLADDR	チャネルのアクション
IPv6 のみ	IPv4 アドレス		チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス		チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名		チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	任意のアドレス	IPv4 アドレス	チャネルは LOCLADDR の解決に失敗します。
	IPv4 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv6 アドレス	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは CONNAME を IPv6 にマップします。 ⁵
	IPv6 アドレス	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv6 スタックにバインドする
	IPv4 および 6 ホスト名	IPv4 および 6 ホスト名	チャネルは IPv6 スタックにバインドする

注:

1. IPv4 アドレス。IPv4 ネットワーク・アドレスまたは特定の小数点付き表記 IPv4 アドレスのみに解決される IPv4 ホスト名 (例えば、1.2.3.4)。この注記は、この表に登場する「IPv4 アドレス」のすべての個所に適用されます。
2. IPv6 アドレス。IPv6 ネットワーク・アドレスまたは特定の 16 進表記 IPv6 アドレスのみに解決される IPv6 ホスト名 (例えば、4321:54bc)。この注記は、この表に登場する「IPv6 アドレス」のすべての個所に適用されます。
3. IPv4 および 6 ホスト名。IPv4 と IPv6 の両方のネットワーク・アドレスに解決されるホスト名です。この注記は、この表で示される「IPv4 および 6 のホスト名」のすべての個所に適用されます。
4. 任意のアドレス。IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または IPv4 および IPv6 のホスト名です。この注記は、この表に登場する「任意のアドレス」のすべての個所に適用されます。
5. IPv4 CONNAME を IPv4 にマップされた IPv6 アドレスにマップします。IPv4 マップされた IPv6 アドレス指定をサポートしない IPv6 スタック実装は、CONNAME の解決に失敗します。マップされたアドレスを使用するには、プロトコル変換プログラムが必要な場合があります。マップされたアドレスの使用は推奨されません。

AMQP: LOCLADDR (*ip-addr*)

注: その他の IBM MQ チャネルで使用する LOCLADDR の形式については、前のパラメーター LOCLADDR を参照してください。

AMQP チャネルの場合、LOCLADDR は、チャネルのローカル通信アドレスです。このパラメーターは、特定の IP アドレスの使用をクライアントに強制する必要がある場合に使用します。LOCLADDR は、チャネルで IPv4 または IPv6 アドレスを使用したり (選択可能な場合)、複数のネットワーク・アダプター

があるシステムにおいて特定のネットワーク・アダプターを使用したりすることを強制する場合に役立ちます。

LOCLADDR の最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LOCLADDR を省略すると、ローカル・アドレスが自動的に割り振られます。

ip-addr

ip-addr は、単一のネットワーク・アドレスであり、次の 3 つの形式のいずれかで指定します。

IPv4 ドット 10 進数

192.0.2.1 など

IPv6 16 進表記

2001:DB8:0:0:0:0:0:0 など

英数字のホスト名書式

WWW.EXAMPLE.COM など

IP アドレスを入力すると、アドレス・フォーマットのみが妥当性検査されます。IP アドレス自体は妥当性検査されません。

LONGRTY (integer)

LONGRTY パラメーターは、SDR チャンネル、SVR チャンネル、または CLUSSDR チャンネルがリモート・キュー・マネージャーに接続しようとするとき、接続を試みる最大回数を指定します。試行する間隔は LONGTMR で指定します。SHORTRTY に指定されたカウントの上限に達した場合に、LONGRTY パラメーターが有効になります。

この回数を試みて接続に成功しない場合は、オペレーターあてにエラーがログに記録され、チャンネルが停止します。このようなときは、チャンネルの再始動をコマンドで行う必要があります。チャンネル・イニシエーターによって自動的に再始動されることはありません。

LONGRTY 値は 0 から 9999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

チャンネル・イニシエーターで自動始動した場合とコマンドで明示的に始動させられた場合のどちらであっても、チャンネルは最初の接続に失敗すると、再接続を試みます。チャンネルが正常に接続した後にその接続で障害が起きた場合にも、接続が再度試みられます。失敗の原因によって、さらなる試行が成功する見込みがないと思われる場合は、再試行されません。

LONGTMR (integer)

LONGRTY の場合、LONGTMR は、リモート・キュー・マネージャーへの接続の再試行まで最大何秒間待つかを指定します。

この時間はおおよそその値です。0 は、できるだけ早く次の接続を試みることを意味します。

チャンネルがアクティブになるまで待たなければならない場合には、再接続を試みる間隔が長くなることがあります。

LONGTMR 値は 0 から 9999999 の範囲でなければなりません。

注: 実装上の理由により、最大 LONGTMR 値は 999,999 です。この最大値より大きい値を指定しても、999,999 として処理されます。同様に、再接続を試みる最短の間隔は 2 秒です。この最小値より少ない値を指定しても、2 秒として処理されます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MAXINST (integer)

開始可能な個別の SVRCONN チャンネルまたは AMQP チャンネルの同時インスタンスの最大数。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

値が 0 の場合、このチャンネルでのクライアント・アクセスがすべて阻止されます。

実行中のインスタンスの数がこのパラメーターの値以上である場合、SVRCONN チャンネルの新規インスタンスは開始できません。MAXINST を現在実行中の SVRCONN チャンネルのインスタンスの数より少ない値に変更しても、実行中のインスタンスの数には影響しません。

AMQP クライアントが AMQP チャンネルへの接続を試みて接続クライアント数が MAXINST に達した場合、チャンネルはクローズ・フレームで接続を閉じます。クローズ・フレームには `amqp:resource-limit-exceeded` というメッセージが含まれます。既に接続されている ID にクライアントが接続した (つまり、クライアントがクライアント・テークオーバーを実行する) 場合、接続をテークオーバーすることをクライアントが許可されていれば、接続クライアント数が MAXINST に達したかどうかにかかわらず、テークオーバーは成功します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN または AMQP のチャンネルにのみ有効です。

MAXINSTC (*integer*)

1 つのクライアントから開始可能な個別の同時 SVRCONN チャンネルの最大数。このコンテキストでは、同じリモート・ネットワーク・アドレスから発信された接続は、同じクライアントから着信したものと見なされます。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

値が 0 の場合、このチャンネルでのクライアント・アクセスがすべて阻止されます。

MAXINSTC の値を、個別のクライアントから現在実行中の SVRCONN チャンネルのインスタンス数より少ない数まで減らしても、実行中のインスタンスは影響を受けません。ただし、クライアントが実行しているインスタンスの数が MAXINSTC の値より少なくなるまで、そのクライアントから新たに SVRCONN インスタンスを開始することはできません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN のチャンネルにのみ有効です。

MAXMSGL (*integer*)

チャンネル上で送信可能な最大メッセージ長を指定します。このパラメーターがパートナーの値と比較され、2 つの値のうち小さいほうが実際の最大長として使用されます。MQCB 関数が実行されており、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SVRCONN の場合、この値は無効になります。

値 0 は、キュー・マネージャーの最大メッセージ長を意味します。[ALTER QMGR MAXMSGL](#) を参照してください。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合では、ゼロからキュー・マネージャーの最大メッセージ長までの範囲の値を指定します。

 z/OS では、0 から 104857600 バイト (100 MB) までの範囲の値を指定します。

メッセージにデジタル署名と鍵を追加することで、[IBM MQ Advanced Message Security](#) ではメッセージの長さが増すことに注意してください。

MCANAME (*string*)

メッセージ・チャンネル・エージェント名。

このパラメーターは予約済みです。指定する場合、設定できるのはブランク (最大長は 20 文字) です。

MCATYPE

アウトバウンド・メッセージ・チャンネル上のメッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムを、スレッドとプロセスのどちらで実行するか指定します。

PROCESS

メッセージ・チャンネル・エージェントは、独立のプロセスとして動作します。

THREAD

メッセージ・チャンネル・エージェントは独立したスレッドとして実行されます。

スレッド・リスナーが多数の着信要求を処理しなければならないような状況では、リソースに過大な負担がかかることがあります。その場合、複数のリスナー・プロセスを使用して、着信要求がリスナー上に指定されたポート番号を経由して特定のリスナーに送られるようにします。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみサポートされています。

z/OS z/OS では、チャンネル・タイプ CLUSRCVR を持つチャンネルについてのみサポートされます。CLUSRCVR 定義で指定された場合、MCATYPE がリモート・マシンによって使用されて対応する CLUSDR 定義が判別されます。

MCAUSER (string)

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

注: チャンネルの実行に使用するユーザー ID を提供するための代替手段としては、チャンネル認証の記録を使用するという方法があります。チャンネル認証レコードを使用すると、複数の異なる接続で、それぞれ異なる資格情報を使用して、同一のチャンネルを使用することができます。チャンネルで MCAUSER が設定されており、かつチャンネル認証レコードが同じチャンネルに適用されている場合、チャンネル認証レコードが優先されます。チャンネル定義での MCAUSER は、チャンネル認証レコードが USERSRC (CHANNEL) を使用する場合にのみ使用されます。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照してください。

このパラメーターは PUTAUT と相互に影響し合います。PUTAUT を参照してください。

MCAUSER がブランク以外なら、メッセージ・チャンネル・エージェントはそのユーザー ID を IBM MQ リソースへのアクセス許可に使用します。PUTAUT が DEF の場合、このアクセス許可には RCVR チャンネルまたは RQSTR チャンネルの宛先キューへのメッセージ書き込み許可も含まれます。

ブランクの場合、メッセージ・チャンネル・エージェントはデフォルトのユーザー ID を使用します。

デフォルトのユーザー ID は、受信側チャンネルを開始したユーザー ID から取られます。指定できる値は以下のとおりです。

z/OS z/OS, z/OS 開始プロシージャ・テーブルによって、チャンネル・イニシエーター開始タスクに割り当てられたユーザー ID。

TCP/IP (分散プラットフォーム)

inetd.conf エントリーのユーザー ID、またはリスナーを始動したユーザー。

SNA (分散プラットフォーム)

SNA サーバー項目からのユーザー ID。SNA サーバー項目からのユーザー ID がない場合は、着信接続要求からのユーザー、またはリスナーを開始したユーザー。

NetBIOS または SPX

リスナーを開始したユーザー ID。

ストリングの最大長は、Windows では 64 文字、その他のプラットフォームでは 12 文字です。Windows では、オプションで、user@domain という形式のドメイン・ネームを使用してユーザー ID を修飾できます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLNTCONN、CLUSDR のチャンネルでは無効です。

MODENAME (string)

LU 6.2 モード名 (最大長は 8 文字)。

このパラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が LU62 のチャンネルにのみ有効です。TRPTYPE が LU62 でない場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

このパラメーターを指定する場合は、CONNAME にサイド・オブジェクト名が含まれている場合を除き、SNA モード名に設定する必要があります。CONNAME がサイド・オブジェクト名である場合は、ブランクに設定する必要があります。その場合、実際の名前は、CPI-C 通信サイド・オブジェクトまたは APPC サイド情報データ・セットから取られます。**z/OS** LU 6.2 接続用構成パラメーターを参照してください。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、または SVRCONN のチャンネルでは無効です。

MONCHL

チャンネルに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

QMGR

キュー・マネージャー・パラメーター MONCHL の設定に従って、モニター・データを収集します。

OFF

このチャンネルのモニター・データ収集はオフです。

LOW

キュー・マネージャーの MONCHL パラメーターの値が NONE でない場合、オンライン・モニター・データはオンになります。このチャンネルのデータは低速で収集されます。

MEDIUM

キュー・マネージャーの MONCHL パラメーターの値が NONE でない場合、オンライン・モニター・データはオンになります。このチャンネルのデータは中速で収集されます。

HIGH

キュー・マネージャーの MONCHL パラメーターの値が NONE でない場合、オンライン・モニター・データはオンになります。このチャンネルのデータは高速で収集されます。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。

クラスター・チャンネルの場合、このパラメーターの値はリポジトリに複製されないため、CLUSDR チャンネルの自動定義では使用されません。自動定義の CLUSSDR チャンネルの場合、このパラメーターの値はキュー・マネージャーの MONACLS 属性から取得されます。次いでこの値は、チャンネルの自動定義出口で指定変更されます。

MRDATA (*string*)

チャンネル・メッセージ再試行出口ユーザー・データ。最大長は 32 文字です。

このパラメーターは、チャンネル・メッセージ再試行出口が呼び出された場合、その出口に引き渡されます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MREXIT (*string*)

チャンネル・メッセージ再試行出口名。

この名前の形式および最大長は MSGEXIT と同じですが、指定できるメッセージ再試行出口は 1 つのみです。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MRRTY (*integer*)

チャンネルがメッセージを配布できないと判断するまでに、チャンネルが再試行する回数。

このパラメーターは、メッセージ再試行出口名がブランクの場合にのみ MCA の処置を制御します。出口名がブランクではないときは、MRRTY の値は、使用のため出口に引き渡されます。メッセージの再送信を試行する回数は、このパラメーターによってではなく、出口によって制御されます。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。値 0 は、メッセージ再送信の試行が行われなないことを意味します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MRTMR (*integer*)

チャンネルが再び MQPUT 操作をできるようになるまでに経過する必要がある最短の時間間隔。この時間間隔は、ミリ秒単位です。

このパラメーターは、メッセージ再試行出口名がブランクの場合にのみ MCA の処置を制御します。出口名がブランクでない場合は、MRTMR の値が出口に渡されて使用されます。メッセージの再送信を試行する回数は、このパラメーターによってではなく、出口によって制御されます。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。値 0 は、MRRTY の値が 0 より大きい場合に、できるだけ早くチャンネルが送信を再試行することを意味します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

MSGDATA (*string*)

チャンネル・メッセージ出口のユーザー・データ。最大長は 32 文字です。

これは、チャンネル・メッセージ出口が呼び出された場合、その出口に引き渡されるデータです。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラムを指定できます。フィールドの全長は、最大 999 文字まででなければなりません。

IBM i では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 10 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初のメッセージ出口に渡され、2 番目のストリングは 2 番目メッセージ出口に渡されます (それ以降、同様の処理が続きます)。

 z/OS では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 8 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初のメッセージ出口に渡され、2 番目のストリングは 2 番目メッセージ出口に渡されます (それ以降、同様の処理が続きます)。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルにメッセージ出口データのストリングを 1 つしか指定できません。

注: SVRCONN チャンネルと CLNTCONN チャンネルでは、このパラメーターは受け入れられますが無視されます。

MSGEXIT (*string*)

チャンネル・メッセージ出口名。

MSGEXIT が非ブランクの場合、この出口は以下の時点で呼び出されます。

- SDR チャンネルまたは SVR チャンネルが伝送キューからメッセージを受信した直後。
- RQSTR チャンネルがメッセージを宛先キューに書き出す直前。
- チャンネルが初期化されたまたは終了したとき。

出口には、変更のアプリケーション・メッセージおよび伝送キュー・ヘッダーの全体が渡されます。

MSGEXIT を受け取ると、CLNTCONN チャンネルおよび SVRCONN チャンネルはそれを無視します。

CLNTCONN チャンネルも SVRCONN チャンネルもメッセージ出口を呼び出しません。

出口名の形式および最大長は、プラットフォームによって異なります。[877 ページの表 65](#) を参照してください。

MSGEXIT、MREXIT、SCYEXIT、SENDEXIT、および RCVEXIT パラメーターがすべてブランクのままの場合、チャンネル・ユーザー出口は呼び出されません。これらのパラメーターのうちどれかが非ブランクの場合、チャンネル出口プログラムが呼び出されます。これらのパラメーターにはテキスト・ストリングを入力できます。ストリングの最大長は 128 文字です。

表 65. メッセージ出口の形式および長さ			
プラットフォーム	出口名の形式	最大長	コメント
AIX、HP-UX、Linux、および Solaris	<i>libraryname(functionname)</i>	128	複数の出口プログラムの名前を指定できます。複数のストリングをコンマで区切って指定します。ただし、指定する文字の合計数は 999 を超えてはなりません。

表 65. メッセージ出口の形式および長さ (続き)			
プラットフォーム	出口名の形式	最大長	コメント
Windows	<code>dllname(functionname)</code>	128	- 複数の出口プログラムの名前を指定できます。複数のストリングをコンマで区切って指定します。ただし、指定する文字の合計数は 999 を超えてはなりません。 <code>dllname</code> は、接尾部 (.DLL) なしで指定されます。
IBM i	<code>progrname libname</code>	20	- 複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 10 個の出口プログラムの名前を指定できます。 <code>program name</code> は最初の 10 文字を占め、<code>libname</code> は次の 10 文字を占めます。2 つのフィールドは両方とも、必要に応じて右側がブランクで埋め込まれます。
  z/OS	<code>loadModuleNme</code>	8	- 複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 8 個の出口プログラムの名前を指定できます。 - CLNTCONN チャンネルの出口名には 128 文字まで指定できます。ただし、合計最大長はコンマを含めて 999 文字です。

NETPRTY (*integer*)

ネットワーク接続の優先順位。分散キューイングでは、使用可能な複数のパスがある場合、優先度が最も高いパスが選択されます。値の範囲は 0 (最低の優先度) から 9 でなければなりません。

このパラメーターは、CLUSRCVR チャンネルにのみ有効です。

NPMSPEED

このチャンネルの非持続性メッセージのサービス・クラスは、次のとおりです。

FAST

非持続性メッセージの高速送達。チャンネルが脱落すると、メッセージも脱落場合があります。メッセージは、MQGMO_SYNCPOINT_IF_PERSISTENT を使用して取得され、バッチ作業単位に組み込まれません。

NORMAL

非持続性メッセージの標準送達。

送信側と受信側の NPMSPEED の値が異なっている場合、またはどちらかが指定された値をサポートしていない場合は、NORMAL が使用されます。

このパラメーターは、CHLTYPE が SDR、SVR、RCVR、RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

PASSWORD (*string*)

メッセージ・チャンネル・エージェントは、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの間に安全な LU 6.2 セッションを開始しようとするとき、このパスワードを使用します。最大長は 12 文字です。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLNTCONN、または CLUSSDR のチャンネルにのみ有効です。z/OS では、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN のチャンネルでのみサポートされます。

パラメーターの最大長は 12 文字ですが、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

▶ V 8.0.0.4 **PORT (integer)**

AMQP チャンネルの接続に使用されるポート番号。AMQP 1.0 接続のデフォルト・ポートは 5672 です。ポート 5672 を既に使用している場合は、異なるポートを指定できます。

PROPCTL

プロパティ制御属性。[PROPCTL チャンネル属性](#)を参照してください。

PROPCTL は、メッセージが別のキュー・マネージャーに送信されたときに、メッセージ・プロパティがどうなるかを指定します。

このパラメーターは、SDR、SVR、CLUSDR、および CLUSRCVR の各チャンネルに適用されます。

このパラメーターはオプションです。

指定できる値は、次のとおりです。

COMPAT

COMPAT により、JMS 関連のプロパティがメッセージ・データの MQRFH2 ヘッダーにあることを
予期するアプリケーションは、変更されずに作業を続行できます。

メッセージ・プロパティ	結果
メッセージに mcd.、jms.、usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティが含まれている	Support 値が MQPD_SUPPORT_OPTIONAL である場合、すべてのオプションのメッセージ・プロパティが 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。このルールは、メッセージ記述子やメッセージ拡張のプロパティには適用されず、これらは元の場所から変わりません。オプションのメッセージ・プロパティは、メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ・データに移されます。
メッセージに mcd.、jms.、usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティが含まれていない	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティを除くすべてのメッセージ・プロパティが、メッセージから除去されます。
メッセージに、プロパティ記述子の Support フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティが含まれている	メッセージは理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY でリジェクトされ、そのレポート・オプションに従って処理されます。
メッセージに、プロパティ記述子の Support フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されている 1 つ以上のプロパティが含まれています。プロパティ記述子の他のフィールドは、デフォルト以外の値に設定されます。	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、デフォルト以外の値に設定されているプロパティが、メッセージから除去されます。
メッセージ・プロパティが含まれる MQRFH2 フォルダーに content='properties' 属性を割り当てる必要がある	サポートされない構文がある MQRFH2 ヘッダーがバージョン 6 以前のキュー・マネージャーに送信されないようにするため、プロパティが除去されます。

NONE

メッセージのすべてのプロパティはメッセージから削除されます (メッセージ記述子とメッセージ拡張に含まれるプロパティを除く)。メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、プロパティが除去されます。

プロパティ記述子の Support フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティを持つメッセージは拒否され、理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY が返されます。メッセージ・ヘッダーに設定されているレポート・オプションに従って、エラーが報告されます。

ALL

メッセージのすべてのプロパティは、リモート・キュー・マネージャーへの送信時にメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるプロパティ以外のプロパティは、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れます。

PUTAUT

PUTAUT は、チャンネルに対する権限を設定するときに使用するユーザー ID を指定します。メッセージ・チャンネルを使用して宛先キューにメッセージを書き出したり、MQI チャンネルを使用して MQI 呼び出しを実行したりするユーザー ID を指定します。

DEF

デフォルトのユーザー ID が使用されます。

▶ **z/OS** z/OS では、DEF は、ネットワークから受信したユーザー ID と MCAUSER から得たユーザー ID の両方を意味する場合があります。

CTX

メッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドからのユーザー ID が使用されます。

▶ **z/OS** z/OS では、CTX は、ネットワークから受信したユーザー ID または MCAUSER から得たユーザー ID、あるいはその両方を意味する場合があります。

▶ **z/OS** ONLYMCA

MCAUSER から得られたユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は z/OS でのみサポートされます。

▶ **z/OS** ALTMCA

メッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドからのユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は z/OS でのみサポートされます。

▶ **z/OS** z/OS では、検査されるユーザー ID と検査されるユーザー ID の数は、MQADMIN RACF クラス hlq.RESLEVEL プロファイルの設定により異なります。hlq.RESLEVEL に対してチャンネル・イニシエーターのユーザー ID が持つアクセスのレベルに応じて、0、1、または 2 個のユーザー ID が検査されます。▶ **z/OS** 検査されるユーザー ID の数については、[RESLEVEL およびチャンネル・イニシエーター接続](#)を参照してください。どのユーザー ID が検査されるかについては、[チャンネル・イニシエーターで使用されるユーザー ID](#)を参照してください。

分散プラットフォームでは、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

▶ **z/OS** z/OS では、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、RQSTR、CLUSRCVR、または SVRCONN のチャンネルにのみ有効です。CTX および ALTMCA は SVRCONN チャンネルには無効です。

QMNAME (*string*)

キュー・マネージャー名。

CLNTCONN チャンネルの場合、QMNAME は IBM MQ MQI client・アプリケーションが接続先として要求できるキュー・マネージャーの名前です。QMNAME は、チャンネルが定義されたキュー・マネージャーの名前と必ずしも同じでなくてもかまいません。[CCDT のキュー・マネージャー・グループ](#)を参照してください。

その他のタイプのチャンネルでは、QMNAME パラメーターは無効です。

▶ **z/OS** QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	DEFINE
COPY	オブジェクトは、LIKE オブジェクトと同じ名前の QSGDISP (GROUP) オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。
GROUP	オブジェクト定義は、キュー・マネージャーがキュー共有グループに属している場合にのみ、共有リポジトリにあります。定義が正常に実行されると、以下のコマンドが生成されます。コマンドは、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上でローカル・コピーを作成またはリフレッシュします。 <pre>DEFINE CHANNEL(channel-name) CHLTYPE(type) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP (COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの DEFINE コマンドは有効です。
PRIVATE	許可されません。
QMGR	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。

RCVDATA (*string*)

チャンネル受信出口ユーザー・データ (最大長は 32 文字)。

このパラメーターはチャンネル受信出口が呼び出されたとき、その出口に渡されます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラムを指定できます。フィールドの全長は、最大 999 文字まででなければなりません。

IBM i では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 10 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の受信出口に渡され、次のストリングは、次の受信出口に渡され、以下の順に渡されます。

 z/OS では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 8 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の受信出口に渡され、次のストリングは、次の受信出口に渡され、以下の順に渡されます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに受信出口データのストリングを 1 つしか指定できません。

RCVEXIT (*string*)

チャンネル受信出口名。

この名前が非ブランクの場合、出口は以下の時点で呼び出されます。

- 受信されたネットワーク・データが処理される直前。

出口には、受信された伝送バッファー全体が与えられます。バッファーの内容は、必要に応じて変更できます。

- チャンネルの初期設定時および終了時

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラム名を指定できます。ただし、指定する文字の合計数は 999 を超えてはなりません。

IBM i では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 10 個の出口プログラムの名前を指定できます。

 z/OS では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 8 個までの出口プログラム名を指定できます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに受信出口名を1つのみ指定できます。

名前の形式と最大長は、MSGEXIT と同じです。

REPLACE and NOREPLACE

既存の定義をこの定義で置き換えるかどうかを指定します。このパラメーターはオプションです。

 z/OS では、ファイル属性指定が同じであることが必要です。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

同名の定義が既に存在すれば、この定義で置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

REPLACE ではチャンネル状況は変更されません。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

SCYDATA (*string*)

チャンネル・セキュリティー出口ユーザー・データ (最大長は 32 文字)。

このパラメーターはチャンネル・セキュリティー出口が呼び出されたとき、その出口に渡されます。

SCYEXIT (*string*)

チャンネル・セキュリティー出口名。

この名前が非ブランクの場合、出口は以下の時点で呼び出されます。

- チャンネルが確立された直後。

いかなるメッセージ転送も行われないうちに、この出口は、セキュリティー・フローを開始し、接続許可の妥当性を検査することができます。

- セキュリティー・メッセージ・フローに対する応答を受け取ったとき。

リモート・キュー・マネージャーのリモート・プロセッサから得られたセキュリティー・メッセージ・フローが出口に与えられます。

- チャンネルの初期設定時および終了時

この名前の形式および最大長は MSGEXIT と同じですが、指定できる名前は 1 つのみです。

SENDDATA (*string*)

チャンネル送信出口ユーザー・データ。最大長は 32 文字です。

このパラメーターはチャンネル送信出口が呼び出されたとき、その出口に渡されます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラムを指定できます。フィールドの全長は、最大 999 文字まででなければなりません。

IBM i では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 10 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の送信出口に渡され、次のストリングは、次の送信出口に渡され、以下の順に渡されます。

 z/OS では、それぞれの長さが 32 文字のストリングを、最大 8 個まで指定できます。データの最初のストリングは、指定された最初の送信出口に渡され、次のストリングは、次の送信出口に渡され、以下この順に渡されます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに送信出口データのストリングを 1 つしか指定できません。

SENDEXIT (*string*)

チャンネル送信出口名。

この名前が非ブランクの場合、出口は以下の時点で呼び出されます。

- データがネットワークに送り出される直前。

伝送バッファが伝送される前に、出口に伝送バッファ全体が提供されます。バッファの内容は、必要に応じて変更できます。

- チャンネルの初期設定時および終了時

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、1 つ以上の出口プログラム名を指定できます。ただし、指定する文字の合計数は 999 を超えてはなりません。

IBM i では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 10 個の出口プログラムの名前を指定できます。

 z/OS では、複数のストリングをコンマで区切ることによって、最大 8 個までの出口プログラム名を指定できます。

その他のプラットフォームでは、各チャンネルに送信出口名を 1 つのみ指定できます。

名前の形式と最大長は、MSGEXIT と同じです。

SEQWRAP (*integer*)

この値に達すると、シーケンス番号は折り返され、再び 1 から始まります。

この値は折衝不能であり、ローカルおよびリモートの両方のチャンネル定義で一致しなければなりません。

値は 100 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RCVR、RQSTR、CLUSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

SHARECNV (*integer*)

各 TCP/IP チャンネル・インスタンスを共用できる会話の最大数を指定します。SHARECNV 値は、以下のようになります。

1

TCP/IP チャンネル・インスタンスで会話を共有しないということを指定します。MQGET 呼び出し内であるかどうかにかかわらず、クライアント・ハートビートが使用可能です。先読みおよびクライアント非同期コンシュームも使用可能であり、チャンネル静止の制御がさらに容易になります。

0

TCP/IP チャンネル・インスタンスで会話を共有しないということを指定します。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が CLNTCONN または SVRCONN のチャンネルにのみ有効です。CLNTCONN SHARECNV 値が SVRCONN SHARECNV 値に一致しない場合、2 つの値の小さいほうが使用されます。このパラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が TCP 以外のチャンネルでは無視されます。

1 つのソケット上の会話はすべて、同一のスレッドによって受信されます。

SHARECNV の限度を大きくすると、キュー・マネージャー・スレッドの使用が削減されるという利点があります。ソケットを共有する多数の会話がすべてビジー状態である場合、遅延が発生する可能性があります。会話が受信スレッドを使用しようとして会話同士が互いに競合しています。こうした状況では、より小さい SHARECNV 値を指定する方がより良い結果が得られます。

共有される会話の数は、MAXINST や MAXINSTC の合計には影響しません。

注: この変更を有効にするためには、クライアントを再始動する必要があります。

SHORTRTY (*integer*)

SHORTRTY は、SDR チャンネル、SVR チャンネル、または CLUSSDR チャンネルがリモート・キュー・マネージャーに接続しようとするとき、SHORTTMR に指定した間隔で接続を試みる最大回数を指定します。試行回数の上限に達すると、チャンネルは LONGRTY に定義されたスケジュールを使用して再接続を試みます。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

チャンネル・イニシエーターで自動始動した場合とコマンドで明示的に始動させられた場合のどちらであっても、チャンネルは最初の接続に失敗すると、再接続を試みます。チャンネルが正常に接続した後にその接続で障害が起きた場合にも、接続が再度試みられます。失敗の原因によって、さらなる試行が成功する見込みがないと思われる場合は、再試行されません。

SHORTTMR (*integer*)

SHORTRTY の場合、SHORTTMR は、リモート・キュー・マネージャーへの接続の再試行まで最大何秒間待つかを指定します。

この時間はおおよそその値です。IBM MQ 8.0.0 は、できるだけ早く次の接続を試みることを意味します。

チャンネルがアクティブになるまで待たなければならない場合には、再接続を試みる間隔が長くなることがあります。

値は 0 から 999999999 の範囲でなければなりません。

注：実装上の理由により、最大 SHORTTMR 値は 999,999 です。この最大値より大きい値を指定しても、999,999 として処理されます。IBM MQ 8.0 以降、SHORTTMR を 1 に設定すると、再接続を試みる最短の間隔は 2 秒になります。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、CLUSSDR、または CLUSRCVR のチャンネルにのみ有効です。

SSLCAUTH

SSLCAUTH は、IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。SSL クライアントはチャンネルの開始側です。SSLCAUTH は SSL サーバーに適用され、クライアントに要求される動作を決定します。SSL サーバーは、チャンネルの開始フローの受信側です。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR、SVRCONN、CLUSRCVR、SVR、または RQSTR のチャンネルにのみ有効です。

パラメーターは、SSLCIPH が指定されたチャンネルにのみ使用されます。SSLCIPH がブランクの場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

REQUIRED

IBM MQ は、SSL クライアントから証明書を必要とし、それを検証します。

OPTIONAL

対等 SSL クライアント・システムが、まだ証明書を送信する可能性があります。送信する場合、この証明書の内容は、標準で検証されます。

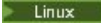
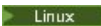
SSLCIPH (*string*)

SSLCIPH は、チャンネルで使用される CipherSpec を指定します。最大長は 32 文字です。このパラメーターは、トランスポート・タイプ TRPTYPE (TCP) を使用するすべてのチャンネル・タイプで有効です。SSLCIPH パラメーターがブランクの場合、チャンネルでの SSL の使用は試行されません。

このパラメーターの値は、SECPROT の値の設定にも使用されます。。これは、[DISPLAY CHSTATUS](#) コマンドの出力フィールドです。

使用している CipherSpec の名前を指定します。IBM MQ SSL サポートで使用できる CipherSpec が、以下の表に示されています。特定の名前の CipherSpec が使用されている場合、チャンネルの両端の **SSLCIPH** 値は、同じ名前の CipherSpec を指定する必要があります。

注：    IBM MQ for z/OS の場合、  IBM i; 表に記載されているかどうかに関係なく、CipherSpec の 2 桁の 16 進コードを指定することもできます。IBM i では、AC3 のインストールは SSL を使用するための前提条件です。

プラットフォーム・サポート 886 ページの『1』	CipherSpec 名	使用されるプロトコル	データ整合性	暗号化アルゴリズム	暗号化ビット数	FIPS 886 ページの『2』	Suite B
 z/OS  UNIX  Linux  Windows	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	TLS 1.0	SHA-1	AES	128	Yes	No
 z/OS  UNIX  Linux  Windows	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA 886 ページの『3』	TLS 1.0	SHA-1	AES	256	Yes	No
すべて	ECDHE_ECDSA_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_ECDSA_AES_256_CBC_SHA384 886 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-384	AES	256	Yes	No
 distributed	ECDHE_ECDSA_AES_128_GCM_SHA256 886 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	128 ビット
 distributed	ECDHE_ECDSA_AES_256_GCM_SHA384 886 ページの『3』 886 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	256	Yes	192 ビット
すべて	ECDHE_RSA_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_256_CBC_SHA384 886 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-384	AES	256	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_128_GCM_SHA256 886 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_256_GCM_SHA384 886 ページの『3』 886 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA384	Yes	No
 IBM i 886 ページの『5』	ECDHE_ECDSA_RC4_128_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_ECDSA_3DES_EDE_CBC_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	3DES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_RSA_3DES_EDE_CBC_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	3DES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_RSA_RC4_128_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	RSA	SHA256	Yes	No

プラットフォーム・サポート 886 ページの『1』	CipherSpec 名	使用されるプロトコル	データ整合性	暗号化アルゴリズム	暗号化ビット数	FIPS 886 ページの『2』	Suite B
IBM i	ECDHE_RSA_NULL_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	RSA	SHA256	Yes	No
IBM i	ECDHE_ECDSA_NULL_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	ECDSA	SHA256	Yes	No
IBM i	ECDHE_ECDSA_AES_256_GCM_SHA384 886 ページの『3』 886 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA384	Yes	No
z/OS UNIX Linux Windows	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
z/OS UNIX Linux Windows	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256 886 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-256	AES	256	Yes	No
distributed	TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 886 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	No
distributed	TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 886 ページの『3』 886 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	256	Yes	No

注:

1. 具体的なプラットフォームが記載されていない場合は、CipherSpec はすべてのプラットフォームで使用可能です。
2. FIPS 認定プラットフォーム上の FIPS 認定 CipherSpec であるかどうかを示しています。FIPS の説明については、連邦情報処理標準 (FIPS) を参照してください。
3. MQ Explorer が使用する JRE に対して適切な無制限のポリシー・ファイルが適用されていない場合には、この CipherSpec を使用して、WebSphere MQ エクスプローラーからキュー・マネージャーへの安全な接続を確立することはできません。
4. NIST の勧告に従って GCM CipherSpec は制限を採用しました。これにより、同じセッション鍵を使って 2^{32} 個の TLS レコードが送られた後、メッセージ AMQ9288 を伴って接続が終了します。

このエラーを回避するには、GCM Cipher を使用しないようにするか、秘密鍵リセットを有効にするか、あるいは環境変数 GSK_ENFORCE_GCM_RESTRICTION=GSK_FALSE を設定して IBM MQ キュー・マネージャーを開始します。

重要: FIPS モードを使用するかどうかに関わらず、GCM の制限は有効です。
5. IBM i でサポート対象としてリストされている CipherSpecs は、IBM i のバージョン 7.2 および 7.3 に適用されます。

個人用証明書を要求するときに、公開鍵と秘密鍵のペアの鍵サイズを指定します。SSL ハンドシェーク時に使用される鍵のサイズは、証明書に保管されているサイズと、CipherSpec によって異なります。

-  z/OS、Windows、UNIX and Linux システムでは、CipherSpec 名に _EXPORT が含まれている場合、ハンドシェークの最大鍵サイズは 512 ビットです。SSL ハンドシェーク時に交換される証明書のどちらかに、512 ビットより大きい鍵サイズがある場合、ハンドシェーク時に使用するために、一時的な 512 ビット鍵が生成されます。
- Windows、UNIX and Linux システムでは、CipherSpec 名に _EXPORT1024 が含まれている場合、ハンドシェークの鍵サイズは 1024 ビットです。
- それ以外の場合、ハンドシェークの鍵サイズは、証明書に保管されているサイズです。

SSLPEER (string)

チャネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントで使用される証明書フィルターを指定します。証明書の識別名を、このフィルターを使用して比較します。"識別名" は、SSL 証明書の ID です。相手から受け取る証明書内の識別名が SSLPEER フィルターと一致しない場合、チャネルは開始しません。

注: SSL または TLS サブジェクト識別名との突き合わせによってチャネルへの接続を制限する別の方法は、チャネル認証レコードを使用することです。チャネル認証レコードを使用すると、SSL または TLS のサブジェクト識別名のさまざまなパターンを同じチャネルに適用することができます。SSLPEER とチャネル認証レコードの両方を同じチャネルに適用することができます。そのようにした場合、接続するには、インバウンド証明書が両方のパターンと一致する必要があります。詳しくは、[チャネル認証レコード](#)を参照してください。

SSLPEER はオプションです。このオプションを指定しない場合、ピアの識別名はチャネル開始時に検査されません。証明書からの識別名は、メモリーに保持されている SSLPEER 定義に引き続き書き込まれ、セキュリティー出口に渡されます。SSLCIPH がブランクの場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

このパラメーターは、すべてのチャネル・タイプで有効です。

SSLPEER 値は、識別名を指定するために使用する標準形式で指定します。以下に例を示します。

```
SSLPEER('SERIALNUMBER=4C:D0:49:D5:02:5F:38,CN="H1_C_FR1",O=IBM,C=GB')
```

区切り文字として、コンマの代わりにセミコロンを使用できます。

サポートされる属性タイプを以下に示します。

表 66. SSLPEER でサポートされる属性タイプ	
SSLPEER パラメーターでサポートされる属性について説明した 2 列の表	
属性	説明
SERIALNUMBER	証明書のシリアル番号
MAIL	メール・アドレス
E	E メール・アドレス (MAIL の方が好ましいため非推奨)
UID または USERID	ユーザー ID
CN	共通名
T	役職
OU	部門名
DC	ドメイン・コンポーネント
O	組織名

表 66. SSLPEER でサポートされる属性タイプ.

SSLPEER パラメーターでサポートされる属性について説明した 2 列の表

(続き)

属性	説明
STREET	通り/住所の 1 行目
L	地域名
ST (または SP もしくは S)	都道府県名
PC	郵便番号
C	国名
UNSTRUCTUREDNAME	ホスト名
UNSTRUCTUREDADDRESS	IP アドレス
DNQ	識別名修飾子

IBM MQ は、属性タイプに英大文字だけを受け入れます。

SSLPEER スtring にサポートされていない属性タイプを指定すると、属性を定義したときまたは実行時にエラーが出力されます。どの時点でエラーが出力されるかは、稼働しているプラットフォームによって異なります。エラーが出力された場合、SSLPEER スtring が、フローされた証明書の識別名と一致しないことを示します。

フローされた証明書の識別名に複数の組織単位 (OU) 属性が含まれており、SSLPEER にこれらの属性を比較するよう指定する場合、これらの属性は階層の降順に定義してください。例えば、フロー証明書の識別名に OU、OU=Large Unit、OU=Medium Unit、OU=Small Unit が入っている場合、次の SSLPEER 値を指定すると処理されます。

```
('OU=Large Unit,OU=Medium Unit')
('OU=*,OU=Medium Unit,OU=Small Unit')
('OU=*,OU=Medium Unit')
```

しかし、次の SSLPEER 値を指定すると失敗します。

```
('OU=Medium Unit,OU=Small Unit')
('OU=Large Unit,OU=Small Unit')
('OU=Medium Unit')
('OU=Small Unit, Medium Unit, Large Unit')
```

例にも示されているとおり、階層の一番低い属性は省略可能です。例えば、('OU=Large Unit,OU=Medium Unit') は ('OU=Large Unit,OU=Medium Unit,OU=*') と同等です。

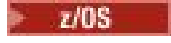
2 つの識別名がドメイン・コンポーネント (DC) 値以外のすべての点で同じである場合、OU の場合とほとんど同じ突き合わせルールが適用されます。例外として、DC 値では左端のドメイン・コンポーネントが最下位のレベルで最も具体的であり、そのため比較の順序も異なります。

属性値は、アスタリスク * だけで構成したり、語幹に先行または後続のアスタリスクを付けることによって、そのすべて、あるいは一部を汎用表現にできます。アスタリスクによって、SSLPEER はどのような識別名の値とも、またはその属性の語幹で始まるどのような値とも一致させることができます。証明書で識別名の属性値の先頭または末尾にアスタリスクを指定できます。このようにした場合でも、SSLPEER と完全に一致する識別名を確認できます。完全一致を検査するには、* を指定します。

例えば、証明書の識別名に属性 CN= 'Test*' が含まれている場合、次のコマンドを使用して完全一致突き合わせを確認できます。

```
SSLPEER('CN=Test\*')
```

パラメーターの最大長は、Windows、IBM i、UNIX および Linux プラットフォームでは 1024 バイトです。

 z/OS では、パラメーターの最大長は 256 バイトです。

チャンネル認証レコードによって、SSLPEER の使用時に柔軟性が大幅に向上し、すべてのプラットフォームで 1024 バイトがサポートされます。

STATCHL

チャンネルの統計データの収集を制御します。

QMGR

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値は、チャンネルによって継承されます。

OFF

このチャンネルでの統計データ収集がオフになります。

LOW

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値が NONE でない場合、統計データ収集はオンになります。このチャンネルのデータは低速で収集されます。

MEDIUM

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値が NONE でない場合、統計データ収集はオンになります。このチャンネルのデータは中速で収集されます。

HIGH

キュー・マネージャーの STATCHL パラメーターの値が NONE でない場合、統計データ収集はオンになります。このチャンネルのデータは高速で収集されます。

このパラメーターへの変更は、変更した後に開始されたチャンネルにのみ適用されます。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

クラスター・チャンネルの場合、このパラメーターの値はリポジトリに複製されないため、CLUSSDR チャンネルの自動定義では使用されません。自動定義の CLUSSDR チャンネルの場合、このパラメーターの値はキュー・マネージャーの STATACLS 属性から取得されます。次いでこの値は、チャンネルの自動定義出口で指定変更されます。

TPNAME (*string*)

LU 6.2 トランザクション・プログラム名 (最大長は 64 文字)。

このパラメーターは、トランスポート・タイプ (TRPTYPE) が LU62 のチャンネルにのみ有効です。

CONNAME にサイド・オブジェクト名が含まれていない限り、このパラメーターを SNA トランザクション・プログラム名に設定する必要があります。CONNAME にサイド・オブジェクト名が含まれている場合は、ブランクに設定する必要があります。その代わりに、実際の名前は CPI-C コミュニケーション・サイド・オブジェクト、つまり APPC サイド情報データ・セットから取得されます。 

[LU 6.2 接続用構成パラメーター](#)を参照してください。

Windows SNA サーバー 、および z/OS のサイド・オブジェクトでは、TPNAME が大文字にラップされます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が RCVR のチャンネルでは無効です。

V8.0.0.4 TPROOT

AMQP チャンネルのトピック・ルート。TPROOT のデフォルト値は SYSTEM.BASE.TOPIC です。この値を設定した場合、AMQP クライアントがパブリッシュまたはサブスクライブに使用するトピック・スト

リングに接頭部が付かず、クライアントは他の MQ パブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションとの間でメッセージを交換できます。あるいは、AMQP クライアントは、TPROOT 属性で指定された異なるトピック接頭部のもとで、パブリッシュおよびサブスクライブすることもできます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が AMQP のチャンネルにのみ有効です。

TRPTYPE

使用するトランスポート・タイプ。

AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows 、および z/OS では、このパラメーターはオプションです。値を入力しない場合、SYSTEM.DEF. *channel-type* 定義で指定された値が使用されるためです。チャンネルの開始が相手側からであった場合、正しいトランスポート・タイプが指定されたかどうかの検査はありません。

 z/OS では、SYSTEM.DEF. *channel-type* 定義が存在しない場合、デフォルトは LU62 です。

このパラメーターは、他のすべてのプラットフォームで必須です。

LU62

SNA LU 6.2

NETBIOS

NetBIOS (Windows および DOS でのみサポート)。

 NetBIOS をサポートするプラットフォーム上のサーバーに接続するクライアント接続チャンネルを定義する場合、この属性は z/OS にも適用されます。

SPX

シーケンス・パケット交換 (Windows および DOS でのみサポート)。

 SPX をサポートするプラットフォーム上のサーバーに接続するクライアント接続チャンネルを定義する場合、この属性は z/OS にも適用されます。

TCP

伝送制御プロトコル - TCP/IP プロトコル・スイートの一部

V8.0.0.4 USECLTID

AMQP チャンネルの許可検査に MCAUSER 属性値ではなくクライアント ID を使用することを指定します。

USEDLQ

チャンネルでメッセージが配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。

NO

チャンネルによって送信できないメッセージは、失敗したものとして扱われます。NPMSPEED の設定に従って、チャンネルがメッセージを破棄するか、チャンネルが終了します。

YES

キュー・マネージャー属性 DEADQ に送達不能キューの名前が指定されている場合は、それが使用されます。そうでない場合は、NO と同じ動作になります。YES がデフォルト値です。

USERID (*string*)

タスク・ユーザー ID。最大長は 12 文字です。

このパラメーターは、メッセージ・チャンネル・エージェントが、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの保護 LU 6.2 セッションの開始を試みる際に使用します。

分散プラットフォームでは、このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR、SVR、RQSTR、CLNTCONN、または CLUSSDR のチャンネルにのみ有効です。

 z/OS では、CLNTCONN チャンネルについてのみサポートされます。

パラメーターの最大長は 12 文字ですが、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

受信側では、パスワードが暗号化されており、LU 6.2 ソフトウェアが別の暗号化方式を使用している場合、チャンネルは開始できません。エラーは無効なセキュリティの詳細として診断されます。無効なセキュリティの詳細は、受信側の SNA 構成を次のいずれかに変更することによって回避できます。

- パスワード置換をオフにする。
- セキュリティー・ユーザー ID およびパスワードを定義する。

XMITQ (*string*)

伝送キュー名。

メッセージが検索されるキューの名前。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が SDR または SVR のチャンネルにのみ有効です。これらのチャンネル・タイプでは、必須のパラメーターです。

チャンネル・タイプごとに個別の構文図があります。

送信側チャンネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、送信側チャンネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

```
➤ DEFINE CHANNEL — ( — channel-name — ) — CHLTYPE(SDR) 3 CONNAME — ( — string —
```



892 IBM MQ 管理リファレンス

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ z/OS のデフォルト。
- ⁷ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁸ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)に説明があります。

サーバー・チャネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、サーバー・チャネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

```

➤ DEFINE CHANNEL — ( — channel-name — ) — CHLTYPE(BNF) 1 — XMTQ — ( — string — ) —>

```



894 IBM MQ 管理リファレンス

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ z/OS のデフォルト。
- ⁷ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁸ Windows でのみ有効です。

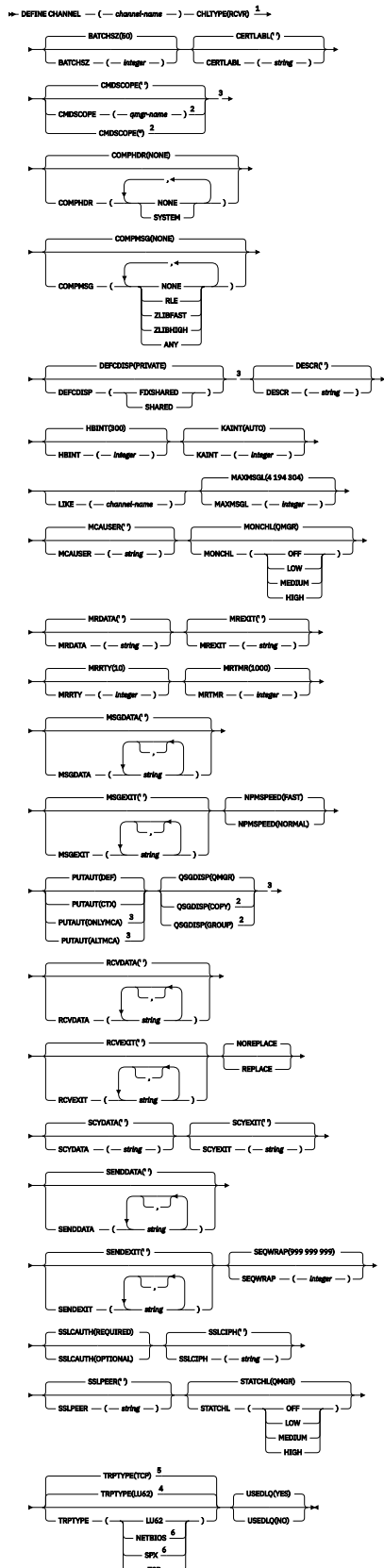
パラメーターについては、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)に説明があります。

受信側チャネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、受信側チャネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

DEFINE CHANNEL



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS のデフォルト。
- ⁵ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁶ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)に説明があります。

要求側チャネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、要求側チャネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

```
➤ DEFINE CHANNEL — ( — channel-name — ) — CHLTYPE(RQSTR) 1 — CONNAME — ( — string —
```



898 IBM MQ 管理リファレンス

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ z/OS のデフォルト。
- ⁷ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁸ Windows でのみ有効です。

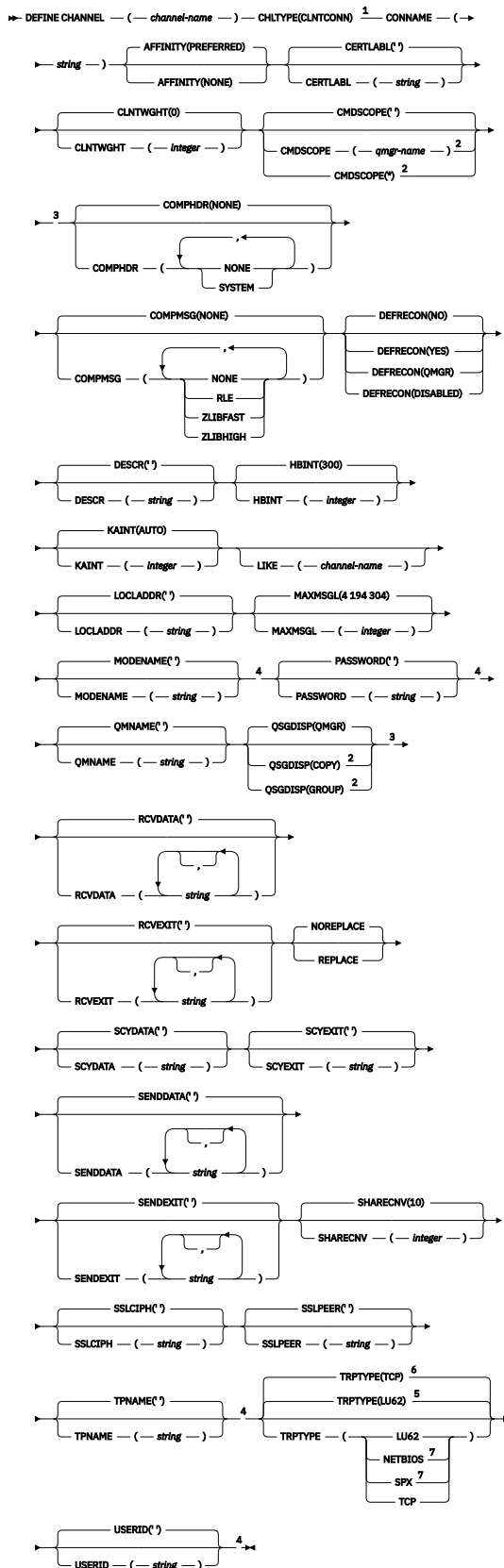
パラメーターについては、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)に説明があります。

クライアント接続チャネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、クライアント接続チャネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

DEFINE CHANNEL



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁵ z/OS のデフォルト。
- ⁶ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁷ DOS または Windows で実行するクライアントでのみ有効です。

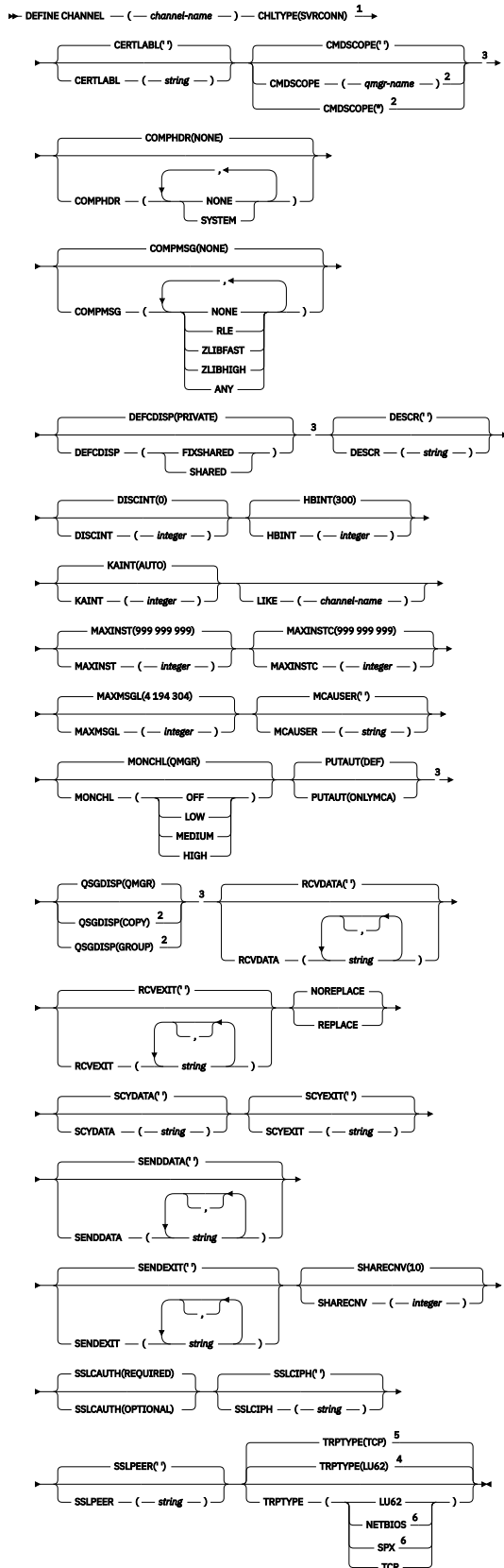
パラメーターについては、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)に説明があります。

サーバー接続チャネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、サーバー接続チャネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

DEFINE CHANNEL



注:

¹ z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。

- ² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS のデフォルト。
- ⁵ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁶ Windows で実行するクライアントでのみ有効です。

パラメーターについては、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)に説明があります。

クラスター送信側チャネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、クラスター送信側チャネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

[illegible]

¹ z/OS では無効です。

- ² z/OS 以外では、このパラメーターはチャンネル名の直後に指定する必要があります。
- ³ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS でのみ有効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ z/OS のデフォルト。
- ⁷ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁸ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)に説明があります。

クラスター受信側チャンネル

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合の、クラスター受信側チャンネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

```

-- DEFINE CHANNEL -- ( -- channel-name -- ) -- CHLTYPE(CLUSRCVT) 1 -- COMNAME -- ( --

```



906 IBM MQ 管理リファレンス

- ² このパラメーターは、TRPTYPE が TCP の場合はオプションです。
- ³ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ⁴ z/OS でのみ有効です。
- ⁵ TRPTYPE が LU62 の場合にのみ有効です。
- ⁶ z/OS のデフォルト。
- ⁷ 分散プラットフォームのデフォルト。
- ⁸ Windows でのみ有効です。

パラメーターについては、852 ページの『DEFINE CHANNEL』に説明があります。

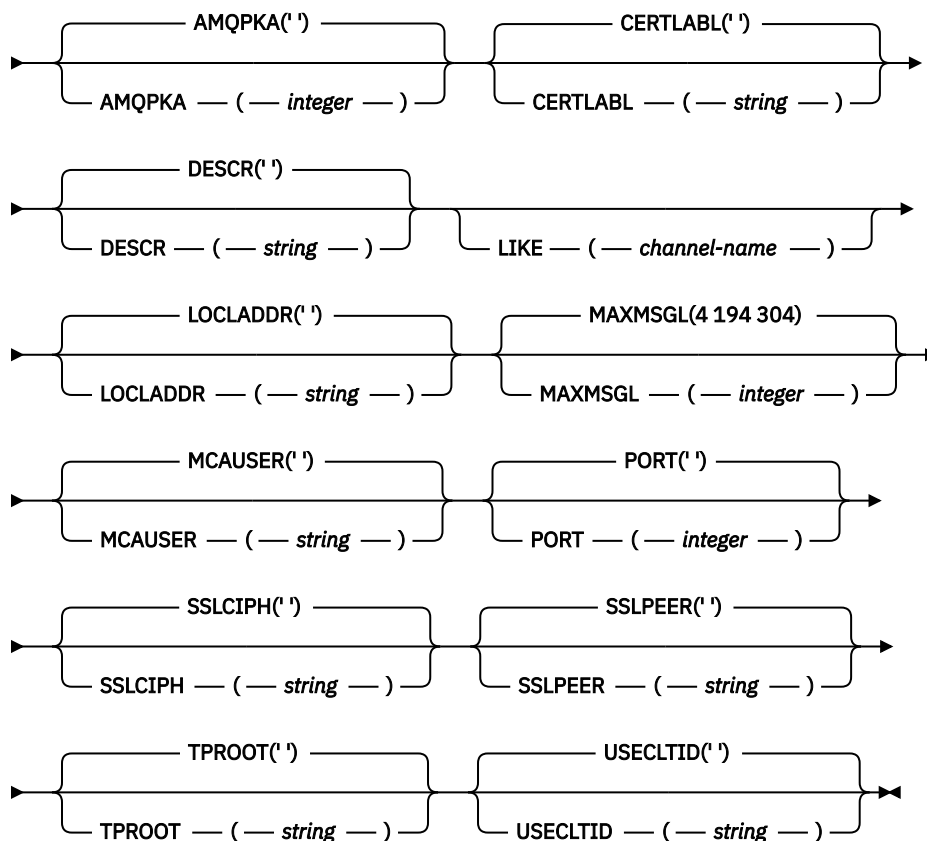
V 8.0.0.4 distributed AMQP チャンネル

DEFINE CHANNEL コマンド使用時の AMQP チャンネルの構文図。

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『路線図の読み方』を参照してください。

DEFINE CHANNEL

➡ DEFINE CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE(AMQP) ➡



パラメーターについては、852 ページの『DEFINE CHANNEL』に説明があります。

DEFINE CHANNEL (MQTT)

DEFINE CHANNEL コマンドを使用する場合のテレメトリー・チャンネルの構文図。

MQSC コマンドの使用

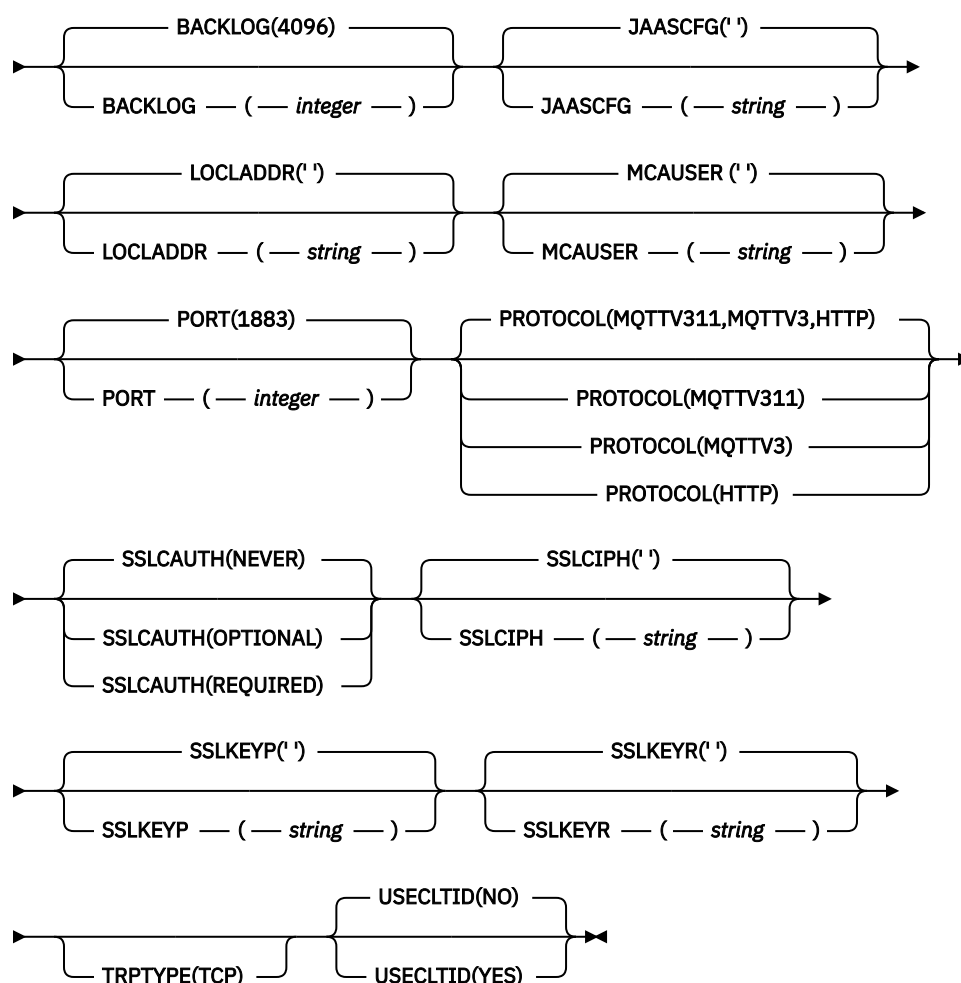
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

注：テレメトリー・サーバー用にサポートされている UNIX プラットフォームは AIX のみです。

DEFINE CHANNEL (MQTT)

►► DEFINE CHANNEL — (— *チャンネル名* —) — CHLTYPE — (— MQTT —) —►



使用上の注意

このコマンドの発行時には、テレメトリー (MQXR) サービスが実行中でなければなりません。テレメトリー (MQXR) サービスを開始する方法については、[テレメトリー対応キュー・マネージャーの構成 \(Linux\)](#) または [Windows 上のテレメトリー用キュー・マネージャーの構成](#)を参照してください。

DEFINE CHANNEL のパラメーターの説明 (MQTT)

(*channel-name*)

新しいチャンネル定義の名前。

この名前は、このキュー・マネージャー上で定義されている既存のチャンネルの名前と同じであってはなりません (ただし、REPLACE または ALTER が指定されている場合を除きます)。

ストリングの最大長は 20 文字で、有効な文字しか含めることができません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

BACKLOG (*integer*)

ある一時点にテレメトリー・チャンネルがサポートできる未解決の接続要求の数。バックログ制限に達すると、さらに接続しようとするクライアントは現在のバックログが処理されるまで接続を拒否されます。

この値の範囲は 0 から 999999999 です。

デフォルト値は 4096 です。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。MQTT (テレメトリー) チャンネル。

JAASCFG (*string*)

JAAS 構成ファイル内のスタンザの名前。

[JAAS を使用した MQTT クライアント Java アプリケーションの認証](#)を参照してください。

LOCLADDR (*ip-addr*)

LOCLADDR は、チャンネルのローカル通信アドレスです。このパラメーターは、特定の IP アドレスの使用をクライアントに強制する必要がある場合に使用します。LOCLADDR は、チャンネルで IPv4 または IPv6 アドレスを使用したり (選択可能な場合)、複数のネットワーク・アダプターがあるシステムにおいて特定のネットワーク・アダプターを使用したりすることを強制する場合に役立ちます。

LOCLADDR の最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LOCLADDR を省略すると、ローカル・アドレスが自動的に割り振られます。

ip-addr

ip-addr は、単一のネットワーク・アドレスであり、次の 3 つの形式のいずれかで指定します。

IPv4 ドット 10 進数

192.0.2.1 など

IPv6 16 進表記

2001:DB8:0:0:0:0:0:0 など

英数字のホスト名書式

WWW.EXAMPLE.COM など

IP アドレスを入力すると、アドレス・フォーマットのみが妥当性検査されます。IP アドレス自体は妥当性検査されません。

MCAUSER (*string*)

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

ストリングの最大長は 12 文字です。Windows では、オプションで、形式 user@domain のドメイン・ネームを使用してユーザー ID を修飾できます。

このパラメーターが非ブランクで、[USECLNTID](#) が NO に設定されている場合、このユーザー ID は、IBM MQ リソースへのアクセスを許可するためにテレメトリー・サービスによって使用されます。

このパラメーターがブランクであり、[USECLNTID](#) が NO に設定されている場合、MQTT CONNECT パケットで送られてきたユーザー名が使用されます。[MQTT クライアントの ID および許可](#)を参照してください。

PORT (*integer*)

テレメトリー (MQXR) サービスがクライアント接続を受け付けるポート番号。テレメトリー・チャンネルのデフォルト・ポート番号は 1883 で、SSL を使用して保護されているテレメトリー・チャンネルのデフ

オルト・ポート番号は 8883 です。ポートの値として 0 を指定すると、MQTT が使用可能なポート番号を動的に割り振ります。

PROTOCOL

以下の通信プロトコルがチャンネルでサポートされています。

▶ V8.0.0.3 MQTTV311

チャンネルは、[MQTT バージョン 3.1.1 Oasis](#) 規格で定義されたプロトコルを使用するクライアントからの接続を受け入れます。このプロトコルによる機能は、既存の MQTTV3 プロトコルによる機能とほとんど同じです。

MQTTV3

チャンネルは、[mqtt.org](#) が定めた [MQTT V3.1](#) プロトコル仕様を使用するクライアントからの接続を受け入れます。

HTTP

チャンネルは、ページの HTTP 要求、または IBM MQ Telemetry への WebSockets 接続を受け入れます。

それぞれ異なるプロトコルを使用する複数のクライアントからの接続を受け入れるには、受け入れ可能な値をコンマ区切りリストで指定します。例えば、MQTTV3,HTTP を指定した場合、チャンネルは MQTTV3 かまたは HTTP を使用するクライアントからの接続を受け入れます。クライアント・プロトコルを指定しない場合、チャンネルは、サポートされるプロトコルのいずれかを使用するクライアントからの接続を受け入れます。

▶ V8.0.0.3 IBM MQ バージョン 8.0.0、フィックスパック 3 以降を使用していて、旧バージョンの IBM MQ で最後に変更された MQTT チャンネルが構成に含まれている場合は、プロトコル設定を明示的に変更して、チャンネルが MQTTV311 オプションを使用するようにする必要があります。チャンネルにクライアント・プロトコルが何も指定されていない場合も同様です。チャンネルで使用する具体的なプロトコルはチャンネルの構成時に保管されるため、以前のバージョンの製品は MQTTV311 オプションを認識しないからです。この状態のチャンネルが MQTTV311 オプションを使用するようにするには、オプションを明示的に追加して、変更を保存します。これで、チャンネル定義でオプションが認識されるようになります。その後再び設定を変更して、クライアント・プロトコルをまったく指定しなくても、MQTTV311 オプションはサポートされるプロトコルの保管リストにそのまま含まれています。

SSLCAUTH

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。チャンネルの開始側は SSL クライアントとして動作するので、このパラメーターは SSL サーバーとして動作する、開始フローの受信側のチャンネルに適用されます。

NEVER

IBM MQ は、SSL クライアントからの証明書を要求しません。

REQUIRED

IBM MQ は、SSL クライアントから証明書を必要とし、それを検証します。

OPTIONAL

IBM MQ は、証明書を提供するかどうかを SSL クライアントに決定させます。クライアントが証明書を送信する場合、この証明書の内容は、標準で検証されます。

SSLCIPH (string)

SSLCIPH をテレメトリー・チャンネルで使用する場合は、"SSL 暗号スイート"を意味します。SSL 暗号スイートは、テレメトリー (MQXR) サービスを実行する JVM でサポートされるものです。SSLCIPH パラメーターがブランクの場合、チャンネルでの SSL の使用は試行されません。

SHA-2 暗号スイートを使用する場合は、[MQTT チャンネルで SHA-2 暗号スイートを使用する場合のシステム要件](#)を参照してください。

SSLKEYP (string)

Secure Sockets Layer (SSL) キー・リポジトリのパスフレーズ。

SSLKEYR (*string*)

デジタル証明書とそれに関連した秘密鍵のストア (格納場所) である Secure Sockets Layer (SSL) の鍵リポジトリ・ファイルの絶対パス名。鍵ファイルを指定しなかった場合、SSL は使用されません。

ストリングの最大長は 256 文字です。UNIX および Linux では、名前の形式は *pathname/keyfile* であり、Windows *pathname\keyfile* では *keyfile* が接尾部 *.jks* なしで指定され、Java 鍵ストア・ファイルを識別します。

TRPTYPE (*string*)

使用する伝送プロトコル。

TCP

TCP/IP。

USECLTID

新しい接続の MQTT クライアント ID を、この接続の IBM MQ ユーザー ID として使用するかどうかを決定します。このプロパティを指定すると、クライアントが指定するユーザー名は無視されます。

このパラメーターを YES に設定する場合、**MCAUSER** はブランクでなければなりません。

USECLNTID が NO に設定されていて、**MCAUSER** がブランクである場合、MQTT CONNECT パケットで送られてきたユーザー名が使用されます。[MQTT クライアントの ID および許可](#)を参照してください。

関連資料

717 ページの『ALTER CHANNEL (MQTT)』

ALTER CHANNEL コマンド使用時のテレメトリ・チャネル用の構文図。

関連情報

[SSL を使用した MQTT クライアント認証のためのテレメトリ・チャネルの構成](#)

[SSL を使用したチャネル認証のためのテレメトリ・チャネル構成](#)

[CipherSpec および CipherSuite](#)

[MQTT チャネルで SHA-2 暗号スイートを使用する場合のシステム要件](#)

DEFINE COMMINFO

MQSC コマンド DEFINE COMMINFO では、新しい通信情報オブジェクトを定義します。これらのオブジェクトには、マルチキャスト・メッセージングに必要な定義を組み込みます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

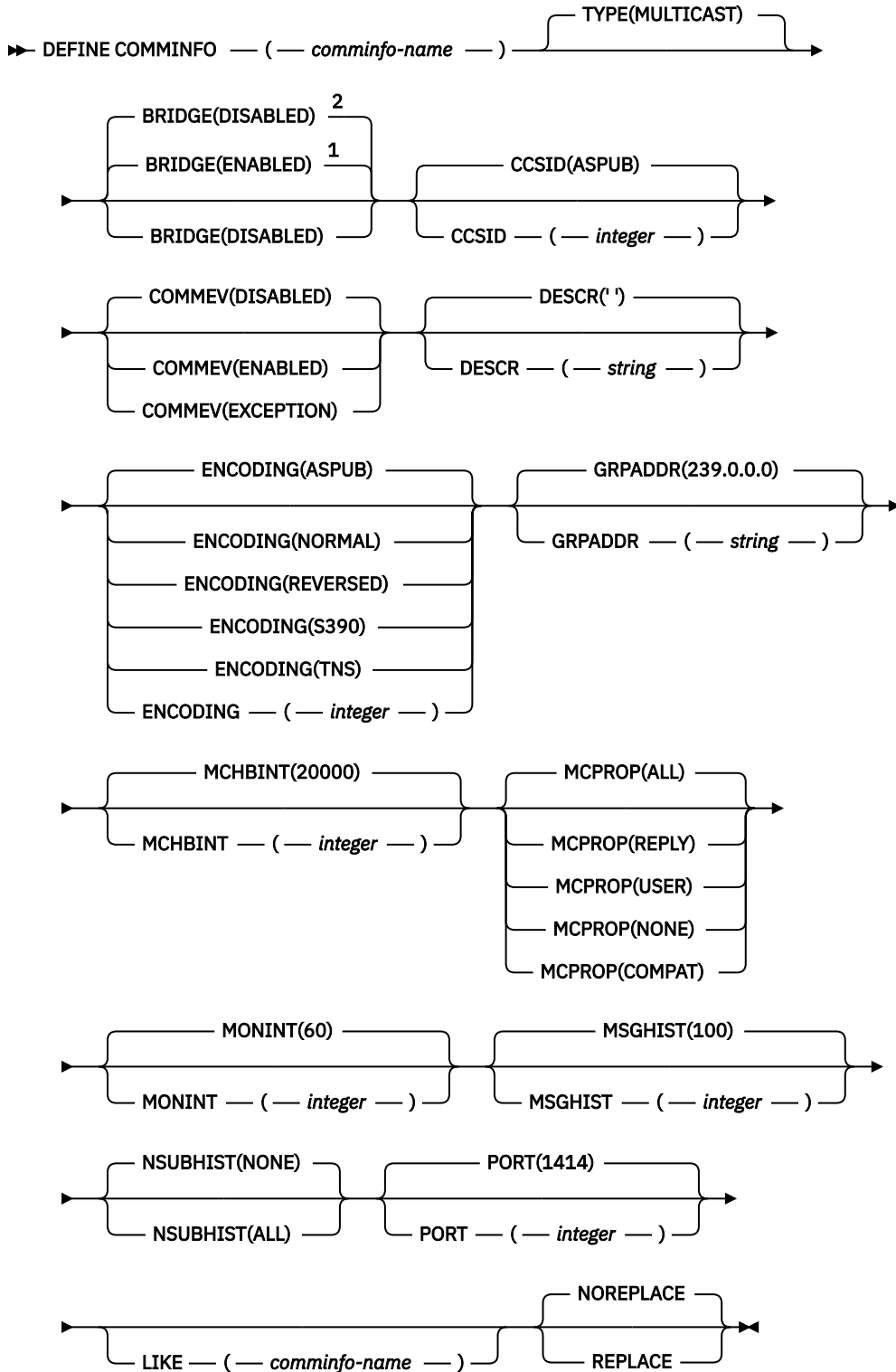
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [913 ページの『DEFINE COMMINFO のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF COMMINFO

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

DEFINE COMMINFO



注:

¹ IBM i 以外のプラットフォームのデフォルト。

² IBM i のデフォルト。

DEFINE COMMINFOのパラメーターの説明

(*comminfo name*)

通信情報オブジェクトの名前。これは必須です。

このキュー・マネージャーで現在定義されている他の通信情報オブジェクト名と同じ名前を指定することはできません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

タイプ

通信情報オブジェクトのタイプ。サポートされている唯一のタイプは、MULTICASTです。

BRIDGE

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡すかどうかを制御します。ブリッジングは、**MCAST(ONLY)**のマークが付いているトピックには適用されません。その種のトピックでは、マルチキャスト・トランフィックだけが可能なので、キューのパブリッシュ/サブスクライブ・ドメインへのブリッジは適用されません。

無効化

マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションが、マルチキャストを使用するアプリケーションにブリッジされません。これが IBM i のデフォルトです。

ENABLED

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡します。これが IBM i 以外のプラットフォームのデフォルトです。

CCSID(*integer*)

メッセージ送信のコード化文字セット ID。1 から 65535 の範囲内で値を指定します。

CCSID では、対象のプラットフォーム用に定義されている値を指定する必要があります。また、そのプラットフォームに該当する文字セットを使用しなければなりません。このパラメーターを使用して CCSID を変更する場合、その変更が適用されるときに実行中のアプリケーションは引き続き元の CCSID を使用します。したがって、稼働を続ける前に、すべての実行中のアプリケーションをいったん停止して再始動する必要があります。これには、コマンド・サーバーおよびチャネル・プログラムが含まれます。これを行うには、変更を行った後にキュー・マネージャーを停止および再始動します。

デフォルト値は ASPUB です。この場合は、パブリッシュされるメッセージで指定されている値に基づいて、コード化文字セットが選択されます。

COMMEV

この COMMINFO オブジェクトで作成されたマルチキャスト・ハンドルのイベント・メッセージを生成するかどうかを制御します。イベントが生成されるのは、**MONINT** パラメーターでイベントが有効になっている場合に限られます。

無効化

COMMINFO オブジェクトを使用して作成されるマルチキャスト・ハンドルに対して、イベント・メッセージは生成されません。これはデフォルト値です。

ENABLED

COMMINFO オブジェクトを使用して作成されるマルチキャスト・ハンドルに対して、イベント・メッセージは生成されます。

EXCEPTION

メッセージ信頼性が信頼性しきい値を下回ると、イベント・メッセージが書き込まれます。信頼性しきい値は、デフォルトで 90 に設定されます。

DESCR(*string*)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY COMMINFO コマンドを実行すると、通信情報オブジェクトに関するこの記述情報が表示されます ([1096 ページの『DISPLAY COMMINFO』](#)を参照してください)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

ENCODING

メッセージ送信のエンコード。

AS PUB

メッセージのエンコードは、パブリッシュされるメッセージで指定されている値から取り込まれます。これはデフォルト値です。

REVERSED

NORMAL

S390

TNS

encoding

GRPADDR

グループの IP アドレスまたは DNS 名。

グループ・アドレスを管理するのは、管理者の責任です。すべてのマルチキャスト・クライアントで、あらゆるトピックについて同じグループ・アドレスを使用することも可能です。その場合も、クライアントで未解決になっているサブスクリプションに合致するメッセージだけが送信されます。同じグループ・アドレスを使用すると、各クライアントがネットワーク内のあらゆるマルチキャスト・パケットを調べて処理しなければならないので、効率が落ちる場合もあります。トピックごとに、あるいはトピック・セットごとに、別々の IP グループ・アドレスを割り振るほうが効率は良くなりますが、そのためには、注意深い管理が必要です。ネットワークで MQ 以外の他のマルチキャスト・アプリケーションが使用されている場合は、特にそういえます。デフォルト値は 239.0.0.0 です。

MCHBINT

ハートビート間隔はミリ秒単位で測定されます。このパラメーターで、送信側がデータがこれ以上ないことを受信側に通知する頻度を指定します。値の範囲は 0 から 999 999 です。デフォルト値は 2000 ミリ秒です。

MCPROP

このマルチキャスト・プロパティの値では、メッセージと一緒に流れる MQMD プロパティとユーザー・プロパティの数を制御します。

すべて

すべてのユーザー・プロパティとすべての MQMD フィールドを送信します。

REPLY

ユーザー・プロパティと、メッセージへの応答に関連する MQMD フィールドだけを送信します。以下のプロパティが該当します。

- MsgType
- MessageId
- CorrelId
- ReplyToQ
- ReplyToQmgr

ユーザー

ユーザー・プロパティのみが送信されます。

NONE

ユーザー・プロパティも MQMD フィールドも送信されません。

COMPAT

この値を指定すると、RMM 互換モードでメッセージが送信されます。これによって、現行の XMS アプリケーションおよびブローカー RMM アプリケーションとの相互協調処理が一部可能になります。

MONINT(integer)

モニター情報を更新する頻度 (秒単位)。イベント・メッセージが有効になっている場合は、このパラメーターによって、この COMMINFO オブジェクトで作成されたマルチキャスト・ハンドルの状況に関するイベント・メッセージの生成頻度も制御できます。

0 の値は、モニターしないことを意味します。

デフォルト値は 60 です。

MSGHIST

この値は、システムが NACK (否定応答) の場合の再送信を処理するために保持しておくメッセージ・ストリームの量 (キロバイト単位) です。

値の範囲は 0 から 999 999 999 です。値を 0 にすると、信頼性が最低レベルになります。デフォルト値は 100 です。

NSUBHIST

この新規サブスクライバー・履歴の値では、パブリケーション・ストリームに加わるサブスクライバーが現時点で入手できる限りの量のデータを受け取るのか、それともサブスクリプションの時点以降に実行されたパブリケーションだけを受け取るのかを制御します。

NONE

値を NONE にすると、送信側は、サブスクリプションの時点以降に実行されたパブリケーションだけを送信します。これはデフォルト値です。

ALL

値を ALL にすると、送信側は、入手できる限りのトピック・履歴を再送信します。場合によっては、保存パブリケーションと同じような動作になることがあります。

注: ALL の値を使用すると、すべてのトピック・履歴が再送信されるので、大量のトピック・履歴がある場合は、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

PORT(integer)

送信のポート番号。デフォルトのポート番号は 1414 です。

LIKE(authinfo-name)

この定義のモデルとして使用するパラメーターが設定されている通信情報オブジェクトの名前。

このフィールドを入力しないで、コマンドに関連するパラメーター・フィールドも入力しない場合は、このタイプのオブジェクトのデフォルト定義から値が取り込まれます。

このデフォルト通信情報オブジェクト定義は、インストール環境によって、必要なデフォルト値に変更される場合があります。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義をこの定義に置き換えるかどうか。これはオプションです。デフォルトは NOREPLACE です。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

同じ名前の既存の定義をこの定義に置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

NOREPLACE

同じ名前の既存の定義をこの定義に置き換えません。

DEFINE LISTENER

新しい IBM MQ リスナー定義を作成してそのパラメーターを設定するには、MQSC コマンド DEFINE LISTENER を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

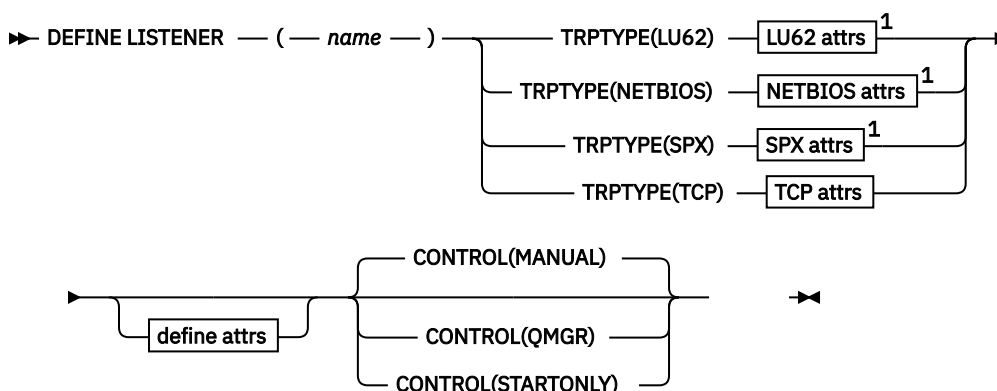
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [917 ページの『DEFINE LISTENER のパラメーターの説明』](#)

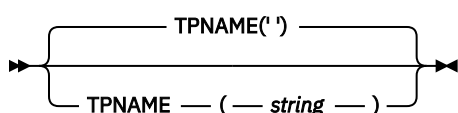
同義語: DEF LSTR

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『路線図の読み方』を参照してください。

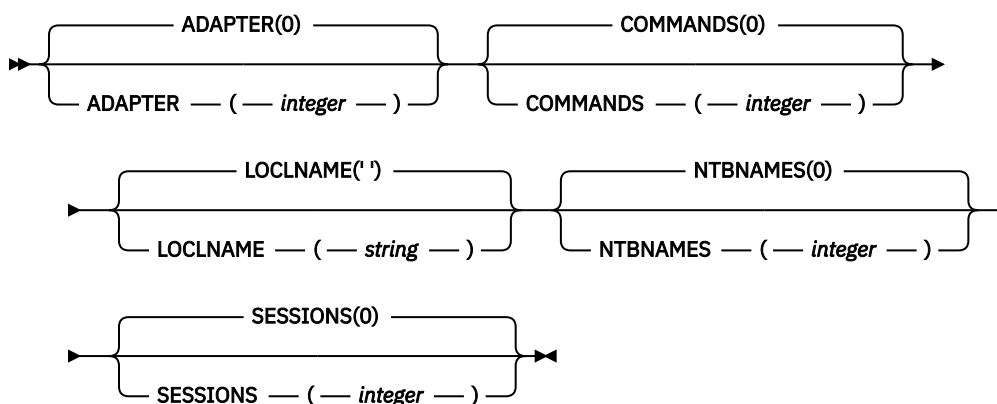
DEFINE LISTENER



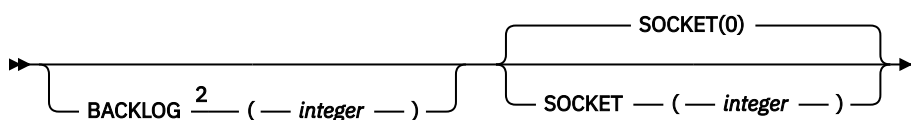
LU62 attrs



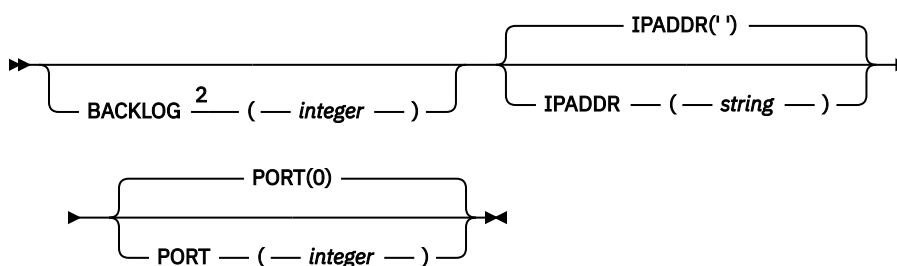
NETBIOS attrs



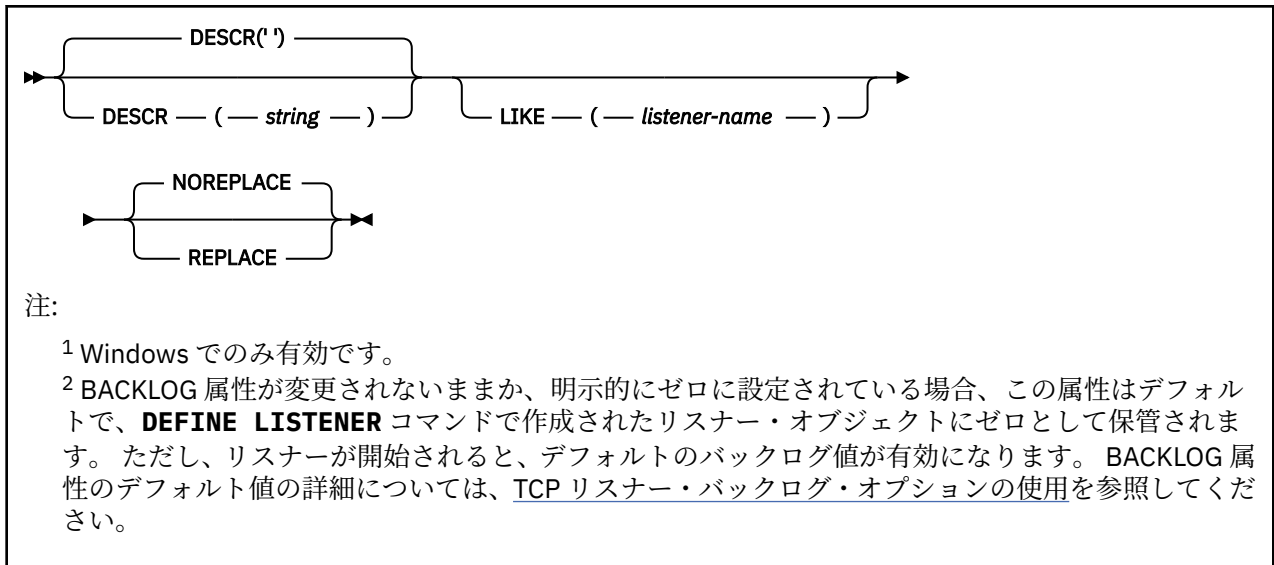
SPX attrs



TCP attrs



Define attrs



DEFINE LISTENER のパラメーターの説明

(*listener-name*)

IBM MQ リスナー定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。これは必須です。

名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのリスナー定義とも同じであってはなりません (REPLACE が指定されている場合を除く)。

ADAPTER(*integer*)

NetBIOS が listen するアダプター番号。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows のみ有効です。

BACKLOG(*integer*)

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

COMMANDS(*integer*)

リスナーが使用できるコマンドの数。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows のみ有効です。

CONTROL(*string*)

リスナーの開始および停止の方法を指定します。

MANUAL

リスナーを自動的に開始または停止しません。START LISTENER コマンドと STOP LISTENER コマンドを使用して制御します。

QMGR

定義するリスナーは、キュー・マネージャーの開始および停止と同時に、開始および停止します。

STARTONLY

リスナーは、キュー・マネージャーの開始と同時に開始するようになっていますが、キュー・マネージャーの停止と同時に停止するようには要求されていません。

DESCR(*string*)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY LISTENER コマンドを発行すると、リスナーに関する記述情報が提供されます ([1116 ページの『DISPLAY LISTENER』](#)を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

IPADDR(*string*)

リスナーの IP アドレス。IPv4 ドット 10 進表記、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名のいずれかの形式で指定します。このパラメーターに値を指定しない場合、リスナーは構成済みのすべての IPv4 および IPv6 スタックを listen します。

LIKE(*listener-name*)

リスナーの名前。この定義をモデル化するために使用するパラメーターと共に指定します。

このパラメーターは、DEFINE LISTENER コマンドのみに適用されます。

このフィールドが入力されておらず、コマンドに関連するパラメーター・フィールドを入力していない場合には、値はこのキュー・マネージャーでのリスナーのデフォルト定義から取得されます。これは、次のように指定するのと同じです。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.LISTENER)
```

デフォルトのリスナーが指定されますが、これは必要なデフォルト値のインストールにより変更できます。 [IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

LOCLNAME(*string*)

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

NTBNAMES(*integer*)

リスナーが使用できる名前数。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

PORT(*integer*)

TCP/IP のポート番号。これは、TRPTYPE が TCP である場合にのみ有効です。65535 を超えることはできません。

SESSIONS(*integer*)

リスナーが使用できるセッションの数。このパラメーターは、TRPTYPE が NETBIOS の場合に Windows でのみ有効です。

SOCKET(*integer*)

listen する SPX ソケットです。これは、TRPTYPE が SPX である場合にのみ有効です。

TPNAME(*string*)

LU 6.2 トランザクション・プログラム名 (最大長 64 文字)。このパラメーターは、TRPTYPE が LU62 の場合に Windows でのみ有効です。

TRPTYPE(*string*)

使用する伝送プロトコル。

LU62

SNA LU 6.2。これは、Windows でのみ有効です。

NETBIOS

NetBIOS。これは、Windows でのみ有効です。

SPX

Sequenced Packet Exchange。これは、Windows でのみ有効です。

TCP

TCP/IP。

DEFINE LOG

MQSC コマンド DEFINE LOG を使用して、アクティブ・ログ・リングに新規アクティブ・ログ・データ・セットを追加します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

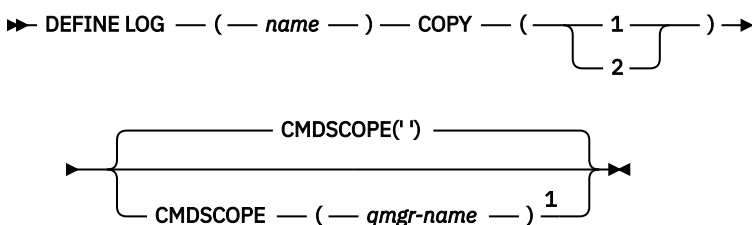
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

指定されたデータ・セットは、実行中のキュー・マネージャーに動的に割り振られ、COPY1 または COPY2 いずれかのアクティブ・ログおよびこの情報により更新された BSDS に追加されるため、キュー・マネージャーの再始動時にも保持されます。データ・セットは、現在のアクティブ・ログがいっぱいになってアクティブ・ログの切り替えが行われるときに、次に使用されるアクティブ・ログとなるような位置でアクティブ・ログ・リングに追加されます。

- [構文図](#)
- [919 ページの『DEFINE LOG の使用上の注意』](#)
- [919 ページの『DEFINE LOG のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF LOG

DEFINE LOG



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

DEFINE LOG の使用上の注意

ログ・スペースが無くなってキュー・マネージャーが待機しているためにログ・データ・セットを追加する必要がある場合は、コマンド・サーバーからではなく、z/OS コンソールからコマンドを発行する必要があります。

DEFINE LOG のパラメーターの説明

(name)

新しいログ・データ・セットの名前。これは必須であり、アクセス方式サービス・プログラムによって既に定義されている (必要に応じて、ユーティリティ CSQJUFMT によってフォーマット設定されている) VSAM 線形データ・セットの名前です。これは、キュー・マネージャーに動的に割り振られます。

ストリングの最大長は 44 文字です。ストリングは z/OS データ・セットの命名規則に準拠している必要があります。

COPY

新しいログ・データ・セットを追加するアクティブ・ログ・リングの番号を指定します。これは 1 または 2 に指定され、必須です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

z/OS DEFINE MAXSMSGS

タスクが1つのリカバリー単位内に最大でいくつのメッセージを読み取る (または書き込む) ことができるかを定義するには、MQSC コマンド DEFINE MAXSMSGS を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

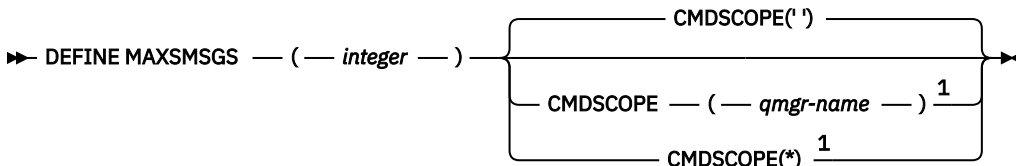
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [920 ページの『使用上の注意』](#)
- [920 ページの『DEFINE MAXSMSGS のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF MAXSM

DEFINE MAXSMSGS



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

使用上の注意

1. このコマンドは、z/OS でのみ有効であり、従来のリリースとの互換性のために保持されていますが、CSQINP1 初期設定入力データ・セットからは発行できなくなりました。ALTER QMGR コマンドの MAXUMSGS パラメーターを代わりに使用する必要があります。
2. DEFINE MAXSMSGS コマンドを発行して、許可されるメッセージの数を変更できます。設定された値は、キュー・マネージャーが再始動しても保持されます。

DEFINE MAXSMSGS のパラメーターの説明

(integer)

タスクが1つのリカバリー単位内で読み取りまたは書き込みができるメッセージの最大数。この値は、1 から 999999999 の範囲の整数でなければなりません。デフォルト値は10000です。

この数には、同じリカバリー単位内に生成されるトリガー・メッセージおよびレポート・メッセージがすべて含まれます。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DEFINE NAMELIST

MQSC コマンド DEFINE NAMELIST は、名前のリストを定義するために使用します。このリストは、通常、クラスター名またはキュー名のリストです。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

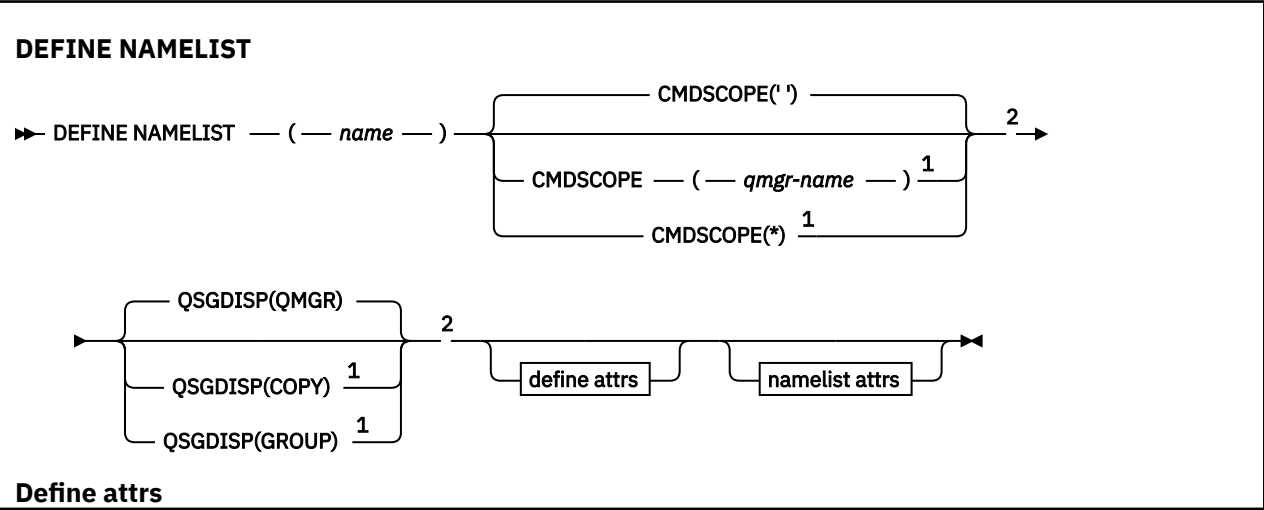
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

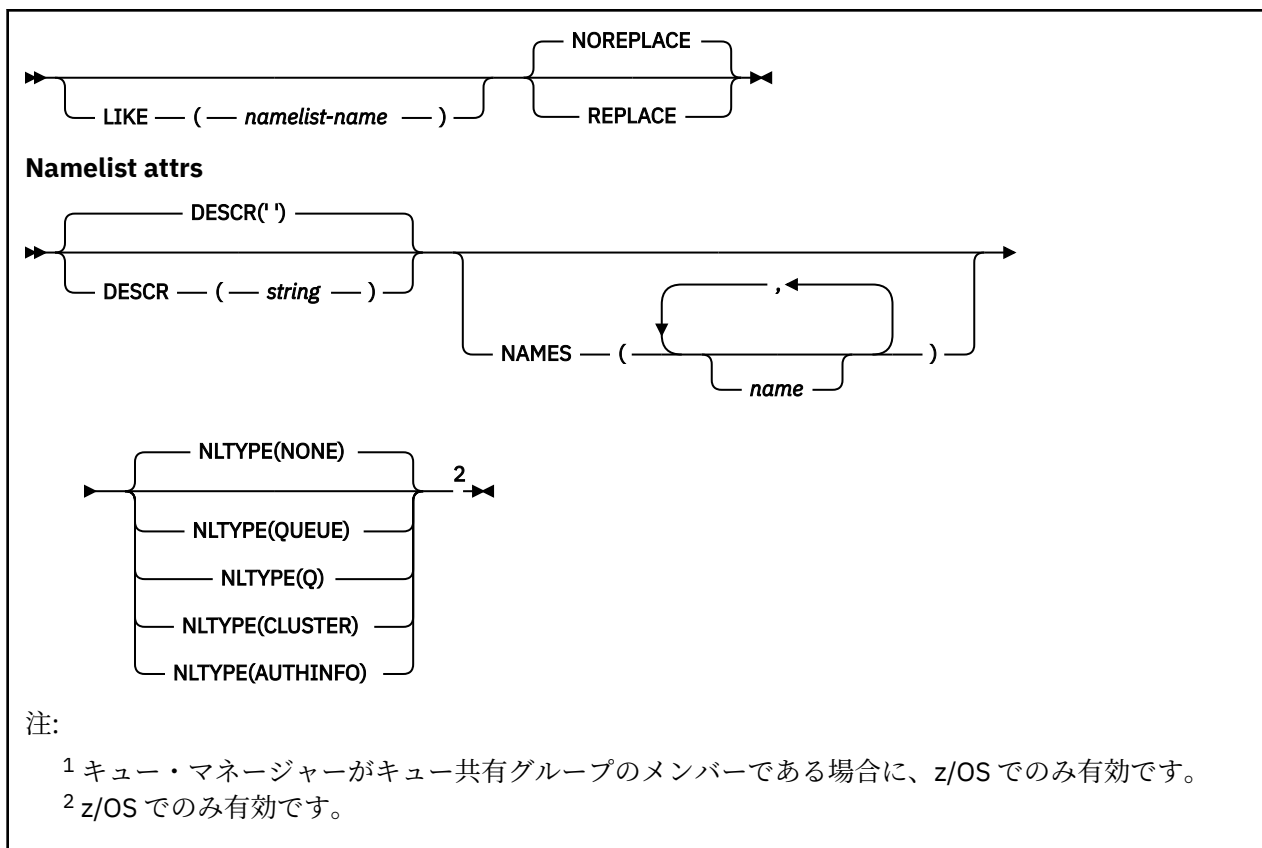
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [922 ページの『使用上の注意』](#)
- [922 ページの『DEFINE NAMELIST のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF NL

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『[路線図の読み方](#)』を参照してください。





使用上の注意

- UNIX システムでは、このコマンドは、AIX、HP-UX、Linux、および Solaris でのみ有効です。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の DEFINE NAMELIST ステップ](#)を参照してください。

DEFINE NAMELIST のパラメーターの説明

(name)

リストの名前。

名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどの名前リストとも同じであってはなりません (REPLACE または ALTER が指定されている場合を除く)。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。★を指定すると、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY NAMELIST コマンドを発行すると、名前リストに関する記述情報が提供されます (1125 ページの『DISPLAY NAMELIST』を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

LIKE(namelist-name)

名前リストの名前。この定義をモデル化するために使用するパラメーターと共に指定します。

このフィールドが入力されておらず、コマンドに関連するパラメーター・フィールドを入力していない場合には、値はこのキュー・マネージャーでの名前リストのデフォルト定義から取得されます。

このパラメーターを入力しない場合、次のように指定したことに相当します。

```
LIKE (SYSTEM.DEFAULT.NAMELIST)
```

デフォルトの名前リスト定義が指定されますが、これは必要なデフォルト値のインストールにより変更できます。IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照してください。

z/OS z/OS では、キュー・マネージャーがページ・セット 0 を検索し、ユーザーが指定する名前と QMGR または COPY の属性指定を持つオブジェクトを探します。LIKE オブジェクトの属性指定は、定義しているオブジェクトにはコピーされません。

注:

1. QSGDISP (GROUP) オブジェクトは検索されません。
2. QSGDISP (COPY) が指定された場合、LIKE は無視されます。

NAMES(name, ...)

名前のリスト。

名前の種類は自由ですが、IBM MQ オブジェクトの命名規則に準拠していなければなりません。長さは最大 48 文字まで有効です。

空のリストが有効です。NAMES () を指定してください。リスト内の名前の最大数は 256 です。

NLTYPE

名前リスト内の名前のタイプを指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

NONE

名前には、特定のタイプが指定されていません。

QUEUE または Q

キュー名のリストを保持する名前リスト。

CLUSTER

クラスター化に関連付けられている名前リスト (クラスター名のリストを含む)。

AUTHINFO

この名前リストは SSL に関連付けられ、認証情報オブジェクト名のリストを含みます。

クラスター化に使用される名前リストには、NLTYPE (CLUSTER) または NLTYPE (NONE) が指定されている必要があります。

SSL に使用される名前リストには、NLTYPE (AUTHINFO) が指定されている必要があります。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	DEFINE
COPY	「LIKE」オブジェクトと同じ名前の QSGDISP(GROUP) オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されているオブジェクト。
GROUP	オブジェクト定義は、キュー・マネージャーがキュー共有グループに属している場合にのみ、共有リポジトリにあります。定義が正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上でローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE NAMELIST(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの DEFINE は、QSGDISP(COPY) を含む生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。
PRIVATE	許可されません。
QMGR	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義 (z/OS の場合は、属性指定が同じもの) をこれに置換するかどうか。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

同名の定義が既に存在すれば、この定義で置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

DEFINE PROCESS

新しい IBM MQ プロセス定義を作成してそのパラメーターを設定するには、MQSC コマンド DEFINE PROCESS を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

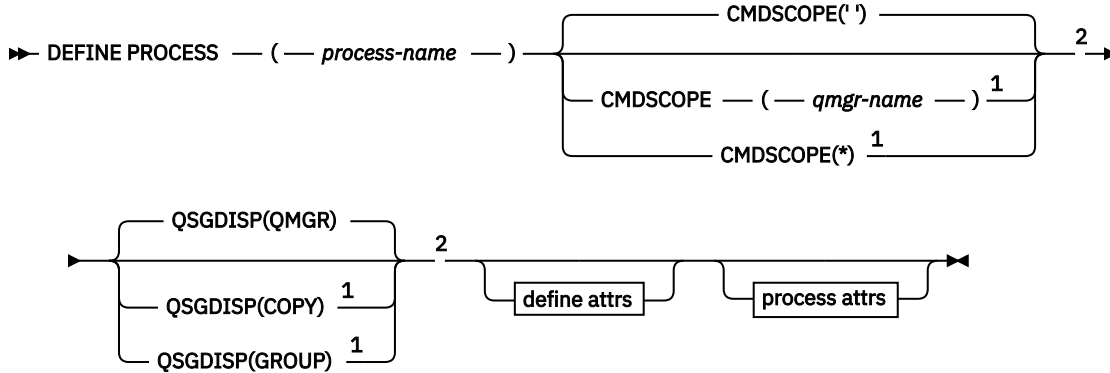
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [926 ページの『DEFINE PROCESS のパラメーターの説明』](#)

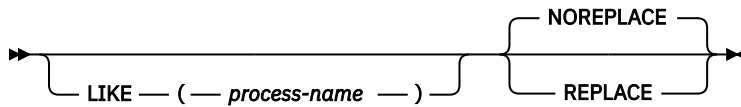
同義語: DEF PRO

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

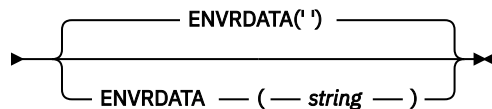
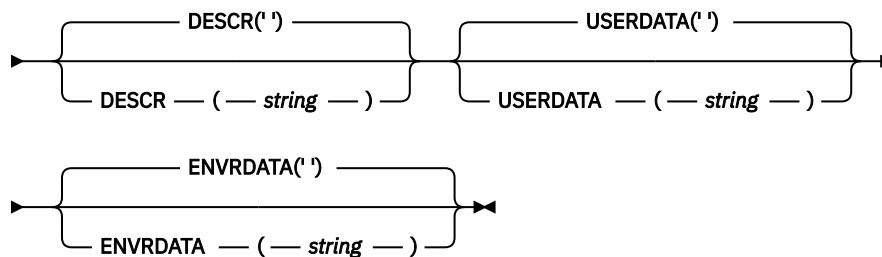
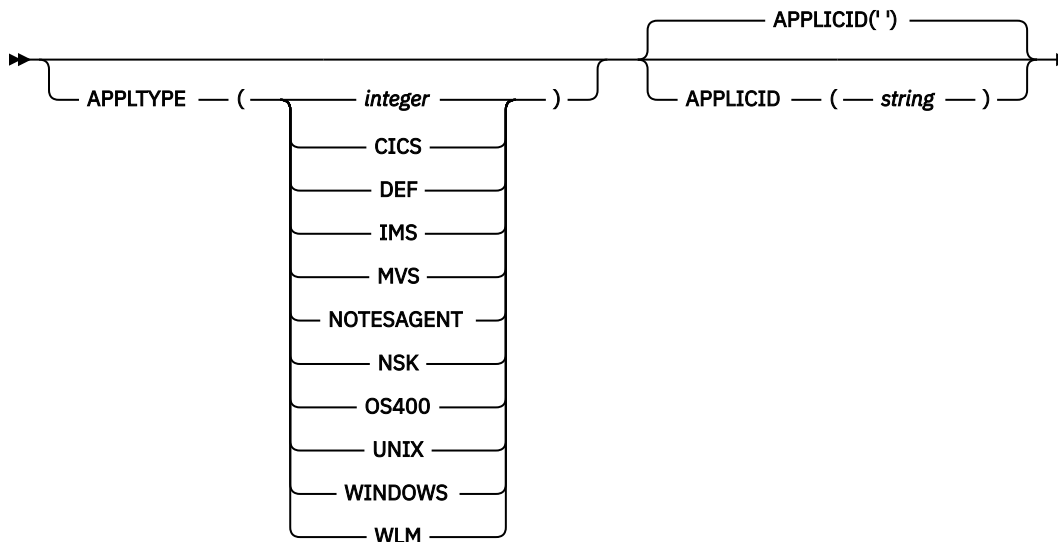
DEFINE PROCESS



Define attrs



Process attrs



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

³ デフォルトは、プラットフォームによって異なり、ご使用のインストール・システムで変更できません。

DEFINE PROCESS のパラメーターの説明

(process-name)

IBM MQ プロセス定義の名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。 *process-name* は必須です。

指定する名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのプロセス定義とも同じであってはなりません (ただし、REPLACE が指定されている場合を除きます)。

APPLICID(string)

開始するアプリケーションの名前。この名前は通常、実行可能オブジェクトの完全修飾ファイル名にします。ファイル名の修飾は、特に、複数の IBM MQ インストールがある場合に、正しいバージョンのアプリケーションを実行するために重要です。最大長は 256 文字です。

CICS アプリケーションの場合、名前は CICS トランザクション ID です。

 **IMS** IMS アプリケーション場合は、IMS トランザクション ID です。

 **z/OS** z/OS で分散キューイングを使用している場合は、アプリケーション名を **CSQX START** にする必要があります。

APPLTYPE(string)

開始するアプリケーションのタイプ 有効なアプリケーション・タイプは次のとおりです。

integer

0 から 65 535 の範囲のシステム定義アプリケーション・タイプ、または 65 536 から 999 999 999 の範囲のユーザー定義アプリケーション・タイプ。

システム定義の範囲内にある特定の値を使用する場合、数値の代わりに次のリストにあるパラメーターを指定することができます。

CICS

CICS トランザクションを表します。

 **IMS**

IMS トランザクションを表します。

 **MVS**

z/OS アプリケーション (バッチまたは TSO) を表します。

NOTESAGENT

Lotus Notes エージェントを表します。

NSK

HP Integrity NonStop Server アプリケーションを表します。

 **OS400**

IBM i アプリケーションを表します。

UNIX

UNIX アプリケーションを表します。

WINDOWS

Windows アプリケーションを表します。

 **WLM**

z/OS ワークロード・マネージャー・アプリケーションを表します。

DEF

DEF を指定すると、コマンドを解釈するプラットフォームのデフォルト・アプリケーション・タイプがプロセス定義に保管されます。このデフォルトは、インストールにより変更できません。プラットフォームがクライアントをサポートする場合、デフォルトはサーバーのデフォルト・アプリケーション・タイプとして解釈されます。

コマンドが実行されるプラットフォームでサポートされている (ユーザー定義タイプ以外の) アプリケーション・タイプのみを使用してください。

-  z/OS では、CICS、IMS、MVS、UNIX、WINDOWS、WLM、および DEF がサポートされています。
- IBMi の場合、OS400、CICS、および DEF がサポートされます
- UNIX システムでは、UNIX、WINDOWS、CICS、および DEF がサポートされています。
- Windows では、WINDOWS、UNIX、CICS、および DEF がサポートされています。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

！

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境では、コマンド入力に使用しているキュー・マネージャー名とは異なるキュー・マネージャー名を指定できます。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY PROCESS コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) の文字を使用してください。他の文字を使用すると、情報が他のキュー・マネージャーに送信されたときに、正しく変換されない可能性があります。

ENVRDATA(string)

開始するアプリケーションに関する環境情報が含まれている文字ストリング。最大長は 128 文字である。

ENVRDATA の意味は、トリガー・モニター・アプリケーションによって決定されます。IBM MQ によって提供されるトリガー・モニターは、開始するアプリケーションに渡されるパラメーター・リストに ENVRDATA を追加します。パラメーター・リストは、MQTMC2 構造体の後に 1 つのブランク、さらに ENVRDATA が続く形式で構成され、末尾のブランクは削除されます。

注:

1.  z/OS では、IBM MQ によって提供されるトリガー・モニター・アプリケーションは ENVRDATA を使用しません。
2.  z/OS では、APPLTYPE が WLM である場合には、作業情報ヘッダー (MQWIH) の ServiceName フィールドおよび ServiceStep フィールドのデフォルト値を ENVRDATA に指定できます。これは、次の形式である必要があります。

```
SERVICENAME=servname,SERVICESTEP=stepname
```

ここで、

SERVICENAME=

ENVRDATA の最初の 12 文字。

servname

32 文字のサービス名。間に空白や他のデータが埋め込まれていたり、末尾に空白があったりしてもかまいません。そのまま MQWIIH にコピーされます。

SERVICESTEP=

ENVRDATA の次の 13 文字。

stepname

1 から 8 文字のサービス・ステップ名。そのまま MQWIIH にコピーされ、8 文字に足りない分は空白が埋め込まれます。

形式が正しくないと、MQWIIH のフィールドは空白に設定されます。

- UNIX システムでは、ENVRDATA をアンパーサンド記号に設定して、開始したアプリケーションがバックグラウンドで実行されるようにすることができます。

LIKE(process-name)

同じタイプのオブジェクトの名前。この定義をモデル化するために使用するパラメーターと共に指定します。

このフィールドが入力されていない場合、入力していないフィールドの値はこのオブジェクトのデフォルト定義から取得されます。

LIKE を使用した場合、次のように指定したことに相当します。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.PROCESS)
```

各オブジェクト・タイプのデフォルト定義が提供されます。提供されるデフォルト設定を必要なデフォルト値に変更できます。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

z/OS z/OS では、キュー・マネージャーがページ・セット 0 を検索し、ユーザーが指定する名前と QMGR または COPY の属性指定を持つオブジェクトを探します。LIKE オブジェクトの属性指定は、定義しているオブジェクトにはコピーされません。

注：

- QSGDISP (GROUP) オブジェクトは検索されません。
- QSGDISP(COPY) が指定された場合、LIKE は無視されます。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

QSGDISP	DEFINE
COPY	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。オブジェクトは 'LIKE' オブジェクトと同じ名前の QSGDISP(GROUP) オブジェクトを使用します。

QSGDISP	DEFINE
GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。GROUP は、キュー・マネージャーがキュー共有グループに属している場合にのみ許可されます。定義が正常に実行されると、以下のコマンドが生成されます。 <pre>DEFINE PROCESS(process-name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> このコマンドはキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試みられます。グループ・オブジェクトの DEFINE は、QSGDISP(COPY) を含む生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。
PRIVATE	許可されません。
QMGR	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義  (z/OS の場合は、属性指定が同じもの) をこれに置換するかどうか。REPLACE はオプションです。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

同名の定義が既に存在すれば、この定義で置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

USERDATA(string)

APPLICID に定義されている、開始するアプリケーションに関係するユーザー情報が含まれている文字ストリング。最大長は 128 文字である。

USERDATA の意味は、トリガー・モニター・アプリケーションによって決定されます。IBM MQ によって提供されるトリガー・モニターは単に、USERDATA をパラメーター・リストの一部として、開始するアプリケーションに渡します。そのパラメーター・リストは、MQTMC2 構造体 (USERDATA の格納先となる)、それに続く 1 つのブランク、およびそれに続く ENVRDATA (末尾ブランクを削除したもの) で構成されます。

IBM MQ メッセージ・チャンネル・エージェントでは、このフィールドの形式は最大 20 文字のチャンネル名です。どの APPLICID がメッセージ・チャンネル・エージェントに提供されるかについては、[トリガー操作のためのオブジェクトの管理](#)を参照してください。

Microsoft Windows では、プロセス定義が **runmqtm** に渡される場合、文字ストリングに二重引用符を含めてはなりません。

DEFINE PSID

ページ・セットおよび関連するバッファー・プールを定義するには、MQSC コマンド DEFINE PSID を使用します。

MQSC コマンドの使用

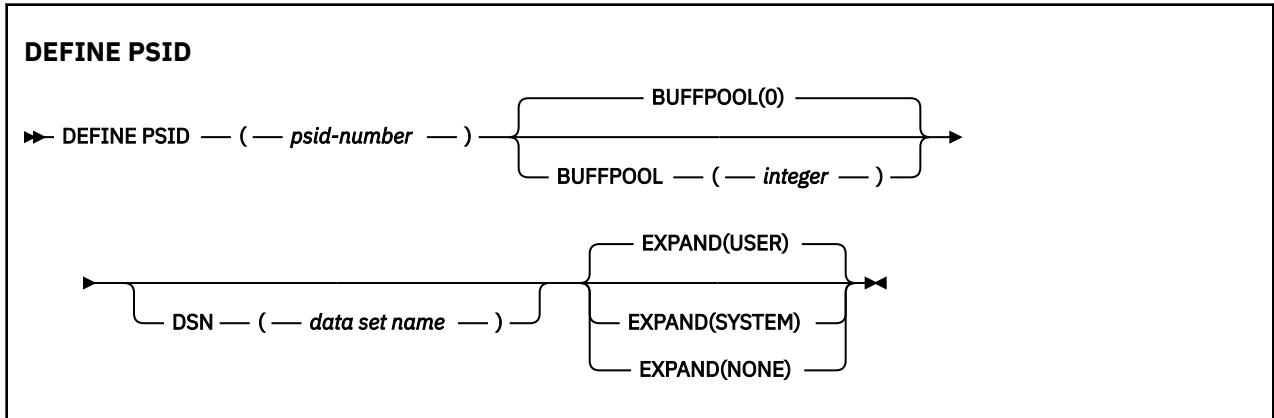
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			1CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- 構文図
- 930 ページの『DEFINE PSID の使用上の注意』
- 931 ページの『DEFINE PSID のパラメーターの説明』

同義語: DEF PSID



DEFINE PSID の使用上の注意

このコマンドは次の 2 とおりの方法で使用できます。

1. 再始動時に、**CSQINP1** 初期設定入力データ・セットから、標準ページ・セットを指定するには、次の点に注意する必要があります。
 - CSQINP1 からコマンドを発行する場合は、DSN キーワードを指定できません。
 - 同じページ・セットに複数の DEFINE PSID コマンドを発行すると、最後のコマンドのみが処理されます。
2. キュー・マネージャー稼働中にページ・セットを動的に追加するには、次の点に注意する必要があります。
 - コマンドには DSN キーワードが指定されていなければならず、次のいずれかから発行できます。
 - z/OS コンソール。
 - CSQUTIL、CSQINPX、またはアプリケーションによる、コマンド・サーバーおよびコマンド・キュー。
 - ページ・セット ID (つまり、PSID 番号) がキュー・マネージャーによって以前に使用されている可能性があります。そのため、CSQUTIL に FORMAT(RECOVER) ステートメントを指定して新たにフォーマットを行うか、CSQUTIL に FORMAT(REPLACE) を指定してフォーマットする必要があります。
 - ページ・セット 0 を動的に追加することはできません。
 - BUFFPOOL パラメーターにより、現在使用されていないバッファ・プールを指定できます。バッファ・プールが CSQINP1 で定義されたが、どの PSID でも使用されていない場合、必須の仮想ストレージが使用可能であれば、CSQINP1 で指定された数のバッファが作成されます。仮想ストレージが使用可能でない場合、またはバッファ・プールが CSQINP1 に定義されていない場合は、キュー・マネージャーは 1000 個のバッファの割り振りを試行します。これが不可能な場合は、100 バッファが割り振られます。
 - キュー・マネージャーに開始されたタスク・プロシージャ JCL および CSQINP1 初期設定入力データ・セットに、新規ページ・セットが組み込まれるように更新する必要があります。

コマンドが完了すると、**CSQP042I** または **CSQP041E** のいずれかのメッセージが出力されます。

拡張方法を動的に変更するには、**ALTER PSID** コマンドを使用する必要があります。例えば、EXPAND パラメーターを USER から SYSTEM に変更するには、次のコマンドを発行します。

```
ALTER PSID(page set id) EXPAND(SYSTEM)
```

DISPLAY USAGE TYPE(PAGESET) コマンドを使用して、ページ・セットに関する情報を表示することができます ([1237 ページの『DISPLAY USAGE』](#)を参照)。

DEFINE PSID のパラメーターの説明

(psid-number)

ページ・セット ID。これは必須です。

ページ・セットとページを保管するために使用される VSAM データ・セットとの間には 1 対 1 の対応関係があります。ID は 00 から 99 の範囲の番号で構成されます。また、VSAM LDS データ・セットを参照する ddname の生成に使用されます (CSQP0000 から CSQP0099 の範囲)。

指定する ID は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのページ・セット ID とも同じであってはなりません。

BUFFPOOL(integer)

バッファー・プール番号 (0 から 15 の範囲)。OPMODE が OPMODE=(NEWFUNC, 800) に設定されている場合、この数値は 0 から 99 の範囲内です。これはオプションです。デフォルト値は 0 です。

DEFINE BUFFPOOL コマンドによってバッファー・プールをまだ作成していない場合、このバッファー・プールは 1000 個のバッファーおよび BELOW の LOCATION 値で作成されます。

psid-number が 0 の場合、バッファー・プール番号は 0 から 15 までの範囲内でなければなりません。それ以外の場合、コマンドは失敗し、キュー・マネージャーは始動しません。

DSN(data set name)

カタログされた VSAM LDS データ・セットの名前。これはオプションです。デフォルトはありません。

EXPAND

ページ・セットが満杯に近くなり、ページ・セットに追加のページが必要になった場合に、キュー・マネージャーがページ・セットを拡張する方法を制御します。

USER

ページ・セット定義時に指定された 2 次エクステント・サイズを使用します。2 次エクステント・サイズが指定されていない場合、または 0 に指定されている場合、ページ・セット・データ・セットが非ストライプであれば、動的ページ・セット拡張は実行できません。

再始動時に、以前に使用されていたページ・セットが、それより小さいデータ・セットで置き換えられている場合は、以前に使用されていたデータ・セットのサイズに達するまで拡張されます。このサイズに到達する必要があるエクステントは 1 つだけです。

SYSTEM

ページ・セットの現行サイズの約 10 パーセントの 2 次エクステント・サイズが使用されます。サイズは、DASD の特性に応じて切り上げられることがあります。

NONE

以後のページ・セットの拡張は行われません。

DEFINE キュー

MQSC DEFINE コマンドは、ローカル・キュー、モデル・キュー、またはリモート・キュー、あるいはキュー別名、応答先キュー別名、キュー・マネージャー別名を定義するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

このセクションでは、次のコマンドを取り上げます。

- [955 ページの『DEFINE QALIAS』](#)
- [957 ページの『DEFINE QLOCAL』](#)
- [960 ページの『DEFINE QMODEL』](#)

• 963 ページの『DEFINE QREMOTE』

963 ページの『DEFINE QREMOTE』 コマンドを使用して、応答先キューまたはキュー・マネージャー別名を定義します。

これらのコマンドは、以下のプラットフォームでサポートされています。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

DEFINE queues の使用上の注意

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の DEFINE キュー・ステップ](#)を参照してください。
- ローカル・キューの場合

1. **z/OS** キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーに同じ名前を持つキューのローカル・バージョンがある場合でも、QSGDISP(SHARED) でローカル・キューを定義できます。ただし、ローカル定義キューにアクセスしようとする、理由コード MQRC_OBJECT_NOT_UNIQUE (2343) で失敗します。同じ名前のキューのローカル・バージョンは、タイプを QLOCAL、QREMOTE、または QALIAS にすることができ、ファイル属性指定を QSGDISP(QMGR) にすることができ、

この競合を解決するには、**DELETE** コマンドを使用して、いずれかのキューを削除する必要があります。削除するキューにメッセージが含まれている場合は、PURGE オプションを使用するか、または **MOVE** コマンドを使用してメッセージを最初に除去します。

例えば、メッセージが含まれる QSGDISP(LOCAL) バージョンを削除し、これらのメッセージを QSGDISP(SHARED) バージョンにコピーする場合は、以下のコマンドを発行します。

```
MOVE QLOCAL(Queue.1) QSGDISP(PRIVATE) TOQLOCAL(Queue.1) TYPE(ADD)
DELETE QLOCAL(Queue.1) QSGDISP(QMGR)
```

- 別名キューの場合：
 1. DEFINE QALIAS(*aliasqueue*) TARGET(*otherqname*) CLUSTER(*c*) は、*aliasqueue* という名前でキュー *otherqname* を公示します。
 2. DEFINE QALIAS(*aliasqueue*) TARGET(*otherqname*) では、*otherqname* という名前で通知されたキューを、*aliasqueue* という名前でこのキュー・マネージャーで使うことができます。
 3. TARGTYPE および TARGET はクラスター属性ではありません。つまり、クラスター環境内では共有されていません。
- リモート・キューの場合：
 1. DEFINE QREMOTE(*rqueue*) RNAME(*otherq*) RQMNAME(*otherqm*) CLUSTER(*cl*) は、このキュー・マネージャーを、キュー *rqueue* のメッセージを送信できるストア・アンド・フォワード・ゲートウェイとして公示します。ローカル・キュー・マネージャー以外では、このコマンドに応答先キューの別名としての効果はありません。
 DEFINE QREMOTE(*otherqm*) RNAME() RQMNAME(*anotherqm*) XMITQ(*xq*) CLUSTER
 は、このキュー・マネージャーを、*anotherqm* のメッセージを送信できるストア・アンド・フォワード・ゲートウェイとして通知します。
 2. RQMNAME は、それ自体をクラスター内のクラスター・キュー・マネージャーの名前にすることができます。したがって、(QALIAS 定義と同様に) 公示されたキュー・マネージャー名を、ローカル側で別の名前にマッピングすることができます。パターンは QALIAS 定義の場合と同様です。

3. RQMNAME 自体がクラスター・キュー・マネージャーである場合は、RQMNAME および QREMOTE の値を同じにすることができます。この定義についても CLUSTER 属性を使用して公示した場合は、クラスター・ワークロード出口でローカル・キュー・マネージャーを選択しないでください。そのように選択すると、循環定義になってしまいます。
4. リモート・キューは、ローカル側で定義する必要はありません。この利点としては、アプリケーションは単純なローカル定義名でそのキューを参照できるので便利だという点です。この場合、キュー名はキューがあるキュー・マネージャーの名前で修飾されます。ローカル定義を使用するときには、アプリケーションがそのキューの実際の位置を知らなくてもかまいません。
5. リモート・キュー定義は、キュー・マネージャーの別名定義や、応答先キューの別名定義を保持するための手段としても利用できます。その場合、定義の名前は次のいずれかになります。
 - キュー・マネージャー名。別のキュー・マネージャー名の別名 (キュー・マネージャーの別名) として使用されます。
 - キュー名。応答先キューの別名 (応答先キュー別名) として使用されます。

DEFINE QUEUE および ALTER QUEUE のパラメーターの説明

933 ページの表 67 に、各キューのタイプに関連するパラメーターを示します。表の下に、各パラメーターの説明を示します。

表 67. DEFINE パラメーターと ALTER QUEUE パラメーター				
パラメーター	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー
ACCTQ	✓	✓		
BOQNAME	✓	✓		
BOTHRESH	✓	✓		
▶ z/OS ▶ z/OS CFSTRUCT	✓	✓		
CLCHNAME	✓			
CLUSNL	✓		✓	✓
CLUSTER	✓		✓	✓
CLWLPRTY	✓		✓	✓
CLWLRANK	✓		✓	✓
CLWLUSEQ	✓			
▶ z/OS ▶ z/OS CMDSCOPE	✓	✓	✓	✓
CUSTOM	✓	✓	✓	✓
DEFBIND	✓		✓	✓
DEFPRESP	✓	✓	✓	✓
DEFPRTY	✓	✓	✓	✓
DEFPSIST	✓	✓	✓	✓

表 67. DEFINE パラメーターと ALTER QUEUE パラメーター (続き)

パラメーター	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー
DEFREADA	✓	✓	✓	
DEFSOPT	✓	✓		
DEFTYPE		✓		
DESCR	✓	✓	✓	✓
DISTL	✓	✓		
FORCE	✓		✓	✓
GET	✓	✓	✓	
HARDENBO or NOHARDENBO	✓	✓		
INDXTYPE	✓	✓		
INITQ	✓	✓		
LIKE	✓	✓	✓	✓
MAXDEPTH	✓	✓		
MAXMSGL	✓	✓		
MONQ	✓	✓		
MSGDLVSQ	✓	✓		
NOREPLACE	✓	✓	✓	✓
NPMCLASS	✓	✓		
PROCESS	✓	✓		
PROPCTL	✓	✓	✓	
PUT	✓	✓	✓	✓
<i>queue-name</i>	✓	✓	✓	✓
QDEPTHHI	✓	✓		
QDEPTHLO	✓	✓		
QDPHIEV	✓	✓		
QDPLOEV	✓	✓		
QDPMAEV	✓	✓		
▶ z/OS	✓	✓	✓	✓
▶ z/OS				
QSGDISP				

表 67. DEFINE パラメーターと ALTER QUEUE パラメーター (続き)

パラメーター	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー
QSVCEV	✓	✓		
QSVCONT	✓	✓		
REPLACE	✓	✓	✓	✓
RETINTVL	✓	✓		
RNAME				✓
RQMNAME				✓
SCOPE	✓		✓	✓
SHARE or NOSHARE	✓	✓		
STATQ	✓	✓		
 z/OS  z/OS STGCLASS	✓	✓		
TARGET			✓	
TARGQ			✓	
TARGTYPE			✓	
TRIGDATA	✓	✓		
TRIGDPTH	✓	✓		
TRIGGER or NOTRIGGER	✓	✓		
TRIGMPRI	✓	✓		
TRIGTYPE	✓	✓		
USAGE	✓	✓		
XMITQ				✓

queue-name

キューのローカル名。ただし、リモート・キューのローカル定義に使用されているリモート・キューは除きます。

IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照してください。

ACCTQ

キューのアカウントिंग・データ収集を使用可能にするかどうかを指定します。z/OS では、収集されるデータはクラス 3 のアカウントING・データ (スレッド・レベルとキュー・レベルのアカウントING) です。このキューでアカウントING・データを収集するには、この接続のアカウントING・データも使用可能にする必要があります。**ACCTQ** キュー・マネージャー属性、または MQCONN 呼び出しの MQCNO 構造体のオプション・フィールドのいずれかを設定して、アカウントING・データ収集をオンにします。

QMGR

アカウントティング・データの収集は、キュー・マネージャー定義の **ACCTQ** パラメーターの設定に基づいて行われます。

ON

アカウントティング・データ収集は、**ACCTQ** キュー・マネージャーのパラメーター値が **NONE** でない限り、キューで使用可能になります。z/OS システムでは、**START TRACE** コマンドを使用して、クラス 3 アカウントティングをオンに切り替える必要があります。

OFF

このキューではアカウントティング・データ収集は使用不可になります。

BOQNAME (*queue-name*)

過度バックアウト・リキュー名。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、ローカル・キューまたはモデル・キューのバックアウト・キュー名属性を設定または変更するときに使用します。キュー・マネージャーは、その値を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいて何も行いません。IBM MQ classes for JMS は、最大回数バックアウトされたメッセージをこのキューに転送します。最大回数は **BOTHRESH** 属性で指定されます。

BOTHRESH (*integer*)

バックアウトしきい値。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、ローカル・キューまたはモデル・キューのバックアウトしきい値属性の値を設定または変更するときに使用します。キュー・マネージャーは、その値を照会できるようにする以外には、この属性の値に基づいて何も行いません。IBM MQ classes for JMS use the attribute to determine how many times back a message out. この値を超えると、メッセージは **BOQNAME** 属性で指定されたキューに転送されます。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。

➤ z/OS CFSTRUCT (*structure-name*)

共有キューを使用する際にメッセージを保管するカップリング・ファシリティ構造の名前を指定します。

このパラメーターは、z/OS 上のローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

名前には次の条件があります。

- 12 文字より長くすることはできません。
- 先頭の文字は大文字 (A から Z) でなければなりません。
- 使用できる文字は A から Z と 0 から 9 だけです。

指定した名前には、キュー・マネージャーが接続されるキュー共有グループの名前が接頭部として付きます。キュー共有グループの名前は必ず 4 文字で、必要に応じて記号 @ が埋め込まれます。例えば、NY03 という名前のキュー共有グループを使用し、PRODUCT7 という名前を指定する場合、生成されるカップリング・ファシリティ構造体名は NY03PRODUCT7 です。キュー共有グループの管理構造体 (この場合は NY03CSQ_ADMIN) はメッセージの保管に使用できません。

ALTER QLOCAL、ALTER QMODEL、**REPLACE** を指定した DEFINE QLOCAL、および **REPLACE** を指定した DEFINE QMODEL の場合は、以下の規則が適用されます。

- **QSGDISP**(SHARED) が指定されているローカル・キューでは、**CFSTRUCT** を変更できません。

CFSTRUCT か **QSGDISP** のいずれかの値を変更する場合は、キューを削除してから再定義してください。キュー上のメッセージを保持するには、キューを削除する前にメッセージをオフロードする必要があります。キューを再定義した後にメッセージを再ロードするか、メッセージを別のキューに移動してください。

- **DEFTYPE**(SHAREDYN) が指定されているモデル・キューでは、**CFSTRUCT** をブランクにすることはできません。

- SHARED 以外の **QSGDISP** が指定されているローカル・キューや、SHAREDYN 以外の **DEFTYPE** が指定されているモデル・キューでは、自由に **CFSTRUCT** の値を指定することができます。

NOREPLACE を使用する **DEFINE QLOCAL** および **NOREPLACE** を使用する **DEFINE QMODEL** の場合、カップリング・ファシリティ構造は以下のようになります。

- **QSGDISP**(SHARED) が指定されているローカル・キューや、**DEFTYPE**(SHAREDYN) が指定されているモデル・キューでは、**CFSTRUCT** をブランクにできません。
- SHARED 以外の **QSGDISP** を持つローカル・キュー、または SHAREDYN 以外の **DEFTYPE** を持つモデル・キューでは、**CFSTRUCT** の値は問題になりません。

注：キューを使用するためには、カップリング・ファシリティ資源管理 (CFRM) ポリシー・データ・セットで構造が定義されていなければなりません。

CLCHNAME (*channel name*)

このパラメーターは、伝送キューでのみサポートされます。

CLCHNAME は、このキューを伝送キューとして使用するクラスター送信側チャンネルの総称名です。この属性は、このクラスター伝送キューからクラスター受信側チャンネルへメッセージを送信するクラスター送信側チャンネルを指定します。

また、伝送キュー属性である CLCHNAME 属性をクラスター送信側チャンネルに手動で設定することもできます。クラスター送信側チャンネルによって接続されたキュー・マネージャーを宛先とするメッセージは、クラスター送信側チャンネルを識別する伝送キューに保管されます。これらのメッセージがデフォルトのクラスター伝送キューに保管されることはありません。CLCHNAME 属性をブランクに設定すると、チャンネルの再始動時に、チャンネルはデフォルトのクラスター伝送キューに切り替わります。デフォルト・キューは、キュー・マネージャーの DEFCLXQ 属性の値に応じて、SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT. *ChannelName* または SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE のいずれかになります。

CLCHNAME にアスタリスク "*" を指定すると、伝送キューをクラスター送信側チャンネルのセットに関連付けることができます。アスタリスクはチャンネル名ストリングの先頭、末尾、またはそれ以外の場所に任意の数だけ使用できます。CLCHNAME の長さは 48 文字まで (MQ_OBJECT_NAME_LENGTH) に制限されています。チャンネル名の長さは 20 文字まで (MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH) に制限されています。アスタリスクを指定する場合は、SHARE 属性も設定する必要があります。これにより、複数のチャンネルから同時に伝送キューにアクセスできます。

z/OS CLCHNAME に "*" を指定した場合、チャンネル・プロファイル名を取得するには、チャンネル・プロファイル名を引用符で囲んで指定する必要があります。総称チャンネル名を引用符で囲んで指定しなかった場合は、メッセージ CSQ9030E を受け取ります。

デフォルトのキュー・マネージャー構成では、すべてのクラスター送信側チャンネルが、単一の伝送キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE からメッセージを送信します。デフォルト構成を変更するには、キュー・マネージャー属性 DEFCLXQ を変更します。属性のデフォルト値は SCTQ です。この値は CHANNEL に変更できます。DEFCLXQ 属性を CHANNEL に設定すると、各クラスター送信側チャンネルは、デフォルトで特定のクラスター伝送キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT. *ChannelName* を使用します。

z/OS z/OS では、このパラメーターを設定する場合、キューは以下の要件を満たしている必要があります。

- 共有可能でなければならない (キュー属性 SHARE を指定)。
- 相関 ID に索引付けされていなければならない (INDXTYPE(CORRELID) を指定)。
- 動的キューや共有キューであってはならない。

CLUSNL (*namelist name*)

そのキューが属しているクラスターのリストを指定する、NAMELIST の名前です。

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キューでのみサポートされます。

このパラメーターの変更は、既に開いているキューのインスタンスには影響しません。

CLUSNL または **CLUSTER** の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。両方に 1 つの値を指定することはできません。

ローカル・キューでは、このパラメーターを伝送キュー **SYSTEM.CHANNEL. *xxx***、**SYSTEM.CLUSTER. *xxx*** キュー、または **SYSTEM.COMMAND. *xxx*** キュー  に対して設定することはできません。z/OS のみ、**SYSTEM.QSG. *xxx*** キューに対して設定することができます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows 、z/OS のみ有効です。

CLUSTER (*cluster name*)

キューが属するクラスターの名前です。

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キューでのみサポートされます。

最大長は 48 文字で、IBM MQ オブジェクトの命名規則に従います。このパラメーターの変更は、既に開いているキューのインスタンスには影響しません。

CLUSNL または **CLUSTER** の結果の値のうち、ブランク以外の値にできるのは片方だけです。両方に 1 つの値を指定することはできません。

ローカル・キューでは、このパラメーターを伝送キュー **SYSTEM.CHANNEL. *xxx***、**SYSTEM.CLUSTER. *xxx*** キュー、または **SYSTEM.COMMAND. *xxx*** キュー  に対して設定することはできません。z/OS のみ、**SYSTEM.QSG. *xxx*** キューに対して設定することができます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows 、z/OS のみ有効です。

CLWLPRTY (*integer*)

クラスター・ワークロード分散のために、キューの優先順位を指定します。このパラメーターはローカル、リモート、および別名キューにのみ有効です。値の範囲はゼロ (最低の優先度) から 9 (最高の優先度) でなければなりません。この属性について詳しくは、[CLWLPRTY キュー属性](#)を参照してください。

CLWLRANK (*integer*)

クラスター・ワークロード分散のために、キューのランクを指定します。このパラメーターはローカル、リモート、および別名キューにのみ有効です。値の範囲はゼロ (最低ランク) から 9 (最高ランク) でなければなりません。この属性について詳しくは、[CLWLRANK キュー属性](#)を参照してください。

CLWLUSEQ

宛先キューにローカル・インスタンスと最低 1 つのリモート・クラスター・インスタンスがある場合に、MQPUT 操作の動作を指定します。MQPUT がクラスター・チャネルから出された場合、このパラメーターの効果はありません。このパラメーターは、ローカル・キューにのみ有効です。

QMGR

振る舞いは、キュー・マネージャー定義の **CLWLUSEQ** パラメーターで指定されるとおりです。

ANY

キュー・マネージャーは、ワークロードを分散するために、ローカル・キューをクラスター・キューの別のインスタンスとして処理します。

LOCAL

ローカル・キューは MQPUT 操作の唯一の宛先です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行場所を指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、**QSGDISP** が **GROUP** または **SHARED** に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

QmgrName

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

コマンドが入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定できます。別の名前を指定できるのは、キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能な場合に限られます。

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。*****は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CUSTOM (string)

新機能用カスタム属性。

V8.0.0.4 この属性には属性の値を含めます。属性の値として、属性名と値の各ペアを1つ以上のスペースで分離します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

CAPEXPY (integer)

解決パスのこのオブジェクトを使用したオブジェクト・ハンドルで書き込まれたメッセージが、有効期限切れによる処理対象になるまでの最大時間 (10 分の 1 秒単位)。

メッセージ有効期限処理について詳しくは、[有効期限を強制的に短くする](#)を参照してください。

整数

1 から 999 999 999 までの範囲の値でなければなりません。

NOLIMIT

このオブジェクトを使用して書き込まれたメッセージの有効期限時間には制限がありません。これはデフォルト値です。

CAPEXPY に無効値を指定しても、コマンドの失敗にはなりません。代わりに、デフォルト値が使用されます。

CAPEXPY の変更前からキュー内に存在しているメッセージは、その変更の影響を受けません (つまり、有効期限時刻は元のままです)。**CAPEXPY** の変更後にキューに入れられた新しいメッセージのみに、新しい有効期限時刻が適用されます。

最大長は定数 MQ_CUSTOM_LENGTH によって定義され、現在はすべてのプラットフォームで 128 に設定されています。

DEFBIND

アプリケーションが MQOPEN 呼び出しに MQOO_BIND_AS_Q_DEF を指定し、キューがクラスター・キューである場合に使用するバインディングを指定します。

OPEN

キューのオープン時に、キュー・ハンドルがクラスター・キューの特定のインスタンスにバインドされます。

NOTFIXED

キュー・ハンドルは、クラスター・キューのインスタンスにバインドされません。キュー・マネージャーは、MQPUT を使用してメッセージが書き込まれたときに特定のキュー・インスタンスを選択します。この選択内容は、必要に応じて、後で変更されます。

GROUP

アプリケーションが、メッセージのグループが同じ宛先インスタンスに割り当てられるように要求できるようにします。

同じ名前の複数のキューをキュー・マネージャー・クラスターに公示できます。アプリケーションは、すべてのメッセージを単一インスタンスに送信できます (MQOO_BIND_ON_OPEN)。また、ワークロード管理アルゴリズムを使用して、メッセージごとに最適な宛先を選択できます (MQOO_BIND_NOT_FIXED)。これにより、アプリケーションは、メッセージの "グループ" をすべて同じ宛先インスタンスに割り振るように要求できます。ワークロード・バランシングは、メッセージ・

グループの中から宛先を再選択します。その場合、キューの MQCLOSE および MQOPEN は必要ありません。

MQPUT1 呼び出しは、NOTFIXED を指定した場合と同様に、常に振る舞います。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows、 z/OS でのみ有効です。

DEFPRESP

MQPMO オプションの中で書き込み応答タイプが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF に設定されているときにアプリケーションで使用される振る舞いを指定します。

SYNC

MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_SYNC_RESPONSE が指定された場合のように発行される。

ASYNCR

MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF を指定するキューに対する PUT 操作は、代わりに MQPMO_ASYNC_RESPONSE が指定された場合のように発行されます。 [MQPMO オプション \(MQLONG\)](#) を参照してください。

DEFPRTY (integer)

キューに書き込まれるメッセージの、デフォルトの優先順位。値は 0 から 9 の範囲でなければなりません。最低の優先順位が 0 で、最大はキュー・マネージャー・パラメーター **MAXPRTY** です。 **MAXPRTY** のデフォルト値は 9 です。

DEFPSIST

アプリケーションで MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF オプションが指定されている場合に使用するメッセージ持続性を指定します。

NO

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に失われます。

YES

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

 z/OS では、N および Y は、NO および YES の同義語として受け入れられます。

DEFREADA

クライアントに配信される非持続メッセージのデフォルトの先読み動作を指定します。先読みを有効にすると、非持続メッセージを消費するクライアント・アプリケーションのパフォーマンスを向上できます。

NO

クライアント・アプリケーションが先読みを要求するように構成されていない限り、非持続メッセージは先読みされません。

YES

非持続メッセージは、アプリケーションからの要求がある前に、クライアントに送信されます。クライアントが異常終了した場合、またはクライアントが送信されたすべてのメッセージを削除しない場合、非持続メッセージは失われる可能性があります。

DISABLED

このキューに対して、非持続メッセージの先読みは有効になりません。クライアント・アプリケーションによって先読みが要求されているかどうかに関わりなく、メッセージはクライアントに前もって送信されません。

DEFSOPT

アプリケーションがこのキューを入力用にオープンするときの、デフォルトの共有オプション。

EXCL

オープン要求は、キューの排他的入力に対して行われる。

SHARED

オープン要求は、キューの共有入力に対して行われる。

DEFTYPE

キュー定義タイプ。

このパラメーターは、モデル・キューでのみサポートされます。

PERMDYN

アプリケーションが、オブジェクト記述子 (MQOD) にこのモデル・キューの名前を指定して MQOPEN MQI 呼び出しを行うと、永続動的キューが作成されます。

 z/OS では、動的キューの属性指定は QMGR です。

SHAREDYN

このオプションは、z/OS でのみ使用可能です。

アプリケーションが、オブジェクト記述子 (MQOD) にこのモデル・キューの名前を指定して MQOPEN API 呼び出しを行うと、永続動的キューが作成されます。

動的キューの属性指定は SHARED です。

TEMPDYN

アプリケーションが、オブジェクト記述子 (MQOD) にこのモデル・キューの名前を指定して MQOPEN API 呼び出しを行うと、一時動的キューが作成されます。

 z/OS では、動的キューの属性指定は QMGR です。

DEFPSIST パラメーターが YES のモデル・キュー定義には、この値を指定してはなりません。

このオプションを指定した場合は、**INDXTYPE**(MSGTOKEN) に値を指定しないでください。

DESCR (*string*)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY QUEUE コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) に含まれる文字を使用してください。それ以外の文字を使用し、情報が別のキュー・マネージャーに送信された場合には、正しく変換されないことがあります。

DISTL

パートナー・キュー・マネージャーが配布リストをサポートするかどうかを設定します。

YES

配布リストは、パートナー・キュー・マネージャーによってサポートされます。

NO

配布リストは、パートナー・キュー・マネージャーによってサポートされません。

注: このパラメーターは MCA で設定されるので、通常は変更しないでください。ただし、宛先キュー・マネージャーの配布先リスト機能が確認されている場合は、伝送キューの定義時にこのパラメーターを設定できます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

FORCE

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キュー上で ALTER コマンドのみに適用されます。

このパラメーターを指定すると、次のような状況でコマンドを強制的に終了します。

別名キューでは、次の条件が共に真である場合が該当します。

- **TARGQ** パラメーターが指定されている。
- この別名キューをオープンしているアプリケーションがある。

ローカル・キューでは、次の条件が共に真である場合が該当します。

- **NOSHARE** パラメーターが指定されている。
- 複数のアプリケーションがそのキューを入力用にオープンしている。

次の条件が共に真である場合も、**FORCE** が必要です。

- **USAGE** パラメーターが変更された。
- そのキュー上に 1 つ以上のメッセージがあるか、1 つ以上のアプリケーションがそのキューをオープンしている。

キュー上にメッセージがあるときは、**USAGE** パラメーターを変更しないでください。メッセージを送信キューに書き込むと、メッセージの形式が変わります。

リモート・キューでは、次の条件が共に真である場合が該当します。

- **XMITQ** パラメーターが変更された。
- このキューをリモート・キューとしてオープンしているアプリケーションが、1 つ以上ある。

次の条件が共に真である場合も、**FORCE** が必要です。

- **RNAME**、**RQMNAME**、または **XMITQ** のいずれかのパラメーターが変更された。
- この定義を通じてキュー・マネージャーの別名を解決するアプリケーションの中に、キューをオープンしているものが 1 つ以上ある。

注：この定義が応答先キューの別名としてのみ使用される場合は、**FORCE** は不要です。

上記のような状況で **FORCE** が指定されていないと、コマンドは失敗します。

GET

アプリケーションが、このキューからのメッセージの取得を許可されるかどうかを指定します。

ENABLED

適切に許可されたアプリケーションが、キューからメッセージを取り出すことができます。

DISABLED

アプリケーションはキューからメッセージを検索できません。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

HARDENBO & NOHARDENBO

メッセージがバックアウトされた回数のカウントのハード化を行うかどうかを指定します。カウントがハード化されると、MQGET 操作によってメッセージが返される前に、メッセージ記述子の **BackoutCount** フィールドの値がログに書き込まれます。値をログに書き込むことにより、キュー・マネージャーの再始動の際に確実に正確な値にできます。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

バックアウト・カウントがハード化されている場合、このキューの持続メッセージの MQGET 操作のパフォーマンスは影響を受けます。

HARDENBO

このキューのメッセージのメッセージ・バックアウト・カウントは、カウントを正確にするためにハード化されます。

NOHARDENBO

このキューのメッセージのメッセージ・バックアウト・カウントはハード化されず、キュー・マネージャーの再始動後も正確でない可能性があります。

注：  このパラメーターは、IBM MQ for z/OS にのみ影響します。

INDXTYPE

キューの MQGET 操作を円滑に行うためにキュー・マネージャーによって保持される索引のタイプ。共有キューの場合は、索引のタイプにより、使用可能な MQGET 操作のタイプが決まります。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

以下の表に示すような適切な索引タイプが維持されている場合のみ、選択基準を使用してメッセージを取得することができます。

検索選択基準	必要な索引タイプ	
	共用キュー	その他のキュー
なし (順次検索)	任意	任意
メッセージ ID	MSGID または NONE	任意
相関 ID	CORRELID	任意
メッセージ ID と相関 ID	MSGID または CORRELID	任意
グループ ID	GROUPID	任意
グループ化	GROUPID	GROUPID
メッセージ・トークン	Not allowed	MSGTOKEN

INDXTYPE パラメーターの値には、以下の値が指定されます。

NONE

索引を維持しません。通常、メッセージが順次検索される場合に、NONE を使用するか、または MQGET 呼び出しの選択基準としてメッセージ ID と相関 ID の両方を使用します。

MSGID

メッセージ ID の索引は保持されます。MSGID は、通常、MQGET 呼び出しの選択基準としてメッセージ ID を使用し、相関 ID を NULL に設定してメッセージを検索する場合に使用します。

CORRELID

相関 ID の索引は保持されます。CORRELID は、通常、MQGET 呼び出しの選択基準として相関 ID を使用し、メッセージ ID を NULL に設定してメッセージを検索する場合に使用します。

GROUPID

グループ ID の索引は保持されます。GROUPID は、メッセージ・グループ選択基準を使用してメッセージを検索する場合に使用します。

注：

1. キューが伝送キューの場合、**INDXTYPE** を GROUPID に設定することはできません。
2. キューは、CFLEVEL(3) の CF 構造体を使用して、**INDXTYPE**(GROUPID) の共有キューを指定する必要があります。

MSGTOKEN

メッセージ・トークンの索引は保持されます。このキューが WLM 管理対象キューであり、このキューを z/OS の Workload Manager 機能と連携させて使用している場合は、MSGTOKEN を使用します。

注：次のような場合には、**INDXTYPE** を MSGTOKEN に設定できません。

- キューが定義タイプ SHAREDYN のモデル・キューである
- キューが一時動的キューである
- キューが伝送キューである
- **QSGDISP**(SHARED) を指定する

共有されておらず、グループ化またはメッセージ・トークンを使用しないキューでは、検索選択タイプは索引タイプによって制限されません。ただし、索引はキューでの **GET** 操作を迅速化するために使用されるため、最も一般的な検索選択に対応したタイプを選択してください。

既存のローカル・キューを変更または置換する場合、**INDXTYPE** パラメーターは以下の表に示された場合にのみ変更できます。

キュー・タイプ		非共有			SHARED	
キューの状態		コミットされていないアクティビティ	コミットされていないアクティビティはなく、メッセージが存在する	コミットされていないアクティビティはなく、空である	オープンしているか、またはメッセージが存在する	オープンしておらず、空である
元の INDXTYPE :	終了:	変更の可否				
NONE	MSGID	No	Yes	Yes	No	Yes
NONE	CORRELID	No	Yes	Yes	No	Yes
NONE	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-
NONE	GROUPLD	No	No	Yes	No	Yes
MSGID	NONE	No	Yes	Yes	No	Yes
MSGID	CORRELID	No	Yes	Yes	No	Yes
MSGID	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-
MSGID	GROUPLD	No	No	Yes	No	Yes
CORRELID	NONE	No	Yes	Yes	No	Yes
CORRELID	MSGID	No	Yes	Yes	No	Yes
CORRELID	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-
CORRELID	GROUPLD	No	No	Yes	No	Yes
MSGTOKEN	NONE	No	Yes	Yes	-	-
MSGTOKEN	MSGID	No	Yes	Yes	-	-
MSGTOKEN	CORRELID	No	Yes	Yes	-	-
MSGTOKEN	GROUPLD	No	No	Yes	-	-
GROUPLD	NONE	No	No	Yes	No	Yes
GROUPLD	MSGID	No	No	Yes	No	Yes
GROUPLD	CORRELID	No	No	Yes	No	Yes
GROUPLD	MSGTOKEN	No	No	Yes	-	-

このパラメーターは、z/OSでのみサポートされます。上記以外のプラットフォームでは、すべてのキューが自動的に索引付けされます。

INITQ (*string*)

このキュー・マネージャーにおける、開始キューのローカル名。この開始キューには、このキューに関係するトリガー・メッセージが書き込まれます。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

LIKE (*qtype-name*)

キューの名前。このキューのパラメーターが、この定義のモデルとして使用されます。

このフィールドに値が入力されていない場合、未定義のパラメーター・フィールドの値は以下のいずれかの定義から取得されます。選択項目はキュー・タイプによって異なります。

キュー・タイプ	定義
別名キュー	SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE
ローカル・キュー	SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE
モデル・キュー	SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE
リモート・キュー	SYSTEM.DEFAULT.REMOTE.QUEUE

例えば、このパラメーターを指定しないということは、別名キューに以下の **LIKE** の値を定義することと同じになります。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.ALIAS.QUEUE)
```

すべてのキューに対して別のデフォルト定義が必要な場合は、**LIKE** パラメーターを使用する代わりに、デフォルトのキュー定義を変更してください。

 **z/OS** では、キュー・マネージャーは、指定された名前とキュー・タイプを持ち、QMGR、COPY、または SHARED の属性指定を持つオブジェクトを検索します。 **LIKE** オブジェクトの属性指定は、定義しているオブジェクトにはコピーされません。

注：

1. **QSGDISP** (GROUP) オブジェクトは検索されません。
2. **QSGDISP**(COPY) が指定された場合、**LIKE** は無視されます。

MAXDEPTH (integer)

キューに書き込めるメッセージの最大数。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows 、および **z/OS** では、ゼロから 999999999 までの範囲の値を指定します。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、Windows 、**z/OS** でのみ有効です。

IBM MQ 以外のプラットフォームでは、0 から 640000 の範囲の値を指定します。

他の要因によって、キューが引き続きフルと見なされることがあります。例えば、使用できるハード・ディスク・スペースがない場合などです。

この値を小さくした場合、既にキュー上にあるメッセージで、この新しい最大数を超えるメッセージがあってもそれはそのまま保持されます。

MAXMSGL (integer)

このキューにおけるメッセージの最大長 (バイト)。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

AIX、HP-UX、Linux、Solaris、および Windows の場合では、ゼロからキュー・マネージャーの最大メッセージ長までの範囲の値を指定します。ALTER QMGR コマンドの **MAXMSGL** パラメーター ([ALTER QMGR MAXMSGL](#)) を参照してください。

 **z/OS** では、0 から 100 MB (104,857,600 バイト) の範囲の値を指定します。

メッセージ長には、ユーザー・データの長さ、ヘッダーの長さが含まれます。伝送キューに入れられるメッセージには、伝送ヘッダーが追加されます。メッセージ・ヘッダー全体として、追加の 4000 バイトを考慮してください。

この値を小さくしたために、既にキュー上にあるメッセージの長さが新しい最大数を超過しても、そのメッセージには影響がありません。

アプリケーションはこのパラメーターを使用して、キューからメッセージを取得するためのバッファのサイズを決定できます。したがって、この値を減らすことができるのは、アプリケーションが誤動作しないとわかっている場合のみです。

メッセージにデジタル署名と鍵を追加することで、IBM MQ Advanced Message Security ではメッセージの長さが増すことに注意してください。

MONQ

キューに関するオンライン・モニター・データの収集を制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

QMGR

キュー・マネージャー・パラメーター **MONQ** の設定に従って、モニター・データを収集します。

OFF

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフになります。

LOW

MONQ パラメーターの値が **NONE** でない場合、このキューに対してオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

MEDIUM

MONQ パラメーターの値が **NONE** でない場合、このキューに対してオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

HIGH

MONQ パラメーターの値が **NONE** でない場合、このキューに対してオンライン・モニター・データの収集がオンになります。

LOW、MEDIUM、および HIGH のどの値を指定しても違いがないことに注意してください。これらの値はすべて、データ収集をオンにしますが、収集の比率には影響しません。

このパラメーターを ALTER キュー・コマンドで使用した場合、変更はキューが次にオープンされたときに有効になります。

MSGDLVSQ

メッセージ・デリバリー・シーケンス。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

PRIORITY

MQGET API 呼び出しによるメッセージの配布は、優先順位内の先入れ先出し (FIFO) 順序で行われます。

FIFO

MQGET API 呼び出しによるメッセージの配布は、FIFO 順で行われます。このキューのメッセージについては、優先順位が無視されます。

メッセージ・デリバリー・シーケンス・パラメーターは、キューにメッセージがあるときに、PRIORITY から FIFO に変更できます。既にキューにあるメッセージの順序は変更されません。変更後にキューに追加されたメッセージには、そのキューのデフォルトの優先順位が適用されます。したがって、既存のメッセージより先に処理されるものもあります。

メッセージ・デリバリー・シーケンスを FIFO から PRIORITY に変更した場合は、キューの設定が FIFO であったときにキューに書き込まれたメッセージにはデフォルトの優先順位が適用されます。

注:  **INDXTYPE(GROUPID)** が **MSGDLVSQ(PRIORITY)** と共に指定されている場合、グループが検索される優先順位は、各グループ内の最初のメッセージの優先順位に基づきます。優先順位 0 と 1 は、キュー・マネージャーによって、論理順序でのメッセージの検索を最適化するために使用されます。各グループ内の最初のメッセージには、これらの優先順位を使用しないでください。使用すると、メッセージは優先順位 2 であるかのように保管されます。

NPMCLASS

キューに書き込まれる非持続メッセージに割り当てる信頼性のレベル。

NORMAL

非持続メッセージは、障害が発生したり、キュー・マネージャーがシャットダウンしたりすると失われます。これらのメッセージは、キュー・マネージャーの再起動で廃棄されます。

HIGH

キュー・マネージャーは、キュー・マネージャーの再始動または切り替えの間、このキューで非持続メッセージを保持しようとします。

 このパラメーターは、z/OS では設定できません。

PROCESS(string)

IBM MQ プロセスのローカル名。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、トリガー・イベントが起こったときキュー・マネージャーによって開始されるアプリケーションを示す、プロセス・インスタンスの名前です。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

プロセス定義は、ローカル・キューが定義されている場合は確認されませんが、トリガー・イベントを発生させるには使用可能でなければなりません。

キューが伝送キューである場合、プロセス定義には開始されるチャンネルの名前が含まれています。このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、Windows 、z/OS の伝送キューではオプションです。指定しない場合、チャンネル名は、**TRIGDATA** パラメーターに指定された値から取られます。

PROPCTL

プロパティ制御属性。この属性はオプションです。ローカル・キュー、別名キュー、およびモデル・キューに適用されます。

注：アプリケーションが別名キューをオープンする場合は、別名キューとターゲット・キューの両方にこの値を設定する必要があります。

PROPCTL オプションは以下のとおりです。これらのオプションは、MQMD や MQMD 拡張のメッセージ・プロパティには影響しません。

ALL

ALL を設定すると、アプリケーションはすべてのメッセージ・プロパティを、MQRFH2 ヘッダー内で、またはメッセージ・ハンドルのプロパティとして読み取ることができます。

ALL オプションを選択すると、変更できないアプリケーションが、MQRFH2 ヘッダー内のすべてのメッセージ・プロパティにアクセスできるようになります。変更可能なアプリケーションは、メッセージ・ハンドルのプロパティとして、すべてのメッセージ・プロパティにアクセスできます。

場合によっては、受信したメッセージ内の MQRFH2 ヘッダーのデータ・フォーマットが、送信時のメッセージ・フォーマットとは異なることがあります。

COMPAT

COMPAT を設定すると、JMS 関連プロパティがメッセージ・データの MQRFH2 ヘッダーにあることを予期する未変更のアプリケーションが、従来どおり動作を続けます。変更可能なアプリケーションは、メッセージ・ハンドルのプロパティとして、すべてのメッセージ・プロパティにアクセスできます。

メッセージに mcd.、jms.、usr.、または mqext. という接頭部を持つプロパティがある場合、すべてのメッセージ・プロパティはアプリケーションに送達されます。メッセージ・ハンドルが指定されていない場合、プロパティは MQRFH2 ヘッダーに返されます。メッセージ・ハンドルが指定されている場合は、すべてのプロパティがメッセージ・ハンドルに返されます。

メッセージにいずれかの接頭部があるプロパティが含まれておらず、アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されていない場合、メッセージ・プロパティはアプリケーションに返され

ません。メッセージ・ハンドルが指定されている場合は、すべてのプロパティがメッセージ・ハンドルに返されます。

場合によっては、受信したメッセージ内の MQRFH2 ヘッダーのデータ・フォーマットが、送信時のメッセージ・フォーマットとは異なることがあります。

FORCE

すべてのアプリケーションが MQRFH2 ヘッダーからメッセージ・プロパティを読み取ることを強制にします。

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

MQGET 呼び出し上の MQGMO 構造体の MsgHandle フィールド中で指定された有効なメッセージ・ハンドルは無視されます。メッセージのプロパティにメッセージ・ハンドルを使用してアクセスすることはできません。

場合によっては、受信したメッセージ内の MQRFH2 ヘッダーのデータ・フォーマットが、送信時のメッセージ・フォーマットとは異なることがあります。

NONE

メッセージ・ハンドルが指定されている場合は、すべてのプロパティがメッセージ・ハンドルに返されます。

すべてのメッセージ・プロパティは、アプリケーションに送信される前にメッセージ本文から削除されます。

PUT

メッセージをキューに書き込むことができるかどうかを指定します。

ENABLED

キューにメッセージを追加できます (追加できるのは所定の許可を持つアプリケーション)。

DISABLED

メッセージをキューに追加することはできません。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

QDEPTHHI (integer)

キュー・サイズ上限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。  z/OS 上の共有キューがこのイベントに及ぼす影響について詳しくは、[共有キューおよびキュー・サイズ・イベント \(IBM MQ for z/OS\)](#) を参照してください。

このイベントは、アプリケーションがキューにメッセージを書き込んだ結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ上限しきい値以上になったことを示しています。 **QDPHIEV** パラメーターを参照してください。

値は、キューの最大長 (**MAXDEPTH** パラメーター) のパーセンテージで表されます。0 以上、100 以下で、**QDEPTHLO** 以上でなければなりません。

QDEPTHLO (integer)

キュー・サイズ下限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。  z/OS 上の共有キューがこのイベントに及ぼす影響について詳しくは、[共有キューおよびキュー・サイズ・イベント \(IBM MQ for z/OS\)](#) を参照してください。

このイベントは、アプリケーションがメッセージをキューから取り出した結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ下限しきい値以下になったことを示しています。 **QDPLOEV** パラメーターを参照してください。

値は、キューの最大長 (**MAXDEPTH** パラメーター) のパーセンテージで表され、ゼロから 100 の範囲内で、**QDEPTHHI** 以下でなければなりません。

QDPHIEV

キュー・サイズ上限イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

キュー・サイズ上限イベントは、アプリケーションがキューにメッセージを書き込んだ結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ上限しきい値以上になったことを示しています。**QDEPTHHI** パラメーターを参照してください。

注: このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります  **z/OS**、z/OS 上の共有キューはイベントに影響します。 [キュー・サイズ上限](#) についての説明を参照してください。

ENABLED

キュー・サイズ上限イベントが生成されます。

DISABLED

キュー項目数高イベントが生成されない

QDPLOEV

キュー・サイズ下限イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

キュー・サイズ下限イベントは、アプリケーションがメッセージをキューから取り出した結果、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ下限しきい値以下になったことを示しています。**QDEPTHLO** パラメーターを参照してください。

注: このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります  **z/OS**、z/OS 上の共有キューはイベントに影響します。このイベントについて詳しくは、[キュー・サイズ下限](#) を参照してください。

ENABLED

キュー・サイズ下限イベントが生成されます。

DISABLED

キュー・サイズ下限イベントは生成されません。

QDPMAXEV

キュー満杯イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

キュー・フル・イベントは、キューがいっぱいであるために、キューへの書き込みが拒否されたことを示しています。キュー・サイズは最大値に達しています。

注: このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります  **z/OS**、z/OS 上の共有キューはイベントに影響します。このイベントについて詳しくは、[キュー満杯](#) を参照してください。

ENABLED

キュー・フル・イベントが生成される。

DISABLED

キュー・フル・イベントは生成されない。

QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

グループ内のオブジェクトの処理を指定します。

表 68. QSGDISP のパラメーター。

キュー定義時の QSGDISP パラメーターの定義。

QSGDISP	DEFINE
COPY	オブジェクトは、LIKE オブジェクトと同じ名前の QSGDISP (GROUP) オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されています。 ローカル・キューの場合、メッセージは各キュー・マネージャーのページ・セットに保管され、そのキュー・マネージャーを介してのみ使用できます。
GROUP	オブジェクト定義が共有リポジトリに常駐しています。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。定義が正常に実行されると、以下のコマンドが生成されます。コマンドは、すべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されて、ページ・セット 0 上でローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試行されます。 <pre>DEFINE QUEUE(q-name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> QSGDISP (COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの DEFINE コマンドは有効です。
PRIVATE	許可されません。
QMGR	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。ローカル・キューの場合、メッセージは各キュー・マネージャーのページ・セットに保管され、そのキュー・マネージャーを介してのみ使用できます。
SHARED	このオプションは、ローカル・キューにのみ適用されます。オブジェクトは共有リポジトリで定義されます。メッセージはカップリング・ファシリティーで保管され、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーからアクセスできます。SHARED を使用できるのは次の場合だけです。 • CFSTRUCT がブランクではない • INDXTYPE が MSGTOKEN ではない • 以下のキューではない: – SYSTEM.CHANNEL.INITQ – SYSTEM.COMMAND.INPUT キューがクラスター化されると、コマンドが生成されます。このコマンドがキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、このクラスター化された共有キューについての通知が行われます。

QSVCI EV

サービス間隔上限イベントまたはサービス間隔 OK イベントを生成するかどうかを制御します。

このパラメーターは、ローカル・キューおよびモデル・キューでのみサポートされ、共有キューで指定された場合は無効です。

少なくとも **QSVCI NT** パラメーターに指定された時間、そのキューからまったくメッセージが取得されなかったことが検査で明らかになると、「サービス間隔上限」イベントが発生します。

QSVCI NT パラメーターに指定された時間内にそのキューからメッセージが取得されたことが検査で明らかになると、「サービス間隔 OK」イベントが発生します。

注：このパラメーターの値は、暗黙的に変更される場合があります。詳しくは、キュー・サービス間隔上限およびキュー・サービス間隔 OK の「サービス間隔上限」イベントおよび「サービス間隔 OK」イベントに関する説明を参照してください。

HIGH

サービス間隔高イベントが生成されます。

OK

サービス間隔 OK イベントが生成されます。

NONE

サービス間隔イベントは生成されません。

QSVCIINT (integer)

サービス間隔上限およびサービス間隔 OK イベントを生成する際に、比較に使用されるサービス間隔。

このパラメーターは、ローカル・キューおよびモデル・キューでのみサポートされ、共有キューで指定された場合は無効です。

QSVCIIEV パラメーターを参照してください。

値はミリ秒単位で、0 から 999999999 の範囲内でなければなりません。

REPLACE & NOREPLACE

このオプションは、既存の定義をこの定義に置き換えるかどうかを制御します。

注：  IBM MQ for z/OS では、既存の定義が置き換えられるのは、既存の定義の属性指定が同じ場合のみです。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

オブジェクトが存在している場合の結果は、**ALTER** コマンドに **FORCE** パラメーターを除くすべてのパラメーターを指定して実行した場合と似ています。特に、既存のキューにあるメッセージはすべて保存されるのでご注意ください。

FORCE パラメーターなしの **ALTER** コマンドと **REPLACE** パラメーター付きの **DEFINE** コマンドには違いがあります。その違いは、**ALTER** が指定されていないパラメーターを変更しないのに対し、**REPLACE** 付きの **DEFINE** はすべてのパラメーターを設定することです。**REPLACE** を使用すると、指定されていないパラメーターは **LIKE** パラメーターに指定されたオブジェクトまたはデフォルト定義から取得され、置換対象のオブジェクトのパラメーターがあってもそれは無視されます。

次の記述が共に真である場合、コマンドは失敗します。

- **ALTER** コマンドを使用するには **FORCE** パラメーターとの併用が必要になるパラメーターをコマンドに設定している
- そのオブジェクトがオープンされている

このような状況では、**ALTER** コマンドに **FORCE** パラメーターを指定するとうまくいきます。

   UNIX、Linux、または Windows で **SCOPE(CELL)** が指定され、セル・ディレクトリーに同じ名前のキューが既に存在する場合、**REPLACE** が指定されていてもコマンドは失敗します。

NOREPLACE

定義はオブジェクトのどの既存の定義も置き換えません。

RETINTVL (integer)

キューが定義されたときからの時間数。その時間が経過すれば、そのキューは不要となります。値は 0 から 999,999,999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

CRDATE と **CRTIME** は、**DISPLAY QUEUE** コマンドで表示できます。

オペレーターとハウスキーピング・アプリケーションは、この情報に基づいて、不要になったキューを削除できます。

注: キュー・マネージャーは、この値に基づいてキューを削除することも、キューの保存間隔が満了になっていない場合にキューが削除されないようにすることもしません。必要なアクションは、ユーザーの責任で行ってください。

RNAME (string)

リモート・キューの名前。このパラメーターは、**RQMNAME** で指定したキュー・マネージャー上で定義された、キューのローカル名です。

このパラメーターは、リモート・キューでのみサポートされます。

- この定義をリモート・キューのローカル定義に使用する場合、オープン時に **RNAME** がブランクであってはなりません。
- この定義をキュー・マネージャーの別名定義に使用する場合、オープンが発生したときに **RNAME** がブランクになっている必要があります。

キュー・マネージャー・クラスターでは、この定義はこのクラスターを作成したキュー・マネージャーのみに適用されます。別名をクラスター全体に公示するには、**CLUSTER** 属性をリモート・キュー定義に追加します。

- この定義が応答先キュー別名に使用される場合、この名前は、応答先キューとなるキューの名前です。

通常、キュー名に許可されている文字には制限がありますが、その検査は行われません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

RQMNAME (string)

キュー **RNAME** が定義されたリモート・キュー・マネージャーの名前。

このパラメーターは、リモート・キューでのみサポートされます。

- アプリケーションがリモート・キューのローカル定義をオープンする場合、**RQMNAME** がブランクであったり、ローカル・キュー・マネージャーの名前であったりしてはなりません。**XMITQ** がブランクの場合、この名前を持つローカル・キューがオープン時に存在しなければなりません。それが伝送キューとして使用されます。
- この定義をキュー・マネージャーの別名として使用する場合、**RQMNAME** は、その別名を与えられるキュー・マネージャーの名前です。これは、ローカル・キュー・マネージャーの名前であっても構いません。それ以外のときで、**XMITQ** がブランクなら、オープン時にこの名前を持つローカル・キューが存在しなければなりません。それが伝送キューとして使用されます。
- **RQMNAME** が応答先キュー別名に使用される場合、**RQMNAME** は、応答先キュー・マネージャーとなるキュー・マネージャーの名前です。

通常、IBM MQ オブジェクト名に許可されている文字には制限がありますが、その検査は行われません。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

SCOPE

キュー定義の有効範囲を指定します。

このパラメーターは、別名キュー、ローカル・キュー、およびリモート・キューでのみサポートされます。

QMGR

キュー定義の有効範囲は、キュー・マネージャー内です。キューを所有するキュー・マネージャー以外では、キュー定義は適用しません。別のキュー・マネージャーが所有する出力のキューを、次の2つの方法のいずれかで開くことができます。

1. 所有キュー・マネージャーの名前を指定します。
2. 他方のキュー・マネージャーにあるキューのローカル定義を開きます。

CELL

キュー定義の有効範囲は、セルになります。セルの有効範囲とは、キューがそのセル内のすべてのキュー・マネージャーに認識されていることを意味します。セルの有効範囲が指定されたキューは、キューの名前を指定するだけで、出力用に開くことができます。キューを所有するキュー・マネージャーの名前を指定する必要はありません。

同じ名前を持つキューが既にセル・ディレクトリーにある場合、コマンドは失敗します。 **REPLACE** オプションを指定しても、影響はありません。

値は、セル・ディレクトリーをサポートする名前サービスが構成されている場合にのみ有効です。

制約事項: DCE ネーム・サービスは現在ではサポートされていません。

このパラメーターは、UNIX および Linux システム、および Windows でのみ有効です。

SHARE および NOSHARE

複数のアプリケーションがこのキューからメッセージを検索できるかどうかを指定します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

SHARE

複数のアプリケーション・インスタンスがこのキューからメッセージを読み取ることができます。

NOSHARE

1つのアプリケーション・インスタンスのみがこのキューからメッセージを読み取ることができます。

STATQ

統計データ収集を有効にするかどうかを指定します。

QMGR

統計データの収集は、キュー・マネージャーの **STATQ** パラメーターの設定に基づいて行われます。

ON

キュー・マネージャーの **STATQ** パラメーターの値が **NONE** でない場合、キューの統計データ収集は使用可能に設定されます。

OFF

キューの統計データ収集は使用不可になります。

このパラメーターを **ALTER** キュー・コマンドで使用した場合、変更は、パラメーターの変更後に作成された、キュー・マネージャーへの接続に対してのみ有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX および Linux システム、および Windows でのみ有効です。

STGCLASS (string)

ストレージ・クラスの名前。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターはインストール時に定義した名前です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です 。 [ストレージ・クラス](#)を参照してください。

名前の1番目の文字は英大文字 A から Z、2番目の文字以降は英大文字の A から Z か数字の 0 から 9 でなければなりません。

注: このパラメーターは、キューが空で、クローズされている場合にのみ変更できます。

TARGET (string)

別名として使用するキューまたはトピック・オブジェクトの名前。 [IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。オブジェクトには、**TARGETYPE** で定義されたキューまたはトピックが可能です。最大長は 48 文字です。

このパラメーターは、別名キューでのみサポートされます。

このオブジェクトは、アプリケーション・プロセスが別名キューをオープンするときのみ定義する必要があります。

このパラメーターは、パラメーター **TARGQ** の同義語です。**TARGQ** は互換性のために保持されています。**TARGET** を指定する場合、同時に **TARGQ** を指定することはできません。

TARGETYPE (string)

別名の解決先のオブジェクトのタイプ。

QUEUE

別名はキューに解決されます。

TOPIC

別名はトピックに解決されます。

TRIGDATA (*string*)

トリガー・メッセージに挿入されるデータ。ストリングの最大長は 64 バイトです。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、Windows、、および z/OS の伝送キューでは、このパラメーターを使用して、開始するチャネルの名前を指定できます。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGDPTH (*integer*)

TRIGTYPE が DEPTH のとき、トリガー・メッセージを書き込むために必要なキュー上のメッセージ数。値は 1 から 999,999,999 の範囲でなければなりません。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGGER & NOTRIGGER

トリガー・メッセージを開始キュー (**INITQ** パラメーターで指定) に書き込み、アプリケーション (**PROCESS** パラメーターで指定) をトリガーするかどうかを指定します。

TRIGGER

トリガー操作をアクティブにすると、トリガー・メッセージが開始キューに書き込まれます。

NOTRIGGER

トリガー操作をアクティブにしないと、トリガー・メッセージは開始キューに書き込まれません。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGMPRI (*integer*)

このキューでのトリガーとなるメッセージ優先順位番号。値は、ゼロから **MAXPRTY** キュー・マネージャー・パラメーターまでの範囲内であればなりません (詳しくは、[1139 ページの『DISPLAY QMGR』](#)を参照)。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

TRIGTYPE

トリガー・メッセージを開始キューに書き込むかどうか、またどの条件で書き込むかを指定します。開始キューは **INITQ** パラメーターで指定します。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

FIRST

このキューの **TRIGMPRI** パラメーターに指定されている以上の優先順位を持つ最初のメッセージがこのキューに着信したとき。

EVERY

このキューの **TRIGMPRI** パラメーターに指定されている以上の優先順位を持つメッセージがこのキューに着信するたび。

DEPTH

TRIGMPRI に指定されている以上の優先順位を持つメッセージの数が **TRIGDPTH** パラメーターに指定された値と等しくなったとき。

NONE

トリガー・メッセージは書き込まれません。

このパラメーターは、MQSET API 呼び出しを使用して変更することもできます。

USAGE

キューの用途。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみサポートされます。

NORMAL

キューは送信キューではありません。

XMITQ

このキューは伝送キューで、リモート・キュー・マネージャー宛てのメッセージを保留するために使用されます。アプリケーションがリモート・キューにメッセージを書き込むと、そのメッセージは適切な伝送キューに保管されます。メッセージはそこで、リモート・キュー・マネージャーに伝送されるのを待ちます。

このオプションを指定した場合は、**CLUSTER** および **CLUSNL** に値を指定しないでください。

 さらに、z/OS では、**INDXTYPE** (MSGTOKEN) を指定しないでください。または **INDXTYPE** (GROUPID)。

XMITQ (*string*)

メッセージをそのリモート・キューに転送するのに使用する伝送キューの名前。**XMITQ** は、リモート・キューまたはキュー・マネージャー別名定義のいずれかとともに使用されます。

このパラメーターは、リモート・キューでのみサポートされます。

XMITQ がブランクの場合、**RQMNAME** と同じ名前のキューが伝送キューとして使用されます。

この定義がキュー・マネージャー別名定義で、**RQMNAME** がローカル・キュー・マネージャーの名前である場合、このパラメーターは無視されます。

また、この定義が応答先キュー別名定義として使用されている場合にも、これは無視されます。

DEFINE QALIAS

DEFINE QALIAS は、新しい別名キューを定義し、そのパラメーターを設定するために使用します。

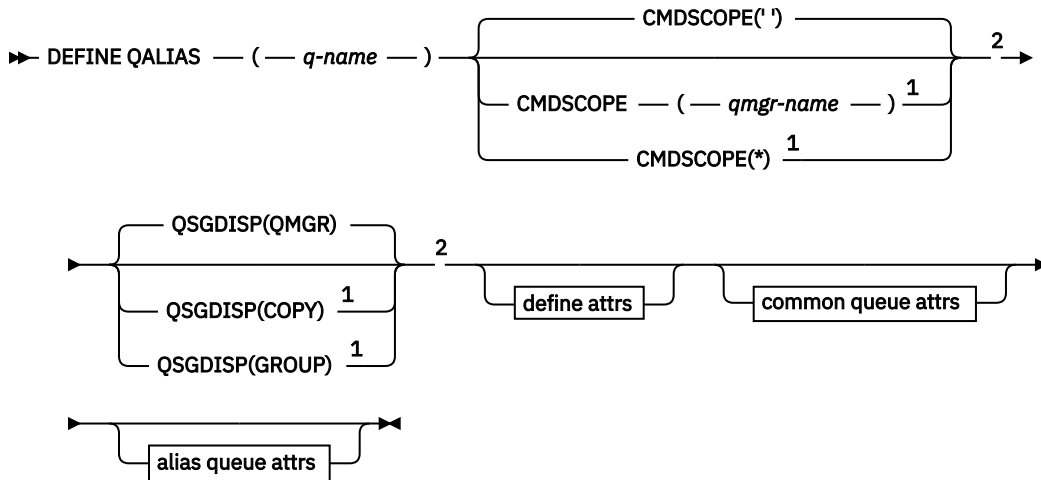
注：別名キューは、別のキューまたはトピック・オブジェクトへの参照の間接性のレベルを 1 つ高める働きをします。キューが別名で参照される場合、このキューはこのキュー・マネージャーで定義されている別のローカル・キューまたはリモート・キューか、別のキュー・マネージャーで定義されているクラスター別名キューでなければなりません。このキュー・マネージャー上の別名キューをさらに別名で参照することはできません。トピックが別名で参照される場合、このトピックはこのキュー・マネージャーで定義されているトピック・オブジェクトでなければなりません。

- [構文図](#)
- [932 ページの『DEFINE queues の使用上の注意』](#)
- [933 ページの『DEFINE QUEUE および ALTER QUEUE のパラメーターの説明』](#)

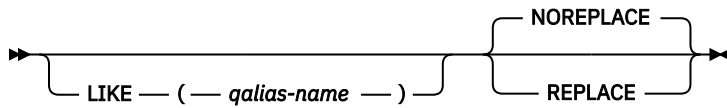
同義語: DEF QA

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

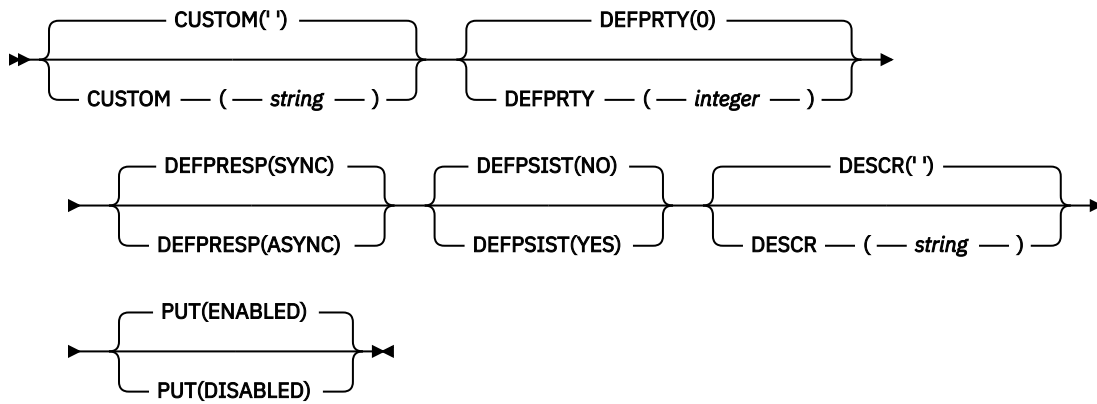
DEFINE QALIAS



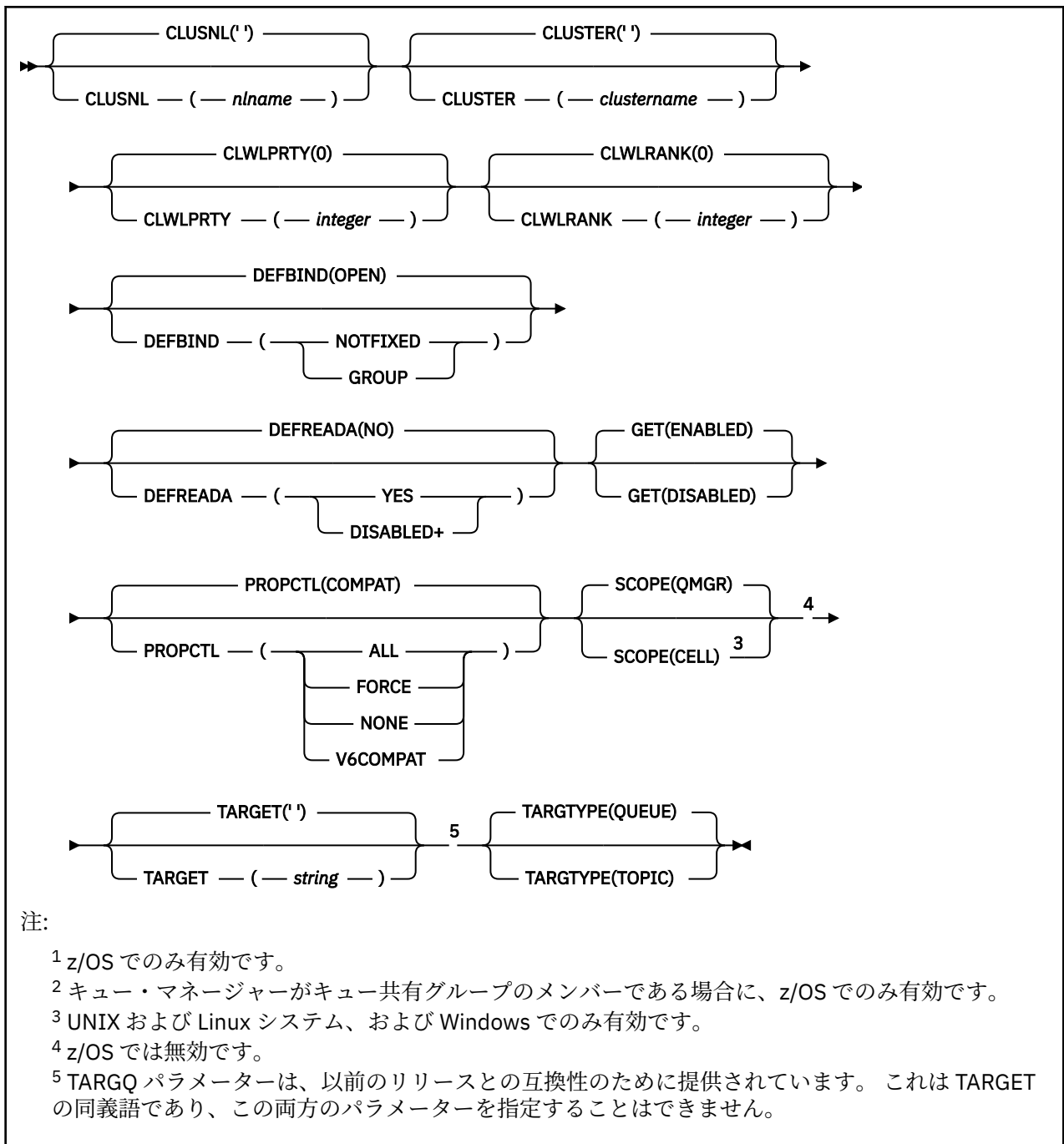
Define attrs



Common queue attrs



Alias queue attrs



DEFINE QLOCAL

DEFINE QLOCAL は、新しいローカル・キューを定義し、そのパラメータを設定するために使用します。

構文図

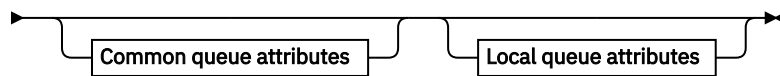
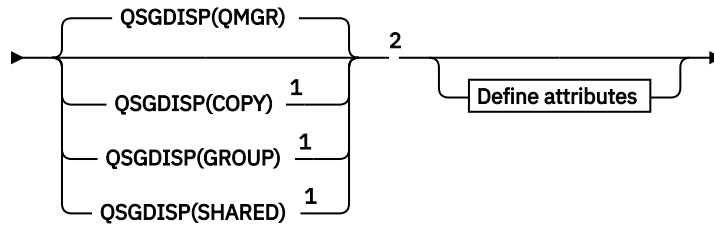
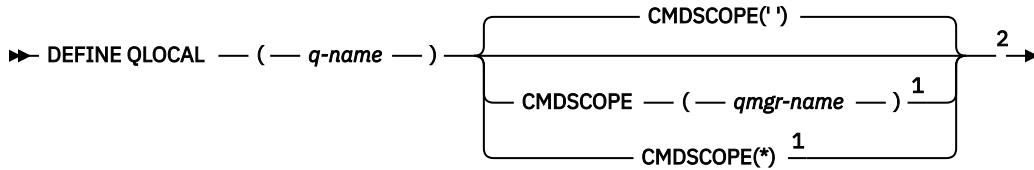
932 ページの『DEFINE queues の使用上の注意』

933 ページの『DEFINE QUEUE および ALTER QUEUE のパラメータの説明』

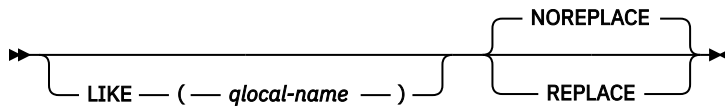
同義語: DEF QL

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『路線図の読み方』を参照してください。

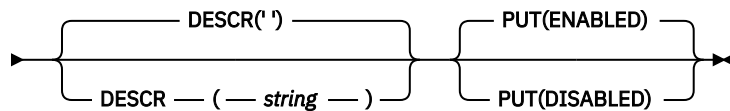
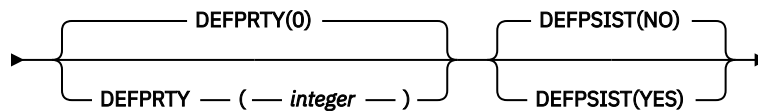
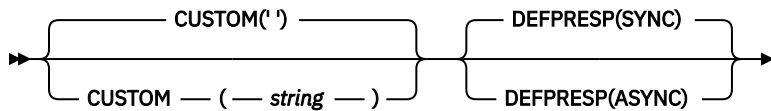
DEFINE QLOCAL



Define attributes



Common queue attributes



Local queue attributes



² z/OS でのみ有効です。

³ z/OS のデフォルト。

⁴ 分散プラットフォームのデフォルト。

⁵ z/OS では無効です。

⁶ UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

DEFINE QMODEL

DEFINE QMODEL は、新しいモデル・キューを定義し、そのパラメーターを設定するために使用します。

モデル・キューとはキューそのものではなく、属性の集合です。MQOPEN API 呼び出しで動的キューを作成する場合に使用できます。

定義されたモデル・キューは、他のキュー同様、適用可能な属性を 1 セット備えています (デフォルト値を含むこともあります)。

• 構文図

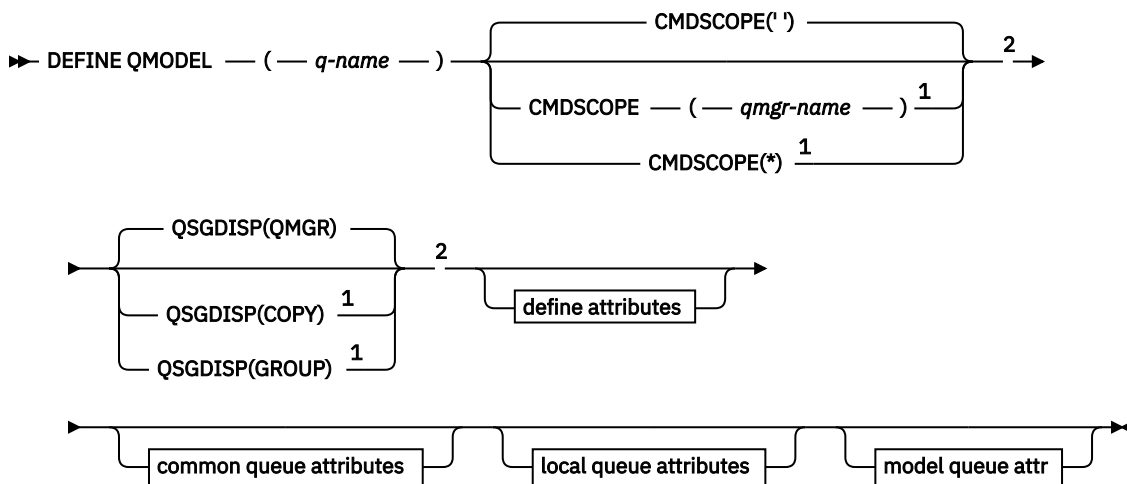
• 932 ページの『DEFINE queues の使用上の注意』

• 933 ページの『DEFINE QUEUE および ALTER QUEUE のパラメーターの説明』

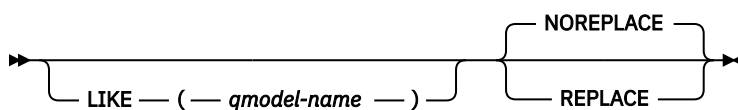
同義語: **DEF QM**

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『路線図の読み方』を参照してください。

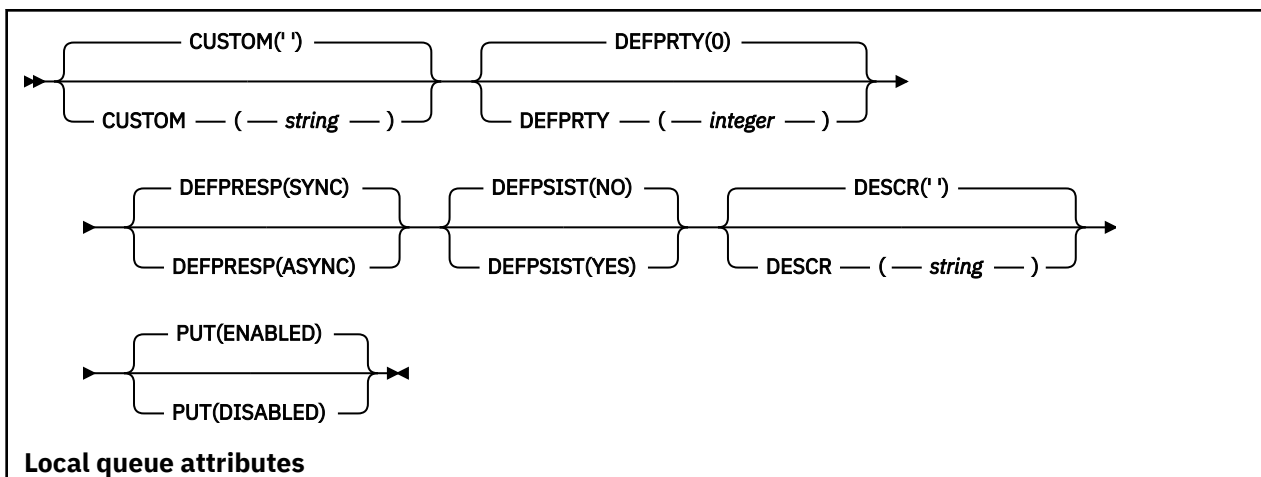
DEFINE QMODEL

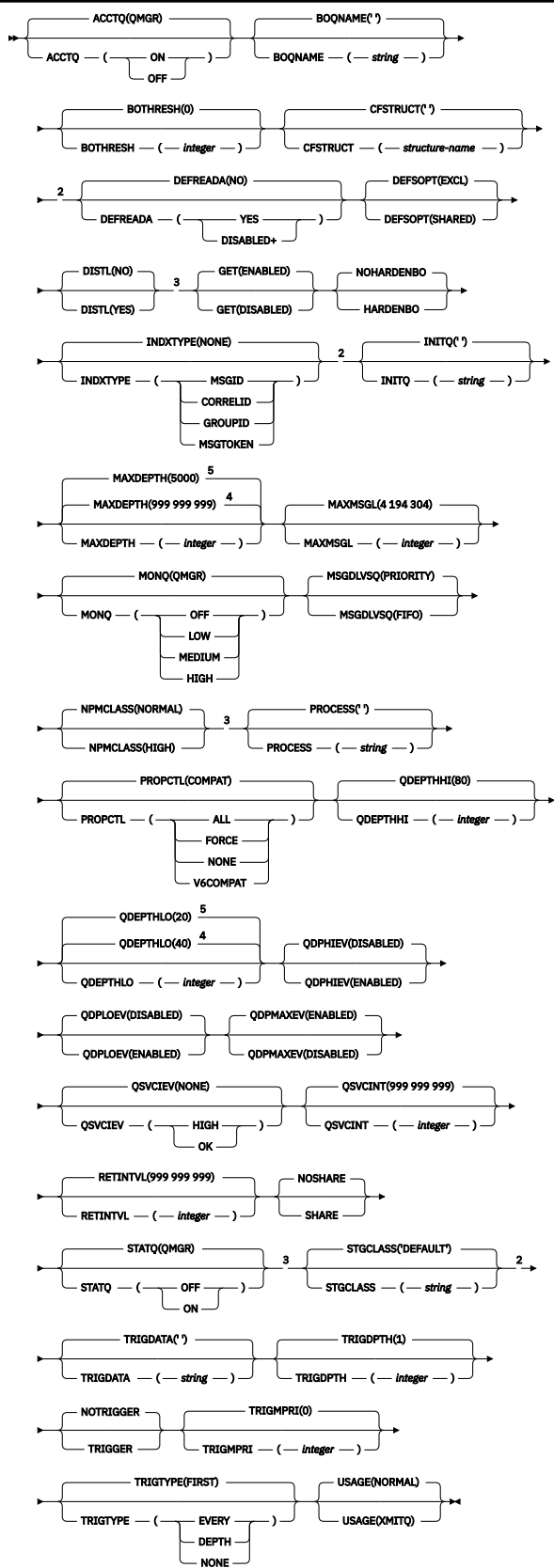


Define attributes

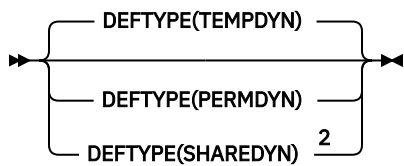


Common queue attributes





Model queue attr



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS 専用です。
- ³ z/OS では無効です。
- ⁴ z/OS のデフォルト。
- ⁵ 分散プラットフォームのデフォルト。

DEFINE QREMOTE

DEFINE QREMOTE は、リモート・キューの新しいローカル定義、キュー・マネージャーの別名、または応答先キューの別名を定義し、そのパラメーターを設定するために使用します。

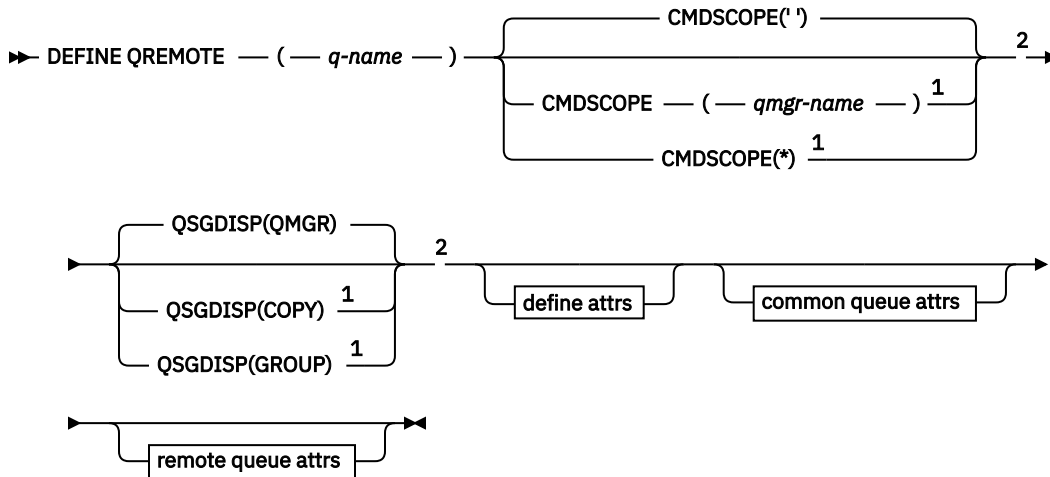
リモート・キューとは、このキュー・マネージャーに接続しているアプリケーション・プロセスに対してアクセスの必要があり、他のキュー・マネージャーに所有されているキューを指します。

- [構文図](#)
- [932 ページの『DEFINE queues の使用上の注意』](#)
- [933 ページの『DEFINE QUEUE および ALTER QUEUE のパラメーターの説明』](#)

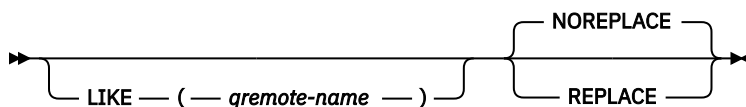
同義語: DEF QR

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『[路線図の読み方](#)』を参照してください。

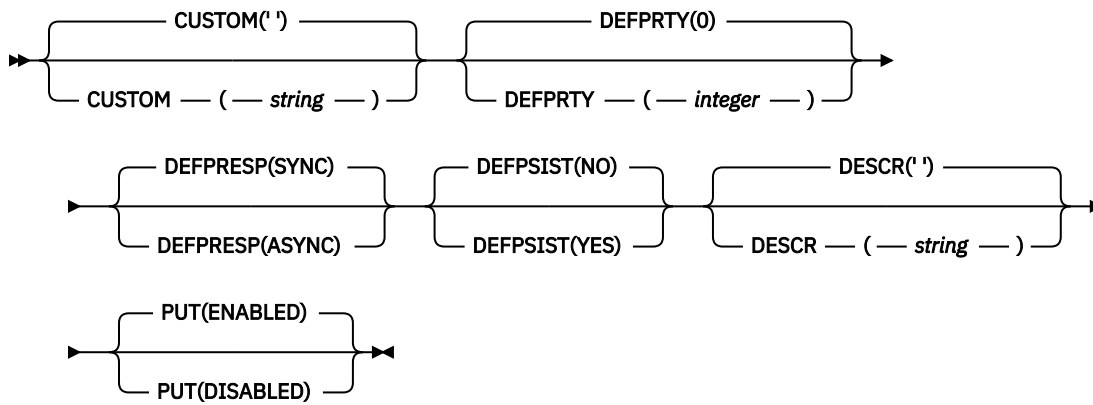
DEFINE QREMOTE



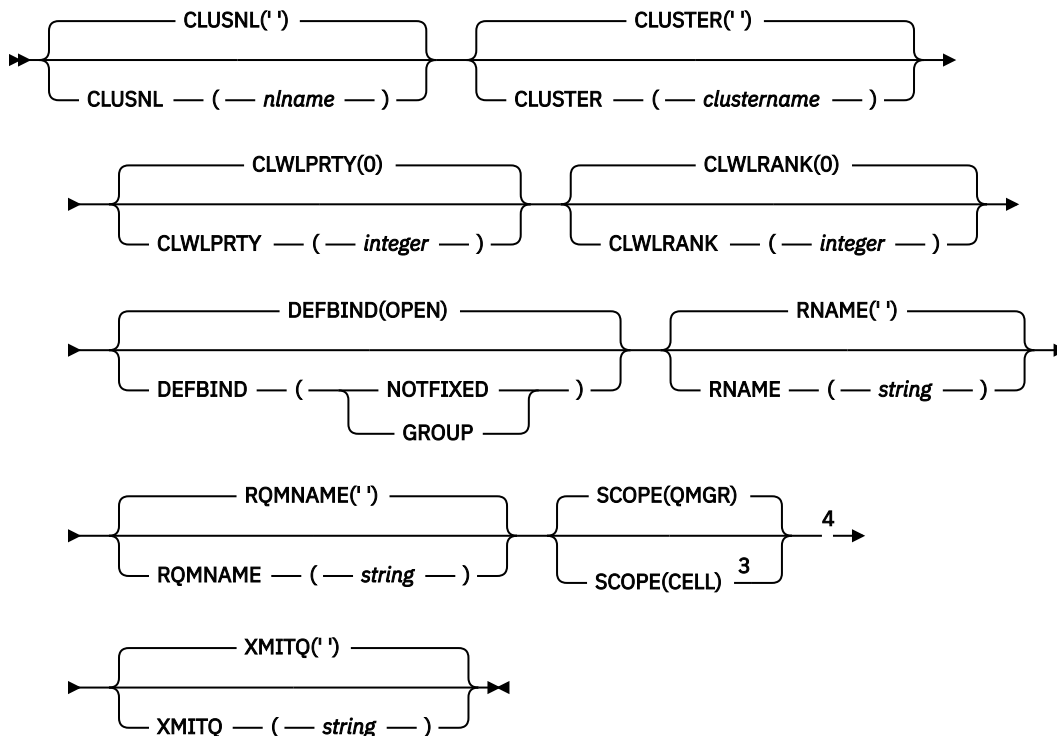
Define attrs



Common queue attrs



Remote queue attrs



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。
- ³ UNIX および Linux システム、および Windows でのみ有効です。
- ⁴ z/OS では無効です。

DEFINE SERVICE

新しい IBM MQ サービス定義を作成してそのパラメーターを設定するには、MQSC コマンド DEFINE SERVICE を使用します。

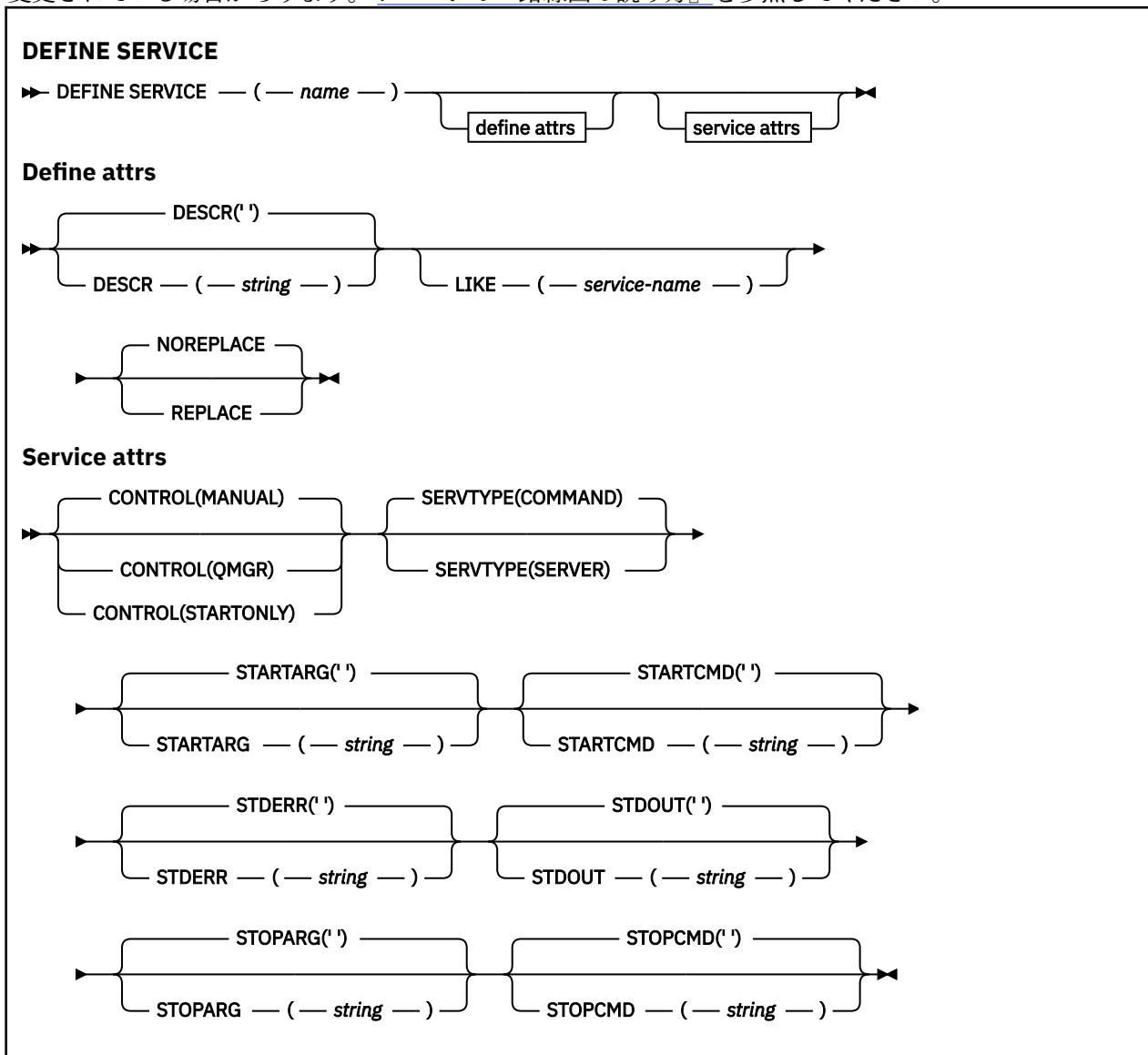
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [965 ページの『使用上の注意』](#)
- [966 ページの『DEFINE SERVICE のパラメーターの説明』](#)

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『[路線図の読み方](#)』を参照してください。



使用上の注意

サービスを使用して、キュー・マネージャーが開始および停止するときに開始および停止するユーザー・プログラムを定義します。また、START SERVICE コマンドと STOP SERVICE コマンドを発行してこれらのプログラムを開始および停止することもできます。



重要: このコマンドを使用して、ユーザーは mqm 権限で任意のコマンドを実行することができます。このコマンドを使用する権限が付与されている場合、悪意のあるまたは不注意なユーザーが、例えば、大切なファイルを削除するなどして、システムまたはデータに損害を与えるサービスを定義する可能性があります。

サービスについて詳しくは、[サービス](#)を参照してください。

DEFINE SERVICE のパラメーターの説明

パラメーターの説明は ALTER SERVICE コマンドおよび DEFINE SERVICE コマンドに適用されますが、以下の例外があります。

- **LIKE** パラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。
- **NOREPLACE** および **REPLACE** パラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。

(service-name)

IBM MQ サービス定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。

指定する名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのサービス定義とも同じであってはなりません (ただし、REPLACE が指定されている場合を除きます)。

CONTROL(string)

サービスの開始方法と停止方法を指定します。

MANUAL

サービスを自動的に開始または停止しません。START SERVICE コマンドと STOP SERVICE コマンドを使用して制御します。

QMGR

定義するサービスは、キュー・マネージャーの開始および停止に合わせて開始および停止されます。

STARTONLY

サービスはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY SERVICE コマンドを発行すると、サービスに関する記述情報が提供されます ([1187 ページの『DISPLAY SERVICE』](#)を参照)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) がない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

LIKE(service-name)

この定義をモデル化するためにパラメーターが使用されるサービスの名前。

このパラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。

このフィールドが入力されておらず、コマンドに関連するパラメーター・フィールドを入力していない場合には、値はこのキュー・マネージャーでのサービスのデフォルト定義から取得されます。このパラメーターを入力しない場合、次のように指定したことに相当します。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.SERVICE)
```

デフォルトのサービスが指定されますが、これは必要なデフォルト値のインストールにより変更できます。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義をこの定義に置き換えるかどうか。

このパラメーターは、DEFINE SERVICE コマンドのみに適用されます。

REPLACE

同じ名前の既存の定義を、この定義で必ず置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

SERVTYPE

サービスを実行するときのモードを指定します。

COMMAND

コマンド・サービス・オブジェクト。コマンド・サービス・オブジェクトでは、複数のインスタンスを同時に実行することができます。コマンド・サービス・オブジェクトの状況をモニターすることはできません。

SERVER

サーバー・サービス・オブジェクト。同時に実行できるサーバー・サービス・オブジェクトのインスタンスは、1つだけです。DISPLAY SVSTATUS コマンドを使用して、サーバー・サービス・オブジェクトの状況をモニターできます。

STARTARG(*string*)

キュー・マネージャー開始時にユーザー・プログラムに渡される引数を指定します。

STARTCMD(*string*)

実行するプログラムの名前を指定します。実行可能プログラムの完全修飾パス名を指定する必要があります。

STDERR(*string*)

サービス・プログラムの標準エラー出力 (stderr) のリダイレクト先のファイルのパスを指定します。サービス・プログラムの開始時にこのファイルが存在しない場合は、作成されます。この値を空白にすると、サービス・プログラムによって stderr に書き込まれるデータはすべて廃棄されます。

STDOUT(*string*)

サービス・プログラムの標準出力 (stdout) のリダイレクト先のファイルのパスを指定します。サービス・プログラムの開始時にこのファイルが存在しない場合は、作成されます。この値を空白にすると、サービス・プログラムによって stdout に書き込まれるデータはすべて廃棄されます。

STOPARG(*string*)

サービスを停止するように指示があったときに、停止プログラムに渡す引数を指定します。

STOPCMD(*string*)

サービスの停止を要求されたときに実行する実行可能プログラムの名前を指定します。実行可能プログラムの完全修飾パス名を指定する必要があります。

STARTCMD、STARTARG、STOPCMD、STOPARG、STDOUT、または STDERR のストリングのいずれかで置き換え可能な挿入を使用できます。詳しくは、[サービス定義での置き換え可能な挿入](#)を参照してください。

関連情報

[サービスの取り扱い](#)

DEFINE STGCLASS

ストレージ・クラスをページ・セット・マッピングに定義するには、MQSC コマンド DEFINE STGCLASS を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

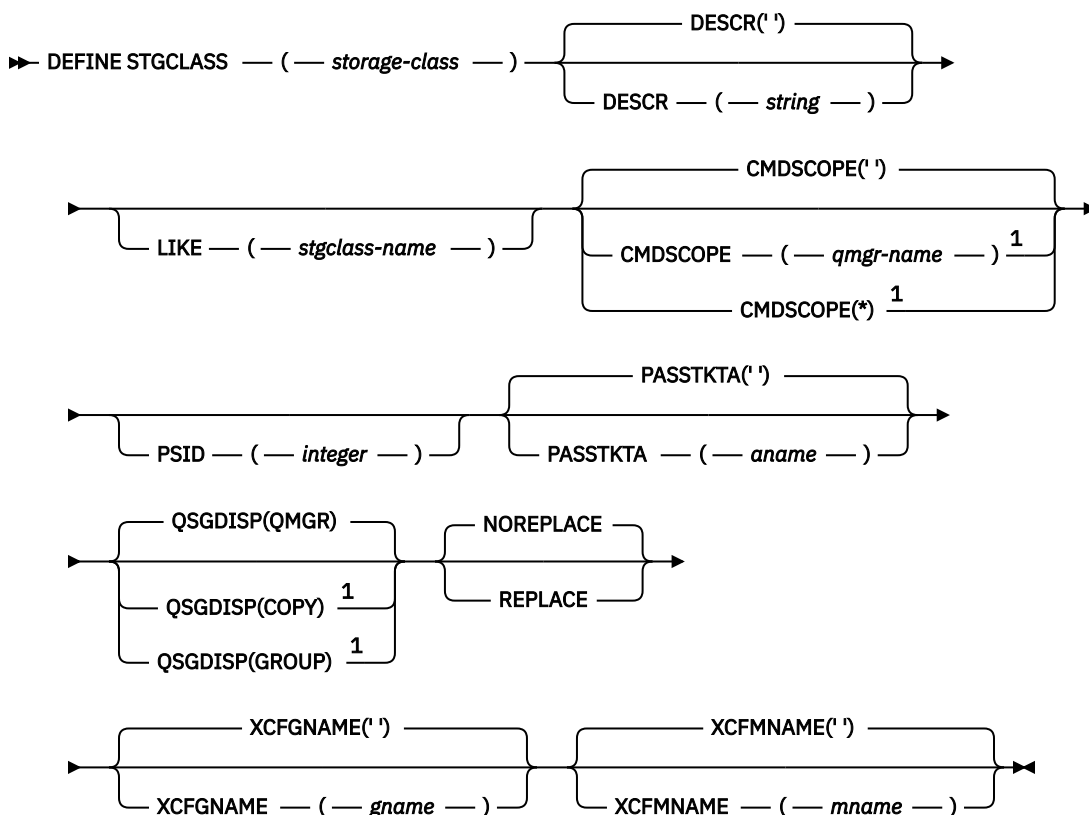
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [968 ページの『DEFINE STGCLASS の使用上の注意』](#)
- [969 ページの『DEFINE STGCLASS のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF STC

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『路線図の読み方』を参照してください。

DEFINE STGCLASS



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

DEFINE STGCLASS の使用上の注意

1. XCFGNAME および XCFMNAME の結果として生じる値は、両方ともブランクであるか、両方ともブランクでないかのいずれかです。
2. ストレージ・クラスは、どのキューでも使用されていない場合にのみ変更できます。ストレージ・クラスを使用しているキューがあるかどうかを判別するには、次のコマンドを使用します。

```
DISPLAY QUEUE(*) STGCLASS(ABC) PSID(n)
```

「ABC」はストレージ・クラスの名前であり、*n* はストレージ・クラスが関連付けられているページ・セットの ID です。

このコマンドを実行すると、ストレージ・クラスを参照しかつページ・セット *n* へのアクティブな関連付けを持つすべてのキューのリストが返されるので、ストレージ・クラスへの変更を実際に妨げているキューが特定されます。PSID を指定しない場合、変更を停止している可能性のあるキューのリストだけが表示されます。

キューとページ・セットのアクティブな関連付けについて詳しくは、[DISPLAY QUEUE PSID](#) コマンドに関する説明を参照してください。

DEFINE STGCLASS のパラメーターの説明

(storage-class)

ストレージ・クラスの名前。

この名前は 1 から 8 文字です。先頭文字は A から Z までの範囲です。その後は、A から Z まで、または 0 から 9 までの文字です。

注：例外として、一部のすべて数字のストレージ・クラス名が使用できますが、これは IBM サービス担当員による使用のために予約されています。

このキュー・マネージャーに現在定義されている他のストレージ・クラスと同じストレージ・クラスを指定してはなりません。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。* は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DESCR(description)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY STGCLASS コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注：このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用されていると、情報を別のキュー・マネージャーに送信した場合に、それらの文字が誤って変換されることがあります。

LIKE(stgclass-name)

同じタイプのオブジェクトの名前。この定義をモデル化するために使用するパラメーターと共に指定します。

このフィールドが入力されておらず、コマンドに関連するパラメーター・フィールドを入力していない場合には、値はこのオブジェクトのデフォルト定義から取得されます。

このパラメーターを入力しない場合、次のように指定したことに相当します。

```
LIKE (SYSTEMST)
```

このデフォルトのストレージ・クラス定義は、インストール環境ごとに必要なデフォルト値に変更できます。

キュー・マネージャーは指定した名前と、QMGR または COPY の属性指定を持つオブジェクトを検索します。LIKE オブジェクトの属性指定は、定義しているオブジェクトにはコピーされません。

注：

1. QSGDISP (GROUP) オブジェクトは検索されません。

2. QSGDISP(COPY) が指定された場合、LIKE は無視されます。

PASSTKTA(application name)

MQIIH ヘッダーに指定されているパスチケットの認証時に、RACF に渡されるアプリケーション名。

PSID(integer)

このストレージ・クラスが関連付けられるページ・セット ID。

注：ページ・セットが定義されているかどうかは検査されません。このストレージ・クラスが指定されたキューにメッセージの書き込みを試行した場合にのみ、エラーになります (MQRC_PAGESET_ERROR)。

ストリングは、00 から 99 の範囲の 2 つの数字で構成されます。929 ページの『DEFINE PSID』を参照してください。

QSGDISP

グループ内のオブジェクトの属性指定を指定します。

QSGDISP	DEFINE
COPY	「LIKE」オブジェクトと同じ名前の QSGDISP(GROUP) オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されているオブジェクト。
GROUP	オブジェクト定義は、キュー・マネージャーがキュー共有グループに属している場合にのみ、共有リポジトリにあります。定義が正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上でローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE STGCLASS(storage-class) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの DEFINE は、QSGDISP(COPY) を含む生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。
PRIVATE	許可されません。
QMGR	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。

REPLACE および NOREPLACE

属性指定が同じである既存の定義をこの定義で置き換えるかどうかを判別します。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

同名の定義が既に存在すれば、この定義で置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

REPLACE オプションを使用する場合、コマンドを発行する間は、このストレージ・クラスを使用するすべてのキューが別のストレージ・クラスを使用するように一時的に変更する必要があります。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

XCFGNAME(group name)

IMS ブリッジを使用している場合、この名前は IMS システムが属する XCF グループの名前です。(この名前は、IMS パラメーター・リストに指定されたグループ名です。)

この名前は 1 から 8 文字です。先頭文字は A から Z までの範囲です。その後は、A から Z まで、または 0 から 9 までの文字です。

XCFMNAME(member name)

IMS ブリッジを使用している場合、この名前は XCFGNAME に指定された XCF グループ内の IMS システムの XCF メンバー名です。(この名前は、IMS パラメーター・リストに指定されたメンバー名です。)

この名前は 1 から 16 文字です。先頭文字は A から Z までの範囲です。その後は、A から Z まで、または 0 から 9 までの文字です。

DEFINE SUB

DEFINE SUB を使用すると、管理モードで永続サブスクリプションを作成できるようになるので、既存のアプリケーションがパブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションに参加できるようになります。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

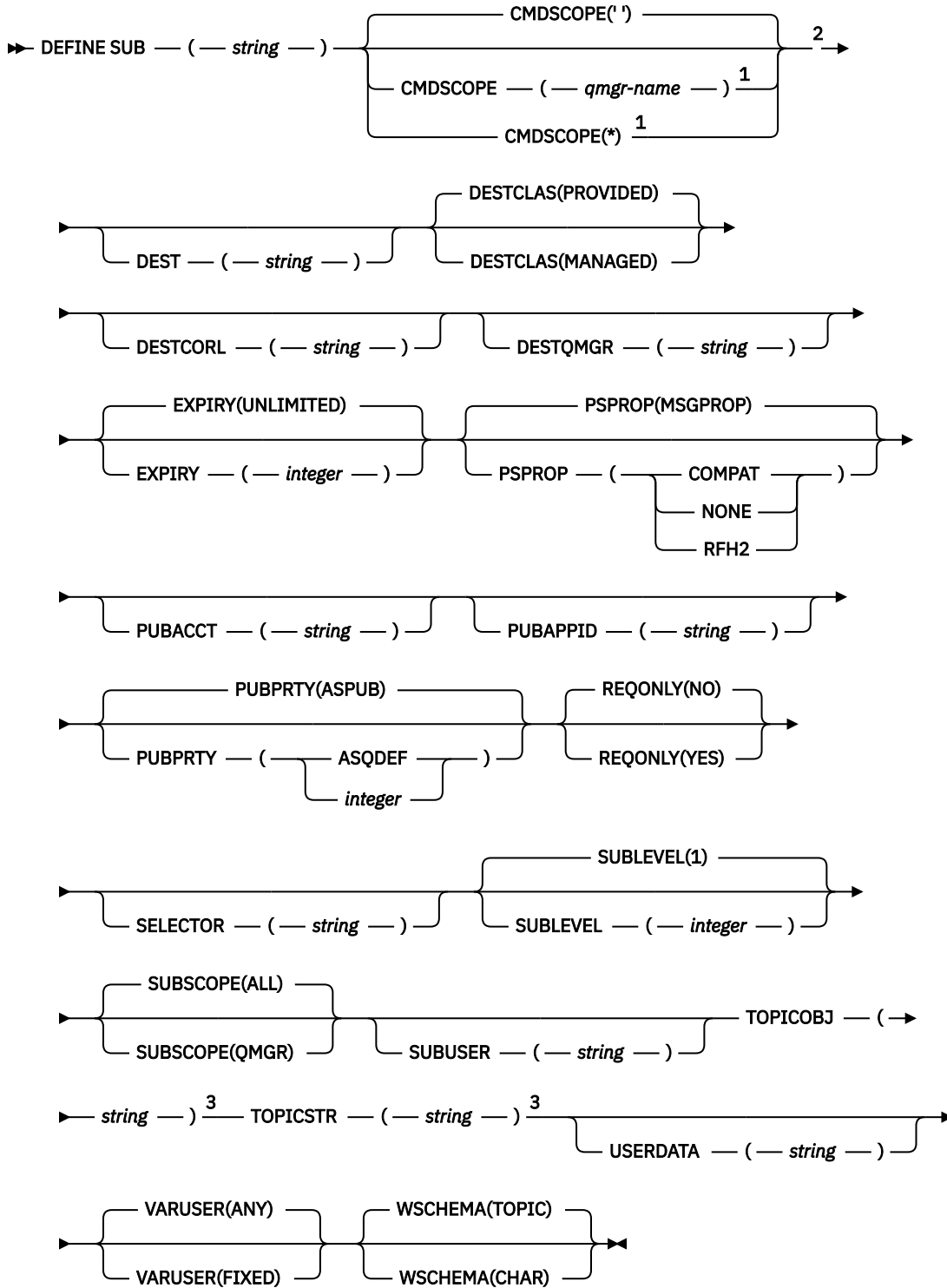
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [973 ページの『DEFINE SUB の使用上の注意』](#)
- [973 ページの『DEFINE SUB のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF SUB

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。

DEFINE SUB



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

³ **DEFINE** では、**TOPICSTR** と **TOPICOBJ** が少なくとも 1 つ必要です。

DEFINE SUB の使用上の注意

- サブスクリプションを定義するときには、以下の情報を指定する必要があります。

- SUBNAME
- メッセージの宛先
- サブスクリプションの対象のトピック

- トピック名は、以下の方法で指定できます。

TOPICSTR

TOPICSTR 属性でトピックを完全に指定します。

TOPICOBJ

トピックは、指定されたトピック・オブジェクトの TOPICSTR 属性から取得されます。指定されたトピック・オブジェクトは、新規サブスクリプションの TOPICOBJ 属性として保存されます。この方式が用意されているのは、オブジェクト定義で長いトピック・ストリングを入力できるようにするためです。

TOPICSTR と TOPICOBJ

名前付きのトピック・オブジェクトの TOPICSTR 属性と TOPICSTR の値との連結によってトピックを取得します (連結の規則については、MQSUB API の仕様を参照してください)。指定されたトピック・オブジェクトは、新規サブスクリプションの TOPICOBJ 属性として保存されます。

- TOPICOBJ を指定する場合は、このパラメーターで IBM MQ トピック・オブジェクトの名前を指定する必要があります。指定されたトピック・オブジェクトの存在は、コマンドの処理時に検査されます。
- DEST キーワードと DESTQMGR キーワードを使用して、メッセージの宛先を明示的に指定できます。

デフォルト・オプションの DESTCLAS(PROVIDED) の場合は、DEST キーワードを指定する必要があります。DESTCLAS(MANAGED) を指定した場合は、ローカル・キュー・マネージャーで管理対象の宛先が作成されるので、DEST 属性や DESTQMGR 属性を指定できません。

- z/OS の場合に限り、DEF SUB コマンドの処理時に、指定された DEST または DESTQMGR が存在するかどうかの検査は実行されません。

これらの名前は、パブリッシュ時に、MQOPEN 呼び出しの *ObjectName* と *ObjectQMgrName* として使用されます。これらの名前は、IBM MQ ネーム解決規則に従って解決されます。

- MQSC コマンドまたは PCF コマンドを使用して管理目的でサブスクリプションを定義するときには、セレクターの構文が無効かどうかの検証は行われません。DEFINE SUB コマンドには、MQSUB API 呼び出しから返される MQRC_SELECTION_NOT_AVAILABLE に相当する理由コードはありません。
- TOPICOBJ、TOPICSTR、WSHEMA、SELECTOR、SUBSCOPE、DESTCLAS を DEFINE REPLACE で変更することはできません。
- パブリケーションは保存されると、PubLevel 1 でリパブリッシュされるため、より高いレベルのサブスクライバーからは使用できなくなります。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の DEFINE SUB ステップ](#)を参照してください。

DEFINE SUB のパラメーターの説明

(string)

必須パラメーター。このサブスクリプションの固有名を指定します。**SUBNAME** プロパティを参照してください。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを処理するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで処理されます。これはデフォルト値です。

PSPROP

このサブスクリプションに送信されるメッセージにパブリッシュ/サブスクライブ関連メッセージ・プロパティを追加する方法。

NONE

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティをメッセージに追加しません。

COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティを MQRFH バージョン 1 のヘッダー内に追加します (メッセージが PCF 形式でパブリッシュされる場合は例外です)。

MSGPROP

パブリッシュ・サブスクライブ・プロパティはメッセージ・プロパティとして追加されます。

RFH2

パブリッシュ・サブスクライブ・プロパティは、MQRFH バージョン 2 ヘッダー内に追加されます。

PUBACCT(*string*)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージへの伝搬の際に、MQMD の *AccountingToken* フィールドにサブスクライバーから渡されるアカウント・トークン。

PUBAPPID(*string*)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージへの伝搬の際に、MQMD の *AppIdentityData* フィールドにサブスクライバーから渡される ID データ。

PUBPRTY

このサブスクリプションに送信されたメッセージの優先度。

AS PUB

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、パブリッシュされるメッセージで指定されている優先度から取り込まれます。

AS QDEF

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、宛先として定義されているキューのデフォルト優先度から取り込まれます。

(整数)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージの明示的な優先度を整数値として指定します。

REPLACE および NOREPLACE

このパラメーターでは、既存の定義をこの定義に置き換えるかどうかを制御します。

REPLACE

同名の定義が既に存在すれば、この定義で置き換えます。定義が存在しない場合は作成されます。

TOPICOBJ、TOPICSTR、WSHEMA、SELECTOR、SUBSCOPE、DESTCLAS を DEFINE REPLACE で変更することはできません。

NOREPLACE

同名の定義が既に存在していても、この定義で置き換えません。

REQONLY

サブスクライバーが MQSUBRQ API 呼び出しを使用して更新をポーリングするか、またはすべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに送達されるかを示します。

NO

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。これはデフォルト値です。

YES

パブリケーションは MQSUBRQ API 呼び出しへの応答としてのみ、このサブスクリプションに配信される。

このパラメーターは、サブスクライブ・オプション MQSO_PUBLICATIONS_ON_REQUEST と等価です。

SELECTOR(*string*)

トピックにパブリッシュされるメッセージに適用されるセレクター。

SUBLEVEL(integer)

サブスクリプション階層内でこのサブスクリプションを作成するレベル。範囲は 0 から 9 までです。

SUBSCOPE

サブスクリプションを他のキュー・マネージャーに転送することによって、サブスクライバーがそれらのキュー・マネージャーでパブリッシュされたメッセージも受信できるようにするかどうかを指定します。

ALL

パブリッシュ/サブスクライブの集合または階層で直接接続されているすべてのキュー・マネージャーにサブスクリプションを転送します。

QMGR

サブスクリプションは、このキュー・マネージャー内でトピックにパブリッシュされたメッセージのみを転送します。

注: 個々のサブスクライバーは **SUBSCOPE** の制限のみできます。このパラメーターがトピック・レベルで **ALL** に設定された場合、個々のサブスクライバーはこのサブスクリプションについて **QMGR** に制限できます。一方、このパラメーターがトピック・レベルで **QMGR** に設定された場合、個々のサブスクライバーを **ALL** に設定しても効果はありません。

SUBNAME

ハンドルに関連付けられているアプリケーションの固有サブスクリプション名。このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。その他のハンドルに対しては返されません。サブスクリプションには、名前が付かないものもあります。

SUBUSER(string)

このサブスクリプションに関連する宛先キューにパブリケーションを書き込むことができるかどうかを確認するために実行するセキュリティ検査で使用するユーザー ID を指定します。この ID は、サブスクリプションの作成者に関連付けられているユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可されている場合は、サブスクリプションを直近に引き継いだユーザー ID です。このパラメーターの長さは 12 文字以下でなければなりません。

TOPICOBJ(string)

このサブスクリプションによって使用されるトピック・オブジェクトの名前です。

TOPICSTR(string)

完全修飾されたトピック名を指定するか、またはサブスクリプションにワイルドカード文字を使用してトピックのセットを指定します。

USERDATA(string)

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。ストリングは、MQSUB API 呼び出しでアプリケーションによって取得できる可変長の値で、このサブスクリプションへメッセージ・プロパティとして送信されるメッセージ内で渡されます。

▶ V8.0.0.7 IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 7 より、IBM MQ classes for JMS アプリケーションは、メソッド `javax.jms.Message.getStringProperty(java.lang.String)` で `JmsConstants` インターフェースの定数 `JMS_IBM_SUBSCRIPTION_USER_DATA` を使用して、メッセージからサブスクリプション・ユーザー・データを取得できるようになりました。詳しくは、[Retrieval of user subscription data](#) を参照してください。

VARUSER

サブスクリプション作成者以外のユーザーがそのサブスクリプションへ接続し、その所有権を引き継ぐことができるかどうかを指定します。

ANY

どのユーザーでも、サブスクリプションに接続してその所有権を引き継ぐことができます。

固定

別の **USERID** による引き継ぎは許可されていません。

WSHEMA

トピック・ストリング内のワイルドカード文字の解釈に使用されるスキーマ。

CHAR

ワイルドカード文字はストリングの一部を表します。

トピック

ワイルドカード文字はトピック階層の部分を表します。

DEFINE TOPIC

DEFINE TOPIC は、トピック・ツリー内に新規 IBM MQ 管理トピックを定義し、そのパラメーターを設定するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

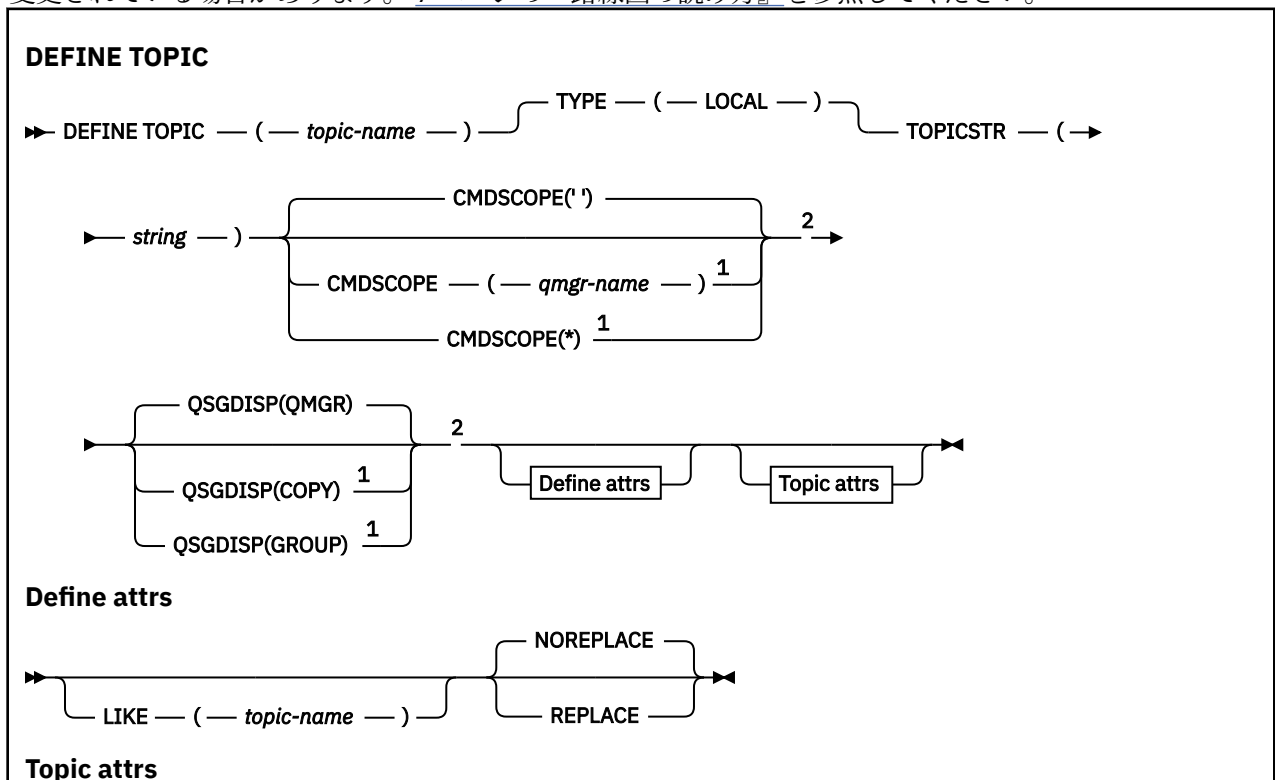
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

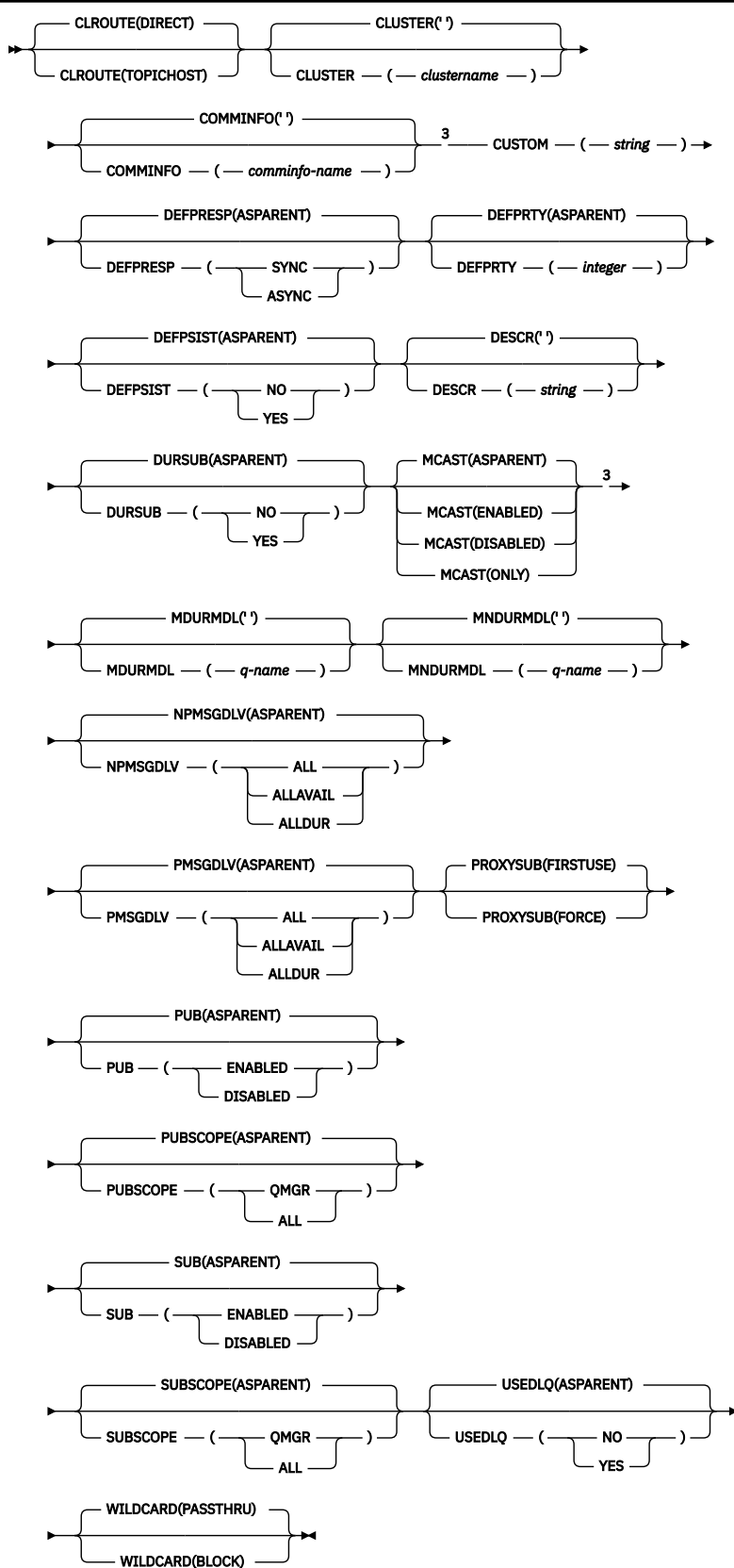
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [979 ページの『DEFINE TOPIC の使用上の注意』](#)
- [979 ページの『DEFINE TOPIC のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEF TOPIC

構文図の主線の上に示された値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、インストール済み環境により変更されている場合があります。7 ページの『[路線図の読み方](#)』を参照してください。





注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効です。

DEFINE TOPIC の使用上の注意

- 属性の値が ASPARENT の場合、この値はトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定から取られます。管理されるノードは、ローカルに定義されたトピック・オブジェクトか、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターに参加している場合はリモートに定義されたクラスター・トピックに基づいて決まります。最初の親トピック・オブジェクトの値も ASPARENT である場合、次のオブジェクトが検索されます。ツリーを検索したときに見つかったすべてのオブジェクトが ASPARENT を使用している場合、値は SYSTEM.BASE.TOPIC が存在する場合はそこから取られます。SYSTEM.BASE.TOPIC がいない場合、値は IBM MQ の SYSTEM.BASE.TOPIC の定義に提供されているものと同じ値になります。
- ASPARENT 属性は、クラスター集合内の各キュー・マネージャーに適用されます。これは、その時点において、キュー・マネージャーから可視状態のローカル定義とクラスター定義のセットを検査することによって行われます。
- パブリケーションが複数のサブスクライバーに送信される場合、トピック・オブジェクトから使用される属性は、そのパブリケーションを受信するすべてのサブスクライバーに対して一貫して使用されます。例えば、あるトピックに関するパブリケーションの禁止は、そのトピックに対する次のアプリケーション MQPUT 実行時に適用されます。複数のサブスクライバーに対して進行中のパブリケーションは、すべてのサブスクライバーへの処理を完了します。このパブリケーションは、途中でそのトピックのどの属性に加えられた変更も記録しません。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の [DEFINE TOPIC ステップ](#)を参照してください。

DEFINE TOPIC のパラメーターの説明

(topic-name)

IBM MQ トピック定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。最大長は 48 文字です。

この名前は、このキュー・マネージャーで現在定義されている他のどのトピック定義とも同じであってはなりません (REPLACE が指定されている場合を除く)。

CLROUTE

CLUSTER パラメーターで定義されたクラスター内のトピックに使用するルーティングの動作。

DIRECT

直接経路指定されたクラスター・トピックをキュー・マネージャーで構成すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがクラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーを認識するようになります。各キュー・マネージャーは、パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を実行するときに、クラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーに直接接続できます。

TOPICHOST

トピック・ホスト経路指定を使用すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーは、経路指定されたトピック定義をホストするクラスター・キュー・マネージャー (つまり、トピック・オブジェクトを定義したキュー・マネージャー) を認識するようになります。パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を行うとき、クラスター内のキュー・マネージャーは、それらのトピック・ホスト・キュー・マネージャーにのみ接続し、相互に直接接続されることはありません。トピック・ホスト・キュー・マネージャーは、パブリケーションがパブリッシュされるキュー・マネージャーから、一致するサブスクリプションがあるキュー・マネージャーへのパブリケーションの経路指定を担当します。

トピック・オブジェクトがクラスター化された後 (**CLUSTER** プロパティを設定することによって)、**CLROUTE** プロパティの値を変更することはできません。値を変更するには、その前にオブジェクトのクラスター化を解除 (**CLUSTER** を ' ' に設定) する必要があります。トピックのクラスター化を解除すると、トピック定義はローカル・トピックに変換されます。これによって、パブリケーションがリモート・キュー・マネージャーのサブスクリプションに送信されない期間ができます。この変更を行う場合は、この点を考慮する必要があります。別のキュー・マネージャーのクラスター・トピックと同

じ名前で非クラスター・トピックを定義する効果を参照してください。クラスター化されている状態で **CLROUTE** プロパティの値を変更しようとすると、システムは **MQRCCF_CLROUTE_NOT_ALTERABLE** 例外を生成します。

[パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのルーティング: 動作に関する注](#) および [パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの設計](#) も参照してください。

CLUSTER

このトピックが属するクラスターの名前。このキュー・マネージャーがメンバーになっているクラスターにこのパラメーターを設定すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがこのトピックを認識します。このクラスター内の任意のキュー・マネージャーに書き込まれたこのトピックまたはその下位のトピック・ストリングのパブリケーションは、クラスター内のその他のキュー・マネージャーのサブスクリプションに伝搬されます。詳しくは、[分散パブリッシュ/サブスクライブのネットワーク](#)を参照してください。

||

トピック・ツリー内のこのトピックより上のトピック・オブジェクトで、このパラメーターがクラスター名に設定されているものがない場合、このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。トピック・ツリー内の上位トピック・ノードでクラスター名が設定されている場合は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションもクラスター全体に伝搬されます。

string

トピックは、このクラスターに所属します。トピック・ツリー内のこのトピック・オブジェクトより上位のトピック・オブジェクトと異なるクラスターにこれを設定することは推奨されません。クラスター内の他のキュー・マネージャーでは、同じ名前のローカル定義がキュー・マネージャーに存在しない場合は、このオブジェクトの定義が使用されます。

特別な事情がある (例えば、マイグレーションをサポートする) 場合を除き、すべてのサブスクリプションおよびパブリケーションがクラスター全体に伝搬されることを回避するため、システム・トピック **SYSTEM.BASE.TOPIC** および **SYSTEM.DEFAULT.TOPIC** については、このパラメーターをブランクにしておきます。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、**QSGDISP** が **GROUP** に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。*は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

COMMINFO(comminfo-name)

このトピック・オブジェクトに関連付けられているマルチキャスト通信情報オブジェクトの名前。

CUSTOM (string)

新機能用カスタム属性。

V8.0.0.4 この属性には属性の値を含めます。属性の値として、属性名と値の各ペアを1つ以上のスペースで分離します。属性名と値のペアは、NAME(VALUE)の形式になります。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

CAPEXPRTY (integer)

このオブジェクトからプロパティを継承するトピックにパブリッシュされたメッセージが有効期限処理の対象となるまでシステムに存続する最大時間(10分の1秒単位で表現)。

メッセージ有効期限処理について詳しくは、[有効期限を強制的に短くする](#)を参照してください。

整数

1から999 999 999までの範囲の値でなければなりません。

NOLIMIT

このトピックに書き込まれたメッセージの有効期限時刻には制限がありません。

ASPARENT

最大メッセージ有効期限時刻は、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。これはデフォルト値です。

CAPEXPRTYに無効値を指定しても、コマンドの失敗にはなりません。代わりに、デフォルト値が使用されます。

DEFPRESP

アプリケーションでMQPMO_RESPONSE_AS_DEFオプションが指定されている場合に使用する書き込み応答を指定します。

ASPARENT

デフォルトの書き込み応答は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて行われます。

同期

MQPMO_SYNC_RESPONSEが代わりに指定されているかのように、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEFを指定するキューへのPUT操作が発行されます。MQMDおよびMQPMO内のフィールドが、キュー・マネージャーからアプリケーションに返されます。

ASYNCR

MQPMO_ASYNC_RESPONSEが代わりに指定されているかのように、MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEFを指定するキューへのPUT操作が常に発行されます。MQMDおよびMQPMOの一部のフィールドはキュー・マネージャーによりアプリケーションへ戻されませんが、トランザクションに書き込まれたメッセージおよび非持続メッセージがあれば、そのパフォーマンスが向上することがあります。

DEFPRTY(integer)

トピックにパブリッシュされるメッセージのデフォルトの優先順位。

(integer)

値の範囲はゼロ(最低の優先度)からMAXPRTY キュー・マネージャー・パラメーターまででなければなりません(MAXPRTYは9です)。

ASPARENT

デフォルトの優先順位は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

DEFPSIST

アプリケーションでMQPER_PERSISTENCE_AS_TOPIC_DEFオプションが指定されている場合に使用するメッセージ持続性を指定します。

ASPARENT

デフォルトの持続性は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

NO

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動中に失われます。

YES

このキューのメッセージは、キュー・マネージャーの再始動の際に残されます。

z/OS では、N および Y は、NO および YES の同義語として受け入れられます。

DESCR(string)

平文コメント。オペレーターが DISPLAY TOPIC コマンドを実行したときに表示される、このオブジェクトについての記述情報です。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

DURSUB

アプリケーションがこのトピックに対して永続サブスクリプションを行うことが許可されるかどうかを指定します。

ASPARENT

このトピックで永続サブスクリプションを行えるかどうかは、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

NO

永続サブスクリプションはこのノードで作成不可です。

YES

永続サブスクリプションはこのノードで作成可能です。

LIKE(topic-name)

トピックの名前。このトピック・パラメーターを使用して、この定義がモデル化されます。

このフィールドが入力されておらず、コマンドに関連するパラメーター・フィールドを入力していない場合には、値はこのキュー・マネージャーでのトピックのデフォルト定義から取得されます。

このフィールドを入力しない場合、次のように指定したことに相当します。

```
LIKE(SYSTEM.DEFAULT.TOPIC)
```

デフォルトのトピック定義が用意されていますが、インストール時に必要に応じてデフォルト値を変更することもできます。[IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

z/OS z/OS では、キュー・マネージャーがページ・セット 0 を検索し、ユーザーが指定する名前と QMGR または COPY の属性指定を持つオブジェクトを探します。LIKE オブジェクトの属性指定は、定義しているオブジェクトにはコピーされません。

注:

1. QSGDISP (GROUP) オブジェクトは検索されません。
2. QSGDISP(COPY) が指定された場合、LIKE は無視されます。

MCAST

トピック・ツリーでマルチキャストを許容するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ASPARENT

トピックのマルチキャスト属性は、親から継承されます。

無効化

このノードでは、マルチキャスト・トラフィックは許可されません。

ENABLED

このノードでは、マルチキャスト・トラフィックは許可されます。

ONLY

マルチキャスト可能なクライアントからのサブスクリプションのみが許可されます。

注: **HPE NonStop V8.1** オプションの MCAST (ENABLED) と MCAST (ONLY) は、IBM MQ for HPE NonStop V8.1.0 では使用できません。

MDURMDL(*string*)

パブリケーションの宛先をキュー・マネージャーが管理することを要求する永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#) を参照)。最大長は 48 文字です。

MDURMDL をブランクにすると、他の属性に ASPARENT 値を指定した場合と同じように動作します。使用するモデル・キューの名前は、MDURMDL 用の値が設定されている、トピック・ツリーの直近の親管理トピック・オブジェクトに基づきます。

MDURMDL を使用してクラスター・トピックのモデル・キューを指定する場合は、このトピックを使用する永続サブスクリプションを作成できるクラスター内のすべてのキュー・マネージャーでキューが定義されていることを確認する必要があります。

このモデルから作成される動的キューには、SYSTEM.MANAGED.DURABLE という接頭部が付きます

MNDURMDL(*string*)

パブリケーションの宛先をキュー・マネージャーが管理することを要求する非永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#) を参照)。最大長は 48 文字です。

MNDURMDL をブランクにすると、他の属性に ASPARENT 値を指定した場合と同じように動作します。使用するモデル・キューの名前は、MNDURMDL 用の値が設定されている、トピック・ツリーの直近の親管理トピック・オブジェクトに基づきます。

MNDURMDL を使用してクラスター・トピックのモデル・キューを指定する場合は、このトピックを使用する非永続サブスクリプションを作成できるクラスター内のすべてのキュー・マネージャーでキューが定義されていることを確認する必要があります。

このモデルから作成される動的キューには、SYSTEM.MANAGED.NDURABLE という接頭部が付きます。

NPMMSGDLV

このトピックにパブリッシュされる非持続メッセージの配信手段。

ASPARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

ALLAVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ALLDUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非永続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、どのサブスクライバーもメッセージを受信せず、MQPUT 呼び出しは失敗します。

PMSGDLV

このトピックに対してパブリッシュされる持続メッセージの送達機構:

ASPARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

ALLAVAIL

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ALLDUR

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの永続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、どのサブスクライバーもメッセージを受信せず、MQPUT 呼び出しは失敗します。

PROXYSUB

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターまたは階層内にある場合、このトピックまたはこのトピックの下位のトピック・ストリングのプロキシ・サブスクリプションを近隣のキュー・マネージャーにいつ送信するかを制御します。詳しくは、[パブリッシュ/サブスクライブ・ネットワークでのサブスクリプションのパフォーマンス](#)を参照してください。

FIRSTUSE

以下のシナリオにおいて、このトピック・オブジェクトまたはその下位にある固有トピック・ストリングごとに、プロキシ・サブスクリプションがすべての近隣キュー・マネージャーに非同期で送信されます。

- ローカル・サブスクリプションが作成される場合。
- 直接接続されたキュー・マネージャーにさらに伝搬する必要のあるプロキシ・サブスクリプションを受信した場合。

FORCE

トピック・ツリー内のこのポイントおよびその下位にあるすべてのトピック・ストリングにマッチングするワイルドカード・プロキシ・サブスクリプションが、ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、近隣のキュー・マネージャーに送信されます。

注：プロキシ・サブスクリプションは、この値が **DEFINE** または **ALTER** で設定されている場合に送信されます。この値がクラスター・トピックで設定されている場合、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがクラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーにワイルドカード・プロキシ・サブスクリプションを送出します。

PUB

メッセージをこのトピックに対してパブリッシュできるかどうかを制御します。

ASPARENT

トピックにメッセージをパブリッシュできるかどうかは、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

ENABLED

適切な許可を付与されたアプリケーションを使ってメッセージをトピックにパブリッシュできます。

無効化

メッセージはトピックに対してパブリッシュ不可。

PUB パラメーターの特別な処理も参照してください。

PUBSCOPE

このキュー・マネージャーが、パブリケーションを他のキュー・マネージャーに伝搬するかどうかを判別します。他のキュー・マネージャーは、このキュー・マネージャーに階層内で、またはクラスター内で接続できます。

注：この動作は、書き込みメッセージ・オプションで **MQPMO_SCOPE_QMGR** を使用して、パブリケーションごとに制限できます。

ASPARENT

このキュー・マネージャーが、パブリケーションを他のキュー・マネージャーに伝搬するかどうかを判別します。他のキュー・マネージャーは、このキュー・マネージャーに階層内で、またはクラスター内で接続できます。これは、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

QMGR

このトピックのパブリケーションは、接続されたキュー・マネージャーに伝搬されません。

ALL

このトピックのパブリケーションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

z/OS

QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

グループ内のオブジェクトの処理を指定します。

QSGDISP	DEFINE
COPY	「LIKE」オブジェクトと同じ名前の QSGDISP(GROUP) オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されているオブジェクト。
GROUP	オブジェクト定義は、キュー・マネージャーがキュー共有グループに属している場合にのみ、共有リポジトリにあります。定義が正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上でローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試みられます。 <pre>DEFINE TOPIC(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの DEFINE は、QSGDISP(COPY) を含む生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。
PRIVATE	許可されません。
QMGR	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。

REPLACE および NOREPLACE

既存の定義 (z/OS の場合は、属性指定が同じもの) をこの定義で置き換えるかどうかを判別します。属性指定が異なるオブジェクトは変更されません。

REPLACE

オブジェクトが存在している場合の結果は、ALTER コマンドに FORCE オプションを除くすべてのパラメーターを指定して実行した場合と似ています。

(ALTER コマンドに FORCE オプションを指定しなかったときと、DEFINE コマンドに REPLACE オプションを指定したときの違いは、ALTER が指定されていないパラメーターを変更しないのに対して、REPLACE を指定した DEFINE はすべてのパラメーターを設定します。REPLACE を使用すると、指定されていないパラメーターは LIKE オプションに指定されたオブジェクトまたはデフォルト定義から取得され、置換対象のオブジェクトのパラメーターがあってもそれは無視されます。)

次の条件が共に真である場合、コマンドは失敗します。

- ALTER コマンドを使用している場合に、このコマンドで FORCE オプションとの併用が必要なパラメーターを設定している
- そのオブジェクトがオープンされている

この状況では、FORCE オプションを指定した ALTER コマンドを使用してください。

NOREPLACE

定義はオブジェクトのどの既存の定義も置き換えません。

SUB

アプリケーションにこのトピックへのサブスクライブを許可するかどうかを制御します。

ASPARTENT

トピックにアプリケーションがサブスクライブできるかどうかは、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

ENABLED

適切な許可を付与されたアプリケーションを使ってトピックにサブスクリプションできます。

無効化

アプリケーションはトピックにサブスクライブできません。

SUBSCOPE

このキュー・マネージャーがこのキュー・マネージャー内のパブリケーションにサブスクライブするか、接続されたキュー・マネージャーのネットワーク内のパブリケーションにサブスクライブするかを決定します。すべてのキュー・マネージャーに対してサブスクライブする場合、キュー・マネージャーは階層の一部またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部であるキュー・マネージャーにサブスクリプションを伝搬します。

注：この振る舞いは、サブスクリプション記述子の **MQPMO_SCOPE_QMGR**、または **DEFINE SUB** の **SUBSCOPE (QMGR)** を使用して、サブスクリプションごとに制限できます。サブスクリプション作成時に **MQSO_SCOPE_QMGR** サブスクリプション・オプションを指定することにより、個々のサブスクライバーは **SUBSCOPE** 設定の ALL をオーバーライドできます。

ASAPARENT

このキュー・マネージャーが、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定と同じ方法でパブリケーションにサブスクライブするかどうか。

QMGR

このキュー・マネージャーでパブリッシュされるパブリケーションのみがサブスクライバーに到達します。

ALL

このキュー・マネージャー上または別のキュー・マネージャー上でパブリッシュされたパブリケーションが、サブスクライバーに到達します。このトピックに対するサブスクリプションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

TOPICSTR(string)

このトピック・オブジェクト定義により表されるトピック・ストリング。このパラメーターは必須で、空ストリングを含むことはできません。

このトピック・ストリングは、トピック・オブジェクト定義によって既に表されている他のどのトピック・ストリングとも同じであってはなりません。

ストリングの最大長は 10,240 文字です。

TYPE (topic-type)

このパラメーターを使用する場合、 z/OS を除くすべてのプラットフォームで、*topic-name* パラメーターの直後に指定する必要があります。

ローカル

ローカル・トピック・オブジェクト。

USEDLQ

パブリケーション・メッセージを正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを決定します。

ASAPARENT

トピック・ツリー内で最も近い管理トピック・オブジェクトの設定を使用して、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。この値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、ご使用のインストール済み環境では変更されている可能性があります。

NO

正しいサブスクライバー・キューに配信できないパブリケーション・メッセージは、メッセージの書き込み失敗として処理されます。トピックに対するアプリケーションの MQPUT の失敗は、NPMMSGDLV および PMSGDLV の設定に基づきます。

YES

DEADQ キュー・マネージャー属性によって送達不能キューの名前が指定されている場合は、その名前が使用されます。キュー・マネージャーによって送達不能キューの名前が指定されていない場合は、NO が指定されたときの動作になります。

WILDCARD

このトピックに対するワイルドカード・サブスクリプションの動作。

PASSTHRU

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングよりも具体的でないワイルドカード・トピックに対するサブスクリプションは、そのトピックまたはそのトピックよりも具体的なトピック・ストリングに対するパブリケーションを受信できるようになります。

BLOCK

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングよりも具体的でないワイルドカード・トピックに対するサブスクリプションは、このトピックまたはこのトピックよりも具体的なトピック・ストリングに対するパブリケーションを受信できなくなります。

サブスクリプションが定義されている場合に、この属性の値が使用されます。この属性を変更しても、既存のサブスクリプションによってカバーされているトピック・セットは、変更による影響を受けません。このシナリオは、トピック・オブジェクトが作成または削除されてトポロジが変更された場合にも当てはまります。WILDCARD 属性の変更後に作成されたサブスクリプションに一致するトピックのセットは、変更後のトポロジを使用して作成されます。既存のサブスクリプションについて、一致するトピック・セットを強制的に再評価する場合は、キュー・マネージャーを再開する必要があります。

DELETE AUTHINFO

認証情報オブジェクトを削除するには、MQSC コマンド DELETE AUTHINFO を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [988 ページの『DELETE AUTHINFO のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

DELETE AUTHINFO

注:

1 キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

2 z/OS でのみ有効です。

DELETE AUTHINFOのパラメーターの説明

(name)

認証情報オブジェクトの名前。これは必須です。

既存の認証情報オブジェクトの名前でなければなりません。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE AUTHINFO(name) QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

QMGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

これはデフォルト値です。

DELETE AUTHREC

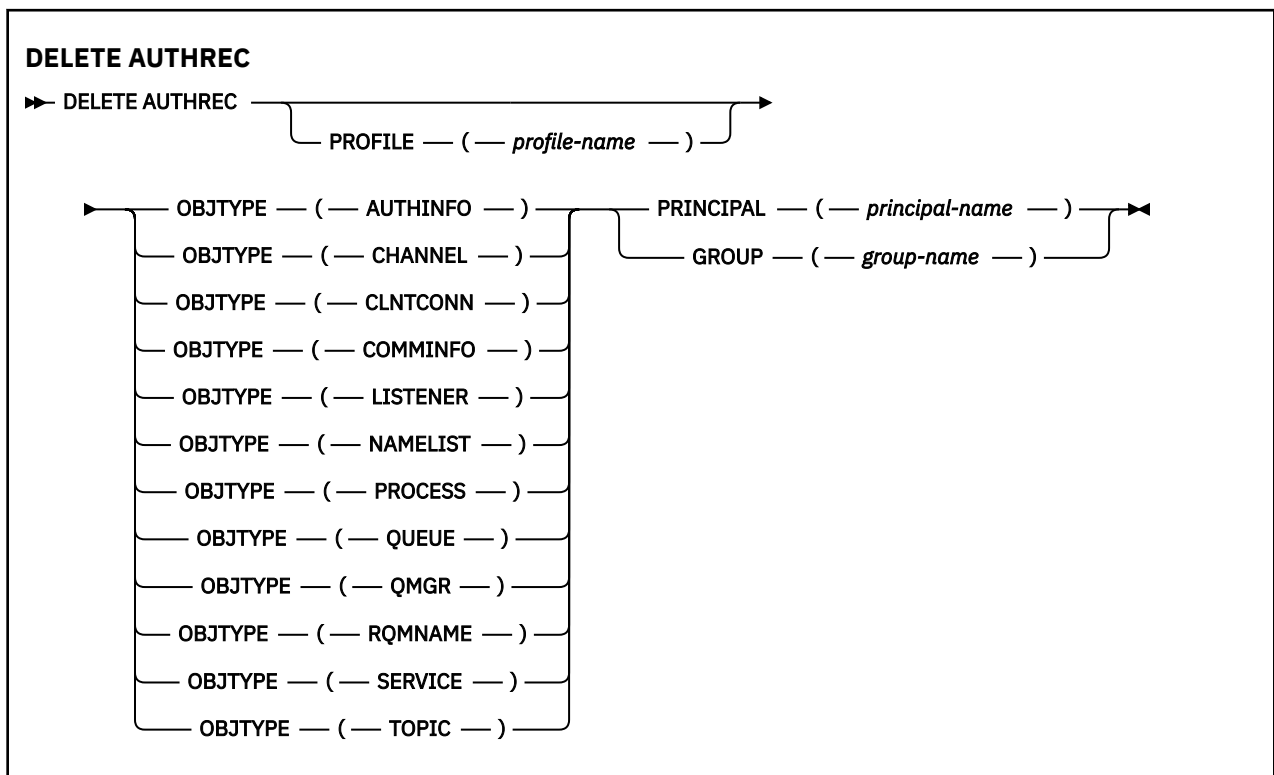
プロファイル名に関連した権限レコードを削除するには、MQSC コマンド DELETE AUTHREC を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [989 ページの『パラメーターの説明』](#)



パラメーターの説明

PROFILE(*profile-name*)

権限レコードを削除するオブジェクトまたは総称プロファイルの名前。このパラメーターは必須です。ただし、**OBJTYPE** パラメーターが QMGR である場合は省略できます。

OBJTYPE

プロファイルが参照するオブジェクトのタイプ。次のいずれかの値を指定します。

AUTHINFO

認証情報レコード

CHANNEL

チャンネル

CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

COMMINFO

通信情報オブジェクト

リスナー

リスナー

NAMELIST

名前リスト

PROCESS

プロセス

QUEUE

キュー

QMGR

キュー・マネージャー

RQMNAME

リモート・キュー・マネージャー

SERVICE

サービス

トピック

トピック

PRINCIPAL(*principal-name*)

プリンシパル名。これは、指定したプロファイルの権限レコードが削除されるユーザーの名前です。IBM MQ for Windows では、オプションとしてプリンシパル名にドメイン・ネームを組み込むことができます (user@domain の形式で指定)。

PRINCIPAL または GROUP のいずれかを指定する必要があります。

GROUP(*group-name*)

グループ名。これは、指定したプロファイルの権限レコードを削除するユーザー・グループの名前です。名前は 1 つだけ指定することができ、既存のユーザー・グループの名前でなければなりません。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain  
domain\GroupName
```

PRINCIPAL または GROUP のいずれかを指定する必要があります。

z/OS DELETE BUFFPOOL

主ストレージ内にメッセージを保持するためのバッファー・プールを削除するには、MQSC コマンド DELETE BUFFPOOL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [991 ページの『DELETE BUFFPOOL の使用上の注意』](#)
- [991 ページの『DELETE BUFFPOOL のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEL BP

DELETE BUFFPOOL

►► DELETE BUFFPOOL — (— *integer* —) ►◄

DELETE BUFFPOOL の使用上の注意

- 指定されたバッファ・プールを使用している現行ページ・セット定義が存在しないことを確認してください。そのような定義が存在するとコマンドは失敗します。
- DELETE BUFFPOOL は、CSQINPT から発行できません。

DELETE BUFFPOOL のパラメーターの説明

(*integer*)

これは、削除するバッファ・プールの数です。値は 0 から 15 の整数を指定してください。OPMODE が OPMODE=(NEWFUNC, 800) に設定されている場合、このパラメーターは 0 から 99 の範囲の整数です。

DELETE CFSTRUCT

MQSC コマンド DELETE CFSTRUCT は、CF アプリケーション構造定義を削除するために使用されます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [991 ページの『DELETE CFSTRUCT の使用上の注意』](#)
- [992 ページの『DELETE CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

DELETE CFSTRUCT

►► DELETE CFSTRUCT — (— *structure-name* —) ►◄

DELETE CFSTRUCT の使用上の注意

- このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS で有効です。
- 空でもクローズされてもいない CF 構造名を参照するキューが存在する場合、このコマンドは失敗します。
- このコマンドは、CF 管理構造体 (CSQ_ADMIN) を指定できません。
- このコマンドは、Db2 CF 構造レコードだけを削除します。CFRM ポリシー・データ・セットから CF 構造定義を削除することはありません。
- CFLEVEL(1) の CF 構造体は、その構造体上の最後のキューが削除されると、自動的に削除されます。

DELETE CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明

(*structure-name*)

削除する CF 構造定義の名前。この名前は、キュー共有グループ内で定義されている必要があります。

DELETE CHANNEL

チャンネル定義を削除するには、MQSC コマンド DELETE CHANNEL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

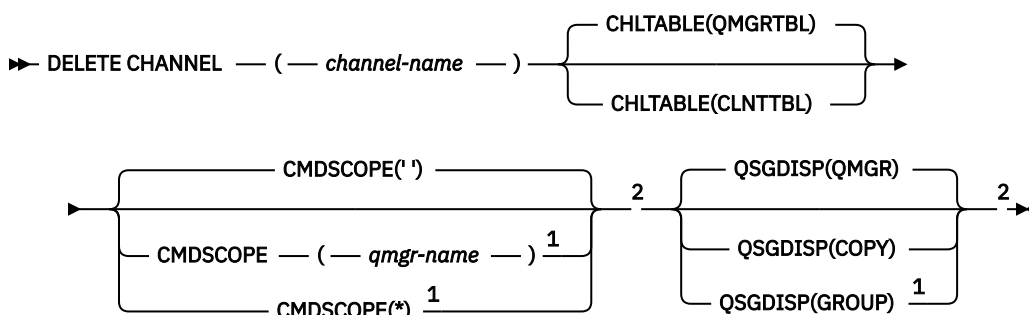
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [992 ページの『使用上の注意』](#)
- [993 ページの『パラメーターの説明』](#)

同義語: DELETE CHL

DELETE CHANNEL



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。

使用上の注意

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認](#)の DELETE CHANNEL ステップを参照してください。
- **z/OS** z/OS システムでは、チャンネル・イニシエーターおよびコマンド・サーバーが開始していない場合、またはチャンネル状況が RUNNING である場合、コマンドは失敗します。ただし、チャンネル・イニシエーターやコマンド・サーバーが稼働していなくても削除できるクライアント接続チャンネルを除きます。
- **z/OS** z/OS システムでは、削除できるのは手動で作成したクラスター送信側チャンネルだけです。

パラメーターの説明

(channel-name)

削除するチャンネル定義の名前。これは必須です。既存のチャンネルの名前でなければなりません。

CHLTABLE

削除対象のチャンネルが含まれるチャンネル定義テーブルを指定します。これはオプションです。

QMGRTBL

ターゲット・キュー・マネージャーに関連付けられたチャンネル・テーブル。このテーブルには、タイプが CLNTCONN のチャンネルは含まれません。これがデフォルトです。

CLNTTBL

CLNTCONN チャンネル用のチャンネル・テーブル。z/OS の場合、これはターゲット・キュー・マネージャーに関連付けられますが、主チャンネル・テーブルとは独立しています。他のすべてのプラットフォームでは、このチャンネル・テーブルは通常はキュー・マネージャーに関連付けられますが、多数の環境変数を設定すれば、キュー・マネージャーから独立したシステム全体のチャンネル・テーブルにすることも可能です。環境変数の設定について詳しくは、[IBM MQ 環境変数の使用](#)を参照してください。

▶ z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

▶ z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するか) について指定します。

COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE CHANNEL(channel-name) QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

QMGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

これはデフォルト値です。

DELETE CHANNEL (MQTT)

MQSC コマンド DELETE CHANNEL は、IBM MQ Telemetry チャンネル定義を削除するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

注：テレメトリー・サーバー用にサポートされている UNIX プラットフォームは AIX のみです。

DELETE CHANNEL (MQTT) コマンドは、IBM MQ Telemetry チャンネルにのみ使用できます。

同義語: DELETE CHL

DELETE CHANNEL

➡ DELETE CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE — (— MQTT —) →

パラメーターの説明

(channel-name)

削除するチャンネル定義の名前。これは必須です。既存のチャンネルの名前でなければなりません。

CHLTYPE

このパラメーターは必須です。有効な値は MQTT のみです。

DELETE COMMINFO

通信情報オブジェクトを削除するには、MQSC コマンド DELETE COMMINFO を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [995 ページの『DELETE COMMINFO のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEL COMMINFO

DELETE COMMINFO

►► DELETE COMMINFO — (— *comminfo name* —) ►◄

DELETE COMMINFO のパラメーターの説明

(*comminfo name*)

削除する通信情報オブジェクトの名前。これは必須です。

DELETE LISTENER

リスナー定義を削除するには、MQSC コマンド DELETE LISTENER を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [995 ページの『DELETE LISTENER の使用上の注意』](#)
- [995 ページの『DELETE LISTENER のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)

同義語: DELETE LSTR

DELETE LISTENER

►► DELETE LISTENER — (— *listener-name* —) ►◄

DELETE LISTENER の使用上の注意

1. アプリケーションが指定のリスナー・オブジェクトをオープンした場合、またはリスナーが現在実行中の場合は、コマンドは失敗します。

DELETE LISTENER のキーワードおよびパラメーターの説明

(*listener-name*)

削除するリスナー定義の名前。これは必須です。名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されている既存のリスナーの名前にする必要があります。

DELETE NAMELIST

名前リスト定義を削除するには、MQSC コマンド DELETE NAMELIST を使用します。

MQSC コマンドの使用

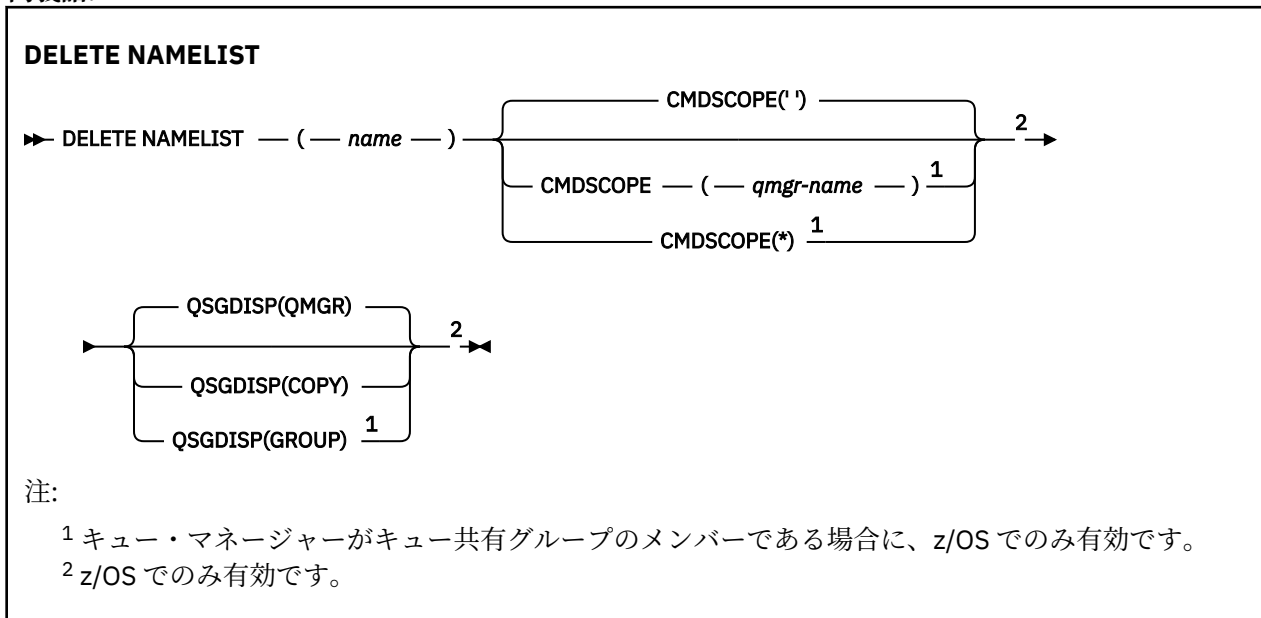
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [996 ページの『使用上の注意』](#)
- [996 ページの『DELETE NAMELIST のパラメーターの説明』](#)

同義語: DELETE NL



使用上の注意

- UNIX システムでは、このコマンドは、AIX、HP-UX、Linux、および Solaris でのみ有効です。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の DELETE NAMELIST ステップ](#)を参照してください。

DELETE NAMELIST のパラメーターの説明

削除する名前リスト定義を指定する必要があります。

(name)

削除する名前リスト定義の名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

この名前リストをオープンしているアプリケーションがある場合、コマンドは失敗します。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE NAMELIST(name) QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

QMGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

これはデフォルト値です。

DELETE POLICY

MQSC コマンド DELETE POLICY を使用して、セキュリティ・ポリシーを削除します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [998 ページの『DELETE POLICY のパラメーターの説明』](#)

DELETE POLICY

► DELETE POLICY — (— *policy-name* —) ►

DELETE POLICY のパラメーターの説明

(*policy-name*)

削除するポリシー名を指定します。

削除するポリシーの名前は、そのポリシーで制御されるキューの名前と同じです。

DELETE PROCESS

プロセス定義を削除するには、MQSC コマンド DELETE PROCESS を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

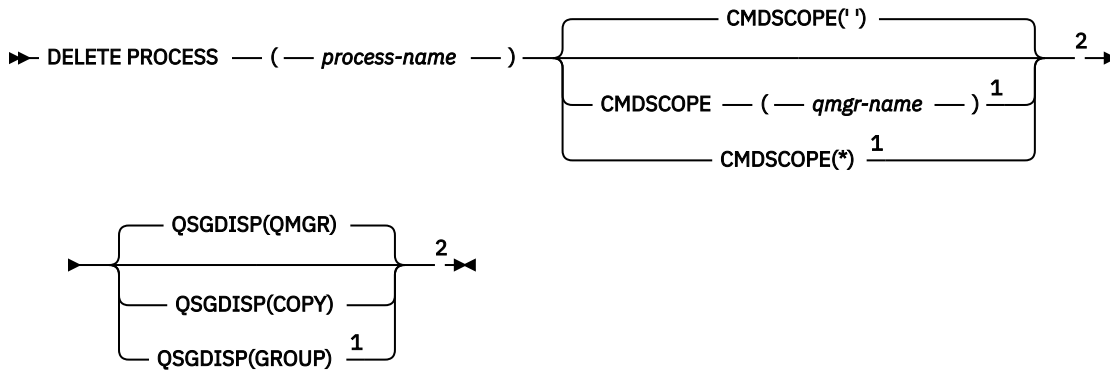
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [998 ページの『DELETE PROCESS のパラメーターの説明』](#)

同義語: DELETE PRO

DELETE PROCESS



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

DELETE PROCESS のパラメーターの説明

削除するプロセス定義を指定する必要があります。

(*process-name*)

削除するプロセス定義の名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

このプロセスをオープンしているアプリケーションがある場合、コマンドは失敗します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE PROCESS(process-name) QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

QMGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

これはデフォルト値です。

DELETE PSID

ページ・セットを削除するには、MQSC コマンド DELETE PSID を使用します。このコマンドはページ・セットを閉じ、キュー・マネージャーへの割り振りを解除します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1000 ページの『DELETE PSID の使用上の注意』](#)
- [1000 ページの『DELETE PSID のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEL PSID

DELETE PSID

➡ DELETE PSID — (— *psid-number* —) →

DELETE PSID の使用上の注意

1. 指定したページ・セットに、それを参照するストレージ・クラス (STGCLASS) が含まれていない限りません。
2. このコマンドを発行したときに、バッファ・プールのバッファがページ・セット内に依然として存在している場合は、コマンドは失敗し、エラー・メッセージが発行されます。ページ・セットが空になって以後、3つのチェックポイントが完了するまでは、ページ・セットを削除できません。
3. キュー・マネージャーによってページ・セットが再使用されない場合は、キュー・マネージャーの開始済みタスク・プロシージャ JCL を更新し、CSQINP1 初期設定データ・セットから対応する DEFINE PSID コマンドを削除してください。ページ・セットに専用のバッファ・プールがある場合は、CSQINP1 からその定義も除去します。
4. データ・セットをページ・セットとして再使用する場合は、再使用する前にフォーマットしてください。

DELETE PSID のパラメーターの説明

(*psid-number*)

ページ・セット ID。これは必須です。ページ・セット 0 は削除できません。

DELETE キュー

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

このセクションでは、次のコマンドを取り上げます。

- [1003 ページの『DELETE QALIAS』](#)
- [1003 ページの『DELETE QLOCAL』](#)
- [1004 ページの『DELETE QMODEL』](#)
- [1004 ページの『DELETE QREMOTE』](#)

これらのコマンドは、以下のプラットフォームでサポートされています。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

DELETE キューの使用上の注意

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の DELETE キュー・ステップ](#)を参照してください。

DELETE queues のパラメーターの説明

(q-name)

すべてのキュー・タイプ用のローカル・キュー・マネージャーにキューの名前を定義する必要があります。

別名キューの場合、これは削除対象の別名キューのローカル名です。

モデル・キューの場合、これは削除対象のモデル・キューのローカル名です。

リモート・キューの場合、これは削除対象のリモート・キューのローカル名です。

ローカル・キューの場合、これは削除対象のローカル・キューの名前です。どのキューを削除するかを指定する必要があります。

注：コミットされていないメッセージを含むキューは削除できません。

アプリケーションがこのキューまたは最終的にこのキューに解決されるキューをオープンした場合、コマンドは失敗します。このキューが伝送キューで、その伝送キューを参照するリモート・キュー（または、最終的にそのようなリモート・キューで解決されるキュー）がオープンしている場合もコマンドは失敗します。

このキューの SCOPE 属性が CELL である場合、セル・ディレクトリーからそのキューのエントリーも削除されます。

AUTHREC

このパラメーターは z/OS には適用されません。

関連付けられた権限レコードも削除するかどうかを指定します。

YES

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除します。これがデフォルトです。

NO

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除しません。

▶ z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP または SHARED に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

PURGE and NOPURGE

DELETE コマンドによって指定されたキュー上にある既存のコミット済みメッセージをすべてパージして、DELETE コマンドが実行されるようにするかどうかを指定します。デフォルトは NOPURGE です。

PURGE

指定されたキューにコミットされたメッセージがあっても削除します。そのメッセージも削除されます。

NOPURGE

指定されたキューにコミットされたメッセージがあるときは、削除しません。

z/OS QSGDISP

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。オブジェクト定義が共有である場合、キュー共有グループに属する各キュー・マネージャーでオブジェクト定義を削除する必要はありません。(キュー共有グループは IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。)

COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットに常駐しているすべてのオブジェクトや、パラメーター QSGDISP(SHARED) が指定されているコマンドで定義されたすべてのオブジェクトは、このコマンドの影響を受けません。

削除が正常に終了すると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上でローカル・コピーを作成または削除します。

```
DELETE queue(q-name) QSGDISP(COPY)
```

または、ローカル・キューの場合にのみ次のコマンドが生成されます。

```
DELETE QLOCAL(q-name) NOPURGE QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

注: PURGE を指定した場合でも、必ず NOPURGE オプションになります。キューのローカル・コピーからメッセージを削除するには、それぞれのコピーに対して以下のコマンドを明示的に実行する必要があります。

```
DELETE QLOCAL(q-name) QSGDISP(COPY) PURGE
```

各コピーに対してこれを発行します。

QMGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リ

ポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

これはデフォルト値です。

SHARED

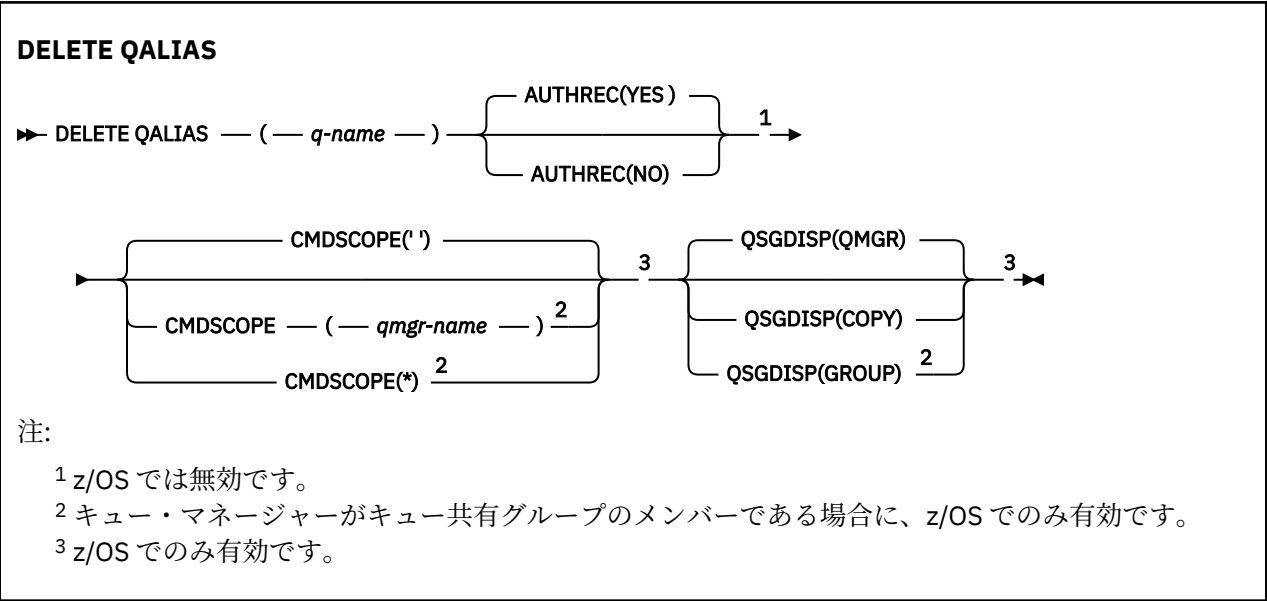
このオプションは、ローカル・キューにのみ適用されます。

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(SHARED) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットに常駐しているすべてのオブジェクトや、パラメーター QSGDISP(GROUP) が指定されているコマンドで定義されたすべてのオブジェクトは、このコマンドの影響を受けません。

DELETE QALIAS

DELETE QALIAS は、別名キュー定義を削除するために使用します。

同義語: DELETE QA



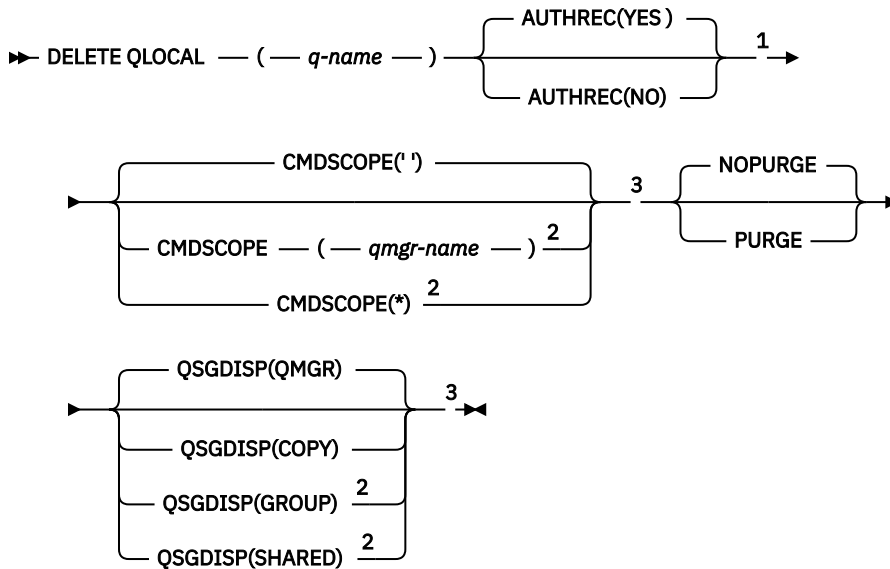
パラメーターについては、[1000 ページの『DELETE キュー』](#)に説明があります。

DELETE QLOCAL

DELETE QLOCAL は、ローカル・キュー定義を削除するために使用します。メッセージを含んでいる場合にそのキューを削除してはいけないう、またはメッセージを含んでいてもそのキューを削除できるかを指定できます。

同義語: DELETE QL

DELETE QLOCAL



注:

¹ z/OS では無効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

³ z/OS でのみ有効です。

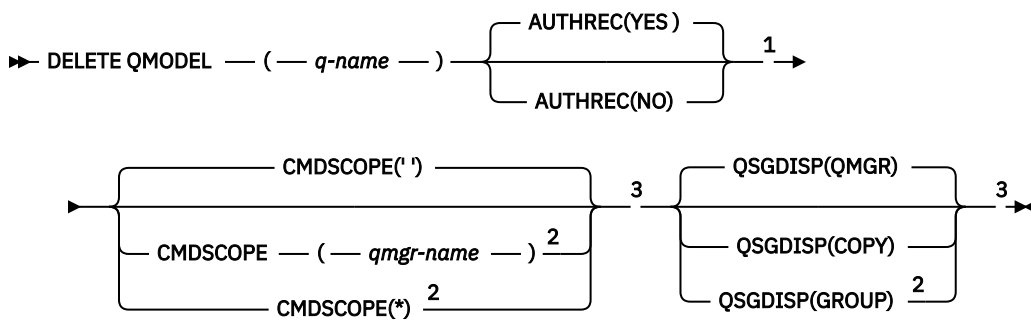
パラメーターについては、[1000 ページの『DELETE キュー』](#)に説明があります。

DELETE QMODEL

DELETE QMODEL は、モデル・キュー定義を削除するために使用します。

同義語: DELETE QM

DELETE QMODEL



注:

¹ z/OS では無効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

³ z/OS でのみ有効です。

パラメーターについては、[1000 ページの『DELETE キュー』](#)に説明があります。

DELETE QREMOTE

DELETE QREMOTE は、リモート・キューのローカル定義を削除するために使用します。 リモート・システム上にあるそのキューの定義には影響しません。

同義語: DELETE QR

DELETE QREMOTE

➡ DELETE QREMOTE — (— *q-name* —)

AUTHREC(YES)

AUTHREC(NO)

1 ➡

CMDSCOPE(' ') 3

CMDSCOPE — (— *qmgr-name* —) 2

CMDSCOPE(*) 2

QSGDISP(QMGR)

QSGDISP(COPY)

QSGDISP(GROUP) 2

3 ➡

注:

1 z/OS では無効です。

2 キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

3 z/OS でのみ有効です。

パラメーターについては、[1000 ページの『DELETE キュー』](#)に説明があります。

DELETE SERVICE

サービス定義を削除するには、MQSC コマンド DELETE SERVICE を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1005 ページの『DELETE SERVICE の使用上の注意』](#)
- [1005 ページの『DELETE SERVICE のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)

同義語:

DELETE SERVICE

➡ DELETE SERVICE — (— *service-name* —) ➡

DELETE SERVICE の使用上の注意

1. アプリケーションが指定のサービス・オブジェクトをオープンした場合、またはサービスが現在実行中の場合は、コマンドは失敗します。

DELETE SERVICE のキーワードおよびパラメーターの説明

(*service-name*)

管理に関する参照情報 1005

削除するサービス定義の名前。これは必須です。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されている既存のサービスの名前にする必要があります。

DELETE SUB

システムから永続サブスクリプションを除去するには、MQSC コマンド DELETE SUB を使用します。管理対象の宛先の場合、宛先に残された未処理のメッセージは削除されます。

MQSC コマンドの使用

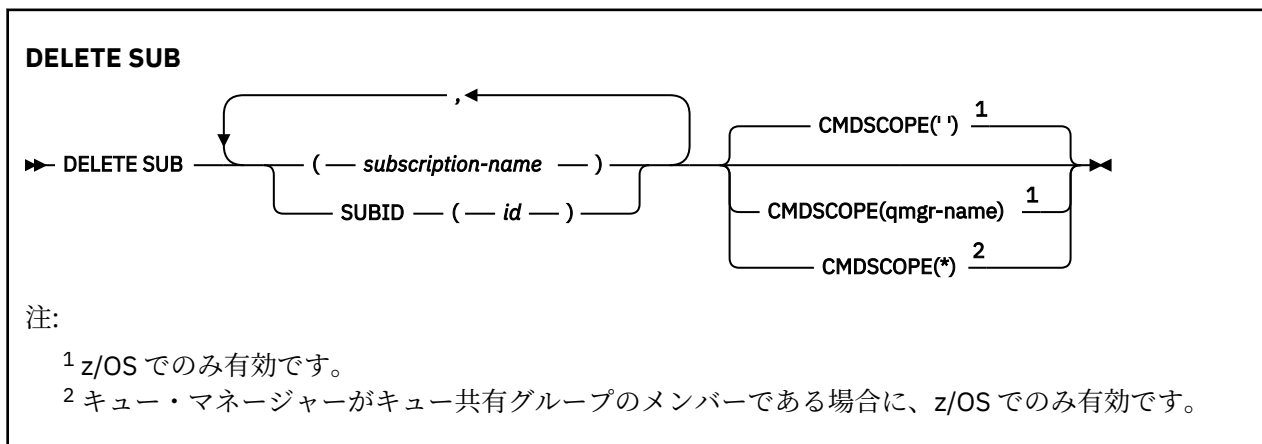
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [DELETE SUB の使用上の注意](#)
- [1006 ページの『DELETE SUB のパラメーターの説明』](#)

同義語: DEL SUB



DELETE SUB の使用上の注意

- 削除するサブスクリプションの名前と ID のいずれか、あるいはその両方を指定できます。有効な形式の例として、以下のものがあります。

```
DELETE SUB(xyz)
DELETE SUB SUBID(123)
DELETE SUB(xyz) SUBID(123)
```

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の DELETE SUB ステップ](#)を参照してください。

DELETE SUB のパラメーターの説明

subscription-name

削除するサブスクリプション定義のローカル名。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで処理されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定されたキュー・マネージャーがキュー共有グループ内でアクティブな場合に、その指定されたキュー・マネージャーで処理されます。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで処理され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

SUBID(string)

サブスクリプションを識別する内部固有キー。

z/OS DELETE STGCLASS

ストレージ・クラス定義を削除するには、MQSC コマンド DELETE STGCLASS を使用します。

MQSC コマンドの使用

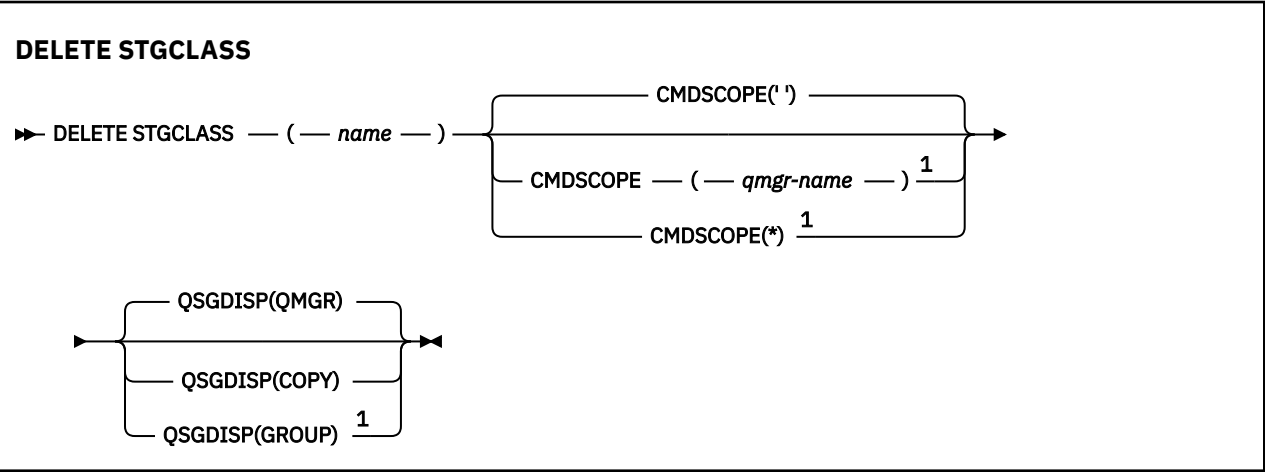
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1008 ページの『DELETE STGCLASS のパラメーターの説明』](#)

同義語: DELETE STC



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

DELETE STGCLASS のパラメーターの説明

削除するストレージ・クラス定義を指定する必要があります。

このストレージ・クラスを使用するすべてのキューは、別のストレージ・クラスを使用するように変更する必要があります。

(name)

削除するストレージ・クラス定義の名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

ストレージ・クラスを参照するすべてのキューが、空でありかつクローズされていない限り、コマンドは失敗します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

QSGDISP

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。

COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE STGCLASS(name) QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

QMGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

これはデフォルト値です。

DELETE TOPIC

IBM MQ 管理トピック・ノードを削除するには、DELETE TOPIC を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1009 ページの『DELETE TOPIC の使用上の注意』](#)
- [1010 ページの『DELETE TOPIC のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

DELETE TOPIC

注:

¹ z/OS では無効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

³ z/OS でのみ有効です。

DELETE TOPIC の使用上の注意

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認](#)の [DELETE TOPIC ステップ](#)を参照してください。

DELETE TOPIC のパラメーターの説明

(topic-name)

削除する管理トピック・オブジェクトの名前。このパラメーターは必須です。

この名前は、既存の管理トピック・オブジェクトの名前でなければなりません。

AUTHREC

このパラメーターは z/OS には適用されません。

関連付けられた権限レコードも削除するかどうかを指定します。

YES

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除します。これがデフォルトです。

NO

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除しません。

▶ z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

▶ z/OS QSGDISP

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するか) について指定します。

COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(COPY) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター QSGDISP(QMGR) を指定したコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、次のコマンドが生成されてキュー共有グループ内でアクティブなキュー・マネージャーすべてに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーが作成または削除されます。

```
DELETE TOPIC(topic-name) QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

QMGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(QMGR) を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

これはデフォルト値です。

z/OS DISPLAY ARCHIVE

アーカイブのシステム・パラメーターおよび情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY ARCHIVE を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1011 ページの『DISPLAY ARCHIVE の使用上の注意』](#)
- [1012 ページの『DISPLAY ARCHIVE のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS ARC

DISPLAY ARCHIVE

➡ DISPLAY ARCHIVE { CMDSCOPE(' ') CMDSCOPE ((— qmgr-name —) ¹) CMDSCOPE(*) ¹ } ⚡

注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

DISPLAY ARCHIVE の使用上の注意

1. DISPLAY ARCHIVE を実行すると、保存パラメーターの初期値、および SET ARCHIVE コマンドによって変更された後の現行値が返されます。
 - 1 次および 2 次のスペース割り振りが行われる単位 (ALCUNIT)。
 - 最初の保存ログ・データ・セット名の接頭部 (ARCPFX1)。
 - 2 番目の保存ログ・データ・セット名の接頭部 (ARCPFX2)。
 - 保存ログ・データ・セットの保存期間の日数 (ARCRETN)。
 - 保存ログ・データ・セットに関するオペレーター宛てメッセージの宛先コードのリスト (ARCWRTC)。
 - オペレーターにメッセージを送信し、保存ログ・データ・セットをマウントするまで応答を待つかどうか (ARCWTOR)。
 - 保存ログ・データ・セットのブロック・サイズ (BLKSIZE)。

- 保存ログ・データ・セットを ICF にカタログするかどうか (CATALOG)。
- 保存ログ・データ・セットを圧縮するかどうか (COMPACT)。
- DASD データ・セットの 1 次スペース割り振り (PRIQTY)。
- 保存ログ・データ・セットの作成時に、そのデータ・セットが ESM プロファイルによって保護されるかどうか (PROTECT)。
- ARCHIVE LOG と MODE(QUIESCE) を指定しているときに、静止できる最大時間 (秒数) (QUIESCE)。
- DASD データ・セットの 2 次スペース割り振り。使用される単位については、ALCUNIT パラメーターを参照してください (SECQTY)。
- 保存データ・セット名にタイム・スタンプを含めるかどうか (TSTAMP)。
- 保存ログ・データ・セットの最初のコピーが保管される装置タイプまたは装置名 (UNIT)。
- 保存ログ・データ・セットの 2 番目のコピーが保管される装置タイプまたは装置名 (UNIT2)。

保存のために使用されるテープ装置の状況も報告します。

これらのパラメーターの詳細については、[1281 ページの『SET ARCHIVE』](#)を参照してください。

2. このコマンドは、キュー・マネージャー始動の終了時に IBM MQ によって内部的に発行されます。

DISPLAY ARCHIVE のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DISPLAY AUTHINFO

MQSC コマンド DISPLAY AUTHINFO は、認証情報オブジェクトの属性を表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

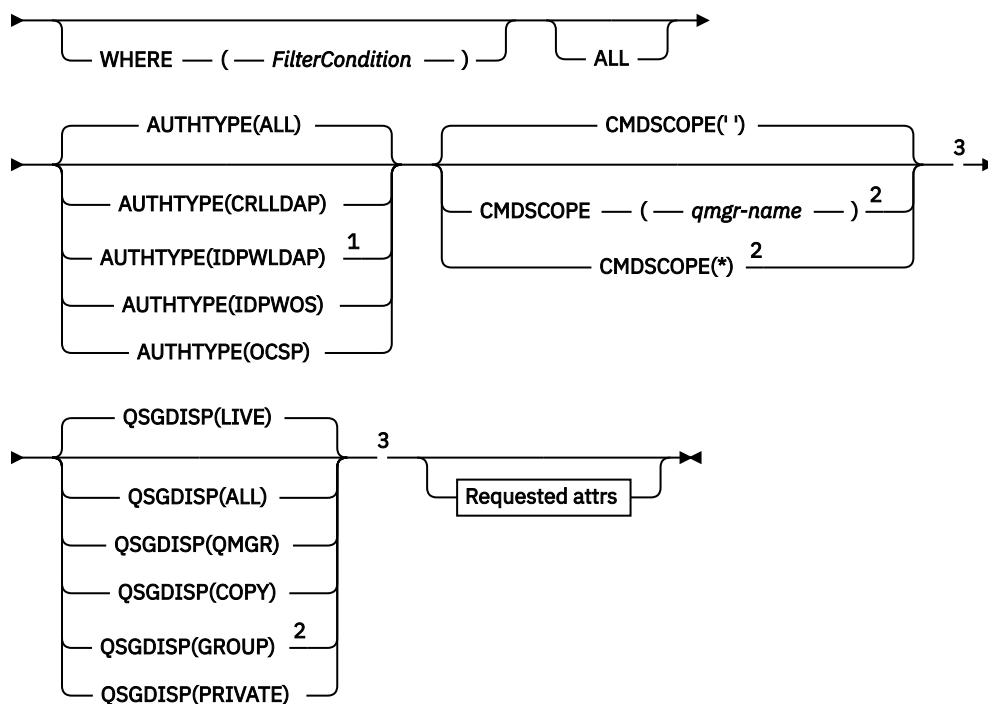
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1014 ページの『DISPLAY AUTHINFO のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS AUTHINFO

DISPLAY AUTHINFO

▶▶ DISPLAY AUTHINFO — (— *generic-authentication-information-object-name* —) →



Requested attrs

ADOPTCTX	
ALTDATE	
ALTTIME	
AUTHENMD	⁴
AUTHORMD	⁵
AUTHTYPE	
BASEDNG	⁵
BASEDNU	
CHCKCLNT	
CHCKLOCL	
CLASSGRP	⁵
CLASSUSR	
CONNAME	
DESCR	
FAILDLAY	
FINDGRP	⁵
GRPFIELD	⁵
LDAPPWD	
LDAPUSER	
NESTGRP	⁵
OCSPURL	
SECCOMM	
SHORTUSR	
USRFIELD	

注:

¹ IBM MQ for z/OS では無効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

³ z/OS でのみ有効です。

⁴ z/OS では無効であり、AUTHENMD PAM 値は UNIX プラットフォームでのみ有効です。

⁵ Windows では無効です。

DISPLAY AUTHINFO のパラメーターの説明

(generic-authentication-information-object-name)

表示する認証情報オブジェクトの名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。語幹の後に後続アスタリスク (*) を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべての認証情報オブジェクトに一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべての認証情報オブジェクトが指定されることになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす認証情報オブジェクトのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE と QSGDISP のパラメーターは、いずれもフィルター・キーワードとして使用できません。

operator

これは、認証情報オブジェクトが、指定されたフィルター・キーワードのフィルター値条件を満たすかどうかを判別するのに使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

LK および NL を除くすべての演算子を使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。数値に対して総称フィルター値を使用することはできません。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

DISPLAY AUTHINFO コマンドで総称値に対して使用できる演算子は、LK または NL のみです。

ALL

すべてのパラメーターを表示する場合に、これを指定します。このパラメーターを指定する場合、具体的に要求されるパラメーターはいずれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

これは、総称名を指定せず、特定のパラメーターを要求しない場合のデフォルトです。

 z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

AUTHTYPE

情報を表示する対象となるオブジェクトの認証情報のタイプを指定します。値は次のとおりです。

ALL

デフォルト値。AUTHTYPE(CRLLDAP) および AUTHTYPE(OCSP) で定義されているオブジェクトの情報が表示されます。

CRLLDAP

AUTHTYPE(CRLLDAP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

IDPWLDAP

AUTHTYPE(IDPWLDAP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

IDPWOS

AUTHTYPE(IDPWOS) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

OCSP

AUTHTYPE(OCSP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

これはデフォルト値で、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

QSGDISP(LIVE) が指定されるかデフォルトとして使用される場合、あるいは共有キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前 (属性指定が異なる) を出力する可能性があります。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。
QSGDISP(PRIVATE) で表示される情報は QSGDISP(LIVE) と同じです。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

パラメーターが指定されていない (ALL パラメーターも指定されていない) 場合、デフォルトでは、オブジェクト名とその AUTHTYPE (z/OS の場合は、それらに加えてその QSGDISP) が表示されます。

ADOPTCTX

このアプリケーションのコンテキストとして提供された資格情報を表示します。

ALTDATE

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます

V 8.0.0.3 AUTHENMD

認証方式。指定可能な値は以下のとおりです。

OS

従来の UNIX プラットフォーム パスワード検証方式アクセス権を表示します。

PAM

交換可能認証方式アクセス権を表示します。

PAM 値は UNIX および Linux プラットフォームでのみ設定できます。

V 8.0.0.2 AUTHORMD

許可方式。指定可能な値は以下のとおりです。

OS

権限を決定するオペレーティング・システム・グループを表示します。

SEARCHGRP

そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性を含む、LDAP サーバーのグループ項目を表示します。

SEARCHUSR

指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性を含む、LDAP サーバーのユーザー項目を表示します。

この属性は Windows プラットフォームには適用されません。

AUTHTYPE

認証情報のタイプ

V 8.0.0.2 BASEDNG

グループの基本 DN を表示します。

この属性は Windows プラットフォームには適用されません。

BASEDNU

LDAP サーバー内でユーザーを検索するときに使用される基本識別名を表示します。

CHCKLOCL または CHCKCLNT

これらの属性は、**AUTHTYPE** が *IDPWOS* または *IDPWLDAP* の場合にのみ有効です。指定できる値は以下のとおりです。

NONE

ユーザー ID とパスワード認証を持たない、すべてのローカルにバインドされたアプリケーションを表示します。

OPTIONAL

アプリケーションによって提供されるユーザー ID とパスワードを表示します。これらの属性の指定は必須ではないことに注意してください。このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

REQUIRED

有効なユーザー ID とパスワードを提供するすべてのアプリケーションを表示します。

REQDADM

有効なユーザー ID とパスワードを指定する特権ユーザーを表示します。非特権ユーザーは **OPTIONAL** 設定と同じように扱われます。以下の注も参照してください。  (この設定は z/OS システムでは使用できません。)

CLASSGRP

グループ・レコードの LDAP オブジェクト・クラスを表示します。

この属性は Windows プラットフォームには適用されません。

CLASSUSR

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードに対する LDAP オブジェクト・クラスを表示します。

CONNAME

LDAP サーバーが稼働しているホストのホスト名、IPv4 ドット 10 進アドレス、または IPv6 16 進表記。**AUTHTYPE(CRLLDAP)** または **AUTHTYPE(IDPWLDAP)** のオブジェクトにのみ適用されます。

DESCR

認証情報オブジェクトの記述。

FAILDLAY

数秒待機してから、認証エラーがアプリケーションに返されます。

FINDGRP

グループ・メンバーシップを決定する LDAP 項目内の属性の名前を表示します。

この属性は Windows プラットフォームには適用されません。

GRPFIELD

グループの単純な名前を表す LDAP 属性を表示します。

この属性は Windows プラットフォームには適用されません。

LDAPPWD

LDAP サーバーのユーザーの識別名に関連するパスワード。非ブランクの場合、これはアスタリスクで表示されます  (z/OS を除くすべてのプラットフォーム)。**AUTHTYPE(CRLLDAP)** または **AUTHTYPE(IDPWLDAP)** のオブジェクトにのみ適用されます。

LDAPUSER

LDAP サーバーのユーザーの識別名。**AUTHTYPE(CRLLDAP)** または **AUTHTYPE(IDPWLDAP)** のオブジェクトにのみ適用されます。

NESTGRP

グループが別のグループのメンバーかどうかを表示します。

この属性は Windows プラットフォームには適用されません。

OCSPURL

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。AUTHTYPE(OCSP) のオブジェクトにのみ適用されます。

SECCOMM

LDAP サーバーの接続に使用されるメソッドを表示します。

SHORTUSR

ショート・ネームとして使用されているユーザー・レコードを表示します。

USRFIELD

ユーザー ID に修飾子が含まれていない場合にのみ、LDAP ユーザー・レコードで使用されているユーザー・レコードを表示します。

個々のパラメーターの詳細については、[834 ページの『DEFINE AUTHINFO の使用上の注意』](#)を参照してください。

DISPLAY AUTHREC

プロファイル名に関連した権限レコードを表示するには、MQSC コマンド DISPLAY AUTHREC を使用します。

MQSC コマンドの使用

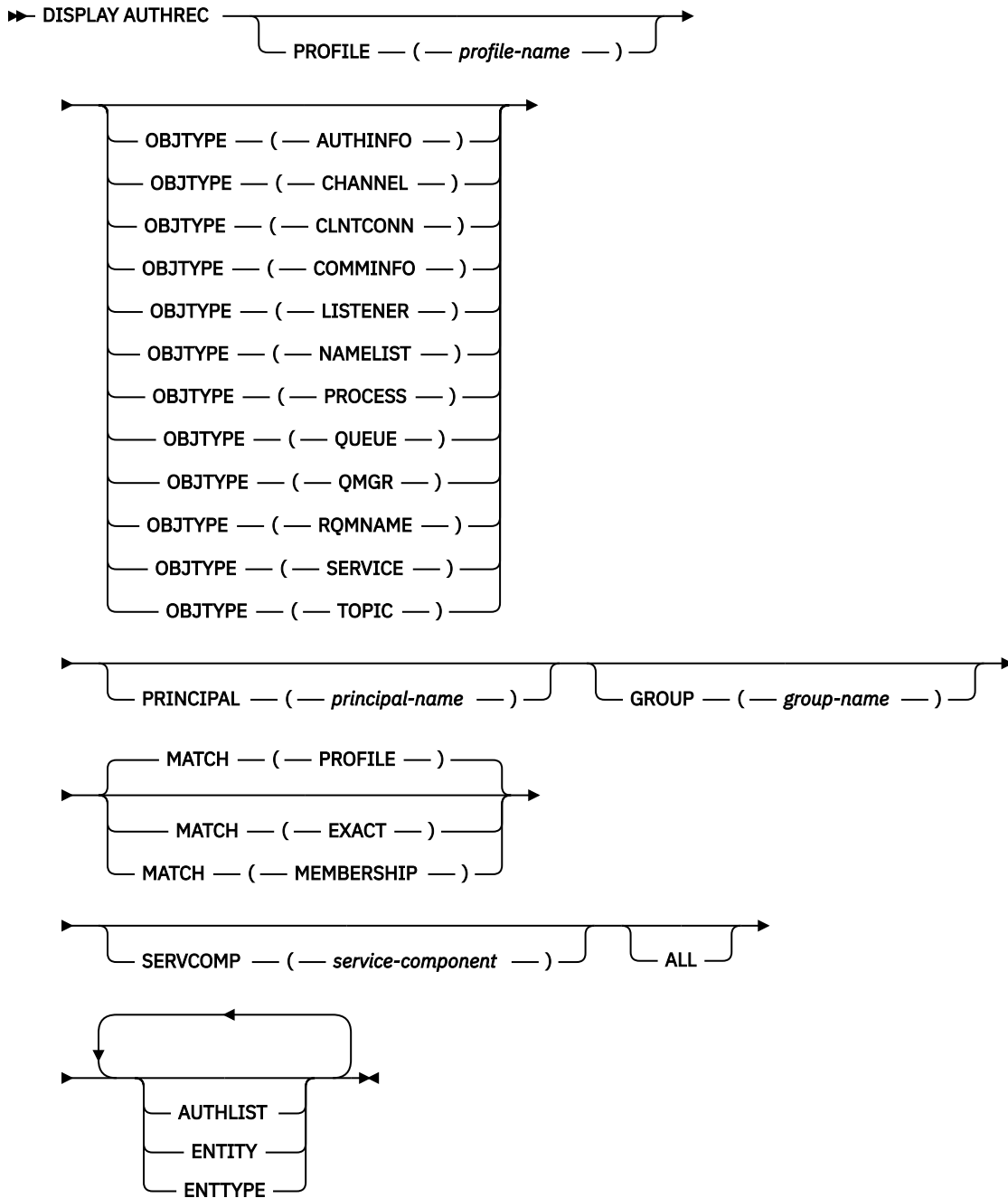
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1020 ページの『パラメーターの説明』](#)
- [1022 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS AUTHREC

DISPLAY AUTHREC



パラメーターの説明

PROFILE(*profile-name*)

権限レコードを表示するオブジェクトまたは総称プロファイルの名前。このパラメーターを省略すると、他のパラメーターの値を満たすすべての権限レコードが表示されます。

OBJTYPE

プロファイルが参照するオブジェクトのタイプ。次のいずれかの値を指定します。

AUTHINFO

認証情報レコード

CHANNEL

チャンネル

CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

COMMINFO

通信情報オブジェクト

リスナー

リスナー

NAMELIST

名前リスト

PROCESS

プロセス

QUEUE

キュー

QMGR

キュー・マネージャー

RQMNAME

リモート・キュー・マネージャー

SERVICE

サービス

トピック

トピック

このパラメーターを省略すると、すべてのオブジェクト・タイプの権限レコードが表示されます。

PRINCIPAL(*principal-name*)

プリンシパル名。指定したオブジェクトに対する許可を取得する対象となるユーザーの名前です。

IBM MQ for Windows では、オプションとしてプリンシパル名にドメイン・ネームを組み込むことができます (user@domain の形式で指定)。

このパラメーターを GROUP と組み合わせて指定することはできません。

GROUP(*group-name*)

グループ名。照会するユーザー・グループの名前です。名前は 1 つだけ指定することができ、既存のユーザー・グループの名前でなければなりません。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain  
domain\GroupName
```

このパラメーターを PRINCIPAL と組み合わせて指定することはできません。

MATCH

表示される権限レコードのセットを制御するには、このパラメーターを指定します。次のいずれかの値を指定します。

PROFILE

指定されたプロファイル、プリンシパル、およびグループ名と一致する権限レコードのみを返します。例えば、プロファイルに ABCD を指定すると、プロファイル ABCD、ABC*、および AB* が返されます (ABC* および AB* がプロファイルとして定義されている場合)。プロファイル名が総称プロファイルの場合、指定されたプロファイル名と正確に一致する権限レコードだけが返されます。プリンシパルが指定される場合、プリンシパルがメンバーであるグループのプロファイルは返されません。指定したプリンシパルまたはグループに定義されたプロファイルのみが返されます。

これはデフォルト値です。

MEMBERSHIP

指定したプロファイルと一致する権限レコード、指定したプリンシパルに一致するエンティティ・フィールドを持つ権限レコード、およびプリンシパルが、指定したエンティティの累積権限に寄与するメンバーであるグループに関するプロファイルのみを返します。

このオプションを指定する場合は、PROFILE および OBJTYPE パラメーターも指定しなければなりません。加えて、PRINCIPAL または GROUP パラメーターのいずれかを指定する必要があります。OBJTYPE(QMGR) を指定する場合、プロファイル名はオプションです。

EXACT

指定されたプロファイル名または EntityName と正確に一致する権限レコードのみを返します。プロファイル名自体が総称プロファイルでない限り、一致しない総称プロファイルは返されません。プリンシパルが指定される場合、プリンシパルがメンバーであるグループのプロファイルは返されません。指定したプリンシパルまたはグループに定義されたプロファイルのみが返されます。

SERVCOMP(service-component)

情報を表示する許可サービスの名前。

このパラメーターを指定する場合、許可が適用される許可サービスの名前を指定します。このパラメーターを省略すると、許可サービスのチェーニングに関する規則に従って、登録済みの許可サービスに対して順次照会が行われます。

ALL

エンティティおよび指定されたプロファイルに関して入手できるすべての許可情報を表示するには、このパラメーターを指定します。

要求パラメーター

許可に関して要求できる情報は、次のとおりです。

AUTHLIST

許可のリストを表示するには、このパラメーターを指定します。

ENTITY

エンティティ名を表示するには、このパラメーターを指定します。

ENTTYPE

エンティティ・タイプを表示するには、このパラメーターを指定します。

DISPLAY AUTHSERV

インストール済みの許可サービスによってサポートされる機能のレベルに関する情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY AUTHSERV を使用します。

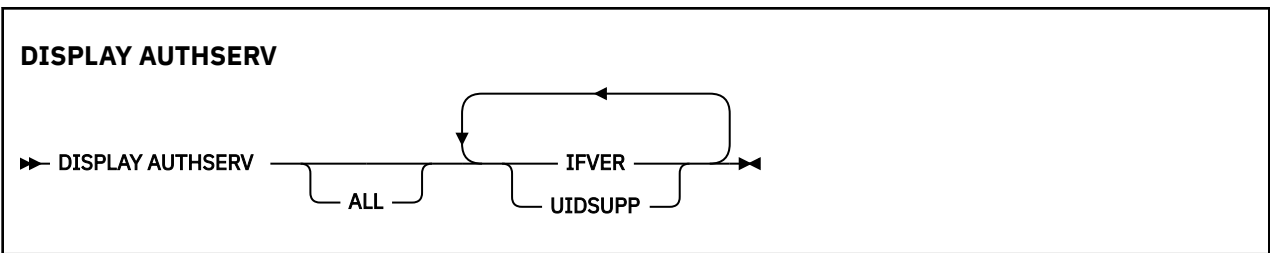
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1023 ページの『パラメーターの説明』](#)
- [1023 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS AUTHSERV



パラメーターの説明

ALL
各許可サービスのすべての情報を表示するには、このパラメーターを指定します。

要求パラメーター

許可サービスに関して要求できる情報は、次のとおりです。

IFVER
許可サービスの現行のインターフェース・バージョンを表示するには、このパラメーターを指定します。

UIDSUPP
許可サービスがユーザー ID をサポートするかどうかを表示するには、このパラメーターを指定します。

z/OS **DISPLAY CFSTATUS**

MQSC コマンド **DISPLAY CFSTATUS** は、1 つ以上の CF アプリケーション構造体の状況を表示するために使
用します。このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM
MQ for z/OS でのみ有効です。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照して
ください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

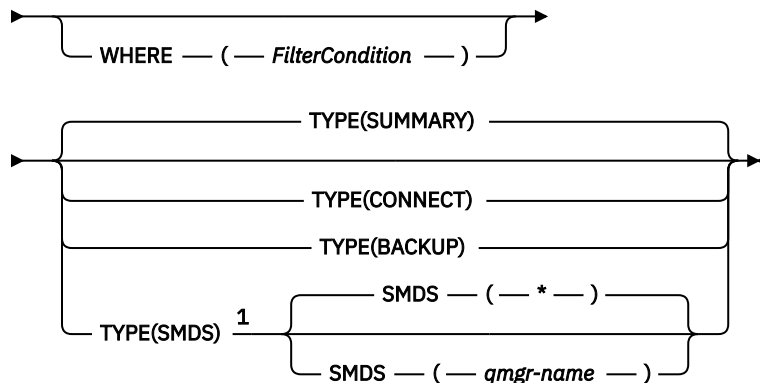
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1024 ページの『DISPLAY CFSTATUS のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)
- [1026 ページの『要約状況』](#)
- [1027 ページの『接続状況』](#)
- [1028 ページの『バックアップ状況』](#)
- [1029 ページの『SMDS 状況』](#)

同義語: DIS CFSTATUS

DISPLAY CFSTATUS

►► DISPLAY CFSTATUS — (— *generic-structure-name* —) →



注:

¹ このオプションは、CFSTRUCT が OFFLOAD(SMDS) を指定して定義されている場合にのみサポートされます。

DISPLAY CFSTATUS のキーワードおよびパラメーターの説明

状況情報を表示するアプリケーション構造体の名前を指定する必要があります。指定できる名前は、特定のアプリケーション構造体名または総称名です。総称名を使用することにより、次のいずれかを表示することができます。

- すべてのアプリケーション構造体定義の状況情報
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のアプリケーション構造体の状況情報

返される状況情報のタイプも指定できます。次のタイプがあります。

- キュー共有グループ内のアプリケーション構造体の状況情報の要約
- 一致するアプリケーション構造体名それぞれについての、キュー共有グループ内の各キュー・マネージャーの接続状況情報
- 一致するアプリケーション構造体それぞれについて実行される、キュー共有グループ内で定義された各バックアップのバックアップ状況情報

(*generic-structure-name*)

表示する CF アプリケーション構造体の 12 文字の名前。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべての構造体名と一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべての構造体名を意味します。

CF 構造体名はキュー共有グループ内で定義されている必要があります。

CFSTATUS 総称名は、管理 CF 構造体名 (CSQ_ADMIN) またはその名前の任意の総称形式にすることができます。ただし、この構造体のデータは、TYPE を SUMMARY に設定した場合にのみ表示されます。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす CF アプリケーション構造体の状況情報を表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドによって返されるほとんどすべてのパラメーター。ただし、TYPE パラメーターはフィルター・キーワードとして使用できません。

operator

CF アプリケーション構造体が指定されたフィルター・キーワードのフィルター値を満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK*filter-value* として入力する総称ストリングに一致**NL***filter-value* として入力する総称ストリングに一致しない**CT**

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれていません。

CTG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、属性が総称ストリングに一致するオブジェクトを表示するためにこれを使用できます。

EXG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合、これを使用して、属性が総称ストリングに一致しないオブジェクトを表示できます。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、GE のみを使用できます。ただし、パラメーターで返される可能性がある一連の値に含まれる値である場合 (例えば、STATUS パラメーターの値 ACTIVE など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリングで (QMNAME パラメーターの文字ストリングなど)、例えば ABC* のようになります。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

- 値リストの中の項目です。値は明示的にできますが、値が文字値の場合は明示的または総称にすることができます。明示的に指定する場合、演算子には CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。総称の場合、演算子には CTG または EXG を使用します。演算子 CTG に ABC* を指定した場合、属性値の 1 つが ABC で始まるすべての項目のリストが表示されます。

タイプ

表示するために必要な状況情報のタイプを指定します。値は次のとおりです。

SUMMARY

各アプリケーション構造体の要約状況情報を表示します。これがデフォルトです。

CONNECT

アクティブ・キュー・マネージャーごとに、各アプリケーション構造体の接続状況情報を表示します。

BACKUP

各アプリケーション構造体のバックアップ状況情報を表示します。

SMDS

共有メッセージ・データ・セット情報を表示します。

SMDS

qmgr-name

共有メッセージ・データ・セット状況を表示するキュー・マネージャーを指定します。

★

指定された CFSTRUCT に関連付けられているすべての共有メッセージ・データ・セットの状況を表示します (STATUS(NOTFOUND) と ACCESS(ENABLED) の両方が指定されているものを除く)。

要約状況

要約状況には、選択基準を満たす各構造体について次の情報が返されます。

- 総称名と一致するアプリケーション構造体の名前。
- 返される情報のタイプ。

CFTYPE

CF 構造体タイプ。これは、以下のいずれかになります。

ADMIN

これは CF 管理構造体です。

APPL

これは CF アプリケーション構造体です。

状況

CF アプリケーション構造体の状況。これは、以下のいずれかになります。

ACTIVE

構造体はアクティブです。

失敗

構造体に障害が起きています。

NOTFOUND

構造体は CF に割り振られていませんが、Db2 に対して定義されています。この構造体のジョブ・ログ内のメッセージを確認して解決します。

INBACKUP

構造体のバックアップ処理中です。

INRECOVER

構造体はリカバリー処理中です。

不明

Db2 が利用不可であるなどの理由で、CF 構造体の状況が不明です。

SIZEMAX(size)

アプリケーション構造体のサイズ (キロバイト)。

SIZEUSED (integer)

アプリケーション構造体のサイズのうち、使用中であるパーセンテージ。例えば、SIZEUSED(25) は、そのアプリケーション構造体に割り振られたスペースの 4 分の 1 が使用中であることを示します。

ENTSMAX (integer)

このアプリケーション構造体に定義された CF リスト項目の数。

注：この数には、ストレージ・クラス・メモリー (SCM) 内にある、既に構造体に割り当てられた可能性のある項目は含まれません。

ENTSUSED (integer)

使用中であるこのアプリケーション構造体の CF リスト項目の数。

注：この数には、ストレージ・クラス・メモリー (SCM) 内にある、既に構造体に割り当てられた可能性のある項目は含まれません。

FAILTIME(time)

このアプリケーション構造体に障害が起きた時刻。このフィールドの形式は hh.mm.ss です。このパラメーターを適用できるのは、CF 構造体が FAILED または INRECOVER の状態にあるときだけです。構造体が FAILED 状態ではない場合は、FAILTIME() として表示されます。

FAILDATE(date)

アプリケーション構造体に障害が起きた日付。このフィールドの形式は yyyy-mm-dd です。このパラメーターを適用できるのは、CF 構造体が FAILED または INRECOVER の状態にあるときだけです。構造体が FAILED 状態ではない場合は、これは FAILDATE() として表示されます。

OFFLDUSE

これは、オフロードされた大容量のメッセージ・データが、共有メッセージ・データ・セット、Db2、またはその両方に存在している可能性があるかどうかを示します。

オフロード・メソッド切り替えの際には、古いメッセージを取得および削除するために、前のオフロード・メソッドを使用可能な状態に維持しなければなりません。したがって、OFFLDUSE 状態は BOTH に変更されます。キュー・マネージャーは、OFFLDUSE(BOTH) 状態の構造体から正常に切断されると、古いオフロード・メソッドを使用して保管されたメッセージがまだ残っているかどうかを確認します。残っていなければ、OFFLDUSE 状態を現行のオフロード・メソッドに一致する状態に変更し、切り替えが完了したことを示すメッセージ CSQE245I を発行します。

このパラメーターは次のいずれかです。

NONE

オフロードされた大容量のメッセージはありません。

SMDS

オフロードされた大容量のメッセージが、共有メッセージ・データ・セットに存在する可能性があります。

Db2

オフロードされた大容量のメッセージが Db2 に存在する可能性があります。

BOTH

オフロードされた大容量のメッセージが、共有メッセージ・データ・セットと Db2 の両方に存在する可能性があります。

接続状況

接続状況には、選択基準を満たす各構造体への各接続について次の情報が返されます。

- 総称名と一致するアプリケーション構造体の名前。
- 返される情報のタイプ。

QMNAME(qmgrname)

キュー・マネージャーの名前。

SYSNAME(systemname)

アプリケーション構造体に最後に接続したキュー・マネージャーの z/OS イメージの名前。これらは、お客様の構成セットアップによっては、キュー・マネージャーごとに異なる場合があります。

状況

このキュー・マネージャーがこのアプリケーション構造体に接続しているかどうかを示す状況。これは、以下のいずれかになります。

ACTIVE

構造体はこのキュー・マネージャーに接続しています。

失敗

この構造へのキュー・マネージャーの接続が失敗しました。

NONE

構造体がこのキュー・マネージャーに接続したことはありません。

不明

CF 構造体の状況は不明です。

FAILTIME(time)

このキュー・マネージャーがこのアプリケーション構造体への接続を失った時刻。このフィールドの形式は hh.mm.ss です。このパラメーターを適用できるのは、CF 構造体が FAILED の状態にあるときだけです。構造体が FAILED 状態ではない場合は、FAILTIME() として表示されます。

FAILDATE(date)

このキュー・マネージャーがこのアプリケーション構造体への接続を失った日付。このフィールドの形式は yyyy-mm-dd です。このパラメーターを適用できるのは、CF 構造体が FAILED の状態にあるときだけです。構造体が FAILED 状態ではない場合は、FAILDATE() として表示されます。

バックアップ状況

バックアップ状況には、選択基準を満たす各構造体について次の情報が返されます。

- 総称名と一致するアプリケーション構造体の名前。
- 返される情報のタイプ。

状況

CF アプリケーション構造体の状況。これは、以下のいずれかになります。

ACTIVE

構造体はアクティブです。

失敗

構造体に障害が起きています。

NONE

構造体は RECOVER(YES) と定義されていますが、バックアップが実行されていません。

INBACKUP

構造体のバックアップ処理中です。

INRECOVER

構造体はリカバリー処理中です。

不明

CF 構造体の状況は不明です。

QMNAME(qmgrname)

このアプリケーション構造体のバックアップを最後に正常に終了したキュー・マネージャーの名前。

BKUPTIME(time)

このアプリケーション構造体に対して行われた、最後の正常なバックアップの終了時刻。このフィールドの形式は hh.mm.ss です。

BKUPDATE(date)

このアプリケーション構造体に対して行われた、最後の正常なバックアップの日付。このフィールドの形式は yyyy-mm-dd です。

BKUPSIZE(size)

このアプリケーション構造体の、正常に終了した最後のバックアップのサイズ (MB 単位)。

BKUPSRBA(hexadecimal)

このアプリケーション構造体に対して行われた、最後の正常なバックアップの開始のバックアップ・データ・セット開始 RBA。

BKUPERBA(hexadecimal)

このアプリケーション構造体に対して行われた、最後の正常なバックアップの終了のバックアップ・データ・セット終了 RBA。

LOGS(qmgrname-list)

キュー・マネージャーのリスト。そのログは、リカバリーを実行するために必要です。

FAILTIME(time)

この CF 構造体に障害が起きた時刻。このフィールドの形式は hh.mm.ss です。このパラメーターを適用できるのは、CF 構造体が FAILED の状態にあるときだけです。構造体が FAILED 状態ではない場合は、FAILTIME() として表示されます。

FAILDATE(date)

この CF 構造体に障害が起きた日付。このフィールドの形式は yyyy-mm-dd です。このパラメーターを適用できるのは、CF 構造体が FAILED の状態にあるときだけです。構造体が FAILED 状態ではない場合は、FAILDATE() として表示されます。

SMDS 状況

DISPLAY CFSTATUS コマンドに TYPE(SMDS) を指定して実行すると、特定のアプリケーション構造体に関連付けられた 1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットに関する状況情報が表示されます。

選択した各データ・セットについて、次のデータが返されます。

SMDS

プロパティーが表示される共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーの名前

状況

共有メッセージ・データ・セットの現在の状況。これは、以下のいずれかになります。

NOTFOUND

データ・セットが一度も使用されたことがないか、初めてデータ・セットをオープンしようとした時に失敗しました。この構造体のジョブ・ログ内のメッセージを確認して解決します。

NEW

データ・セットは初めてオープンされて初期化されており、アクティブになる準備ができています。

ACTIVE

データ・セットは通常の使用に利用可能です。

失敗

データ・セットは使用不可の状態にあり、リカバリーが必要な可能性があります。

INRECOVER

データ・セットのリカバリーが (RECOVER CFSTRUCT を使用して) 進行中です。

RECOVERED

データ・セットはリカバリーされるか、リカバリーされない場合は修復され、再び使用できる状態になりましたが、次にオープンするときに何らかの再始動処理が必要です。この再始動処理では、データ・セットを再び使用可能な状態にする前に、必ず、削除されたメッセージへの無効な参照をカップリング・ファシリティ構造体から削除します。再始動処理により、データ・セット・スペース・マップの再作成も行われます。

EMPTY

データ・セットにメッセージは含まれていません。データ・セットにメッセージが何も含まれていないときに、所有するキュー・マネージャーがこのデータ・セットを正常にクローズすると、データ・セットはこの状態になります。アプリケーション構造が空になったために (TYPE PURGE を指定した **RECOVER CFSTRUCT** を使用するか、またはリカバリー不能構造の場合のみ、構造の前のインスタンスを削除することによって)、前のデータ・セットの内容を破棄するときに、EMPTY 状態にすることもできます。所有するキュー・マネージャーによって次回データ・セットがオープンされる際に、スペース・マップが空にリセットされ、状況は ACTIVE に変更されます。以前のデータ・セットの内容は不要のため、この状態のデータ・セットを新たに割り振られたデータ・セットで置き換えて、例えば、スペース割り振りを変更したり、別のボリュームに移動したりすることができます。

ACCESS

共有メッセージ・データ・セットの現在の可用性の状態。このパラメーターは次のいずれかです。

ENABLED

データ・セットは使用可能であり、使用可能になった時点以降、エラーは何も検出されていません。データ・セットの状況が STATUS(RECOVERED) の場合は、所有するキュー・マネージャーのみがこのデータ・セットをオープンして再開できますが、STATUS(ACTIVE) の場合はすべてのキュー・マネージャーがオープンできます。

中断状態

エラーのため、データ・セットは使用できません。

厳密には、データ・セットへのアクセス中にエラーが発生したか、ALTER SMDS コマンドを使用したために、STATUS が FAILED に設定された場合にこの状況になります。

リカバリーが完了したなどの理由でエラーが無くなっていると思われる場合、または状況を手動で RECOVERED に設定した場合に、キュー・マネージャーで自動的にアクセスの使用可能化を再試行することができます。これが行われない場合は、当初失敗したアクションを再試行するために、コマンドを実行して再度使用可能にすることができます。

無効化

コマンドを使用して共有メッセージ・データ・セットが明示的に使用不可にされているため、共有メッセージ・データ・セットは使用できません。使用可能にする別のコマンドを使用してのみ、共有メッセージ・データ・セットを再び使用可能にできます。詳細については、[1270 ページの『RESET SMDS』](#)を参照してください。

RCVDATE

リカバリーの開始日。

データ・セットに対するリカバリーが現在有効である場合、これは、アクティブになった日付を yyyy-mm-dd の形式で示します。リカバリーが使用可能でない場合、これは RCVDATE() として表示されます。

RCVTIME

リカバリーの開始時刻。

データ・セットに対するリカバリーが現在有効である場合、これは、アクティブになった時刻を hh.mm.ss の形式で示します。リカバリーが使用可能でない場合、これは RCVTIME() として表示されます。

FAILDATE

障害日付。

データ・セットが FAILED の状態になり、まだ ACTIVE の状態に戻っていない場合、これは障害が通知された日付を yyyy-mm-dd 形式で表します。データ・セットが ACTIVE の状態である場合、これは FAILDATE() として表示されます。

FAILTIME

障害時刻。

データ・セットが FAILED の状態になり、まだ ACTIVE の状態に戻っていない場合、これは障害が通知された時刻を hh.mm.ss 形式で表します。データ・セットが ACTIVE の状態である場合、これは FAILTIME() として表示されます。

z/OS DISPLAY CFSTRUCT

MQSC コマンド DISPLAY CFSTRUCT は、1 つ以上の CF アプリケーション構造体の属性を表示するために使用します。このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1032 ページの『DISPLAY CFSTRUCT の使用上の注意』](#)
- [1032 ページの『DISPLAY CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)
- [1033 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS CFSTRUCT

DISPLAY CFSTRUCT

►► DISPLAY CFSTRUCT — (— *generic-structure-name* —) ►

WHERE — (— *FilterCondition* —) ALL requested attrs

Requested attrs

- ALTDAT
- ALTTIME
- CFCONLOS
- CFLEVEL
- DESCR
- DSBLOCK ¹
- DSBUFS ¹
- DSEXPAND ¹
- DSGROUP ¹
- OFFLD1SZ ¹
- OFFLD1TH ¹
- OFFLD2SZ ¹
- OFFLD2TH ¹
- OFFLD3SZ ¹
- OFFLD3TH ¹
- OFFLOAD ¹
- RECAUTO
- RECOVER ¹

注:

¹ このパラメーターについて詳しくは、[カップリング・ファシリティーおよびオフロード・ストレージ環境の準備](#)を参照してください。

DISPLAY CFSTRUCT の使用上の注意

1. このコマンドは、CF 管理構造体 (CSQ_ADMIN) を指定できません。

DISPLAY CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明

表示するアプリケーション構造体の名前を指定する必要があります。指定できる名前は、特定のアプリケーション構造体名または総称名です。総称名を使用することにより、次のいずれかを表示することができます。

- すべてのアプリケーション構造体定義
- 指定した名前と一致する 1 つ以上のアプリケーション構造体

(*generic-structure-name*)

表示する CF アプリケーション構造体の 12 文字の名前。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべての構造体名と一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべての構造体名を意味します。

CF 構造体名はキュー共有グループ内で定義されている必要があります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす CF アプリケーション構造体のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

CF アプリケーション構造体が指定されたフィルター・キーワードのフィルター値を満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

LK および NL を除くすべての演算子を使用できます。ただし、値がパラメーターに返すことができる値セットの値である場合 (例えば、RECOVER パラメーターの値 YES など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。文字は、テストする属性で有効である必要が

あります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

DISPLAY CFSTRUCT コマンドで総称値に対して使用できる演算子は、LK または NL のみです。

ALL

すべての属性を表示する場合に、これを指定します。このキーワードを指定すると、具体的に要求された属性はいずれも無効になり、すべての属性が表示されます。

総称名を指定せず、特定の属性も要求しない場合は、これがデフォルトの動作になります。

要求パラメーター

表示するデータを定義する属性を 1 つ以上指定します。属性の指定順序は任意です。同じ属性を複数回指定しないでください。

パラメーターが何も指定されていない場合 (ALL パラメーターも指定されていない場合)、デフォルトでは構造体名が表示されます。

ALTDAT

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

CFCONLOS

キュー・マネージャーが CF アプリケーション構造体との接続を失った場合に実行するアクション。

CFLEVEL

この CF アプリケーション構造体の機能レベルを示します。

DESCR

記述コメント。

DSBLOCK

論理ブロック・サイズ、つまり共有メッセージ・データ・セットのスペースを個別のキューに割り振る際に使用する単位。

DSBUFS

共有メッセージ・データ・セットへのアクセス用に各キュー・マネージャー内で割り振るバッファの数。

DSEXPAND

キュー・マネージャーが共有メッセージ・データ・セットを拡張するかどうか。

DSGROUP

一連の共有メッセージ・データ・セット用に使用される総称データ・セット名。

OFFLD1SZ

オフロード規則 1: メッセージ・サイズ値を、整数の後に K を付けてキロバイト数で指定する。

OFFLD1TH

オフロード規則 1: カップリング・ファシリティ構造体の使用量パーセンテージのしきい値を整数で指定する。

OFFLD2SZ

オフロード規則 2: メッセージ・サイズ値を、整数の後に K を付けてキロバイト数で指定する。

OFFLD2TH

オフロード規則 2: カップリング・ファシリティ構造体の使用量パーセンテージのしきい値を整数で指定する。

OFFLD3SZ

オフロード規則 3: メッセージ・サイズ値を、整数の後に K を付けてキロバイト数で指定する。

OFFLD3TH

オフロード規則 3: カップリング・ファシリティ構造体の使用量パーセンテージのしきい値を整数で指定する。

OFFLOAD

CFLEVEL が 4 より小さい場合、表示できる値は NONE のみです。

CFLEVEL が 4 の場合、表示できる値は Db2 のみです。

CFLEVEL が 5 の場合、表示される値は Db2、SMDS、または BOTH です。これらの値は、オフロードされたメッセージ・データが共有メッセージ・データ・セットのグループに保管されるか、Db2 に保管されるか、あるいはその両方に保管されるかを表します。

さらに、OFFLD1SZ、OFFLD1TH、OFFLD2SZ、OFFLD2TH、OFFLD3SZ、および OFFLD3TH のオフロード規則パラメーター値が表示されます。

RECAUTO

キュー・マネージャーが構造体に障害が発生したことを検出したとき、またはキュー・マネージャーが構造体への接続を失ったときに、その構造体が割り振られているカップリング・ファシリティへの接続を持つシステムが SysPlex 内にはない場合に、自動リカバリー・アクションを実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

YES

構造体と、それに関連する (同様にリカバリーを必要とする) 共有メッセージ・データ・セットは、自動的にリカバリーされます。

NO

構造体は自動的にリカバリーされません。

RECOVER

アプリケーション構造体の CF リカバリーをサポートするかどうかを示します。値は次のとおりです。

NO

CF アプリケーション構造体のリカバリーをサポートしません。

YES

CF アプリケーション構造体のリカバリーをサポートします。

DISPLAY CHANNEL

チャンネル定義を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY CHANNEL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

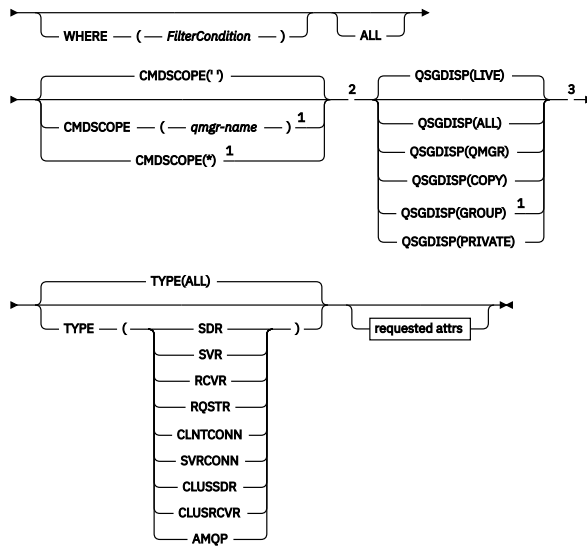
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1037 ページの『使用上の注意』](#)
- [1037 ページの『DISPLAY CHANNEL のパラメーターの説明』](#)
- [1040 ページの『要求パラメーター』](#)

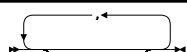
同義語: DIS CHL

DISPLAY CHANNEL

➤ DISPLAY CHANNEL — (— *generic-channel-name* —) ➤



Requested attrs



AFFINITY
ALTDATA
ALTTIME
AMQPKA
BATCHHB
BATCHINT
BATCHLIM
BATCHSZ
CERTLABL
CHLTYPE
CLNTWGHT
CLUSNL
CLUSTER
CLWLPRTY
CLWLRANK
CLWLWGHT
COMPHDR
COMPMMSG
CONNNAME
CONVERT
DEFCDISP ³
DEFRECON
DESCR
DISCINT
HBINT
JAASCFG
KAINT
LOCLADDR
LONGRTY
LONGTMR
MAXINST
MAXINSTC
MAXMSG
MCANAME
MCAUSER
MODENAME
MONCHL
MIRDATA
MREXIT
MRRTY
MRTMR
MSGDATA
MSGEXIT
NETPRTY
NPMSPD
PASSWD
PORT
PROPCTL
PUTAUT ⁴
QMNAME
RCVDATA
RCVEXIT
RESETSEQ ⁵
SCYDATA
SCYEXIT
SENDDATA
SENDEXIT
SEQWRAP
SHARECNV
SHORTRTY
SHORTTMR
SSLAUTH
SSLCIPH
SSLKEYP
SSLKEYR
SSLPEER
STATCHL
TPNAME
TPROOT
TRPTYPE
USECLTID
USEDLQ
USERID
XMITQ

注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

² z/OS クライアント接続チャンネルでは無効です。

³ z/OS でのみ有効です。

⁴ RCVR、RQSTR、CLUSRCVR、および (z/OS の場合のみ) SVRCONN チャネル・タイプでのみ有効です。

⁵ z/OS では無効です。

使用上の注意

クラスター送信側チャネルを表示できるのは、それが手動で作成されている場合だけです。 [クラスター・チャネル](#)を参照してください。

表示される値は、チャネルの現在の定義のものです。チャネルが開始後に変更されている場合、現在実行中のチャネル・オブジェクトのインスタンスの値は現在の定義と同じでない場合があります。

DISPLAY CHANNEL のパラメーターの説明

表示するチャネル定義の名前を指定しなければなりません。これは、特定のチャネル名にすることも、総称チャネル名にすることもできます。総称チャネル名を使用すると、次のいずれかを表示できます。

- すべてのチャネル定義
- 指定された名前に一致する 1 つ以上のチャネル定義

(generic-channel-name)

表示するチャネル定義の名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのチャネル定義名と一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべてのチャネル定義を意味します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすチャネルのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE、QSGDISP、MCANAME パラメーターはフィルター・キーワードとして使用できません。TYPE (または CHLTYPE) は、チャネルの選択にも使用されている場合、使用できません。フィルター・キーワードが有効な属性でないタイプのチャネルは表示されません。

operator

これは、指定されたフィルター・キーワードでチャネルがフィルター値にかなうかどうかを判断するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれていません。

CTG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、属性が総称ストリングに一致するオブジェクトを表示するためにこれを使用できます。

EXG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合、これを使用して、属性が総称ストリングに一致しないオブジェクトを表示できます。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、TYPE パラメーターの値 SDR など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

- 値リストの中の項目です。値は明示的にできますが、値が文字値の場合は明示的または総称にすることができます。明示的に指定する場合、演算子には CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。総称の場合、演算子には CTG または EXG を使用します。演算子 CTG に ABC* を指定した場合、属性値の 1 つが ABC で始まるすべての項目のリストが表示されます。

ALL

すべてのパラメーターの照会結果を表示するには、ALL を指定します。ALL を指定すると、特定のパラメーターの要求は無視されます。ALL を指定して照会を行う場合、可能なすべてのパラメーターの結果が返されます。

総称名を指定せず、特定のパラメーターも要求しない場合は、これがデフォルトになります。

z/OS z/OS 上では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定する場合もこれがデフォルトですが、他のプラットフォームでは要求された属性だけが表示されます。

パラメーターを何も指定しない (かつ ALL パラメーターが指定されたりデフォルトとして適用されたりしない) 場合、デフォルトはチャンネル名だけを表示することです。

z/OS z/OS の場合、CHLTYPE および QSGDISP の値も表示されます。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

これはデフォルト値で、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

共有キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前(属性指定が異なる)を出力する可能性があります。

注: QSGDISP(LIVE) の場合、これが発生するのは共有キューと非共有キューの名前が同じである時だけです。このような状況は、しっかりと管理されているシステムでは起きないはずです。

共有キュー・マネージャー環境では、以下を使用します。

```
DISPLAY CHANNEL(name) CMDSCOPE(*) QSGDISP(ALL)
```

一致するすべてのオブジェクトをリスト表示するには、以下を使用します。

```
name
```

共有リポジトリに複製せずに、キュー共有グループ内で使用します。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。QSGDISP(PRIVATE) で表示される情報は QSGDISP(LIVE) と同じです。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

タイプ

これはオプションです。表示を 1 つのタイプのチャンネルに制限するために使用することができます。
値は、次のいずれか 1 つです。

ALL

すべてのタイプのチャンネルを表示 (これがデフォルト) します。

SDR

送信側チャンネルだけを表示します。

SVR

サーバー・チャンネルだけを表示します。

RCVR

受信側チャンネルだけを表示します。

RQSTR

要求側チャンネルだけを表示します。

CLNTCONN

クライアント接続チャンネルだけを表示します。

SVRCONN

サーバー接続チャンネルだけを表示します。

CLUSSDR

クラスター送信側チャンネルだけを表示します。)。

CLUSRCVR

クラスター受信側チャンネルだけを表示します。)。

V 8.0.0.4 AMQP

AMQP チャンネルだけを表示します。

CHLTYPE (タイプ) このパラメーターの同義語として使用できます。、

要求パラメーター

表示するデータを定義する DISPLAY CHANNEL パラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定してはなりません。

一部のパラメーターは、特定のタイプのチャンネルでのみ意味を持ちます。特定のタイプのチャンネルに関連しない属性を指定すると、何も出力しませんが、エラーも発生しません。以下の表に、各タイプのチャンネルに関連するパラメーターを示します。表の下に、各パラメーターの説明を示します。説明で必須であると記述されていない限り、パラメーターの指定はオプションです。

V 8.0.0.4

表 69. DISPLAY CHANNEL コマンドによってデータが返されるパラメーター									
パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNT- CONN	SVR- CONN	CLUS- SDR	CLUS- RCVR	V 8.0.0.4 AMQP
AFFINITY					✓				
ALTDATE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ALTTIME	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
V 8.0.0.4 AMQPKA									✓
AUTOSTART		✓	✓	✓		✓			

表 69. DISPLAY CHANNEL コマンドによってデータが返されるパラメーター (続き)

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNT- CONN	SVR- CONN	CLUS- SDR	CLUS- RCVR	V8004 AM QP
BATCHH B	✓	✓					✓	✓	
BATCHI NT	✓	✓		✓			✓	✓	
BATCHLI M	✓	✓					✓	✓	
BATCHS Z	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
CERTLA BL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
channel- name	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
CHLTYP E	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
CLNTWG HT					✓				
CLUSNL							✓	✓	
CLUSTE R							✓	✓	
CLWLPR TY							✓	✓	
CLWLRA NK							✓	✓	
CLWLWG HT							✓	✓	
COMPH DR	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
COMPM SG	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
CONNA ME	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
CONVER T	✓	✓					✓	✓	
DEFCDIS P	✓	✓	✓	✓		✓			
DEFREC ON					✓				
DESCR	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DISCINT	✓	✓				✓	✓	✓	

表 69. DISPLAY CHANNEL コマンドによってデータが返されるパラメーター (続き)

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNT- CONN	SVR- CONN	CLUS- SDR	CLUS- RCVR	V8.0.0.4 AM QP
HBINT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
KAINT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
LOCLAD DR	✓	✓		✓	✓		✓	✓	✓
LONGRT Y	✓	✓					✓	✓	
LONGTM R	✓	✓					✓	✓	
MAXINS T						✓			✓
MAXINS TC						✓			
MAXMS GL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MCANA ME	✓	✓		✓			✓	✓	
MCATYP E	✓	✓		✓			✓	✓	
MCAUSE R	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓
MODEN AME	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
MONCHL	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	
MRDATA			✓	✓				✓	
MREXIT			✓	✓				✓	
MRRTY			✓	✓				✓	
MRTMR			✓	✓				✓	
MSGDAT A	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MSGEXI T	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
NETPRT Y								✓	
NPMSPE ED	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
PASSWO RD	✓	✓		✓	✓		✓		

表 69. DISPLAY CHANNEL コマンドによってデータが返されるパラメーター (続き)

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNT- CONN	SVR- CONN	CLUS- SDR	CLUS- RCVR	V8.0.0.4 AM QP
V8.0.0.4 PORT									✓
PROPCT L	✓	✓					✓		
PUTAUT			✓	✓		✓ 1044 ページ の『1』		✓	
QMNAME					✓				
RESETS EQ	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
RCVDATA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
RCVEXIT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SCYDATA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SCYEXIT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SENDDATA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SENDEX IT	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
SEQWRAP	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
SHAREC NV						✓			
SHORTRTY	✓	✓					✓	✓	
SHORTTMR	✓	✓					✓	✓	
SSLCAUTH		✓	✓	✓		✓		✓	✓
SSLCIPH	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
SSLPEER	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
STATCHL	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
TPNAME	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	
V8.0.0.4 TPROOT									✓
TRPTYPE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

表 69. DISPLAY CHANNEL コマンドによってデータが返されるパラメーター (続き)

パラメーター	SDR	SVR	RCVR	RQSTR	CLNT- CONN	SVR- CONN	CLUS- SDR	CLUS- RCVR	V8.0.0.4 AMQP
V8.0.0.4 USECLTD									✓
USEDLQ	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
USERID	✓	✓		✓	✓		✓		
XMITQ	✓	✓							

注:

1. PUTAUT は z/OS 上の SVRCONN のチャンネル・タイプでのみ有効です。

AFFINITY

チャンネル・アフィニティー属性。

PREFERRED

プロセス内の後続の接続は、最初の接続と同じチャンネル定義の使用を試みます。

NONE

プロセス内のすべての接続は、加重に基づいて適用可能な定義を選択します。適用可能な CLNTWGHT(0) の定義を最初にアルファベット順に選択していきます。

ALTDAT

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

V8.0.0.4 AMQPKA

AMQP チャンネルのキープアライブ時間 (秒単位)。

AUTOSTART

チャンネル用の LU 6.2 応答側プロセスを始動するかどうか。

BATCHHB

使用されているバッチ・ハートビート値。

BATCHINT

バッチの最小所要時間。

BATCHLIM

バッチ・データ制限。

1 つのチャンネルを介して送信できるデータ量の制限。

BATCHSZ

バッチ・サイズ。

CERTLABL

証明書ラベル。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。

総称チャンネル名を指定して、他のパラメーターを要求しないと、チャンネル・タイプは常に表示されます。z/OS では、チャンネル・タイプは常に表示されます。

z/OS 以外のすべてのプラットフォームで、TYPE はこのパラメーターのシノニムとして使用できます。

CLNTWGHT

クライアント・チャンネルの加重。

特殊値 0 は、ランダムなロード・バランシングが実行されずに、適用可能な定義がアルファベット順に選択されることを示します。ランダムなロード・バランシングを実行する場合、値は 1 から 99 の範囲で指定します。1 は最も低い加重、99 は最も高い加重です。

CLUSTER

チャンネルが所属するクラスターの名前。

CLUSNL

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前。

CLWLPRTY

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルの優先順位。

CLWLRANK

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルのランク。

CLWLWGHT

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルの加重。

COMPHDR

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

COMPMMSG

チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

CONNAME

接続名。

CONVERT

アプリケーション・メッセージ・データの変換を送信側で行うかどうか。

DEFCDISP

情報を戻すチャンネルのデフォルト・チャンネル属性指定を指定します。このキーワードが存在しない場合、すべてのデフォルト・チャンネル属性指定のチャンネルが対象になります。

ALL

すべてのデフォルト・チャンネル属性指定のチャンネルが表示されます。

これはデフォルトの設定です。

PRIVATE

デフォルト・チャンネル属性指定が PRIVATE であるチャンネルのみが表示されます。

SHARED

デフォルト・チャンネル属性指定が FIXSHARED または SHARED であるチャンネルのみが表示されます。

注：これは、z/OS のクライアント接続チャンネル・タイプには該当しません。

DESCR

デフォルトのクライアント再接続オプション。

DESCR

説明。

DISCINT

切断間隔。

HBINT

ハートビート間隔。

KAINT

チャンネルのキープアライブ・タイミング。

LOCLADDR

チャンネルのローカル通信アドレス。

LONGRTY

長期再試行カウント。

LONGTMR

長い再試行タイマー。

MAXINST(integer)

同時に実行を許可されるサーバー接続チャネルのインスタンスの最大数。

MAXINSTC(integer)

同時に実行を許可される、単一のクライアントから開始されるサーバー接続チャネルのインスタンスの最大数。

注：このコンテキストでは、同じリモート・ネットワーク・アドレスから発信された接続は、同じクライアントから着信したものと見なされます。

MAXMSGL

チャネル最大メッセージ長。

MCANAME

メッセージ・チャネル・エージェント名。

MCANAME は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

MCTYPE

メッセージ・チャネル・エージェントが、独立したプロセスとして動作するか、独立したスレッドとして動作するか。

MCAUSER

メッセージ・チャネル・エージェント・ユーザー ID。

MODENAME

LU 6.2 モード名。

MONCHL

オンライン・モニター・データ収集。

MRDATA

チャネル・メッセージ再試行出口ユーザー・データ。

MREXIT

チャネル・メッセージ再試行出口名。

MRRTY

チャネル・メッセージ再試行カウント。

MRTMR

チャネル・メッセージ再試行時間。

MSGDATA

チャネル・メッセージ出口ユーザー・データ。

MSGEXIT

チャネル・メッセージ出口名。

NETPRTY

ネットワーク接続の優先順位。

NPMSPEED

非持続メッセージの速度。

パスワード

LU 6.2 セッションを開始するためのパスワード。非ブランクの場合、これはアスタリスクで表示されます  (z/OS を除くすべてのプラットフォーム)。

 V8.0.0.4 PORT

AMQP チャネルの接続に使用されるポート番号。

PROPCTL

メッセージ・プロパティ制御。

メッセージが V6 またはそれより前のキュー・マネージャー (プロパティ記述子の概念を理解しないキュー・マネージャー) に送信されるときに、メッセージのプロパティに対して行われる処置を指定します。

このパラメーターは、送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側の各チャンネルに適用可能です。

このパラメーターはオプションです。

指定できる値は、次のとおりです。

COMPAT

これはデフォルト値です。

メッセージ・プロパティ	結果
メッセージに mcd. 、 jms. 、 usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティが含まれている	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティを除くすべてのオプションのメッセージ・プロパティ (Support の値が MQPD_SUPPORT_OPTIONAL である プロパティ) が、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。
メッセージに mcd. 、 jms. 、 usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティが含まれていない	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティを除くすべてのメッセージ・プロパティが、メッセージから除去されます。
メッセージに、プロパティ記述子の Support フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティが含まれている	メッセージは理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY でリジェクトされ、そのレポート・オプションに従って処理されます。
プロパティ記述子の Support フィールドは MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されているが、プロパティ記述子の他のフィールドはデフォルト以外の値に設定されているプロパティがメッセージに 1 つ以上含まれている	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、デフォルト以外の値に設定されているプロパティが、メッセージから除去されます。
メッセージ・プロパティが含まれる MQRFH2 フォルダーに <i>content='properties'</i> 属性を割り当てる必要がある	サポートされない構文がある MQRFH2 ヘッダーが V6 以前のキュー・マネージャーに送信されないようにするため、プロパティが除去されます。

NONE

メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張内のプロパティを除き、メッセージのすべてのプロパティがメッセージから除去されます。

メッセージに、プロパティ記述子の **Support** フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティが含まれている場合、メッセージは、理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY でリジェクトされ、そのレポート・オプションに従って処理されます。

ALL

メッセージのすべてのプロパティは、リモート・キュー・マネージャーへの送信時にメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるものを除くプロパティは、メッセージ・データ中の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダー中に入れられます。

PUTAUT

書き込み権限。

QMNAME

キュー・マネージャー名。

RESETSEQ

保留リセット順序番号。

これは、未処理要求からのシーケンス番号で、ユーザーの RESET CHANNEL コマンド要求が未処理であることを示します。

値がゼロなら、未解決の RESET CHANNEL がないことを示します。値の範囲は 1 から 999999999 です。

このパラメーターは、z/OS では適用されません。

RCVDATA

チャンネル受信出口ユーザー・データ。

RCVEXIT

チャンネル受信出口名。

SCYDATA

チャンネル・セキュリティー出口ユーザー・データ。

SCYEXIT

チャンネル・セキュリティー出口名。

SENDATA

チャンネル送信出口ユーザー・データ。

SENDEXIT

チャンネル送信出口名。

SEQWRAP

シーケンス番号の折り返し値。

SHARECNV

共用する会話の値。

SHORTRTY

チャンネルがそのパートナーへのセッションの割り振りを試行する最大回数を指定します。

SHORTTMR

短い再試行タイマー。

SSLCAUTH

SSL クライアント認証が必要かどうか。

SSLCIPH

SSL 接続の暗号指定。

SSLPEER

チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントの証明書の識別名のためのフィルター。

STATCHL

統計データ収集。

TPNAME

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。

▶ V 8.0.0.4 TPROOT

AMQP チャンネルのトピック・ルート。

TRPTYPE

トランスポート・タイプ。

▶ V 8.0.0.4 USECLTID

AMQP チャンネルの許可検査に MCAUSER 属性値ではなくクライアント ID を使用することを指定します。

USEDLQ

チャンネルでメッセージが配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。

ユーザー ID

LU 6.2 セッション開始用のユーザー ID。

XMITQ

伝送キュー名。

これらのパラメーターの詳細については、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)を参照してください。

DISPLAY CHANNEL (MQTT)

MQSC コマンド DISPLAY CHANNEL (MQTT) は、IBM MQ Telemetry チャンネル定義を表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

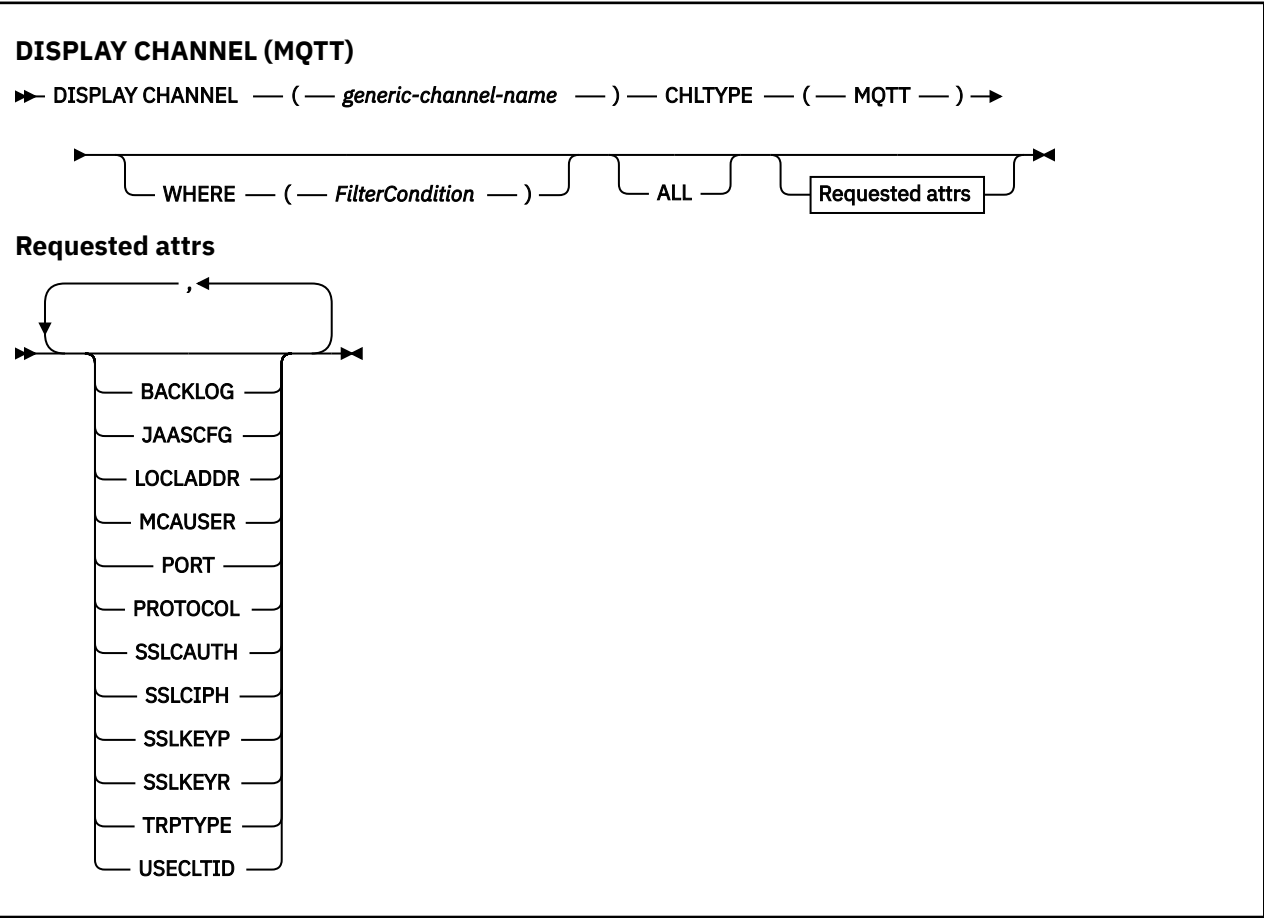
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

注: テレメトリー・サーバー用にサポートされている UNIX プラットフォームは AIX のみです。

- [構文図](#)
- [1049 ページの『DISPLAY CHANNEL のパラメーターの説明 \(MQTT\)』](#)
- [1051 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS CHL



DISPLAY CHANNEL (MQTT) コマンドは、IBM MQ Telemetry チャンネルにのみ使用できます。

DISPLAY CHANNEL のパラメーターの説明 (MQTT)

表示するチャンネル定義の名前を指定しなければなりません。指定できる名前は、特定のチャンネル名または総称チャンネル名です。総称チャンネル名を使用すると、次のいずれかを表示できます。

- すべてのチャンネル定義
- 指定された名前に一致する 1 つ以上のチャンネル定義

(*generic-channel-name*)

表示するチャンネル定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのチャンネル定義名と一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべてのチャンネル定義を意味します。

CHLTYPE(*type*)

値は常に MQTT です。

このパラメーターの同義語として TYPE を使用できます。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすチャンネルのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE、QSGDISP、MCANAME パラメーターはフィルター・キーワードとして使用できません。TYPE (または CHLTYPE) は、チャンネルの選択にも使用されている場合、使用できません。フィルター・キーワードが有効な属性でないタイプのチャンネルは表示されません。

operator

これは、指定されたフィルター・キーワードでチャンネルがフィルター値にかなうかどうかを判断するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。*filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。*filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれていません。

CTG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みます。*filter-keyword* がリストの場合は、属性が総称ストリングに一致するオブジェクトを表示するためにこれを使用できます。

EXG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合、これを使用して、属性が総称ストリングに一致しないオブジェクトを表示できます。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、TYPE パラメーターの値 SDR など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

- 値リストの中の項目です。値は明示的にできますが、値が文字値の場合は明示的または総称にすることができます。明示的に指定する場合、演算子には CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。総称の場合、演算子には CTG または EXG を使用します。演算子 CTG に ABC* を指定した場合、属性値の 1 つが ABC で始まるすべての項目のリストが表示されます。

ALL

すべてのパラメーターの照会結果を表示するには、ALL を指定します。ALL を指定すると、特定のパラメーターの要求は無視されます。ALL を指定して照会を行う場合、可能なすべてのパラメーターの結果が返されます。

総称名を指定せず、特定のパラメーターも要求しない場合は、これがデフォルトになります。

パラメーターを何も指定しない (かつ ALL パラメーターが指定されたりデフォルトとして適用されたりしない) 場合、デフォルトはチャンネル名だけを表示することです。

要求パラメーター

表示するデータを定義する DISPLAY CHANNEL パラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定してはなりません。

一部のパラメーターは、特定のタイプのチャンネルでのみ意味を持ちます。特定のタイプのチャンネルに関連しない属性を指定すると、何も出力しませんが、エラーも発生しません。以下の表に、各タイプのチャンネルに関連するパラメーターを示します。表の下に、各パラメーターの説明を示します。説明で必須であると記述されていない限り、パラメーターの指定はオプションです。

BACKLOG

ある一時点にテレメトリー・チャンネルがサポートできる未解決の接続要求の数。バックログ制限に達すると、さらに接続しようとするクライアントは現在のバックログが処理されるまで接続を拒否されます。この値の範囲は 0 から 999999999 です。デフォルト値は 4096 です。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。

このパラメーターとして有効な値は、MQTT のみです。

JAASCFG

JAAS 構成ファイル内のスタンザの名前。

LOCLADDR

チャンネルのローカル通信アドレス。

MCAUSER

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

PORT

テレメトリー (MQXR) サービスがクライアント接続を受け付けるポート番号。

PROTOCOL

チャンネルでサポートされる通信プロトコル。

SSLCAUTH

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。

SSLCIPH

SSLCIPH をテレメトリー・チャンネルで使用する場合は、"SSL 暗号スイート"を意味します。

SSLKEYP

鍵リポジトリのためのパスワード。パスフレーズを入力しない場合は、暗号化されない接続を使用しなければなりません。

SSLKEYR

Secure Sockets Layer (SSL) 鍵リポジトリの名前。詳細については、[ALTER QMGR](#) コマンドの SSLKEYR パラメーターを参照してください。

TRPTYPE

使用する伝送プロトコル。テレメトリー・チャンネルの場合は、常に TCP (つまり TCP/IP プロトコル) になります。

USECLTID

MQTT クライアント ID を、この接続の IBM MQ ユーザー ID として使用するかどうかを指定します。これらのパラメーターの詳細については、[907 ページの『DEFINE CHANNEL \(MQTT\)』](#)を参照してください。

DISPLAY CHINIT

チャンネル・イニシエーターについての情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY CHINIT を使用します。コマンド・サーバーが稼働している必要があります。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

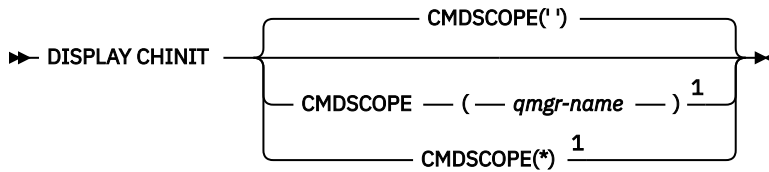
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1053 ページの『DISPLAY CHINIT の使用上の注意』](#)
- [1053 ページの『DISPLAY CHINIT のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS CHI または DIS DQM

➡➡ **DISPLAY CHINIT**



¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OSでのみ有効です。

1. このコマンドへの応答は、チャンネル・イニシエーターの現在状況を示す一連のメッセージです。その応答には、次の情報が含まれます。
 - チャンネル・イニシエーターは実行中かどうか。
 - 開始しているリスナー、およびそのリスナーについての情報。
 - 起動しているディスパッチャーの数、およびその要求数。
 - 開始しているアダプター・サブタスクの数、その要求数。
 - 開始している SSL サブタスクの数、その要求数。
 - TCP システム名。
 - 現行のチャンネル接続の数、および活動、停止、再試行のどの状態であるか。
 - 現行接続の最大数。

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

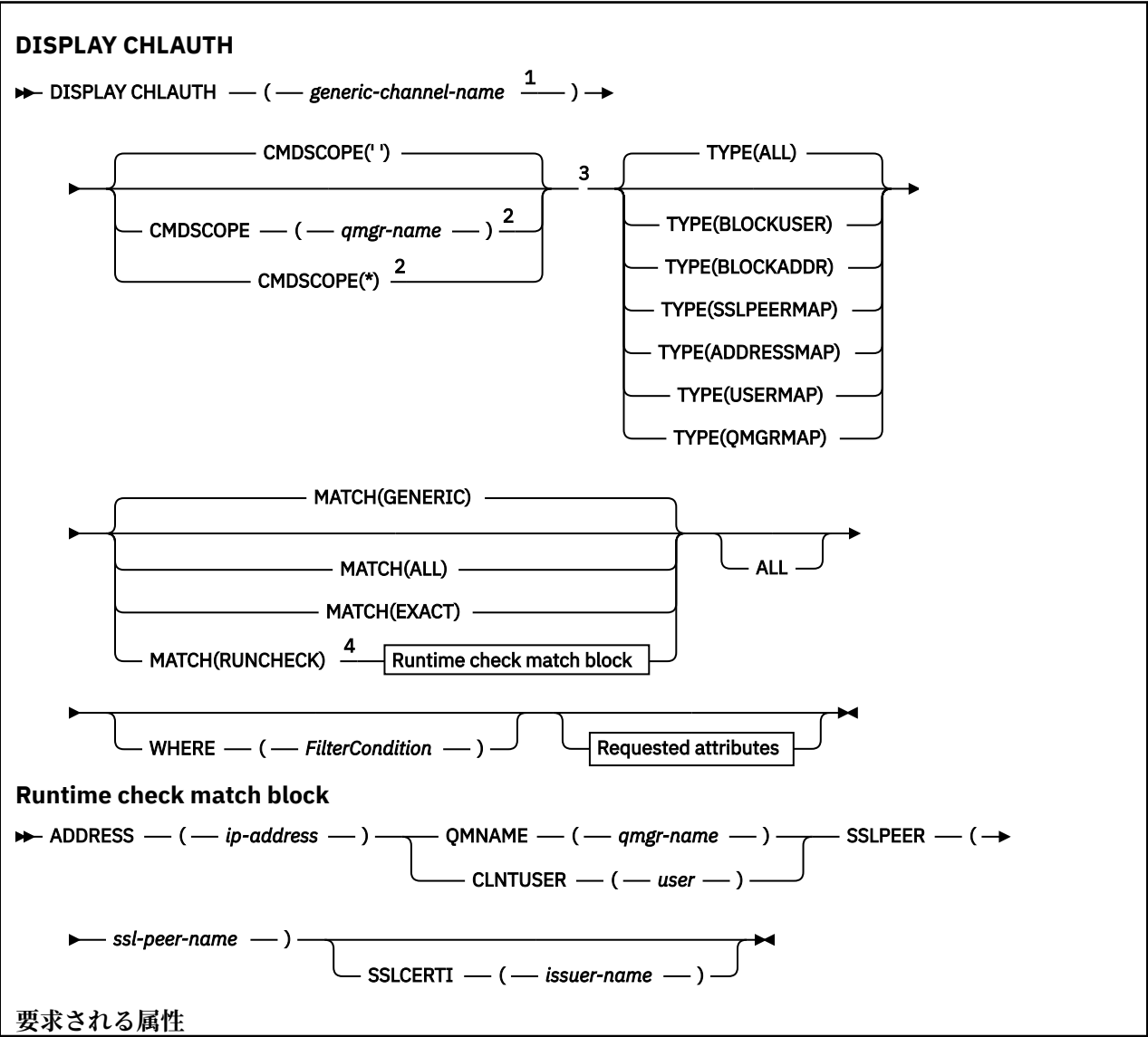
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

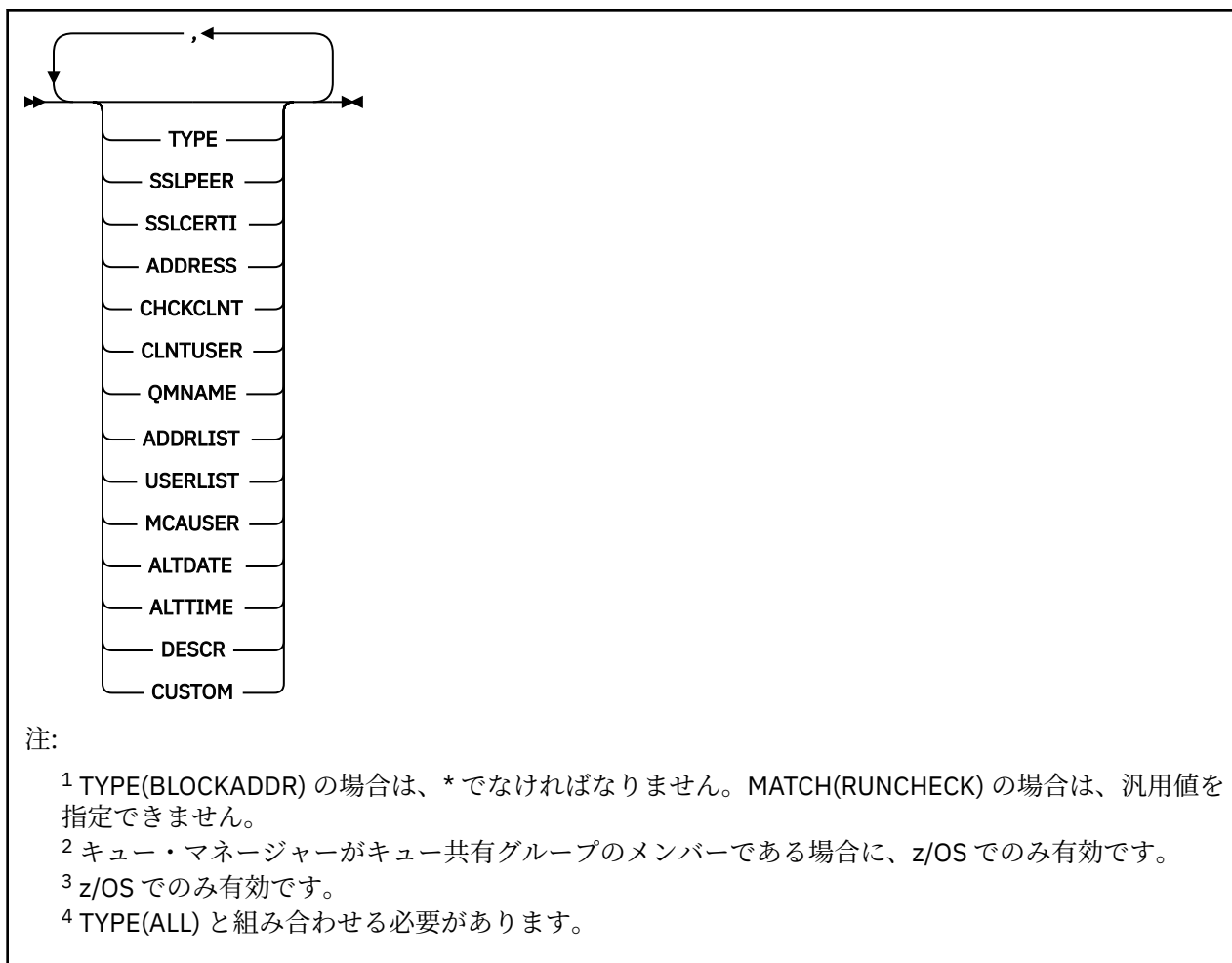
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [パラメーター](#)

同義語: DIS CHLAUTH





Parameters

generic-channel-name

表示するチャネルまたはチャネル・セットの名前。チャネル・セットを指定する場合は、アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用できます。z/OS でアスタリスクが使用される場合、単一引用符を使用して値全体を囲む必要があります。**MATCH** が **RUNCHECK** である場合、このパラメーターは総称にしないでください。

ADDRESS

マッチング対象の IP アドレス。

このパラメーターは、**MATCH** が **RUNCHECK** の場合にのみ有効です。汎用値もホスト名も指定することはできません。

ALL

すべての属性を表示する場合に、このパラメーターを指定します。このキーワードを指定すると、具体的に要求された属性はいずれも無効になり、すべての属性が表示されます。

総称名を指定せず、特定の属性も要求しない場合は、これがデフォルトの動作になります。

CLNTUSER

クライアント表明のユーザー ID。これは、新規ユーザー ID にマップされるか、未変更で許可されるか、またはブロックされます。

これには、クライアント・サイド・プロセスの実行に使用されるユーザー ID を示すクライアントからフローされたユーザー ID、または MQCSP を使用する MQCONNx 呼び出しに基づいてクライアントが提示するユーザー ID のいずれかを指定できます。

このパラメーターは、**Match** が RUNCHECK であるときに、TYPE(USERMAP) と共に指定した場合にのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_CLIENT_USER_ID_LENGTH です。

▶ z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

MATCH

適用するマッチングのタイプを指定します。

RUNCHECK

特定のインバウンド・チャネルがこのキュー・マネージャーに接続してきた場合に、実行時にそのチャネルと突き合わせるレコードを返します。以下に総称ではない値を指定することによって、インバウンド・チャネルを具体的に記述します。

- チャネル名。
- IP アドレスを含む **ADDRESS** 属性。キュー・マネージャーが **REVDNS(ENABLED)** を使用して構成されている場合に、ホスト名を検出するコマンドの実行の一部として逆引きされます。
- **SSLCERTI** 属性 (インバウンド・チャネルが SSL または TLS を使用する場合のみ)。
- **SSLPEER** 属性 (インバウンド・チャネルが SSL または TLS を使用する場合のみ)。
- **QMNAME** または **CLNTUSER** 属性 (インバウンド・チャネルがクライアント・チャネルかキュー・マネージャー・チャネルかによる)。

検出されたレコードの **WARN** が YES に設定されている場合は、2 番目のレコードも表示されて、実行時にチャネルが使用する実際のレコードが示されます。このパラメーターは、**TYPE(ALL)** と組み合わせて使用する必要があります。

EXACT

チャネル・プロファイル名の指定値と完全に一致するレコードだけを返します。チャネル・プロファイル名にアスタリスクが含まれていない場合は、このオプションで、MATCH(GENERIC) の場合と同じ出力が返されます。

GENERIC

チャネル・プロファイル名に含まれているアスタリスクは、ワイルドカードとして扱われます。チャネル・プロファイル名にアスタリスクが含まれていない場合は、MATCH(EXACT) の場合と同じ出力が返されます。例えば、プロファイルが ABC* とした場合、ABC、ABC*、および ABCD のレコードが返される結果となります。

ALL

チャネル・プロファイル名の指定値に合致するすべてのレコードを返します。この場合、チャネル名が総称名であれば、より具体的な一致項目が存在するとしても、チャネル名に合致するすべてのレコードが返されます。例えば、プロファイルが SYSTEM.*.SVRCONN であるなら、SYSTEM.*、SYSTEM.DEF.*、SYSTEM.DEF.SVRCONN、および SYSTEM.ADMIN.SVRCONN が返されます。

QMNAME

マッチング対象のリモート・パートナー・キュー・マネージャーの名前。

このパラメーターは、**MATCH** が RUNCHECK の場合にのみ有効です。汎用値を指定することはできません。

SSLCERTI

マッチング対象の証明書の証明書発行者の識別名。

SSLCERTI フィールドがブランクでない場合は、**SSLPEER** 値に加えてマッチングされます。

このパラメーターは、**MATCH** が RUNCHECK の場合にのみ有効です。汎用値を指定することはできません。

SSLPEER

マッチング対象の証明書のサブジェクト識別名。

SSLPEER 値は、識別名を指定するために使用する標準形式で指定します。

このパラメーターは、**MATCH** が RUNCHECK の場合にのみ有効です。汎用値を指定することはできません。

タイプ

詳細を表示するチャネル認証レコードのタイプ。指定可能な値は以下のとおりです。

- ALL
- BLOCKUSER
- BLOCKADDR
- SSLPEERMAP
- ADDRESSMAP
- USERMAP
- QMGRMAP

WHERE

フィルター条件を指定して、そのフィルター条件の選択基準を満たすチャネル認証レコードだけを表示します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

これは、指定されたフィルター・キーワードでチャネル認証レコードがフィルター値にかなうかどうかを判断するために使用されます。演算子は、以下のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれていません。

CTG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、属性が総称ストリングに一致するオブジェクトを表示するためにこれを使用できます。

EXG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合、これを使用して、属性が総称ストリングに一致しないオブジェクトを表示できます。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は、明示的な値または汎用的な値のいずれかになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

LK および NL を除くすべての演算子を使用できます。ただし、値がパラメーターで返すことのできる値セットに含まれている値である場合 (例えば、MATCH パラメーターの値 ALL などの場合) は、EQ または NE だけを使用できます。

- 総称値。これは、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリングで、例えば ABC* のようになります。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

汎用値の場合は、演算子として LK または NL だけを使用できます。

- 値リストの中の項目です。値は明示的にできますが、値が文字値の場合は明示的または総称にすることができます。明示的に指定する場合、演算子には CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。総称の場合、演算子には CTG または EXG を使用します。演算子 CTG に ABC* を指定した場合、属性値の 1 つが ABC で始まるすべての項目のリストが表示されます。

注:  z/OS では、MQSC **WHERE** 節の *filter-value* に 256 文字の長さ制限があります。この制限は他のプラットフォームには適用されません。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

タイプ

チャンネル認証レコードのタイプ。

SSLPEER

証明書の識別名。

ADDRESS

IP アドレス。

CHCKCLNT

ユーザー ID とパスワードが、このルールに一致する接続から提供される必要があるかどうか。

CLNTUSER

クライアント表明ユーザー ID。

QMNAME

リモート・パートナー・キュー・マネージャーの名前。

MCAUSER

インバウンド接続が、SSL DN、IP アドレス、クライアント表明ユーザー ID、リモート・キュー・マネージャー名の指定値と一致するときに使用するユーザー ID。

ADDRLIST

どのチャンネルからでもこのキュー・マネージャーに接続することを禁止する IP アドレス・パターンのリスト。

USERLIST

このチャンネルまたはチャンネル・セットの使用を禁止するユーザー ID のリスト。

ALTDATE

チャンネル認証レコードが最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

ALTTIME

チャンネル認証レコードが最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

DESCR

チャンネル認証レコードの記述情報。

SSLCERTI

マッチング対象の証明書の証明書発行者の識別名。

カスタム

今後の使用のために予約されています。

関連情報

[チャンネル認証レコード](#)

汎用 IP アドレス

チャンネル認証レコードを作成および表示する各種コマンドでは、単一の IP アドレスか IP アドレスのセットに対応するパターンのどちらかで特定のパラメーターを指定できます。

MQSC コマンド SET CHLAUTH または PCF コマンド Set Channel Authentication Record を使用してチャンネル認証レコードを作成するときに、さまざまなコンテキストで汎用 IP アドレスを指定できます。 コマンド DISPLAY CHLAUTH または Inquire Channel Authentication Records を使用してチャンネル認証レコードを表示するときに、フィルター条件に総称 IP アドレスを指定することもできます。

以下のいずれかの方法でアドレスを指定できます。

- 単一の IPv4 アドレス (例えば 192.0.2.0)
- ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含む IPv4 アドレスに基づくパターン。ワイルドカードは、コンテキストに応じてアドレスの 1 つ以上の部分を表します。例えば、以下はすべて有効な値です。
 - 192.0.2.*
 - 192.0.*
 - 192.0.*.2
 - 192.*.2
 - *
- 範囲を示すハイフン (-) を含む IPv4 アドレスに基づくパターン (例: 192.0.2.1-8)。
- アスタリスクとハイフンの両方を含む IPv4 アドレスに基づくパターン (例: 192.0.*.1-8)。
- 単一の IPv6 アドレス (例: 2001:DB8:0:0:0:0:0:0)。
- ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含む IPv6 アドレスに基づくパターン。ワイルドカードは、コンテキストに応じてアドレスの 1 つ以上の部分を表します。例えば、以下はすべて有効な値です。
 - 2001:DB8:0:0:0:0:0:*
 - 2001:DB8:0:0:0:0:*
 - 2001:DB8:0:0:0:0:*.0:1
 - 2001:*.1

- *

- 範囲を示すハイフン (-) を含む IPv6 アドレスに基づくパターン (例: 2001:DB8:0:0:0:0:0-8)。
- アスタリスクとハイフンの両方を含む IPv6 アドレスに基づくパターン (例: 2001:DB8:0:0:0:0:*:0:0-8)。

使用するシステムが IPv4 と IPv6 の両方をサポートしている場合は、どちらのアドレス・フォーマットも使用できます。IBM MQ は IPv6 内の IPv4 個のマップされたアドレスを認識します。

以下のような特定のパターンは無効です。

- 末尾に単一のアスタリスクを付けたパターンでない限り、パターンを構成するパートの数を所定の必須パート数よりも少なくすることはできません。例えば、192.0.2 は無効ですが、192.0.2.* は有効です。
- 末尾のアスタリスクは、適切な分離文字 (IPv4 の場合はドット (.)、IPv6 の場合はコロン (:)) を使用して、アドレスの他の部分から切り離す必要があります。例えば、「192.0*」というパターンは、アスタリスクが他のパートと分けられていないため無効です。
- 末尾のアスタリスクに隣接していないかぎり、パターンに追加のアスタリスクを含めることができます。例えば、192.*.2.* は有効ですが、192.0.** 無効です。
- IPv6 アドレス・パターンに、二重のコロンと末尾のアスタリスクを指定することはできません。解釈されるアドレスがあいまいになるためです。例えば、2001::* は、2001:0000:*、2001:0000:0000:* などと拡張解釈することができます。

関連情報

[MCAUSER ユーザー ID への IP アドレスのマッピング](#)

DISPLAY CHSTATUS

MQSC コマンド DISPLAY CHSTATUS は、1 つ以上のチャネルの状況を表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

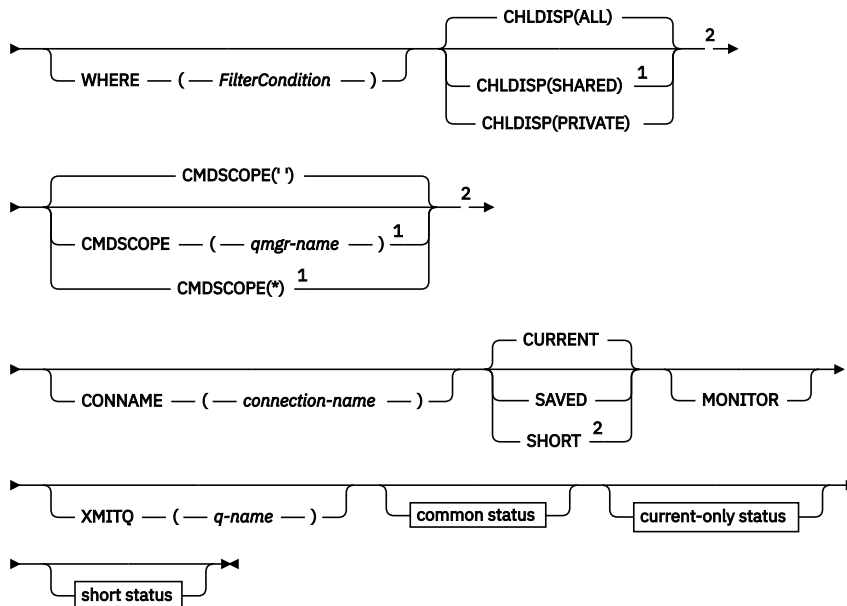
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
-  [1063 ページの『DISPLAY CHSTATUS の使用上の注意』](#)
- [1064 ページの『DISPLAY CHSTATUS のパラメーターの説明』](#)
- [1069 ページの『要約属性』](#)
- [1069 ページの『Common status』](#)
- [1072 ページの『Current-only status』](#)
-  [1079 ページの『Short status』](#)

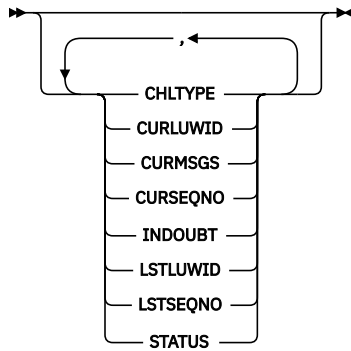
同義語: DIS CHS

DISPLAY CHSTATUS

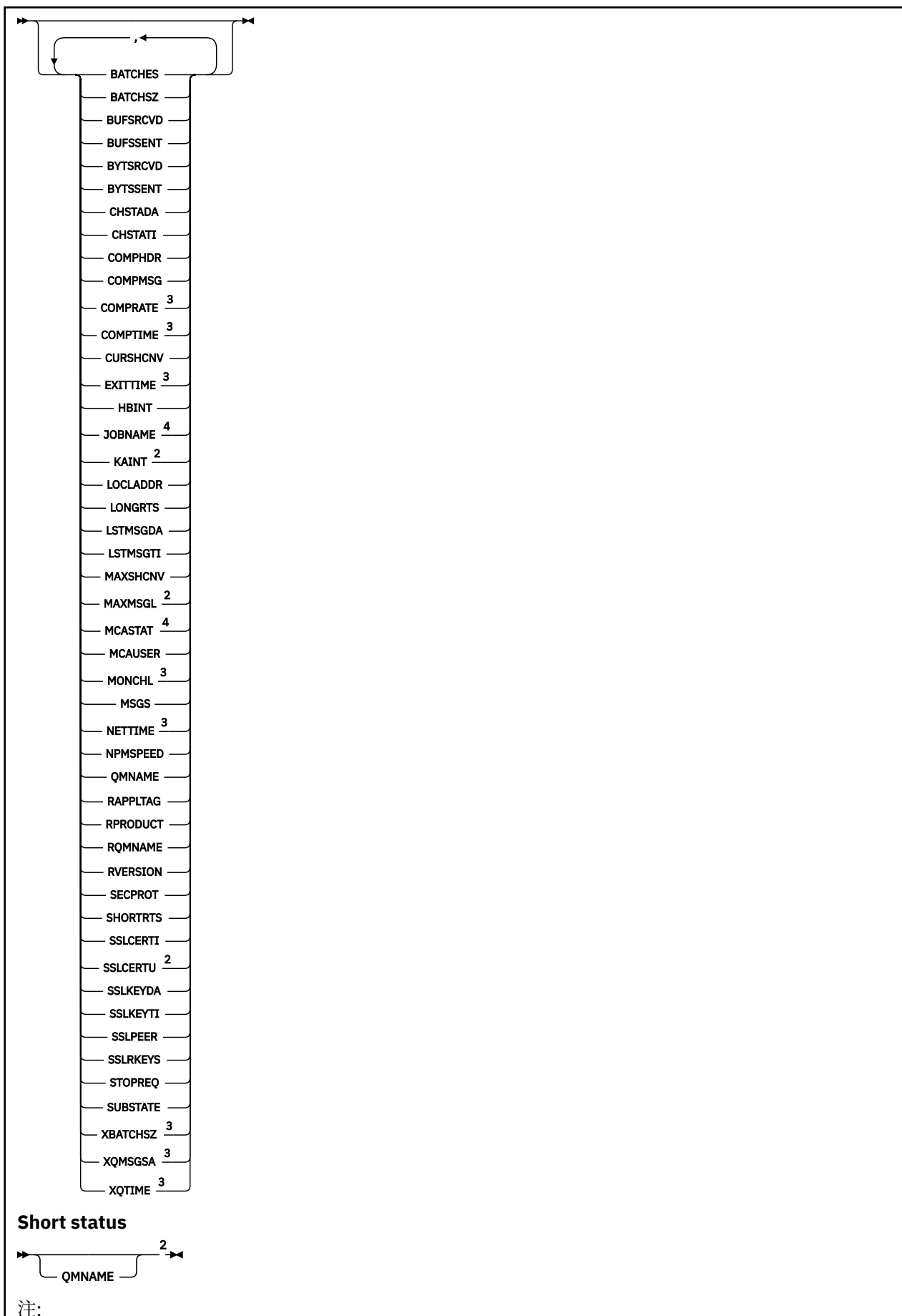
►► DISPLAY CHSTATUS — (— *generic-channel-name* —) →



Common status



Current-only status



- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
² z/OS でのみ有効です。
³ MONITOR パラメーターを選択することによっても表示されます。
⁴ z/OS では、指定されても無視されます。

DISPLAY CHSTATUS の使用上の注意

z/OS z/OS: の場合

1. チャンネル・イニシエーターが開始されていない場合、このコマンドは失敗します。
2. コマンド・サーバーが稼働している必要があります。
3. チャンネルの全体的な状況 (つまり、キュー共有グループの状況)を確認するには、コマンド **DISPLAY CHSTATUS SHORT** を使用します。このコマンドは、Db2 からチャンネルの状況情報を取得します。
4. 999,999,999 を超える数値パラメーターはすべて 999999999 と表示されます。
5. CHLDISP、CMDSCOPE および状況タイプのさまざまな組み合わせに対して返される状況情報は、[1063 ページの表 70](#)、[1063 ページの表 71](#)、および [1064 ページの表 72](#) に要約されています。

z/OS

表 70. DISPLAY CHSTATUS CURRENT に CHLDISP および CMDSCOPE を指定した場合

CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの共通状況および現在のみの状況	指定されたキュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの共通状況および現在のみの状況	すべてのキュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの共通状況および現在のみの状況
SHARED	ローカル・キュー・マネージャー上の現行共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	指定されたキュー・マネージャー上の現行共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	すべてのキュー・マネージャー上の現行共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況
ALL	ローカル・キュー・マネージャー上の現行の専用チャンネルと共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	指定されたキュー・マネージャー上の現行の専用チャンネルと共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	アクティブなすべてのキュー・マネージャー上の現行の専用チャンネルと共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況

z/OS

表 71. DISPLAY CHSTATUS SHORT に CHLDISP および CMDSCOPE を指定した場合

CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上にある現在の専用チャンネルの STATUS および状況の要約	指定したキュー・マネージャー上にある現在の専用チャンネルの STATUS および状況の要約	すべてのアクティブなキュー・マネージャー上にある現在の専用チャンネルの STATUS および状況の要約
SHARED	キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャー上にある現在の共有チャンネルの STATUS および状況の要約	許可されない	許可されない

表 71. DISPLAY CHSTATUS SHORT に CHLDISP および CMDSCOPE を指定した場合 (続き)			
CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
ALL	ローカル・キュー・マネージャー上にある現在の専用チャンネルおよびキュー共用グループ内の現在の共用チャンネルの STATUS および状況の要約 (1064 ページの『5.a』)	指定したキュー・マネージャー上にある現在の専用チャンネルの STATUS および状況の要約	キュー共用グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャー上にある現在の専用チャンネルと共用チャンネルの STATUS および状況の要約 (1064 ページの『5.a』)

注:

- a. この場合、コマンドが入力されたキュー・マネージャー上でコマンドに対する 2 セットの個別の応答 (PRIVATE に対する応答と SHARED に対する応答) を受け取ります。



表 72. DISPLAY CHSTATUS SAVED に CHLDISP および CMDSCOPE を指定した場合			
CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況	指定されたキュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況	アクティブなすべてのキュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況
SHARED	キュー共用グループにおけるアクティブなすべてのキュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況	許可されない	許可されない
ALL	ローカル・キュー・マネージャー上の保存専用チャンネルおよびキュー共用グループの保存専用チャンネルの共通状況	指定されたキュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況	キュー共用グループにおけるアクティブなすべてのキュー・マネージャー上の保存専用チャンネルおよび共用チャンネルの共通状況

DISPLAY CHSTATUS のパラメーターの説明

状況情報を表示するチャンネルの名前を指定する必要があります。指定できる名前は、特定のチャンネル名または総称チャンネル名です。総称チャンネル名を使用することにより、すべてのチャンネルの状況情報、または指定した名前と一致する 1 つ以上のチャンネルの状況情報のいずれかを表示できます。

現在の状況データ (現在のチャンネルのみ) とすべてのチャンネルの保存された状況データのどちらが必要かを指定することもできます。

手動と自動のどちらの方法で定義されたチャンネルでも、選択基準と一致するすべてのチャンネルの状況が表示されます。

チャンネル状況に使用可能なデータのクラスは、**保存、現在** 、および (z/OS のみで) 要約です。

保存データに使用可能な状況フィールドは、現行データに使用可能なフィールドのサブセットであり、**共通状況**フィールドと呼びます。共通データのフィールドは同じでも、データの値そのものは、保存状況と現行状況とで異なる可能性があります。その他の現行データに使用可能なフィールドは、**現在のみの状況**フィールドと呼びます。

• **保存データ**は、構文図に示されている共通状況フィールドで構成されます。

- 送信側チャンネルの場合、メッセージのバッチを受信したことの確認を要求する前、および確認を受信したときに、データは更新されます。

- 受信側チャンネルの場合、メッセージのバッチを受信したことを確認する直前に、データはリセットされます。
- サーバー接続チャンネルの場合、データは保存されません。
- したがって、現在のチャンネルになったことがないチャンネルでは、保存された状況はありません。

注: 持続メッセージがチャンネルを超えて伝送される、または非持続メッセージが **NORMAL** の **NPMSPEED** で伝送されるまで、状況は保存されません。状況が保存されるのは各バッチが終了するときであるため、少なくとも1つのバッチが送信されるまで、チャンネルには保存された状況は存在しません。

- **現在のデータ**は、構文図に示されているように、共通状況フィールドおよび現在のみの状況フィールドで構成されます。データ・フィールドは、メッセージが送受信されるたびに引き続き更新されます。
-  **要約データ**は、構文図に示されているように、**STATUS** 現在のデータ項目および状況の要約フィールドで構成されます。

この操作方法では、結果は次のようになります。

- 非アクティブ・チャンネルは、現行になったことがない場合、または保存状況がリセットされる時点にまだ達していない場合は、保存状況を持っていないことがあります。
- 保存状況と現行状況では、「共通」データ・フィールドの値が異なる可能性があります。
- 現行チャンネルには常に現行状況がありますが、保存状況はある場合とない場合があります。

チャンネルには、現行チャンネルと非アクティブ・チャンネルがあります。

現行チャンネル

このチャンネルは、開始しているチャンネル、またはクライアントが接続したチャンネル、および完了していないまたは正常に切断していないチャンネルです。これらはまだ、メッセージやデータを転送するポイント、またはパートナーとの連絡を確立するポイントにも達していない可能性があります。現在のチャンネルは、**現在の状況**を持ち、**保存された状況**を持つこともあります。

アクティブという語は、停止していない現在のチャンネルのセットを表すために使用されます。

非アクティブ・チャンネル

これは次のいずれかのチャンネルです。

- 開始していない
- クライアントが接続していない
- 完了している
- 正常に切断した

(チャンネルが停止している場合は、その時点ではまだ正常に完了したとは見なされないため、引き続き現在のチャンネルであることに注意してください。) 非アクティブ・チャンネルには、**保存された状況**があるか、状況がまったくないかのいずれかです。

同じ名前の受信側チャンネル、要求側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、またはサーバー接続チャンネルの複数のインスタンスを、同時に現在のインスタンスにすることができます (要求側が受信側として機能します)。これは、異なるキュー・マネージャーにある複数の送信側がそれぞれに、この受信側とのセッションを同一のチャンネル名を使用して開始する場合に生じます。他のタイプのチャンネルの場合は、常に現行のインスタンスが1つのみ存在します。

しかし、すべてのチャンネル・タイプについて、1つのチャンネル名に対して複数の保存された状況情報のセットを使用できます。これらのセットのうち1つのみがチャンネルの現行インスタンスに関連し、残りのセットは以前の現行インスタンスに関連しています。同一のチャンネルに複数の異なる伝送キュー名や接続名が使用されていると、複数のインスタンスが生成されます。これは次の場合に起こります。

- 送信側またはサーバー側:
 - 異なる複数の要求側により、同一のチャンネルが接続されている (サーバーのみ)
 - 伝送キュー名が定義で変更されている
 - 定義内で接続名が変更されている
- 受信側または要求側:

- 異なる複数の送信側またはサーバーにより、同一のチャンネルが接続されている
- 定義内で接続名が変更されている (接続を開始した要求側チャンネルの場合)

チャンネルに対して表示されるセット数は、XMITQ、CONNNAME、および CURRENT パラメーターを指定したコマンドを使用して制限できます。

(*generic-channel-name*)

どのチャンネルの状況情報を表示するかを、チャンネル定義名で指定します。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのチャンネル定義名と一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべてのチャンネル定義を意味します。すべてのチャンネル・タイプに値が 1 つ必要です。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすチャンネルの状況情報を表示するようにフィルター条件を指定します。

フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用されるパラメーターです。

ただし、分散プラットフォームでは、COMPRATE、COMPTIME、CURRENT、EXITTIME、JOBNAME、NETTIME、SAVED、SHORT、XBATCHSZ、または XQTIME パラメーターをフィルター・キーワードとして使用することはできません。

 また、z/OS では、CHLDISP、CMDSCOPE、MCASTAT、または MONITOR パラメーターをフィルター・キーワードとして使用することはできません。

CONNNAME または XMITQ は、チャンネル状況の選択にも使用される場合は、フィルター・キーワードとして使用できません。

フィルター・キーワードが有効でないタイプのチャンネルの状況情報は表示されません。

operator

チャンネルがフィルター・キーワードのフィルター値を満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれていません。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、CHLTYPE パラメーターの値 SDR など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリングで、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

- 値リストの中の項目です。演算子として CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。

ALL

関係のあるそれぞれのインスタンスのすべての状況情報を表示するには、これを指定してください。

SAVED を指定すると、共通状況情報のみが表示され、現在のみの状況情報は表示されません。

このパラメーターを指定すると、特定の状況情報を要求するために同時に指定されたすべてのパラメーターが無効になり、すべての情報が表示されます。

z/OS CHLDISP

このパラメーターは z/OS にのみ適用され、QSGDISP で設定されたものでなく、START および STOP CHANNEL コマンドで使用される、情報を表示するチャンネルの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

ALL

これはデフォルト値であり、専用チャンネルについて要求された状況情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドを発行したキュー・マネージャーでコマンドが実行される場合や CURRENT が指定されている場合、このオプションは共有チャンネルの要求された状況情報も表示します。

PRIVATE

専用チャンネルについて要求された状況情報を表示します。

SHARED

共有チャンネルについて要求された状況情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在し、次のいずれかの条件が満たされる場合にのみ有効です。

- CMDSCOPE がブランク、すなわちローカル・キュー・マネージャーである。
- CURRENT が指定されている。

CHLDISP では、次の値が表示されます。

PRIVATE

専用チャンネルの状況。

SHARED

共有チャンネルの状況。

FIXSHARED

特定のキュー・マネージャーに関連付けられた共有チャンネルの状況。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

注: CHLDISP と CMDSCOPE の許可されている組み合わせについては、[表 1](#)、[表 2](#)、および [表 3](#) を参照してください。

CONNNAME(connection-name)

指定されたチャンネル (複数も可) について、どの接続名の状況情報を表示するかを指定します。

このパラメーターを使用することにより、表示される状況情報の組数を制限することができます。これを指定しない場合、表示制限はありません。

CONNNAME に対して戻される値は、チャンネル定義の値と同じでないことがあります。また、現行チャンネル状況と保管チャンネル状況の間で異なることがあります。(したがって、CONNNAME を使用して状況の組数を制限することはお薦めしません。)

例えば、TCP を使用している場合、チャンネル定義の CONNNAME は以下のようになります。

- ブランクまたは "「ホスト名」" 形式の場合、チャンネル状況の値には解決済みの IP アドレスが設定されます。
- ポート番号が指定されている場合、現行チャンネル状況の値にはポート番号が含まれますが
 (z/OS の場合を除く)、保管チャンネル状況の値には含まれません。

SAVED  または SHORT 状況の場合は、この値をリモート・システムのキュー・マネージャー名、あるいはキュー共有グループ名にすることもできます。

CURRENT

これはデフォルト値であり、現行チャンネルのチャンネル・イニシエーターによって保持されている現在状況情報のみを表示します。

共通状況情報と現在のみの状況情報の両方を、現行チャンネルに要求できます。

このパラメーターが指定されている場合は、状況の要約情報は表示されません。

SAVED

現行チャンネルと非アクティブ・チャンネルの保管済み状況情報を表示するには、これを指定してください。

共通状況情報のみ表示できます。このパラメーターが指定されている場合は、現行チャンネルの状況の要約情報、および現在のみの状況情報は表示されません。

SHORT

これを指定すると、現行チャンネルの状況の要約情報と STATUS 項目だけが表示されます。

このパラメーターが指定されている場合は、現行チャンネルの他の共通情報、および現在のみの状況情報は表示されません。

MONITOR

オンライン・モニター・パラメーターのセットを戻す場合には、これを指定してください。これらは、COMPRATE、COMPTIME、EXITTIME、MONCHL、NETTIME、XBATCHSZ、XQMSGSA、および XQTIME

です。このパラメーターを指定すると、個別に要求するモニター・パラメーターによる影響はなくなり、すべてのモニター・パラメーターが引き続き表示されます。

XMITQ(q-name)

指定したチャンネル (複数も可) について、どの伝送キューの状況情報を表示するかを指定します。

このパラメーターを使用することにより、表示される状況情報の組数を制限することができます。これを指定しない場合、表示制限はありません。

状況情報のどの組についても、次の情報が必ず表示されます。

- チャンネル名
- 伝送キュー名 (送信側チャンネルとサーバー・チャンネル)
- 接続名
- リモート・キュー・マネージャー名、またはキュー共有グループ名 (現行状況の場合のみ、およびサーバー接続チャンネルを除くすべてのチャンネル・タイプの場合)
- リモート・パートナー・アプリケーション名 (サーバー接続チャンネルの場合)
- 戻される状況情報のタイプ (CURRENT、SAVED 、または z/OS でのみ SHORT)
- STATUS  (z/OS では SAVED を除く)
-  z/OS では、CHLDISP
- STOPREQ (現行状況の場合のみ)
- SUBSTATE

特定の状況情報を要求するパラメーターが 1 つも指定されていない (かつ、ALL パラメーターも指定されていない) 場合は、これ以外の情報は表示されません。

特定のチャンネル・タイプと関係のない状況情報を要求した場合には、エラーとなります。

要約属性

SUMMARY または TOTAL が MQSC コマンド DISPLAY CHSTATUS に追加された場合、CONVS 属性として会話の数が表示されます。以下の属性には、SUMMARY が指定されている場合はチャンネルごとの要約が、TOTAL が指定されている場合はすべてのチャンネルの要約が表示されます。

ALL

関係のあるそれぞれのインスタンスのすべての状況情報を表示するには、これを指定してください。この属性は、属性が要求されていない場合のデフォルト値です。

SAVED を指定すると、共通状況情報のみが表示され、現在のみの状況情報は表示されません。

このパラメーターを指定すると、特定の状況情報を要求するために同時に指定されたすべてのパラメーターが無効になり、すべての情報が表示されます。

CURCNV

現在の会話の数。

Common status

次に述べる事柄は、チャンネル状況情報のすべての組に (その組が現行の組かどうかには関係なく) 該当します。この情報の中には、サーバー接続チャンネルには適用されないものもあります。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。これは、以下のいずれかになります。

SDR

送信側チャンネル

SVR

サーバー・チャンネル

RCVR

受信側チャンネル

RQSTR

要求側チャンネル

CLUSSDR

クラスター送信側チャンネル

CLUSRCVR

クラスター受信側チャンネル

SVRCONN

サーバー接続チャンネル

 AMQP

AMQP チャンネル

CURLUWID

送信側チャンネルでも受信側チャンネルでも、現バッチと関連付けられている作業論理単位 ID。

送信側チャンネルでチャンネルが未確定であれば、未確定バッチの LUWID です。

保管チャンネル・インスタンスの場合、このパラメーターは、そのチャンネル・インスタンスが未確定の場合にのみ意味を持ちます。ただし、チャンネル・インスタンスが未確定でなくても、要求があれば、パラメーター値は表示されます。

次のバッチの LUWID が明らかになると、その値で更新されます。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

CURMSG

送信側チャンネルの場合、これは現在のバッチで送信されたメッセージの数です。メッセージが 1 つ送信されるたびに値が大きくなります。チャンネルが未確定になったときは、未確定のメッセージの数を表します。

保管チャンネル・インスタンスの場合、このパラメーターは、そのチャンネル・インスタンスが未確定の場合にのみ意味を持ちます。ただし、チャンネル・インスタンスが未確定でなくても、要求があれば、パラメーター値は表示されます。

受信側チャンネルの場合、これは現在のバッチで受信されたメッセージの数です。メッセージを 1 つ受信するたびに、値が増分されます。

送信側チャンネルの場合も受信側チャンネルの場合も、バッチがコミットされると、この値はゼロにリセットされます。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

CURSEQNO

送信側チャンネルでは、最後に送信したメッセージのメッセージ順序番号です。メッセージが 1 つ送信されるたびに更新されます。チャンネルが未確定になったときは、未確定バッチ中の最後のメッセージのメッセージ順序番号です。

保管チャンネル・インスタンスの場合、このパラメーターは、そのチャンネル・インスタンスが未確定の場合にのみ意味を持ちます。ただし、チャンネル・インスタンスが未確定でなくても、要求があれば、パラメーター値は表示されます。

受信側チャンネルでは、受信された最後のメッセージのメッセージ順序番号です。メッセージが 1 つ受信されるたびに更新されます。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

INDOUBT

チャンネルが現在未確定かどうか。

メッセージ送付チャンネル・エージェントが送信したバッチ・メッセージを正常に受信したことの肯定応答を待っている間にかぎり、これが YES となります。メッセージを送信している間も含めて (肯定応答を要求する前)、その他の時には NO です。

受信側チャンネルでは、この値は常に NO です。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

LSTLUWID

転送が済んでコミットされた最後のメッセージ・バッチと関連付けられている、作業論理単位 ID。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

LSTSEQNO

コミットされた最後のバッチ中の最後のメッセージのメッセージ順序番号。この番号は、NPMSPEED が FAST に指定されたチャンネルを使用する非持続メッセージでは増分されません。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

状況

チャンネルの現行状況。これは、以下のいずれかになります。

BINDING

チャンネルがチャンネル折衝を行っていますが、メッセージ転送の準備ができていません。

INITIALIZING

チャンネル・イニシエーターは、チャンネルの開始を試行中です。



z/OS では、これは INITIALIZI として表示されます。

PAUSED

チャンネルが、MQPUT 操作を再試行する前にメッセージ再試行間隔が完了するのを待機している。

REQUESTING

ローカル要求側チャンネルが、リモート MCA にサービスを要求しています。

RETRYING

接続を確立しようとした直前の試行が失敗しました。MCA は、指定時間の経過後再び接続を試みます。

実行中

チャンネルは、現在、メッセージの転送中です。あるいは、転送の前段階として、伝送キューにメッセージが着信するのを待っています。

STARTING

チャンネル開始の要求が出されましたが、チャンネルで処理を開始していません。チャンネルがこの状態にあるのは、アクティブになるのを待っているときです。

STOPPED

この状態は、次のいずれかによって起こります。

- チャンネルが手動で停止された。
ユーザーがこのチャンネルに対して停止コマンドを出した。
- 再試行の限度に達した。

MCA は接続の確立を試みて、再試行回数の限度に達した。接続の自動確立のための再試行はありません。

この状態のチャンネルを再始動するには、START CHANNEL コマンドを実行しなければなりません。あるいは、オペレーティング・システムに定める方法で、MCA プログラムを始動しなければなりません。

STOPPING

チャンネルは停止しようとしています。または、クローズ要求が受信されました。

SWITCHING

チャンネルは伝送キューの切り替え中です。



z/OS では、保管データが要求された場合は STATUS が表示されません。

分散プラットフォームでは、保存データで戻される STATUS フィールドの値は、保存される状況が書き込まれた時点のチャンネルの状況です。通常、保存される状況の値は RUNNING です。チャンネルの現行状況を表示するために、DISPLAY CHSTATUS CURRENT コマンドを使用できます。

注：非アクティブ・チャンネルの CURMSGs、CURSEQNO、および CURLUWID は、チャンネルが INDOUBT である場合にしか有効な情報ではありません。ただし、これらはそのまま表示され、要求すれば戻されます。

Current-only status

次に述べる事柄は、現行チャンネル・インスタンスにのみ該当します。また、特に断りのない限り、すべてのチャンネル・タイプに該当します。

V8.0.0.4 AMQPKA

AMQP チャンネルのキープアライブ時間 (秒単位)。AMQP クライアントがキープアライブ間隔内にフレームをまったく送信しなかった場合、接続は `amqp:resource-limit-exceeded` AMQP エラー状態で閉じられます。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が AMQP のチャンネルにのみ有効です。

BATCHES

このセッション中 (チャンネルが開始されてから以後) に完了したバッチの数。

BATCHSZ

このセッションで使用されるバッチ・サイズ。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されず、値は戻されません。コマンドに指定されている場合は、無視されます。

BUFSRCVD

受信された送信バッファの数。これには、制御情報のみを受信する伝送が含まれます。

BUFSSENT

送信された送信バッファの数。これには、制御情報のみを送信する伝送が含まれます。

BYTSRCVD

このセッション中 (チャンネルが開始されてから以後) に受信されたバイト数。これには、メッセージ・チャンネル・エージェントによって受信された制御情報が含まれます。

BYTSSENT

このセッション中 (チャンネルが開始されてから以後) に送信されたバイト数。これには、メッセージ・チャンネル・エージェントによって送信された制御情報が含まれます。

CHSTADA

このチャンネルが開始した日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

CHSTATI

このチャンネルが開始した時刻 (hh.mm.ss の形式)。

COMPHDR

チャンネルによって送信されるヘッダー・データの圧縮に使用される手法。次の 2 つの値が表示されます。

- このチャンネルで折衝されるデフォルトのヘッダー・データ圧縮値。
- 最後に送信されたメッセージで使用されたヘッダー・データ圧縮値。ヘッダー・データ圧縮値は、送信側チャンネルのメッセージ出口で変更できます。送信されるメッセージがない場合は、2 番目の値がブランクになります。

COMPMSG

チャンネルによって送信されるメッセージ・データの圧縮に使用される手法。次の 2 つの値が表示されます。

- このチャンネルで折衝されるデフォルトのメッセージ・データ圧縮値。
- 最後に送信されたメッセージで使用されたメッセージ・データ圧縮値。メッセージ・データ圧縮値は、送信側チャンネルのメッセージ出口で変更できます。送信されるメッセージがない場合は、2 番目の値がブランクになります。

COMPRATE

最近似値パーセントに表示される達成された圧縮率。比率が 25 である場合、メッセージが元の長さの 75% に圧縮されていることを示します。

次の 2 つの値が表示されます。

- 短期間における最近のアクティビティーに基づく最初の値。
- 長期間におけるアクティビティーに基づく 2 番目の値。

これらの値は、チャンネルが開始するごとに毎回リセットされ、チャンネルの STATUS が RUNNING の場合にのみ表示されます。モニター・データが収集されていない場合、またはチャンネルがメッセージを送信していない場合は、値がブランクとして表示されます。

このパラメーターの値は、MONCHL がこのチャンネルに設定されている場合のみ表示されます。1079 ページの『モニター値の設定』を参照してください。

COMPTIME

メッセージごとの圧縮または圧縮解除の間に経過した時間 (マイクロ秒で表示)。次の 2 つの値が表示されます。

- 短期間における最近のアクティビティーに基づく最初の値。
- 長期間におけるアクティビティーに基づく 2 番目の値。

注：  z/OS では、COMPTIME は、メッセージをセグメントで処理する必要がない場合の、各メッセージの時間の長さです。

z/OS におけるメッセージのセグメント化は、メッセージが以下の場合に発生します。

- 32 KB 以上の大きさである
- 16 KB 以上の大きさであり、チャンネルが SSL 暗号化されている

メッセージがセグメントに分割されている場合、COMPTIME は各セグメントの圧縮に費やした時間になります。これはつまり、8 セグメントに分割されたメッセージは、実際には圧縮または圧縮解除の間に (COMPTIME * 8) マイクロ秒を費やしていることを意味します。

このパラメーターの値は、MONCHL がこのチャンネルに設定されている場合のみ表示されます。1079 ページの『モニター値の設定』を参照してください。

CURSHCNV

CURSHCNV 値は、サーバー接続チャンネル以外のすべてのチャンネル・タイプでブランクです。サーバー接続チャンネルのインスタンスごとに、CURSHCNV 出力はそのチャンネル・インスタンス上で現在実行中の会話数のカウントを示します。

値ゼロは、以下の点に関して、チャンネルがバージョン 7.0 より前のバージョンの IBM MQ の場合と同様に実行されていることを示します。

- 管理者の停止と静止
- ハートビート中
- 先読み
- 共有会話
- クライアント非同期コンシューム

EXITTIME

各メッセージあたりにユーザー出口の処理に費やされた、マイクロ秒単位で表示される時間。次の 2 つの値が表示されます。

- 短期間における最近のアクティビティーに基づく最初の値。
- 長期間におけるアクティビティーに基づく 2 番目の値。

これらの値は、ご使用のシステムの構成および振る舞い、およびシステム内のアクティビティーのレベルによって異なり、システムが正常に実行していることを示す指標の役割を担います。これらの値に大きな変動がある場合は、システムで問題が発生したことを示します。これらの値は、チャンネルが開始するごとに毎回リセットされ、チャンネルの STATUS が RUNNING の場合にのみ表示されます。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、MONCHL がこのチャンネルに設定されている場合のみ表示されます。1079 ページの『モニター値の設定』を参照してください。

HBINT

このセッションで使用されているハートビート間隔。

JOBNAME

現在、チャンネルを提供してホスティングしている MQ プロセスを識別する名前。

- IBM i、Windows、および UNIX および Linux システムでは、この名前は、16 進数で表示される MCA プログラムのプロセス ID とスレッド ID を連結したものです。

z/OS この情報は、z/OS では使用できません。パラメーターは、指定しても無視されます。

z/OS z/OS では、JOBNAME をフィルター・キーワードとしては使用できません。

z/OS KAINIT

このセッションで使用されるキープアライブの間隔。これは、z/OS でのみ有効です。

LOCLADDR

チャンネルのローカル通信アドレス。戻される値は、チャンネルの TRPTYPE によって異なります (現在は TCP/IP だけがサポートされています)。

LONGRTS

長期再試行待機の開始試行残数。これは送信側チャンネルとサーバー・チャンネルにのみ適用されます。

LSTMSGDA

最後のメッセージが送信された日付、または MQI 呼び出しが処理された日付。LSTMSGTI を参照してください。

LSTMSGTI

最後のメッセージが送信された時刻、または MQI 呼び出しが処理された時刻。

送信側またはサーバーの場合、これは最後のメッセージ (メッセージが分割されている場合は最後の部分) が送信された時刻です。要求側または受信側の場合、これは最後のメッセージがターゲット・キューに入れられた時刻です。サーバー接続チャンネルの場合、これは最後の MQI 呼び出しが完了した時刻です。

会話が共有されているサーバー接続チャンネル・インスタンスの場合、これは、最後の MQI 呼び出しがチャンネル・インスタンスで実行しているいずれかの会話で完了した時刻です。

z/OS MAXMSGL

このセッションで使用している最大メッセージ長です (z/OS でのみ有効)。

MAXSHCNV

MAXSHCNV 値は、サーバー接続チャンネル以外のすべてのチャンネル・タイプでブランクです。サーバー接続チャンネルのインスタンスごとに、MAXSHCNV 出力はそのチャンネル・インスタンス上で実行できる会話の折衝された最大数を示します。

値ゼロは、以下の点に関して、チャンネルがバージョン 7.0 より前のバージョンの IBM MQ の場合と同様に実行されていることを示します。

- 管理者の停止と静止
- ハートビート中
- 先読み
- 共有会話
- クライアント非同期コンシューム

z/OS MCASTAT

メッセージ・チャンネル・エージェントが現在動作中かどうか。「running (動作中)」か、「not running (動作中でない)」のいずれかです。

チャンネルが停止状態でも、プログラムはまだ動作中である場合があるので注意してください。

この情報は、z/OS では使用できません。パラメーターは、指定しても無視されます。

z/OS では、MCASTAT をフィルター・キーワードとしては使用できません。

MCAUSER

MCA で使用されるユーザー ID。これには、チャンネル定義で設定されたユーザー ID、メッセージ・チャンネルのデフォルト・ユーザー ID、サーバー接続チャンネルの場合にクライアントから転送されたユーザー ID、またはセキュリティ出口によって指定されたユーザー ID が可能です。

このパラメーターは、サーバー接続、受信側、要求側、およびクラスター受信側チャンネルにのみ適用されます。

会話を共有するサーバー接続チャンネルでは、すべての会話が同一の MCA ユーザー ID 値を持つ場合、MCAUSER フィールドにユーザー ID が入ります。使用中の MCA ユーザー ID がこれら複数の会話の間に変化していく場合、MCAUSER フィールドには値 * が入ります。

分散プラットフォームでの最大長は 64 文字です。

 z/OS での最大長は 12 文字です。

MONCHL

チャンネルのモニター・データ収集の現行レベル。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

MSGs

このセッション中 (チャンネルが開始されてから以後) に送信または受信されたメッセージの数 (サーバー接続チャンネルの場合は、処理された MQI 呼び出しの数)。

会話が共有されているサーバー接続チャンネル・インスタンスの場合、これは、チャンネル・インスタンスで実行しているすべての会話で処理された MQI 呼び出しの合計数です。

NETTIME

チャンネルのリモート・エンドに要求を送信して応答を受信するまでにかかるマイクロ秒単位の時間。これは、そのような操作のネットワーク時間のみを計測した時間です。次の 2 つの値が表示されます。

- 短期間における最近のアクティビティーに基づく最初の値。
- 長期間におけるアクティビティーに基づく 2 番目の値。

これらの値は、ご使用のシステムの構成および振る舞い、およびシステム内のアクティビティーのレベルによって異なり、システムが正常に実行していることを示す指標の役割を担います。これらの値に大きな変動がある場合は、システムで問題が発生したことを示します。これらの値は、チャンネルが開始するごとに毎回リセットされ、チャンネルの STATUS が RUNNING の場合にのみ表示されます。

このパラメーターは、送信側、サーバー、およびクラスター送信側チャンネルにのみ適用されます。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、MONCHL がこのチャンネルに設定されている場合のみ表示されます。 [1079 ページの『モニター値の設定』](#)を参照してください。

NPMSPEED

このセッションで使用されている非持続メッセージ処理技法。

PORT

AMQP チャンネルの接続に使用されるポート番号。AMQP 1.0 接続のデフォルト・ポートは 5672 です。

RAPPLTAG

リモート・パートナー・アプリケーションの名前。これは、チャンネルのリモート・エンドにあるクライアント・アプリケーションの名前です。このパラメーターはサーバー接続チャンネルにのみ適用されます。

注: 複数の IBM MQ 接続が同じチャンネル・インスタンスを使用する場合、つまり、チャンネルが SHARECNV> 1 で定義され、同じプロセスがキュー・マネージャーに対して複数の接続を行う場合、接続が異なるアプリケーション名を指定すると、RAPPLTAG フィールドにアスタリスク RAPPLTAG(*) が表示されます。

RPRODUCT

リモート・パートナー製品 ID。これは、チャンネルのリモート・エンドで実行している IBM MQ コードの製品 ID です。可能な値については、[1076 ページの表 73](#) を参照してください。

表 73. 製品 ID の値	
製品 ID	説明
MQMM	分散プラットフォーム上のキュー・マネージャー
  MQMV	z/OS 上のキュー・マネージャー
MQCC	IBM MQ C クライアント
MQNC	HP Integrity NonStop Server 用の IBM MQ クライアント
MQNM	IBM MQ .NET 完全管理クライアント
MQJB	IBM MQ Classes for JAVA
MQJM	IBM MQ Classes for JMS (通常モード)
MQJN	IBM MQ Classes for JMS (移行モード)
MQJU	MQI への共通 Java インターフェース
MQXC	XMS クライアント C/C++ (通常モード)
MQXD	XMS クライアント C/C++ (マイグレーション・モード)
MQXN	XMS クライアント .NET (通常モード)
MQXM	XMS クライアント .NET (移行モード)
MQXU	IBM MQ .NET XMS クライアント (非管理対象/XA)
MQNU	IBM MQ .NET 非管理対象クライアント

RQMNAME

リモート・システムのキュー・マネージャー名、またはキュー共有グループ名。このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

RVERSION

リモート・パートナー・バージョン。これは、チャンネルのリモート・エンドで実行している IBM MQ コードのバージョンです。

リモート・バージョンは **VVRRMMFF** と表示されます。その意味は次のとおりです。

VV

バージョン

RR

リリース

MM

保守レベル

FF

フィックス・レベル

SECPROT

現在使用中のセキュリティー・プロトコルを定義します。

クライアント接続チャンネルには適用されません。

[DEFINE CHANNEL](#) の [SSLCIPH](#) に設定した値に基づいて、自動的に設定されます。

指定可能な値は以下のとおりです。

NONE

セキュリティー・プロトコルなし

SSLV3

SSL バージョン 3.0

TLSV1

TLS バージョン 1.0

TLSV12

TLS バージョン 1.2

▶ **z/OS** SECPROT は、z/OS では使用できません。

SHORTRTS

短期再試行待機の開始試行残数。これは送信側チャンネルとサーバー・チャンネルにのみ適用されます。

SSLCERTI

リモート証明書発行者の完全識別名。発行者は、証明書を発行した認証局です。

最大長は 256 文字です。この制限は、例外的に長い識別名は切り捨てられることを示しています。

▶ **z/OS** **SSLCERTU**

リモート証明書に関連付けられたローカル・ユーザー ID。これは、z/OS でのみ有効です。

SSLKEYDA

前の正常な SSL 秘密鍵リセットが発行された日付。

SSLKEYTI

前の正常な SSL 秘密鍵リセットが発行された時刻。

SSLPEER

ピア・キュー・マネージャーまたはもう一方のチャンネルのクライアントの識別名。

最大長は 256 文字です。この制限は、例外的に長い識別名は切り捨てられることを示しています。

SSLRKEYS

正常な SSL 鍵リセット数。SSL 秘密鍵リセット数は、チャンネル・インスタンスが終了するときのリセットされます。

STOPREQ

ユーザーからの停止要求が未処理であるかないか。YES か NO のいずれかです。

SUBSTATE

このコマンドが発行されるときに、チャンネルが実行しているアクション。優先順位の高い副状態を先頭にして、優先順位の順に次の副状態がリスト表示されます。

ENDBATCH

チャンネルはバッチの終了処理を実行しています。

SEND

基本となる通信サブシステムに対して、データの送信要求が出されました。

RECEIVE

基本となる通信サブシステムに対して、データの受信要求が出されました。

▶ **z/OS** **SERIALIZE**

チャンネルはキュー・マネージャーへのアクセスを直列化しています。z/OS でのみ有効です。

RESYNCH

チャンネルをパートナーと再同期しています。

HEARTBEAT

チャンネルはパートナーとハートビートをやり取りしています。

SCYEXIT

チャンネルはセキュリティー出口を実行しています。

RCVEXIT

チャンネルは受信出口の 1 つを実行しています。

SENDEXIT

チャンネルは送信出口の 1 つを実行しています。

MSGEXIT

チャンネルはメッセージ出口の 1 つを実行しています。

MREXIT

チャンネルはメッセージ再試行出口を実行しています。

CHADEXIT

チャンネルは、チャンネル自動定義出口によって実行しています。

NETCONNECT

基本となる通信サブシステムに対して、パートナー・マシンへの接続要求が出されました。

SSLHANDSHK

チャンネルは SSL ハンドシェークを処理しています。

NAMESERVER

ネーム・サーバーに対して要求が出されました。

MQPUT

キュー・マネージャーに対して、宛先キューへのメッセージ書き込み要求が出されました。

MQGET

キュー・マネージャーに対して、伝送キュー (メッセージ・チャンネルの場合) またはアプリケーション・キュー (MQI チャンネルの場合) からのメッセージ取得要求が出されました。

MQICALL

MQPUT および MQGET 以外の MQ API 呼び出しが実行されています。

COMPRESS

チャンネルはデータを圧縮または解凍しています。

副状態の中には、すべてのチャンネル・タイプまたはチャンネル状態に対して有効ではないものもあります。有効な副状態がない場合もあり、その場合はブランク値が戻されます。

複数のスレッドで実行されるチャンネルの場合は、このパラメーターにより優先順位が最高の副状態が表示されます。

V 8.0.0.4 TPROOT

AMQP チャンネルのトピック・ルート。TPROOT のデフォルト値は SYSTEM.BASE.TOPIC です。この値を設定した場合、AMQP クライアントがパブリッシュまたはサブスクライブに使用するトピック・ストリングに接頭部が付かず、クライアントは他の MQ パブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションとの間でメッセージを交換できます。トピック接頭部のもとで AMQP クライアントがパブリッシュおよびサブスクライブするようにするには、まず、トピック・ストリングを目的の接頭部に設定した MQ トピック・オブジェクトを作成し、次に TPROOT を作成済み MQ トピック・オブジェクトの名前に設定します。

このパラメーターは、チャンネル・タイプ (CHLTYPE) が AMQP のチャンネルにのみ有効です。

XBATCHSZ

チャンネル上で伝送されるバッチのサイズ。次の 2 つの値が表示されます。

- ・ 短期間における最近のアクティビティーに基づく最初の値。
- ・ 長期間におけるアクティビティーに基づく 2 番目の値。

これらの値は、ご使用のシステムの構成および振る舞い、およびシステム内のアクティビティーのレベルによって異なり、システムが正常に実行していることを示す指標の役割を担います。これらの値に大きな変動がある場合は、システムで問題が発生したことを示します。これらの値は、チャンネルが開始するごとに毎回リセットされ、チャンネルの STATUS が RUNNING の場合にのみ表示されます。

このパラメーターは、サーバー接続チャンネルには適用されません。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、MONCHL がこのチャンネルに設定されている場合のみ表示されます。1079 ページの『モニター値の設定』を参照してください。

V 8.0.0.4 USECLTID

AMQP チャンネルの許可検査に MCAUSER 属性値ではなくクライアント ID を使用することを指定します。

XQMSGSA

MQGET 用のチャンネルで使用可能な伝送キューに書き込まれるメッセージの数。

このパラメーターの最大表示可能値は 999 です。使用可能なメッセージの数が 999 を超えると、値として 999 が表示されます。

 z/OS では、伝送キューが *CorrelId* によって索引付けされていない場合、この値はブランクとして表示されます。

このパラメーターは、クラスター送信側チャンネルにのみ適用されます。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、MONCHL がこのチャンネルに設定されている場合のみ表示されます。1079 ページの『[モニター値の設定](#)』を参照してください。

XQTIME

取得されるまでにメッセージが伝送キューにとどまるマイクロ秒単位の時間。測定時間は、メッセージが伝送キューに書き込まれてから、チャンネルで取得されて送信されるまでです。そのため、書き込みアプリケーションでの遅延による間隔も含まれます。

次の 2 つの値が表示されます。

- 短期間における最近のアクティビティーに基づく最初の値。
- 長期間におけるアクティビティーに基づく 2 番目の値。

これらの値は、ご使用のシステムの構成および振る舞い、およびシステム内のアクティビティーのレベルによって異なり、システムが正常に実行していることを示す指標の役割を担います。これらの値に大きな変動がある場合は、システムで問題が発生したことを示します。これらの値は、チャンネルが開始するごとに毎回リセットされ、チャンネルの STATUS が RUNNING の場合にのみ表示されます。

このパラメーターは、送信側、サーバー、およびクラスター送信側チャンネルにのみ適用されます。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、MONCHL がこのチャンネルに設定されている場合のみ表示されます。1079 ページの『[モニター値の設定](#)』を参照してください。

Short status



次に述べる事柄は、現行チャンネル・インスタンスにのみ該当します。

QMNAME

チャンネル・インスタンスを所有しているキュー・マネージャーの名前。

モニター値の設定

自動定義されたクラスター送信側チャンネルでは、これらはキュー・マネージャーの MONACLS パラメーターによって制御されます。詳しくは、737 ページの『[ALTER QMGR](#)』を参照してください。自動定義されたクラスター送信側チャンネルを表示したり変更したりすることはできません。ただし、それらのチャンネルの状況を取得したり、DISPLAY CLUSQMGR を発行したりすることはできます。詳しくは、[自動定義クラスター送信側チャンネルの処理](#)を参照してください。

他のチャンネル (手動で定義したクラスター送信側チャンネルも含む) では、これらはチャンネルの MONCHL パラメーターによって制御されます。詳しくは、665 ページの『[ALTER CHANNEL](#)』を参照してください。

DISPLAY CHSTATUS (AMQP)

MQSC コマンド DISPLAY CHSTATUS (AMQP) は、1 つ以上の AMQP チャンネルの状況を表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行を参照してください](#)。

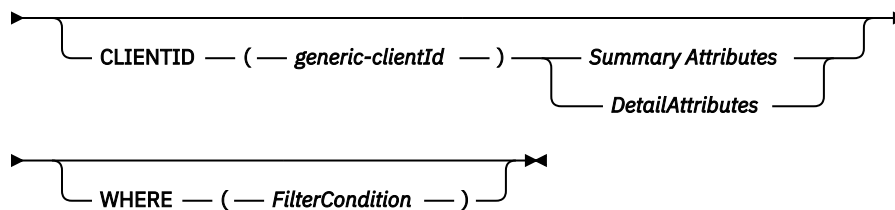
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1081 ページの『DISPLAY CHSTATUS のパラメーターの説明』](#)
- [1082 ページの『要約属性』](#)

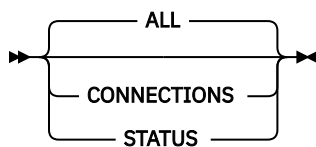
同義語: DIS CHS

DISPLAY CHSTATUS (AMQP)

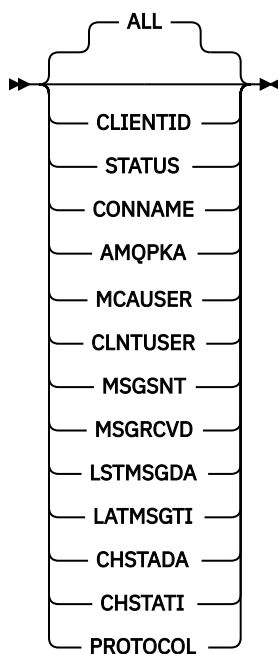
►► DISPLAY CHSTATUS — (— *generic-channel-name* —) — CHLTYPE — (— AMQP —) ►



SummaryAttributes



DetailAttributes



注：

- デフォルトの動作は、**RUNMQSC** が接続の要約をチャンネルに返します。**CLIENTID** が指定されている場合は、**RUNMQSC** はチャンネルに接続されている各クライアントの詳細を返します。

DISPLAY CHSTATUS のパラメーターの説明

状況情報を表示するチャンネルの名前を指定する必要があります。このパラメーターは、特定のチャンネル名か総称チャンネル名です。総称チャンネル名を使用することにより、すべてのチャンネルの状況情報、または指定した名前と一致する 1 つ以上のチャンネルの状況情報のいずれかを表示できます。

(**generic-channel-name**)

どのチャンネルの状況情報を表示するかを、チャンネル定義名で指定します。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのチャンネル定義名と一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべてのチャンネル定義を意味します。すべてのチャンネル・タイプに値が 1 つ必要です。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすチャンネルの状況情報を表示するようにフィルター条件を指定します。

フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用されるパラメーターです。

フィルター・キーワードが有効でないタイプのチャンネルの状況情報は表示されません。

operator

チャンネルがフィルター・キーワードのフィルター値を満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。*filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するためにこの演算子を使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。*filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するためにこの演算子を使用できます。その属性には、指定された項目が含まれません。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。*filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、CHLTYPE パラメーターの値 SDR など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。この値は、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリングで、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

- 値リストの中の項目です。演算子として CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。

ALL

関係のあるそれぞれのインスタンスのすべての状況情報を表示するには、このパラメーターを指定してください。

このパラメーターを指定すると、特定の状況情報を要求するために同時に指定されたすべてのパラメーターが無効になり、すべての情報が表示されます。

要約属性

MQSC コマンド DISPLAY CHSTATUS (AMQP) に CLIENTID パラメーターが追加されない場合は、AMQP チャンネル情報の要約が表示されます。接続数が CONNECTIONS 属性として表示されます。以下の属性で、各チャンネルの要約が表示されます。

ALL

関係のあるそれぞれのインスタンスのすべての状況情報を表示するには、このパラメーターを指定してください。この属性は、属性が要求されていない場合のデフォルト値です。

このパラメーターは、AMQP チャンネルに有効です。

このパラメーターを指定すると、特定の状況情報を要求するために指定されたすべてのパラメーターが無効になり、すべての情報が表示されます。

CONNECTIONS

このチャンネルに対する現在の接続の数。

STATUS

このチャンネルの状況。

クライアント詳細モード

CLIENTID

クライアントの ID。

STATUS

クライアントの状況。

CONNAME

リモート接続の名前 (IP アドレス)。

AMQPKA

クライアントのキープアライブ間隔。

MCAUSER

クライアントが IBM MQ リソースへのアクセスに使用しているユーザー ID。

CLNTUSER

クライアントが接続時に指定したユーザー ID。

MSGSENT

クライアントが最後に接続してから送信したメッセージの数。

MSGRCVD

クライアントが最後に接続してから受信したメッセージの数。

LSTMSGDA

最後のメッセージが受信または送信された日付。

LSTMSGTI

最後のメッセージが受信または送信された時刻。

CHSTADA

チャンネルが開始された日付。

CHSTATI

チャンネルが開始された時刻。

PROTOCOL

クライアントが使用する通信プロトコル。値は AMQP です。

例

以下のコマンドは、MYAMQP という名前の AMQP チャンネルの状況要約を取得します:

```
dis chstatus(MYAMQP) chltype(AMQP) all
```

このコマンドは、以下の状況を出力します。

```
AMQ8417: Display Channel Status details.
CHANNEL(MYAMQP)                      CHLTYPE(AMQP)
CONNECTIONS(1)                        STATUS(RUNNING)
```

以下のコマンドは、MYAMQP という名前の AMQP チャンネルの状況全体を取得します:

```
dis chstatus(*) chltype(AMQP) clientid(*) all
```

このコマンドは、以下の状況を出力します。

```
AMQ8417: Display Channel Status details.
CHANNEL(MYAMQP)                      CHLTYPE(AMQP)
CLIENTID(recv_cc2022b)                STATUS(RUNNING)
CONNAME(192.168.60.1)                  AMQPKA(0)
MCAUSER(matt)                          CLNTUSER( )
MSGSENT(0)                             MSGRCVD(0)
LSTMSGDA( )                            LSTMSGTI( )
CHSTADA(2015-09-18)                   CHSTATI(06.23.30)
PROTOCOL(AMQP)
```

DISPLAY CHSTATUS (MQTT)

MQSC コマンド DISPLAY CHSTATUS (MQTT) は、1 つ以上の IBM MQ Telemetry チャンネルの状況を表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行を参照してください](#)。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

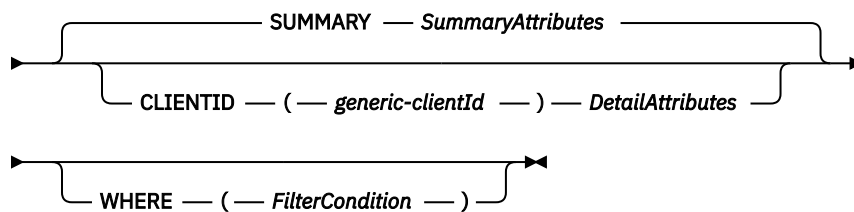
注：テレメトリー・サーバー用にサポートされている UNIX プラットフォームは AIX のみです。

- [構文図](#)
- [1085 ページの『DISPLAY CHSTATUS のパラメーターの説明』](#)
- [1086 ページの『要約属性』](#)

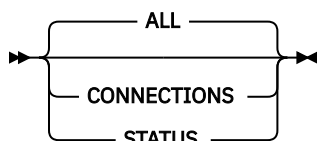
同義語: DIS CHS

DISPLAY CHSTATUS (MQTT)

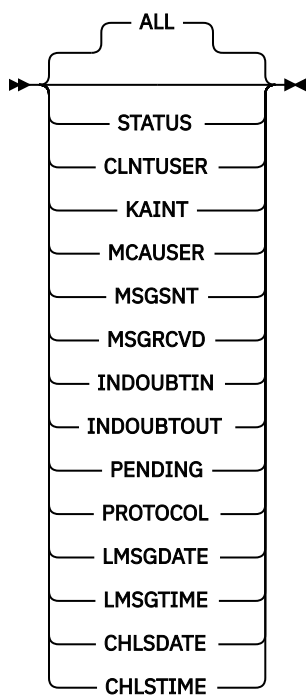
►► DISPLAY CHSTATUS — (— *generic-channel-name* —) — CHLTYPE — (— MQTT —) →



SummaryAttributes



DetailAttributes



注：

- デフォルトの動作は、**RUNMQSC** が接続の要約をチャンネルに返します。**CLIENTID** が指定されている場合は、**RUNMQSC** はチャンネルに接続されている各クライアントの詳細を返します。

- **CLIENTID** または **SUMMARY** のいずれかを指定するか、両方とも指定しないことは可能ですが、両方を同時に指定することはできません。
- IBM MQ Telemetry の **DISPLAY CHSTATUS** コマンドは、IBM MQ チャネルに対してコマンドが実行された場合よりもはるかに多くの応答を返す可能性があります。そのため、IBM MQ Telemetry サーバーが返す応答の数は、応答先キューに収容できないほど多くはなりません。応答の数は、SYSTEM.MQSC.REPLY.QUEUE キューの **MAXDEPTH** パラメーターの値に限定されます。IBM MQ Telemetry サーバーによって切り捨てられた IBM MQ Telemetry コマンドを RUNMQSC が処理すると、**AMQ8492** メッセージが表示され、**MAXDEPTH** のサイズに基づいて返される応答の数が示されます。
- このコマンドを使用して、切断されたクライアントをリストできます。これらのクライアントは特定のチャネルに関連付けられていないため、ワイルドカード文字を使用してリストします。例:

```
DIS CHS(*) CHLTYPE(MQTT) CLIENTID(*) WHERE(STATUS EQ DISCONNECTED).
```

切断されたクライアントが多数存在する可能性がある場合は、このコマンドを使用する際に注意する必要があります。

DISPLAY CHSTATUS のパラメーターの説明

状況情報を表示するチャネルの名前を指定する必要があります。このパラメーターは、特定のチャネル名か総称チャネル名です。総称チャネル名を使用することにより、すべてのチャネルの状況情報、または指定した名前と一致する 1 つ以上のチャネルの状況情報のいずれかを表示できます。

(*generic-channel-name*)

どのチャネルの状況情報を表示するかを、チャネル定義名で指定します。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのチャネル定義名と一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべてのチャネル定義を意味します。すべてのチャネル・タイプに値が 1 つ必要です。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすチャネルの状況情報を表示するようにフィルター条件を指定します。

フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用されるパラメーターです。

フィルター・キーワードが有効でないタイプのチャネルの状況情報は表示されません。

operator

チャネルがフィルター・キーワードのフィルター値を満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するためにこの演算子を使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するためにこの演算子を使用できます。その属性には、指定された項目が含まれません。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、CHLTYPE パラメーターの値 SDR など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。この値は、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリングで、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

- 値リストの中の項目です。演算子として CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。

ALL

関係のあるそれぞれのインスタンスのすべての状況情報を表示するには、このパラメーターを指定してください。

このパラメーターを指定すると、特定の状況情報を要求するために同時に指定されたすべてのパラメーターが無効になり、すべての情報が表示されます。

要約属性

SUMMARY を MQSC コマンド DISPLAY CHSTATUS (MQTT) に追加すると、CONNECTIONS 属性として接続数が表示されます。以下の属性で、各チャンネルの要約が表示されます。

ALL

関係のあるそれぞれのインスタンスのすべての状況情報を表示するには、このパラメーターを指定してください。この属性は、属性が要求されていない場合のデフォルト値です。

このパラメーターは、MQTT チャンネルに対して有効です。

このパラメーターを指定すると、特定の状況情報を要求するために指定されたすべてのパラメーターが無効になり、すべての情報が表示されます。

CONNECTIONS

このチャンネルに対する現在の接続の数。

STATUS

このチャンネルの状況。

クライアント詳細モード

STATUS

クライアントの状況。

CLNTUSER

クライアントが接続時に指定したユーザー ID。

CONNNAME

リモート接続の名前 (IP アドレス)。

KAINT

クライアントのキープアライブ間隔。

MCAUSER

クライアントが IBM MQ リソースへのアクセスに使用しているユーザー ID。これは、[MQTT クライアント ID および許可](#)で説明しているプロセスで選択されるクライアント・ユーザー ID です。

MSGSENT

クライアントが最後に接続してから送信したメッセージの数。

MSGRCVD

クライアントが最後に接続してから受信したメッセージの数。

INDOUBTIN

クライアントへの未確定のインバウンド・メッセージ数。

INDOUBTOUT

クライアントへの未確定のアウトバウンド・メッセージ数。

PENDING

保留中のアウトバウンド・メッセージ数。

PROTOCOL

クライアントが使用する通信プロトコル。これは、MQTTV311、MQTTV3、または HTTP です。

LMSGDATE

最後のメッセージが受信または送信された日付。

LMSGTIME

最後のメッセージが受信または送信された時刻。

CHLSDATE

チャンネルが開始された日付。

CHLSTIME

チャンネルが開始された時刻。

DISPLAY CLUSQMGR

MQSC コマンド **DISPLAY CLUSQMGR** は、クラスター内のキュー・マネージャーのクラスター・チャンネルに関する情報を表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1090 ページの『使用上の注意』](#)
- [1090 ページの『DISPLAY CLUSQMGR のパラメーターの説明』](#)
- [1092 ページの『要求パラメーター』](#)
- [1093 ページの『チャンネル・パラメーター』](#)

Synonym: DIS CLUSQMGR

DISPLAY CLUSQMGR

►► DISPLAY CLUSQMGR — (— *generic-qmname* —) —
WHERE — (— *FilterCondition* —) —

ALL — CHANNEL — (— *generic-name* —) —

CLUSTER — (— *generic-name* —) —

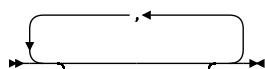
CMDSCOPE(' ') — 2 — Requested attributes
CMDSCOPE — (— *qmgr-name* —) — 1
CMDSCOPE(*) — 1

Channel attributes

要求される属性

CLUSDATE
CLUSTIME
DEFTYPE
QMID
QMTYPE
STATUS
SUSPEND
VERSION

チャンネルの属性



ALTDAT
ALTTIME
BATCHHB
BATCHINT
BATCHLIM
BATCHSZ
CLWLPRTY
CLWLRANK
CLWLWGHT
COMPHDR
COMPMSG
CONNNAME
CONVERT
DESCR
DISCINT
HBINT
KAIN
LOCLADDR
LONGRTY
LONGTMR
MAXMSG
MCANAME
MCATYPE
MCAUSER
MODENAME
MRDATA
MREXIT
MRRTY
MRTMR
MSGDATA
MSGEXIT
NETPRTY
NPMSPEED
PASSWORD ³
PROPCTL
PUTAUT
RCVDATA
RCVEXIT
SCYDATA
SCYEXIT
SENDDATA
SENDEXIT
SEQWRAP
SHORTRTY
SHORTTMR
SSLCAUTH
SSLCIPH
SSLPEER
TPNAME
TRPTYPE
USEDLQ
USERID
XMITQ

注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効です。

使用上の注意

DISPLAY CHANNEL コマンドとは異なり、このコマンドには、自動定義されたクラスター・チャンネルに関する情報と、クラスター・チャンネルの状況に関する情報が含まれます。

注：

1. UNIX システムでは、このコマンドは AIX、HP-UX、Linux、および Solaris でのみ有効です。
2. z/OS では、チャンネル・イニシエーターが開始されていないと、このコマンドは失敗します。

DISPLAY CLUSQMGR のパラメーターの説明

(*generic-qmgr-name*)

情報を表示するクラスター・キュー・マネージャーの名前。

語幹の後に後続アスタリスク "*" を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのクラスター・キュー・マネージャーに一致します。アスタリスク "*" を単独で指定した場合、すべてのクラスター・キュー・マネージャーが指定されることになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすクラスター・チャンネルのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この **DISPLAY** コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE パラメーターと MCANAME パラメーターはフィルター・キーワードとして使用できません。CHANNEL または CLUSTER をクラスター・キュー・マネージャーの選択に使用する場合、そのいずれもフィルター・キーワードとして使用することはできません。

operator

演算子は次のとおりです。

LT

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために CT を使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために EX を使用できます。その属性には、指定された項目が含まれません。

CTG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、属性が総称ストリングに一致するオブジェクトを表示するために CTG を使用できます。

EXG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合、EXG を使用して、属性が総称ストリングに一致しないオブジェクトを表示できます。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、*filter-value* は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子 LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。属性値が使用可能な値セットの値である場合、EQ または NE のみを使用できます。例えば、STATUS パラメーターの値 STARTING の場合です。

- 総称値。 *filter-value* は文字ストリングです。例えば、ABC* などです。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

- 値リストの中の項目です。値は明示的にできますが、値が文字値の場合は明示的または総称にすることができます。明示的に指定する場合、演算子には CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。総称の場合、演算子には CTG または EXG を使用します。演算子 CTG に ABC* を指定した場合、属性値の 1 つが ABC で始まるすべての項目のリストが表示されます。

ALL

ALL は、すべてのパラメーターを表示する場合に指定します。このパラメーターを指定した場合、具体的に要求されたパラメーターはどれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

総称名を指定せず、特定のパラメーターを要求することもしない場合、ALL がデフォルトです。

 **z/OS** z/OS ALL では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合のデフォルトでもあります。他のプラットフォームでは、要求された属性のみが表示されます。

CHANNEL (*generic-name*)

(オプション) 表示する情報を、ここに指定するチャンネル名のクラスター・チャンネルに制限します。値には総称名を指定できます。

CLUSTER (*generic-name*)

(オプション) 表示する情報を、ここに指定するクラスター名のクラスター・キュー・マネージャーに制限します。値には総称名を指定できます。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、それが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。「」 デフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

コマンドが入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定できます。キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能な場合には、別のキュー・マネージャー名を入力することができます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。★は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを1つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

パラメーターの中には、特定のタイプのクラスター・チャンネルにのみ関係するものがあります。特定タイプのチャンネルに適用されない属性では出力は生成されず、エラーも発生しません。

CLUSDATE

定義がローカル・キュー・マネージャーで使えるようになった日付。yyyy-mm-dd の形式。

CLUSTIME

定義がローカル・キュー・マネージャーで使えるようになった時刻。hh.mm.ss の形式。

DEFTYPE

クラスター・チャンネルの定義方法:

CLUSSDR

クラスター送信側チャンネルとして明示的に定義する。

CLUSSDRA

クラスター送信側チャンネルとして、明示的にのみ定義する。

CLUSSDRB

自動定義および明示的定義により、クラスター送信側チャンネルとして定義。

CLUSRCVR

明示的定義のクラスター受信側チャンネルとして。

QMID

クラスター・キュー・マネージャーの、内部生成の固有の名前。

QMTYPE

クラスター内でのクラスター・キュー・マネージャーの機能:

REPOS

全リポジトリ・サービスを提供します。

NORMAL

全リポジトリ・サービスを提供しません。

STATUS

このクラスター・キュー・マネージャーのチャンネルの状況は、次の値のいずれかです。

STARTING

チャンネルは開始しており、アクティブになるのを待っています。

BINDING

チャンネルはチャンネル折衝を実行中であり、メッセージ転送の準備ができていません。

INACTIVE

チャンネルはアクティブではありません。

INITIALIZING

チャンネル・イニシエーターは、チャンネルの開始を試行中です。



z/OS では、INITIALIZING は INITIALIZI のように表示されます。

RUNNING

チャンネルは、現在、メッセージの転送中です。あるいは、転送の前段階として、伝送キューにメッセージが着信するのを待っています。

STOPPING

チャンネルは停止しているか、またはクローズ要求を受け取りました。

RETRYING

接続を確立しようとした直前の試行が失敗しました。MCA は、指定された時間間隔の後、再接続を試行します。

PAUSED

チャンネルは、メッセージ再試行間隔が完了するのを待機中です。その間隔の経過後、MQPUT 操作が再試行されます。

STOPPED

この状態は、次のいずれかによって起こります。

- チャンネルが手動で停止された。
ユーザーがこのチャンネルにチャンネル停止コマンドを実行しました。
- 接続確立の試行回数が、このチャンネルに許可されている最大試行回数に達した。
接続の自動確立のための再試行はありません。

この状態のチャンネルを再始動するには、**START CHANNEL** コマンドを実行しなければなりません。あるいは、オペレーティング・システムに定める方法で、MCA プログラムを始動しなければなりません。

REQUESTING

ローカル要求側チャンネルが、リモート MCA にサービスを要求しています。

SUSPEND

このクラスター・キュー・マネージャーがクラスターから中断される (**SUSPEND QMGR** コマンドの結果として) かどうかを指定します。SUSPEND の値は、YES または NO のいずれかです。

バージョン

クラスター・キュー・マネージャーが関連付けられている IBM MQ インストールのバージョン。

バージョンの形式は、以下のような VVRRMMFF です。

- VV: バージョン
- RR: リリース
- MM: 保守レベル
- FF: フィックス・レベル

XMITQ

クラスター伝送キュー。

チャンネル・パラメーター

ALTDAT

定義または情報が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義または情報が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

BATCHHB

使用されているバッチ・ハートビート値。

BATCHINT

バッチの最小所要時間。

BATCHLIM

バッチ・データ制限。

1つのチャンネルを介して送信できるデータ量の制限。

BATCHSZ

バッチ・サイズ。

CLWLPRTY

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルの優先順位。

CLWLRANK

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルのランク。

CLWLWGHT

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルの加重。

COMPHDR

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。

COMPMSG

チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。

CONNAME

接続名。

CONVERT

アプリケーション・メッセージ・データの変換を送信側で行うかどうかを指定します。

DESCR

説明。

DISCINT

切断間隔。

HBINT

ハートビート間隔。

KAINT

チャンネルのキープアライブ・タイミング。

LOCLADDR

チャンネルのローカル通信アドレス。

LONGRTY

長時間タイマーを使用した接続試行の回数限度。

LONGTMR

長時間タイマー。

MAXMSGL

チャンネル最大メッセージ長。

MCANAME

メッセージ・チャンネル・エージェント名。

MCANAME は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

MCATYPE

メッセージ・チャンネル・エージェントが、独立したプロセスとして動作するか、独立したスレッドとして動作するかどうかを指定します。

MCAUSER

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID。

MODENAME

LU 6.2 モード名。

MRDATA

チャンネル・メッセージ再試行出口ユーザー・データ。

MREXIT

チャンネル・メッセージ再試行出口名。

MRRTY

チャンネル・メッセージ再試行カウント。

MRTMR

チャンネル・メッセージ再試行時間。

MSGDATA

チャンネル・メッセージ出口ユーザー・データ。

MSGEXIT

チャンネル・メッセージ出口名。

NETPRTY

ネットワーク接続の優先順位。

NPMSPEED

非持続メッセージの速度。

PASSWORD

LU 6.2 セッション開始用のパスワード (ブランク以外では、PASSWORD はアスタリスクとして表示される)。

PROPCTL

メッセージ・プロパティ制御。

PUTAUT

書き込み権限。

RCVDATA

チャンネル受信出口ユーザー・データ。

RCVEXIT

チャンネル受信出口名。

SCYDATA

チャンネル・セキュリティー出口ユーザー・データ。

SCYEXIT

チャンネル・セキュリティー出口名。

SENDDATA

チャンネル送信出口ユーザー・データ。

SENDEXIT

チャンネル送信出口名。

SEQWRAP

シーケンス番号の折り返し値。

SHORTRTY

短時間タイマーを使用した接続試行の回数限度。

SHORTTMR

短時間タイマー。

SSLCAUTH

SSL クライアント認証が必要かどうかを指定します。

SSLCIPH

SSL 接続の暗号指定。

SSLPEER

チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントの証明書の識別名のためのフィルター。

TRPTYPE

トランスポート・タイプ。

TPNAME

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。

USEDLQ

チャンネルでメッセージが配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。

USERID

LU 6.2 セッション開始用のユーザー ID。

チャンネル・パラメーターの詳細については、[852 ページの『DEFINE CHANNEL』](#)を参照してください。

z/OS **DISPLAY CMDSERV**

コマンド・サーバーの状況を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY CMDSERV を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1096 ページの『DISPLAY CMDSERV の使用上の注意』](#)

同義語: DIS CS

DISPLAY CMDSERV

▶▶ DISPLAY CMDSERV ◀◀

DISPLAY CMDSERV の使用上の注意

1. コマンド・サーバーは、システム・コマンド入力キューからメッセージを取り、CMDSCOPE を使用してコマンドを出し、それを処理します。DISPLAY CMDSERV は、そのコマンド・サーバーの状況を表示します。
2. このコマンドへの応答は、コマンド・サーバーの現行状況を示すメッセージです。現行状況は次のいずれかです。

ENABLED

コマンドの処理に使用可能

DISABLED

コマンドの処理に使用不可

STARTING

START CMDSERV が進行中

STOPPING

STOP CMDSERV が進行中

STOPPED

STOP CMDSERV は完了済み

RUNNING

コマンドの処理に使用可能であり、現在はメッセージを処理中

WAITING

コマンドの処理に使用可能であり、現在はメッセージを待機中

DISPLAY COMMINFO

MQSC コマンド DISPLAY COMMINFO では、通信情報オブジェクトの属性を表示します。

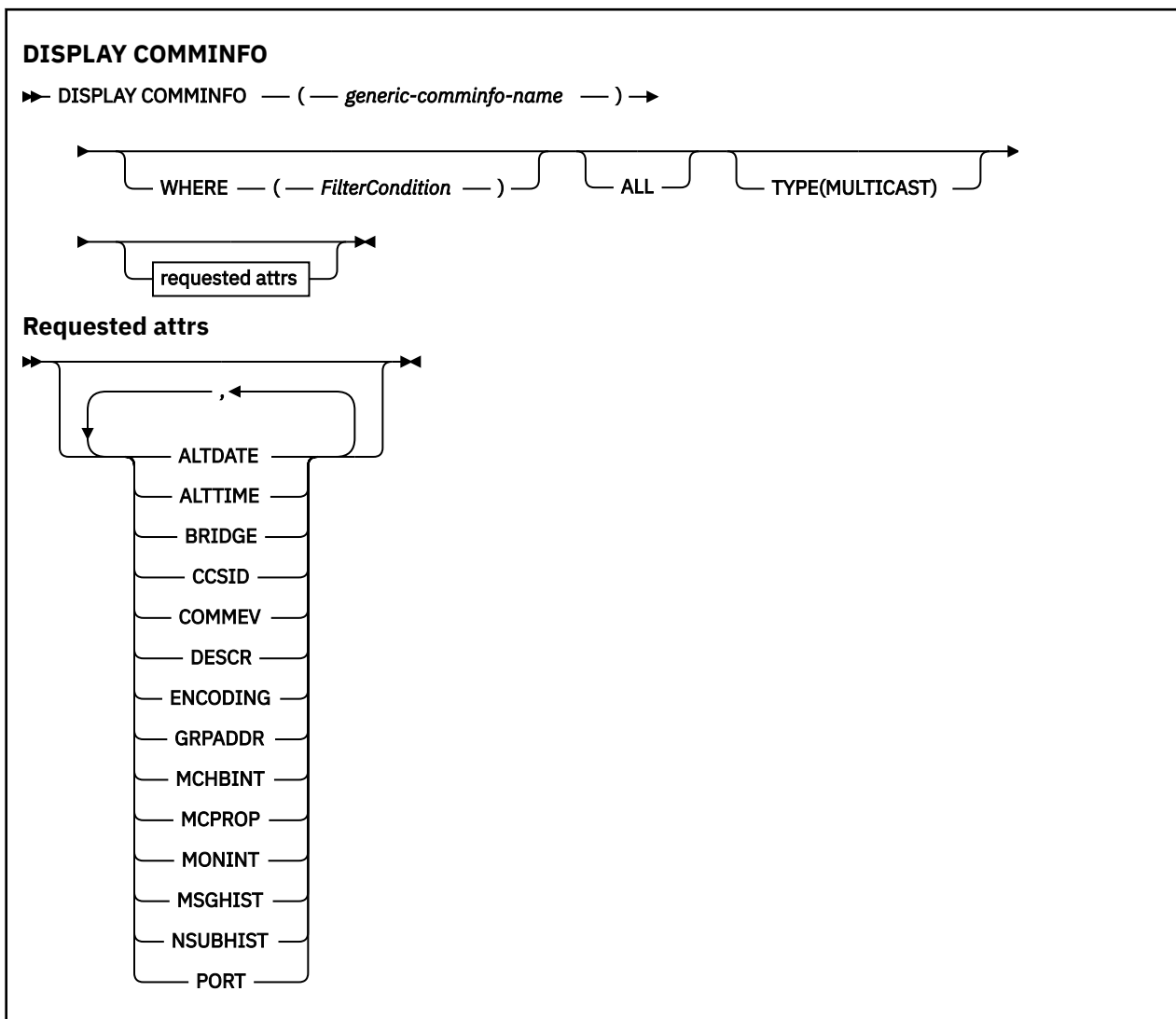
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1097 ページの『DISPLAY COMMINFO のパラメーターの説明』](#)
- [1098 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS COMMINFO



DISPLAY COMMINFO のパラメーターの説明

表示する通信情報オブジェクトの名前を指定する必要があります。それは、特定の通信情報オブジェクトの名前か、または通信情報オブジェクトの総称名のいずれかが可能です。通信情報オブジェクトの総称名を使用すると、以下のいずれかを表示できます。

- すべての通信情報オブジェクト定義
- 指定された名前に一致する 1 つ以上の通信情報オブジェクト

(*generic-comminfo-name*)

表示する通信情報オブジェクト定義の名前 ([IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照)。末尾にアスタリスク (*) を使用すると、指定された語幹の後に 0 文字以上が続くすべての通信情報オブジェクトに一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべての通信情報オブジェクトが指定されること

になります。名前は、すべてローカル・キュー・マネージャーに対して定義されている必要があります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす通信情報オブジェクト定義のみを表示するためのフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。

operator

これは、指定されたフィルター・キーワードのフィルター値条件を、通信情報オブジェクト定義が満たしているかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。しかし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットのうちのいずれかである場合 (例えば COMMEV パラメーターの DISABLED 値)、使用できるのは EQ または NE のみです。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

ALL

すべてのパラメーターを表示する場合に、これを指定します。このパラメーターを指定する場合、具体的に要求されるパラメーターはいずれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

タイプ

表示する名前リストのタイプを示します。

MULTICAST

マルチキャスト通信情報オブジェクトを表示します。これがデフォルトです。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

パラメーターが何も指定されていない場合 (かつ ALL パラメーターが指定されていない場合)、デフォルトとして、オブジェクト名と TYPE パラメーターが表示されます。

ALTDATE

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます

BRIDGE

マルチキャスト・ブリッジング

CCSID

メッセージ送信のコード化文字セット ID。

COMMEV

マルチキャストの場合にイベント・メッセージが生成されるかどうか。

DESCR(string)

説明

ENCODING

メッセージ送信のエンコード。

GRPADDR

グループの IP アドレスまたは DNS 名。

MCHBINT

マルチキャスト・ハートビート間隔。

MCPROP

マルチキャスト・プロパティ制御

MONINT

モニター頻度。

MSGHIST

NACK (否定応答) の場合の再送信を処理するためにシステムで保持されるメッセージ・ヒストリーの量 (キロバイト)。

NSUBHIST

パブリケーション・ストリームに参加する新しいサブスクライバーが受け取るヒストリーの量。

PORT

送信のポート番号。

DISPLAY CONN

MQSC コマンド DISPLAY CONN は、キュー・マネージャーに接続しているアプリケーションに関する接続情報を表示するために使用します。このコマンドを使用すると、作業単位の実行時間が長いアプリケーションを特定できるので便利です。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

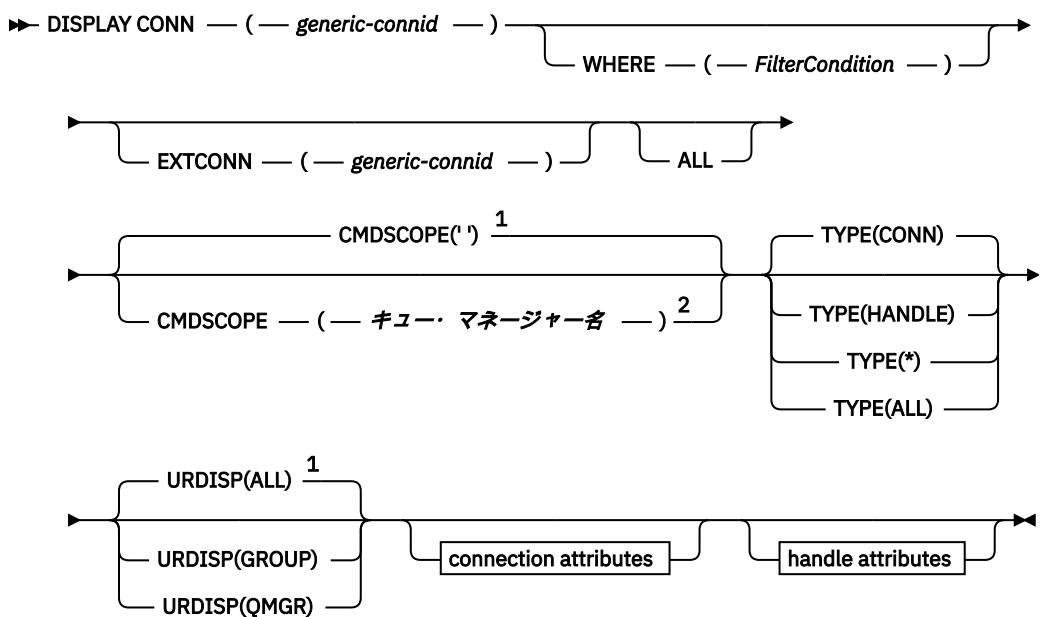
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1102 ページの『DISPLAY CONN の使用上の注意』](#)
- [1102 ページの『DISPLAY CONN のパラメーターの説明』](#)

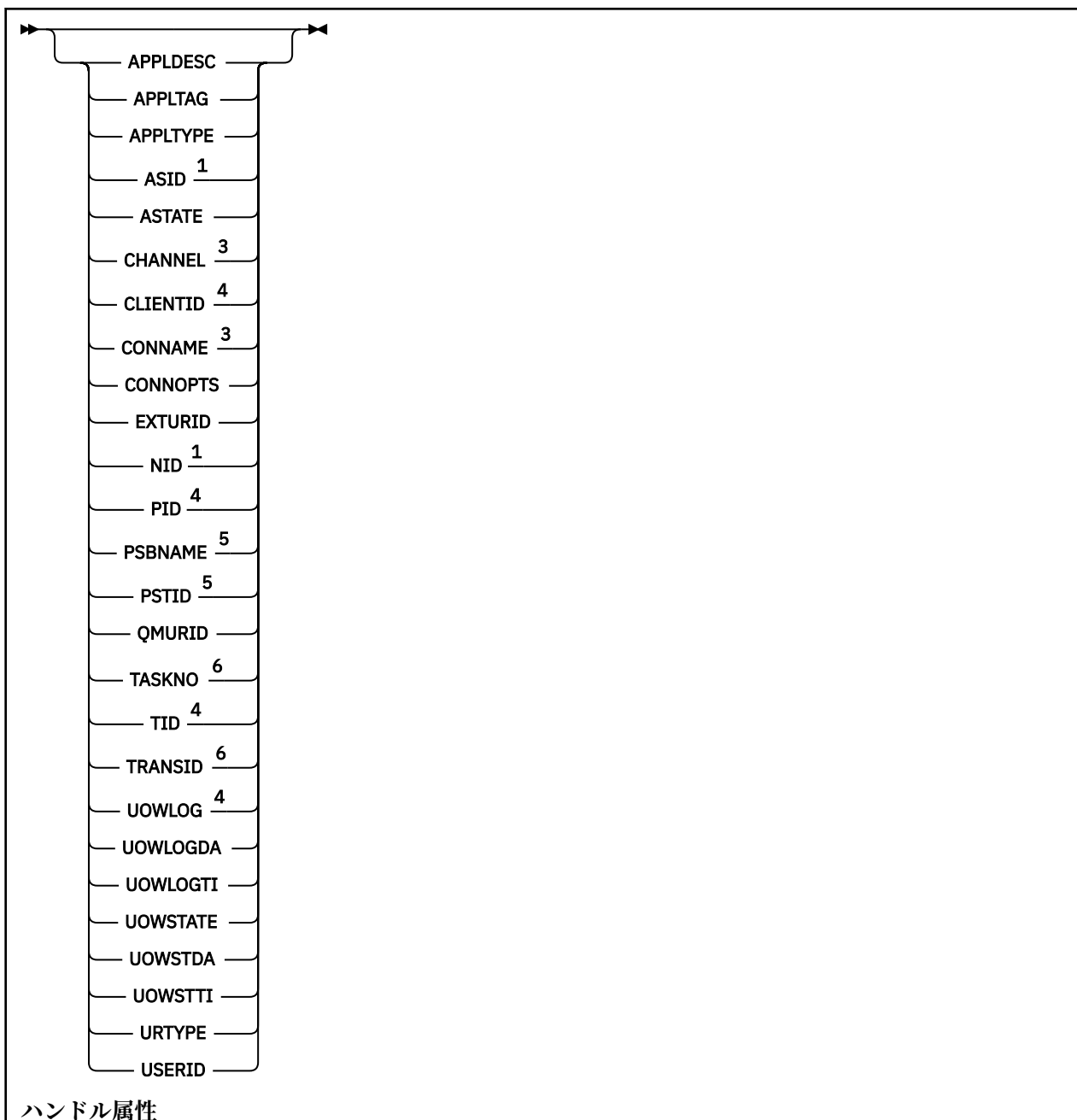
- [1105 ページの『Connection attributes』](#)
- [1109 ページの『ハンドル属性』](#)
- [1112 ページの『全属性』](#)

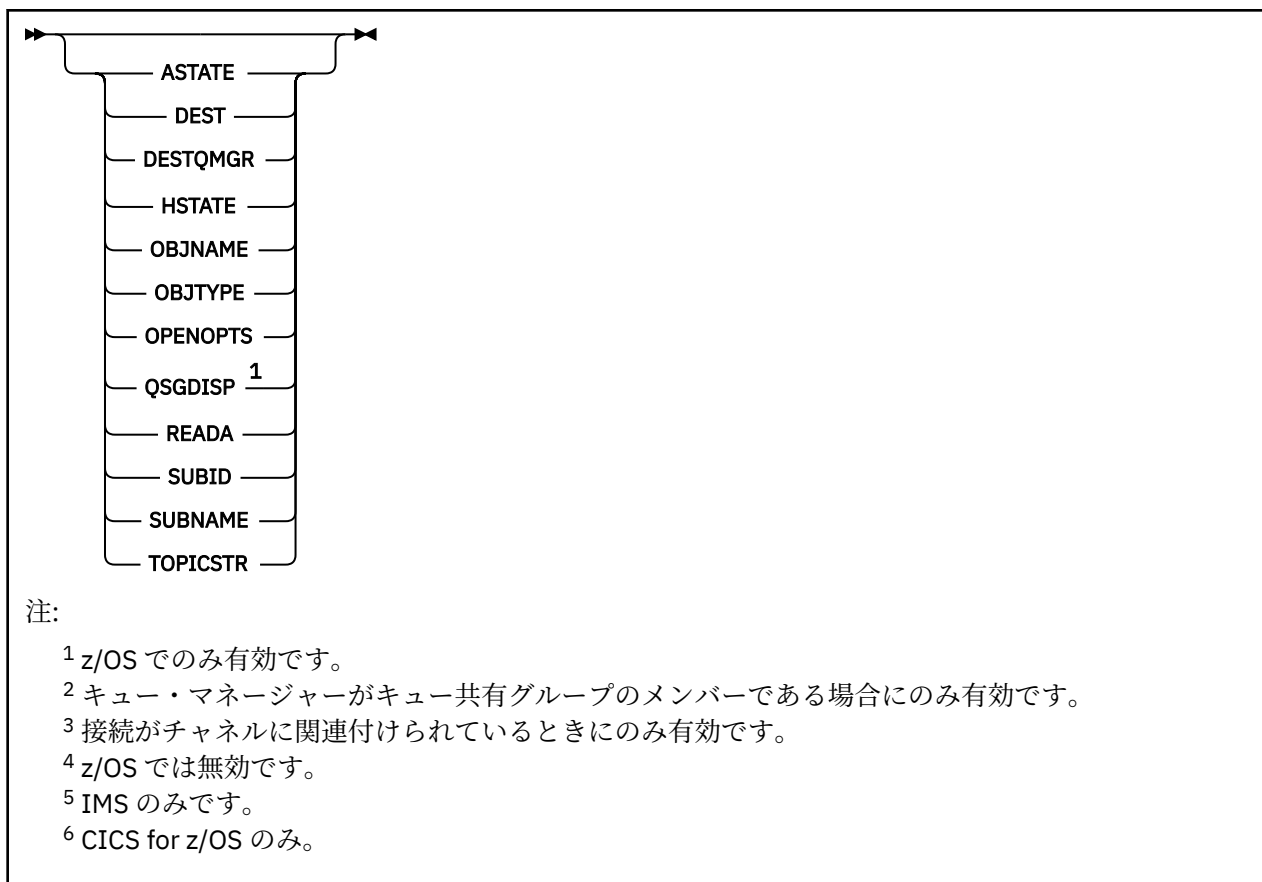
同義語: DIS CONN

DISPLAY CONN



Connection attributes





DISPLAY CONN の使用上の注意

1. **z/OS** このコマンドは、z/OS 上の IBM MQ によって、チェックポイントの取得時およびキュー・マネージャーの開始および停止時に内部的に発行されます。これにより、z/OS コンソール・ログにその時点で未確定の作業単位のリストが書き込まれます。
2. TOPICSTR パラメーターの中には、コマンド出力が表示されるときに印刷可能文字に変換されない文字が含まれる可能性があります。

z/OS z/OS では、このような印刷不能文字はブランクとして表示されます。

runmqsc を使用する分散プラットフォームでは、このような印刷不能文字はドットとして表示されます。

3. 非同期コンシューマーの状態 ASTATE は、クライアント・アプリケーションのためのサーバー接続プロキシの状態を表します。クライアント・アプリケーションの状態を表すものではありません。

DISPLAY CONN のパラメーターの説明

情報を表示する対象の接続を指定する必要があります。これは、特定の接続 ID または総称接続 ID です。アスタリスク (*) を総称接続 ID として 1 つ使用し、すべての接続の情報を表示できます。

(*generic-connid*)

情報を表示する接続定義の ID。アスタリスク (*) を 1 つ使用して指定すると、すべての接続 ID の情報が表示されます。

アプリケーションが IBM MQ に接続すると、固有の 24 バイト接続 ID (ConnectionId) が与えられます。ConnectionId の最後の 8 バイトを同等の 16 文字の 16 進数に変換することによって、CONN の値になります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす接続のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の3つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE、EXTCONN、QSGDISP、TYPE、および EXTURID パラメーターはフィルター・キーワードとして使用できません。

operator

指定したフィルター・キーワードのフィルター値の条件を接続が満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。*filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。この演算子には CONNOPTS 値 MQCNO_STANDARD_BINDING を使用できません。

EX

指定された項目を含みません。*filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれていません。この演算子には CONNOPTS 値 MQCNO_STANDARD_BINDING を使用できません。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。*filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、UOWSTATE パラメーターの値 NONE など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリングで (APPLTAG パラメーターの文字ストリングなど)、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

- 値リストの中の項目です。演算子として CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の1つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。

ALL

指定した接続ごとに要求されたタイプのすべての接続情報を表示するには、これを指定します。これは、総称 ID を指定せず特定のパラメーターを要求しない場合のデフォルトです。

▶ **z/OS** **CMDSCOPE**

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

EXTCONN

EXTCONN の値は、ConnectionId の最初の 16 バイトを同等の 32 文字の 16 進数に変換した値に基づいています。

接続は 24 バイトの接続 ID によって識別されます。接続 ID は、キュー・マネージャーを識別する接頭部と、キュー・マネージャーへの接続を識別する接尾部で構成されます。デフォルトでは、接頭部には現在管理されているキュー・マネージャーが指定されますが、EXTCONN パラメーターを使用して接頭部を明示的に指定することもできます。CONN パラメーターを使用して接尾部を指定します。

接続 ID を別のソースから取得する場合、完全修飾接続 ID (EXTCONN と CONN の両方) を指定して、起こりうる非固有の CONN 値に関連する問題の発生を回避します。

CONN への総称値の指定と EXTCONN への非総称値の指定の両方を行ってはいけません。

EXTCONN は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

タイプ

表示する情報のタイプを指定します。値は次のとおりです。

CONN

指定された接続の接続情報。

▶ **z/OS** z/OS の場合、これには論理的にまたは実際に接続との関連付けを解除される可能性のあるスレッド、および未確定でありその解決に外部の介入が必要なスレッドが含まれます。この後者のスレッドは、DIS THREAD TYPE(INDOUBT) によって表示されるスレッドです。

HANDLE

指定した接続によってオープンされるどのオブジェクトにも関係する情報。

*

接続に関係する入手可能なすべての情報を表示します。

ALL

接続に関係する入手可能なすべての情報を表示します。

▶ **z/OS** z/OS では、**TYPE(ALL/*)** および **WHERE(xxxxx)** を指定した場合は、**WHERE** 指定に基づいて、CONN または HANDLE の情報のみが返されます。つまり、xxxxx がハンドル属性に関連する条件である場合は、接続のハンドル属性のみが返されます。

URDISP

表示する接続のリカバリー単位属性指定を指定します。値は次のとおりです。

ALL

すべての接続を表示します。これはデフォルト・オプションです。

GROUP

GROUP リカバリー単位属性指定の接続のみを表示します。

QMGR

QMGR リカバリー単位属性指定の接続のみを表示します。

Connection attributes

TYPE が CONN に設定されている場合は、指定されている場合を除き、選択基準を満たす各接続に対して、常に次の情報が返されます。

- 接続 ID (CONN パラメーター)
- 返される情報のタイプ (TYPE パラメーター)

次のパラメーターを TYPE(CONN) に指定して、各接続の追加情報を要求できます。接続、オペレーティング環境、または要求する情報タイプに関係しないパラメーターが指定されると、そのパラメーターは無視されます。

APPLDESC

キュー・マネージャーに接続されたアプリケーションの記述を含むストリング (アプリケーションがキュー・マネージャーに認識されている場合)。アプリケーションがキュー・マネージャーによって認識されていない場合、返される記述はブランクです。

APPLTAG

キュー・マネージャーに接続されたアプリケーションのタグを含むストリング。これは、以下のいずれかになります。

-  z/OS バッチ・ジョブ名
-  TSO USERID
- CICS APPLID
-  IMS 領域名
- チャネル・イニシエーターのジョブ名
-  IBM i ジョブ名
- UNIX プロセス

注:

-  HP-UX では、14 文字を超えるプロセス名は、先頭の 14 文字のみが表示されます。
 -   Linux および Solaris では、15 文字を超えるプロセス名は、先頭の 15 文字のみが表示されます。
 -  AIX では、28 文字を超えるプロセス名は、先頭の 28 文字のみが表示されます。
 - Windows プロセス
- 注: これは、完全プログラム・パスと実行可能ファイル名で構成されます。長さが 28 文字を超える場合、最後の 28 文字だけが示されます。
- 内部キュー・マネージャー・プロセス名

APPLTYPE

キュー・マネージャーに接続しているアプリケーションのタイプを示すストリング。これは、以下のいずれかになります。

BATCH

バッチ接続を使用するアプリケーション

RRSBATCH

バッチ接続を使用する RRS 調整アプリケーション

CICS

CICS トランザクション

IMS

IMS トランザクション

CHINIT

チャネル・イニシエーター

OS400

IBM i アプリケーション

SYSTEM

キュー・マネージャー

SYSTEMEXT

キュー・マネージャーによって提供される機能の拡張を実行するアプリケーション

UNIX

UNIX アプリケーション

USER

ユーザー・アプリケーション

WINDOWSNT

Windows アプリケーション

z/OS**ASID**

APPLTAG によって特定されるアプリケーションの 4 文字のアドレス・スペース ID。APPLTAG の重複値を識別します。

このパラメーターは、z/OS で、APPLTYPE パラメーターの値が SYSTEM ではない場合にのみ返されます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ASTATE

この接続ハンドルでの非同期コンシュームの状態。

指定可能な値は以下のとおりです。

中断状態

MQCTL 呼び出しが Operation パラメーターを MQOP_SUSPEND に設定して接続ハンドルに対して発行されたため、非同期メッセージ・コンシュームはこの接続で一時的に中断されます。

開始済み

MQCTL 呼び出しが Operation パラメーターを MQOP_START に設定して接続ハンドルに対して発行されたため、非同期メッセージ・コンシュームはこの接続で続行できます。

STARTWAIT

MQCTL 呼び出しが Operation パラメーターを MQOP_START_WAIT に設定して接続ハンドルに対して発行されたため、非同期メッセージ・コンシュームはこの接続で続行できます。

STOPPED

MQCTL 呼び出しが Operation パラメーターを MQOP_STOP に設定して接続ハンドルに対して発行されたため、非同期メッセージ・コンシュームはこの接続で現在続行できません。

NONE

この接続ハンドルに対して MQCTL 呼び出しは発行されませんでした。現在、この接続では非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。

CHANNEL

接続を使用するチャンネルの名前 この接続に関連付けられたチャンネルがない場合、このパラメーターはブランクです。

V 8.0.0.2**CLIENTID**

z/OS では無効です。

接続を使用しているクライアントのクライアント ID。この接続に関連付けられたクライアントがない場合、このパラメーターはブランクです。

CONNNAME

接続を所有するチャンネルに関連付けられた接続名です。この接続に関連付けられたチャンネルがない場合、このパラメーターはブランクです。

CONNOPTS

このアプリケーション接続で現在適用されている接続オプション。指定可能な値は以下のとおりです。

- MQCNO_ACCOUNTING_Q_DISABLED
- MQCNO_ACCOUNTING_Q_ENABLED
- MQCNO_ACCOUNTING_MQI_DISABLED
- MQCNO_ACCOUNTING_MQI_ENABLED
- MQCNO_FASTPATH_BINDING
- MQCNO_HANDLE_SHARE_BLOCK
- MQCNO_HANDLE_SHARE_NO_BLOCK
- MQCNO_HANDLE_SHARE_NONE
- MQCNO_ISOLATED_BINDING
- MQCNO_RECONNECT
- MQCNO_RECONNECT_Q_MGR
- MQCNO_RESTRICT_CONN_TAG_Q_MGR
- MQCNO_RESTRICT_CONN_TAG_QSG
- MQCNO_SERIALIZE_CONN_TAG_Q_MGR
- MQCNO_SERIALIZE_CONN_TAG_QSG
- MQCNO_SHARED_BINDING
- MQCNO_STANDARD_BINDING

MQCNO_RECONNECT と MQCNO_RECONNECT_Q_MGR の表示値は、アプリケーションで明示的に指定されている場合のみ表示されます。mqclient.ini ファイル設定または CLNTCONN チャンネル定義から値が選定されている場合は、どちらの値も表示されません。

値 MQCNO_STANDARD_BINDING は、WHERE パラメーターの CT および EX 演算子によるフィルター値として使用できません。

EXTURID

この接続に関連付けられた外部のリカバリー単位 ID。形式は URTYPE の値によって決まります。

EXTURID は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

z/OS NID

起点 ID。UOWSTATE の値が UNRESOLVED の場合에만設定されます。これは、キュー・マネージャー内の作業単位を識別する固有のトークンです。形式は origin-node.origin-urid で、以下を示します。

- origin-node はスレッドの開始元を表します。例外として APPLTYPE が RRSBATCH に設定されているときは省略されます。
- origin-urid は、特定のスレッドを解決するために開始元のシステムによってリカバリー単位に割り当てられる 16 進数です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

PID

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションのプロセス ID を指定する番号。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

z/OS PSBNAME

実行中の IMS トランザクションに関連付けられたプログラム仕様ブロック (PSB) の 8 文字の名前。PSBNAME および PSTID を使用して、IMS コマンドを使用するトランザクションをページできます。これは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が IMS である場合にのみ返されます。

z/OS PSTID

接続している IMS 領域の 4 文字の IMS プログラム仕様テーブル (PST) 領域 ID。これは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が IMS である場合にのみ返されます。

QMURID

キュー・マネージャーのリカバリー単位 ID。

z/OS z/OS では、これは 8 バイトのログ RBA で、16 文字の 16 進文字で表示されます。

z/OS 以外のプラットフォームでは、これは 8 バイトのトランザクション ID で m.n と表示されます。ここで、m と n はトランザクション ID の最初と最後の 4 バイトの 10 進表記です。

z/OS QMURID はフィルター・キーワードとして使用できます。z/OS では、フィルター値を 16 進数ストリングとして指定する必要があります。

z/OS システム以外のシステムの場合は、ピリオド (.) で区切られた 10 進数のペアとしてフィルター値を指定する必要があります。.EQ、NE、GT、LT、GE、または LE のみをフィルター演算子として使用できます。

z/OS ただし、z/OS で、メッセージ CSQR026I によって示されるようにログ延期が起きた場合、RBA ではなくメッセージの URID を使用する必要があります。

z/OS TASKNO

7 桁の CICS タスク番号。この番号は、CICS タスクを終了するために、CICS コマンド "CEMT SET TASK(taskno) PURGE" で使用できます。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が CICS である場合にのみ返されます。

TID

指定したキューを開いたアプリケーション・プロセス内のスレッド ID を示す番号。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

z/OS TRANSID

4 文字の CICS トランザクション ID。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が CICS である場合にのみ返されます。

UOWLOG

この接続に関連したトランザクションが最初書き込んだ範囲のファイル名。

z/OS このパラメーターは z/OS 以外のプラットフォームでのみ有効です。

UOWLOGDA

現在の接続に関連したトランザクションが最初にログに記録した日付。

UOWLOGTI

現在の接続に関連したトランザクションが最初にログに記録した時刻。

UOWSTATE

作業単位の状態。これは、以下のいずれかになります。

NONE

作業単位はありません。

ACTIVE

作業単位はアクティブです。

PREPARED

作業単位はコミット処理中です。

UNRESOLVED

作業単位は、2 フェーズ・コミット操作の第 2 フェーズにあります。IBM MQ がリソースが保持しており、それを解決するために外部介入が必要です。これは、回復調整システム (CICS、IMS、または RRS など) を開始するというように簡単な場合と、RESOLVE INDOUBT コマンドの使用など、より複雑な操作が関与する場合とがあります。UNRESOLVED 値は z/OS でのみ使用可能です。

UOWSTDA

現在の接続に関連したトランザクションが開始された日付。

UOWSTTI

現在の接続に関連したトランザクションが開始された時刻。

URTYPE

キュー・マネージャーから分かるリカバリー単位のタイプ。これは、以下のいずれかになります。

-  CICS (z/OS でのみ有効)
- XA
-  RRS (z/OS でのみ有効)
-  IMS (z/OS でのみ有効)
- QMGR

URTYPE は、トランザクション・コーディネーターのタイプではなく、EXTURID タイプを示します。URTYPE が QMGR の場合、関連付けられる ID は QMURID (EXTURID ではなく) で示されます。

ユーザー ID

接続に関連付けられたユーザー ID。

このパラメーターは、APPLTYPE の値が SYSTEM のときは返されません。

ハンドル属性

TYPE が HANDLE に設定されている場合は、指定されている場合を除き、選択基準を満たす各接続に対して、常に次の情報が返されます。

- 接続 ID (CONN パラメーター)
- 先読み状況 (DEFREADA パラメーター)
- 返される情報のタイプ (TYPE パラメーター)
- ハンドル状況 (HSTATE)
- オブジェクト名 (OBJNAME パラメーター)
- オブジェクト・タイプ (OBJTYPE パラメーター)

各キューの追加情報を要求するために、TYPE(HANDLE) で以下のパラメーターを指定できます。接続、オペレーティング環境、または要求される状況情報タイプに関係のないパラメーターが指定されると、そのパラメーターは無視されます。

ASTATE

このオブジェクト・ハンドルでの非同期コンシューマーの状態。

指定可能な値は以下のとおりです。

ACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされ、接続ハンドルが開始されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを続行できます。

INACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされていますが、接続ハンドルがまだ開始されていないか、停止または中断されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを現在続行できません。

中断状態

非同期コンシュームのコールバックが中断されているため、このオブジェクト・ハンドルでは現在非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。これは、Operation に MQOP_SUSPEND を指定した MQCB 呼び出しが、アプリケーションによってこのオブジェクト・ハンドルに対して発行されているか、またはシステムによって中断されているためです。システムによって中断された場合は、非同期メッセージ・コンシュームを中断するプロセスの一部として、コールバック機能が呼び出され、中断の原因となった問題を記述する理由コードが示されます。このコードは、コールバック機能に渡される、MQCBC 構造体の Reason フィールドで報告されます。

非同期メッセージ・コンシュームを続行するには、Operation パラメーターを MQOP_RESUME に設定した MQCB 呼び出しを、アプリケーションで発行する必要があります。

SUSPTEMP

非同期コンシュームのコールバックがシステムにより一時的に中断されたため、現在このオブジェクト・ハンドルで非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。非同期メッセージ・コンシュームを中断するプロセスの一部として、コールバック機能が呼び出され、中断の原因となった問題を記述する理由コードが示されます。この理由コードは、コールバック機能に渡される MQCBC 構造体の Reason フィールドで報告されます。

一時的な状態が解決され、非同期メッセージ・コンシュームがシステムによって再開されると、コールバック機能が再び呼び出されます。

NONE

このハンドルに対して MQCB 呼び出しが発行されていないため、非同期メッセージ・コンシュームがこのハンドルで構成されていません。

DEST

このサブスクリプションに対してパブリッシュされているメッセージの宛先キュー。このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルに対してのみ有効です。その他のハンドルに対しては返されません。

DESTQMGR

このサブスクリプションに対してパブリッシュされるメッセージの宛先キュー・マネージャー。このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。その他のハンドルに対しては返されません。DEST がローカル・キュー・マネージャーでホストされているキューである場合、このパラメーターにはローカル・キュー・マネージャー名が入ります。DEST がリモート・キュー・マネージャーでホストされているキューである場合、このパラメーターにはリモート・キュー・マネージャー名が入ります。

HSTATE

ハンドルの状態。

指定可能な値は以下のとおりです。

ACTIVE

この接続からの API 呼び出しは、このオブジェクトに対して現在進行中です。オブジェクトがキューである場合は、MQGET WAIT 呼び出しが進行中であるときにこの状態になる場合があります。

未解決の MQGET SIGNAL がある場合、この値だけでは、ハンドルがアクティブであることを意味しません。

INACTIVE

このオブジェクトに対して現在進行中であるこの接続からの API 呼び出しはありません。オブジェクトがキューである場合は、進行中の MQGET WAIT 呼び出しがないときにこの状態になる場合があります。

OBJNAME

接続がオープンしたオブジェクトの名前。

OBJTYPE

接続がオープンしたオブジェクトのタイプ。このハンドルがトピックに対するサブスクリプションのハンドルである場合は、SUBID パラメーターによってサブスクリプションが指定されます。その後、DISPLAY SUB コマンドを使用して、サブスクリプションに関するすべての詳細を検索できます。

これは、以下のいずれかになります。

- QUEUE
- PROCESS
- QMGR
-  STGCLASS (z/OS でのみ有効)
- NAMELIST
- CHANNEL
- AUTHINFO
- トピック

OPENOPTS

オブジェクトの接続に対して現在有効なオープン・オプション。このパラメーターはサブスクリプションに対しては返されません。サブスクリプションに関する詳細を確認するには、SUBID パラメーターの値と DISPLAY SUB コマンドを使用します。

指定可能な値は以下のとおりです。

MQOO_INPUT_AS_Q_DEF

キュー定義のデフォルトを使用してメッセージを取得するためにキューを開きます。

MQOO_INPUT_SHARED

共有アクセスによりメッセージを読み取るためにキューをオープンする。

MQOO_INPUT_EXCLUSIVE

メッセージを読み取るためにキューを排他アクセス・モードでオープンする。

MQOO_BROWSE

メッセージをブラウズするためにキューを開きます。

MQOO_OUTPUT

キューまたはトピックをオープンして、メッセージを書き込みます。

MQOO_INQUIRE

キューをオープンして、属性を照会します。

MQOO_SET

属性を設定するためにキューを開きます。

MQOO_BIND_ON_OPEN

キューが検出されたときに、ハンドルを宛先にバインドします。

MQOO_BIND_NOT_FIXED

特定の宛先にバインドしません。

MQOO_SAVE_ALL_CONTEXT

メッセージが取り出されるときにコンテキストを保管します。

MQOO_PASS_IDENTITY_CONTEXT

識別コンテキストを渡すことができます。

MQOO_PASS_ALL_CONTEXT

すべてのコンテキストを渡すことができるようにします。

MQOO_SET_IDENTITY_CONTEXT

識別コンテキストを設定することができるようにします。

MQOO_SET_ALL_CONTEXT

すべてのコンテキストを設定できるようにします。

MQOO_ALTERNATE_USER_AUTHORITY

指定されたユーザー ID を用いて妥当性検査を行います。

MQOO_FAIL_IF QUIESCING

キュー・マネージャーが静止している場合は、失敗します。

QSGDISP

オブジェクトの属性指定を示します。これは、z/OS でのみ有効です。値は、次のいずれか 1 つです。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

SHARED

オブジェクトは QSGDISP(SHARED) で定義されました。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

READA

先読み接続状況。

指定可能な値は以下のとおりです。

NO

非持続メッセージの先読みは、このオブジェクトに対して使用可能ではありません。

YES

非持続メッセージの先読みはこのオブジェクトに対して使用可能であり、効率的に使用されています。

BACKLOG

このオブジェクトの非持続メッセージの先読みは有効です。クライアントが大量のメッセージを送信し、それらがコンシュームされていないため、先読みが効率的に使用されていません。

INHIBITED

アプリケーションにより先読みが要求されましたが、最初の MQGET 呼び出しで非互換のオプションが指定されたため、使用禁止になりました。

SUBID

サブスクリプションの内部の常時固有 ID。このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。その他のハンドルに対しては返されません。

すべてのサブスクリプションが DISPLAY CONN で表示されるわけではありません。表示されるのは、サブスクリプションに対してオープンな現行ハンドルがあるもののみです。DISPLAY SUB コマンドを使用すると、サブスクリプションをすべて表示することができます。

SUBNAME

ハンドルに関連付けられているアプリケーションの固有サブスクリプション名。このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。その他のハンドルに対しては返されません。サブスクリプションには、名前が付かないものもあります。

TOPICSTR

解決済みのトピック・ストリング。このパラメーターは OBJTYPE(TOPIC) のハンドルに関連しています。その他のオブジェクト・タイプに対しては、このパラメーターは返されません。

全属性

TYPE を * または ALL に設定すると、選択基準を満たす各接続に対して接続属性とハンドル属性の両方が返されます。

DISPLAY ENTAUTH

指定されたオブジェクトに対してエンティティが所有する許可を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY ENTAUTH を使用します。

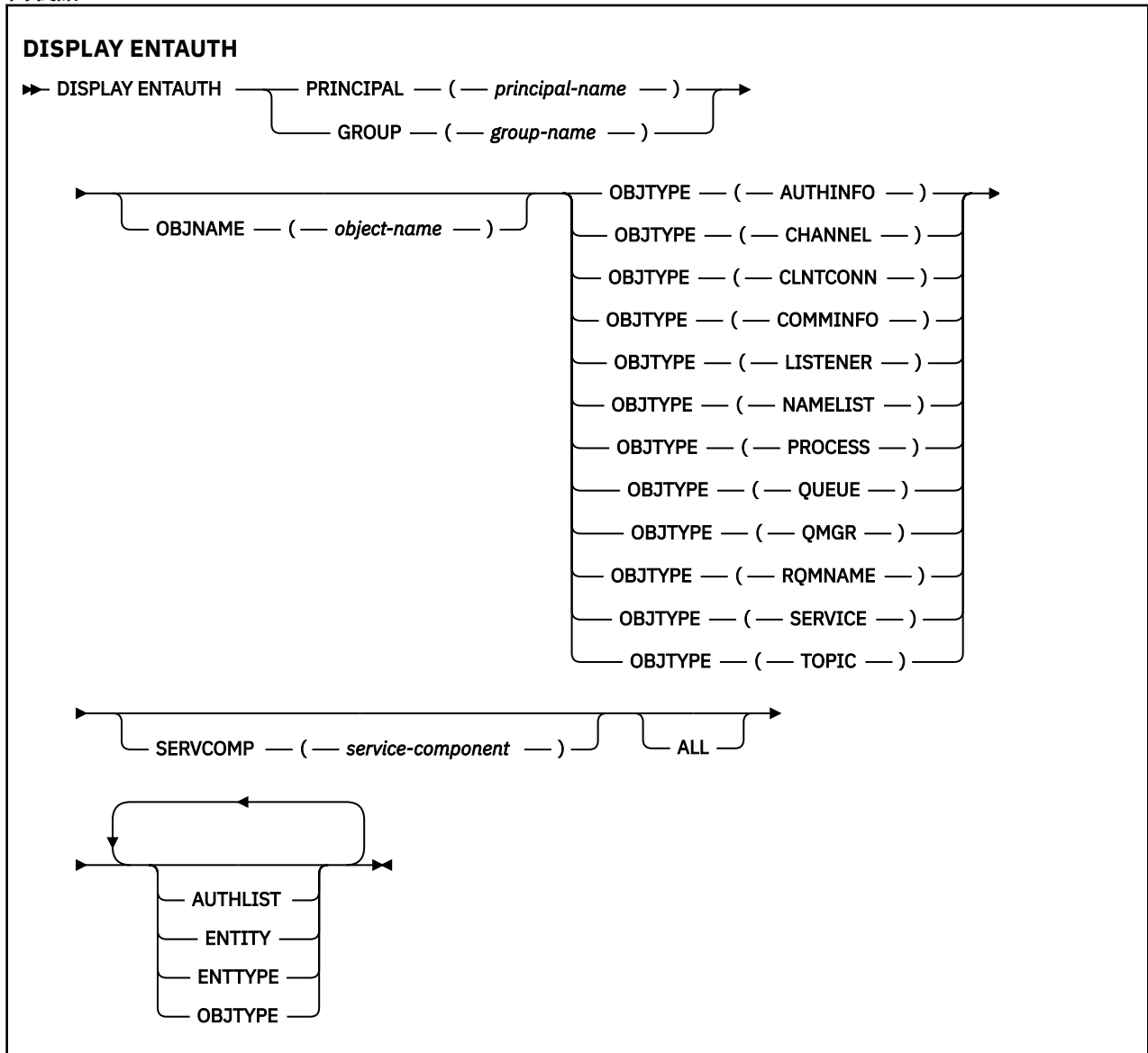
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1113 ページの『パラメーターの説明』](#)
- [1115 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS ENTAUTH



パラメーターの説明

PRINCIPAL(*principal-name*)

プリンシパル名。指定したオブジェクトに対する許可を取得する対象となるユーザーの名前です。

IBM MQ for Windows では、オプションとしてプリンシパル名にドメイン・ネームを組み込むことができます (user@domain の形式で指定)。

PRINCIPAL または GROUP のいずれかを指定する必要があります。

GROUP(group-name)

グループ名。照会するユーザー・グループの名前です。名前は1つだけ指定することができ、既存のユーザー・グループの名前でなければなりません。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain  
domain\GroupName
```

PRINCIPAL または GROUP のいずれかを指定する必要があります。

OBJNAME(object-name)

許可を表示するオブジェクトまたは総称プロファイルの名前。

OBJTYPE パラメーターが QMGR でない場合、このパラメーターは必須です。OBJTYPE パラメーターが QMGR の場合、このパラメーターは省略できます。

OBJTYPE

プロファイルが参照するオブジェクトのタイプ。次のいずれかの値を指定します。

AUTHINFO

認証情報レコード

CHANNEL

チャンネル

CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

COMMINFO

通信情報オブジェクト

リスナー

リスナー

NAMELIST

名前リスト

PROCESS

プロセス

QUEUE

キュー

QMGR

キュー・マネージャー

RQMNAME

リモート・キュー・マネージャー

SERVICE

サービス

トピック

トピック

SERVCOMP(service-component)

情報を表示する許可サービスの名前。

このパラメーターを指定する場合、許可が適用される許可サービスの名前を指定します。このパラメーターを省略すると、許可サービスのチェーニングに関する規則に従って、登録済みの許可サービスに対して順次照会が行われます。

ALL

エンティティーおよび指定されたプロファイルに関して入手できるすべての許可情報を表示するには、この値を指定します。

要求パラメーター

許可に関して要求できる情報は、次のとおりです。

AUTHLIST

許可のリストを表示するには、このパラメーターを指定します。

ENTITY

エンティティー名を表示するには、このパラメーターを指定します。

ENTTYPE

エンティティー・タイプを表示するには、このパラメーターを指定します。

OBJTYPE

オブジェクト・タイプを表示するには、このパラメーターを指定します。

DISPLAY GROUP

キュー・マネージャーの接続先のキュー共有グループに関する情報を表示するには、MQSC コマンド **DISPLAY GROUP** を使用します。このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

MQSC コマンドの使用

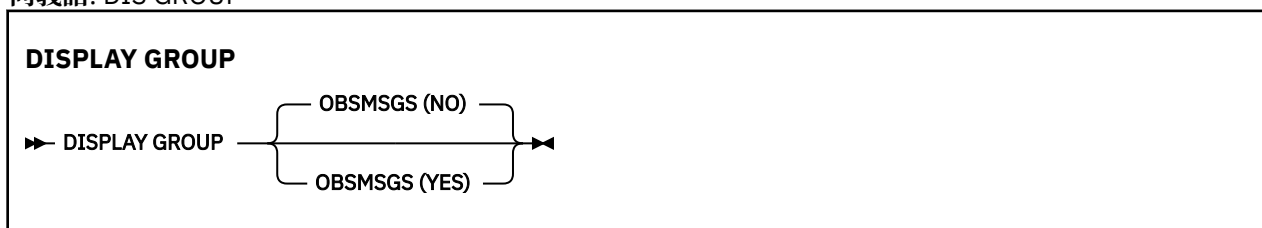
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1115 ページの『DISPLAY GROUP の使用上の注意』](#)
- [1116 ページの『DISPLAY GROUP のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS GROUP



DISPLAY GROUP の使用上の注意

1. DISPLAY GROUP コマンドへの応答は、キュー・マネージャーが接続されているキュー共有グループについての情報を含む、一連のメッセージです。

以下の情報が返されます。

- キュー共有グループの名前
- そのグループに属するすべてのキュー・マネージャーがアクティブまたは非アクティブのいずれであるか
- そのグループに属するすべてのキュー・マネージャーの名前。
- OBSMSGs (YES) を指定した場合、グループのキュー・マネージャーに Db2 での古いメッセージがあるかどうか

DISPLAY GROUPのパラメーターの説明

OBSMSG

コマンドが Db2 内で古いメッセージも検索するかどうかを指定します。これはオプションです。指定可能な値は以下のとおりです。

NO

Db2 内の古いメッセージは検索されません。これはデフォルト値です。

YES

Db2 の古いメッセージが検索され、見つかったメッセージがあれば、それらに関する情報を含むメッセージが返されます。

DISPLAY LISTENER

MQSC コマンド DISPLAY LISTENER は、リスナーに関する情報を表示するために使用されます。

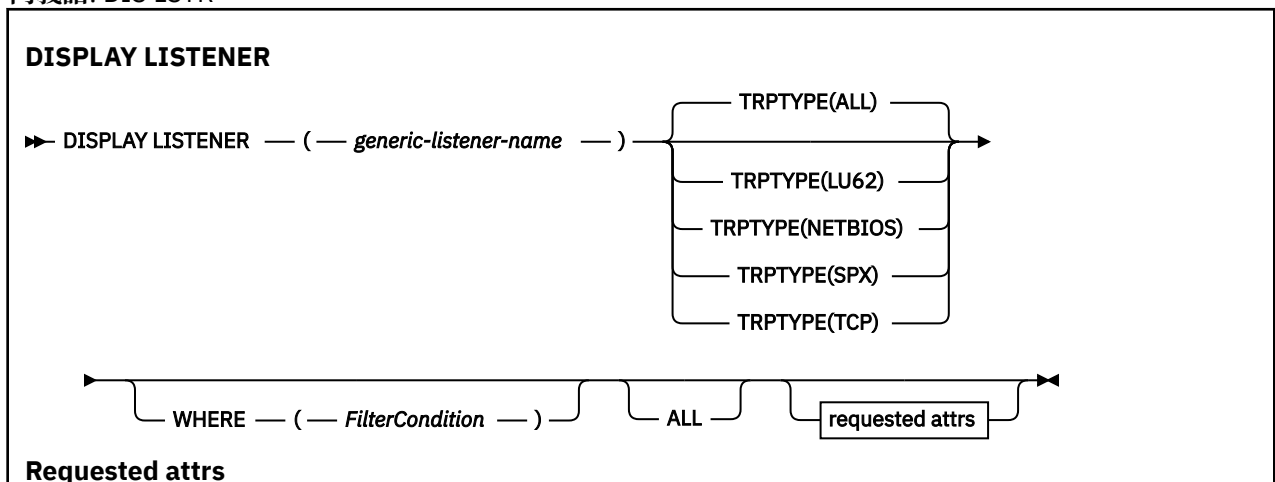
MQSC コマンドの使用

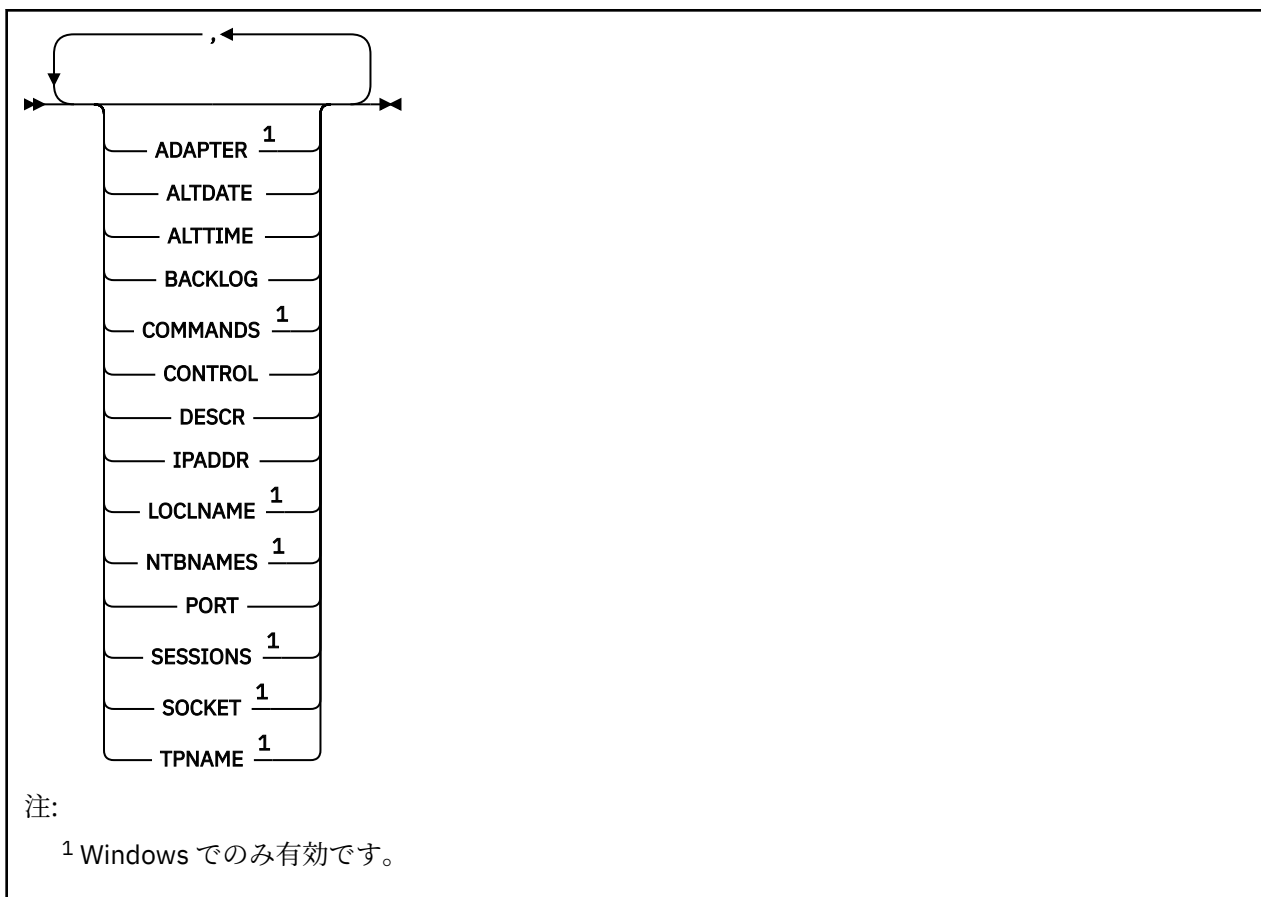
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1117 ページの『使用上の注意』](#)
- [1117 ページの『DISPLAY LISTENER のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)
- [1119 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS LSTR





使用上の注意

表示される値には、リスナーの現在の定義が記述されます。リスナーが開始後に変更されている場合、リスナー・オブジェクトの現在実行中のインスタンスの値は現行の定義と同じ値ではないことがあります。

DISPLAY LISTENER のキーワードおよびパラメーターの説明

情報を表示するリスナーを指定する必要があります。特定のリスナー名または総称リスナー名のどちらかを使用してリスナーを指定できます。総称リスナー名を使用することにより、次のいずれかの情報を表示できます。

- すべてのリスナー定義に関する情報。アスタリスク 1 つ (*) を指定します。
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のリスナーについての情報。

(*generic-listener-name*)

どの情報を表示するかを、リスナー定義名で指定します。アスタリスク 1 つ (*) を指定すると、すべてのリスナー ID の情報が表示されます。末尾にアスタリスクが付いた文字ストリングは、そのストリングの後に 0 個以上の文字が続くすべてのリスナーに一致します。

TRPTYPE

伝送プロトコル。このパラメーターを指定するときは、*generic-listener-name* パラメーターの直後に続ける必要があります。このパラメーターを指定しない場合、デフォルトの ALL が前提となります。値は次のとおりです。

ALL

これはデフォルト値であり、すべてのリスナーの情報を表示します。

LU62

TRPTYPE パラメーターに LU62 の値を指定して定義されたすべてのリスナーの情報を表示します。

NETBIOS

TRPTYPE パラメーターに NETBIOS の値を指定して定義されたすべてのリスナーの情報を表示します。

SPX

TRPTYPE パラメーターに SPX の値を指定して定義されたすべてのリスナーの情報を表示します。

TCP

TRPTYPE パラメーターに TCP の値を指定して定義されたすべてのリスナーの情報を表示します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすリスナーの情報を表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

指定したフィルター・キーワードのフィルター値の条件をリスナーが満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。
- 総称値。これは文字ストリングです。末尾にアスタリスクを付け、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

ALL

指定した各リスナーのすべてのリスナー情報を表示するには、これを指定します。このパラメーターを指定する場合、具体的に要求されるパラメーターはいずれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

これは、総称 ID を指定せず特定のパラメーターを要求しない場合のデフォルトです。

z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

要求パラメーター

表示するデータを定義する属性を 1 つ以上指定します。属性の指定順序は任意です。同じ属性を複数回指定しないでください。

ADAPTER

NetBIOS が listen するアダプター番号。

ALTDAT

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

BACKLOG

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

コマンド

リスナーが使用できるコマンドの数。

CONTROL

リスナーの開始方法と停止方法。

MANUAL

リスナーを自動的に開始または停止しません。START LISTENER コマンドと STOP LISTENER コマンドを使用して制御します。

QMGR

定義するリスナーは、キュー・マネージャーの開始および停止と同時に、開始および停止します。

STARTONLY

リスナーは、キュー・マネージャーの開始と同時に開始するようになっていますが、キュー・マネージャーの停止と同時に停止するようには要求されていません。

DESCR

記述コメント。

IPADDR

リスナーの IP アドレス。

LOCLNAME

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。

NTBNAMES

リスナーが使用できる名前の数。

PORT

TCP/IP のポート番号。

SESSIONS

リスナーが使用できるセッションの数。

SOCKET

SPX ソケット。

TPNAME

LU6.2 トランザクション・プログラム名。

これらのパラメーターの詳細については、[915 ページの『DEFINE LISTENER』](#)を参照してください。

DISPLAY LOG

ログ・システムのパラメーターと情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY LOG を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

”

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DISPLAY LSSTATUS

1 つ以上のリスナーについての状況情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY LSSTATUS を使用します。

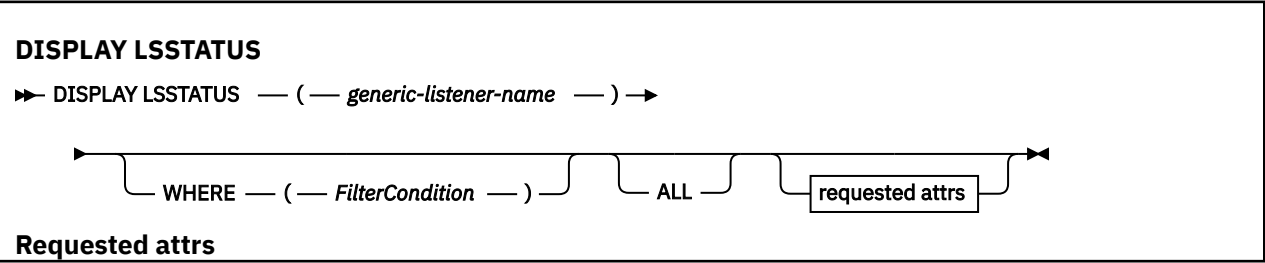
MQSC コマンドの使用

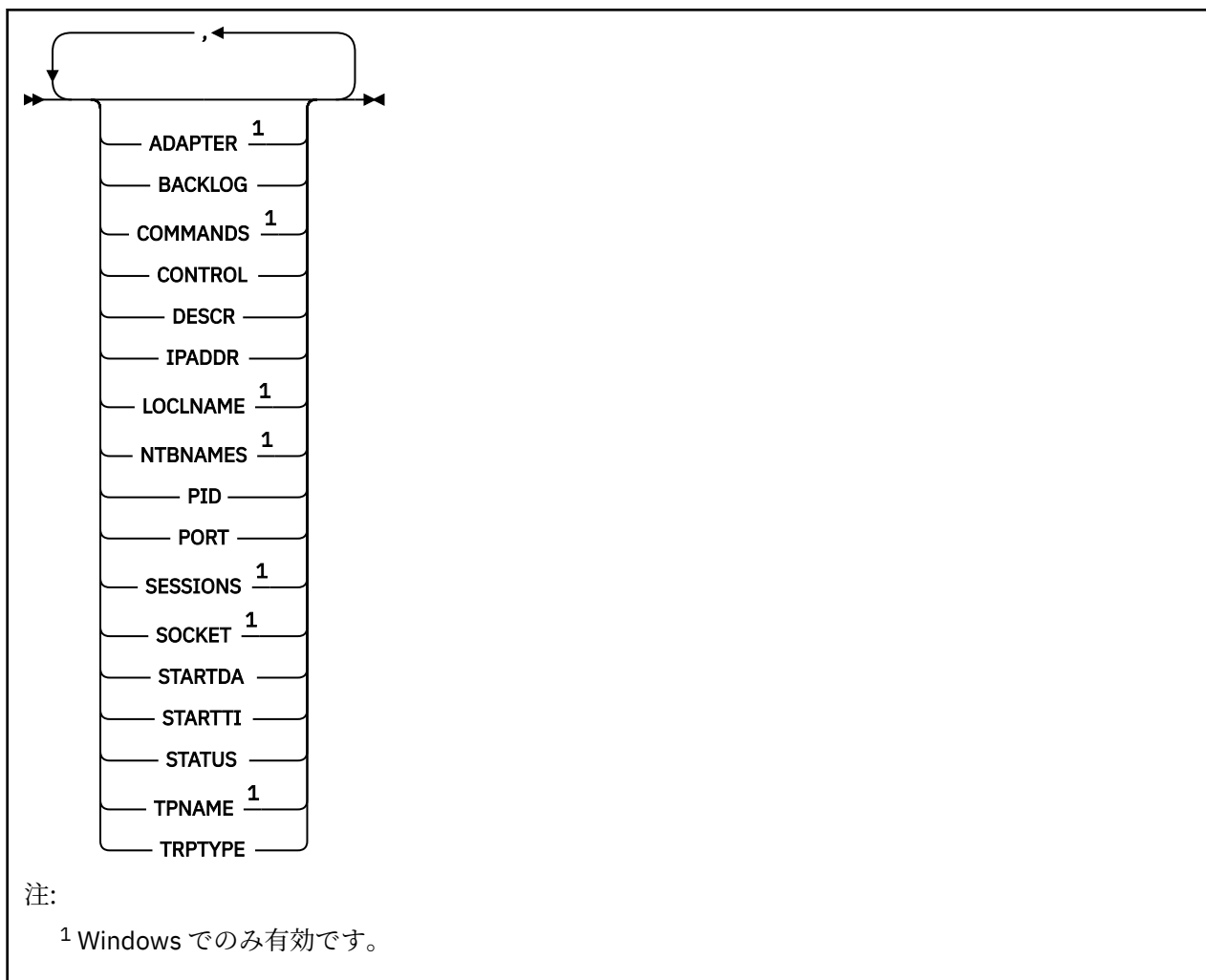
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1122 ページの『DISPLAY LSSTATUS のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)
- [1123 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS LSSTATUS





DISPLAY LSSTATUS のキーワードおよびパラメーターの説明

状況情報を表示する対象のリスナーを指定する必要があります。特定のリスナー名または総称リスナー名のどちらかを使用してリスナーを指定できます。総称リスナー名を使用することにより、次のいずれかの情報を表示できます。

- 単一のアスタリスク (*) を使用して、すべてのリスナー定義の状況情報を表示できます。
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のリスナーの状況情報。

(generic-listener-name)

どのリスナーの状況情報を表示するかを、チャンネル定義名で指定します。アスタリスク (*) を 1 つ使用して指定すると、すべての接続 ID の情報が表示されます。末尾にアスタリスクが付いた文字ストリングは、そのストリングの後に 0 個以上の文字が続くすべてのリスナーに一致します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすリスナーの情報を表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

指定したフィルター・キーワードのフィルター値の条件をリスナーが満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。
- 総称値。これは文字ストリングです。末尾にアスタリスクを付け、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

ALL

指定した各リスナーの状況情報をすべて表示します。総称名を指定せず、特定のパラメーターも要求しない場合は、これがデフォルトになります。

要求パラメーター

表示するデータを定義する属性を 1 つ以上指定します。属性の指定順序は任意です。同じ属性を複数回指定しないでください。

ADAPTER

NetBIOS が listen するアダプター番号。

BACKLOG

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

CONTROL

リスナーの開始方法と停止方法。

MANUAL

リスナーを自動的に開始または停止しません。START LISTENER コマンドと STOP LISTENER コマンドを使用して制御します。

QMGR

定義するリスナーは、キュー・マネージャーの開始および停止と同時に、開始および停止します。

STARTONLY

リスナーは、キュー・マネージャーの開始と同時に開始するようになっていますが、キュー・マネージャーの停止と同時に停止するようには要求されていません。

DESCR

記述コメント。

IPADDR

リスナーの IP アドレス。

LOCLNAME

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。

NTBNAMES

リスナーが使用できる名前の数。

PID

リスナーに関連したオペレーティング・システム処理 ID。

PORT

TCP/IP のポート番号。

SESSIONS

リスナーが使用できるセッションの数。

SOCKET

SPX ソケット。

STARTDA

リスナーが開始された日付。

STARTTI

リスナーが開始された時刻。

状況

リスナーの現行状況。次のいずれかです。

RUNNING

リスナーは実行中です。

STARTING

リスナーは初期化の処理中です。

STOPPING

リスナーは停止します。

TPNAME

LU6.2 トランザクション・プログラム名。

TRPTYPE

トランスポート・タイプ。

これらのパラメーターの詳細については、[915 ページの『DEFINE LISTENER』](#)を参照してください。

DISPLAY MAXSMGS

タスクが 1 つのリカバリー単位内に読み取りまたは書き込みができるメッセージの最大数を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY MAXSMGS を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

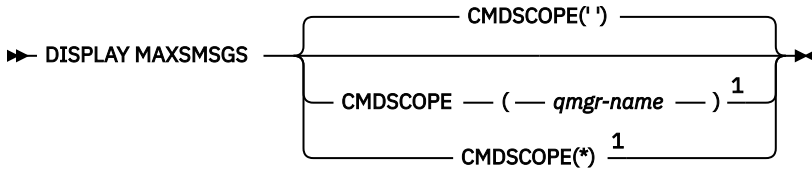
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1125 ページの『使用上の注意』](#)
- [1125 ページの『DISPLAY MAXSMGS のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS MAXSM

DISPLAY MAXSMGS



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、全機能付き IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

使用上の注意

このコマンドは、z/OS でのみ有効であり、従来のリリースとの互換性の目的のために保持されていますが、CSQINP1 初期設定データ・セットからは発行できなくなりました。代わりに DISPLAY QMGR コマンドの MAXUMSGS パラメーターを使用する必要があります。

DISPLAY MAXSMGS のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DISPLAY NAMELIST

名前リスト内の名前を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY NAMELIST を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

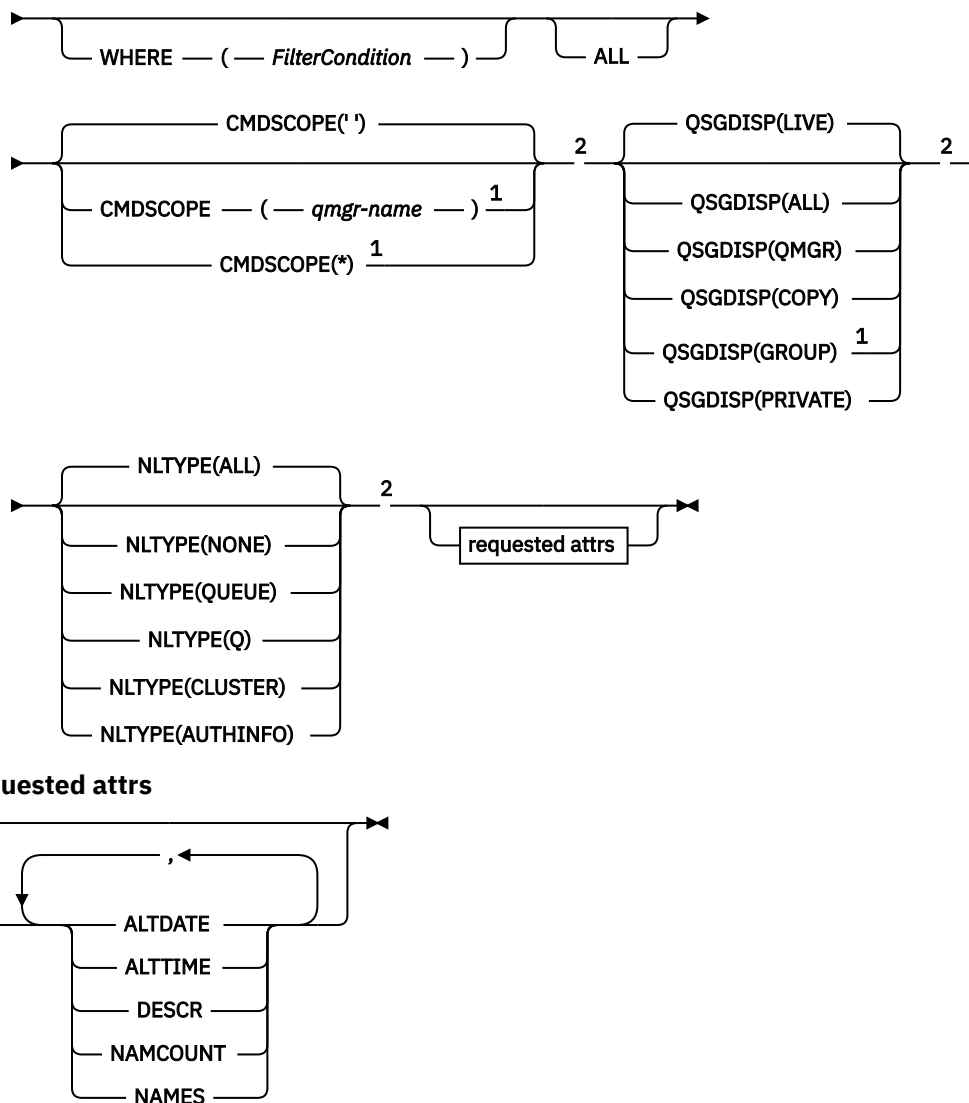
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1126 ページの『DISPLAY NAMELIST のパラメーターの説明』](#)
- [1129 ページの『要求パラメーター』](#)

DISPLAY NAMELIST

►► DISPLAY NAMELIST — (— *generic-namelist-name* —) →



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

DISPLAY NAMELIST のパラメーターの説明

表示する名前リスト定義の名前を指定する必要があります。特定の名前リストの名前か、または名前リストの総称名を指定できます。名前リストの総称名を使用すると、以下のいずれかを表示できます。

- すべての名前リスト定義
- 指定した名前に一致する 1 つ以上の名前リスト

(*generic-namelist-name*)

表示する名前リスト定義の名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。語幹の後に後続アスタリスク (*) を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべての名前リストに一致します。アスタリスク (*) だけを単独で指定した場合、すべての名前リストが指定されることになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす名前リストのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE と QSGDISP のパラメーターは、いずれもフィルター・キーワードとして使用できません。名前リストを選択するために NLTYPE を使用する場合、それをフィルター・キーワードとして使用することはできません。

operator

これは、名前リストが、指定されたフィルター・キーワードのフィルター値条件を満たすかどうかを判別するのに使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれています。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するために使用できます。その属性には、指定された項目が含まれていません。

CTG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、属性が総称ストリングに一致するオブジェクトを表示するためにこれを使用できます。

EXG

filter-value として指定する総称ストリングに一致する項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、これを使用して、属性が総称ストリングに一致しないオブジェクトを表示できます。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、NLTYPE パラメーターの値 NONE など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

- 値リストの中の項目です。値は明示的にできますが、値が文字値の場合は明示的または総称にすることができます。明示的に指定する場合、演算子には CT または EX を使用します。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。総称の場合、演算子には CTG または EXG を使用します。演算子 CTG に ABC* を指定した場合、属性値の 1 つが ABC で始まるすべての項目のリストが表示されます。

ALL

すべてのパラメーターを表示する場合に、これを指定します。このパラメーターを指定する場合、それと同時に明示的に要求されるパラメーターは無効になります。すべてのパラメーターが表示されます。

総称名を指定せず、特定のパラメーターも要求しない場合は、これがデフォルトになります。

z/OS z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

これはデフォルト値で、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

共有キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前 (属性指定が異なる) を出力する可能性があります。

共有キュー・マネージャー環境では、以下を使用します。

```
DISPLAY NAMELIST(name) CMDSCOPE(*) QSGDISP(ALL)
```

一致するすべてのオブジェクトをリスト表示するには、以下を使用します。

name

共有リポジトリに複製せずに、キュー共有グループ内で使用します。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

QSGDISP(PRIVATE) で表示される情報は QSGDISP(LIVE) と同じです。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

NLTYPE

表示する名前リストのタイプを示します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ALL

すべてのタイプの名前リストを表示します。これがデフォルトです。

NONE

タイプ NONE の名前リストを表示します。

QUEUE または Q

キュー名のリストを内容とする名前リストを表示します。

CLUSTER

クラスタリングに関連する名前リストを表示します。

AUTHINFO

認証情報オブジェクト名のリストを内容とする名前リストを表示します。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

パラメーターが何も指定されていない場合 (ALL パラメーターも指定されていない場合)、デフォルトでは、オブジェクト名 (および z/OS の場合はそれに加えてその NLTYPE と QSGDISP) が表示されます。

ALTDAT

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます

DESCR

説明

NAMCOUNT

リスト中の名前の数

NAMES

名前のリスト

個々のパラメーターについての詳細は、[921 ページの『DEFINE NAMELIST』](#)を参照してください。

DISPLAY POLICY

MQSC コマンド DISPLAY POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを表示します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1130 ページの『DISPLAY POLICY のパラメーターの説明』](#)

DISPLAY POLICY

► DISPLAY POLICY — (— *generic-policy-name* —) ◄

DISPLAY POLICY のパラメーターの説明

(*generic-policy-name*)

表示するポリシー名を指定します。

ワイルドカード文字を指定して複数のポリシー名を表示することもできます。

表示するポリシーの名前 (またはポリシー名の一部) は、そのポリシーで制御されるキューの名前と同じです。

関連資料

[1303 ページの『SET POLICY』](#)

MQSC コマンド SET POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを設定します。

[149 ページの『setmqspl』](#)

setmqspl コマンドを使用して、新規セキュリティー・ポリシーの定義、既存のセキュリティー・ポリシーの置換、または既存のポリシーの削除を行います。

[76 ページの『dspmqspl』](#)

dspmqspl コマンドを使用すると、すべてのポリシーのリスト、および指定したポリシーの詳細を表示できます。

DISPLAY PROCESS

1 つ以上の IBM MQ プロセスの属性を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY PROCESS を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

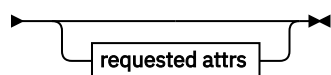
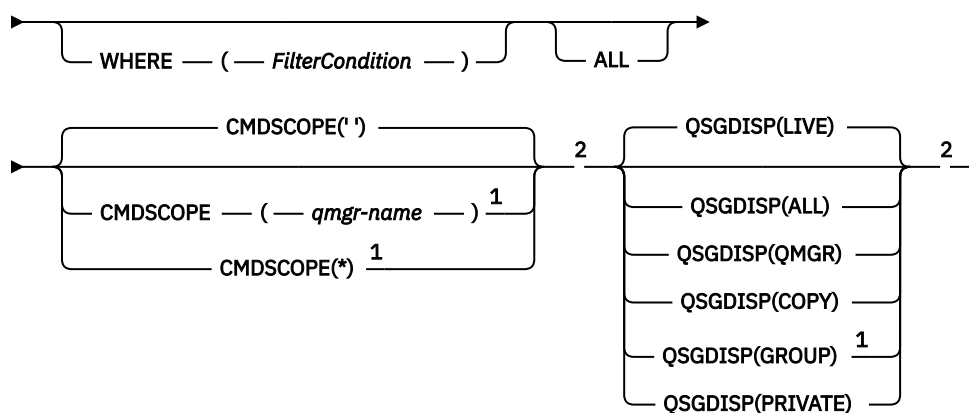
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1132 ページの『DISPLAY PROCESS のパラメーターの説明』](#)
- [1134 ページの『要求パラメーター』](#)

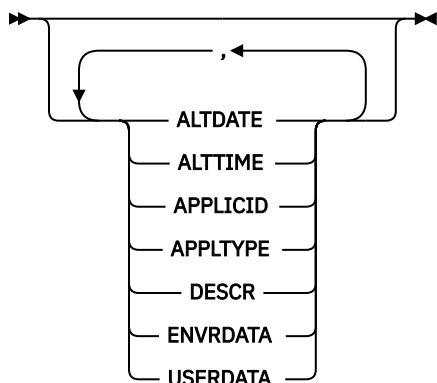
同義語: DIS PRO

DISPLAY PROCESS

►► DISPLAY PROCESS — (— *generic-process-name* —) ►



Requested attrs



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

DISPLAY PROCESS のパラメーターの説明

表示したいプロセスの名前を指定する必要があります。具体的なプロセス名でも、総称的なプロセス名でもかまいません。総称的なプロセス名を使用すれば、次の表示ができます。

- すべてのプロセス定義
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のプロセス

(generic-process-name)

表示するプロセス定義の名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。語幹の後に後続アスタリスク (*) を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのプロセスに一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべてのプロセスが指定されることになります。名前は、すべてローカル・キュー・マネージャーに対して定義されている必要があります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすプロセス定義のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

属性を表示するためにこの DISPLAY コマンドで利用できるほとんどすべてのパラメーター。

 ただし、CMDSCOPE または QSGDISP パラメーターをフィルター・キーワードとして使用することはできません。

operator

これは、プロセス定義が、指定されたフィルター・キーワードのフィルター値条件を満たすかどうかを判別するのに使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、APPLTYPE パラメーターの値 DEF など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

ALL

すべてのパラメーターを表示する場合に、これを指定します。このパラメーターを指定する場合、具体的に要求されるパラメーターはいずれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows  **z/OS**、z/OS では、総称名を指定せず、特定のパラメーターを要求することもしない場合、これがデフォルトです。

 **z/OS** z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

z/OS QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

これはデフォルト値で、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

QSGDISP(LIVE) が指定されるかデフォルトとして使用される場合、あるいは共有キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前 (属性指定が異なる) を出力する可能性があります。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

QSGDISP(PRIVATE) で表示される情報は QSGDISP(LIVE) と同じです。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

パラメーターが何も指定されていない場合 (ALL パラメーターも指定されていない場合)、デフォルトでは、オブジェクト名 (および z/OS の場合のみ、それに加えて QSGDISP) が表示されます。

ALTDAT

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます

APPLICID

アプリケーション ID

APPLTYPE

アプリケーション・タイプ。926 ページの『[DEFINE PROCESS のパラメーターの説明](#)』でこのパラメーターのところにリストしている値に加えて、値 SYSTEM も表示される場合があります。これは、アプリケーション・タイプがキュー・マネージャーであることを示します。

DESCR

説明

ENVRDATA

環境データ

USERDATA

ユーザー・データ

個々のパラメーターの詳細については、924 ページの『[DEFINE PROCESS](#)』を参照してください。

DISPLAY PUBSUB

MQSC コマンド DISPLAY PUBSUB を使用して、キュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブ状況情報を表示します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

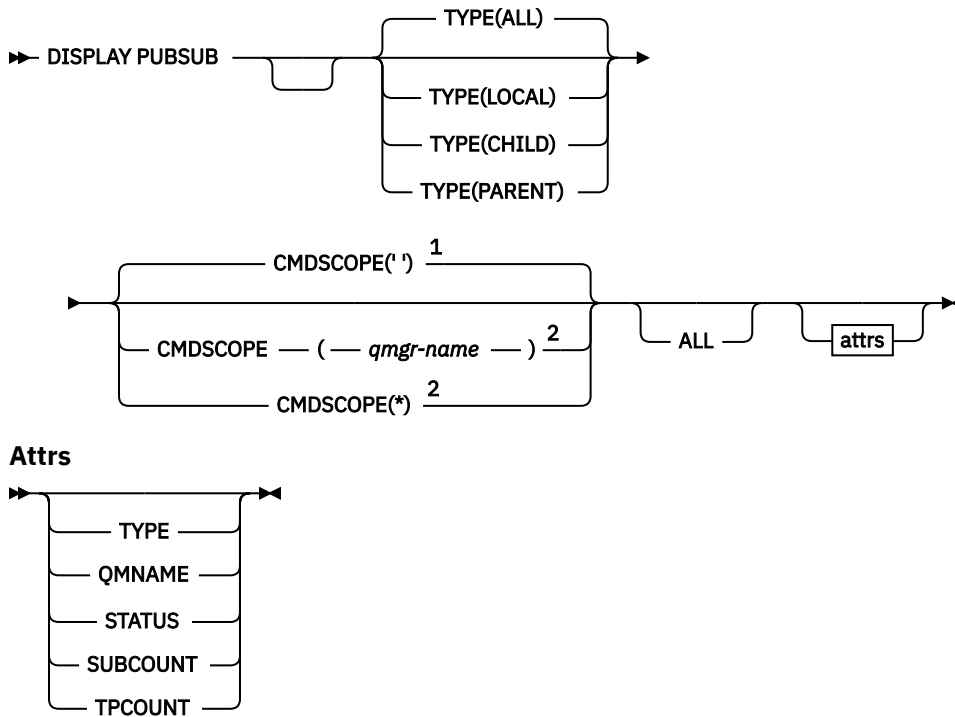
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1135 ページの『DISPLAY PUBSUB のパラメーターの説明』](#)
- [1136 ページの『戻されるパラメーター』](#)

同義語: なし

DISPLAY PUBSUB



注:

¹ z/OS でのみ有効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

DISPLAY PUBSUB のパラメーターの説明

タイプ

パブリッシュ/サブスクライブ接続のタイプ。

ALL

このキュー・マネージャーおよび親と子の階層接続のパブリッシュ/サブスクライブの状況を表示します。

CHILD

子接続のパブリッシュ/サブスクライブの状況を表示します。

ローカル

このキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブの状況を表示します。

PARENT

親接続のパブリッシュ/サブスクライブの状況を表示します。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

戻されるパラメーター

属性 TYPE、QMNAME、STATUS、SUBCOUNT、および TPCOUNT を含む、パラメーターのグループが戻されます。このグループは、TYPE を LOCAL または ALL に設定した場合は、現在のキュー・マネージャーに対して戻されます。また、TYPE を PARENT または ALL に設定した場合は親キュー・マネージャーに対して、TYPE を CHILD または ALL に設定した場合はそれぞれの子キュー・マネージャーに対して戻されます。

タイプ

CHILD

子接続。

ローカル

このキュー・マネージャーの情報。

PARENT

親接続。

QMNAME

親または子として接続されている、現行のキュー・マネージャーまたはリモート・キュー・マネージャーの名前。

状況

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンまたは階層接続の状況。パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは初期化処理中であり、まだ動作していません。キュー・マネージャーがクラスターのメンバーである(少なくとも1つの CLUSRCVR が定義されている)場合、クラスター・キャッシュが使用可能になるまで、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンはこの状態のままになります。

 IBM MQ for z/OS では、チャンネル・イニシエーターが実行されている必要があります。

TYPE が CHILD の場合、以下の値が返される可能性があります。

ACTIVE

子キュー・マネージャーとの接続はアクティブです。

エラー

構成エラーのため、このキュー・マネージャーは子キュー・マネージャーとの接続を初期化できません。具体的なエラーを示すメッセージがキュー・マネージャー・ログに生成されます。エラー・メッセージ AMQ5821 (または z/OS システムでは CSQT821E) を受け取った場合、考えられる原因には以下のものがあります。

- 送信キューが満杯である。
- 送信キューの書き込みが使用不可にされている。

エラー・メッセージ AMQ5814 (または z/OS システムでは CSQT814E) を受け取った場合は、次のアクションを実行してください。

- 子キュー・マネージャーが正しく指定されていることを確認します。
- ブローカーが子ブローカーのキュー・マネージャー名を解決できることを確認します。

キュー・マネージャー名を解決するには、以下のリソースのうち最低1つが構成されている必要があります。

- 子キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つ伝送キュー。
- 子キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つキュー・マネージャー別名定義。

- このキュー・マネージャーと同じクラスターのメンバーである子キュー・マネージャーを持つクラスター。
- 子キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つクラスター・キュー・マネージャー別名定義。
- デフォルト伝送キュー。

構成を正しくセットアップしてから、子キュー・マネージャーの名前をブランクに変更します。その後、子キュー・マネージャーの名前を設定します。

STARTING

別のキュー・マネージャーが、このキュー・マネージャーがその親になることを要求しようとしています。

子の状況が **ACTIVE** に進むことなく、**STARTING** のままになっている場合には、以下のアクションを実行してください。

- 子キュー・マネージャーへの送信側チャンネルが実行されていることを確認します。
- 子キュー・マネージャーからの受信側チャンネルが実行されていることを確認します。

STOPPING

キュー・マネージャーは切断中です。

子の状況が **STOPPING** のままになっている場合には、以下のアクションを実行してください。

- 子キュー・マネージャーへの送信側チャンネルが実行されていることを確認します。
- 子キュー・マネージャーからの受信側チャンネルが実行されていることを確認します。

TYPE が **LOCAL** の場合、以下の値が返される可能性があります。

ACTIVE

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。したがって、アプリケーション・プログラミング・インターフェースおよびキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューを使用して、パブリッシュまたはサブスクライブすることが可能です。

COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。したがって、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューに書き込まれたメッセージは、IBM MQ では処理されません。

エラー

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは失敗しました。エラー・ログを確認して、失敗の理由を判別してください。

INACTIVE

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは IBM MQ によって処理されません。

非活動状態にあるパブリッシュ/サブスクライブ・エンジンを起動するには、コマンド **ALTER QMGR PSMODE(ENABLED)** を使用します。

STARTING

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは初期化処理中であり、まだ動作していません。キュー・マネージャーがクラスターのメンバーである場合、つまり、少なくとも 1 つの **CLUSRCVR** が定義されている場合、クラスター・キャッシュが使用可能になるまで、パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンはこの状態のままになります。

 IBM MQ for z/OS では、チャンネル・イニシエーターが実行されている必要があります。

STOPPING

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは停止中です。

TYPE が PARENT の場合、以下の値が返される可能性があります。

ACTIVE

親キュー・マネージャーとの接続はアクティブです。

エラー

構成エラーのため、このキュー・マネージャーは親キュー・マネージャーとの接続を初期化できません。具体的なエラーを示すメッセージがキュー・マネージャー・ログに生成されます。エラー・メッセージ AMQ5821  または CSQT821E (z/OS システム) を受け取った場合は、以下の原因が考えられます。

- 送信キューが満杯である。
- 送信キューの書き込みが使用不可にされている。

エラー・メッセージ AMQ5814 (または z/OS システムでは CSQT814E) を受け取った場合は、次のアクションを実行してください。

- 親キュー・マネージャーが正しく指定されていることを確認します。
- ブローカーが親ブローカーのキュー・マネージャー名を解決できることを確認します。

キュー・マネージャー名を解決するには、以下のリソースのうち最低 1 つが構成されている必要があります。

- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つ伝送キュー。
- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つキュー・マネージャー別名定義。
- このキュー・マネージャーと同じクラスターのメンバーである親キュー・マネージャーを持つクラスター。
- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つクラスター・キュー・マネージャー別名定義。
- デフォルト伝送キュー。

構成を正しくセットアップしてから、親キュー・マネージャーの名前をブランクに変更します。その後、親キュー・マネージャーの名前を設定します。

REFUSED

接続は、親キュー・マネージャーによって拒否されました。以下の原因が考えられます。

- 親キュー・マネージャーに、このキュー・マネージャーと同じ名前の子キュー・マネージャーが既に存在する。
- 親キュー・マネージャーが、コマンド RESET QMGR TYPE(PUBSUB) CHILD を使用して、このキュー・マネージャーを子の 1 つとして除去した。

STARTING

キュー・マネージャーが、別のキュー・マネージャーがその親になることを要求しようとしています。

親の状況が ACTIVE に進むことなく、STARTING のままになっている場合には、以下のアクションを実行してください。

- 親キュー・マネージャーへの送信側チャネルが稼働していることを確認します。
- 親キュー・マネージャーからの受信側チャネルが稼働していることを確認します。

STOPPING

キュー・マネージャーはその親から切断中です。

親の状況が STOPPING のままになっている場合には、以下のアクションを実行してください。

- 親キュー・マネージャーへの送信側チャネルが稼働していることを確認します。
- 親キュー・マネージャーからの受信側チャネルが稼働していることを確認します。

SUBCOUNT

TYPE が LOCAL の場合、ローカル・ツリーに対するサブスクリプションの合計数が返されます。TYPE が CHILD または PARENT の場合、キュー・マネージャー関係は照会されず、値 NONE が返されます。

TPCOUNT

TYPE が LOCAL の場合、ローカル・ツリー内のトピック・ノードの合計数が返されます。TYPE が CHILD または PARENT の場合、キュー・マネージャー関係は照会されず、値 NONE が返されます。

DISPLAY QMGR

MQSC コマンド DISPLAY QMGR は、当該のキュー・マネージャーのパラメーターを表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

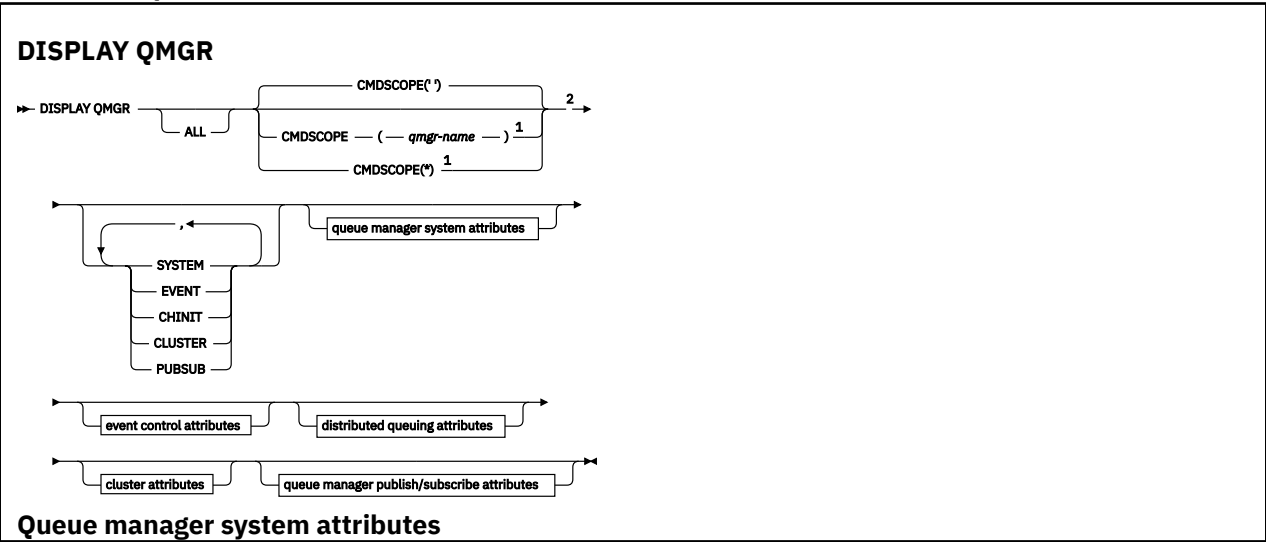
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

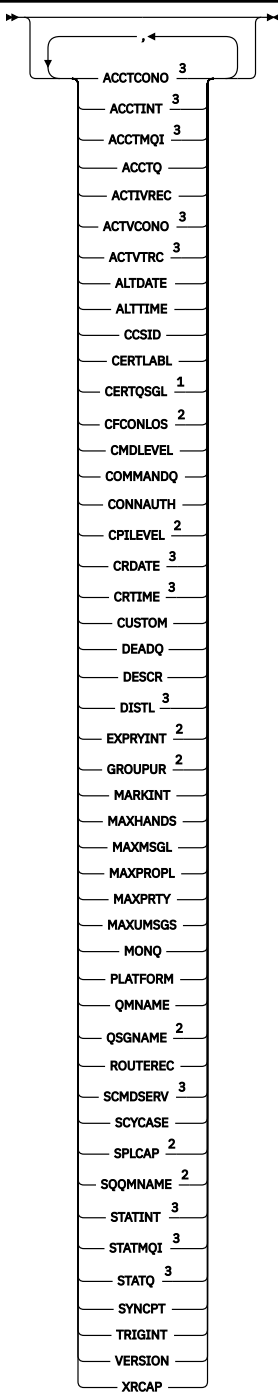
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

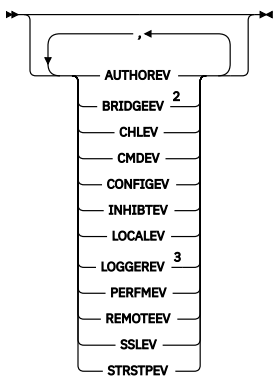
- [構文図](#)
- [1141 ページの『DISPLAY QMGR のパラメーターの説明』](#)
- [1142 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS QMGR

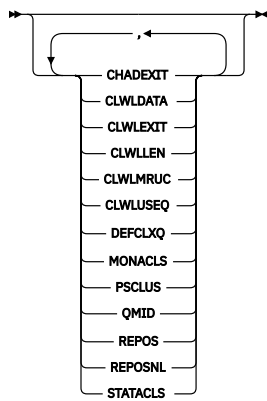




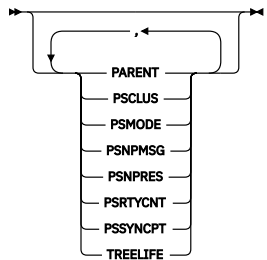
Event control attributes



Cluster attributes



Queue manager publish/subscribe attributes



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。
- ³ z/OS では無効です。

DISPLAY QMGR のパラメーターの説明

ALL

このパラメーターは、すべてのパラメーターを表示する場合に指定します。このパラメーターを指定すると、明示的に要求されたパラメーターはすべて無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows では、このパラメーターは、特定のパラメーターを要求しない場合のデフォルトです。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

1 1

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。このコマンドがデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。このコマンドを実行することは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

SYSTEM

このパラメーターを指定して、キュー・マネージャーのシステム属性リストにあるキュー・マネージャーのシステム属性セットを表示します。これらのパラメーターの詳細については、[1142 ページの『要求パラメーター』](#)を参照してください。

このパラメーターを指定すると、このセット内のパラメーターを個別に表示する要求を出しても無効になります。

EVENT

このパラメーターを指定して、イベント制御属性リストで使用可能なイベント制御属性セットを表示します。これらのパラメーターの詳細については、[1142 ページの『要求パラメーター』](#)を参照してください。

このパラメーターを指定すると、このセット内のパラメーターを個別に表示する要求を出しても無効になります。

CHINIT

このパラメーターを指定して、分散キューイング属性リストにある使用可能な分散キューイング関連の属性セットを表示します。DQM を指定して同じ属性セットを表示することもできます。これらのパラメーターの詳細については、[1142 ページの『要求パラメーター』](#)を参照してください。

このパラメーターを指定すると、このセット内のパラメーターを個別に表示する要求を出しても無効になります。

CLUSTER

このパラメーターを指定して、クラスター属性リストで選択可能なクラスターリング関連の属性セットを表示します。これらのパラメーターの詳細については、[1142 ページの『要求パラメーター』](#)を参照してください。

このパラメーターを指定すると、このセット内のパラメーターを個別に表示する要求を出しても無効になります。

PUBSUB

このパラメーターを指定して、キュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブ属性リストで選択可能なパブリッシュ/サブスクライブ関連の属性セットを表示します。これらのパラメーターの詳細については、[1142 ページの『要求パラメーター』](#)を参照してください。

このパラメーターを指定すると、このセット内のパラメーターを個別に表示する要求を出しても無効になります。

要求パラメーター

注：パラメーターが一切指定されない (および ALL パラメーターも指定またはデフォルト指定されない) 場合は、キュー・マネージャー名が戻されます。

どのキュー・マネージャーについても、次の情報を要求できます。

ACCTCONO

ACCTQMQUI および ACCTQ キュー・マネージャーのパラメーターの設定をオーバーライド可能にするかどうか。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACCTINT

中間アカウンティング・レコードを書き込むときの間隔。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACCTMQI

MQI データのアカウンティング情報を収集するかどうか。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACCTQ

キューのアカウンティング・データ収集を使用可能にするかどうか。

ACTCHL

任意の時点でアクティブなチャネルの最大数。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ACTIVREC

メッセージで要求された場合に、アクティビティ報告書を生成するかどうか。

ACTVCONO

ACTVTRC キュー・マネージャーのパラメーターの設定をオーバーライド可能にするかどうか。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ACTVTRC

IBM MQ MQI アプリケーション・アクティビティのトレース情報を収集するかどうか。 [アクティビティ・トレース情報の収集を制御する ACTVTRC の設定を参照してください](#)。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

z/OS ADOPTCHK

新しいインバウンド・チャンネルが既にアクティブな MCA と同じ名前で検出されたとき、MCA を採用するかどうかを判断するために確認するエレメント。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS ADOPTMCA

ADOPTCHK パラメーターに一致する新規インバウンド・チャンネル要求が検出されたときに、孤立 MCA インスタンスを再始動するかどうか。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ALTDATE

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

AUTHOREV

許可イベントを生成するかどうか。

z/OS BRIDGEEV

z/OS の場合のみ、IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうか。

CCSID

コード化文字セット ID。このパラメーターは、アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) で定義されているすべての文字ストリング・フィールドに適用されます。例えば、オブジェクトの名前、各キューの作成日時などです。メッセージのテキストとして表示されるアプリケーション・データは、これには該当しません。

CERTLABL

このキュー・マネージャーが使用した証明書ラベルを指定します。

z/OS CERTQSG

キュー共有グループ (QSG) の証明書ラベルを指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CERTVPOL

リモート・パートナー・システムから受け取ったデジタル証明書を妥当性検査するために、どの SSL/TLS 証明書妥当性検査ポリシーを使用するかを指定します。この属性を使用することにより、証明書チェーン妥当性検査においてセキュリティーに関する業界の標準規格にどの程度厳密に準拠するかを制御することができます。証明書妥当性検査ポリシーの詳細については、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

このパラメーターは、UNIX、Linux、および Windows の場合 でのみ有効です。

z/OS CFCONLOS

管理構造体への接続、または CFCONLOS が ASQMGR に設定されている CF 構造体への接続を、キュー・マネージャーが失ったときに実行されるアクションを指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CHAD

受信側チャンネルおよびサーバー接続チャンネルの自動定義が使用可能かどうか。

 このパラメーターは、z/OS では無効です。

CHADEV

自動定義イベントが使用可能かどうか。

 このパラメーターは、z/OS では無効です。

CHADEXIT

チャンネル自動定義出口の名前。

CHIADAPS

IBM MQ 呼び出しを処理するために使用するアダプターのサブタスク数です。

 このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CHIDISPS

チャンネル・イニシエーターで使用するディスパッチャーの数。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CHISERV

このフィールドは IBM 専用に予約済みです。

CHLAUTH

チャンネル認証レコードを検査するかどうか。

CHLEV

チャンネル・イベントを生成するかどうか。

CLWLEXIT

クラスター・ワークロード出口の名前。

CLWLDATA

クラスター・ワークロード出口に渡されるデータ。

CLWLEN

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージ・データの最大バイト数。

このパラメーターは、Linux では無効です。

CLWLMRUC

アウトバウンド・クラスター・チャンネルの最大数。

CLWLUSEQ

CLWLUSEQ の値が QMGR になっているキューに対する MQPUT の振る舞い。

CMDEV

コマンド・イベントを生成するかどうか。

CMDLEVEL

コマンド・レベル。これは、キュー・マネージャーによってサポートされるシステム制御コマンドのレベルを示します。

COMMANDQ

システム・コマンド入力キューの名前。適切な許可アプリケーションが、このキューにコマンドを書き込むことができます。

CONFIGEV

構成イベントを生成するかどうか。

CONNAUTH

ユーザー ID とパスワードの認証の場所を提供するために使用される認証情報オブジェクトの名前。

CPILEVEL

予約済み。この値は意味を持ちません。

CRDATE

キュー・マネージャーが作成された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

CRTIME

キュー・マネージャーが作成された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

CUSTOM

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。ここには、ゼロ個以上の属性の値を、属性名と値のペアとして、NAME (VALUE) という形式で入れることができます。

DEADQ

正しい宛先に送達できないメッセージの送り先となるキュー (送達不能キューまたは未配布メッセージ・キュー) の名前。デフォルトはブランクです。

例えば、次の場合に、このキューにメッセージが書き込まれます。

- メッセージがキュー・マネージャーに着信したが、宛先のキューが、そのキュー・マネージャーではまだ定義されていない。
- メッセージがキュー・マネージャーに着信したが、宛先のキューがそのメッセージを受信できない。
次のような理由が考えられます。
 - キューが満杯である。
 - キューが書き込み禁止になっている。
 - 送信側ノードに、そのキューにメッセージを書き込む権限がない。
- 例外メッセージを生成する必要があるが、指定されたキューがそのキュー・マネージャーに認識されていない。

注：有効期限時刻を過ぎたメッセージは、このキューに転送されず、廃棄されます。

送達不能キューが定義されていないか、既に満杯か、そのほかの理由で使用できないときは、本来、メッセージ・チャンネル・エージェントによってそこへ転送されるはずであったメッセージが、伝送キュー上に保持されます。

送達不能キューあるいは未配布メッセージ・キューが指定されていない場合は、このパラメーターにはすべてブランクが返されます。

DEFCLXQ

DEFCLXQ 属性は、クラスター受信側チャンネルとの間でメッセージの取得やメッセージの送信を行うために、クラスター送信側チャンネルがデフォルトで選択する伝送キューを制御します。

SCTQ

すべてのクラスター送信側チャンネルが、SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE からメッセージを送信します。伝送キューに入れられたメッセージの correlID は、メッセージの宛先のクラスター送信側チャンネルを示します。

SCTQ は、キュー・マネージャーが定義されるときに設定されます。この動作は、バージョン 7.5 より前のバージョンの IBM WebSphere MQ では暗黙的です。以前のバージョンに、キュー・マネージャーの属性 DEFCLXQ は存在しませんでした。

CHANNEL

各クラスター送信側チャンネルは、異なる伝送キューからメッセージを送信します。各伝送キューは、モデル・キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE から、永続動的キューとして作成されます。

キュー・マネージャー属性 DEFCLXQ を CHANNEL に設定すると、デフォルト構成は変更され、クラスター送信側チャンネルが個々のクラスター伝送キューと関連付けられるようになります。伝送キューは、モデル・キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE から作成される永続的に動的なキューです。各伝送キューは 1 つのクラスター送信側チャンネルに関連付けられます。1 つのクラスター送信側チャンネルが 1 つのクラスター伝送キューにサービスを提供するため、伝送キューにも 1 つのクラスター内の 1 つのキュー・マネージャーへのメッセージだけが入ります。クラスター内の各キュー・マネージャーが使用するクラスター・キューが 1 つだけになるように構成することもできます。この場合、キュー・マネージャーから各クラスター・キューへのメッセージ・トラフィックは、それぞれ他のキューへのメッセージとは別に転送されます。

DEFXMITQ

デフォルト伝送キュー名。このパラメーターは、それ以外に適切な伝送キューが定義されていない場合に、リモート・キュー・マネージャー宛のメッセージの書き込み先となる伝送キューです。

DESCR

説明。

DISTL

配布先リストがキュー・マネージャーでサポートされるかどうか。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

z/OS DNSGROUP

このパラメーターは、今後使用されません。 [WLM/DNS のサポートが終了しています](#)を参照してください。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS DNSWLM

このパラメーターは、今後使用されません。 [WLM/DNS のサポートが終了しています](#)を参照してください。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS EXPRYINT

有効期限切れメッセージのスキャンとスキャンとの間のおおまかな間隔 (z/OS の場合のみ)。

z/OS GROUPPUR

z/OS の場合のみ、XA クライアント・アプリケーションが、GROUP リカバリー単位属性指定を指定してこのキュー・マネージャーに接続できるかどうか。

z/OS IGQ

グループ内キューイングを使用するかどうか (z/OS の場合のみ)。

z/OS IGQAUT

グループ内キューイング・エージェントが使用する権限検査のタイプを表示 (z/OS の場合のみ)。

z/OS IGQUSER

グループ内キューイング・エージェントが使用するユーザー ID を表示 (z/OS の場合のみ)。

INHIBTEV

禁止イベントを生成するかどうか。

IPADDRV

あいまいなケースで、チャンネル接続に IPv4 と IPv6 のどちらの IP アドレスを使用するか。

LOCALEV

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうか。

LOGGEREV

リカバリー・ログ・イベントを生成するかどうか。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

LSTRTMR

APPC または TCP/IP で障害が発生した後に IBM MQ がリスナーの再始動を試行する秒単位の時間間隔です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS LUGROUP

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーが使用する汎用 LU 名。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS LUNAME

アウトバウンド LU 6.2 伝送で使用する LU の名前。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS LU62ARM

SYS1.PARMLIB の APPCPM メンバーの接尾部。この接尾部は、このチャンネル・イニシエーターの LUADD を指名します。自動リスタート・マネージャー (ARM) がチャンネル・イニシエーターを再始動すると、z/OS のコマンド SET APPC=xx が発行されます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS LU62CHL

LU 6.2 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数、または接続できるクライアントの最大数。LU62CHL の値をゼロにすると、LU 6.2 伝送プロトコルは使用されません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MARKINT

ミリ秒単位で表したブラウズのマークの間隔。



重要: この値をデフォルトの 5000 より小さくしないでください。

z/OS MAXCHL

現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数 (クライアントが接続されているサーバー接続チャンネルを含む)。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MAXHANDS

1 つの接続が同時に保持できるオープン・ハンドルの最大数。

MAXMSGL

キュー・マネージャーが扱える最大メッセージ長。個々のキューやチャンネルで扱える最大値は、このパラメーターよりも小さい可能性があります。

MAXPROPL (integer)

メッセージとの関連付けが可能なプロパティ・データの最大長 (バイト単位)。

このパラメーターは、IBM i、z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

MAXPRTY

最高優先順位。この値は 9 です。

MAXUMSGS

1 つの同期点内に存在できる、コミットされていないメッセージの最大数。デフォルト値は 10000 です。

MAXUMSGS は、IBM MQ Telemetry に対して何の影響もありません。IBM MQ Telemetry は、複数のクライアントから送られたメッセージをサブスクライブ、アンサブスクライブ、送信、および受信する要求を、トランザクション内のバッチ処理に一括することを試行します。

MONACLS

自動定義されたクラスター送信側チャンネルのオンライン・モニター・データを収集するかどうか。収集する場合は、データ収集の速度。

MONCHL

チャンネルのオンライン・モニター・データを収集するかどうか。収集する場合は、データ収集の速度。

MONQ

キューのオンライン・モニター・データを収集するかどうか。収集する場合は、データ収集の速度。

z/OS OPORTMAX

発信チャンネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最大値。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS OPORTMIN

発信チャンネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最小値。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

PARENT

このキュー・マネージャーが階層上で、その子として接続されているキュー・マネージャーの名前。

PERFMEV

パフォーマンス関連イベントを生成するかどうか。

PLATFORM

キュー・マネージャーが動作しているプラットフォームのアーキテクチャー。このパラメーターの値は、**z/OS** MVS (z/OS プラットフォームの場合)、NSK、OS2、OS400、**V8.0.0.2** APPLIANCE、UNIX、または WINDOWSNT です。

PSCLUS

このキュー・マネージャーがメンバーになっている任意のクラスターで、そのキュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・アクティビティーに参加するかどうかを制御します。ENABLED から DISABLED に変更すると、どのクラスターにもクラスター・トピック・オブジェクトは含まれなくなります。

PSMODE

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが実行中かどうかを制御します。またそれにより、アプリケーション・プログラミング・インターフェースおよびキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされたキューを使用して、アプリケーションがパブリッシュまたはサブスクライブできるかどうかを制御します。

PSNPMMSG

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、非持続入力メッセージを処理できない場合、入力メッセージを送達不能キューに書き込もうとすることがあります (入力メッセージのレポート・オプションによって異なります)。入力メッセージを送達不能キューに書き込もうとする試みが失敗した場合で、MQRO_DISCARD_MSG レポート・オプションが入力メッセージまたは PSNPMMSG=DISCARD に指定されていた場合、ブローカーはこの入力メッセージを廃棄します。PSNPMMSG=KEEP が指定されている場合は、入力メッセージ内で MQRO_DISCARD_MSG レポート・オプションが設定された場合にのみ、インターフェースは入力メッセージを廃棄します。

PSNPRES

キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが非持続入力メッセージへの応答として応答メッセージを生成することを試みたが、その応答メッセージを応答先のキューに送信できない場合、この属性は、インターフェースが配信不能メッセージを送達不能キューに書き込むのか、それともメッセージを廃棄するのかを示します。

PSRTYCNT

キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが同期点でのコマンド・メッセージの処理に失敗した場合 (例えば、サブスクライバー・キューがいっぱいであるためにそのサブスクライバーにパブリッシュ・メッセージを送達できず、そのパブリケーションを送達不能キューに書き込むこともできない場合)、作業単位はバックアウトされ、ブローカーがそのレポート・オプションに従ってコマンド・メッセージを処理する前に、コマンドがこの回数だけ再試行されます。

PSSYNCP

この属性が IFPER に設定されており、キューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが通常の操作中にストリーム・キューからパブリッシュを読み取ったり、パブリケーション・メッセージを削除したりした場合、これは MQGMO_SYNCPOINT_IF_PERSISTENT を指定します。この値により、待機中のパブリッシュ/サブスクライブ・デーモンが非持続メッセージを同期点外で受け取るようにします。デーモンは、同期点の外でパブリケーションを受信すると、そのパブリケーションを同期点の外で、認識されるサブスクライバーに転送します。

QMID

内部生成された、キュー・マネージャーの固有名。

QMNAME

ローカル・キュー・マネージャーの名前。 [IBM MQ オブジェクトの命名規則](#)を参照してください。

z/OS QSGNAME

キュー・マネージャーが属しているキュー共有グループの名前。キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーに属していない場合は、ブランクになります。キュー共有グループは、IBM MQ for z/OS でのみ使用可能です。

z/OS RCVTIME

非アクティブ状態に戻る前に、パートナーからハートビートを含めたデータを受信するために、TCP/IP チャンネルが待つ時間の概算の長さ。このパラメーターの値は、RCVTTYPE によって修飾される数値です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS RCVTMIN

非アクティブ状態に戻る前に、パートナーからハートビートを含むデータを受信するために、TCP/IP チャンネルが待機する最小時間。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS RCVTTYPE

RCVTIME の値に適用する修飾子。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

REMOTEEV

リモート・エラー・イベントを生成するかどうか。

REPOS

このキュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・サービスを提供するクラスターの名前。

REPOSNL

このキュー・マネージャーがリポジトリ管理プログラム・サービスを提供する対象となるクラスターのリストの名前。

REVDNS

チャンネルに接続している IP アドレスについて、ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) からのホスト名のリバース・ルックアップを行うかどうか。

ROUTEREC

メッセージで要求された場合に、トレース経路情報を記録するかどうか。

SCHINIT

キュー・マネージャーが開始するときに、チャンネル・イニシエーターが自動的に開始するかどうか。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

SCMDSERV

キュー・マネージャーが開始するときに、コマンド・サーバーが自動的に開始するかどうか。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

z/OS SCYCASE

セキュリティ・プロファイルが大文字か大/小文字混合かを指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターが変更されているものの、REFRESH SECURITY コマンドは発行されていない場合、キュー・マネージャーは期待される大/小文字プロファイルを使用していない場合があります。DISPLAY SECURITY を使用して、大/小文字プロファイルのどちらが実際に使用されているか、確認してください。

SPLCAP

IBM MQ Advanced Message Security (IBM MQ AMS) 機能がキュー・マネージャーで使用可能かどうかを示します。キュー・マネージャーを実行している IBM MQ のバージョンの IBM MQ AMS コンポーネントがインストールされている場合、この属性の値は ENABLED (MQCAP_SUPPORTED) になります。

IBM MQ AMS コンポーネントがインストールされていない場合は、値は DISABLED (MQCAP_NOT_SUPPORTED) になります。

SQQMNAME

キュー・マネージャーが共用キューに対して MQOPEN 呼び出しを行い、MQOPEN 呼び出しの *ObjectQmgrName* パラメーターで指定されたキュー・マネージャーが処理キュー・マネージャーと同じキュー共用グループにある場合、SQQMNAME 属性は、*ObjectQmgrName* を使用するか、または処理キュー・マネージャーが共用キューを直接オープンするかを指定します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

SSLCRLNL

証明書失効検査のためにキュー・マネージャーで使用する AUTHINFO オブジェクトの名前リストを示します。

タイプが LDAPCRL または OCSP の認証情報オブジェクトのみ、SSLCRLNL によって参照される名前リストに記載できます。その他のタイプは、リストが処理される際にエラー・メッセージを出し、それ以降は無視されます。

SSLCRYP

システムに存在する暗号ハードウェアを構成するのに使用されるパラメーター・ストリングの名前を示します。PKCS #11 パスワードは、xxxxxx と表示されます。これは、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

SSLLEV

SSL イベントを生成するかどうか。

SSLFIPS

IBM MQ で暗号化を実行する場合に、暗号ハードウェア自体を使用せずに FIPS 認定済みアルゴリズムのみを使用するかどうか。

SSLKEYR

Secure Sockets Layer 鍵リポジトリの名前を示します。

SSLRKEYC

秘密鍵が再折衝される前に、SSL 会話内で送受信されるバイト数を示します。

SSLTASKS

SSL 呼び出しの処理に使用するサーバー・サブタスクの数を示します (z/OS の場合のみ)。

STATACLS

自動定義されたクラスター送信側チャネルの統計データを収集するかどうか。収集する場合は、データ収集の速度。

STATCHL

チャネルの統計データを収集するかどうかを判定します。収集する場合は、データ収集の速度です。

STATINT

モニター・キューに統計モニター・データを書き込むときの間隔。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

STATMQI

キュー・マネージャーの統計モニター・データを収集するかどうか。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

STATQ

キューの統計データを収集するかどうか。このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

STRSTPEV

開始イベントと終了イベントを生成するかどうか。

SUITEB

Suite B 準拠の暗号方式を使用するかどうか。Suite B の構成、および SSL チャネルと TLS チャネルへの影響の詳細については、[IBM MQ における NSA Suite B 暗号方式](#)を参照してください。

SYNCP

キュー・マネージャーから同期点サポートが得られるかどうか。これは読み取り専用のキュー・マネージャー属性です。

z/OS TCPCHL

TCP/IP 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルの最大数、または接続可能なクライアントの最大数。ゼロの場合、TCP/IP 伝送プロトコルは使用されません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS TCPKEEP

接続の他の端が使用可能であることを検査するために、KEEPALIVE 機能を使用するかどうか。使用不可の場合は、チャンネルが閉じられます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS TCPNAME

CINET 複数スタック環境で優先的に使用される TCP/IP スタックの名前。INET 単一スタック環境では、チャンネル・イニシエーターは使用可能な TCP/IP スタックだけを使用します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS TCPSTACK

チャンネル・イニシエーターが、TCPNAME で指定された TCP/IP スタックのみを使用するのか、それとも、CINET 複数スタック環境に定義されている任意の TCP/IP スタックに選択的にバインドすることができるのか。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS TRAXSTR

チャンネル・イニシエーターが自動的にトレースを開始するかどうか。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS TRAXTBL

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのサイズ (メガバイト)。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

TREELIFE

非管理トピックの存続時間。

TRIGINT

トリガー間隔。

VERSION

キュー・マネージャーが関連付けられている、IBM MQ インストールのバージョン。バージョンの形式は、以下のような VVRRMMFF です。

VV: バージョン

RR: リリース

MM: 保守レベル

FF: フィックス・レベル

XRCAP

IBM MQ Telemetry 機能がキュー・マネージャーでサポートされるかどうか。

これらのパラメーターの詳細については、[737 ページの『ALTER QMGR』](#)を参照してください。

DISPLAY QMSTATUS

このキュー・マネージャーに関連付けられた状況情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY QMSTATUS を使用します。

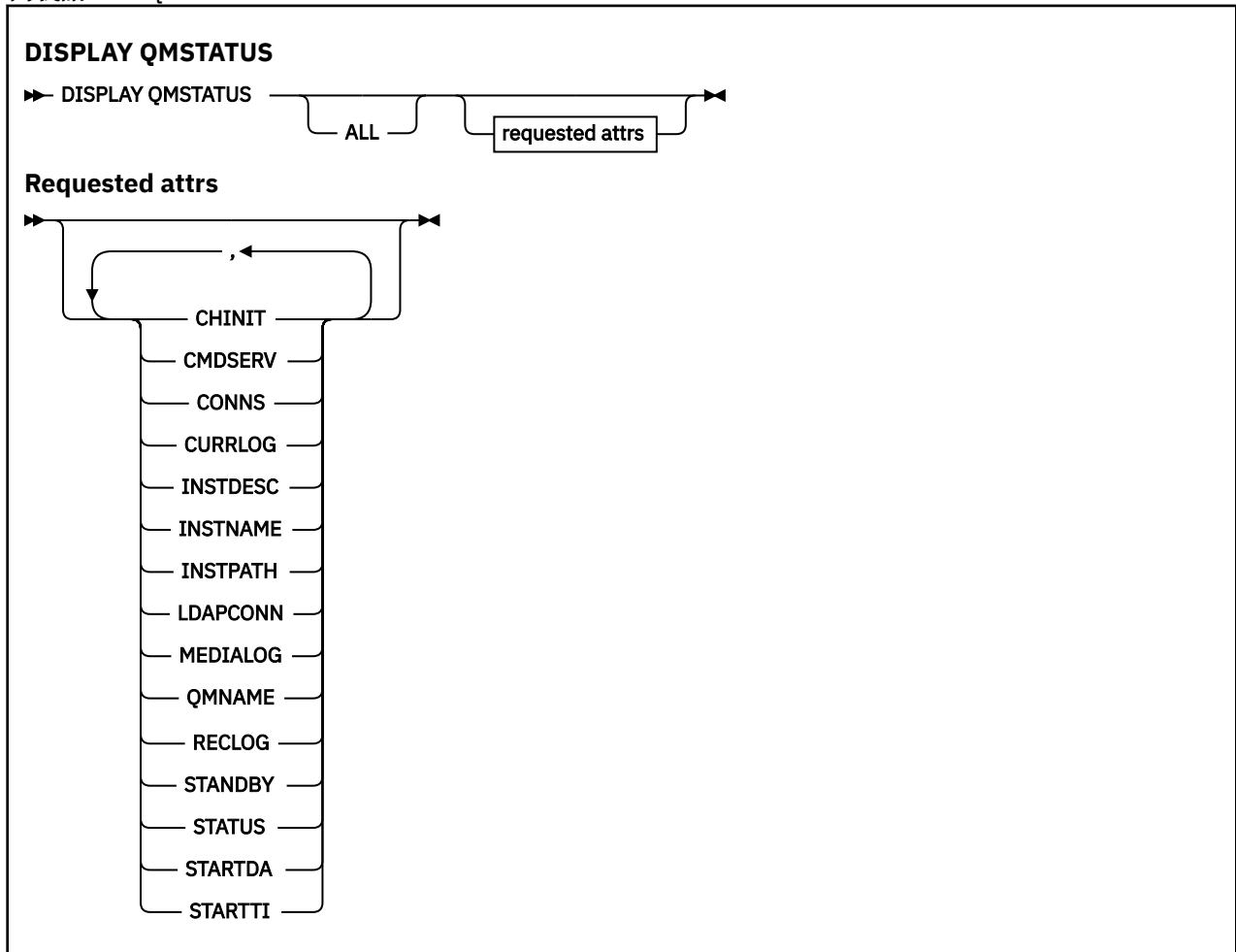
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1152 ページの『DISPLAY QMSTATUS のパラメーターの説明』](#)
- [1152 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS QMSTATUS



DISPLAY QMSTATUS のパラメーターの説明

ALL

すべてのパラメーターを表示するには、このパラメーターを指定します。このパラメーターを指定する場合、具体的に要求されるパラメーターはいずれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

このパラメーターは、特定のパラメーターを要求しない場合のデフォルトです。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを1つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

CHINIT

SYSTEM.CHANNEL.INITQ を読み取るチャネル・イニシエーターの状況。これは、以下のいずれかになります。

STOPPED

チャネル・イニシエーターは稼働していません。

STARTING

チャネル・イニシエーターは初期化処理中であり、まだ動作していません。

実行中

チャネル・イニシエーターは初期化が完了し、稼働しています。

停止中

チャネル・イニシエーターは停止します。

CMDSERV

コマンド・サーバーの状況。これは、以下のいずれかになります。

STOPPED

コマンド・サーバーは稼働していません。

STARTING

コマンド・サーバーは初期化処理中であり、まだ動作していません。

実行中

コマンド・サーバーは初期化が完了し、稼働しています。

停止中

コマンド・サーバーは停止します。

CONN

現在のキュー・マネージャーへの接続数。

CURRLOG

DISPLAY QMSTATUS コマンドが処理されるときに書き込まれるログ・エクステンツの名前。キュー・マネージャーが循環ロギングを使用しており、このパラメーターが明示的に要求された場合は、ブランク・ストリングが表示されます。

INSTDESC

キュー・マネージャーに関連付けられたインストールの説明。このパラメーターは、IBM i では無効です。

インストール名

キュー・マネージャーに関連付けられたインストールの名前。このパラメーターは、IBM i では無効です。

インストール・パス

キュー・マネージャーに関連付けられたインストールのパス。このパラメーターは、IBM i では無効です。

LDAPCONN

LDAP サーバーへの接続の状況です。これは、以下のいずれかになります。

接続済み

キュー・マネージャーは現在、LDAP サーバーに接続しています。

エラー

キュー・マネージャーが LDAP サーバーへの接続を試みましたが、失敗しました。

非アクティブ

キュー・マネージャーが、LDAP サーバーを使用するように構成されていないか、まだ LDAP サーバーへの接続を確立していません。

MEDIALOG

キュー・マネージャーによりメディア回復の実行を要求された一番古いログ・エクステンツの名前。キュー・マネージャーが循環ロギングを使用しており、このパラメーターが明示的に要求された場合は、ブランク・ストリングが表示されます。

QMNAME

キュー・マネージャーの名前。このパラメーターは、常に返されます。

RECLOG

キュー・マネージャーにより再始動リカバリーの実行を要求された一番古いログ・エクステンツの名前。キュー・マネージャーが循環ロギングを使用しており、このパラメーターが明示的に要求された場合は、ブランク・ストリングが表示されます。

STANDBY

スタンバイ・インスタンスが許可されているかどうか。これは、以下のいずれかになります。

NOPERMIT

スタンバイ・インスタンスは許可されていません。

PERMIT

スタンバイ・インスタンスが許可されています。

状況

キュー・マネージャーの状況。これは、以下のいずれかになります。

STARTING

キュー・マネージャーは初期化処理中です。

実行中

キュー・マネージャーは初期化が完了し、稼働しています。

QUIESCING

キュー・マネージャーは静止しています。

STARTDA

キュー・マネージャーが開始した日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

STARTTI

キュー・マネージャーが開始した時刻 (hh.mm.ss の形式)。

DISPLAY QSTATUS

MQSC コマンド DISPLAY QSTATUS を使用すると、1 つ以上のキューの状況を表示できます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

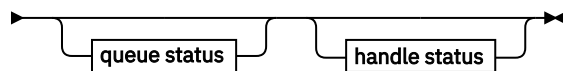
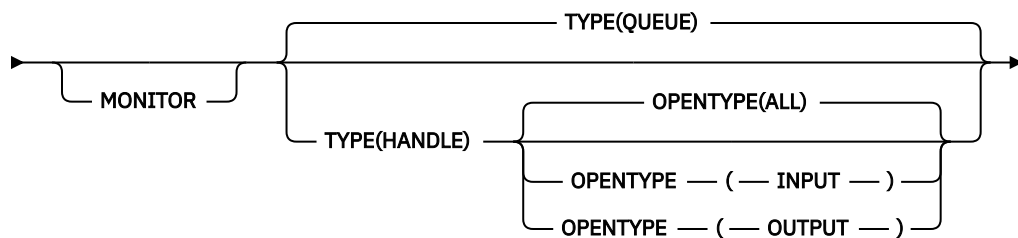
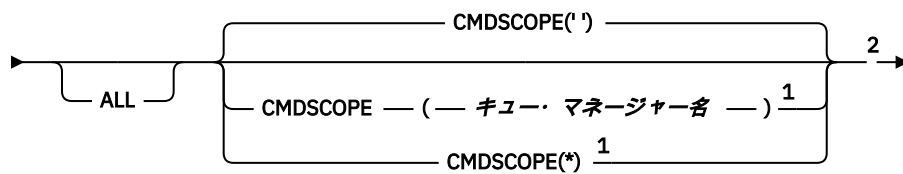
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1156 ページの『DISPLAY QSTATUS の使用上の注意』](#)
- [1157 ページの『DISPLAY QSTATUS のパラメーターの説明』](#)
- [1159 ページの『キューの状況』](#)
- [1161 ページの『ハンドルの状況』](#)

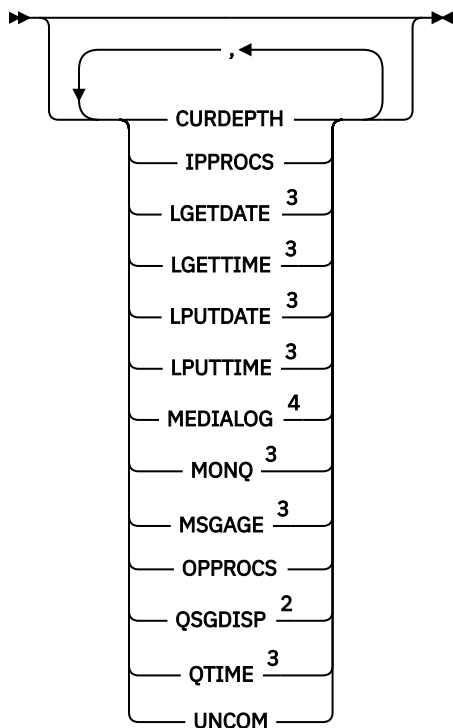
同義語: DIS QS

DISPLAY QSTATUS

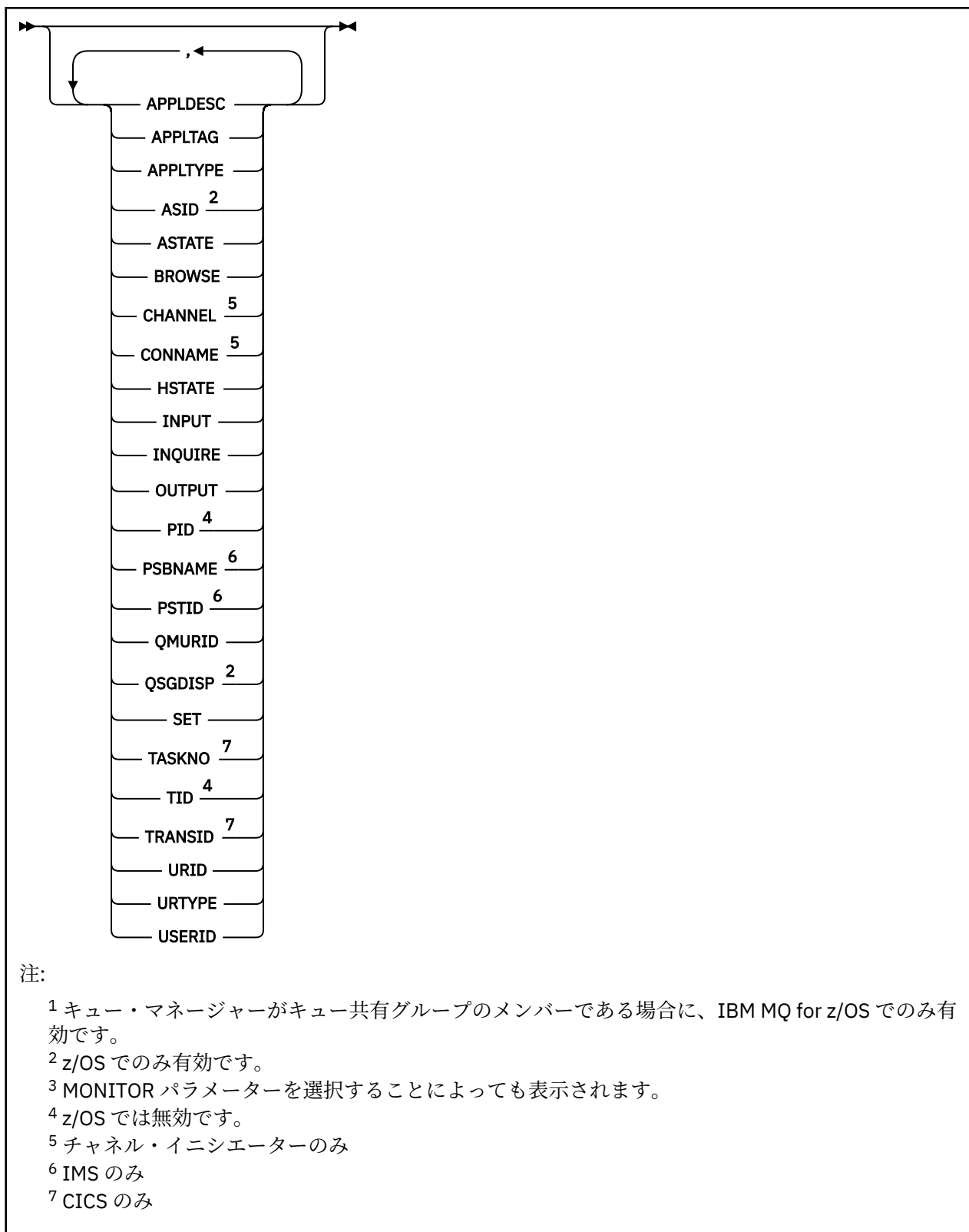
►► DISPLAY QSTATUS — (— *generic-qname* —) —
 WHERE — (— *FilterCondition* —) —



キューの状況



ハンドルの状況



DISPLAY QSTATUS の使用上の注意

非同期コンシューマーの状態 ASTATE は、クライアント・アプリケーションのためのサーバー接続プロキシの状態を表します。クライアント・アプリケーションの状態を表すものではありません。

DISPLAY QSTATUS のパラメーターの説明

状況情報を表示するキューの名前を指定する必要があります。この名前は、特定のキュー名かキューの総称名にすることができます。キューの総称名を使用すると、以下のいずれかを表示できます。

- すべてのキューの状況情報、または
- 指定した名前および他の選択基準に一致する 1 つ以上のキューの状況情報

以下の状況情報が必要かどうかも指定する必要があります。

- キュー
- キューにアクセスするハンドル

注 : DISPLAY QSTATUS コマンドを使用して、別名キューまたはリモート・キューの状況を表示することはできません。それらのいずれかのタイプのキューの名前を指定すると、データは返されません。ただし、別名キューまたはリモート・キューが解決されるローカル・キューまたは伝送キューの名前を指定することは可能です。

(*generic-qname*)

状況情報を表示するキューの名前。語幹の後に後続アスタリスク (*) を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのキューに一致します。アスタリスク (*) だけを単独で指定した場合、すべてのキューが指定されることになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすキューの状況情報を表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE、MONITOR、OPENTYPE、QSGDISP、QTIME、TYPE、または URID パラメーターをフィルター・キーワードとして使用することはできません。

operator

演算子は、指定したフィルター・キーワードでのフィルター値を、キューが満たしているかどうかを判別するのに使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

CT

指定された項目を含みます。 *filter-keyword* がリストの場合は、このフィルターを使用して、指定した項目を含む属性を持つオブジェクトを表示できます。

EX

指定された項目を含みません。 *filter-keyword* がリストの場合は、オブジェクトを表示するためにこのフィルターを使用できます。その属性には、指定された項目が含まれません。

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの中の値の 1 つである場合 (例えば、UNCOM パラメーターの値 NO など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。この値は、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリング (APPLTAG パラメーターの文字ストリングなど) で、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

- 値リストの中の項目です。演算子は CT または EX でなければなりません。文字値の場合、明示的に指定するか、または総称を使用することができます。例えば、値 DEF を演算子 CT と共に指定する場合は、属性値の 1 つが DEF になっている項目すべてがリスト表示されます。ABC* が指定されている場合、属性値の 1 つが ABC で始まる項目すべてがリストされます。

ALL

指定された各キューのすべての状況情報が表示されます。

この値は、総称名を指定せず、特定のパラメーターを要求しない場合のデフォルトです。

z/OS z/OS では、この値は、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定する場合のデフォルトでもあります。他のプラットフォームでは、要求された属性のみが表示されます。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。これは、z/OS でのみ有効です。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。この値はデフォルトです。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。この値は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

MONITOR

オンライン・モニター・パラメーターのセットを返す場合には、この値を指定してください。これらは、LGETDATE、LGETTIME、LPUTDATE、LPUTTIME、MONQ、MSGAGE、および QTIME です。このパラメーターを指定すると、個別に要求するモニター・パラメーターによる影響はなくなり、すべてのモニター・パラメーターが引き続き表示されます。

OPENTYPE

選択するキューを、指定したタイプのアクセス権限でハンドルを持つキューに制限します。

ALL

任意のタイプのアクセス権限でオープンされているキューを選択します。OPENTYPE パラメーターが指定されていない場合は、この値がデフォルト値です。

input

入力専用オープンされているキューを選択します。このオプションでは、参照用にオープンされているキューは選択されません。

OUTPUT

出力専用オープンされているキューを選択します。

OPENTYPE パラメーターは、TYPE(HANDLE) も指定されている場合に限り有効です。

OPENTYPE は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

タイプ

必要な状況情報のタイプを指定します。

QUEUE

キューに関連する状況情報を表示します。TYPE パラメーターが指定されていない場合は、この値がデフォルト値です。

HANDLE

キューにアクセスするハンドルに関連する状況情報が表示されます。

TYPE は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

キューの状況

キューの状況に関して、特に指定されている場合を除き、選択基準を満たす各キューについて、以下の情報が常に返されます。

- キュー名
- 返される情報のタイプ (TYPE パラメーター)
- 現行キュー項目数 (CURDEPTH パラメーター)  (z/OS 以外のプラットフォームの場合)
-  (z/OS のみ) キュー共有グループの属性指定 (QSGDISP パラメーター)

各キューの追加情報を要求するために、TYPE(QUEUE) で以下のパラメーターを指定できます。要求された状況情報のキュー、オペレーティング環境、またはタイプで、関係のないパラメーターが指定された場合、そのパラメーターは無視されます。

CURDEPTH

キューの現在の項目数、つまりコミットされたメッセージとコミットされていないメッセージの両方を含む、キュー上のメッセージの数。

IPPROCS

キューで入力のために現在オープンされているハンドルの数 (共有入力か排他的入力のいずれか)。この数には、参照のために開かれているハンドルは含まれません。

共有キューの場合、返される数は、応答を生成するキュー・マネージャーのみに適用されます。この数は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーの合計ではありません。

LGETDATE

キュー・マネージャーの始動以後、キューから最後のメッセージが取得された日付。参照されるメッセージは、取得されるメッセージとしてはカウントされません。取得日付がない場合、キュー・マネージャーの開始以降、おそらくメッセージがキューから取得されていないため、値はブランクで示されます。

 QSGDISP(SHARED) が指定されているキューの場合、示される値は、このキュー・マネージャーのみで収集された測定に関するものです。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、このキューの MONQ が OFF 以外の値に設定されている場合のみ表示されず。

LGETTIME

キュー・マネージャーの開始以降、キューから最後のメッセージを取得した時刻。参照されるメッセージは、取得されるメッセージとしてはカウントされません。取得時刻がない場合、キュー・マネー

ジャーの開始以降、おそらくメッセージがキューから取得されていないため、値は空白で示されます。

z/OS QSGDISP(SHARED) が指定されているキューの場合、示される値は、このキュー・マネージャーのみで収集された測定に関するものです。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、このキューの MONQ が OFF 以外の値に設定されている場合のみ表示されます。

LPUTDATE

キュー・マネージャーの開始以降、キューに最後のメッセージが書き込まれた日付。書き込み日付がない場合、キュー・マネージャーの開始以降、おそらくメッセージがキューに書き込まれていないため、値は空白で示されます。

z/OS QSGDISP(SHARED) が指定されているキューの場合、示される値は、このキュー・マネージャーのみで収集された測定に関するものです。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、このキューの MONQ が OFF 以外の値に設定されている場合のみ表示されます。

LPUTTIME

キュー・マネージャーの開始以降、キューに最後のメッセージが書き込まれた時刻。書き込み時刻がない場合、キュー・マネージャーの開始以降、おそらくメッセージがキューに書き込まれていないため、値は空白で示されます。

z/OS QSGDISP(SHARED) が指定されているキューの場合、示される値は、このキュー・マネージャーのみで収集された測定に関するものです。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、このキューの MONQ が OFF 以外の値に設定されている場合のみ表示されます。

注: LPUTTIME がメッセージをモニターするために使用されていることがあるので、システム・クロックを逆方向に動かさないようにしてください。キューの LPUTTIME は、キューに到着したメッセージの PutTime の値が既存の LPUTTIME よりも大きい場合にのみ更新されます。この場合、メッセージの PutTime は、キューの既存の LPUTTIME よりも小さいので、時刻は変更されません。

MEDIALOG

キューのメディア・リカバリーに必要なログ・エクステントまたはジャーナル・レシーバー。循環ロギングが行われるキュー・マネージャーでは、MEDIALOG はヌル・ストリングとして返されます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows で有効です。

MONQ

キューのモニター・データ収集の現行レベル。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

MSGAGE

キューの最も古いメッセージの経過秒数。表示可能な最大値は 999999999 です。経過時間がこの値を超えると、999999999 が表示されます。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、このキューの MONQ が OFF 以外の値に設定されている場合のみ表示されます。

OPPROCS

これは、キューで出力のために現在オープンされているハンドルの数です。

共有キューの場合、返される数は、応答を生成するキュー・マネージャーのみに適用されます。この数は、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーの合計ではありません。

QSGDISP

キューの属性指定を示します。表示される値は、以下のいずれかです。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

SHARED

オブジェクトは QSGDISP(SHARED) で定義されました。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

共有キューでは、そのキューによって使用される CF 構造体を使用できないか、障害が発生している場合、状況情報を信頼できない可能性があります。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

QTIME

メッセージがキューに書き込まれてから破壊的に読み取られるまでの間隔 (マイクロ秒)。表示可能な最大値は 999999999 です。間隔がこの値を超えると、999999999 が表示されます。

間隔は、メッセージがキューに置かれてから、アプリケーションによって検索されて破棄されるまでの時間によって計測されます。このため、アプリケーションを書き込むことによって、コミットの際の遅延によって生じた間隔も含まれます。

以下の 2 つの値が表示され、これらはメッセージが処理された場合にのみ再計算されます。

- 処理された最後の数個のメッセージに基づく値
- 最近処理されたメッセージのより大きなサンプルに基づく値

これらの値は、ご使用のシステムの構成および振る舞い、およびシステム内のアクティビティのレベルによって異なり、システムが正常に実行していることを示す指標の役割を担います。これらの値に大きな変動がある場合は、システムで問題が発生したことを示します。QSGDISP(SHARED) が指定されているキューの場合、示される値は、このキュー・マネージャーのみで収集された測定に関するものです。

このパラメーターは、MONITOR パラメーターを指定した場合にも表示されます。

このパラメーターの値は、このキューの MONQ が OFF 以外の値に設定されている場合のみ表示されます。

UNCOM

キューで保留されているコミットされていない変更 (書き込みおよび取得) があるかどうかを示します。表示される値は、以下のいずれかです。

YES

(z/OS の場合) 保留中のコミットされていない変更が 1 つ以上ある。

NO

保留中のコミットされていない変更内容はありません。

n

(z/OS 以外のプラットフォームの場合) 保留中のコミットされていない変更の数を示す整数値。

共有キューの場合、返される値は、応答を生成するキュー・マネージャーのみに適用されます。この値は、キュー共有グループ内のキュー・マネージャーのすべてには適用されません。

ハンドルの状況

ハンドルの状況に関して、特に指定されている場合を除き、選択基準を満たす各キューについて、以下の情報が常に返されます。

- キュー名
- 返される情報のタイプ (TYPE パラメーター)

- (z/OS 以外のプラットフォーム) ユーザー ID (USERID パラメーター) - これは APPLTYPE(SYSTEM) では返されません
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) プロセス ID (PID パラメーター)
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) スレッド ID (TID パラメーター)
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) アプリケーション・タグ (APPLTAG パラメーター)
- アプリケーション・タイプ (APPLTYPE パラメーター)
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) ハンドルが入力アクセスを提供するかどうか (INPUT パラメーター)
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) ハンドルが出力アクセスを提供するかどうか (OUTPUT パラメーター)
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) ハンドルが参照アクセスを提供するかどうか (BROWSE パラメーター)
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) ハンドルが照会アクセスを提供するかどうか (INQUIRE パラメーター)
- (z/OS 以外のプラットフォームの場合) ハンドルが設定アクセスを提供するかどうか (SET パラメーター)

各キューの追加情報を要求するために、TYPE(HANDLE) で以下のパラメーターを指定できます。要求された状況情報のキュー、オペレーティング環境、またはタイプで、関係のないパラメーターが指定された場合、そのパラメーターは無視されます。

APPLDESC

キュー・マネージャーに接続されたアプリケーションの記述を含むストリング (アプリケーションがキュー・マネージャーに認識されている場合)。アプリケーションがキュー・マネージャーによって認識されていない場合、返される記述はブランクです。

APPLTAG

キュー・マネージャーに接続されたアプリケーションのタグを含むストリング。これは、以下のいずれかになります。

-  z/OS バッチ・ジョブ名
-  TSO USERID
- CICS APPLID
- IMS 領域名
- チャネル・イニシエーターのジョブ名
- IBM i ジョブ名
- UNIX プロセス

注: HP-UX では、14 文字を超えるプロセス名は、先頭の 14 文字のみが表示されます。他のすべてのプラットフォームでは、プロセス名が 28 文字を超えると、先頭の 28 文字のみが表示されます。

- Windows プロセス

注: 返される値は、プログラムの絶対パスと実行可能ファイル名で構成されています。長さが 28 文字を超える場合、先頭の 28 文字のみが表示されます。

- 内部キュー・マネージャー・プロセス名

アプリケーション名は、キュー・マネージャーに接続されているプロセスまたはジョブの名前を表します。このプロセスまたはジョブがチャネルを使用して接続されている場合、アプリケーション名は、ローカル・チャネル・プロセスまたはジョブ名ではなくリモート処理またはジョブを表します。

APPLTYPE

キュー・マネージャーに接続しているアプリケーションのタイプを示すストリング。これは、以下のいずれかになります。

BATCH

バッチ接続を使用するアプリケーション

RRSBATCH

バッチ接続を使用する RRS 調整アプリケーション

CICS

CICS トランザクション

IMS

IMS トランザクション

CHINIT

チャネル・イニシエーター

SYSTEM

キュー・マネージャー

SYSTEMEXT

キュー・マネージャーによって提供される機能の拡張を実行するアプリケーション

USER

ユーザー・アプリケーション

 ASID

APPLTAG で識別されるアプリケーションの 4 文字のアドレス・スペース ID。APPLTAG の重複値を識別します。

このパラメーターは、キューを所有するキュー・マネージャーが z/OS で実行されており、APPLTYPE パラメーターに値 SYSTEM が含まれていない場合に限り返されます。

ASTATE

このキューの非同期コンシューマーの状態。

指定可能な値は以下のとおりです。

ACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされ、接続ハンドルが開始されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを続行できます。

INACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされていますが、接続ハンドルがまだ開始されていないか、停止または中断されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを現在続行できません。

中断状態

非同期コンシュームのコールバックが中断されています。そのため、現在、非同期メッセージ・コンシュームをこのキューでは続行できません。これは、Operation に MQOP_SUSPEND を指定した MQCB 呼び出しが、アプリケーションによってこのオブジェクト・ハンドルに対して発行されているか、またはシステムによって中断されているためです。システムによって中断されている場合、非同期メッセージ・コンシュームの中断プロセスの一部として、コールバック機能が開始され、中断を生じさせた問題について記述している理由コードが示されます。このコードは、コールバック機能へ渡される、MQCBC 構造体の Reason フィールドで報告されます。

非同期メッセージ・コンシュームを続行するには、Operation パラメーターを MQOP_RESUME に設定した MQCB 呼び出しを、アプリケーションで発行する必要があります。

SUSPTEMP

非同期コンシュームのコールバックがシステムによって一時的に中断されています。そのため、現在、非同期メッセージ・コンシュームをこのキューでは続行できません。非同期メッセージ・コンシュームの中断プロセスの一部として、コールバック機能が呼び出され、中断を生じさせた問題について記述している理由コードが示されます。このコードは、コールバック機能へ渡される、MQCBC 構造体の Reason フィールドで報告されます。

一時的な条件が解決され、非同期メッセージ・コンシュームがシステムによって再開されると、コールバック機能が再び開始されます。

NONE

このハンドルに対して MQCB 呼び出しが発行されていないため、非同期メッセージ・コンシュームがこのハンドルで構成されていません。

BROWSE

ハンドルがキューへの参照アクセスを提供しているかどうかを示します。値は、次のいずれか 1 つです。

YES

ハンドルが参照アクセスを提供しています。

NO

ハンドルが参照アクセスを提供していません。

CHANNEL

ハンドルを所有するチャンネルの名前。ハンドルに関連付けられているチャンネルがない場合、このパラメーターはブランクになります。

このパラメーターは、ハンドルがチャンネル・イニシエーターに属している場合にのみ返されます。

CONNAME

ハンドルを所有するチャンネルに関連付けられた接続名。ハンドルに関連付けられているチャンネルがない場合、このパラメーターはブランクになります。

このパラメーターは、ハンドルがチャンネル・イニシエーターに属している場合にのみ返されます。

HSTATE

API 呼び出しが進行中かどうか。

指定可能な値は以下のとおりです。

ACTIVE

接続からの API 呼び出しが、このオブジェクトで現在進行中です。キューで、MQGET WAIT 呼び出しが進行中のときに、この状態が生じる場合があります。

未解決の MQGET SIGNAL がある場合、この値だけでは、ハンドルがアクティブであることを意味しません。

INACTIVE

接続からの API 呼び出しが、このオブジェクトで現在進行中ではありません。キューで、MQGET WAIT 呼び出しが進行中ではないときに、この状態が生じる場合があります。

input

ハンドルがキューへの入力アクセスを提供しているかどうかを示します。値は、次のいずれか 1 つです。

SHARED

ハンドルが共有入力アクセスを提供しています。

EXCL

ハンドルが排他的入力アクセスを提供しています。

NO

ハンドルが入力アクセスを提供していません。

INQUIRE

ハンドルがキューへの照会アクセスを現在提供しているかどうかを示します。値は、次のいずれか 1 つです。

YES

ハンドルが照会アクセスを提供しています。

NO

ハンドルが照会アクセスを提供していません。

OUTPUT

ハンドルがキューへの出力アクセスを提供しているかどうかを示します。値は、次のいずれか 1 つです。

YES

ハンドルが出力アクセスを提供しています。

NO

ハンドルが出力アクセスを提供していません。

PID

指定したキューを開いたアプリケーションのプロセス ID を示す番号。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

z/OS PSBNAME

実行されている IMS トランザクションに関連付けられているプログラム仕様ブロック (PSB) の長さ 8 文字の名前。PSBNAME および PSTID を使用して、IMS コマンドを使用するトランザクションをページできます。これは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が IMS である場合にのみ返されます。

z/OS PSTID

接続されている IMS 領域の IMS プログラム仕様テーブル (PST) の領域 ID。これは 4 文字です。これは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が IMS である場合にのみ返されます。

QMURID

キュー・マネージャーのリカバリー単位 ID。z/OS では、この値は 8 バイトのログ RBA で、16 文字の 16 進文字で表示されます。z/OS 以外のプラットフォームでは、この値は 8 バイトのトランザクション ID で、m.n として表示されます。ここで、m および n は、トランザクション ID の最初と最後の 4 バイトの 10 進表記です。

QMURID はフィルター・キーワードとして使用できます。z/OS では、フィルター値を 16 進数ストリングとして指定する必要があります。z/OS システム以外のシステムの場合は、ピリオド (.) で区切られた 10 進数のペアとしてフィルター値を指定する必要があります。.EQ、NE、GT、LT、GE、または LE のみをフィルター演算子として使用できます。

z/OS QSGDISP

キューの属性指定を示します。これは、z/OS でのみ有効です。値は、次のいずれか 1 つです。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

SHARED

オブジェクトは QSGDISP(SHARED) で定義されました。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

SET

ハンドルがキューへの設定アクセスを提供しているかどうかを示します。値は、次のいずれか 1 つです。

YES

ハンドルが設定アクセスを提供しています。

NO

ハンドルが設定アクセスを提供していません。

z/OS TASKNO

7 桁の CICS タスク番号。この番号は、CICS タスクを終了するために、CICS コマンド "CEMT SET TASK(taskno) PURGE" で使用できます。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が CICS である場合にのみ返されます。

TID

指定したキューを開いたアプリケーション・プロセス内のスレッド ID を示す番号。

z/OS このパラメーターは、z/OS では無効です。

アスタリスクは、このキューが共有接続を使用して開かれたことを示しています。

共有接続について詳しくは、[MQCONN との共有 \(スレッド独立\) 接続](#) を参照してください。

z/OS TRANSID

4 文字の CICS トランザクション ID。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、APPLTYPE パラメーターの値が CICS である場合にのみ返されます。

URID

接続に関連付けられた外部のリカバリー単位 ID。これは、外部の同期点コーディネーターで認識されているリカバリー ID です。形式は URTYPE の値によって決まります。

URID は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

URTYPE

キュー・マネージャーから分かるリカバリー単位のタイプ。これは、以下のいずれかになります。

- CICS (z/OS でのみ有効)
- XA
- RRS (z/OS でのみ有効)
- IMS (z/OS でのみ有効)
- QMGR

URTYPE は、トランザクション・コーディネーターのタイプではなく、EXTURID タイプを示します。URTYPE が QMGR の場合、関連付けられた ID は (URID ではなく) QMURID にあります。

ユーザー ID

ハンドルに関連したユーザー ID。

このパラメーターは、APPLTYPE の値が SYSTEM のときは返されません。

DISPLAY QUEUE

任意のタイプの 1 つ以上のキューの属性を表示するには、MQSC コマンド **DISPLAY QUEUE** を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#) を参照してください。

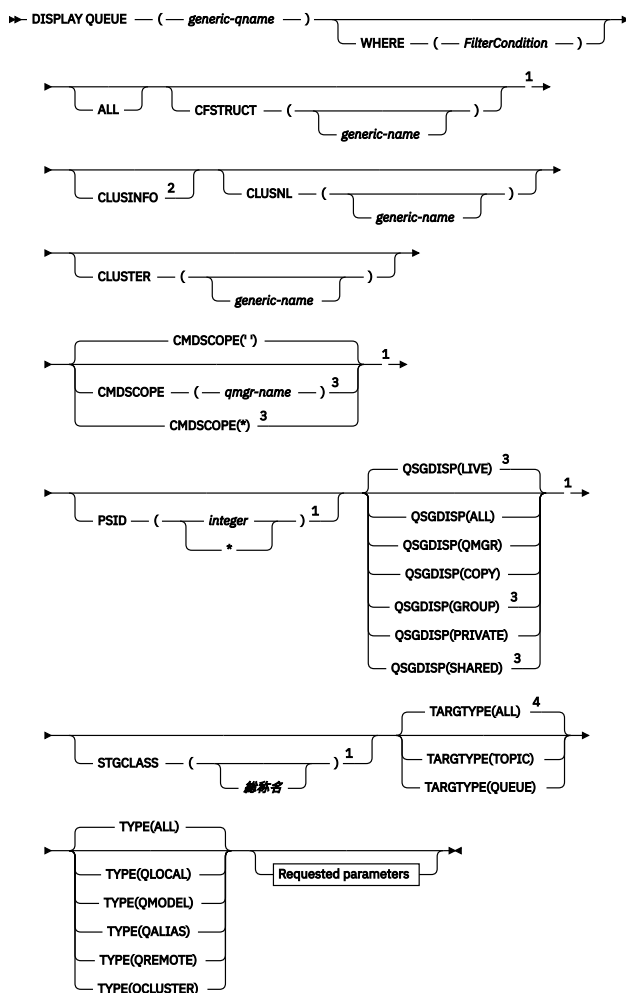
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#) を参照してください。

- [構文図](#)
- [1169 ページの『使用上の注意』](#)
- [1169 ページの『DISPLAY QUEUE のパラメーターの説明』](#)
- [1173 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: **DIS Q**

DISPLAY QUEUE



要求パラメーター



ACCTQ
ALTDAT
ALTTIME
BOQNAME
BOTHRESH
CLCHNAME
CLUSDATE
CLUSQMGR
CLUSQT
CLUSTIME
CLWLPRTY
CLWLRANK
CLWLUSEQ
CRDATE
CRTIME
CURDEPTH
CUSTOM
DEFBIND
DEFPRESP
DEFPRTY
DEFPST
DEFREADA
DEFSOPT
DEFTYPE
DESCR
DISTL ⁵
GET
HARDENBO
INDXTYPE ¹
INITQ
IPPROCS
MAXDEPTH
MAXMSGL
MONQ
MSGDLVSQ
NPMCLASS
OPPROCS
PROCESS
PROPCTL
PUT
QDEPTHHI
QDEPTHLO
QDPHIEV
QDPLOEV
QDPMAXEV
QMID
QSVCI
QSVCI
QTYPE
RETINTVL
RNAME
RQMNAME
SCOPE ⁶
SHARE
STATQ ⁵
TARGET
TARGETYPE
TPIPE ¹
TRIGDATA
TRIGDPH
TRIGGER
TRIGMPRI
TRIGTYPE
USAGE
XMITQ

注:

¹ z/OS でのみ有効です。

² z/OS では、これを CSQINP2 から発行することはできません。

- ³ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。
- ⁴ 別名キューでのみ有効です。
- ⁵ z/OS では無効です。
- ⁶ z/OS または IBM i では無効です。

使用上の注意

1. これらの属性を表示する代替方法として、次のコマンド (またはその同義語) を使用できます。

- **DISPLAY QALIAS**
- **DISPLAY QCLUSTER**
- **DISPLAY QLOCAL**
- **DISPLAY QMODEL**
- **DISPLAY QREMOTE**

これらのコマンドは、DISPLAY QUEUE TYPE (*queue-type*) コマンドと同じ出力を生成します。この方法でコマンドを入力する場合は、TYPE パラメーターを使用しないでください。

2.  z/OS では、(TYPE (QCLUSTER) または CLUSINFO パラメーターを使用して) クラスター・キューについての情報を表示するには、チャンネル・イニシエーターが稼働している必要があります。
3. 部分リポジトリに対してこのコマンドを発行する場合は、クラスター内のクラスター・キューがすべては表示されないことがあります。これは、部分リポジトリが、コマンドの使用を試みたことがあるキューについてしか認識しないためです。

DISPLAY QUEUE のパラメーターの説明

表示するキュー定義の名前を指定する必要があります。特定のキュー名か、または総称キュー名を指定できます。総称的なキュー名を使用すれば、次の表示ができます。

- すべてのキュー定義
- 指定された名前に一致する 1 つ以上のキュー

queue-name

表示するキュー定義のローカル名 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。語幹の後に後続アスタリスク * を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのキューに一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべてのキューが指定されることになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすキューのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この **DISPLAY** コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。

ただし、 CMDSCOPE、QDPHIEV、QDPLOEV、QDPMAXEV、 QSGDISP、または QSVCIIEV パラメーターは、フィルター・キーワードとして使用できません。 

CFSTRUCT、CLUSTER、 PSID、 STGCLASS、または CLUSNL は、キューの選択にも使用される場合は使用できません。フィルター・キーワードが有効な属性ではないタイプのキューは表示されません。

operator

指定されたフィルター・キーワードのフィルター値をキューが満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、CLUSQT パラメーターの値 QALIAS など)、EQ または NE のみを使用できます。HARDENBO、SHARE、および TRIGGER パラメーターの場合は、EQ YES または EQ NO のどちらかを使用します。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

ALL

すべての属性を表示する場合に、これを指定します。このパラメーターを指定すると、特に要求された属性はいずれも無効になります。つまり、すべての属性が表示されます。

AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows 、z/OS では、総称名を指定せず、特定の属性を要求することもしない場合、これがデフォルトです。

 z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

CFSTRUCT (*generic-name*)

このパラメーターはオプションです。これを指定した場合、カップリング・ファシリティー構造体の値を大括弧で囲んで指定したキューに表示される情報が制限されます。

値には総称名を指定できます。このパラメーターに値を入力しない場合、**CFSTRUCT** は要求されたパラメーターとして処理されます。

CLUSINFO

このキュー・マネージャーで定義されたキューの属性についての情報に加えて、これらのキューの情報と、クラスター内のそれ以外のキューのうち選択基準に合致するキューについての情報の表示を要求します。この場合、複数のキューが同じ名前が表示されることがあります。クラスター情報は、このキュー・マネージャーのリポジトリから取得されます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows 、z/OS でのみ有効です。

z/OS z/OSでは、CSQINP2 から DISPLAY QUEUE CLUSINFO コマンドを発行できないことに注意してください。

CLUSNL (*generic-name*)

これはオプションです。これを指定した場合、値を大括弧で囲んで入力した場合、表示される情報が限定されます。

- ローカル・キュー・マネージャーで定義されたキューの場合は、指定されたクラスター・リストを持つキューのみ。値には総称名を指定できます。この場合、**CLUSNL** が有効なパラメーターであるキュー・タイプだけが制限され、他の選択基準に合致するその他のキュー・タイプは表示されます。
- クラスター・キューについては、値が総称名でない場合、指定されたクラスター・リスト中のクラスターに属するもののみ。値が総称名である場合、クラスター・キューに適用される制約事項はありません。

このパラメーターを修飾する値を入力しない場合、これは要求されたパラメーターとして処理され、表示されたすべてのキューに関するクラスター・リスト情報が戻されます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows **z/OS**、および z/OS のみ有効です。

注: **z/OS** 要求された属性指定が SHARED である場合、CMDSCOPE はブランクまたはローカル・キュー・マネージャーでなければなりません。

CLUSTER (*generic-name*)

これはオプションです。これを指定した場合、値を大括弧で囲んで入力した場合、指定されたクラスター名を使用したキューに表示される情報が限定されます。値には総称名を指定できます。**CLUSTER** が有効なパラメーターであるキュー・タイプだけが、このパラメーターによって制限されます。他の選択基準に合致するその他のキュー・タイプは表示されます。

このパラメーターを修飾する値を入力しない場合、これは要求されたパラメーターとして処理され、表示されたすべてのキューに関するクラスター名情報が戻されます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows **z/OS**、および z/OS のみ有効です。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP または SHARED に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

PSID(integer)

キューが存在しているページ・セットの ID。これはオプションです。値を指定すると、指定したページ・セットにアクティブに関連付けられたキューに表示される情報が制限されます。値は 00 から 99 の範囲の 2 桁の数字です。アスタリスク * を単独で指定した場合、すべてのページ・セット ID が指定されることになります。値を入力しない場合、表示されるキューすべてに関するページ・セット情報が戻されます。

ページ・セット ID は、キューとページ・セットがアクティブに関連付けられている場合にのみ、つまり、キューが MQPUT 要求のターゲットになった後にのみ表示されます。キューとページ・セットの関連は、次の場合はアクティブではありません。

- キューが定義されたばかりである
- キューの STGCLASS 属性が変更されており、キューの後に MQPUT 要求がない
- キュー・マネージャーが再始動し、キューにメッセージがない

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

これはデフォルト値で、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(SHARED) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行元キュー・マネージャーで実行されている場合、QSGDISP(GROUP) または QSGDISP(SHARED) で定義されたオブジェクトの情報も、このオプションにより表示されます。

共有キュー・マネージャー環境では、以下を使用します。

```
DISPLAY QUEUE(name) CMDSCOPE(*) QSGDISP(ALL)
```

このコマンドで、キュー共有グループ内の name に一致するオブジェクトを、共有リポジトリ内のものと重複しないようにリストします。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

SHARED

QSGDISP(SHARED) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは共有キュー・マネージャー環境でのみ許可されています。

注: クラスター・キューの場合、これは常に要求されたパラメーターとして処理されます。戻される値は、クラスター・キューが表すキューそのものの属性指定です。

QSGDISP(LIVE) が指定されるかデフォルトとして使用される場合、あるいは共用キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前 (属性指定が異なる) を出力する可能性があります。

注: QSGDISP(LIVE) の場合、これが発生するのは共有キューと非共有キューの名前が同じである時だけです。このような状況は、しっかりと管理されているシステムでは起きないはずです。

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

オブジェクトは QSGDISP(QMGR) で定義されました。

GROUP

オブジェクトは QSGDISP(GROUP) で定義されました。

COPY

オブジェクトは QSGDISP(COPY) で定義されました。

SHARED

オブジェクトは QSGDISP(SHARED) で定義されました。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

STGCLASS (generic-name)

これはオプションです。値を大括弧で囲んで入力した場合、指定されたストレージ・クラスと共にキューに表示される情報が制限されます。値には総称名を指定できます。

このパラメーターを修飾する値を入力しない場合、これは要求されたパラメーターとして扱われ、表示されるキューすべてに関するストレージ・クラス情報が戻されます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

TARGETTYPE (target-type)

(オプション) 表示する別名キューのターゲット・タイプを指定します。

TYPE(queue-type)

(オプション) 表示するキューのタイプを指定します。ALL (デフォルト値) を指定すると、すべてのキュー・タイプが表示されます。CLUSINFO も指定されている場合は、これにはクラスター・キューが含まれます。

ALL 以外に、**DEFINE** コマンドで可能なキュー・タイプ (QALIAS、QLOCAL、QMODEL、QREMOTE、またはその同義語) のいずれかを指定することもできます。以下のとおりです。

QALIAS

別名キュー

QLOCAL

ローカル・キュー

QMODEL

モデル・キュー

QREMOTE

リモート・キュー

クラスター・キュー情報のみを表示するには、キュー・タイプ QCLUSTER を指定します。QCLUSTER を指定する場合、CFSTRUCT、STGCLASS、または PSID パラメーターで指定した選択基準は無視されます。**DISPLAY QUEUE TYPE(QCLUSTER)** コマンドは CSQINP2 から発行できません。

z/OS 以外のプラットフォームでは、このパラメーターの同義語として QTYPE(type) を使用できます。

キュー名とキュー・タイプ  (および、z/OS ではキュー定義) が常に表示されます。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

ほとんどのパラメーターは、特定タイプのキューにのみ関係するものです。あるタイプのキューとは無関係のパラメーターを指定しても、出力はありませんが、エラーにもなりません。

以下の表に、キューのタイプごとに、どのパラメーターが関係するかを示します。表の下に各パラメーターの簡単な説明がありますが、詳しくは、各キュー・タイプの **DEFINE** コマンドを参照してください。

表 74. DISPLAY QUEUE コマンドからの戻り値として可能なパラメーター。					
キューのパラメーターとキューのタイプのクロス集計。パラメーターがキューのタイプに適用される場合、このセルにチェック・マークが付けられます。					
	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
ACCTQ	✓	✓	なし	なし	なし
ALTDATE	✓	✓	✓	✓	✓
ALTTIME	✓	✓	✓	✓	✓
BOQNAME	✓	✓	なし	なし	なし
BOTHRESH	✓	✓	なし	なし	なし
CFSTRUCT	✓	✓	なし	なし	なし
CLCHNAME	✓	✓	なし	なし	なし
CLUSDATE	なし	なし	なし	なし	✓
CLUSNL	✓	なし	✓	✓	なし
CLUSQMGR	なし	なし	なし	なし	✓
CLUSQT	なし	なし	なし	なし	✓
CLUSTER	✓	なし	✓	✓	✓
CLUSTIME	なし	なし	なし	なし	✓
CLWLPRTY	✓	なし	✓	✓	✓
CLWLRANK	✓	なし	✓	✓	✓
CLWLUSEQ	✓	なし	なし	なし	なし
CRDATE	✓	✓	なし	なし	なし
CRTIME	✓	✓	なし	なし	なし
CURDEPTH	✓	なし	なし	なし	なし
CUSTOM	✓	✓	✓	✓	✓
DEFBIND	✓	なし	✓	✓	✓
DEFPRESP	✓	✓	✓	✓	✓
DEFPRTY	✓	✓	✓	✓	✓
DEFPSIST	✓	✓	✓	✓	✓

表 74. **DISPLAY QUEUE** コマンドからの戻り値として可能なパラメーター。

キューのパラメーターとキューのタイプのクロス集計。パラメーターがキューのタイプに適用される場合、このセルにチェック・マークが付けられます。

(続き)

	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
DEFREADA	✓	✓	✓	なし	なし
DEFSOPT	✓	✓	なし	なし	なし
DEFTYPE	✓	✓	なし	なし	なし
DESCR	✓	✓	✓	✓	✓
DISTL	✓	✓	なし	なし	なし
GET	✓	✓	✓	なし	なし
HARDENBO	✓	✓	なし	なし	なし
INDXTYPE	✓	✓	なし	なし	なし
INITQ	✓	✓	なし	なし	なし
IPPROCS	✓	なし	なし	なし	なし
MAXDEPTH	✓	✓	なし	なし	なし
MAXMSGL	✓	✓	なし	なし	なし
MONQ	✓	✓	なし	なし	なし
MSGDLVSQ	✓	✓	なし	なし	なし
NPMCLASS	✓	✓	なし	なし	なし
OPPROCS	✓		なし	なし	なし
PROCESS	✓	✓	なし	なし	なし
PROPCTL	✓	✓	✓	なし	なし
PSID	✓	なし	なし	なし	なし
PUT	✓	✓	✓	✓	✓
QDEPTHHI	✓	✓	なし	なし	なし
QDEPTHLO	✓	✓	なし	なし	なし
QDPHIEV	✓	✓	なし	なし	なし
QDPLOEV	✓	✓	なし	なし	なし
QDPMAXEV	✓	✓	なし	なし	なし
QMID	なし	なし	なし	なし	✓

表 74. **DISPLAY QUEUE** コマンドからの戻り値として可能なパラメーター。

キューのパラメーターとキューのタイプのクロス集計。パラメーターがキューのタイプに適用される場合、このセルにチェック・マークが付けられます。

(続き)

	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
QSGDISP	✓	✓	✓	✓	✓
<u>QSVCI</u> EV	✓	✓	なし	なし	なし
<u>QSVCI</u> NT	✓	✓	なし	なし	なし
<u>QTYPE</u>	✓	✓	✓	✓	✓
<u>RETINTVL</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>RNAME</u>	なし	なし	なし	✓	なし
<u>RQMNAME</u>	なし	なし	なし	✓	なし
<u>SCOPE</u>	✓	なし	✓	✓	なし
<u>SHARE</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>STATQ</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>STGCLASS</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>TARGET</u>	なし	なし	✓	なし	なし
<u>TARGETTYPE</u>	なし	なし	✓	なし	なし
<u>TPIPE</u>	✓	なし	なし	なし	なし
<u>TRIGDATA</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>TRIGDPTH</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>TRIGGER</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>TRIGMPRI</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>TRIGTYPE</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>USAGE</u>	✓	✓	なし	なし	なし
<u>XMITQ</u>	なし	なし	なし	✓	なし

ACCTQ

アカウンティング (z/OS では、スレッド・レベルとキュー・レベルのアカウンティング) データ収集をキューで使用可能にするかどうか。

ALTDAT

定義または情報が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義または情報が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

BOQNAME

バックアウト・リキュー名。

BOTHRESH

バックアウトしきい値。

CLCHNAME

CLCHNAME は、このキューを伝送キューとして使用するクラスター送信側チャンネルの総称名です。この属性は、このクラスター伝送キューからクラスター受信側チャンネルへメッセージを送信するクラスター送信側チャンネルを指定します。

CLUSDATE

定義がローカル・キュー・マネージャーで使用できるようになった日付。yyyy-mm-dd の形式。

CLUSNL

キューが入っているクラスターを定義する名前リスト。

CLUSQMGR

キューをホスティングするキュー・マネージャーの名前。

CLUSQT

クラスター・キュー・タイプ。次のタイプがあります。

QALIAS

クラスター・キューは別名キューを示します。

QLOCAL

クラスター・キューはローカル・キューを示します。

QMGR

クラスター・キューはキュー・マネージャー別名を示します。

QREMOTE

クラスター・キューはリモート・キューを示します。

CLUSTER

キューが入っているクラスターの名前。

CLUSTIME

定義がローカル・キュー・マネージャーで使用できるようになった時刻。hh.mm.ss の形式。

CLWLPRTY

クラスター・ワークロード分散のための、キューの優先順位。

CLWLRANK

クラスター・ワークロード分散のためのキューのランク。

CLWLUSEQ

ローカルのキュー定義から離れた他のキュー定義への書き込みを許可するかどうか。

CRDATE

キューが定義された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

CRTIME

キューが定義された時刻。hh.mm.ss の形式。

CURDEPTH

キューの現在の項目数。

z/OS では、GROUP の属性指定で定義されたキューに対して、CURDEPTH はゼロとして戻されます。また、SHARED の属性指定で定義されたキューによって使用される CF 構造体を使用できないか障害がある場合も、そのキューに対してはゼロとして戻されます。

キューに書き込まれたメッセージは、書き込まれた順に現行項目数にカウントされます。キューから取得されたメッセージは現行項目数としてカウントされません。これは、操作が同期点下で実行されたかどうかに関係なく適用されます。コミットは現行項目数に影響しません。したがって、

- ・ 同期点下で書き込まれた (しかしまだコミットされていない) メッセージは現行項目数に含まれています。

- 同期点で取得された (しかしまだコミットされていない) メッセージは現行項目数に含まれていません。

カスタム

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。ここには、ゼロ個以上の属性の値を、属性名と値のペアとして、NAME (VALUE) という形式で入れることができます。

DEFBIND

デフォルト・メッセージ結合。

DEFPRESP

デフォルトの書き込み応答。MQPMO オプション内の書き込み応答タイプが MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF に設定されている場合、アプリケーションによって使用される動作を定義します。

DEFPRTY

キューに書き込まれるメッセージのデフォルト優先順位。

DEFPSIST

このキューに書き込まれるメッセージのデフォルトの持続性を NO か YES のいずれに設定するかを指定します。NO は、キュー・マネージャーの再始動後、メッセージが失われることを意味します。

DEFREADA

これは、クライアントに送達される非持続メッセージに対するデフォルトの先読み動作を指定します。

DEFSOPT

キューのデフォルト共用オプションが入力のためにオープンされます。

DEFTYPE

キュー定義タイプ。次のタイプがあります。

- PREDEFINED (事前定義)

DEFINE コマンドにより作成されたキュー。オペレーターが定義したか、または所定の権限を付与されたアプリケーションがコマンド・メッセージをサービス・キューに送信して定義しました。

- PERMDYN (永久動的)

オブジェクト記述子 (MQOD) でモデル・キューの名前を指定して MQOPEN を出したアプリケーションが作成したキューです。あるいは (モデル・キューの場合)、これにより、そこから作成できる動的キューのタイプが決まります。

z/OS では、キューは QSGDISP (QMGR) で作成されました。

- TEMPDYN (一時動的)

オブジェクト記述子 (MQOD) でモデル・キューの名前を指定して MQOPEN を出したアプリケーションが作成したキューです。あるいは (モデル・キューの場合)、これにより、そこから作成できる動的キューのタイプが決まります。

z/OS では、キューは QSGDISP (QMGR) で作成されました。

- SHAREDYN

アプリケーションが、オブジェクト記述子 (MQOD) にこのモデル・キューの名前を指定して MQOPEN API 呼び出しを行ったとき、永久動的キューが作成されました。

z/OS では、キュー共有グループ環境において、キューが QSGDISP (SHARED) で作成されました。

DESCR

記述コメント。

DISTL

配布リストがパートナー・キュー・マネージャーによってサポートされるかどうか。(AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows でのみサポートされます。)

GET

キューからの読み取りができるかどうか。

HARDENBO

メッセージのバックアウト回数を正確にカウントするために、バックアウト・カウントをハード化するかどうかを指定します。

注：このパラメーターは、IBM MQ for z/OS にのみ影響します。これをその他のプラットフォームで設定および表示することは可能ですが、その効果はありません。

INDXTYPE

索引タイプ (z/OS でのみサポートされる)。

INITQ

開始キュー名。

IPPROCS

キューからメッセージを取得するために現在キューに接続されているアプリケーションの数。

z/OS では、GROUP の属性指定で定義されたキューに対して、IPPROCS はゼロとして戻されます。SHARED の属性指定を持つ場合、グループ全体の情報ではなく、情報を送り戻すキュー・マネージャーのハンドルのみが戻されます。

MAXDEPTH

最大キュー項目数。

MAXMSGL

最大メッセージ長。

MONQ

オンライン・モニター・データ収集。

MSGDLVSQ

メッセージ・デリバリー・シーケンス。

NPMCLASS

キューに書き込まれる非持続メッセージに割り当てる信頼性のレベル。

OPPROCS

キューにメッセージを書き込むために現在キューに接続されているアプリケーションの数。

z/OS の場合、GROUP の属性指定で定義されたキューに対し、OPPROCS はゼロとして戻されます。SHARED の属性指定を持つ場合、グループ全体の情報ではなく、情報を送り戻すキュー・マネージャーのハンドルのみが戻されます。

PROCESS

プロセス名。

PROPCTL

プロパティ制御属性。

このパラメーターは、ローカル・キュー、別名キュー、およびモデル・キューに適用可能です。

このパラメーターはオプションです。

MQGMO_PROPERTIES_AS_Q_DEF オプションを指定した MQGET 呼び出しを使用してメッセージをキューから取り出す場合のメッセージ・プロパティの処理方法を指定します。

暗黙的値は次のとおりです。

ALL

メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるものを除くメッセージのすべてのプロパティを含める場合は、ALL を選択します。値 ALL を選択すると、変更できないアプリケーションが、MQRFH2 ヘッダー内のすべてのメッセージ・プロパティにアクセスできるようになります。

COMPAT

メッセージに mcd.、jms.、usr.、または mqext. という接頭部を持つプロパティがある場合、メッセージのプロパティはすべて MQRFH2 ヘッダー内のアプリケーションに配信されます。それ以外の場合、メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるものを除くメッセージのプロパティはすべて廃棄され、アプリケーションにアクセスできなくなります。

これがデフォルト値です。これにより、JMS 関連プロパティがメッセージ・データ内の MQRFH2 ヘッダーにあると想定するアプリケーションを、変更せずにそのまま使用することができます。

FORCE

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

MQGET 呼び出しの MQGMO 構造体の MsgHandle フィールドに指定された有効なメッセージ・ハンドルは無視されます。メッセージのプロパティは、メッセージ・ハンドル経由ではアクセスできません。

NONE

メッセージ記述子(または拡張)に含まれるものを除くメッセージのプロパティはすべて、メッセージがアプリケーションに送達される前にメッセージから除去されます。

PUT

キューへの書き込みができるかどうか。

QDEPTHHI

「キュー項目数高」イベントの生成しきい値。

QDEPTHLO

「キュー項目数低」イベントの生成しきい値。

QDPHIEV

「キュー項目数高」イベントが生成されるかどうか。

QDPHIEV はフィルター・キーワードとして使用できません。

QDPLOEV

「キュー項目数低」イベントが生成されるかどうか。

QDPLOEV はフィルター・キーワードとして使用できません。

QDPMAXEV

キュー満杯イベントが生成されるかどうか。

QDPMAXEV は、フィルター・キーワードとしては使用できません。

QMID

キューのホストとして動作するキュー・マネージャーの、内部生成された固有名。

QSVCEV

サービス・インターバル・イベントが生成されるかどうか。

QSVCEV はフィルター・キーワードとして使用できません。

QSVCIINT

サービス・インターバル・イベントの生成しきい値。

QTYPE

キュー・タイプ。

AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows、および z/OS では、キュー・タイプが常に表示されます。

AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows では、このパラメーターの同義語として TYPE(*type*)を使用できます。

RETINTVL

保存インターバル。

RNAME

リモート・キュー・マネージャーに認識されているローカル・キューの名前。

RQMNAME

リモート・キュー・マネージャー名。

SCOPE

キュー定義の有効範囲(z/OS ではサポートされません)。

SHARE

キューを共用できるかどうか。

STATQ

統計データ情報を収集するかどうか。

STGCLASS

ストレージ・クラス。

ターゲット

このパラメーターは、別名の付けられたキューの基本オブジェクト名の表示を要求します。

TARGETTYPE

このパラメーターは、別名の付けられたキューのターゲット (基本) タイプの表示を要求します。

TPIPE

IBM MQ - IMS ブリッジがアクティブな場合に、そのブリッジを介して OTMA と通信するために使用する TPIPE 名。このパラメーターは、z/OS でのみサポートされます。



TPIPE について詳しくは、[IMS ブリッジの制御](#)を参照してください。

TRIGDATA

トリガー・データです。

TRIGDPTH

トリガー項目数。

TRIGGER

トリガーがアクティブであるか。

TRIGMPRI

トリガーのしきい値メッセージ優先順位。

TRIGTYPE

トリガー・タイプ。

USAGE

キューが送信キューであるかどうか。

XMITQ

伝送キュー名。

これらのパラメーターの詳細については、[931 ページの『DEFINE キュー』](#)を参照してください。

DISPLAY SBSTATUS

MQSC コマンド DISPLAY SBSTATUS では、サブスクリプションの状況を表示します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

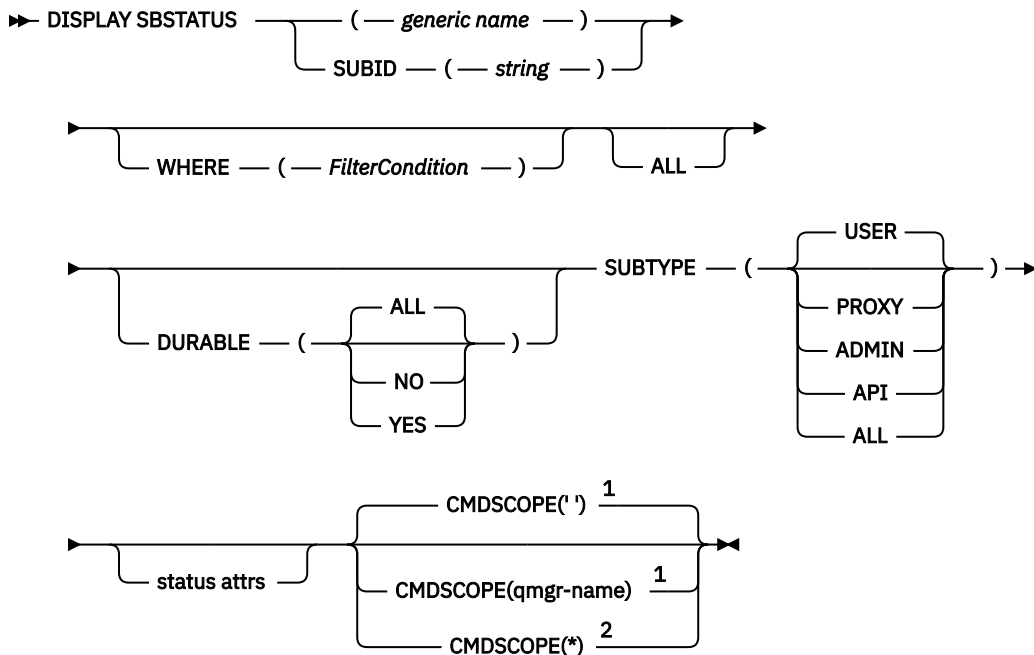
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

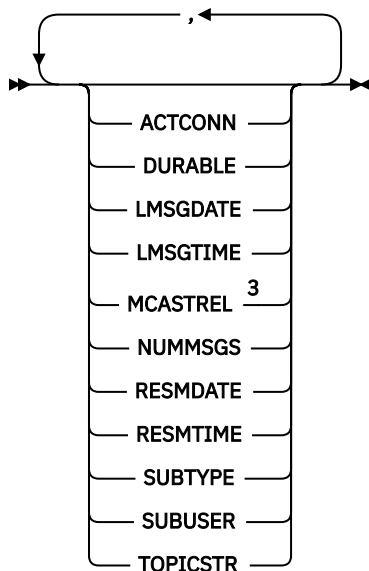
- [構文図](#)
- [1182 ページの『DISPLAY SBSTATUS のパラメーターの説明』](#)
- [1184 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS SBSTATUS

DISPLAY SBSTATUS



Status attributes



注:

¹ z/OS でのみ有効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

³ z/OS では無効です。

DISPLAY SBSTATUS のパラメーターの説明

状況情報を表示する対象となるサブスクリプション定義の名前を指定する必要があります。特定のサブスクリプションの名前か、またはサブスクリプションの総称名を指定できます。総称としてのサブスクリプション名を使用する場合は、以下のいずれかを表示できます。

- すべてのサブスクリプション定義

- 指定した名前に合致する 1 つ以上のサブスクリプション

(generic-name)

表示するサブスクリプション定義のローカル名。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのサブスクリプションと一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべてのサブスクリプションを意味します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすサブスクリプションのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。

 ただし、フィルター・キーワードとして、CMDSCOPE パラメーターを使用することはできません。

フィルター・キーワードが有効な属性ではないタイプのサブスクリプションは、表示されません。

operator

サブスクリプションがフィルター・キーワードで指定されているフィルター値に合致するかどうかを確認するために使用します。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (SUBTYPE パラメーターの値 USER など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (SUBUSER パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

ALL

指定したサブスクリプション定義ごとに、すべての状況情報を表示します。総称名を指定せず、特定のパラメーターも要求しない場合は、これがデフォルトになります。

z/OS z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

z/OS **CMDSCOPE**

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで処理されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定されたキュー・マネージャーがキュー共有グループ内でアクティブな場合に、その指定されたキュー・マネージャーで処理されます。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで処理され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

DURABLE

表示するサブスクリプションのタイプを制限するために、この属性を指定します。

ALL

すべてのサブスクリプションを表示します。

NO

非永続サブスクリプションの情報だけを表示します。

YES

永続サブスクリプションの情報だけを表示します。

SUBTYPE

表示するサブスクリプションのタイプを制限するために、この属性を指定します。

USER

API および **ADMIN** サブスクリプションのみを表示します。

PROXY

キュー・マネージャー間サブスクリプションに関連したシステム作成サブスクリプションだけを選択します。

ADMIN

管理インターフェースで作成されたサブスクリプションまたは管理インターフェースで変更されたサブスクリプションだけを選択します。

API

IBM MQ の API 呼び出しを使用するアプリケーションで作成されたサブスクリプションだけを選択します。

ALL

すべてのサブスクリプション・タイプを表示します (制限なし)。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

ACTCONN

現時点でこのサブスクリプションを開いている *HConn* の *ConnId* を返します。

DURABLE

永続サブスクリプションは、作成元のアプリケーションがサブスクリプション・ハンドルを閉じても削除されません。

NO

サブスクリプションを作成したアプリケーションが閉じられたり、キュー・マネージャーから切断されたりした場合、そのサブスクリプションは除去されます。

YES

サブスクリプションは、作成元のアプリケーションが稼働しなくなったり、切断したりした場合でも永続します。サブスクリプションは、キュー・マネージャーの再始動時に復元されます。

LMSGDATE

このサブスクリプションで指定されている宛先にメッセージが最後にパブリッシュされた日付。

LMSGTIME

このサブスクリプションで指定されている宛先にメッセージが最後にパブリッシュされた時刻。

MCASTREL

マルチキャスト・メッセージの信頼性標識。

値は、パーセンテージとして表されます。値が **100** の場合は、すべてのメッセージが問題のない状態で送信されています。値が **100** より小さい場合は、一部のメッセージでネットワークの問題が発生しています。これらの問題の性質を判別するには、ユーザーはイベント・メッセージの生成のスイッチをオンにし、**COMMINFO** オブジェクトの **COMMEV** パラメーターを使用し、生成されたイベント・メッセージを調べることができます。

以下の 2 つの値が返されます。

- 最初の値は、短期間における最近のアクティビティに基づきます。
- 2 番目の値は、長期間におけるアクティビティに基づきます。

測定が有効でない場合、値はブランクとして示されます。

NUMMSGs

このサブスクリプションの作成時またはキュー・マネージャーの再始動時のうち、いずれか遅い方 (現在から見て近い方) の時以降、このサブスクリプションで指定されている宛先に配置されたメッセージの数。この数は、コンシュームしているアプリケーションに対して有効であるまたは有効であったメッセージの総数を反映していない場合があります。この数には、パブリケーション失敗のため、またはパブリッシュするアプリケーションによってロールバックされた同期点間にパブリケーションが行われたため、キュー・マネージャーによって部分的に処理されて元に戻されたパブリケーションも含まれるからです。

RESMDATE

MQSUB API 呼び出しで最後にサブスクリプションに接続した日付。

RESMTIME

MQSUB API 呼び出しで最後にサブスクリプションに接続した時刻。

SUBID(string)

サブスクリプションを識別する内部固有キー。

SUBUSER(string)

サブスクリプションの所有ユーザー ID。

SUBTYPE

サブスクリプションが作成された方法を示します。

PROXY

キュー・マネージャーを通してパブリケーションを経路指定するために使用される、内部で作成されたサブスクリプション。

ADMIN

DEF SUB MQSC または **PCF** コマンドを使用して作成されます。この **SUBTYPE** は、サブスクリプションが、管理コマンドの使用により変更されたことも示します。

API

MQSUB API 呼び出しで作成されたサブスクリプション。

TOPICSTR

サブスクリプションの完全に解決されたトピック・ストリングを返します。

これらのパラメーターの詳細については、[971 ページの『DEFINE SUB』](#)を参照してください。

z/OS DISPLAY SECURITY

セキュリティー・パラメーターの現在の設定値を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY SECURITY を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

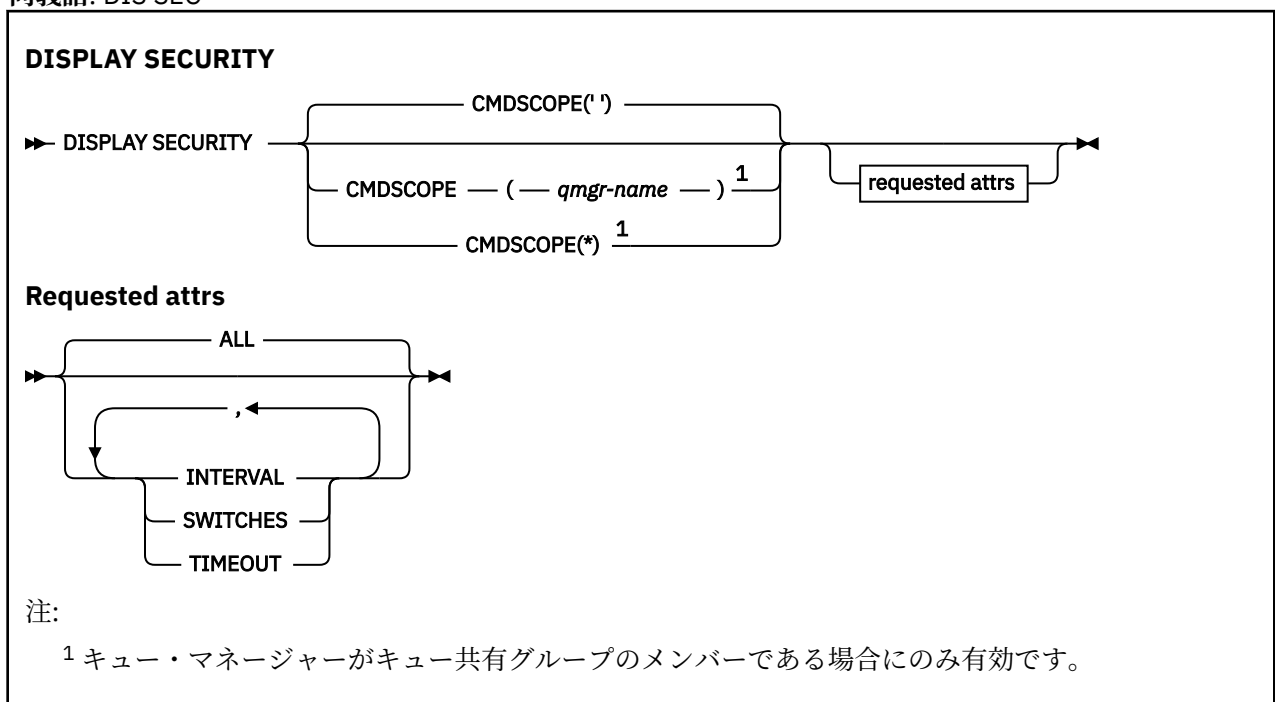
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1186 ページの『DISPLAY SECURITY のパラメーターの説明』](#)

注：IBM WebSphere MQ 7.0 以降、このコマンドを z/OS で CSQINP1 および CSQINP2 から発行することはできなくなりました。

同義語: DIS SEC



DISPLAY SECURITY のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

ALL

TIMEOUT、INTERVAL、および SWITCHES パラメーターを表示します。特にパラメーターを指定しないときは、これがデフォルト値です。

コマンドでも、[CSQH037I](#) または [CSQH038I](#) のいずれかの追加メッセージを出力し、セキュリティーが現在大文字または大/小文字混合のセキュリティー・クラスを使用しているかどうかを示します。

コマンドでも、メッセージ [CSQH040I](#) から [CSQH042I](#) を出力し、接続認証設定が現在使用中であることを示します。

INTERVAL

検査から次の検査までの時間間隔。

SWITCHES

スイッチ・プロファイルの現在の設定を表示します。

サブシステム・セキュリティー・スイッチがオフの場合、他のスイッチ・プロファイル設定値は表示されません。

TIMEOUT

タイムアウト値。

TIMEOUT および INTERVAL パラメーターの詳細については、[799 ページの『ALTER SECURITY』](#)を参照してください。

関連情報

[セキュリティー状況の表示](#)

DISPLAY SERVICE

サービスについての情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY SERVICE を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

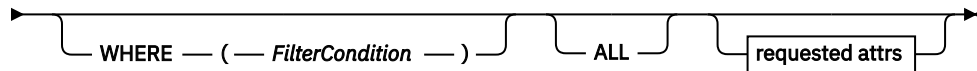
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1188 ページの『DISPLAY SERVICE のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)
- [1189 ページの『要求パラメーター』](#)

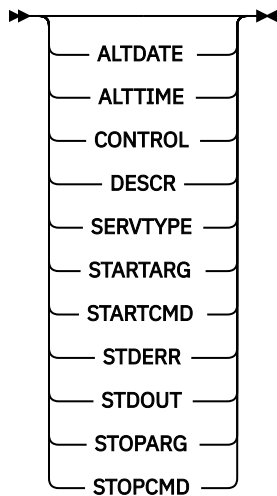
同義語:

DISPLAY SERVICE

►► DISPLAY SERVICE — (— *generic-service-name* —) ►



Requested attrs



DISPLAY SERVICE のキーワードおよびパラメーターの説明

情報を表示する対象のサービスを指定する必要があります。特定のサービス名または総称サービス名のどちらかを使用してサービスを指定できます。総称サービス名を使用することにより、次のいずれかの情報を表示できます。

- すべてのサービス定義についての情報。アスタリスク (*) を 1 つ使用。
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のサービスについての情報。

(*generic-service-name*)

表示する情報の対象となるサービス定義の名前。アスタリスク (*) を 1 つ使用して指定すると、すべてのサービス ID の情報が表示されます。末尾にアスタリスクが付いた文字ストリングは、そのストリングの後に 0 個以上の文字が続くすべてのサービスに一致します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすリスナーの情報を表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

指定したフィルター・キーワードのフィルター値の条件をリスナーが満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、CONTROL パラメーターの値 MANUAL など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは文字ストリングです。末尾にアスタリスクを付け、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

ALL

指定されたサービスごとにすべてのサービス情報を表示するために指定します。このパラメーターを指定する場合、具体的に要求されるパラメーターはいずれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

これは、総称 ID を指定せず特定のパラメーターを要求しない場合のデフォルトです。

z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

要求パラメーター

表示するデータを定義する属性を 1 つ以上指定します。属性の指定順序は任意です。同じ属性を複数回指定しないでください。

ALTDAT

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

CONTROL

サービスの開始方法と停止方法。

MANUAL

サービスを自動的に開始または停止しません。START SERVICE コマンドと STOP SERVICE コマンドを使用して制御します。

QMGR

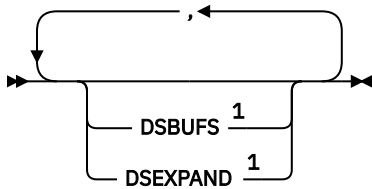
サービスは、キュー・マネージャーが開始および停止するのと同時に、開始および停止します。

STARTONLY

サービスはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

DESCR

記述コメント。



注:

¹ このパラメーターについては、[カップリング・ファシリティーおよびオフロード・ストレージ環境の準備](#)を参照してください。

DISPLAY SMDSのパラメーターの説明

DISPLAY SMDS コマンドのパラメーターの説明です。

SMDS(*qmgr-name* | *)

共有メッセージ・データ・セット・プロパティーを表示するキュー・マネージャーを指定します。あるいは、指定された CFSTRUCT と関連付けられたすべての共有メッセージ・データ・セットのプロパティーを表示する場合は、アスタリスクを指定します。

CFSTRUCT(*structure-name*)

1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットのプロパティーを表示するために、カップリング・ファシリティー・アプリケーション構造体を指定します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす SMDS 情報のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

CF アプリケーション構造体が指定されたフィルター・キーワードのフィルター値を満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。 *filter-keyword* に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

LK および NL を除くすべての演算子を使用できます。ただし、値がパラメーターに返すことができる値セットの値である場合 (例えば、RECOVER パラメーターの値 YES など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

DISPLAY SMDS コマンドの総称値で利用できる演算子は、LK または NL のみです。

ALL

すべての属性を表示する場合に、このキーワードを指定します。このキーワードを指定すると、具体的に要求された属性はいずれも無効になり、すべての属性が表示されます。

総称名を指定せず、特定の属性も要求しない場合は、これがデフォルトの動作になります。

DISPLAY SMDS に要求されるパラメーター

選択されたデータ・セットごとに、次の情報が返されます。

SMDS

プロパティーが表示される共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーの名前。

CFSTRUCT

カップリング・ファシリティ・アプリケーション構造名。

DSBUFS

この構造体の共有メッセージ・データ・セットにアクセスするためにキュー・マネージャーによって使用されるバッファー数のオーバーライド値を表示します。CFSTRUCT 定義からのグループ値が使用中の場合は DEFAULT を表示します。

DSEXPA

データ・セット拡張オプションのオーバーライド値 (YES または NO) を表示します。または、CFSTRUCT 定義からのグループ値が使用中の場合は DEFAULT を表示します。

DISPLAY SMDSCONN

MQSC コマンド DISPLAY SMDSCONN を使用して、キュー・マネージャーと、指定された CFSTRUCT の共有メッセージ・データ・セットとの間の接続に関する状況および使用可能情報を表示します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

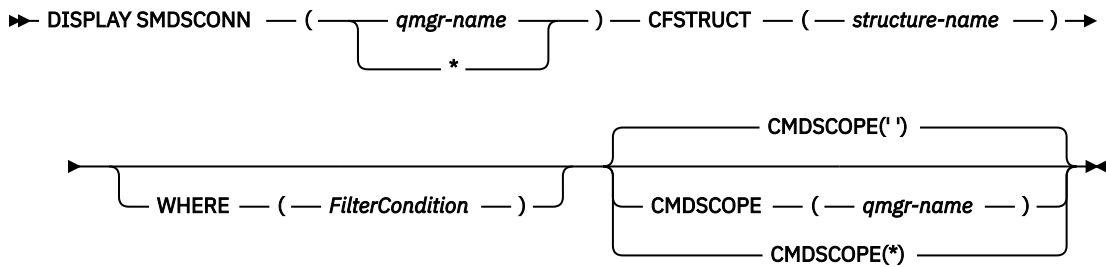
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1193 ページの『DISPLAY SMDSCONN のパラメーターの説明』](#)
- [1194 ページの『DISPLAY SMDSCONN の使用上の注意』](#)

同義語:

DISPLAY SMDSCONN



DISPLAY SMDSCONN のパラメーターの説明

DISPLAY SMDS コマンドのパラメーターの説明です。

SMDSCONN(*qmgr-name* | *)

接続情報を表示する対象となる SMDS を所有するキュー・マネージャーを指定するか、または指定された CFSTRUCT に関連するすべての共有メッセージ・データ・セットの接続情報を表示する場合はアスタリスクを指定します。

CFSTRUCT(*structure-name*)

共有メッセージ・データ・セット接続情報の必要な構造体名を指定します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす SMDS 接続情報のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

CF アプリケーション構造体が指定されたフィルター・キーワードのフィルター値を満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

LK および NL を除くすべての演算子を使用できます。ただし、値がパラメーターに返すことができる値セットの値である場合 (例えば、RECOVER パラメーターの値 YES など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

DISPLAY SMDSCONN コマンドで総称値に対して使用できる演算子は、LK または NL のみです。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

DISPLAY SMDSCONN の使用上の注意

このコマンドを使用できるのは、CFSTRUCT 定義で OFFLOAD(SMDS) オプションが現在使用されている場合に限られます。

この情報は、キュー・マネージャーが現在データ・セットの割り振りおよびオープンが可能かどうかを示します。

選択された各接続について返される結果は以下のとおりです。

SMDSCONN

この接続の共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーの名前。

CFSTRUCT

カップリング・ファシリティ・アプリケーション・ストラクチャーの名前。

OPENMODE

このキュー・マネージャーによって現在オープンされているデータ・セットのモード。これは、以下のいずれかになります。

NONE

データ・セットは、現在オープンされていない。

READONLY

データ・セットは別のキュー・マネージャーによって所有されており、読み取り専用アクセス権限でオープンされている。

UPDATE

データ・セットは他のキュー・マネージャーによって所有されており、更新アクセス権限でオープンされている。

RECOVERY

データ・セットは、リカバリー処理用にオープンされている。

状況

このキュー・マネージャーから見た接続状況。これは、以下のいずれかになります。

CLOSED

このデータ・セットは、現在オープンされていません。

OPENING

このキュー・マネージャーは、現在このデータ・セットの検証およびオープンのプロセス中です (必要な場合、スペース・マップ再開処理を含む)。

オープン

このキュー・マネージャーは、このデータ・セットを正常にオープンし、通常の使用が可能です。

CLOSING

このキュー・マネージャーは、現在このデータ・セットのクローズのプロセス中です (必要な場合、通常の入出力アクティビティの静止、および保存されたスペース・マップの格納の作業を含む)。

NOTENABLED

SMDS 定義は ACCESS(ENABLED) 状態ではないので、データ・セットは現在通常の使用ができません。この状況は SMDSCONN 状況が他の失敗の形成をまだ示していない場合にのみセットされます。

ALLOCFAIL

キュー・マネージャーはこのデータ・セットの位置指定または割り振りができませんでした。

OPENFAIL

このキュー・マネージャーはデータ・セットの割り振りができましたが、オープンできなかったため、割り振りが解除されました。

STGFAIL

キュー・マネージャーが関連付けられているストレージ域を制御ブロック用、またはスペース・マップまたはヘッダー・レコードの処理用に割り振ることができなかったため、データ・セットを使用できませんでした。

DATAFAIL

データ・セットのオープンは正常に完了しましたが、データの無効または不整合が検出されたか、または永続入出力エラーが発生したため、クローズされ、割り振りが解除されました。

共有メッセージ・データ・セット自体が STATUS(FAILED) とマークを付けられるという結果になる可能性があります。

AVAIL

このキュー・マネージャーによって閲覧されたデータ・セット接続の使用可能。これは、以下のいずれかになります。

NORMAL

接続は使用でき、エラーは検出されませんでした。

エラー

接続はエラーのために使用できませんでした。

キュー・マネージャーは、エラーが存在しなくなった場合 (例えば、リカバリーが完了したか、状況が手動で RECOVERED にセットされた) 自動的にアクセスを再度試行します。そうでない場合、当初失敗したアクションを再試行するために START SMDSCONN コマンドを使用することにより、再度使用可能にすることができます。

STOPPED

STOP SMDSCONN コマンドを使用して接続を明示的に停止したため、使用することができません。START SMDSCONN コマンドを使用することによってのみ、再び使用可能にすることができます。

EXPANDST

データ・セット自動拡張状況。これは、以下のいずれかになります。

NORMAL

自動拡張に影響を与える問題はありませんでした。

失敗

最近の拡張の試行が失敗し、その結果この特定のデータ・セットについて DSEXPAND オプションが NO がセットされました。ALTER SMDS が DSEXPAND オプションを YES または DEFAULT にセットするために使用されると、この状況はクリアされます。

MAXIMUM

最大範囲数に達しました。それで、今後の拡張はできません (データ・セットのサービスを休止し、より大規模な範囲にコピーした場合を除く)。

構造体が現在接続されている、つまり、その構造体に割り振られているいくつかの共有キューがオープンされている場合にのみ、コマンドが機能することに注意してください。

関連資料

[1319 ページの『START SMDSCONN』](#)

このキュー・マネージャーから指定した共有メッセージ・データ・セットへの、以前に停止された接続を使用可能にするには、MQSC コマンド **START SMDSCONN** を使用します。これにより、共有メッセージ・データ・セットを再度割り振ったり、オープンしたりできるようになります。

[1339 ページの『STOP SMDSCONN』](#)

このキュー・マネージャーから指定した 1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットへの接続を終了して (それによって閉じたり、割り振り解除するため)、接続に **STOPPED** というマークを付けるには、MQSC コマンド **STOP SMDSCONN** を使用します。

DISPLAY STGCLASS

MQSC コマンド **DISPLAY STGCLASS** は、ストレージ・クラスに関する情報を表示するために使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

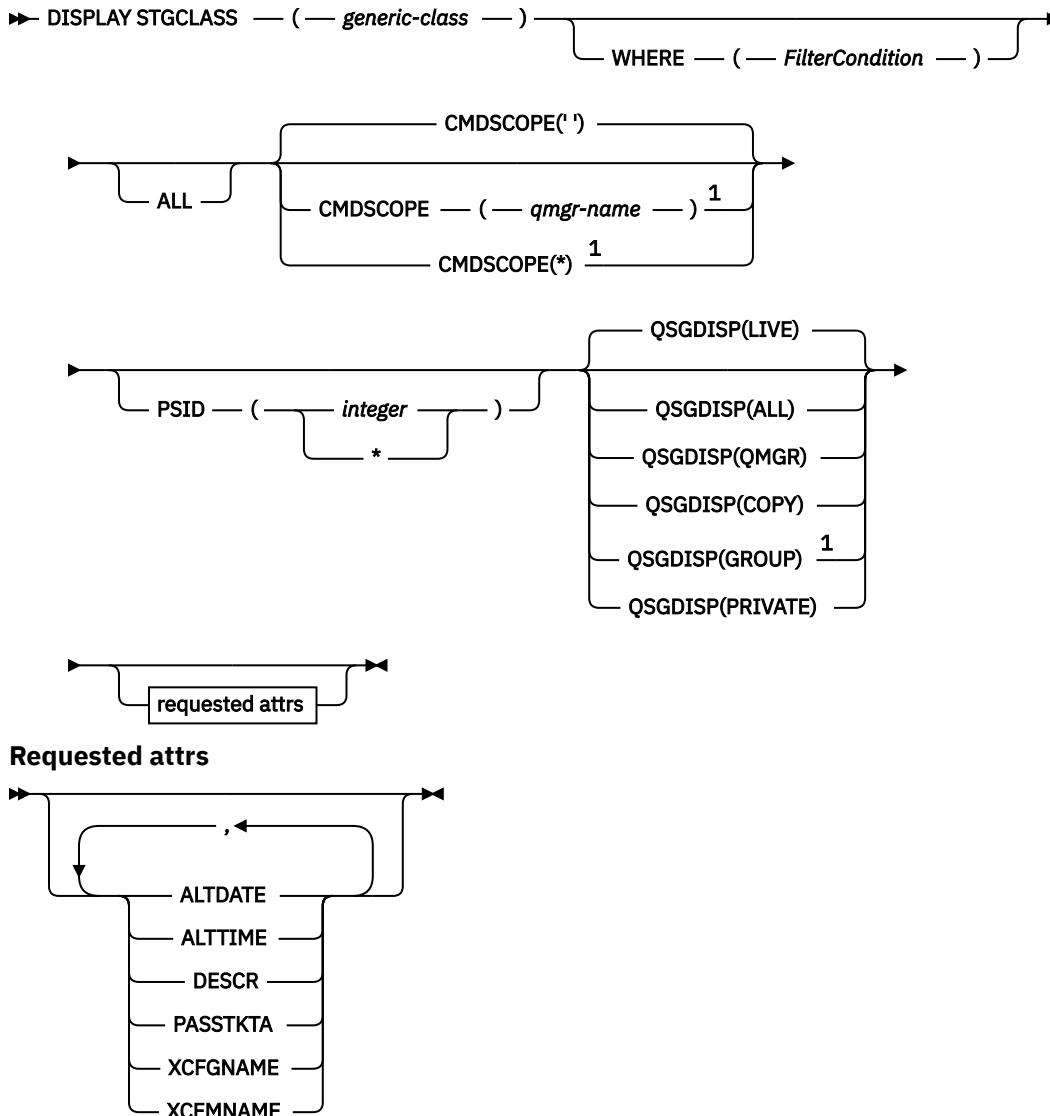
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

[z/OS 列のシンボルの説明](#)については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1197 ページの『DISPLAY STGCLASS のパラメーターの説明』](#)
- [1200 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語: DIS STC

DISPLAY STGCLASS



注:

1 キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

DISPLAY STGCLASS のパラメーターの説明

DISPLAY STGCLASS は、各ストレージ・クラスに関連するページ・セット ID を表示するために使用します。

(*generic-class*)

ストレージ・クラスの名前。これは必須です。

これは 1 文字以上 8 文字以下です。先頭文字は A から Z までの範囲です。その後は、A から Z まで、または 0 から 9 までの文字です。

語幹の後に後続アスタリスク (*) を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのストレージ・クラスに一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべてのストレージ・クラスが指定されることになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすストレージ・クラスのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE と QSGDISP のパラメーターは、いずれもフィルター・キーワードとして使用できません。ストレージ・クラスを選択するために PSID を使用する場合、それをフィルター・キーワードとして使用することはできません。

operator

指定したフィルター・キーワードのフィルター値の条件を接続が満たすかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの中の値の 1 つである場合、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーター中の文字ストリングなど) です。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリング ABC で始まっていないすべての項目がリスト表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

ALL

すべてのパラメーターを表示する場合に、これを指定します。このパラメーターを指定した場合、具体的に要求されたパラメーターはどれも無効になり、すべてのパラメーターが表示されます。

総称名を指定せず、特定のパラメーターも要求しない場合は、これがデフォルトになります。

z/OS では、WHERE パラメーターを使用してフィルター条件を指定した場合にも、これがデフォルト値になりますが、他のプラットフォームでは要求された属性のみが表示されます。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

QSGDISP が GROUP に設定されている場合、CMDSCOPE は、ブランクまたはローカル・キュー・マネージャーでなければなりません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

PSID(integer)

ストレージ・クラスのマップ先ページ・セット ID。これはオプションです。

ストリングは、00 から 99 の範囲の 2 つの数字で構成されます。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべてのページ・セット ID が指定されることになります。929 ページの『[DEFINE PSID](#)』を参照してください。

QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

これはデフォルト値で、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

共有キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前 (属性指定が異なる) を出力する可能性があります。

共有キュー・マネージャー環境では、以下を使用します。

```
DISPLAY STGCLASS(generic-class) CMDSCOPE(*) QSGDISP(ALL)
```

一致するすべてのオブジェクトをリスト表示するには、以下を使用します。

```
name
```

共有リポジトリに複製せずに、キュー共有グループ内で使用します。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

パラメーターが何も指定されていない場合 (ALL パラメーターも指定されていない場合)、デフォルトでは、ストレージ・クラス名、そのページ・セット ID、およびキュー共有グループ属性指定が表示されます。

ALTDATE

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

DESCR

記述コメント。

PASSTKTA

IMS ブリッジ・パスチケットの認証に使用するアプリケーション名。ブランク値は、デフォルトのバッチ・ジョブ・プロファイル名を使用することを示します。

XCFGNAME

IBM MQ がメンバーとして属する XCF グループの名前。

XCFMNAME

XCFGNAME の中で指定されている XCF グループ内の IMS システムの XCF メンバー名。

これらのパラメーターの詳細については、[967 ページの『DEFINE STGCLASS』](#)を参照してください。

DISPLAY SUB

MQSC コマンド DISPLAY SUB では、サブスクリプションに関連した属性を表示します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

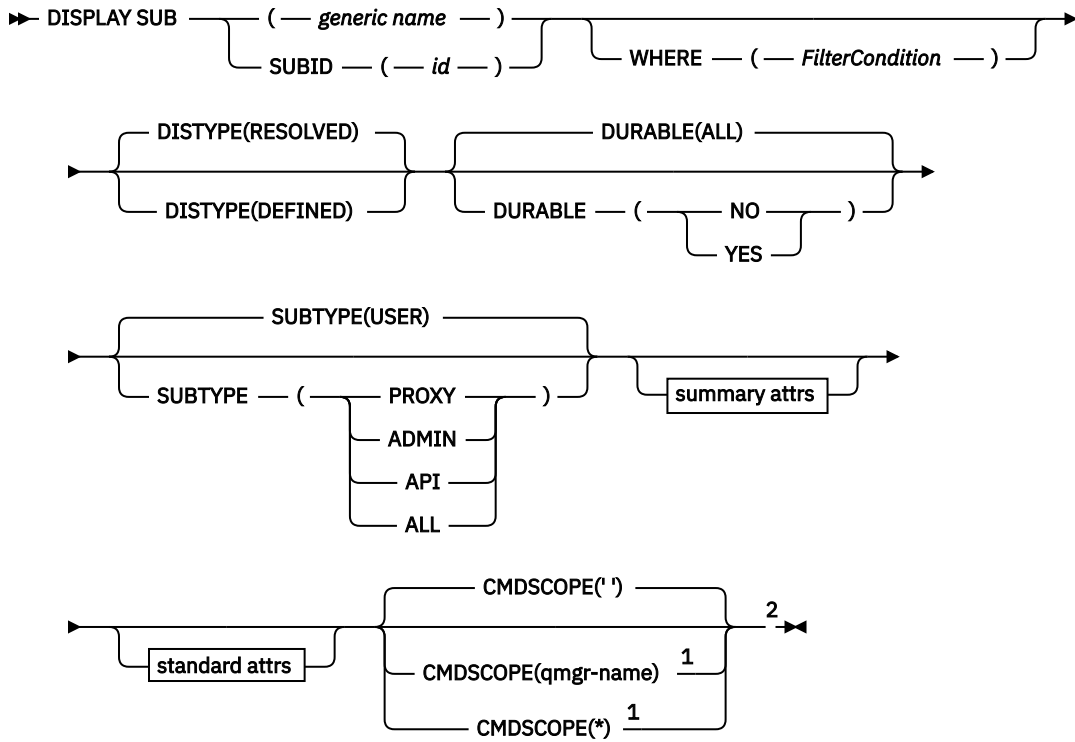
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

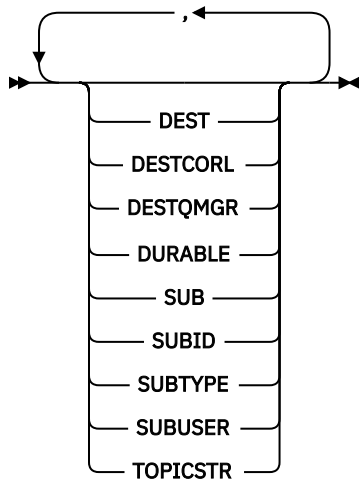
- [構文図](#)
- [1202 ページの『DISPLAY SUB の使用上の注意』](#)
- [1202 ページの『DISPLAY SUB のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS SUB

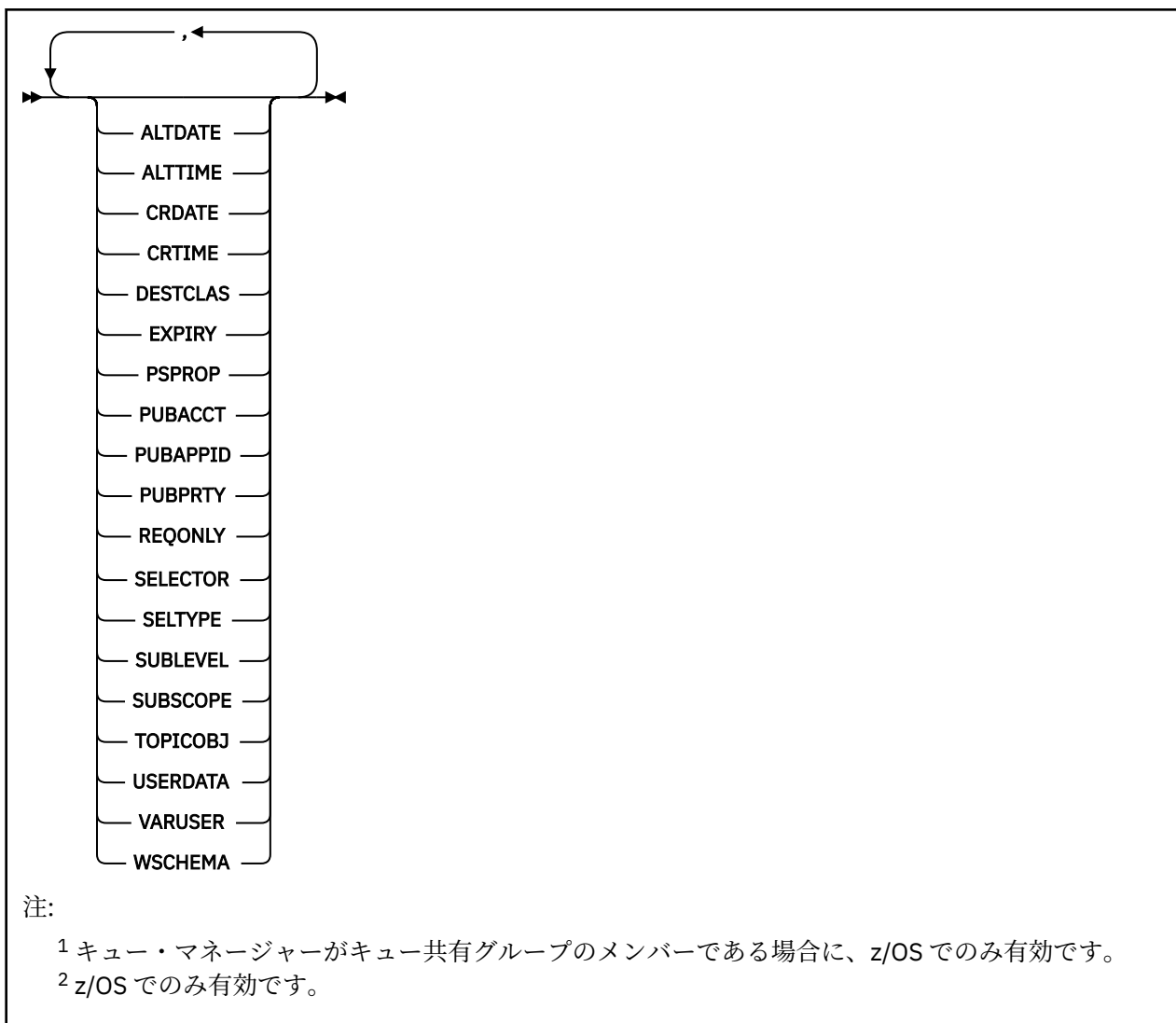
DISPLAY SUB



summary attributes



standard attributes



DISPLAY SUB の使用上の注意

1. TOPICSTR パラメーターの中には、コマンド出力が表示されるときに印刷可能文字に変換されない文字が含まれる可能性があります。z/OS では、このような印刷不能文字はブランクとして表示されます。runmqsc を使用する分散プラットフォームでは、このような印刷不能文字はドットとして表示されます。

DISPLAY SUB のパラメーターの説明

表示するサブスクリプションの名前または ID を指定する必要があります。具体的なサブスクリプション名、SUBID、総称としてのサブスクリプション名のいずれかを使用できます。総称としてのサブスクリプション名を使用する場合は、以下のいずれかを表示できます。

- すべてのサブスクリプション定義
- 指定した名前に合致する 1 つ以上のサブスクリプション

有効な形式は、以下のとおりです。

```
DIS SUB(xyz)
DIS SUB SUBID(123)
DIS SUB(xyz*)
```

(generic-name)

表示するサブスクリプション定義のローカル名。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのサブスクリプションと一致します。アスタリスク (*) の単独指定は、すべてのサブスクリプションを意味します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすサブスクリプションのみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されます。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、フィルター・キーワードとして、CMDSCOPE パラメーターを使用することはできません。フィルター・キーワードが有効な属性ではないタイプのサブスクリプションは、表示されません。

operator

サブスクリプションがフィルター・キーワードで指定されているフィルター値に合致するかどうかを確認するために使用します。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子は LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、CLUSQT パラメーターの値 QALIAS など)、EQ または NE のみを使用できます。HARDENBO、SHARE、および TRIGGER パラメーターの場合は、EQ YES または EQ NO のどちらかを使用します。

- 総称値。これは、ABC* のように、最後の文字がアスタリスクである文字ストリング (DESCR パラメーターに指定する文字ストリングなど) です。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

注:  z/OS では、MQSC **WHERE** 節の filter-value に 256 文字の長さ制限があります。この制限は他のプラットフォームには適用されません。

SUMMARY

ユーザーが選択した要約属性のセットを表示する場合に指定します。

注: JMS を使用してプログラマチックに DESTCURL プロパティを設定することはできません。

DESTQMGR(*string*)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャー。

DISTYPE

TOPICSTR 属性および **TOPICOBJ** 属性で返される出力を制御します。

RESOLVED

TOPICSTR 属性で、解決された (フル) トピック・ストリングを返します。 **TOPICOBJ** 属性の値も返されます。これはデフォルト値です。

DEFINED

サブスクリプション作成時に指定された **TOPICOBJ** 属性および **TOPICSTR** 属性の値が返されます。 **TOPICSTR** 属性には、トピック・ストリングのアプリケーション部分のみが含まれます。

TOPICOBJ および **TOPICSTR** で返される値を使用して、**DISTYPE(DEFINED)** を使用することによりサブスクリプションを完全に再作成できます。

DURABLE

永続サブスクリプションは、作成元のアプリケーションがサブスクリプション・ハンドルを閉じても削除されません。

ALL

すべてのサブスクリプションを表示します。

NO

サブスクリプションの作成元のアプリケーションが閉じたり、キュー・マネージャーから切断したりしたときに、サブスクリプションは削除されます。

YES

サブスクリプションは、作成元のアプリケーションが稼働しなくなったり、切断したりした場合でも永続します。サブスクリプションは、キュー・マネージャーの再始動時に復元されます。

EXPIRY

サブスクリプション・オブジェクトの作成日時から期限切れまでの時間。

(*integer*)

作成日時から期限切れまでの時間 (10 分の 1 秒単位)。

UNLIMITED

有効期限時刻はありません。これは製品が提供するデフォルト・オプションです。

PSPROP

このサブスクリプションに送信されるメッセージにパブリッシュ/サブスクライブ関連メッセージ・プロパティを追加する方法。

NONE

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティをメッセージに追加しません。

COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティを MQRFH バージョン 1 のヘッダー内に追加します (メッセージが PCF 形式でパブリッシュされる場合は例外です)。

MSGPROP

パブリッシュ・サブスクライブ・プロパティはメッセージ・プロパティとして追加されます。

RFH2

パブリッシュ・サブスクライブ・プロパティは、MQRFH バージョン 2 ヘッダー内に追加されます。

PUBACCT(*string*)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージへの伝搬の際に、MQMD の *AccountingToken* フィールドにサブスクライバーから渡されるアカウント・トークン。

PUBAPPID(*string*)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージへの伝搬の際に、MQMD の *AppIdentityData* フィールドにサブスクライバーから渡される ID データ。

PUBPRTY

このサブスクリプションに送信されたメッセージの優先度。

AS PUB

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、パブリッシュされるメッセージで指定されている優先度から取り込まれます。

AS QDEF

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、宛先として定義されているキューのデフォルト優先度から取り込まれます。

(整数)

このサブスクリプションにパブリッシュされるメッセージの明示的な優先度を整数値として指定します。

REQONLY

サブスクライバーが MQSUBRQ API 呼び出しを使用して更新をポーリングするか、またはすべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに送達されるかを示します。

NO

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。これはデフォルト値です。

YES

パブリケーションは MQSUBRQ API 呼び出しへの応答としてのみ、このサブスクリプションに配信される。

このパラメーターは、サブスクライブ・オプション MQSO_PUBLICATIONS_ON_REQUEST と等価です。

SELECTOR(*string*)

トピックにパブリッシュされるメッセージに適用されるセレクトター。

SELTYPE

指定されたセレクトター・ストリングのタイプ。

NONE

セレクトターは指定されていません。

STANDARD

セレクトターは、標準 IBM MQ セレクトター構文を使用して、メッセージのプロパティのみを参照し、その内容は参照しません。このタイプのセレクトターは、内部でキュー・マネージャーによって処理されます。

EXTENDED

セレクトターは拡張セレクトター構文を使用し、一般にはメッセージの内容を参照します。このタイプのセレクトターは、内部でキュー・マネージャーによって処理することはできません。拡張セレクトターの処理は IBM Integration Bus などの、他のプログラムによってのみ行うことができます。

SUB(*string*)

アプリケーションの、サブスクリプションに対する固有 ID。

SUBID(*string*)

サブスクリプションを識別する内部固有キー。

SUBLEVEL(*integer*)

サブスクリプション階層内でこのサブスクリプションを作成するレベル。範囲は 0 から 9 までです。

SUBSCOPE

サブスクリプションを他のキュー・マネージャーに転送することによって、サブスクライバーがそれらのキュー・マネージャーでパブリッシュされたメッセージも受信できるようにするかどうかを指定します。

ALL

パブリッシュ/サブスクライブの集合または階層で直接接続されているすべてのキュー・マネージャーにサブスクリプションを転送します。

QMGR

サブスクリプションは、このキュー・マネージャー内でトピックにパブリッシュされたメッセージのみを転送します。

注: 個々のサブスクライバーは **SUBSCOPE** の制限のみできます。このパラメーターがトピック・レベルで ALL に設定された場合、個々のサブスクライバーはこのサブスクリプションについて QMGR に制限できます。一方、このパラメーターがトピック・レベルで QMGR に設定された場合、個々のサブスクライバーを ALL に設定しても効果はありません。

SUBTYPE

サブスクリプションが作成された方法を示します。

USER

API および **ADMIN** サブスクリプションのみを表示します。

PROXY

キュー・マネージャーを通してパブリケーションを経路指定するために使用される、内部で作成されたサブスクリプション。

V 8.0.0.6 変更時に、PROXY タイプのサブスクリプションを ADMIN に変更することはできません。

ADMIN

DEF SUB MQSC または **PCF** コマンドを使用して作成されます。この **SUBTYPE** は、サブスクリプションが、管理コマンドの使用により変更されたことも示します。

API

MQSUB API 要求を使用して作成されます。

ALL

すべて。

SUBUSER(string)

このサブスクリプションに関連する宛先キューにパブリケーションを書き込むことができるかどうかを確認するために実行するセキュリティ検査で使用するユーザー ID を指定します。この ID は、サブスクリプションの作成者に関連付けられているユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可されている場合は、サブスクリプションを直近に引き継いだユーザー ID です。このパラメーターの長さは 12 文字以下でなければなりません。

TOPICOBJ(string)

このサブスクリプションによって使用されるトピック・オブジェクトの名前です。

TOPICSTR(string)

サブスクリプションのトピック・ストリングを返します。このトピック・ストリングには、一連のトピック・ストリングに一致させるためのワイルドカード文字を含めることができます。トピック・ストリングは、**DISTYPE** の値に応じてアプリケーション指定部分のみ、または完全修飾のどちらかになります。

USERDATA(string)

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。ストリングは、MQSUB API 呼び出しでアプリケーションによって取得できる可変長の値で、このサブスクリプションへメッセージ・プロパティとして送信されるメッセージ内で渡されます。

V 8.0.0.7 IBM MQ 8.0.0、フィックスパック 7 より、IBM MQ classes for JMS アプリケーションは、メソッド `javax.jms.Message.getStringProperty(java.lang.String)` で `JmsConstants` インターフェースの定数 `JMS_IBM_SUBSCRIPTION_USER_DATA` を使用して、メッセージからサブスクリプション・ユーザー・データを取得できるようになりました。詳しくは、[Retrieval of user subscription data](#) を参照してください。

VARUSER

サブスクリプション作成者以外のユーザーがそのサブスクリプションへ接続し、その所有権を引き継ぐことができるかどうかを指定します。

ANY

どのユーザーでも、サブスクリプションに接続してその所有権を引き継ぐことができます。

固定

別の **USERID** による引き継ぎは許可されていません。

WSHEMA

トピック・ストリング内のワイルドカード文字の解釈に使用されるスキーマ。

CHAR

ワイルドカード文字はストリングの一部を表します。

トピック

ワイルドカード文字はトピック階層の部分を表します。

DISPLAY SVSTATUS

1つ以上のサービスについての状況情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY SVSTATUS を使用します。SERVER の **SERVTYPE** のサービスだけが表示されます。

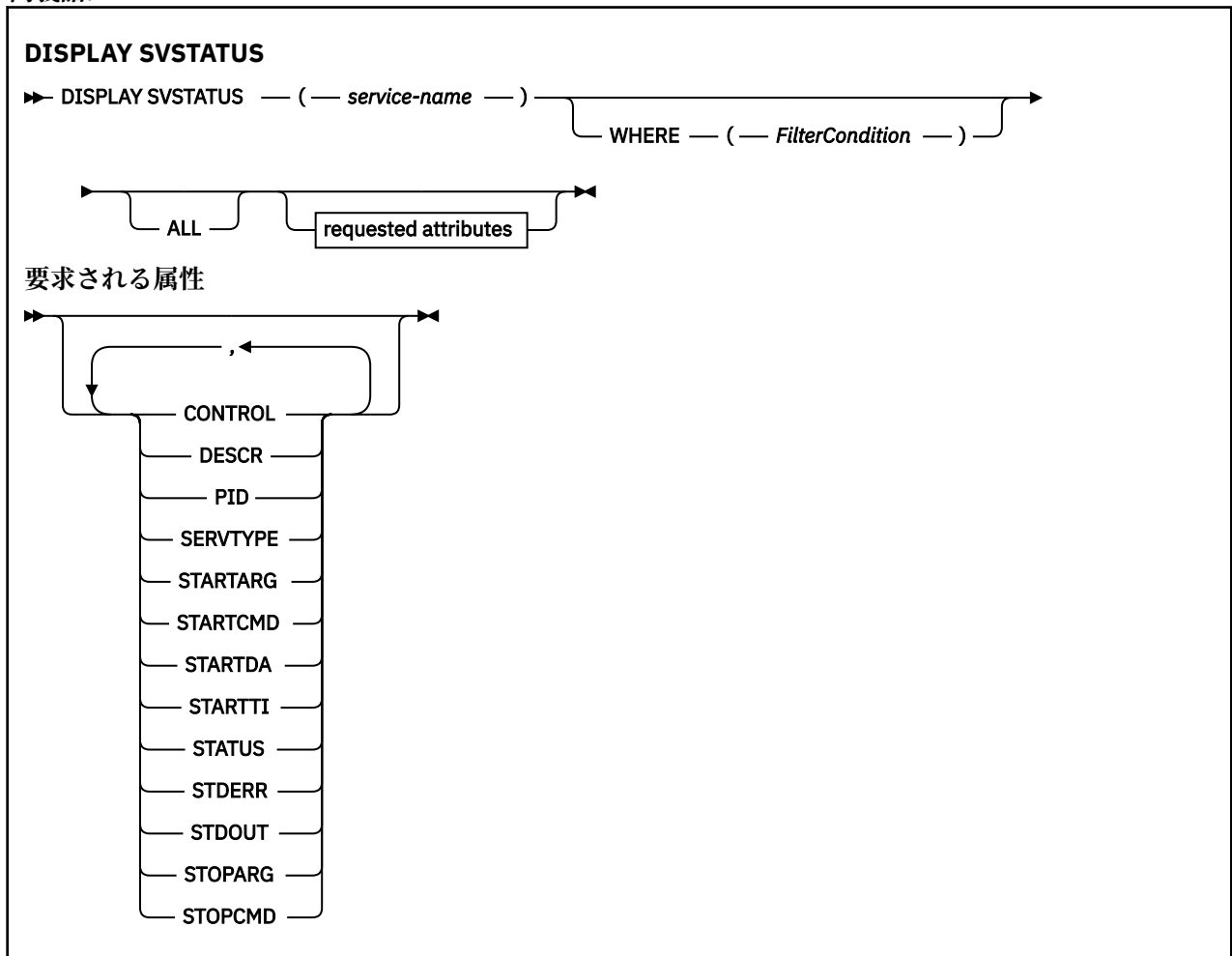
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1209 ページの『DISPLAY SVSTATUS のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)
- [1209 ページの『要求パラメーター』](#)

同義語:



DISPLAY SVSTATUS のキーワードおよびパラメーターの説明

状況情報を表示する対象のサービスを指定する必要があります。特定のサービス名または総称サービス名のどちらかを使用してサービスを指定できます。総称サービス名を使用することにより、次のいずれかの情報を表示できます。

- すべてのサービス定義についての状況情報。アスタリスク (*) を 1 つ使用。
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のサービスの状況情報。

(*generic-service-name*)

どのサービスの状況情報を表示するかを、サービス定義名で指定します。アスタリスク (*) を 1 つ使用して指定すると、すべての接続 ID の情報が表示されます。末尾にアスタリスクが付いた文字ストリングは、そのストリングの後に 0 個以上の文字が続くすべてのサービスに一致します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たすサービスの状況情報を表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用できるすべてのパラメーター。

operator

サービスが、指定されたフィルター・キーワードのフィルター値を満足するかどうかを判別するために使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合 (例えば、CONTROL パラメーターの値 MANUAL など)、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。これは文字ストリングです。末尾にアスタリスクを付け、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

ALL

指定した各サービスの状況情報をすべて表示します。総称名を指定せず、特定のパラメーターも要求しない場合は、これがデフォルトになります。

要求パラメーター

表示するデータを定義する属性を 1 つ以上指定します。属性の指定順序は任意です。同じ属性を複数回指定しないでください。

CONTROL

サービスの開始方法と停止方法。

MANUAL

サービスを自動的に開始または停止しません。START SERVICE コマンドと STOP SERVICE コマンドを使用して制御します。

QMGR

サービスは、キュー・マネージャーが開始および停止するのと同時に、開始および停止します。

STARTONLY

サービスはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

DESCR

記述コメント。

PID

サービスに関連付けられたオペレーティング・システムのプロセス ID。

SERVTYPE

サービスを実行するモード。サービスには、SERVER の COMMAND または **SERVTYPE** を指定できますが、このコマンドでは **SERVTYPE(SERVER)** を指定したサービスだけが表示されます。

STARTARG

開始時にユーザー・プログラムに渡される引数。

STARTCMD

実行中のプログラム名。

STARTDA

サービスが開始された日付。

STARTTI

サービスが開始された時刻。

状況

プロセスの状況。

実行中

サービスは実行中です。

STARTING

サービスは初期化処理中です。

STOPPING

サービスは停止します。

STDERR

サービス・プログラムの標準エラー (stderr) の宛先。

STDOUT

サービス・プログラムの標準出力 (stdout) の宛先。

STOPARG

サービスを停止するように指示があったときに、停止プログラムに渡す引数。

STOPCMD

サービスの停止要求があったときに実行する、実行可能プログラムの名前。

これらのパラメーターの詳細については、[964 ページの『DEFINE SERVICE』](#)を参照してください。

 z/OS での DISPLAY SYSTEM (システム情報の表示)

一般のシステム・パラメーターおよび情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY SYSTEM を使用します。

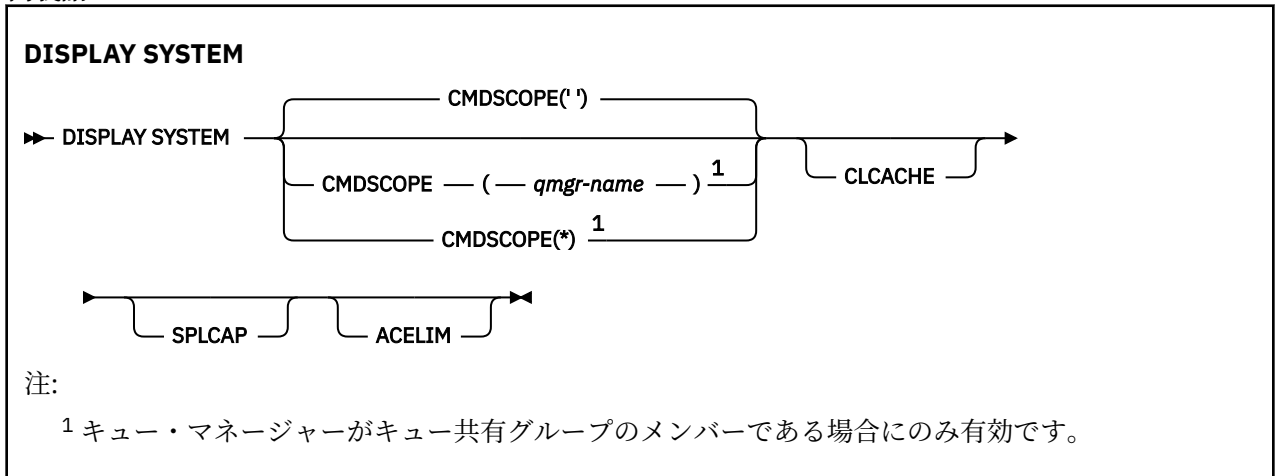
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

このコマンドは、ソースの 12CR から実行できます。ソースのシンボルの説明については、[z/OS で MQSC コマンドを発行できるソース](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1211 ページの『DISPLAY SYSTEM の使用上の注意』](#)
- [1212 ページの『DISPLAY SYSTEM のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS SYSTEM



DISPLAY SYSTEM の使用上の注意

1. DISPLAY SYSTEM は、システム・パラメーターの初期値と SET SYSTEM コマンドによって変更された現行値を示すレポートを戻します。

- コマンド・セキュリティ検査用のデフォルトのユーザー ID (CMDUSER)。
- 各呼び出しでキュー・マネージャー出口を実行できる秒単位の時間 (EXITLIM)。
- キュー・マネージャー出口を実行するために使用する開始済みサーバーの数 (EXITTCB)。
- あるチェックポイントが開始されてから次のチェックポイントが開始されるまでの間に、IBM MQ によって書き込まれるログ・レコードの数 (LOGLOAD)。
- このキュー・マネージャーの Measured Usage Pricing プロパティ (MULCCAPT)。このプロパティは、MULCCAPT プロパティが REFINED に設定されている場合にのみ表示されます。
- OTMA 接続パラメーター (OTMACON)。
- キュー・マネージャーはすべての索引が作成されるまで再始動を待機するのか、すべての索引が作成される前に完了するのか (QINDXBLD)。
- キュー・マネージャーのコード化文字セット ID (QMCCSID)。
- キュー共有グループ・パラメーター (QSGDATA)。
- RESLEVEL 監査パラメーター (RESAUDIT)。
- 特定のコンソールから送信請求されていないメッセージに割り当てられた、メッセージ経路指定コード (ROUTCDE)。
- IBM MQ の開始時に SMF アカウンティング・データを収集するかどうか (SMFACCT)。
- IBM MQ の開始時に SMF 統計を収集するかどうか (SMFSTAT)。
- 統計データの収集間隔 (STATIME) を分単位で表した時間。
- トレースを自動的に開始するかどうか (TRACSTR)。

- ・グローバル・トレース機能によって使用される 4KB ブロック単位のトレース・テーブルのサイズ (TRACTBL)。
- ・WLM 管理対象キューのキュー索引のスキャン間隔時間 (WLMTIME)。
- ・WLMTIMU は、WLMTIME を秒単位で指定するか分単位で指定するかを示します。
- ・現在バッチ・ジョブを MQ API 呼び出し中にスワップアウトできるかどうか (CONNSWAP)。



重要: IBM MQ 9.0 以降、このキーワードには効果がありません。

- ・ログへの書き込みから除外されたメッセージのリスト (EXCLMSG)。
- ・システム状況に関するレポートも戻される場合があります。

2. このコマンドは、キュー・マネージャー始動の終了時に IBM MQ によって内部的に発行されます。

DISPLAY SYSTEM のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

..

コマンドは、コマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

コマンドが入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定できるのは、キュー共有グループ環境を使用していて、コマンド・サーバーが使用可能になっている場合のみです。

*

コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーにも渡されます。キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

ACELIM

ACE ストレージ・プールの最大サイズ (キロバイト)。

CLCACHE

クラスター・キャッシュのタイプ。

SPLCAP

AMS コンポーネントがインストールされてるかどうか。

DISPLAY TCLUSTER

MQSC コマンド DISPLAY TCLUSTER は、IBM MQ クラスター・トピック・オブジェクトの属性を表示するために使用します。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

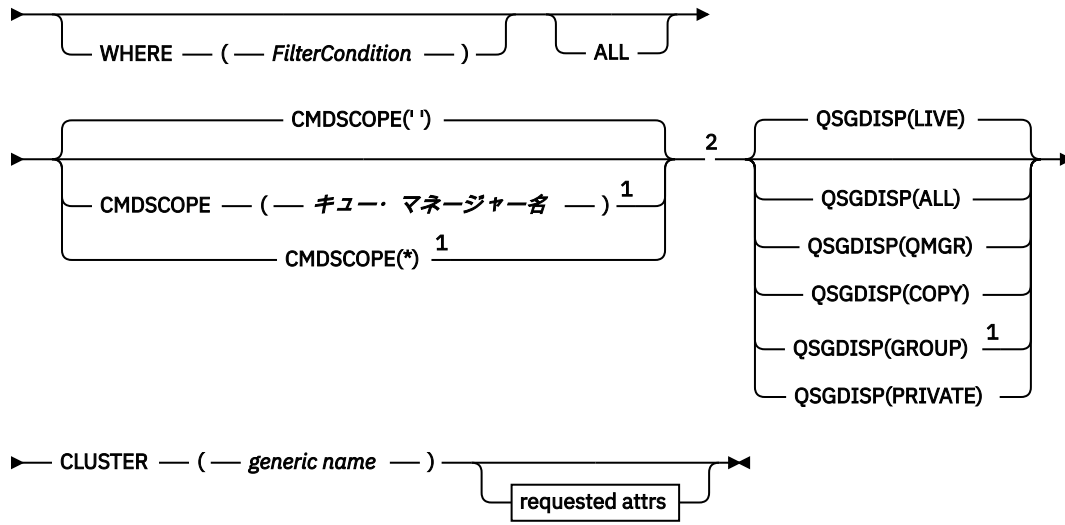
DISPLAY TCLUSTER コマンドは、DISPLAY TOPIC TYPE(CLUSTER) コマンドと同じ出力を生成します。

詳しくは、[1219 ページの『DISPLAY TOPIC』](#)を参照してください。

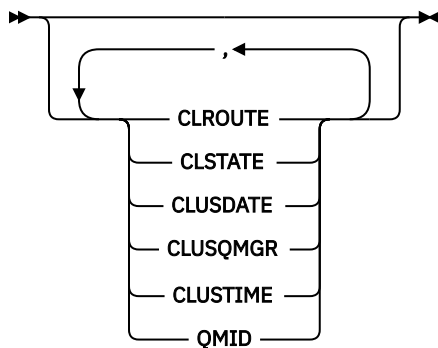
同義語: DIS TOPIC

DISPLAY TCLUSTER

►► DISPLAY TCLUSTER — (— *generic-cluster-name* —) ►



Requested attrs



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

DISPLAY TCLUSTER のパラメーターの説明

表示するクラスター・トピック定義の名前を指定する必要があります。この名前は、特定のクラスター・トピック名にすることも、総称的なクラスター・トピック名にすることもできます。総称トピック名を使用することにより、次のいずれかの情報を表示できます。

(*generic-cluster-name*)

表示する管理クラスター定義の名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべての管理トピック・オブジェクトと一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべての管理トピック・オブジェクトを指定することになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす管理トピック・オブジェクト定義のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。

▶ **z/OS** ただし、CMDSCOPE パラメーターと QSGDISP パラメーターはフィルター・キーワードとして使用できません。

operator

この部分は、指定したフィルター・キーワードでのフィルター値を、トピック・オブジェクトが満たしているかどうかを判別するのに使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。この値は、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリング (DESCR パラメーターで指定する文字ストリングなど) で、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

注: ▶ **z/OS** z/OS では、MQSC **WHERE** 節の filter-value に 256 文字の長さ制限があります。この制限は他のプラットフォームには適用されません。

ALL

このパラメーターは、すべての属性を表示する場合に指定します。このパラメーターを指定すると、特別に要求したどの属性も無効になります。つまり、すべての属性が表示されます。

総称名を指定していないときはこれがデフォルト値であり、特定の属性は要求しません。

▶ **z/OS** **CMDSCOPE**

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。この値がデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。このプロセスは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力した場合と同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

LIVE はデフォルト値であり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

共有キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前 (属性指定が異なる) を出力する可能性があります。

共有キュー・マネージャー環境では、以下を使用します。

```
DISPLAY TOPIC(name) CMDSCOPE(*) QSGDISP(ALL)
```

を使用して、キュー共有グループ内の name に一致するすべてのオブジェクトを、共有リポジトリ内のものと重複しないようにリストします。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。QSGDISP(PRIVATE) は QSGDISP(LIVE) と同じ情報を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

CLUSTER

指定したクラスター名を含むトピックを表示します。値には総称名を指定できます。

要求される属性

CLROUTE

CLUSTER パラメーターで定義されたクラスター内のトピックに使用するルーティングの動作。

CLSTATE

CLUSTER パラメーターで定義されたクラスター内のトピックの現在の状態。可能な値は次のとおりです。

ACTIVE

クラスター・トピックは、このキュー・マネージャーにより正しく構成され、準備されています。

PENDING

ホスティング・キュー・マネージャーにのみ表示されるこの状態は、トピックが作成されたが、フル・リポジトリによってまだクラスターに伝搬されていない場合に報告されます。これは、ホスト・キュー・マネージャーがフル・リポジトリに接続されていないか、またはフル・リポジトリでトピックが無効と判断されたことが原因である可能性があります。

INVALID

このクラスター・トピック定義は、クラスターの以前の定義と矛盾しているため、現在アクティブではありません。

ERROR

このトピック・オブジェクトに関してエラーが発生しました。

このパラメーターは通常、同じクラスター・トピックについて異なるキュー・マネージャーで複数の定義が作成され、それらの定義が同一ではない場合の診断を補助するために使用されます。[パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのルーティング: 動作に関する注意](#)を参照してください。

CLUSDATE

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

CLUSQMGR

トピックのホストとして動作するキュー・マネージャーの名前。

CLUSTIME

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった時刻 (hh.mm.ss の形式)。

QMID

トピックのホストとして動作するキュー・マネージャーの、内部生成された固有な名前。

DISPLAY TCLUSTER の使用上の注意

1. z/OS で、クラスター・トピックに関する情報を表示するには、その前にチャンネル・イニシエーターを実行する必要があります。
2. TOPICSTR パラメーターの中には、コマンド出力が表示されるときに印刷可能文字に変換されない文字が含まれる可能性があります。z/OS では、このような印刷不能文字はブランクとして表示されます。
runmqsc コマンドを使用する分散プラットフォームの場合、これらの印刷不能文字はドットとして表示されます。

関連資料

1227 ページの『DISPLAY TPSTATUS』

トピック・ツリー内の 1 つ以上のトピックの状況を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY TPSTATUS を使用します。

1219 ページの『DISPLAY TOPIC』

任意のタイプの 1 つ以上の IBM MQ トピック・オブジェクトの属性を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY TOPIC を使用します。

DISPLAY THREAD

アクティブ・スレッドと未確定スレッドの情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY THREAD を使用します。

MQSC コマンドの使用

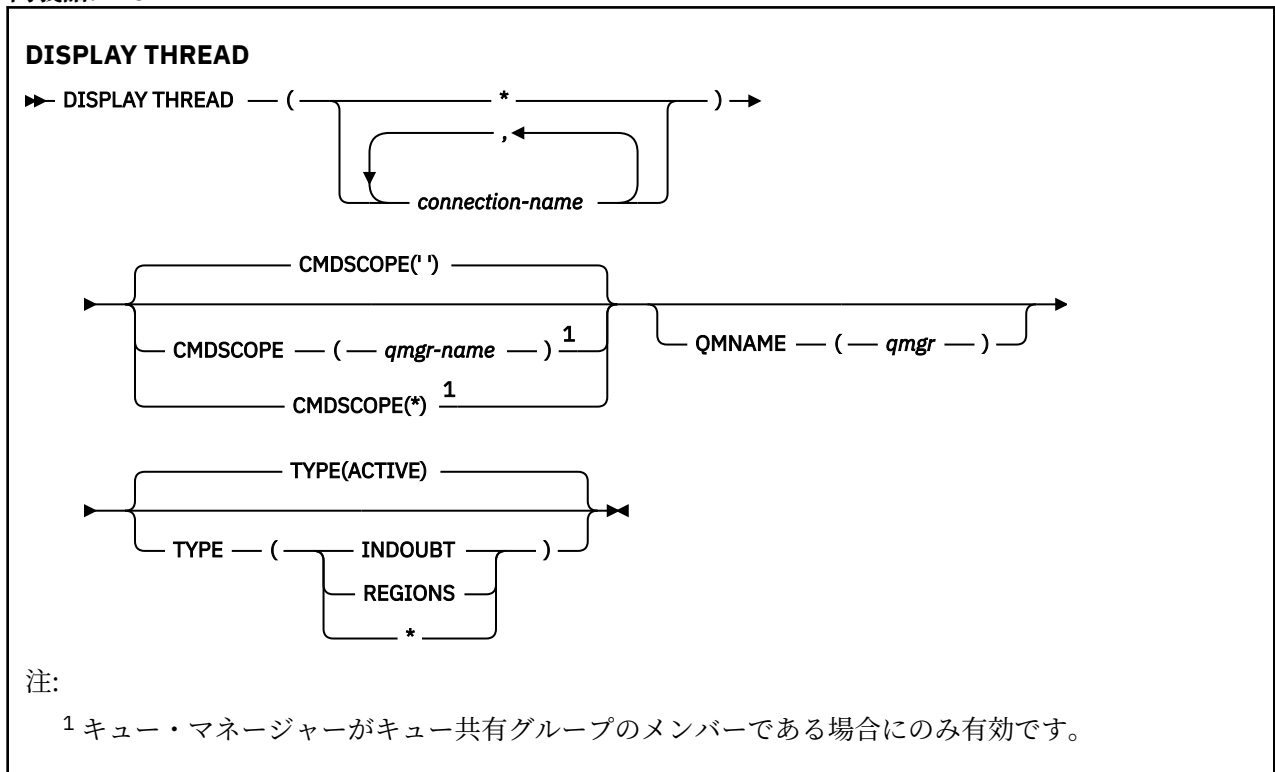
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1217 ページの『使用上の注意』](#)
- [1217 ページの『DISPLAY THREAD のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS THD



使用上の注意

このコマンドを一度呼び出したときに未確定と表示されたスレッドも、次の呼び出しでは、おそらく解決済みになっています。

このコマンドは、IBM MQ の前のリリースと互換性があります。このコマンドは DISPLAY CONN コマンドに置き換えられました (これを使用することをお勧めします)。

DISPLAY THREAD のパラメーターの説明

(connection-name)

1 つ以上の接続名のリスト (接続名は、いずれも 1 から 8 文字)。接続名は次のとおりです。

- バッチ接続では、バッチ・ジョブの名前
- CICS 接続では、CICS アプリケーション ID
- IMS 接続では、IMS ジョブ名
- TSO 接続では、TSO ユーザー ID

- RRS 接続では、すべての RRSBATCH タイプ接続の RRSBATCH か、またはバッチ・ジョブ名。スレッドは、この接続に関連付けられているアドレス・スペースからのみ選択されます。

(*)

IBM MQ へのすべての接続に関連付けられているスレッドを表示します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

タイプ

表示させるスレッドのタイプ。このパラメーターはオプションです。

ACTIVE

アクティブ・スレッドのみを表示します。

アクティブ・スレッドとは、そのリカバリー単位が開始されたまま、完了していないスレッドを言います。資源は IBM MQ に保持されます。

TYPE 指定を省略すると、これがデフォルト値となります。

INDOUBT

未確定スレッドのみを表示します。

未確定スレッドとは、2 フェーズ・コミット操作の第 2 フェーズにあるスレッドを言います。資源は IBM MQ に保持されます。未確定スレッドの状況を解決するには、外部からの介入が必要です。リカバリー調整システム (CICS、IMS、または RRS) を開始するだけでよい場合もあれば、さらに作業が必要な場合もあります。最後の再始動から未確定、あるいは最後の再始動以後に未確定になる場合があります。

REGIONS

アクティブな接続ごとのアクティブ・スレッドの要約を表示します。

注: IBM MQ で内部的に使用されるスレッドは除きます。

*

アクティブ・スレッドと未確定スレッドの両方を表示します。領域は表示しません。

このコマンドの処理中にアクティブ・スレッドが未確定スレッドに変化すると、そのスレッドは、1 回目はアクティブ・スレッド、2 回目は未確定スレッドとして、二度表示されることがあります。

QMNAME

これを指定して、指定されたキュー・マネージャーが INACTIVE かどうか、IBM MQ が検査するようにします。INACTIVE の場合には、指定された非アクティブのキュー・マネージャーで進行していた共有作業単位を報告します。

このオプションは TYPE(INDOUBT) でのみ有効です。

▶ **z/OS** [DISPLAY THREAD コマンドおよび未確定リカバリーの詳細については、キュー共有グループ中の別のキュー・マネージャーにおけるリカバリー単位のリカバリーを参照してください。](#) また、[エージ](#)

メント・サービス・メッセージ (CSQV...) に記載されているメッセージ CSQV401I から CSQV406I、および CSQV432I も参照してください。

DISPLAY TOPIC

任意のタイプの 1 つ以上の IBM MQ トピック・オブジェクトの属性を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY TOPIC を使用します。

MQSC コマンドの使用

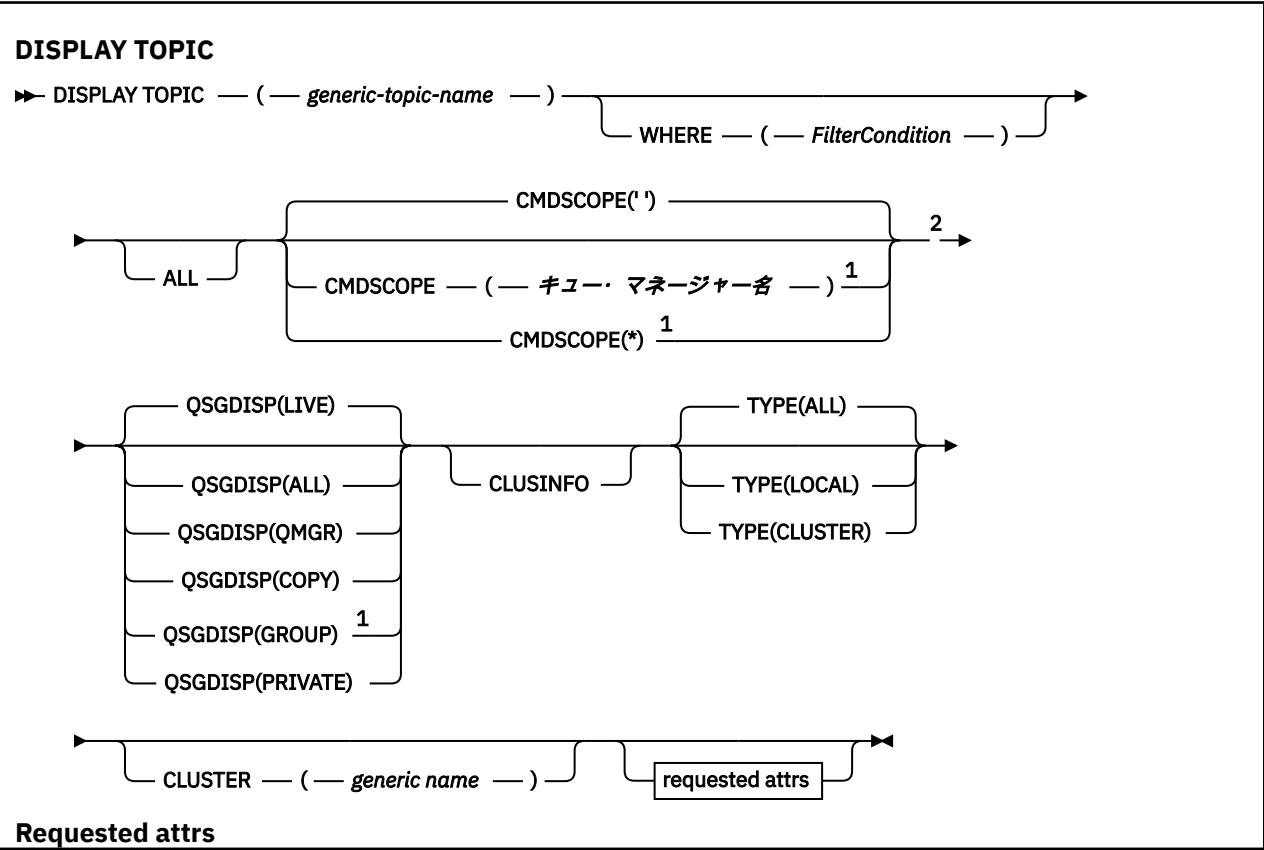
MQSC コマンドの使用方法については、MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、z/OS でのコマンドの使用を参照してください。

- ・ 構文図
- ・ 1220 ページの『DISPLAY TOPIC の使用上の注意』
- ・ 1221 ページの『DISPLAY TOPIC のパラメーターの説明』
- ・ 1224 ページの『要求パラメーター』

同義語: DIS TOPIC



2. TOPICSTR パラメーターの中には、コマンド出力が表示されるときに印刷可能文字に変換されない文字が含まれる可能性があります。

 z/OS では、このような印刷不能文字はブランクとして表示されます。runmqsc コマンドを使用する分散プラットフォームの場合、これらの印刷不能文字はドットとして表示されます。

3. これらの属性を表示する代替方法として、次のコマンド (または同義語) を使用できます。

• **DISPLAY TCLUSTER**

このコマンドは、DISPLAY TOPIC TYPE(CLUSTER) コマンドと同じ出力を生成します。この方法でコマンドを入力する場合は、TYPE パラメーターを使用しないでください。

DISPLAY TOPIC のパラメーターの説明

表示するトピック定義の名前を指定する必要があります。この名前は、特定のトピック名かトピックの総称名にすることができます。総称トピック名を使用することにより、次のいずれかの情報を表示できます。

- すべてのトピック定義
- 指定した名前と一致する 1 つ以上のトピック定義

(generic-topic-name)

表示する管理トピック定義の名前 (IBM MQ オブジェクトの命名規則を参照)。後続アスタリスク (*) は、指定された語幹に 0 個以上の文字が続くすべての管理トピック・オブジェクトと一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべての管理トピック・オブジェクトを指定することになります。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす管理トピック・オブジェクト定義のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドの属性を表示するために使用可能なほとんどすべてのパラメーターです。ただし、CMDSCOPE パラメーターと QSGDISP パラメーターはフィルター・キーワードとして使用できません。

operator

この部分は、指定したフィルター・キーワードでのフィルター値を、トピック・オブジェクトが満たしているかどうかを判別するのに使用されます。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

filter-value として入力する総称ストリングに一致

NL

filter-value として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。この値は、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリング (DESCR パラメーターで指定する文字ストリングなど) で、例えば ABC* のようになります。演算子が LK の場合、属性値がストリング (例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が NL の場合、属性値がストリングで始まらないすべての項目が表示されます。末尾の単一のワイルドカード文字 (アスタリスク) のみ許可されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 filter-value は使用できません。

注:  z/OS では、MQSC **WHERE** 節の filter-value に 256 文字の長さ制限があります。この制限は他のプラットフォームには適用されません。

ALL

このパラメーターは、すべての属性を表示する場合に指定します。このパラメーターを指定すると、特別に要求したどの属性も無効になります。つまり、すべての属性が表示されます。

総称名を指定していないときはこれがデフォルト値であり、特定の属性は要求しません。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。この値がデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。このプロセスは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力した場合と同じ結果をもたらします。

CMDSCOPE はフィルター・キーワードとして使用できません。

QSGDISP

情報を表示する対象のオブジェクトの属性指定を指定します。値は次のとおりです。

LIVE

LIVE はデフォルト値であり、QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

ALL

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの情報を表示します。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、発行されたのと同じキュー・マネージャーでコマンドが実行されている場合は、QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの情報も表示されます。

共有キュー・マネージャー環境で QSGDISP(ALL) が指定されている場合、このコマンドは重複した名前 (属性指定が異なる) を出力する可能性があります。

共有キュー・マネージャー環境では、以下を使用します。

```
DISPLAY TOPIC(name) CMDSCOPE(*) QSGDISP(ALL)
```

を使用して、キュー共有グループ内の name に一致するすべてのオブジェクトを、共有リポジトリ内のものと重複しないようにリストします。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

PRIVATE

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。QSGDISP(PRIVATE) は QSGDISP(LIVE) と同じ情報を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトについてのみ情報を表示します。

QSGDISP

QSGDISP は、以下のいずれか 1 つの値を表示します。

QMGR

QSGDISP(QMGR) で定義されたオブジェクトの場合。

GROUP

QSGDISP(GROUP) で定義されたオブジェクトの場合。

COPY

QSGDISP(COPY) で定義されたオブジェクトの場合。

QSGDISP はフィルター・キーワードとして使用できません。

CLUSINFO

このキュー・マネージャーで定義されたトピックの属性についての情報に加えて、これらのトピックの情報と、クラスター内のそれ以外のトピックのうち、選択基準に合致する情報の表示を要求します。この場合、同じトピック・ストリングを持つ複数のトピックが表示される場合があります。クラスター情報は、このキュー・マネージャーのリポジトリから取得されます。

 z/OS では、CLUSINFO パラメーターを使用してクラスター・トピックについての情報を表示するには、チャンネル・イニシエーターが稼働している必要があります。

CLUSTER

値を大括弧で囲んで入力すると、表示される情報が、指定したクラスター名を持つトピックに制限されます。値には総称名を指定できます。

このパラメーターを修飾する値を入力しない場合、要求パラメーターとして扱われ、表示されるすべてのトピックに関するクラスター名情報が返されます。

 z/OS では、CLUSINFO パラメーターを使用してクラスター・トピックについての情報を表示するには、チャンネル・イニシエーターが稼働している必要があります。

タイプ

表示するトピックのタイプを指定します。値は次のとおりです。

ALL

すべてのトピックのタイプを表示します。CLUSINFO も指定されている場合は、クラスター・トピックが含まれます。

LOCAL

ローカルに定義されたトピックを表示します。

CLUSTER

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターで定義されているトピックを表示します。クラスター属性には以下のものがあります。

CLUSDATE

定義がローカル・キュー・マネージャーで使えるようになった日付。yyyy-mm-dd の形式。

CLUSQMGR

トピックのホストとして動作するキュー・マネージャーの名前。

CLUSTIME

定義がローカル・キュー・マネージャーで使用できるようになった時刻。hh.mm.ss の形式。

QMID

トピックのホストとして動作するキュー・マネージャーの、内部生成された固有名。

要求パラメーター

表示するデータを定義するパラメーターを 1 つ以上指定します。パラメーターは、任意の順序で指定できますが、同じパラメーターを複数回指定することはできません。

ほとんどのパラメーターは、両方のタイプのトピックに関連しますが、特定のタイプのトピックに関連しない属性を指定すると、出力はなく、エラーにもなりません。

以下の表に、各タイプのトピックに関連するパラメーターを示します。表の下に各パラメーターの簡単な説明があります。詳しくは、[977 ページの『DEFINE TOPIC』](#)を参照してください。

表 75. DISPLAY TOPIC コマンドで表示できるパラメーター		
	ローカル・トピック	クラスター・トピック
ALTDATE	✓	✓
ALTTIME	✓	✓
CLROUTE	✓	✓
CLSTATE		✓
CLUSDATE		✓
CLUSQMGR		✓
CLUSTER	✓	✓
CLUSTIME		✓
COMMINFO	✓	
CUSTOM	✓	✓
DEFPRTY	✓	✓
DEFPSIST	✓	✓
DEFPRESP	✓	✓
DESCR	✓	✓
DURSUB	✓	✓
MCAST	✓	
MDURMDL	✓	✓
MNDURMDL	✓	✓
NPMSGDLV	✓	✓
PMSGDLV	✓	✓
PROXYSUB	✓	✓

表 75. *DISPLAY TOPIC* コマンドで表示できるパラメーター (続き)

	ローカル・トピック	クラスター・トピック
<u>PUB</u>	✓	✓
<u>PUBSCOPE</u>	✓	✓
<u>QMID</u>		✓
<u>SUB</u>	✓	✓
<u>SUBSCOPE</u>	✓	✓
<u>TOPICSTR</u>	✓	✓
<u>TYPE</u>	✓	✓
<u>USEDLQ</u>	✓	
<u>WILDCARD</u>	✓	✓

ALTDATE

定義または情報が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ALTTIME

定義または情報が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

CLROUTE

CLUSTER パラメーターで定義されたクラスター内のトピックに使用するルーティングの動作。

CLSTATE

CLUSTER パラメーターで定義されたクラスター内のトピックの現在の状態。可能な値は次のとおりです。

ACTIVE

クラスター・トピックは、このキュー・マネージャーにより正しく構成され、準拠されています。

PENDING

ホスティング・キュー・マネージャーにのみ表示されるこの状態は、トピックが作成されたが、フル・リポジトリによってまだクラスターに伝搬されていない場合に報告されます。これは、ホスト・キュー・マネージャーがフル・リポジトリに接続されていないか、またはフル・リポジトリでトピックが無効と判断されたことが原因である可能性があります。

INVALID

このクラスター・トピック定義は、クラスターの以前の定義と矛盾しているため、現在アクティブではありません。

ERROR

このトピック・オブジェクトに関してエラーが発生しました。

このパラメーターは通常、同じクラスター・トピックについて異なるキュー・マネージャーで複数の定義が作成され、それらの定義が同一ではない場合の診断を補助するために使用されます。[パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのルーティング: 動作に関する注意](#)を参照してください。

CLUSDATE

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

CLUSQMGR

トピックのホストとして動作するキュー・マネージャーの名前。

CLUSTER

トピックが入っているクラスターの名前。

CLUSTIME

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった時刻 (hh.mm.ss の形式)。

COMMINFO

通信情報オブジェクト名。

カスタム

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。ここには、ゼロ個以上の属性の値を、属性名と値のペアとして、NAME (VALUE) という形式で入れることができます。

DEFPRTY

このトピックにパブリッシュされるメッセージのデフォルトの優先順位。

DEFPSIST

このトピックにパブリッシュされるメッセージのデフォルトの持続性。

DEFRESP

このトピックのデフォルトの書き込み応答。この属性は、MQPMO オプションの書き込み応答タイプが MQPMO_RESPONSE_AS_TOPIC_DEF に設定されている場合にアプリケーションが使用する必要のある動作を定義します。

DESCR

この管理トピック・オブジェクトの説明。

DURSUB

トピックで永続サブスクリプションの作成を許可するかどうかを決定します。

MCAST

トピックのマルチキャストを有効にするかどうかを指定します。

MDURMDL

管理対象の永続サブスクリプションのモデル・キューの名前。

MNDURMDL

管理対象の非永続サブスクリプションのモデル・キューの名前。

NPMSGDLV

非持続メッセージの配信手段。

PMSGDLV

持続メッセージの配信手段。

PROXYSUB

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、このサブスクリプションにプロキシ・サブスクリプションを強制するかどうかを決定します。

PUB

トピックでパブリケーションを可能にするかどうかを決定します。

PUBSCOPE

このキュー・マネージャーが、パブリケーションを他のキュー・マネージャーに伝搬するかどうかを判別します。他のキュー・マネージャーは、このキュー・マネージャーに階層内で、またはクラスター内で接続できます。

QMID

トピックのホストとして動作するキュー・マネージャーの、内部生成された固有名。

SUB

トピックでサブスクリプションを可能にするかどうかを決定します。

SUBSCOPE

このキュー・マネージャーが、階層の一部またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部として、キュー・マネージャーにサブスクリプションを伝搬するかどうかを決定します。

TOPICSTR

トピック・ストリング。

タイプ

このオブジェクトがローカル・トピックまたはクラスター・トピックであるかどうかを指定します。

USEDLQ

パブリケーション・メッセージを正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを決定します。

WILDCARD

このトピックに対するワイルドカード・サブスクリプションの動作。

これらのパラメーター (**CLSTATE** パラメーターを除く) の詳細については、[977 ページの『DEFINE TOPIC』](#)を参照してください。

関連資料

[1227 ページの『DISPLAY TPSTATUS』](#)

トピック・ツリー内の 1 つ以上のトピックの状況を表示するには、MQSC コマンド **DISPLAY TPSTATUS** を使用します。

DISPLAY TPSTATUS

トピック・ツリー内の 1 つ以上のトピックの状況を表示するには、MQSC コマンド **DISPLAY TPSTATUS** を使用します。

MQSC コマンドの使用

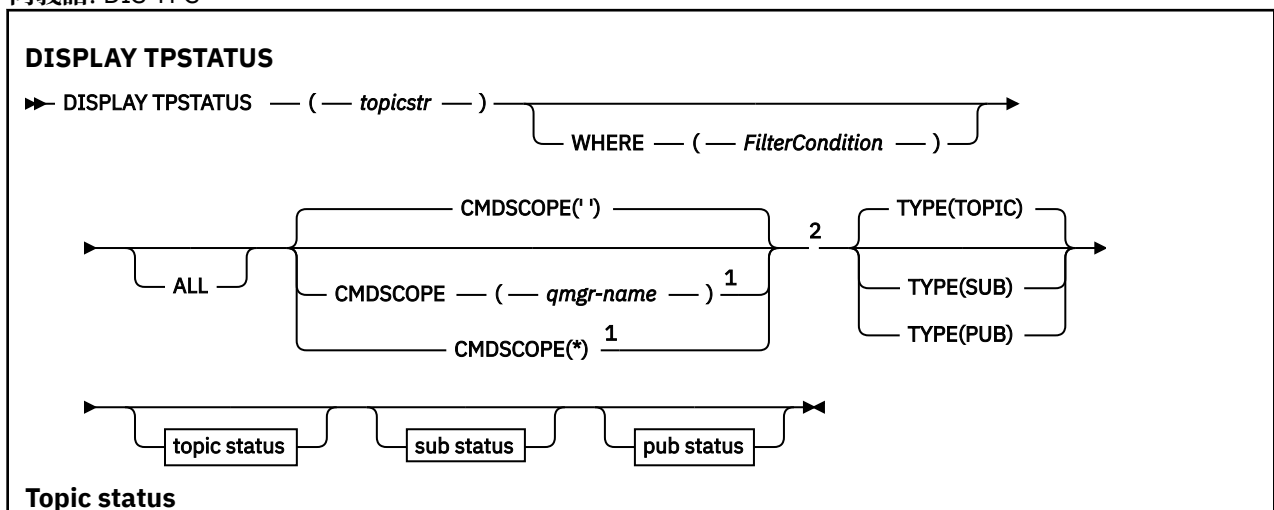
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

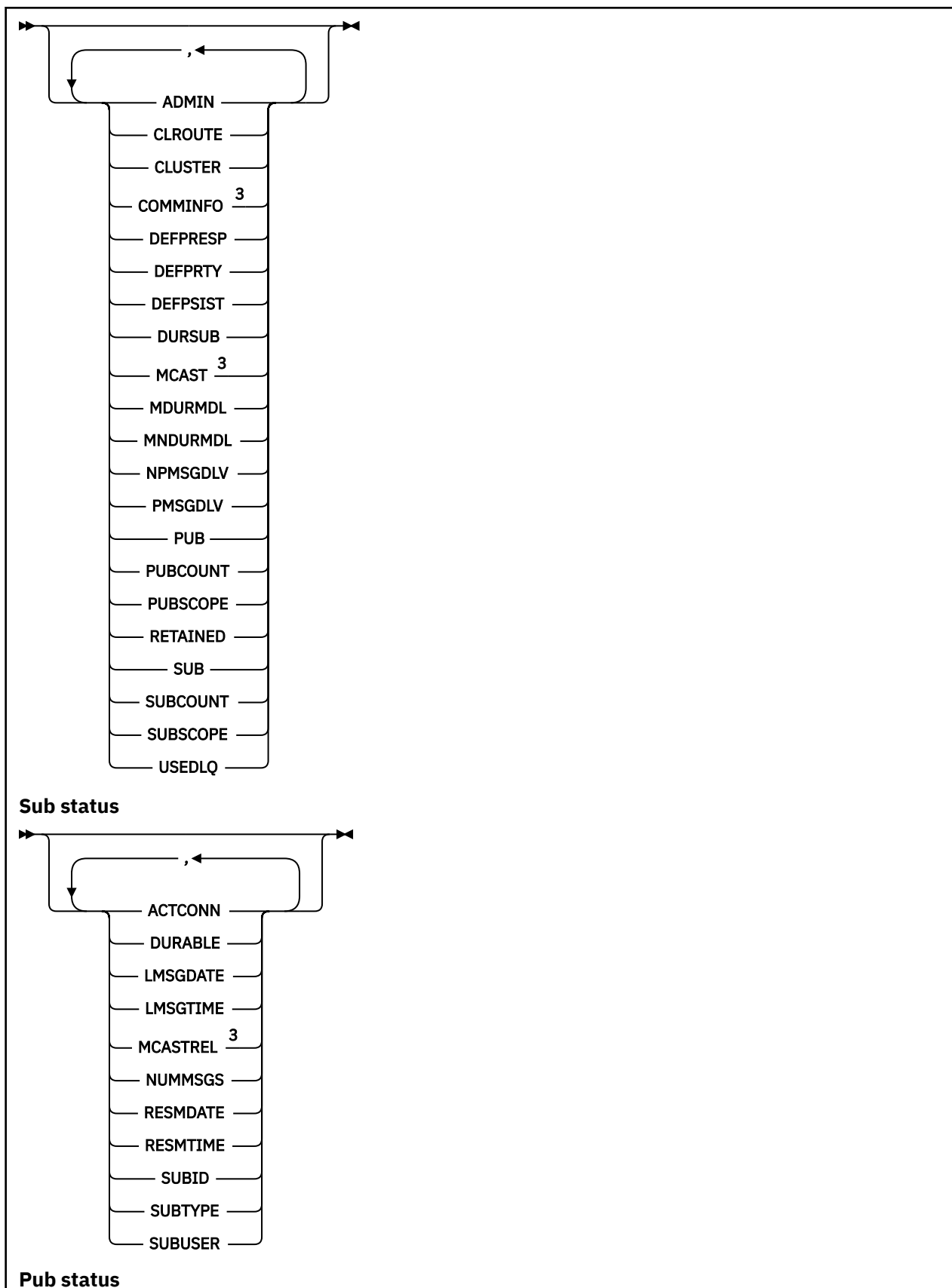
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

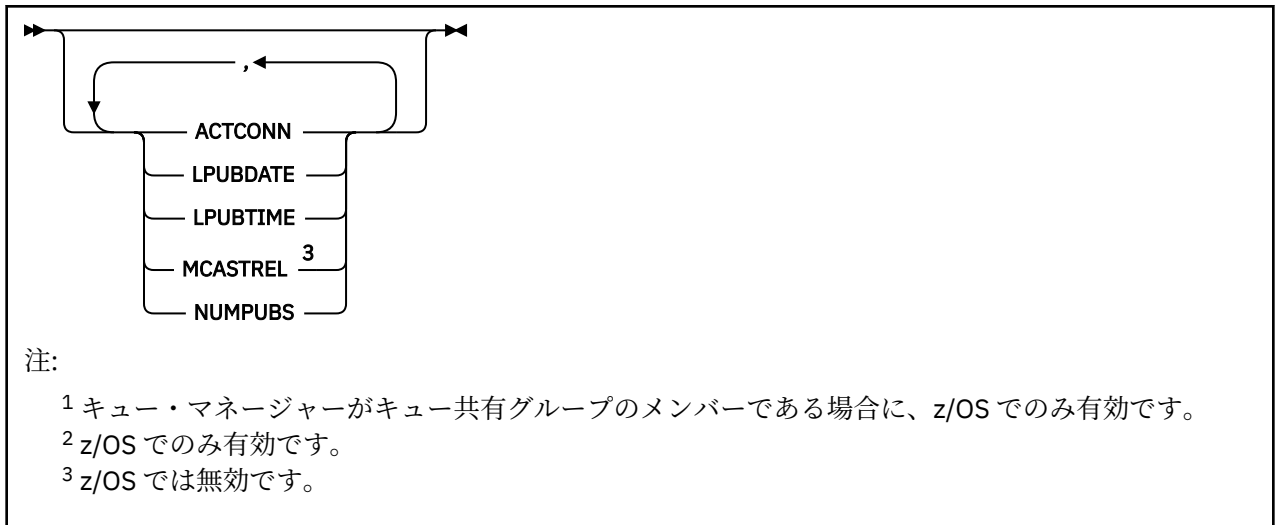
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1229 ページの『DISPLAY TPSTATUS の使用上の注意』](#)
- [1229 ページの『DISPLAY TPSTATUS のパラメーターの説明』](#)
- [1231 ページの『トピック状況のパラメーター』](#)
- [1233 ページの『サブスクリプション状況のパラメーター』](#)
- [1234 ページの『パブリッシュ状況のパラメーター』](#)

同義語: DIS TPS







DISPLAY TPSTATUS の使用上の注意

1. TOPICSTR パラメーターの中には、コマンド出力が表示されるときに印刷可能文字に変換されない文字が含まれる可能性があります。runmqsc コマンドを使用する分散プラットフォームの場合、これらの印刷不能文字はドットとして表示されます。

 z/OS では、このような印刷不能文字はブランクとして表示されます。

2. このコマンドのトピック・ストリング入力パラメーターは、操作対象のトピックに一致する必要があります。トピック・ストリング内の文字ストリングは、コマンド発行場所から使用できる文字にしてください。MQSC を使用してコマンドを発行した場合、PCF メッセージをサブミットするアプリケーション (例えば IBM MQ エクスプローラー) を使用する場合に比べて、使用可能な文字が少なくなります。

DISPLAY TPSTATUS のパラメーターの説明

DISPLAY TPSTATUS コマンドには、コマンドがどのトピック・ノードを戻すかを決定するトピック・ストリング値が必要です。

(topicstr)

状況情報を表示したいトピック・ストリングの値。IBM MQ トピック・オブジェクトの名前を指定することはできません。

トピック・ストリングは次のいずれかの値を指定できます。

- 特定のトピック・ストリング値。例えば、DIS TPS('Sports/Football') は 'Sports/Football' ノードのみを戻します。
- "+" ワイルドカード文字を含むトピック・ストリング。例えば、DIS TPS('Sports/Football/+') は、「Sports/Football」ノードのすべての直接の子ノードを戻します。
- "#" ワイルドカード文字を含むトピック・ストリング。例えば、DIS TPS('Sports/Football/#') は 'Sports/Football' ノードとそのすべての子孫ノードを戻します。
- 複数のワイルドカードを含むトピック・ストリング。例えば、DIS TPS('Sports+/Teams/#') は、「Sports」の直接の子ノードのうち、同じく「teams」子を持ち、後者のノードのすべての子孫を持つものを返します。

DISPLAY TPSTATUS コマンドは、'*' ワイルドカードをサポートしません。ワイルドカードの使用に関して詳しくは、関連トピックを参照してください。

- ルート・レベルのすべてのトピックのリストを戻すには、DIS TPS('+') を使用します。
- トピック・ツリー中のすべてのトピックのリストを戻すには、DIS TPS('#') を使用します。ただし、このコマンドは大量のデータを戻す可能性があることに注意してください。

- 戻されるトピックのリストをフィルターに掛けるには、**WHERE** パラメーターを使用します。例えば、`DIS TPS('Sports/Football/+') WHERE(TOPICSTR LK 'Sports/Football/L*')` は、"L" で始まる、'Sports/Football' ノードの直接の下位ノードすべてを戻します。

WHERE

フィルター条件の選択基準を満たす管理トピック定義のみを表示するようにフィルター条件を指定します。フィルター条件は、*filter-keyword*、*operator*、および *filter-value* の 3 つの部分で構成されています。

filter-keyword

この DISPLAY コマンドと共に使用できる、CMDSCOPE パラメーターを除くすべてのパラメーター。

operator

トピック・ストリングが、指定されたフィルター・キーワードのフィルター値を満足するかどうかを判別します。演算子は次のとおりです。

LT (L)

より小

GT

より大きい

EQ

次と等しい

NE

等しくない

LE

より小か等しい

GE

より大か等しい

LK

topicstr として入力する総称ストリングに一致

NL

topicstr として入力する総称ストリングに一致しない

filter-value

演算子を使用して属性値を検査する必要がある場合の対象となる値。filter-keyword に応じて、この値は次のようになります。

- 明示的な値。検査対象属性に有効な値です。

演算子として LT、GT、EQ、NE、LE、または GE のみを使用できます。ただし、属性値がパラメーターで使用可能な値セットの値である場合、EQ または NE のみを使用できます。

- 総称値。この値は、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリングで、例えば ABC* のようになります。演算子を LK にすると、コマンドにより、ストリング (ABC など) で始まるすべてのトピック・ノードがリスト表示されます。演算子を NL にすると、コマンドにより、そのストリングで始まらないすべてのトピック・ノードがリスト表示されます。

数値または値セット内の値をとるパラメーターの場合、総称 *filter-value* は使用できません。

ALL

このパラメーターを使用して、すべての属性を表示します。

このパラメーターを指定すると、特別に要求したどの属性も無効になります。つまり、コマンドによりすべての属性が表示されます。

総称名を指定せず、特定の属性を要求していない場合は、このパラメーターがデフォルト・パラメーターです。

CMDSCOPE

このパラメーターは z/OS にのみ適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合のコマンドの実行方法を指定します。

..

コマンドは、コマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。この値がデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定されたキュー・マネージャーがキュー共有グループ内でアクティブな場合に、その指定されたキュー・マネージャーで実行されます。

キュー共有グループ環境を使用している場合で、かつコマンド・サーバーが使用可能な場合に限り、コマンドが入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定することができます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内でアクティブになっている他のすべてのキュー・マネージャーでも実行されます。このオプションでは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力した場合と同様の結果が得られます。

タイプ

トピック

コマンドは、各トピック・ノードに関連する状況情報を表示します。**TYPE** パラメーターを指定しない場合、これがデフォルトです。

PUB

コマンドは、パブリッシュ用のトピック・ノードをオープンしているアプリケーションに関連した状況情報を表示します。

SUB

コマンドは、単数または複数のトピック・ノードにサブスクライブしているアプリケーションに関連した状況情報を表示します。ただし、コマンドが戻すサブスクライバーは、必ずしも、このトピック・ノードにパブリッシュされたメッセージを受信するサブスクライバーであるとは限りません。SelectionString または SubLevel の値によって、そのようなメッセージをどのサブスクライバーが受信するかが決定されます。

トピック状況のパラメーター

トピック状況のパラメーターは、コマンドが表示するデータを定義します。どの順序でもパラメーターを指定できますが、同一のパラメーターを複数回指定しないでください。

トピック・オブジェクトは、**ASPARENT** の値が設定された属性で定義できます。トピック状況には解決済みの値が示され、その結果、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定を検索することになるため、**ASPARENT** の値が表示されることはありません。

ADMIN

トピック・ノードが管理ノードである場合、コマンドはノード構成を含む関連したトピック・オブジェクト名を表示します。フィールドが管理ノードではない場合、コマンドはブランクを表示します。

CLRROUTE

CLUSTER パラメーターで定義されたクラスター内のトピックに使用するルーティングの動作。可能な値は次のとおりです。

DIRECT

このキュー・マネージャーから発生するこのトピック・ストリングでのパブリケーションは、一致するサブスクリプションを持つクラスター内のキュー・マネージャーに直接送信されます。

TOPICHOST

このキュー・マネージャーから発生するこのトピック・ストリングでのパブリケーションは、対応するクラスター・トピック・オブジェクトの定義をホストするクラスター内のキュー・マネージャーの1つに送信され、そこから、一致するサブスクリプションを持つクラスター内のいずれかのキュー・マネージャーに送信されます。

NONE

このトピック・ノードはクラスター化されていません。

CLUSTER

このトピックが属するクラスターの名前。

..

このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。

COMMINFO

トピック・ノードに使用される通信情報オブジェクトの名前の解決済みの値を表示します。

DEFPRESP

トピックに対してパブリッシュされたメッセージの解決済みデフォルト Put 応答を表示します。値は、SYNC または ASYNC です。

DEFPRTY

トピックに対してパブリッシュされたメッセージの解決済みデフォルト優先度を表示します。

DEFPSIST

トピック・ストリングの解決済みのデフォルトの持続性を表示します。値は、YES または NO です。

DURSUB

アプリケーションが永続サブスクリプションを行えるかどうかを示す、解決済みの値を表示します。値は、YES または NO です。

MCAST

トピックをマルチキャストで送信可能かどうかを示す解決済みの値を表示します。値は、ENABLED、DISABLED、または ONLY です。

MDURMDL

永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前の解決済みの値を表示します。

MNDURMDL

非永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前の解決済みの値を表示します。

NPMSGDLV

このトピックに対してパブリッシュされる非持続メッセージの送達機構の解決済みの値を表示します。値は、ALL、ALLDUR、または ALLAVAIL です。

PMSGDLV

このトピックに対してパブリッシュされる持続メッセージの送達機構の解決済みの値を表示します。値は、ALL、ALLDUR、または ALLAVAIL です。

PUB

パブリケーションがこのトピックで許可されるかどうかを示す、解決済みの値を表示します。値は ENABLED または DISABLED です。

PUBCOUNT

このトピック・ノードでパブリッシュ用にオープンされているハンドルの数を表示します。

PUBSCOPE

このキュー・マネージャーが、このトピック・ノードに対して、パブリケーションを別のキュー・マネージャーへ階層の一部またはクラスターの一部として伝搬するか、またはローカル・キュー・マネージャーで定義されたサブスクリプションのみに制限するかを決定します。値は、QMGR または ALL です。

RETAINED

このトピックに関連した保存されたパブリケーションがあるかどうかを表示します。値は、YES または NO です。

SUB

サブスクリプションがこのトピックで許可されるかどうかを示す、解決済みの値を表示します。値は ENABLED または DISABLED です。

SUBCOUNT

このトピック・ノードへのサブスクライバーの数を表示します。現在接続中でない永続サブスクライバーも含まれます。

SUBSCOPE

このキュー・マネージャーが、このトピック・ノードに対して、他のキュー・マネージャーへクラスターの一部または階層の一部としてサブスクリプションを伝搬するか、またはサブスクリプションをローカル・キュー・マネージャーのみに制限するかを決定します。値は、**QMGR** または **ALL** です。

USEDLQ

パブリケーション・メッセージを正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを決定します。値は、**YES** または **NO** です。

サブスクリプション状況のパラメーター

サブスクリプション状況のパラメーターは、コマンドが表示するデータを定義します。どの順序でもパラメーターを指定できますが、同一のパラメーターを複数回指定しないでください。

ACTCONN

ローカル・パブリケーションを検出し、このサブスクリプションを開いた、現在アクティブである ConnectionId (CONNID) を戻します。

DURABLE

永続サブスクリプションを作成しているアプリケーションがそのサブスクリプション・ハンドルを閉じた場合、その永続サブスクリプションが削除されず、キュー・マネージャーが再開されても持続するかどうかを示します。値は、**YES** または **NO** です。

LMSGDATE

このサブスクリプションに、MQPUT 呼び出しが最後にメッセージを送信した日付。MQPUT 呼び出しは、このサブスクリプションによって指定された宛先にメッセージを正常に書き込んだ場合にのみ、日付フィールドを更新します。MQSUBRQ 呼び出しは、この値の更新の原因になる可能性があります。

LMSGTIME

このサブスクリプションに、MQPUT 呼び出しが最後にメッセージを送信した時刻。MQPUT 呼び出しは、このサブスクリプションによって指定された宛先にメッセージを正常に書き込んだ場合にのみ、時刻フィールドを更新します。MQSUBRQ 呼び出しは、この値の更新の原因になる可能性があります。

MCASTREL

マルチキャスト・メッセージの信頼性標識。

値は、パーセンテージとして表されます。値が 100 の場合は、すべてのメッセージが問題のない状態で送信されています。値が 100 より小さい場合は、一部のメッセージでネットワークの問題が発生しています。これらの問題の性質を判別するには、ユーザーはイベント・メッセージの生成のスイッチをオンにし、COMMINFO オブジェクトの **COMMEV** パラメーターを使用し、生成されたイベント・メッセージを調べることができます。

以下の 2 つの値が返されます。

- 最初の値は、短期間における最近のアクティビティーに基づきます。
- 2 番目の値は、長期間におけるアクティビティーに基づきます。

測定が有効でない場合、値はブランクとして示されます。

NUMMSGs

このサブスクリプションによって指定された宛先に送信されたメッセージの数。MQSUBRQ 呼び出しは、この値の更新の原因になる可能性があります。

RESMDATE

このサブスクリプションに最近接続された MQSUB 呼び出しの日付。

RESMTIME

このサブスクリプションに最近接続された MQSUB 呼び出しの時刻。

SUBID

キュー・マネージャーによって割り当てられる、このサブスクリプションの常時固有な ID。SUBID の形式は、CorrelId の形式と一致します。サブスクライバーが現在キュー・マネージャーに接続されていない場合でも、コマンドは、永続サブスクリプションに対して **SUBID** を戻します。

SUBTYPE

サブスクリプションがどのように作成されたかを示す、サブスクリプションのタイプ。値は、*ADMIN*、*API*、または *PROXY* です。

SUBUSER

このサブスクリプションを所有するユーザー ID。これは、サブスクリプションの作成者に関連したユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可された場合には、最後にこのサブスクリプションを引き継いだユーザー ID であるかのいずれかです。

パブリッシュ状況のパラメーター

パブリッシュ状況のパラメーターは、コマンドが表示するデータを定義します。どの順序でもパラメーターを指定できますが、同一のパラメーターを複数回指定しないでください。

ACTCONN

このトピック・ノードをパブリッシュ用にオープンしているハンドルに関連した、現在アクティブである ConnectionId (CONNID)。

LPUBDATE

このパブリッシャーが最後にメッセージを送信した日付。

LPUBTIME

このパブリッシャーが最後にメッセージを送信した時刻。

MCASTREL

マルチキャスト・メッセージの信頼性標識。

値は、パーセンテージとして表されます。値が **100** の場合は、すべてのメッセージが問題のない状態で送信されています。値が **100** より小さい場合は、一部のメッセージでネットワークの問題が発生しています。これらの問題の性質を判別するには、ユーザーはイベント・メッセージの生成のスイッチをオンにし、**COMMINFO** オブジェクトの **COMMEV** パラメーターを使用し、生成されたイベント・メッセージを調べることができます。

以下の 2 つの値が返されます。

- 最初の値は、短期間における最近のアクティビティに基づきます。
- 2 番目の値は、長期間におけるアクティビティに基づきます。

測定が有効でない場合、値はブランクとして示されます。

NUMPUBS

このパブリッシャーによるパブリッシュ数。この値は、すべてのサブスクライバーへパブリッシュされたメッセージの合計数ではなく、パブリッシュの実際の数記録します。

DISPLAY TRACE

アクティブ・トレースのリストを表示するには、MQSC コマンド **DISPLAY TRACE** を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

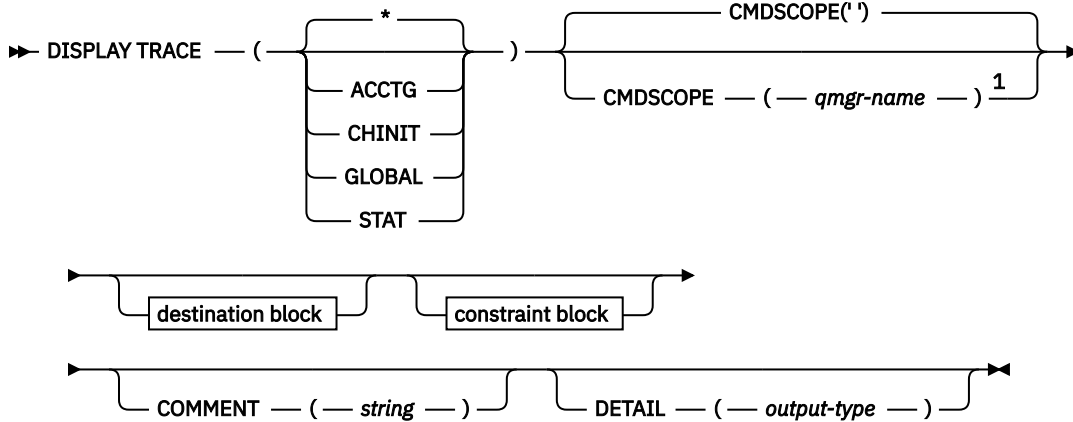
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

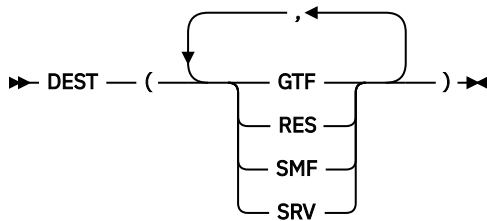
- [構文図](#)
- [1235 ページの『DISPLAY TRACE のパラメーターの説明』](#)
- [1236 ページの『宛先ブロック』](#)

同義語: DIS TRACE

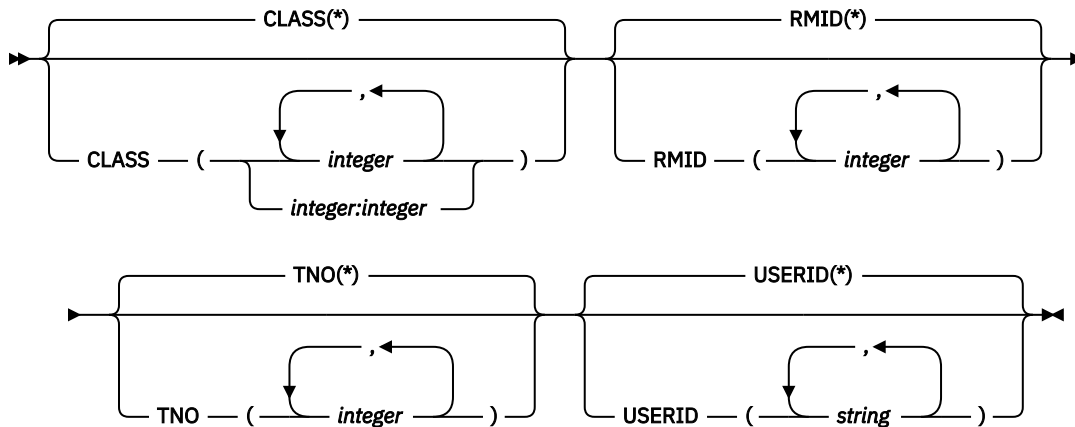
DISPLAY TRACE



宛先ブロック



制約ブロック



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

DISPLAY TRACE のパラメーターの説明

すべてのパラメーターは、オプションです。オプションを1つ指定するたびに、表示の対象が制限されていきます。つまり、同じオプション、同じパラメーター値の指定 (明示的な指定、またはデフォルトの指定) により開始されたアクティブ・トレースだけが表示されます。

★

トレース・リストを制限しません。これがデフォルトです。DISPLAY TRACE(*) と CLASS オプションの併用はできません。

本節のその他の各パラメーターは、リストの内容を、以下の対応するタイプのトレースのみに限定します。

ACCTG

アカウンティング・データ (同義語は A)

CHINIT

チャンネル・イニシエーターからのサービス・データ。同義語は CHI または DQM です。

GLOBAL

チャンネル・イニシエーターを除くキュー・マネージャー全体からのサービス・データ。同義語は G です。

STAT

統計データ (同義語は S です)。

COMMENT(string)

コメントを指定します。これは画面には表示されませんが、トレース出力には記録されることがあります。

DETAIL(output-type)

このパラメーターは無視されます。これは、従来のリリースと互換性を保持するためにのみサポートされています。

output-type の値は *、1、または 2 です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

宛先ブロック

DEST

リスト内容を、特定の宛先について開始されたトレースのみに限定します。複数の値を指定することもできますが、同じ値を 2 回使用しないでください。どの値も指定しないと、リスト内容は制限されません。

指定できる値とその意味は、次のとおりです。

GTF

汎用トレース機能

RES

ECSA (拡張共通サービス域) に常駐するラップアラウンド・テーブル

SMF

システム管理機能

SRV

問題診断用に設計された IBM 専用の保守ルーチン

制約ブロック

CLASS(integer)

リスト内容を、特定のクラスについて開始されたトレースのみに限定します。指定できるクラスのリストについては、[1320 ページの『START TRACE』](#)を参照してください。

デフォルト値は CLASS(*) です。これはリスト内容を制限しません。

RMID(integer)

リスト内容を、特定のリソース・マネージャーについて開始されたトレースのみに限定します。[1320 ページの『START TRACE』](#)に、指定できるリソース・マネージャーのリストがあるので参照してください。トレース・タイプが STAT または CHINIT のときは、このオプションを使用できません。

デフォルト値は RMID(*) です。これはリスト内容を制限しません。

TNO(integer)

リスト内容を、トレース番号 (0 から 32) で指定されたトレースのみに限定します。トレース番号は 8 個まで指定できます。複数の番号を使用する場合は、USERID の値を 1 つだけ使用できます。デフォルト値は TNO(*) です。これはリスト内容を制限しません。

0 は、チャンネル・イニシエーターが自動的に開始できるトレースです。トレース 1 から 32 はキュー・マネージャーまたはチャンネル・イニシエーターのトレースです。これらのトレースは、キュー・マネージャーによって自動的に開始されることもあれば、START TRACE コマンドを使用して手動で開始することもできます。

USERID(string)

リスト内容を、特定のユーザー ID について開始されたトレースのみに限定します。8 つまでのユーザー ID を使用できます。ユーザー ID を複数個指定するときは、TNO には 1 つの値しか指定できません。STAT では、このオプションを使用できません。デフォルト値は USERID(*) です。これはリスト内容を制限しません。

z/OS DISPLAY USAGE

ページ・セットの現在の状態についての情報、ログ・データ・セットについての情報、または共有メッセージ・データ・セットについての情報を表示するには、MQSC コマンド DISPLAY USAGE を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

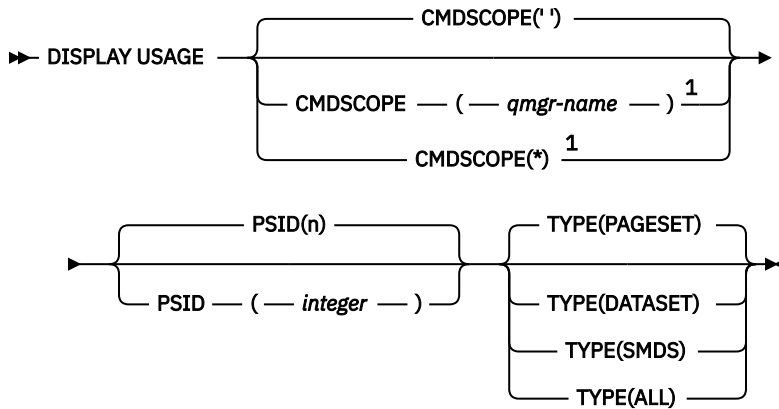


重要: IBM MQ 8.0 以降では、DISPLAY USAGE コマンドの出力に、メッセージ CSQP001I +MG11 Buffer pool 0 has 25000 buffers ではなく、メッセージ CSQI065I +MP11 Buffer pool attributes が含まれるようになりました。

- [構文図](#)
- [1238 ページの『DISPLAY USAGE のパラメーターの説明』](#)

同義語: DIS USAGE

DISPLAY USAGE



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

DISPLAY USAGE のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

PSID(integer)

ページ・セット ID。これはオプションです。

これは、00 から 99 の範囲の番号です。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべてのページ・セット ID が指定されることになります。

PSID を TYPE(DATASET) または TYPE(SMDS) と一緒に指定した場合は、コマンドは失敗します。

コマンドが ALTER BUFFPOOL コマンドと同時に実行されると、バッファー・プール属性が完全には整合しない可能性があります。例えば、ロケーション・パラメーターの値が BELOW で、使用可能バッファー数の値が境界より下に収まる数より多い場合があります。このような現象が発生した場合は、ALTER BUFFPOOL コマンドが完了してから表示コマンドをもう一度実行してください。

タイプ

表示する情報のタイプを定義します。値は次のとおりです。

PAGESET

ページ・セットおよびバッファー・プール情報を表示します。これがデフォルトです。

DATASET

ログ・データ・セットのデータ・セット情報を表示します。これは、以下についての 44 文字のデータ・セット名を含むメッセージを戻します。

- このキュー・マネージャーの最も古い未完了の作業単位の BEGIN_UR レコードを含むログ・データ・セット。未完了の作業単位がない場合は、現在の最も高い書き込み RBA を含むログ・データ・セット。
- このキュー・マネージャーが所有しているページ・セットの最も古い restart_RBA を含むログ・データ・セット。
- キュー共有グループ内で認識されているアプリケーション構造体の最後の正常バックアップのタイム・スタンプが、タイム・スタンプの範囲に含まれているログ・データ・セット。

SMDS

このキュー・マネージャーが所有する共有メッセージ・データ・セットに関するデータ・セットのスペース使用情報およびバッファ・プール情報を表示します。スペース使用情報は、データ・セットがオープンしている場合にのみ有効です。バッファ・プール情報は、キュー・マネージャーが構造体に接続している場合にのみ有効です。表示される情報について詳しくは、メッセージ CSQE280I および CSQE285I の説明を参照してください。

ALL

ページ・セット、データ・セット、および SMDS 情報を表示します。

注：このコマンドは、次の場合に内部的に IBM MQ によって発行されます。

- キュー・マネージャーのシャットダウン時。これにより再始動 RBA が z/OS コンソール・ログに記録されます。
- キュー・マネージャーの開始時。これにより、ページ・セット情報を記録できます。
- DEFINE PSID が使用されて、DEFINE PSID コマンドで指定されたバッファ・プールを使用するキュー・マネージャーでの最初のページ・セットが動的に定義されたとき。

MOVE QLOCAL

すべてのメッセージを 1 つのローカル・キューから別のキューに移動させるには、MQSC コマンド MOVE QLOCAL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

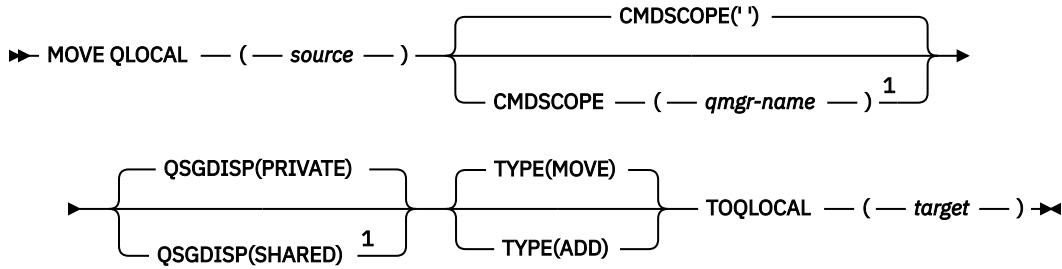
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1240 ページの『MOVE QLOCAL の使用上の注意』](#)
- [1241 ページの『MOVE QLOCAL のパラメーターの説明』](#)

同義語: MOVE QL

MOVE QLOCAL



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

MOVE QLOCAL の使用上の注意

1. 一般に、MOVE QLOCAL コマンドは、キュー共有グループ環境の設定時にメッセージを専用キューから共有キューに移動するために使用します。
2. MOVE QLOCAL コマンドはメッセージを **移動** させるコマンドです。コピーするコマンドではありません。
3. MOVE QLOCAL コマンドは、アプリケーションが連続する MQGET および MQPUT 呼び出しを実行するのと同じ方法で、メッセージを移動させます。ただし、MOVE QLOCAL コマンドは論理的に満了したメッセージを物理的に削除しないので、満了レポートは生成されません。
4. 各メッセージの優先順位、コンテキスト、および持続性は変更されません。
5. コマンドはデータ変換を行わず、また出口ルーチン呼び出しません。
6. 送達時確認 (COD) レポート・メッセージは生成されません。ただし、到着時確認 (COA) レポート・メッセージは生成されます。これは、1 つのメッセージに対して複数の COA レポート・メッセージが生成される場合があることを意味します。
7. MOVE QLOCAL コマンドはバッチ的にメッセージを転送します。COMMIT 時にトリガー条件が満たされると、トリガー・メッセージが生成されます。これで移動操作の終了になる場合もあります。

注: メッセージの転送が開始される前に、このコマンドは、ソース・キュー上のメッセージがターゲット・キュー上のメッセージに追加されて、ターゲット・キュー上の MAXDEPTH を超過しないかを確認します。

ターゲット・キューの MAXDEPTH が超過することになると、メッセージは移動されません。

8. MOVE QLOCAL コマンドは、メッセージの検索順序を変更できます。次のような場合、順序は変更されません。
 - TYPE(MOVE) を指定する
 - ソース・キューとターゲット・キューの MSGDLVSQ パラメーターが同じ
9. メッセージは 1 つ以上の同期点内で移動されます。各同期点のメッセージの数は、キュー・マネージャーによって決定されます。
10. 1 つ以上のメッセージの移動が妨げられると、コマンドは処理を停止します。これは、一部のメッセージが既に移動され、いくつかのメッセージがソース・キューに残ったままになっているのかもしれませんが、メッセージの移動を妨げる理由として、以下のものがあります。
 - ターゲット・キューが満杯である。
 - ターゲット・キューにとってメッセージが長すぎる。
 - メッセージが持続的で、ターゲット・キューは持続メッセージを保管できない。
 - ページ・セットが満杯である。

MOVE QLOCAL のパラメーターの説明

2つのローカル・キューの名前、つまり、メッセージの移動元のキュー(ソース・キュー)と、メッセージの移動先のキュー(ターゲット・キュー)の名前を指定する必要があります。

source

メッセージの移動元のローカル・キューの名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

キューにコミットされていないメッセージが含まれている場合、コマンドは失敗します。

アプリケーションがこのキューまたは最終的にこのキューに解決されるキューをオープンした場合、コマンドは失敗します。例えば、このキューが伝送キューで、この伝送キューを参照するリモート・キュー、またはそのリモート・キューに解決されるキューがオープンしている場合、コマンドは失敗します。

アプリケーションはコマンドの実行中もこのキューをオープンすることができますが、コマンドが完了するまで待機します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

QSGDISP

ソース・キューの属性指定を指定します。

PRIVATE

キューは QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されます。これはデフォルト値です。

SHARED

キューは QSGDISP(SHARED) で定義されます。これはキュー共有グループ環境でのみ有効です。

タイプ

メッセージの移動方法を指定します。

MOVE

メッセージをソース・キューから空のターゲット・キューに移動させます。

ターゲット・キューに既に1つ以上のメッセージがある場合、コマンドは失敗します。メッセージはソース・キューから削除されます。これはデフォルト値です。

ADD

メッセージをソース・キューから移動させ、そのメッセージを、既にターゲット・キューに存在するメッセージに追加します。

メッセージはソース・キューから削除されます。

target

メッセージの移動先のローカル・キューの名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

キューが共有キューとしても、また専用キューとしても存在する場合にのみ、ターゲット・キューの名前をソース・キューの名前と同じにすることができます。この場合、コマンドを使用して、QSGDISPパラメーターで指定したソース・キューと反対の属性指定(共有または専用)を持つキューにメッセージを移動します。

アプリケーションがこのキューまたは最終的にこのキューに解決されるキューをオープンした場合、コマンドは失敗します。このキューが伝送キューで、その伝送キューを参照するリモート・キュー（または、最終的にそのようなリモート・キューで解決されるキュー）がオープンしている場合もコマンドは失敗します。

アプリケーションは、このコマンドの実行中は対象のキューを開くことはできません。

TYPE (MOVE) を指定すると、ターゲット・キューに既に 1 つ以上のメッセージがある場合にコマンドが失敗します。

ターゲット・キューの DEFTYPE、HARDENBO、および USAGE パラメーターは、ソース・キューのものと同じでなければなりません。

PING CHANNEL

MQSC コマンド PING CHANNEL を使用して、チャンネルを検査します。検査では、データを特別メッセージとしてリモート・キュー・マネージャーに送信し、そのデータが戻されるかどうかを確認します。そのデータは、ローカル・キュー・マネージャーが生成します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1243 ページの『使用上の注意』](#)
- [1243 ページの『PING CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

同義語: PING CHL

PING CHANNEL

注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

使用上の注意

1.  z/OS では、コマンド・サーバーおよびチャネル・イニシエーターが稼働している必要があります。
2. 同じ名前のローカル定義チャネルと、自動定義クラスター送信側チャネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャネルに適用されます。ローカル定義チャネルは存在しないけれども、複数の自動定義クラスター送信側チャネルが存在する場合、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャネルに適用されます。
3. このコマンドは、送信側チャネル (SDR)、サーバー・チャネル (SVR)、およびクラスター送信側チャネル (CLUSDR) でのみ使用できます (自動定義チャネルを含みます)。チャネルの動作中は無効ですが、チャネルが停止しているか再試行モードの状態の場合は有効になります。

PING CHANNEL のパラメーターの説明

(channel-name)

テストするチャネルの名前。これは必須です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CHLDISP を SHARED に設定する場合、CMDSCOPE はブランク、つまりローカル・キュー・マネージャーにしなければなりません。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用している場合で、かつコマンド・サーバーが使用可能な場合に限り、キュー・マネージャー名を指定することができます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

注: CHLDISP に FIXSHARED が指定される場合は、「*」オプションは許可されていません。

CHLDISP

このパラメーターは z/OS にのみ適用され、次の値をとることができます。

- デフォルト
- PRIVATE
- SHARED
- FIXSHARED

このパラメーターを省略した場合は、DEFAULT 値が適用されます。これは、チャネル・オブジェクトのデフォルトのチャネル属性指定属性 DEFCDISP の値です。

CMDSCOPE パラメーターの種々の値と併せて、このパラメーターは以下の 2 つのタイプのチャネルを制御します。

SHARED

受信チャネルは、キュー共有グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共用されます。

送信側チャネルの伝送キューの属性指定が SHARED の場合、送信側チャネルは共用です。

PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルの伝送キューの属性指定が SHARED 以外の場合、これは専用です。

注：この属性指定は、チャンネル定義のキュー共有グループの属性指定により設定された属性指定とは関係ありません。

CHLDISP と CMDSCOPE の各パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかについても制御されます。指定できるオプションは次のとおりです。

- ・ コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- ・ グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。
- ・ グループ内の最も適切なキュー・マネージャー (キュー・マネージャー自体が自動的に判断)。

CHLDISP と CMDSCOPE の種々の組み合わせについては、以下の表に要約されています。

表 76. PING CHANNEL における CHLDISP と CMDSCOPE			
CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャンネルを PING します。	名前付きキュー・マネージャーの専用チャンネルを PING します。	アクティブなキュー・マネージャーすべての専用チャンネルを PING します。
SHARED	グループ内で最適のキュー・マネージャーの共有チャンネルを PING します。 これは CMDSCOPE を使用するコマンドを自動的に生成し、それを適切なキュー・マネージャーに送信します。コマンドの送信先キュー・マネージャー上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されたキュー・マネージャー上のチャンネルの定義は、コマンドが実際に実行される宛先キュー・マネージャーの判別に使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない	許可されない
FIXSHARED	ローカル・キュー・マネージャーの共有チャンネルを PING します。	名前付きキュー・マネージャーの共有チャンネルを PING します。	許可されない

DATALEN(integer)

データの長さを 16 から 32 768 の範囲で指定します。これはオプションです。

PING QMGR

キュー・マネージャーがコマンドに応答するかどうかをテストするには、MQSC コマンド PING QMGR を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1245 ページの『使用上の注意』](#)

同義語: PING QMGR

PING QMGR

➡ PING QMGR ➡

使用上の注意

コマンド・サーバー・キューにメッセージを送信することで、キュー・マネージャーにコマンドを実行している場合、このコマンドは、コマンド・ヘッダーのみからなる特別メッセージをそこへ送信し、肯定応答が戻るかどうかを調べます。

PURGE CHANNEL

V8.0.0.4 テレメトリー・チャンネルまたは AMQP チャンネルを停止してパージするには、MQSC コマンド PURGE CHANNEL を使用します。テレメトリー・チャンネルまたは AMQP チャンネルをパージすると、そのチャンネルに接続しているすべての MQTT クライアントまたは AMQP クライアントが切断され、MQTT クライアントまたは AMQP クライアントの状態がクリーンアップされて、テレメトリー・チャンネルまたは AMQP チャンネルが停止します。クライアントの状態をクリーンアップすると、処理中のすべてのパブリケーション (クライアントが必要とする遺言メッセージを含む) が削除され、すべてのサブスクリプションがクライアントから削除されます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1246 ページの『PURGE CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

PURGE CHANNEL

➡ PURGE CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE — (— MQTT —) —
AMQP —
CLIENTID — (— *clientid* —) ➡

PURGE CHANNELのパラメーターの説明

(channel name)

V8.0.0.4 停止してパージするテレメトリー・チャンネルまたはAMQPチャンネルの名前。このパラメーターは必須です。

CHLTYPE (string)

チャンネル・タイプ。このパラメーターは必須です。

V8.0.0.4 値はMQTTまたはAMQPのいずれかでなければなりません

CLIENTID (string)

クライアントID。**V8.0.0.4** クライアントIDは、IBM MQ Telemetry Transport クライアントまたはAMQPクライアントを識別する23バイトのストリングです。PURGE CHANNEL コマンドがCLIENTIDを指定する際、指定されたクライアントIDの接続だけがパージされます。CLIENTIDが指定されない場合、チャンネル上のすべての接続がパージされます。

z/OS z/OS での RECOVER BSDS

データ・セット・エラーが原因で複式ブートストラップ・データ・セット (BSDS) の一方が動作しなくなった後に、MQSC コマンド RECOVER BSDS を使用して複式 BSDS を再確立します。

MQSC コマンドの使用

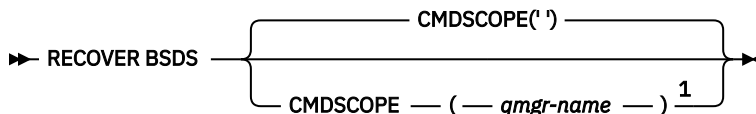
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

このコマンドは、ソース CR から実行できます。ソースのシンボルの説明については、[z/OS で MQSC コマンドを発行できるソース](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1246 ページの『RECOVER BSDS の使用上の注意』](#)
- [1246 ページの『RECOVER BSDS のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)

同義語: REC BSDS

RECOVER BSDS



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

RECOVER BSDS の使用上の注意

注: このコマンド処理では、エラーが生じた BSDS と同名のデータ・セットを割り振り、エラーのない BSDS の内容を新しいデータ・セットにコピーします。

RECOVER BSDS のキーワードおよびパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

”

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

z/OS RECOVER CFSTRUCT

CF アプリケーション構造体および関連付けられた共有メッセージ・データ・セットのリカバリーを開始するには、MQSC コマンド RECOVER CFSTRUCT を使用します。このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

MQSC コマンドの使用

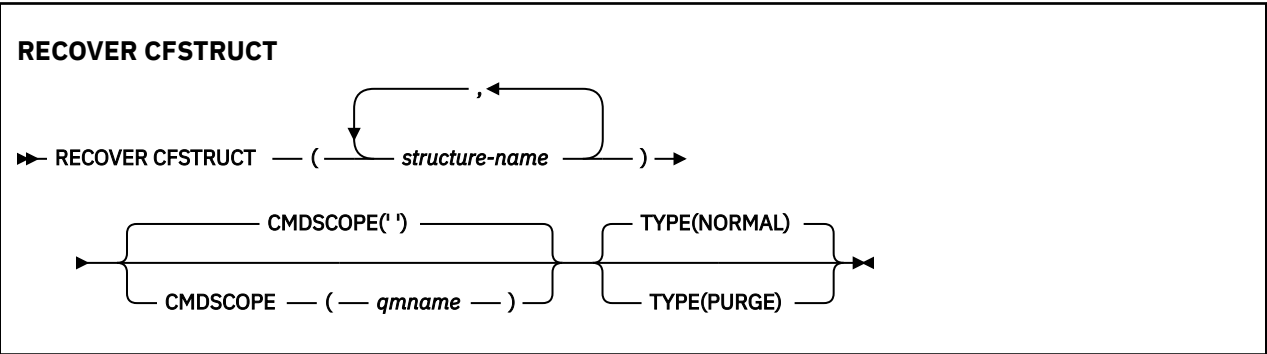
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1247 ページの『RECOVER CFSTRUCT の使用上の注意』](#)
- [1248 ページの『RECOVER CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明』](#)

同義語: REC CFSTRUCT



RECOVER CFSTRUCT の使用上の注意

- 指定されたアプリケーション構造体にも、また関連付けられた共有メッセージ・データ・セットにも FAILED 状態を示すフラグが立っていない場合、このコマンドは失敗します。
- データ・セットが FAILED とマークを付けられていても、対応する構造体がそうでない場合、**RECOVER CFSTRUCT** コマンドは構造状況を FAILED 状態に変更し、リカバリーを実行するために内容を削除します。この処置により構造体に格納された非持続メッセージすべては削除され、リカバリーが完了するまで構造体は使用できなくなります。
- 共有メッセージ・データ・セットが関連付けられている構造体の場合、**RECOVER CFSTRUCT** コマンドは、その構造体に加えて、既に FAILED のマークが付けられているか、またはリカバリー処理によって開

かれた時点で空または無効であることが検出されたデータ・セットについてオフロードされたメッセージ・データをリカバリーします。ACTIVE のマークが付けられていて、有効なヘッダーを伴う任意のデータ・セットは、リカバリーが必要ないものと想定されます。

- リカバリー処理が正常に完了した場合、リカバリーされた構造体 (リカバリーを必要としないデータ・セットを含む) のすべての関連付けられた共有メッセージ・データ・セットは RECOVERED とマークを付けられ、スペース・マップをビルドし直す必要があることを示します。
- リカバリーの後、影響を受けたデータ・セットごとにスペース・マップの再ビルド処理が実行され、復旧したメッセージ・データ (非持続である、または取り消された既存のメッセージを無視します) によって使用されているスペースにマップされます。データ・セットごとにスペース・マップが再ビルドされた場合、再度 ACTIVE としてマークが付けられます。
- CFRM ポリシー・データ・セット中に定義されていない構造体名を指定すると、このコマンドは失敗します。
- リカバリー・プロセスは、入出力および processor を集中的に使用し、単一の z/OS イメージにおいてのみ実行できます。したがって、キュー共有グループ中の、最も強力で最も使用率が低いシステム上で実行する必要があります。
- 最も可能性が高い障害は、CF 全体が失われたために、同時にその中のアプリケーション構造体がすべて失われるという障害です。障害が起きた各アプリケーション構造体のバックアップ日時が近い場合は、1 回の **RECOVER CFSTRUCT** コマンドの実行でリカバリーする方が効率的です。
- CFLEVEL を 3 未満に定義したり、RECOVER を NO に設定したりしている CF 構造体を指定すると、このコマンドは失敗します。
- TYPE(NORMAL) を使用するには、**BACKUP CFSTRUCT** コマンドを使用して、CF 構造体のバックアップを取っておく必要があります。
- 最近、要求された CF 構造体のバックアップを取っていない場合、TYPE(NORMAL) を使用すると相当な時間がかかります。
- CF 構造体のバックアップ、または必要なアーカイブ・ログを使用できない場合は、TYPE(PURGE) を使用して空の CF 構造体にリカバリーすることができます。
- コマンド **RECOVER CFSTRUCT(CSQSYSAPPL) TYPE(PURGE)** は禁止されています。これは、キュー・マネージャーの内部オブジェクトが誤って失われないようにするためです。

RECOVER CFSTRUCT のキーワードおよびパラメーターの説明

CFSTRUCT(structure-names ...)

カップリング・ファシリティ・アプリケーション構造体をリカバリーする対象となる 63 個以下の構造体名の名前、および、関連する共有メッセージ・データ・セットのうち、やはりリカバリーが必要なもののリストを指定します。複数の構造体のリソースのリカバリーが必要な場合、同時にリカバリーするほうが効率的です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

タイプ

どのような種類の **RECOVER** コマンドを発行するかを指定します。値は次のとおりです。

NORMAL

BACKUP CFSTRUCT コマンドを使用して実行されたバックアップからのデータを復元することにより、真のリカバリーを実行し、その時点からのログ変更を再度適用してください。非持続メッセージは破棄されます。

これがデフォルトです。

PURGE

構造体および関連付けられた共有メッセージ・データ・セットを空の状態にリセットしてください。バックアップが使用可能でない場合、これを使用して作業状態を復元することができます。しかしその結果として、影響を受けたメッセージはすべて失われます。

REFRESH CLUSTER

MQSC コマンド **REFRESH CLUSTER** は、ローカルに保持されているすべてのクラスター情報を破棄して強制的に再作成するために使用します。また、自動定義された未確定のチャンネルがあれば、その処理も行います。このコマンドの処理が完了した後に、クラスターで「"コールド・スタート"」を実行できます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

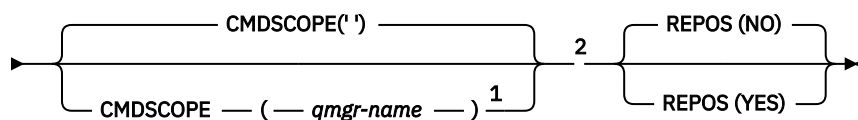
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1249 ページの『REFRESH CLUSTER の使用上の注意』](#)
- [1251 ページの『REFRESH CLUSTER のパラメーターの説明』](#)

同義語: REF CLUSTER

REFRESH CLUSTER

➡ REFRESH CLUSTER — (— *generic-clustername* —) ➡



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。

REFRESH CLUSTER の使用上の注意

1. **REFRESH CLUSTER** を実行すると、クラスターが混乱する可能性があります。場合によっては、**REFRESH CLUSTER** の処理が完了するまで、短時間ではあっても、クラスター・オブジェクトが参照不能になります。これは実行中のアプリケーションに影響する可能性があります ([REFRESH CLUSTER の実行中に発生するアプリケーションの問題](#)を参照)。アプリケーションがクラスター・トピックをパブリッシュ/サブスクライブしている場合は、そのトピックが一時的に使用不能になることがあります。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターでの **REFRESH CLUSTER** についての考慮事項を参照してください。使用不可にすると、**REFRESH CLUSTER** コマンドが完了するまでパブリケーシ

ョン・ストリームが中断されます。このコマンドがフル・リポジトリ・キュー・マネージャーで発行されると、**REFRESH CLUSTER** は大量のメッセージ・フローを作成する可能性があります。

2. 大規模クラスターでは、稼働中のクラスターに **REFRESH CLUSTER** コマンドを使用すると、そのクラスターに悪影響が及ぶ可能性があります。その後、クラスター・オブジェクトが 27 日間隔で対象のキュー・マネージャーすべてに状況の更新を自動的に送信する際にも同様のことが起こり得ます。大規模クラスターでのリフレッシュはクラスターのパフォーマンスと可用性に影響を与える可能性があるを参照してください。
3. **REFRESH CLUSTER** コマンドを発行する前に、すべてのパブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションを静止します。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターでこのコマンドを発行すると、クラスター内の他のキュー・マネージャーとの間でパブリケーションの送達が中断されるため、他のキュー・マネージャーからのプロキシ・サブスクリプションがキャンセルされる結果になるおそれがあるからです。これが発生する場合、クラスターのリフレッシュ後にプロキシ・サブスクリプションを再同期し、その再同期の完了後まで、すべてのパブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションを静止した状態に保ちます。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターでの **REFRESH CLUSTER** についての考慮事項を参照してください。
4. コマンドからユーザーに制御が返されても、コマンドが完了したということではありません。**SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE** の活動は、コマンドが依然として処理中であることを示しています。分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の **REFRESH CLUSTER** ステップも参照してください。
5. **REFRESH CLUSTER** が発行された時点でクラスター送信側チャンネルが実行されている場合、チャンネルが停止して再始動するまでリフレッシュが完了しない可能性があります。完了までの時間を短縮するには、**REFRESH CLUSTER** コマンドを実行する前に、クラスターのすべてのクラスター送信側チャンネルを停止します。チャンネルが未確定でなければ、**REFRESH CLUSTER** コマンドの処理中にチャンネルの状態が再作成される可能性があります。
6. **REPOS(YES)** を選択する場合は、**REFRESH CLUSTER** コマンドを実行する前に、対象のクラスターに含まれているすべてのクラスター送信側チャンネルが非アクティブになっているか、停止していることを確認してください。

REFRESH CLUSTER REPOS(YES) コマンド実行時にクラスター送信側チャンネルが実行中である場合、それらのクラスター送信側チャンネルはそのコマンド操作中に終了し、操作完了後も **INACTIVE** 状態のままです。あるいは、**MODE(FORCE)** を指定した **STOP CHANNEL** コマンドを使用することにより、チャンネルを強制的に停止させることもできます。

チャンネルを停止することにより、リフレッシュでチャンネルの状態を削除できるようになるとともに、リフレッシュが完了した後は、チャンネルがリフレッシュ後のバージョンで稼働するようになります。チャンネルの状態を削除できない場合は、リフレッシュ後もチャンネルの状態は更新されません。チャンネルがすでに停止している場合は、自動的に再始動することがありません。チャンネルが未確定である場合や、チャンネルが別のクラスターの一部としても稼働している場合は、チャンネルの状態を削除できません。

フル・リポジトリ・キュー・マネージャーにオプション **REPOS(YES)** を選択する場合は、フル・リポジトリを部分リポジトリに変更してください。このリポジトリがクラスター内で唯一動作しているリポジトリであるなら、クラスター内にはフル・リポジトリがなくなります。キュー・マネージャーをリフレッシュし、フル・リポジトリの状態に復元した後に、他の部分リポジトリもリフレッシュして、作業クラスターを復元してください。

このリポジトリがクラスター内で唯一動作しているリポジトリでなければ、部分リポジトリを手動でリフレッシュする必要はありません。クラスター内の別の作業フル・リポジトリが、クラスター内の他のメンバーに対して、**REFRESH CLUSTER** コマンドを実行しているフル・リポジトリがフル・リポジトリとしての役割を再開したことを通知します。

7. 以下のいずれかの状況でなければ、通常、**REFRESH CLUSTER** コマンドを実行する必要はありません。
 - **SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE** または別のクラスター伝送キューからメッセージが削除された (宛先キューは、対象のキュー・マネージャーの **SYSTEM.CLUSTER.COMMAND.QUEUE** です)。
 - IBM サービスによって **REFRESH CLUSTER** コマンドの実行を勧められた場合。

- CLUSRCVR チャンネルがクラスターから削除された場合、または通信不能の状態では CONNAME が 2 つ以上のフル・リポジトリ・キュー・マネージャーで変更された場合。
 - クラスター内の複数のキュー・マネージャーで CLUSRCVR チャンネルに同じ名前が使用されていた。その結果、そのいずれかのキュー・マネージャーに宛てられたメッセージが他のキュー・マネージャーに送信された。この場合、重複を削除し、1 つ残ったキュー・マネージャーで **REFRESH CLUSTER** コマンドを CLUSRCVR 定義を使用して実行します。
 - RESET CLUSTER ACTION(FORCEREMOVE) の実行がエラーになった場合。
 - キュー・マネージャーを最後に使用した完了時点より前の時点から再始動した (バックアップ・データをリストアした場合など)。
8. **REFRESH CLUSTER** を実行しても、クラスター定義の間違いを修正できるわけではありません。さらに、そのような間違いを修正した後に、このコマンドを実行する必要もありません。
 9. **REFRESH CLUSTER** 処理の際に、キュー・マネージャーはメッセージ AMQ9875 を生成し、その後にメッセージ AMQ9442 または AMQ9404 を生成します。キュー・マネージャーはまた、メッセージ AMQ9420 を生成することもあります。クラスターの機能が影響を受けない場合、メッセージ AMQ9420 は無視できます。
 10. UNIX システムでは、このコマンドは AIX、HP-UX、Linux、および Solaris でのみ有効です。
 11.  z/OS では、チャンネル・イニシエーターが開始されていないと、このコマンドは失敗します。
 12.  z/OS では、エラーはすべて、チャンネル・イニシエーターが稼働しているシステムのコンソールに報告されます。コマンドを実行したシステムには報告されません。

REFRESH CLUSTER のパラメーターの説明

(*generic-clustername*)

リフレッシュするクラスターの名前。あるいは、*generic-clustername* を "*" として指定することもできます。"*" が指定されている場合、キュー・マネージャーは、そのキュー・マネージャーがメンバーになっているすべてのクラスター内でリフレッシュされます。REPOS(YES) とともに使用すると、ローカル CLUSSDR 定義内の情報からフル・リポジトリを検索する処理を、キュー・マネージャーに対して強制的に再開させます。CLUSSDR 定義でキュー・マネージャーが複数のクラスターに接続している場合でも、キュー・マネージャーは検索を再開します。

generic-clustername パラメーターが必要です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。'' はデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

コマンドが入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定できます。この場合、キュー共有グループ環境を使用し、コマンド・サーバーを使用可能にしてください。

REPOS

フル・リポジトリ・クラスター・キュー・マネージャーに相当するオブジェクトもリフレッシュするかどうかを指定します。

NO

キュー・マネージャーは、ローカル定義のマークが付いているすべてのクラスター・キュー・マネージャーとクラスター・キューに関する知識を保持します。また、フル・リポジトリのマークが付いているすべてのクラスター・キュー・マネージャーに関する知識も保持します。さらに、キュー

ー・マネージャーがクラスターのフル・リポジトリになっている場合は、クラスター内の他のクラスター・キュー・マネージャーに関する知識も保持します。他のすべてのものはリポジトリのローカル・コピーから除去され、クラスター内の他の完全リポジトリから再作成されます。REPOS(NO)を使用すると、クラスター・チャンネルは停止されません。完全リポジトリは、そのCLUSSDRチャンネルを使用して、クラスターの残りの部分にリフレッシュの完了を通知します。

NO がデフォルトです。

YES

REPOS(NO)の動作に加えて、フル・リポジトリ・クラスター・キュー・マネージャーに相当するオブジェクトもリフレッシュすることを指定します。キュー・マネージャー自体が完全リポジトリである場合は、REPOS(YES) オプションを使用しないでください。キュー・マネージャーが完全なリポジトリである場合は、まず、そのキュー・マネージャーを問題のクラスターの完全なリポジトリではなくなるように変更する必要があります。完全リポジトリの場所は、手作業で定義されたCLUSSDR定義から回復されます。REPOS(YES)を使用してリフレッシュが実行された後、必要に応じて、キュー・マネージャーを変更して、再度完全リポジトリに戻すことができます。

 z/OSでは、NとYをNOとYESの同義語として使用できます。

関連情報

- REFRESH CLUSTERの実行中に発生するアプリケーションの問題
- [パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのREFRESH CLUSTERについての考慮事項](#)
- [クラスター化: REFRESH CLUSTERの使用に関するベスト・プラクティス](#)

REFRESH QMGR

MQSC コマンド REFRESH QMGR では、キュー・マネージャーに対する特殊な操作を実行します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

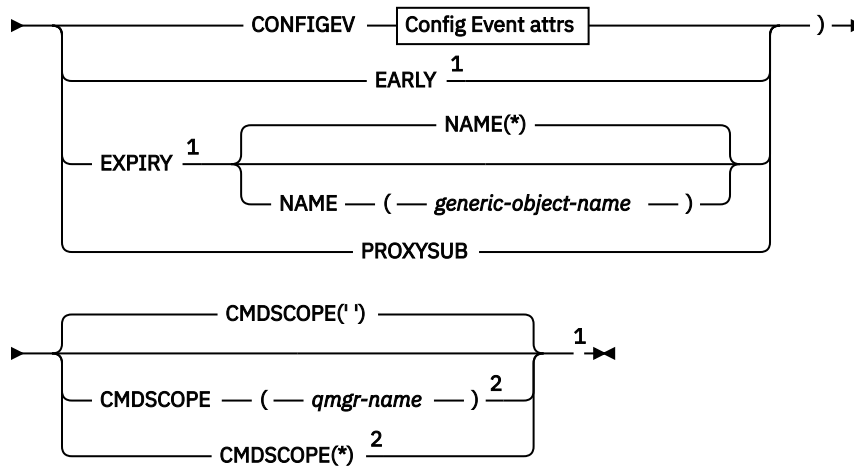
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	1254 ページの『z/OS での REFRESH QMGR の使用』 を参照してください。

- [構文図](#)
-  [1254 ページの『z/OS での REFRESH QMGR の使用』](#)
- [1254 ページの『REFRESH QMGR の使用上の注意』](#)
- [1255 ページの『REFRESH QMGR のパラメーターの説明』](#)

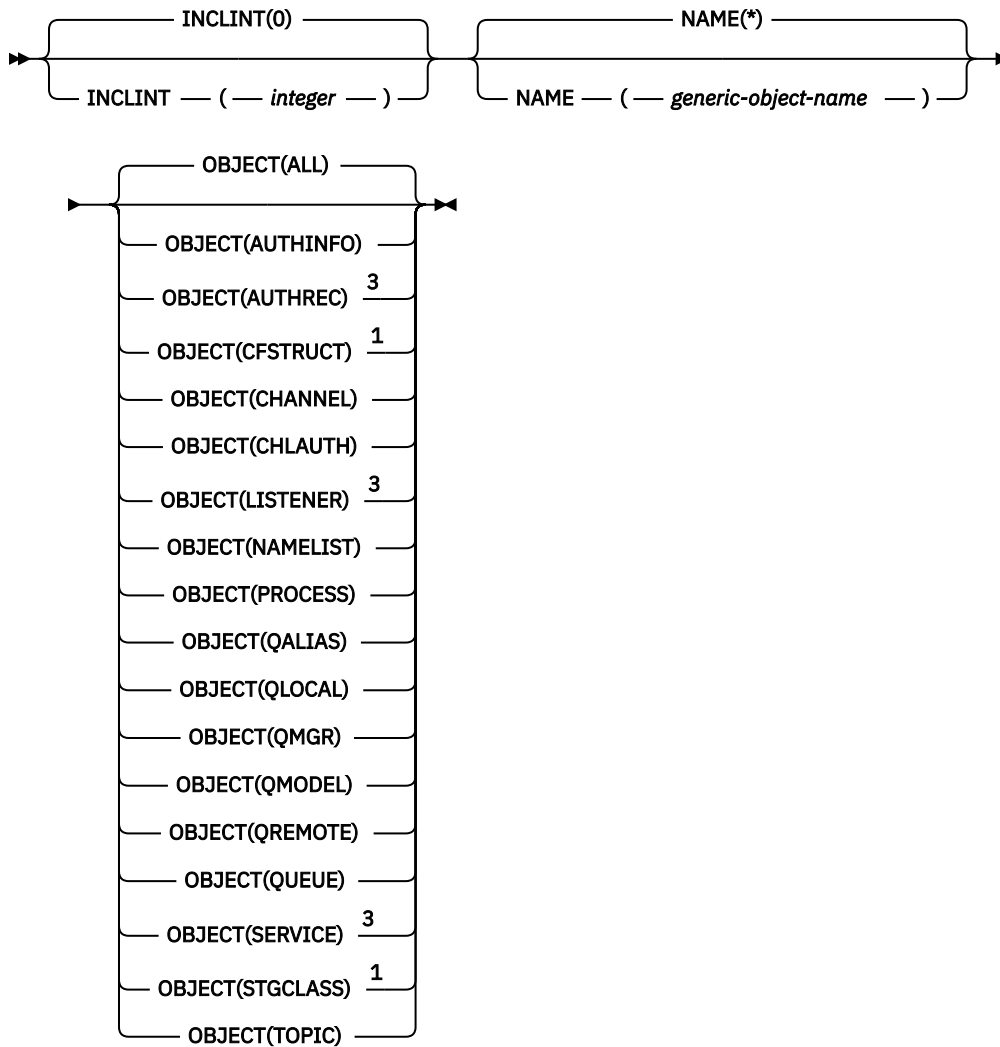
同義語: なし

REFRESH QMGR

➤ REFRESH QMGR — TYPE — (→



Config Event attrs



注:

¹ z/OS でのみ有効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

³ z/OS では無効です。

z/OS での REFRESH QMGR の使用

z/OS

REFRESH QMGR は z/OS で使用できます。コマンドで使用されたパラメーターに応じて、さまざまなソースから発行される可能性があります。この表のシンボルの説明については、[641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』](#)を参照してください。

コマンド	コマンドのソース	注
REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV)	2CR	
REFRESH QMGR TYPE(EARLY)	C	キュー・マネージャーがアクティブであってはなりません。
REFRESH QMGR TYPE(EXPIRY)	2CR	
REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB)	2CR	このコマンドを完了するには、CHINIT はアクティブでなければなりません。

REFRESH QMGR の使用上の注意

1. CONFIGEV キュー・マネージャー属性を ENABLED に設定した後に、キュー・マネージャーの構成を最新の状態にするために、TYPE(CONFIGEV) を付けてこのコマンド実行します。完全な構成情報を生成するために、すべてのオブジェクトを含めてください。多数のオブジェクトがある場合は、いくつかのコマンドを使用するのが望ましい場合もあります。その場合は、各コマンドで別々のオブジェクトを選択しますが、全体としてすべてを含めるようにします。
2. イベント・キューのエラーなどの問題からリカバリーするために、TYPE(CONFIGEV) を付けてこのコマンドを使用することもできます。そのような場合は、適切な選択基準を使用して、処理時間やイベント・メッセージの生成が過剰にならないようにします。
3. 有効期限が切れたメッセージがキューの中に多数含まれていると思える場合には、いつでも TYPE(EXPIRY) を付けてこのコマンドを実行できます。
4.  TYPE(EARLY) が指定されている場合、他のキーワードは指定できません。さらに、このコマンドはキュー・マネージャーがアクティブでないときに限定して、z/OS コンソールからのみ発行できます。
5. **REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB)** は、例外的な状況でなければ、ほとんど使用することはありません。[プロキシ・サブスクリプションの再同期](#)を参照してください。
6. **REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB)** コマンドの正常終了は、アクションが完了したことは意味しません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認](#)の **REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB)** ステップを参照してください。
7.  CHINIT が実行されていないときに **REFRESH QMGR TYPE(PROXYSUB)** コマンドが z/OS で発行されると、コマンドはキューに入れられ、CHINIT の開始時に処理されます。
8.  コマンド REFRESH QMGR TYPE(CONFIGEV) OBJECT(ALL) の実行には、権限レコードも含まれます。

AUTHREC イベントを明示的に指定する場合、**INCLINT** および **NAME** パラメーターを指定することはありません。**OBJECT(ALL)** を指定すると、**INCLINT** および **NAME** パラメーターは無視されます。

REFRESH QMGRのパラメーターの説明

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

このパラメーターは、TYPE(EARLY) を指定する場合は無効です。

INCLINT (integer)

現在時刻からさかのぼる期間を分単位の値で指定し、その期間 (ALTDAT 属性と ALTTIME 属性で定義される期間) 内に作成されたオブジェクトまたは変更されたオブジェクトだけを含めるように要求します。この値は、ゼロから 999 999 の範囲でなければなりません。ゼロの値を指定すると、時間制限がなくなります (これがデフォルトです)。

このパラメーターは、TYPE(CONFIGEV) でのみ有効です。

NAME (generic-object-name)

指定する名前と一致する名前のオブジェクトだけを含めるように要求します。末尾のアスタリスク (*) を使用すると、指定する語幹の後に 0 個以上の文字が続くすべてのオブジェクト名が一致項目になります。アスタリスク (*) だけを単独で指定すると、すべてのオブジェクトが対象になります (これがデフォルトです)。OBJECT(QMGR) が指定されている場合、NAME は無視されます。

このパラメーターは、TYPE(EARLY) を指定する場合は無効です。

OBJECT (objtype)

指定したタイプのオブジェクトだけを含めるように要求します。(QL のような、オブジェクト・タイプの同義語も指定できます。) デフォルトは ALL で、すべてのタイプのオブジェクトを含めます。

このパラメーターは、TYPE(CONFIGEV) でのみ有効です。

タイプ

これは必須です。値は次のとおりです。

CONFIGEV

キュー・マネージャーが、OBJECT、NAME、および INCLINT パラメーターで指定された選択基準と一致するすべてのオブジェクトに構成イベント・メッセージを生成するように要求します。

QSGDISP(QMGR) または QSGDISP(COPY) で定義されている一致オブジェクトは、常に組み込まれます。QSGDISP(GROUP) または QSGDISP(SHARED) で定義されている一致オブジェクトが組み込まれるのは、コマンドを入力したキュー・マネージャーを対象にしてコマンドを実行する場合に限られます。

EARLY

キュー・マネージャーのサブシステム機能ルーチン (一般に早期コードという) をリンクパック領域 (LPA) にある対応ルーチンに置き換えることを要求します。

このコマンドを使用する必要があるのは、修理保守として用意されているか、IBM MQ の新しいバージョンまたはリリースで用意されている新しいサブシステム機能ルーチンをインストールした後に限られます。このコマンドは、新しいルーチンを使用するようにキュー・マネージャーに指示します。

▶ **z/OS** IBM MQ の早期コード・ルーチンについての詳細は、[作業 3: z/OS リンク・リストおよび LPA を更新する](#)を参照してください。

EXPIRY

NAME パラメーターで指定した選択基準に合致するすべてのキューの有効期限が切れたメッセージを破棄するために、キュー・マネージャーがスキャンを実行することを要求します。(スキャンは、EXPRYINT キュー・マネージャー属性の設定に関係なく実行されます。)

PROXYSUB

キュー・マネージャーが、階層内またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内の接続先のキュー・マネージャーで保持されているプロキシ・サブスクリプションとそれらのキュー・マネージャーのために保持されているプロキシ・サブスクリプションの再同期を実行することを要求します。

プロキシ・サブスクリプションは、例外的な状況でのみ再同期してください。 [プロキシ・サブスクリプションの再同期](#)を参照してください。

REFRESH SECURITY

セキュリティの更新を実行するには、MQSC コマンド REFRESH SECURITY を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

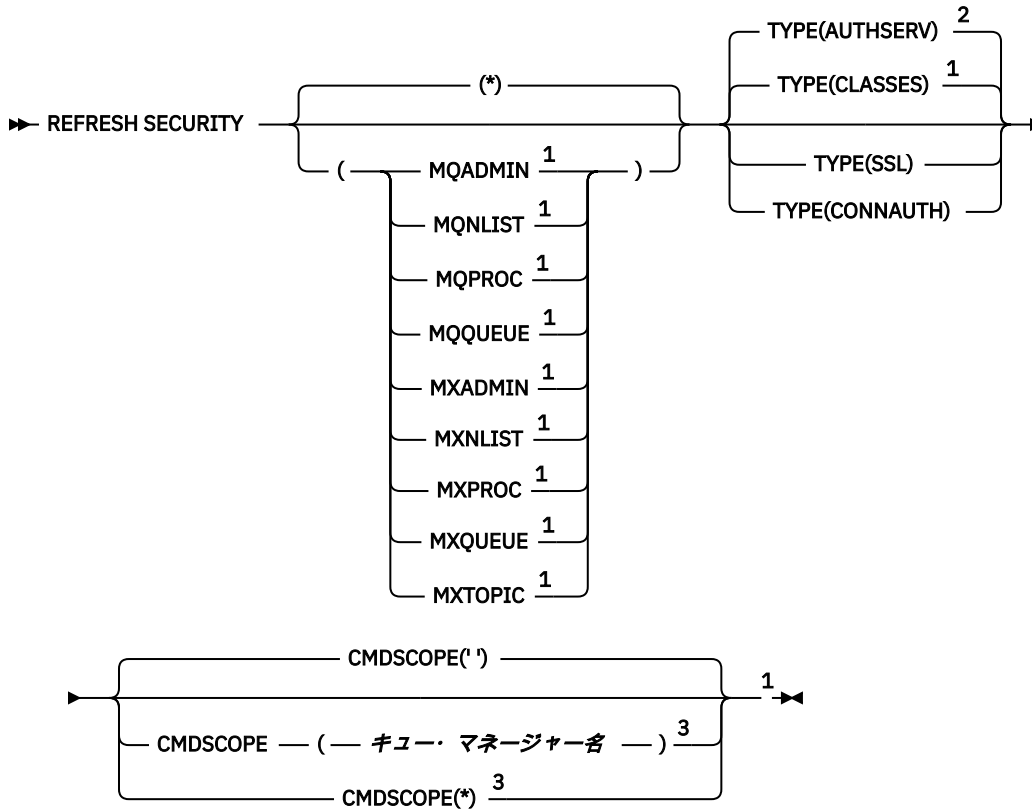
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	1257 ページの『z/OS での REFRESH SECURITY の使用』 を参照してください。

- [構文図](#)
- ▶ **z/OS** [1257 ページの『z/OS での REFRESH SECURITY の使用』](#)
- [1257 ページの『REFRESH SECURITY の使用上の注意』](#)
- [1259 ページの『REFRESH SECURITY のパラメーターの説明』](#)

同義語: REF SEC

REBUILD SECURITY は、REFRESH SECURITY のもう 1 つの同義語です。

REFRESH SECURITY



注:

¹ z/OS でのみ有効です。

² z/OS では無効です。

³ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

z/OS での REFRESH SECURITY の使用



REFRESH SECURITY は z/OS で使用できます。コマンドで使用されたパラメーターに応じて、さまざまなソースから発行される可能性があります。この表のシンボルの説明については、[641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』](#)を参照してください。

コマンド	コマンドのソース	注
REFRESH SECURITY TYPE(CLASSES)	CR	
REFRESH SECURITY TYPE(SSL)	CR	CSQINPT または CSQINP2 から許可されていません。チャネル・イニシエーターが稼働している必要があります。

REFRESH SECURITY の使用上の注意

REFRESH SECURITY TYPE(SSL) MQSC コマンドを発行すると、稼働中のすべての SSL チャネルが停止し、再始動します。SSL チャネルがシャットダウンするまでに時間がかかる場合がありますが、これは、リフレッシュ操作の完了に時間がかかることを意味します。SSL リフレッシュの完了には 10 分

(z/OS の場合は 1 分) の制限時間があるため、コマンドが終了するまでに最大で 10 分かかる可能性があります。これにより、リフレッシュ操作が「フリーズ」したように見える場合があります。すべてのチャンネルが停止する前にタイムアウトを超過すると、リフレッシュ操作は AMQ9710 の MQSC エラー・メッセージまたは PCF エラー MQRCCF_COMMAND_FAILED で失敗します。これは、以下の条件が当てはまる場合に発生する可能性があります。

- リフレッシュ・コマンドの起動時に、キュー・マネージャーで同時実行中の SSL チャンネルが多すぎる場合
- チャンネルが大量のメッセージを処理中の場合

これらの条件下でリフレッシュが失敗した場合は、キュー・マネージャーのビジー状態が緩和されてから再試行してください。多くのチャンネルが実行中の場合は、いくつかのチャンネルを手動で停止してから、REFRESH コマンドを起動することもできます。

TYPE(SSL) を使用する場合:

1.  z/OS では、コマンド・サーバーおよびチャンネル・イニシエーターが稼働している必要があります。
2.  z/OS では、IBM MQ が、以下の 1 つまたは複数の理由により、リフレッシュが必要かどうかを判断します。
 - 鍵リポジトリの内容が変更された
 - 証明書失効リストで使用する LDAP サーバーの場所が変更された
 - 鍵リポジトリの場所が変更されたリフレッシュが不要な場合は、コマンドが正常に完了し、チャンネルへの影響はありません。
3.  (z/OS 以外のプラットフォーム) セキュリティー・リフレッシュが必要かどうかに関係なく、このコマンドによりすべての SSL チャンネルが更新されます。
4. リフレッシュを実行すると、コマンドは現在実行されているすべての SSL チャンネルを次の方法で更新します。
 - SSL を使用する、送信側、サーバー、およびクラスター送信側チャンネルは、現行のバッチ処理を完了できます。通常は次に、SSL キー・リポジトリのリフレッシュされたビューを使用して、再び SSL ハンドシェイクを実行します。ただし、サーバー定義に CONNAME パラメーターがないリクエスター・サーバー・チャンネルは、手動で再始動する必要があります。
 - SSL を使用する他のすべてのチャンネル・タイプは、STOP CHANNEL MODE(FORCE) STATUS(INACTIVE) コマンドによって停止します。停止したメッセージ・チャンネルのパートナー側で再試行の値が定義されている場合は、チャンネル再試行が発生し、SSL キー・リポジトリの内容、証明書失効リストで使用する LDAP サーバーの場所、キー・リポジトリの場所のリフレッシュ後のビューによって新しい SSL ハンドシェイクが実行されます。サーバー接続チャンネルの場合は、クライアント・アプリケーションがキュー・マネージャーへの接続を失い、継続するために再接続が必要になります。

 TYPE(CLASSES) を使用する場合:

- MQADMIN、MQNLIST、MQPROC、および MQQUEUE のクラスは、大文字で定義されたプロファイルのみを保持できます。
- MXADMIN、MXNLIST、MXPROC、および MQXUEUE のクラスは、大/小文字混合で定義されたプロファイルを保持できます。
- クラス MXTOPIC は、大文字または大/小文字混合のどちらのクラスを使用してもリフレッシュできます。これは大/小文字混合のクラスですが、これはどちらのグループのクラスとも一緒にアクティブであることが可能な、唯一の大/小文字混合クラスです。
- MQCMD および MQCONN クラスは指定不可です。REFRESH SECURITY CLASS(*) と指定しても含められません。

MQCMD および MQCONN クラスのセキュリティ情報は、キュー・マネージャーにキャッシュされません。詳しくは、[z/OS でキュー・マネージャーのセキュリティをリフレッシュする操作を参照してください](#)。

注:

1. システムが使用するクラスを大文字のみのサポートから大/小文字混合サポートへ変更できる唯一の方法は、REFRESH SECURITY(*) TYPE(CLASSES) 操作を実行することです。
これを行うには、キュー・マネージャー属性 SCYCASE が UPPER または MIXED のどちらに設定されているかを確認します。
2. REFRESH SECURITY(*) TYPE(CLASSES) 操作を実行する前に、該当するクラスに必要なすべてのプロファイルをコピーまたは定義したことを必ず確認してください。
3. 個々のクラスのリフレッシュは、現在使用されているクラスが同じタイプのクラスである場合にのみ許可されます。例えば、MQPROC が使用中である場合、MQPROC のリフレッシュは発行できますが、MXPROC のリフレッシュはできません。

REFRESH SECURITY のパラメーターの説明

コマンド修飾子により、特定の TYPE 値について、より厳密な動作を指示することができます。次の中から選択します。

★

指定したタイプのフル・リフレッシュが実行されます。  これは、z/OS システムでのデフォルト値です。

MQADMIN

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。管理タイプ・リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

注: このクラスをリフレッシュするときに、他のいずれかのクラスに関するセキュリティー・スイッチが変更されていることが検出されると、そのクラスのリフレッシュも実行されます。

MQNLIST

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。名前リスト・リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

MQPROC

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。処理リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

MQQUEUE

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。キュー・リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

MXADMIN

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。管理タイプ・リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

注: このクラスをリフレッシュするときに、他のいずれかのクラスに関するセキュリティー・スイッチが変更されていることが検出されると、そのクラスのリフレッシュも実行されます。

MXNLIST

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。名前リスト・リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

MXPROC

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。処理リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

MXQUEUE

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。キュー・リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

MXTOPIC

TYPE が CLASSES の場合にのみ有効です。トピック・リソースをリフレッシュすることを指定します。z/OS でのみ有効です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。  z/OS 以外のシステムでは、これがデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

タイプ

実行するリフレッシュのタイプを指定します。

AUTHSERV

許可サービス・コンポーネントによって内部で保持される許可のリストをリフレッシュします。

これはデフォルト値です。

CLASSES

IBM MQ ストレージ内 ESM (外部セキュリティ・マネージャー、例えば RACF) プロファイルを更新します。要求されたリソースのストレージ内プロファイルがいったん削除され、リソースのセキュリティ検査が行われ、新しい項目が作成されます。このあと、ユーザーが次にアクセスを要求すると、その要求は妥当と見なされます。

セキュリティ・リフレッシュの実行対象となる特定のリソース・クラスを選択できます。

デフォルトに指定されている z/OS でのみ有効です。

CONNAUTH

接続認証の構成のキャッシュ・ビューを最新表示します。

キュー・マネージャーが変更を認識する前に、構成をリフレッシュする必要があります。

     IBM i や UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォームでは、これは AUTHSERV の同義語です。

詳しくは、[接続認証](#)を参照してください。

SSL

Secure Sockets Layer (Transport Layer Security) 鍵リポジトリのキャッシュされたビューをリフレッシュし、コマンドが正常に完了したときに更新が有効になるのを許可します。他にも、次の場所がリフレッシュされます。

- 証明書失効リストで使用する LDAP サーバー
- 鍵リポジトリ

IBM MQ で指定されている暗号ハードウェア・パラメーターも対象になります。

CHLAUTH をリフレッシュするには、[1252 ページの『REFRESH QMGR』](#) コマンドを使用します。

関連情報

 [z/OS でキュー・マネージャーのセキュリティーをリフレッシュする操作](#)

RESET CFSTRUCT

特定のアプリケーション構造の状況を変更するには、MQSC コマンド RESET CFSTRUCT を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1261 ページの『注:』](#)
- [1261 ページの『RESET CFSTRUCT のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

RESET CFSTRUCT

➡ RESET CFSTRUCT (*structure-name*) ACTION(FAIL) ➡

注:

1.  キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。
2. RESET CFSTRUCT には CFLEVEL(5) が必要です。

RESET CFSTRUCT のパラメーターの説明

CFSTRUCT(*structure-name*)

リセットするカップリング・ファシリティ・アプリケーション構造の名前を指定します。

ACTION(FAIL)

構造の障害をシミュレートして、アプリケーション構造の状況を FAILED に設定する場合、このキーワードを指定します。

RESET CHANNEL

MQSC コマンド RESET CHANNEL を使用して、IBM MQ チャネルのメッセージ順序番号をリセットします。このとき、チャンネルの次の開始時に使用したい順序番号を具体的に指定することもできます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

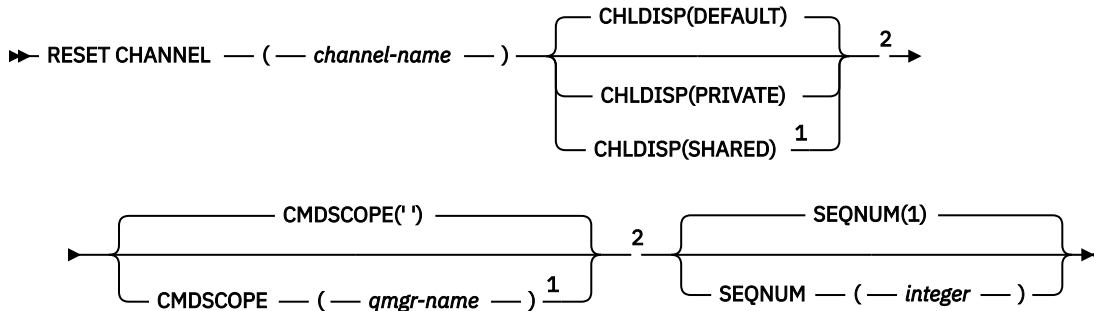
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- 構文図
- [1262 ページの『使用上の注意』](#)
- [1262 ページの『RESET CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

同義語: RESET CHL

RESET CHANNEL



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。
² z/OS でのみ有効です。

使用上の注意

1. **z/OS** z/OS では、コマンド・サーバーおよびチャネル・イニシエーターが稼働している必要があります。
2. このコマンドは、SVRCONN チャネルおよび CLNTCONN チャネル以外のすべてのタイプのチャネルに実行できます (自動的に定義されたチャネルも含まれます)。ただし、送信側チャネルまたはサーバー・チャネルにこのコマンドを発行すると、コマンド発行側の値がリセットされるだけでなく、反対側 (受信側チャネルまたはリクエスター・チャネル) の値も、このチャネルが次に開始 (必要であれば、その後再同期化) される時と同じ値にリセットされます。クラスター送信側チャネルでこのコマンドを発行すると、チャネルのどちらかの側でメッセージのシーケンス番号がリセットされます。ただし、シーケンス番号はクラスターリング・チャネルで検査されないため、重要ではありません。
3. このコマンドが受信側チャネル、要求側チャネル、またはクラスター受信側チャネルに実行された場合は、反対側の値が同様にリセットされることはありません。この処理が必要な場合は、別個に実行する必要があります。
4. 同じ名前のローカル定義チャネルと、自動定義クラスター送信側チャネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャネルに適用されます。ローカル定義チャネルは存在しないけれども、複数の自動定義クラスター送信側チャネルが存在する場合、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャネルに適用されます。
5. メッセージが非持続で、送信側チャネルに RESET CHANNEL コマンドが発行される場合、リセット・データが送信され、チャネルが開始するたびにフローします。

RESET CHANNEL のパラメーターの説明

(channel-name)

リセットするチャネルの名前。これは必須です。

z/OS CHLDISP

このパラメーターは z/OS にのみ適用され、次の値をとることができます。

- デフォルト
- PRIVATE
- SHARED

このパラメーターを省略した場合は、DEFAULT 値が適用されます。これは、チャンネル・オブジェクトのデフォルトのチャンネル属性指定属性 DEFCDISP から得られます。

CMDSCOPE パラメーターの種々の値と併せて、このパラメーターは以下の 2 つのタイプのチャンネルを制御します。

SHARED

受信チャンネルは、キュー共有グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共有されます。

送信側チャンネルの伝送キューの属性指定が SHARED の場合、送信側チャンネルは共有です。

PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に응答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルの伝送キューの属性指定が SHARED 以外の場合、これは専用です。

注：この属性指定は、チャンネル定義のキュー共有グループの属性指定により設定された属性指定とは関係ありません。

CHLDISP と CMDSCOPE の各パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかについても制御されます。指定できるオプションは次のとおりです。

- ・ コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- ・ グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。

CHLDISP と CMDSCOPE の種々の組み合わせについては、以下の表に要約されています。

表 77. RESET CHANNEL における CHLDISP および CMDSCOPE		
CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャンネルをリセットします	名前付きキュー・マネージャーの専用チャンネルをリセットします
SHARED	アクティブなキュー・マネージャーすべての共有チャンネルをリセットします。 これは CMDSCOPE を使用するコマンドを自動的に生成し、それを適切なキュー・マネージャーに送信します。キュー・マネージャーのチャンネルにコマンドの送信先が定義されていない場合、または定義がコマンドに不適當である場合、アクションは失敗します。 コマンドが入力されたキュー・マネージャー上のチャンネルの定義は、コマンドが実際に実行される宛先キュー・マネージャーの判別に使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CHLDISP を SHARED に設定する場合、CMDSCOPE はブランク、つまりローカル・キュー・マネージャーにしなければなりません。

■

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用している場合で、かつコマンド・サーバーが使用可能な場合に限り、キュー・マネージャー名を指定することができます。

SEQNUM(integer)

新しいメッセージ順序番号。1 から 999 999 999 の範囲内でなければなりません。これはオプションです。

RESET CLUSTER

クラスターに対して特殊な操作を行うには、MQSC コマンド **RESET CLUSTER** を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

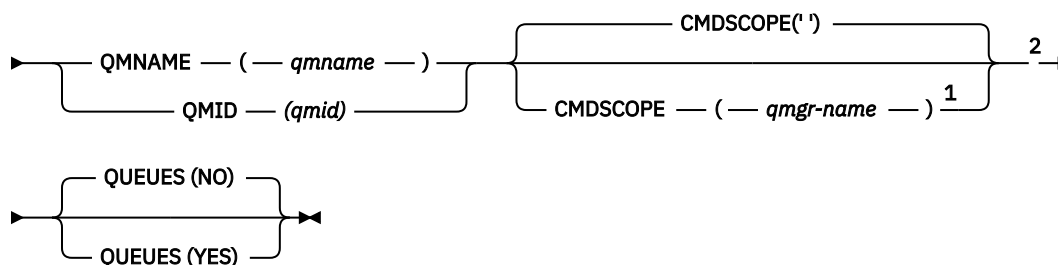
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1264 ページの『RESET CLUSTER の使用上の注意』](#)
- [1265 ページの『RESET CLUSTER のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

RESET CLUSTER

➡ RESET CLUSTER — (— *clustername* —) — ACTION — (— FORCEREMOVE —) ➡



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

RESET CLUSTER の使用上の注意

- UNIX システムでは、このコマンドは AIX、HP-UX、Linux、および Solaris でのみ有効です。
- **z/OS** z/OS では、チャネル・イニシエーターが開始されていないと、このコマンドは失敗します。
- **z/OS** z/OS では、すべてのエラーは、チャネル・イニシエーターが稼働しているシステムのコンソールに報告され、コマンドが発行されたシステムには報告されません。

- あいまいさを避けるためには、QMNAME よりも QMID を使用するほうをお勧めします。キュー・マネージャー ID は、DISPLAY QMGR や DISPLAY CLUSQMGR などのコマンドによって確認できます。

QMNAME を使用する場合、同じ名前を持つキュー・マネージャーがクラスター内に複数あると、コマンドは動作しません。

- オブジェクトや変数の名前 (QMID など) に、IBM MQ オブジェクトの命名規則のリストに含まれていない文字を使用する場合は、名前を引用符で囲む必要があります。
- このコマンドを使用してクラスターから除去したキュー・マネージャーは、**REFRESH CLUSTER** コマンドを実行することで、クラスターに再結合できます。ただし、**REFRESH CLUSTER** コマンドを発行してから 10 秒間は、クラスターの再結合を試行してもリポジトリはそれらを無視するため、**RESET CLUSTER** コマンドは 10 秒以上間隔をあけてから発行してください。キュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内にある場合は、必要なプロキシ・サブスクリプションをすべて復元する必要があります。パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターでの REFRESH CLUSTER についての考慮事項を参照してください。

注: 大規模クラスターでは、稼働中のクラスターに **REFRESH CLUSTER** コマンドを使用すると、そのクラスターに悪影響が及ぶ可能性があります。その後、クラスター・オブジェクトが 27 日間隔で対象のキュー・マネージャーすべてに状況の更新を自動的に送信する際にも同様のことが起こり得ます。大規模クラスターでのリフレッシュはクラスターのパフォーマンスと可用性に影響を与える可能性があるを参照してください。

- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことを意味するわけではありません。実際に完了しているかどうかを確認するには、分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認の RESET CLUSTER ステップを参照してください。

RESET CLUSTER のパラメーターの説明

(*clustername*)

リセットの対象となるクラスターの名前。これは必須です。

ACTION(FORCEREMOVE)

キュー・マネージャーを強制的にクラスターから除去することを要求する。キュー・マネージャーの削除後、確実に適正なクリーンアップが行われるようにするために、これが必要な場合があります。

このアクションを要求できるのは、フルリポジトリ・キュー・マネージャーだけです。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

QMID(*qmid*)

強制削除の対象となるキュー・マネージャーの ID。

QMNAME(*qmname*)

強制削除の対象となるキュー・マネージャーの名前。

QUEUES

強制的に除去されたキュー・マネージャーに属していたクラスター・キューを、クラスターから除去するかどうかを指定します。

NO

強制的に除去されたキュー・マネージャーに属していたクラスター・キューは、クラスターから除去されません。これがデフォルトです。

YES

強制的に除去されたキュー・マネージャーに属していたクラスター・キューは、クラスター・キュー・マネージャーそのものと一緒にクラスターから除去されます。クラスター内でクラスター・キュー・マネージャーが見えない場合にも、クラスター・キューは除去されます。それはおそらく、QUEUES オプションなしで以前に強制除去されているからです。

z/OS z/OS では、**N** と **Y** を **NO** と **YES** の同義語として使用できます。

関連資料

[RESET CLUSTER: クラスターからキュー・マネージャーを強制的に除去する](#)

RESET QMGR

MQSC コマンド RESET QMGR は、バックアップおよびリカバリー手順の一部として使用されます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

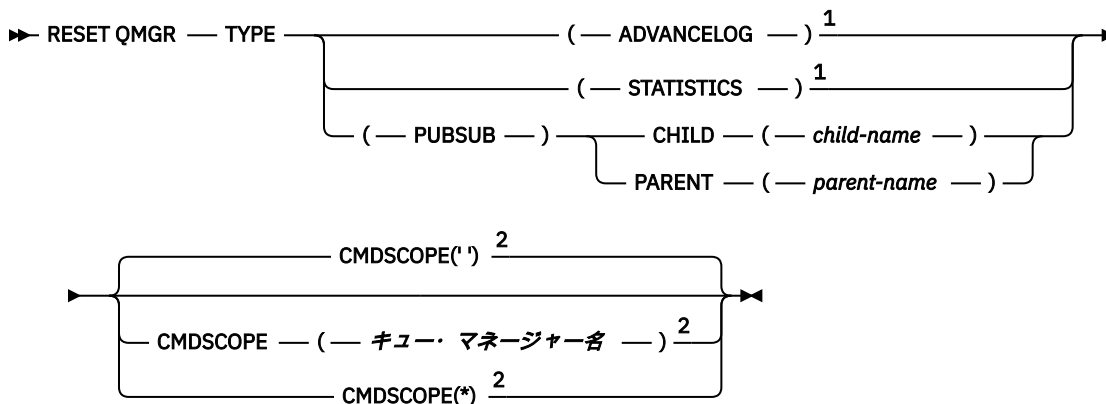
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1267 ページの『RESET QMGR の使用上の注意』](#)
- [1267 ページの『RESET QMGR のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

RESET QMGR



注:

¹ z/OS では無効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

RESET QMGR の使用上の注意

- このコマンドを使用して、キュー・マネージャーが新規ログ・エクステントへの書き込みを開始し、前のログ・エクステントをバックアップに使用できるようにすることを要求します。[バックアップ・キュー・マネージャーの更新](#)を参照してください。あるいは、このコマンドを使用して、キュー・マネージャーが現在の統計収集期間を終了し、収集した統計を書き込むように要求できます。このコマンドを使用して、このキュー・マネージャーが階層接続内で親または子のいずれかとして指定されているパブリッシュ/サブスクライブ階層接続を強制的に除去することもできます。
- リカバリー・ログを拡張するとキュー・マネージャーのアクティブ・ログの容量が不足することになる場合、キュー・マネージャーは、リカバリー・ログの拡張要求を拒否することがあります。
- 例外的な状況でない限り、RESET QMGR TYPE(PUBSUB) を使用することはないと考えられます。通常、子キュー・マネージャーは、ALTER QMGR PARENT(' ') を使用して階層接続を除去します。
- キュー・マネージャーが通信できなくなった子または親キュー・マネージャーから切断する必要がある場合は、RESET QMGR TYPE (PUBSUB) コマンドをキュー・マネージャーから発行しなければなりません。このコマンドを使用した場合、取り消された接続について、リモート・キュー・マネージャーに通知されることはありません。したがって、ALTER QMGR PARENT(' ') コマンドをリモート・キュー・マネージャーで発行することが必要な場合があります。子キュー・マネージャーを手動で切断しない場合は、子キュー・マネージャーは強制的に切断され、親の状況は REFUSED に設定されます。
- 親の関係をリセットする場合には、ALTER QMGR PARENT(' ') コマンドを発行してください。そうでない場合、後でキュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブ機能が有効にされたときに、キュー・マネージャーは接続を再確立しようとします。
- RESET QMGR TYPE(PUBSUB) コマンドの正常終了は、アクションが完了したことを意味しません。実際に完了しているかどうかを確認するには、[分散ネットワークに対する非同期コマンドが終了したことの確認](#)の RESET QMGR TYPE(PUBSUB) ステップを参照してください。

RESET QMGR のパラメーターの説明

タイプ

ADVANCELOG

キュー・マネージャーが新規ログ・エクステントへの書き込みを開始し、前のログ・エクステントをバックアップに使用できるようにすることを要求します。[バックアップ・キュー・マネージャーの更新](#)を参照してください。このコマンドは、キュー・マネージャーがリニア・ロギングを使用するように構成されている場合にのみ受け入れられます。

STATISTICS

キュー・マネージャーが現在の統計収集期間を終了し、収集した統計を書き込むように要求します。

PUBSUB

指定されたパブリッシュ/サブスクライブ階層接続をキュー・マネージャーが取り消すことを要求します。この値には、CHILD 属性または PARENT 属性のうちの 1 つが指定されている必要があります。

CHILD

階層接続が強制的に取り消される子キュー・マネージャーの名前。この属性は、TYPE(PUBSUB) と共にのみ使用されます。これを PARENT と共に使用することはできません。

PARENT

階層接続が強制的に取り消される親キュー・マネージャーの名前。この属性は、TYPE(PUBSUB) と共にのみ使用されます。これを CHILD と共に使用することはできません。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE はブランクにする必要があります。ただし、QSGDISP が GROUP に設定されている場合には、ローカル・キュー・マネージャーにする必要があります。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。この値がデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

共有キュー環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドが入力されたキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。この値を設定すると、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力した場合と同様の結果が得られます。

z/OS RESET QSTATS

キューのパフォーマンス・データを報告した後、そのデータをリセットするには、MQSC コマンド RESET QSTATS を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

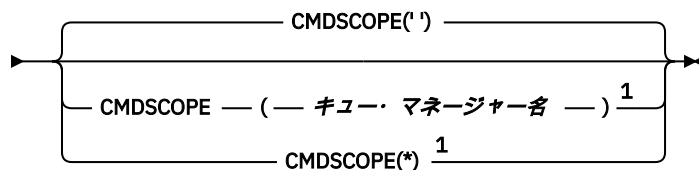
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1268 ページの『RESET QSTATS の使用上の注意』](#)
- [1269 ページの『RESET QSTATS のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

➡ RESET QSTATS — (— *generic-qname* —) ➡



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

RESET QSTATS の使用上の注意

1. *generic q-name* に合致する名前のキューが複数存在する場合は、それらのキューがすべてリセットされます。
2. **z/OS** このコマンドは、z/OS コンソールまたはそれと同等のコンポーネントからではなく、アプリケーションから実行してください。統計情報が記録されるようにするためです。
3. 以下の情報は、すべてのキュー (専用キューと共有キューの両方) について保持されます。共有キューについては、各キュー・マネージャーが情報のコピーを単独で保持します。

MSGIN

メッセージが共有キューに書き込まれるたびに増分します。

MSGOUT

メッセージが共有キューから削除されるたびに増分します。

HIQDEPTH

このキュー・マネージャーが保持している HIQDEPTH の現行値と、それぞれの PUT 操作でカップリング・ファシリティから取得する新しいキュー項目数との比較に基づいて計算されます。キューの項目数は、キューにメッセージを書き込んだりキューからメッセージを取得したりするすべてのキュー・マネージャーによって影響を受けます。

情報を取り出して共有キューの完全な統計を取得するには、**CMDSCOPE(*)** を指定して、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーにコマンドをブロードキャストします。

キュー項目数のピーク値は、HIQDEPTH のすべての戻り値のうちの最大値とほぼ等しくなり、MQPUT の合計数は、MSGIN のすべての戻り値の合計とほぼ等しくなり、MQGET の合計数は、MSGOUT のすべての戻り値の合計とほぼ等しくなります。

4. キュー・マネージャーの PERFMV 属性が DISABLED になっていると、このコマンドは失敗します。

RESET QSTATS のパラメーターの説明

generic-qname

リセットするパフォーマンス・データが含まれているローカル・キューの名前。属性指定は、QMGR、COPY、SHARED のいずれかであり、GROUP ではありません。

語幹の後に後続アスタリスク (*) を指定した場合、その語幹に 0 個以上の文字が続くすべてのキューに一致します。アスタリスク (*) を単独で指定した場合、すべてのキューが指定されることになります。

パフォーマンス・データは、DISPLAY コマンドから返されるパラメーターと同じ形式で返されます。以下のようなデータがあります。

QSTATS

キューの名前。

QSGDISP

キューの属性指定。QMGR、COPY、SHARED のいずれかです。

RESETINT

統計が最後にリセットされた時点以降の秒数。

HIQDEPTH

統計が最後にリセットされた時点以降のピーク・キュー項目数。

MSGIN

統計が最後にリセットされた時点以降、MQPUT 呼び出しと MQPUT1 呼び出しによってキューに追加されたメッセージの数。

この数には、まだコミットされていない作業単位でキューに追加されたメッセージも含まれます。ただし、その作業単位が後でバックアウトされたとしても、この数が減ることはありません。表示可能な最大値は 999 999 999 です。数がこの値を超える場合は、999 999 999 が表示されます。

MSGOUT

統計が最後にリセットされた時点以降、破壊的な (単なる参照用ではない) MQGET 呼び出しによってキューから削除されたメッセージの数。

この数には、まだコミットされていない作業単位でキューから削除されたメッセージも含まれます。ただし、その作業単位が後でバックアウトされたとしても、この数が減ることはありません。表示可能な最大値は 999 999 999 です。数がこの値を超える場合は、999 999 999 が表示されます。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

出力例

次の例は、z/OS での、コマンドからの出力を示しています。

```
12.44.16 STC16696 CSQM201I !MQ13 CSQMDRTC RESET QSTATS DETAILS 902
902 QSTATS(CICS01.INITQ)
902 QSGDISP(QMGR)
902 RESETINT(43)
902 HIQDEPTH(0)
902 MSGSIN(0)
902 MSGSOUT(0)
902 END QSTATS DETAILS
12.44.16 STC16696 CSQM201I !MQ13 CSQMDRTC RESET QSTATS DETAILS 903
903 QSTATS(MQ13.DEAD.QUEUE)
903 QSGDISP(QMGR)
903 RESETINT(43)
903 HIQDEPTH(0)
903 MSGSIN(0)
903 MSGSOUT(0)
903 END QSTATS DETAILS
12.44.16 STC16696 CSQM201I !MQ13 CSQMDRTC RESET QSTATS DETAILS 904
904 QSTATS(SYSTEM.ADMIN.ACTIVITY.QUEUE)
904 QSGDISP(QMGR)
904 RESETINT(43)
904 HIQDEPTH(0)
904 MSGSIN(0)
904 MSGSOUT(0)
```

z/OS RESET SMDS

MQSC コマンド RESET SMDS では、特定のアプリケーション構造に関連する 1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットの可用性情報または状況情報を変更します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

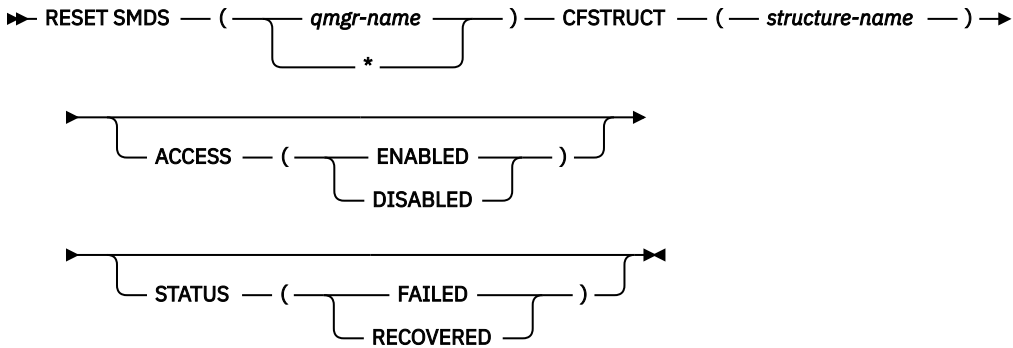
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1271 ページの『RESET SMDS のパラメーターの説明』](#)

同義語:

RESET SMDS



RESET SMDS のパラメーターの説明

このコマンドを使用できるのは、CFSTRUCT 定義で OFFLOAD(SMDS) オプションが現在使用されている場合に限られます。

SMDS(*qmgr-name* | *)

共有メッセージ・データ・セットの可用性情報または状況情報を変更するキュー・マネージャーを指定します。指定する CFSTRUCT に関連するすべてのデータ・セットの情報を変更する場合は、アスタリスクを使用します。

CFSTRUCT(*structure-name*)

1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットの可用性情報または状況情報を変更するカップリング・ファシリティー・アプリケーション構造を指定します。

ACCESS(ENABLED | DISABLED)

このキーワードを使用して共有メッセージ・データ・セットへのアクセスを有効または無効に設定し、共有メッセージ・データ・セットをグループ内のキュー・マネージャーに対して使用可能または使用不可にします。

このキーワードが役立つのは、例えば共有メッセージ・データ・セットを別のボリュームに移動する間、その共有メッセージ・データ・セットを一時的に使用不可にしなければならない場合です。その場合、このキーワードを使用してデータ・セットに ACCESS(DISABLED) のマークを付けると、すべてのキュー・マネージャーがこのデータ・セットを正常にクローズして割り振りを解除します。データ・セットを使用する準備が整った時点で、ACCESS(ENABLED) のマークを付けると、キュー・マネージャーがこのデータ・セットに再びアクセスできるようになります。

ENABLED

以前に無効にされていた共有メッセージ・データ・セットへのアクセスを有効にする場合や、エラーによって可用性の状態が ACCESS(SUSPENDED) に設定された後にアクセスを再試行する場合は、ENABLED パラメーターを使用します。

無効化

共有メッセージ・データ・セットへのアクセスが ENABLED に変更されるまで、共有メッセージ・データ・セットを使用できなくする場合は、DISABLED パラメーターを使用します。現時点で共有メッセージ・データ・セットに接続しているキュー・マネージャーは、切断されます。

STATUS(FAILED | RECOVERED)

このキーワードを使用して、共有メッセージ・データ・セットにリカバリー/修復が必要であることを指定したり、データ・セットの STATUS を FAILED からリセットしたりします。

データ・セットに修復が必要であることを検出した場合には、このキーワードを使用して、そのデータ・セットに手動で STATUS(FAILED) のマークを付けることができます。キュー・マネージャーがデータ・セットに修復が必要であることを検出した場合、そのデータ・セットには自動的に STATUS(FAILED) のマークが付けられます。その後、RECOVER CFSTRUCT を使用してデータ・セットの修復が正常に完了すると、キュー・マネージャーは自動的に STATUS(RECOVERED) のマークを付けます。別のメソッドによってデータ・セットを正常に修復した場合には、このキーワードを使用して、手動でデータ・セットに STATUS(RECOVERED) のマークを付けることができます。手動で ACCESS を変更する必要はあ

りません。このマークは、STATUS が FAILED の間は自動的に SUSPENDED に変更され、STATUS が RECOVERED に設定されると ENABLED に戻ります。

失敗

共有メッセージ・データ・セットの復旧または修復を実行する必要がある、その処理が完了するまで共有メッセージ・データ・セットを使用できなくなる場合は、FAILED パラメーターを使用します。この設定が可能なのは、現在の状況が STATUS(ACTIVE) または STATUS(RECOVERED) の場合に限られます。現在の可用性の状態が ACCESS(ENABLED) であり、同じコマンドでその状態を変更しない場合は、その状態が ACCESS(SUSPENDED) に設定され、共有メッセージ・データ・セットの修復が完了するまで共有メッセージ・データ・セットを使用することができなくなります。現時点で共有メッセージ・データ・セットに接続しているキュー・マネージャーは、そのデータ・セットが閉じられ、割り振りが解除されることによって、強制的に切断されます。共有メッセージ・データ・セットへのアクセスで永久的な入出力エラーが発生した場合や、そのデータ・セットのヘッダー情報が無効だったり、構造の現在の状態と矛盾していたりすることをキュー・マネージャーが検出した場合は、この状況が自動的に設定されます。

RECOVERED

共有メッセージ・データ・セットの復旧が実際には必要ないとき (一時的に使用不能になっただけのときなど) に状態を STATUS(FAILED) からリセットする場合は、RECOVERED パラメーターを使用します。現在の可用性の状態 (同じコマンドで指定されている変更が実行された後の状態) が ACCESS(SUSPENDED) であれば、その状態が ACCESS(ENABLED) に設定され、所有元のキュー・マネージャーが共有メッセージ・データ・セットを開いて、再始動処理を実行できるようになります。その後、状況が STATUS(ACTIVE) に変更され、他のキュー・マネージャーがその共有メッセージ・データ・セットを再び使用できるようになります。

RESET TPIPE

MQSC コマンド RESET TPIPE を使用して、IBM MQ-IMS ブリッジで使用されている IMS Tpipe の復旧可能シーケンス番号をリセットします。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

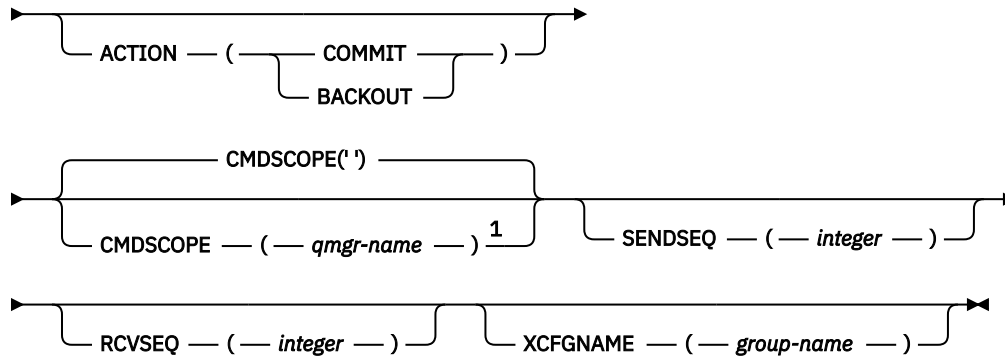
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1273 ページの『使用上の注意』](#)
- [1273 ページの『RESET TPIPE のパラメーターの説明』](#)

同義語: このコマンドの同義語はありません。

RESET TPIPE

► RESET TPIPE — (— *tpipe-name* —) — XCFMNAME — (— *member-name* —) —►



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

使用上の注意

1. これは、メッセージ CSQ2020E で報告される再同期エラーへの応答として使用するコマンドです。このコマンドは Tpipe と IMS の再同期を開始します。
2. キュー・マネージャーが、指定された XCF メンバーと接続していない場合、コマンドは失敗します。
3. キュー・マネージャーが、指定された XCF メンバーと接続している場合、コマンドは失敗しますが、Tpipe はオープンしています。

RESET TPIPE のパラメーターの説明

(*tpipe-name*)

リセットする Tpipe の名前。これは必須です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

ACTION

この Tpipe に関連するリカバリー単位をコミットするかバックアウトするかを指定します。メッセージ CSQ2020E で報告されるようリカバリー単位がある場合は必須ですが、そうでない場合は無視されます。

COMMIT

IBM MQ からのメッセージは、既に IMS に転送されたことが確認されます。つまり、IBM MQ-IMS ブリッジ・キューから削除されます。

BACKOUT

IBM MQ からのメッセージは、バックアウトされます。つまり、IBM MQ-IMS ブリッジ・キューに返されます。

IBM MQ によって送信されるメッセージの Ttype に設定する新規の回復可能順序番号、およびパートナーの受信順序番号として設定される新規の回復可能順序番号。16 進数でなければなりません。長さは最大で 8 桁です。X' ' で囲むこともできます。このパラメーターは任意指定であり、省略するとシーケンス番号は変更されませんが、パートナーの受信シーケンスが IBM MQ の送信シーケンス番号に設定されます。

IBM MQ によって受信されるメッセージの Ttype に設定する新規の回復可能順序番号、およびパートナーの送信順序番号として設定される新規の回復可能順序番号。16 進数でなければなりません。長さは最大で 8 桁です。X' ' で囲むこともできます。このパラメーターは任意指定であり、省略するとシーケンス番号は変更されませんが、パートナーの送信シーケンスが IBM MQ の受信シーケンス番号に設定されます。

Tpipe が属している XCF グループの名前。長さは 1 文字から 8 文字です。このパラメーターは任意指定であり、省略すると、OTMACON システム・パラメーターで指定されているグループ名が使用されます。

XCFGNAME で指定されているグループ (Tpipe が属しているグループ) に含まれている XCF メンバーの名前。長さは 1 文字から 16 文字であり、必須です。

未確定メッセージのコミットまたはバックアウトをチャンネルに要求するには、MQSC コマンド `RESOLVE CHANNEL` を使用します。

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

z/OS 列のシンボルの説明については、z/OS でのコマンドの使用を参照してください。

- ・ [構文図](#)
- ・ [1275 ページの『RESOLVE CHANNEL の使用上の注意』](#)
- ・ [1275 ページの『RESOLVE CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

RESOLVE CHANNEL



- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
² z/OS でのみ有効です。

RESOLVE CHANNEL の使用上の注意

1. このコマンドは、確認期間にリンクの他方のエンドに障害が発生し、何かの理由から接続を再確立できない場合に使用されます。
2. この状況では、メッセージが受信されたかどうかについて、送信側は未確定状態のままです。未解決の作業単位は、バックアウトまたはコミットを行うことで解決しなければなりません。
3. 指定された解決策が受信側の解決策と異なると、メッセージが失われたり、重複したりすることがあります。
4.  z/OS では、コマンド・サーバーおよびチャネル・イニシエーターが稼働している必要があります。
5. このコマンドは、送信側チャネル (SDR)、サーバー・チャネル (SVR)、およびクラスター送信側チャネル (CLUSSDR) でのみ使用できます (自動定義チャネルを含みます)。
6. 同じ名前のローカル定義チャネルと、自動定義クラスター送信側チャネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャネルに適用されます。ローカル定義チャネルは存在しないけれども、複数の自動定義クラスター送信側チャネルが存在する場合、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャネルに適用されます。

RESOLVE CHANNEL のパラメーターの説明

(channel-name)

どのチャネルの未確定メッセージを解決したいかをチャネル名で指定します。これは必須です。

ACTION

未確定メッセージをコミットするか、バックアウトするかを指定します (必須です)。

COMMIT

メッセージはコミットされる。すなわち、メッセージは伝送キューから削除されます。

BACKOUT

メッセージをバックアウトします。つまり、伝送キューに復元します。

CHLDISP

このパラメーターは z/OS にのみ適用され、次の値をとることができます。

- デフォルト
- PRIVATE
- SHARED

このパラメーターを省略した場合は、DEFAULT 値が適用されます。これは、チャネル・オブジェクトのデフォルトのチャネル属性指定属性 DEFCDISP から得られます。

CMDSCOPE パラメーターの種々の値と併せて、このパラメーターは以下の 2 つのタイプのチャネルを制御します。

SHARED

受信チャネルは、キュー共用グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共用されます。

送信側チャネルの伝送キューの属性指定が SHARED の場合、送信側チャネルは共用です。

PRIVATE

受信側チャネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に응答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャネルの伝送キューの属性指定が SHARED 以外の場合、これは専用です。

注: この属性指定は、チャネル定義のキュー共有グループの属性指定により設定された属性指定とは関係ありません。

CHLDISP と CMDSCOPE の各パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャネルを操作するかについても制御されます。指定できるオプションは次のとおりです。

- ・ コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- ・ グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。

CHLDISP と CMDSCOPE の種々の組み合わせについては、以下の表に要約されています。

表 78. RESOLVE CHANNEL における CHLDISP および CMDSCOPE		
CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャンネルを解決します	名前付きキュー・マネージャーの専用チャンネルを解決します
SHARED	アクティブなキュー・マネージャーすべての共有チャンネルを解決します。 これは CMDSCOPE を使用するコマンドを自動的に生成し、それを適切なキュー・マネージャーに送信します。 コマンドの送信先キュー・マネージャー上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されたキュー・マネージャー上のチャンネルの定義は、コマンドが実際に実行される宛先キュー・マネージャーの判別に使用される場合があります。 したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。 チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CHLDISP を SHARED に設定する場合、CMDSCOPE はブランク、つまりローカル・キュー・マネージャーにしなければなりません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。 これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用している場合で、かつコマンド・サーバーが使用可能な場合に限り、キュー・マネージャー名を指定することができます。

z/OS RESOLVE INDOUBT

IBM MQ またはトランザクション・マネージャーによる自動解決ができず、未確定のまま残されているスレッドを解決するには、MQSC コマンド RESOLVE INDOUBT を使用します。

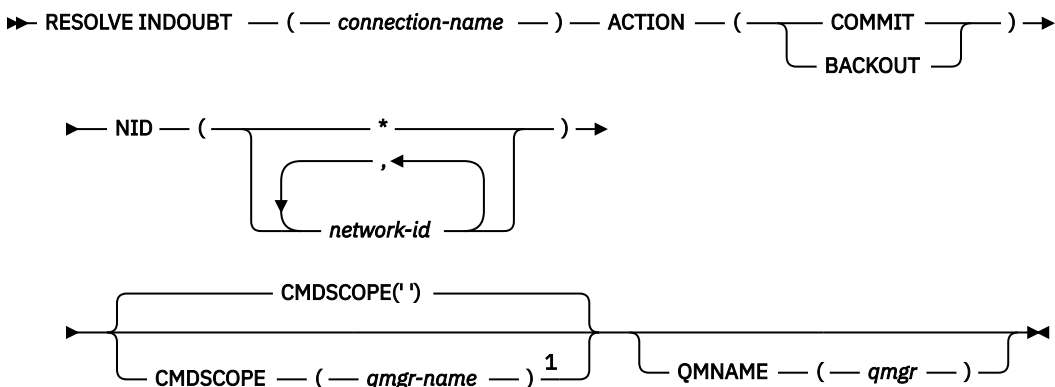
MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

- [構文図](#)
- [1277 ページの『使用上の注意』](#)
- [1277 ページの『RESOLVE INDOUBT のパラメーターの説明』](#)

RESOLVE INDOUBT



¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

このコマンドは、RRS アダプターを使用していない場合は、バッチ・アプリケーションまたは TSO アプリケーションに関連付けられているリカバリー単位には適用されません。

- ・ CICS 接続では、CICS アプリケーション ID です。
- ・ IMS アダプター接続では、IMS 制御領域のジョブ名です。
- ・ IMS ブリッジ接続では、IBM MQ キュー・マネージャー名です。
- ・ RRS 接続では、RRSBATCH です。
- ・ CHIN 接続の場合、これは IBM MQ チャネル・イニシエーター名です。

スレッドをバックアウトします。

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

NID

起点 ID。解決するスレッド (群) を指定します。

(origin-id)

これは DISPLAY CONN コマンドによって戻されるもので、形式は *origin-node. origin-urid* です。ここで、

- *origin-node* は、スレッドの発信元を識別します。ただし、省略される RRSBATCH の場合は除きます。
- *origin-urid* は、特定のスレッドを解決するために開始元のシステムによってリカバリー単位に割り当てられる 16 進数です。

origin-node がある場合は、*origin-urid* との間にピリオド (.) が必要です。

(*)

その接続に関連付けられているすべてのスレッドを解決します。

QMNAME

このパラメーターを指定して、指定されたキュー・マネージャーが INACTIVE の場合に、カップリング・ファシリティが保持している作業単位に関する情報を IBM MQ が検索するようにします。作業単位は指定されたキュー・マネージャーによって実行されますが、これは接続名および起点 ID に一致するものです。

一致する作業単位は、指定した ACTION に従ってコミットされるかまたはバックアウトされます。

作業単位の共有部分だけが、このコマンドによって解決されます。

キュー・マネージャーは必然的に非アクティブになるので、キュー・マネージャーが再始動するか、または再始動後にトランザクション・マネージャーに接続するまで、ローカル・メッセージは影響を受けず、ロックされた状態になります。

例：

```
RESOLVE INDOUBT(CICSA) ACTION(COMMIT) NID(CICSA.ABCDEF0123456789)
RESOLVE INDOUBT(CICSA) ACTION(BACKOUT) NID(*)
```

RESUME QMGR

ローカル・キュー・マネージャーが再び処理に使用できるようになり、これにメッセージを送信できることをクラスター内の他のキュー・マネージャーに通知するには、MQSC コマンド RESUME QMGR を使用します。これは、SUSPEND QMGR コマンドの逆のアクションです。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

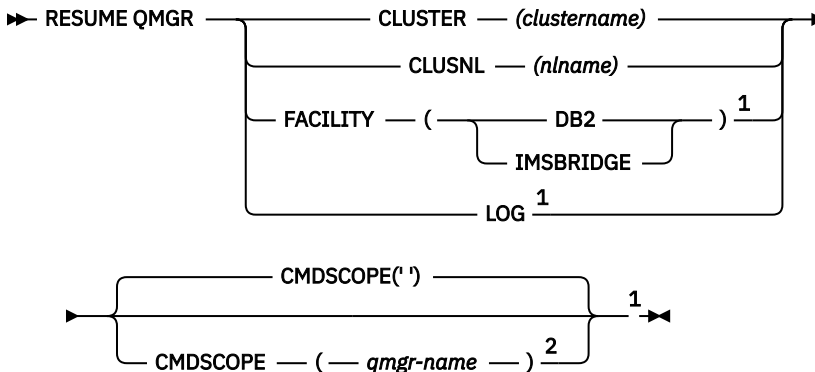
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	1279 ページの『z/OS 上での RESUME QMGR の使用』 を参照してください。

- [構文図](#)

- ▶ **z/OS** 1279 ページの『z/OS 上での RESUME QMGR の使用』
- 1279 ページの『使用上の注意』
- 1280 ページの『RESUME QMGR のパラメーターの説明』

同義語: なし

RESUME QMGR



注:

¹ z/OS でのみ有効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

z/OS 上での RESUME QMGR の使用

▶ **z/OS**

RESUME QMGR は z/OS で使用できます。コマンドで使用されたパラメーターに応じて、さまざまなソースから発行される可能性があります。この表のシンボルの説明については、641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』を参照してください。

コマンド	コマンドのソース	注
RESUME QMGR CLUSTER/ CLUSNL	CR	チャネル・イニシエーターが稼働していることを確認します。
RESUME QMGR FACILITY	CR	
RESUME QMGR LOG	C	

使用上の注意

- UNIX システムでは、このコマンドは AIX、HP-UX、Linux、および Solaris でのみ有効です。
- z/OS の場合、CLUSTER または CLUSNL を定義すると以下ようになります。
 - チャネル・イニシエーターが開始されていない場合、このコマンドは失敗します。
 - チャネル・イニシエーターが稼働しているシステムのコンソールにすべてのエラーが報告されます。コマンドを発行したシステムには報告されません。
- z/OS では、RESUME QMGR CLUSTER(*clustername*) コマンドおよび RESUME QMGR FACILITY コマンドは CSQINP2 から発行できません。
- WebSphere Application Server に付属の機能が縮小されたタイプの IBM MQ for z/OS では、CLUSTER パラメーターおよび CLUSNL パラメーターを指定してこのコマンドを使用することはできません。

5. z/OS では、SUSPEND QMGR コマンドと RESUME QMGR コマンドは、コンソールからの実行に限りサポートされます。しかし、他のすべての SUSPEND コマンドと RESUME コマンドは、コンソールからの実行とコマンド・サーバーからの実行がサポートされます。

RESUME QMGR のパラメーターの説明

CLUSTER(*clustername*)

再び使用可能になるクラスターの名前。

CLUSNL(*nlname*)

再び使用可能になるクラスターのリストを指定する名前リストの名前。

FACILITY

接続を再確立する機能を指定します。

Db2

Db2 への接続を再確立します。

IMSBRIDGE

通常の IMS ブリッジ・アクティビティを再開します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

LOG

ロギングを再開し、以前の SUSPEND QMGR コマンドによって中断状態になっていたキュー・マネージャーのアクティビティを更新します。z/OS でのみ有効です。LOG を指定する場合、このコマンドは z/OS コンソールからのみ発行できます。

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

RVERIFY SECURITY

指定したすべてのユーザーに再検証フラグを設定するには、MQSC コマンド RVERIFY SECURITY を使用します。次回そのユーザーに関するセキュリティが検査されるときに、そのユーザーは再検証されます。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

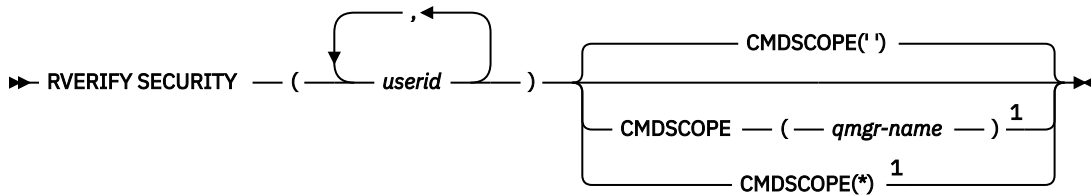
• [構文図](#)

• [1281 ページの『RVERIFY SECURITY のパラメーターの説明』](#)

同義語: REV SEC

REVERIFY SECURITY は RVERIFY SECURITY のもう 1 つの同義語です。

RVERIFY SECURITY



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

RVERIFY SECURITY のパラメーターの説明

(userid...)

1 つ以上のユーザー ID を指定する必要があります。指定された各ユーザー ID は、いったんサインオフされてから、そのユーザーに関連したセキュリティ検査の要求が次に発行されたときに、再びサインオンされます。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS SET ARCHIVE

キュー・マネージャーの始動時にシステム・パラメーター・モジュールによって最初に設定された、特定のアーカイブ・システム・パラメーター値を動的に変更するには、MQSC コマンド SET ARCHIVE を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

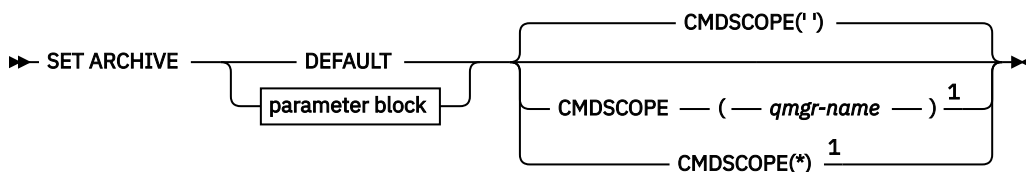
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)

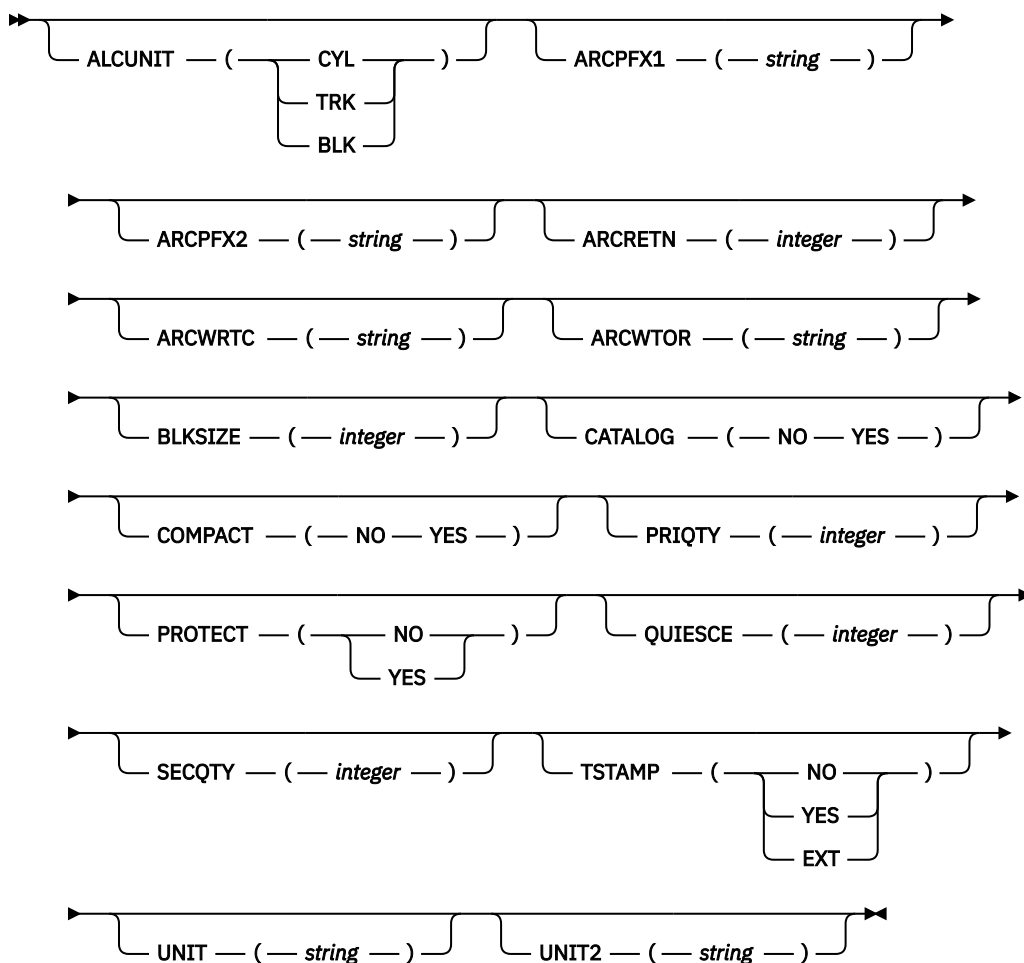
- 1282 ページの『SET ARCHIVE の使用上の注意』
- 1283 ページの『SET ARCHIVE のパラメーターの説明』
- 1283 ページの『パラメーター・ブロック』

同義語: SET ARC

SET ARCHIVE



Parameter Block



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

SET ARCHIVE の使用上の注意

1. 新しい値は、次のアーカイブ・ログのオフロード時に使用されます。
2. キュー・マネージャーは ZPARM の値を取り込むので、前のサイクルで使用した **SET ARCHIVE** 値は失われます。

値を永続的に変更するには、CSQ6SYSP パラメーターを変更してパラメーター・モジュールを再生成するか、または CSQINP2 連結のデータ・セットに **SET ARCHIVE** コマンドを組み込みます。

SET ARCHIVE のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から実行するコマンドで CMDSCOPE(qmgr-name) を使用することはできません。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CSQINP1 から実行するコマンドで CMDSCOPE(*) を使用することはできません。

デフォルト

すべてのアーカイブ・システム・パラメーターを、キュー・マネージャーの始動時に設定された値にリセットします。

パラメーター・ブロック

 これらのパラメーターの詳しい説明については、『[CSQ6ARVP の使用](#)』を参照してください。

パラメーター・ブロックでは、以下のパラメーターのうち、変更するパラメーターを 1 つ以上指定します。

ALCUNIT

1 次および 2 次のスペース割り振りが行われる単位を指定します。

以下のいずれかを指定します。

CYL

シリンダー

TRK

トラック

BLK

ブロック

ARCPFX1

最初の保存ログ・データ・セット名の接頭部を指定します。

データ・セット名の設定方法および ARCPFX1 の長さの制限については、[TSTAMP](#) パラメーターの項を参照してください。

ARCPFX2

2 番目の保存ログ・データ・セット名の接頭部を指定します。

データ・セット名の設定方法および ARCPFX2 の長さの制限については、[TSTAMP](#) パラメーターの項を参照してください。

ARCRETN

アーカイブ・ログ・データ・セットが作成される場合に使用される保存期間を日数で指定します。

このパラメーターは 0 から 9999 の範囲でなければなりません。

 **z/OS** アーカイブ・ログ・データ・セットの廃棄については、[保存ログ・データ・セットの廃棄](#)を参照してください。

ARCWRTC

アーカイブ・ログ・データ・セットに関するオペレーター向けメッセージの z/OS 宛先コードのリストを指定します。

それぞれ 1 以上 16 以下の範囲の値の宛先コードを、14 個まで指定できます。少なくとも 1 つのコードを指定する必要があります。コードとコードの間は、ブランクではなく、コンマで区切ります。

z/OS 宛先コードについて詳しくは、「MVS 宛先コードおよび記述コード」を参照してください。

ARCWTOR

アーカイブ・ログ・データ・セットのマウントを試行する前に、オペレーターにメッセージを送信して応答を受信するかどうかを指定します。

その他の IBM MQ ユーザーは、データ・セットがマウントされるまで強制的に待機させられることがあります。IBM MQ がメッセージへの応答を待機している間は影響を受けません。

次のどちらかを指定します。

YES

装置は、保存ログ・データ・セットが取り付けられるまで、長い時間を必要とします。例えば、テープ装置がこれに該当します。(同義語は **Y** です。)

NO

装置は長時間の遅延を必要としません。例えば、DASD がこれに該当します。(同義語は **N** です。)

BLKSIZE

保存ログ・データ・セットのブロック・サイズを指定します。指定するブロック・サイズは、UNIT パラメーターで指定する装置タイプと互換性がなければなりません。

このパラメーターは 4 097 から 28 672 の範囲でなければなりません。指定した値は 4 096 の倍数に切り上げられます。

ストレージ管理サブシステム (SMS) によって管理されるデータ・セットの場合、このパラメーターは無視されます。

CATALOG

アーカイブ・ログ・データ・セットを 1 次統合カタログ機能 (ICF) カタログにカタログ化するかどうかを指定します。

次のどちらかを指定します。

NO

保存ログ・データ・セットはカタログ化されません。(同義語は **N** です。)

YES

保存ログ・データ・セットはカタログ化されます。(同義語は **Y** です。)

COMPACT

保存ログに書き込まれたデータを圧縮するかどうかを指定します。このオプションは、改良データ記録機能 (IDRC) を備えた 3480 または 3490 装置だけに適用されます。この機能がオンになっていると、テープ制御装置のハードウェアは通常よりかなり高い密度でデータを書き込むため、1 つのボリュームにより多くのデータを記録することができます。3480 装置に IDRC 機能または 3490 基本モデル (ただし 3490E は除く) が装備されている場合は、NO を指定します。データを圧縮する場合は、YES を指定します。

次のどちらかを指定します。

NO

データ・セットを圧縮しません。(同義語は **N** です。)

YES

データ・セットを圧縮します。(同義語は **Y** です。)

PRIQTY

DASD データ・セットの 1 次スペース割り振りを ALCUNIT の単位で指定します。

値はゼロより大きくなければなりません。

ログ・データ・セットまたはそれに対応する BSDS のどちらか大きい方をコピーする場合は、この値で十分です。

PROTECT

保存ログ・データ・セットが作成される場合、離散 ESM (外部セキュリティー管理プログラム) プロファイルによってそのデータ・セットが保護されるかどうかを指定します。

次のどちらかを指定します。

NO

プロファイルは作成されません。(同義語は **N** です。)

YES

ログをオフロードする場合、離散データ・セット・プロファイルが作成されます。(同義語は **Y** です。)
YES を指定する場合は、以下の条件を満たしている必要があります。

- ESM 保護は IBM MQ に対して活動状態でなければならない。
- IBM MQ アドレス・スペースに関連しているユーザー ID に、これらのプロファイルを作成する権限が必要である。
- テープに保存している場合、TAPEVOL クラスは活動状態でなければならない。

上記の条件を満たしていない場合、オフロードは失敗します。

QUIESCE

MODE QUIESCE を指定して ARCHIVE LOG コマンドを発行するときに、静止状態が許される最大時間 (秒数) を指定します。

このパラメーターは 1 ～ 999 の範囲でなければなりません。

SECQTY

DASD データ・セットの 2 次スペース割り振りを ALCUNIT の単位で指定します。

パラメーターは 0 より大きくなければなりません。

TSTAMP

保存ログ・データ・セット名にタイム・スタンプを含めるかどうかを指定します。

次のどちらかを指定します。

NO

名前にタイム・スタンプは入りません。(同義語は **N** です。)
保存ログ・データ・セットの名前は、次のように設定されます。

```
arcpfxi.A nnnnnnn
```

この場合、*arcpfxi* は、ARCPFX1 または ARCPFX2 で指定されているデータ・セット名接頭部です。*arcpfxi* は、最大 35 文字を保持することができます。

YES

名前にタイム・スタンプを入れます。(同義語は **Y** です。)
保存ログ・データ・セットの名前は、次のように設定されます。

```
arcpfxi.cydd.T hhmsst.A nnnnnnn
```

この場合、*c* は、1999 年までは「D」、2000 年以降は「E」になります。*arcpfxi* は、ARCPFX1 または ARCPFX2 で指定されているデータ・セット名接頭部です。*arcpfxi* は、最大 19 文字を保持することができます。

EXT

名前にタイム・スタンプを入れます。保存ログ・データ・セットの名前は、次のように設定されます。

```
arcpfxi.D yyyydd.T hhmsst.A nnnnnnn
```

この場合、*arcpfxi* は、ARCPFX1 または ARCPFX2 で指定されているデータ・セット名接頭部です。*arcpfxi* は、最大 17 文字を保持することができます。

単位

保存ログ・データ・セットの最初のコピーの保管に使用する装置の装置タイプまたは装置名を指定します。

装置タイプまたは装置名は 1 から 8 文字で指定します。

DASD に保存する場合は、制限されたボリュームの範囲で総称装置タイプを指定します。

UNIT2

アーカイブ・ログ・データ・セットの 2 番目のコピーの保管に使用する装置の装置タイプまたは装置名を指定します。

装置タイプまたは装置名は 1 から 8 文字で指定します。

このパラメーターがブランクの場合は、UNIT パラメーターの値が使用されます。

SET AUTHREC

プロファイル名と関連付けられた権限レコードを設定するには、MQSC コマンド SET AUTHREC を使用します。

MQSC コマンドの使用

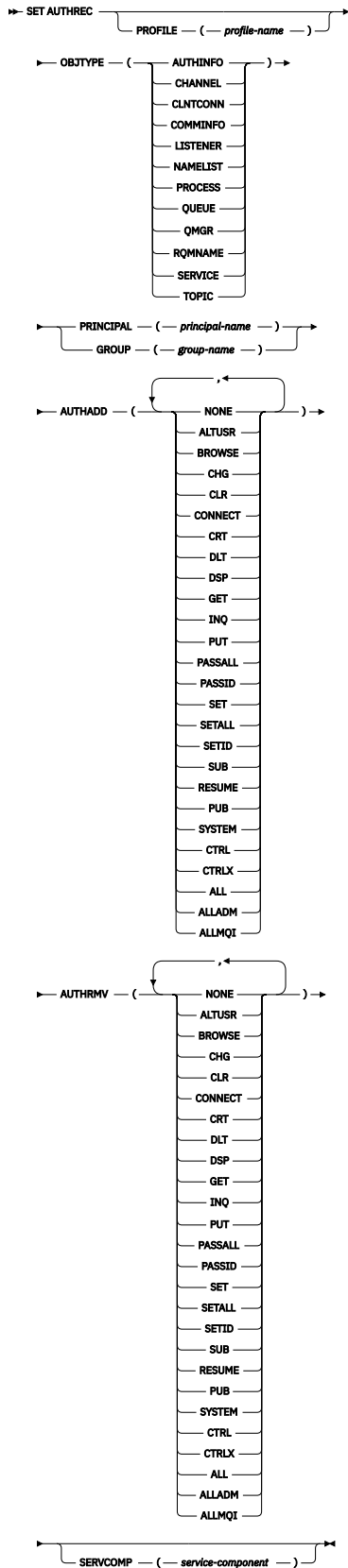
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1288 ページの『パラメーターの説明』](#)
- [SET AUTHREC の使用上の注意](#)

選択できるオプションについて詳しくは、[127 ページの『setmqaut』](#)を参照してください。

SET AUTHREC



パラメーターの説明

PROFILE(profile-name)

権限レコードを表示するオブジェクトまたは総称プロファイルの名前。このパラメーターは必須です。ただし、**OBJTYPE** パラメーターが **QMGR** である場合は省略できます。

総称プロファイルおよびワイルドカード文字について詳しくは、[UNIX、Linux、および Windows の場合システムでの OAM 汎用プロファイルの使用](#)を参照してください。

OBJTYPE

プロファイルが参照するオブジェクトのタイプ。次のいずれかの値を指定します。

AUTHINFO

認証情報レコード

CHANNEL

チャンネル

CLNTCONN

クライアント接続チャンネル

COMMINFO

通信情報オブジェクト

リスナー

リスナー

NAMELIST

名前リスト

PROCESS

プロセス

QUEUE

キュー

QMGR

キュー・マネージャー

RQMNAME

リモート・キュー・マネージャー

SERVICE

サービス

トピック

トピック

PRINCIPAL(principal-name)

プリンシパル名。これは、指定されたプロファイルに権限レコードを設定するユーザーの名前です。IBM MQ for Windows では、オプションとしてプリンシパル名にドメイン・ネームを組み込むことができます (user@domain の形式で指定)。

PRINCIPAL または GROUP のいずれかを指定する必要があります。

GROUP(group-name)

グループ名。これは、指定されたプロファイルに権限レコードを設定するユーザー・グループの名前です。名前は 1 つだけ指定することができ、既存のユーザー・グループの名前でなければなりません。

 IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain
```

PRINCIPAL または GROUP のいずれかを指定する必要があります。

AUTHADD

権限レコードに追加する許可のリスト。以下の値を任意に組み合わせて指定します。

NONE

許可はありません。

ALTUSR

MQI 呼び出しで代替ユーザー ID を指定します。

BROWSE

BROWSE オプションを指定した **MQGET** 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出します。

CHG

指定したオブジェクトの属性を、該当するコマンド・セットを使用して変更します。

CLR

キューまたはトピックをクリアします。

CONNECT

MQCONN 呼び出しを発行することにより、アプリケーションをキュー・マネージャーに接続します。

CRT

指定のタイプのオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して作成します。

DLT

指定のオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して削除します。

DSP

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を表示します。

GET

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出します。

INQ

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューについて照会します。

PUT

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込みます。

PASSALL

すべてのコンテキストを受け渡し

PASSID

アイデンティティ・コンテキストを渡します。

SET

MQSET 呼び出しを発行して、キューに属性を設定します。

SETALL

キューにすべてのコンテキストを設定します。

SETID

キューにアイデンティティ・コンテキストを設定します。

SUB

MQSUB 呼び出しを使用して、トピックへのサブスクリプションを作成、変更、または再開します。

RESUME

MQSUB 呼び出しを使用して、サブスクリプションを再開します。

PUB

MQPUT 呼び出しを使用して、トピックにメッセージをパブリッシュします。

SYSTEM

キュー・マネージャーに対して特権操作を実行する権限のあるプリンシパルまたはグループに、内部システム操作の権限を付与します。

CTRL

指定のチャンネル、リスナー、またはサービスを開始および停止します。さらに、指定のチャンネルを ping します。

CTRLX

指定のチャンネルをリセットまたは解決します。

ALL

オブジェクトに関係のあるすべての操作を使用します。

all 権限は、alladm、allmqi、および system の権限のうち、そのオブジェクト・タイプに該当する権限を合わせたものに相当します。

ALLADM

オブジェクトに関係のあるすべての管理操作を実行します。

ALLMQI

オブジェクトに関係のあるすべての MQI 呼び出しを使用します。

AUTHRMV

権限レコードから削除する許可のリスト。以下の値を任意に組み合わせて指定します。

NONE

許可はありません。

ALTUSR

MQI 呼び出しで代替ユーザー ID を指定します。

BROWSE

BROWSE オプションを指定した **MQGET** 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出します。

CHG

指定したオブジェクトの属性を、該当するコマンド・セットを使用して変更します。

CLR

キューまたはトピックをクリアします。

CONNECT

MQCONN 呼び出しを発行することにより、アプリケーションをキュー・マネージャーに接続します。

CRT

指定のタイプのオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して作成します。

DLT

指定のオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して削除します。

DSP

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を表示します。

GET

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出します。

INQ

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューについて照会します。

PUT

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込みます。

PASSALL

すべてのコンテキストを受け渡し

PASSID

アイデンティティー・コンテキストを渡します。

SET

MQSET 呼び出しを発行して、キューに属性を設定します。

SETALL

キューにすべてのコンテキストを設定します。

SETID

キューにアイデンティティー・コンテキストを設定します。

SUB

MQSUB 呼び出しを使用して、トピックへのサブスクリプションを作成、変更、または再開します。

RESUME

MQSUB 呼び出しを使用して、サブスクリプションを再開します。

PUB

MQPUT 呼び出しを使用して、トピックにメッセージをパブリッシュします。

SYSTEM

内部システム操作にキュー・マネージャーを使用します。

CTRL

指定のチャンネル、リスナー、またはサービスを開始および停止します。さらに、指定のチャンネルを ping します。

CTRLX

指定のチャンネルをリセットまたは解決します。

ALL

オブジェクトに関係のあるすべての操作を使用します。

all 権限は、**alladm**、**allmqi**、および **system** の権限のうち、そのオブジェクト・タイプに該当する権限を合わせたものに相当します。

ALLADM

オブジェクトに関係のあるすべての管理操作を実行します。

ALLMQI

オブジェクトに関係のあるすべての **MQI** 呼び出しを使用します。

注 : **SETID** 権限または **SETALL** 権限を使用するには、該当するキュー・オブジェクトとキュー・マネージャー・オブジェクトの両方に関する許可を付与する必要があります。

SERVCOMP(service-component)

設定する情報の対象となる許可サービスの名前。

このパラメーターを指定する場合、許可が適用される許可サービスの名前を指定します。このパラメーターを省略すると、許可サービスのチェーニング規則に従って、登録した許可サービスを使用して権限レコードが設定されます。

SET AUTHREC の使用上の注意

追加する許可のリストと削除する許可のリストが重複しないようにしてください。例えば、表示権限の追加と表示権限の削除を同じコマンドで行うことはできません。権限が別々のオプションで表されている場合でも、この規則は適用されます。例えば次のようなコマンドは、**DSP** 権限が **ALLADM** 権限と重なり合っているため失敗します。

```
SET AUTHREC PROFILE(*) OBJTYPE(Queue) PRINCIPAL(PRINC01) AUTHADD(DSP) AUTHRMV(ALLADM)
```

この重なり合いの動作の例外は、**ALL** 権限を指定した場合です。以下のコマンドは、最初に **ALL** 権限を追加してから、**SETID** 権限を削除します。

```
SET AUTHREC PROFILE(*) OBJTYPE(Queue) PRINCIPAL(PRINC01) AUTHADD(ALL) AUTHRMV(SETID)
```

以下のコマンドは、まず **ALL** 権限を削除してから、**DSP** 権限を追加します。

```
SET AUTHREC PROFILE(*) OBJTYPE(Queue) PRINCIPAL(PRINC01) AUTHADD(DSP) AUTHRMV(ALL)
```

コマンドで指定されている順序に関係なく、**ALL** が最初に処理されます。

SET CHLAUTH

MQSC コマンド **SET CHLAUTH** では、チャンネル認証レコードを作成/変更します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

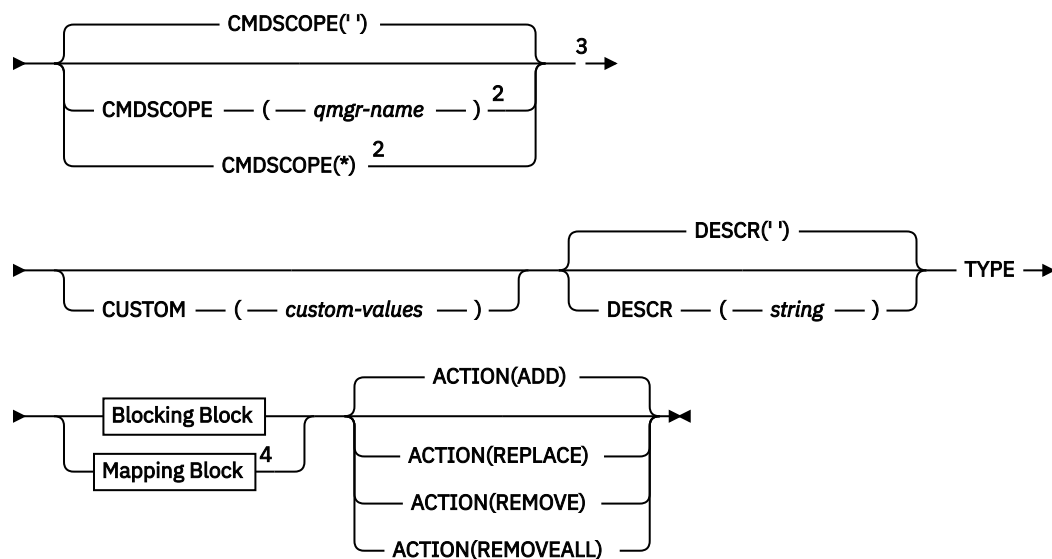
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	2CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

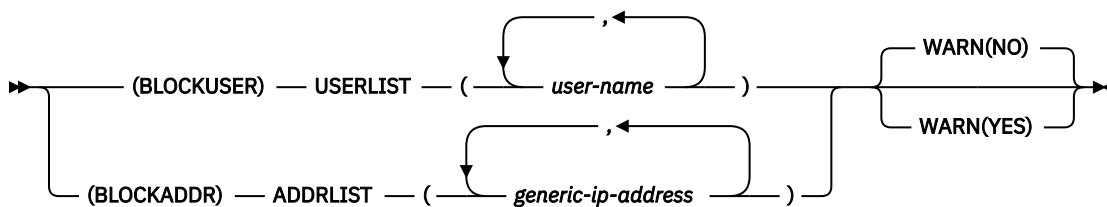
- [構文図](#)
- [使用上の注意](#)
- [パラメーター](#)

SET CHLAUTH

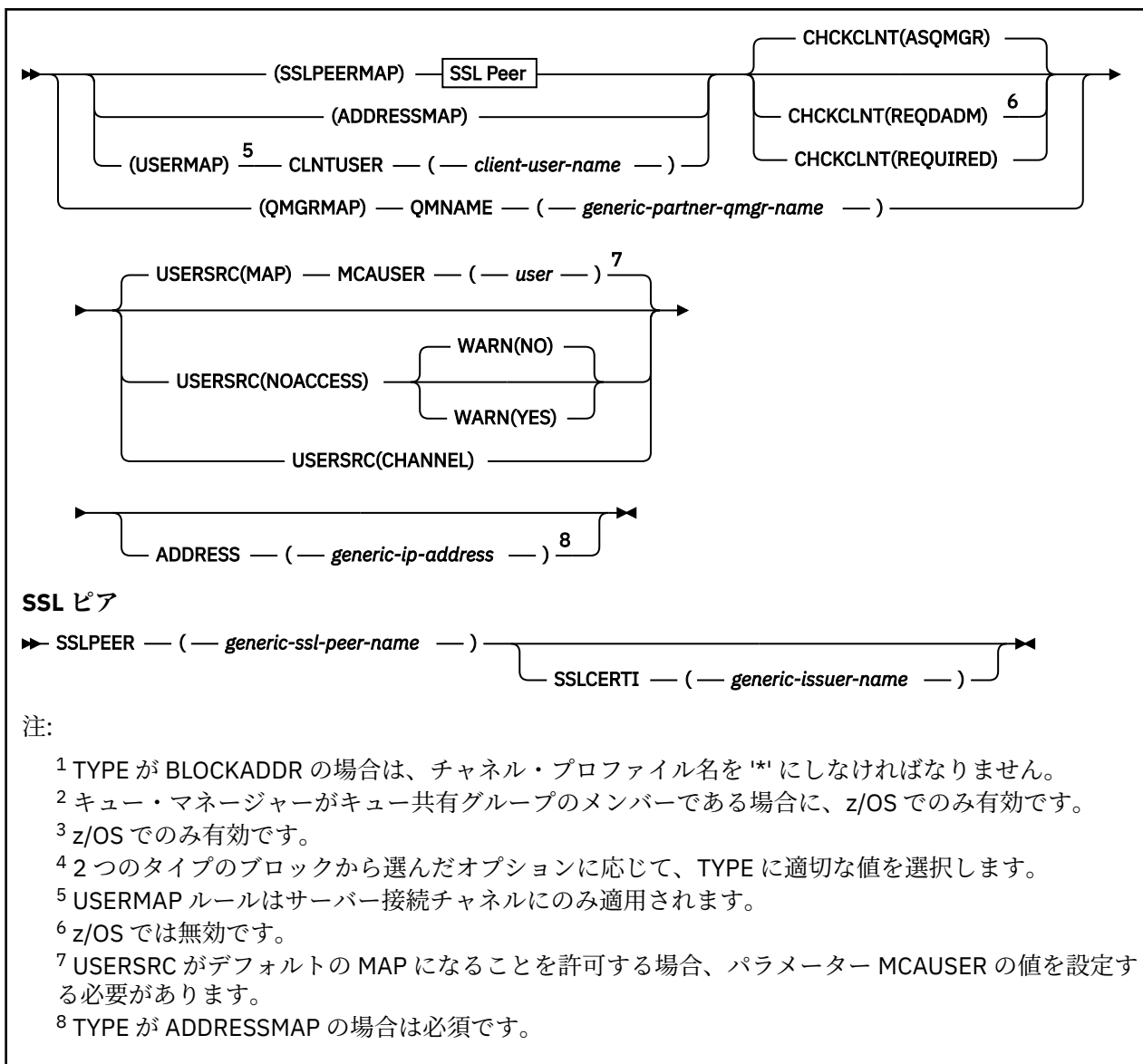
► SET CHLAUTH — (— *チャンネル・プロファイル名* —) ¹►



Blocking Block



Mapping Block



使用上の注意

次の表は、**ACTION** の各値の有効なパラメーターを示しています。

パラメーター	アクション		
	ADD または REPLACE	REMOVE	REMOVEALL
CHLAUTH	✓	✓	✓
タイプ	✓	✓	✓
► z/OS ► z/OS CMDSCOPE	✓	✓	✓
ACTION	✓	✓	✓
ADDRESS	✓	✓	
ADDRLIST	✓	✓	

パラメーター	アクション		
	ADD または REPLACE	REMOVE	REMOVEALL
CHCKCLNT	✓		
CLNTUSER	✓	✓	
MCAUSER	✓		
QMNAME	✓	✓	
SSLCERTI	✓	✓	
SSLPEER	✓	✓	
USERLIST	✓	✓	
USERSRC	✓		
WARN	✓		
DESCR	✓		

次の事項に注意してください。

- CHLAUTH ルールはすべてのチャンネルに使用できます。
- USERMAP ルールはサーバー接続チャンネルに対してのみ有効です。
- チャンネルの MCAUSER のマッピングなどの変更は、チャンネルを開始するときのみ反映されます。

そのため、チャンネルが既に稼働している場合、CHLAUTH ルールの変更を反映するためには、そのチャンネルを停止してから再始動する必要があります。

Parameters

channel-profile-name

チャンネル認証構成を設定するチャンネルまたはチャンネル・セットの名前。チャンネル・セットを指定する場合は、1つ以上のアスタリスク (*) をどの位置でもワイルドカードとして使用できます。 **TYPE** を BLOCKADDR に設定した場合は、1つのアスタリスクだけで総称チャンネル名を設定する必要があります。この場合は、すべてのチャンネル名が一致項目になります。 z/OS では、generic-channel-name にアスタリスクが含まれる場合、引用符で囲む必要があります。

タイプ

channel-profile-name パラメーターの後に、**TYPE** パラメーターを指定する必要があります。

許可されているパートナーの詳細または MCAUSER とのマッピングを設定するチャンネル認証レコードのタイプ。このパラメーターは必須です。以下の値を使用できます。

BLOCKUSER

このチャンネル認証レコードでは、指定されているユーザー (複数可) の接続を禁止します。BLOCKUSER パラメーターを使用する場合は、USERLIST も一緒に使用する必要があります。

BLOCKADDR

このチャンネル認証レコードでは、指定されている IP アドレス (複数可) からの接続を禁止します。BLOCKADDR パラメーターを使用する場合は、ADDRLIST も一緒に使用する必要があります。BLOCKADDR は、チャンネル名が認識される前に、リスナー側で適用されます。

SSLPEERMAP

このチャンネル認証レコードでは、SSL または TLS の識別名 (DN) を MCAUSER 値にマップします。SSLPEERMAP パラメーターを使用する場合は、SSLPEER も一緒に使用する必要があります。

ADDRESSMAP

このチャンネル認証レコードでは、IP アドレスを MCAUSER 値にマップします。ADDRESSMAP パラメーターを使用する場合は、ADDRESS も一緒に使用する必要があります。ADDRESSMAP はチャンネルで適用されます。

USERMAP

このチャンネル認証レコードでは、表明ユーザー ID を MCAUSER 値にマップします。USERMAP パラメーターを使用する場合は、CLNTUSER も一緒に使用する必要があります。

QMGRMAP

このチャンネル認証レコードでは、リモート・キュー・マネージャー名を MCAUSER 値にマップします。QMGRMAP パラメーターを使用する場合は、QMNAME も一緒に使用する必要があります。

ACTION

チャンネル認証レコードで実行する操作。有効な値は、以下のとおりです。

ADD

指定した構成をチャンネル認証レコードに追加します。これはデフォルト値です。

タイプ SSLPEERMAP、ADDRESSMAP、USERMAP、QMGRMAP では、指定した構成が存在すると、コマンドは失敗します。

タイプ BLOCKUSER と BLOCKADDR では、構成がリストに追加されます。

REPLACE

チャンネル認証レコードの現在の構成を置き換えます。

タイプ SSLPEERMAP、ADDRESSMAP、USERMAP、QMGRMAP では、指定した構成が存在すると、その構成が新しい構成に置き換えられます。存在しなければ、追加されます。

タイプ BLOCKUSER と BLOCKADDR では、現在のリストが、指定した構成に置き換えられます。現在のリストが空の場合も、そのような動作になります。現在のリストを空のリストに置き換える場合は、REMOVEALL と同じ動作になります。

REMOVE

指定した構成をチャンネル認証レコードから削除します。その構成が存在しないと、コマンドは失敗します。リストから最後の項目を削除する場合は、REMOVEALL と同じ動作になります。

REMOVEALL

リストのすべてのメンバーを削除します。したがって、レコード全体 (BLOCKADDR と BLOCKUSER の場合) またはすべての定義済みのマッピング (ADDRESSMAP、SSLPEERMAP、QMGRMAP、USERMAP の場合) をチャンネル認証レコードから削除します。このオプションは、**ADDRLIST**、**USERLIST**、**ADDRESS**、**SSLPEER**、**QMNAME** または **CLNTUSER** で指定した特定の値と組み合わせることはできません。指定したタイプに現在の構成がない場合でも、コマンドは正常に実行されます。

ADDRESS



重要: このパラメーターにホスト名を指定できるのは、OPMODE を使用して IBM MQ 8.0 の新機能が有効になっているキュー・マネージャーに限られます。

チャンネルの反対側にあるパートナー・キュー・マネージャーまたはクライアントの IP アドレスまたはホスト名と比較するために使用するフィルター。ホスト名を含むチャンネル認証レコードは、REVDNS(ENABLED) を指定してルックアップするようにキュー・マネージャーが構成された場合にのみ検査されます。ホスト名として使用できる値の詳細は IETF の資料 RFC 952 および RFC 1123 で定義されています。ホスト名のマッチングには、大/小文字の区別がありません。

このパラメーターは、**TYPE (ADDRESSMAP)** を使用する場合は必須になります。

このパラメーターは、**TYPE** が SSLPEERMAP、USERMAP、QMGRMAP のいずれかで、**ACTION** が ADD、REPLACE、REMOVE のいずれかの場合にも有効です。アドレスが異なれば、メイン ID (SSL ピア名など) が同じチャンネル認証オブジェクトを複数定義できます。ただし、メイン ID が同じで、アドレス範囲も重なり合っているチャンネル認証レコードを複数定義することはできません。IP アドレスのフィルター処理の詳細については、[1299 ページの『汎用 IP アドレス』](#)を参照してください。

アドレスが総称の場合、引用符で囲む必要があります。

ADDRLIST

どのチャンネルからでもこのキュー・マネージャーにアクセスすることを禁止する汎用 IP アドレスのリスト (最大 256 個のアドレスを指定できます)。このパラメーターは、TYPE(BLOCKADDR) のみ有効です。IP アドレスのフィルター処理の詳細については、[1299 ページの『汎用 IP アドレス』](#)を参照してください。

アドレスが総称の場合、引用符で囲む必要があります。

CHCKCLNT

この規則に一致し、かつ **USERSRC(CHANNEL)** または **USERSRC(MAP)** で許可されている接続において、有効なユーザー ID とパスワードも指定する必要があるかどうかを指定します。パスワードでは単一引用符 (') を使用できません。



重要: このパラメーターは、OPMODE を使用して IBM MQ 8.0 の新機能が有効になっているキュー・マネージャーのみで有効です。

REQDADM

特権が付与されたユーザー ID を使用して接続の許可を得るには、有効なユーザー ID とパスワードが必要になります。パスワードでは単一引用符 (') を使用できません。

特権なしのユーザー ID を使用する接続の場合、ユーザー ID とパスワードを提供する必要はありません。ユーザー ID とパスワードは、認証情報オブジェクトで提供され、また **ALTER QMGR** の **CONNAUTH** フィールドで提供されるユーザー・リポジトリの詳細に対して検査されます。ユーザー・リポジトリの詳細が提供されない場合、キュー・マネージャーでのユーザー ID とパスワードの検査が有効にならないため、接続は成功しません。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。



このオプションは、z/OS プラットフォームでは無効です。

REQUIRED

接続の許可を得るには、有効なユーザー ID とパスワードが必要になります。パスワードでは単一引用符 (') を使用できません。

ユーザー ID とパスワードは、認証情報オブジェクトで提供され、また **ALTER QMGR** の **CONNAUTH** フィールドで提供されるユーザー・リポジトリの詳細に対して検査されます。ユーザー・リポジトリの詳細が提供されない場合、キュー・マネージャーでのユーザー ID とパスワードの検査が有効にならないため、接続は成功しません。

ASQMGR

接続の許可を得るには、キュー・マネージャーで定義される接続認証要件を満たす必要があります。

CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供され、**CHCKCLNT** の値が **REQUIRED** である場合、有効なユーザー ID およびパスワードが指定されない限り、接続は失敗します。**CONNAUTH** フィールドで認証情報オブジェクトが提供されない、または **CHCKCLNT** の値が **REQUIRED** ではない場合、ユーザー ID およびパスワードは必要ありません。



重要: **REQUIRED** または **REQDADM**  (z/OS 以外のプラットフォームの場合) を選択し、キュー・マネージャーに **CONNAUTH** フィールドを設定していないか、**CHCKCLNT** の値が **NONE** である場合、接続は失敗します。AMQ9793  z/OS 以外のプラットフォームの場合はメッセージ CSQX793E、z/OS の場合はメッセージ。というメッセージが表示されます。

このパラメーターは、**TYPE(USERMAP)**、**TYPE(ADDRESSMAP)**、および **TYPE(SSLPEERMAP)** が指定され、かつ **USERSRC** が **NOACCESS** に設定されていない場合のみ、有効になります。これは、SVRCONN チャンネルとなるインバウンド接続にのみ適用されます。

この属性を使用する規則の例を以下に示します。

- 定義されたネットワークでは誰でも、有効なパスワードを提供すれば表明ユーザー ID を使用できます。

```
SET CHLAUTH('*SVRCONN') +  
  TYPE(ADDRESSMAP) ADDRESS('192.0.2.*') +  
  USERSRC(CHANNEL) CHCKCLNT(REQUIRED)
```

- この規則によって、キュー・マネージャーで設定されたポリシーに従って、クライアント認証の処理前に SSL 認証が成功しなければならなくなります。

```
SET CHLAUTH('SSL.APP1.SVRCONN') +  
  TYPE(SSLPEERMAP) SSLPEER('CN="Steve Smith", L="BankA"') +  
  MCAUSER(SSMITH) CHCKCLNT(ASQMGR)
```

CLNTUSER

クライアント表明のユーザー ID。これは、新規ユーザー ID にマップされるか、未変更で許可されるか、またはブロックされます。

これには、クライアント・サイド・プロセスの実行に使用されるユーザー ID を示すクライアントからフローされたユーザー ID、または MQCSP を使用する MQCONNX 呼び出しに基づいてクライアントが提示するユーザー ID のいずれかを指定できます。

ストリングの最大長は MQ_CLIENT_USER_ID_LENGTH です。

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

!!

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

カスタム

今後の使用のために予約されています。

DESCR

DISPLAY CHLAUTH コマンドの実行時に表示されるチャンネル認証レコードの記述情報を指定します。表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

注: このキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) の文字を使用してください。他の文字を使用すると、情報が他のキュー・マネージャーに送信されたときに、正しく変換されない可能性があります。

MCAUSER

インバウンド接続が、SSL または TLS DN、IP アドレス、クライアント表明ユーザー ID、リモート・キュー・マネージャー名の指定値と一致するときに使用するユーザー ID。

このパラメーターは、**USERSRC(MAP)** を使用する場合は必須になります。**TYPE** が SSLPEERMAP、ADDRESSMAP、USERMAP、QMGRMAP のいずれかの場合にも有効です。

小文字のユーザー ID を使用する場合は、引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

```
SET CHLAUTH('SYSTEM.DEF.SVRCONN') TYPE(USERMAP) CLNTUSER('johndoe') +  
  USERSRC(MAP) MCAUSER(JOHNDOE1) +
```



```
ADDRESS('::FFFF:9.20.4.136') +  
DESCR('Client from z/Linux machine') +  
ACTION(REPLACE)
```

こうすることで、小文字のユーザー ID は IP アドレス ::FFFF:9.20.4.136 でチャンネル SYSTEM.DEF.SVRCONN を使用できるようになります。接続の MCA ユーザーは JOHND0E1 です。

チャンネルのチャンネル状況 (CHS) を表示すると、出力は MCAUSER (JOHND0E1) になります。

このパラメーターを使用できるのは、**ACTION** が ADD または REPLACE の場合に限られます。

QMNAME

ユーザー ID にマップするか、ブロックするリモート・パートナー・キュー・マネージャーの名前、または一連のキュー・マネージャー名に対応するパターン。

このパラメーターは、**TYPE(QMGRMAP)** でのみ有効です。

キュー・マネージャーの名前が総称の場合、引用符で囲む必要があります。

SSLCERTI



重要: このパラメーターは、OPMODE を使用して IBM MQ 8.0 の新機能が有効になっているキュー・マネージャーのみで有効です。

このパラメーターは、**SSLPEER** パラメーターに追加で指定します。

SSLCERTI は、特定の認証局によって発行される証明書内に存在するものに一致する対象を制限します。

ブランクの **SSLCERTI** はワイルドカードのように機能し、すべての発行者識別名に一致します。

SSLPEER

チャンネルの反対側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントの証明書のサブジェクト識別名と比較するために使用するフィルター。

SSLPEER フィルターは、識別名を指定するために使用する標準形式で指定します。詳細については、[SSLPEER 値についての IBM MQ の規則](#)を参照してください。

このパラメーターの最大長は 1024 バイトです。

USERLIST

このチャンネルまたは一連のチャンネルの使用を禁止するユーザー ID のリスト (最大 100 個のユーザー ID を指定できます)。特権ユーザーまたは管理ユーザーを指定するために、*MQADMIN という特殊値を使用することもできます。この値の定義は、以下のように、オペレーティング・システムによって異なります。

- Windows では、mqm グループ、Administrators グループのすべてのメンバーと、SYSTEM。
- UNIX および Linux では、mqm グループのすべてのメンバー。
- IBM i では、プロファイル (ユーザー) qmqm と qmqmadm、qmqmadm グループのすべてのメンバー、*ALLOBJ 特殊設定で定義されているすべてのユーザー。
-  z/OS では、チャンネル・イニシエーター、キュー・マネージャー、拡張メッセージ・セキュリティのアドレス・スペースの実行に使用されているユーザー ID。

特権ユーザーについて詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

このパラメーターは、**TYPE(BLOCKUSER)** でのみ有効です。

USERSRC

実行時に MCAUSER として使用するユーザー ID のソース。有効な値は、以下のとおりです。

MAP

このマッピングに合致するインバウンド接続は、**MCAUSER** 属性で指定されているユーザー ID を使用します。これはデフォルト値です。

NOACCESS

このマッピングに合致するインバウンド接続は、キュー・マネージャーにアクセスできません。チャンネルはすぐに終了します。

CHANNEL

このマッピングに合致するインバウンド接続は、送られてくるユーザー ID、またはチャンネル・オブジェクトの MCAUSER フィールドで定義されているユーザーを使用します。

WARN と USERSRC(CHANNEL) は同時に指定できず、WARN と USERSRC(MAP) も同時に指定できないことに注意してください。その理由は、これらのケースではチャンネル・アクセスがブロックされることがなく、警告を生成する必要がないからです。

WARN

このレコードを警告モードで実行するかどうかを指定します。

NO

このレコードは警告モードでは機能しません。このレコードに合致するインバウンド接続はブロックされます。これはデフォルト値です。

YES

このレコードは警告モードで機能します。このレコードに合致する (したがってブロックされるはずの) インバウンド接続は、アクセスを許可されます。チャンネル・イベントが構成されている場合は、ブロックされるはずだった接続の詳細を示すチャンネル・イベント・メッセージが作成されます。チャンネルのブロックを参照してください。接続は続行可能です。インバウンド・チャンネルの資格情報を設定した WARN(NO) のレコードがほかにあるかどうかを検索されます。

メッセージ AMQ9787 を生成する場合は、qm.ini ファイルの [Channels](#) スタンザに **ChlauthIssueWarn=y** を追加する必要があります。

関連情報

[チャンネル認証レコード](#)

[キュー・マネージャーへのリモート接続の保護](#)

汎用 IP アドレス

チャンネル認証レコードを作成および表示する各種コマンドでは、単一の IP アドレスか IP アドレスのセットに対応するパターンのどちらかで特定のパラメーターを指定できます。

MQSC コマンド SET CHLAUTH または PCF コマンド Set Channel Authentication Record を使用してチャンネル認証レコードを作成するときに、さまざまなコンテキストで汎用 IP アドレスを指定できます。コマンド DISPLAY CHLAUTH または Inquire Channel Authentication Records を使用してチャンネル認証レコードを表示するときに、フィルター条件に総称 IP アドレスを指定することもできます。

以下のいずれかの方法でアドレスを指定できます。

- 単一の IPv4 アドレス (例えば 192.0.2.0)
- ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含む IPv4 アドレスに基づくパターン。ワイルドカードは、コンテキストに応じてアドレスの 1 つ以上の部分を表します。例えば、以下はすべて有効な値です。
 - 192.0.2.*
 - 192.0.*
 - 192.0.*.2
 - 192.*.2
 - *
- 範囲を示すハイフン (-) を含む IPv4 アドレスに基づくパターン (例: 192.0.2.1-8)。
- アスタリスクとハイフンの両方を含む IPv4 アドレスに基づくパターン (例: 192.0.*.1-8)。
- 単一の IPv6 アドレス (例: 2001:DB8:0:0:0:0:0:0)。
- ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を含む IPv6 アドレスに基づくパターン。ワイルドカードは、コンテキストに応じてアドレスの 1 つ以上の部分を表します。例えば、以下はすべて有効な値です。
 - 2001:DB8:0:0:0:0:0:*

- 2001:DB8:0:0:0:*
- 2001:DB8:0:0:0:*:0:1
- 2001:*:1
- *

- 範囲を示すハイフン (-) を含む IPv6 アドレスに基づくパターン (例: 2001:DB8:0:0:0:0:0-8)。
- アスタリスクとハイフンの両方を含む IPv6 アドレスに基づくパターン (例: 2001:DB8:0:0:0:*:0:0-8)。

使用するシステムが IPv4 と IPv6 の両方をサポートしている場合は、どちらのアドレス・フォーマットも使用できます。IBM MQ は IPv6 内の IPv4 個のマップされたアドレスを認識します。

以下のような特定のパターンは無効です。

- 末尾に単一のアスタリスクを付けたパターンでない限り、パターンを構成するパートの数を所定の必須パート数よりも少なくすることはできません。例えば、192.0.2 は無効ですが、192.0.2.* は有効です。
- 末尾のアスタリスクは、適切な分離文字 (IPv4 の場合はドット (.), IPv6 の場合はコロン (:)) を使用して、アドレスの他の部分から切り離す必要があります。例えば、「192.0*」というパターンは、アスタリスクが他のパートと分けられていないため無効です。
- 末尾のアスタリスクに隣接していないかぎり、パターンに追加のアスタリスクを含めることができます。例えば、192.*.2.* は有効ですが、192.0.** 無効です。
- IPv6 アドレス・パターンに、二重のコロンと末尾のアスタリスクを指定することはできません。解釈されるアドレスがあいまいになるためです。例えば、2001::* は、2001:0000:*, 2001:0000:0000:* などと拡張解釈することができます。

関連情報

[MCAUSER ユーザー ID への IP アドレスのマッピング](#)

z/OS SET LOG

MQSC コマンド SET LOG では、キュー・マネージャーの始動時にシステム・パラメーター・モジュールによって最初に設定された特定のログ・システム・パラメーター値を動的に変更します。

MQSC コマンドの使用

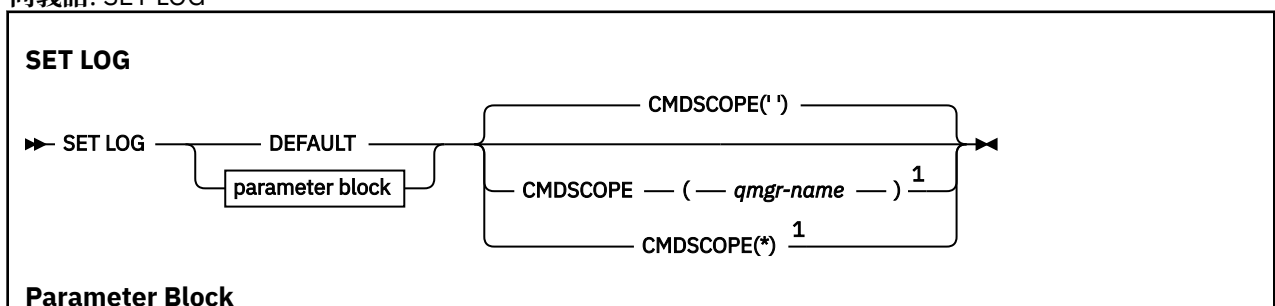
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

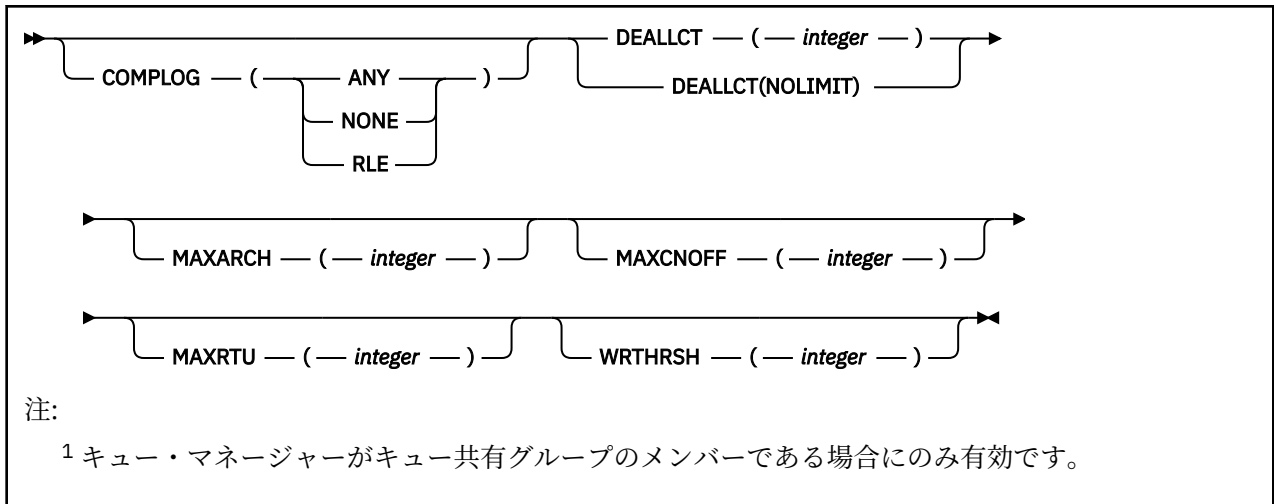
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1301 ページの『SET LOG の使用上の注意』](#)
- [1301 ページの『SET LOG のパラメーターの説明』](#)
- [1301 ページの『パラメーター・ブロック』](#)

同義語: SET LOG





SET LOG の使用上の注意

1. WRTHRS の変更は、すぐに有効になります。
2. MAXARCH の変更は、スケジュールに基づく次のオフロードで有効になります (コマンドを実行した時点で進行していたオフロードではありません)。

SET LOG のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

■

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できるのは、キュー共有グループ環境を使用していて、コマンド・サーバーが有効になっている場合に限り限られます。最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から実行するコマンドで CMDSCOPE(qmgr-name) を使用することはできません。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CSQINP1 から実行するコマンドで CMDSCOPE(*) を使用することはできません。

デフォルト

すべてのログ・システム・パラメーターを、キュー・マネージャーの始動時に指定された値にリセットします。

パラメーター・ブロック

z/OS これらのパラメーターの詳しい説明については、『CSQ6LOGP の使用』を参照してください。
パラメーター・ブロックでは、以下のパラメーターのうち、変更するパラメーターを 1 つ以上指定します。

COMPLOG

このパラメーターでは、キュー・マネージャーがログ・レコードを書き込むときに圧縮を使用するかどうかを指定します。圧縮したレコードは、現在の COMPLOG の設定とはかかわりなく、自動的に解凍されます。

指定できる値は以下のとおりです。

ANY

キュー・マネージャーが、最大の圧縮率でログ・レコード圧縮を行う圧縮アルゴリズムを選択できるようにします。現在は、このオプションを使用すると RLE 圧縮が行われます。

NONE

ログ・データの圧縮を使用しません。これはデフォルト値です。

RLE

ラン・レングス・エンコード (RLE) を使用してログ・データ圧縮を実行します。



ログ圧縮について詳しくは、[ログ圧縮](#)を参照してください。

DEALLCT

割り振られているアーカイブ読み取りテープ装置が割り振り解除の前に未使用状態でいられる時間の長さを指定します。両方のオプションによって、アーカイブ・テープの読み取りのパフォーマンスを最適化できるように、システムの制約の範囲内で可能な最大値を指定することをお勧めします。

このパラメーターと MAXRTU パラメーターに基づいて、IBM MQ は、磁気テープ装置からアーカイブ・ログを読み取る処理を最適化します。

指定できる値は以下のとおりです。

integer

0 から 1439 の範囲内で最大時間 (分単位) を指定します。0 の場合、磁気テープ装置は直ちに割り振り解除されます。

NOLIMIT または 1440

テープ装置の割り振り解除が行われなくなります。

MAXARCH

BSDS に記録できる保存ログ・ボリュームの最大数を指定します。この数を超えると、再び BSDS の開始位置から記録が始まります。

10 ～ 1000 の範囲の 10 進数を使用してください。

MAXCNOFF

同時ログ・オフロード・タスクの最大数。

1 から 31 までの 10 進数を指定します。値を指定しないと、デフォルトの 31 が適用されます。

アーカイブ・ログが磁気テープ装置に割り振られている場合は、デフォルトより小さい数を設定してください。キュー・マネージャーに同時に割り振ることのできる磁気テープ装置の数には制約がありません。

MAXRTU(integer)

アーカイブ・ログ・テープ・ボリュームを読み取るために割り振ることができる専用テープ装置の最大数を指定します。この値は、アーカイブ・システム・パラメーターで CSQ6LOGP によって設定される MAXRTU の値をオーバーライドします。

このパラメーターと DEALLCT パラメーターに基づいて、IBM MQ は、磁気テープ装置からアーカイブ・ログを読み取る処理を最適化します。

注:

1. 整数値は 1 から 99 の範囲で指定できます。
2. 現在の指定値より大きい数を指定すると、アーカイブ・ログの読み取りのために使用できるテープ装置の最大数が増えます。
3. 現在の指定値より小さい数を指定すると、その新しい値に合わせた調整のために、現時点で使用されていないテープ装置の割り振り解除がすぐに実行されます。アクティブなテープ装置または事前マウントのテープ装置は、割り振られたままになります。

4. 値を小さくした結果としてテープ装置が割り振り解除の候補になるのは、その装置のアクティビティが存在しない場合に限られます。
5. アrchive・テープをマウントするように求められたときに「CANCEL」で応答すると、MAXRTU 値は、テープ装置の現在の数にリセットされます。

例えば、現行値が 10 であっても、7 番目のテープ装置に関する要求に「CANCEL」で応答すると、値は 6 にリセットされます。

WRTHRSH

活動ログ・データ・セットに書き込まれる前に満杯になる 4 KB 出力バッファの数を指定します。

バッファの数が多いほど、書き込みの回数が少なくなり、IBM MQ のパフォーマンスが向上します。コミット点などのような重要なイベントが発生した場合は、この数に達する前にバッファが書き込まれることがあります。

1 ～ 256 の範囲のバッファ数を指定します。

SET POLICY

MQSC コマンド SET POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを設定します。

MQSC コマンドの使用

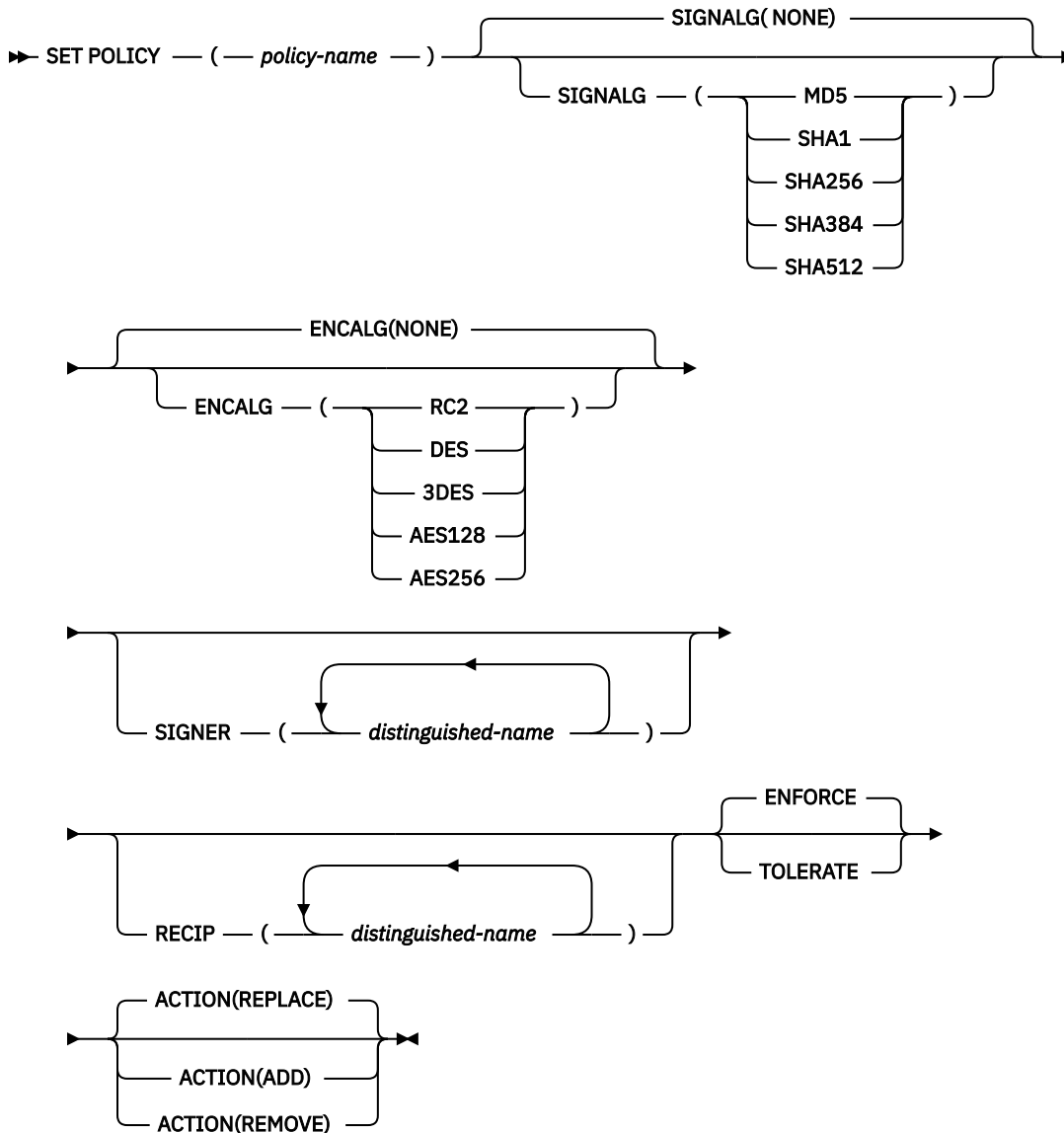
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1304 ページの『SET POLICY のパラメーターの説明』](#)

重要: このコマンドを発行するには、IBM MQ Advanced Message Security (AMS) ライセンスがインストールされている必要があります。AMS ライセンスがインストールされていない場合に **SET POLICY** コマンドを発行しようとすると、メッセージ AMQ7155 (ライセンス・ファイルが見つからないか、または無効です) を受け取ります。

SET POLICY



SET POLICY のパラメーターの説明

(*policy-name*)

ポリシーの名前 (必須)。

ポリシー名は、保護するキューの名前と一致しなければなりません。

SIGNALG

以下のいずれかの値からデジタル署名アルゴリズムを指定します。

- NONE
- MD5
- SHA1
- SHA256
- SHA384
- SHA512

デフォルト値は NONE です。

ENCALG

以下のいずれかの値によるデジタル暗号化アルゴリズムを指定します。

- NONE
- RC2
- DES
- 3DES
- AES128
- AES256

デフォルト値は NONE です。

RECIP (*distinguished-name*)

受信者のメッセージ識別名 (DN)、つまり特定のメッセージの暗号化に使用する DN の証明書を指定します。

注：

1. DN の属性名は、大文字で指定する必要があります。
2. 名前の分離文字としてコンマを使用する必要があります。
3. NONE 以外の暗号化アルゴリズムを使用する場合は、少なくとも 1 つの受信者を指定する必要があります。

同じポリシーに複数の **RECIP** パラメーターを指定できます。

SIGNER (*distinguished-name*)

メッセージの取得時に検証する署名 DN を指定します。指定した DN を持つユーザーが署名したメッセージだけが、取得の際に受け入れられます。

注：

1. DN の属性名は、大文字で指定する必要があります。
2. 名前の分離文字としてコンマを使用する必要があります。
3. NONE 以外の署名アルゴリズムを使用する場合にのみ、署名 DN を指定できます。

同じポリシーに複数の **SIGNER** パラメーターを指定できます。

ENFORCE

キューから取得するときにすべてのメッセージが保護されていないことを指定します。

保護されていないメッセージが検出されると、SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE に移されます。

ENFORCE がデフォルト値です。

TOLERATE

キューから取得されるときに保護されていないメッセージはポリシーを無視できるように指定します。

TOLERATE はオプションです。以下の場合に、段階的な実装を容易にするために存在します。

- ポリシーがキューに適用されたが、それらのキューには保護されていないメッセージが既に含まれている可能性がある場合、または
- ポリシーがまだ設定されていないリモート・システムから、まだキューがメッセージを受け取る可能性がある場合。

ACTION

以下のいずれかの値を使用して、指定したパラメーターを既存のポリシーに適用する場合のアクションを指定します。

REPLACE

既存のポリシーを、指定したパラメーターに置き換えます。

ADD

署名者と受信者のパラメーターは、追加するように作用します。つまり、署名者または受信者を指定した場合、署名者または受信者の値は、既存のポリシー内に存在しなければ、既存のポリシー定義に追加されます。

REMOVE

ADD とは反対に作用します。つまり、指定した署名者や受信者の値が既存のポリシー内に存在している場合、それらの値はポリシー定義から削除されます。

REPLACE がデフォルト値です。

関連資料

1130 ページの『DISPLAY POLICY』

MQSC コマンド DISPLAY POLICY を使用して、セキュリティー・ポリシーを表示します。

149 ページの『setmqspl』

setmqspl コマンドを使用して、新規セキュリティー・ポリシーの定義、既存のセキュリティー・ポリシーの置換、または既存のポリシーの削除を行います。

76 ページの『dspmqspl』

dspmqspl コマンドを使用すると、すべてのポリシーのリスト、および指定したポリシーの詳細を表示できます。

z/OS SET SYSTEM

キュー・マネージャーの始動時にシステム・パラメーター・モジュールから最初に設定された、特定の一般システム・パラメーター値を動的に変更するには、MQSC コマンド SET SYSTEM を使用します。これらを永続的に変更するには、CSQ6SYSP パラメーターを変更してパラメーター・モジュールを再生成するか、または CSQINP2 連結のデータ・セットに SET SYSTEM コマンドを組み込みます。

MQSC コマンドの使用

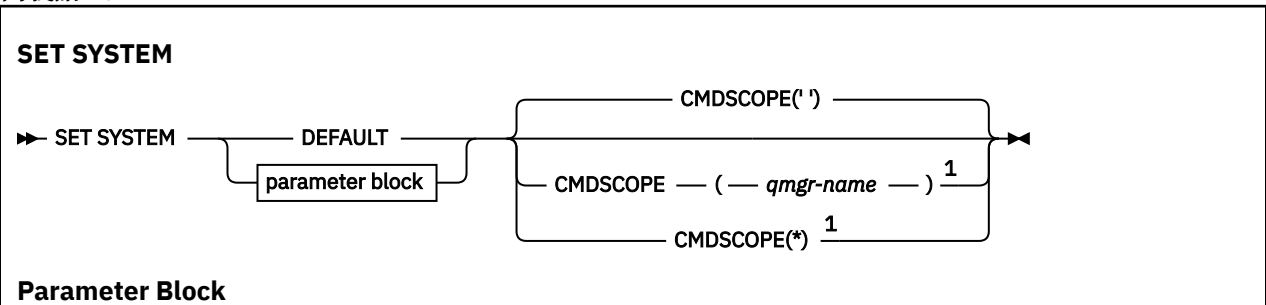
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

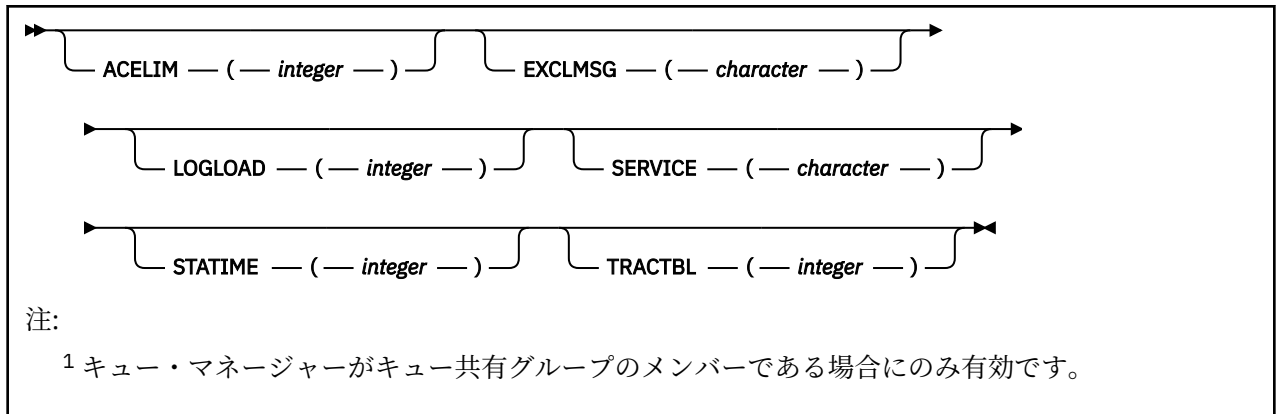
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1307 ページの『SET SYSTEM の使用上の注意』](#)
- [1307 ページの『SET SYSTEM のパラメーターの説明』](#)
- [1308 ページの『パラメーター・ブロック』](#)

同義語: なし





CTHREAD、IDFORE、IDBACK の各パラメーターは、IBM WebSphere MQ 7.1 以降では無視されますが、旧バージョンとの互換性のために残されています。そのいずれかのパラメーターの値を変更しようとすると、デフォルト値の 32767 に設定されます。

SET SYSTEM の使用上の注意

STATIME および TRACTBL を除いて、新しい値はすぐに有効になります。

STATIME への変更は、現在の間隔が満了してから有効になります。ただし、新しい間隔が現在の間隔の残っている期間よりも短い場合は、統計がすぐに収集されて、新しい間隔が有効になります。

TRACTBL の場合は、現時点で有効なトレースがあると、既存のトレース・テーブルが引き続き使用され、サイズも変更されません。新しいグローバル・トレース・テーブルが取得されるのは、新しい START TRACE コマンドの場合に限られます。新しいトレース・テーブルの作成に使用するストレージが十分ではない場合、以前のトレース・テーブルが引き続き使用され、メッセージ CSQW153E が表示されます。

SET SYSTEM のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から実行するコマンドで CMDSCOPE(qmgr-name) を使用することはできません。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CSQINP1 から実行するコマンドで CMDSCOPE(*) を使用することはできません。

デフォルト

すべての一般システム・パラメーターを、キュー・マネージャーの始動時に設定された値にリセットします。

パラメーター・ブロック

 これらのパラメーターの詳しい説明については、『[CSQ6SYSP の使用](#)』を参照してください。
パラメーター・ブロックでは、以下のパラメーターのうち、変更するパラメーターを 1 つ以上指定します。

ACELIM

ACE ストレージ・プールの最大サイズを指定します (1 KB ブロック単位)。この数値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。デフォルト値である 0 は、システムで使用できるサイズ以外の制約は課されないことを意味します。

ACELIM の値は、適正な範囲を超えた量の ECSA ストレージを使用していると見なされているキュー・マネージャーに対してのみ設定する必要があります。ACE ストレージ・プールを制限すると、システム内の接続数が制限されるという影響があるため、キュー・マネージャーで使用される ECSA ストレージの量も制限されます。

キュー・マネージャーが制限に達すると、アプリケーションは新しい接続を取得できなくなります。新しい接続を取得できないと MQCONN の処理が失敗し、RRS によって調整されるアプリケーションは、どの IBM MQ API でも障害が発生する可能性があります。

ACE は、接続のスレッド関連制御ブロックに必要な全体の ECSA の約 12.5% を表します。したがって、例えば ACELIM=5120 を指定すると、キュー・マネージャーによって割り振られる ECSA の総量 (スレッド関連制御ブロックの場合) の上限は、約 40960K; (5120 x 8) になります。

5120K のスレッド関連制御ブロックの場合、キュー・マネージャーによって割り振られる ECSA の総量に上限を設定するには、ACELIM 値 640 が必要です。

統計 CLASS(3) のトレースで生成される SMF 115 サブタイプ 5 のレコードを使用して、「ACE/PEB」ストレージ・プールのサイズをモニターできます。これにより、ACELIM に適切な値を設定できます。

制御ブロック用にキュー・マネージャーが使用している ECSA ストレージの総量は、統計 CLASS(2) トレースで書き込まれる SMF 115 のサブタイプ 7 レコードから求めることができます (QSRSPHBT の最初の 2 つのエレメントを合計したもの)。

ACELIM の設定は、キュー・マネージャーへのアプリケーション接続の制御手段というよりは、z/OS イメージがキュー・マネージャーの誤動作によって影響を受けないよう保護するための手段として検討する必要があります。

EXCLMSG

ログへの書き込み時に除外するメッセージ ID のリストを指定します。このリストにあるメッセージは、z/OS コンソールおよびハードコピー・ログに送られません。そのため、EXCLMSG パラメーターを使用してメッセージを除外する方が、メッセージ処理機能リストなどの z/OS メカニズムを使用するよりも、CPU の観点から見ると効率的です。可能な場合は、代わりにこの方法を使用してください。このリストは動的であり、SET SYSTEM コマンドを使用して更新されます。

デフォルト値は空のリスト () です。

メッセージ ID は、CSQ 接頭部なし、およびアクション・コード接尾部 (I-D-E-A) なしで指定します。例えば、メッセージ CSQX500I を除外するには、このリストに X500 を追加します。このリストには、最大 16 のメッセージ ID を含めることができます。

リストに含める対象にできるメッセージは、MSTR または CHIN アドレス・スペースの正常始動後に発行され、かつ、先頭文字が E、H、I、J、L、M、N、P、R、T、V、W、X、Y、2、3、5、9 のいずれかの文字であるものです。

コマンド処理結果として発行されるメッセージ ID をリストに追加できますが、除外されません。

以下に例を示します。

```
SET SYSTEM EXCLMSG(X511,X512)
```

チャンネルが開始したことを示すメッセージと、チャンネルがアクティブでなくなったことを示すメッセージを抑制します。

LOGLOAD

1つのチェックポイントの開始から次のチェックポイントの開始までの間に IBM MQ が書き込むログ・レコードの数を指定します。IBM MQ は、指定した数のレコードが書き込まれた後で、新しいチェックポイントを開始します。

200 から 16 000 000 の範囲の値を指定してください。

SERVICE

このパラメーターは、IBM が使用するために予約済みです。

STATIME

連続した統計収集と統計収集の間隔を分単位で指定します。

0 から 1440 の範囲の数を指定します。

値ゼロを指定する場合、統計データとアカウンティング・データの両方が SMF データ収集ブロードキャスト時に収集されます。

TRACTBL

グローバル・トレース機能により IBM MQ トレース・レコードが保管されるトレース表のサイズを 4 KB ブロック単位で指定します。

1 ～ 999 の範囲の値を指定してください。

注：トレース表のストレージは ECSA に割り振られます。したがって、この値の選択は慎重に行ってください。

START CHANNEL

チャンネルを開始するには、MQSC コマンド START CHANNEL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

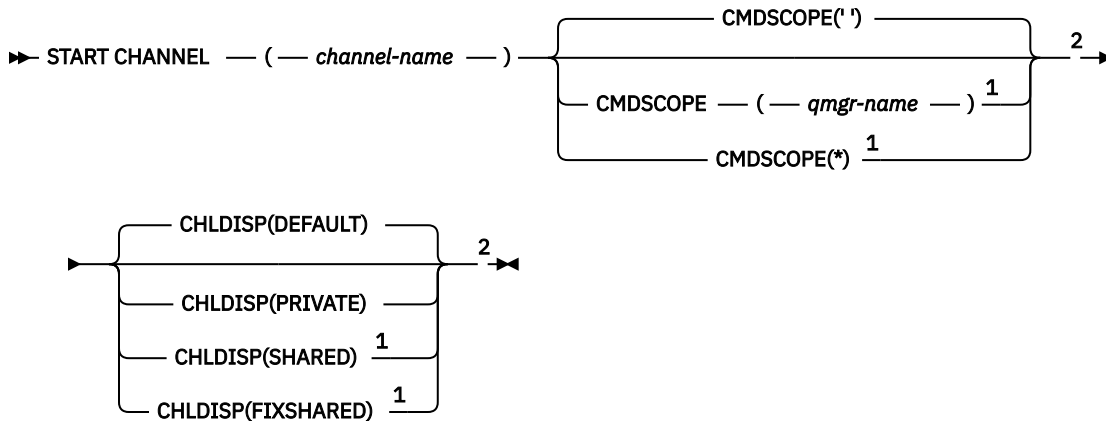
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1310 ページの『使用上の注意』](#)
- [1310 ページの『START CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

同義語: STA CHL

START CHANNEL



注:

- ¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。
- ² z/OS でのみ有効です。

使用上の注意

- z/OS** z/OS では、コマンド・サーバーおよびチャネル・イニシエーターが稼働している必要があります。
- このコマンドは、CLNTCONN チャネル以外のすべてのタイプのチャネルに実行できます (自動的に定義されたチャネルも含みます)。ただし、受信側 (RCVR) チャネル、サーバー接続 (SVRCONN) チャネル、またはクラスター受信側チャネル (CLUSRCVR) にこのコマンドを実行した場合、実行されるのはそのチャネルを使用可能にすることだけで、これを開始することはできません。
- 同じ名前のローカル定義チャネルと、自動定義クラスター送信側チャネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャネルに適用されます。ローカル定義チャネルは存在しないけれども、複数の自動定義クラスター送信側チャネルが存在する場合、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャネルに適用されます。

START CHANNEL のパラメーターの説明

(channel-name)

開始したいチャネル定義の名前。これは、すべてのチャネル・タイプに必須です。既存のチャネルの名前でなければなりません。

z/OS CHLDISP

このパラメーターは z/OS にのみ適用され、次の値をとることができます。

- デフォルト
- PRIVATE
- SHARED
- FIXSHARED

このパラメーターを省略した場合は、DEFAULT 値が適用されます。これは、チャネル・オブジェクトのデフォルトのチャネル属性指定属性 DEFCDISP から得られます。

CMDSCOPE パラメーターの種々の値と併せて、このパラメーターは以下の 2 つのタイプのチャネルを制御します。

SHARED

受信チャネルは、キュー共有グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共有されます。

送信側チャンネルの伝送キューの属性指定が SHARED の場合、送信側チャンネルは共用です。

PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルの伝送キューの属性指定が SHARED 以外の場合、これは専用です。

注: この属性指定は、チャンネル定義のキュー共有グループの属性指定により設定された属性指定とは関係ありません。

CHLDISP と CMDSCOPE の各パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかについても制御されます。指定できるオプションは次のとおりです。

- コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。
- グループ内でアクティブなすべてのキュー・マネージャー。
- グループ内の最も適切なキュー・マネージャー (キュー・マネージャー自体が自動的に判断)。

CHLDISP と CMDSCOPE の種々の組み合わせについては、以下の表に要約されています。

表 79. START CHANNEL における CHLDISP および CMDSCOPE			
CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャンネルとして始動します	名前付きキュー・マネージャーの専用チャンネルとして開始します	アクティブなキュー・マネージャーすべての専用チャンネルとして始動します
SHARED	共有 SDR、RQSTR、および SVR チャンネルでは、グループ内で最適のキュー・マネージャーの共有チャンネルとして始動します。 共有 RCVR および SVRCONN チャンネルでは、チャンネルをアクティブなキュー・マネージャーすべての共有チャンネルとして始動します。 共有 CLUSSDR チャンネルまたは CLUSRCVR チャンネルでは、このオプションは許可されていません。 これは CMDSCOPE を使用するコマンドを自動的に生成し、それを適切なキュー・マネージャーに送信します。キュー・マネージャーのチャンネルにコマンドの送信先が定義されていない場合、または定義がコマンドに不適當である場合、アクションは失敗します。 コマンドが入力されたキュー・マネージャー上のチャンネルの定義は、コマンドが実際に実行される宛先キュー・マネージャーの判別に使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない	許可されない

表 79. START CHANNEL における CHLDISP および CMDSCOPE (続き)

CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
FIXSHARED	ブランクのない CONNAME を持つ共有 SDR、RQSTR、および SVR チャンネルでは、ローカル・キュー・マネージャーの共有チャンネルとして始動します。 他のすべてのタイプでは、このオプションは許可されていません。	ブランクのない CONNAME を持つ共有 SDR、RQSTR、および SVR では、名前付きキュー・マネージャーの共有チャンネルとして始動します。 他のすべてのタイプでは、このオプションは許可されていません。	許可されない

CHLDISP(FIXSHARED) を使用して始動するチャンネルは特定のキュー・マネージャーとつながっています。そのキュー・マネージャーのチャンネル・イニシエーターが何かの理由で停止する場合、チャンネルが同じグループ内の別のキュー・マネージャーによってリカバリーされることはありません。SHARED および FIXSHARED チャンネルについて詳しくは、[共有チャンネルの開始](#)を参照してください。

▶ z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CHLDISP を SHARED に設定する場合、CMDSCOPE はブランク、つまりローカル・キュー・マネージャーにしなければなりません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用している場合で、かつコマンド・サーバーが使用可能な場合に限り、キュー・マネージャー名を指定することができます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CHLDISP に FIXSHARED が指定される場合は、このオプションは許可されていません。

START CHANNEL (MQTT)

IBM MQ Telemetry チャンネルを開始するには、MQSC コマンド START CHANNEL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

START CHANNEL (MQTT) コマンドは、IBM MQ Telemetry チャンネルにのみ使用できます。IBM MQ Telemetry は、AIX、Linux、Windows の各プラットフォームでサポートされています。

同義語: STA CHL

START CHANNEL

➤ START CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE — (— MQTT —) ➤

START CHANNEL のパラメーターの説明

(*channel-name*)

開始したいチャンネル定義の名前。既存のチャンネルの名前でなければなりません。

CHLTYPE

チャンネル・タイプ。値は、MQTT でなければなりません。

START CHINIT

チャンネル・イニシエーターを起動するには、MQSC コマンド START CHINIT を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

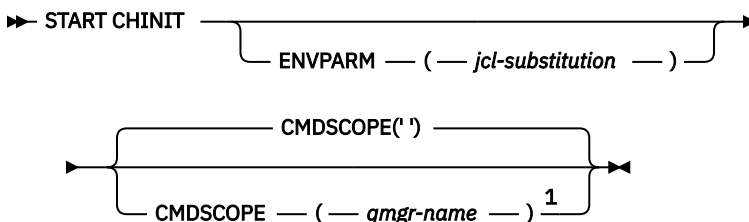
z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1313 ページの『使用上の注意』](#)
- [1314 ページの『START CHINIT のパラメーターの説明』](#)

同義語: STA CHI

構文図

START CHINIT



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

使用上の注意

1. コマンド・サーバーが稼働している必要があります。
2. START CHINIT は CSQINP2 から発行することが許可されていますが、CSQINP2 の処理が終了するまでは、その処理が完了しません(チャンネル・イニシエーターは使用不可です)。これらのコマンドの場合は、代わりに [CSQINPX](#) を使用することを検討してください。

START CHINIT のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

ENVPARM(jcl-substitution)

チャンネル・イニシエーター・アドレス・スペースを開始するために使用される JCL プロシージャ (xxxxCHIN。xxxx はキュー・マネージャー名) の中で置換するパラメーターと値です。

jcl-substitution

単一引用符で囲んだ、keyword=value という形式の 1 つ以上の文字ストリング。複数の文字ストリングを使用するときは、ストリングをコンマで区切り、リスト全体を単一引用符で囲みます。例えば、ENVPARM('HLQ=CSQ,VER=520') のようにします。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

INITQ(string)

これは、チャンネル開始プロセスのための開始キューの名前です。これは、伝送キューの定義に指定された開始キューです。

z/OS での開始キューは、常に SYSTEM.CHANNEL.INITQ です。

関連情報

[別名キューとリモート・キューのコマンド・リソース・セキュリティー検査](#)

z/OS

START CMDSERV

コマンド・サーバーを初期設定するには、MQSC コマンド START CMDSERV を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12C

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1315 ページの『START CMDSERV の使用上の注意』](#)

同義語: STA CS

START CMDSERV ➡ START CMDSERV ➡

START CMDSERV の使用上の注意

1. START CMDSERV はコマンド・サーバーを起動させ、システム・コマンド入力キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT) に書き込まれているコマンド、移動コマンド、および CMDSCOPE を使用するコマンドを処理します。
2. このコマンドを初期設定ファイルを使用して実行するか、キュー・マネージャーに対して作業が解放される前に (つまり、コマンド・サーバーが自動的に起動する 前に) オペレーター・コンソールを介して実行すると、それ以前に STOP CMDSERV コマンドが実行されていても、それは無効になります。キュー・マネージャーは、コマンド・サーバーを ENABLED 状態にし、自動的に起動させます。
3. コマンド・サーバーが STOPPED 状態または DISABLED 状態にあるとき、オペレーター・コンソールを介してこのコマンドを実行すると、コマンド・サーバーが起動して、システム・コマンド入力キューに書き込まれているコマンド、移動コマンド、および CMDSCOPE を使用するコマンドの処理をすぐに開始します。
4. コマンド・サーバーが RUNNING 状態または WAITING 状態にあるとき (このコマンドがコマンド・サーバー自体を介して実行された場合を含みます)、あるいはキュー・マネージャーをクローズするためにコマンド・サーバーが自動的に停止しているときは、このコマンドを実行しても、処置は取られません。コマンド・サーバーは現在の状態を続行し、コマンドの実行元にエラー・メッセージが戻されます。
5. コマンド・メッセージの処理での重大なエラーか、CMDSCOPE パラメーターを使用するコマンドが原因で、コマンド・サーバーが停止した場合、START CMDSERV を使用して、コマンド・サーバーを再起動することができます。

START LISTENER

チャンネル・リスナーを起動するには、MQSC コマンド START LISTENER を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

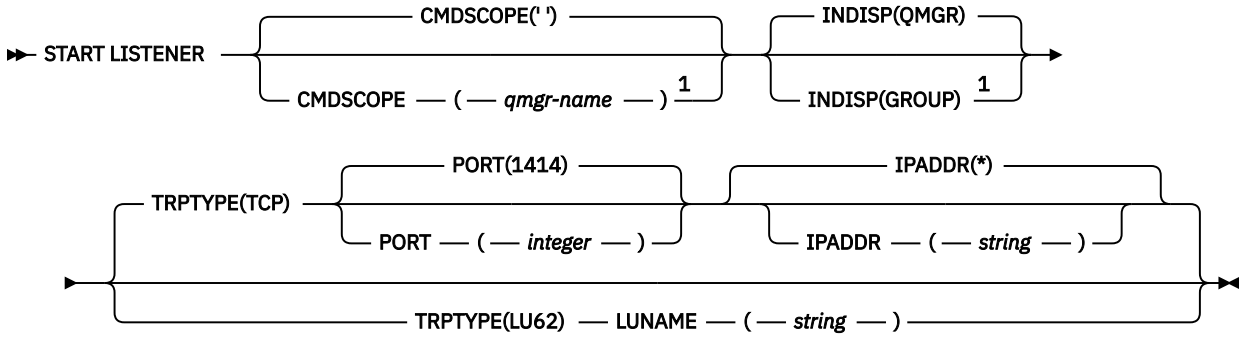
-  [IBM MQ for z/OS の構文図](#)
- [その他のプラットフォームの IBM MQ の構文図](#)
- [1316 ページの『使用上の注意』](#)
- [1316 ページの『START LISTENER のパラメーターの説明』](#)

同義語: STA LSTR

IBM MQ for z/OS



START LISTENER

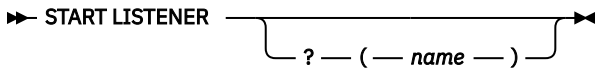


注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

その他のプラットフォームでの IBM MQ

START LISTENER



使用上の注意

1. z/OS: の場合

- コマンド・サーバーとチャネル・イニシエーターが稼働していることが必要です。
- IPADDR が指定されていない場合、リスナーは、使用可能なすべての IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスで listen します。
- TCP/IP の場合、複数のアドレスとポートの組み合わせで listen できます。
- TCP/IP の START LISTENER 要求ごとに、アドレスとポートの組み合わせが、現時点でリスナーが listen している組み合わせのリストに追加されます。
- TCP/IP の START LISTENER 要求で、現時点で TCP/IP リスナーが listen しているアドレスとポートの既存の組み合わせと同じ組み合わせ、またはそのサブセットやスーパーセットを指定すると、その要求は失敗します。
- 特定アドレスでリスナーを始動して、ファイアウォールなどのセキュリティ製品のためのセキュア・インターフェースを提供する場合は、システムに含まれている他の非セキュア・インターフェースと結合しないようにする必要があります。

他の非セキュア・インターフェースからの IP 転送や IP ルーティングを無効にして、他のインターフェースに到着するパケットがその特定アドレスに渡されないようにしてください。

そのための方法については、該当する TCP/IP の資料を参照してください。

- IBM i、UNIX システム、および Windows で、このコマンドが有効なのは伝送プロトコル (TRPTYPE) が TCP のチャネルの場合に限られます。

START LISTENER のパラメーターの説明

(name)

始動するリスナーの名前。このパラメーターを指定する場合は、他のパラメーターを指定できません。

 z/OS 以外のプラットフォームでは、名前を指定しない場合、SYSTEM.DEFAULT.LISTENER.TCP が始動します。

z/OS

このパラメーターは、z/OS では無効です。

z/OS**CMDSCOPE**

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

z/OS**INDISP**

処理するインバウンド伝送の属性指定を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

QMGR

キュー・マネージャーに送信された伝送を listen します。これがデフォルトです。

GROUP

キュー共有グループに宛てられた伝送を listen します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS**IPADDR**

IPv4 ドット 10 進、IPv6 16 進表記、または英数字形式で指定した TCP/IP の IP アドレス。伝送プロトコル (TRPTYPE) が TCP/IP の場合にのみ有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS**LUNAME(string)**

APPC サイド情報データ・セットで指定されている論理装置のシンボリック宛先名。(ALTER QMGR コマンドの LUNAME パラメーターでキュー・マネージャーに対して指定されている LU と同じ LU でなければなりません。)

このパラメーターが有効なのは、伝送プロトコル (TRPTYPE) が LU 6.2 のチャネルの場合に限られます。TRPTYPE(LU62) を指定する START LISTENER コマンドでは、LUNAME パラメーターも指定する必要があります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS**PORT(port-number)**

TCP のポート番号。伝送プロトコル (TRPTYPE) が TCP の場合にのみ有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS**TRPTYPE**

使用するトランスポート・タイプ。これはオプションです。

TCP

TCP TRPTYPE を指定しない場合は、これがデフォルトになります。

LU62

SNA LU 6.2。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS**START QMGR**

キュー・マネージャーを初期設定するには、MQSC コマンド START QMGR を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

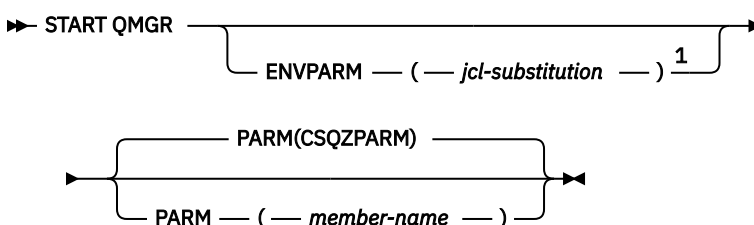
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			C

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1318 ページの『使用上の注意』](#)
- [1318 ページの『START QMGR のパラメーターの説明』](#)

同義語: STA QMGR

START QMGR



注:

¹ MSTR は、ENVPARM の同義語として受け入れられます。

使用上の注意

このコマンドが完了すると、キュー・マネージャーはアクティブになり、CICS、IMS、バッチ、および TSO アプリケーションで使用できます。

START QMGR のパラメーターの説明

これらはオプションです。

ENVPARM(*jcl-substitution*)

JCL プロシージャーで置換されるパラメーターおよび値 (xxxxMSTR、ここで xxxx はキュー・マネージャー名)。これは、キュー・マネージャーのアドレス・スペースを開始するために使用されます。

jcl-substitution

以下の形式の 1 つ以上の文字ストリング。

```
keyword=value
```

単一引用符で囲みます。複数の文字ストリングを使用するときは、ストリングをコンマで区切り、リスト全体を単一引用符で囲みます。例えば、ENVPARM('HLQ=CSQ,VER=520') のようにします。

MSTR は、ENVPARM の同義語として受け入れられます。

PARM(*member-name*)

キュー・マネージャー初期設定パラメーターを含むロード・モジュール。 *member-name* は、インストールにより提供されるロード・モジュールの名前です。

デフォルトは、IBM MQ で提供される CSQZPARM です。

START SERVICE

サービスを開始するには、MQSC コマンド START SERVICE を使用します。識別されたサービス定義はキュー・マネージャー内で開始し、キュー・マネージャーの環境変数とセキュリティ変数を継承します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1319 ページの『START SERVICE のパラメーターの説明』](#)

同義語:

STA サービス

►► START SERVICE — (— *service-name* —) ►►

START SERVICE のパラメーターの説明

(*service-name*)

開始するサービス定義の名前。これは必須です。この名前は、このキュー・マネージャー上の既存のサービスの名前にする必要があります。

サービスが既に実行されており、オペレーティング・システムのタスクがアクティブになっている場合は、エラーが戻されます。

関連情報

[サービスの取り扱い](#)

z/OS START SMDSCONN

このキュー・マネージャーから指定した共有メッセージ・データ・セットへの、以前に停止された接続を使用可能にするには、MQSC コマンド START SMDSCONN を使用します。これにより、共有メッセージ・データ・セットを再度割り振ったり、オープンしたりできるようになります。

MQSC コマンドの使用

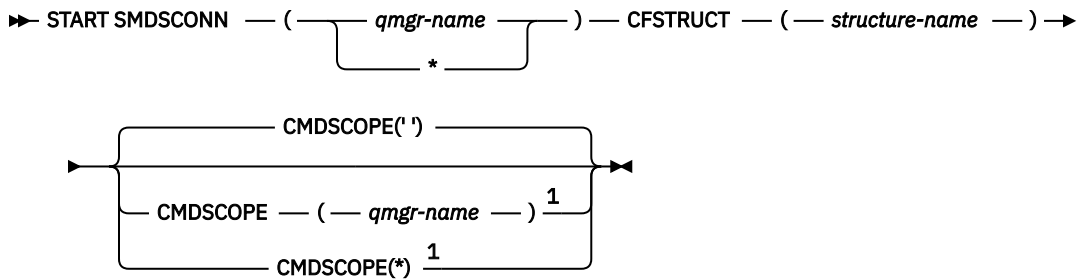
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

- [構文図](#)
- [1320 ページの『START SMDSCONN のパラメーターの説明』](#)

同義語:

START SMDSCONN



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

START SMDSCONN のパラメーターの説明

このコマンドは、以前の STOP SMDSCONN コマンドによって接続が AVAIL(STOPPED) 状態にされた後に使用されます。このコマンドを使用して、以前のエラーの後に AVAIL(ERROR) 状態にある接続を再試行するよう、キュー・マネージャーに通知することもできます。

SMDSCONN(qmgr-name | *)

接続を開始する共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを指定するか、アスタリスクを1つ指定して、指定した構造体に関連付けられているすべての共有メッセージ・データ・セットへの接続を開始します。

CFSTRUCT(structure-name)

共有メッセージ・データ・セットの接続を開始する構造体名を指定します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS START TRACE

MQSC コマンド START TRACE では、トレースを開始します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

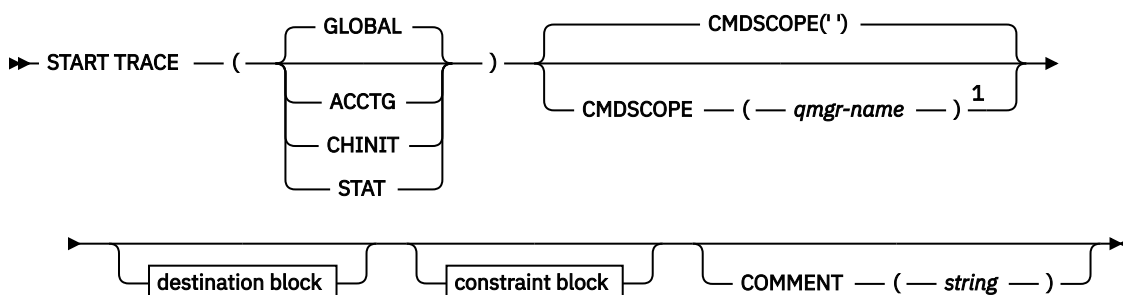
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

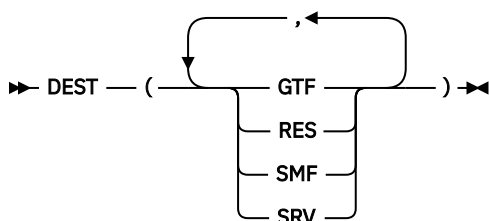
- [構文図](#)
- [1322 ページの『使用上の注意』](#)
- [1322 ページの『START TRACE のパラメーターの説明』](#)
- [1322 ページの『宛先ブロック』](#)
- [1323 ページの『制約ブロック』](#)

同義語: STA TRACE

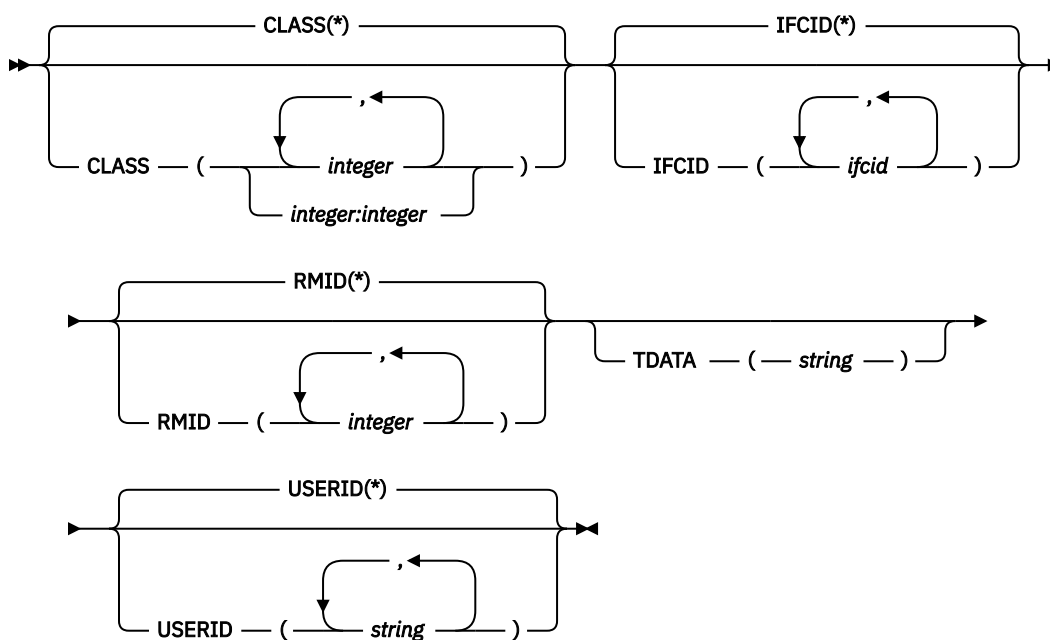
START TRACE



宛先ブロック



制約ブロック



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

使用上の注意

このコマンドを実行すると、メッセージ番号 CSQW130I でトレース番号が返されます。ALTER TRACE、DISPLAY TRACE、STOP TRACE の各コマンドでは、このトレース番号 (TNO) を使用できます。

START TRACE のパラメーターの説明

開始するトレースのタイプを指定しない場合は、デフォルト (GLOBAL) のトレースが開始されます。以下のようなタイプがあります。

ACCTG

アプリケーションがキュー・マネージャーとどのように対話しているかに関する情報を SMF 116 レコードの形式で提供するアカウンティング・データを使用可能にします。同義語は A です。

注: アプリケーションが実行されている間にアカウンティング・トレースを開始または停止すると、アカウンティング・データが失われる可能性があります。アカウンティング・データを正常に収集するために満たさなければならない条件については、[IBM MQ トレースの使用](#)を参照してください。

CHINIT

チャンネル・イニシエーターのデータを組み込みます。同義語は CHI または DQM です。チャンネル・イニシエーターのトレースを開始した場合、チャンネル・イニシエーターが停止すると、トレースも停止します。

コマンド・サーバーまたはチャンネル・イニシエーターが稼働していない状態で START TRACE(CHINIT) を実行することはできません。

GLOBAL

チャンネル・イニシエーターを除くキュー・マネージャー全体のデータを組み込みます。同義語は G です。

STAT

SMF 115 レコードの形式で、キュー・マネージャーの状態に関する高水準統計を使用可能にします。同義語は S です。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

COMMENT(string)

常駐のトレース・テーブル以外のトレース出力レコードで複製するコメントを指定します。コマンドを実行した理由を記録するために使用できます。

string は任意の文字ストリングです。ブランク、コンマ、特殊文字が含まれている場合は、単一引用符で囲む必要があります。

宛先ブロック

DEST

トレース出力を記録する場所を指定します。複数の値を指定することもできますが、同じ値を 2 回使用しないでください。

それぞれの値の意味は、以下のとおりです。

GTF

z/OS 汎用トレース機能 (GTF)。使用する場合は、START TRACE コマンドを実行する前に、GTF を始動し、ユーザー (USR) レコードを受け入れておく必要があります。

RES

ECSA に常駐するラップアラウンド・テーブル、または CHINIT のデータ・スペース。

SMF

システム管理機能 (SMF)。使用する場合は、START TRACE コマンドを実行する前に、SMF を実行しておく必要があります。IBM MQ で使用する SMF レコード番号は、115 と 116 です。SMF レコード・タイプ 115 には、サブタイプ 1、2、および 215 がパフォーマンス統計トレース用に提供されます。

SRV

IBM 専用として予約されている保守ルーチン。一般用ではありません。

注: IBM サポートがトレース・データの宛先としてこの宛先が必要であると判断した場合は、CSQWVUSER モジュールを提供することになっています。CSQWVUSER がいない状態で宛先 SRV を使用しようとすると、START TRACE コマンドを実行したときに、z/OS コンソールでエラー・メッセージが生成されます。

開始するトレースのタイプごとに、使用できる値とデフォルト値をまとめたのが、以下の表です。

表 80. 各トレース・タイプで使用する宛先				
タイプ	GTF	RES	SMF	SRV
GLOBAL	許可	デフォルト	No	許可
STAT	No	No	デフォルト	許可
ACCTG	許可	No	デフォルト	許可
CHINIT	No	デフォルト	No	許可

制約ブロック

制約ブロックでは、トレースで収集するデータの種類に関する任意指定の制約を配置します。開始するトレースのタイプごとに、使用できる制約をまとめたのが、以下の表です。

表 81. 各トレース・タイプで使用する制約				
タイプ	CLASS	IFCID	RMID	ユーザー ID
GLOBAL	許可	許可	許可	許可
STAT	許可	No	No	No
ACCTG	許可	No	No	No
CHINIT	許可	許可	No	No

CLASS

この後に、収集するデータのクラスのリストを記述します。ここでは、開始するトレースのタイプごとに、使用できるクラスとそれぞれの意味をまとめます。

(*)

"クラス 04 チャンネル・イニシエーター統計"および"クラス 04 チャンネル・アカウントティング・データ"を除くすべてのクラスのデータのトレースを開始します。

(integer)

以下の表の「クラス」欄にある番号。開始するトレースのタイプで使用するクラスを複数指定することもできます。クラスの範囲を指定する場合は、*m:n* という形式で記述します (例えば、CLASS(01:03) のようになります)。クラスを指定しない場合、デフォルトではクラス 1 を開始します。ただし、クラス 1 と 2 を開始するクラスを指定せずに **START TRACE(STAT)** コマンドを使用する場合は例外です。

表 82. トレース・イベントとトレース・クラスの説明.

以下の表には、さまざまなトレース・クラス用に作成されたさまざまなトレース・イベントが示されています。

Class	説明
	グローバル・トレース
01	IBM 専用
02	制御ブロック中にユーザー・パラメーター・エラーを検出
03	MQI への入り口でユーザー・パラメーター・エラーを検出
	MQI からの出口でユーザー・パラメーター・エラーを検出
	制御ブロック中にユーザー・パラメーター・エラーを検出
04	IBM 専用
	統計トレース
01	サブシステム統計
	キュー・マネージャー統計
02	キュー・マネージャー・ストレージ要約統計
03	キュー・マネージャー・ストレージ詳細要約
04	チャンネル・イニシエーター統計
	アカウンティング・トレース
01	MQI 呼び出しの処理のために費やされたプロセッサ時間と、MQPUT、MQPUT1 および MQGET 呼び出しの数
03	拡張されたアカウンティングおよび統計データ
04	チャンネル・アカウンティング・データ
	CHINIT トレース
01	IBM 専用
04	IBM 専用

IFCID

IBM 専用。

RMID

リソース・マネージャーのリスト。そのリスト中のリソース・マネージャーについてトレース情報が収集されます。STAT、ACCTG、または CHINIT トレースではこのオプションを使用できません。

(*)

すべてのリソース・マネージャーのトレースを開始します。

これがデフォルトです。

(integer)

以下の表にあるリソース・マネージャーの ID 番号。使用できるリソース・マネージャー ID を最大 8 個まで指定できますが、同じ ID を 2 回使用しないでください。

表 83. 使用できるリソース・マネージャー ID	
RMID	リソース・マネージャー
1	初期化プロシージャ

表 83. 使用できるリソース・マネージャー ID (続き)	
RMID	リソース・マネージャー
2	エージェント・サービス管理
3	リカバリー管理
4	リカバリー・ログ管理
6	ストレージ管理
7	連合メモリーのサブシステム・サポート
8	サブシステム・インターフェース (SSI) 機能のサブシステム・サポート
12	システム・パラメーター管理
16	計測コマンド、トレース、ダンプ・サービス
23	汎用コマンド処理
24	メッセージ生成プログラム
26	計測のアカウンティングと統計
148	接続マネージャー
163	トピック・マネージャー
197	CF 管理プログラム
199	機能復旧
200	セキュリティー管理
201	データ管理
211	ロック管理
212	メッセージ管理
213	コマンド・サーバー
215	バッファー管理
242	IBM MQ IMS ブリッジ
245	Db2 マネージャー

TDATA

IBM 専用。

ユーザー ID

ユーザー ID のリストを指定します。そのリスト中のユーザー ID についてトレース情報が収集されます。STAT、ACCTG、または CHINIT トレースではこのオプションを使用できません。

(*)

すべてのユーザー ID のトレースを開始します。これがデフォルトです。

(userid)

ユーザー ID を指定します。最大で 8 個のユーザー ID を指定できます。ユーザー ID ごとに別々のトレースが開始されます。このユーザー ID は、キュー・マネージャーの内部で IBM MQ によって使用されるタスクの 1 次許可 ID です。MQSC コマンド DISPLAY CONN によって表示されるユーザー ID でもあります。

STOP CHANNEL

チャンネルを停止するには、MQSC コマンド STOP CHANNEL を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

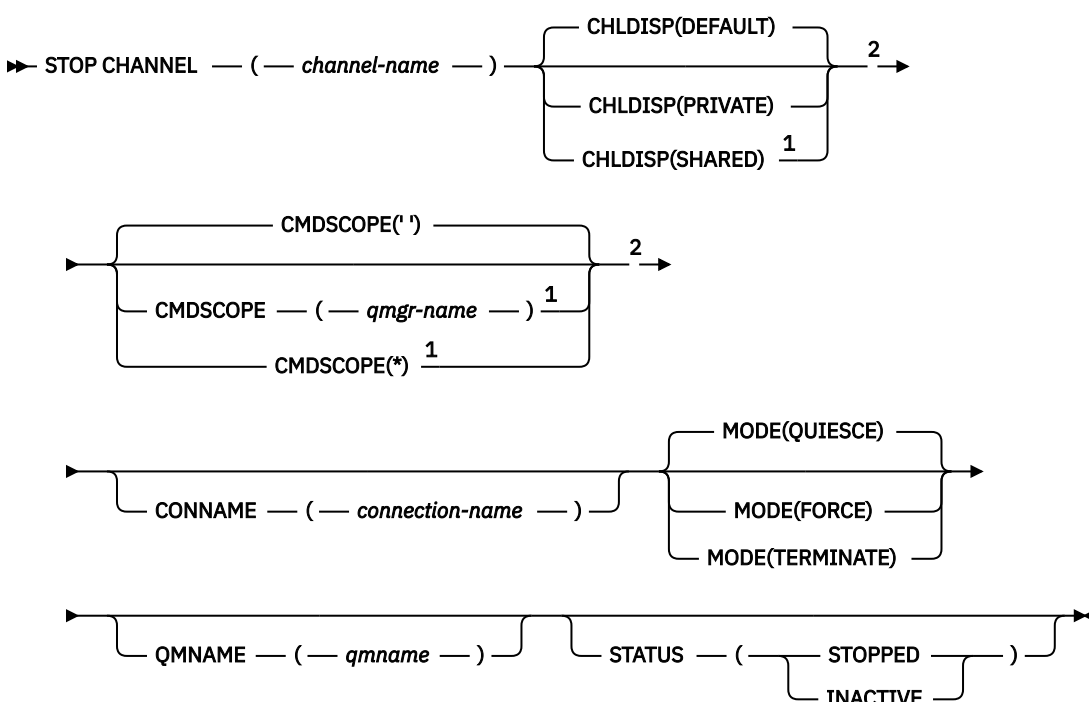
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1326 ページの『STOP CHANNEL の使用上の注意』](#)
- [1327 ページの『STOP CHANNEL のパラメーターの説明』](#)

同義語: STOP CHL

STOP CHANNEL



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

² z/OS でのみ有効です。

STOP CHANNEL の使用上の注意

1. QMNAME または CONNAME を指定する場合、STATUS は INACTIVE または未指定にしなければなりません。QMNAME または CONNAME と、STATUS(STOPPED) を一緒には指定しないでください。あるパートナーではチャンネルを停止し、他のパートナーではそうしないということはできません。この種の機能は、チャンネル・セキュリティ出口によって備えられている場合があります。チャンネル出口の詳細については、[チャンネル出口プログラム](#)を参照してください。
2.  z/OS では、コマンド・サーバーおよびチャンネル・イニシエーターが稼働している必要があります。
3. STOPPED 状態のチャンネルはすべて手動で開始しなければなりません。それらは自動的に開始されません。停止されたチャンネルの再開については、[停止したチャンネルの再始動](#)を参照してください。

4. このコマンドは、CLNTCONN チャンネル以外のすべてのタイプのチャンネルに実行できます (自動的に定義されたチャンネルも含みます)。
5. 同じ名前のローカル定義チャンネルと、自動定義クラスター送信側チャンネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャンネルに適用されます。ローカル定義チャンネルは存在しないけれども、複数の自動定義クラスター送信側チャンネルが存在する場合、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャンネルに適用されます。

STOP CHANNEL のパラメーターの説明

(channel-name)

停止するチャンネルの名前。このパラメーターは、すべてのチャンネル・タイプに必須です。

CHLDISP

このパラメーターは z/OS にのみ適用され、次の値をとることができます。

- デフォルト
- PRIVATE
- SHARED

このパラメーターを省略した場合は、DEFAULT 値が適用されます。これは、チャンネル・オブジェクトのデフォルトのチャンネル属性指定属性 DEFCDISP から得られます。

CMDSCOPE パラメーターの種々の値と併せて、このパラメーターは以下の 2 つのタイプのチャンネルを制御します。

SHARED

受信チャンネルは、キュー共用グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共用されます。

送信側チャンネルの伝送キューの属性指定が SHARED の場合、送信側チャンネルは共用です。

PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルの伝送キューの属性指定が SHARED 以外の場合、これは専用です。

注：この属性指定は、チャンネル定義のキュー共有グループの属性指定により設定された属性指定とは関係ありません。

CHLDISP と CMDSCOPE の各パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかについても制御されます。指定できるオプションは次のとおりです。

- コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。
- グループ内でアクティブなすべてのキュー・マネージャー。
- グループ内の最も適切なキュー・マネージャー (キュー・マネージャー自体が自動的に判断)。

CHLDISP と CMDSCOPE の種々の組み合わせについては、以下の表に要約されています。

表 84. STOP CHANNEL における CHLDISP および CMDSCOPE			
CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上の専用チャンネルとして停止します。	指定されたキュー・マネージャー上の専用チャンネルとして停止します。	アクティブなキュー・マネージャーすべての専用チャンネルとして停止します。

表 84. STOP CHANNEL における CHLDISP および CMDSCOPE (続き)

CHLDISP	CMDSCOPE() または CMDSCOPE (local-qmgr)	CMDSCOPE (qmgr-name)	CMDSCOPE(*)
SHARED	RCVR および SVRCONN チャンネルの場合、アクティブなキュー・マネージャーすべての共有チャンネルとして停止します。 SDR、RQSTR、および SVR チャンネルの場合、キュー・マネージャーの共有チャンネルが実行していれば、その共有チャンネルとして停止します。チャンネルが非アクティブ状態 (稼働していない) の場合、またはチャンネルが実行されていたチャンネル・イニシエーターが停止したためにチャンネルが RETRY 状態になっている場合には、チャンネルに対する STOP 要求はローカル・キュー・マネージャーで出されます。 これは CMDSCOPE を使用するコマンドを自動的に生成し、それを適切なキュー・マネージャーに送信します。コマンドの送信先キュー・マネージャー上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されたキュー・マネージャー上のチャンネルの定義は、コマンドが実際に実行される宛先キュー・マネージャーの判別に使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない	許可されない

z/OS CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CHLDISP を SHARED に設定する場合、CMDSCOPE はブランク、つまりローカル・キュー・マネージャーにしなければなりません。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用している場合で、かつコマンド・サーバーが使用可能な場合に限り、キュー・マネージャー名を指定することができます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

CONNNAME (connection-name)

接続名。指定した接続名と一致するチャンネルだけが停止されます。

CONNAME パラメーターを使用して STOP CHANNEL コマンドを実行する場合は、必ず、1060 ページの『DISPLAY CHSTATUS』に表示される値と同じ値を **CONNAME** パラメーターに指定してください。

モード

現バッチの秩序正しい終了を許可するかどうかを指定します。このパラメーターはオプションです。

QUIESCE

これがデフォルトです。

分散プラットフォームでは、現行のバッチは処理を終了できます。

 **z/OS** では、現在のメッセージが処理を終了したあと、チャンネルは停止してしまいます。(伝送キューにメッセージがあっても、その後、バッチは終了し、メッセージはそれ以上送信されません。)

受信側チャンネルでは、現在進行中のバッチがない場合、チャンネルは次のいずれかが発生するまで待機してから停止します。

- 次のバッチの開始
- 次のハートビート (ハートビートが使用されている場合のみ)

サーバー接続チャンネルでは、現行接続を終了できます。

サーバー接続チャンネルで STOP CHANNEL *channelname* MODE (QUIESCE) コマンドを発行すると、IBM MQ クライアント・インフラストラクチャーは、停止要求をタイムリーに認識します。このタイミングは、ネットワークのスピードに依存します。

クライアント・アプリケーションがサーバー接続チャンネルを使用していて、コマンドの発行時に以下のいずれかの操作を実行している場合、MQPUT 操作や MQGET 操作は失敗します。

- PMO オプションの MQPMO_FAIL_IF QUIESCING が指定された MQPUT 操作。
- GMO オプションの MQGMO_FAIL_IF QUIESCING が設定された MQGET 操作。

クライアント・アプリケーションは、理由コード MQRC_CONNECTION QUIESCING を受け取ります。

クライアント・アプリケーションがサーバー接続チャンネルを使用していて、以下のいずれかの操作を実行している場合、クライアント・アプリケーションは MQPUT 操作や MQGET 操作を完了することができます。

- PMO オプションの MQPMO_FAIL_IF QUIESCING が指定されていない MQPUT 操作。
- GMO オプションの MQGMO_FAIL_IF QUIESCING が設定されていない MQGET 操作。

この接続を使用する後続の FAIL_IF QUIESCING 呼び出しは、MQRC_CONNECTION QUIESCING で失敗します。FAIL_IF QUIESCING を指定しない呼び出しは通常、完了を許可されますが、アプリケーションはそのような操作を適切なタイミングで完了して、チャンネルが終了できるようにする必要があります。

サーバー接続チャンネルの停止時にクライアント・アプリケーションが MQ API 呼び出しを実行していない場合、次回に IBM MQ への呼び出しを発行した時に停止要求を認識して、戻りコード MQRC_CONNECTION QUIESCING を受け取ります。

MQRC_CONNECTION QUIESCING 戻りコードをクライアントに送信して、必要に応じて未解決の MQPUT 操作または MQGET 操作を完了できるようにした後に、サーバーはそのサーバー接続チャンネルのクライアント接続を終了します。

ネットワーク操作のタイミングを厳密に知ることはできないので、クライアント・アプリケーションで MQ API 操作の試行を続けないようにしてください。

FORCE

サーバー接続チャンネルの場合、現行接続を切断し、MQRC_CONNECTION_BROKEN を返します。

他のチャンネル・タイプでは、現行バッチの伝送を終了します。多くの場合、未確定状態になります。

2/05

TERMINATE



他のプラットフォームでは、このパラメーターは現行のバッチの伝送をすべて終了させます。これにより、実際にはチャンネル・スレッドまたはプロセスを終了できます。

サーバー接続チャネルの場合、現行接続を切断し、MQRC_CONNECTION_BROKEN を返します。

**QMNAME** (*qmname*)

キュー・マネージャー名。指定したリモート・キュー・マネージャーと一致するチャンネルだけが停止されます。

狀況

このコマンドによって停止させるすべてのチャネルの新しい状態を指定します。STOPPED 状態のチャネル (特に IBM MQ for z/OS 上の SVRCONN チャネル) の詳細については、[停止したチャネルの再始動](#)を参照してください。

STOPPED

チャンネルは停止状態です。送信側またはサーバー・チャンネルでは、伝送キューが GET(DISABLED) および NOTRIGGER に設定されます。

これは、QMNAME または CONNAME を指定しない場合のデフォルトです。

INACTIVE

チャンネルは非アクティブ状態です。

これは、QMNAME または CONNAME を指定する場合のデフォルトです。

STOP CHANNEL (MQTT)

IBM MQ Telemetry チャンネルを停止するには、MQSC コマンド `STOP CHANNEL` を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行を参照](#)してください。

IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	

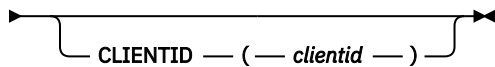
注: テレメトリー・サーバー用にサポートされている UNIX プラットフォームは AIX のみです。

STOP CHANNEL (MQTT) コマンドは、IBM MQ Telemetry チャンネルにのみ使用できます。

同義語: STOP CHL

STOP CHANNEL

►► STOP CHANNEL — (— *channel-name* —) — CHLTYPE — (— MQTT —) ►



STOP CHANNEL の使用上の注意

- 1. STOPPED 状態のチャンネルはすべて手動で開始しなければなりません。それらは自動的に開始されません。

STOP CHANNEL のパラメーターの説明

(channel-name)
停止するチャンネルの名前。このパラメーターは、MQTT チャンネルを含め、すべてのチャンネル・タイプに必須です。

CHLTYPE
チャンネル・タイプ。値は、MQTT でなければなりません。

CLIENTID (string)
クライアント ID。クライアント ID は、IBM MQ Telemetry Transport クライアントを識別する 23 バイトのストリングです。STOP CHANNEL コマンドが CLIENTID を指定する際、指定されたクライアント ID の接続だけが停止されます。CLIENTID が指定されない場合、チャンネル上のすべての接続が停止されます。

z/OS STOP CHINIT

チャンネル・イニシエーターを停止するには、MQSC コマンド STOP CHINIT を使用します。コマンド・サーバーが稼働している必要があります。

MQSC コマンドの使用

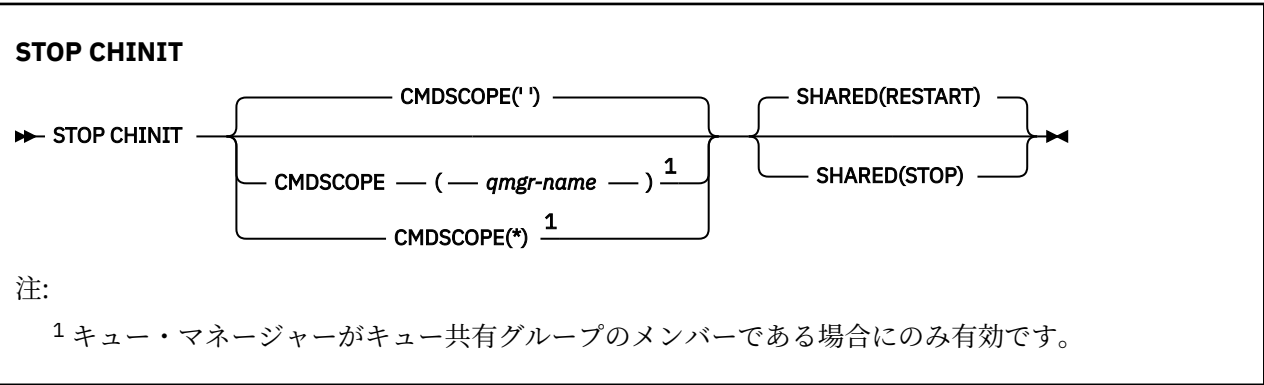
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1331 ページの『STOP CHINIT の使用上の注意』](#)
- [1332 ページの『STOP CHINIT のパラメーターの説明』](#)

同義語: STOP CHI



STOP CHINIT の使用上の注意

- 1. STOP CHINIT コマンドを発行すると、IBM MQ により、実行中のすべてのチャンネルが以下の方法で停止されます。
 - STOP CHANNEL MODE(QUIESCE) STATUS(INACTIVE) を使用して、送信側チャンネルおよびサーバー・チャンネルを停止します。

- STOP CHANNEL MODE(FORCE) を使用して、他のすべてのチャンネルを停止します。

この操作に必要な事項については、1325 ページの『STOP CHANNEL』を参照してください。

2. STOP CHINIT コマンドを発行した結果として、通信エラー・メッセージを受け取ることがあります。

STOP CHINIT のパラメーターの説明

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

||

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

SHARED

チャンネル・イニシエーターが、別のキュー・マネージャーで所有している、CHLDISP(SHARED) で開始されたアクティブなすべての送信側チャンネルの再始動を試行するかどうかを指定します。指定できる値は以下のとおりです。

RESTART

共有送信側チャンネルを再始動します。これがデフォルトです。

STOP

共有送信チャンネルが再開されません。そのため、非アクティブになります。

(CHLDISP(FIXSHARED) で開始されたアクティブ・チャンネルは再始動せず、常に非アクティブになります。)

STOP CMDSERV

コマンド・サーバーを停止するには、MQSC コマンド STOP CMDSERV を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12C

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- 1333 ページの『STOP CMDSERV の使用上の注意』

同義語: STOP CS

▶▶ STOP CMDSERV ◀◀

STOP CMDSERV の使用上の注意

1. STOP CMDSEVR は、システム・コマンド入力キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT) に書き込まれているコマンド、移動コマンド、および CMDSCOPE を使用するコマンドを、コマンド・サーバーが処理するのを停止させます。
2. このコマンドを初期設定ファイルを使用して実行するか、キュー・マネージャーに対して作業が解放される前に (つまり、コマンド・サーバーが自動的に起動する前に) オペレーター・コンソールを介して実行すると、コマンド・サーバーは自動起動を阻止され、DISABLED 状態になります。先に START CMDSEVR コマンドが実行されていても、そのコマンドは無効になります。
3. コマンド・サーバーが RUNNING 状態にあるときに、オペレーター・コンソールまたはコマンド・サーバーを介してこのコマンドを実行すると、コマンド・サーバーは現行のコマンドの処理を終えた後に停止します。この場合、コマンド・サーバーは STOPPED 状態になります。
4. コマンド・サーバーが WAITING 状態にあるときに、オペレーター・コンソールを介してこのコマンドを実行すると、コマンド・サーバーはただちに停止します。この場合、コマンド・サーバーは STOPPED 状態になります。
5. コマンド・サーバーが DISABLED 状態または STOPPED 状態にあるときには、このコマンドを実行しても、処置は取られません。コマンド・サーバーは現在の状態を続行し、コマンドの実行元にエラー・メッセージが戻されます。

STOP CONN

アプリケーションとキュー・マネージャーの間の接続を切断するには、MQSC コマンド **STOP CONN** を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1333 ページの『使用上の注意』](#)
- [1334 ページの『STOP CONN のパラメーターの説明』](#)

同義語: STOP CONN

STOP CONN

➡ STOP CONN — (— *connection-identifier* —) ➡

EXTCONN — (— *connection-identifier* —)

使用上の注意

このコマンドが正常に実行されることが確実でない場合、キュー・マネージャーがこのコマンドを実装できないという状況もあります。

STOP CONN のパラメーターの説明

(*connection-identifier*)

切断する接続の接続定義の ID。

アプリケーションが IBM MQ に接続すると、固有の 24 バイト接続 ID (ConnectionId) が与えられます。CONN の値は、ConnectionId の最後の 8 バイトを同等の 16 文字の 16 進数に変換することによって形成されます。

EXTCONN

EXTCONN の値は、ConnectionId の最初の 16 バイトを同等の 32 文字の 16 進数に変換した値に基づいています。

接続は 24 バイトの接続 ID によって識別されます。接続 ID は、キュー・マネージャーを識別する接頭部と、キュー・マネージャーへの接続を識別する接尾部で構成されます。デフォルトでは、接頭部には現在管理されているキュー・マネージャーが指定されますが、EXTCONN パラメーターを使用して接頭部を明示的に指定することもできます。CONN パラメーターを使用して接尾部を指定します。

接続 ID を別のソースから取得する場合、完全修飾接続 ID (EXTCONN と CONN の両方) を指定して、起こりうる非固有の CONN 値に関連する問題の発生を回避します。

関連資料

[1099 ページの『DISPLAY CONN』](#)

MQSC コマンド DISPLAY CONN は、キュー・マネージャーに接続しているアプリケーションに関する接続情報を表示するために使用します。このコマンドを使用すると、作業単位の実行時間が長いアプリケーションを特定できるので便利です。

STOP LISTENER

チャンネル・リスナーを停止するには、MQSC コマンド STOP LISTENER を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

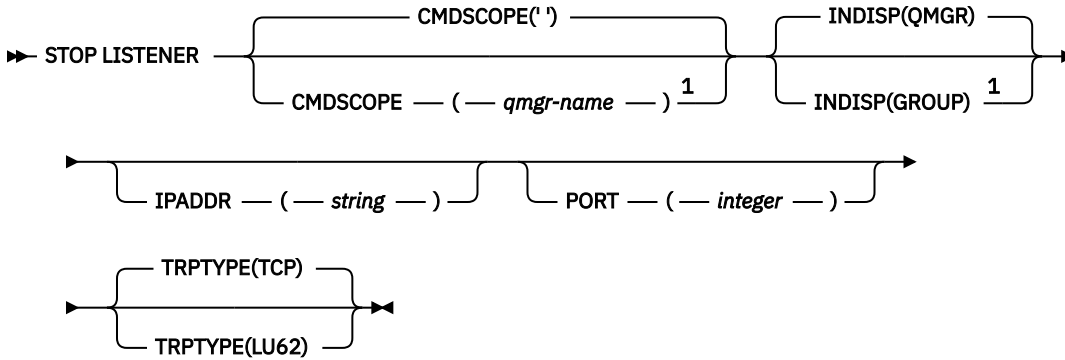
- ▶ **z/OS** [IBM MQ for z/OS の構文図](#)
- その他のプラットフォームの IBM MQ の構文図
- ▶ **z/OS** [1335 ページの『使用上の注意』](#)
- [1335 ページの『STOP LISTENER のパラメーターの説明』](#)

同義語: STOP LSTR

IBM MQ for z/OS



STOP LISTENER



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

その他のプラットフォームでの IBM MQ

STOP LISTENER

➡ STOP LISTENER — ? — (— name —) ➡

使用上の注意

➡ **z/OS** z/OS: の場合

- コマンド・サーバーとチャネル・イニシエーターが稼働していることが必要です。
- リスナーが複数のアドレスまたはポートで listen している場合、アドレスまたはポートを指定した、アドレスとポートの組み合わせだけを停止します。
- リスナーが特定のポートのすべてのアドレスで listen している場合、同じポートでの特定の IPADDR に関する停止要求は失敗します。
- アドレスもポートも指定しない場合、すべてのアドレスとポートが停止し、リスナー・タスクが終了します。

STOP LISTENER のパラメーターの説明

(name)

停止させるリスナーの名前。このパラメーターを指定する場合は、他のパラメーターを指定できません。

このパラメーターは、➡ **z/OS** このパラメーターがサポートされていない、z/OS 以外のすべてのプラットフォームで必要です。

➡ **z/OS** **CMDSCOPE**

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

▶ **z/OS** **INDISP**

リスナーが処理するインバウンド伝送の属性指定を指定します。指定できる値は以下のとおりです。

QMGR

キュー・マネージャーに宛てられた伝送を処理します。これがデフォルトです。

GROUP

キュー共有グループに宛てられた伝送を処理します。これは、共有キュー・マネージャー環境が存在する場合にのみ有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

▶ **z/OS** **IPADDR**

IPv4 ドット 10 進、IPv6 16 進表記、または英数字形式で指定した TCP/IP の IP アドレス。伝送プロトコル (TRPTYPE) が TCP/IP の場合にのみ有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

▶ **z/OS** **PORT**

TCP/IP のポート番号。これは、リスナーが listen を停止するポート番号です。これは、伝送プロトコルが TCP/IP の場合のみ有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

▶ **z/OS** **TRPTYPE**

使用する伝送プロトコル。これはオプションです。

TCP

TCP TRPTYPE を指定しない場合は、これがデフォルトになります。

LU62

SNA LU 6.2。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

リスナーは、静止モードで停止します (以降の要求は無視されます)。

▶ **z/OS** **STOP QMGR**

キュー・マネージャーを停止するには、MQSC コマンド STOP QMGR を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

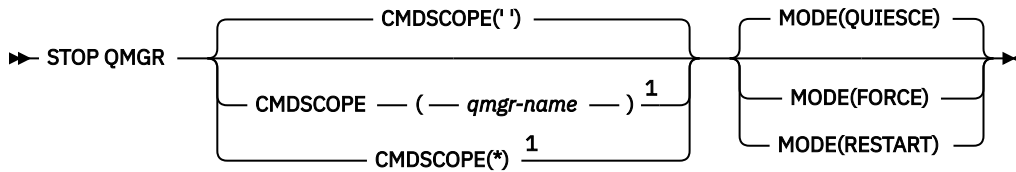
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1337 ページの『STOP QMGR のパラメーターの説明』](#)

同義語: このコマンドの同義語はありません。

STOP QMGR



注:

¹ キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ有効です。

STOP QMGR のパラメーターの説明

このパラメーターはオプションです。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

''

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

*

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

モード

現在実行中のプログラムの終了を許可するかどうかを指定します。

QUIESCE

現在実行中のプログラムの処理終了を許可します。新しいプログラムの始動は許可されません。これがデフォルトです。

このオプションは、キュー・マネージャーが停止する前に、他のアドレス・スペースへの接続をすべて終了させておかなければならないことを意味します。システム・オペレーターは、終了していない接続がないか `DISPLAY CONN` コマンドで調べることができます。終了していない接続があった場合は、`z/OS` コマンドを使用してその接続を取り消すことができます。

このオプションを指定すると、`z/OS` 自動リスタート・マネージャー (ARM) から `IBM MQ` の登録を解除できます。

FORCE

現在実行中のプログラムを、ユーティリティーを含め、終了させます。新しいプログラムの始動は許可されません。このオプションは、未確定状況を引き起こすことがあります。

すべてのアクティブ・ログが満杯で、ログの保存が行われていない状況では、このオプションを指定しても稼働しないことがあります。そのような状態の場合、`z/OS` コマンド `CANCEL` を出して終了しなければなりません。

このオプションを指定すると、`z/OS` 自動リスタート・マネージャー (ARM) から `IBM MQ` の登録を解除できます。

RESTART

現在実行中のプログラムを、ユーティリティを含め、終了させます。新しいプログラムの始動は許可されません。このオプションは、未確定状況を引き起こすことがあります。

すべてのアクティブ・ログが満杯で、ログの保存が行われていない状況では、このオプションを指定しても稼働しないことがあります。そのような状態の場合、z/OS コマンド CANCEL を出して終了しなければなりません。

このオプションを指定しても、IBM MQ の登録は ARM から解除されません。したがって、自動再始動を即座に実行するには、キュー・マネージャーを使用するのが妥当です。

STOP SERVICE

サービスを停止するには、MQSC コマンド STOP SERVICE を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	

- [構文図](#)
- [1338 ページの『使用上の注意』](#)
- [1338 ページの『STOP SERVICE のパラメーターの説明』](#)

同義語:

STOP SERVICE

► STOP SERVICE — (— *service-name* —) ►

使用上の注意

サービスが稼働している場合は、停止するよう要求します。このコマンドは非同期に処理されるため、サービスが停止する前に戻される可能性があります。

停止を要求されたサービスに STOP コマンドが定義されていない場合は、エラーが戻されます。

STOP SERVICE のパラメーターの説明

(*service-name*)

停止するサービス定義の名前。これは必須です。この名前は、このキュー・マネージャー上の既存のサービスの名前にする必要があります。

関連資料

[801 ページの『ALTER SERVICE』](#)

MQSC コマンド ALTER SERVICE は、既存の IBM MQ サービス定義のパラメーターを変更するために使用します。

[1319 ページの『START SERVICE』](#)

サービスを開始するには、MQSC コマンド START SERVICE を使用します。識別されたサービス定義はキュー・マネージャー内で開始し、キュー・マネージャーの環境変数とセキュリティ変数を継承します。

関連情報

[サービスの取り扱い](#)

z/OS STOP SMDSCONN

このキュー・マネージャーから指定した1つ以上の共有メッセージ・データ・セットへの接続を終了して(それによって閉じたり、割り振り解除するため)、接続に STOPPED というマークを付けるには、MQSC コマンド STOP SMDSCONN を使用します。

MQSC コマンドの使用

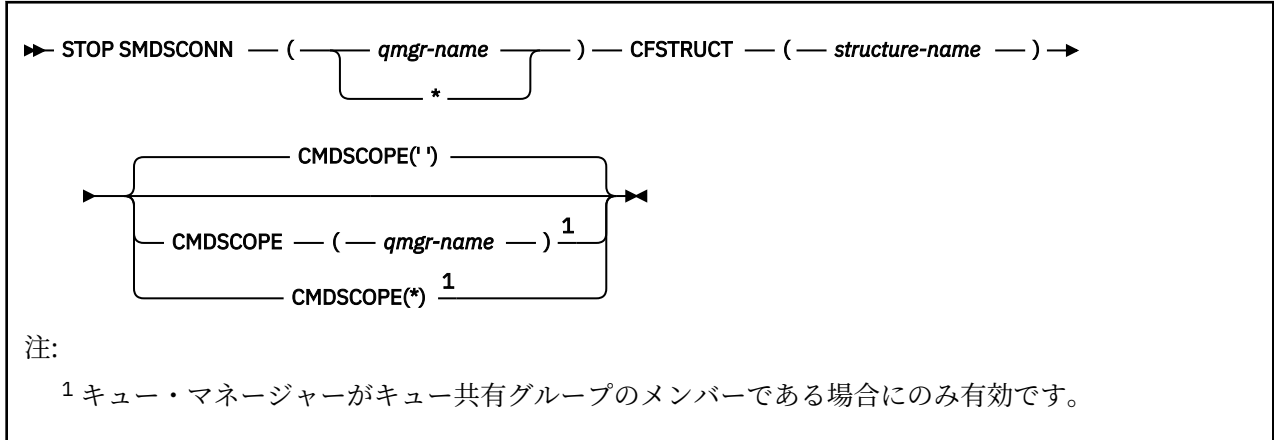
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			2CR

- [1339 ページの『STOP SMDSCONN の構文図』](#)
- [1339 ページの『STOP SMDSCONN のパラメーターの説明』](#)

STOP SMDSCONN の構文図

同義語:



STOP SMDSCONN のパラメーターの説明

SMDSCONN

接続を停止する共有メッセージ・データ・セットを所有するキュー・マネージャーを指定するか、あるいはアスタリスクを指定して、指定した構造に関連したすべての共有メッセージ・データ・セットへの接続を停止します。

CFSTRUCT

共有メッセージ・データ・セットの接続を停止する構造名を指定します。

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

★

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。これは、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーでコマンドを入力するのと同じ結果をもたらします。

z/OS STOP TRACE

MQSC コマンド STOP TRACE では、トレースを停止します。

MQSC コマンドの使用

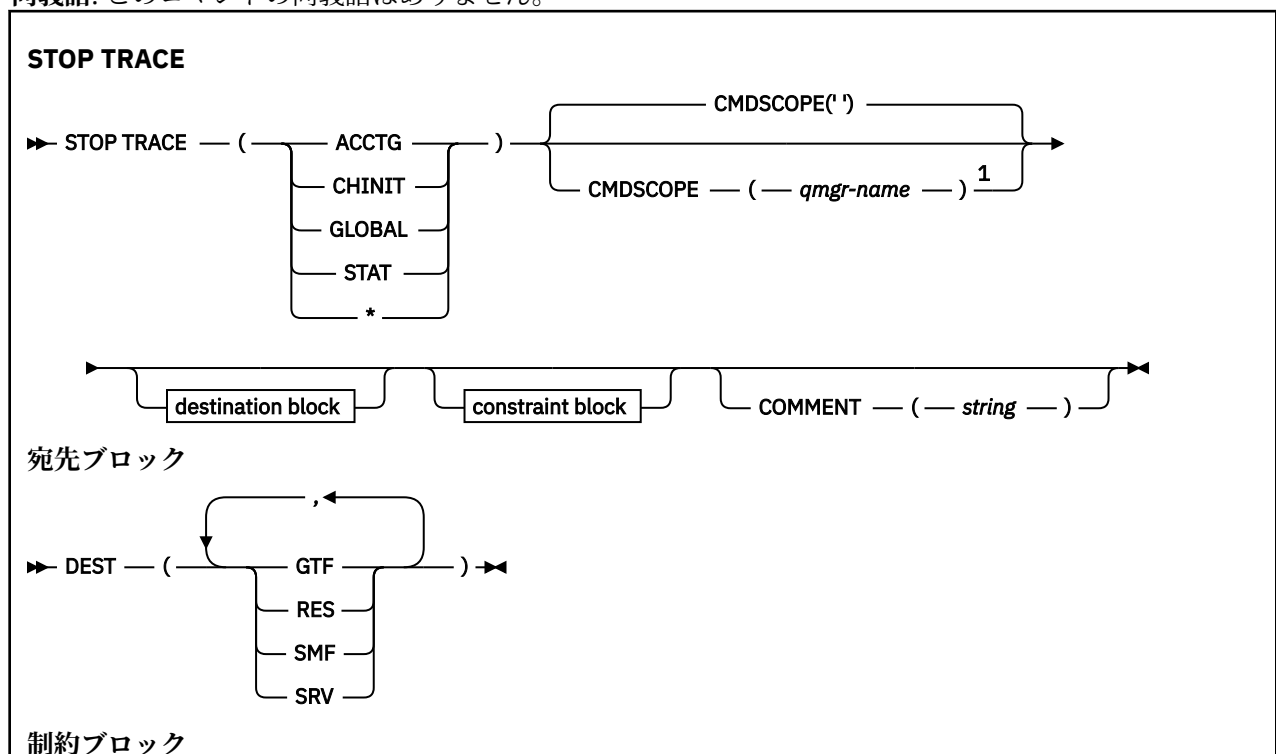
MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。

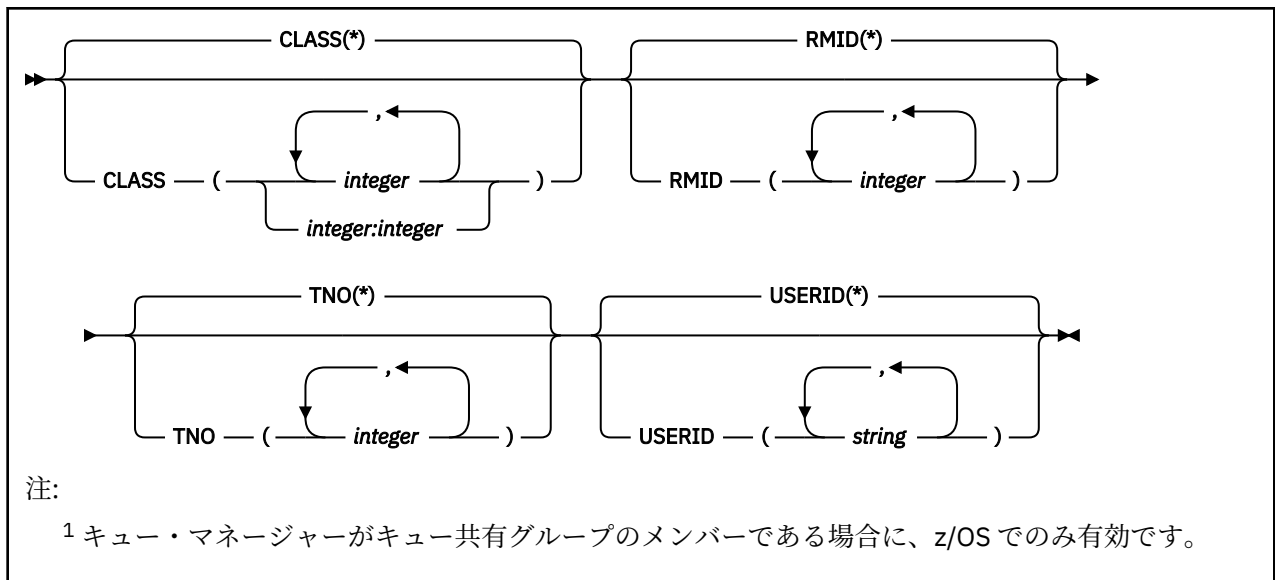
IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
			12CR

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- [1341 ページの『STOP TRACE のパラメーターの説明』](#)
- [1342 ページの『宛先ブロック』](#)
- [1342 ページの『制約ブロック』](#)

同義語: このコマンドの同義語はありません。





STOP TRACE のパラメーターの説明

オプションを 1 つ指定するたびに、コマンドの対象が制限されていきます。つまり、それと同オプションと同パラメーター値の指定 (明示的な指定、もしくはデフォルトの指定) により開始されたアクティブ・トレースだけが停止されます。

トレース・タイプまたはアスタリスクを指定する必要があります。STOP TRACE(*) を実行すると、すべてのアクティブ・トレースが停止します。

以下のようなトレース・タイプがあります。

ACCTG

アカウンティング・データ (同義語は A)

注: アプリケーションが実行されている間にアカウンティング・トレースを開始または停止すると、アカウンティング・データが失われる可能性があります。アカウンティング・データを正常に収集するために満たさなければならない条件については、[IBM MQ トレースの使用](#)を参照してください。

CHINIT

チャンネル・イニシエーターからのサービス・データ。同義語は CHI または DQM です。

CHINIT の始動時に自動的に開始されたトレースが CHINIT で実行されている唯一のトレースになっている場合は、デフォルトの CHINIT トレース (0) の TNO を明示的に記述することによってのみ、そのトレースを停止できます。例えば、STOP TRACE(CHINIT) TNO(0) のように指定します。

GLOBAL

チャンネル・イニシエーターを除くキュー・マネージャー全体の保守データ。同義語は G です。

STAT

統計データ (同義語は S です)。

*

すべてのアクティブ・トレース

CMDSCOPE

このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

CMDSCOPE は、最初の初期設定入力データ・セット CSQINP1 から発行されるコマンドには使用できません。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

COMMENT(string)

常駐のトレース・テーブル以外のトレース出力レコードで複製するコメントを指定します。コマンドを実行した理由を記録するために使用できます。

string は任意の文字ストリングです。ブランク、コンマ、特殊文字が含まれている場合は、単一引用符で囲む必要があります。

宛先ブロック

DEST

操作の対象を、特定の宛先で開始されたトレースに限定します。複数の値を指定することもできますが、同じ値を 2 回使用しないでください。どの値も指定しないと、リスト内容は制限されません。

指定できる値とその意味は、次のとおりです。

GTF

汎用トレース機能

RES

ECSA に常駐するラップアラウンド・テーブル

SMF

システム管理機能

SRV

問題診断用に設計されている保守ルーチン

制約ブロック

CLASS(integer)

コマンドの対象を、特定のクラスで開始されたトレースに限定します。指定できるクラスのリストについては、START TRACE コマンドの項を参照してください。クラスの範囲を指定する場合は、*m:n* という形式で記述します (例えば、CLASS(01:03) のようになります)。トレースのタイプを指定しなかった場合は、クラスを指定できません。

デフォルトは CLASS(*) です。この場合は、コマンドの対象が限定されません。

RMID(integer)

コマンドの対象を、特定のリソース・マネージャーで開始されたトレースに限定します。指定できるリソース・マネージャー ID のリストについては、START TRACE コマンドの項を参照してください。

このオプションは、トレース・タイプ STAT、ACCTG、CHINIT と一緒に使用しないでください。

デフォルトは RMID(*) です。この場合は、コマンドの対象が限定されません。

TNO(integer)

コマンドの対象を、トレース番号 (0 から 32) で指定された特定のトレースに限定します。トレース番号は 8 個まで指定できます。複数の番号を使用する場合は、USERID の値を 1 つだけ使用できます。

0 は、チャンネル・イニシエーターが自動的に開始できるトレースです。トレース 1 から 32 はキュー・マネージャーまたはチャンネル・イニシエーターのトレースです。これらのトレースは、キュー・マネージャーによって自動的に開始されることもあれば、START TRACE コマンドを使用して手動で開始することもできます。

デフォルトは TNO(*) です。この場合は、1 から 32 の番号のすべてのアクティブ・トレースにコマンドが適用されますが、トレース 0 には適用されません。番号 0 のトレースを停止するには、その番号を明示的に指定する必要があります。

USERID(string)

STOP TRACE の操作の対象を、特定のユーザー ID で開始されたトレースに限定します。8 つまでのユーザー ID を使用できます。ユーザー ID を複数個指定するときは、TNO には 1 つの値しか指定できません。このオプションは、トレース・タイプ STAT、ACCTG、CHINIT と一緒に使用しないでください。
デフォルトは USERID(*) です。この場合は、コマンドの対象が限定されません。

SUSPEND QMGR

クラスター内の他のキュー・マネージャーに、ローカル・キュー・マネージャーへのメッセージの送信を可能な限り回避するように通知するには、MQSC コマンド SUSPEND QMGR を使用します。

MQSC コマンドの使用

MQSC コマンドの使用方法については、[MQSC コマンドを使用したローカル管理タスクの実行](#)を参照してください。
SUSPEND QMGR コマンドおよび RESUME QMGR コマンドを使用してクラスターからキュー・マネージャーを一時的に除去する方法について詳しくは、[SUSPEND QMGR、RESUME QMGR、およびクラスター](#)を参照してください。

z/OS z/OS では、このコマンドを使用して、RESUME QMGR コマンドが今後実行される時点までキュー・マネージャーのログインと更新アクティビティを中断することもできます。そのアクションは、RESUME QMGR コマンドの逆になります。このコマンドによって、キュー・マネージャーが使用不可になるわけではありません。

IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	1344 ページの『z/OS での SUSPEND QMGR の使用』 を参照してください。

z/OS 列のシンボルの説明については、[z/OS でのコマンドの使用](#)を参照してください。

- [構文図](#)
- **z/OS** [1344 ページの『z/OS での SUSPEND QMGR の使用』](#)
- **z/OS** [1344 ページの『使用上の注意』](#)
- [1344 ページの『SUSPEND QMGR のパラメーターの説明』](#)

同義語: なし

SUSPEND QMGR

➡ SUSPEND QMGR

CLUSTER — (clustername)

CLUSNL — (nlname)

FACILITY — (

DB2

) ¹

IMSBRIDGE

LOG ¹

CMDSCOPE(' ') ²

CMDSCOPE — (— qmgr-name —) ¹

MODE(QUIESCE)

MODE(FORCE)

注:

¹ z/OS でのみ有効です。

² キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、IBM MQ for z/OS でのみ有効です。

z/OS での SUSPEND QMGR の使用

z/OS

SUSPEND QMGR は z/OS で使用できます。コマンドで使用されたパラメーターに応じて、さまざまなソースから発行される可能性があります。この表のシンボルの説明については、[641 ページの『z/OS でのコマンドの使用』](#)を参照してください。

コマンド	コマンドのソース	注
SUSPEND QMGR CLUSTER/ CLUSNL	CR	チャンネル・イニシエーターが稼働していることを確認します。
SUSPEND QMGR FACILITY	CR	
SUSPEND QMGR LOG	C	

使用上の注意

z/OS

z/OS: の場合

- CLUSTER または CLUSNL を定義するときに、以下の動作に注意する必要があります。
 - チャンネル・イニシエーターが開始されていない場合、このコマンドは失敗します。
 - エラーは、チャンネル・イニシエーターが稼働しているシステムのコンソールに報告されます。コマンドを実行したシステムには報告されません。
- SUSPEND QMGR コマンドと RESUME QMGR コマンドは、コンソールからの実行に限りサポートされます。しかし、他のすべての SUSPEND コマンドと RESUME コマンドは、コンソールからの実行とコマンド・サーバーからの実行がサポートされます。

SUSPEND QMGR のパラメーターの説明

CLUSTER パラメーターまたは CLUSNL パラメーターを付けた SUSPEND QMGR では、可用性を中断するクラスター (複数可) を指定し、その中断が有効になる方法を指定します。

z/OS

z/OS では、ロギングと更新アクティビティを制御し、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーになっている場合のコマンドの実行方法を制御します。

SUSPEND QMGR FACILITY(Db2) コマンドを使用して、Db2 へのキュー・マネージャー接続を終了できます。このコマンドは、Db2 に保守を適用するときに便利です。ただし、このオプションを使用すると、Db2 リソース (カップリング・ファシリティから Db2 にオフロードされる可能性がある大きなメッセージなど) へのアクセスができなくなります。

z/OS

SUSPEND QMGR FACILITY(IMSBRIDGE) コマンドを使用して、IBM MQ IMS ブリッジから IMS OTMA へのメッセージ送信を停止できます。 **z/OS** 共有キューと非共有キューへのメッセージの送達を制御する方法の詳細については、『[IMS ブリッジの制御](#)』を参照してください。

CLUSTER(*clustername*)

使用中断の対象となるクラスターの名前。

CLUSNL(*nlname*)

可用性を中断するクラスターのリストを指定した名前リストの名前。

z/OS

FACILITY

接続を終了する機能を指定します。このパラメーターでは、以下のいずれかの値を指定する必要があります。

Db2

Db2 への既存の接続を終了します。1278 ページの『RESUME QMGR』コマンドを実行すると、接続が再確立されます。Db2 接続が SUSPENDED の場合、Db2 にアクセスして完了する必要がある API 要求は、RESUME QMGR FACILITY(DB2) コマンドが発行されるまで中断されます。API 要求には以下のものがあります。

- キュー・マネージャーが開始された後の、共有キューの最初の MQOPEN
- メッセージ・ペイロードが Db2 にオフロードされる共有キューとの間での MQPUT、MQPUT1、および MQGET

z/OS

IMSBRIDGE

IMS ブリッジ・キューから OTMA へのメッセージの送信を停止します。IMS 接続は影響を受けません。IMS にメッセージを送信するタスクが終了すると、以下のいずれかの操作が実行されるまで、メッセージが IMS に送信されることはなくなります。

- OTMA または IMS の停止と再始動
- IBM MQ の停止と再始動
- 1278 ページの『RESUME QMGR』コマンドの処理

IMS OTMA からキュー・マネージャーへの戻りメッセージは影響を受けません。

コマンドの進行状況をモニターする場合は、以下のコマンドを実行して、開いているキューがないことを確認します。

```
DIS Q(*) CMDSCOPE(qmgr) STGCLASS(bridge_stgclass) IPPROCS
```

いずれかのキューが開いた状態になっている場合は、DISPLAY QSTATUS を使用して、MQ-IMS ブリッジがそのキューを開いているわけではないことを確認します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS

LOG

RESUME 要求が今後実行される時点まで、キュー・マネージャーのロギングと更新アクティビティを中断します。更新アクティビティが中断する前に、書き込まれていないログ・バッファが外部化され、システム・チェックポイントが取られ(非データ共有環境のみ)、BSDS が書き込みの多い RBA で更新されます。強調表示メッセージ(CSQJ372I)が生成され、更新アクティビティが再開されるまでシステム・コンソールに表示されます。z/OS でのみ有効です。LOG を指定する場合は、z/OS システム・コンソールからのみコマンドを実行できます。

ARCHIVE LOG コマンドまたは STOP QMGR コマンドによってシステム静止がアクティブになっている場合は、このオプションを使用できません。

RESUME QMGR LOG コマンドまたは STOP QMGR コマンドが実行されるまで、更新アクティビティは中断されたままになります。

このコマンドは、アクティビティが多い時間帯に実行するべきではありません。さらに、長時間にわたって実行するべきでもありません。更新アクティビティの中断によって、タイミングに関連したイベント(ロック・タイムアウトや、遅延が検出された場合の IBM MQ の診断メモリー・ダンプなど)が発生する可能性があります。

z/OS

CMDSCOPE

このパラメーターは、z/OS のみに適用され、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するのかを指定します。

..

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。これはデフォルト値です。

qmgr-name

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。

キュー共有グループ環境を使用しており、コマンド・サーバーが使用可能である場合のみ、コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定できます。

モード

可用性の中断が有効になる方法を指定します。

QUIESCE

クラスター内の他のキュー・マネージャーは、可能ならローカル・キュー・マネージャーへのメッセージの送信を回避するように通知されます。キュー・マネージャーが使用禁止になるわけではありません。

FORCE

クラスター内の他のキュー・マネージャーからのすべてのインバウンド・クラスター・チャンネルを強制的に停止します。この動作が発生するのは、クラスター受信側チャンネルが属している他のすべてのクラスターからも、キュー・マネージャーが強制的に中断させられている場合に限られます。

MODE キーワードを使用できるのは、CLUSTER または CLUSNL を使用する場合に限られます。LOG パラメーターまたは FACILITY パラメーターと一緒に使用することはできません。

関連資料

[1278 ページの『RESUME QMGR』](#)

ローカル・キュー・マネージャーが再び処理に使用できるようになり、これにメッセージを送信できることをクラスター内の他のキュー・マネージャーに通知するには、MQSC コマンド RESUME QMGR を使用します。これは、SUSPEND QMGR コマンドの逆のアクションです。

関連情報

[SUSPEND QMGR、RESUME QMGR およびクラスター](#)

プログラマブル・コマンド・フォーマット・リファレンス

プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) では、ネットワーク内のプログラムと PCF 対応のキュー・マネージャーとの間で交換できるコマンド・メッセージと応答メッセージが定義されています。PCF を使用すると、キュー・マネージャーの管理やその他のネットワーク管理が単純化されます。

PCF の概要については、[プログラマブル・コマンド・フォーマットの概要](#)を参照してください。

PCF の完全なリストについては、[1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義』](#)を参照してください。

PCF コマンドおよび応答は、1 つのヘッダーおよび定義済みタイプの任意の数のパラメーター構造を含む、一貫性のある構造を持ちます。これらの構造の詳細は、[1867 ページの『コマンドおよび応答の構造』](#)を参照してください。

PCF の例については、[1894 ページの『PCF の例』](#)を参照してください。

関連概念

[8 ページの『IBM MQ の制御コマンド』](#)

IBM MQ 制御コマンドの使用方法を知ることができます。

[638 ページの『MQSC リファレンス』](#)

MQSC コマンドを使用すると、キュー・マネージャー自体、キュー、チャンネル、キュー、プロセス定義、チャンネル、クライアント接続チャンネル、リスナー、サービス、名前リスト、クラスター、および認証情報オブジェクトなどのキュー・マネージャー・オブジェクトを管理できます。

関連資料

[195 ページの『IBM MQ for IBM i CL コマンド』](#)

コマンド・タイプ別にグループ化した IBM MQ for IBM i CL コマンドのリスト

プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義

すべての使用可能なプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) が、パラメーター (必須およびオプション)、応答データ、およびエラー・コードを含めて、リストされています。

以下は、IBM MQ システム管理アプリケーション・プログラムと IBM MQ キュー・マネージャーの間で送信される、コマンドと応答のプログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) に関する参照情報です。

- ▶ **z/OS** [1360 ページの『Backup CF Structure』](#)
[1361 ページの『Change Authentication Information Object、Copy Authentication Information Object、および Create Authentication Information Object』](#)
- ▶ **z/OS** [1370 ページの『Change CF Structure、Copy CF Structure、および Create CF Structure』](#)
[1375 ページの『Change Channel、Copy Channel、および Create Channel』](#)
[1409 ページの『Change Channel、Copy Channel、および Create Channel \(\(MQTT\)\)』](#)
[1415 ページの『Change Channel Listener、Copy Channel Listener、および Create Channel Listener』](#)
[1421 ページの『Change、Copy、および Create Namelist』](#)
[1424 ページの『Change Process、Copy Process、および Create Process』](#)
[1428 ページの『Change Queue、Copy Queue、および Create Queue』](#)
[1446 ページの『Change Queue Manager』](#)
[1474 ページの『Change Security』](#)
- ▶ **z/OS** [1474 ページの『Change SMDS』](#)
[1475 ページの『Change Service、Copy Service、および Create Service』](#)
- ▶ **z/OS** [1478 ページの『Change Storage Class、Copy Storage Class、および Create Storage Class』](#)
[1481 ページの『Change Subscription、Copy Subscription、および Create Subscription』](#)
[1485 ページの『Change Topic、Copy Topic、および Create Topic』](#)
[1494 ページの『Clear Queue』](#)
[1495 ページの『Clear Topic String』](#)
[1496 ページの『Delete Authentication Information Object』](#)
[1497 ページの『Delete Authority Record』](#)
- ▶ **z/OS** [1499 ページの『Delete CF Structure』](#)
[1499 ページの『Delete Channel』](#)
[1501 ページの『Delete Channel \(MQTT\)』](#)
[1502 ページの『Delete Channel Listener』](#)
[1502 ページの『Delete Namelist』](#)
[1504 ページの『Delete Process』](#)
[1505 ページの『Delete Queue』](#)
[1507 ページの『Delete Service』](#)
- ▶ **z/OS** [1508 ページの『Delete Storage Class』](#)
[1509 ページの『Delete Subscription』](#)
[1510 ページの『Delete Topic』](#)
[1511 ページの『Escape』](#)
[1512 ページの『Escape \(応答\)』](#)
- ▶ **z/OS** [1512 ページの『Inquire Archive』](#)
- ▶ **z/OS** [1513 ページの『Inquire Archive \(応答\)』](#)
[1516 ページの『Inquire Authentication Information Object』](#)
[1520 ページの『Inquire Authentication Information Object \(応答\)』](#)
[1523 ページの『Inquire Authentication Information Object Names』](#)
[1525 ページの『Inquire Authentication Information Object Names \(応答\)』](#)
[1525 ページの『Inquire Authority Records』](#)
[1529 ページの『Inquire Authority Records \(Response\)』](#)
[1531 ページの『Inquire Authority Service』](#)
[1532 ページの『Inquire Authority Service \(応答\)』](#)
- ▶ **z/OS** [1533 ページの『Inquire CF Structure』](#)

[▶ z/OS 1534 ページの『Inquire CF Structure \(応答\)』](#)
[▶ z/OS 1538 ページの『Inquire CF Structure Names』](#)
[▶ z/OS 1538 ページの『Inquire CF Structure Names \(Response\)』](#)
[▶ z/OS 1539 ページの『Inquire CF Structure Status』](#)
[▶ z/OS 1540 ページの『Inquire CF Structure Status \(Response\)』](#)
[1544 ページの『Inquire Channel』](#)
[1555 ページの『Inquire Channel \(MQTT\)』](#)
[1557 ページの『Inquire Channel \(応答\)』](#)
[1568 ページの『Inquire Channel Authentication Records』](#)
[1572 ページの『Inquire Channel Authentication Records \(応答\)』](#)
[1574 ページの『Inquire Channel Initiator』](#)
[1575 ページの『Inquire Channel Initiator \(応答\)』](#)
[1577 ページの『Inquire Channel Listener』](#)
[1579 ページの『Inquire Channel Listener \(応答\)』](#)
[1581 ページの『Inquire Channel Listener Status』](#)
[1583 ページの『Inquire Channel Listener Status \(応答\)』](#)
[1585 ページの『Inquire Channel Names』](#)
[1587 ページの『Inquire Channel Names \(応答\)』](#)
[1588 ページの『Inquire Channel Status』](#)
[1601 ページの『Inquire Channel Status \(MQTT\)』](#)
[1603 ページの『Inquire Channel Status \(応答\)』](#)
[1614 ページの『Inquire Channel Status \(応答\) \(MQTT\)』](#)
[1616 ページの『Inquire Cluster Queue Manager』](#)
[1621 ページの『Inquire Cluster Queue Manager \(応答\)』](#)
[1629 ページの『Inquire Communication Information Object』](#)
[1630 ページの『Inquire Communication Information Object \(Response\)』](#)
[1633 ページの『Inquire Connection』](#)
[1637 ページの『Inquire Connection \(応答\)』](#)
[1644 ページの『Inquire Entity Authority』](#)
[1646 ページの『Inquire Entity Authority \(Response\)』](#)
[▶ z/OS 1648 ページの『Inquire Group』](#)
[▶ z/OS 1649 ページの『Inquire Group \(応答\)』](#)
[▶ z/OS 1651 ページの『Inquire Log』](#)
[▶ z/OS 1651 ページの『z/OS での MQCMD INQUIRE LOG \(Inquire Log\) 応答』](#)
[1655 ページの『Inquire Namelist』](#)
[1657 ページの『Inquire Namelist \(応答\)』](#)
[1659 ページの『Inquire Namelist Names』](#)
[1660 ページの『Inquire Namelist Names \(応答\)』](#)
[1662 ページの『Inquire Process』](#)
[1665 ページの『Inquire Process \(応答\)』](#)
[1666 ページの『Inquire Process Names』](#)
[1667 ページの『Inquire Process Names \(応答\)』](#)
[1668 ページの『Inquire Pub/Sub Status』](#)
[1669 ページの『Inquire Pub/Sub Status \(応答\)』](#)
[1672 ページの『Inquire Queue』](#)
[1682 ページの『Inquire Queue \(応答\)』](#)
[1692 ページの『Inquire Queue Manager』](#)
[1702 ページの『Inquire Queue Manager \(応答\)』](#)

[1726 ページの『Multiplatforms での MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS \(Inquire Queue Manager Status\)』](#)
[1728 ページの『Multiplatforms での MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS \(Inquire Queue Manager Status\) 応答』](#)
[1730 ページの『Inquire Queue Names』](#)
[1732 ページの『Inquire Queue Names \(応答\)』](#)
[1733 ページの『Inquire Queue Status』](#)
[1738 ページの『Inquire Queue Status \(応答\)』](#)
▶ **z/OS** [1745 ページの『Inquire Security』](#)
▶ **z/OS** [1745 ページの『Inquire Security \(応答\)』](#)
[1747 ページの『Inquire Service』](#)
[1748 ページの『Inquire Service \(応答\)』](#)
[1750 ページの『Inquire Service Status』](#)
[1752 ページの『Inquire Service Status \(応答\)』](#)
▶ **z/OS** [1753 ページの『Inquire SMDS』](#)
▶ **z/OS** [1754 ページの『Inquire SMDS \(応答\)』](#)
▶ **z/OS** [1755 ページの『Inquire SMDS Connection』](#)
▶ **z/OS** [1755 ページの『z/OS での MQCMD_INQUIRE_SMDSCONN \(Inquire SMDS Connection\) 応答』](#)
▶ **z/OS** [1757 ページの『Inquire Storage Class』](#)
▶ **z/OS** [1759 ページの『Inquire Storage Class \(応答\)』](#)
▶ **z/OS** [1760 ページの『Inquire Storage Class Names』](#)
▶ **z/OS** [1762 ページの『Inquire Storage Class Names \(Response\)』](#)
[1762 ページの『Inquire Subscription』](#)
[1765 ページの『Inquire Subscription \(応答\)』](#)
[1770 ページの『Inquire Subscription Status』](#)
[1772 ページの『Inquire Subscription Status \(応答\)』](#)
▶ **z/OS** [1773 ページの『Inquire System』](#)
▶ **z/OS** [1774 ページの『z/OS での MQCMD_INQUIRE_SYSTEM \(Inquire System\) 応答』](#)
[1778 ページの『Inquire Topic』](#)
[1781 ページの『Inquire Topic \(応答\)』](#)
[1787 ページの『トピック名の照会』](#)
[1789 ページの『Inquire Topic Names \(応答\)』](#)
[1789 ページの『トピック状況の照会』](#)
[1791 ページの『Inquire Topic Status \(応答\)』](#)
▶ **z/OS** [1797 ページの『Inquire Usage』](#)
▶ **z/OS** [1798 ページの『Inquire Usage \(Response\)』](#)
▶ **z/OS** [1802 ページの『Move Queue』](#)
[1804 ページの『Ping Channel』](#)
[1807 ページの『Ping Queue Manager』](#)
[1808 ページの『Purge Channel』](#)
▶ **z/OS** [1808 ページの『Recover CF Structure』](#)
[1809 ページの『Refresh Cluster』](#)
[1810 ページの『キュー・マネージャーのリフレッシュ』](#)
[1813 ページの『Refresh Security』](#)
▶ **z/OS** [1815 ページの『Reset CF Structure』](#)

[1816 ページの『Reset Channel』](#)
[1818 ページの『Reset Cluster』](#)
[1820 ページの『Reset Queue Manager』](#)
[1821 ページの『Reset Queue Statistics』](#)
[1822 ページの『Reset Queue Statistics \(応答\)』](#)
 [1823 ページの『Reset SMDS』](#)
[1824 ページの『Resolve Channel』](#)
 [1826 ページの『Resume Queue Manager』](#)
[1827 ページの『Resume Queue Manager Cluster』](#)
 [1828 ページの『Reverify Security』](#)
 [1828 ページの『Set Archive』](#)
[1832 ページの『Set Authority Record』](#)
[1836 ページの『Set Channel Authentication Record』](#)
 [1842 ページの『Set Log』](#)
 [1846 ページの『Set System』](#)
[1847 ページの『Start Channel』](#)
[1851 ページの『Start Channel \(MQTT\)』](#)
[1852 ページの『Start Channel Initiator』](#)
[1853 ページの『Start Channel Listener』](#)
[1855 ページの『Start Service』](#)
 [1855 ページの『Start SMDS Connection』](#)
[1856 ページの『Stop Channel』](#)
[1860 ページの『Stop Channel \(MQTT\)』](#)
 [1861 ページの『Stop Channel Initiator』](#)
[1862 ページの『Stop Channel Listener』](#)
[1863 ページの『Stop Connection』](#)
[1863 ページの『Stop Service』](#)
 [1864 ページの『Stop SMDS Connection』](#)
 [1865 ページの『Suspend Queue Manager』](#)
[1866 ページの『Suspend Queue Manager Cluster』](#)

定義の表示方法

プログラマブル・コマンド・フォーマット (PCF) の定義は、コマンド、応答、パラメーター、定数、およびエラー・コードを含めて、一貫性のある形式で表示されます。

PCF コマンドまたは応答のそれぞれについて、そのコマンドまたは応答の動作についての記述があり、コマンド ID が括弧で囲んで示されます。コマンド ID のすべての値については、[定数を参照してください](#)。コマンドの記述はそれぞれ、そのコマンドが有効であるプラットフォームを識別するテーブルで始まります。各コマンドのその他の詳細な使用上の注意については、[PCF の定義](#)の中の該当するコマンドの説明を参照してください。

IBM MQ 製品 (IBM MQ for z/OS 以外) は、IBM MQ 管理インターフェース (MQAI) を使用することができます。このインターフェースは、C および Visual Basic プログラミング言語で作成されたアプリケーションに、簡単に PCF コマンドを構築し、送信する方法を提供します。MQAI に関する詳細は、このトピックの 2 番目のセクションを参照してください。

コマンド

必須パラメーターと、オプション・パラメーターがリストされます。分散プラットフォームでは、パラメーターは次の順序で指定する **必要があります**。

1. すべての必須パラメーターを説明どおりの順序で指定した後で、以下のように指定します。
2. 必要に応じて、オプション・パラメーターを任意の順序 (PCF 定義で記述されていない限り) で指定します。

 z/OS では、パラメーターは任意の順序で指定できます。

応答

応答データ属性は、要求されたかどうかに関係なく、常に返されます。このパラメーターは、複数の応答メッセージが返される可能性がある場合に、オブジェクトを一意的に識別するために必要です。

示されるその他の属性は、コマンドのオプション・パラメーターとして要求された場合に返されます。応答データ属性は、定義された順序では返されません。

パラメーターと応答データ

各パラメーター名の後に、括弧で囲んだそれぞれの構造体名が続きます (詳細は、[1867 ページの『コマンドおよび応答の構造』](#)を参照)。パラメーター ID は、記述の先頭に示されます。

定数

PCF コマンドおよび応答で使用する定数の値については、[定数](#)を参照してください。

情報メッセージ



z/OS では、多くのコマンド応答で、構造体 MQIACF_COMMAND_INFO が、コマンドに関する情報を提供する値とともに返されます。

表 85. MQIACF_COMMAND_INFO 値	
MQIACF_COMMAND_INFO 値	意味
MQCMDI_CMDSCOPE_ACCEPTED	<i>CommandScope</i> を指定したコマンドが入力されました。そのコマンドは、要求された 1 つ以上のキュー・マネージャーに処理のために送信されました。
MQCMDI_CMDSCOPE_GENERATED	最初に入力されたコマンドに応答して、 <i>CommandScope</i> を指定したコマンドが生成されました。
MQCMDI_CMDSCOPE_COMPLETED	<i>CommandScope</i> を指定したコマンド (入力されたもの、または別のコマンドによって生成されたもの) の処理が、要求されたすべてのキュー・マネージャーで正常に完了しました。
MQCMDI_QSG_DISP_COMPLETED	指定された属性指定のオブジェクトを参照するコマンドの処理が正常に完了しました。
MQCMDI_COMMAND_ACCEPTED	コマンドの初期処理が正常に完了しました。このコマンドは、さらに、要求がキューに入れられたチャネル・イニシエーターによる処置を必要とします。その処置が成功したかどうかを報告するメッセージが、後ほどコマンド発行者に送信されます。
MQCMDI_CLUSTER_REQUEST_QUEUED	コマンドの初期処理が正常に完了しました。このコマンドは、さらに、要求がキューに入れられたクラスター・リポジトリ・マネージャーによる処置を必要とします。

表 85. MQIACF_COMMAND_INFO 値 (続き)	
MQIACF_COMMAND_INFO 値	意味
MQCMDI_CHANNEL_INIT_STARTED	Start Channel Initiator コマンドが実行され、チャンネル・イニシエーター・アドレス・スペースが正常に開始されました。
MQCMDI_RECOVER_STARTED	キュー・マネージャーが、指定された構造体に対する Recover CF Structure コマンドを処理する作業を正常に開始しました。
MQCMDI_BACKUP_STARTED	キュー・マネージャーが、指定された構造体に対する Backup CF Structure コマンドを処理する作業を正常に開始しました。
MQCMDI_RECOVER_COMPLETED	指定された CF 構造体が正常にリカバリーされました。この構造体は再度使用できます。
MQCMDI_SEC_TIMER_ZERO	Change Security コマンドが入力されましたが、 <i>SecurityInterval</i> 属性が 0 に設定されています。したがって、ユーザー・タイムアウトは発生しません。
MQCMDI_REFRESH_CONFIGURATION	構成イベントを可能にする Change Queue Manager コマンドが発行されました。構成情報を完全かつ最新にするために、イベント・メッセージを生成する必要があります。
MQCMDI_IMS_BRIDGE_SUSPENDED	MQ-IMS ブリッジ機能が中断状態になりました。
MQCMDI_DB2_SUSPENDED	Db2 への接続が中断状態になりました。
MQCMDI_DB2_OBSOLETE_MSGS	旧 Db2 メッセージがキュー共有グループに存在します。

エラー・コード

➤ **z/OS** z/OS では、PCF コマンドは、MQRCCF コードの代わりに MQRC 理由コードを返すことができます。

MQRCCF コードは、UNIX、Linux、または Windows で使用されます。大部分のコマンド・フォーマット定義の終わりには、そのコマンドから返される可能性のあるエラー・コードのリストがあります。

すべてのコマンドに該当するエラー・コード

すべてのコマンドは、各コマンド・フォーマットの下にリストされるエラー・コードに加えて、以下のエラー・コードを応答フォーマット・ヘッダーで返すことがあります (MQRC_* エラー・コードの説明は、[メッセージと理由コード](#) ➤ **z/OS** および [IBM MQ for z/OS のメッセージ、完了コード、および理由コード](#) の資料を参照してください)。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_NONE

(0, X'000') レポートする理由コードはありません。

MQRC_MSG_TOO_BIG_FOR_Q

(2030, X'7EE') メッセージの長さが、キューの最大許容数より大きいです。

MQRC_CONNECTION_BROKEN

(2009, X'7D9') キュー・マネージャーとの接続が失われました。

MQRC_NOT_AUTHORIZED
(2035, X'7F3') アクセスは許可されません。

MQRC_SELECTOR_ERROR
(2067, X'813') 属性選択子が無効です。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE
(2071, X'817') ストレージが不足しています。

MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME
(2085, X'825') オブジェクト名が不明です。

MQRCCF_ATTR_VALUE_ERROR
属性値が無効です。

MQRCCF_CFBF_FILTER_VAL_LEN_ERROR
フィルター値の長が無効です。

MQRCCF_CFBF_LENGTH_ERROR
構造体の長が無効です。

MQRCCF_CFBF_OPERATOR_ERROR
演算子エラー。

MQRCCF_CFBF_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFBS_DUPLICATE_PARM
パラメーターが重複しています。

MQRCCF_CFBS_LENGTH_ERROR
構造体の長が無効です。

MQRCCF_CFBS_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFBS_STRING_LENGTH_ERROR
ストリングの長が無効です。

MQRCCF_CFGR_LENGTH_ERROR
構造体の長が無効です。

MQRCCF_CFGR_PARM_COUNT_ERROR
パラメーター・カウントが無効です。

MQRCCF_CFGR_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFH_COMMAND_ERROR
コマンド ID が無効です。

MQRCCF_CFH_CONTROL_ERROR
制御オプションが無効です。

MQRCCF_CFH_LENGTH_ERROR
構造体の長が無効です。

MQRCCF_CFH_MSG_SEQ_NUMBER_ERR
メッセージ順序番号が無効です。

MQRCCF_CFH_PARM_COUNT_ERROR
パラメーター・カウントが無効です。

MQRCCF_CFH_TYPE_ERROR
タイプが無効です。

MQRCCF_CFH_VERSION_ERROR
構造体バージョン番号が無効です。

MQRCCF_CFIF_LENGTH_ERROR
構造体の長が無効です。

MQRCCF_CFIF_OPERATOR_ERROR
演算子エラー。

MQRCCF_CFIF_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFIL_COUNT_ERROR
パラメーター値のカウントが無効です。

MQRCCF_CFIL_DUPLICATE_VALUE
パラメーターが重複しています。

MQRCCF_CFIL_LENGTH_ERROR
構造体の長さが無効です。

MQRCCF_CFIL_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFIN_DUPLICATE_PARM
パラメーターが重複しています。

MQRCCF_CFIN_LENGTH_ERROR
構造体の長さが無効です。

MQRCCF_CFIN_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFSF_FILTER_VAL_LEN_ERROR
フィルター値の長さが無効です。

MQRCCF_CFSF_LENGTH_ERROR
構造体の長さが無効です。

MQRCCF_CFSF_OPERATOR_ERROR
演算子エラー。

MQRCCF_CFSF_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFSL_COUNT_ERROR
パラメーター値のカウントが無効です。

MQRCCF_CFSL_DUPLICATE_PARM
パラメーターが重複しています。

MQRCCF_CFSL_LENGTH_ERROR
構造体の長さが無効です。

MQRCCF_CFSL_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFSL_STRING_LENGTH_ERROR
ストリングの長さの値が無効です。

MQRCCF_CFSL_TOTAL_LENGTH_ERROR
ストリングの合計長エラー。

MQRCCF_CFST_CONFLICTING_PARM
パラメーターが競合しています。

MQRCCF_CFST_DUPLICATE_PARM
パラメーターが重複しています。

MQRCCF_CFST_LENGTH_ERROR
構造体の長さが無効です。

MQRCCF_CFST_PARM_ID_ERROR
パラメーター ID が無効です。

MQRCCF_CFST_STRING_LENGTH_ERROR
ストリングの長さの値が無効です。

MQRCCF_COMMAND_FAILED
コマンドは失敗しました。

MQRCCF_ENCODING_ERROR
エンコード・エラーです。

MQRCCF_MD_FORMAT_ERROR

形式が無効です。

MQRCCF_MSG_SEQ_NUMBER_ERROR

メッセージ順序番号が無効です。

MQRCCF_MSG_TRUNCATED

メッセージが切り捨てられました。

MQRCCF_MSG_LENGTH_ERROR

メッセージ長が無効です。

MQRCCF_OBJECT_NAME_ERROR

オブジェクト名が無効です。

MQRCCF_OBJECT_OPEN

オブジェクトはオープンしています。

MQRCCF_PARM_COUNT_TOO_BIG

パラメーター・カウントが大きすぎます。

MQRCCF_PARM_COUNT_TOO_SMALL

パラメーター・カウントが小さすぎます。

MQRCCF_PARM_SEQUENCE_ERROR

パラメーターの順序が無効です。

MQRCCF_PARM_SYNTAX_ERROR

パラメーター内に構文エラーが検出されました。

MQRCCF_STRUCTURE_TYPE_ERROR

構造タイプが無効です。

MQRCCF_UNKNOWN_OBJECT_NAME

オブジェクト名が不明です。

グループ別の PCF コマンドと応答

この製品資料では、コマンドとデータ応答をアルファベット順に記載しています。

それらは便宜上、次のようにグループに分けられています。

認証情報コマンド

- [1361 ページの『Change Authentication Information Object、Copy Authentication Information Object、および Create Authentication Information Object』](#)
- [1496 ページの『Delete Authentication Information Object』](#)
- [1516 ページの『Inquire Authentication Information Object』](#)
- [1523 ページの『Inquire Authentication Information Object Names』](#)

権限レコード・コマンド

- [1497 ページの『Delete Authority Record』](#)
- [1525 ページの『Inquire Authority Records』](#)
- [1531 ページの『Inquire Authority Service』](#)
- [1644 ページの『Inquire Entity Authority』](#)
- [1832 ページの『Set Authority Record』](#)

CF コマンド



- [1360 ページの『Backup CF Structure』](#)
- [1370 ページの『Change CF Structure、Copy CF Structure、および Create CF Structure』](#)

- [1499 ページの『Delete CF Structure』](#)
- [1533 ページの『Inquire CF Structure』](#)
- [1538 ページの『Inquire CF Structure Names』](#)
- [1539 ページの『Inquire CF Structure Status』](#)
- [1808 ページの『Recover CF Structure』](#)

チャンネル・コマンド

- [1375 ページの『Change Channel、Copy Channel、および Create Channel』](#)
- [1499 ページの『Delete Channel』](#)
- [1544 ページの『Inquire Channel』](#)
-  [1574 ページの『Inquire Channel Initiator』](#)
- [1585 ページの『Inquire Channel Names』](#)
- [1588 ページの『Inquire Channel Status』](#)
- [1804 ページの『Ping Channel』](#)
- [1816 ページの『Reset Channel』](#)
- [1824 ページの『Resolve Channel』](#)
- [1847 ページの『Start Channel』](#)
-  [1852 ページの『Start Channel Initiator』](#)
- [1856 ページの『Stop Channel』](#)
-  [1861 ページの『Stop Channel Initiator』](#)

チャンネル・コマンド (MQTT)

- [1409 ページの『Change Channel、Copy Channel、および Create Channel \(\(MQTT\)\)』](#)
- [1501 ページの『Delete Channel \(MQTT\)』](#)
- [1555 ページの『Inquire Channel \(MQTT\)』](#)
- [1601 ページの『Inquire Channel Status \(MQTT\)』](#)
- [1808 ページの『Purge Channel』](#)
- [1851 ページの『Start Channel \(MQTT\)』](#)
- [1860 ページの『Stop Channel \(MQTT\)』](#)

チャンネル認証コマンド

- [1568 ページの『Inquire Channel Authentication Records』](#)
- [1836 ページの『Set Channel Authentication Record』](#)

チャンネル・リスナー・コマンド

- [1415 ページの『Change Channel Listener、Copy Channel Listener、および Create Channel Listener』](#)
- [1502 ページの『Delete Channel Listener』](#)
- [1577 ページの『Inquire Channel Listener』](#)
- [1581 ページの『Inquire Channel Listener Status』](#)
- [1853 ページの『Start Channel Listener』](#)
- [1862 ページの『Stop Channel Listener』](#)

クラスター・コマンド

- [1616 ページの『Inquire Cluster Queue Manager』](#)
- [1809 ページの『Refresh Cluster』](#)
- [1818 ページの『Reset Cluster』](#)
- [1827 ページの『Resume Queue Manager Cluster』](#)
- [1866 ページの『Suspend Queue Manager Cluster』](#)

通信情報コマンド

- [1417 ページの『Change Communication Information Object、Copy Communication Information Object、および Create Communication Information Object』](#)
- [1502 ページの『Delete Communication Information Object』](#)
- [1629 ページの『Inquire Communication Information Object』](#)

接続コマンド

- [1633 ページの『Inquire Connection』](#)
- [1863 ページの『Stop Connection』](#)

Escape コマンド

- [1511 ページの『Escape』](#)

名前リスト・コマンド

- [1421 ページの『Change、Copy、および Create Namelist』](#)
- [1502 ページの『Delete Namelist』](#)
- [1655 ページの『Inquire Namelist』](#)
- [1659 ページの『Inquire Namelist Names』](#)

プロセス・コマンド

- [1424 ページの『Change Process、Copy Process、および Create Process』](#)
- [1504 ページの『Delete Process』](#)
- [1662 ページの『Inquire Process』](#)
- [1666 ページの『Inquire Process Names』](#)

パブリッシュ/サブスクライブ・コマンド

- [1481 ページの『Change Subscription、Copy Subscription、および Create Subscription』](#)
- [1485 ページの『Change Topic、Copy Topic、および Create Topic』](#)
- [1495 ページの『Clear Topic String』](#)
- [1509 ページの『Delete Subscription』](#)
- [1510 ページの『Delete Topic』](#)
- [1668 ページの『Inquire Pub/Sub Status』](#)
- [1762 ページの『Inquire Subscription』](#)
- [1770 ページの『Inquire Subscription Status』](#)
- [1778 ページの『Inquire Topic』](#)
- [1787 ページの『トピック名の照会』](#)

- [1789 ページの『トピック状況の照会』](#)

キュー・コマンド

- [1428 ページの『Change Queue、Copy Queue、および Create Queue』](#)
- [1494 ページの『Clear Queue』](#)
- [1505 ページの『Delete Queue』](#)
- [1672 ページの『Inquire Queue』](#)
- [1730 ページの『Inquire Queue Names』](#)
- [1733 ページの『Inquire Queue Status』](#)
-  [1802 ページの『Move Queue』](#)
- [1821 ページの『Reset Queue Statistics』](#)

キュー・マネージャー・コマンド

- [1446 ページの『Change Queue Manager』](#)
- [1692 ページの『Inquire Queue Manager』](#)
- [1726 ページの『Multiplatforms での MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS \(Inquire Queue Manager Status\)』](#)
- [1807 ページの『Ping Queue Manager』](#)
- [1810 ページの『キュー・マネージャーのリフレッシュ』](#)
- [1820 ページの『Reset Queue Manager』](#)
-  [1826 ページの『Resume Queue Manager』](#)
-  [1865 ページの『Suspend Queue Manager』](#)

セキュリティ・コマンド

- [1474 ページの『Change Security』](#)
- [1745 ページの『Inquire Security』](#)
- [1813 ページの『Refresh Security』](#)
-  [1828 ページの『Reverify Security』](#)

サービス・コマンド

- [1475 ページの『Change Service、Copy Service、および Create Service』](#)
- [1507 ページの『Delete Service』](#)
- [1747 ページの『Inquire Service』](#)
- [1750 ページの『Inquire Service Status』](#)
- [1855 ページの『Start Service』](#)
- [1863 ページの『Stop Service』](#)

SMDS コマンド

-  [1474 ページの『Change SMDS』](#)
- [1753 ページの『Inquire SMDS』](#)
- [1755 ページの『Inquire SMDS Connection』](#)
- [1823 ページの『Reset SMDS』](#)

- [1855 ページの『Start SMDS Connection』](#)
- [1864 ページの『Stop SMDS Connection』](#)

ストレージ・クラス・コマンド

z/OS

-  [1478 ページの『Change Storage Class、Copy Storage Class、および Create Storage Class』](#)
- [1508 ページの『Delete Storage Class』](#)
- [1757 ページの『Inquire Storage Class』](#)
- [1760 ページの『Inquire Storage Class Names』](#)

システム・コマンド

z/OS

- [1512 ページの『Inquire Archive』](#)
- [1828 ページの『Set Archive』](#)
- [1648 ページの『Inquire Group』](#)
- [1651 ページの『Inquire Log』](#)
- [1842 ページの『Set Log』](#)
- [1773 ページの『Inquire System』](#)
- [1846 ページの『Set System』](#)
- [1797 ページの『Inquire Usage』](#)

コマンドに対するデータ応答

- [1512 ページの『Escape \(応答\)』](#)
-  [1513 ページの『Inquire Archive \(応答\)』](#)
- [1520 ページの『Inquire Authentication Information Object \(応答\)』](#)
- [1525 ページの『Inquire Authentication Information Object Names \(応答\)』](#)
- [1529 ページの『Inquire Authority Records \(Response\)』](#)
- [1532 ページの『Inquire Authority Service \(応答\)』](#)
-  [1534 ページの『Inquire CF Structure \(応答\)』](#)
-  [1538 ページの『Inquire CF Structure Names \(Response\)』](#)
-  [1540 ページの『Inquire CF Structure Status \(Response\)』](#)
- [1557 ページの『Inquire Channel \(応答\)』](#)
- [1572 ページの『Inquire Channel Authentication Records \(応答\)』](#)
- [1575 ページの『Inquire Channel Initiator \(応答\)』](#)
- [1579 ページの『Inquire Channel Listener \(応答\)』](#)
- [1583 ページの『Inquire Channel Listener Status \(応答\)』](#)
- [1587 ページの『Inquire Channel Names \(応答\)』](#)
- [1603 ページの『Inquire Channel Status \(応答\)』](#)
- [1614 ページの『Inquire Channel Status \(応答\) \(MQTT\)』](#)
- [1621 ページの『Inquire Cluster Queue Manager \(応答\)』](#)
- [1630 ページの『Inquire Communication Information Object \(Response\)』](#)
- [1637 ページの『Inquire Connection \(応答\)』](#)

- [1646 ページの『Inquire Entity Authority \(Response\)』](#)
- [▶ z/OS 1649 ページの『Inquire Group \(応答\)』](#)
- [▶ z/OS 1651 ページの『z/OS での MQCMD_INQUIRE_LOG \(Inquire Log\) 応答』](#)
- [1657 ページの『Inquire Namelist \(応答\)』](#)
- [1660 ページの『Inquire Namelist Names \(応答\)』](#)
- [1665 ページの『Inquire Process \(応答\)』](#)
- [1667 ページの『Inquire Process Names \(応答\)』](#)
- [1669 ページの『Inquire Pub/Sub Status \(応答\)』](#)
- [1682 ページの『Inquire Queue \(応答\)』](#)
- [1702 ページの『Inquire Queue Manager \(応答\)』](#)
- [1728 ページの『Multiplatforms での MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS \(Inquire Queue Manager Status\) 応答』](#)
- [1732 ページの『Inquire Queue Names \(応答\)』](#)
- [1822 ページの『Reset Queue Statistics \(応答\)』](#)
- [1738 ページの『Inquire Queue Status \(応答\)』](#)
- [▶ z/OS 1745 ページの『Inquire Security \(応答\)』](#)
- [1748 ページの『Inquire Service \(応答\)』](#)
- [1752 ページの『Inquire Service Status \(応答\)』](#)
- [▶ z/OS 1759 ページの『Inquire Storage Class \(応答\)』](#)
- [▶ z/OS 1762 ページの『Inquire Storage Class Names \(Response\)』](#)
- [▶ z/OS 1754 ページの『Inquire SMDS \(応答\)』](#)
- [▶ z/OS 1755 ページの『z/OS での MQCMD_INQUIRE_SMDSCONN \(Inquire SMDS Connection\) 応答』](#)
- [1765 ページの『Inquire Subscription \(応答\)』](#)
- [1772 ページの『Inquire Subscription Status \(応答\)』](#)
- [▶ z/OS 1774 ページの『z/OS での MQCMD_INQUIRE_SYSTEM \(Inquire System\) 応答』](#)
- [1781 ページの『Inquire Topic \(応答\)』](#)
- [1789 ページの『Inquire Topic Names \(応答\)』](#)
- [1791 ページの『Inquire Topic Status \(応答\)』](#)
- [▶ z/OS 1798 ページの『Inquire Usage \(Response\)』](#)

▶ z/OS Backup CF Structure

Backup CF Structure (MQCMD_BACKUP_CF_STRUC) コマンドは、CF アプリケーション構造のバックアップを開始します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注：このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみサポートされます。

必要なパラメーター

CFStrucName (MQCFST)

バックアップする CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・ キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

ExcludeInterval (MQCFIN)

除外間隔 (パラメーター ID: MQIACF_EXCLUDE_INTERVAL)。

バックアップが開始される現在時刻の直前の時間の長さを定義する値 (秒) を指定します。バックアップでは、最後の *n* 秒間のアクティビティは除外されます。例えば、30 秒が指定された場合、バックアップには、このアプリケーション構造のアクティビティに相当する最後の 30 秒は含まれません。

値は 30 から 600 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 30 です。

Change Authentication Information Object、Copy Authentication Information Object、および Create Authentication Information Object

Change Authentication Information コマンドは、既存の認証情報オブジェクトの属性を変更します。

Create Authentication Information および Copy Authentication Information コマンドは、認証情報オブジェクトを新規作成します。Copy コマンドでは、既存のオブジェクトの属性値が使用されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

Change Authentication Information (MQCMD_CHANGE_AUTH_INFO) コマンドは、認証情報オブジェクト内の指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Authentication Information (MQCMD_COPY_AUTH_INFO) コマンドは、このコマンド内で指定されていない属性について、既存の認証情報オブジェクトの属性値を使用して新規認証情報オブジェクトを作成します。

Create Authentication Information (MQCMD_CREATE_AUTH_INFO) コマンドは、認証情報オブジェクトを作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。システムのデフォルト認証情報オブジェクトが存在します。デフォルト値は、このオブジェクトから取得されます。

必須パラメーター (Change Authentication Information)

AuthInfoName (MQCFST)

認証情報オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

AuthInfoType (MQCFIN)

認証情報オブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIA_AUTH_INFO_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQAIT_CRL_LDAP

この認証情報オブジェクトが、証明書取り消しリストを保持する LDAP サーバーを指定するものであることを定義します。

MQAIT_OCSP

この値は、この認証情報オブジェクトが、OCSP を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

MQAIT_OCSP の AuthInfoType は、IBM i または z/OS キュー・マネージャーでの使用向けではありませんが、これらのプラットフォーム上で指定し、クライアント用のクライアント・チャンネル定義テーブルにコピーすることができます。

MQAIT_IDPW_OS

この値は、この認証情報オブジェクトが、オペレーティング・システムを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

MQAIT_IDPW_LDAP

この値は、この認証情報オブジェクトが、LDAP サーバーを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

重要：このオプションは、z/OS では無効です。

詳しくは、[セキュリティ](#)を参照してください。

必須パラメーター (Copy Authentication Information)

FromAuthInfoName (MQCFST)

コピー元の認証情報オブジェクト定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_AUTH_INFO_NAME)。

 z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。QSGDisposition に値 MQQSGD_COPY が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。この場合、ToAuthInfoName によって指定された名前を持ち、MQQSGD_GROUP の属性指定を持つオブジェクトがコピー元として検索されます。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

ToAuthInfoName (MQCFST)

コピー先の認証情報オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_AUTH_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

AuthInfoType (MQCFIN)

認証情報オブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIA_AUTH_INFO_TYPE)。この値は、コピー元の認証情報オブジェクトの AuthInfoType と一致していなければなりません。

値は次のいずれかです。

MQAIT_CRL_LDAP

この値は、この認証情報オブジェクトが、LDAP 上に保持される証明書取り消しリストを指定するものであることを定義します。

MQAIT_OCSP

この値は、この認証情報オブジェクトが、OCSP を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

MQAIT_IDPW_OS

この値は、この認証情報オブジェクトが、オペレーティング・システムを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

MQAIT_IDPW_LDAP

この値は、この認証情報オブジェクトが、LDAP サーバーを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

重要：このオプションは、z/OS では無効です。

詳しくは、[セキュリティ](#)を参照してください。

必須パラメーター (Create Authentication Information)

AuthInfoName (MQCFST)

認証情報名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

AuthInfoType(MQCFIN)

認証情報オブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIA_AUTH_INFO_TYPE)。

受け入れられる値は以下のとおりです。

MQAIT_CRL_LDAP

この値は、この認証情報オブジェクトが、証明書取り消しリストを保持する LDAP サーバーを指定するものであることを定義します。

MQAIT_OCSP

この値は、この認証情報オブジェクトが、OCSP を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

MQAIT_OCSP の AuthInfoType は、IBM i または z/OS キュー・マネージャーでの使用向けではありませんが、これらのプラットフォーム上で指定し、クライアント用のクライアント・チャンネル定義テーブルにコピーすることができます。

MQAIT_IDPW_OS

この値は、この認証情報オブジェクトが、オペレーティング・システムを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

MQAIT_IDPW_LDAP

この値は、この認証情報オブジェクトが、LDAP サーバーを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定するものであることを定義します。

重要：このオプションは、z/OS では無効です。

詳しくは、[セキュリティ](#)を参照してください。

オプションのパラメーター (Change Authentication Information Object、Copy Authentication Information Object、および Create Authentication Information Object)

AdoptContext (MQCFIN)

提供された資格情報をこのアプリケーションのコンテキストとして使用するかどうか (パラメーター ID: MQIA_ADOPT_CONTEXT)。これは、この資格情報が許可検査に使用され、管理画面に表示され、メッセージに出現することを意味します。

MQADPCTX_YES

パスワードにより妥当性検査が正常に行われた、MQCSP 構造内に示されたユーザー ID は、このアプリケーションに使用するコンテキストとして採用されます。したがって、このユーザー ID は、IBM MQ リソースの使用許可として確認される資格情報となります。

提供されたユーザー ID が LDAP ユーザー ID であり、許可検査がオペレーティング・システムのユーザー ID を使用して行われる場合、LDAP 内のユーザー・エントリーに関連付けられた [ShortUser](#) が、許可検査の対象となる資格情報として採用されます。

MQADPCTX_NO

認証は MQCSP 構造内のユーザー ID とパスワードに対して実行されますが、資格情報が将来の使用のために採用されることはありません。許可は、アプリケーションが実行されているユーザー ID を使用して実行されます。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_OS* および *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効です。

最大長は MQIA_ADOPT_CONTEXT_LENGTH です。

AuthInfoConnName (MQCFST)

認証情報オブジェクトの接続名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_CONN_NAME)。

このパラメーターは、AuthInfoType を *MQAIT_CRL_LDAP* または *MQAIT_IDPW_LDAP* に設定する場合にのみ、適宜、使用します。

使用する AuthInfoType が *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合、これは、接続名をコンマで区切ったリストです。

z/OS 以外のプラットフォームでは、最大長は MQ_AUTH_INFO_CONN_NAME_LENGTH です。z/OS では、MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

AuthInfoDesc (MQCFST)

認証情報オブジェクトの記述 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_DESC)。

最大長は MQ_AUTH_INFO_DESC_LENGTH です。

V 8.0.0.3 AuthenticationMethod (MQCFIN)

ユーザー・パスワードの認証方式 (パラメーター ID: MQIA_AUTHENTICATION_METHOD)。指定可能な値は以下のとおりです。

MQAUTHENTICATE_OS

従来の UNIX プラットフォーム パスワード検証方式を使用します。

これはデフォルト値です。

MQAUTHENTICATE_PAM

交換可能認証方式を使用してユーザー・パスワードを認証します。

PAM 値は UNIX および Linux プラットフォームでのみ設定できます。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_OS* の場合にのみ有効で、IBM MQ for z/OS では無効です。

V 8.0.0.2 AuthorizationMethod (MQCFIN)

キュー・マネージャーの許可メソッド (パラメーター ID: MQIA_LDAP_AUTHORMD)。指定可能な値は以下のとおりです。

MQLDAP_AUTHORMD_OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

これは IBM MQ が以前処理していた方法であり、デフォルト値になります。

MQLDAP_AUTHORMD_SEARCHGRP

LDAP リポジトリのグループ項目に、そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性が含まれます。メンバーシップは、[FindGroup](#) で定義された属性によって示されます。この値は通常 *member* または *uniqueMember* です。

MQLDAP_AUTHORMD_SEARCHUSR

LDAP リポジトリのユーザー項目に、指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性が含まれます。照会する属性は、[FindGroup](#) 値によって定義され、通常は *memberOf* です。

多くの LDAP サーバーはグループ・メンバーシップの判別にグループ・オブジェクトの属性を使用するため、この値を *MQLDAP_AUTHORMD_SEARCHGRP* に設定する必要があります。

Microsoft Active Directory は通常、グループ・メンバーシップをユーザー属性として保管します。IBM Tivoli Directory Server は両方のメソッドをサポートします。

一般に、ユーザー属性によってメンバーシップを取得する方が、ユーザーをメンバーとしてリストするグループを検索するよりも高速です。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効で、 Windows プラットフォームには適用されません。

BaseDNGroup (MQCFST)

グループ名を検出するためには、このパラメーターに、LDAP サーバー内でグループを検索するときに使用する基本 DN を設定する必要があります (パラメーター ID: *MQCA_LDAP_BASE_DN_GROUPS*)。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効で、 Windows プラットフォームには適用されません。

最大長は *MQ_LDAP_BASE_DN_LENGTH* です。

BaseDNUser (MQCFST)

短いユーザー名属性 (*ShortUser* を参照) を検出するには、このパラメーターに、LDAP サーバー内のユーザーを検索するときに使用する基本 DN を設定する必要があります (パラメーター ID: *MQCA_LDAP_BASE_DN_USERS*)。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効で必須の属性です。

最大長は *MQ_LDAP_BASE_DN_LENGTH* です。

Checkclient (MQCFIN)

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_OS* または *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効です (パラメーター ID: *MQIA_CHECK_CLIENT_BINDING*)。指定できる値は以下のとおりです。

MQCHK_NONE

検査をオフにします。

MQCHK_OPTIONAL

アプリケーションからユーザー ID とパスワードが提供された場合、それらが有効なペアであることを確認します。ただし、それらの提供は必須ではありません。このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

MQCHK_REQUIRED

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

MQCHK_REQUIRED_ADMIN

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定しなければなりませんが、非特権ユーザーは *OPTIONAL* 設定と同じように扱われます。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

 (この設定は z/OS システムでは使用できません。)

Checklocal (MQCFIN)

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_OS* または *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効です (パラメーター ID: *MQIA_CHECK_LOCAL_BINDING*)。指定できる値は以下のとおりです。

MQCHK_NONE

検査をオフにします。

MQCHK_OPTIONAL

アプリケーションからユーザー ID とパスワードが提供された場合、それらが有効なペアであることを確認します。ただし、それらの提供は必須ではありません。このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

MQCHK_REQUIRED

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

 *MQCONN* クラスの *BATCH* プロファイルに対する *UPDATE* アクセス権限がユーザー ID に付与されている場合は、**MQCHK_REQUIRED** を **MQCHK_OPTIONAL** であるかのように扱うこと

ができます。つまり、パスワードを指定する必要はありませんが、指定する場合は正しいパスワードでなければなりません。

MQCHK_REQUIRED_ADMIN

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定しなければなりません、非特権ユーザーは OPTIONAL 設定と同じように扱われます。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

z/OS (この設定は z/OS システムでは使用できません。)

V 8.0.0.2 ClassGroup (MQCFST)

LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス (パラメーター ID: MQCA_LDAP_GROUP_OBJECT_CLASS)。

この値がブランクの場合には、**groupOfNames** が使用されます。

他に通常使用される値には、**groupOfUniqueNames** や **group** があります。

最大長は MQ_LDAP_CLASS_LENGTH です。

この属性は、**AuthInfoType** が **MQAIT_IDPW_LDAP** の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

Classuser (MQCFST)

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス (パラメーター ID: MQCA_LDAP_USER_OBJECT_CLASS)。

ブランクの場合、値は通常必要とされる値である **inetOrgPerson** にデフォルト設定されます。

Microsoft Active Directory では、必要とされる値は多くの場合 **user** です。

この属性は、**AuthInfoType** が **MQAIT_IDPW_LDAP** の場合にのみ有効です。

z/OS CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

FailureDelay (MQCFIN)

接続認証にユーザー ID とパスワードが提供されたものの、そのユーザー ID またはパスワードが誤っていたために認証が失敗する場合、失敗がアプリケーションに戻される前に、ここで指定した秒数の遅延が生じます (パラメーター ID: MQIA_AUTHENTICATION_FAIL_DELAY)。

これは、失敗を受信した後に、アプリケーションが単純に再試行を繰り返してビジー・ループになるのを回避するのに役立ちます。

値は 0 から 60 秒の範囲でなければなりません。デフォルト値は 1 です。

このパラメーターは、**AuthInfoType** が **MQAIT_IDPW_OS** または **MQAIT_IDPW_LDAP** の場合にのみ有効です。

▶ V 8.0.0.2 FindGroup (MQCFST)

グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_FIND_GROUP_FIELD)。

AuthorizationMethod = MQLDAP_AUTHORMD_SEARCHGRP の場合、この属性は、通常、*member* または *uniqueMember* に設定されます。

AuthorizationMethod = MQLDAP_AUTHORMD_SEARCHUSR の場合、この属性は、通常、*memberOf* に設定されます。

ブランクのままにした場合、キュー・マネージャーは **AuthorizationMethod** の設定に応じて、*member* または *memberOf* を使用します。

この属性は、**AuthInfoType** が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効で、▶ V 8.0.0.2 Windows プラットフォームには適用されません。

最大長は MQ_LDAP_FIELD_LENGTH です。

▶ V 8.0.0.2 GroupField (MQCFST)

グループの簡単な名前を表す LDAP 属性 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_GROUP_ATTR_FIELD)。

値がブランクの場合、setmqaut のようなコマンドはグループの修飾名を使用する必要があります。値は完全な識別名、または単一の属性のいずれかにできます。

この属性は、**AuthInfoType** が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効で、▶ V 8.0.0.2 Windows プラットフォームには適用されません。

最大長は MQ_LDAP_FIELD_LENGTH です。

▶ V 8.0.0.2 GroupNesting (MQCFIN)

グループが他のグループのメンバーになっているかどうか (パラメーター ID: MQCA_LDAP_NESTGRP)。値は次のいずれかです。

MQLDAP_NESTGRP_NO

最初に見つかったグループのみが、許可の対象となります。

MQLDAP_NESTGRP_YES

ユーザーが属するグループすべてを列挙するために、グループ・リストは再帰的に検索されます。

この属性は、**AuthInfoType** が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効で、▶ V 8.0.0.2 Windows プラットフォームには適用されません。

LDAPPassword (MQCFST)

LDAP パスワード (パラメーター ID: MQCA_LDAP_PASSWORD)。

このパラメーターは、**AuthInfoType** を MQAIT_CRL_LDAP または MQAIT_IDPW_LDAP に設定する場合にのみ使用します。

最大長は MQ_LDAP_PASSWORD_LENGTH です。

LDAPUserName (MQCFST)

LDAP ユーザー名 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_USER_NAME)。

このパラメーターは、**AuthInfoType** を MQAIT_CRL_LDAP または MQAIT_IDPW_LDAP に設定する場合にのみ、使用します。

z/OS 以外のプラットフォームでは、最大長は MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH です。z/OS では、最大長は MQ_SHORT_DNAME_LENGTH です。

OCSPResponderURL (MQCFST)

OCSP レスポンダーに連絡できる URL (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_OCSP_URL)。

このパラメーターは、**AuthInfoType** が必須であるときに MQAIT_OCSP に設定されている場合にのみ、関連があります。

このフィールドは、大文字と小文字が区別されます。先頭は、小文字のストリング `http://` にする必要があります。URL の残りの部分では、OCSP サーバー実装環境によっては、大文字小文字が区別されることがあります。

最大長は `MQ_AUTH_INFO_OCSP_URL_LENGTH` です。

z/OS QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: `MQIA_QSG_DISP`)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター <code>MQQSGD_COPY</code> を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター <code>MQQSGD_Q_MGR</code> が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトは、このコマンドの影響を受けません。	オブジェクトは、 <code>ToAuthInfoName</code> オブジェクト (コピーの場合) または <code>AuthInfoName</code> オブジェクト (作成の場合) と同じ名前の <code>MQQSGD_GROUP</code> オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。
MQQSGD_GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター <code>MQQSGD_GROUP</code> を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。 コマンドが正常に実行されると、次の <code>MQSC</code> コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが行われます。 <pre>DEFINE AUTHINFO(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの <code>Change</code> は、<code>QSGDISP(COPY)</code> を含んだ生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。この定義は、キュー・マネージャーがキュー共有グループにある場合にのみ許可されます。 定義が正常に行われると、次の <code>MQSC</code> コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット 0 上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが行われます。 <pre>DEFINE AUTHINFO(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの <code>Copy</code> または <code>Create</code> は、<code>QSGDISP(COPY)</code> で生成されたコマンドの成否にかかわらず有効です。
MQQSGD_PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、 <code>MQQSGD_Q_MGR</code> または <code>MQQSGD_COPY</code> で定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。	許可されません。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_Q_MGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーターMQQSGD_Q_MGRを持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。この値がデフォルト値です。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。この値がデフォルト値です。

Replace(MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

AuthInfoName または ToAuthInfoName と同じ名前の認証情報オブジェクトが存在する場合に、それを置き換えるかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRP_YES

既存の定義を置き換える。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

SecureComms(MQCFIN)

LDAP サーバーへの接続を SSL/TLS を使用して安全に行う必要があるかどうか (パラメーター ID: MQIA_LDAP_SECURE_COMM)。

MQSECCOMM_YES

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用して安全に行われます。

使用される証明書は、キュー・マネージャーのデフォルトの証明書で、キュー・マネージャー・オブジェクトで CERTLABL と指定されているか、それがブランクである場合は、[デジタル証明書ラベルの要件に関する説明](#)に記載されているものです。

証明書は、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに置かれます。暗号仕様は、IBM MQ サーバーと LDAP サーバーの両方でサポートされるものとなるようネゴシエーションされます。

キュー・マネージャーが SSLFIPS(YES) または SUITEB 暗号仕様を使用するよう構成されている場合、これは LDAP サーバーへの接続において同様に考慮されます。

MQSECCOMM_ANON

LDAP サーバーへの接続は、MQSECCOMM_YES と同様に SSL/TLS を使用して安全に行われますが、違いが 1 つあります。

証明書は LDAP サーバーに送信されません。接続は匿名で行われます。この設定を使用するには、キュー・マネージャー・オブジェクトの SSLKEYR で指定された鍵リポジトリに、デフォルトとしてマークされた証明書が含まれていないことを確認してください。

MQSECCOMM_NO

LDAP サーバーへの接続は SSL/TLS を使用しません。

この属性は、AuthInfoType が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効です。

ShortUser (MQCFST)

IBM MQ で短いユーザー名として使用する、ユーザー・レコード内のフィールド (パラメーター ID: MQCA_LDAP_SHORT_USER_FIELD)。

このフィールドには、12 文字以下の値を入れる必要があります。この短いユーザー名は、以下の目的で使用されます。

- LDAP 認証が有効であるが、LDAP 権限が有効ではない場合、これは許可検査のオペレーティング・システムのユーザー ID として使用されます。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要があります。

- LDAP 認証と権限の両方が有効で、メッセージ内のユーザー ID を使用しなければならない場合、これは LDAP ユーザー名を再発見するためのメッセージに付随するユーザー ID として使用されます。

例えば、別のキュー・マネージャーにおいて、またはレポート・メッセージの書き込み時などです。この場合、属性はオペレーティング・システムのユーザー ID を表す必要はありませんが、固有のストリングでなければなりません。この目的として使用できる属性の良い例としては、従業員シリアル番号があります。

この属性は、**AuthInfoType** が **MQAIT_IDPW_LDAP** の場合にのみ有効で必須の属性です。

最大長は **MQ_LDAP_FIELD_LENGTH** です。

UserField (MQCFST)

認証のためにアプリケーションから提供されたユーザー ID に、LDAP ユーザー・レコードのフィールドの修飾子、つまり、'=' 記号が含まれていない場合は、この属性を使用して、提供されたユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールドを識別します (パラメーター ID: **MQCA_LDAP_USER_ATTR_FIELD**)。

このフィールドは、ブランクにすることができます。その場合に、修飾されていないユーザー ID が提供されると、ユーザー ID の解釈には **ShortUser** フィールドが使用されます。

このフィールド内容は '=' 記号とアプリケーション提供の値に連結され、完全なユーザー ID として LDAP ユーザー・レコードに置かれます。例えば、アプリケーション提供のユーザーが fred でフィールド値が cn の場合、LDAP リポジトリの **cn=fred** が検索されます。

最大長は **MQ_LDAP_FIELD_LENGTH** です。

z/OS Change CF Structure、Copy CF Structure、および Create CF Structure

Change CF Structure コマンドは、既存の CF アプリケーション構造体を変更します。Copy CF Structure および Create CF Structure コマンドは、CF アプリケーション構造体を新規作成します。このとき、Copy コマンドは、既存のアプリケーション構造体の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注：これらのコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみサポートされます。

Change CF Structure (**MQCMD_CHANGE_CF_STRUC**) コマンドは、CF アプリケーション構造体内の指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy CF Structure (**MQCMD_COPY_CF_STRUC**) コマンドは、このコマンド内で指定されていない属性について、既存の CF アプリケーション構造体の属性値を使用して新規 CF アプリケーション構造体を作成します。

Create CF Structure (**MQCMD_CREATE_CF_STRUC**) コマンドは、CF アプリケーション構造体を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change CF Structure および Create CF Structure)

CFStrucName (MQCFST)

定義するバックアップおよびリカバリー・パラメーターを含む CF アプリケーション構造体の名前 (パラメーター ID: **MQCA_CF_STRUC_NAME**)。

ストリングの最大長は **MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH** です。

必須パラメーター (Copy CF Structure)

FromCFStrucName (MQCFST)

コピー元の CF アプリケーション構造体の名前 (パラメーター ID: **MQCACF_FROM_CF_STRUC_NAME**)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

ToCFStrucName (MQCFST)

コピー先の CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change CF Structure、Copy CF Structure、および Create CF Structure)

CFConlos (MQCFIN)

CFConlos (パラメーター ID: MQIA_CF_CFCONLOS)。

キュー・マネージャーが CF 構造体に対する接続を失ったときに実行されるアクションを指定します。CFConlos の有効な定数名の値は次のとおりです。

MQCFCONLOS_ASQMGR

実行されるアクションは、CFCONLOS キュー・マネージャー属性の設定に基づきます。この値は、CFLEVEL(5) を指定して新しく作成された CF 構造体オブジェクトのデフォルトです。

MQCFCONLOS_TERMINATE

構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。CFLEVEL(5) ではない CF 構造体オブジェクト、および CFLEVEL(5) に変更された既存の CF 構造体オブジェクトでは、この値がデフォルトです。

MQCFCONLOS_TOLERATE

構造体への接続が失われても、キュー・マネージャーはそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

CFLevel (MQCFIN)

この CF アプリケーション構造体の機能レベル (パラメーター ID: MQIA_CF_LEVEL)。

CF アプリケーション構造の機能レベルを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

1

コマンド・レベル 520 のキュー・マネージャーによって「自動作成」できる CF 構造体。

2

コマンド・レベル 530 以上のキュー・マネージャーによってのみ作成または削除できる、コマンド・レベル 520 の CF 構造体。

3

コマンド・レベル 530 の CF 構造体。この *CFLevel* が必要なのは、共有キューで持続メッセージを使用する場合、またはメッセージのグループ化のために持続メッセージを使用する場合 (あるいはその両方) です。このレベルは、コマンド・レベル 600 のキュー・マネージャーのデフォルトの *CFLevel* です。

CFLevel の値を 3 にまで増やすことができるのは、キュー共用グループの全キュー・マネージャーがコマンド・レベル 530 以上である場合のみです。この制限は、CF 構造体を参照するコマンド・レベル 520 の、キューに対する潜在的な接続が存在しないことを確実にするためのものです。

CFLevel の値を 3 から減らすことができるのは、CF 構造体を参照するすべてのキューが、空で (メッセージも、コミットされていないアクティビティも存在しない)、かつクローズされている場合のみです。

4

この *CFLevel* は、*CFLevel* (3) の全機能をサポートします。*CFLevel* (4) のレベルの CF 構造体で定義されているキューには、63 KB より長いメッセージを入れることができます。

コマンド・レベル 600 のキュー・マネージャーのみが、*CFLevel* (4) の CF 構造体に接続できます。

CFLevel の値を 4 にまで増やすことができるのは、キュー共用グループの全キュー・マネージャーがコマンド・レベル 600 以上である場合のみです。

CFLevel の値を 4 から減らすことができるのは、CF 構造体を参照するすべてのキューが、空で (メッセージも、コミットされていないアクティビティも存在しない)、かつクローズされている場合のみです。

5

この CFLevel は、CFLevel (4) の全機能をサポートします。CFLevel (5) では、持続および非持続メッセージを、Db2 あるいは共有メッセージ・データ・セットに選択的に保管することができます。

コマンド・レベル 710 以上で、IBM WebSphere MQ 7.1.0 の新機能を有効にするように OPMODE が設定してあるキュー・マネージャーのみが、CFLevel(5) の CF 構造体に接続できます。

接続が失われたことを許容できるように、構造体は CFLEVEL(5) である必要があります。

 詳細については、[共有キューのメッセージの保管場所](#)を参照してください。

CFStrucDesc (MQCFST)

CF 構造の記述 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_DESC)。

最大長は MQ_CF_STRUC_DESC_LENGTH です。

DSBlock (MQCFIN)

共有メッセージ・データ・セットの論理ブロック・サイズ (パラメーター ID: MQIACF_CF_SMDS_BLOCK_SIZE)。

共有メッセージ・データ・セットのスペースを個々のキューに割り振るときの単位。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDSB_8K

論理ブロック・サイズは 8 K に設定されます。

MQDSB_16K

論理ブロック・サイズは 16 K に設定されます。

MQDSB_32K

論理ブロック・サイズは 32 K に設定されます。

MQDSB_64K

論理ブロック・サイズは 64 K に設定されます。

MQDSB_128K

論理ブロック・サイズは 128 K に設定されます。

MQDSB_256K

論理ブロック・サイズは 256 K に設定されます。

MQDSB_512K

論理ブロック・サイズは 512 K に設定されます。

MQDSB_1024K

論理ブロック・サイズは 1024 K に設定されます。

MQDSB_1M

論理ブロック・サイズは 1 M に設定されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

CFLEVEL が 5 でない場合、デフォルト値は 256 K です。その場合は、0 の値が使用されます。

DSBufs (MQCFIN)

共有メッセージ・データ・セット・バッファー・グループ (パラメーター ID: MQIA_CF_SMDS_BUFFERS)。

共有メッセージ・データ・セットにアクセスするために各キュー・マネージャーに割り振られるバッファーの数を指定します。各バッファーのサイズは、論理ブロック・サイズと同じです。

1 から 9999 までの範囲の値。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

DSEXPAND (MQCFIN)

共有メッセージ・データ・セット拡張オプション (パラメーター ID: MQIACF_CF_SMDS_EXPAND)。

共有メッセージ・データ・セットが満杯に近くなり、データ・セットに追加のブロックが必要になった場合に、キュー・マネージャーが共有メッセージ・データ・セットを拡張するかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDSE_YES

データ・セットを拡張できます。

MQDSE_NO

データ・セットを拡張できません。

MQDSE_DEFAULT

明示的に設定されていない場合にのみ、DISPLAY CFSTRUCT に対して返されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

DSGroup (MQCFST)

共有メッセージ・データ・セット・グループ名 (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDS_GENERIC_NAME)。

この CF 構造体に関連付けられた共有メッセージ・データ・セットのグループに使用される 総称データ・セット名を指定します。

このストリングにはアスタリスク (*) が 1 つだけ入っていなければなりません。このアスタリスクは、最大 4 文字のキュー・マネージャー名に置き換えられます。

このパラメーターの最大長は 44 文字です。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

Offload (MQCFIN)

オフロード (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD)。

z/OS の大規模な (>63 K) 共有メッセージに関する OFFLOAD オプションを指定します。値は次のいずれかです。

MQCFOFFLD_DB2

大規模な共有メッセージは、Db2 に格納できます。

MQCFOFFLD_SMDS

大規模な共有メッセージは、z/OS 共有メッセージ・データ・セットに格納できます。

MQCFOFFLD_NONE

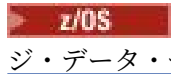
プロパティ *Offload* が明示的に設定されていない場合に使用されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

CFLEVEL(5) でなければ、デフォルト値は MQCFOFFLD_NONE です。

CFLEVEL(5) に変更された既存の CF 構造体オブジェクトの場合、デフォルトは MQCFOFFLD_DB2 です。

CFLEVEL(5) で新しく作成された CF 構造体オブジェクトの場合、デフォルトは MQCFOFFLD_SMDS です。

 パラメーター・グループ (OFFLDxSZ および OFFLDxTH) の詳細については、[共有メッセージ・データ・セットのオフロード・オプションの指定](#)を参照してください。

OFFLD1SZ (MQCFST)

オフロード・サイズ・プロパティ 1 (パラメーター ID: MQCACF_CF_OFFLOAD_SIZE1)

メッセージ・サイズおよびカップリング・ファシリティ構造体使用率しきい値に基づく、最初のオフロード規則を指定します。このプロパティは、オフロードされるメッセージのサイズを示します。このプロパティには、0K から 64K までの範囲の値をストリングで指定します。

デフォルト値は 32K です。このプロパティは *OFFLD1TH* と一緒に使用されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

値 64K は、規則が使用されていないことを示します。

最大長は 3 です。

OFFLD2SZ (MQCFST)

オフロード・サイズ・プロパティ 2 (パラメーター ID: MQCACF_CF_OFFLOAD_SIZE2)

メッセージ・サイズおよびカップリング・ファシリティ構造体使用率しきい値に基づく、2 番目のオフロード規則を指定します。このプロパティは、オフロードされるメッセージのサイズを示します。このプロパティには、0K から 64K までの範囲の値をストリングで指定します。

デフォルト値は 4K です。このプロパティは *OFFLD2TH* と一緒に使用されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

値 64K は、規則が使用されていないことを示します。

最大長は 3 です。

OFFLD3SZ (MQCFST)

オフロード・サイズ・プロパティ 3 (パラメーター ID: MQCACF_CF_OFFLOAD_SIZE3)

メッセージ・サイズおよびカップリング・ファシリティ構造体使用率しきい値に基づく、3 つ目のオフロード規則を指定します。このプロパティは、オフロードされるメッセージのサイズを示します。このプロパティには、0K から 64K までの範囲の値をストリングで指定します。

デフォルト値は 0K です。このプロパティは *OFFLD3TH* と一緒に使用されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

値 64K は、規則が使用されていないことを示します。

最大長は 3 です。

OFFLD1TH (MQCFIN)

オフロードしきい値プロパティ 1 (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD_THRESHOLD1)

メッセージ・サイズおよびカップリング・ファシリティ構造体使用率しきい値に基づく、最初のオフロード規則を指定します。このプロパティは、カップリング・ファシリティ構造体使用率の上限を示します。

デフォルト値は 70 です。このプロパティは *OFFLD1SZ* と一緒に使用されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

OFFLD2TH (MQCFIN)

オフロードしきい値プロパティ 2 (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD_THRESHOLD2)

メッセージ・サイズおよびカップリング・ファシリティ構造体使用率しきい値に基づく、2 番目のオフロード規則を指定します。このプロパティは、カップリング・ファシリティ構造体使用率の上限を示します。

デフォルト値は 80 です。このプロパティは *OFFLD2SZ* と一緒に使用されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

OFFLD3TH (MQCFIN)

オフロードしきい値プロパティ 3 (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD_THRESHOLD3)

メッセージ・サイズおよびカップリング・ファシリティ構造体使用率しきい値に基づく、3 つ目のオフロード規則を指定します。このプロパティは、カップリング・ファシリティ構造体使用率の上限を示します。

デフォルト値は 90 です。このプロパティは *OFFLD3SZ* と一緒に使用されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

Recauto (MQCFIN)

Recauto (パラメーター ID: MQIA_CF_RECAUTO)。

キュー・マネージャーが構造体に障害が発生したことを検出したとき、またはキュー・マネージャーが構造体への接続を失ったときに、その構造体が割り振られているカップリング・ファシリティへの接続を持つシステムが SysPlex 内がない場合に実行される自動リカバリー・アクションを指定します。値は次のいずれかです。

MQRECAUTO_YES

構造体と、それに関連する (同様にリカバリーを必要とする) 共有メッセージ・データ・セットは、自動的にリカバリーされます。この値は、CFLEVEL(5) を指定して新しく作成された CF 構造体オブジェクトのデフォルトです。

MQRECAUTO_NO

構造体は自動的にリカバリーされません。CFLEVEL(5) ではない CF 構造体オブジェクト、および CFLEVEL(5) に変更された既存の CF 構造体オブジェクトでは、この値がデフォルトです。

Recovery (MQCFIN)

リカバリー (パラメーター ID: MQIA_CF_RECOVER)。

CF リカバリーがアプリケーション構造体でサポートされるかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

MQCFR_YES

リカバリーはサポートされています。

MQCFR_NO

リカバリーはサポートされていません。

Replace (MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

この値は、*ToCFStrucName* と同じ名前の CF 構造体定義が存在する場合に、それを置き換えるかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

Change Channel, Copy Channel, および Create Channel

Change Channel コマンドは既存のチャンネル定義を変更します。Copy Channel コマンドおよび Create Channel コマンドは新しいチャンネル定義を作成します。この Copy コマンドは既存のチャンネル定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

Change Channel (MQCMD_CHANGE_CHANNEL) コマンドは、チャンネル定義で指定した属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Channel (MQCMD_COPY_CHANNEL) コマンドは、新しいチャンネル定義を作成します。コマンドで指定しなかった属性については、既存のチャンネル定義の属性値が使用されます。

Create Channel (MQCMD_CREATE_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャンネル定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。作成するチャンネルのタイプにシステムのデフォルト・チャンネルが存在する場合、デフォルト値はそこから取得されます。

次の表は、各タイプのチャンネルに適用できるパラメーターを示しています。

V8.0.0.4

表 86. Change Channel、Copy Channel、Create Channel のパラメーター									
パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント接続	サーバー接続	クラスター送信側	クラスター受信側	V8.0.0.4 AMQP
V8.0.0.4 <u>AMQPKeepAlive</u>									✓
<u>BatchHeartBeat</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>BatchInterval</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>BatchDataLimit</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>BatchSize</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>CertificateLabel</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	✓
<u>ChannelDesc</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>ChannelMonitoring</u>	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	
<u>ChannelStatistics</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>ChannelName</u> (脚注 1 を参照)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>ChannelType</u> (脚注 3 を参照)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>ClientChannelWeight</u>					✓				
<u>ClusterName</u>							✓	✓	
<u>ClusterNameList</u>							✓	✓	
<u>CLWLChannelPriority</u>							✓	✓	
<u>CLWLChannelRank</u>							✓	✓	
<u>CLWLChannelWeight</u>							✓	✓	
z/OS z/OS <u>CommandScope</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>ConnectionAffinity</u>					✓				
<u>ConnectionName</u>	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
<u>DataConversion</u>	✓	✓		✓	✓		✓	✓	

表 86. Change Channel、Copy Channel、Create Channel のパラメーター (続き)									
パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント接続	サーバー接続	クラスター送信側	クラスター受信側	V8.0.0.4 AMQP
<u>DefaultChannelDisposition</u>	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	
<u>DefReconnect</u>					✓				
<u>DiscInterval</u>	✓	✓				✓	✓	✓	
<u>FromChannelName</u> (脚注 2 を参照)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>HeaderCompression</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>HeartBeatInterval</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>KeepAliveInterval</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>LocalAddress</u>	✓	✓		✓	✓		✓	✓	✓
<u>LongRetryCount</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>LongRetryInterval</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>MaxInstances</u>						✓			✓
<u>MaxInstancesPerClient</u>						✓			
<u>MaxMsgLength</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>MCAName</u>	✓	✓		✓			✓		
<u>MCAType</u>	✓	✓		✓			✓	✓	
<u>MCAUserIdentifier</u>			✓	✓		✓		✓	✓
<u>MessageCompression</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>ModeName</u>	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
<u>MsgExit</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>MsgRetryCount</u>			✓	✓				✓	
<u>MsgRetryExit</u>			✓	✓				✓	
<u>MsgRetryInterval</u>			✓	✓				✓	
<u>MsgRetryUserData</u>			✓	✓				✓	
<u>MsgUserData</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	

表 86. Change Channel、Copy Channel、Create Channel のパラメーター (続き)									
パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント接続	サーバー接続	クラスター送信側	クラスター受信側	V8.0.0.4 AMQP
<u>NetworkPriority</u>								✓	
<u>NonPersistentMsgSpeed</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>パスワード</u>	✓	✓		✓	✓		✓		
V8.0.0.4 <u>Port</u>									✓
<u>PropertyControl</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>PutAuthority</u>			✓	✓		✓		✓	
<u>QMgrName</u>					✓				
z/OS z/OS <u>QSGDisposition</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>ReceiveExit</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>ReceiveUserData</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>Replace</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SecurityExit</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SecurityUserData</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SendExit</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SendUserData</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
<u>SeqNumberWrap</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>SharingConversations</u>					✓	✓			
<u>ShortRetryCount</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>ShortRetryInterval</u>	✓	✓					✓	✓	
<u>SSLCipherSpec</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>SSLClientAuth</u>		✓	✓	✓		✓		✓	✓
<u>SSLPeerName</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<u>ToChannelName</u> (脚注 2 を参照)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

表 86. Change Channel、Copy Channel、Create Channel のパラメーター (続き)									
パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント接続	サーバー接続	クラスター送信側	クラスター受信側	V8.0.0.4 AMQP
<u>TypeName</u>	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	
V8.0.0.4 <u>TpRoot</u>									✓
<u>TransportType</u>	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
V8.0.0.4 <u>UseCltId</u>									✓
<u>UseDLQ</u>	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
<u>UserIdentifier</u>	✓	✓		✓	✓		✓		
<u>XmitQName</u>	✓	✓							

注：

1. Change Channel および Create Channel コマンドの必須パラメーター
2. Copy Channel コマンドの必須パラメーター
3. Change Channel、Create Channel、および Copy Channel コマンドの必須パラメーター
4. PUTAUT は z/OS 上の SVRCONN のチャンネル・タイプでのみ有効です。
5. TpType が TCP である場合の Create Channel コマンドの必須パラメーターです。
6. チャンネル・タイプが MQTT である場合の Create Channel コマンドの必須パラメーターです。

必須パラメーター (Change Channel、Create Channel)

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

変更または作成するチャンネル定義の名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

このパラメーターは、すべてのタイプのチャンネルで必要です。ただし、CLUSDR では、他のタイプのチャンネルの場合とは形式が異なることがあります。チャンネルの命名規則にキュー・マネージャーの名前が含まれる場合は、+QMNAME+ 構造を使用して CLUSDR 定義を作成することができます。IBM MQ は、+QMNAME+ を正しいリポジトリ・キュー・マネージャー名に置き換えます。この機能は、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows にのみ適用されます。詳細については、[キュー・マネージャー・クラスターの構成](#)を参照してください。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

変更、コピー、または作成するチャンネルのタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHT_SENDER

送信側。

MQCHT_SERVER

サーバー。

MQCHT_RECEIVER

受信側。

MQCHT_REQUESTER

要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

 MQCHT_AMQP

AMQP.

必須パラメーター (Copy Channel)

FromChannelName(MQCFST)

コピー元チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_CHANNEL_NAME)。

このコマンドで指定しない属性の値が設定されている既存チャンネル定義の名前。

 z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。 *QSGDisposition* に値 MQQSGD_COPY が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。この場合、*ToChannelName* で指定された名前と特性 MQQSGD_GROUP を持つオブジェクトがコピー元として検索されます。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

変更、コピー、または作成するチャンネルのタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHT_SENDER

送信側。

MQCHT_SERVER

サーバー。

MQCHT_RECEIVER

受信側。

MQCHT_REQUESTER

要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

 MQCHT_AMQP

AMQP.

ToChannelName(MQCFST)

コピー先チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACF_TO_CHANNEL_NAME)。

新しいチャンネル定義の名前。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

チャンネル名は、固有の名前でなければなりません。この名前のチャンネル定義が既に存在している場合、*Replace* の値は MQRP_YES にする必要があります。既存チャンネル定義のチャンネル・タイプは、新しいチャンネル定義のチャンネル・タイプと同じでなければなりません。同じでない場合、定義は置換できません。

オプション・パラメーター (Change Channel、Copy Channel、および Create Channel)

▶ V8.0.0.4

AMQPKeepAlive(MQCFIN)

AMQP チャンネルのキープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_AMQP_KEEP_ALIVE)。

AMQP チャンネルのキープアライブ時間 (秒単位)。AMQP クライアントがキープアライブ間隔内にフレームをまったく送信しなかった場合、接続は `amqp:resource-limit-exceeded` AMQP エラー状態で閉じられます。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_AMQP である場合にのみ有効です。

BatchHeartbeat (MQCFIN)

バッチ・ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_HB)。

バッチ・ハートビートにより、送信側タイプのチャンネルは、未確定になる前に、リモート・チャンネル・インスタンスが現在でもアクティブであるかどうかを判別できます。値は 0 から 999999 の範囲で指定できます。値 0 は、バッチ・ハートビートを使用しないことを示します。バッチ・ハートビートの単位は、ミリ秒です。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

BatchInterval(MQCFIN)

バッチ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_INTERVAL)。

この間隔は、現行のバッチで伝送されたメッセージ数が *BatchSize* より少ない場合に、チャンネルがバッチをオープン状態にしておく概算時間 (ミリ秒単位) です。

BatchInterval が 0 より大きい場合は、次のいずれかの状態が最初に発生したときにバッチが終了します。

- *BatchSize* で指定した数のメッセージが送信された。
- バッチが開始されてから、*BatchInterval* で指定した時間 (ミリ秒) が経過した。

BatchInterval が 0 の場合は、次のいずれかの状態が最初に発生したときにバッチが終了します。

- *BatchSize* で指定した数のメッセージが送信された。
- *BatchDataLimit* バイトが送信された
- 伝送キューが空になった

BatchInterval は 0 から 999999999 の範囲内になければなりません。

このパラメーターは、*ChannelType* が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR であるチャンネルに対してのみ適用されます。

BatchDataLimit(MQCFIN)

バッチのデータ制限 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_DATA_LIMIT)。

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能なデータ量 (キロバイト) の限度を指定します。限度に達した際のメッセージがチャンネルを通して送信された後に、同期点が取られます。この属性の値がゼロの場合、それはこのチャンネルに対するバッチに適用されるデータ限度がないことを意味します。

値は 0 から 999999 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 5000 です。

このパラメーターは、すべてのプラットフォームでサポートされています。

このパラメーターは、*ChannelType* が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSRCVR、または MQCHT_CLUSSDR であるチャンネルに対してのみ適用されます。

BatchSize(MQCFIN)

バッチ・サイズ (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_SIZE)。

チェックポイントが取られるまでにチャンネル経由で送信される必要があるメッセージの最大数。

使用されるバッチ・サイズは、次のうちの最小の値です。

- 送信側チャンネルの *BatchSize*。
- 受信側チャンネルの *BatchSize*。
- 送信側キュー・マネージャーにおいてコミットされていないメッセージの最大数。
- 受信側キュー・マネージャーにおいてコミットされていないメッセージの最大数。

コミットされていないメッセージの最大数は、Change Queue Manager コマンドの *MaxUncommittedMsgs* パラメーターによって指定されます。

1 から 9999 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* が MQCHT_SVRCONN または MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルに関しては無効です。

CertificateLabel(MQCFST)

証明書ラベル (パラメーター ID: MQCA_CERT_LABEL)。

使用するこのチャンネルの証明書ラベル。

ラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書をリモート・ピアに送信するかを指定します。この属性をブランクにした場合、証明書はキュー・マネージャーの **CertificateLabel** パラメーターによって判別されます。

インバウンド・チャンネル (受信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、非修飾サーバー・チャンネル、およびサーバー接続チャンネルを含む) は、リモート・ピアの IBM MQ のバージョンが証明書ラベルの構成を完全にサポートしており、チャンネルが TLS CipherSpec を使用している場合にのみ、構成済みの証明書を送信する点に注意してください。

それ以外のすべての場合は、キュー・マネージャー **CertificateLabel** パラメーターが送信済みの証明書を判別します。特に、以下は、チャンネル固有のラベル設定に関係なく、キュー・マネージャーの **CertificateLabel** パラメーターが構成した証明書のみを受け取ります。

- 現行のすべての Java クライアントおよび JMS クライアント。
- バージョン 8.0 より前のバージョンの IBM MQ。

ChannelDesc(MQCFST)

チャンネル記述 (パラメーター ID: MQCACH_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_DESC_LENGTH です。

テキストが正しく変換されるように、コマンドが実行されるメッセージ・キュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) で識別される文字セット内の文字を使用してください。

ChannelMonitoring(MQCFIN)

オンライン・モニター・データ収集 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_CHANNEL)。

オンライン・モニター・データを収集するかどうか、また収集する場合はその収集率を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_Q_MGR

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの値がチャンネルに継承されます。

MQMON_LOW

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの値が MQMON_NONE でなければ、このチャンネルの オンライン・モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの値が MQMON_NONE でなければ、このチャンネルの オンライン・モニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの値が MQMON_NONE でなければ、このチャンネルの オンライン・モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

ChannelStatistics(MQCFIN)

統計データ収集 (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_CHANNEL)。

統計データを収集するかどうか、また収集する場合はその収集率を指定します。値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

このチャンネルでの統計データ収集がオフになります。

MQMON_Q_MGR

キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターの値がチャンネルに継承されます。

MQMON_LOW

キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターの値が MQMON_NONE でなければ、このチャンネルの オンライン・モニター・データ収集は、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターの値が MQMON_NONE でなければ、このチャンネルの オンライン・モニター・データ収集は、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターの値が MQMON_NONE でなければ、このチャンネルの オンライン・モニター・データ収集は、高いデータ収集率でオンになります。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

ClientChannelWeight(MQCFIN)

クライアント・チャンネル・ウェイト (パラメーター ID: MQIACH_CLIENT_CHANNEL_WEIGHT)。

クライアント・チャンネル加重属性は、複数の適切なクライアント・チャンネル定義が使用可能である場合に、定義をランダムに選択するために使用します。加重の大きいものが選択される可能性が高くなります。

0 から 99 の範囲の値を指定します。デフォルトは 0 です。

このパラメーターは、ChannelType が MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルに関してのみ有効です。

ClusterName(MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

チャンネルが所属するクラスターの名前。

このパラメーターが適用されるのは、ChannelType が次のいずれかであるチャンネルだけです。

- MQCHT_CLUSSDR
- MQCHT_CLUSRCVR

ClusterName と ClusterNameList の一方の値のみを非ブランクに設定できます。もう一方はブランクにする必要があります。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。

ClusterNameList(MQCFST)

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

チャンネルが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前。

このパラメーターが適用されるのは、*ChannelType* が次のいずれかであるチャンネルだけです。

- MQCHT_CLUSSDR
- MQCHT_CLUSRCVR

ClusterName と *ClusterNameList* の一方の値のみを非ブランクに設定できます。もう一方はブランクにする必要があります。

CLWLChannelPriority(MQCFIN)

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネル優先順位 (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_PRIORITY)。

0 から 9 の範囲で値を指定します。0 は最低、9 は最高の優先順位を表します。

このパラメーターが適用されるのは、*ChannelType* が次のいずれかであるチャンネルだけです。

- MQCHT_CLUSSDR
- MQCHT_CLUSRCVR

CLWLChannelRank(MQCFIN)

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネル・ランク (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_RANK)。

0 から 9 の範囲で値を指定します。0 は最低、9 は最高の優先順位を表します。

このパラメーターが適用されるのは、*ChannelType* が次のいずれかであるチャンネルだけです。

- MQCHT_CLUSSDR
- MQCHT_CLUSRCVR

CLWLChannelWeight(MQCFIN)

クラスター・ワークロード分散のための、チャンネルの加重 (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_WEIGHT)。

ワークロード管理で使用するチャンネルの加重を指定します。1 から 99 の範囲で値を指定します。1 は最低、99 は最高の優先順位を表します。

このパラメーターが適用されるのは、*ChannelType* が次のいずれかであるチャンネルだけです。

- MQCHT_CLUSSDR
- MQCHT_CLUSRCVR



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

ConnectionAffinity(MQCFIN)

チャンネル・アフィニティー (パラメーター ID: MQIACH_CONNECTION_AFFINITY)

チャンネル・アフィニティー属性は、同じキュー・マネージャー名を使用して複数回接続するクライアント・アプリケーションが、同じクライアント・チャンネルを使用するかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCAFTY_PREFERRED

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を読み取るプロセス内の最初の接続は、加重に基づいて適用可能な定義のリストを作成します。この先頭は ClientChannelWeight がゼロのすべての定義で、アルファベット順です。プロセス内の各接続は、リスト内の最初の定義を使用して接続を試行します。接続が失敗した場合は、次の定義が使用されます。接続に失敗した、ClientChannelWeight がゼロ以外の定義は、リストの末尾に移動されます。ClientChannelWeight がゼロの定義はリストの先頭に残り、それぞれの接続で最初に選択されます。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。同じホスト名を持つ各クライアント・プロセスは、同じリストを作成します。

この値がデフォルト値です。

MQCAFTY_NONE

CCDT を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。プロセス内のすべての接続は、加重に基づいて適用可能な定義を個別に選択します。最初は適用可能な ClientChannelWeight がゼロの定義で、アルファベット順に選択されます。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。

このパラメーターは、ChannelType が MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルに関してのみ有効です。

ConnectionName(MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

z/OS 以外のプラットフォームでは、このストリングの最大長は 264 です。z/OS での最大長は、48 です。

ConnectionName を、指定された TransportType で使用するマシン名のコンマ区切りリストとして指定します。通常、必要なマシン名は 1 つだけです。複数のマシン名を指定して、同じプロパティーで複数の接続を構成することができます。接続は、正常に確立されるまで、接続リストに指定された順序で試行されます。どの接続も成功しなかった場合、チャンネルは処理の再試行を開始します。接続リストは、再接続が可能なクライアントの接続を構成し、また、複数インスタンスのキュー・マネージャーへのチャンネル接続を構成するための、キュー・マネージャー・グループに代わるもう 1 つの手段です。

指定された TransportType の必要に応じ、マシンの名前を次のとおり指定します。

- IBM i および UNIX システムで MQXPT_LU62 を指定する場合、CPI-C 通信サイド・オブジェクトの名前を指定します。Windows では、CPI-C シンボリック宛先名を指定します。



z/OS では、次の 2 とおりの形式を使用して値を指定します。

論理装置 (LU) 名

キュー・マネージャーの論理装置名。論理装置名、TP 名、およびオプション・モード名で構成されます。次の 3 通りの形式のどれかを使用して、この名前を指定します。

形式	例
luname	IGY12355
luname/TPname	IGY12345/APING
luname/TPname/modename	IGY12345/APINGD/#INTER

最初の形式の場合は、 *TpName* パラメーターと *ModeName* パラメーターに TP 名とモード名を指定する必要があります。指定しない場合は、これらのパラメーターをブランクにする必要があります。

注: クライアント接続チャンネルでは、最初の形式しか使用できません。

シンボル名

キュー・マネージャーの論理装置名を表すシンボリック宛先名。この名前はサイド情報データ・セットに定義されています。 *TpName* パラメーターと *ModeName* パラメーターはブランクでなければなりません。

注: クラスター受信側チャンネルにおけるサイド情報は、クラスター内の他のキュー・マネージャーに関するものです。あるいは、この場合には、チャンネル自動定義出口による名前解決処理の結果、ローカル・キュー・マネージャーの適切な論理装置情報になるような名前にすることができます。

指定する LU 名または暗黙の LU 名は、VTAM 汎用リソース・グループの名前にすることができます。

- MQXPT_TCP の場合、リモート・マシンのホスト名またはネットワーク・アドレスが含まれる接続名、または接続リストを指定できます。接続リストの接続名は、コンマで区切ります。

 z/OS では、接続名に z/OS 動的 DNS グループまたはネットワーク・ディスパッチャーの入力ポートの IP_name を含めることができます。 *ChannelType* の値が MQCHT_CLUSSDR のチャンネルには、このパラメーターを含めないでください。

AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows プラットフォームでは、クラスター受信側チャンネルの TCP/IP 接続名パラメーターはオプションです。接続名をブランクにすると、IBM MQ はデフォルト・ポートを想定し、システムの現行 IP アドレスを使用して接続名を自動的に生成します。デフォルト・ポート番号をオーバーライドしても、システムの現行 IP アドレスを引き続き使用できます。各接続名について、IP 名をブランクにして、次のように括弧で囲んだポート番号を指定してください。

(1415)

生成される CONNAME は常にドット 10 進 (IPv4) 形式または 16 進 (IPv6) 形式であり、英数字の DNS ホスト名の形式ではありません。

- MQXPT_NETBIOS の場合、NetBIOS ステーション名を指定します。
- MQXPT_SPX の場合、4 バイトのネットワーク・アドレス、6 バイトのノード・アドレス、および 2 バイトのソケット番号を指定します。これらの値は、16 進数で指定し、ネットワーク・アドレスとノード・アドレスはピリオドで区切って入力する必要があります。ソケット番号は、次の例のように括弧で囲んでください。

0a0b0c0d.804abcde23a1(5e86)

ソケット番号を省略した場合は、IBM MQ のデフォルト値 (5e86 hex) が使用されます。

このパラメーターは、 *ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_REQUESTER、MQCHT_CLNTCONN、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

注: IPv6 専用キュー・マネージャーと IPv4 専用キュー・マネージャーの間でクラスタリングを使用する場合は、クラスター受信側チャンネルの *ConnectionName* として IPv6 ネットワーク・アドレスを指定しないでください。IPv4 通信のみが可能なキュー・マネージャーは、 *ConnectionName* を IPv6 16 進形式で指定するクラスター送信側チャンネル定義を開始できません。代わりに、異種 IP 環境でホスト名を使用することを検討してください。

DataConversion(MQCFIN)

送信側がアプリケーション・データを変換するかどうか (パラメーター ID: MQIACH_DATA_CONVERSION)。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCMT_SENDER、MQCMT_SERVER、MQCMT_CLUSSDR、または MQCMT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCDC_NO_SENDER_CONVERSION

送信側による変換なし。

MQCDC_SENDER_CONVERSION

送信側による変換。

DefaultChannelDisposition(MQCFIN)

チャンネルをアクティブ化または開始する際のチャンネルの意図される属性 (パラメーター ID: MQIACH_DEF_CHANNEL_DISP)。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_PRIVATE

オブジェクトを専用チャンネルとして使用します。

この値がデフォルト値です。

MQCHLD_FIXSHARED

オブジェクトを固定共有チャンネルとして使用します。

MQCHLD_SHARED

オブジェクトを共有チャンネルとして使用します。

DefReconnect(MQCFIN)

クライアント・チャンネルのデフォルト再接続オプション (パラメーター ID: MQIACH_DEF_RECONNECT)。

デフォルトの自動クライアント再接続オプション。自動的にクライアント・アプリケーションを再接続するように IBM MQ MQI client を構成できます。IBM MQ MQI client は、接続に失敗した後、キュー・マネージャーへの再接続を試みます。この再接続試行は、アプリケーション・クライアントが MQCONN または MQCONNX MQI 呼び出しを発行しなくても行われます。

MQRCN_NO

MQRCN_NO がデフォルト値です。

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続されません。

MQRCN_YES

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続します。

MQRCN_Q_MGR

MQCONNX によってオーバーライドされない限り、クライアントは、同じキュー・マネージャーに対してのみ自動的に再接続します。QMGR オプションは MQCNO_RECONNECT_Q_MGR と同じ効果があります。

MQRCN_DISABLED

MQCONNX MQI 呼び出しを使用してクライアント・プログラムによって要求された場合でも、再接続は無効になります。

表 87. アプリケーションおよびチャンネル定義に設定された値によって異なる自動再接続				
DefReconnect	アプリケーションで設定される再接続オプション			
	MQCNO_RECONNE CT	MQCNO_RECONNE CT_Q_MGR	MQCNO_RECONNE CT_AS_DEF	MQCNO_RECONNE CT_DISABLED
MQRCN_NO	YES	QMGR	NO	NO
MQRCN_YES	YES	QMGR	YES	NO
MQRCN_Q_MGR	YES	QMGR	QMGR	NO

表 87. アプリケーションおよびチャネル定義に設定された値によって異なる自動再接続 (続き)				
DefReconnect	アプリケーションで設定される再接続オプション			
MQRCN_DISABLED	NO	NO	NO	NO

このパラメーターは、値が MQCHT_CLNTCONN に設定された *ChannelType* にのみ有効です。

DiscInterval(MQCFIN)

切断間隔 (パラメーター ID: MQIACH_DISC_INTERVAL)。

この間隔は、チャネルを終了する前にメッセージが伝送キューに書き込まれるのをチャネルが待機する最大秒数を定義します。値 0 を指定すると、メッセージ・チャネル・エージェントは無期限に待機します。

0 から 999 999 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_SVRCONN、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

TCP プロトコルを使用するサーバー接続チャネルの場合、この間隔は、パートナー・クライアントからの通信が何もないときに、サーバー接続チャネル・インスタンスがアクティブ状態を保つ最小時間 (秒単位) です。値を 0 にすると、この切断処理は無効になります。サーバー接続の非アクティブ間隔は、クライアントからの MQ API 呼び出し間隔にのみ適用されるため、待機呼び出しを伴う拡張 MQGET の際にはクライアントは切断されません。TCP 以外のプロトコルを使用するサーバー接続チャネルでは、この属性は無視されます。

HeaderCompression (MQCFIL)

チャネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_HDR_COMPRESSION)。

チャネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続の各チャネルでは、指定された値が設定の順序に並び、チャネルのリモート・エンドでサポートされる最初の圧縮手法が使用されます。

チャネルの双方でサポートされる圧縮技法が送信側チャネルのメッセージ出口に渡されます。そこでは、使用される圧縮技法をメッセージごとに変更できます。圧縮により、送信および受信出口に渡されたデータが変更されます。

次のうちの 1 つ以上を指定します。

MQCOMPRESS_NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。この値がデフォルト値です。

MQCOMPRESS_SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

HeartbeatInterval(MQCFIN)

ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_HB_INTERVAL)。

このパラメーターの解釈は、次のようにチャネル・タイプによって異なります。

- チャネル・タイプが MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_RECEIVER、MQCHT_REQUESTER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合、これは、伝送キューにメッセージが存在しないときに送信側 MCA から渡されるハートビート・フローの時間間隔 (秒単位) です。この間隔を指定することによって、受信側 MCA ではチャネルを静止させることができます。有効に使用するには、*HeartbeatInterval* を *DiscInterval* より小さくする必要があります。ただし、この値が許容範囲内にあるかどうか以外は検査されません。

このタイプのハートビートは、AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Windows、および z/OS の各環境でサポートされます。

- チャネル・タイプが MQCHT_CLNTCONN または MQCHT_SVRCONN である場合は、これは、サーバー MCA がクライアント・アプリケーションのために MQGMO_WAIT オプションを指定して MQGET 呼び出しを発行したときに、その MCA から渡されるハートビート・フローの時間間隔 (秒単位) です。こ

の間隔を指定すると、MQGMO_WAIT を指定した MQGET の実行中にクライアント接続に障害が発生した場合に、その状況をサーバー MCA で処理できるようになります。

このタイプのハートビートは、AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Windows、Linux、z/OS の各環境でサポートされます。

値は 0 から 999 999 の範囲でなければなりません。値に 0 を指定した場合、ハートビート交換は行われません。使用される値は、送信側で指定した値と受信側で指定した値のうち、大きい方の値です。

KeepAliveInterval(MQCFIN)

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。

通信スタックに渡される、チャンネルのキープアライブ・タイミングの値を指定します。

この属性の効果を得るためには、TCP/IP キープアライブを有効にする必要があります。z/OS では、*TCPKeepAlive* パラメーターに値 *MQTCPKEEP* を指定して Change Queue Manager コマンドを発行することにより、TCP/IP キープアライブを使用可能にします。*TCPKeepAlive* キュー・マネージャー・パラメーターの値が *MQTCPKEEP_NO* の場合、値は無視され、KeepAlive 機能は使用されません。他のプラットフォームで TCP/IP キープアライブを有効にするには、KEEPALIVE=YES パラメーターを、分散キューイング構成ファイル qm.ini の TCP スタンザに指定するか、IBM MQ エクスプローラーを使用して指定します。TCP プロファイル構成データ・セットを使用して、TCP/IP 自体の中でもキープアライブをオンに切り替える必要があります。

このパラメーターはすべてのプラットフォームで使用可能ですが、設定は z/OS にのみ実装されています。z/OS 以外のプラットフォームでは、このパラメーターにアクセスおよび変更できますが、保管と転送のみです。パラメーターが機能的に実装されるわけではありません。このパラメーターは、例えば Solaris 上のクラスター受信側チャンネル定義で設定された値が、クラスターに含まれている、またはクラスターに参加している z/OS キュー・マネージャーに送られる (または実装される) ようなクラスター構成環境で役に立ちます。

次のどちらかを指定します。

integer

使用するキープアライブ間隔 (秒)。値は 0 から 99 999 の範囲内です。値 0 を指定した場合は、TCP プロファイル構成データ・セットにある INTERVAL ステートメントで指定された値が使用されます。

MQKAI_AUTO

キープアライブ間隔は、次のように、折衝されたハートビート値に基づいて計算される。

- 折衝 *HeartbeatInterval* がゼロより大きい場合、キープアライブ間隔はその値に 60 秒を加算した値に設定されます。
- 折衝 *HeartbeatInterval* がゼロの場合は、TCP プロファイル構成データ・セットの INTERVAL ステートメントで指定された値が使用されます。

z/OS 以外のプラットフォームでは、*KeepAliveInterval* パラメーターによって提供される機能が必要な場合、*HeartBeatInterval* パラメーターを使用します。

LocalAddress(MQCFST)

チャンネル用のローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

指定する値は、以下のように、使用されるトランスポート・タイプ (*TransportType*) によって異なります。

TCP/IP

値は、アウトバウンド TCP/IP 通信のために使用されるオプションの IP アドレスおよびオプションのポートまたはポート範囲です。この情報の形式は、次のとおりです。

```
LOCLADDR([ip-addr][(low-port[,high-port])][,[ip-addr][(low-port[,high-port])]])
```

ip-addr は、IPv4 ドット 10 進、IPv6 16 進表記、または英数字形式で指定します。low-port および high-port は、括弧で囲んだポート番号です。すべて任意指定です。

複数のローカル・アドレスを追加する場合は、それぞれについて `[, [ip-addr] [(low-port[, high-port])]]` を指定します。複数のローカル・アドレスは、ローカル・ネットワーク・アダプターの特定のサブセットを指定する場合に使用します。複数インスタンス・キュー・マネージャー構成に含まれる別々のサーバー上にある特定のローカル・ネットワーク・アドレスを表記する場合にも、`[, [ip-addr] [(low-port[, high-port])]]` を使用できます。

その他すべて

値は無視されます。エラーは診断されません。

このパラメーターは、アウトバウンド通信のために特定の IP アドレス、ポート、またはポート範囲を使用するチャンネルが必要な場合に使用します。このパラメーターは、マシンが、異なる IP アドレスを持つ複数のネットワークに接続されるときに役立ちます。

使用例

値	意味
9.20.4.98	チャンネルは、ローカル側でこのアドレスにバインドします。
9.20.4.98 (1000)	チャンネルは、このアドレスおよびポート 1000 にローカルにバインドします。
9.20.4.98 (1000,2000)	チャンネルは、このアドレスにバインドし、1000 から 2000 の範囲のポートをローカル側で使用します。
(1000)	チャンネルは、ローカル側でポート 1000 にバインドします。
(1000,2000)	チャンネルは 1000 から 2000 の範囲にあるポートにローカルにバインドします

このパラメーターは、以下のチャンネル・タイプで有効です。

- MQCHT_SENDER
- MQCHT_SERVER
- MQCHT_REQUESTER
- MQCHT_CLNTCONN
- MQCHT_CLUSRCVR
- MQCHT_CLUSSDR

注:

- このパラメーターと *ConnectionName* を混同しないでください。 *LocalAddress* パラメーターはローカル通信の特性を指定しますが、 *ConnectionName* パラメーターはリモート・キュー・マネージャーへのアクセス方法を指定します。

LongRetryCount(MQCFIN)

ロング再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_LONG_RETRY)。

送信側チャンネルまたはサーバー・チャンネルがリモート・マシンに接続しようとしているとき、 *ShortRetryCount* で指定したカウントがゼロになったときに、リモート・マシンに接続するために追加で試行するときの最大回数が、このカウントによって指定されます。そのときの間隔は、 *LongRetryInterval* で指定します。

この回数を試みても接続に成功しない場合は、オペレーターあてにエラーがログに記録され、チャンネルが停止します。その後、チャンネルはコマンドで再開する必要があります (チャンネル・イニシエーターによってチャンネルが自動的に開始されることはありません)。この場合、問題が既に管理者によって解決されたと見なされ、接続を 1 回のみ試行します。チャンネルが正常に接続するまでは、再試行手順は再実行されません。

0 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

LongRetryInterval(MQCFIN)

ロング・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_LONG_TIMER)。

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネルまたはサーバー・チャンネルの長期再試行待機間隔を指定します。これは、*ShortRetryCount* で指定したカウントが終了した後、リモート・マシンとの接続を確立するための試行と試行の間の間隔を、秒単位で定義します。

この時間はおおよそその値です。0 は、できるだけ早く次の接続を試みることを意味します。

0 から 999 999 の範囲の値を指定します。この値を超える値は、999 999 として処理されます。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

MaxInstances(MQCFIN)

V 8.0.0.4 サーバー接続チャンネルまたは AMQP チャンネルの同時インスタンスの最大数 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_INSTANCES)。

0 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。

デフォルト値は 999 999 999 です。

値 0 は、このチャンネルでクライアント接続が許可されないことを示します。

値が現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数より少ない数まで引き下げられる場合でも、実行中のチャンネルは影響を受けません。このパラメーターは値が 0 の場合にも適用されます。ただし、値が現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回ると、十分な数の既存インスタンスが実行を終えるまで、新しいインスタンスを開始することはできません。

V 8.0.0.4 AMQP クライアントが AMQP チャンネルへの接続を試みて接続クライアント数が *MaxInstances* に達した場合、チャンネルはクローズ・フレームで接続を閉じます。クローズ・フレームには *amqp:resource-limit-exceeded* というメッセージが含まれます。既に接続されている ID にクライアントが接続した (つまり、クライアントがクライアント・テークオーバーを実行する) 場合、接続をテークオーバーすることをクライアントが許可されていれば、接続クライアント数が *MaxInstances* に達したかどうかにかかわらず、テークオーバーは成功します。

V 8.0.0.4 このパラメーターは、*ChannelType* 値が MQCHT_SVRCONN または MQCHT_AMQP のチャンネルにのみ有効です。

MaxInstancesPerClient(MQCFIN)

単一クライアントから開始可能な、サーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_INSTS_PER_CLIENT)。このコンテキストでは、同じリモート・ネットワーク・アドレスから発信された接続は、同じクライアントから着信したものと見なされます。

0 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。

デフォルト値は 999 999 999 です。

値 0 は、このチャンネルでクライアント接続が許可されないことを示します。

値が個々のクライアントから現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回っても、実行中のチャンネルは影響を受けません。このパラメーターは値が 0 の場合にも適用されます。ただし、値が個々のクライアントから現在実行中のサーバー接続チャンネルのインスタンス数を下回ると、十分な数の既存インスタンスが実行を終えるまで、それらのクライアントから新しいインスタンスを開始することはできません。

このパラメーターは、*ChannelType* 値が MQCHT_SVRCONN であるチャンネルに対してのみ有効です。

MaxMsgLength(MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_MSG_LENGTH)。

チャンネル上で送信可能な最大メッセージ長を指定します。この値は、リモート・チャンネルの値と比較され、実際の最大長は、2つの値のうちの小さいほうの値になります。

値 0 は、キュー・マネージャーの最大メッセージ長を意味します。

このパラメーターの下限は 0 です。最大メッセージ長は 100 MB (104 857 600 バイト) です。

MCANAME(MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェント名 (パラメーター ID: MQCACH_MCA_NAME)。

注: チャンネルの実行に使用するユーザー ID を提供するための代替手段としては、チャンネル認証の記録を使用するという方法があります。チャンネル認証レコードを使用すると、複数の異なる接続で、それぞれ異なる資格情報を使用して、同一のチャンネルを使用することができます。チャンネルで MCAUSER が設定されており、かつチャンネル認証レコードが同じチャンネルに適用されている場合、チャンネル認証レコードが優先されます。チャンネル定義での MCAUSER は、チャンネル認証レコードが USERSRC(CHANNEL) を使用する場合にのみ使用されます。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照してください。

このパラメーターは予約済みです。指定する場合、設定できるのはブランクのみです。

ストリングの最大長は MQ_MCA_NAME_LENGTH です。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_REQUESTER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

MCAType(MQCFIN)

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_MCA_TYPE)。

メッセージ・チャンネル・エージェント・プログラムのタイプを指定します。

AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Windows、および Linux の場合、このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_REQUESTER、または MQCHT_CLUSSDR である場合にのみ有効です。

z/OS では、このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_CLURCVR の場合にのみ有効です。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCAT_PROCESS

プロセス。

MQMCAT_THREAD

スレッド。

MCAUserIdentifier(MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

このパラメーターは、ブランク以外の場合、IBM MQ リソースへのアクセスを許可するためにメッセージ・チャンネル・エージェントが使用するユーザー ID です。この許可には、受信側チャンネルまたは要求側チャンネルの宛先キューにメッセージを入れるための許可が含まれます (*PutAuthority* が MQPA_DEFAULT の場合)。

ブランクの場合、メッセージ・チャンネル・エージェントはデフォルトのユーザー ID を使用します。

このユーザー ID は、チャンネル・セキュリティ・出口が提供するユーザー ID で指定変更できます。

このパラメーターは、*ChannelType* が MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルでは無効です。

MCA ユーザー ID の最大長は、その MCA が実行されている環境によって異なります。

MQ_MCA_USER_ID_LENGTH は、アプリケーションの実行対象となる環境に対して最大長を指定します。MQ_MAX_MCA_USER_ID_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

Windows では、オプションとして、次の形式のようにドメイン・ネームでユーザー ID を修飾できます。

```
user@domain
```

MessageCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_MSG_COMPRESSION)。チャンネルがサポートするメッセージ・データ圧縮技法のリスト。送信側、サーバー、クラスター送信側、クラスター受信側、およびクライアント接続の各チャンネルでは、指定された値が設定の順序に並び、チャンネルのリモート・エンドでサポートされる最初の圧縮手法が使用されます。

チャンネルの双方でサポートされる圧縮技法が送信側チャンネルのメッセージ出口に渡されます。そこでは、使用される圧縮技法をメッセージごとに変更できます。圧縮により、送信および受信出口に渡されたデータが変更されます。

次のうちの 1 つ以上を指定します。

MQCOMPRESS_NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。この値がデフォルト値です。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ANY

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。この値は、受信側、要求側、およびサーバー接続チャンネルでのみ有効です。

ModeName(MQCFST)

モード名 (パラメーター ID: MQCACH_MODE_NAME)。

このパラメーターは、LU 6.2 のモード名です。

ストリングの最大長は MQ_MODE_NAME_LENGTH です。

- IBM i、HP Integrity NonStop Server、UNIX システム、および Windows では、このパラメーターはブランクにのみ設定できます。実際の名前は、CPI-C 通信サイド・オブジェクトまたは (Windows の場合には) CPI-C シンボリック宛先名プロパティから取得されます。

このパラメーターは、*TransportType* が MQXPT_LU62 となっているチャンネルにのみ有効です。これは受信側またはサーバー接続チャンネルに対しては無効です。

MsgExit(MQCFSL)

メッセージ出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_NAME)。

非ブランクの名前を定義した場合、メッセージが伝送キューから取り出された後、出口が即時に起動されます。出口にアプリケーション・メッセージおよびメッセージ記述子全体が渡され、変更されます。

チャンネル・タイプ (*ChannelType*) が MQCHT_SVRCONN または MQCHT_CLNTCONN のチャンネルの場合、このパラメーターは指定できますが、無視されます。このようなチャンネルでは、メッセージ出口が呼び出されないからです。

ストリングの形式は、*SecurityExit* の場合と同じです。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造を使用すると、出口名のリストを指定できます。

- リストに指定した順序に従って出口が呼び出されます。
- リストに名前を 1 つのみ指定することは、MQCFST 構造で 1 つの名前を指定することと同じです。
- 同一のチャンネル属性に対して、リスト (MQCFSL) と単一エントリー (MQCFST) 構造を両方指定することはできません。

- リスト内のすべての出口名の合計長 (それぞれの出口名にある後続ブランクを除いた長さ) は、MQ_TOTAL_EXIT_NAME_LENGTH 以内でなければなりません。各ストリングの長さは、MQ_EXIT_NAME_LENGTH 以内でなければなりません。
- z/OS では、最大 8 個の出口プログラム名を指定できます。

MsgRetryCount(MQCFIN)

メッセージ再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_MR_COUNT)。

失敗メッセージが再試行される回数を指定します。

0 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_RECEIVER、MQCHT_REQUESTER、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

MsgRetryExit(MQCFST)

メッセージ再試行出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MR_EXIT_NAME)。

非ブランクの名前を定義すると、失敗メッセージの再試行に先立って待機を実行する前に、出口が呼び出されます。

ストリングの形式は、*SecurityExit* の場合と同じです。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_RECEIVER、MQCHT_REQUESTER、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

MsgRetryInterval(MQCFIN)

メッセージ再試行間隔 (パラメーター ID: MQIACH_MR_INTERVAL)。

失敗メッセージの再試行を行う最小時間間隔をミリ秒単位で指定します。

0 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_RECEIVER、MQCHT_REQUESTER、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

MsgRetryUserData(MQCFST)

メッセージ再試行出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_MR_EXIT_USER_DATA)。

メッセージ再試行出口に渡されるユーザー・データを指定します。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_RECEIVER、MQCHT_REQUESTER、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

MsgUserData(MQCFSL)

メッセージ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_USER_DATA)。

メッセージ出口に渡されるユーザー・データを指定します。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

チャンネル・タイプ (*ChannelType*) が MQCHT_SVRCONN または MQCHT_CLNTCONN のチャンネルの場合、このパラメーターは指定できますが、無視されます。このようなチャンネルでは、メッセージ出口が呼び出されないからです。

MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造を使用すると、出口ユーザー・データ・ストリングのリストを指定できます。

- それぞれの出口ユーザー・データ・ストリングは、*MsgExit* リストと同じ順序で出口に渡されます。
- リストに名前を 1 つのみ指定することは、MQCFST 構造で 1 つの名前を指定することと同じです。

- 同一のチャンネル属性に対して、リスト (MQCFSL) と単一エントリー (MQCFST) 構造を両方指定することはできません。
- リスト内のすべての出口ユーザー・データの合計長 (それぞれのストリングにある後続ブランクは除いた長さ) は、MQ_TOTAL_EXIT_DATA_LENGTH 以内でなければなりません。各ストリングの長さは、MQ_EXIT_DATA_LENGTH 以内でなければなりません。
- z/OS では、最大 8 個のストリングを指定できます。

NetworkPriority(MQCFIN)

ネットワーク優先度 (パラメーター ID: MQIACH_NETWORK_PRIORITY)。

ネットワーク接続の優先順位。複数のパスが利用できる場合、分散キューイングでは優先順位が最も高いパスを選択します。

値は 0 (最下位) から 9 (最上位) の範囲内になければなりません。

このパラメーターが適用されるのは、*ChannelType* が MQCHT_CLUSRCVR のチャンネルだけです。

NonPersistentMsgSpeed(MQCFIN)

非持続メッセージを送信する速度 (パラメーター ID: MQIACH_NPM_SPEED)。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Windows、および Linux の各環境でサポートされます。

MQNPMS_FAST を指定すると、同期点に達するまで待機しなくてもチャンネル上の非持続メッセージを取り出せるようになります。この方法には、同期点に達するまで待機しないため、非持続メッセージをより迅速に取り出せるという利点があります。ただし、同期点に達するまで待機しないことから、伝送障害があった場合にはメッセージが失われる可能性があるという欠点もあります。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_RECEIVER、MQCHT_REQUESTER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNPMS_NORMAL

通常速度。

MQNPMS_FAST

高速。

Password(MQCFST)

パスワード (パラメーター ID: MQCACH_PASSWORD)。

このパラメーターは、メッセージ・チャンネル・エージェントが、リモート・メッセージ・チャンネル・エージェントとの保護 SNA セッションの開始を試みる際に使用します。IBM i、HP Integrity NonStop Server、および UNIX システムでは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_REQUESTER、MQCHT_CLNTCONN、または MQCHT_CLUSSDR である場合にのみ有効です。z/OS では、これは *ChannelType* の値が MQCHT_CLNTCONN である場合にのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_PASSWORD_LENGTH です。ただし、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

▶ V8.0.0.4

Port (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

AMQP チャンネルの接続に使用されるポート番号。AMQP 1.0 接続のデフォルト・ポートは 5672 です。ポート 5672 を既に使用している場合は、異なるポートを指定できます。

この属性は AMQP チャンネルに適用できます。

PropertyControl(MQCFIN)

プロパティ制御属性 (パラメーター ID: MQIA_PROPERTY_CONTROL)。

メッセージが V6 またはそれより前のキュー・マネージャー (プロパティ記述子の概念を理解しないキュー・マネージャー) に送信されるときに、メッセージのプロパティに対して行われる処置を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPROP_COMPATIBILITY

メッセージに **mcd.**、**jms.**、**usr.**、または **mqext.** という接頭部を持つプロパティがある場合、メッセージのプロパティはすべて MQRFH2 ヘッダー内のアプリケーションに配信されます。これらの接頭部を持つプロパティがない場合、メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるプロパティを除いて、メッセージのプロパティはすべて廃棄され、アプリケーションからはアクセスできなくなります。

この値がデフォルト値です。これにより、JMS 関連プロパティがメッセージ・データ内の MQRFH2 ヘッダーにあると想定するアプリケーションを、変更せずにそのまま使用することができます。

MQPROP_NONE

メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるプロパティを除いて、メッセージのプロパティはすべてメッセージから除去されます。

MQPROP_ALL

メッセージのすべてのプロパティは、リモート・キュー・マネージャーへの送信時にメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるプロパティを除き、プロパティはメッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

この属性は、送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側の各チャンネルに適用可能です。

PutAuthority(MQCFIN)

書き込み権限 (パラメーター ID: MQIACH_PUT_AUTHORITY)。

(メッセージ・チャンネルの) 宛先キューにメッセージを書き込む権限を設定したり、(MQI チャンネルの) MQI 呼び出しを実行するのにどのユーザー ID を使用するかを指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* 値が MQCHT_RECEIVER、MQCHT_REQUESTER、MQCHT_CLUSRCVR、または MQCHT_SVRCONN であるチャンネルに対してのみ有効です。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPA_DEFAULT

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

 z/OS では、MQPA_DEFAULT は、ネットワークから受信したユーザー ID と MCAUSER から得たユーザー ID の両方を意味する場合があります。

MQPA_CONTEXT

メッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドからのユーザー ID が使用されます。

 z/OS では、MQPA_CONTEXT は、ネットワークから受信したユーザー ID または MCAUSER から得たユーザー ID、あるいはその両方を意味する場合があります。

MQPA_ALTERNATE_OR_MCA

メッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドからのユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は z/OS でのみサポートされます。

MQPA_ONLY_MCA

MCAUSER から得られたユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は z/OS でのみサポートされます。

QMgrName(MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

ChannelType が MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルでは、この名前は、クライアント・アプリケーションが接続先として要求できるキュー・マネージャーの名前です。

その他のタイプのチャンネルでは、このパラメーターは無効です。ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

 z/OS

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。	オブジェクトは、 <i>ToChannelName</i> オブジェクト (コピーの場合) または <i>ChannelName</i> オブジェクト (作成の場合) と同じ名前の MQQSGD_GROUP オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。
MQQSGD_GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。 コマンドが正常に実行されると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーのリフレッシュが試行されます。 <pre>DEFINE CHANNEL(channel-name) CHLTYPE(type) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Change は、QSGDISP(COPY) を含んだ生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。この定義は、キュー・マネージャーがキュー共有グループにある場合のみ許可されます。 定義が正常に行われると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試行されます。 <pre>DEFINE CHANNEL(channel-name) CHLTYPE(type) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Copy または Create は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドの成否にかかわらず有効です。
MQQSGD_PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY で定義されています。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。	許可されません。
MQQSGD_Q_MGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。この値がデフォルト値です。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。この値がデフォルト値です。

ReceiveExit(MQCFSL)

受信出口名 (パラメーター ID: MQCACH_RCV_EXIT_NAME)。

非ブランクの名前を定義した場合、ネットワークから受信したデータが処理される前に出口が起動されます。ネットワークに送り出されます。出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

ストリングの形式は、*SecurityExit* の場合と同じです。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造を使用すると、出口名のリストを指定できます。

- リストに指定した順序に従って出口が呼び出されます。
- リストに名前を 1 つのみ指定することは、MQCFST 構造で 1 つの名前を指定することと同じです。
- 同一のチャンネル属性に対して、リスト (MQCFSL) と単一エントリー (MQCFST) 構造を両方指定することはできません。
- リスト内のすべての出口名の合計長 (それぞれの出口名にある後続ブランクを除いた長さ) は、MQ_TOTAL_EXIT_NAME_LENGTH 以内でなければなりません。各ストリングの長さは、MQ_EXIT_NAME_LENGTH 以内でなければなりません。
- z/OS では、最大 8 個の出口プログラム名を指定できます。

ReceiveUserData(MQCFSL)

受信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_RCV_EXIT_USER_DATA)。

受信出口に渡されるユーザー・データを指定します。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造を使用すると、出口ユーザー・データ・ストリングのリストを指定できます。

- それぞれの出口ユーザー・データ・ストリングは、*ReceiveExit* リストと同じ順序で出口に渡されます。
- リストに名前を 1 つのみ指定することは、MQCFST 構造で 1 つの名前を指定することと同じです。
- 同一のチャンネル属性に対して、リスト (MQCFSL) と単一エントリー (MQCFST) 構造を両方指定することはできません。
- リスト内のすべての出口ユーザー・データの合計長 (それぞれのストリングにある後続ブランクを除いた長さ) は、MQ_TOTAL_EXIT_DATA_LENGTH 以内でなければなりません。各ストリングの長さは、MQ_EXIT_DATA_LENGTH 以内でなければなりません。
- z/OS では、最大 8 個のストリングを指定できます。

Replace(MQCFIN)

チャンネル定義の置換 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

ChannelType が MQCHT_CLUSSDR の場合、チャンネルがマニュアルで作成された場合にのみ MQRP_YES を指定することができます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

SecurityExit(MQCFST)

セキュリティー出口名 (パラメーター ID: MQCACH_SEC_EXIT_NAME)。

非ブランクの名前を定義すると、セキュリティー出口は以下の時点で起動されます。

- チャンネルが確立された直後。

メッセージが転送される前に、出口では、セキュリティー・フローを使って接続許可の妥当性検査をする機能が有効になります。

- セキュリティー・メッセージ・フローに対する応答を受け取ったとき。

リモート・マシン上のリモート・プロセッサからセキュリティー・メッセージ・フローを受け取った場合、そのフローは出口に渡されます。

出口にアプリケーション・メッセージおよびメッセージ記述子全体が渡され、変更されます。

次に示すように、ストリングの形式はプラットフォームによって異なります。

- IBM i および UNIX システムでは、次の形式です。

```
libraryname(functionname)
```

注: IBM i システムでは、旧リリースとの互換性を保つために、次の形式もサポートされています。

```
progrname libname
```

ここで、*progrname* は最初の 10 文字を使用し、*libname* はその次の 10 文字を使用します (いずれも必要に応じて右側にブランクを埋め込みます)。

- Windows では、次の形式です。

```
dllname(functionname)
```

この *dllname* は、接尾部 .DLL を付けずに指定します。

- z/OS では、これは最大 8 文字のロード・モジュール名です (クライアント接続チャンネルの出口名には 128 文字まで使用できますが、最大合計長は 999 文字です)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

SecurityUserData(MQCFST)

セキュリティー出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_SEC_EXIT_USER_DATA)。

セキュリティー出口に渡されるユーザー・データを指定します。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

SendExit(MQCFSL)

送信出口名 (パラメーター ID: MQCACH_SEND_EXIT_NAME)。

非ブランクの名前を定義した場合、出口が即時に起動され、その後データがネットワークに送り出されます。送信前に出口に送信バッファー全体が渡されます。バッファーの内容は、必要に応じて変更可能です。

ストリングの形式は、*SecurityExit* の場合と同じです。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造を使用すると、出口名のリストを指定できます。

- リストに指定した順序に従って出口が呼び出されます。
- リストに名前を 1 つのみ指定することは、MQCFST 構造で 1 つの名前を指定することと同じです。
- 同一のチャンネル属性に対して、リスト (MQCFSL) と単一エントリー (MQCFST) 構造を両方指定することはできません。

- リスト内のすべての出口名の合計長 (それぞれの出口名にある後続ブランクを除いた長さ) は、MQ_TOTAL_EXIT_NAME_LENGTH 以内でなければなりません。各ストリングの長さは、MQ_EXIT_NAME_LENGTH 以内でなければなりません。
- z/OS では、最大 8 個の出口プログラム名を指定できます。

SendUserData(MQCFSL)

送信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_SEND_EXIT_USER_DATA)。

送信出口に渡されるユーザー・データを指定します。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造を使用すると、出口ユーザー・データ・ストリングのリストを指定できます。

- それぞれの出口ユーザー・データ・ストリングは、*SendExit* リストと同じ順序で出口に渡されます。
- リストに名前を 1 つのみ指定することは、MQCFST 構造で 1 つの名前を指定することと同じです。
- 同一のチャンネル属性に対して、リスト (MQCFSL) と単一エントリー (MQCFST) 構造を両方指定することはできません。
- リスト内のすべての出口ユーザー・データの合計長 (それぞれのストリングにある後続ブランクを除いた長さ) は、MQ_TOTAL_EXIT_DATA_LENGTH 以内でなければなりません。各ストリングの長さは、MQ_EXIT_DATA_LENGTH 以内でなければなりません。
- z/OS では、最大 8 個のストリングを指定できます。

SeqNumberWrap(MQCFIN)

シーケンス・ラップ番号 (パラメーター ID: MQIACH_SEQUENCE_NUMBER_WRAP)。

最大メッセージ・シーケンス番号を指定します。最大値に到達すると、シーケンス番号は折り返して再度 1 から始まります。

最大メッセージ・シーケンス番号は折衝可能ではありません。ローカルおよびリモート・チャンネルは、同じ番号で折り返す必要があります。

100 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* が MQCHT_SVRCONN または MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルに関しては無効です。

SharingConversations(MQCFIN)

共用会話の最大数 (パラメーター ID: MQIACH_SHARING_CONVERSATIONS)。

特定の TCP/IP MQI チャンネル・インスタンス (ソケット) を共有できる会話の最大数を指定します。

0 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。デフォルト値は 10 で、移行済みの値は 10 です。

このパラメーターは、*ChannelType* が MQCHT_CLNTCONN または MQCHT_SVRCONN のチャンネルにのみ有効です。*TransportType* が MQXPT_TCP 以外のチャンネルでは無視されます。

共有会話の数は、*MaxInstances* または *MaxInstancesPerClient* の合計に加算されません。

値は以下のいずれかです。

1

つまり、TCP/IP チャンネル・インスタンスを介した会話の共有はありませんが、クライアント・ハートビートは、MQGET 呼び出しを使用しているかどうか、先読みとクライアント非同期コンシュームを使用しているかどうか、およびチャンネル静止の制御可能性が高いかどうかにかかわらず使用できます。

0

TCP/IP チャンネル・インスタンスで会話を共有しないということを指定します。チャンネル・インスタンスは、以下の点に関して IBM WebSphere MQ 7.0 バージョン 7.0 より前のモードで稼働します。

- 管理者の停止と静止

- ハートビート中
- 先読み
- クライアント非同期コンシューム

ShortRetryCount(MQCFIN)

ショート再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_RETRY)。

(通常、比較的長い) *LongRetryCount* と *LongRetryInterval* が用いられる前に、*ShortRetryInterval* で指定した間隔で、リモート・マシンとの接続を確立するために送信側チャンネルまたはサーバー・チャンネルによって行われる試行の最大回数。

チャンネルが最初の試みで接続に失敗するか (チャンネル・イニシエーターで自動始動したチャンネルでも、コマンドで明示的に始動させられたチャンネルでも構いません)、一度接続に成功した後その接続で障害が起きると、接続が再度試みられます。しかし、再試行が成功しそうにないことが失敗の原因である場合は再試行は行われません。

0 から 999 999 999 までの範囲の値を指定します。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

ShortRetryInterval(MQCFIN)

ショート・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_TIMER)。

チャンネル・イニシエーターによって自動的に開始される送信側チャンネルまたはサーバー・チャンネルの短期再試行待機間隔を指定します。これによって、リモート・マシンとの接続を確立するための試行を繰り返すときの間隔が秒単位で定義されます。

この時間はおおよそその値です。IBM MQ 8.0.0 は、できるだけ早く次の接続を試みることを意味します。

0 から 999 999 の範囲の値を指定します。この値を超える値は、999 999 として処理されます。

このパラメーターは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。

SSLCipherSpec(MQCFST)

CipherSpec (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC)。チャンネルで使用する CipherSpec を指定します。ストリングの長さは MQ_SSL_CIPHER_SPEC_LENGTH です。



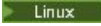
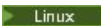
重要:   IBM MQ for z/OS では、以下の表に記載されているかどうかに関係なく、CipherSpec の 2 桁の 16 進コードを指定することもできます。IBM i では、以下の表に記載されているかどうかに関係なく、CipherSpec の 2 桁の 16 進コードを指定することもできます。また、IBM i では、AC3 のインストールは TLS を使用するための前提条件です。

SSLCipherSpec 値は、チャンネルの両端で同じ CipherSpec を指定する必要があります。

このパラメーターは、トランスポート・タイプ **TRPTYPE(TCP)** を使用するすべてのチャンネル・タイプで有効です。パラメーターがブランクである場合、チャンネルでの TLS の使用は試行されません。TRPTYPE が TCP でない場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

このパラメーターの値は、SecurityProtocol の値の設定にも使用されます。これは、[Inquire Channel Status \(応答\)](#) コマンドの出力フィールドです。

以下の表に、IBM MQ の SSL と TLS で使用可能な CipherSpec を示します。

プラットフォーム・サポート 1403 ページの『1』	CipherSpec 名	使用されるプロトコル	データ整合性	暗号化アルゴリズム	暗号化ビット数	FIPS 1403 ページの『2』	Suite B
 z/OS  UNIX  Linux  Windows	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA	TLS 1.0	SHA-1	AES	128	Yes	No
 z/OS  UNIX  Linux  Windows	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA 1403 ページの『3』	TLS 1.0	SHA-1	AES	256	Yes	No
すべて	ECDHE_ECDSA_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_ECDSA_AES_256_CBC_SHA384 1403 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-384	AES	256	Yes	No
 distributed	ECDHE_ECDSA_AES_128_GCM_SHA256 1403 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	128 ビット
 distributed	ECDHE_ECDSA_AES_256_GCM_SHA384 1403 ページの『3』 1403 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	256	Yes	192 ビット
すべて	ECDHE_RSA_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_256_CBC_SHA384 1403 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-384	AES	256	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_128_GCM_SHA256 1403 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	No
すべて	ECDHE_RSA_AES_256_GCM_SHA384 1403 ページの『3』 1403 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA384	Yes	No
 IBM i 1403 ページの『5』	ECDHE_ECDSA_RC4_128_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_ECDSA_3DES_EDE_CBC_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	3DES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_RSA_3DES_EDE_CBC_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	3DES	SHA256	Yes	No
 IBM i	ECDHE_RSA_RC4_128_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	RSA	SHA256	Yes	No

プラットフォーム・サポート 1403 ページの『1』	CipherSpec 名	使用されるプロトコル	データ整合性	暗号化アルゴリズム	暗号化ビット数	FIPS 1403 ページの『2』	Suite B
IBM i	ECDHE_RSA_NULL_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	RSA	SHA256	Yes	No
IBM i	ECDHE_ECDSA_NULL_SHA256	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	ECDSA	SHA256	Yes	No
IBM i	ECDHE_ECDSA_AES_256_GCM_SHA384 1403 ページの『3』 1403 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	SHA384	Yes	No
z/OS UNIX Linux Windows	TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	TLS 1.2	SHA-256	AES	128	Yes	No
z/OS UNIX Linux Windows	TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256 1403 ページの『3』	TLS 1.2	SHA-256	AES	256	Yes	No
distributed	TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 1403 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	128	Yes	No
distributed	TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 1403 ページの『3』 1403 ページの『4』	TLS 1.2	AEAD AES-128 GCM	AES	256	Yes	No

注:

1. 具体的なプラットフォームが記載されていない場合は、CipherSpec はすべてのプラットフォームで使用可能です。
2. FIPS 認定プラットフォーム上の FIPS 認定 CipherSpec であるかどうかを示しています。FIPS の説明については、連邦情報処理標準 (FIPS) を参照してください。
3. MQ Explorer が使用する JRE に対して適切な無制限のポリシー・ファイルが適用されていない場合には、この CipherSpec を使用して、WebSphere MQ エクスプローラーからキュー・マネージャーへの安全な接続を確立することはできません。
4. NIST の勧告に従って GCM CipherSpec は制限を採用しました。これにより、同じセッション鍵を使って 2^{32} 個の TLS レコードが送られた後、メッセージ AMQ9288 を伴って接続が終了します。
このエラーを回避するには、GCM Cipher を使用しないようにするか、秘密鍵リセットを有効にするか、あるいは環境変数 GSK_ENFORCE_GCM_RESTRICTION=GSK_FALSE を設定して IBM MQ キュー・マネージャーを開始します。
重要: FIPS モードを使用するかどうかに関わらず、GCM の制限は有効です。
5. IBM i でサポート対象としてリストされている CipherSpecs は、IBM i のバージョン 7.2 および 7.3 に適用されます。

個人用証明書を要求するときに、公開鍵と秘密鍵のペアの鍵サイズを指定します。SSL ハンドシェーク時に使用される鍵のサイズは、証明書に保管されているサイズと、CipherSpec によって異なります。

- UNIX システム、Windows システム、および z/OS では、CipherSpec 名に _EXPORT が含まれている場合、ハンドシェークの最大鍵サイズは 512 ビットです。SSL ハンドシェーク時に交換される証明書のどちらかに、512 ビットより大きい鍵サイズがある場合、ハンドシェーク時に使用するために、一時的な 512 ビット鍵が生成されます。
- UNIX システムおよび Windows システムでは、CipherSpec 名に _EXPORT1024 が含まれている場合、ハンドシェークの鍵サイズは 1024 ビットです。
- それ以外の場合、ハンドシェークの鍵サイズは、証明書に保管されているサイズです。

SSLClientAuth(MQCFIN)

クライアント認証 (パラメーター ID: MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSCA_REQUIRED

クライアント認証が必要です。

MQSCA_OPTIONAL

クライアント認証は任意指定です。

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。

SSL クライアントは、メッセージ・チャネルの接続の開始側です。SSL サーバーは、メッセージ・チャネルの開始フローの受信側です。

パラメーターは、SSLCIPH が指定されたチャネルにのみ使用されます。SSLCIPH がブランクの場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

SSLPeerName(MQCFST)

ピア名 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_PEER_NAME)。

注: SSL または TLS サブジェクト識別名との突き合わせによってチャネルへの接続を制限する別の方法は、チャネル認証レコードを使用することです。チャネル認証レコードを使用すると、SSL または TLS のサブジェクト識別名のさまざまなパターンを同じチャネルに適用することができます。チャネルで SSLPEER が設定されており、かつチャネル認証レコードが同じチャネルに適用されている場合、接続するには、インバウンド証明書が両方のパターンと一致する必要があります。詳しくは、[チャネル認証レコード](#)を参照してください。

z/OS 以外のプラットフォームでは、ストリングの長さは MQ_SSL_PEER_NAME_LENGTH です。z/OS では、ストリングの長さは MQ_SSL_SHORT_PEER_NAME_LENGTH です。

チャネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントから送られてくる証明書の識別名との比較に使用するフィルターを指定します。(識別名は SSL 証明書の ID です。) 相手から受け取る証明書内の識別名が SSLPEER フィルターと一致しない場合、チャネルは開始しません。

このパラメーターはオプションです。これを指定しない場合、チャネル開始時にピアの識別名は検査されません。(証明書からの識別名は、メモリーに保持されている SSLPEER 定義に引き続き書き込まれ、セキュリティ出口に渡されます。) SSLCIPH がブランクの場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

このパラメーターは、すべてのチャネル・タイプで有効です。

SSLPEER 値は、識別名を指定するために使用する標準形式で指定します。例:

SSLPEER('SERIALNUMBER=4C:D0:49:D5:02:5F:38,CN="H1_C_FR1",O=IBM,C=GB')

区切り文字として、コンマの代わりにセミコロンを使用できます。

サポートされる属性タイプを以下に示します。

属性	説明
SERIALNUMBER	証明書のシリアル番号
MAIL	メール・アドレス
E	E メール・アドレス (MAIL の方が好ましいため非推奨)
UID または USERID	ユーザー ID

属性	説明
CN	共通名
T	役職
OU	部門名
DC	ドメイン・コンポーネント
O	組織名
STREET	通り/住所の 1 行目
L	地域名
ST (または SP もしくは S)	都道府県名
「PC」	郵便番号
C	国名
UNSTRUCTUREDNAME	ホスト名
UNSTRUCTUREDADDRESS	IP アドレス
DNQ	識別名修飾子

IBM MQ では、属性タイプには大文字のみを使用できます。

SSLPEER スtringで、サポートされない属性タイプのいずれかが指定されると、属性の定義時または実行時 (稼働しているプラットフォームに依存) にエラーが出力され、Stringは、流れてきた証明書の識別名に一致しなかったと見なされます。

流れてきた証明書の識別名に複数の OU (organizational unit) 属性が含まれ、SSLPEER にこれらの属性の比較が指定されている場合、これらの属性を階層の降順に定義する必要があります。例えば、フローされた証明書の識別名に OU OU=Large Unit,OU=Medium Unit,OU=Small Unit が含まれている場合、以下の SSLPEER 値を指定すると機能します。

```
('OU=Large Unit,OU=Medium Unit') ('OU=*,OU=Medium Unit,OU=Small Unit') ('OU=*,OU=Medium Unit')
```

ただし、以下の SSLPEER 値を指定すると失敗します。

```
('OU=Medium Unit,OU=Small Unit') ('OU=Large Unit,OU=Small Unit') ('OU=Medium Unit')
```

属性値は、アスタリスク (*) だけで構成したり、語幹に先行または後続のアスタリスクを付けることによって、そのすべて、あるいは一部を汎用表現にできます。この値を使用すると、SSLPEER が任意の識別名値と一致するようにしたり、その属性の語幹で始まる値と一致するようにしたりできます。

証明書で識別名の属性値の先頭または末尾にアスタリスクを指定している場合、SSLPEER 内に ¥* を指定することで、完全に一致するものがあるかどうかを検査できます。例えば、証明書の識別名に CN=Test* という属性がある場合は、以下のコマンドを使用できます。

```
SSLPEER('CN=Test\*')
```

TpName(MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

この名前は、LU 6.2 トランザクション・プログラム名です。

Stringの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

- IBM i、HP Integrity NonStop Server、UNIX システム、および Windows では、このパラメーターはブランクにのみ設定できます。実際の名前は、CPI-C 通信サイド・オブジェクトまたは (Windows の場合には) CPI-C シンボリック宛先名プロパティから取得されます。

このパラメーターは、*TransportType* が MQXPT_LU62 となっているチャンネルにのみ有効です。これは、受信側チャンネルでは無効です。

▶ V8.0.0.4

TPRoot (MQCFST)

AMQP チャンネルのトピック・ルート。(パラメーター ID: MQCACH_TOPIC_ROOT)。

TPRoot のデフォルト値は SYSTEM.BASE.TOPIC です。この値を設定した場合、AMQP クライアントがパブリッシュまたはサブスクライブに使用するトピック・ストリングに接頭部が付かず、クライアントは他の MQ パブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションとの間でメッセージを交換できます。トピック接頭部のもとで AMQP クライアントがパブリッシュおよびサブスクライブするようにするには、まず、トピック・ストリングを目的の接頭部に設定した MQ トピック・オブジェクトを作成し、次に TPRoot を作成済み MQ トピック・オブジェクトの名前に設定します。

このパラメーターは、AMQP チャンネルにのみ有効です。

TransportType(MQCFIN)

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

チャンネルが相手側から開始された場合は、正しいトランスポート・タイプが指定されているかについて検査されません。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQXPT_LU62

LU 6.2。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。

この値は Windows でサポートされます。NetBIOS をサポートするプラットフォーム上のサーバーに接続するクライアント接続チャンネルを定義する場合、この値は z/OS にも適用されます。

MQXPT_SPX

SPX。

この値は Windows でサポートされます。SPX をサポートするプラットフォーム上のサーバーに接続するクライアント接続チャンネルを定義する場合、この値は z/OS にも適用されます。

▶ V8.0.0.4

UseClntId (MQCFIN)

AMQP チャンネルの許可検査をどのように行うかを決定します。(パラメーター ID: MQIACH_USE_CLIENT_ID)。

AMQP チャンネルの許可検査に MCAUSER 属性値ではなくクライアント ID を使用することを指定します。

このパラメーターは、AMQP チャンネルにのみ有効です。

UseDLQ(MQCFIN)

チャンネルでメッセージが配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。(パラメーター ID: MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUSEDLQ_NO

チャンネルによって送信できないメッセージは、失敗したものとして扱われます。

NonPersistentMsgSpeed の設定に従って、チャンネルがメッセージを破棄するか、チャンネルが終了します。

MQUSEDLQ_YES

DEADQ キュー・マネージャーの属性が送達不能キューの名前を指定している場合は、それが使用されます。指定されていない場合、動作は MQUSEDLQ_NO の場合のようになります。

UserIdentifier(MQCFST)

タスク・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_USER_ID)。

このパラメーターは、メッセージ・チャネル・エージェントが、リモート・メッセージ・チャネル・エージェントとの保護 SNA セッションの開始を試みる際に使用します。IBM i および UNIX システムでは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_REQUESTER、MQCHT_CLNTCONN、MQCHT_CLUSSDR、または MQCHT_CLUSRCVR である場合にのみ有効です。z/OS では、これは *ChannelType* の値が MQCHT_CLNTCONN である場合にのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。ただし、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

XmitQName(MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

ChannelType が MQCHT_SENDER または MQCHT_SERVER である場合、伝送キュー名は必須です (既に定義されているか、ここで指定する必要があります)。その他のチャネル・タイプでは無効です。

エラー・コード (Change Channel、Copy Channel、および Create Channel)

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されたものの他に、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに返します。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_BATCH_INT_ERROR

バッチ間隔が無効です。

MQRCCF_BATCH_INT_WRONG_TYPE

バッチ間隔パラメーターは、このチャネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_BATCH_SIZE_ERROR

バッチ・サイズが無効です。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

チャネル・タイプが無効です。

MQRCCF_CLUSTER_NAME_CONFLICT

クラスター名が矛盾しています。

MQRCCF_DISC_INT_ERROR

切断間隔が無効です。

MQRCCF_DISC_INT_WRONG_TYPE

切断間隔は、このチャネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_HB_INTERVAL_ERROR

ハートビート間隔が無効です。

MQRCCF_HB_INTERVAL_WRONG_TYPE

ハートビート間隔パラメーターは、このチャネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_LONG_RETRY_ERROR

長期再試行カウントが無効です。

MQRCCF_LONG_RETRY_WRONG_TYPE

長期再試行パラメーターは、このチャネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_LONG_TIMER_ERROR

ロング・タイマーが無効です。

MQRCCF_LONG_TIMER_WRONG_TYPE

ロング・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MAX_INSTANCES_ERROR

最大インスタンス値が無効です。

MQRCCF_MAX_INSTS_PER_CLNT_ERR

クライアントあたりの最大インスタンス値が無効です。

MQRCCF_MAX_MSG_LENGTH_ERROR

最大メッセージ長が無効です。

MQRCCF_MCA_NAME_ERROR

メッセージ・チャンネル・エージェント名のエラー。

MQRCCF_MCA_NAME_WRONG_TYPE

メッセージ・チャンネル・エージェント名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MCA_TYPE_ERROR

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプが無効です。

MQRCCF_MISSING_CONN_NAME

接続名パラメーターは必須ですが、欠落しています。

MQRCCF_MR_COUNT_ERROR

メッセージ再試行カウントが無効です。

MQRCCF_MR_COUNT_WRONG_TYPE

メッセージ再試行カウント・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MR_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル・メッセージ再試行出口名のエラー。

MQRCCF_MR_EXIT_NAME_WRONG_TYPE

メッセージ再試行出口パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MR_INTERVAL_ERROR

メッセージ再試行間隔が無効です。

MQRCCF_MR_INTERVAL_WRONG_TYPE

メッセージ再試行間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MSG_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル・メッセージ出口名のエラー。

MQRCCF_NET_PRIORITY_ERROR

ネットワーク優先順位の値のエラー。

MQRCCF_NET_PRIORITY_WRONG_TYPE

ネットワーク優先順位属性は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_NPM_SPEED_ERROR

非持続メッセージ速度が無効です。

MQRCCF_NPM_SPEED_WRONG_TYPE

非持続メッセージの速度パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_PARM_SEQUENCE_ERROR

パラメーターの順序が無効です。

MQRCCF_PUT_AUTH_ERROR

書き込み権限の値が無効です。

MQRCCF_PUT_AUTH_WRONG_TYPE

書き込み権限パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_RCV_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル受信出口名のエラー。

MQRCCF_SEC_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル・セキュリティ出口名のエラー。

MQRCCF_SEND_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル送信出口名のエラー。

MQRCCF_SEQ_NUMBER_WRAP_ERROR

順序折り返し番号が無効です。

MQRCCF_SHARING_CONVS_ERROR

共有会話に対して指定された値が無効です。

MQRCCF_SHARING_CONVS_TYPE

共有会話パラメーターがこのチャンネル・タイプでは無効です。

MQRCCF_SHORT_RETRY_ERROR

短期再試行カウントが無効です。

MQRCCF_SHORT_RETRY_WRONG_TYPE

短期再試行パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_SHORT_TIMER_ERROR

ショート・タイマーの値が無効です。

MQRCCF_SHORT_TIMER_WRONG_TYPE

ショート・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_SSL_CIPHER_SPEC_ERROR

SSL CipherSpec が無効です。

MQRCCF_SSL_CLIENT_AUTH_ERROR

SSL クライアント認証が無効です。

MQRCCF_SSL_PEER_NAME_ERROR

SSL ピア名が無効です。

MQRCCF_WRONG_CHANNEL_TYPE

パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_XMIT_PROTOCOL_TYPE_ERR

伝送プロトコル・タイプが無効です。

MQRCCF_XMIT_Q_NAME_ERROR

伝送キュー名のエラー。

MQRCCF_XMIT_Q_NAME_WRONG_TYPE

伝送キュー名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

Change Channel、Copy Channel、および Create Channel ((MQTT))

Change Channel コマンドは、既存のテレメトリー・チャンネル定義を変更します。Copy Channel コマンドおよび Create Channel コマンドは新しいテレメトリー・チャンネル定義を作成します。この Copy コマンドは既存のチャンネル定義の属性値を使用します。

Change Channel (MQCMD_CHANGE_CHANNEL) コマンドは、チャンネル定義で指定した属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Channel (MQCMD_COPY_CHANNEL) コマンドは、新しいチャンネル定義を作成します。コマンドで指定しなかった属性については、既存のチャンネル定義の属性値が使用されます。

Create Channel (MQCMD_CREATE_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャンネル定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。作成するチャンネルのタイプにシステムのデフォルト・チャンネルが存在する場合、デフォルト値はそこから取得されます。

必須パラメーター (Change Channel、Create Channel)

ChannelName (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

変更または作成するチャンネル定義の名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelType (MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

変更、コピー、または作成するチャンネルのタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHT_MQTT

テレメトリー。

TrpType (MQCFIN)

チャンネルの伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。このパラメーターは、テレメトリーの Create コマンドで必須です。

チャンネルが相手側から開始された場合は、正しいトランスポート・タイプが指定されているかについて検査されません。その値は、以下のものです。

MQXPT_TCP

TCP

Port (MQCFIN)

TrpType が MQXPT_TCP に設定されている場合に使用されるポート番号です。*TrpType* が MQXPT_TCP に設定されている場合、このパラメーターはテレメトリーの Create コマンドで必須です。値の範囲は 1 から 65335 です。

必須パラメーター (Copy Channel)

ChannelType (MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

変更、コピー、または作成するチャンネルのタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHT_MQTT

テレメトリー。

オプション・パラメーター (Change Channel、Copy Channel、および Create Channel)

Backlog (MQCFIN)

ある一時点にテレメトリー・チャンネルがサポートする同時接続要求の数 (パラメーター ID: MQIACH_BACKLOG)。

この値の範囲は 0 から 999999999 です。

JAASConfig (MQCFST)

JAAS 構成のファイル・パス (パラメーター ID: MQCACH_JAAS_CONFIG)。

この値の最大長は MQ_JAAS_CONFIG_LENGTH です。

テレメトリー・チャンネルには、JAASCONFIG、MCAUSER、および USECLIENTID のうちいずれか 1 つのみを指定できます。いずれも指定されない場合、認証は行われません。JAASConfig が指定された場合、クライアントからユーザー名とパスワードが流されます。それ以外のすべての場合、その流されたユーザー名は無視されます。

LocalAddress (MQCFST)

チャンネル用のローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

指定する値は、使用されるトランスポート・タイプ (*TrpType*) によって異なります。

TCP/IP

値は、アウトバウンド TCP/IP 通信のために使用されるオプションの IP アドレスおよびオプションのポートまたはポート範囲です。この情報の形式は、次のとおりです。

```
[ip-addr][([low-port[,high-port]])]
```

ip-addr は、IPv4 ドット 10 進、IPv6 16 進表記、または英数字形式で指定します。low-port および high-port は、括弧で囲んだポート番号です。すべて任意指定です。

その他すべて

値は無視されます。エラーは診断されません。

このパラメーターは、アウトバウンド通信のために特定の IP アドレス、ポート、またはポート範囲を使用するチャンネルが必要な場合に使用します。このパラメーターは、マシンが、異なる IP アドレスを持つ複数のネットワークに接続されるときに役立ちます。

使用例

値	意味
9.20.4.98	チャンネルは、ローカル側でこのアドレスにバインドします。
9.20.4.98 (1000)	チャンネルは、このアドレスおよびポート 1000 にローカルにバインドします。
9.20.4.98 (1000,2000)	チャンネルは、このアドレスにバインドし、1000 から 2000 の範囲のポートをローカル側で使用します。
(1000)	チャンネルは、ローカル側でポート 1000 にバインドします。
(1000,2000)	チャンネルは 1000 から 2000 の範囲にあるポートにローカルにバインドします

注:

- このパラメーターと *ConnectionName* を混同しないでください。 *LocalAddress* パラメーターはローカル通信の特性を指定しますが、 *ConnectionName* パラメーターはリモート・キュー・マネージャーへのアクセス方法を指定します。

MqiachProtocol (MQCFIL)

MQTT チャンネルでサポートされるクライアント・プロトコル (パラメーター ID: MQIACH_PROTOCOL)。

次の値の 1 つ以上を値にすることができます。

▶ V8.0.0.3 MQPROTO_MQTTV311

チャンネルは、[MQTT バージョン 3.1.1](#) Oasis 規格で定義されたプロトコルを使用するクライアントからの接続を受け入れます。このプロトコルによる機能は、既存の MQTTV3 プロトコルによる機能とほとんど同じです。

MQPROTO_MQTTV3

チャンネルは、[mqtt.org](#) が定めた [MQTT V3.1](#) プロトコル仕様を使用するクライアントからの接続を受け入れます。

MQPROTO_HTTP

チャンネルは、ページの HTTP 要求、または IBM MQ Telemetry への WebSockets 接続を受け入れます。

クライアント・プロトコルを指定しない場合、チャンネルは、サポートされるプロトコルのいずれかを使用するクライアントからの接続を受け入れます。

▶ V8.0.0.3 IBM MQ バージョン 8.0.0、フィックスパック 3 以降を使用していて、旧バージョンの IBM MQ で最後に変更された MQTT チャンネルが構成に含まれている場合は、プロトコル設定を明示的に変更して、チャンネルが MQTTV311 オプションを使用するようにする必要があります。チャンネルにクライアント・プロトコルが何も指定されていない場合も同様です。チャンネルで使用する具体的なプロトコルはチャンネルの構成時に保管されるため、以前のバージョンの製品は MQTTV311 オプションを認識しないからです。この状態のチャンネルが MQTTV311 オプションを使用するには、オプションを明示的に追加して、変更を保存します。これで、チャンネル定義でオプションが認識されるようにな

ります。その後再び設定を変更して、クライアント・プロトコルをまったく指定しなくても、MQTTV311 オプションはサポートされるプロトコルの保管リストにそのまま含まれています。

SSLCipherSuite (MQCFST)

CipherSuite (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SUITE)。

ストリングの長さは MQ_SSL_CIPHER_SUITE_LENGTH です。

SSL CIPHER SUITE 文字チャンネル・パラメーター・タイプです。

SSLClientAuth (MQCFIN)

クライアント認証 (パラメーター ID: MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSCA_REQUIRED

クライアント認証が必要です。

MQSCA_OPTIONAL

クライアント認証はオプションです。

MQSCA_NEVER_REQUIRED

クライアント認証は要求されず、提供してはなりません。

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。

SSL クライアントは、メッセージ・チャンネルの接続の開始側です。SSL サーバーは、メッセージ・チャンネルの開始フローの受信側です。

パラメーターは、SSLCIPH が指定されたチャンネルにのみ使用されます。SSLCIPH がブランクの場合、データは無視され、エラー・メッセージは発行されません。

SSLKeyFile (MQCFST)

デジタル証明書およびそれに関連付けられた秘密鍵のストア (パラメーター ID: MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY)。

鍵ファイルを指定しなかった場合、SSL は使用されません。

このパラメーターの最大長は MQ_SSL_KEY_REPOSITORY_LENGTH です。

SSLPassPhrase (MQCFST)

鍵リポジトリのパスワード (パラメーター ID: MQCACH_SSL_KEY_PASSPHRASE)。

パスフレーズが入力されない場合、暗号化されない接続を使用しなければなりません。

このパラメーターの最大長は MQ_SSL_KEY_PASSPHRASE_LENGTH です。

UseClientIdentifier (MQCFIN)

新規接続のクライアント ID を、その接続のユーザー ID として使用するかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIACH_USE_CLIENT_ID)。

値は、次のいずれかです。

MQUCI_YES

はい。

MQUCI_NO

いいえ。

テレメトリー・チャンネルには、JAASCONFIG、MCAUSER、および USECLIENTID のうちいずれか 1 つのみを指定できます。いずれも指定されない場合、認証は行われません。USECLIENTID が指定された場合、流されたクライアントのユーザー名は無視されます。

エラー・コード (Change Channel、Copy Channel、および Create Channel)

このコマンドは、1352 ページの『[すべてのコマンドに該当するエラー・コード](#)』に示されたものの他に、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに返します。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_BATCH_INT_ERROR

バッチ間隔が無効です。

MQRCCF_BATCH_INT_WRONG_TYPE

バッチ間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_BATCH_SIZE_ERROR

バッチ・サイズが無効です。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャンネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

チャンネル・タイプが無効です。

MQRCCF_CLUSTER_NAME_CONFLICT

クラスター名が矛盾しています。

MQRCCF_DISC_INT_ERROR

切断間隔が無効です。

MQRCCF_DISC_INT_WRONG_TYPE

切断間隔は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_HB_INTERVAL_ERROR

ハートビート間隔が無効です。

MQRCCF_HB_INTERVAL_WRONG_TYPE

ハートビート間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_LONG_RETRY_ERROR

長期再試行カウントが無効です。

MQRCCF_LONG_RETRY_WRONG_TYPE

長期再試行パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_LONG_TIMER_ERROR

ロング・タイマーが無効です。

MQRCCF_LONG_TIMER_WRONG_TYPE

ロング・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MAX_INSTANCES_ERROR

最大インスタンス値が無効です。

MQRCCF_MAX_INSTS_PER_CLNT_ERR

クライアントあたりの最大インスタンス値が無効です。

MQRCCF_MAX_MSG_LENGTH_ERROR

最大メッセージ長が無効です。

MQRCCF_MCA_NAME_ERROR

メッセージ・チャンネル・エージェント名のエラー。

MQRCCF_MCA_NAME_WRONG_TYPE

メッセージ・チャンネル・エージェント名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MCA_TYPE_ERROR

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプが無効です。

MQRCCF_MISSING_CONN_NAME

接続名パラメーターは必須ですが、欠落しています。

MQRCCF_MR_COUNT_ERROR

メッセージ再試行カウントが無効です。

MQRCCF_MR_COUNT_WRONG_TYPE

メッセージ再試行カウント・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MR_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル・メッセージ再試行出口名のエラー。

MQRCCF_MR_EXIT_NAME_WRONG_TYPE

メッセージ再試行出口パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MR_INTERVAL_ERROR

メッセージ再試行間隔が無効です。

MQRCCF_MR_INTERVAL_WRONG_TYPE

メッセージ再試行間隔パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_MSG_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル・メッセージ出口名のエラー。

MQRCCF_NET_PRIORITY_ERROR

ネットワーク優先順位の値のエラー。

MQRCCF_NET_PRIORITY_WRONG_TYPE

ネットワーク優先順位属性は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_NPM_SPEED_ERROR

非持続メッセージ速度が無効です。

MQRCCF_NPM_SPEED_WRONG_TYPE

非持続メッセージの速度パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_PARM_SEQUENCE_ERROR

パラメーターの順序が無効です。

MQRCCF_PUT_AUTH_ERROR

書き込み権限の値が無効です。

MQRCCF_PUT_AUTH_WRONG_TYPE

書き込み権限パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_RCV_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル受信出口名のエラー。

MQRCCF_SEC_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル・セキュリティー出口名のエラー。

MQRCCF_SEND_EXIT_NAME_ERROR

チャンネル送信出口名のエラー。

MQRCCF_SEQ_NUMBER_WRAP_ERROR

順序折り返し番号が無効です。

MQRCCF_SHARING_CONVS_ERROR

共有会話に対して指定された値が無効です。

MQRCCF_SHARING_CONVS_TYPE

共有会話パラメーターがこのチャンネル・タイプでは無効です。

MQRCCF_SHORT_RETRY_ERROR

短期再試行カウントが無効です。

MQRCCF_SHORT_RETRY_WRONG_TYPE

短期再試行パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_SHORT_TIMER_ERROR

ショート・タイマーの値が無効です。

MQRCCF_SHORT_TIMER_WRONG_TYPE

ショート・タイマー・パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_SSL_CIPHER_SPEC_ERROR

SSL CipherSpec が無効です。

MQRCCF_SSL_CLIENT_AUTH_ERROR

SSL クライアント認証が無効です。

MQRCCF_SSL_PEER_NAME_ERROR

SSL ピア名が無効です。

MQRCCF_WRONG_CHANNEL_TYPE

パラメーターは、このチャンネル・タイプでは指定できません。

MQRCCF_XMIT_PROTOCOL_TYPE_ERR

伝送プロトコル・タイプが無効です。

MQRCCF_XMIT_Q_NAME_ERROR

伝送キュー名のエラー。

MQRCCF_XMIT_Q_NAME_WRONG_TYPE

伝送キュー名は、このチャンネル・タイプでは指定できません。

Change Channel Listener、Copy Channel Listener、および Create Channel Listener

Change Channel Listener コマンドは、既存のチャンネル・リスナー定義を変更します。Copy Channel Listener および Create Channel Listener コマンドは、チャンネル・リスナー定義を新規作成します。このとき、Copy コマンドは、既存のチャンネル・リスナー定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

Change Channel Listener (MQCMD_CHANGE_LISTENER) コマンドは、既存の IBM MQ リスナー定義について指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Channel Listener (MQCMD_COPY_LISTENER) コマンドは、このコマンド内で指定されていない属性について、既存のリスナー定義の属性値を使用して IBM MQ リスナー定義を作成します。

Create Channel Listener (MQCMD_CREATE_LISTENER) コマンドは、IBM MQ リスナー定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change Channel Listener および Create Channel Listener)

ListenerName (MQCFST)

変更または作成するリスナー定義の名前 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_LU62

LU 6.2。この値は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。この値は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_SPX

SPX。この値は、Windows でのみ有効です。

必須パラメーター (Copy Channel Listener)

FromListenerName (MQCFST)

コピー元のリスナー定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_LISTENER_NAME)。

このパラメーターは、このコマンドに指定されていない属性に関する値を含む既存のリスナー定義の名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

ToListenerName (MQCFST)

コピー先リスナー名 (パラメーター ID: MQCACF_TO_LISTENER_NAME)。

このパラメーターは、新規リスナー定義の名前を指定します。この名前のリスナー定義が存在する場合は、*Replace* に MQRP_YES が指定されていなければなりません。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change Channel Listener、Copy Channel Listener、および Create Channel Listener)

Adapter(MQCFIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_ADAPTER)。

NetBIOS が listen するアダプター番号。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Backlog(MQCFIN)

バックログ (パラメーター ID: MQIACH_BACKLOG)。

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

Commands(MQCFIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_COMMAND_COUNT)。

リスナーが使用できるコマンドの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

IPAddress (MQCFST)

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。

リスナーの IP アドレス。IPv4 ドット 10 進表記、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名のいずれかの形式で指定します。このパラメーターに値を指定しない場合、リスナーは構成済みのすべての IPv4 および IPv6 スタックを listen します。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

ListenerDesc (MQCFST)

リスナー定義の説明 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_DESC)。

このパラメーターは、リスナー定義に関する説明情報が入ったプレーン・テキストです。表示可能文字だけを含めることができます。

コマンドが実行されるキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字を使用すると、その文字が正しく変換されない可能性があります。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_DESC_LENGTH です。

LocalName (MQCFST)

NetBIOS ローカル名 (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_NAME)。

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

NetbiosNames(MQCFIN)

NetBIOS 名 (パラメーター ID: MQIACH_NAME_COUNT)。

リスナーでサポートされる名前の数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Port(MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

TCP/IP のポート番号。このパラメーターは、*TransportType* の値が MQXPT_TCP である場合にのみ有効です。

Replace(MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACH_REPLACE)。

この定義は、*ToListenerName* と同じ名前の名前リスト定義が存在する場合に、それを置き換えるかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

Sessions(MQCFIN)

NetBIOS セッション (パラメーター ID: MQIACH_SESSION_COUNT)。

リスナーが使用できるセッションの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Socket(MQCFIN)

SPX ソケット番号 (パラメーター ID: MQIACH_SOCKET)。

listen する SPX ソケットです。このパラメーターは、*TransportType* の値が MQXPT_SPX の場合にのみ有効です。

StartMode(MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIACH_LISTENER_CONTROL)。

リスナーの開始および停止の方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

リスナーを自動的に開始または停止しません。ユーザー・コマンドによって制御されます。この値がデフォルト値です。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

定義するリスナーは、キュー・マネージャーの開始および停止と同時に、開始および停止します。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

リスナーは、キュー・マネージャーの開始と同時に開始するようになっていますが、キュー・マネージャーの停止と同時に停止するようには要求されていません。

TPName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

Change Communication Information Object、Copy Communication Information Object、および Create Communication Information Object

Change Communication Information Object コマンドは、既存の通信情報オブジェクト定義を変更します。Copy Communication Information Object コマンドおよび Create Communication Information Object コマンドは、新しい通信情報オブジェクト定義を作成します。Copy コマンドは、既存の通信情報オブジェクト定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

Change communication information (MQCMD_CHANGE_COMM_INFO) コマンドは、既存の IBM MQ 通信情報オブジェクト定義のうち、指定された属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy communication information (MQCMD_COPY_COMM_INFO) コマンドは、IBM MQ 管理通信情報オブジェクト定義を作成します。コマンドで指定されていない属性については、既存の通信情報定義の属性値を使用します。

Create communication information (MQCMD_CREATE_COMM_INFO) コマンドは、IBM MQ 通信情報オブジェクト定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change communication information)

ComminfoName (MQCFST)

変更する通信情報定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy communication information)

FromComminfoName (MQCFST)

コピー元の通信情報オブジェクト定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_COMM_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

ToComminfoName (MQCFST)

コピー先の通信情報定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_COMM_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Create communication information)

ComminfoName (MQCFST)

作成する通信情報定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change communication information、Copy communication information、および Create communication information)

Bridge (MQCFIN)

マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションが、マルチキャストを使用するアプリケーションにブリッジされるかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_MCAST_BRIDGE)。

ブリッジングは、**MCAST(ONLY)** のマークが付いているトピックには適用されません。これらのトピックで可能なのはマルチキャスト・トラフィックのみであるため、マルチキャストでないパブリッシュ/サブスクライブ・ドメインへのブリッジは適用されません。

MQMCB_DISABLED

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡しません。これが IBM i のデフォルトです。

MQMCB_ENABLED

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡します。これが IBM i 以外のプラットフォームのデフォルトです。この値は、IBM i では無効です。

CCSID (MQCFIN)

送信メッセージで使用されるコード化文字セット ID (パラメーター ID: MQIA_CODED_CHAR_SET_ID)。

1 から 65535 の範囲の値を指定してください。

CCSID では、対象のプラットフォーム用に定義されている値を指定する必要があります。また、そのプラットフォームに該当する文字セットを使用しなければなりません。このパラメーターを使用して CCSID を変更する場合、その変更が適用されるときに実行中のアプリケーションは引き続き元の CCSID を使用します。したがって、稼働を続ける前に、すべての実行中のアプリケーションをいったん停止して再始動する必要があります。

これには、コマンド・サーバーおよびチャネル・プログラムが含まれます。これを行うには、変更を行った後にキュー・マネージャーを停止および再始動します。デフォルト値は ASPUB です。この場合は、パブリッシュされるメッセージで指定されている値に基づいて、コード化文字セットが選択されます。

CommEvent (MQCFIN)

この COMMINFO オブジェクトを使用して作成されたマルチキャスト・ハンドルに対してイベント・メッセージを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_COMM_EVENT)。

イベントが生成されるのは、*MonitorInterval* パラメーターを使用することによりモニターも有効になっている場合のみです。

MQEVR_DISABLED

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡しません。これはデフォルト値です。

MQEVR_ENABLED

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡します。

MQEVR_EXCEPTION

メッセージ信頼性が信頼性しきい値を下回ると、イベント・メッセージが書き込まれます。信頼性しきい値は、デフォルトで 90 に設定されます。

Description (MQCFST)

通信情報オブジェクトに関する記述情報を提供するプレーン・テキストのコメント (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_DESC)。

表示可能文字だけを含めることができます。最大長は 64 文字です。DBCS のインストール済み環境では、この値に DBCS 文字 (最大長 64 バイト) を使用できます。

このキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) がない文字が使用された場合、情報が別のキュー・マネージャーに送信されると、それらの文字は正しく変換されない場合があります。

最大長は MQ_COMM_INFO_DESC_LENGTH です。

Encoding (MQCFIN)

メッセージが送信される際に使用されるエンコード (パラメーター ID: MQIACF_ENCODING)。

MQENC_AS_PUBLISHED

メッセージのエンコードは、パブリッシュされるメッセージで指定されている値から取り込まれます。これはデフォルト値です。

MQENC_NORMAL

MQENC_REVERSED

MQENC_S390

MQENC_TNS

GrpAddress (MQCFST)

グループの IP アドレスまたは DNS 名 (パラメーター ID: MQCACH_GROUP_ADDRESS)。

グループ・アドレスを管理するのは、管理者の責任です。すべてのマルチキャスト・クライアントで、あらゆるトピックについて同じグループ・アドレスを使用することも可能です。その場合も、クライアントで未解決になっているサブスクリプションに合致するメッセージだけが送信されます。同じグループ・アドレスを使用すると、各クライアントがネットワーク内のあらゆるマルチキャスト・パケットを調べて処理しなければならないので、効率が落ちる場合もあります。トピックごとに、あるいはトピック・セットごとに、別々の IP グループ・アドレスを割り振るほうが効率は良くなりますが、そのためには、注意深い管理が必要です。ネットワークで MQ 以外の他のマルチキャスト・アプリケーションが使用されている場合は、特にそういえます。デフォルト値は 239.0.0.0 です。

最大長は MQ_GROUP_ADDRESS_LENGTH です。

MonitorInterval (MQCFIN)

モニター情報を更新し、イベント・メッセージを生成する頻度 (パラメーター ID: MQIA_MONITOR_INTERVAL)。

指定する値の範囲は 0 から 999 999 までです (秒数)。値が 0 なら、それはモニターが必要ないことを示しています。

ゼロでない値が指定された場合、モニターは有効になります。この通信情報オブジェクトを使用して作成されるマルチキャスト・ハンドルの状況に関して、モニター情報が更新され、イベント・メッセージが生成されます (*CommEvent* を使用して有効になっている場合)。

MsgHistory (MQCFIN)

この値は、NACK (否定応答) が発生した場合の再送信を処理するために、システムが保持するメッセージ履歴の量 (キロバイト単位) です (パラメーター ID: MQIACH_MSG_HISTORY)。

値の範囲は 0 から 999 999 999 です。値を 0 にすると、信頼性が最低レベルになります。デフォルト値は 100 です。

MulticastHeartbeat (MQCFIN)

ハートビート間隔はミリ秒単位で測定され、送信側が受信側に、使用可能なデータがそれ以上ないことを通知する頻度を指定します (パラメーター ID: MQIACH_MC_HB_INTERVAL)。

値の範囲は 0 から 999 999 です。デフォルト値は 2000 ミリ秒です。

MulticastPropControl (MQCFIN)

マルチキャスト・プロパティは、メッセージと一緒に流れる MQMD プロパティの数およびユーザー・プロパティの数を制御します (パラメーター ID: MQIACH_MULTICAST_PROPERTIES)。

MQMCP_ALL

すべてのユーザー・プロパティとすべての MQMD フィールドを送信します。これはデフォルト値です。

MQMCP_REPLY

ユーザー・プロパティと、メッセージへの応答に関連する MQMD フィールドだけを送信します。以下のプロパティが該当します。

- MsgType
- MessageId
- CorrelId
- ReplyToQ
- ReplyToQmgr

MQMCP_USER

ユーザー・プロパティのみが送信されます。

MQMCP_NONE

ユーザー・プロパティも MQMD フィールドも送信されません。

MQMCP_COMPAT

プロパティは、以前の MQ マルチキャスト・クライアントと互換性のある形式で送信されます。

NewSubHistory (MQCFIN)

新規サブスクライバー履歴は、パブリケーション・ストリームに参加するサブスクライバーが、現在利用可能なすべてのデータを受け取るか、サブスクリプション時以降に作成されたパブリケーションのみを受け取るかを制御します (パラメーター ID: MQIACH_NEW_SUBSCRIBER_HISTORY)。

MQNSH_NONE

値を NONE にすると、送信側は、サブスクリプションの時点以降に実行されたパブリケーションだけを送信します。これはデフォルト値です。

MQNSH_ALL

値を ALL にすると、送信側は、入手できる限りのトピック・ヒストリーを再送信します。場合によっては、保存パブリケーションと同じような動作になることがあります。

MQNSH_ALL の値を使用すると、すべてのトピック・ヒストリーが再送信されるので、大量のトピック・ヒストリーがある場合は、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

PortNumber (MQCFIN)

送信が行われるポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

デフォルトのポート番号は 1414 です。

Type (MQCFIN)

通信情報オブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIA_COMM_INFO_TYPE)。

サポートされているタイプは MQCIT_MULTICAST のみです。

Change、Copy、および Create Namelist

Change Namelist コマンドは、既存の名前リスト定義を変更します。Copy および Create Namelist の各コマンドは、新しい名前リスト定義を作成します。Copy コマンドでは、既存の名前リスト定義の属性値が使用されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

Change Namelist (MQCMD_CHANGE_NAMELIST) コマンドは、既存の IBM MQ 名前リスト定義について指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Namelist (MQCMD_COPY_NAMELIST) コマンドは、コマンドに指定されていない属性については既存の名前リスト定義の属性値を使用して、IBM MQ 名前リスト定義を作成します。

Create Namelist (MQCMD_CREATE_NAMELIST) コマンドは、IBM MQ 名前リスト定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change および Create Namelist)

NamelistName(MQCFST)

変更する名前リスト定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy Namelist)

FromNamelistName(MQCFST)

コピー元となる名前リスト定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_NAMELIST_NAME)。

このパラメーターでは、このコマンドで指定されていない属性の値を含む既存の名前リスト定義の名前を指定します。

 z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。QSGDisposition に値 MQQSGD_COPY が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。この場合、ToNamelistName で指定された名前と特性 MQQSGD_GROUP を持つオブジェクトがコピー元として検索されます。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

ToNamelistName(MQCFST)

名前リストの名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_NAMELIST_NAME)。

このパラメーターでは、新しい名前リスト定義の名前を指定します。この名前をもつ名前リスト定義が存在している場合には、Replace を MQR_P_YES と指定しなければなりません。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change、Copy、および Create Namelist)

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

NamelistDesc(MQCFST)

名前リスト定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_DESC)。

このパラメーターは、プレーン・テキストのコメントで、名前リスト定義に関する説明情報を提供するものです。 表示可能文字だけを含めることができます。

コマンドが実行されるキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) にない文字を使用すると、その文字が正しく変換されない可能性があります。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_DESC_LENGTH です。



NamelistType (MQCFIN)

名前リストに入っている名前のタイプ (パラメーター ID: MQIA_NAMELIST_TYPE)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

名前リストに入っている名前のタイプを指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNT_NONE

名前には、特定のタイプが指定されていません。

MQNT_Q

キュー名のリストを保持する名前リスト。

MQNT_CLUSTER

クラスター化に関連付けられている名前リスト (クラスター名のリストを含む)。

MQNT_AUTH_INFO

認証情報オブジェクト名のリストを含む、SSL に関連する名前リスト。

Names(MQCFSL)

名前リストに入れられる名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMES)。

リスト中の名前の数は、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。 それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。 名前の最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。



QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーターMQQSGD_COPYを持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーターMQQSGD_Q_MGRが指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。	オブジェクトは、 <i>ToNameListName</i> オブジェクト (コピーの場合) または <i>NameListName</i> オブジェクト (作成の場合) と同じ名前の MQQSGD_GROUP オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。
MQQSGD_GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーターMQQSGD_GROUPを持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。 コマンドが正常に実行されると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが行われます。 <pre>DEFINE NAMELIST(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Change は、QSGDISP(COPY) を含んだ生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。これは、キュー・マネージャーがキュー共有グループ内にある場合にのみ許可されます。 定義が正常に行われると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット 0 上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが行われます。 <pre>DEFINE NAMELIST(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Copy または Create は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドの成否にかかわらず有効です。
MQQSGD_PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY で定義されています。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。	許可されません。
MQQSGD_Q_MGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーターMQQSGD_Q_MGRを持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。この値がデフォルト値です。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。この値がデフォルト値です。

Replace (MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

ToNameListName と同じ名前の名前リスト定義が存在する場合に、これがその定義を置き換えるかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

Change Process、Copy Process、および Create Process

Change Process コマンドは、既存のプロセス定義を変更します。Copy Process コマンドおよび Create Process コマンドは、新しいプロセス定義を作成します。Copy コマンドは、既存のプロセス定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

Change Process (MQCMD_CHANGE_PROCESS) コマンドは、既存の IBM MQ プロセス定義について指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Process (MQCMD_COPY_PROCESS) コマンドは、コマンドに指定されていない属性については既存のプロセス定義の属性値を使用して、IBM MQ プロセス定義を作成します。

Create Process (MQCMD_CREATE_PROCESS) コマンドは、IBM MQ プロセス定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change Process および Create Process)

ProcessName(MQCFST)

変更または作成するプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy Process)

FromProcessName(MQCFST)

コピー元となるプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_PROCESS_NAME)。

このコマンドに指定されていない属性の値を含む既存のプロセス定義の名前を指定します。

 z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。QSGDisposition に値 MQQSGD_COPY が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。この場合、ToProcessName で指定された名前と特性 MQQSGD_GROUP を持つオブジェクトがコピー元として検索されます。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

ToProcessName(MQCFST)

プロセスの名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_PROCESS_NAME)。

新しいプロセス定義の名前。この名前のプロセス定義が存在している場合には、Replace を MQRP_YES として指定しなければなりません。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change Process、Copy Process、および Create Process)

ApplId(MQCFST)

アプリケーション ID (パラメーター ID: MQCA_APPL_ID)。

ApplId は、開始するアプリケーションの名前です。アプリケーションは、コマンドを実行するプラットフォーム上に存在する必要があります。この名前は通常、実行可能オブジェクトの完全修飾ファイ

ル名にします。ファイル名の修飾は、特に、複数の IBM MQ インストールがある場合に、正しいバージョンのアプリケーションを実行するために重要です。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_APPL_ID_LENGTH です。

ApplType(MQCFIN)

アプリケーション・タイプ (パラメーター ID: MQIA_APPL_TYPE)。

有効なアプリケーション・タイプは次のとおりです。

MQAT_OS400

IBM i アプリケーション。

MQAT_WINDOWS_NT

Windows (Windows 95、Windows 98 を含む) アプリケーション。

MQAT_DOS

DOS クライアント・アプリケーション。

MQAT_WINDOWS

Windows クライアント・アプリケーション。

MQAT_UNIX

UNIX アプリケーション。

MQAT_AIX

AIX アプリケーション (MQAT_UNIX と同じ値)。

MQAT_CICS

CICS トランザクション。

MQAT_NSK

HP Integrity NonStop Server アプリケーション。

MQAT_ZOS

z/OS アプリケーション。

MQAT_DEFAULT

デフォルトのアプリケーション・タイプ。

整数: システム定義のアプリケーション・タイプ (0 から 65,535 の範囲) またはユーザー定義のアプリケーション・タイプ (65,536 から 999,999,999 の範囲) (検査なし)。

コマンドが実行されるプラットフォームでサポートされているアプリケーション・タイプ (ユーザー定義のタイプ以外) だけを指定します。

- IBM i: MQAT_OS400 では、MQAT_CICS および MQAT_DEFAULT がサポートされます。
- HP Integrity NonStop Server: MQAT_NSK、MQAT_DOS、MQAT_WINDOWS、および MQAT_DEFAULT がサポートされます。
- UNIX システム: MQAT_UNIX、MQAT_OS2、MQAT_DOS、MQAT_WINDOWS、MQAT_CICS、および MQAT_DEFAULT がサポートされます。
- Windows: MQAT_WINDOWS_NT の場合、MQAT_OS2、MQAT_DOS、MQAT_WINDOWS、MQAT_CICS、および MQAT_DEFAULT がサポートされます。
-  z/OS: MQAT_DOS の場合、MQAT_IMS MQAT_MVS、MQAT_UNIX、MQAT_CICS、および MQAT_DEFAULT がサポートされます。

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 共有キュー環境では、コマンド入力に使用しているキュー・マネージャー名とは異なるキュー・マネージャー名を指定できます。 コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

EnvData(MQCFST)

環境データ (パラメーター ID: MQCA_ENV_DATA)。

開始するアプリケーションに関する環境情報が含まれている文字ストリング。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_ENV_DATA_LENGTH です。

ProcessDesc(MQCFST)

プロセス定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_DESC)。

プロセス定義に関する説明的な情報を提供する、プレーン・テキストのコメント。 表示可能文字だけを含めることができます。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_DESC_LENGTH です。

このキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) の文字を使用してください。 他の文字を使用すると、情報が他のキュー・マネージャーに送信されたときに、正しく変換されない可能性があります。



QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

QSGDisposition	変更	Copy、 Create
MQQSGD_COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を持つコマンドを使用して定義されました。 共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。	オブジェクトは、 <i>ToProcessName</i> オブジェクト (コピーの場合) または <i>ProcessName</i> オブジェクト (作成の場合) と同じ名前の MQQSGD_GROUP オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター QSGDISP(GROUP) を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットでは、このコマンドによって変更されるのはオブジェクトのローカル・コピーだけです。コマンドが成功した場合、以下のコマンドが生成されます。 <pre>DEFINE PROCESS(process-name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> コマンドは、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されて、ページ・セット 0 上でローカル・コピーのリフレッシュが試行されます。グループ・オブジェクトの Change は、QSGDISP(COPY) を含んだ生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。GROUP は、キュー・マネージャーがキュー共有グループに属している場合にのみ許可されます。定義が正常に実行されると、以下のコマンドが生成されます。 <pre>DEFINE PROCESS(process-name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> このコマンドはキュー共有グループ内のアクティブなすべてのキュー・マネージャーに送信され、ページ・セット 0 上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試みられます。グループ・オブジェクトの Copy または Create は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドの成否にかかわらず有効です。
MQQSGD_PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY で定義されています。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。	許可されません。
MQQSGD_Q_MGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

Replace(MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

ToProcessName と同じ名前前のプロセス定義が存在する場合に、それを置き換えるかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

UserData(MQCFST)

ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCA_USER_DATA)。

開始するアプリケーション (ApplId によって定義される) に関するユーザー情報を含む文字ストリング。

Microsoft Windows では、プロセス定義が **runmqtrm** に渡される場合、文字ストリングに二重引用符を含めてはなりません。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_USER_DATA_LENGTH です。

Change Queue、Copy Queue、および Create Queue

Change Queue コマンドは既存のキュー定義を変更します。Copy Queue コマンドおよび Create Queue コマンドは新しいキュー定義を作成します。この Copy コマンドは既存のキュー定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

Change Queue コマンド MQCMD_CHANGE_Q は、既存の IBM MQ キューについて指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Queue コマンド MQCMD_COPY_Q は、同じタイプのキュー定義を作成します。コマンドで指定しなかった属性については、既存のキュー定義の属性値が使用されます。

Create Queue コマンド MQCMD_CREATE_Q は、指定された属性を持つキュー定義を作成します。指定されていないすべての属性は、作成されるキューのタイプのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change Queue および Create Queue)

QName (MQCFST)
キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。
変更するキューの名前です。ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy Queue)

FromQName (MQCFST)
コピー元キュー名 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_Q_NAME)。
既存のキュー定義の名前を指定します。

 **z/OS** z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR、MQQSGD_COPY、または MQQSGD_SHARED の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。QSGDisposition に値 MQQSGD_COPY が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。この場合、ToQName によって指定された名前と属性指定 MQQSGD_GROUP を持つオブジェクトがコピー元として検索されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

ToQName (MQCFST)
コピー先キュー名 (パラメーター ID: MQCACF_TO_Q_NAME)。
新しいキュー定義の名前を指定します。
ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

キュー名は、固有の名前でなければなりません。新しいキューの名前とタイプを持つキュー定義が存在する場合には、Replace に MQRP_YES を指定する必要があります。新しいキューと同じ名前でタイプが異なるキュー定義が存在している場合は、このコマンドは失敗します。

必須パラメーター (すべてのコマンド)

QType (MQCFIN)
キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_Q_TYPE)。

指定する値は、変更されるキューのタイプと一致する必要があります。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

オプション・パラメーター (Change Queue、Copy Queue、および Create Queue)

BackoutRequeueName (MQCFST) -MQSC BOQNAME を参照してください。

超過バックアウト再キュー名 (パラメーター ID: MQCA_BACKOUT_REQ_Q_NAME)。

メッセージのバックアウト回数が *BackoutThreshold* の値を超えた場合に、メッセージの転送先とするキューの名前を指定します。キューは、ローカル・キューである必要はありません。

バックアウト・キューがこの時点で存在する必要はありません。しかし、*BackoutThreshold* の値を超える時点では必要です。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

BackoutThreshold (MQCFIN)

バックアウトしきい値 (パラメーター ID: MQIA_BACKOUT_THRESHOLD)。

BackoutRequeueName で指定したバックアウト・キューにメッセージが転送される前に、メッセージをバックアウトできる回数。

後からこの値を小さくした場合、キューの既存のメッセージのうち、この新しい値と同じ回数以上バックアウトされたメッセージはキューに残ります。これらのメッセージが再びバックアウトされた場合には、メッセージが転送されます。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。

BaseObjectName (MQCFST)

別名の解決先オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_BASE_OBJECT_NAME)。

このパラメーターは、ローカル・キュー・マネージャーに対して定義されているキューまたはトピックの名前です。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

BaseQName (MQCFST)

別名が解決されるキュー名 (パラメーター ID: MQCA_BASE_Q_NAME)。

このパラメーターは、ローカル・キュー・マネージャーに対して定義されるローカル・キューまたはリモート・キューの名前です。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

 CFStructure (MQCFST)

カップリング・ファシリティ構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

共有キューを使用するときにメッセージを保管するカップリング・ファシリティ構造の名前を指定します。名前には次の条件があります。

- 12 文字より長くすることはできません。
- 先頭の文字は大文字 (A から Z) でなければなりません。
- 使用できる文字は A から Z と 0 から 9 だけです。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

指定した名前には、キュー・マネージャーが接続されるキュー共有グループの名前が接頭部として付きます。キュー共有グループの名前は必ず 4 文字で、必要に応じて記号 @ が埋め込まれます。例えば、NY03 という名前のキュー共有グループを使用し、PRODUCT7 という名前を指定する場合、生成されるカップリング・ファシリティ構造体名は NY03PRODUCT7 です。キュー共有グループの管理構造 (この場合は NY03CSQ_ADMIN) は、メッセージの保管には使用できません。

ローカル・キューとモデル・キューには、以下のルールが適用されます。この規則は、*Replace* パラメーターに値 MQRP_YES を指定して Create Queue コマンドを使用した場合に適用されます。これらのルールは、Change Queue コマンドを使用した場合にも適用されます。

- *QSGDisposition* パラメーターの値が MQQSGD_SHARED のローカル・キューでは、*CFStructure* は変更できません。

CFStructure 値または *QSGDisposition* 値のいずれかを変更する必要がある場合は、キューを削除して再定義する必要があります。キュー上のメッセージを保持するには、キューを削除する前にメッセージをオフロードする必要があります。キューを再定義した後にメッセージを再ロードするか、メッセージを別のキューに移動してください。

- *DefinitionType* パラメーターの値が MQQDT_SHARED_DYNAMIC であるモデル・キューでは、*CFStructure* をブランクにすることはできません。
- *QSGDisposition* パラメーターに MQQSGD_SHARED 以外の値が指定されているローカル・キューでは、*CFStructure* の値は問題になりません。また、*DefinitionType* パラメーターの値が MQQDT_SHARED_DYNAMIC 以外のモデル・キューの場合も、値 *CFStructure* は問題になりません。

ローカル・キューおよびモデル・キューの場合、*Replace* パラメーターに値 MQRP_NO を指定して Create Queue コマンドを使用すると、カップリング・ファシリティ構造は以下のようになります。

- *QSGDisposition* パラメーターの値が MQQSGD_SHARED であるローカル・キュー、または *DefinitionType* パラメーターの値が MQQDT_SHARED_DYNAMIC であるモデル・キューでは、*CFStructure* をブランクにすることはできません。
- *QSGDisposition* パラメーターに MQQSGD_SHARED 以外の値が指定されているローカル・キューでは、*CFStructure* の値は問題になりません。また、*DefinitionType* パラメーターの値が MQQDT_SHARED_DYNAMIC 以外のモデル・キューの場合も、値 *CFStructure* は問題になりません。

注: キューを使用するためには、カップリング・ファシリティ資源管理 (CFRM) ポリシー・データ・セットで構造が定義されていなければなりません。

ClusterChannelName (MQCFST)

このパラメーターは、伝送キューでのみサポートされます。

ClusterChannelName は、このキューを伝送キューとして使用するクラスター送信側チャネルの総称名です。この属性は、このクラスター伝送キューからクラスター受信側チャネルにメッセージを送信するクラスター送信側チャネルを指定します。(パラメーター ID: MQCA_CLUS_CHL_NAME。)

また、伝送キュー属性である ClusterChannelName 属性をクラスター送信側チャネルに手動で設定することもできます。クラスター送信側チャネルによって接続されたキュー・マネージャーを宛先とするメッセージは、クラスター送信側チャネルを識別する伝送キューに保管されます。これらのメッセージがデフォルトのクラスター伝送キューに保管されることはありません。

ClusterChannelName 属性をブランクに設定すると、チャネルの再始動時に、チャネルはデフォルトのクラスター伝送キューに切り替わります。デフォルトのキューは、キュー・マネージャーの DefClusterXmitQueueType 属性の値に応じて、SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.ChannelName または SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE になります。

アスタリスク "*" を ClusterChannelName に指定することにより、伝送キューをクラスター送信側チャネルのセットに関連付けることができます。アスタリスクはチャネル名ストリングの先頭、末尾、またはそれ以外の場所に任意の数だけ使用できます。ClusterChannelName の長さは 20 文字までに制限されています (MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH)。

デフォルトのキュー・マネージャー構成では、すべてのクラスター送信側チャネルが、単一の伝送キュー `SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE` からメッセージを送信します。このデフォルト構成は、キュー・マネージャー属性 **DefClusterXmitQueueType** を変更することで変更できます。属性のデフォルト値は `SCTQ` です。この値は `CHANNEL` に変更できます。**DefClusterXmitQueueType** 属性を `CHANNEL` に設定すると、各クラスター送信側チャネルは、デフォルトで特定のクラスター伝送キュー `SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.ChannelName` を使用するようになります。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: `MQCA_CLUSTER_NAME`)。

キューが属するクラスターの名前です。

このパラメーターに変更を加えても、開いているキューのインスタンスには影響しません。

変更後の *ClusterName* および *ClusterNameList* の値のうち一方のみを非ブランクにできます。両方に値を指定することはできません。

ストリングの最大長は `MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH` です。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名リスト (パラメーター ID: `MQCA_CLUSTER_NAMELIST`)。

キューが属するクラスターのリストを指定する名前リストの名前。

このパラメーターに変更を加えても、開いているキューのインスタンスには影響しません。

変更後の *ClusterName* および *ClusterNameList* の値のうち一方のみを非ブランクにできます。両方に値を指定することはできません。

CLWLQueuePriority (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・キュー優先順位 (パラメーター ID: `MQIA_CLWL_Q_PRIORITY`)。

クラスター・ワークロード管理でのキューの優先順位を指定します。キュー・マネージャー・クラスターの構成を参照してください。この値は、0 から 9 の範囲でなければなりません。0 が最低、9 が最高の優先順位です。

CLWLQueueRank (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・キュー・ランク (パラメーター ID: `MQIA_CLWL_Q_RANK`)。

クラスター・ワークロード管理でのキューのランクを指定します。この値は、0 から 9 の範囲でなければなりません。0 が最低、9 が最高の優先順位です。

CLWLUseQ (MQCFIN)

クラスター作業負荷使用のリモート・キュー (パラメーター ID: `MQIA_CLWL_USEQ`)。

クラスター作業負荷の配分でリモート・キューとローカル・キューを使用するかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLWL_USEQ_AS_Q_MGR

キュー・マネージャーの定義で *CLWLUseQ* パラメーターの値を使用します。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: `MQCACF_COMMAND_SCOPE`)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。以下の値のうちいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク、またはパラメーター全体を省略。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Custom (MQCFST)

新機能用カスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

V8.0.0.4 この属性には属性の値を含めます。属性の値として、属性名と値の各ペアを 1 つ以上のスペースで分離します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

CAEXPRTY (integer)

オブジェクト・ハンドルを使用して書き込まれて解決パスでこのオブジェクトを使用して開かれたメッセージが有効期限処理の対象となるまでシステムに存続する最大時間 (10 分の 1 秒単位で表現)。

メッセージ有効期限処理について詳しくは、[有効期限を強制的に短くする](#)を参照してください。

以下のいずれかを値にすることができます。

integer

1 から 999,999,999 までの範囲の値でなければなりません。

NOLIMIT

このオブジェクトを使用して書き込まれたメッセージの有効期限時間には制限がありません。これはデフォルト値です。

CAEXPRTY に無効値を指定しても、コマンドの失敗にはなりません。代わりに、デフォルト値が使用されます。

DefaultPutResponse (MQCFIN)

デフォルトの書き込み応答タイプ定義 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE)。

このパラメーターは、アプリケーションで MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF が指定されているときにキューへの PUT 操作に使用される応答のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPRT_SYNC_RESPONSE

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

MQPRT_ASYNC_RESPONSE

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

DefBind (MQCFIN)

バインド定義 (パラメーター ID: MQIA_DEF_BIND)。

このパラメーターは、MQOPEN 呼び出しで MQOO_BIND_AS_Q_DEF が指定されているときに使用されるバインディングを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQBND_BIND_ON_OPEN

バインディングは MQOPEN 呼び出しで固定されます。

MQBND_BIND_NOT_FIXED

バインディングは固定されません。

MQBND_BIND_ON_GROUP

グループ内のメッセージすべてを同じ宛先のインスタンスに割り振る要求をアプリケーションが行えるようになります。

このパラメーターに変更を加えても、開いているキューのインスタンスには影響しません。

DefinitionType (MQCFIN)

キュー定義タイプ (パラメーター ID: MQIA_DEFINITION_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQDT_PERMANENT_DYNAMIC

動的に定義された永続キュー。

MQQDT_SHARED_DYNAMIC

動的に定義された共有キュー。このオプションは、z/OS でのみ使用可能です。

MQQDT_TEMPORARY_DYNAMIC

動的に定義された一時キュー。

DefInputOpenOption (MQCFIN)

デフォルト入力オープン・オプション (パラメーター ID: MQIA_DEF_INPUT_OPEN_OPTION)。

このキューを入力用にオープンしているアプリケーションに対するデフォルト共用オプションを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOO_INPUT_EXCLUSIVE

メッセージを読み取るためにキューを排他アクセス・モードでオープンする。

MQOO_INPUT_SHARED

共有アクセスによりメッセージを読み取るためにキューをオープンする。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PERSISTENCE)。

キュー上のメッセージ持続性のデフォルトを指定します。メッセージ持続性によって、メッセージがキュー・マネージャーの再開後も保持されるかどうかが決まります。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルト優先度 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PRIORITY)。

キューに書き込まれるメッセージのデフォルト優先順位を指定します。値は、0 から、サポートされる最大の優先順位の値 (9) までの範囲でなければなりません。

DefReadAhead (MQCFIN)

デフォルトの先読み (パラメーター ID: MQIA_DEF_READ_AHEAD)。

クライアントに配信される非持続メッセージのデフォルトの先読み動作を指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQREADA_NO

クライアント・アプリケーションが先読みを要求するように構成されていない限り、非持続メッセージは先読みされません。

MQREADA_YES

非持続メッセージは、アプリケーションで要求される前にクライアントに送信されます。クライアントが異常終了した場合、またはクライアントに送信されたすべてのメッセージをクライアントが消費しない場合に、非持続メッセージは失われることがあります。

MQREADA_DISABLED

非持続メッセージの先読みはこのキューでは無効です。クライアント・アプリケーションによって先読みが要求されているかどうかに関わりなく、メッセージはクライアントに前もって送信されません。

DistLists (MQCFIN)

配布リスト・サポート (パラメーター ID: MQIA_DIST_LISTS)。

配布リスト・メッセージをキューに格納できるようにするかどうかを指定します。

注: この属性は、送信側メッセージ・チャンネル・エージェント (MCA) によって設定されます。送信側 MCA は、相手側のキュー・マネージャー上で受信側 MCA との接続を確立するたびに、キューからメッセージを除去します。この属性は、通常は管理者によっては設定されませんが、必要に応じて設定することは可能です。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Windows、および Linux の各環境でサポートされます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDL_SUPPORTED

配布リストがサポートされています。

MQDL_NOT_SUPPORTED

配布リストはサポートされていません。

Force (MQCFIN)

強制変更 (パラメーター ID: MQIACF_FORCE)。

コマンドが完了するとオープン・キューに影響を与えるような条件であるとき、コマンドを強制的に完了する必要があるかどうかを指定します。条件は、次のように、変更されるキューのタイプによって異なります。

QALIAS

BaseQName はキュー名で指定されていて、アプリケーションでは別名キューが開いている。

QLOCAL

次の条件のいずれかが、ローカル・キューに影響を受けることを示します。

- *Shareability* が *MQQA_NOT_SHAREABLE* として指定されており、複数のアプリケーションでローカル・キューが入力用に開いている。
- *Usage* 値が変更されていて 1 つ以上のアプリケーションでローカル・キューが開いている、またはキューに 1 つ以上のメッセージがある。(通常、キューにメッセージがある間は *Usage* 値を変更してはなりません。そのメッセージの形式は、伝送キューに書き込まれたときに変更されます。)

QREMOTE

次の条件のいずれかが、リモート・キューに影響を受けることを示します。

- *XmitQName* は伝送キュー名またはブランクで指定されている場合は、アプリケーションではこの変更によって影響を受けるリモート・キューが開いている。
- 以下のパラメーターのいずれかがキューまたはキュー・マネージャー名で指定されていて、この定義によってキュー・マネージャー別名として解決される 1 つ以上のキューがアプリケーションで開いている。パラメーターとして次のものがあります。

1. *RemoteQName*
2. *RemoteQMgrName*
3. *XmitQName*

QMODEL

このパラメーターは、モデル・キューでは無効です。

注: この定義が応答先キュー定義としてのみ使用されている場合、*MQFC_YES* の値は必要ありません。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQFC_YES

強制的に変更します。

MQFC_NO

強制的には変更しません。

HardenGetBackout (MQCFIN)

バックアウト・カウントを強化するかどうか (パラメーター ID: MQIA_HARDEN_GET_BACKOUT)。

メッセージがバックアウトされた回数のカウントのハード化を行うかどうかを指定します。カウントが固定されると、MQGET 操作によってメッセージが戻される前に、メッセージ記述子の **BackoutCount** フィールドの値がログに書き込まれます。値をログに書き込むことにより、キュー・マネージャーの再始動の際に確実に正確な値にできます。

注：IBM MQ for IBM i では、この属性の設定に関係なく、常にカウントは強化されます。

バックアウト・カウントがハード化されている場合、このキューの持続メッセージの MQGET 操作のパフォーマンスは影響を受けます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_BACKOUT_HARDENED

このキューのメッセージのメッセージ・バックアウト・カウントは、カウントを正確にするためにハード化されます。

MQQA_BACKOUT_NOT_HARDENED

このキューのメッセージのメッセージ・バックアウト・カウントはハード化されず、キュー・マネージャーの再始動後も正確でない可能性があります。

IndexType (MQCFIN)

索引タイプ (パラメーター ID: MQIA_INDEX_TYPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キューでの MQGET 操作を効率よく行うために、キュー・マネージャーによって保守される索引のタイプを指定します。共有キューでは、使用できる MQGET 呼び出しのタイプは索引のタイプによって決まります。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIT_NONE

索引はありません。

MQIT_MSG_ID

キューはメッセージ ID を使用して索引付けされます。

MQIT_CORREL_ID

キューは相関 ID を使用して索引付けされます。

MQIT_MSG_TOKEN

重要：この索引タイプは、IBM MQ Workflow for z/OS 製品で使用するキューに対してのみ、使用する必要があります。

キューはメッセージ・トークンを使用して索引付けされます。

MQIT_GROUP_ID

キューはグループ ID を使用して索引付けされます。

以下の表に示すような適切な索引タイプが維持されている場合のみ、選択基準を使用してメッセージを取得することができます。

検索選択基準	必要な <i>IndexType</i>	
	共用キュー	その他のキュー
なし (順次検索)	任意	任意
メッセージ ID	MQIT_MSG_ID or MQIT_NONE	任意
相関 ID	MQIT_CORREL_ID	任意
メッセージ ID と相関 ID	MQIT_MSG_ID または MQIT_CORREL_ID	任意
グループ ID	MQIT_GROUP_ID	任意
グループ化	MQIT_GROUP_ID	MQIT_GROUP_ID

検索選択基準	必要な <i>IndexType</i>	
メッセージ・トークン	Not allowed	MQIT_MSG_TOKEN

***InhibitGet* (MQCFIN)**

取得操作が許可または禁止されます (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_GET)。

値は次のいずれかです。

MQQA_GET_ALLOWED

取得操作は許可されています。

MQQA_GET_INHIBITED

取得操作は禁止されています。

***InhibitPut* (MQCFIN)**

書き込み操作が許可または禁止されます (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_PUT)。

メッセージをキューに書き込むことができるかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_PUT_ALLOWED

書き込み操作が許可されています。

MQQA_PUT_INHIBITED

書き込み操作は使用禁止です。

***InitiationQName* (MQCFST)**

開始キュー名 (パラメーター ID: MQCA_INITIATION_Q_NAME)。

このキューに関連するトリガー・メッセージ用のローカル・キュー。開始キューは、同じキュー・マネージャー上になければなりません。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

***MaxMsgLength* (MQCFIN)**

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_MSG_LENGTH)。

キューの最大メッセージ長。アプリケーションは、この属性の値を使用して、キューからメッセージを検索するために必要なバッファのサイズを判別することができます。この値を変更すると、アプリケーションの誤った操作の原因となる可能性があります。

キュー・マネージャーの *MaxMsgLength* 属性より大きな値を設定しないでください。

このパラメーターの下限は 0 です。上限は、次のように環境によって異なります。

- AIX、HP Integrity NonStop Server、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、Windows、および z/OS では、最大メッセージ長が 100 MB (104,857,600 バイト) となります。
- 上記以外の UNIX システムでは、最大メッセージ長は 4 MB (4,194,304 バイト) です。

***MaxQDepth* (MQCFIN)**

キューの最大長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_Q_DEPTH)。

キューに書き込めるメッセージの最大数。

注：他の原因で、キューが満杯になったとして処理される場合があります。例えば、メッセージに使用できるストレージがない場合には満杯であると見なされます。

値は 0 以上、かつ、次の値以下で指定します。

- キューが AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、Windows、または z/OS にあるときは 999,999,999
- 640,000 (その他の IBM MQ プラットフォーム上にキューがある場合)。

***MsgDeliverySequence* (MQCFIN)**

メッセージが優先度の順またはシーケンスで送信されます (パラメーター ID: MQIA_MSG_DELIVERY_SEQUENCE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMDS_PRIORITY

メッセージが優先順位順に戻されます。

MQMDS_FIFO

メッセージは FIFO (先入れ先出し法) の順に戻されます。

NonPersistentMessageClass (MQCFIN)

キューに書き込まれる非持続メッセージに割り当てられる信頼性のレベル (パラメーター ID: MQIA_NPM_CLASS)。

値は次のいずれかです。

MQNPM_CLASS_NORMAL

非持続メッセージは、キュー・マネージャー・セッションの存続時間のあいだは持続します。これらは、キュー・マネージャーの再開時に廃棄されます。この値がデフォルト値です。

MQNPM_CLASS_HIGH

キュー・マネージャーは、キューの存続時間のあいだ、非持続メッセージを保存しようとします。しかし、障害が発生すると、非持続メッセージは失われる可能性があります。

このパラメーターは、ローカル・キューとモデル・キューでのみ有効です。これは z/OS では無効です。

ProcessName (MQCFST)

キューのプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

トリガー・イベントの発生時に開始されるアプリケーションを識別する IBM MQ プロセスのローカル名を指定します。

- キューが伝送キューである場合、プロセス定義には開始されるチャネルの名前が含まれています。このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、Windows、および z/OS 上の伝送キューでは、オプションです。指定しない場合、チャネル名は、*TriggerData* パラメーターに指定された値から取られます。
- その他の環境でトリガー・イベントを発生させるには、このプロセス名を非ブランクにする必要があります (キューの作成後にプロセス名を設定することもできます)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

PropertyControl (MQCFIN)

プロパティ制御属性 (パラメーター ID: MQIA_PROPERTY_CONTROL)。

MQGMO_PROPERTIES_AS_Q_DEF オプションを指定した MQGET 呼び出しを使用してメッセージをキューから取り出す場合のメッセージ・プロパティの処理方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPROP_COMPATIBILITY

メッセージに **mcd.**、**jms.**、**usr.**、または **mqext.** という接頭部を持つプロパティがある場合、メッセージのプロパティはすべて MQRFH2 ヘッダー内のアプリケーションに配信されます。それらの接頭部を持つプロパティがない場合、メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるプロパティを除いて、メッセージのプロパティはすべて廃棄され、アプリケーションからはアクセスできなくなります。

この値がデフォルト値です。これにより、JMS 関連のプロパティがメッセージ・データの MQRFH2 ヘッダーにあることを想定するアプリケーションを、変更せずにそのまま使用することができます。

MQPROP_NONE

メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージのすべてのプロパティがメッセージから除去されます。メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティは除去されません。

MQPROP_ALL

メッセージのすべてのプロパティは、リモート・キュー・マネージャーへの送信時にメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるプロパティを除き、プロパティはメッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

MQPROP_FORCE_MQRFH2

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

MQGET 呼び出し上の MQGMO 構造体の MsgHandle フィールド中で指定された有効なメッセージ・ハンドルは無視されます。メッセージのプロパティにメッセージ・ハンドルを使用してアクセスすることはできません。

MQPROP_V6COMPAT

アプリケーション MQRFH2 ヘッダーを送信時に受け取ります。MQSETMP を使用して設定されたプロパティは、MQINQMP を使用して取得する必要があります。それらは、アプリケーションによって作成された MQRFH2 には追加されません。送信側アプリケーションによって MQRFH2 ヘッダー内に設定されたプロパティは、MQINQMP を使用して取得することはできません。

このパラメーターは、ローカル・キュー、別名キュー、およびモデル・キューに適用されます。

QDepthHighEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ上限イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_EVENT)。

キュー・サイズ上限イベントは、アプリケーションがメッセージをキューに書き込むことを意味します。このイベントが原因で、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ上限しきい値以上になります。*QDepthHighLimit* パラメーターを参照してください。

注: この属性の値は、暗黙的に変更される場合があります。1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義』を参照してください。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

QDepthHighLimit (MQCFIN)

キュー・サイズ上限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_LIMIT)。

キュー・サイズ上限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

このイベントは、アプリケーションがメッセージをキューに書き込むことを意味します。このイベントが原因で、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ上限しきい値以上になります。*QDepthHighEvent* パラメーターを参照してください。

値は、キューの最大サイズ、*MaxQDepth* に対するパーセントで表されます。これは 0 以上、かつ、100 以下でなければなりません。

QDepthLowEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ下限イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_EVENT)。

キュー・サイズ下限イベントは、アプリケーションがメッセージをキューから取得することを意味します。このイベントが原因で、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ下限しきい値以下になります。*QDepthLowLimit* パラメーターを参照してください。

注: この属性の値は、暗黙的に変更される場合があります。1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義』を参照してください。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

QDepthLowLimit (MQCFIN)

キュー・サイズ下限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_LIMIT)。

キュー・サイズ下限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

このイベントは、アプリケーションがメッセージをキューから取得することを意味します。このイベントが原因で、キュー上のメッセージ数がキュー・サイズ下限しきい値以下になります。

QDepthLowEvent パラメーターを参照してください。

値は、キューの最大サイズ (*MaxQDepth* 属性) の百分率として指定され、0 から 100 の範囲内でなければなりません。

QDepthMaxEvent (MQCFIN)

キュー・フル・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID:

MQIA_Q_DEPTH_MAX_EVENT)。

キュー・フル・イベントは、キューが満杯であるため、キューに対する MQPUT 呼び出しが拒否されたことを意味します。すなわち、キュー・サイズは最大値に達しています。

注: この属性の値は、暗黙的に変更される場合があります。1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義』を参照してください。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

QDesc (MQCFST)

キュー記述 (パラメーター ID: MQCA_Q_DESC)。

オブジェクトについて簡潔に記述するテキストです。

ストリングの最大長は MQ_Q_DESC_LENGTH です。

コマンドを実行中のメッセージ・キュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) で識別された文字セットの中の文字を使用してください。この選択により、テキストを別のメッセージ・キュー・マネージャーに送信する場合には、テキストが正しく変換されることが確実になります。

QServiceInterval (MQCFIN)

キュー・サービス間隔のターゲット (パラメーター ID: MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL)。

キュー・サービス間隔上限およびキュー・サービス間隔 OK イベントを生成する際に、比較に使用されるサービス間隔。 *QServiceIntervalEvent* パラメーターを参照してください。

値は 0 から 999,999,999 ミリ秒の範囲で指定します。

QServiceIntervalEvent (MQCFIN)

サービス間隔上限イベントとサービス間隔 OK イベントのどちらを生成するかを制御します (パラメーター ID: MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL_EVENT)。

キュー・サービス間隔上限イベントは、*QServiceInterval* 属性で指定した時間以上の間、キューとの間でメッセージの取り出しまたは書き込みが行われなかったことが検査で示された場合に生成されます。

キュー・サービス間隔 OK イベントは、*QServiceInterval* 属性で指定した時間以内にメッセージがキューから取り出されたことが検査で示された場合に生成されます。

注: この属性の値は、暗黙的に変更される場合があります。1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義』を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSIE_HIGH

キュー・サービス間隔上限イベントは有効です。

- キュー・サービス間隔上位イベントが使用可能であり、
- キュー・サービス間隔 OK イベントは使用不可である。

MQQSIE_OK

キュー・サービス間隔 OK イベントは有効です。

- キュー・サービス間隔上位イベントが使用不可であり、
- キュー・サービス間隔 OK イベントは有効です。

MQQSIE_NONE

どのキュー・サービス間隔イベントも無効です。

- キュー・サービス間隔上位イベントが使用不可であり、
- キュー・サービス間隔 OK イベントも使用不可である。



QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。	オブジェクトは、ToQName オブジェクト (コピーの場合) または QName オブジェクト (作成の場合) と同じ名前の MQQSGD_GROUP オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。ローカル・キューの場合、メッセージは各キュー・マネージャーのページ・セットに保管され、そのキュー・マネージャーを介してのみ使用できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーターMQQSGD_GROUPを持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト(そのオブジェクトのローカル・コピーは除く)はいずれも、このコマンドの影響を受けません。 コマンドが正常に実行されると、次のMQSCコマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーのリフレッシュが試行されます。 <pre>DEFINE QUEUE(q-name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトのChangeは、QSGDISP(COPY)を含んだ生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。この値は、共有キュー・マネージャー環境でのみ許可されています。 定義が正常に行われると、次のMQSCコマンドが生成され、すべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試行されます。 <pre>DEFINE QUEUE(q-name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトのCopyまたはCreateは、QSGDISP(COPY)で生成されたコマンドの成否にかかわらず有効です。
MQQSGD_PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、MQQSGD_Q_MGRまたはMQQSGD_COPYで定義されています。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。	許可されません。
MQQSGD_Q_MGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーターMQQSGD_Q_MGRを持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。この値がデフォルト値です。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。この値がデフォルト値です。ローカル・キューの場合、メッセージは各キュー・マネージャーのページ・セットに保管され、そのキュー・マネージャーを介してのみ使用できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_SHARED	この値はローカル・キューにのみ適用されます。オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_SHARED を使用しているコマンドによって定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページセットにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_GROUP を使用したコマンドで定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。	このオプションは、ローカル・キューにのみ適用されます。オブジェクトは共有リポジトリで定義されます。メッセージはカップリング・ファシリティで保管され、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーからアクセスできます。MQQSGD_SHARED を使用できるのは次の場合だけです。 • <i>CFStructure</i> は非ブランクです。 • <i>IndexType</i> 次と等しくない MQIT_MSG_TOKEN • キューが次のいずれでもない – SYSTEM.CHANNEL.INITQ – SYSTEM.COMMAND.INPUT

QueueAccounting (MQCFIN)

アカウンティング・データの収集を制御します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

キューのアカウンティング・データの収集は、キュー・マネージャーの *QueueAccounting* パラメーターの設定に基づいて実行されます。

MQMON_OFF

このキューではアカウンティング・データ収集は使用不可になります。

MQMON_ON

キュー・マネージャーの *QueueAccounting* パラメーターの値が MQMON_NONE でなければ、キューのアカウンティング・データ収集は有効になります。

QueueMonitoring (MQCFIN)

オンライン・モニター・データ収集 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_Q)。

オンライン・モニター・データを収集するかどうか、また収集する場合はその収集率を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_Q_MGR

キューによって継承される、キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* パラメーターの値。

MQMON_LOW

キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* パラメーターの値が MQMON_NONE でない場合、オンライン・モニター・データ収集はオンになります。このキューでは、データ収集速度が遅くなります。

MQMON_MEDIUM

キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* パラメーターの値が MQMON_NONE でない場合、オンライン・モニター・データ収集はオンになります。このキューでのデータ収集速度は中程度です。

MQMON_HIGH

キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* パラメーターの値が MQMON_NONE でない場合、オンライン・モニター・データ収集はオンになります。このキューでのデータ収集速度は高速です。

QueueStatistics (MQCFIN)

統計データ収集 (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_Q)。

統計データ収集を有効にするかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_Q_MGR

キューによって継承される、キュー・マネージャーの *QueueStatistics* パラメーターの値。

MQMON_OFF

統計データ収集は無効です。

MQMON_ON

キュー・マネージャーの *QueueStatistics* パラメーターの値が **MQMON_NONE** でなければ、統計データ収集は有効になります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX システム、および Windows でのみ有効です。

RemoteQMGrName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME)。

アプリケーションがリモート・キューのローカル定義をオープンする場合、*RemoteQMGrName* をブランクにしたり、アプリケーションの接続先キュー・マネージャーの名前にしたりすることはできません。*XmitQName* をブランクにする場合は、*RemoteQMGrName* という名前のローカル・キューが必要となります。そのキューは伝送キューとして使用されます。

この定義がキュー・マネージャーの別名用に使用される場合、*RemoteQMGrName* は、そのキュー・マネージャーの名前です。そのキュー・マネージャー名は、接続したキュー・マネージャーの名前でもかまいません。*XmitQName* をブランクにする場合は、キューを開くときに、*RemoteQMGrName* という名前のローカル・キューが必要となります。そのキューは伝送キューとして使用されます。

この定義が応答先キュー別名に使用される場合、*RemoteQMGrName* は、応答先キュー・マネージャーとなるキュー・マネージャーの名前です。

ストリングの最大長は **MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH** です。

RemoteQName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーでローカルに認識されているとおりのリモート・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_NAME)。

この定義をリモート・キューのローカル定義に使用する場合、オープン時に *RemoteQName* がブランクであってはなりません。

この定義をキュー・マネージャー別名定義に使用する場合、オープン時に *RemoteQName* はブランクでなければなりません。

この定義が応答先キュー別名に使用される場合、この名前は、応答先キューとなるキューの名前です。

ストリングの最大長は **MQ_Q_NAME_LENGTH** です。

Replace (MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。このパラメーターは、Change Queue コマンドでは無効です。

オブジェクトが存在する場合は、Change Queue コマンドを発行した場合と同じ結果になります。これは、*Force* パラメーターに **MQFC_YES** オプションが指定されておらず、その他すべての属性が指定されている Change Queue コマンドと同様です。特に、既存キュー上にあるどのメッセージも保持されることに注意してください。

Force パラメーターに **MQFC_YES** が指定されていない Change Queue コマンドは、*Replace* パラメーターに **MQRP_YES** が指定された Create Queue コマンドとは異なります。その違いは、Change Queue コマンドは指定されていない属性を変更しないことです。**MQRP_YES** が指定された Create Queue コマンドは、すべての属性を設定します。**MQRP_YES** を使用すると、指定されていない属性がデフォルト定義から取得され、オブジェクトが存在する場合、置換されるオブジェクトの属性は無視されます。)

次の条件が共に真である場合、コマンドは失敗します。

- Change Queue コマンドを使用した場合に *Force* パラメーターに **MQFC_YES** を使用することが必要になるような属性をコマンドで設定する
- そのオブジェクトがオープンされている

この状況では、*Force* パラメーターに *MQFC_YES* を指定した *Change Queue* コマンドは成功します。

UNIX システムで *Scope* パラメーターに *MQSCO_CELL* を指定した場合に、同じ名前のキューが既にセル・ディレクトリー内に存在すると、このコマンドは失敗します。コマンドは、*MQRP_YES* が指定されているとしても失敗します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

RetentionInterval (MQCFIN)

保存間隔 (パラメーター ID: *MQIA_RETENTION_INTERVAL*)。

キューが必要とされる可能性のある時間数。キュー作成日時から数えます。

この情報は、ハウスキーピング・アプリケーションまたは操作員に対するもので、キューがもはや必要でなくなる時点を判別するために使用することができます。キューの保存間隔が満了するまでは、キュー・マネージャーはキューを削除することはありませんし、キューの削除を防止することもあります。必要なアクションは、ユーザーの責任で行ってください。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。

Scope (MQCFIN)

キュー定義の有効範囲 (パラメーター ID: *MQIA_SCOPE*)。

キュー定義の有効範囲が、キューを所有するキュー・マネージャーの範囲を超えるかどうかを指定します。セル内のすべてのキュー・マネージャーに認識されるように、キュー名をセル・ディレクトリーに含めるかどうかについても指定します。

この属性を *MQSCO_CELL* から *MQSCO_Q_MGR* に変更すると、キューの項目がセル・ディレクトリーから削除されます。

モデル・キューと動的キューは、セル有効範囲を持つようには変更できません。

これを *MQSCO_Q_MGR* から *MQSCO_CELL* に変更すると、キューの項目がセル・ディレクトリーに作成されます。同じ名前を持つキューが既にセル・ディレクトリーにある場合、コマンドは失敗します。セル・ディレクトリーをサポートするネーム・サービスが構成されていない場合も、このコマンドは失敗します。

値は次のいずれかです。

MQSCO_Q_MGR

キュー・マネージャー有効範囲。

MQSCO_CELL

セルの有効範囲。

この値は、IBM i ではサポートされていません。

このパラメーターは、z/OS では使用できません。

Shareability (MQCFIN)

キューが共用可能かどうか (パラメーター ID: *MQIA_SHAREABILITY*)。

アプリケーションの複数インスタンスがこのキューを入力用にオープンできるかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQA_SHAREABLE

キューは共有可能。

MQQA_NOT_SHAREABLE

キューは共有不可。

StorageClass (MQCFST)

ストレージ・クラス (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

ストレージ・クラスの名前を示します。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

TargetType (MQCFIN)

ターゲット・タイプ (パラメーター ID: MQIA_BASE_TYPE)。

別名が解決されて生じるオブジェクトのタイプを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOT_Q

オブジェクトはキューです。

MQOT_TOPIC

オブジェクトはトピックです。

TriggerControl (MQCFIN)

トリガー制御 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_CONTROL)。

トリガー・メッセージを開始キューに書き込むかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

MQTC_OFF

トリガー・メッセージは不要。

MQTC_ON

トリガー・メッセージは必要。

TriggerData (MQCFST)

トリガー・データ (パラメーター ID: MQCA_TRIGGER_DATA)。

キュー・マネージャーがトリガー・メッセージに含めるユーザー・データを指定します。このデータは、開始キューを処理するモニター・アプリケーション、およびモニターによって開始されるアプリケーションで使用可能になります。

ストリングの最大長は MQ_TRIGGER_DATA_LENGTH です。

TriggerDepth (MQCFIN)

トリガーの深さ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_DEPTH)。

開始キューへのトリガー・メッセージを開始するメッセージの数を指定します (*TriggerType* が MQTT_DEPTH のとき)。値は 1 から 999,999,999 の範囲でなければなりません。

TriggerMsgPriority (MQCFIN)

トリガーのしきい値メッセージ優先度 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY)。

メッセージがトリガー・イベントを生成したり、トリガー・イベントとしてカウントされたりするために必要な、メッセージの最低限の優先順位を指定します。この値は、サポートされる優先順位の値の範囲内 (0 から 9) でなければなりません。

TriggerType (MQCFIN)

トリガー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_TYPE)。

トリガー・イベントを開始する条件を指定します。条件が満たされると、トリガー・メッセージが開始キューに送信されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTT_NONE

トリガー・メッセージは書き込まれません。

MQTT EVERY

トリガー・メッセージは、すべてのメッセージについて書き込まれます。

MQTT_FIRST

トリガー・メッセージは、キューのサイズが 0 から 1 になったときに書き込まれます。

MQTT_DEPTH

トリガー・メッセージは、サイズのしきい値を超えた場合に書き込まれます。

Usage (MQCFIN)

使用法 (パラメーター ID: MQIA_USAGE)。

キューが通常の使用のためか、またはリモート・メッセージ・キュー・マネージャーにメッセージを送信するためかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUS_NORMAL

通常使用。

MQUS_TRANSMISSION

伝送キュー。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA_XMIT_Q_NAME)。

リモート・キューまたはキュー・マネージャー別名定義のいずれかに送られるメッセージに使用される伝送キューのローカル名を指定します。

XmitQName がブランクである場合、*RemoteQMGrName* と同じ名前のキューが伝送キューとして使用されます。

定義がキュー・マネージャー別名として使用されており、*RemoteQMGrName* が接続先キュー・マネージャーの名前である場合、この属性は無視されます。

また、この定義が応答先キュー別名定義として使用されている場合にも、これは無視されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

エラー・コード (Change Queue、Copy Queue、および Create Queue)

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示す値の他に、以下のエラーを応答形式ヘッダーに返すことがあります。

Reason (MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CELL_DIR_NOT_AVAILABLE

セル・ディレクトリーを使用できません。

MQRCCF_CLUSTER_NAME_CONFLICT

クラスター名が矛盾しています。

MQRCCF_CLUSTER_Q_USAGE_ERROR

クラスターの使用法が矛盾しています。

MQRCCF_DYNAMIC_Q_SCOPE_ERROR

動的キュー有効範囲のエラー。

MQRCCF_FORCE_VALUE_ERROR

強制値が無効です。

MQRCCF_Q_ALREADY_IN_CELL

キューがセルに存在しています。

MQRCCF_Q_TYPE_ERROR

キュー・タイプは無効です。

Change Queue Manager

Change Queue Manager (MQCMD_CHANGE_Q_MGR) コマンドは、キュー・マネージャーの、指定された属性を変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

必須パラメーター:

なし

オプション・パラメーター (Change Queue Manager)

AccountingConnOverride (MQCFIN)

アプリケーションが *QueueAccounting* および *MQIAccounting* キュー・マネージャーのパラメーターの設定をオーバーライドできるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_CONN_OVERRIDE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_DISABLED

アプリケーションは *QueueAccounting* および *MQIAccounting* パラメーターの設定をオーバーライドできません。

この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ENABLED

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの MQCNO 構造体のオプション・フィールドを使用して、*QueueAccounting* および *MQIAccounting* パラメーターの設定をオーバーライドできます。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

AccountingInterval (MQCFIN)

中間のアカウントिंग・レコードが書き込まれる秒単位の時間間隔 (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_INTERVAL)。

1 から 604,000 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ActivityRecording (MQCFIN)

アクティビティー・レポートを生成できるかどうか (パラメーター ID: MQIA_ACTIVITY_RECORDING) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQRECORDING_DISABLED

アクティビティー・レポートを生成できません。

MQRECORDING_MSG

アクティビティー・レポートを生成し、レポートの原因となったメッセージの発信元によって指定された応答キューへ送ることができます。

MQRECORDING_Q

アクティビティー・レポートを生成し、SYSTEM.ADMIN.ACTIVITY.QUEUE に送信することができます。

z/OS AdoptNewMCACheck (MQCFIN)

新規インバウンド・チャンネルが検出される場合、MCA を採用 (再始動) するかどうかを判別するために検査される要素。名前が現在アクティブな MCA の名前と同じ場合は、採用 (再始動) されます (パラメーター ID: MQIA_ADOPTNEWMCA_CHECK)。

値は次のいずれかです。

MQADOPT_CHECK_Q_MGR_NAME

キュー・マネージャーの名前を検査します。

MQADOPT_CHECK_NET_ADDR

ネットワーク・アドレスを検査します。

MQADOPT_CHECK_ALL

キュー・マネージャー名とネットワーク・アドレスを検査します。ご使用のチャンネルが意図せずにシャットダウンされないようにするためにこの確認を行ってください。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQADOPT_CHECK_NONE

どの要素も検査しません。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

 AdoptNewMCAType (MQCFIN)

オーファン・チャンネル・インスタンスの採用 (パラメーター ID: MQIA_ADOPTNEWMCA_TYPE)。

AdoptNewMCACheck パラメーターに一致する新規インバウンド・チャンネル要求が検出されたときに、孤立 MCA インスタンスを採用するかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

MQADOPT_TYPE_NO

オーファン・チャンネル・インスタンスを採用しません。

MQADOPT_TYPE_ALL

すべてのチャンネル・タイプを採用します。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

AuthorityEvent (MQCFIN)

許可 (不許可) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_AUTHORITY_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。この値は、z/OS では許可されていません。

BridgeEvent (MQCFIN)

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_BRIDGE_EVENT)。
このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。この値がデフォルト値です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。この値は、z/OS ではサポートされていません。

CertificateLabel (MQCFST)

このキュー・マネージャーが使用する証明書ラベルを指定します。このラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書が選択されるかを識別します (パラメーター ID: MQCA_CERT_LABEL)。

デフォルトのマイグレーション済みキュー・マネージャーの値は、以下のとおりです。

-  z/OS: の場合: *ibmWebSphereMQXXXX* (ここで XXXX はキュー・マネージャーの名前です)。

詳しくは、[z/OS システム](#)を参照してください。

- IBM i: の場合

– SSLKEYR(*SYSTEM) を指定した場合、値はブランクです。

非ブランクのキュー・マネージャー CERTLABL を SSLKEYR(*SYSTEM) とともに使用することは禁止されていることに注意してください。使用しようとする、MQRCCF_Q_MGR_ATTR_CONFLICT エラーが表示されます。

- それ以外の場合、ibmwebspheremqxxxx (ここで xxxx は小文字に変換されたキュー・マネージャーの名前です)。
- UNIX および Linux および Windows の場合、ibmwebspheremqxxxx (ここで xxxx は小文字に変換されたキュー・マネージャーの名前です)。

CertificateValPolicy (MQCFIN)

リモート・パートナー・システムから受信されるデジタル証明書の妥当性検査のために、SSL/TLS 証明書妥当性検査のどのポリシーが使用されるかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CERT_VAL_POLICY)。

この属性を使用することにより、証明書チェーン妥当性検査においてセキュリティに関する業界の標準規格にどの程度厳密に準拠するかを制御することができます。詳細については、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_ANY

セキュア・ソケット・ライブラリーでサポートされる証明書妥当性検査ポリシーのいずれかにおいて、その証明書チェーンが有効であると見なされる場合に、それらのポリシーのそれぞれを適用し、証明書チェーンを受け入れます。この設定は、最新の証明書標準に準拠しない旧式のデジタル証明書との後方互換性を最大にするために使用できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_RFC5280

RFC 5280 準拠の証明書妥当性検査ポリシーのみを適用します。この設定は、ANY 設定よりも厳密に妥当性検査しますが、一部の旧式のデジタル証明書を拒否します。

このパラメーターは、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効で、コマンド・レベルが 711 以上のキュー・マネージャーのみで使用できます。

CertificateValPolicy に加えられる変更は、次のいずれかの時点で有効になります。

- 新しいチャネル・プロセスが開始されるとき。
- チャネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動されるとき。
- リスナーのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、リスナーが再始動されるとき。
- プロセス・プール・プロセスのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開され、SSL チャネルを最初に実行したとき。プロセス・プーリング・プロセスが既に SSL チャネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** を実行します。プロセス・プーリング・プロセスは、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは amqimppa です。
- **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** コマンドが発行されたとき。

z/OS CFConlos (MQCFIN)

管理構造体への接続、または CFConlos が ASQMGR に設定されている CF 構造体に対する接続を、キュー・マネージャーが失ったときに実行されるアクションを指定します (パラメーター ID: MQIA_QMGR_CFCONLOS)。

値は次のいずれかです。

MQCFCONLOS_TERMINATE

CF 構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。

MQCFCONLOS_TOLERATE

キュー・マネージャーは CF 構造体への接続が失われてもそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

MQCFCONLOS_TOLERATE を選択できるのは、キュー共用グループ内のすべてのキュー・マネージャーがコマンド・レベル 710 以上であり、OPMODE が NEWFUNC に設定されている場合のみです。

ChannelAutoDef (MQCFIN)

受信側およびサーバー接続チャンネルが自動的に定義されるようにするかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF)。

クラスター送信側チャンネルの自動定義は常に使用可能にされます。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合の各システムの環境でサポートされています。

値は次のいずれかです。

MQCHAD_DISABLED

チャンネルの自動定義は無効です。

MQCHAD_ENABLED

チャンネルの自動定義は有効です。

ChannelAutoDefEvent (MQCFIN)

受信側、サーバー接続、またはクラスター送信側チャンネルが自動的に定義される場合、チャンネル自動定義イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF_EVENT)

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合の各システムの環境でサポートされています。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

ChannelAutoDefExit (MQCFIN)

チャンネル自動定義出口名 (パラメーター ID: MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT)。

未定義のチャンネルのインバウンド要求を受信したときに、この出口が呼び出されます。以下のいずれかの場合があります。

1. そのチャンネルがクラスター受信側である。
2. チャンネル自動定義が有効である (*ChannelAutoDef* を参照)。

この出口はまた、クラスター受信側チャンネルの開始時にも呼び出されます。

名前の形式は 1375 ページの『[Change Channel、Copy Channel、および Create Channel](#)』に記載されている *SecurityExit* パラメーターに対するものと同じです。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

このパラメーターは、IBM i、z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合の各環境でサポートされます。z/OS では、クラスター送信側チャンネルとクラスター受信側チャンネルにのみ適用されます。

ChannelAuthenticationRecords (MQCFIN)

チャンネル認証レコードを使用するかどうかを制御します。チャンネル認証レコードは、この属性の値に関わらず設定することが可能で、表示もされます。(パラメーター ID: MQIA_CHLAUTH_RECORDS)。

値は次のいずれかです。

MQCHLA_DISABLED

チャンネル認証レコードは検査されません。

MQCHLA_ENABLED

チャンネル認証レコードは検査されます。

ChannelEvent (MQCFIN)

チャンネル・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHANNEL_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

MQEVR_EXCEPTION

例外チャネル・イベントの報告は有効です。

ChannelInitiatorControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーが始動するときに、チャネル・イニシエーターが始動するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_CONTROL)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

チャネル・イニシエーターは自動的に開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にチャネル・イニシエーターを自動的に開始します。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

チャネルのオンライン・モニターのデフォルト設定 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_CHANNEL)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

チャネルの *ChannelMonitoring* パラメーターの設定にかかわらず、チャネルのオンライン・モニター・データの収集はオフになります。

MQMON_OFF

ChannelMonitoring パラメーターに指定されている値が MQMON_Q_MGR であるチャネルに対し、オンライン・モニター・データの収集がオフになります。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_LOW

ChannelMonitoring パラメーターに指定された値が MQMON_Q_MGR であるチャネルに対し、オンライン・モニター・データの収集が、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

ChannelMonitoring パラメーターに指定された値が MQMON_Q_MGR であるチャネルに対し、オンライン・モニター・データの収集が、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

ChannelMonitoring パラメーターに指定された値が MQMON_Q_MGR であるチャネルに対し、オンライン・モニター・データの収集が、高いデータ収集率でオンになります。

ChannelStatistics (MQCFIN)

チャネルの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_CHANNEL)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

チャネルの *ChannelStatistics* パラメーターの設定にかかわらず、チャネルに関する統計データ収集がオフになります。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

ChannelStatistics パラメーターに指定された値が MQMON_Q_MGR であるチャネルに対し、統計データ収集がオフになります。

MQMON_LOW

ChannelStatistics パラメーターに指定された値が MQMON_Q_MGR であるチャネルに対し、統計データ収集が、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

ChannelStatistics パラメーターに値 **MQMON_Q_MGR** が指定されているチャンネルについて、統計データ収集が中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

ChannelStatistics パラメーターに指定された値が **MQMON_Q_MGR** であるチャンネルに対し、統計データ収集が、高いデータ収集率でオンになります。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

z/OS

ChinitAdapters (MQCFIN)

アダプター・サブタスクの数 (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_ADAPTERS)。

IBM MQ 呼び出しを処理するために使用するアダプターのサブタスク数です。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

1 から 9999 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 8 です。

z/OS

ChinitDispatchers (MQCFIN)

ディスパッチャーの数 (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_DISPATCHERS)。

チャンネル・イニシエーターで使用するディスパッチャーの数。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

1 から 9999 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 5 です。

z/OS

ChinitServiceParm (MQCFIN)

IBM の使用のために予約済み (パラメーター ID: MQCA_CHINIT_SERVICE_PARM)。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

z/OS

ChinitTraceAutoStart (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_TRACE_AUTO_START)。

値は次のいずれかです。

MQTRAXSTR_YES

チャンネル・イニシエーター・トレースは自動的に開始します。

MQTRAXSTR_NO

チャンネル・イニシエーター・トレースは自動的に開始されません。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

z/OS

ChinitTraceTableSize (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのメガバイト単位のサイズ (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_TRACE_TABLE_SIZE)。

2 から 2048 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 2 です。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ClusterSenderMonitoringDefault (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルのオンライン・モニターのデフォルト設定 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_AUTO_CLUSSDR)。

自動的に定義されたクラスター送信側チャンネルの *ChannelMonitoring* 属性に使用する値を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_Q_MGR

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの設定から継承されます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

チャンネルのモニターをオフに切り替えます。

MQMON_LOW

ChannelMonitoring が MQMON_NONE でない場合、この値は、システム・パフォーマンスへの影響を最小にして低いデータ収集率を指定します。収集されるデータは最新のものではない可能性があります。

MQMON_MEDIUM

ChannelMonitoring が MQMON_NONE でない場合、この値は、システム・パフォーマンスへの影響を制限した中程度のデータ収集率を指定します。

MQMON_HIGH

ChannelMonitoring が MQMON_NONE でない場合、この値は、システム・パフォーマンスに影響を与える可能性がある高いデータ収集率を指定します。収集されるデータは、取得可能なデータの中で最新のものです。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

ClusterSenderStatistics (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルについて、統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_AUTO_CLUSSDR)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

統計データの収集は、キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターの設定から継承されます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

チャンネルの統計データの収集をオフに切り替えます。

MQMON_LOW

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない場合、この値は、システム・パフォーマンスへの影響を最小にして低いデータ収集率を指定します。

MQMON_MEDIUM

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない場合、この値は中程度のデータ収集率を指定します。

MQMON_HIGH

ChannelStatistics が MQMON_NONE でない限り、この値は高いデータ収集率を指定します。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

ClusterWorkLoadData (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口のデータ (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_DATA)。

このパラメーターはクラスター・ワークロード出口が呼び出されたとき、その出口に渡されます。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

ClusterWorkLoadExit (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_EXIT)。

非ブランク名が定義される場合、メッセージがクラスター・キューに書き込まれるときに、この出口が呼び出されます。

名前の形式は 1375 ページの『[Change Channel、Copy Channel、および Create Channel](#)』に記載されている *SecurityExit* パラメーターに対するものと同じです。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

ClusterWorkLoadLength (MQCFIN)

クラスター・ワークロードの長さ (パラメーター ID: MQIA_CLUSTER_WORKLOAD_LENGTH)。

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージの最大長。

この属性の値は、0 から 999,999 999 の範囲でなければなりません。

CLWLMRUChannels (MQCFIN)

クラスター・ワークロードに最後に使用された (MRU) チャンネル (パラメーター ID: MQIA_CLWL_MRU_CHANNELS)。

最後に使用されたアクティブなアウトバウンド・チャンネルの最大数。

1 から 999,999 999 の範囲の値を指定してください。

CLWLUseQ (MQCFIN)

リモート・キューの使用 (パラメーター ID: MQIA_CLWL_USEQ)。

ワークロード管理時に、クラスター内の他のキュー・マネージャーに定義されている他のキューへのリモート書き込みを、クラスター・キュー・マネージャーが使用するかどうかを指定します。

次のどちらかを指定します。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

CodedCharSetId (MQCFIN)

キュー・マネージャーのコード化文字セット ID (パラメーター ID: MQIA_CODED_CHAR_SET_ID)。

キュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID)。CCSID は、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) によって定義されたすべての文字ストリング・フィールドで使用される ID です。これは、メッセージ記述子に含まれる CCSID が値 MQCCSI_Q_MGR に設定されている場合、メッセージ本体に書き込まれる文字データに適用されます。データは MQPUT または MQPUT1 を使用して書き込まれます。文字データは、メッセージに指定された形式で識別されます。

1 から 65,535 までの範囲の値を指定します。

CCSID は、プラットフォームでの使用のために定義された値を指定し、そのプラットフォームに適した文字セットを使用しなければなりません。文字セットは以下のものでなければなりません。

- IBM i での EBCDIC
- その他のプラットフォームでの ASCII または ASCII 関連の文字セット

このコマンドの実行後にキュー・マネージャーを停止および再始動させて、すべてのプロセスがキュー・マネージャーの変更された CCSID を反映するようにしてください。

このパラメーターは、z/OS ではサポートされません。

CommandEvent (MQCFIN)

コマンド・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_COMMAND_EVENT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

MQEVR_NO_DISPLAY

Inquire コマンドを除く成功したすべてのコマンドについてイベント報告は有効です。

**CommandScope (MQCFIN)**

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下の値のうちいずれか1つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。 コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク "*"。 コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandServerControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーが開始されるときに、コマンド・サーバーが開始されるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CMD_SERVER_CONTROL)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

コマンド・サーバーは自動的に開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にコマンド・サーバーを自動的に開始します。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

ConfigurationEvent (MQCFIN)

構成イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CONFIGURATION_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

ConnAuth (MQCFST)

ユーザー ID およびパスワード認証の場所を提供するために使用される認証情報オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_CONN_AUTH)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。 タイプが IDPWOS または IDPWLDAP の認証情報オブジェクトのみ指定できます。 その他のタイプの場合、OAM (UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォームの場合) またはセキュリティー・コンポーネント (z/OS プラットフォームの場合) が構成を読み取るときに、エラー・メッセージが表示されます。

Custom (MQCFST)

新機能用カスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

この属性は、単独の属性が導入されるまでの間、新しい機能の構成用として予約されています。 1つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性の値 (属性名と値のペアとして指定) を含むことができます。 属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。 単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。 現在は、*Custom* に指定できる値がありません。

ストリングの最大長は MQ_CUSTOM_LENGTH です。

DeadLetterQName (MQCFIN)

デッド・レター (未配布メッセージ) キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEAD_LETTER_Q_NAME)。

未配布メッセージに使用されるローカル・キューの名前を指定します。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DefClusterXmitQueueType (MQCFIN)

DefClusterXmitQueue タイプ 属性は、クラスター受信側チャネルとの間でメッセージの取得やメッセージの送信を行うために、クラスター送信側チャネルがデフォルトで選択する伝送キューを制御します。(パラメーター ID: MQIA_DEF_CLUSTER_XMIT_Q_TYPE。)

DefClusterXmitQueueType の値は MQCLXQ_SCTQ または MQCLXQ_CHANNEL です。

MQCLXQ_SCTQ

すべてのクラスター送信側チャネルが、SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE からメッセージを送信します。伝送キューに入れられたメッセージの correlID は、メッセージの宛先のクラスター送信側チャネルを示します。

SCTQ は、キュー・マネージャーが定義されるときに設定されます。この動作は、バージョン 7.5 より前のバージョンの IBM WebSphere MQ では暗黙的です。以前のバージョンに、キュー・マネージャーの属性 DefClusterXmitQueueType はありませんでした。

MQCLXQ_CHANNEL

各クラスター送信側チャネルは、異なる伝送キューからメッセージを送信します。各伝送キューは、モデル・キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE から、永続動的キューとして作成されます。

DefXmitQName (MQCFST)

デフォルト伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEF_XMIT_Q_NAME)。

このパラメーターは、リモート・キュー・マネージャーに対するメッセージの伝送に使用されるデフォルト伝送キューの名前です。これは、使用する伝送キューが他で指定されていない場合に選択されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DNSGroup (MQCFST)

DNS グループ名 (パラメーター ID: MQCA_DNS_GROUP)。

このパラメーターは、今後使用されません。[WLM/DNS のサポートが終了しています](#)を参照してください。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は MQ_DNS_GROUP_NAME_LENGTH です。

z/OS DNSWLM (MQCFIN)

WLM/DNS 制御: (パラメーター ID: MQIA_DNS_WLM)。

このパラメーターは、今後使用されません。[WLM/DNS のサポートが終了しています](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDNSWLM_NO

この値だけが、キュー・マネージャーによってサポートされます。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

z/OS ExpiryInterval (MQCFIN)

有効期限が切れたメッセージをスキャンする間隔 (パラメーター ID: MQIA_EXPIRY_INTERVAL)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーが有効期限切れのメッセージを探してキューをスキャンする 頻度を指定します。時間間隔を 1 から 99,999,999 の範囲で秒単位で指定するか、または以下の特殊値を指定します。

MQEXPI_OFF

有効期限切れのメッセージを探すスキャンは行われません。

使用される最小スキャン間隔は 5 秒で、それより小さい値を指定しても 5 秒になります。

EncryptionPolicySuiteB (MQCFIL)

Suite B 準拠の暗号方式を使用するかどうか、および使用する強度レベル (パラメーター ID MQIA_SUITE_B_STRENGTH) を指定します。

値は、以下の 1 つ以上にすることができます。

MQ_SUITE_B_NONE

Suite B 準拠の暗号方式を使用しません。

MQ_SUITE_B_128_BIT

128 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

MQ_SUITE_B_192_BIT

192 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

無効なリスト (MQ_SUITE_B_NONE と MQ_SUITE_B_128_BIT など) が指定されると、エラー MQRCCF_SUITE_B_ERROR が発行されます。

Force (MQCFIN)

強制変更 (パラメーター ID: MQIACF_FORCE)。

次の 2 つの条件が両方とも満たされた場合にコマンドを強制的に完了するかどうかを指定します。

- DefXmitQName が指定される。
- アプリケーションのリモート・キューがオープンされていて、この変更によってこの解決が影響を受ける。

z/OS

GroupUR (MQCFIN)

CICS および XA クライアント・アプリケーションが、GROUP リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できるかどうかを制御します。

この属性は、z/OS でのみ有効であり、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合にのみ使用可能にすることができます。

値は次のいずれかです。

MQGUR_DISABLED

CICS および XA クライアント・アプリケーションは、キュー・マネージャー名を使用して接続する必要があります。

MQGUR_ENABLED

CICS および XA クライアント・アプリケーションは、接続時に QSG 名を指定することにより、リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できます。

z/OS

[キュー共有グループでのリカバリー単位属性指定](#)を参照してください。

z/OS

IGQPutAuthority (MQCFIN)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQIA_IGQ_PUT_AUTHORITY)。このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

権限検査のタイプ、および IGQ エージェント (IGQA) が使用するユーザー ID を指定します。このパラメーターは、宛先キューにメッセージを書き込むための権限を設定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIGQPA_DEFAULT

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

許可に使用されるユーザー ID は、*UserIdentifier* フィールドの値です。*UserIdentifier* フィールドは、メッセージが共用伝送キューにあるときにメッセージに関連付けられる別個の MQMD にあります。この値は、メッセージを共用伝送キューに書き込んだプログラムのユーザー ID です。通常は、リモート・キュー・マネージャーが実行されるユーザー ID と同じです。

RESLEVEL プロファイルに複数のユーザー ID が検査されることが示されている場合は、ローカル IGQ エージェントのユーザー ID (*IGQUserId*) が検査されます。

MQIGQPA_CONTEXT

コンテキスト・ユーザー ID が使用されます。

許可に使用されるユーザー ID は、 *UserIdentifier* フィールドの値です。 *UserIdentifier* フィールドは、メッセージが共用伝送キューにあるときにメッセージに関連付けられる別個の MQMD にあります。この値は、メッセージを共用伝送キューに書き込んだプログラムのユーザー ID です。通常は、リモート・キュー・マネージャーが実行されるユーザー ID と同じです。

RESLEVEL プロファイルに複数のユーザー ID が検査されることが示されている場合は、ローカル IGQ エージェントのユーザー ID (*IGQUserId*) が検査されます。The 組み込み MQMD の *UserIdentifier* フィールドの値も検査されます。後者のユーザー ID は、メッセージを発信したアプリケーションのユーザー ID と通常同じです。

MQIGQPA_ONLY_IGQ

IGQ ユーザー ID だけが使用されます。

許可に使用されるユーザー ID は、ローカル IGQ エージェントのユーザー ID (*IGQUserId*) です。

RESLEVEL プロファイルが複数のユーザー ID を検査することを示す場合、すべての検査についてこのユーザー ID が使用されます。

MQIGQPA_ALTERNATE_OR_IGQ

代替ユーザー ID または IGQ エージェント・ユーザー ID が使用されます。

許可に使用されるユーザー ID は、ローカル IGQ エージェントのユーザー ID (*IGQUserId*) です。

RESLEVEL プロファイルに複数のユーザー ID が検査されることが示されている場合は、組み込み MQMD の *UserIdentifier* フィールドの値も検査されます。後者のユーザー ID は、メッセージを発信したアプリケーションのユーザー ID と通常同じです。



z/OS

***IGQUserId* (MQCFST)**

グループ内キューイング・エージェントのユーザー ID (パラメーター ID: MQCA_IGQ_USER_ID)。このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

ローカルのグループ内キューイング・エージェントに関連付けられたユーザー ID を指定します。この ID は IGQ エージェントによってメッセージがローカル・キューに書き込まれるときに、権限確認で検査される可能性のあるユーザー ID の 1 つです。検査される実際のユーザー ID は、 *IGQPutAuthority* 属性の設定および外部セキュリティ・オプションによって異なります。

最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

***InhibitEvent* (MQCFIN)**

禁止 (読み取り禁止と書き込み禁止) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。



z/OS

***IntraGroupqueuing* (MQCFIN)**

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQIA_INTRA_GROUP_QUEUEING)。このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

グループ内キューイングを使用するかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIGQ_DISABLED

グループ内キューイングは無効です。

MQIGQ_ENABLED

グループ内キューイングは有効です。

IPAddressVersion (MQCFIN)

IP アドレスのバージョン・セクター (パラメーター ID: MQIA_IP_ADDRESS_VERSION)。

IPv4 または IPv6 のどちらの IP アドレス・バージョンを使用するかを指定します。値は次のいずれかです。

MQIPADDR_IPv4

IPv4 が使用されます。

MQIPADDR_IPv6

IPv6 が使用されます。

このパラメーターは、IPv4 および IPv6 の両方を実行するシステムにのみ適用されます。これは、以下の条件のいずれかが当てはまる場合、*TransportType* が MQXPY_TCP として定義されたチャンネルにのみ影響を与えます。

- チャンネル属性 *ConnectionName* は、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方に解決されるホスト名であり、その *LocalAddress* パラメーターは指定されません。
- チャンネル属性 *ConnectionName* および *LocalAddress* は両方とも、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方に解決されるホスト名です。

 ListenerTimer (MQCFIN)

リスナーの再始動間隔 (パラメーター ID: MQIA_LISTENER_TIMER)。

APPC または TCP/IP で障害が発生した後に IBM MQ がリスナーの再始動を試行する秒単位の時間間隔です。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

5 から 9,999 までの範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 60 です。

LocalEvent (MQCFIN)

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_LOCAL_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

LoggerEvent (MQCFIN)

リカバリー・ログ・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_LOGGER_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。この値は、リニア・ロギングを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

 LUGroupName (MQCFST)

LU 6.2 リスナーの汎用 LU 名 (パラメーター ID: MQCA_LU_GROUP_NAME)。

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーが使用する汎用 LU 名。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は MQ_LU_NAME_LENGTH です。

z/OS LUName (MQCFST)

アウトバウンド LU 6.2 伝送で使用する LU 名 (パラメーター ID: MQCA_LU_NAME)。

アウトバウンド LU 6.2 伝送で使用する LU の名前。このパラメーターは、インバウンド伝送でリスナーによって使用される LU の名前と同じものに設定します。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は MQ_LU_NAME_LENGTH です。

z/OS LU62ARMSuffix (MQCFST)

APPCPM 接尾部 (パラメーター ID: MQCA_LU62_ARM_SUFFIX)。

SYS1.PARMLIB の APPCPM メンバーの接尾部。この接尾部は、このチャンネル・イニシエーターの LUADD を指名します。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は MQ_ARM_SUFFIX_LENGTH です。

z/OS LU62Channels (MQCFIN)

LU 6.2 チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_LU62_CHANNELS)。

LU 6.2 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数、または接続できるクライアントの最大数。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

0 から 9999 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 200 です。

z/OS MaxActiveChannels (MQCFIN)

アクティブ・チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_ACTIVE_CHANNELS)。

任意の時点でアクティブなチャンネルの最大数。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

共有会話は、このパラメーターの合計には影響を与えません。

1 から 9999 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 200 です。

z/OS MaxChannels (MQCFIN)

現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_CHANNELS)。

現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数 (クライアントが接続されているサーバー接続チャンネルを含む)。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

共有会話は、このパラメーターの合計には影響を与えません。

1 から 9999 の範囲の値を指定します。

MaxHandles (MQCFIN)

ハンドルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_HANDLES)。

任意の 1 つの接続が同時にオープンできるハンドルの最大数。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_MSG_LENGTH)。

キュー・マネージャーのキューに入れることができるメッセージの最大長を指定します。キュー属性 *MaxMsgLength* またはキュー・マネージャー属性 *MaxMsgLength* のいずれかより長いメッセージはキューに書き込むことはできません。

キュー・マネージャーの最大メッセージ長を短くする場合は、SYSTEM.DEFAULT.LOCAL.QUEUE 定義、およびその他のキューの最大メッセージ長も短くする必要があります。キューでの定義をキュー・マネージャーの制限以下に削減します。メッセージ長の削減が適切でない場合、アプリケーションはキュー属性 *MaxMsgLength* の値のみを確認し、正常に機能しない可能性があります。

このパラメーターの下限は 32 KB (32,768 バイト) です。上限は 100 MB (104,857,600 バイト) です。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

MaxPropertiesLength (MQCFIN)

最大プロパティ長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_PROPERTIES_LENGTH)。

プロパティ名 (バイト単位) とプロパティ値のサイズ (バイト単位) の両方を含む、プロパティの最大長を指定します。

0 から 100 MB (104,857,600 バイト) の範囲の値を、または特殊値を指定します。

MQPROP_UNRESTRICTED_LENGTH

プロパティのサイズは上限によってのみ制限されます。

MaxUncommittedMsgs (MQCFIN)

非コミット・メッセージの最大数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_UNCOMMITTED_MSGS)。

非コミット・メッセージの最大数を指定します。同期点においてコミットされないメッセージの最大数は、以下の各メッセージ数の合計です。

検索可能なメッセージの数

書き込み可能なメッセージの数

この作業単位内で生成されたトリガー・メッセージの数

この制限は、同期点の外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには適用されません。

1 から 10,000 の範囲の値を指定します。

MQIAccounting (MQCFIN)

MQI データのアカウンティング情報が収集されるかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_MQI)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI アカウンティング・データ収集は無効です。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ON

MQI アカウンティング・データ収集は有効です。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

MQIStatistics (MQCFIN)

キュー・マネージャーについて、統計モニター・データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_MQI)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI 統計のデータ収集を使用不可にします。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ON

MQI 統計のデータ収集を使用可能にします。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

MsgMarkBrowseInterval (MQCFIN)

マーク・ブラウザ間隔 (パラメーター ID: MQIA_MSG_MARK_BROWSE_INTERVAL)。

キュー・マネージャーが自動的にメッセージをマーク解除する時間間隔をミリ秒単位で指定します。

最大 999,999,999 までの値か、または特殊値 MQMMBI_UNLIMITED を指定します。デフォルト値は 5000 です。



重要: 値をデフォルトの 5000 より小さくしないでください。

MQMMBI_UNLIMITED はキュー・マネージャーが自動的にメッセージをマーク解除しないことを示します。

z/OS OutboundPortMax (MQCFIN)

発信チャネルのバインディング時の範囲の最大値 (パラメーター ID: MQIA_OUTBOUND_PORT_MAX)。

発信チャネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最大値。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

0 から 65,535 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 0 です。

OutboundPortMin に対応する値を指定し、*OutboundPortMax* の値が *OutboundPortMin* の値以上であることを確認します。

z/OS OutboundPortMin (MQCFIN)

発信チャネルのバインディング範囲の最小値 (パラメーター ID: MQIA_OUTBOUND_PORT_MIN)。

発信チャネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最小値。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

0 から 65,535 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 0 です。

OutboundPortMax に対応する値を指定し、*OutboundPortMin* の値が *OutboundPortMax* の値以下であることを確認します。

Parent (MQCFST)

キュー・マネージャーが階層的に子として接続するキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_PARENT)。

値がブランクの場合は、このキュー・マネージャーが親のキュー・マネージャーを持たないことを示します。親キュー・マネージャーが既に存在する場合、それは切断されます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

注:

- IBM MQ 階層接続を使用するには、キュー・マネージャー属性 PSMODE を MQPSM_ENABLED に設定する必要があります。
- PSMODE を MQPSM_DISABLED に設定する場合、*Parent* はブランク値に設定します。
- 階層的にその子としてキュー・マネージャーに接続する前に、親のキュー・マネージャーと子のキュー・マネージャーの間に両方向のチャネルが存在していなければなりません。
- 親が定義されている場合、**Change Queue Manager** コマンドはもとの親から切断し、新しい親のキュー・マネージャーに接続フローを送信します。
- コマンドが正常に完了しても、アクションが完了したことも、これから正常に完了することも意味しません。**Inquire Pub/Sub Status** コマンドを使用して、要求された親関係の状況を追跡します。

PerformanceEvent (MQCFIN)

パフォーマンス関連イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PERFORMANCE_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

PubSubClus (MQCFIN)

キュー・マネージャーが、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターに参加するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_CLUSTER)。

値は次のいずれかです。

MQPSCLUS_ENABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が許可されます。

注: 大規模な IBM MQ クラスターにクラスター・トピックを導入すると、パフォーマンスが低下する場合があります。このパフォーマンス低下は、すべての部分リポジトリに、クラスター内の他のすべてのメンバーが通知されることにより発生します。例えば、proxysub(FORCE) が指定されていると、他のすべてのノードで予期しないサブスクリプションが作成される可能性があります。キュー・マネージャーの障害後に再同期化する際には、キュー・マネージャーから多数のチャネルが開始される可能性もあります。

MQPSCLUS_DISABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が禁止されます。作成または受信は、キュー・マネージャーのエラー・ログに警告として記録されます。

PubSubMaxMsgRetryCount (MQCFIN)

同期点における、失敗したコマンド・メッセージの処理の試行回数 (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_MAXMSG_RETRY_COUNT)。

値は次のいずれかです。

0 to 999 999 999

初期値は 5 です。

PubSubMode (MQCFIN)

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが実行されているかどうかを指定します。パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは、アプリケーションがアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブできるようにします。パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、キューがキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースを使用したかどうかをモニターします (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_MODE)。

値は次のいずれかです。

MQPSM_COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。したがって、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるメッセージは処理されません。MQPSM_COMPAT は、このキュー・マネージャーを使用するバージョン 7 より前のバージョンの WebSphere Message Broker (現在の IBM Integration Bus) との互換性のために使用します。

MQPSM_DISABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは処理されません。

MQPSM_ENABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースおよびキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキュー

ーを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

PubSubNPInputMsg (MQCFIN)

未配信の入力メッセージを廃棄 (または保持) するかどうか (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_NP_MSG)。

値は次のいずれかです。

MQUNDELIVERED_DISCARD

非永続入力メッセージは、処理できない場合は廃棄されます。

MQUNDELIVERED_KEEP

非持続入力メッセージは、処理できない場合でも廃棄されません。この場合、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは妥当な間隔で処理を再試行し、後続メッセージの処理は行いません。

PubSubNPResponse (MQCFIN)

未配布の応答メッセージの動作を制御します (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_NP_RESP)。

値は次のいずれかです。

MQUNDELIVERED_NORMAL

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。非永続応答が送達不能キューに入れられない場合、廃棄されます。

MQUNDELIVERED_SAFE

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。応答が送信できず、送達不能キューに入れられない場合、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは現在の操作をロールバックします。この操作は適切な間隔で再試行され、後続メッセージの処理は行いません。

MQUNDELIVERED_DISCARD

応答キューに入れられない非永続応答は、廃棄されます。

MQUNDELIVERED_KEEP

非持続応答は送達不能キューに入れられず、廃棄はされない。代わりに、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは現在の操作をバックアウトし、妥当な間隔で再試行します。

PubSubSyncPoint (MQCFIN)

同期点において持続メッセージのみ (またはすべてのメッセージ) を処理するかどうか (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_SYNC_PT)。

値は次のいずれかです。

MQSYNCPPOINT_IFPER

この値を指定すると、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースに、非持続メッセージを同期点外で受信させます。インターフェースは同期点外でパブリケーションを受け取ると、そのパブリケーションを、同期点外の認識しているサブスクライバーに転送します。

MQSYNCPPOINT_YES

キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースにより同期点下にあるすべてのメッセージが受信されます。

QMgrDesc (MQCFST)

キュー・マネージャー記述 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_DESC)。

このパラメーターは、オブジェクトを簡単に説明するテキストです。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_DESC_LENGTH です。

コマンドを実行中のキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) で識別された文字セットの中の文字を使用してください。この文字セットを使用すると、テキストが正しく変換されることが確実になります。

QSGCertificateLabel (MQCFST)

使用するキュー共有グループの証明書ラベルを指定します (パラメーター ID: MQCA_QSG_CERT_LABEL)。

キュー・マネージャーが QSG のメンバーである場合、このパラメーターは CERTLABL より優先されます。

QueueAccounting (MQCFIN)

キューのアカウンティング (スレッド・レベルおよびキュー・レベルのアカウンティング) データの収集を制御します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_Q)。この値の変更は、属性の変更後に行われるキュー・マネージャーへの接続に対してのみ有効であることに注意してください。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

キューのアカウンティング・データ収集は無効です。この値をキューの **QueueAccounting** パラメーターの値でオーバーライドしてはなりません。

MQMON_OFF

QueueAccounting パラメーターに MQMON_Q_MGR の値を指定したキューのアカウンティング・データ収集は無効です。

MQMON_ON

QueueAccounting パラメーターに MQMON_Q_MGR の値を指定したキューのアカウンティング・データ収集は有効です。

QueueMonitoring (MQCFIN)

キューのオンライン・モニターのデフォルト設定 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_Q)。

この属性は、**QueueMonitoring** キュー属性が MQMON_Q_MGR に設定されている場合に、チャンネルで想定される値に指定されます。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

オンライン・モニター・データ収集をオフにします。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_NONE

キューの **QueueMonitoring** 属性の設定にかかわらず、キューのオンライン・モニター・データの収集をオフにします。

MQMON_LOW

オンライン・モニター・データ収集を、低いデータ収集率でオンにします。

MQMON_MEDIUM

オンライン・モニター・データ収集を、中程度のデータ収集率でオンにします。

MQMON_HIGH

オンライン・モニター・データ収集を、高いデータ収集率でオンにします。

QueueStatistics (MQCFIN)

キューの統計データを収集するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

キューの **QueueStatistics** パラメーター設定にかかわらず、キューの統計データ収集をオフにします。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_OFF

QueueStatistics パラメーターに値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューについて、統計データ収集がオフになります。

MQMON_ON

QueueStatistics パラメーターに値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューについて、統計データ収集がオンになります。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでのみ有効です。

z/OS **ReceiveTimeout (MQCFIN)**

TCP/IP チャンネルがそのパートナーからデータの受信を待機する長さ (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT)。

非アクティブ状態に戻る前に、パートナーからハートビートを含むデータを受信するために、TCP/IP チャンネルが待機する時間のおおよその長さ。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。これは、メッセージ・チャンネルに適用され、MQI チャンネルには適用されません。この数値は以下のように設定します。

- この数値は、チャンネルの待機時間を決定するためにネゴシエーションされた *HeartBeatInterval* 値に適用される乗数です。 *ReceiveTimeoutType* を MQRCVTIME_MULTIPLY に設定します。0 または 2 から 99 の範囲の値を指定してください。0 に指定すると、チャンネルはパートナーからデータを受信するまで無期限に待ち続けます。
- この数値は、チャンネルが待機する時間を決定するために、ネゴシエーションされた *HeartBeatInterval* 値に加算される値 (秒単位) です。 *ReceiveTimeoutType* を MQRCVTIME_ADD に設定します。1 から 999,999 の範囲の値を指定します。
- この数値は、チャンネルが待機する秒単位の値で、 *ReceiveTimeoutType* を MQRCVTIME_EQUAL に設定します。0 から 999,999 の範囲の値を指定します。0 に指定すると、チャンネルはパートナーからデータを受信するまで無期限に待ち続けます。

キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 0 です。

z/OS **ReceiveTimeoutMin (MQCFIN)**

TCP/IP チャンネルがそのパートナーからデータの受信を待機する最小時間 (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_MIN)。

非アクティブ状態に戻る前に TCP/IP チャンネルがパートナーからの (ハートビートを含む) データの受信を待つ最小時間。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

0 から 999,999 の範囲の値を指定します。

z/OS **ReceiveTimeoutType (MQCFIN)**

ReceiveTimeout に適用する修飾子 (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_TYPE)。

TCP/IP チャンネルがパートナーからのデータ (ハートビートを含む) の受信を待機する時間を計算するために *ReceiveTimeoutType* に適用される修飾子。データを受信するのを待機してから、非アクティブ状態に戻ります。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCVTIME_MULTIPLY

ReceiveTimeout 値は、チャンネルが待機する時間を決定するために *HeartbeatInterval* の折衝値に適用される乗数です。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQRCVTIME_ADD

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を決定するために *HeartbeatInterval* の折衝値に加算される値 (秒単位) です。

MQRCVTIME_EQUAL

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を表す値 (秒単位) です。

RemoteEvent (MQCFIN)

リモート・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_REMOTE_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

RepositoryName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_REPOSITORY_NAME)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・サービスを提供するクラスターの名前。
ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

RepositoryName の結果値は、一方のみを非ブランクにすることができます。

RepositoryNameList (MQCFST)

リポジトリ名リスト (パラメーター ID: MQCA_REPOSITORY_NAMELIST)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・サービスを提供するクラスター名前リストの名前。

このキュー・マネージャーはフル・リポジトリを保持していませんが、以下のいずれかの場合、クラスター内で定義された他のリポジトリ・サービスのクライアントにすることができます。

- RepositoryName および RepositoryNameList の両方ともがブランクである場合。
- RepositoryName がブランクであり、RepositoryNameList で定義された名前リストが空である場合。

RepositoryNameList の結果値は、一方のみを非ブランクにすることができます。

RevDns (MQCFIN)

ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) からのホスト名のリバース・ルックアップを行うかどうか。 (パラメーター ID: MQIA_REVERSE_DNS_LOOKUP)。

この属性は、TCP のトランスポート・タイプ (TRPTYPE) を使用するチャネルでのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQRDNS_DISABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名は逆引きされません。これを設定すると、ホスト名を使用する CHLAUTH ルールはマッチングされません。

MQRDNS_ENABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名の情報が必要な場合に、それが逆引きされます。この設定値は、ホスト名が含まれている CHLAUTH 規則に対してマッチングを行う場合、およびエラー・メッセージを書き出す場合は必須です。

SecurityCase (MQCFIN)

サポートされるセキュリティの大小文字 (パラメーター ID: MQIA_SECURITY_CASE)。

キュー・マネージャーが大/小文字混合のセキュリティ・プロファイル名をサポートするか、または大文字のみのセキュリティ・プロファイル名をサポートするかを指定します。この値は、Refresh Security コマンドが SecurityType (MQSECTYPE_CLASSES) を指定して実行されている場合、アクティブ化されます。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQSCYC_UPPER

セキュリティ・プロファイル名は大文字でなければなりません。

MQSCYC_MIXED

セキュリティ・プロファイル名は大文字または大/小文字混合にすることができます。

SharedQMgrName (MQCFIN)

共有キューのキュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQIA_SHARED_Q_Q_MGR_NAME)。

キュー・マネージャーが共有キューに対して MQOPEN 呼び出しを行います。MQOPEN 呼び出しの ObjectQmgrName パラメーターで指定されたキュー・マネージャーは、処理キュー・マネージャーと同じキュー共用グループに属します。SQQMNAME 属性は、ObjectQmgrName を使用するかどうか、または処理キュー・マネージャーが共有キューを直接開くかどうかを指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSQQM_USE

ObjectQmgrName が使用され、適切な伝送キューがオープンされます。

MQSQQM_IGNORE

処理キュー・マネージャーが共有キューを直接オープンします。この値は、キュー・マネージャー・ネットワークのトラフィックを削減することができます。

SSLCRLNamelist (MQCFST)

SSL 名前リスト (パラメーター ID: MQCA_SSL_CRL_NAMELIST)。

ストリングの長さは MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

証明書取り消し場所を提供して、拡張 TLS/SSL 証明書の検査を可能にするために使用される、認証情報オブジェクトの名前リストの名前を示します。

SSLCRLNamelist がブランクの場合、証明書の失効検査は起動しません。

以下の場合に、*SSLCRLNamelist* への変更、または既に指定された名前リストの名前への変更、または既に参照された認証情報オブジェクトへの変更が有効になります。

- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは、新しいチャンネル・プロセスが開始されたとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのチャンネル・イニシエーターのスレッドとして稼働するチャンネルの場合は、チャンネル・イニシエーターが再始動したとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのリスナーのスレッドとして稼働するチャンネルの場合は、リスナーが再始動したとき。
- z/OS では、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** コマンドが発行されたとき。
- IBM i キュー・マネージャーでは、このパラメーターは無視されます。ただし、AMQCLCHL.TAB ファイルに書き込む認証情報オブジェクトを決定するためには使用されます。

SSLCRLNamelist(MQCFST) によって参照される名前リストでは、タイプ LDAPCRL または OCSP の認証情報オブジェクトだけが許可されます。その他のタイプは、リストが処理される際にエラー・メッセージを出し、それ以降は無視されます。

SSLCryptoHardware (MQCFST)

SSL 暗号ハードウェア (パラメーター ID: MQCA_SSL_CRYPTOHARDWARE)。

ストリングの長さは MQ_SSL_CRYPTOHARDWARE_LENGTH です。

システム上に存在する暗号ハードウェアの構成に必要なパラメーター・ストリングを設定します。

このパラメーターは UNIX、Linux、および Windows の場合 システム上でのみサポートされます。

サポートされるすべての暗号ハードウェアは、PKCS #11 インターフェースをサポートします。以下の形式のストリングを指定します。

```
GSK_PKCS11= <the PKCS #11 driver path and file name> >; <the PKCS #11 token label> ;  
<the PKCS #11 token password>;<symmetric cipher setting> ;
```

PKCS #11 ドライバー・パスは、PKCS #11 カードに対するサポートを提供する共有ライブラリーの絶対パスです。PKCS #11 ドライバー・ファイル名は共有ライブラリーの名前です。PKCS #11 ドライバーのパスとファイル名に必要な値の例は、/usr/lib/pkcs11/PKCS11_API.so です。

GSKit を介して対称暗号操作にアクセスするには、対称暗号設定パラメーターを指定します。このパラメーターの値は次のいずれかです。

SYMMETRIC_CIPHER_OFF

対称暗号操作を使用しません。

SYMMETRIC_CIPHER_ON

対称暗号操作を使用します。

対称暗号設定が指定されていない場合、この値は SYMMETRIC_CIPHER_OFF を指定しているときと同じように機能します。

ストリングの最大長は 256 文字です。デフォルト値はブランクです。

ストリングを誤った形式で指定すると、エラーが発生します。

SSLCryptoHardware(MQCFST) 値を変更する場合、指定された暗号ハードウェア・パラメーターは、新しい SSL 接続環境で使用されるパラメーターになります。以下の場合に、新しい情報が有効になります。

- 新しいチャネル・プロセスが開始される時。
- チャネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動される時。
- リスナーのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、リスナーが再始動される時。
- Refresh Security コマンドが発行されて、SSL 鍵リポジトリの内容が最新表示された時。

SSLEvent (MQCFIN)

SSL イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_SSL_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

SSLFipsRequired (MQCFIN)

SSLFIPS は、暗号化が暗号ハードウェアではなく IBM MQ で実行される場合に、FIPS 認証アルゴリズムのみを使用するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_SSL_FIPS_REQUIRED)。

暗号ハードウェアが構成されている場合、ハードウェア製品で提供される暗号モジュールが使用されます。それらのモジュールは、使用されているハードウェア製品によって一定レベルまで FIPS の認定を受けている場合もあれば、そうではない場合もあります。このパラメーターは、z/OS、UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォームのみに適用されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSSL_FIPS_NO

IBM MQ は一部のプラットフォームで FIPS 認証モジュールを提供する SSL 暗号化の実装を提供します。SSLFIPSRequired を MQSSL_FIPS_NO に設定する場合、特定のプラットフォームでサポートされる CipherSpec を使用できます。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

キュー・マネージャーが暗号ハードウェアを使用せずに実行されている場合は、CipherSpec の指定にリストされている、FIPS 140-2 認証の暗号化を使用する CipherSpec を参照してください。

MQSSL_FIPS_YES

このキュー・マネージャーとの間のすべての SSL 接続で許可される CipherSpecs で、FIPS 証明されたアルゴリズムだけが使用されるように指定します。

該当する FIPS 140-2 認定済み CipherSpec のリストについては、CipherSpec の指定を参照してください。

SSLFIPS に対する変更は、次のいずれかの時点で有効になります。

- UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは、新しいチャネル・プロセスが開始された時。
- UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのチャネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、チャネル・イニシエーターが再始動された時。
- UNIX、Linux、および Windows の場合 システムのリスナーのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、リスナーが再始動された時。
- プロセス・プール・プロセスのスレッドとして実行されるチャネルの場合は、プロセス・プール・プロセスが開始または再開され、SSL チャネルを最初に実行した時。プロセス・プーリング・プロ

セスが既に SSL チャンネルを実行しており、変更を即時に有効にする場合は、MQSC コマンド **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)**を実行します。プロセス・プーリング・プロセスは、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは **amqimppa** です。

- z/OS では、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- **REFRESH SECURITY TYPE(SSL)** コマンドが発行されたとき (z/OS の場合を除く)。

SSLKeyRepository (MQCFST)

SSL キー・リポジトリ (パラメーター ID: MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY)。

ストリングの長さは MQ_SSL_KEY_REPOSITORY_LENGTH です。

Secure Sockets Layer 鍵リポジトリの名前を示します。

名前の形式は環境によって異なります。

- z/OS では、鍵リングの名前です。
- IBM iでは、*pathname/keyfile* の形式です。 *keyfile* は接尾部 (.kdb) なしで指定され、GSKit 鍵データベース・ファイルを識別します。デフォルト値は次のとおりです。/QIBM/UserData/ICSS/Cert/Server/Default。

*SYSTEM を指定すると、IBM MQ はキュー・マネージャーのキー・リポジトリとしてシステム証明書ストアを使用します。その結果、キュー・マネージャーは Digital Certificate Manager (DCM) でサーバー・アプリケーションとして登録されます。このアプリケーションに対し、システム・ストアで任意のサーバー証明書またはクライアント証明書を割り当てることができます。

SSLKEYR パラメーターを *SYSTEM 以外の値に変更すると、IBM MQ は DCM のアプリケーションとして登録されているキュー・マネージャーを登録解除します。

- UNIX では、*pathname/keyfile* の形式であり、Windows *pathname\keyfile* では *keyfile* が接尾部 (.kdb) なしで指定され、GSKit 鍵データベース・ファイルを識別します。UNIX プラットフォームのデフォルト値は /var/mqm/qmgrs/QMGR/ssl/key で、Windows の場合は C: \Program Files\IBM\WebSphere MQ\qmgrs\QMGR\ssl\key です。ここで、QMGR はキュー・マネージャー名 (UNIX、Linux、および Windows の場合の場合) に置き換えられます。

IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 システムでは、このパラメーターの構文が検証されて、有効なディレクトリーの絶対パスが確実に含まれるようにされます。

SSLKEYR がブランクの場合、または鍵リングや鍵データベース・ファイルに対応しない値である場合、SSL を使用したチャンネルの開始は失敗します。

SSLKeyRepository に対する変更は、次の時点で有効になります。

- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォームでは、新しいチャンネル・プロセスが開始されたとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォームのチャンネル・イニシエーターのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。
- IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォームのリスナーのスレッドとして実行されるチャンネルの場合は、リスナーが再始動されたとき。
- z/OS では、チャンネル・イニシエーターが再始動されたとき。

SSLKeyResetCount (MQCFIN)

SSL 鍵リセット・カウント (パラメーター ID: MQIA_SSL_RESET_COUNT)。

チャンネル上で暗号化のために使用した秘密鍵を、通信を開始する SSL チャンネル MCA がいつリセットするかを指定します。このパラメーターの値は、秘密鍵を再折衝されるまでにチャンネルで送受信される暗号化されていない合計バイト数を表します。このバイト数には、MCA によって送信される制御情報が含まれます。

以下のいずれかの場合 (どれかが最初に生じたとしても)、秘密鍵は再折衝されます。

- 開始しているチャンネル MCA で送受信された暗号化されていないバイトの総数が指定値を超える。
- チャンネル・ハートビートが有効な場合、チャンネル・ハートビートに続けてデータが送受信される前。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値が 0 の場合、秘密鍵は再折衝されません。SSL/TLS 秘密鍵のリセット・カウントを 1 バイトから 32 キロバイトの間で指定する場合、SSL/TLS チャンネルは 32 キロバイトの秘密鍵リセット・カウントを使用します。このカウントは、SSL/TLS 秘密鍵のリセット値が小さい場合に、鍵のリセットが頻繁に発生してパフォーマンスに影響するのを防ぐためのものです。

SSLTasks (MQCFIN)

SSL 呼び出しの処理に使用するサーバー・サブタスクの数 (パラメーター ID: MQIA_SSL_TASKS)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

SSL 呼び出しを処理するために使用するサーバー・サブタスクの数。SSL チャンネルを使用するには、これらのうち少なくとも 2 つのタスクが実行されている必要があります。

0 から 9999 の範囲の値を指定します。しかし、ストレージ割り振りの問題を避けるために、このパラメーターは、50 以下の値に設定してください。

StartStopEvent (MQCFIN)

開始および停止イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_START_STOP_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

StatisticsInterval (MQCFIN)

統計モニター・データがモニター・キューに書き込まれる秒単位の時間間隔 (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_INTERVAL)。

1 から 604,000 の範囲の値を指定します。

このパラメーターは、IBM i、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。

z/OS TCPChannels (MQCFIN)

TCP/IP 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数、または接続できるクライアントの最大数 (パラメーター ID: MQIA_TCP_CHANNELS)。

0 から 9999 の範囲の値を指定します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 200 です。

共有会話は、このパラメーターの合計には影響を与えません。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

z/OS TCPKeepAlive (MQCFIN)

TCP KEEPALIVE 機能を使用して、接続の相手側がまだ使用可能な状態であることを確認するかどうか (パラメーター ID: MQIA_TCP_KEEP_ALIVE) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQTCPKEEP_YES

TCP プロファイルの構成データ・セットで指定されたとおりに、TCP KEEPALIVE 機能が使用されます。間隔は、*KeepAliveInterval* チャンネル属性で指定されます。

MQTCPKEEP_NO

TCP KEEPALIVE 機能は使用されません。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

z/OS TCPName (MQCFST)

ご使用の TCP/IP システムの名前 (パラメーター ID: MQIA_TCP_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TCP_NAME_LENGTH です。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

z/OS TCPStackType (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターが *TCPName* で指定された TCP/IP アドレス・スペースのみを使用するかどうか、または選択した任意の TCP/IP アドレスにオプションでバインドできるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_TCP_STACK_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQTCPSTACK_SINGLE

チャンネル・イニシエーターは、*TCPName* で指定された TCP/IP アドレス・スペースを使用します。この値は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQTCPSTACK_MULTIPLE

チャンネル・イニシエーターは、使用可能な TCP/IP アドレス・スペースをすべて使用できます。チャンネルまたはリスナーに対して他に指定されていない場合は、デフォルトで *TCPName* に指定された値になります。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

TraceRouteRecording (MQCFIN)

トレース経路情報が記録できるかおよび応答メッセージが生成できるかどうか (パラメーター ID: MQIA_TRACE_ROUTE_RECORDING) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQRECORDING_DISABLED

トレース経路情報は記録できません。

MQRECORDING_MSG

トレース経路情報は記録でき、トレース経路記録を生じさせるメッセージの発信元が指定した宛先に応答が送られます。

MQRECORDING_Q

トレース経路情報は記録でき、SYSTEM.ADMIN.TRACE.ROUTE.QUEUE に応答が送られます。

このキュー・マネージャーの属性を使用して経路トレースが有効になっている場合、属性の値は応答が生成されるときにのみ重要になります。経路トレースは、*TraceRouteRecording* を *MQRECORDING_DISABLED* に設定しないことによって有効になります。応答は SYSTEM.ADMIN.TRACE.ROUTE.QUEUE またはメッセージそのものによって指定された宛先のどちらかに送信される必要があります。属性が無効でない場合、まだ最終宛先がないメッセージはそれに追加された情報を保持している可能性があります。トレース経路記録について詳しくは、[経路トレース・メッセージングの制御](#)を参照してください。

TreeLifeTime (MQCFIN)

非管理のトピックの秒単位での存続時間 (パラメーター ID: MQIA_TREE_LIFE_TIME)。

非管理トピックとは、アプリケーションが、管理ノードとして存在しないトピック・ストリングにパブリッシュするとき、またはそうしたストリングとしてサブスクライブするときに作成されるトピックのことです。この非管理ノードにアクティブなサブスクリプションがなくなった場合、このパラメーターは、キュー・マネージャーがそのノードを除去する前に待機する時間を決定します。キュー・マネージャーがリサイクルされた後は、永続サブスクリプションによって使用中の非管理トピックのみが残ります。

0 から 604,000 の範囲の値を指定します。値 0 は、非管理トピックがキュー・マネージャーによって削除されないことを意味します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 1800 です。

TriggerInterval (MQCFIN)

トリガー間隔 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_INTERVAL)。

TriggerType の値が MQTT_FIRST であるキューのみに使用される、トリガー時間間隔をミリ秒で指定します。

この場合、通常、適切なメッセージがキューに届き、キューがすでに空であるときにのみ、トリガー・メッセージは生成されます。しかし、特定の環境では、MQTT_FIRST をトリガーすることによって、

キューが空でなくても追加のトリガー・メッセージを生成できます。これらの追加のトリガー・メッセージが、*TriggerInterval* ミリ秒より短い間隔で生成されることはありません。

値は 0 から 999,999,999 の範囲で指定します。

エラー・コード (Change Queue Manager)

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』のページに示す値の他に、以下のエラーを応答形式ヘッダーに返すことがあります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CERT_LABEL_NOT_ALLOWED

証明書ラベル・エラー。

MQRCCF_CHAD_ERROR

チャンネル自動定義エラー。

MQRCCF_CHAD_EVENT_ERROR

チャンネル自動定義イベント・エラー。

MQRCCF_CHAD_EVENT_WRONG_TYPE

チャンネル自動定義イベント・パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

MQRCCF_CHAD_EXIT_ERROR

チャンネル自動定義出口名エラー。

MQRCCF_CHAD_EXIT_WRONG_TYPE

チャンネル自動定義出口パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

MQRCCF_CHAD_WRONG_TYPE

チャンネル自動定義パラメーターはこのチャンネル・タイプには許可されていません。

MQRCCF_FORCE_VALUE_ERROR

強制値が無効です。

MQRCCF_PATH_NOT_VALID

パスが無効です。

MQRCCF_PWD_LENGTH_ERROR

パスワードの長さがエラーです。

MQRCCF_PSCLUS_DISABLED_TOPDEF

PubSubClub が **MQPSCLUS_DISABLED** に設定されているときに、管理者またはアプリケーションが、クラスター・トピックを定義しようとした。

MQRCCF_PSCLUS_TOPIC_EXSITS

クラスター・トピック定義が存在するときに、管理者が **PubSubClub** を **MQPSCLUS_DISABLED** に設定しようとした。

MQRCCF_Q_MGR_ATTR_CONFLICT

キュー・マネージャー属性エラー。考えられる原因は、ブランク以外のキュー・マネージャー **CERTLABL** と共に **SSLKEYR(*SYSTEM)** を指定しようとしたことです。

MQRCCF_Q_MGR_CCSID_ERROR

コード化文字セット値が無効です。

MQRCCF_REPOS_NAME_CONFLICT

リポジトリ名が無効です。

MQRCCF_UNKNOWN_Q_MGR

キュー・マネージャーが不明です。

MQRCCF_WRONG_CHANNEL_TYPE

チャンネル・タイプ・エラー。

関連情報

[チャンネルの状態](#)

MQI クライアントでの実行時に FIPS 認定の CipherSpec のみを使用するように指定する
UNIX、Linux および Windows での連邦情報処理標準 (FIPS)

z/OS Change Security

Change Security コマンドは、既存のセキュリティー定義の指定された属性を変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

Change Security (MQCMD_CHANGE_SECURITY) コマンドは、システム全体に関連するセキュリティー・オプションを定義します。

必要なパラメーター

None

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

SecurityInterval (MQCFIN)

タイムアウト検査間隔 (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_INTERVAL)。

ユーザー ID と関連リソースが、*SecurityTimeout* が発生したかどうかを判断する検査を行う間隔を指定します。指定する値の単位は分で、範囲は 0 から 10080 (1 週間) です。*SecurityInterval* をゼロに指定すると、ユーザーのタイムアウトは発生しません。*SecurityInterval* をゼロ以外に指定すると、ユーザー ID は、*SecurityTimeout* と、*SecurityTimeout* に *SecurityInterval* を足した時間の間にタイムアウトになります。

SecurityTimeout (MQCFIN)

セキュリティー情報タイムアウト (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_TIMEOUT)。

未使用ユーザー ID と関連リソースのセキュリティー情報を IBM MQ が保持する期間を指定します。指定する値の単位は分で、範囲は 0 から 10080 (1 週間) です。*SecurityTimeout* をゼロに指定し、*SecurityInterval* をゼロ以外に指定すると、*SecurityInterval* の時間 (分単位) が経過するたびに、この種の情報はすべてキュー・マネージャーによって廃棄されます。

z/OS Change SMDS

Change SMDS (MQCMD_CHANGE_SMDS) コマンドは、共有メッセージ・データ・セットの属性を変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

Change SMDS (MQCMD_CHANGE_SMDS) コマンドは、指定されたキュー・マネージャーおよび CF 構造の現在の共有メッセージ・データ・セット・オプションを変更します。

SMDS (MQCFST)

共有メッセージ・データ・セット・プロパティを変更するキュー・マネージャーを指定するか、指定された CFSTRUCT に関連付けられているすべての共有メッセージ・データ・セットのプロパティを変更するためにアスタリスクを 1 つ指定します。

CFStrucName (MQCFST)

変更する SMDS パラメーターを持つ CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

DSBufs (MQCFIN)

共有メッセージ・データ・セット・バッファー・グループ (パラメーター ID: MQIA_CF_SMDS_BUFFERS)。

共有メッセージ・データ・セットにアクセスするために各キュー・マネージャーに割り振られるバッファーの数を指定します。各バッファーのサイズは、論理ブロック・サイズと同じです。

1 から 9999 までの範囲の値、または MQDSB_DEFAULT。

DEFAULT が使用されると、以前の値がすべてオーバーライドされ、CFSTRUCT 定義の DSBUFS 値が使用されます。各バッファーのサイズは、論理ブロック・サイズと同じです。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

DSEXPAND (MQCFIN)

共有メッセージ・データ・セット拡張オプション (パラメーター ID: MQIACF_CF_SMDS_EXPAND)。

共有メッセージ・データ・セットが満杯に近くなり、データ・セットに追加のブロックが必要になった場合に、キュー・マネージャーが共有メッセージ・データ・セットを拡張するかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDSE_YES

データ・セットを拡張できます。

MQDSE_NO

データ・セットを拡張できません。

MQDSE_DEFAULT

明示的に設定されていない場合にのみ、DISPLAY CFSTRUCT に対して返されます。

CFLEVEL(5) が定義されていない場合、値は設定できません。

Change Service、Copy Service、および Create Service

Change Service コマンドは、既存のサービス定義を変更します。Copy Service コマンドおよび Create Service コマンドは、新しいサービス定義を作成します。この Copy コマンドは、既存のサービス定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

Change Service (MQCMD_CHANGE_SERVICE) コマンドは、既存の IBM MQ サービス定義について指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Service (MQCMD_COPY_SERVICE) コマンドは、このコマンド内で指定されていない属性について、既存のサービス定義の属性値を使用して IBM MQ サービス定義を作成します。

Create Service (MQCMD_CREATE_SERVICE) コマンドは、IBM MQ サービス定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change Service および Create Service)

ServiceName (MQCFST)

変更または作成するサービス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy Service)

FromServiceName (MQCFST)

コピー元のサービス定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_SERVICE_NAME)。

このパラメーターは、このコマンドに指定されていない属性に関する値を含む既存のサービス定義の名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

ToServiceName (MQCFST)

コピー先サービス名 (パラメーター ID: MQCACF_TO_SERVICE_NAME)。

このパラメーターは、新規サービス定義の名前を指定します。この名前のサービス定義が存在する場合は、*Replace* に *MQRP_YES* が指定されていなければなりません。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

オプションのパラメーター (Change Service、Copy Service、および Create Service)

Replace (MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

このパラメーターは、*ToServiceName* と同じ名前の名前リスト定義が存在する場合に、それを置き換えるかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

ServiceDesc (MQCFST)

サービス定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_DESC)。

このパラメーターは、サービス定義に関する説明情報が入った プレーン・テキストです。表示可能文字だけを含めることができます。

コマンドが実行されるキュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) がない文字を使用すると、その文字が正しく変換されない可能性があります。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_DESC_LENGTH です。

ServiceType (MQCFIN)

サービスを実行するモード (パラメーター ID: MQIA_SERVICE_TYPE)。

次のどちらかを指定します。

MQSVC_TYPE_SERVER

一度に 1 つのサービス・インスタンスしか実行できません。このサービスの状況は、*Inquire Service Status* コマンドによって有効になります。

MQSVC_TYPE_COMMAND

複数のサービス・インスタンスを開始できます。

StartArguments (MQCFST)

始動時にプログラムに渡される引数 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_START_ARGS)。

コマンド行に指定する場合と同じように、プログラムに渡す各引数をスペースで区切って、ストリングとして指定してください。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_ARGS_LENGTH です。

StartCommand (MQCFST)

サービス・プログラム名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_START_COMMAND)。

実行するプログラムの名前を指定します。実行可能プログラムの完全修飾パス名を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMMAND_LENGTH です。

StartMode(MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIA_SERVICE_CONTROL)。

サービスの開始方法と停止方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

サービスを自動的に開始または停止しません。ユーザー・コマンドによって制御されます。この値がデフォルト値です。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

定義するサービスは、キュー・マネージャーの開始および停止に合わせて開始および停止されます。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

サービスはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

StderrDestination (MQCFST)

サービス・プログラムの標準エラー (stderr) のリダイレクト先ファイルのパスを指定します (パラメーター ID: MQCA_STDERR_DESTINATION)。

サービス・プログラムの開始時にこのファイルが存在しない場合は、作成されます。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_PATH_LENGTH です。

StdoutDestination (MQCFST)

サービス・プログラムの標準出力 (stdout) のリダイレクト先ファイルのパスを指定します (パラメーター ID: MQCA_STDOUT_DESTINATION)。

サービス・プログラムの開始時にこのファイルが存在しない場合は、作成されます。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_PATH_LENGTH です。

StopArguments (MQCFST)

サービスの停止が指示されたときに停止プログラムに渡す引数を指定します (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_STOP_ARGS)。

コマンド行に指定する場合と同じように、プログラムに渡す各引数をスペースで区切って、ストリングとして指定してください。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_ARGS_LENGTH です。

StopCommand (MQCFST)

サービス・プログラム停止コマンド (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_STOP_COMMAND)。

このパラメーターは、サービスの停止が要求されたときに実行するプログラムの名前です。実行可能プログラムの完全修飾パス名を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMMAND_LENGTH です。

z/OS Change Storage Class、Copy Storage Class、および Create Storage Class

Change Storage Class コマンドは、既存のストレージ・クラス定義を変更します。Copy Storage Class コマンドおよび Create Storage Class コマンドは、新しいストレージ・クラス定義を作成します。Copy コマンドでは、既存のストレージ・クラス定義の属性値が使用されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

Change Storage Class (MQCMD_CHANGE_STG_CLASS) コマンドは、ストレージ・クラスの特性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Storage Class (MQCMD_COPY_STG_CLASS) コマンドは、コマンドに指定されていない属性については既存のストレージ・クラス定義の属性値を使用して、ページ・セット・マッピングのためのストレージ・クラスを作成します。

Create Storage Class (MQCMD_CREATE_STG_CLASS) コマンドは、ページ・セット・マッピングのためのストレージ・クラスを作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change Storage Class および Create Storage Class)

StorageClassName (MQCFST)

変更または作成するストレージ・クラスの名前 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy Storage Class)

FromStorageClassName (MQCFST)

コピー元となるストレージ・クラスの名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_STORAGE_CLASS)。

z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。このパラメーターは、QSGDisposition の値として MQQSGD_COPY が指定された場合は無視されます。この場合、ToStorageClassName によって指定された名前を持ち、MQQSGD_GROUP の属性指定を持つオブジェクトがコピー元として検索されます。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

ToStorageClassName (MQCFST)

コピー先となるストレージ・クラスの名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_STORAGE_CLASS)。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change Storage Class、Copy Storage Class、および Create Storage Class)

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力された

キュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

PageSetId (MQCFIN)

ストレージ・クラスに関連付けるページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA_PAGESET_ID)。

数字 2 桁のストリング (00 から 99 の範囲) を指定します。

このパラメーターを指定しない場合は、デフォルトのストレージ・クラス SYSTEMST からデフォルト値が取得されます。

ページ・セットが定義されているかどうかの検査は行われません。このストレージ・クラスを指定するキューにメッセージを書き込もうとした場合のみ、エラーが発生します (MQRC_PAGESET_ERROR)。

PassTicketApplication (MQCFST)

パスチケット・アプリケーション (パラメーター ID: MQCA_PASS_TICKET_APPL)。

MQIIH ヘッダーに指定されているパスチケットの認証時に、RACF に渡されるアプリケーション名。

最大長は MQ_PASS_TICKET_APPL_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで、 <i>ToStorageClassName</i> オブジェクト (Copy の場合) または <i>StorageClassName</i> オブジェクト (Create の場合) と同じ名前の MQQSGD_GROUP オブジェクトを使用して定義されます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。 コマンドが正常に実行されると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーのリフレッシュが試行されます。 <pre>DEFINE STGCLASS(storage-class) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Change は、QSGDISP(COPY) を含んだ生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。このパラメーターは、キュー・マネージャーがキュー共有グループ内にある場合にのみ許可されます。 定義が正常に行われると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが試行されます。 <pre>DEFINE STGCLASS(storage-class) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Copy または Create は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドの成否にかかわらず有効です。
MQQSGD_PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY で定義されています。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。	許可されません。
MQQSGD_Q_MGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。この値がデフォルト値です。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。この値がデフォルト値です。

Replace (MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

ToStorageClassName と同じ名前のストレージ・クラス定義が既存の場合に、その定義を置き換えるかどうかをこのパラメーターに指定します。値は次のいずれかです。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

StorageClassDesc (MQCFST)

ストレージ・クラスの説明 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS_DESC)。

最大長は MQ_STORAGE_CLASS_DESC_LENGTH です。

XCFGroupName (MQCFST)

XCF グループ名 (パラメーター ID: MQCA_XCF_GROUP_NAME)。

IMS ブリッジを使用している場合、このパラメーターは、IMS システムが属する XCF グループの名前です。

最大長は MQ_XCF_GROUP_NAME_LENGTH です。

XCFMemberName (MQCFST)

XCF メンバー名 (パラメーター ID: MQCA_XCF_MEMBER_NAME)。

IMS ブリッジを使用している場合、このパラメーターは、XCFGroupName に指定した XCF グループ内の IMS システムの XCF メンバー名です。

最大長は MQ_XCF_MEMBER_NAME_LENGTH です。

Change Subscription、Copy Subscription、および Create Subscription

Change Subscription コマンドは既存のサブスクリプション定義を変更します。Copy Subscription コマンドおよび Create Subscription コマンドは新しいサブスクリプション定義を作成します。この Copy コマンドは既存のサブスクリプション定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

Change Subscription (MQCMD_CHANGE_SUBSCRIPTION) コマンドは、既存の IBM MQ サブスクリプションについて指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Subscription (MQCMD_COPY_SUBSCRIPTION) コマンドは、IBM MQ サブスクリプションを作成します。このコマンドで指定しなかった属性については、既存のサブスクリプションの属性値が使用されます。

Create Subscription (MQCMD_CREATE_SUBSCRIPTION) コマンドは、IBM MQ 管理サブスクリプションを作成して、既存のアプリケーションがパブリッシュ/サブスクライブ・アプリケーションに関与できるようにします。

必須パラメーター (Change Subscription)

SubName (MQCFST)

変更するサブスクリプション定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_SUB_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_SUB_NAME_LENGTH です。

または

SubId(MQCFBS)

変更するサブスクリプション定義の固有 ID (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

ストリングの最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy Subscription)

ToSubscriptionName(MQCFBS)

コピー先のサブスクリプションの名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_SUB_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_SUBSCRIPTION_NAME_LENGTH です。

少なくとも *FromSubscriptionName* または *SubId* のいずれかが必要です。

FromSubscriptionName (MQCFST)

コピー元のサブスクリプション定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_SUB_NAME)。

 z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。QSGDisposition に値 MQQSGD_COPY が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。この場合、

ToSubscriptionName によって指定された名前と特性 MQQSGD_GROUP を持つオブジェクトが使用されます。

ストリングの最大長は MQ_SUBSCRIPTION_NAME_LENGTH です。

SubId(MQCFBS)

変更するサブスクリプション定義の固有 ID (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

ストリングの最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

必須パラメーター (Create Subscription)

SubName を指定する必要があります。

SubName (MQCFST)

変更するサブスクリプション定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_SUB_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_SUB_NAME_LENGTH です。

少なくとも *TopicObject* または *TopicString* のいずれかが必要です。

TopicObject (MQCFST)

サブスクリプションのトピック名の取得先である、定義済みトピック・オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。パラメーターが受け入れられても、Change Subscription の元の値と異なる値を指定することはできません。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

TopicString (MQCFST)

解決されたトピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change Subscription、Copy Subscription、および Create Subscription)



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの処理方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで処理されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーがキュー共有グループ内でアクティブである場合に限り、そのキュー・マネージャーで処理されます。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで処理され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Destination (MQCFST)

宛先 (パラメーター ID: MQCACF_DESTINATION)。

このサブスクリプションのメッセージが書き込まれる別名、ローカル、リモート、またはクラスター・キューの名前を指定します。

このパラメーターは、*DestinationClass* が MQDC_PROVIDED に設定された場合は必須ですが、*DestinationClass* が MQDC_MANAGED に設定された場合は適用されません。

DestinationClass (MQCFIN)

宛先クラス (パラメーター ID: MQIACF_DESTINATION_CLASS)。

宛先が管理対象かどうかを指定します。

次のどちらかを指定します。

MQDC_MANAGED

宛先は管理対象。

MQDC_PROVIDED

宛先キューは、 *Destination* フィールドに指定されているとおりです。

パラメーターが受け入れられても、Change Subscription の元の値と異なる値を指定することはできません。

DestinationCorrelId (MQCFBS)

宛先相関 ID (パラメーター ID: MQBACF_DESTINATION_CORREL_ID)。

このサブスクリプションに送信されるすべてのメッセージのメッセージ記述子の *CorrelId* フィールドに入れられる相関 ID を指定します。

最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

DestinationQueueManager (MQCFST)

宛先キュー・マネージャー (パラメーター ID: MQCACF_DESTINATION_Q_MGR)。

サブスクリプションのメッセージを転送する宛先キュー・マネージャー (ローカルでもリモートでも可) の名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

Expiry (MQCFIN)

サブスクリプション作成日時以降でサブスクリプションの有効期限が切れる 1/10 秒単位の時刻 (パラメーター ID: MQIACF_EXPIRY)。

デフォルト値 MQEI_UNLIMITED は、サブスクリプションの有効期限が切れないことを意味します。

サブスクリプションは有効期限が切れると、キュー・マネージャーによる廃棄対象となり、以後パブリケーションを受け取ることはありません。

PublishedAccountingToken (MQCFBS)

メッセージ記述子の *AccountingToken* フィールドで使用するアカウントティング・トークンの値 (パラメーター ID: MQBACF_ACCOUNTING_TOKEN)。

ストリングの最大長は MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH です。

PublishedApplicationIdentifier (MQCFST)

メッセージ記述子の *ApplIdentityData* フィールドで使用するアプリケーション ID データの値 (パラメーター ID: MQCACF_APPL_IDENTITY_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH です。

PublishPriority (MQCFIN)

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度 (パラメーター ID: MQIACF_PUB_PRIORITY)。

値は次のいずれかです。

MQPRI_PRIORITY_AS_PUBLISHED

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、パブリッシュされたメッセージの優先度から取得されます。この値は提供されたデフォルト値です。

MQPRI_PRIORITY_AS_QDEF

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、宛先として定義されたキューのデフォルト優先度によって決まります。

0-9

このサブスクリプションに送信されたメッセージの明示的優先度を指定する整数値。

PublishSubscribeProperties (MQCFIN)

このサブスクリプションに送信されたメッセージに、パブリッシュ/サブスクライブ関連 メッセージ・プロパティを追加する方法を指定します (パラメーター ID: MQIACF_PUBSUB_PROPERTIES)。

値は次のいずれかです。

MQPSPROP_COMPAT

オリジナルのパブリケーションが PCF メッセージである場合、パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは PCF 属性として追加されます。それ以外の場合、パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは MQRFH バージョン 1 ヘッダー内で追加されます。この方法は、IBM MQ の旧バージョンで使用するためにコーディングされたアプリケーションと互換性があります。

MQPSPROP_NONE

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティをメッセージに追加しません。この値は提供されたデフォルト値です。

MQPSPROP_RFH2

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは MQRFH バージョン 2 ヘッダー内で追加されます。この方法は、WebSphere Message Broker で使用するためにコーディングされたアプリケーションと互換性があります。

Selector (MQCFST)

トピックに対してパブリッシュされたメッセージに適用されるセレクトアを指定します (パラメーター ID: MQCACF_SUB_SELECTOR)。パラメーターが受け入れられても、Change Subscription の元の値と異なる値を指定することはできません。

選択基準を満たすメッセージのみが、このサブスクリプションで指定された宛先に書き込まれます。

ストリングの最大長は MQ_SELECTOR_LENGTH です。

SubscriptionLevel (MQCFIN)

このサブスクリプションが作成されるサブスクリプション・インターセプト階層内のレベル (パラメーター ID: MQIACF_SUB_LEVEL)。インターセプト・アプリケーションが、他のサブスクライバーより前にメッセージを受信するには、インターセプト・アプリケーションがすべてのサブスクライバーの中で最も高いサブスクリプション・レベルを持つようにします。

値は次のいずれかです。

0 - 9

0 から 9 の範囲の整数。デフォルト値は 1 です。サブスクリプション・レベルが 9 のサブスクライバーは、パブリケーションがより低いサブスクリプション・レベルのサブスクライバーに到達する前に、パブリケーションをインターセプトします。

SubscriptionScope (MQCFIN)

このサブスクリプションをネットワーク内の他のキュー・マネージャーに渡すかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIACF_SUBSCRIPTION_SCOPE)。パラメーターが受け入れられても、Change Subscription の元の値と異なる値を指定することはできません。

値は次のいずれかです。

MQTSOPE_ALL

パブリッシュ/サブスクライブの集合または階層で直接接続されているすべてのキュー・マネージャーにサブスクリプションを転送します。この値は提供されたデフォルト値です。

MQTSOPE_QMGR

サブスクリプションは、このキュー・マネージャー内でトピックにパブリッシュされたメッセージのみを転送します。

SubscriptionUser (MQCFST)

このサブスクリプションを「所有する」ユーザー ID。このパラメーターは、サブスクリプションの作成者に関連付けられているユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可されている場合は、サブスクリプションを直近に引き継いだユーザー ID です。 (パラメーター ID: MQCACF_SUB_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

TopicString (MQCFST)

解決されたトピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。パラメーターが受け入れられても、Change Subscription の元の値と異なる値を指定することはできません。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

Userdata (MQCFST)

ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACF_SUB_USER_DATA)。

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。

ストリングの最大長は MQ_USER_DATA_LENGTH です。

VariableUser (MQCFST)

サブスクリプションを作成したユーザー (SubscriptionUser に示されているユーザー) 以外のユーザーがサブスクリプションの所有権を引き継ぐことができるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_VARIABLE_USER_ID)。

値は次のいずれかです。

MQVU_ANY_USER
どのユーザーも所有権を引き継ぐことができます。この値は提供されたデフォルト値です。

MQVU_FIXED_USER
他のユーザーが所有権を引き継ぐことはできません。

WildcardSchema (MQCFIN)

TopicString に含まれるワイルドカード文字を解釈するときに使用するスキーマを指定します (パラメーター ID: MQIACF_WILDCARD_SCHEMA)。パラメーターが受け入れられても、Change Subscription の元の値と異なる値を指定することはできません。

値は次のいずれかです。

MQWS_CHAR
ワイルドカード文字は、IBM MQ V6.0 ブローカーとの互換性のために用意されているストリングを表します。

MQWS_TOPIC
ワイルドカード文字は、WebSphere Message Broker との互換性のために用意されているトピック階層の一部を表します。この値は提供されたデフォルト値です。

Change Topic、Copy Topic、および Create Topic

Change Topic コマンドは既存のトピック定義を変更します。Copy Topic コマンドおよび Create Topic コマンドは新しいトピック定義を作成します。この Copy コマンドは既存のトピック定義の属性値を使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

Change Topic (MQCMD_CHANGE_TOPIC) コマンドは、既存の IBM MQ 管理トピック定義について指定の属性を変更します。省略されたオプション・パラメーターについては、その値は変更されません。

Copy Topic (MQCMD_COPY_TOPIC) コマンドは、IBM MQ 管理トピック定義を作成します。コマンドで指定しなかった属性については、既存のトピック定義の属性値が使用されます。

Create Topic (MQCMD_CREATE_TOPIC) コマンドは、IBM MQ 管理トピック定義を作成します。明示的に定義されていない属性は、すべて宛先キュー・マネージャーのデフォルト値に設定されます。

必須パラメーター (Change Topic):

TopicName (MQCFST)

変更する管理トピック定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Copy Topic)

FromTopicName (MQCFST)

コピー元の管理トピック・オブジェクト定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_TOPIC_NAME)。

 z/OS では、キュー・マネージャーは、指定された名前を持ち、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY の属性指定を持つオブジェクトをコピー元として検索します。QSGDisposition に値 MQQSGD_COPY が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。この場合、ToTopicName で指定された名前と特性 MQQSGD_GROUP を持つオブジェクトがコピー元として検索されます。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

TopicString (MQCFST)

トピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。このストリングでは、トピック・ツリー内の要素の区切り文字としてスラッシュ (/) 文字が使用されます。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

ToTopicName (MQCFST)

コピー先の管理トピック定義の名前 (パラメーター ID: MQCACF_TO_TOPIC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

必須パラメーター (Create Topic)

TopicName (MQCFST)

作成する管理トピック定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

TopicString (MQCFST)

トピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。

このパラメーターは必須で、空ストリングを含むことはできません。このストリング内の「/」文字には、特別な意味があります。これは、トピック・ツリー内の要素を区切るために使用されます。トピック・ストリングの先頭は「/」文字にできますが、必須ではありません。「/」文字で始まるストリングは、「/」文字で始まらないストリングとは異なります。トピック・ストリングの末尾に「/」文字を使用することはできません。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Change Topic、Copy Topic、および Create Topic)

ClusterName (MQCFST)

このトピックが属するクラスターの名前。(パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。このキュー・マネージャーがメンバーになっているクラスターにこのパラメーターを設定すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがこのトピックを認識します。このクラスター内の任意のキュー・マネージャーに書き込まれたこのトピックまたはその下位のトピック・ストリングのパブリケーションは、クラスター内のその他のキュー・マネージャーのサブスクリプションに伝搬されます。詳しくは、[分散パブリッシュ/サブスクライブのネットワーク](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

ブランク

トピック・ツリー内のこのトピックより上のトピック・オブジェクトで、このパラメーターがクラスター名に設定されているものがない場合、このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。トピック・ツリー内の上位トピック・ノードでクラスター名が設定されている場合は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションもクラスター全体に伝搬されます。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

ストリング

トピックは、このクラスターに所属します。トピック・ツリー内のこのトピック・オブジェクトより上位のトピック・オブジェクトと異なるクラスターにこれを設定することは推奨されません。クラスター内の他のキュー・マネージャーでは、同じ名前のローカル定義がキュー・マネージャーに存在しない場合は、このオブジェクトの定義が使用されます。

また、PublicationScope または SubscriptionScope が MQSCOPE_ALL に設定されている場合、この値は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションを、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬するために使用されるクラスターです。

ClusterPubRoute (MQCFIN)

同一クラスター内のキュー・マネージャー間のパブリケーションのルーティングの動作 (パラメーター ID: MQIA_CLUSTER_PUB_ROUTE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLROUTE_DIRECT

直接経路指定されたクラスター・トピックをキュー・マネージャーで構成すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがクラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーを認識するようになります。各キュー・マネージャーは、パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を実行するときに、クラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーに直接接続できます。

MQCLROUTE_TOPIC_HOST

トピック・ホスト経路指定を使用すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーは、経路指定されたトピック定義をホストするクラスター・キュー・マネージャー (つまり、トピック・オブジェクトを定義したキュー・マネージャー) を認識するようになります。パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を行うとき、クラスター内のキュー・マネージャーは、それらのトピック・ホスト・キュー・マネージャーにのみ接続し、相互に直接接続されることはありません。トピック・ホスト・キュー・マネージャーは、パブリケーションがパブリッシュされるキュー・マネージャーから、一致するサブスクリプションがあるキュー・マネージャーへのパブリケーションの経路指定を担当します。

トピック・オブジェクトがクラスター化された後 (**CLUSTER** プロパティを設定することによって)、**CLROUTE** プロパティの値を変更することはできません。値を変更するには、その前にオブジェクトのクラスター化を解除 (**CLUSTER** を ' ' に設定) する必要があります。トピックのクラスター化を解除すると、トピック定義はローカル・トピックに変換されます。これによって、パブリケーションがリモート・キュー・マネージャーのサブスクリプションに送信されない期間ができます。この変更を行う場合は、この点を考慮する必要があります。別のキュー・マネージャーのクラスター・トピックと同じ名前でも非クラスター・トピックを定義する効果を参照してください。クラスター化されている状態で **CLROUTE** プロパティの値を変更しようとする、システムは **MQRCCF_CLROUTE_NOT_ALTERABLE** 例外を生成します。

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのルーティング: 動作に関する注 および パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの設計も参照してください。

z/OS CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommunicationInformation (MQCFST)

マルチキャスト通信情報オブジェクト (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

Custom (MQCFST)

新機能用カスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

V8.0.0.4 この属性には属性の値を含めます。属性の値として、属性名と値の各ペアを 1 つ以上のスペースで分離します。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。単一引用符は、別の単一引用符でエスケープする必要があります。

CAEXPRY (integer)

このオブジェクトからプロパティを継承するトピックにパブリッシュされたメッセージが有効期限処理の対象となるまでシステムに存続する最大時間 (10 分の 1 秒単位で表現)。

メッセージ有効期限処理について詳しくは、[有効期限を強制的に短くする](#)を参照してください。

以下のいずれかを値にすることができます。

integer

1 から 999 999 999 までの範囲の値でなければなりません。

NOLIMIT

このオブジェクトを使用して書き込まれたメッセージの有効期限時間には制限がありません。

ASARENT

最大メッセージ有効期限時刻は、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。これはデフォルト値です。

CAEXPRY に無効値を指定しても、コマンドの失敗にはなりません。代わりに、デフォルト値が使用されます。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA_TOPIC_DEF_PERSISTENCE)。

トピックに対してパブリッシュされるメッセージのメッセージ持続性のデフォルトを指定します。メッセージ持続性によって、メッセージがキュー・マネージャーの再開後も保持されるかどうかが決まります。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPER_PERSISTENCE_AS_PARENT

デフォルトの持続性は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルト優先度 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PRIORITY)。

トピックに対してパブリッシュされたメッセージのデフォルトの優先度を指定します。

次のどちらかを指定します。

integer

使用するデフォルトの優先順位。0 から、サポートされる最大の優先順位の値 (9) の範囲です。

MQPRI_PRIORITY_AS_PARENT

デフォルトの優先順位は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

DefPutResponse (MQCFIN)

デフォルト書き込み応答 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQPRT_ASYNC_RESPONSE

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

MQPRT_RESPONSE_AS_PARENT

デフォルトの書き込み応答は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて行われます。

MQPRT_SYNC_RESPONSE

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

DurableModelQName (MQCFST)

永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_MODEL_DURABLE_Q)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DurableSubscriptions (MQCFIN)

アプリケーションが永続サブスクリプションの作成を許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_DURABLE_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQSUB_DURABLE_AS_PARENT

永続サブスクリプションが許可されるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQSUB_DURABLE_ALLOWED

永続サブスクリプションが許可されています。

MQSUB_DURABLE_INHIBITED

永続サブスクリプションは許可されていません。

InhibitPublications (MQCFIN)

このトピックでパブリケーションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_PUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PUB_AS_PARENT

メッセージをこのトピックでパブリッシュできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_PUB_INHIBITED

このトピックではパブリケーションは禁止されています。

MQTA_PUB_ALLOWED

このトピックではパブリケーションが許可されています。

InhibitSubscriptions (MQCFIN)

このトピックでサブスクリプションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_SUB_AS_PARENT

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_SUB_INHIBITED

このトピックではサブスクリプションは禁止されています。

MQTA_SUB_ALLOWED

このトピックではサブスクリプションが許可されています。

Multicast (MQCFIN)

トピック・ツリーでマルチキャストを許容するかどうか (パラメーター ID: MQIA_MULTICAST)。

値は次のいずれかです。

MQMC_AS_PARENT

このトピックでマルチキャストを許容するかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQMC_ENABLED

このトピックではマルチキャストが許容されています。

MQMC_DISABLED

このトピックではマルチキャストが許容されていません。

MQMC_ONLY

このトピックでは、マルチキャストを使用して作成されたサブスクリプションとパブリケーションのみ許容されています。

NonDurableModelQName (MQCFST)

非永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_MODEL_NON_DURABLE_Q)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

NonPersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックに対してパブリッシュされる非持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA_NPM_DELIVERY)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非永続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

PersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックに対してパブリッシュされる持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA_PM_DELIVERY)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの永続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達に失敗すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ProxySubscriptions (MQCFIN)

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、このトピックのプロキシ・サブスクリプションを直接接続されたキュー・マネージャーに送信するかどうか (パラメーター ID: MQIA_PROXY_SUB)。値は次のいずれかです。

MQTA_PROXY_SUB_FORCE

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、プロキシ・サブスクリプションは接続されているキュー・マネージャーに送信されます。

注: プロキシ・サブスクリプションは、この値がトピックの Create または Change で設定されたときに送信されます。

MQTA_PROXY_SUB_FIRSTUSE

以下のシナリオにおいて、このトピック・オブジェクトまたはその下位にある固有トピック・ストリングごとに、プロキシ・サブスクリプションがすべての近隣キュー・マネージャーに非同期で送信されます。

- ローカル・サブスクリプションが作成される場合。
- 直接接続されたキュー・マネージャーにさらに伝搬する必要のあるプロキシ・サブスクリプションを受信した場合。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

PublicationScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがこのトピックのパブリケーションを伝搬する対象は、階層の一部となっているキュー・マネージャーか、それともパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部となっているキュー・マネージャーか (パラメーター ID: MQIA_PUB_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがこのトピックのパブリケーションを伝搬する対象が階層の一部となっているキュー・マネージャーであるか、それともパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部となっているキュー・マネージャーであるかは、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのパブリケーションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

MQSCOPE_ALL

このトピックのパブリケーションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

注: この動作は、書き込みメッセージ・オプションで MQPMO_SCOPE_QMGR を使用して、パブリケーションごとに指定変更できます。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

QSGDisposition	変更	Copy、Create
MQQSGD_COPY	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。	オブジェクトは、 <i>ToTopicName</i> オブジェクト (コピーの場合) または <i>TopicName</i> オブジェクト (作成の場合) と同じ名前の MQQSGD_GROUP オブジェクトを使用してコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。
MQQSGD_GROUP	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を持つコマンドを使用して定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。 コマンドが正常に実行されると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット 0 上のローカル・コピーのリフレッシュが行われます。 <pre>DEFINE TOPIC(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Change は、QSGDISP(COPY) を含んだ生成されたコマンドが失敗するかどうかに関係なく有効になります。	オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。この定義は、キュー・マネージャーがキュー共有グループにある場合にのみ許可されます。 定義が正常に行われると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット 0 上のローカル・コピーの作成またはリフレッシュが行われます。 <pre>DEFINE TOPIC(name) REPLACE QSGDISP(COPY)</pre> グループ・オブジェクトの Copy または Create は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドの成否にかかわらず有効です。
MQQSGD_PRIVATE	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあり、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY で定義されています。共有リポジトリにあるオブジェクトはいずれも影響を受けません。	許可されません。
MQQSGD_Q_MGR	オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を持つコマンドを使用して定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。この値がデフォルト値です。	オブジェクトは、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットで定義されます。この値がデフォルト値です。

Replace (MQCFIN)

置換属性 (パラメーター ID: MQIACF_REPLACE)。

このパラメーターは、*ToTopicName* と同じ名前のトピック定義が存在する場合に、その定義を置換するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです。

MQRP_YES

既存の定義を置き換えます。

MQRP_NO

既存の定義を置き換えません。

SubscriptionScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがこのトピックのサブスクリプションを伝搬する対象は、階層の一部となっているキュー・マネージャーか、それともパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部となっているキュー・マネージャーか (パラメーター ID: MQIA_SUB_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがこのトピックのサブスクリプションを伝搬する対象が階層の一部となっているキュー・マネージャーであるか、それともパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部となっているキュー・マネージャーであるかは、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのサブスクリプションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

MQSCOPE_ALL

このトピックに対するサブスクリプションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

注: この動作は、サブスクリプション記述子で *MQSO_SCOPE_QMGR* を、または *DEFINE SUB* で *SUBSCOPE(QMGR)* を使用して、サブスクリプションごとに指定変更できます。

TopicDesc (MQCFST)

トピック記述 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_DESC)。

オブジェクトについて簡潔に記述するテキストです。

最大長は *MQ_TOPIC_DESC_LENGTH* です。

このテキストを別のキュー・マネージャーに送信する場合は、テキストを正しく変換するために、コマンドが実行されるメッセージ・キュー・マネージャーのコード化文字セット ID (CCSID) によって識別される文字セットの文字を使用してください。

TopicType (MQCFIN)

トピック・タイプ (パラメーター ID: MQIA_TOPIC_TYPE)。

指定する値は、変更するトピックのタイプと一致させる必要があります。値は次のいずれかです。

MQTOPT_LOCAL

ローカル・トピック・オブジェクト

UseDLQ (MQCFIN)

パブリケーション・メッセージをそれらの正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します (パラメーター ID: MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUSEDLQ_AS_PARENT

トピック・ツリー内で最も近い管理トピック・オブジェクトの設定を使用して、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。この値は、IBM MQ で提供されるデフォルトですが、ご使用のインストール済み環境では変更されている可能性があります。

MQUSEDLQ_NO

正しいサブスクライバー・キューに配信できないパブリケーション・メッセージは、メッセージの書き込み失敗として処理されます。トピックに対するアプリケーションの MQPUT の失敗は、MQIA_NPM_DELIVERY および MQIA_PM_DELIVERY の設定に基づきます。

MQUSEDLQ_YES

DEADQ キュー・マネージャーの属性が送達不能キューの名前を提供している場合は、それが使用されます。提供されていない場合、動作は MQUSEDLQ_NO の場合のようになります。

WildcardOperation (MQCFIN)

このトピックに対するワイルドカードを含むサブスクリプションの動作 (パラメーター ID: MQIA_WILDCARD_OPERATION)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PASSTHRU

より限定的でないワイルドカード・サブスクリプションは、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でない、ワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションです。MQTA_PASSTHRU を指定すると、より限定的でないワイルドカード・サブスクリプションは、このトピックに対して行われるパブリケーション、およびこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受信できます。この値は、IBM MQ で提供されているデフォルトです。

MQTA_BLOCK

より限定的でないワイルドカード・サブスクリプションは、このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でない、ワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションです。MQTA_BLOCK を指定すると、より限定的でないワイルドカード・サブスクリプションは、このトピックに対して行われるパブリケーション、およびこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受信できなくなります。

この属性のこの値は、サブスクリプションの定義時に使用されます。この属性を変更しても、既存のサブスクリプションによってカバーされているトピック・セットは、変更による影響を受けません。この値は、トピック・オブジェクトの作成または削除時にトポロジが変更される場合にも適用されます。WildcardOperation 属性の変更後に作成されたサブスクリプションに一致するトピック・セットは、変更されたトポロジを使用して作成されます。既存のサブスクリプションについて、一致するトピック・セットを強制的に再評価する場合は、キュー・マネージャーを再開する必要があります。

Clear Queue

Clear Queue (MQCMD_CLEAR_Q) コマンドは、すべてのメッセージをローカル・キューから削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

キューにコミットされていないメッセージが含まれている場合、コマンドは失敗します。

必要なパラメーター

QName(MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

消去するローカル・キューの名前。ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

注: ターゲット・キューのタイプはローカルでなければなりません。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_PRIVATE

QName で指定された専用キューをクリアします。キューは、属性 MQQSGD_PRIVATE または MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して作成された場合、専用になります。この値がデフォルト値です。

MQQSGD_SHARED

QName で指定された共有キューをクリアします。キューは、属性 MQQSGD_SHARED が指定されたコマンドを使用して作成された場合は共有になります。この値はローカル・キューにのみ適用されます。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_Q_NOT_EMPTY

(2055, X'807') メッセージ、またはコミットされていない書き込み要求か取得要求が、1 つ以上キューに入っています。

コミットされていない更新がある場合にのみ、この理由が発生します。

MQRCCF_Q_WRONG_TYPE

指定されたタイプのキューに対して無効なアクションです。

Clear Topic String

Clear Topic String (MQCMD_CLEAR_TOPIC_STRING) コマンドは、指定されたトピックの保存メッセージをクリアします。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

TopicString (MQCFST)

トピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。

クリアするトピック・ストリング。ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

ClearType (MQCFIN)

クリア・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_CLEAR_TYPE)。

実行するクリア・コマンドのタイプを指定します。値は次のものでなければなりません。

MQCLRT_RETAINED - 指定したトピック・ストリングから保存パブリケーションを削除します。

オプション・パラメーター

Scope (MQCFIN)

クリアの有効範囲 (パラメーター ID: MQIACF_CLEAR_SCOPE)。

トピック・ストリングをローカルにクリアするか、グローバルにクリアするかを指定します。値は次のいずれかです。

MQCLRS_LOCAL

ローカル・キュー・マネージャーでのみ、指定したトピック・ストリングから保存メッセージが削除される。

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Delete Authentication Information Object

Delete authentication information (MQCMD_DELETE_AUTH_INFO) コマンドは、指定された認証情報オブジェクトを削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

AuthInfoName (MQCFST)

認証情報名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクト定義は、このコマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドで定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を使用するコマンドによって定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、以下の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE AUTHINFO(name) QSGDISP(COPY)
```

グループ・オブジェクトの削除は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても有効です。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

Delete Authority Record

Delete Authority Record (MQCMD_DELETE_AUTH_REC) コマンドは、権限レコードを削除します。指定されたプロファイルに関連付けられていた権限は、そのプロファイルと同じ名前の IBM MQ オブジェクトに適用されなくなります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ObjectType (MQCFIN)

許可を削除するオブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報

MQOT_CHANNEL

チャンネル・オブジェクト。

MQOT_CLNTCONN_CHANNEL

クライアント接続チャンネル・オブジェクト。

MQOT_COMM_INFO

通信情報オブジェクト

MQOT_LISTENER

リスナー・オブジェクト。

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス。

MQOT_Q

オブジェクト名パラメーターに一致するキュー (1 つまたは複数)。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_REMOTE_Q_MGR_NAME

リモート・キュー・マネージャー。

MQOT_SERVICE

サービス・オブジェクト。

MQOT_TOPIC

トピック・オブジェクト。

ProfileName (MQCFST)

削除するプロファイルの名前 (パラメーター ID: MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME)。

総称プロファイルを定義していた場合は、ワイルドカード文字を使用して、削除する名前付き総称プロファイルを指定することができます。明示的なプロファイル名を指定する場合は、そのオブジェクトが存在していなければなりません。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

GroupNames (MQCFSL)

グループ名 (パラメーター ID: MQCACF_GROUP_ENTITY_NAMES)。

削除するプロファイルを所有するグループの名前。少なくとも 1 つのグループ名またはプリンシパル名を指定する必要があります。どちらも指定しないと、エラーが発生します。

このリストの各メンバーの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

PrincipalNames (MQCFSL)

プリンシパル名 (パラメーター ID: MQCACF_PRINCIPAL_ENTITY_NAMES)。

削除するプロファイルを所有するプリンシパルの名前。少なくとも 1 つのグループ名またはプリンシパル名を指定する必要があります。どちらも指定しないと、エラーが発生します。

このリストの各メンバーの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

エラー・コード (Delete Authority Record)

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_OBJECT_TYPE_ERROR

オブジェクト・タイプが無効です。

MQRC_UNKNOWN_ENTITY

ユーザー ID が許可されていないか、または不明です。

MQRCCF_ENTITY_NAME_MISSING

エンティティ名が指定されていません。

MQRCCF_OBJECT_TYPE_MISSING

オブジェクト・タイプが指定されていません。

MQRCCF_PROFILE_NAME_ERROR

プロファイル名が無効です。

Delete CF Structure

Delete CF Structure (MQCMD_DELETE_CF_STRUC) コマンドは、既存の CF アプリケーション構造定義を削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注: このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみサポートされます。

必要なパラメーター

CFStrucName (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

削除する CF アプリケーション構造定義。ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

Delete Channel

Delete Channel (MQCMD_DELETE_CHANNEL) コマンドは、指定されたチャネル定義を削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

削除するチャンネル定義の名前。 スtringの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

パラメーターの説明に特に記載されていない限り、以下の属性は MQTT チャンネルには適用できません。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。 このパラメーターは、現在は MQTT テレメトリー・チャンネルに対してのみ使用します。テレメトリー・チャンネルを削除するときになります。 このパラメーターに指定できる値は、現在 MQCHT_MQTT のみです。

ChannelTable(MQCFIN)

チャンネル・テーブル (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TABLE)。

指定されたチャンネル定義が入っている チャンネル定義テーブルの所有権について指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHTAB_Q_MGR

キュー・マネージャーのテーブル。

MQCHTAB_Q_MGR がデフォルトです。 このテーブルには、MQCHT_CLNTCONN を除くすべてのタイプのチャンネルのチャンネル定義が入っています。

MQCHTAB_CLNTCONN

クライアント接続テーブル。

このテーブルには、MQCHT_CLNTCONN のタイプのチャンネルのチャンネル定義のみ入っています。

このパラメーターは、IBM MQ Telemetry には適用されません。

▶ z/OS CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。 以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

▶ z/OS QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を使用するコマンドによって定義されました。 共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を使用しているコマンドによって定義されました。 コマンドを実行するキュー

ー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、以下の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE CHANNEL(name) QSGDISP(COPY)
```

グループ・オブジェクトの削除は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても有効です。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

エラー・コード

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TABLE_ERROR

チャンネル・テーブル値が無効です。

Delete Channel (MQTT)

Delete Telemetry Channel (MQCMD_DELETE_CHANNEL) コマンドは、指定されたチャンネル定義を削除します。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

削除するチャンネル定義の名前。 スtringの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。テレメトリー・チャンネルを削除するときに必要です。このパラメーターに指定できる値は、現在 **MQCHT_MQTT** のみです。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TABLE_ERROR

チャンネル・テーブル値が無効です。

Delete Channel Listener

Delete Channel Listener (MQCMD_DELETE_LISTENER) コマンドは、既存のチャンネル・リスナー定義を削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux システム	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ListenerName (MQCFST)

リスナー名 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

このパラメーターは、削除するリスナー定義の名前です。ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

Delete Communication Information Object

Delete Communication Information Object (MQCMD_DELETE_COMM_INFO) コマンドは、指定された通信情報オブジェクトを削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必須パラメーター

CommInfoName (MQCFST)

削除する通信情報定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

Delete Namelist

Delete Namelist (MQCMD_DELETE_NAMELIST) コマンドは、既存の名前リスト定義を削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

NamelistName (MQCFST)

名前リストの名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_NAME)。

このパラメーターは、削除する名前リスト定義の名前です。ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を使用するコマンドによって定義されました。 共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を使用するコマンドによって定義されました。 コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、以下の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーに送信されます。 これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE NAMELIST(name) QSGDISP(COPY)
```

グループ・オブジェクトの削除は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても有効です。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されました。 共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

ポリシーの削除

削除ポリシー (MQCMD_DELETE_PROT_POLICY) コマンドは、セキュリティー・ポリシーを削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

Policy-name (MQCFST)

削除するセキュリティー・ポリシーの名前 (パラメーター ID: MQCA_POLICY_NAME)。

削除するポリシーの名前は、そのポリシーで制御されるキューの名前と同じです。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

エラー・コード (Delete Security Policy)

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_OBJECT_TYPE_ERROR

オブジェクト・タイプが無効です。

MQRCCF_POLICY_NAME_ERROR

ポリシー名が無効です。

Delete Process

Delete Process (MQCMD_DELETE_PROCESS) コマンドは、既存のプロセス定義を削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ProcessName(MQCFST)

プロセス名 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

削除するプロセス定義。ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を使用するコマンドによって定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、以下の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE PROCESS(name) QSGDISP(COPY)
```

グループ・オブジェクトの削除は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても有効です。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

Delete Queue

Delete Queue (MQCMD_DELETE_Q) コマンドは、キューを削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

QName(MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

削除するキューの名前です。

キューの *Scope* 属性が MQSCO_CELL の場合、キューの項目がセル・ディレクトリーから削除されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

Authrec (MQCFIN)

Authrec (パラメーター ID: MQIACF_REMOVE_AUTHREC)。

関連付けられた権限レコードも削除するかどうかを指定します。

このパラメーターは z/OS には適用されません。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRAR_YES

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除します。これがデフォルトです。

MQRAR_NO

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除しません。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Purge (MQCFIN)

キューを消去します (パラメーター ID: MQIACF_PURGE)。

キューにメッセージがある場合は、MQPO_YES が指定されていなければなりません。指定されていない場合、このコマンドは失敗します。このパラメーターがない場合、キューは消去されません。

ローカル・タイプのキューに対してのみ有効です。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPO_YES

キューを消去します。

MQPO_NO

キューを消去しません。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を使用するコマンドによって定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

削除が正常に行われると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE queue(q-name) QSGDISP(COPY)
```

または、ローカル・キューの場合にのみ次のコマンドが生成されます。

DELETE QLOCAL(q-name) NOPURGE QSGDISP(COPY)

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

注: *Purge* に MQPO_YES を指定した場合でも、常に NOPURGE オプションを取得します。キューのローカル・コピー上のメッセージを削除するには、コピーごとに、*QSGDisposition* 値に MQQSGD_COPY、*Purge* 値に MQPO_YES を指定して Delete Queue コマンドを明示的に発行する必要があります。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

MQQSGD_SHARED

ローカル・タイプのキューに対してのみ有効です。

オブジェクトは共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_SHARED を使用しているコマンドによって定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_GROUP を使用したコマンドで定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

QType (MQCFIN)

キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_Q_TYPE)。

このパラメーターが指定されている場合、キューは、指定したタイプのキューでなければなりません。

値は次のいずれかです。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

エラー・コード (Delete Queue)

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_Q_NOT_EMPTY

(2055, X'807') メッセージ、またはコミットされていない書き込み要求か取得要求が、1 つ以上キューに入っています。

Delete Service

Delete Service (MQCMD_DELETE_SERVICE) コマンドは、既存のサービス定義を削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux システム	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ServiceName (MQCFST)

サービス名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

このパラメーターは、削除するサービス定義の名前です。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

Delete Storage Class

Delete Storage Class (MQCMD_DELETE_STG_CLASS) コマンドは、既存のストレージ・クラス定義を削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

StorageClassName (MQCFST)

ストレージ・クラス名 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。

削除するストレージ・クラス定義。ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を使用するコマンドによって定義されました。 共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。 オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を使用するコマンドによって定義されました。 コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

コマンドが正常に実行されると、以下の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブ・キュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーが削除されます。

```
DELETE STGCLASS(name) QSGDISP(COPY)
```

グループ・オブジェクトの削除は、QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても有効です。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

Delete Subscription

Delete Subscription (MQCMD_DELETE_SUBSCRIPTION) コマンドは、サブスクリプションを削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

SubName (MQCFST)

サブスクリプション名 (パラメーター ID: MQCACF_SUB_NAME)。

固有のサブスクリプション名を指定します。サブスクリプション名が提供される場合は、完全に指定する必要があります。ワイルドカードは使用できません。

サブスクリプション名は永続サブスクリプションを参照している必要があります。

SubName を指定しない場合は、削除するサブスクリプションを特定するために SubId を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_SUB_NAME_LENGTH です。

SubId(MQCFBS)

サブスクリプション ID (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

固有の内部サブスクリプション ID を指定します。

SubName の値を指定していない場合は、SubId の値を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの処理方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで処理されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーがキュー共有グループ内でアクティブである場合に限り、そのキュー・マネージャーで処理されます。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで処理され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

Delete Topic

Delete Topic (MQCMD_DELETE_TOPIC) コマンドは、 指定された管理トピック・オブジェクトを削除します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

TopicName (MQCFST)

削除する管理トピック定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

Authrec (MQCFIN)

Authrec (パラメーター ID: MQIACF_REMOVE_AUTHREC)。

関連付けられた権限レコードも削除するかどうかを指定します。

このパラメーターは z/OS には適用されません。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRAR_YES

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除します。 これがデフォルトです。

MQRAR_NO

オブジェクトに関連付けられた権限レコードを削除しません。

z/OS CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。 以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

コマンドを適用するオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_COPY を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはパラメーター MQQSGD_Q_MGR が指定されたコマンドを使用して定義されたオブジェクトはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_GROUP

オブジェクト定義は、共有リポジトリにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_GROUP を使用するコマンドによって定義されました。コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあるオブジェクト (そのオブジェクトのローカル・コピーは除く) はいずれも、このコマンドの影響を受けません。

削除が正常に行われると、次の MQSC コマンドが生成され、キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーに送信されます。これにより、ページ・セット・ゼロ上のローカル・コピーが作成または削除されます。

```
DELETE TOPIC(name) QSGDISP(COPY)
```

QSGDISP(COPY) で生成されたコマンドが失敗しても、グループ・オブジェクトの削除は有効になります。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクト定義は、コマンドを実行するキュー・マネージャーのページ・セットにあります。オブジェクトは、パラメーター MQQSGD_Q_MGR を使用するコマンドによって定義されました。共有リポジトリにあるオブジェクト、またはそのようなオブジェクトのローカル・コピーはいずれも、このコマンドの影響を受けません。

MQQSGD_Q_MGR はデフォルト値です。

Escape

Escape (MQCMD_ESCAPE) コマンドは、任意の IBM MQ コマンド (MQSC) をリモート・キュー・マネージャーに送ります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	

コマンドを送信するキュー・マネージャー (またはアプリケーション) が、特定の IBM MQ コマンドをサポートしないために、そのコマンドを認識せず、必要な PCF コマンドを構成できない場合、Escape コマンドを使用してください。

Escape コマンドを使用して、プログラマブル・コマンド・フォーマットが定義されていないコマンドを送信することもできます。

送信できるコマンドのタイプは、MQSC として識別され、受信側キュー・マネージャーで認識されるタイプのみです。

必要なパラメーター

EscapeType(MQCFIN)

エスケープ・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_ESCAPE_TYPE)。

次の値のみがサポートされます。

MQET_MQSC

IBM MQ コマンド。

EscapeText(MQCFST)

エスケープ・テキスト (パラメーター ID: MQCACF_ESCAPE_TEXT)。

コマンドを保持するストリング。ストリングの長さは、メッセージのサイズによってのみ制限されます。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_ESCAPE_TYPE_ERROR

エスケープ・タイプが無効です。

Escape (応答)

Escape (MQCMD_ESCAPE) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く 2 つのパラメーター構造から構成されます。一方のパラメーター構造にはエスケープ・タイプが格納され、もう一方のパラメーター構造にはテキスト応答が格納されます。Escape 要求に設定されているコマンドによっては、このようなメッセージが複数発行される場合があります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	

応答ヘッダー MQCFH 内の *Command* フィールドには、元の Escape コマンドの *EscapeText* パラメーターで指定したテキスト・コマンドの MQCMD_* コマンド ID が格納されます。例えば、元の Escape コマンドの *EscapeText* パラメーターで PING QMGR を指定した場合は、応答ヘッダーの *Command* フィールドに MQCMD_PING_Q_MGR という値が格納されます。

コマンドの結果が判別可能な場合には、コマンドが正常に実行されたかどうかは応答ヘッダー内の *CompCode* によって識別されます。したがって、正常に実行されたかどうかは、応答の受信側が応答のテキストを解析する必要もなく判別できます。

コマンドの結果が判別できない場合には、応答ヘッダー内の *CompCode* の値は MQCC_UNKNOWN になり、*Reason* の値は MQRC_NONE になります。

Parameters

EscapeType(MQCFIN)

エスケープ・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_ESCAPE_TYPE)。

次の値のみがサポートされます。

MQET_MQSC

IBM MQ コマンド。

EscapeText(MQCFST)

エスケープ・テキスト (パラメーター ID: MQCACF_ESCAPE_TEXT)。

元のコマンドに対する応答を保持するストリング。

▶ z/OS Inquire Archive

Inquire Archive (MQCMD_INQUIRE_ARCHIVE) コマンドは、アーカイブ・システム・パラメーターおよび情報を返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS Inquire Archive (応答)

Inquire Archive (MQCMD_INQUIRE_ARCHIVE) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ParameterType* 構造、および *ParameterType* の値に応じて 組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

常に返されるデータ:

ParameterType は、返されるアーカイブ情報のタイプを指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_TYPE_INITIAL

アーカイブ・パラメーターの初期設定値。

MQSYSP_TYPE_SET

初期設定以後に変更された場合のアーカイブ・パラメーターの設定。

MQSYSP_TYPE_ARCHIVE_TAPE

磁気テープ装置に関連するパラメーター (使用されている場合)。 アーカイブ・ロギングに使用されている磁気テープ装置 1 台につき 1 つ、このようなメッセージがあります。

***ParameterType* が MQSYSP_TYPE_INITIAL の場合に返されるデータ (1 メッセージが返されます):**

AllocPrimary, AllocSecondary, AllocUnits, ArchivePrefix1, ArchivePrefix2, ArchiveRetention, ArchiveUnit1, ArchiveUnit2, ArchiveWTOR, BlockSize, Catalog, Compact, Protect, QuiesceInterval, RoutingCode, TimeStampFormat

***ParameterType* が MQSYSP_TYPE_SET の場合に返されるデータ (1 メッセージが返されます):**

AllocPrimary, AllocSecondary, AllocUnits, ArchivePrefix1, ArchivePrefix2, ArchiveRetention, ArchiveUnit1, ArchiveUnit2, ArchiveWTOR, BlockSize, Catalog, Compact, Protect, QuiesceInterval, RoutingCode, TimeStampFormat

ParameterType が **MQSYSP_TYPE_ARCHIVE_TAPE** の場合に返されるデータ (アーカイブ・ロギングに使用中の磁気テープ装置ごとに 1 メッセージが返されます):

DataSetName, LogCorrelId, UnitAddress, UnitStatus, UnitVolser

応答データ - アーカイブ・パラメーター情報

AllocPrimary (MQCFIN)

DASD データ・セットの 1 次スペース割り振り (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ALLOC_PRIMARY)。

AllocUnits パラメーターに指定した 装置内の DASD データ・セットの 1 次スペース割り振りを指定します。

AllocSecondary (MQCFIN)

DASD データ・セットの 2 次スペース割り振り (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ALLOC_SECONDARY)。

AllocUnits パラメーターに指定した 装置内の DASD データ・セットの 2 次スペース割り振りを指定します。

AllocUnits (MQCFIN)

割り振り単位 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ALLOC_UNIT)。

1 次および 2 次のスペース割り振りが行われる単位を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_ALLOC_BLK

ブロック。

MQSYSP_ALLOC_TRK

トラック。

MQSYSP_ALLOC_CYL

シリンダー。

ArchivePrefix1 (MQCFST)

最初のアーカイブ・ログ・データ・セット名の接頭部 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_PFX1)。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_PFX_LENGTH です。

ArchivePrefix2 (MQCFST)

2 番目のアーカイブ・ログ・データ・セット名の接頭部 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_PFX2)。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_PFX_LENGTH です。

ArchiveRetention (MQCFIN)

アーカイブ保存期間 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ARCHIVE_RETAIN)。

アーカイブ・ログ・データ・セットが作成される場合に使用される保存期間を日数で指定します。

ArchiveUnit1 (MQCFST)

アーカイブ・ログ・データ・セットの最初のコピーを保管するために使用する装置の装置タイプまたは装置名を指定します (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_UNIT1)。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_UNIT_LENGTH です。

ArchiveUnit2 (MQCFST)

アーカイブ・ログ・データ・セットの 2 番目のコピーを保管するために使用する装置の装置タイプまたは装置名を指定します (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_UNIT2)。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_UNIT_LENGTH です。

ArchiveWTOR (MQCFIN)

メッセージをオペレーターに送信し、応答を受信してから、アーカイブ・ログ・データ・セットのマウントを試みるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ARCHIVE_WTOR)。

値は次のいずれかです。

MQSYSP_YES

メッセージを送信し、応答を受信してから、アーカイブ・ログ・データ・セットのマウントを試行します。

MQSYSP_NO

メッセージの送信と応答の受信を行わずに、アーカイブ・ログ・データ・セットのマウントを試行します。

BlockSize (MQCFIN)

アーカイブ・ログ・データ・セットのブロック・サイズ (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_BLOCK_SIZE)。

Catalog (MQCFIN)

アーカイブ・ログ・データ・セットが 1 次統合カタログ機能でカタログされているかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_CATALOG)。

値は次のいずれかです。

MQSYSP_YES

保存ログ・データ・セットはカタログ化されます。

MQSYSP_NO

保存ログ・データ・セットはカタログ化されません。

Compact (MQCFIN)

保存ログに書き込まれたデータを圧縮するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_COMPACT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

データは圧縮されます。

MQSYSP_NO

データは圧縮されません。

Protect (MQCFIN)

外部セキュリティ・マネージャー (ESM) による保護 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_PROTECT)。

アーカイブ・ログ・データ・セットの作成時に ESM プロファイルで保護するかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

ログのオフロード時にデータ・セット・プロファイルを作成します。

MQSYSP_NO

プロファイルは作成されません。

QuiesceInterval (MQCFIN)

静止可能な最大時間 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_QUIESCE_INTERVAL)。

静止可能な最大時間 (秒) を指定します。

RoutingCode (MQCFIL)

z/OS 宛先コード・リスト (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ROUTING_CODE)。

アーカイブ・ログ・データ・セットに関するオペレーター向けメッセージの z/OS 宛先コードのリストを指定します。リストには 1 個から 14 個の項目が入ります。

TimeStampFormat (MQCFIN)

タイム・スタンプの組み込み (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TIMESTAMP)。

保存ログ・データ・セット名にタイム・スタンプを含めるかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

MQSYSP_YES

名前にタイム・スタンプを入れます。

MQSYSP_NO

名前にタイム・スタンプは入りません。

MQSYSP_EXTENDED

名前にタイム・スタンプを入れます。

応答データ - 磁気テープ装置状況情報**DataSetName (MQCFST)**

データ・セット名 (パラメーター ID: MQCACF_DATA_SET_NAME)。

処理中の、または最後に処理されたテープ・ボリューム上のデータ・セット名を指定します。

ストリングの最大長は MQ_DATA_SET_NAME_LENGTH です。

LogCorrelId (MQCFST)

相関 ID (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_LOG_CORREL_ID)。

処理中の磁気テープのユーザーに関連付けられた相関 ID を指定します。このパラメーターは、現行ユーザーがない場合は、ブランクになります。

ストリングの最大長は MQ_LOG_CORREL_ID_LENGTH です。

UnitAddress (MQCFIN)

磁気テープ装置アドレス (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_UNIT_ADDRESS)。

アーカイブ・ログを読み取るために割り振られた磁気テープ装置の物理アドレスを指定します。

UnitStatus (MQCFIN)

磁気テープ装置の状況 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_UNIT_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQSYSP_STATUS_BUSY

磁気テープ装置はビジーで、現在アーカイブ・ログ・データ・セットを処理しています。

MQSYSP_STATUS_PREMOUNT

磁気テープ装置はアクティブで、事前マウント用に割り振られています。

MQSYSP_STATUS_AVAILABLE

磁気テープ装置は使用可能、非アクティブで、作業を待機しています。

MQSYSP_STATUS_UNKNOWN

磁気テープ装置の状況は不明です。

UnitVolser (MQCFST)

マウントされた磁気テープのボリューム通し番号 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_UNIT_VOLSER)。

ストリングの最大長は MQ_VOLSER_LENGTH です。

Inquire Authentication Information Object

Inquire authentication information object (MQCMD_INQUIRE_AUTH_INFO) コマンドは、認証情報オブジェクトの属性を照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター**AuthInfoName (MQCFST)**

認証情報名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_NAME)。

情報が返される認証情報オブジェクトの名前を指定します。

総称認証情報オブジェクト名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべての認証情報オブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

AuthInfoAttrs (MQCFIL)

認証情報オブジェクト属性 (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_INFO_ATTRS)。

属性リストでは、以下の値が指定されています (これは、パラメーターが指定されない場合のデフォルト値です)。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQIA_ADOPT_CONTEXT

アプリケーションのコンテキストとして提供された資格情報を採用します。

MQCA_ALTERATION_DATE

定義が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

定義が最後に変更された時刻。

MQCA_AUTH_INFO_DESC

認証情報オブジェクトの記述。

MQCA_AUTH_INFO_NAME

認証情報オブジェクトの名前。

MQIA_AUTH_INFO_TYPE

認証情報オブジェクトのタイプ。

MQCA_AUTH_INFO_CONN_NAME

認証情報オブジェクトの接続名。

この属性は、**AuthInfoType** を MQAIT_CRL_LDAP または MQAIT_IDPW_LDAP に設定する場合にのみ使用します。

MQIA_AUTHENTICATION_FAIL_DELAY

数秒待機してから、認証エラーがアプリケーションに返されます。

MQIA_AUTHENTICATION_METHOD

ユーザー・パスワードの認証方式。

MQIA_CHECK_CLIENT_BINDING

クライアント・アプリケーションの認証要件。

MQIA_CHECK_LOCAL_BINDING

ローカルにバインドされたアプリケーションの認証要件。

MQIA_LDAP_AUTHORMD

キュー・マネージャーの許可メソッド。

MQCA_LDAP_BASE_DN_GROUPS

LDAP サーバー内のグループの基本識別名。

MQCA_LDAP_BASE_DN_USERS

LDAP サーバー内のユーザーの基本識別名。

MQCA_LDAP_FIND_GROUP_FIELD

グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前。

MQCA_LDAP_GROUP_ATTR_FIELD

グループの単純名を表す LDAP 属性。

MQCA_LDAP_GROUP_OBJECT_CLASS

LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

MQIA_LDAP_NESTGRP

LDAP グループで他のグループのメンバーシップが検査されるかどうか。

MQCA_LDAP_PASSWORD

認証情報オブジェクトの LDAP パスワード。

この属性は、**AuthInfoType** を MQAIT_CRL_LDAP または MQAIT_IDPW_LDAP に設定する場合にのみ使用します。

MQIA_LDAP_SECURE_COMM

LDAP サーバーへの接続が TLS を使用して安全に行われる必要があるかどうか。

MQCA_LDAP_SHORT_USER_FIELD

IBM MQ で短いユーザー名として使用される、LDAP ユーザー・レコード内のフィールド。

MQCA_LDAP_USER_ATTR_FIELD

ユーザー ID に修飾子が含まれていない場合に、アプリケーションによって提供されたユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールド。

MQCA_LDAP_USER_NAME

認証情報オブジェクトの LDAP ユーザー名。

この属性は、**AuthInfoType** を MQAIT_CRL_LDAP または MQAIT_IDPW_LDAP に設定する場合にのみ使用します。

MQCA_LDAP_USER_OBJECT_CLASS

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス。

MQCA_AUTH_INFO_OCSP_URL

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。

AuthInfoType (MQCFIN)

認証情報オブジェクトのタイプ。受け入れられる値は以下のとおりです。

MQAIT_CRL_LDAP

LDAP サーバーに保持されている証明書失効リストを指定する認証情報オブジェクト。

MQAIT_OCSP

OCSP を使用した証明書失効検査を指定する認証情報オブジェクト。

MQAIT_IDPW_OS

オペレーティング・システムを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定する、認証情報オブジェクト。

MQAIT_IDPW_LDAP

LDAP サーバーを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定する、認証情報オブジェクト。

MQAIT_ALL

任意のタイプの認証情報オブジェクト。

 CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

- ・ アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。 パラメーター ID は、MQIACF_ALL を除く、**AuthInfoAttrs** で使用可能な整数タイプ・パラメーターでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、**StringFilterCommand** パラメーターを使用してストリング・フィルターを指定することはできません。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、この値がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。この値は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

QSGDisposition をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

StringFilterCommand (MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_AUTH_INFO_NAME を除く、**AuthInfoAttrs** で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法について詳しくは、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、**IntegerFilterCommand** パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire Authentication Information Object (応答)

Inquire authentication information (MQCMD_INQUIRE_AUTH_INFO) コマンドの応答は、応答ヘッダーと、それに続く *AuthInfoName* 構造、(z/OS の場合のみ *QSGDisposition* 構造、) および要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造 (該当する場合) で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

AuthInfoName **z/OS**, *QSGDisposition*

要求すると返されるデータ:

AdoptContext, *AlterationDate*, *AlterationTime*, *AuthInfoConnName*,
BaseDNGroup, *BaseDNUser*, *AuthInfoType*, *CheckClient*, *CheckLocal*, *ClassUser*,
FailureDelay, *LDAPPassword*, *LDAPUserName*, *OCSPResponderURL*, *SecureComms*,
ShortUser, *UserField*

応答データ

AdoptContext

提供された資格情報をこのアプリケーションのコンテキストとして使用するかどうか。

AlterationDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd の形式の認証情報オブジェクトの変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

AlterationTime (MQCFST)

hh.mm.ss の形式の認証情報オブジェクトの変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

AuthInfoConnName (MQCFST)

認証情報オブジェクトの接続名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_CONN_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_CONN_NAME_LENGTH です。z/OS では、MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

このパラメーターは、AuthInfoType を *MQAIT_CRL_LDAP* または *MQAIT_IDPW_LDAP* に設定する場合にのみ、使用します。

AuthInfoDesc (MQCFST)

認証情報オブジェクトの記述 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_DESC)。

最大長は MQ_AUTH_INFO_DESC_LENGTH です。

AuthInfoName (MQCFST)

認証情報名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

AuthInfoType (MQCFIN)

認証情報オブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIA_AUTH_INFO_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQAIT_CRL_LDAP

この認証情報オブジェクトは、LDAP サーバーに保持されている証明書失効リストを指定します。

MQAIT_OCSP

この認証情報オブジェクトは、OCSP を使用した証明書失効検査を指定します。

MQAIT_IDPW_OS

この認証情報オブジェクトは、オペレーティング・システムを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定します。

MQAIT_IDPW_LDAP

この認証情報オブジェクトは、LDAP サーバーを通じたユーザー ID およびパスワード検査を使用する証明書取り消し検査を指定します。

詳しくは、[セキュリティ](#)を参照してください。

V 8.0.0.3 AuthenticationMethod (MQCFIN)

ユーザー・パスワードの認証方式 (パラメーター ID: MQIA_AUTHENTICATION_METHOD)。指定可能な値は以下のとおりです。

MQAUTHENTICATE_OS

従来の UNIX プラットフォーム パスワード検証方式を使用します。

MQAUTHENTICATE_PAM

交換可能認証方式を使用してユーザー・パスワードを認証します。

PAM 値は UNIX および Linux プラットフォームでのみ設定できます。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_OS* の場合にのみ有効で、IBM MQ for z/OS では無効です。

V 8.0.0.2 AuthorizationMethod (MQCFIN)

キュー・マネージャーの許可メソッド (パラメーター ID: MQIA_LDAP_AUTHORMD)。指定可能な値は以下のとおりです。

MQLDAP_AUTHORMD_OS

オペレーティング・システム・グループを使用して、ユーザーに関連付けられた許可を判別します。

MQLDAP_AUTHORMD_SEARCHGRP

LDAP リポジトリのグループ項目に、そのグループに属するすべてのユーザーをリストする属性が含まれます。

MQLDAP_AUTHORMD_SEARCHUSER

LDAP リポジトリのユーザー項目に、指定のユーザーが属するすべてのグループをリストする属性が含まれます。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

V 8.0.0.2 BaseDNGroup (MQCFST)

グループ名を検出するためには、このパラメーターに、LDAP サーバー内でグループを検索するときに使用する基本 DN を設定する必要があります (パラメーター ID: MQCA_LDAP_BASE_DN_GROUPS)。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効で、**V 8.0.0.2** Windows プラットフォームには適用されません。

ストリングの最大長は MQ_LDAP_BASE_DN_LENGTH です。

BaseDNUser (MQCFST)

短いユーザー名属性 ([ShortUser](#) を参照) を検出するには、このパラメーターに、LDAP サーバー内のユーザーを検索するときに使用する基本 DN を設定する必要があります。

この属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効で必須の属性です (パラメーター ID: MQ_LDAP_BASE_DN_USERS)。

最大長は MQ_LDAP_BASE_DN_LENGTH です。

Checklocal または Checkclient (MQCFIN)

これらの属性は、**AuthInfoType** が *MQAIT_IDPW_OS* または *MQAIT_IDPW_LDAP* の場合にのみ有効です (パラメーター ID MQIA_CHECK_LOCAL_BINDING または MQIA_CHECK_CLIENT_BINDING)。指定できる値は以下のとおりです。

MQCHK_NONE

検査をオフにします。

MQCHK_OPTIONAL

アプリケーションからユーザー ID とパスワードが提供された場合、それらが有効なペアであることを確認します。ただし、それらの提供は必須ではありません。このオプションは、例えばマイグレーションの際に役立つ場合があります。

MQCHK_REQUIRED

すべてのアプリケーションが有効なユーザー ID とパスワードを提供する必要があります。

MQCHK_REQUIRED_ADMIN

特権ユーザーは有効なユーザー ID とパスワードを指定しなければなりませんが、非特権ユーザーは OPTIONAL 設定と同じように扱われます。以下の注も参照してください。  (この設定は z/OS システムでは使用できません。)

ClassGroup (MQCFST)

LDAP リポジトリ内のグループ・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス (パラメーター ID: MQCA_LDAP_GROUP_OBJECT_CLASS)。

この属性は、**AuthInfoType** が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効で、  Windows プラットフォームには適用されません。

Classuser (MQCFST)

LDAP リポジトリ内のユーザー・レコードで使用する LDAP オブジェクト・クラス (パラメーター ID: MQCA_LDAP_USER_OBJECT_CLASS)。

最大長は MQ_LDAP_CLASS_LENGTH です。

FailureDelay (MQCFIN)

ユーザー ID またはパスワードが誤っていたために認証が失敗した場合に、失敗をアプリケーションに返すまでの遅延時間の秒数 (パラメーター ID: MQIA_AUTHENTICATION_FAIL_DELAY)。

FindGroup (MQCFST)

グループ・メンバーシップを判別するために LDAP 項目内で使用される属性の名前 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_FIND_GROUP_FIELD)。

この属性は、**AuthInfoType** が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効で、  Windows プラットフォームには適用されません。

ストリングの最大長は MQ_LDAP_FIELD_LENGTH です。

GroupField (MQCFST)

グループの簡単な名前を表す LDAP 属性 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_GROUP_ATTR_FIELD)。

この属性は、**AuthInfoType** が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効で、  Windows プラットフォームには適用されません。

ストリングの最大長は MQ_LDAP_FIELD_LENGTH です。

GroupNesting (MQCFIN)

グループが他のグループのメンバーになっているかどうか (パラメーター ID: MQIA_LDAP_USE_NESTED_GROUPS)。値は次のいずれかです。

MQLDAP_NESTGRP_NO

最初に見つかったグループのみが、許可の対象となります。

MQLDAP_NESTGRP_YES

ユーザーが属するグループすべてを列挙するために、グループ・リストは再帰的に検索されます。

この属性は、**AuthInfoType** が MQAIT_IDPW_LDAP の場合にのみ有効で、  Windows プラットフォームには適用されません。

LDAPPassword (MQCFST)

LDAP パスワード (パラメーター ID: MQCA_LDAP_PASSWORD)。

最大長は MQ_LDAP_PASSWORD_LENGTH です。

このパラメーターは、AuthInfoType を *MQAIT_CRL_LDAP* または *MQAIT_IDPW_LDAP* に設定する場合にのみ、使用します。

LDAPUserName (MQCFST)

LDAP ユーザー名 (パラメーター ID: MQCA_LDAP_USER_NAME)。

ディレクトリーにバインドするユーザーの識別名。

最大長は MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH です。z/OS では、最大長は MQ_SHORT_DNAME_LENGTH です。

このパラメーターは、AuthInfoType を *MQAIT_CRL_LDAP* または *MQAIT_IDPW_LDAP* に設定する場合にのみ、使用します。

OCSPResponderURL (MQCFST)

証明書の失効の検査に使用される OCSP 応答側の URL。

 QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

SecureComms (MQCFIN)

LDAP サーバーへの接続を SSL/TLS を使用して安全に行う必要があるかどうか (パラメーター ID: MQIA_LDAP_SECURE_COMM)。

最大長は MQ_LDAP_SECURE_COMM_LENGTH です。

ShortUser (MQCFST)

IBM MQ で短いユーザー名として使用する、ユーザー・レコード内のフィールド (パラメーター ID: MQCA_LDAP_SHORT_USER_FIELD)。

最大長は MQ_LDAP_FIELD_LENGTH です。

UserField (MQCFST)

ユーザー ID に修飾子が含まれていない場合にのみ、提供されたユーザー ID の解釈に使用する LDAP ユーザー・レコード内のフィールドを示します (パラメーター ID: MQCA_LDAP_USER_ATTR_FIELD)。

最大長は MQ_LDAP_FIELD_LENGTH です。

Inquire Authentication Information Object Names

Inquire authentication information names (MQCMD_INQUIRE_AUTH_INFO_NAMES) コマンドは、指定された総称認証情報名と一致する 認証情報名が認証情報名のリストにあるかどうかを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

AuthInfoName (MQCFST)

認証情報名 (パラメーター ID: MQCA_AUTH_INFO_NAME)。

情報が返される認証情報オブジェクトの名前を指定します。

総称認証情報オブジェクト名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべての認証情報オブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_INFO_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

AuthInfoType (MQCFIN)

認証情報オブジェクトのタイプ。受け入れられる値は以下のとおりです。

MQAIT_CRL_LDAP

LDAP サーバーに保持されている証明書失効リストを指定する認証情報オブジェクト。

MQAIT_OCSP

OCSP を使用した証明書失効検査を指定する認証情報オブジェクト。

MQAIT_ALL

任意のタイプの認証情報オブジェクト。MQAIT_ALL は、デフォルト値です。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

Inquire Authentication Information Object Names (応答)

Inquire Authentication Information Names (MQCMD_INQUIRE_AUTH_INFO_NAMES) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く 1 つのパラメーター構造から構成されます。パラメーター構造には、指定した認証情報名に一致する 0 個以上の名前が返されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

z/OS さらに、z/OS の場合のみ、パラメーター構造 *QSGDispositions* (*AuthInfoNames* 構造と同数の項目を持つ) が返されます。この構造内の各項目は、*AuthInfoNames* 構造内の対応する項目を持つオブジェクトの属性指定を示します。

常に返されるデータ:

AuthInfoNames **z/OS**, *QSGDispositions*

要求すると返されるデータ:

なし

応答データ

AuthInfoNames(MQCFSL)

認証情報オブジェクト名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_AUTH_INFO_NAMES)。

z/OS

QSGDispositions (MQCFIL)

QSG 属性指定のリスト (パラメーター ID: MQIACF_QSG_DISPS)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

Inquire Authority Records

Inquire Authority Records (MQCMD_INQUIRE_AUTH_RECS) コマンドは、プロファイル名に関連付けられた権限レコードを取得します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

Options (MQCFIN)

返される権限レコードのセットを制御するオプション (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_OPTIONS)。

これは必須パラメーターで、次の 2 つの値のどちらか 1 つを含める必要があります。

MQAUTHOPT_NAME_ALL_MATCHING

指定した *ProfileName* に名前が合致するすべてのプロファイルを返します。 *ProfileName* として ABCD を指定した場合、プロファイル ABCD、ABC*、および AB* が返される結果となります (ABC* および AB* がプロファイルとして定義されている場合)。

MQAUTHOPT_NAME_EXPLICIT

ProfileName に名前が正確に合致するプロファイルだけを返します。 合致する総称プロファイルが返されることはありません (ただし、*ProfileName* そのものが総称プロファイルである場合は除く)。 この値と一緒に MQAUTHOPT_ENTITY_SET を指定することはできません。

さらに、次の 2 つの値のどちらか 1 つも含める必要があります。

MQAUTHOPT_ENTITY_EXPLICIT

指定された *EntityName* にエンティティ・フィールドが合致するすべてのプロファイルを返します。 *EntityName* がメンバーであるグループのプロファイルは返されません。 指定された *EntityName* に定義されているプロファイルだけが返されます。

MQAUTHOPT_ENTITY_SET

指定された *EntityName* にエンティティ・フィールドが合致するプロファイルと、*EntityName* がメンバーとして指定されたエンティティの累積権限に寄与しているグループに関するプロファイルが返されます。 この値と一緒に MQAUTHOPT_NAME_EXPLICIT を指定することはできません。

さらに、オプションとして、以下を指定できます。

MQAUTHOPT_NAME_AS_WILDCARD

ProfileName を、権限レコードのプロファイル名に対するフィルターとして解釈します。 この属性を指定しない場合、*ProfileName* にワイルドカード文字が含まれていると、それは総称プロファイルとして解釈され、総称プロファイル名が *ProfileName* の値に合致する権限レコードだけが返されます。

MQAUTHOPT_ENTITY_SET を指定した場合、MQAUTHOPT_NAME_AS_WILDCARD は指定できません。

ProfileName (MQCFST)

プロファイル名 (パラメーター ID: MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME)。

このパラメーターは、権限を取得するプロファイルの名前です。 総称プロファイル名がサポートされています。 総称名は、文字ストリングにアスタリスク (*) が続く形式です (例えば、ABC*)。 その文字ストリングで始まる名前を持つすべてのプロファイルが選択されます。 アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

総称プロファイルを定義した場合は、*Options* に MQAUTHOPT_NAME_AS_WILDCARD を設定しないことにより、そのプロファイルについての情報を返すことができます。

Options を MQAUTHOPT_NAME_AS_WILDCARD に設定した場合、*ProfileName* の有効な値は単一のアスタリスク (*) のみです。 これは、他のパラメーターで指定された値を満たすすべての権限レコードが戻されることを意味します。

ObjectType の値が MQOT_Q_MGR である場合は、*ProfileName* を指定しないでください。

プロファイル名は、要求した属性に関わらず、常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH です。

ObjectType (MQCFIN)

プロファイルによって参照されるオブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOT_ALL

すべてのオブジェクト・タイプ。 *ObjectType* の値を指定しない場合、MQOT_ALL がデフォルトです。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報

MQOT_CHANNEL

チャネル・オブジェクト。

MQOT_CLNTCONN_CHANNEL

クライアント接続チャネル・オブジェクト。

MQOT_COMM_INFO

通信情報オブジェクト

MQOT_LISTENER

リスナー・オブジェクト。

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス。

MQOT_Q

オブジェクト名パラメーターに一致するキュー (1 つまたは複数)。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_REMOTE_Q_MGR_NAME

リモート・キュー・マネージャー。

MQOT_SERVICE

サービス・オブジェクト。

MQOT_TOPIC

トピック・オブジェクト。

オプション・パラメーター

EntityName (MQCFST)

エンティティ名 (パラメーター ID: MQCACF_ENTITY_NAME)。

EntityType の値に応じて、このパラメーターは以下のいずれかになります。

- プリンシパル名。この名前は、指定したオブジェクトに対する許可を取得する対象となるユーザーの名前です。IBM MQ for Windows では、オプションとしてプリンシパル名にドメイン・ネームを組み込むことができます (user@domain の形式で指定)。
- グループ名。この名前は、照会するユーザー・グループの名前です。名前は 1 つだけ指定することができます、その名前は既存のユーザー・グループの名前でなければなりません。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain  
domain\GroupName
```

ストリングの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

EntityType (MQCFIN)

エンティティー・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_ENTITY_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQZAET_GROUP

EntityName パラメーターの値はグループ名を参照します。

MQZAET_PRINCIPAL

EntityName パラメーターの値はプリンシパル名を参照します。

ProfileAttrs (MQCFIL)

プロファイル属性 (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_PROFILE_ATTRS)。

属性リストでは、以下の値を単独で指定することができます。パラメーターが指定されていない場合は、デフォルト値になります。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCACF_ENTITY_NAME

エンティティー名。

MQIACF_AUTHORIZATION_LIST

権限リスト。

MQIACF_ENTITY_TYPE

エンティティー・タイプ。

注: パラメーター MQCACF_ENTITY_NAME および MQIACF_ENTITY_TYPE を使用してエンティティーを指定する場合は、先にすべての必須パラメーターを引き渡す必要があります。

ServiceComponent (MQCFST)

サービス・コンポーネント (パラメーター ID: MQCACF_SERVICE_COMPONENT)。

インストール可能な権限サービスがサポートされている場合、このパラメーターは、権限の取得元となる権限サービスの名前を指定します。

このパラメーターを省略すると、サービスの最初のインストール可能コンポーネントに対して許可の照会が行われます。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMPONENT_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページ](#)の『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_OBJECT_TYPE_ERROR

オブジェクト・タイプが無効です。

MQRC_UNKNOWN_ENTITY

ユーザー ID が許可されていないか、または不明です。

MQRCCF_CFST_CONFLICTING_PARM

パラメーターが競合しています。

MQRCCF_PROFILE_NAME_ERROR

プロファイル名が無効です。

MQRCCF_ENTITY_NAME_MISSING

エンティティー名が指定されていません。

MQRCCF_OBJECT_TYPE_MISSING

オブジェクト・タイプが指定されていません。

MQRCCF_PROFILE_NAME_MISSING

プロファイル名がありません。

Inquire Authority Records (Response)

Inquire Authority Records (MQCMD_INQUIRE_AUTH_RECS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *QMgrName*、*Options*、*ProfileName*、および *ObjectType* 構造と、要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造とで構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

Inquire Authority Records 要求で指定されたオプションにプロファイル名が一致することが検出された 権限レコードごとに、1 つの PCF メッセージが返されます。

常に返されるデータ:

ObjectType, *Options*, *ProfileName*, *QMgrName*

要求すると返されるデータ:

AuthorizationList, *EntityName*, *EntityType*

応答データ

AuthorizationList (MQCFIL)

許可リスト (パラメーター ID: MQIACF_AUTHORIZATION_LIST)。

このリストには、0 個以上の許可値が入ります。返される許可値はそれぞれ、指定したグループ内のユーザー ID、またはプリンシパルが、その値で定義された操作を 実行する権限を持っていることを意味します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQAUTH_NONE

エンティティの権限は none に設定されています。

MQAUTH_ALT_USER_AUTHORITY

MQI 呼び出しで代替ユーザー ID を指定する。

MQAUTH_BROWSE

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_CHANGE

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を変更します。

MQAUTH_CLEAR

キューを消去する。

MQAUTH_CONNECT

MQCONN 呼び出しを発行して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。

MQAUTH_CREATE

指定のタイプのオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して作成 する。

MQAUTH_DELETE

指定のオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して削除する。

MQAUTH_DISPLAY

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を表示します。

MQAUTH_INPUT

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_INQUIRE

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューの照会を行う。

MQAUTH_OUTPUT

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込む。

MQAUTH_PASS_ALL_CONTEXT

すべてのコンテキストを渡す。

MQAUTH_PASS_IDENTITY_CONTEXT

アイデンティティー・コンテキストを渡す。

MQAUTH_SET

MQSET 呼び出しを発行して、MQI からキューに属性を設定する。

MQAUTH_SET_ALL_CONTEXT

キューにすべてのコンテキストを設定する。

MQAUTH_SET_IDENTITY_CONTEXT

キューのアイデンティティー・コンテキストを設定する。

MQAUTH_CONTROL

リスナーやサービスの場合、指定のチャネル、リスナー、またはサービスを開始および停止する。

チャネルの場合、指定のチャネルを開始、停止、および ping する。

トピックの場合、サブスクリプションを定義、変更、または削除する。

MQAUTH_CONTROL_EXTENDED

指定のチャネルをリセットまたは解決する。

MQAUTH_PUBLISH

指定したトピックに対してパブリッシュを行います。

MQAUTH_SUBSCRIBE

指定したトピックに対してサブスクライブを行います。

MQAUTH_RESUME

指定したトピックに対するサブスクリプションを再開します。

MQAUTH_SYSTEM

内部システム操作にキュー・マネージャーを使用します。

MQAUTH_ALL

オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。

MQAUTH_ALL_ADMIN

オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。

MQAUTH_ALL_MQI

オブジェクトに適用可能なすべての MQI 呼び出しを使用する。

MQCFIL 構造体の *Count* フィールドを使用して、返される値の数を決定します。

EntityName (MQCFST)

エンティティー名 (パラメーター ID: MQCACF_ENTITY_NAME)。

このパラメーターはプリンシパル名またはグループ名のいずれかです。

ストリングの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

EntityType (MQCFIN)

エンティティー・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_ENTITY_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQZAET_GROUP

EntityName パラメーターの値はグループ名を参照します。

MQZAET_PRINCIPAL

EntityName パラメーターの値はプリンシパル名を参照します。

MQZAET_UNKNOWN

以前のキュー・マネージャーから引き続き、権限レコードは存在していますが、当初はエンティティー・タイプ情報が含まれていませんでした (Windows の場合)。

ObjectType (MQCFIN)

オブジェクト・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報

MQOT_CHANNEL

チャンネル・オブジェクト。

MQOT_CLNTCONN_CHANNEL

クライアント接続チャンネル・オブジェクト。

MQOT_COMM_INFO

通信情報オブジェクト

MQOT_LISTENER

リスナー・オブジェクト。

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス。

MQOT_Q

オブジェクト名パラメーターに一致するキュー (1 つまたは複数)。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_REMOTE_Q_MGR_NAME

リモート・キュー・マネージャー。

MQOT_SERVICE

サービス・オブジェクト。

MQOT_TOPIC

トピック・オブジェクト。

Options (MQCFIN)

返される情報のレベルを指示するために使用するオプション (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_OPTIONS)。

ProfileName (MQCFST)

プロファイル名 (パラメーター ID: MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH です。

QMgrName (MQCFST)

照会コマンドが出されるキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

Inquire Authority Service

Inquire Authority Service (MQCMD_INQUIRE_AUTH_SERVICE) コマンドは、インストールされた権限マネージャーでサポートされる機能のレベルに関する 情報を取り出します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

AuthServiceAttrs (MQCFIL)

権限サービス属性 (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_SERVICE_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQIACF_INTERFACE_VERSION

権限サービスの現行インターフェース・バージョン。

MQIACF_USER_ID_SUPPORT

権限サービスがユーザー ID をサポートするかどうか。

オプション・パラメーター

ServiceComponent (MQCFST)

許可サービスの名前 (パラメーター ID: MQCACF_SERVICE_COMPONENT)。

Inquire Authority Service コマンドを処理する許可サービスの名前です。

このパラメーターを省略するか、ブランクまたはヌル・ストリングを指定した場合、インストールされたそれぞれの許可サービスにおいて、サービスがインストールされた順序とは逆の順序で照会機能が呼び出されます。これは、すべての許可サービスが呼び出されるか、Continuation フィールドに値 MQZCI_STOP が返されるまで続けられます。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMPONENT_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_SELECTOR_ERROR

属性セレクターが無効です。

MQRC_UNKNOWN_COMPONENT_NAME

サービス・コンポーネント名が不明です。

Inquire Authority Service (応答)

Inquire Authority Service (MQCMD_INQUIRE_AUTH_SERVICE) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ServiceComponent* 構造および要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

常に返されるデータ:

ServiceComponent

要求すると返されるデータ:

InterfaceVersion, UserIDSupport

応答データ

InterfaceVersion (MQCFIN)

インターフェース・バージョン (パラメーター ID: MQIACF_INTERFACE_VERSION)。

このパラメーターは、OAM の現行インターフェース・バージョンです。

ServiceComponent (MQCFSL)

許可サービスの名前 (パラメーター ID: MQCACF_SERVICE_COMPONENT)。

Inquire Authority Service コマンドで *ServiceComponent* に特定の値を指定すると、このフィールドには、コマンドを 処理した許可サービスの名前が入ります。Inquire Authority Service コマンドで *ServiceComponent* に特定の値を 指定しないと、インストールされたすべての許可サービスの名前がリストに示されます。

OAM がない場合、または ServiceComponent で要求された OAM が存在しない場合には、このフィールドはブランクになります。

リストの各要素の最大長は MQ_SERVICE_COMPONENT_LENGTH です。

UserIDSupport (MQCFIN)

ユーザー ID サポート (パラメーター ID: MQIACF_USER_ID_SUPPORT)。

値は次のいずれかです。

MQIDSUPP_YES

権限サービスでユーザー ID がサポートされます。

MQIDSUPP_NO

権限サービスでユーザー ID はサポートされません。

Inquire CF Structure

Inquire CF Structure (MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC) コマンドは、1 つ以上の CF アプリケーション構造の属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注：このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみサポートされます。

必要なパラメーター

CFStrucName (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

情報が返される CF アプリケーション構造の名前を指定します。

総称 CF 構造名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべての CF アプリケーション構造が選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CFStrucAttrs (MQCFIL)

CF アプリケーション構造属性 (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_ALTERATION_DATE

定義が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

定義が最後に変更された時刻。

MQIA_CF_CFCONLOS

キュー・マネージャーが CF アプリケーション構造体との接続を失った場合に実行するアクション。

MQIA_CF_LEVEL

CF アプリケーション構造の機能レベル。

MQIA_CF_OFFLOAD

CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット OFFLOAD プロパティ。

MQIA_CF_RECOVER

アプリケーション構造の CF リカバリーがサポートされているかどうか。

MQIA_CF_RECAUTO

構造体に障害が発生したときまたはキュー・マネージャーが構造体に対する接続を失ったときに、その構造体が存在するカップリング・ファシリティへの接続を持つシステムが SysPlex 内がない場合に、自動リカバリー・アクションが実行されるかどうか。

MQIACF_CF_SMDS_BLOCK_SIZE

CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット DSGROUP プロパティ。

MQIA_CF_SMDS_BUFFERS

CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット DSGROUP プロパティ。

MQIACF_CF_SMDS_EXPAND

CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット DSEXPAND プロパティ。

MQCACF_CF_SMDS_GENERIC_NAME

CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット DSBUFS プロパティ。

MQCA_CF_STRUC_DESC

CF アプリケーション構造の記述。

MQCA_CF_STRUC_NAME

CF アプリケーション構造の名前。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*CFStrucAttrs* で許可されているいずれかの整数タイプのパラメーター (ただし *MQIACF_ALL* は除く) でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*MQCA_CF_STRUC_NAME* 以外の、*CFStrucAttrs* で許可されているストリング・タイプ・パラメーターでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire CF Structure (応答)

Inquire CF Structure (*MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC*) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続く *CFStrucName* 構造体、要求された属性パラメーター構造体の組み合わせ、という形式です。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

総称 CF アプリケーション構造名が指定された場合は、CF アプリケーション構造体が見つかるごとに、そのようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

CFStrucName

要求すると返されるデータ:

AlterationDate, AlterationTime, CFConlos, CFLevel, CFStrucDesc, DSBLOCK, DSBUFFS, DSEXPAND, DSGROUP, OFFLD1SZ, OFFLD12SZ, OFFLD3SZ, OFFLD1TH, OFFLD2TH, OFFLD3TH, Offload, RCVDATE, RCVTIME, Recauto, Recovery

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

定義が最後に変更された日付。yyyy-mm-dd の形式で表されます。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

定義が最後に変更された時刻。hh.mm.ss の形式で表されます。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

CFConlos (MQCFIN)

CFConlos プロパティ (パラメーター ID: MQIA_CF_CFCONLOS)。

キュー・マネージャーが CF 構造体に対する接続を失ったときに実行されるアクションを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCFCONLOS_TERMINATE

構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。

MQCFCONLOS_TOLERATE

構造体への接続が失われても、キュー・マネージャーはそれを許容し、終了しません。

MQCFCONLOS_ASQMGR

実行されるアクションは、CFCONLOS キュー・マネージャー属性の設定に基づきます。

このパラメーターは CFLEVEL(5) 以上でのみ有効です。

CFLevel (MQCFIN)

この CF アプリケーション構造体の機能レベル (パラメーター ID: MQIA_CF_LEVEL)。

CF アプリケーション構造の機能レベルを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

1

コマンド・レベル 520 のキュー・マネージャーによって「自動作成」できる CF 構造体。

2

コマンド・レベル 530 以上のキュー・マネージャーによってのみ作成または削除できる、コマンド・レベル 520 の CF 構造体。このレベルは、コマンド・レベル 530 以上のキュー・マネージャーのデフォルト *CFLevel* です。

3

コマンド・レベル 530 の CF 構造体。この *CFLevel* が必要なのは、共有キューで持続メッセージを使用する場合、またはメッセージのグループ化のために持続メッセージを使用する場合 (あるいはその両方) です。

4

コマンド・レベル 600 の CF 構造体。この *CFLevel* は、持続メッセージに使用することも、64,512 バイトより長いメッセージに使用することもできます。

5

コマンド・レベル 710 の CF 構造体。この *CFLevel* は、メッセージのオフロードのために共有メッセージ・データ・セット (SMDS) および Db2 をサポートします。

接続が失われたことを許容できるように、構造体は CFLEVEL(5) である必要があります。

CFStructDesc (MQCFST)

CF 構造の記述 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_DESC)。

最大長は MQ_CF_STRUC_DESC_LENGTH です。

CFStructName (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

DSBLOCK (MQCFIN)

CF DSBLOCK プロパティ (パラメーター ID: MQIACF_CF_SMDS_BLOCK_SIZE)。

返される値は、定数 MQDSB_8K、MQDSB_16K、MQDSB_32K、MQDSB_64K、MQDSB_128K、MQDSB_256K、MQDSB_512K、MQDSB_1024K、MQDSB_1M のうち、いずれか 1 つです。

DSBUFS (MQCFIN)

CF DSBUFS プロパティ (パラメーター ID: MQIA_CF_SMDS_BUFFERS)。

返される値の範囲は、0 から 9999 です。

この値は、共有メッセージ・データ・セットにアクセスするために各キュー・マネージャーに割り振られるバッファの数です。各バッファのサイズは、論理ブロック・サイズと同じです。

DSEXPA (MQCFIN)

CF DSEXPA プロパティ (パラメーター ID: MQIACF_CF_SMDS_EXPAND)。

MQDSE_YES

データ・セットを拡張できます。

MQDSE_NO

データ・セットを拡張できません。

MQDSE_DEFAULT

明示的に設定されていない場合にのみ、Inquire CF Struct で返されます。

DSGROUP (MQCFST)

CF DSGROUP プロパティ (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDS_GENERIC_NAME)。

返される値は、この CF 構造体に関連付けられた共有メッセージ・データ・セットのグループに使用される総称データ・セット名を含むストリングです。

OFFLD1SZ (MQCFST)

CF OFFLD1SZ プロパティ (パラメーター ID: MQCACF_CF_OFFLOAD_SIZE1)。

返される値は、0K から 64K の範囲のストリングです。

MQIACF_ALL または MQIA_CF_OFFLOAD パラメーターが指定された場合に返されます。

最大長は 3 です。

OFFLD2SZ (MQCFST)

CF OFFLD2SZ プロパティ (パラメーター ID: MQCACF_CF_OFFLOAD_SIZE2)。

返される値は、0K から 64K の範囲のストリングです。

MQIACF_ALL または MQIA_CF_OFFLOAD パラメーターが指定された場合に返されます。

最大長は 3 です。

OFFLD3SZ (MQCFST)

CF OFFLD3SZ プロパティ (パラメーター ID: MQCACF_CF_OFFLOAD_SIZE3)。

返される値は、0K から 64K の範囲のストリングです。

MQIACF_ALL または MQIA_CF_OFFLOAD パラメーターが指定された場合に返されます。

最大長は 3 です。

OFFLD1TH (MQCFIN)

CF OFFLD1TH プロパティ (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD_THRESHOLD1)。

返される値の範囲は、0 から 100 です。

MQIACF_ALL または MQIA_CF_OFFLOAD パラメーターが指定された場合に返されます。

OFFLD2TH (MQCFIN)

CF OFFLD2TH プロパティ (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD_THRESHOLD2)。

返される値の範囲は、0 から 100 です。

MQIACF_ALL または MQIA_CF_OFFLOAD パラメーターが指定された場合に返されます。

OFFLD3TH (MQCFIN)

CF OFFLD3TH プロパティ (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD_THRESHOLD3)。

返される値の範囲は、0 から 100 です。

MQIACF_ALL または MQIA_CF_OFFLOAD パラメーターが指定された場合に返されます。

Offload (MQCFIN)

CF OFFLOAD プロパティ (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLOAD)。

次の値が返される可能性があります。

MQCFOFFLD_DB2

大規模な共有メッセージは、Db2 に格納できます。

MQCFOFFLD_SMDS

大規模な共有メッセージは、z/OS 共有メッセージ・データ・セットに格納できます。

MQCFOFFLD_NONE

プロパティ *Offload* が明示的に設定されていない場合に使用されます。

RCVDATE (MQCFST)

リカバリーの開始日 (パラメーター ID: MQCACF_RECOVERY_DATE)。

データ・セットに対するリカバリーが現在有効である場合、これは、アクティブになった日付を yyyy-mm-dd の形式で示します。リカバリーが使用可能でない場合、これは RCVDATE() として表示されます。

RCVTIME (MQCFST)

リカバリーの開始時刻 (パラメーター ID: MQCACF_RECOVERY_TIME)。

データ・セットに対するリカバリーが現在有効である場合、これは、アクティブになった時刻を hh.mm.ss の形式で示します。リカバリーが使用可能でない場合、これは RCVTIME() として表示されます。

Recauto (MQCFIN)

Recauto (パラメーター ID: MQIA_CF_RECAUTO)。

キュー・マネージャーが構造体に障害が発生したことを検出したとき、またはキュー・マネージャーが構造体への接続を失ったときに、その構造体が割り振られているカップリング・ファシリティへの接続を持つシステムが SysPlex 内でない場合に、自動リカバリー・アクションを実行するかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

MQRECAUTO_YES

構造体と、それに関連する (同様にリカバリーを必要とする) 共有メッセージ・データ・セットは、自動的にリカバリーされます。

MQRECAUTO_NO

構造体は自動的にリカバリーされません。

Recovery (MQCFIN)

リカバリー (パラメーター ID: MQIA_CF_RECOVER)。

CF リカバリーがアプリケーション構造体でサポートされるかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

MQCFR_YES

リカバリーはサポートされています。

MQCFR_NO

リカバリーはサポートされていません。

z/OS Inquire CF Structure Names

Inquire CF Structure Names (MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC_NAMES) コマンドは、指定された総称 CF 構造名と一致する CF アプリケーション構造名の リストを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注: このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみサポートされます。

必要なパラメーター

CFStrucName (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

情報が返される CF アプリケーション構造の名前を指定します。

総称 CF 構造名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべての CF アプリケーション構造が選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

z/OS Inquire CF Structure Names (Response)

Inquire CF Structure Names (MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC_NAMES) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く 1 つのパラメーター構造から構成されます。パラメーター構造には、指定した CF アプリケーション構造名に一致する 0 個以上の名前が返されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

常に返されるデータ:

CFStrucNames

要求すると返されるデータ:

なし

応答データ

CFStrucNames (MQCFSL)

CF アプリケーション構造名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_CF_STRUC_NAMES)。

Inquire CF Structure Status

Inquire CF Structure Status (MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC_STATUS) コマンドは、CF アプリケーション構造の状況について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注: このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみサポートされます。

必要なパラメーター

CFStrucName (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

状況情報が返される CF アプリケーション構造の名前を指定します。

総称 CF 構造名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべての CF アプリケーション構造が選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CFStatusType (MQCFIN)

状況情報タイプ (パラメーター ID: MQIACF_CF_STATUS_TYPE)。

返される状況情報のタイプを指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

MQIACF_CF_STATUS_SUMMARY

CF アプリケーション構造の要約状況情報。MQIACF_CF_STATUS_SUMMARY はデフォルトです。

MQIACF_CF_STATUS_CONNECT

アクティブなキュー・マネージャーごとの各 CF アプリケーション構造の接続状況情報。

MQIACF_CF_STATUS_BACKUP

各 CF アプリケーション構造のバックアップ状況情報。

MQIACF_CF_STATUS_SMDS

各 CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット情報。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_CF_STATUS_TYPE を除く、応答データの整数タイプ・パラメーターでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、StringFilterCommand パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_CF_STRUC_NAME を除く、応答データのストリング・タイプ・パラメーターでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方

法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF スtring・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

String・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire CF Structure Status (Response)

Inquire CF Structure Status (MQCMD_INQUIRE_CF_STRUC_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *CFStrucName* 構造、*CFStatusType* 構造、および Inquire コマンドの *CFStatusType* の値によって決定される一連の属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

常に返されるデータ:

CFStrucName, *CFStatusType*.

CFStatusType は、返される状況情報のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIACF_CF_STATUS_SUMMARY

CF アプリケーション構造の要約状況情報。これがデフォルトです。

MQIACF_CF_STATUS_CONNECT

アクティブなキュー・マネージャーごとの各 CF アプリケーション構造の接続状況情報。

MQIACF_CF_STATUS_BACKUP

各 CF アプリケーション構造のバックアップ状況情報。

MQIACF_CF_STATUS_SMDS

各 CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット情報。

CFStatusType が **MQIACF_CF_STATUS_SUMMARY** の場合に返す応答:

CFStrucStatus, *CFStrucType*, *EntriesMax*, *EntriesUsed*, *FailDate*, *FailTime*, *OffLdUse*, *SizeMax*, *SizeUsed*

CFStatusType が **MQIACF_CF_STATUS_CONNECT** の場合に返す応答:

CFStrucStatus, *FailDate*, *FailTime*, *QMgrName*, *SysName*

CFStatusType が **MQIACF_CF_STATUS_BACKUP** の場合に返す応答:

BackupDate, *BackupEndRBA*, *BackupSize*, *BackupStartRBA*, *BackupTime*, *CFStrucStatus*, *FailDate*, *FailTime*, *LogQMgrNames*, *QmgrName*

CFStatusType が **MQIACF_CF_STATUS_SMDS** の場合に返す応答:

Access, *FailDate*, *FailTime*, *RcvDate*, *RcvTime*, *CFStrucStatus*

応答データ

Access (MQCFIN)

共有メッセージ・データ・セットの可用性 (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_ACCESS)。

MQCFACCESS_ENABLED

共有メッセージ・データ・セットが使用可能であるか、以前使用不可にされた後に使用可能にされるか、または、メッセージ・データ・セットへのアクセスがエラーの後に再試行されます。

MQCFACCESS_SUSPENDED

共有メッセージ・データ・セットは、エラーが発生したため使用できません。

MQCFACCESS_DISABLED

共有メッセージ・データ・セットが使用不可であるか、使用不可として設定されます。

BackupDate (MQCFST)

この CF アプリケーション構造に対して実行され、最後に成功したバックアップの yyyy-mm-dd 形式の日付 (パラメーター ID: MQCACF_BACKUP_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

BackupEndRBA (MQCFST)

この CF アプリケーション構造に対して実行され、最後に成功したバックアップの終了時点に関するバックアップ・データ・セットの終了 RBA (パラメーター ID: MQCACF_CF_STRUC_BACKUP_END)。

ストリングの最大長は MQ_RBA_LENGTH です。

BackupSize (MQCFIN)

この CF アプリケーション構造に対して実行され、最後に成功したバックアップのサイズ、メガバイト単位 (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_BACKUP_SIZE)。

BackupStartRBA (MQCFST)

この CF アプリケーション構造に対して実行され、最後に成功したバックアップの開始時点に関するバックアップ・データ・セットの開始 RBA (パラメーター ID: MQCACF_CF_STRUC_BACKUP_START)。

ストリングの最大長は MQ_RBA_LENGTH です。

BackupTime (MQCFST)

この CF アプリケーション構造に対して実行され、最後に成功したバックアップの hh.mm.ss 形式終了時刻 (パラメーター ID: MQCACF_BACKUP_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

CFStatusType (MQCFIN)

状況情報タイプ (パラメーター ID: MQIACF_CF_STATUS_TYPE)。

返す状況情報のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIACF_CF_STATUS_SUMMARY

CF アプリケーション構造の要約状況情報。MQIACF_CF_STATUS_SUMMARY はデフォルトです。

MQIACF_CF_STATUS_CONNECT

アクティブなキュー・マネージャーごとの各 CF アプリケーション構造の接続状況情報。

MQIACF_CF_STATUS_BACKUP

各 CF アプリケーション構造のバックアップ状況情報。

MQIACF_CF_STATUS_SMDS

各 CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セット情報。

CFStrucName (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

CFStrucStatus (MQCFIN)

CF 構造状況 (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_STATUS)。

CF アプリケーション構造体の状況。

CFStatusType が MQIACF_CF_STATUS_SUMMARY の場合、使用される値は次のとおりです。

MQCFSTATUS_ACTIVE

構造体はアクティブです。

MQCFSTATUS_FAILED

構造体に障害が起きています。

MQCFSTATUS_NOT_FOUND

構造体は CF に割り振られていませんが、Db2 に対して定義されています。

MQCFSTATUS_IN_BACKUP

構造はバックアップ処理中です。

MQCFSTATUS_IN_RECOVER

構造体はリカバリー処理中です。

MQCFSTATUS_UNKNOWN

CF 構造の状況が不明です。例えば、Db2 が使用できないことなどが原因です。

CFStatusType が MQIACF_CF_STATUS_CONNECT の場合、使用される値は次のとおりです。

MQCFSTATUS_ACTIVE

構造体はこのキュー・マネージャーに接続しています。

MQCFSTATUS_FAILED

この構造へのキュー・マネージャーの接続が失敗しました。

MQCFSTATUS_NONE

構造体がこのキュー・マネージャーに接続したことはありません。

CFStatusType が MQIACF_CF_STATUS_BACKUP である場合、値は以下のようになります。

MQCFSTATUS_ACTIVE

構造体はアクティブです。

MQCFSTATUS_FAILED

構造体に障害が起きています。

MQCFSTATUS_NONE

構造はバックアップされていません。

MQCFSTATUS_IN_BACKUP

構造はバックアップ処理中です。

MQCFSTATUS_IN_RECOVER

構造体はリカバリー処理中です。

CFStatusType が MQIACF_CF_STATUS_SMDs の場合、使用される値は次のとおりです。

MQCFSTATUS_ACTIVE

共有メッセージ・データ・セットは、通常どおり使用できます

MQCFSTATUS_FAILED

共有メッセージ・データ・セットは、使用不可の状態であり、リカバリーの必要な可能性があります。

MQCFSTATUS_IN_RECOVER

共有メッセージ・データ・セットはリカバリー処理中です (RECOVER CFSTRUCT コマンドによる処理)。

MQCFSTATUS_NOT_FOUND

データ・セットが一度も使用されることがないか、初めてデータ・セットをオープンしようとした時に失敗しました。

MQCFSTATUS_RECOVERED

データ・セットはリカバリーされるか、リカバリーされない場合は修復され、再び使用できる状態になりましたが、次にオープンするときに何らかの再始動処理が必要です。この再始動処理では、データ・セットを再び使用可能な状態にする前に、必ず、削除されたメッセージへの無効な参照をカップリング・ファシリティ構造体から削除します。再始動処理により、データ・セット・スペース・マップの再作成も行われます。

MQCFSTATUS_EMPTY

データ・セットにメッセージは含まれていません。データ・セットにメッセージが何も含まれていないときに、所有するキュー・マネージャーがこのデータ・セットを正常にクローズすると、データ・セットはこの状態になります。アプリケーション構造が空になったために (TYPE PURGE を指定した **RECOVER CFSTRUCT** を使用するか、またはリカバリー不能構造の場合のみ、構造の前のインスタンスを削除することによって)、前のデータ・セットの内容を破棄するときに、EMPTY 状態にすることもできます。所有するキュー・マネージャーによって次回データ・セットがオープンされる際に、スペース・マップが空にリセットされ、状況は ACTIVE に変更されます。以前のデータ・セットの内容は不要のため、この状態のデータ・セットを新たに割り振られたデータ・セット

で置き換えて、例えば、スペース割り振りを変更したり、別のボリュームに移動したりすることができます。

MQCFSTATUS_NEW

データ・セットは初めてオープンされて初期化されており、アクティブになる準備ができています。

CFStrucType (MQCFIN)

CF 構造タイプ (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQCFTYPE_ADMIN

MQCFTYPE_ADMIN は、CF 管理構造です。

MQCFTYPE_APPL

MQCFTYPE_APPL は、CF アプリケーション構造です。

EntriesMax (MQCFIN)

この CF アプリケーション構造用に定義された CF リストのエントリー数 (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_ENTRIES_MAX)。

EntriesUsed (MQCFIN)

この CF アプリケーション構造用に定義された、使用中の CF リストのエントリー数 (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_ENTRIES_USED)。

FailDate (MQCFST)

この CF アプリケーション構造に障害が発生した yyyy-mm-dd 形式の日付 (パラメーター ID: MQCACF_FAIL_DATE)。

CFstatusType が MQIACF_CF_STATUS_CONNECT の場合、これは、キュー・マネージャーがこのアプリケーション構造への接続を失った日付です。 *CFstatusType* のその他の値の場合は、この CF アプリケーション構造に障害が発生した日付です。このパラメーターは、*CFStrucStatus* が MQCFSTATUS_FAILED または MQCFSTATUS_IN_RECOVER の場合にのみ適用されます。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

FailTime (MQCFST)

この CF アプリケーション構造に障害が発生した hh.mm.ss 形式の時刻 (パラメーター ID: MQCACF_FAIL_TIME)。

CFstatusType が MQIACF_CF_STATUS_CONNECT の場合、これは、キュー・マネージャーがこのアプリケーション構造への接続を失った時刻です。 *CFstatusType* のその他の値の場合は、この CF アプリケーション構造に障害が発生した時刻です。このパラメーターは、*CFStrucStatus* が MQCFSTATUS_FAILED または MQCFSTATUS_IN_RECOVER の場合にのみ適用されます。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

LogQMgrNames (MQCFSL)

キュー・マネージャーのリスト、リカバリーを実行するために必要なログ (パラメーター ID: MQCACF_CF_STRUC_LOG_Q_MGRS)。

各名前の最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

OffLdUse (MQCFIN)

オフロードの使用 (パラメーター ID: MQIA_CF_OFFLDUSE)。

オフロードされた大きなメッセージ・データが共有メッセージ・データ・セット、Db2、またはその両方に現在存在する可能性があるかどうかを示します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCFOFFLD_DB2

大きな共有メッセージは Db2 に保管されます。

MQCFOFFLD_SMDS

大きな共有メッセージは、z/OS の共有メッセージ・データ・セットに保管されます。

MQCFOFFLD_NONE

プロパティが明示的に設定されていない場合は、DISPLAY CFSTRUCT で使用します。

MQCFOFFLD_BOTH

Db2 および共有メッセージ・データ・セットに保管された大きな共有メッセージが存在する可能性があります。

CFLEVEL(5) が定義されない限り、値は設定できません。

QMgrName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

このパラメーターは、キュー・マネージャーの名前です。CFStatusType が MQIACF_CF_STATUS_BACKUP の場合、これは、最後に成功したバックアップを実行したキュー・マネージャーの名前です。

最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

RcvDate (MQCFST)

リカバリーの開始日 (パラメーター ID: MQCACF_RECOVERY_DATE)。

データ・セットに対するリカバリーが現在有効である場合、これは、アクティブになった日付を yyyy-mm-dd の形式で示します。

RcvTime (MQCFST)

リカバリーの開始時刻 (パラメーター ID: MQCACF_RECOVERY_TIME)。

データ・セットに対するリカバリーが現在有効である場合、これは、アクティブになった時刻を hh.mm.ss の形式で示します。

SizeMax (MQCFIN)

CF アプリケーション構造のサイズ (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_SIZE_MAX)。

このパラメーターは、CF アプリケーション構造のサイズ (キロバイト単位) です。

SizeUsed (MQCFIN)

使用中の CF アプリケーション構造のパーセンテージ (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_SIZE_USED)。

このパラメーターは、使用中の CF アプリケーション構造のサイズのパーセンテージです。

SysName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCACF_SYSTEM_NAME)。

このパラメーターは、CF アプリケーション構造に最後に接続したキュー・マネージャーの z/OS イメージの名前です。

最大長は MQ_SYSTEM_NAME_LENGTH です。

SizeMax (MQCFIN)

CF アプリケーション構造のサイズ (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_SIZE_MAX)。

このパラメーターは、CF アプリケーション構造のサイズ (キロバイト単位) です。

Inquire Channel

Inquire Channel (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャネル定義の属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

総称チャンネル名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのチャンネルが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

ChannelAttrs(MQCFIL)

チャンネル属性 (パラメーター ID: MQIACF_CHANNEL_ATTRS)。

属性リストには、次の値を単独で指定できます (このパラメーターを指定しない場合はデフォルト値が使用される)。

MQIACF_ALL

すべての属性。

あるいは、次の表にあるパラメーターを組み合わせることで指定できます。

▶ V 8.0.0.4

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント接続	サーバー接続	クラスター送信側	クラスター受信側	V 8.0.0.4 AMQP
MQCA_ALTERATION_DATE 定義が最後に変更された日付	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQCA_ALTERATION_TIME 定義が最後に変更された時刻	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQCA_CERT_LABEL 証明書ラベル	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQCA_CLUSTER_NAME ローカル・キュー・マネージャーの名前							✓	✓	
MQCA_CLUSTER_NAMELIST ローカル・キュー・マネージャーの名前							✓	✓	
MQCA_Q_MGR_NAME ローカル・キュー・マネージャーの名前					✓				

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント 接続	サーバー 接続	クラス ター送 信側	クラス ター受 信側	V8.0.0.4 AMQP
MQCACH_CHANNEL_NAME チャンネル名。この属性 をフィルター・キーワ ードとして使用すること はできません。	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQCACH_CONNECTION_NAME 接続名	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
MQCACH_DESC 説明	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQCACH_LOCAL_ADDRESS チャンネルのローカル通 信アドレス	✓	✓		✓	✓		✓	✓	✓
MQCACH_MCA_NAME メッセージ・チャンネル・ エージェント名	✓	✓		✓			✓		
MQCACH_MCA_USER_ID MCA ユーザー ID	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓
MQCACH_MODE_NAME モード名	✓	✓		✓	✓		✓	✓	
MQCACH_MR_EXIT_NAME メッセージ再試行出口 名			✓	✓				✓	
MQCACH_MR_EXIT_USER_DATA メッセージ再試行出口 名			✓	✓				✓	
MQCACH_MSG_EXIT_NAME メッセージ出口名	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MQCACH_MSG_EXIT_USER_DATA メッセージ出口ユーザ ー・データ	✓	✓	✓	✓			✓	✓	

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント 接続	サーバー 接続	クラス ター送 信側	クラス ター受 信側	V8.0.0.4 AMQP
MQCACH_PASSWORD パスワード	✓	✓		✓	✓		✓		
MQCACH_RCV_EXIT_NAME 受信出口名	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQCACH_RCV_EXIT_USER_DATA 受信出口ユーザー・データ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQCACH_SEC_EXIT_NAME セキュリティー出口名	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQCACH_SEC_EXIT_USER_DATA セキュリティー出口ユーザー・データ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQCACH_SEND_EXIT_NAME 送信出口名	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQCACH_SEND_EXIT_USER_DATA 送信出口ユーザー・データ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC SSL 暗号仕様	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQCACH_SSL_PEER_NAME SSL ピア名	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQCACH_TP_NAME トランザクション・プログラム名	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	
▶ V8.0.0.4 MQCACH_TP_ROOT AMQP チャネルのトピック・ルート。									✓

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント 接続	サーバー 接続	クラス ター送信側	クラス ター受信側	V8.0.0.4 AMQP
MQCACH_USER_ID ユーザー ID	✓	✓		✓	✓		✓		
MQCACH_XMIT_Q_NAME 伝送キュー名	✓	✓							
MQIA_MONITORING_CHANNEL オンライン・モニター・ データ収集	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	
MQIA_PROPERTY_CONTROL プロパティ制御属性	✓	✓					✓	✓	
MQIA_STATISTICS_CHANNEL オンライン統計収集	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q チャンネルでメッセージ が配信できない場合に、 送達不能キューを使用 するかどうかを判別し ます。	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MQIACH_AMQP_KEEP_ALIVE AMQP チャンネルのキー プアライブ間隔									✓
MQIACH_BATCH_HB バッチ・ハートビートに 使用する値	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_BATCH_INTERVAL バッチ待機間隔 (秒)	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_BATCH_DATA_LIMIT バッチのデータ制限 (キ ロバイト)	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_BATCH_SIZE バッチ・サイズ	✓	✓	✓	✓			✓	✓	

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント 接続	サーバー 接続	クラス ター送 信側	クラス ター受 信側	V8.0.0.4 AMQP
MQIACH_CHANNEL_TYPE チャンネル・タイプ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQIACH_CLIENT_CHANNEL_WEIGHT CLIENT CHANNEL ウェイト					✓				
MQIACH_CLWL_CHANNEL_PRIORITY クラスター・ワークロード・チャンネル優先順位							✓	✓	
MQIACH_CLWL_CHANNEL_RANK クラスター・ワークロード・チャンネル・ランク							✓	✓	
MQIACH_CLWL_CHANNEL_WEIGHT クラスター・ワークロード・チャンネル・ウェイト							✓	✓	
MQIACH_CONNECTION_AFFINITY 接続アフィニティー					✓				
MQIACH_DATA_CONVERSION 送信側がアプリケーション・データを変換する必要があるかどうか	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_DEF_RECONNECT デフォルト再接続オプション					✓				
MQIACH_DISC_INTERVAL 切断間隔	✓	✓				✓	✓	✓	
MQIACH_HB_INTERVAL ハートビート間隔(秒)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント 接続	サーバー 接続	クラス ター送 信側	クラス ター受 信側	V8.0.0.4 AMQP
MQIACH_HDR_COMPRESSION チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL KeepaliveInterval (キープアライブ間隔)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
MQIACH_LONG_RETRY 長期再試行カウント	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_LONG_TIMER ロング・タイマー	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_MAX_INSTANCES 開始可能な、サーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数						✓			✓
MQIACH_MAX_INSTS_PER_CLIENT 単一クライアントから開始可能な、サーバー接続チャンネルの同時インスタンスの最大数						✓			
MQIACH_MAX_MSG_LENGTH 最大メッセージ長	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MQIACH_MCA_TYPE MCA タイプ	✓	✓		✓			✓	✓	
MQIACH_MR_COUNT メッセージ再試行カウント			✓	✓				✓	
MQIACH_MSG_COMPRESSION チャンネルでサポートされるメッセージ・データ圧縮技法のリスト	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント 接続	サーバー 接続	クラス ター送 信側	クラス ター受 信側	V8.0.0.4 AMQP
MQIACH_MR_INTERVAL メッセージ再試行間隔 (ミリ秒)			✓	✓				✓	
MQIACH_NPM_SPEED 非持続メッセージの速 度	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
▶ V8.0.0.4 MQIACH_PORT AMQP ポート番号									✓
MQIACH_PUT_AUTHORI TY 書き込む権限			✓	✓		✓		✓	
MQIACH_RESET_REQUE STED RESET CHANNEL コマ ンドが使用されたとき の未解決要求のシーケ ンス番号	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MQIACH_SEQUENCE_NU MBER_WRAP シーケンス番号折り返 し	✓	✓	✓	✓			✓	✓	
MQIACH_SHARING_CON VERSATIONS 共有会話の値						✓			
MQIACH_SHORT_RETRY 短期再試行カウント	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_SHORT_TIMER ショート・タイマー	✓	✓					✓	✓	
MQIACH_SSL_CLIENT_ AUTH SSL クライアント認証	✓	✓	✓	✓		✓		✓	✓

パラメーター	送信者	サーバー	受信側	要求側	クライアント 接続	サーバー 接続	クラス ター送信側	クラス ター受信側	V8.0.0.4 AMQP
V8.0.0.4 MQIACH_USE_CLIENT_ID AMQP チャンネルの許可 検査にクライアント ID を使用することを指定 します。									✓
MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE トランスポート (伝送プ ロトコル) タイプ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

注:

1. 以下のパラメーターのうち 1 つだけを指定できます。

- MQCACH_JAAS_CONFIG
- MQCACH_MCA_USER_ID
- MQIACH_USE_CLIENT_ID

これらのパラメーターが 1 つも指定されていない場合、認証は実行されません。

MQCACH_JAAS_CONFIG が指定された場合、クライアントからユーザー名とパスワードが流れます。
それ以外のすべての場合、流れてきたユーザー名は無視されます。

CertificateLabel(MQCFST)

証明書ラベル (パラメーター ID: MQCA_CERT_LABEL)。

使用中の証明書ラベルを指定します。

最大長は MQ_CERT_LABEL_LENGTH です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

このパラメーターが存在する場合、適格チャンネルは指定されたタイプに限定されます。

ChannelAttrs のリストに指定されたいずれかの属性セクターが、異なるタイプ (1 つまたは複数) のチャンネルに対してのみ有効である場合、そのセクターは無視されます (エラーは起きません)。

このパラメーターを指定しない場合 (または MQCHT_ALL を指定した場合) は、MQCHT_MQTT 以外のすべてのタイプのチャンネルが対象になります。指定する各属性は有効な属性セクターである (つまり、以下のリストのうちの 1 つである) ことが必要ですが、返されるチャンネルに適用されるものがなくても構いません。有効でもチャンネルに適用されないチャンネル属性セクターは無視され、エラー・メッセージは発生せず、属性は返されません。

値は次のいずれかです。

MQCHT_SENDER
送信側。

MQCHT_SERVER
サーバー。

MQCHT_RECEIVER
受信側。

MQCHT_REQUESTER
要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

 MQCHT_AMQP

AMQP チャンネル。

MQCHT_MQTT

テレメトリー・チャンネル。

MQCHT_ALL

MQCHT_MQTT 以外のすべてのタイプ。

このパラメーターが指定されない場合のデフォルト値は MQCHT_ALL です。

注: このパラメーターが存在する場合、z/OS 以外のプラットフォームでは、*ChannelName* パラメーターの直後にあることが必要です。そうでないと、MQRCCF_MSG_LENGTH_ERROR エラー・メッセージが返される結果になります。

 z/OS**CommandScope (MQCFST)**

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

 z/OS**DefaultChannelDisposition (MQCFIN)**

デフォルトのチャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。

このパラメーターは、クライアント接続 (CLNTCONN) チャンネルについては許可されません。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報を返すチャンネルの属性指定を指定します。このパラメーターが存在しない場合 (または、MQCHLD_ALL が指定された場合)、すべてのチャンネル属性指定が適格です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_ALL

すべての適格なチャンネルについて、要求された情報を返します。

MQCHLD_PRIVATE

PRIVATE チャンネルについて、要求された情報を返します。

MQCHLD_SHARED

チャンネル属性指定が MQCHLD_SHARED または MQCHLD_FIXSHARED のいずれかとして定義されたチャンネルについて、要求された情報を返します。

DefReconnect(MQCFIN)

クライアント・チャンネルのデフォルト再接続オプション (パラメーター ID: MQIACH_DEF_RECONNECT)。

デフォルトの自動クライアント再接続オプション。自動的にクライアント・アプリケーションを再接続するように IBM MQ MQI client を構成できます。IBM MQ MQI client は、接続に失敗した後、キュー・マネージャーへの再接続を試みます。この再接続試行は、アプリケーション・クライアントが MQCONN または MQCONNX MQI 呼び出しを発行しなくても行われます。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*ChannelAttrs* で許可されているいずれかの整数タイプのパラメーターでなければなりません (ただし MQIACF_ALL を除く)。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

チャンネル・タイプに整数フィルターを指定する場合、*ChannelType* パラメーターと一緒に指定することはできません。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。



QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

QSGDisposition をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*ChannelAttrs* で許可されているいずれかのストリング・タイプのパラメーター (ただし MQCACH_CHANNEL_NAME と MQCACH_MCA_NAME は除く) でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

チャネル・タイプが無効です。

Inquire Channel (MQTT)

Inquire Channel (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャネル定義の属性について照会します。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

総称チャネル名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのチャネルが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelType(MQCFIN)

チャネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

このパラメーターが存在する場合、適格チャネルは指定されたタイプに限定されます。*ChannelAttrs* のリストに指定されたいずれかの属性セクターが、異なるタイプ (1 つまたは複数) のチャネルに対してのみ有効である場合、そのセクターは無視されます (エラーは起きません)。

このパラメーターが存在しない場合 (または MQCHT_ALL が指定された場合)、すべてのタイプのチャネルが適格です。指定する各属性は有効な属性セクターである (つまり、以下のリストのうちの 1 つである) ことが必要ですが、返されるチャネルに適用されるものがなくても構いません。有効でもチャネルに適用されないチャネル属性セクターは無視され、エラー・メッセージは発生せず、属性は返されません。

値は次のものでなければなりません。

MQCHT_MQTT

テレメトリー・チャネル。

オプション・パラメーター

ChannelAttrs(MQCFIL)

チャンネル属性 (パラメーター ID: MQIACF_CHANNEL_ATTRS)。

属性リストには、次の値を単独で指定できます (このパラメーターを指定しない場合はデフォルト値が使用される)。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または次のパラメーターを組み合わせて指定できます。

MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY

SSL キー・リポジトリ

MQCACH_CHANNEL_NAME

チャンネル名。この属性をフィルター・キーワードとして使用することはできません。

MQCACH_JAAS_CONFIG

JAAS 構成のファイル・パス

MQCACH_LOCAL_ADDRESS

チャンネルのローカル通信アドレス

MQCACH_MCA_USER_ID

MCA ユーザー ID。

MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC

SSL 暗号仕様。

MQCACH_SSL_KEY_PASSPHRASE

SSL 鍵パスフレーズ。

MQIACH_BACKLOG

チャンネルがサポートする並行接続要求の数。

MQIACH_CHANNEL_TYPE

チャンネル・タイプ

MQIACH_PORT

TransportType を TCP に設定したときに使用するポート番号。

MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH

SSL クライアント認証。

MQIACH_USE_CLIENT_ID

新しい接続の *clientID* を、その接続の *userID* として使用するかどうかを指定する

MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE

トランスポート (伝送プロトコル) タイプ

注：

1. 以下のパラメーターのうち 1 つだけを指定できます。

- MQCACH_JAAS_CONFIG
- MQCACH_MCA_USER_ID
- MQIACH_USE_CLIENT_ID

これらのパラメーターが 1 つも指定されていない場合、認証は実行されません。MQCACH_JAAS_CONFIG が指定された場合、クライアントからユーザー名とパスワードが流れます。それ以外のすべての場合、流れてきたユーザー名は無視されます。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャンネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

チャンネル・タイプが無効です。

Inquire Channel (応答)

Inquire Channel (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ChannelName* 構造と *ChannelType* 構造 (および z/OS の場合のみ *DefaultChannelDisposition* 構造と *QSGDisposition* 構造)、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造 (該当する場合) で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

総称チャンネル名を指定した場合、見つかったチャンネルごとにこのようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

ChannelName , *ChannelType* ,  *DefaultChannelDisposition* ,  *QSGDisposition*

要求すると返されるデータ:

AlterationDate, *AlterationTime*, *BatchDataLimit*, *BatchHeartbeat*, *BatchInterval*, *BatchSize*, *CertificateLabel*, *ChannelDesc*, *ChannelMonitoring*, *ChannelStartTime*, *ChannelStartDate*, *ChannelStatistics*, *ClientChannelWeight*, *ClientIdentifier*, *ClusterName*, *ClusterNameList*, *CLWLChannelPriority*, *CLWLChannelRank*, *CLWLChannelWeight*, *ConnectionAffinity*, *ConnectionName*, *DataConversion*, *DefReconnect*, *DiscInterval*, *HeaderCompression*, *HeartbeatInterval*, *InDoubtInbound*, *InDoubtOutbound*, *KeepAliveInterval*, *LastMsgTime*, *LocalAddress*, *LongRetryCount*, *LongRetryInterval*, *MaxMsgLength*, *MCAName*, *MCAType*, *MCAUserIdentifier*, *MessageCompression*, *ModeName*, *MsgExit*, *MsgRetryCount*, *MsgRetryExit*, *MsgRetryInterval*, *MsgRetryUserData*, *MsgsReceived*, *MsgsSent*, *MsgUserData*, *NetworkPriority*, *NonPersistentMsgSpeed*, *Password*, *PendingOutbound*, *PropertyControl*, *PutAuthority*, *QMgrName*, *ReceiveExit*, *ReceiveUserData*, *ResetSeq*, *SecurityExit*, *SecurityUserData*, *SendExit*, *SendUserData*, *SeqNumberWrap*, *SharingConversations*, *ShortRetryCount*, *ShortRetryInterval*, *SSLCipherSpec*, *SSLCipherSuite*, *SSLClientAuth*, *SSLPeerName*, *TpName*, *TransportType*, *UseDLQ*, *UserIdentifier*, *XmitQName*

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd の形式の変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

hh.mm.ss の形式の変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

BatchDataLimit (MQCFIN)

バッチのデータ制限 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_DATA_LIMIT)。

同期点をとるまでに、1つのチャンネルを介して送信可能なデータ量 (キロバイト) の限度を指定します。限度に達した際のメッセージがチャンネルを通過して送信された後に、同期点が取られます。この属性の値がゼロの場合、それはこのチャンネルに対するバッチに適用されるデータ限度がないことを意味します。

このパラメーターは、*ChannelType* が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、MQCHT_CLUSRCVR、または MQCHT_CLUSSDR であるチャンネルに対してのみ適用されます。

BatchHeartbeat (MQCFIN)

バッチ・ハートビートに使用される値 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_HB)。

値は 0 から 9999999 です。値 0 は、ハートビートが使用中でないことを示します。

BatchInterval (MQCFIN)

バッチ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_INTERVAL)。

BatchSize (MQCFIN)

バッチ・サイズ (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_SIZE)。

Certificatelabel (MQCFST)

証明書ラベル (パラメーター ID: MQCA_CERT_LABEL)。

使用中の証明書ラベルを指定します。

最大長は MQ_CERT_LABEL_LENGTH です。

ChannelDesc (MQCFST)

チャンネル記述 (パラメーター ID: MQCACH_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_DESC_LENGTH です。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

オンライン・モニター・データ収集 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_CHANNEL)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_Q_MGR

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの値がチャンネルに継承されます。

MQMON_LOW

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、高いデータ収集率でオンになります。

ChannelName (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelStartDate (MQCFST)

チャンネルが開始した日付 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_START_DATE)。長さは値 MQ_DATE_LENGTH によって指定されます。

ChannelStartTime (MQCFST)

チャンネルが開始した時刻 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_START_TIME)。長さは値 MQ_TIME_LENGTH によって指定されます。

ChannelStatistics (MQCFIN)

統計データ収集 (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_CHANNEL)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

このチャンネルでの統計データ収集がオフになります。

MQMON_Q_MGR

キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターの値がチャンネルに継承されます。

MQMON_LOW

このチャンネルの統計データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

このチャンネルの統計データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

このチャンネルの統計データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、高いデータ収集率でオンになります。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

ChannelType (MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHT_SENDER

送信側。

MQCHT_SERVER

サーバー。

MQCHT_RECEIVER

受信側。

MQCHT_REQUESTER

要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

MQCHT_MQTT

テレメトリー・チャンネル。

ClientChannelWeight (MQCFIN)

クライアント・チャンネル・ウェイト (パラメーター ID: MQIACH_CLIENT_CHANNEL_WEIGHT)。

クライアント・チャンネル加重属性は、複数の適切なクライアント・チャンネル定義が使用可能である場合に、定義をランダムに選択するために使用します。加重の大きいものが選択される可能性が高くなります。

値は 0 から 99 です。デフォルトは 0 です。

このパラメーターは、ChannelType が MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルに関してのみ有効です。

ClientIdentifier (MQCFST)

クライアントの clientId (パラメーター ID: MQCACH_CLIENT_ID)。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

CLWLChannelPriority (MQCFIN)

チャンネル優先順位 (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_PRIORITY)。

CLWLChannelRank (MQCFIN)

チャンネル・ランク (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_RANK)。

CLWLChannelWeight (MQCFIN)

チャンネル加重 (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_WEIGHT)。

ConnectionAffinity (MQCFIN)

チャンネル・アフィニティー (パラメーター ID: MQIACH_CONNECTION_AFFINITY)

チャンネル・アフィニティー属性は、同じキュー・マネージャー名を使用して複数回接続するクライアント・アプリケーションが、同じクライアント・チャンネルを使用するかどうかを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCAFTY_PREFERRED

クライアント・チャンネル定義テーブル (CCDT) を読み取るプロセス内の最初の接続は、加重に基づいて適用可能な定義のリストを作成します。この先頭は ClientChannelWeight がゼロのすべての定義で、アルファベット順です。プロセス内の各接続は、リスト内の最初の定義を使用して接続を試行します。接続が失敗した場合は、次の定義が使用されます。接続に失敗した、ClientChannelWeight がゼロ以外の定義は、リストの末尾に移動されます。ClientChannelWeight がゼロの定義はリストの先頭に残り、それぞれの接続で最初に選択されます。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。同じホスト名を持つ各クライアント・プロセスは、同じリストを作成します。

MQCAFTY_PREFERRED がデフォルト値です。

MQCAFTY_NONE

CCDT を読み取るプロセス内の最初の接続が、適用可能な定義のリストを作成します。プロセス内のすべての接続は、加重に基づいて適用可能な定義を個別に選択します。最初は適用可能な ClientChannelWeight がゼロの定義で、アルファベット順に選択されます。C、C++ および .NET (完全管理の .NET を含む) クライアントでは、リストの作成以降 CCDT が変更されている場合に、リストが更新されます。

このパラメーターは、ChannelType が MQCHT_CLNTCONN であるチャンネルに関してのみ有効です。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。z/OS では、MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

ConnectionName はコンマ区切りリストです。

DataConversion (MQCFIN)

送信側がアプリケーション・データを変換するかどうか (パラメーター ID: MQIACH_DATA_CONVERSION)。

値は次のいずれかです。

MQCDC_NO_SENDER_CONVERSION

送信側による変換なし。

MQCDC_SENDER_CONVERSION

送信側による変換。

z/OS

DefaultChannelDisposition (MQCFIN)

デフォルトのチャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_DEF_CHANNEL_DISP)。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

アクティブ時のチャンネルで意図される特性を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_PRIVATE

オブジェクトを専用チャンネルとして使用します。

MQCHLD_FIXSHARED

オブジェクトを特定のキュー・マネージャーにリンクされた共有チャンネルとして使用します。

MQCHLD_SHARED

オブジェクトを共有チャンネルとして使用します。

DiscInterval (MQCFIN)

切断間隔 (パラメーター ID: MQIACH_DISC_INTERVAL)。

DefReconnect (MQCFIN)

クライアント・チャンネルのデフォルト再接続オプション (パラメーター ID: MQIACH_DEF_RECONNECT)。

次の値が返される可能性があります。

MQRCN_NO

MQRCN_NO がデフォルト値です。

MQCONNEX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続されません。

MQRCN_YES

MQCONNEX によってオーバーライドされない限り、クライアントは自動的に再接続します。

MQRCN_Q_MGR

MQCONNEX によってオーバーライドされない限り、クライアントは、同じキュー・マネージャーに対してのみ自動的に再接続します。QMGR オプションは MQCNO_RECONNECT_Q_MGR と同じ効果があります。

MQRCN_DISABLED

MQCONNEX MQI 呼び出しを使用してクライアント・プログラムによって要求された場合でも、再接続は無効になります。

HeaderCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_HDR_COMPRESSION)。送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

MQCOMPRESS_SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

HeartbeatInterval (MQCFIN)

ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_HB_INTERVAL)。

InDoubtInbound (MQCFIN)

クライアントへの未確定のインバウンド・メッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_IN_DOUBT_IN)。

InDoubtOutbound (MQCFIN)

クライアントからの未確定のアウトバウンド・メッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_IN_DOUBT_OUT)。

KeepAliveInterval (MQCFIN)

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。

LastMsgTime (MQCFST)

最後にメッセージが送信または受信された時刻 (パラメーター ID: MQCACH_LAST_MSG_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

LocalAddress (MQCFST)

チャネル用のローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LongRetryCount (MQCFIN)

ロング再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_LONG_RETRY)。

LongRetryInterval (MQCFIN)

ロング・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_LONG_TIMER)。

MaxInstances (MQCFIN)

サーバー接続チャネルの同時インスタンスの最大数 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_INSTANCES)。

このパラメーターは、サーバー接続チャネルの場合にのみ、MQIACF_ALL または MQIACH_MAX_INSTANCES を含む ChannelAttrs 属性を指定した Inquire Channel 呼び出しに対する応答として返されます。

MaxInstancesPerClient (MQCFIN)

単一クライアントから開始可能な、サーバー接続チャネルの同時インスタンスの最大数 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_INSTS_PER_CLIENT)。

このパラメーターは、サーバー接続チャネルの場合にのみ、MQIACF_ALL または MQIACH_MAX_INSTS_PER_CLIENT を含む ChannelAttrs 属性を指定した Inquire Channel 呼び出しに対する応答として返されます。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_MSG_LENGTH)。

MCAName (MQCFST)

メッセージ・チャネル・エージェント名 (パラメーター ID: MQCACH_MCA_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MCA_NAME_LENGTH です。

MCAType (MQCFIN)

メッセージ・チャネル・エージェント・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_MCA_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCAT_PROCESS

プロセス。

MQMCAT_THREAD

スレッド (Windows のみ)。

MCAUserIdentifier (MQCFST)

メッセージ・チャネル・エージェント・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

注: チャネルの実行に使用するユーザー ID を提供するための代替手段としては、チャネル認証の記録を使用するという方法があります。チャネル認証レコードを使用すると、複数の異なる接続で、それぞれ異なる資格情報を使用して、同一のチャネルを使用することができます。チャネルで MCAUSER が設定されており、かつチャネル認証レコードが同じチャネルに適用されている場合、チャネル認証レ

コードが優先されます。チャンネル定義での MCAUSER は、チャンネル認証レコードが USERSRC(CHANNEL) を使用する場合にのみ使用されます。詳しくは、[チャンネル認証レコード](#)を参照してください。

MCA ユーザー ID の最大長は、その MCA が実行されている環境によって異なります。MQ_MCA_USER_ID_LENGTH は、アプリケーションの実行対象となる環境に対して最大長を指定します。MQ_MAX_MCA_USER_ID_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

Windows では、ユーザー ID は、次の形式のようにドメイン・ネームで修飾することができます。

user@domain

MessageCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるメッセージ・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_MSG_COMPRESSION)。送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、クラスター送信側チャンネル、クラスター受信側チャンネル、およびクライアント接続チャンネルの場合、望ましい順に値が指定されます。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ANY

キュー・マネージャーでサポートされるすべての圧縮技法を使用できます。MQCOMPRESS_ANY は受信側、要求側、およびサーバー接続チャンネルの場合にのみ有効です。

ModeName (MQCFST)

モード名 (パラメーター ID: MQCACH_MODE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MODE_NAME_LENGTH です。

MsgExit (MQCFST)

メッセージ出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_NAME)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

以下の環境では、チャンネルに複数のメッセージ出口が定義されている場合、MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造で名前のリストが返されます: IBM i、Windows、UNIX および Linux。MQCFSL 構造は、z/OS では常に使用されます。

MsgsReceived (MQCFIN64)

クライアントが最後に接続してから受信したメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_MSGS_RECEIVED /MQIACH_MSGS_RCVD)。

MsgRetryCount (MQCFIN)

メッセージ再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_MR_COUNT)。

MsgRetryExit (MQCFST)

メッセージ再試行出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MR_EXIT_NAME)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

MsgRetryInterval (MQCFIN)

メッセージ再試行間隔 (パラメーター ID: MQIACH_MR_INTERVAL)。

MsgRetryUserData (MQCFST)

メッセージ再試行出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_MR_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

MsgsSent (MQCFIN64)

クライアントが最後に接続してから送信したメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_MSGS_SENT)。

MsgUserData (MQCFST)

メッセージ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

以下の環境では、チャンネルに対して複数のメッセージ出口ユーザー・データ・ストリングが定義されている場合、MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造でストリングのリストが返されます: IBM i、Windows、UNIX および Linux。MQCFSL 構造は、z/OS では常に使用されます。

NetworkPriority (MQCFIN)

ネットワーク優先度 (パラメーター ID: MQIACH_NETWORK_PRIORITY)。

NonPersistentMsgSpeed (MQCFIN)

非持続メッセージを送信する速度 (パラメーター ID: MQIACH_NPM_SPEED)。

値は次のいずれかです。

MQNPMS_NORMAL

通常の数値。

MQNPMS_FAST

高速。

Password (MQCFST)

パスワード (パラメーター ID: MQCACH_PASSWORD)。

ブランク以外のパスワードが定義されている場合は、そのパスワードがアスタリスクとして返されます。ブランクのパスワードを定義すると、ブランクが返されます。

ストリングの最大長は MQ_PASSWORD_LENGTH です。ただし、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

PropertyControl (MQCFIN)

プロパティ制御属性 (パラメーター ID: MQIA_PROPERTY_CONTROL)。

メッセージが V6 またはそれより前のキュー・マネージャー (プロパティ記述子の概念を理解しないキュー・マネージャー) に送信されるときに、メッセージのプロパティに対して行われる処置を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPROP_COMPATIBILITY

メッセージ・プロパティ	結果
メッセージに mcd. 、 jms. 、 usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティが含まれている	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティを除くすべてのオプションのメッセージ・プロパティ (Support の値が MQPD_SUPPORT_OPTIONAL であるプロパティ) が、メッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。
メッセージに mcd. 、 jms. 、 usr. または mqext. という接頭部を持つプロパティが含まれていない	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティを除くすべてのメッセージ・プロパティが、メッセージから除去されます。

メッセージ・プロパティー	結果
メッセージに、プロパティー記述子の Support フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティーが含まれている	メッセージは理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY でリジェクトされ、そのレポート・オプションに従って処理されます。
プロパティー記述子の Support フィールドは MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されているが、プロパティー記述子の他のフィールドはデフォルト以外の値に設定されているプロパティーがメッセージに 1 つ以上含まれている	メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、デフォルト以外の値に設定されているプロパティーが、メッセージから除去されます。
メッセージ・プロパティーが含まれる MQRFH2 フォルダーに <code>content='properties'</code> 属性を割り当てる必要がある	サポートされない構文がある MQRFH2 ヘッダーが V6 以前のキュー・マネージャーに送信されないようにするため、プロパティーが除去されます。

MQPROP_NONE

メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージ記述子または拡張子に含まれるプロパティーを除くすべてのメッセージ・プロパティーが、メッセージから除去されます。

メッセージに、プロパティー記述子の **Support** フィールドが MQPD_SUPPORT_OPTIONAL に設定されていないプロパティーが含まれている場合、メッセージは、理由コード MQRC_UNSUPPORTED_PROPERTY でリジェクトされ、そのレポート・オプションに従って処理されます。

MQPROP_ALL

メッセージのすべてのプロパティーは、リモート・キュー・マネージャーへの送信時にメッセージに組み込まれます。メッセージ記述子 (または拡張子) に含まれるプロパティーを除き、プロパティーはメッセージ・データ内の 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。

この属性は、送信側、サーバー、クラスター送信側、およびクラスター受信側の各チャンネルに適用可能です。

PutAuthority (MQCFIN)

書き込み権限 (パラメーター ID: MQIACH_PUT_AUTHORITY)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPA_DEFAULT

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

MQPA_CONTEXT

コンテキスト・ユーザー ID が使用されます。

QMgrName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

ReceiveExit (MQCFST)

受信出口名 (パラメーター ID: MQCACH_RCV_EXIT_NAME)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

以下の環境では、チャンネルに複数の受信出口が定義されている場合、MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造で名前のリストが返されます: IBM i、Windows、UNIX および Linux。MQCFSL 構造は、z/OS では常に使用されます。

ReceiveUserData (MQCFST)

受信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_RCV_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

以下の環境では、チャンネルに複数の受信出口ユーザー・データ・ストリングが定義されている場合、MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造でストリングのリストが返されます: IBM i、Windows、UNIX および Linux。MQCFSL 構造は、z/OS では常に使用されます。

ResetSeq (MQCFIN)

保留リセット順序番号 (パラメーター ID: MQIACH_RESET_REQUESTED)。

これは未解決要求からの順序番号であり、ユーザーの RESET CHANNEL コマンド要求が未解決であることを示します。

値がゼロなら、未解決の RESET CHANNEL がないことを示します。値の範囲は 1 から 999999999 です。

可能な戻り値には MQCHRR_RESET_NOT_REQUESTED が含まれます。

このパラメーターは、z/OS では適用されません。

SecurityExit (MQCFST)

セキュリティ出口名 (パラメーター ID: MQCACH_SEC_EXIT_NAME)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

SecurityUserData (MQCFST)

セキュリティ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_SEC_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

SendExit (MQCFST)

送信出口名 (パラメーター ID: MQCACH_SEND_EXIT_NAME)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

以下の環境では、チャンネルに対して複数の送信出口が定義されている場合、名前のリストが MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造で返されます: IBM i、Windows、UNIX および Linux。MQCFSL 構造は、z/OS では常に使用されます。

SendUserData (MQCFST)

送信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_SEND_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

以下の環境では、チャンネルに複数の送信出口ユーザー・データ・ストリングが定義されている場合、MQCFST 構造の代わりに MQCFSL 構造でストリングのリストが返されます: IBM i、Windows、UNIX および Linux。MQCFSL 構造は、z/OS では常に使用されます。

SeqNumberWrap (MQCFIN)

シーケンス・ラップ番号 (パラメーター ID: MQIACH_SEQUENCE_NUMBER_WRAP)。

SharingConversations (MQCFIN)

共有会話の数 (パラメーター ID: MQIACH_SHARING_CONVERSATIONS)。

このパラメーターは、TCP/IP クライアント接続およびサーバー接続チャネルについてのみ返されます。

ShortRetryCount (MQCFIN)

ショート再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_RETRY)。

ShortRetryInterval (MQCFIN)

ショート・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_TIMER)。

SSLCipherSpec (MQCFST)

CipherSpec (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC)。

ストリングの長さは MQ_SSL_CIPHER_SPEC_LENGTH です。

SSLCipherSuite (MQCFST)

CipherSuite (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SUITE)。

ストリングの長さは MQ_SSL_CIPHER_SUITE_LENGTH です。

SSLClientAuth (MQCFIN)

クライアント認証 (パラメーター ID: MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH)。

値は以下のとおりです。

MQSCA_REQUIRED

クライアント認証が必要です。

MQSCA_OPTIONAL

クライアント認証はオプションです。

以下の値は、タイプ MQCHT_MQTT のチャネルでも有効です。

MQSCA_NEVER_REQUIRED

クライアント認証は要求されず、提供してはなりません。

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。

SSLPeerName (MQCFST)

ピア名 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_PEER_NAME)。

注：SSL または TLS サブジェクト識別名との突き合わせによってチャネルへの接続を制限する別の方法は、チャネル認証レコードを使用することです。チャネル認証レコードを使用すると、SSL または TLS のサブジェクト識別名のさまざまなパターンを同じチャネルに適用することができます。チャネルで SSLPEER が設定されており、かつチャネル認証レコードが同じチャネルに適用されている場合、接続するには、インバウンド証明書が両方のパターンと一致する必要があります。詳しくは、[チャネル認証レコード](#)を参照してください。

ストリングの長さは MQ_SSL_PEER_NAME_LENGTH です。z/OS では、ストリングの長さは MQ_SSL_SHORT_PEER_NAME_LENGTH です。

チャネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントから送られてくる証明書の識別名との比較に使用するフィルターを指定します。(識別名は SSL 証明書の ID です。) 相手から受け取る証明書内の識別名が SSLPEER フィルターと一致しない場合、チャネルは開始しません。

TpName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は以下のとおりです。

MQXPT_LU62

LU 6.2。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。

MQXPT_SPX

SPX。

MQXPT_DECNET

DECnet。

UseDLQ (MQCFIN)

メッセージをチャンネルで配信できない場合に、送達不能キュー (または未配布メッセージ・キュー) を使用するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q)。

値は以下のとおりです。

MQUSEDLQ_NO

チャンネルで配信できないメッセージは失敗として処理され、NPMSPEED の設定に応じて、チャンネルがメッセージを廃棄するか、またはチャンネルが終了します。

MQUSEDLQ_YES

キュー・マネージャーの DEADQ 属性に送達不能キューの名前が指定されている場合、そのキューが使用されます。指定されていない場合、動作は MQUSEDLQ_NO が指定された場合のようになります。

UserIdentifier (MQCFST)

タスク・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。ただし、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

Inquire Channel Authentication Records

Inquire Channel Authentication Records (MQCMD_INQUIRE_CHLAUTH_RECS) コマンドは、1 つのチャンネルまたはチャンネルのセットに許可されたパートナーの詳細および MCAUSER へのマッピングを検索します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	2CR

必要なパラメーター

generic-channel-name (MQCFST)

照会中のチャンネルまたはチャンネル・セットの名前 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

MQMATCH_RUNCHECK に Match を設定しない場合は、チャンネルのセットを指定するためにアスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。Type を BLOCKADDR に設定した場合は、1 つのアスタリスクだけで総称チャンネル名を設定する必要があります。この場合は、すべてのチャンネル名が一致項目になります。

オプション・パラメーター

Address (MQCFST)

マップする IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

このパラメーターは **Match** が MQMATCH_RUNCHECK であり、総称ではない場合のみ有効です。

ByteStringFilterCommand(MQCFBF)

バイト・ストリング・フィルター・コマンド記述子。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1872 ページの『MQCFBF - PCF バイト・ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

バイト・ストリング・フィルターを指定する場合、**IntegerFilterCommand** パラメーターを使用して整数フィルターを、または **StringFilterCommand** パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

ChannelAuthAttrs(MQCFIL)

権限レコード属性 (パラメーター ID: MQIACF_CHLAUTH_ATTRS)。

属性リストに次の値を単独で指定できます。パラメーターが指定されていない場合は、これがデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

MQIACF_ALL が指定されていない場合は、以下の値の組み合わせを指定します。

MQCA_ALTERATION_DATE

変更日。

MQCA_ALTERATION_TIME

変更時刻。

MQCA_CHLAUTH_DESC

説明。

MQCA_CUSTOM

カスタム。

MQCACH_CONNECTION_NAME

IP アドレス・フィルター。

MQCACH_MCA_USER_ID

レコードにマップされた MCA ユーザー ID。

MQIACH_USER_SOURCE

このレコードのユーザー ID のソース。

MQIACH_WARNING

警告モード。

CheckClient (MQCFIN)

クライアント接続が正常に確立されるためのユーザー ID およびパスワードの要件。有効な値は、以下のとおりです。

MQCHK_REQUIRED_ADMIN

特権が付与されたユーザー ID を使用して接続の許可を得るには、有効なユーザー ID とパスワードが必要になります。

特権なしのユーザー ID を使用する接続の場合、ユーザー ID とパスワードを提供する必要はありません。

ユーザー ID およびパスワードは、認証情報オブジェクトで提供され、ALTER QMGR の CONNAUTH フィールドで指定されるユーザー・リポジトリの詳細に突き合わせて検査されます。

ユーザー・リポジトリの詳細が提供されない場合、キュー・マネージャーでのユーザー ID とパスワードの検査が有効にならないため、接続は成功しません。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

このオプションは、z/OS プラットフォームでは無効です。

MQCHK_REQUIRED

接続の許可を得るには、有効なユーザー ID とパスワードが必要になります。

ユーザー ID およびパスワードは、認証情報オブジェクトで提供され、ALTER QMGR の CONNAUTH フィールドで指定されるユーザー・リポジトリの詳細に突き合わせて検査されます。

ユーザー・リポジトリの詳細が提供されない場合、キュー・マネージャーでのユーザー ID とパスワードの検査が有効にならないため、接続は成功しません。

MQCHK_AS_Q_MGR

接続の許可を得るには、キュー・マネージャーで定義される接続認証要件を満たす必要があります。

CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供され、CHCKCLNT の値が REQUIRED である場合、有効なユーザー ID およびパスワードが指定されない限り、接続は失敗します。

CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供されない、または CHCKCLNT の値が REQUIRED ではない場合、ユーザー ID およびパスワードは必要ありません。



重要: MQCHK_REQUIRED または MQCHK_REQUIRED_ADMIN  (z/OS 以外のプラットフォームの場合) を選択し、キュー・マネージャーに **Connauth** フィールドを設定していないか、**CheckClient** の値が None である場合、接続は失敗します。AMQ9793  z/OS 以外のプラットフォームの場合はメッセージ CSQX793E、z/OS の場合はメッセージ。というメッセージが表示されます。

ClntUser (MQCFST)

新規ユーザー ID にマップするか、未変更で許可するか、またはブロックするクライアント表明のユーザー ID、または (パラメーター ID: MQCACH_CLIENT_USER_ID)。

これには、クライアント・サイド・プロセスの実行に使用されるユーザー ID を示すクライアントからフローされたユーザー ID、または MQCSP を使用する MQCONNx 呼び出しに基づいてクライアントが提示するユーザー ID のいずれかを指定できます。

このパラメーターは、**Match** が MQMATCH_RUNCHECK であるときに、TYPE(USERMAP) と共に指定した場合にのみ有効です。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下の値のうちいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、またコマンド・サーバーが使用可能になっていなければなりません。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、**ByteStringFilterCommand** パラメーターを使用してストリング・フィルターを、または **StringFilterCommand** パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

Match (MQCFIN)

適用するマッチングのタイプを示します (パラメーター ID: MQIACH_MATCH)。次のいずれかの値を指定できます。

MQMATCH_RUNCHECK

提供されたチャンネル名およびオプションで提供された **Address**、**SSLPeer**、**QMName**、および **CIntUser** 属性に対して、チャンネル認証レコードを検出する固有のマッチングを行います。このキュー・マネージャーに接続しているチャンネルは、実行時にこのレコードが一致します。検出されたレコードの **Warn** が **MQWARN_YES** に設定されている場合は、2 番目のレコードも表示されて、実行時にチャンネルが使用する実際のレコードが示されます。この場合は、チャンネル名として総称名を指定することはできません。このオプションは、**Type** **MQCAUT_ALL** と組み合わせて使用する必要があります。

MQMATCH_EXACT

チャンネル・プロファイル名の指定値と完全に一致するレコードだけを返します。チャンネル・プロファイル名にアスタリスクが含まれていない場合、このオプションは **MQMATCH_GENERIC** と同じ出力を返します。

MQMATCH_GENERIC

チャンネル・プロファイル名に含まれているアスタリスクは、ワイルドカードとして扱われます。チャンネル・プロファイル名にアスタリスクが含まれていない場合、このオプションは **MQMATCH_EXACT** と同じ出力を返します。例えば、プロファイル名を **ABC*** とした場合、**ABC**、**ABC***、および **ABCD** のレコードが返される結果となります。

MQMATCH_ALL

チャンネル・プロファイル名の指定値に合致するすべてのレコードを返します。この場合、チャンネル名が総称名であれば、より具体的な一致項目が存在するとしても、チャンネル名に合致するすべてのレコードが返されます。例えば、プロファイル名が **SYSTEM*.SVRCONN** であるなら、**SYSTEM.***、**SYSTEM.DEF.***、**SYSTEM.DEF.SVRCONN**、および **SYSTEM.ADMIN.SVRCONN** が返されます。

QMName (MQCFST)

突き合わせるリモート・パートナー・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: **MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME**)。

このパラメーターは **Match** が **MQMATCH_RUNCHECK** である場合のみ有効です。値を総称にすることはできません。

SSLCertIssuer (MQCFST)

このパラメーターは、**SSLPeer** パラメーターに追加で指定します。

SSLCertIssuer は、一致を特定の認証局によって発行された証明書内にあるものに制限します。

SSLPeer (MQCFST)

突き合わせる証明書の識別名 (パラメーター ID: **MQCACH_SSL_PEER_NAME**)。

このパラメーターは **Match** が **MQMATCH_RUNCHECK** である場合のみ有効です。

SSLPeer 値は、識別名を指定するために使用される標準形式で指定され、総称値にすることはできません。

パラメーターの最大長は **MQ_SSL_PEER_NAME_LENGTH** です。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページ](#)の『**MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター**』を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、**ByteStringFilterCommand** パラメーターを使用してストリング・フィルターを、または **IntegerFilterCommand** パラメーターを使用して整数フィルターを同時に指定することはできません。

Type (MQCFIN)

許可されるパートナーの詳細または **MCAUSER** へのマッピングを設定するチャンネル認証レコードのタイプ (パラメーター ID: **MQIACF_CHLAUTH_TYPE**)。有効な値は、以下のとおりです。

MQCAUT_BLOCKUSER

このチャンネル認証レコードでは、指定されているユーザー (複数可) の接続を禁止します。

MQCAUT_BLOCKADDR

このチャンネル認証レコードでは、指定されている IP アドレス (複数可) からの接続を禁止します。

MQCAUT_SSLPEERMAP

このチャンネル認証レコードは、SSL 識別名 (DN) を MCAUSER 値にマップします。

MQCAUT_ADDRESSMAP

このチャンネル認証レコードでは、IP アドレスを MCAUSER 値にマップします。

MQCAUT_USERMAP

このチャンネル認証レコードでは、表明ユーザー ID を MCAUSER 値にマップします。

MQCAUT_QMGRMAP

このチャンネル認証レコードでは、リモート・キュー・マネージャー名を MCAUSER 値にマップします。

MQCAUT_ALL

すべてのタイプのレコードを照会します。これはデフォルト値です。

関連情報

[チャンネル認証レコード](#)

Inquire Channel Authentication Records (応答)

Inquire Channel Authentication Records (MQCMD_INQUIRE_CHLAUTH_RECS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続く、要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	2CR

常に返されるデータ:

ChlAuth, Type, Warn(yes)

タイプが **MQCAUT_BLOCKUSER** の場合、常に返されるデータ:

UserList

タイプが **MQCAUT_BLOCKADDR** の場合、常に返されるデータ:

AddrList

タイプが **MQCAUT_SSLPEERMAP** の場合、常に返されるデータ:

Address (unless blanks), MCAUser (unless blanks), SSLCertIssuer, SSLPeer, UserSrc

タイプが **MQCAUT_ADDRESSMAP** の場合、常に返されるデータ:

Address (unless blanks), MCAUser (unless blanks), UserSrc

タイプが **MQCAUT_USERMAP** の場合、常に返されるデータ:

Address (unless blanks), ClnUser, MCAUser (unless blanks), UserSrc

タイプが **MQCAUT_QMGRMAP** の場合、常に返されるデータ:

Address (unless blanks), MCAUser (unless blanks), QMName, UserSrc

要求すると返されるデータ:

Address, AlterationDate, AlterationTime, Custom, Description, MCAUser, SSLPeer, UserSrc, Warn

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

Address (MQCFST)

もう一方のチャンネルの終端にあるパートナー・キュー・マネージャーまたはクライアントの IP アドレスまたはホスト名と比較するために使用するフィルター (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

AddrList (MQCFSL)

すべてのチャンネルでこのキュー・マネージャーへのアクセスが禁止される最大 100 の IP アドレス・パターンのリスト (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME_LIST)。

Chlauth (MQCFST)

チャンネル認証レコードを適用するチャンネルの名前または一連のチャンネルと一致するパターン (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

CheckClient (MQCFIN)

クライアント接続が正常に確立されるためのユーザー ID およびパスワードの要件 (パラメーター ID: MQIA_CHECK_CLIENT_BINDING)。

ClntUser (MQCFST)

新規ユーザー ID にマップするか、未変更で許可するか、またはブロックするクライアント表明のユーザー ID、または (パラメーター ID: MQCACH_CLIENT_USER_ID)。

Description (MQCFST)

チャンネル認証レコードに関する説明情報 (パラメーター ID: MQCA_CHLAUTH_DESC)。

MCAUser (MQCFST)

インバウンド接続が、指定された SSL DN、IP アドレス、クライアント表明のユーザー ID、またはリモート・キュー・マネージャー名と一致した場合に使用するユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

QMName (MQCFST)

ユーザー ID にマップするか、未変更で許可するか、またはブロックするリモート・パートナー・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME)。

SSLCertIssuer (MQCFST)

このパラメーターは、**SSLPeer** パラメーターに追加で指定します。

SSLCertIssuer は、一致を特定の認証局によって発行された証明書内にあるものに制限します (パラメーター ID: MQCA_SSL_CERT_ISSUER_NAME)。

SSLPeer (MQCFST)

チャンネルの相手側のピア・キュー・マネージャーまたはクライアントからの証明書の識別名と比較するために使用するフィルター (パラメーター ID: MQCACH_SSL_PEER_NAME)。

Type (MQCFIN)

許可されるパートナーの詳細または MCAUSER へのマッピングを設定するチャンネル認証レコードのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_CHLAUTH_TYPE)。以下の値が返される可能性があります。

MQCAUT_BLOCKUSER

このチャンネル認証レコードでは、指定されているユーザー (複数可) の接続を禁止します。

MQCAUT_BLOCKADDR

このチャンネル認証レコードでは、指定されている IP アドレス (複数可) からの接続を禁止します。

MQCAUT_SSLPEERMAP

このチャンネル認証レコードは、SSL 識別名 (DN) を MCAUSER 値にマップします。

MQCAUT_ADDRESSMAP

このチャンネル認証レコードでは、IP アドレスを MCAUSER 値にマップします。

MQCAUT_USERMAP

このチャンネル認証レコードでは、表明ユーザー ID を MCAUSER 値にマップします。

MQCAUT_QMGRMAP

このチャンネル認証レコードでは、リモート・キュー・マネージャー名を MCAUSER 値にマップします。

UserList (MQCFSL)

このチャンネルまたはチャンネルのセットの使用が禁止される最大 100 のユーザー ID のリスト (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID_LIST)。特権ユーザーまたは管理ユーザーを指定するために、*MQADMIN という特殊値を使用することもできます。この値の定義は、以下のように、オペレーティング・システムによって異なります。

- Windows では、mqm グループ、Administrators グループのすべてのメンバーと、SYSTEM。
- UNIX および Linux では、mqm グループのすべてのメンバー。
- IBM i では、プロファイル (ユーザー) qmqm と qmqmadm、qmqmadm グループのすべてのメンバー、*ALLOBJ 特殊設定で定義されているすべてのユーザー。
- z/OS では、チャンネル・イニシエーター、キュー・マネージャー、拡張メッセージ・セキュリティのアドレス・スペースの実行に使用されているユーザー ID。

UserSrc (MQCFIN)

実行時に MCAUSER に使用されるユーザー ID のソース (パラメーター ID: MQIACH_USER_SOURCE)。

以下の値が返される可能性があります。

MQUSRC_MAP

このマッピングに合致するインバウンド接続は、MCAUser 属性で指定されているユーザー ID を使用します。

MQUSRC_NOACCESS

このマッピングに合致するインバウンド接続は、キュー・マネージャーにアクセスできません。チャンネルはすぐに終了します。

MQUSRC_CHANNEL

このマッピングに合致するインバウンド接続は、送られてくるユーザー ID、またはチャンネル・オブジェクトの MCAUSER フィールドで定義されているユーザーを使用します。

Warn (MQCFIN)

このレコードが警告モードで機能するかどうかを示します (パラメーター ID: MQIACH_WARNING)。

MQWARN_NO

このレコードは警告モードでは機能しません。このレコードに合致するインバウンド接続はブロックされます。これはデフォルト値です。

MQWARN_YES

このレコードは警告モードで機能します。このレコードに合致する (したがってブロックされるはずの) インバウンド接続は、アクセスを許可されます。エラー・メッセージが書き込まれます。イベントが構成されていれば、何がブロックされるはずだったかの詳細を示すイベント・メッセージが作成されます。接続は続行可能です。

Inquire Channel Initiator

Inquire Channel Initiator (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_INIT) コマンドは、チャンネル・イニシエーターに関する情報を返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS Inquire Channel Initiator (応答)

Inquire Channel Initiator (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_INIT) コマンドに対する応答は、チャネル・イニシエーターの 状況を示す一連の属性パラメーター構造を持つ 1 つの応答 (*ChannelInitiatorStatus* パラメーターで示されます) と、リスナーごとに 1 つの 応答 (*ListenerStatus* パラメーターで示されます) で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

常に返されるデータ (チャネル・イニシエーター情報を伴う 1 メッセージ):

ActiveChannels, ActiveChannelsMax, ActiveChannelsPaused, ActiveChannelsRetrying, ActiveChannelsStarted, ActiveChannelsStopped, AdaptersMax, AdaptersStarted, ChannelInitiatorStatus, CurrentChannels, CurrentChannelsLU62, CurrentChannelsMax, CurrentChannelsTCP, DispatchersMax, DispatchersStarted, SSLTasksStarted, TCPName

常に返されるデータ (リスナーごとに 1 メッセージ):

InboundDisposition, ListenerStatus, TransportType

リスナーで該当する場合に返されるデータ:

IPAddress, LUName, Port

応答データ - チャネル・イニシエーター情報

ActiveChannels (MQCFIN)

アクティブ・チャネル接続数 (パラメーター ID: MQIACH_ACTIVE_CHL)。

ActiveChannelsMax (MQCFIN)

アクティブ・チャネル接続要求数 (パラメーター ID: MQIACH_ACTIVE_CHL_MAX)。

ActiveChannelsPaused (MQCFIN)

アクティブ・チャネルの制限に達したため、休止してアクティブになるのを待っている、アクティブ・チャネル接続の数 (パラメーター ID: MQIACH_ACTIVE_CHL_PAUSED)。

ActiveChannelsRetrying (MQCFIN)

一時エラーの後で、再接続を試行中のアクティブ・チャネル接続の数 (パラメーター ID: MQIACH_ACTIVE_CHL_RETRY)。

ActiveChannelsStarted (MQCFIN)

開始されたアクティブ・チャネル接続数 (パラメーター ID: MQIACH_ACTIVE_CHL_STARTED)。

ActiveChannelsStopped (MQCFIN)

手操作による介入が必要な、停止されたアクティブ・チャネル接続の数 (パラメーター ID: MQIACH_ACTIVE_CHL_STOPPED)。

AdaptersMax (MQCFIN)

アダプター・サブタスク要求数 (パラメーター ID: MQIACH_ADAPS_MAX)。

AdaptersStarted (MQCFIN)

アクティブ・アダプター・サブタスク数 (パラメーター ID: MQIACH_ADAPS_STARTED)。

ChannelInitiatorStatus (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターの状況 (パラメーター ID: MQIACF_CHINIT_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_STATUS_STOPPED

チャンネル・イニシエーターは稼働していません。

MQSVC_STATUS_RUNNING

チャンネル・イニシエーターは初期化が完了し、稼働しています。

CurrentChannels (MQCFIN)

現在のチャンネル接続数 (パラメーター ID: MQIACH_CURRENT_CHL)。

CurrentChannelsLU62 (MQCFIN)

現在の LU 6.2 チャンネル接続数 (パラメーター ID: MQIACH_CURRENT_CHL_LU62)。

CurrentChannelsMax (MQCFIN)

チャンネル接続要求数 (パラメーター ID: MQIACH_CURRENT_CHL_MAX)。

CurrentChannelsTCP (MQCFIN)

現在の TCP/IP チャンネル接続数 (パラメーター ID: MQIACH_CURRENT_CHL_TCP)。

DispatchersMax (MQCFIN)

ディスパッチャー要求数 (パラメーター ID: MQIACH_DISPS_MAX)。

DispatchersStarted (MQCFIN)

アクティブ・ディスパッチャー数 (パラメーター ID: MQIACH_DISPS_STARTED)。

SSLTasksMax (MQCFIN)

SSL サーバー・サブタスク要求数 (パラメーター ID: MQIACH_SSLTASKS_MAX)。

SSLTasksStarted (MQCFIN)

アクティブ SSL サーバー・サブタスク数 (パラメーター ID: MQIACH_SSLTASKS_STARTED)。

TCPName (MQCFST)

TCP システム名 (パラメーター ID: MQCACH_TCP_NAME)。

最大長は MQ_TCP_NAME_LENGTH です。

応答データ - リスナー情報**InboundDisposition (MQCFIN)**

インバウンド伝送特性 (パラメーター ID: MQIACH_INBOUND_DISP)。

リスナーが処理するインバウンド伝送の属性指定を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQINBD_Q_MGR

キュー・マネージャーに宛てられた伝送を処理します。MQINBD_Q_MGR はデフォルトです。

MQINBD_GROUP

キュー共有グループに宛てられた伝送を処理します。MQINBD_GROUP は共有キュー・マネージャー環境でのみ許可されています。

IPAddress (MQCFST)

リスナーが listen している IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。

ListenerStatus (MQCFIN)

リスナー状況 (パラメーター ID: MQIACH_LISTENER_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_STATUS_RUNNING

リスナーは開始されました。

MQSVC_STATUS_STOPPED

リスナーは停止されました。

MQSVC_STATUS_RETRYING

リスナーは再度試行中です。

LUName (MQCFST)

リスナーがlisten している LU 名 (パラメーター ID: MQCACH_LU_NAME)。

最大長は MQ_LU_NAME_LENGTH です。

Port (MQCFIN)

リスナーがlisten しているポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT_NUMBER)。

TransportType (MQCFIN)

リスナーが使用している伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQXPT_LU62

LU62.

MQXPT_TCP

TCP

Inquire Channel Listener

Inquire Channel Listener (MQCMD_INQUIRE_LISTENER) コマンドは、既存の IBM MQ リスナーの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター**ListenerName (MQCFST)**

リスナー名 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

このパラメーターは、必須の属性を持つリスナーの名前です。総称リスナー名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、指定した文字ストリングで始まる名前のすべてのリスナーが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求した属性とは無関係に、リスナー名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター**IntegerFilterCommand (MQCFIF)**

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_ALL を除く、*ListenerAttrs* で使用可能な 整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

ListenerAttrs (MQCFIL)

リスナー属性 (パラメーター ID: MQIACF_LISTENER_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_ALTERATION_DATE

定義が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

定義が最後に変更された時刻。

MQCACH_IP_ADDRESS

リスナーの IP アドレス。

MQCACH_LISTENER_DESC

リスナー定義の記述。

MQCACH_LISTENER_NAME

リスナー定義の名前。

MQCACH_LOCAL_NAME

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。MQCACH_LOCAL_NAME は、Windows でのみ有効です。

MQCACH_TP_NAME

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。MQCACH_TP_NAME は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_ADAPTER

NetBIOS が listen するアダプター番号。MQIACH_ADAPTER は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_BACKLOG

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

MQIACH_COMMAND_COUNT

リスナーが使用できるコマンドの数。MQIACH_COMMAND_COUNT は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_LISTENER_CONTROL

キュー・マネージャーがリスナーを開始および停止する時期を指定します。

MQIACH_NAME_COUNT

リスナーが使用可能な名前の数。MQIACH_NAME_COUNT は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_PORT

ポート番号。

MQIACH_SESSION_COUNT

リスナーが使用できるセッションの数。MQIACH_SESSION_COUNT は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_SOCKET

listen する SPX ソケット。MQIACH_SOCKET は、Windows でのみ有効です。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCACH_LISTENER_NAME を除く、*ListenerAttrs* で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

TransportType(MQCFIN)

トランスポート・プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

このパラメーターを指定すると、指定したトランスポート・プロトコル・タイプで定義されたリスナーに関連する情報のみが返されます。*ListenerAttrs* リストで、異なるトランスポート・プロトコル・タイプのリスナーにのみ有効な属性を指定した場合、この属性は無視され、エラーは発生しません。このパラメーターを指定する場合は、*ListenerName* パラメーターの直後に指定する必要があります。

このパラメーターを指定しない場合、またはこのパラメーターに値 MQXPT_ALL を指定した場合は、すべてのリスナーに関する情報が返されます。*ListenerAttrs* リスト内の、リスナーに適用されない

有効な属性は無視され、エラー・メッセージは出されません。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQXPT_ALL

すべてのトランスポート・タイプ。

MQXPT_LU62

SNA LU 6.2。MQXPT_LU62 は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。MQXPT_NETBIOS は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_SPX

SPX。MQXPT_SPX は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_TCP

伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP)。

Inquire Channel Listener (応答)

Inquire Channel Listener (MQCMD_INQUIRE_LISTENER) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ListenerName* 構造および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

総称リスナー名を指定した場合、リスナーが見つかるたびに、このようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

ListenerName

要求すると返されるデータ:

Adapter, AlterationDate, AlterationTime, Backlog, Commands, IPAddress, ListenerDesc, LocalName, NetbiosNames, Port, Sessions, Socket, StartMode, TPname, TransportType

応答データ

***AlterationDate* (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

***AlterationTime* (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

***Adapter* (MQCFIN)**

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_ADAPTER)。

NetBIOS が listen するアダプター番号。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

***Backlog* (MQCFIN)**

バックログ (パラメーター ID: MQIACH_BACKLOG)。

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

***Commands* (MQCFIN)**

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_COMMAND_COUNT)。

リスナーが使用できるコマンドの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

***IPAddress* (MQCFST)**

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。

リスナーの IP アドレス。IPv4 ドット 10 進表記、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名のいずれかの形式で指定します。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

ListenerDesc (MQCFST)

リスナー定義の説明 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_DESC_LENGTH です。

ListenerName (MQCFST)

リスナー定義の名前 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

LocalName (MQCFST)

NetBIOS ローカル名 (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_NAME)。

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

NetbiosNames (MQCFIN)

NetBIOS 名 (パラメーター ID: MQIACH_NAME_COUNT)。

リスナーでサポートされる名前数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Port (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

TCP/IP のポート番号。このパラメーターは、*TransportType* の値が MQXPT_TCP である場合にのみ有効です。

Sessions (MQCFIN)

NetBIOS セッション (パラメーター ID: MQIACH_SESSION_COUNT)。

リスナーが使用できるセッションの数。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

Socket (MQCFIN)

SPX ソケット番号 (パラメーター ID: MQIACH_SOCKET)。

listen する SPX ソケットです。このパラメーターは、*TransportType* の値が MQXPT_SPX の場合にのみ有効です。

StartMode (MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIACH_LISTENER_CONTROL)。

リスナーの開始および停止の方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

リスナーを自動的に開始または停止しません。ユーザー・コマンドによって制御されます。
MQSVC_CONTROL_MANUAL がデフォルト値です。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

定義するリスナーは、キュー・マネージャーの開始および停止と同時に、開始および停止します。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

リスナーはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

TPName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。このパラメーターは、Windows でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQXPT_TCP
TCP

MQXPT_LU62
LU 6.2。MQXPT_LU62 は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_NETBIOS
NetBIOS。MQXPT_NETBIOS は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_SPX
SPX。MQXPT_SPX は、Windows でのみ有効です。

Inquire Channel Listener Status

Inquire Channel Listener Status (MQCMD_INQUIRE_LISTENER_STATUS) コマンドは、1 つ以上の IBM MQ リスナー・インスタンスの状況について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

状況情報を取得するリスナーの名前を指定してください。特定のリスナー名または総称リスナー名のどちらかを使用してリスナーを指定できます。総称リスナー名を使用することにより、次のいずれかの情報を表示できます。

- 単一のアスタリスク (*) を使用して、すべてのリスナー定義の状況情報を表示できます。
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のリスナーの状況情報。

必要なパラメーター

ListenerName (MQCFST)

リスナー名 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

総称リスナー名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、指定した文字ストリングで始まる名前のすべてのリスナーが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求した属性とは無関係に、リスナー名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_ALL を除く、*ListenerStatusAttrs* で使用可能な 整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

ListenerStatusAttrs (MQCFIL)

リスナー状況属性 (パラメーター ID: MQIACF_LISTENER_STATUS_ATTRS)。

属性リストには、次の値を単独で指定できます (このパラメーターを指定しない場合はデフォルト値が使用される)。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCACH_IP_ADDRESS

リスナーの IP アドレス。

MQCACH_LISTENER_DESC

リスナー定義の記述。

MQCACH_LISTENER_NAME

リスナー定義の名前。

MQCACH_LISTENER_START_DATE

リスナーが開始された日付。

MQCACH_LISTENER_START_TIME

リスナーが開始された時刻。

MQCACH_LOCAL_NAME

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。MQCACH_LOCAL_NAME は、Windows でのみ有効です。

MQCACH_TP_NAME

LU6.2 トランザクション・プログラム名。MQCACH_TP_NAME は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_PROCESS_ID

リスナーに関連付けられたオペレーティング・システム・プロセス ID。

MQIACH_ADAPTER

NetBIOS が listen するアダプター番号。MQIACH_ADAPTER は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_BACKLOG

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

MQIACH_COMMAND_COUNT

リスナーが使用できるコマンドの数。MQIACH_COMMAND_COUNT は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_LISTENER_CONTROL

リスナーの開始方法と停止方法。

MQIACH_LISTENER_STATUS

リスナーの状況。

MQIACH_NAME_COUNT

リスナーが使用可能な名前数。MQIACH_NAME_COUNT は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_PORT

TCP/IP のポート番号。

MQIACH_SESSION_COUNT

リスナーが使用できるセッションの数。MQIACH_SESSION_COUNT は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_SOCKET

SPX ソケット。MQIACH_SOCKET は、Windows でのみ有効です。

MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE

トランスポート・タイプ。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCACH_LISTENER_NAME を除く、*ListenerStatusAttrs* で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_LSTR_STATUS_NOT_FOUND

リスナー状況が見つかりません。

Inquire Channel Listener Status (応答)

Inquire Channel Listener Status (MQCMD_INQUIRE_LISTENER_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ListenerName* 構造および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

総称リスナー名を指定した場合、リスナーが見つかるたびに、このようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

ListenerName

要求すると返されるデータ:

Adapter, Backlog, ChannelCount, Commands, IPAddress, ListenerDesc, LocalName, NetbiosNames, Port, ProcessId, Sessions, Socket, StartDate, StartMode, StartTime, Status, TPname, TransportType

応答データ

Adapter (MQCFIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_ADAPTER)。

NetBIOS が listen するアダプター番号。

Backlog (MQCFIN)

バックログ (パラメーター ID: MQIACH_BACKLOG)。

リスナーがサポートする並行接続要求の数。

Commands (MQCFIN)

アダプター番号 (パラメーター ID: MQIACH_COMMAND_COUNT)。

リスナーが使用できるコマンドの数。

IPAddress (MQCFST)

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。

リスナーの IP アドレス。IPv4 ドット 10 進表記、IPv6 16 進表記、または英数字ホスト名のいずれかの形式で指定します。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

ListenerDesc (MQCFST)

リスナー定義の説明 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_DESC_LENGTH です。

ListenerName (MQCFST)

リスナー定義の名前 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

LocalName (MQCFST)

NetBIOS ローカル名 (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_NAME)。

リスナーが使用する NetBIOS ローカル名。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

NetbiosNames (MQCFIN)

NetBIOS 名 (パラメーター ID: MQIACH_NAME_COUNT)。

リスナーでサポートされる名前の数。

Port (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

TCP/IP のポート番号。

ProcessId (MQCFIN)

プロセス ID (パラメーター ID: MQIACH_PROCESS_ID)。

リスナーに関連したオペレーティング・システム処理 ID。

Sessions (MQCFIN)

NetBIOS セッション (パラメーター ID: MQIACH_SESSION_COUNT)。

リスナーが使用できるセッションの数。

Socket (MQCFIN)

SPX ソケット番号 (パラメーター ID: MQIACH_SOCKET)。

リスナーが listen する SPX ソケット。

StartDate (MQCFST)

開始日 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_START_DATE)。

リスナーが開始された日付 (yyyy-mm-dd の形式) です。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

StartMode (MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIACH_LISTENER_CONTROL)。

リスナーの開始および停止の方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

リスナーを自動的に開始または停止しません。ユーザー・コマンドによって制御されます。

MQSVC_CONTROL_MANUAL がデフォルト値です。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

定義するリスナーは、キュー・マネージャーの開始および停止と同時に、開始および停止します。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

リスナーはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

StartTime (MQCFST)

開始日 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_START_TIME)。

リスナーが開始された時刻 (hh.mm.ss の形式) です。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

Status (MQCFIN)

リスナー状況 (パラメーター ID: MQIACH_LISTENER_STATUS)。

リスナーの状況です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSVC_STATUS_STARTING

リスナーは初期化の処理中です。

MQSVC_STATUS_RUNNING

リスナーは実行中です。

MQSVC_STATUS_STOPPING

リスナーは停止します。

TPName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

LU 6.2 トランザクション・プログラム名。

ストリングの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_LU62

LU 6.2。MQXPT_LU62 は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。MQXPT_NETBIOS は、Windows でのみ有効です。

MQXPT_SPX

SPX。MQXPT_SPX は、Windows でのみ有効です。

Inquire Channel Names

Inquire Channel Names (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_NAMES) コマンドは、総称チャンネル名と一致する IBM MQ チャンネル名のリストと、オプションで指定されるチャンネル・タイプを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター**ChannelName(MQCFST)**

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

総称チャンネル名がサポートされています。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター**ChannelType(MQCFIN)**

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

このパラメーターを指定すると、返されるチャンネル名が、指定したタイプのチャンネルに限定されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHT_SENDER

送信側。

MQCHT_SERVER

サーバー。

MQCHT_RECEIVER

受信側。

MQCHT_REQUESTER

要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

MQCHT_ALL

すべてのタイプ。

このパラメーターを指定しない場合のデフォルト値は、MQCHT_ALL です。この値は、MQCHT_CLNTCONN を除くすべてのタイプのチャンネルが適格であることを意味します。

z/OS**CommandScope (MQCFST)**

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS**QSGDisposition (MQCFIN)**

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。 MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY のいずれかで定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャンネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

チャンネル・タイプが無効です。

Inquire Channel Names (応答)

Inquire Channel Names (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_NAMES) コマンドに対する応答は、クライアント接続チャンネル (SYSTEM.DEF.CLNTCONN を除く) ごとに 1 つの応答と、残りのすべてのチャンネルを持つ最終メッセージから構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

ChannelNames, ChannelTypes

要求すると返されるデータ:

なし

z/OS

z/OS の場合のみ、1 つの追加パラメーター構造 (*ChannelNames* 構造と同数の項目を持つ) が返されます。構造内の各項目 *QSGDispositions* は、*ChannelNames* 構造内の対応する項目を持つオブジェクトの属性指定を示します。

応答データ

ChannelNames (MQCFSL)

チャンネル名のリスト (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAMES)。

ChannelTypes (MQCFIL)

チャンネル・タイプのリスト (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPES)。この構造内のフィールドで使用可能な値は、MQCHT_ALL を除く、*ChannelType* パラメーターで許可された値です。

z/OS

QSGDispositions (MQCFIL)

QSG 属性指定のリスト (パラメーター ID: MQIACF_QSG_DISPS)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値は次のいずれかです。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

Inquire Channel Status

Inquire Channel Status (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS) コマンドは、1 つ以上のチャネル・インスタンスの状況について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

状況情報を照会するチャネルの名前を指定する必要があります。この名前には、特定のチャネル名または汎用のチャネル名を指定できます。汎用のチャネル名を使用することにより、次のいずれかを照会できます。

- すべてのチャネルの状況情報、または
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のチャネルの状況情報。

次のデータが必要かどうかを指定する必要もあります。

- 状況データ (現行チャネルのみ)、または
- すべてのチャネルについて保存されている状況データ、または
- z/OS の場合のみ、チャネルの状況の要約データ。

チャネルが手動で定義された場合でも、自動で定義された場合でも、選択基準を満たすすべてのチャネルの状況が返されます。

選択

選択を行う方法として、次の 4 つのいずれかのオプションを使用できます。

- **XmitQname** (MQCACH_XMIT_Q_NAME)
- **ConnectionName** (MQCACH_CONNECTION_NAME)
- **z/OS ChannelDisposition** (MQIACH_CHANNEL_DISP)
- **ChannelInstanceType** (MQIACH_CHANNEL_INSTANCE_TYPE)

distributed このコマンドでは、CLUSSDR チャネルの場合にチャネルの伝送キューの現在の項目数に対して検査が行われます。このコマンドを発行するには、キュー項目数の照会が許可されている必要があります。このためには、伝送キューに対する **+inq** 権限が必要です。この権限のもう 1 つの名前が MQZAO_INQUIRE であることに注意してください。

distributed この権限が付与されていない場合、このコマンドはエラーなしで実行されますが、1603 ページの『Inquire Channel Status (応答)』コマンドの **MsgsAvailable** パラメーターの出力の値が 0 になります。正しい権限が付与されている場合、このコマンドは **MsgsAvailable** の正しい値を返します。

チャネル状況に使用可能なデータのクラスが 3 つあります。これらのクラスは、**保存**、**現行**、および**要約**です。保存データに使用可能な状況フィールドは、現行データに使用可能なフィールドのサブセットであり、**共通状況**フィールドと呼びます。共通データ・フィールドは同じですが、保存状況と現行状況のデー

タの値は異なる場合があります。その他の現行データに使用可能なフィールドは、**現在のみの状況**フィールドと呼びます。

- **保存データ**は、共通状況フィールドで構成されます。このデータは、以下の時点でリセットされます。
 - すべてのチャンネルの場合:
 - チャンネルが停止状態または再試行状態になったとき、またはこの状態から脱したとき
 - 送信側チャンネルの場合:
 - メッセージのバッチを受信したことの確認を要求する前。
 - 確認を受信したとき
 - 受信側チャンネルの場合:
 - メッセージのバッチの受信を確認する直前。
 - サーバー接続チャンネルの場合:
 - データは保存されません

したがって、現行になっていないチャンネルが保存状況になることはありません。

- **現行データ**は、共通状況フィールドおよび現在のみの状況フィールドから構成されます。データ・フィールドは、メッセージが送受信されるたびに継続的に更新されます。
- **要約データ**は、チャンネル・インスタンスを所有するキュー・マネージャー名から構成されます。このクラスのデータは、z/OSでのみ使用可能です。

この操作方法では、結果は次のようになります。

- 非アクティブ・チャンネルは、現行になったことがない場合、または保存状況がリセットされる時点にまだ達していない場合は、保存状況を持っていないことがあります。
- 保存状況と現行状況では、「共通」データ・フィールドの値が異なる可能性があります。
- 現行チャンネルには常に現行状況がありますが、保存状況はある場合とない場合があります。

チャンネルは、次のように現行または非アクティブになります。

現行チャンネル

このチャンネルは、開始しているチャンネル、またはクライアントが接続したチャンネル、および完了していないまたは正常に切断していないチャンネルです。これらはまだ、メッセージやデータを転送するポイント、またはパートナーとの連絡を確立するポイントにも達していない可能性があります。現行チャンネルは、**現行状況**であり、同時に**保存状況**または**要約状況**になる場合もあります。

アクティブ・チャンネルという用語は、停止していない現行チャンネルの集合を指すときに使用します。

非アクティブ・チャンネル

これは、開始されていないチャンネル（つまり、クライアントがチャンネル上で接続していない）、あるいは正常に終了または切断されたチャンネルです。（チャンネルが停止された場合は正常に終了したと見なされないため、チャンネルは現行のままです。）非アクティブ・チャンネルには、**保存**された状況があるか、状況がまったくないかのいずれかです。

同時に、受信側、要求側、クラスター送信側、クラスター受信側、またはサーバー接続の現行チャンネルのうち2つ以上のインスタンスがある場合があります（要求側は受信側として動作しています）。複数の送信側が、異なるキュー・マネージャーでそれぞれに、同じチャンネル名を使用してこの受信側とのセッションを開始した場合にこの状態になります。他のタイプのチャンネルの場合は、常に現行のインスタンスが1つのみ存在します。

ただし、すべてのチャンネル・タイプに対して、特定のチャンネル名に使用可能な保存状況情報のセットが2つ以上存在する場合があります。これらのセットのうち1つのみがチャンネルの現行インスタンスに関連し、残りのセットは以前の現行インスタンスに関連しています。同一のチャンネルに複数の異なる伝送キュー名や接続名が使用されていると、複数のインスタンスが生成されます。この状態は、次のような場合に発生します。

- 送信側またはサーバー側:
 - 異なる複数の要求側により、同一のチャンネルが接続されている（サーバーのみ）、

- 定義の中で伝送キュー名が変更された場合
- 定義内で接続名が変更されている場合。
- 受信側または要求側:
 - 異なる複数の送信側またはサーバーで、同じチャンネルが接続先になっている場合
 - 定義内で接続名が変更されている (接続を開始した要求側チャンネルの場合)。

特定のチャンネルに対して返されるセットの数は、*XmitQName*、*ConnectionName*、および *ChannelInstanceType* のパラメーターを使用することにより制限できます。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

総称チャンネル名がサポートされています。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求されたインスタンス属性とは無関係に、チャンネル名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

ChannelDisposition (MQCFIN)

チャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報を返すチャンネルの属性指定を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_ALL

要求された専用チャンネルの状況情報を返します。

コマンドが発行されたキュー・マネージャーでコマンドが実行されている共有キュー環境では、または *ChannelInstanceType* の値が MQOT_CURRENT_CHANNEL である場合、このオプションは共有チャンネルについて要求された状況情報也表示します。

MQCHLD_PRIVATE

要求された専用チャンネルの状況情報を返します。

MQCHLD_SHARED

要求された共有チャンネルの状況情報を返します。

ChannelDisposition、*CommandScope*、および状況タイプのさまざまな組み合わせについて返される状況情報は、[1590 ページの表 88](#)、[1591 ページの表 89](#)、および [1591 ページの表 90](#) に要約されています。

表 88. <i>Inquire Channel Status</i> 、現行の <i>ChannelDisposition</i> および <i>CommandScope</i>			
ChannelDisposition	CommandScope ブランク またはローカル・キュー・マネージャー	CommandScope (qmgr-name)	CommandScope (*)
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの共通状況および現在のみの状況	指定されたキュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの共通状況および現在のみの状況	すべてのキュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの共通状況および現在のみの状況

表 88. Inquire Channel Status、現行の ChannelDisposition および CommandScope (続き)			
ChannelDisposition	CommandScope ブランク またはローカル・キュー・マネージャー	CommandScope (qmgr-name)	CommandScope (*)
MQCHLD_SHARED	ローカル・キュー・マネージャー上の現行共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	指定されたキュー・マネージャー上の現行共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	すべてのキュー・マネージャー上の現行共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況
MQCHLD_ALL	ローカル・キュー・マネージャー上の現行の専用チャンネルと共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	指定されたキュー・マネージャー上の現行の専用チャンネルと共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況	アクティブなすべてのキュー・マネージャー上の現行の専用チャンネルと共有チャンネルの共通状況および現在のみの状況

表 89. Inquire Channel Status、要約の ChannelDisposition および CommandScope			
ChannelDisposition	CommandScope ブランク またはローカル・キュー・マネージャー	CommandScope (qmgr-name)	CommandScope (*)
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの ChannelStatus および状況の要約	指定されたキュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの ChannelStatus および状況の要約	アクティブなすべてのキュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの ChannelStatus および状況の要約
MQCHLD_SHARED	キュー共有グループにおけるアクティブなすべてのキュー・マネージャー上の現行共有チャンネルの ChannelStatus および状況の要約	許可されない	許可されない
MQCHLD_ALL	ローカル・キュー・マネージャー上の現行専用チャンネルおよびキュー共有グループ内の現行共有チャンネルの ChannelStatus および状況の要約 (1591 ページの『1』)	指定されたキュー・マネージャー上の現行専用チャンネルの ChannelStatus および状況の要約	キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャー上の現在の専用チャンネルおよび共有チャンネルの ChannelStatus および状況の要約 (1591 ページの『1』)

注:

1. この場合は、コマンドを入力したキュー・マネージャー上で、コマンドに対して 2 つの個別の応答セットを取得します。1 つは MQCHLD_PRIVATE、もう 1 つは MQCHLD_SHARED の応答セットです。

表 90. Inquire Channel Status、保存の ChannelDisposition および CommandScope			
ChannelDisposition	CommandScope ブランク またはローカル・キュー・マネージャー	CommandScope (qmgr-name)	CommandScope (*)
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況	指定されたキュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況	アクティブなすべてのキュー・マネージャー上の保存専用チャンネルの共通状況

表 90. Inquire Channel Status、保存の ChannelDisposition および CommandScope (続き)			
ChannelDisposition	CommandScope ブランク またはローカル・キュー・マネージャー	CommandScope (qmgr-name)	CommandScope (*)
MQCHLD_SHARED	キュー共用グループにおけるアクティブなすべてのキュー・マネージャー上の保存共用チャネルの共通状況	許可されない	許可されない
MQCHLD_ALL	ローカル・キュー・マネージャー上の保存専用チャネルおよびキュー共用グループの保存共用チャネルの共通状況	指定されたキュー・マネージャー上の保存専用チャネルの共通状況	キュー共用グループにおけるアクティブなすべてのキュー・マネージャー上の保存専用チャネルおよび共用チャネルの共通状況

このパラメーターをフィルター・キーワードとして使用できません。

ChannelInstanceAttrs(MQCFIL)

チャンネル・インスタンス属性 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_INSTANCE_ATTRS)。

ChannelInstanceAttrs パラメーターでは、返される属性のリストを指定します。このパラメーターでは、この属性リストの項目の値に基づく選択はできません。

特定のチャンネル・タイプと関係のない状況情報を要求した場合は、エラーにはなりません。同様に、保存チャンネル・インスタンスのアクティブなチャンネルにのみ適用可能な状況情報を要求しても、エラーにはなりません。どちらの場合でも、関連する情報についての構造が応答で返されることはありません。

保存チャンネル・インスタンスの場合、MQCACH_CURRENT_LUWID、MQIACH_CURRENT_MSGS、および MQIACH_CURRENT_SEQ_NUMBER の属性には、チャンネル・インスタンスが未確定の場合にのみ有効な情報が含まれます。ただし、チャンネル・インスタンスが未確定でなくても、要求があれば、属性値が返されます。

属性リストには、次の値だけを指定できます。

MQIACF_ALL

すべての属性。

MQIACF_ALL は、パラメーターが指定されていない場合、または次の組み合わせを指定可能な場合に使用されるデフォルト値です。

• 共通状況関連:

次に述べる事柄は、チャンネル状況のすべての組に (その組が現行かどうかには関係なく) 該当します。

MQCACH_CHANNEL_NAME

チャンネル名。

MQCACH_CONNECTION_NAME

接続名。

MQCACH_CURRENT_LUWID

現行バッチの作業論理単位 ID。

MQCACH_LAST_LUWID

最後にコミットされたバッチの作業論理単位 ID。

MQCACH_XMIT_Q_NAME

伝送キュー名。

MQIACH_CHANNEL_INSTANCE_TYPE

チャンネル・インスタンス・タイプ。

MQIACH_CHANNEL_TYPE

チャンネル・タイプ。

MQIACH_CURRENT_MSGS

現行バッチで送信または受信したメッセージの数。

MQIACH_CURRENT_SEQ_NUMBER

最後に送信または受信されたメッセージの順序番号。

MQIACH_INDOUBT_STATUS

チャンネルが現在未確定かどうか。

MQIACH_LAST_SEQ_NUMBER

最後にコミットされたバッチ内で最後のメッセージの順序番号。

MQCACH_CURRENT_LUWID、MQCACH_LAST_LUWID、MQIACH_CURRENT_MSGS、MQIACH_CURRENT_SEQ_NUMBER、MQIACH_INDOUBT_STATUS、および MQIACH_LAST_SEQ_NUMBER は、サーバー接続チャンネルには適用されず、値は返されません。コマンドで指定された場合でも、これらは無視されます。

- 現在のみの状況関連:

次に述べる事柄は、現行チャンネル・インスタンスにのみ該当します。また、特に断りのない限り、すべてのチャンネル・タイプに該当します。

MQCA_Q_MGR_NAME

チャンネル・インスタンスを所有するキュー・マネージャーの名前。このパラメーターは、z/OSでのみ有効です。

MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME

キュー・マネージャー名、またはリモート・システムのキュー共有グループ名。要求されたインスタンス属性にかかわらず、常にリモート・キュー・マネージャー名が返されます。

MQCACH_CHANNEL_START_DATE

チャンネルが開始された日付。

MQCACH_CHANNEL_START_TIME

チャンネルが開始された時刻。

MQCACH_LAST_MSG_DATE

最後のメッセージが送信された日付、または MQI 呼び出しが処理された日付。

MQCACH_LAST_MSG_TIME

最後のメッセージが送信された時刻、または MQI 呼び出しが処理された時刻。

MQCACH_LOCAL_ADDRESS

チャンネルのローカル通信アドレス。

MQCACH_MCA_JOB_NAME

MCA ジョブの名前。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

MQCACH_MCA_JOB_NAME をパラメーターとして使用してフィルタリングできません。

MQCACH_MCA_USER_ID

MCA で使用されるユーザー ID。

MQCACH_REMOTE_APPL_TAG

リモート・パートナー・アプリケーション名。MQCACH_REMOTE_APPL_TAG は、チャンネルのリモート・エンドにあるクライアント・アプリケーションの名前です。このパラメーターはサーバー接続チャンネルにのみ適用されます。

MQCACH_REMOTE_PRODUCT

リモート・パートナー製品 ID。これは、チャンネルのリモート・エンドで実行している IBM MQ コードの製品 ID です。

MQCACH_REMOTE_VERSION

リモート・パートナーのバージョン。これは、チャンネルのリモート・エンドで実行している IBM MQ コードのバージョンです。

MQCACH_SSL_SHORT_PEER_NAME

SSL 短縮ピア名。

MQCACH_SSL_CERT_ISSUER_NAME

リモート証明書発行者の完全識別名。

z/OS MQCACH_SSL_CERT_USER_ID

リモート証明書に関連付けられたユーザー ID。z/OS のみで有効です。

V8.0.0.4 MQCACH_TOPIC_ROOT

AMQP チャンネルのトピック・ルート。

MQIA_MONITORING_CHANNEL

モニター・データ収集のレベル。

z/OS MQIA_STATISTICS_CHANNEL

統計データ収集のレベル。z/OS のみで有効です。

MQIACF_MONITORING

すべてのチャンネル状況のモニター属性。以下の属性が該当します。

MQIA_MONITORING_CHANNEL

モニター・データ収集のレベル。

MQIACH_BATCH_SIZE_INDICATOR

バッチ・サイズ。

MQIACH_COMPRESSION_RATE

最近似値パーセントに表示される達成された圧縮率。

MQIACH_COMPRESSION_TIME

圧縮または解凍時に費やした、マイクロ秒単位で表示されるメッセージあたりの時間。

MQIACH_EXIT_TIME_INDICATOR

終了時刻。

MQIACH_NETWORK_TIME_INDICATOR

ネットワーク時間。

MQIACH_XMITQ_MSGS_AVAILABLE

チャンネルで使用可能な伝送キュー上のメッセージの数。

MQIACH_XMITQ_TIME_INDICATOR

伝送キュー上の時刻。

MQIACF_MONITORING をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

MQIACH_BATCH_SIZE_INDICATOR

バッチ・サイズ。

MQIACH_BATCH_SIZE_INDICATOR をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

MQIACH_BATCHES

完了したバッチの数。

MQIACH_BUFFERS_RCVD

受信したバッファの数。

MQIACH_BUFFERS_SENT

送信したバッファの数。

MQIACH_BYTES_RCVD

受信したバイト数。

MQIACH_BYTES_SENT

送信したバイト数。

MQIACH_CHANNEL_SUBSTATE

チャンネルの副状態。

MQIACH_COMPRESSION_RATE

最近似値パーセントに表示される達成された圧縮率。

MQIACH_COMPRESSION_RATE をパラメーターとして使用してフィルタリングできません。

MQIACH_COMPRESSION_TIME

圧縮または解凍時に費やした、マイクロ秒単位で表示されるメッセージあたりの時間。

MQIACH_COMPRESSION_TIME をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

MQIACH_CURRENT_SHARING_CONVS

このチャンネル・インスタンスでの現行の会話の数についての情報を要求します。

この属性は TCP/IP サーバー接続チャンネルにのみ適用されます。

MQIACH_EXIT_TIME_INDICATOR

終了時刻。

MQIACH_EXIT_TIME_INDICATOR をパラメーターとして使用してフィルタリングできません。

MQIACH_HDR_COMPRESSION

チャンネルによって送信されるヘッダー・データの圧縮に使用される手法。

MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL

このセッションで使用中のキープアライブの間隔。このパラメーターは、z/OS に対してのみ有効です。

MQIACH_LONG_RETRIES_LEFT

長期再試行の残存回数。

MQIACH_MAX_MSG_LENGTH

最大メッセージ長。MQIACH_MAX_MSG_LENGTH は、z/OS でのみ有効です。

MQIACH_MAX_SHARING_CONVS

このチャンネル・インスタンスでの会話の最大数についての情報を要求します。

この属性は TCP/IP サーバー接続チャンネルにのみ適用されます。

MQIACH_MCA_STATUS

MCA 状況。

MQIACH_MCA_STATUS をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

MQIACH_MSG_COMPRESSION

チャンネルによって送信されるメッセージ・データの圧縮に使用される手法。

MQIACH_MSGS

送信または受信したメッセージ数。または MQI 呼び出しの処理回数。

MQIACH_NETWORK_TIME_INDICATOR

ネットワーク時間。

MQIACH_NETWORK_TIME_INDICATOR をフィルター・パラメーターとして使用することはできません。

MQIACH_SECURITY_PROTOCOL

現在使用中のセキュリティー・プロトコル。

このパラメーターは、クライアント接続チャンネルには適用されません。

このパラメーターは z/OS には適用されません。

MQIACH_SHORT_RETRIES_LEFT

短期再試行の残存回数。

MQIACH_SSL_KEY_RESETS

正常な SSL 鍵リセット数。

MQIACH_SSL_RESET_DATE

前回成功した SSL 秘密鍵のリセットの日付。

MQIACH_SSL_RESET_TIME

前回成功した SSL 秘密鍵のリセットの時刻。

MQIACH_STOP_REQUESTED

ユーザーの停止要求を受け取っているかどうか。

MQIACH_XMITQ_MSGS_AVAILABLE

チャンネルで使用可能な伝送キュー上のメッセージの数。

MQIACH_XMITQ_TIME_INDICATOR

伝送キュー上の時刻。

MQIACH_XMITQ_TIME_INDICATOR をパラメーターとして使用してフィルタリングできません。
すべてのプラットフォームで次の値がサポートされています。

MQIACH_BATCH_SIZE

バッチ・サイズ。

すべてのプラットフォームで次の値がサポートされています。

MQIACH_HB_INTERVAL

ハートビート間隔 (秒)。

MQIACH_NPM_SPEED

非持続メッセージの速度。

次の属性は、サーバー接続チャンネルには適用されず、値は返されません。 コマンドで指定された場合でも、これらは無視されます。

- MQIACH_BATCH_SIZE_INDICATOR
- MQIACH_BATCH_SIZE
- MQIACH_BATCHES
- MQIACH_LONG_RETRIES_LEFT
- MQIACH_NETWORK_TIME
- MQIACH_NPM_SPEED
- MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME
- MQIACH_SHORT_RETRIES_LEFT
- MQIACH_XMITQ_MSGS_AVAILABLE
- MQIACH_XMITQ_TIME_INDICATOR

次の属性は、サーバー接続チャンネルにのみ適用されます。 他のタイプのチャンネルに対するコマンドで指定された場合でも、属性は無視され、値は返されません。

- MQIACH_CURRENT_SHARING_CONVS
- MQIACH_MAX_SHARING_CONVS

-  状況の要約関連:

次のパラメーターは、z/OS: の現行チャンネルに適用されます。

MQCACH_Q_MGR_NAME

チャンネル・インスタンスを所有するキュー・マネージャーの名前。

ChannelInstanceType (MQCFIN)

チャンネル・インスタンス・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_INSTANCE_TYPE)。

要求されたチャンネル・インスタンス属性にかかわらず、常にこれが返されます。

値は次のいずれかです。

MQOT_CURRENT_CHANNEL

チャンネル状況。

MQOT_CURRENT_CHANNEL がデフォルトです。これは、アクティブ・チャンネルの現行状況情報のみが返されることを示します。

現行チャンネルについて共通状況情報とアクティブのみの状況情報の両方を要求できます。

MQOT_SAVED_CHANNEL

保存されたチャンネル状況。

MQOT_SAVED_CHANNEL を指定すると、アクティブ・チャンネルと非アクティブ・チャンネルの両方の保存状況情報が返されます。

共通状況情報のみを返すことができます。このキーワードを指定した場合、アクティブ・チャンネルについてアクティブのみの状況情報は返されません。

z/OS

MQOT_SHORT_CHANNEL

チャンネル状況の要約 (z/OS の場合のみ有効)。

MQOT_SHORT_CHANNEL を指定すると、現行チャンネルの状況情報の要約が返されます。

このキーワードが指定された場合、現行チャンネルに対して、その他の共通状況情報および現在のみの状況情報は返されません。

MQIACH_CHANNEL_INSTANCE_TYPE をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

このパラメーターが提示された場合、適格なチャンネル・インスタンスは、この接続名を使用するものに限定されます。指定されていない場合は、適格なチャンネル・インスタンスはこのように限定されません。

要求されたインスタンス属性にかかわらず、常に接続名が返されます。

ConnectionName に戻される値は、チャンネル定義の値と同じでない場合があります、現行チャンネル状況と保存チャンネル状況の間で異なる場合があります。(したがって、状況のセットの数を制限するために ConnectionName を使用することはお勧めしません。)

例えば、TCP を使用する場合、チャンネル定義に ConnectionName が指定されていると、次のようになります。

- ブランクまたは「ホスト名」形式の場合、チャンネル状況の値には解決済みの IP アドレスが設定されます。
- ポート番号が指定されている場合、現行チャンネル状況の値にはポート番号が含まれますが (z/OS の場合を除く)、保存チャンネル状況の値には含まれません。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*ChannelInstanceAttrs* で許可されているいずれかの整数タイプのパラメーターでなければなりません。ただし、MQIACF_ALLなどは除きます。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

StringFilterCommand (MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*ChannelInstanceAttrs* で許可されているストリング・タイプ・パラメーターのいずれかでなければなりません。ただし、MQCACH_CHANNEL_NAMEなどは例外です。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ConnectionName または *XmitQName* にストリング・フィルターを指定する場合、*ConnectionName* または *XmitQName* パラメーターを同時に指定することはできません。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを同時に指定することはできません。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME)。

このパラメーターが提示された場合、適格なチャンネル・インスタンスは、この伝送キューを使用するものに限定されます。指定されていない場合は、適格なチャンネル・インスタンスはこのように限定されません。

要求されたインスタンス属性にかかわらず、常に伝送キュー名が返されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャンネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHL_INST_TYPE_ERROR

チャンネル・インスタンス・タイプが無効です。

MQRCCF_CHL_STATUS_NOT_FOUND

チャンネル状況が見つかりません。

MQRCCF_XMIT_Q_NAME_ERROR

伝送キュー名のエラー。

Inquire Channel Status (AMQP)

Inquire Channel Status (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS) (AMQP) コマンドは、1 つ以上の AMQP チャンネル・インスタンスの状況について照会します。

状況情報を照会するチャンネルの名前を指定する必要があります。この名前には、特定のチャンネル名または汎用のチャンネル名を指定できます。汎用のチャンネル名を使用することにより、次のいずれかを照会できます。

- すべてのチャネルの状況情報、または
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のチャネルの状況情報。

ClientIdentifier パラメーターを指定しない場合、**Inquire Channel Status** コマンドの出力は、チャネルに接続されたすべてのクライアントの状況についての要約になります。チャネルごとに 1 つずつ PCF 応答メッセージが返されます。

ClientIdentifier パラメーターが指定されている場合は、クライアント接続ごとに別個の PCF 応答メッセージが返されます。**ClientIdentifier** パラメーターはワイルドカードにすることもできます。この場合、**ClientIdentifier** スtring に一致するすべてのクライアントの状況が返されます。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

総称チャネル名がサポートされています。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字 String の後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字 String で始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求されたインスタンス属性とは無関係に、チャネル名は常に返されます。

String の最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelType(MQCFIN)

チャネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

値は次のものでなければなりません。

MQCHT_AMQP
AMQP

オプション・パラメーター

ChannelInstanceAttrs (MQCFIL)

チャネル・インスタンス属性 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_INSTANCE_ATTRS)。

ChannelInstanceAttrs パラメーターでは、返される属性のリストを指定します。このパラメーターでは、この属性リストの項目の値に基づく選択はできません。

属性リストには、次の値だけを指定できます。

MQIACF_ALL

すべての属性。

MQIACF_ALL は、パラメーターが指定されていない場合、または次の組み合わせを指定可能な場合に使用されるデフォルト値です。

- 要約状況関連。**ClientIdentifier** パラメーターを指定しない場合に該当します。

以下の情報が適用されます。

MQCACH_CHANNEL_NAME

チャネル名

MQIACH_CHANNEL_TYPE

チャネル・タイプ

MQIACF_CONNECTION_COUNT

要約に記述されている接続数

MQIACH_CHANNEL_STATUS

クライアントの現行状況

- クライアント詳細モード関連。**ClientIdentifier** パラメーターを指定する場合に該当します。

以下の情報が適用されます。

MQCACH_CHANNEL_NAME

チャンネル名

MQIACH_CHANNEL_STATUS

クライアントの現行状況

MQIACH_CHANNEL_TYPE

チャンネル・タイプ

MQCACH_CONNECTION_NAME

リモート接続の名前 (IP アドレス)

MQIACH_AMQP_KEEP_ALIVE

クライアントのキープアライブ間隔

MQCACH_MCA_USER_ID

メッセージ・チャンネル・エージェントのユーザー ID

MQIACH_MSGS_SENT

クライアントが最後に接続してから送信したメッセージの数

MQIACH_MSGS_RECEIVED または **MQIACH_MSGS_RCVD**

クライアントが最後に接続してから受信したメッセージの数

MQCACH_LAST_MSG_DATE

最後のメッセージが受信または送信された日付

MQCACH_LAST_MSG_TIME

最後のメッセージが受信または送信された時刻

MQCACH_CHANNEL_START_DATE

チャンネルが開始された日付

MQCACH_CHANNEL_START_TIME

チャンネルが開始された時刻

ClientIdentifier(MQCFST)

クライアントの ClientId (パラメーター ID: MQCACH_CLIENT_ID)。

ストリングの最大長は MQ_CLIENT_ID_LENGTH です。

要約モード

ClientIdentifier パラメーターを指定しない場合、以下のフィールドが戻されます。

MQCACH_CHANNEL_NAME

チャンネル名。

MQIACH_CHANNEL_TYPE

AMQP のチャンネル・タイプ。

MQIACF_CONNECTION_COUNT

要約に記述されている接続数。

MQIACH_CHANNEL_STATUS

クライアントの現行状況。

クライアント詳細モード

ClientIdentifier パラメーターを指定した場合、以下のフィールドが戻されます。

MQIACH_CHANNEL_STATUS

クライアントの現行状況。

MQCACH_CONNECTION_NAME

リモート接続の名前、つまり IP アドレス。

MQIACH_AMQP_KEEP_ALIVE

クライアントのキープアライブ間隔。

MQCACH_MCA_USER_ID

メッセージ・チャンネル・エージェントのユーザー ID。

MQIACH_MSGS_SENT

クライアントが最後に接続してから送信したメッセージの数。

MQIACH_MSGS_RECEIVED または **MQIACH_MSGS_RCVD**

クライアントが最後に接続してから受信したメッセージの数。

MQCACH_LAST_MSG_DATE

最後のメッセージが受信または送信された日付。

MQCACH_LAST_MSG_TIME

最後のメッセージが受信または送信された時刻。

MQCACH_CHANNEL_START_DATE

チャンネルが開始された日付。

MQCACH_CHANNEL_START_TIME

チャンネルが開始された時刻。

MQIACH_PROTOCOL

このチャンネルでサポートされる AMQP プロトコル。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャンネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHL_INST_TYPE_ERROR

チャンネル・インスタンス・タイプが無効です。

MQRCCF_CHL_STATUS_NOT_FOUND

チャンネル状況が見つかりません。

MQRCCF_XMIT_Q_NAME_ERROR

伝送キュー名のエラー。

Inquire Channel Status (MQTT)

Inquire Channel Status (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS) (MQTT) コマンドは、1 つ以上のテレメトリ・チャンネル・インスタンスの状況について照会します。

状況情報を照会するチャンネルの名前を指定する必要があります。この名前には、特定のチャンネル名または汎用のチャンネル名を指定できます。汎用のチャンネル名を使用することにより、次のいずれかを照会できます。

- すべてのチャンネルの状況情報、または
- 指定した名前に一致する 1 つ以上のチャンネルの状況情報。

注: IBM MQ Telemetry の **Inquire Channel Status** コマンドは、IBM MQ チャンネルに対してコマンドが実行された場合よりもはるかに多くの応答を返す可能性があります。そのため、IBM MQ Telemetry サーバーが返す応答の数は、応答先キューに収容できないほど多くはなりません。応答の数は、SYSTEM.MQSC.REPLY.QUEUE キューの [MAXDEPTH](#) パラメーターの値に限定されます。IBM MQ Telemetry コマンドが IBM MQ Telemetry サーバーによって切り捨てられると、[AMQ8492](#) メッセージが表示され、[MAXDEPTH](#) のサイズに基づいて返される応答の数が示されます。

ClientIdentifier パラメーターを指定しない場合、**Inquire Channel Status** コマンドの出力は、チャンネルに接続されたすべてのクライアントの状況についての要約になります。チャンネルごとに1つずつ PCF 応答メッセージが返されます。

ClientIdentifier パラメーターが指定されている場合は、クライアント接続ごとに別個の PCF 応答メッセージが返されます。**ClientIdentifier** パラメーターはワイルドカードにすることもできます。この場合、**ClientIdentifier** スtringに一致するすべてのクライアントの状況が返されます (**MaxResponses** および **ResponseRestartPoint** が設定されている場合はその制限内)。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

総称チャンネル名がサポートされています。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字 String の後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字 String で始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

このパラメーターは、**ResponseType** パラメーターが MQRESP_TOTAL に設定されている場合にのみ許可されます。

要求されたインスタンス属性とは無関係に、チャンネル名は常に返されます。

String の最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

値は次のものでなければなりません。

MQCHT_MQTT

テレメトリー。

オプション・パラメーター

ClientIdentifier(MQCFST)

クライアントの ClientId (パラメーター ID: MQCACH_CLIENT_ID)。

MaxResponses(MQCFIN)

状況を返す対象となるクライアントの最大数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_RESPONSES)。

このパラメーターは、**ClientIdentifier** パラメーターを指定した場合のみ使用できます。

ResponseRestartPoint(MQCFIN)

状況を返す対象となる最初のクライアント (パラメーター ID: MQIA_RESPONSE_RESTART_POINT)。

このパラメーターを **MaxResponses** と組み合わせると、クライアントの範囲を指定できます。

このパラメーターは、**ClientIdentifier** パラメーターを指定した場合のみ使用できます。

クライアント詳細モード

状況

クライアントの現在の状況 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_STATUS)。

CONNAME

リモート接続の名前 (IP アドレス) (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

KAINT

クライアントのキープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。

MCANAME

メッセージ・チャンネル・エージェント名 (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

MSGSENT

クライアントが最後に接続してから送信したメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_MSGS_SENT)。

MSGRCVD

クライアントが最後に接続してから受信したメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_MSGS_RECEIVED /MQIACH_MSGS_RCVD)。

INDOUBTIN

クライアントへの未確定のインバウンド・メッセージ数 (パラメーター ID: MQIACH_IN_DOUBT_IN)。

INDOUBTOUT

クライアントへの未確定のアウトバウンド・メッセージ数 (パラメーター ID: MQIACH_IN_DOUBT_OUT)。

PENDING

保留中のアウトバウンド・メッセージ数 (パラメーター ID: MQIACH_PENDING_OUT)。

LMSGDATE

最後のメッセージが受信または送信された日付 (パラメーター ID: MQCACH_LAST_MSG_DATE)。

LMSGTIME

最後のメッセージが受信または送信された時刻 (パラメーター ID: MQCACH_LAST_MSG_TIME)。

CHLSDATE

チャンネルが開始した日付 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_START_DATE)。

CHLSTIME

チャンネルが開始した時刻 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_START_TIME)。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NAME_ERROR

チャンネル名エラー。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHL_INST_TYPE_ERROR

チャンネル・インスタンス・タイプが無効です。

MQRCCF_CHL_STATUS_NOT_FOUND

チャンネル状況が見つかりません。

MQRCCF_XMIT_Q_NAME_ERROR

伝送キュー名のエラー。

Inquire Channel Status (応答)

Inquire Channel Status (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続くいくつかの構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

次のような構造があります。

- *ChannelName* 構造、
-  *ChannelDisposition* 構造体 (z/OS の場合のみ)、

- *ChannelInstanceType* 構造
- *ChannelStatus* 構造 (*ChannelInstanceType* パラメーターに *MQOT_SAVED_CHANNEL* の値を持つ z/OS チャンネルの場合を除く)。
- *ChannelType* 構造
- *ConnectionName* 構造
- *RemoteApplTag* 構造
- *RemoteQMGrName* 構造
- *StopRequested* 構造
- *XmitQName* 構造

これらの後に、要求された組み合わせの状況属性パラメーター構造が続きます。コマンドで指定された基準への一致が検出されたチャンネル・インスタンスごとに、このようなメッセージが1つ生成されます。

 z/OS では、これらのパラメーターのうちいずれかの値が 999999999 を超えた場合、値は 999999999 として返されます。

- *Batches*
- *BuffersReceived*
- *BuffersSent*
- *BytesReceived*
- *BytesSent*
- *CompressionTime*
- *CurrentMsgs*
- *ExitTime*
- *Msgs*
- *NetTime*
- *SSLKeyResets*
- *XQTime*

常に返されるデータ:

 *ChannelDisposition* , *ChannelInstanceType* , *ChannelName* ,
ChannelStatus , *ChannelType* , *ConnectionName* , *RemoteApplTag* , *RemoteQMGrName* ,
StopRequested , *SubState* , *XmitQName*

要求すると返されるデータ:

Batches, *BatchSize*, *BatchSizeIndicator*, *BuffersReceived*, *BuffersSent*,
BytesReceived, *BytesSent*, *ChannelMonitoring*, *ChannelStartDate*, *ChannelStartTime*,
ClientIdentifier, *CompressionRate*, *CompressionTime*, *CurrentLUWID*, *CurrentMsgs*,
CurrentSequenceNumber, *CurrentSharingConversations*, *ExitTime*, *HeaderCompression*,
HeartbeatInterval, *InDoubtInbound*, *InDoubtStatus*, *InDoubtOutbound*,
KeepAliveInterval, *LastLUWID*, *LastMsgDate*, *LastMsgTime*, *LastSequenceNumber*,
LocalAddress, *LongRetriesLeft*, *MaxMsgLength*, *MaxSharingConversations*, *MCAJobName*,
MCAStatus, *MCAUserIdentifier*, *MessageCompression*, *Msgs*, *MsgsAvailable*,
MsgsReceived, *MsgsSent*, *NetTime*, *NonPersistentMsgSpeed*, *PendingOutbound*, *QMGrName*,
ResponseType, *RemoteVersion*, *RemoteProduct*, *ShortRetriesLeft*,
SSLCertRemoteIssuerName, *SSLCertUserId*, *SSLKeyResetDate*, *SSLKeyResets*,
SSLKeyResetTime, *SSLShortPeerName*, *XQTime*

応答データ

Batches(MQCFIN)

完了したバッチの数 (パラメーター ID: MQIACH_BATCHES)。

BatchSize(MQCFIN)

折衝されたバッチ・サイズ (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_SIZE)。

BatchSizeIndicator (MQCFIL)

バッチ内のメッセージ数の標識 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_SIZE_INDICATOR)。次の 2 つの値が返されます。

- 短時間における最近のアクティビティーを基にした値。
- 長時間におけるアクティビティーを基にした値。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。

BuffersReceived(MQCFIN)

受信したバッファの数 (パラメーター ID: MQIACH_BUFFERS_RCVD)。

BuffersSent(MQCFIN)

送信したバッファの数 (パラメーター ID: MQIACH_BUFFERS_SENT)。

BytesReceived(MQCFIN)

受信したバイト数 (パラメーター ID: MQIACH_BYTES_RCVD)。

BytesSent(MQCFIN)

送信したバイト数 (パラメーター ID: MQIACH_BYTES_SENT)。

z/OS

ChannelDisposition (MQCFIN)

チャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_PRIVATE

専用チャンネルの状況情報。

MQCHLD_SHARED

共有チャンネルの状況情報。

MQCHLD_FIXSHARED

特定のキュー・マネージャーに関連付けられた共有チャンネルの状況情報。

ChannelInstanceType(MQCFIN)

チャンネル・インスタンス・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_INSTANCE_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOT_CURRENT_CHANNEL

現行チャンネル状況。

MQOT_SAVED_CHANNEL

保存されたチャンネル状況。

z/OS

MQOT_SHORT_CHANNEL

チャンネル状況の概要、z/OS の場合のみ。

ChannelMonitoring(MQCFIN)

チャンネルのモニター・データ収集の現行レベル (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_CHANNEL)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

チャンネルのモニターをオフに切り替えます。

MQMON_LOW

低比率のデータ収集。

MQMON_MEDIUM

中比率のデータ収集。

MQMON_HIGH

高比率のデータ収集。

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelStartDate(MQCFST)

チャンネルが開始された yyyy-mm-dd 形式の日付 (パラメーター ID:

MQCACH_CHANNEL_START_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_DATE_LENGTH です。

ChannelStartTime(MQCFST)

チャンネルが開始された hh.mm.ss 形式の時刻 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_START_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_TIME_LENGTH です。

 ChannelStatistics (MQCFIN)

チャンネルの統計データを収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_CHANNEL)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

統計データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

統計データ収集は、中程度のデータ収集率でオンとなります。

MQMON_HIGH

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ChannelStatus(MQCFIN)

チャンネル状況 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_STATUS)。

チャンネル状況には以下の値が定義されています。

MQCHS_BINDING

チャンネルはパートナーと折衝中です。

MQCHS_STARTING

チャンネルはアクティブになるのを待っています。

MQCHS_RUNNING

チャンネルはメッセージの転送中またはメッセージ待ちの状態です。

MQCHS_PAUSED

チャンネルは一時停止されています。

MQCHS_STOPPING

チャンネルは停止処理中です。

MQCHS_RETRYING

チャンネルは接続の確立を再試行しています。

MQCHS_STOPPED

チャンネルは停止されています。

MQCHS_REQUESTING

要求側チャネルが接続を要求しています。

MQCHS_SWITCHING

チャネルは伝送キューの切り替え中です。

MQCHS_INITIALIZING

チャネルは初期化中です。

ChannelType(MQCFIN)

チャネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHT_SENDER

送信側。

MQCHT_SERVER

サーバー。

MQCHT_RECEIVER

受信側。

MQCHT_REQUESTER

要求側。

MQCHT_SVRCONN

サーバー接続 (クライアントが使用)。

MQCHT_CLNTCONN

クライアント接続。

MQCHT_CLUSRCVR

クラスター受信側。

MQCHT_CLUSSDR

クラスター送信側。

CompressionRate (MQCFIL)

最近似値パーセントに表示される達成された圧縮率 (パラメーター ID: MQIACH_COMPRESSION_RATE)。次の 2 つの値が返されます。

- 短時間における最近のアクティビティを基にした値。
- 長時間におけるアクティビティを基にした値。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。

CompressionTime (MQCFIL)

圧縮または解凍時に費やした、マイクロ秒単位で表示されるメッセージあたりの時間 (パラメーター ID: MQIACH_COMPRESSION_TIME)。次の 2 つの値が返されます。

- 短時間における最近のアクティビティを基にした値。
- 長時間におけるアクティビティを基にした値。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。

ConnectionName(MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_SHORT_CONN_NAME_LENGTH です。

CurrentLUWID(MQCFST)

未確定バッチの作業論理単位 ID (パラメーター ID: MQCACH_CURRENT_LUWID)。

送信側チャネルでも受信側チャネルでも、現バッチと関連付けられている作業論理単位 ID。

送信側チャネルでチャネルが未確定であれば、未確定バッチの LUWID です。

次のバッチの LUWID がわかっている場合、その値で更新されます。

最大長は MQ_LUWID_LENGTH です。

CurrentMsgs(MQCFIN)

未確定のメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_CURRENT_MSGS)。

送信側チャネルの場合、このパラメーターは現在のバッチで送信されたメッセージの数です。メッセージが1つ送信されるたびに値が大きくなります。チャネルが未確定になったときは、未確定のメッセージの数を表します。

受信側チャネルの場合、これは現在のバッチで受信されたメッセージの数です。メッセージを1つ受信するたびに、値が増分されます。

送信側チャネルの場合も受信側チャネルの場合も、バッチがコミットされると、この値はゼロにリセットされます。

CurrentSequenceNumber(MQCFIN)

未確定バッチ内で最後のメッセージの順序番号 (パラメーター ID: MQIACH_CURRENT_SEQ_NUMBER)。

送信側チャネルでは、このパラメーターは最後に送信したメッセージのメッセージ順序番号です。メッセージが1つ送信されるたびに更新されます。チャネルが未確定になったときは、未確定バッチ中の最後のメッセージのメッセージ順序番号です。

受信側チャネルでは、受信された最後のメッセージのメッセージ順序番号です。メッセージが1つ受信されるたびに更新されます。

CurrentSharingConversations(MQCFIN)

このチャネル・インスタンスで現在アクティブな会話の数 (パラメーター ID: MQIACH_CURRENT_SHARING_CONVS)。

このパラメーターは、TCP/IP サーバー接続チャネルに対してのみ返されます。

値がゼロの場合は、次の点に関して、チャネル・インスタンスが IBM WebSphere MQ 7.0 よりも前のモードで実行していることを示します。

- 管理者の停止と静止
- ハートビート中
- 先読み
- クライアント非同期コンシューム

ExitTime (MQCFIL)

メッセージ単位にユーザー出口の実行にかかる時間の標識 (パラメーター ID: MQIACH_EXIT_TIME_INDICATOR)。各メッセージあたりにユーザー出口の処理にかかった時間 (マイクロ秒単位)。メッセージあたり2つ以上の出口が実行されている場合、その値は、1つのメッセージに対してユーザー出口のすべての時間の合計です。次の2つの値が返されます。

- 短時間における最近のアクティビティーを基にした値。
- 長時間におけるアクティビティーを基にした値。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。

HeaderCompression (MQCFIL)

チャネルによって送信されたヘッダー・データが圧縮されているかどうか (パラメーター ID: MQIACH_HDR_COMPRESSION)。次の2つの値が返されます。

- このチャネルで折衝されるデフォルトのヘッダー・データ圧縮値。
- 最後に送信されたメッセージで使用されたヘッダー・データ圧縮値。ヘッダー・データ圧縮値は、送信側チャネルのメッセージ出口で変更できます。メッセージが送信されない場合は、2番目の値が MQCOMPRESS_NOT_AVAILABLE になります。

値は次のいずれかです。

MQCOMPRESS_NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。MQCOMPRESS_NONE がデフォルト値です。

MQCOMPRESS_SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_NOT_AVAILABLE

チャンネルによってメッセージは送信されません。

HeartbeatInterval(MQCFIN)

ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_HB_INTERVAL)。

InDoubtStatus(MQCFIN)

チャンネルが現在未確定かどうか (パラメーター ID: MQIACH_INDOUBT_STATUS)。

送信側メッセージ・チャンネル・エージェントが送信したメッセージのバッチが正常に受信された肯定応答を待っている間、送信側チャンネルは未確定にしかありません。それ以外の時期に、送信側チャンネルが未確定状態になることはありません (メッセージを送信してから、確認を要求するまでの間も未確定状態にはなりません)。

受信側チャンネルが未確定になることはありません。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHIDS_NOT_INDOUBT

チャンネルは未確定ではありません。

MQCHIDS_INDOUBT

チャンネルは未確定です。

KeepAliveInterval(MQCFIN)

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

LastLUWID(MQCFST)

最後にコミットされたバッチの作業論理単位 ID (パラメーター ID: MQCACH_LAST_LUWID)。

最大長は MQ_LUWID_LENGTH です。

LastMsgDate(MQCFST)

最後のメッセージが送信された、または MQI 呼び出しが処理された yyyy-mm-dd 形式の日付 (パラメーター ID: MQCACH_LAST_MSG_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_DATE_LENGTH です。

LastMsgTime(MQCFST)

hh.mm.ss の形式の、最後にメッセージが送信された時刻、または MQI 呼び出しが処理された時刻 (パラメーター ID: MQCACH_LAST_MSG_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_TIME_LENGTH です。

LastSequenceNumber(MQCFIN)

最後にコミットされたバッチの最後のメッセージの順序番号 (パラメーター ID: MQIACH_LAST_SEQ_NUMBER)。

LocalAddress(MQCFST)

チャンネル用のローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LongRetriesLeft(MQCFIN)

長期再試行の残存回数 (パラメーター ID: MQIACH_LONG_RETRIES_LEFT)。

MaxMsgLength(MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_MSG_LENGTH)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MaxSharingConversations(MQCFIN)

このチャンネル・インスタンスで許可される会話の最大数。 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_SHARING_CONVS)

このパラメーターは、TCP/IP サーバー接続チャンネルに対してのみ返されます。

値がゼロの場合は、次の点に関して、チャンネル・インスタンスが IBM WebSphere MQ 7.0 よりも前のモードで実行していることを示します。

- 管理者の停止と静止
- ハートビート中
- 先読み
- クライアント非同期コンシューム

MCAJobName(MQCFST)

MCA ジョブの名前 (パラメーター ID: MQCACH_MCA_JOB_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MCA_JOB_NAME_LENGTH です。

MCAStatus(MQCFIN)

MCA 状況 (パラメーター ID: MQIACH_MCA_STATUS)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCAS_STOPPED

メッセージ・チャンネル・エージェントは停止しています。

MQMCAS_RUNNING

メッセージ・チャンネル・エージェントは実行中です。

MCAUserIdentifier(MQCFST)

MCA で使用されるユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

このパラメーターは、サーバー接続、受信側、要求側、およびクラスター受信側チャンネルにのみ適用されます。

ストリングの最大長は MQ_MCA_USER_ID_LENGTH です。

MessageCompression (MQCFIL)

チャンネルによって送信されるヘッダー・データを圧縮するかどうか (パラメーター ID: MQIACH_MSG_COMPRESSION)。次の 2 つの値が返されます。

- このチャンネルで折衝されるデフォルトのメッセージ・データ圧縮値。
- 最後に送信されたメッセージで使用されたメッセージ・データ圧縮値。メッセージ・データ圧縮値は、送信側チャンネルのメッセージ出口で変更できます。メッセージが送信されない場合は、2 番目の値が MQCOMPRESS_NOT_AVAILABLE になります。

値は次のいずれかです。

MQCOMPRESS_NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。MQCOMPRESS_NONE がデフォルト値です。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_NOT_AVAILABLE

チャンネルによってメッセージは送信されません。

Msgs(MQCFIN)

送信または受信したメッセージ数。または MQI 呼び出しの処理回数 (パラメーター ID: MQIACH_MSGS)。

MsgsAvailable(MQCFIN)

使用可能なメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_XMITQ_MSGS_AVAILABLE)。MQGET 用のチャンネルで使用可能な伝送キューに書き込まれるメッセージの数。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。

このパラメーターは、クラスター送信側チャンネルにのみ適用されます。

NetTime(MQCFIL)

ネットワーク動作時間の標識 (パラメーター ID: MQIACH_NETWORK_TIME_INDICATOR)。チャンネルのリモート・エンドに要求を送信して応答を受信するまでにかかるマイクロ秒単位の時間。これは、そのような操作のネットワーク時間のみを計測した時間です。次の 2 つの値が返されます。

- 短時間における最近のアクティビティを基にした値。
- 長時間におけるアクティビティを基にした値。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。

NonPersistentMsgSpeed(MQCFIN)

非持続メッセージを送信する速度 (パラメーター ID: MQIACH_NPM_SPEED)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNPMS_NORMAL

通常速度。

MQNPMS_FAST

高速。

QMGrName(MQCFST)

チャンネル・インスタンスを所有するキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

RemoteApplTag(MQCFST)

リモート・パートナー・アプリケーションの名前。このパラメーターは、チャンネルのリモート・エンドにあるクライアント・アプリケーションの名前です。このパラメーターは、サーバー接続チャンネルにのみ適用されます (パラメーター ID: MQCACH_REMOTE_APPL_TAG)。

RemoteProduct(MQCFST)

リモート・パートナー製品 ID。このパラメーターは、チャンネルのリモート・エンドで実行している IBM MQ コードの製品 ID です (パラメーター ID: MQCACH_REMOTE_PRODUCT)。

可能な値が、次の表に示されています。

表 91. 製品 ID の値	
製品 ID	説明
MQMM	キュー・マネージャー (z/OS プラットフォーム以外)
MQMV	z/OS 上のキュー・マネージャー
MQCC	IBM MQ C クライアント
MQNM	IBM MQ .NET 完全管理クライアント
MQJB	IBM MQ Classes for JAVA
MQJM	IBM MQ Classes for JMS (通常モード)
MQJN	IBM MQ Classes for JMS (移行モード)
MQJU	MQI への共通 Java インターフェース
MQXC	XMS クライアント C/C++ (通常モード)
MQXD	XMS クライアント C/C++ (マイグレーション・モード)
MQXN	XMS クライアント .NET (通常モード)
MQXM	XMS クライアント .NET (移行モード)
MQXU	IBM MQ .NET XMS クライアント (非管理対象/XA)

表 91. 製品 ID の値 (続き)	
製品 ID	説明
MQNU	IBM MQ .NET 非管理対象クライアント

RemoteVersion(MQCFST)

リモート・パートナー・バージョン。このパラメーターは、チャンネルのリモート・エンドで実行している IBM MQ コードのバージョンです (パラメーター ID: MQCACH_REMOTE_VERSION)。

リモート・バージョンは **VVRRMMFF** と表示されます。その意味は次のとおりです。

VV

バージョン

RR

リリース

MM

保守レベル

FF

フィックス・レベル

RemoteQMgrName(MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーの名前、またはキュー共有グループの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME)。

ShortRetriesLeft(MQCFIN)

短期再試行の残存回数 (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_RETRIES_LEFT)。

SecurityProtocol(MQCFIN)

現在使用中のセキュリティー・プロトコルを定義します。 (パラメーター ID: MQIACH_SECURITY_PROTOCOL)

クライアント接続チャンネルには適用されません。

[SSLCipherSpecification](#) に設定した値に基づいて自動的に設定されます。

指定可能な値は以下のとおりです。

MQSECPROT_NONE

セキュリティー・プロトコルなし

MQSECPROT_SSLV30

SSL バージョン 3.0

このプロトコルは推奨されません。 [非推奨 CipherSpecs](#) を参照してください

MQSECPROT_TLSV10

TLS バージョン 1.0

MQSECPROT_TLSV12

TLS バージョン 1.2

このパラメーターは、z/OS では使用できません。

SSLCertRemoteIssuerName(MQCFST)

リモート証明書発行者の完全識別名。発行者は証明書を発行した認証局です (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CERT_ISSUER_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_SHORT_DNAME_LENGTH です。

SSLCertUserId(MQCFST)

リモート証明書に関連付けられたローカル・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CERT_USER_ID)。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

SSLCipherSpecification (MQCFST)

接続によって使用されている CipherSpec (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC)。

ストリングの最大長は MQ_SSL_CIPHER_SPEC_LENGTH です。

詳しくは、[Change Channel](#)、[Copy Channel](#)、および [Create Channel](#) 内の SSLCipherSpec プロパティを参照してください。

このパラメーターの値は、[SecurityProtocol](#) の値の設定にも使用されます。

SSLKeyResetDate(MQCFST)

前回成功した SSL 秘密鍵のリセットの yyyy-mm-dd 形式の日付 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_KEY_RESET_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

SSLKeyResets(MQCFIN)

SSL 秘密鍵のリセット (パラメーター ID: MQIACH_SSL_KEY_RESETS)。

チャンネルの開始以降、このチャンネル・インスタンスに対して発生した SSL 秘密鍵のリセットのうち成功した回数。SSL 秘密鍵の折衝が有効な場合は、秘密鍵のリセットが実行されるたびにカウントが増分されます。

SSLKeyResetTime(MQCFST)

前回成功した SSL 秘密鍵のリセットの hh.mm.ss 形式の時刻 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_KEY_RESET_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

SSLShortPeerName(MQCFST)

チャンネルの相手側のピア・キュー・マネージャーまたはピア・クライアントの識別名 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_SHORT_PEER_NAME)。

最大長は MQ_SHORT_DNAME_LENGTH です。この制限は、例外的に長い識別名は切り捨てられることを示しています。

StopRequested(MQCFIN)

ユーザーの停止要求が未解決かどうか (パラメーター ID: MQIACH_STOP_REQUESTED)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHSR_STOP_NOT_REQUESTED

ユーザーの停止要求を受信していません。

MQCHSR_STOP_REQUESTED

ユーザーの停止要求を受信しました。

SubState(MQCFIN)

チャンネルで実行されている現行アクション (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_SUBSTATE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHSSTATE_CHADEXIT

チャンネルの自動定義出口を実行中。

MQCHSSTATE_COMPRESSING

データを圧縮または解凍中。

MQCHSSTATE_END_OF_BATCH

バッチ処理の終了。

MQCHSSTATE_HANDSHAKING

SSL のハンドシェーク中。

MQCHSSTATE_HEARTBEATING

パートナーとハートビートをやり取りしています。

MQCHSSTATE_IN_MQGET

MQGET の実行中。

MQCHSSTATE_IN_MQI_CALL

MQPUT および MQGET 以外の IBM MQ API 呼び出しを実行中。

MQCHSSTATE_IN_MQPUT

MQPUT の実行中。

MQCHSSTATE_MREXIT

再試行出口の実行中。

MQCHSSTATE_MSGEXIT

メッセージ出口の実行中。

MQCHSSTATE_NAME_SERVER

ネーム・サーバー要求。

MQCHSSTATE_NET_CONNECTING

ネットワーク接続。

MQCHSSTATE_OTHER

未定義の状態。

MQCHSSTATE_RCVEXIT

受信出口の実行中。

MQCHSSTATE_RECEIVING

ネットワーク受信。

MQCHSSTATE_RESYNCHING

パートナーと再同期中。

MQCHSSTATE_SCYEXIT

セキュリティー出口の実行中。

MQCHSSTATE_SENDEXIT

送信出口の実行中。

MQCHSSTATE_SENDING

ネットワーク送信。

MQCHSSTATE_SERIALIZING

キュー・マネージャーのアクセスで直列化されました。

***XmitQName*(MQCFST)**

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCACH_XMIT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

***XQTime* (MQCFIL)**

伝送キュー時間の標識 (パラメーター ID: MQIACH_XMITQ_TIME_INDICATOR)。取得されるまでにメッセージが伝送キューにとどまるマイクロ秒単位の時間。測定時間は、メッセージが伝送キューに書き込まれてから、チャンネルで取得されて送信されるまでです。そのため、書き込みアプリケーションでの遅延による間隔も含まれます。

次の 2 つの値が返されます。

- 短時間における最近のアクティビティーを基にした値。
- 長時間におけるアクティビティーを基にした値。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。

Inquire Channel Status (応答) (MQTT)

Inquire Channel Status (MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続く *ChannelName* 構造、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

コマンドで指定された基準への一致が検出されたチャンネル・インスタンスごとに、PCF 応答メッセージが 1 つ生成されます。

ClientIdentifier パラメーターを指定しない場合、Inquire Channel Status コマンドの出力は、チャンネルに接続されたすべてのクライアントの状況についての要約になります。チャンネルごとに 1 つずつ PCF 応答メッセージが返されます。

常に返されるデータ:

ChannelName, ChannelStatus, ChannelType, Connections,

ClientIdentifier パラメーターが指定されている場合は、クライアント接続ごとに別個の PCF 応答メッセージが返されます。ClientIdentifier パラメーターはワイルドカードにすることもできます。この場合、ClientIdentifier スtring に一致するすべてのクライアントの状況が返されます (MaxResponses および ResponseRestartPoint が設定されている場合はその制限内)。

常に返されるデータ:

ChannelName, ChannelStatus, ChannelType, ClientId

要求すると返されるデータ:

ChannelStatusDate, ChannelStatusTime, ClientUser, InDoubtInput, InDoubtOutput, KeepAliveInterval, LastMessageSentDate, LastMessageSentTime, MCAUser, MessagesReceived, MessagesSent, PendingOutbound, Protocol

応答データ

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。
String の最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelStartDate(MQCFST)

チャンネルが開始された yyyy-mm-dd 形式の日付 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_START_DATE)。
String の最大長は MQ_CHANNEL_DATE_LENGTH です。

ChannelStartTime(MQCFST)

チャンネルが開始された hh.mm.ss 形式の時刻 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_START_TIME)。
String の最大長は MQ_CHANNEL_TIME_LENGTH です。

ChannelStatus(MQCFIN)

チャンネル状況 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_STATUS)。
値は次のいずれかです。

MQCHS_DISCONNECTED

チャンネルは切断されています。

MQCHS_RUNNING

チャンネルはメッセージの転送中またはメッセージ待ちの状態です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。
値は次のものでなければなりません。

MQCHT_MQTT

テレメトリー。

ClientUser(MQCFST)

クライアントのクライアント ID (パラメーター ID: MQCACH_CLIENT_USER_ID)。
String の最大長は MQ_CLIENT_USER_ID_LENGTH です。

ConnectionName(MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。
String の最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

Connections(MQCFIN)

このチャンネルに接続されている MQTT 接続の現在の数 (パラメーター ID: MQIACF_NAME_LENGTH)。

InDoubtInput(MQCFIN)

クライアントへの未確定のインバウンド・メッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_IN_DOUBT_IN)。

InDoubtOutput(MQCFIN)

クライアントからの未確定のアウトバウンド・メッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_IN_DOUBT_OUT)。

KeepAliveInterval(MQCFIN)

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。

ここで指定される間隔 (ミリ秒単位) の長さだけ非アクティブ状態が続くと、クライアントが切断されます。MQXR サービスは、キープアライブ間隔内にクライアントからの通信を何も受信しなければ、クライアントから切断します。この間隔は、クライアントから接続時に送信される MQTT キープアライブ時間に基づいて計算されます。最大サイズは MQ_MQTT_MAX_KEEP_ALIVE です。

LastMsgDate(MQCFST)

yyyy-mm-dd の形式の、最後にメッセージが送信された日付、または MQI 呼び出しが処理された日付 (パラメーター ID: MQCACH_LAST_MSG_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_DATE_LENGTH です。

LastMsgTime(MQCFST)

hh.mm.ss の形式の、最後にメッセージが送信された時刻、または MQI 呼び出しが処理された時刻 (パラメーター ID: MQCACH_LAST_MSG_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_TIME_LENGTH です。

MCAUser(MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

MCA ユーザー ID のストリングの最大長は MQ_MCA_USER_ID_LENGTH です。

MsgsReceived (MQCFIN64)

クライアントが最後に接続してから受信したメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_MSGS_RECEIVED /MQIACH_MSGS_RCVD)。

MsgsSent (MQCFIN64)

クライアントが最後に接続してから送信したメッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_MSGS_SENT)。

PendingOutbound(MQCFIN)

保留中のアウトバウンド・メッセージの数 (パラメーター ID: MQIACH_PENDING_OUT)。

Protocol(MQCFST)

このチャンネルでサポートされる MQTT protocol (パラメーター ID: MQIACH_PROTOCOL)。

以下の 1 つ以上のオプションを指定します。複数のオプションを指定するには、値を加算する (同じ定数を複数回加算しない) か、ビット単位 OR 演算を使用して値を結合 (プログラミング言語でビット演算がサポートされる場合) します。

MQTTv311 (定数: MQPROTO_MQTTV311)

MQTTv3 (定数: MQPROTO_MQTTV3)

HTTP (定数: MQPROTO_HTTP)

Inquire Cluster Queue Manager

Inquire Cluster Queue Manager (MQCMD_INQUIRE_CLUSTER_Q_MGR) コマンドは、クラスター内の IBM MQ キュー・マネージャーの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ClusterQMgrName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME)。

総称キュー・マネージャー名がサポートされます。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク "*" を付けたものです (例: ABC*)。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのキュー・マネージャーを選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求した属性とは無関係に、キュー・マネージャー名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

Channel (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

適格クラスター・キュー・マネージャーを、指定したチャンネル名を持つキュー・マネージャーに限定することを指定します。

総称チャンネル名がサポートされています。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク "*" を付けたものです (例: ABC*)。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのキュー・マネージャーを選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

このパラメーターに値を指定しないと、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーに関するチャンネル情報が自動的に返されます。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

適格クラスター・キュー・マネージャーを、指定したクラスター名を持つキュー・マネージャーに限定することを指定します。

総称クラスター名がサポートされています。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク "*" を付けたものです (例: ABC*)。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのキュー・マネージャーを選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。

このパラメーターに値を指定しないと、照会されたすべてのキュー・マネージャーに関するクラスター情報が返されます。

ClusterQMgrAttrs (MQCFIL)

属性 (パラメーター ID: MQIACF_CLUSTER_Q_MGR_ATTRS)。

パラメーターの中には、特定のタイプのクラスター・チャンネルにのみ関係するものがあります。特定タイプのチャンネルに適用されない属性では出力は生成されず、エラーも発生しません。どの属性がどのチャンネル・タイプに適用されるかを確認するには [チャンネル属性とチャンネル・タイプ](#) を参照してください。

属性リストには、次の値だけを指定できます。パラメーターが指定されない場合は、デフォルト値が使用されます。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、次の値を組み合わせて指定できます。

MQCA_ALTERATION_DATE

情報が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

情報が最後に変更された時刻。

MQCA_CLUSTER_DATE

情報がローカル・キュー・マネージャーで利用できるようになった日付。

MQCA_CLUSTER_NAME

チャンネルが所属するクラスターの名前。

MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME

チャンネルが所属するクラスターの名前。

MQCA_CLUSTER_TIME

情報がローカル・キュー・マネージャーで利用できるようになった時刻。

MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER

キュー・マネージャーの固有 ID。

MQCA_VERSION

クラスター・キュー・マネージャーが関連付けられている、IBM MQ インストールのバージョン。

MQCA_XMIT_Q_NAME

キュー・マネージャーにより使用されるクラスター伝送キュー。

MQCACH_CONNECTION_NAME

接続名。

MQCACH_DESCRIPTION

説明。

MQCACH_LOCAL_ADDRESS

チャンネルのローカル通信アドレス。

MQCACH_MCA_NAME

メッセージ・チャンネル・エージェント名。

MQCACH_MCA_NAME をフィルター・パラメーターとして使用することはできません。

MQCACH_MCA_USER_ID

MCA ユーザー ID。

MQCACH_MODE_NAME

モード名。

MQCACH_MR_EXIT_NAME

メッセージ再試行出口名。

MQCACH_MR_EXIT_USER_DATA

メッセージ再試行出口ユーザー・データ。

MQCACH_MSG_EXIT_NAME

メッセージ出口名。

MQCACH_MSG_EXIT_USER_DATA

メッセージ出口ユーザー・データ。

MQCACH_PASSWORD

パスワード。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

MQCACH_RCV_EXIT_NAME

受信出口名。

MQCACH_RCV_EXIT_USER_DATA

受信出口ユーザー・データ。

MQCACH_SEC_EXIT_NAME

セキュリティー出口名。

MQCACH_SEC_EXIT_USER_DATA

セキュリティー出口ユーザー・データ。

MQCACH_SEND_EXIT_NAME

送信出口名。

MQCACH_SEND_EXIT_USER_DATA

送信出口ユーザー・データ。

MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC

SSL 暗号仕様。

MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH

SSL クライアント認証。

MQCACH_SSL_PEER_NAME

SSL ピア名。

MQCACH_TP_NAME

トランザクション・プログラム名。

MQCACH_USER_ID

ユーザー ID。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

MQIA_MONITORING_CHANNEL

オンライン・モニター・データ収集。

MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q

チャンネルでメッセージが配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します。

MQIACF_Q_MGR_DEFINITION_TYPE

クラスター・キュー・マネージャーが定義された方法。

MQIACF_Q_MGR_TYPE

クラスター内でのキュー・マネージャーの機能。

MQIACF_SUSPEND

キュー・マネージャーがクラスターにより中断されているかどうかを指定します。

MQIACH_BATCH_HB

バッチ・ハートビートに使用されている値。

MQIACH_BATCH_INTERVAL

バッチ待機間隔 (秒)。

MQIACH_BATCH_DATA_LIMIT

バッチのデータ制限 (キロバイト)。

MQIACH_BATCH_SIZE

バッチ・サイズ。

MQIACH_CHANNEL_STATUS

チャンネル状況。

MQIACH_CLWL_CHANNEL_PRIORITY

クラスター・ワークロード・チャンネル優先順位

MQIACH_CLWL_CHANNEL_RANK

クラスター・ワークロード・チャンネル・ランク

MQIACH_CLWL_CHANNEL_WEIGHT

クラスター・ワークロード・チャンネル・ウェイト

MQIACH_DATA_CONVERSION

送信側はアプリケーション・データを変換する必要があるかどうかを指定します。

MQIACH_DISC_INTERVAL

切断間隔。

MQIACH_HB_INTERVAL

ハートビート間隔 (秒)。

MQIACH_HDR_COMPRESSION

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法のリスト。

MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL

キープアライブ間隔 (z/OS でのみ有効)。

MQIACH_LONG_RETRY

長時間試行のカウンント。

MQIACH_LONG_TIMER

長時間タイマー。

MQIACH_MAX_MSG_LENGTH

最大メッセージ長。

MQIACH_MCA_TYPE

MCA タイプ。

MQIACH_MR_COUNT

メッセージ送信試行のカウンント。

MQIACH_MR_INTERVAL

メッセージ再送信の試行間隔 (ミリ秒)。

MQIACH_MSG_COMPRESSION

チャンネルでサポートされるメッセージ・データ圧縮技法のリスト。

MQIACH_NETWORK_PRIORITY

ネットワーク優先順位。

MQIACH_NPM_SPEED

非持続メッセージの速度。

MQIACH_PUT_AUTHORITY

書き込み権限。

MQIACH_SEQUENCE_NUMBER_WRAP

シーケンス番号の折り返し。

MQIACH_SHORT_RETRY

短時間試行のカウンント。

MQIACH_SHORT_TIMER

短時間タイマー。

MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE

伝送プロトコル・タイプ

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下の値のうちいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

- ・アスタリスク "*"。コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_ALL および注記されたものを除く、ClusterQMgrAttrs で使用可能な整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、StringFilterCommand パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

StringFilterCommand (MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME および注記されたものを除く、ClusterQMgrAttrs で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

Channel または ClusterName のストリング・フィルターを指定する場合、Channel または ClusterName パラメーターを同時に指定することはできません。

ストリング・フィルターを指定する場合、IntegerFilterCommand パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire Cluster Queue Manager (応答)

Inquire Cluster Queue Manager (MQCMD_INQUIRE_CLUSTER_Q_MGR) コマンドに対する応答は、3 つの部分で構成されます。応答ヘッダーと、それに続く QMgrName 構造、および要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造です。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

ChannelName, ClusterName, QMgrName,

要求すると返されるデータ:

AlterationDate , AlterationTime , BatchHeartbeat , BatchInterval , BatchSize ,
ChannelDesc , ChannelMonitoring , ChannelStatus , ClusterDate , ClusterInfo ,
ClusterTime , CLWLChannelPriority , CLWLChannelRank , CLWLChannelWeight ,
ConnectionName , DataConversion , DiscInterval , HeaderCompression ,
HeartbeatInterval ,  KeepAliveInterval , LocalAddress ,
LongRetryCount , LongRetryInterval , MaxMsgLength , MCAName , MCAType ,
MCAUserIdentifier ,
MessageCompression, ModeName, MsgExit, MsgRetryCount, MsgRetryExit,
MsgRetryInterval, MsgRetryUserData, MsgUserData, NetworkPriority,
NonPersistentMsgSpeed, Password, PutAuthority, QMgrDefinitionType,
QMgrIdentifier, QMgrType, ReceiveExit, ReceiveUserData, SecurityExit,
SecurityUserData, SendExit, SendUserData, SeqNumberWrap, ShortRetryCount,
ShortRetryInterval, SSLCipherSpec, SSLClientAuth, SSLPeerName, Suspend, TpName,
TransmissionQName, TransportType, UseDLQ, UserIdentifier, Version

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd の形式の変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付。

AlterationTime (MQCFST)

hh.mm.ss の形式の変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻。

BatchHeartbeat (MQCFIN)

バッチ・ハートビートに使用される値 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_HB)。

値は 0 から 999,999 です。値 0 は、バッチ・ハートビートを使用しないことを示します。

BatchInterval (MQCFIN)

バッチ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_INTERVAL)。

BatchSize (MQCFIN)

バッチ・サイズ (パラメーター ID: MQIACH_BATCH_SIZE)。

ChannelDesc (MQCFST)

チャンネル記述 (パラメーター ID: MQCACH_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_DESC_LENGTH です。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

オンライン・モニター・データ収集 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_CHANNEL)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_Q_MGR

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの値がチャンネルに継承されます。

MQMON_Q_MGR がデフォルト値です。

MQMON_LOW

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

このチャンネルについて、オンライン・モニター・データ収集が、普通のデータ収集率でオンになります (キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターが MQMON_NONE の場合を除く)。

MQMON_HIGH

このチャンネルのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターが MQMON_NONE でない限り、高いデータ収集率でオンになります。

ChannelName (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelStatus (MQCFIN)

チャンネル状況 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQCHS_BINDING

チャンネルはパートナーと折衝中です。

MQCHS_INACTIVE

チャンネルはアクティブではありません。

MQCHS_STARTING

チャンネルはアクティブになるのを待っています。

MQCHS_RUNNING

チャンネルはメッセージの転送中またはメッセージ待ちの状態です。

MQCHS_PAUSED

チャンネルは一時停止されています。

MQCHS_STOPPING

チャンネルは停止処理中です。

MQCHS_RETRYING

チャンネルは接続の確立を再試行しています。

MQCHS_STOPPED

チャンネルは停止されています。

MQCHS_REQUESTING

要求側チャンネルが接続を要求しています。

MQCHS_INITIALIZING

チャンネルは初期化中です。

このパラメーターが返されるのは、チャンネルがクラスター送信側チャンネル (CLUSDR) だけの場合です。

ClusterDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd 形式のクラスターの日付 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_DATE)。

情報がローカル・キュー・マネージャーで利用できるようになった日付。

ClusterInfo (MQCFIN)

クラスター情報 (パラメーター ID: MQIACF_CLUSTER_INFO)。

ローカル・キュー・マネージャーに対して利用可能なクラスター情報。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ClusterTime (MQCFST)

hh.mm.ss の形式のクラスターの時刻 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_TIME)。

情報がローカル・キュー・マネージャーで利用できるようになった時刻。

CLWLChannelPriority (MQCFIN)

チャンネル優先順位 (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_PRIORITY)。

CLWLChannelRank (MQCFIN)

チャンネル・ランク (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_RANK)。

CLWLChannelWeight (MQCFIN)

チャンネル加重 (パラメーター ID: MQIACH_CLWL_CHANNEL_WEIGHT)。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。z/OS では、MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

DataConversion (MQCFIN)

送信側がアプリケーション・データを変換するかどうか (パラメーター ID: MQIACH_DATA_CONVERSION) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQCDC_NO_SENDER_CONVERSION

送信側による変換なし。

MQCDC_SENDER_CONVERSION

送信側による変換。

DiscInterval (MQCFIN)

切断間隔 (パラメーター ID: MQIACH_DISC_INTERVAL)。

HeaderCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるヘッダー・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_HDR_COMPRESSION)。値は、優先順に指定します。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

ヘッダー・データ圧縮は実行されません。

MQCOMPRESS_SYSTEM

ヘッダー・データ圧縮が実行されます。

HeartbeatInterval (MQCFIN)

ハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_HB_INTERVAL)。

**KeepAliveInterval (MQCFIN)**

キープアライブ間隔 (パラメーター ID: MQIACH_KEEP_ALIVE_INTERVAL)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

LocalAddress (MQCFST)

チャンネル用のローカル通信アドレス (パラメーター ID: MQCACH_LOCAL_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

LongRetryCount (MQCFIN)

ロング再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_LONG_RETRY)。

LongRetryInterval (MQCFIN)

ロング・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_LONG_TIMER)。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIACH_MAX_MSG_LENGTH)。

MCAName (MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェント名 (パラメーター ID: MQCACH_MCA_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MCA_NAME_LENGTH です。

MCAType (MQCFIN)

メッセージ・チャンネル・エージェント・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_MCA_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQMCAT_PROCESS

プロセス。

MQMCAT_THREAD

スレッド (Windows のみ)。

MCAUserIdentifier (MQCFST)

メッセージ・チャンネル・エージェント・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

MessageCompression (MQCFIL)

チャンネルでサポートされるメッセージ・データ圧縮技法 (パラメーター ID: MQIACH_MSG_COMPRESSION)。値は、優先順に指定します。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQCOMPRESS_NONE

メッセージ・データ圧縮は実行されません。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコードを使用してメッセージ・データ圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBFAST

メッセージ・データ圧縮は、速度優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

MQCOMPRESS_ZLIBHIGH

メッセージ・データ圧縮は、圧縮優先の ZLIB エンコードを使用して実行されます。

ModeName (MQCFST)

モード名 (パラメーター ID: MQCACH_MODE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_MODE_NAME_LENGTH です。

MsgExit (MQCFST)

メッセージ出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

以下の環境では、1 つのチャンネルに複数のメッセージ出口を定義できます。複数のメッセージ出口が定義されている場合、(MQCFST) 構造の代わりに MQCFSL 構造で名前のリストが返されます。環境は以下のとおりです。AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、および Windows。z/OS では、MQCFSL 構造が必ず使用されます。

MsgRetryCount (MQCFIN)

メッセージ再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_MR_COUNT)。

MsgRetryExit (MQCFST)

メッセージ再試行出口名 (パラメーター ID: MQCACH_MR_EXIT_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

MsgRetryInterval (MQCFIN)

メッセージ再試行間隔 (パラメーター ID: MQIACH_MR_INTERVAL)。

MsgRetryUserData (MQCFST)

メッセージ再試行出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_MR_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

MsgUserData (MQCFST)

メッセージ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_MSG_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

以下の環境では、1 つのチャンネルに複数のメッセージ出口ユーザー・データ・ストリングを定義できます。複数のストリングが定義されている場合、(MQCFST) 構造の代わりに MQCFSL 構造でストリングのリストが返されます。環境は以下のとおりです。AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、および Windows。z/OS では、MQCFSL 構造が必ず使用されます。

NetworkPriority (MQCFIN)

ネットワーク優先度 (パラメーター ID: MQIACH_NETWORK_PRIORITY)。

NonPersistentMsgSpeed (MQCFIN)

非持続メッセージを送信する速度 (パラメーター ID: MQIACH_NPM_SPEED)。

値は次のいずれかです。

MQNPMS_NORMAL

通常の速度。

MQNPMS_FAST

高速。

Password (MQCFST)

パスワード (パラメーター ID: MQCACH_PASSWORD)。このパラメーターは、z/OS では使用できません。

ブランク以外のパスワードが定義されている場合は、そのパスワードがアスタリスクとして返されます。ブランクのパスワードを定義すると、ブランクが返されます。

ストリングの最大長は MQ_PASSWORD_LENGTH です。ただし、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

PutAuthority (MQCFIN)

書き込み権限 (パラメーター ID: MQIACH_PUT_AUTHORITY)。

値は次のいずれかです。

MQPA_DEFAULT

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

MQPA_CONTEXT

コンテキスト・ユーザー ID が使用されます。

MQPA_ALTERNATE_OR_MCA

メッセージ記述子の *UserIdentifier* フィールドから取得したユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は、z/OS でのみ有効です。

MQPA_ONLY_MCA

デフォルトのユーザー ID が使用されます。ネットワークから受信したユーザー ID はどれも使用されません。この値は、z/OS でのみ有効です。

QMGrDefinitionType (MQCFIN)

キュー・マネージャー定義タイプ (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_DEFINITION_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQQMDT_EXPLICIT_CLUSTER_SENDER

明示的な定義から取得したクラスター送信側チャネル。

MQQMDT_AUTO_CLUSTER_SENDER

自動定義によるクラスター送信側チャネル。

MQQMDT_CLUSTER_RECEIVER

クラスター受信側チャネル。

MQQMDT_AUTO_EXP_CLUSTER_SENDER

クラスター送信側チャネル (明示的な定義取得したものと、自動定義されたものの両方)。

QMGrIdentifier (MQCFST)

キュー・マネージャー ID (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER)。

キュー・マネージャーの固有 ID。

QMGrName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

QMGrType (MQCFIN)

キュー・マネージャー・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQQMT_NORMAL

通常キュー・マネージャー。

MQQMT_REPOSITORY

リポジトリ・キュー・マネージャー。

ReceiveExit (MQCFST)

受信出口名 (パラメーター ID: MQCACH_RCV_EXIT_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

以下の環境では、1つのチャンネルに複数の受信出口を定義できます。複数の受信出口が定義されている場合、(MQCFST) 構造の代わりに MQCFSL 構造で名前のリストが返されます。環境は以下のとおりです。AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、および Windows。z/OS では、MQCFSL 構造が必ず使用されます。

ReceiveUserData (MQCFST)

受信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_RCV_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

以下の環境では、1つのチャンネルに複数の受信出口ユーザー・データ・ストリングを定義できます。複数のストリングが定義されている場合、(MQCFST) 構造の代わりに MQCFSL 構造でストリングのリストが返されます。環境は以下のとおりです。AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、および Windows。z/OS では、MQCFSL 構造が必ず使用されます。

SecurityExit (MQCFST)

セキュリティ出口名 (パラメーター ID: MQCACH_SEC_EXIT_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

SecurityUserData (MQCFST)

セキュリティ出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_SEC_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

SendExit (MQCFST)

送信出口名 (パラメーター ID: MQCACH_SEND_EXIT_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

以下の環境では、1つのチャンネルに複数の送信出口を定義できます。複数の送信出口が定義されている場合、(MQCFST) 構造の代わりに MQCFSL 構造で名前のリストが返されます。環境は以下のとおりです。AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、および Windows。z/OS では、MQCFSL 構造が必ず使用されます。

SendUserData (MQCFST)

送信出口ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACH_SEND_EXIT_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_DATA_LENGTH です。

以下の環境では、1つのチャンネルに複数の送信出口ユーザー・データ・ストリングを定義できます。複数のストリングが定義されている場合、(MQCFST) 構造の代わりに MQCFSL 構造でストリングのリストが返されます。環境は以下のとおりです。AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Linux、および Windows。z/OS では、MQCFSL 構造が必ず使用されます。

SeqNumberWrap (MQCFIN)

シーケンス・ラップ番号 (パラメーター ID: MQIACH_SEQUENCE_NUMBER_WRAP)。

ShortRetryCount (MQCFIN)

ショート再試行カウント (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_RETRY)。

ShortRetryInterval (MQCFIN)

ショート・タイマー (パラメーター ID: MQIACH_SHORT_TIMER)。

SSLCipherSpec (MQCFST)

CipherSpec (パラメーター ID: MQCACH_SSL_CIPHER_SPEC)。

ストリングの長さは MQ_SSL_CIPHER_SPEC_LENGTH です。

SSLClientAuth (MQCFIN)

クライアント認証 (パラメーター ID: MQIACH_SSL_CLIENT_AUTH)。

値は次のいずれかです。

MQSCA_REQUIRED

クライアント認証が必要です。

MQSCA_OPTIONAL

クライアント認証はオプションです。

IBM MQ が SSL クライアントからの証明書を必要としているかどうかを定義します。

SSLPeerName (MQCFST)

ピア名 (パラメーター ID: MQCACH_SSL_PEER_NAME)。

ストリングの長さは MQ_SSL_PEER_NAME_LENGTH です。z/OS では、MQ_SHORT_PEER_NAME_LENGTH です。

チャンネルの相手側にあるピア・キュー・マネージャーまたはクライアントから送られてくる証明書の識別名との比較に使用するフィルターを指定します。(識別名は SSL 証明書の ID です。) 相手から受け取る証明書内の識別名が SSLPEER フィルターと一致しない場合、チャンネルは開始しません。

Suspend (MQCFIN)

キュー・マネージャーが中断されているかどうか (パラメーター ID: MQIACF_SUSPEND) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQSUS_NO

キュー・マネージャーはクラスターから中断されていません。

MQSUS_YES

キュー・マネージャーはクラスターから中断されています。

TpName (MQCFST)

トランザクション・プログラム名 (パラメーター ID: MQCACH_TP_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TP_NAME_LENGTH です。

TranmissionQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA_XMIT_Q_NAME)。キュー・マネージャーにより使用されるクラスター伝送キュー。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQXPT_LU62

LU 6.2。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。

MQXPT_SPX

SPX。

MQXPT_DECNET

DECnet。

UseDLQ (MQCFIN)

パブリケーション・メッセージを正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q)。

UserIdentifier (MQCFST)

タスク・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_USER_ID)。このパラメーターは、z/OS では使用できません。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。ただし、使用されるのは最初の 10 文字のみです。

Version (MQCFST)

クラスター・キュー・マネージャーが関連付けられている IBM MQ インストールのバージョン。(パラメーター ID: MQCA_VERSION)。バージョンの形式は、以下のような VVRRMMFF です。

VV: バージョン

RR: リリース

MM: 保守レベル

FF: フィックス・レベル

Inquire Communication Information Object

Inquire Communication Information Object (MQCMD_INQUIRE_COMM_INFO) コマンドは、既存の IBM MQ 通信情報オブジェクトの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必須パラメーター:

ComminfoName

オプション・パラメーター:

ComminfoAttrs, IntegerFilterCommand, StringFilterCommand

必要なパラメーター

ComminfoName (MQCFST)

情報を返す対象となる通信情報定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

どの属性が要求されたかには関係なく、通信情報の名前は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

ComminfoAttrs (MQCFIL)

Comminfo 属性 (パラメーター ID: MQIACF_COMM_INFO_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQIA_CODED_CHAR_SET_ID

送信メッセージの CCSID。

MQIA_COMM_EVENT

Comminfo イベント制御。

MQIA_MCAST_BRIDGE

マルチキャスト・ブリッジング。

MQIA_MONITOR_INTERVAL

モニター情報の更新頻度。

MQIACF_ENCODING

送信メッセージのエンコード。

MQIACH_MC_HB_INTERVAL

マルチキャスト・ハートビート間隔。

MQIACH_MSG_HISTORY

保持するメッセージ・ヒストリーの量。

MQIACH_MULTICAST_PROPERTIES

マルチキャスト・プロパティ制御。

MQIACH_NEW_SUBSCRIBER_HISTORY

新しいサブスクライバー・ヒストリー。

MQIACH_PORT

ポート番号。

MQCA_ALTERATION_DATE

情報が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

情報が最後に変更された時刻。

MQCA_COMM_INFO_DESC

Comminfo の説明。

MQCA_COMM_INFO_TYPE

Comminfo のタイプ

MQCACH_GROUP_ADDRESS

グループ・アドレス。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*ComminfoAttrs* で許可されているいずれかの整数タイプのパラメーターでなければなりません (ただし MQIACF_ALL を除く)。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ComminfoType (MQIA_COMM_INFO_TYPE) に整数フィルターを指定した場合、同時に *ComminfoType* パラメーターを指定することはできません。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*ComminfoAttrs* で許可されているストリング・タイプのパラメーターでなければなりません (ただし MQCA_COMM_INFO_NAME を除く)。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire Communication Information Object (Response)

Inquire Communication Information Object (MQCMD_INQUIRE_COMM_INFO) コマンドへの応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ComminfoName* 構造、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造 (該当する場合) で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

総称通信情報名が指定された場合、オブジェクトが検出されるたびにこのようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

ComminfoName

要求すると返されるデータ:

AlterationDate, AlterationTime, Bridge, CCSID, CommEvent, Description, Encoding, GrpAddress, MonitorInterval, MulticastHeartbeat, MulticastPropControl, MsgHistory, NewSubHistory, PortNumber, Type

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

Bridge (MQCFIN)

マルチキャスト・ブリッジング (パラメーター ID: MQIA_MCAST_BRIDGE)。

ブリッジによって、マルチキャストを使用しないアプリケーションからのパブリケーションを、マルチキャストを使用するアプリケーションに渡すかどうかを制御します。

CCSID (MQCFIN)

送信メッセージの CCSID (パラメーター ID: MQIA_CODED_CHAR_SET_ID)。

送信メッセージのコード化文字セット ID。

CommEvent (MQCFIN)

イベント制御 (パラメーター ID: MQIA_COMM_EVENT)。

この COMMINFO オブジェクトを使用して作成されるマルチキャスト・ハンドルに対してイベント・メッセージを生成するかどうかを制御します。値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

MQEVR_EXCEPTION

メッセージ信頼性が有効になっている信頼性しきい値を下回ったというイベントの報告。

CommInfoName (MQCFST)

通信情報定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

Description (MQCFST)

通信情報定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_DESC_LENGTH です。

Encoding (MQCFIN)

送信メッセージのエンコード (パラメーター ID: MQIACF_ENCODING)。

送信メッセージのエンコード。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQENC_AS_PUBLISHED

公開されたメッセージから取得されるエンコード。

MQENC_NORMAL

MQENC_REVERSED

MQENC_S390

MQENC_TNS

GrpAddress (MQCFST)

グループの IP アドレスまたは DNS 名 (パラメーター ID: MQCACH_GROUP_ADDRESS)。

ストリングの最大長は MQ_GROUP_ADDRESS_LENGTH です。

MonitorInterval (MQCFIN)

モニターの頻度 (パラメーター ID: MQIA_MONITOR_INTERVAL)。

モニター情報の更新およびイベント・メッセージ生成の頻度。

MulticastHeartbeat (MQCFIN)

マルチキャストのハートビート間隔 (パラメーター ID: MQIACH_MC_HB_INTERVAL)。

マルチキャスト送信側のハートビート間隔 (ミリ秒)。

MulticastPropControl (MQCFIN)

マルチキャスト・プロパティ制御 (パラメーター ID: MQIACH_MULTICAST_PROPERTIES)。

どの MQMD プロパティおよびユーザー・プロパティがメッセージと共に流れるかを制御します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMCP_ALL

すべての MQMD およびユーザー・プロパティ。

MQMAP_REPLY

メッセージへの応答に関連したプロパティ。

MQMAP_USER

ユーザー・プロパティのみ。

MQMAP_NONE

MQMD もユーザー・プロパティも含まれない。

MQMAP_COMPAT

プロパティは、以前のマルチキャスト・クライアントと互換性のある形式で送信されます。

MsgHistory (MQCFIN)

メッセージ・ヒストリー (パラメーター ID: MQIACH_MSG_HISTORY)。

NACK の場合の再送信を処理するためにシステムで保持されるメッセージ・ヒストリーの量 (キロバイト)。

NewSubHistory (MQCFIN)

新しいサブスクライバー・ヒストリー (パラメーター ID: MQIACH_NEW_SUBSCRIBER_HISTORY)。

新しいサブスクライバーが受け取る履歴データの量を制御します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNSH_NONE

サブスクリプションの時点以降のパブリケーションのみ送信されます。

MQNSH_ALL

認識されている限りのヒストリーが再送されます。

PortNumber (MQCFIN)

ポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT)。

送信のポート番号。

Type (MQCFIN)

通信情報定義のタイプ (パラメーター ID: MQIA_COMM_INFO_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQCIT_MULTICAST

マルチキャスト。

Inquire Connection

Inquire connection (MQCMD_INQUIRE_CONNECTION) コマンドは、キュー・マネージャーに接続しているアプリケーション、そのアプリケーションが実行されているトランザクションの状況、およびアプリケーションがオープンしたオブジェクトについて照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ConnectionId(MQCFBS)

接続 ID (パラメーター ID: MQBACF_CONNECTION_ID)。

このパラメーターは、キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションに関連付けられた固有の接続 ID です。このパラメーター、または *GenericConnectionId* のいずれかを指定してください。

接続の確立方法にかかわらず、キュー・マネージャーによってすべての接続に固有 ID が割り当てられます。

総称接続 ID を指定する必要がある場合は、代わりに *GenericConnectionId* パラメーターを使用してください。

ストリングの長さは MQ_CONNECTION_ID_LENGTH です。

GenericConnectionId(MQCFBS)

接続 ID の総称指定 (パラメーター ID: MQBACF_GENERIC_CONNECTION_ID)。

このパラメーター、または *ConnectionId* のいずれかを指定してください。

長さがゼロのバイト・ストリングを指定した場合、またはヌル・バイトのみを含むストリングを指定した場合は、すべての接続 ID に関する情報が返されます。この値は、*GenericConnectionId* に許可された唯一の値です。

ストリングの長さは MQ_CONNECTION_ID_LENGTH です。

オプション・パラメーター

ByteStringFilterCommand(MQCFBF)

バイト・ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID、MQBACF_ORIGIN_UOW_ID、または MQBACF_Q_MGR_UOW_ID のいずれかでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1872 ページの『MQCFBF - PCF バイト・ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

バイト・ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを、または *StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

➤ z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

ConnectionAttrs (MQCFIL)

接続属性 (パラメーター ID: MQIACF_CONNECTION_ATTRS)。

属性リストには、次の値を単独で指定できます (このパラメーターを指定しない場合は、デフォルト値が使用されます)。

MQIACF_ALL

選択した *ConnInfoType* のすべての属性。

または、*ConnInfoType* に値 MQIACF_CONN_INFO_CONN を 選択した場合は、以下の組み合わせ。

MQBACF_CONNECTION_ID

接続 ID。

MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID

接続に関連付けられた外部リカバリー単位 ID。

MQBACF_ORIGIN_UOW_ID

発信元によって割り当てられたリカバリー単位 ID (z/OS でのみ有効)。

MQBACF_Q_MGR_UOW_ID

キュー・マネージャーによって割り当てられたリカバリー単位 ID。

MQCACF_APPL_TAG

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションの名前。

MQCACF_ASID

MQCACF_APPL_TAG で識別されるアプリケーションの 4 文字のアドレス・スペース ID (z/OS でのみ有効)。

MQCACF_ORIGIN_NAME

リカバリー単位の発信元 (z/OS でのみ有効)。

MQCACF_PSB_NAME

実行中の IMS トランザクションに関連付けられたプログラム仕様ブロック (PSB) の 8 文字の名前 (z/OS でのみ有効)。

MQCACF_PST_ID

接続された IMS 領域の 4 文字の IMS プログラム仕様テーブル (PST) 領域 ID (z/OS でのみ有効)。

MQCACF_TASK_NUMBER

7 桁の CICS タスク番号 (z/OS でのみ有効)。

MQCACF_TRANSACTION_ID

4 文字の CICS トランザクション ID (z/OS でのみ有効)。

MQCACF_UOW_LOG_EXTENT_NAME

トランザクションのリカバリーに必要な最初のエクステントの名前。

MQCACF_UOW_LOG_EXTENT_NAME は、z/OS では無効です。

MQCACF_UOW_LOG_START_DATE

現行接続に関連付けられたトランザクションが最初にログに書き込まれた日付。

MQCACF_UOW_LOG_START_TIME

現行接続に関連付けられたトランザクションが最初にログに書き込まれた時刻。

MQCACF_UOW_START_DATE

現行接続に関連付けられたトランザクションが開始された日付。

MQCACF_UOW_START_TIME

現行接続に関連付けられたトランザクションが開始された時刻。

MQCACF_USER_IDENTIFIER

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションのユーザー ID。

MQCACH_CHANNEL_NAME

接続されているアプリケーションに関連付けられたチャンネルの名前。

MQCACH_CONNECTION_NAME

アプリケーションに関連付けられたチャンネルの接続名。

MQIA_APPL_TYPE

キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションのタイプ。

MQIACF_CONNECT_OPTIONS

このアプリケーション接続で現在有効になっている接続オプション。

値 MQCNO_STANDARD_BINDING をフィルター値として使用することはできません。

MQIACF_PROCESS_ID

キュー・マネージャーに現在接続されているアプリケーションのプロセス ID。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

MQIACF_THREAD_ID

キュー・マネージャーに現在接続されているアプリケーションのスレッド ID。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

MQIACF_UOW_STATE

作業単位の状態。

MQIACF_UOW_TYPE

キュー・マネージャーが認識する外部リカバリー単位 ID のタイプ。

または、*ConnInfoType* に値 MQIACF_CONN_INFO_HANDLE を 選択した場合は、以下の組み合わせ。

MQCACF_OBJECT_NAME

接続がオープンされている各オブジェクトの名前。

MQCACH_CONNECTION_NAME

アプリケーションに関連付けられたチャンネルの接続名。

MQIA_QSG_DISP

オブジェクトの特性 (z/OS でのみ有効)。

MQIA_QSG_DISP をフィルター・パラメーターとして使用することはできません。

MQIA_READ_AHEAD

先読み接続状況。

MQIA_UR_DISP

接続に関連付けられたリカバリー単位属性指定 (z/OS でのみ有効)。

MQIACF_HANDLE_STATE

API 呼び出しが進行中かどうか。

MQIACF_OBJECT_TYPE

接続がオープンされている各オブジェクトのタイプ。

MQIACF_OPEN_OPTIONS

各オブジェクトをオープンするために接続で使用されたオプション。

または、*ConnInfoType* に値 MQIACF_CONN_INFO_ALL を 選択した場合は、以前の値のいずれか。

ConnInfoType (MQCFIN)

返される接続情報のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_CONN_INFO_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIACF_CONN_INFO_CONN

接続情報。z/OS では、MQIACF_CONN_INFO_CONN には論理的にまたは実際に接続との関連付けを解除されたスレッドと、解決に外部の介入が必要な未確定のスレッドが含まれます。

MQIACF_CONN_INFO_CONN は、パラメーターが指定されない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_CONN_INFO_HANDLE

指定された接続によってオープンされているオブジェクトにのみ関連する情報。

MQIACF_CONN_INFO_ALL

接続情報および接続がオープンされているオブジェクトに関する情報。

ConnInfoType をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、注記されたものと MQIACF_ALL を除く、*ConnectionAttrs* で使用可能な整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。

MQIACF_CONNECT_OPTIONS パラメーターでは、値 MQCNO_STANDARD_BINDING を MQCFOP_CONTAINS または MQCFOP_EXCLUDES のいずれかの演算子とともに使用することはできません。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

MQIACF_CONNECT_OPTIONS または MQIACF_OPEN_OPTIONS をフィルターに掛ける場合は、いずれの場合も、フィルター値に 1 ビットのみを設定してください。

整数フィルターを指定する場合、*ByteStringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを、または *StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*ConnectionAttrs* で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*ByteStringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを、または *IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを同時に指定することはできません。

URDisposition (MQCFIN)

接続に関連付けられたリカバリー単位属性指定 (パラメーター ID: MQI_UR_DISP)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_ALL

すべての接続を戻すことを指定します。

MQQSGD_GROUP

GROUP リカバリー単位属性指定が指定された接続のみを戻すことを指定します。

MQQSGD_Q_MGR

QMGR リカバリー単位属性指定が指定された接続のみを戻すことを指定します。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CONNECTION_ID_ERROR

接続 ID が無効です。

Inquire Connection (応答)

Inquire Connection (MQCMD_INQUIRE_CONNECTION) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ConnectionId* 構造、および Inquire コマンドの *ConnInfoType* の値によって決定される一連の属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

ConnInfoType の値が MQIACF_CONN_INFO_ALL だった場合は、MQIACF_CONN_INFO_CONN のメッセージが接続ごとに 1 個と、MQIACF_CONN_INFO_HANDLE のメッセージが接続ごとに *n* 個あります (ここで、*n* は接続がオープンしているオブジェクトの数です)。

常に返されるデータ:

ConnectionId, *ConnInfoType*

ConnInfoType が MQIACF_CONN_INFO_HANDLE の場合に常に返されるデータ:

ObjectName , *ObjectType* ,  *QSGDisposition*

ConnInfoType が MQIACF_CONN_INFO_CONN の場合に要求すると返されるデータ:

ApplDesc , *ApplTag* , *ApplType* ,  *ASID* , *AsynchronousState* ,
ChannelName , *ConnectionName* , *ConnectionOptions* ,  *OriginName* ,
 *OriginUOWId* ,  *ProcessId* , *PSBName* ,  *PSTId* ,
QMgrUOWId , *StartUOWLogExtent* , *TaskNumber* , *ThreadId* ,  ,
TransactionId , *UOWIdentifier* , *UOWLogStartDate* , *UOWLogStartTime* ,
UOWStartDate , *UOWStartTime* , *UOWState* , *UOWType* ,  *URDisposition* ,
UserId

ConnInfoType が MQIACF_CONN_INFO_HANDLE の場合に要求すると返されるデータ:

AsynchronousState, *Destination*, *DestinationQueueManager*, *HandleState*,
OpenOptions, *ReadAhead*, *SubscriptionID*, *SubscriptionName*, *TopicString*

応答データ

ApplDesc (MQCFST)

アプリケーション記述 (パラメーター ID: MQCACF_APPL_DESC)。

最大長は MQ_APPL_DESC_LENGTH です。

ApplTag (MQCFST)

アプリケーション・タグ (パラメーター ID: MQCACF_APPL_TAG)。

最大長は MQ_APPL_TAG_LENGTH です。

ApplType (MQCFIN)

アプリケーション・タイプ (パラメーター ID: MQIA_APPL_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQAT_QMGR

キュー・マネージャー・プロセス。

MQAT_CHANNEL_INITIATOR

チャンネル・イニシエーター。

MQAT_USER

ユーザー・アプリケーション。

MQAT_BATCH

バッチ接続を使用するアプリケーション (z/OS のみ)。

MQAT_RRS_BATCH

バッチ接続を使用する RRS 調整済みアプリケーション (z/OS のみ)。

MQAT_CICS

CICS トランザクション (z/OS のみ)。

MQAT_IMS

IMS トランザクション (z/OS のみ)。

MQAT_SYSTEM_EXTENSION

キュー・マネージャーによって提供される機能の拡張を実行するアプリケーション

z/OS

ASID (MQCFST)

アドレス・スペース ID (パラメーター ID: MQACF_ASID)。

ApplTag によって識別されるアプリケーションの 4 文字のアドレス・スペース ID。 *ApplTag* の重複値を区別します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの長さは MQ_ASID_LENGTH です。

AsynchronousState(MQCFIN)

このハンドルでの非同期コンシュームの状態 (パラメーター ID: MQIACF_ASYNC_STATE)。

値は次のいずれかです。

MQAS_NONE

ConnInfoType が MQIACF_CONN_INFO_CONN である場合、MQCTL 呼び出しはハンドルに対して発行されていません。現在、この接続では非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。

ConnInfoType が MQIACF_CONN_INFO_HANDLE である場合、MQCB 呼び出しがこのハンドルに対して発行されなかったために、非同期メッセージ・コンシュームはこのハンドルで構成されていません。

MQAS_SUSPENDED

非同期コンシュームのコールバックが中断されたため、現在このハンドルで非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。この状態は、このオブジェクト・ハンドルに対して操作

MQOP_SUSPEND を指定した MQCB または MQCTL 呼び出しがアプリケーションによって発行されたか、あるいはシステムによって中断されたことが原因で発生した可能性があります。システムによって中断された場合は、非同期メッセージ・コンシュームを中断するプロセスの一環として、中断の原因となった問題を示す理由コードでコールバック関数が呼び出されます。この理由コードは、コールバックに渡された MQCBC 構造内の *Reason* フィールドで報告されます。非同期メッセージ・コンシュームを続行するには、アプリケーションで操作 MQOP_RESUME を指定して MQCB または MQCTL 呼び出しを発行する必要があります。この理由コードは、*ConnInfoType* が MQIACF_CONN_INFO_CONN または MQIACF_CONN_INFO_HANDLE である場合に返されることがあります。

MQAS_SUSPENDED_TEMPORARY

非同期コンシュームのコールバックがシステムにより一時的に中断されたため、現在このオブジェクト・ハンドルで非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。非同期メッセージ・コンシュームを中断するプロセスの一環として、中断の原因となった問題を示す理由コードでコールバック関数が呼び出されます。MQAS_SUSPENDED_TEMPORARY は、コールバックに渡された MQCBC 構造内の *Reason* フィールドで報告されます。コールバック関数は、一時的な状態が解決されてから、非同期メッセージ・コンシュームがシステムによって再開されたときに再度呼び出されます。MQAS_SUSPENDED_TEMPORARY は、*ConnInfoType* が MQIACF_CONN_INFO_HANDLE の場合にのみ返されます。

MQAS_STARTED

操作 MQOP_START を指定した MQCTL 呼び出しが接続ハンドルに対して発行されたため、この接続で非同期メッセージ・コンシュームを続行できます。MQAS_STARTED は、*ConnInfoType* が MQIACF_CONN_INFO_CONN の場合にのみ返されます。

MQAS_START_WAIT

操作 MQOP_START_WAIT を指定した MQCTL 呼び出しが接続ハンドルに対して発行されたため、この接続で 非同期メッセージ・コンシュームを続行できます。MQAS_START_WAIT は、*ConnInfoType* が MQIACF_CONN_INFO_CONN の場合にのみ返されます。

MQAS_STOPPED

操作 MQOP_STOP を指定した MQCTL 呼び出しが接続ハンドルに対して発行されたため、現在この接続で 非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。MQAS_STOPPED は、*ConnInfoType* が MQIACF_CONN_INFO_CONN の場合にのみ返されます。

MQAS_ACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされ、接続ハンドルが開始されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを続行できます。MQAS_ACTIVE は、*ConnInfoType* が MQIACF_CONN_INFO_HANDLE の場合にのみ返されます。

MQAS_INACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされていますが、接続ハンドルがまだ開始されていないか、停止または中断されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを現在続行できません。MQAS_INACTIVE は、*ConnInfoType* が MQIACF_CONN_INFO_HANDLE の場合にのみ返されます。

ChannelName (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ConnectionId(MQCFBS)

接続 ID (パラメーター ID: MQBACF_CONNECTION_ID)。

ストリングの長さは MQ_CONNECTION_ID_LENGTH です。

ConnectionName (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

ConnectionOptions (MQCFIL)

接続で現在有効になっている接続オプション (パラメーター ID: MQIACF_CONNECT_OPTIONS)。

ConnInfoType(MQCFIN)

返される情報のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_CONN_INFO_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIACF_CONN_INFO_CONN

指定した接続の一般情報。

MQIACF_CONN_INFO_HANDLE

指定された接続によってオープンされているオブジェクトにのみ関連する情報。

Destination (MQCFST)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー (パラメーター ID: MQCACF_DESTINATION)。

このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。

DestinationQueueManager (MQCFST)

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャー (パラメーター ID: MQCACF_DESTINATION_Q_MGR)。

このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。宛先がローカル・キュー・マネージャーでホストされているキューの場合、このパラメーターにはローカル・キュー・マネージャーの名前が含まれています。宛先がリモート・キュー・マネージャーでホストされているキューの場合、このパラメーターにはリモート・キュー・マネージャーの名前が入っています。

HandleState(MQCFIN)

ハンドルの状態 (パラメーター ID: MQIACF_HANDLE_STATE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQHSTATE_ACTIVE

この接続からの API 呼び出しは、このオブジェクトに対して現在進行中です。オブジェクトがキューである場合は、MQGET WAIT 呼び出しが進行中であるときにこの状態になる場合があります。

未解決の MQGET SIGNAL がある場合、この状態だけでは、ハンドルがアクティブであるという意味にはなりません。

MQHSTATE_INACTIVE

このオブジェクトに対して現在進行中であるこの接続からの API 呼び出しはありません。オブジェクトがキューである場合は、進行中の MQGET WAIT 呼び出しがないときにこの状態になる場合があります。

ObjectName (MQCFST)

オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCACF_OBJECT_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

ObjectType(MQCFIN)

オブジェクト・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

このパラメーターがトピックに対するサブスクリプションのハンドルである場合、SUBID パラメーターはサブスクリプションを識別し、Inquire Subscription コマンドとともに使用して、サブスクリプションに関する詳細をすべて検索することができます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOT_Q

キュー。

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_CHANNEL

チャンネル。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報オブジェクト。

MQOT_TOPIC

トピック。

OpenOptions(MQCFIN)

接続用のオブジェクトで現在有効になっているオープン・オプション (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_OPTIONS)。

このパラメーターは、サブスクリプションには関連していません。サブスクリプションに関する詳細をすべて検索するには、DISPLAY SUB コマンドの SUBID フィールドを使用します。

**OriginName (MQCFST)**

起点名 (パラメーター ID: MQCACF_ORIGIN_NAME)。

ApplType が省略されたときの MQAT_RRS_BATCH である場合を除き、リカバリー単位の発信元を識別します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

文字列の長さは MQ_ORIGIN_NAME_LENGTH です。

z/OS

OriginUOWId (MQCFBS)

起点 UOW ID (パラメーター ID: MQBACF_ORIGIN_UOW_ID)。

起点で割り当てられたリカバリー単位の ID。これは 8 バイトの値です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

文字列の長さは MQ_UOW_ID_LENGTH です。

z/OS

ProcessId (MQCFIN)

プロセス ID (パラメーター ID: MQIACF_PROCESS_ID)。

PSBName (MQCFST)

プログラム仕様ブロック名 (パラメーター ID: MQCACF_PSB_NAME)。

実行中の IMS トランザクションに関連付けられたプログラム仕様ブロック (PSB) の 8 文字の名前。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

文字列の長さは MQ_PSB_NAME_LENGTH です。

z/OS

PSTId (MQCFST)

プログラム仕様テーブルの ID (パラメーター ID: MQCACF_PST_ID)。

接続している IMS 領域の 4 文字の IMS プログラム仕様テーブル (PST) 領域 ID。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

文字列の長さは MQ_PST_ID_LENGTH です。

QMGrUOWId(MQCFBS)

キュー・マネージャーによって割り当てられたリカバリー単位 ID (パラメーター ID: MQBACF_Q_MGR_UOW_ID)。

z/OS プラットフォームでは、このパラメーターは 8 バイトの RBA として返されます。z/OS 以外のプラットフォームでは、このパラメーターは 8 バイトのトランザクション ID です。

文字列の最大長は MQ_UOW_ID_LENGTH です。

z/OS

QSGDispositon (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。

ReadAhead(MQCFIN)

先読み接続状況 (パラメーター ID: MQIA_READ_AHEAD)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQREADA_NO

メッセージをブラウズするときの先読みや非持続メッセージの先読みは、接続がオープンされているオブジェクトでは有効ではありません。

MQREADA_YES

接続でオープンしているオブジェクトに対して、メッセージをブラウズするときの先読みや非持続メッセージの先読みが有効になっていて、効果的に使用されています。

MQREADA_BACKLOG

このオブジェクトに対しては、メッセージをブラウズするときの先読みや非持続メッセージの先読みが有効になっています。クライアントに、コンシュームされていない多数のメッセージが送信されたため、先読みは効果的に使用されていません。

MQREADA_INHIBITED

アプリケーションにより先読みが要求されましたが、最初の MQGET 呼び出しで非互換のオプションが指定されたため、使用禁止になりました。

StartUOWLogExtent (MQCFST)

トランザクションのリカバリーに必要な最初のエクステントの名前 (パラメーター ID: MQCACF_UOW_LOG_EXTENT_NAME)。

実行中の IMS トランザクションに関連付けられたプログラム仕様ブロック (PSB) の 8 文字の名前。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

ストリングの最大長は MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH です。

SubscriptionID(MQCFBS)

常に固有なサブスクリプションの内部 ID (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。

Inquire Connection を使用して参照できるのは、すべてのサブスクリプションではなく、サブスクリプションに対して現行ハンドルがオープンされているサブスクリプションのみです。すべてのサブスクリプションを参照するには、Inquire Subscription コマンドを使用してください。

SubscriptionName (MQCFST)

ハンドルに関連付けられたアプリケーションの固有サブスクリプション名 (パラメーター ID: MQCACF_SUB_NAME)。

このパラメーターは、トピックに対するサブスクリプションのハンドルにのみ関連しています。すべてのサブスクリプションにサブスクリプション名があるわけではありません。

ThreadId(MQCFIN)

スレッド ID (パラメーター ID: MQIACF_THREAD_ID)。

TopicString (MQCFST)

解決済みトピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。

このパラメーターは、オブジェクト・タイプが MQOT_TOPIC のハンドルに関連します。他のオブジェクト・タイプの場合、このパラメーターはブランクです。

 z/OS**TransactionId (MQCFST)**

トランザクション ID (パラメーター ID: MQCACF_TRANSACTION_ID)。

4 文字の CICS トランザクション ID。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_TRANSACTION_ID_LENGTH です。

UOWIdentifier(MQCFBS)

接続に関連付けられた外部リカバリー単位 ID (パラメーター ID: MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID)。

このパラメーターは、リカバリー単位のリカバリー ID です。UOWType の値により、その形式が決まります。

バイト・ストリングの最大長は MQ_UOW_ID_LENGTH です。

UOWLogStartDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd 形式の、記録された作業単位開始日 (パラメーター ID: MQCACF_UOW_LOG_START_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

UOWLogStartTime (MQCFST)

hh.mm.ss 形式の、記録された作業単位開始時刻 (パラメーター ID: MQCACF_UOW_LOG_START_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

UOWStartDate (MQCFST)

作業単位作成日 (パラメーター ID: MQCACF_UOW_START_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

UOWStartTime (MQCFST)

作業単位作成時刻 (パラメーター ID: MQCACF_UOW_START_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

UOWState(MQCFIN)

作業単位の状態 (パラメーター ID: MQIACF_UOW_STATE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUOWST_NONE

作業単位はありません。

MQUOWST_ACTIVE

作業単位はアクティブです。

MQUOWST_PREPARED

作業単位はコミット処理中です。

MQUOWST_UNRESOLVED

作業単位は、2 フェーズ・コミット操作の第 2 フェーズにあります。IBM MQ は、作業単位のためにリソースを保持します。作業単位を解決するには、外部の介入が必要です。これは、単にリカバリ調整者 (CICS、IMS、RRS など) を開始する場合と、RESOLVE INDOUBT コマンドを使用するなど、より複雑な操作を伴う場合があります。この値は z/OS でのみ使用できます。

UOWType(MQCFIN)

キュー・マネージャーによって認識された外部リカバリ単位 ID のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_UOW_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUOWT_Q_MGR

MQUOWT_CICS

MQUOWT_RRS

MQUOWT_IMS

MQUOWT_XA



URDisposition (MQCFIN)

接続に関連付けられたリカバリ単位属性指定。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQQSGD_GROUP

この接続では GROUP リカバリ単位属性指定が使用されます。

MQQSGD_Q_MGR

この接続では QMGR リカバリー単位属性指定が使用されます。

UserId (MQCFST)

ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER)。

ストリングの最大長は MQ_MAX_USER_ID_LENGTH です。

Inquire Entity Authority

Inquire Entity Authority (MQCMD_INQUIRE_ENTITY_AUTH) コマンドは、指定されたオブジェクトに対するエンティティの許可について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

EntityName (MQCFST)

エンティティ名 (パラメーター ID: MQCACF_ENTITY_NAME)。

EntityType の値に応じて、このパラメーターは以下のいずれかになります。

- プリンシパル名。この名前は、指定したオブジェクトに対する許可を取得する対象となるユーザーの名前です。IBM MQ for Windows では、オプションとしてプリンシパル名にドメイン・ネームを組み込むことができます (user@domain の形式で指定)。
- グループ名。この名前は、照会するユーザー・グループの名前です。名前は 1 つだけ指定することができます、その名前は既存のユーザー・グループの名前でなければなりません。

IBM MQ for Windows についてのみ、次の形式で指定されたドメイン・ネームを、グループ名にオプションで含めることができます。

```
GroupName@domain  
domain\GroupName
```

ストリングの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

EntityType (MQCFIN)

エンティティ・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_ENTITY_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQZAET_GROUP

EntityName パラメーターの値はグループ名を参照します。

MQZAET_PRINCIPAL

EntityName パラメーターの値はプリンシパル名を参照します。

ObjectType (MQCFIN)

プロファイルによって参照されるオブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報

MQOT_CHANNEL

チャネル・オブジェクト。

MQOT_CLNTCONN_CHANNEL

クライアント接続チャネル・オブジェクト。

MQOT_COMM_INFO

通信情報オブジェクト

MQOT_LISTENER

リスナー・オブジェクト。

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス。

MQOT_Q

オブジェクト名パラメーターに一致するキュー (1 つまたは複数)。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_REMOTE_Q_MGR_NAME

リモート・キュー・マネージャー。

MQOT_SERVICE

サービス・オブジェクト。

MQOT_TOPIC

トピック・オブジェクト。

Options (MQCFIN)

返される権限レコードのセットを制御するオプション (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_OPTIONS)。

このパラメーターは必須で、値 MQAUTHOPT_CUMULATIVE に設定する必要があります 指定されたオブジェクトに対してエンティティが持つ累積権限を表す、権限のセットを返します。

ユーザー ID が複数のグループのメンバーである場合、このコマンドは、すべてのグループの許可を組み合わせて表示します。

オプション・パラメーター**ObjectName (MQCFST)**

オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCACF_OBJECT_NAME)。

照会するキュー・マネージャー、キュー、プロセス定義、または総称プロファイルの名前です。

ObjectType が MQOT_Q_MGR ではない場合は、パラメーターを含める必要があります。このパラメーターを指定しない場合は、キュー・マネージャーを照会しているものと想定されます。

総称プロファイルの名前を指定することはできますが、汎用オブジェクト名を指定することはできません。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

ProfileAttrs (MQCFIL)

プロファイル属性 (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_PROFILE_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCACF_ENTITY_NAME

エンティティ名。

MQIACF_AUTHORIZATION_LIST

権限リスト。

MQIACF_ENTITY_TYPE

エンティティ・タイプ。

MQIACF_OBJECT_TYPE

オブジェクト・タイプ

ServiceComponent (MQCFST)

サービス・コンポーネント (パラメーター ID: MQCACF_SERVICE_COMPONENT)。

インストール可能な許可サービスがサポートされている場合に、このパラメーターは許可が適用される許可サービスの名前を指定します。

このパラメーターを省略すると、サービスの最初のインストール可能コンポーネントに対して許可の照会が行われます。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMPONENT_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_UNKNOWN_ENTITY

ユーザー ID が許可されていないか、または不明です。

MQRCCF_OBJECT_TYPE_MISSING

オブジェクト・タイプが指定されていません。

Inquire Entity Authority (Response)

Inquire Entity Authority (MQCMD_INQUIRE_AUTH_RECS) コマンドに対する応答はそれぞれ、応答ヘッダーと、それに続く *QMgrName*、*Options*、および *ObjectName* 構造と、要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

常に返されるデータ:

ObjectName, *Options*, *QMgrName*

要求すると返されるデータ:

AuthorizationList, *EntityName*, *EntityType*, *ObjectType*

応答データ

AuthorizationList (MQCFIL)

許可リスト (パラメーター ID: MQIACF_AUTHORIZATION_LIST)。

このリストには、0 個以上の許可値が入ります。返される許可値はそれぞれ、指定したグループ内のユーザー ID、またはプリンシパルが、その値で定義された操作を 実行する権限を持っていることを意味します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQAUTH_NONE

エンティティの権限は none に設定されています。

MQAUTH_ALT_USER_AUTHORITY

MQI 呼び出しで代替ユーザー ID を指定する。

MQAUTH_BROWSE

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_CHANGE

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を変更します。

MQAUTH_CLEAR

キューを消去する。

MQAUTH_CONNECT

MQCONN 呼び出しを発行して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。

MQAUTH_CREATE

指定のタイプのオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して作成する。

MQAUTH_DELETE

指定のオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して削除する。

MQAUTH_DISPLAY

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を表示します。

MQAUTH_INPUT

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_INQUIRE

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューの照会を行う。

MQAUTH_OUTPUT

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込む。

MQAUTH_PASS_ALL_CONTEXT

すべてのコンテキストを渡す。

MQAUTH_PASS_IDENTITY_CONTEXT

アイデンティティ・コンテキストを渡す。

MQAUTH_SET

MQSET 呼び出しを発行して、MQI からキューに属性を設定する。

MQAUTH_SET_ALL_CONTEXT

キューにすべてのコンテキストを設定する。

MQAUTH_SET_IDENTITY_CONTEXT

キューのアイデンティティ・コンテキストを設定する。

MQAUTH_CONTROL

リスナーやサービスの場合、指定のチャンネル、リスナー、またはサービスを開始および停止する。

チャンネルの場合、指定のチャンネルを開始、停止、および ping する。

トピックの場合、サブスクリプションを定義、変更、または削除する。

MQAUTH_CONTROL_EXTENDED

指定のチャンネルをリセットまたは解決する。

MQAUTH_PUBLISH

指定したトピックに対してパブリッシュを行います。

MQAUTH_SUBSCRIBE

指定したトピックに対してサブスクライブを行います。

MQAUTH_RESUME

指定したトピックに対するサブスクリプションを再開します。

MQAUTH_SYSTEM

内部システム操作にキュー・マネージャーを使用します。

MQAUTH_ALL

オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。

MQAUTH_ALL_ADMIN

オブジェクトに適用可能なすべての管理操作を使用する。

MQAUTH_ALL_MQI

オブジェクトに適用可能なすべての MQI 呼び出しを使用する。

MQCFIL 構造体の *Count* フィールドを使用して、返される値の数を決定します。

EntityName (MQCFST)

エンティティ名 (パラメーター ID: MQCACF_ENTITY_NAME)。

このパラメーターはプリンシパル名またはグループ名のいずれかです。

ストリングの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

EntityType (MQCFIN)

エンティティー・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_ENTITY_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQZAET_GROUP

EntityName パラメーターの値はグループ名を参照します。

MQZAET_PRINCIPAL

EntityName パラメーターの値はプリンシパル名を参照します。

MQZAET_UNKNOWN

以前のキュー・マネージャーから引き続き、権限レコードは存在していますが、当初はエンティティー・タイプ情報が含まれていませんでした (Windows の場合)。

ObjectName (MQCFST)

オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCACF_OBJECT_NAME)。

照会が行われたキュー・マネージャー、キュー、プロセス定義、または 総称プロファイルの名前です。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

ObjectType (MQCFIN)

オブジェクト・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報

MQOT_CHANNEL

チャンネル・オブジェクト。

MQOT_CLNTCONN_CHANNEL

クライアント接続チャンネル・オブジェクト。

MQOT_COMM_INFO

通信情報オブジェクト

MQOT_LISTENER

リスナー・オブジェクト。

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス。

MQOT_Q

オブジェクト名パラメーターに一致するキュー (1 つまたは複数)。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_REMOTE_Q_MGR_NAME

リモート・キュー・マネージャー。

MQOT_SERVICE

サービス・オブジェクト。

QMgrName (MQCFST)

照会コマンドが出されるキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

Inquire Group

Inquire Group (MQCMD_INQUIRE_QSG) コマンドは、キュー・マネージャーが接続しているキュー共用グループについて照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注：このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみサポートされます。

オプション・パラメーター

ObsoleteDB2Msgs (MQCFIN)

旧 Db2 メッセージを検索するかどうか (パラメーター ID: MQIACF_OBSOLETE_MSGS)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOM_NO

Db2 内の古いメッセージは検索されません。MQOM_NO は、パラメーターが指定されていない場合に使用されるデフォルト値です。

MQOM_YES

Db2 の古いメッセージが検索され、見つかったメッセージがあれば、それらに関する情報を含むメッセージが返されます。

▶ z/OS Inquire Group (応答)

Inquire Group (MQCMD_INQUIRE_QSG) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *QMgrName* 構造、およびいくつかのその他のパラメーター構造で構成されます。キュー共有グループ内のキュー・マネージャーごとに、このようなメッセージが 1 つ生成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

旧 Db2 メッセージがあるとき、その情報が要求された場合は、このようなメッセージごとに、*CommandInformation* パラメーターの値 MQCMDI_DB2_OBSOLETE_MSGS で識別される 1 つのメッセージが返されます。

キュー・マネージャーについて常に返されるデータ:

CommandLevel, *DB2ConnectStatus*, *DB2Name*, *QmgrCPF*, *QmgrName*, *QmgrNumber*, *QmgrStatus*, *QSGName*

旧 Db2 メッセージについて常に返されるデータ:

CommandInformation, *CFMsgIdentifier*

キュー・マネージャーに関連する応答データ

CommandLevel(MQCFIN)

キュー・マネージャーがサポートするコマンド・レベル (パラメーター ID: MQIA_COMMAND_LEVEL)。
値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCMDL_LEVEL_700

レベル 700 のシステム制御コマンド。

MQCMDL_LEVEL_701

レベル 701 のシステム制御コマンド。

MQCMDL_LEVEL_710

レベル 710 のシステム制御コマンド。

MQCMDL_LEVEL_800

レベル 800 のシステム制御コマンド。

DB2ConnectStatus(MQCFIN)

Db2 への接続の現在の状況 (パラメーター ID: MQIACF_DB2_CONN_STATUS)。

キュー・マネージャーの現在の状況です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGS_ACTIVE

キュー・マネージャーは実行中で、Db2 に接続しています。

MQQSGS_INACTIVE

キュー・マネージャーは実行されておらず、Db2 に接続していません。

MQQSGS_FAILED

キュー・マネージャーは実行中であるが、Db2 が異常終了したため、接続されていない。

MQQSGS_PENDING

キュー・マネージャーは実行中であるが、Db2 が正常に終了したため、接続されていない。

MQQSGS_UNKNOWN

状況を判別できません。

DB2Name (MQCFST)

キュー・マネージャーの接続先 Db2 サブシステムまたはグループの名前 (パラメーター ID: MQCACF_DB2_NAME)。

最大長は MQ_Q_MGR_CPF_LENGTH です。

QMgrCPF (MQCFST)

キュー・マネージャーのコマンド接頭部 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_CPF)。

最大長は MQ_Q_MGR_CPF_LENGTH です。

QMgrName (MQCFST)

キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

QmgrNumber(MQCFIN)

内部的に生成された、グループ内のキュー・マネージャーの数 (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_NUMBER)。

QMgrStatus(MQCFIN)

リカバリー (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_STATUS)。

キュー・マネージャーの現在の状況です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGS_ACTIVE

キュー・マネージャーは実行中です。

MQQSGS_INACTIVE

キュー・マネージャーは実行されていません。正常終了しました。

MQQSGS_FAILED

キュー・マネージャーは実行されていません。異常終了しました。

MQQSGS_CREATED

キュー・マネージャーはグループに定義されていますが、まだ開始されていません。

MQQSGS_UNKNOWN

状況を判別できません。

QSGName (MQCFST)

キュー共有グループの名前 (パラメーター ID: MQCA_QSG_NAME)。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

旧 Db2 メッセージに関連する応答データ

CFMsgIdentifier(MQCFBS)

CF リスト項目 ID (パラメーター ID: MQBACF_CF_LEID)。

最大長は MQ_CF_LEID_LENGTH です。

CommandInformation(MQCFIN)

コマンド情報 (パラメーター ID: MQIACF_COMMAND_INFO)。グループ内のキュー・マネージャーに旧メッセージが含まれるかどうかを示します。値は MQCMDI_DB2_OBSOLETE_MSGS です。

z/OS Inquire Log

Inquire Log (MQCMD_INQUIRE_LOG) コマンドは、ログ・システム・パラメーターおよび情報を返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS での MQCMD_INQUIRE_LOG (Inquire Log) 応答

Inquire Log (MQCMD_INQUIRE_LOG) PCF コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続く *ParameterType* 構造体、*ParameterType* の値によって決まる属性パラメーター構造体の組み合わせ、という形式です。

常に返されるデータ:

ParameterType 戻されるアーカイブ情報のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_TYPE_INITIAL

ログ・パラメーターの初期設定。

MQSYSP_TYPE_SET

ログ・パラメーターの設定 (初期設定以後に変更された場合)。

MQSYSP_TYPE_LOG_COPY

アクティブ・ログ・コピーに関連する情報。

MQSYSP_TYPE_LOG_STATUS

ログの状況に関連する情報。

ParameterType が **MQSYSP_TYPE_INITIAL** の場合に返されるデータ (1 メッセージが返されます):

DeallocateInterval , *DualArchive* , *DualActive* , *DualBSDS* , *InputBufferSize* ,
LogArchive , *LogCompression* , *MaxArchiveLog* , *MaxConcurrentOffloads* ,
MaxReadTapeUnits , *OutputBufferCount* , *OutputBufferSize* , *ZHyperWrite*

ParameterType が **MQSYSP_TYPE_SET** で、任意の値が設定されている場合に返されるデータ (1 メッセージが返されます):

DeallocateInterval , *DualArchive* , *DualActive* , *DualBSDS* , *InputBufferSize* ,
LogArchive , *MaxArchiveLog* , *MaxConcurrentOffloads* , *MaxReadTapeUnits* ,
OutputBufferCount , *OutputBufferSize*

ParameterType が **MQSYSP_TYPE_LOG_COPY** である場合に返される (各ログ・コピーについて 1 つのメッセージが返される):

DataSetName , *LogCopyNumber* , *LogUsed* , *ZHyperWrite*

ParameterType が **MQSYSP_TYPE_LOG_STATUS** である場合に返される (1 つのメッセージが返される):

FullLogs , *LogCompression* , *LogRBA* , *LogSuspend* , *OffloadStatus* , *QMgrStartDate* ,
QMgrStartRBA , *QMgrStartTime* , *TotalLogs*

応答データ - ログ・パラメータ情報

DeallocateInterval (MQCFIN)

割り振り解除間隔 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_DEALLOC_INTERVAL)。

割り振られたアーカイブ読み取りテープ装置が割り振り解除される前に未使用状態になることができる時間の長さ (分) を指定します。0 から 1440 の範囲の値を指定できます。0 の場合、テープ装置はただちに割り振り解除されます。1440 の場合、テープ装置は割り振り解除されません。

DualActive (MQCFIN)

重複ロギングが使用されるかどうかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_DUAL_ACTIVE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

重複ロギングが使用されています。

MQSYSP_NO

重複ロギングが使用されていません。

DualArchive (MQCFIN)

デュアル・アーカイブ・ロギングが使用されているかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_DUAL_ARCHIVE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

重複アーカイブ・ロギングが使用されています。

MQSYSP_NO

重複アーカイブ・ロギングが使用されていません。

DualBSDS (MQCFIN)

重複 BSDS が使用されるかどうかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_DUAL_BSDS)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

重複 BSDS が使用されています。

MQSYSP_NO

重複 BSDS が使用されていません。

InputBufferSize (MQCFIN)

アクティブおよびアーカイブ・ログ・データ・セットの入力バッファ・ストレージのサイズを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_IN_BUFFER_SIZE)。

LogArchive (MQCFIN)

アーカイブがオンまたはオフのいずれであるかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ARCHIVE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

アーカイブはオン。

MQSYSP_NO

アーカイブはオフ。

LogCompression (MQCFIN)

どのログ圧縮パラメーターを使用するかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_LOG_COMPRESSION)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCOMPRESS_NONE

ログ圧縮は実行されません。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レンジス・エンコード圧縮が実行されます。

MQCOMPRESS_ANY

キュー・マネージャーが、最大の圧縮率でログ・レコード圧縮を行う圧縮アルゴリズムを選択できるようにします。現在は、このオプションを使用すると RLE 圧縮が行われます。

MaxArchiveLog (MQCFIN)

BSDS に記録できるアーカイブ・ログ・ボリュームの最大数を指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_MAX_ARCHIVE)。

MaxConcurrentOffloads (MQCFIN)

同時ログ・オフロード・タスクの最大数を指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_MAX_CONC_OFFLOADS)。

MaxReadTapeUnits (MQCFIN)

読み取りアーカイブ・ログのテープ・ボリュームに割り振ることのできる専用テープ装置の最大数を指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_MAX_READ_TAPES)。

OutputBufferCount (MQCFIN)

バッファのデータがアクティブ・ログ・データ・セットに書き込まれる前に満杯になる出力バッファの数を指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_OUT_BUFFER_COUNT)。

OutputBufferSize (MQCFIN)

アクティブおよびアーカイブ・ログ・データ・セットの出力バッファ・ストレージのサイズを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_OUT_BUFFER_SIZE)。

ZHyperWrite (MQCFIN)

zHyperWrite 機能が有効かどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ZHYPERWRITE)。

値は、次の値のうちのいずれかです。

MQSYSP_YES

zHyperWrite は有効です。

MQSYSP_NO

zHyperWrite は無効です。

応答データ - ログ状況情報に対する**DataSetName (MQCFST)**

アクティブ・ログ・データ・セットのデータ・セット名 (パラメーター ID: MQCACF_DATA_SET_NAME)。

コピーが現在アクティブでない場合は、このパラメーターはブランクとして返されます。

ストリングの最大長は MQ_DATA_DATA_SET_NAME_LENGTH です。

FullLogs (MQCFIN)

まだアーカイブされていない、満杯のアクティブ・ログ・データ・セットの合計数 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_FULL_LOGS)。

LogCompression (MQCFIN)

現在のログ圧縮オプションを指定 (パラメーター ID: MQIACF_LOG_COMPRESSION)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCOMPRESS_NONE

ログ圧縮は使用可能にされません。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコード方式のログ圧縮が有効になっています。

MQCOMPRESS_ANY

キュー・マネージャーによってサポートされる圧縮アルゴリズムが有効になっています。

LogCopyNumber (MQCFIN)

コピー数 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_LOG_COPY)。

LogRBA (MQCFST)

最近書き込まれたログ・レコードの RBA (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_LOG_RBA)。

ストリングの最大長は MQ_RBA_LENGTH です。

LogSuspend (MQCFIN)

ロギングが中断されているかどうかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_LOG_SUSPEND)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

ロギングは中断されています。

MQSYSP_NO

ロギングは中断されていません。

LogUsed (MQCFIN)

使用されているアクティブ・ログ・データ・セットの割合 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_LOG_USED)。

OffloadStatus (MQCFIN)

オフロード・タスクの状況を指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_OFFLOAD_STATUS)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_STATUS_ALLOCATING_ARCHIVE

オフロード・タスクはアーカイブ・データ・セットの割り振り中で、ビジー状態になっています。
MQSYSP_STATUS_ALLOCATING_ARCHIVE は、テープ・マウント要求が保留されている状況を示す場合があります。

MQSYSP_STATUS_COPYING_BSDS

オフロード・タスクは BSDS データ・セットのコピー中で、ビジー状態になっています。

MQSYSP_STATUS_COPYING_LOG

オフロード・タスクはアクティブ・ログ・データ・セットのコピー中で、ビジー状態になっています。

MQSYSP_STATUS_BUSY

オフロード・タスクは、その他の処理のためにビジー状態になっています。

MQSYSP_STATUS_AVAILABLE

オフロード・タスクは、処理を待機しています。

QMgrStartDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd 形式のキュー・マネージャーが開始された日付 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_Q_MGR_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

QMgrStartRBA (MQCFST)

キュー・マネージャーが開始されたときに、ロギングが開始された RBA (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_Q_MGR_RBA)。

ストリングの最大長は MQ_RBA_LENGTH です。

QMgrStartTime (MQCFST)

hh.mm.ss 形式のキュー・マネージャーが開始された時刻 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_Q_MGR_TIME)。

文字列の最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

TotalLogs (MQCFIN)

アクティブ・ログ・データ・セットの合計数 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TOTAL_LOGS)。

ZHyperWrite (MQCFIN)

zHyperWrite 機能が有効かどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ZHYPERWRITE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

zHyperWrite は有効です。

MQSYSP_NO

zHyperWrite は無効です。

Inquire Namelist

Inquire Namelist (MQCMD_INQUIRE_NAMELIST) コマンドは、既存の IBM MQ 名前リストの属性に関する照会を行います。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必須パラメーター:

NamelistName

オプション・パラメーター:

 *CommandScope , IntegerFilterCommand , NamelistAttrs ,*  *QSGDisposition , StringFilterCommand*

必要なパラメーター

NamelistName(MQCFST)

名前リストの名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_NAME)。

このパラメーターは、必須の属性を持つ名前リストの名前です。名前リストの総称名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字文字列の後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字文字列で始まる名前を持つすべての名前リストが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

どんな属性が要求されたかに関係なく、名前リストの名前が常に返されます。

文字列の最大長は MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。 パラメーター ID は、*NamelistAttrs* で許可されているいずれかの整数タイプのパラメーター (ただし MQIACF_ALL は除く) でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

NamelistType (MQIA_NAMELIST_TYPE) に整数フィルターを指定する場合、*NamelistType* パラメーターも指定することはできません。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

NamelistAttrs(MQCFIL)

名前リストの属性 (パラメーター ID: MQIACF_NAMELIST_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_NAMELIST_NAME

名前リスト・オブジェクトの名前。

MQCA_NAMELIST_DESC

名前リストの記述。

MQCA_NAMES

名前リストにある名前。

MQCA_ALTERATION_DATE

情報が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

情報が最後に変更された時刻。

MQIA_NAME_COUNT

名前リストでの名前の数。

MQIA_NAMELIST_TYPE

名前リストのタイプ (z/OS でのみ有効)。

NamelistType (MQCFIN)

名前リストの属性 (パラメーター ID: MQIA_NAMELIST_TYPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

名前リストに入っている名前のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNT_NONE

名前には、特定のタイプが指定されていません。

MQNT_Q

キュー名のリストを保持する名前リスト。

MQNT_CLUSTER

クラスター化に関連付けられている名前リスト (クラスター名のリストを含む)。

MQNT_AUTH_INFO

認証情報オブジェクト名のリストを含む、SSL に関連する名前リスト。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

QSGDisposition をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_NAMELIST_NAME 以外の、*NamelistAttrs* で許可されているストリング・タイプ・パラメーターでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire Namelist (応答)

Inquire Namelist (MQCMD_INQUIRE_NAMELIST) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *NamelistName* 構造、および要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

総称名前リスト名を指定した場合、名前リストが検出されるたびにこのようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

NamelistName ,  *QSGDisposition*

要求すると返されるデータ:

AlterationDate , *AlterationTime* , *NameCount* , *NamelistDesc* , 
NamelistType , *Names*

応答データ

***AlterationDate* (MQCFST)**

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

***AlterationTime* (MQCFST)**

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

***NameCount* (MQCFIN)**

名前リストに入っている名前の数 (パラメーター ID: MQIA_NAME_COUNT)。

名前リストに入っている名前の数。

***NamelistDesc* (MQCFST)**

名前リスト定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_DESC_LENGTH です。

***NamelistName* (MQCFST)**

名前リスト定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

 **z/OS**

***NamelistType* (MQCFIN)**

名前リストに入っている名前のタイプ (パラメーター ID: MQIA_NAMELIST_TYPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

名前リストに入っている名前のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNT_NONE

名前には、特定のタイプが指定されていません。

MQNT_Q

キュー名のリストを保持する名前リスト。

MQNT_CLUSTER

クラスター化に関連付けられている名前リスト (クラスター名のリストを含む)。

MQNT_AUTH_INFO

認証情報オブジェクト名のリストを含む、SSL に関連する名前リスト。

***Names* (MQCFSL)**

名前リストに入っている名前のリスト (パラメーター ID: MQCA_NAMES)。

リスト中の名前の数は、MQCFSL 構造の *Count* フィールドで指定されます。それぞれの名前の長さは、その構造の *StringLength* フィールドに示されています。名前の最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

 **z/OS**

***QSGDisposition* (MQCFIN)**

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

Inquire Namelist Names

Inquire Namelist Names (MQCMD_INQUIRE_NAMELIST_NAMES) コマンドは、指定された総称名前リスト名と一致する名前リスト名のリストを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

NamelistName(MQCFST)

名前リストの名前 (パラメーター ID: MQCA_NAMELIST_NAME)。

名前リストの総称名がサポートされています。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

オプション・パラメーター

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY のいずれかで定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

Inquire Namelist Names (応答)

Inquire Namelist Names (MQCMD_INQUIRE_NAMELIST_NAMES) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く 1 つのパラメーター構造から構成されます。パラメーター構造には、指定した名前リスト名に一致する 0 個以上の名前が返されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

z/OS

さらに、z/OS の場合のみ、*QSGDispositions* 構造 (*NamelistNames* 構造と同数の項目を持つ) が返されます。この構造内の各項目は、*NamelistNames* 構造内の対応する項目を持つオブジェクトの属性指定を示します。

常に返されるデータ:

NamelistNames , **z/OS** *QSGDispositions*

要求すると返されるデータ:

なし

応答データ

***NamelistNames*(MQCFSL)**

名前リスト名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_NAMELIST_NAMES)。

z/OS

***QSGDispositions* (MQCFIL)**

QSG 属性指定のリスト (パラメーター ID: MQIACF_QSG_DISPS)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。この構造内のフィールドの可能な値は、次のとおりです。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

Inquire Policy

Inquire Policy (MQCMD_INQUIRE_PROT_POLICY) コマンドは、キューに設定されているポリシーについて照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

generic-policy-name (MQCFST)

ポリシー名 (パラメーター ID: MQCA_POLICY_NAME)。

このパラメーターは、必要な属性を持つポリシーの名前です。総称ポリシー名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、指定した文字ストリングで始まる名前のすべてのポリシーが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求した属性に関係なく、ポリシー名は常に返されます。

照会するポリシーの名前 (またはポリシー名の一部) は、そのポリシーで制御されるキューの名前と同じです。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

PolicyAttrs (MQCFIL)

ポリシー属性 (パラメーター ID: MQIACF_POLICY_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_POLICY_NAME

ポリシーの名前。

MQIA_SIGNATURE_ALGORITHM

デジタル署名のアルゴリズム。

MQIA_ENCRYPTION_ALGORITHM

暗号化アルゴリズム。

MQCA_SIGNER_DN

許可された署名者 (複数も可) の識別名。

MQCA_RECIPIENT_DN

対象の受信者 (複数も可) の識別名。

MQIA_TOLERATE_UNPROTECTED

ポリシーを強制するか、それとも保護されていないメッセージを許容するか。

MQIACF_ACTION

署名者と受信側のパラメーターに関してコマンドで実行するアクション。

Inquire Policy (Response)

Inquire Policy (MQCMD_INQUIRE_PROT_POLICY) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *PolicyName* 構造体、および要求された組み合わせの属性パラメーター構造体で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

総称セキュリティー・ポリシー名を指定した場合、ポリシーが見つかるたびに、このようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

PolicyName

照会するポリシーの名前 (またはポリシー名の一部) は、そのポリシーで制御されるキューの名前と同じです。

要求すると返されるデータ:

Action 、 *EncAlg* 、 *Enforce* および *Tolerate* 、 *Recipient* 、 *SignAlg* 、 *Signer*

応答データ

Action (MQCFIL)

アクション (パラメーター ID: MQIACF_ACTION)。

署名者と受信側のパラメーターに関してコマンドで実行するアクション。

EncAlg (MQCFIL)

暗号化アルゴリズム (パラメーター ID: MQIA_ENCRYPTION_ALGORITHM)。

指定されている暗号化アルゴリズム。

Enforce および Tolerate (MQCFST)

セキュリティー・ポリシーを強制するか、それとも保護されていないメッセージを許容するかを示します (パラメーター ID: MQIA_TOLERATE_UNPROTECTED)。

Recipient (MQCFIL)

対象の受信者の識別名を指定します (パラメーター ID: MQCA_RECIPIENT_DN)。

このパラメーターは、複数回指定することができます。

ストリングの最大長は MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH です。

SignAlg (MQCFIL)

デジタル署名アルゴリズムを指定します (パラメーター ID: MQIA_SIGNATURE_ALGORITHM)。

Signer (MQCFST)

許可された署名者の識別名を指定します (パラメーター ID: MQCA_SIGNER_DN)。

このパラメーターは、複数回指定することができます。

ストリングの最大長は MQ_DISTINGUISHED_NAME_LENGTH です。

Inquire Process

Inquire Process (MQCMD_INQUIRE_PROCESS) コマンドは、既存の IBM MQ プロセスの属性に関する照会を行います。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ProcessName(MQCFST)

プロセス名 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

プロセスの総称名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのプロセスが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

どんな属性が要求されたかに関係なく、プロセス名が常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、ProcessAttrs で許可されているいずれかの整数タイプのパラメーター (ただし MQIACF_ALL は除く) でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、StringFilterCommand パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

ProcessAttrs(MQCFIL)

プロセス属性 (パラメーター ID: MQIACF_PROCESS_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_ALTERATION_DATE

情報が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

情報が最後に変更された時刻。

MQCA_APPL_ID

アプリケーション ID。

MQCA_ENV_DATA

環境データ。

MQCA_PROCESS_DESC

プロセス定義の記述。

MQCA_PROCESS_NAME

プロセス定義の名前。

MQCA_USER_DATA

ユーザー・データ。

MQIA_APPL_TYPE

アプリケーション・タイプ。

z/OS
QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

QSGDisposition をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_PROCESS_NAME 以外の、ProcessAttrs で許可されているストリング・タイプ・パラメーターでなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、IntegerFilterCommand パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire Process (応答)

Inquire Process (MQCMD_INQUIRE_PROCESS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ProcessName* 構造、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux システム	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

総称プロセス名を指定した場合、プロセスが検出されるたびに、このようなメッセージが1つ生成されます。

常に返されるデータ:

ProcessName ,  *QSGDisposition*

要求すると返されるデータ:

AlterationDate, *AlterationTime*, *ApplId*, *ApplType*, *EnvData*, *ProcessDesc*, *UserData*

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

ApplId (MQCFST)

アプリケーション ID (パラメーター ID: MQCA_APPL_ID)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_APPL_ID_LENGTH です。

ApplType (MQCFIN)

アプリケーション・タイプ (パラメーター ID: MQIA_APPL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQAT_AIX

AIX アプリケーション (MQAT_UNIX と同じ値)

MQAT_CICS

CICS トランザクション

MQAT_DOS

DOS クライアント・アプリケーション

MQAT_MVS

z/OS アプリケーション

MQAT_OS400

IBM i アプリケーション

MQAT_QMGR

キュー・マネージャー

MQAT_UNIX

UNIX アプリケーション

MQAT_WINDOWS

16 ビットの Windows アプリケーション

MQAT_WINDOWS_NT

32 ビットの Windows アプリケーション

integer

ゼロから 65 535 の範囲のシステム定義アプリケーション・タイプ、または 65 536 から 999 999 999 の範囲のユーザー定義アプリケーション・タイプ

EnvData (MQCFST)

環境データ (パラメーター ID: MQCA_ENV_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_ENV_DATA_LENGTH です。

ProcessDesc (MQCFST)

プロセス定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_DESC_LENGTH です。

ProcessName (MQCFST)

プロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。



QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

UserData (MQCFST)

ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCA_USER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_USER_DATA_LENGTH です。

Inquire Process Names

Inquire Process Names (MQCMD_INQUIRE_PROCESS_NAMES) コマンドは、指定された総称プロセス名と一致するプロセス名のリストを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ProcessName(MQCFST)

キューのプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

プロセスの総称名がサポートされています。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY のいずれかで定義されます。MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

Inquire Process Names (応答)

Inquire Process Names (MQCMD_INQUIRE_PROCESS_NAMES) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く 1 つのパラメーター構造から構成されます。パラメーター構造には、指定したプロセス名に一致する 0 個以上の名前が返されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

これに加えて、z/OS の場合にのみ、パラメーター構造 *QSGDispositions* (*ProcessNames* 構造と同数の項目を持つ) が返されます。この構造の各項目は、*ProcessNames* 構造に対応する項目を持つオブジェクトの属性指定を示します。

この応答は、Windows ではサポートされていません。

常に返されるデータ:

ProcessNames, *QSGDispositions*

要求すると返されるデータ:

なし

応答データ

***ProcessNames*(MQCFSL)**

プロセス名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_PROCESS_NAMES)。

***QSGDispositions* (MQCFIL)**

QSG 属性指定のリスト (パラメーター ID: MQIACF_QSG_DISPS)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。この構造内のフィールドの可能な値は、次のとおりです。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

Inquire Pub/Sub Status

Inquire Pub/Sub Status (MQCMD_INQUIRE_PUBSUB_STATUS) コマンドは、パブリッシュ/サブスクライブ接続の状況について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

ブランク (またはパラメーター全体を省略)

コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

キュー・マネージャー名

コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

アスタリスク (*)

コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

PubSubStatusAttrs (MQCFIL)

パブリッシュ/サブスクライブ状況属性 (パラメーター ID: MQIACF_PUBSUB_STATUS_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQIA_SUB_COUNT

ローカル・ツリーに対するサブスクリプションの合計数。

MQIA_TOPIC_NODE_COUNT

ローカル・ツリー内のトピック・ノードの合計数。

MQIACF_PUBSUB_STATUS

階層状況。

MQIACF_PS_STATUS_TYPE

階層タイプ。

Type (MQCFIN)

タイプ (パラメーター ID: MQIACF_PS_STATUS_TYPE)。

タイプには、以下のいずれかを指定できます。

MQPSST_ALL

親接続と子接続の両方の戻り状況。パラメーターが指定されていない場合は、MQPSST_ALL がデフォルト値です。

MQPSST_LOCAL

戻りローカル状況情報。

MQPSST_PARENT

親接続の戻り状況。

MQPSST_CHILD

子接続の戻り状況。

Inquire Pub/Sub Status (応答)

Inquire publish/subscribe Status (MQCMD_INQUIRE_PUBSUB_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続く属性構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	2CR

属性 *Type*、*QueueManagerName*、*Status*、*SubCount*、および *TopicNodeCount* を含むパラメーターのグループが返されます。

常に返されるデータ:

QueueManagerName、*Status*、*Type*、*SubCount*、および *TopicNodeCount*。

要求すると返されるデータ:

None

応答データ

QueueManagerName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (TYPE が LOCAL の場合)、または階層的に接続されたキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

Type (MQCFIN)

返される状況のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_PS_STATUS_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQPSST_CHILD

子の階層接続のパブリッシュ/サブスクライブ状況。

MQPSST_LOCAL

ローカル・キュー・マネージャーのパブリッシュ/サブスクライブ状況。

MQPSST_PARENT

親の階層接続のパブリッシュ/サブスクライブ状況。

Status (MQCFIN)

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンまたは階層接続の状況 (パラメーター ID: MQIACF_PUBSUB_STATUS)。

TYPE が LOCAL の場合、以下の値が返される可能性があります。

MQPS_STATUS_ACTIVE

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。したがって、アプリケーション・プログラミング・インターフェースおよびキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによって適正にモニターされるキューを使用して、パブリッシュまたはサブスクライブすることが可能です。

MQPS_STATUS_COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。したがって、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースでモニターされるキューに書き込まれるメッセージは、IBM MQ では処理されません。

MQPS_STATUS_ERROR

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは失敗しました。エラー・ログを確認して、失敗の理由を判別してください。

MQPS_STATUS_INACTIVE

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは IBM MQ によって処理されません。

非アクティブな場合にパブリッシュ/サブスクライブ・エンジンを開始するには、Change Queue Manager コマンドで PubSubMode を **MQPSM_ENABLED** に設定します。

MQPS_STATUS_STARTING

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは初期化処理中であり、まだ動作していません。

MQPS_STATUS_STOPPING

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは停止中です。

TYPE が PARENT の場合、以下の値が返される可能性があります。

MQPS_STATUS_ACTIVE

親キュー・マネージャーとの接続はアクティブです。

MQPS_STATUS_ERROR

構成エラーのため、このキュー・マネージャーは親キュー・マネージャーとの接続を初期化できません。

具体的なエラーを示すメッセージがキュー・マネージャー・ログに生成されます。エラー・メッセージ AMQ5821 (または z/OS システムでは CSQT821E) を受け取った場合、考えられる原因には以下のものがあります。

- 送信キューが満杯である
- 伝送キューが無効に設定されている

エラー・メッセージ AMQ5814 (または z/OS システムでは CSQT814E) を受け取った場合は、次のアクションを実行してください。

- 親キュー・マネージャーが正しく指定されていることを確認します。
- ブローカーが親ブローカーのキュー・マネージャー名を解決できることを確認します。

キュー・マネージャー名を解決するには、以下のリソースのうち最低 1 つが構成されている必要があります。

- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つ伝送キュー。
- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つキュー・マネージャー別名定義。
- このキュー・マネージャーと同じクラスターのメンバーである親キュー・マネージャーを持つクラスター。
- 親キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つクラスター・キュー・マネージャー別名定義。
- デフォルト伝送キュー。

構成を正しくセットアップしてから、親キュー・マネージャーの名前をブランクに変更します。その後、親キュー・マネージャーの名前を設定します。

MQPS_STATUS_REFUSED

接続は、親キュー・マネージャーによって拒否されました。

これは、親キュー・マネージャーが、このキュー・マネージャーと同じ名前の別の子キュー・マネージャーを既に持っていることが原因と考えられます。

代わりに親キュー・マネージャーは、RESET QMGR TYPE(PUBSUB) CHILD コマンドを使用して、子の 1 つとしてこのキュー・マネージャーを削除しました。

MQPS_STATUS_STARTING

キュー・マネージャーが、別のキュー・マネージャーがその親であるように要求しようとしています。

親の状況がアクティブ状況に進行せず、開始状況のままである場合は、次のアクションを実行します。

- 親キュー・マネージャーへの送信側チャンネルが稼働していることを確認します。
- 親キュー・マネージャーからの受信側チャンネルが稼働していることを確認します。

MQPS_STATUS_STOPPING

キュー・マネージャーはその親から切断中です。

親の状況が停止状況のままである場合は、次のアクションを実行します。

- 親キュー・マネージャーへの送信側チャンネルが稼働していることを確認します。
- 親キュー・マネージャーからの受信側チャンネルが稼働していることを確認します。

TYPE が CHILD の場合、以下の値が返される可能性があります。

MQPS_STATUS_ACTIVE

親キュー・マネージャーとの接続はアクティブです。

MQPS_STATUS_ERROR

構成エラーのため、このキュー・マネージャーは親キュー・マネージャーとの接続を初期化できません。

具体的なエラーを示すメッセージがキュー・マネージャー・ログに生成されます。エラー・メッセージ AMQ5821 (または z/OS システムでは CSQT821E) を受け取った場合、考えられる原因には以下のものがあります。

- 送信キューが満杯である
- 伝送キューが無効に設定されている

エラー・メッセージ AMQ5814 (または z/OS システムでは CSQT814E) を受け取った場合は、次のアクションを実行してください。

- 子キュー・マネージャーが正しく指定されていることを確認します。
- ブローカーが子ブローカーのキュー・マネージャー名を解決できることを確認します。

キュー・マネージャー名を解決するには、以下のリソースのうち最低 1 つが構成されている必要があります。

- 子キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つ伝送キュー。
- 子キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つキュー・マネージャー別名定義。
- このキュー・マネージャーと同じクラスターのメンバーである子キュー・マネージャーを持つクラスター。
- 子キュー・マネージャーの名前と同じ名前を持つクラスター・キュー・マネージャー別名定義。
- デフォルト伝送キュー。

構成を正しくセットアップしてから、子キュー・マネージャーの名前をブランクに変更します。その後、子キュー・マネージャーの名前を設定します。

MQPS_STATUS_STARTING

キュー・マネージャーが、別のキュー・マネージャーがその親であるように要求しようとしています。

子の状況がアクティブ状況に進行せず、開始状況のままである場合は、次のアクションを実行します。

- 子キュー・マネージャーへの送信側チャンネルが実行されていることを確認します。
- 子キュー・マネージャーからの受信側チャンネルが実行されていることを確認します。

MQPS_STATUS_STOPPING

キュー・マネージャーはその親から切断中です。

子の状況が停止状況のままである場合は、次のアクションを実行します。

- 子キュー・マネージャーへの送信側チャンネルが実行されていることを確認します。
- 子キュー・マネージャーからの受信側チャンネルが実行されていることを確認します。

SubCount (MQCFIN)

Type が MQPSST_LOCAL の場合、ローカル・ツリーに対するサブスクリプションの合計数が返されます。*Type* が MQPSST_CHILD または MQPSST_PARENT の場合、キュー・マネージャー関係は照会されず、値 MQPSCT_NONE が返されます。(パラメーター ID: MQIA_SUB_COUNT)。

TopicNodeCount (MQCFIN)

Type が MQPSST_LOCAL の場合、ローカル・ツリー内のトピック・ノードの合計数が返されます。*Type* が MQPSST_CHILD または MQPSST_PARENT の場合、キュー・マネージャー関係は照会されず、値 MQPSCT_NONE が返されます。(パラメーター ID: MQIA_TOPIC_NODE_COUNT)。

Inquire Queue

Inquire Queue コマンド MQCMD_INQUIRE_Q を使用して、IBM MQ キューの属性を照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

QName (MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

総称キュー名がサポートされます。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク*を付けたものです。例えば、ABC*のようになります。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのキューを選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

どんな属性が要求されたかに関係なく、キュー名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CFStructure (MQCFST)

CF 構造 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。CF 構造の名前を指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、適格キューが、指定された *CFStructure* 値を持つキューに制限されることを指定します。このパラメーターを指定しない場合、すべてのキューが適格ということになります。

総称 CF 構造名がサポートされています。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク*を付けたものです。例えば、ABC*のようになります。これで、選択した文字ストリングで始まる名前のすべての CF 構造体を選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

ClusterInfo (MQCFIN)

クラスター情報 (パラメーター ID: MQIACF_CLUSTER_INFO)。

このパラメーターは、それらのキューおよびリポジトリ内のその他のキューのうち選択基準に一致するものに関するクラスター情報を表示するよう要求します。このキュー・マネージャーで定義されたキューの属性についての情報に加えて、クラスター情報が表示されます。

この場合、複数のキューが同じ名前が表示されることがあります。クラスター情報は、キュー・タイプ MQQT_CLUSTER で表示されます。

このパラメーターは任意の整数値に設定できます。使用される値は、コマンドに対する応答には影響しません。

クラスター情報はキュー・マネージャーからローカルで得られます。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

このパラメーターは、適格キューが、指定された *ClusterName* 値を持つキューに制限されることを指定します。このパラメーターを指定しない場合、すべてのキューが適格ということになります。

総称クラスター名がサポートされています。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク*を付けたものです。例えば、ABC*のようになります。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのクラスターを選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

このパラメーターは、適格キューが、指定された *ClusterNameList* 値を持つキューに制限されることを指定します。このパラメーターを指定しない場合、すべてのキューが適格ということになります。

総称クラスター名前リストがサポートされています。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク*を付けたものです。例えば、ABC*のようになります。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのクラスター名前リストを選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下の値のうちいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク "*"。コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、QAttr 許可されているいずれかの整数タイプのパラメーター (ただし MQIACF_ALL は除く) でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』を参照してください。

Qtype または PageSetID に整数フィルターを指定する場合、Qtype または PageSetID パラメーターを同時に指定することはできません。

整数フィルターを指定する場合、StringFilterCommand パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

z/OS

PageSetID (MQCFIN)

ページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA_PAGESET_ID)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

このパラメーターは、適格キューが、指定された PageSetID 値を持つキューに制限されることを指定します。このパラメーターを指定しない場合、すべてのキューが適格ということになります。

QAttr (MQCFIL)

キュー属性 (パラメーター ID: MQIACF_Q_ATTRS)。

属性リストには、次の値だけを指定できます。パラメーターが指定されない場合のデフォルト値は次のとおりです。

MQIACF_ALL

すべての属性。

また、次の表にあるパラメーターを組み合わせで指定できます。

表 92. Inquire Queue コマンド、キュー属性					
	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
MQCA_ALTERATION_DATE 情報が最後に変更された日付	✓	✓	✓	✓	✓
MQCA_ALTERATION_TIME 情報が最後に変更された時刻	✓	✓	✓	✓	✓
MQCA_BACKOUT_REQ_Q_NAME 超過バックアウト再キューイング用のキュー名	✓	✓			
MQCA_BASE_NAME 別名解決後のキューの名前			✓		
MQCA_CF_STRUC_NAME カップリング・ファシリティ構造名。 この属性は z/OS でのみ有効です	✓	✓			
MQCA_CLUS_CHL_NAME このキューを伝送キューとして使用する クラスター送信側チャンネルの総称名。	✓	✓			
MQCA_CLUSTER_DATE ローカル・キュー・マネージャーで定義 が使用可能になった日付。					✓
MQCA_CLUSTER_NAME クラスター名	✓		✓	✓	✓
MQCA_CLUSTER_NAMELIST クラスター名前リスト	✓		✓	✓	
MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME キューのホストとなるキュー・マネージャーの名前					✓
MQCA_CLUSTER_TIME ローカル・キュー・マネージャーで定義 が使用可能になった時刻					✓
MQCA_CREATION_DATE キュー作成日	✓	✓			
MQCA_CREATION_TIME キュー作成時刻	✓	✓			
MQCA_CUSTOM 新機能用カスタム属性	✓	✓	✓	✓	✓

表 92. <i>Inquire Queue</i> コマンド、キュー属性 (続き)					
	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
MQCA_INITIATION_Q_NAME 開始キュー名	✓	✓			
MQCA_PROCESS_NAME プロセス定義の名前	✓	✓			
MQCA_Q_DESC キューの記述	✓	✓	✓	✓	✓
MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER 内部的に生成されるキュー・マネージャー名					✓
MQCA_Q_NAME キュー名	✓	✓	✓	✓	✓
MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME リモート・キュー・マネージャーの名前				✓	
MQCA_REMOTE_Q_NAME リモート・キュー・マネージャー上でローカルに認識されているリモート・キューの名前				✓	
▶ z/OS ▶ z/OS MQCA_STORAGE_CLASS ストレージ・クラス。 MQCA_STORAGE_CLASS は z/OS でのみ有効です。	✓	✓			
MQCA_TPIPE_NAME IBM MQ IMS ブリッジを使用した OTMA との通信に使用する TPIPE 名	✓				
MQCA_TRIGGER_DATA トリガー・データ	✓	✓			
MQCA_XMIT_Q_NAME 伝送キュー名				✓	
MQIA_ACCOUNTING_Q アカウント・データ・コレクション	✓	✓			
MQIA_BACKOUT_THRESHOLD バックアウトしきい値	✓	✓			

表 92. Inquire Queue コマンド、キュー属性 (続き)					
	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
MQIA_BASE_TYPE オブジェクトのタイプ	✓	✓	✓	✓	✓
MQIA_CLUSTER_Q_TYPE クラスター・キュー・タイプ					✓
MQIA_CLWL_Q_PRIORITY クラスター・ワークロード・キューの優先順位	✓		✓	✓	✓
MQIA_CLWL_Q_RANK クラスター・ワークロード・キューのランク	✓		✓	✓	✓
MQIA_CLWL_USEQ クラスター・ワークロード使用リモート設定	✓				
MQIA_CURRENT_Q_DEPTH キュー上のメッセージの数	✓				
MQIA_DEF_BIND デフォルトのバインド	✓		✓	✓	✓
MQIA_DEF_INPUT_OPEN_OPTION デフォルトの入力用オープンのオプション	✓	✓			
MQIA_DEF_PERSISTENCE デフォルトのメッセージ持続性	✓	✓	✓	✓	✓
MQIA_DEF_PRIORITY デフォルトのメッセージ優先順位	✓	✓	✓	✓	✓
MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE デフォルト書き込み応答タイプ	✓	✓	✓	✓	✓
MQIA_DEF_READ_AHEAD デフォルト書き込み応答タイプ	✓	✓	✓	✓	✓
MQIA_DEFINITION_TYPE キュー定義タイプ	✓	✓			
MQIA_DIST_LISTS 配布リスト・サポート。 MQIA_DIST_LISTS は z/OS では無効です。	✓	✓			

表 92. Inquire Queue コマンド、キュー属性 (続き)					
	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
MQIA_HARDEN_GET_BACKOUT バックアウト・カウントをハード化するかどうか	✓	✓			
MQIA_INDEX_TYPE 索引タイプ。この属性は z/OS でのみ有効です。	✓	✓			
MQIA_INHIBIT_GET 取得操作が許可されるかどうか	✓	✓	✓		
MQIA_INHIBIT_PUT PUT 操作が許可されるかどうか	✓	✓	✓	✓	✓
MQIA_MAX_MSG_LENGTH 最大メッセージ長	✓	✓			
MQIA_MAX_Q_DEPTH キューに許可されるメッセージの最大数	✓	✓			
MQIA_MONITORING_Q オンライン・モニター・データ収集	✓	✓			
MQIA_MSG_DELIVERY_SEQUENCE メッセージ優先順位が考慮されるかどうか	✓	✓			
MQIA_NPM_CLASS キューに書き込まれる非持続メッセージに割り当てる信頼性のレベル。	✓	✓			
MQIA_OPEN_INPUT_COUNT キューを入力用にオープンする MQOPEN 呼び出しの数	✓				
MQIA_OPEN_OUTPUT_COUNT キューを出力用にオープンする MQOPEN 呼び出しの数	✓				
z/OS z/OS MQIA_PAGESET_ID ページ・セット ID	✓				
MQIA_PROPERTY_CONTROL プロパティ制御属性	✓	✓	✓		

表 92. Inquire Queue コマンド、キュー属性 (続き)					
	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
MQIA_Q_DEPTH_HIGH_EVENT キューのサイズ上位イベントの制御属性。 MQIA_Q_DEPTH_HIGH_EVENT をフィルター属性として使用することはできません。	✓	✓			
MQIA_Q_DEPTH_HIGH_LIMIT キュー・サイズの上限	✓	✓			
MQIA_Q_DEPTH_LOW_EVENT キューのサイズ下位イベントの制御属性。 MQIA_Q_DEPTH_LOW_EVENT をフィルター属性として使用することはできません。	✓	✓			
MQIA_Q_DEPTH_LOW_LIMIT キュー・サイズの下限	✓	✓			
MQIA_Q_DEPTH_MAX_EVENT キュー・サイズ最大イベントの制御属性	✓	✓			
MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL キュー・サービス間隔の限度	✓	✓			
MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL_ EVENT キュー・サービス間隔イベントの制御属性	✓	✓			
MQIA_Q_TYPE キュー・タイプ	✓	✓	✓	✓	✓
MQIA_RETENTION_INTERVAL キュー保持期間間隔	✓	✓			
MQIA_SCOPE キュー定義の有効範囲。z/OS の場合、または IBM i の場合、MQIA_SCOPE は無効です。	✓		✓	✓	
MQIA_SHAREABILITY キューの共有の可否	✓	✓			

表 92. Inquire Queue コマンド、キュー属性 (続き)					
	ローカル・キュー	モデル・キュー	別名キュー	リモート・キュー	クラスター・キュー
MQIA_STATISTICS_Q 統計データ収集。 MQIA_STATISTICS_Q は、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows でのみ有効です。	✓	✓			
MQIA_TRIGGER_CONTROL トリガー制御	✓	✓			
MQIA_TRIGGER_DEPTH トリガー項目数	✓	✓			
MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY トリガーのしきい値メッセージ優先順位	✓	✓			
MQIA_TRIGGER_MTYPE トリガー・タイプ	✓	✓			
MQIA_USAGE 使用法	✓	✓			

➤ **z/OS** **QSGDisposition (MQCFIN)**

グループ内のオブジェクトの属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

情報を返すオブジェクトの処理を指定します。「"オブジェクトの属性指定"」とは、オブジェクトがどこに定義されるか、およびどのように動作するかを意味します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。共有キュー・マネージャー環境では、コマンドが出されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行されている場合、MQQSGD_LIVE は MQQSGD_SHARED で定義されたオブジェクトの情報も返します。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境では、コマンドが出されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行されている場合、MQQSGD_ALL は MQQSGD_GROUP または MQQSGD_SHARED で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定またはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (異なる特性を持つ) 重複する名前を指定することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY のいずれかで定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。MQQSGD_SHARED は、共有キュー環境でのみ許可されています。

QSGDisposition をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

QType (MQCFIN)

キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_Q_TYPE)。

このパラメーターが存在する場合、適格なキューは、指定されたタイプに制限されます。*QAttrs* リスト中に指定された属性セクターのうち、異なるタイプのキューの場合にのみ有効なものは無視されます。その場合、エラーにはなりません。

このパラメーターが存在しない場合 (または MQQT_ALL が指定されている場合)、すべてのタイプのキューが適格ということになります。指定する各属性が、有効なキュー属性セクターでなければなりません。属性を適用するのは、返されるキューの一部で構いません。これをすべてのキューに適用する必要はありません。有効ではあるが、キューには適用されないキュー属性セクターは無視されます。その場合、エラー・メッセージは表示されず、属性は返されません。以下のリストに、すべての有効なキュー属性セクターの値を記載します。

MQQT_ALL

すべてのキュー・タイプ。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_CLUSTER

クラスター・キュー。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

注: z/OS 以外のプラットフォームにおいて、このパラメーターを指定する場合、その指定位置は *QName* パラメーターの直後でなければなりません。

z/OS

StorageClass (MQCFST)

ストレージ・クラス (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。ストレージ・クラスの名前を示します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

このパラメーターは、適格キューが、指定された *StorageClass* 値を持つキューに制限されることを指定します。このパラメーターを指定しない場合、すべてのキューが適格ということになります。

総称名がサポートされています。総称名は、文字ストリングの後にアスタリスク*を付けたものです。例えば、ABC*のようになります。これで、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのストレージ・クラスを選択できます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

StringFilterCommand (MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、*QAttrs* で可能なストリング・タイプのパラメーターのいずれか (ただし MQCA_Q_NAME を除く) でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター

条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF スtring・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ClusterName、*ClusterNameList*、*StorageClass*、または *CFStructure* に String・フィルターを指定する場合、それをパラメーターとしても指定することはできません。

String・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason (MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_Q_TYPE_ERROR

キュー・タイプは無効です。

Inquire Queue (応答)

Inquire Queue コマンド *MQCMD_INQUIRE_Q* に対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *QName* 構造体で構成されます。z/OS の場合のみ、応答には *QSGDisposition* 構造体、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造体が組み込まれます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

総称キュー名を指定した場合、あるいは *MQQT_CLUSTER* または *MQIACF_CLUSTER_INFO* のいずれかを設定してクラスター・キューが要求された場合は、キューが検出されるたびに 1 つのメッセージが生成されます。

常に返されるデータ:

QName, *QSGDisposition*, *QType*

要求すると返されるデータ:

AlterationDate , *AlterationTime* , *BackoutRequeueName* , *BackoutThreshold* ,
BaseQName , *CFStructure* , *ClusterChannelName* , *ClusterDate* , *ClusterName* ,
ClusterNameList , *ClusterQType* , *ClusterTime* , *CLWLQueuePriority* ,
CLWLQueueRank , *CLWLUseQ* , *CreationDate* , *CreationTime* , *CurrentQDepth* , *Custom* ,
DefaultPutResponse , *DefBind* , *DefinitionType* , *DefInputOpenOption* ,
DefPersistence , *DefPriority* , *DefReadAhead* , *DistLists* , *HardenGetBackout* ,
IndexType , *InhibitGet* , *InhibitPut* , *InitiationQName* , *MaxMsgLength* , *MaxQDepth* ,
MsgDeliverySequence , *NonPersistentMessageClass* , *OpenInputCount* ,
OpenOutputCount , *PageSetID* , *ProcessName* , *PropertyControl* , *QDepthHighEvent* ,
QDepthHighLimit , *QDepthLowEvent* , *QDepthLowLimit* , *QDepthMaxEvent* , *QDesc* ,
QMgrIdentifier , *QMgrName* , *QServiceInterval* , *QServiceIntervalEvent* ,
QueueAccounting , *QueueMonitoring* , *QueueStatistics* , *RemoteQMgrName* ,
RemoteQName , *RetentionInterval* , *Scope* , *Shareability* , *StorageClass* ,
TpipeNames , *TriggerControl* , *TriggerData* , *TriggerDepth* , *TriggerMsgPriority* ,
TriggerType , *Usage* , *XmitQName*

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: *MQCA_ALTERATION_DATE*)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

BackoutQueueName (MQCFST)

超過バックアウト再キュー名 (パラメーター ID: MQCA_BACKOUT_REQ_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

BackoutThreshold (MQCFIN)

バックアウトしきい値 (パラメーター ID: MQIA_BACKOUT_THRESHOLD)。

BaseQName (MQCFST)

別名が解決されるキュー名 (パラメーター ID: MQCA_BASE_Q_NAME)。

ローカル・キュー・マネージャーに対して定義されているキューの名前。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

CFStructure (MQCFST)

カップリング・ファシリティ構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

共有キューを使用するときにメッセージを保管するカップリング・ファシリティ構造の名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

ClusterChannelName (MQCFST)

クラスター送信側チャンネル名 (パラメーター ID: MQCA_CLUS_CHL_NAME)。

ClusterChannelName は、このキューを伝送キューとして使用するクラスター送信側チャンネルの総称名です。

チャンネル名の最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ClusterDate (MQCFST)

クラスター日付 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_DATE)。

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ClusterNamelist (MQCFST)

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

ClusterQType (MQCFIN)

クラスター・キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_CLUSTER_Q_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQCQT_LOCAL_Q

クラスター・キューはローカル・キューを示します。

MQCQT_ALIAS_Q

クラスター・キューは別名キューを示します。

MQCQT_REMOTE_Q

クラスター・キューはリモート・キューを示します。

MQCQT_Q_MGR_ALIAS

クラスター・キューはキュー・マネージャー別名を示します。

ClusterTime (MQCFST)

クラスター時間 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_TIME)。

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった時刻 (hh.mm.ss の形式)。

CLWLQueuePriority (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・キュー優先順位 (パラメーター ID: MQIA_CLWL_Q_PRIORITY)。

クラスター・ワークロード管理でのキューの優先度です。値は 0 から 9 の範囲で、0 は最低の、9 は最高の優先度です。

CLWLQueueRank (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・キュー・ランク (パラメーター ID: MQIA_CLWL_Q_RANK)。

クラスター・ワークロード管理でのキューのランクです。値は 0 から 9 の範囲で、0 は最低の、9 は最高のランクです。

CLWLUseQ (MQCFIN)

クラスター・ワークロード・キュー・ランク (パラメーター ID: MQIA_CLWL_USEQ)。

値は次のいずれかです。

MQCLWL_USEQ_AS_Q_MGR

キュー・マネージャーの定義で *CLWLUseQ* パラメーターの値を使用します。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューとローカル・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

CreationDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd の形式のキュー作成日付 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_DATE_LENGTH です。

CreationTime (MQCFST)

hh.mm.ss の形式の作成時刻 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_TIME_LENGTH です。

CurrentQDepth (MQCFIN)

現行キュー項目数 (パラメーター ID: MQIA_CURRENT_Q_DEPTH)。

Custom (MQCFST)

新機能用カスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

この属性は、単独の属性に名前が指定されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。1 つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性の値 (属性名と値のペアとして指定) を含むことができます。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。

この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。

DefaultPutResponse (MQCFIN)

デフォルトの書き込み応答タイプ定義 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE)。

このパラメーターは、アプリケーションで MQPMO_RESPONSE_AS_Q_DEF が指定されているときにキューへの PUT 操作に使用される応答のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPRT_SYNC_RESPONSE

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

MQPRT_ASYNC_RESPONSE

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

DefBind (MQCFIN)

デフォルト・バインディング (パラメーター ID: MQIA_DEF_BIND)。

値は次のいずれかです。

MQBND_BIND_ON_OPEN

MQOPEN 呼び出しで固定されたバインディング。

MQBND_BIND_NOT_FIXED

固定されていないバインディング。

MQBND_BIND_ON_GROUP

グループ内のメッセージすべてを同じ宛先のインスタンスに割り振る要求をアプリケーションが行えるようになります。

DefinitionType (MQCFIN)

キュー定義タイプ (パラメーター ID: MQIA_DEFINITION_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQQDT_PREDEFINED

事前定義された永続キュー。

MQQDT_PERMANENT_DYNAMIC

動的に定義された永続キュー。

MQQDT_SHARED_DYNAMIC

動的に定義された共有キュー。このオプションは、z/OS でのみ使用可能です。

MQQDT_TEMPORARY_DYNAMIC

動的に定義された一時キュー。

DefInputOpenOption (MQCFIN)

キューが共用可能かどうか定義するためのデフォルト入力オープン・オプション (パラメーター ID: MQIA_DEF_INPUT_OPEN_OPTION)。

値は次のいずれかです。

MQOO_INPUT_EXCLUSIVE

メッセージを読み取るためにキューを排他アクセス・モードでオープンする。

MQOO_INPUT_SHARED

共有アクセスによりメッセージを読み取るためにキューをオープンする。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PERSISTENCE)。

値は次のいずれかです。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルト優先度 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PRIORITY)。

DefReadAhead (MQCFIN)

デフォルトの先読み (パラメーター ID: MQIA_DEF_READ_AHEAD)。

クライアントに配信される非持続メッセージのデフォルトの先読み動作を指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQREADA_NO

非永続メッセージは、アプリケーションが要求する前にクライアントに送信されません。クライアントが異常終了した場合に失われる非持続メッセージは、最大で 1 つだけです。

MQREADA_YES

非持続メッセージは、アプリケーションで要求される前にクライアントに送信されます。クライアントが異常終了した場合、またはクライアントに送信されたすべてのメッセージをクライアントが消費しない場合に、非持続メッセージは失われることがあります。

MQREADA_DISABLED

このキューに対して、非持続メッセージの先読みは有効になりません。クライアント・アプリケーションによって先読みが要求されているかどうかに関わりなく、メッセージはクライアントに前もって送信されません。

DistLists (MQCFIN)

配布リスト・サポート (パラメーター ID: MQIA_DIST_LISTS)。

値は次のいずれかです。

MQDL_SUPPORTED

配布リストがサポートされています。

MQDL_NOT_SUPPORTED

配布リストはサポートされていません。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Solaris、Windows、および Linux の各環境でサポートされます。

HardenGetBackout (MQCFIN)

バックアウトを強化するかどうか (パラメーター ID: MQIA_HARDEN_GET_BACKOUT)。

値は次のいずれかです。

MQQA_BACKOUT_HARDENED

バックアウト・カウントが保管される。

MQQA_BACKOUT_NOT_HARDENED

バックアウト・カウントが保管されない。

IndexType (MQCFIN)

索引タイプ (パラメーター ID: MQIA_INDEX_TYPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キューでの MQGET 操作を効率よく行うために、キュー・マネージャーによって保守される索引のタイプを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIT_NONE

索引はありません。

MQIT_MSG_ID

キューはメッセージ ID を使用して索引付けされます。

MQIT_CORREL_ID

キューは相関 ID を使用して索引付けされます。

MQIT_MSG_TOKEN

キューはメッセージ・トークンを使用して索引付けされます。

MQIT_GROUP_ID

キューはグループ ID を使用して索引付けされます。

InhibitGet (MQCFIN)

取得操作が許可または禁止されます (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_GET)。

値は次のいずれかです。

MQQA_GET_ALLOWED

取得操作は許可されています。

MQQA_GET_INHIBITED

取得操作は禁止されています。

InhibitPut (MQCFIN)

書き込み操作が許可または禁止されます (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_PUT)。

値は次のいずれかです。

MQQA_PUT_ALLOWED

書き込み操作が許可されています。

MQQA_PUT_INHIBITED

書き込み操作は使用禁止です。

InitiationQName (MQCFST)

開始キュー名 (パラメーター ID: MQCA_INITIATION_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_MSG_LENGTH)。

MaxQDepth (MQCFIN)

キューの最大長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_Q_DEPTH)。

MsgDeliverySequence (MQCFIN)

メッセージの優先度の順またはシーケンス (パラメーター ID: MQIA_MSG_DELIVERY_SEQUENCE)。

値は次のいずれかです。

MQMDS_PRIORITY

メッセージが優先順位順に戻されます。

MQMDS_FIFO

メッセージは FIFO (先入れ先出し法) の順に戻されます。

NonPersistentMessageClass (MQCFIN)

キューに書き込まれる非持続メッセージに割り当てられた信頼性のレベル (パラメーター ID: MQIA_NPM_CLASS)。

キューに書き込まれる非持続メッセージが失われる状況を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQNPM_CLASS_NORMAL

非持続メッセージは、キュー・マネージャー・セッションの存続時間に限定されます。これらは、キュー・マネージャーの再開時に廃棄されます。MQNPM_CLASS_NORMAL がデフォルト値です。

MQNPM_CLASS_HIGH

キュー・マネージャーは、キューの存続時間のあいだ、非持続メッセージを保存しようとします。ただし、障害が発生した場合は、非持続メッセージは失われることがあります。

OpenInputCount (MQCFIN)

入力のためにキューをオープン状態にしている MQOPEN 呼び出しの数 (パラメーター ID: MQIA_OPEN_INPUT_COUNT)。

OpenOutputCount (MQCFIN)

出力のためにキューをオープン状態にしている MQOPEN 呼び出しの数 (パラメーター ID: MQIA_OPEN_OUTPUT_COUNT)。

PageSetID (MQCFIN)

ページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA_PAGESET_ID)。

キューのあるページ・セットの ID を指定します

このパラメーターは、キューがページ・セットに関連付けられている場合に z/OS にのみ適用されます。

ProcessName (MQCFST)

キューのプロセス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_PROCESS_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_PROCESS_NAME_LENGTH です。

PropertyControl (MQCFIN)

プロパティー制御属性 (パラメーター ID: MQIA_PROPERTY_CONTROL)。

MQGMO_PROPERTIES_AS_Q_DEF オプションを指定した MQGET 呼び出しを使用して、キューから受け取るメッセージのメッセージ・プロパティーの処理方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPROP_COMPATIBILITY

メッセージに **mcd.**、**jms.**、**usr.**、または **mqext.** という接頭部を持つプロパティーがある場合、メッセージのプロパティーはすべて MQRFH2 ヘッダー内のアプリケーションに配信されます。それ以外の場合、メッセージ記述子 (または拡張) に含まれるプロパティーを除くメッセージのプロパティーはすべて廃棄され、アプリケーションからはアクセスできなくなります。

MQPROP_COMPATIBILITY がデフォルト値です。これにより、JMS 関連のプロパティーがメッセージ・データの MQRFH2 ヘッダーにあることを想定するアプリケーションを、変更せずにそのまま使用することができます。

MQPROP_NONE

メッセージがリモート・キュー・マネージャーに送信される前に、メッセージのすべてのプロパティーがメッセージから除去されます。メッセージ記述子 (または拡張子) のプロパティーは除去されません。

MQPROP_ALL

メッセージのすべてのプロパティーは、リモート・キュー・マネージャーへの送信時にメッセージに組み込まれます。プロパティーは、メッセージ・データの 1 つ以上の MQRFH2 ヘッダーに入れられます。メッセージ記述子 (または拡張子) のプロパティーは MQRFH2 ヘッダーに入れられません。

MQPROP_FORCE_ MQRFH2

アプリケーションでメッセージ・ハンドルが指定されているかどうかにかかわらず、プロパティーが常に MQRFH2 ヘッダーに入れられ、メッセージ・データとして返されます。

MQGET 呼び出しの MQGMO 構造体の MsgHandle フィールドに指定された有効なメッセージ・ハンドルは無視されます。メッセージのプロパティーは、メッセージ・ハンドル経由ではアクセスできません。

このパラメーターは、ローカル・キュー、別名キュー、およびモデル・キューに適用されます。

QDepthHighEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ上限イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

QDepthHighLimit (MQCFIN)

キュー・サイズ上限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_HIGH_LIMIT)。

キュー・サイズ上限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

QDepthLowEvent (MQCFIN)

キュー・サイズ下限イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

QDepthLowLimit (MQCFIN)

キュー・サイズ下限 (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_LOW_LIMIT)。

キュー・サイズ下限イベントを生成する際にキューの長さの比較の対象になるしきい値。

QDepthMaxEvent (MQCFIN)

キュー・フル・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_Q_DEPTH_MAX_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

QDesc (MQCFST)

キュー記述 (パラメーター ID: MQCA_Q_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_Q_DESC_LENGTH です。

QMgrIdentifier (MQCFST)

キュー・マネージャー ID (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER)。

キュー・マネージャーの固有 ID。

QMgrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

QName (MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

QServiceInterval (MQCFIN)

キュー・サービス間隔のターゲット (パラメーター ID: MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL)。

キュー・サービス間隔上限およびキュー・サービス間隔 OK イベントを生成する際に、比較に使用されるサービス間隔。

QServiceIntervalEvent (MQCFIN)

サービス間隔上限イベントとサービス間隔 OK イベントのどちらを生成するかを制御します (パラメーター ID: MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQQSIE_HIGH

キュー・サービス間隔上限イベントは有効です。

MQQSIE_OK

キュー・サービス間隔 OK イベントは有効です。

MQQSIE_NONE

どのキュー・サービス間隔イベントも無効です。

QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。
QSGDisposition は z/OS でのみ有効です。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。

QType (MQCFIN)

キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_Q_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_CLUSTER

クラスター・キュー定義。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

QueueAccounting (MQCFIN)

アカウントティング (スレッド・レベルおよびキュー・レベルのアカウントティング) データの収集を制御します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

キューのアカウントティング・データの収集は、キュー・マネージャーの *QueueAccounting* パラメーターの設定に基づいて実行されます。

MQMON_OFF

キューのアカウントティング・データを収集しません。

MQMON_ON

キューのアカウントティング・データを収集します。

QueueMonitoring (MQCFIN)

オンライン・モニター・データ収集 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

このキューのオンライン・モニター・データ収集はオフになります。

MQMON_Q_MGR

キューによって継承される、キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* パラメーターの値。

MQMON_LOW

このキューのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* が MQMON_NONE でない限り、低いデータ収集率でオンになります。

MQMON_MEDIUM

このキューのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* が MQMON_NONE でない限り、中程度のデータ収集率でオンになります。

MQMON_HIGH

このキューのオンライン・モニター・データ収集は、キュー・マネージャーの *QueueMonitoring* が MQMON_NONE でない限り、高いデータ収集率でオンになります。

QueueStatistics (MQCFIN)

統計データの収集を制御します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

キューの統計データの収集は、キュー・マネージャーでの *QueueStatistics* パラメーターの設定に基づいて実行されます。

MQMON_OFF

キューの統計データを収集しません。

MQMON_ON

キュー・マネージャーの *QueueStatistics* が MQMON_NONE でない限り、キューの統計データを収集します。

このパラメーターは、IBM i、UNIX システム、および Windows でのみ有効です。

RemoteQMgrName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

RemoteQName (MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーでローカルに認識されているとおりのリモート・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

RetentionInterval (MQCFIN)

保存間隔 (パラメーター ID: MQIA_RETENTION_INTERVAL)。

Scope (MQCFIN)

キュー定義の有効範囲 (パラメーター ID: MQIA_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

MQSCO_Q_MGR

キュー・マネージャー有効範囲。

MQSCO_CELL

セルの有効範囲。

このパラメーターは、IBM i または z/OS では無効です。

Shareability (MQCFIN)

キューが共用可能かどうか (パラメーター ID: MQIA_SHAREABILITY)。

値は次のいずれかです。

MQQA_SHAREABLE

キューは共有可能。

MQQA_NOT_SHAREABLE

キューは共有不可。

StorageClass (MQCFST)

ストレージ・クラス (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

ストレージ・クラスの名前を示します。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

TpipeNames (MQCFSL)

TPIPE 名 (パラメーター ID: MQCA_TPIPE_NAME)。このパラメーターは、z/OS 上のローカル・キューにのみ適用されます。

OTMA との IBM MQ IMS ブリッジ経由の通信に (ブリッジがアクティブな場合に) 使用する TPIPE 名を指定します。

ストリングの最大長は MQ_TPIPE_NAME_LENGTH です。

TriggerControl (MQCFIN)

トリガー制御 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_CONTROL)。

値は次のいずれかです。

MQTC_OFF

トリガー・メッセージは不要。

MQTC_ON

トリガー・メッセージは必要。

TriggerData (MQCFST)

トリガー・データ (パラメーター ID: MQCA_TRIGGER_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_TRIGGER_DATA_LENGTH です。

TriggerDepth (MQCFIN)

トリガーの深さ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_DEPTH)。

TriggerMsgPriority (MQCFIN)

トリガーのしきい値メッセージ優先度 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY)。

TriggerType (MQCFIN)

トリガー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQTT_NONE

トリガー・メッセージは書き込まれません。

MQTT_FIRST

トリガー・メッセージは、キューのサイズが 0 から 1 になったときに書き込まれます。

MQTT EVERY

トリガー・メッセージは、すべてのメッセージについて書き込まれます。

MQTT_DEPTH

トリガー・メッセージは、サイズのしきい値を超えた場合に書き込まれます。

Usage (MQCFIN)

使用法 (パラメーター ID: MQIA_USAGE)。

値は次のいずれかです。

MQUS_NORMAL

通常使用。

MQUS_TRANSMISSION

伝送キュー。

XmitQName (MQCFST)

伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA_XMIT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

Inquire Queue Manager

Inquire Queue Manager (**MQCMD_INQUIRE_Q_MGR**) コマンドは、キュー・マネージャーの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下の値のうちいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります。コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク "*"。コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

QMGrAttrs (MQCFIL)

キュー・マネージャー属性 (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または次の値を組み合わせて指定できます。

MQCA_ALTERATION_DATE

定義が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

定義が最後に変更された時刻。

MQCA_CERT_LABEL

キュー・マネージャー証明書ラベル。

MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT

自動チャンネル定義出口名。MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT は z/OS では有効ではありません。

MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_DATA

クラスター・ワークロード出口に渡されるデータ。

MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_EXIT

クラスター・ワークロード出口の名前。

MQCA_COMMAND_INPUT_Q_NAME

システム・コマンド入力キュー名です。

MQCA_CONN_AUTH

ユーザー ID およびパスワード認証の場所を提供するために使用される認証情報オブジェクトの名前。

MQCA_CUSTOM

新機能用カスタム属性。

MQCA_DEAD_LETTER_Q_NAME

送達不能キューの名前。

MQCA_DEF_XMIT_Q_NAME

デフォルト伝送キュー名。

MQCA_DNS_GROUP

動的ドメイン・ネーム・サービス (DDNS) のサポートのためにワークロード管理プログラムを使用する際、キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する TCP Listener が参加する必要があるグループの名前。MQCA_DNS_GROUP は z/OS でのみ有効です。

MQCA_IGQ_USER_ID

グループ内キューイングのユーザー ID。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MQCA_LU_GROUP_NAME

LU 6.2 リスナーの総称 LU 名。MQCA_LU_GROUP_NAME は z/OS でのみ有効です。

MQCA_LU_NAME

アウトバウンド LU 6.2 伝送に使用する LU 名。MQCA_LU_NAME は z/OS でのみ有効です。

MQCA_LU62_ARM_SUFFIX

APPCPM 接尾部。MQCA_LU62_ARM_SUFFIX は z/OS でのみ有効です。

MQCA_PARENT

このキュー・マネージャーの親として候補に挙げられた、階層的に接続されたキュー・マネージャーの名前。

MQCA_Q_MGR_DESC

キュー・マネージャーの記述。

MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER

内部的に生成される固有のキュー・マネージャー名。

MQCA_Q_MGR_NAME

ローカル・キュー・マネージャーの名前。

MQCA_QSG_CERT_LABEL

キュー共有グループ証明書ラベル。このパラメーター属性は、z/OSでのみ有効です。

MQCA_QSG_NAME

キュー共有グループ名。このパラメーター属性は、z/OSでのみ有効です。

MQCA_REPOSITORY_NAME

キュー・マネージャーのリポジトリのクラスター名。

MQCA_REPOSITORY_NAMELIST

キュー・マネージャーがリポジトリ・マネージャー・サービスを提供するクラスターのリストの名前。

MQCA_SSL_CRL_NAMELIST

SSL 証明書の失効場所名前リスト。

MQCA_SSL_CRYPTO_HARDWARE

SSL 暗号ハードウェアを構成するパラメーター。このパラメーターは UNIX、Linux、および Windows の場合 プラットフォーム上でのみサポートされます。

MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY

SSL キー・リポジトリの場所と名前。

MQCA_TCP_NAME

使用している TCP/IP システムの名前。MQCA_TCP_NAME は z/OS でのみ有効です。

MQCA_VERSION

キュー・マネージャーが関連付けられている、IBM MQ インストールのバージョン。バージョンの形式は、以下のような VVRRMMFF です。

VV: バージョン

RR: リリース

MM: 保守レベル

FF: フィックス・レベル

MQIA_ACCOUNTING_CONN_OVERRIDE

MQIAccounting および *QueueAccounting* キュー・マネージャー・パラメーターの設定値が指定変更可能かどうかを指定します。MQIA_ACCOUNTING_CONN_OVERRIDE は AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

MQIA_ACCOUNTING_INTERVAL

中間アカウンティング・データ収集間隔。MQIA_ACCOUNTING_INTERVAL は AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

MQIA_ACCOUNTING_MQI

アカウンティング情報が MQI データについて収集されるかどうかを指定します。MQIA_ACCOUNTING_MQI は AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

MQIA_ACCOUNTING_Q

キューのアカウンティング・データ収集。

MQIA_ACTIVE_CHANNELS

いつでもアクティブにできるチャンネルの最大数。MQIA_ACTIVE_CHANNELS は z/OS でのみ有効です。

MQIA_ACTIVITY_CONN_OVERRIDE

アプリケーション・アクティビティ・トレースの値をオーバーライドできるかどうかを指定します。

MQIA_ACTIVITY_RECORDING

アクティビティ・レポートを生成できるかどうかを指定します。

MQIA_ACTIVITY_TRACE

アプリケーション・アクティビティー・トレース・レポートを生成できるかどうかを指定します。

MQIA_ADOPTNEWMCA_CHECK

既にアクティブな MCA と同じ名前の新しいインバウンド・チャンネルが検出されたときに、MCA を採用すべきかどうかを判断するために検査する要素。MQIA_ADOPTNEWMCA_CHECK は z/OS でのみ有効です。

MQIA_ADOPTNEWMCA_TYPE

AdoptNewMCACheck パラメーターに一致する新規インバウンド・チャンネル要求が検出された場合に、MCA の孤立インスタンスを自動的に再開するかどうかを指定します。
MQIA_ADOPTNEWMCA_TYPE は z/OS でのみ有効です。

MQIA_AUTHORITY_EVENT

権限イベントの制御属性。

MQIA_BRIDGE_EVENT

IMS ブリッジ・イベントの属性を制御します。MQIA_BRIDGE_EVENT は z/OS でのみ有効です。

MQIA_CERT_VAL_POLICY

リモート・パートナー・システムから受け取ったデジタル証明書を妥当性検査するために、どの SSL/TLS 証明書妥当性検査ポリシーを使用するかを指定します。この属性は、証明書チェーン妥当性検査においてセキュリティーに関する業界の標準規格にどの程度厳密に準拠するかを制御します。MQIA_CERT_VAL_POLICY は UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。詳しくは、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF

自動チャンネル定義に関する制御属性。MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF は z/OS では有効ではありません。

MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF_EVENT

自動チャンネル定義イベントに関する制御属性。MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF_EVENT は z/OS では有効ではありません。

MQIA_CHANNEL_EVENT

チャンネル・イベントの制御属性。

MQIA_CHINIT_ADAPTERS

IBM MQ 呼び出しの処理に使用するアダプター・サブタスクの数。MQIA_CHINIT_ADAPTERS は z/OS でのみ有効です。

MQIA_CHINIT_CONTROL

キュー・マネージャーの始動時に自動的にチャンネル・イニシエーターを開始します。

MQIA_CHINIT_DISPATCHERS

チャンネル・イニシエーターに使用するディスパッチャーの数。MQIA_CHINIT_DISPATCHERS は z/OS でのみ有効です。

MQIA_CHINIT_SERVICE_PARM

IBM の使用のため予約済み。MQIA_CHINIT_SERVICE_PARM は z/OS でのみ有効です。

MQIA_CHINIT_TRACE_AUTO_START

チャンネル・イニシエーター・トレースを必ず自動的に開始するかどうかを指定します。
MQIA_CHINIT_TRACE_AUTO_START は z/OS でのみ有効です。

MQIA_CHINIT_TRACE_TABLE_SIZE

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのサイズ (メガバイト)。
MQIA_CHINIT_TRACE_TABLE_SIZE は z/OS でのみ有効です。

MQIA_CHLAUTH_RECORDS

チャンネル認証レコードの検査用制御属性。

MQIA_CLUSTER_WORKLOAD_LENGTH

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージの最大長。

MQIA_CLWL_MRU_CHANNELS

クラスター・ワークロード最終使用チャンネル。

MQIA_CLWL_USEQ

クラスター・ワークロード・リモート・キュー使用。

MQIA_CMD_SERVER_CONTROL

キュー・マネージャーの始動時に自動的にコマンド・サーバーを開始します。

MQIA_CODED_CHAR_SET_ID

コード化文字セット ID。

MQIA_COMMAND_EVENT

コマンド・イベントの制御属性。

MQIA_COMMAND_LEVEL

キュー・マネージャーがサポートするコマンド・レベル。

MQIA_CONFIGURATION_EVENT

構成イベントの制御属性。

MQIA_CPI_LEVEL

IBM の使用のため予約済み。

MQIA_DEF_CLUSTER_XMIT_Q_TYPE

クラスター送信側チャンネルにデフォルトで使用する伝送キュー・タイプ。

MQIA_DIST_LISTS

配布リスト・サポート。このパラメーターは、z/OS では無効です。

MQIA_DNS_WLM

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する TCP リスナーを Workload Manager (WLM) for DDNS に登録するかどうかを指定します。MQIA_DNS_WLM は z/OS でのみ有効です。

MQIA_EXPIRY_INTERVAL

有効期限切れの間隔。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MQIA_GROUP_UR

トランザクション・アプリケーションを GROUP リカバリー単位属性指定を指定して接続できるかどうかを決める制御属性。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MQIA_IGQ_PUT_AUTHORITY

グループ内キューイング書き込み権限。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MQIA_INHIBIT_EVENT

禁止イベントの制御属性。

MQIA_INTRA_GROUP_queueing

グループ内キューイングのサポート。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MQIA_IP_ADDRESS_VERSION

IP アドレス・バージョン・セレクター。

MQIA_LISTENER_TIMER

リスナー再始動間隔。MQIA_LISTENER_TIMER は z/OS でのみ有効です。

MQIA_LOCAL_EVENT

ローカル・イベントの制御属性。

MQIA_LOGGER_EVENT

リカバリー・ログ・イベントの制御属性。

MQIA_LU62_CHANNELS

LU 6.2 チャンネルの最大数。MQIA_LU62_CHANNELS は z/OS でのみ有効です。

MQIA_MSG_MARK_BROWSE_INTERVAL

ブラウズされたメッセージのマークが存続する間隔。

MQIA_MAX_CHANNELS

現行になり得るチャンネルの最大数。MQIA_MAX_CHANNELS は z/OS でのみ有効です。

MQIA_MAX_HANDLES

ハンドルの最大数です。

MQIA_MAX_MSG_LENGTH

最大メッセージ長。

MQIA_MAX_PRIORITY

最高の優先順位。

MQIA_MAX_PROPERTIES_LENGTH

最大プロパティ長。

MQIA_MAX_UNCOMMITTED_MSGS

1つの作業単位のコミットされていないメッセージの最大数。

MQIA_MONITORING_AUTO_CLUSSDR

自動的に定義されたクラスター送信側チャネルの *ChannelMonitoring* 属性の デフォルト値。

MQIA_MONITORING_CHANNEL

チャネル・モニターが有効かどうかを指定します。

MQIA_MONITORING_Q

キュー・モニターが有効かどうかを指定します。

MQIA_OUTBOUND_PORT_MAX

発信チャネルのバインディングの範囲内の最大値。MQIA_OUTBOUND_PORT_MAX は z/OS でのみ有効です。

MQIA_OUTBOUND_PORT_MIN

発信チャネルのバインディングの範囲内の最小値。MQIA_OUTBOUND_PORT_MIN は z/OS でのみ有効です。

MQIA_PERFORMANCE_EVENT

パフォーマンス・イベントの制御属性。

MQIA_PLATFORM

キュー・マネージャーがあるプラットフォーム。

MQIA_PUBSUB_CLUSTER

このキュー・マネージャーがパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターに参加するかどうかを制御します。

MQIA_PUBSUB_MAXMSG_RETRY_COUNT

同期点における失敗コマンド・メッセージ処理時の再試行回数。

MQIA_PUBSUB_MODE

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが実行中であるかどうかを照会します。これらが実行されていると、アプリケーションは、アプリケーション・プログラミング・インターフェースと、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューを使用して、パブリッシュ/サブスクライブを行うことが可能になります。

MQIA_PUBSUB_NP_MSG

未配信の入力メッセージを廃棄(または保持) するかどうかを指定します。

MQIA_PUBSUB_NP_RESP

未配信の応答メッセージの振る舞い。

MQIA_PUBSUB_SYNC_PT

持続メッセージのみ(またはすべてのメッセージ)を同期点で処理するかどうかを指定します。

MQIA_QMGR_CFCONLOS

キュー・マネージャーが管理構造体に対する接続または CFCONLOS が ASQMGR に設定されている CF 構造体に対する接続を失ったときに実行されるアクションを指定します。
MQIA_QMGR_CFCONLOS は z/OS でのみ有効です。

MQIA_RECEIVE_TIMEOUT

TCP/IP チャネルがパートナーからのデータの受信を待機する時間。MQIA_RECEIVE_TIMEOUT は z/OS でのみ有効です。

MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_MIN

TCP/IP チャネルがパートナー、MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_MIN からのデータの受信を待機する最小時間は、z/OS でのみ有効です。

MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_TYPE

ReceiveTimeout パラメーターに適用される修飾子。MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_TYPE は z/OS でのみ有効です。

MQIA_REMOTE_EVENT

リモート・イベントの制御属性。

MQIA_SECURITY_CASE

キュー・マネージャーのセキュリティー・プロファイル名で大/小文字混合がサポートされるか、または大文字のみがサポートされるかを指定します。MQIA_SECURITY_CASE は z/OS でのみ有効です。

MQIA_SHARED_Q_Q_MGR_NAME

キュー・マネージャーが共有キューに対して MQOPEN 呼び出しを行い、MQOPEN 呼び出しの *ObjectQmgrName* パラメーターに指定されているキュー・マネージャーが処理中のキュー・マネージャーと同じキュー共有グループにある場合、SQQMNAME 属性は、*ObjectQmgrName* を使用するかどうか、または処理中のキュー・マネージャーが直接共有キューを開くかどうかを指定します。MQIA_SHARED_Q_Q_MGR_NAME は z/OS でのみ有効です。

MQIA_SSL_EVENT

SSL イベントの属性を制御します。

MQIA_SSL_FIPS_REQUIRED

IBM MQ で暗号化を実行する場合に、暗号ハードウェア自体を使用せずに FIPS 認定済みアルゴリズムのみを使用するかどうかを指定します。

MQIA_SSL_RESET_COUNT

SSL 鍵リセット・カウント。

MQIA_SSL_TASKS

SSL タスク。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MQIA_START_STOP_EVENT

開始/停止イベントの制御属性。

MQIA_STATISTICS_AUTO_CLUSSDR

自動定義されたクラスター送信側チャネルの統計データを収集するかどうかを指定します。収集する場合は、データ収集率を指定します。

MQIA_STATISTICS_CHANNEL

チャネルの統計モニター・データを収集するかどうか。収集する場合は、データ収集率を指定します。

MQIA_STATISTICS_INTERVAL

統計データ収集間隔。MQIA_STATISTICS_INTERVAL は AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

MQIA_STATISTICS_MQI

キュー・マネージャーの統計モニター・データを収集するかどうかを指定します。MQIA_STATISTICS_MQI は AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

MQIA_STATISTICS_Q

キューの統計モニター・データを収集するかどうかを指定します。MQIA_STATISTICS_Q は AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合でのみ有効です。

MQIA_SUITE_B_STRENGTH

Suite B 準拠の暗号方式を使用するかどうか、および使用する強度レベルを指定します。Suite B の構成、および SSL チャネルと TLS チャネルへの影響の詳細については、[IBM MQ における NSA Suite B 暗号方式](#)を参照してください。

MQIA_SYNCPOINT

同期点の可用性。

MQIA_TCP_CHANNELS

TCP/IP 6.2 伝送プロトコルを使用する、現行チャネルになり得るチャネル、または接続可能なクライアントの最大数。z/OS でのみ有効です。

MQIA_TCP_KEEP_ALIVE

接続の相手側がまだ有効であるかどうかを確認するために TCP KEEPALIVE 機能を使用するかどうかを指定します。MQIA_TCP_KEEP_ALIVE は z/OS でのみ有効です。

MQIA_TCP_STACK_TYPE

チャネル・イニシエーターが *TCPName* パラメーターで指定された TCP/IP アドレス・スペースのみを使用するか、または任意で選択した TCP/IP アドレスにオプションでバインドできるかどうかを指定します。MQIA_TCP_STACK_TYPE は z/OS でのみ有効です。

MQIA_TRACE_ROUTE_RECORDING

トレース経路情報が記録可能かどうか、また応答メッセージを生成するかどうかを指定します。

MQIA_TREE_LIFE_TIME

非管理トピックの存続時間。

MQIA_TRIGGER_INTERVAL

トリガー間隔。

MQIA_XR_CAPABILITY

テレメトリー・コマンドをサポートするかどうかを指定します。

MQIACF_Q_MGR_CLUSTER

すべてのクラスターリング属性。以下の属性が該当します。

- MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_DATA
- MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_EXIT
- MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT
- MQCA_REPOSITORY_NAME
- MQCA_REPOSITORY_NAMELIST
- MQIA_CLUSTER_WORKLOAD_LENGTH
- MQIA_CLWL_MRU_CHANNELS
- MQIA_CLWL_USEQ
- MQIA_MONITORING_AUTO_CLUSSDR
- MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER

MQIACF_Q_MGR_DQM

すべての分散キューイング属性。以下の属性が該当します。

- MQCA_CERT_LABEL
- MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT
- MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT
- MQCA_DEAD_LETTER_Q_NAME
- MQCA_DEF_XMIT_Q_NAME
- MQCA_DNS_GROUP
- MQCA_IGQ_USER_ID
- MQCA_LU_GROUP_NAME
- MQCA_LU_NAME
- MQCA_LU62_ARM_SUFFIX
- MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER
- MQCA_QSG_CERT_LABEL
- MQCA_SSL_CRL_NAMELIST
- MQCA_SSL_CRYPTOHARDWARE
- MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY

- MQCA_TCP_NAME
- MQIA_ACTIVE_CHANNELS
- MQIA_ADOPTNEWMCA_CHECK
- MQIA_ADOPTNEWMCA_TYPE
- MQIA_CERT_VAL_POLICY
- MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF
- MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF_EVENT
- MQIA_CHANNEL_EVENT
- MQIA_CHINIT_ADAPTERS
- MQIA_CHINIT_CONTROL
- MQIA_CHINIT_DISPATCHERS
- MQIA_CHINIT_SERVICE_PARM
- MQIA_CHINIT_TRACE_AUTO_START
- MQIA_CHINIT_TRACE_TABLE_SIZE
- MQIA_CHLAUTH_RECORDS
- MQIA_INTRA_GROUP_queuing
- MQIA_IGQ_PUT_AUTHORITY
- MQIA_IP_ADDRESS_VERSION
- MQIA_LISTENER_TIMER
- MQIA_LU62_CHANNELS
- MQIA_MAX_CHANNELS
- MQIA_MONITORING_CHANNEL
- MQIA_OUTBOUND_PORT_MAX
- MQIA_OUTBOUND_PORT_MIN
- MQIA_RECEIVE_TIMEOUT
- MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_MIN
- MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_TYPE
- MQIA_SSL_EVENT
- MQIA_SSL_FIPS_REQUIRED
- MQIA_SSL_RESET_COUNT
- MQIA_SSL_TASKS
- MQIA_STATISTICS_AUTO_CLUSSDR
- MQIA_TCP_CHANNELS
- MQIA_TCP_KEEP_ALIVE
- MQIA_TCP_STACK_TYPE

MQIACF_Q_MGR_EVENT

すべてのイベント制御属性。以下の属性が該当します。

- MQIA_AUTHORITY_EVENT
- MQIA_BRIDGE_EVENT
- MQIA_CHANNEL_EVENT
- MQIA_COMMAND_EVENT

- MQIA_CONFIGURATION_EVENT
- MQIA_INHIBIT_EVENT
- MQIA_LOCAL_EVENT
- MQIA_LOGGER_EVENT
- MQIA_PERFORMANCE_EVENT
- MQIA_REMOTE_EVENT
- MQIA_SSL_EVENT
- MQIA_START_STOP_EVENT

MQIACF_Q_MGR_PUBSUB

すべてのキュー・マネージャー・パブリッシュ/サブスクライブ属性。以下の属性が該当します。

- MQCA_PARENT
- MQIA_PUBSUB_MAXMSG_RETRY_COUNT
- MQIA_PUBSUB_MODE
- MQIA_PUBSUB_NP_MSG
- MQIA_PUBSUB_NP_RESP
- MQIA_PUBSUB_SYNC_PT
- MQIA_TREE_LIFE_TIME

MQIACF_Q_MGR_SYSTEM

すべてのキュー・マネージャー・システム属性。以下の属性が該当します。

- MQCA_COMMAND_INPUT_Q_NAME
- MQCA_CUSTOM
- MQCA_DEAD_LETTER_Q_NAME
- MQCA_Q_MGR_NAME
- MQCA_QSG_NAME
- MQCA_VERSION
- MQIA_ACCOUNTING_CONN_OVERRIDE
- MQIA_ACCOUNTING_INTERVAL
- MQIA_ACCOUNTING_Q
- MQIA_ACTIVITY_CONN_OVERRIDE
- MQIA_ACTIVITY_RECORDING
- MQIA_ACTIVITY_TRACE
- MQCA_ALTERATION_DATE
- MQCA_ALTERATION_TIME
- MQIA_CMD_SERVER_CONTROL
- MQIA_CODED_CHAR_SET_ID
- MQIA_COMMAND_LEVEL
- MQIA_CPI_LEVEL
- MQIA_DIST_LISTS
- MQIA_EXPIRY_INTERVAL
- MQIA_MAX_HANDLES
- MQIA_MAX_MSG_LENGTH

- MQIA_MAX_PRIORITY
- MQIA_MAX_PROPERTIES_LENGTH
- MQIA_MAX_UNCOMMITTED_MSGS
- MQIA_MONITORING_Q
- MQIA_PLATFORM
- MQIA_SHARED_Q_Q_MGR_NAME
- MQIA_STATISTICS_INTERVAL
- MQIA_STATISTICS_MQI
- MQIA_STATISTICS_Q
- MQIA_SYNCPOINT
- MQIA_TRACE_ROUTE_RECORDING
- MQIA_TRIGGER_INTERVAL
- MQIA_XR_CAPABILITY

Inquire Queue Manager (応答)

Inquire Queue Manager (MQCMD_INQUIRE_Q_MGR) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続く *QMgrName* 構造体、および 要求された属性パラメーター構造体の組み合わせで構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

Always returned:

QMgrName

Returned if requested:

AccountingConnOverride , *AccountingInterval* , *ActivityConnOverride* ,
ActivityRecording , *ActivityTrace* , *AdoptNewMCACheck* , *AdoptNewMCAType* ,
AlterationDate , *AlterationTime* , *AuthorityEvent* ,  *BridgeEvent* ,
CertificateLabel , *CertificateValPolicy* ,  *CFConlos* , *ChannelAutoDef* ,
ChannelAutoDefEvent , *ChannelAutoDefExit* , *ChannelAuthenticationRecords* ,
ChannelEvent , *ChannelInitiatorControl* , *ChannelMonitoring* , *ChannelStatistics* ,
 *ChinitAdapters* ,  *ChinitDispatchers* ,  *ChinitServiceParm* ,  *ChinitTraceAutoStart* ,  *ChinitTraceTableSize* , *ClusterSenderMonitoringDefault* ,
ClusterSenderStatistics , *ClusterWorkloadData* , *ClusterWorkloadExit* ,
ClusterWorkloadLength , *CLWLMRUChannels* , *CLWLUseQ* , *CodedCharSetId* ,
CommandEvent , *CommandInputQName* , *CommandLevel* , *CommandServerControl* ,
ConfigurationEvent , *ConnAuth* , *CreationDate* , *CreationTime* , *Custom* ,
DeadLetterQName , *DefClusterXmitQueueType* , *DefXmitQName* , *DistLists* , *DNSGroup* ,
 *DNSWLM* , *EncryptionPolicySuiteB* , *ExpiryInterval* , *GroupUR* ,
 *IGQPutAuthority* ,  *IGQUserId* , *InhibitEvent* ,
IntraGroupqueuing , *IPAddressVersion* , *ListenerTimer* , *LocalEvent* , *LoggerEvent* ,
 *LUGroupName* ,  *LUName* ,  *LU62ARMSuffix* ,
 *LU62Channels* ,  *MaxChannels* ,  *MaxActiveChannels* , *MaxHandles* , *MaxMsgLength* , *MaxPriority* ,
MaxPropertiesLength , *MaxUncommittedMsgs* , *MQIAccounting* , *MQIStatistics*

z/OS *OutboundPortMax* , **z/OS** *OutboundPortMin* , *Parent* ,
PerformanceEvent , *Platform* , *PubSubClus* , *PubSubMaxMsgRetryCount* , *PubSubMode* ,
QmgrDesc , *QMgrIdentifier* , **z/OS** *QSGCertificateLabel* , **z/OS**
QSGName , *QueueAccounting* , *QueueMonitoring* , *QueueStatistics* , *ReceiveTimeout* ,
ReceiveTimeoutMin , *ReceiveTimeoutType* , *RemoteEvent* , *RepositoryName* ,
RepositoryNamelist , *RevDns* , **z/OS** *SecurityCase* , *SharedQQmgrName* ,
Splcap , *SSLCRLNamelist* , *SSLCryptoHardware* , *SSLEvent* , *SSLFIPSRequired* ,
SSLKeyRepository , *SSLKeyResetCount* , *SSLTasks* , *StartStopEvent* ,
StatisticsInterval , *SyncPoint* , *TCPChannels* , *TCPKeepAlive* , *TCPName* ,
TCPStackType , *TraceRouteRecording* , *TreeLifeTime* , *TriggerInterval* , *Version*

応答データ

AccountingConnOverride (MQCFIN)

アプリケーションが *QueueAccounting* および *MQIAccounting* キュー・マネージャーのパラメータの設定をオーバーライドできるかどうかを指定します (パラメーター ID: *MQIA_ACCOUNTING_CONN_OVERRIDE*)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_DISABLED

アプリケーションは *QueueAccounting* および *MQIAccounting* パラメーターの設定をオーバーライドできません。

MQMON_ENABLED

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しの MQCNO 構造体のオプション・フィールドを使用して、*QueueAccounting* および *MQIAccounting* パラメーターの設定をオーバーライドできます。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合のみに適用されます。

AccountingInterval (MQCFIN)

中間のアカウンティング・レコードが書き込まれる秒単位の時間間隔 (パラメーター ID: *MQIA_ACCOUNTING_INTERVAL*)。

1 から 604 000 までの範囲の値です。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合のみに適用されます。

ActivityConnOverride (MQCFIN)

アプリケーションがキュー・マネージャー属性で ACTVTRC 値の設定をオーバーライドできるかどうかを指定します (パラメーター ID: *MQIA_ACTIVITY_CONN_OVERRIDE*)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_DISABLED

アプリケーションは、MQCONN API 呼び出しで MQCNO 構造体の Options フィールドを使用して ACTVTRC キュー・マネージャー属性の設定をオーバーライドすることはできません。これはデフォルト値です。

MQMON_ENABLED

アプリケーションは、MQCNO 構造体の Options フィールドを使用して ACTVTRC キュー・マネージャー属性をオーバーライドできます。

この値の変更は、属性を変更した後に、キュー・マネージャーへの接続でのみ有効です。

このパラメーターは、IBM i、UNIX システム、および Windows にのみ適用されます。

ActivityRecording (MQCFIN)

アクティビティー・レポートを生成できるかどうか (パラメーター ID: *MQIA_ACTIVITY_RECORDING*)。

値は次のいずれかです。

MQRECORDING_DISABLED

アクティビティ・レポートを生成できません。

MQRECORDING_MSG

アクティビティ・レポートを生成し、そのレポートの生成原因であるメッセージの発信元に指定されている宛先に送信することができます。

MQRECORDING_Q

アクティビティ・レポートを生成し、SYSTEM.ADMIN.ACTIVITY.QUEUE に送信することができます。

ActivityTrace (MQCFIN)

アクティビティ・レポートを生成できるかどうか (パラメーター ID: MQIA_ACTIVITY_TRACE)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

IBM MQ MQI アプリケーションのアクティビティ・トレースを収集しません。これはデフォルト値です。

キュー・マネージャー属性 ACTVCONO を ENABLED に設定した場合、MQCNO 構造の Options フィールドを使用する個別の接続でこの値はオーバーライドされる可能性があります。

MQMON_ON

IBM MQ MQI アプリケーションのアクティビティ・トレースを収集します。

この値の変更は、属性を変更した後に、キュー・マネージャーへの接続でのみ有効です。

このパラメーターは、IBM i、UNIX システム、および Windows にのみ適用されます。

z/OS AdoptNewMCACheck (MQCFIN)

新規インバウンド・チャンネルが検出される場合、MCA を採用 (再始動) するかどうかを判別するために検査される要素。名前が現在アクティブな MCA の名前と同じ場合は、採用されます (パラメーター ID: MQIA_ADOPTNEWMCA_CHECK)。

値は次のいずれかです。

MQADOPT_CHECK_Q_MGR_NAME

キュー・マネージャーの名前を検査します。

MQADOPT_CHECK_NET_ADDR

ネットワーク・アドレスを検査します。

MQADOPT_CHECK_ALL

キュー・マネージャー名とネットワーク・アドレスを検査します。

MQADOPT_CHECK_NONE

どの要素も検査しません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS AdoptNewMCAType (MQCFIL)

オフファン・チャンネル・インスタンスの採用 (パラメーター ID: MQIA_ADOPTNEWMCA_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQADOPT_TYPE_NO

オフファン・チャンネル・インスタンスを採用しません。

MQADOPT_TYPE_ALL

すべてのチャンネル・タイプを採用します。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

AuthorityEvent (MQCFIN)

許可 (不許可) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_AUTHORITY_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

z/OS BridgeEvent (MQCFIN)

IMS ブリッジ・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_BRIDGE_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

CertificateLabel (MQCFST)

使用するこのキュー・マネージャーの証明書ラベル。このラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書が選択されているかを識別します。

ストリングの最大長は MQ_CERT_LABEL_LENGTH です。

CertificateValPolicy (MQCFIN)

リモート・パートナー・システムから受信されるデジタル証明書の妥当性検査のために、SSL/TLS 証明書妥当性検査のどのポリシーが使用されるかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CERT_VAL_POLICY)。

この属性を使用することにより、証明書チェーン妥当性検査においてセキュリティに関する業界の標準規格にどの程度厳密に準拠するかを制御することができます。このパラメーターは、UNIX、Linux、および Windows の場合でのみ有効です。詳しくは、[IBM MQ における証明書妥当性検査ポリシー](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_ANY

セキュア・ソケット・ライブラリーでサポートされる証明書妥当性検査ポリシーのいずれかにおいて、その証明書チェーンが有効であると見なされる場合に、それらのポリシーのそれぞれを適用し、証明書チェーンを受け入れます。この設定は、最新の証明書標準に準拠しない旧式のデジタル証明書との後方互換性を最大にするために使用できます。

MQ_CERT_VAL_POLICY_RFC5280

RFC 5280 準拠の証明書妥当性検査ポリシーのみを適用します。この設定は、ANY 設定よりも厳密に妥当性検査しますが、一部の旧式のデジタル証明書を拒否します。

z/OS CFConlos (MQCFIN)

キュー・マネージャーが管理構造体に対する接続または CFCONLOS が ASQMGR に設定されている CF 構造体に対する接続を失ったときに実行されるアクションを指定します (パラメーター ID: MQIA_QMGR_CFCONLOS)。

値は次のいずれかです。

MQCFCONLOS_TERMINATE

CF 構造体への接続が失われると、キュー・マネージャーが終了します。

MQCFCONLOS_TOLERATE

キュー・マネージャーは CF 構造体への接続が失われてもそれを許容し、終了しません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ChannelAutoDef (MQCFIN)

受信側およびサーバー接続チャンネルが自動的に定義されるようにするかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF)。

値は次のいずれかです。

MQCHAD_DISABLED

チャンネルの自動定義は無効です。

MQCHAD_ENABLED

チャンネルの自動定義は有効です。

ChannelAutoDefEvent (MQCFIN)

受信側、サーバー接続、またはクラスター送信側チャンネルが自動的に定義される場合、チャンネル自動定義イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHANNEL_AUTO_DEF_EVENT)

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

ChannelAutoDefExit (MQCFST)

チャンネル自動定義出口名 (パラメーター ID: MQCA_CHANNEL_AUTO_DEF_EXIT)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

ChannelAuthenticationRecords (MQCFIN)

チャンネル認証レコードを検査するかどうか (パラメーター ID: MQIA_CHLAUTH_RECORDS) を制御します。

値は次のいずれかです。

MQCHLA_DISABLED

チャンネル認証レコードは検査されません。

MQCHLA_ENABLED

チャンネル認証レコードは検査されます。

ChannelEvent (MQCFIN)

チャンネル・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CHANNEL_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

MQEVR_EXCEPTION

例外チャンネル・イベントの報告は有効です。

ChannelInitiatorControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーの開始時にチャンネル・イニシエーターを開始します (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_CONTROL)。このパラメーターは、z/OS では使用できません。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

キュー・マネージャーの開始時にチャンネル・イニシエーターは自動開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にチャネル・イニシエーターを自動的に開始します。

ChannelMonitoring (MQCFIN)

チャネルのオンライン・モニターのデフォルト設定 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_CHANNEL)。

この属性は、*ChannelMonitoring* チャネル属性が MQMON_Q_MGR に設定されている場合に、チャネルで想定される値に指定されます。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

オンライン・モニター・データ収集をオフにします。

MQMON_NONE

チャネルの *ChannelMonitoring* 属性の設定にかかわらず、チャネルに関するオンライン・モニター・データ収集がオフになります。

MQMON_LOW

オンライン・モニター・データ収集を、低いデータ収集率でオンにします。

MQMON_MEDIUM

オンライン・モニター・データ収集を、中程度のデータ収集率でオンにします。

MQMON_HIGH

オンライン・モニター・データ収集を、高いデータ収集率でオンにします。

z/OS ChannelStatistics (MQCFIN)

チャネルの統計データを収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_CHANNEL)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

統計データ収集はオフになります。

MQMON_LOW

統計データ収集は、低いデータ収集率でオンとなります。

MQMON_MEDIUM

統計データ収集は、中程度のデータ収集率でオンとなります。

MQMON_HIGH

統計データ収集は、高いデータ収集率でオンとなります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS ChinitAdapters (MQCFIN)

アダプター・サブタスクの数 (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_ADAPTERS)。

IBM MQ 呼び出しを処理するために使用するアダプターのサブタスク数です。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS ChinitDispatchers (MQCFIN)

ディスパッチャーの数 (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_DISPATCHERS)。

チャネル・イニシエーターで使用するディスパッチャーの数。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS ChinitServiceParm (MQCFST)

IBM の使用のために予約済み (パラメーター ID: MQCA_CHINIT_SERVICE_PARM)。

z/OS ChinitTraceAutoStart (MQCFIN)

チャネル・イニシエーター・トレースを自動的に開始するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_TRACE_AUTO_START)。

値は次のいずれかです。

MQTRAXSTR_YES

チャンネル・イニシエーター・トレースは自動的に開始します。

MQTRAXSTR_NO

チャンネル・イニシエーター・トレースは自動的に開始されません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。



ChinitTraceTableSize (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターのトレース・データ・スペースのメガバイト単位のサイズ (パラメーター ID: MQIA_CHINIT_TRACE_TABLE_SIZE)。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ClusterSenderMonitoringDefault (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルのオンライン・モニターの設定 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_AUTO_CLUSSDR)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

オンライン・モニター・データの収集は、キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* パラメーターの設定から継承されます。

MQMON_OFF

チャンネルのモニターをオフに切り替えます。

MQMON_LOW

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* が MQMON_NONE でない限り、システム・パフォーマンスへの影響を最小にして低いデータ収集率を指定します。収集されるデータは最新のものではない可能性があります。

MQMON_MEDIUM

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* が MQMON_NONE でない限り、システム・パフォーマンスへの影響が限定された中程度のデータ収集率を指定します。

MQMON_HIGH

キュー・マネージャーの *ChannelMonitoring* が MQMON_NONE でない限り、システム・パフォーマンスに影響を与える可能性がある高いデータ収集率を指定します。収集されるデータは、取得可能なデータの中で最新のものです。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

ClusterSenderStatistics (MQCFIN)

自動定義クラスター送信側チャンネルについて、統計データを収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_AUTO_CLUSSDR)。

値は次のいずれかです。

MQMON_Q_MGR

統計データの収集は、キュー・マネージャーの *ChannelStatistics* パラメーターの設定から継承されます。

MQMON_OFF

チャンネルの統計データの収集をオフに切り替えます。

MQMON_LOW

システム・パフォーマンスへの影響が最も少ない低いデータ収集率を指定します。

MQMON_MEDIUM

中程度のデータ収集率を指定します。

MQMON_HIGH

高いデータ収集率を指定します。

z/OS では、このパラメーターは、選択した値とは無関係に、単に統計データの収集をオンにします。LOW、MEDIUM、または HIGH のどれを指定しても、結果に違いはありません。

ClusterWorkLoadData (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口に渡されるデータ (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_DATA)。

ClusterWorkLoadExit (MQCFST)

クラスター・ワークロード出口の名前 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_WORKLOAD_EXIT)。

出口名の最大長は、出口が実行される環境によって異なります。MQ_EXIT_NAME_LENGTH は、アプリケーションの実行環境での最大長を示します。MQ_MAX_EXIT_NAME_LENGTH は、サポートされているすべての環境に対して最大長を指定します。

ClusterWorkLoadLength (MQCFIN)

クラスター・ワークロードの長さ (パラメーター ID: MQIA_CLUSTER_WORKLOAD_LENGTH)。

クラスター・ワークロード出口に渡されるメッセージの最大長。

CLWLMRUChannels (MQCFIN)

クラスター・ワークロードに最後に使用された (MRU) チャンネル (パラメーター ID: MQIA_CLWL_MRU_CHANNELS)。

最後に使用されたアクティブなアウトバウンド・チャンネルの最大数。

CLWLUseQ (MQCFIN)

リモート・キューの使用 (パラメーター ID: MQIA_CLWL_USEQ)。

ワークロード管理時に、クラスター内の他のキュー・マネージャーに定義されている他のキューへのリモート書き込みを、クラスター・キュー・マネージャーが使用するかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLWL_USEQ_ANY

リモート・キューを使用します。

MQCLWL_USEQ_LOCAL

リモート・キューを使用しません。

CodedCharSetId (MQCFIN)

コード化文字セット ID (パラメーター ID: MQIA_CODED_CHAR_SET_ID)。

CommandEvent (MQCFIN)

コマンド・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_COMMAND_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

MQEVR_NODISPLAY

Inquire コマンドを除く成功したすべてのコマンドについてイベント報告は有効です。

CommandInputQName (MQCFST)

コマンド入力キュー名 (パラメーター ID: MQCA_COMMAND_INPUT_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

CommandLevel (MQCFIN)

キュー・マネージャーがサポートするコマンド・レベル (パラメーター ID: MQIA_COMMAND_LEVEL)。

値は次のいずれかです。

MQCMDL_LEVEL_600

レベル 600 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM WebSphere MQ (AIX バージョン 6.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (HP-UX バージョン 6.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (iSeries バージョン 6.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Linux バージョン 6.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Solaris バージョン 6.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Windows バージョン 6.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (z/OS バージョン 6.0 の場合)

MQCMDL_LEVEL_700

レベル 700 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM WebSphere MQ (AIX バージョン 7.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (HP-UX バージョン 7.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (IBM i バージョン 7.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Linux バージョン 7.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Solaris バージョン 7.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Windows バージョン 7.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (z/OS バージョン 7.0 の場合)

MQCMDL_LEVEL_701

レベル 701 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM WebSphere MQ (AIX バージョン 7.0.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (HP-UX バージョン 7.0.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (IBM i バージョン 7.0.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Linux バージョン 7.0.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Solaris バージョン 7.0.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Windows バージョン 7.0.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (z/OS バージョン 7.0.1 の場合)

MQCMDL_LEVEL_710

レベル 710 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM WebSphere MQ (AIX バージョン 7.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (HP-UX バージョン 7.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (IBM i バージョン 7.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Linux バージョン 7.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Solaris バージョン 7.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Windows バージョン 7.1 の場合)
- IBM WebSphere MQ (z/OS バージョン 7.1 の場合)

MQCMDL_LEVEL_750

レベル 750 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM WebSphere MQ (AIX バージョン 7.5 の場合)
- IBM WebSphere MQ (HP-UX バージョン 7.5 の場合)
- IBM WebSphere MQ (IBM i バージョン 7.5 の場合)

- IBM WebSphere MQ (Linux バージョン 7.5 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Solaris バージョン 7.5 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Windows バージョン 7.5 の場合)

MQCMDL_LEVEL_800

レベル 800 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM WebSphere MQ (AIX バージョン 8.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (HP-UX バージョン 8.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (IBM i バージョン 8.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Linux バージョン 8.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Solaris バージョン 8.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (Windows バージョン 8.0 の場合)
- IBM WebSphere MQ (z/OS バージョン 8.0 の場合)

V 8.0.0.2 MQCMDL_LEVEL_801

レベル 801 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM MQ for AIX バージョン 8.0.0.2
- IBM MQ for HP-UX バージョン 8.0.0.2
- IBM MQ for IBM i バージョン 8.0.0.2
- IBM MQ for Linux バージョン 8.0.0.2
- IBM MQ for Solaris バージョン 8.0.0.2

V 8.0.0.3 MQCMDL_LEVEL_802

レベル 802 のシステム制御コマンド。

この値は、以下のバージョンから戻されます。

- IBM MQ for AIX バージョン 8.0.0.3
- IBM MQ for HP-UX バージョン 8.0.0.3
- IBM MQ for IBM i バージョン 8.0.0.3
- IBM MQ for Linux バージョン 8.0.0.3
- IBM MQ for Solaris バージョン 8.0.0.3
- IBM MQ for Windows バージョン 8.0.0.3

CommandLevel 属性の特定の値に対応するシステム制御コマンドのセットは異なります。その違いは、*Platform* 属性の値に応じます。両方の属性を使用して、サポートされるシステム制御コマンドを決定する必要があります。

CommandServerControl (MQCFIN)

キュー・マネージャーの開始時にコマンド・サーバーを開始します (パラメーター ID: MQIA_CMD_SERVER_CONTROL)。このパラメーターは、z/OS では使用できません。

値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

キュー・マネージャーの開始時にコマンド・サーバーは自動開始されません。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

キュー・マネージャーの始動時にコマンド・サーバーを自動的に開始します。

ConfigurationEvent (MQCFIN)

構成イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_CONFIGURATION_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

ConnAuth (MQCFST)

ユーザー ID およびパスワード認証の場所を提供するために使用される認証情報オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_CONN_AUTH)。

CreationDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd の形式のキュー作成日付 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_DATE_LENGTH です。

CreationTime (MQCFST)

hh.mm.ss の形式の作成時刻 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_CREATION_TIME_LENGTH です。

Custom (MQCFST)

新機能用カスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

この属性は、単独の属性が導入されるまでの間、新しい機能の構成用として予約されています。1つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性の値 (属性名と値のペアとして指定) を含むことができます。属性名と値のペアは、NAME(VALUE) の形式になります。

この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。

DeadLetterQName (MQCFST)

デッド・レター (未配布メッセージ) キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEAD_LETTER_Q_NAME)。

未配布メッセージに使用されるローカル・キューの名前を指定します。メッセージが正しい宛先に送られない場合は、メッセージはこのキューに書き込まれます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DefClusterXmitQueueType (MQCFIN)

DefClusterXmitQueue タイプ 属性は、クラスター受信側チャネルとの間でメッセージの取得やメッセージの送信を行うために、クラスター送信側チャネルがデフォルトで選択する伝送キューを制御します。(パラメーター ID: MQIA_DEF_CLUSTER_XMIT_Q_TYPE)。

DefClusterXmitQueueType の値は MQCLXQ_SCTQ または MQCLXQ_CHANNEL です。

MQCLXQ_SCTQ

すべてのクラスター送信側チャネルが、SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.QUEUE からメッセージを送信します。伝送キューに入れられたメッセージの correlID は、メッセージの宛先のクラスター送信側チャネルを示します。

SCTQ は、キュー・マネージャーが定義されるときに設定されます。この動作は、バージョン 7.5 より前のバージョンの IBM WebSphere MQ では暗黙的です。以前のバージョンに、キュー・マネージャーの属性 DefClusterXmitQueueType はありませんでした。

MQCLXQ_CHANNEL

各クラスター送信側チャネルは、異なる伝送キューからメッセージを送信します。各伝送キューは、モデル・キュー SYSTEM.CLUSTER.TRANSMIT.MODEL.QUEUE から、永続動的キューとして作成されます。

DefXmitQName (MQCFST)

デフォルト伝送キュー名 (パラメーター ID: MQCA_DEF_XMIT_Q_NAME)。

このデフォルト伝送キューは、リモート・キュー・マネージャーにメッセージを伝送するために使用されます。これは、使用する伝送キューが他で指定されていない場合に使用されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DistLists (MQCFIN)

配布リスト・サポート (パラメーター ID: MQIA_DIST_LISTS)。

値は次のいずれかです。

MQDL_SUPPORTED

配布リストがサポートされています。

MQDL_NOT_SUPPORTED

配布リストはサポートされていません。

z/OS DNSGroup (MQCFST)

DNS グループ名 (パラメーター ID: MQCA_DNS_GROUP)。

このパラメーターは、今後使用されません。 [WLM/DNS のサポートが終了しています](#) を参照してください。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS DNSWLM (MQCFIN)

WLM/DNS 制御: (パラメーター ID: MQIA_DNS_WLM)。

このパラメーターは、今後使用されません。 [WLM/DNS のサポートが終了しています](#) を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDNSWLM_NO

MQDNSWLM_NO だけが、キュー・マネージャーによってサポートされる値です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

EncryptionPolicySuiteB (MQCFIL)

スイート B 準拠の暗号方式を使用するかどうか、および使用する強度のレベルを指定します (パラメーター ID: MQIA_SUITE_B_STRENGTH)。Suite B の構成と、SSL および TLS チャンネルへの影響について詳しくは、[IBM MQ における NSA Suite B 暗号方式](#) を参照してください。

値は以下のいずれかです (複数可)。

MQ_SUITE_B_NONE

Suite B 準拠の暗号方式を使用しません。

MQ_SUITE_B_128_BIT

128 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

MQ_SUITE_B_192_BIT

192 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

MQ_SUITE_B_128_BIT, MQ_SUITE_B_192_BIT

128 ビットおよび 192 ビットの強度の Suite B セキュリティーを使用します。

z/OS ExpiryInterval (MQCFIN)

有効期限切れのメッセージのスキャン間隔 (パラメーター ID: MQIA_EXPIRY_INTERVAL)。

キュー・マネージャーが有効期限切れのメッセージを探してキューをスキャンする 頻度を指定します。このパラメーターは、1 から 99 999 999 までの範囲の秒単位の時間間隔であるか、または以下の特殊値です。

MQEXPI_OFF

有効期限切れのメッセージを探すスキャンは行われません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS **GroupUR (MQCFIN)**

XA クライアント・アプリケーションが、GROUP リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できるかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

MQGUR_DISABLED

XA クライアント・アプリケーションは、キュー・マネージャー名を使用して接続する必要があります。

MQGUR_ENABLED

XA クライアント・アプリケーションは、接続時に QSG 名を指定することにより、リカバリー単位属性指定を使用したトランザクションを確立できます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS **IGQPutAuthority (MQCFIN)**

グループ内キューイング・エージェントによって使用される権限検査のタイプ (パラメーター ID: MQIA_IGQ_PUT_AUTHORITY)。

この属性は、ローカルのグループ内キューイング・エージェント (IGQ エージェント) によって実行される権限検査のタイプを指定します。この検査は、IGQ エージェントが共有伝送キューからメッセージを削除し、そのメッセージをローカル・キューに書き込むときに実行します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIGQPA_DEFAULT

デフォルト・ユーザー ID が使用されます。

MQIGQPA_CONTEXT

コンテキスト・ユーザー ID が使用されます。

MQIGQPA_ONLY_IGQ

IGQ ユーザー ID だけが使用されます。

MQIGQPA_ALTERNATE_OR_IGQ

代替ユーザー ID または IGQ エージェント・ユーザー ID が使用されます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS **IGQUserId (MQCFST)**

グループ内キューイング・エージェントによって使用されるユーザー ID (パラメーター ID: MQCA_IGQ_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

InhibitEvent (MQCFIN)

禁止 (読み取り禁止と書き込み禁止) イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

z/OS **IntraGroupqueuing (MQCFIN)**

グループ内キューイングを使用するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_INTRA_GROUP_queuing)。

値は次のいずれかです。

MQIGQ_DISABLED

グループ内キューイングは無効です。キュー共有グループ内の他のキュー・マネージャー宛のすべてのメッセージは、標準的なチャンネルを使用して伝送されます。

MQIGQ_ENABLED

グループ内キューイングは有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

IPAddressVersion (MQCFIN)

IP アドレスのバージョン・セクター (パラメーター ID: MQIA_IP_ADDRESS_VERSION)。

IPv4 または IPv6 のどちらの IP アドレス・バージョンを使用するかを指定します。値は次のいずれかです。

MQIPADDR_IPv4

IPv4 が使用されます。

MQIPADDR_IPv6

IPv6 が使用されます。

ListenerTimer (MQCFIN)

リスナーの再始動間隔 (パラメーター ID: MQIA_LISTENER_TIMER)。

APPC または TCP/IP で障害が発生した後に IBM MQ がリスナーの再始動を試行する秒単位の時間間隔です。

z/OS**LocalEvent (MQCFIN)**

ローカル・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_LOCAL_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

LoggerEvent (MQCFIN)

リカバリー・ログ・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_LOGGER_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合 のみに適用されます。

z/OS**LUGroupName (MQCFST)**

LU 6.2 リスナーの汎用 LU 名 (パラメーター ID: MQCA_LU_GROUP_NAME)。

キュー共有グループのインバウンド伝送を処理する LU 6.2 リスナーが使用する汎用 LU 名。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS**LUName (MQCFST)**

アウトバウンド LU 6.2 伝送で使用する LU 名 (パラメーター ID: MQCA_LU_NAME)。

アウトバウンド LU 6.2 伝送で使用する LU の名前。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS**LU62ARMSuffix (MQCFST)**

APPCPM 接尾部 (パラメーター ID: MQCA_LU62_ARM_SUFFIX)。

SYS1.PARMLIB の APPCPM メンバーの接尾部。この接尾部は、このチャンネル・イニシエーターの LUADD を指名します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS LU62Channels (MQCFIN)

LU 6.2 チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_LU62_CHANNELS)。

LU 6.2 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数、または接続できるクライアントの最大数。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS MaxActiveChannels (MQCFIN)

チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_ACTIVE_CHANNELS)。

任意の時点でアクティブなチャンネルの最大数。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS MaxChannels (MQCFIN)

現行チャンネルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_CHANNELS)。

現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数 (クライアントが接続されているサーバー接続チャンネルを含む)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

MaxHandles (MQCFIN)

ハンドルの最大数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_HANDLES)。

1 つの接続で同時にオープンできるハンドルの最大数を指定します。

MaxMsgLength (MQCFIN)

最大メッセージ長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_MSG_LENGTH)。

MaxPriority (MQCFIN)

最大優先度 (パラメーター ID: MQIA_MAX_PRIORITY)。

MaxPropertiesLength (MQCFIN)

最大プロパティー長 (パラメーター ID: MQIA_MAX_PROPERTIES_LENGTH)。

MaxUncommittedMsgs (MQCFIN)

作業単位内のコミットされていないメッセージの最大数 (パラメーター ID: MQIA_MAX_UNCOMMITTED_MSGS)。

この数値は、同期点における以下のメッセージ数の合計です。

- 検索可能なメッセージの数
- キューに書き出しできるメッセージの数
- この作業単位内で生成されたトリガー・メッセージの数

この制限は、同期点の外で取り出したり書き込まれたりするメッセージには適用されません。

MQIAccounting (MQCFIN)

MQI データのアカウンティング情報が収集されるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_MQI)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI アカウンティング・データ収集は無効です。

MQMON_ON

MQI アカウンティング・データ収集は有効です。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合のみに適用されます。

MQIStatistics (MQCFIN)

キュー・マネージャーについて、統計モニター・データを収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_MQI)。

値は次のいずれかです。

MQMON_OFF

MQI 統計のデータ収集を使用不可にします。MQMON_OFF は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

MQMON_ON

MQI 統計のデータ収集を使用可能にします。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、IBM i、Linux、Solaris、および Windows の場合のみに適用されます。

MsgMarkBrowseInterval(MQCFIN)

マーク・ブラウズ間隔 (パラメーター ID: MQIA_MSG_MARK_BROWSE_INTERVAL)。

キュー・マネージャーが自動的にメッセージのマークを解除するミリ秒単位の時間間隔。



重要: この値をデフォルトの 5000 より小さくしないでください。

z/OS

OutboundPortMax (MQCFIN)

発信チャネルのバインディング時の範囲の最大値 (パラメーター ID: MQIA_OUTBOUND_PORT_MAX)。

発信チャネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最大値。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS

OutboundPortMin (MQCFIN)

発信チャネルのバインディング範囲の最小値 (パラメーター ID: MQIA_OUTBOUND_PORT_MIN)。

発信チャネルのバインディング時に使用されるポート番号の範囲の最小値。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

Parent (MQCFST)

このキュー・マネージャーの親として指定されている、階層的に接続されたキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_PARENT)。

PerformanceEvent (MQCFIN)

パフォーマンス関連イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PERFORMANCE_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

Platform (MQCFIN)

キュー・マネージャーが存在するプラットフォーム (パラメーター ID: MQIA_PLATFORM)。

値は次のいずれかです。

MQPL_AIX

AIX (MQPL_UNIX と同じ値)。

V8.0.0.2

MQPL_APPLIANCE

IBM MQ Appliance

MQPL_NSK

HP Integrity NonStop Server.

MQPL_OS400

IBM i.

MQPL_UNIX

UNIX システム.

MQPL_WINDOWS_NT

Windows.

MQPL_ZOS

z/OS

PubSubClus (MQCFIN)

キュー・マネージャーが、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターに参加するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_CLUSTER)。

値は次のいずれかです。

MQPSCLUS_ENABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が許可されます。

注: 大規模な IBM MQ クラスターにクラスター・トピックを導入すると、パフォーマンスが低下する場合があります。このパフォーマンス低下は、すべての部分リポジトリに、クラスター内の他のすべてのメンバーが通知されることにより発生します。例えば、proxysub(FORCE) が指定されていると、他のすべてのノードで予期しないサブスクリプションが作成される可能性があります。キュー・マネージャーの障害後に再同期化する際には、キュー・マネージャーから多数のチャンネルが開始される可能性もあります。

MQPSCLUS_DISABLED

クラスター・トピック定義とクラスター・サブスクリプションの作成または受信が禁止されます。作成または受信は、キュー・マネージャーのエラー・ログに警告として記録されます。

PubSubMaxMsgRetryCount (MQCFIN)

同期点における、失敗したコマンド・メッセージの再処理の試行回数 (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_MAXMSG_RETRY_COUNT)。

PubSubMode (MQCFIN)

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースが実行されているかどうかを指定します。パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンは、アプリケーションがアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブできるようにします。パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは、キューがキューに入れられたパブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースを使用したかどうかをモニターします (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_MODE)。

可能な値は次のとおりです。

MQPSM_COMPAT

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンが実行中。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用してパブリッシュまたはサブスクライブを行うことができます。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは実行されていません。したがって、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるメッセージは処理されません。MQPSM_COMPAT は、このキュー・マネージャーを使用するバージョン 7 より前のバージョンの WebSphere Message Broker (現在の IBM Integration Bus) との互換性のために使用します。

MQPSM_DISABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されていません。したがって、アプリケーション・プログラミング・インターフェースによるパブリッシュまたはサブスクライブはできません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースがモニターするキューに書き込まれるパブリッシュ/サブスクライブ・メッセージは処理されません。

MQPSM_ENABLED

パブリッシュ/サブスクライブ・エンジンとキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースはどちらも実行されています。このため、アプリケーション・プログラミング・インターフェース、およびキュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースによってモニターされるキューを使用して、パブリッシュ/サブスクライブを行うことができます。MQPSM_ENABLED は、キュー・マネージャーの初期デフォルト値です。

PubSubNPInputMsg (MQCFIN)

未配布入力メッセージを廃棄するか、保持するか (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_NP_MSG) を指定します。

可能な値は次のとおりです。

MQUNDELIVERED_DISCARD

非持続入力メッセージは、処理できない場合は廃棄されます。MQUNDELIVERED_DISCARD はデフォルト値です。

MQUNDELIVERED_KEEP

非持続入力メッセージは、処理できない場合でも廃棄されません。キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは妥当な間隔で処理を再試行します。以降のメッセージの処理は続行しません。

PubSubNPResponse (MQCFIN)

未配布の応答メッセージの動作を制御します (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_NP_RESP)。

可能な値は次のとおりです。

MQUNDELIVERED_NORMAL

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。送達不能キューに入れられない場合は廃棄されます。

MQUNDELIVERED_SAFE

応答キューに入れることができない非持続応答は送達不能キューに入れられます。応答が送信できず、送達不能キューに入れられない場合、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは現在の操作をロールバックします。この操作は適切な間隔で再試行され、後続メッセージの処理は行いません。

MQUNDELIVERED_DISCARD

応答キューに入れることができない非持続応答は、廃棄されます。MQUNDELIVERED_DISCARD は、新規キュー・マネージャーのデフォルト値です。

MQUNDELIVERED_KEEP

非持続応答は送達不能キューに入れられず、廃棄はされない。代わりに、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースは現在の操作をバックアウトし、妥当な間隔で再試行します。

PubSubSyncPoint (MQCFIN)

同期点において持続メッセージのみを処理するか、全メッセージを処理するか (パラメーター ID: MQIA_PUBSUB_SYNC_PT) どうかを指定します。

可能な値は次のとおりです。

MQSYNCPOINT_IFPER

キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースに、非持続メッセージを同期点外で受信させます。デーモンは同期点外でパブリケーションを受け取ると、そのパブリケーションを、同期点外の認識しているサブスクライバーに転送します。MQSYNCPOINT_IFPER はデフォルト値です。

MQSYNCPOINT_YES

MQSYNCPOINT_YES は、キュー・パブリッシュ/サブスクライブ・インターフェースに同期点において全メッセージを受信させます。

QMgrDesc (MQCFST)

キュー・マネージャー記述 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_DESC)。

このパラメーターは、オブジェクトを簡単に説明するテキストです。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_DESC_LENGTH です。

コマンドを実行中のキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) で識別された文字セットの中の文字を使用してください。この文字セットを使用すると、テキストが正しく変換されることが確実にになります。

QMgrIdentifier (MQCFST)

キュー・マネージャー ID (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER)。

キュー・マネージャーの固有 ID。

QMgrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

z/OS QSGCertificateLabel (MQCFST)

このキュー共有グループが使用する証明書ラベル。このラベルにより、鍵リポジトリに含まれているどの個人証明書が選択されているかを識別します。

ストリングの最大長は MQ_QSG_CERT_LABEL_LENGTH です。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS QSGName (MQCFST)

キュー共有グループ名 (パラメーター ID: MQCA_QSG_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

QueueAccounting (MQCFIN)

キューに関するアカウンティング (スレッド・レベルおよびキュー・レベルのアカウンティング) のデータの収集 (パラメーター ID: MQIA_ACCOUNTING_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

キューのアカウンティング・データ収集は無効です。

MQMON_OFF

QueueAccounting パラメーターに MQMON_Q_MGR の値を指定したキューのアカウンティング・データ収集は無効です。

MQMON_ON

QueueAccounting パラメーターに MQMON_Q_MGR の値を指定したキューのアカウンティング・データ収集は有効です。

QueueMonitoring (MQCFIN)

キューのオンライン・モニターのデフォルト設定 (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_Q)。

この属性は、*QueueMonitoring* キュー属性が MQMON_Q_MGR に設定されている場合に、チャンネルで想定される値に指定されます。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

オンライン・モニター・データ収集をオフにします。

MQMON_NONE

キューの *QueueMonitoring* 属性の設定にかかわらず、キューのオンライン・モニター・データの収集をオフにします。

MQMON_LOW

オンライン・モニター・データ収集を、低いデータ収集率でオンにします。

MQMON_MEDIUM

オンライン・モニター・データ収集を、中程度のデータ収集率でオンにします。

MQMON_HIGH

オンライン・モニター・データ収集を、高いデータ収集率でオンにします。

QueueStatistics (MQCFIN)

キューの統計データを収集するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_Q)。

値は次のいずれかです。

MQMON_NONE

キューの *QueueStatistics* パラメーター設定にかかわらず、キューの統計データ収集をオフにします。

MQMON_OFF

QueueStatistics パラメーターに 値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューについて、統計データ収集がオフになります。

MQMON_ON

QueueStatistics パラメーターに 値 MQMON_Q_MGR が指定されているキューについて、統計データ収集がオンになります。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows でのみ有効です。

z/OS

***ReceiveTimeout* (MQCFIN)**

TCP/IP チャンネルがそのパートナーからデータの受信を待機する長さ (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT)。

TCP/IP チャンネルが、非アクティブ状態に戻る前に、そのパートナーからの (ハートビートを含む) データの受信を待機する 時間です。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS

***ReceiveTimeoutMin* (MQCFIN)**

TCP/IP チャンネルがそのパートナーからデータの受信を待機する最小時間 (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_MIN)。

非アクティブ状態に戻る前に TCP/IP チャンネルがパートナーからの (ハートビートを含む) データの受信を待つ最小時間。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

z/OS

***ReceiveTimeoutType* (MQCFIN)**

ReceiveTimeout に適用する修飾子 (パラメーター ID: MQIA_RECEIVE_TIMEOUT_TYPE)。

TCP/IP チャンネルがパートナーからのデータの受信を待機する時間を計算するために *ReceiveTimeoutType* に適用される修飾子。この待機時間にはハートビートも含まれます。待機間隔が満了すると、チャンネルは非アクティブ状態に戻ります。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQRCVTIME_MULTIPLY

ReceiveTimeout 値は、チャンネルが待機する時間を決定するために *HeartbeatInterval* の折衝値に適用される乗数です。

MQRCVTIME_ADD

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を決定するために *HeartbeatInterval* の折衝値に加算される値 (秒単位) です。

MQRCVTIME_EQUAL

ReceiveTimeout は、チャンネルが待機する時間を表す値 (秒単位) です。

***RemoteEvent* (MQCFIN)**

リモート・エラー・イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_REMOTE_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

***RepositoryName* (MQCFST)**

リポジトリ名 (パラメーター ID: MQCA_REPOSITORY_NAME)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前。

***RepositoryNameList* (MQCFST)**

リポジトリ名リスト (パラメーター ID: MQCA_REPOSITORY_NAMELIST)。

このキュー・マネージャーがリポジトリ・サービスを提供するクラスターの名前のリスト。

RevDns (MQCFIN)

ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) からのホスト名のリバース・ルックアップを行うかどうか。(パラメーター ID: MQIA_REVERSE_DNS_LOOKUP)。

この属性は、TCP のトランスポート・タイプ (TRPTYPE) を使用するチャネルでのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQRDNS_DISABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名は逆引きされません。これを設定すると、ホスト名を使用する CHLAUTH ルールはマッチングされません。

MQRDNS_ENABLED

インバウンド・チャネルの IP アドレスに関して DNS ホスト名の情報が必要な場合に、それが逆引きされます。この設定値は、ホスト名が含まれている CHLAUTH 規則に対してマッチングを行う場合、およびエラー・メッセージを書き出す場合は必須です。

SecurityCase (MQCFIN)

サポートされるセキュリティの大小文字 (パラメーター ID: MQIA_SECURITY_CASE)。

キュー・マネージャーが大/小文字混合のセキュリティ・プロファイル名をサポートするか、または大文字のみのセキュリティ・プロファイル名をサポートするかを指定します。この値は、Refresh Security コマンドが *SecurityType* (MQSECTYPE_CLASSES) を指定して実行されている場合、アクティブ化されます。

値は次のいずれかです。

MQSCYC_UPPER

セキュリティ・プロファイル名は大文字でなければなりません。

MQSCYC_MIXED

セキュリティ・プロファイル名は大文字または大/小文字混合にすることができます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

SharedQMgrName (MQCFIN)

共有キューのキュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQIA_SHARED_Q_Q_MGR_NAME)。

キュー・マネージャーが共有キューに対して MQOPEN 呼び出しを行います。MQOPEN 呼び出しの *ObjectQmgrName* パラメーターで指定されたキュー・マネージャーは、処理キュー・マネージャーと同じキュー共用グループに属します。SQQMNAME 属性は、*ObjectQmgrName* を使用するかどうか、または処理キュー・マネージャーが共有キューを直接開くかどうかを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSQQM_USE

ObjectQmgrName が使用され、適切な伝送キューがオープンされます。

MQSQQM_IGNORE

処理キュー・マネージャーが共有キューを直接オープンします。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

Splcap (MQCFIN)

キュー・マネージャーを実行している IBM MQ のバージョンの IBM MQ AMS コンポーネントがインストールされている場合、属性の値は YES (MQCAP_SUPPORTED) になります。IBM MQ AMS コンポーネントがインストールされていない場合は、値は NO (MQCAP_NOT_SUPPORTED) になります (パラメーター ID: MQIA_PROT_POLICY_CAPABILITY)。

値は、次の値のうちのいずれかです。

MQCAP_SUPPORTED

キュー・マネージャーを実行している IBM MQ のバージョンの IBM MQ AMS コンポーネントがインストールされている場合。

MQCAP_NOT_SUPPORTED

IBM MQ AMS コンポーネントがインストールされていない場合。

SSLCRLNamelist (MQCFST)

SSL 証明書取り消しの場所の名前リスト (パラメーター ID: MQCA_SSL_CRL_NAMELIST)。

ストリングの長さは MQ_NAMELIST_NAME_LENGTH です。

キュー・マネージャーが行う証明書取り消し検査で使用する認証情報オブジェクトの名前リストの名前を示します。

SSLCRLNamelist(MQCFST) によって参照される名前リストでは、タイプ LDAPCRL または OCSP の認証情報オブジェクトだけが許可されます。その他のタイプは、リストが処理される際にエラー・メッセージを出し、それ以降は無視されます。

SSLCryptoHardware (MQCFST)

SSL 暗号ハードウェアを構成するパラメーター (パラメーター ID: MQCA_SSL_CRYPTOHARDWARE)。

ストリングの長さは MQ_SSL_CRYPTOHARDWARE_LENGTH です。

システム上に存在する暗号ハードウェアの構成に必要なパラメーター・ストリングを設定します。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Solaris、Linux、および Windows でのみサポートされます。

SSLEvent (MQCFIN)

SSL イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_SSL_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

SSLFipsRequired (MQCFIN)

IBM MQ 自体で暗号化を実行する場合に、FIPS 認証アルゴリズムのみを使用するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_SSL_FIPS_REQUIRED)。このパラメーターは、Windows Linux UNIX および z/OS プラットフォームでのみ有効です。

値は次のいずれかです。

MQSSL_FIPS_NO

サポートされる任意の CipherSpec を使用できます。

MQSSL_FIPS_YES

暗号化が暗号ハードウェアではなく IBM MQ で実行される場合に、FIPS 認証暗号アルゴリズムのみを使用します。

SSLKeyRepository (MQCFST)

SSL キー・リポジトリの場所および名前 (パラメーター ID: MQCA_SSL_KEY_REPOSITORY)。

ストリングの長さは MQ_SSL_KEY_REPOSITORY_LENGTH です。

Secure Sockets Layer 鍵リポジトリの名前を示します。

名前の形式は環境によって異なります。

SSLKeyResetCount (MQCFIN)

SSL 鍵リセット・カウント (パラメーター ID: MQIA_SSL_RESET_COUNT)。

秘密鍵の再ネゴシエーションの前に、開始 SSL チャンネル MCA が送受信する暗号化されていないバイト数。

SSLTasks (MQCFIN)

SSL 呼び出しの処理に使用されるサーバー・サブタスクの数 (パラメーター ID: MQIA_SSL_TASKS)。

SSL 呼び出しの処理に使用されるサーバー・サブタスクの数。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

StartStopEvent (MQCFIN)

開始および停止イベントを生成するかどうかを制御します (パラメーター ID: MQIA_START_STOP_EVENT)。

値は次のいずれかです。

MQEVR_DISABLED

イベント報告は無効です。

MQEVR_ENABLED

イベント報告は有効です。

StatisticsInterval (MQCFIN)

統計モニター・データがモニター・キューに書き込まれる秒単位の時間間隔 (パラメーター ID: MQIA_STATISTICS_INTERVAL)。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows でのみ有効です。

SyncPoint (MQCFIN)

同期点の可用性 (パラメーター ID: MQIA_SYNCPOINT)。

値は次のいずれかです。

MQSP_AVAILABLE

作業単位および同期点を使用できます。

MQSP_NOT_AVAILABLE

作業単位および同期点は使用できません。

TCPChannels (MQCFIN)

TCP/IP 伝送プロトコルを使用する、現行チャンネルにすることが可能なチャンネルの最大数、または接続できるクライアントの最大数 (パラメーター ID: MQIA_TCP_CHANNELS)。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

TCPKeepAlive (MQCFIN)

TCP KEEPALIVE 機能を使用して、接続の相手側がまだ使用可能な状態であることを確認するかどうか (パラメーター ID: MQIA_TCP_KEEP_ALIVE) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQTCPKEEP_YES

TCP プロファイルの構成データ・セットで指定されたとおりに、TCP KEEPALIVE 機能が使用されます。間隔は、*KeepAliveInterval* チャンネル属性で指定されます。

MQTCPKEEP_NO

TCP KEEPALIVE 機能は使用されません。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

TCPName (MQCFST)

ご使用の TCP/IP システムの名前 (パラメーター ID: MQIA_TCP_NAME)。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

TCPStackType (MQCFIN)

チャンネル・イニシエーターが *TCPName* で指定された TCP/IP アドレス・スペースだけを使用するかどうか、または選択した任意の TCP/IP アドレスにバインドするかどうか (パラメーター ID: MQIA_TCP_STACK_TYPE) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQTCPSTACK_SINGLE

チャンネル・イニシエーターは、*TCPName* で指定された TCP/IP アドレス・スペースのみを使用できます。

MQTCPSTACK_MULTIPLE

チャンネル・イニシエーターは、使用可能な TCP/IP アドレス・スペースをすべて使用できます。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

TraceRouteRecording (MQCFIN)

トレース経路情報が記録できるかおよび応答メッセージが生成できるかどうか (パラメーター ID: MQIA_TRACE_ROUTE_RECORDING) を指定します。

値は次のいずれかです。

MQRECORDING_DISABLED

トレース経路情報は記録できません。

MQRECORDING_MSG

トレース経路情報を記録し、そのトレース経路レコードの生成原因であるメッセージの発信元に指定されている宛先に送信することができます。

MQRECORDING_Q

トレース経路情報を記録し、SYSTEM.ADMIN.TRACE.ROUTE.QUEUE に送信することができます。

TreeLifeTime (MQCFIN)

非管理トピックの秒単位の存続時間 (パラメーター ID: MQIA_TREE_LIFE_TIME)。

非管理トピックは、管理ノードとして存在していないトピック・ストリングにアプリケーションがパブリッシュ (またはサブスクライブ) するときに作成されるトピックです。この非管理ノードにアクティブなサブスクリプションがなくなった場合、このパラメーターは、キュー・マネージャーがそのノードを除去する前に待機する時間を決定します。永続サブスクリプションによって使用中の非管理トピックのみ、キュー・マネージャーによるリサイクル後も残されます。

値の範囲は 0 から 604,000 です。値 0 は、非管理トピックがキュー・マネージャーによって削除されないことを意味します。キュー・マネージャーの初期デフォルト値は 1800 です。

TriggerInterval (MQCFIN)

トリガー間隔 (パラメーター ID: MQIA_TRIGGER_INTERVAL)。

TriggerType の値が MQTT_FIRST であるキューのみに使用される、トリガー時間間隔をミリ秒で指定します。

Version (MQCFST)

IBM MQ コードのバージョン (パラメーター ID: MQCA_VERSION)。

IBM MQ コードのバージョンは、VRRMMFF に示されます。

VV: バージョン

RR: リリース

MM: 保守レベル

FF: フィックス・レベル

XrCapability (MQCFIN)

キュー・マネージャーで IBM MQ Telemetry の機能とコマンドがサポートされるかどうかを示します。XrCapability の値は MQCAP_SUPPORTED または MQCAP_NOT_SUPPORTED です (パラメーター ID: MQIA_XR_CAPABILITY)。

このパラメーターは、IBM i、UNIX システム、および Windows にのみ適用されます。

関連情報

[MQI クライアントでの実行時に FIPS 認定の CipherSpec のみを使用するように指定する](#)

[UNIX、Linux および Windows での連邦情報処理標準 \(FIPS\)](#)

IBM i distributed Multiplatforms での MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS (Inquire Queue Manager Status)

Inquire Queue Manager Status (MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS) PCF コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーの状況について照会します。

オプション・パラメーター

QMStatusAttrs (MQCFIL)

キュー・マネージャー状況属性 (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_STATUS_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_Q_MGR_NAME

ローカル・キュー・マネージャーの名前。

MQCA_INSTALLATION_DESC

キュー・マネージャーと関連付けられたインストールの記述。

MQCA_INSTALLATION_NAME

キュー・マネージャーに関連付けられたインストールの名前。

MQCA_INSTALLATION_PATH

キュー・マネージャーと関連付けられたインストールのパス。

MQCACF_ARCHIVE_LOG_EXTENT_NAME

キュー・マネージャーがアーカイブ通知を待っている一番古いログ・エクステントの名前。

ストリングの最大長は MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH です。

キュー・マネージャーがアーカイブ・ログ管理を使用していない場合、この属性はブランクです。
このパラメーターは、IBM i では無効です。

MQCACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME

現在ロガーによる書き込みが行われているログ・エクステントの名前。

MQCACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME は、リニア・ログを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。他のキュー・マネージャーでは、MQCACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME はブランクになります。

MQCACF_LOG_PATH

リカバリー・ログ・エクステントの場所。

MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME

メディア・リカバリーの実行に必要な、最も古いログ・エクステントの名前。

MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME は、リニア・ログを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。他のキュー・マネージャーでは、MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME はブランクになります。

MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME

再始動リカバリーの実行に必要な、最も古いログ・エクステントの名前。

MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME は、リニア・ログを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。他のキュー・マネージャーでは、MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME はブランクになります。

MQCACF_Q_MGR_START_DATE

キュー・マネージャーが開始した日付 (yyyy-mm-dd の形式)。この属性の長さは MQ_DATE_LENGTH によって指定されます。

MQCACF_Q_MGR_START_TIME

キュー・マネージャーが開始した時刻 (hh.mm.ss の形式)。この属性の長さは MQ_TIME_LENGTH によって指定されます。

MQIACF_ARCHIVE_LOG_SIZE

再始動リカバリーやメディア・リカバリーに不要になり、アーカイブされるのを待っているログ・エクステントが占めている現在のスペースのサイズ (メガバイト単位)。

この属性は、IBM i では無効です。

MQIACF_CHINIT_STATUS

チャンネル・イニシエーターの現在の状況。

MQIACF_CMD_SERVER_STATUS

コマンド・サーバーの現在の状況。

MQIACF_CONNECTION_COUNT

キュー・マネージャーへの現在の接続数。

MQIACF_LDAP_CONNECTION_STATUS

LDAP サーバーへの接続の現在の状況。

MQIACF_LOG_IN_USE

現時点で再始動リカバリーのために使用されている 1 次ログ・スペースの比率。

この属性は、IBM i では無効です。

MQIACF_LOG_UTILIZATION

キュー・マネージャーのワークロードが占めている現在の 1 次ログ・スペースの推定比率。

この属性は、IBM i では無効です。

MQIACF_MEDIA_LOG_SIZE

メディア・リカバリーのために必要なログ・データの現在のサイズ (メガバイト単位)。

この属性は、IBM i では無効です。

MQIACF_PERMIT_STANDBY

スタンバイ・インスタンスが許可されているかどうか。

MQIACF_Q_MGR_STATUS

キュー・マネージャーの現在の状況。

MQIACF_Q_MGR_STATUS_LOG

すべてのログ属性の現在の状況。この属性は次のいずれかです。

- MQCACF_ARCHIVE_LOG_EXTENT_NAME
- MQIACF_ARCHIVE_LOG_SIZE
- MQCACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME
- MQIACF_LOG_IN_USE
- MQIACF_LOG_UTILIZATION
- MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME
- MQIACF_MEDIA_LOG_SIZE
- MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME
- MQIACF_RESTART_LOG_SIZE
- MQIACF_REUSABLE_LOG_SIZE

MQIACF_RESTART_LOG_SIZE

再始動リカバリーのために必要なログ・データのサイズ (メガバイト単位)。

この属性は、IBM i では無効です。

MQIACF_REUSABLE_LOG_SIZE

再使用が可能なログ・エクステントが占めているスペースの量 (メガバイト単位)。

この属性は、IBM i では無効です。

Multiplatforms での MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS (Inquire Queue Manager Status) 応答

Inquire Queue Manager Status (MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS) PCF コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *QMgrName* および *QMgrStatus* 構造と、要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

常に返されるデータ:

QMgrName, *QMgrStatus*

要求すると返されるデータ:

ArchiveLog, *ArchiveLogSize*, *ChannelInitiatorStatus*, *CommandServerStatus*, *ConnectionCount*, *CurrentLog*, *InstallationDesc*, *InstallationName*, *InstallationPath*, *LDAPConnectionStatus*, *LogInUse*, *LogPath*, *LogUtilization*, *MediaRecoveryLog*, *MediaRecoveryLogSize*, *PermitStandby*, *RestartRecoveryLogSize*, *ReusableLogSize*, *StartDate*, *StartTime*

応答データ

ArchiveLog (MQCFST)

キュー・マネージャーがアーカイブ通知を待っている一番古いログ・エクステントの名前。すべてアーカイブされている場合は空白 (パラメーター ID: MQIACF_ARCHIVE_LOG_EXTENT_NAME)。

ArchiveLogSize (MQCFIN)

再始動リカバリーやメディア・リカバリーに不要になり、アーカイブ保存を待っているログ・エクステントが占めている現在のスペースの量 (メガバイト単位) (パラメーター ID: MQIACF_ARCHIVE_LOG_SIZE)。

ChannelInitiatorStatus (MQCFIN)

SYSTEM.CHANNEL.INITQ を読み取るチャネル・イニシエーターの状況 (パラメーター ID: MQIACF_CHINIT_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_STATUS_STOPPED

チャネル・イニシエーターは稼働していません。

MQSVC_STATUS_STARTING

チャネル・イニシエーターは初期化の処理中です。

MQSVC_STATUS_RUNNING

チャネル・イニシエーターは初期化が完了し、稼働しています。

MQSVC_STATUS_STOPPING

チャネル・イニシエーターは停止します。

CommandServerStatus (MQCFIN)

コマンド・サーバーの状況 (パラメーター ID: MQIACF_CMD_SERVER_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_STATUS_STARTING

コマンド・サーバーは初期化の処理中です。

MQSVC_STATUS_RUNNING

コマンド・サーバーは初期化が完了し、稼働しています。

MQSVC_STATUS_STOPPING

コマンド・サーバーは停止します。

ConnectionCount (MQCFIN)

接続カウント (パラメーター ID: MQIACF_CONNECTION_COUNT)。

現在のキュー・マネージャーへの接続数。

CurrentLog (MQCFST)

ログ・エクステント名 (パラメーター ID: MQIACF_CURRENT_LOG_EXTENT_NAME)。

照会コマンドの実行時に書き込まれていたログ・エクステンツの名前です。キュー・マネージャーが循環ロギングを使用している場合、このパラメーターはブランクになります。

ストリングの最大長は MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH です。

InstallationDesc (MQCFST)

インストールの記述 (パラメーター ID: MQCA_INSTALLATION_DESC)

このキュー・マネージャーのインストールの記述。

InstallationName (MQCFST)

インストール名 (パラメーター ID: MQCA_INSTALLATION_NAME)

このキュー・マネージャーのインストール名。

InstallationPath (MQCFST)

インストール・パス (パラメーター ID: MQCA_INSTALLATION_PATH)

このキュー・マネージャーのインストール・パス。

LDAPConnectionStatus (MQCFIN)

LDAP サーバーへのキュー・マネージャーの接続の現在の状況 (パラメーター ID: MQIACF_LDAP_CONNECTION_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQLDAPC_CONNECTED

キュー・マネージャーは現在 LDAP サーバーに接続しています。

MQLDAPC_ERROR

キュー・マネージャーは LDAP サーバーに接続しようとして失敗しました。

MQLDAPC_INACTIVE

キュー・マネージャーが、LDAP サーバーを使用するように構成されていないか、まだ LDAP サーバーへの接続を確立していません。

LogInUse (MQCFIN)

現時点で再始動リカバリーのために使用されている 1 次ログ・スペースの比率 (パラメーター ID: MQIACF_LOG_IN_USE)。

LogPath (MQCFST)

リカバリー・ログ・エクステンツの場所 (パラメーター ID: MQCACF_LOG_PATH)。

このパラメーターは、キュー・マネージャーによってログ・ファイルが作成されるディレクトリーを示します。

ストリングの最大長は MQ_LOG_PATH_LENGTH です。

LogUtilization (MQCFIN)

キュー・マネージャーのワークロードが占めている現在の 1 次ログ・スペースの推定比率 (パラメーター ID: MQIACF_LOG_UTILIZATION)。

MediaRecoveryLog (MQCFST)

メディア・リカバリーを実行するためにキュー・マネージャーが必要とする最も古いログ・エクステンツの名前 (パラメーター ID: MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME)。このパラメーターは、リニア・ログを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。キュー・マネージャーが循環ロギングを使用している場合、このパラメーターはブランクになります。

ストリングの最大長は MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH です。

MediaRecoveryLogSize (MQCFIN)

メディア・リカバリーのために必要なログ・データの現在のサイズ (メガバイト単位) (パラメーター ID: MQIACF_MEDIA_LOG_SIZE)。

PermitStandby (MQCFIN)

スタンバイ・インスタンスが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIACF_PERMIT_STANDBY)。

値は次のいずれかです。

MQSTDBY_NOT_PERMITTED

スタンバイ・インスタンスは許可されていません。

MQSTDBY_PERMITTED

スタンバイ・インスタンスが許可されています。

QMgrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

QMgrStatus (MQCFIN)

キュー・マネージャーの現在の実行状況 (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_STATUS)。

値は次のいずれかです。

MQQMSTA_STARTING

キュー・マネージャーは初期化中です。

MQQMSTA_RUNNING

キュー・マネージャーは初期化が完了し、稼働しています。

MQQMSTA QUIESCING

キュー・マネージャーは静止しています。

RestartRecoveryLog (MQCFST)

再始動リカバリーを実行するためにキュー・マネージャーが必要とする最も古いログ・エクステンツの名前 (パラメーター ID: MQCACF_RESTART_LOG_EXTENT_NAME)。

このパラメーターは、リニア・ログを使用するキュー・マネージャーでのみ有効です。キュー・マネージャーが循環ログイングを使用している場合、このパラメーターはブランクになります。

ストリングの最大長は MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH です。

RestartRecoveryLogSize (MQCFIN)

再始動リカバリーのために必要なログ・データのサイズ (メガバイト単位) (パラメーター ID: MQIACF_RESTART_LOG_SIZE)。

ReusableLogSize (MQCFIN)

再使用可能なログ・エクステンツが占めているスペースの量 (メガバイト単位) (パラメーター ID: MQIACF_REUSABLE_LOG_SIZE)。

StartDate (MQCFST)

このキュー・マネージャーが開始された日付 (yyyy-mm-dd 形式) (パラメーター ID: MQCACF_Q_MGR_START_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

StartTime (MQCFST)

このキュー・マネージャーが開始された時刻 (hh:mm:ss 形式) (パラメーター ID: MQCACF_Q_MGR_START_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

Inquire Queue Names

Inquire Queue Names (MQCMD_INQUIRE_Q_NAMES) コマンドは、総称キュー名に一致するキュー名のリスト、および指定したオプションのキュー・タイプを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

QName(MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

総称キュー名がサポートされます。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_Q_LENGTH です。

オプション・パラメーター

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。MQQSGD_SHARED は、共有キュー環境でのみ許可されています。

QType (MQCFIN)

キュー・タイプ (パラメーター ID: MQIA_Q_TYPE)。

このパラメーターを指定すると、返されるキュー名が、指定したタイプのキューに限定されます。このパラメーターが指定されていない場合、すべてのタイプのキューが適格になります。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQT_ALL

すべてのキュー・タイプ。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

このパラメーターを指定しない場合のデフォルト値は、MQQT_ALL です。

Inquire Queue Names (応答)

Inquire Queue Names (MQCMD_INQUIRE_Q_NAMES) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く 1 つのパラメーター構造から構成され、指定したキュー名に一致する 0 個以上の名前が返されます。応答ヘッダーの後には、QNames 構造と同数の項目を持つ QTypes 構造が続きます。各項目は、QNames 構造内に対応する項目を持つキューのタイプを返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

z/OS

さらに、z/OS の場合のみ、QSGDispositions パラメーター構造 (QNames 構造と同数の項目を持つ) が返されます。この構造内の各項目は、QNames 構造内の対応する項目を持つオブジェクトの属性指定を示します。

常に返されるデータ:

QNames , **z/OS** QSGDispositions , QTypes

要求すると返されるデータ:

なし

応答データ

QNames(MQCFSL)

キュー名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_Q_NAMES)。

z/OS

QSGDispositions (MQCFIL)

QSG 属性指定のリスト (パラメーター ID: MQIACF_QSG_DISPS)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。この構造内のフィールドの可能な値は、次のとおりです。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。

QTypes (MQCFIL)

キュー・タイプのリスト (パラメーター ID: MQIACF_Q_TYPES)。この構造内のフィールドの可能な値は、次のとおりです。

MQQT_ALIAS

別名キュー定義。

MQQT_LOCAL

ローカル・キュー。

MQQT_REMOTE

リモート・キューのローカル定義。

MQQT_MODEL

モデル・キュー定義。

Inquire Queue Status

Inquire Queue Status (MQCMD_INQUIRE_Q_STATUS) コマンドは、ローカル IBM MQ キューの状況について照会します。状況情報を受け取りたいローカル・キューの名前を指定する必要があります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

QName(MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

総称キュー名がサポートされます。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前のすべてのキューが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

どんな属性が要求されたかに関係なく、キュー名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Inquire Queue Status)

ByteStringFilterCommand(MQCFBF)

バイト・ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID または MQBACF_Q_MGR_UOW_ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、1872 ページの『MQCFBF - PCF バイト・ストリング・フィルター・パラメーター』を参照してください。

バイト・ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを、または *StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

➤ z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを開始するのかを指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで開始されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで開始されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用していること、およびコマンド・サーバーが開始されていることが必要です。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで開始され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_ALL、MQIACF_MONITORING、および MQIACF_Q_TIME_INDICATOR を除く、*QStatusAttrs* で使用可能な整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、*ByteStringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを、または *StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

OpenType(MQCFIN)

キュー状況オープン・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_TYPE)。

これは、要求したキュー・インスタンス属性とは無関係に、常に返されます。

値は次のいずれかです。

MQQSOT_ALL

任意のタイプのアクセスでオープンされるキューの状況を選択します。

MQQSOT_INPUT

入力のためにオープンされるキューの状況を選択します。

MQQSOT_OUTPUT

出力のためにオープンされるキューの状況を選択します。

このパラメーターを指定しない場合のデフォルト値は MQQSOT_ALL です。

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

➤ z/OS

QSGDispositon (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。

QSGDispositon をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

QStatusAttr(MQCFIL)

キュー状況属性 (パラメーター ID: MQIACF_Q_STATUS_ATTR)。

属性リストには、次の値を単独で指定できます (このパラメーターを指定しない場合はデフォルト値が使用される)。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

StatusType が MQIACF_Q_STATUS である場合:

MQCA_Q_NAME

キュー名。

MQCACF_LAST_GET_DATE

最後のメッセージが正常にキューから破壊読み取りされた日付。

MQCACF_LAST_GET_TIME

最後のメッセージが正常にキューから破壊読み取りされた時刻。

MQCACF_LAST_PUT_DATE

最後のメッセージが正常にキューに書き込まれた日付。

MQCACF_LAST_PUT_TIME

最後のメッセージが正常にキューに書き込まれた時刻。

MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME

キューのメディア・リカバリーを実行するために必要な最も古いログ・エクステンツの ID。

IBM i では、このパラメーターが、キューのメディア・リカバリーを実行するために必要な最も古いジャーナル・レシーバーの名前を識別します。

MQIA_CURRENT_Q_DEPTH

キュー上のメッセージの現在の数。

MQIA_MONITORING_Q

モニター・データ収集の現在のレベル。

MQIA_OPEN_INPUT_COUNT

キューの入力のために現在オープンしているハンドルの数。MQIA_OPEN_INPUT_COUNT には、ブラウザ用にオープンしているハンドルは含まれません。

MQIA_OPEN_OUTPUT_COUNT

キューの出力のために現在オープンしているハンドルの数。

MQIACF_HANDLE_STATE

API 呼び出しが進行中かどうか。

MQIACF_MONITORING

すべてのキュー状況モニター属性。以下の属性が該当します。

- MQCACF_LAST_GET_DATE
- MQCACF_LAST_GET_TIME
- MQCACF_LAST_PUT_DATE
- MQCACF_LAST_PUT_TIME
- MQIA_MONITORING_Q

- MQIACF_OLDEST_MSG_AGE
- MQIACF_Q_TIME_INDICATOR

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

MQIACF_OLDEST_MSG_AGE

キュー上で最も古いメッセージの経過時間。

MQIACF_Q_TIME_INDICATOR

メッセージがキュー上にとどまる時間の標識。

MQIACF_UNCOMMITTED_MSGS

キューでコミットされていないメッセージの数。

StatusType が MQIACF_Q_HANDLE である場合:

MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID

キュー・マネージャーによって割り当てられたリカバリー単位 ID。

MQBACF_Q_MGR_UOW_ID

接続に関連付けられた外部リカバリー単位 ID。

MQCA_Q_NAME

キュー名。

MQCACF_APPL_TAG

このパラメーターは、キュー・マネージャーに接続されたアプリケーションのタグを含むストリングです。

MQCACF_ASID

ApplTag で指定されたアプリケーションのアドレス・スペース ID。このパラメーターは、z/OSでのみ有効です。

MQCACF_PSB_NAME

実行中の IMS トランザクションに関連付けられたプログラム仕様ブロック (PSB) の名前。このパラメーターは、z/OSでのみ有効です。

MQCACF_PSTID

接続された IMS 領域の IMS プログラム仕様テーブル (PST) の ID。このパラメーターは、z/OSでのみ有効です。

MQCACF_TASK_NUMBER

CICS タスク番号。このパラメーターは、z/OSでのみ有効です。

MQCACF_TRANSACTION_ID

CICS トランザクション ID。このパラメーターは、z/OSでのみ有効です。

MQCACF_USER_IDENTIFIER

指定されたキューをオープンしたアプリケーションのユーザー名。

MQCACH_CHANNEL_NAME

キューをオープンしたチャンネルがあれば、その名前。

MQCACH_CONNECTION_NAME

キューをオープンしたチャンネルがあれば、その接続名。

MQIA_APPL_TYPE

キューをオープンしたアプリケーションのタイプ。

MQIACF_OPEN_BROWSE

オープン・ブラウズ。

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

MQIACF_OPEN_INPUT_TYPE

オープン入力タイプ。

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

MQIACF_OPEN_INQUIRE

オープン照会。

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

MQIACF_OPEN_OPTIONS

キューをオープンするために使用されたオプション。

このパラメーターが要求された場合は、以下のパラメーター構造も返されます。

- *OpenBrowse*
- *OpenInputType*
- *OpenInquire*
- *OpenOutput*
- *OpenSet*

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

MQIACF_OPEN_OUTPUT

オープン出力。

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

MQIACF_OPEN_SET

オープン設定。

フィルター処理は、このパラメーターではサポートされていません。

MQIACF_PROCESS_ID

指定されたキューをオープンしたアプリケーションのプロセス ID。

MQIACF_ASYNC_STATE

MQIACF_THREAD_ID

指定されたキューをオープンしたアプリケーションのスレッド ID。

MQIACF_UOW_TYPE

キュー・マネージャーが認識する外部リカバリー単位 ID のタイプ。

StatusType(MQCFIN)

キュー状況タイプ (パラメーター ID: MQIACF_Q_STATUS_TYPE)。

必要な状況情報のタイプを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIACF_Q_STATUS

キューに関連する状況情報を選択します。

MQIACF_Q_HANDLE

キューにアクセスしているハンドルに関連する状況情報を選択します。

このパラメーターを指定しない場合のデフォルト値は、MQIACF_Q_STATUS です。

StatusType をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_Q_NAME を除く、*QStatusAttrs* で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*ByteStringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを、または *IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを同時に指定することはできません。

エラー・コード

このコマンドは、応答形式ヘッダー 1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に以下のエラー・コードを返します。また、関連する値がある場合には、その値も返します。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_Q_TYPE_ERROR

キュー・タイプは無効です。

Inquire Queue Status (応答)

Inquire Queue Status (MQCMD_INQUIRE_Q_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *QName* 構造、および Inquire コマンドの *StatusType* の値に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

QName ,  *QSGDisposition* , *StatusType*

StatusType に指定できる値は、以下のとおりです。

MQIACF_Q_STATUS

キューに関連する状況情報を返します。

MQIACF_Q_HANDLE

キューにアクセスしているハンドルに関連する状況情報を返します。

***StatusType* が MQIACF_Q_STATUS の場合に要求すると返されるデータ:**

CurrentQDepth , *LastGetDate* , *LastGetTime* , *LastPutDate* , *LastPutTime* ,
MediaRecoveryLogExtent , *OldestMsgAge* , *OnQTime* , *OpenInputCount* , *OpenOutputCount* ,
QueueMonitoring , *UncommittedMsgs*

***StatusType* が MQIACF_Q_HANDLE の場合に要求すると返されるデータ:**

ApplDesc , *ApplTag* , *ApplType* ,  *ASId* , *AsynchronousState* ,
ChannelName , *ConnectionName* ,  *ExternalUOWId* , *HandleState* ,
OpenOptions , *ProcessId* ,  *PSBName* ,  *PSTId* , *QMgrUOWId* ,
 *TaskNumber* , *ThreadId* ,  *TransactionId* , *UOWIdentifier* ,
UOWType , *UserIdentifier*

StatusType が MQIACF_Q_STATUS の場合の応答データ

CurrentQDepth(MQCFIN)

現行キュー項目数 (パラメーター ID: MQIA_CURRENT_Q_DEPTH)。

LastGetDate (MQCFST)

最後のメッセージがキューから破壊読み取りされた日付 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_GET_DATE)。

最後のメッセージが正常にキューから読み取られた日付 (yyyy-mm-dd の形式) です。日付は、キュー・マネージャーが実行されている時間帯に返されます。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

LastGetTime (MQCFST)

最後のメッセージがキューから破壊読み取りされた時刻 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_GET_TIME)。

最後のメッセージが正常にキューから読み取られた時刻 (hh.mm.ss の形式) です。時刻は、キュー・マネージャーが実行されている時間帯に返されます。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

LastPutDate (MQCFST)

最後のメッセージが正常にキューに書き込まれた日付 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_PUT_DATE)。

最後のメッセージが正常にキューへ書き込まれた日付 (yyyy-mm-dd の形式) です。日付は、キュー・マネージャーが実行されている時間帯に返されます。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

LastPutTime (MQCFST)

最後のメッセージが正常にキューに書き込まれた時刻 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_PUT_TIME)。

最後のメッセージが正常にキューへ書き込まれた時刻 (hh.mm.ss の形式) です。時刻は、キュー・マネージャーが実行されている時間帯に返されます。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

MediaRecoveryLogExtent (MQCFST)

キューのメディア・リカバリーを実行するために必要な最も古いログ・エクステントの名前 (パラメーター ID: MQCACF_MEDIA_LOG_EXTENT_NAME)。

IBM i では、このパラメーターが、キューのメディア・リカバリーを実行するために必要な最も古いジャーナル・レシーバーの名前を識別します。

返される名前の形式は Snnnnnnnn.LOG であり、完全修飾パス名ではありません。このパラメーターを使用することにより、メディア・リカバリー LSN の進行を妨げるキューを識別するための **rcdmqimg** コマンドに続いて出されたメッセージに、この名前を簡単に相関できるようになります。

このパラメーターは、AIX、HP-UX、Linux、IBM i、Solaris、および Windows で有効です。

ストリングの最大長は MQ_LOG_EXTENT_NAME_LENGTH です。

OldestMsgAge(MQCFIN)

最も古いメッセージの経過時間 (パラメーター ID: MQIACF_OLDEST_MSG_AGE)。キューの最も古いメッセージの経過秒数。

値が無効な場合は、MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。キューが空の場合は、0 が返されます。999 999 999 を超えた値は、999 999 999 として返されます。

OnQTime (MQCFIL)

メッセージがキュー上にとどまる時間の標識 (パラメーター ID: MQIACF_Q_TIME_INDICATOR)。メッセージがキュー上で費やした時間 (マイクロ秒) です。次の 2 つの値が返されます。

- 短時間における最近のアクティビティーを基にした値。
- 長時間におけるアクティビティーを基にした値。

測定が有効でない場合は、値 MQMON_NOT_AVAILABLE が返されます。999 999 999 を超えた値は、999 999 999 として返されます。

OpenInputCount(MQCFIN)

オープン入力カウンタ (パラメーター ID: MQIA_OPEN_INPUT_COUNT)。

OpenOutputCount(MQCFIN)

オープン出力カウンタ (パラメーター ID: MQIA_OPEN_OUTPUT_COUNT)。

QName (MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。



QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの特性 (つまり、オブジェクトが定義されている場所とその動作) が返されます。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。

QueueMonitoring(MQCFIN)

キューのモニター・データ収集の現在のレベル (パラメーター ID: MQIA_MONITORING_Q)。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQMON_OFF

キューのモニターはオフになります。

MQMON_LOW

低比率のデータ収集。

MQMON_MEDIUM

中比率のデータ収集。

MQMON_HIGH

高比率のデータ収集。

StatusType (MQCFST)

キュー状況タイプ (パラメーター ID: MQIACF_Q_STATUS_TYPE)。

状況情報のタイプを指定します。

UncommittedMsgs(MQCFIN)

キューで保留されているコミットされていない変更 (書き込みおよび取得) の数 (パラメーター ID: MQIACF_UNCOMMITTED_MSGS)。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSUM_YES

(z/OS の場合) 保留中のコミットされていない変更が 1 つ以上ある。

MQQSUM_NO

保留中のコミットされていない変更内容はありません。

n

(z/OS 以外のプラットフォームの場合) 保留中のコミットされていない変更の数を示す整数値。

StatusType が MQIACF_Q_HANDLE の場合の応答データ**ApplDesc (MQCFST)**

アプリケーション記述 (パラメーター ID: MQCACF_APPL_DESC)。

最大長は MQ_APPL_DESC_LENGTH です。

ApplTag (MQCFST)

オープン・アプリケーション・タグ (パラメーター ID: MQCACF_APPL_TAG)。

ストリングの最大長は MQ_APPL_TAG_LENGTH です。

ApplType(MQCFIN)

オープン・アプリケーション・タイプ (パラメーター ID: MQIA_APPL_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQAT_QMGR

キュー・マネージャーのプロセス。

MQAT_CHANNEL_INITIATOR

チャンネル・イニシエーター。

MQAT_USER

ユーザー・アプリケーション。

MQAT_BATCH

バッチ接続を使用するアプリケーション。MQAT_BATCH は z/OS にのみ適用されます。

MQAT_RRS_BATCH

バッチ接続を使用する RRS 調整アプリケーション。MQAT_RRS_BATCH は z/OS にのみ適用されます。

MQAT_CICS

CICS トランザクション。MQAT_CICS は z/OS にのみ適用されます。

MQAT_IMS

IMS トランザクション。MQAT_IMS は z/OS にのみ適用されます。

MQAT_SYSTEM_EXTENSION

キュー・マネージャーによって提供される機能の拡張を実行するアプリケーション

z/OS

ASId (MQCFST)

アドレス・スペース ID (パラメーター ID: MQCACF_ASID)。

ApplTag によって識別されるアプリケーションの 4 文字のアドレス・スペース ID。 *ApplTag* の重複値を区別します。このパラメーターは、z/OS にのみ適用されます。

ストリングの長さは MQ_ASID_LENGTH です。

AsynchronousState(MQCFIN)

このキューの非同期利用者の状態 (パラメーター ID: MQIACF_ASYNC_STATE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQAS_ACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされ、接続ハンドルが開始されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを続行できます。

MQAS_INACTIVE

メッセージを非同期で処理するように、コールバックを行う機能が MQCB 呼び出しでセットアップされていますが、接続ハンドルがまだ開始されていないか、停止または中断されています。これにより、非同期メッセージ・コンシュームを現在続行できません。

MQAS_SUSPENDED

非同期コンシュームのコールバックが中断されたため、現在このハンドルで非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。この状態は、このオブジェクト・ハンドルに対して操作 MQOP_SUSPEND を指定した MQCB または MQCTL 呼び出しがアプリケーションによって発行されたか、あるいはシステムによって中断されたことが原因で発生した可能性があります。システムによって中断された場合は、非同期メッセージ・コンシュームを中断するプロセスの一環として、中断の原因となった問題を示す理由コードでコールバック関数が呼び出されます。この状態は、コールバックに渡される MQCBC 構造体の *Reason* フィールドで報告されます。非同期メッセージ・コンシュームを続行するには、アプリケーションで操作 MQOP_RESUME を指定して MQCB または MQCTL 呼び出しを発行する必要があります。

MQAS_SUSPENDED_TEMPORARY

非同期コンシュームのコールバックがシステムにより一時的に中断されたため、現在このオブジェクト・ハンドルで非同期メッセージ・コンシュームを続行できません。非同期メッセージ・コンシュームの中断プロセスの一部として、コールバック機能が呼び出され、中断を生じさせた問題について記述している理由コードが示されます。この状態は、コールバックに渡される MQCBC 構造体の *Reason* フィールドで報告されます。一時的な条件が解決された後、非同期メッセージ・コンシュームがシステムによって再開されると、コールバック機能が再び呼び出されます。

MQAS_NONE

このハンドルに対して MQCB 呼び出しが発行されていないため、非同期メッセージ・コンシュームがこのハンドルで構成されていません。

ChannelName (MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

Conname (MQCFST)

接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

**ExternalUOWId (MQCFBS)**

RRS リカバリー単位 ID (パラメーター ID: MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID)。

ハンドルに関連付けられた RRS リカバリー単位です。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの長さは MQ_EXTERNAL_UOW_ID_LENGTH です。

HandleState (MQCFIN)

ハンドルの状態 (パラメーター ID: MQIACF_HANDLE_STATE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQHSTATE_ACTIVE

接続からの API 呼び出しが、このオブジェクトで現在進行中です。キューで、MQGET WAIT 呼び出しが進行中のときに、この状態が生じる場合があります。

未解決の MQGET SIGNAL がある場合、それだけでは、ハンドルがアクティブであることを意味しません。

MQHSTATE_INACTIVE

接続からの API 呼び出しが、このオブジェクトで現在進行中ではありません。キューで、MQGET WAIT 呼び出しが進行中ではないときに、この状態が生じる場合があります。

OpenBrowse (MQCFIN)

オープン・ブラウズ (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_BROWSE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSO_YES

キューがブラウズのためにオープンされます。

MQQSO_NO

キューがブラウズのためにオープンされません。

OpenInputType (MQCFIN)

オープン入力タイプ (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_INPUT_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSO_NO

キューは入力のためにオープンされません。

MQQSO_SHARED

キューが共有入力のためにオープンされます。

MQQSO_EXCLUSIVE

キューが排他的入力のためにオープンされます。

OpenInquire (MQCFIN)

オープン照会 (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_INQUIRE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSO_YES

キューが照会のためにオープンされます。

MQQSO_NO

キューが照会のためにオープンされません。

OpenOptions(MQCFIN)

キューで現在有効になっているオープン・オプション (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_OPTIONS)。

OpenOutput(MQCFIN)

オープン出力 (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_OUTPUT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSO_YES

キューが出力のためにオープンされます。

MQQSO_NO

キューは出力のためにオープンされません。

OpenSet(MQCFIN)

オープン設定 (パラメーター ID: MQIACF_OPEN_SET)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSO_YES

キューが設定のためにオープンされます。

MQQSO_NO

キューが設定のためにオープンされません。

ProcessId (MQCFIN)

オープン・アプリケーション・プロセス ID (パラメーター ID: MQIACF_PROCESS_ID)。

**PSBName (MQCFST)**

プログラム仕様ブロック (PSB) 名 (パラメーター ID: MQCACF_PSB_NAME)。

実行中の IMS トランザクションに関連付けられた PSB の 8 文字の名前。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの長さは MQ_PSB_NAME_LENGTH です。

**PSTId (MQCFST)**

プログラム仕様テーブル (PST) ID (パラメーター ID: MQCACF_PST_ID)。

接続された IMS 領域の 4 文字の PST 領域 ID。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの長さは MQ_PST_ID_LENGTH です。

QMgrUOWId (MQCFBS)

キュー・マネージャーによって割り当てられたリカバリー単位 (パラメーター ID: MQBACF_Q_MGR_UOW_ID)。

z/OS では、このパラメーターは 8 バイトのログ RBA で、16 文字の 16 進文字で表示されます。z/OS 以外のプラットフォームでは、このパラメーターは 8 バイトのトランザクション ID であり、16 進文字として表示されます。

ストリングの最大長は MQ_UOW_ID_LENGTH です。

QName (MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。



QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの特性 (つまり、オブジェクトが定義されている場所とその動作) が返されます。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。

StatusType (MQCFST)

キュー状況タイプ (パラメーター ID: MQIACF_Q_STATUS_TYPE)。

状況情報のタイプを指定します。



TaskNumber (MQCFST)

CICS タスク番号 (パラメーター ID: MQCACF_TASK_NUMBER)。

7 桁の CICS タスク番号。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの長さは MQ_TASK_NUMBER_LENGTH です。

ThreadId(MQCFIN)

オープン・アプリケーションのスレッド ID (パラメーター ID: MQIACF_THREAD_ID)。

値 0 は、ハンドルが共有接続によってオープンされたことを示します。共有接続によって作成されたハンドルは、論理的にすべてのスレッドに対してオープンされます。



TransactionId (MQCFST)

CICS トランザクション ID (パラメーター ID: MQCACF_TRANSACTION_ID)。

4 文字の CICS トランザクション ID。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

ストリングの長さは MQ_TRANSACTION_ID_LENGTH です。

UOWIdentifier (MQCFBS)

接続に関連付けられた外部リカバリー単位 (パラメーター ID: MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID)。

このパラメーターは、リカバリー単位のリカバリー ID です。この形式は値 *UOWType* で決まります。

ストリングの最大長は MQ_UOW_ID_LENGTH です。

UOWType(MQCFIN)

キュー・マネージャーによって認識された外部リカバリー単位 ID のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_UOW_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUOWT_Q_MGR

MQUOWT_CICS

z/OS でのみ有効です。

MQUOWT_RRS

z/OS でのみ有効です。

MQUOWT_IMS

z/OS でのみ有効です。

MQUOWT_XA

UOWType は *UOWIdentifier* タイプを認識し、トランザクション・コーディネーターのタイプは認識しません。*UOWType* の値が *MQUOWT_Q_MGR* の場合は、関連する ID が *QMgrUOWId* にあります (*UOWIdentifier* にはありません)。

UserIdentifier (MQCFST)

オープン・アプリケーション・ユーザー名 (パラメーター ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER)。

ストリングの最大長は MQ_MAX_USER_ID_LENGTH です。

z/OS Inquire Security

Inquire Security (MQCMD_INQUIRE_SECURITY) コマンドは、セキュリティー・パラメーターの現行設定に関する情報を返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

SecurityAttrs (MQCFIL)

セキュリティー・パラメーター属性 (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQIACF_SECURITY_SWITCH

スイッチ・プロファイルの現行設定。 サブシステム・セキュリティー・スイッチがオフの場合、他のスイッチ・プロファイル設定は返されません。

MQIACF_SECURITY_TIMEOUT

タイムアウト値。

MQIACF_SECURITY_INTERVAL

検査から次の検査までの時間間隔。

z/OS Inquire Security (応答)

Inquire Security (MQCMD_INQUIRE_SECURITY) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーに続いて、要求に応じて組み合わされた 属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

コマンドで *SecurityTimeout* または *SecurityInterval* が指定された場合は、1つのメッセージが返されます。*SecuritySwitch* が指定された場合は、見つかったセキュリティ・スイッチごとに1つのメッセージが返されます。このメッセージには、*SecuritySwitch*、*SecuritySwitchSetting*、および *SecuritySwitchProfile* 属性パラメーター構造が含まれます。

要求すると返されるデータ:

SecurityInterval, *SecuritySwitch*, *SecuritySwitchProfile*, *SecuritySwitchSetting*, *SecurityTimeout*

応答データ

***SecurityInterval* (MQCFIN)**

検査間の時間間隔 (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_INTERVAL)。

SecurityTimeout の期限が切れたかどうかを 判別するために、ユーザー ID とその関連リソースを検査する間隔 (分) です。

***SecuritySwitch* (MQCFIN)**

セキュリティ・スイッチ・プロファイル (パラメーター ID: MQIA_CF_LEVEL)。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSECSW_SUBSYSTEM

サブシステム・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_Q_MGR

キュー・マネージャー・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_QSG

キュー共有グループ・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_CONNECTION

接続セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_COMMAND

コマンド・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_CONTEXT

コンテキスト・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_ALTERNATE_USER

代替ユーザー・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_PROCESS

プロセス・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_NAMELIST

名前リスト・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_TOPIC

トピック・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_Q

キュー・セキュリティ・スイッチ。

MQSECSW_COMMAND_RESOURCES

コマンド・リソース・セキュリティ・スイッチ。

***SecuritySwitchProfile* (MQCFST)**

セキュリティ・スイッチ・プロファイル (パラメーター ID: MQCACF_SECURITY_PROFILE)。

ストリングの最大長は MQ_SECURITY_PROFILE_LENGTH です。

***SecuritySwitchSetting* (MQCFIN)**

セキュリティ・スイッチの設定 (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_SETTING)。

値は次のいずれかです。

MQSECSW_ON_FOUND

スイッチ ON、プロファイル検出。

MQSECSW_OFF_FOUND

スイッチ OFF、プロファイル検出。

MQSECSW_ON_NOT_FOUND

スイッチ ON、プロファイル非検出。

MQSECSW_OFF_NOT_FOUND

スイッチ OFF、プロファイル非検出。

MQSECSW_OFF_ERROR

スイッチ OFF、プロファイル・エラー。

MQSECSW_ON_OVERRIDDEN

スイッチ ON、プロファイル指定変更。

SecurityTimeout (MQCFIN)

タイムアウト値 (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_TIMEOUT)。

未使用のユーザー ID とその関連リソースに関するセキュリティ情報が保存される時間 (分)。

Inquire Service

Inquire Service (MQCMD_INQUIRE_SERVICE) コマンドは、既存の IBM MQ サービスの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ServiceName (MQCFST)

サービス名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

このパラメーターは、属性が必要とされるサービスの名前です。総称サービス名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、指定した文字ストリングで始まる名前のすべてのサービスが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求した属性とは無関係に、サービス名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_ALL を除く、ServiceAttrs で使用可能な 整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、StringFilterCommand パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

ServiceAttrs (MQCFIL)

サービス属性 (パラメーター ID: MQIACF_SERVICE_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_ALTERATION_DATE

定義が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

定義が最後に変更された時刻。

MQCA_SERVICE_DESC

サービス定義の記述。

MQCA_SERVICE_NAME

サービス定義の名前。

MQCA_SERVICE_START_ARGS

サービス・プログラムに渡す引数。

MQCA_SERVICE_START_COMMAND

サービスを開始するために実行するプログラムの名前。

MQCA_SERVICE_STOP_ARGS

サービスを停止する停止プログラムに渡す引数。

MQCA_STDERR_DESTINATION

プロセスの標準エラーの宛先。

MQCA_STDOUT_DESTINATION

プロセスの標準出力の宛先。

MQCA_SERVICE_START_ARGS

サービス・プログラムに渡す引数。

MQIA_SERVICE_CONTROL

キュー・マネージャーがサービスを開始しなければならない時期。

MQIA_SERVICE_TYPE

サービスを実行するモード。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_SERVICE_NAME を除く、ServiceAttrs で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、IntegerFilterCommand パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire Service (応答)

Inquire Service (MQCMD_INQUIRE_SERVICE) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く ServiceName 構造、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

総称サービス名を指定した場合、サービスが見つかるたびに、このようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

ServiceName

要求すると返されるデータ:

AlterationDate, AlterationTime, Arguments, ServiceDesc, ServiceType, StartArguments, StartCommand, StartMode, StderrDestination, StdoutDestination, StopArguments, StopCommand

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式) です。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式) です。

ServiceDesc (MQCFST)

サービス定義の説明 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_DESC_LENGTH です。

ServiceName (MQCFST)

サービス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_NAME_LENGTH です。

ServiceType (MQCFIN)

サービスを実行するモード (パラメーター ID: MQIA_SERVICE_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQSVC_TYPE_SERVER

一度に 1 つのサービス・インスタンスしか実行できません。このサービスの状況は、Inquire Service Status コマンドによって有効になります。

MQSVC_TYPE_COMMAND

複数のサービス・インスタンスを開始できます。

StartArguments (MQCFST)

キュー・マネージャー始動時にユーザー・プログラムに渡される引数 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_START_ARGS)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_ARGS_LENGTH です。

StartCommand (MQCFST)

サービス・プログラム名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_START_COMMAND)。

実行するプログラムの名前です。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMMAND_LENGTH です。

StartMode (MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIA_SERVICE_CONTROL)。

サービスの開始方法と停止方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

サービスを自動的に開始または停止しません。ユーザー・コマンドによって制御されます。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

サービスは、キュー・マネージャーが開始および停止するのと同時に、開始および停止します。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

サービスはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

StderrDestination (MQCFST)

サービス・プログラムの標準エラー (stderr) のリダイレクト先ファイルへのパス (パラメーター ID: MQCA_STDERR_DESTINATION)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_PATH_LENGTH です。

StdoutDestination (MQCFST)

サービス・プログラムの標準出力 (stdout) のリダイレクト先ファイルへのパスを (パラメーター ID: MQCA_STDOUT_DESTINATION)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_PATH_LENGTH です。

StopArguments (MQCFST)

サービスの停止を指示するときにプログラムを停止するために渡す引数を (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_STOP_ARGS)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_ARGS_LENGTH です。

StopCommand (MQCFST)

サービス・プログラム停止コマンド (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_STOP_COMMAND)。

このパラメーターは、サービスの停止が要求されたときに実行するプログラムの名前です。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMMAND_LENGTH です。

Inquire Service Status

Inquire Service Status (MQCMD_INQUIRE_SERVICE_STATUS) コマンドは、1 つ以上の IBM MQ サービス・インスタンスの状況について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ServiceName (MQCFST)

サービス名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

総称サービス名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、指定した文字ストリングで始まる名前のすべてのサービスが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

要求した属性とは無関係に、サービス名は常に返されます。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Inquire Service Status)

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_ALL を除く、*ServiceStatusAttrs* で使用可能な整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

ServiceStatusAttrs (MQCFIL)

サービス状況属性 (パラメーター ID: MQIACF_SERVICE_STATUS_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_SERVICE_DESC

サービス定義の記述。

MQCA_SERVICE_NAME

サービス定義の名前。

MQCA_SERVICE_START_ARGS

サービス・プログラムに渡す引数。

MQCA_SERVICE_START_COMMAND

サービスを開始するために実行するプログラムの名前。

MQCA_SERVICE_STOP_ARGS

サービスを停止する停止コマンドに渡す引数。

MQCA_SERVICE_STOP_COMMAND

サービスを停止するために実行するプログラムの名前。

MQCA_STDERR_DESTINATION

プロセスの標準エラーの宛先。

MQCA_STDOUT_DESTINATION

プロセスの標準出力の宛先。

MQCACF_SERVICE_START_DATE

サービスが開始された日付。

MQCACF_SERVICE_START_TIME

サービスが開始された時刻。

MQIA_SERVICE_CONTROL

サービスの開始方法と停止方法。

MQIA_SERVICE_TYPE

サービスを実行するモード。

MQIACF_PROCESS_ID

このサービスの実行に使用しているオペレーティング・システム・タスクのプロセス ID。

MQIACF_SERVICE_STATUS

サービスの状況。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_SERVICE_NAME を除く、*ServiceStatusAttrs* で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_SERV_STATUS_NOT_FOUND

サービス状況が見つかりません。

Inquire Service Status (応答)

Inquire Service Status (MQCMD_INQUIRE_SERVICE_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *ServiceName* 構造および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

総称サービス名を指定した場合、サービスが見つかるたびに、このようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

ServiceName

要求すると返されるデータ:

ProcessId, ServiceDesc, StartArguments, StartCommand, StartDate, StartMode, StartTime, Status, StderrDestination, StdoutDestination, StopArguments, StopCommand

応答データ

ProcessId(MQCFIN)

プロセス ID (パラメーター ID: MQIACF_PROCESS_ID)。

サービスに関連付けられたオペレーティング・システムのプロセス ID。

ServiceDesc (MQCFST)

サービス定義の記述 (パラメーター ID: MQCACH_SERVICE_DESC)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_DESC_LENGTH です。

ServiceName (MQCFST)

サービス定義の名前 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

StartArguments (MQCFST)

始動時にプログラムに渡される引数 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_START_ARGS)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_ARGS_LENGTH です。

StartCommand (MQCFST)

サービス・プログラム名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_START_COMMAND)。

実行するプログラムの名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMMAND_LENGTH です。

StartDate (MQCFST)

開始日 (パラメーター ID: MQIACF_SERVICE_START_DATE)。

サービスが開始された日付 (yyyy-mm-dd の形式) です。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

StartMode(MQCFIN)

サービス・モード (パラメーター ID: MQIACH_SERVICE_CONTROL)。

サービスの開始方法と停止方法。値は次のいずれかです。

MQSVC_CONTROL_MANUAL

サービスを自動的に開始または停止しません。ユーザー・コマンドによって制御されます。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR

サービスは、キュー・マネージャーが開始および停止するのと同時に、開始および停止します。

MQSVC_CONTROL_Q_MGR_START

サービスはキュー・マネージャーの開始に合わせて開始されますが、キュー・マネージャーが停止してもサービスに対しては停止を要求しません。

StartTime (MQCFST)

開始日 (パラメーター ID: MQIACF_SERVICE_START_TIME).

サービスが開始された時刻 (hh.mm.ss の形式) です。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

Status(MQCFIN)

サービス状況 (パラメーター ID: MQIACF_SERVICE_STATUS)。

サービスの状況。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSVC_STATUS_STARTING

サービスは初期化処理中です。

MQSVC_STATUS_RUNNING

サービスは実行中です。

MQSVC_STATUS_STOPPING

サービスは停止します。

StderrDestination (MQCFST)

サービス・プログラムの標準エラー (stderr) のリダイレクト先ファイルへのパスを指定します (パラメーター ID: MQCA_STDERR_DESTINATION)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_PATH_LENGTH です。

StdoutDestination (MQCFST)

サービス・プログラムの標準出力 (stdout) のリダイレクト先ファイルへのパスを指定します (パラメーター ID: MQCA_STDOUT_DESTINATION)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_PATH_LENGTH です。

StopArguments (MQCFST)

サービスの停止が指示されたときに停止プログラムに渡す引数を指定します (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_STOP_ARGS)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_ARGS_LENGTH です。

StopCommand (MQCFST)

サービス・プログラム停止コマンド (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_STOP_COMMAND)。

このパラメーターは、サービスの停止が要求されたときに実行するプログラムの名前です。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMMAND_LENGTH です。

Inquire SMDS

Inquire SMDS (MQCMD_INQUIRE_SMDS) コマンドは、CF アプリケーション構造の共有メッセージ・データ・セットの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

SMDS(qmgr_name)

共有メッセージ・データ・セット・プロパティを表示するキュー・マネージャーを指定するか、指定された CFSTRUCT に関連付けられているすべての共有メッセージ・データ・セットのプロパティを表示するためにアスタリスクを 1 つ指定します (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDS)。

CFStrucName (MQCFST)

照会対象の SMDS プロパティを持つ CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CFSMDSAttrs (MQCFIL)

CF アプリケーション構造 SMDS 属性 (パラメーター ID: MQIACF_SMDS_ATTRS)。

このパラメーターが指定されない場合に使用されるデフォルト値は次のとおりです。

MQIACF_ALL

すべての属性。

属性リストでは、それ自身の MQIACF_ALL を指定するか、以下の組み合わせを指定することができます。

MQIA_CF_SMDS_BUFFERS

共有メッセージ・データ・セット DSBUFFS プロパティ。

MQIACF_CF_SMDS_EXPAND

共有メッセージ・データ・セット DSEXPAND プロパティ。

z/OS Inquire SMDS (応答)

Inquire SMDS (MQCMD_INQUIRE_SMDS) コマンドへの応答は、共有メッセージ・データ・セット接続の属性パラメーターを返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

応答データ

SMDS (MQCFST)

共有メッセージ・データ・セット・プロパティを表示するキュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDS)。

CFStrucName (MQCFST)

CF 構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

DSBUFFS (MQCFIN)

CF DSBUFFS プロパティ (パラメーター ID: MQIA_CF_SMDS_BUFFERS)。

返される値の範囲は、0 から 9999 です。

この値は、共有メッセージ・データ・セットにアクセスするために各キュー・マネージャーに割り振られるバッファの数です。各バッファのサイズは、論理ブロック・サイズと同じです。

DSEXPAND (MQCFIN)

CF DSEXPAND プロパティ (パラメーター ID: MQIACF_CF_SMDS_EXPAND)。

MQDSE_YES

データ・セットを拡張できます。

MQDSE_NO

データ・セットを拡張できません。

MQDSE_DEFAULT

明示的に設定されていない場合にのみ、Inquire CF Struct で返されます。

Inquire SMDS Connection

Inquire SMDS Connection (MQCMD_INQUIRE_SMDSCONN) コマンドの応答は、指定された *CFStrucName* のキュー・マネージャーと共有メッセージ・データ・セット間の接続に関する状況と可用性の情報を返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

SMDSCONN (MQCFST)

接続情報を返す対象となる SMDS を所有するキュー・マネージャーを指定するか、指定された *CFStrucName* に関連付けられているすべての共有メッセージ・データ・セットの接続情報を返すためにアスタリスクを 1 つ指定します (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDSCONN)。

CFStrucName (MQCFST)

照会対象の SMDS 接続プロパティを持つ CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS での MQCMD_INQUIRE_SMDSCONN (Inquire SMDS Connection) 応答

Inquire SMDS Connection (MQCMD_INQUIRE_SMDSCONN) PCF コマンドの応答は、指定された *CFStrucName* のキュー・マネージャーと共有メッセージ・データ・セット間の接続に関する状況と可用性の情報を返します。

応答データ

SMDSCONN (MQCFST)

接続情報を返す SMDS を所有するキュー・マネージャー (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDSCONN)。

CFStrucName (MQCFST)

照会対象の SMDS 接続プロパティを持つ CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

Avail (MQCFIN)

このキュー・マネージャーによって閲覧されたデータ・セット接続の可用性。 (パラメーター ID: MQIACF_SMDS_AVAIL)。

以下のいずれかの値になります。

MQS_AVAIL_NORMAL

接続は使用でき、エラーは検出されませんでした。

MQS_AVAIL_ERROR

接続はエラーのために使用できませんでした。

キュー・マネージャーは、エラーが存在しなくなった場合 (例えば、リカバリーが完了したか、状況が手動で RECOVERED にセットされた) 自動的にアクセスを再度試行します。そうでない場合、当初失敗したアクションを再試行するために START SMDSCONN コマンドを使用することにより、再度使用可能にすることができます。

MQS_AVAIL_STOPPED

STOP SMDSCONN コマンドを使用して接続を明示的に停止したため、使用することができません。START SMDSCONN コマンドを使用することによってのみ、再び使用可能にすることができます。

ExpandST (MQCFIN)

データ・セット自動拡張状況 (パラメーター ID: MQIACF_SMDS_EXPANDST)。

以下のいずれかの値になります。

MQS_EXPANDST_NORMAL

自動拡張に影響を与える問題はありませんでした。

MQS_EXPANDST_FAILED

最近の拡張の試行が失敗し、その結果この特定のデータ・セットについて DSEXPAND オプションが NO がセットされました。ALTER SMDS が DSEXPAND オプションを YES または DEFAULT にセットするために使用されると、この状況はクリアされます。

MQS_EXPANDST_MAXIMUM

最大範囲数に達しました。それで、今後の拡張はできません (データ・セットのサービスを休止し、より大規模な範囲にコピーした場合を除く)。

OpenMode (MQCFIN)

このキュー・マネージャーによって現在オープンされている共有メッセージ・データ・セットのモードを示します (パラメーター ID: MQIACF_SMDS_OPENMODE)。

以下のいずれかの値になります。

MQS_OPENMODE_NONE

共有メッセージ・データ・セットはオープンされていません。

MQS_OPENMODE_READONLY

共有メッセージ・データ・セットは別のキュー・マネージャーにより所有されており、読み取り専用アクセス権限でオープンされています。

MQS_OPENMODE_UPDATE

共有メッセージ・データ・セットはこのキュー・マネージャーにより所有されており、更新アクセス権限でオープンされています。

MQS_OPENMODE_RECOVERY

共有メッセージ・データ・セットはリカバリー処理用にオープンされています。

Status (MQCFIN)

このキュー・マネージャーから見た共有メッセージ・データ・セットの接続状況を示します (パラメーター ID: MQIACF_SMDS_STATUS)。

以下のいずれかの値になります。

MQS_STATUS_CLOSED

このデータ・セットは、現在オープンされていません。

MQS_STATUS_CLOSING

このキュー・マネージャーは、現在このデータ・セットのクローズのプロセス中です (必要な場合、通常の入出力アクティビティの静止、および保存されたスペース・マップの格納の作業を含む)。

MQS_STATUS_OPENING

このキュー・マネージャーは、現在このデータ・セットの検証およびオープンのプロセス中です (必要な場合、スペース・マップ再開処理を含む)。

MQS_STATUS_OPEN

このキュー・マネージャーは、このデータ・セットを正常にオープンし、通常の使用が可能です。

MQS_STATUS_NOTENABLED

SMDS 定義は ACCESS(ENABLED) 状態ではないので、データ・セットは現在通常の使用ができません。この状況は SMDSCONN 状況が他の失敗の形成をまだ示していない場合にのみセットされます。

MQS_STATUS_ALLOCFAIL

キュー・マネージャーはこのデータ・セットの位置指定または割り振りができませんでした。

MQS_STATUS_OPENFAIL

このキュー・マネージャーはデータ・セットの割り振りができましたが、オープンできなかったため、割り振りが解除されました。

MQS_STATUS_STGFAIL

キュー・マネージャーが関連付けられているストレージ域を制御ブロック用、またはスペース・マップまたはヘッダー・レコードの処理用に割り振ることができなかったため、データ・セットを使用できませんでした。

MQS_STATUS_DATAFAIL

データ・セットのオープンは正常に完了しましたが、データの無効または不整合が検出されたか、または永続入出力エラーが発生したため、クローズされ、割り振りが解除されました。

共有メッセージ・データ・セット自体が STATUS(FAILED) とマークを付けられるという結果になる可能性があります。

Inquire Storage Class

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

Inquire Storage Class (MQCMD_INQUIRE_STG_CLASS) コマンドは、ストレージ・クラスについての情報を返します。

必要なパラメーター

StorageClassName (MQCFST)

ストレージ・クラス名 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。

総称ストレージ・クラス名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのストレージ・クラスが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand(MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。 パラメーター ID は、MQIACF_ALL を除く、*StgClassAttrs* で使用可能な 整数タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

PageSetId に整数フィルターを指定する 場合、*PageSetId* パラメーターを同時に指定することはできません。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

PageSetId (MQCFIN)

ストレージ・クラスが関連付けられるページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA_PAGESET_ID)。

このパラメーターを省略した場合は、任意のページ・セット ID を持つストレージ・クラスが指定されます。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値は次のいずれかです。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY のいずれかで定義されます。

MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

QSGDisposition をフィルター処理の対象パラメーターとして使用することはできません。

StgClassAttrs (MQCFIL)

ストレージ・クラス・パラメーター属性 (パラメーター ID: MQIACF_STORAGE_CLASS_ATTRS)。

属性リストには、以下の値を単独で指定することが可能です。これは、このパラメーターを指定しない場合に使用されるデフォルト値です。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_STORAGE_CLASS

ストレージ・クラス名。

MQCA_STORAGE_CLASS_DESC

ストレージ・クラスの記述。

MQIA_PAGESET_ID

ストレージ・クラスのマップ先ページ・セット ID です。

MQCA_XCF_GROUP_NAME

IBM MQ がメンバーである XCF グループの名前。

MQIA_XCF_MEMBER_NAME

MQCA_XCF_GROUP_NAME で指定された XCF グループ内の IMS システムの XCF メンバー名。

MQCA_ALTERATION_DATE

定義が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

定義が最後に変更された時刻。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_STORAGE_CLASS を除く、*StgClassAttrs* で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

Inquire Storage Class (応答)

Inquire Storage Class (MQCMD_INQUIRE_STG_CLASS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *StgClassName* 構造、*PageSetId* 構造、および *QSGDisposition* 構造で構成されています。これらの後には、要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造が続きます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

常に返されるデータ:

PageSetId, *QSGDisposition*, *StgClassName*

要求すると返されるデータ:

AlterationDate, *AlterationTime*, *PassTicketApplication*, *StorageClassDesc*,
XCFGroupName, *XCFMemberName*,

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

このパラメーターは、定義が最後に変更された日付であり、yyyy-mm-dd 形式で表されます。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

このパラメーターは、定義が最後に変更された時刻であり、hh.mm.ss 形式で表されます。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

PageSetId (MQCFIN)

ページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA_PAGESET_ID)。

ストレージ・クラスのマップ先ページ・セット ID です。

PassTicketApplication (MQCFST)

パスチケット・アプリケーション (パラメーター ID: MQCA_PASS_TICKET_APPL)。

MQIIH ヘッダーに指定されているパスチケットの認証時に、RACF に渡されるアプリケーション名。

最大長は MQ_PASS_TICKET_APPL_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

StorageClassDesc (MQCFST)

ストレージ・クラスの記述 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS_DESC)。

最大長は MQ_STORAGE_CLASS_DESC_LENGTH です。

StgClassName (MQCFST)

ストレージ・クラスの名前 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

XCFGroupName (MQCFST)

IBM MQ がメンバーである XCF グループの名前 (パラメーター ID: MQCA_XCF_GROUP_NAME)。

最大長は MQ_XCF_GROUP_NAME_LENGTH です。

XCFMemberName (MQCFST)

IBM MQ がメンバーである XCF グループの名前 (パラメーター ID: MQCA_XCF_MEMBER_NAME)。

最大長は MQ_XCF_MEMBER_NAME_LENGTH です。

Inquire Storage Class Names

Inquire Storage Class Names (MQCMD_INQUIRE_STG_CLASS_NAMES) コマンドは、指定された総称ストレージ・クラス名に一致するストレージ・クラス名のリストを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

StorageClassName (MQCFST)

ストレージ・クラス名 (パラメーター ID: MQCA_STORAGE_CLASS)。

総称ストレージ・クラス名がサポートされています。総称名とは、例えば ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのストレージ・クラスが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_STORAGE_CLASS_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY のいずれかで定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

Inquire Storage Class Names (Response)

Inquire Storage Class Names (MQCMD_INQUIRE_STG_CLASS_NAMES) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続くパラメーター構造から構成されます。パラメーター構造には、指定した名前リスト名に一致する 0 個以上の名前が返されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

これに加えて、*QSGDispositions* 構造 (*StorageClassNames* 構造と同数の項目を持つ) が返されます。この構造の各項目は、*StorageClassNames* 構造に対応する項目を持つオブジェクトの属性指定を示します。

常に返されるデータ:

StorageClassNames, *QSGDispositions*

要求すると返されるデータ:

なし

応答データ

***StorageClassNames* (MQCFSL)**

ストレージ・クラス名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_STORAGE_CLASS_NAMES)。

***QSGDispositions* (MQCFIL)**

QSG 属性指定のリスト (パラメーター ID: MQIACF_QSG_DISPS)。この構造内のフィールドで使用可能な値は、*QSGDisposition* パラメーターで許可された値です (MQQSGD_*)。この構造内のフィールドの可能な値は、次のとおりです。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

Inquire Subscription

Inquire Subscription (MQCMD_INQUIRE_SUBSCRIPTION) コマンドは、サブスクリプションの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

***SubName* (MQCFST)**

サブスクリプション用のアプリケーションの固有 ID (パラメーター ID: MQCACF_SUB_NAME)。

SubName を指定しない場合は、照会するサブスクリプションを特定するために *SubId* を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_SUB_NAME_LENGTH です。

***SubId* (MQCFBS)**

サブスクリプション ID (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

固有の内部サブスクリプション ID を指定します。キュー・マネージャーがサブスクリプションの *CorrelId* を生成している場合は、*SubId* が *DestinationCorrelId* として使用されます。

SubName の値を指定していない場合は、*SubId* の値を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

Durable(MQCFIN)

この属性を指定して、表示するサブスクリプションのタイプを限定します (パラメーター ID: MQIACF_DURABLE_SUBSCRIPTION)。

MQSUB_DURABLE_YES

永続サブスクリプションに関する情報のみが表示されます。

MQSUB_DURABLE_NO

非永続サブスクリプションに関する情報のみが表示されます。

MQSUB_DURABLE_ALL

すべてのサブスクリプションに関する情報が表示されます。

SubscriptionAttrs (MQCFIL)

サブスクリプション属性 (パラメーター ID: MQIACF_SUB_ATTRS)。

表示する属性を選択するには、以下のいずれかのパラメーターを使用します。

- ALL - すべての属性を表示します。
- SUMMARY - 属性のサブセットを表示します (リストについては MQIACF_SUMMARY を参照)。
- 次のパラメーターを個々に、または組み合わせで指定します。

MQIACF_ALL

すべての属性。

MQIACF_SUMMARY

このパラメーターは以下の表示に使用します。

- MQBACF_DESTINATION_CORREL_ID
- MQBACF_SUB_ID
- MQCACF_DESTINATION
- MQCACF_DESTINATION_Q_MGR
- MQCACF_SUB_NAME
- MQCA_TOPIC_STRING
- MQIACF_SUB_TYPE

MQBACF_ACCOUNTING_TOKEN

このサブスクリプションに送信されたメッセージへ伝搬するために、サブスクライバーによって MQMD の AccountingToken フィールドで渡された アカウンティング・トークン。

MQBACF_DESTINATION_CORREL_ID

このサブスクリプションに送信されたメッセージに使用された CorrelId。

MQBACF_SUB_ID

サブスクリプションを識別するための内部固有キー。

MQCA_ALTERATION_DATE

最後の MQSO_ALTER 指定の MQSUB または ALTER SUB コマンドの日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

最後の MQSO_ALTER 指定の MQSUB または ALTER SUB コマンドの時刻。

MQCA_CREATION_DATE

このサブスクリプションを作成した最初の MQSUB コマンドの日付。

MQCA_CREATION_TIME

このサブスクリプションを作成した最初の MQSUB コマンドの時刻。

MQCA_TOPIC_STRING

サブスクリプションが対象とする、解決されたトピック・ストリング。

MQCACF_APPL_IDENTITY_DATA

このサブスクリプションに送信されたメッセージへ伝搬するために、サブスクライバーによって MQMD の ApplIdentity フィールドで渡された ID データ。

MQCACF_DESTINATION

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先。

MQCACF_DESTINATION_Q_MGR

このサブスクリプションに対してパブリッシュされたメッセージの宛先キュー・マネージャー。

MQCACF_SUB_NAME

サブスクリプション用のアプリケーションの固有 ID。

MQCACF_SUB_SELECTOR

このサブスクリプションに適格であるかどうかを選択するために、指定のトピックでパブリッシュされたメッセージに適用される SQL 92 セレクター・ストリング。

MQCACF_SUB_USER_DATA

サブスクリプションに関連するユーザー・データ。

MQCACF_SUB_USER_ID

サブスクリプションを所有するユーザー ID。MQCACF_SUB_USER_ID は、サブスクリプションの作成者に関連付けられているユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可されている場合は、サブスクリプションを直近に引き継いだユーザー ID です。

MQCA_TOPIC_NAME

トピック階層内のトピック・ストリングを連結する位置を示すトピック・オブジェクトの名前。

MQIACF_DESTINATION_CLASS

このサブスクリプションが管理対象サブスクリプションであるかどうかを示します。

MQIACF_DURABLE_SUBSCRIPTION

サブスクリプションが永続的である (キュー・マネージャーの再始動後も維持される) かどうか。

MQIACF_EXPIRY

作成日時以降の存続時間。

MQIACF_PUB_PRIORITY

このサブスクリプションに送信されたメッセージの優先度。

MQIACF_PUBSUB_PROPERTIES

このサブスクリプションに送信されたメッセージに、パブリッシュ/サブスクライブ 関連メッセージ・プロパティを追加する方法。

MQIACF_REQUEST_ONLY

サブスクライバーが MQSUBRQ API を使用して更新用ポーリングを行うかどうか、またはすべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに配信されるかどうかを示します。

MQIACF_SUB_TYPE

サブスクリプションのタイプ - 作成された方法。

MQIACF_SUBSCRIPTION_SCOPE

サブスクリプションがメッセージをパブリッシュ/サブスクライブ集合または階層を使用して直接接続された他のすべてのキュー・マネージャーに転送するかどうか、あるいはサブスクリプションがメッセージをこのキュー・マネージャー内でこのトピックに関してのみ転送するかどうかを指定します。

MQIACF_SUB_LEVEL

このサブスクリプションが作成されるサブスクリプション・インターセプト階層内のレベル。

MQIACF_VARIABLE_USER_ID

このサブスクリプションに接続可能な、このサブスクリプションの作成者以外のユーザー (トピックおよび宛先の権限検査が必要です)。

MQIACF_WILDCARD_SCHEMA

トピック・ストリング内のワイルドカード文字の解釈に使用されるスキーマ。

MQIA_DISPLAY_TYPE

TOPICSTR 属性および **TOPICOBJ** 属性で返される出力を制御します。

SubscriptionType(MQCFIN)

この属性を指定して、表示するサブスクリプションのタイプを限定します (パラメーター ID: **MQIACF_SUB_TYPE**)。

MQSUBTYPE_ADMIN

管理インターフェースで作成された、または管理インターフェースで変更されたサブスクリプションが選択されます。

MQSUBTYPE_ALL

すべてのサブスクリプション・タイプが表示されます。

MQSUBTYPE_API

アプリケーションが IBM MQ API を使用して作成したサブスクリプションが表示されます。

MQSUBTYPE_PROXY

キュー間マネージャー・サブスクリプションに関連する、システム作成サブスクリプションが表示されます。

MQSUBTYPE_USER

USER サブスクリプション (SUBTYPE が ADMIN または API のもの) が表示されます。
MQSUBTYPE_USER はデフォルト値です。

DisplayType(MQCFIN)

MQCA_TOPIC_STRING 属性および **MQCA_TOPIC_NAME** 属性で返される出力を制御します (パラメーター ID: **MQIA_DISPLAY_TYPE**)。

MQDOPT_RESOLVED

MQCA_TOPIC_STRING 属性で、解決された (フル) トピック・ストリングを返します。

MQCA_TOPIC_NAME 属性の値も返されます。

MQDOPT_DEFINED

サブスクリプション作成時に指定された **MQCA_TOPIC_NAME** 属性および **MQCA_TOPIC_STRING** 属性の値が返されます。 **MQCA_TOPIC_STRING** 属性には、トピック・ストリングのアプリケーション部分のみが含まれます。 **MQCA_TOPIC_NAME** および **MQCA_TOPIC_STRING** で返される値を使用して、**MQDOPT_DEFINED** を使用することによりサブスクリプションを完全に再作成できます。

Inquire Subscription (応答)

Inquire Subscription (**MQCMD_INQUIRE_SUBSCRIPTION**) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *SubId* および *SubName* 構造、および要求に応じて組み合わされた 属性パラメーター構造で構成されます (該当する場合)。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

SubID, SubName

要求すると返されるデータ

AlterationDate, AlterationTime, CreationDate, CreationTime, Destination, DestinationClass, DestinationCorrelId, DestinationQueueManager, Expiry, PublishedAccountingToken, PublishedApplicationIdentityData, PublishPriority, PublishSubscribeProperties, Requestonly, Selector, SelectorType, SubscriptionLevel, SubscriptionScope, SubscriptionType, SubscriptionUser, TopicObject, TopicString, Userdata, VariableUser, WildcardSchema

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

サブスクリプションのプロパティを最後に変更した **MQSUB** または **Change Subscription** コマンドの日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

AlterationTime (MQCFST)

サブスクリプションのプロパティを最後に変更した **MQSUB** または **Change Subscription** コマンドの時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

CreationDate (MQCFST)

yyyy-mm-dd 形式のサブスクリプションの作成日付 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_DATE)。

CreationTime (MQCFST)

hh.mm.ss 形式のサブスクリプションの作成時刻 (パラメーター ID: MQCA_CREATION_TIME)。

Destination (MQCFST)

宛先 (パラメーター ID: MQCACF_DESTINATION)。

このサブスクリプションのメッセージが書き込まれる別名、ローカル、リモート、またはクラスター・キューの名前を指定します。

DestinationClass (MQCFIN)

宛先クラス (パラメーター ID: MQIACF_DESTINATION_CLASS)。

宛先が管理対象かどうかを示します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQDC_MANAGED

宛先は管理対象。

MQDC_PROVIDED

宛先キューは、*Destination* フィールドに 指定されているとおりです。

DestinationCorrelId (MQCFBS)

宛先相関 ID (パラメーター ID: MQBACF_DESTINATION_CORREL_ID)。

このサブスクリプションに送信されるすべてのメッセージのメッセージ記述子の *CorrelId* フィールドにある相関 ID。

最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

DestinationQueueManager (MQCFST)

宛先キュー・マネージャー (パラメーター ID: MQCACF_DESTINATION_Q_MGR)。

サブスクリプションのメッセージを転送する宛先キュー・マネージャー (ローカルでもリモートでも可) の名前を指定します。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

DisplayType (MQCFIN)

MQCA_TOPIC_STRING および **MQCA_TOPIC_NAME** の要求された出力タイプが返されます (パラメーター ID: MQIA_DISPLAY_TYPE)。

MQDOPT_RESOLVED

MQCA_TOPIC_STRING 属性で、解決された (フル) トピック・ストリングを返します。

MQCA_TOPIC_NAME 属性の値も返されます。

MQDOPT_DEFINED

トピック・ストリングのアプリケーション部分が **MQCA_TOPIC_STRING** 属性で返されます。

MQCA_TOPIC_NAME には、サブスクリプションを定義するときに使用する **TOPIC** オブジェクトの名前が含まれています。

Durable (MQCFIN)

このサブスクリプションが永続サブスクリプションであるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_DURABLE_SUBSCRIPTION)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSUB_DURABLE_YES

サブスクリプションは永続です。これは、作成アプリケーションがキュー・マネージャーから切断した場合、またはサブスクリプションに対して MQCLOSE 呼び出しを発行した場合でも同様です。再始動中にキュー・マネージャーがサブスクリプションを復元します。

MQSUB_DURABLE_NO

サブスクリプションは非永続です。作成アプリケーションがキュー・マネージャーから切断した場合、またはサブスクリプションに対して MQCLOSE 呼び出しを発行した場合、キュー・マネージャーはサブスクリプションを削除します。サブスクリプションの宛先クラス (DESTCLAS) が MANAGED である場合、キュー・マネージャーは、サブスクリプションのクローズ時に未消費のメッセージを削除します。

Expiry (MQCFIN)

サブスクリプション作成日時以降でサブスクリプションの有効期限が切れる 1/10 秒単位の時刻 (パラメーター ID: MQIACF_EXPIRY)。

値「unlimited」は、サブスクリプションの有効期限がないことを意味します。

サブスクリプションは有効期限が切れると、キュー・マネージャーによる廃棄対象となり、以後パブリケーションを受け取ることはありません。

PublishedAccountingToken (MQCFBS)

メッセージ記述子の *AccountingToken* フィールドで使用されるアカウントリング・トークンの値 (パラメーター ID: MQBACF_ACCOUNTING_TOKEN)。

ストリングの最大長は MQ_ACCOUNTING_TOKEN_LENGTH です。

PublishedApplicationIdentityData (MQCFST)

メッセージ記述子の *ApplIdentityData* フィールドで使用されるアプリケーション ID データの値 (パラメーター ID: MQCACF_APPL_IDENTITY_DATA)。

ストリングの最大長は MQ_APPL_IDENTITY_DATA_LENGTH です。

PublishPriority (MQCFIN)

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度 (パラメーター ID: MQIACF_PUB_PRIORITY)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPRI_PRIORITY_AS_PUBLISHED

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、パブリッシュされたメッセージの優先度から取得されます。MQPRI_PRIORITY_AS_PUBLISHED は提供されたデフォルト値です。

MQPRI_PRIORITY_AS_QDEF

このサブスクリプションに送信されるメッセージの優先度は、宛先として定義されたキューのデフォルト優先度によって決まります。

0-9

このサブスクリプションに送信されたメッセージの明示的優先度を指定する整数値。

PublishSubscribeProperties (MQCFIN)

このサブスクリプションに送信されたメッセージに、パブリッシュ/サブスクライブ関連 メッセージ・プロパティを追加する方法を指定します (パラメーター ID: MQIACF_PUBSUB_PROPERTIES)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPSPROP_NONE

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティはメッセージに追加されません。MQPSPROP_NONE は提供されたデフォルト値です。

MQPSPROP_MSGPROP

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは PCF 属性として追加されます。

MQPSPROP_COMPAT

オリジナルのパブリケーションが PCF メッセージである場合、パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは PCF 属性として追加されます。それ以外の場合、パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは MQRFH バージョン 1 ヘッダー内で追加されます。この方法は、IBM MQ の旧バージョンで使用するためにコーディングされたアプリケーションと互換性があります。

MQPSPROP_RFH2

パブリッシュ/サブスクライブ・プロパティは MQRFH バージョン 2 ヘッダー内で追加されます。この方法は、IBM Integration Bus Broker で使用するためにコーディングされたアプリケーションと互換性があります。

Requestonly (MQCFIN)

サブスクライバーが MQSUBRQ API 呼び出しを使用して更新用ポーリングを行うかどうか、またはすべてのパブリケーションがこのサブスクリプションに配信されるかどうかを示します (パラメーター ID: MQIACF_REQUEST_ONLY)。

値は次のいずれかです。

MQRU_PUBLISH_ALL

トピックのすべてのパブリケーションが、このサブスクリプションに配信される。

MQRU_PUBLISH_ON_REQUEST

パブリケーションは MQSUBRQ API 呼び出しへの応答としてのみ、このサブスクリプションに配信される。

Selector (MQCFST)

トピックに対してパブリッシュされたメッセージに適用されるセレクターを指定します (パラメーター ID: MQCACF_SUB_SELECTOR)。

選択基準を満たすメッセージのみが、このサブスクリプションで指定された宛先に書き込まれます。

SelectorType (MQCFIN)

指定されたセレクター・ストリングのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_SELECTOR_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSELTYPE_NONE

セレクターは指定されていません。

MQSELTTYPE_STANDARD

セクターは、標準 IBM MQ セクター構文を使用して、メッセージのプロパティのみを参照し、その内容は参照しません。このタイプのセクターは、内部でキュー・マネージャーによって処理されます。

MQSELTTYPE_EXTENDED

セクターは拡張セクター構文を使用し、一般にはメッセージの内容を参照します。このタイプのセクターは、内部でキュー・マネージャーによって処理することはできません。拡張セクターの処理は IBM Integration Bus などの、他のプログラムによってのみ行うことができます。

SubID (MQCFBS)

サブスクリプションを識別する内部の固有キー (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

SubscriptionLevel (MQCFIN)

このサブスクリプションが作成されるサブスクリプション・インターセプト階層内のレベル (パラメーター ID: MQIACF_SUB_LEVEL)。

値は次のいずれかです。

0 - 9

0 から 9 の範囲の整数。デフォルト値は 1 です。サブスクリプション・レベルが 9 のサブスクライバーは、パブリケーションがより低いサブスクリプション・レベルのサブスクライバーに到達する前に、パブリケーションをインターセプトします。

SubscriptionScope (MQCFIN)

このサブスクリプションをネットワーク内の他のキュー・マネージャーに渡すかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIACF_SUBSCRIPTION_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

MQTSCOPE_ALL

パブリッシュ/サブスクライブの集合または階層で直接接続されているすべてのキュー・マネージャーにサブスクリプションを転送します。MQTSCOPE_ALL は提供されたデフォルト値です。

MQTSCOPE_QMGR

サブスクリプションは、このキュー・マネージャー内でトピックにパブリッシュされたメッセージのみを転送します。

SubscriptionType (MQCFIN)

サブスクリプションが作成された方法を示します (パラメーター ID: MQIACF_SUB_TYPE)。

MQSUBTYPE_PROXY

キュー・マネージャーを通してパブリケーションを経路指定するために使用される、内部で作成されたサブスクリプション。

MQSUBTYPE_ADMIN

DEF SUB MQSC または PCF コマンドを使用して作成されます。この **SUBTYPE** は、サブスクリプションが、管理コマンドの使用により変更されたことも示します。

MQSUBTYPE_API

MQSUB API 要求を使用して作成されます。

SubscriptionUser (MQCFST)

このサブスクリプションを「所有する」ユーザー ID。このパラメーターは、サブスクリプションの作成者に関連付けられているユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可されている場合は、サブスクリプションを直近に引き継いだユーザー ID です。 (パラメーター ID: MQCACF_SUB_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

TopicObject (MQCFST)

サブスクリプションのトピック名の取得先である、定義済みトピック・オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

TopicString (MQCFST)

解決されたトピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

Userdata (MQCFST)

ユーザー・データ (パラメーター ID: MQCACF_SUB_USER_DATA)。

サブスクリプションに関連するユーザー・データを指定します。

ストリングの最大長は MQ_USER_DATA_LENGTH です。

VariableUser (MQCFIN)

サブスクリプションの作成者以外のユーザー (*SubscriptionUser* に示されたユーザー) がサブスクリプションの所有権を引き継ぐことができるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_VARIABLE_USER_ID)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQVU_ANY_USER

どのユーザーも所有権を引き継ぐことができます。MQVU_ANY_USER は提供されたデフォルト値です。

MQVU_FIXED_USER

他のユーザーが所有権を引き継ぐことはできません。

WildcardSchema (MQCFIN)

TopicString に含まれるワイルドカード文字の解釈時に使用されるスキーマを指定します (パラメーター ID: MQIACF_WILDCARD_SCHEMA)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQWS_CHAR

ワイルドカード文字は、IBM MQ V6.0 ブローカーとの互換性のために用意されているストリングを表します。

MQWS_TOPIC

ワイルドカード文字はトピック階層の一部を表します。これは IBM Integration Bus Broker との互換性のために用意されています。MQWS_TOPIC は提供されたデフォルト値です。

Inquire Subscription Status

Inquire Subscription Status (MQCMD_INQUIRE_SUB_STATUS) コマンドは、サブスクリプションの状況について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

SubName (MQCFST)

サブスクリプション用のアプリケーションの固有 ID (パラメーター ID: MQCACF_SUB_NAME)。

SubName を指定しない場合は、照会するサブスクリプションを特定するために *SubId* を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_SUB_NAME_LENGTH です。

SubId(MQCFBS)

サブスクリプション ID (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

固有の内部サブスクリプション ID を指定します。キュー・マネージャーがサブスクリプションの *CorrelId* を生成している場合は、*SubId* が *DestinationCorrelId* として使用されます。

SubName の値を指定していない場合は、SubId の値を指定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

オプション・パラメーター

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの処理方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで処理されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーがキュー共有グループ内でアクティブである場合に限り、そのキュー・マネージャーで処理されます。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで処理され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用できません。

Durable(MQCFIN)

この属性を指定して、表示するサブスクリプションのタイプを限定します (パラメーター ID: MQIACF_DURABLE_SUBSCRIPTION)。

MQSUB_DURABLE_YES

永続サブスクリプションに関する情報のみが表示されます。MQSUB_DURABLE_YES はデフォルトです。

MQSUB_DURABLE_NO

非永続サブスクリプションに関する情報のみが表示されます。

SubscriptionType(MQCFIN)

この属性を指定して、表示するサブスクリプションのタイプを限定します (パラメーター ID: MQIACF_SUB_TYPE)。

MQSUBTYPE_ADMIN

管理インターフェースで作成された、または管理インターフェースで変更されたサブスクリプションが選択されます。

MQSUBTYPE_ALL

すべてのサブスクリプション・タイプが表示されます。

MQSUBTYPE_API

IBM MQ API 呼び出しを使用してアプリケーションで作成されたサブスクリプションが表示されます。

MQSUBTYPE_PROXY

キュー間マネージャー・サブスクリプションに関連する、システム作成サブスクリプションが表示されます。

MQSUBTYPE_USER

USER サブスクリプション (SUBTYPE が ADMIN または API のもの) が表示されます。MQSUBTYPE_USER はデフォルト値です。

StatusAttrs (MQCFIL)

サブスクリプション状況属性 (パラメーター ID: MQIACF_SUB_STATUS_ATTRS)。

表示する属性を選択するには、以下を指定します。

- ALL - すべての属性を表示します。
- 次のパラメーターを個々に、または組み合わせで指定します。

MQIACF_ALL

すべての属性。

MQBACF_CONNECTION_ID

サブスクリプションをオープンした、現在アクティブな *ConnectionID*。

MQIACF_DURABLE_SUBSCRIPTION

サブスクリプションが永続的である (キュー・マネージャーの再始動後も維持される) かどうか。

MQCACF_LAST_MSG_DATE

サブスクリプションで指定された宛先に、最後にメッセージが送信された日付。

MQCACF_LAST_MSG_TIME

サブスクリプションで指定された宛先に、最後にメッセージが送信された時刻。

MQIACF_MESSAGE_COUNT

サブスクリプションで指定された宛先に書き込まれたメッセージ数。

MQCA_RESUME_DATE

サブスクリプションに接続された最後の MQSUB コマンドの日付。

MQCA_RESUME_TIME

サブスクリプションに接続された最後の MQSUB コマンドの時刻。

MQIACF_SUB_TYPE

サブスクリプションのタイプ - 作成された方法。

MQCACF_SUB_USER_ID

サブスクリプションを所有するユーザー ID。

MQCA_TOPIC_STRING

サブスクリプションの完全に解決されたトピック・ストリングを返します。

Inquire Subscription Status (応答)

Inquire Subscription Status (MQCMD_INQUIRE_SUB_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *SubId* および *SubName* 構造、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造 (該当する場合) で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

SubID , *SubName*

要求すると返されるデータ

ActiveConnection , *Durable* , *LastPublishDate* , *LastPublishTime* ,
MCastRelIndicator , *NumberMsgs* , *ResumeDate* , *ResumeTime* , *SubType* , *TopicString*

応答データ

ActiveConnection(MQCFBS)

現在このサブスクリプションをオープンしている *HConn* の *ConnId* (パラメーター ID: MQBACF_CONNECTION_ID)。

Durable(MQCFIN)

永続サブスクリプションは、作成アプリケーションがそのサブスクリプション・ハンドルをクローズするときに削除されません (パラメーター ID: MQIACF_DURABLE_SUBSCRIPTION)。

MQSUB_DURABLE_NO

サブスクリプションを作成したアプリケーションが閉じられたり、キュー・マネージャーから切断されたりした場合、そのサブスクリプションは除去されます。

MQSUB_DURABLE_YES

サブスクリプションは、作成元のアプリケーションが稼働しなくなったり、切断したりした場合でも永続します。サブスクリプションは、キュー・マネージャーの再始動時に復元されます。

LastMessageDate(MQCFST)

サブスクリプションで指定された宛先に最後にメッセージが送信された日付 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_MSG_DATE)。

LastMessageTime(MQCFST)

サブスクリプションで指定された宛先に最後にメッセージが送信された時刻 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_MSG_TIME)。

MCastRelIndicator (MQCFIN)

マルチキャスト信頼性標識 (パラメーター ID: MQIACF_MCAST_REL_INDICATOR)。

NumberMsgs(MQCFIN)

このサブスクリプションで指定された宛先に書き込まれたメッセージ数 (パラメーター ID: MQIACF_MESSAGE_COUNT)。

ResumeDate(MQCFST)

サブスクリプションに最後に接続した **MQSUB** API 呼び出しの日付 (パラメーター ID: MQCA_RESUME_DATE)。

ResumeTime(MQCFST)

サブスクリプションに最後に接続した **MQSUB** API 呼び出しの時刻 (パラメーター ID: MQCA_RESUME_TIME)。

SubscriptionUser(MQCFST)

このサブスクリプションを「所有する」ユーザー ID。このパラメーターは、サブスクリプションの作成者に関連付けられているユーザー ID であるか、またはサブスクリプションの引き継ぎが許可されている場合は、サブスクリプションを直近に引き継いだユーザー ID です。 (パラメーター ID: MQCACF_SUB_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

SubID(MQCFBS)

サブスクリプションを識別する内部の固有キー (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

SubName (MQCFST)

サブスクリプションの固有 ID (パラメーター ID: MQCACF_SUB_NAME)。

SubType(MQCFIN)

サブスクリプションの作成方法を示します (パラメーター ID: MQIA_SUB_TYPE)。

MQSUBTYPE_PROXY

キュー・マネージャーを通してパブリケーションを経路指定するために使用される、内部で作成されたサブスクリプション。

MQSUBTYPE_ADMIN

DEF SUB MQSC または **Create Subscription** PCF コマンドを使用して作成されます。このサブタイプは、サブスクリプションが、管理コマンドの使用により変更されたことも示します。

MQSUBTYPE_API

MQSUB API 呼び出しで作成されたサブスクリプション。

TopicString (MQCFST)

解決されたトピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

Inquire System

Inquire System (MQCMD_INQUIRE_SYSTEM) コマンドは、一般のシステム・パラメーターおよび情報を返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

▶ z/OS z/OS での MQCMD_INQUIRE_SYSTEM (Inquire System) 応答

Inquire System (MQCMD_INQUIRE_SYSTEM) PCF コマンドに対する応答は、応答ヘッダーとそれに続く *ParameterType* 構造体、パラメーター・タイプの値によって決まる属性パラメーター構造体の組み合わせ、という形式です。

常に返されるデータ:

ParameterType

ParameterType に指定可能な値は、次のとおりです。

MQSYSP_TYPE_INITIAL

システム・パラメーターの初期設定値。

MQSYSP_TYPE_SET

システム・パラメーターの設定 (初期設定以後に変更された場合)。

***ParameterType* が MQSYSP_TYPE_INITIAL または MQSYSP_TYPE_SET (値が設定された場合) の場合に返される:**

CheckpointCount, ClusterCacheType, CodedCharSetId, CommandUserId, ConnSwap, DB2BlobTasks, DB2Name, DB2Tasks, DSGName, Exclmsg, ExitInterval, ExitTasks, MULCCapture, OTMADruExit, OTMAGroup, OTMAInterval, OTMAMember, OTMSTpipePrefix, QIndexDefer, QSGName, RESLEVELAudit, RoutingCode, Service, SMFAccounting, SMFStatistics, SMFInterval, Splcap, TraceClass, TraceSize, WLMInterval, WLMIntervalUnits

応答データ

CheckpointCount (MQCFIN)

1 つのチェックポイントの開始から次のチェックポイントの開始までの間に IBM MQ によって書き込まれるログ・レコードの数 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_CHKPOINT_COUNT)。

ClusterCacheType (MQCFIN)

クラスター・キャッシュのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_CLUSTER_CACHE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLCT_STATIC

静的クラスター・キャッシュ。

MQCLCT_DYNAMIC

動的クラスター・キャッシュ。

CodedCharSetId (MQCFIN)

アーカイブ保存期間 (パラメーター ID: MQIA_CODED_CHAR_SET_ID)。

キュー・マネージャーのコード化文字セット ID。

CommandUserId (MQCFST)

コマンド・ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_CMD_USER_ID)。

コマンド・セキュリティ検査のためのデフォルトのユーザー ID を指定します。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

ConnSwap (MQCFIN)

特定の MQ API 呼び出しを発行中のジョブがスワップ可能かスワップ不能かを指定します (パラメーター ID: MQIACF_CONNECTION_SWAP)。

この値は、MQSYSP_YES または MQSYSP_NO です。



重要: IBM MQ 9.0 以降、このキーワードには効果がありません。

DB2BlobTasks (MQCFIN)

BLOB に使用される Db2 サーバー・タスクの数 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_DB2_BLOB_TASKS)。

DB2Name (MQCFST)

キュー・マネージャーが接続する Db2 サブシステムまたはグループ接続機構の名前 (パラメーター ID: MQCACF_DB2_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_DB2_NAME_LENGTH です。

DB2Tasks (MQCFIN)

使用する Db2 サーバー・タスクの数 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_DB2_TASKS)。

DSGName (MQCFST)

キュー・マネージャーが接続する Db2 データ共有グループの名前 (パラメーター ID: MQCACF_DSG_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_DSG_NAME_LENGTH です。

Exclmsg (MQCFSL)

ログへの書き込み時に除外するメッセージ ID のリスト (パラメーター ID: MQCACF_EXCL_OPERATOR_MESSAGES)。

各メッセージ ID の最大長は、MQ_OPERATOR_MESSAGE_LENGTH です。

リストには、最大 16 個のメッセージ ID を含めることができます。

ExitInterval (MQCFIN)

キュー・マネージャー出口が各呼び出しの間に実行できる時間 (秒) (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_EXIT_INTERVAL)。

ExitTasks (MQCFIN)

キュー・マネージャー出口を実行するために使用できる開始済みサーバー・タスクの数を指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_EXIT_TASKS)。

MaximumAcePool (MQCFIN)

最大 ACE ストレージ・プール・サイズ (1 KB ブロック単位) (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_MAX_ACE_POOL)。

MULCCapture (MQCFIN)

「従量制価格設定」プロパティは、従量課金ライセンス使用料 (MULC) で使用されるデータ収集のアルゴリズムを制御するために使用されます (パラメーター ID: MQIACF_MULC_CAPTURE)。

返される値は、MQMULC_STANDARD または MQMULC_REFINED のいずれかです。

OTMADruExit (MQCFST)

IMS によって実行される OTMA 宛先解決ユーザー出口の名前 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_OTMA_DRU_EXIT)。

ストリングの最大長は MQ_EXIT_NAME_LENGTH です。

OTMAGroup (MQCFST)

IBM MQ のこのインスタンスが属している XCF グループの名前 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_OTMA_GROUP)。

ストリングの最大長は MQ_XCF_GROUP_NAME_LENGTH です。

OTMAInterval (MQCFIN)

IBM MQ から得たユーザー ID が IMS によって以前に検査されたと見なされる時間の長さ (秒) (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_OTMA_INTERVAL)。

OTMAMember (MQCFST)

IBM MQ のこのインスタンスが所属している XCF メンバーの名前 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_OTMA_MEMBER)。

ストリングの最大長は MQ_XCF_MEMBER_NAME_LENGTH です。

OTMSTpipePrefix (MQCFST)

Tpipe 名に使用される接頭部 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_OTMA_TPIPE_PFX)。

ストリングの最大長は MQ_TPIPE_PFX_LENGTH です。

QIndexDefer (MQCFIN)

キュー・マネージャーの再始動を、すべての索引が作成される前に (その作成を遅らせて) 完了させるか、すべての索引が作成されるまで待機してから行うかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_Q_INDEX_DEFER)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

キュー・マネージャーの再始動は、すべての索引が作成される前に完了します。

MQSYSP_NO

キュー・マネージャーの再始動は、すべての索引が作成されるまで待機してから行われます。

QSGName (MQCFST)

キュー・マネージャーが属するキュー共有グループの名前 (パラメーター ID: MQCA_QSG_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

RESLEVELAudit (MQCFIN)

接続処理中に実行される RESLEVEL セキュリティ検査のための RACF 監査レコードが作成されるかどうか指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_RELEVEL_AUDIT)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

RACF 監査レコードが作成されます。

MQSYSP_NO

RACF 監査レコードが作成されません。

RoutingCode (MQCFIL)

z/OS 宛先コード・リスト (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ROUTING_CODE)。

MQSC コマンドへの直接の応答で送信されないメッセージに z/OS 宛先コードのリストを指定します。リストには、1 個から 16 個までの項目が指定できます。

Service (MQCFST)

サービス・パラメーターの設定 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_SERVICE)。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_NAME_LENGTH です。

SMFAccounting (MQCFIN)

キュー・マネージャーの開始時に IBM MQ が会計データを自動的に SMF に送信するかどうかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_SMF_ACCOUNTING)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

会計データを自動的に送信します。

MQSYSP_NO

会計データを自動的に送信しません。

SMFInterval (MQCFIN)

統計を収集するデフォルトの時間間隔 (分) (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_SMF_INTERVAL)。

SMFStatistics (MQCFIN)

キュー・マネージャーの開始時に IBM MQ が統計データを自動的に SMF に送信するかどうかを指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_SMF_STATS)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

統計データを自動的に送信します。

MQSYSP_NO

統計データを自動的に送信しません。

Splcap (MQCFIN)

キュー・マネージャーを実行している IBM MQ のバージョンの AMS コンポーネントがインストールされている場合は、属性の値は YES (MQCAP_SUPPORTED) になります。AMS コンポーネントがインストールされていない場合は、値は NO (MQCAP_NOT_SUPPORTED) になります (パラメーター ID: MQIA_PROT_POLICY_CAPABILITY)。

値は、次の値のうちのいずれかです。

MQCAP_SUPPORTED

キュー・マネージャーを実行している IBM MQ のバージョンの AMS コンポーネントがインストールされている場合。

MQCAP_NOT_SUPPORTED

AMS コンポーネントがインストールされていない場合。

TraceClass (MQCFIL)

トレースを自動的に開始するクラス (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TRACE_CLASS)。リストには、1 個から 4 個までの項目が指定できます。

TraceSize (MQCFIN)

グローバル・トレース機能によって使用されるトレース・テーブルのサイズ (4 KB ブロック単位) (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TRACE_SIZE)。

WLMInterval (MQCFIN)

WLM 管理のキューについてキュー索引をスキャンする時間間隔 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_WLM_INTERVAL)。

WLMIntervalUnits (MQCFIN)

WLMInterval 値の単位が秒であるか分であるか (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_WLM_INT_UNITS)。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTIME_UNITS_SEC

WLMInterval の値は秒単位で指定されます。

MQTIME_UNITS_MINS

WLMInterval の値は、分単位で指定されます。

Inquire Topic

Inquire Topic (MQCMD_INQUIRE_TOPIC) コマンドは、既存の IBM MQ 管理トピック・オブジェクトの属性について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

TopicName (MQCFST)

管理トピック・オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。

情報を得る管理トピック・オブジェクトの名前を指定します。総称トピック・オブジェクト名がサポートされています。総称名とは、アスタリスク (*) が後に付いた文字ストリングのことです。例えば、ABC* は、名前がこの選択された文字ストリングで始まる、すべての管理トピック・オブジェクトを選択します。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

ClusterInfo (MQCFIN)

クラスター情報 (パラメーター ID: MQIACF_CLUSTER_INFO)。

このパラメーターは、このキュー・マネージャーで定義されたトピックの属性についての情報の他に、これらのトピックと、選択基準を満たすリポジトリ内の他のトピックについてのクラスター情報を返すよう要求します。

この場合、同じ名前の複数のトピックが返されることがあります。

このパラメーターは任意の整数値に設定できます。使用される値は、コマンドに対する応答には影響しません。

クラスター情報はキュー・マネージャーからローカルで得られます。



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

整数フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、TopicAttrs で許可されているいずれかの整数タイプのパラメーターでなければなりません (ただし MQIACF_ALL を除く)。

このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

整数フィルターを指定する場合、*StringFilterCommand* パラメーターを使用してストリング・フィルターを同時に指定することはできません。

z/OS

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

QSGDisposition をフィルター処理のパラメーターとして使用することはできません。

StringFilterCommand(MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQCA_TOPIC_NAME を除く、*TopicAttrs* で使用可能なストリング・タイプ・パラメーターの ID でなければなりません。このパラメーターは、フィルター条件を指定してコマンドからの出力を制限する場合に使用します。このフィルター条件の使用方法については、[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)を参照してください。

ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

TopicAttrs (MQCFIL)

トピック・オブジェクト属性 (パラメーター ID: MQIACF_TOPIC_ATTRS)。

属性リストには、次の値を単独で指定できます (このパラメーターを指定しない場合は、デフォルト値が使用されます)。

MQIACF_ALL

すべての属性。

または、以下の組み合わせ。

MQCA_ALTERATION_DATE

情報が最後に変更された日付。

MQCA_ALTERATION_TIME

情報が最後に変更された時刻。

MQCA_CLUSTER_NAME

このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションを、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター接続キュー・マネージャーに伝搬するために使用するクラスター。

MQCA_CLUSTER_DATE

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった日付。

MQCA_CLUSTER_TIME

情報がローカル・キュー・マネージャーで使用可能になった時刻。

MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME

トピックをホストするキュー・マネージャー。

MQCA_CUSTOM

新機能用カスタム属性。

MQCA_MODEL_DURABLE_Q

永続管理サブスクリプションのモデル・キューの名前。

MQCA_MODEL_NON_DURABLE_Q

非永続管理サブスクリプションのモデル・キューの名前。

MQCA_TOPIC_DESC

トピック・オブジェクトの記述。

MQCA_TOPIC_NAME

トピック・オブジェクトの名前。

MQCA_TOPIC_STRING

トピック・オブジェクトのトピック・ストリング。

MQIA_CLUSTER_OBJECT_STATE

クラスター・トピック定義の現在の状態。

MQIA_CLUSTER_PUB_ROUTE

クラスター内のキュー・マネージャー間のパブリケーションの経路指定動作。

MQIA_DEF_PRIORITY

デフォルトのメッセージ優先度。

MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE

デフォルトの書き込み応答。

MQIA_DURABLE_SUB

永続サブスクリプションが許可されるかどうか。

MQIA_INHIBIT_PUB

パブリケーションが許可されるかどうか。

MQIA_INHIBIT_SUB

サブスクリプションが許可されるかどうか。

MQIA_NPM_DELIVERY

非持続メッセージの配信手段。

MQIA_PM_DELIVERY

持続メッセージの配信手段。

MQIA_PROXY_SUB

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、このトピックのプロキシ・サブスクリプションを送信するかどうか。

MQIA_PUB_SCOPE

このキュー・マネージャーがパブリケーションを、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

MQIA_SUB_SCOPE

このキュー・マネージャーがサブスクリプションを、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

MQIA_TOPIC_DEF_PERSISTENCE

デフォルトのメッセージ持続性。

MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q

パブリケーション・メッセージを正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを決定します。

TopicType(MQCFIN)

クラスター情報 (パラメーター ID: MQIA_TOPIC_TYPE)。

このパラメーターが存在する場合、適格なキューは、指定されたタイプに制限されます。TopicAttrs リストで使用された、別のタイプのトピックにのみ有効な属性セレクターはいずれも無視されます。エラーは発生しません。

このパラメーターが指定されていない場合 (または MQIACF_ALL が指定されている場合) は、すべてのタイプのキューが適格になります。指定する属性はそれぞれ、有効なトピック属性セレクターでなければなりません (つまり、次のリストにある値のいずれかを指定する必要があります)。ただし、返されるトピックのすべて、またはその一部に属性が適用されるとは限りません。有効なトピック属性セレクターであっても、キューに適用されないものは無視されます。この場合、エラー・メッセージは出されず、属性は返されません。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQTOPT_ALL

すべてのトピック・タイプが表示されます。ClusterInfo も指定されている場合、MQTOPT_ALL にはクラスター・トピックが含まれます。MQTOPT_ALL がデフォルト値です。

MQTOPT_CLUSTER

パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターで定義されたトピックが返されます。

MQTOPT_LOCAL

ローカルに定義されたトピックが表示されます。

Inquire Topic (応答)

Inquire Topic (MQCMD_INQUIRE_TOPIC) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く TopicName 構造 (および z/OS の場合のみ QSG Disposition 構造)、および要求に応じて組み合わされた属性パラメーター構造 (該当する場合) で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

TopicName , TopicType ,  QSGDisposition

要求すると返されるデータ:

AlterationDate , AlterationTime , ClusterName , ClusterObjectState ,
ClusterPubRoute , CommInfo , Custom , DefPersistence , DefPriority ,
DefPutResponse , DurableModelQName , DurableSubscriptions ,
InhibitPublications , InhibitSubscriptions , Multicast , NonDurableModelQName ,
NonPersistentMsgDelivery , PersistentMsgDelivery , ProxySubscriptions ,
PublicationScope , QMgrName , SubscriptionScope , TopicDesc , TopicString ,
UseDLQ , WildcardOperation

応答データ

AlterationDate (MQCFST)

変更日付 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_DATE)。

情報が最後に変更された日付 (yyyy-mm-dd の形式)。

AlterationTime (MQCFST)

変更時刻 (パラメーター ID: MQCA_ALTERATION_TIME)。

情報が最後に変更された時刻 (hh.mm.ss の形式)。

ClusterName (MQCFST)

このトピックが属するクラスターの名前。 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。このキュー・マネージャーがメンバーになっているクラスターにこのパラメーターを設定すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがこのトピックを認識します。このクラスター内の任意のキュー・マネージャーに書き込まれたこのトピックまたはその下位のトピック・ストリングのパブリケーションは、クラスター内のその他のキュー・マネージャーのサブスクリプションに伝搬されます。詳しくは、[分散パブリッシュ/サブスクライブのネットワーク](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

ブランク

トピック・ツリー内のこのトピックより上のトピック・オブジェクトで、このパラメーターがクラスター名に設定されているものがない場合、このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。トピック・ツリー内の上位トピック・ノードでクラスター名が設定されている場合は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションもクラスター全体に伝搬されます。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

ストリング

トピックは、このクラスターに所属します。トピック・ツリー内のこのトピック・オブジェクトより上位のトピック・オブジェクトと異なるクラスターにこれを設定することは推奨されません。クラスター内の他のキュー・マネージャーでは、同じ名前のローカル定義がキュー・マネージャーに存在しない場合は、このオブジェクトの定義が使用されます。

また、**PublicationScope** または **SubscriptionScope** が MQSCOPE_ALL に設定されている場合、この値は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションを、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬するために使用されるクラスターです。

ClusterObjectState (MQCFIN)

クラスター・トピック定義の現在の状態 (パラメーター ID: MQIA_CLUSTER_OBJECT_STATE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLST_ACTIVE

クラスター・トピックは、このキュー・マネージャーにより正しく構成され、準備されています。

MQCLST_PENDING

ホスティング・キュー・マネージャーにのみ表示されるこの状態は、トピックが作成されたが、フル・リポジトリによってまだクラスターに伝搬されていない場合に報告されます。これは、ホスト・キュー・マネージャーがフル・リポジトリに接続されていないか、またはフル・リポジトリでトピックが無効と判断されたことが原因である可能性があります。

MQCLST_INVALID

このクラスター・トピック定義は、クラスターの以前の定義と矛盾しているため、現在アクティブではありません。

MQCLST_ERROR

このトピック・オブジェクトに関してエラーが発生しました。

このパラメーターは通常、同じクラスター・トピックについて異なるキュー・マネージャーで複数の定義が作成され、それらの定義が同一ではない場合の診断を補助するために使用されます。[パブリッシュ/サブスクライブ・クラスターのルーティング: 動作に関する注意](#)を参照してください。

ClusterPubRoute (MQCFIN)

同一クラスター内のキュー・マネージャー間のパブリケーションのルーティングの動作 (パラメーター ID: MQIA_CLUSTER_PUB_ROUTE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCLROUTE_DIRECT

直接経路指定されたクラスター・トピックをキュー・マネージャーで構成すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがクラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーを認識するようになります。各キュー・マネージャーは、パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を実行するときに、クラスター内の他のすべてのキュー・マネージャーに直接接続できます。

MQCLROUTE_TOPIC_HOST

トピック・ホスト経路指定を使用すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーは、経路指定されたトピック定義をホストするクラスター・キュー・マネージャー (つまり、トピック・オブジェクトを定義したキュー・マネージャー) を認識するようになります。パブリッシュ操作およびサブスクライブ操作を行うとき、クラスター内のキュー・マネージャーは、それらのトピック・ホスト・キュー・マネージャーにのみ接続し、相互に直接接続されることはありません。トピック・ホスト・キュー・マネージャーは、パブリケーションがパブリッシュされるキュー・マネージャーから、一致するサブスクリプションがあるキュー・マネージャーへのパブリケーションの経路指定を担当します。

CommInfo (MQCFST)

通信情報オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

このトピック・ノードに使用される通信情報オブジェクトの名前の解決済みの値を示します。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

Custom (MQCFST)

新機能用カスタム属性 (パラメーター ID: MQCA_CUSTOM)。

この属性は、別個の属性が導入されるまでの間、新規機能の構成用として予約されています。1つ以上のスペースで分離された、ゼロ個以上の属性の値 (属性名と値のペアとして指定) を含むことができます。属性名と値のペアは、NAME (VALUE) の形式になります。

この属性を使用する機能が導入されるときに、この記述は更新されます。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA_TOPIC_DEF_PERSISTENCE)。

値は次のいずれかです。

MQPER_PERSISTENCE_AS_PARENT

デフォルトの持続性は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて決まります。

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルト優先度 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PRIORITY)。

DefPutResponse (MQCFIN)

デフォルト書き込み応答 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQPRT_ASYNC_RESPONSE

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

MQPRT_RESPONSE_AS_PARENT

デフォルトの書き込み応答は、トピック・ツリー内で直近の親管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて行われます。

MQPRT_SYNC_RESPONSE

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

DurableModelQName (MQCFST)

永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_MODEL_DURABLE_Q)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

DurableSubscriptions (MQCFIN)

アプリケーションが永続サブスクリプションの作成を許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_DURABLE_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQSUB_DURABLE_AS_PARENT

永続サブスクリプションが許可されるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQSUB_DURABLE_ALLOWED

永続サブスクリプションが許可されています。

MQSUB_DURABLE_INHIBITED

永続サブスクリプションは許可されていません。

InhibitPublications (MQCFIN)

このトピックでパブリケーションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_PUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PUB_AS_PARENT

メッセージをこのトピックでパブリッシュできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_PUB_INHIBITED

このトピックではパブリケーションは禁止されています。

MQTA_PUB_ALLOWED

このトピックではパブリケーションが許可されています。

InhibitSubscriptions (MQCFIN)

このトピックでサブスクリプションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_SUB_AS_PARENT

アプリケーションがこのトピックにサブスクライブできるかどうかは、トピック・ツリー内で最も近い親管理トピック・オブジェクトの設定に基づきます。

MQTA_SUB_INHIBITED

このトピックではサブスクリプションは禁止されています。

MQTA_SUB_ALLOWED

このトピックではサブスクリプションが許可されています。

Multicast (MQCFIN)

このトピックにマルチキャストを使用するかどうか (パラメーター ID: MQIA_MULTICAST)。

戻り値:

MQMC_ENABLED

マルチキャストを使用できます。

MQMC_DISABLED

マルチキャストは使用されません。

MQMC_ONLY

このトピックでは、マルチキャストのパブリッシュ/サブスクライブのみを使用できます。

NonDurableModelQName (MQCFST)

非永続管理サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_MODEL_NON_DURABLE_Q)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

NonPersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックに対してパブリッシュされる非持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA_NPM_DELIVERY)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に非持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非持続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が発生すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

PersistentMsgDelivery (MQCFIN)

このトピックに対してパブリッシュされる持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA_PM_DELIVERY)。

値は次のいずれかです。

MQDLV_AS_PARENT

使用される配信手段は、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づきます。

MQDLV_ALL

MQPUT 呼び出しが成功と見なされるには、サブスクライバーの耐久性とは無関係に持続メッセージが全サブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの持続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの送達が発生すると、他のすべてのサブスクライバーはメッセージを受信せず、MQPUT は失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

ProxySubscriptions (MQCFIN)

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、このトピックのプロキシ・サブスクリプションを直接接続されたキュー・マネージャーに送信するかどうか (パラメーター ID: MQIA_PROXY_SUB)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PROXY_SUB_FORCE

ローカル・サブスクリプションが存在しない場合でも、プロキシ・サブスクリプションは接続されているキュー・マネージャーに送信されます。

MQTA_PROXY_SUB_FIRSTUSE

ローカル・サブスクリプションが存在するときのみ、このトピックのプロキシ・サブスクリプションが送信されます。

PublicationScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーが、パブリケーションを、階層の一部またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: MQIA_PUB_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_ALL

このトピックのパブリケーションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがパブリケーションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

MQSCOPE_AS_PARENT は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのパブリケーションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、書き込みメッセージ・オプションで MQPMO_SCOPE_QMGR を使用して、パブリケーションごとに指定変更できます。

QMGrName (MQCFST)

ローカル・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_Q_MGR_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

SubscriptionScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーが、サブスクリプションを、階層の一部またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか (パラメーター ID: MQIA_SUB_SCOPE)。

値は次のいずれかです。

MQSCOPE_ALL

このトピックに対するサブスクリプションは、階層的に接続されたキュー・マネージャーおよびクラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されます。

MQSCOPE_AS_PARENT

このキュー・マネージャーがサブスクリプションを、このトピックに関連するトピック・ツリーで最初に見つかった親管理ノードの設定に基づいて、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに伝搬するかどうか。

MQSCOPE_AS_PARENT は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

MQSCOPE_QMGR

このトピックのサブスクリプションは、他のキュー・マネージャーには伝搬されません。

注: この動作は、サブスクリプション記述子で MQSO_SCOPE_QMGR を、または DEFINE SUB で SUBSCOPE(QMGR) を使用して、サブスクリプションごとに指定変更できます。

TopicDesc (MQCFST)

トピック記述 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_DESC)。

最大長は MQ_TOPIC_DESC_LENGTH です。

TopicName (MQCFST)

トピック・オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

TopicString (MQCFST)

トピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。

このストリング内の「/」文字には、特別な意味があります。これは、トピック・ツリー内の要素を区切るために使用されます。トピック・ストリングの先頭は「/」文字にできますが、必須ではありません。「/」文字で始まるストリングは、「/」文字なしで始まるストリングとは異なります。トピック・ストリングの末尾に「/」文字を使用することはできません。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

TopicType (MQCFIN)

このオブジェクトがローカルまたはクラスター・トピックであるかどうか (パラメーター ID: MQIA_TOPIC_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQTOPT_LOCAL

このオブジェクトはローカル・トピックです。

MQTOPT_CLUSTER

このオブジェクトはクラスター・トピックです。

UseDLQ (MQCFIN)

パブリケーション・メッセージをその正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キュー (または未配布メッセージ・キュー) を使用するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q)。

値は以下のとおりです。

MQUSEDLQ_NO

正しいサブスクライバー・キューに配信できないパブリケーション・メッセージは、メッセージの書き込み失敗として処理されます。トピックへのアプリケーションの MQPUT は、NPMSGDLV および PMSGDLV の設定に従って失敗します。

MQUSEDLQ_YES

キュー・マネージャーの DEADQ 属性に送達不能キューの名前が指定されている場合、そのキューが使用されます。指定されていない場合、動作は MQUSEDLQ_NO が指定された場合のようになります。

MQUSEDLQ_AS_PARENT

トピック・ツリー内で最も近い管理トピック・オブジェクトの設定に基づいて、送達不能キューを使用するかどうかを指定します。

WildcardOperation (MQCFIN)

このトピックに対するワイルドカードを含むサブスクリプションの動作 (パラメーター ID: MQIA_WILDCARD_OPERATION)。

値は次のいずれかです。

MQTA_PASSTHRU

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取ります。

MQTA_PASSTHRU は、IBM MQ で提供されているデフォルトです。

MQTA_BLOCK

このトピック・オブジェクトのトピック・ストリングより限定的でないワイルドカード・トピック名を使用して行われるサブスクリプションは、このトピックに対して、さらにこのトピックより限定的なトピック・ストリングに対して行われるパブリケーションを受け取りません。

トピック名の照会

Inquire Topic Names (MQCMD_INQUIRE_TOPIC_NAMES) コマンドは、指定された総称トピック名に一致する管理トピック名のリストを照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

TopicName (MQCFST)

管理トピック・オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_NAME)。

情報を得る管理トピック・オブジェクトの名前を指定します。

総称トピック・オブジェクト名がサポートされています。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_LIVE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。パラメーターが指定されていない場合は、MQQSGD_LIVE がデフォルト値です。

MQQSGD_ALL

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。

共有キュー・マネージャー環境が存在し、コマンドが発行されたキュー・マネージャーでそのコマンドが実行される場合、このオプションは MQQSGD_GROUP で定義されたオブジェクトの情報も表示します。

MQQSGD_LIVE が指定されているかまたはデフォルト設定されている場合、あるいは MQQSGD_ALL が共有キュー・マネージャー環境で指定されている場合、コマンドは (属性指定が異なる) 重複する名前を出力することがあります。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。MQQSGD_GROUP は、共有キュー環境でのみ許可されています。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。
MQQSGD_PRIVATE は、MQQSGD_LIVE と同じ情報を返します。

Inquire Topic Names (応答)

Inquire Topic Names (MQCMD_INQUIRE_TOPIC_NAMES) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続くパラメーター構造から構成されます。パラメーター構造には、指定した管理トピック名に一致する 0 個以上の名前が返されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

z/OS

さらに、z/OS の場合のみ、*QSGDispositions* パラメーター構造 (*TopicNames* 構造と同数の項目を持つ) が返されます。この構造内の各項目は、*TopicNames* 構造内の対応する項目を持つオブジェクトの属性指定を示します。

常に返されるデータ:

TopicNames , **z/OS** *QSGDispositions*

要求すると返されるデータ:

なし

応答データ

TopicNames (MQCFSL)

トピック・オブジェクト名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_TOPIC_NAMES)。

z/OS

QSGDispositions (MQCFIL)

QSG 属性指定のリスト (パラメーター ID: MQIACF_QSG_DISPS)。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値は次のいずれかです。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_GROUP

オブジェクトは、MQQSGD_GROUP として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

トピック状況の照会

Inquire Topic Status (MQCMD_INQUIRE_TOPIC_STATUS) コマンドは、特定のトピック、またはトピックとその子トピックの状況を照会します。Inquire Topic Status コマンドには以下の必須パラメーターがあります。Inquire Topic Status コマンドには以下のオプション・パラメーターがあります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

TopicString (MQCFST)

トピック・ストリング (パラメーター ID: MQCA_TOPIC_STRING)。

表示するトピック・ストリングの名前。IBM MQ では、トピック・ワイルドカード文字 (「#」と「+」) が使用され、末尾のアスタリスクはワイルドカードとして扱われません。ワイルドカード文字について詳しくは、関連トピックを参照してください。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_STR_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーがキュー共有グループ内でアクティブである場合に限り、そのキュー・マネージャーで実行されます。コマンドを入力したキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、またコマンド・サーバーが使用可能になっていなければなりません。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

CommandScope をフィルター・パラメーターとして使用することはできません。

IntegerFilterCommand (MQCFIF)

コマンド出力を制限するために使用する Integer filter コマンド記述子。パラメーター ID は整数型でなければならず、また MQIACF_TOPIC_SUB_STATUS、MQIACF_TOPIC_PUB_STATUS、または MQIACF_TOPIC_STATUS (MQIACF_ALL は除く) で使用可能な値の 1 つでなければなりません。

整数フィルターを指定する場合、StringFilterCommand パラメーターでストリング・フィルターを指定することはできません。

StatusType (MQCFIN)

返す状況のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_TOPIC_STATUS_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQIACF_TOPIC_STATUS
MQIACF_TOPIC_SUB
MQIACF_TOPIC_PUB

このコマンドでは、TopicStatusAttrs リストで指定した属性セレクターの中で、選択した StatusType には無効であり、コマンドでエラーが発生しないものは無視されます。

このパラメーターを指定しない場合のデフォルト値は、**MQIACF_TOPIC_STATUS** です。

StringFilterCommand (MQCFSF)

ストリング・フィルター・コマンド記述子。パラメーター ID は、MQIACF_TOPIC_SUB_STATUS、MQIACF_TOPIC_PUB_STATUS、または MQIACF_TOPIC_STATUS (MQIACF_ALL を除く) に使用できるストリング型のパラメーターのいずれか、あるいはトピック・ストリングでフィルタリングするための ID MQCA_TOPIC_STRING_FILTER でなければなりません。

フィルター条件を指定することによって、コマンドからの出力を限定する場合に、このパラメーター ID を使用します。パラメーターが、*StatusType* で選択されたタイプに対して有効であることを確認してください。ストリング・フィルターを指定する場合、*IntegerFilterCommand* パラメーターを使用して整数フィルターを指定することはできません。

TopicStatusAttrs (MQCFIL)

トピック状況属性 (パラメーター ID: MQIACF_TOPIC_STATUS_ATTRS)。

パラメーターが指定されない場合に使用されるデフォルト値は次のとおりです。

MQIACF_ALL

1791 ページの『[Inquire Topic Status \(応答\)](#)』にリストされているパラメーター値を指定できます。特定の状況タイプに関係しない状況情報をしてもエラーにはなりませんが、応答には関連する値の情報は含まれません。

Inquire Topic Status (応答)

Inquire Topic (MQCMD_INQUIRE_TOPIC_STATUS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く *TopicString* 構造、および要求に応じて組み合わせられた属性パラメーター構造 (該当する場合) で構成されます。Inquire Topic Status コマンドは、*StatusType* が MQIACF_TOPIC_STATUS である場合に、要求された値を返します。Inquire Topic Status コマンドは、*StatusType* が MQIACF_TOPIC_STATUS_SUB である場合に、要求された値を返します。Inquire Topic Status コマンドは、*StatusType* が MQIACF_TOPIC_STATUS_PUB である場合に、要求された値を返します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

常に返されるデータ:

TopicString

StatusType が MQIACF_TOPIC_STATUS の場合に要求すると返されるデータ:

Cluster, ClusterPubRoute, CommInfo, DefPriority, DefaultPutResponse, DefPersistence, DurableSubscriptions, InhibitPublications, InhibitSubscriptions, AdminTopicName, Multicast, DurableModelQName, NonDurableModelQName, PersistentMessageDelivery, NonPersistentMessageDelivery, RetainedPublication, PublishCount, SubscriptionScope, SubscriptionCount, PublicationScope, UseDLQ

注: Inquire Topic Status コマンドは、トピックの解決済みの値のみを返し、AS_PARENT 値は返しません。

StatusType が MQIACF_TOPIC_SUB の場合に要求すると返されるデータ:

SubscriptionId, SubscriptionUserId, Durable, SubscriptionType, ResumeDate, ResumeTime, LastMessageDate, LastMessageTime, NumberOfMessages, ActiveConnection

StatusType が MQIACF_TOPIC_PUB の場合に要求すると返されるデータ:

LastPublishDate, LastPublishTime, NumberOfPublishes, ActiveConnection

応答データ (TOPIC_STATUS)

ClusterName (MQCFST)

このトピックが属するクラスターの名前。(パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。このキュー・マネージャーがメンバーになっているクラスターにこのパラメーターを設定すると、クラスター内のすべてのキュー・マネージャーがこのトピックを認識します。このクラスター内の任意のキュー・マネージャーに書き込まれたこのトピックまたはその下位のトピック・ストリングのパブリケーションは、クラスター内のその他のキュー・マネージャーのサブスクリプションに伝搬されます。詳しくは、[分散パブリッシュ/サブスクライブのネットワーク](#)を参照してください。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

ブランク

トピック・ツリー内のこのトピックより上のトピック・オブジェクトで、このパラメーターがクラスター名に設定されているものがない場合、このトピックはクラスターに属しません。このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションは、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬されません。トピック・ツリー内の上位トピック・ノードでクラスター名が設定されている場合は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションもクラスター全体に伝搬されます。

この値は、値が指定されない場合のこのパラメーターのデフォルト値です。

ストリング

トピックは、このクラスターに所属します。トピック・ツリー内のこのトピック・オブジェクトより上位のトピック・オブジェクトと異なるクラスターにこれを設定することは推奨されません。クラスター内の他のキュー・マネージャーでは、同じ名前のローカル定義がキュー・マネージャーに存在しない場合は、このオブジェクトの定義が使用されます。

また、**PublicationScope** または **SubscriptionScope** が MQSCOPE_ALL に設定されている場合、この値は、このトピックのパブリケーションおよびサブスクリプションを、クラスター接続されたパブリッシュ/サブスクライブ・キュー・マネージャーに伝搬するために使用されるクラスターです。

ClusterPubRoute (MQCFIN)

クラスター内でこのトピックに使用するルーティングの動作 (パラメーター ID: MQIA_CLUSTER_PUB_ROUTE)。

可能な値は次のとおりです。

MQCLROUTE_DIRECT

このキュー・マネージャーから発生するこのトピック・ストリングでのパブリケーションは、一致するサブスクリプションを持つクラスター内のキュー・マネージャーに直接送信されます。

MQCLROUTE_TOPIC_HOST

このキュー・マネージャーから発生するこのトピック・ストリングでのパブリケーションは、対応するクラスター・トピック・オブジェクトの定義をホストするクラスター内のキュー・マネージャーの1つに送信され、そこから、一致するサブスクリプションを持つクラスター内のいずれかのキュー・マネージャーに送信されます。

MQCLROUTE_NONE

このトピック・ノードはクラスター化されていません。

CommInfo (MQCFST)

通信情報オブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCA_COMM_INFO_NAME)。

このトピック・ノードに使用される通信情報オブジェクトの名前の解決済みの値を示します。

ストリングの最大長は MQ_COMM_INFO_NAME_LENGTH です。

DefPersistence (MQCFIN)

デフォルトの持続性 (パラメーター ID: MQIA_TOPIC_DEF_PERSISTENCE)。

戻り値:

MQPER_PERSISTENT

メッセージは持続します。

MQPER_NOT_PERSISTENT

メッセージは持続しません。

DefaultPutResponse (MQCFIN)

デフォルト書き込み応答 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PUT_RESPONSE_TYPE)。

戻り値:

MQPRT_SYNC_RESPONSE

PUT 操作は同期的に実行され、応答が返されます。

MQPRT_ASYNC_RESPONSE

PUT 操作は非同期的に実行され、MQMD フィールドのサブセットが返されます。

DefPriority (MQCFIN)

デフォルト優先度 (パラメーター ID: MQIA_DEF_PRIORITY)。

トピックに対してパブリッシュされたメッセージの解決済みデフォルト優先度を表示します。

DurableSubscriptions (MQCFIN)

アプリケーションが永続サブスクリプションの作成を許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_DURABLE_SUB)。

戻り値:

MQSUB_DURABLE_ALLOWED

永続サブスクリプションが許可されています。

MQSUB_DURABLE_INHIBITED

永続サブスクリプションは許可されていません。

InhibitPublications (MQCFIN)

このトピックでパブリケーションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_PUB)。

戻り値:

MQTA_PUB_INHIBITED

このトピックではパブリケーションは禁止されています。

MQTA_PUB_ALLOWED

このトピックではパブリケーションが許可されています。

InhibitSubscriptions (MQCFIN)

このトピックでサブスクリプションが許可されているかどうか (パラメーター ID: MQIA_INHIBIT_SUB)。

戻り値:

MQTA_SUB_INHIBITED

このトピックではサブスクリプションは禁止されています。

MQTA_SUB_ALLOWED

このトピックではサブスクリプションが許可されています。

AdminTopicName (MQCFST)

トピック・オブジェクト名 (パラメーター ID: MQCA_ADMIN_TOPIC_NAME)。

トピックが管理ノードの場合は、このコマンドにより、ノード構成を含む関連トピック・オブジェクト名が表示されます。フィールドが管理ノードではない場合、コマンドはブランクを表示します。

ストリングの最大長は MQ_TOPIC_NAME_LENGTH です。

Multicast (MQCFIN)

このトピックにマルチキャストを使用するかどうか (パラメーター ID: MQIA_MULTICAST)。

戻り値:

MQMC_ENABLED

マルチキャストを使用できます。

MQMC_DISABLED

マルチキャストは使用されません。

MQMC_ONLY

このトピックでは、マルチキャストのパブリッシュ/サブスクライブのみを使用できます。

DurableModelQName (MQCFST)

管理対象の永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_MODEL_DURABLE_Q)。

キュー・マネージャーに対してパブリケーションの宛先管理を要求する永続サブスクリプションに使用される、モデル・キュー名の解決された値を示します。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

NonDurableModelQName (MQCFST)

管理対象の非永続サブスクリプションに使用されるモデル・キューの名前 (パラメーター ID: MQCA_MODEL_NON_DURABLE_Q)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

PersistentMessageDelivery (MQCFIN)

このトピックに対してパブリッシュされた持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA_PM_DELIVERY)。

戻り値:

MQDLV_ALL

持続メッセージは永続性にかかわらずなく、MQPUT 呼び出しが正常に行われたことを報告するために、すべてのサブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの永続メッセージの配信に失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

NonPersistentMessageDelivery (MQCFIN)

このトピックに対してパブリッシュされた非持続メッセージの配信手段 (パラメーター ID: MQIA_NPM_DELIVERY)。

戻り値:

MQDLV_ALL

非持続メッセージは永続性にかかわらずなく、MQPUT 呼び出しが正常に行われたことを報告するために、すべてのサブスクライバーに配信される必要があります。サブスクライバーへの配信が失敗した場合、他のサブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

MQDLV_ALL_DUR

非持続メッセージは、すべての永続サブスクライバーに配信される必要があります。非永続サブスクライバーへの非永続メッセージの配信が失敗しても、MQPUT 呼び出しにエラーは返されません。永続サブスクライバーへの配信が失敗した場合、サブスクライバーがメッセージを受け取ることはなく、MQPUT 呼び出しは失敗します。

MQDLV_ALL_AVAIL

非持続メッセージは、メッセージを受け入れ可能なすべてのサブスクライバーに配信されます。サブスクライバーへのメッセージ配信が失敗しても、他のサブスクライバーはメッセージを受け取ります。

RetainedPublication (MQCFIN)

このトピックに保存パブリケーションがあるかどうか (パラメーター ID: MQIACF_RETAINED_PUBLICATION)。

戻り値:

MQQSO_YES

このトピックには保存パブリケーションがあります。

MQQSO_NO

このトピックには保存パブリケーションがありません。

PublishCount (MQCFIN)

パブリッシュ・カウント (パラメーター ID: MQIA_PUB_COUNT)。

トピックに対して現在パブリッシュを行っているアプリケーションの数です。

SubscriptionCount (MQCFIN)

サブスクリプション・カウント (パラメーター ID: MQIA_SUB_COUNT)。

このトピック・ストリングのサブスクライバー数です。現在接続していない永続サブスクライバーを含みます。

SubscriptionScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがこのトピックのサブスクリプションを、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに 伝搬するかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIA_SUB_SCOPE)。

戻り値:

MQSCOPE_QMGR

キュー・マネージャーは、このトピックのサブスクリプションを他のキュー・マネージャーに伝搬しません。

MQSCOPE_ALL

キュー・マネージャーは、このトピックのサブスクリプションを、階層的に接続されたキュー・マネージャーと、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター接続キューに 伝搬します。

PublicationScope (MQCFIN)

このキュー・マネージャーがこのトピックのパブリケーションを、階層の一部としての、またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスターの一部としてのキュー・マネージャーに 伝搬するかどうかを決定します (パラメーター ID: MQIA_PUB_SCOPE)。

戻り値:

MQSCOPE_QMGR

キュー・マネージャーは、このトピックのパブリケーションを他のキュー・マネージャーに伝搬しません。

MQSCOPE_ALL

キュー・マネージャーは、このトピックのパブリケーションを、階層的に接続されたキュー・マネージャーと、パブリッシュ/サブスクライブ・クラスター接続キューに伝搬します。

UseDLQ (MQCFIN)

パブリケーション・メッセージをそれらの正しいサブスクライバー・キューに配信できない場合に、送達不能キューを使用するかどうかを判別します (パラメーター ID: MQIA_USE_DEAD_LETTER_Q)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUSEDLQ_NO

正しいサブスクライバー・キューに配信できないパブリケーション・メッセージは、メッセージの書き込み失敗として処理されます。トピックに対するアプリケーションの MQPUT の失敗は、MQIA_NPM_DELIVERY および MQIA_PM_DELIVERY の設定に基づきます。

MQUSEDLQ_YES

DEADQ キュー・マネージャーの属性が送達不能キューの名前を提供している場合は、それが使用されます。提供されていない場合、動作は MQUSEDLQ_NO の場合のようになります。

応答データ (TOPIC_STATUS_SUB)

SubscriptionId(MQCFBS)

サブスクリプション ID (パラメーター ID: MQBACF_SUB_ID)。

キュー・マネージャーはこのサブスクリプションに、常に固有な ID として *SubscriptionId* を割り当てます。

ストリングの最大長は MQ_CORREL_ID_LENGTH です。

SubscriptionUserId (MQCFST)

このサブスクリプションを所有するユーザー ID (パラメーター ID: MQCACF_SUB_USER_ID)。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

Durable (MQCFIN)

このサブスクリプションが永続サブスクリプションであるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_DURABLE_SUBSCRIPTION)。

MQSUB_DURABLE_YES

サブスクリプションは永続です。これは、作成アプリケーションがキュー・マネージャーから切断した場合、またはサブスクリプションに対して MQCLOSE 呼び出しを発行した場合でも同様です。再始動中にキュー・マネージャーがサブスクリプションを復元します。

MQSUB_DURABLE_NO

サブスクリプションは非永続です。作成アプリケーションがキュー・マネージャーから切断した場合、またはサブスクリプションに対して MQCLOSE 呼び出しを発行した場合、キュー・マネージャーはサブスクリプションを削除します。サブスクリプションの宛先クラス (DESTCLAS) が MANAGED である場合、キュー・マネージャーは、サブスクリプションのクローズ時に未消費のメッセージを削除します。

SubscriptionType (MQCFIN)

サブスクリプションのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_SUB_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQSUBTYPE_ADMIN

MQSUBTYPE_API

MQSUBTYPE_PROXY

ResumeDate (MQCFST)

このサブスクリプションに接続された最新 MQSUB の日付 (パラメーター ID: MQCA_RESUME_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

ResumeTime (MQCFST)

このサブスクリプションに接続された最新 MQSUB の時刻 (パラメーター ID: MQCA_RESUME_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

LastMessageDate (MQCFST)

MQPUT 呼び出しが最後にこのサブスクリプションにメッセージを送信した日付。キュー・マネージャーは、MQPUT 呼び出しにより、このサブスクリプションで指定された宛先にメッセージが正常に書き込まれた後で、日付フィールドを更新します (パラメーター ID: MQCACF_LAST_MSG_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

注: この値は、MQSUBRQ 呼び出しにより更新されます。

LastMessageTime (MQCFST)

MQPUT 呼び出しが最後にこのサブスクリプションにメッセージを送信した時刻。キュー・マネージャーは、MQPUT 呼び出しにより、このサブスクリプションで指定された宛先にメッセージが正常に書き込まれた後で、時刻フィールドを更新します (パラメーター ID: MQCACF_LAST_MSG_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

注: この値は、MQSUBRQ 呼び出しにより更新されます。

NumberOfMessages (MQCFIN)

このサブスクリプションで指定された宛先に書き込まれたメッセージ数 (パラメーター ID: MQIACF_MESSAGE_COUNT)。

注: この値は、MQSUBRQ 呼び出しにより更新されます。

ActiveConnection(MQCFBS)

このサブスクリプションをオープンした現在アクティブな *ConnectionId* (CONNID) (パラメーター ID: MQBACF_CONNECTION_ID)。

ストリングの最大長は MQ_CONNECTION_ID_LENGTH です。

応答データ (TOPIC_STATUS_PUB)

LastPublicationDate (MQCFST)

このパブリッシャーが最後にメッセージを送信した日付 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_PUB_DATE)。

ストリングの最大長は MQ_DATE_LENGTH です。

LastPublicationTime (MQCFST)

このパブリッシャーが最後にメッセージを送信した時刻 (パラメーター ID: MQCACF_LAST_PUB_TIME)。

ストリングの最大長は MQ_TIME_LENGTH です。

NumberOfPublishes (MQCFIN)

このパブリッシャーによって行われたパブリッシュの数 (パラメーター ID: MQIACF_PUBLISH_COUNT)。

ActiveConnection(MQCFBS)

パブリッシュ用にこのトピックをオープンしたハンドルに関連する、現在アクティブな *ConnectionId* (CONNID) (パラメーター ID: MQBACF_CONNECTION_ID)。

ストリングの最大長は MQ_CONNECTION_ID_LENGTH です。

Inquire Usage

Inquire Usage (MQCMD_INQUIRE_USAGE) ページ・セットの現在の状態について、またはログ・データ・セットの情報について照会します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

PageSetId (MQCFIN)

ページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA_PAGESET_ID)。 このパラメーターを省略すると、すべてのページ・セット ID が返されます。

UsageType (MQCFIN)

返される情報のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIACF_USAGE_PAGESET

ページ・セット (MQIACF_USAGE_PAGESET) およびバッファ・プール情報 (MQIACF_USAGE_BUFFER_POOL) を返します。

MQIACF_USAGE_DATA_SET

ログ・データ・セットのデータ・セット情報 (MQIACF_USAGE_DATA_SET) を返します。

MQIACF_ALL

ページ・セット (MQIACF_USAGE_PAGESET)、バッファ・プール (MQIACF_USAGE_BUFFER_POOL)、およびデータ・セット情報 (MQIACF_USAGE_DATA_SET) を返します。

MQIACF_USAGE_SMDs

共有メッセージ・データ・セット使用量 (MQIACF_USAGE_SMDs) とバッファ・プール情報 (MQIACF_USAGE_BUFFER_POOL) を返します。

これには、各データ・セットの割り振り済みスペースと使用済みスペース、および現在アクティブなバッファの数、有効な内容を含むバッファの数、および解放されているバッファの数に関する情報が含まれます。

Inquire Usage (Response)

Inquire Usage (MQCMD_INQUIRE_USAGE) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く 1 つ以上の UsageType 構造、および Inquire コマンドの UsageType の値に応じて組み合わされた属性パラメーター構造で構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

常に返されるデータ:

UsageType

ParameterType に指定可能な値は、次のとおりです。

MQIACF_USAGE_PAGESET

ページ・セット情報。

MQIACF_USAGE_BUFFER_POOL

バッファ・プール情報。

MQIACF_USAGE_DATA_SET

ログ・データ・セットのデータ・セット情報。

MQIACF_USAGE_SMDs

共有メッセージ・データ・セット使用量とバッファ・プール情報を返します。

これには、各データ・セットの割り振り済みスペースと使用済みスペース、および現在アクティブなバッファの数、有効な内容を含むバッファの数、および解放されているバッファの数に関する情報が含まれます。

UsageType が **MQIACF_USAGE_PAGESET** の場合に返されるデータ:

BufferPoolId, ExpandCount, ExpandType, LogRBA, NonPersistentDataPages, PageSetId, PageSetStatus, PersistentDataPages, TotalPages, UnusedPages

UsageType が **MQIACF_USAGE_BUFFER_POOL** の場合に返されるデータ:

BufferPoolId, FreeBuffers, FreeBuffersPercentage, TotalBuffers, BufferPoolLocation, PageClass

UsageType が **MQIACF_USAGE_DATA_SET** の場合に返されるデータ:

DataSetName, DataSetType, LogRBA, LogLRSN

UsageType が MQIACF_USAGE_SMDS の場合に返されるデータ:

DataSetName, DataSetType

UsageType が MQIACF_USAGE_PAGESET の場合の応答データ

BufferPoolId (MQCFIN)

バッファ・プール ID (パラメーター ID: MQIACF_BUFFER_POOL_ID)。

このパラメーターは、ページ・セットで使用されているバッファ・プールを指定します。

ExpandCount (MQCFIN)

再始動以降にページ・セットが動的に拡張された回数 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_EXPAND_COUNT)。

ExpandType (MQCFIN)

ページ・セットがほぼいっぱいになって、その内部でページがさらに必要になった場合に、キュー・マネージャーによってページ・セットが拡張される方法 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_EXPAND_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQUSAGE_EXPAND_NONE

以後のページ・セットの拡張は行われません。

MQUSAGE_EXPAND_USER

ページ・セット定義時に指定された 2 次エクステンツ・サイズを使用します。2 次エクステンツ・サイズを指定しなかったか、またはこれをゼロで指定した場合は、動的ページ・セットの拡張を実行することはできません。

再始動時に、以前に使用されていたページ・セットが、それより小さいデータ・セットで置き換えられている場合は、以前に使用されていたデータ・セットのサイズに達するまで拡張されます。このサイズに到達する必要があるエクステンツは 1 つだけです。

MQUSAGE_EXPAND_SYSTEM

ページ・セットの現行サイズの約 10 パーセントの 2 次エクステンツ・サイズが使用されます。MQUSAGE_EXPAND_SYSTEM は、DASD の、サイズが最も近いシリンダーのサイズに切り上げられることがあります。

NonPersistentDataPages (MQCFIN)

非持続性データを保持するページ数 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_NONPERSIST_PAGES)。

これらのページは、非持続メッセージ・データを保管する場合に使用されます。

PageSetId (MQCFIN)

ページ・セット ID (パラメーター ID: MQIA_PAGESET_ID)。

ストリングは、00 から 99 の範囲の 2 つの数字で構成されます。

PageSetStatus (MQCFIN)

ページ・セットの現行の状況 (パラメーター ID: MQIACF_PAGESET_STATUS)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQUSAGE_PS_AVAILABLE

ページ・セット使用可能です。

MQUSAGE_PS_DEFINED

ページ・セットは定義されていますが、これまで使用されたことはありません。

MQUSAGE_PS_OFFLINE

ページ・セットは、現在キュー・マネージャーによってアクセスすることができません (例えば、ページ・セットがキュー・マネージャーに対して定義されていないなどの理由で)。

MQUSAGE_PS_NOT_DEFINED

コマンドが、キュー・マネージャーに定義されていない特定のページ・セットに対して発行されました。

MQUSAGE_PS_SUSPENDED

ページ・セットが中断されました。中断状態のページ・セットについて詳しくは、メッセージ CSQP059E を参照してください。

PersistentDataPages (MQCFIN)

持続性データを保持するページ数 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_PERSIST_PAGES)。

これらのページは、オブジェクト定義および持続メッセージ・データを保管する場合に使用されます。

TotalPages (MQCFIN)

ページ・セット内の 4 KB ページの総数 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_TOTAL_PAGES)。

UnusedPages (MQCFIN)

使用されていないページ数 (つまり、使用可能なページ・セット) (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_UNUSED_PAGES)。

LogRBA (MQCFST)

ログ RBA (パラメーター ID: MQCACF_USAGE_LOG_RBA)。

最大長は MQ_RBA_LENGTH です。

この応答は、PageSetStatus が MQUSAGE_PS_NOT_DEFINED または MQUSAGE_SUSPENDED に設定されている場合にのみ返されます。しかし、PageSetStatus が MQUSAGE_PS_NOT_DEFINED に設定されている場合は、応答が必ず返されるわけではありません。

値 'FFFFFFFFFFFFFFFF' は、ページ・セットがオンラインになったことがないことを示します。

UsageType が MQIACF_USAGE_BUFFER_POOL の場合の応答データ

BufferPoolId (MQCFIN)

バッファ・プール ID (パラメーター ID: MQIACF_BUFFER_POOL_ID)。

このパラメーターは、ページ・セットで使用されているバッファ・プールを指定します。

FreeBuffers (MQCFIN)

解放されているバッファの数 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_FREE_BUFF)。

FreeBuffersPercentage (MQCFIN)

解放されているバッファの数を、バッファ・プール内のすべてのバッファに対する割合で表した数値 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_FREE_BUFF_PERC)。

TotalBuffers (MQCFIN)

指定したバッファ・プールに定義されたバッファの数 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_TOTAL_BUFFERS)。

BufferPoolLocation (MQCFIN)

2 GB 境界との関連で示す、このバッファ・プール内のバッファの場所。以下のいずれかの値になります。

MQBPLOCATION_ABOVE

バッファ・プール・バッファはすべて 2 GB 境界より上です。

MQBPLOCATION_BELOW

バッファ・プール・バッファはすべて 2 GB 境界より下です。

MQBPLOCATION_SWITCHING_ABOVE

バッファ・プール・バッファを 2 GB 境界より上へ移動中です。

MQBPLOCATION_SWITCHING_BELOW

バッファ・プール・バッファを 2 GB 境界より下へ移動中です。

PageClass (MQCFIN)

バッファ・プールのバッファをバッキングするために使用する仮想ストレージ・ページのタイプ。以下のいずれかの値になります。

MQPAGECLAS_4KB

ページング可能な 4 KB ページが使用されます。

MQPAGECLAS_FIXED4KB

固定の 4 KB ページが使用されます。

UsageType が MQIACF_USAGE_DATA_SET の場合の応答データ

DataSetName (MQCFST)

データ・セット名 (パラメーター ID: MQCACF_DATA_SET_NAME)。

最大長は MQ_DATA_SET_NAME_LENGTH です。

DataSetType (MQCFIN)

データ・セットのタイプと状況 (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_DATA_SET_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQUSAGE_DS_OLDEST_ACTIVE_UOW

キュー・マネージャーの最も古いアクティブ作業単位の開始 RBA を含むログ・データ・セット。

MQUSAGE_DS_OLDEST_PS_RECOVERY

キュー・マネージャーの任意のページ・セットの最も古い再始動 RBA を含むログ・データ・セット。

MQUSAGE_DS_OLDEST_CF_RECOVERY

キュー共有グループ内の何らかの CF 構造体についての最も古い現行バックアップの時間と一致する LRSN が存在する、ログ・データ・セット。

LogRBA (MQCFST)

ログ RBA (パラメーター ID: MQCACF_USAGE_LOG_RBA)。

最大長は MQ_RBA_LENGTH です。

LogLRSN (MQCFST)

ログ LRSN (パラメーター ID: MQIACF_USAGE_LOG_LRSN)。

ストリングの長さは MQ_LRSN_LENGTH です。

UsageType が MQIACF_USAGE_SMDS の場合の応答データ

SMDSstatus (MQCFIN)

SMDS 状況 (パラメーター ID: MQIACF_SMDS_STATUS)。

MQUSAGE_SMDS_NO_DATA

使用可能な SMDS データはありません。それ以上何も返されません。

MQUSAGE_SMDS_AVAILABLE

CF 構造体ごとに 2 セットの PCF データが返されます。

A

CFStrucNames (MQCFSL)

CF アプリケーション構造名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_CF_STRUC_NAME)。

MQIACF_USAGE_OFFLOAD_MSGS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_OFFLOAD_MSGS).

MQIACF_USAGE_TOTAL_BLOCKS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_TOTAL_BLOCKS).

MQIACF_USAGE_DATA_BLOCKS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_DATA_BLOCKS).

MQIACF_USAGE_USED_BLOCKS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_USED_BLOCKS).

MQIACF_USAGE_USED_RATE (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_USED_RATE).

MQIACF_SMDS_STATUS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_SMDS_STATUS). 値は MQUSAGE_SMDS_AVAILABLE です。

MQIACF_USAGE_TYPE (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_TYPE).

B**CFStrucNames (MQCFSL)**

CF アプリケーション構造名のリスト (パラメーター ID: MQCACF_CF_STRUC_NAME)。

MQIACF_USAGE_BLOCK_SIZE (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_BLOCK_SIZE).

MQIACF_USAGE_TOTAL_BUFFERS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_TOTAL_BUFFERS).

MQIACF_USAGE_INUSE_BUFFERS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_INUSE_BUFFERS).

MQIACF_USAGE_SAVED_BUFFERS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_SAVED_BUFFERS).

MQIACF_USAGE_EMPTY_BUFFERS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_EMPTY_BUFFERS).

MQIACF_USAGE_READS_SAVED (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_READS_SAVED).

MQIACF_USAGE_LOWEST_FREE (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_LOWEST_FREE).

MQIACF_USAGE_WAIT_RATE (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_WAIT_RATE).

MQIACF_SMDS_STATUS (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_SMDS_STATUS). 値は MQUSAGE_SMDS_AVAILABLE です。

MQIACF_USAGE_TYPE (MQCFIN)

Description required (parameter identifier: MQIACF_USAGE_TYPE).

Move Queue

Move Queue (MQCMD_MOVE_Q) コマンドは、あるローカル・キューから別のキューへすべてのメッセージを移動します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

FromQName(MQCFST)

コピー元キュー名 (パラメーター ID: MQCACF_FROM_Q_NAME)。

メッセージの移動元のローカル・キューの名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

キューにコミットされていないメッセージが含まれている場合、コマンドは失敗します。

アプリケーションがこのキューまたは最終的にこのキューに解決されるキューをオープンした場合、コマンドは失敗します。例えば、このキューが伝送キューで、この伝送キューを参照するリモート・キュー、またはそのリモート・キューに解決されるキューがオープンしている場合、コマンドは失敗します。

アプリケーションはコマンドの実行中もこのキューをオープンすることができますが、コマンドが完了するまで待機します。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター (Move Queue)

CommandScope(MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

MoveType (MQCFIN)

移動タイプ (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

メッセージの移動方法を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQIACF_MOVE_TYPE_MOVE

メッセージをソース・キューから空のターゲット・キューに移動させます。

ターゲット・キューに既に 1 つ以上のメッセージがある場合、コマンドは失敗します。メッセージはソース・キューから削除されます。MQIACF_MOVE_TYPE_MOVE がデフォルト値です。

MQIACF_MOVE_TYPE_ADD

メッセージをソース・キューから移動させ、そのメッセージを、既にターゲット・キューに存在するメッセージに追加します。

メッセージはソース・キューから削除されます。

QSGDisposition (MQCFIN)

グループ内のオブジェクトの特性 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

情報が返されるオブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_PRIVATE

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR または MQQSGD_COPY として定義されます。
MQQSGD_PRIVATE がデフォルト値です。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。MQQSGD_SHARED は共有キュー環境でのみ有効です。

ToQName(MQCFST)

コピー先キュー名 (パラメーター ID: MQCACF_TO_Q_NAME)。

メッセージの移動先のローカル・キューの名前。この名前は、ローカル・キュー・マネージャーに定義されていなければなりません。

キューが共有キューとしても、また専用キューとしても存在する場合にのみ、ターゲット・キューの名前をソース・キューの名前と同じにすることができます。この場合、コマンドは *QSGDisposition* パラメーターのソース・キューに指定された性質 (共用または専用) のキューから、それとは逆の性質が備わったキューにメッセージを移動します。

アプリケーションがこのキューまたは最終的にこのキューに解決されるキューをオープンした場合、コマンドは失敗します。このキューが伝送キューで、その伝送キューを参照するリモート・キュー (また

は、最終的にそのような リモート・キューで解決されるキュー) がオープンしている場合もコマンドは失敗します。

アプリケーションは、このコマンドの実行中は対象のキューを開くことはできません。

MoveType パラメーターに値 *MQIACF_MOVE_TYPE_MOVE* を指定すると、ターゲット・キューが1つ以上のメッセージを既に含んでいる場合は、コマンドは失敗します。

ターゲット・キューの *DefinitionType*、*HardenGetBackout*、*Usage* の各パラメーターは、ソース・キューの各パラメーターと同じである必要があります。

ストリングの最大長は *MQ_Q_NAME_LENGTH* です。

Ping Channel

Ping Channel (*MQCMD_PING_CHANNEL*) コマンドは、データを特別メッセージとしてリモート・メッセージ・キュー・マネージャーに送信し、そのデータが返されるかどうかを検査することによって、チャンネルをテストします。そのデータは、ローカル・キュー・マネージャーが生成します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

このコマンドは、*ChannelType* の値が *MQCHT_SENDER*、*MQCHT_SERVER*、または *MQCHT_CLUSSDR* であるチャンネルに関してのみ使用できます。

同じ名前のローカル定義チャンネルと、自動定義クラスター送信側チャンネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャンネルに適用されます。

ローカルに定義されたチャンネルが存在せず、自動定義されたクラスター送信側チャンネルが複数存在する場合には、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャンネルに適用されます。

このコマンドは、チャンネルが実行中のときは無効です。ただし、チャンネルが停止しているとき、または再試行モードのときは有効です。

必要なパラメーター

ChannelName(*MQCFST*)

チャンネル名 (パラメーター ID: *MQCACH_CHANNEL_NAME*)。

テストするチャンネルの名前。ストリングの最大長は *MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH* です。

オプション・パラメーター

DataCount(*MQCFIN*)

データ・カウント (パラメーター ID: *MQIACH_DATA_COUNT*)。

データの長さを指定します。

16 から 32 768 の範囲内で値を指定してください。デフォルト値は 64 バイトです。



CommandScope (*MQCFST*)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: *MQCACF_COMMAND_SCOPE*)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*). コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。



ChannelDisposition (MQCFIN)

チャネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

テストするチャネルの特性を指定します。

このパラメーターを省略すると、チャネルの性質の値は、チャネル・オブジェクトのデフォルトのチャネルの性質属性から取得されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_PRIVATE

受信側チャネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED 以外の場合は専用チャネルになります。

MQCHLD_SHARED

受信チャネルは、キュー共有グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共用されます。

送信側チャネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED である場合は共有チャネルになります。

MQCHLD_FIXSHARED

特定のキュー・マネージャーに結合された共有チャネルをテストします。

ChannelDisposition パラメーターと *CommandScope* パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャネルを操作するかを制御することもできます。 指定できるオプションは次のとおりです。

- コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。
- グループ内の最も適切なキュー・マネージャー (キュー・マネージャー自体が自動的に判断)。

ChannelDisposition と *CommandScope* のさまざまな組み合わせについて、[1805 ページの表 93](#) に要約します。

表 93. PING CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope			
ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたは local-qmgr	CommandScope qmgr-name	CommandScope (*)
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャネルを PING します。	名前付きキュー・マネージャーの専用チャネルを PING します。	アクティブなキュー・マネージャーすべての専用チャネルを PING します。

表 93. PING CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope (続き)			
ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたは local-qmgr	CommandScope qmgr-name	CommandScope (*)
MQCHLD_SHARED	グループ内で最適のキュー・マネージャの共有チャンネルを PING します。 MQCHLD_SHARED の場合、CommandScope を使用してコマンドが自動的に生成され、適切なキュー・マネージャに送信されることがあります。コマンドの送信先キュー・マネージャ上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されるキュー・マネージャのチャンネルの定義は、コマンドが実行されるターゲット・キュー・マネージャを決定するために使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない	許可されない
MQCHLD_FIXSHARED	ローカル・キュー・マネージャの共有チャンネルを PING します。	名前付きキュー・マネージャの共有チャンネルを PING します。	許可されない

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_ALLOCATE_FAILED

割り振りに失敗しました。

MQRCCF_BIND_FAILED

バインドが失敗しました。

MQRCCF_CCSID_ERROR

コード化文字セット ID エラー。

MQRCCF_CHANNEL_CLOSED

チャンネルがクローズしています。

MQRCCF_CHANNEL_IN_USE

チャンネルが使用中です。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

チャンネル・タイプが無効です。

MQRCCF_CONFIGURATION_ERROR

構成エラー。

MQRCCF_CONNECTION_CLOSED

接続がクローズされました。

MQRCCF_CONNECTION_REFUSED

接続は拒否されました。

MQRCCF_DATA_TOO_LARGE

データが大きすぎます。

MQRCCF_ENTRY_ERROR

接続名が無効です。

MQRCCF_HOST_NOT_AVAILABLE

リモート・システムを使用できません。

MQRCCF_NO_COMMS_MANAGER

コミュニケーション・マネージャーを使用できません。

MQRCCF_PING_DATA_COMPARE_ERROR

ping チャンネル・コマンドが失敗しました。

MQRCCF_PING_DATA_COUNT_ERROR

データ・カウントが無効です。

MQRCCF_PING_ERROR

ping エラーです。

MQRCCF_RECEIVE_FAILED

受信に失敗しました。

MQRCCF_RECEIVED_DATA_ERROR

データ・エラーを受信しました。

MQRCCF_REMOTE_QM_TERMINATING

リモート・キュー・マネージャーが終了中です。

MQRCCF_REMOTE_QM_UNAVAILABLE

リモート・キュー・マネージャーを使用できません。

MQRCCF_SEND_FAILED

送信が失敗しました。

MQRCCF_STRUCTURE_TYPE_ERROR

構造タイプが無効です。

MQRCCF_TERMINATED_BY_SEC_EXIT

セキュリティ出口によりチャンネルが終了されました。

MQRCCF_UNKNOWN_REMOTE_CHANNEL

リモート・チャンネルが不明です。

MQRCCF_USER_EXIT_NOT_AVAILABLE

ユーザー出口を使用できません。

Ping Queue Manager

Ping Queue Manager (MQCMD_PING_Q_MGR) コマンドは、キュー・マネージャーとそのコマンド・サーバーがコマンドに応答するかどうかをテストします。キュー・マネージャーが応答していれば、肯定応答が返されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux システム	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	

必須パラメーター:

なし

オプション・パラメーター:
なし

Purge Channel

Purge Channel (MQCMD_PURGE_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ テレメトリー・チャンネルを停止およびパージします。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	AIX と Linux	Windows	z/OS
		✓	✓	

このコマンドは、MQTT チャンネル・タイプに対してのみ発行できます。

テレメトリー・チャンネルをパージすると、このチャンネルに接続しているすべての MQTT クライアントが切断され、MQTT クライアントの状態がクリーンアップされ、テレメトリー・チャンネルが停止します。クライアントの状態をクリーンアップすると、処理中のパブリケーションがすべて削除され、すべてのサブスクリプションがクライアントから削除されます。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

停止およびパージするチャンネルの名前。ストリングの最大長は [MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH](#) です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ。  z/OS を除くすべてのプラットフォームで、このパラメーターは **ChannelName** パラメーターの直後に配置されなければならないが、値は MQTT でなければなりません。

オプション・パラメーター

ClientIdentifier(MQCFST)

クライアント ID。クライアント ID は、IBM MQ Telemetry Transport クライアントを識別する 23 バイトのストリングです。Purge Channel コマンドが *ClientIdentifier* を指定している場合、指定されたクライアント ID の接続のみがパージされます。*ClientIdentifier* が指定されていない場合、チャンネルのすべての接続がパージされます。

ストリングの最大長は [MQ_CLIENT_ID_LENGTH](#) です。

Recover CF Structure

Recover CF Structure (MQCMD_RECOVER_CF_STRUC) コマンドは、CF アプリケーション構造のリカバリーを開始します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

注: このコマンドは、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、z/OS でのみ有効です。

必要なパラメーター

CFstrucName (MQCFST)

CF アプリケーション構造名 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は [MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH](#) です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか1つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

Purge(MQCFIN)

空の CF 構造へのリカバリー (パラメーター ID: MQIACF_PURGE)。

CF アプリケーション構造を空にするかどうかを指定します。 値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQPO_YES

空の CF 構造へリカバリーします。 CF 構造内のメッセージはすべて失われます。

MQPO_NO

CF 構造の実際のリカバリーを実行します。 MQPO_NO がデフォルト値です。

Refresh Cluster

Refresh Cluster (MQCMD_REFRESH_CLUSTER) コマンドは、未確定でない自動定義チャネルを含むローカルに保持されているすべてのクラスター情報を廃棄し、リポジトリを強制的に作成し直します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

注: 大規模クラスターでは、稼働中のクラスターに **REFRESH CLUSTER** コマンドを使用すると、そのクラスターに悪影響が及ぶ可能性があります。その後、クラスター・オブジェクトが 27 日間隔で対象のキュー・マネージャーすべてに状況の更新を自動的に送信する際にも同様のことが起こり得ます。 大規模クラスターでのリフレッシュはクラスターのパフォーマンスと可用性に影響を与える可能性があるを参照してください。

必要なパラメーター

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

リフレッシュするクラスターの名前。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。

このパラメーターは、更新するクラスターの名前です。 名前にアスタリスク (*) を指定すると、キュー・マネージャーは、所属先のすべてのクラスター内で更新されます。

アスタリスク (*) が指定され、*RefreshRepository* が MQCFO_REFRESH_REPOSITORY_YES に設定されている場合、キュー・マネージャーは、ローカル・クラスター送信側チャネル定義の情報を使用して、リポジトリ・キュー・マネージャーの検索を再開します。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

RefreshRepository (MQCFIN)

リポジトリ情報が更新されるかどうか (パラメーター ID: MQIACF_REFRESH_REPOSITORY)。

このパラメーターは、リポジトリ・キュー・マネージャーについての情報が、更新されるかどうかを示します。

値は次のいずれかです。

MQCFO_REFRESH_REPOSITORY_YES

リポジトリ情報をリフレッシュする。

この値は、キュー・マネージャー自体がリポジトリ・キュー・マネージャーである場合は指定できません。

MQCFO_REFRESH_REPOSITORY_YES は、MQCFO_REFRESH_REPOSITORY_NO の振る舞いに加えて、完全なリポジトリ・クラスター・キュー・マネージャーも更新することを指定します。キュー・マネージャーがそれ自体、完全なリポジトリである場合は、このオプションを使用しないでください。

キュー・マネージャーが完全なリポジトリである場合は、まず、そのキュー・マネージャーを問題のクラスターの完全なリポジトリではなくなるように変更する必要があります。

完全なリポジトリ・ロケーションは、手動で定義されたクラスター送信側チャネル定義から回復されます。MQCFO_REFRESH_REPOSITORY_YES を使用した変更操作が実行された後、キュー・マネージャーをもう一度完全なリポジトリに戻すことができます。

MQCFO_REFRESH_REPOSITORY

リポジトリ情報をリフレッシュしない。MQCFO_REFRESH_REPOSITORY はデフォルトです。

MQCFO_REFRESH_REPOSITORY_YES を選択した場合、Refresh Cluster コマンドを発行する前に、関連するクラスター内のすべてのクラスター送信側チャネルが非アクティブか、または停止していることをチェックします。Refresh の処理中に実行しているクラスター送信側チャネルがあり、それらのチャネルが更新中のクラスターによって排他的に使用されていて、MQCFO_REFRESH_REPOSITORY_YES が使用されている場合は、必要であれば、Stop Channel コマンドを Mode パラメーターに値 MQMODE_FORCE を指定して使用してチャネルを停止させます。

このシナリオにより、Refresh は確実にチャネル状態を除去でき、Refresh の完了後に更新されたバージョンでチャネルが実行できます。チャネルが不確かであったり、別のクラスターの一部としても実行されていたりするなどの理由でチャネルの状態が削除できない場合、そのチャネルの状態は更新後も最新のものにはなりません。また、チャネルが停止していた場合、チャネルは自動的に再開されません。

関連情報

[クラスター化: REFRESH CLUSTER の使用に関するベスト・プラクティス](#)

キュー・マネージャーのリフレッシュ

Refresh Queue Manager (MQCMD_REFRESH_Q_MGR) コマンドは、キュー・マネージャーに対して特殊な操作を実行する場合に使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

RefreshType (MQCFIN)

リフレッシュする情報のタイプ (パラメーター ID: MQIACF_REFRESH_TYPE)。

このパラメーターは、リフレッシュする情報のタイプを指定するために使用します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRT_CONFIGURATION

MQRT_CONFIGURATION を指定すると、キュー・マネージャーは、*ObjectType*、*ObjectName*、および *RefreshInterval* パラメーターで指定された選択基準に一致するすべてのオブジェクト定義について、構成イベント・メッセージを生成します。

キュー・マネージャーの *ConfigurationEvent* パラメーターが MQEVR_DISABLED から MQEVR_ENABLED に変更されると、*RefreshType* 値が MQRT_CONFIGURATION の Refresh Queue Manager コマンドが自動的に生成されます。

イベント・キューでのエラーなどの問題からリカバリーするには、*RefreshType* に MQRT_CONFIGURATION を指定してこのコマンドを使用してください。この場合、適切な選択基準を使用して、過剰な処理時間とイベント・メッセージ生成を避けるようにしてください。

MQRT_EXPIRY

キュー・マネージャーが *ObjectName* パラメーターで指定された選択基準に一致するすべてのキューの期限切れメッセージを廃棄するためにスキャンを実行するよう要求します。

注:  z/OS でのみ有効です。

MQRT_EARLY

キュー・マネージャーのサブシステム機能ルーチン (一般に早期コードという) をリンクパック領域 (LPA) にある対応ルーチンに置き換えることを要求します。

このコマンドを使用する必要があるのは、修理保守として用意されているか、IBM MQ の新しいバージョンまたはリリースで用意されている新しいサブシステム機能ルーチンをインストールした後に限られます。このコマンドは、新しいルーチンを使用するようにキュー・マネージャーに指示します。

 IBM MQ の早期コード・ルーチンについての詳細は、[作業 3: z/OS リンク・リストおよび LPA を更新する](#)を参照してください。

MQRT_PROXYSUB

キュー・マネージャーが、階層内またはパブリッシュ/サブスクライブ・クラスター内の接続先のキュー・マネージャーで保持されているプロキシ・サブスクリプションとそれらのキュー・マネージャーのために保持されているプロキシ・サブスクリプションの再同期を実行することを要求します。

プロキシ・サブスクリプションは、例外的な状況でのみ再同期してください。 [プロキシ・サブスクリプションの再同期](#)を参照してください。

オプション・パラメーター (Refresh Queue Manager)

 z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

ObjectName (MQCFST)

このコマンドの処理対象に入れるオブジェクトの名前 (パラメーター ID: MQCACF_OBJECT_NAME)。

このパラメーターは、このコマンドの処理対象に入れるオブジェクトの名前を指定するために使用します。

総称名がサポートされています。 総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。 アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

ObjectType (MQCFIN)

構成データをリフレッシュするオブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

このパラメーターは、構成データをリフレッシュするオブジェクトのタイプを指定するために使用します。 このパラメーターは、*RefreshType* の値が MQRT_CONFIGURATION である場合にのみ有効です。この場合のデフォルト値は MQOT_ALL です。 値は以下のいずれかです。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報オブジェクト。

MQOT_CF_STRUC

CF 構造。

MQOT_CHANNEL

チャンネル。

MQOT_CHLAUTH

チャンネル認証

MQOT_LISTENER

リスナー

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス定義。

MQOT_Q

キュー。

MQOT_LOCAL_Q

ローカル・キュー。

MQOT_MODEL_Q

モデル・キュー

MQOT_ALIAS_Q

別名キュー。

MQOT_REMOTE_Q

リモート・キュー。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_CFSTRUC

CF 構造。

MQOT_SERVICE

サービス

注:  z/OS では無効です。

MQOT_STORAGE_CLASS

ストレージ・クラス。

MQOT_TOPIC

トピック名。

RefreshInterval (MQCFIN)

リフレッシュ間隔 (パラメーター ID: MQIACF_REFRESH_INTERVAL)。

このパラメーターは、現在時刻の直前の期間を定義する値 (分単位) を指定するために使用します。これは、この期間内に作成または変更されたオブジェクトのみ (オブジェクトの *AlterationDate* 属性と *AlterationTime* 属性で定義される日時で判定) を含めるように要求します。

0 から 9 999 の範囲の値を指定します。値ゼロは、時間制限がないことを意味します (0 がデフォルト)。

このパラメーターは、*RefreshType* の値が MQRT_CONFIGURATION である場合にのみ有効です。

Refresh Queue Manager の使用上の注意

1. MQRT_CONFIGURATION キュー・マネージャー属性を ENABLED に設定した後、*RefreshType* (MQRT_CONFIGURATION) を指定してこのコマンドを発行し、キュー・マネージャー構成を最新の状態にします。完全な構成情報を生成するために、すべてのオブジェクトを含めてください。多数のオブジェクトがある場合は、いくつかのコマンドを使用するのが望ましい場合があります。その場合は、各コマンドで別々のオブジェクトを選択しますが、全体としてすべてを含めるようにします。
2. *RefreshType* (MQRT_CONFIGURATION) を指定したコマンドを使用して、イベント・キューのエラーなどの問題からリカバリーすることもできます。そのような場合は、適切な選択基準を使用して、処理時間やイベント・メッセージの生成が過剰にならないようにします。
3. キューに期限切れメッセージが多数含まれている可能性があると思われる場合はいつでも、*RefreshType* (MQRT_EXPIRY) を指定してコマンドを発行してください。
4. *RefreshType* (MQRT_EARLY) が指定されている場合、他のキーワードは許可されません。このコマンドは、キュー・マネージャーがアクティブでない場合に限り、z/OS コンソールからのみ発行できます。
5. **Refresh Queue Manager RefreshType (MQRT_PROXYSUB)** は、例外的な状況でなければ、ほとんど使用することはありません。 [プロキシ・サブスクリプションの再同期](#) を参照してください。
6. CHINIT が稼働していないときに **Refresh Queue Manager Object Type (MQRT_PROXYSUB)** コマンドが z/OS で発行された場合、このコマンドはキューに入れられ、CHINIT が開始した時点で処理されます。
7.  コマンド Refresh Queue Manager RefreshType (MQRT_CONFIGURATION) Object Type (MQOT_ALL) を実行すると、権限レコードが組み込まれます。

権限レコード・イベントを明示的に指定する場合、**Refresh Interval** および **Object Name** パラメーターを指定することはできません。 **Object Type (MQOT_ALL)** を指定すると、**Refresh Interval** パラメーターと **Object Name** パラメーターは無視されます。

Refresh Security

Refresh Security (MQCMD_REFRESH_SECURITY) コマンドは、許可サービス・コンポーネントが内部的に保持している許可リストを更新します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

オプション・パラメーター

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS

SecurityItem (MQCFIN)

セキュリティ・リフレッシュの実行対象のリソース・クラス (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_ITEM)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

このパラメーターを使用して、セキュリティ・リフレッシュの実行対象のリソース・クラスを指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSECITEM_ALL

指定したタイプのフル・リフレッシュが実行されます。MQSECITEM_ALL がデフォルト値です。

MQSECITEM_MQADMIN

管理タイプ・リソースをリフレッシュすることを指定します。SecurityType の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MQNLIST

名前リスト・リソースをリフレッシュすることを指定します。SecurityType の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MQPROC

処理リソースをリフレッシュすることを指定します。SecurityType の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MQQUEUE

キュー・リソースをリフレッシュすることを指定します。SecurityType の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MXADMIN

管理タイプ・リソースをリフレッシュすることを指定します。SecurityType の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MXNLIST

名前リスト・リソースをリフレッシュすることを指定します。SecurityType の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MXPROC

処理リソースをリフレッシュすることを指定します。 *SecurityType* の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MXQUEUE

キュー・リソースをリフレッシュすることを指定します。 *SecurityType* の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

MQSECITEM_MXTOPIC

トピック・リソースをリフレッシュすることを指定します。 *SecurityType* の値が MQSECTYPE_CLASSES の場合にのみ有効です。

SecurityType (MQCFIN)

セキュリティー・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_SECURITY_TYPE)。

このパラメーターは、実行するセキュリティー・リフレッシュのタイプを指定するために使用します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSECTYPE_AUTHSERV

許可サービス・コンポーネントによって内部で保持される許可のリストをリフレッシュします。 MQSECTYPE_AUTHSERV は、z/OS では無効です。

MQSECTYPE_AUTHSERV は、z/OS 以外のプラットフォームでデフォルトです。

MQSECTYPE_CLASSES

セキュリティー・リフレッシュを実行する特定のリソース・クラスを選択することができます。

MQSECTYPE_CLASSES は z/OS でのみ有効で、これがデフォルトです。

MQSECTYPE_CONNAUTH

接続認証の構成のキャッシュ・ビューを最新表示します。

分散プラットフォームでは、これは MQSECTYPE_AUTHSERV のシノニムでもあります。

MQSECTYPE_SSL

MQSECTYPE_SSL は証明書取り消しリストと鍵リポジトリに使用される LDAP サーバーのロケーションも最新表示します。また、IBM MQ によって指定されるすべての暗号ハードウェア・パラメーターおよび Secure Sockets Layer 鍵リポジトリのキャッシュされたビューもリフレッシュします。更新をコマンドの正常終了時に有効にすることも可能です。

MQSECTYPE_SSL は、現在実行されているすべての SSL チャンネルを以下のように更新します。

- SSL を使用する送信側チャンネル、サーバー・チャンネル、およびクラスター送信側チャンネルは、現行のバッチを完了することが許可されます。通常は次に、SSL キー・リポジトリのリフレッシュされたビューを使用して、再び SSL ハンドシェイクを実行します。ただし、サーバー定義に CONNAME パラメーターがないリクエスター・サーバー・チャンネルは、手動で再始動する必要があります。
- SSL を使用する他のすべてのチャンネル・タイプは、STOP CHANNEL MODE(FORCE) STATUS(INACTIVE) コマンドによって停止します。停止したメッセージ・チャンネルのパートナー・エンドに再試行値が定義されている場合、チャンネルは再試行し、新規 SSL ハンドシェイクで、SSL キー・リポジトリの内容、証明書失効リストで使用される LDAP サーバーの場所、およびキー・リポジトリの場所のリフレッシュされたビューを使用します。サーバー接続チャンネルがある場合は、クライアント・アプリケーションがキュー・マネージャーへの接続を失い、継続するために再接続が必要になります。

z/OS Reset CF Structure

Reset coupling facility (CF) Structure (MQCMD_RESET_CF_STRUC) コマンドは、特定のアプリケーション構造の状況を変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

CFstructName (MQCFST)

リセットするカップリング・ファシリティ・アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

Action(MQCFIN)

指定のアプリケーション構造をリセットするために実行するアクション (パラメーター ID: MQIACF_ACTION)。

MQACT_FAIL

構造の失敗がシミュレートされ、アプリケーション構造の状況が FAILED に設定されます。

Reset Channel

Reset Channel (MQCMD_RESET_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャネルのメッセージ順序番号をリセットします。オプションで、チャンネルを次回開始する時に使用する順序番号を指定することもできます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

このコマンドは、(MQCHT_SVRCONN および MQCHT_CLNTCONN を除く) 任意のタイプのチャンネルに対して発行できます。ただし、送信側 (MQCHT_SENDER) チャンネル、サーバー (MQCHT_SERVER) チャンネル、またはクラスター送信側 (MQCHT_CLUSSDR) チャンネルに対してこのコマンドを発行すると、当該チャンネルが次回開始されるか再同期されるときに、両方の側 (送信側および受信側または要求側) の値が共にリセットされます。両方の側の値は同一にリセットされます。

受信側 (MQCHT_RECEIVER) チャンネル、要求側 (MQCHT_REQUESTER) チャンネル、またはクラスター受信側 (MQCHT_CLUSRCVR) チャンネルに対してこのコマンドを発行した場合、もう一方の側の値はリセットされません。そのステップは、必要に応じて別途実行する必要があります。

同じ名前のローカル定義チャンネルと、自動定義クラスター送信側チャンネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャンネルに適用されます。

ローカルに定義されたチャンネルが存在せず、自動定義されたクラスター送信側チャンネルが複数存在する場合には、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャンネルに適用されます。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

リセットするチャンネルの名前。ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力された

キュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS

ChannelDisposition (MQCFIN)

チャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

リセットするチャンネルの特性を指定します。

このパラメーターを省略すると、チャンネルの性質の値は、チャンネル・オブジェクトのデフォルトのチャンネルの性質属性から取得されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED 以外の場合は専用チャンネルになります。

MQCHLD_SHARED

受信チャンネルは、キュー共有グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共有されます。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED である場合は共有チャンネルになります。

ChannelDisposition パラメーターと *CommandScope* パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかを制御することもできます。指定できるオプションは次のとおりです。

- コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。

ChannelDisposition と *CommandScope* のさまざまな組み合わせについて、[1817 ページの表 94](#)に要約します。

表 94. RESET CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope		
ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたは local-qmgr	CommandScope qmgr-name
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャンネルをリセットします	名前付きキュー・マネージャーの専用チャンネルをリセットします

表 94. RESET CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope (続き)		
ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたは local-qmgr	CommandScope qmgr-name
MQCHLD_SHARED	アクティブなキュー・マネージャーすべての共有チャンネルをリセットします。 MQCHLD_SHARED の場合、CommandScope を使用してコマンドが自動的に生成され、適切なキュー・マネージャーに送信されることがあります。コマンドの送信先キュー・マネージャー上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されるキュー・マネージャーのチャンネルの定義は、コマンドが実行されるターゲット・キュー・マネージャーを決定するために使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない

MsgSeqNumber (MQCFIN)

メッセージ順序番号 (パラメーター ID: MQIACH_MSG_SEQUENCE_NUMBER)。

新しいメッセージ・シーケンス番号を指定します。

値は、1 から 999 999 999 の範囲でなければなりません。デフォルト値は 1 です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

Reset Cluster

Reset Cluster (MQCMD_RESET_CLUSTER) コマンドは、キュー・マネージャーをクラスターから強制的に除去します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

リセットの対象となるクラスターの名前。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。

QMgrIdentifier (MQCFST)

キュー・マネージャー ID (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_IDENTIFIER)。

このパラメーターは、クラスターから強制的に除去するキュー・マネージャーの固有 ID です。
QMgrIdentifier と QMgrName のいずれか 1 つのみを指定できます。QMgrName より
QMgrIdentifier を優先して使用してください。QMgrName は固有でない可能性があります。

QMgrName (MQCFST)

キュー・マネージャー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

このパラメーターは、クラスターから強制的に除去するキュー・マネージャーの名前です。
QMgrIdentifier と QMgrName のいずれか 1 つのみを指定できます。QMgrName より
QMgrIdentifier を優先して使用してください。QMgrName は固有でない可能性があります。

Action(MQCFIN)

アクション (パラメーター ID: MQIACF_ACTION)。

実行するアクションを指定します。このパラメーターは、リポジトリ・キュー・マネージャーでのみ要求することができます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQACT_FORCE_REMOVE

キュー・マネージャーをクラスターから強制的に除去するように要求します。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

RemoveQueues(MQCFIN)

クラスター・キューがクラスターから除去されるかどうか (パラメーター ID: MQIACF_REMOVE_QUEUES)。

このパラメーターは、クラスターから除去されているキュー・マネージャーに所属するクラスター・キューを、クラスターから除去するかどうかを示します。このパラメーターは、QMgrName パラメーターに識別されるキュー・マネージャーが、現在クラスター中になくても指定できます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCFO_REMOVE_QUEUES_YES

クラスターから除去されているキュー・マネージャーに所属するキューを除去します。

MQCFO_REMOVE_QUEUES_NO

除去されているキュー・マネージャーに所属するキューを除去しません。

MQCFO_REMOVE_QUEUES_NO はデフォルトです。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_ACTION_VALUE_ERROR

値は無効です。

Reset Queue Manager

Reset Queue Manager (MQCMD_RESET_Q_MGR) コマンドは、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、IBM i、および Windows でバックアップとリカバリー手順の一部として使用します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

このコマンドを使用して、キュー・マネージャーに、新しいログ・エクステントへの書き込みを開始し、前のログ・エクステントをアーカイブ可能にするよう要求することができます。

Reset Queue Manager (MQCMD_RESET_Q_MGR) コマンドは、このキュー・マネージャーが階層接続内の親または子として 候補に挙げられたパブリッシュ/サブスクライブ階層接続を強制的に除去します。サポートされるすべてのプラットフォームで有効です。

必要なパラメーター

Action(MQCFIN)

アクション (パラメーター ID: MQIACF_ACTION)。

実行するアクションを指定します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQACT_ADVANCE_LOG

キュー・マネージャーに、新しいログ・エクステントへの書き込みを開始し、前のログ・エクステントをアーカイブ可能にするよう要求します。このコマンドは、キュー・マネージャーがリニア・ロギングを使用するように構成されている場合にのみ受け入れられます。

注: Compaq NSK または z/OS では無効です。

MQACT_COLLECT_STATISTICS

キュー・マネージャーが現在の統計収集期間を終了し、収集された統計を書き出すことを要求します。

注: Compaq NSK または z/OS では無効です。

MQACT_PUBSUB

パブリッシュ/サブスクライブのリセットを要求します。この値は、オプション・パラメーター ChildName または ParentName のいずれかが指定されていることを必要とします。

オプション・パラメーター

ChildName (MQCFST)

階層接続を強制的に取り消す子キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_CHILD)。

この属性は、Action パラメーターに値 MQACT_PUBSUB がある場合にのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

ParentName (MQCFST)

階層接続を強制的に取り消す親キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_PARENT)。

この属性は、Action パラメーターに値 MQACT_PUBSUB がある場合にのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_RESOURCE_PROBLEM

使用可能なシステム・リソースが不足しています。

Reset Queue Statistics

Reset Queue Statistics (MQCMD_RESET_Q_STATS) コマンドは、キューのパフォーマンス・データをレポートした後、パフォーマンス・データをリセットします。パフォーマンス・データは、ローカル・キュー (伝送キューを含む) ごとに保守されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

パフォーマンス・データは、次の時点でリセットされます。

- Reset Queue Statistics コマンドの発行時。
- キュー・マネージャーの再始動時。
- キューのパフォーマンス・イベントの生成時。

必要なパラメーター

QName(MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

テストされ、リセットされるローカル・キューの名前。

総称キュー名がサポートされます。総称名とは、例えば、ABC* のように、文字ストリングの後にアスタリスク (*) を付けたものです。これにより、選択した文字ストリングで始まる名前を持つすべてのオブジェクトが選択されます。アスタリスクだけを指定した場合、可能なすべての名前に一致することになります。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_Q_WRONG_TYPE

指定されたタイプのキューに対して無効なアクションです。

MQRCCF_EVENTS_DISABLED

キュー・マネージャーのパフォーマンス・イベントを無効にします (PERFMEV)。z/OS では、このコマンドを使用するために、キュー・マネージャーのパフォーマンス・イベントを有効にする必要があります。詳細については、1446 ページの『Change Queue Manager』コマンドの PerformanceEvent プロパティを参照してください。

Reset Queue Statistics (応答)

Reset Queue Statistics (MQCMD_RESET_Q_STATS) コマンドに対する応答は、応答ヘッダーと、それに続く QName 構造、および以下のセクションの属性パラメーター構造から構成されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

総称キュー名を指定した場合、キューが検出されるたびにこのようなメッセージが 1 つ生成されます。

常に返されるデータ:

HighQDepth ,MsgDeqCount ,MsgEnqCount ,QName ,  QSGDisposition , TimeSinceReset

応答データ

HighQDepth(MQCFIN)

キュー上のメッセージの最大数 (パラメーター ID: MQIA_HIGH_Q_DEPTH)。

このカウントは、最後のリセット以降の CurrentQDepth ローカル・キュー属性のピーク値です。CurrentQDepth は、MQPUT 呼び出し中、および MQGET 呼び出しのバックアウト中に増分され、(非ブラウズ) MQGET 呼び出し中、および MQPUT 呼び出しのバックアウト中に減分されます。

MsgDeqCount(MQCFIN)

キューから出されたメッセージの数 (パラメーター ID: MQIA_MSG_DEQ_COUNT)。

MQGET がコミットされていない場合でも、このカウントには、キューから正常に取り出された (ブラウズ以外の MQGET によって) メッセージが入っています。MQGET が後でバックアウトされた場合、カウントは減分されません。

 z/OS の場合、999 999 999 を超えた値は、999 999 999 として返されます。

MsgEnqCount(MQCFIN)

キューに入れられたメッセージの数 (パラメーター ID: MQIA_MSG_ENQ_COUNT)。

このカウントには、キューに既に入れられたがコミットされていないメッセージが含まれます。書き込みが後でバックアウトされた場合、カウントは減分されません。

 z/OS の場合、999 999 999 を超えた値は、999 999 999 として返されます。

QName(MQCFST)

キュー名 (パラメーター ID: MQCA_Q_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

z/OS

QSGDisposition (MQCFIN)

QSG 属性指定 (パラメーター ID: MQIA_QSG_DISP)。

オブジェクトの属性指定 (どこで定義され、どのように動作するのか) について指定します。このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQQSGD_COPY

オブジェクトは、MQQSGD_COPY として定義されます。

MQQSGD_SHARED

オブジェクトは、MQQSGD_SHARED として定義されます。

MQQSGD_Q_MGR

オブジェクトは、MQQSGD_Q_MGR として定義されます。

TimeSinceReset(MQCFIN)

統計のリセット後の経過時間を示す 秒数 (パラメーター ID: MQIA_TIME_SINCE_RESET)。

z/OS

Reset SMDS

Reset SMDS (MQCMD_RESET_SMDS) コマンドは、指定されたアプリケーション構造に関連付けられている 1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットに関する可用性および状況の情報を変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

SMDS (MQCFST)

共有メッセージ・データ・セットの可用性情報または状況情報を変更するキュー・マネージャーを指定します。指定する CFSTRUCT に関連するすべてのデータ・セットの情報を変更する場合は、アスタリスクを使用します。(パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDS)。

ストリングの最大長は 4 文字です。

CFStrucName (MQCFST)

再設定する SMDS 接続プロパティを持つ CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

Access (MQCFIN)

共有メッセージ・データ・セットの可用性 (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_ACCESS)。

MQCFACCESS_ENABLED

共有メッセージ・データ・セットは使用可能です。

MQCFACCESS_DISABLED

共有メッセージ・データ・セットは使用不可です。

Status (MQCFIN)

状況情報はリソースの状態を示します (パラメーター ID: MQIACF_CF_STRUC_STATUS)。

MQCFSTATUS_FAILED

共有メッセージ・データ・セットは使用不可の状態です。

MQCFSTATUS_RECOVERED

データ・セットはリカバリーされ、再度使用できる状態です。ただし、次にオープンするときに何らかの再始動処理が必要です。この再始動処理では、データ・セットを再び使用可能な状態にする

前に、必ず、削除されたメッセージへの無効な参照をカップリング・ファシリティ構造体から削除します。再始動処理により、データ・セット・スペース・マップの再作成も行われます。

Resolve Channel

Resolve Channel (MQCMD_RESOLVE_CHANNEL) コマンドは、未確定メッセージのコミットまたはバックアウトを行うようチャンネルに要求します。確認段階でリンクの他の側に障害が起こり、何らかの理由から接続を再確立できないとき、このコマンドを使用します。このような状況では、送信側は、メッセージが受信されたかどうかについて未確定状態のままになります。未解決の作業単位は、Resolve Channel を使用してバックアウトまたはコミットによって解決される必要があります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

このコマンドを使用する際には注意しなければなりません。指定された解決策が受信側の解決策と異なると、メッセージが失われたり、重複したりすることがあります。

このコマンドは、*ChannelType* の値が MQCHT_SENDER、MQCHT_SERVER、または MQCHT_CLUSSDR であるチャンネルに関してのみ使用できます。

同じ名前のローカル定義チャンネルと、自動定義クラスター送信側チャンネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャンネルに適用されます。

ローカルに定義されたチャンネルが存在せず、自動定義されたクラスター送信側チャンネルが複数存在する場合には、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャンネルに適用されます。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

解決されるチャンネルの名前。ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

InDoubt(MQCFIN)

未確定の解決 (パラメーター ID: MQIACH_IN_DOUBT)。

未確定メッセージをコミットするか、バックアウトするかについて指定します。

値は次のいずれかです。

MQIDO_COMMIT

コミット。

MQIDO_BACKOUT

バックアウト。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力された

キュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

ChannelDisposition (MQCFIN)

チャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

解決するチャンネルの特性を指定します。

このパラメーターを省略すると、チャンネルの性質の値は、チャンネル・オブジェクトのデフォルトのチャンネルの性質属性から取得されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED 以外の場合は専用チャンネルになります。

MQCHLD_SHARED

受信チャンネルは、キュー共有グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共有されます。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED である場合は共有チャンネルになります。

ChannelDisposition パラメーターと *CommandScope* パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかを制御することもできます。指定できるオプションは次のとおりです。

- コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。

ChannelDisposition と *CommandScope* のさまざまな組み合わせについて、[1825 ページの表 95](#)に要約します。

表 95. RESOLVE CHANNEL の <i>ChannelDisposition</i> および <i>CommandScope</i>		
<i>ChannelDisposition</i>	<i>CommandScope</i> ブランクまたは local-qmgr	<i>CommandScope</i> qmgr-name
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャンネルを解決します	名前付きキュー・マネージャーの専用チャンネルを解決します

表 95. RESOLVE CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope (続き)		
ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたは local-qmgr	CommandScope qmgr-name
MQCHLD_SHARED	アクティブなキュー・マネージャーすべての共有チャンネルを解決します。 MQCHLD_SHARED の場合、CommandScope を使用してコマンドが自動的に生成され、適切なキュー・マネージャーに送信されることがあります。コマンドの送信先キュー・マネージャー上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されるキュー・マネージャーのチャンネルの定義は、コマンドが実行されるターゲット・キュー・マネージャーを決定するために使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_INDOUBT_VALUE_ERROR

未確定値が無効です。

Resume Queue Manager

Resume Queue Manager (MQCMD_RESUME_Q_MGR) コマンドは、IMS または Db2 メッセージの処理のために、キュー・マネージャーを再度使用可能にします。このコマンドは、Suspend Queue Manager (MQCMD_SUSPEND_Q_MGR) コマンドのアクションを元に戻します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

Facility (MQCFIN)

機能 (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_FACILITY)。

アクティビティを再開する機能のタイプです。値は次のいずれかです。

MQQMFCF_DB2

通常のアクティビティを Db2 で再開します。

MQQMFCF_IMS_BRIDGE

通常の IMS ブリッジ・アクティビティを再開します。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Resume Queue Manager Cluster

Resume Queue Manager Cluster (MQCMD_RESUME_Q_MGR_CLUSTER) コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーが再び処理に利用できるようになり、ローカル・キュー・マネージャーにメッセージを送信できることをクラスター内の他のキュー・マネージャーに通知します。これは、Suspend Queue Manager Cluster (MQCMD_SUSPEND_Q_MGR_CLUSTER) コマンドの逆のアクションです。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

再び使用可能になるクラスターの名前。

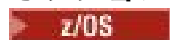
ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

再び使用可能になるクラスターのリストを指定する名前リストの名前。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。 このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CLUSTER_NAME_CONFLICT

クラスター名が矛盾しています。

z/OS Reverify Security

Reverify Security (MQCMD_REVERIFY_SECURITY) は、指定されたすべてのユーザーに再検査フラグを設定するために使用します。次回そのユーザーに関するセキュリティが検査されるときに、そのユーザーは再検証されます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

UserId (MQCFST)

ユーザー ID (パラメーター ID: MQCACF_USER_IDENTIFIER)。

このパラメーターを使用して、1 つ以上のユーザー ID を指定します。指定したユーザー ID はそれぞれサインオフされ、次回にそのユーザーのためにセキュリティ検査を必要とする要求が出されたときに、再度サインオンを行います。

ストリングの最大長は MQ_USER_ID_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

z/OS Set Archive

Set Archive (MQCMD_SET_ARCHIVE) コマンドを使用して、キュー・マネージャー始動時に システム・パラメーター・モジュールで当初設定された、特定のアーカイブ・システム・パラメーター値を動的に変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

ParameterType (MQCFIN)

パラメーター・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TYPE)。

パラメーターのリセット方法を指定します。

MQSYSP_TYPE_INITIAL

アーカイブ・システム・パラメーターの初期設定値。MQSYSP_TYPE_INITIAL は、すべてのアーカイブ・システム・パラメーターをキュー・マネージャー始動時に設定された値にリセットします。

MQSYSP_TYPE_SET

MQSYSP_TYPE_SET は、1 つ以上のアーカイブ・システム・パラメーター設定を変更することを指示します。

オプション・パラメーター

AllocPrimary (MQCFIN)

DASD データ・セットの 1 次スペース割り振り (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ALLOC_PRIMARY)。

AllocUnits パラメーターに指定した 装置内の DASD データ・セットの 1 次スペース割り振りを指定します。

0 より大きい値を指定してください。ログ・データ・セットまたはそれに対応する BSDS のどちらか大きい方をコピーする場合は、この値で十分です。

AllocSecondary (MQCFIN)

DASD データ・セットの 2 次スペース割り振り (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ALLOC_SECONDARY)。

AllocUnits パラメーターに指定した 装置内の DASD データ・セットの 2 次スペース割り振りを指定します。

0 より大きい値を指定してください。

AllocUnits (MQCFIN)

割り振り単位 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ALLOC_UNIT)。

1 次および 2 次のスペース割り振りが行われる単位を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_ALLOC_BLK

ブロック。

MQSYSP_ALLOC_TRK

トラック。

MQSYSP_ALLOC_CYL

シリンダー。

ArchivePrefix1 (MQCFST)

最初のアーカイブ・ログ・データ・セット名の接頭部を指定します (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_PFX1)。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_PFX_LENGTH です。

ArchivePrefix2 (MQCFST)

2 番目のアーカイブ・ログ・データ・セット名の接頭部を指定します (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_PFX2)。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_PFX_LENGTH です。

ArchiveRetention (MQCFIN)

アーカイブ保存期間 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ARCHIVE_RETAIN)。

アーカイブ・ログ・データ・セットが作成される場合に使用される保存期間を日数で指定します。0 から 9999 の範囲内で値を指定してください。

アーカイブ・ログ・データ・セットの破棄については、[IBM MQ for z/OS の管理](#)を参照してください。

ArchiveUnit1 (MQCFST)

アーカイブ・ログ・データ・セットの最初のコピーを保管するために使用する装置の装置タイプまたは装置名を指定します (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_UNIT1)。

装置タイプまたは装置名は、1 から 8 文字で指定します。

DASD に保存する場合は、制限されたボリュームの範囲で総称装置タイプを指定します。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_UNIT_LENGTH です。

ArchiveUnit2 (MQCFST)

アーカイブ・ログ・データ・セットの 2 番目のコピーを保管するために使用する装置の装置タイプまたは装置名を指定します (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_ARCHIVE_UNIT2)。

装置タイプまたは装置名は、1 から 8 文字で指定します。

このパラメーターがブランクの場合は、*ArchiveUnit1* パラメーターの値が使用されます。

ストリングの最大長は MQ_ARCHIVE_UNIT_LENGTH です。

ArchiveWTOR (MQCFIN)

メッセージをオペレーターに送信し、応答を受信してから、アーカイブ・ログ・データ・セットのマウントを試みるかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ARCHIVE_WTOR)。

その他の IBM MQ ユーザーは、データ・セットがマウントされるまで強制的に待機させられることがあります。IBM MQ がメッセージへの応答を待機している間は影響を受けません。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

メッセージを送信し、応答を受信してから、アーカイブ・ログ・データ・セットのマウントを試行します。

MQSYSP_NO

メッセージの送信と応答の受信を行わずに、アーカイブ・ログ・データ・セットのマウントを試行します。

BlockSize (MQCFIN)

アーカイブ・ログ・データ・セットのブロック・サイズ (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_BLOCK_SIZE)。

指定するブロック・サイズは、*ArchiveUnit1* と *ArchiveUnit2* の各パラメーターに指定した装置タイプに矛盾しないようにしてください。

4 097 から 28 672 の範囲内で値を指定してください。指定した値は 4 096 の倍数に切り上げられます。

このパラメーターは、ストレージ管理システム (SMS) によって管理されるデータ・セットでは無視されます。

Catalog (MQCFIN)

アーカイブ・ログ・データ・セットが 1 次統合カタログ機能でカタログされているかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_CATALOG)。

値は次のいずれかです。

MQSYSP_YES

保存ログ・データ・セットはカタログ化されます。

MQSYSP_NO

保存ログ・データ・セットはカタログ化されません。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Compact (MQCFIN)

保存ログに書き込まれたデータを圧縮するかどうかを指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_COMPACT)。

このパラメーターは、改良データ記録機能 (IDRC) 機構が備わった 3480 または 3490 装置に適用されます。この機能がオンになっていると、テープ制御装置のハードウェアは通常よりかなり高い密度でデータを書き込むため、1つのボリュームにより多くのデータを記録することができます。IDRC 機構が備わった 3480 装置、または 3490 基本モデル (3490E を除く) を使用しない場合は、MQSYSP_NO を指定します。データを圧縮したい場合は、MQSYSP_YES を指定します。

値は次のいずれかです。

MQSYSP_YES

データは圧縮されます。

MQSYSP_NO

データは圧縮されません。

Protect (MQCFIN)

外部セキュリティ・マネージャー (ESM) による保護 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_PROTECT)。

アーカイブ・ログ・データ・セットの作成時に ESM プロファイルで保護するかどうかを指定します。

MQSYSP_YES を指定する場合は、以下のようになっている必要があります。

- ESM 保護が IBM MQ でアクティブになっていること。
- IBM MQ のアドレス・スペースに関連付けられたユーザー ID に、これらのプロファイルを作成する権限があること。
- テープにアーカイブする場合、TAPEVOL クラスがアクティブであること。

以上のようにない場合、オフロード処理は失敗します。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQSYSP_YES

ログのオフロード時にデータ・セット・プロファイルを作成します。

MQSYSP_NO

プロファイルは作成されません。

QuiesceInterval (MQCFIN)

静止可能な最大時間 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_QUIESCE_INTERVAL)。

静止可能な最大時間 (秒) を指定します。

1 ～ 999 の範囲の値を指定してください。

RoutingCode (MQCFIL)

z/OS 宛先コード・リスト (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_ROUTING_CODE)。

アーカイブ・ログ・データ・セットに関するオペレーター向けメッセージの z/OS 宛先コードのリストを指定します。

それぞれ 0 から 16 の範囲内の値を持つ最大 14 の宛先コードを指定してください。少なくとも 1 つのコードを指定する必要があります。

TimeStampFormat (MQCFIN)

タイム・スタンプの組み込み (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TIMESTAMP)。

保存ログ・データ・セット名にタイム・スタンプを含めるかどうかを指定します。

値は次のいずれかです。

MQSYSP_YES

名前にタイム・スタンプを入れます。保存ログ・データ・セットの名前は、次のように設定されます。

```
arcpfxi.cyyddd.T hhmsst.A nnnnnnn
```

ここで、c は 1999 年までの年のための 'D'、または 2000 年以降の年のための 'E' で、arcpfxi は ArchivePrefix1 または ArchivePrefix2 で指定されたデータ・セット名の接頭部です。arcpfxi は、最大 19 文字を保持することができます。

MQSYSP_NO

名前にタイム・スタンプは入りません。保存ログ・データ・セットの名前は、次のように設定されます。

```
arcpfxi.A nnnnnnn
```

この場合、arcpfxi は、ArchivePrefix1 または ArchivePrefix2 で指定されているデータ・セット名接頭部です。arcpfxi は、最大 35 文字を保持することができます。

MQSYSP_EXTENDED

名前にタイム・スタンプを入れます。保存ログ・データ・セットの名前は、次のように設定されます。

```
arcpfxi.D yyyddd.T hhmsst.A nnnnnnn
```

この場合、arcpfxi は、ArchivePrefix1 または ArchivePrefix2 で指定されているデータ・セット名接頭部です。arcpfxi は、最大 17 文字を保持することができます。

Set Authority Record

Set Authority Record (MQCMD_SET_AUTH_REC) コマンドは、プロファイル、オブジェクト、またはオブジェクトのクラスの許可を設定します。許可は、任意数のプリンシパルまたはグループに対して付与または取り消しを行うことができます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ProfileName (MQCFST)

プロファイル名 (パラメーター ID: MQCACF_AUTH_PROFILE_NAME)。

許可は指定されたプロファイル名と名前が一致するすべての IBM MQ オブジェクトに適用されます。総称プロファイルを定義できます。明示的なプロファイル名を指定する場合は、そのオブジェクトが存在していなければなりません。

ストリングの最大長は MQ_AUTH_PROFILE_NAME_LENGTH です。

ObjectType (MQCFIN)

許可を設定するオブジェクトのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_OBJECT_TYPE)。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQOT_AUTH_INFO

認証情報

MQOT_CHANNEL

チャンネル・オブジェクト。

MQOT_CLNTCONN_CHANNEL

クライアント接続チャンネル・オブジェクト。

MQOT_COMM_INFO

通信情報オブジェクト

MQOT_LISTENER

リスナー・オブジェクト。

MQOT_NAMELIST

名前リスト。

MQOT_PROCESS

プロセス。

MQOT_Q

オブジェクト名パラメーターに一致するキュー (1 つまたは複数)。

MQOT_Q_MGR

キュー・マネージャー。

MQOT_REMOTE_Q_MGR_NAME

リモート・キュー・マネージャー。

MQOT_SERVICE

サービス・オブジェクト。

MQOT_TOPIC

トピック・オブジェクト。

注: 必須パラメーターは、**ProfileName** 順、その次に **ObjectType** 順にする必要があります。

オプション・パラメーター

AuthorityAdd (MQCFIL)

設定する権限値 (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_ADD_AUTHS)。

このパラメーターは、名前付きプロファイルに設定する権限値のリストです。値は次のいずれかです。

MQAUTH_NONE

エンティティの権限は none に設定されています。

MQAUTH_ALT_USER_AUTHORITY

MQI 呼び出しで代替ユーザー ID を指定する。

MQAUTH_BROWSE

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_CHANGE

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を変更します。

MQAUTH_CLEAR

キューを消去する。

MQAUTH_CONNECT

MQCONN 呼び出しを発行して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。

MQAUTH_CREATE

指定のタイプのオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して作成 する。

MQAUTH_DELETE

指定のオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して削除する。

MQAUTH_DISPLAY

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を表示します。

MQAUTH_INPUT

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_INQUIRE

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューの照会を行う。

MQAUTH_OUTPUT

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込む。

MQAUTH_PASS_ALL_CONTEXT

すべてのコンテキストを渡す。

MQAUTH_PASS_IDENTITY_CONTEXT

アイデンティティ・コンテキストを渡す。

MQAUTH_SET

MQSET 呼び出しを発行して、MQI からキューに属性を設定する。

MQAUTH_SET_ALL_CONTEXT

キューにすべてのコンテキストを設定する。

MQAUTH_SET_IDENTITY_CONTEXT

キューのアイデンティティ・コンテキストを設定する。

MQAUTH_CONTROL

リスナーやサービスの場合、指定のチャネル、リスナー、またはサービスを開始および停止する。

チャネルの場合、指定のチャネルを開始、停止、および ping する。

トピックの場合、サブスクリプションを定義、変更、または削除する。

MQAUTH_CONTROL_EXTENDED

指定のチャネルをリセットまたは解決する。

MQAUTH_PUBLISH

指定したトピックに対してパブリッシュを行います。

MQAUTH_SUBSCRIBE

指定したトピックに対してサブスクライブを行います。

MQAUTH_RESUME

指定したトピックに対するサブスクリプションを再開します。

MQAUTH_SYSTEM

内部システム操作にキュー・マネージャーを使用します。

MQAUTH_ALL

オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。

MQAUTH_ALL_ADMIN

オブジェクトに適用可能なすべての管理操作を使用する。

MQAUTH_ALL_MQI

オブジェクトに適用可能なすべての MQI 呼び出しを使用する。

AuthorityAdd および *AuthorityRemove* リストの内容は、同時には使用できません。

AuthorityAdd または *AuthorityRemove* のいずれかの値を指定する必要があります。いずれかを指定しないと、エラーが発生します。

AuthorityRemove (MQCFIL)

除去する権限値 (パラメーター ID: MQIACF_AUTH_REMOVE_AUTHS)。

このパラメーターは、名前付きプロファイルから除去する権限値のリストです。値は次のいずれかです。

MQAUTH_NONE

エンティティの権限は none に設定されています。

MQAUTH_ALT_USER_AUTHORITY

MQI 呼び出しで代替ユーザー ID を指定する。

MQAUTH_BROWSE

BROWSE オプションを指定した MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_CHANGE

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を変更します。

MQAUTH_CLEAR

キューを消去する。

MQAUTH_CONNECT

MQCONN 呼び出しを発行して、指定のキュー・マネージャーにアプリケーションを接続する。

MQAUTH_CREATE

指定のタイプのオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して作成する。

MQAUTH_DELETE

指定のオブジェクトを、該当するコマンド・セットを使用して削除する。

MQAUTH_DISPLAY

適切なコマンド・セットを使用して、指定したオブジェクトの属性を表示します。

MQAUTH_INPUT

MQGET 呼び出しを発行して、キューからメッセージを取り出す。

MQAUTH_INQUIRE

MQINQ 呼び出しを発行して、特定のキューの照会を行う。

MQAUTH_OUTPUT

MQPUT 呼び出しを発行して、特定のキューにメッセージを書き込む。

MQAUTH_PASS_ALL_CONTEXT

すべてのコンテキストを渡す。

MQAUTH_PASS_IDENTITY_CONTEXT

アイデンティティ・コンテキストを渡す。

MQAUTH_SET

MQSET 呼び出しを発行して、MQI からキューに属性を設定する。

MQAUTH_SET_ALL_CONTEXT

キューにすべてのコンテキストを設定する。

MQAUTH_SET_IDENTITY_CONTEXT

キューのアイデンティティ・コンテキストを設定する。

MQAUTH_CONTROL

リスナーやサービスの場合、指定のチャンネル、リスナー、またはサービスを開始および停止する。

チャンネルの場合、指定のチャンネルを開始、停止、および ping する。

トピックの場合、サブスクリプションを定義、変更、または削除する。

MQAUTH_CONTROL_EXTENDED

指定のチャンネルをリセットまたは解決する。

MQAUTH_PUBLISH

指定したトピックに対してパブリッシュを行います。

MQAUTH_SUBSCRIBE

指定したトピックに対してサブスクライブを行います。

MQAUTH_RESUME

指定したトピックに対するサブスクリプションを再開します。

MQAUTH_SYSTEM

内部システム操作にキュー・マネージャーを使用します。

MQAUTH_ALL

オブジェクトに適用可能なすべての操作を使用する。

MQAUTH_ALL_ADMIN

オブジェクトに適用可能なすべての管理操作を使用する。

MQAUTH_ALL_MQI

オブジェクトに適用可能なすべての MQI 呼び出しを使用する。

AuthorityAdd および *AuthorityRemove* リストの内容は、同時には使用できません。
AuthorityAdd または *AuthorityRemove* のいずれかの値を指定する必要があります。いずれかを指定しないと、エラーが発生します。

GroupNames (MQCFSL)

グループ名 (パラメーター ID: MQCACF_GROUP_ENTITY_NAMES)。

許可セットを保持するグループの名前。少なくとも 1 つのグループ名またはプリンシパル名を指定する必要があります。どちらも指定しないと、エラーが発生します。

このリストの各メンバーの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

PrincipalNames (MQCFSL)

プリンシパル名 (パラメーター ID: MQCACF_PRINCIPAL_ENTITY_NAMES)。

許可セットを保持するプリンシパルの名前。少なくとも 1 つのグループ名またはプリンシパル名を指定する必要があります。どちらも指定しないと、エラーが発生します。

このリストの各メンバーの最大長は MQ_ENTITY_NAME_LENGTH です。

ServiceComponent (MQCFST)

サービス・コンポーネント (パラメーター ID: MQCACF_SERVICE_COMPONENT)。

インストール可能な許可サービスがサポートされている場合に、このパラメーターは許可が適用される許可サービスの名前を指定します。

このパラメーターを省略すると、サービスの最初のインストール可能コンポーネントに対して許可の照会が行われます。

ストリングの最大長は MQ_SERVICE_COMPONENT_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRC_UNKNOWN_ENTITY

ユーザー ID が許可されていないか、または不明です。

MQRCCF_AUTH_VALUE_ERROR

許可が無効です。

MQRCCF_AUTH_VALUE_MISSING

許可がありません。

MQRCCF_ENTITY_NAME_MISSING

エンティティー名が指定されていません。

MQRCCF_OBJECT_TYPE_MISSING

オブジェクト・タイプが指定されていません。

MQRCCF_PROFILE_NAME_ERROR

プロファイル名が無効です。

Set Channel Authentication Record

Set Channel Authentication Record (MQCMD_SET_CHLAUTH_REC) コマンドは、許可パートナーの詳細とチャネルまたはチャネル・セットの MCAUSER へのマッピングを設定します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

構文図

許可されているパラメーターと値の組み合わせについては、MQSC 1291 ページの『SET CHLAUTH』コマンドの構文図を参照してください。

必要なパラメーター

以下の **Action** 値について、必須パラメーターが有効です。

- MQACT_ADD または MQACT_REPLACE
- MQACT_REMOVE
- MQACT_REMOVEALL

ProfileName (MQCFST)

チャンネル認証構成を設定するチャンネルまたはチャンネル・セットの名前 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。チャンネル・セットを指定する場合は、1 つ以上のアスタリスク (*) をどの位置でもワイルドカードとして使用できます。Type を MQCAUT_BLOCKADDR に設定する場合は、汎用チャンネル名を単一アスタリスク (すべてのチャンネル名に一致) に設定する必要があります。

ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

Type (MQCFIN)

Type パラメーターは、ProfileName パラメーターの後に指定する必要があります。

許可されるパートナーの詳細または MCAUSER へのマッピングを設定するチャンネル認証レコードのタイプ (パラメーター ID: MQIACF_CHLAUTH_TYPE)。有効な値は、以下のとおりです。

MQCAUT_BLOCKUSER

このチャンネル認証レコードでは、指定されているユーザー (複数可) の接続を禁止します。
MQCAUT_BLOCKUSER パラメーターは、UserList を伴わなければなりません。

MQCAUT_BLOCKADDR

このチャンネル認証レコードでは、指定されている IP アドレス (複数可) からの接続を禁止します。
MQCAUT_BLOCKADDR パラメーターは、AddrList を伴わなければなりません。

MQCAUT_SSLPEERMAP

このチャンネル認証レコードは、SSL 識別名 (DN) を MCAUSER 値にマップします。
MQCAUT_SSLPEERMAP パラメーターは、SSLPeer を伴わなければなりません。

MQCAUT_ADDRESSMAP

このチャンネル認証レコードでは、IP アドレスを MCAUSER 値にマップします。
MQCAUT_ADDRESSMAP パラメーターは、Address を伴わなければなりません。

MQCAUT_USERMAP

このチャンネル認証レコードでは、表明ユーザー ID を MCAUSER 値にマップします。
MQCAUT_USERMAP パラメーターは、ClnUser を伴わなければなりません。

MQCAUT_QMGRMAP

このチャンネル認証レコードでは、リモート・キュー・マネージャー名を MCAUSER 値にマップします。
MQCAUT_QMGRMAP パラメーターは、QMName を伴わなければなりません。

オプション・パラメーター

次の表は、**Action** の各値の有効なパラメーターを示しています。

パラメーター	MQACT_ADD または MQACT_REPLACE	MQACT_REMOVE	MQACT_REMOVEALL
  CommandScope	✓	✓	✓
アクション	✓	✓	✓

パラメーター	MQACT_ADD または MQACT_REPLACE	MQACT_REMOVE	MQACT_REMOVEALL
Address	✓	✓	
Addrlist	✓	✓	
CheckClient	✓	✓	
CIntUser	✓	✓	
MCAUser	✓		
QMName	✓	✓	
SSLCertIssuer	✓	✓	
SSLPeer	✓	✓	
UserList	✓	✓	
UserSrc	✓		
警告	✓		
説明	✓		

Action(MQCFIN)

チャンネル認証レコードに対して実行するアクション (パラメーター ID: MQIACF_ACTION)。有効な値は、以下のとおりです。

MQACT_ADD

指定した構成をチャンネル認証レコードに追加します。これはデフォルト値です。

MQCAUT_SSLPEERMAP、MQCAUT_ADDRESSMAP、MQCAUT_USERMAP、および MQCAUT_QMGRMAP タイプの場合、指定した構成が存在すれば、コマンドは失敗します。

MQCAUT_BLOCKUSER および MQCAUT_BLOCKADDR タイプの場合は、構成がリストに追加されます。

MQACT_REPLACE

チャンネル認証レコードの現在の構成を置き換えます。

MQCAUT_SSLPEERMAP、MQCAUT_ADDRESSMAP、MQCAUT_USERMAP、および MQCAUT_QMGRMAP タイプの場合、指定した構成が存在すれば、新しい構成に置き換えられます。存在しなければ、追加されます。

MQCAUT_BLOCKUSER および MQCAUT_BLOCKADDR タイプの場合は、現行リストが空であっても、指定した構成に現行リストが置き換えられます。現行リストを空のリストに置き換える場合は、MQACT_REMOVEALL のような働きをします。

MQACT_REMOVE

指定した構成をチャンネル認証レコードから削除します。その構成が存在しないと、コマンドは失敗します。リストの最後の項目を削除する場合は、MQACT_REMOVEALL のような働きをします。

MQACT_REMOVEALL

リストのすべてのメンバーさらにはレコード全体 (MQCAUT_BLOCKADDR および MQCAUT_BLOCKUSER の場合)、または定義済みのすべてのマッピング (MQCAUT_ADDRESSMAP、MQCAUT_SSLPEERMAP、MQCAUT_QMGRMAP、および MQCAUT_USERMAP の場合) を、チャンネル認証レコードから削除します。このオプションは、**AddrList**、**UserList**、**Address**、**SSLPeer**、**QMName**、または **CIntUser** で指定した特定の値と組み合わせることはできません。指定したタイプに現在の構成がない場合でも、コマンドは正常に実行されます。

Address (MQCFST)



重要: このパラメーターにホスト名を指定できるのは、OPMODE を使用して IBM MQ 8.0 の新機能が有効になっているキュー・マネージャーに限られます。

チャンネルの相手側のパートナー・キュー・マネージャーまたはクライアントの IP アドレスまたはホスト名と比較するために使用するフィルター (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

このパラメーターは、**Type** が MQCAUT_ADESSMAP のときは必須です。**Type** が MQCAUT_SSLPEERMAP、MQCAUT_USERMAP、または MQCAUT_QMGRMAP で、**Action** が MQACT_ADD、MQACT_REPLACE、または MQACT_REMOVE のときも、このパラメーターは有効です。アドレスが異なれば、メイン ID (SSL または TLS のピア名など) が同じチャンネル認証オブジェクトを複数定義できます。IP アドレスのフィルター処理の詳細については、[1299 ページの『汎用 IP アドレス』](#)を参照してください。

ストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

AddrList (MQCFSL)

どのチャンネルでもこのキュー・マネージャーにアクセスすることを禁止される最大 100 の汎用 IP アドレスのリスト (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME_LIST)。

このパラメーターは、**Type** が MQCAUT_BLOCKADDR の場合のみ有効です。

各アドレスの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。

CheckClient (MQCFIN)



重要: このパラメーターは、OPMODE を使用して IBM MQ 8.0 の新機能が有効になっているキュー・マネージャーのみで有効です。

クライアント接続が正常に確立されるためのユーザー ID およびパスワードの要件。有効な値は、以下のとおりです。

MQCHK_REQUIRED_ADMIN

特権が付与されたユーザー ID を使用して接続の許可を得るには、有効なユーザー ID とパスワードが必要になります。パスワードでは単一引用符 (') を使用できません。

特権なしのユーザー ID を使用する接続の場合、ユーザー ID とパスワードを提供する必要はありません。

ユーザー ID およびパスワードは、認証情報オブジェクトで提供され、ALTER QMGR の CONNAUTH フィールドで指定されるユーザー・リポジトリの詳細に突き合わせて検査されます。

ユーザー・リポジトリの詳細が提供されない場合、キュー・マネージャーでのユーザー ID とパスワードの検査が有効にならないため、接続は成功しません。

特権ユーザーは、IBM MQ の全管理権限を付与されたユーザーです。詳しくは、[特権ユーザー](#)を参照してください。

このオプションは、z/OS プラットフォームでは無効です。

MQCHK_REQUIRED

接続の許可を得るには、有効なユーザー ID とパスワードが必要になります。パスワードでは単一引用符 (') を使用できません。

ユーザー ID およびパスワードは、認証情報オブジェクトで提供され、ALTER QMGR の CONNAUTH フィールドで指定されるユーザー・リポジトリの詳細に突き合わせて検査されます。

ユーザー・リポジトリの詳細が提供されない場合、キュー・マネージャーでのユーザー ID とパスワードの検査が有効にならないため、接続は成功しません。

MQCHK_AS_Q_MGR

接続の許可を得るには、キュー・マネージャーで定義される接続認証要件を満たす必要があります。

CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供され、CHKCLNT の値が REQUIRED である場合、有効なユーザー ID およびパスワードが指定されない限り、接続は失敗します。

CONNAUTH フィールドで認証情報オブジェクトが提供されない、または CHCKCLNT の値が REQUIRED ではない場合、ユーザー ID およびパスワードは必要ありません。

ClntUser (MQCFST)

新規ユーザー ID にマップするか、未変更で許可するか、またはブロックするクライアント表明のユーザー ID、または (パラメーター ID: MQCACH_CLIENT_USER_ID)。

これには、クライアント・サイド・プロセスの実行に使用されるユーザー ID を示すクライアントからフローされたユーザー ID、または MQCSP を使用する MQCONN 呼び出しに基づいてクライアントが提示するユーザー ID のいずれかを指定できます。

このパラメーターは、**Match** が MQMATCH_RUNCHECK であるときに、TYPE(USERMAP) と共に指定した場合にのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_CLIENT_USER_ID_LENGTH です。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合に、どのようにコマンドを実行するかを指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。コマンドを入力したキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、またコマンド・サーバーが使用可能になっていなければなりません。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

Custom (MQCFST)

今後の使用のために予約されています。

Description (MQCFST)

チャネル認証レコードについての記述情報を提供します。この情報は、Inquire Channel Authentication Records コマンドを発行すると表示されます (パラメーター ID: MQCA_CHLAUTH_DESC)。

このパラメーターには表示可能文字のみを使用する必要があります。DBCS インストール済み環境では、DBCS 文字を含めることができます。ストリングの最大長は MQ_CHLAUTH_DESC_LENGTH です。

注: このキュー・マネージャー用のコード化文字セット ID (CCSID) の文字を使用してください。他の文字を使用すると、情報が他のキュー・マネージャーに送信されたときに、正しく変換されない可能性があります。

MCAUser (MQCFST)

インバウンド接続が、指定された SSL DN、IP アドレス、クライアント表明のユーザー ID、またはリモート・キュー・マネージャー名と一致した場合に使用するユーザー ID (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID)。

このパラメーターは **UserSrc** が MQUSRC_MAP のときは必須であり、**Type** が MQCAUT_SSLPEERMAP、MQCAUT_ADDRESSMAP、MQCAUT_USERMAP、または MQCAUT_QMGRMAP のときに有効です。

このパラメーターは、**Action** が MQACT_ADD または MQACT_REPLACE の場合のみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_MCA_USER_ID_LENGTH です。

QMName (MQCFST)

ユーザー ID にマップされるかブロックされる、リモート・パートナー・キュー・マネージャーの名前、またはキュー・マネージャー名のセットに一致するパターン (パラメーター ID: MQCA_REMOTE_Q_MGR_NAME)。

このパラメーターは、**Type** が MQCAUT_QMGRMAP の場合のみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

SSLCertIssuer (MQCFST)



重要: このパラメーターは、OPMODE を使用して IBM MQ 8.0 の新機能が有効になっているキュー・マネージャーのみで有効です。

このパラメーターは、**SSLPeer** パラメーターに追加で指定します。

SSLCertIssuer は、一致を特定の認証局によって発行された証明書内にあるものに制限します。

SSLPeer (MQCFST)

チャンネルの相手側のピア・キュー・マネージャーまたはクライアントからの証明書の識別名と比較するために使用するフィルター (パラメーター ID: MQCACH_SSL_PEER_NAME)。

SSLPeer 値は、識別名を指定するために使用する標準形式で指定します。 識別名、および SSLPEER 値 についての IBM MQ の規則を参照してください。

ストリングの最大長は MQ_SSL_PEER_NAME_LENGTH です。

UserList (MQCFSL)

このチャンネルまたはチャンネル・セットを使用することを禁止される最大 100 のユーザー ID のリスト (パラメーター ID: MQCACH_MCA_USER_ID_LIST)。

以下のような特別な値を使用することができます。

*MQADMIN

この値の正確な意味は実行時に決まります。 IBM MQ に付属の OAM を使用する場合、以下のようにプラットフォームによって意味が異なります。

- Windows では、mqm グループ、Administrators グループのすべてのメンバーと、SYSTEM。
- UNIX および Linux の場合: mqm グループのすべてのメンバー。
- IBM i では、プロファイル (ユーザー) qmqm と qmqmadm、qmqmadm グループのすべてのメンバー、*ALLOBJ 特殊設定で定義されているすべてのユーザー。
-  z/OS の場合: CHINIT の実行に使用されているユーザー ID、および MSTR アドレス・スペースの実行に使用されているユーザー ID。

このパラメーターは、**TYPE** が MQCAUT_BLOCKUSER の場合のみ有効です。

各ユーザー ID の最大長は MQ_MCA_USER_ID_LENGTH です。

UserSrc (MQCFIN)

実行時に MCAUSER に使用されるユーザー ID のソース (パラメーター ID: MQIACH_USER_SOURCE)。

有効な値は、以下のとおりです。

MQUSRC_MAP

このマッピングに合致するインバウンド接続は、**MCAUser** 属性で指定されているユーザー ID を使用します。これはデフォルト値です。

MQUSRC_NOACCESS

このマッピングに合致するインバウンド接続は、キュー・マネージャーにアクセスできません。チャンネルはすぐに終了します。

MQUSRC_CHANNEL

このマッピングに合致するインバウンド接続は、送られてくるユーザー ID、またはチャンネル・オブジェクトの MCAUSER フィールドで定義されているユーザーを使用します。

Warn は、MQUSRC_CHANNEL や MQUSRC_MAP とは両立しないことに注意してください。その理由は、これらのケースではチャンネル・アクセスがブロックされることがなく、警告を生成する必要がないからです。

Warn (MQCFIN)

このレコードが警告モードで機能するかどうかを示します (パラメーター ID: MQIACH_WARNING)。

MQWARN_NO

このレコードは警告モードでは機能しません。このレコードに合致するインバウンド接続はブロックされます。これはデフォルト値です。

MQWARN_YES

このレコードは警告モードで機能します。このレコードに合致する (したがってブロックされるはずの) インバウンド接続は、アクセスを許可されます。エラー・メッセージが書き込まれます。イベントが構成されていれば、何がブロックされるはずだったかの詳細を示すイベント・メッセージが作成されます。接続は続行可能です。インバウンド・チャンネルの資格情報を設定した WARN(NO) のレコードがほかにあるかどうかを検索されます。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)で示す値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーで返すことがあります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHLAUTH_TYPE_ERROR

チャンネル認証レコード・タイプが無効です。

MQRCCF_CHLAUTH_ACTION_ERROR

チャンネル認証レコード・アクションが無効です。

MQRCCF_CHLAUTH_USERSRC_ERROR

チャンネル認証レコード・ユーザー・ソースが無効です。

MQRCCF_WRONG_CHLAUTH_TYPE

このチャンネル認証レコード・タイプでは許可されないパラメーターです。

MQRCCF_CHLAUTH_ALREADY_EXISTS

チャンネル認証レコードは既に存在しています。

関連情報

[チャンネル認証レコード](#)

Set Log

Set Log (MQCMD_SET_LOG) コマンドを使用して、キュー・マネージャー始動時にシステム・パラメーター・モジュールで当初設定された、特定のログ・システム・パラメーター値を動的に変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必須パラメーター:

ParameterType

オプション・パラメーター (*ParameterType* の値が MQSYSP_TYPE_SET の場合):

CommandScope , *DeallocateInterval* , *LogCompression* , *MaxArchiveLog* ,
MaxConcurrentOffloads , *MaxReadTapeUnits* , *OutputBufferCount*

オプション・パラメーター (*ParameterType* タイプが MQSYSP_TYPE_INITIAL の場合):

CommandScope

必要なパラメーター

ParameterType (MQCFIN)

パラメーター・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TYPE)。

パラメーターの設定方法を指定します。

MQSYSP_TYPE_INITIAL

ログ・システム・パラメーターの初期設定。MQSYSP_TYPE_INITIAL は、すべてのログ・システム・パラメーターをキュー・マネージャー始動時の値にリセットします。

MQSYSP_TYPE_SET

MQSYSP_TYPE_SET は、1 つ以上のアーカイブ・ログ・システム・パラメーター設定を変更することを指示します。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

DeallocateInterval (MQCFIN)

割り振り解除間隔 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_DEALLOC_INTERVAL)。

割り振られたアーカイブ読み取りテープ装置が割り振り解除される前に未使用状態になることができる時間の長さ (分) を指定します。 *MaxReadTapeUnits* パラメーターとともに、このパラメーターを使用することで、IBM MQ は磁気テープ装置からのアーカイブ・ログの読み取りを最適化できます。 アーカイブ・テープの読み取りにおいて最適なパフォーマンスを実現するために、両方のパラメーターについて、システム制約の範囲で最大値を指定することをお勧めします。

0 から 1440 の範囲内で値を指定してください。 0 の場合、磁気テープ装置は直ちに割り振り解除されます。 1440 を指定した場合、磁気テープ装置は割り振り解除されません。

LogCompression (MQCFIN)

ログ圧縮パラメーター (パラメーター ID: MQIACF_LOG_COMPRESSION)。

使用可能にするログ圧縮アルゴリズムを指定します。

指定できる値は以下のとおりです。

MQCOMPRESS_NONE

ログ圧縮は使用できません。

MQCOMPRESS_RLE

ラン・レングス・エンコード・ログ圧縮を使用可能にします。

MQCOMPRESS_ANY

キュー・マネージャーが、最大の圧縮率でログ・レコード圧縮を行う圧縮アルゴリズムを選択できるようにします。

 詳細については、[ログ・ファイル](#)を参照してください。

MaxArchiveLog (MQCFIN)

BSDS に記録できるアーカイブ・ログ・ボリュームの最大数を指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_MAX_ARCHIVE)。

この値を超えた場合、BSDS の開始点から記録が再開されます。

10 以上 100 以下の範囲の値を指定します。

MaxConcurrentOffloads (MQCFIN)

同時ログ・オフロード・タスクの最大数を指定します (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_MAX_CONC_OFFLOADS)。

1 から 31 までの 10 進数を指定します。値を指定しないと、デフォルトの 31 が適用されます。

アーカイブ・ログが磁気テープ装置に割り振られている場合は、デフォルトより小さい数を設定してください。キュー・マネージャーに同時に割り振ることのできる磁気テープ装置の数には制約があります。

MaxReadTapeUnits (MQCFIN)

読み取りアーカイブ・ログのテープ・ボリュームに割り振ることのできる専用テープ装置の最大数を指定 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_MAX_READ_TAPES)。

DeallocateInterval パラメーターとともに、このパラメーターを使用することで、IBM MQ は磁気テープ装置からのアーカイブ・ログの読み取りを最適化できます。

1 ～ 99 の範囲の値を指定してください。

現在の指定を超える値を指定すると、アーカイブ・ログの読み取りに使用できる磁気テープ装置の最大数が増加します。現在の指定未満の値を指定すると、使用されていない磁気テープ装置が即時に割り振り解除され、新規値に合わせて調整されます。アクティブなテープまたは事前マウントされたテープは、割り振られたままになります。

OutputBufferCount (MQCFIN)

データでいっぱいになった 4 KB 出力バッファ数がこの値に達すると、アーカイブ・ログ・データ・セットに書き込まれます (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_OUT_BUFFER_COUNT)。

1 ～ 256 の範囲のバッファ数を指定します。

バッファの数が大きいほど、また書き込みの頻度が少ないほど、IBM MQ のパフォーマンスが向上します。コミット点などのような重要なイベントが発生した場合は、この数に達する前にバッファが書き込まれることがあります。

Set Policy

Set Policy (MQCMD_CHANGE_PROT_POLICY) コマンドは、保護ポリシーを設定します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

重要: このコマンドを発行するには、IBM MQ Advanced Message Security (AMS) ライセンスがインストールされている必要があります。AMS ライセンスがインストールされていない場合に **Set Policy** コマンドを発行しようとすると、メッセージ AMQ7155 (ライセンス・ファイルが見つからないか、または無効です) を受け取ります。

構文図

許可されているパラメーターと値の組み合わせについては、MQSC 1303 ページの『[SET POLICY](#)』コマンドの構文図を参照してください。

必要なパラメーター

PolicyName (MQCFST)

ポリシーの名前を指定します。ポリシー名は、保護するキューの名前と一致しなければなりません (パラメーター ID: MQCA_POLICY_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

SignAlg (MQCFIN)

デジタル署名アルゴリズムを指定します (パラメーター ID: MQIA_SIGNATURE_ALGORITHM)。有効な値は、以下のとおりです。

MQESE_SIGN_ALG_NONE

デジタル署名アルゴリズムを指定しません。これはデフォルト値です。

MQESE_SIGN_ALG_MD5

MD5 デジタル署名アルゴリズムを指定します。

MQESE_SIGN_ALG_SHA1

SHA1 デジタル署名アルゴリズムを指定します。

MQESE_SIGN_ALG_256

SHA256 デジタル署名アルゴリズムを指定します。

MQESE_SIGN_ALG_384

SHA384 デジタル署名アルゴリズムを指定します。

MQESE_SIGN_ALG_512

SHA512 デジタル署名アルゴリズムを指定します。

EncAlg (MQCFIN)

暗号化アルゴリズムを指定します (パラメーター ID: MQIA_ENCRYPTION_ALGORITHM)。有効な値は、以下のとおりです。

MQESE_ENC_ALG_NONE

暗号化アルゴリズムを指定しません。これはデフォルト値です。

MQESE_ENC_ALG_RC2

RC2 暗号化アルゴリズムを指定します。

MQESE_ENC_ALG_DES

DES 暗号化アルゴリズムを指定します。

MQESE_ENC_ALG_3DES

3DES 暗号化アルゴリズムを指定します。

MQESE_ENC_ALG_AES128

AES128 暗号化アルゴリズムを指定します。

MQESE_ENC_ALG_AES256

AES256 暗号化アルゴリズムを指定します。

Signer (MQCFST)

許可された署名者の識別名を指定します。このパラメーターは、複数回指定することができます (パラメーター ID: MQCA_SIGNER_DN)。

Recipient (MQCFST)

対象の受信者の識別名を指定します。このパラメーターは、複数回指定することができます (パラメーター ID: MQCA_RECIPIENT_DN)。

Enforce および Tolerate (MQCFST)

セキュリティ・ポリシーを強制するか、それとも保護されていないメッセージを許容するかを示します (パラメーター ID: MQIA_TOLERATE_UNPROTECTED)。有効な値は、以下のとおりです。

MQESE_TOLERATE_NO

キューから取得するときにすべてのメッセージが保護されていなければならないことを指定します。保護されていないメッセージが検出されると、SYSTEM.PROTECTION.ERROR.QUEUE に移されます。これはデフォルト値です。

MQESE_TOLERATE_YES

キューから取得されるときに保護されていないメッセージはポリシーを無視できるように指定します。

許容はオプションです。以下の場合に、段階的な実装を容易にするために存在します。

- ポリシーがキューに適用されたが、それらのキューには保護されていないメッセージが既に含まれている可能性がある場合、または
- ポリシーがまだ設定されていないリモート・システムから、まだキューがメッセージを受け取る可能性がある場合。

Action(MQCFIN)

指定したパラメーターを既存のポリシーに適用する場合のアクションを指定します (パラメーター ID: MQIACF_ACTION)。有効な値は、以下のとおりです。

MQACT_REPLACE

既存のポリシーを、指定したパラメーターに置き換えます。これはデフォルト値です。

MQACT_ADD

署名者と受信者のパラメーターは、追加するように作用します。つまり、署名者または受信者を指定した場合、署名者または受信者の値は、既存のポリシー内に存在しなければ、既存のポリシー定義に追加されます。

MQACT_REMOVE

MQACT_ADD とは反対に作用します。つまり、指定した署名者や受信者の値が既存のポリシー内に存在している場合、それらの値はポリシー定義から削除されます。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』で示す値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーで返すことがあります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_POLICY_TYPE_ERROR

ポリシー・タイプが無効です。

z/OS Set System

Set System (MQCMD_SET_SYSTEM) コマンドを使用して、キュー・マネージャー始動時にシステム・パラメーター・モジュールから当初設定された、特定の一般システム・パラメーター値を動的に変更します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必須パラメーター:

ParameterType

オプション・パラメーター (*ParameterType* の値が MQSYSP_TYPE_SET の場合):

CheckpointCount, CommandScope, Exclmsg, MaxConnects, MaxConnectsBackground, MaxConnectsForeground, Service, SMFInterval, TraceSize

オプション・パラメーター (*ParameterType* タイプが MQSYSP_INITIAL の場合):

CommandScope

必要なパラメーター

ParameterType (MQCFIN)

パラメーター・タイプ (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TYPE)。

パラメーターの設定方法を指定します。

MQSYSP_TYPE_INITIAL

システム・パラメーターの初期設定値。MQSYSP_TYPE_INITIAL は、パラメーターをキュー・マネージャー始動時にシステム・パラメーターで指定された値にリセットします。

MQSYSP_TYPE_SET

MQSYSP_TYPE_SET は、1 つ以上のシステム・パラメーター設定を変更することを指示します。

オプション・パラメーター

CheckpointCount (MQCFIN)

1つのチェックポイントの開始から次のチェックポイントの開始までの間に IBM MQ によって書き込まれるログ・レコードの数 (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_CHKPOINT_COUNT)。

IBM MQ は、指定した数のレコードが書き込まれた後で、新しいチェックポイントを開始します。

200 から 16 000 000 の範囲の値を指定してください。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Exclmsg (MQCFSL)

ログへの書き込み時に除外するメッセージ ID のリスト (パラメーター ID: MQCACF_EXCL_OPERATOR_MESSAGES)。

ログへの書き込み時に除外するエラー・メッセージ ID のリストを指定します。例えば、メッセージ CSQX500I を除外するには、このリストに X500 を追加します。このリストにあるメッセージは、z/OS コンソールおよびハードコピー・ログに送られません。そのため、EXCLMSG パラメーターを使用してメッセージを除外する方が、メッセージ処理機能リストなどの z/OS メカニズムを使用するよりも、CPU の観点から見ると効率的です。可能な場合は、代わりにこの方法を使用してください。

各メッセージ ID の最大長は、MQ_OPERATOR_MESSAGE_LENGTH です。

リストには、最大 16 個のメッセージ ID を含めることができます。

Service (MQCFST)

サービス・パラメーターの設定 (パラメーター ID: MQCACF_SYSP_SERVICE)。

このパラメーターは、IBM が使用するために予約済みです。

SMFInterval (MQCFIN)

統計を収集するデフォルトの時間間隔 (分) (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_SMF_INTERVAL)。

0 から 1440 の範囲内で値を指定してください。

ゼロの値を指定すると、SMF データ収集ブロードキャストの時点で統計データおよびアカウントिंग・データの両方が収集されます。

TraceSize (MQCFIN)

グローバル・トレース機能によって使用されるトレース・テーブルのサイズ (4 KB ブロック単位) (パラメーター ID: MQIACF_SYSP_TRACE_SIZE)。

0 から 999 の範囲内で値を指定してください。

Start Channel

Start Channel (MQCMD_START_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャンネルを開始します。このコマンドは、(MQCHT_CLNTCONN を除く) 任意のタイプのチャンネルに対して発行できます。ただし、ChannelType の

値が MQCHT_RECEIVER、MQCHT_SVRCONN、または MQCHT_CLUSRCVR であるチャンネルに対してこのコマンドを発行した場合は、チャンネルの開始ではなく、チャンネルの有効化のみが行われます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

同じ名前のローカル定義チャンネルと、自動定義クラスター送信側チャンネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャンネルに適用されます。

ローカルに定義されたチャンネルが存在せず、自動定義されたクラスター送信側チャンネルが複数存在する場合には、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャンネルに適用されます。

パラメーターの説明に特に記載されていない限り、以下の属性は MQTT チャンネルには適用できません。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

開始されるチャンネルの名前。ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

このパラメーターは、MQTT チャンネルを含め、すべてのチャンネル・タイプに必須です。

オプション・パラメーター

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

ChannelDisposition (MQCFIN)

チャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

開始するチャンネルの特性を指定します。

このパラメーターを省略すると、チャンネルの性質の値は、チャンネル・オブジェクトのデフォルトのチャンネルの性質属性から取得されます。

値は次のいずれかです。

MQCHLD_PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED 以外の場合は専用チャンネルになります。

MQCHLD_SHARED

受信チャンネルは、キュー共用グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共用されます。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED である場合は共有チャンネルになります。

MQCHLD_FIXSHARED

特定のキュー・マネージャーに関連付けられた共有チャンネル。

ChannelDisposition パラメーターと *CommandScope* パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかを制御することもできます。指定できるオプションは次のとおりです。

- コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。
- グループ内でアクティブなすべてのキュー・マネージャー。
- グループ内の最も適切なキュー・マネージャー (キュー・マネージャー自体が自動的に判断)。

ChannelDisposition と *CommandScope* のさまざまな組み合わせについて、[1849 ページの表 96](#)に要約します。

表 96. START CHANNEL の <i>ChannelDisposition</i> および <i>CommandScope</i>			
<i>ChannelDisposition</i>	<i>CommandScope</i> ブランクまたは local-qmgr	<i>CommandScope</i> qmgr-name	<i>CommandScope</i> (*)
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャーの専用チャンネルとして始動します	名前付きキュー・マネージャーの専用チャンネルとして開始します	アクティブなキュー・マネージャーすべての専用チャンネルとして始動します

表 96. START CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope (続き)

ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたは local-qmgr	CommandScope qmgr-name	CommandScope (*)
MQCHLD_SHARED	ChannelType MQCHT_SENDER、MQCHT_REQUESTER、および MQCHT_SERVER のチャンネルの場合、グループ内の最も適切なキュー・マネージャーで共有チャンネルとして開始します。 ChannelType MQCHT_RECEIVER および MQCHT_SVRCONN の共有チャンネルの場合、すべてのアクティブなキュー・マネージャーでチャンネルを開始します。 ChannelType MQCHT_CLUSSDR および MQCHT_CLUSRCVR の共有チャンネルの場合、このオプションは許可されません。 MQCHLD_SHARED の場合、CommandScope を使用してコマンドが自動的に生成され、適切なキュー・マネージャーに送信されることがあります。コマンドの送信先キュー・マネージャー上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されるキュー・マネージャーのチャンネルの定義は、コマンドが実行されるターゲット・キュー・マネージャーを決定するために使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない	許可されない
MQCHLD_FIXSHARED	ChannelType MQCHT_SENDER、MQCHT_REQUESTER、および MQCHT_SERVER の共有チャンネルで、非ブランクの ConnectionName の場合は、ローカル・キュー・マネージャー上の共有チャンネルとして開始します。	ChannelType MQCHT_SENDER、MQCHT_REQUESTER、および MQCHT_SERVER の共有チャンネルで、非ブランクの ConnectionName の場合は、指定されたキュー・マネージャーで共有チャンネルとして開始します。	許可されない

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_INDOUBT

チャンネルが未確定です。

MQRCCF_CHANNEL_IN_USE

チャンネルが使用中です。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_CHANNEL_TYPE_ERROR

チャンネル・タイプが無効です。

MQRCCF_MQCONN_FAILED

MQCONN 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQINQ_FAILED

MQINQ 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQOPEN_FAILED

MQOPEN 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_NOT_XMIT_Q

キューが伝送キューではありません。

Start Channel (MQTT)

Start Channel (MQCMD_START_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャンネルを開始します。このコマンドは、タイプ MQCHT_MQTT のチャンネルに対して発行できます。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

開始されるチャンネルの名前。ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

このパラメーターは、MQTT チャンネルを含め、すべてのチャンネル・タイプに必須です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。このパラメーターは、現在 MQTT テレメトリー・チャンネルでのみ使用されており、テレメトリー・チャンネルの開始時に必要です。このパラメーターに指定できる値は、現在 MQCHT_MQTT のみです。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_PARM_SYNTAX_ERROR

指定されたパラメーターに構文エラーが含まれています。

MQRCCF_PARM_MISSING

パラメーターが入力されていません。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

指定されたチャンネルが存在しません。

MQRCCF_CHANNEL_IN_USE

コマンドで、必要なパラメーターまたはパラメーター値が指定されていません。

MQRCCF_NO_STORAGE

使用可能な記憶域が不十分です。

MQRCCF_COMMAND_FAILED

コマンドが失敗しました。

MQRCCF_PORT_IN_USE

ポートは使用中です。

MQRCCF_BIND_FAILED

セッション折衝中にリモート・システムに対するバインドが失敗しました。

MQRCCF_SOCKET_ERROR

ソケット・エラーが発生しました。

MQRCCF_HOST_NOT_AVAILABLE

会話をリモート・システムに割り振ろうとして失敗しました。このエラーは一時的なものである可能性があり、後で割り振りを実行すると成功することがあります。これは、リモート・システムで listen プログラムが稼働していないことが原因で発生する場合があります。

Start Channel Initiator

Start Channel Initiator (MQCMD_START_CHANNEL_INIT) コマンドは、IBM MQ チャネル・イニシエーターを開始します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

InitiationQName (MQCFST)

開始キュー名 (パラメーター ID: MQCA_INITIATION_Q_NAME)。

これは、チャネル開始プロセスのための開始キューの名前です。つまり、伝送キューの定義に指定する開始キューです。

このパラメーターは、z/OS では無効です。

ストリングの最大長は MQ_Q_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

EnvironmentInfo (MQCFST)

環境情報 (パラメーター ID: MQCACF_ENV_INFO)。

チャンネル・イニシエーター・アドレス・スペースを開始するために使用される JCL プロシージャ (xxxxCHIN. xxxx はキュー・マネージャー名) の中で置換するパラメーターと値です。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

ストリングの最大長は MQ_ENV_INFO_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_MQCONN_FAILED
MQCONN 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQGET_FAILED
MQGET 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQOPEN_FAILED
MQOPEN 呼び出しが失敗しました。

Start Channel Listener

Start Channel Listener (MQCMD_START_CHANNEL_LISTENER) コマンドは、IBM MQ リスナーを開始します。z/OS では、このコマンドはあらゆる伝送プロトコルで有効です。他のプラットフォームでは、TCP 伝送プロトコルでのみ有効です。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。



InboundDisposition (MQCFIN)

インバウンド伝送特性 (パラメーター ID: MQIACH_INBOUND_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

処理するインバウンド伝送の属性指定を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQINBD_Q_MGR
キュー・マネージャーに送信された伝送を listen します。MQINBD_Q_MGR はデフォルトです。

MQINBD_GROUP

キュー共有グループに宛てられた伝送を listen します。MQINBD_GROUP は共有キュー・マネージャー環境でのみ許可されています。

z/OS

IPAddress (MQCFST)

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

IPv4 ドット 10 進、IPv6 16 進、または英数字形式で指定した TCP/IP の IP アドレス。このパラメーターは、*TransportType* が MQXPT_TCP であるチャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_IP_ADDRESS_LENGTH です。

ListenerName (MQCFST)

リスナー名 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。このパラメーターは z/OS には適用されません。

開始するリスナー定義の名前です。このパラメーターが有効なプラットフォームでは、このパラメーターが指定されない場合はデフォルト・リスナー SYSTEM.DEFAULT.LISTENER が想定されます。このパラメーターを指定すると、他のパラメーターは指定できません。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

z/OS

LUName (MQCFST)

LU 名 (パラメーター ID: MQCACH_LU_NAME)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

APPC サイド情報データ・セットで指定された、論理装置 (LU) のシンボリック宛先名です。LU は、アウトバウンド伝送に使用されるチャンネル・イニシエーター・パラメーターで指定された LU と同じでなければなりません。このパラメーターは、*TransportType* が MQXPT_LU62 のチャンネルにのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_LU_NAME_LENGTH です。

z/OS

Port (MQCFIN)

TCP のポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT_NUMBER)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

TCP のポート番号。このパラメーターは、*TransportType* が MQXPT_TCP であるチャンネルでのみ有効です。

z/OS

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQXPT_LU62

LU 6.2。

MQXPT_TCP

TCP

MQXPT_NETBIOS

NetBIOS。

MQXPT_SPX

SPX。

z/OS 以外のプラットフォームでは、このパラメーターは無効です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_COMMS_LIBRARY_ERROR

通信プロトコル・ライブラリー・エラー。

MQRCCF_LISTENER_NOT_STARTED

リスナーが始動していません。

MQRCCF_LISTENER_RUNNING

リスナーは既に実行中です。

MQRCCF_NETBIOS_NAME_ERROR

NetBIOS listener 名エラー。

Start Service

Start Service (MQCMD_START_SERVICE) コマンドは、既存の IBM MQ サービス定義を開始します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ServiceName (MQCFST)

サービス名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

このパラメーターは、開始するサービス定義の名前です。ストリングの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_NO_START_CMD

サービスの *StartCommand* パラメーターがブランクです。

MQRCCF_SERVICE_RUNNING

サービスはすでに実行中です。

▶ z/OS Start SMDS Connection

Start SMDS Connection (MQCMD_INQUIRE_SMDSCONN) コマンドは、以前の STOP SMDSCONN コマンドによって接続が AVAIL(STOPPED) 状態にされた後に使用します。このコマンドを使用して、以前のエラーの後に AVAIL(ERROR) 状態にある接続を再試行するよう、キュー・マネージャーに通知することもできます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

SMDSConn (MQCFST)

共有メッセージ・データ・セットとキュー・マネージャー間の接続に関連するキュー・マネージャーの名前を指定します (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDSCONN)。

アスタリスク値は、特定の CFSTRUCT 名に関連付けられているすべての共有メッセージ・データ・セットを示すために使用できます。

ストリングの最大長は 4 文字です。

CFStrucName (MQCFST)

開始する SMDS 接続プロパティを持つ CF アプリケーション構造の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

ストリングの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Stop Channel

Stop Channel (MQCMD_STOP_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ チャネルを停止します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

このコマンドは、(MQCHT_CLNTCONN を除く) 任意のタイプのチャネルに対して発行できます。

同じ名前のローカル定義チャネルと、自動定義クラスター送信側チャネルの両方がある場合は、このコマンドはローカル定義チャネルに適用されます。

ローカルに定義されたチャネルが存在せず、自動定義されたクラスター送信側チャネルが複数存在する場合には、このコマンドは、ローカル・キュー・マネージャーのリポジトリに最後に追加されたチャネルに適用されます。

パラメーターの説明に特に記載されていない限り、以下の属性は MQTT チャネルには適用できません。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

停止するチャネルの名前。ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

このパラメーターは、すべてのチャネル・タイプに必須です。

オプション・パラメーター

ChannelDisposition (MQCFIN)

チャンネル属性指定 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_DISP)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

停止するチャンネルの属性指定を指定します。

このパラメーターを省略すると、チャンネルの性質の値は、チャンネル・オブジェクトのデフォルトのチャンネルの性質属性から取得されます。

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHLD_PRIVATE

受信側チャンネルがキュー・マネージャー向けのインバウンド伝送に応答して開始された場合、これは専用です。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED 以外の場合は専用チャンネルになります。

MQCHLD_SHARED

受信チャンネルは、キュー共用グループに向けられたインバウンド伝送への応答として開始された場合に共用されます。

送信側チャンネルは、その伝送キューの性質が MQQSGD_SHARED である場合は共有チャンネルになります。

ChannelDisposition と *CommandScope* の各パラメーターの組み合わせによって、どのキュー・マネージャーからチャンネルを操作するかについても制御されます。指定できるオプションは次のとおりです。

- ・ コマンドが発行されるローカル・キュー・マネージャー。
- ・ グループ内の別の指定されたキュー・マネージャー。
- ・ グループ内でアクティブなすべてのキュー・マネージャー。
- ・ グループ内の最も適切なキュー・マネージャー (キュー・マネージャー自体が自動的に判断)。

ChannelDisposition と *CommandScope* のさまざまな組み合わせについて [1857 ページの表 97](#) に要約しています。

表 97. STOP CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope			
ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたはローカル・キュー・マネージャー	CommandScope キュー・マネージャー名	CommandScope (*)
MQCHLD_PRIVATE	ローカル・キュー・マネージャー上の専用チャンネルとして停止	指定されたキュー・マネージャー上の専用チャンネルとして停止します。	アクティブなキュー・マネージャーすべての専用チャンネルとして停止します。

表 97. STOP CHANNEL の ChannelDisposition および CommandScope (続き)			
ChannelDisposition	CommandScope ブランクまたはローカル・キュー・マネージャー	CommandScope キュー・マネージャー名	CommandScope (*)
MQCHLD_SHARED	ChannelType が MQCHT_RECEIVER または MQCHT_SVRCONN のチャンネルについては、すべてのアクティブなキュー・マネージャー上の共有チャンネルとして停止。 ChannelType が MQCHT_SENDER、MQCHT_REQUESTER、および MQCHT_SERVER のチャンネルについては、チャンネルが実行されているキュー・マネージャー上の共有チャンネルとして停止。チャンネルが非アクティブ状態 (稼働していない) の場合、またはチャンネルが実行されていたチャンネル・イニシエーターが停止したためにチャンネルが RETRY 状態になっている場合には、チャンネルに対する STOP 要求はローカル・キュー・マネージャーで出されます。 MQCHLD_SHARED の場合、CommandScope を使用するコマンドが自動的に生成されて、該当するキュー・マネージャーに送信されることがあります。コマンドの送信先キュー・マネージャー上のチャンネルに定義がないか、または定義がコマンドに適さない場合は、コマンドは失敗します。 コマンドが入力されるキュー・マネージャーのチャンネルの定義は、コマンドが実行されるターゲット・キュー・マネージャーを決定するために使用される場合があります。したがって、チャンネル定義が一貫していることは重要です。チャンネル定義に矛盾がある場合、結果として、コマンドが予期しない動作をする可能性があります。	許可されない	許可されない

ChannelStatus (MQCFIN)

コマンドが実行された後の、チャンネルの新しい状態 (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_STATUS)。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQCHS_INACTIVE

チャンネルは非アクティブです。

MQCHS_STOPPED

チャンネルは停止されています。何も指定しない場合、MQCHS_STOPPED がデフォルトです。

CommandScope(MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

ConnectionName(MQCFST)

停止するチャンネルの接続名 (パラメーター ID: MQCACH_CONNECTION_NAME)。

このパラメーターは、停止するチャンネルの接続名です。このパラメーターを省略すると、指定したチャンネル名およびリモート・キュー・マネージャー名を持つすべてのチャンネルが停止されます。z/OS 以外のプラットフォームでは、このストリングの最大長は MQ_CONN_NAME_LENGTH です。z/OS では、ストリングの最大長は MQ_LOCAL_ADDRESS_LENGTH です。

このパラメーターを指定する場合、ChannelStatus は MQCHS_INACTIVE でなければなりません。

Mode (MQCFIN)

チャンネルをどのように停止させる必要があるか (パラメーター ID: MQIACF_MODE)。

値は次のいずれかです。

MQMODE_QUIESCE

チャンネルを静止します。MQMODE_QUIESCE がデフォルトです。

共有会話機能が有効になっているサーバー接続チャンネル上で Stop Channel <channelname> Mode(MQMODE_QUIESCE) コマンドを実行すると、IBM MQ クライアント・インフラストラクチャーはその停止要求をタイミングよく認識します。このタイミングは、ネットワークのスピードに依存します。その後の IBM MQ への呼び出し発行の結果により、クライアント・アプリケーションはその停止要求を認識します。

MQMODE_FORCE

チャンネルをただちに停止します。チャンネルのスレッドまたはプロセスは強制終了されません。現行バッチの伝送はすべて停止されます。

サーバー接続チャンネルの場合、現行接続を切断し、MQRC_CONNECTION_BROKEN を返します。

その他のタイプのチャンネルでは、多くの場合、この状況が結果的に未確定状態になると考えられます。

 z/OS では、このオプションが進行中のメッセージ再割り振りすべてを中断します。それによって、BIND_NOT_FIXED メッセージの再割り振りが不完全になったり、間違った順序になったりする場合があります。

MQMODE_TERMINATE

 z/OS では、MQMODE_TERMINATE は FORCE と同じ意味です 分散プラットフォームでは、チャンネルがただちに停止されます。チャンネルのスレッドまたはプロセスは強制終了されます。

 z/OS では、このオプションが進行中のメッセージ再割り振りすべてを中断します。それによって、BIND_NOT_FIXED メッセージの再割り振りが不完全になったり、間違った順序になったりする場合があります。

注: このパラメーターは、以前は *Quiesce* (MQIACF_QUIESCE) と呼ばれており、値 MQQO_YES および MQQO_NO を指定していました。これらの古い名前も引き続き使用できます。

QMgrName(MQCFST)

リモート・キュー・マネージャーの名前 (パラメーター ID: MQCA_Q_MGR_NAME)。

このパラメーターは、チャンネルが接続されているリモート・キュー・マネージャーの名前です。このパラメーターを省略すると、指定したチャンネル名および接続名を持つすべてのチャンネルが停止されます。ストリングの最大長は MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH です。

このパラメーターを指定する場合、ChannelStatus は MQCHS_INACTIVE でなければなりません。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_DISABLED

チャンネルが無効です。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_ACTIVE

チャンネルがアクティブではありません。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_MODE_VALUE_ERROR

モード値が無効です。

MQRCCF_MQCONN_FAILED

MQCONN 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQOPEN_FAILED

MQOPEN 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQSET_FAILED

MQSET 呼び出しが失敗しました。

Stop Channel (MQTT)

Stop Channel (MQCMD_STOP_CHANNEL) コマンドは、IBM MQ Telemetry チャンネルを停止します。

必要なパラメーター

ChannelName(MQCFST)

チャンネル名 (パラメーター ID: MQCACH_CHANNEL_NAME)。

このパラメーターは必須です。

停止するチャンネルの名前。ストリングの最大長は MQ_CHANNEL_NAME_LENGTH です。

ChannelType(MQCFIN)

チャンネル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_CHANNEL_TYPE)。現在のところ、このパラメーターは MQTT テレメトリー・チャンネルに対してのみ使用され、テレメトリー・チャンネルを停止する場合に必須です。このパラメーターに指定できる値は、現在 **MQCHT_MQTT** のみです。

オプション・パラメーター

ClientIdentifier(MQCFST)

クライアント ID。クライアント ID は、IBM MQ Telemetry Transport クライアントを識別する 23 バイトのストリングです。Stop Channel コマンドに *ClientIdentifier* を指定すると、指定されたクライアン

ト ID に対する接続だけが停止されます。CLIENTID が指定されない場合、チャンネル上のすべての接続が停止されます。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CHANNEL_DISABLED

チャンネルが無効です。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_ACTIVE

チャンネルがアクティブではありません。

MQRCCF_CHANNEL_NOT_FOUND

チャンネルが見つかりません。

MQRCCF_MODE_VALUE_ERROR

モード値が無効です。

MQRCCF_MQCONN_FAILED

MQCONN 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQOPEN_FAILED

MQOPEN 呼び出しが失敗しました。

MQRCCF_MQSET_FAILED

MQSET 呼び出しが失敗しました。

 Stop Channel Initiator

Stop Channel Initiator (MQCMD_STOP_CHANNEL_INIT) コマンドは、IBM MQ チャンネル・イニシエーターを停止します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があり、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- ・アスタリスク (*)。コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

SharedChannelRestart (MQCFIN)

共有チャンネルの再始動 (パラメーター ID: MQIACH_SHARED_CHL_RESTART)。

ChannelDisposition パラメーターが MQCHLD_SHARED に設定されて開始され、別のキュー・マネージャー上に所有している、アクティブな送信チャンネルの再開をチャンネル・イニシエーターが試行するかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

MQCHSH_RESTART_YES

共有送信側チャンネルを再始動します。MQCHSH_RESTART_YES はデフォルトです。

MQCHSH_RESTART_NO

共有送信チャンネルが再開されません。そのため、非アクティブになります。

ChannelDisposition パラメーターが MQCHLD_FIXSHARED に設定されて開始されたアクティブなチャンネルが再開されません。そのため、常に非アクティブになります。

Stop Channel Listener

Stop Channel Listener (MQCMD_STOP_CHANNEL_LISTENER) コマンドは、IBM MQ リスナーを停止します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ListenerName (MQCFST)

リスナー名 (パラメーター ID: MQCACH_LISTENER_NAME)。このパラメーターは z/OS には適用されません。

停止するリスナー定義の名前です。このパラメーターを指定すると、他のパラメーターは指定できません。

ストリングの最大長は MQ_LISTENER_NAME_LENGTH です。

オプション・パラメーター



CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

InboundDisposition (MQCFIN)

インバウンド伝送特性 (パラメーター ID: MQIACH_INBOUND_DISP)。

リスナーが処理するインバウンド伝送の属性指定を指定します。値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQINBD_Q_MGR

キュー・マネージャーに宛てられた伝送を処理します。MQINBD_Q_MGR はデフォルトです。

MQINBD_GROUP

キュー共有グループに宛てられた伝送を処理します。MQINBD_GROUP は共有キュー・マネージャー環境でのみ許可されています。

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

IPAddress (MQCFST)

IP アドレス (パラメーター ID: MQCACH_IP_ADDRESS)。

ドット 10 進形式または英数字形式で指定された TCP/IP の IP アドレスです。このパラメーターは、チャンネルの *TransportType* が MQXPT_TCP である z/OS でのみ有効です。

ストリングの最大長は MQ_IP_ADDRESS_LENGTH です。

Port (MQCFIN)

TCP のポート番号 (パラメーター ID: MQIACH_PORT_NUMBER)。

TCP のポート番号。このパラメーターは、チャンネルの *TransportType* が MQXPT_TCP である z/OS でのみ有効です。

TransportType (MQCFIN)

伝送プロトコル・タイプ (パラメーター ID: MQIACH_XMIT_PROTOCOL_TYPE)。

値は次のいずれかです。

MQXPT_LU62

LU 6.2。

MQXPT_TCP

TCP

このパラメーターは、z/OS でのみ有効です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_LISTENER_STOPPED

リスナーは実行されていません。

Stop Connection

Stop Connection (MQCMD_STOP_CONNECTION) コマンドは、アプリケーションとキュー・マネージャー間の接続の切断を試行します。環境によっては、このコマンドはキュー・マネージャーで実装できない場合があります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ConnectionId(MQCFBS)

接続 ID (パラメーター ID: MQBACF_CONNECTION_ID)。

このパラメーターは、キュー・マネージャーに接続されているアプリケーションに関連付けられた固有の接続 ID です。

バイト・ストリングの長さは MQ_CONNECTION_ID_LENGTH です。

Stop Service

Stop Service (MQCMD_STOP_SERVICE) コマンドは、実行中の既存の IBM MQ サービス定義を停止します。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
	✓	✓	✓	

必要なパラメーター

ServiceName (MQCFST)

サービス名 (パラメーター ID: MQCA_SERVICE_NAME)。

このパラメーターは、停止するサービス定義の名前です。 スtringの最大長は MQ_OBJECT_NAME_LENGTH です。

エラー・コード

このコマンドは、1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_NO_STOP_CMD

サービスの StopCommand パラメーターがブランクです。

MQRCCF_SERVICE_STOPPED

サービスは実行されていません。

▶ z/OS Stop SMDS Connection

Stop SMDS Connection (MQCMD_STOP_SMDSCONN) コマンドを使用して、このキュー・マネージャーから指定した 1 つ以上の共有メッセージ・データ・セットへの接続を終了して (これにより、共有メッセージ・データ・セットが閉じたり、割り振り解除されたりする)、接続に STOPPED というマークを付けます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

SMDSConn (MQCFST)

共有メッセージ・データ・セットとキュー・マネージャー間の接続に関連するキュー・マネージャーの名前を指定します (パラメーター ID: MQCACF_CF_SMDSCONN)。

アスタリスク値は、特定の CFSTRUCT 名に関連付けられているすべての共有メッセージ・データ・セットを示すために使用できます。

Stringの最大長は 4 文字です。

CFStrucName (MQCFST)

停止する SMDS 接続プロパティを持つ CF アプリケーション構造体の名前 (パラメーター ID: MQCA_CF_STRUC_NAME)。

Stringの最大長は MQ_CF_STRUC_NAME_LENGTH です。

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共用グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。

- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。
- アスタリスク (*)。 コマンドはローカル・キュー・マネージャーで実行され、 キュー共有グループ内のすべてのアクティブなキュー・マネージャーにも渡されます。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Suspend Queue Manager

Suspend Queue Manager (MQCMD_SUSPEND_Q_MGR) コマンドは、IMS または Db2 メッセージの処理のために、ローカル・キュー・マネージャーを使用不可にします。 このコマンドのアクションは、Resume Queue Manager (MQCMD_RESUME_Q_MGR) コマンドによって元に戻すことができます。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
				✓

必要なパラメーター

Facility (MQCFIN)

機能 (パラメーター ID: MQIACF_Q_MGR_FACILITY)。

アクティビティーを中断する機能のタイプです。 値は次のいずれかです。

MQQMFCF_DB2

Db2 への既存の接続を終了します。

Db2 接続が Resume Queue Manager コマンドで再確立されるまで、あるいはキュー・マネージャーが停止している場合、未完了または後続の MQGET または MQPUT 要求は中断され、アプリケーションは待機状態になります。

MQQMFCF_IMS_BRIDGE

通常の IMS ブリッジ・アクティビティーを再開します。

IMS ブリッジ・キューから OTMA へのメッセージの送信を停止します。 以下のいずれかのイベントが発生するまで、メッセージはこれ以上 IMS に送信されません。

- OTMA が停止され、再始動される
- IMS または IBM MQ が停止され、再始動される
- Resume Queue Manager コマンドが処理される

IMS OTMA からキュー・マネージャーに返されるメッセージは影響を受けません。

オプション・パラメーター

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。 以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ブランク (またはパラメーター全体を省略)。 コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- キュー・マネージャー名。 コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。 入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Suspend Queue Manager Cluster

Suspend Queue Manager Cluster (MQCMD_SUSPEND_Q_MGR_CLUSTER) コマンドは、ローカル・キュー・マネージャーが処理に使用できないためにメッセージを送信できないことを、クラスター内の他のキュー・マネージャーに知らせます。そのアクションは、Resume Queue Manager Cluster (MQCMD_RESUME_Q_MGR_CLUSTER) コマンドの逆になります。

HP Integrity NonStop Server	IBM i	UNIX および Linux	Windows	z/OS
✓	✓	✓	✓	✓

必要なパラメーター

ClusterName (MQCFST)

クラスター名 (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAME)。

使用中断の対象となるクラスターの名前。

ストリングの最大長は MQ_CLUSTER_NAME_LENGTH です。

ClusterNameList (MQCFST)

クラスター名リスト (パラメーター ID: MQCA_CLUSTER_NAMELIST)。

使用中断の対象となるクラスターのリストを指定する名前リストの名前。

オプション・パラメーター

z/OS

CommandScope (MQCFST)

コマンド有効範囲 (パラメーター ID: MQCACF_COMMAND_SCOPE)。このパラメーターは、z/OS のみに適用されます。

キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーである場合の、コマンドの実行方法を指定します。以下のいずれか 1 つを指定できます。

- ・ブランク (またはパラメーター全体を省略)。コマンドは、そのコマンドが入力されたキュー・マネージャーで実行されます。
- ・キュー・マネージャー名。コマンドは、指定したキュー・マネージャーで実行されます。ただし、そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内でアクティブである必要があります。入力されたキュー・マネージャー以外のキュー・マネージャー名を指定する場合は、キュー共有グループ環境を使用している必要があります、コマンド・サーバーが使用可能になっている必要があります。

最大長は MQ_QSG_NAME_LENGTH です。

Mode (MQCFIN)

ローカル・キュー・マネージャーがクラスターから中断される方法 (パラメーター ID: MQIACF_MODE)。

値は次のいずれかです。

MQMODE_QUIESCE

クラスター内の他のキュー・マネージャーに、ローカル・キュー・マネージャーにこれ以上メッセージを送信しないよう指示する。

MQMODE_FORCE

クラスター内の他のキュー・マネージャーに対するすべてのインバウンド・チャネルおよびアウトバウンド・チャネルが強制的に停止されます。

注: このパラメーターは、以前は *Quiesce* (MQIACF_QUIESCE) と呼ばれており、値 MQQO_YES および MQQO_NO を指定していました。これらの古い名前も引き続き使用できます。

エラー・コード

このコマンドは、[1352 ページの『すべてのコマンドに該当するエラー・コード』](#)に示されている値に加えて、以下のエラー・コードを応答形式ヘッダーに入れて返す場合があります。

Reason(MQLONG)

値には以下のいずれかの値を指定できます。

MQRCCF_CLUSTER_NAME_CONFLICT

クラスター名が矛盾しています。

MQRCCF_MODE_VALUE_ERROR

モード値が無効です。

コマンドおよび応答の構造

PCF コマンドおよび応答は、1 つのヘッダーおよび定義済みタイプの任意の数のパラメーター構造を含む、一貫性のある構造を持ちます。

コマンドおよび応答は、以下のような形式になっています。

- PCF ヘッダー (MQCFH) 構造 (トピック『[1868 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)』で説明されている)、それに続いて
- ゼロ以上のパラメーター構造。それぞれのパラメーター構造は、次のいずれかです。
 - PCF バイト・ストリング・フィルター・パラメーター (MQCFBF、トピック『[1872 ページの『MQCFBF - PCF バイト・ストリング・フィルター・パラメーター』](#)』を参照)
 - PCF バイト・ストリング・パラメーター (MQCFBS、トピック『[1874 ページの『MQCFBS - PCF バイト・ストリング・パラメーター』](#)』を参照)
 - PCF 整数フィルター・パラメーター (MQCFIF、トピック『[1877 ページの『MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター』](#)』を参照)
 - PCF 整数リスト・パラメーター (MQCFIL、トピック『[1880 ページの『MQCFIL - PCF 整数リスト・パラメーター』](#)』を参照)
 - PCF 整数パラメーター (MQCFIN、トピック『[1882 ページの『MQCFIN - PCF 整数パラメーター』](#)』を参照)
 - PCF ストリング・フィルター・パラメーター (MQCFSF、トピック『[1884 ページの『MQCFSF - PCF ストリング・フィルター・パラメーター』](#)』を参照)
 - PCF ストリング・リスト・パラメーター (MQCFSL、トピック『[1888 ページの『MQCFSL - PCF ストリング・リスト・パラメーター』](#)』を参照)
 - PCF ストリング・パラメーター (MQCFST、トピック『[1891 ページの『MQCFST - PCF ストリング・パラメーター』](#)』を参照)

構造の表記方法

この章での構造についての説明は、どのプログラミング言語の場合も適用されます。

宣言については、以下のプログラミング言語で示します。

- C
- COBOL
- PL/I
- S/390 アセンブラー
- Visual Basic

データ・タイプ

構造のフィールドごとに、フィールド名の後に大括弧で囲まれたデータ型が示されます。これらのデータ型は、[MQI](#)で使用されるデータ・タイプで説明されている基本データ型です。

初期値とデフォルト構造

構造、定数、初期値、およびデフォルト構造が含まれている付属のヘッダー・ファイルについて詳しくは、[IBM MQ COPY ファイル、ヘッダー・ファイル、インクルード・ファイル、およびモジュール・ファイルを参照してください。](#)

使用上の注意

PCF メッセージのストリングの形式によって、メッセージ内のストリングの変換を可能にする、メッセージ記述子の文字セット・フィールドの設定が決まります。

PCF メッセージ内のすべてのストリングに同じコード化文字セット ID がある場合は、メッセージを書き込むときにメッセージ記述子 MQMD 内の *CodedCharSetId* フィールドにその ID を設定してください。また、メッセージ内の MQCFST、MQCFSL、MQCFSF 構造の *CodedCharSetId* フィールドに MQCCSI_DEFAULT を設定してください。

PCF メッセージの形式が MQFMT_ADMIN、MQFMT_EVENT、または MQFMT_PCF で、メッセージ内のストリングに異なるコード化文字セット ID がある場合は、メッセージを書き込むときに MQMD の *CodedCharSetId* フィールドを MQCCSI_EMBEDDED に設定してください。また、メッセージ内の MQCFST、MQCFSL、および MQCFSF 構造の *CodedCharSetId* フィールドはすべて、該当する ID に設定する必要があります。

これによって、MQGMO_CONVERT オプションも指定した場合に、MQGET 呼び出しで指定した MQMD 内の *CodedCharSetId* 値に対してメッセージ内のストリングの変換を行うことができます。

MQEPH 構造体の詳細については、[MQEPH - 組み込み PCF ヘッダー](#)を参照してください。

注：メッセージ内の内部ストリングの変換を要求した場合、メッセージの MQMD 内の *CodedCharSetId* フィールドの値が MQGET 呼び出しで指定した MQMD の *CodedCharSetId* フィールドと異なる場合にのみ変換が行われます。

メッセージ内の MQCFST、MQCFSL、および MQCFSF 構造に MQCCSI_DEFAULT を指定してメッセージを書き込むときに、MQMD に MQCCSI_EMBEDDED を指定しないでください。指定すると、メッセージの変換が妨げられます。

MQCFH - PCF ヘッダー

MQCFH 構造は、コマンド・メッセージまたはコマンド・メッセージへの応答に関するメッセージ・データの冒頭にある情報について記述します。いずれの場合も、メッセージ記述子の *Format* フィールドは MQFMT_ADMIN です。

PCF 構造は、イベント・メッセージでも使用します。この場合、メッセージ記述子の *Format* フィールドは MQFMT_EVENT です。

PCF 構造は、ユーザー定義のメッセージ・データにも使用できます。この場合、メッセージ記述子の *Format* フィールドは MQFMT_PCF です ([PCF コマンドのメッセージ記述子](#)を参照)。ただし、この場合は、構造の中の一部のフィールドは意味がなくなります。大部分のフィールドには、提供されている初期値を使用できますが、*StrucLength* および *ParameterCount* の各フィールドには、データに該当する値をアプリケーション側で設定する必要があります。

MQCFH のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

このフィールドは、メッセージの内容を示します。コマンドで有効なタイプは以下のとおりです。

MQCFT_COMMAND

メッセージはコマンドです。

MQCFT_COMMAND_XR

メッセージは、標準または拡張応答の送信先となるコマンドです。

この値は z/OS で必要となります。

MQCFT_RESPONSE

メッセージはコマンドへの応答です。

MQCFT_XR_MSG

メッセージはコマンドに対する拡張応答です。通知またはエラーの詳細が含まれます。

MQCFT_XR_ITEM

メッセージは Inquire コマンドに対する拡張応答です。項目データが含まれます。

MQCFT_XR_SUMMARY

メッセージはコマンドに対する拡張応答です。要約情報が含まれます。

MQCFT_USER

ユーザー定義の PCF メッセージ。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

このフィールドは、MQCFH 構造のバイト単位の長さです。値は次のものでなければなりません。

MQCFH_STRUC_LENGTH

コマンド・フォーマットのヘッダー構造の長さ。

Version(MQLONG)

構造体のバージョン番号。

z/OS の場合は、次の値にしてください。

MQCFH_VERSION_3

コマンド形式ヘッダー構造のバージョン番号。

以下の定数は、現行バージョンのバージョン番号を指定しています。

MQCFH_CURRENT_VERSION

現行バージョンのコマンド形式ヘッダー構造。

Command(MQLONG)

コマンド ID。

コマンド・メッセージの場合、このフィールドは実行される機能を識別します。応答メッセージの場合は、このフィールドがどのコマンドに対する応答かを識別します。このフィールドの値については、各コマンドの説明を参照してください。

MsgSeqNumber(MQLONG)

メッセージ順序番号

このフィールドは、関連メッセージのセット内のメッセージの順序番号です。コマンドの場合は、このフィールドの値は 1 でなければなりません (コマンドは、常に 1 つのメッセージの中に含まれるからです)。応答の場合、コマンドに対する最初の、または唯一の応答については、このフィールドの値は 1 であり、そのコマンドに複数の応答が返る場合は、応答ごとに 1 ずつ増えます。

セット内の最新の (または唯一の) メッセージでは、MQCFC_LAST フラグが *Control* フィールドに設定されます。

Control(MQLONG)

制御オプション。

以下の値が有効です。

MQCFC_LAST

セット内の最後のメッセージ。

コマンドの場合、常にこの値を設定する必要があります。

MQCFC_NOT_LAST

セット内の最後のメッセージ以外のメッセージ。

CompCode(MQLONG)

完了コード

このフィールドは、応答についてのみ意味があります。値は、コマンドについては意味を持ちません。返される値は以下のとおりです。

MQCC_OK

コマンドは正常に完了しました。

MQCC_WARNING

コマンドは完了しましたが、警告が出ました。

MQCC_FAILED

コマンドは失敗しました。

MQCC_UNKNOWN

コマンドが成功したかどうかは不明です。

Reason(MQLONG)

完了コードを修飾する理由コード。

このフィールドは、応答についてのみ意味があります。値は、コマンドについては意味を持ちません。

コマンドに対する応答で返される理由コードは、[1346 ページの『プログラマブル・コマンド・フォーマットの定義』](#)、および各コマンドの説明に示されています。

ParameterCount(MQLONG)

パラメーター構造のカウンタ。

このフィールドは、MQCFH 構造に続くパラメーター構造 (MQCFBF、MQCFBS、MQCFIF、MQCFIL、MQCFIN、MQCFSL、MQCFSF、および MQCFST) の数です。このフィールドの値は、0 以上です。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFH {
    MQLONG    Type;           /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Version;        /* Structure version number */
    MQLONG    Command;        /* Command identifier */
    MQLONG    MsgSeqNumber;    /* Message sequence number */
    MQLONG    Control;        /* Control options */
    MQLONG    CompCode;       /* Completion code */
    MQLONG    Reason;         /* Reason code qualifying completion code */
    MQLONG    ParameterCount; /* Count of parameter structures */
} MQCFH;
```

COBOL 言語宣言

```
**      MQCFH structure
10 MQCFH.
**      Structure type
15 MQCFH-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**      Structure length
15 MQCFH-STRUCLNGTH    PIC S9(9) BINARY.
**      Structure version number
15 MQCFH-VERSION       PIC S9(9) BINARY.
**      Command identifier
15 MQCFH-COMMAND        PIC S9(9) BINARY.
**      Message sequence number
15 MQCFH-MSGSEQNUMBER   PIC S9(9) BINARY.
**      Control options
15 MQCFH-CONTROL        PIC S9(9) BINARY.
**      Completion code
15 MQCFH-COMPCODE       PIC S9(9) BINARY.
**      Reason code qualifying completion code
15 MQCFH-REASON         PIC S9(9) BINARY.
**      Count of parameter structures
15 MQCFH-PARAMETERCOUNT PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
  1 MQCFH based,
    3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
    3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
    3 Version        fixed bin(31), /* Structure version number */
    3 Command        fixed bin(31), /* Command identifier */
    3 MsgSeqNumber    fixed bin(31), /* Message sequence number */
    3 Control        fixed bin(31), /* Control options */
    3 CompCode       fixed bin(31), /* Completion code */
    3 Reason         fixed bin(31), /* Reason code qualifying completion
                                   code */
    3 ParameterCount fixed bin(31); /* Count of parameter structures */
```

System/390 アセンブラ言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFH	DSECT	
MQCFH_TYPE	DS	F Structure type
MQCFH_STRUCLNGTH	DS	F Structure length
MQCFH_VERSION	DS	F Structure version number
MQCFH_COMMAND	DS	F Command identifier
MQCFH_MSGSEQNUMBER	DS	F Message sequence number
MQCFH_CONTROL	DS	F Control options
MQCFH_COMPCODE	DS	F Completion code
MQCFH_REASON	DS	F Reason code qualifying completion code
*		
MQCFH_PARAMETERCOUNT	DS	F Count of parameter structures
*		
MQCFH_LENGTH	EQU	*-MQCFH Length of structure
	ORG	MQCFH
MQCFH_AREA	DS	CL(MQCFH_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFH
  Type As Long          'Structure type
  StrucLength As Long    'Structure length
  Version As Long        'Structure version number
  Command As Long        'Command identifier
  MsgSeqNumber As Long   'Message sequence number
  Control As Long        'Control options
  CompCode As Long       'Completion code
  Reason As Long         'Reason code qualifying completion code
  ParameterCount As Long 'Count of parameter structures
End Type

Global MQCFH_DEFAULT As MQCFH
```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D*.1....:....2....:....3....:....4....:....5....:....6....:....7..
D* MQCFH Structure
D*
D* Structure type
D  FHTYP          1      4I 0 INZ(1)
D* Structure length
D  FHLEN          5      8I 0 INZ(36)
D* Structure version number
D  FHVER          9     12I 0 INZ(1)
D* Command identifier
D  FHCMD         13     16I 0 INZ(0)
D* Message sequence number
D  FHSEQ         17     20I 0 INZ(1)
D* Control options
D  FHCTL         21     24I 0 INZ(1)
D* Completion code
D  FHCMP         25     28I 0 INZ(0)
D* Reason code qualifying completion code
D  FHREA         29     32I 0 INZ(0)
```

```
D* Count of parameter structures
D FHCNT          33      36I 0 INZ(0)
D*
```

MQCFBF - PCF バイト・ストリング・フィルター・パラメーター

MQCFBF 構造は、バイト・ストリング・フィルター・パラメーターを記述します。メッセージ記述子内のフォーマット名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFBF 構造は、フィルター記述を指定するために Inquire コマンドで使います。このフィルター記述は、Inquire コマンドの結果をフィルターに掛けるために使用され、フィルター記述を満たすオブジェクトのみをユーザーに返します。

MQCFBF 構造がある場合、PCF の先頭にある MQCFH 構造内の Version フィールドは MQCFH_VERSION_3 以上でなければなりません。

z/OS

z/OS の場合、単一のフィルター・パラメーターのみが許可されます。複数の MQCFIF、MQCFSF および MQCFBF、または MQCFBF パラメーターが指定される場合、PCF コマンドは MQRCCF_TOO_MANY_FILTERS (MQRCCF 3248) エラーで失敗します。

MQCFBF のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

構造がバイト・ストリング・フィルター・パラメーターについて記述する MQCFBF 構造であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFT_BYTE_STRING_FILTER

バイト・ストリング・フィルターを定義する構造。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

これは MQCFBF 構造の長さ (バイト) で、構造の末尾にあるストリングを含みます (*FilterValue* フィールド)。この長さは、4 の倍数である必要があります。また、ストリングを含むのに十分な長さでなければなりません。ストリングの末尾から *StrucLength* フィールドで定義された長さまでに含まれるバイトには意味がありません。

次の定数は、構造から *FilterValue* フィールドを除いた固定部分の長さを示します。

MQCFBF_STRUC_LENGTH_FIXED

コマンド形式フィルター・ストリング・パラメーター構造の固定部分の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これはフィルタリングされるパラメーターを識別します。この ID の値は、フィルタリングされるパラメーターに応じて異なります。

パラメーターは以下のいずれかです。

- MQBACF_EXTERNAL_UOW_ID
- MQBACF_Q_MGR_UOW_ID
- MQBACF_ORIGIN_UOW_ID (z/OS のみ)

Operator(MQLONG)

演算子 ID。

パラメーターがフィルター値を満たしているかどうかを評価するために使用する演算子を識別します。

指定可能な値は以下のとおりです。

MQCFOP_GREATER

より大きい

MQCFOP_LESS

より小

MQCFOP_EQUAL

次と等しい

MQCFOP_NOT_EQUAL

等しくない

MQCFOP_NOT_LESS

より大か等しい

MQCFOP_NOT_GREATER

より小か等しい

***FilterValueLength*(MQLONG)**

フィルター値ストリングの長さ。

これは、*FilterValue* フィールド内のデータのバイト単位の長さです。この長さは 0 以上でなければなりません、4 の倍数である必要はありません。

***FilterValue*(MQBYTE x *FilterValueLength*)**

フィルター値。

満たす必要のあるフィルター値を指定します。フィルタリングされるパラメーターの応答タイプがバイト・ストリングである場合、このパラメーターを使用します。

注: 指定したバイト・ストリングが、MQFMT_ADMIN コマンド・メッセージ内のパラメーターの標準の長さより短い場合は、ブランク文字が省略されているものと見なされます。指定されたストリングが標準長を超えると、エラーになります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFBF {
    MQLONG    Type;           /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Parameter;      /* Parameter identifier */
    MQLONG    Operator;       /* Operator identifier */
    MQLONG    FilterValueLength; /* Filter value length */
    MQBYTE    FilterValue[1]; /* Filter value -- first byte */
} MQCFBF;
```

COBOL 言語宣言

```
**      MQCFBF structure
10  MQCFBF.
** Structure type
15  MQCFBF-TYPE PIC S9(9) BINARY.
** Structure length
15  MQCFBF-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
** Parameter identifier
15  MQCFBF-PARAMETER PIC S9(9) BINARY.
** Operator identifier
15  MQCFBF-OPERATOR PIC S9(9) BINARY.
** Filter value length
15  MQCFBF-FILTERVALUELENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFBF based,
3 Type    fixed bin(31)
  init(MQCFBT_BYTE_STRING_FILTER), /* Structure type */
3 StrucLength  fixed bin(31)
```

```

    init(MQCFBF_STRUC_LENGTH_FIXED), /* Structure length */
    3 Parameter fixed bin(31)
    init(0), /* Parameter identifier */
    3 Operator fixed bin(31)
    init(0), /* Operator identifier */
    3 FilterValueLength fixed bin(31)
    init(0); /* Filter value length */

```

System/390® アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFBF	DSECT	
MQCFBF_TYPE	DS	F Structure type
MQCFBF_STRUCLength	DS	F Structure length
MQCFBF_PARAMETER	DS	F Parameter identifier
MQCFBF_OPERATOR	DS	F Operator identifier
MQCFBF_FILTERVALUELENGTH	DS	F Filter value length
MQCFBF_LENGTH	EQU	*-MQCFIF Length of structure
	ORG	MQCFBF
MQCFBF_AREA	DS	CL(MQCFBF_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQCFBF
    Type As Long 'Structure type'
    StrucLength As Long 'Structure length'
    Parameter As Long 'Parameter identifier'
    Operator As Long 'Operator identifier'
    FilterValueLength As Long 'Filter value length'
    FilterValue As 1 'Filter value -- first byte'
End Type
Global MQCFBF_DEFAULT As MQCFBF

```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D* MQCFBF Structure
D*
D* Structure type
D FBFTYP          1      4I 0 INZ(15)
D* Structure length
D FBFLen          5      8I 0 INZ(20)
D* Parameter identifier
D FBFFPRM         9     12I 0 INZ(0)
D* Operator identifier
D FBFFOP        13     16I 0 INZ(0)
D* Filter value length
D FBFFVL        17     20I 0 INZ(0)
D* Filter value -- first byte
D FBFFV         21      21    INZ

```

MQCFBS - PCF バイト・ストリング・パラメーター

MQCFBS 構造は、PCF メッセージ内のバイト・ストリング・パラメーターを記述します。メッセージ記述子内のフォーマット名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFBS 構造がある場合、PCF の先頭にある MQCFH 構造内の *Version* フィールドは MQCFH_VERSION_2 以上でなければなりません。

Parameter フィールドはユーザー PCF メッセージでは意味がなく、アプリケーションが独自の目的で使用します。

この構造体は、可変長バイト・ストリングで終了します。詳細については、この後のセクションに記載されている *String* フィールドを参照してください。

MQCFBS のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

このフィールドは、構造がバイト・ストリング・パラメーターについて記述する MQCFBS 構造であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFT_BYTE_STRING

バイト・ストリングを定義する構造。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

これは MQCFBS 構造の長さ (バイト) で、構造の末尾にある可変長ストリングを含みます (*String* フィールド)。この長さは、4 の倍数でなければなりません。また、ストリングを含むのに十分な長さでなければなりません。ストリングの最後と *StrucLength* フィールドで定義した長さの間のバイトは意味がありません。

次の定数は、構造から *String* フィールドを除いた固定部分の長さを示します。

MQCFBS_STRUC_LENGTH_FIXED

MQCFBS 構造の固定部分の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。このフィールドに入る値は、MQCFH 構造の *Command* フィールドの値によって異なります。詳細については、[1868 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)を参照してください。このフィールドは、ユーザー PCF メッセージ (MQCFT_USER) では意味がありません。

これは、パラメーターの MQBACF_* グループにあるパラメーターです。

StringLength(MQLONG)

ストリングの長さ。

これは *string* フィールド内のデータのバイト単位の長さで、0 以上の値でなければなりません。この長さは、4 の倍数である必要はありません。

String (MQBYTE x StringLength)

ストリング値。

これは、*parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの値です。ストリングはバイト・ストリングであるため、異なるシステム間で送信されるときに文字セット変換は行われません。

注: ストリング内のヌル文字は通常のデータとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。

MQFMT_ADMIN メッセージの場合、指定したストリングが *parameter* の標準の長さより短い場合は、ヌル文字が省略されているものと見なされます。指定されたストリングが標準長を超えると、エラーになります。

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1 つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- 他のプログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFBS を組み込み、MQCFBS の後に、*String* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFBS {
```

```

MQLONG  Type;          /* Structure type */
MQLONG  StrucLength;    /* Structure length */
MQLONG  Parameter;      /* Parameter identifier */
MQLONG  StringLength;   /* Length of string */
MQBYTE  String[1];      /* String value - first byte */

} MQCFBS;

```

COBOL 言語宣言

```

**      MQCFBS structure
10 MQCFBS.
**      Structure type
15 MQCFBS-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**      Structure length
15 MQCFBS-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
**      Parameter identifier
15 MQCFBS-PARAMETER     PIC S9(9) BINARY.
**      Length of string
15 MQCFBS-STRINGLength PIC S9(9) BINARY.

```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```

dcl
1 MQCFBS based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 StringLength   fixed bin(31) /* Length of string */

```

System/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFBS	DSECT	
MQCFBS_TYPE	DS	F Structure type
MQCFBS_STRUCLength	DS	F Structure length
MQCFBS_PARAMETER	DS	F Parameter identifier
MQCFBS_STRINGLength	DS	F Length of string
	ORG	MQCFBS
MQCFBS_AREA	DS	CL(MQCFBS_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQCFBS
    Type As Long      ' Structure type
    StrucLength As Long ' Structure length
    Parameter As Long  ' Parameter identifier
    StringLength As Long ' Operator identifier
    String as 1        ' String value - first byte
End Type

Global MQCFBS_DEFAULT As MQCFBS

```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D* MQCFBS Structure
D*
D* Structure type
D  BSTYP          1      4I 0 INZ(3)
D* Structure length
D  BSLEN          5      8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D  BSPRM          9     12I 0 INZ(0)
D* Length of string

```


D	BSSTL	13	16I 0 INZ(0)
D*	String value - first byte		
D	BSSRA	17	16
D*			

MQCFIF - PCF 整数フィルター・パラメーター

MQCFIF 構造は、整数フィルター・パラメーターを記述します。メッセージ記述子内のフォーマット名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFIF 構造は、フィルター条件を指定するために Inquire コマンドで使用します。このフィルター条件を使用して、Inquire コマンドの結果がフィルターに掛けられ、フィルター条件を満たすオブジェクトだけがユーザーに返されます。

MQCFIF 構造がある場合、PCF の先頭にある MQCFH 構造内の Version フィールドは MQCFH_VERSION_3 以上でなければなりません。

z/OS

z/OS の場合、単一のフィルター・パラメーターのみが許可されます。複数の MQCFIF、MQCFSF および MQCFBF、または MQCFBF パラメーターが指定される場合、PCF コマンドは MQRCCF_TOO_MANY_FILTERS (MQRCCF 3248) エラーで失敗します。

MQCFIF のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

構造が整数フィルター・パラメーターについて記述する MQCFIF 構造であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFT_INTEGER_FILTER

整数フィルターを定義する構造。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

MQCFIF 構造の長さ (バイト) です。値は次のものでなければなりません。

MQCFIF_STRUC_LENGTH

コマンド形式整数パラメーター構造の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これはフィルタリングされるパラメーターを識別します。この ID の値は、フィルタリングされるパラメーターに応じて異なります。Inquire コマンドで使用するすべてのパラメーターは、このフィールドで使用できます。

パラメーターは、以下のパラメーターのグループに属します。

- MQIA_*
- MQIACF_*
- MQIAMO_*
- MQIACH_*

Operator(MQLONG)

演算子 ID。

パラメーターがフィルター値を満たしているかどうかを評価するために使用する演算子を識別します。

指定可能な値は以下のとおりです。

MQCFOP_GREATER

より大きい

MQCFOP_LESS

より小

MQCFOP_EQUAL

次と等しい

MQCFOP_NOT_EQUAL

等しくない

MQCFOP_NOT_LESS

より大か等しい

MQCFOP_NOT_GREATER

より小か等しい

MQCFOP_CONTAINS

指定値が入っています。値または整数のリストをフィルタリングする場合に、MQCFOP_CONTAINS を使用します。

MQCFOP_EXCLUDES

指定値が入っていません。値または整数のリストをフィルタリングする場合に、MQCFOP_EXCLUDES を使用します。

状況ごとに使用できる演算子の詳細については、*FilterValue* の説明を参照してください。

FilterValue(MQLONG)

フィルター値 ID。

満たす必要のあるフィルター値を指定します。

パラメーターに応じて、値および許可される演算子は次のようになります。

- パラメーターが 1 つの整数値を使用する場合は、明示的な整数値。

以下の演算子のみが使用可能です。

- MQCFOP_GREATER
- MQCFOP_LESS
- MQCFOP_EQUAL
- MQCFOP_NOT_EQUAL
- MQCFOP_NOT_GREATER
- MQCFOP_NOT_LESS

- パラメーターが可能な値のセットから 1 つの値を使用する場合は、MQ 定数 (*ChannelType* パラメーターの値 MQCHT_SENDER など)。MQCFOP_EQUAL または MQCFOP_NOT_EQUAL のみ使用できます。

- パラメーターが値のリストを使用する場合は、明示的な値または MQ 定数 (場合に応じて)。MQCFOP_CONTAINS または MQCFOP_EXCLUDES のいずれかを使用できます。例えば、演算子 MQCFOP_CONTAINS を使用して値 6 が指定された場合、パラメーター値のいずれかが 6 である項目が、すべてリストされます。

例えば、Inquire Queue コマンドでの PUT 操作が有効であるキューでフィルタリングする必要がある場合、パラメーターは MQIA_INHIBIT_PUT、フィルター値は MQQA_PUT_ALLOWED となります。

フィルター値は、テストされるパラメーターに有効な値である必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIF {
    MQLONG Type; /* Structure type */
    MQLONG StrucLength; /* Structure length */
    MQLONG Parameter; /* Parameter identifier */
    MQLONG Operator; /* Operator identifier */
    MQLONG FilterValue; /* Filter value */
} MQCFIF;
```

COBOL 言語宣言

```
** MQCFIF structure
10 MQCFIF.
**   Structure type
15 MQCFIF-TYPE      PIC S9(9) BINARY.
**   Structure length
15 MQCFIF-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
**   Parameter identifier
15 MQCFIF-PARAMETER  PIC S9(9) BINARY.
**   Operator identifier
15 MQCFIF-OPERATOR   PIC S9(9) BINARY.
**   Filter value
15 MQCFIF-FILTERVALUE PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFIF based,
3 Type      fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter  fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Operator   fixed bin(31) /* Operator identifier */
3 FilterValue fixed bin(31); /* Filter value */
```

System/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFIF	DSECT	
MQCFIF_TYPE	DS	F Structure type
MQCFIF_STRUCLength	DS	F Structure length
MQCFIF_PARAMETER	DS	F Parameter identifier
MQCFIF_OPERATOR	DS	F Operator identifier
MQCFIF_FILTERVALUE	DS	F Filter value
MQCFIF_LENGTH	EQU	*-MQCFIF Length of structure
	ORG	MQCFIF
MQCFIF_AREA	DS	CL(MQCFIF_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFIF
Type As Long      ' Structure type
StrucLength As Long ' Structure length
Parameter As Long  ' Parameter identifier
Operator As Long   ' Operator identifier
FilterValue As Long ' Filter value
End Type

Global MQCFIF_DEFAULT As MQCFIF
```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D* MQCFIF Structure
D*
D* Structure type
D FIFTYP      1      4I 0 INZ(3)
D* Structure length
D FIFLEN      5      8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D FIFPRM      9      12I 0 INZ(0)
D* Operator identifier
D FIFOP      13     16I 0 INZ(0)
D* Condition identifier
D FIFFV      17     20I 0 INZ(0)
D*
```

MQCFIL - PCF 整数リスト・パラメーター

MQCFIL 構造は、コマンドまたはコマンドに対する応答であるメッセージ内の整数リスト・パラメーターについて記述します。いずれのメッセージの場合も、メッセージ記述子内の形式名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFIL 構造は、ユーザー定義のメッセージ・データにも使用できます。この場合、メッセージ記述子の *Format* フィールドは MQFMT_PCF です (PCF コマンドのメッセージ記述子を参照)。ただし、この場合は、構造の中の一部のフィールドは意味がなくなります。大部分のフィールドには、提供されている初期値を使用できますが、*StrucLength*、*Count*、および *Values* の各フィールドには、データに該当する値をアプリケーション側で設定する必要があります。

この構造体は、整数の可変長配列で終了します。詳細については、この後のセクションに記載されている *Values* フィールドを参照してください。

MQCFIL のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

このフィールドは、構造が整数リスト・パラメーターについて記述する MQCFIL 構造であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFT_INTEGER_LIST

整数リストを定義する構造。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

これは MQCFIL 構造の長さ (バイト) で、構造の末尾にある整数の配列を含みます (*Values* フィールド)。この長さは、4 の倍数でなければなりません。また、配列を含むのに十分な長さでなければなりません。配列の最後と *StrucLength* フィールドで定義した長さの間のバイトは無効です。

次の定数は、構造から *Values* フィールドを除いた固定部分の長さを示します。

MQCFIL_STRUC_LENGTH_FIXED

コマンド形式整数リスト・パラメーター構造の固定部分の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。このフィールドに入る値は、MQCFH 構造の *Command* フィールドの値によって異なります。詳細については、[1868 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)を参照してください。

パラメーターは、以下のパラメーターのグループに属します。

- MQIA_*
- MQIACF_*
- MQIAMO_*
- MQIACH_*

Count(MQLONG)

パラメーター値のカウント。

これは、*Values* 配列の要素の数です。この値は 0 以上でなければなりません。

Values (MQLONG x Count)

パラメーター値。

これは、*Parameter* フィールドで識別されたパラメーターの値の配列です。例えば、MQIACF_Q_ATTRS の場合、このフィールドは、属性セクター (MQCA_* と MQIA_* の値) のリストです。

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFIL を組み込み、MQCFIL の後に、*Values* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIL {
    MQLONG   Type;           /* Structure type */
    MQLONG   StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG   Parameter;      /* Parameter identifier */
    MQLONG   Count;          /* Count of parameter values */
    MQLONG   Values[1];      /* Parameter values - first element */
} MQCFIL;
```

COBOL 言語宣言

```
**      MQCFIL structure
10 MQCFIL.
**      Structure type
15 MQCFIL-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**      Structure length
15 MQCFIL-STRUCLNGTH PIC S9(9) BINARY.
**      Parameter identifier
15 MQCFIL-PARAMETER     PIC S9(9) BINARY.
**      Count of parameter values
15 MQCFIL-COUNT         PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFIL based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Count          fixed bin(31); /* Count of parameter values */
```

System/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFIL	DSECT	
MQCFIL_TYPE	DS	F Structure type
MQCFIL_STRUCLNGTH	DS	F Structure length
MQCFIL_PARAMETER	DS	F Parameter identifier
MQCFIL_COUNT	DS	F Count of parameter values
MQCFIL_LENGTH	EQU	*-MQCFIL Length of structure
	ORG	MQCFIL
MQCFIL_AREA	DS	CL(MQCFIL_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFIL
    Type As Long      ' Structure type
    StrucLength As Long ' Structure length
    Parameter As Long  ' Parameter identifier
    Count As Long      ' Count of parameter values
End Type

Global MQCFIL_DEFAULT As MQCFIL
```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D* MQCFIL Structure
D*
D* Structure type
D ILTYP          1      4I 0 INZ(5)
D* Structure length
D ILLEN          5      8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D ILPRM          9     12I 0 INZ(0)
D* Count of parameter values
D ILCNT         13     16I 0 INZ(0)
D*
```

MQCFIN - PCF 整数パラメーター

MQCFIN 構造は、コマンドまたはコマンドに対する応答であるメッセージの中の整数パラメーターについて記述します。いずれのメッセージの場合も、メッセージ記述子内の形式名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFIN 構造は、ユーザー定義のメッセージ・データにも使用できます。この場合、メッセージ記述子の *Format* フィールドは MQFMT_PCF です (PCF コマンドのメッセージ記述子を参照)。ただし、この場合は、構造の中の一部のフィールドは意味がなくなります。大部分のフィールドには、提供されている初期値を使用できますが、*Value* フィールドには、データに該当する値をアプリケーション側で設定する必要があります。

MQCFIN のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

構造が整数フィルター・パラメーターについて記述する MQCFIN 構造であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFT_INTEGER

整数を定義する構造。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

これは、MQCFIN 構造のバイト単位の長さです。値は次のものでなければなりません。

MQCFIN_STRUC_LENGTH

コマンド形式整数パラメーター構造の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。このフィールドに入る値は、MQCFH 構造の *Command* フィールドの値によって異なります。詳細については、[1868 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)を参照してください。

パラメーターは、以下のパラメーターのグループに属します。

- MQIA_*
- MQIACF_*
- MQIAMO_*
- MQIACH_*

Value(MQLONG)

パラメーター値。

これは、*Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの値です。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFIN {
    MQLONG    Type;          /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Parameter;      /* Parameter identifier */
    MQLONG    Value;          /* Parameter value */
} MQCFIN;
```

COBOL 言語宣言

```
**      MQCFIN structure
10 MQCFIN.
**      Structure type
15 MQCFIN-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**      Structure length
15 MQCFIN-STRUCLNGTH PIC S9(9) BINARY.
**      Parameter identifier
15 MQCFIN-PARAMETER     PIC S9(9) BINARY.
**      Parameter value
15 MQCFIN-VALUE         PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFIN based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 Value         fixed bin(31); /* Parameter value */
```

System/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFIN	DSECT	
MQCFIN_TYPE	DS	F Structure type
MQCFIN_STRUCLNGTH	DS	F Structure length
MQCFIN_PARAMETER	DS	F Parameter identifier
MQCFIN_VALUE	DS	F Parameter value
MQCFIN_LENGTH	EQU	*-MQCFIN Length of structure
	ORG	MQCFIN
MQCFIN_AREA	DS	CL(MQCFIN_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFIN
    Type As Long      ' Structure type
    StrucLength As Long ' Structure length
    Parameter As Long  ' Parameter identifier
    Value As Long      ' Parameter value
End Type

Global MQCFIN_DEFAULT As MQCFIN
```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D* MQCFIN Structure
D*
D* Structure type
D  INTYP          1      4I 0 INZ(3)
D* Structure length
D  INLEN          5      8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D  INPRM          9     12I 0 INZ(0)
D* Parameter value
```

MQCFSF - PCF スtring・フィルター・パラメーター

MQCFSF 構造は、String・フィルター・パラメーターを記述します。メッセージ記述子内のフォーマット名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFSF 構造体は、Inquire コマンドでフィルター条件を提供するために使用します。このフィルター条件を使用して、Inquire コマンドの結果がフィルターに掛けられ、フィルター条件を満たすオブジェクトだけがユーザーに返されます。

z/OS

z/OS の場合、単一のフィルター・パラメーターのみが許可されます。複数の MQCFIF、MQCFSF および MQCFBF、または MQCFBF パラメーターが指定される場合、PCF コマンドは MQRCCF_TOO_MANY_FILTERS (MQRCCF 3248) エラーで失敗します。

EBCDIC ベースのシステムにおける文字 String のフィルタリングの結果は、ASCII ベースのシステムでの結果と異なることがあります。この違いの原因は、文字 String の比較が、文字を表す内部の組み込み値の照合シーケンスに基づいて行われるためです。

MQCFSF 構造体が存在する場合、PCF の先頭にある MQCFH 構造体の Version フィールドが MQCFH_VERSION_3 以上でなければなりません。

MQCFSF のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

これは、構造体が、String・フィルター・パラメーターを記述する MQCFSF 構造体であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFT_STRING_FILTER

String・フィルターを定義する構造体。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

MQCFSF 構造体の長さ (バイト単位) です。値は次のものでなければなりません。

MQCFSF_STRUC_LENGTH

MQCFSF_STRUC_LENGTH は、MQCFSF 構造体の、末尾にある String (*FilterValue* フィールド) までを含めた長さ (バイト単位) です。この長さは、4 の倍数である必要があります。また、String を含むのに十分な長さでなければなりません。String の末尾から *StrucLength* フィールドで定義された長さまでに含まれるバイトには意味がありません。

次の定数は、構造から *FilterValue* フィールドを除いた固定部分の長さを示します。

MQCFSF_STRUC_LENGTH_FIXED

コマンド形式フィルター・String・パラメーター構造の固定部分の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これはフィルタリングされるパラメーターを識別します。この ID の値は、フィルタリングされるパラメーターに応じて異なります。Inquire コマンドで利用できるすべてのパラメーターは、このフィールドで使用できます。

パラメーターは、以下のパラメーターのグループに属します。

- MQCA_*
- MQCACF_*
- MQCAMO_*

- MQCACH_*

Operator(MQLONG)

演算子 ID。

パラメーターがフィルター値を満たしているかどうかを評価するために使用する演算子を識別します。
指定可能な値は以下のとおりです。

MQCFOP_GREATER

より大きい

MQCFOP_LESS

より小

MQCFOP_EQUAL

次と等しい

MQCFOP_NOT_EQUAL

等しくない

MQCFOP_NOT_LESS

より大か等しい

MQCFOP_NOT_GREATER

より小か等しい

MQCFOP_LIKE

総称ストリングに一致

MQCFOP_NOT_LIKE

総称ストリングに一致しない

MQCFOP_CONTAINS

指定されたストリングを含む。MQCFOP_CONTAINS は、ストリングのリストに対してフィルター操作するときに使用します。

MQCFOP_EXCLUDES

指定されたストリングを含まない。MQCFOP_EXCLUDES は、ストリングのリストに対してフィルター操作するときに使用します。

MQCFOP_CONTAINS_GEN

総称ストリングに一致する項目を含む。MQCFOP_CONTAINS_GEN は、ストリングのリストに対してフィルター操作するときに使用します。

MQCFOP_EXCLUDES_GEN

総称ストリングに一致する項目をいずれも含まない。MQCFOP_EXCLUDES_GEN は、ストリングのリストに対してフィルター操作するときに使用します。

状況ごとに使用できる演算子の詳細については、*FilterValue* の説明を参照してください。

CodedCharSetId(MQLONG)

コード化文字セット ID。

FilterValue フィールドのデータのコード化文字セット ID を指定します。以下のような特別な値を使用することができます。

MQCCSI_DEFAULT

デフォルトの文字セット ID。

ストリング・データの文字セットは、MQCFH 構造体の前にある MQ ヘッダー構造体の *CodedCharSetId* フィールドか、MQCFH 構造体がメッセージの先頭にある場合には MQMD 内の *CodedCharSetId* フィールドによって定義されます。

FilterValueLength(MQLONG)

フィルター値ストリングの長さ。

これは、*FilterValue* フィールド内のデータのバイト単位の長さです。このパラメーターは、ゼロ以上でなければなりませんが、必ずしも 4 の倍数でなくても構いません。

注: **z/OS** z/OS では、MQSC **WHERE** 節の filter-value に 256 文字の長さ制限があります。この制限は他のプラットフォームには適用されません。

FilterValue (MQCHAR x FilterValueLength)

フィルター値。

満たす必要のあるフィルター値を指定します。パラメーターに応じて、値および許可される演算子は次のようになります。

- 明示的なストリング値。

以下の演算子のみが使用可能です。

- MQCFOP_GREATER
- MQCFOP_LESS
- MQCFOP_EQUAL
- MQCFOP_NOT_EQUAL
- MQCFOP_NOT_GREATER
- MQCFOP_NOT_LESS

- 総称ストリング値。このフィールドは、末尾にアスタリスクを付けた文字ストリング (例えば ABC*) です。演算子は、MQCFOP_LIKE か MQCFOP_NOT_LIKE のどちらかでなければなりません。文字は、テストする属性で有効である必要があります。演算子が MQCFOP_LIKE の場合、属性値がこのストリング (この例では ABC) で始まるすべての項目がリストされます。演算子が MQCFOP_NOT_LIKE の場合、属性値がこのストリングで始まらないすべての項目がリストされます。

- パラメーターがストリング値のリストである場合は、次の演算子を指定できます。

- MQCFOP_CONTAINS
- MQCFOP_EXCLUDES
- MQCFOP_CONTAINS_GEN
- MQCFOP_EXCLUDES_GEN

値リストの中の項目です。値は、明示的であっても、総称であっても構いません。明示的な値の場合は、演算子として MQCFOP_CONTAINS または MQCFOP_EXCLUDES を使用してください。例えば、値 DEF を演算子 MQCFOP_CONTAINS と一緒に指定した場合は、属性値のいずれかが DEF であるすべての項目がリストされます。総称値の場合は、演算子として MQCFOP_CONTAINS_GEN または MQCFOP_EXCLUDES_GEN を使用してください。値 ABC* を演算子 MQCFOP_CONTAINS_GEN と一緒に指定した場合は、属性値のいずれかが ABC で始まるすべての項目がリストされます。

注:

1. 指定されたストリングが、MQFMT_ADMIN コマンド・メッセージ内のパラメーターの標準長より短い場合、省略された文字はブランクであると想定されます。指定されたストリングが標準長を超えると、エラーになります。
2. キュー・マネージャーがコマンド入力キューから MQFMT_ADMIN メッセージ内の MQCFSF 構造体を読み取るとき、キュー・マネージャーはストリングを、MQI 呼び出しに指定された場合と同じように処理します。この処理は、ストリング内では、最初のヌル文字とそれに続く (ストリングの最後まで) 各文字がブランクとして扱われることを意味します。
3. z/OS では、MQSC **WHERE** 節の filter-value に 256 文字の長さ制限があります。この制限は他のプラットフォームには適用されません。

フィルター値は、テストされるパラメーターに有効な値である必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFSF {
    MQLONG   Type;           /* Structure type */
    MQLONG   StructLength;   /* Structure length */
    MQLONG   Parameter;      /* Parameter identifier */
    MQLONG   Operator;       /* Operator identifier */
}
```

```

MQLONG CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
MQLONG FilterValueLength /* Filtervalue length */
MQCHAR[1] FilterValue; /* Filter value */
} MQCFSF;

```

COBOL 言語宣言

```

**      MQCFSF structure
10 MQCFSF.
**      Structure type
15 MQCFSF-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**      Structure length
15 MQCFSF-STRUCLength PIC S9(9) BINARY.
**      Parameter identifier
15 MQCFSF-PARAMETER    PIC S9(9) BINARY.
**      Operator identifier
15 MQCFSF-OPERATOR PIC S9(9) BINARY.
**      Coded character set identifier
15 MQCFSF-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
**      Filter value length
15 MQCFSF-FILTERVALUE PIC S9(9) BINARY.

```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```

dcl
  1 MQCFSF based,
    3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
    3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
    3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
    3 Operator       fixed bin(31) /* Operator identifier */
    3 CodedCharSetId fixed bin(31) /* Coded character set identifier */
    3 FilterValueLength fixed bin(31); /* Filter value length */

```

System/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFSF	DSECT	
MQCFSF_TYPE	DS	F Structure type
MQCFSF_STRUCLength	DS	F Structure length
MQCFSF_PARAMETER	DS	F Parameter identifier
MQCFSF_OPERATOR	DS	F Operator identifier
MQCFSF_CODEDCHARSETID	DS	F Coded character set identifier
MQCFSF_FILTERVALUELENGTH	DS	F Filter value length
MQCFSF_LENGTH	EQU	*-MQCFSF Length of structure
	ORG	MQCFSF
MQCFSF_AREA	DS	CL(MQCFSF_LENGTH)

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQCFSF
  Type As Long          ' Structure type
  StrucLength As Long    ' Structure length
  Parameter As Long      ' Parameter identifier
  Operator As Long       ' Operator identifier
  CodedCharSetId As Long ' Coded character set identifier
  FilterValueLength As Long ' Operator identifier
  FilterValue As String*1 ' Condition value -- first character
End Type

Global MQCFSF_DEFAULT As MQCFSF

```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D* MQCFSF Structure
D*
D* Structure type
D  FISTYP              1          4I 0 INZ(3)

```

```

D* Structure length
D FSFLEN          5      8I 0 INZ(16)
D* Parameter identifier
D FSFPRM          9     12I 0 INZ(0)
D* Reserved field
D FSFRSV         13     16I 0 INZ(0)
D* Parameter value
D FSFVAL         17      16
D* Structure type
D FSFTYP         17     20I 0
D* Structure length
D FSFLEN         21     24I 0
D* Parameter value
D FSFPRM         25     28I 0
D* Operator identifier
D FSFOP          29     32I 0
D* Coded character set identifier
D FSFCSI         33     36I 0
D* Length of condition
D FSFFVL         37     40 0
D* Condition value -- first character
D FSFFV          41      41
D*

```

MQCFSL - PCF スtring・リスト・パラメーター

MQCFSL 構造は、コマンドまたはコマンドに対する応答であるメッセージの中の String・リスト・パラメーターについて記述します。いずれのメッセージの場合も、メッセージ記述子内の形式名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFSL 構造は、ユーザー定義のメッセージ・データにも使用できます。この場合、メッセージ記述子の *Format* フィールドは MQFMT_PCF です (PCF コマンドのメッセージ記述子を参照)。ただし、この場合は、構造の中の一部のフィールドは意味がなくなります。大部分のフィールドには、提供されている初期値を使用できますが、*StrucLength*、*Count*、*StringLength*、および *Strings* の各フィールドには、データに該当する値をアプリケーション側で設定する必要があります。

この構造体は、文字 String の可変長配列で終了します。詳細については、この後の *Strings* フィールドのセクションを参照してください。

この構造体の使用方法について詳しくは、[1868 ページの『使用上の注意』](#)を参照してください。

MQCFSL のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

このフィールドは、構造が String・リスト・パラメーターについて記述する MQCFSL 構造であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFT_STRING_LIST

String・リストを定義する構造。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

これは MQCFSL 構造の長さ (バイト) で、構造の末尾にあるデータを含みます (*Strings* フィールド)。この長さは、4 の倍数でなければなりません。また、すべての String を含めるのに十分な長さである必要があります。String の終わりから *StrucLength* フィールドで定義された長さまでのバイトは重要ではありません。

次の定数は、構造から *Strings* フィールドを除いた固定部分の長さを示します。

MQCFSL_STRUC_LENGTH_FIXED

コマンド形式 String・リスト・パラメーター構造の固定部分の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。このフィールドに入る値は、MQCFH 構造の *Command* フィールドの値によって異なります。詳細については、[1868 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)を参照してください。

パラメーターは、以下のパラメーターのグループに属します。

- MQCA_*
- MQCACF_*
- MQCAMO_*
- MQCACH_*

CodedCharSetId(MQLONG)

コード化文字セット ID。

これは、*Strings* フィールドのデータのコード化文字セット ID を指定します。以下のような特別な値を使用することができます。

MQCCSI_DEFAULT

デフォルトの文字セット ID。

ストリング・データの文字セットは、MQCFH 構造体の前にある MQ ヘッダー構造体の *CodedCharSetId* フィールドか、MQCFH 構造体がメッセージの先頭にある場合には MQMD 内の *CodedCharSetId* フィールドによって定義されます。

Count(MQLONG)

パラメーター値のカウント。

これは、*Strings* フィールドにあるストリングの数です。この値は 0 以上でなければなりません。

StringLength(MQLONG)

1 ストリングの長さ。

これは、1 つのパラメーター値のバイト単位の長さです。つまり、*Strings* フィールドの 1 ストリングの長さです。すべてのストリングがこの長さになります。この長さは 0 以上でなければなりません。4 の倍数でなくても構いません。

Strings (MQCHAR x StringLength x Count)

ストリング値。

これは、*Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターのストリング値のセットです。ストリングの数は *Count* フィールドで示され、各ストリングの長さは *StringLength* フィールドで示されます。複数のストリングが連結され、隣接するストリング相互間で 1 バイトもスキップされません。ストリングの全長は、1 つのストリングの長さに、存在するストリングの数を乗算したもの (つまり、 $StringLength \times Count$) になります。

- MQFMT_ADMIN コマンド・メッセージで、指定したストリングがパラメーターの標準の長さより短い場合は、空白文字が省略されているものと見なされます。指定されたストリングが標準長を超えると、エラーになります。
- MQFMT_ADMIN 応答メッセージでは、ストリング・パラメーターが、パラメーターの標準の長さになるように空白が埋め込まれて返される場合があります。
- MQFMT_EVENT メッセージでは、ストリング・パラメーターから末尾の空白が省略される場合があります (つまり、パラメーターの標準の長さより短いストリングになる場合があります)。

いずれの場合も、*StringLength* が、メッセージ内に存在するストリングの長さを指定します。

ストリングには、*CodedCharSetId* によって定義した文字セット内にある文字のうち、*Parameter* によって識別したパラメーターに有効な文字を入れることができます。

注：キュー・マネージャーがコマンド入力キューから MQFMT_ADMIN メッセージ内の MQCFSL 構造を読み込むと、キュー・マネージャーはリスト内の各ストリングを、MQI 呼び出しで指定された場合と同様に処理します。この処理は、それぞれのストリング内で、最初のヌル文字とそれに続く (ストリングの最後まで) 文字が空白として扱われることを意味します。

応答や他のどのような場合でも、ストリング内のヌル文字は通常データとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。この扱いは、受信側アプリケーションが MQFMT_PCF、MQFMT_EVENT、または MQFMT_ADMIN メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信することを意味します。

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があります、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、RPG、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造に MQCFSL を組み込み、*Strings* フィールドを表すために MQCFSL の後に追加フィールドを必要だけ宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFSL {
    MQLONG    Type;           /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Parameter;      /* Parameter identifier */
    MQLONG    CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
    MQLONG    Count;          /* Count of parameter values */
    MQLONG    StringLength;   /* Length of one string */
    MQCHAR    Strings[1];     /* String values - first
                               character */
} MQCFSL;
```

COBOL 言語宣言

```
**      MQCFSL structure
10 MQCFSL.
**      Structure type
15 MQCFSL-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**      Structure length
15 MQCFSL-STRUCLength  PIC S9(9) BINARY.
**      Parameter identifier
15 MQCFSL-PARAMETER     PIC S9(9) BINARY.
**      Coded character set identifier
15 MQCFSL-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
**      Count of parameter values
15 MQCFSL-COUNT         PIC S9(9) BINARY.
**      Length of one string
15 MQCFSL-STRINGLength  PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFSL based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 Count          fixed bin(31), /* Count of parameter values */
3 StringLength   fixed bin(31); /* Length of one string */
```

System/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFSL	DSECT	
MQCFSL_TYPE	DS	F Structure type
MQCFSL_STRUCLength	DS	F Structure length
MQCFSL_PARAMETER	DS	F Parameter identifier
MQCFSL_CODEDCHARSETID	DS	F Coded character set
*		identifier
MQCFSL_COUNT	DS	F Count of parameter values

MQCFSL_STRINGLENGTH	DS	F	Length of one string
MQCFSL_LENGTH	EQU	*-MQCFSL	Length of structure
	ORG	MQCFSL	
MQCFSL_AREA	DS	CL(MQCFSL_LENGTH)	

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```

Type MQCFSL
    Type As Long           ' Structure type
    StrucLength As Long    ' Structure length
    Parameter As Long      ' Parameter identifier
    CodedCharSetId As Long ' Coded character set identifier
    Count As Long          ' Count of parameter values
    StringLength As Long   ' Length of one string
End Type

Global MQCFSL_DEFAULT As MQCFSL

```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```

D* MQCFSL Structure
D*
D* Structure type
D  SLTYP           1      4I 0 INZ(6)
D* Structure length
D  SLLEN           5      8I 0 INZ(24)
D* Parameter identifier
D  SLPRM           9     12I 0 INZ(0)
D* Coded character set identifier
D  SLCSI          13     16I 0 INZ(0)
D* Count of parameter values
D  SLCNT          17     20I 0 INZ(0)
D* Length of one string
D  SLSTL          21     24I 0 INZ(0)

```

MQCFST - PCF スtring・パラメーター

MQCFST 構造は、コマンドまたはコマンドに対する応答であるメッセージ内の String・パラメーターについて記述します。いずれのメッセージの場合も、メッセージ記述子内の形式名は MQFMT_ADMIN です。

MQCFST 構造は、ユーザー定義のメッセージ・データにも使用できます。この場合、メッセージ記述子の *Format* フィールドは MQFMT_PCF です ([PCF コマンドのメッセージ記述子を参照](#))。ただし、この場合は、構造の中の一部のフィールドは意味がなくなります。大部分のフィールドには、提供されている初期値を使用できますが、*StrucLength*、*StringLength*、および *String* の各フィールドには、データに該当する値をアプリケーション側で設定する必要があります。

この構造体は、可変長文字 String で終了します。詳細については、この後の *String* フィールドのセクションを参照してください。

この構造体の使用方法について詳しくは、[1868 ページの『使用上の注意』](#)を参照してください。

MQCFST のフィールド

Type(MQLONG)

構造タイプ。

このフィールドは、構造が String・パラメーターについて記述する MQCFST 構造であることを示します。値は次のものでなければなりません。

MQCFST_STRING

String を定義する構造。

StrucLength(MQLONG)

構造の長さ。

これは MQCFST 構造の長さ (バイト) で、構造の末尾にあるストリングを含みます (*String* フィールド)。この長さは、4 の倍数でなければなりません。また、ストリングを含むのに十分な長さでなければなりません。ストリングの最後と *StrucLength* フィールドで定義した長さの間のバイトは意味がありません。

次の定数は、構造から *String* フィールドを除いた固定部分の長さを示します。

MQCFST_STRUC_LENGTH_FIXED

コマンド形式ストリング・パラメーター構造の固定部分の長さ。

Parameter(MQLONG)

パラメーター ID。

これは、その値が構造に含まれているパラメーターを識別します。このフィールドに入る値は、MQCFH 構造の *Command* フィールドの値によって異なります。詳細については、[1868 ページの『MQCFH - PCF ヘッダー』](#)を参照してください。

パラメーターは、以下のパラメーターのグループに属します。

- MQCA_*
- MQCACF_*
- MQCAMO_*
- MQCACH_*

CodedCharSetId(MQLONG)

コード化文字セット ID。

これは、*String* フィールドのデータのコード化文字セット ID を指定します。以下のような特別な値を使用することができます。

MQCCSI_DEFAULT

デフォルトの文字セット ID。

ストリング・データの文字セットは、MQCFH 構造体の前にある MQ ヘッダー構造体の *CodedCharSetId* フィールドか、MQCFH 構造体がメッセージの先頭にある場合には MQMD 内の *CodedCharSetId* フィールドによって定義されます。

StringLength(MQLONG)

ストリングの長さ。

これは、*String* フィールド内のデータのバイト単位の長さで、0 以上の値でなければなりません。この長さは、4 の倍数である必要はありません。

String (MQCHAR x StringLength)

ストリング値。

これは、*Parameter* フィールドによって識別されたパラメーターの値です。

- MQFMT_ADMIN コマンド・メッセージで、指定したストリングがパラメーターの標準の長さより短い場合は、空白文字が省略されているものと見なされます。指定されたストリングが標準長を超えると、エラーになります。
- MQFMT_ADMIN 応答メッセージでは、ストリング・パラメーターが、パラメーターの標準の長さになるように空白が埋め込まれて返される場合があります。
- MQFMT_EVENT メッセージでは、ストリング・パラメーターから末尾の空白が省略される場合があります (つまり、パラメーターの標準の長さより短いストリングになる場合があります)。

StringLength の値は、指定されたストリングが標準の長さより短いときに、埋め込み空白がストリングに追加されたかどうかによって異なります。追加された場合、*StringLength* の値は、ストリングの実際の長さに埋め込み空白を加えた合計になります。

ストリングには、*CodedCharSetId* によって定義した文字セット内にある文字のうち、*Parameter* によって識別されたパラメーターに有効な文字を入れることができます。

注: キュー・マネージャーがコマンド入力キューから MQFMT_ADMIN メッセージ内の MQCFST 構造を読み込むと、キュー・マネージャーはストリングを、MQI 呼び出しで指定された場合と同様に処理します。この処理は、ストリング内では、最初のヌル文字とそれに続く (ストリングの最後まで) 各文字がブランクとして扱われることを意味します。

応答や他のどのような場合でも、ストリング内のヌル文字は通常データとして扱われ、ストリングの区切り文字としては機能しません。この扱いは、受信側アプリケーションが MQFMT_PCF、MQFMT_EVENT、または MQFMT_ADMIN メッセージを読み込むときには、送信側アプリケーションで指定したすべてのデータを受信側アプリケーションが受信することを意味します。

このフィールドを宣言する方法は、プログラミング言語によって次のように異なります。

- C プログラミング言語では、1つの要素を含む配列としてこのフィールドを宣言します。構造のためのストレージは動的に割り振られる必要があり、構造の中のフィールドをアドレス指定するためにポインターが使用されます。
- COBOL、PL/I、および System/390 アセンブラーの各プログラミング言語では、このフィールドが構造体宣言から省略されています。構造のインスタンスを宣言するときに、より大きな構造体に MQCFST を組み込み、MQCFST の後に *String* フィールドを表す追加フィールドを必要なだけ宣言する必要があります。

C 言語宣言

```
typedef struct tagMQCFST {
    MQLONG    Type;           /* Structure type */
    MQLONG    StrucLength;    /* Structure length */
    MQLONG    Parameter;      /* Parameter identifier */
    MQLONG    CodedCharSetId; /* Coded character set identifier */
    MQLONG    StringLength;   /* Length of string */
    MQCHAR    String[1];     /* String value - first
                               character */
} MQCFST;
```

COBOL 言語宣言

```
**      MQCFST structure
10 MQCFST.
**      Structure type
15 MQCFST-TYPE          PIC S9(9) BINARY.
**      Structure length
15 MQCFST-STRUCLNGTH   PIC S9(9) BINARY.
**      Parameter identifier
15 MQCFST-PARAMETER    PIC S9(9) BINARY.
**      Coded character set identifier
15 MQCFST-CODEDCHARSETID PIC S9(9) BINARY.
**      Length of string
15 MQCFST-STRINGLENGTH PIC S9(9) BINARY.
```

PL/I 言語宣言 (z/OS のみ)

```
dcl
1 MQCFST based,
3 Type          fixed bin(31), /* Structure type */
3 StrucLength    fixed bin(31), /* Structure length */
3 Parameter      fixed bin(31), /* Parameter identifier */
3 CodedCharSetId fixed bin(31), /* Coded character set identifier */
3 StringLength   fixed bin(31); /* Length of string */
```

System/390 アセンブラー言語宣言 (z/OS のみ)

MQCFST	DSECT	
MQCFST_TYPE	DS	F Structure type
MQCFST_STRUCLNGTH	DS	F Structure length
MQCFST_PARAMETER	DS	F Parameter identifier

MQCFST_CODEDCHARSETID	DS	F	Coded character set identifier
*MQCFST_STRINGLENGTH	DS	F	Length of string
MQCFST_LENGTH	EQU	*-MQCFST	Length of structure
	ORG	MQCFST	
MQCFST_AREA	DS	CL(MQCFST_LENGTH)	

Visual Basic 言語宣言 (Windows のみ)

```
Type MQCFST
    Type As Long           ' Structure type
    StruLength As Long      ' Structure length
    Parameter As Long       ' Parameter identifier
    CodedCharSetId As Long  ' Coded character set identifier
    StringLength As Long    ' Length of string
End Type

Global MQCFST_DEFAULT As MQCFST
```

RPG 言語宣言 (IBM i のみ)

```
D* MQCFST Structure
D*
D* Structure type
D  STTYP              1          4I 0 INZ(4)
D* Structure length
D  STLEN              5          8I 0 INZ(20)
D* Parameter identifier
D  STPRM              9         12I 0 INZ(0)
D* Coded character set identifier
D  STCSI             13         16I 0 INZ(0)
D* Length of string
D  STSTL             17         20I 0 INZ(0)
D*
```

PCF の例

この例のコンパイル済みプログラムは、C 言語で作成されており、IBM MQ for Windows を使用します。このプログラムは、デフォルト・キュー・マネージャーに定義されているすべてのローカル・キュー属性のサブセットをデフォルト・キュー・マネージャーに照会します。次に、このプログラムが実行されたディレクトリーに、RUNMQSC で使用するための出力ファイル SAVEQMGR.TST を生成します。

ローカル・キュー属性の照会

続くこのセクションでは、IBM MQ キューを管理するプログラムで、プログラマブル・コマンド・フォーマットを使用する方法の一例を記載します。

このプログラムは、PCF を使用する例として記載するもので、簡単な事例に限られています。このプログラムは、IBM MQ 環境を管理するために PCF の使用を検討している場合に、例として役立ちます。

プログラム・リスト

```
/*=====*/
/*
/* This is a program to inquire of the default queue manager about the
/* local queues defined to it.
/*
/* The program takes this information and appends it to a file
/* SAVEQMGR.TST which is of a format suitable for RUNMQSC. It could,
/* therefore, be used to recreate or clone a queue manager.
/*
/* It is offered as an example of using Programmable Command Formats (PCFs)
/* as a method for administering a queue manager.
/*
/*=====*/

/* Include standard libraries */
```

```

#include <memory.h>
#include <stdio.h>

/* Include MQSeries headers */
#include <cmqc.h>
#include <cmqcfc.h>
#include <cmqxc.h>

typedef struct LocalQParms {
    MQCHAR48    QName;
    MQLONG      QType;
    MQCHAR64    QDesc;
    MQLONG      InhibitPut;
    MQLONG      DefPriority;
    MQLONG      DefPersistence;
    MQLONG      InhibitGet;
    MQCHAR48    ProcessName;
    MQLONG      MaxQDepth;
    MQLONG      MaxMsgLength;
    MQLONG      BackoutThreshold;
    MQCHAR48    BackoutReqQName;
    MQLONG      Shareability;
    MQLONG      DefInputOpenOption;
    MQLONG      HardenGetBackout;
    MQLONG      MsgDeliverySequence;
    MQLONG      RetentionInterval;
    MQLONG      DefinitionType;
    MQLONG      Usage;
    MQLONG      OpenInputCount;
    MQLONG      OpenOutputCount;
    MQLONG      CurrentQDepth;
    MQCHAR12    CreationDate;
    MQCHAR8     CreationTime;
    MQCHAR48    InitiationQName;
    MQLONG      TriggerControl;
    MQLONG      TriggerType;
    MQLONG      TriggerMsgPriority;
    MQLONG      TriggerDepth;
    MQCHAR64    TriggerData;
    MQLONG      Scope;
    MQLONG      QDepthHighLimit;
    MQLONG      QDepthLowLimit;
    MQLONG      QDepthMaxEvent;
    MQLONG      QDepthHighEvent;
    MQLONG      QDepthLowEvent;
    MQLONG      QServiceInterval;
    MQLONG      QServiceIntervalEvent;
} LocalQParms;

MQOD  ObjDesc = { MQOD_DEFAULT };
MQMD  md       = { MQMD_DEFAULT };
MQPMO pmo      = { MQPMO_DEFAULT };
MQGMO gmo      = { MQGMO_DEFAULT };

void ProcessStringParm( MQCFST *pPCFString, LocalQParms *DefnLQ );

void ProcessIntegerParm( MQCFIN *pPCFInteger, LocalQParms *DefnLQ );

void AddToFileQLOCAL( LocalQParms DefnLQ );

void MQParmCpy( char *target, char *source, int length );

void PutMsg( MQHCONN  hConn      /* Connection to queue manager */
             , MQCHAR8  MsgFormat /* Format of user data to be put in msg */
             , MQHOBJ   hQName    /* handle of queue to put the message to */
             , MQCHAR48  QName     /* name of queue to put the message to */
             , MQBYTE   *UserMsg  /* The user data to be put in the message */
             , MQLONG    UserMsgLen /* */
             );

void GetMsg( MQHCONN  hConn      /* handle of queue manager */
            , MQLONG   MQParm     /* Options to specify nature of get */
            , MQHOBJ   hQName     /* handle of queue to read from */
            , MQBYTE   *UserMsg  /* Input/Output buffer containing msg */
            , MQLONG   ReadBufferLen /* Length of supplied buffer */
            );

MQHOBJ OpenQ( MQHCONN  hConn
             , MQCHAR48  QName
             , MQLONG   OpenOpts
             );

int main( int argc, char *argv[] )

```

```

{
MQCHAR48          QMgrName;          /* Name of connected queue mgr */
MQHCONN           hConn;             /* handle to connected queue mgr */
MQOD              ObjDesc;           /* */
MQLONG            OpenOpts;          /* */
MQLONG            CompCode;          /* MQ API completion code */
MQLONG            Reason;            /* Reason qualifying CompCode */
/* */
MQHOBJ            hAdminQ;           /* handle to output queue */
MQHOBJ            hReplyQ;           /* handle to input queue */
/* */
MQLONG            AdminMsgLen;        /* Length of user message buffer */
MQBYTE            *pAdminMsg;        /* Ptr to outbound data buffer */
MQCFH             *pPCFHeader;       /* Ptr to PCF header structure */
MQCFST            *pPCFString;       /* Ptr to PCF string parm block */
MQCFIN            *pPCFInteger;      /* Ptr to PCF integer parm block */
MQLONG            *pPCFType;         /* Type field of PCF message parm */
LocalQParms       DefnLQ;           /* */
/* */
char              ErrorReport[40];   /* */
MQCHAR8           MsgFormat;         /* Format of inbound message */
short             Index;             /* Loop counter */
/* */

/* Connect to default queue manager */
QMGrName[0] = '\0';                 /* set to null default QM */
if ( argc > 1 )
    strcpy(QMgrName, argv[1]);

MQCONN( QMgrName                    /* use default queue manager */
        , &hConn                    /* queue manager handle */
        , &CompCode                 /* Completion code */
        , &Reason                   /* Reason qualifying CompCode */
        );

if ( CompCode != MQCC_OK ) {
    printf( "MQCONN failed for %s, CC=%d RC=%d\n"
           , QMgrName
           , CompCode
           , Reason
           );
    exit( -1 );
} /* endif */

/* Open all the required queues */
hAdminQ = OpenQ( hConn, "SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE\0", MQOO_OUTPUT );

hReplyQ = OpenQ( hConn, "SAVEQMGR.REPLY.QUEUE\0", MQOO_INPUT_EXCLUSIVE );

/* ***** */
/* Put a message to the SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE to inquire all */
/* the local queues defined on the queue manager. */
/* */
/* The request consists of a Request Header and a parameter block */
/* used to specify the generic search. The header and the parameter */
/* block follow each other in a contiguous buffer which is pointed */
/* to by the variable pAdminMsg. This entire buffer is then put to */
/* the queue. */
/* */
/* The command server, (use STRMQCSV to start it), processes the */
/* SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE and puts a reply on the application */
/* ReplyToQ for each defined queue. */
/* ***** */

/* Set the length for the message buffer */
AdminMsgLen = MQCFH_STRUC_LENGTH
              + MQCFST_STRUC_LENGTH_FIXED + MQ_Q_NAME_LENGTH
              + MQCFIN_STRUC_LENGTH
              ;

/* ----- */
/* Set pointers to message data buffers */
/* */
/* pAdminMsg points to the start of the message buffer */
/* */
/* pPCFHeader also points to the start of the message buffer. It is */
/* used to indicate the type of command we wish to execute and the */
/* number of parameter blocks following in the message buffer. */
/* */
/* pPCFString points into the message buffer immediately after the */
/* header and is used to map the following bytes onto a PCF string */
/* parameter block. In this case the string is used to indicate the */
/* name of the queue we want details about, * indicating all queues. */

```

```

/*
/* pPCFInteger points into the message buffer immediately after the
/* string block described above. It is used to map the following
/* bytes onto a PCF integer parameter block. This block indicates
/* the type of queue we wish to receive details about, thereby
/* qualifying the generic search set up by passing the previous
/* string parameter.
/*
/*
/* Note that this example is a generic search for all attributes of
/* all local queues known to the queue manager. By using different,
/* or more, parameter blocks in the request header it is possible
/* to narrow the search.
/* ----- */

pAdminMsg = (MQBYTE *)malloc( AdminMsgLen );

pPCFHeader = (MQCFH *)pAdminMsg;

pPCFString = (MQCFST *) (pAdminMsg
                        + MQCFH_STRUC_LENGTH
                        );

pPCFInteger = (MQCFIN *) ( pAdminMsg
                        + MQCFH_STRUC_LENGTH
                        + MQCFST_STRUC_LENGTH_FIXED + MQ_Q_NAME_LENGTH
                        );

/* Setup request header */
pPCFHeader->Type = MQCFT_COMMAND;
pPCFHeader->StrucLength = MQCFH_STRUC_LENGTH;
pPCFHeader->Version = MQCFH_VERSION_1;
pPCFHeader->Command = MQCMD_INQUIRE_Q;
pPCFHeader->MsgSeqNumber = MQCFC_LAST;
pPCFHeader->Control = MQCFC_LAST;
pPCFHeader->ParameterCount = 2;

/* Setup parameter block */
pPCFString->Type = MQCFT_STRING;
pPCFString->StrucLength = MQCFST_STRUC_LENGTH_FIXED + MQ_Q_NAME_LENGTH;
pPCFString->Parameter = MQCA_Q_NAME;
pPCFString->CodedCharSetId = MQCCSI_DEFAULT;
pPCFString->StringLength = MQ_Q_NAME_LENGTH;
memset( pPCFString->String, '\0', MQ_Q_NAME_LENGTH );
memcpy( pPCFString->String, "*", 1 );

/* Setup parameter block */
pPCFInteger->Type = MQCFT_INTEGER;
pPCFInteger->StrucLength = MQCFIN_STRUC_LENGTH;
pPCFInteger->Parameter = MQIA_Q_TYPE;
pPCFInteger->Value = MQQT_LOCAL;

PutMsg( hConn /* Queue manager handle */
        , MQFMT_ADMIN /* Format of message */
        , hAdminQ /* Handle of command queue */
        , "SAVEQMGR.REPLY.QUEUE\0" /* reply to queue */
        , (MQBYTE *)pAdminMsg /* Data part of message to put */
        , AdminMsgLen
        );

free( pAdminMsg );

/* ***** */
/* Get and process the replies received from the command server onto
/* the applications ReplyToQ.
/*
/* There will be one message per defined local queue.
/*
/* The last message will have the Control field of the PCF header
/* set to MQCFC_LAST. All others will be MQCFC_NOT_LAST.
/*
/* An individual Reply message consists of a header followed by a
/* number a parameters, the exact number, type and order will depend
/* upon the type of request.
/* ----- */
/*
/* The message is retrieved into a buffer pointed to by pAdminMsg.
/* This buffer has been allocated enough memory to hold every
/* parameter needed for a local queue definition.
/*
/* pPCFHeader is then allocated to point also to the beginning of

```

```

/* the buffer and is used to access the PCF header structure. The */
/* header contains several fields. The one we are specifically */
/* interested in is the ParameterCount. This tells us how many */
/* parameters follow the header in the message buffer. There is */
/* one parameter for each local queue attribute known by the */
/* queue manager. */
/* */
/* At this point we do not know the order or type of each parameter */
/* block in the buffer, the first MQLONG of each block defines its */
/* type; they may be parameter blocks containing either strings or */
/* integers. */
/* */
/* pPCFType is used initially to point to the first byte beyond the */
/* known parameter block. Initially then, it points to the first byte */
/* after the PCF header. Subsequently it is incremented by the length */
/* of the identified parameter block and therefore points at the */
/* next. Looking at the value of the data pointed to by pPCFType we */
/* can decide how to process the next group of bytes, either as a */
/* string, or an integer. */
/* */
/* In this way we parse the message buffer extracting the values of */
/* each of the parameters we are interested in. */
/* */
/* ***** */

/* AdminMsgLen is to be set to the length of the expected reply */
/* message. This structure is specific to Local Queues. */
AdminMsgLen = MQCFH_STRUC_LENGTH
+ ( MQCFST_STRUC_LENGTH_FIXED * 7 )
+ ( MQCFIN_STRUC_LENGTH * 39 )
+ ( MQ_Q_NAME_LENGTH * 6 )
+ ( MQ_Q_MGR_NAME_LENGTH * 2 )
+ MQ_Q_DESC_LENGTH
+ MQ_PROCESS_NAME_LENGTH
+ MQ_CREATION_DATE_LENGTH
+ MQ_CREATION_TIME_LENGTH
+ MQ_TRIGGER_DATA_LENGTH + 100
;

/* Set pointers to message data buffers */
pAdminMsg = (MQBYTE *)malloc( AdminMsgLen );

do {

    GetMsg( hConn /* Queue manager handle */
            , MQGMO_WAIT
            , hReplyQ /* Get queue handle */
            , (MQBYTE *)pAdminMsg /* pointer to message area */
            , AdminMsgLen /* length of get buffer */
            );

    /* Examine Header */
    pPCFHeader = (MQCFH *)pAdminMsg;

    /* Examine first parameter */
    pPCFType = (MQLONG *) (pAdminMsg + MQCFH_STRUC_LENGTH);

    Index = 1;

    while ( Index <= pPCFHeader->ParameterCount ) {

        /* Establish the type of each parameter and allocate */
        /* a pointer of the correct type to reference it. */
        switch ( *pPCFType ) {
        case MQCFT_INTEGER:
            pPCFInteger = (MQCFIN *)pPCFType;
            ProcessIntegerParm( pPCFInteger, &DefnLQ );
            Index++;
            /* Increment the pointer to the next parameter by the */
            /* length of the current parm. */
            pPCFType = (MQLONG *) ( (MQBYTE *)pPCFType
                                   + pPCFInteger->StrucLength
                                   );
            break;
        case MQCFT_STRING:
            pPCFString = (MQCFST *)pPCFType;
            ProcessStringParm( pPCFString, &DefnLQ );
            Index++;
            /* Increment the pointer to the next parameter by the */
            /* length of the current parm. */
            pPCFType = (MQLONG *) ( (MQBYTE *)pPCFType
                                   + pPCFString->StrucLength
                                   );
        }
    }
}

```

```

        );
        break;
    } /* endswitch */

} /* endwhile */

/* ***** */
/* Message parsed, append to output file */
/* ***** */
AddToFileQLOCAL( DefnLQ );

/* ***** */
/* Finished processing the current message, do the next one. */
/* ***** */

} while ( pPCFHeader->Control == MQCFC_NOT_LAST ); /* enddo */

free( pAdminMsg );

/* ***** */
/* Processing of the local queues complete */
/* ***** */

}

void ProcessStringParm( MQCFST *pPCFString, LocalQParms *DefnLQ )
{
    switch ( pPCFString->Parameter ) {
        case MQCA_Q_NAME:
            MQParmCpy( DefnLQ->QName, pPCFString->String, 48 );
            break;
        case MQCA_Q_DESC:
            MQParmCpy( DefnLQ->QDesc, pPCFString->String, 64 );
            break;
        case MQCA_PROCESS_NAME:
            MQParmCpy( DefnLQ->ProcessName, pPCFString->String, 48 );
            break;
        case MQCA_BACKOUT_REQ_Q_NAME:
            MQParmCpy( DefnLQ->BackoutReqQName, pPCFString->String, 48 );
            break;
        case MQCA_CREATION_DATE:
            MQParmCpy( DefnLQ->CreationDate, pPCFString->String, 12 );
            break;
        case MQCA_CREATION_TIME:
            MQParmCpy( DefnLQ->CreationTime, pPCFString->String, 8 );
            break;
        case MQCA_INITIATION_Q_NAME:
            MQParmCpy( DefnLQ->InitiationQName, pPCFString->String, 48 );
            break;
        case MQCA_TRIGGER_DATA:
            MQParmCpy( DefnLQ->TriggerData, pPCFString->String, 64 );
            break;
    } /* endswitch */
}

void ProcessIntegerParm( MQCFIN *pPCFInteger, LocalQParms *DefnLQ )
{
    switch ( pPCFInteger->Parameter ) {
        case MQIA_Q_TYPE:
            DefnLQ->QType = pPCFInteger->Value;
            break;
        case MQIA_INHIBIT_PUT:
            DefnLQ->InhibitPut = pPCFInteger->Value;
            break;
        case MQIA_DEF_PRIORITY:
            DefnLQ->DefPriority = pPCFInteger->Value;
            break;
        case MQIA_DEF_PERSISTENCE:
            DefnLQ->DefPersistence = pPCFInteger->Value;
            break;
        case MQIA_INHIBIT_GET:
            DefnLQ->InhibitGet = pPCFInteger->Value;
            break;
        case MQIA_SCOPE:
            DefnLQ->Scope = pPCFInteger->Value;
            break;
        case MQIA_MAX_Q_DEPTH:
            DefnLQ->MaxQDepth = pPCFInteger->Value;
            break;
        case MQIA_MAX_MSG_LENGTH:
            DefnLQ->MaxMsgLength = pPCFInteger->Value;
    }
}

```

```

        break;
    case MQIA_BACKOUT_THRESHOLD:
        DefnLQ->BackoutThreshold = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_SHAREABILITY:
        DefnLQ->Shareability = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_DEF_INPUT_OPEN_OPTION:
        DefnLQ->DefInputOpenOption = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_HARDEN_GET_BACKOUT:
        DefnLQ->HardenGetBackout = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_MSG_DELIVERY_SEQUENCE:
        DefnLQ->MsgDeliverySequence = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_RETENTION_INTERVAL:
        DefnLQ->RetentionInterval = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_DEFINITION_TYPE:
        DefnLQ->DefinitionType = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_USAGE:
        DefnLQ->Usage = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_OPEN_INPUT_COUNT:
        DefnLQ->OpenInputCount = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_OPEN_OUTPUT_COUNT:
        DefnLQ->OpenOutputCount = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_CURRENT_Q_DEPTH:
        DefnLQ->CurrentQDepth = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_TRIGGER_CONTROL:
        DefnLQ->TriggerControl = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_TRIGGER_TYPE:
        DefnLQ->TriggerType = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_TRIGGER_MSG_PRIORITY:
        DefnLQ->TriggerMsgPriority = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_TRIGGER_DEPTH:
        DefnLQ->TriggerDepth = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_Q_DEPTH_HIGH_LIMIT:
        DefnLQ->QDepthHighLimit = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_Q_DEPTH_LOW_LIMIT:
        DefnLQ->QDepthLowLimit = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_Q_DEPTH_MAX_EVENT:
        DefnLQ->QDepthMaxEvent = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_Q_DEPTH_HIGH_EVENT:
        DefnLQ->QDepthHighEvent = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_Q_DEPTH_LOW_EVENT:
        DefnLQ->QDepthLowEvent = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL:
        DefnLQ->QServiceInterval = pPCFInteger->Value;
        break;
    case MQIA_Q_SERVICE_INTERVAL_EVENT:
        DefnLQ->QServiceIntervalEvent = pPCFInteger->Value;
        break;
} /* endswitch */
}

/* ----- */
/* This process takes the attributes of a single local queue and adds them */
/* to the end of a file, SAVEQMGR.TST, which can be found in the current */
/* directory. */
/* The file is of a format suitable for subsequent input to RUNMQSC. */
/* ----- */
void AddToFileQLOCAL( LocalQParms DefnLQ )
{
    char    ParmBuffer[120]; /* Temporary buffer to hold for output to file */

```



```

FILE    *fp;                /* Pointer to a file                */

/* Append these details to the end of the current SAVEQMGR.TST file */
fp = fopen( "SAVEQMGR.TST", "a" );

sprintf( ParmBuffer, "DEFINE QLOCAL ('%s') REPLACE +\n", DefnLQ.QName );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "          DESCR('%s') +\n" , DefnLQ.QDesc );
fputs( ParmBuffer, fp );

if ( DefnLQ.InhibitPut == MQQA_PUT_ALLOWED ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          PUT(ENABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          PUT(DISABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

sprintf( ParmBuffer, "          DEFPRTY(%d) +\n", DefnLQ.DefPriority );
fputs( ParmBuffer, fp );

if ( DefnLQ.DefPersistence == MQPER_PERSISTENT ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          DEFPSIST(YES) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          DEFPSIST(NO) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

if ( DefnLQ.InhibitGet == MQQA_GET_ALLOWED ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          GET(ENABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          GET(DISABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

sprintf( ParmBuffer, "          MAXDEPTH(%d) +\n", DefnLQ.MaxQDepth );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "          MAXMSGL(%d) +\n", DefnLQ.MaxMsgLength );
fputs( ParmBuffer, fp );

if ( DefnLQ.Shareability == MQQA_SHAREABLE ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          SHARE +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          NOSHARE +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

if ( DefnLQ.DefInputOpenOption == MQOO_INPUT_SHARED ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          DEFSOPT(SHARED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          DEFSOPT(EXCL) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

if ( DefnLQ.MsgDeliverySequence == MQMDS_PRIORITY ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          MSGDLVSQ(PRIORITY) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          MSGDLVSQ(FIFO) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

if ( DefnLQ.HardenGetBackout == MQQA_BACKOUT_HARDENED ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          HARDENBO +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          NOHARDENBO +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

if ( DefnLQ.Usage == MQUS_NORMAL ) {
    sprintf( ParmBuffer, "          USAGE(NORMAL) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "          USAGE(XMIT) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
}

```

```

} /* endif */

if ( DefnLQ.TriggerControl == MQTC_OFF ) {
    sprintf( ParmBuffer, "      NOTRIGGER +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "      TRIGGER +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

switch ( DefnLQ.TriggerType ) {
case MQTT_NONE:
    sprintf( ParmBuffer, "      TRIGTYPE(NONE) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
    break;
case MQTT_FIRST:
    sprintf( ParmBuffer, "      TRIGTYPE(FIRST) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
    break;
case MQTT EVERY:
    sprintf( ParmBuffer, "      TRIGTYPE(EVERY) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
    break;
case MQTT_DEPTH:
    sprintf( ParmBuffer, "      TRIGTYPE(DEPTH) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
    break;
} /* endswitch */

sprintf( ParmBuffer, "      TRIGDPTH(%d) +\n", DefnLQ.TriggerDepth );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      TRIGMPRI(%d) +\n", DefnLQ.TriggerMsgPriority);
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      TRIGDATA('%s') +\n", DefnLQ.TriggerData );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      PROCESS('%s') +\n", DefnLQ.ProcessName );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      INITQ('%s') +\n", DefnLQ.InitiationQName );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      RETINTVL(%d) +\n", DefnLQ.RetentionInterval );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      BOTHRESH(%d) +\n", DefnLQ.BackoutThreshold );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      BOQNAME('%s') +\n", DefnLQ.BackoutReqQName );
fputs( ParmBuffer, fp );

if ( DefnLQ.Scope == MQSCO_Q_MGR ) {
    sprintf( ParmBuffer, "      SCOPE(QMGR) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "      SCOPE(CELL) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

sprintf( ParmBuffer, "      QDEPTHHI(%d) +\n", DefnLQ.QDepthHighLimit );
fputs( ParmBuffer, fp );

sprintf( ParmBuffer, "      QDEPTHLO(%d) +\n", DefnLQ.QDepthLowLimit );
fputs( ParmBuffer, fp );

if ( DefnLQ.QDepthMaxEvent == MQEVR_ENABLED ) {
    sprintf( ParmBuffer, "      QDPMAXEV(ENABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "      QDPMAXEV(DISABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

if ( DefnLQ.QDepthHighEvent == MQEVR_ENABLED ) {
    sprintf( ParmBuffer, "      QDPHIEV(ENABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "      QDPHIEV(DISABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
}

```

```

} /* endif */

if ( DefnLQ.QDepthLowEvent == MQEVR_ENABLED ) {
    sprintf( ParmBuffer, "      QDPLOEV(ENABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} else {
    sprintf( ParmBuffer, "      QDPLOEV(DISABLED) +\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
} /* endif */

sprintf( ParmBuffer, "      QSVCINT(%d) +\n", DefnLQ.QServiceInterval );
fputs( ParmBuffer, fp );

switch ( DefnLQ.QServiceIntervalEvent ) {
case MQQSIE_OK:
    sprintf( ParmBuffer, "      QSVCIEV(OK)\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
    break;
case MQQSIE_NONE:
    sprintf( ParmBuffer, "      QSVCIEV(NONE)\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
    break;
case MQQSIE_HIGH:
    sprintf( ParmBuffer, "      QSVCIEV(HIGH)\n" );
    fputs( ParmBuffer, fp );
    break;
} /* endswitch */

sprintf( ParmBuffer, "\n" );
fputs( ParmBuffer, fp );

fclose(fp);
}

/* ----- */
/* ----- */
/* The queue manager returns strings of the maximum length for each
/* specific parameter, padded with blanks.
/* ----- */
/* We are interested in only the nonblank characters so will extract them
/* from the message buffer, and terminate the string with a null, \0.
/* ----- */
void MQParmCpy( char *target, char *source, int length )
{
    int    counter=0;

    while ( counter < length && source[counter] != ' ' ) {
        target[counter] = source[counter];
        counter++;
    } /* endwhile */

    if ( counter < length ) {
        target[counter] = '\0';
    } /* endif */
}

MQHOBJ OpenQ( MQHCONN hConn, MQCHAR48 QName, MQLONG OpenOpts)
{
    MQHOBJ Hobj;
    MQLONG CompCode, Reason;

    ObjDesc.ObjectType = MQOT_Q;
    strncpy(ObjDesc.ObjectName, QName, MQ_Q_NAME_LENGTH);

    MQOPEN(hConn, /* connection handle
                  &ObjDesc, /* object descriptor for queue
                  OpenOpts, /* open options
                  &Hobj, /* object handle
                  &CompCode, /* MQOPEN completion code
                  &Reason); /* reason code

    /* report reason, if any; stop if failed
    if (Reason != MQRC_NONE)
    {
        printf("MQOPEN for %s ended with Reason Code %d and Comp Code %d\n",
               QName,
               Reason,
               CompCode);
        exit( -1 );
    }
}

```

```

    return Hobj;
}

void PutMsg(MQHCONN hConn,
            MQCHAR8 MsgFormat,
            MQHOBJ hQName,
            MQCHAR48 QName,
            MQBYTE *UserMsg,
            MQLONG UserMsgLen)
{
    MQLONG CompCode, Reason;

    /* setup the message descriptor prior to putting the message */
    md.Report      = MQRO_NONE;
    md.MsgType     = MQMT_REQUEST;
    md.Expiry      = MQEI_UNLIMITED;
    md.Feedback    = MQFB_NONE;
    md.Encoding    = MQENC_NATIVE;
    md.Priority    = MQPRI_PRIORITY_AS_Q_DEF;
    md.Persistence = MQPER_PERSISTENCE_AS_Q_DEF;
    md.MsgSeqNumber = 1;
    md.Offset      = 0;
    md.MsgFlags    = MQMF_NONE;
    md.OriginalLength = MQOL_UNDEFINED;

    memcpy(md.GroupId, MQGI_NONE, sizeof(md.GroupId));
    memcpy(md.Format,  MsgFormat, sizeof(md.Format));
    memcpy(md.ReplyToQ, QName,      sizeof(md.ReplyToQ));

    /* reset MsgId and CorrelId to get a new one */
    memcpy(md.MsgId, MQMI_NONE, sizeof(md.MsgId));
    memcpy(md.CorrelId, MQCI_NONE, sizeof(md.CorrelId));

    MQPUT(hConn,          /* connection handle */
          hQName,         /* object handle */
          &md,           /* message descriptor */
          &pmo,          /* default options */
          UserMsgLen,     /* message length */
          (MQBYTE *)UserMsg, /* message buffer */
          &CompCode,     /* completion code */
          &Reason);      /* reason code */

    if (Reason != MQRC_NONE) {
        printf("MQPUT ended with Reason Code %d and Comp Code %d\n",
              Reason, CompCode);
        exit( -1 );
    }
}

void GetMsg(MQHCONN hConn, MQLONG MQParm, MQHOBJ hQName,
            MQBYTE *UserMsg, MQLONG ReadBufferLen)
{
    MQLONG CompCode, Reason, msglen;

    gmo.Options      = MQParm;
    gmo.WaitInterval = 15000;

    /* reset MsgId and CorrelId to get a new one */
    memcpy(md.MsgId, MQMI_NONE, sizeof(md.MsgId));
    memcpy(md.CorrelId, MQCI_NONE, sizeof(md.CorrelId));

    MQGET(hConn,          /* connection handle */
          hQName,         /* object handle */
          &md,           /* message descriptor */
          &gmo,          /* get message options */
          ReadBufferLen,  /* Buffer length */
          (MQBYTE *)UserMsg, /* message buffer */
          &msglen,       /* message length */
          &CompCode,     /* completion code */
          &Reason);      /* reason code */

    if (Reason != MQRC_NONE) {
        printf("MQGET ended with Reason Code %d and Comp Code %d\n",
              Reason, CompCode);
        exit( -1 );
    }
}

```

さまざまな IBM MQ ユーティリティー・プログラムの構文と使用法に関する参照情報。

IBM MQ ユーティリティーの概要

このトピックは、さまざまなカテゴリーのユーティリティーのリファレンスとして使用します。

このトピックでは、さまざまな管理用タスクの実行を支援するために備えられている IBM MQ ユーティリティー・プログラムについて紹介しています。ユーティリティー・プログラムについては、以下のセクションで説明されています。

[1905 ページの表 98](#)

[1905 ページの表 99](#)

[1906 ページの表 100](#)

[1906 ページの表 102](#)

[1907 ページの表 103](#) では、これらのユーティリティーを使って行えることが要約されています。

表 98. IBM MQ CSQUTIL ユーティリティー・プログラム: ページ・セットの管理

目的	関数	参照先トピック
VSAM データ・セットを IBM MQ ページ・セットとしてフォーマットします。	FORMAT	1912 ページの『ページ・セットのフォーマット (FORMAT)』
IBM MQ ページ・セットに使用されるリカバリー処理を制御します。	FORMAT	1912 ページの『ページ・セットのフォーマット (FORMAT)』
ページ・セット情報を抽出します。	PAGEINFO	1915 ページの『ページ・セット情報 (PAGEINFO)』
IBM MQ ページ・セットをコピーします。	COPYPAGE	1916 ページの『ページ・セットの拡張 (COPYPAGE)』
IBM MQ ページ・セットをコピーし、ログ情報をリセットします。	RESETPAGE	1918 ページの『ページ・セットのコピーとログのリセット (RESETPAGE)』

表 99. IBM MQ CSQUTIL ユーティリティー・プログラム: コマンドの発行

目的	関数	参照先トピック
IBM MQ コマンドを発行します。	COMMAND	1919 ページの『CSQUTIL の COMMAND 機能の使用』
オブジェクト用に 1 組の DEFINE、ALTER または DELETE コマンドを生成します。	COMMAND	DEFINE コマンドのリストの作成
クライアント・チャネル定義ファイルを生成します。	COMMAND	クライアント・チャネル定義ファイルの作成

表 99. IBM MQ CSQUTIL ユーティリティ・プログラム: コマンドの発行 (続き)

目的	関数	参照先トピック
オブジェクト用に 1 組の DEFINE コマンドを生成します (オフライン)。	SDEFS	1927 ページの『IBM MQ 定義コマンドのリストの生成 (SDEFS)』

表 100. IBM MQ CSQUTIL ユーティリティ・プログラム: キューの管理

目的	関数	参照先トピック
キューの内容をデータ・セットにコピーします。	COPY	1930 ページの『キュー・マネージャー実行中のデータ・セットへのキューのコピー (COPY)』
キューの内容をデータ・セットにコピーします (オフライン)。	SCOPY	1932 ページの『キュー・マネージャーが実行されていないときのデータ・セットへのキューのコピー (SCOPY)』
キューの内容を削除します。	EMPTY	1935 ページの『キューのすべてのメッセージの削除 (EMPTY)』
キューの内容を復元します。	LOAD	1936 ページの『データ・セットからキューへのメッセージの復元 (LOAD)』

表 101. IBM MQ CSQUTIL ユーティリティ・プログラム: CSQXPARM のマイグレーション

目的	関数	参照先トピック
チャネル・イニシエーターのパラメーター・モジュールから ALTER QMGR コマンドを作成します。	XPARM	1941 ページの『チャネル・イニシエーターのパラメーター・モジュール (XPARM) のマイグレーション』

表 102. IBM MQ CSQJU003 ログ目録変更ユーティリティ

目的	関数	参照先トピック
活動ログまたは保存ログのデータ・セットを追加します。	NEWLOG	1945 ページの『データ・セットについての情報の BSDS への追加 (NEWLOG)』
活動ログまたは保存ログのデータ・セットを削除します。	削除	1948 ページの『データ・セットについての情報の BSDS からの削除 (DELETE)』

表 102. IBM MQ CSQJU003 ログ目録変更ユーティリティ (続き)		
目的	関数	参照先トピック
アーカイブ・ログのパスワードを提供します。	アーカイブ	1948 ページの『保存ログ・データ・セットのためのパスワードの供給 (ARCHIVE)』
キュー・マネージャーの次の再始動を制御します。	CRESTART	1949 ページの『次の再始動の制御 (CRESTART)』
チェックポイント・レコードを設定します。	CHECKPT	1950 ページの『チェックポイント・レコードの設定 (CHECKPT)』
作成された最高位ログ RBA を更新します。	HIGHRBA	1951 ページの『作成された最高位のログ RBA (HIGHRBA) の更新』

表 103. その他の IBM MQ ユーティリティ		
名前	目的	参照先トピック
CSQJU004 (ログ・マップ印刷ユーティリティ)	ログに関する情報をリストします。	1952 ページの『ログ・マップ印刷ユーティリティ (CSQJU004)』
CSQ1LOGP (ログ印刷ユーティリティ)	ログを印刷します。 ログ・レコードを順次ファイルに抽出します。	1953 ページの『ログ印刷ユーティリティ (CSQ1LOGP)』
CSQ5PQSG (IBM MQ 表更新ユーティリティ)	共有 Db2 データ共有グループに保持されている IBM MQ 表内のキュー共有グループおよびキュー・マネージャーの項目を追加および削除します。	1963 ページの『キュー共有グループ・ユーティリティ (CSQ5PQSG)』
CSQJUFMT (アクティブ・ログ事前フォーマット・ユーティリティ)	ログ・データ・セットを事前フォーマットします。 共有メッセージ・データ・セット (SMDS) を事前フォーマットします	1967 ページの『活動ログ事前フォーマット・ユーティリティ (CSQJUFMT)』
CSQUDLQH (送達不能キュー・ハンドラー・ユーティリティ)	送達不能キューにあるメッセージを処理します。	1968 ページの『送達不能キュー・ハンドラー・ユーティリティ (CSQUDLQH)』
CSQUCVX (データ変換出口ユーティリティ)	データ変換出口ルーチンを生成します。	IBM MQ for z/OS 用のデータ変換出口プログラムの作成

これらのユーティリティーは、IBM MQ ロード・ライブラリーである thlqual.SCSQAUTH か thlqual.SCSQLOAD に入っています。STEPLIB にある該当する IBM MQ 言語ロード・ライブラリー thlqual.SCSQANLx (x は言語の文字) を thlqual.SCSQAUTH および thlqual.SCSQLOAD と連結します。ユーティリティー制御ステートメントは、米国英語版しかありません。英語 Db2 ライブラリー db2qual.SDSNLOAD が必要になる場合もあります。

構文図

コマンドおよびそのオプションの構文は、路線図と呼ばれる構文図の形式で示されます。

路線図は、視力に障害のないユーザーに適した表示形式です。[7 ページの『路線図の読み方』](#)を参照してください。これは、あるコマンドにどのオプションを指定できるか、どのように入力するかを示し、異なるオプションどうしの関係と、場合によってはオプションがとれるさまざまな値も示します。

IBM MQ ユーティリティー・プログラム (CSQUTIL)

CSQUTIL ユーティリティー・プログラムは IBM MQ と共に提供され、バックアップ、復元、および再編成のタスクを実行し、IBM MQ コマンドを実行するのに役立ちます。

このユーティリティー・プログラムでは、次のグループの機能呼び出すことができます。

ページ・セット管理

これらの機能により、IBM MQ ページ・セットを管理することができます。データ・セットをページ・セットとしてフォーマットしたり、ページ・セットに対して実行される回復処理を変更したり、ページ・セット情報を抽出したり、ページ・セットのサイズを増したり、ページ・セットに入っているログ情報をリセットしたりすることができます。管理の対象とできるページ・セットは、現在実行中のキュー・マネージャーに属していないページ・セットだけです。

コマンド管理

これらの機能を使用すると、次のことができます。

- IBM MQ にコマンドを実行する
- IBM MQ オブジェクトのための DEFINE、ALTER または DELETE コマンドのリストを生成する

キュー管理

これらの機能では、キューやページ・セットをバックアップして復元したり、キューやページ・セットを他のキュー・マネージャーにコピーしたり、キュー・マネージャーを復元したり、キュー・マネージャー間でマイグレーションしたりすることができます。

具体的には、次のことが可能です。

- キューからデータ・セットへメッセージをコピーする。
- キューからメッセージを削除する。
- 以前コピーしたメッセージを、それぞれの該当するキューに復元する。

これらの機能の操作範囲は、次のいずれかです。

- キュー。この場合、機能は、指定されたキューのすべてのメッセージに対して操作を行います。
- ページ・セット。この場合、機能は、指定されたページ・セット上のすべてのキューにある、すべてのメッセージに対して操作を行います。

これらの機能は、ユーザー独自のキューに対してだけ使用し、システム・キュー (名前の最初が SYSTEM であるキュー) に対しては使用しないでください。

ページ・セット管理のすべての機能とその他の一部の機能は、キュー・マネージャーが実行されていないときに機能します。このため、ページ・セット・データ・セットに対する適切なアクセス権以外に特別な許可は必要ありません。キュー・マネージャーの実行中に機能する機能については、CSQUTIL は通常の z/OS バッチ IBM MQ プログラムとして実行し、コマンド・サーバーを通してコマンドを実行し、IBM MQ API を使ってキューにアクセスします。

コマンド・サーバー・キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT, SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL、および SYSTEM.CSQUTIL. *)、IBM MQ DISPLAY コマンドを使用し、IBM MQ API を使用して、管理対象のキューにアクセスします。各機能の詳細については、使用上の注意を参照してください。



重要: CSQUTIL を使用してチャンネルを定義する場合に、接続名に 2 つの部分 (ホスト名とポート番号) を含めるには、許可されているパラメーター数の制限を超えないように、ホスト名とポート番号を単一引用符で囲む必要があります。同様に、接続名に IP アドレスとポート番号を含める場合も、それらのパラメーターを単一引用符で囲む必要があります。

IBM MQ ユーティリティ・プログラムの呼び出し

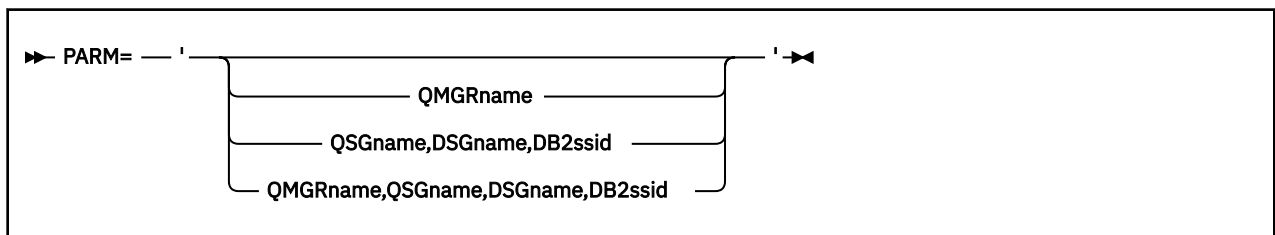
このトピックでは、CSQUTIL を呼び出す方法、そのパラメーターの形式、およびその戻りコードについて知ることができます。

CSQUTIL ユーティリティ・プログラムは、z/OS バッチ・プログラムとして、16 MB のストレージの境界より下で実行されます。JCL の EXEC ステートメントの PARM パラメーターには、ユーティリティが使用するリソースを指定します。

```
// EXEC PGM=CSQUTIL,PARM=
```

図 1. CSQUTIL ユーティリティ・プログラムを呼び出す方法

PARM= は、次のように展開します。



- [PARM パラメーター](#)
- [戻りコード](#)

PARM パラメーター

QMGRname

CSQUTIL の接続先のキュー・マネージャーまたはキュー共有グループの名前 (1 から 4 文字) を指定します。

キュー共有グループの名前を指定する場合は、CSQUTIL がそのグループ内のいずれかのキュー・マネージャーに接続します。

QSGname

CSQUTIL が定義を抽出するキュー共有グループの名前 (1 から 4 文字) を指定します。

DSGname

CSQUTIL が定義を抽出する Db2 データ共有グループの名前 (8 文字) を指定します。

DB2ssid

CSQUTIL がスタンドアロン機能のために接続する Db2 データベース・サブシステムの名前またはグループ接続名 (4 文字) を指定します。

必要な PARM パラメーター

1909 ページの図 1 では、4 つのオプションのうちのいずれかを PARM ステートメントに指定できることが示されています。どのオプションを指定するかは、実装する必要がある機能によって異なります。

- QSGDISP(GROUP) や QSGDISP(SHARED) を使用せずに、オフラインの機能だけを使用する場合は、PARM= を指定します (または何も指定しません)。
- PARM= ' QMGRname ' は、COPY や COMMAND など、キュー・マネージャーの実行を必要とする機能を使用する場合にのみ使用してください。

- QSGDISP (GROUP) または QSGDISP (SHARED) を指定して SDEFS 機能を使用する場合は、`PARM=' QSGname,DSGname,DB2ssid '` を使用してください。CSQUTIL の場合、そのような状況で SDEFS 機能を実行するには、Db2 へのアクセスが必要になるからです。
- 前の 2 つの機能を 1 つの CSQUTIL ジョブで結合する場合は、`PARM=' QMGRname,QSGname,DSGname,DB2ssid '` を使用します。

キュー・マネージャーの名前をブランクとして指定すると、CSQUTIL は CSQBDEFV の中で z/OS バッチ・プログラム用に指定されたデフォルト・キュー・マネージャーの名前を使用します。そのため、ジョブ・ステップ全体にわたり、ユーティリティはこのキュー・マネージャーを使用します。ユーティリティがキュー・マネージャーに接続するときに、「サインオンしたユーザー名」の許可は? 呼び出しで使用が許可されている機能を確認するために検査されます。

SYSIN データ・セット内のステートメントに必要な機能を、次の規則に従って指定します。

- データ・セットのレコード長は 80 です。
- 1 桁目から 72 桁目までだけが有効です。73 桁目から 80 桁目は無視されます。
- 1 桁目にアスタリスク (*) が付いたレコードはコメントとして解釈され、無視されます。
- ブランクのレコードは無視されます。
- 各ステートメントは、新しい行から開始しなければなりません。
- 行末の - は、次レコードの 1 桁目に継続することを意味します。
- 行末の + は、次レコードの最初のブランク以外の桁に継続することを意味します。
- ステートメントのキーワードでは、大/小文字の区別はありません。ただし、一部の引数 (キュー名など) には、大/小文字の区別があります。

ユーティリティ・ステートメントは、入出力のために、デフォルトまたは明示的に指定された DD 名を参照します。ジョブの中では COPY 機能および LOAD 機能を繰り返し使用して、ユーティリティの 1 回の実行の間に、さまざまなページ・セットまたはキューを処理できます。

すべての出力メッセージは、SYSPRINT データ・セットに送られます。そのレコード形式は VBA で、レコード長は 125 でなければなりません。

実行時には、CSQUTIL は、SYSTEM.CSQUTIL.* の形式の名前をもつ一時動的キューを使用します。

戻りコード

COMMAND verb を使用して MQSC コマンドを実行する場合は、FAILURE(CONTINUE) を使用して、実行したコマンドが失敗したらゼロ以外の戻りコードを返すようにする必要があります。デフォルトは FAILURE(IGNORE) であり、コマンドの戻りコードは必ずゼロです。

CSQUTIL がオペレーティング・システムに戻るときの戻りコードには、次のものがあります。

- 0**
すべての機能が正常に終了しました。
- 4**
機能の中には正常に完了したものと正常に完了しなかったものがあります。同期点を強制したのものもあります。
- 8**
試みられた機能は、すべて異常終了しました。
- 12**
機能は試みられませんでした。ステートメントに構文エラーがあったか、または予測したデータ・セットがありませんでした。

ほとんどの場合、機能が異常終了するか、強制的に同期点が取られると、それ以上機能は実行されません。この場合には、通常の完了メッセージ CSQU148I に代わって、メッセージ CSQU147I が出力されます。

正常終了または異常終了の詳細については、個々の機能の使用上の注意事項を参照してください。

同期点

キュー・マネージャーの実行中に使用されるキュー管理機能は、同期点内で操作されます。このため、機能が異常終了した場合にその影響をバックアウトすることができます。キュー・マネージャー属性 **MAXUMSGS** は、タスクが 1 つのリカバリー単位の中で読み取りまたは書き込みができるメッセージの最大数を指定します。

ユーティリティは、**MAXUMSGS** の制限に達したときに **MQCMIT** コールを発行し、警告メッセージ **CSQU087I** を発行します。後でユーティリティが異常終了する場合、既にコミットされた変更はバックアウトされません。

ただ問題を解決するためだけにジョブを再実行することは、適切ではありません。これを行うと、キューにメッセージが重複して入る可能性があります。

その代わりに、現在のキューのサイズを使用して、どのメッセージがバックアウトされていないかを、ユーティリティの出力から調べてください。それから、最も適切な処置を判断してください。例えば、機能が **LOAD** の場合、キューを空にして再び開始するか、またはキュー上の重複メッセージを受け入れることを選択できます。

機能が異常終了したときにこの種の問題を回避するには、2 つのオプションがあります。

1. 一時的に、**MAXUMSGS** を以下よりも大きい値に設定してください。

- キューの中のメッセージの数 (単一キューで作業している場合)。
- ページ・セット内の最も長いキューの中のメッセージの数 (ページ・セット全体で作業している場合)。

CURDEPTH 属性の値を調べるには、**DISPLAY QSTATUS** コマンドを使用します。

MAXUMSGS の値を調べるには、**DISPLAY QMGR MAXUMSGS** コマンドを使用します。

その後、コマンドを再実行し、ユーティリティが正常に実行された後で、**MAXUMSGS** を以前の値に戻します。

注: この方法はよりシンプルですが、1 つの作業単位で大量のメッセージを持つことは、CPU コストが高くなる可能性があります。

2. このユーティリティを使用して、一時キューにメッセージをロードします。

なお、失敗した場合は一時キューを削除して、ジョブを再実行することができます。

次に、**MQSC MOVE** コマンドを使用して、一時キューからターゲット・キューにメッセージを移動します。以下に例を示します。

```
MOVE QL(tempq) TOQLLOCAL(targetq) TYPE(ADD)
```

コマンドが正常に完了すると、一時キューを削除することができます。

この方法では時間がかかりますが、メッセージを少数の作業単位で移動すると、CPU コストの面でより効率的になります。

IBM MQ ユーティリティ・プログラムの進行状況の監視

SYSPRINT へのステートメント出力を監視することによって、**CSQUTIL** プログラムの進行状況を監視することができます。

CSQUTIL の進行状況を記録するために、すべての **SYSIN** ステートメントが、**SYSPRINT** にエコーされます。

ユーティリティは、まず **SYSIN** 内のステートメントの構文を検査します。要求された機能は、すべてのステートメントが構文上正しい場合にのみ始動します。

各機能の進行状況を説明するメッセージが、**SYSPRINT** に送られます。ユーティリティの処理が完了すると、機能がどのように終了したかの表示と共に、統計が印刷されます。

ページ・セットのフォーマット (FORMAT)

CSQUITL プログラムを使用して、ページ・セットをフォーマット設定できます。

DD 名 CSQP0000 から CSQP0099 に指定した、すべてのデータ・セット上のページ・セットをフォーマットするには、FORMAT 機能を使用します。これにより、ユーティリティー・プログラムを一度呼び出すだけで、最大 100 個までのページ・セットをフォーマットできます。既存のデータ・セットを再使用するには、FORCE キーワードを使用します。

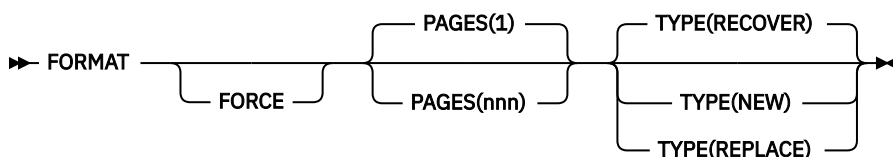
また、FORMAT 機能を使用すると、キュー・マネージャーが TYPE キーワードを使用して開始するときに、ページ・セットに対して実行される回復処理を変更することができます。この方法は、ページ・セットを変更または回復したり、オフラインであったページ・セットや中断されたページ・セットを再導入したりするのに役立ちます。

必要な権限は次のとおりです。

- データなしでページ・セットを復元するには、TYPE(NEW) オプションを指定した FORMAT を使用します。
- 旧データでページ・セットを復元するには、TYPE(REPLACE) オプションを指定した FORMAT を使用します。
- 最新にした旧データでページ・セットを復元するには、FORMAT を使用せず、そのページ・セットのバックアップ・コピーを使ってキュー・マネージャーを開始します。

ページ・セットには ID (PSID。範囲は 00 から 99 まで) が付いています。これは、キュー・マネージャー始動のタスク・プロシージャでデータ・セットに使用された DDname によって設定されます。DDname CSQP00nn は、その ID nn によってページ・セットを指定します。FORMAT 機能に使用する DDname は、キュー・マネージャー始動のタスク・プロシージャで使用される名前と対応する必要はなく、したがって、ページ・セット ID に関しては何の意味もありません。

Page set management (FORMAT)



- [キーワードおよびパラメーター](#)
- [例](#)
- [使用上の注意](#)

キーワードおよびパラメーター

FORCE

最初に既存のデータ・セットを削除および再定義せずに、既存のデータ・セットをそのまま再使用することを指定します。再使用したいすべてのページ・セットは、AMS DEFINE CLUSTER ステートメントの REUSE 属性で定義する必要があります。

REUSE について詳しくは、DEFINE CLUSTER コマンドの「[オプション・パラメーター](#)」セクションを参照してください。

以下のコードは、REUSE を設定する方法の例です。

```
//IDCAMS EXEC PGM=IDCAMS,REGION=0M
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
ALTER VICY.MQOM.PSID04 REUSE
/*
```

REUSE オプションを取り消すには、ALTER 属性を使用して REUSE パラメーターを NOREUSE に変更します。

TYPE(REPLACE) を指定している場合は、FORCE キーワードは無効です。

PAGES(nnn)

1つのページ・セット内でフォーマットするページ数の最小値を指定します。これを使用すると、複数のボリュームにまたがったデータ・セットをフォーマットできます。

データ・セットのフォーマットは、常にスペース割り振り全体の中で、データ・セットの定義時に1次または2次量として指定されたとおりに行われます。フォーマットされるスペース割り振りの数は、要求されたページ数を提供するために必要な最小値です。使用可能なデータ・セット・スペースが十分でない場合は、入手できる限りの数のエクステンツがフォーマットされます。既存のページ・セットが (FORCE キーワードで) 再利用される場合は、そのページ・セットの方が大きくても、そのページ・セット全体がフォーマットされます。

ページ数は、1 から 16 777 213 の範囲内でなければなりません (ページ・セットの最大サイズは 64 GB (ギガバイト) のため)。デフォルトは、1 です。

TYPE(REPLACE) を指定している場合は、PAGES キーワードは無効です。

タイプ

キュー・マネージャーのページ・セットに対して実行される回復処理のタイプを指定します。値は次のとおりです。

RECOVER

RECOVER は、キュー・マネージャーにとって新規のページ・セットになる (すなわち、これまで使用されたことのない PSID を持つことになる) データ・セットに使用します。

これがデフォルトです。

データ・セットはフォーマットされ、メッセージまたは他のデータは消去されます。このデータ・セットを指定する新規 PSID の DDname をキュー・マネージャーの開始済みタスク・プロシージャに追加した場合、キュー・マネージャーが再始動されると新規ページ・セットとして認識されます。

このようなデータ・セットが、以前使用された PSID を持つページ・セットとして使用された場合、キュー・マネージャーは再始動時に、そのページ・セットが最初に使用された時点にさかのぼって、そのページ・セットを参照するストレージ・クラスを使用するすべてのキューとそれらのメッセージを回復しようとします。このため、再始動は時間のかかるプロセスとなるおそれがあり、おそらく期待とは異なることになります。

NEW

NEW は、これまでに PSID がキュー・マネージャーに使用されていたページ・セットであるデータ・セットにおいて、データを廃棄できる場合に使用します。障害が起こったキュー・マネージャーを迅速に再始動したり、ページ・セットがオフラインまたは中断状態になった後に再導入したりすることができます。

データ・セットはフォーマットされ、メッセージまたは他のデータは消去されます。このデータ・セットを指定する古い PSID 用の DDname とともにキュー・マネージャーを再始動した場合は、そのページ・セットは、回復されず、キュー・マネージャーに新たに追加されたかのように処理されて、それに関するヒストリー情報は廃棄されます。再始動処理中に非持続メッセージが消去されるのと同じように、このページ・セットを参照するストレージ・クラスを使用するすべてのキューからすべてのメッセージが消去されます。したがって、再始動にかかる時間は影響を受けません。

REPLACE

REPLACE は、これまでに PSID がキュー・マネージャーに使用されていたデータ・セットにおいて、データが整合していて最新であることがわかっている場合に使用します。ページ・セットはオフラインまたは中断状態になった後に再導入されます。

データ・セットはフォーマットされず、メッセージまたはデータは保存されます。このデータ・セットを指定する PSID 用の DDname を使用してキュー・マネージャーを再始動した場合、そのページ・セットは回復されず、オフラインまたは中断状態になったことがないものとして処理され、そ

れに関するヒストリー情報は保持されます。このページ・セットを参照するストレージ・クラスを使用するすべてのキューは、そのメッセージを保持します。したがって、再始動にかかる時間は影響を受けません。

このオプションは、ページ・セットの内容が一貫している場合だけ、有効です。すなわち、最後に使用されたときに、キュー・マネージャーが STOP QMGR MODE(FORCE) または MODE(QUIESCE) コマンドで正常に終了している場合です。

例

1914 ページの図 2 は、FORMAT コマンドを CSQUTIL から呼び出す方法を示しています。この例では、CSQP0000 および CSQP0003 という 2 つのページ・セットが、CSQUTIL によりフォーマットされます。

```
//FORMAT EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//CSQP0000 DD DISP=OLD,DSN=pageset.dsname0
//CSQP0003 DD DISP=OLD,DSN=pageset.dsname3
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FORMAT
/*
```

図 2. CSQUTIL の FORMAT 機能のためのサンプル JCL

1914 ページの図 3 は、TYPE オプションを指定した FORMAT コマンドを CSQUTIL から呼び出す方法を示しています。この例では、CSQP0003 によって参照されるページ・セットが CSQUTIL によってフォーマットされます。

```
//FORMAT EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//CSQP0003 DD DISP=OLD,DSN=page set.dsname3
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FORMAT TYPE(RECOVER)
/*
```

図 3. TYPE オプションを指定した CSQUTIL の FORMAT 機能のためのサンプル JCL

使用上の注意

1. まだ実行中のキュー・マネージャーに属するページ・セットをフォーマットすることはできません。
2. FORMAT を使用する場合は、キュー・マネージャー名を指定する必要はありません。
3. TYPE(REPLACE) を使用する場合、ページ・セットがキュー・マネージャーで初めて使用されるときに開始する回復ログ、またはページ・セットが最後にフォーマットされたときに開始する回復ログが使用可能でなければなりません。
4. キュー・マネージャーが高位修飾子になっているデータ・セット名を使用すれば、複数のキュー・マネージャーが定義されている場合に、そのページ・セットが使用されているキュー・マネージャーをさらに容易に識別できます。
5. 不完全な作業単位を解決するために資源を更新する際に、その更新が TYPE(REPLACE) か TYPE(NEW) を指定してフォーマットされたページ・セット中のページに関連している場合は、この更新は完了しません。資源の更新は停止します。
6. ページ・セットのフォーマット時にエラーがあった場合でも、他のページ・セットのフォーマットが妨げられることはありません。ただし、FORMAT 機能は異常終了したと見なされます。
7. この機能が異常終了しても、他の CSQUTIL 機能の試行が妨げられることはありません。

ページ・セット情報 (PAGEINFO)

1 つ以上のページ・セットからページ・セット情報を抽出するには、PAGEINFO 機能を使用します。この場合、必要なページ・セット情報があるソース・データ・セットの DD 名を、CSQP0000 から CSQP0099 の範囲内で指定します。

Page set management (PAGEINFO)

▶ PAGEINFO ◀

キーワードおよびパラメーター

いずれもありません。

例

1915 ページの図 4 では、2 つの既存のページ・セットからのページ・セット情報が必要です。

```
//PAGEINFO EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//CSQP0001 DD DISP=OLD,DSN=page set.existing.name1
//CSQP0006 DD DISP=OLD,DSN=page set.existing.name6
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD
* Extract page set information for 2 existing page sets (CSQS0001 and CSQS0006)
PAGEINFO
/*
```

図 4. PAGEINFO 機能の使用法を示すサンプル JCL

ここで、

CSQP0001, CSQP0006

ページ・セット情報の抽出元にするソース・データ・セットの DD 名。

以下を含む情報が PAGEINFO から戻されます。

- ページ・セット番号
- ページ・セット中のページの数
- ページ・セットに関連付けられているキュー・マネージャー
- ユーティリティー状況情報
- ページ・セットごとのページ・セット・リカバリー RBA
- PAGEINFO 機能で報告されるすべてのページ・セットのシステム・リカバリー RBA

使用上の注意

1. 実行中のキュー・マネージャーのページ・セットに PAGEINFO を使用することはできません。
2. この機能が異常終了しても、他の CSQUTIL 機能の試行が妨げられることはありません。
3. キュー・マネージャーが異常終了した後で PAGEINFO 機能を使用しようとした場合、ページ・セットが正しくクローズされていないことがあります。ページ・セットが正しくクローズされていないと、そのページ・セットに対する PAGEINFO を正常に実行することができません。この問題を避けるためには、PAGEINFO 機能を使用する前に、AMS VERIFY コマンドを実行してください。AMS VERIFY コマンドにより、エラー・メッセージが出されることがあります。しかし、このコマンドはページ・セットを正しくクローズするので、PAGEINFO 機能を正常に終了させることができます。

AMS VERIFY コマンドの詳細については、「DFSMS/MVS Access Method Services for VSAM」、または「DFSMS/MVS 統合カタログ機能 (ICF) のためのアクセス方式サービス」の資料を参照してください。

4. システム・リカバリー RBA は、処理されるページ・セットだけに関連付けられます。キュー・マネージャーに属するページ・セットがすべて含まれていない限り、キュー・マネージャー全体には関連付けられません。複数のキュー・マネージャーからのページ・セットの場合は、システム・リカバリー RBA は判別できません。

ページ・セットの拡張 (COPYPAGE)

COPYPAGE 機能を使用して、1 つまたはそれ以上のページ・セットを、それらより大きいページ・セットにコピーします。

注: COPYPAGE 機能は、ページ・セットの拡張のためだけに使用されます。ページ・セットのバックアップ・コピーには使用されません。バックアップ・コピーには、[ページ・セットのバックアップおよび回復の方法](#)で説明されている AMS REPRO を使用してください。COPYPAGE 機能を実行したページ・セットは、別の名前のキュー・マネージャーでは使用できません。キュー・マネージャーの名前は変更しないでください。

COPYPAGE 機能を使用して、1 つまたはそれ以上のページ・セットを、それらより大きいページ・セットにコピーします。ページ・セット上にあるすべてのキューとメッセージがコピーされます。ページ・セット・ゼロをコピーすると、すべての IBM MQ オブジェクト定義もコピーされます。各ページ・セットが宛先のデータ・セットにコピーされますが、この宛先のデータ・セットは、ページ・セットとしてフォーマットされている必要があります。より小さいページ・セットへのコピーは、サポートされていません。

この機能を使用する場合、新しいページ・セットが存在するデータ・セットの名前の変更が反映されるよう、開始済みタスク・プロシージャ内のページ・セット定義を修正する必要があります。

COPYPAGE 機能を使用するためには、コピー元のデータ・セットとして CSQS0000 から CSQS0099 の範囲の DD 名を定義し、コピー先のデータ・セットとして CSQT0000 から CSQT0099 の DD 名を定義します。

詳しくは、[ページ・セットの管理](#)を参照してください。

Page set management (COPYPAGE)

➡ COPYPAGE ➡

キーワードおよびパラメーター

いずれもありません。

例

COPYPAGE 機能の使用法を示すサンプル JCL では、2 つの既存ページ・セットが 2 つの新しいページ・セットにコピーされます。このための手順は、次のとおりです。

1. 必要な DD 名をセットアップします。それらの DD 名は次のとおりです。

CSQP0005, CSQP0006

宛先のデータ・セットを識別します。これらの DD 名は FORMAT 機能によって使用されます。

CSQS0005, CSQS0006

コピーしたい 2 つのページ・セットが入っているコピー元のデータ・セットを識別します。

CSQT0005, CSQT0006

宛先のデータ・セット (ページ・セット) を識別します。これは COPYPAGE 機能によって使用されます。

2. FORMAT 機能を使用して、DD 名の CSQP0005 および CSQP0006 で参照される宛先データ・セットを、ページ・セットとしてフォーマットします。
3. COPYPAGE 機能を使用して、2 つの既存のページ・セットを新しいページ・セットにコピーします。


```

//JOB LIB DD DISP=SHR,DSN=ANTZ.MQ.&VER..&LVL..OUT.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=ANTZ.MQ.&VER..&LVL..OUT.SCSQAUTH
//*
//S1 EXEC PGM=IDCAMS
//* Delete any prior attempt, then allocate a new larger pageset
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DELETE 'VICY.MQ38.PAGE01.NEW' CLUSTER
DEFINE CLUSTER (NAME('VICY.MQ38.PAGE01.NEW') +
MODEL('VICY.MQ38.PAGE01') +
DATA CLAS(EXTENDED) +
LINEAR CYLINDERS(100,50))
//*
//MQMUTIL EXEC PGM=CSQUTIL,PARM='',REGION=4M
//* CSQUTIL
//* FORMAT acts on DDNAME like CSQPnnnn
//* optional, FORMAT PAGES(nnn) to force allocation and format of
//* secondary extents.
//* COPYPAGE copies from source, CSQSnnnn
//* to target, CSQTnnnn
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//CSQP0001 DD DISP=SHR,DSN=VICY.MQ38.PAGE01.NEW
//CSQS0001 DD DISP=SHR,DSN=VICY.MQ38.PAGE01
//CSQT0001 DD DISP=SHR,DSN=VICY.MQ38.PAGE01.NEW
//SYSIN DD *
FORMAT
COPYPAGE
//*
//RENAME EXEC PGM=IDCAMS
//* the cluster and data components must be renamed independently
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
ALTER 'VICY.MQ38.PAGE01' NEWNAME('VICY.MQ38.PAGE01.OLD')
ALTER 'VICY.MQ38.PAGE01.DATA' +
NEWNAME('VICY.MQ38.PAGE01.OLD.DATA')
ALTER 'VICY.MQ38.PAGE01.NEW' +
NEWNAME('VICY.MQ38.PAGE01')
ALTER 'VICY.MQ38.PAGE01.NEW.DATA' +
NEWNAME('VICY.MQ38.PAGE01.DATA')
/*

```

図 5. COPYPAGE 機能の使用法を示すサンプル JCL

使用上の注意

1. 実行中のキュー・マネージャーのページ・セットに COPYPAGE を使用する ことはできません。
2. COPYPAGE の使用には、キュー・マネージャーの停止が含まれます。この結果、非持続メッセージは失われます。
3. COPYPAGE を使用する前に、新しいデータ・セットは、ページ・セットとしてあらかじめフォーマットされている必要があります。フォーマットを行うためには、FORMAT 機能を使用します ([1917 ページの図 5](#) を参照)。
4. 新しい (コピー先) データ・セットが、古い (コピー元) データ・セットより大きくなるようにしてください。
5. ページ・セットに関連づけられたページ・セット ID (PSID) は変更できません。例えば、ページ・セット 03 をページ・セット 05 に「変更する」ことはできません。
6. この機能が異常終了しても、他の CSQUTIL 機能の試行が妨げられることはありません。
7. キュー・マネージャーが異常終了した後で COPYPAGE 機能を使用しようとした場合、ページ・セットが正しくクローズされていないことがあります。ページ・セットが正しくクローズされていないと、そのページ・セットに対する COPYPAGE を正常に実行することができません。

この問題を避けるためには、COPYPAGE 機能を使用する前に、AMS VERIFY コマンドを実行してください。AMS VERIFY コマンドにより、エラー・メッセージが出されることがあります。しかし、このコマンドはページ・セットを正しくクローズするので、COPYPAGE 機能を正常に終了させることができます。

AMS VERIFY コマンドの詳細については、「*DFSMS/MVS Access Method Services for VSAM*」、または「*DFSMS/MVS 統合カタログ機能 (ICF) のためのアクセス方式サービス*」の資料を参照してください。

8. **DATA CLAS** パラメーターでの EXTENDED 属性の使用法については、[4 GB より大きくするためのページ・セットの定義](#)を参照してください。

ページ・セットのコピーとログのリセット (RESETPAGE)

RESETPAGE 機能は COPYPAGE 機能と似ていますが、RESETPAGE 機能では、さらに新しいページ・セットの中のログ情報のリセットも行うことができます。

RESETPAGE を使用することにより、対応するログ・データ・セットが破壊されている場合でも、内容が分かっている正しいページ・セットの組からキュー・マネージャーを再始動できます。

RESETPAGE に対するソース・ページ・セットは、一貫した状態になっている必要があります。そのページ・セットは、次のいずれかでなければなりません。

- IBM MQ コマンド STOP QMGR を使用してキュー・マネージャーで正常に終了されたページ・セット
- 正常に停止されたページ・セットのコピー

RESETPAGE 機能は、ファジー・バックアップ (方法 2: [ファジー・バックアップ](#)を参照) を使用して作成されたページ・セットのコピーに対して、または異常終了したキュー・マネージャーのページ・セットに対しては実行しないでください。

RESETPAGE は次のいずれかを実行できます。

- DD 名 CSQS0000 から CSQS0099 で参照されるすべてのデータ・セット上のページ・セットを、DD 名 CSQT0000 から CSQT0099 で参照される新しいデータ・セットにコピーします。この機能を使用する場合、新しいページ・セットが存在するデータ・セットの名前の変更が反映されるよう、開始済みタスク・プロシージャー内のページ・セット定義を修正します。
- DD 名 CSQP0000 から CSQP0099 で参照されるページ・セットのログ情報をリセットします。

詳しくは、[ページ・セットの管理](#)を参照してください。

RESETPAGE 機能の使用

RESETPAGE 機能を使用して、一貫したページ・セットの組を更新できます。その結果、このページ・セットを、新しい (空の) BSDS およびログ・データ・セットの組とともに使用して、キュー・マネージャーを開始できます。RESETPAGE 機能を使用する必要があるのは、ログの両方のコピーが失われたかまたは損傷した場合だけです。ページ・セットのバックアップ・コピーから (ただし、コピーが作成された時点以降のデータは消失します)、または既存のページ・セットから再始動できます。

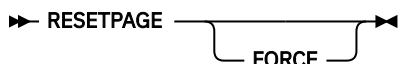
このような状況では、影響を受けたキュー・マネージャーの**すべての**ページ・セットに対して RESETPAGE 機能を使用してください。新しい BSDS およびログ・データ・セットの作成も行う必要があります。

注: RESETPAGE 機能は、IBM MQ に認識されているページ・セットのサブセットには使用しないでください。

いずれかのページ・セットに対して RESETPAGE 機能を実行する場合に、キュー・マネージャーに空の BSDS およびログ・データ・セットを与えないと、IBM MQ は、ログを RBA ゼロから回復しようとし、そのページ・セットを空として取り扱います。例えば、空の BSDS およびログ・データ・セットの組を与えずに、RESETPAGE 機能を使ってページ・セット 0、1、2、および 3 を生成しようとする、次のようなメッセージが出されます。

```
CSQI021I +CSQ1 CSQIECUR PAGE SET 0 IS EMPTY. MEDIA RECOVERY STARTED
CSQI021I +CSQ1 CSQIECUR PAGE SET 1 IS EMPTY. MEDIA RECOVERY STARTED
CSQI021I +CSQ1 CSQIECUR PAGE SET 2 IS EMPTY. MEDIA RECOVERY STARTED
CSQI021I +CSQ1 CSQIECUR PAGE SET 3 IS EMPTY. MEDIA RECOVERY STARTED
```

Page set management (RESETPAGE)



キーワードおよびパラメーター

FORCE

DD 名 CSQP0000 から CSQP00nn で指定されるページ・セットが所定の位置でリセットされることを指定します。

FORCE が指定されていない場合、DD 名 CSQS0000 から CSQS00nn で指定されるページ・セットは、DD 名 CSQT0000 から CSQT00nn で指定される新規のページ・セットにコピーされます。これがデフォルトです。

まずページ・セットのコピーを作成してください。この操作を実行するためのサンプル JCL については、[ページ・セットのバックアップ](#)を参照してください。

例

DD 名の CSQS0007 で参照される既存のページ・セットを、DD 名の CSQT0007 で参照される新しいデータ・セットにコピーします。この新しいデータ・セットは、DD 名の CSQP0007 でも参照され、RESETPAGE 機能が呼び出される前に、ページ・セットとしてすでにフォーマットされています。

```
//RESTPAGE EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//CSQP0007 DD DISP=OLD,DSN=pageset.newname7
//CSQS0007 DD DISP=OLD,DSN=pageset.oldname7
//CSQT0007 DD DISP=OLD,DSN=pageset.newname7
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
* Format new data set, CSQP0007, as page set
FORMAT
* Copy page set CSQS0007 to CSQT0007 and reset it
RESETPAGE
/*
```

図 6. RESETPAGE 機能の使用法を示すサンプル JCL

使用上の注意

1. キュー・マネージャーが異常終了した後のページ・セットに対しては、RESETPAGE 機能を使用しないでください。異常終了したキュー・マネージャーのページ・セットには、整合性のないデータが入っている可能性があります。この状態のページ・セットで RESETPAGE を使用すると、データの整合性に問題が発生します。
2. 実行中のキュー・マネージャーに属しているページ・セットに RESETPAGE を使用することはできません。
3. RESETPAGE を使用する前に、新規データ・セットはページ・セットとしてあらかじめフォーマットされている必要があります。フォーマットを行うためには、FORMAT 機能を使用します ([1919 ページの図 6](#) を参照)。
4. 新しい(コピー先) データ・セットが、古い(コピー元) データ・セットより大きくなるようにしてください。
5. ページ・セットに関連づけられたページ・セット ID (PSID) は変更できません。例えば、ページ・セット 03 をページ・セット 05 に「変更する」ことはできません。
6. この機能が異常終了しても、他の CSQUTIL 機能の試行が妨げられることはありません。

CSQUTIL の COMMAND 機能の使用

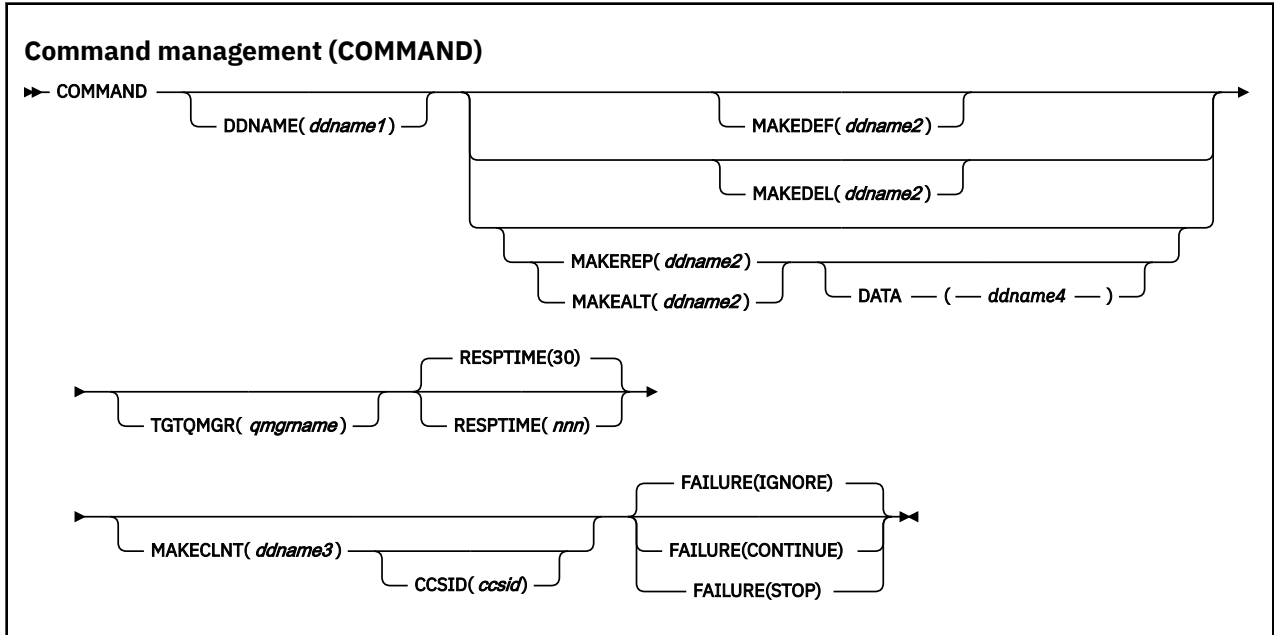
CSQUTIL の COMMAND 機能を使用して、キュー・マネージャーにコマンドを送信することができます。

COMMAND 機能は、次の目的で使用します。

1. コマンドを入力データ・セットからキュー・マネージャーへ渡すため

2. キュー・マネージャー内のオブジェクトを記述した **DEFINE** コマンドのリストを生成するため。このコマンドは、オブジェクト定義のレコードを保存するために、またはキュー・マネージャーから他のキュー・マネージャーへのマイグレーションの一部としてキュー・マネージャーのオブジェクトの全部または一部を再生成するために使用できます。
3. キュー・マネージャー内のオブジェクトのセットを変更または削除する コマンドのリストを生成するため
4. クライアント・チャンネル定義ファイルを作成するため

EXEC ステートメントの **PARM** パラメーターに指定した キュー・マネージャーが実行されていなければなりません。



- [キーワードおよびパラメーター](#)
- [例](#)
- [CSQUTIL COMMAND の使用上の注意](#)

FAILURE (IGNORE) を使用した場合、ジョブ・ステップは常に戻りコード 0 を取得します。

FAILURE (STOP) または **FAILURE (CONTINUE)** を使用した場合、ステートメントからゼロ以外の戻りコードが戻されると、ジョブ・ステップは戻りコード 8 を取得します。

定義内のエラーを報告するには、**FAILURE (STOP)** または **FAILURE (CONTINUE)** を使用する必要があります。

キーワードおよびパラメーター

DDNAME(ddname1)

指名された入力データ・セットから、コマンドが読み取られることを指定します。このキーワードを省略すると、デフォルト DD 名の CSQUCMD が使用されます。

ddname1 は、コマンドを読み取る入力データ・セットを識別する DD 名を指定します。

MAKEDEF(ddname2), MAKEDEL(ddname2), MAKEREP(ddname2), MAKEALT(ddname2)

コマンドが入力データ・セットの中の DISPLAY オブジェクト・コマンドから生成されることを指定します。

生成されるコマンドは次のとおりです。

MAKEDEF

DISPLAY コマンドで戻されるすべての属性と値を指定した DEFINE NOREPLACE。キュー・マネージャー・オブジェクトの場合、ALTER コマンドがすべての属性と値を指定して生成されます。チャンネル認証レコードでは、SET コマンドが生成されます。

CSQUTIL SDEFS および CSQUTIL COMMAND の両方で MAKEDEF オプションを指定すると、キュー・マネージャーに現在定義されているオブジェクトを再作成するための MQSC コマンド・セットを生成できます。

この2つの相違点は、CSQUTIL COMMAND はアクティブのキュー・マネージャーに対して実行する必要があり、オブジェクト定義の定期的なバックアップに最適であるのに対し、CSQUTIL SDEFS は現在実行されていないキュー・マネージャーの定義を再作成するために使用できる点です。そのため、リカバリー・シナリオには CSQUTIL SDEFS オプションの方が適しています。

MAKDEL

DELETE。ローカル・キューの場合は NOPURGE が使用されます。チャンネル認証レコードでは、ACTION(REMOVE) を指定した SET コマンドが使用されます。

MAKEREP

DATA キーワードによって指定されたデータ・セットからの任意のキーワードと値を使用した DEFINE REPLACE。チャンネル認証レコードでは、ACTION(REPLACE) を指定した SET コマンドが使用されます。

MAKEALT

DATA キーワードによって指定されたデータ・セットからの任意のキーワードと値を使用した ALTER。チャンネル認証レコードでは、ACTION(REPLACE) を指定した SET コマンドが使用されます。

上記キーワードの1つしか指定できない可能性があります。キーワードが省略されるとコマンドは生成されません。

ddname2 は、DEFINE、DELETE または ALTER コマンドが保管される出力データ・セットを識別する DD 名を指定します。データ・セットは RECFM=FB、LRECL=80 である必要があります。この出力データ・セットは、COMMAND 機能を後で呼び出したときの入力として使用することができます。あるいは、初期設定データ・セット CSQINP1 および CSQINP2 に組み込むこともできます。

DATA(ddname4)

ddname4 には、コマンドのキーワードと値を含むデータ・セットを指定します。MAKEREP または MAKEALT 用に生成された各コマンドには、このデータ・セットから読み取られたキーワードと値が追加されます。

TGTQMGR(qmgrname)

コマンドの実行対象の z/OS キュー・マネージャーの名前を指定します。分散プラットフォーム上では、このオプションを指定してキュー・マネージャーを使用する機能はサポートされていません。ターゲットとして、接続先のキュー・マネージャーとは別のキュー・マネージャーを指定することもできます。その場合は、キュー・マネージャーの別名定義を提供するリモート・キュー・マネージャー・オブジェクトの名前を指定するのが普通です(その名前は、コマンド入力キューをオープンするときの ObjectQMgrName として使用されます)。そのためには、リモート・キュー・マネージャーにアクセスするための適切なキューとチャンネルをセットアップする必要があります。

デフォルトでは、コマンドは EXEC ステートメントの PARM フィールドの指定に従って、接続されているキュー・マネージャーで実行されます。

RESPTIME(nnn)

各コマンドへの応答を待機する時間を、5 から 999 までの秒数で指定します。

デフォルトは 30 秒です。

MAKECLNT(ddname3)

入力データ・セット内の、クライアント接続チャンネルに関する情報を戻す DISPLAY CHANNEL コマンドと、LDAPUSER 属性と LDAPPWD 属性が設定されていない認証情報オブジェクトに関する情報を戻す DISPLAY AUTHINFO コマンドから、クライアント・チャンネル定義ファイルを生成することを指定します。

このキーワードが省略されると、ファイルは生成されません。

重要: MAKECLNT ユーティリティーは、現在 IBM WebSphere MQ 7.1 レベルで固定化されています。
-n オプションを使用して **runmqsc** コマンドを使用する必要があります。詳しくは、[120 ページの『runmqsc』](#)を参照してください。

ddname3 は、生成されたファイルが保管される出力データ・セットを識別する DD 名を指定します。
データ・セットは RECFM=U、LRECL=6144 にする必要があります。そして、ファイルは、適切なファイル転送プログラムによって、2 進データとしてクライアント・マシンへダウンロードすることができます。

CCSID(ccsid)

クライアント・チャネル定義ファイル中のデータに使用されるコード化文字セット ID (CCSID) を指定します。値は 1 から 65535 までの範囲になければなりません。デフォルト値は 437 です。
MAKECLNT を指定する場合は、CCSID のみを指定できます。

注: IBM MQ は、データが ASCII であり、数値データのエンコード方式が MQENC_INTEGER_REVERSED であるものと想定します。

FAILURE

発行された IBM MQ コマンドの実行が失敗した場合に、実行するアクションを指定します。値は次のとおりです。

IGNORE

失敗を無視します。コマンドの読み取りと実行を続行し、COMMAND 機能を正常に終了したものとして処理します。これがデフォルトです。

CONTINUE

入力データ・セット内に残っているコマンドがあれば、それらのコマンドを読み取って実行しますが、COMMAND 機能は異常終了したものとして処理します。

STOP

それ以上コマンドの読み取りや送出手を実行せず、COMMAND 機能も異常終了したものとして処理します。

例

ここでは、以下のことをするために COMMAND 機能を使用するための例を示します。

- [1922 ページの『コマンドの実行』](#)
- [1923 ページの『DEFINE コマンドのリストの作成』](#)
- [1924 ページの『ALTER コマンドのリストの作成』](#)
- [1925 ページの『クライアント・チャネル定義ファイルの作成』](#)

コマンドの実行

[1923 ページの図 7](#)において、DD 名 CSQUCMD および OTHER で参照されるデータ・セットには、1 組のコマンドが入っています。最初の COMMAND ステートメントは、デフォルトの入力データ・セット MY.COMMANDS(COMMAND1) からコマンドを取り出し、キュー・マネージャーに渡します。2 番目の COMMAND ステートメントは、DD 名 OTHER によって参照される入力データ・セット MY.COMMANDS(OTHER1) からコマンドを取り出し、それをキュー・マネージャーに渡します。

```
//COMMAND EXEC PGM=CSQUTIL,PARM='CSQ1'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//CSQUCMD DD DSN=MY.COMMANDS(COMMAND1),DISP=SHR
//OTHER DD DSN=MY.COMMANDS(OTHER1),DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
* THE NEXT STATEMENT CAUSES COMMANDS TO BE READ FROM CSQUCMD DDNAME
COMMAND
* THE NEXT SET OF COMMANDS WILL COME FROM 'OTHER' DDNAME
COMMAND DDNAME(OTHER)
* THE NEXT STATEMENT CAUSES COMMANDS TO BE READ FROM CSQUCMD
* DDNAME AND ISSUED ON QUEUE MANAGER CSQ2 WITH A RESPONSE TIME
* OF 10 SECONDS
COMMAND TGTQMGR(CSQ2) RESPTIME(10)
/*
```

図 7. CSQUTIL を使用して IBM MQ コマンドを実行するためのサンプル JCL

DEFINE コマンドのリストの作成

1924 ページの図 8 において、DD 名 CMDINP によって参照されるデータ・セットには、1 組の DISPLAY コマンドが入っています。これらの DISPLAY コマンドは、各オブジェクト・タイプ (キュー・マネージャー そのものは除く) の総称名を指定します。これらのコマンドを実行すると、すべての IBM MQ オブジェクトが入ったリストが生成されます。これらの DISPLAY コマンドでは、すべてのオブジェクトのすべての属性がリストに組み込まれるようにするため、およびすべてのキュー共有グループの属性指定が組み込まれるようにするために、ALL キーワードが指定されています。

注：DISPLAY STGCLASS を最初のコマンドとして実行しないと、一連の定義をキュー・マネージャーが正常に処理できない可能性があります。STGCLASS を先に定義してから関連キュー・オブジェクトを定義する必要があるからです。MAKEDEFS は、入力の DISPLAY コマンドの順序に基づいて出力を生成します。

MAKEDEF キーワードにより、このリストは、対応する DEFINE NOREPLACE (キュー・マネージャーの場合 ALTER) コマンドのセットに変換されます。これらのコマンドは、MAKEDEF キーワードの *ddname2* パラメーターで参照されるデータ・セット、すなわち、OUTPUT1 に書き込まれます。このコマンド・セットを実行すると、IBM MQ は、キュー・マネージャー内のすべてのオブジェクト定義を再生成します。


```

//QDEFS EXEC PGM=CSQUTIL,PARM='CSQ1'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQAUTH
//OUTPUT1 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(DEFS)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COMMAND DDNAME(CMDINP) MAKEDEF(OUTPUT1)
/*
//CMDINP DD *
DISPLAY STGCLASS(*) ALL QSGDISP(QMGR)
DISPLAY STGCLASS(*) ALL QSGDISP(GROUP)
DISPLAY CFSTRUCT(*) ALL

DISPLAY QUEUE(*) ALL QSGDISP(QMGR)
DISPLAY QUEUE(*) ALL QSGDISP(GROUP)
DISPLAY QUEUE(*) ALL QSGDISP(SHARED)
DISPLAY TOPIC(*) ALL QSGDISP(QMGR)
DISPLAY TOPIC(*) ALL QSGDISP(GROUP)
DISPLAY NAMELIST(*) ALL QSGDISP(QMGR)
DISPLAY NAMELIST(*) ALL QSGDISP(GROUP)
DISPLAY PROCESS(*) ALL QSGDISP(QMGR)
DISPLAY PROCESS(*) ALL QSGDISP(GROUP)
DISPLAY CHANNEL(*) ALL QSGDISP(QMGR)
DISPLAY CHANNEL(*) ALL QSGDISP(GROUP)
DISPLAY AUTHINFO(*) ALL QSGDISP(QMGR)
DISPLAY AUTHINFO(*) ALL QSGDISP(GROUP)
DISPLAY CHLAUTH('*') ALL
DIS SUB(*) SUBTYPE(ADMIN) ALL DISTYPE(DEFINED)

DISPLAY QMGR ALL

/*

```

図 8. COMMAND 機能の MAKEDEF オプションを使用するためのサンプル JCL

ALTER コマンドのリストの作成

1924 ページの図 9 において、DD 名 CMDINP によって参照されるデータ・セットには、「ABC」で始まる名前のローカル・キューすべてのリストを生成する DISPLAY コマンドが入っています。

MAKEALT キーワードにより、このリストは、対応する ALTER コマンドのセット (それぞれに、DD 名 CMDALT で参照されるデータ・セットのデータが含まれる) に変換されます。これらのコマンドは、MAKEALT キーワードの ddname2 パラメーターで参照されるデータ・セット、すなわち、OUTPUTA に書き込まれます。このコマンド・セットを実行すると、名前が「ABC」で始まるすべてのローカル・キューが PUT と GET に対して使用不可となります。

```

//QALTS EXEC PGM=CSQUTIL,PARM='CSQ1 '
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqua1.SCSQAUTH
//OUTPUTA DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(ALTs)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COMMAND DDNAME(CMDINP) MAKEALT(OUTPUTA) DATA(CMDALT)
/*
//CMDINP DD *
DISPLAY QLOCAL(ABC*)
/*
//CMDALT DD *
PUT(DISABLED) +
GET(DISABLED)
/*

```

図 9. COMMAND 機能の MAKEALT オプションを使用するためのサンプル JCL

クライアント・チャンネル定義ファイルの作成

1925 ページの図 10 において、DD 名 CMDCHL によって参照されるデータ・セットには、DISPLAY CHANNEL コマンドと DISPLAY AUTHINFO コマンドが入っています。DISPLAY コマンドは総称名を指定し、すべての属性が組み込まれるように ALL キーワードが指定されます。

MAKECLNT キーワードは、このデータ・セットを対応するクライアント・チャンネル定義の組へ変換します。変換後のチャンネル定義は、MAKECLNT キーワードの *ddname3* パラメーターによって参照されるデータ・セットへ書き込まれます。このデータ・セットは OUTCLNT であり、クライアント・マシンへダウンロードできるようになっています。

```
//CLIENT EXEC PGM=CSQUTIL,PARM='CSQ1'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//OUTCLNT DD DISP=OLD,DSN=MY.CLIENTS
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COMMAND DDNAME(CMDCHL) MAKECLNT(OUTCLNT)
/*
//CMDCHL DD *
DISPLAY CHANNEL(*) ALL TYPE(CLNTCONN)
DISPLAY AUTHINFO(*) ALL
/*
```

図 10. COMMAND 機能の MAKECLNT オプションを使用するためのサンプル JCL

CSQUTIL COMMAND の使用上の注意

1. 入力データ・セットにコマンドを指定するための規則は、初期設定 データ・セットの場合と同じで、次のようになります。

- データ・セットのレコード長は 80 です。
- 1 桁目から 72 桁目までだけが有効です。73 桁目から 80 桁目は無視されます。
- 1 桁目にアスタリスク (*) が付いたレコードは注釈として解釈され、無視されます。
- ブランクのレコードは無視されます。
- 各コマンドは、新しいレコードから開始しなければなりません。
- 行末の - は、次レコードの 1 桁目に継続することを意味します。
- 行末の + は、次レコードの最初のブランク以外の桁に継続することを意味します。
- 1 つのコマンドに使用できる最大文字数は、32 762 です。

次の追加規則があります。

- セミコロン (;) を使用して、コマンドを終了させることができます。レコード内の残りのデータは無視されます。

IBM MQ コマンドの作成規則について詳しくは、639 ページの『コマンド・スクリプトの作成』を参照してください。

2. 1139 ページの『DISPLAY QMGR』コマンドの出力には、すべてのキュー・マネージャー属性が含まれています。**DISPLAY QMGR** コマンドを MAKEDEF の一部として使用すると、チャンネル・イニシエーターがアクティブになる前には実行できない ALTER コマンドが生成される可能性があります。

PSCLUS(DISABLED) の設定は、チャンネル・イニシエーターがアクティブになっている場合にのみ実行できるので、チャンネル・イニシエーターがアクティブになるまで PSCLUS(DISABLED) を設定しないように、生成された ALTER コマンドを変更する必要がある場合があります。

3. MAKEDEF キーワードを指定した場合、次のようになります。

- 入力データ・セットでは、オブジェクトに対する DISPLAY コマンドには、各オブジェクトの完全な定義が生成されるよう、ALL パラメーターを指定する必要があります。1924 ページの図 8 を参照してください。

- 完全な定義を入手するには、次のものを DISPLAY する必要があります。

- キュー
- トピック
- 名前リスト
- プロセス定義
- チャンネル
- ストレージ・クラス
- 認証情報オブジェクト
- CF 構造
- チャンネル認証レコード
- キュー・マネージャー

注: DEFINE コマンドは、動的として識別することができるローカル・キュー または自動的に定義されたチャンネルに対して生成されません。

- 複数の COMMAND 機能に同じ MAKEDEF データ・セットを指定しないでください。ただし、DD ステートメントで DISP=MOD を使用して順次データ・セットを指定する場合は除きます。

4. MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL キーワードを指定した場合、次のようになります。

- 入力データ・セットに、コマンドを生成したいオブジェクト・セットを選択する DISPLAY コマンドを組み込みます。
- MAKEREP と MAKEALT の場合、DATA キーワードによって指定されたデータ・セットのデータ (存在する場合) は、入力されたとおりに、生成されたコマンドごとに追加されます。データ・セットの形式と、コマンドを指定するための規則は、コマンド入力データ・セットの場合と同じです。同一データが各コマンドに追加されるため、いくつかのオブジェクト・セットを処理する場合には、複数の異なる COMMAND 機能を、それぞれ別々の DATA データ・セットで使用する必要があります。
- コマンドは、自動的に定義されたチャンネルに対しては生成されません。

5. MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL キーワードを指定すると、CMDSCOPE が DISPLAY コマンドで使用されても、ターゲット・キュー・マネージャー (TGTQMGR キーワードによって指定されるか、またはデフォルト設定される) によって報告されるオブジェクトに対してのみ生成されます。キュー共有グループの複数のキュー・マネージャーに対してコマンドを生成するには、それぞれ別の COMMAND 機能を使用します。

キュー共有グループでは、キュー、プロセス、チャンネル、ストレージ・クラス、および認証情報オブジェクトには、それぞれ 2 つの DISPLAY コマンド (1 つは QSGDISP(QMGR) を指定したもので、もう 1 つは QSGDISP(GROUP) を指定したもの) が必要です。さらにキューには、QSGDISP(SHARED) を指定した 3 つ目の DISPLAY コマンドが必要です。オブジェクトに対する QSGDISP(GROUP) を指定したコマンドが実行されると、必要なコマンドが自動的に生成されるため、QSGDISP(COPY) を指定する必要はありません。

6. 同じ MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、または MAKEDEL データ・セットを複数の COMMAND 機能に指定しないでください。ただし、DD ステートメントが DISP=MOD を使用して順次データ・セットを指定する場合は除きます。

7. MAKECLNT キーワードを指定した場合、次のようになります。

- 入力データ・セットの中では、各チャンネルおよび認証情報オブジェクトの完全な定義が作成されるよう、チャンネルおよび認証情報オブジェクトの表示コマンドは ALL パラメーターを指定する必要があります。
- DISPLAY コマンドが、特定のチャンネルについて複数回にわたって情報を戻す場合、最後の情報セットだけが使用されます。
- 複数の COMMAND 機能に同じクライアント定義ファイル・データ・セットを指定しないでください。ただし、DD ステートメントで DISP=MOD を使用して順次データ・セットを指定する場合は除きます。

8. DISPLAY コマンドを MAKEDEF、MAKEREP、MAKEALT、MAKEDEL、または MAKECLNT とともに使用すると、結果は SYSPRINT にも送られます。

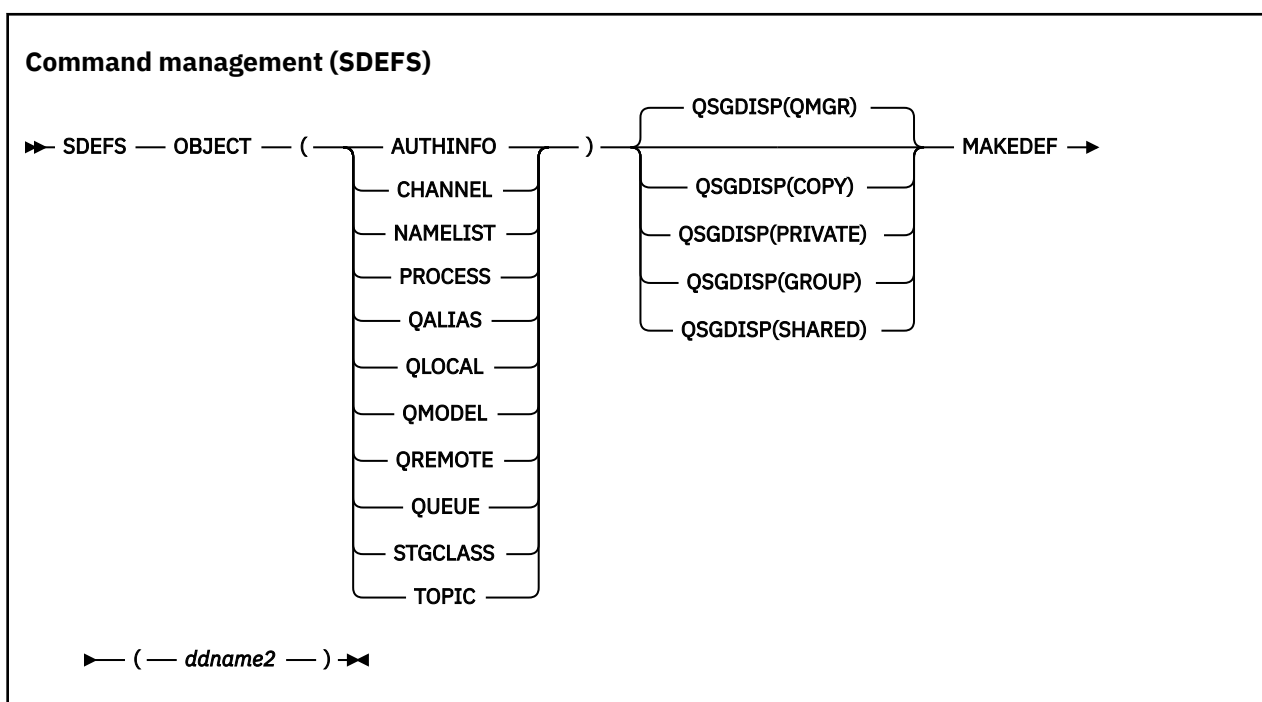
9. FAILURE キーワードを指定した場合、メッセージ CSQN205I に戻されたコードに従って、コマンドが正常に実行されたか失敗したかが判別されます。戻りコードが 00000000 で理由コードが 00000000 または 00000004 である場合は成功です。それ以外の値の場合は失敗です。
 10. 以下の両方とも該当する場合だけ、COMMAND 機能は正常に実行されたと判別されます。
 - ・ 入力データ・セット内のすべてのコマンドが読み取られて実行され、IBM MQ からの応答を取得した (その応答がコマンドの正常な実行を示したかどうかは関係ありません)。
 - ・ FAILURE(CONTINUE) または FAILURE(STOP) が指定されており、送出されたすべてのコマンドが正常に実行された。
- COMMAND が異常終了した場合、それ以降の CSQUTIL 機能は実行されません。
11. コマンド・サーバー・キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT, SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL、および SYSTEM.CSQUTIL。*) また、発行する IBM MQ コマンドを使用します。

IBM MQ 定義コマンドのリストの生成 (SDEFS)

CSQUTIL の SDEFS 機能を使用して、キュー・マネージャーまたはキュー共有グループ内のオブジェクトを記述した DEFINE コマンドのリストを生成することができます。

CSQUTIL SDEFS および CSQUTIL COMMAND の両方で MAKEDEF オプションを指定すると、キュー・マネージャーに現在定義されているオブジェクトを再作成するための MQSC コマンド・セットを生成できます。

この 2 つの相違点は、CSQUTIL COMMAND はアクティブのキュー・マネージャーに対して実行する必要があり、オブジェクト定義の定期的なバックアップに最適であるのに対し、CSQUTIL SDEFS は現在実行されていないキュー・マネージャーの定義を再作成するために使用できる点です。そのため、リカバリー・シナリオには CSQUTIL SDEFS オプションの方が適しています。



- ・ [キーワードおよびパラメーター](#)
- ・ [例](#)
- ・ [使用上の注意](#)

キーワードおよびパラメーター

オブジェクト

リストするオブジェクトのタイプを指定します。

値が QUEUE の場合は、QALIAS、QLOCAL、QMODEL、および QREMOTE を指定したかのように、すべてのタイプのキューがリストされます。

QSGDISP

オブジェクト定義の情報をどこから入手するかを指定します。オブジェクトの定義方法によって、以下のいずれかになります。

- CSQP0000 DD ステートメントで参照されているページ・セット 0
- Db2 共有リポジトリ

有効な値を [1928 ページの表 104](#) に示します。

表 104. SDEFS QSGDISP のパラメーターとアクション	
QSGDISP パラメーター	SDEFS ユーティリティーの動作
QMGR	CSQP0000 DD ステートメントで参照されているページ・セット 0 に入っている定義から、指定のオブジェクト・タイプの DEFINE ステートメントを作成します。(1) QSGDISP(QMGR) で定義されているオブジェクトだけが含まれます。
COPY	CSQP0000 DD ステートメントで参照されているページ・セット 0 に入っている定義から、指定のオブジェクト・タイプの DEFINE ステートメントを作成します。(1) QSGDISP(COPY) で定義されているオブジェクトだけが含まれます。
PRIVATE	CSQP0000 DD ステートメントで参照されているページ・セット 0 に入っている定義から、指定のオブジェクト・タイプの DEFINE ステートメントを作成します。(1) QSGDISP(QMGR) と QSGDISP(COPY) の両方のオブジェクトが含まれます。
GROUP	指定のキュー共有グループの Db2 リソース定義表に入っている定義から、指定のオブジェクト・タイプの DEFINE ステートメントを作成します。 QSGDISP(GROUP) で定義されているオブジェクトだけが含まれます。 CSQP0000 DD ステートメントは必要ありません。オブジェクト定義で指定されている Db2 サブシステムにアクセスされます。Db2 ライブラリー db2qual.SDSNLOAD が必要です。
SHARED	指定のキュー共有グループの Db2 リソース定義表にアクセスして、QSGDISP(SHARED) で定義されているすべてのローカル・キューの DEFINE ステートメントを作成します。 このパラメーターは、OBJECT(QLOCAL) と OBJECT(QUEUE) の場合にのみ指定できます。 CSQP0000 DD ステートメントは必要ありません。オブジェクト定義で指定されている Db2 サブシステムにアクセスされます。Db2 ライブラリー db2qual.SDSNLOAD が必要です。

注：

1. ページ・セット 0 だけがアクセスされるので、キュー・マネージャーが実行中でないことを確認する必要があります。

MAKEDEF(ddname2)

そのオブジェクト用に生成された定義コマンドを、DD 名で識別される出力データ・セットに入れることを指定します。データ・セットは RECFM=FB、LRECL=80 である必要があります。この出力データ・セットは、COMMAND 機能を後で呼び出したときの入力として使用することができます。あるいは、初期設定データ・セット CSQINP1 および CSQINP2 に組み込むこともできます。

生成されるコマンドは、オブジェクトの属性と値がすべて 指定された DEFINE NOREPLACE です。

注: DEFINE コマンドは、動的として識別することができるローカル・キュー または自動的に定義されたチャンネルに対して生成されません。

例

```
//SDEFS EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//CSQP0000 DD DISP=OLD,DSN=pageset.dsname0
//OUTPUT1 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(DEFS)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
SDEFS OBJECT(Queue) MAKEDEF(OUTPUT1)
/*
```

図 11. CSQUTIL の SDEFS 機能のためのサンプル JCL

```
//SDEFS EXEC PGM=CSQUTIL,PARM='Qsgname,Dsgname,Db2name'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
// DD DISP=SHR,DSN=db2qual.SDSNLOAD
//OUTPUT1 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(DEFS)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
SDEFS OBJECT(QLOCAL) QSGDISP(SHARED) MAKEDEF(OUTPUT1)
/*
```

図 12. Db2 共有リポジトリ内のオブジェクトに対する CSQUTIL の SDEFS 機能のためのサンプル JCL

```
//CSQUTIL JOB CLASS=A,MSGCLASS=H,NOTIFY=&SYSUID,REGION=0M
//PS00 EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
//CSQP0000 DD DISP=OLD,DSN=pageset.dsname0
//OUTPUT1 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(CHANNEL)
//OUTPUT2 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(AUTHINFO)
//OUTPUT3 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(NAMELIST)
//OUTPUT4 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(PROCESS)
//OUTPUT5 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(QALIAS)
//OUTPUT6 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(QLOCAL)
//OUTPUT7 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(QMODEL)
//OUTPUT8 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(QREMOTE)
//OUTPUT9 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(QUEUE)
//OUTPUT0 DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(STGCLASS)
//OUTPUTA DD DISP=OLD,DSN=MY.COMMANDS(TOPIC)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
SDEFS OBJECT(CHANNEL) MAKEDEF(OUTPUT1)
SDEFS OBJECT(AUTHINFO) MAKEDEF(OUTPUT2)
SDEFS OBJECT(NAMELIST) MAKEDEF(OUTPUT3)
SDEFS OBJECT(PROCESS) MAKEDEF(OUTPUT4)
SDEFS OBJECT(QALIAS) MAKEDEF(OUTPUT5)
SDEFS OBJECT(QLOCAL) MAKEDEF(OUTPUT6)
SDEFS OBJECT(QMODEL) MAKEDEF(OUTPUT7)
SDEFS OBJECT(QREMOTE) MAKEDEF(OUTPUT8)
SDEFS OBJECT(QUEUE) MAKEDEF(OUTPUT9)
SDEFS OBJECT(STGCLASS) MAKEDEF(OUTPUT0)
SDEFS OBJECT(TOPIC) MAKEDEF(OUTPUTA)
/*
```

図 13. 有効なページ・セットのゼロからすべてのオブジェクトを回復するときの、CSQUTIL の SDEFS 機能のためのサンプル JCL

使用上の注意

1. ローカル定義の場合、実行中のキュー・マネージャーには SDEFS を使用しないでください。使用すると正常な処理を保証できません。CSQP0000 DD ステートメントに DISP=OLD を指定することにより、不注意による SDEFS の誤用を避けることができます。ただし、共有キュー定義またはグループ・キュー定義の場合は、情報が Db2 から取り込まれるので、そのような注意は不要です。
2. ローカル・キューに SDEFS を使用する場合は、キュー・マネージャー名を指定する必要はありません。ただし、共有キュー定義またはグループ・キュー定義の場合は、Db2 にアクセスするためにキュー・マネージャー名の指定が必要になります。
3. ジョブの中で SDEFS 機能を複数回使用するには、この機能を呼び出すたびに、異なる DD 名とデータ・セットを指定するか、順次データ・セットと DISP=MOD を DD ステートメント内に指定します。
4. SDEFS 機能が異常終了した場合、それ以上の CSQUTIL 機能は実行されません。
5. SDEFS 関数は、CHLAUTH、SUB、CFSTRUCT、または QMGR オブジェクトをサポートしません。これらのオブジェクトをサポートするには、CSQUTIL COMMAND 関数を使用します。

関連情報

IBM MQ ユーティリティ・プログラム (CSQUTIL)

キュー・マネージャー実行中のデータ・セットへのキューのコピー (COPY)

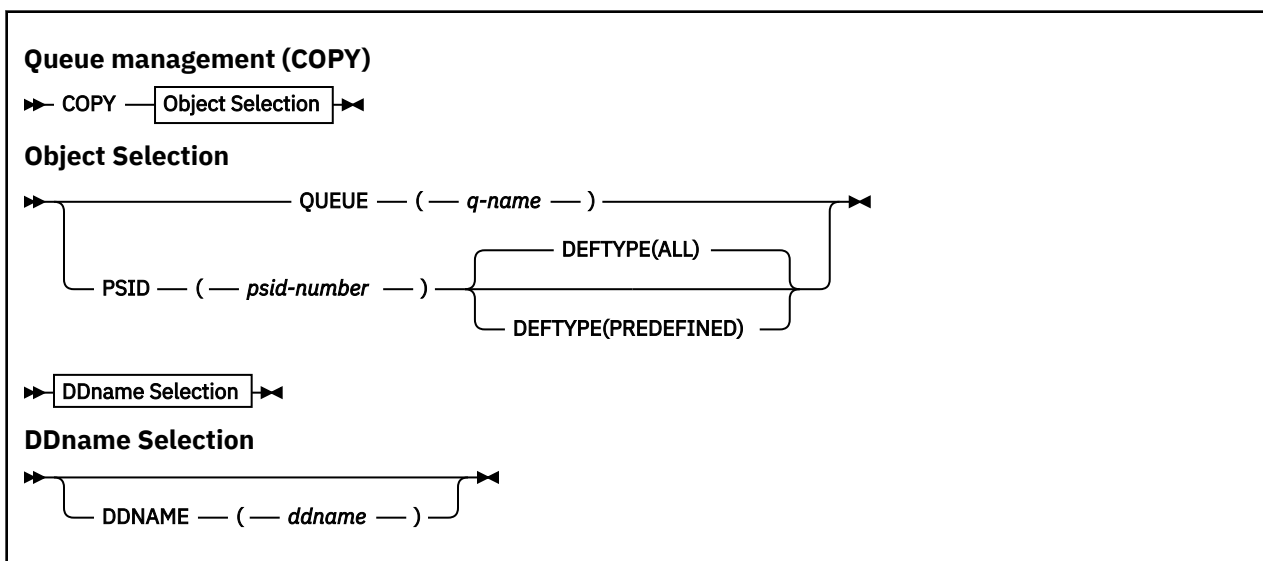
キュー・マネージャーの実行中、CSQUTIL の COPY 機能を使用することで、キューに入れられたメッセージを、元のキュー内のメッセージを破棄することなく順次データ・セットにコピーすることができます。

COPY 機能の有効範囲は、最初のパラメーターに指定したキーワードによって決まります。指定した名前のキューからすべてのメッセージをコピーするか、指定した名前のページ・セットのすべてのキューからすべてのメッセージをコピーすることができます。

補足機能の LOAD を使用して、メッセージを適切なキューに復元します。

注：

1. 指定した名前のページ・セットからオブジェクト定義をコピーするには、COPYPAGE を使用してください。
2. キュー・マネージャーが停止しているときに、メッセージをデータ・セットにコピーする場合は、SCOPY を使用します。
3. この機能が異常終了した場合に重複メッセージに関する問題を回避する方法については、IBM MQ for z/OS アプリケーションの同期点を参照してください。
4. COPY 機能に対する別の方法として、47 ページの『dmpmqmsg』ユーティリティを使用する方法があります。この方法は、多くの場合、より柔軟性があります。



- キーワードおよびパラメーター

- [例](#)
- [使用上の注意](#)

キーワードおよびパラメーター

QUEUE(*q-name*)

指定した名前のキューの中のメッセージがコピーされることを指定します。キーワード QUEUE は、省略して Q にすることができます。

q-name には、コピーするキューの名前を指定します。この名前は、大文字と小文字が区別されます。

PSID(*psid-number*)

指定されたページ・セットの中のすべてのキューにあるすべてのメッセージがコピーされることを指定します。

psid-number は、使用されるページ・セットを指定するページ・セット ID です。この ID は、1つのページ・セットを表す 2 桁の整数です。

DEFTYPE

動的キューをコピーするかどうかを次のように指定します。

ALL

すべてのキューをコピーします。これがデフォルトです。

PREDEFINED

動的キューを含めません。これは、MAKEDEF パラメーターが指定された COMMAND 機能と SDEFS 機能によって選択されたキューのセットと同じものです。

DDNAME(*ddname*)

指定した名前のデータ・セットにメッセージをコピーすることを指定します。このキーワードを省略すると、デフォルト DD 名の CSQUOUT が使用されます。キーワード DDname は DD に省略できます。

ddname には、メッセージを保管するために使用される、宛先のデータ・セットの DD 名を指定します。このデータ・セットのレコード形式は、可変ブロック・スパン (VBS) でなければなりません。

例

```
//COPY EXEC PGM=CSQUTIL,PARM='CSQ1',REGION=0M
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//OUTPUTA DD DSN=SAMPLE.UTILITY.COPYA,DISP=(NEW,CATLG),
// SPACE=(CYL,(5,1),RLSE),UNIT=SYSDA,
// DCB=(RECFM=VBS,BLKSIZE=23200)
//CSQUOUT DD DSN=SAMPLE.UTILITY.COPY3,DISP=(NEW,CATLG),
// SPACE=(CYL,(5,1),RLSE),UNIT=SYSDA,
// DCB=(RECFM=VBS,BLKSIZE=23200)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
* COPY WHOLE PAGE SET TO 'CSQUOUT'
COPY PSID(03)
* COPY ONE QUEUE TO 'OUTPUT'
COPY QUEUE(ABC123A) DDNAME(OUTPUTA)
/*
```

図 14. CSQUTIL COPY 機能のためのサンプル JCL

使用上の注意

1. 関係するキューが使用中のときは、この機能を開始できません。
2. 複数のページ・セットの範囲を操作する場合は、ページ・セットごとに COPY 機能を繰り返し実行してください。
3. この機能は、ローカル・キューに対してのみ操作を行います。

4. COPY PSID 機能は、ページ・セット上のすべてのキューを正常にコピーした場合にのみ、正常に実行されたと見なされます。
5. 空のキューをコピーしようとする (COPY QUEUE を明示的に実行した場合、またはコピーしようとしたページ・セットに 1 つ以上の空のキューが存在していた場合)、この操作を示すデータが順次データ・セットに書き込まれ、コピーは成功したと見なされます。しかし、存在しないキューまたはキューが入っていないページ・セットに対して試行した場合、COPY 機能は異常終了し、データ・セットにデータは書き込まれません。
6. COPY が異常終了した場合、それ以降の CSQUTIL 機能は試行されません。
7. ジョブの中で COPY 機能を複数回使用するには、この機能呼び出すたびに、異なる DD 名とデータ・セットを指定するか、順次データ・セットと DISP=MOD を DD ステートメント内に指定します。
8. コマンド・サーバー・キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT, SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL、および SYSTEM.CSQUTIL. *)、DISPLAY QUEUE および DISPLAY STGCLASS MQSC コマンドを使用し、MQOO_INPUT_EXCLUSIVE および MQOO_BROWSE オプションを指定して、コピーするキューを開きます。
9. **REGION** パラメーターの値 0M は、ジョブが、必要とする量のストレージを取得できることを意味します。ただし、ジョブが取得しようとするストレージが大きすぎると、システムの他のジョブに影響を与える可能性があります。理想的には、REGION サイズを制限し、ジョブに取得を許可する絶対的な最大値を指定する必要があります。

キュー・マネージャーが実行されていないときのデータ・セットへのキューのコピー (SCOPY)

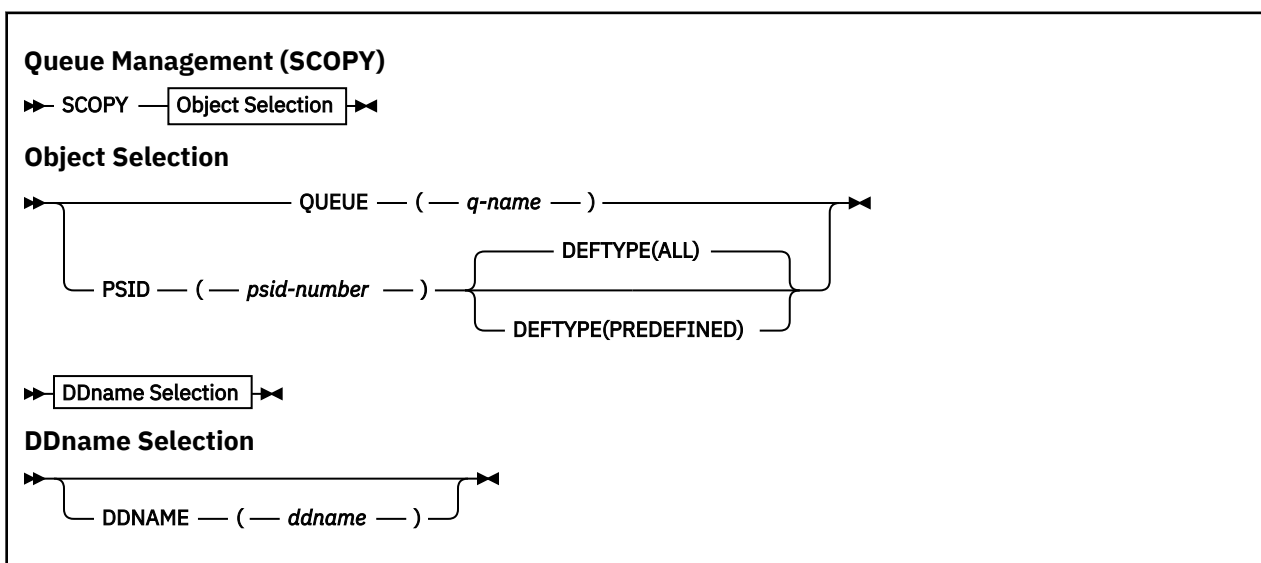
キュー・マネージャーが実行されていないときに、CSQUTIL の SCOPY 機能を使用することで、キューに入れたメッセージを、元のキュー内のメッセージを破棄することなく順次データ・セットにコピーすることができます。

SCOPY 機能の有効範囲は、最初のパラメーターに指定したキーワードによって決まります。指定した名前のキューからすべてのメッセージをコピーするか、指定した名前のページ・セットのすべてのキューからすべてのメッセージをコピーすることができます。

補足機能の LOAD を使用して、メッセージをそのキューに復元します。

SCOPY 機能を使用するには、DD 名 CSQP0000 には、必要なサブシステム用としてページ・セット・ゼロを持つデータ・セットを指定しなければなりません。

注：SCOPY 機能は、共有キューでは実行できません。



- [キーワードおよびパラメーター](#)
- [例](#)
- [使用上の注意](#)

キーワードおよびパラメーター

QUEUE(*q-name*)

指定した名前のキューの中のメッセージがコピーされることを指定します。キーワード QUEUE は、省略して Q にすることができます。

q-name には、コピーするキューの名前を指定します。この名前は、大文字と小文字が区別されます。

DD 名 CSQP00*nn* には、必要なサブシステム用としてページ・セット *nn* を持つデータ・セットを指定しなければなりません。ここで *nn* はそのキューが存在するページ・セットの番号です。

PSID(*psid-number*)

指定されたページ・セットの中のすべてのキューにあるすべてのメッセージがコピーされることを指定します。

psid-number は、使用されるページ・セットを指定するページ・セット ID です。この ID は、1つのページ・セットを表す 2 桁の整数です。

DD 名 CSQP00*psid-number* には、必要なサブシステム用として必須ページ・セットを持つデータ・セットを指定しなければなりません。

DEFTYPE

動的キューをコピーするかどうかを次のように指定します。

ALL

すべてのキューをコピーします。これがデフォルトです。

PREDEFINED

動的キューを含めません。これは、MAKEDEF パラメーターが指定された COMMAND 機能と SDEFS 機能によって選択されたキューのセットと同じものです。

このパラメーターは、PSID を指定した場合にだけ有効です。

DDNAME(*ddname*)

指定した名前のデータ・セットにメッセージをコピーすることを指定します。このキーワードを省略すると、デフォルト DD 名の CSQUOUT が使用されます。キーワード DDname は DD に省略できます。

ddname には、メッセージを保管するために使用される、宛先のデータ・セットの DD 名を指定します。このデータ・セットのレコード形式は、可変ブロック・スパン (VBS) でなければなりません。

同じ DD 名を複数の SCOPY ステートメントで指定しないでください。ただし、DD ステートメントで DISP=MOD を使用して順次データ・セットを指定する場合は除きます。

例

```
//SCOPY EXEC PGM=CSQUTIL,REGION=0M
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//OUTPUTA DD DSN=SAMPLE.UTILITY.COPYA,DISP=(NEW,CATLG),
// SPACE=(CYL,(5,1),RLSE),UNIT=SYSDA,
// DCB=(RECFM=VBS,BLKSIZE=23200)
//CSQUOUT DD DSN=SAMPLE.UTILITY.COPY3,DISP=(NEW,CATLG),
// SPACE=(CYL,(5,1),RLSE),UNIT=SYSDA,
// DCB=(RECFM=VBS,BLKSIZE=23200)
//CSQP0000 DD DISP=OLD,DSN=pageset.dsname0
//CSQP0003 DD DISP=OLD,DSN=pageset.dsname3
//CSQP0006 DD DISP=OLD,DSN=pageset.dsname6
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
* COPY WHOLE PAGE SET TO 'CSQUOUT'
SCOPY PSID(03)
* COPY ONE QUEUE TO 'OUTPUT' - QUEUE IS ON PAGE SET 6
SCOPY QUEUE(ABC123A) DDNAME(OUTPUTA)
/*
```

図 15. CSQUTIL の SCOPY 機能のためのサンプル JCL

使用上の注意

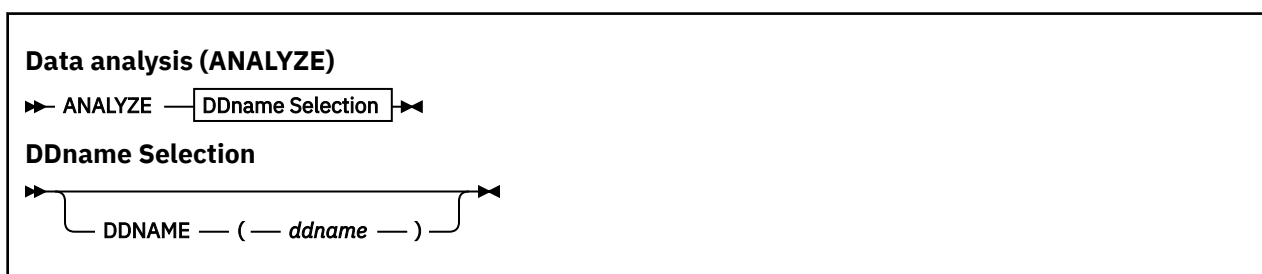
1. 実行中のキュー・マネージャーには SCOPY を使用しないでください。予測不能な結果が生じるからです。不注意による誤用を避けるには、ページ・セットの DD ステートメントに DISP=OLD を指定します。
2. SCOPY を使用する場合は、キュー・マネージャー名を指定する必要はありません。
3. 複数のページ・セットの範囲を操作する場合は、ページ・セットごとに SCOPY 機能を繰り返し実行してください。
4. この機能は、ローカル・キュー上の持続メッセージに対してのみ実行することができます。
5. SCOPY PSID 機能は、ページ・セット上のすべてのキューを正常にコピーした場合にのみ、正常に実行されたと見なされます。空のキューが処理されると、そのことを示したデータが順次データ・セットに書き込まれます。ページ・セットにキューが存在しない場合、SCOPY 機能は失敗し、データ・セットにデータは書き込まれません。
6. SCOPY QUEUE で明示的に空のキューをコピーしようとする、そのことを示したデータが順次データ・セットに書き込まれ、コピーは正常終了したものと見なされます。しかし、存在しないキューをコピーしようとする、SCOPY 機能は異常終了し、データ・セットにデータは書き込まれません。
7. SCOPY 機能が異常終了した場合、それ以上の CSQUTIL 機能は試行されません。
8. ジョブの中で SCOPY 機能を複数回使用するには、この機能呼び出すたびに、異なる DD 名とデータ・セットを指定するか、順次データ・セットと DISP=MOD を DD ステートメント内に指定します。
9. **REGION** パラメーターの値 0M は、ジョブが、必要とする量のストレージを取得できることを意味します。ただし、ジョブが取得しようとするストレージが大きすぎると、システムの他のジョブに影響を与える可能性があります。理想的には、REGION サイズを制限し、ジョブに取得を許可する絶対的な最大値を指定する必要があります。

COPY または SCOPY によってデータ・セットにコピーされたキュー・データの分析 (ANALYZE)

このトピックでは、COPY または SCOPY によってデータ・セットにコピーされるキュー・データの分析について知ることができます。

この機能は、データ・セット (COPY または SCOPY を使って作成されたもの) の読み取りと分析を行い、各キューについて次のものを表示します。

- キュー名
- キューのメッセージの数
- メッセージの合計の長さ



- [1934 ページの『キーワードおよびパラメーター』](#)
- [1935 ページの『例』](#)
- [1935 ページの『使用上の注意』](#)

キーワードおよびパラメーター

DDNAME(ddname)

処理されるデータ・セットを指定します。このキーワードは、省略して DD にすることができます。

ddname には、以前の COPY または SCOPY 操作の宛先データ・セットを識別する DD 名を指定します。この名前には大/小文字の区別がなく、最大 8 文字を指定できます。

例

```
//LOAD EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//OUTPUTA DD DSN=MY.UTILITY.OUTPUTA,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
ANALYZE DDNAME(OUTPUTA)
```

図 16. CSQUTIL ANALYZE 機能のためのサンプル JCL

使用上の注意

1. DDname(ddname) を省略すると、デフォルト DD 名の CSQUINP が使用されます。

キューのすべてのメッセージの削除 (EMPTY)

CSQUTIL の EMPTY 機能を使用して、ページ・セットにある指定されたキューまたはすべてのキューから、すべてのメッセージを削除することができます。

キュー・マネージャーが実行中でなければなりません。この機能の有効範囲は、最初のパラメーターに指定したキーワードによって決まります。

この機能の使用には注意が必要です。コピーが既に作成されているメッセージだけを削除してください。

注：この機能が異常終了した場合の重複メッセージに関する問題が起きないようにする方法については、1911 ページの『同期点』を参照してください。

Queue management (EMPTY)

►► EMPTY — Object Selection ◄◄

Object Selection

►► QUEUE — (— *q-name* —) — ◄◄
PSID — (— *psid-number* —) — ◄◄

- [キーワードおよびパラメーター](#)
- [例](#)
- [使用上の注意](#)

キーワードおよびパラメーター

EMPTY 機能の有効範囲を指定する必要があります。以下のいずれかを選択してください。

QUEUE(*q-name*)

指定されたキューからメッセージを削除することを指定します。このキーワードは、省略して Q にすることができます。

q-name には、メッセージを削除するキューの名前を指定します。この名前は、大/小文字を区別します。

PSID(*psid-number*)

指定されたページ・セット内のすべてのキューから、すべてのメッセージを削除することを指定します。

psid-number には、ページ・セット ID を指定します。この ID は、1つのページ・セットを表す 2 桁の整数です。

例

```
//EMPTY EXEC PGM=CSQUTIL,PARM=('CSQ1')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
EMPTY QUEUE(SPACE)
EMPTY PSID(66)
/*
```

図 17. CSQUTIL EMPTY 機能のためのサンプル JCL

使用上の注意

1. 関係するキューが使用中のときは、この機能呼び出せません。
2. この機能は、ローカル・キューに対してのみ操作を行います。
3. 複数のページ・セットの範囲を操作する場合は、ページ・セットごとに EMPTY 機能を繰り返し実行してください。
4. システム・コマンド入力キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT) のメッセージをすべて削除することはできません。
5. EMPTY PSID 機能は、ページ・セット上のすべてのキューを正常に空にした場合にのみ、正常に実行されたと見なされます。
6. EMPTY 機能は、既に空になっているキューに対して実行した場合でも正常終了と見なされます。これは EMPTY 機能を EMPTY QUEUE によって明示的に実行した場合でも、対象のページ・セットに空のキューが 1 つ以上存在する場合でも同様です。しかし、存在しないキューやキューが入っていないページ・セットに対して試行した場合、EMPTY 機能は異常終了します。
7. EMPTY が異常終了するか、または強制的に同期点が取られると、それ以上 CSQUTIL 機能は試行されません。
8. コマンド・サーバー・キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT, SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL、および SYSTEM.CSQUTIL. *)、DISPLAY QUEUE および DISPLAY STGCLASS MQSC コマンドを使用し、IBM MQ API を使用して、空にするキューからメッセージを取得します。

関連概念

1909 ページの『IBM MQ ユーティリティー・プログラムの呼び出し』

このトピックでは、CSQUTIL を呼び出す方法、そのパラメーターの形式、およびその戻りコードについて知ることができます。

データ・セットからキューへのメッセージの復元 (LOAD)

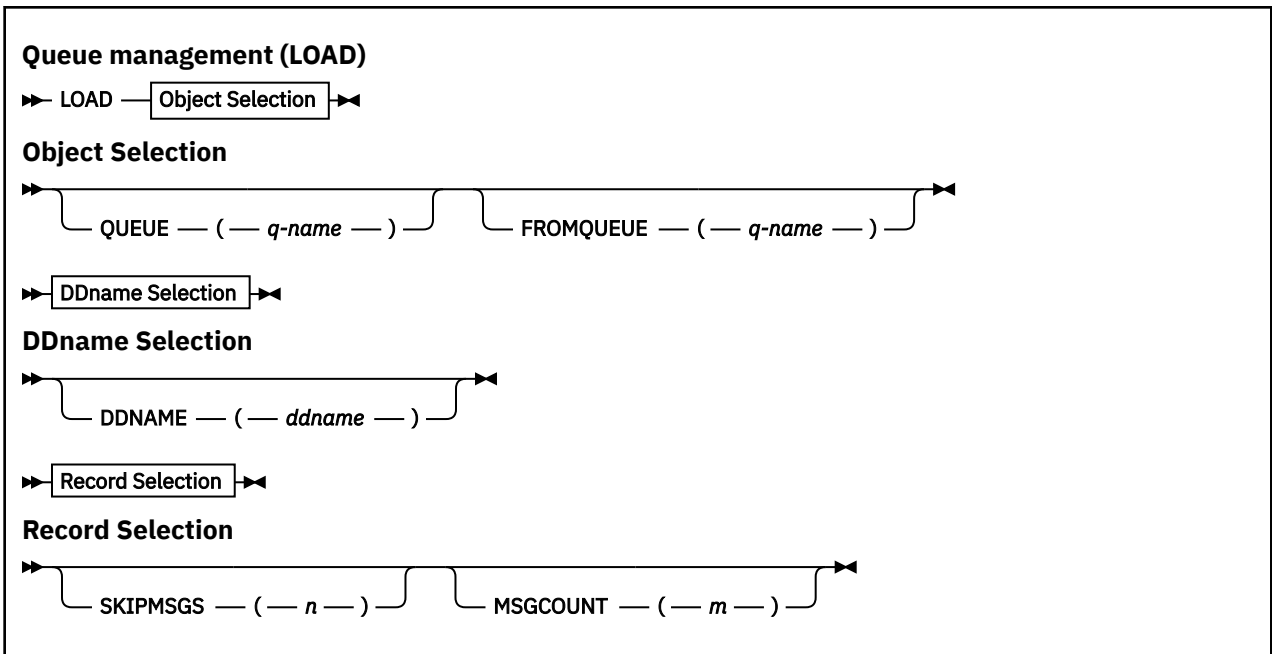
CSQUTIL の LOAD 機能は COPY 機能や SCOPY 機能を補足するものです。LOAD は、以前の COPY 操作または SCOPY 操作の宛先データ・セットからメッセージを復元します。キュー・マネージャーが実行中でなければなりません。

COPY または SCOPY QUEUE によって作成された場合、データ・セットには 1 つのキューのメッセージだけしか入れることができません。COPY PSID によって作成された場合、またはいくつかの連続した COPY または SCOPY QUEUE 操作によって作成された場合には、データ・セットに複数のキューのメッセージを入れることができます。メッセージは、メッセージのコピー元のキューと同じ名前のキューに復元されます。最初のキューまたは 1 つだけのキューは、別の名前のキューにロードするよう指定できます。(これは通常、別の名前のキューにメッセージを復元するために 1 回の COPY キュー操作で作成されるデータ・セットで使用されます。)

注：

1. この機能が異常終了した場合の重複メッセージに関する問題が起きないようにする方法については、[1911 ページの『同期点』](#)を参照してください。
2. LOAD 機能に対する代替方法として、[47 ページの『dmpmqmsg』](#)ユーティリティを使用する方法があります。これは、多くの場合、より柔軟性があります。

メッセージは、メッセージのコピー元のキューと同じ名前のキューに復元されます。**QUEUE** パラメーターを使用して、最初のキューまたは 1 つだけのキューは別の名前のキューにロードするよう指定できます。(これは通常、別の名前のキューにメッセージを復元するために 1 回の COPY キュー操作で作成されるデータ・セットで使用されます。) 複数のキューが含まれるデータ・セットの場合には、**FROMQUEUE** パラメーターを使用して、最初に処理するキューを指定できます。メッセージは、このキューと、データ・セットに含まれる後続のすべてのキューに復元されます。



- [キーワードおよびパラメーター](#)
- [例](#)
- [使用上の注意](#)

キーワードおよびパラメーター

QUEUE(*q-name*)

このパラメーターは、以前の COPY 操作または SCOPY 操作の宛先データ・セット上にある最初のキューまたは唯一のキューからのメッセージを、指定した名前のキューにロードすることを指定します。後続のキューがある場合、そのキューのメッセージは、それらのメッセージが最初に入っていたキューと同じ名前のキューにロードされます。キーワード **QUEUE** は、省略して **Q** にすることができます。

q-name には、メッセージをロードするキューの名前を指定します。この名前は、大/小文字を区別します。モデル・キューは指定できません。

FROMQUEUE(*q_name*)

以前の COPY または SCOPY 操作の宛先データ・セットで最初に処理するキューの名前を指定します。このキューのメッセージと、データ・セット上の後続のすべてのキューのメッセージは、それらのメッセージが最初に入っていたキューと同じ名前のキューにロードされます。このパラメーターが除外されている場合、LOAD 関数はデータ・セット上の最初のキューから開始し、すべてのキューを処理します。キーワード **FROMQUEUE** は、省略して **FROMQ** にすることができます。

DDNAME(*ddname*)

メッセージを、指名のデータ・セットからロードすることを指定します。このキーワードは、省略して **DD** にすることができます。

ddname には、以前の COPY 操作または SCOPY 操作の宛先データ・セットを識別する **DDNAME** を指定します。このデータ・セットからメッセージがロードされます。この名前には大/小文字の区別がなく、最大 8 文字を指定できます。

DDNAME(*ddname*) を省略すると、デフォルト **DDNAME** の CSQUINP が使用されます。

SKIPMSGs(*n*)

キューのロードを開始する前に順次データ・セットの最初の *n* 個のメッセージをスキップすることを指定します。

SKIPMSGs(*n*) を省略すると、メッセージはスキップされません。最初のメッセージからロードが開始されます。

MSGCOUNT(*m*)

m 個のメッセージだけをデータ・セットから読み取ってキューにロードすることを指定します。

MSGCOUNT(*m*) を省略すると、読み取られるメッセージの数は制限されません。

例

```
//LOAD EXEC PGM=CSQUTIL,PARM=('CSQ1'),REGION=0M
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//OUTPUTA DD DSN=MY.UTILITY.OUTPUTA,DISP=SHR
//CSQUINP DD DSN=MY.UTILITY.COPYA,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
LOAD QUEUE(ABC123) DDNAME(OUTPUTA)
LOAD QUEUE(TOQ) FROMQUEUE(QueueA) SKIPMSGs(55)
/*
```

図 18. CSQUTIL LOAD 機能のためのサンプル JCL

注:

REGION - 値 0M は、ジョブが、必要とする量のストレージを取得できることを意味します。ただし、ジョブが取得しようとするストレージが大きすぎると、システムの他のジョブに影響を与える可能性があります。理想的には、REGION サイズを制限し、ジョブに取得を許可する絶対的な最大値を指定する必要があります。

LOAD QUEUE(ABC123) DDNAME(OUTPUTA) - 入力データ・セット MY.UTILITY.OUTPUTA からすべてのキューを再ロードします。ロードされるキューの名前は、データのコピー元のキューの名前と同じになります。ただし、データ・セットの最初のキューは例外で、キュー ABC123 に再ロードされます。

LOAD QUEUE(TOQ) FROMQUEUE(QueueA) SKIPMSGs(55) - 入力データ・セット MY.UTILITY.COPYA からすべてのキューを再ロードします。再ロードはキュー QueueA から開始します。ロードされるキューの名前は、データのコピー元のキューの名前と同じになります。ただし、最初のキュー QueueA は例外で、キュー TOQ に再ロードされます。QueueA のメッセージを処理する際、最初の 55 個のメッセージは無視され、56 番目のメッセージからロードが開始します。

使用上の注意

1. 関係するキューまたはページ・セットが使用中のときは、LOAD 機能呼び出せません。
2. データ・セットに複数のキューが含まれている場合、LOAD 機能は、そのデータ・セットのすべてのキューを正常にロードした場合のみ、正常に実行されたと見なされます。(または、FROMQUEUE が使用されている場合には、このパラメーターで指定された開始キューに続くすべてのキュー)。
3. LOAD が異常終了するか、または強制的に同期点が取られると、それ以上 CSQUTIL 機能は試行されません。
4. CSQUTIL は MQPMO_SET_ALL_CONTEXT を使用して、メッセージ記述子フィールドが元のコピーと同じままかどうかを確認します。したがって、キューの CONTEXT プロファイルに CONTROL のアクセス

権が必要です。詳細については、[コンテキスト・セキュリティ用のプロファイル](#)を参照してください。

データ・セットからキューへのメッセージの復元 (SLOAD)

CSQUTIL の SLOAD 機能は COPY 機能や SCOPY 機能を補足するものです。SLOAD は、以前の COPY 操作または SCOPY 操作の宛先データ・セットからメッセージを復元します。SLOAD は、単一キューを処理します。

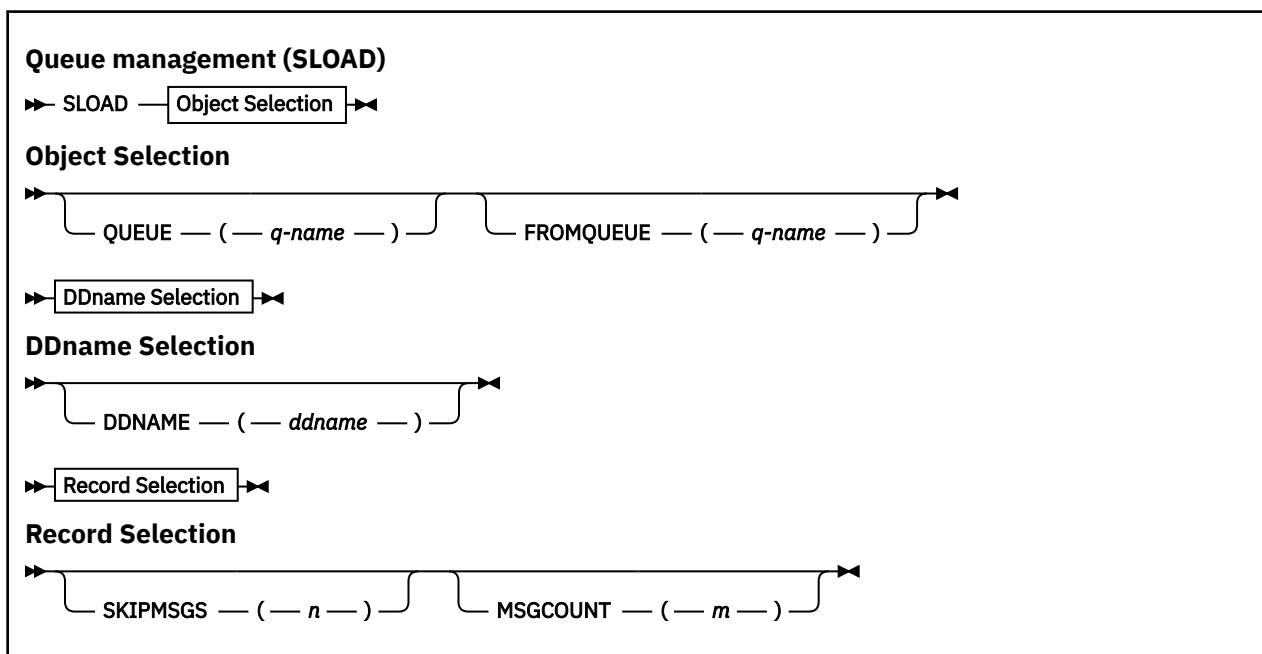
SLOAD を使用するには、キュー・マネージャーが実行中でなければなりません。

データ・セットが COPY または SCOPY QUEUE で作成された場合、そのデータ・セットには 1 つのキューのみからのメッセージが含まれます。データ・セットが複数の連続した COPY または SCOPY QUEUE 操作で作成された場合には、複数のキューからのメッセージが含まれる可能性があります。

デフォルトでは、SLOAD はデータ・セット上の最初のキューを処理します。**FROMQUEUE** パラメーターを使用して、処理する特定のキューを指定できます。

デフォルトでは、メッセージは、メッセージのコピー元のキューと同じ名前のキューに復元されます。**QUEUE** パラメーターを使用して、キューが別の名前のキューにロードされるように指定できます。

注：この機能が異常終了した場合の重複メッセージに関する問題が起きないようにする方法については、[1911 ページの『同期点』](#)を参照してください。



- [1939 ページの『キーワードおよびパラメーター』](#)
- [1940 ページの『例』](#)
- [1940 ページの『使用上の注意』](#)

キーワードおよびパラメーター

QUEUE(q-name)

このパラメーターは、以前の COPY 操作または SCOPY 操作の宛先データ・セット上にある最初のキューまたは唯一のキューからのメッセージを、指定した名前のキューにロードすることを指定します。キーワード QUEUE は、省略して Q にすることができます。

q-name には、メッセージをロードするキューの名前を指定します。この名前は、大/小文字を区別します。モデル・キューは指定できません。

FROMQUEUE(*q-name*)

処理するキューの名前を指定します。このパラメーターを省略した場合は、最初のキューが処理されます。

キーワード FROMQUEUE は、省略して FROMQ にすることができます。

q-name には、処理するキューの名前を指定します。この名前は、大/小文字を区別します。

DDNAME(*ddname*)

指定されたデータ・セットからメッセージをロードすることを指定します。このキーワードは、省略して DD にすることができます。

ddname には、以前の COPY 操作または SCOPY 操作の宛先データ・セットを識別する **DDNAME** を指定します。このデータ・セットからメッセージがロードされます。この名前には大/小文字の区別がなく、最大 8 文字を指定できます。

DDNAME(*ddname*) を省略すると、デフォルト **DDNAME** の CSQUINP が使用されます。

SKIPMSG(*n*)

キューのロードを開始する前に順次データ・セットの最初の *n* 個のメッセージをスキップすることを指定します。

SKIPMSG(*n*) を省略すると、メッセージはスキップされません。最初のメッセージからロードが開始されます。

MSGCOUNT(*m*)

m 個のメッセージだけがデータ・セットから読み取られ、キューにロードされることを指定します。

MSGCOUNT(*m*) を省略すると、読み取られるメッセージの数は制限されません。

例

```
//SLOAD EXEC PGM=CSQUTIL,PARM=('CSQ1'),REGION=0M
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTB
//OUTPUT DD DSN=MY.UTILITY.OUTPUTA,DISP=SHR
//CSQUINP DD DSN=MY.UTILITY.COPYA,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
SLOAD DDNAME(OUTPUTA)
SLOAD QUEUE(TOQ) FROMQUEUE(QueueA) SKIPMSG(55)
/*
```

図 19. CSQUTIL SLOAD 機能のためのサンプル JCL

注:

- REGION - 値 0M は、ジョブが、必要とする量のストレージを取得できることを意味します。ただし、ジョブが取得しようとするストレージが大きすぎると、システムの他のジョブに影響を与える可能性があります。理想的には、REGION サイズを制限し、ジョブに取得を許可する絶対的な最大値を指定する必要があります。
- SLOAD DDNAME(OUTPUTA) - 入力データ・セット MY.UTILITY.OUTPUTA から最初のキューを再ロードします。ロードされるキューの名前は、データのコピー元のキューの名前と同じです。
- SLOAD QUEUE(TOQ) FROMQUEUE(QueueA) SKIPMSG(55) - キュー QueueA からコピーされたメッセージを (入力データ・セット MY.UTILITY.COPYA から) 再ロードします。メッセージは、TOQ という名前のキューに再ロードされます。QueueA のメッセージを処理する際、最初の 55 個のメッセージは無視され、56 番目のメッセージからロードが開始します。

使用上の注意

1. 関係するキューまたはページ・セットが使用中のときは、SLOAD 機能呼び出せません。

2. SLOAD が異常終了するか、または強制的に同期点が取られると、それ以上 CSQUTIL 機能は試行されません。
3. CSQUTIL は MQPMO_SET_ALL_CONTEXT を使用して、メッセージ記述子フィールドが元のコピーと同じままかどうかを確認します。したがって、キューの CONTEXT プロファイルに CONTROL のアクセス権が必要です。詳細については、[コンテキスト・セキュリティ用のプロファイル](#)を参照してください。

チャンネル・イニシエーターのパラメーター・モジュール (XPARM) のマイグレーション

CSQUTIL の XPARM 機能を使用して、バージョン 7.0 への移行に使用できる ALTER QMGR コマンドを生成することができます。

バージョン 6.0 より前のバージョンの IBM MQ for z/OS では、チャンネル・イニシエーター・パラメーター・ロード・モジュールを作成することによって、チャンネル・イニシエーターを調整することができました。バージョン 7.0 では、キュー・マネージャーの属性を設定して調整します。バージョン 7.0 への移行を簡単に行うために、このコマンドはバージョン 6.0 より前のチャンネル・イニシエーターのパラメーター・モジュールから ALTER QMGR コマンドを生成します。

Migration (XPARM)

➡ XPARM DDNAME(*ddname*) MEMBER(*membername*) MAKEALT(*ddname2*) ➡

キーワードおよびパラメーター

DDNAME(*ddname*)

ALTER QMGR コマンドをこのデータ・セットのチャンネル・イニシエーターのパラメーター・モジュールから生成することを指定します。

MEMBER(*membername*)

DDNAME(*ddname2*) によって指定されたデータ・セット内のチャンネル・イニシエーターのパラメーター・モジュールの名前を指定します。

MAKEALT(*ddname2*)

ALTER コマンドが保管される出力データ・セットを識別する DD 名を指定します。データ・セットは RECFM=FB、LRECL=80 である必要があります。このデータ・セットは、COMMAND 機能を後で呼び出したときの入力として使用することができます。または、CSQINP2 初期設定入力データ・セットに組み込むこともできます。

例

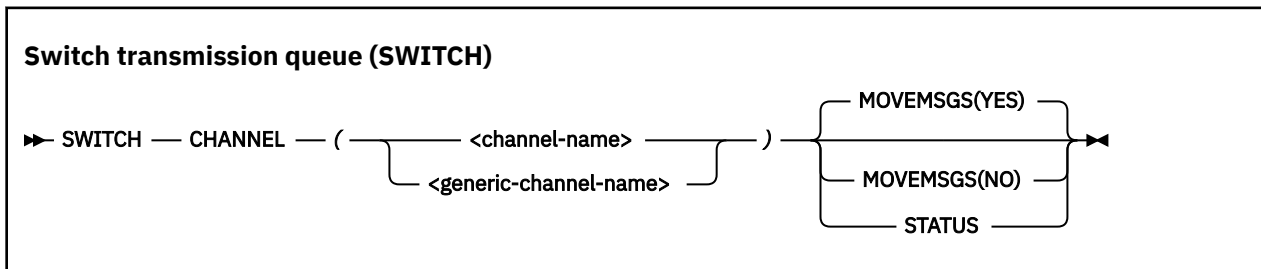
```
//MIGRATE1 EXEC PGM=CSQUTIL
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//CSQXPARM DD DISP=SHR,DSN=user.loadlib
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ALTQMGR DD DISP=OLD,DSN=user.commands(ALTQMGR)
//SYSIN DD *
XPARM DDNAME(CSQXPARM) MEMBER(MQ3AXPRM) MAKEALT(ALTQMGR)
/*
```

図 20. CSQUTIL XPARM 機能のためのサンプル JCL

クラスター送信側チャンネルに関連付けられている伝送キューの切り替え (SWITCH)

CSQUTIL の SWITCH 関数を使用すると、クラスター送信側チャンネルに関連付けられている伝送キューの切り替えまたは照会を実行できます。

SWITCH 関数を使用するには、キュー・マネージャーが実行中でなければなりません。



- [キーワードおよびパラメーター](#)
- [例](#)
- [使用上の注意](#)

キーワードおよびパラメーター

CHANNEL(channel name)

クラスター送信側チャンネルの名前、または総称チャンネル名を指定します。

総称チャンネル名が指定された場合は、総称名と一致する各クラスター送信側チャンネルが処理されます。

単一のアスタリスクが指定された場合は、すべてのクラスター送信側チャンネルが処理されます。

MOVEMSGS

このチャンネルでキューに入れられたメッセージを、切り替え処理中に古い伝送キューから新しい伝送キューへ移動するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

YES

メッセージは、古い伝送キューから新しい伝送キューに移動されます。これがデフォルトです。

NO

メッセージは、古い伝送キューから新しい伝送キューに移動されません。このオプションが選択された場合、切り替えが完了した後、古い伝送キュー上のチャンネルのメッセージを解決するのは、システム・プログラマーの責任になります。

状況

一致するクラスター送信側チャンネルの切り替え状況を表示します。このキーワードが指定されなかった場合は、切り替えが必要な停止済みまたは非アクティブのクラスター送信側チャンネルの伝送キューがコマンドによって切り替えられます。

例

図 1 では、SWITCH 関数を使用して、総称名 CLUSTER.* に名前が一致するすべてのクラスター送信側チャンネルの切り替え状況を照会する方法を示します。

```
//SWITCH EXEC PGM=CSQUTIL,PARM=('CSQ1')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
SWITCH CHANNEL(CLUSTER.*) STATUS
/*
```

図 21. CSQUTIL の SWITCH 関数を使用してクラスター送信側チャンネルの切り替え状況を照会する JCL の例

図 2 では、SWITCH 関数を使用して、クラスター送信側チャンネル CLUSTER.TO.QM1 の伝送キューを切り替える方法を示します。

```
//SWITCH EXEC PGM=CSQUTIL,PARM=('CSQ1')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
SWITCH CHANNEL(CLUSTER.TO.QM1)
/*
```

図 22. CSQUTIL の SWITCH 関数を使用してクラスター送信側チャンネルに関連付けられている伝送キューを切り替える JCL の例

使用上の注意

1. クラスター送信側チャンネルの伝送キューの切り替えを開始するには、チャンネル・イニシエーターが実行されている必要があります。
2. クラスター送信側チャンネルに関連付けられている伝送キューは、チャンネルが STOPPED または INACTIVE である場合にのみ、切り替えることができます。
3. コマンド・サーバー・キュー (SYSTEM.COMMAND.INPUT、SYSTEM.COMMAND.REPLY.MODEL、および SYSTEM.CSQUTIL.*) を使用するために必要な権限を持っている必要があります。
4. START CHANNEL コマンドを発行するために必要な権限を持っている必要があります。
5. クラスター送信側チャンネルの伝送キューの切り替えを開始するには、チャンネルのコマンド・リソース権限も必要です。
6. クラスター送信側チャンネルが開始されていない場合、SWITCH 関数を使用してクラスター送信側チャンネルの状況を照会したり、クラスター送信側チャンネルの伝送キューを切り替えたりすることはできません。これは、バージョン 8 の新しい関数が、CSQ6SYSP マクロの OPMODE パラメーターを使用して有効化されているためです。

関連情報

[クラスター化: クラスター伝送キューの切り替え](#)

z/OS ログ目録変更ユーティリティ (CSQJU003)

IBM MQ ログ目録変更ユーティリティは、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) を変更するために z/OS バッチ・ジョブとして実行されます。

このユーティリティを使用して、次の機能呼び出すことができます。

NEWLOG

活動ログまたは保存ログのデータ・セットを追加します。

削除

活動ログまたは保存ログのデータ・セットを削除します。

アーカイブ

アーカイブ・ログのパスワードを提供します。

CRESTART

IBM MQ の次の再始動を制御します。

CHECKPT

チェックポイント・レコードを設定します。

HIGHRBA

作成された最高位ログ RBA を更新します。

このユーティリティーは、IBM MQ が停止しているときだけ実行するようにしてください。これは、BSDS で指定された活動ログ・データ・セットが、IBM MQ 専用に動的に追加され、IBM MQ が終了するまで割り振られた状態にとどまるためです。918 ページの『DEFINE LOG』コマンドを使用して、アクティブな新しいログ・データ・セットをアクティブなキュー・マネージャーに追加できます。

DEFINE LOG コマンドを使用して、どのバージョンの BSDS でも更新できます。ただし、CSQJUCNV ユーティリティーを使用して BSDS をバージョン 1 からバージョン 2 に変換する必要があります。バージョン 1 の BSDS には、各ログ・コピー・リングに最大 31 個のアクティブなログ・データ・セット用のスペースがありますが、バージョン 2 以上の BSDS には、各ログ・コピー・リングに最大 310 個のアクティブなログ・データ・セット用のスペースがあります。

CSQJU003 ユーティリティーの呼び出し

このトピックでは、CSQJU003 ユーティリティーを呼び出す方法について知ることができます。

このユーティリティーは z/OS バッチ・プログラムとして実行されます。必要な JCL の例が 1944 ページの図 23 で示されています。

```
//JU003 EXEC PGM=CSQJU003
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//SYSPRINT DD SYSOUT=*,DCB=BLKSIZE=629
//SYSUT1 DD DISP=SHR,DSN=bsds.dsname
//SYSIN DD *
NEWLOG DSN=CSQREPAL.A0001187,COPY1VOL=CSQV04,UNIT=SYSDA,
STARTRBA=3A190000,ENDRBA=3A1F0FFF,CATALOG=YES,PASSWORD=PASSWRD
/*
```

図 23. CSQJU003 ユーティリティーを呼び出すためのサンプル JCL

データ定義 (DD) ステートメント

CSQJU003 は、次のような DD 名を持つ DD ステートメントを必要とします。

SYSUT1

このステートメントは必須です。これは、BSDS の名前を指定します。

SYSUT2

このステートメントは、重複 BSDS を使用する場合には必須です。これは、BSDS の 2 番目のコピーの名前を指定します。

重複 BSDS と CSQJU003

CSQJU003 ユーティリティーを実行するたびに、BSDS のタイム・スタンプ・フィールドは、現在のシステム時刻に更新されます。BSDS の重複コピーの各コピーに対して、CSQJU003 を別々に実行すると、タイム・スタンプ・フィールドが同期しなくなり、始動時にキュー・マネージャーがエラー・メッセージ CSQJ120E を出して異常終了します。このため、CSQJU003 が、BSDS の重複コピーを更新するために使用される場合、CSQJU003 の 1 回の実行で両方の BSDS が更新されるようにしなければなりません。

SYSPRINT

このステートメントは必須です。これは、印刷出力用のデータ・セットの名前を指定します。論理レコード長 (LRECL) は 125 です。ブロック・サイズ (BLKSIZE) は、629 でなければなりません。

SYSIN

このステートメントは必須です。これは、ユーティリティーが実行する内容を指定するステートメントのための入力データ・セットの名前を指定します。論理レコード長 (LRECL) は 80 です。

各タイプのステートメントを、複数個使用することができます。各ステートメントでは、操作名 (NEWLOG、DELETE、ARCHIVE、CRESTART) と最初のパラメーターの間を、1つ以上のブランクで区切ってください。パラメーターを使用する順序は任意であり、ブランクを付けずにコンマで区切ります。パラメーターの記述は、2つの SYSIN レコードに分割しないでください。

1 桁目にアスタリスク (*) が含まれるステートメントはコメントと見なされ、無視されます。ただし、このステートメントは、出力リストには表示されます。1つの SYSIN レコードの中にコメントまたは順序番号を含めるには、最後のコンマの後に、1つのブランクで区切って、それらを含めます。コンマの後に1つのブランクがあると、そのレコードの残りの部分は無視されます。

複数ステートメント操作

CSQJU003 の実行中に、いずれかのステートメントに重大なエラーがあると、エラーのあるステートメントの制御ステートメントと、それに続くすべてのステートメントがスキップされます。このため、エラーのあるステートメント、あるいはその後に続くステートメントに指定された操作については、BSDS 更新は行われません。ただし、残りのすべてのステートメントは、構文エラーがないかどうか検査されます。

データ・セットについての情報の BSDS への追加 (NEWLOG)

CSQJU003 の NEWLOG 機能を使用して、データ・セットに関する情報を BSDS に追加することができます。

NEWLOG 機能は、次のデータ・セットの1つを宣言します。

- アクティブ・ログ・データ・セットとして使用可能な VSAM データ・セット。

使用できるキーワードは、DSNAME、COPY1、COPY2、PASSWORD です。

- 入出力エラーになったデータ・セットの代わりとなるアクティブ・ログ・データ・セット。

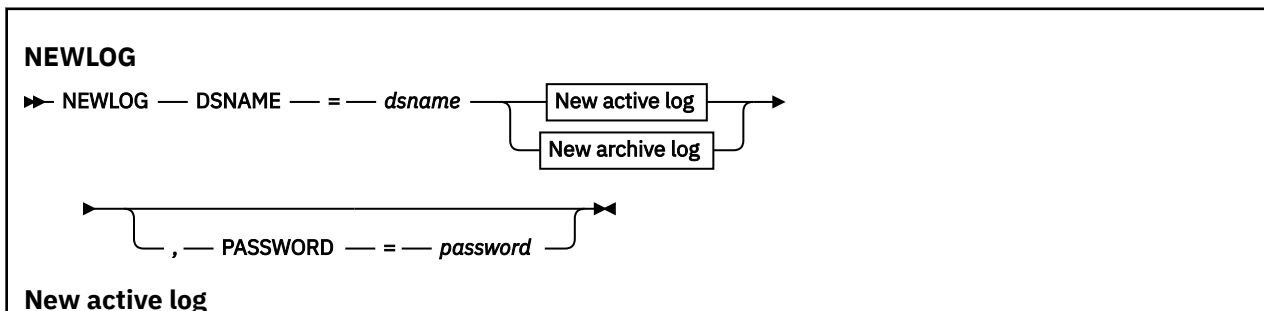
使用できるキーワードは、DSNAME、COPY1、COPY2、STARTRBA、ENDRBA、PASSWORD です。

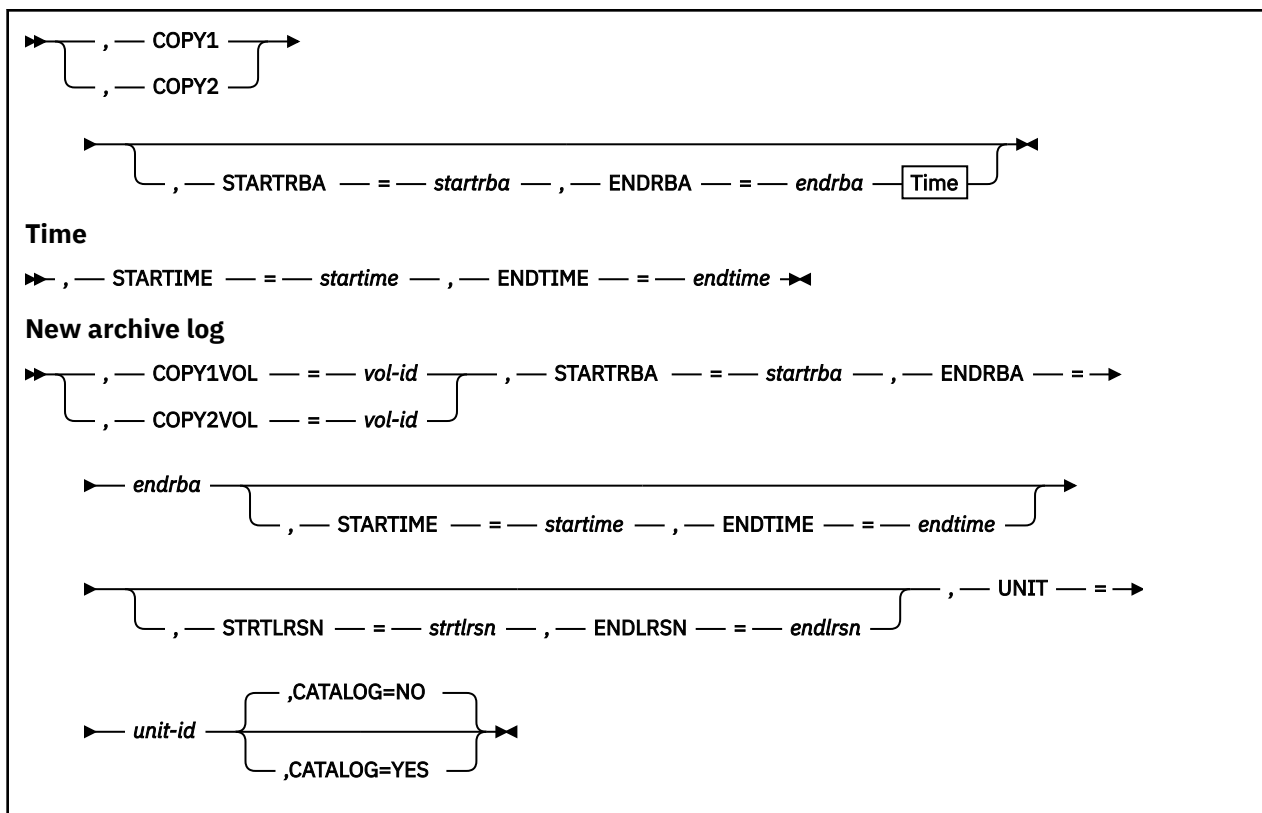
- アーカイブ・ログ・データ・セット・ボリューム。

使用できるキーワードは、DSNAME、COPY1VOL、COPY2VOL、STARTRBA、ENDRBA、STRTLRSN、ENDLRSN、UNIT、CATALOG、PASSWORD です。

キュー共有グループ環境では、常に LRSN 情報を提供する必要があります。アーカイブ・ログ・データ・セットに使用する RBA および LRSN を検出するには、ログ・マップ印刷ユーティリティー (CSQJU004) を実行します。

この NEWLOG 機能または MQSC DEFINE LOG コマンドのいずれかを使用して、ログ・コピーごとに最大 310 個のデータ・セットを定義できます。





ENDRBA=endrba

DSNAME で指定された、置換用のアクティブ・ログ・データ・セットまたはアーカイブ・ログ・データ・セット・ボリュームの終了位置のログ RBA (ログ内の相対バイト・アドレス) を指定します。

endrba は、最大 16 文字の 16 進数です。この値の最後は FFF でなければなりません。16 文字より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。

FFFFFFFFFFFF より大きな値は、バージョン 1 形式 BSDS に対しては指定できません。

STARTIME=startime

BSDS 中の RBA の開始時刻。このフィールドの指定は任意です。タイム・スタンプの形式 (括弧内に有効な値を含む) は *yyyymmddhhmmssst* です。ここで、

yyyy

年を示します (1993 から 2099)

ddd

年間通算日を示します (1 から 365 までで、うるう年の場合は 366 まで)

hh

時を示します (0 から 23)

mm

分を示します (0 から 59)

ss

秒を示します (0 から 59)

t

10 分の 1 秒を示します

STARTIME および ENDTIME パラメーターで 14 桁より少ない値が指定されている場合は、後続ゼロが追加されます。

STARTIME が指定されている場合には、STARTRBA は必須です。

ENDTIME=endtime

BSDS 中の RBA の終了時刻。このフィールドの指定は任意です。タイム・スタンプの形式については、STARTIME オプションを参照してください。ENDTIME 値は、STARTIME の値以上でなければなりません。

STRTLRSN=strtlrsn

新しいアーカイブ・データ・セット上の、最初の完全なログ・レコードの LRSN (論理レコード順序番号) を指定します。

strtlrsn は、最大 12 文字の 16 進数です。12 文字より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。

ENDLRSN=endlrsn

新しいアーカイブ・データ・セット上の、最後のログ・レコードの LRSN (論理レコード順序番号) を指定します。

endlrsn は、最大 12 文字の 16 進数です。12 文字より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。

COPY1VOL=vol-id

DSNAME の後に名前を指定したコピー 1 のアーカイブ・ログ・データ・セットのボリューム通し番号。

COPY2VOL=vol-id

DSNAME の後に名前を指定したコピー 2 のアーカイブ・ログ・データ・セットのボリューム通し番号。

UNIT=unit-id

DSNAME の後に名前を指定したアーカイブ・ログ・データ・セットの装置タイプ。

CATALOG

アーカイブ・ログ・データ・セットがカタログされるかどうかを指定します。

NO

アーカイブ・ログ・データ・セットはカタログされません。これ以降のすべてのデータ・セットの割り振りは、この機能で指定された装置情報およびボリューム情報を使用して行われます。これがデフォルトです。

YES

アーカイブ・ログ・データ・セットがカタログされます。このことを示すフラグが BSDS に設定され、以降のすべてのデータ・セットの割り振りは、このカタログを使用して行われます。

IBM MQ は、DASD 上にあるすべてのアーカイブ・ログ・データ・セットがカタログされることを必要とします。アーカイブ・ログ・データ・セットが DASD 上にある場合は、CATALOG=YES を選択します。

データ・セットについての情報の BSDS からの削除 (DELETE)

CSQJU003 の DELETE 機能を使用して、指定したログ・データ・セットまたはデータ・セット・ボリュームに関するすべての情報をブートストラップ・データ・セットから削除することができます。

例えば、この機能を使用して、古いアーカイブ・ログ・データ・セットを削除することができます。

削除

➡ DELETE — DSNAME — = — *dsname* —
└── , — COPY1VOL — = — *vol-id* —
└── , — COPY2VOL — = — *vol-id* — ➡

キーワードおよびパラメーター

DSNAME=*dsname*

ログ・データ・セットの名前を指定します。

dsname は、最大 44 文字の長さにすることができます。

COPY1VOL= *vol-id*

DSNAME の後に名前を指定したコピー 1 のアーカイブ・ログ・データ・セットのボリューム通し番号。

COPY2VOL= *vol-id*

DSNAME の後に名前を指定したコピー 2 のアーカイブ・ログ・データ・セットのボリューム通し番号。

保存ログ・データ・セットのためのパスワードの供給 (ARCHIVE)

CSQJU003 の ARCHIVE 機能を使用して、この操作の後で作成されるすべてのアーカイブ・データ・セットにパスワードを割り当てることができます。

新しいアーカイブ・ログ・データ・セットが作成されるたびに、z/OS パスワード・データ・セットにこのパスワードが追加されます。

保存操作の後で作成されたすべてのアーカイブ・データ・セットのパスワード保護を除去するには、NOPASSWD キーワードを使用します。

注：通常、IBM MQ データ・セットに対してセキュリティーを実装する場合には、RACF などの外部セキュリティー・マネージャー (ESM) を使用します。

アーカイブ

➡ ARCHIVE — PASSWORD — = — *password* — ➡
└── NOPASSWD —

キーワードおよびパラメーター

PASSWORD=password

アーカイブ・ログ・データ・セットに対してパスワードを割り当てることを指定します。

password はパスワードを指定します。これはデータ・セット・パスワードであり、標準の VSAM 規則に従う必要があります。つまり、1 から 8 文字の英数字 (A から Z、0 から 9) または特殊文字 (& * + - . ; ') です。 /)。

NOPASSWD

この操作の後で作成されたすべてのアーカイブ・データ・セットについて、保存パスワード保護をアクティブにしないことを指定します。NOPASSWD とともに他のキーワードを使用することはできません。

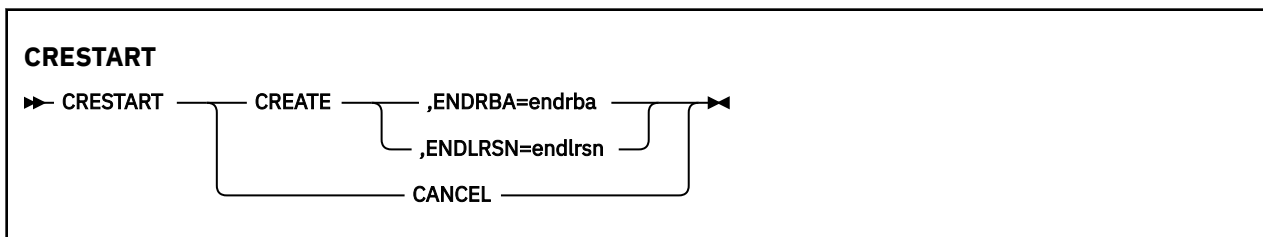
次の再始動の制御 (CRESTART)

CSQJU003 の CRESTART 機能を使用して、新しい条件付き再始動制御レコードを作成するか、現在アクティブになっているものを取り消すことによって、キュー・マネージャーの次の再始動を制御することができます。

これらのレコードは、再始動の際に使用されるログ・データの有効範囲を制限します (実際には、ログを切り捨てます)。既存の条件付き再始動制御レコードがあると、それは次のいずれかのイベントが発生するまで、すべての再始動を制御します。

- 再始動操作が完了する
- CRESTART CANCEL が発行される
- 新しい条件付き再始動制御レコードが作成される

注意: これによって、データの整合性を保持するための **IBM MQ** の動作に変更が生じる場合があります。この機能は、代替サイトでの単一キュー・マネージャーの回復および代替サイトでのキュー共有グループの回復で説明されている災害復旧プロセスを実装する場合、または IBM サービス技術員の指導のある場合のみ使用してください。



キーワードおよびパラメーター

作成

新しい条件付き再始動制御レコードを作成します。新しいレコードが作成されると、前の制御レコードは非アクティブになります。

CANCEL

現在アクティブになっている条件付き再始動制御レコードを非アクティブにします。レコードは、履歴情報として BSDS に残ります。

CANCEL とともに他のキーワードを使用することはできません。

ENDRBA=endrba

再始動時に使用されるログの最新の RBA (ログを切り捨てるポイント) を指定し、再始動後に書き込まれる次のアクティブ・ログの開始 RBA を指定します。ブートストラップ・データ・セットおよびアクティブ・ログの中のログ情報のうち、RBA が *endrba* より大きいログ情報は、廃棄されます。

endrba は、最大 16 桁の 16 進数です。16 桁より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。

ENDRBA の値は、4096 の倍数でなければなりません。(16 進数値は、000 で終わらなければなりません。)

FFFFFFFFF000 より大きな値は、バージョン 1 形式 BSDS に対しては指定できません。

ENDLRSN=endlrsn

再始動時に使用される最新のログ・レコードの LRSN を指定します (ログを切り捨てるポイント)。ブートストラップ・データ・セットおよびアクティブ・ログの中のログ情報のうち、LRSN が endlrsn より大きいログ情報は、廃棄されます。

チェックポイント・レコードの設定 (CHECKPT)

CSQJU003 の CHECKPT 機能を使用して、BSDS チェックポイント・キューにレコードを追加したり、そこから削除したりすることができます。

STARTRBA および ENDRBA キーワードを使用してレコードを追加するか、または STARTRBA および CANCEL キーワードを使用してレコードを削除します。

注意: これによって、データの整合性を保持するための **IBM MQ** の動作に変更が生じる場合があります。この機能は、代替サイトでの単一キュー・マネージャーの回復および代替サイトでのキュー共有グループの回復で説明されている災害復旧プロセスを実装する場合、または IBM サービス技術員の指導のある場合のみ使用してください。

CHECKPT

▶▶ CHECKPT — STARTRBA — = — *startrba* →

→ — , — ENDRBA — = — *offlrba* — , — TIME — = — *time* —▶▶
→ — , — CANCEL — —▶▶

キーワードおよびパラメーター

STARTRBA=startrba

開始チェックポイント・ログ・レコードを示します。

startrba は、最大 16 桁の 16 進数です。16 桁より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。RBA は、メッセージから入手するか、ログ・マップの印刷により入手できます。

FFFFFFFFFFFF より大きな値は、バージョン 1 形式 BSDS に対しては指定できません。

ENDRBA=endrba

開始チェックポイント・レコードに対応している終了チェックポイント・ログ・レコードを示します。

endrba は、最大 16 桁の 16 進数です。16 桁より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。RBA は、メッセージから入手するか、ログ・マップの印刷により入手できます。

FFFFFFFFFFFF より大きな値は、バージョン 1 形式 BSDS に対しては指定できません。

TIME=time

開始チェックポイント・レコードが書き込まれた時刻を指定します。タイム・スタンプの形式 (括弧内に有効な値を含む) は yyyydddhhmssst です。ここで、

yyyy

年を示します (1993 から 2099)

ddd

年間通算日を示します (1 から 365 までで、うるう年の場合は 366 まで)

hh

時を示します (0 から 23)

mm

分を示します (0 から 59)

ss

秒を示します (0 から 59)

t

10 分の 1 秒を示します

TIME パラメーターで 14 桁より少ない値が指定されている場合は、後続ゼロが追加されます。

CANCEL

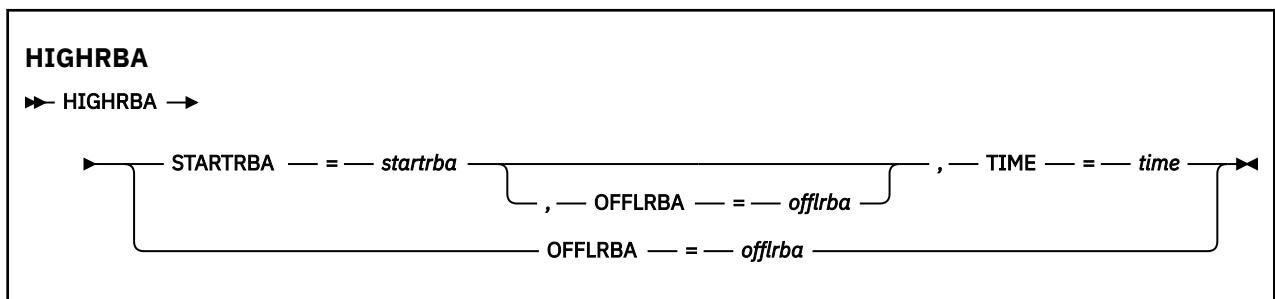
STARTRBA が指定した RBA に一致する開始 RBA を含むチェックポイント・キュー・レコードを削除します。

作成された最高位のログ RBA (HIGHRBA) の更新

CSQJU003 の HIGHRBA 機能を使用して、アクティブ・ログ・データ・セットまたはアーカイブ・ログ・データ・セットの BSDS に記録される、作成された最高位のログ RBA を更新することができます。

STARTRBA キーワードを使用してアクティブ・ログを更新し、OFFLRBA キーワードを使用してアーカイブ・ログを更新します。

注意: これによって、データの整合性を保持するための IBM MQ の動作に変更が生じる場合があります。この機能は、代替サイトでの単一キュー・マネージャーの回復で説明されている災害復旧プロセスを実装する場合、または IBM サービス技術員の指導のある場合のみ使用してください。



キーワードおよびパラメーター

STARTRBA=startriba

アクティブ・ログ・データ・セット内の、作成された最高位ログ・レコードのログ RBA を示します。

startriba は、最大 16 桁の 16 進数です。16 桁より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。RBA は、メッセージから入手するか、ログ・マップの印刷により入手できます。

FFFFFFFFFFFF より大きな値は、バージョン 1 形式 BSDS に対しては指定できません。

TIME=time

最高位の RBA を持つログ・レコードがログに書き込まれた時刻を示します。タイム・スタンプの形式 (括弧内に有効な値を含む) は yyyydddhhmssst です。ここで、

yyyy

年を示します (1993 から 2099)

ddd

年間通算日を示します (1 から 365 までで、うるう年の場合は 366 まで)

hh

時を示します (0 から 23)

mm

分を示します (0 から 59)

ss

秒を示します (0 から 59)

t

10 分の 1 秒を示します

TIME パラメーターで 14 桁より少ない値が指定されている場合は、後続ゼロが追加されます。

OFFL RBA=offl rba

保存ログアーカイブ・ログ内の最高のオフロード RBA を指定します。

offl rba は、最大 16 桁の 16 進数です。16 桁より少ない値を指定すると、先行ゼロが追加されます。この値の最後は 16 進数 'FFF' でなければなりません。

FFFFFFFFFFFFFF より大きな値は、バージョン 1 形式 BSDS に対しては指定できません。

ログ・マップ印刷ユーティリティー (CSQJU004)

CSQJU004 は、BSDS からのログ・データ情報の印刷に使用されるバッチ・ユーティリティー・プログラムです。

IBM MQ 印刷ログ・マップ・ユーティリティーは、次の情報を印刷するために z/OS バッチ・プログラムとして実行されます。

- BSDS のバージョン
- すべての活動ログ・データ・セットおよび保存ログ・データ・セットの両方のコピーについての、ログ・データ・セット名とログ RBA との関連。
- 新しいログ・データ用として使用可能な活動ログ・データ・セット。
- ブートストラップ・データ・セット (BSDS) 内のチェックポイント・レコードのキューの内容。
- 休止ヒストリー・レコードの内容。
- システムおよびユーティリティーのタイム・スタンプ。
- 活動ログ・データ・セットおよび保存ログ・データ・セットのためのパスワード (提供された場合)。

キュー・マネージャーの実行中かどうかに関係なく、CSQJU004 プログラムを実行できます。しかし、キュー・マネージャーが実行されているとき、ユーティリティーとキュー・マネージャーが共に同じ z/OS システムの制御下で実行されているときにのみ、ユーティリティーからの整合した結果が保証されます。

詳細については、以下を参照してください。

- [CSQJU004 ユーティリティーの呼び出し](#)
- [CSQJU004 ユーティリティーに必要なデータ定義ステートメント](#)

このユーティリティーを使用するには、そのジョブのユーザー ID が、必要なセキュリティ許可を持っているか、または BSDS がパスワード保護されている場合、そのデータ・セットについての適切な VSAM パスワードを持っている必要があります。

CSQJU004 ユーティリティーの呼び出し

以下は、CSQJU004 ユーティリティーの呼び出しに使用される JCL の例です。

```
//JU004 EXEC PGM=CSQJU004
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DISP=SHR,DSN=bsds.dsname
```

図 24. CSQJU004 ユーティリティーを呼び出すためのサンプル JCL

EXEC ステートメントには、オプション・パラメーター TIME(RAW) を使用できます。これは、タイム・スタンプの形式の設定方法を変更します。

```
//JU004 EXEC PGM=CSQJU004,PARM='TIME(RAW)'
```

このパラメーターによって、タイム・スタンプの形式は、形式設定システムのタイム・ゾーンまたはうるう秒の調整を適用せずに設定されます。この操作モードは、例えばリモート・サイトで作成された BSDS

を形式設定するとき、または夏時間調整の変更の前などに使用できます。パラメーターを指定しない場合のデフォルトは、現行の形式設定システムのタイム・ゾーンとうるう秒修正を使用してタイム・スタンプを形式設定します。

このパラメーターの影響を受けて形式設定される時間は以下のとおりです。

- 書き込まれた RBA の最高値
- 保存ログ・コマンドの時間
- チェックポイントの時間
- 条件付き再始動レコードの時間

データ定義ステートメント

CSQJU004 ユーティリティーは、次の DD 名を持った DD ステートメントを必要とします。

SYSUT1

このステートメントは、ブートストラップ・データ・セットの指定 および割り振りのために必要です。BSDS を、同時に実行中のキュー・マネージャー・サブシステムと共有 しなければならない場合には、DD ステートメントに DISP=SHR を使用してください。

SYSPRINT

このステートメントは、印刷出力用の、データ・セットまたは印刷スプール・クラスを指定するために必要です。論理レコード長 (LRECL) は 125 であり、レコード形式 (RECFM) は VBA です。

出力については、[BSDS に含まれる内容の検出](#)で説明されています。

ログ印刷ユーティリティー (CSQ1LOGP)

このユーティリティーを使用して、IBM MQ ログ・データ・セットまたは BSDS に入っている情報を印刷します。

- [CSQ1LOGP ユーティリティーの呼び出し](#)
- [入力制御パラメーター](#)
- [使用上の注意](#)
- [EXTRACT 機能](#)
 - [EXTRACT データの処理例](#)
- [CSQ1LOGP 出力](#)
 - [詳細レポート](#)
 - [出力データ・セットのレコード・レイアウト](#)

CSQ1LOGP ユーティリティーの呼び出し

IBM MQ ログ印刷ユーティリティーは z/OS バッチ・プログラムとして実行されます。次のものを指定することができます。

- ブートストラップ・データ・セット (BSDS)
- 活動ログ・データ・セット (BSDS は含まない)
- 保存ログ・データ・セット (BSDS は含まない)

CSQ1LOGP ユーティリティーを呼び出すためのサンプル JCL を、[1954 ページの図 25](#)、[1955 ページの図 26](#)、[1955 ページの図 27](#) および [1955 ページの図 28](#) に示します。

以下のデータ定義ステートメントを用意する必要があります。

SYSPRINT

すべてのエラー・メッセージ、例外条件、および詳細レポートが、このデータ・セットに書き込まれます。論理レコード長 (LRECL) は 131 です。

SYSIN

入力選択基準を、このデータ・セットに指定することができます。詳しくは、[1956 ページの『入力制御パラメーター』](#)を参照してください。

論理レコード長 (LRECL) は 80 である必要がありますが、1 桁目から 72 桁目だけが有効であり、73 から 80 桁目は無視されます。最高 50 レコードを使用できます。1 桁目にアスタリスク (*) が付いたレコードは注釈として解釈され、無視されます。

SYSSUMRY

要約報告書を要求する場合は、パラメーター **SUMMARY** (YES) を指定します。または **SUMMARY** (ONLY) の場合、出力はこのデータ・セットに書き込まれます。論理レコード長 (LRECL) は 131 です。

BSDS

ブートストラップ・データ・セット (BSDS) の名前。

ACTIVE_n

印刷したい活動ログ・データ・セットの名前 (n=番号)。

アーカイブ

印刷したい保存ログ・データ・セットの名前。

キーワード **EXTRACT**(YES) を指定した場合、抽出するデータのタイプに従い、以下の DD ステートメントを 1 つ以上指定します。LRECL はユーティリティーにより内部で設定されるため指定しないでください。これらの DD は、出力データ・セットの必須 DCB パラメーターです。

CSQBACK

このデータ・セットには、指定されたログ範囲中にロールバックされた作業単位によりログに書き込まれる持続メッセージが含まれます。

CSQCMT

このデータ・セットには、指定されたログ範囲中にコミットされた作業単位によりログに書き込まれた持続メッセージが含まれます。

CSQBOTH

このデータ・セットには、指定されたログ範囲中にコミットまたはロールバックされた作業単位によりログに書き込まれた持続メッセージが含まれます。

CSQINFLT

このデータ・セットには、指定されたログ範囲中に未完了のまま残った作業単位によりログに書き込まれた持続メッセージが含まれます。

CSQOBJS

このデータ・セットには、指定されたログ範囲中に発生したオブジェクト代替に関する情報が含まれます。

個々の DD ステートメントに対して、レコード・フォーマット (RECFM) は VB、論理レコード長 (LRECL) は 32756 です。そしてブロック・サイズ (BLKSIZE) は 32760 でなければなりません。

活動ログ・データ・セットを処理する場合は、少なくとも SHAREOPTIONS(2 3) を使用して BSDS と活動ログ・データ・セットが定義されていれば、IBM MQ が実行中でも、ユーティリティーは実行されます。

```
//PRTLOG EXEC PGM=CSQ1LOGP
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQLOAD
//BSDS DD DSN=qmgr.bsds.dsname,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSSUMRY DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
* extract records for pageset 3. Produce both summary and detail reports
PAGESET(3)
SUMMARY(YES)
/*
```

図 25. BSDS を使用して CSQ1LOGP ユーティリティーを呼び出すためのサンプル JCL

```
//PRTLOG EXEC PGM=CSQ1LOGP
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQLOAD
//ACTIVE1 DD DSN=qmgr.logcopy1.ds01,DISP=SHR
//ACTIVE2 DD DSN=qmgr.logcopy1.ds02,DISP=SHR
//ACTIVE3 DD DSN=qmgr.logcopy1.ds03,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSSUMRY DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
insert your input control statements here, for example:
Urid(urid1)
Urid(urid2)
/*
```

図 26. 活動ログ・データ・セットを使用して CSQ1LOGP ユーティリティーを呼び出すためのサンプル JCL

```
//PRTLOG EXEC PGM=CSQ1LOGP
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQLOAD
//ARCHIVE DD DSN=qmgr.archive1.ds01,DISP=SHR
// DD DSN=qmgr.archive1.ds02,DISP=SHR
// DD DSN=qmgr.archive1.ds03,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSSUMRY DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
insert your input control statements here
/*
```

図 27. 保存ログ・データ・セットを使用して CSQ1LOGP ユーティリティーを呼び出すためのサンプル JCL

```
//PRTLOG EXEC PGM=CSQ1LOGP
...
//CSQBACK DD DSN=backout.dataset,DISP=(NEW,CATLG)
//CSQCMT DD DSN=commit.dataset,DISP=(NEW,CATLG)
//CSQBOTH DD DSN=both.dataset,DISP=(NEW,CATLG)
//CSQINFLT DD DSN=inflight.dataset,DISP=(NEW,CATLG)
//CSQOBSJ DD DSN=objects.dataset,DISP=(NEW,CATLG)
```

図 28. EXTRACT キーワードの追加ステートメントを示すサンプル JCL

EXEC ステートメントには、オプション・パラメーター TIME(RAW) を使用できます。これは、タイム・スタンプの形式の設定方法を変更します。

```
//PRTLOG EXEC PGM=CSQ1LOGP,PARM='TIME(RAW)'
```

これによって、タイム・スタンプの形式は、形式設定システムのタイム・ゾーンまたはうるう秒の調整を適用せずに設定されます。この操作モードは、リモート・サイトで作成されたログ・データを形式設定するときに使用できます。例えば、夏時間調整の変更の前などです。

パラメーターを指定しない場合のデフォルトの動作は、形式設定を行うシステムのタイム・ゾーンおよびうるう秒の修正を使用してタイム・スタンプを設定します。

このパラメーターの影響を受けて形式設定される時間は、以下のものと関連があります。

- チェックポイント時間
- 再始動時間
- UR 開始時間

入力制御パラメーター

SYSIN データ・セットで使用できるキーワードを、以下のリストに示します。

各種の選択基準を使用して、処理されるログ・レコードを制限することができます。次のとおりです。

- ログ範囲。RBASTART-RBAEND または LRSNSTART-LRSNEND を使用
- ページ・セット。PAGESET を使用
- リカバリー単位。URID を使用
- レコードの内容。DATA を使用
- 資源マネージャー。RM を使用

異なる選択基準を組み合わせてすることができます。すべての基準に合致したレコードだけが処理されます。

LRSNSTART (*hexadecimal-constant*)

処理を開始する論理レコード・シーケンス番号 (LRSN) を指定します。このキーワードは、RBASTART と一緒に使用することはできません。使用するキュー・マネージャーがキュー共有グループに入っている場合は、このキーワードを指定してください。

LRSN 値は、常に、A000000000000 より大きくなければなりません。これより小さい値を指定すると、この値が開始値として使用されます。

STARTLRSN、STRTLRSN、または LRSNSTRT の形式を使用することもできます。このキーワードは、1 回だけ指定してください。

LRSNEND (*hexadecimal-constant*)

走査の対象となる最後のレコードの論理レコード・シーケンス番号 (LRSN) を指定します。デフォルトは FFFFFFFFFF (データ・セットの終わり) です。このキーワードを使用する場合は、LRSNSTART と一緒に使用しなければなりません。

ENDLRSN の形式を使用することもできます。

このキーワードは、1 回だけ指定してください。

RBASTART (*hexadecimal-constant*)

処理の開始位置を示すログ RBA を指定します。このキーワードは、LRSNSTART と一緒に使用することはできません。

STARTRBA または ST の形式を使用することもできます。このキーワードは、1 回だけ指定してください。

RBAEND (*hexadecimal-constant*)

処理の終わりの位置を示す有効なログ RBA を指定します。このキーワードを省略すると、処理はログの終わり (6 バイトの RBA を使用している場合は FFFFFFFFFF、8 バイトの RBA を使用している場合は FFFFFFFFFFFFFFFF) まで続行します。このキーワードを使用する場合は、RBASTART と一緒に使用しなければなりません。

ENDRBA または EN の形式を使用することもできます。このキーワードは、1 回だけ指定してください。

PAGESET (*decimal-integer*)

ページ・セット ID を指定します。値は 00 から 99 の範囲でなければなりません。最大 10 個の PAGESET キーワードを指定することができます。PAGESET キーワードを指定すると、指定したページ・セットに関連するログ・レコードだけが処理されます。

URID (*hexadecimal-constant*)

16 進数のリカバリー単位 ID を指定します。データの変更が、IBM MQ リカバリー単位のコンテキストで行われます。リカバリー単位は、BEGIN UR レコードによって、ログ上で識別されます。その BEGIN UR レコードのログ RBA が、使用しなければならない URID の値です。対象とする特定の UR の URID が分かっている場合は、ログからの情報の抽出を、その URID に限定することができます。

16 進定数は、1 から 16 文字 (8 バイト) で構成することができ、先行のゼロは必要ありません。

最大 10 個の URID キーワードを指定することができます。

DATA (hexadecimal-string)

データ・ストリングを 16 進数で指定します。

このストリングは、2 文字以上 48 文字以下 (24 バイト) で構成できますが、その文字数は偶数にする必要があります。

最大 10 個の DATA キーワードを指定することができます。

DATA キーワードを指定すると、指定したストリングの少なくとも 1 つのストリングを含むログ・レコードだけが処理されます。

注: DATA パラメーターと EXTRACT パラメーターを同時に使用することはできますが、IBM MQ の内部実装を十分に理解していない限り、出力から確実に意味を引き出すのが難しくなります。その理由は、要求された DATA が含まれる低位レベルの個々のログ・レコードだけが処理されるためです。したがって、DATA シーケンスが実際に示されているレコードだけが抽出され、データに論理的に関連付けられた完全な出力は抽出されません。この場合、例えば、書き込みメッセージと関連付けられたレコードだけが取得され、取得メッセージと関連付けられたレコードは取得できないことや、長いメッセージの最初の部分だけが取得され、要求された DATA ストリングを含まない他のログ・レコード内にある残りのメッセージ部分は取得できないことがあります。

RM (resource_manager)

特定の資源マネージャーを指定します。ここで指定した資源マネージャーに関連するレコードのみが処理されます。このキーワードの有効値は、次のとおりです。

RECOVERY

回復ログ・マネージャー

データ

データ・マネージャー

BUFFER

バッファ・マネージャー

IMSBRIDGE

IMS ブリッジ

SUMMARY (YES/NO/ONLY)

要約レポートを作成するかどうかを指定します。

YES

詳細レポートのほかに、要約レポートを作成します。

NO

要約レポートを作成しません。

ONLY

要約レポートのみを作成します (詳細レポートは作成しません)。

デフォルトは NO です。

EXTRACT (YES/NO)

EXTRACT (YES) を指定すると、入力選択基準を満たす各ログ・レコードが、適切な出力ファイルに書き込まれます (1958 ページの『EXTRACT 機能』のページを参照)。デフォルトは NO です。

注: DATA パラメーターと EXTRACT パラメーターを同時に使用することはできますが、IBM MQ の内部実装を十分に理解していない限り、出力から確実に意味を引き出すのが難しくなります。その理由は、要求された DATA が含まれる低位レベルの個々のログ・レコードだけが処理されるためです。したがって、DATA シーケンスが実際に示されているレコードだけが抽出され、データに論理的に関連付けられた完全な出力は抽出されません。この場合、例えば、書き込みメッセージと関連付けられたレコードだけが取得され、取得メッセージと関連付けられたレコードは取得できないことや、長いメッセージの最初の部分だけが取得され、要求された DATA ストリングを含まない他のログ・レコード内にある残りのメッセージ部分は取得できないことがあります。

DECOMPRESS (YES/NO)

圧縮ログ・レコードを解凍するかどうかを指定します。

YES

圧縮ログ・レコードはすべて、検索機能、印刷機能、または抽出機能が実行される前に解凍されます。

NO

どの圧縮ログ・レコードも、検索機能または印刷機能が実行される前には解凍されません。DECOMPRESS(NO) は抽出機能と一緒に使用しないでください。

デフォルトは「はい」です。

使用上の注意

1. キュー・マネージャーがキュー共有グループ内にある場合は、LRSNSTART (オプションで LRSNEND を指定可能) または RBASTART (オプションで RBAEND を指定可能) で必要となるログ範囲を指定できます。LRSN と RBA を一緒に指定することはできません。

キュー共有グループ内の別のキュー・マネージャーのログ情報を調整する必要がある場合は、LRSN 指定を使用してください。
2. キュー・マネージャーがキュー共有グループ内にない場合は、LRSN 指定は使用できません。その場合は、RBA 指定を使用する必要があります。
3. BSDS を使用する場合、RBASTART または LRSNSTART を指定する必要があります。
4. CSQ1LOGP は、LRSNSTART または RBASTART で指定した値より大きいか等しい LRSN または RBA 値が入っている最初のレコードから処理を開始します。
5. 通常は、ログに追加された最新のもののだけが必要となります。ログ範囲の先頭には、適切な値を注意深く選択するようにし、デフォルトは使用しないでください。適切な値を指定しないと、ほとんど必要のない大量のデータが生成されてしまいます。

EXTRACT 機能

EXTRACT パラメーターは、一般に次の用途で使用されます。

- どの持続メッセージがキューに書き込まれ、キューから取得されるか、および 要求がコミットされたかどうかを検討する。これにより、メッセージが再生されます。
- 書き込みまたは入力が行われたが、要求がバックアウトされた持続メッセージを検討する。
- コミットされずにバックアウトされたアプリケーションを表示する。
- キューにより処理された持続データのボリュームを検出し、高使用率のキューを識別する。
- どのアプリケーションがオブジェクト属性を設定するかを識別する。
- 大きな障害の後の回復のためにオブジェクト定義を再作成する (プライベート・キューの場合のみ)。

EXTRACT パラメーター・セットを指定した CSQ1LOGP がログ・データ・セットに対して実行されると、データ・セット内のすべてのレコードか、または 指定された範囲内のすべてのレコードが処理されます。処理は次のとおりです。

1. コミット要求が見つかったときに CSQCMT DD 名が存在する場合、データはこのデータ・セットに書き込まれます。CSQBOTH DD 名が存在する場合、データはこのデータ・セットにも書き込まれます。
2. バックアウト要求が見つかったときに CSQBACK DD 名が存在する場合、データはこのデータ・セットに書き込まれます。CSQBOTH DD 名が存在する場合、データはこのデータ・セットにも書き込まれます。
3. オブジェクトへの変更が検出されると、CSQOBS DD 名によって識別されるデータ・セットに情報が書き込まれます。
4. 最後のレコードが処理されたときに、残りの作業単位に関する情報が、CSQINFLT DD 名によって 識別されるデータ・セットに書き込まれます。

これらの情報のクラスを収集しない場合は、該当する DD ステートメントを省略してください。

EXTRACT データの処理例

次のジョブは DFSORT 機能を使用して、コミットされたレコードのファイルを処理し、各キューに書き込まれたバイト数を加算します。

```
//TOOLRUN EXEC PGM=ICETOOL,REGION=1024K
//TOOLMSG DD SYSOUT=*
//DFSMSG DD SYSOUT=*
//TOOLIN DD *
SORT FROM(IN) TO(TEMP1) USING(CTL1)
DISPLAY FROM(TEMP1) LIST(OUT1) ON(5,48,CH) ON(53,4,BI)
/*
//CTL1 DD *
* SELECT THE RECORDS WHICH WERE PUT
  INCLUDE COND=(180,5,CH,EQ,C'MQPUT')
* SORT BY QUEUE NAME
  SORT FIELDS=(112,48,CH,A)
* ONLY COPY THE QUEUE NAME AND SIZE OF USER DATA TO OUTPUT REC
  OUTREC FIELDS=(1,4,112,48,104,4)
* ADD UP THE NUMBER OF BYTES PROCESSED
* SUM FIELDS=(104,4,FI)
/*
//IN DD DISP=SHR,DSN=commit.dataset
//TEMP1 DD DISP=(NEW,DELETE),DSN=&TEMP1,SPACE=(CYL,(10,10))
//OUT1 DD SYSOUT=*
```

図 29. 各キューに書き込まれるバイトの累積

これは次の形式で出力を生成します。

BA1	3605616
BA10	3572328
BA2	3612624
BA3	3579336
BA4	3572328
BA5	3491736
BA6	3574080
BA7	3532032
BA8	3577584
BA9	3539040
SYSTEM.ADMIN.CHANNEL.EVENT	186120
SYSTEM.ADMIN.QMGR.EVENT	384
SYSTEM.CHANNEL.SYNCQ	46488312

次の表は、EXTRACT(YES) が使用されるときに生成されるデータを印刷および解釈できるように提供されたサンプルのリストです。

サンプル	説明
thlqual.SCSQLOAD(CSQ4LOGS)	以下を実行するサンプル C プログラム。 - UOW アクティビティ、オブジェクトを定義するアクティビティ、およびオブジェクトを変更するアクティビティに関するレポートを行う。 - オプションで、メッセージを再生する。

サンプル	説明
thlqual.SCSQC375(CSQ4LOGS)	サンプル C プログラムのソース
thlqual.SCSQC370(CSQ4LOGD)	CSQ1LOGP で EXTRACT(YES) 機能を使用するときに生成されるレコードをマップする C ヘッダー・ファイル
thlqual.SCSQPROC(CSQ4LOGJ)	プログラム CSQ4LOGS を実行するためのサンプル JCL

注：APF 許可ライブラリーからは CSQ4LOGS プログラムを実行しないでください。状況によっては、実行すると異常終了コードを受け取ります。

CSQ1LOGP 出力

詳細レポート

詳細レポートは、はじめに SYSIN で指定された入力選択基準をエコーして、その後に、取り出されたそれぞれの有効なログ・レコードを印刷します。詳細レポートのキーワードの定義は次のとおりです。

RM

ログ・レコードを書き込んだ資源マネージャー

タイプ

ログ・レコードの種類

URID

このリカバリー単位の BEGIN UR (上記参照)。

LRID

AAAAAAAA.BBBBBBCC の形式での論理レコード ID。

AAAAAAAA

ページ・セット番号

BBBBBB

ページ・セット内の相対ページ番号

CC

ページ上の相対レコード番号

LRSN

走査されたログ・レコードの論理レコード・シーケンス番号 (LRSN)

SUBTYPE

ログ・レコード種別のサブタイプ

CHANGE LENGTH

ログに記録された変更の長さ

CHANGE OFFSET

変更の開始位置

BACKWARD CHAIN

前ページを指すポインター

FORWARD CHAIN

次ページを指すポインター

RECORD LENGTH

挿入されたレコードの長さ

出力データ・セットのレコード・レイアウト

EXTRACT キーワードが指定されるときに生成されるデータ・セットには、持続メッセージに関する情報が含まれます。メッセージはキュー名と 8 文字のキーにより識別されます。メッセージが取得されると、キーは別のメッセージが再利用できるため、確実に時間順序が維持されることが重要です。レコードには時刻があります。タイム・スタンプは Begin-UR レコードまたは MQPUT 要求からのみ抽出できます。そのため、メッセージを取得中の長期実行トランザクションだけがある場合、取得が行われた時刻は、トランザクションが開始された時刻となります (Begin-UR レコード)。短い作業単位や書

き込み中のメッセージが多数存在する場合、時刻はかなり正確です(ミリ秒の範囲内)。それ以外の場合は、時刻は次第に不正確になります。

注: ファイルは可変ブロック形式であるため、各レコードの前に 4 バイトのレコード記述子ワードがあります。可変長レコードの最初のデータ・バイトの相対位置は 5 になり、最初の 4 バイトに、レコード記述子ワードが含まれます。フィールド名は thlqual.SCSQC370 の C ヘッダー・ファイル CSQ4LOGD 内のフィールド名に対応します。

データ・セット内の情報は、次のレイアウトとなります。

オフセット		タイプ	Length	名前	説明
10 進	16 進				
0	0	文字	21	csrecorddate	ログが書き込まれた近似時刻。形式は yyyy.ddd hh:mm:ss.thm となります。
21	15	文字	7	cstimedelta	作業単位の開始からの近似時差(ミリ秒単位)。右寄せされ、ブランクが埋め込まれます。
28	1C	64 ビット整数	8	dtodout	ログ・レコードが作成された推定時刻。形式は STCK です。
36	24	文字	8	csurid	ログ・レコードを作成した作業単位のキュー・マネージャー固有 ID。
44	2C	文字	12	cscorrelator	スレッド相関 ID。
56	38	文字	8	csauth	許可 ID (作業単位に関連するユーザー ID)。
64	40	64 ビット整数	8	dtime	作業単位を開始した時刻。形式は STCK です。
72	48	文字	8	csresource	リソース名
80	50	文字	8	cscnty	接続タイプ: BATCH、RRSBATCH、IMS、CICS、CHIN のいずれか、または内部タスクの場合はヌル。
88	58	文字	8	cscnid	この作業単位を作成したスレッドの接続 ID。
96	60	文字	3	csstatus	作業単位のタイプ: 開始の場合は BUR、チェックポイント情報の場合は CP。
99	63	整数	4	ldatalen	メッセージ・データの長さ (存在する場合)。
103	67	文字	4	csqmgrname	キュー・マネージャーの名前。
107	6B	文字	48	csqueueaname	取得、書き込み、または期限切れメッセージのためのキューの名前。このフィールドは疑問符(?) になることがあります。疑問符になるのは、項目に関連付けられたユーザー ID を判別できないときです。これは通常、URID が取得される可能性のある begin_ur レコードまたはチェックポイント・レコードが、ジョブで指定したログ範囲にも、使用されているログ・データ・セットにもないときに起こります。
155	9B	文字	12	cssqdmcp	共有キュー・メッセージのキー。共有キューでない場合はブランク。

オフセット		タイプ	Length	名前	説明
167	A7	文字	8	csdmcp	非共有キュー・メッセージのキー。共有キューの場合はブランク。
175	AF	文字	8	csverb	アクティビティー: ALTER オブジェクトが変更された DEFINE オブジェクトが作成された MQGET メッセージが取得された MQPUT メッセージが書き込まれた EXPIRE メッセージの期限が切れた ABORT2 メッセージがバックアウトされた PHASE1 2 フェーズ・コミットの最初のフェーズ PHASE2 2 フェーズ・コミットの 2 番目のフェーズ、 または 1 フェーズ・コミットの唯一のフェーズ
183	B7	文字	1	cscmitstatus	作業単位の状況: B バックアウト C コミット済み I 未完了 (inflight)
184	B8	文字	1	csshunt	延期標識: S 延期されたレコード N 延期なし
185	B9	文字	8	cslogrba	ログ・レコードの RBA
193	C1	文字	8	csshuntrba	延期されたログ・レコードの RBA
201	C9	文字	1	csuowscope	UOW の有効範囲 (16 進数): 01 ローカル 02 共用
202	CA	整数	4	lsegment	1 から始まるデータのセグメント番号。

オフセット		タイプ	Length	名前	説明
206	CE		変数		データ部分
206	CE	文字	1	csbora	csverb が ALTER の場合、データがオブジェクトのコピーの '前' であるか '後' であるかを示します。 B before A after
207	CF	文字	変数	csvardata	メッセージまたはオブジェクト・データ。長さは ldatalen で指定されます。

キュー共有グループ・ユーティリティ (CSQ5PQSG)

CSQ5PQSG ユーティリティ・プログラムを使用して、キュー共有グループやキュー・マネージャーの定義を IBM MQ Db2 表に追加したり、それらの定義を削除したりできます。

CSQ5PQSG ユーティリティは、キュー共有グループ内のキュー・マネージャー、CF 構造、および共有キュー・オブジェクトの Db2 オブジェクト定義の整合性を検証するために使用することもできます。

- [キュー共有グループ・ユーティリティの呼び出し](#)
- [構文、キーワード、およびパラメーター](#)
- [例](#)

キュー共有グループ・ユーティリティの呼び出し

1963 ページの[図 30](#)は、CSQ5PQSG ユーティリティを呼び出すための JCL の例です。

```
//S001 EXEC PGM=CSQ5PQSG,REGION=4M,
//      PARM='function,function parameters'
//STEPLIB DD DSN=thlqual.SCSQANLE,DISP=SHR
//          DD DSN=thlqual.SCSQAUTH,DISP=SHR
//          DD DSN=db2qual.SDSNLOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
```

図 30. CSQ5PQSG ユーティリティを呼び出すためのサンプル JCL

データ定義ステートメント

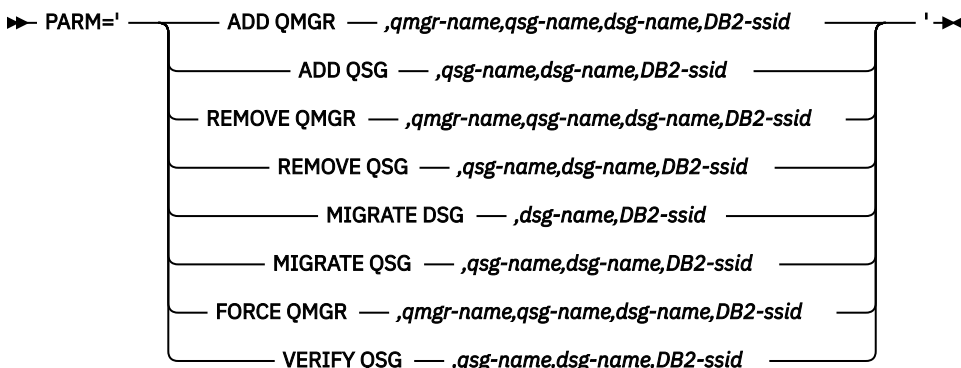
CSQ5PQSG ユーティリティでは、以下の DD 名を持ったデータ定義ステートメントが必要です。

SYSPRINT

このステートメントは必須です。これは、印刷出力用のデータ・セットの名前を指定します。論理レコード長 (LRECL) は 125 です。

構文、キーワード、およびパラメーター

Queue-sharing group utility



キュー共有グループ名 (*qsg-name*)。大文字の A から Z、0 から 9、\$、#、@ で構成される最大 4 文字を使用できます。数字で始まってはなりません。実装上の理由により、4 文字未満の名前には内部的に @ 記号が埋め込まれるため、@ で終わる名前は使用しないでください。

キュー共有グループ名は、キュー共有グループ内のキュー・マネージャー名と異なっている必要があります。

PARM

このフィールドには、機能要求の後に、機能固有パラメーターが入ります。これについては、以下のテキストで説明されています。

ADD QMGR

キュー・マネージャーのレコードを CSQ.ADMIN_B_QMGR 表に追加します。この操作は、以下のすべての条件を満たした場合にのみ正常に完了します。

- 対応するキュー共有グループのレコードが CSQ.ADMIN_B_QSG 表に存在する。
- CSQ.ADMIN_B_QMGR 表に、別のキュー共有グループのメンバーとしてキュー・マネージャーの項目が存在していない。
- CSQ.ADMIN_B_QMGR 表にレコードを追加した際にユーティリティによって作成されたものとは異なる QMGR 数値のメンバー項目が XCF グループに存在しない。

追加しようとしているキュー・マネージャーが、ADD QMGR 機能の実行時にアクティブまたは非アクティブのいずれであるかは関係ありません。

Db2 表に対応する項目がないメンバーが XCF グループに存在する場合、ユーティリティを使用しそのメンバーを追加できます。キュー・マネージャーの追加は、キュー共有グループ・ユーティリティ (CSQ5PQSG) に **VERIFY QSG** パラメーターを指定して実行した際にこのユーティリティから発行された CSQU524I メッセージで示された順に行います。

キュー・マネージャーが Db2 表 CSQ.ADMIN_B_QMGR に存在していても、MVS XCF グループでは欠落している場合、このユーティリティを実行して、CSQ5010E メッセージに示されたように、該当する XCF グループ項目を復元できます。

qmgr-name

キュー・マネージャー名

qsg-name

キュー共有グループ名

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

ADD QSG

キュー共有グループのレコードを CSQ.ADMIN_B_QSG 表に追加します。

qsg-name

キュー共有グループ名

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

REMOVE QMGR

キュー・マネージャーのレコードを CSQ.ADMIN_B_QMGR 表から除去します。この操作が正常に実行されるのは、キュー・マネージャーがまったく開始されていない場合か、最後の実行時に正常に終了していない場合に限られます。

qmgr-name

キュー・マネージャー名

qsg-name

キュー共有グループ名

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

REMOVE QSG

キュー共有グループのレコードを CSQ.ADMIN_B_QSG 表から除去します。この操作が正常に実行されるのは、キュー共有グループに対してキュー・マネージャーが定義されていない場合に限られます。

qsg-name

キュー共有グループ名

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

MIGRATE DSG

インストール済み環境が、その Db2 データ共有グループの表定義を IBM WebSphere MQ 7.0 またはバージョン 7.1 から IBM MQ 8.0 にマイグレーションする準備ができているかどうかを検査します。

以下のことを検査します。

- データ共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーに、マイグレーションおよび共存 PTF が適用され、その後で開始されていること。
- データ共有グループがまだマイグレーションされていないこと。

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

この機能は、いくつかのステップが含まれていますが、実際にはマイグレーションを行いません。この機能は、thlqual SCSQPROC のサンプル・マイグレーション・ジョブ CSQ4570T および CSQ4571T の一部として組み込まれています。

マイグレーションには、データ共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーに、マイグレーション PTF がインストールされている必要があります。

MIGRATE QSG

インストール済み環境が、その Db2 キュー共有グループの表定義を IBM WebSphere MQ 7.0 またはバージョン 7.1 から IBM MQ 8.0 にマイグレーションする準備ができているかどうかを検査します。

MIGRATE QSG 機能と MIGRATE DSG 機能は、同じ機能を実行します。唯一の違いは、処理の有効範囲です。MIGRATE QSG が単一のキュー共有グループでのみ機能するのに対し、MIGRATE DSG はデータ共有グループ内に定義されたすべてのキュー共有グループで機能します。

以下のことを検査します。

- キュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーに、マイグレーションおよび共存 PTF が適用され、その後で開始されていること。

qsg-name

キュー共有グループ名

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

この機能は、いくつかのステップが含まれていますが、実際にはマイグレーションを行いません。この機能は、thlqual SCSQPROC のサンプル・マイグレーション・ジョブ CSQ4570T および CSQ4571T の一部として組み込まれています。

マイグレーションには、キュー共有グループ内の**すべての**キュー・マネージャーに、マイグレーション PTF がインストールされている必要があります。

FORCE QMGR

キュー・マネージャーが異常終了した場合であっても、キュー・マネージャーのレコードを CSQ.ADMIN_B_QMGR 表から除去します。

REMOVE オプションではなく **FORCE** オプションを使用して、キュー共有グループ内の最後のキュー・マネージャーを削除します。

注意：これによって、データの整合性を保持するための IBM MQ の動作に変更が生じる場合があります。この関数は、[キュー共有グループからキュー・マネージャーを除去するのページ](#)にあるキュー共有グループからキュー・マネージャーを除去する手順を実行できない場合にのみ、使用してください。

qmgr-name

キュー・マネージャー名

qsg-name

キュー共有グループ名

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

VERIFY QSG

キュー・マネージャー、CF 構造、およびキュー共有グループ内の共有キュー・オブジェクトの Db2 オブジェクト定義の整合性を検証します。

qsg-name

キュー共有グループ名

dsg-name

Db2 データ共有グループ名

DB2-ssid

Db2 サブシステム ID

例

次のサンプル JCL は、キュー・マネージャー QM01 の項目をキュー共有グループ QSG1 に追加します。Db2 データ共有グループ DSN510PG のメンバーである Db2 サブシステム DB2A との接続を指定しています。

```
//S001 EXEC PGM=CSQ5PQSG,REGION=4M,  
//      PARM='ADD QMGR,QM01,QSG1,DSN510PG,DB2A'  
//STEPLIB DD DSN=thlqual.SCSQANLE,DISP=SHR  
//          DD DSN=thlqual.SCSQAUTH,DISP=SHR  
//          DD DSN=db2qual.SDSNLOAD,DISP=SHR  
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
```

図 31. キュー共有グループ・ユーティリティを使用して、キュー・マネージャーをキュー共有グループに追加する

活動ログ事前フォーマット・ユーティリティ (CSQJUFMT)

CSQJUFMT ユーティリティを使用して、アクティブ・ログ・データ・セットをキュー・マネージャーで使用する前にフォーマットすることができます。

このユーティリティを使用してアクティブ・ログ・データ・セットを事前フォーマットすると、アクティブ・ログを介したキュー・マネージャーの最初のパスで、ログ書き込みのパフォーマンスが向上します。ユーティリティを使用しない場合、キュー・マネージャーは、各ログの制御インターバルを使用する前に、ログの書き込み時点でそれをフォーマットする必要があります。アクティブ・ログ・データ・セットを経由した 2 番目のパスおよび後続のパスでは、ログの制御インターバルにデータが既に含まれているので、さらにフォーマットする必要はありません。また、パフォーマンスがさらに向上するわけではありません。

CSQJUFMT ユーティリティの呼び出し

CSQJUFMT プログラムは、ログを使用するキュー・マネージャーを開始する前にのみ実行できます。

注：キュー・マネージャーの開始後は、このユーティリティを使用してログ・データ・セットをフォーマットしないでください。これを行うと、データが失われます。

```
EXEC PGM=CSQJUFMT
```

CQJUFMT ユーティリティを実行している各ステップは、単一のアクティブなログ・データ・セットをフォーマットします。作成されるアクティブなログごとに、さらに CSQJUFMT ステップを追加します。



重要：JCL では、単一のジョブに含まれるステップ数が 255 に制限されています。255 個より多くのアクティブなログ・データ・セットをフォーマットする場合は、複数のジョブを実行する必要があります。

次の DD ステートメントを用意してください。

SYSPRINT

このステートメントは、印刷出力用の、データ・セットまたは印刷スプール・クラスを指定するために必要です。

SYSUT1

このステートメントは、事前フォーマットするログ・データ・セットを示します。

```

//JOB LIB DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQANLE
// DD DISP=SHR,DSN=thlqual.SCSQAUTH
//*
//JUFMT11 EXEC PGM=CSQJUFMT
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DISP=OLD,DSN=h1q.LOGCOPY1.DS01
//*
//JUFMT21 EXEC PGM=CSQJUFMT
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DISP=OLD,DSN=h1q.LOGCOPY2.DS01

```

図 32. CSQJUFMT ユーティリティの呼び出しに使用される JCL の例

新たに定義される重複ログ・データ・セットを事前フォーマットするためのサンプル JCL が thlqual.SCSQPROC (CSQ4LFMT) に備えられています。これには 2 つのステップがあり、ログ・データ・セットのコピーをそれぞれフォーマットするためのステップが含まれています。

送達不能キュー・ハンドラー・ユーティリティ (CSQUDLQH)

デフォルトの送達不能ユーティリティ (CSQUDLQH) を使用して、送達不能キューに書き込まれたメッセージを処理することができます。

送達不能キュー (DLQ) とは、宛先キューに送達できないメッセージを入れておくための保留キューです。ネットワーク内のすべてのキュー・マネージャーには、DLQ を関連付けておくことができます。

キュー・マネージャー、メッセージ・チャンネル・エージェント、およびアプリケーションは DLQ にメッセージを書き込むことができます。DLQ 上のすべてのメッセージの先頭には、送達不能ヘッダー 構造体 MQDLH を付ける必要があります。キュー・マネージャーまたはメッセージ・チャンネル・エージェントが DLQ に書き込むメッセージには、常に送達不能ヘッダーを付ける必要があります。メッセージを DLQ に書き込むアプリケーションも、必ず送達不能ヘッダー構造を提供するようにしてください。MQDLH 構造体の Reason フィールドには、メッセージが DLQ 上にある理由を識別する理由コードが入っています。

DLQ 上のメッセージを処理するために定期的に行うルーチンを実装してください。このようなルーチンは、送達不能キュー・ハンドラーと呼ばれます。IBM MQ には、CSQUDLQH というデフォルトの送達不能キュー・ハンドラー (DLQ ハンドラー) が用意されています。ユーザー作成の規則表から、DLQ 内のメッセージを処理するための命令を DLQ ハンドラーに与えるようにします。つまり、DLQ ハンドラーは、DLQ 上のメッセージと、規則テーブルの項目を突き合わせます。DLQ メッセージが規則テーブルの項目に一致すると、DLQ ハンドラーが、その項目に関連付けられているアクションを実行します。

DLQ ハンドラーの起動

このトピックでは、CSQUDLQH ユーティリティ・プログラムを呼び出す方法、およびそのデータ定義ステートメントについて知ることができます。

CSQUDLQH ユーティリティ・プログラムは、z/OS のバッチ・プログラムとして実行されます。処理対象の送達不能キューと、そのキューが置かれているキュー・マネージャーの名前を指定してください。これを行う方法は 2 つあります (以下の例では、送達不能キューの名前を CSQ1.DEAD.QUEUE、キュー・マネージャーの名前を CSQ1 とします)。

1. 実行する JCL 内の EXEC ステートメントの PARM パラメーターに、定位置パラメーターとして名前を指定する方法。例えば、次のように指定します。

```

//READQ EXEC PGM=CSQUDLQH,
// PARM='CSQ1.DEAD.QUEUE CSQ1'

```

図 33. JCL 内に送達不能キュー・ハンドラー用のキュー・マネージャー名と送達不能キュー名を指定する

2. 規則テーブルに名前を指定する方法。例えば、次のように指定します。

```
INPUTQ(CSQ1.DEAD.QUEUE) INPUTQM(CSQ1)
```

図 34. 規則テーブル内に送達不能キュー・ハンドラー用のキュー・マネージャー名と送達不能キュー名を指定する

PARM パラメーターに指定するパラメーターは、規則テーブルのパラメーターをオーバーライドすることになります。PARM ステートメントにパラメーターを 1 つだけ指定する場合、送達不能キューの名前として使用されます。規則テーブルは、SYSIN データ・セットから取られます。

パターン照合およびパターン処理のために指定できるキーワード、およびアクション・キーワードについて詳しくは、1971 ページの『規則 (パターンおよびアクション)』を参照してください。

DLQ ハンドラーの停止

以下の条件のいずれかが当てはまる場合、CSQUDLQH ユーティリティは停止します。

- WAIT 制御データ・キーワードによって構成された指定時間中、送達不能キューが空になる。
- 送達不能キューが GET(DISABLED) に設定される。
- キュー・マネージャーが静止する。
- CSQUDLQH ジョブが取り消される。

制御された方法で CSQUDLQH ユーティリティが終了すると、キューの処理中に生成されるメッセージが標準出力に書き込まれます。ハンドラーが取り消される場合、メッセージは生成されません。

データ定義ステートメント

CSQUDLQH は、次のような DD 名を持つ DD ステートメントを必要とします。

SYSOUT

このステートメントは必須です。これは、印刷出力用のデータ・セットの名前を指定します。この出力データ・セットの論理レコード長 (LRECL) とブロック・サイズ (BLKSIZE) も指定できます。

SYSIN

このステートメントは必須です。これは、ユーティリティの動作を指定した規則テーブルが入っている入力データ・セットの名前を指定します。論理レコード長 (LRECL) は 80 です。

サンプル JCL

```
//READQ EXEC PGM=CSQUDLQH,  
//      PARM='CSQ1.DEAD.QUEUE CSQ1'  
//STEPLIB DD DSN=thlqual.SCSQAUTH,DISP=SHR  
//      DD DSN=thlqual.SCSQLOAD,DISP=SHR  
//      DD DSN=thlqual.SCSQANLE,DISP=SHR  
//SYSOUT DD SYSOUT=*  
//SYSIN  DD *  
INPUTQM(CSQ2) INPUTQ('CSQ2.DEAD.QUEUE')  
ACTION(RETRY)  
/*
```

図 35. CSQUDLQH ユーティリティを呼び出すためのサンプル JCL

DLQ ハンドラーの規則テーブル

DLQ ハンドラーのルール・テーブルは、DLQ に到着したメッセージを DLQ ハンドラーがどのように処理するかを定義するものです。

規則テーブルの項目には、次の 2 つのタイプがあります。

- テーブルの最初の項目は 1970 ページの『制御データ』で、この項目はオプションです。
- 表中の他のすべての項目は、DLQ ハンドラーが従う規則です。各規則は、メッセージを突き合わせるパターン (一連のメッセージ特性) と、指定したパターンと DLQ 上のメッセージが一致したときに行われるアクションで構成されます。規則テーブルには、規則が少なくとも 1 つ必要です。

規則テーブルの各項目は、1 つ以上のキーワードから構成されます。

規則テーブルの構文については、1973 ページの『規則テーブルの規則』を参照してください。

パターン照合、およびアクション・キーワードが CSQUDLQH ユーティリティを制御する方法については、[規則 \(パターンおよびアクション\)](#) を参照してください。

制御データ

このセクションでは、DLQ ハンドラーの規則テーブルの制御データ項目に入れることができるキーワードについて説明します。

- キーワードはすべてオプションです。
- 制御データ項目を規則テーブルに組み込む場合、その項目は、規則テーブルの最初の項目でなければなりません。
- キーワードのデフォルト値 (ある場合) には、下線が引いてあります。
- 指定できる値は、縦線 (|) で区分されています。いずれか 1 つを指定できます。

入力キュー (QueueName | ' ')

処理対象の DLQ の名前を指定します。

1. EXEC ステートメントの PARM パラメーターにキュー名を指定した場合は、その名前によって、規則テーブルの INPUTQ 値がオーバーライドされます。
2. EXEC ステートメントの PARM パラメーターにキュー名を指定しない場合は、規則テーブルの INPUTQ 値が使用されます。
3. EXEC ステートメントの PARM パラメーターにも、規則テーブルにもキュー名を指定しない場合は、*qmgr-name.DEAD.QUEUE* という名前の送達不能キューが使用されます (これが定義されている場合)。その名前のキューが存在しない場合は、プログラムが失敗し、エラーの理由コードを示したエラー・メッセージ CSQU224E が戻されます。

入力 QM (QueueManagerName | ' ')

INPUTQM キーワードで指定した DLQ を所有しているキュー・マネージャーの名前を指定します。

1. EXEC ステートメントの PARM パラメーターにキュー・マネージャー名を指定した場合は、その名前によって、規則テーブルの INPUTQM 値がオーバーライドされます。
2. EXEC ステートメントの PARM パラメーターにキュー・マネージャー名を指定しない場合は、規則テーブルの INPUTQM 値が使用されます。
3. EXEC ステートメントの PARM パラメーターにも、規則テーブルにもキュー・マネージャー名を指定しない場合は、デフォルトのキュー・マネージャーが使用されます (CSQBDEFV を使って定義されている場合)。デフォルトのキュー・マネージャーが定義されていない場合は、プログラムが失敗し、エラーの理由コードを示したエラー・メッセージ CSQU220E が戻されます。

RETRYINT (Interval | 60)

DLQ 内のメッセージの処理の再試行の間隔を秒単位で指定します。最初の試行でメッセージを処理できなかった場合、再試行が要求されていれば、DLQ ハンドラーは、ここで指定した間隔でメッセージを再び処理しようとします。DLQ ハンドラーは、まずキューの最後までをブラウズした後で、メッセージを再び処理します。

デフォルトは 60 秒です。

待機 (YES | NO | nnn)

DLQ 内に処理できるメッセージがなくなった場合、メッセージがさらに DLQ に入ってくるのを DLQ ハンドラーが待機するかどうかを指定します。

YES

DLQ ハンドラーは際限なく待機します。

NO

DLQ が空になるか、処理できるメッセージがなくなった場合に、DLQ ハンドラーは終了します。

nnn

キューが空になるか、処理できるメッセージがなくなった場合に、DLQ ハンドラーは、新しいメッセージが入ってくるのを *nnn* 秒間待機してから終了します。

1 から 999 999 の範囲内で値を指定してください。

使用頻度の高い DLQ については WAIT (YES)、使用頻度の低い DLQ については WAIT (NO) または WAIT (*nnn*) を指定します。DLQ ハンドラーが終了するように設定した場合は、必要になった時点で呼び出すためのトリガー処理を使用できます。

規則 (パターンおよびアクション)

DLQ ハンドラーは、ここで説明されている一連のパターン照合およびアクションのキーワードを使用して制御されます。

1971 ページの図 36 は、DLQ ハンドラーの規則テーブルに定める規則の例です。

```
PERSIST(MQPER_PERSISTENT) REASON (MQRC_PUT_INHIBITED) +  
ACTION (RETRY) RETRY (3)
```

図 36. DLQ ハンドラーの規則テーブルに定める規則の例

ここでは、規則テーブルで使用するキーワードについて説明します。最初にパターン照合キーワード (DLQ 内のメッセージを突き合わせる対象になるキーワード) について説明します。次にアクション・キーワード (一致したメッセージを DLQ ハンドラーがどのように処理するのかを決めるキーワード) について説明します。

- ACTION を除いて、どのキーワードも指定は任意です。
- キーワードのデフォルト値 (ある場合) には、下線が引いてあります。ほとんどのキーワードでは、デフォルト値がアスタリスク (*) になっており、あらゆる値と一致します。
- 指定できる値は、縦線 (|) で区分されています。これらのキーワードのうち 1 つのみ指定できます。

キーワードは、以下のようにグループ化することができます。

- パターン照合キーワード
- アクション・キーワード

パターン照合キーワード

パターン照合キーワードについて、次の表で説明されています。これらのキーワードを使用して、DLQ 内のメッセージと突き合わせる値を指定します。パターン・マッチング・キーワードはすべてオプションです。

アプリケーション IDAT (*ApplIdentityData* | *****)

メッセージ記述子 MQMD に指定された、DLQ 内のメッセージの *ApplIdentityData* 値。

アプリケーション名 (*PutApplName* | *****)

DLQ 上のメッセージのメッセージ記述子 MQMD の「*PutApplName*」フィールドに指定されている、MQPUT または MQPUT1 呼び出しを発行したアプリケーションの名前。

アプリケーション・タイプ (*PutApplType* | *****)

DLQ 内のメッセージのメッセージ記述子 MQMD に指定された *PutApplType* 値。

ESTQ (QueueName | *)

メッセージの送り先のメッセージ・キューの名前。

DESTQM (QueueManagerName | *)

メッセージの送り先のメッセージ・キューのキュー・マネージャーの名前。

フィードバック (Feedback | *)

MsgType 値が MQMT_REPORT の場合のレポートの種類について説明します。

シンボル名を使用できます。例えば、シンボル名 MQFB_COA を使用して、DLQ 上のメッセージのうち宛先キューへの着信の確認を必要とするものを識別することができます。このユーティリティでは使用できない記号名もいくつかあります。その記号名を使用した場合は、構文エラーになります。そのような場合は、対応する数値を使用してください。

フォーマット (Format | *)

メッセージ・データの形式を記述するためにメッセージの送信側が使用する名前。

MSGTYPE (MsgType | *)

DLQ 内のメッセージのメッセージ・タイプ。

シンボル名を使用できます。例えば、シンボル名 MQMT_REQUEST を使用して、DLQ 上のメッセージのうち応答を必要とするものを識別することができます。

永続 (Persistence | *)

メッセージの永続値。(この永続値によって、キュー・マネージャーの再始動後もメッセージが保存されるかどうかが決まります。)

シンボル名を使用できます。例えば、シンボル名 MQPER_PERSISTENT を使用して、DLQ 上のメッセージのうち保存するものを指定することができます。

理由 (ReasonCode | *)

メッセージが DLQ に書き込まれた理由を説明する理由コード。

シンボル名を使用できます。例えば、シンボル名 MQRC_Q_FULL を使用して、宛先キューが満杯であったために DLQ に書き込まれたメッセージを識別することができます。このユーティリティでは使用できない記号名もいくつかあります。その記号名を使用した場合は、構文エラーになります。そのような場合は、対応する数値を使用してください。

REPLYQ (QueueName | *)

DLQ 内のメッセージのメッセージ記述子 MQMD に指定された応答先キューの名前。

REPLYQM (QueueManagerName | *)

REPLYQ キーワードに指定された応答先キューのキュー・マネージャー名。

ユーザー ID (UserIdentifier | *)

メッセージ記述子 MQMD に指定した DLQ 上のメッセージを発信したユーザーのユーザー ID。

アクション・キーワード

アクション・キーワードについて、次の表で説明されています。これらのキーワードを使用して、一致したメッセージの処理方法を記述します。

ACTION (DISCARD | IGNORE | RETRY | FWD)

この規則に定義されたパターンと一致した DLQ 内のメッセージについて行われるアクション。

DISCARD

メッセージは DLQ から削除されます。

IGNORE

メッセージは DLQ 上に残されます。

再試行

DLQ ハンドラーは、再度メッセージを宛先キューに書き込もうとします。

FWD

DLQ ハンドラーは、FWDQ キーワードに指定されたキューにメッセージを転送します。

ACTION キーワードは必ず指定する必要があります。アクションを実行するための試行の回数は、RETRY キーワードで制御されます。試行相互間の間隔は、制御データの RETRYINT キーワードで制御されます。

変換 (YES | NO)

デフォルトで、このキーワードは CONVERT(YES) に設定されます。メッセージを転送または再試行する際、DLQ ハンドラーは、MQGMO_CONVERT を指定して MQGET を実行します。つまり、メッセージ・データをキュー・マネージャーの CCSID およびエンコードに変換します。

ただし、CONVERT(NO) を設定すると、メッセージの内容を変換せずにメッセージの転送または再試行が行われます。

FWDQ (QueueName |&DESTQ|&REPLYQ)

ACTION キーワードでメッセージの転送を指定した場合のメッセージの転送先となるメッセージ・キューの名前。

QueueName

このパラメーターは、メッセージ・キューの名前です。FWDQ('') は無効です。

&DESTQ

MQDLH 構造体の DestQName フィールドからキュー名を取り込みます。

&REPLYQ

メッセージ記述子 MQMD の ReplyToQ フィールドから名前を取り込みます。メッセージ・パターンに REPLYQ (?*) を指定すると、FWDQ (& REPLYQ) を指定する規則がブランクの ReplyToQ フィールドを持つメッセージと一致する場合に、エラー・メッセージを回避することができます。

FWDQM (QueueManagerName |&DESTQM|&REPLYQM| ' ')

メッセージが転送されるキューのキュー・マネージャー。

QueueManagerName

このパラメーターでは、ACTION (FWD) キーワードを選択した場合にメッセージの転送先になるキューのキュー・マネージャーの名前を定義します。

&DESTQM

MQDLH 構造体の DestQMGrName フィールドからキュー・マネージャー名を取り込みます。

&REPLYQM

メッセージ記述子 MQMD の ReplyToQMGr フィールドから名前を取り込みます。

..

ローカル・キュー・マネージャー。

ヘッダー (YES | NO)

ACTION (FWD) が要求されたメッセージに MQDLH を残すかどうかを指定します。デフォルトでは、MQDLH はメッセージに残ります。HEADER キーワードは、FWD 以外のアクションには無効です。

PUTAUT (DEF | CTX)

DLQ ハンドラーがメッセージを書き込む際の権限。

DEF

DLQ ハンドラー自体の権限でメッセージを書き込みます。

CTX

メッセージ・コンテキストのユーザー ID の権限でメッセージを書き込みます。PUTAUT (CTX) の指定には、このユーザーの ID を使用する許可が必要です。

再試行 (RetryCount | 1)

アクションの再試行の回数。再試行は、制御データの RETRYINT キーワードで指定した間隔で行われます。1 から 999 999 999 の範囲の値を指定します。

注: DLQ ハンドラーが特定の規則を実行するために行う試行回数は、DLQ ハンドラーの現行インスタンスに特有のものであり、再始動後には持ちこされません。DLQ ハンドラーを再始動すると、規則を適用するために行われる試行回数は、ゼロにリセットされます。

規則テーブルの規則

このトピックでは、CSQUDLQH 規則テーブルで使用される規則について知ることができます。

規則テーブルは、構文、構造、および内容について次の規則に従う必要があります。

- 規則テーブルには少なくとも 1 つの規則が必要です。
- キーワードは、任意の順序で組み込むことができます。
- キーワードは、どの規則にも 1 回のみ指定できます。
- キーワードには大文字小文字の区別はありません。
- キーワードとパラメーター値の組み合わせを他のキーワードと区切るには、少なくとも 1 つのブランクまたはコンマを使用します。
- 規則の先頭または終わり、およびキーワード、句読点、値の間には、ブランクをいくつ入れても構いません。
- 各規則ごとに改行する必要があります。
- 移植性を確保するためには、各行の有効な長さを 72 文字以下とするべきです。
- 次行の最初の非ブランク文字にルールが継続するよう指示するには、行の最後の非ブランク文字として正符号 (+) を使用します。次行の先頭にルールが継続するよう指示するには、行の最後の非ブランク文字として負符号 (-) を使用します。連結文字がキーワードおよびパラメーターの内部に現れても構いません。

以下に例を示します。

```
APPLNAME('ABC+  
D')
```

これは 'ABCD' となります。

```
APPLNAME('ABC-  
D')
```

これは 'ABC D' となります。

- 注釈行は、アスタリスク (*) で始まり、規則テーブルのどの位置にでも含めることができます。
- ブランク行は無視されます。

DLQ ハンドラーのルール・テーブルの各項目は、1 つ以上のキーワードと、それらに関連付けられたパラメーターからなります。パラメーターは、次の構文規則に従う必要があります。

- 各パラメーター値は、有効な文字を 1 つ以上含んでいる必要があります。以下の例の区切り引用符は、有効な文字とは見なされません。例えば、次のパラメーターは有効です。

FORMAT('ABC')

有効文字数は 3

FORMAT(ABC)

有効文字数は 3

FORMAT('A')

有効文字数は 1

FORMAT(A)

有効文字数は 1

FORMAT(' ')

有効文字数は 1

以下のパラメーターは、有効文字が入っていないので無効です。

– FORMAT('')

– FORMAT()

– FORMAT()

– FORMAT

- ワイルドカード文字はサポートされています。末尾ブランクを除いて、任意の単一文字の代わりに疑問符 (?) を使用できます。ゼロ個以上の連続文字の代わりになるのがアスタリスク (*) です。アスタリスク (*) および疑問符 (?) は、パラメーター値の中では常に ワイルドカード文字と解釈されます。
- キーワード、ACTION、HEADER、RETRY、FWDQ、FWDQM、および PUTAUT のパラメーターにワイルドカード文字を含めることはできません。
- パラメーター値の中の後書きブランク、および DLQ 上のメッセージ内のそれに対応するフィールドの中の後書きブランクは、ワイルドカード突き合わせの実行時には無効です。しかし、引用符で囲んだストリングの中の先行ブランクと組み込みブランクは、ワイルドカード突き合わせでも有効です。
- 数値パラメーターには、疑問符 (?) のワイルドカード文字を含めることはできません。アスタリスク (*) についても、数値パラメーター全体の代わりに使うことはできますが、数値パラメーターの一部として組み込むことはできません。例えば、次の数値パラメーターは有効です。

MSGTYPE(2)

応答メッセージのみが対象

MSGTYPE(*)

あらゆるメッセージ・タイプが対象

MSGTYPE('*')

あらゆるメッセージ・タイプが対象

しかし、MSGTYPE('2*') の場合は、アスタリスク (*) を数値パラメーターの一部として使用しているため、無効です。

- 特に言及されていない限り、数値パラメーターは 0 から 999 999 999 の範囲内でなければなりません。パラメーター値がこの範囲内であるなら、キーワードが関連するフィールドで現在無効であっても、パラメーター値は受け入れられます。数値パラメーターには、シンボル名を使用することができます。
- キーワードが関連する MQDLH または MQMD 内のフィールドよりも スtring値が短い場合、その String値は、フィールドの長さになるまでブランクが埋め込まれます。String値 (アスタリスクを除外して) がフィールドより長い場合は、エラーの診断が下されます。例えば、次の String値は、8 文字のフィールドに関してすべて有効です。

'ABCDEFGH'

8 文字

'A*C*E*G*I'

アスタリスクを除く 5 文字

'*A*C*E*G*I*K*M*O*'

アスタリスクを除く 8 文字

- ブランクまたは小文字を含む String、あるいは、ピリオド (.)、スラッシュ (/)、下線 (_)、およびパーセント記号 (%) を除く特殊文字を含む Stringは、一重引用符で囲む必要があります。引用符で囲まれていない小文字は大文字に変換されます。Stringに引用符が含まれる場合、一重引用符を 2 つ使用して、引用符の始めと終わりを示す必要があります。Stringの長さを計算するとき、二重引用符はすべて 1 文字としてカウントされます。

規則テーブルの処理

このトピックでは、CSQUDLQH ユーティリティが規則テーブルを処理する方法について知ることができます。

DLQ ハンドラーは、DLQ のメッセージと一致するパターンを持つ規則を規則テーブルから検索します。検索は、規則テーブルの最初の規則から始まって、テーブル中を順番に進みます。一致するパターンを持つ規則が検出されると、規則テーブルにより、その規則が指示するアクションが試行されます。DLQ ハンドラーは、規則を試行するたびにその規則の再試行カウントを 1 つずつ増分します。最初の試行が失敗すると、試行回数が RETRY キーワードに指定された数に一致するまで、試行を繰り返します。試行がすべて失敗すると、DLQ ハンドラーは、ルール・テーブルの中の次に一致するルールを検索します。

このプロセスは、アクションが正常に実行されるまで、一致するルールについて順番に繰り返されます。一致する規則がそれぞれ RETRY キーワードで指定されている回数だけ試行され、その試行がすべて失敗し

た場合は、ACTION (IGNORE) であると見なされます。一致する規則が見つからないときにも、ACTION (IGNORE) であると見なされます。

詳しくは、[すべての DLQ メッセージを確実に処理する](#)を参照してください。

注：

1. 一致する規則のパターンは、接頭部が MQDLH の DLQ 上のメッセージについてのみ検索されます。送達不能キュー・ハンドラーが、先頭に MQDLH が付いていないメッセージを 1 つ以上検出した場合は、そのことを報告する情報メッセージが出されます。MQDLH が付いていないメッセージは、DLQ ハンドラーによって処理されず、別の方法で処理されるまで送達不能キュー内に残ります。
2. すべてのパターン・キーワードは、規則がアクションのみで構成できるようにデフォルト解釈されます。ただし、そのキューにおいて、MQDLH が付いているメッセージのうち、テーブル内のその他のルールに従ってまだ処理されていないすべてのメッセージに、そのアクションのみのルールが適用されることに注意してください。
3. 規則テーブルは、DLQ ハンドラーが開始したとき検証され、そのときエラーにフラグが付けられます。規則テーブルはいつでも変更できますが、DLQ ハンドラーを再始動しないと、その変更は有効になりません。
4. DLQ ハンドラーは、メッセージ、MQDLH、メッセージ記述子の内容を変更しません。DLQ ハンドラーは、常にメッセージ・オプション MQPMO_PASS_ALL_CONTEXT を使用して、メッセージを他のキューに書き込みます。
5. 規則テーブルの妥当性検査は、反復エラーの生成を防ぐことを目的としているので、規則テーブル内で連続している構文エラーは検出されない場合があります。
6. DLQ ハンドラーは MQOO_INPUT_AS_Q_DEF オプションで DLQ を開きます。
7. キューに対して MQGET 呼び出しを実行するアプリケーションと、DLQ ハンドラーを同時に実行しないでください。DLQ ハンドラーの複数のインスタンスを同時に実行することも避けてください。送達不能キューと DLQ ハンドラーの間には通常、1 対 1 の関係が存在しています。

すべての DLQ メッセージを確実に処理する

DLQ ハンドラーは、すでに参照されたが除去されていない DLQ 上のメッセージをすべて記録しています。フィルターとして DLQ ハンドラーを使用して、DLQ からメッセージの小サブセットを抽出する場合、DLQ ハンドラーは、処理しなかった DLQ 内のメッセージのレコードを引き続き保持します。また、DLQ が先入れ先出し法 (FIFO) で定義されている場合であっても、DLQ ハンドラーが、DLQ に入ってくる新しいメッセージを必ず検出できるとは限らないので、キューが空でない場合、DLQ は、すべてのメッセージをチェックするために周期的に再走査が行われます。そのため、DLQ 内のメッセージの数は、できるだけ少なくしてください。理由は何であれ、廃棄されない、または他のキューに転送されないメッセージがキューに累積されるのを許容すると、DLQ ハンドラーのワークロードが増えて、DLQ 自体が満杯になる危険があります。

DLQ ハンドラーが DLQ を空にできるように適切な処置をとることができます。例えば、ACTION (IGNORE) は使用しないでください。これを使用すると DLQ 内にメッセージが残ります。(テーブルの他の規則によって明示的に処理されないメッセージには、ACTION (IGNORE) が適用されることに注意してください)。その代わりに、無視するメッセージに関して、別のキューにそのメッセージを移動するアクションを実行してください。以下に例を示します。

```
ACTION (FWD) FWDQ (IGNORED.DEAD.QUEUE) HEADER (YES)
```

同様に、テーブル内の最後の規則では、それまでの規則に当てはまらなかったメッセージをすべて処理するようにしてください。例えば、テーブルの中の最後のルールは、次のような形にすることができます。

```
ACTION (FWD) FWDQ (REALLY.DEAD.QUEUE) HEADER (YES)
```

こうすると、テーブルの中の最後のルールが適用されることになったメッセージは、キュー REALLY.DEAD.QUEUE に転送されます。このキューで、そのメッセージを手動によって処理できます。このような規則がないと、メッセージはいつまでも DLQ に残ることになります。

DLQ ハンドラー規則テーブルの例

このトピックを DLQ ハンドラー規則テーブルの例として使用してください。

次は、1 つの制御データ項目といくつかの規則を含む規則テーブルの例です。

```
*****
*               An example rules table for the CSQUDLQH utility               *
*****
* Control data entry
* -----
* If no queue manager name is supplied as an explicit parameter to CSQUDLQH,
* use the default queue manager.
* If no queue name is supplied as an explicit parameter to CSQUDLQH, use the
* DLQ defined for the queue manager.
*
inputqm(' ') inputq(' ')

* Rules
* -----
* The first check deals with attempted security violations.
* If a message was placed on the DLQ because the putter did not have the
* appropriate authority for the target queue, forward the message to a queue
* for manual inspection.

REASON(MQRC_NOT_AUTHORIZED) ACTION(FWD) +
FWDQ(DEADQ.MANUAL.SECURITY)

* The next set of rules with ACTION (RETRY) try to deliver the message to the
* intended destination.

* If a message is placed on the DLQ because its destination queue is full,
* attempt to forward the message to its destination queue. Make 5 attempts at
* approximately 60-second intervals (the default value for RETRYINT).

REASON(MQRC_Q_FULL) ACTION(RETRY) RETRY(5)

* If a message is placed on the DLQ because there has been a problem starting the
* application by triggering, forward the message to another queue for manual
* inspection.

REASON(MQFB_APPL_CANNOT_BE_STARTED) ACTION(FWD) +
FWDQ(DEADQ.MANUAL.TRIGGER)

* If a message is placed on the DLQ because of a put inhibited condition, attempt
* to forward the message to its destination queue. Make 5 attempts at
* approximately 60-second intervals (the default value for RETRYINT).

REASON(MQRC_PUT_INHIBITED) ACTION(RETRY) RETRY(5)

* The AAAA corporation often send messages with incorrect addresses. When we find
* a request from the AAAA corporation, we return it to the DLQ (DEADQ) of the
* reply-to queue manager (&REPLYQM). The AAAA DLQ handler attempts to
* redirect the message.

MSGTYPE(MQMT_REQUEST) REPLYQM(AAAA.*) +
ACTION(FWD) FWDQ(DEADQ) FWDQM(&REPLYQM)

* The BBBB corporation requests that we try sending messages to queue manager
* BBB2 if queue manager BBB1 is unavailable.

DESTQM(BBB1) +
ACTION(FWD) FWDQ(&DESTQ) FWDQM(BBB2) HEADER(NO)

* The CCCC corporation is very security conscious, and believes that none of its
* messages will ever end up on one of our DLQs. If we do see a message from a
* CCCC queue manager on our DLQ, we send it to a special destination in the CCCC
* organization where the problem is investigated.

REPLYQM(CCCC.*) +
ACTION(FWD) FWDQ(ALARM) FWDQM(CCCC.SYSTEM)

* Messages that are not persistent risk being lost when a queue manager terminates.
* If an application is sending nonpersistent messages, it will be able to cope with
* the message being lost, so we can afford to discard the message.

PERSIST(MQPER_NOT_PERSISTENT) ACTION(DISCARD)
```

* For performance and efficiency reasons, we like to keep the number of messages on the DLQ small. If we receive a message that has not been processed by an earlier rule in the table, we assume that it requires manual intervention to resolve the problem.

* Some problems are best solved at the node where the problem was detected, and others are best solved where the message originated. We do not have the message origin, but we can use the REPLYQM to identify a node that has some interest in this message. Attempt to put the message onto a manual intervention queue at the appropriate node. If this fails, put the message on the manual intervention queue at this node.

```
REPLYQM('?*') +  
  ACTION(FWD) FWDQ(DEADQ.MANUAL.INTERVENTION) FWDQM(&REPLYQM)  
  
ACTION(FWD) FWDQ(DEADQ.MANUAL.INTERVENTION)
```

BSDS 変換ユーティリティ (CSQJUCNV)

CSQJUCNV BSDS 変換ユーティリティを使用して、バージョン 1 のブートストラップ・データ・セット (BSDS) をバージョン 2 に変換することができます。CSQJUCNV はバッチ・ジョブとして実行されます。

バージョン 1 の BSDS は、6 バイトのログ RBA (相対バイト・アドレス) の値をサポートします。バージョン 2 の BSDS は、IBM MQ 8.0 を実行するキュー・マネージャーによって使用され、8 バイトのログ RBA の値をサポートします。6 バイトのログ RBA から 8 バイトのログ RBA への変更について詳しくは、[より大きなログ相対バイト・アドレス](#)を参照してください。

バージョン 2 の BSDS は、OPMODE を使用してバージョン 8.0 の新機能が有効になっているキュー・マネージャーのみで使用できます。キュー・マネージャーがキュー共有グループの一部である場合、BSDS をバージョン 2 に変換するには、その前にそのキュー共有グループ内のすべてのキュー・マネージャーを OPMODE(NEWFUNC,800) で開始しておくか、またはバージョン 8.0 のキュー共有グループに追加しておく必要があります。

キュー・マネージャーはキュー共有グループに含まれることを設定パラメーターが指定している場合、ユーティリティはキュー・マネージャーが適切なレベルにあることを検査してから、BSDS の変換を進めるようにします。キュー共有グループに含まれないキュー・マネージャーについては、ユーティリティはキュー・マネージャーがバージョン 8.0 の新機能モードで開始されているかどうかを検査しません。

変換された BSDS は、新規データ・セットに書き込まれます。ユーティリティを実行する前に、これらの新規データ・セットは空でなければならず、さらに現行の BSDS に類似した属性を割り振る必要があります。バージョン 2 の BSDS には、バージョン 1 の BSDS より多くのデータが格納されるため、新規データ・セットに十分な使用可能スペースが割り振られていることを確認する必要があります。新規 BSDS を定義する際の推奨値については、[ロギング環境の計画](#)および[関連トピック](#)を参照してください。

BSDS の変換と新しい BSDS でのキュー・マネージャーの再始動を行おうとして失敗した場合、現行の BSDS は変更されずに、キュー・マネージャーを開始するために使用できます。

重要:

1. このユーティリティは、BSDS を所有するキュー・マネージャーが停止している場合のみに実行します。
 2. ユーティリティが正常に完了するまで、新しい BSDS でキュー・マネージャーを開始しようとししないでください。変換に失敗したか未完了で終了した BSDS 出力を使用してキュー・マネージャーを開始すると、理由コード **00D10121** で終了します。
 3. このユーティリティを使用するには、ジョブのユーザー ID に新旧両方の BSDS に対する読み取り/書き込み権限が必要です。
- [1979 ページの『CSQJUCNV ユーティリティの呼び出し』](#)
 - [1979 ページの『構文、キーワード、およびパラメーター』](#)
 - [1980 ページの『データ定義 \(DD\) ステートメント』](#)

CSQJUCNV ユーティリティの呼び出し

このユーティリティは z/OS バッチ・プログラムとして実行されます。図 1 には、キュー共有グループのメンバーであるキュー・マネージャーのために CSQJUCNV ユーティリティを呼び出すときに使用される JCL の例を示します。

```
//CONVERT EXEC PGM=CSQJUCNV,REGION=32M,  
//          PARM=('INQSG,qsgname,dsgname,db2ssid')  
//STEPLIB DD DSN=thlqual.SCSQAUTH,DISP=SHR  
//          DD DSN=thlqual.SCSQANLE,DISP=SHR  
//          DD DSN=db2qual.SDSNLOAD,DISP=SHR  
//SYSPRINT DD SYSOUT=*  
//SYSUT1 DD DSN=h1q.BSDS01,DISP=SHR  
//SYSUT2 DD DSN=h1q.BSDS02,DISP=SHR  
//SYSUT3 DD DSN=newh1q.BSDS01,DISP=OLD  
//SYSUT4 DD DSN=newh1q.BSDS02,DISP=OLD
```

図 37. CSQJUCNV ユーティリティを呼び出すためのサンプル JCL

このユーティリティを実行するサンプル JCL は、thlqual.SCSQPROC (CSQ4BCNV) でも提供されています。

構文、キーワード、およびパラメーター

BSDS conversion utility

➡ PARM=(
 INQSG — ,qsgname,dsgname,db2ssid
 NOQSG
)

PARM

このフィールドには、キュー・マネージャーがキュー共有グループのメンバーであるかどうかを示す次のパラメーターのいずれかを指定する必要があります。その後、以下のテキストで説明されている関数固有のパラメーターを指定します。

INQSG

BSDS を所有するキュー・マネージャーは、キュー共有グループのメンバーです。このパラメーターを指定すると、キュー共有グループのすべてのメンバーが OPMODE(NEWFUNC,800) で開始されていること、またはバージョン 8.0 のキュー共有グループに追加されていることが、ユーティリティによって検証されます。

このタスクを実行する方法について詳しくは、[より大きなログ相対バイト・アドレスの実装](#)を参照してください。

この条件が満たされていない場合、ユーティリティはゼロ以外の理由コードで終了します (出力 BSDS には何も書き込まれません)。

qsgname

キュー共有グループ名

dsgname

Db2 データ共有グループ名

db2ssid

Db2 サブシステム ID

NOQSG

BSDS を所有するキュー・マネージャーは、キュー共有グループのメンバーではありません。キュー・マネージャーが OPMODE(NEWFUNC,800) で開始されたかどうかにかかわらず、BSDS は変換されます。



重要: キュー共有グループのメンバーであるキュー・マネージャーに、このパラメーターを指定しないでください。

データ定義 (DD) ステートメント

CSQJUCNV は、以下の DD 名の DD ステートメントを認識します。

SYSUT1

変換する古い BSDS を指定します。このステートメントは必須です。

SYSUT2

変換する古い BSDS の 2 番目のコピーを指定します。二重 BSDS を使用している場合、これを指定する必要があります。

SYSUT3

新規の変換済み BSDS を指定します。このステートメントは必須です。

SYSUT4

変換済みの BSDS の 2 番目のコピーを指定します。このステートメントは、インストール済み環境で二重 BSDS が使用されている場合に必須であり、それ以外の場合はオプションです。

SYSPRINT

変換ユーティリティからの出力メッセージが入ります。このステートメントは必須です。

メッセージ・セキュリティ・ポリシー・ユーティリティ (CSQ0UTIL)

IBM MQ Advanced Message Security ポリシー・ユーティリティは、キューを使用して流されるメッセージの暗号化および認証を行うための暗号アルゴリズムと署名アルゴリズムを指定するセキュリティ・ポリシーを管理するために用意されています。

このユーティリティ・プログラムは、セキュリティ・ポリシーの表示、定義、変更、削除、およびエクスポートを行うために使用できます。

CSQ0UTIL ユーティリティは、**SYSIN** コマンド入力を受け付ける z/OS バッチ・ユーティリティ・プログラムとして実行されます。このユーティリティを実行するサンプル JCL は、thlqual.SCSQPROC のメンバー CSQ40CFG に提供されています。

```
-----
//CSQ40CFG JOB 1,CSQ0,CLASS=A,MSGCLASS=X
//CSQ40CFG EXEC PGM=CSQ0UTIL,
//          PARM='ENVAR("_CEE_ENVFILE_S=DD:ENVARS") /'
//STEPLIB DD DSN=thlqual.SCSQANLE,DISP=SHR
//          DD DSN=thlqual.SCSQAUTH,DISP=SHR
//ENVARS DD DSN=thlqual.SCSQPROC(CSQ40ENV),DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
dspmqspl -m <qmgr>
/*
-----
```

このユーティリティは、以下のコマンドを受け付けます。

dspmqspl

1 つ以上のセキュリティ・ポリシーに関する情報を表示またはエクスポートします。

setmqspl

セキュリティ・ポリシーを定義、変更、または除去します。

これらのコマンドを使用してセキュリティ・ポリシーを管理する方法については、[セキュリティ・ポリシーの管理](#)を参照してください。

一般的な使用上の注意

ブランクを含む識別名 (DN) を指定する場合は、DN 全体を二重引用符 (") で囲む必要があります。以下に例を示します。


```
-a "CN=John Smith,O=IBM,C=US"
-r "CN=JSmith,O=IBM Australia,C=AU"
```

SYSIN 入力レコードの 80 桁目を超える引数は、後続の SYSIN レコードに継続することができます。それには、それらの引数を二重引用符 (") で囲み、対応する継続データを後続の SYSIN レコードの 1 桁目から再開します。

dspmqspl に **-export** パラメーターを指定してポリシー情報をエクスポートすると、出力は EXPORT という名前の追加の DD に書き込まれます。EXPORT DD は、SYSOUT=*、順次データ・セット、または区分データ・セットのメンバーにすることができます。レコード・フォーマットは固定長ブロックで、論理レコード長は 80 です。出力は 1 つ以上の **setmqspl** コマンドの形式であるため、後で CSQOUTIL への入力として使用できます。

このユーティリティを使用するには、キュー・マネージャーに対する接続権限と、キュー SYSTEM.PROTECTION.POLICY.QUEUE に対するアクセス権限が必要です。キュー・マネージャーに対してコマンド・イベントを使用可能にした場合は、キュー SYSTEM.ADMIN.COMMAND.EVENT に書き込む権限が必要です。キュー・マネージャーに対して構成イベントを使用可能にした場合は、キュー SYSTEM.ADMIN.CONFIG.EVENT に書き込む権限が必要です。

関連情報

[セキュリティ・ポリシー](#)

dspmqspl

dspmqspl コマンドを使用すると、すべてのポリシーのリスト、および指定したポリシーの詳細を表示できます。

構文

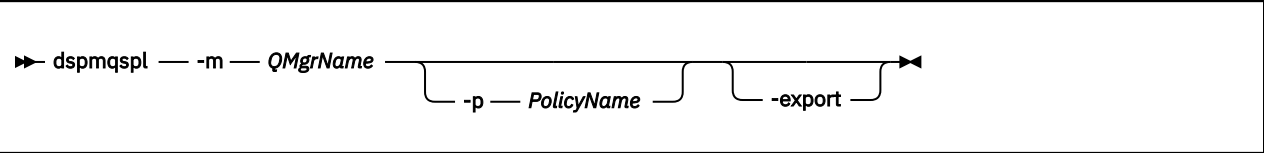


表 105. dspmqspl コマンド・フラグ	
コマンド・フラグ	説明
-m	キュー・マネージャー名 (必須)。
-p	ポリシー名。
-export	このフラグを追加すると、別のキュー・マネージャーに簡単に適用できる出力が生成されます。

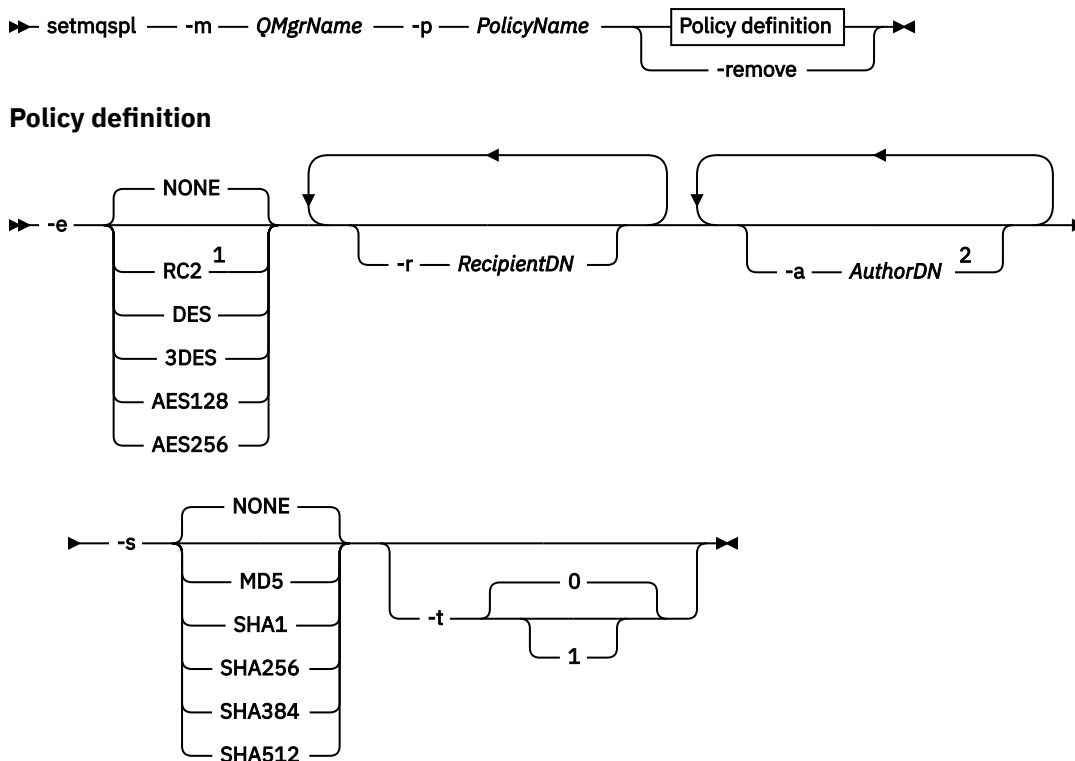
関連資料

- 1303 ページの『SET POLICY』
MQSC コマンド SET POLICY を使用して、セキュリティ・ポリシーを設定します。
- 1130 ページの『DISPLAY POLICY』
MQSC コマンド DISPLAY POLICY を使用して、セキュリティ・ポリシーを表示します。
- 149 ページの『setmqspl』
setmqspl コマンドを使用して、新規セキュリティ・ポリシーの定義、既存のセキュリティ・ポリシーの置換、または既存のポリシーの削除を行います。

setmqspl

setmqspl コマンドを使用して、新規セキュリティ・ポリシーの定義、既存のセキュリティ・ポリシーの置換、または既存のポリシーの削除を行います。

構文



注:

- ¹ 暗号化アルゴリズムを選択する場合には、受信側 DN を指定する必要もあります。
- ² 作成者 DN を指定する場合には、署名アルゴリズムを選択する必要もあります。

表 106. setmqspl コマンド・フラグ

コマンド・フラグ	説明
-m	キュー・マネージャー名。 このフラグは、セキュリティ・ポリシーに対するすべてのアクションで必須です。
-p	ポリシー名。 ポリシーを適用するキューの名前をポリシー名として設定します。

表 106. setmqspl コマンド・フラグ (続き)

コマンド・フラグ	説明
-s	デジタル署名のアルゴリズム。 IBM MQ Advanced Message Security は、MD5、SHA1、SHA256、SHA384、および SHA512 の値をサポートしています。これらの値は、すべて大文字でなければなりません。デフォルト値は NONE です。 重要： - SHA384 および SHA512 暗号ハッシュ関数の場合、署名に使用される鍵は 768 ビットより長くなければなりません。 - 暗号化アルゴリズムの名前は、大文字でなければなりません。 - 暗号化アルゴリズムが NONE ではない場合には、署名アルゴリズムを NONE にすることはできません。
-e	デジタル暗号化アルゴリズム。 IBM MQ Advanced Message Security は、暗号化アルゴリズム RC2、DES、3DES、AES128、AES256 をサポートします。デフォルト値は NONE です。 重要： - 暗号化アルゴリズムの名前は、大文字で指定する必要があります  z/OS では、機密性ポリシーに対して暗号化アルゴリズム RC2 はサポートされていません。
-r	メッセージ受信者の識別名 (DN) (指定された場合、DN に関する証明書が、所定のメッセージの暗号化に使用されます)。受信者を指定できるのは、暗号化アルゴリズムが NONE 以外の場合のみです。1 つのメッセージについて複数の受信者を組み込むことができます。各 DN は、個別の -r フラグで指定する必要があります。 重要： - DN 属性名は大文字でなければなりません。 - 名前の分離文字としてコンマを使用する必要があります。 - コマンド・インタープリター・エラーを避けるために、DN をマーク引用符で囲みます。 以下に例を示します。 <pre>-r "CN=alice, O=ibm, C=US"</pre>

表 106. `setmqspl` コマンド・フラグ (続き)

コマンド・フラグ	説明
-a	メッセージの取得中に検証される署名 DN。DN が指定されている、ユーザーによって署名されたメッセージのみが取得中に受け入れられます。署名 DN を指定できるのは、署名アルゴリズムが NONE 以外の場合のみです。複数の作成者を組み込むことができます。各作成者には、別個の -a フラグが必要です。 重要: DN 属性名は、大文字でなければなりません。
-t	容認フラグ。キューからメッセージを取得しようとしたときにセキュリティー・ポリシーが設定されていないメッセージが含まれていた場合に、キューに関連付けられたポリシーを無視できるかどうかを示します。有効な値は、以下のとおりです。 • 0 (デフォルト) 容認フラグはオフ。 • 1 容認フラグはオン。 容認はオプションで、段階的に実装する場合に役立ちます。つまり、キューにポリシーが適用されたものの、ポリシーを設定されていないメッセージが既にそれらのキューに含まれていた場合や、セキュリティー・ポリシーが設定されていないメッセージをリモート・システムから今後も受信することがある場合です。
-remove	ポリシーを削除します。 これを指定する場合は、-p フラグのみが有効になります。

関連資料

1303 ページの『[SET POLICY](#)』

MQSC コマンド `SET POLICY` を使用して、セキュリティー・ポリシーを設定します。

1130 ページの『[DISPLAY POLICY](#)』

MQSC コマンド `DISPLAY POLICY` を使用して、セキュリティー・ポリシーを表示します。

76 ページの『[dspmqspl](#)』

dspmqspl コマンドを使用すると、すべてのポリシーのリスト、および指定したポリシーの詳細を表示できます。

IBM MQ 管理インターフェース

IBM MQ 管理インターフェース (MQAI) の参照情報です。

関連情報

[MQAI を使用して PCF の使い方を単純化する](#)

MQAI 呼び出し

MQAI 呼び出しの参照情報。

MQAI の参照情報をリストします。

セクターには、ユーザー・セクター とシステム・セクター の 2 種類があります。これらについては、2068 ページの『MQAI セクター』を参照してください。

次の 3 つのタイプの呼び出しがあります。

- データ・バッグの構成のためのデータ・バッグ操作呼び出し
 - 1986 ページの『mqAddBag』
 - 1987 ページの『mqAddByteString』
 - 1989 ページの『mqAddByteStringFilter』
 - 1991 ページの『mqAddInquiry』
 - 1993 ページの『mqAddInteger』
 - 1995 ページの『mqAddInteger64』
 - 1996 ページの『mqAddIntegerFilter』
 - 1998 ページの『mqAddString』
 - 2000 ページの『mqAddStringFilter』
 - 2006 ページの『mqClearBag』
 - 2007 ページの『mqCountItems』
 - 2009 ページの『mqCreateBag』
 - 2012 ページの『mqDeleteBag』
 - 2013 ページの『mqDeleteItem』
 - 2021 ページの『mqInquireBag』
 - 2024 ページの『mqInquireByteString』
 - 2026 ページの『mqInquireByteStringFilter』
 - 2029 ページの『mqInquireInteger』
 - 2031 ページの『mqInquireInteger64』
 - 2034 ページの『mqInquireIntegerFilter』
 - 2036 ページの『mqInquireItemInfo』
 - 2038 ページの『mqInquireString』
 - 2041 ページの『mqInquireStringFilter』
 - 2047 ページの『mqSetByteString』
 - 2050 ページの『mqSetByteStringFilter』
 - 2053 ページの『mqSetInteger』
 - 2055 ページの『mqSetInteger64』
 - 2057 ページの『mqSetIntegerFilter』
 - 2060 ページの『mqSetString』
 - 2062 ページの『mqSetStringFilter』
 - 2066 ページの『mqTruncateBag』
- 管理コマンドと PCF メッセージの送受信のためのコマンド呼び出し
 - 2002 ページの『mqBagToBuffer』
 - 2005 ページの『mqBufferToBag』
 - 2016 ページの『mqExecute』
 - 2019 ページの『mqGetBag』
 - 2045 ページの『mqPutBag』
- ブランク埋め込みおよびヌル終了のストリングを処理するためのユーティリティー呼び出し
 - 2044 ページの『mqPad』

これらの呼び出しについては、次のセクションでアルファベット順に説明しています。

mqAddBag

mqAddBag 呼び出しは、バッグを別のバッグ内でネストします。

mqAddBag の構文

mqAddBag (*Bag*, *Selector*, *ItemValue*, *CompCode*, *Reason*)

mqAddBag のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

項目を追加するバッグ・ハンドル。

バッグはユーザー・バッグでなければなりません。これは、mqCreateBag 呼び出しで MQCBO_USER_BAG オプションを使用してバッグが作成されたことを意味します。バッグがこれ以外の方法で作成されている場合は、MQRC_WRONG_BAG_TYPE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

ネストする項目を識別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して作成されていた場合、そのセレクターは MQGA_FIRST から MQGA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上のいずれかの値となります。

既にバッグの中にあるセレクターの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

ItemValue (MQHBAG) - 入力

ネストするバッグ。

バッグがグループ・バッグでない場合は、MQRC_BAG_WRONG_TYPE が返されます。バッグをそれ自体に追加しようとした場合は、MQRC_HBAG_ERROR が返されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

次の理由コードは、mqAddBag 呼び出しから返されるエラー状態を示します。

MQRC_BAG_WRONG_TYPE

バッグのタイプが意図する用途に合っていません (Bag または ItemValue)。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セクターのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqAddBag の使用上の注意

指定したセクターのあるバッグが既にバッグに入っている場合、そのセクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。

mqAddBag の C 言語呼び出し

```
mqAddBag (Bag, Selector, ItemValue, &CompCode, &Reason)
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQHBAG    ItemValue;     /* Nested bag handle */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddBag の Visual Basic 呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddGroup Bag, Selector, ItemValue, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long 'Bag handle'
Dim Selector As Long 'Selector'
Dim ItemValue As Long 'Nested bag handle'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason   As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

注: mqAddBag 呼び出しは、ユーザー・バッグでのみ使用可能です。ネストされたバッグを管理バッグまたはコマンド・バッグに追加することはできません。ネストできるのはグループ・バッグだけです。

mqAddByteString

mqAddByteString 呼び出しは、ユーザー・セクターによって識別されたバイト・ストリングを、指定されたバッグの末尾に追加します。

mqAddByteString の構文

```
mqAddByteString (Bag, Selector, BufferLength, Buffer, CompCode, Reason)
```

mqAddByteString のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

変更するバッグのハンドル。

この値は、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定した値がシステム・バッグに関係している場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

バッグに追加する項目を判別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQBA_FIRST から MQBA_LAST の範囲内になければなりません。セレクターが正しい範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

既にバッグの中にあるセレクターの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

BufferLength (MQLONG) - 入力

Buffer パラメーターに含まれるストリングの長さ (バイト)。値はゼロ以上でなければなりません。

Buffer (MQBYTE × BufferLength) - 入力

バイト・ストリングを含むバッファ。

長さは、BufferLength パラメーターで指定します。BufferLength にゼロを指定すると、ヌル・ポインターが Buffer パラメーターのアドレスに指定されます。それ以外のケースでは、有効な (ヌル以外の) アドレスを Buffer パラメーターに指定しなければなりません。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、mqAddByteString 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファ長が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セレクターのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqAddByteString の使用上の注意

1. 指定したセクターのあるデータ項目が既にバッグに入っている場合、そのセクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。
2. この呼び出しは、バッグにシステム・セクターを追加するためには使用できません。

mqAddByteString の C 言語での呼び出し

```
mqAddByteString (hBag, Selector, BufferLength, Buffer, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */
PMQBYTE   Buffer;        /* Buffer containing item value */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddByteString の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddByteString Bag, Selector, BufferLength, Buffer, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long 'Bag handle'
Dim Selector      As Long 'Selector'
Dim BufferLength   As Long 'Buffer length'
Dim Buffer         As Byte 'Buffer containing item value'
Dim CompCode      As Long 'Completion code'
Dim Reason        As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqAddByteStringFilter

mqAddByteStringFilter 呼び出しは、ユーザー・セクターによって識別されたバイト・ストリング・フィルターを、指定されたバッグの末尾に追加します。

mqAddByteStringFilter の構文

mqAddByteString フィルター (*Bag, Selector, BufferLength, Buffer, Operator, CompCode, Reason*)

mqAddByteStringFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

変更するバッグのハンドル。

この値は、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定した値がシステム・バッグに関係している場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

バッグに追加する項目を判別するセクター。

セクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセクターは MQBA_FIRST から MQBA_LAST の範囲内になければなりません。セクターが正しい範囲内でない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

既にバッグの中にあるセクターの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

BufferLength (MQLONG) - 入力

Buffer パラメーターに含まれている条件バイト・ストリングの長さ (バイト単位)。値はゼロ以上でなければなりません。

Buffer (MQBYTE x BufferLength) - 入力

条件バイト・ストリングが入っているバッファー。

長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。*BufferLength* にゼロを指定すると、ヌル・ポインターが *Buffer* パラメーターのアドレスに指定されます。それ以外のケースでは、有効な (ヌル以外の) アドレスを *Buffer* パラメーターに指定しなければなりません。

Operator (MQLONG) - 入力

バッグに入れるバイト・ストリング・フィルター演算子。有効な演算子は MQCFOP_* の形式をとります。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、mqAddByteStringFilter 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効であるか、またはバッファーにアクセスできません)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

フィルター演算子が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セクターのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqAddByteStringFilter の使用上の注意

1. 指定したセクターのあるデータ項目が既にバッグに入っている場合、そのセクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。
2. この呼び出しは、バッグにシステム・セクターを追加するためには使用できません。

mqAddByteStringFilter の C 言語での呼び出し

```
mqAddByteStringFilter (hBag, Selector, BufferLength, Buffer, Operator,  
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    hBag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;       /* Selector */  
MQLONG    BufferLength;    /* Buffer length */  
PMQBYTE    Buffer;        /* Buffer containing item value */  
MQLONG    Operator;       /* Operator */  
PMQLONG    CompCode;      /* Completion code */  
PMQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddByteStringFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddByteStringFilter Bag, Selector, BufferLength, Buffer, Operator, CompCode,  
Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag          As Long 'Bag handle'  
Dim Selector     As Long 'Selector'  
Dim BufferLength As Long 'Buffer length'  
Dim Buffer        As String 'Buffer containing item value'  
Dim Operator     As Long 'Operator'  
Dim CompCode     As Long 'Completion code'  
Dim Reason       As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqAddInquiry

mqAddInquiry 呼び出しは、管理バッグでのみ使用できます。この呼び出しは特に、管理を目的としています。

mqAddInquiry 呼び出しは、セクターを管理バッグに追加します。このセクターは、PCF INQUIRE コマンドによって返される IBM MQ オブジェクト属性を参照します。この呼び出しで指定した **Selector** パラメーターの値は、セクター値 MQIACF_INQUIRY を持つデータ項目の値としてバッグの末尾に追加されます。

mqAddInquiry の構文

mqAddInquiry (Bag, Selector, CompCode, Reason)

mqAddInquiry のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力
バッグ・ハンドル。

バッグは管理バッグでなければなりません。つまり、バッグは mqCreateBag 呼び出しで MQCBO_ADMIN_BAG オプションを使用して作成されていなければなりません。バッグがこれ以外の方法で作成されている場合は、MQRC_BAG_WRONG_TYPE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

適切な INQUIRE 管理コマンドによって返される IBM MQ オブジェクト属性のセレクター。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

次の理由コードは、mqAddInquiry 呼び出しから返されるエラー状況を示します。

MQRC_BAG_WRONG_TYPE

バッグのタイプが意図する用途に合っていません。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqAddInquiry の使用上の注意

1. 管理メッセージが生成されると、MQAI は mqExecute、mqPutBag、または mqBagToBuffer 呼び出しで指定した Command 値に適した MQIACF_*_ATTRS または MQIACH_*_ATTRS セレクターにより整数リストを作成します。次に MQAI は、mqAddInquiry 呼び出しで指定した属性セレクターの値を追加します。
2. mqExecute、mqPutBag、または mqBagToBuffer 呼び出しで指定した Command 値が MQAI によって認識されない場合は、MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR が返されます。mqAddInquiry 呼び出しを使用する代わりに、mqAddInteger 呼び出しと共に適切な MQIACF_*_ATTRS セレクターまたは MQIACH_*_ATTRS セレクター、および照会するセレクターの ItemValue パラメーターを使用することによって、これを回避できます。

mqAddInquiry の C 言語での呼び出し

```
mqAddInquiry (Bag, Selector, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG   Bag;           /* Bag handle */
MQLONG   Selector;      /* Selector */
MQLONG   CompCode;      /* Completion code */
MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddInquiry の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddInquiry Bag, Selector, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long 'Bag handle'  
Dim Selector      As Long 'Selector'  
Dim CompCode      As Long 'Completion code'  
Dim Reason        As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

サポートされている INQUIRE コマンド・コード

- MQCMD_INQUIRE_AUTH_INFO
- MQCMD_INQUIRE_AUTH_RECS
- MQCMD_INQUIRE_AUTH_SERVICE
- MQCMD_INQUIRE_CHANNEL
- MQCMD_INQUIRE_CHANNEL_STATUS
- MQCMD_INQUIRE_CLUSTER_Q_MGR
- MQCMD_INQUIRE_CONNECTION
- MQCMD_INQUIRE_LISTENER
- MQCMD_INQUIRE_LISTENER_STATUS
- MQCMD_INQUIRE_NAMELIST
- MQCMD_INQUIRE_PROCESS
- MQCMD_INQUIRE_Q
- MQCMD_INQUIRE_Q_MGR
- MQCMD_INQUIRE_Q_MGR_STATUS
- MQCMD_INQUIRE_Q_STATUS
- MQCMD_INQUIRE_SECURITY

サポートされている INQUIRE コマンド・コードの使い方を示す例については、[キューの照会および情報の印刷 \(amqsailq.c\)](#)を参照してください。

mqAddInteger

mqAddInteger 呼び出しは、ユーザー・セレクターによって識別された整数項目を、指定されたバッグの末尾に追加します。

mqAddInteger の構文

mqAdd 整数 (*Bag, Selector, ItemValue, CompCode, Reason*)

mqAddInteger のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

変更するバッグのハンドル。

これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定した値がシステム・バッグと識別された場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG)

バッグに追加する項目を判別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQIA_FIRST から MQIA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上のいずれかの値となります。

既にバッグの中にあるセレクターの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

ItemValue (MQLONG) - 入力

バッグに入れる整数値。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

次の理由コードは、mqAddInteger 呼び出しから返されるエラー状況を示します。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セレクターのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqAddInteger の使用上の注意

1. 指定したセレクターのあるデータ項目が既にバッグに入っている場合、そのセレクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。
2. この呼び出しは、バッグにシステム・セレクターを追加するためには使用できません。

mqAddInteger の C 言語での呼び出し

```
mqAddInteger (Bag, Selector, ItemValue, &CompCode, &Reason)
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG   Bag;           /* Bag handle */
MQLONG   Selector;      /* Selector */
MQLONG   ItemValue;     /* Integer value */
MQLONG   CompCode;      /* Completion code */
MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddInteger の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddInteger Bag, Selector, ItemValue, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag          As Long 'Bag handle'  
Dim Selector     As Long 'Selector'  
Dim ItemValue    As Long 'Integer value'  
Dim CompCode     As Long 'Completion code'  
Dim Reason       As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqAddInteger64

mqAddInteger64 呼び出しは、ユーザー・セレクターによって識別された 64 ビット整数項目を、指定されたバッグの末尾に追加します。

mqAddInteger64 の構文

mqAddInteger64 (Bag, Selector, ItemValue, CompCode, Reason)

mqAddInteger64 のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

変更するバッグのハンドル。

これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定した値がシステム・バッグと識別された場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

バッグに追加する項目を判別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQIA_FIRST から MQIA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内でない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上のいずれかの値となります。

既にバッグの中にあるセレクターの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

ItemValue (MQINT64) - 入力

バッグに入れる 64 ビット整数値。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

次の理由コードは、mqAddInteger64 呼び出しから返されるエラー状態を示します。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セレクターのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqAddInteger64 の使用上の注意

1. 指定したセレクターのあるデータ項目が既にバッグに入っている場合、そのセレクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。
2. この呼び出しは、バッグにシステム・セレクターを追加するためには使用できません。

mqAddInteger64 の C 言語での呼び出し

```
mqAddInteger64 (Bag, Selector, ItemValue, &CompCode, &Reason)
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG   Bag;           /* Bag handle */
MQLONG   Selector;      /* Selector */
MQINT64   ItemValue;     /* Integer value */
MQLONG   CompCode;      /* Completion code */
MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddInteger64 の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddInteger64 Bag, Selector, ItemValue, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long 'Bag handle'
Dim Selector      As Long 'Selector'
Dim Item Value    As Long 'Integer value'
Dim CompCode      As Long 'Completion code'
Dim Reason        As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqAddIntegerFilter

mqAddIntegerFilter 呼び出しは、ユーザー・セレクターによって識別された整数フィルターを、指定されたバッグの末尾に追加します。

mqAddIntegerFilter の構文

mqAddIntegerFilter (Bag, Selector, ItemValue, Operator, CompCode, Reason)

mqAddIntegerFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

変更するバグのハンドル。

これは、システム・バグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバグのハンドルでなければなりません。指定した値がシステム・バグと識別された場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

バグに追加する項目を判別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQIA_FIRST から MQIA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内でない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上のいずれかの値となります。

既にバグの中にあるセレクターの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

ItemValue (MQLONG) - 入力

バグに入れる整数条件値。

Operator (MQLONG) - 入力

バグに入れる整数フィルター演算子。有効な演算子は MQCFOP_* の形式をとります。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

次の理由コードは、mqAddIntegerFilter 呼び出しから返されるエラー状態を示します。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

フィルター演算子が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セレクターのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バグを変更または削除できません。

mqAddIntegerFilter の使用上の注意

1. 指定したセレクターのあるデータ項目が既にバッグに入っている場合、そのセレクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。
2. この呼び出しは、バッグにシステム・セレクターを追加するためには使用できません。

mqAddIntegerFilter の C 言語での呼び出し

```
mqAddIntegerFilter (Bag, Selector, ItemValue, Operator, &CompCode, &Reason)
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;          /* Bag handle */
MQLONG     Selector;     /* Selector */
MQLONG     ItemValue;    /* Integer value */
MQLONG     Operator;     /* Item operator */
MQLONG     CompCode;     /* Completion code */
MQLONG     Reason;       /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddIntegerFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddIntegerFilter Bag, Selector, ItemValue, Operator, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long 'Bag handle'
Dim Selector As Long 'Selector'
Dim ItemValue As Long 'Integer value'
Dim Operator As Long 'Item Operator'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason   As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqAddString

mqAddString 呼び出しは、ユーザー・セレクターによって識別された文字データ項目を、指定されたバッグの末尾に追加します。

mqAddString の構文

mqAdd スtring (*Bag, Selector, BufferLength, Buffer, CompCode, Reason*)

mqAddString のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

変更するバッグのハンドル。

この値は、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定した値がシステム・バッグに関係している場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

バッグに追加する項目を判別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セレクトアがゼロ以上 (つまり、ユーザー・セレクトアである場合) で、バグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションにより作成されるか、管理バグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクトアは MQCA_FIRST から MQCA_LAST の範囲内であればなりません。セレクトアが正しい範囲内でない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクトアはゼロ以上の任意の値にすることができます。

既にバグの中にあるセレクトアの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

BufferLength (MQLONG) - 入力

Buffer パラメーターに含まれるストリングの長さ (バイト)。この値はゼロ以上であるか、あるいは特殊値 MQBL_NULL_TERMINATED でなければなりません。

- MQBL_NULL_TERMINATED を指定すると、ストリングはそのなかで最初に検出されたヌルによって区切られます。ヌルはストリングの一部としてバグに追加されません。
- MQBL_NULL_TERMINATED を指定しないと、ヌル文字がある場合でも *BufferLength* 文字がバグに挿入されます。ヌル文字はストリングを区切りません。

Buffer (MQCHAR x BufferLength) - 入力

文字ストリングを含むバッファ。

長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。*BufferLength* にゼロを指定すると、ヌル・ポインタが *Buffer* パラメーターのアドレスに指定されます。それ以外のケースでは、有効な (ヌル以外の) アドレスを *Buffer* パラメーターに指定しなければなりません。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqAddString 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファ長が無効です。

MQRC_CODED_CHAR_SET_ID_ERROR

バグ CCSID が MQCCSI_EMBEDDED です。

MQRC_HBAG_ERROR

バグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セレクトアのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクトアがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バグを変更または削除できません。

mqAddString の使用上の注意

1. 指定したセレクターのあるデータ項目が既にバッグに入っている場合、そのセレクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。
2. この呼び出しは、バッグにシステム・セレクターを追加するためには使用できません。
3. このストリングに関連付けられたコード化文字セット ID は、バッグのカレント CCSID からコピーされます。

mqAddString の C 言語での呼び出し

```
mqAddString (hBag, Selector, BufferLength, Buffer, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    hBag;           /* Bag handle */
MQLONG     Selector;       /* Selector */
MQLONG     BufferLength;    /* Buffer length */
PMQCHAR    Buffer;         /* Buffer containing item value */
MQLONG     CompCode;       /* Completion code */
MQLONG     Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddString の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddString Bag, Selector, BufferLength, Buffer, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long 'Bag handle'
Dim Selector      As Long 'Selector'
Dim BufferLength   As Long 'Buffer length'
Dim Buffer         As String 'Buffer containing item value'
Dim CompCode      As Long 'Completion code'
Dim Reason        As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqAddStringFilter

mqAddStringFilter 呼び出しは、ユーザー・セレクターによって識別されたストリング・フィルターを、指定されたバッグの末尾に追加します。

mqAddStringFilter の構文

mqAddStringFilter (Bag, Selector, BufferLength, Buffer, Operator, CompCode, Reason)

mqAddStringFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

変更するバッグのハンドル。

この値は、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定した値がシステム・バッグに関係している場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

バッグに追加する項目を判別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまり、ユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションにより作成されるか、管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQCA_FIRST から MQCA_LAST の範囲内でなければなりません。セレクターが正しい範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

既にバッグの中にあるセレクターの 2 番目以降のオカレンスが呼び出しによって作成される場合、このオカレンスのデータ型は最初のオカレンスのデータ型と同じでなければなりません。データ型が同じでない場合、結果として MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE が返されます。

BufferLength (MQLONG) - 入力

Buffer パラメーターに含まれる文字条件ストリングの長さ (バイト)。この値はゼロ以上であるか、あるいは特殊値 MQBL_NULL_TERMINATED でなければなりません。

- MQBL_NULL_TERMINATED を指定すると、ストリングはそのなかで最初に検出されたヌルによって区切られます。ヌルはストリングの一部としてバッグに追加されません。
- MQBL_NULL_TERMINATED を指定しないと、ヌル文字がある場合でも BufferLength 文字がバッグに挿入されます。ヌル文字はストリングを区切りません。

Buffer (MQCHAR x BufferLength) - 入力

文字条件ストリングを含むバッファー。

長さは、BufferLength パラメーターで指定します。BufferLength にゼロを指定すると、ヌル・ポインターが Buffer パラメーターのアドレスに指定されます。それ以外のケースでは、有効な (ヌル以外の) アドレスを Buffer パラメーターに指定しなければなりません。

Operator (MQLONG) - 入力

バッグに入れるストリング・フィルター演算子。有効な演算子は MQCFOP_* の形式をとります。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、mqAddStringFilter 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_CODED_CHAR_SET_ID_ERROR

バッグ CCSID が MQCCSI_EMBEDDED です。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

フィルター演算子が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セクターのこのオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqAddStringFilter の使用上の注意

1. 指定したセクターのあるデータ項目が既にバッグに入っている場合、そのセクターの追加インスタンスがバッグの末尾に追加されます。新しいインスタンスは既存のインスタンスに隣接しているとは限りません。
2. この呼び出しは、バッグにシステム・セクターを追加するためには使用できません。
3. このストリングに関連付けられたコード化文字セット ID は、バッグのカレント CCSID からコピーされます。

mqAddStringFilter の C 言語での呼び出し

```
mqAddStringFilter (hBag, Selector, BufferLength, Buffer, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    hBag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;       /* Selector */
MQLONG    BufferLength;    /* Buffer length */
PMQCHAR    Buffer;         /* Buffer containing item value */
MQLONG    Operator;       /* Operator */
MQLONG    CompCode;       /* Completion code */
MQLONG    Reason;         /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqAddStringFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqAddStringFilter Bag, Selector, BufferLength, Buffer, Operator, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long 'Bag handle'
Dim Selector      As Long 'Selector'
Dim BufferLength   As Long 'Buffer length'
Dim Buffer         As String 'Buffer containing item value'
Dim Operator      As Long 'Item operator'
Dim CompCode      As Long 'Completion code'
Dim Reason        As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqBagToBuffer

mqBagToBuffer 呼び出しは、システムに提供されたバッファーでバッグを PCF メッセージに変換します。

mqBagToBuffer の構文

mqBagToBuffer (*OptionsBag*, *DataBag*, *BufferLength*, *Buffer*, *DataLength*, *CompCode*, *Reason*)

mqBagToBuffer のパラメーター

OptionsBag (MQHBAG) - 入力

呼び出しの処理を制御するオプションを含むバッグのハンドル。これは、予約パラメーターです。この値は MQHB_NONE でなければなりません。

DataBag (MQHBAG) - 入力

変換するバッグのハンドル。

バッグに管理メッセージが含まれていて、mqAddInquiry を使用して値がバッグに挿入されている場合、MQIASY_COMMAND データ項目の値は MQAI によって認識される INQUIRE コマンドでなければなりません。そうでない場合は、MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR が返されます。

バッグにネストされたシステム・バッグが含まれている場合は、MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED が返されます。

BufferLength (MQLONG) - 入力

システムに提供されたバッファの長さ (バイト)。

バッファが小さすぎて、生成されたメッセージを収容できない場合は、MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR が返されます。

Buffer (MQBYTE x *BufferLength*) - 出力

メッセージを保持するバッファ。

DataLength (MQLONG) - 出力

バッグ全体を保持するのに必要なバッファの長さ (バイト)。バッファの長さが不足している場合、バッファの内容は未定義になりますが、DataLength が返されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqBagToBuffer 呼び出しから返されます。

MQRC_BAG_WRONG_TYPE

入力データ・バッグがグループ・バッグです。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効であるか、またはバッファにアクセスできません)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファ長が無効であるか、あるいはバッファが小さすぎます。(必要な長さが DataLength で返されます。)

MQRC_DATA_LENGTH_ERROR

DataLength パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR

mqAddInquiry が INQUIRE コマンドとして認識されないコマンド・コードで使用されました。

MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED

入力データ・バッグに1つ以上のネストされたシステム・バッグが含まれています。

MQRC_OPTIONS_ERROR

オプション・バッグにサポートされないデータ項目が含まれているか、あるいはサポートされているオプションに無効な値が含まれています。

MQRC_PARAMETER_MISSING

管理メッセージが、バッグの中にないパラメーターを必要としています。

注: この理由コードは、MQCBO_ADMIN_BAG オプションまたは MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED オプションで作成されたバッグについてのみ出されます。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

mqAddString または mqSetString を使用して MQIACF_INQUIRY セレクターがバッグに追加されました。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqBagToBuffer の使用上の注意

1. PCF メッセージは、数値データに対して MQENC_NATIVE をエンコードして生成されます。
2. BufferLength がゼロの場合、メッセージを保持するバッファはヌルになります。これは、mqBagToBuffer 呼び出しを使用してバッグを変換するのに必要なバッファのサイズを計算するのに役立ちます。

mqBagToBuffer の C 言語での呼び出し

```
mqBagToBuffer (OptionsBag, DataBag, BufferLength, Buffer, &DataLength,  
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG OptionsBag;      /* Options bag handle */  
MQHBAG DataBag;         /* Data bag handle */  
MQLONG BufferLength;    /* Buffer length */  
MQBYTE Buffer[n];       /* Buffer to contain PCF */  
MQLONG DataLength;     /* Length of PCF returned in buffer */  
MQLONG CompCode;       /* Completion code */  
MQLONG Reason;         /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqBagToBuffer の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqBagToBuffer OptionsBag, DataBag, BufferLength, Buffer, DataLength,  
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim OptionsBag As Long 'Options bag handle'  
Dim DataBag As Long 'Data bag handle'  
Dim BufferLength As Long 'Buffer length'  
Dim Buffer As Long 'Buffer to contain PCF'  
Dim DataLength As Long 'Length of PCF returned in buffer'  
Dim CompCode As Long 'Completion code'  
Dim Reason As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```


mqBufferToBag

mqBufferToBag 呼び出しは、システムに提供されたバッファをバッグ形式に変換します。

mqBufferToBag の構文

mqBufferToBag (OptionsBag, BufferLength, Buffer, DataBag, CompCode, Reason)

mqBufferToBag のパラメーター

OptionsBag (MQHBAG) - 入力

呼び出しの処理を制御するオプションを含むバッグのハンドル。これは、予約パラメーターです。この値は MQHB_NONE でなければなりません。

BufferLength (MQLONG) - 入力

バッファの長さ (バイト)。

Buffer (MQBYTE x BufferLength) - 入力

変換するメッセージを含むバッファへのポインター。

Databag (MQHBAG) - 入出力

メッセージを受信するバッグのハンドル。MQAI は、メッセージをバッグに入れる前にそのバッグで mqClearBag 呼び出しを行います。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqBufferToBag 呼び出しから返されます。

MQRC_BAG_CONVERSION_ERROR

データをバッグに変換できませんでした。これは、問題と共にバッグに変換するデータの形式を示します (例えば、メッセージが有効な PCF でない)。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効であるか、またはバッファにアクセスできません)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファ長が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セレクターの 2 番目のオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_OPTIONS_ERROR

オプション・バッグにサポートされないデータ項目が含まれているか、あるいはサポートされているオプションに無効な値が含まれています。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqBufferToBag の使用上の注意

バッファーに有効な PCF メッセージが含まれていなければなりません。 バッファーでの数値データのエンコード方式は、MQENC_NATIVE でなければなりません。

バッグのコード化文字セット ID は、この呼び出しによって変更されません。

mqBufferToBag の C 言語での呼び出し

```
mqBufferToBag (OptionsBag, BufferLength, Buffer, DataBag,  
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    OptionsBag;    /* Options bag handle */  
MQLONG    BufferLength;  /* Buffer length */  
MQBYTE    Buffer[n];     /* Buffer containing PCF */  
MQHBAG    DataBag;       /* Data bag handle */  
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */  
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqBufferToBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqBufferToBag OptionsBag, BufferLength, Buffer, DataBag,  
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim OptionsBag As Long 'Options bag handle'  
Dim BufferLength As Long 'Buffer length'  
Dim Buffer As Long 'Buffer containing PCF'  
Dim DataBag As Long 'Data bag handle'  
Dim CompCode As Long 'Completion code'  
Dim Reason As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqClearBag

mqClearBag 呼び出しは、バッグからすべてのユーザー項目を削除し、システム項目をその初期値にリセットします。

mqClearBag の構文

mqClearBag (Bag, CompCode, Reason)

mqClearBag のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

クリアするバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグのハンドルを指定した場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、mqClearBag 呼び出しから返されることがあります。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqClearBag の使用上の注意

1. バッグにシステム・バッグが含まれている場合、それらのバッグも削除されます。
2. この呼び出しを使用して、システム・バッグをクリアすることはできません。

mqClearBag の C 言語での呼び出し

```
mqClearBag (Bag, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG   Bag;           /* Bag handle */
MQLONG   CompCode;      /* Completion code */
MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqClearBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqClearBag Bag, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long 'Bag handle'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason   As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqCountItems

mqCountItems 呼び出しは、特定の同じセレクターを持つバッグに格納されているユーザー項目、システム項目、またはその両方のオカレンス数を返します。

mqCountItems の構文

mqCount 個の項目 (*Bag, Selector, ItemCount, CompCode, Reason*)

mqCountItems のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

項目がカウントされるバッグのハンドル。これは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

カウントするデータ項目のセレクター。

セレクトアがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクトアである場合)、そのセレクトアは MQAI でサポートされているものでなければなりません。サポートされていない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定されたセレクトアがバグにない場合、呼び出しが継続され、*ItemCount* にゼロが返されます。

Selector には、下記の特珠値を指定できます。

MQSEL_ALL_SELECTORS

すべてのユーザー項目とシステム項目がカウントされます。

MQSEL_ALL_USER_SELECTORS

カウントするすべてのユーザー項目。システム項目はこのカウントから除外されます。

MQSEL_ALL_SYSTEM_SELECTORS

カウントするすべてのシステム項目。ユーザー項目はこのカウントから除外されます。

***ItemCount* (MQLONG) - 出力**

バグ内の指定されたタイプの項目の数 (ゼロの場合もあります)。

***CompCode* (MQLONG) - 出力**

完了コード

***Reason* (MQLONG) - 出力**

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqCountItems 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バグ・ハンドルが無効です。

MQRC_ITEM_COUNT_ERROR

ItemCount パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セレクトアは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクトアがありません。

mqCountItems の使用上の注意

この呼び出しは、バグにある固有のセレクトア数ではなく、データ項目数をカウントします。1つのセレクトアは複数回出現する可能性があるため、バグ内の固有のセレクトアのほうがデータ項目より少ない場合があります。

mqCountItems の C 言語での呼び出し

```
mqCountItems (Bag, Selector, &ItemCount, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG  Bag;           /* Bag handle */
MQLONG  Selector;       /* Selector */
MQLONG  ItemCount;      /* Number of items */
MQLONG  CompCode;       /* Completion code */
MQLONG  Reason;         /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqCountItems の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqCountItems Bag, Selector, ItemCount, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag;           As Long 'Bag handle'  
Dim Selector       As Long 'Selector'  
Dim ItemCount      As Long 'Number of items'  
Dim CompCode       As Long 'Completion code'  
Dim Reason         As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqCreateBag

mqCreateBag 呼び出しは、バッグを新規に作成します。

mqCreateBag の構文

mqCreateBag (Options, Bag, CompCode, Reason)

mqCreateBag のパラメーター

Options (MQLONG) - 入力

バッグを作成するためのオプション。

以下の値が有効です。

MQCBO_ADMIN_BAG

バッグが IBM MQ オブジェクトを管理するためのものであることを指定します。

MQCBO_ADMIN_BAG は、MQCBO_LIST_FORM_ALLOWED、MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED、および MQCBO_CHECK_SELECTORS の各オプションを自動的に暗黙設定します。

管理バッグは、MQIASY_TYPE システム項目を MQCFT_COMMAND に設定して作成されます。

MQCBO_COMMAND_BAG

バッグがコマンド・バッグであることを示します。MQCBO_COMMAND_BAG は管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) の代わりとなるもので、両方とも指定した場合は MQRC_OPTIONS_ERROR が返されます。

バッグを作成するときに MQIASY_TYPE システム項目の値を MQCFT_COMMAND に設定する場合を除いて、コマンド・バッグはユーザー・バッグと同様に処理されます。

コマンド・バッグはオブジェクトを管理するためにも作成されますが、管理バッグのように管理メッセージをコマンド・サーバーに送るためには使用されません。バッグ・オプションはデフォルト値として次の値をとります。

- MQCBO_LIST_FORM_INHIBITED
- MQCBO_DO_NOT_REORDER
- MQCBO_DO_NOT_CHECK_SELECTORS

したがって、MQAI は、管理バッグのように、データ項目の順序の変更もメッセージ内のリストの作成も行いません。

MQCBO_GROUP_BAG

バッグがグループ・バッグであることを指定します。つまり、バッグはグループ化された項目のセットを保持するために使用されるということです。グループ・バッグは、IBM MQ オブジェクトの管理には使用できません。バッグ・オプションはデフォルト値として次の値をとります。

- MQCBO_LIST_FORM_ALLOWED

- MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED
- MQCBO_DO_NOT_CHECK_SELECTORS

このため MQAI は、データ項目の順序を変更したり、グループ化された項目のバッグ内にリストを作成したりすることができます。

グループ・バッグは、MQIASY_BAG_OPTIONS と MQIASY_CODED_CHAR_SET_ID の 2 つのシステム・セレクターを使用して作成されます。

MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されたバッグ内でグループ・バッグがネストされる場合、ネストされるグループ・バッグのセレクターは、グループ・バッグの作成時に MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されたかどうかをその時点で検査します。

MQCBO_USER_BAG

バッグがユーザー・バッグであることを指定します。MQCBO_USER_BAG は、デフォルトのバッグ・タイプ・オプションです。ユーザー・バッグは IBM MQ オブジェクトの管理にも使用できますが、MQCBO_LIST_FORM_ALLOWED オプションおよび MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED オプションを指定して管理メッセージが正しく生成されるようにする必要があります。

ユーザー・バッグは、MQIASY_TYPE システム項目を MQCFT_USER に指定して作成されます。

ユーザー・バッグの場合、次のうちの 1 つまたは複数のオプションを指定することができます。

MQCBO_LIST_FORM_ALLOWED

バッグ内に同じセレクターのオカレンスが隣接して複数ある場合に、MQAI が送信するメッセージに短縮されたリスト形式を使用できるように指定します。ただし、このオプションが使用されている場合は、項目を再配列できません。したがって、そのセレクターの複数のオカレンスがバッグ内で隣接していなくて MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED が指定されていない場合、MQAI は特定のセレクターに対してそのリスト形式を使用することはできません。

データ項目が文字ストリングである場合、リスト形式に短縮するためには、これらのストリングが同じ文字セット ID と同じセレクターを持っていなければなりません。リスト形式を使用すると、短ストリングには長ストリングと同じ長さになるようにブランクが埋め込まれます。

送信するメッセージが管理メッセージで MQCBO_ADMIN_BAG が指定されていない場合は、このオプションを必ず指定してください。

注：MQCBO_LIST_FORM_ALLOWED によって、MQAI がリスト形式を確実に使用するという暗黙設定は行われません。MQAI はリスト形式の使用についての決定を行う際にさまざまな要素を検討します。

MQCBO_LIST_FORM_INHIBITED

バッグ内に同じセレクターのオカレンスが隣接して複数ある場合でも、MQAI が送信されるメッセージにリスト形式を使用できないように指定します。MQCBO_LIST_FORM_INHIBITED はデフォルトのリスト形式オプションです。

MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED

MQAI が送信されたメッセージのデータ項目の順序を変更できるように指定します。このオプションは、送信バッグでは項目の順序に影響しません。

このオプションは、どんな順序で項目をデータ・バッグに挿入してもよいことを意味しています。つまり、MQAI は必要に応じてこれらの項目の順序を変更できるので、PCF メッセージに表示される順序で項目を挿入する必要はないということです。

メッセージがユーザー・メッセージである場合、受信バッグ内の項目の順序はメッセージ内の項目の順序と同じになります。この順序は、送信バッグ内の項目の順序とは異なっている可能性があります。

メッセージが管理メッセージである場合、受信バッグ内の項目の順序は受信したメッセージによって決まります。

送信するメッセージが管理メッセージで MQCBO_ADMIN が指定されていない場合に、このオプションを必ず指定してください。

MQCBO_DO_NOT_REORDER

MQAI が送信されたメッセージのデータ項目の順序を変更できないように指定します。送信されたメッセージと受信バッグの両方に送信バッグの場合と同じ順序で項目が含まれます。このオプションは、デフォルトの順序付けオプションです。

MQCBO_CHECK_SELECTORS

ユーザー・セレクター (ゼロ以上のセレクター) を検査して、mqAddInteger、mqAddInteger64、mqAddIntegerFilter、mqAddString、mqAddStringFilter、mqAddByteString、mqAddByteStringFilter、mqSetInteger、mqSetInteger64、mqSetIntegerFilter、mqSetString、mqSetStringFilter、mqSetByteString、またはmqSetByteStringFilter 呼び出しで暗黙指定されるデータ型とセレクターが整合していることを確認するように指定します。

- 整数、64 ビット整数、および整数フィルター呼び出しの場合、セレクターは MQIA_FIRST から MQIA_LAST の範囲になければなりません。
- スtringおよびString・フィルター呼び出しの場合、セレクターは MQCA_FIRST から MQCA_LAST の範囲になければなりません。
- バイト・Stringおよびバイト・String・フィルター呼び出しの場合、セレクターは MQBA_FIRST から MQBA_LAST の範囲になければなりません。
- グループ・バッグ呼び出しの場合、セレクターは MQGA_FIRST から MQGA_LAST の範囲になければなりません。
- ハンドル呼び出しの場合、セレクターは MQHA_FIRST から MQHA_LAST の範囲になければなりません。

セレクターが有効な範囲外にあると、呼び出しは失敗します。システム・セレクター (ゼロより小さいセレクター) は常にチェックされ、システム・セレクターを指定する場合には、MQAI でサポートしているセレクターでなければなりません。

MQCBO_DO_NOT_CHECK_SELECTORS

ユーザー・セレクター (ゼロ以上のセレクター) をチェックしないように指定します。ゼロまたは正のセレクターであればどのセレクターをも、どの呼び出しに対しても使用できるようになります。このオプションは、デフォルトのセレクター・オプションです。システム・セレクター (ゼロより小さいセレクター) は常にチェックされます。

MQCBO_NONE

すべてのオプションが必ずデフォルト値を持つように指定します。このオプションは、プログラムの文書化を支援するために提供されているもので、ゼロ以外の値を持つオプションでは指定しないようにします。

次のリストは、デフォルト・オプション値をまとめたものです。

- MQCBO_USER_BAG
 - MQCBO_LIST_FORM_INHIBITED
 - MQCBO_DO_NOT_REORDER
 - MQCBO_DO_NOT_CHECK_SELECTORS

Bag (MQHBAG) - 出力

呼び出しによって作成されるバッグのハンドル。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqCreateBag 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です (パラメーター・アドレスが無効であるか、パラメーター・ロケーションが読み取り専用となっています)。

MQRC_OPTIONS_ERROR

オプションが無効であるか、あるいは整合性がありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqCreateBag の使用上の注意

バッグを作成するために使用したオプションはすべて、そのバッグを作成するときにそのバッグ内のシステム項目に含まれています。

mqCreateBag の C 言語での呼び出し

```
mqCreateBag (Options, &Bag, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQLONG Options;          /* Bag options */
MQHBAG Bag;              /* Bag handle */
MQLONG CompCode;         /* Completion code */
MQLONG Reason;           /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqCreateBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqCreateBag Options, Bag, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Options As Long 'Bag options'
Dim Bag As Long 'Bag handle'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqDeleteBag

mqDeleteBag 呼び出しは、指定されたバッグを削除します。

mqDeleteBag の構文

mqDeleteBag (Bag, CompCode, Reason)

mqDeleteBag のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入出力

削除するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグのハンドルを指定した場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_DELETABLE が返されます。このハンドルは MQHB_UNUSABLE_HBAG にリセットされます。

バッグにシステムによって生成されたバッグが含まれている場合、それらのバッグも削除されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqDeleteBag 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効であるか、パラメーター・アドレスが無効であるか、またはパラメーター・ロケーションが読み取り専用になっています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_DELETABLE

システム・バッグは削除できません。

mqDeleteBag の使用上の注意

1. mqCreateBag で作成したすべてのバッグを削除します。
2. ネストされたバッグは、それらを含むバッグが削除されると自動的に削除されます。

mqDeleteBag の C 言語での呼び出し

```
mqDeleteBag (&Bag, CompCode, Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG   Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqDeleteBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqDeleteBag Bag, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag;           As Long 'Bag handle'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason  As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqDeleteItem

mqDeleteItem 呼び出しは、1 つ以上のユーザー項目をバッグから削除します。

mqDeleteItem の構文

mqDelete 項目 (Bag, Selector, ItemIndex, CompCode, Reason)

mqDeleteItem のパラメーター

Hbag (MQHBAG) - 入力

変更するバッグのハンドル。

これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグの場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

削除するユーザー項目を識別するセレクター。

セレクターがゼロより小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合) は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。

次の特殊値が有効となります。

MQSEL_ANY_SELECTOR

削除する項目は ItemIndex パラメーターによって識別されるユーザー項目と、ユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

削除する項目は ItemIndex パラメーターによって識別されるユーザー項目と、ユーザー項目のセットに関係する索引です。

明示的セレクター値が指定されていても、そのセレクターがバッグの中にない場合、MQIND_ALL が ItemIndex に指定されている場合は呼び出しが継続され、MQIND_ALL が指定されていない場合は、理由コード MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT で異常終了します。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

削除するデータ項目の索引。

値はゼロ以上であるか、または次の特殊値のいずれかの値でなければなりません。

MQIND_NONE

バッグ内にセレクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。MQIND_NONE をいずれかの MQSEL_XXX_SELECTOR 値と共に指定した場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。

MQIND_ALL

バッグ内のセレクターのすべてのオカレンスを削除するように指定します。MQIND_ALL をいずれかの MQSEL_XXX_SELECTOR 値と共に指定した場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。セレクターがバッグ内にないときに MQIND_ALL を指定すると、呼び出しが継続されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。ItemIndex がシステム・セレクターを指定している場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_DELETABLE が返されます。MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセレクター値が指定されている場合、ItemIndex はセレクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE、MQIND_ALL、またはゼロ以上となります。

MQIND_NONE や MQIND_ALL ではなく明示的索引を指定した場合、その項目がバッグ内にないと、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqDeleteItem 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

MQIND_NONE または MQIND_ALL がいずれかの MQSEL_ANY_XXX_SELECTOR 値と共に指定されました。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引のある項目がバッグ内にありません。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグが読み取り専用であるため、変更できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_DELETABLE

システム項目が読み取り専用であるため、削除できません。

mqDeleteItem の使用上の注意

1. 指定されたセクターの 1 つのオカレンスだけを除去するか、または指定されたセクターのすべてのオカレンスを除去するかのいずれかです。
2. この呼び出しはバッグからシステム項目を除去することも、システム・バッグから項目を除去することもできません。ただしこの呼び出しはユーザー・バッグからシステム・バッグのハンドルを除去することはできます。この方法で、システム・バッグを削除することができます。

mqDeleteItem の C 言語での呼び出し

```
mqDeleteItem (Bag, Selector, ItemIndex, &CompCode, &Reason)
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Hbag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;       /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;      /* Index of the data item */
MQLONG    CompCode;       /* Completion code */
MQLONG    Reason;         /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqDeleteItem の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqDeleteItem Bag, Selector, ItemIndex, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long 'Bag handle'
Dim Selector As Long 'Selector'
Dim ItemIndex As Long 'Index of the data item'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason   As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqExecute

mqExecute 呼び出しは、管理コマンド・メッセージを送信し、応答を待ちます (応答が予想される場合)。

mqExecute の構文

mqExecute (Hconn, Command, OptionsBag, AdminBag, ResponseBag, AdminQ, ResponseQ, CompCode, Reason)

mqExecute のパラメーター

Hconn (MQHCONN) - 入力

MQI 接続ハンドル。

アプリケーション発行の先行する MQCONN 呼び出しによって返されます。

Command (MQLONG) - 入力

実行されるコマンド。

これは、MQCMD_* 値のいずれかになります。値が mqExecute 呼び出しを保守する MQAI によって認識されない値であっても、その値は受け入れられます。ただし、値をバッグに挿入するために mqAddInquiry が使用された場合、Command パラメーターは MQAI によって認識される INQUIRE コマンドでなければなりません。それ以外の場合は、MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR が返されます。

OptionsBag (MQHBAG) - 入力

呼び出しの操作に影響するオプションを含むバッグのハンドル。

これは、先行する mqCreateBag 呼び出しまたは次の特殊値によって返されるハンドルでなければなりません。

MQHB_NONE

オプション・バッグがありません。オプションはすべてデフォルト値をとります。

オプション・バッグ内には、このトピックにリストするオプションのみが存在します (他のデータ項目がある場合は MQRC_OPTIONS_ERROR が返されます)。

バッグ内にない各オプションごとに適切なデフォルト値が使用されます。次のようなオプションを指定できます。

MQIACF_WAIT_INTERVAL

このデータ項目は、MQAI がそれぞれの応答メッセージを待つ最大時間をミリ秒単位で指定します。時間間隔は、ゼロ以上または特殊値 MQWI_UNLIMITED でなければなりません。デフォルトは 30 秒です。mqExecute 呼び出しは、すべての応答メッセージを受け取ったとき、または予想された応答メッセージを受け取らずに指定された待機間隔が経過したときに、完了します。

注: この時間間隔は概算値です。

MQIACF_WAIT_INTERVAL データ項目のデータ型に誤りがある場合、オプション・バッグ内にそのセクターの複数のオカレンスがある場合、データ項目の値が無効である場合のいずれかであれば、MQRC_WAIT_INTERVAL_ERROR が返されます。

AdminBag (MQHBAG) - 入力

発行する管理コマンドの詳細を含むバッグのハンドル。

バッグ内に入れられたすべてのユーザー項目は、送信される管理メッセージに挿入されます。アプリケーションの責任によって、そのコマンドに有効なパラメーターのみがバッグに入れられます。

コマンド・バッグ内の MQIASY_TYPE データ項目の値が MQCFT_COMMAND でない場合は、MQRC_COMMAND_TYPE_ERROR が返されます。バッグにネストされたシステム・バッグが含まれている場合は、MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED が返されます。

ResponseBag (MQHBAG) - 入力

応答メッセージが入れられるバッグのハンドル。

MQAI は、応答メッセージをバッグに入れる前にそのバッグで mqClearBag 呼び出しを行います。応答メッセージを取り出すために、セレクターの MQIACF_CONVERT_RESPONSE を指定できます。

各応答メッセージは別々のシステム・バッグに入れられ、それらのシステム・バッグのハンドルが応答バッグに入れられます。mqInquireBag 呼び出しと共にセレクター MQHA_BAG_HANDLE を使用して、応答バッグ内のシステム・バッグのハンドルを判別します。それらのバッグを照会してその内容を判別することができます。

予想される応答メッセージの全部ではなく一部のみを受け取った場合は、MQRC_NO_MSG_AVAILABLE と共に MQCC_WARNING が返されます。予想される応答メッセージを 1 つも受け取らなかった場合は、MQRC_NO_MSG_AVAILABLE と共に MQCC_FAILED が返されます。

グループ・バッグは、応答バッグとしては使用できません。

AdminQ (MQHOBJ) - 入力

管理メッセージが入れられるキューのオブジェクト・ハンドル。

このハンドルは、アプリケーション発行の先行する MQOPEN 呼び出しによって返されます。このキューは出力のためにオープンされていなければなりません。

以下の特殊値を指定できます。

MQHO_NONE

管理メッセージを現在接続されているキュー・マネージャーに属する SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE に入れるように指示します。MQHO_NONE が指定されると、アプリケーションは MQOPEN を使用してキューをオープンする必要がなくなります。

ResponseQ

応答メッセージが入れられるキューのオブジェクト・ハンドル。

このハンドルは、アプリケーション発行の先行する MQOPEN 呼び出しによって返されます。このキューは入力および照会のためにオープンされていなければなりません。

以下の特殊値を指定できます。

MQHO_NONE

応答メッセージを MQAI で自動的に作成された動的キューに入れるように指示します。このキューは SYSTEM.DEFAULT.MODEL.QUEUE をオープンすることによって作成されるため、特性が適切でなければなりません。作成されたキューは呼び出しの間だけ存在し、mqExecute 呼び出しからの終了時に MQAI によって削除されます。

CompCode

完了コード

Reason

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqExecute 呼び出しから返されます。

MQRC_*

MQINQ、MQPUT、MQGET、または MQOPEN 呼び出しからのすべてのもの。

MQRC_BAG_WRONG_TYPE

入力データ・バッグがグループ・バッグです。

MQRC_CMD_SERVER_NOT_AVAILABLE

管理コマンドを処理するコマンド・サーバーが使用不能です。

MQRC_COMMAND_TYPE_ERROR

要求バッグ内の MQIASY_TYPE データ項目の値が MQCFT_COMMAND ではありません。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR

mqAddInteger 呼び出しが、認識された INQUIRE コマンドでないコマンド・コードで使用されました。

MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED

入力データ・バッグに 1 つ以上のネストされたシステム・バッグが含まれています。

MQRC_NO_MSG_AVAILABLE

応答メッセージを受信しましたが、全部のメッセージを受信していません。応答バッグに、受信したメッセージのシステム生成バッグが含まれています。

MQRC_NO_MSG_AVAILABLE

指定された待機時間に応答メッセージが受信されませんでした。

MQRC_OPTIONS_ERROR

オプション・バッグに、サポートされないデータ項目が含まれているか、あるいはサポートしているオプションに無効な値が含まれています。

MQRC_PARAMETER_MISSING

管理メッセージが、バッグのなかにないパラメーターを必要としています。この理由コードは、MQCBO_ADMIN_BAG オプションまたは MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED オプションで作成されたバッグについてのみ出されます。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

1 つのインスタンスだけを許可する必須パラメーターについてバッグ内にセレクターの複数のインスタンスが存在しています。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

mqAddString または mqSetString を使用して MQIACF_INQUIRY セレクターがバッグに追加されました。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRCCF_COMMAND_FAILED

コマンドが失敗しました。失敗の詳細は、応答バッグ内のシステム生成バッグにあります。

mqExecute の使用上の注意

1. *AdminQ* を指定しないと、MQAI は管理コマンド・メッセージを送る前にコマンド・サーバーがアクティブになっているかどうかをチェックします。ただし、コマンド・サーバーがアクティブでない場合は、MQAI はコマンド・メッセージの送信を開始しません。多くの管理コマンド・メッセージを送る場合、自分で SYSTEM.ADMIN.COMMAND.QUEUE をオープンし、それぞれの管理要求に管理キューのハンドルを渡すことをお勧めします。
2. MQHO_NONE 値を *ResponseQ* パラメーターに指定すると mqExecute 呼び出しを簡単に使用できますが、アプリケーションによって (例えば、ループ内から) mqExecute が繰り返し発行されると、応答キューの作成と削除が繰り返し実行されます。この状況では、アプリケーション自体が何らかの mqExecute 呼び出しの前に応答キューをオープンし、すべての mqExecute 呼び出しが発行された後にその応答キューをクローズするようにしたほうが効率的です。
3. 管理コマンドによってメッセージ・タイプ MQMT_REQUEST でメッセージが送られると、この呼び出しはオプション・バッグ内の MQIACF_WAIT_INTERVAL データ項目で指定された時間の間、待機します。
4. 呼び出しの処理時にエラーが発生しても、応答バッグに応答メッセージからの一部のデータが含まれる場合がありますが、通常、そのデータは不完全なものとなります。

mqExecute の C 言語呼び出し

```
mqExecute (Hconn, Command, OptionsBag, AdminBag, ResponseBag,
AdminQ, ResponseQ, CompCode, Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHCONN  Hconn;           /* MQI connection handle */
MQLONG   Command;        /* Command to be executed */
MQHBAG   OptionsBag;     /* Handle of a bag containing options */
MQHBAG   AdminBag;       /* Handle of administration bag containing
                          /* details of administration command */
MQHBAG   ResponseBag;    /* Handle of bag for response messages */
MQHOBj   AdminQ;         /* Handle of administration queue for
                          /* administration messages */
MQHOBj   ResponseQ;      /* Handle of response queue for response
                          /* messages */
MQLONG   pCompCode;      /* Completion code */
MQLONG   pReason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqExecute の Visual Basic 呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqExecute (Hconn, Command, OptionsBag, AdminBag, ResponseBag,
AdminQ, ResponseQ, CompCode, Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim HConn      As Long 'MQI connection handle'
Dim Command    As Long 'Command to be executed'
Dim OptionsBag As Long 'Handle of a bag containing options'
Dim AdminBag   As Long 'Handle of command bag containing details of
                        administration command'
Dim ResponseBag As Long 'Handle of bag for reply messages'
Dim AdminQ     As Long 'Handle of command queue for
                        administration messages'
Dim ResponseQ  As Long 'Handle of response queue for reply messages'
Dim CompCode   As Long 'Completion code'
Dim Reason     As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqGetBag

mqGetBag 呼び出しは、指定されたキューからメッセージを除去し、そのメッセージ・データをデータ・バッグに変換します。

mqGetBag の構文

mqGet バッグ (Hconn, Hobj, MsgDesc, GetMsgOpts, Bag, CompCode, Reason)

mqGetBag のパラメーター

Hconn (MQHCONN) - 入力

MQI 接続ハンドル。

Hobj (MQHOBj) - 入力

そこからメッセージを受信するキューのオブジェクト・ハンドル。このハンドルは、アプリケーション発行の先行する MQOPEN 呼び出しによって返されます。このキューは入力のためにオープンされていなければなりません。

MsgDesc (MQMD) - 入出力

メッセージ記述子 (詳細については、[MQMD - メッセージ記述子](#)を参照)。

メッセージの *Format* フィールドに MQFMT_ADMIN、MQFMT_EVENT、または MQFMT_PCF 以外の値がある場合は、MQRC_FORMAT_NOT_SUPPORTED が返されます。

呼び出しの入りで、アプリケーションの MQMD の *Encoding* フィールドに MQENC_NATIVE 以外の値があり、MQGMO_CONVERT が指定された場合は、MQRC_ENCODING_NOT_SUPPORTED が返され

ます。また、MQGMO_CONVERT を指定しない場合、*Encoding* パラメーターの値は検索側アプリケーションの MQENC_NATIVE でなければなりません。それ以外の値の場合は、再び MQRC_ENCODING_NOT_SUPPORTED が返されます。

GetMsgOpts (MQGMO) - 入出力

読み取りメッセージ・オプション (詳細については、[MQGMO - 読み取りメッセージ・オプション](#)を参照)。

MQGMO_ACCEPT_TRUNCATED_MSG は指定できません。指定した場合は、MQRC_OPTIONS_ERROR が返されます。MQGMO_LOCK と MQGMO_UNLOCK は 16 ビットまたは 32 ビットの Windows 環境ではサポートされていません。MQGMO_SET_SIGNAL は 32 ビットの Windows 環境でのみサポートされています。

Bag (MQHBAG) - 入出力

取り出されたメッセージが入れられるバッグのハンドル。MQAI は、メッセージをバッグに入れる前にそのバッグで mqClearBag 呼び出しを行います。

MQHB_NONE

取り出したメッセージを取得します。これは、キューからメッセージを削除する方法を提供しています。

MQGMO_BROWSE_* のオプションを指定すると、この値により、選択したメッセージにブラウザ・カーソルが設定されます。この場合、メッセージは削除されません。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

警告およびエラー状況を示す次の理由コードが、mqGetBag 呼び出しから返されます。

MQRC_*

MQGET 呼び出しまたはバッグの操作によるすべてのもの。

MQRC_BAG_CONVERSION_ERROR

データをバッグに変換できませんでした。

これは、問題と共にバッグに変換するデータの形式を示します (例えば、メッセージが有効な PCF でない)。

メッセージがキューから破壊的に取り出されると (つまり、キューをブラウズしないで)、この理由コードはメッセージが廃棄されたことを示します。

MQRC_BAG_WRONG_TYPE

入力データ・バッグがグループ・バッグです。

MQRC_ENCODING_NOT_SUPPORTED

エンコードはサポートされていません。MQMD の *Encoding* フィールドの値は MQENC_NATIVE でなければなりません。

MQRC_FORMAT_NOT_SUPPORTED

形式がサポートされていません。メッセージ内の *Format* 名が MQFMT_ADMIN、MQFMT_EVENT、または MQFMT_PCF のいずれでもありません。メッセージがキューから破壊的に取り出されると (つまり、キューをブラウズしないで)、この理由コードはメッセージが廃棄されたことを示します。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INCONSISTENT_ITEM_TYPE

セクターの 2 番目のオカレンスのデータ型が最初のオカレンスのデータ型と異なります。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqGetBag の使用上の注意

1. この呼び出しで返されるのは、サポートされている形式を持つメッセージだけです。メッセージの形式がサポートされていないものである場合、そのメッセージは廃棄され、その呼び出しは適切な理由コードで終了します。
2. メッセージが作業単位内 (つまり、MQGMO_SYNCPOINT オプション) で取り出され、そのメッセージの形式がサポートされていないものである場合、その作業単位をバッグアウトし、そのメッセージをキューに復元することができます。これによって、mqGetBag 呼び出しの代わりに MQGET 呼び出しを使用してメッセージを取り出すことができます。

mqGetBag の C 言語での呼び出し

```
mqGetBag (hConn, hObj, &MsgDesc, &GetMsgOpts, hBag, CompCode, Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHCONN  hConn;           /* MQI connection handle */
MQHOBJ   hObj;            /* Object handle */
MQMD     MsgDesc;         /* Message descriptor */
MQGMO    GetMsgOpts;      /* Get-message options */
MQHBAG   hBag;            /* Bag handle */
MQLONG   CompCode;        /* Completion code */
MQLONG   Reason;          /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqGetBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqGetBag (HConn, HObj, MsgDesc, GetMsgOpts, Bag, CompCode, Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim HConn      As Long 'MQI connection handle'
Dim HObj       As Long 'Object handle'
Dim MsgDesc    As Long 'Message descriptor'
Dim GetMsgOpts As Long 'Get-message options'
Dim Bag        As Long 'Bag handle'
Dim CompCode   As Long 'Completion code'
Dim Reason     As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireBag

mqInquireBag 呼び出しはバッグ内にあるバッグ・ハンドルの値を照会します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireBag の構文

mqInquire バッグ (*Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason*)

mqInquireBagのパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会するバッグ・ハンドル。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

問い合わせする項目を識別する選択子。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセレクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定される データ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex パラメーターによって識別されるユーザー項目またはシステム項目のいずれかでなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は ItemIndex パラメーターで識別されるユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex パラメーターで識別されるシステム項目です。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

照会するデータ項目の索引。

この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にはない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。

以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセレクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセレクター値を指定する場合、ItemIndex パラメーターはそのセレクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

ItemValue (MQHBAG) - 出力

バッグ内の項目の値。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqInquireBag 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でないか、または MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR 値によって指定された MQIND_NONE でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_ITEM_VALUE_ERROR

ItemValue パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqInquireBag の C 言語での呼び出し

```
mqInquireBag (Bag, Selector, ItemIndex, &ItemValue, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG   Bag;           /* Bag handle */
MQLONG   Selector;      /* Selector */
MQLONG   ItemIndex;     /* Index of the data item to be inquired */
MQHBAG   ItemValue;     /* Value of item in the bag */
MQLONG   CompCode;      /* Completion code */
MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireBag (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason)
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long 'Bag handle'
Dim Selector As Long 'Selector'
Dim ItemIndex As Long 'Index of the data item to be inquired'
Dim ItemValue As Long 'Value of item in the bag'
```

```
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireByteString

mqInquireByteString 呼び出しは、バッグ内にあるバイト・ストリング・データ項目の値を要求します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireByteString の構文

mqInquireByteString (Bag, Selector, ItemIndex, Bufferlength, Buffer, ByteStringLength, CompCode, Reason)

mqInquireByteString のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会に関連するハンドルのバッグ。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

照会が関係する項目のセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセレクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定されるデータ型と同じでなければなりません。同じでない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたユーザー項目またはシステム項目です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたシステム項目です。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

照会が関係するデータ項目の索引。この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセレクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex はユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex はユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセレクター値を指定する場合、*ItemIndex* はそのセレクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

BufferLength (MQLONG) - 入力

バイト・ストリングを受け取るバッファの長さ (バイト)。ゼロは有効な値です。

Buffer (MQBYTE x BufferLength) - 出力

バイト・ストリングを受け取るバッファ。長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。*BufferLength* にゼロを指定した場合は、*Buffer* パラメーターのアドレスとして NULL ポインタを指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

ストリングにはバッファの長さに達するまでヌルが埋め込まれます。ストリングがバッファよりも長い場合は、バッファに収まるようにストリングが切り捨てられます。この場合、*ByteStringLength* は切り捨てなしでストリングを収容するために必要なバッファのサイズを示します。

ByteStringLength (MQLONG) - 出力

バッグに含まれるストリングの長さ (バイト)。*Buffer* パラメーターが小さすぎる場合、返されるストリングの長さは *ByteStringLength* より小さくなります。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態および警告状態を示す次の理由コードが、mqInquireByteString 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファ長が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でないか、または MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR 値によって指定された MQIND_NONE でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセレクターのバッグには存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセレクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セレクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセレクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_STRING_LENGTH_ERROR

ByteStringLength パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_STRING_TRUNCATED

データが長すぎて出力バッファーに入りきらず、切り捨てられました。

mqInquireByteString の C 言語での呼び出し

```
mqInquireByteString (Bag, Selector, ItemIndex,  
BufferLength, Buffer, &StringLength, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;      /* Selector */  
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */  
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */  
PMQBYTE   Buffer;        /* Buffer to contain string */  
MQLONG    ByteStringLength; /* Length of byte string returned */  
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */  
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireByteString の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireByteString Bag, Selector, ItemIndex,  
BufferLength, Buffer, StringLength, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long    'Bag handle'  
Dim Selector      As Long    'Selector'  
Dim ItemIndex     As Long    'Item index'  
Dim BufferLength   As Long    'Buffer length'  
Dim Buffer         As Byte    'Buffer to contain string'  
Dim ByteStringLength As Long  'Length of byte string returned'  
Dim CompCode      As Long    'Completion code'  
Dim Reason        As Long    'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireByteStringFilter

mqInquireByteStringFilter 呼び出しは、バッグ内にあるバイト・ストリング・フィルター項目の値および演算子を要求します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireByteStringFilter の構文

mqInquireByteString フィルター (*Bag, Selector, ItemIndex, Bufferlength, Buffer, ByteStringLength, Operator, CompCode, Reason*)

mqInquireByteStringFilterのパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会に関連するハンドルのバッグ。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

照会が関係する項目のセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセレクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定されるデータ型と同じでなければなりません。同じでない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたユーザー項目またはシステム項目です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたシステム項目です。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

照会が関係するデータ項目の索引。この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセレクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex はユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex はユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を Selector に指定する場合、ItemIndex はシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセレクター値を指定する場合、ItemIndex はそのセレクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

BufferLength (MQLONG) - 入力

条件バイト・ストリングを受け取るバッファの長さ (バイト)。ゼロは有効な値です。

Buffer (MQBYTE x BufferLength) - 出力

条件バイト・ストリングを受け取るバッファ。長さは、BufferLength パラメーターで指定します。BufferLength にゼロを指定した場合は、Buffer パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを

指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

ストリングにはバッファの長さに達するまでブランクが埋め込まれます。このストリングはヌル終了のストリングではありません。ストリングがバッファよりも長い場合は、バッファに収まるようにストリングが切り捨てられます。この場合、*ByteStringLength* は切り捨てなしでストリングを収容するために必要なバッファのサイズを示します。

***ByteStringLength* (MQLONG) - 出力**

バッグに含まれる条件ストリングの長さ (バイト)。 *Buffer* パラメーターが小さすぎる場合、返されるストリングの長さは *StringLength* より小さくなります。

***Operator* (MQLONG) - 出力**

バッグ内のバイト・ストリング・フィルター演算子。

***CompCode* (MQLONG) - 出力**

完了コード

***Reason* (MQLONG) - 出力**

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態および警告状態を示す次の理由コードが、*mqInquireByteStringFilter* 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファ長が無効です。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

フィルター演算子が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で *MQIND_NONE* でないか、または *MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR* 値によって指定された *MQIND_NONE* でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、*MQAI* によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに *MQIND_NONE* が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_STRING_LENGTH_ERROR

ByteStringLength パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_STRING_TRUNCATED

データが長すぎて出力バッファーに入りきらず、切り捨てられました。

mqInquireByteStringFilter の C 言語での呼び出し

```
mqInquireByteStringFilter (Bag, Selector, ItemIndex,  
BufferLength, Buffer, &ByteStringLength, &Operator, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;      /* Selector */  
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */  
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */  
PMQBYTE    Buffer;        /* Buffer to contain string */  
MQLONG    ByteStringLength; /* Length of string returned */  
MQLONG    Operator;      /* Item operator */  
PMQLONG    CompCode;     /* Completion code */  
PMQLONG    Reason;       /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireByteStringFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireByteStringFilter Bag, Selector, ItemIndex,  
BufferLength, Buffer, ByteStringLength,  
Operator, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long   'Bag handle'  
Dim Selector      As Long   'Selector'  
Dim ItemIndex     As Long   'Item index'  
Dim BufferLength   As Long   'Buffer length'  
Dim Buffer         As String 'Buffer to contain string'  
Dim ByteStringLength As Long 'Length of byte string returned'  
Dim Operator      As Long   'Operator'  
Dim CompCode      As Long   'Completion code'  
Dim Reason        As Long   'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireInteger

mqInquireInteger 呼び出しは、バッグ内にある整数データ項目の値を要求します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireInteger の構文

mqInquire 整数 (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason)

mqInquireInteger のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会に関連するハンドルのバッグ。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

照会が関係する項目を識別するセレクター。

セクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セクターである場合)、そのセクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定される データ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目またはシステム項目です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたシステム項目です。

***ItemIndex* (MQLONG) - 入力**

照会が関係するデータ項目の索引。この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* は、ユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセクター値を指定する場合、*ItemIndex* はそのセクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

***ItemValue* (MQLONG) - 出力**

バッグ内の項目の値。

***CompCode* (MQLONG) - 出力**

完了コード

***Reason* (MQLONG) - 出力**

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqInquireInteger 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でないか、または MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR 値によって指定された MQIND_NONE でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_ITEM_VALUE_ERROR

ItemValue パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqInquireInteger の C 言語での呼び出し

```
mqInquireInteger (Bag, Selector, ItemIndex, &ItemValue,  
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;      /* Selector */  
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */  
MQLONG    ItemValue;     /* Item value */  
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */  
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireInteger の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireInteger Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue,  
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag        As Long 'Bag handle'  
Dim Selector   As Long 'Selector'  
Dim ItemIndex  As Long 'Item index'  
Dim ItemValue  As Long 'Item value'  
Dim CompCode   As Long 'Completion code'  
Dim Reason     As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireInteger64

mqInquireInteger64 呼び出しは、バッグ内にある 64 ビット整数データ項目の値を要求します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireInteger64 の構文

mqInquireInteger64 (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason)

mqInquireInteger64 のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会に関連するハンドルのバッグ。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

照会が関係する項目を識別するセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセレクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定される データ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目またはシステム項目です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたシステム項目です。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

照会が関係するデータ項目の索引。この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセレクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* は、ユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセレクター値を指定する場合、*ItemIndex* はそのセレクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

ItemValue (MQINT64) - 出力

バッグ内の項目の値。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、mqInquireInteger64 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でないか、または MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR 値によって指定された MQIND_NONE でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_ITEM_VALUE_ERROR

ItemValue パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqInquireInteger64 の C 言語での呼び出し

```
mqInquireInteger64 (Bag, Selector, ItemIndex, &ItemValue,
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */
MQINT64    ItemValue;    /* Item value */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireInteger64 の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireInteger64 Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue,
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag        As Long 'Bag handle'
Dim Selector   As Long 'Selector'
Dim ItemIndex  As Long 'Item index'
Dim ItemValue  As Long 'Item value'
Dim CompCode   As Long 'Completion code'
Dim Reason     As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireIntegerFilter

mqInquireIntegerFilter 呼び出しは、バッグ内にある整数フィルター項目の値および演算子を要求します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireIntegerFilter の構文

mqInquireIntegerFilter (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, Operator, CompCode, Reason)

mqInquireIntegerFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会に関連するハンドルのバッグ。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

照会が関係する項目を識別するセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセレクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定される データ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目またはシステム項目です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたシステム項目です。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

照会が関係するデータ項目の索引。この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセレクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* は、ユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセレクター値を指定する場合、*ItemIndex* はそのセレクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

ItemValue (MQLONG) - 出力

条件値。

Operator (MQLONG) - 出力

バッグ内の整数フィルター演算子。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、mqInquireIntegerFilter 呼び出しから返されます。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

フィルター演算子が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でないか、または MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR 値によって指定された MQIND_NONE でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_ITEM_VALUE_ERROR

ItemValue パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqInquireIntegerFilter の C 言語での呼び出し

```
mqInquireIntegerFilter (Bag, Selector, ItemIndex, &ItemValue,  
&Operator, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG   Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG   Selector;      /* Selector */  
MQLONG   ItemIndex;     /* Item index */  
MQLONG   ItemValue;     /* Item value */  
MQLONG   Operator;      /* Item operator */  
MQLONG   CompCode;      /* Completion code */  
MQLONG   Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireIntegerFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireIntegerFilter Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue,  
Operator, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag As Long 'Bag handle'  
Dim Selector As Long 'Selector'  
Dim ItemIndex As Long 'Item index'  
Dim ItemValue As Long 'Item value'  
Dim Operator As Long 'Item operator'  
Dim CompCode As Long 'Completion code'  
Dim Reason As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireItemInfo

mqInquireItemInfo 呼び出しは、バッグ内の指定された項目に関する情報を返します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireItemInfo の構文

mqInquireItemInfo (Bag, Selector, ItemIndex, ItemType, OutSelector, CompCode, Reason)

mqInquireItemInfo のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会するバッグのハンドル。

このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

問い合わせする項目を識別する選択子。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセレクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex パラメーターによって識別されるユーザー項目またはシステム項目のいずれかでなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は ItemIndex パラメーターで識別されるユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex パラメーターで識別されるシステム項目です。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

照会するデータ項目の索引。

この項目はバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。値はゼロ以上であるか、または次のような特殊値でなければなりません。

MQIND_NONE

バッグ内にセクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex パラメーターはシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。明示的なセクター値を指定する場合、ItemIndex パラメーターはそのセクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

ItemType (MQLONG) - 出力

指定されたデータ項目のデータ型。

以下のものが返されます。

MQITEM_BAG

バッグ・ハンドル項目。

MQITEM_BYTE_STRING

バイト・ストリング。

MQITEM_INTEGER

整数項目。

MQITEM_INTEGER_FILTER

整数フィルター。

MQITEM_INTEGER64

64 ビット整数項目。

MQITEM_STRING

文字ストリング項目。

MQITEM_STRING_FILTER

ストリング・フィルター。

OutSelector (MQLONG) - 出力

指定されたデータ項目のセクター。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqInquireItemInfo 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

MQIND_NONE がいずれかの MQSEL_ANY_XXX_SELECTOR 値と共に指定されました。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_ITEM_TYPE_ERROR

ItemType パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_OUT_SELECTOR_ERROR

OutSelector パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqInquireItemInfo の C 言語での呼び出し

```
mqInquireItemInfo (Bag, Selector, ItemIndex, &OutSelector, &ItemType,  
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;      /* Selector identifying item */  
MQLONG    ItemIndex;     /* Index of data item */  
MQLONG    OutSelector;   /* Selector of specified data item */  
MQLONG    ItemType;     /* Data type of data item */  
MQLONG    CompCode;     /* Completion code */  
MQLONG    Reason;       /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireItemInfo の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireItemInfo Bag, Selector, ItemIndex, OutSelector, ItemType,  
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag        As Long 'Bag handle'  
Dim Selector   As Long 'Selector identifying item'  
Dim ItemIndex  As Long 'Index of data item'  
Dim OutSelector As Long 'Selector of specified data item'  
Dim ItemType   As Long 'Data type of data item'  
Dim CompCode   As Long 'Completion code'  
Dim Reason     As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireString

mqInquireString 呼び出しは、バッグ内にある文字データ項目の値を要求します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireString の構文

mqInquire ストリング (*Bag, Selector, ItemIndex, Bufferlength, Buffer, StringLength, CodedCharSetId, CompCode, Reason*)

mqInquireStringのパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会に関連するハンドルのバッグ。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

照会が関係する項目のセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていない必要があります。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセレクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定されるデータ型と同じでなければなりません。同じでない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたユーザー項目またはシステム項目です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、ItemIndex によって識別されたシステム項目です。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

照会が関係するデータ項目の索引。この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセレクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex はユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を Selector パラメーターに指定する場合、ItemIndex はユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を Selector に指定する場合、ItemIndex はシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセレクター値を指定する場合、ItemIndex はそのセレクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

BufferLength (MQLONG) - 入力

ストリングを受け取るバッファの長さ (バイト)。ゼロは有効な値です。

Buffer (MQCHAR x BufferLength) - 出力

文字ストリングを受け取るバッファ。長さは、BufferLength パラメーターで指定します。

BufferLength にゼロを指定した場合は、Buffer パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを

指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

ストリングにはバッファの長さに達するまでブランクが埋め込まれます。このストリングはヌル終了のストリングではありません。ストリングがバッファよりも長い場合は、バッファに収まるようにストリングが切り捨てられます。この場合、*StringLength* は切り捨てなしでストリングを収容するのに必要なバッファのサイズを示します。

***StringLength* (MQLONG) - 出力**

バッグに含まれるストリングの長さ (バイト)。 *Buffer* パラメーターが小さすぎる場合、返されるストリングの長さは *StringLength* より小さくなります。

***CodedCharSetId* (MQLONG) - 出力**

ストリング内の文字データのコード化文字セット ID。 必要でない場合、このパラメーターをヌル・ポインターに設定することができます。

***CompCode* (MQLONG) - 出力**

完了コード

***Reason* (MQLONG) - 出力**

CompCode を限定する理由コード。

エラーおよび警告状況を示す次の理由コードが、mqInquireString 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファ長が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でないか、または MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR 値によって指定された MQIND_NONE でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_STRING_LENGTH_ERROR

StringLength パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_STRING_TRUNCATED

データが長すぎて出力バッファに入りきらず、切り捨てられました。

mqInquireString の C 言語での呼び出し

```
mqInquireString (Bag, Selector, ItemIndex,  
BufferLength, Buffer, &StringLength, &CodedCharSetId,  
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;      /* Selector */  
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */  
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */  
PMQCHAR   Buffer;        /* Buffer to contain string */  
MQLONG    StringLength;  /* Length of string returned */  
MQLONG    CodedCharSetId /* Coded Character Set ID */  
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */  
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireString の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireString Bag, Selector, ItemIndex,  
BufferLength, Buffer, StringLength, CodedCharSetId,  
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long 'Bag handle'  
Dim Selector      As Long 'Selector'  
Dim ItemIndex     As Long 'Item index'  
Dim BufferLength   As Long 'Buffer length'  
Dim Buffer         As String 'Buffer to contain string'  
Dim StringLength  As Long 'Length of string returned'  
Dim CodedCharSetId As Long 'Coded Character Set ID'  
Dim CompCode      As Long 'Completion code'  
Dim Reason        As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqInquireStringFilter

mqInquireStringFilter 呼び出しは、バッグ内にあるストリング・フィルター項目の値および演算子を要求します。データ項目はユーザー項目またはシステム項目のいずれかです。

mqInquireStringFilter の構文

mqInquireStringFilter (Bag, Selector, ItemIndex, Bufferlength, Buffer, StringLength, CodedCharSetId, Operator, CompCode, Reason)

mqInquireStringFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

照会に関連するハンドルのバッグ。このバッグは、ユーザー・バッグまたはシステム・バッグのいずれかです。

Selector (MQLONG) - 入力

照会が関係する項目のセレクター。

セクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セクターである場合)、そのセクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

指定したセクターがバッグ内に存在しなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定されるデータ型と同じでなければなりません。同じでない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

Selector には、下記の特殊値を指定できます。

MQSEL_ANY_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目またはシステム項目です。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたユーザー項目です。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR

照会する項目は、*ItemIndex* によって識別されたシステム項目です。

***ItemIndex* (MQLONG) - 入力**

照会が関係するデータ項目の索引。この値は、0 以上の値か特殊値 MQIND_NONE である必要があります。値がゼロより小さく MQIND_NONE でもない場合は、MQRC_INDEX_ERROR が返されます。項目がまだバッグ内にない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。以下の特殊値を指定できます。

MQIND_NONE

バッグ内にセクターのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQSEL_ANY_SELECTOR を *Selector* パラメーターに指定する場合、*ItemIndex* はユーザー項目とシステム項目の両方を含む項目セットに関係する索引であり、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_USER_SELECTOR を *Selector* パラメーターに指定する場合、*ItemIndex* はユーザー項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

MQSEL_ANY_SYSTEM_SELECTOR を *Selector* に指定する場合、*ItemIndex* はシステム項目セットに関係する索引で、ゼロ以上でなければなりません。

明示的なセクター値を指定する場合、*ItemIndex* はそのセクター値を持つ項目セットに関係する索引で、MQIND_NONE またはゼロ以上となります。

***BufferLength* (MQLONG) - 入力**

条件ストリングを受け取るバッファの長さ (バイト)。ゼロは有効な値です。

***Buffer* (MQCHAR x *BufferLength*) - 出力**

文字条件ストリングを受け取るバッファ。長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。*BufferLength* にゼロを指定した場合は、*Buffer* パラメーターのアドレスとして NULL ポインタを指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

ストリングにはバッファの長さに達するまでブランクが埋め込まれます。このストリングはヌル終了のストリングではありません。ストリングがバッファよりも長い場合は、バッファに収まるようにストリングが切り捨てられます。この場合、*StringLength* は切り捨てなしでストリングを収容するのに必要なバッファのサイズを示します。

***StringLength* (MQLONG) - 出力**

バッグに含まれる条件ストリングの長さ (バイト)。 *Buffer* パラメーターが小さすぎる場合、返されるストリングの長さは *StringLength* より小さくなります。

CodedCharSetId (MQLONG) - 出力

文字列内の文字データのコード化文字セット ID。必要でない場合、このパラメーターをヌル・ポインターに設定することができます。

Operator (MQLONG) - 出力

バッグ内の文字列・フィルター演算子。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態および警告状態を示す次の理由コードが、mqInquireStringFilter 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

フィルター演算子が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でないか、または MQSEL_ANY_xxx_SELECTOR 値によって指定された MQIND_NONE でない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_STRING_LENGTH_ERROR

StringLength パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効)。

MQRC_STRING_TRUNCATED

データが長すぎて出力バッファーに入りきらず、切り捨てられました。

mqInquireStringFilter の C 言語での呼び出し

```
mqInquireStringFilter (Bag, Selector, ItemIndex,
```

```
BufferLength, Buffer, &StringLength, &CodedCharSetId,  
&Operator, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;      /* Selector */  
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */  
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */  
PMQCHAR    Buffer;        /* Buffer to contain string */  
MQLONG    StringLength;  /* Length of string returned */  
MQLONG    CodedCharSetId /* Coded Character Set ID */  
MQLONG    Operator       /* Item operator */  
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */  
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqInquireStringFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqInquireStringFilter Bag, Selector, ItemIndex,  
BufferLength, Buffer, StringLength, CodedCharSetId,  
Operator, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long   'Bag handle'  
Dim Selector      As Long   'Selector'  
Dim ItemIndex     As Long   'Item index'  
Dim BufferLength   As Long   'Buffer length'  
Dim Buffer         As String 'Buffer to contain string'  
Dim StringLength  As Long   'Length of string returned'  
Dim CodedCharSetId As Long   'Coded Character Set ID'  
Dim Operator      As Long   'Item operator'  
Dim CompCode      As Long   'Completion code'  
Dim Reason        As Long   'Reason code qualifying CompCode'
```

mqPad

mqPad 呼び出しは、ヌル終了ストリングにブランクを埋め込みます。

mqPad の構文

mqPad (String, BufferLength, Buffer, CompCode, Reason)

mqPad のパラメーター

String (PMQCHAR) - 入力

ヌル終了ストリング。ヌル・ポインターは String パラメーターのアドレスについて有効で、ゼロの長さのストリングを示します。

BufferLength (MQLONG) - 入力

ブランクが埋め込まれたストリングを受け取るバッファの長さ (バイト)。ゼロ以上でなければなりません。

Buffer (MQCHAR x BufferLength) - 出力

ブランクが埋め込まれたストリングを受け取るバッファ。長さは、BufferLength パラメーターで指定します。BufferLength にゼロを指定した場合は、Buffer パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを指定することができます。それ以外の場合は、Buffer パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

String パラメーター内の最初のヌルに先行する文字の数が *BufferLength* パラメーターよりも大きいと、余分な文字は省略され、MQRC_DATA_TRUNCATED が返されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラーおよび警告状況を示す次の理由コードが、mqPad 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_STRING_ERROR

String パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効であるか、バッファーにアクセスできません)。

MQRC_STRING_TRUNCATED

データが長すぎて出力バッファーに入りきらず、切り捨てられました。

mqPad の使用上の注意

1. バッファー・ポインターが同じである場合、適宜、埋め込みが行われます。同じでない場合は、*BufferLength* 文字が 2 番目のバッファーにコピーされるだけです。ヌル終了文字を含む残りのスペースは、スペースで上書きされます。
2. *String* パラメーターと *Buffer* パラメーターが部分的に重なり合うと、その結果は定義されません。

mqPad の C 言語呼び出し

```
mqPad (String, BufferLength, Buffer, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQCHAR   String;           /* String to be padded */
MQLONG    BufferLength;     /* Buffer length */
PMQCHAR   Buffer;           /* Buffer to contain padded string */
MQLONG    CompCode;        /* Completion code */
MQLONG    Reason;          /* Reason code qualifying CompCode */
```

注：この呼び出しは Visual Basic ではサポートされません。

mqPutBag

mqPutBag 呼び出しは、指定されたバッグの内容を PCF メッセージに変換し、そのメッセージを指定されたキューに送ります。バッグの内容は呼び出し後も変わりません。

mqPutBag の構文

mqPut バッグ (*Hconn*, *Hobj*, *MsgDesc*, *PutMsgOpts*, *Bag*, *CompCode*, *Reason*)

mqPutBagのパラメーター

Hconn (MQHCONN) - 入力

MQI 接続ハンドル。

Hobj (MQHOBJ) - 入力

メッセージが入られるキューのオブジェクト・ハンドル。このハンドルは、アプリケーション発行の先行する MQOPEN 呼び出しによって返されます。このキューは出力のためにオープンされていなければなりません。

MsgDesc (MQMD) - 入出力

メッセージ記述子。(詳細については、[MQMD - メッセージ記述子](#)を参照)。

Format フィールドに MQFMT_ADMIN、MQFMT_EVENT、または MQFMT_PCF 以外の値がある場合は、MQRC_FORMAT_NOT_SUPPORTED が返されます。

Encoding フィールドに MQENC_NATIVE 以外の値がある場合は、MQRC_ENCODING_NOT_SUPPORTED が返されます。

PutMsgOpts (MQPMO) - 入出力

書き込みメッセージ・オプション。(詳細については、[MQPMO - 書き込みメッセージ・オプション](#)を参照)。

Bag (MQHBAG) - 入力

メッセージに変換するデータ・バッグのハンドル。

バッグに管理メッセージが含まれていて、mqAddInquiry を使用して値がバッグに挿入されている場合、MQIASY_COMMAND データ項目の値は MQAI によって認識される INQUIRE コマンドでなければなりません。そうでない場合は、MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR が返されます。

バッグにネストされたシステム・バッグが含まれている場合は、MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED が返されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。エラーおよび警告状況を示す次の理由コードが、mqPutBag 呼び出しから返されます。

MQRC_*

MQPUT 呼び出しまたはバッグの操作に関するすべてのもの。

MQRC_BAG_WRONG_TYPE

入力データ・バッグがグループ・バッグです。

MQRC_ENCODING_NOT_SUPPORTED

エンコードはサポートされていません (MQMD の *Encoding* フィールドの値は MQENC_NATIVE でなければなりません)。

MQRC_FORMAT_NOT_SUPPORTED

サポートされていない形式 (MQMD の *Format* フィールド内の名前は MQFMT_ADMIN、MQFMT_EVENT、または MQFMT_PCF でなければなりません)。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INQUIRY_COMMAND_ERROR

mqAddInquiry 呼び出しが認識された INQUIRE コマンドでないコマンド・コードで使用されました。

MQRC_NESTED_BAG_NOT_SUPPORTED

入力データ・バッグに1つ以上のネストされたシステム・バッグが含まれています。

MQRC_PARAMETER_MISSING

管理メッセージが、バッグ内にはないパラメーターを必要としています。この理由コードは、MQCBO_ADMIN_BAG オプションまたは MQCBO_REORDER_AS_REQUIRED オプションで作成されたバッグについてのみ出されます。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

mqAddString または mqSetString を使用して MQIACF_INQUIRY セレクターがバッグに追加されました。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

mqPutBag の C 言語での呼び出し

```
mqPutBag (HConn, HObj, &MsgDesc, &PutMsgOpts, Bag,
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHCONN  HConn;           /* MQI connection handle */
MQHOBJ   HObj;            /* Object handle */
MQMD     MsgDesc;         /* Message descriptor */
MQPMO    PutMsgOpts;      /* Put-message options */
MQHBAG   Bag;             /* Bag handle */
MQLONG   CompCode;        /* Completion code */
MQLONG   Reason;          /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqPutBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqPutBag (HConn, HObj, MsgDesc, PutMsgOpts, Bag,
CompCode, Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim HConn      As Long 'MQI connection handle'
Dim HObj       As Long 'Object handle'
Dim MsgDesc    As MQMD 'Message descriptor'
Dim PutMsgOpts As MQPMO 'Put-message options'
Dim Bag        As Long 'Bag handle'
Dim CompCode   As Long 'Completion code'
Dim Reason     As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqSetByteString

mqSetByteString 呼び出しは、バッグ内に既にあるバイト・ストリング・データ項目を変更するか、または指定されたセレクターの既存オカレンスをすべて削除して、そのバッグの終わりに新しいオカレンスを追加します。通常、データ項目はユーザー項目ですが、特定のシステム・データ項目を変更することもできます。

mqSetByteString の構文

mqSetByteString (Bag, Selector, ItemIndex, Bufferlength, Buffer, CompCode, Reason)

mqSetByteStringのパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

設定するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーが作成したバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグのハンドルを指定すると、結果は MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE になります。

Selector (MQLONG) - 入力

変更する項目のセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

セレクターが、サポートされているシステム・セレクターであっても読み取り専用である場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE が返されます。

セレクターが変更可能なシステム・セレクターで、常に単一のインスタンス・セレクターである場合に、アプリケーションがバッグ内に 2 番目の インスタンスを作成しようとする、MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQBA_FIRST から MQBA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を 指定しない 場合は、指定されたセレクターが既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を 指定しない 場合、項目のデータ型が、呼び出しによって 暗黙設定されたデータ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

指定したセレクターを持つ項目のどのオカレンスを変更するかを指定します。値は、ゼロ以上であるか、このトピックで説明する特殊値のいずれかでなければなりません。そうでない場合、結果は MQRC_INDEX_ERROR になります。

0 以上

指定された索引を持つ項目は既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。指定されたセレクターを持つバッグ内の項目に関連する索引がカウントされます。例えば、指定されたセレクターを持つ項目がバッグ内に 5 つある場合、*ItemIndex* の有効な値は 0 から 4 の範囲です。

MQIND_NONE

バッグ内に指定されたセレクターのオカレンスが 1 つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQIND_ALL

指定されたセレクター (存在する場合) の既存のオカレンスすべてをバッグから削除して、そのセレクターの新しいオカレンスをバッグの最後に作成するよう指定します。

BufferLength (MQLONG) - 入力

Buffer パラメーターに含まれるバイト・ストリングの長さ (バイト)。値はゼロ以上でなければなりません。

Buffer (MQBYTE x BufferLength) - 入力

バイト・ストリングを含むバッファー。長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。

BufferLength にゼロを指定した場合は、*Buffer* パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを

指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、*mqSetByteString* 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で *MQIND_NONE* でも *MQIND_ALL* でもない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

システム・セクターの複数のインスタンスが無効です。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、*MQAI* によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに *MQIND_NONE* が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

システム項目は読み取り専用で、変更できません。

mqSetByteString の C 言語での呼び出し

```
mqSetByteString (Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;       /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;      /* Item index */
```

```

MQLONG  BufferLength; /* Buffer length */
MQBYTE  Buffer;       /* Buffer containing string */
MQLONG  CompCode;    /* Completion code */
MQLONG  Reason;      /* Reason code qualifying CompCode */

```

mqSetByteString の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```

mqSetByteString Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,
CompCode, Reason

```

パラメーターを次のように宣言します。

```

Dim Bag           As Long   'Bag handle'
Dim Selector      As Long   'Selector'
Dim ItemIndex     As Long   'Item index'
Dim BufferLength  As Long   'Buffer length'
Dim Buffer         As Byte   'Buffer containing string'
Dim CompCode     As Long   'Completion code'
Dim Reason       As Long   'Reason code qualifying CompCode'

```

mqSetByteStringFilter

mqSetByteStringFilter 呼び出しは、バッグ内に既存のバイト・ストリング・フィルター項目を変更するか、指定されたセレクターの既存のオカレンスをすべて削除して、バッグの末尾に新しいオカレンスを追加します。通常、データ項目はユーザー項目ですが、特定のシステム・データ項目を変更することもできます。

mqSetByteStringFilter の構文

mqSetByteString フィルター (*Bag, Selector, ItemIndex, Bufferlength, Buffer, Operator, CompCode, Reason*)

mqSetByteStringFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

設定するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーが作成したバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグのハンドルを指定すると、結果は MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE になります。

Selector (MQLONG) - 入力

変更する項目のセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

セレクターが、サポートされているシステム・セレクターであっても読み取り専用である場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE が返されます。

セレクターが変更可能なシステム・セレクターで、常に単一のインスタンス・セレクターである場合に、アプリケーションがバッグ内に 2 番目の インスタンスを作成しようとすると、MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQBA_FIRST から MQBA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

ItemIndex パラメーターに `MQIND_ALL` を指定しない場合は、指定されたセクターが既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、`MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT` が返されます。

ItemIndex パラメーターに `MQIND_ALL` を指定しない場合、項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定されたデータ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、`MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE` が返されます。

***ItemIndex* (MQLONG) - 入力**

指定したセクターを持つ項目のどのオカレンスを変更するかを指定します。値は、ゼロ以上であるか、このトピックで説明する特殊値のいずれかでなければなりません。そうでない場合、結果は `MQRC_INDEX_ERROR` になります。

0 以上

指定された索引を持つ項目は既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、`MQRC_INDEX_NOT_PRESENT` が返されます。指定されたセクターを持つバッグ内の項目に関連する索引がカウントされます。例えば、指定されたセクターを持つ項目がバッグ内に 5 つある場合、*ItemIndex* の有効な値は 0 から 4 の範囲です。

MQIND_NONE

バッグ内に指定されたセクターのオカレンスが 1 つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、`MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE` が返されます。

MQIND_ALL

指定されたセクター (存在する場合) の既存のオカレンスすべてをバッグから削除して、そのセクターの新しいオカレンスをバッグの最後に作成するよう指定します。

***BufferLength* (MQLONG) - 入力**

Buffer パラメーターに含まれている条件バイト・ストリングの長さ (バイト単位)。値はゼロ以上でなければなりません。

***Buffer* (MQBYTE x *BufferLength*) - 入力**

条件バイト・ストリングが入っているバッファー。長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。*BufferLength* にゼロを指定した場合は、*Buffer* パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

***Operator* (MQLONG x *Operator*) - 入力**

バッグ内に置くバイト・ストリング・フィルター演算子。有効な演算子は `MQCFOP_*` の形式をとります。

***CompCode* (MQLONG) - 出力**

完了コード

***Reason* (MQLONG) - 出力**

CompCode を限定する理由コード。

`mqSetByteStringFilter` 呼び出しからは、エラー状態を示す次の理由コードが返されることがあります。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でも MQIND_ALL でもない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

システム・セクターの複数のインスタンスが無効です。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

システム項目は読み取り専用で、変更できません。

mqSetByteStringFilter の C 言語での呼び出し

```
mqSetByteStringFilter (Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,
Operator, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */
PMQBYTE    Buffer;       /* Buffer containing string */
MQLONG    Operator;      /* Operator */
PMQLONG    CompCode;     /* Completion code */
PMQLONG    Reason;       /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqSetByteStringFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqSetByteStringFilter Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,
Operator, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long   'Bag handle'
Dim Selector      As Long   'Selector'
Dim ItemIndex     As Long   'Item index'
Dim BufferLength   As Long   'Buffer length'
```


Dim Buffer	As String	'Buffer containing string'
Dim Operator	As Long	'Item operator'
Dim CompCode	As Long	'Completion code'
Dim Reason	As Long	'Reason code qualifying CompCode'

mqSetInteger

mqSetInteger 呼び出しはバッグ内に既にある整数項目を変更するか、または指定されたセクターの既存のすべてのオカレンスを削除して、そのバッグの最後に新しいオカレンスを追加します。通常、データ項目はユーザー項目ですが、特定のシステム・データ項目を変更することもできます。

mqSetInteger の構文

mqSet 整数 (*Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason*)

mqSetInteger のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

設定するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定したハンドルがシステム・バッグを参照している場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

変更する項目のセクター。セクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セクターである場合)、そのセクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

セクターが、サポートされているシステム・セクターであっても読み取り専用である場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE が返されます。

セクターが変更可能なシステム・セクターで、常に単一のインスタンス・セクターである場合に、アプリケーションがバッグ内に 2 番目の インスタンスを作成しようとすると、MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR が返されます。

セクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセクターは MQIA_FIRST から MQIA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内でない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を指定しない場合は、指定されたセクターが既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

MQIND_ALL を *ItemIndex* パラメーターに指定しない場合、項目のデータ型が、呼び出しによって 暗黙設定されたデータ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

この値は、指定のセクターを持つ項目のどのオカレンスを変更するかを識別します。値は、ゼロ以上であるか、このトピックで説明する特殊値のいずれかでなければなりません。そうでない場合、結果は MQRC_INDEX_ERROR になります。

0 以上

指定された索引を持つ項目は既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。指定されたセクターを持つバッグ内の項目に関連する索引がカウントされます。例えば、指定されたセクターを持つ項目がバッグ内に 5 つある場合、*ItemIndex* の有効な値は 0 から 4 の範囲です。

MQIND_NONE

これは、バッグ内に指定されたセレクトーのオカレンスが1つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQIND_ALL

指定されたセレクトー (存在する場合) の既存のオカレンスすべてをバッグから削除して、そのセレクトーの新しいオカレンスをバッグの最後に作成するよう指定します。

注: システム・セレクトーの場合、順序は変更されません。

ItemValue (MQLONG) - 入力

バッグに入れる整数値。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラーおよび警告状況を示す次の理由コードが、mqSetInteger 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でも MQIND_ALL でもない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセレクトーのバッグには存在しません。

MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

システム・セレクトーの複数のインスタンスが無効です。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセレクトーを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セレクトーは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセレクトーの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

セレクトーが呼び出しの有効範囲内にありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

システム項目が読み取り専用であるため、変更できません。

mqSetInteger の C 言語での呼び出し

```
mqSetInteger (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */
MQLONG    ItemValue;     /* Integer value */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqSetInteger の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqSetInteger Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag        As Long 'Bag handle'
Dim Selector   As Long 'Selector'
Dim ItemIndex  As Long 'Item index'
Dim ItemValue  As Long 'Integer value'
Dim CompCode   As Long 'Completion code'
Dim Reason     As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqSetInteger64

mqSetInteger64 呼び出しは、バッグ内に既にある 64 ビット整数項目を変更するか、または指定されたセクターの既存オカレンスをすべて削除して、そのバッグの終わりに新しいオカレンスを追加します。通常、データ項目はユーザー項目ですが、特定のシステム・データ項目を変更することもできます。

mqSetInteger64 の構文

mqSetInteger64 (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason)

mqSetInteger64 のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

設定するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定したハンドルがシステム・バッグを参照している場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

変更する項目のセクター。セクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セクターである場合)、そのセクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

セクターが、サポートされているシステム・セクターであっても読み取り専用である場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE が返されます。

セクターが変更可能なシステム・セクターで、常に単一のインスタンス・セクターである場合に、アプリケーションがバッグ内に 2 番目のインスタンスを作成しようとする、MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR が返されます。

セクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセクターは MQIA_FIRST から MQIA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内でない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

ItemIndex パラメーターに *MQIND_ALL* を指定しない場合は、指定されたセクターが既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、*MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT* が返されます。

MQIND_ALL を *ItemIndex* パラメーターに指定しない場合、項目のデータ型が、呼び出しによって暗黙設定されたデータ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、*MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE* が返されます。

***ItemIndex* (MQLONG) - 入力**

この値は、指定のセクターを持つ項目のどのオカレンスを変更するかを識別します。値は、ゼロ以上であるか、このトピックで説明する特殊値のいずれかでなければなりません。そうでない場合、結果は *MQRC_INDEX_ERROR* になります。

0 以上

指定された索引を持つ項目は既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、*MQRC_INDEX_NOT_PRESENT* が返されます。指定されたセクターを持つバッグ内の項目に関連する索引がカウントされます。例えば、指定されたセクターを持つ項目がバッグ内に 5 つある場合、*ItemIndex* の有効な値は 0 から 4 の範囲です。

MQIND_NONE

これは、バッグ内に指定されたセクターのオカレンスが 1 つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、*MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE* が返されます。

MQIND_ALL

指定されたセクター (存在する場合) の既存のオカレンスすべてをバッグから削除して、そのセクターの新しいオカレンスをバッグの最後に作成するよう指定します。

注: システム・セクターの場合、順序は変更されません。

***ItemValue* (MQINT64) - 入力**

バッグに入れる整数値。

***CompCode* (MQLONG) - 出力**

完了コード

***Reason* (MQLONG) - 出力**

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態および警告状態を示す次の理由コードが、*mqSetInteger64* 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で *MQIND_NONE* でも *MQIND_ALL* でもない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

システム・セクターの複数のインスタンスが無効です。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに *MQIND_NONE* が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

セクターが呼び出しの有効範囲内にありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

システム項目が読み取り専用であるため、変更できません。

mqSetInteger64 の C 言語での呼び出し

```
mqSetInteger64 (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */
MQINT64    ItemValue;    /* Integer value */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqSetInteger64 の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqSetInteger64 Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long 'Bag handle'
Dim Selector As Long 'Selector'
Dim ItemIndex As Long 'Item index'
Dim ItemValue As Long 'Integer value'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason   As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqSetIntegerFilter

mqSetIntegerFilter 呼び出しは、バッグ内に既にある整数フィルター項目を変更するか、または指定されたセクターの既存オカレンスをすべて削除して、そのバッグの終わりに新しいオカレンスを追加します。通常、データ項目はユーザー項目ですが、特定のシステム・データ項目を変更することもできます。

mqSetIntegerFilter の構文

mqSetIntegerFilter (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, Operator, CompCode, Reason)

mqSetIntegerFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

設定するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーによって作成されたバッグのハンドルでなければなりません。指定したハンドルがシステム・バッグを参照している場合は、MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE が返されます。

Selector (MQLONG) - 入力

変更する項目のセレクター。セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

セレクターが、サポートされているシステム・セレクターであっても読み取り専用である場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE が返されます。

セレクターが変更可能なシステム・セレクターで、常に単一のインスタンス・セレクターである場合に、アプリケーションがバッグ内に 2 番目の インスタンスを作成しようとする、MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQIA_FIRST から MQIA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内でない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を 指定しない 場合は、指定されたセレクターが既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

MQIND_ALL を *ItemIndex* パラメーターに指定しない 場合、項目のデータ型が、呼び出しによって 暗黙設定されたデータ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

この値は、指定のセレクターを持つ項目のどのオカレンスを変更するかを識別します。値は、ゼロ以上であるか、このトピックで説明する特殊値のいずれかでなければなりません。そうでない場合、結果は MQRC_INDEX_ERROR になります。

0 以上

指定された索引を持つ項目は既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。指定されたセレクターを持つバッグ内の項目に関連する索引がカウントされます。例えば、指定されたセレクターを持つ項目がバッグ内に 5 つある場合、*ItemIndex* の有効な値は 0 から 4 の範囲です。

MQIND_NONE

これは、バッグ内に指定されたセレクターのオカレンスが 1 つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQIND_ALL

指定されたセレクター (存在する場合) の既存のオカレンスすべてをバッグから削除して、そのセレクターの新しいオカレンスをバッグの最後に作成するよう指定します。

注: システム・セレクターの場合、順序は変更されません。

ItemValue (MQLONG) - 入力

バッグに入れる整数条件値。

Operator (MQLONG) - 入力

バッグに入れる整数フィルター演算子。有効な演算子は MQCFOP_* の形式をとります。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態および警告状態を示す次の理由コードが、mqSetIntegerFilter 呼び出しから返されます。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

フィルター演算子が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でも MQIND_ALL でもない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

システム・セクターの複数のインスタンスが無効です。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

セクターが呼び出しの有効範囲内にありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

システム項目が読み取り専用であるため、変更できません。

mqSetIntegerFilter の C 言語での呼び出し

```
mqSetIntegerFilter (Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, Operator,
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */
MQLONG    ItemValue;     /* Integer value */
MQLONG    Operator;      /* Item operator */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqSetIntegerFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqSetIntegerFilter Bag, Selector, ItemIndex, ItemValue, Operator,
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long 'Bag handle'
Dim Selector As Long 'Selector'
```

```
Dim ItemIndex As Long 'Item index'
Dim ItemValue As Long 'Integer value'
Dim Operator As Long 'Item operator'
Dim CompCode As Long 'Completion code'
Dim Reason As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

mqSetString

mqSetString 呼び出しはバッグ内に既にある文字データ項目を変更するか、または指定されたセクターの既存のすべてのオカレンスを削除して、そのバッグの最後に新しいオカレンスを追加します。通常、データ項目はユーザー項目ですが、特定のシステム・データ項目を変更することもできます。

mqSetString の構文

mqSet スtring (*Bag*, *Selector*, *ItemIndex*, *Bufferlength*, *Buffer*, *CompCode*, *Reason*)

mqSetString のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

設定するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーが作成したバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグのハンドルを指定すると、結果は MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE になります。

Selector (MQLONG) - 入力

変更する項目のセクター。

セクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セクターである場合)、そのセクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

セクターが、サポートされているシステム・セクターであっても読み取り専用である場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE が返されます。

セクターが変更可能なシステム・セクターで、常に単一のインスタンス・セクターである場合に、アプリケーションがバッグ内に 2 番目のインスタンスを作成しようとすると、MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR が返されます。

セクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセクターは MQCA_FIRST から MQCA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を指定しない場合は、指定されたセクターが既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を指定しない場合、項目のデータ型が、呼び出しによって 暗黙設定されたデータ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

指定したセクターを持つ項目のどのオカレンスを変更するかを指定します。値は、ゼロ以上であるか、このトピックで説明する特殊値のいずれかでなければなりません。そうでない場合、結果は MQRC_INDEX_ERROR になります。

0 以上

指定された索引を持つ項目は既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。指定されたセクターを持つバッグ内の項目に関

連する索引がカウントされます。例えば、指定されたセクターを持つ項目がバッグ内に 5 つある場合、*ItemIndex* の有効な値は 0 から 4 の範囲です。

MQIND_NONE

バッグ内に指定されたセクターのオカレンスが 1 つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQIND_ALL

指定されたセクター (存在する場合) の既存のオカレンスすべてをバッグから削除して、そのセクターの新しいオカレンスをバッグの最後に作成するよう指定します。

BufferLength (MQLONG) - 入力

Buffer パラメーターに含まれるストリングの長さ (バイト)。この値はゼロ以上であるか、あるいは特殊値 MQBL_NULL_TERMINATED でなければなりません。

MQBL_NULL_TERMINATED を指定すると、ストリングはそのなかで最初に検出されたヌルによって区切られます。

MQBL_NULL_TERMINATED を指定しないと、ヌル文字がある場合でも *BufferLength* 文字がバッグに挿入されます。ヌルはストリングを区切りません。

Buffer (MQCHAR x BufferLength) - 入力

文字ストリングを含むバッファー。長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。

BufferLength にゼロを指定した場合は、*Buffer* パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqSetString 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でも MQIND_ALL でもない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

システム・セクターの複数のインスタンスが無効です。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセレクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

システム項目は読み取り専用で、変更できません。

mqSetString の使用上の注意

このストリングに関連付けられたコード化文字セット ID (CCSID) は、バッグのカレント CCSID からコピーされます。

mqSetString の C 言語での呼び出し

```
mqSetString (Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,
&CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */
MQLONG    Selector;      /* Selector */
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */
PMQCHAR    Buffer;        /* Buffer containing string */
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqSetString の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqSetString Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,
CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag          As Long   'Bag handle'
Dim Selector     As Long   'Selector'
Dim ItemIndex    As Long   'Item index'
Dim BufferLength  As Long   'Buffer length'
Dim Buffer        As String 'Buffer containing string'
Dim CompCode     As Long   'Completion code'
Dim Reason       As Long   'Reason code qualifying CompCode'
```

mqSetStringFilter

mqSetStringFilter 呼び出しは、バッグ内に既にあるストリング・フィルター項目を変更するか、または指定されたセレクターの既存オカレンスをすべて削除して、そのバッグの終わりに新しいオカレンスを追加します。通常、データ項目はユーザー項目ですが、特定のシステム・データ項目を変更することもできます。

mqSetStringFilter の構文

mqSetStringFilter (Bag, Selector, ItemIndex, Bufferlength, Buffer, Operator, CompCode, Reason)

mqSetStringFilter のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

設定するバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーが作成したバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグのハンドルを指定すると、結果は MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE になります。

Selector (MQLONG) - 入力

変更する項目のセレクター。

セレクターがゼロよりも小さい場合 (つまりシステム・セレクターである場合)、そのセレクターは MQAI でサポートされていなければなりません。サポートされているものでない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED が返されます。

セレクターが、サポートされているシステム・セレクターであっても読み取り専用である場合は、MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE が返されます。

セレクターが変更可能なシステム・セレクターで、常に単一のインスタンス・セレクターである場合に、アプリケーションがバッグ内に 2 番目の インスタンスを作成しようとする、MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR が返されます。

セレクターがゼロ以上 (つまりユーザー・セレクターである場合) で、バッグが MQCBO_CHECK_SELECTORS オプションを使用して、または 管理バッグ (MQCBO_ADMIN_BAG) として作成されていた場合、そのセレクターは MQCA_FIRST から MQCA_LAST の範囲内になければなりません。範囲内にない場合は、MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE が返されます。MQCBO_CHECK_SELECTORS が指定されていない場合、セレクターはゼロ以上の任意の値にすることができます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を指定しない場合は、指定されたセレクターが既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT が返されます。

ItemIndex パラメーターに MQIND_ALL を指定しない場合、項目のデータ型が、呼び出しによって 暗黙設定されたデータ型と一致していなければなりません。一致していない場合は、MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE が返されます。

ItemIndex (MQLONG) - 入力

指定したセレクターを持つ項目のどのオカレンスを変更するかを指定します。値は、ゼロ以上であるか、このトピックで説明する特殊値のいずれかでなければなりません。そうでない場合、結果は MQRC_INDEX_ERROR になります。

0 以上

指定された索引を持つ項目は既にバッグ内に存在していなければなりません。存在しない場合は、MQRC_INDEX_NOT_PRESENT が返されます。指定されたセレクターを持つバッグ内の項目に関連する索引がカウントされます。例えば、指定されたセレクターを持つ項目がバッグ内に 5 つある場合、ItemIndex の有効な値は 0 から 4 の範囲です。

MQIND_NONE

バッグ内に指定されたセレクターのオカレンスが 1 つだけでなければならないことを指定します。複数のオカレンスが存在する場合は、MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE が返されます。

MQIND_ALL

指定されたセレクター (存在する場合) の既存のオカレンスすべてをバッグから削除して、そのセレクターの新しいオカレンスをバッグの最後に作成するよう指定します。

BufferLength (MQLONG) - 入力

Buffer パラメーターに含まれる条件ストリングの長さ (バイト)。この値はゼロ以上であるか、あるいは特殊値 MQBL_NULL_TERMINATED でなければなりません。

MQBL_NULL_TERMINATED を指定すると、ストリングはそのなかで最初に検出されたヌルによって区切られます。

MQBL_NULL_TERMINATED を指定しないと、ヌル文字がある場合でも *BufferLength* 文字がバッグに挿入されます。ヌルはストリングを区切りません。

Buffer (MQCHAR x BufferLength) - 入力

文字条件ストリングを含むバッファー。長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。

BufferLength にゼロを指定した場合は、*Buffer* パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

Operator (MQLONG x Operator) - 入力

バッグに入れるストリング・フィルター演算子。有効な演算子は MQCFOP_* の形式をとります。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状態を示す次の理由コードが、mqSetStringFilter 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_FILTER_OPERATOR_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_INDEX_ERROR

索引が無効です (索引の値が負で MQIND_NONE でも MQIND_ALL でもない)。

MQRC_INDEX_NOT_PRESENT

指定された索引を持つ項目は、指定されたセクターのバッグには存在しません。

MQRC_MULTIPLE_INSTANCE_ERROR

システム・セクターの複数のインスタンスが無効です。

MQRC_SELECTOR_NOT_PRESENT

指定されたセクターを持つ項目はバッグ内に存在しません。

MQRC_SELECTOR_NOT_SUPPORTED

指定されたシステム・セクターは、MQAI によってサポートされていません。

MQRC_SELECTOR_NOT_UNIQUE

指定されたセクターの複数のオカレンスがバッグ内にあるときに MQIND_NONE が指定されました。

MQRC_SELECTOR_OUT_OF_RANGE

呼び出しの有効範囲内にセクターがありません。

MQRC_SELECTOR_WRONG_TYPE

呼び出しに対するデータ項目のデータ型が間違っています。

MQRC_STORAGE_NOT_AVAILABLE

ストレージが不足しています。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

MQRC_SYSTEM_ITEM_NOT_ALTERABLE

システム項目は読み取り専用で、変更できません。

mqSetStringFilter の使用上の注意

このストリングに関連付けられたコード化文字セット ID (CCSID) は、バッグのカレント CCSID からコピーされます。

mqSetStringFilter の C 言語での呼び出し

```
mqSetStringFilter (Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,  
Operator, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    Bag;           /* Bag handle */  
MQLONG    Selector;      /* Selector */  
MQLONG    ItemIndex;     /* Item index */  
MQLONG    BufferLength;   /* Buffer length */  
PMQCHAR   Buffer;        /* Buffer containing string */  
MQLONG    Operator;      /* Item operator */  
MQLONG    CompCode;      /* Completion code */  
MQLONG    Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqSetStringFilter の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqSetStringFilter Bag, Selector, ItemIndex, BufferLength, Buffer,  
Operator, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag      As Long      'Bag handle'  
Dim Selector As Long      'Selector'  
Dim ItemIndex As Long     'Item index'  
Dim BufferLength As Long   'Buffer length'  
Dim Buffer    As String    'Buffer containing string'  
Dim Operator  As Long     'Item operator'  
Dim CompCode  As Long     'Completion code'  
Dim Reason    As Long     'Reason code qualifying CompCode'
```

mqTrim

mqTrim 呼び出しは、ブランクが埋め込まれたストリングからのブランクをトリムし、そのブランクをヌルで終了します。

mqTrim の構文

mqTrim (BufferLength, Buffer, String, CompCode, Reason)

mqTrim のパラメーター

BufferLength (MQLONG) - 入力

ブランクが埋め込まれたストリングを含むバッファの長さ (バイト)。ゼロ以上でなければなりません。

Buffer (MQCHAR × BufferLength) - 入力

空白が埋め込まれた文字列を含むバッファー。長さは、*BufferLength* パラメーターで指定します。*BufferLength* にゼロを指定した場合は、*Buffer* パラメーターのアドレスとして NULL ポインターを指定することができます。それ以外の場合は、*Buffer* パラメーターに有効な (ヌル以外の) アドレスを指定しなければなりません。

String (MQCHAR × (BufferLength+1)) - 出力

ヌル文字終了文字列を受け取るバッファー。このバッファーの長さは少なくとも *BufferLength* パラメーターの値より 1 バイト分大きくなければなりません。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqTrim 呼び出しから返されます。

MQRC_BUFFER_ERROR

Buffer パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効、またはバッファーが完全にアクセス可能ではない)。

MQRC_BUFFER_LENGTH_ERROR

バッファー長が無効です。

MQRC_STRING_ERROR

String パラメーターが無効です (パラメーター・アドレスが無効であるか、バッファーにアクセスできません)。

mqTrim の使用上の注意

1. 2 つのバッファー・ポインターが同じである場合、トリミングが適宜行われます。2 つのバッファー・ポインターが同じでない場合、空白が埋め込まれた文字列がヌル終了文字列・バッファーにコピーされます。コピー後に、そのバッファーはスペース以外の文字が見つかるまで、終わりから逆方向に走査されます。次に、スペース以外の文字に続くバイトがヌル文字で上書きされます。
2. *String* と *Buffer* が部分的に重なり合うと、その結果は定義されません。

mqTrim の C 言語呼び出し

```
mqTrim (BufferLength, Buffer, String, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQLONG    BufferLength;    /* Buffer length */
PMQCHAR    Buffer;         /* Buffer containing blank-padded string */
MQCHAR     String[n+1];    /* String with blanks discarded */
MQLONG     CompCode;       /* Completion code */
MQLONG     Reason;        /* Reason code qualifying CompCode */
```

注：この呼び出しは Visual Basic ではサポートされません。

mqTruncateBag

mqTruncateBag 呼び出しは、バッグの最後からユーザー項目を削除することによって、指定された値までバッグ内のユーザー項目の数を減らします。

mqTruncateBag の構文

mqTruncateBag (Bag, ItemCount, CompCode, Reason)

mqTruncateBag のパラメーター

Bag (MQHBAG) - 入力

切り捨てられるバッグのハンドル。これは、システム・バッグのハンドルではなく、ユーザーが作成したバッグのハンドルでなければなりません。システム・バッグのハンドルを指定すると、結果は MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE になります。

ItemCount (MQLONG) - 入力

切り捨て後にバッグ内に残るユーザー項目の数。ゼロは有効な値です。

注: *ItemCount* パラメーターは、固有のセクターの数ではなく、データ項目の数です。(バッグ内で複数回発生する 1 つまたは複数のセクターがある場合、切り捨て前にはセクターの数はデータ項目の数より少なくなります。) データ項目は、バッグに追加されたときと反対の順序でバッグの最後から削除されます。

指定した数がバッグ内に現在あるユーザー項目の数を超えると、MQRC_ITEM_COUNT_ERROR が返されます。

CompCode (MQLONG) - 出力

完了コード

Reason (MQLONG) - 出力

CompCode を限定する理由コード。

エラー状況を示す次の理由コードが、mqTruncateBag 呼び出しから返されます。

MQRC_HBAG_ERROR

バッグ・ハンドルが無効です。

MQRC_ITEM_COUNT_ERROR

ItemCount パラメーターが無効です (値がバッグ内のユーザー・データ項目の数を超えている)。

MQRC_SYSTEM_BAG_NOT_ALTERABLE

システム・バッグを変更または削除できません。

mqTruncateBag の使用上の注意

1. バッグ内のシステム項目は mqTruncateBag による影響を受けません。この呼び出しはシステム・バッグを切り捨てるためには使用できません。
2. *ItemCount* がゼロの mqTruncateBag は mqClearBag 呼び出しと同じではありません。ItemCount がゼロの mqTruncateBag はすべてのユーザー項目を削除しますが、システム項目は削除しません。mqClearBag はすべてのユーザー項目を削除して、システム項目をその初期値にリセットします。

mqTruncateBag の C 言語での呼び出し

```
mqTruncateBag (Bag, ItemCount, &CompCode, &Reason);
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
MQHBAG    hBag;           /* Bag handle */
MQLONG    ItemCount;      /* Number of items to remain in bag */
MQLONG    CompCode;       /* Completion code */
MQLONG    Reason;         /* Reason code qualifying CompCode */
```

mqTruncateBag の Visual Basic での呼び出し

(Windows でのみサポートされます。)

```
mqTruncateBag Bag, ItemCount, CompCode, Reason
```

パラメーターを次のように宣言します。

```
Dim Bag           As Long 'Bag handle'  
Dim ItemCount     As Long 'Number of items to remain in bag'  
Dim CompCode      As Long 'Completion code'  
Dim Reason        As Long 'Reason code qualifying CompCode'
```

MQAI セレクター

バッグの項目は、項目の ID として機能するセレクター によって識別されます。セレクターには、ユーザー・セレクター とシステム・セレクター の 2 種類があります。

ユーザー・セレクター

ユーザー・セレクターはゼロまたは正の値をとります。MQSeries オブジェクトの管理については、以下の定数によって有効なユーザー・セレクターが既に定義されています。

- MQCA_* および MQIA_* (オブジェクト属性)
- MQCACF_* および MQIACF_* (特に PCF に関連する項目)
- MQCACH_* および MQIACH_* (チャンネル属性)

ユーザー・メッセージの場合、ユーザー・セレクターの意味はアプリケーションによって定義されます。

MQAI では、次の追加セレクターが導入されています。

MQIACF_INQUIRY

Inquire コマンドによって返される IBM MQ オブジェクト属性を識別します。

MQHA_BAG_HANDLE

別のバッグ内に入っているバッグ・ハンドルを識別します。

MQHA_FIRST

ハンドル・セレクターの下限。

MQHA_LAST

ハンドル・セレクターの上限。

MQHA_LAST_USED

割り振られる最終ハンドル・セレクターの上限。

MQCA_USER_LIST

デフォルトのユーザー・セレクター。Visual Basic のみサポートされています。このセレクターは文字型をサポートし、*Selector* パラメーターが mqAdd* 呼び出し、mqSet* 呼び出し、または mqInquire* 呼び出しのときに省略される場合に使用されるデフォルト値を表します。

MQIA_USER_LIST

デフォルトのユーザー・セレクター。Visual Basic のみサポートされています。このセレクターは整数型をサポートし、*Selector* パラメーターが mqAdd* 呼び出し、mqSet* 呼び出し、または mqInquire* 呼び出しのときに省略される場合に使用されるデフォルト値を表します。

システム・セレクター

システム・セレクターは負の値をとります。バッグが作成されるときに、次のシステム・セレクターがバッグに設定されます。

MQIASY_BAG_OPTIONS

バッグ作成オプション。バッグ作成に使用されるオプションの総数。ユーザーはこのセレクターを変更できません。

MQIASY_CODED_CHAR_SET_ID

バッグにある文字データ項目の文字セット ID。初期値はキュー・マネージャーの文字セットです。

バッグの値は、mqExecute 呼び出しへの入口に使用され、mqExecute 呼び出しからの出口ルーチンに設定されます。文字ストリングがバッグに追加される場合、または文字ストリングをバッグ内で変更される場合にも適用されます。

MQIASY_COMMAND

PCF コマンド ID。有効値は MQCMD_* 定数です。ユーザー・メッセージでは、値 MQCMD_NONE を使用します。初期値は MQCMD_NONE です。

バッグの値は、mqPutBag 呼び出し、および mqBagToBuffer 呼び出しへの入口に使用され、mqExecute 呼び出し、mqGetBag 呼び出し、および mqBufferToBag 呼び出しからの出口ルーチンに設定されます。

MQIASY_COMP_CODE

完了コード 有効値は MQCC_* 定数です。初期値は MQCC_OK です。

バッグの値は、mqExecute 呼び出し、mqPutBag 呼び出し、および mqBagToBuffer 呼び出しへの入口に使用され、mqExecute 呼び出し、mqGetBag 呼び出し、および mqBufferToBag 呼び出しからの出口ルーチンに設定されます。

MQIASY_CONTROL

PCF 制御オプション。有効値は MQCFC_* 定数です。初期値は MQCFC_LAST です。

バッグの値は、mqExecute 呼び出し、mqPutBag 呼び出し、および mqBagToBuffer 呼び出しへの入口に使用され、mqExecute 呼び出し、mqGetBag 呼び出し、および mqBufferToBag 呼び出しからの出口ルーチンに設定されます。

MQIASY_MSG_SEQ_NUMBER

PCF メッセージ順序番号。有効値は 1 以上です。初期値は 1 です。

バッグの値は、mqExecute 呼び出し、mqPutBag 呼び出し、および mqBagToBuffer 呼び出しへの入口に使用され、mqExecute 呼び出し、mqGetBag 呼び出し、および mqBufferToBag 呼び出しからの出口ルーチンに設定されます。

MQIASY_REASON

理由コード。有効値は MQRC_* 定数です。初期値は MQRC_NONE です。

バッグの値は、mqExecute 呼び出し、mqPutBag 呼び出し、および mqBagToBuffer 呼び出しへの入口に使用され、mqExecute 呼び出し、mqGetBag 呼び出し、および mqBufferToBag 呼び出しからの出口ルーチンに設定されます。

MQIASY_TYPE

PCF コマンド・タイプ。有効値は MQCFT_* 定数です。ユーザー・メッセージでは、値 MQCFT_USER を使用します。ユーザー・バッグとして作成されたバッグの初期値は MQCFT_USER であり、管理バッグまたはコマンド・バッグとして作成されたバッグの初期値は MQCFT_COMMAND になります。

バッグの値は、mqExecute 呼び出し、mqPutBag 呼び出し、および mqBagToBuffer 呼び出しへの入口に使用され、mqExecute 呼び出し、mqGetBag 呼び出し、および mqBufferToBag 呼び出しからの出口ルーチンに設定されます。

MQIASY_VERSION

PCF バージョン。有効値は MQCFH_VERSION_* 定数です。初期値は MQCFH_VERSION_1 です。

バッグの値が MQCFH_VERSION_1 以外の値に設定されている場合、その値は mqExecute、mqPutBag、および mqBagToBuffer 呼び出しの入口で使用されます。バッグの値が MQCFH_VERSION_1 の場合、メッセージに示されるパラメーター構造に必要な最低限の値は PCF バージョンです。

バッグの値は、mqExecute、mqGetBag、および mqBufferToBag 呼び出しの出口で設定されます。

コード例

mqExecute 呼び出しの使い方の例をいくつか示します。

図 2070 ページの図 38 に示す例では、キュー・マネージャーにローカル・キュー (最大メッセージ長 100 バイト) を作成します。

```
/* Create a bag for the data you want in your PCF message */
mqCreateBag(MQCBO_ADMIN_BAG, &hbagRequest)

/* Create a bag to be filled with the response from the command server */
mqCreateBag(MQCBO_ADMIN_BAG, &hbagResponse)

/* Create a queue */
/* Supply queue name */
mqAddString(hbagRequest, MQCA_Q_NAME, "QBERT")

/* Supply queue type */
mqAddString(hbagRequest, MQIA_Q_TYPE, MQQT_LOCAL)

/* Maximum message length is an optional parameter */
mqAddString(hbagRequest, MQIA_MAX_MSG_LENGTH, 100)

/* Ask the command server to create the queue */
mqExecute(MQCMD_CREATE_Q, hbagRequest, hbagResponse)

/* Tidy up memory allocated */
mqDeleteBag(hbagRequest)
mqDeleteBag(hbagResponse)
```

図 38. *mqExecute* によるローカル・キューの作成

図 2070 ページの図 39 に示す例では、特定のキューのすべての属性を照会します。 *mqAddInquiry* 呼び出しは、*mqExecute* の *Inquire* パラメーターで返されるキューのすべての IBM MQ オブジェクト属性を識別します。

```
/* Create a bag for the data you want in your PCF message */
mqCreateBag(MQCBO_ADMIN_BAG, &hbagRequest)

/* Create a bag to be filled with the response from the command server */
mqCreateBag(MQCBO_ADMIN_BAG, &hbagResponse)

/* Inquire about a queue by supplying its name */
/* (other parameters are optional) */
mqAddString(hbagRequest, MQCA_Q_NAME, "QBERT")

/* Request the command server to inquire about the queue */
mqExecute(MQCMD_INQUIRE_Q, hbagRequest, hbagResponse)

/* If it worked, the attributes of the queue are returned */
/* in a system bag within the response bag */
mqInquireBag(hbagResponse, MQHA_BAG_HANDLE, 0, &hbagAttributes)

/* Inquire the name of the queue and its current depth */
mqInquireString(hbagAttributes, MQCA_Q_NAME, &stringAttribute)
mqInquireString(hbagAttributes, MQIA_CURRENT_Q_DEPTH, &integerAttribute)

/* Tidy up memory allocated */
mqDeleteBag(hbagRequest)
mqDeleteBag(hbagResponse)
```

図 39. *mqExecute* によるキュー属性の照会

IBM MQ を管理するには *mqExecute* を使用するのが最も簡単ですが、下位呼び出し *mqBagToBuffer* および *mqBufferToBag* を使用することもできます。これらの呼び出しの使用方法の詳細については、[IBM MQ 管理インターフェース \(MQAI\) の概要](#)を参照してください。

サンプル・プログラムについては、[MQAI の使用例](#)を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

U.S.A.

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

Intellectual Property Licensing

Legal and Intellectual Property Law

〒 103-8510

103-8510

東京 103-8510、日本

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES CORPORATION は、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。"" 国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

Software Interoperability Coordinator, Department 49XA

3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報 (提供されている場合) は、このプログラムで使用するアプリケーション・ソフトウェアの作成を支援することを目的としています。

本書には、プログラムを作成するユーザーが WebSphere MQ のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースに関する情報が記載されています。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

重要: この診断、修正、およびチューニング情報は、変更される可能性があるため、プログラミング・インターフェースとして使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com®は、世界の多くの国で登録された IBM Corporation の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、"Copyright and trademark information" www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



部品番号:

(1P) P/N: